

(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B2)

(11)特許番号
特許第7478931号
(P7478931)

(45)発行日 令和6年5月8日(2024.5.8)

(24)登録日 令和6年4月25日(2024.4.25)

(51)国際特許分類

F I

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

A 6 3 F 7/02 3 2 0

請求項の数 1 (全1094頁)

(21)出願番号	特願2020-120913(P2020-120913)	(73)特許権者	390031783
(22)出願日	令和2年7月14日(2020.7.14)		サミー株式会社
(65)公開番号	特開2022-17998(P2022-17998A)		東京都品川区西品川一丁目1番1号住友
(43)公開日	令和4年1月26日(2022.1.26)		不動産大崎ガーデンタワー
審査請求日	令和5年7月7日(2023.7.7)	(74)代理人	100105315
早期審査対象出願			弁理士 伊藤 温
		(72)発明者	福田 彩月
			東京都品川区西品川一丁目1番1号住友
			不動産大崎ガーデンタワー サミー株式
			会社内
		(72)発明者	半田 めぐみ
			東京都品川区西品川一丁目1番1号住友
			不動産大崎ガーデンタワー サミー株式
			会社内
		審査官	袴田 知弘

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 ぱちんこ遊技機

(57)【特許請求の範囲】

【請求項1】

画像を表示可能な表示手段を備え、
遊技者にとって有利な特別遊技を実行可能であり、
特別遊技の種類に関する履歴画像を表示手段にて表示可能であり、
特定の条件を満たした場合、履歴画像と特別遊技の実行回数に関する回数表示とが表示手段に表示され得よう構成されており、
履歴画像と回数表示とが表示手段に表示されている状態では、特別遊技の実行中にて表示される背景画像とは異なる所定の背景画像が表示されるよう構成されており、
履歴画像と回数表示とが表示手段に表示されている状態で電源供給が遮断され、その後、電源復帰した場合には、電源供給が遮断される前に表示手段に表示されていた履歴画像と回数表示とは表示されないよう構成されており、
遊技状態として、通常遊技状態と、通常遊技状態よりも遊技者にとって有利な特定遊技状態と、を少なくとも有し、
識別情報の変動表示時間を決定する際に参照されるテーブルとして、第一変動パターンテーブルと、第一変動パターンテーブルとは識別情報の変動表示時間の選択傾向が異なる第二変動パターンテーブルと、を少なくとも有し、
第一変動パターンテーブルを参照する第一変動状態と、第二変動パターンテーブルを参照する第二変動状態と、を少なくとも有し、
通常遊技状態にて当否判定結果が当選となったことに基づいて実行された特別遊技を1回

目として、N（但し、Nは1以上の整数）回目の特別遊技の終了後に特定遊技状態となった場合には、第一変動状態となり、

通常遊技状態にて当否判定結果が当選となったことに基づいて実行された特別遊技を1回目として、M（但し、Mは1以上の整数であり、 $M > N$ ）回目の特別遊技の終了後に特定遊技状態となり且つ所定の条件を満たしていない場合には、第一変動状態となり、

通常遊技状態にて当否判定結果が当選となったことに基づいて実行された特別遊技を1回目として、M回目の特別遊技の終了後に特定遊技状態となり且つ前記所定の条件を満たしている場合には、第二変動状態となるよう構成されており、

付与される遊技価値数と使用される遊技価値数との差数に関する情報を記憶可能であり、前記差数に関する情報が所定数に到達した場合には、遊技価値の獲得を抑制するための制御が実行される状態である抑制状態となるよう構成されていることを特徴とする遊技機。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

ぱちんこ遊技機に関する。

【背景技術】

【0002】

近年のぱちんこ遊技機としては、遊技盤面（遊技領域）上の始動口に遊技球が入球したことを契機として所定確率の当り抽選がなされ、当該当り抽選で小当りや大当りに当選した場合には当り状態へと移行し、遊技盤面に備えられた大入賞口が開放して大量の賞球を獲得できるぱちんこ遊技機が主流である。このように構成されたぱちんこ遊技機の内には、大入賞口に設けられた特定領域に遊技球が入球することに基づいて大当りの当選確率を上昇させる確率変動遊技状態や当り抽選における抽選結果を報知するための図柄変動の効率を上昇させる時間短縮遊技状態等を備え、これら遊技状態によって遊技者にとって有利な遊技進行状態を創り出すことで遊技の興趣性を高める遊技機も存在している。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【文献】特開2003-340005号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

しかしながら、このような遊技機は従来から多く存在しているため、更なる斬新な遊技性の実現されるような機種の開発が望まれているという課題が存在する。

【課題を解決するための手段】

【0005】

本態様に係る遊技機は、

画像を表示可能な表示手段を備え、

遊技者にとって有利な特別遊技を実行可能であり、

特別遊技の種類に関する履歴画像を表示手段にて表示可能であり、

特定の条件を満たした場合、履歴画像と特別遊技の実行回数に関する回数表示とが表示手段に表示され得るよう構成されており、

履歴画像と回数表示とが表示手段に表示されている状態では、特別遊技の実行中にて表示される背景画像とは異なる所定の背景画像が表示されるよう構成されており、

履歴画像と回数表示とが表示手段に表示されている状態で電源供給が遮断され、その後、電源復帰した場合には、電源供給が遮断される前に表示手段に表示されていた履歴画像と回数表示とは表示されないよう構成されており、

遊技状態として、通常遊技状態と、通常遊技状態よりも遊技者にとって有利な特定遊技状態と、を少なくとも有し、

10

20

30

40

50

識別情報の変動表示時間を決定する際に参照されるテーブルとして、第一変動パターンテーブルと、第一変動パターンテーブルとは識別情報の変動表示時間の選択傾向が異なる第二変動パターンテーブルと、を少なくとも有し、
第一変動パターンテーブルを参照する第一変動状態と、第二変動パターンテーブルを参照する第二変動状態と、を少なくとも有し、
通常遊技状態にて当否判定結果が当選となったことに基づいて実行された特別遊技を1回目として、N（但し、Nは1以上の整数）回目の特別遊技の終了後に特定遊技状態となった場合には、第一変動状態となり、
通常遊技状態にて当否判定結果が当選となったことに基づいて実行された特別遊技を1回目として、M（但し、Mは1以上の整数であり、 $M > N$ ）回目の特別遊技の終了後に特定遊技状態となり且つ所定の条件を満たしていない場合には、第一変動状態となり、
通常遊技状態にて当否判定結果が当選となったことに基づいて実行された特別遊技を1回目として、M回目の特別遊技の終了後に特定遊技状態となり且つ前記所定の条件を満たしている場合には、第二変動状態となるよう構成されており、

付与される遊技価値数と使用される遊技価値数との差数に関する情報を記憶可能であり、前記差数に関する情報が所定数に到達した場合には、遊技価値の獲得を抑制するための制御が実行される状態である抑制状態となるよう構成されていることを特徴とする遊技機である。

<付記>

尚、本態様とは異なる別態様について以下に列記しておくが、これらには何ら限定されることがなく実施することが可能である。

本別態様に係るぱちんこ遊技機は、
遊技球が入球可能な主遊技始動口と、
所定の入球口に取り付けられ、開放状態及び閉鎖状態に変位可能な可変部材と、
閉状態と開状態とを採り得る可変入賞口と、
可変入賞口に入球した遊技球が入球し得る特定領域と、
主遊技識別情報を表示可能な主遊技識別情報表示部と、
主遊技始動口への入球に基づき、主遊技情報を取得する取得手段と、
変動表示開始条件が充足した場合に、取得手段が取得した主遊技情報に基づいて、可変入賞口開放遊技を行うか否かの判定を行う特別遊技判定手段と、
取得手段が取得した主遊技情報に基づき、主遊技識別情報表示部にて主遊技識別情報を変動表示させた後で停止表示するよう制御する主遊技識別情報表示制御手段と、
主遊技識別情報表示部にて主遊技識別情報を変動表示させた後で停止表示するよう制御し、主遊技識別情報が特定態様の停止表示態様にて停止表示された後、可変入賞口を有利な状態とし得る可変入賞口開放遊技を実行可能であり、可変入賞口開放遊技の実行中に特定領域に遊技球が入球した場合には、可変入賞口開放遊技の終了後に特別遊技を実行可能である特別遊技制御手段と
を備え、

可変部材の開放容易性に関する遊技状態として、通常遊技状態と、通常遊技状態よりも可変部材が開放し易い特定遊技状態とを有しており、

主遊技識別情報の変動表示開始から停止表示までを一単位とし、一単位が特定回数行われることを契機として特定遊技状態となり得るよう構成されていることを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【発明の効果】

【0006】

本態様に係る遊技機によれば、遊技者にとって有利な遊技進行状態を創り出すという概念を採用した遊技機において、更なる斬新な遊技性を実現することができる。

【図面の簡単な説明】

【0007】

【図1】図1は、本実施形態に係るぱちんこ遊技機の正面図である。

- 【図 2】図 2 は、本実施形態に係るぱちんこ遊技機の背面図である。
- 【図 3】図 3 は、本実施形態に係るぱちんこ遊技機の賞球払出ユニット斜視図である。
- 【図 4】図 4 は、本実施形態に係るぱちんこ遊技機の賞球払出ユニットに係る作用図である。
- 【図 5】図 5 は、本実施形態に係るぱちんこ遊技機の電氣的全体構成図である。
- 【図 6】図 6 は、本実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側でのメイン処理のフローチャートである。
- 【図 7】図 7 は、本実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側でのタイマ割り込み時処理のフローチャートである。
- 【図 8】図 8 は、本実施形態に係るぱちんこ機における、主制御基板側での N M I 割り込み時処理（電断時）のフローチャートである。
- 【図 9】図 9 は、本実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での賞球払出コマンド送信制御処理のフローチャートである。
- 【図 10】図 10 は、本実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での対払出制御基板送信制御処理のフローチャートである。
- 【図 11】図 11 は、本実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での賞球払出コマンド及び払出関連情報に係るイメージ図である。
- 【図 12】図 12 は、本実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での対払出制御基板受信制御処理のフローチャートである。
- 【図 13】図 13 は、本実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での補助遊技内容決定乱数取得処理のフローチャートである。
- 【図 14】図 14 は、本実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での入球検出処理のフローチャートである。
- 【図 15】図 15 は、本実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での補助遊技始動口入球検出処理のフローチャートである。
- 【図 16】図 16 は、本実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での主遊技始動口入球検出処理のフローチャートである。
- 【図 17】図 17 は、本実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での第 1（第 2）大入賞口入球検出処理のフローチャートである。
- 【図 18】図 18 は、本実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での一般入賞口入球検出処理のフローチャートである。
- 【図 19】図 19 は、本実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での排出球検出処理のフローチャートである。
- 【図 20】図 20 は、本実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側でのアウト口入球検出処理のフローチャートである。
- 【図 21】図 21 は、本実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での賞球数決定処理のフローチャートである。
- 【図 22】図 22 は、本実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での電動役物駆動判定処理のフローチャートである。
- 【図 23】図 23 は、本実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での主遊技内容決定乱数取得処理のフローチャートである。
- 【図 24】図 24 は、本実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での主遊技図柄表示処理のフローチャートである。
- 【図 25】図 25 は、本実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での第 1（第 2）主遊技図柄表示処理のフローチャートである。
- 【図 26】図 26 は、本実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での第 1（第 2）主遊技図柄表示処理にて用いられる主遊技テーブル構成図である。
- 【図 27】図 27 は、本実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での特定遊技終了判定処理のフローチャートである。
- 【図 28】図 28 は、本実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での特別

10

20

30

40

50

遊技制御処理のフローチャートである。

【図 29】図 29 は、本実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での特別遊技終了後の遊技状態決定処理のフローチャートである。

【図 30】図 30 は、本実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での特別遊技作動条件判定処理のフローチャートである。

【図 31】図 31 は、本実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での不正検知情報管理処理のフローチャートである。

【図 32】図 32 は、本実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側でのエラー管理処理のフローチャートである。

【図 33】図 33 は、本実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での発射制御信号出力処理のフローチャートである。

【図 34】図 34 は、本実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での外部信号出力処理のフローチャートである。

【図 35】図 35 は、本実施形態に係るぱちんこ遊技機における、外部端子送信内容決定テーブルの一例である。

【図 36】図 36 は、本実施形態に係るぱちんこ遊技機における、払出制御基板側での払出制御基板側メイン処理のフローチャートである。

【図 37】図 37 は、本実施形態に係るぱちんこ遊技機における、払出制御基板側での異常検出時エラー制御処理のフローチャートである。

【図 38】図 38 は、本実施形態に係るぱちんこ遊技機における、払出制御基板側での払出モータ動作異常検出時エラー制御処理のフローチャートである。

【図 39】図 39 は、本実施形態に係るぱちんこ遊技機における、払出制御基板側での払出異常検出時エラー制御処理のフローチャートである。

【図 40】図 40 は、本実施形態に係るぱちんこ遊技機における、払出制御基板側での球経路異常検出時エラー制御処理のフローチャートである。

【図 41】図 41 は、本実施形態に係るぱちんこ遊技機における、払出制御基板側での払出モータ異常検出時エラー制御処理のフローチャートである。

【図 42】図 42 は、本実施形態に係るぱちんこ遊技機における、払出制御基板側での要払出停止異常検出時エラー制御処理のフローチャートである。

【図 43】図 43 は、本実施形態に係るぱちんこ遊技機における、払出制御基板側での賞球払出関連情報送受信処理（対主制御基板）のフローチャートである。

【図 44】図 44 は、本実施形態に係るぱちんこ遊技機における、払出制御基板側での賞球払出制御処理（賞球払出開始・モータ駆動開始時）のフローチャートである。

【図 45】図 45 は、本実施形態に係るぱちんこ遊技機における、払出制御基板側での賞球払出制御処理（モータ駆動終了時・賞球払出終了時）のフローチャートである。

【図 46】図 46 は、本実施形態に係るぱちんこ遊技機における、払出制御基板側での賞球払出制御処理（モータ駆動実行時）のフローチャートである。

【図 47】図 47 は、本実施形態に係るぱちんこ遊技機における、払出制御基板側でのモータエラー時処理のフローチャートである。

【図 48】図 48 は、本実施形態に係るぱちんこ遊技機における、サブメイン制御部側でのメインフローチャートである。

【図 49】図 49 は、本実施形態に係るぱちんこ遊技機における、サブメイン制御部側での指示画像表示制御処理のフローチャートである。

【図 50】図 50 は、本実施形態に係るぱちんこ遊技機における、サブメイン制御部側での保留情報管理処理のフローチャートである。

【図 51】図 51 は、本実施形態に係るぱちんこ遊技機における、サブメイン制御部側での装飾図柄表示内容決定処理のフローチャートである。

【図 52】図 52 は、本実施形態に係るぱちんこ遊技機における、サブメイン制御部側での装飾図柄表示制御処理のフローチャートである。

【図 53】図 53 は、本実施形態に係るぱちんこ遊技機における、サブメイン制御部側で

10

20

30

40

50

の特別遊技関連表示制御処理のフローチャートである。

【図 5 4】図 5 4 は、本実施形態に係るぱちんこ遊技機における、サブメイン制御部側での特別遊技中演出表示制御処理のフローチャートである。

【図 5 5】図 5 5 は、本実施形態に係るぱちんこ遊技機における、サブメイン制御部側での右一般入賞口用ランプ点灯態様決定テーブルの一例である。

【図 5 6】図 5 6 は、本実施形態に係るぱちんこ遊技機における、第 1（第 2）大入賞口及び右一般入賞口に係る作用図である。

【図 5 7】図 5 7 は、本実施形態からの変更例 1 に係るぱちんこ遊技機の正面図である。

【図 5 8】図 5 8 は、本実施形態からの変更例 1 に係るぱちんこ遊技機における、第 1（第 2）大入賞口及び右一般入賞口に係る作用図である。

10

【図 5 9】図 5 9 は、第 2 実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での電動役物駆動判定処理のフローチャートである。

【図 6 0】図 6 0 は、第 2 実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での第 1（第 2）主遊技図柄表示処理のフローチャートである。

【図 6 1】図 6 1 は、第 2 実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での限定頻度変動態様決定処理のフローチャートである。

【図 6 2】図 6 2 は、第 2 実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での第 1（第 2）主遊技図柄表示処理にて用いられる限定頻度テーブル構成図である。

【図 6 3】図 6 3 は、第 2 実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での特定遊技終了判定処理のフローチャートである。

20

【図 6 4】図 6 4 は、第 2 実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での特別遊技作動条件判定処理のフローチャートである。

【図 6 5】図 6 5 は、第 2 実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での特別遊技終了後の遊技状態決定処理のフローチャートである。

【図 6 6】図 6 6 は、第 2 実施形態に係るぱちんこ遊技機における、サブメイン制御部側でのメインフローチャートである。

【図 6 7】図 6 7 は、第 2 実施形態に係るぱちんこ遊技機における、サブメイン制御部側での滞在ステージ決定処理のフローチャートである。

【図 6 8】図 6 8 は、第 2 実施形態に係るぱちんこ遊技機における、サブメイン制御部側での保留情報管理処理のフローチャートである。

30

【図 6 9】図 6 9 は、第 2 実施形態に係るぱちんこ遊技機における、サブメイン制御部側での先読み演出実行判定処理のフローチャートである。

【図 7 0】図 7 0 は、第 2 実施形態に係るぱちんこ遊技機における、サブメイン制御部側での装飾図柄表示内容決定処理のフローチャートである。

【図 7 1】図 7 1 は、第 2 実施形態に係るぱちんこ遊技機における、サブメイン制御部側での演出内容決定処理のフローチャートである。

【図 7 2】図 7 2 は、第 2 実施形態に係るぱちんこ遊技機における、サブメイン制御部側での演出内容決定テーブル構成図である。

【図 7 3】図 7 3 は、第 2 実施形態に係るぱちんこ遊技機における、サブメイン制御部側での特別遊技関連表示制御処理のフローチャートである。

40

【図 7 4】図 7 4 は、第 2 実施形態に係るぱちんこ遊技機における、作用図である。

【図 7 5】図 7 5 は、第 2 実施形態に係るぱちんこ遊技機における、作用図である。

【図 7 6】図 7 6 は、第 2 実施形態に係るぱちんこ遊技機における、作用図である。

【図 7 7】図 7 7 は、第 2 実施形態の変更例 1 に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での特別遊技制御処理のフローチャートである。

【図 7 8】図 7 8 は、第 2 実施形態の変更例 1 に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での終了デモ時間制御処理のフローチャートである。

【図 7 9】図 7 9 は、第 2 実施形態の変更例 1 に係るぱちんこ遊技機における、サブメイン制御部側での特別遊技関連表示制御処理のフローチャートである。

【図 8 0】図 8 0 は、第 3 実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での第

50

1 (第2) 主遊技図柄表示処理のフローチャートである。

【図81】図81は、第3実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での第1 (第2) 主遊技図柄表示処理にて用いられる主遊技テーブル構成図である。

【図82】図82は、第3実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での特別遊技制御処理のフローチャートである。

【図83】図83は、第3実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での振分遊技実行処理のフローチャートである。

【図84】図84は、第3実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での特別遊技終了後の遊技状態決定処理のフローチャートである。

【図85】図85は、第3実施形態に係るぱちんこ遊技機における、サブメイン制御部側での演出内容決定テーブルである。

【図86】図86は、第3実施形態からの変更例1に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側でのタイマ割り込み時処理のフローチャートである。

【図87】図87は、第3実施形態からの変更例1に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での主遊技図柄表示処理のフローチャートである。

【図88】図88は、第3実施形態からの変更例1に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での限定頻度変動態様決定処理のフローチャートである。

【図89】図89は、第3実施形態からの変更例1に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での第1 (第2) 主遊技図柄表示処理にて用いられる主遊技テーブル構成図である。

【図90】図90は、第3実施形態からの変更例1に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での特別遊技制御処理のフローチャートである。

【図91】図91は、第3実施形態からの変更例1に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での終了デモ時間制御処理のフローチャートである。

【図92】図92は、第3実施形態からの変更例1に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での特別遊技関連表示制御処理のフローチャートである。

【図93】図93は、第3実施形態からの変更例2に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での特別遊技制御処理のフローチャートである。

【図94】図94は、第3実施形態からの変更例2に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での振分遊技実行処理のフローチャートである。

【図95】図95は、第3実施形態からの変更例2に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での大入賞口の開放パターンを例示する図である。

【図96】図96は、第3実施形態からの変更例2に係るぱちんこ遊技機における、サブメイン制御部側での開始デモ時間制御処理のフローチャートである。

【図97】図97は、第3実施形態からの変更例2に係るぱちんこ遊技機における、サブメイン制御部側での特別遊技関連表示制御処理のフローチャートである。

【図98】図98は、第3実施形態からの変更例2に係るぱちんこ遊技機における、サブメイン制御部側での開始デモ演出実行処理のフローチャートである。

【図99】図99は、第4実施形態に係る遊技機の正面図である。

【図100】図100は、第4実施形態に係る第2大入賞口C20に係る作用図である。

【図101】図101は、第4実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側でのメインフローチャートである。

【図102】図102は、第4実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での第1 (第2) 主遊技図柄表示処理のフローチャートである。

【図103】図103は、第4実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での第1 (第2) 主遊技図柄表示処理にて用いられるテーブル構成図である。

【図104】図104は、第4実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での特別遊技終了後の遊技状態決定処理のフローチャートである。

【図105】図105は、第4実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での小当り遊技制御処理のフローチャートである。

10

20

30

40

50

【図106】図106は、第4実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での上遮蔽部材駆動制御処理のフローチャートである。

【図107】図107は、第4実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での下遮蔽部材駆動制御処理のフローチャートである。

【図108】図108は、第4実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側でのV入賞口入球判定処理のフローチャートである。

【図109】図109は、第4実施形態に係るぱちんこ遊技機における、サブメイン制御部側でのメインフローチャートである。

【図110】図110は、第4実施形態に係るぱちんこ遊技機における、サブメイン制御部側でのV入賞検出演出表示制御処理のフローチャートである。

【図111】図111は、第4実施形態に係るぱちんこ遊技機における、サブメイン制御部側での小当り遊技関連表示制御処理のフローチャートである。

【図112】図112は、第4実施形態に係るぱちんこ遊技機における、V入賞口への入賞に係る作用図である。

【図113】図113は、第5実施形態に係るぱちんこ遊技機の正面図である。

【図114】図114は、第5実施形態に係るぱちんこ遊技機の電氣的全体構成図である。

【図115】図115は、第5実施形態に係るぱちんこ遊技機のECOユニット及び賞球払出制御基板間の処理イメージ図1である。

【図116】図116は、第5実施形態に係るぱちんこ遊技機のぱちんこ遊技機のECOユニット及び賞球払出制御基板間の処理イメージ図2である。

【図117】図117は、第5実施形態に係るぱちんこ遊技機の遊技球循環イメージ図である。

【図118】図118は、第5実施形態に係るぱちんこ遊技機における、賞球払出制御部側でのメインフローチャートである。

【図119】図119は、第5実施形態に係るぱちんこ遊技機における、賞球払出制御部側での電断復帰時初期処理のフローチャートである。

【図120】図120は、第5実施形態に係るぱちんこ遊技機における、賞球払出制御部側での遊技球数管理処理のフローチャートである。

【図121】図121は、第5実施形態に係るぱちんこ遊技機における、賞球払出制御部側での持ち球数管理処理のフローチャートである。

【図122】図122は、第5実施形態に係るぱちんこ遊技機における、賞球払出制御部側での遊技球発射制御処理のフローチャートである。

【図123】図123は、第5実施形態に係るぱちんこ遊技機における、賞球払出制御部側での電断時処理のフローチャートである。

【図124a】図124aは、第6実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側でのメイン処理のフローチャートである。

【図124b】図124bは、第6実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板がケースに收容された状態及び設定操作部周辺の断面を示す図である。

【図125】図125は、第6実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での設定変更処理のフローチャートである。

【図126】図126は、第6実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側でのタイマ割り込み時処理のフローチャートである。

【図127】図127は、第7実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側でのメインフローチャートである。

【図128】図128は、第7実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での入球状態表示装置演算処理のフローチャートである。

【図129】図129は、第7実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での第2RAM領域クリアチェック処理のフローチャートである。

【図130】図130は、第7実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での区間判定のフローチャートである。

10

20

30

40

50

【図131】図131は、第7実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での区間A時判定のフローチャートである。

【図132】図132は、第7実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での区間B以降時判定のフローチャートである。

【図133】図133は、第7実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側でのSW集計処理のフローチャートである。

【図134】図134は、第7実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側でのカウンタ加算処理のフローチャートである。

【図135】図135は、第7実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での演算処理のフローチャートである。

10

【図136】図136は、第7実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での入球状態表示装置表示制御処理のフローチャートである。

【図137】図137は、第7実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での表示内容更新処理のフローチャートである。

【図138】図138は、第7実施形態に係るぱちんこ遊技機における、スタックエリア切り替えのイメージ図である。

【図139】図139は、第7実施形態の変形例1に係るぱちんこ遊技機の電氣的全体構成図である。

【図140】図140は、第6実施形態に係るぱちんこ遊技機における、設定変更中、及び設定確認中における、演出表示装置での表示態様の例を示した図である。

20

【図141】図141は、第8実施形態に係るぱちんこ遊技機における、設定値に応じて主遊技図柄の当選確率を変更する場合の第1主遊技用当否抽選テーブル（第2主遊技用当否抽選テーブル）の構成図である。

【図142】図142は、第9実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での主遊技内容決定乱数取得処理のフローチャートである。

【図143】図143は、第9実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での先読み用判定処理のフローチャートである。

【図144】図144は、第9実施形態に係るぱちんこ遊技機における、サブメイン制御部側での先読み演出実行判定処理のフローチャートである。

【図145】図145は、第9実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板が有する第1主遊技用当否抽選テーブル（第2主遊技用当否抽選テーブル）である。

30

【図146】図146は、第9実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板が設定値を把握せずに設定値毎の当否抽選テーブルを得るための構成の例を示した図である。

【図147】図147は、第10実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側でのメイン処理のフローチャートである。

【図148】図148は、第10実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での初期設定処理のフローチャートである。

【図149】図149は、第10実施形態に係るぱちんこ遊技機における、初期設定処理で設定される当選抽選乱数の乱数上限値を示すテーブルである。

【図150】図150は、第11実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主遊技内容決定乱数取得処理のフローチャートである。

40

【図151】図151は、第11実施形態からの変形例に係るぱちんこ遊技機における、設定値用のパラメータの例を示した図である。

【図152】図152は、第12実施形態における、第1主遊技用当否抽選テーブル（第2主遊技用当否抽選テーブル）の一例である。

【図153】図153は、第13実施形態における、機能構成図の一例である。

【図154】図154は、第14実施形態における、メモリマップの一例である。

【図155】図155は、第15実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での第1（第2）主遊技図柄表示処理のフローチャートである。

【図156】図156は、第15実施形態からの変更例1に係るぱちんこ遊技機における

50

、主制御基板側での第1（第2）主遊技図柄表示処理のフローチャートである。

【図157】図157は、第15実施形態からの変更例1に係るぱちんこ遊技機における、テーブル構成図である。

【図158】図158は、第15実施形態からの変更例2に係るぱちんこ遊技機における、特別遊技終了後の遊技状態決定処理のフローチャートである。

【図159】図159は、第15実施形態からの変更例3に係るぱちんこ遊技機における、特別遊技終了後の遊技状態決定処理のフローチャートである。

【図160】図160は、第15実施形態からの変更例4に係るぱちんこ遊技機における、特別遊技終了後の遊技状態決定処理のフローチャートである。

【図161】図161は、第16実施形態に係るぱちんこ遊技機における、テーブル構成図である。

10

【図162】図162は、第16実施形態に係るぱちんこ遊技機における、特別遊技終了後の遊技状態決定処理のフローチャートである。

【図163】図163は、第17実施形態に係るぱちんこ遊技機における、正面図である。

【図164】図164は、第17実施形態に係るぱちんこ遊技機における、振分部材ユニットの作用図である。

【図165】図165は、第17実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での主遊技図柄表示処理のフローチャートである。

【図166】図166は、第17実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での第1（第2）主遊技図柄表示処理のフローチャートである。

20

【図167】図167は、第17実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での第1（第2）主遊技図柄表示処理にて用いられる主遊技テーブル構成図である。

【図168】図168は、第17実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での第1（第2）主遊技図柄表示処理にて用いられる主遊技テーブル構成図である。

【図169】図169は、第17実施形態に係るぱちんこ遊技機における、小当りによる変動態様決定用抽選テーブルの遷移図である。

【図170】図170は、第17実施形態の変更例に係るぱちんこ遊技機における、正面図である。

【図171】図171は、第18実施形態に係るぱちんこ遊技機における、正面図である。

【図172】図172は、第18実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での第1（第2）主遊技図柄表示処理にて用いられる主遊技テーブル構成図である。

30

【図173】図173は、第18実施形態に係るぱちんこ遊技機における、遊技フロー図である。

【図174】図174は、第19実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での第1（第2）主遊技図柄表示処理にて用いられる主遊技テーブル構成図である。

【図175】図175は、第19実施形態の変更例に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での第1（第2）主遊技図柄表示処理にて用いられる主遊技テーブル構成図である。

【図176】図176は、第21実施形態に係るぱちんこ遊技機における、設定変更方法に係るイメージ図である。

40

【図177】図177は、第21実施形態に係るぱちんこ遊技機における、設定変更方法に係るイメージ図である。

【図178】図178は、第21実施形態に係るぱちんこ遊技機における、設定確認方法に係るイメージ図である。

【図179】図179は、第21実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側でのメイン処理のフローチャートである。

【図180】図180は、第21実施形態に係るぱちんこ遊技機における、電源投入時のサブ側へのコマンドに係る図表である。

【図181】図181は、第21実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での設定変更処理のフローチャートである。

50

【図182】図182は、第21実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での設定確認処理のフローチャートである。

【図183】図183は、第21実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側でのタイマ割り込み時処理のフローチャートである。

【図184】図184は、第21実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での第1（第2）主遊技図柄表示処理のフローチャートである。

【図185】図185は、第21実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での特別遊技開始時制御処理のフローチャートである。

【図186】図186は、第21実施形態に係るぱちんこ遊技機における、大入賞口の開放態様に係る図表である。

10

【図187】図187は、第21実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での特別遊技制御処理のフローチャートである。

【図188】図188は、第21実施形態に係るぱちんこ遊技機における、ラウンド表示灯テーブルに係る図表である。

【図189】図189は、第22実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での主遊技内容決定乱数取得処理のフローチャートである。

【図190】図190は、第22実施形態に係るぱちんこ遊技機における、先読みコマンドに係る図表である。

【図191】図191は、第23実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側でのメイン処理のフローチャートである。

20

【図192】図192は、第23実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側でのタイマ割り込み時処理のフローチャートである。

【図193】図193は、第23実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での設定制御処理のフローチャートである。

【図194】図194は、本実施形態に係る回胴式遊技機の斜視図である。

【図195】図195は、本実施形態に係る回胴式遊技機の扉を開いた状態の斜視図である。

【図196】図196は、本実施形態に係る回胴式遊技機における、メダル投入口内部の斜視図である。

【図197】図197は、本実施形態に係る回胴式遊技機における、メダル払出装置の正面図及び上面図である。

30

【図198】図198は、本実施形態に係る回胴式遊技機における、基本仕様一覧である。

【図199】図199は、本実施形態に係る回胴式遊技機における、リール配列一覧である。

【図200】図200は、本実施形態に係る回胴式遊技機における、図柄組み合わせ一覧1である。

【図201】図201は、本実施形態に係る回胴式遊技機における、図柄組み合わせ一覧2である。

【図202】図202は、本実施形態に係る回胴式遊技機における、図柄組み合わせ一覧3である。

40

【図203】図203は、本実施形態に係る回胴式遊技機における、条件装置一覧である。

【図204】図204は、本実施形態に係る回胴式遊技機における、小役、再遊技役及びボーナス出現率一覧である。

【図205】図205は、本実施形態に係る回胴式遊技機の電氣的全体構成図である。

【図206】図206は、本実施形態に係る回胴式遊技機における、主制御基板側でのメインフローチャートである。

【図207】図207は、本実施形態に係る回胴式遊技機における、主制御基板側での設定変更装置制御処理のフローチャートである。

【図208】図208は、本実施形態に係る回胴式遊技機における、主制御基板側での復帰不可能エラー処理のフローチャートである。

50

【図 2 0 9】図 2 0 9 は、本実施形態に係る回胴式遊技機における、主制御基板側での遊技進行制御処理（1 枚目）のフローチャートである。

【図 2 1 0】図 2 1 0 は、本実施形態に係る回胴式遊技機における、主制御基板側での遊技進行制御処理（2 枚目）のフローチャートである。

【図 2 1 1】図 2 1 1 は、本実施形態に係る回胴式遊技機における、主制御基板側での遊技進行制御処理（3 枚目）のフローチャートである。

【図 2 1 2】図 2 1 2 は、本実施形態に係る回胴式遊技機における、主制御基板側での内部抽選実行処理のフローチャートである。

【図 2 1 3】図 2 1 3 は、本実施形態に係る回胴式遊技機における、主制御基板側でのゲーム数上乘せ実行処理のフローチャートである。

10

【図 2 1 4】図 2 1 4 は、本実施形態に係る回胴式遊技機における、主制御基板側での A T 状態移行制御処理（1 枚目）のフローチャートである。

【図 2 1 5】図 2 1 5 は、本実施形態に係る回胴式遊技機における、主制御基板側での A T 状態移行制御処理（2 枚目）のフローチャートである。

【図 2 1 6】図 2 1 6 は、本実施形態に係る回胴式遊技機における、主制御基板側での A T 状態移行制御処理（3 枚目）のフローチャートである。

【図 2 1 7】図 2 1 7 は、本実施形態に係る回胴式遊技機における、主制御基板側での条件装置番号管理処理のフローチャートである。

【図 2 1 8】図 2 1 8 は、本実施形態に係る回胴式遊技機における、主制御基板側でのリール回転開始準備処理のフローチャートである。

20

【図 2 1 9】図 2 1 9 は、本実施形態に係る回胴式遊技機における、主制御基板側での残りゲーム数管理処理のフローチャートである。

【図 2 2 0】図 2 2 0 は、本実施形態に係る回胴式遊技機における、主制御基板側での R T 状態移行制御処理のフローチャートである。

【図 2 2 1】図 2 2 1 は、本実施形態に係る回胴式遊技機における、R T 状態遷移図である。

【図 2 2 2】図 2 2 2 は、本実施形態に係る回胴式遊技機における、主制御基板側での A T 状態開始制御処理のフローチャートである。

【図 2 2 3】図 2 2 3 は、本実施形態に係る回胴式遊技機における、A T 状態遷移図である。

30

【図 2 2 4】図 2 2 4 は、本実施形態に係る回胴式遊技機における、主制御基板側での遊技区間移行制御処理のフローチャートである。

【図 2 2 5】図 2 2 5 は、本実施形態に係る回胴式遊技機における、主制御基板側でのタイマ割り込み時処理のフローチャートである。

【図 2 2 6】図 2 2 6 は、本実施形態に係る回胴式遊技機における、主制御基板側での回胴駆動制御処理のフローチャートである。

【図 2 2 7】図 2 2 7 は、本実施形態に係る回胴式遊技機における、主制御基板側での回胴駆動制御処理のフローチャートである。

【図 2 2 8】図 2 2 8 は、本実施形態に係る回胴式遊技機における、リールの回転動作に関するイメージ図である。

40

【図 2 2 9】図 2 2 9 は、本実施形態に係る回胴式遊技機における、主制御基板側での電源断時処理のフローチャートである。

【図 2 3 0】図 2 3 0 は、本例に係る回胴式遊技機における、押し順表示イメージ図である。

【図 2 3 1】図 2 3 1 は、本実施形態に係る回胴式遊技機における、副制御基板側でのサブ側プログラム開始処理のフローチャートである。

【図 2 3 2】図 2 3 2 は、本実施形態に係る回胴式遊技機における、副制御基板側でのサブメインループ処理のフローチャートである。

【図 2 3 3】図 2 3 3 は、本実施形態に係る回胴式遊技機における、副制御基板側でのサブ側電源断時処理のフローチャートである。

50

【図 2 3 4】図 2 3 4 は、本実施形態に係る回胴式遊技機における、副制御基板側での 1 コマンド処理のフローチャートである。

【図 2 3 5】図 2 3 5 は、本実施形態に係る回胴式遊技機における、副制御基板側でのスタートレバー操作時演出関連決定処理のフローチャートである。

【図 2 3 6】図 2 3 6 は、本実施形態に係る回胴式遊技機における、副制御基板側でのバトル演出実行可否決定処理のフローチャートである。

【図 2 3 7】図 2 3 7 は、本実施形態に係る回胴式遊技機における、副制御基板側での滞在ステージ決定テーブルの一例である。

【図 2 3 8】図 2 3 8 は、本実施形態に係る回胴式遊技機における、副制御基板側での A T 中演出決定処理のフローチャートである。

10

【図 2 3 9】図 2 3 9 は、本実施形態に係る回胴式遊技機における、副制御基板側での復活可否演出決定処理のフローチャートである。

【図 2 4 0】図 2 4 0 は、本実施形態に係る回胴式遊技機における、副制御基板側でのスタートレバー操作時処理のフローチャートである。

【図 2 4 1】図 2 4 1 は、本実施形態に係る回胴式遊技機における、副制御基板側でのスタートレバー操作時 A T 中処理のフローチャートである。

【図 2 4 2】図 2 4 2 は、本実施形態に係る回胴式遊技機における、副制御基板側でのスタートレバー操作時特化前兆処理のフローチャートである。

【図 2 4 3】図 2 4 3 は、本実施形態に係る回胴式遊技機における、副制御基板側でのスタートレバー操作時上乗せ特化処理のフローチャートである。

20

【図 2 4 4】図 2 4 4 は、本実施形態に係る回胴式遊技機における、副制御基板側でのスタートレバー操作時有利 B B 内部中処理のフローチャートである。

【図 2 4 5】図 2 4 5 は、本実施形態に係る回胴式遊技機における、副制御基板側での第 1 回胴停止受付時処理のフローチャートである。

【図 2 4 6】図 2 4 6 は、本実施形態に係る回胴式遊技機における、副制御基板側での第 2 回胴停止受付時処理のフローチャートである。

【図 2 4 7】図 2 4 7 は、本実施形態に係る回胴式遊技機における、副制御基板側での第 3 回胴停止時演出関連決定処理のフローチャートである。

【図 2 4 8】図 2 4 8 は、本実施形態に係る回胴式遊技機における、副制御基板側での第 3 回胴停止受付時処理のフローチャートである。

30

【図 2 4 9】図 2 4 9 は、本実施形態に係る回胴式遊技機における、副制御基板側でのメニュー画面表示制御処理のフローチャートである。

【図 2 5 0】図 2 5 0 は、本実施形態に係る回胴式遊技機における、副制御基板側での待機画面表示制御処理のフローチャートである。

【図 2 5 1】図 2 5 1 は、本実施形態に係る回胴式遊技機における、待機画面移行イメージ図である。

【図 2 5 2】図 2 5 2 は、本例に係る遊技機に適用可能なメモリマップ構成図である。

【図 2 5 3】図 2 5 3 は、本例に係る遊技機に適用可能な再遊技の当選したゲームにおける作用図である。

【図 2 5 4】図 2 5 4 は、本例に係る遊技機に適用可能な再遊技の当選したゲームにおける作用図である。

40

【図 2 5 5】図 2 5 5 は、本例に係る遊技機に適用可能な再遊技の当選したゲームにおける作用図である。

【図 2 5 6】図 2 5 6 は、本例に係る遊技機に適用可能な再遊技の当選したゲームにおける作用図である。

【図 2 5 7】リールとホッパとの相対的な位置の概略を示す正面図である。

【図 2 5 8】リールとホッパとの相対的な位置の概略を示す側断面図である。

【図 2 5 9】ホッパの内部の構造を示す斜視図である。

【図 2 6 0】リールとホッパとの相対的な位置の概略を示す正面図である。

【図 2 6 1】メダル補助タンク H S と満杯検知電極 D E との配置を示す斜視図である。

50

【図 2 6 2】満杯検知電極とビス B S の大きさ及び位置を示す概略図である。

【図 2 6 3】リール帯の構成を示す図である。

【図 2 6 4】リール帯の構成を示す図である。

【図 2 6 5】図 2 6 5 は、第 2 実施形態に係る回胴式遊技機における、主制御基板側での遊技進行制御処理（3 枚目）のフローチャートである。

【図 2 6 6】図 2 6 6 は、第 2 実施形態に係る回胴式遊技機における、主制御基板側での回転開始時フリーズ実行判定処理のフローチャートである。

【図 2 6 7】図 2 6 7 は、第 2 実施形態に係る回胴式遊技機における、主制御基板側でのリール回転開始準備処理のフローチャートである。

【図 2 6 8】図 2 6 8 は、第 2 実施形態に係る回胴式遊技機における、主制御基板側での停止時フリーズ実行判定処理のフローチャートである。

【図 2 6 9】図 2 6 9 は、第 2 実施形態に係る回胴式遊技機における、A T 開始演出実行イメージ図である。

【図 2 7 0】図 2 7 0 は、本例に係る回胴式遊技機に適用可能な、ランプユニット点灯構成イメージ図である。

【図 2 7 1】図 2 7 1 は、本例に係る回胴式遊技機に適用可能な、状況別報知態様の一例である。

【図 2 7 2】図 2 7 2 は、本例に係る回胴式遊技機に適用可能な、払出に関する構成の一例である。

【図 2 7 3】図 2 7 3 は、本例に係る回胴式遊技機に適用可能な、マックスベットランプの点灯態様の一例 1 である。

【図 2 7 4】図 2 7 4 は、本例に係る回胴式遊技機に適用可能な、マックスベットランプの点灯態様の一例 2 である。

【図 2 7 5】図 2 7 5 は、本例に係る回胴式遊技機に適用可能な、マックスベットランプの点灯態様の一例 3 である。

【図 2 7 6】図 2 7 6 は、本例に係る回胴式遊技機に適用可能な、マックスベットランプの点灯態様の一例 4 である。

【図 2 7 7】図 2 7 7 は、本例に係る回胴式遊技機に適用可能な、精算ボタン操作時の作用の一例 1 である。

【図 2 7 8】図 2 7 8 は、本例に係る回胴式遊技機に適用可能な、精算ボタン操作時の作用の一例 2 である。

【図 2 7 9】図 2 7 9 は、本例に係る回胴式遊技機に適用可能な、精算ボタン操作時の作用の一例 3 である。

【図 2 8 0】図 2 8 0 は、本例に係る回胴式遊技機に適用可能な、精算ボタン操作時の作用の一例 4 である。

【図 2 8 1】図 2 8 1（a）は、遊技機への給電と電源断とのタイミングの第 1 の態様を示すタイミングチャートであり、図 2 8 1（b）は、遊技機の給電と電源断とのタイミングの第 2 の態様を示すタイミングチャートである。

【図 2 8 2】図 2 8 2（a）は、第 1 の態様での設定キースwitchの状態と給電状態と状況との関係を示す表であり、図 2 8 2（b）は、第 2 の態様での設定キースwitchの状態と給電状態と状況との関係を示す表である。

【図 2 8 3】図 2 8 3 は、クレジット数が加算される処理と、遊技メダルが払い出される処理と、遊技媒体付与音が出力される処理を示すタイミングチャートである。

【図 2 8 4】図 2 8 4 は、主制御基板 M に実装されている電子部品の配置を示す正面図である。

【図 2 8 5】図 2 8 5 は、主制御基板 M に実装されている電子部品の配置を示す側面図である。

【図 2 8 6】図 2 8 6 は、本例に係る回胴式遊技機に適用可能な、主制御基板側での A T 状態移行制御処理のフローチャートである。

【図 2 8 7】図 2 8 7 は、本例に係る回胴式遊技機に適用可能な、A T 中状態でのウエイ

10

20

30

40

50

トが無い場合における1つ目の押し順ナビの開始タイミングのイメージ図である。

【図288】図288は、本例に係る回胴式遊技機に適用可能な、AT中状態でのウエイトが無い場合における2つ目の押し順ナビの開始タイミングのイメージ図である。

【図289】図289は、本例に係る回胴式遊技機に適用可能な、AT中状態でのウエイトがある場合における1つ目の押し順ナビの開始タイミングのイメージ図である。

【図290】図290は、本例に係る回胴式遊技機に適用可能な、AT中状態でのウエイトがある場合における2つ目の押し順ナビの開始タイミングのイメージ図である。

【図291】図291は、本例に係る回胴式遊技機に適用可能な、AT中状態でのウエイトがある場合における3つ目の押し順ナビの開始タイミングのイメージ図である。

【図292】図292は、本例に係る回胴式遊技機の斜視図である。

10

【図293】図293は、本例に係る回胴式遊技機に適用可能な、AT中状態でのウエイトが無い場合におけるリール窓枠ランプを含めた押し順ナビの開始タイミングのイメージ図である。

【図294】図294は、本例に係る回胴式遊技機に適用可能な、AT中状態でのウエイトがある場合におけるリール窓枠ランプを含めた押し順ナビの開始タイミングのイメージ図である。

【図295】図295は、本例に係る回胴式遊技機に適用可能な、AT中状態でのウエイトが無い場合における音声を含めた押し順ナビの開始タイミングのイメージ図である。

【図296】図296は、本例に係る回胴式遊技機に適用可能な、AT中状態でのウエイトがある場合における音声を含めた押し順ナビの開始タイミングのイメージ図である。

20

【図297】図297は、本例に係る回胴式遊技機に適用可能な、AT中状態での押し順ベル役当選時における1つ目の押し順ナビの終了タイミングのイメージ図である。

【図298】図298は、本例に係る回胴式遊技機に適用可能な、AT中状態での押し順ベル役当選時における2つ目の押し順ナビの終了タイミングのイメージ図である。

【図299】図299は、本例に係る回胴式遊技機に適用可能な、AT中状態での押し順ベル役当選時における3つ目の押し順ナビの終了タイミングのイメージ図である。

【図300】図300は、本例に係る回胴式遊技機に適用可能な、AT中状態での押し順再遊技役当選時における1つ目の押し順ナビの終了タイミングのイメージ図である。

【図301】図301は、本例に係る回胴式遊技機に適用可能な、AT中状態での押し順再遊技役当選時における2つ目の押し順ナビの終了タイミングのイメージ図である。

30

【図302】図302は、本例に係る回胴式遊技機に適用可能な、AT中状態でのリール停止制御と押し順ナビの表示態様の变化のイメージ図である。

【図303】図303は、第3実施形態に係る回胴式遊技機に適用可能な、第1投入センサと第2投入センサとの遊技メダルの検知態様を示すタイミングチャートである。

【図304】図304は、第3実施形態に係る回胴式遊技機に適用可能な、主制御基板側での遊技進行制御処理のフローチャートである。

【図305】図305は、第3実施形態に係る回胴式遊技機に適用可能な、主制御基板側でのメダル投入エラー処理のフローチャートである。

【図306】図306は、第3実施形態に係る回胴式遊技機に適用可能な、主制御基板側での第1投入センサ及び第2投入センサの遊技メダルの検知とクレジット加算処理の関係を示す図である。

40

【図307】図307は、第3実施形態に係る回胴式遊技機に適用可能な、主制御基板側でのシュートセンサによるエラー検出のイメージ図である。

【図308】図308は、第3実施形態に係る回胴式遊技機に適用可能な、第1投入センサ及び第2投入センサとシュートセンサとの遊技メダルの検知態様を示すタイミングチャートである。

【図309】図309は、第4実施形態に係る回胴式遊技機に適用可能な、メダル返却部材の正面図である。

【図310】図310は、第4実施形態に係る回胴式遊技機に適用可能な、メダル返却部材の側面図である。

50

【図 3 1 1】図 3 1 1 は、第 4 実施形態に係る回胴式遊技機に適用可能な、メダル返却部材を流下する遊技メダルの軌跡図である。

【図 3 1 2】図 3 1 2 は、第 4 実施形態に係る回胴式遊技機に適用可能な、メダル受入口へ払い出される遊技メダルの軌跡図である。

【図 3 1 3】図 3 1 3 は、第 5 実施形態に係る回胴式遊技機に適用可能な、ホップモータ駆動時における第 1 払出センサと第 2 払出センサとの遊技メダルの検知態様を示すタイミングチャートである。

【図 3 1 4】図 3 1 4 は、第 5 実施形態に係る回胴式遊技機に適用可能な、ホップモータ駆動開始からホップモータ駆動停止までのディスクの回転態様のイメージ図である。

【図 3 1 5】図 3 1 5 は、第 6 実施形態に係る回胴式遊技機に適用可能な、精算処理中に主制御基板と副制御基板の通信が不可となった後、通信が復旧した場合での主制御基板側から送信される制御コマンドに基づいた副制御基板側の音声出力処理を示した 1 つ目のパターン図である。

10

【図 3 1 6】図 3 1 6 は、第 6 実施形態に係る回胴式遊技機に適用可能な、精算処理中に主制御基板と副制御基板の通信が不可となった後、通信が復旧した場合での主制御基板側から送信される制御コマンドに基づいた副制御基板側の音声出力処理を示した 2 つ目のパターン図である。

【図 3 1 7】図 3 1 7 は、第 6 実施形態に係る回胴式遊技機に適用可能な、ウェイト期間中に主制御基板と副制御基板の通信が不可となった後、通信が復旧した場合での主制御基板側から送信される制御コマンドに基づいた副制御基板側の音声出力処理を示したパターン図である。

20

【図 3 1 8】図 3 1 8 は、第 6 実施形態に係る回胴式遊技機に適用可能な、ホップからのメダル払出処理中に主制御基板と副制御基板の通信が不可となった後、通信が復旧した場合での主制御基板側から送信される制御コマンドに基づいた副制御基板側の音声出力処理を示した 1 つ目のパターン図である。

【図 3 1 9】図 3 1 9 は、第 6 実施形態に係る回胴式遊技機に適用可能な、ホップからのメダル払出処理中に主制御基板と副制御基板の通信が不可となった後、通信が復旧した場合での主制御基板側から送信される制御コマンドに基づいた副制御基板側の音声出力処理を示した 2 つ目のパターン図である。

【図 3 2 0】図 3 2 0 は、本例に適用可能な置数に関する表である。

30

【図 3 2 1】図 3 2 1 は、本例に適用可能な有利アイコン表示イメージ図 1 である。

【図 3 2 2】図 3 2 2 は、本例に適用可能な有利アイコン表示イメージ図 2 である。

【図 3 2 3】図 3 2 3 は、本例に適用可能な有利アイコン表示イメージ図 3 である。

【図 3 2 4】図 3 2 4 は、本例に適用可能な有利アイコン表示イメージ図 4 である。

【図 3 2 5】図 3 2 5 は、本例に適用可能な有利アイコン表示イメージ図 5 である。

【図 3 2 6】図 3 2 6 は、本例に適用可能な変動時間決定用テーブルイメージ図である。

【図 3 2 7】図 3 2 7 は、本例に適用可能な参照テーブル決定イメージ図である。

【図 3 2 8】図 3 2 8 は、本例に適用可能な特別遊技実行イメージ図である。

【図 3 2 9】図 3 2 9 は、本例に適用可能な大入賞口開放態様イメージ図である。

【図 3 3 0】図 3 3 0 は、本例に適用可能な大当たり図柄停止イメージ図である。

40

【図 3 3 1】図 3 3 1 は、本例に適用可能な時間短縮遊技状態での演出イメージ図 1 である。

【図 3 3 2】図 3 3 2 は、本例に適用可能な時間短縮遊技状態での演出イメージ図 2 である。

【図 3 3 3】図 3 3 3 は、本例に適用可能な時間短縮遊技状態終了時の演出イメージ図である。

【図 3 3 4】図 3 3 4 は、第 2 4 実施形態に係るぱちんこ遊技機における、時間短縮遊技状態における時短図柄の時短抽選を示す図である。

【図 3 3 5】図 3 3 5 は、第 2 4 実施形態に係るぱちんこ遊技機における、時間短縮遊技状態を作動させる際に参照する乱数毎の処理に関する図である。

50

【図 3 3 6】図 3 3 6 は、第 2 4 実施形態に係るぱちんこ遊技機における、時間短縮遊技状態における時短図柄の抽選を示す図である。

【図 3 3 7】図 3 3 7 は、第 2 4 実施形態に係るぱちんこ遊技機における、ぱちんこ遊技機のタイプ別の各契機を示す図である。

【図 3 3 8】図 3 3 8 は、第 2 4 実施形態に係るぱちんこ遊技機における、小当り図柄と時短図柄の関係性を示す図である。

【図 3 3 9】図 3 3 9 は、第 2 4 実施形態に係るぱちんこ遊技機における、時短回数の抽選方式を示す図である。

【図 3 4 0】図 3 4 0 は、第 2 4 実施形態に係るぱちんこ遊技機における、第 1 主遊技図柄と第 2 主遊技図柄の変動回数と第 2 主遊技図柄の変動回数を併用した場合の説明図である。

10

【図 3 4 1】図 3 4 1 は、第 2 4 実施形態に係るぱちんこ遊技機における、遊技状態別の時短の作動パターンを示す図である。

【図 3 4 2】図 3 4 2 は、第 2 4 実施形態に係るぱちんこ遊技機における、時短が重複した場合の時短回数 N の設定方法を示す図である。

【図 3 4 3】図 3 4 3 は、第 2 4 実施形態に係るぱちんこ遊技機における、優先変動タイプまたは入賞順変動タイプの作動回数 n の加算タイミングを示す図である。

【図 3 4 4】図 3 4 4 は、第 2 4 実施形態に係るぱちんこ遊技機における、1 種 + 1 種小当り V タイプの変動終了時に作動回数 n の加算タイミングを示す図である。

【図 3 4 5】図 3 4 5 は、第 2 4 実施形態に係るぱちんこ遊技機における、1 種 + 1 種小当り V タイプの小当り遊技終了時に作動回数 n の加算タイミングを示す図である。

20

【図 3 4 6】図 3 4 6 は、第 2 4 実施形態に係るぱちんこ遊技機における、1 種 + 1 種並列タイプにおける時短 C を作動させるか否かを判断する遊技状態を示す図である。

【図 3 4 7】図 3 4 7 は、第 2 4 実施形態に係るぱちんこ遊技機における、時短 C を作動させるか否かを判断する遊技状態を示す図である。

【図 3 4 8】図 3 4 8 は、第 2 4 実施形態に係るぱちんこ遊技機における、第 1 主遊技図柄と第 2 主遊技図柄の変動回数と第 2 主遊技図柄の変動回数を併用した場合の説明図である。

【図 3 4 9】図 3 4 9 は、第 2 4 実施形態に係るぱちんこ遊技機における、時短回数を 1 つ有する設定機能付きぱちんこ遊技機の時短 C の抽選方式を示す図である。

30

【図 3 5 0】図 3 5 0 は、第 2 4 実施形態に係るぱちんこ遊技機における、時短回数を複数有する設定機能付きぱちんこ遊技機の時短 C の抽選方式を示す図である。

【図 3 5 1】図 3 5 1 は、第 2 4 実施形態に係るぱちんこ遊技機における、時短 A、時短 B、時短 C が重複して実行される例を示す図である。

【図 3 5 2】図 3 5 2 は、第 2 4 実施形態に係るぱちんこ遊技機における、時短 B が連続して実行される例を示す図である。

【図 3 5 3】図 3 5 3 は、第 2 4 実施形態に係るぱちんこ遊技機における、時短 B の作動タイミングと時短 C の作動タイミングの処理を示す図である。

【図 3 5 4】図 3 5 4 は、第 2 4 実施形態に係るぱちんこ遊技機における、時短 A または時短 B の終了タイミングと時短 C の作動タイミングの処理を示す図である。

40

【図 3 5 5】図 3 5 5 は、変動待機中の画面表示を示す図である。

【図 3 5 6】図 3 5 6 は、音量調整又は光量調整の画面表示を示す図である。

【図 3 5 7】図 3 5 7 は、通常変動中の画面表示を示す図である。

【図 3 5 8】図 3 5 8 は、S P リーチ中の画面表示を示す図である。

【図 3 5 9】図 3 5 9 は、保留表示の更新の遷移を示す図である。

【図 3 6 0】図 3 6 0 は、先読み演出（保留変化演出）と第 1 装飾図柄が所定の表示態様となる確率の関係を示す図である。

【図 3 6 1】図 3 6 1 は、保留数と第 1 装飾図柄が所定の表示態様となる確率の関係を示す図である。

【図 3 6 2】図 3 6 2 は、遊技状態と最終表示態様との関係を示す図である。

50

【図 3 6 3】図 3 6 3 は、遊技状態と打ち方警告表示（左打ち警告表示、右打ち警告表示）の関係を示す図である。

【図 3 6 4】図 3 6 4 は、先読み演出と擬似連図柄が表示される確率の関係を示す図である。

【図 3 6 5】図 3 6 5 は、先読み演出表示中に擬似連図柄が表示される確率とトリガ変動の変動中に擬似連図柄表示される確率の関係を示す図である。

【図 3 6 6】図 3 6 6 は、電源断（RAMクリアではない）と電源断復帰後の装飾図柄の関係を示す図である。

【図 3 6 7】図 3 6 7 は、電源断（RAMクリア）と電源断復帰後の装飾図柄の関係を示す図である。

【図 3 6 8】図 3 6 8 は、リーチボイスと擬似連図柄が表示される確率の関係を示す図である。

【図 3 6 9】図 3 6 9 は、全回転演出における装飾図柄の表示態様を示す図である。

【図 3 7 0】図 3 7 0 は、ステージ毎の装飾図柄の変動態様を示す図である。

【図 3 7 1】図 3 7 1 は、変動中における装飾図柄の表示内容を示す図である。

【図 3 7 2】図 3 7 2 は、再変動が実行される際の第 1 装飾図柄と第 2 装飾図柄の表示態様を示すイメージ図である。

【図 3 7 3】図 3 7 3 は、特定図柄が表示されてスーパーリーチ演出となる際の表示遷移を示すイメージ図である。

【図 3 7 4】図 3 7 4 は、予告種別に対応して発展図柄が表示され、スーパーリーチ演出となる際の表示遷移を示すイメージ図である。

【図 3 7 5】図 3 7 5 は、同じ予告種別のうち異なる表示態様がされた場合にスーパーリーチ演出となる際の表示遷移を示すイメージ図である。

【図 3 7 6】図 3 7 6 は、異なる先読み演出が行われてスーパーリーチ演出となる際の表示遷移を示すイメージ図である。

【図 3 7 7】図 3 7 7 は、同じ先読み演出種別のうち異なる表示態様が行われてスーパーリーチ演出となる際の表示遷移を示すイメージ図である。

【図 3 7 8】図 3 7 8 は、異なる表示を経由して同一のスーパーリーチ演出に発展する際の表示遷移を示すイメージ図である。

【図 3 7 9】図 3 7 9 は、ボタン演出を経由してスーパーリーチ演出に発展する際の表示遷移を示すイメージ図である。

【図 3 8 0】図 3 8 0 は、異なる演出ステージにおいてスーパーリーチ演出となる際の表示遷移を示すイメージ図である。

【図 3 8 1】図 3 8 1 は、異なる演出ステージにおいて再変動が実行される際の表示遷移を示すイメージ図である。

【図 3 8 2】図 3 8 2 は、擬似連図柄と特定図柄が表示されてスーパーリーチ演出が実行される際の表示遷移を示すイメージ図である。

【図 3 8 3】図 3 8 3 は、擬似連図柄と特定図柄が表示されてスーパーリーチ演出が実行される際の表示遷移を示すイメージ図である。

【図 3 8 4】図 3 8 4 は、第 1 装飾図柄が重なって表示される際の表示遷移を示すイメージ図である。

【図 3 8 5】図 3 8 5 は、第 1 装飾図柄と第 2 装飾図柄の変動速度の遷移を示すイメージ図である。

【図 3 8 6】図 3 8 6 は、ハズレ変動実行時に電源断が発生した場合に関するイメージ図である。

【図 3 8 7】図 3 8 7 は、当り変動実行時に電源断が発生した場合に関するイメージ図である。

【図 3 8 8】図 3 8 8 は、先読み演出非実行時に電源断が発生した場合に関するイメージ図である。

【図 3 8 9】図 3 8 9 は、先読み演出実行時に電源断が発生した場合に関するイメージ図

10

20

30

40

50

である。

【図 3 9 0】図 3 9 0 は、役物演出実行時に関するイメージ図である。

【図 3 9 1】図 3 9 1 は、非時間短縮遊技状態の作用に関するイメージ図である。

【図 3 9 2】図 3 9 2 は、時間短縮遊技状態における最終変動に関するイメージ図である。

【図 3 9 3】図 3 9 3 は、エラー時の表示プライオリティに関するイメージ図である。

【図 3 9 4】図 3 9 4 は、ボタン演出実行時の表示プライオリティに関するイメージ図である。

【図 3 9 5】図 3 9 5 は、第 1 装飾図柄と遊技状態に関するイメージ図である。

【図 3 9 6】図 3 9 6 は、遊技状態による第 1 装飾図柄の特徴に関するイメージ図である。

【図 3 9 7】図 3 9 7 は、非時間短縮遊技状態における第 1 主遊技側の特定の図柄変動における各アクション等の実行タイミングを示す図である。

10

【図 3 9 8】図 3 9 8 は、変動待機状態における各アクション等の実行タイミングを示す図である。

【図 3 9 9】図 3 9 9 は、非時間短縮遊技状態における第 1 主遊技側の特定の図柄変動における左列、右列、中列の第 1 装飾図柄の各アクションの実行タイミングおよび実行時間を示す図である。

【図 4 0 0】図 4 0 0 は、非時間短縮遊技状態における第 1 主遊技側の特定の図柄変動における左列、右列、中列の第 1 装飾図柄の各アクションの実行タイミングおよび実行時間を示す図である。

【図 4 0 1】図 4 0 1 は、非時間短縮遊技状態における第 1 主遊技側の特定の図柄変動における左・右・中列の第 1 装飾図柄の各アクションの実行タイミングおよび実行時間を示す図である。

20

【図 4 0 2】図 4 0 2 は、ハズレ図柄の確定停止から 1 回目の擬似連図柄の再変動までのイメージ図である。

【図 4 0 3】図 4 0 3 は、変動開始時アクション 2 から擬似連図柄の定位置アクション 2 までのイメージ図である。

【図 4 0 4】図 4 0 4 は、中列の第 1 装飾図柄の定位置アクション 2 から揺れアクション 2 までのイメージ図である。

【図 4 0 5】図 4 0 5 は、中列の第 1 装飾図柄の定位置アクション 3 から確定停止までのイメージ図である。

30

【図 4 0 6】図 4 0 6 は、非時間短縮遊技状態において第 1 主遊技側の保留も第 2 主遊技側の保留も存在していない状況における第 1 主遊技図柄の図柄変動に対応して図柄変動した第 1 装飾図柄がハズレ図柄で確定停止している状態から 2 回目の揺れアクションまでの表示と、当り遊技終了デモから 2 回目の揺れアクションまでの表示とに関するイメージ図である。

【図 4 0 7】図 4 0 7 は、非時間短縮遊技状態における第 1 主遊技側の通常の図柄変動とリーチ変動における左列および右列の第 1 装飾図柄と中列の第 1 装飾図柄との重複関係を示すイメージ図である。

【図 4 0 8】図 4 0 8 は、非時間短縮遊技状態において、第 1 主遊技図柄の図柄変動に対応する第 1 装飾図柄でチャンス目先読み演出を実行する際の定位置アクションを示すイメージ図である。

40

【図 4 0 9】図 4 0 9 は、第 1 主遊技図柄の図柄変動に対応する第 1 装飾図柄でチャンス目先読み演出を実行する際のトリガ保留に応じた定位置アクションを示すイメージ図である。

【図 4 1 0】図 4 1 0 は、時間短縮遊技状態において、第 2 主遊技図柄の図柄変動に対応する第 1 装飾図柄でチャンス目先読み演出を実行する際の定位置アクションを示すイメージ図である。

【図 4 1 1】図 4 1 1 は、第 2 4 実施形態に係るぱちんこ遊技機における、第 1 主遊技図柄の先読み演出を禁止する期間を示す図である。

【図 4 1 2】図 4 1 2 は、第 2 4 実施形態に係るぱちんこ遊技機における、サブメイン側

50

ルーチンにおける第1主遊技図柄の先読み用判定処理のフローチャートである。

【図413】図413は、第24実施形態に係るぱちんこ遊技機における、第2主遊技図柄の先読み演出を禁止する期間を示す図である。

【図414】図414は、第24実施形態に係るぱちんこ遊技機における、副制御部におけるサブメイン側ルーチンにおける第2主遊技図柄の先読み用判定処理のフローチャートである。

【図415】図415は、第24実施形態に係るぱちんこ遊技機における、第2主遊技図柄の先読み演出を禁止する期間を示す図である。

【図416】図416は、第24実施形態に係るぱちんこ遊技機における、時短B作動開始演出を示す図である。

10

【図417】図417は、第24実施形態に係るぱちんこ遊技機における、1種1種並列タイプの時短B作動開始演出を示す図である。

【図418】図418は、第24実施形態に係るぱちんこ遊技機における、時短B作動開始煽り演出としてのカウントダウン演出を示す図である。

【図419】図419は、第24実施形態に係るぱちんこ遊技機における、時短B作動開始煽り演出としての残り数表示演出を示す図である。

【図420】図420は、第24実施形態に係るぱちんこ遊技機における、時短B作動開始煽り演出としての到達数表示演出を示す図である。

【図421】図421は、第24実施形態に係るぱちんこ遊技機における、サブメイン側ルーチンにおける先読み保留内容決定処理のフローチャートである。

20

【図422】図422は、第24実施形態に係るぱちんこ遊技機における、時短Cの作動期待度（時短図柄の当選期待度）を示唆する先読み演出を示す図である。

【図423】図423は、第24実施形態に係るぱちんこ遊技機における、当該変動における時短Cを示唆する変動演出を示す図である。

【図424】図424は、第24実施形態に係るぱちんこ遊技機における、選択メニュー表示を示す図である。

【図425】図425は、第24実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での第1（第2）主遊技図柄表示処理のフローチャートであって、主遊技図柄の図柄変動の変動開始時（図柄変動中も含む）に作動回数をカウントする図である。

【図426】図426は、第24実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での第1（第2）主遊技図柄表示処理のフローチャートであって、主遊技図柄の図柄変動の変動終了時または変動停止時{変動固定時間経過（例えば、500ms）時}に作動回数をカウントする図である。

30

【図427】図427は、第24実施形態に係るぱちんこ遊技機における、時短B設定処理のフローチャートである。

【図428】図428は、第24実施形態に係るぱちんこ遊技機における、時短C設定処理のフローチャートである。

【図429】図429は、第24実施形態に係るぱちんこ遊技機における、時短C設定処理のフローチャートである。

【図430】図430は、第24実施形態に係るぱちんこ遊技機における、特別遊技終了後の遊技状態決定処理のフローチャートである。

40

【図431】図431は、第24実施形態に係るぱちんこ遊技機における、V入賞口入球判定処理のフローチャートである。

【図432】図432は、第24実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での第1（第2）主遊技図柄表示処理のフローチャートであって、主遊技図柄が小当り図柄での図柄変動の変動開始時（図柄変動中も含む）に作動回数をカウントする図である。

【図433】図433は、第24実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での第1（第2）主遊技図柄表示処理のフローチャートであって、主遊技図柄が小当り図柄での図柄変動の変動終了時または変動停止時{変動固定時間経過（例えば、500ms）時}に作動回数をカウントする図である。

50

【図 4 3 4】図 4 3 4 は、第 2 4 実施形態に係るぱちんこ遊技機における、V 入賞口入球判定処理のフローチャートである。

【図 4 3 5】図 4 3 5 は、第 2 4 実施形態に係るぱちんこ遊技機における、各時短における時短回数、各時短における参照する変動パターンテーブルを示す図である。

【図 4 3 6】図 4 3 6 は、第 2 4 実施形態に係るぱちんこ遊技機における、各時短において参照する変動パターンテーブルを示す図である。

【図 4 3 7】図 4 3 7 は、第 2 4 実施形態に係るぱちんこ遊技機における、転落タイプのぱちんこ遊技機の転落タイミング、時短 B リセット信号の出力タイミングを示すタイミングチャートである。

【図 4 3 8】図 4 3 8 は、第 2 4 実施形態に係るぱちんこ遊技機における、サブメイン側ルーチンにおける先読み保留内容決定処理のフローチャートである。

【図 4 3 9】図 4 3 9 は、第 2 4 実施形態に係るぱちんこ遊技機における、1 種 + 1 種並列タイプの先読み演出 B を実行中に先読み演出 B が中断されることを示すタイミングチャートである。

【図 4 4 0】図 4 4 0 は、第 2 4 実施形態に係るぱちんこ遊技機における、残り回数示唆演出を示す図である。

【図 4 4 1】図 4 4 1 は、第 2 5 実施形態に係るぱちんこ遊技機における、正面図である。

【図 4 4 2】図 4 4 2 は、第 2 5 実施形態に係るぱちんこ遊技機における、振分入賞口に係る作用図である。

【図 4 4 3】図 4 4 3 は、第 2 5 実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側でのタイマ割り込み時処理のフローチャートである。

【図 4 4 4】図 4 4 4 は、第 2 5 実施形態に係るぱちんこ遊技機における、補助遊技停止図柄決定用抽選テーブルと、電動役物と振分部材に関する作用図である。

【図 4 4 5】図 4 4 5 は、第 2 5 実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での振分部材駆動制御処理のフローチャートである。

【図 4 4 6】図 4 4 6 は、第 2 5 実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での第 1 非電動役物駆動制御処理のフローチャートである。

【図 4 4 7】図 4 4 7 は、第 2 5 実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での第 2 非電動役物駆動制御処理のフローチャートである。

【図 4 4 8】図 4 4 8 は、第 2 7 実施形態に係るぱちんこ遊技機における、遊技の流れに係る遷移図である。

【図 4 4 9】図 4 4 9 は、第 2 7 実施形態からの変更例 1 に係るぱちんこ遊技機における、遊技の流れに係る遷移図である。

【図 4 5 0】図 4 5 0 は、第 2 7 実施形態からの変更例 3 に係るぱちんこ遊技機における、遊技の流れに係る遷移図である。

【図 4 5 1】図 4 5 1 は、第 2 8 実施形態に係るぱちんこ遊技機における、遊技の流れに係る遷移図である。

【図 4 5 2】図 4 5 2 は、出玉期待値に関する表である。

【発明を実施するための形態】

【0008】

<<<ぱちんこ遊技機に関する実施形態>>>

はじめに、本明細書における各用語の意義について説明する。「入球」とは、賞球が払い出される入賞のみならず、賞球払い出しの無い「スルーチャッカー」への通過も含む。

「識別情報」とは、五感（視覚、聴覚、触覚等）を通じて情報の種類を識別可能であればどのような形態でもよいが、好適には、視覚的なもの、例えば、数字、文字、図柄等の形状のあるものを挙げることができる。また、本明細書においては「識別情報」を、主遊技図柄・特別図柄（特図）や装飾図柄（装図）と呼ぶことがあるが、「特別図柄（特図）」は、主制御基板側にて表示制御される識別情報であり、「装飾図柄（装図）」は、副制御基板側にて表示される演出としての識別情報である。「識別情報を表示可能」とは、表示方法には何ら限定されず、例えば、発光手段（例えば液晶、LED、7セグ）の発光（発

10

20

30

40

50

光の有無だけでなく、色の違いも含む）、物理的な表示（例えば、リール帯に描かれた図柄を所定位置に停止表示する）等、を挙げることができる。「演出」とは、遊技の興趣性を高める表示内容を指し、例えば、識別情報変動・停止や予告等をはじめ、アニメーションや実写等の動画像や絵、写真、文字等の静止画像又はこれらの組み合わせを挙げることができる。「開状態、開放状態」及び「閉状態、閉鎖状態」とは、例えば、一般的な大入賞口（いわゆる、アタッカー）の構成においては、開状態＝入賞容易状態であり、閉状態＝入賞非容易状態となる。また、例えば、遊技盤（遊技者側）から突き出した状態（以下、進出状態と呼ぶことがある）と遊技盤内（遊技者側と反対側）に引っ込んだ状態（以下、退避状態と呼ぶことがある）とを採り得る構成（いわゆる、ベロ型アタッカー）においては、進出状態＝入賞容易状態であり、退避状態＝入賞非容易状態となる。「乱数」とは、ぱちんこ遊技機において何らかの遊技内容を決定するための抽選（電子計算機によるくじ）に使用される乱数であり、狭義の乱数の他に擬似乱数も含む（例えば、乱数としてはハード乱数、擬似乱数としてはソフト乱数）。例えば、遊技の結果に影響を与えるいわゆる「基本乱数」、具体的には、特別遊技の移行と関連した「当選乱数（当否抽選用乱数）」、識別図柄の変動態様（又は変動時間）を決定するための「変動態様決定乱数」、停止図柄を決定する「図柄決定乱数」、特別遊技後に特定遊技（例えば確率変動遊技）に移行するか否かを決定する「当り図柄決定乱数」等を挙げることができる。尚、変動態様の内容や確定識別情報の内容等を決定する際、これらすべての乱数を使用する必要はなく、互いに同一又は相違する、少なくとも一つの乱数を使用すればよい。また、本明細書では、乱数の数とか複数個の乱数、といった形で乱数を個数表示していることがあるが、乱数取得の契機となる入球口（例えば始動入球口）の一回の入球により取得された乱数を一個と称している（即ち、前記の例だと、当選乱数＋変動態様決定乱数＋図柄決定乱数・・・という乱数の束を一個の乱数と称している）。また、例えば、一種の乱数（例えば当選乱数）が、別種の乱数（例えば図柄決定乱数）を兼ねていてもよい。「遊技状態」とは、ぱちんこ遊技機の場合、例えば、大入賞口が開放状態となり得る特別遊技状態、特別遊技状態への移行抽選確率が予め定められた値である非確率変動遊技状態よりも特別遊技状態への移行抽選確率が高い確率変動遊技状態、特別遊技への移行抽選契機となる始動口への入賞に対する補助が有る補助遊技状態（いわゆる、普通図柄時短状態、例えば、始動口に可変部材が取り付けられている場合では、可変部材の開放期間が長い、可変部材の開放当選確率が高い、可変部材の開放抽選の結果報知の時間が短い）、等の任意の一又は複数の組合せである。「遊技領域」とは、遊技球が転動可能な領域であり、遊技盤Ｄ３５の手前（遊技者から見て）のみに限られず、例えば、遊技盤Ｄ３５の奥側（遊技者から見て）と遊技盤Ｄ３５の手前側（遊技者から見て）との双方を含む遊技球が転動可能な領域であってもよい。「左打ち」とは、後述する、遊技領域Ｄ３０の左側（左打ちルートＭＬ１０）を遊技球が流下するよう、遊技球の発射強度を調節して遊技球を打ち出すことである。「右打ち」とは、後述する、遊技領域Ｄ３０の右側（右打ちルートＭＲ１０）を遊技球が流下するよう、遊技球の発射強度を調節して遊技球を打ち出すことである。また、「左打ち領域」とは、遊技領域中央を基準とした場合に遊技領域Ｄ３０の左側の領域のことである。「右打ち領域」とは、遊技領域中央を基準とした場合に遊技領域Ｄ３０の右側の領域のことである。「単位時間あたりにおける易入球遊技の期待平均実行時間」とは、補助遊技図柄の図柄変動が絶え間なく行われる状況（例えば、補助遊技図柄に係る保留が常に存在している状況）を仮定した場合において、始動口に取り付けられた可変部材の単位時間（例えば、５分間）あたりにおける開放期間が占める割合を意味しているが、内部処理的には、前述した遊技状態に基づき換言すると、例えば、始動口に可変部材が取り付けられている場合では、可変部材の開放期間の長短（いわゆる開放延長機能作動状態・非作動状態）、可変部材の開放契機となる普通図柄（補助遊技図柄）の当選確率の高低（いわゆる普図高確率抽選状態・低確率抽選状態）、可変部材の開放契機となる普通図柄（補助遊技図柄）の変動時間の長短（いわゆる普図変動短縮機能非作動状態・作動状態）、等の任意の一又は複数の組合せによって実現されるものである。「識別情報の変動表示期間の平均値」とは、識別情報の変動表示毎に変動表示期間を実測し、当該実測値に基づく平均値を採ると

10

20

30

40

50

いう意味に限定されるものではない。より具体的には、識別情報の変動表示毎に、その変動表示期間を決定するよう構成されている場合であって、決定（選択）されるべき変動表示期間の候補が複数種類ある場合には、当該複数種類の変動表示期間に基づく期待値（「選択確率×変動表示期間」の総和）となるが、当該選択されるべき変動表示期間の候補が一種類である場合には、その一種類の変動表示期間そのものとなる（即ち、双方の概念を含むものである）。更には、ハズレ時における識別情報の変動表示期間の平均値のみに限定した概念又は当たり時における識別情報の変動表示期間の平均値のみに限定した概念、或いは、最も選択確率の高い変動表示期間のみに限定した概念としてもよく、即ち、この文言の趣旨は、遊技者が体感できる遊技の進行スピードを指し示す指標として用いることにあることを補足しておく（よって、「識別情報の変動表示期間の平均値」を異ならせる実現方法としては、変動表示期間の候補及び／又は選択確率を異ならせる、或いは、変動表示期間の候補及び／又は選択確率が同一であっても更なる変動表示期間を付加する際の期間値を異ならせる、等の様々な手法はあるが、いずれかの手法に限定されるものではない）。「識別情報の変動表示期間の平均値が第一の期間となる第一変動期間状態と、識別情報の変動表示期間の平均値が当該第一の期間とは異なる第二の期間となる第二変動期間状態とを少なくとも有し、」とは、当該二つの状態のみならず、三つ以上の状態を有していてもよい（或いは、三つ以上の状態を有する場合におけるいずれか二つの状態を対象とする）という意味であり、例えば、識別情報の変動表示回数に応じて、「第一変動期間状態」→「第二変動期間状態」→「第三変動期間状態」との状態遷移を採り得るものも含む。この場合においては、夫々の状態における識別情報の変動表示期間の平均値が、「第一変動期間状態」＜「第二変動期間状態」＜「第三変動期間状態」となるよう構成した場合、高速な遊技進行状態→中速な遊技進行状態→低速な遊技進行状態、との状態遷移を構築することができる（勿論、この逆となる状態遷移（遊技進行状態）を構築してもよく、その場合、次回の大当たりまで継続する確率変動遊技状態＋電チュー特定遊技状態と併用する際において好適となる（次回の大当たり発生が確定的である状況にも拘わらず、次回の大当たりが得られない状況が続くほど、遊技の進行スピードが向上するため、いわゆるハマリ時における倦怠感を払拭できる）場合がある）。更には、各状態の特徴として、「第一変動期間状態」においては、ハズレ時における識別情報の変動表示期間の平均値と当たり時における識別情報の変動表示期間の平均値との差が、「第二変動期間状態」におけるその差よりも小さい、「第三変動期間状態」においては、ハズレ時における識別情報の変動表示期間の平均値と当たり時における識別情報の変動表示期間の平均値との差が、「第二変動期間状態」におけるその差よりも小さいことに加え、「第一変動期間状態」と比べて、特にハズレ時における識別情報の変動表示期間が相対的に長時間となり易い（即ち、当たりやリーチを示唆する変動又はリーチ変動となり易い）、「第二変動期間状態」においては、他の状態と比べて、特に当たり時における識別情報の変動表示期間が相対的に長時間となり易い（即ち、ハズレが確定的となる短変動ハズレの変動表示期間や当たりを示唆する中変動ハズレの変動表示期間が選択されない（又は選択され難い）が、リーチ変動（長変動当たり）の変動表示期間のみ選択される（又は選択され易い））、といった特徴を有することを例示することができる。「特別遊技の実行終了後での高確率抽選状態における特定期間」とは、当該特別遊技の実行終了直後から所定回数分の図柄変動がなされるまでの期間であってもよいし、当該特別遊技の実行終了後における一又は複数回の図柄変動がなされた後から所定回数分の図柄変動がなされるまでの期間であってもよい（即ち、特別遊技の実行終了後にて高確率抽選状態が維持されている範囲内であれば、その範囲内における任意の期間であることを意味するが故、前述の「第一変動期間状態」→「第二変動期間状態」→「第三変動期間状態」との状態遷移を採り得る場合には、当該特定期間が「第一変動期間状態」及び／又は「第二変動期間状態」の滞在期間を意味するものとなり得る）。「保留に関する情報において所定条件を充足した際」とは、例えば、その保留消化時において特別遊技（いわゆる大当たり遊技）が生起する可能性が高いことを意味するが、特別遊技が生起する可能性の判断基準には特に限定されない。より具体的には、「当選乱数（当否抽選用乱数）」、識別図柄の変動態様（又は変動時間）を決定するための「変動態様決定乱数」、停

10

20

30

40

50

止図柄を決定する「図柄決定乱数」、特別遊技後に特定遊技（例えば確率変動遊技）に移行するか否かを決定する「当り図柄決定乱数」等の乱数値を判断基準としてもよいし、これら乱数値から導き出される事象内容（当否判定結果、変動時間の長さ、停止図柄の種類、特定遊技への移行可否等）を判断基準としてもよい。「保留の存在を示唆又は報知する」とは、示唆する場合には、例えば、当該保留に到るまでの保留消化時における演出（装飾図柄の図柄変動態様や、それと連動して行われている背景演出等）の実行態様を変化させる、等を挙げることができ、報知する場合には、例えば、当該保留生起時において保留表示灯（液晶表示装置上の画像であってもよい）の表示態様を変化させる（その場合には、表示色を変化させる、表示形状を変化させる、等）、当該保留生起時において保留発生音やBGM等の音響を変化させる、当該保留生起時において演出用のランプ（枠ランプ等）の点灯態様を変化させる、或いは、当該保留生起時において実行されている他の演出（装飾図柄の図柄変動態様や、それと連動して行われている背景演出等）の実行態様を変化させる、等を挙げることができる。

10

【0009】

尚、本実施形態は、あくまで一例であり、各手段が存在する場所や機能等、各種処理に関しての各ステップの順序、フラグのオン・オフのタイミング、各ステップの処理を担う手段名等に関し、以下の態様に限定されるものではない。また、上記した実施形態や変更例は、特定のものに対して適用されると限定的に解すべきでなく、どのような組み合わせであってもよい。例えば、ある実施形態についての変更例は、別の実施形態の変更例であると理解すべきであり、また、ある変更例と別の変更例が独立して記載されていたとしても、当該ある変更例と当該別の変更例を組み合わせたものも記載されていると理解すべきである。

20

【0010】

以下の実施形態は、従来の第1種ぱちんこ遊技機を二つ混在させたような機種（第1種第1種複合機）である。但し、これには何ら限定されず、他の遊技機（例えば、従来の第1種、第2種、第3種、一般電役等のぱちんこ遊技機）に応用された場合も範囲内である。尚、本実施形態は、あくまで一例であり、各手段が存在する場所や機能等、各種処理に関しての各ステップの順序、フラグのオン・オフのタイミング、各ステップの処理を担う手段名等に関し、以下の態様に限定されるものではない。また、上記した実施形態や変更例は、特定のものに対して適用されると限定的に解すべきでなく、どのような組み合わせであってもよい。例えば、ある実施形態についての変更例は、別の実施形態の変更例であると理解すべきであり、また、ある変更例と別の変更例が独立して記載されていたとしても、当該ある変更例と当該別の変更例を組み合わせたものも記載されていると理解すべきである。また、本実施形態では、各種テーブルに関し、抽選テーブルと参照テーブルとが存在するが、これらも限定的ではなく、抽選テーブルを参照テーブルとしたり或いはこの逆としてもよい。また、本例において「テーブル」という場合には、その形式に限定されるものではなく、一又は複数の情報に基づき、複数の選択候補の中から一又は複数の選択候補が選択されるように対応付けられている態様であると理解すべきである。更に、以下の実施形態や変更例において示す具体的一例としての数値（例えば、抽選実行時における当選確率、特別遊技時における最大ラウンド数、図柄変動時間、各遊技状態における継続回数、等）は、あくまで一例であり、特に、異なる条件下（例えば、第1主遊技側と第2主遊技側との条件別、確率変動遊技時と非確率変動遊技時との条件別、時間短縮遊技時と非時間短縮遊技時との条件別、等）において示した数値の大小関係や組み合わせは、以下の実施形態や変更例の趣旨を大きく逸脱しない限りにおいては、適宜変更してもよいものであると理解すべきである。例えば、第1主遊技側と第2主遊技側とで、抽選実行時における当選確率や特別遊技時における最大ラウンド数の期待値における大小関係が、第1主遊技側＝第2主遊技側となるよう例示されていたとしても、当該大小関係を第1主遊技側<第2主遊技側とする、或いは、第1主遊技側>第2主遊技側とするといったように適宜変更してもよい（その他の数値、条件下についても同様）。また、例えば、確率変動遊技状態の継続回数として、次回大当りが発生するまで継続するとの趣旨に基づき構成するに

30

40

50

際し、継続回数として「65535」をセットするのか（実質的に継続するよう構成する）、或いは、継続回数をセットせずに次回大当りが発生するまで確率変動遊技状態を維持する、といった同一趣旨に基づく実現方法の選択肢においても、以下の実施形態や変更例の趣旨を大きく逸脱しない限りにおいては、適宜変更してもよいものであると理解すべきである。

【0011】

（本実施形態）

ここで、各構成要素について説明する前に、本実施形態に係るぱちんこ遊技機の特徴（概略）を説明する。以下、図面を参照しながら、各要素について詳述する。

【0012】

尚、以下の実施形態におけるステップ番号、符号、手段名等は、他の実施形態におけるステップ番号、符号、手段名等と同一である場合があるが、これらはそれぞれ単独の実施形態におけるステップ番号、符号、手段名等であることを示している（例えば、本実施形態におけるステップ2102と第2実施形態におけるステップ2102は、別の実施形態におけるステップ2102であるため、それぞれ単独で機能する処理である）。

【0013】

まず、図1を参照しながら、本実施形態に係るぱちんこ遊技機の前面側の基本構造を説明する。ぱちんこ遊技機は、主に遊技機枠と遊技盤D35で構成される。以下、これらを順に説明する。

【0014】

はじめに、ぱちんこ遊技機の遊技機枠は、外枠D12、前枠D14、透明板D16、扉D18、上球皿D20、下球皿D22及び発射ハンドルD44を含む。まず、外枠D12は、ぱちんこ遊技機を設置すべき位置に固定するための枠体である。前枠D14は、外枠D12の開口部分に整合する枠体であり、図示しないヒンジ機構を介して外枠D12に開閉可能に取り付けられる。前枠D14は、遊技球を発射する機構、遊技盤D35を着脱可能に収容させるための機構、遊技球を誘導又は回収するための機構等を含む。透明板D16は、ガラス等により形成され、扉D18により支持される。扉D18は、図示しないヒンジ機構を介して前枠D14に開閉可能に取り付けられる。上球皿D20は、遊技球の貯留、発射レールへの遊技球の送り出し、下球皿D22への遊技球の抜き取り等の機構を有する。下球皿D22は、遊技球の貯留、抜き取り等の機構を有する。また、遊技盤D35の右上方と左上方とはスピーカD24が設けられており、遊技状態等に応じた効果音出力される。

【0015】

遊技盤D35と遊技機の前面の透明板D16（例えば、ガラス板）とは、13mmを超え25mmを超えない距離（本例では、19mm）の距離を保ち並行になるように遊技機枠に取り付けられている。ここで、遊技盤D35は、容易に動揺しないように固定機構によってしっかりと固定されている。

【0016】

また、透明板D16（例えば、ガラス板）は、遊技盤の全体の構造の見通しを妨げず、遊技盤上の遊技球の位置を確認できるように遊技領域全体が無色透明で凹凸がないように形成されている。

【0017】

球皿（例えば、上球皿D20、下球皿D22）は、球皿上の遊技球が遊技者にとって可視的（遊技球の数を概ね確認可能）であり、遊技者が受け皿に受けた遊技球の取り出しを阻害しないような形状（遊技球を自由に取り出せるような形状）になっている。

【0018】

次に、遊技盤D35は、外レールD32と内レールD34とにより区画された遊技領域D30が形成されており、透明板D16を介して遊技盤D35上（遊技領域D30上）を流下する遊技球の位置を確認できるようになっている。遊技領域D30は、左打ち領域DL10と右打ち領域DR10とに大別される。そして、当該遊技領域D30には、図示し

10

20

30

40

50

ない複数の遊技釘及び風車等の機構や各種一般入賞口その他、左打ちルートM L 1 0、右打ちルートM R 1 0、第1主遊技始動口A 1 0、第2主遊技始動口B 1 0、補助遊技始動口H 1 0、第1大入賞口C 1 0、第2大入賞口C 2 0、第1主遊技図柄表示装置A 2 0、第2主遊技図柄表示装置B 2 0、演出表示装置S G、補助遊技図柄表示装置H 2 0、センター飾りD 3 8、可動体役物Y K、右一般入賞口用ランプL P 1 0、左一般入賞口P 1 0、右一般入賞口P 2 0、サブ入力ボタンS B、十字ボタンS B-2及びアウト口D 3 6が設置されている。尚、本実施形態においては、左打ちルートM L 1 0を第1流下ルートと称することがあり、右打ちルートM R 1 0を第2流下ルートと称することがある。以下、各要素を順番に詳述する。

【0019】

次に、第1主遊技始動口A 1 0は、第1主遊技に対応する始動入賞口として設置されている。具体的構成としては、第1主遊技始動口A 1 0は、第1主遊技始動口入球検出装置A 1 1 sを備える。ここで、第1主遊技始動口入球検出装置A 1 1 sは、第1主遊技始動口A 1 0への遊技球の入球を検出するセンサであり、入球時にその入球を示す第1主遊技始動口入球情報を生成する。

【0020】

次に、第2主遊技始動口B 1 0は、第2主遊技に対応する始動入賞口として設置されている。具体的構成としては、第2主遊技始動口B 1 0は、第2主遊技始動口入球検出装置B 1 1 sと、第2主遊技始動口電動役物B 1 1 dと、を備える。ここで、第2主遊技始動口入球検出装置B 1 1 sは、第2主遊技始動口B 1 0への遊技球の入球を検出するセンサであり、入球時にその入球を示す第2主遊技始動口入球情報を生成する。次に、第2主遊技始動口電動役物B 1 1 dは、第2主遊技始動口B 1 0に遊技球が入賞し難い閉鎖状態と当該閉鎖状態よりも遊技球が入賞し易い開放状態に変化する。

【0021】

ここで、本実施形態においては、第1主遊技始動口A 1 0と第2主遊技始動口B 1 0とが設けられており、遊技領域D 3 0の左側（左打ち領域D L 1 0）を流下する遊技球とが第1主遊技始動口A 1 0に誘導され易い一方、遊技領域D 3 0の右側（右打ち領域D R 1 0）を流下する遊技球は第1主遊技始動口A 1 0に誘導され難いよう構成されている。また、遊技領域D 3 0の左側を流下する遊技球と遊技領域D 3 0の右側を流下する遊技球とのいずれも第2主遊技始動口B 1 0に誘導され得るよう構成されている。

【0022】

尚、本実施形態では、第2主遊技始動口B 1 0側に電動役物を設けるよう構成したが、これには限定されず、第1主遊技始動口A 1 0側に電動役物を設けるよう構成してもよい。更には、本実施形態では、第1主遊技始動口A 1 0と第2主遊技始動口B 1 0とが重なるように配置されているが、これにも限定されず、第1主遊技始動口A 1 0と第2主遊技始動口B 1 0とを離隔して配置してもよい。

【0023】

次に、補助遊技始動口H 1 0は、補助遊技始動口入球検出装置H 1 1 sを備える。ここで、補助遊技始動口入球検出装置H 1 1 sは、補助遊技始動口H 1 0への遊技球の入球を検出するセンサであり、入球時にその入球を示す補助遊技始動口入球情報を生成する。尚、補助遊技始動口H 1 0への遊技球の入球は、第2主遊技始動口B 1 0の第2主遊技始動口電動役物B 1 1 dを拡開させるための抽選の契機となる。

【0024】

ここで、本実施形態においては、遊技領域D 3 0の右側（遊技領域中央を基準）を流下する遊技球が補助遊技始動口H 1 0に誘導され易く、遊技領域D 3 0の左側（遊技領域中央を基準）を流下する遊技球が補助遊技始動口H 1 0に誘導され難くなるよう構成されている。但し、これには限定されず、遊技領域D 3 0の右側及び左側（遊技領域中央を基準）を流下する遊技球が、補助遊技始動口H 1 0に誘導され得るよう構成されていてもよい。

【0025】

次に、左一般入賞口P 1 0は、左一般入賞口入球検出装置P 1 1 sを備える。左一般入

賞口入球検出装置 P 1 1 s は、左一般入賞口 P 1 0 への遊技球の入球を検出するセンサであり、入球時にその入球を示す左一般入賞口入球情報を生成する。尚、左一般入賞口 P 1 0 への遊技球の入球によって、所定数（例えば、3 球）の遊技球が賞球として払い出されることとなる。尚、遊技領域 D 3 0 の左側（遊技領域中央を基準）を流下する遊技球は左一般入賞口 P 1 0 に入球し易く、遊技領域 D 3 0 の右側（遊技領域中央を基準）を流下する遊技球は左一般入賞口 P 1 0 に入球し難いよう構成されている。即ち、左打ち（遊技領域 D 3 0 の左側である左打ち領域 D L 1 0（左打ちルート M L 1 0）を遊技球が流下するよう、遊技球の発射強度を調節して遊技球を打ち出すこと）を実行した際に左一般入賞口 P 1 0 に入球し易いよう構成されている。

【0026】

次に、右一般入賞口 P 2 0 は、右一般入賞口入球検出装置 P 2 1 s を備える。右一般入賞口入球検出装置 P 2 1 s は、右一般入賞口 P 2 0 への遊技球の入球を検出するセンサであり、入球時にその入球を示す右一般入賞口入球情報を生成する。ここで、右一般入賞口 P 2 0 は、右打ち領域 D R 1 0 に配置され、補助遊技乱数を取得するという補助遊技始動口の役割と、賞球が払い出されるという一般入賞口の役割との双方を兼ね備えている。つまり、右一般入賞口 P 2 0 への遊技球の入球は、第 2 主遊技始動口 B 1 0 に取り付けられた第 2 主遊技始動口電動役物 B 1 1 d を拡開させるための抽選の契機となる。また、右一般入賞口 P 2 0 への遊技球の入球によって、所定数（例えば、2 球）の遊技球が賞球として払い出されることとなる。尚、右一般入賞口 P 2 0 への遊技球の入球によって、右一般入賞口 P 2 0 から賞球として払い出される遊技球（例えば、2 球）は、左一般入賞口 P 1 0 への遊技球の入球によって、左一般入賞口 P 1 0 から賞球として払い出される遊技球（例えば、3 球）よりも少なくなるよう構成されている。尚、本実施形態においては、右打ちを実行した遊技球が右一般入賞口 P 2 0 に入球し得るよう構成されている。即ち、右打ち（遊技領域 D 3 0 の右側である右打ち領域 D R 1 0（右打ちルート M R 1 0）を遊技球が流下するよう、遊技球の発射強度を調節して遊技球を打ち出すこと）を実行した際に右一般入賞口 P 2 0 に入球し易いよう構成されている。

【0027】

ここで、本実施形態においては、右打ちを実行した際に入球し得る入球口としては、上流から順に、「補助遊技始動口 H 1 0 → 右一般入賞口 P 2 0 → 第 2 大入賞口 C 2 0 → 第 1 大入賞口 C 1 0 → 第 2 主遊技始動口 B 1 0 → アウト口 D 3 6」の順となっている。また、補助遊技始動口 H 1 0 はゲートの形状をしているため、補助遊技始動口 H 1 0 を通過した遊技球は遊技領域上を更に流下していくこととなり、下流にある入球口（上述した右一般入賞口 P 2 0 等）に入球し得ることとなる。一方、右一般入賞口 P 2 0 に入球した遊技球は遊技盤面奥側に流入することとなり、その後第 1 大入賞口 C 1 0 や第 2 大入賞口 C 2 0 に入球することはない（右打ちを実行して右一般入賞口 P 2 0 に入球しなかった遊技球が第 1 大入賞口 C 1 0 又は第 2 大入賞口 C 2 0 に入球し得ることとなる）。

【0028】

尚、非時間短縮遊技状態における左打ちの実行時には（非時間短縮遊技状態においては左打ちにて遊技を進行する）、補助遊技始動口 H 1 0（及び右一般入賞口 P 2 0）に遊技球が入球し難いため第 2 主遊技始動口電動役物 B 1 1 d が開放し難く、主遊技側の始動口として主に第 1 主遊技始動口 A 1 0 への入球によって遊技を進行していくこととなり、一方、時間短縮遊技状態における右打ちの実行時には（時間短縮遊技状態においては右打ちにて遊技を進行する）、補助遊技始動口 H 1 0（及び右一般入賞口 P 2 0）に遊技球が入球し易いため第 2 主遊技始動口電動役物 B 1 1 d が開放し易く、主遊技側の始動口として主に第 2 主遊技始動口 B 1 0 への入球によって遊技を進行していくこととなる。また、非時間短縮遊技状態において左打ちにて遊技球を発射し続けた場合の第 1 主遊技始動口 A 1 0 への入球容易性よりも、時間短縮遊技状態において右打ちにて遊技球を発射し続けた場合の第 2 主遊技始動口 B 1 0 への入球容易性の方が高い、換言すると、非時間短縮遊技状態において左打ちにて遊技球を発射し続けた場合の第 1 主遊技始動口 A 1 0 又は第 2 主遊技始動口 B 1 0 への入球容易性よりも、時間短縮遊技状態において右打ちにて遊技球を発

10

20

30

40

50

射し続けた場合の第1主遊技始動口A10又は第2主遊技始動口B10への入球容易性の方が高くなる。そこで、本例においては、左打ち実行時の方が右打ち実行時よりも入球し易い左一般入賞口P10に入球した際の賞球数（本例では、3球）を、右打ち実行時の方が左打ち実行時よりも入球し易い右一般入賞口P20に入球した際の賞球数（本例では、2球）よりも多く設計することにより、非時間短縮遊技状態にて左打ちで遊技を進行した場合と、時間短縮遊技状態にて右打ちで遊技を進行した場合との、入賞口へ入球することにより払い出される平均の賞球数の差分、即ち、ベース値（特別遊技に当選していない状況において、発射した遊技球100球に対する、払い出される賞球払出数の期待値）の差分が大きくなりすぎることを防止することができる。

【0029】

また、右一般入賞口用ランプLP10は、例えば、液晶、LED等で構成されており、特別遊技の実行中に右一般入賞口に遊技球が入球することにより点灯し得るよう構成されている。また、詳細は後述することとなるが、右一般入賞口用ランプLP10の点灯色の違いにより特別遊技終了後に確率変動遊技状態に移行するか非確率変動遊技状態に移行するかを示唆し得るよう構成されている。尚、確率変動遊技状態に移行するか非確率変動遊技状態に移行するかを示唆し得るよう構成されているランプは、遊技領域D30上の、左打ち領域DL10に設けても良いし右打ち領域DR10に設けても良い。また、この確率変動遊技状態に移行するか非確率変動遊技状態に移行するかを示唆し得るよう構成されているランプを、センター飾りD38等の役物に設けてもよいし、遊技領域D30以外の領域に設けてもよい。尚、本例においては、非確率変動遊技状態を、通常状態、通常遊技状態、通常時、低確率、低確率状態、低確率遊技状態、低確率時、非確変、低確率抽選状態等と称することがある。また、確率変動遊技状態を、高確率、高確率状態、高確率遊技状態、高確率時、確変、高確率抽選状態等と称することがある。また、時間短縮遊技状態を、時短状態、時短中、時短、高ベース、高ベース状態等と称することがある。また、非時間短縮遊技状態を、非時短状態、非時短中、非時短、低ベース、低ベース状態等と称することがある。また、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態を、通常状態、通常遊技状態、通常時、等と称することがある。

【0030】

また、右打ちルートMR10を流下した遊技球は、右打ちルート流出口D50を通過して右一般入賞口P20、第1大入賞口C10、第2大入賞口C20等の近傍に流下していくこととなる。

【0031】

次に、アウト口D36の右上方には、第1大入賞口C10と第2大入賞口C20とが設けられており、遊技領域D30の右側（遊技領域中央を基準）を流下する遊技球は、アウト口D36に到達する前に、第1大入賞口C10及び第2大入賞口C20が配置されている領域を通過し易いよう構成されている。

【0032】

次に、第1大入賞口C10は、第1主遊技図柄（特別図柄）又は第2主遊技図柄（特別図柄）が大当たり図柄停止した場合に開状態となる、横長形状を成しアウト口D36の右上方に位置した、主遊技に対応した入賞口である。具体的構成としては、第1大入賞口C10は、遊技球の入球を検出するための第1大入賞口入賞検出装置C11sと、第1大入賞口電動役物C11d {及び第1大入賞口電動役物ソレノイドC13} と、を備える。ここで、第1大入賞口入賞検出装置C11sは、第1大入賞口C10への遊技球の入球を検出するセンサであり、入球時にその入球を示す第1大入賞口入球情報を生成する。第1大入賞口電動役物C11dは、第1大入賞口C10に遊技球が入賞不能又は入賞困難な通常状態と遊技球が入賞し易い開放状態に第1大入賞口C10を可変させる（第1大入賞口電動役物ソレノイドC13を励磁して可変させる）。尚、本実施形態では、大入賞口の態様を、横長形状を成し遊技球が入賞不能又は入賞困難な通常状態と遊技球が入賞し易い開放状態とに可変させる態様としているが、これには限定されない。その場合には、例えば、大入賞口内に設けられた棒状部材が遊技者側に突き出した状態である進出状態と遊技者

10

20

30

40

50

側に対して引っ込んだ状態である退避状態とを採り得る態様（いわゆる、ベロ型アタッカー）や、遊技球が転動可能な通路上の開口部を大入賞口とし、当該開口部を閉鎖する状態と開放する状態とを採り得る態様（いわゆる、スライド式アタッカー）としてもよく、大入賞口への入球数を所定数（例えば、10個）とすることを担保したい場合において好適である。

【0033】

次に、第2大入賞口C20は、第1主遊技図柄（特別図柄）又は第2主遊技図柄（特別図柄）が大当り図柄で停止した場合に開状態となる、横長形状を成しアウト口D36の右上方に位置した、主遊技に対応した入賞口である。具体的構成としては、第2大入賞口C20は、遊技球の入球を検出するための第2大入賞口入賞検出装置C21sと、第2大入賞口電動役物C21d {及び第2大入賞口電動役物ソレノイドC23} と、を備える。ここで、第2大入賞口入賞検出装置C21sは、第2大入賞口C20への遊技球の入球を検出するセンサであり、入球時にその入球を示す第2大入賞口入球情報を生成する。そして、第2大入賞口C20内に入球した遊技球は、第2大入賞口入賞検出装置C21sによって検出されるよう構成されている。次に、第2大入賞口電動役物C21dは、第2大入賞口C20に遊技球が入賞不能又は入賞困難な通常状態と遊技球が入賞し易い開放状態とに第2大入賞口C20を可変させる。尚、本実施形態では、大入賞口の態様を、横長形状を成し遊技球が入賞不能又は入賞困難な通常状態と遊技球が入賞し易い開放状態とに可変させる態様としているが、これには限定されない。その場合には、例えば、大入賞口内に設けられた棒状部材が遊技者側に突き出した状態である進出状態と遊技者側に対して引っ込んだ状態である退避状態とを採り得る態様（いわゆる、ベロ型アタッカー）や、遊技球が転動可能な通路上の開口部を大入賞口とし、当該開口部を閉鎖する状態と開放する状態とを採り得る態様（いわゆる、スライド式アタッカー）としてもよく、大入賞口への入球数を所定数（例えば、10個）とすることを担保したい場合において好適である。

【0034】

次に、第1主遊技図柄表示装置A20（第2主遊技図柄表示装置B20）は、第1主遊技（第2主遊技）に対応する第1主遊技図柄（第2主遊技図柄）に関連した表示等を実行する装置である。具体的構成としては、第1主遊技図柄表示装置A20（第2主遊技図柄表示装置B20）は、第1主遊技図柄表示部A21g（第2主遊技図柄表示部B21g）と、第1主遊技図柄保留表示部A21h（第2主遊技図柄保留表示部B21h）とを備える。ここで、第1主遊技図柄保留表示部A21h（第2主遊技図柄保留表示部B21h）は、4個のランプから構成され、当該ランプの点灯個数が、第1主遊技（第2主遊技）に係る乱数の保留数（実行されていない主遊技図柄の変動数）に相当する。尚、第1主遊技図柄表示部A21g（第2主遊技図柄表示部B21g）は、例えば7セグメントLEDで構成され、第1主遊技図柄（第2主遊技図柄）は、「0」～「9」の10種類の数字及びハズレの「-」で表示される {但し、これには限定されず、いずれの主遊技図柄が表示されたのかを遊技者が認識困難となるよう、7セグメントLEDを用いて記号等によって表示することが好適である。また、保留数表示においても、4個のランプから構成されていることには限定されず、最大4個分の保留数を表示可能に構成（例えば、1個のランプから構成されており、保留数1：点灯、保留数2：低速点滅、保留数3：中速点滅、保留数4：高速点滅、するよう構成）されていればよい}。

【0035】

尚、主遊技図柄は必ずしも演出的な役割を持つ必要が無いため、本実施形態では、第1主遊技図柄表示装置A20の大きさは、目立たない程度に設定されている。しかしながら、主遊技図柄自体に演出的な役割を持たせて装飾図柄を表示させないような手法を採用する場合には、後述する演出表示装置SGのような液晶ディスプレイに、主遊技図柄を表示させるように構成してもよい。

【0036】

次に、演出表示装置SGは、主遊技図柄と連動して変動・停止する装飾図柄を含む演出画像の表示等を実行する装置である。ここで、具体的構成としては、演出表示装置SGは

、装飾図柄の変動表示等を含めて演出が実行される表示領域SG10を備える。ここで、表示領域SG10は、例えば、スロットマシンのゲームを模した複数列の装飾図柄変動の動画像を表示する装飾図柄表示領域SG11と、主遊技保留情報を表示する第1保留表示部SG12及び第2保留表示部SG13と、を有している。尚、演出表示装置SGは、本実施形態では液晶ディスプレイで構成されているが、機械式のドラムやLED等の他の表示手段で構成されていてもよい。次に、第1保留表示部SG12及び第2保留表示部SG13は夫々4個のランプから構成され、当該ランプは、主遊技図柄の保留ランプと連動している。

【0037】

次に、補助遊技図柄表示装置H20は、補助遊技図柄に関する表示等を実行する装置である。具体的構成としては、補助遊技図柄表示装置H20は、補助遊技図柄表示部H21gと、補助遊技図柄保留表示部H21hとを備える。ここで、補助遊技図柄保留表示部H21hは、4個のランプから構成され、当該ランプの点灯個数が、補助遊技図柄変動の保留数（実行されていない補助遊技図柄変動の数）に相当する。本実施形態においては、補助遊技乱数を取得し得る入球口として、補助遊技始動口H10と右一般入賞口P20との2つの入球口を有しており、当該2つの入球口のいずれに入球した場合にも、取得した補助遊技乱数に関する表示は補助遊技図柄表示装置H20に表示されることとなる。

【0038】

次に、センター飾りD38は、演出表示装置SGの周囲に設置され、遊技球の流路、演出表示装置SGの保護、装飾等の機能を有する。また、遊技効果ランプD26は、遊技領域D30及び／又は遊技領域D30以外の領域に設けられ、点滅等することで演出の役割を果たす。

【0039】

次に、可動体役物YKは、演出表示装置SGの近傍に設置され、図柄変動に伴う演出実行の際に駆動して遊技を盛り上げる役割を担っている。上下方向に移動したり、回転駆動したり、点灯したりして、駆動したことが目立つよう構成し、且つ、大当たり期待度の高い図柄変動にて駆動し易い構成することが好適である。

【0040】

次に、サブ入力ボタンSBは、副制御基板Sと電氣的に接続された、操作（押下）することによって当該操作に基づく演出が実行されることとなる操作部材である。尚、サブ入力ボタンSBの操作態様として、単発押し（短時間の1回のみサブ入力ボタンSBを押下する操作態様）と、連打（複数回サブ入力ボタンSBを押下する操作態様）と、長押し（所定期間サブ入力ボタンSBを押し続ける操作態様）と、を有するよう構成してもよい。また、副制御基板Sと電氣的に接続された、操作（押下）することによって当該操作に基づく演出が実行されることとなる操作部材はサブ入力ボタンSBのみには限定されず、上、下、左、右の4つの操作部を有しており、当該操作部を操作することにより、実行する演出（予告演出等）を選択可能に構成される十字キー、手前に引くことにより演出（可動体役物が作動する、等）が実行されるレバー、等を有するよう構成してもよい。

【0041】

次に、アウト口D36は、遊技領域D30の下方に設けられた入球口であり、遊技領域D30に設けられたいずれの入賞口にも入球せずに流下した遊技球が入球する入球口であり、アウト口D36に遊技球が入球した場合には、乱数に基づく各種抽選や入球に基づく賞球等は実行されず、当該遊技球は遊技機外に排出されることとなる。なお、本実施例では、が遊技盤上の最下部にのみ、入賞口に入賞しなかった遊技球が入るアウト口D36が設けられているが、遊技盤の上部の所定箇所にアウト口を設けることも可能である。その場合には、当該入口が入賞口でないことを明らかにするため、シールを用いて、「OUT」を表示する等、入賞口と混同しないようにすることが望ましい。

【0042】

尚、不図示であるが、遊技盤D35（遊技領域D30）の大きさは、一辺が500mmである正方形の枠を超えず、かつ、直径が300mmである円を含む範囲が設定されてい

10

20

30

40

50

る。

【0043】

また、本実施形態においては、役物が作動しない場合（大入賞口C10等の可変入賞口が閉鎖状態となっている場合）における入賞口（遊技球を入賞させることが可能なもの、換言すると発射された遊技球について物理的に可能な軌跡をもってしても入賞が不可能でないものであり、例えば、第1主遊技始動口A10）の数（入賞口の入口の数）は、5個（第1主遊技始動口A10が1個、左一般入賞口P10が3個、右一般入賞口P20が1個）となっている。尚、入賞口の数は一適宜設定可能であるが、入賞割合と遊技の複雑化抑止の観点から5個～15個の範囲が望ましい。ここで、入賞口の入口とは、入賞口及び当該入賞口に連なる遊技釘等（その間を遊技球が通過できない形で連続配置されている遊技釘等）で構成される遊技球の通過面のうち、入賞口から最も離れた位置にある部分を指す。尚、役物が作動しない場合における入賞口の入口の大きさ（入賞口の入口のうち、遊技盤D35と平行な距離の最大値であり、遊技釘により設定されている場合には釘と釘の内法）は、13mmを超えないように構成することが望ましく、大入賞口以外の可変入賞装置（電動役物や非電動役物）の入賞口の入口の大きさ（前述の通り）は、55mmを超えないことが望ましい。また、大入賞口の入口の大きさ（遊技盤と平行な距離の最大値）は、他の役物と区別するために、55mmを超え、135mmを超えないようにすることが望ましい。

10

【0044】

更に、普通図柄表示装置が作動する契機となっているゲート（例えば、補助遊技始動口H10）の大きさ（ゲート及び当該ゲートに連なる遊技釘等（その間を遊技球が通過できない形で連続配置されている遊技釘等）で構成される遊技球の通過面のうち、ゲートから最も離れた位置で遊技盤D35と平行な距離の最大値、即ち実質的なゲートの入口）は、13mmを超えないようにすることが望ましい。

20

【0045】

尚、本実施形態においては、大入賞口を2つ（第1大入賞口C10と第2大入賞口C20との2つ）設けているが、射幸性の観点から2個を超えないように構成することが望ましい。また、本実施形態のように、2個の大入賞口が開放等している否かにかかわらず物理的に明確に分離されていることが明らかな構造が望ましい。更に、本実施形態のように、2個の大入賞口が水平方向に隣接することなく、2つの大入賞口の間に遊技球が通過可能となっていることが望ましい。また、本実施形態では始動口として、第1主遊技始動口A10と第2主遊技始動口B20との2つが設けているが、一般入賞口の数（本実施形態においては一般入賞口が4個設けられている）とのバランスを考慮し、3個を超えないように構成することが望ましい。

30

【0046】

なお、始動口内に可動物を設け、既に始動口に入賞した遊技球の動きを当該可動物で変化させてもよい。この場合には、可動物は、常時一定の動作を継続（一連の動作を繰り返すものを含む。）させ、動作の調整が不可能な構成とすることが望ましい。

【0047】

更に、前述の通り、遊技領域D30には、多数の遊技釘等が配置されているが、この配置は、遊技球の落下を一定の範囲で不規則にさせるものの、極端に不規則にしないことが望ましい。具体的には、電氣的又はその他の動力（風車、その他の遊技球の落下の方向に変化を与えるための装置に遊技球が衝突したことにより、遊技球が落下の方向とは異なった方向に変化することを除く。）により遊技球を上昇させる装置（上昇させる程度がわずかであって、遊技球の落下の方向を著しく不規則にしないことが明らかなものを除く。）等は、発射した遊技球の順序と入賞口又はアウト口に入球する順序とが大きく相違する可能性があるため、このような装置は設けないことが望ましい。なお、遊技釘及び風車は、遊技板におおむね垂直（±5度程度）に打ち込まれている。また、いうまでもないが、遊技釘等その他遊技盤上に設ける構造物は遊技球の衝突により形状等が変化しない程度の耐久性（例えば、本例の遊技釘では、ビッカース硬度が150HV～230HVの真鍮製を

40

50

用いている。)が確保されている。

【0048】

次に、図2を参照しながら、ぱちんこ遊技機の背面側における基本構造を説明する。ぱちんこ遊技機は、ぱちんこ遊技機の全体動作を制御し、特に第1主遊技始動口A10(第2主遊技始動口B10)へ入球したときの抽選等、遊技動作全般の制御(即ち、遊技者の利益と直接関係する制御)を行う主制御基板Mと、遊技内容に興味性を付与する演出表示装置SG上での各種演出に係る表示制御等を行うサブメイン制御部SMと、主に演出表示を実行するサブサブ制御部SSと、所定のエラー発生時に点灯してエラー発生を報知するエラーランプSS3と、賞球タンクKT、賞球ルールKR及び各入賞口への入賞に応じて賞球タンクKTから供給される遊技球を上球皿D20へ払い出す払出ユニットKE10等を備える賞球払出装置(セット基盤)KEと、所定のエラーを解除するためのエラー解除スイッチKH3aと、賞球払出ユニットKE10による払出動作を制御する賞球払出制御基板KHと、払出に係るエラーの発生状況を表示(例えば、7セグ表示)するエラー表示器KH3と、払出ユニットKE10による払出動作を制御する賞球払出制御基板KHと、上球皿D20の遊技球(貯留球)を遊技領域D30へ1球ずつ発射する発射装置D42と、発射装置D42の発射動作を制御する発射制御基板D40と、ぱちんこ遊技機の各部へ電力を供給する電源供給ユニットEと、ぱちんこ遊技機の電源をオン・オフするスイッチである電源スイッチEa等が、前枠D14裏面(遊技側と反対側)に設けられている。

【0049】

また、主制御基板M上には、第1主遊技始動口A10、第2主遊技始動口B10、左一般入賞口P10、右一般入賞口P20、第1大入賞口C10、第2大入賞口C20、等の入賞口への遊技球の入球状況を表示し得る入球状態表示装置J10が設けられており、4桁の8セグメント表示器が横一列に整列されて取り付けられている。尚、同図における入球状態表示装置J10は、主制御基板Mの遊技機の裏側方向の面に設けられており、遊技場側が所持している鍵で扉ユニットD18を解錠して扉ユニットD18を開放し、扉ユニットD18(遊技盤)の裏面に取り付けられた基板類を確認する必要があるため、遊技者は確認することができないよう構成されている。尚、入球状態表示装置J10に表示する前記入球状況の一例としては、総アウト個数による区間情報やベース比率(『 $(\text{低確払出個数} \div \text{低確アウト個数}) \times 100$ 』で算出される値)等が挙げられる。尚、ステップ1550-10の処理を実行するROM・RAM領域と、後述する図7のステップ1000-1~ステップ3500の処理を実行するROM・RAM領域とを異なる(互いにアドレスが重複していない)領域となるよう構成してもよい。

【0050】

次に、図3及び図4を参照しながら、本実施形態に係るぱちんこ遊技機の賞球払出ユニットKE10の構造と遊技球の払出を行う動作原理を説明することとする。まず、図3上段に示されるように、賞球払出ユニットKE10は、払出の際に駆動される払出モータ(ステッピングモータと称することがある)KE10mを有している。そして、図3下段に示されるように、賞球払出ユニットKE10は、ステッピングモータKE10mと連結したスプロケットKE10pを有している。このような構造の賞球払出ユニットKE10は、下記の原理に従い動作する。まず、遊技領域内の入賞口に遊技球が入球すると、入賞信号が主制御基板Mに送られ主制御基板Mは払出個数を決定し、賞球払出制御基板KHへ賞球の信号を送信する。或いは、カードユニットR等の遊技球貸出装置から賞球払出制御基板KHへ球貸しの要求がなされる。これを受けて賞球払出制御基板KHは賞球払出ユニットKE10を作動させ、賞球払出ユニットKE10内のステッピングモータKE10mが遊技球の払出を実行する。図4に示されるように、ステッピングモータKE10mが回転することにより、スプロケットKE10p(第1スプロケットKE10p1、第2スプロケットKE10p2及び回転確認用部材KE10p3が一体となっている部材)が回転し、遊技球が1球ずつ払い出される。また、払い出された遊技球は、賞球払出ユニットKE10の下流に連続して設けられた払出カウントセンサKE10sにより検知される。尚、断面C-Cについては、図示されるように、遊技球の流路に沿った(流路が見えやすい)

断面を図示していることを補足しておく。

【0051】

また、図3下段は、ロータ位置確認センサ（払出モータ位置センサ）KE10msと回転体（スプロケット）KE10pとを模式的に示した図である（一例）。ロータ位置確認センサKE10msは、一对の測定部を有しており、測定部間の物体を光の投受光により検出するフォトセンサである。ここで、一对の測定部は、光を投光する投光部と、投光部からの光を受光する受光部であり、回転確認用部材KE10p3を挟んで配置されている。ここで、回転確認用部材KE10p3は、円周に沿って6個の凹部が形成されており、回転確認用部材KE10p3がこれら投光部と受光部との間に介在しているときにはオフとなり、回転確認用部材KE10p3がこれら投光部と受光部との間に介在していないとき

10

【0052】

次に、図5のブロック図を参照しながら、本実施形態に係るぱちんこ遊技機の電氣的な概略構成を説明する。はじめに、本実施形態に係るぱちんこ遊技機は、前述したように、遊技の進行を制御する主制御基板Mと、主制御基板Mからの情報（信号、コマンド等）に基づいて遊技球の払出を制御する賞球払出制御基板KHと、主制御基板Mからの情報（信号、コマンド等）に基づいて装飾図柄の変動・停止等の演出表示装置SG上での各種演出、スピーカD24からの音響、遊技効果ランプD26の点灯、エラー報知等の実行を制御する副制御基板S（本例では、サブメイン制御部SMとサブサブ制御部SSとが一つの基板上に配置されている）と、これらの制御基板を含む遊技機全体に電源を供給する電源供給ユニットEと、を主体として構成されている。ここで、副制御基板Sは、装飾図柄の変動・停止等の演出表示装置SG上での各種演出、スピーカD24からの音響、遊技効果ランプD26の点灯、エラー報知を制御するサブメイン制御部SMと、演出表示装置SG上での装飾図柄の変動表示・停止表示及び保留表示や予告表示等の表示処理を実行するサブサブ制御部SSの2つの制御部とを備えている。尚、主制御基板M、賞球払出制御基板KH、サブメイン制御部SM及びサブサブ制御部SSには、様々な演算処理を行うCPU、CPUの演算処理を規定したプログラムを予め記憶するROM、CPUが取り扱うデータ（遊技中に発生する各種データやROMから読み出されたコンピュータプログラム等）を一時的に記憶するRAM、電断時に情報を保持するためのバックアップ領域（及びバックアップ用電源）が搭載されている。

20

30

【0053】

以下、各基板の概略構成及び各基板・装置間の電氣的な接続態様について概説する。まず、主制御基板Mは、入賞口センサNs {前述した第1主遊技始動口入球検出装置A11s、第2主遊技始動口入球検出装置B11s、補助遊技始動口入球検出装置H11s、第1大入賞口入賞検出装置C11s、第2大入賞口入賞検出装置C21s、一般入賞口入球検出装置P11s}、図示略する駆動ソレノイド（前述した、第1大入賞口ソレノイドC13、第2大入賞口ソレノイドC23等）、情報表示LED（不図示）等、遊技の進行に必須となる入出力装置である遊技周辺機器（図中の、第1主遊技周辺機器A、第2主遊技周辺機器B、第1・第2主遊技共用周辺機器C、補助遊技周辺機器H）と電氣的に接続され、各入力装置からの入力信号に基づいて遊技の進行を制御している。更に、主制御基板Mは、賞球払出制御基板KHと、副制御基板S（サブメイン制御部SM・サブサブ制御部SS）とも電氣的に接続されており、遊技進行に基づいて、賞球払出等に関する情報（コマンド）を賞球払出制御基板KHに、演出・遊技の進行状態等に関する情報（コマンド）を副制御基板Sにそれぞれ送信可能に構成されている。

40

【0054】

また、本実施形態では、図5の矢印表記の通り、主制御基板Mと賞球払出制御基板KHとは、双方向通信が可能となるよう構成されている一方、主制御基板Mとサブメイン制御部SMとは、主制御基板Mからサブメイン制御部SMへの一方向通信が可能となるよう構成されている（通信方法は、シリアル通信、パラレル通信のいずれを用いてもよい）。尚、制御基板間（制御装置間）の通信については一方向通信でも双方向通信でもよい。また

50

、主制御基板M及び賞球払出制御基板KHは、外部中継端子板Gを介して、遊技関連情報や払出関連情報を、外部出力情報としてホールコンピュータHCに出力（ホールコンピュータHC側に出力する一方向通信）可能に構成されている。

【0055】

次に、賞球払出制御基板KHは、遊技球の払出を実行する賞球払出装置KEと、遊技者によって操作可能な装置であって遊技球の貸出要求を受付けて賞球払出制御基板KHに伝達する遊技球貸出装置R（カードユニットRと称することがある）とに接続されている。また、図示略するが、本実施形態では、賞球払出制御基板KH内に、発射装置の制御回路部（発射制御基板D40）が併設されており、賞球払出制御基板KHと発射装置D42（発射ハンドル・発射モータ・球送り装置等）とも接続されている。尚、本実施形態では、遊技球貸出装置Rを別体として遊技機に隣接する形態を採用しているが、遊技機と一体としてもよく、その場合には、賞球払出制御基板KHにより貸出制御及び電子マネー等貸出用の記録媒体の管理制御等を統括して行ってもよい。

【0056】

ここで、発射装置D42は、遊技者が発射ハンドルD44を直接操作したことが検出（タッチ検出）された場合に発射ハンドルの操作量に基づいて発射強度（発射位置）を決定し、遊技領域D30の任意の位置に向けて遊技球を1球ずつ発射できるように構成されており、連続して遊技球を発射する場合でも遊技球が1分間に100個を超えて発射できないようにカウンタやタイマ等により一定間隔（例えば600ms/1個）で遊技球が発射されるように構成されている。換言すると、確率変動遊技状態等の遊技状態や特別遊技の実行有無等の遊技の状態に関係することなく、常時一定間隔で遊技球の発射が行われる（発射速度が相違しない）ように構成されており、これにより、遊技の状態にかかわらず遊技者の発射技量が適切に反映されるようになっている。詳述すると、遊技者が右打ちを所望する場合には、右打ちを実行可能な発射強度に対応する位置に発射ハンドルD44を操作することにより右打ちを実行可能であり、遊技者が左打ちを所望する場合には、左打ちを実行可能な発射強度に対応する位置に発射ハンドルD44を操作することにより左打ちを実行可能となっており、特別遊技の実行中であるか否かなど遊技の状態に拘わらず、常時発射ハンドルD44の操作に基づく発射強度にて遊技球を発射可能に構成されているのである。

【0057】

なお、発射ハンドルD44には、発射停止スイッチ（不図示）が設けられており、遊技者が任意のタイミングで遊技球の発射を停止することができる（1球単位で発射できる）ように構成されている。具体的には、遊技者が発射ハンドルD44を操作している（発射ハンドルD44を直接操作したことが検出（タッチ検出）されている）場合においても、発射停止スイッチを操作することにより遊技球の発射を停止することが可能となっている。ここで、「直接操作」とは、遊技者の身体の一部を使用し、遊技機に接触して遊技を行うことを意味する。また、本例においては射幸性の観点から、発射装置D42の性能が所定期間に亘って、或いは外来ノイズ等で変化しないよう、また耐久性が担保されるように発射モータ、発射ハンドル（強度調整機能）、発射装置の制御回路が夫々設計されている。また、発射ハンドルD44には、遊技者による発射位置の調整を阻害することがないように、発射ハンドルD44が振動する機能等を搭載しないことが望ましい。

【0058】

また、遊技球の発射に係る装置総体である発射装置D42における遊技球に運動エネルギーを与える部分は、1の発射モータにより構成されている。また、発射ハンドルD44は、遊技者が直接操作していないときにその発射強度が0に戻るよう（ばね等により基準位置方向に付勢され発射ハンドルD44から手を離すと基準位置に戻るよう）になっており、遊技者の強度調整技能が遊技結果に反映可能となっている。

【0059】

尚、本例において、使用する遊技球は、直径11mm、質量が5.4g以上5.7g以下の玉が用いられる。

【0060】

次に、副制御基板Sは、前述したように装飾図柄等を表示する演出表示装置SGと、スピーカD24と、遊技効果ランプD26と、その他演出用の駆動装置（不図示であるが、いわゆる演出用の可動体役物のモータ・ソレノイド等）と接続されている。また、所定の操作（長押しや押下）を実行することにより、ベース値の計測の開始又は終了、所定の演出の実行、又は、メンテナンスモードの表示開始、等が実行可能となるサブ入力ボタンSBも副制御基板Sを接続されている。また、サブ入力ボタン検出装置SBsが検出することにより、サブ入力ボタンSBが操作されたと判定し得る。本実施形態では、前述の通り、副制御基板S内にサブメイン制御部SMとサブサブ制御部SSとを有しており、サブメイン制御部SMによりスピーカD24から出力させる音声の制御、遊技効果（電飾）ランプD26の点灯制御並びに、演出表示装置SG上で表示する表示内容の決定制御が行われ、サブサブ制御部SSにより、演出表示装置SG上の表示制御（実体的な表示制御）が行われるように構成されている。尚、本実施形態では、サブメイン制御部SMとサブサブ制御部SSとを、副制御基板Sにて一体化されるよう構成されているが、これに限定されるわけではない（別基板として構成してもよいが、一体化するよう構成することでスペースメリットや配線等にノイズが混入してしまう事態を低減できるといったメリットが生ずる）。また、両制御部での作業分担についても、例えばサブサブ制御部SSにより音声制御を実行させる（VDPに音声制御回路が一体化されたものを採用する場合に好適）等、適宜変更できる。また、賞球として物理的な賞球を付与せずに電子的な価値を付与してもよい。

10

20

【0061】

次に、同図下段の、遊技球の流路イメージ図を参照し、遊技に供される遊技球の流路について説明する。本実施形態における遊技機においては、遊技領域D30内に発射された遊技球は、各入球口{第1主遊技始動口A10、第2主遊技始動口B10、第1大入賞口C10、第2大入賞口C20、一般入賞口P10、アウト口C80}のいずれかに入球し、各入球口に対応する入球センサを通過して遊技機内（遊技機枠D内）に誘導される。ここで、第1主遊技始動口A10に入球した遊技球については、不正検出の為に設けられた第1主遊技始動口確認センサA11s2を通過する。その後、遊技機内に誘導されたすべての遊技球は、総排出確認センサC90sを通過して遊技機外に排出されることとなるのである。尚、本例では特に図示していないが、入球確認用のスイッチ{各入球口（例えば、第1主遊技始動口A10、第2主遊技始動口B10、第1大入賞口C10、第2大入賞口C20、一般入賞口）に入球した遊技球が通過するスイッチであって、各入球口への入球を検出するためのスイッチとは異なる一又は複数のスイッチ}を有しているものとする。

30

【0062】

次に、図6は、主制御基板Mが行う一般的な処理の流れを示したメインフローチャートである。遊技機の電源投入後、同図(a)の処理が実行される。即ち、遊技機の電源投入後、初期設定を行った後（不図示）、ステップ1002で、主制御基板Mは、RAMクリアボタンの入力ポートを確認し、電源供給ユニットEのリセットボタン（RAMクリアボタン）が操作されたか否か、即ち、遊技場の管理者等によって意図的にRAMの内容をクリアさせる操作が行われたか否かを判定する。ステップ1002でYesの場合、ステップ1004で、主制御基板MのCPUMCは、主制御基板M側のRAM内容を全てクリアする。次に、ステップ1006で、主制御基板MのCPUMCは、主制御基板MのRAMをクリアしたことを示すRAMクリア情報（コマンド）をサブメイン制御部SM側に送信し（当該タイミングにて送信してもよいし、当該タイミングではコマンドをセットしておき後述する制御コマンド送信処理にて送信するよう構成してもよい）、ステップ1015の処理に移行する。他方、ステップ1002でNoの場合は、ステップ1007で、主制御基板MのCPUMCは、正常に電源断が行われたことを示す情報がRAMに保存されていないか否かを判定する。ステップ1007でYesの場合、ステップ1008で、主制御基板MのCPUMCは、主制御基板MにおけるRAM領域の内容をチェックする（例えば、電断時に記録されたチェックサムとRAM領域に保存されている情報量との比較を行

40

50

う)。次に、ステップ1010で、主制御基板MのCPUMCは、当該チェック結果に基づきRAMの内容が正常でないか否か（正確に電断時の情報がRAMにバックアップされていないか否か）を判定する。ステップ1010でYes、即ちRAMにバックアップされていたデータが異常な場合には、ステップ1004の処理（前述したRAMクリア処理）に移行する。他方、ステップ1007でNo、即ちRAMに正常に電源断したことを示す情報が保存されていた場合、又は、ステップ1010でNo、即ちRAMにバックアップされていたデータが正常な場合、ステップ1012で、主制御基板MのCPUMCは、主制御基板MにおけるRAM内に記憶（バックアップ）されている電断時の各種情報コマンドを取得し、ステップ1014で、取得した各種情報コマンドをサブメイン制御部SM側に送信し（当該タイミングにて送信してもよいし、当該タイミングではコマンドをセットしておき後述する制御コマンド送信処理にて送信するよう構成してもよい）、ステップ1014-1で、主制御基板MのCPUMCは、ソレノイドの復帰設定（第2主遊技始動口B10の第2主遊技始動口電動役物B11d、大入賞口（例えば、第1大入賞口C10、第2大入賞口C20）及び後述する可動片（例えば、図100の上遮蔽部材C24、下遮蔽部材C25等）の開放又は閉鎖状態を電源断前の状態に復帰させるため、第2主遊技始動口電動役物B11d、大入賞口、可動片の順に、ソレノイド作動ビットがオンか否かを判断し、オンの場合には、（電源断前に第2主遊技始動口／大入賞口／可動片が開放中と判断して、改めて開放させるために）ソレノイド作動フラグを対応するアドレスに格納する）を行い、ステップ1015の処理に移行する。ステップ1015で、主制御基板MのCPUMCは、正常に電源が投入されたことを示す情報をRAMに保存し、ステップ1016の処理に移行する。次に、ステップ1016で、主制御基板MのCPUMCは、同図（b）によって示される主制御基板M側のメイン処理に係る実行定時割り込み（例えば、約1.5ms毎のハードウェア割り込みを契機とするが、本例では、当該割り込み周期をTとする）を許可し（その結果、当該実行定時割り込みタイミング到達時には、同図（b）が実行されることとなる）、ステップ1018の処理に移行する。尚、ステップ1018後は、次の定時割り込みタイミングに到達するまで、主制御基板MのCPUMCは、各種乱数更新処理（例えば、乱数カウンタのインクリメント処理）を繰り返し実行することとなる。

【0063】

次に、図7は、主制御基板Mが行うタイマ割り込み処理の流れを示したフローチャートである。主制御基板MのCPUMCは、定時割り込みタイミングに到達した場合に発生する割り込み要求に基づいて、同図（b）の処理を実行する。即ち、定時割り込み周期Tの到達時（例えば、約1.5ms毎のハードウェア割り込み）を契機として、ステップ1000-1で、主制御基板MのCPUMCは、後述の入力処理を実行する。次に、ステップ1000-2で、主制御基板MのCPUMCは、後述の各種乱数更新処理を実行する。次に、ステップ1000-3で、主制御基板MのCPUMCは、後述の初期値更新型乱数更新処理を実行する。次に、ステップ1000-4で、主制御基板MのCPUMCは、後述の初期値乱数更新処理を実行する。次に、ステップ1000-5で、主制御基板MのCPUMCは、後述のタイマ減算処理を実行する。次に、ステップ1000-6で、主制御基板MのCPUMCは、後述の始動口2有効期間設定処理（第2主遊技始動口B10の有効期間を設定する処理）を実行する。次に、ステップ1000-7で、主制御基板MのCPUMCは、後述の入賞監視処理を実行する。次に、ステップ3000で、主制御基板MのCPUMCは、後述の賞球払出コマンド送信制御処理を実行する。尚、各入賞口に遊技球が入賞した場合の賞球払出数は、第1主遊技始動口A10が4球、第2主遊技始動口B10が1球、第1大入賞口C10及び第2大入賞口C20が13球、左一般入賞口（一般入賞口とも称することがある）P10が3球、右一般入賞口P20が2球となっている。尚、これらの賞球払出数は一例であり、第1主遊技始動口A10に入球した場合と、第2主遊技始動口B10に入球した場合との賞球払出数が異なるように構成してもよいし、第1大入賞口C10に入球した場合と、第2大入賞口C20に入球した場合との賞球払出数を異なるようにしてもよい。尚、左一般入賞口P10に遊技球が入球した場合には、当否抽

10

20

30

40

50

選等の抽選は実行されず、所定の賞球払出数（本例では、3球）が遊技者に付与されるよう構成されている。また、右一般入賞口P20に遊技球が入球した場合には、補助遊技側の乱数を取得すると共に、所定の賞球払出数（本例では、2球）が遊技者に付与されるよう構成されている。但し、本例に係るぱちんこ遊技機に設けられている全ての入賞口の賞球個数は、1の入賞（入球）に対して15個を超えず、且つ、遊技状態に関わらず一定（異常状況下やエラー発生中等により無効化されている場合を除く）となるように構成され、また、入賞以外で賞球払出が行われなように構成されており、様々な遊技状態を実現しつつ、直接的な遊技の結果が「発射した遊技球が所定の入賞口に入賞するか否か」に集約されるようになっている。

【0064】

なお、本例では、具体的な賞球払出制御処理が主制御基板Mではなく賞球払出制御基板KHで行われるため、主制御基板Mでは、その払出制御の途中経過をリアルタイムで管理することが難しく、1個の遊技球の入賞に対する払出中に停電等の突発事項により障害があったときには、正確な個数の賞球が行えない場合がある。このため、本例では、改めて当該入賞に対する遊技球の払出しを行う異常時リトライ機能（例えば、第1主遊技始動口A10に遊技球が入賞して、1球の遊技球が払い出された時点で電源断が発生し、その後、電源復帰後に残りの3球の遊技球の払出を実行する機能）を有している。無論、賞球払出制御基板KHにバックアップ機能を付与することでこのような異常が発生した場合にも正確な個数の賞球払出を実現することも可能であり、この場合には、異常時リトライ機能を設けなくてもよい。

【0065】

次に、ステップ2000で、主制御基板MのCPUMCは、後述の入球検出処理を実行する。次に、ステップ1100で、主制御基板MのCPUMCは、後述の補助遊技内容決定乱数取得処理を実行する。次に、ステップ1200で、主制御基板MのCPUMCは、後述の電動役物駆動判定処理を実行する。次に、ステップ1300で、主制御基板MのCPUMCは、後述の主遊技内容決定乱数取得処理を実行する。次に、ステップ1400で、主制御基板MのCPUMCは、後述の主遊技図柄表示処理を実行する。次に、ステップ1600で、主制御基板MのCPUMCは、後述の特別遊技制御処理を実行する。次に、ステップ1601で、主制御基板MのCPUMCは、大入賞口有効期間設定処理を実行する。次に、ステップ1550で、主制御基板MのCPUMCは、後述の特別遊技作動条件判定処理を実行する。次に、ステップ1550-1で、主制御基板MのCPUMCは、異常検知処理を実行する。次に、ステップ1550-2で、主制御基板MのCPUMCは、入球通過時間異常検出処理を実行する。次に、ステップ1550-3で、主制御基板MのCPUMCは、遊技状態表示処理を実行する。次に、ステップ1550-4で、主制御基板MのCPUMCは、ハンドル状態信号検査処理を実行する。次に、ステップ1550-5で、主制御基板MのCPUMCは、アウト口監視処理を実行する。次に、ステップ1550-6で、主制御基板MのCPUMCは、LED出力処理を実行する。次に、ステップ1900で、主制御基板MのCPUMCは、後述の不正検知情報管理処理を実行する。次に、ステップ1950で、主制御基板MのCPUMCは、後述のエラー管理処理を実行する。次に、ステップ1550-7で、主制御基板MのCPUMCは、後述の発射制御信号出力処理を実行する。次に、ステップ1550-8で、主制御基板MのCPUMCは、試験信号出力処理を実行する。次に、ステップ1550-9で、主制御基板MのCPUMCは、ソレノイド出力処理を実行する。次に、ステップ1999で、主制御基板MのCPUMCは、制御コマンド送信処理（前述の各処理でセットされたコマンドをサブメイン制御部側に送信する）を実行する。次に、ステップ3500で、主制御基板MのCPUMCは、後述の外部信号出力処理を実行する。次に、ステップ1550-10で、主制御基板MのCPUMCは、入球状態制御処理を実行する。次に、ステップ1550-11で、主制御基板MのCPUMCは、タイマ割り込みの発生を許可するよう設定し、本割り込み処理の実行直前に実行されていた処理に復帰する。

【0066】

尚、入力処理とは、センサ等の入力装置から主制御基板Mに入力される信号を判定し、当該信号に対応するフラグ等を設定する処理であり、本例においては、遊技盤面に取り付けられているスイッチ（例えば、第1主遊技始動口入球検出装置A11s、第2主遊技始動口入球検出装置B11s、補助遊技始動口入球検出装置H11s、第1大入賞口入賞検出装置C11s、第2大入賞口入賞検出装置C21s、一般入賞検出装置等）、アウト口D36への入球を検出するアウト球カウントスイッチ、断線短絡電源異常検知信号、開放信号（例えば、前枠D14、扉D18等）、磁気検知信号1（磁気検出センサ1による検出信号）、電波検知信号、衝撃検知信号、タッチ状態信号及び磁気検知信号2（磁気検出センサ2による検出信号）の入力を監視する処理である。尚、本例においては、RAMクリアスイッチ等の特殊な入力については、当該入力処理とは別の処理により入力判定等が行われている。

10

【0067】

尚、各種乱数更新処理とは、出玉への影響が極めて低い抽選に用いられる乱数を比較的単純に更新（例えば、定数を加算）する処理であり、本例においては、普通図柄変動パターン乱数（例えば、補助遊技図柄変動態様乱数）及び変動パターン乱数（例えば、変動態様抽選乱数）を更新する処理である。

【0068】

尚、初期値更新型乱数更新処理とは、出玉への影響が一定程度生じる抽選に用いられる乱数を更新する処理（前述した、各種乱数更新処理とは異なる処理）であり、本例においては、普通図柄当り乱数（例えば、補助遊技図柄当選乱数）、普通図柄図柄乱数（例えば、補助遊技図柄停止図柄乱数）、特別図柄図柄乱数（例えば、図柄抽選乱数）、後述の特別図柄当りソフト乱数等を更新するための処理である。

20

【0069】

尚、初期値乱数更新処理とは、前述した出玉への影響が一定程度生じる抽選に用いられる初期値更新型乱数更新処理で更新される乱数の初期値決定用の乱数を更新する処理であり、本例における、更新する乱数の一例としては、普通図柄当り初期値乱数、普通図柄図柄初期値乱数、特別図柄図柄初期値乱数及び特別図柄当りソフト初期値乱数等が例示できる。尚、普通図柄当り初期値乱数及び普通図柄図柄初期値乱数は、補助遊技内容決定乱数を複数有するよう構成した場合に初期値乱数更新処理にて更新される乱数となっている。

【0070】

また、タイマ減算処理とは、2バイトタイマ（例えば、第1・第2主遊技図柄変動管理用タイマMP11t-C、第2主遊技始動口電動役物開放タイマMP22t-B、特別遊技用タイマMP34t、開放時間タイマ等）の更新を行う処理である。

30

【0071】

また、始動口2有効期間設定処理とは、普通電動役物（例えば、第2主遊技始動口電動役物B11d）の作動状態により、普通電動役物が作動することにより入賞容易となる入賞口（例えば、第2主遊技始動口B10）の有効期間を設定する処理である。

【0072】

また、入賞監視処理とは、スイッチの通過カウンタの更新、外部端子板へ出力するセキュリティの出力要求の作成及び演出制御基板に送信するコマンドの送信要求を行う処理である。

40

【0073】

また、大入賞口有効期間設定処理とは、大入賞口（例えば、第1大入賞口C10、第2大入賞口C20）の有効期間判定の結果を保存する処理である。尚、後述する第3実施形態のように、大入賞口内に特定領域C22を有するよう構成した場合には、大入賞口有効期間設定処理によって特定領域C22の有効期間判定の結果を保存するよう構成してもよい。なお、始動口2有効期間設定処理と大入賞口有効期間設定処理とを含む一の処理である有効期間設定処理として、始動口2有効期間設定処理と大入賞口有効期間設定処理とを実行するように構成しても良い。

【0074】

50

また、異常検知処理とは、磁気の監視、断線・短絡の監視・電源の監視、電波の監視、ガラス枠セット・遊技盤 D 3 5 の枠の開閉状態の監視及び衝撃の監視等を行う処理である。

【0075】

また、入球通過時間異常検出処理とは、各種入球口（例えば、第1主遊技始動口 A 1 0）に遊技球が入球する際の入球通過時間異常の検出を行うため、各スイッチレベルの連続オン時間（入球センサの連続オン時間）の監視を行う処理である。

【0076】

また、遊技状態表示処理とは、特別電動役物が連続して作動する回数（大当りにおける実行ラウンド数）、エラー状態、普通図柄表示装置の作動保留球数（補助遊技図柄表示装置 H 2 0 に表示される現在の補助遊技保留球数）及び特別図柄表示装置の作動保留球数（第1主遊技図柄表示装置 A 2 0 又は第2主遊技図柄表示装置 B 2 0 に表示される現在の主遊技保留球数）の表示要求を行う処理である。

【0077】

また、ハンドル状態信号検出処理とは、発射ハンドル（例えば、発射ハンドル D 4 4）のタッチ状態の監視を行う処理である。

【0078】

また、アウト口監視処理とは、セキュリティの出力要求の作成を行うため、アウト口（例えば、アウト口 D 3 6）の監視を行う処理である。

【0079】

また、LED出力処理とは、特別図柄表示装置における表示（例えば、第1主遊技図柄表示装置 A 2 0 における第1主遊技図柄の表示、第2主遊技図柄表示装置 B 2 0 における第2主遊技図柄の表示、第1主遊技図柄表示装置 A 2 0 における第1主遊技側の作動保留球数の表示、第2主遊技図柄表示装置 B 2 0 における第2主遊技側の作動保留球数の表示）、普通図柄表示装置における表示（補助遊技図柄表示装置 H 2 0 における補助図柄の表示、補助遊技図柄表示装置 H 2 0 における補助遊技側の作動保留球数の表示）、エラー状態の表示、遊技状態の表示、打ち分けの表示（例えば、右打ちするべき状況、左打ちをするべき状況である旨を表示する）及び特別電動役物が連続して作動する回数の表示（大当りにおけるラウンド数の表示）を行うため、表示の初期化、表示データの出力等の主制御基板 M 側にて制御する LED 出力の制御を順次行う処理である。

【0080】

また、発射制御信号出力処理とは、遊技球の発射の禁止又は許可の信号を出力する処理であり、詳細については後述する。

【0081】

また、試験信号出力処理とは、遊技機外部の試験装置に出力する信号を作成し、対応した出力ポートに出力する処理である。

【0082】

また、ソレノイド出力処理とは、普通電動役物（例えば、第2主遊技始動口電動役物 B 1 1 d）ソレノイド及び大入賞口（例えば、第1大入賞口 C 1 0、第2大入賞口 C 2 0）ソレノイドの出力データの出力を行う処理である。尚、後述する第4実施形態のように大入賞口内に遮蔽部材（上遮蔽部材 C 2 4、下遮蔽部材 C 2 5）を有するよう構成した場合には、ソレノイド出力処理にて可動片ソレノイドの出力データの出力を実行する。

【0083】

また、入球状態制御処理では、入球状態表示装置 J 1 0 に表示するためのベース値の演算、当該演算結果の記憶、演算結果の表示制御等を実行する。このとき、後述する設定変更手段を設けた場合においては、設定値ごとに通常時賞球数カウンタ値、通常時アウト個数カウンタ値、総アウト個数カウンタ値、直前区間の最終ベース値等を記憶し、入球状態表示装置にて表示するよう構成することも可能である。より具体的には、電源投入時に、現在の設定に対応する遊技機の性能（例えば、大当り当選確率や各入賞口の賞球数）を読み出し、さらに、現在の設定に対応する記憶領域（例えば、通常時賞球数カウンタ値、通常時アウト個数カウンタ値、総アウト個数カウンタ値、直前区間の最終ベース値等を記憶

10

20

30

40

50

する記憶領域)をセットする。そして、それぞれの記憶領域に記憶された値をもとに入球状態情報の生成及び表示を行う。このように構成することで、設定毎の入球状態情報(例えば、ベース値)を適切に生成及び表示することが可能となる。また、入球状態表示装置に表示する入球状態情報について、専用の入球状態表示切替ボタンを操作することにより、又は、設定変更ボタンを操作することにより表示内容が切り替わるよう構成する(例えば、現在の設定が1の場合、入球状態表示切替ボタンが1回操作されると、設定2の入球状態情報が表示され、さらにもう1回操作されると、設定3の入球状態情報が表示される)ことで、設定毎の最新情報を確認可能としてもよい。ここで、設定変更ボタンを用いる場合、設定変更ボタンを操作することで設定が変更されてしまうことがないように、上述した設定キーを用いる構成(例えば、電源オン且つ設定キースイッチを左に回している状態で、設定変更ボタンを操作することで、表示内容が切り替わる構成)が好ましい。尚、入球状態表示切替ボタンや設定変更ボタンにより、入球状態情報の表示を切り替えた場合、所定時間経過すると現在の設定の表示に戻すよう構成してもよい。また、現在の設定の値に関わらず、入球状態表示切替ボタンを操作すると、入球状態表示装置の表示態様が点滅状態(入球状態の表示態様)となり、現在の設定に関わらず設定1の入球状態情報から入球状態表示切替ボタンを押下するごとに、設定2の入球状態表示、設定3の入球状態表示、というように順番に切り替わるように構成してもよく、このように構成することで、現在の設定値を把握していない状況でも、確実に設定1から順番に入球状態情報を参照できるように構成できる。

【0084】

次に、図8は、主制御基板Mが行うNMI割り込み処理(電断時)の流れを示したメインフローチャートである。まず、NMI割り込み処理について説明する。前述の通り、主制御基板MのCPUMCは、リセットICからの電断信号がCPUのNMI端子に入力されるように構成されており、遊技機における電源断時において、同図(c)の処理が実行される。即ち、遊技機の電源断時(本例では、NMI割り込み時)において、ステップ1019-1で、主制御基板MのCPUMCは、タイマ割り込み中ではないかを判定する。ステップ1019-1でYesの場合、ステップ1019-2で、主制御基板MのCPUMCは、正常に電源投入されたことを示す情報がRAMに保存されていないかを判定する。他方、ステップ1019-1でNoの場合、再度ステップ1019-1の処理を行う。ステップ1019-2でYesの場合、ステップ1019-3で、主制御基板MのCPUMCは、異常な電源断であることを示す情報をRAMに保存し、次のステップ1022に移行する。他方、ステップ1019-2でNoの場合、ステップ1019-4で、主制御基板MのCPUMCは、正常な電源断であることを示す情報をRAMに保存し、ステップ1020で、主制御基板MのCPUMCは、RAM領域の情報に基づき電断時情報(例えば、チェックサム)をセットする。次に、ステップ1022で、主制御基板MのCPUMCは、RAM領域への書き込みを禁止すると共に、タイマ割り込み処理を禁止し、電源断待ちループ処理に移行する。尚、電断信号がCPUのNMI端子に入力されることで電断処理(図8)を実行する例を説明したが、これに限らず、電断信号を特定の入力ポートに入力するように設定し、主制御基板側メイン処理(図6)やタイマ割り込み時処理(図7)にて特定の入力ポートを監視することで電断を判断して電断処理を行うようにしてもよい。

【0085】

次に、図9は、図7におけるステップ3000のサブルーチンに係る、賞球払出コマンド送信制御処理のフローチャートである。まず、ステップ3100で、主制御基板Mは、後述する対払出制御基板送信制御処理を実行する。次に、ステップ3200で、主制御基板Mは、後述する対払出制御基板受信制御処理を実行し、次の処理(ステップ3500の処理)に移行する。

【0086】

次に、図10は、図7のステップ3100のサブルーチンに係る、対払出制御基板送信制御処理のフローチャートを示したものである。まず、ステップ3105で、主制御基板

MのCPUMCは、し、払出信号がOFFであるか否か、即ち、現在払出が実行されていないか否かを判定する。ステップ3105でYesの場合、ステップ3110で、主制御基板MのCPUMCは、未払出賞球（まだ賞球払出コマンドを賞球払出制御基板KH側に送信していない賞球）が存在するか否かを判定する。ステップ3110でYesの場合、ステップ3115で、主制御基板MのCPUMCは、賞球払出を行うことが不適なエラーである賞球払出関連エラー（例えば、払出モータの故障に関するエラー、上皿満タン、球切れエラー等）が発生していないか否かを判定する。ステップ3115でYesの場合、ステップ3120で、主制御基板MのCPUMCは、今回払出処理が実行される順番の未払出賞球情報に対応した賞球払出数分の賞球払出コマンド（図12参照）をセットする。そして、ステップ3125で、主制御基板MのCPUMCは、今回セットした賞球払出コマンドに対応する未払出賞球情報を消去し、以後の情報をシフトさせる処理を実行する。次に、ステップ3130で、主制御基板MのCPUMCは、セットした賞球払出コマンドを賞球払出制御基板KH側に送信し、次の処理（ステップ3200の対払出制御基板受信制御処理）に移行する。尚、ステップ3105、ステップ3110及びステップ3115でNoの場合にも、次の処理（ステップ3200の処理）に移行する。

【0087】

《主制御基板／払出制御基板間で送受信されるコマンド・情報の内容》

ここで、図11を参照しながら、主制御基板M及び賞球払出制御基板KH間で送受信されるコマンド及び情報の内容を説明する。ここで、本実施形態に係る主制御基板Mから賞球払出制御基板KHへのコマンドは、賞球払出コマンドであることの特定期間及び賞球個数の情報からなる。具体的には、ビット7～4は、1001固定である（当該コマンドが賞球払出コマンドであることの識別情報）。次に、ビット3～0は、賞球個数に関するものであり、例えば、0（0000B）は賞球0個であることを意味し、15（1111A）は賞球15個であることを意味する。

【0088】

次に、賞球払出制御基板KHから主制御基板M側に送信される払出関連情報を説明することとする。ここで、一例として、払出関連情報（賞球払出関連情報又は払出異常関連情報）は、固定値（スタートビット）、払出モータ動作エラー情報、過剰払出エラー情報、球経路エラー情報、払出モータエラー情報、賞球装置エラー情報、受け皿満タンエラー及び賞球払出完了情報からなる。ここで、夫々のエラー内容の詳細については後述するが、夫々のエラーに対応したビットは、「0」であれば当該エラーが発生していないことを意味し、「1」であれば当該エラーが発生していることを意味する。尚、ビット0は、賞球払出完了に関するものであり、「0」は賞球払出完了であることを意味し、「1」は賞球払出未完了であることを意味する。

【0089】

次に、図12は、図7のステップ3200のサブルーチンに係る、対払出制御基板受信制御処理のフローチャートを示したものである。まず、ステップ3205で、主制御基板MのCPUMCは、払出関連情報を受信したか否かを判定する。ここで、ステップ3205でYesの場合、ステップ3210で、主制御基板MのCPUMCは、受信した払出関連情報中にエラー情報（球切れエラー、上皿満タンエラー、他の払出関連エラー）が存在するか否かを判定する。ステップ3210でYesの場合、ステップ3215で、主制御基板MのCPUMCは、該当するエラーに係るエラーフラグをオンにすることで、賞球払出制御基板KH側でのエラー情報を主制御基板M側でも管理（一元管理）する。他方、ステップ3210でNoの場合、ステップ3220で、主制御基板MのCPUMCは、賞球払出制御基板KH側でのエラーに係るエラーフラグをオフにする。そして、ステップ3225で、主制御基板MのCPUMCは、受信した払出関連情報中に賞球払出完了情報が存在するか否かを判定する。ステップ3225でYesの場合、ステップ3230で、主制御基板MのCPUMCは、セットされている賞球払出コマンド（今回の払出完了に係る賞球払出コマンド）をクリアし、次の処理（ステップ3500の処理）に移行する。尚、ステップ3205及びステップ3225でNoの場合にも、次の処理（ステップ3500の

処理)に移行する。

【0090】

次に、図13は、図7におけるステップ1100のサブルーチンに係る、補助遊技内容決定乱数取得処理のフローチャートである。まず、ステップ1102で、主制御基板MのCPUMCは、補助遊技始動口H10に遊技球が入球（流入、ゲートの場合は通過）したか否かを判定する。ステップ1102でYesの場合、ステップ1103で、主制御基板MのCPUMCは、補助遊技始動口H10に入球した旨に関するコマンドである補助遊技始動口入球コマンドをサブメイン制御部SMへ送信するためのコマンド送信用バッファMT10にセット（ステップ1999の制御コマンド送信処理によってサブメイン制御部SM側に送信される）し、ステップ1110の処理に移行する。他方、ステップ1102でNoの場合、ステップ1104で、主制御基板MのCPUMCは、右一般入賞口P20に入球したか否かを判定する。ステップ1104でYesの場合、ステップ1106で、主制御基板MのCPUMCは、特別遊技実行フラグがオンであるか否かを判定する。ステップ1106でYesの場合、ステップ1108で、主制御基板MのCPUMCは、右一般入賞口P20に入球した旨に関するコマンドである右一般入賞口入球コマンドをサブメイン制御部SMへ送信するためのコマンド送信用バッファMT10にセット（ステップ1999の制御コマンド送信処理によってサブメイン制御部SM側に送信される）し、ステップ1110の処理に移行する。尚、ステップ1106でNoの場合には、ステップ1103に移行してから、ステップ1110の処理に移行する。次に、ステップ1110で、主制御基板MのCPUMCは、保留球が上限（例えば、4個）でないか否かを判定する。ステップ1110でYesの場合、ステップ1112で、主制御基板MのCPUMCは、補助遊技内容決定乱数（例えば、補助遊技図柄当選乱数）を取得する。次に、ステップ1114で、主制御基板MのCPUMCは、何個目の保留であるかという情報と共に、主制御基板MのRAM領域にセットする形で保留球を1加算し、次の処理（ステップ1200の処理）に移行する。尚、ステップ1104及びステップ1110でNoの場合も、次の処理（ステップ1200の処理）に移行する。ここで、本実施形態においては、補助遊技始動口H10又は右一般入賞口P20に入球した場合に補助遊技側の乱数を取得し得るよう構成されている。また、補助遊技始動口H10はゲートの形状をしているため、補助遊技始動口H10に入球（補助遊技始動口H10を通過）した遊技球は、遊技盤面を引き続き流下することとなり補助遊技始動口H10よりも下流の入球口（右一般入賞口P20等）に入球し得る一方、右一般入賞口P20に入球した遊技球は、遊技盤面の奥に流下していき、以降他の入球口には入球しないよう構成されている。尚、詳細は後述することとなるが、補助遊技始動口H10に遊技球が入球（補助遊技始動口H10を遊技球が通過）しても賞球の払出はないが、右一般入賞口P20に遊技球が入球した場合には賞球の払出が発生するよう構成されている。

【0091】

次に、図14は、図7におけるステップ2000のサブルーチンに係る、入球検出処理のフローチャートである。まず、ステップ2150で、主制御基板MのCPUMCは、後述する補助遊技始動口入球検出処理を実行する。次に、ステップ2200で、主制御基板MのCPUMCは、後述する主遊技始動口入球検出処理を実行する。次に、ステップ2350で、入球判定手段は、後述する第1（第2）大入賞口入球検出処理を実行する。次に、ステップ2400で、主制御基板MのCPUMCは、後述する一般入賞口入球検出処理を実行する。次に、ステップ2500で、主制御基板MのCPUMCは、後述する排出球検出処理を実行する。次に、ステップ2600で、主制御基板MのCPUMCは、後述するアウト口入球検出処理を実行する。次に、ステップ2700で、主制御基板MのCPUMCは、後述する賞球決定処理を実行し、次の処理（ステップ1100の処理）に移行する。

【0092】

次に、図15は、図14におけるステップ2100のサブルーチンに係る、補助遊技始動口入球検出処理のフローチャートである。まず、ステップ2102で、主制御基板Mの

C P U M C は、補助遊技始動口検出継続フラグがオフであるか否かを判定する。ステップ 2 1 0 2 で Y e s の場合、ステップ 2 1 0 4 で、主制御基板 M の C P U M C は、補助遊技始動口入球検出装置 H 1 1 s からの入力が入球検出時間（当該時間以上、補助遊技始動口入球検出装置 H 1 1 s が入力を検知すると補助遊技始動口 H 1 0 に入球があったとみなす時間）以上 O N であるか否かを判定する。ステップ 2 1 0 4 で Y e s の場合、ステップ 2 1 0 6 で、主制御基板 M の C P U M C は、補助遊技始動フラグをオンにする。次に、ステップ 2 1 0 8 で、主制御基板 M の C P U M C は、補助遊技始動口検出継続フラグをオンにし、次の処理（ステップ 2 2 0 0 の処理）に移行する。

【 0 0 9 3 】

他方、ステップ 2 1 0 2 で N o の場合、ステップ 2 1 1 0 で、主制御基板 M の C P U M C は、補助遊技始動口入球検出装置 H 1 1 s からの入力が入球検出終了時間（当該時間以上、補助遊技始動口入球検出装置 H 1 1 s が入力を検知していない場合、遊技球が補助遊技始動口入球検出装置 H 1 1 s を通過完了したとみなす時間）以上 O F F であるか否かを判定する。ステップ 2 1 1 0 で Y e s の場合、ステップ 2 1 1 2 で、主制御基板 M の C P U M C は、補助遊技始動口検出継続フラグをオフにし、次の処理（ステップ 2 2 0 0 の処理）に移行する。尚、ステップ 2 1 0 4 又はステップ 2 1 1 0 で N o の場合にも、次の処理（ステップ 2 2 0 0 の処理）に移行する。

【 0 0 9 4 】

次に、図 1 6 は、図 1 4 におけるステップ 2 2 0 0 のサブルーチンに係る、主遊技始動口入球検出処理のフローチャートである。まず、ステップ 2 2 0 2 で、主制御基板 M の C P U M C は、第 1 主遊技始動口検出継続フラグがオフであるか否かを判定する。ステップ 2 2 0 2 で Y e s の場合、ステップ 2 2 0 4 で、主制御基板 M の C P U M C は、第 1 主遊技始動口入球検出装置 A 1 1 s からの入力は入球検出時間（当該時間以上、第 1 主遊技始動口入球検出装置 A 1 1 s が入力を検知すると第 1 主遊技始動口 A 1 0 に入球があったとみなす時間）以上 O N であるか否かを判定する。ステップ 2 2 0 4 で Y e s の場合、ステップ 2 2 0 6 で、主制御基板 M の C P U M C は、第 1 主遊技始動フラグをオンにする。次に、ステップ 2 2 0 8 で、主制御基板 M の C P U M C は、入球数カウンタ値に 1 を加算（インクリメント）する。次に、ステップ 2 2 1 0 で、主制御基板 M の C P U M C は、第 1 主遊技始動口検出継続フラグをオンにする。次に、ステップ 2 2 1 1 で、主制御基板 M の C P U M C は、始動口入球数カウンタのカウンタ値に 1 を加算（インクリメント）し、ステップ 2 2 1 6 に移行する。

【 0 0 9 5 】

他方、ステップ 2 2 0 2 で N o の場合、ステップ 2 2 1 2 で、主制御基板 M の C P U M C は、入球数カウンタからの入力が入球検出時間（当該時間以上、第 1 主遊技始動口入球検出装置 A 1 1 s が入力を検知していない場合、遊技球が第 1 主遊技始動口入球検出装置 A 1 1 s を通過完了したとみなす時間）以上 O F F であるか否かを判定する。ステップ 2 2 1 2 で Y e s の場合、ステップ 2 2 1 4 で、主制御基板 M の C P U M C は、第 1 主遊技始動口検出継続フラグをオフにする。次に、ステップ 2 2 1 5 で、主制御基板 M の C P U M C は、第 1 主遊技始動口長時間検出フラグをオフにし、ステップ 2 2 1 6 に移行する。尚、ステップ 2 2 0 4、ステップ 2 2 1 2 で N o の場合にも、ステップ 2 2 1 6 に移行する。

【 0 0 9 6 】

次に、ステップ 2 2 1 6 で、主制御基板 M の C P U M C は、第 1 主遊技始動口確認センサが遊技球を検出したか否かを判定する。ステップ 2 2 1 6 で Y e s の場合、ステップ 2 2 1 8 で主制御基板 M の C P U M C は、第 1 主遊技始動口確認カウンタ値に 1 を加算（インクリメント）し、ステップ 2 2 2 2 に移行する。尚、ステップ 2 2 1 6 で N o の場合にも、ステップ 2 2 2 2 に移行する。

【 0 0 9 7 】

次に、ステップ 2 2 2 2 で、主制御基板 M の C P U M C は、第 2 主遊技始動口検出継続フラグがオフであるか否かを判定する。ステップ 2 2 2 2 で Y e s の場合、ステップ 2 2

24で、第2主遊技始動口入球判定手段は、第2主遊技始動口入球検出装置B11sからの入力は入球検出時間（当該時間以上、第2主遊技始動口入球検出装置B11sが入力を検知すると第2主遊技始動口B10に入球があったとみなす時間）以上ONであるか否かを判定する。ステップ2224でYesの場合、ステップ2225で、主制御基板MのCPUMCは、第2主遊技始動口有効期間中フラグがオンであるか否かを判定する。ステップ2225でYesの場合、ステップ2226で、主制御基板MのCPUMCは、第2主遊技始動フラグをオンにする。次に、ステップ2228で、主制御基板MのCPUMCは、入球数カウンタ値に1を加算（インクリメント）する。次に、ステップ2230で、主制御基板MのCPUMCは、第2主遊技始動口検出継続フラグをオンにし、ステップ2240に移行する。

10

【0098】

他方、ステップ2225でNoの場合（第2主遊技始動口B10への入球が有効でない期間中に遊技球の入球を検出した場合）、ステップ2231で、主制御基板MのCPUMCは、第2主遊技始動口B10に不正な入球があったと判定し、第2主遊技始動口不正入球コマンド（副制御基板S側へのコマンド）をセットし、ステップ2240に移行する。尚、ステップ2224でNoの場合にも、ステップ2240に移行する。

【0099】

他方、ステップ2222でNoの場合、ステップ2232で、主制御基板MのCPUMCは、第2主遊技始動口入球検出装置B11sからの入力が入球検出時間（当該時間以上、第2主遊技始動口入球検出装置B11sが入力を検知していない場合、遊技球が第2主遊技始動口入球検出装置B11sを通過完了したとみなす時間）以上OFFであるか否かを判定する。ステップ2232でYesの場合、ステップ2234で、主制御基板MのCPUMCは、第2主遊技始動口検出継続フラグをオフにする。次に、ステップ2238で、主制御基板MのCPUMCは、第2主遊技始動口長時間検出フラグをオフにし、ステップ2240に移行する。尚、ステップ2232でNoの場合にも、ステップ2240に移行する。

20

【0100】

次に、ステップ2240で、主制御基板MのCPUMCは、第1主遊技始動口入球検出装置A11s（第2主遊技始動口入球検出装置B11s）が不正検出時間（通常の入球として検出される時間を超えた時間であり、不正が行われていると判定する時間）以上ONとなっているか否かを判定する。ステップ2240でYesの場合、ステップ2242で、主制御基板MのCPUMCは、第1（第2）主遊技始動口長時間検出フラグをオンにし、次の処理（ステップ2300の処理）に移行する。他方、ステップ2240でNoの場合にも、次の処理（ステップ2300の処理）に移行する。

30

【0101】

次に、図17は、図14におけるステップ2300のサブルーチンに係る、第1（第2）大入賞口入球検出処理のフローチャートである。まず、ステップ2302で、主制御基板MのCPUMCは、第1（第2）大入賞口検出継続フラグがオフであるか否かを判定する。ステップ2302でYesの場合、ステップ2304で、主制御基板MのCPUMCは、第1大入賞口入賞検出装置C11s（第2大入賞口入賞検出装置C21s）からの入力が入球検出時間（当該時間以上、入球検出装置が入力を検知すると、当該入球口に入球があったとみなす時間）以上ONであるか否かを判定する。ステップ2304でYesの場合、ステップ2305で、主制御基板MのCPUMCは、第1（第2）大入賞口有効期間中フラグがオンであるか否かを判定する。ステップ2305でYesの場合、ステップ2306で、主制御基板MのCPUMCは、第1（第2）大入賞口入球フラグをオンにする。次に、ステップ2308で、主制御基板MのCPUMCは、入球数カウンタ値に1を加算（インクリメント）する。次に、ステップ2310で、主制御基板MのCPUMCは、第1（第2）大入賞口検出継続フラグをオンにし、ステップ2320に移行する。

40

【0102】

他方、ステップ2305でNoの場合（大入賞口への入球が有効でない期間中に遊技球

50

の入球を検出した場合)、ステップ2311で、主制御基板MのCPUMCは、大入賞口に不正な入球があったと判定し、第1(第2)大入賞口不正入球コマンド(副制御基板S側へのコマンド)をセットし、ステップ2320に移行する。尚、ステップ2304でNoの場合にも、ステップ2320に移行する。

【0103】

他方、ステップ2302でNoの場合、ステップ2312で、主制御基板MのCPUMCは、第1大入賞口入賞検出装置C11s(第2大入賞口入賞検出装置C21s)からの入力が入球検出時間{当該時間以上、第1大入賞口入賞検出装置C11s(第2大入賞口入賞検出装置C21s)が入力を検知していない場合、遊技球が第1大入賞口入賞検出装置C11s(第2大入賞口入賞検出装置C21s)を通過完了したとみなす時間}以上OFFであるか否かを判定する。ステップ2312でYesの場合、ステップ2314で、主制御基板MのCPUMCは、第1(第2)大入賞口検出継続フラグをオフにする。次に、ステップ2318で、主制御基板MのCPUMCは、第1(第2)大入賞口長時間検出フラグをオフにし、ステップ2320に移行する。

【0104】

次に、ステップ2320で、主制御基板MのCPUMCは、第1大入賞口入賞検出装置C11s(第2大入賞口入賞検出装置C21s)からの入力が入球不正検出時間{当該時間以上、第1大入賞口入賞検出装置C11s(第2大入賞口入賞検出装置C21s)が入力を検知した場合、第1大入賞口C10(第2大入賞口C20)への不正な入球が検知されたとみなす時間}以上ONであるか否かを判定する。ステップ2320でYesの場合、ステップ2322で、主制御基板MのCPUMCは、第1(第2)大入賞口長時間検出フラグをオンにし、次の処理(ステップ2400の処理)に移行する。他方、ステップ2320でNoの場合にも、次の処理(ステップ2400の処理)に移行する。

【0105】

次に、図18は、図14におけるステップ2400のサブルーチンに係る、一般入賞口入球検出処理のフローチャートである。尚、一般入賞口(左一般入賞口P10と右一般入賞口P20とを総称して一般入賞口と称することがある)は、遊技球が入球することで、賞球を払い出すが、遊技の進行には影響しない(遊技の進行に影響する抽選を実行しない)入球口であり、遊技球の入球を検出するセンサである一般入賞口入球検出装置P11s(本実施形態においては、左一般入賞口P10への遊技球の入球を検出するセンサである一般入賞口入球検出装置P11sと右一般入賞口P20への遊技球の入球を検出するセンサである一般入賞口入球検出装置P11sとの2つの一般入賞口入球検出装置P11sを有している)を備えている。なお、右一般入賞口P20については、補助遊技始動口として機能させても良く、その場合は、ステップ2100の補助遊技始動口入球検出処理を実行するように構成されている。

【0106】

まず、ステップ2402で、主制御基板MのCPUMCは、一般入賞口検出継続フラグがオフであるか否かを判定する。ステップ2402でYesの場合、ステップ2404で、主制御基板MのCPUMCは、一般入賞口入球検出装置からの入力が入球検出時間(当該時間以上、一般入賞口入球検出装置が入力を検知すると一般入賞口に入球があったとみなす時間)以上ONであるか否かを判定する。ステップ2404でYesの場合、ステップ2406で、主制御基板MのCPUMCは、一般入賞口入球フラグをオンにする。次に、ステップ2408で、主制御基板MのCPUMCは、入球数カウンタ値に1を加算(インクリメント)する。次に、ステップ2410で、主制御基板MのCPUMCは、一般入賞口検出継続フラグをオンにし、ステップ2420に移行する。他方、ステップ2402でNoの場合、ステップ2412で、主制御基板MのCPUMCは、一般入賞口入球検出装置からの入力が入球検出時間(当該時間以上、一般入賞口入球検出装置が入力を検知しなかった場合、遊技球が一般入賞口入球検出装置を通過完了したとみなす時間)以上OFFであるか否かを判定する。ステップ2412でYesの場合、ステップ2414で、主制御基板MのCPUMCは、一般入賞口検出継続フラグをオフにする。次に、ステップ2

418で、主制御基板MのCPUMCは、一般入賞口長時間検出フラグをオフにし、ステップ2420に移行する。尚、ステップ2404、ステップ2412でNoの場合にも、ステップ2420に移行する。

【0107】

次に、ステップ2420で、主制御基板MのCPUMCは、一般入賞口入球検出装置からの入力不正検出時間{当該時間以上、一般入賞口入球検出装置が入力を検知した場合、一般入賞口への不正な入球が検知されたとみなす時間}以上ONであるか否かを判定する。ステップ2420でYesの場合、ステップ2422で、主制御基板MのCPUMCは、一般入賞口長時間検出フラグをオンにし、次の処理(ステップ2500の処理)に移行する。尚、ステップ2420でNoの場合にも、次の処理(ステップ2500の処理)に移行する。

10

【0108】

次に、図19は、図14におけるステップ2500のサブルーチンに係る、排出球検出処理のフローチャートである。まず、ステップ2502で、主制御基板MのCPUMCは、排出確認検出継続フラグがオフであるか否かを判定する。ステップ2502でYesの場合、ステップ2504で、主制御基板MのCPUMCは、総排出確認センサC90sからの入力が入球検出時間(当該時間以上、総排出確認センサC90sが入力を検知すると総排出確認センサC90sに入球があったとみなす時間)以上ONであるか否かを判定する。ステップ2504でYesの場合、ステップ2506で、主制御基板MのCPUMCは、排出確認検出継続フラグをオンにする。次に、ステップ2508で、主制御基板MのCPUMCは、総排出確認数カウンタに1を加算(インクリメント)し、次の処理(ステップ2520の処理)に移行する。

20

【0109】

他方、ステップ2502でNoの場合、ステップ2510で、主制御基板MのCPUMCは、総排出確認センサC90sからの入力検出終了時間(当該時間以上、総排出確認センサC90sが入力を検知しなかった場合、遊技球が総排出確認センサC90sを通過完了したとみなす時間)以上OFFであるか否かを判定する。ステップ2510でYesの場合、ステップ2512で、主制御基板MのCPUMCは、排出確認検出継続フラグをオフにする。次に、ステップ2514で、主制御基板MのCPUMCは、排出確認長時間検出フラグをオフにし、次の処理(ステップ2520の処理)に移行する。尚、ステップ2504又はステップ2510でNoの場合にも、次の処理(ステップ2520の処理)に移行する。

30

【0110】

次に、ステップ2520で、主制御基板MのCPUMCは、総排出確認センサC90sからの入力不正検出時間以上ONであるか否かを判定する。ステップ2520でYesの場合、ステップ2522で、主制御基板MのCPUMCは、排出確認長時間検出フラグをオンにし、次の処理(ステップ2600の処理)に移行する。他方、ステップ2520でNoの場合にも次の処理(ステップ2600の処理)に移行する。

【0111】

次に、図20は、図14におけるステップ2600のサブルーチンに係る、アウト口入球検出処理のフローチャートである。まず、ステップ2602で、主制御基板MのCPUMCは、アウト口検出継続フラグがオフであるか否かを判定する。ステップ2602でYesの場合、ステップ2604で、主制御基板MのCPUMCは、アウト口入球検出装置C80sからの入力が入球検出時間(当該時間以上、アウト口入球検出装置C80sが入力を検知するとアウト口C80に入球があったとみなす時間)以上ONであるか否かを判定する。ステップ2604でYesの場合、ステップ2606で、主制御基板MのCPUMCは、アウト口検出継続フラグをオンにし、ステップ2620の処理に移行する。

40

【0112】

他方、ステップ2602でNoの場合、ステップ2610で、主制御基板MのCPUMCは、アウト口入球検出装置C80sからの入力検出終了時間(当該時間以上、アウト

50

口入球検出装置 C 8 0 s が入力を検知していない場合、遊技球がアウト口入球検出装置 C 8 0 s を通過完了したとみなす時間) 以上 O F F であるか否かを判定する。ステップ 2 6 1 0 で Y e s の場合、ステップ 2 6 1 2 で、主制御基板 M の C P U M C は、アウト口検出継続フラグをオフにする。次に、ステップ 2 6 1 5 で、主制御基板 M の C P U M C は、アウト口長時間検出フラグをオフにし、ステップ 2 6 2 0 に移行する。他方、ステップ 2 6 0 4 又はステップ 2 6 1 0 で N o の場合にも、ステップ 2 6 2 0 に移行する。

【 0 1 1 3 】

次に、ステップ 2 6 2 0 で、主制御基板 M の C P U M C は、アウト口入球検出装置 C 8 0 s からの入力不正検出時間 (当該時間以上、アウト口入球検出装置 C 8 0 s が入力を検知している場合に、アウト口 C 8 0 への不正な入球が行われているとみなす時間) 以上 O N であるか否かを判定する。ステップ 2 6 2 0 で Y e s の場合、ステップ 2 6 2 2 で、主制御基板 M の C P U M C は、アウト口長時間検出フラグをオンにし、次の処理 (ステップ 2 7 0 0 の処理) に移行する。他方、ステップ 2 6 2 0 で N o の場合にも、次の処理 (ステップ 2 7 0 0 の処理) に移行する。

【 0 1 1 4 】

次に、図 2 1 は、図 1 4 におけるステップ 2 7 0 0 のサブルーチンに係る、賞球数決定処理のフローチャートである。まず、ステップ 2 7 0 2 で、主制御基板 M の C P U M C は、第 1 主遊技始動フラグがオンであるか否かを判定する。ステップ 2 7 0 2 で Y e s の場合、ステップ 2 7 0 4 で、主制御基板 M の C P U M C は、賞球数カウンタ M H c のカウンタ値に、第 1 主遊技始動口 A 1 0 に係る賞球払出数 (本例では、3) を加算する。次に、ステップ 2 7 0 8 で、主制御基板 M の C P U M C は、第 1 主遊技始動口 A 1 0 に係る賞球を払い出す旨の情報 (例えば、賞球払出数に係る情報) を一時記憶し、ステップ 2 7 1 2 に移行する。他方、ステップ 2 7 0 2 で N o の場合もステップ 2 7 1 2 に移行する。

【 0 1 1 5 】

次に、ステップ 2 7 1 2 で、主制御基板 M の C P U M C は、第 2 主遊技始動フラグがオンであるか否かを判定する。ステップ 2 7 1 2 で Y e s の場合、ステップ 2 7 1 4 で、主制御基板 M の C P U M C は、賞球数カウンタ M H c のカウンタ値に、第 2 主遊技始動口 B 1 0 に係る賞球払出数 (本例では、3) を加算する。次に、ステップ 2 7 1 8 で、主制御基板 M の C P U M C は、第 2 主遊技始動口 B 1 0 に係る賞球を払い出す旨の情報 (例えば、賞球払出数に係る情報) を一時記憶し、ステップ 2 7 2 2 に移行する。他方、ステップ 2 7 1 2 で N o の場合もステップ 2 7 2 2 に移行する。

【 0 1 1 6 】

次に、ステップ 2 7 2 2 で、主制御基板 M の C P U M C は、第 1 (第 2) 大入賞口入球フラグがオンであるか否かを判定する。ステップ 2 7 2 2 で Y e s の場合、ステップ 2 7 2 3 で、主制御基板 M の C P U M C は、第 1 (第 2) 大入賞口入球フラグをオフにする。次に、ステップ 2 7 2 4 で、主制御基板 M の C P U M C は、賞球数カウンタ M H c のカウンタ値に第 1 大入賞口 C 1 0 (第 2 大入賞口 C 2 0) に係る賞球払出数 (本例では、1 3) を加算する。次に、ステップ 2 7 2 8 で、主制御基板 M の C P U M C は、第 1 大入賞口 C 1 0 (第 2 大入賞口 C 2 0) に係る賞球を払い出す旨の情報 (例えば、賞球払出数に係る情報) を一時記憶し、ステップ 2 7 3 2 に移行する。他方、ステップ 2 7 2 2 で N o の場合もステップ 2 7 3 2 に移行する。

【 0 1 1 7 】

次に、ステップ 2 7 3 2 で、主制御基板 M の C P U M C は、一般入賞口入球フラグがオンであるか否かを判定する。ステップ 2 7 3 2 で Y e s の場合、ステップ 2 7 3 3 で、主制御基板 M の C P U M C は、一般入賞口入球フラグをオフにする。次に、ステップ 2 7 3 4 で、主制御基板 M の C P U M C は、賞球数カウンタ M H c のカウンタ値に、一般入賞口に係る賞球払出数 (本例では、1 0) を加算する。次に、ステップ 2 7 3 8 で、主制御基板 M の C P U M C は、一般入賞口に係る賞球を払い出す旨の情報 (例えば、賞球払出数に係る情報) を一時記憶し、次の処理 (ステップ 1 1 0 0 の処理) に移行する。他方、ステップ 2 7 3 2 で N o の場合にも、次の処理 (ステップ 1 1 0 0 の処理) に移行する。

【0118】

次に、図22は、図7におけるステップ1200のサブルーチンに係る、電動役物駆動判定処理のフローチャートである。まず、ステップ1202で、主制御基板MのCPUMCは、電動役物開放中フラグがオフであるか否かを判定する。ステップ1202でYesの場合、ステップ1204で、主制御基板MのCPUMCは、補助遊技図柄変動中フラグがオフであるか否かを判定する。ステップ1204でYesの場合、ステップ1206で、主制御基板MのCPUMCは、補助遊技図柄に関する保留球があるか否かを判定する。ステップ1206でYesの場合、ステップ1216で、主制御基板MのCPUMCは、補助遊技側の遊技状態（補助遊技時短フラグのフラグ状態）を取得すると共に、補助遊技図柄決定用抽選テーブルMN41t a - Hを参照し、当該取得した補助遊技側の遊技状態及び当該保留球に基づく補助遊技図柄当選乱数に基づき停止図柄を決定（例えば、補助遊技時短フラグがオンである場合には、オフである場合と比して高確率で当選図柄を選択）して主制御基板MのCPUMCのRAM領域に一時記憶する。

10

【0119】

ここで、同図右は、補助遊技停止図柄決定用抽選テーブルの一例である。同テーブルに示されるように、本例においては、停止図柄は「D0、D1、D2」が存在し、当り図柄となる停止図柄は「D1、D2」であり、夫々が停止したことに起因して開放することとなる電動役物の開放態様は、非時間短縮遊技時においては、停止した図柄が「D1」である場合、開放態様は（0.2秒間開放→閉鎖）であり、停止した図柄が「D2」である場合、開放態様は（0.2秒間開放→0.8秒間閉鎖→2.0秒間開放、閉鎖）である（最長開放）。また、時間短縮遊技時においては、停止した図柄が「D1」である場合、開放態様は（1秒間開放→1秒間閉鎖→1秒間開放→1秒間閉鎖→1秒間開放→閉鎖）であり、停止した図柄が「D2」である場合、開放態様は（0.2秒間開放→0.8秒間閉鎖→4.0秒間開放→閉鎖）であるよう構成されている。尚、非時間短縮遊技時には停止図柄はハズレ図柄「D0」となり易く、時間短縮遊技時には停止図柄は当り図柄「D1」となり易いよう構成されている。

20

【0120】

次に、ステップ1218で、主制御基板MのCPUMCは、補助遊技側の遊技状態（補助遊技時短フラグのフラグ状態）に基づき、補助遊技図柄変動管理用タイマMP11t e - Hに補助遊技図柄の変動時間に係る所定時間（例えば、補助遊技時短フラグがオンの場合には1秒、補助遊技時短フラグがオフの場合には10秒）をセットする。そして、ステップ1220で、主制御基板MのCPUMCは、補助遊技図柄変動中フラグをオンにする。次に、ステップ1222で、主制御基板MのCPUMCは、補助遊技図柄に関する当該保留球を1減算した上で主制御基板MのCPUMCのRAM領域に記録されている保留情報を更新すると共に、補助遊技図柄変動管理用タイマMP11t e - Hをスタートした後、補助遊技図柄表示部H21g上で補助遊技図柄の変動表示を開始する。

30

【0121】

次に、ステップ1224で、主制御基板MのCPUMCは、補助遊技図柄変動管理用タイマMP11t e - Hを参照して、補助遊技図柄の変動時間に係る所定時間に到達したか否かを判定する。ステップ1224でYesの場合、ステップ1226で、主制御基板MのCPUMCは、補助遊技図柄の停止図柄を取得すると共に、当該取得した補助遊技図柄の停止図柄を補助遊技図柄表示部H21g上で確定表示する。そして、ステップ1228で、主制御基板MのCPUMCは、補助遊技図柄変動中フラグをオフにする。次に、ステップ1230で、主制御基板MのCPUMCは、当該補助遊技図柄の停止図柄が「当り」（本例では、D1・D2）であるか否かを判定する。ステップ1230でYesの場合、ステップ1232で、主制御基板MのCPUMCは、補助遊技側の当り図柄に基づき、開放態様（例えば、当り図柄「D1」の場合には、1秒間開放→1秒間閉鎖→1秒間開放→1秒間閉鎖→1秒間開放→閉鎖となる開放態様、当り図柄「D2」の場合には、0.2秒間開放、0.8秒間閉鎖、5秒間開放となる開放態様、）を決定し、第2主遊技始動口電動役物開放タイマMP22t - Bに電動役物の開放時間（開閉時間）に係る所定時間をセッ

40

50

トする。次に、ステップ1234で、主制御基板MのCPUMCは、電動役物開放中フラグをオンにする。そして、ステップ1236で、主制御基板MのCPUMCは、第2主遊技始動口B10の第2主遊技始動口電動役物B11dを開放し、ステップ1242に移行する。尚、ステップ1202でNoの場合にも、ステップ1242に移行する。尚、本実施形態においては、主遊技時短フラグオフ且つ補助遊技停止図柄が所定の当り図柄(D2)である場合に第2主遊技始動口電動役物B11dを開放し続ける時間が最長となるよう構成されている。

【0122】

次に、ステップ1242で、主制御基板MのCPUMCは、第2主遊技始動口電動役物開放タイマMP22t-Bを参照して、電動役物の開放時間に係る所定時間に到達したか否かを判定する。ステップ1242でYesの場合、ステップ1244及びステップ1246で、主制御基板MのCPUMCは、第2主遊技始動口電動役物B11dを閉鎖すると共に、電動役物開放中フラグをオフにし、次の処理(ステップ1300の処理)に移行する。

【0123】

尚、ステップ1204でNoの場合にはステップ1224に移行し、ステップ1206、ステップ1224、ステップ1230及びステップ1242でNoの場合には次の処理(ステップ1300の処理)に移行する。

【0124】

また、本フローチャートでは、便宜上、ステップ1226での停止図柄表示後、すぐに次のステップに移行しているが、これには限定されない。その場合には、500ms程度の停止表示固定時間を経てから次の処理に移行するよう構成してもよい(例えば、停止表示固定中フラグ及びタイマを利用して分岐処理を行うことによりこの処理を達成可能である)。また、補助遊技内容決定乱数は複数あってもよく、補助遊技の当否を決定するための補助遊技図柄当選乱数、補助遊技図柄の停止図柄を決定するための補助遊技図柄停止図柄乱数、補助遊技図柄の変動時間を決定するための補助遊技図柄変動態様乱数等を備えていてもよい。

【0125】

尚、不図示であるが、第2主遊技始動口電動役物B11dの1回の開放動作(1回の補助遊技当り図柄の停止に基づく開放動作)において、第2主遊技始動口B10に遊技球が所定数(例えば、10球)入球した場合にも、第2主遊技始動口電動役物B11dの開放動作を終了するよう構成されている、即ち、時間短縮遊技状態(補助遊技時短フラグオン)の場合に補助遊技停止図柄「D2」に基づく第2主遊技始動口電動役物B11dの開放(最長開放)が実行された場合には、「0.2秒間開放→0.8秒間閉鎖→4秒間開放→閉鎖」の開放時間が終了する、或いは当該第2主遊技始動口電動役物B11dの開放期間中に前記所定数(例えば、10球)の遊技球が第2主遊技始動口B10に入球した場合のいずれか早い方の達成により、第2主遊技始動口電動役物B11dの開放(開放期間)が終了するよう構成されている。また、非時間短縮遊技状態(補助遊技時短フラグオフ)の場合に補助遊技停止図柄「D2」に基づく第2主遊技始動口電動役物B11dの開放(最長開放)が実行された場合には、「0.2秒間開放→0.8秒間閉鎖→2.0秒間開放→閉鎖」の開放時間が終了する、或いは当該第2主遊技始動口電動役物B11dの開放期間中に前記所定数(例えば、10球)の遊技球が第2主遊技始動口B10に入球した場合のいずれか早い方の達成により、第2主遊技始動口電動役物B11dの開放(開放期間)が終了するよう構成されている。また、時間短縮遊技状態(補助遊技時短フラグオン)における最長開放時(補助遊技停止図柄が「D2」の場合)の普通電動役物が開放している時間の合計は4.2秒であり、非時間短縮遊技状態(補助遊技時短フラグオフ)における最長開放時(補助遊技停止図柄が「D2」の場合)の普通電動役物が開放している時間の合計は2.2秒であり、いずれの遊技状態においても、一回の最大開放時間が通じて6秒を超えないよう構成されていると共に、作動中の最大入賞数が概ね10個を超えないように遊技状態毎(時間短縮遊技状態であるか非時間短縮遊技状態であるか)に予め定められて

10

20

30

40

50

いる。

【0126】

また、本例では、普通電動役物（第2主遊技始動口電動役物B11d）の作動契機となっている普通図柄（補助遊技図柄）が当り態様で確定表示されると、ただちに（例えば、遊技機における最短の図柄変動時間より短い500ms以内）作動するように構成されており、普通電動役物がどの契機に基づいて作動しているのかが明確に対応づけられるようになっている。尚、普通電動役物（第2主遊技始動口電動役物B11d）の閉鎖動作中（開放→閉鎖となる動作の途中）に多数の遊技球が入賞することを抑止するために、普通電動役物（第2主遊技始動口電動役物B11d）が短時間で未作動中の状態に戻るよう駆動源（ソレノイド）が選定されており、必要以上に遊技球が入賞してしまつて出玉設計と大きく異なることがないようにしている。

10

【0127】

次に、図23は、図7におけるステップ1300のサブルーチンに係る、主遊技内容決定乱数取得処理のフローチャートである。まず、ステップ1302で、主制御基板MのCPUMCは、第1主遊技始動口A10の第1主遊技始動口入球検出装置A11sから第1主遊技始動口入球情報を受信したか否かを判定する。ステップ1302でYesの場合、ステップ1303で、主制御基板MのCPUMCは、第1主遊技始動口A10に入球した旨に関するコマンドである第1主遊技始動口入球コマンドをサブメイン制御部SMへ送信するためのコマンド送信用バッファMT10にセット（ステップ1999の制御コマンド送信処理によってサブメイン制御部SM側に送信される）し、ステップ1304の処理に移行する。次に、ステップ1304で、主制御基板MのCPUMCは、主遊技（特に第1主遊技側）に関する保留球が上限（例えば4個）内であるか否かを判定する。ステップ1304でYesの場合、ステップ1306で、主制御基板MのCPUMCは、第1主遊技内容決定乱数を取得する。なお、本実施例では、第1主遊技内容決定乱数として、当否を決定するための当否抽選乱数、当り時の図柄を決定するための図柄抽選乱数、特別図柄の変動パターン（変動時間）を決定するための変動態様抽選乱数の3つの乱数を取得している。ちなみに、これら3つの乱数は夫々更新周期・乱数範囲の異なる乱数生成手段から生成され、本タイミングで一連的に取得するようになっている。次に、ステップ1308で、主制御基板MのCPUMCは、当該取得した乱数を主制御基板MのRAM領域に一時記憶（保留）する。次に、ステップ1310で、主制御基板MのCPUMCは、第1主遊技乱数が取得された旨の情報（保留発生コマンド）を、サブメイン制御部SMへ送信するためのコマンド送信用バッファMT10にセット（ステップ1999の制御コマンド送信処理によってサブメイン制御部SM側に送信される）する。

20

30

【0128】

尚、当否抽選乱数は、1つの乱数により構成されるものでもよいし、2つ以上の乱数により生成される乱数でもよい。2つ以上の乱数により生成される乱数として、CPUのクロックや外部クロックに基づいて更新されるCPU内蔵乱数とタイマ割り込み処理により更新される特別図柄（主遊技図柄）当りソフト乱数とを備え、双方を演算（例えば加算）した結果を用いる等していてもよい。

【0129】

次に、ステップ1312で、主制御基板MのCPUMCは、第2主遊技始動口B10への入球を有効とする有効期間が設けられている場合は、この有効期間中に第2主遊技始動口B10の第2主遊技始動口入球検出装置B11sから第2主遊技始動口入球情報を受信したか否かを判定する。ステップ1312でYesの場合、ステップ1314で、主制御基板MのCPUMCは、主遊技（特に第2主遊技側）に関する保留球が上限（例えば4個）内であるか否かを判定する。ステップ1314でYesの場合、ステップ1316で、主制御基板MのCPUMCは、第2主遊技内容決定乱数を取得する。なお、本実施形態では、第2主遊技内容決定乱数として、第1主遊技側と同様に当否抽選乱数、図柄抽選乱数、変動態様抽選乱数の3つの乱数を取得している。ちなみに、第1主遊技側の各乱数の取得範囲と第2主遊技側の各乱数の取得範囲（例えば第1主遊技用の当否抽選乱数と第2主

40

50

遊技用の当否抽選乱数の取得範囲)を同じに設定している。次に、ステップ1318で、主制御基板MのCPUMCは、当該取得した乱数をRAM領域に一時記憶(保留)する。次に、ステップ1320で、主制御基板MのCPUMCは、第2主遊技乱数が取得された旨の情報(保留発生コマンド)を、サブメイン制御部SMへ送信するためのコマンド送信用バッファMT10にセット(ステップ1999の制御コマンド送信処理によってサブメイン制御部SM側に送信される)し、次の処理(ステップ1400の処理)に移行する。尚、ステップ1302及びステップ1304でNoの場合にはステップ1312に移行し、ステップ1312及びステップ1314でNoの場合には次の処理(ステップ1400の処理)に移行する。

【0130】

次に、図24は、図7におけるステップ1400のサブルーチンに係る、主遊技図柄表示処理のフローチャートである。まず、ステップ1401で、主制御基板MのCPUMCは、主制御基板MのRAM領域を参照し、第2主遊技図柄の保留が存在していないか否かを確認する。ステップ1401でYesの場合、ステップ1400(1)で、主制御基板MのCPUMCは、後述の第1主遊技図柄表示処理を実行し、次の処理{ステップ1400(1)、(2)の処理}に移行する。他方、ステップ1401でNoの場合、ステップ1400(2)で、主制御基板MのCPUMCは、後述の第2主遊技図柄表示処理を実行し、次の処理{ステップ1400(1)、(2)の処理}に移行する。

【0131】

このように、本実施形態においては、第2主遊技図柄の保留球が存在する場合には、第1主遊技図柄の保留球の存在に係らず(たとえ入賞順序が第1主遊技図柄の保留の方が先でも)、第2主遊技図柄の保留消化を優先して実行するよう構成されているが、これには限定されない(入賞順序に基づく保留消化や、双方の主遊技図柄を同時並行的に抽選する並列抽選を実行するよう構成してもよい)。

【0132】

次に、図25は、図24におけるステップ1400(1){ステップ1400(2)}のサブルーチンに係る、第1主遊技図柄表示処理(第2主遊技図柄表示処理)のフローチャートである。尚、本処理は、第1主遊技図柄側と第2主遊技図柄側とで略同一の処理となるため、第1主遊技図柄側について主に説明し、第2主遊技図柄側の処理については括弧書きとする。まず、ステップ1403で、主制御基板MのCPUMCは、変動開始条件が充足しているか否かを判定する。ここで、当該変動開始条件は、特別遊技中(又は条件装置作動中)でない、且つ、主遊技図柄変動中でない、且つ、主遊技図柄の保留が存在することが条件となる。尚、本例では図示していないが、変動固定時間(主遊技図柄の確定表示後、当該確定表示図柄を停止表示する時間)を設ける場合、変動固定時間中には、次変動の変動開始条件を満たさないよう構成してもよい。

【0133】

ステップ1403でYesの場合、ステップ1405及びステップ1406で、主制御基板MのCPUMCは、主制御基板MのRAM領域に一時記憶されている、今回の図柄変動に係る第1主遊技内容決定乱数(第2主遊技内容決定乱数)を読み出すと共に、主制御基板MのRAM領域から削除し、当該一時記憶されている残りの保留情報をシフトする(保留消化処理)。次に、ステップ1410-1で、主制御基板MのCPUMCは、各遊技状態に対応する主遊技テーブル1を参照し、第1主遊技内容決定乱数(第2主遊技内容決定乱数)(特に、当選抽選乱数)に基づき、主遊技図柄当否抽選を実行する。

【0134】

ここで、図26(主遊技テーブル1)は、第1主遊技用当否抽選テーブル(第2主遊技用当否抽選テーブル)の一例である。本例に示されるように、本実施形態においては、確率変動遊技状態時における大当たり当選確率は、非確率変動遊技状態時における大当たり当選確率よりも高確率となるよう構成されている。尚、当選確率はあくまでも一例であり、これには何ら限定されない。

【0135】

10

20

30

40

50

次に、ステップ1410-2で、主制御基板MのCPUMCは、第1主遊技図柄決定用抽選テーブル（第2主遊技図柄決定用抽選テーブル）を参照し、主遊技図柄当否抽選結果及び第1主遊技内容決定乱数（第2主遊技内容決定乱数）に基づいて主遊技図柄に関する停止図柄を決定し、これらをRAM領域に一時記憶する。なお、主遊技図柄に関する停止図柄を決定する乱数としては、図柄抽選乱数が好ましい。

【0136】

ここで、図26（主遊技テーブル2）は、第1主遊技図柄決定用抽選テーブル（第2主遊技図柄決定用抽選テーブル）の一例である。本例に示されるように、本実施形態においては、大当りに当選した場合、複数の主遊技図柄候補（本例では、「4A・5A・7A」及び「4B・5B・7B」）の内から一つの主遊技図柄が大当り図柄として決定されるよう構成されている。尚、当該主遊技図柄を参照して決定される特別遊技のラウンド数は、4A、4B、5A、5Bが8R、7A、7Bが10Rとなっている。尚、乱数値や停止図柄の種類についても、あくまで一例であり、これには限定されない（例えば、ハズレ図柄は一種類の図柄であることには限定されず、複数種類の図柄を設けるよう構成してもよい）。

10

【0137】

次に、ステップ1412で、主制御基板MのCPUMCは、各遊技状態に対応する第1主遊技変動態様決定用抽選テーブル（第2主遊技変動態様決定用抽選テーブル）を参照し、主遊技図柄当否抽選結果及び第1主遊技内容決定乱数（第2主遊技内容決定乱数）（特に、変動態様抽選乱数）に基づいて主遊技図柄の変動態様を決定し、これらを主制御基板MのRAM領域に一時記憶して、ステップ1414に移行する。

20

【0138】

ここで、図26に示す主遊技テーブル3は、第1主遊技変動態様決定用抽選テーブル（第2主遊技変動態様決定用抽選テーブル）の一例である。本図に示されるように、本実施形態においては、主遊技図柄の当否抽選結果、主遊技時短フラグ状態に基づき、ある乱数値に対する主遊技図柄の変動態様（変動時間）が決定され得るよう構成されている。例えば、ある乱数値に関して、主遊技図柄の当否抽選結果が当りの場合には、相対的に変動時間が長時間となる変動態様が決定され易く、主遊技時短フラグがオンである場合（時間短縮遊技状態である場合）には、相対的に変動時間が短時間となる変動態様が決定され易いよう構成されている。尚、本例はあくまでも一例であり、変動態様（変動時間）の種類や選択率等には何ら限定されない。また、時間短縮遊技状態（主遊技時短フラグがオンの場合）における第1主遊技側の図柄変動時間が相対的に長時間となるよう構成してもよい（第2主遊技側での図柄変動が実行されることが遊技者にとって有利となるよう構成されていた際、第1主遊技側の図柄変動効率を低下させることで第2主遊技側の保留が生じ易い（遊技者にとって有利となる）状況を構築することを趣旨とするため、第1主遊技側の始動口と第2主遊技側の始動口とを打ち分けできない場合において特に効果を発揮する）。

30

【0139】

次に、ステップ1414で、主制御基板MのCPUMCは、主制御基板MのRAM領域に一時記憶された主遊技図柄に係るコマンド（停止図柄情報、停止図柄の属性情報、変動態様情報等）及び現在の遊技状態に係るコマンド（図柄変動表示開始指示コマンド）を、サブメイン制御部SM側に送信するためのコマンド送信用バッファMT10にセット（ステップ1999の制御コマンド送信処理によってサブメイン制御部SM側に送信される）する。次に、ステップ1415で、主制御基板MのCPUMCが、主遊技図柄の変動時間に係る所定時間を第1・第2主遊技図柄変動管理用タイマMP11-1にセットする。次に、ステップ1416で、主制御基板MのCPUMCは、第1主遊技図柄表示装置A20（第2主遊技図柄表示装置B20）の第1主遊技図柄表示部A21g（第2主遊技図柄表示部B21g）上で、主制御基板MのRAM領域に記憶された変動態様に従い、主遊技図柄の変動表示を開始する。次に、ステップ1417で、主制御基板MのCPUMCは、変動中フラグをオンにし、ステップ1420に移行する。

40

【0140】

50

他方、ステップ1403でN oの場合、ステップ1419で、主制御基板MのCPUMCは、変動中フラグがオンであるか否かを判定する。ステップ1419でY e sの場合にはステップ1420に移行し、ステップ1419でN oの場合には次の処理（ステップ1601の処理）に移行する。

【0141】

次に、ステップ1420で、主制御基板MのCPUMCは、主遊技図柄の変動時間に係る所定時間に到達したか否かを判定する。ステップ1420でY e sの場合、ステップ1422で、主制御基板MのCPUMCは、図柄変動が終了する旨の情報（図柄確定表示指示コマンド）を、サブメイン制御部SM側に送信するためのコマンド送信用バッファMT10にセット（ステップ1999の制御コマンド送信処理によってサブメイン制御部SM側に送信される）する。次に、ステップ1423で、主制御基板MのCPUMCは、第1主遊技図柄表示装置A20（第2主遊技図柄表示装置B20）の第1主遊技図柄表示部A21g（第2主遊技図柄表示部B21g）上での主遊技図柄の変動表示を停止し、主制御基板MのRAM領域に記憶されている停止図柄を確定停止図柄として表示制御する。次に、ステップ1424で、主制御基板MのCPUMCは、変動中フラグをオフにする。

【0142】

次に、ステップ1430で、主制御基板MのCPUMCは、主制御基板MのRAM領域を参照し、当該主遊技図柄の停止図柄が大当り図柄であるか否かを判定する。ステップ1430でY e sの場合、ステップ1440で、主制御基板MのCPUMCは、条件装置作動フラグをオンにし、ステップ1500に移行する。他方、ステップ1430でN oの場合には、ステップ1500に移行する。

【0143】

次に、ステップ1500で、主制御基板MのCPUMCは、後述の特定遊技終了判定処理を実行し、次の処理（ステップ1601の処理）に移行する。尚、ステップ1420でN oの場合にも、次の処理（ステップ1601の処理）に移行する。

【0144】

次に、図27は、図25におけるステップ1500のサブルーチンに係る、特定遊技終了判定処理のフローチャートである。まず、ステップ1506で、主制御基板MのCPUMCは、主遊技確定フラグがオフであるか判定する。ステップ1506でY e sの場合、ステップ1510で、主制御基板MのCPUMCは、時短回数カウンタMP52cを参照し、当該カウンタ値が0より大きいかなんかを判定する。ステップ1510でY e sの場合、ステップ1512で、主制御基板MのCPUMCは、時短回数カウンタMP52cのカウンタ値を1減算（デクリメント）する。次に、ステップ1514で、主制御基板MのCPUMCは、時短回数カウンタMP52cを参照し、当該カウンタ値が0であるか否かを判定する。ステップ1514でY e sの場合、ステップ1516で、主制御基板MのCPUMCは、主遊技時短フラグをオフにする。次に、ステップ1518で、主制御基板MのCPUMCは、補助遊技時短フラグをオフにし、次の処理（ステップ1601の処理）に移行する。尚、ステップ1506、ステップ1510又はステップ1514でN oの場合にも次の処理（ステップ1601の処理）に移行する。このように、本例においては、残り時短回数（特別遊技終了後からの図柄変動終了回数によって時間短縮遊技状態が終了することとなる残りの図柄変動回数）を副制御基板Sに送信するよう構成されている。

【0145】

次に、図28は、図7におけるステップ1600のサブルーチンに係る、特別遊技制御処理のフローチャートである。まず、ステップ1602で、主制御基板MのCPUMCは、特別遊技移行許可フラグがオンであるか否かを判定する。ステップ1602でY e sの場合、ステップ1604及びステップ1606で、主制御基板MのCPUMCは、特別遊技移行許可フラグをオフにすると共に特別遊技実行フラグをオンにする。次に、ステップ1607で、主制御基板MのCPUMCは、ラウンド数カウンタ（不図示）に初期値（本例では、1）をセットする。次に、ステップ1608で、主制御基板MのCPUMCは、特別遊技を開始する旨の情報（特別遊技開始表示指示コマンド）を、サブメイン制御部側

10

20

30

40

50

に送信するためのコマンド送信用バッファMT10にセット（ステップ1999の制御コマンド送信処理にて、サブメイン制御部SM側に送信される）し、ステップ1612に移行する。

【0146】

他方、ステップ1602でNoの場合、ステップ1610で、主制御基板MのCPUMCは、特別遊技実行フラグがオンであるか否かを判定する。そして、ステップ1610でYesの場合には、ステップ1612に移行する。尚、ステップ1610でNoの場合には、主制御基板MのCPUMCは、特別遊技の許可が下りていないと判定し、次の処理（ステップ1601の処理）に移行する。

【0147】

次に、ステップ1612で、主制御基板MのCPUMCは、ラウンド継続フラグがオフであるか否か、換言すれば、各ラウンドの開始直前であるか否かを判定する。ステップ1612でYesの場合、即ち、各ラウンドの開始直前である場合、まず、ステップ1614で、セットした開放パターン（例えば、開放し続ける開放パターン、開放と閉鎖を複数回行うパターン）をセットする。次に、ステップ1616で、主制御基板MのCPUMCは、入賞球カウンタMP33cのカウント値をゼロクリアする。次に、ステップ1618で、主制御基板MのCPUMCは、ラウンド継続フラグをオンにする。次に、ステップ1620で、主制御基板MのCPUMCは、第1大入賞口C10の第1大入賞口電動役物C11d（又は第2大入賞口電動役物C21d）を駆動して第1大入賞口C10（又は第2大入賞口C20）を開放し、特別遊技用タイマMP34t（特に開放時間タイマ）に所定時間（例えば30秒）をセットしてスタートし、ステップ1622に移行する。他方、ステップ1612でNoの場合、即ち、大入賞口が開放中である場合、ステップ1614～1620の処理を行うことなく、ステップ1622に移行する。

【0148】

次に、ステップ1622で、主制御基板MのCPUMCは、現在の特別遊技中に係る遊技状態コマンド（例えば、現在のラウンド数や遊技球の入賞個数等）を、サブメイン制御部SM側に送信するためのコマンド送信用バッファMT10にセット（ステップ1999の制御コマンド送信処理にて、サブメイン制御部SM側に送信される）する。次に、ステップ1624で、主制御基板MのCPUMCは、入賞球カウンタMP33cのカウント値を参照し、当該ラウンドで第1大入賞口C10（又は第2大入賞口C20）に所定個数（例えば、10球）の入賞球があったか否かを判定する。ステップ1624でYesの場合には、ステップ1628に移行する。他方、ステップ1624でNoの場合、ステップ1626で、主制御基板MのCPUMCは、特別遊技用タイマMP34t（特に開放時間タイマ）を参照して大入賞口の開放に係る所定時間（例えば、30秒）が経過したか否かを判定する。ステップ1626でYesの場合にも、ステップ1628に移行する。尚、ステップ1626でNoの場合には、次の処理（ステップ1601の処理）に移行する。

【0149】

次に、ステップ1628で、主制御基板MのCPUMCは、第1大入賞口C10の第1大入賞口電動役物C11d（又は第2大入賞口C20の第2大入賞口電動役物C21d）の駆動を停止して第1大入賞口C10（又は第2大入賞口C20）を閉鎖する。次に、ステップ1630で、主制御基板MのCPUMCは、特別遊技用タイマMP34t（特に開放時間タイマ）をリセットする。次に、ステップ1632で、主制御基板MのCPUMCは、ラウンド継続フラグをオフにする。次に、ステップ1633で、主制御基板MのCPUMCは、ラウンド数カウンタ（不図示）のカウント値に1を加算する。次に、ステップ1634で、最終ラウンドが終了したか否か（例えば、ラウンド数カウンタ（不図示）のカウント値が最大ラウンド数を超過したか否か）を判定する。ステップ1634でYesの場合、ステップ1636で、主制御基板MのCPUMCは、特別遊技実行フラグをオフにする。次に、ステップ1638で、主制御基板MのCPUMCは、特別遊技を終了する旨の情報（特別遊技終了表示指示コマンド）を、サブメイン制御部SM側に送信するためのコマンド送信用バッファMT10にセット（ステップ1999の制御コマンド送信処理

10

20

30

40

50

にて、サブメイン制御部 S M 側に送信される) する。そして、ステップ 1 6 5 0 で、後述の特別遊技終了後の遊技状態決定処理を実行し、次の処理 (ステップ 1 9 9 7 の処理) に移行する。尚、ステップ 1 6 3 4 で N o の場合にも、次の処理 (ステップ 1 9 9 7 の処理) に移行する。

【 0 1 5 0 】

尚、本例では、1 の単位遊技 (1 回のラウンドの実行) においてプログラム上として設定された遊技球の最大入賞数は、1 0 個として設定されており、当該最大入賞数に達した場合には、大入賞口 (例えば、第 1 大入賞口 C 1 0、第 2 大入賞口 C 2 0) を直ちに閉鎖するように制御し、最大入賞数を超える遊技球の入賞を阻止する一方、球がみ (大入賞口の閉鎖動作中に遊技球が扉と遊技盤との間で一時的に停留する) 等の不測の事態によって最大入賞数を超えた場合でも、所定条件下 (閉鎖後の所定期間内) に限り、当該最大入賞数を超えた入賞を有効な入賞として処理するようになっている。

【 0 1 5 1 】

より具体的には、大当りにおける第 1 ラウンドで第 1 大入賞口 C 1 0 が開放する場合、第 1 ラウンドにおいて第 1 大入賞口 C 1 0 に所定個数 (例えば、1 0 球) の入賞があった場合に第 1 ラウンドが終了することとなるが、第 1 ラウンドにおいて第 1 大入賞口 C 1 0 に 9 球の遊技球が入球した状況にて、第 1 大入賞口 C 1 0 への 1 0 球目の入球と 1 1 球目の入球とが略同時に発生することによって、第 1 ラウンドが終了することとなる所定個数 (例えば、1 0 球) を超過した遊技球が第 1 大入賞口 C 1 0 に入球した場合でも、入賞を有効として賞球払出を行うように構成されている。一方、大入賞口の駆動機構 (ソレノイドや駆動伝達機構) や開閉部 (扉等) は、過剰入賞 (最大入賞数を超える入賞) を抑止するように、閉鎖処理の実行とリアルタイムに大入賞口が閉鎖し、閉鎖動作直前に複数の遊技球が開閉部材やその近傍に滞留しないよう構造設計、電気設計がなされている。これにより、出玉設計値と乖離した遊技性能となることを抑止しつつ、遊技者に不利となるようなことがないように構成されている。

【 0 1 5 2 】

また、1 の単位遊技 (1 回のラウンドの実行) においてプログラム上として設定された最大開放時間は、1 の単位遊技を通じて 3 0 秒以下となるように設定されており、最大開放時間経過前に大入賞口への遊技球の入賞数が最大入賞数に達した場合には、大入賞口を直ちに閉鎖するように制御し、最大開放時間経過後には、遊技球の入賞を阻止する一方、球がみ (大入賞口の閉鎖動作中に遊技球が扉と遊技盤との間で一時的に停留する) 等の不測の事態によって最大開放時間経過後に入賞した場合でも、所定条件下 (閉鎖後の所定期間内) に限り、当該入賞を有効な入賞として処理するようになっている。

【 0 1 5 3 】

より具体的には、大当りにおける 1 回のラウンドを実行する際の大入賞口の開放態様として、大当りの種類や単位遊技の回数 (実行ラウンド数) に応じて「1 5 秒開放→2 秒閉鎖→1 4 . 5 秒開放→閉鎖」、「2 9 . 5 秒開放→閉鎖」等、複数の作動パターンのいずれかが設定されるようになっているが、いずれの作動パターンであっても大入賞口が開放している時間の合計が 3 0 秒以下となるよう構成され、1 回のラウンドにおいて大入賞口の最大開放時間 (2 9 . 5 秒) が経過して、大入賞口の閉鎖処理中に遊技球が入球した場合であっても、有効期間 (大入賞口の閉鎖処理終了後から 1 0 0 0 m s 程度) 内であれば入賞を有効として賞球払出を行うように構成されている。一方、大入賞口の駆動機構 (ソレノイドや駆動伝達機構) や開閉部 (扉等) は、最大開放時間の経過後の入賞を抑止するように、閉鎖処理の実行とリアルタイムに大入賞口が閉鎖し、閉鎖動作直前に複数の遊技球が開閉部材やその近傍に滞留しないよう構造設計、電気設計がなされている。これにより、出玉設計値と乖離した遊技性能となることを抑止しつつ、遊技者に不利となるようなことがないように構成されている。

【 0 1 5 4 】

次に、図 2 9 は、図 2 8 におけるステップ 1 6 5 0 のサブルーチンに係る、特別遊技終了後の遊技状態決定処理のフローチャートである。まず、ステップ 1 6 5 2 で、主制御基

板MのCPUMCは、主遊技図柄の停止図柄は、確変大当り図柄（特別遊技終了後に確率変動遊技状態に移行することとなる大当り図柄であり、本例では、「5A・7A・5B・7B」）であるか否かを判定する。ステップ1652でYesの場合、ステップ1654で、主制御基板MのCPUMCは、主遊技確変フラグをオンにし、ステップ1656に移行する。他方、ステップ1652でNoの場合（本例では、特別遊技終了後に非確率変動遊技状態に移行することとなる大当り図柄である非確変大当り図柄が停止図柄の場合であり、本例では、「4A・4B」の場合）にも、ステップ1656に移行する。次に、ステップ1656で、主制御基板MのCPUMCは、時短回数カウンタMP52cに所定回数（本例では、100）をセットする。次に、ステップ1658で、主制御基板MのCPUMCは、主遊技時短フラグをオンにする。次に、ステップ1660で、主制御基板MのCPUMCは、補助遊技時短フラグをオンにし、次の処理（ステップ1601の処理）に移行する。

【0155】

また、本例においては、大当りの終了に基づいて電サポ遊技状態（普通電動役物に係る入賞口の開放等の時間、開放等までの時間、開放等の回数及び普通電動役物が作動することとなる図柄の組合せが表示される確率を入賞が容易となるように変動させる状態であり、時間短縮遊技状態、補助遊技時間短縮遊技状態とも称することがある）に新たに移行し、当該状態は、特別図柄の確率変動中（確率変動遊技状態である場合）を除き、予め定められた所定回（例えば、100回）の主遊技図柄の変動が行われるまで（所定回目の主遊技図柄の変動が終了するまで）の間に限られている。更に、他の入賞口への入賞と合わせて獲得される遊技球数が、発射された遊技球数と略同じ（出玉率が1を超えない）か、それ以下となるように電サポ遊技状態中の出玉設計（各入賞口の配置や普通電動役物の作動内容、補助遊技図柄の当り確率等が設計）されており、電サポ遊技状態の出玉性能が、大当り遊技の出玉性能よりも高くないようになっている。このように構成することで、主遊技図柄に関する遊技と補助遊技図柄に関する遊技とが遊技上の主従関係となり、遊技が必要以上に複雑化しない。

【0156】

次に、図30は、図7におけるステップ1550のサブルーチンに係る、特別遊技作動条件判定処理のフローチャートである。まず、ステップ1552で、主制御基板MのCPUMCは、条件装置作動フラグがオンであるか否かを判定する。ステップ1552でYesの場合、ステップ1554で、主制御基板MのCPUMCは、特定遊技フラグ（主遊技確変フラグ・主遊技時短フラグ・補助遊技時短フラグ）をオフにする。なお、ステップ1554では、時短A～Cの作動に応じてオンになっている補助遊技時短Aフラグ、補助遊技時短Bフラグ、補助遊技時短Cフラグをオフにするように構成されている。次に、ステップ1558で、主制御基板MのCPUMCは、時短回数カウンタMP52cの値をクリアする。次に、ステップ1560で、主制御基板MのCPUMCは、特別遊技移行許可フラグをオンにする。次に、ステップ1562で、主制御基板MのCPUMCは、条件装置作動フラグをオフにし、次の処理（ステップ1550-1の処理）に移行する。尚、ステップ1552でNoの場合も、次の処理（ステップ1550-1の処理）に移行する。

【0157】

次に、図31は、図7におけるステップ1900のサブルーチンに係る、不正検知情報管理処理のフローチャートである。まず、ステップ1902で、主制御基板MのCPUMCは、不正電波センサを参照し、不正電波センサからの入力が入力回数連続でONであるか否かを判定する（例えば、当該処理はタイマ割り込み処理にて実行される処理であり、所定回数の割り込みにおいて連続でONとなっているか否かを判定することで、ノイズの影響を除去する趣旨である、尚、以下、同図における処理にて「所定回数連続で」という場合には、同様の趣旨である）。ステップ1902でYesの場合、ステップ1904で、主制御基板MのCPUMCは、不正電波が検出されたと判定し、不正電波検出フラグをオンにし、ステップ1912に移行する。他方、ステップ1902でNoの場合、ステップ1906で、主制御基板MのCPUMCは、不正電波センサを参照し、不正電波センサ

からの入力が入力回数連続でOFFであるか否かを判定する。ステップ1906でYesの場合、ステップ1908で、主制御基板MのCPUMCは、不正電波の検出が終了したと判定し、不正電波検出フラグをオフにし、ステップ1912に移行する。尚、ステップ1906でNoの場合にも、ステップ1912に移行する。

【0158】

次に、ステップ1912で、主制御基板MのCPUMCは、不正磁気センサを参照し、不正磁気センサからの入力が入力回数連続でONであるか否かを判定する。ステップ1912でYesの場合、ステップ1914で、主制御基板MのCPUMCは、不正磁気を検出されたと判定し、不正磁気検出フラグをオンにし、ステップ1922に移行する。他方、ステップ1912でNoの場合、ステップ1916で、主制御基板MのCPUMCは、不正磁気センサを参照し、不正磁気センサからの入力が入力回数連続でOFFであるか否かを判定する。ステップ1916でYesの場合、ステップ1918で、主制御基板MのCPUMCは、不正磁気を検出が終了したと判定し、不正磁気検出フラグをオフにし、ステップ1922に移行する。尚、ステップ1916でNoの場合にも、ステップ1922に移行する。

【0159】

次に、ステップ1922で、主制御基板MのCPUMCは、扉開放センサを参照し、扉開放センサからの入力が入力回数連続でONであるか否かを判定する。ステップ1922でYesの場合、ステップ1924で、主制御基板MのCPUMCは、扉ユニットD18が開放されたと判定し、扉開放中フラグをオンにし、ステップ1932に移行する。他方、ステップ1922でNoの場合、ステップ1926で、主制御基板MのCPUMCは、扉開放センサを参照し、扉開放センサからの入力が入力回数連続でOFFであるか否かを判定する。ステップ1926でYesの場合、ステップ1928で、主制御基板MのCPUMCは、扉ユニットD18が開放されたと判定し、扉開放中フラグをオフにし、ステップ1932に移行する。尚、ステップ1926でNoの場合にも、ステップ1932に移行する。

【0160】

次に、ステップ1932で、主制御基板MのCPUMCは、枠開放センサを参照し、枠開放センサからの入力が入力回数連続でONであるか否かを判定する。ステップ1932でYesの場合、ステップ1934で、主制御基板MのCPUMCは、遊技機枠Dが開放されたと判定し、枠開放中フラグをオンにし、ステップ1934に移行する。他方、ステップ1932でNoの場合、ステップ1936で、主制御基板MのCPUMCは、枠開放センサを参照し、枠開放センサからの入力が入力回数連続でOFFであるか否かを判定する。ステップ1936でYesの場合、ステップ1938で、主制御基板MのCPUMCは、遊技機枠Dが開放されたと判定し、枠開放中フラグをオフにし、次の処理（ステップ1950の処理）に移行する。尚、ステップ1936でNoの場合にも、次の処理（ステップ1950の処理）に移行する。

【0161】

次に、図32は、図7におけるステップ1950のサブルーチンに係る、エラー管理処理のフローチャートである。まず、ステップ1952で、主制御基板MのCPUMCは、エラー発生条件が充足されたか否かを判定する。ステップ1952でYesの場合、ステップ1954で、主制御基板MのCPUMCは、エラーが発生した旨及びエラー種別情報に係るコマンド（副制御基板S側へのコマンド）を送信する（ステップ1990の制御コマンド送信処理によってサブメイン制御部SM側に送信される）。次に、ステップ1956で、主制御基板MのCPUMCは、エラー解除条件が充足されたか否かを判定する。ステップ1956でYesの場合、ステップ1958で、主制御基板MのCPUMCは、エラーが解除された旨の情報に係るコマンド（副制御基板S側へのコマンド）を送信（ステップ1999の制御コマンド送信処理によってサブメイン制御部SM側に送信される）し、次の処理（ステップ1550-7の処理）に移行する。尚、ステップ1952又はステップ1956でNoの場合にも次の処理（ステップ1550-7の処理）に移行する。

【0162】

次に、図33は、図7におけるステップ1550-7のサブルーチンに係る、発射制御信号出力処理のフローチャートである。まず、ステップ1550-7-1で、主制御基板MのCPUMCは、払出制御基板（賞球払出制御基板KHと称することがある）と通信状態（BIT0）及び断線短絡電源異常（BIT1）を示すエラーフラグを取得する。通信状態を示すBIT0は、「00000000B」であれば正常を示し、「00000001B」であれば異常を示す。断線短絡電源異常を示すBIT1では、「00000000B」であれば正常を示し、「00000010B」であれば異常を示す。次に、ステップ1550-7-2で、主制御基板MのCPUMCは、ステップ1550-7-1で取得したエラーフラグと、判定データ（「00000011B」）の論理積を算出する。次に、ステップ1550-7-3で、主制御基板MのCPUMCは、発射許可信号ビットデータをセットする。例えば、出力ポートのBIT5が発射許可信号を示しており、「00000000B」であればエラー（異常）を示し、「00100000B」であれば正常を示す。次に、ステップ1550-7-4で、主制御基板MのCPUMCは、出力ポートへ出力し、次の処理（ステップ1550-8の処理）に移行する。ここで出力ポートは、例えば、BIT0がデジット1ビットデータ、BIT1がデジット2ビットデータ、BIT2がデジット3ビットデータ、BIT3がデジット4ビットデータ、BIT4がデジット5ビットデータ、BIT5が発射許可信号ビットデータ、BIT6が演出ストロブビットデータ、BIT7がセキュリティビットのように構成されている。

10

【0163】

次に、図34は、図7におけるステップ3500のサブルーチンに係る、外部信号出力処理のフローチャートである。まず、ステップ3502で、主制御基板MのCPUMCは、遊技状態一時記憶手段MBを参照し、遊技機の状態を確認する。次に、ステップ3504で、主制御基板MのCPUMCは、外部端子送信内容決定テーブル1を参照して、当該確認した遊技機の状態に基づき、外部中継端子板Gを介して、ホールコンピュータHCに遊技機の状態を示す信号を出力し、次の処理（ステップ1550-10の処理）に移行する。

20

【0164】

（外部中継端子板）

ここで、同図下段（信号出力のイメージ図）を参照しながら、本実施形態に係る外部中継端子板Gを介しての信号出力について説明する。外部中継端子板Gには、各種ケーブルコネクタが接続される出力端子部としての複数の外部接続端子（例えば、賞球払出に関する情報、入賞や図柄停止に関する情報、現在の遊技状態（通常遊技状態、特定遊技状態、特別遊技状態等）に関する情報を出力するための遊技状態情報出力用の端子、扉が開放している際に開放検知センサ等によって検出される各種エラー情報を出力するためのエラー情報出力用の端子等）が設けられている。そして、後述するように、当該複数の出力端子は、ケーブルハーネスによってホールコンピュータHCと結線されることで、当該複数の出力端子からホールコンピュータHCへ情報出力可能に構成されている。ここで、本実施形態においては、賞球払出制御基板KHから出力される情報であって複数種類の情報である払出関連情報の出力用端子として、一の出力端子が割り当てられている。尚、当該一の出力端子以外の出力端子は主制御基板Mから出力される信号の出力用端子であり、例えば、大当たり時に大当たりの間信号を出力する大当たり出力用端子（大当たりの種類によって複数あり）、ガラス扉D18が開放している間信号を出力する扉開放出力用端子、始動口に入賞した際に信号を出力する始動口入賞時出力用端子、賞球タンクKTに球が不足している間信号を出力する球切れ時出力用端子、特別図柄確定停止時に信号を出力する特別図柄確定回数用出力用端子等のように、遊技場運営者側にとって重要な情報である遊技関連情報の出力用端子である。即ち、当該払出関連情報の出力用端子を一の出力端子とすることで、これら重要な遊技関連情報の出力用端子が枯渇してしまうことを回避できるよう構成されているのである。

30

40

【0165】

50

また、本実施形態においては、主制御基板M及び賞球払出制御基板KHは、外部中継端子板Gに対して遊技関連情報及び払出関連情報を一方向シリアル送信の形で送信するように構成されている。即ち、外部中継端子板Gから主制御基板M及び賞球払出制御基板KHへは送信線が設けられていないのである（外部中継端子板GからホールコンピュータHCへの情報送信も同様）。

【0166】

ここで、本実施形態に係るぱちんこ遊技機の情報伝達方式についての概略を説明すると、まず、主制御基板M及び賞球払出制御基板KHと外部中継端子板Gとの間、並びに外部中継端子板GとホールコンピュータHCとの間はケーブルハーネスによって結線されている。他方、本例に示すように、外部中継端子板Gは通信用継電器（所謂、リレー）によって構成されているため、主制御基板M及び賞球払出制御基板KHとホールコンピュータHCとは常時導通している訳ではない。即ち、主制御基板M及び賞球払出制御基板KHから外部中継端子板Gの入力端子に入力された電氣的な信号（電圧がHiレベル/Lowレベルである2値論理の信号）が、当該リレー部によって一旦物理的な信号（スイッチ状態がオン/オフである2値論理の信号）に置き換えられた上で、外部中継端子板Gの出力端子からホールコンピュータHCへと出力されるのである。より具体的には、外部中継端子板Gは、夫々の入出力端子と対応した複数のリレーコイルG1及び接点部G2を有している。そして、入力端子に入力されたパルス信号に基づきリレーコイルG1を励磁すると磁力が発生し、当該発生した磁力によって接点部G2が閉状態となることで、出力端子とホールコンピュータHCが導通する。また、リレーコイルG1を消磁した場合には、接点部G2が開状態に復帰することで、出力端子とホールコンピュータHCが導通しなくなる。よって、ホールコンピュータHC側では、当該導通した期間を検出することで、外部中継端子板Gの入力端子に入力されたパルス信号と略同一のパルス信号を得ることができるのである。このような構成となっているため、主制御基板M及び賞球払出制御基板KHからホールコンピュータHCへの一方向通信を物理的に担保することができ、ホールコンピュータHC側から主制御基板M及び賞球払出制御基板KHを不正に操作するゴト行為（所謂、遠隔操作ゴト）を防止しているのである。尚、本例では、リレーコイルを用いた機構によって、ゴト行為を防止しつつ、ホールコンピュータHCへの一方向通信を可能に構成したが、これには限定されず、例えば、一対の発光部と受光部を持つフォトセンサによっても、一方向通信を可能に構成する（例えば、主制御基板M及び賞球払出制御基板KHに接続された発光部からの光を、ホールコンピュータHCに接続された受光部で読み取ることで、信号を受信する）ことができることを補足しておく。

【0167】

しかしながら、一旦物理的な信号（スイッチ状態がオン/オフ）に置き換えられる構成となるため、主制御基板M及び賞球払出制御基板KHからホールコンピュータHCに対して、外部中継端子板Gにおける一の入出力端子を用いて複雑な情報を送信することは困難であり、当該一の入出力端子を用いて一の種類の情報を送信する（例えば、特別図柄確定回数用出力用端子であれば、「特別図柄の1変動が終了」した旨の情報のみを送信可能とする）よう構成することが通例となっている。

【0168】

次に、図35を参照しながら、本実施形態における外部中継端子板への送信信号について説明する。尚、本例にて示す信号の具体的な内容（数値、報知態様、重複時の処置等）はあくまで一例であり、本例の概念を大きく逸脱しない限りは、変更可能であることを補足しておく。

【0169】

まず、その他の信号である；常にオフであることを出力する予備的な信号は；電源投入{例えば、図6の(a)主制御基板側メイン処理の実行開始}後の任意のタイミングから；常時、オフ信号を出力する信号である。尚、当該信号は、開発機種（遊技性の複雑さ）毎に応じて使用有無が異なる信号である。

【0170】

次に、IN/OUT系の信号である；遊技領域D30上に配置された全ての入球口（アウト口を含む）へ入球した遊技球個数（遊技領域D30に打ち込まれた遊技球個数）を出力する信号は；総排出確認センサC90sにて検出された遊技球数（例えば、総排出確認数カウンタMJ11c-C90の値であるが、入球数カウンタMJ10cの値であってもよい）が所定数（10）の倍数に達する毎に；0.2秒間に亘ってオン信号を出力した後、0.2秒間に亘ってオフ信号を出力する信号である。尚、出力期間が重複した場合には、今回出力している1信号の出力期間が満了するまで、次の出力を待機するよう構成されている。

【0171】

次に、IN/OUT系の信号である；遊技機が払い出した遊技球個数を出力する信号は；払出カウントセンサKE10sにて検出された遊技球数が所定数（10）の倍数に達する毎に；0.2秒間に亘ってオン信号を出力した後、0.2秒間に亘ってオフ信号を出力する信号である。尚、出力期間が重複した場合には、今回出力している1信号の出力期間が満了するまで、次の出力を待機するよう構成されている。また、前記出力タイミングを初めて満たす場合には、所定期間の経過後（1割り込み分=0.004秒）から出力開始するよう構成してもよく、且つ、次の出力を待機している場合には、今回の出力期間が満了した直後に（前記した所定期間が経過せずとも）出力開始するよう構成してもよい。

【0172】

次に、ユニット監視系の信号である；遊技機のガラス扉（透明板が装着された枠体であり、例えば、ガラス扉D18）が開放中であることを出力する信号は；扉ユニット開放検知センサD18sが、オフ→オンに変化した場合（例えば、ステップ1924で、扉開放中フラグをオンとした場合）{※但し、オフ→オンに変化した後、所定期間（0.1秒間）オンが連続したことを出力タイミングとしてもよい}；当該検知センサがオンである期間中（例えば、扉開放中フラグがオンである期間中）は、常時オン信号を出力する信号である{※但し、オン→オフに変化した後、所定期間（0.1秒間）が経過するまではオン信号を出力し続けてもよい}。

【0173】

次に、ユニット監視系の信号である；遊技機の前枠（遊技盤が装着された枠体であり、例えば、前枠ユニットD14）が開放中であることを出力する信号は；前枠ユニット開放検知センサD14sが、オフ→オンに変化した場合（例えば、ステップ1934で枠開放中フラグをオンとした場合）{※但し、オフ→オンに変化した後、所定期間（0.1秒間）オンが連続したことを出力タイミングとしてもよい}；当該検知センサがオンである期間中（例えば、枠開放中フラグがオンである期間中）は、常時オン信号を出力する信号である{※但し、オン→オフに変化した後、所定期間（0.1秒間）が経過するまではオン信号を出力し続けてもよい}。

【0174】

次に、ユニット監視系の信号である；遊技機の受け皿枠（球受け皿が装着された枠体であり球皿ユニットD17）が開放中であることを出力する信号は；球皿ユニット開放検知センサD20sが、オフ→オンに変化した場合{※但し、オフ→オンに変化した後、所定期間（0.1秒間）オンが連続したことを出力タイミングとしてもよい}；当該検知センサがオンである期間中は、常時オン信号を出力する信号である{※但し、オン→オフに変化した後、所定期間（0.1秒間）が経過するまではオン信号を出力し続けてもよい}。

【0175】

ここで、上記3種類のユニット監視系の信号は、各ユニット間の構成に応じて、同一の出力信号としてもよい。その場合には、いずれかの開放検知センサがオンである期間中は、オン信号を出力し続けられよい。また、各ユニットの開放検知センサは、主制御基板Mに接続していてもよいし、賞球払出制御基板KH側に接続されていてもよい（主制御基板Mと賞球払出制御基板KHとは、双方向通信可能であるため）。

【0176】

次に、図柄変動系の信号である；大入賞口（アタッカー）を開放させる契機となる図柄

10

20

30

40

50

変動の全てを対象とし、その図柄変動回数を出力する信号は；第1主遊技図柄又は第2主遊技図柄の変動表示が終了した場合（例えば、ステップ1424で変動中フラグをオン→オフとした場合）{※尚、変動表示が終了した後、図柄を固定表示している期間が終了した場合（又は開始した場合、期間中である場合）を出力タイミングとしてもよい}；0.5秒間に亘ってオン信号を出力する信号である。尚、出力期間は、第1主遊技図柄及び第2主遊技図柄の変動表示期間が採り得る最短期間よりも短くなるよう構成しておくことが好適となる。また、主遊技図柄の変動固定時間中である期間、当該信号を出力するよう構成してもよい。

【0177】

次に、図柄変動系の信号である；大入賞口（アタッカー）を開放させる契機となる図柄変動の一部（例えば、第2主遊技側の図柄変動）を対象とし、その図柄変動回数を出力する信号は；第2主遊技図柄の変動表示が終了した場合（例えば、第2主遊技図柄表示処理における、ステップ1424にて、変動中フラグをオン→オフとした場合）{※尚、変動表示が終了した後、図柄を固定表示している期間が終了した場合（又は開始した場合、期間中である場合）を出力タイミングとしてもよい}；0.5秒間に亘ってオン信号を出力する信号である。尚、出力期間は、第2主遊技図柄の変動表示期間が採り得る最短期間よりも短くなるよう構成しておくことが好適となる。

【0178】

次に、大当り系の信号である；大入賞口（アタッカー）を開放させ得る期間中（役物連続作動装置作動中）であることを出力する信号は；特別遊技が開始された場合（例えば、ステップ1606で、役物連続作動装置作動フラグをオフ→オンとした場合であるが、ステップ1432で条件装置作動フラグをオフ→オンとした場合でもよい）{※尚、開始デモ期間の開始前、期間中、終了後を出力タイミングとしてもよい}；特別遊技が実行中である期間中（例えば、役物連続作動装置作動フラグ又は条件装置作動フラグがオンである期間中）は、常時オン信号を出力する信号である。

【0179】

次に、大当り系の信号である；大入賞口（アタッカー）を開放させ得る期間中（役物連続作動装置作動中）である、及び、大入賞口（アタッカー）を開放させる契機となる図柄変動の時間短縮遊技中（変動時間短縮機能作動中）であることを出力する信号は；特別遊技が開始された場合（例えば、ステップ1606で、役物連続作動装置作動フラグをオフ→オンとした場合、又はステップ1432で条件装置作動フラグをオフ→オンとした場合）、及び、時間短縮遊技が開始された場合（例えば、ステップ1708で主遊技時短フラグをオフ→オンとした場合、及び／又は、ステップ1710で、補助遊技時短フラグをオフ→オンとした場合）；特別遊技が実行中である期間中（例えば、役物連続作動装置作動フラグ及び／又は条件装置作動フラグがオンである期間中）、及び、時間短縮遊技が実行されている期間中（例えば、主遊技時短フラグ及び／又は補助遊技時短フラグがオンである期間中）は、常時オン信号を出力する信号である。

【0180】

次に、その他の信号である；遊技機を一意に識別するための情報を出力する{※遊技機製造業者の識別コード（2バイト）、遊技機型式名識別コード（64バイト）、メイン基板CPUの固有情報（チップコードレジスタ値＝4バイト）を順に出力する}信号は；電源投入{例えば、図6の（a）主制御基板側メイン処理の実行開始}後の任意のタイミング（例えば、電源投入後から約10秒後）；当該固有情報を1フレーム（スタートビット1ビット＋データビット8ビット＋パリティビット1ビット＋ストップビット1ビット）毎に分割したものを、シリアル伝送方式（調歩同期、200bps）にてすべて出力するまでの期間、出力する信号である。尚、他の信号種別とは、信号形式（定格電圧、定格電流）を異ならせておくことが好適である。

【0181】

次に、IN/OUT系の信号である；遊技機からの払い出し予定である遊技球個数を出力する信号は；賞球払出し対象となる各入賞口の入球センサにて遊技球の入球を検出した

10

20

30

40

50

際に、払出すべき賞球数を合計し、当該合計した賞球数（例えば、賞球数カウンタ M H c の値）が所定数（10）の倍数に達する毎に；0.1秒間に亘ってオン信号を出力した後、0.1秒間に亘ってオフ信号を出力する信号である。尚、出力期間が重複した場合には、今回出力している1信号の出力期間が満了するまで、次の出力を待機するよう構成されている。また、前記出力タイミングを初めて満たす場合には、所定期間の経過後（1割り込み分＝0.004秒）から出力開始するよう構成してもよく、且つ、次の出力を待機している場合には、今回の出力期間が満了した直後に（前記した所定期間が経過せずとも）出力開始するよう構成してもよい。

【0182】

次に、セキュリティ系の信号である；遊技機にてRAM初期化操作が行われたことを出力する信号は；RAM初期化操作を伴う、電源投入（例えば、ステップ1002でYesと判定した場合）後の任意のタイミング（電源投入後から所定期間（1割り込み分＝0.004秒）の経過後）から；0.2秒間に亘ってオン信号を出力する信号である。尚、IN/OUT系や入賞検知系における出力期間と同一の出力期間となるよう構成してもよい。

【0183】

次に、セキュリティ系の信号である；大入賞口（アタッカー）を開放させ得る期間中（特別電動役物の作動から作動終了後における所定期間経過まで）以外の期間（例えば、第1（第2）大入賞口有効期間中フラグがオフである期間）において、大入賞口（アタッカーであり、例えば、第1大入賞口C10又は第2大入賞口C20）への入球を検出したことを出力する信号は；特別遊技中における各ラウンドの実行期間（排出待ち期間やラウンド間期間を含む）以外（例えば、第1（第2）大入賞口有効期間中フラグがオフである期間）において、大入賞口の入球センサにて遊技球の入球を検出した場合（例えば、ステップ2305でNoと判定した場合）；0.2秒間に亘ってオン信号を出力した後、0.2秒間に亘ってオフ信号を出力する信号である。尚、出力期間が重複した場合には、今回出力している1信号の出力期間が満了するまで、次の出力を待機するよう構成されている。

【0184】

次に、セキュリティ系の信号である；磁石センサエラー（磁石の接近を感知するセンサが異常な磁気を検出）があったことを出力する信号は；磁石センサからの信号がオンとなった場合（例えば、ステップ1914で不正磁気検出中フラグをオフ→オンとした場合）{※但し、当該オンとなった後から所定期間（1秒）以内に、再度オンとなった場合には出力タイミングを満たさない}；0.2秒間に亘ってオン信号を出力する信号である。尚、出力タイミングと、出力期間との関係性から、出力期間は重複し得ないよう構成されている。

【0185】

次に、セキュリティ系の信号である；電波センサエラー（電波を感受するセンサが異常な電波を検出）があったことを出力する信号は；電波センサからの信号がオンとなった場合（例えば、ステップ1904で不正電波検出中フラグをオフ→オンとした場合）{※但し、当該オンとなった後から所定期間（1秒）以内に、再度オンとなった場合には出力タイミングを満たさない}；0.2秒間に亘ってオン信号を出力する信号である。尚、出力タイミングと、出力期間との関係性から、出力期間は重複し得ないよう構成されている。

【0186】

次に、セキュリティ系の信号である；払出制御基板側（例えば、賞球払出制御基板KH）にて電波センサエラー（電波を感受するセンサが異常な電波を検出）があったことを出力する信号は；払出制御基板側に入力される電波センサからの信号がオンとなった場合（例えば、ステップ3215で、賞球払出制御基板KHからの電波検知エラーに係る情報を確認した場合）{※但し、当該オンとなった後から所定期間（1秒）以内に、再度オンとなった場合には出力タイミングを満たさない}；0.2秒間に亘ってオン信号を出力する信号である。尚、出力タイミングと、出力期間との関係性から、出力期間は重複し得ない。また、払出制御基板（例えば、賞球払出制御基板KH）側から主制御基板（例えば、主制御基板M）側に対して、電波センサからの信号がオンとなった旨のコマンドを送信し、

10

20

30

40

50

当該コマンドを受信した主制御基板が信号を出力するよう構成してもよい。

【0187】

次に、セキュリティ系の信号である；賞球払い出しの対象となる各入賞口への不正な入球（例えば、所定時間内における所定回数以上の入球、入球検出センサが所定時間以上ON継続、特別遊技中における大入賞口への入球数が、特別遊技の実行態様毎に定められた所定個数以上、ある入球有効期間中における設計値を超える数の入球、等）があったことを出力する信号は；1．各入賞口への入球を検出するためのスイッチで一の入球を検出した後、各入賞口毎に定められた期間内に再度、一の入球を検出した事象が、合計して所定回数以上発生した場合、及び2．各入賞口への入球を検出するためのスイッチで、所定期間に亘って入球を検出し続けた場合、及び3．ある特別遊技（例えば、10ラウンド大当り）の実行中において、大入賞口への入球センサにて検出された入球数が、当該期間中を通して規定数（例えば、160）を超えた場合、の1～3のいずれかを満たした場合；0．2秒間に亘ってオン信号を出力した後、0．2秒間に亘ってオフ信号を出力する信号である。尚、出力期間が重複した場合には、今回出力している1信号の出力期間が満了するまで、次の出力を待機するよう構成されている。また、前記3の場合には、特別遊技の実行内容に応じて、規定数を異ならせておくことが好適である（例1：最大ラウンド数が10ラウンドの場合には、規定数＝100。例2：大入賞口が短開放のみを行う場合には、前記3を適用しない）。

10

【0188】

次に、セキュリティ系の信号である；遊技機にてRAM初期化操作が行われたこと、及び、遊技機にて検出可能な不正行為（例えば、不正入賞・・・大入賞口（アタッカー）を開放させ得る期間中（特別電動役物の作動時）以外の期間において、大入賞口（アタッカー）への入球を所定個数（5個）以上検出した、又は普通電動役物が開放し得ない期間中において、普通電動役物への入球を所定個数（5個）以上検出した。電波センサエラー・・・電波を感受するセンサが異常な電波を検出、又は、当該センサが未接続。盤面スイッチエラー・・・遊技盤面に設けられた、近接センサによって物体の接近を検出。磁石センサエラー・・・磁石の接近を感知するセンサが異常な磁気を検出、又は、当該センサが未接続、等）が行われていることを出力する信号は；1．RAM初期化操作が行われた（例えば、ステップ1002でYesと判定した場合）後の任意のタイミング、及び2．前記不正行為（不正入賞1、電波センサエラー）の検出時、及び3．前記不正行為（盤面スイッチエラー、磁石センサエラー）の検出時、の1～3のいずれかを満たした場合；前記1の場合には、第一期間（30秒間）に亘ってオン信号を出力し、前記2の場合には、第二期間（30秒間）に亘ってオン信号を出力し、前記3の場合には、第三期間（各不正行為の検出中）に亘ってオン信号を出力する信号である。尚、出力期間が重複した場合には、すべての出力期間を重複させ、すべての出力期間が満了するまで、オン信号の出力を維持するよう構成されている。また、前記1の場合と、前記2の場合とでは、出力期間を異ならせておいてもよい。

20

30

【0189】

次に、セキュリティ系の信号である；遊技機にてRAM初期化操作が行われたこと、及び、遊技機にて検出可能な不正行為（例えば、異常入賞エラー・・・大入賞口（アタッカー）を開放させ得る期間中（特別電動役物の作動時）以外の期間において、大入賞口（アタッカー）への入球を検出した、普通電動役物が開放し得ない期間中（閉鎖直後の所定期間を除く）において、普通電動役物への入球を検出した、等。磁石センサエラー・・・磁石の接近を感知するセンサが異常な磁気を検出、等。排出エラー・・・賞球払い出し対象となる各入球口への入球を検出するためのスイッチで検出された入球数と、当該スイッチよりも下流にある入球確認用のスイッチ（特に図示していないが、各入球口に入球した遊技球が通過するスイッチであって、各入球口への入球を検出するためのスイッチとは異なる一又は複数のスイッチ）にて検出された入球数との差が所定数（100）を超えた、等）が行われていることを出力する信号は；1．RAM初期化操作が行われた（例えば、ステップ1002でYesと判定した場合）後の任意のタイミング、及び2．前記不正行為

40

50

（異常入賞エラー、磁石センサエラー）の検出時、及び３．前記不正行為（排出エラー）の検出時；前記１、２の場合には、０．２秒間に亘ってオン信号を出力した後、０．２秒間に亘ってオフ信号を出力し、前記３の場合には、次回の前記１を満たすまでオン信号を出力する信号である。尚、出力期間が重複（前記３以外）した場合には、今回出力している１信号の出力期間が満了するまで、次回出力を待機するよう構成されている。また、前記１、２に係る出力期間であっても、前記３に係る出力タイミングとなった時点でオン信号の出力を維持し、前記３に係る出力期間中において、前記１、２に係る出力タイミングとなった場合であっても、オン信号の出力を維持するよう構成されている。

【０１９０】

次に、入賞検知系の信号である；大入賞口（アタッカー）を開放させる契機となる図柄変動に係る始動口の全てを対象とし、各始動口への入球回数を出力する信号は；第１主遊技始動口への入球を検出するためのスイッチで一の入球を検出した場合、及び、第２主遊技始動口（電動役物が搭載されているものが１つ、電動役物が搭載されていないものが一つ）への入球を検出するためのスイッチで一の入球を検出した場合（例えば、ステップ２２０６で、第１主遊技始動フラグをオフ→オンとした場合、又はステップ２２２６で、第２主遊技始動フラグをオフ→オンとした場合）；０．１秒間に亘ってオン信号を出力した後、０．１秒間に亘ってオフ信号を出力する信号である。尚、出力期間が重複した場合には、今回出力している１信号の出力期間が満了するまで、次回出力を待機するよう構成されている。また、第２主遊技始動口（電動役物が搭載されているもの）への不正な入球を検出した場合には、当該入球を契機として出力タイミングを満たさないよう構成してもよい。

【０１９１】

次に、図３６～図４７のフローチャートを参照しながら、賞球払出制御基板ＫＨ側での処理を詳述することとする。

【０１９２】

まず、図３６は、賞球払出制御基板ＫＨ側で実行されるメインルーチン４０００のフローチャートである。はじめに、ステップ４１００で、払出制御基板（払出制御手段）ＫＨは、後述する異常検出時エラー制御処理を実行する。次に、ステップ４２００で、払出制御基板（払出制御手段）ＫＨは、主制御基板Ｍとの間での、後述する賞球払出関連情報送受信処理を実行する。次に、ステップ４３００で、払出制御基板（払出制御手段）ＫＨは、後述する賞球払出制御処理（賞球払出開始・モータ駆動開始時）を実行する。次に、ステップ４４００で、払出制御基板（払出制御手段）ＫＨは、後述する賞球払出制御処理（モータ駆動終了時・賞球払出終了時）を実行する。次に、ステップ４５００で、払出制御基板（払出制御手段）ＫＨは、後述する賞球払出制御処理（モータ駆動実行時）を実行する。そして、ステップ４６００で、払出制御基板（払出制御手段）ＫＨは、後述するモータエラー時処理を実行し、ステップ４１００に移行する。

【０１９３】

ここで、同図右のブロック図を参照しながら、本実施形態における遊技機の、賞球払出制御基板ＫＨは、主制御基板Ｍ側やカードユニットＲ側等とのコマンド・情報の送受信の制御を司る送受信制御手段３１００と、賞球払出制御基板ＫＨ側での払出等に関連したエラーの制御を実行するエラー制御手段３２００と、賞球払出コマンドや賞球コマンドを受けて所定数の遊技球の払出処理を実行する払出制御手段３３００と、を有している。以下、各手段について詳述する。

【０１９４】

まず、送受信制御手段３１００は、主制御基板ＭやカードユニットＲからの情報（例えば、コマンドや信号）の受信制御を司る受信制御手段３１１０と、主制御基板ＭやカードユニットＲへの情報の送信制御を司る送信制御手段３１２０と、を有している。

【０１９５】

ここで、受信制御手段３１１０は、主制御基板Ｍからの情報（例えば、コマンド）の受信制御を司るメイン側受信制御手段３１１１を更に有している。そして、メイン側受信制

御手段 3 1 1 1 は、主制御基板 M 側から送信されてきた情報が一時記憶されるメイン側受信情報一時記憶手段 3 1 1 1 a を更に有している。また、送信制御手段 3 1 2 0 は、主制御基板 M 側に送信するための払出動作に係るエラー情報が一時記憶される払出関連エラー情報一時記憶手段 3 1 2 1 を更に有している。

【0196】

次に、エラー制御手段 3 2 0 0 は、賞球払出制御基板 K H 側での払出等のエラーフラグのオン・オフ状態を一時記憶するためのエラーフラグ一時記憶手段 3 2 2 1 と、払出モータ動作異常が検出された際のエラー制御を司る払出モータ動作異常検出時エラー制御手段 3 2 3 0 と、払出異常が検出された際のエラー制御を司る払出異常検出時エラー制御手段 3 2 4 0 と、球経路異常が検出された際のエラー制御を司る球経路異常検出時エラー制御手段 3 2 5 0 と、払出モータ異常が検出された際のエラー制御を司る払出モータ異常検出時エラー制御手段 3 2 6 0 と、賞球払出動作に係る致命的な異常が検出された際のエラー制御を司る要払出停止異常検出時エラー制御手段 3 2 7 0 と、賞球払出ユニット K E 1 0 の玉噛みエラーが発生した場合に当該エラー報知の期間を管理する玉噛みエラー発生タイマ 3 2 0 0 t と、払出カウンタセンサ K E 1 0 s の未通過エラーが発生した場合に当該エラー報知の期間を管理する未通過エラー発生タイマ 3 2 0 0 t 2 と、を更に有している。ここで、払出モータ動作異常検出時エラー制御手段 3 2 3 0 は、払出モータ動作異常が検出された回数を累積してカウントするための不正払出累積カウンタ 3 2 3 1 を更に有している。また、払出異常検出時エラー制御手段 3 2 4 0 は、過剰な賞球の払出個数を累積してカウントするための過剰払出累積カウンタ 3 2 4 1 を更に有している。また、球経路異常検出時エラー制御手段 3 2 5 0 は、賞球払出に係る払出間隔の時間延長処理を実行する払出間隔延長制御手段 3 2 5 1 を更に有している。また、払出モータ異常検出時エラー制御手段 3 2 6 0 は、払出モータ K E 1 0 m の異常動作解消を図るための再試行動作（リトライ動作）を実行するリトライ動作制御手段 3 2 6 1 を更に有している。

【0197】

次に、払出制御手段 3 3 0 0 は、払出処理の際に必要な情報を一時記憶するための払出処理関連情報一時記憶手段 3 3 1 0 を有している。ここで、払出処理関連情報一時記憶手段 3 3 1 0 は、払出に関連した状態（例えば、払出中か否か・払出異常が発生しているか否か）を一時記憶するための払出状態フラグ一時記憶手段 3 3 1 1 と、払出処理時に、払い出されるべき遊技球数がセットされる払出カウンタ 3 3 1 2 と、払出モータ K E 1 0 m の駆動されるべきステップ数を一時記憶するためのステップカウンタ一時記憶手段 3 3 1 3 と、払出モータ K E 1 0 m が駆動されている際、励磁されているステータの位置情報を一時記憶するための励磁ステータ位置特定カウンタ値一時記憶手段 3 3 1 4 と、1 回の連続払出動作（単位払出動作）後における所定時間（球通過待ち時間・モータ休止時間）を計時するための球通過待ちタイマ 3 3 1 5 と、単位払出動作によって払出されるべき遊技球数がセットされる単位払出カウンタ 3 3 1 7 と、を更に有している。ここで、本実施形態においては、球通過待ちタイマ 3 3 1 5 はデクリメント方式のタイマであり、タイマ値が 0 となった時点で停止するよう構成されているが、これには限定されず、インクリメント方式のタイマを用いて構成することも可能である。以下、各サブルーチンを詳述することとする。

【0198】

次に、図 3 7 は、図 3 6 のステップ 4 1 0 0 のサブルーチンに係る、異常検出時エラー制御処理のフローチャートである。はじめに、ステップ 4 1 1 0 で、エラー制御手段 3 2 0 0 は、後述する払出モータ動作異常検出時エラー制御処理を実行する。次に、ステップ 4 1 2 0 で、エラー制御手段 3 2 0 0 は、後述する払出異常検出時エラー制御処理を実行する。次に、ステップ 4 1 4 0 で、エラー制御手段 3 2 0 0 は、後述する球経路異常検出時エラー制御処理を実行する。次に、ステップ 4 1 7 0 で、エラー制御手段 3 2 0 0 は、後述する払出モータ異常検出時エラー制御処理を実行する。次に、ステップ 4 1 9 0 で、エラー制御手段 3 2 0 0 は、後述する要払出停止異常検出時エラー制御処理を実行し、次の処理（ステップ 4 2 0 0 の賞球払出関連情報送受信処理）へ移行する。

【0199】

次に、図38は、図37のステップ4110のサブルーチンに係る、払出モータ動作異常検出時エラー制御処理のフローチャートである。はじめに、本処理の目的は、後述する払出モータ動作異常を検出した場合には、当該異常発生回数をカウントすることと、当該異常発生回数が閾値以上となった場合には、エラー発生を示すフラグをオンにすることである。まず、ステップ4111で、払出モータ動作異常検出時エラー制御手段3230は、払出状態フラグー時記憶手段3311を参照し、払出モータ動作異常検出フラグがオンであるか否かを判定する。ここで、後述するように、払出モータ動作異常検出フラグは、賞球払出制御基板KH側での賞球払出処理を実行していない状況下で、払出カウントセンサKE10sにて遊技球の通過を検出した場合（払出モータ動作異常）にオンとなるフラグである。ステップ4111でYesの場合、ステップ4112で、払出モータ動作異常検出時エラー制御手段3230は、払出状態フラグー時記憶手段3311にアクセスし、払出モータ動作異常検出フラグをオフにする。次に、ステップ4113で、払出モータ動作異常検出時エラー制御手段3230は、不正払出累積カウンタ3231のカウント値を1加算（インクリメント）する。次に、ステップ4114で、払出モータ動作異常検出時エラー制御手段3230は、不正払出累積カウンタ3231のカウント値を参照し、当該カウント値が所定数（例えば、25）以上であるか否かを判定する。ステップ4114でYesの場合、ステップ4115で、払出モータ動作異常検出時エラー制御手段3230は、エラーフラグー時記憶手段3221内の払出モータ動作エラーフラグをオンにし、ステップ4116へ移行する。尚、ステップ4111又はステップ4114でNoの場合にも、ステップ4116へ移行する。

【0200】

次に、ステップ4116で、払出モータ動作異常検出時エラー制御手段3230は、エラーフラグー時記憶手段3221を参照し、払出モータ動作エラーフラグがオンであるか否かを判定する。ステップ4116でYesの場合、ステップ4119で、払出モータ動作異常検出時エラー制御手段3230は、払出関連エラー情報として払出モータ動作エラーを、払出関連エラー情報一時記憶手段3121にセットし、次の処理（ステップ4120の払出異常検出時エラー制御処理）へ移行する。尚、ステップ4116でNoの場合にも、次の処理（ステップ4120の払出異常検出時エラー制御処理）へ移行する。

【0201】

次に、図39は、図37のステップ4120のサブルーチンに係る、払出異常検出時エラー制御処理のフローチャートである。はじめに、本処理の目的は、後述する払出異常を検出した場合には、当該異常に起因した過剰な遊技球の払出数をカウントすることと、当該カウント数が閾値以上となった場合には、エラー発生を示すフラグをオンにすることである。まず、ステップ4121で、払出異常検出時エラー制御手段3240は、払出状態フラグー時記憶手段3311を参照し、払出異常検出フラグがオンであるか否かを判定する。ここで、後述するように、払出異常検出フラグは、主制御基板M側から送信されたコマンドに基づく所定の賞球払出数を超過して、過剰な遊技球の払出が検出された場合（払出異常）にオンとなるフラグである。ステップ4121でYesの場合、ステップ4122で、払出異常検出時エラー制御手段3240は、払出状態フラグー時記憶手段3311にアクセスし、払出異常検出フラグをオフにする。次に、ステップ4123で、払出異常検出時エラー制御手段3240は、払出処理関連情報一時記憶手段3310に一時記憶されている過剰払出数を取得すると共に、当該過剰払出数を過剰払出累積カウンタ3241に加算する。次に、ステップ4124で、払出異常検出時エラー制御手段3240は、過剰払出累積カウンタ3241のカウント値を参照し、当該カウント値が所定数（例えば、25）以上であるか否かを判定する。ステップ4124でYesの場合、ステップ4125で、払出異常検出時エラー制御手段3240は、エラーフラグー時記憶手段3221内の過剰払出エラーフラグをオンにし、ステップ4126へ移行する。尚、ステップ4121又はステップ4124でNoの場合にも、ステップ4126へ移行する。尚、当該過剰払出エラー（過剰払出エラーフラグがオンである状態）は、電源の再投入によってのみ、

解消されるよう構成されているが、本例はあくまで一例であり、これには限定されず、例えば、エラー解除スイッチの押下や、所定時間経過、等によって当該エラーが解消されるよう構成してもよい。

【0202】

次に、ステップ4126で、払出異常検出時エラー制御手段3240は、エラーフラグー一時記憶手段3221を参照し、過剰払出エラーフラグがオンであるか否かを判定する。ステップ4126でYesの場合、ステップ4129で、払出異常検出時エラー制御手段3240は、払出関連エラー情報として過剰払出エラーを、払出関連エラー情報一時記憶手段3121にセットし、次の処理（ステップ4140の球経路異常検出時エラー制御処理）へ移行する。尚、ステップ4126でNoの場合にも、次の処理（ステップ4140の球経路異常検出時エラー制御処理）へ移行する。

【0203】

次に、図40は、図37のステップ4140のサブルーチンに係る、球経路異常検出時エラー制御処理のフローチャートである。はじめに、本処理の目的は、後述する球経路異常を検出した場合には、（1）賞球タンクKT又は賞球払出ユニットKE10内に遊技球が存在していない（球切れ）異常が発生したか、又は賞球払出ユニットKE10内に存在する遊技球が少量である（球不足）異常が発生したかを調査すると共に、当該球切れ異常又は球不足異常に相当する異常を検出した場合には、エラー発生を示すフラグをオンにすることである。また、（2）球切れ異常又は球不足異常に相当する異常を検出した場合には、賞球払出の払出間隔を延長することで、球切れ異常又は球不足異常が解消されるまでの待ち時間を作り出すことである。まず、ステップ4141で、球経路異常検出時エラー制御手段3250は、払出状態フラグー一時記憶手段3311を参照し、球経路異常検出フラグがオンであるか否かを判定する。ここで、後述するように、球経路異常検出フラグは、賞球払出制御基板KH側で予定されている所定個数の払出動作（単位払出動作）実行終了時であって、モータ駆動が正常に動作していると判断されている状況下において、当該払出が予定されている所定個数に満たない状況が検出された場合にオンとなるフラグである。ステップ4141でYesの場合、ステップ4142で、球経路異常検出時エラー制御手段3250は、払出状態フラグー一時記憶手段3311にアクセスし、球経路異常検出フラグをオフにする。次に、ステップ4143で、球経路異常検出時エラー制御手段3250は、球切れ異常又は球不足異常の発生条件を充足しているか否かを判定する。ここで、球切れ異常又は球不足異常の発生条件には特に限定されないが、例えば、賞球タンクKT又は賞球払出ユニットKE10内の所定の位置に遊技球の検出センサを設け、当該検出センサで遊技球の存在を検出できない場合に球切れ異常が発生している条件とする例や、賞球払出ユニットKE10内のスプロケットKE10pの直上における球流路（本例では、2条の球流路が存在）の夫々に遊技球の検出センサを設け、当該検出センサの何れかで遊技球の存在を検出できない場合に球不足異常が発生している条件とする例を挙げることができる。ステップ4143でYesの場合、ステップ4144で、球経路異常検出時エラー制御手段3250は、エラーフラグー一時記憶手段3221内の球経路エラーフラグをオンにする。そして、ステップ4146で、球経路異常検出時エラー制御手段3250は、払出関連エラー情報として球経路エラーを、払出関連エラー情報一時記憶手段3121にセットし、ステップ4151へ移行する。尚、ステップ4141又はステップ4143でNoの場合にも、ステップ4151へ移行する。

【0204】

次に、ステップ4151で、球経路異常検出時エラー制御手段3250は、エラーフラグー一時記憶手段3221を参照し、球経路エラーフラグがオンであるか否かを判定する。ステップ4151でYesの場合、ステップ4152で、球経路異常検出時エラー制御手段3250は、球切れ異常又は球不足異常の解消条件を充足しているか否かを判定する。ここで、球切れ異常又は球不足異常の解消条件には特に限定されず、前述の球切れ異常又は球不足異常の発生条件が未充足となった場合に当該異常が解消された条件とする例を挙げることができる。ステップ4152でYesの場合、ステップ4153で、球経路異常

検出時エラー制御手段 3 2 5 0 は、エラーフラグー時記憶手段 3 2 2 1 内の球経路エラーフラグをオフにする。そして、ステップ 4 1 5 5 で、払出間隔延長制御手段 3 2 5 1 は、通常動作時における励磁タイミング（例えば、 $3\text{ ms} \times 8\text{ ステップ} = 24\text{ ms}$ に 1 個の速度で所定個数の払出動作を行うよう連続して励磁）や球通過待ち時間（例えば、 500 ms ）を設定し、次の処理（ステップ 4 1 7 0 の払出モータ異常検出時エラー制御処理）へ移行する。他方、ステップ 4 1 5 2 で No の場合、ステップ 4 1 5 6 で、払出間隔延長制御手段 3 2 5 1 は、通常動作時と比較して相対的に球 1 個の払出速度が低速となるよう励磁タイミングや球通過待ち時間を変更し、次の処理（ステップ 4 1 7 0 の払出モータ異常検出時エラー制御処理）へ移行する。尚、ステップ 4 1 5 1 で No の場合にも、次の処理（ステップ 4 1 7 0 の払出モータ異常検出時エラー制御処理）へ移行する。ここで、当該変更する励磁タイミングには特に限定されないが、例えば、 $3\text{ ms} \times 8\text{ ステップ} = 24\text{ ms}$ に 1 個の速度で球 1 個分の払出動作を実行した後、所定時間（例えば 5 秒）の待ち時間を設け、当該待ち時間経過後に、再度 $3\text{ ms} \times 8\text{ ステップ} = 24\text{ ms}$ に 1 個の速度で払出動作を実行するよう励磁タイミングを変更する例を挙げることができる。また、当該変更する球通過待ち時間にも特に限定されない（例えば、 500 ms から 30 秒へ変更）。

【0205】

次に、図 4 1 は、図 3 7 のステップ 4 1 7 0 のサブルーチンに係る、払出モータ異常検出時エラー制御処理のフローチャートである。はじめに、本処理の目的は、後述する払出モータ異常を検出した場合には、エラー発生を示すフラグをオンにすると共に、払出モータ（賞球払出ユニット KE 1 0 内のステッピングモータ KE 1 0 m）のリトライ動作への切替制御処理を実行することである。まず、ステップ 4 1 7 1 で、払出モータ異常検出時エラー制御手段 3 2 6 0 は、払出状態フラグー時記憶手段 3 3 1 1 を参照し、払出モータ異常検出フラグがオンであるか否かを判定する。ここで、後述するように、払出モータ異常検出フラグは、球がみ等の外的要因により、モータ駆動が正常に動作していないと判断された場合にオンとなるフラグである。ステップ 4 1 7 1 で Yes の場合、ステップ 4 1 7 2 で、払出モータ異常検出時エラー制御手段 3 2 6 0 は、払出状態フラグー時記憶手段 3 3 1 1 内の払出モータ異常検出フラグをオフにする。次に、ステップ 4 1 7 3 で、払出モータ異常検出時エラー制御手段 3 2 6 0 は、エラーフラグー時記憶手段 3 2 2 1 内の払出モータエラーフラグをオンにする。次に、ステップ 4 1 7 5 で、払出モータ異常検出時エラー制御手段 3 2 6 0 は、払出関連エラー情報として払出モータエラーを、払出関連エラー情報一時記憶手段 3 1 2 1 にセットする。そして、ステップ 4 1 7 6 で、払出モータ異常検出時エラー制御手段 3 2 6 0 は、払出状態フラグー時記憶手段 3 3 1 1 内のリトライ動作実行待機フラグをオンにして、ステップ 4 1 7 7 へ移行する。尚、ステップ 4 1 7 1 で No の場合にも、ステップ 4 1 7 7 へ移行する。ここで、リトライ動作実行待機フラグとは、後述するモータエラーが発生した後の所定時間はリトライ動作を待機状態とし、当該所定時間内のモータエラーの解消待ち時間を設けるためのフラグである。

【0206】

次に、ステップ 4 1 7 7 で、払出モータ異常検出時エラー制御手段 3 2 6 0 は、エラーフラグー時記憶手段 3 2 2 1 を参照し、払出モータエラーフラグがオンであるか否かを判定する。ステップ 4 1 7 7 で Yes の場合、ステップ 4 1 7 8 で、リトライ動作制御手段 3 2 6 1 は、払出状態フラグー時記憶手段 3 3 1 1 を参照し、リトライ動作実行許可フラグがオンであるか否かを判定する。ステップ 4 1 7 8 で Yes の場合、ステップ 4 1 7 9 で、リトライ動作制御手段 3 2 6 1 は、払出状態フラグー時記憶手段 3 3 1 1 内のリトライ動作実行許可フラグをオフにする。次に、ステップ 4 1 8 0 で、リトライ動作制御手段 3 2 6 1 は、リトライ動作時における所定のステップ数を、ステップカウンタ一時記憶手段 3 3 1 3 内のステップカウンタ値（ n ）としてセットする。ここで、リトライ動作時における所定のステップ数には特に限定されないが、後述するリトライ動作時におけるロータ位置確認センサ KE 1 0 m s の確認タイミングと同数としておく例を挙げることができる。次に、ステップ 4 1 8 1 で、リトライ動作制御手段 3 2 6 1 は、励磁ステータ位置特定カウンタ値一時記憶手段 3 3 1 4 内の励磁ステータ位置特定カウンタ値（ j ）として 0

10

20

30

40

50

をセットする。次に、ステップ4182で、リトライ動作制御手段3261は、ステッピングモータ動作に係るリトライ動作の励磁方式（例えば、周知の1-2相励磁方式）とリトライ動作の1ステップの切替速度（例えば、6ms）を設定する。次に、ステップ4183で、リトライ動作制御手段3261は、ステッピングモータ動作に係る球通過待ち時間・モータ休止時間として所定値（例えば、500ms）を、球通過待ちタイマ3315にセットする。次に、ステップ4184で、リトライ動作制御手段3261は、払出状態フラグー時記憶手段3311内のリトライ動作実行中フラグをオンにする。そして、ステップ4185で、リトライ動作制御手段3261は、払出状態フラグー時記憶手段3311内のモータ駆動中フラグをオンにして、次の処理（ステップ4190の要払出停止異常検出時エラー制御処理）に移行する。尚、ステップ4177又はステップ4178でNoの場合にも、次の処理（ステップ4190の要払出停止異常検出時エラー制御処理）に移行する。

【0207】

次に、図42は、図37のステップ4190のサブルーチンに係る、要払出停止異常検出時エラー制御処理のフローチャートである。はじめに、本処理の目的は、賞球払出処理の続行に係る致命的な異常を検出した場合には、エラー発生を示すフラグをオンにすると共に、当該賞球払出処理の続行に係る致命的な異常が解消されるまで賞球払出処理の続行を不能とすることである。ここで、賞球払出処理の続行に係る致命的な異常とは、主制御基板Mと賞球払出制御基板KH間の通信異常、カードユニットRと賞球払出制御基板KH間の通信異常、払出カウントセンサKE10sのセンサ異常、受け皿（上皿）満タン異常等が挙げられる。まず、ステップ4191-1で、要払出停止異常検出時エラー制御手段3270は、エラーフラグー時記憶手段3221を参照し、払出モータエラーフラグがオフからオンに切り替わったか否かを判定する。ステップ4191-1でYesの場合、ステップ4191-2で、要払出停止異常検出時エラー制御手段3270は、玉噛みエラー発生タイマ3200tにエラー継続時間（例えば、120秒）をセットしてスタートさせ、ステップ4192-1に移行する。他方、ステップ4191-1でNoの場合、ステップ4191-3で、要払出停止異常検出時エラー制御手段3270は、玉噛みエラー発生タイマ3200tを参照し、当該タイマ値が0であるか否かを判定する。ステップ4191-3でYesの場合、ステップ4191-4で、要払出停止異常検出時エラー制御手段3270は、エラーフラグー時記憶手段3221内にある、払出モータエラーフラグをオフにし、ステップ4192-1に移行する。他方、ステップ4191-3でNoの場合にも、ステップ4192-1に移行する。

【0208】

次に、ステップ4192-1で、要払出停止異常検出時エラー制御手段3270は、エラーフラグー時記憶手段3221を参照し、スイッチ未通過エラー検出フラグがオフからオンに切り替わったか否かを判定する。ステップ4192-1でYesの場合、ステップ4192-2で、要払出停止異常検出時エラー制御手段3270は、未通過エラー発生タイマ3200t2にエラー継続時間（例えば、120秒）をセットしてスタートさせ、ステップ4193-1に移行する。他方、ステップ4192-1でNoの場合、ステップ4192-3で、要払出停止異常検出時エラー制御手段3270は、未通過エラー発生タイマ3200t2を参照し、当該タイマ値が0であるか否かを判定する。ステップ4192-3でYesの場合、ステップ4192-4で、要払出停止異常検出時エラー制御手段3270は、エラーフラグー時記憶手段3221内にある、スイッチ未通過エラーフラグをオフにし、ステップ4193-1に移行する。他方、ステップ4192-3でNoの場合にも、ステップ4193-1に移行する。

【0209】

次に、ステップ4193-1で、要払出停止異常検出時エラー制御手段3270は、エラー解除スイッチKH3aが押下されたか否かを判定する。ステップ4193-1でYesの場合、ステップ4193-2～ステップ4193-5で、要払出停止異常検出時エラー制御手段3270は、当該エラー解除スイッチKH3aの押下をエラー解除条件に含む

10

20

30

40

50

エラーに係るフラグ（例えば、払出モータ動作エラーフラグ、払出動作未完了時遊技球検出フラグ、払出モータエラーフラグ、スイッチ未通過エラー検出フラグ）をオフにし、ステップ4194-1に移行する。他方、ステップ4193-1でNoの場合にも、ステップ4194-1に移行する。

【0210】

次に、ステップ4194-1で、要払出停止異常検出時エラー制御手段3270は、主制御基板Mと賞球払出制御基板KH間の通信異常が検出されたか否かを判定する。ステップ4194-1でYesの場合、ステップ4194-2で、要払出停止異常検出時エラー制御手段3270は、エラーフラグー時記憶手段3221内の通信エラーフラグをオンにして、ステップ4195-1へ移行する。他方、ステップ4194-1でNoの場合、ステップ4194-3で、要払出停止異常検出時エラー制御手段3270は、エラーフラグー時記憶手段3221内の通信エラーフラグをオフにして、ステップ4195-1へ移行する。

10

【0211】

次に、ステップ4195-1で、要払出停止異常検出時エラー制御手段3270は、払出カウントセンサKE10sのセンサ異常（例えば、カウントセンサからの入力がない、又は、所定時間以上、入力値が一定である、等）が検出されたか否かを判定する。ステップ4195-1でYesの場合、ステップ4195-2で、要払出停止異常検出時エラー制御手段3270は、エラーフラグー時記憶手段3221内の賞球装置エラーフラグをオンにして、ステップ4196-1へ移行する。他方、ステップ4195-1でNoの場合、ステップ4195-3で、要払出停止異常検出時エラー制御手段3270は、エラーフラグー時記憶手段3221内の賞球装置エラーフラグをオフにして、ステップ4196-1へ移行する。

20

【0212】

次に、ステップ4196-1で、要払出停止異常検出時エラー制御手段3270は、受け皿（上皿）満タン異常が検出されたか否かを判定する。ステップ4196-1でYesの場合、ステップ4196-2で、要払出停止異常検出時エラー制御手段3270は、エラーフラグー時記憶手段3221内の受け皿満タンエラーフラグをオンにする。次に、ステップ4196-3で、要払出停止異常検出時エラー制御手段3270は、副制御基板S側への、受け皿満タンコマンドを送信して、ステップ4197-1へ移行する。他方、ステップ4196-1でNoの場合、ステップ4196-4で、要払出停止異常検出時エラー制御手段3270は、エラーフラグー時記憶手段3221内の受け皿満タンエラーフラグをオフにする。次に、ステップ4196-5で、要払出停止異常検出時エラー制御手段3270は、副制御基板S側への、受け皿満タン解除コマンドを送信して、ステップ4197-1へ移行する。

30

【0213】

次に、ステップ4197-1で、要払出停止異常検出時エラー制御手段3270は、カードユニットRの接続異常が検出されたか否かを判定する。ステップ4197-1でYesの場合、ステップ4197-2で、要払出停止異常検出時エラー制御手段3270は、エラーフラグー時記憶手段3221内のCRユニット未接続エラーフラグをオンにして、ステップ4198-1へ移行する。他方、ステップ4197-1でNoの場合、ステップ4197-3で、要払出停止異常検出時エラー制御手段3270は、エラーフラグー時記憶手段3221内のCRユニット未接続エラーフラグをオフにして、ステップ4198-1へ移行する。

40

【0214】

次に、ステップ4198-1で、要払出停止異常検出時エラー制御手段3270は、エラーフラグー時記憶手段3221を参照し、払出動作停止に係るエラーの一部（例えば、過剰払出エラー、賞球装置エラー、払出モータ動作エラー、払出動作未完了時遊技球検出、払出モータエラー、スイッチ未通過エラー）に関するすべてのフラグがオフであるか否かを判定する。

50

【0215】

ステップ4198-1でYesの場合、ステップ4198-2で、要払出停止異常検出時エラー制御手段3270は、エラーフラグー時記憶手段3221を参照し、通信エラーフラグ、賞球装置エラーフラグ、受け皿満タンエラーフラグ、CRユニット未接続エラーフラグの全てのエラーフラグがオフであるか否かを判定する。ステップ4198-2でYesの場合、ステップ4198-3で、要払出停止異常検出時エラー制御手段3270は、払出制御手段3300における通常の払出動作を実行（即ち、後述するステップ4198-4で払出動作を一時停止している場合において、当該払出動作を再開）し、次の処理（ステップ4200の処理）に移行する。他方、ステップ4198-1又はステップ4198-2でNoの場合、ステップ4198-4で、要払出停止異常検出時エラー制御手段3270は、払出制御手段3300における払出動作を強制的に一時停止し、次の処理（ステップ4200の処理）に移行する。

10

【0216】

次に、図43は、図36のステップ4200のサブルーチンに係る、賞球払出関連情報受信処理（対主制御基板）のフローチャートである。ここで、当該フローの前半が主制御基板Mからの情報受信処理（及びこれに伴う賞球払出数のセット処理）であり、当該フローの後半が主制御基板Mへの情報送信処理である。そこで、前半の主制御基板Mからの情報受信処理（及びこれに伴う賞球払出数のセット処理）から説明すると、まず、ステップ4205で、メイン側受信制御手段3111は、払出状態フラグー時記憶手段3311を参照し、賞球払出中フラグがオフであるか否かを判定する。ここで、「賞球払出中フラグ」とは、払出制御側での賞球払出処理が実行中の場合（払出装置の払出モータが駆動動作中である場合や、球通過待ち時間・モータ休止時間中である場合）にオンになるフラグである。ステップ4205でYesの場合、ステップ4210で、メイン側受信制御手段3111は、メイン側受信情報一時記憶手段3111aを参照し、賞球払出コマンドを受信したか否かを判定する。ステップ4210でYesの場合、ステップ4215で、払出制御手段3300は、払出状態フラグー時記憶手段3311のフラグ領域にアクセスし、賞球払出開始許可フラグをオンにする。次に、ステップ4220で、払出制御手段3300は、メイン側受信情報一時記憶手段3111aに一時記憶されている賞球払出コマンド情報に基づき、今回払い出されるべき賞球払出数を導き、当該賞球払出数情報を払出カウンタ3312にセットし、次の処理（ステップ4225）に移行する。以上で、通常の賞球払出処理が実行される際の、賞球払出数のセット処理を終了する。尚、ステップ4205及びステップ4210でNoの場合にも次の処理（ステップ4225）に移行する。

20

30

【0217】

次に、主制御基板Mへの情報送信処理を説明すると、まず、ステップ4225で、送信制御手段3120は、エラーフラグー時記憶手段3221を参照し、払出関連エラー送信フラグがオンであるか否かを判定する。ここで、「払出関連エラー送信フラグ」とは、前述のような払出関連エラー（払出モータ動作エラー、過剰払出エラー、球切れエラー、球不足エラー、払出モータエラー、払出停止エラー）が発生した際にオンとなり、当該エラー報知が主制御基板M側になされた後にオフとなるフラグである。ステップ4225でYesの場合、ステップ4230で、エラー制御手段3200は、エラーフラグー時記憶手段3221内の払出関連エラー送信フラグをオフにする。そして、ステップ4235で、送信制御手段3120は、払出関連エラー情報一時記憶手段3121にセットされた払出関連エラー情報を主制御基板M側に送信し、次の処理（ステップ4240）に移行する。尚、ステップ4225でNoの場合にも次の処理（ステップ4240）に移行する。

40

【0218】

次に、ステップ4240で、送信制御手段3120は、払出状態フラグー時記憶手段3311を参照し、賞球払出完了フラグがオンであるか否かを判定する。ここで、「賞球払出完了フラグ」とは、払出制御手段3300により賞球払出が完了したと判定された場合にオンとなるフラグである。ステップ4240でYesの場合、ステップ4245で、送信制御手段3120は、払出状態フラグー時記憶手段3311のフラグ領域にアクセスし

50

、賞球払出完了フラグをオフにする。そして、ステップ4250で、送信制御手段3120は、主制御基板M側に対して賞球払出が完了した旨の情報を送信し、次の処理{ステップ4300の賞球払出制御処理(賞球払出開始・モータ駆動開始時)}に移行する。尚、ステップ4240でNoの場合にも、次の処理{ステップ4300の賞球払出制御処理(賞球払出開始・モータ駆動開始時)}に移行する。以上で、賞球払出完了情報送信処理を終了する。

【0219】

次に、図44は、図36のステップ4300のサブルーチンに係る、賞球払出制御処理(賞球払出開始・モータ駆動開始時)のフローチャートである。ここで、当該処理は、次のステップ4400のモータ駆動処理を実行する前段階の処理であり、主制御基板M側からの賞球払出コマンドを受信したことを受けてモータ駆動のステップ数等をセットする処理である。まず、ステップ4305で、払出制御手段3300は、払出状態フラグー時記憶手段3311を参照し、賞球払出開始許可フラグ(図43のステップ4215参照)がオンであるか否かを判定する。ステップ4305でYesの場合、ステップ4310及びステップ4315で、払出制御手段3300は、払出状態フラグー時記憶手段3311にアクセスし、賞球払出中フラグをオンにすると共に賞球払出開始許可フラグをオフにする。

【0220】

次に、ステップ4320で、払出制御手段3300は、払出カウンタ3312にセットされている賞球払出個数が所定個数(例えば3個)以上であるか否かを判定する。ステップ4320でYesの場合、ステップ4325で、払出制御手段3300は、所定個数分払い出されるよう、ステップカウンター時記憶手段3313にカウンタ値(n)を一時記憶し、ステップ4332に移行する。ここで一時記憶されるカウンタ値(n)は、ステップピングモータのステップ数である。他方、ステップ4320でNoの場合、払出制御手段3300は、払出カウンタ3312にセットされている賞球払出個数が払い出されるよう、ステップカウンター時記憶手段3313にカウンタ値(n)を一時記憶し、ステップ4332に移行する。

【0221】

次に、ステップ4332で、払出制御手段3300は、今回の単位払出動作における払出予定個数(即ち、ステップ4325又はステップ4330で予定している払出個数)を、単位払出カウンタ3317にセットする。次に、ステップ4335で、払出制御手段3300は、励磁ステータ位置特定カウンタ値(j)として0をセットする。ここで、励磁ステータ位置特定カウンタは、ステータに対するロータの相対位置を示したものであり、「0」が払出待機(停止)時におけるデフォルト位置に相当する。次に、ステップ4337で、払出制御手段3300は、ステップピングモータ動作に係る通常動作の励磁方式(例えば、周知の2-2相励磁方式)と通常動作の1ステップの切替速度(例えば、3ms)を設定する。次に、ステップ4338で、払出制御手段3300は、ステップピングモータ動作に係る球通過待ち時間・モータ休止時間として所定値(例えば、500ms)を、球通過待ちタイマ3315にセットする。次に、ステップ4339で、払出制御手段3300は、払出状態フラグー時記憶手段3311にアクセスし、リトライ動作実行中フラグをオフにする。ここで、リトライ動作実行中フラグとは、前述のようにステップピングモータ動作に係るリトライ動作を実行中においてオンとなるフラグである。そして、ステップ4340で、払出制御手段3300は、払出状態フラグー時記憶手段3311にアクセスし、モータ駆動中フラグをオンにし、次の処理{ステップ4400の賞球払出制御処理(モータ駆動終了時・賞球払出終了時)}に移行する。

【0222】

他方、ステップ4305でNoの場合、ステップ4345で、払出制御手段3300は、払出状態フラグー時記憶手段3311を参照し、モータ駆動中フラグがオンであるか否かを判定する。ステップ4345でYesの場合には、既にモータが駆動されているので、次の処理{ステップ4400の賞球払出制御処理(モータ駆動終了時・賞球払出終了時)}に移行する。

【0223】

他方、ステップ4345でNoの場合には、ステップ4350で、払出制御手段3300は、払出状態フラグー時記憶手段3311にアクセスし、賞球払出継続フラグがオフであるか否かを判定する。ここで、賞球払出継続フラグとは、単位払出動作における所定ステップ数分のステッピングモータ動作後であって、球通過待ち時間・モータ休止時間経過時において、賞球払出動作を継続すべき場合（詳細な条件については後述する）にオンとなるフラグである。ステップ4350でYesの場合には、次の処理 {ステップ4400の賞球払出制御処理（モータ駆動終了時・賞球払出終了時）} に移行する。

【0224】

他方、ステップ4350でNoの場合には、ステップ4352で、払出制御手段3300は、払出状態フラグー時記憶手段3311にアクセスし、賞球払出継続フラグをオフにする。そして、ステップ4354で、払出制御手段3300は、単位払出カウンタ3317を参照し、当該カウンタ値が0超過であるか否か（即ち、今回の単位払出動作による払出予定個数分が全て払出されなかったか否か）を判定する。ステップ4354でYesの場合、ステップ4356で、払出制御手段3300は、払出状態フラグー時記憶手段3311にアクセスし、球経路異常検出フラグをオンにして、ステップ4320へ移行する。他方、ステップ4354でNoの場合には、ステップ4356を実行することなくステップ4320へ移行する。即ち、賞球払出継続フラグがオンである場合には、主制御基板M側からの賞球払出コマンドの受信を契機とすることなく、再度モータ駆動のステップ数等をセットする処理を実行すると共に、今回の単位払出動作による払出予定個数分が全て払出されなかったと判定された場合には、球切れエラー又は球不足エラーの要因となる異常発生が検出されることとなる。

【0225】

次に、図45は、図36のステップ4400のサブルーチンに係る、賞球払出制御処理（モータ駆動終了時・賞球払出終了時）のフローチャートである。ここで、当該処理は、前の処理（ステップ4300）で予定されているすべてのモータの駆動終了を実行し、或いは、予定されているすべての賞球払出が実行された際の終了処理である。ここで、ステップ4402～ステップ4419にかけてモータ駆動終了処理を実行し、ステップ4420～ステップ4425にかけて遊技球検知処理を実行し、ステップ4430～ステップ4462にかけて賞球払出終了処理を実行する。

【0226】

はじめに、モータ駆動終了処理から説明すると、まず、ステップ4402で、払出制御手段3300は、払出状態フラグー時記憶手段3311のフラグ領域を参照し、賞球払出中フラグがオンであるか否かを判定する。ステップ4402でYesの場合、ステップ4405で、払出制御手段3300は、払出状態フラグー時記憶手段3311のフラグ領域を参照し、モータ駆動中フラグがオンであるか否かを判定する。ステップ4405でYesの場合、ステップ4410で、払出制御手段3300は、ステップカウンタ時記憶手段3313内のカウンタ値（n）を参照し、カウンタ値が0であるか否か、即ち、図44のステップ4325又はステップ4330でセットした今回の単位払出動作におけるステップ数がすべて実行されたか否かを判定する。ステップ4410でYesの場合、ステップ4415で、払出制御手段3300は、払出状態フラグー時記憶手段3311のフラグ領域にアクセスし、モータ駆動中フラグをオフにする。次に、ステップ4416で、払出制御手段3300は、払出状態フラグー時記憶手段3311のフラグ領域を参照し、リトライ動作実行中フラグがオンであるか否かを判定する。ステップ4416でYesの場合、ステップ4417で、払出制御手段3300は、払出状態フラグー時記憶手段3311のフラグ領域にアクセスし、リトライ動作実行中フラグをオフにして、ステップ4418へ移行する。他方、ステップ4416でNoの場合には、ステップ4418へ移行する。次に、ステップ4418で、払出制御手段3300は、ステッピングモータの休止状態を維持（本例では、励磁出力を下げた上で、現在の励磁ステータ位置特定カウンタ値（j）に継続励磁）する。次に、ステップ4419で、払出制御手段3300は、球通過待ちタ

イマ 3 3 1 5 をスタートさせ、ステップ 4 4 2 0 に移行する。尚、ステップ 4 4 0 5 又はステップ 4 4 1 0 で N o の場合にもステップ 4 4 2 0 に移行する。以上で、モータ駆動終了処理を終了する。

【 0 2 2 7 】

次に、遊技球検出処理を説明すると、まず、ステップ 4 4 2 0 で、払出制御手段 3 3 0 0 は、払出カウンタセンサ K E 1 0 s から遊技球検出信号を受信したか否かを判定する。ステップ 4 4 2 0 で Y e s の場合、ステップ 4 4 2 2 で、払出制御手段 3 3 0 0 は、単位払出カウンタ 3 3 1 7 に一時記憶されているカウンタ値を 1 減算する。次に、ステップ 4 4 2 5 で、払出制御手段 3 3 0 0 は、払出カウンタ 3 3 1 2 に一時記憶されているカウンタ値を 1 減算し、ステップ 4 4 3 0 に移行する。尚、ステップ 4 4 2 0 で N o の場合にもステップ 4 4 3 0 に移行する。ここで、本例では、払出カウンタ 3 3 1 2 の値を、入球を検知する毎に 1 減算（デクリメント）するよう構成しているが、これには限定されず、複数の遊技球の入球を検出している場合には、当該入球数分の値を減算し得るよう構成してもよい。以上で、遊技球検出時処理を終了する。

10

【 0 2 2 8 】

次に、賞球払出終了処理を説明すると、まず、ステップ 4 4 3 0 で、払出制御手段 3 3 0 0 は、払出カウンタ 3 3 1 2 を参照し、カウンタ値が 0 以下であるか否かを判定する。ステップ 4 4 3 0 で Y e s の場合、ステップ 4 4 3 1 で、払出制御手段 3 3 0 0 は、払出状態フラグー時記憶手段 3 3 1 1 のフラグエリアを参照し、モータ駆動中フラグがオンであるか否かを判定する。ステップ 4 4 3 1 で Y e s の場合（即ち、当該払出に係るモータの駆動が終了していないにも拘わらず、当該払出に係る遊技球数分の遊技球がセンサに検知された場合）、ステップ 4 4 3 2 で、払出制御手段 3 3 0 0 は、エラーフラグー時記憶手段 3 2 2 1 内にある、払出未完了時遊技球検出フラグをオンにし、ステップ 4 4 3 5 に移行する。他方、ステップ 4 4 3 1 で N o の場合にも、ステップ 4 4 3 5 に移行する。

20

【 0 2 2 9 】

次に、ステップ 4 4 3 5 及びステップ 4 4 4 0 で、払出制御手段 3 3 0 0 は、払出状態フラグー時記憶手段 3 3 1 1 にアクセスし、賞球払出中フラグをオフにすると共に賞球払出完了フラグをオンにする。次に、ステップ 4 4 4 1 で、払出制御手段 3 3 0 0 は、払出カウンタ 3 3 1 2 を参照し、カウンタ値が 0 未満であるか否かを判定する。ステップ 4 4 4 1 で Y e s の場合、ステップ 4 4 4 2 で、払出制御手段 3 3 0 0 は、払出状態フラグー時記憶手段 3 3 1 1 内の払出異常検出フラグをオンにする。次に、ステップ 4 4 4 3 で、払出制御手段 3 3 0 0 は、払出カウンタ 3 3 1 2 を参照し、当該カウンタ値に基づき過剰払出数（例えば、カウンタ値が「-3」であれば、過剰払出数は「3」）を払出処理関連情報一時記憶手段 3 3 1 0 に一時記憶し、次の処理 {ステップ 4 5 0 0 の賞球払出制御処理（モータ駆動実行時）} に移行する。尚、ステップ 4 4 4 1 で N o の場合（即ち、払出カウンタ 3 3 1 2 のカウンタ値が 0 であり、所定の払出個数分が正常に払出された場合）にも、次の処理 {ステップ 4 5 0 0 の賞球払出制御処理（モータ駆動実行時）} に移行する。尚、本例では、払出カウンタ 3 3 1 2 の値が 0 以下となった時点で、過剰払出の検出を行っているが、これには限定されず、例えば、払出に係るモータの駆動が終了してから所定時間（例えば、当該駆動によって払い出された遊技球が払出カウンタセンサ K E 1 0 s によって検出されるまでに十分な検出待機時間）が経過した時点で、過剰払出の検出（払出カウンタ 3 3 1 2 の値が 0 未満であるか否かの判定）を実行し得るよう構成してもよい（即ち、過剰払出とは、払出予定である遊技球数を超過した個数分の遊技球が払出されたという不測の事態が発生したことを意味し、設計上は極めて発生し難いこの不測の事態が発生したということは、払出機構のいずれかにて不具合が生じているか、払出動作を行っている最中に不正行為が行われた可能性が高いことを意味している）。

30

40

【 0 2 3 0 】

他方、ステップ 4 4 3 0 で N o の場合、ステップ 4 4 4 5 で、払出制御手段 3 3 0 0 は、球通過待ちタイマ 3 3 1 5 のタイマ値を参照し、当該タイマ値が 0 であるか否かを判定する。ステップ 4 4 4 5 で Y e s の場合、ステップ 4 4 4 6 で、払出制御手段 3 3 0 0 は

50

、エラーフラグー時記憶手段 3 2 2 1 内にある、スイッチ未通過エラー検出フラグをオンにする（尚、本例では、払出動作終了後、所定時間の球通過待ち時間を経過しても、当該払出動作に係る遊技球数分の遊技球が検出されなかった場合、即座にスイッチ未通過エラーが発生したと判定しているが、これには限定されず、当該事象が複数回発生した場合に、スイッチ未通過エラーが発生したと判定するよう構成してもよい）。

【0 2 3 1】

次に、ステップ 4 4 4 7 で、払出制御手段 3 3 0 0 は、払出状態フラグー時記憶手段 3 3 1 1 にアクセスし、リトライ動作実行待機フラグがオフであるか否かを判定する。ここで、リトライ動作実行待機フラグとは、前述のようにモータ駆動中においてモータエラーが発生した場合にオンとなるフラグである。ステップ 4 4 4 7 で Yes の場合、ステップ 4 4 5 0 で、払出制御手段 3 3 0 0 は、払出状態フラグー時記憶手段 3 3 1 1 にアクセスし、賞球払出継続フラグをオンにし、次の処理 {ステップ 4 5 0 0 の賞球払出制御処理（モータ駆動実行時）} へ移行する。他方、ステップ 4 4 4 7 で No の場合、ステップ 4 4 6 0 及びステップ 4 4 6 2 で、払出制御手段 3 3 0 0 は、払出状態フラグー時記憶手段 3 3 1 1 にアクセスし、リトライ動作実行待機フラグをオフにすると共に、リトライ動作実行許可フラグをオンにし、次の処理 {ステップ 4 5 0 0 の賞球払出制御処理（モータ駆動実行時）} へ移行する。尚、ステップ 4 4 4 5 で No の場合にも、次の処理 {ステップ 2 4 0 0 の賞球払出制御処理（モータ駆動実行時）} へ移行する。

【0 2 3 2】

ここで、ステップ 4 4 0 2 で No の場合（即ち、賞球払出処理が実行中でない場合）には、ステップ 4 4 7 0 で、払出制御手段 3 3 0 0 は、払出カウンタセンサ K E 1 0 s から遊技球検出信号を受信したか否かを判定する。ステップ 4 4 7 0 で Yes の場合、ステップ 4 4 7 2 で、払出制御手段 3 3 0 0 は、払出状態フラグー時記憶手段 3 3 1 1 内の払出モータ動作異常検出フラグをオンにして、次の処理 {ステップ 4 5 0 0 の賞球払出制御処理（モータ駆動実行時）} へ移行する。尚、ステップ 4 4 7 0 で No の場合にも、次の処理 {ステップ 4 5 0 0 の賞球払出制御処理（モータ駆動実行時）} へ移行する。

【0 2 3 3】

次に、図 4 6 は、図 3 6 のステップ 4 5 0 0 のサブルーチンに係る、賞球払出制御処理（モータ駆動実行時）のフローチャートである。ここで、当該処理は、前の処理（ステップ 4 4 0 0）でセットされたステップ数に基づき、実際にモータ駆動を実行する処理である。まず、ステップ 4 5 0 5 で、払出制御手段 3 3 0 0 は、払出状態フラグー時記憶手段 3 3 1 1 のフラグ領域を参照し、モータ駆動中フラグがオンであるか否かを判定する。尚、モータ駆動中フラグは、ステップカウンタ時記憶手段 3 3 1 3 に所定のステップカウンタ数がセットされた際にオンとなるフラグであり（図 4 4 のステップ 4 3 4 0 参照）、当該所定のステップカウンタ数と対応した励磁がすべて実行された際にオフとなるフラグである。ここで、ステップ 4 5 0 5 で Yes の場合、ステップ 4 5 1 0 で、払出制御手段 3 3 0 0 は、ステップカウンタ時記憶手段 3 3 1 3 のステップカウンタ値（n）を 1 減算する。次に、ステップ 4 5 2 0 で、払出制御手段 3 3 0 0 は、励磁ステータ位置特定カウンタ値一時記憶手段 3 3 1 4 における励磁ステータ位置特定カウンタ値（j）を更新（1 インクリメント）する。次に、ステップ 4 5 2 5 で、払出制御手段 3 3 0 0 は、所定の励磁方式と切替速度に基づき、励磁ステータ位置特定カウンタ値一時記憶手段 3 3 1 4 における励磁ステータ位置特定カウンタ値（j）に対応したステータを励磁する。

【0 2 3 4】

次に、ステップ 4 5 3 0 で、払出制御手段 3 3 0 0 は、励磁ステータ位置特定カウンタ値一時記憶手段 3 3 1 4 内のカウンタ値（j）が、ロータ位置確認センサ K E 1 0 m s の確認タイミングであるか否かを判定する。ここで、ロータ位置確認センサ K E 1 0 m s の確認とは、モータ動作に係る異常動作（球がみ等による脱調現象）が発生しているか否かを確認する目的で行われるものである。ステップ 4 5 3 0 で Yes の場合、ステップ 4 5 5 0 で、払出制御手段 3 3 0 0 は、ロータ位置確認センサ K E 1 0 m s からの検知信号の有無を参照する。そして、ステップ 4 5 5 5 で、エラー制御手段 3 2 0 0 は、ステップ 4

10

20

30

40

50

550での検知信号の有無に基づき、ロータが正しく回転していないか否か、即ち、モータエラーが発生しているか否かを判定する。ステップ4555でYesの場合、ステップ4560で、エラー制御手段3200は、払出状態フラグー時記憶手段3311におけるモータ位置異常フラグをオンにし、次の処理（ステップ4600のモータエラー時処理）に移行する。尚、ステップ4530でNoの場合にも、次の処理（ステップ4600のモータエラー時処理）に移行し、ステップ4555でNoの場合には、ステップ4565で、エラー制御手段3200は、エラーフラグー時記憶手段3221におけるモータエラーフラグをオフにし、次の処理（ステップ4600のモータエラー時処理）に移行する。

【0235】

次に、図47は、図36のステップ4600のサブルーチンに係る、モータエラー時処理のフローチャートである。はじめに、本処理の目的は、モータエラーを検出した際には、モータ駆動を休止状態へと強制的に移行することである。まず、ステップ4605で、払出制御手段3300は、払出状態フラグー時記憶手段3311を参照し、モータ位置異常フラグがオンであるか否かを判定する。ここで、図46のステップ4560に示すように、所定の検知タイミングにてモータが所定の回転位置に存在するか否かを検知した上、当該所定の回転位置に存在しない場合には脱調等をしたと判定し、このモータ位置異常フラグはオンとなる。ステップ4605でYesの場合、ステップ4610で、払出制御手段3300は、払出状態フラグー時記憶手段3311にアクセスし、モータ位置異常フラグをオフにする。次に、ステップ4615で、払出制御手段3300は、払出状態フラグー時記憶手段3311を内の払出モータ異常検出フラグをオンにする。そして、ステップ4620で、エラー制御手段3200は、ステップカウンタ時記憶手段3313におけるステップカウンタ値（n）をクリアして、次の処理（ステップ4100の異常検出時エラー制御処理）に移行する。これは、モータエラー発生により、今回セットしたステップ数を実行しなくなったためであり、当該カウント値のクリア実行後は、モータ駆動が休止状態へと移行することとなる（図45のステップ4410及びステップ4415参照）。尚、ステップ4605でNoの場合にも、次の処理（ステップ4100の異常検出時エラー制御処理）に移行する。

【0236】

次に、図48～図54を参照して、サブメイン制御部SM側で実行される制御処理を説明する。まず、図48は、本実施形態に係るぱちんこ遊技機における、副制御基板S側（特に、サブメイン制御部SM側）のメインフローチャートである。ここで、同図（d）の処理は、遊技機への電源投入時等のリセット後に実行されるサブメイン制御部SM側での処理である。即ち、遊技機への電源投入時において、ステップ2002で、サブメイン制御部SMのCPUSCは、メイン側（主制御基板M側）から受信した情報に基づき、初期処理を実行する（例えば、RAMクリア情報を受信した場合→副制御基板S側のRAMを初期化、各種情報コマンドを受信した場合→電断時の演出関連情報を副制御基板S側のRAMに再セット）。その後、サブメイン制御部SMの繰り返し処理ルーチンである（f）を繰り返し実行するループ処理に移行する。ここで、（f）が実行された場合、同図（f）の処理に示されるように、まず、ステップ2100で、副制御基板SのCPUSCは、後述する指示画像表示制御処理を実行する。次に、ステップ2400で、副制御基板SのCPUSCは、後述する保留情報管理処理を実行する。次に、ステップ2700で、副制御基板SのCPUSCは、後述する装飾図柄表示内容決定処理を実行する。次に、ステップ2800で、副制御基板SのCPUSCは、後述する装飾図柄表示制御処理を実行する。次に、ステップ2900で、副制御基板SのCPUSCは、後述する特別遊技関連表示制御処理を実行する。次に、ステップ2999で、副制御基板SのCPUSCは、表示コマンド送信制御処理（これら一連のサブルーチンでセットされたコマンドをサブサブ制御部SS側に送信する）を実行し、本繰り返し処理ルーチンを終了する。

【0237】

以上のように、サブメイン制御部SMのCPUSCは、リセット後、サブメイン側ルーチン（S2100～S2999）をループ処理する形態を採用している。また、同図（e

10

20

30

40

50

）の処理は、サブメイン制御部 S M の割り込み時の処理であり、主制御基板 M における S T B 信号線からの信号がサブメイン制御部 S M の C P U の一端子（本例では、N M I 端子）に接続されていた場合における処理フロー（e）である。即ち、サブメイン制御部 S M において N M I 割り込みが発生した場合（S T B 信号線がオンとなった場合）、ステップ 2 0 0 4 で、副制御基板 S の C P U S C は、主制御基板 M 側からのコマンド入力ポート（前述したデータ信号線の入力ポート）を確認する。そして、ステップ 2 0 0 6 で、副制御基板 S の C P U S C は、当該確認結果に基づき、サブメイン制御部 S M 側の R A M 領域に、主制御基板 M 側から送信されたコマンドを一時記憶し、本割り込み処理直前に実行されていた処理へ復帰する。

【0238】

次に、図 4 9 は、図 4 8 におけるステップ 2 1 0 0 のサブルーチンに係る、指示画像表示制御処理のフローチャートである。まず、ステップ 2 1 0 2 で、副制御基板 S の C P U S C は、特別遊技の実行中ではないか否かを判定する。ステップ 2 1 0 2 で Y e s の場合、ステップ 2 1 0 4 で、副制御基板 S の C P U S C は、現在の遊技状態が非時間短縮遊技状態であるか否かを判定する。ステップ 2 1 0 4 で Y e s の場合、ステップ 2 1 0 8 の処理に移行する。他方、ステップ 2 1 0 2 又はステップ 2 1 0 4 で N o の場合、ステップ 2 1 0 6 で、副制御基板 S の C P U S C は、左打ち指示カウンタ H S c（右打ちを実行した場合に入球し易い入球口への入球を計測するカウンタであり、カウンタ値が所定値に到達することにより、左打ちにて遊技を進行するべき状況にて左打ちが実行されていないと判定し、左打ち指示画像を表示することとなる）のカウンタ値をゼロクリアし、ステップ 2 1 1 6 の処理に移行する。

【0239】

次に、ステップ 2 1 0 8 で、副制御基板 S の C P U S C は、主制御基板 M 側から補助遊技始動口入球コマンドを受信したか否かを判定する。ステップ 2 1 0 8 で Y e s の場合、ステップ 2 1 1 0 で、副制御基板 S の C P U S C は、左打ち指示カウンタ H S c のカウンタ値に 1 を加算する。次に、ステップ 2 1 1 2 で、副制御基板 S の C P U S C は、左打ち指示カウンタ値は所定値（本例では、3）に到達したか否かを判定する。ステップ 2 1 1 2 で Y e s の場合、ステップ 2 1 1 4 で、副制御基板 S の C P U S C は、左打ち指示画像を所定時間（例えば、5 秒）表示するコマンドをセットする。次に、ステップ 2 1 1 5 で、副制御基板 S の C P U S C は、左打ち指示カウンタ H S c のカウンタ値をゼロクリアし、ステップ 2 1 1 6 の処理に移行する。他方、ステップ 2 1 0 8 又はステップ 2 1 1 2 で N o の場合にもステップ 2 1 1 6 の処理に移行する。ここで、同図右下は指示画像の表示イメージ図であり、最上段は、左打ち指示画像のイメージ図である。左打ち指示画像は演出表示装置 S G にて表示される左打ちの実行を遊技者に促す画像であり、左打ちを実行するべき遊技の状況である、特別遊技が実行されていない且つ非時間短縮遊技状態にて、右打ちを実行していると判定した場合（補助遊技始動口 H 1 0 に 3 球入球した場合）に所定時間（5 秒）左打ち指示画像を表示するよう構成されている。尚、補助遊技始動口 H 1 0 に入球した場合には左打ち指示カウンタ H S c のカウンタ値に 1 加算するが、右一般入賞口 P 2 0 に入球した場合には左打ち指示カウンタ H S c のカウンタ値は増減しないよう構成されている。

【0240】

次に、ステップ 2 1 1 6 で、副制御基板 S の C P U S C は、特別遊技の実行中であるか否かを判定する。ステップ 2 1 1 6 で Y e s の場合、ステップ 2 1 2 2 の処理に移行する。他方、ステップ 2 1 1 6 で N o の場合、ステップ 2 1 1 8 で、副制御基板 S の C P U S C は、現在の遊技状態は非時間短縮遊技状態であるか否かを判定する。ステップ 2 1 1 8 で Y e s の場合、ステップ 2 1 2 0 で、副制御基板 S の C P U S C は、右打ち指示カウンタ M S c（左打ちを実行した場合に入球し易い入球口への入球を計測するカウンタであり、カウンタ値が所定値に到達することにより、右打ちにて遊技を進行するべき状況にて右打ちが実行されていないと判定し、右打ち指示画像を表示することとなる）のカウンタ値をゼロクリアにし、次の処理（ステップ 2 4 0 0 の処理）に移行する。他方、ステップ 2

118でNoの場合、ステップ2122の処理に移行する。

【0241】

次に、ステップ2122で、副制御基板SのCPUSCは、主制御基板M側から第1主遊技始動口入球コマンドを受信したか否かを判定する。ステップ2122でYesの場合、ステップ2124で、副制御基板SのCPUSCは、右打ち指示カウンタMScのカウンタ値に1を加算する。次に、ステップ2126で、副制御基板SのCPUSCは、右打ち指示カウンタ値は所定値（本例では、3）に到達したか否かを判定する。ステップ2126でYesの場合、ステップ2128で、副制御基板SのCPUSCは、右打ち指示画像を所定時間（例えば、5秒）表示するコマンドをセットする。次に、ステップ2129で、副制御基板SのCPUSCは、右打ち指示カウンタMScのカウンタ値をゼロクリアし、次の処理（ステップ2400の処理）に移行する。尚、ステップ2122及びステップ2126でNoの場合にも、次の処理（ステップ2400の処理）に移行する。ここで、同図右下は指示画像の表示イメージ図であり、2段目は、右打ち指示画像のイメージ図である。右打ち指示画像は演出表示装置SGにて表示される右打ちの実行を遊技者に促す画像であり、右打ちを実行すべき遊技の状況である、特別遊技の実行中又は時間短縮遊技状態にて、左打ちを実行していると判定した場合（第1主遊技始動口A10に3球入球した場合）に所定時間（5秒）右打ち指示画像を表示するよう構成されている。尚、最下段は、時短中右打ち画像のイメージ図であり、時間短縮遊技状態においては右打ちにて遊技を進行するため、時間短縮遊技状態においては時短中右打ち画像が表示され続けることとなる（特別遊技の実行中も表示され続ける）。尚、時短中右打ち画像と右打ち指示画像との演出表示装置SG上の表示領域は、重複しないよう構成されており、表示領域の大きさは、時短中右打ち画像よりも右打ち指示画像の方が大きくなっている（左打ち指示や右打ち指示画像は、警告を目的としているため、相対的に大きい表示領域にて表示している）。

【0242】

このように、本実施形態においては、例えば、特別遊技の実行中でない且つ非時間短縮遊技状態に右打ちをしている場合、遊技球が補助遊技始動口H10を通過すると、副制御基板SのCPUSCは、通過回数をカウントすると共に、通過回数が所定値（本例では、3球）に到達すると、左打ち指示画像（例えば、「左打ち」と表示）を表示するように構成されている。また、例えば、特別遊技の実行中でない且つ非時間短縮遊技状態に右打ちをしている場合、遊技球が右一般入賞口P20を通過すると、副制御基板SのCPUSCは、通過回数をカウントせず、右打ち指示画像（例えば、「右打ち」という画像）を表示しないように構成されている。また、例えば、特別遊技中又は時間短縮遊技状態に左打ちをしている場合、遊技球が第1主遊技始動口A10に入球すると、副制御基板SのCPUSCは、入球回数をカウントし、入球回数が所定値（本例では、3球）に到達すると、右打ち指示画像（例えば、「右打ち」という画像）を表示するように構成されている。尚、本実施形態においては、左打ち指示画像（例えば、「左打ち」という画像）又は右打ち指示画像（例えば、「右打ち」という画像）を、発射指示演出と称することがある。このように構成することにより、左打ちを実行すべき遊技の状況（特別遊技の実行中でない且つ非時間短縮遊技状態）において、遊技者が誤って右打ちを実行してしまった場合に、補助遊技始動口H10を通過した遊技球が右一般入賞口P20に入球することにより、遊技球1球の発射によって右打ち指示カウンタMScのカウンタ値が2増加してしまい、故意でない右打ちにも拘らず、左打ち指示画像が頻繁に表示されてしまうような本来意図していない頻度での注意喚起に関する表示を実行することを防止することができることとなる。尚、本例においては、左打ちカウンタ値が所定値（本例では、3）の倍数に到達する毎に左打ち指示画像を表示し得る{右打ちカウンタ値が所定値（本例では、3）の倍数に到達する毎に右打ち指示画像を表示し得る}よう構成したが、これには限定されず、左打ちカウンタ値が所定値（本例では、3）に到達した際に左打ち指示画像を表示し{右打ちカウンタ値が所定値（本例では、3）に到達した際に右打ち指示画像を表示し}、所定値（本例では、3）の2倍や3倍のカウンタ値となった場合には新たに左打ち指示画像（右打

10

20

30

40

50

ち指示画像)を表示しないよう構成してもよい。また、左打ち指示画像(右打ち指示画像)は表示開始から所定時間(本例では、5秒)で消去するよう構成したが、これには限定されず、左打ち指示画像(右打ち指示画像)が表示された後、左打ち(右打ち)を実行したと判定した場合(例えば、左打ちを実行したと判定する場合は、第1主遊技始動口A10に遊技球が入球した場合、等であり、右打ちを実行したと判定する場合は、補助遊技始動口H10に遊技球が入球した場合、等である)又は遊技状態が移行した場合に、左打ち指示画像(右打ち指示画像)を消去するよう構成してもよい。

【0243】

ここで、「左打ち指示画像」を表示すべき状況においては、右側領域と左側領域の双方に打球が分散発射され、偶発的に遊技球が補助遊技始動口H10を通過している場合も考えられる。このため、所定期間内に遊技領域左側に配設された第1主遊技始動口A10や左一般入賞口P10に入賞した場合、換言すると、所定期間内に左打ちにて遊技を実行していると判定可能な場合には、前記所定値を変化させ(減算し)、或いは初期化して、左打ち指示画像を報知するまでの期間を延長させたり、報知方法(報知態様)を変化させる(例えば、音声報知は行わない、小さい表示による警告に変更する)等の処理を実行してもよい。尚、「右打ち指示画像」を表示する際についても同様の処理を実行してもよいが、「右打ち指示画像」を表示し得る遊技状態では、左打ちを行うことが著しく遊技者に不利益を与える仕様の場合もあり、このような仕様の場合には、「右打ち指示画像」を表示する場合には報知するまでの期間を延長させたり、報知方法(報知態様)を変化させる処理を行わないことが望ましい。

【0244】

次に、図50は、図48におけるステップ2400のサブルーチンに係る、保留情報管理処理のフローチャートである。まず、ステップ2402で、副制御基板SのCPUSCは、主制御基板M側から新たな保留発生に係るコマンド(第1主遊技図柄又は第2主遊技図柄に係る保留情報)を受信したか否かを判定する。ステップ2402でYesの場合、ステップ2404で、副制御基板SのCPUSCは、装図保留カウンタ値(本例では、第1主遊技用が最大4個、第2主遊技用が最大4個)に「1」を加算する。次に、ステップ2404で、装図保留カウンタに1を加算した後、ステップ2420で、副制御基板SのCPUSCは、主制御基板M側から送信された新たな保留の当否結果及び停止図柄情報に係るコマンドを装図保留情報一時記憶手段SM22bに一時記憶する。次に、ステップ2422で、副制御基板SのCPUSCは、主制御基板M側から送信された保留発生コマンドに基づき、保留情報(特に、変動態様グループ、変動態様乱数区切り情報、等)を、装図保留情報一時記憶手段SM22bに一時記憶する。尚、メイン側から、当否結果、停止図柄、変動態様グループ、変動態様乱数区切り情報、に係る情報が送信されなかった場合には、ステップ2420又はステップ2422にて、当該情報は保留情報一時記憶領域に一時記憶されないこととなる。次に、ステップ2424で、副制御基板SのCPUSCは、当該新たな保留は第1主遊技側の保留であるか否かを判定する。ステップ2424でYesの場合、ステップ2530で、副制御基板SのCPUSCは、後述する第1主遊技入賞時先読み判定処理を実行し、ステップ2426に移行する。他方、ステップ2424でNoの場合、ステップ2540で、副制御基板SのCPUSCは、後述する第2主遊技入賞時先読み判定処理を実行し、ステップ2426に移行する。

【0245】

次に、ステップ2426で、副制御基板SのCPUSCは、装図保留情報一時記憶手段SM22bを参照し、当該新たな保留はトリガ保留である旨の情報を有しているか否かを判定する(トリガ保留である旨の情報はステップ2576又はステップ2622にて付加される)。ステップ2426でYesの場合、ステップ2650で、副制御基板SのCPUSCは、後述する、先読み保留内容決定処理を実行し、ステップ2418に移行する。他方、ステップ2426でNoの場合も、ステップ2418に移行する。

【0246】

他方、ステップ2402でNoの場合、ステップ2410で、副制御基板SのCPUS

Cは、主制御基板M側から図柄変動表示開始指示コマンドを受信したか否かを判定する。ステップ2410でYesの場合、ステップ2412で、副制御基板SのCPUSCは、装図保留カウンタ値から「1」を減算する。次に、ステップ2414で、ステップ2414で、副制御基板SのCPUSCは、当該図柄変動に係る保留情報（特に、当否結果、停止図柄情報、変動態様グループ及び変動態様乱数区切り情報）を、装図保留情報一時記憶手段SM22bから削除すると共に、残りの保留情報をシフトし、ステップ2416に移行する。は、当該図柄変動に係る保留情報（特に、当否結果、停止図柄情報、変動態様グループ及び変動態様乱数区切り情報）を、装図保留情報一時記憶手段SM22bから削除すると共に、残りの保留情報をシフトし、ステップ2416に移行する。次に、ステップ2416で、副制御基板SのCPUSCは、図柄内容決定許可フラグをオンにし、ステップ2418に移行する。尚、ステップ2410でNoの場合にもステップ2418に移行する。

10

【0247】

次に、ステップ2418で、主制御基板MのCPUMCは、演出表示装置SG上にて、装図保留カウンタ値と同数の保留表示画像を点灯表示し、次の処理（ステップ2700の処理）に移行する。

【0248】

次に、図51は、図48におけるステップ2700のサブルーチンに係る、装飾図柄表示内容決定処理のフローチャートである。まず、ステップ2702で、副制御基板SのCPUSCは、図柄内容決定許可フラグがオンであるか否かを判定する。ステップ2702でYesの場合、ステップ2704で、副制御基板SのCPUSCは、図柄内容決定許可フラグをオフにする。次に、ステップ2706で、副制御基板SのCPUSCは、一時記憶された図柄情報（主遊技図柄に係る停止図柄・変動態様）と、装図変動内容決定用抽選テーブルとを参照して、装飾図柄の停止図柄（例えば、主遊技図柄に係る停止図柄が大当り図柄である場合には、「7・7・7」等のゾロ目、ハズレ図柄である場合には、「1・3・5」等のバラケ目）及び変動態様を決定し副制御基板SのRAM領域に一時記憶する。

20

【0249】

次に、ステップ2712で、副制御基板SのCPUSCは、図柄内容決定フラグをオンにし、次の処理（ステップ2800の処理）に移行する。尚、ステップ2702でNoの場合にも、次の処理（ステップ2800の処理）に移行する。

30

【0250】

次に、図52は、図48におけるステップ2800のサブルーチンに係る、装飾図柄表示制御処理のフローチャートである。まず、ステップ2802で、副制御基板SのCPUSCは、図柄内容決定フラグがオンであるか否かを判定する。ステップ2802でYesの場合、ステップ2804で、副制御基板SのCPUSCは、図柄内容決定フラグをオフにする。次に、ステップ2806で、副制御基板SのCPUSCは、図柄変動中フラグをオンにする。次に、ステップ2809で、副制御基板SのCPUSCは、装図変動時間管理タイマSM21tをスタートし、ステップ2810に移行する。尚、ステップ2802でNoの場合にも、ステップ2810に移行する。

【0251】

次に、ステップ2810で、副制御基板SのCPUSCは、図柄変動中フラグがオンであるか否かを判定する。ステップ2810でYesの場合、ステップ2811で、副制御基板SのCPUSCは、装図変動時間管理タイマSM21tのタイマ値を確認する。次に、ステップ2812で、副制御基板SのCPUSCは、装図変動時間管理タイマSM21tと副制御基板SのRAM領域に一時記憶された変動態様とに基づき、装飾図柄の変動開始タイミングに到達したか否かを判定する。ステップ2812でYesの場合、ステップ2814で、副制御基板SのCPUSCは、演出表示装置SG上にて装飾図柄の変動を表示するコマンドをセット（ステップ2999の表示コマンド送信制御処理にて、サブサブ制御部SS側に送信される）し、ステップ2832に移行する。

40

【0252】

50

他方、ステップ2812でNoの場合、ステップ2816で、副制御基板SのCPUSCは、装図変動時間管理タイマSM21tと副制御基板SのRAM領域に一時記憶された変動態様とに基づき、装飾図柄の停止表示タイミング（仮停止表示タイミング）に到達したか否かを判定する。ステップ2816でYesの場合、ステップ2818で、副制御基板SのCPUSCは、演出表示装置SG上にて装飾図柄の停止表示（仮停止表示）を表示するコマンドをセット（ステップ2999の表示コマンド送信制御処理にて、サブサブ制御部SS側に送信される）し、ステップ2832に移行する。

【0253】

他方、ステップ2816でNoの場合、ステップ2824で、副制御基板SのCPUSCは、装図変動時間管理タイマSM21tと副制御基板SのRAM領域に一時記憶された変動態様とに基づき、予告画像やリーチ画像の表示タイミングに到達したか否かを判定する。ステップ2824でYesの場合、ステップ2826で、副制御基板SのCPUSCは、当該予告画像やリーチ画像に係る画像表示を演出表示装置SGに表示するコマンドをセット（ステップ2999の表示コマンド送信制御処理にて、サブサブ制御部SS側に送信される）し、ステップ2832に移行する。尚、ステップ2824でNoの場合にも、ステップ2832に移行する。

【0254】

次に、ステップ2832で、副制御基板SのCPUSCは、主遊技図柄が停止表示されたか否かを判定する（例えば、主制御基板M側から主遊技図柄が停止表示される旨の情報を受信したか否かを判定する）。ステップ2832でYesの場合、ステップ2834で、副制御基板SのCPUSCは、演出表示装置SGにて装飾図柄の停止表示コマンド（確定表示コマンド）をセット（ステップ2999の表示コマンド送信制御処理にてサブサブ制御部SS側に送信される）する。次に、ステップ2836で、副制御基板SのCPUSCは、装図変動時間管理タイマSM21tを停止すると共にリセット（ゼロクリア）する。次に、ステップ2838で、副制御基板SのCPUSCは、図柄変動中フラグをオフにし、次の処理（ステップ2900の処理）に移行する。尚、ステップ2810又はステップ2832でNoの場合にも、次の処理（ステップ2900の処理）に移行する。

【0255】

次に、図53は、図48におけるステップ2900のサブルーチンに係る、特別遊技関連表示制御処理のフローチャートである。まず、ステップ2902で、副制御基板SのCPUSCは、特別遊技中フラグがオフであるか否かを判定する。ステップ2902でYesの場合、ステップ2904で、副制御基板SのCPUSCは、主制御基板M側から特別遊技開始表示指示コマンドを受信したか否かを判定する。ステップ2904でYesの場合、ステップ2912で、副制御基板SのCPUSCは、特別遊技中フラグをオンにする。次に、ステップ2914で、副制御基板SのCPUSCは、演出表示装置SG上で大当たり開始表示を行い（大当たりの種類に基づき適宜表示を行う）、ステップ2920に移行する。尚、ステップ2902でNoの場合にも、ステップ2920に移行する。

【0256】

次に、ステップ2920で、副制御基板SのCPUSCは、主制御基板M側から逐次送信されている遊技情報に基づき、演出表示装置SG上にてラウンド数と入賞個数と賞球数を逐次表示する（遊技性や大当たりの種類等に基づき、必要に応じて適宜実行すればよい）コマンドをセットする。次に、ステップ3050で、副制御基板SのCPUSCは、後述する特別遊技中演出表示制御処理を実行する。次に、ステップ2926で、副制御基板SのCPUSCは、主制御基板M側から特別遊技終了表示指示コマンドを受信したか否かを判定する。ステップ2926でYesの場合、ステップ2928で、副制御基板SのCPUSCは、演出表示装置SG上で、大当たり終了表示をするコマンドをセットする（大当たりの種類に基づき適宜表示を行う）。次に、ステップ2929で、副制御基板SのCPUSCは、入球数カウンタNKc（特別遊技中における右一般入賞口P20への入球数を計測するカウンタ）をゼロクリアする。次に、ステップ2930で、副制御基板SのCPUSCは、特別遊技中フラグをオフにし、次の処理（ステップ2999の処理）に移行する。

尚、ステップ2904又はステップ2926でN oの場合にも、次の処理（ステップ2999の処理）に移行する。

【0257】

次に、図54は、図53におけるステップ3050のサブルーチンに係る、特別遊技中演出表示制御処理のフローチャートである。まず、ステップ3052で、副制御基板SのC P U S Cは、主制御基板M側から右一般入賞口入球コマンドを受信したか否かを判定する。ステップ3052でY e sの場合、ステップ3054で、副制御基板SのC P U S Cは、右一般入賞口入球演出（特別遊技の実行中に右一般入賞口P 2 0に遊技球が入球した際に演出表示装置S Gにて表示される演出であり、例えば、「+ 2 G E T !」と表示）を表示し、且つ、賞球数に所定数（本例では、2球）を加算して表示するコマンドをセットする。ここで、本実施形態においては、右一般入賞口P 2 0は第1大入賞口C 1 0及び第2大入賞口C 2 0よりも上流に配置されているため、特別遊技の実行中に第1大入賞口C 1 0及び第2大入賞口C 2 0に向けて発射した遊技球（右打ちにて発射した遊技球）は第1大入賞口C 1 0又は第2大入賞口C 2 0に入球する前に右一般入賞口P 2 0に入球し得ることとなる。このように構成することにより、特別遊技の実行中に第1大入賞口C 1 0又は第2大入賞口C 2 0に入球することにより獲得できる賞球数に加えて右一般入賞口P 2 0に入球することにより更に遊技球を獲得することができ、特別遊技の実行にて獲得可能な遊技球数を増加させることができる。

【0258】

次に、ステップ3056で、副制御基板SのC P U S Cは、入球数カウンタN K cのカウント値に1を加算し、ステップ3058の処理に移行する。尚、ステップ3052でN oの場合にも、ステップ3058の処理に移行する。次に、ステップ3058で、副制御基板SのC P U S Cは、入球数カウンタN K cのカウント値は所定値（本例では、5球）に到達したか否かを判定する。ステップ3058でY e sの場合、ステップ3060で、副制御基板SのC P U S Cは、右一般入賞口用ランプ点灯態様決定テーブル（図55参照）を参照し、停止中の大当たり図柄に基づいて点灯態様を決定し、決定した点灯態様にて右一般入賞口用ランプL P 1 0を点灯し、次の処理（ステップ2926の処理）に移行する。尚、ステップ3058でN oの場合にも、次の処理（ステップ2926の処理）に移行する。このように、本実施形態においては、特別遊技中に、遊技球が右一般入賞口P 2 0に入球した場合に、右一般入賞口入球演出を演出表示装置S G上に表示（例えば、「+ 2 G E T !」）し得よう構成されており、遊技球が右一般入賞口P 2 0に所定値（本例では、5球）入球すると、停止中の大当たり図柄に基づいた点灯態様で右一般入賞口用ランプL P 1 0を点灯させるように構成されている。尚、遊技球が右一般入賞口P 2 0に入球した場合に実行する右一般入賞口入球演出は、演出表示装置S G上に表示するだけでなく、スピーカD 2 4からの音声によって、「G E T !」と出力するように構成してもよいし、画面上に「+ 2 G E T !」と表示すると同時に音声でも「G E T !」と出力するように構成してもよい。また、スピーカD 2 4からの音声の音量を複数段階設けて、音量の大きさにより特別遊技終了後の確率変動遊技状態への移行期待度を示唆し得よう構成してもよい（音量が大の場合には音量が小の場合よりも確率変動遊技状態への移行期待度が高い、或いは本来出力されるべき音声である「G E T !」が出力されない（出力自体を行わない／無音で出力する）と確率変動遊技状態への移行期待度が相対的に高い等）。

【0259】

次に、図55は、右一般入賞口用ランプ点灯態様決定テーブルの一例である。同図においては、停止中の大当たり図柄が確率変動遊技状態に移行することとなる確変大当たり図柄（本例では、5 A、7 A、5 B、7 B）である場合に参照される確変大当たり図柄停止時テーブルと、停止中の大当たり図柄が非確率変動遊技状態に移行することとなる非確変大当たり図柄（本例では、4 A、4 B）である場合に参照される非確変大当たり図柄停止時テーブルとから構成される。右一般入賞口用ランプL P 1 0の点灯態様としては、「白色」、「青色」、「緑色」、「赤色」、「虹色」の5種類の表示態様を有しており、大当たり終了後の確率変動遊技状態への移行期待度の低いものから順に「白色→青色→緑色→赤色→虹色」と

なっている。尚、「虹色」は大当り終了後に非確率変動遊技状態に移行する場合には点灯態様として選択されないため、右一般入賞口用ランプLP10が虹色にて点灯した場合には、大当り終了後には確率変動遊技状態に移行することが略確定的となる。尚、右一般入賞口用ランプLP10の点灯態様はあくまで一例であり種類数を増やしたり、置数の振分を変更しても問題ない。また、大当り中に所定数以上の遊技球が右一般入賞口P20に入球した場合に、大当りの終了タイミングにて右一般入賞口用ランプLP10が点灯するよう構成してもよいし、1回の大当り中に複数回右一般入賞口用ランプLP10が点灯し得るよう構成してもよい。更には、同じ点灯態様でも点灯態様の移行タイミングによって確率変動遊技状態への移行期待度を異ならせる、具体的には、同じ「赤」の態様でも後のタイミングで「赤」の態様に変化したほうが先のタイミングで「赤」の態様で変化している場合より確率変動遊技状態への移行期待度が高くなるよう設定（例えば、置数の振分をそのように設定）してもよく、このように構成することで、最初に態様に変化せず「白」のままだったとしても後から「赤」に変化すれば最初の変化態様が「赤」であった場合より期待度が高くなるため、継続して期待感を付与することができる。無論、逆に、早いタイミングで変化したほうが、信頼度が高いように設定することもでき、この場合には、早いタイミングでの変化をより大きく期待させることも可能である。

10

【0260】

次に、図56は、本実施形態に係るぱちんこ遊技機における、第1（第2）大入賞口及び右一般入賞口に係る作用図である。

【0261】

20

同図に示すように、本実施形態においては、右一般入賞口P20は、第1大入賞口C10（又は第2大入賞口C20）よりも上流側に設置されている。ここで、第1大入賞口C10（又は第2大入賞口C20）が開放している場合においては、右打ちルート流出口D50から流出された遊技球は、第1大入賞口C10（又は第2大入賞口C20）に入球する場合の方が右一般入賞口P20に入球する場合よりも相対的に多くなるよう構成されている。

【0262】

まず、同図左に示すように、特別遊技の実行中に右打ちを実行し、右打ちルート流出口D50から流出された遊技球が、遊技盤D35上に備えられた遊技釘の間を流下し、開放状態である第1大入賞口C10へ入球する。尚、第1大入賞口C10へ入球すると、賞球数（本例では、13球）が払出される。

30

【0263】

また、同図右に示すように、例えば、特別遊技の実行中に、右打ちルート流出口D50から流出された遊技球が、遊技盤D35上に備えられた遊技釘にぶつかり、方向を変えて転動することによって右一般入賞口P20へ入球する。尚、右一般入賞口P20へ入球すると、賞球数（本例では、2球）が払出される。このように、右一般入賞口P20を第1大入賞口C10及び第2大入賞口C20よりも上流に配置することにより、特別遊技の実行中に第1大入賞口C10又は第2大入賞口C20への入球を狙って右打ちにて遊技を進行した場合に、当該右打ちにて発射した遊技球が右一般入賞口P20に入球し得ることによって特別遊技にて獲得可能な遊技球数を増加させることができることとなる。尚、右一般入賞口P20の近傍に備えられた遊技釘の代りに（樹脂などで成型された）成形物を設けることにより、右一般入賞口P20への入球容易性を調整するよう構成してもよい。

40

【0264】

以上のように構成することにより、本実施形態に係るぱちんこ遊技機においては、特別遊技の実行中に、右打ちにて発射した遊技球が、右打ちルート流出口D50から流出される際、第1大入賞口C10（又は第2大入賞口C20）への入球容易性を担保しつつ、遊技球の転動方向によっては、遊技球が右一般入賞口P20にも入球される。即ち、遊技球が第1大入賞口C10（又は第2大入賞口C20）へ入球する前に、右一般入賞口P20にも入球し得る構成としている。このため、特別遊技の実行期間における遊技者の獲得遊技球数が増加することとなる。よって、遊技者は、右一般入賞口P20への入球への関心

50

が増すこととなり、結果、特別遊技の興趣性が高まることになる。更に、特別遊技中に右一般入賞口P20に所定数（本例では、5球）入球することにより、右一般入賞口用ランプLP10が点灯し、右一般入賞口用ランプLP10の点灯態様によって、特別遊技終了後の確率変動遊技状態への移行期待度を示唆し得るよう構成した。このように構成することによって、例えば、特別遊技の実行中に右一般入賞口P20に複数球遊技球が入球し、その後右一般入賞口用ランプLP10が「虹色」にて点灯した場合には、遊技者は特別遊技によって獲得した遊技球が多くなったことと、特別遊技終了後に確率変動遊技状態に移行することとの2つの高利益となる事象に歓喜することとなり、興趣性の高い遊技機を提供することができることとなる。

【0265】

尚、本実施形態においては、補助遊技始動口H10と右一般入賞口P20との配置関係を、図1に例示するように、右一般入賞口P20を補助遊技始動口H10の下流側に配置する構成とした。これにより、遊技球1球で、2つの補助遊技乱数を取得するように構成することが可能となる。尚、右一般入賞口P20を補助遊技始動口H10の上流側に配置する構成としてもよい。そのように構成することにより、遊技球1球で1つの補助遊技乱数を取得するように構成することが可能となる。

【0266】

また、本実施形態においては、右一般入賞口用ランプLP10は、右一般入賞口P20に遊技球が入球した場合、右一般入賞口用ランプ点灯態様決定テーブルを参照し、停止中の大当たり図柄に基づいて点灯態様を決定するように構成したが、液晶やLED等の色の違いだけでなく、停止中の大当たり図柄が確変大当たり図柄であるか非確変大当たり図柄であるかに基づいて演出表示装置SGに表示する表示態様を決定するように構成してもよい。例えば、特別遊技終了後の確率変動遊技状態への移行期待度の低いものから順に「チャンス→アツイ！→ゲキアツ！！」のように文字の種類によって期待度を示唆してもよいし、特別遊技終了後の確率変動遊技状態への移行期待度の低いものから順に「チャンス（小）→アツイ！（中）→ゲキアツ！！（大）」のように、文字の種類と文字の大きさ（表示領域の大きさ）によって期待度を示唆してもよい。また、停止中の大当たり図柄が確変大当たり図柄であるか非確変大当たり図柄であるかに基づいてスピーカD24から出力する音声等の効果音を決定するように構成してもよい。例えば、特別遊技終了後の確率変動遊技状態への移行期待度の低いものから「チャンス→アツイ！→ゲキアツ！！」のように音声の種類によって期待度を示唆してもよいし、音声の出力に加えて、特別遊技終了後の確率変動遊技状態への移行期待度の低いものから音量を「チャンス（小さい音量）→アツイ！（中位の音量）→ゲキアツ！！（大音量）」のように音声の種類と音量とによって期待度を示唆してもよい。更に、上述した点灯、表示、表示の大きさ、音声、音量を組み合わせてもよい。例えば、特別遊技終了後の確率変動遊技状態への移行期待度の低いものから点滅速度を「遅く→少し速く→速く」とすると同時に、音声と音量についても期待度の低いものから「チャンス（小さい音量）→アツイ！（中位の音量）→ゲキアツ！！（大音量）」と出力するようにしてもよい。これにより、遊技者は、右一般入賞口P20への入球への関心が増すこととなり、結果、特別遊技の興趣性が更に高まることになる。尚、右一般入賞口用ランプLP10の点灯態様の項目で説明したように、最終態様が同じであっても変化タイミングによって期待度を異ならせることも可能である。

【0267】

また、本実施形態においては、左一般入賞口P10に遊技球が入賞した場合の賞球払出数を3球とし、右一般入賞口P20に遊技球が入賞した場合の賞球払出数を2球としているが、左一般入賞口P10に遊技球が入賞した場合の賞球払出数を3球以上（ここで、左一般入賞口P10の最低賞球払出数である3球を、「基準賞球払出数」と称する）とし、右一般入賞口P20に遊技球が入賞した場合の賞球払出数を、基準賞球払出数より少なくとも1球以上少なくするように構成してもよい。例えば、左一般入賞口P10の賞球払出数（基準賞球払出数）が3球であれば、右一般入賞口P20の賞球払出数は2球或いは1球であればよい。また、左一般入賞口P10の賞球払出数が5球であれば、右一般入賞口

10

20

30

40

50

P 2 0 の賞球払出数は 2 球或いは 1 球であればよい。このように、左一般入賞口 P 1 0 の賞球払出数に比して右一般入賞口 P 2 0 の賞球払出数を減らすことが可能となる。このように、左一般入賞口 P 1 0 と右一般入賞口 P 2 0 との賞球払出数を変更可能にすることで、特別遊技中の賞球払出数を調整し易くなる。また、右一般入賞口 P 2 0 のような賞球数が相対的に少ない入賞口を有するよう構成することにより、遊技機の出玉率を微調整することが容易となり、右一般入賞口 P 2 0 の位置等を調整することにより遊技機を最適な出玉率に設計し易くなる。

【 0 2 6 8 】

(本実施形態からの変更例 1)

ここで、本実施形態においては、右一般入賞口 P 2 0 が、第 1 大入賞口 C 1 0 (又は第 2 大入賞口 C 2 0) より上流側に設置した構成とし、特別遊技中に右打ちした場合、遊技球が右打ちルート M R 1 0 を通過し右打ちルート流出口 D 5 0 から流出すると、遊技球が第 1 大入賞口 C 1 0 (又は第 2 大入賞口 C 2 0) 近傍に到達する前に、右一般入賞口 P 2 0 近傍に到達する構成としたが、右一般入賞口 P 2 0 が、第 1 大入賞口 C 1 0 (又は第 2 大入賞口 C 2 0) との配置関係についてはこれに限定されない。そこで、そのような別の態様について、本実施形態からの変更例 1 として以下、本実施形態からの変更点について主に説明する。

【 0 2 6 9 】

はじめに、図 5 7 は、本実施形態からの変更例 1 におけるぱちんこ遊技機の正面図である。本実施形態との相違点についてのみ詳述することとする。まず、本実施形態からの変更例 1 における右一般入賞口 P 2 0 は、本実施形態とは異なり、右一般入賞口 P 2 0 が、第 1 大入賞口 C 1 0 (又は第 2 大入賞口 C 2 0) より下流側に設置された構成である。ここで、第 1 大入賞口 C 1 0 (又は第 2 大入賞口 C 2 0) が開放している場合においては、右打ちルート流出口 D 5 0 から流出された遊技球は、第 1 大入賞口 C 1 0 (又は第 2 大入賞口 C 2 0) に入球する場合の方が右一般入賞口 P 2 0 に入球する場合よりも相対的に多くなるよう構成されている。

【 0 2 7 0 】

次に、図 5 8 は、本実施形態からの変更例 1 における、第 1 (第 2) 大入賞口及び右一般入賞口に係る作用図である。

【 0 2 7 1 】

同図に示すように、本実施形態においては、右一般入賞口 P 2 0 は、第 1 大入賞口 C 1 0 (又は第 2 大入賞口 C 2 0) よりも下流側に設置されている。

【 0 2 7 2 】

まず、同図左に示すように、例えば、特別遊技の実行中に、右打ちルート流出口 D 5 0 から流出された遊技球が、遊技盤 D 3 5 上に備えられた遊技釘の間を流下し、開放状態である第 1 大入賞口 C 1 0 へ入球する。尚、第 1 大入賞口 C 1 0 へ入球すると、賞球数 (本例では、13 球) が払出される。

【 0 2 7 3 】

次に、同図右に示すように、例えば、特別遊技の実行中に、右打ちルート流出口 D 5 0 から流出された遊技球が、閉鎖状態である第 1 大入賞口 C 1 0 (又は第 2 大入賞口 C 2 0) を通過することによって下流に流下し、右一般入賞口 P 2 0 へ入球する場合がある。尚、右一般入賞口 P 2 0 へ入球すると、賞球数 (本例では、2 球) が払出される。また、遊技盤 D 3 5 上に備えられた遊技釘の代りに成形物を設けることにより、右一般入賞口 P 2 0 への入球容易性を調整することが可能となる。このように、右一般入賞口 P 2 0 を第 1 大入賞口 C 1 0 又は第 2 大入賞口 C 2 0 よりも下流側に設けることにより、第 1 大入賞口 C 1 0 又は第 2 大入賞口 C 2 0 が閉鎖状態である場合等において第 1 大入賞口 C 1 0 及び第 2 大入賞口 C 2 0 に遊技球が入球しなかった場合にも、その後右一般入賞口 P 2 0 に入球し得るよう構成されている。

【 0 2 7 4 】

以上のように構成することにより、本実施形態に係るぱちんこ遊技機においては、特別

10

20

30

40

50

遊技の実行中に、右打ちにて発射した遊技球が、右打ちルート流出口D50から流出される際、第1大入賞口C10（又は第2大入賞口C20）が開放状態である場合には、遊技球が第1大入賞口C10（又は第2大入賞口C20）に入球し、第1大入賞口C10（又は第2大入賞口C20）が閉鎖状態である場合には、遊技球がそのまま通過して右一般入賞口P20にも入球し得ることとなる。このため、右一般入賞口P20が、第1大入賞口C10（又は第2大入賞口C20）より上流側に設置された場合に比して右一般入賞口P20に入球し難くなる（右一般入賞口P20が第1大入賞口C10（又は第2大入賞口C20）より上流側に設置されていた場合には、右打ちルート流出口D50から流出されたすべての遊技球が右一般入賞口P20の近傍を流下する一方、右一般入賞口P20が第1大入賞口C10（又は第2大入賞口C20）より下流側に設置されていた場合には、右打ちルート流出口D50から流出された遊技球のうち第1大入賞口C10（又は第2大入賞口C20）に入球しなかった遊技球のみが右一般入賞口P20の近傍を流下するため）。よって、遊技者にとっては、右一般入賞口P20への入球への関心を増しつつ（不利益を与えることなく）も、遊技としては第1大入賞口C10（又は第2大入賞口C20）が開放状態であり、右一般入賞口P20が第1大入賞口C10（又は第2大入賞口C20）より上流側に設置されている場合よりも特別遊技実行中において右一般入賞口P20に入球し難くなるため、特別遊技が実行された場合に獲得可能な賞球数に影響を与えることを抑えることができる。

【0275】

尚、本例における遊技機のように、右打ちを実行した場合に入球し得る補助遊技側の乱数を取得可能な入球口として、補助遊技始動口H10と右一般入賞口P20とを設けた場合には、補助遊技始動口H10と右一般入賞口P20との設置する位置や入球容易性（例えば、成型物によって調整する）を調整することによって適切な遊技機に設計することができる。一例としては、補助遊技始動口H10への入球比率を相対的に高くすることにより、時間短縮遊技状態におけるベース（大当たりが実行されていない状況における、発射した総遊技球数に対する賞球数の割合）を高くすることができる。また、右一般入賞口P20への入球比率を相対的に高くすることにより、時間短縮遊技状態に滞在している期間を長期間に設計することが容易となる。

【0276】

尚、本例では、大入賞口を2つ備える構成を例示したが、これに限定されることはなく大入賞口が1つの遊技機にも上述した構成を適用可能である。また、本例に係る遊技機に適用可能な構成として、大入賞口（2つ有する大入賞口のうちの1つの大入賞口でもよいし、大入賞口を1つのみ有していてもよい）内に遊技球が通過し得る特定領域を備え、特定領域を通過することにより、大当たりの実行（小当たり実行中に特定領域に入球することにより、小当たり終了後に大当たりが実行される）、大当たり（又は小当たり）終了後の確率変動遊技状態への移行有無、又は、大当たり（又は小当たり）終了後の時間短縮遊技状態への移行有無、等が決定されるように構成してもよい。

【0277】

<<本実施形態の出玉設計条件について>>

以上、本実施形態並びに、これらの変更例を記載したが、上述した実施形態に係るぱちんこ遊技機は過剰な出玉性能とならないように各種設計がなされており、以下ではこの点について補足的に説明する。尚、以下の構成が適用できるのは上述した実施形態のみに限定されず、後述するすべての実施形態に適用可能であることを補足しておく。

【0278】

<短時間の出玉性能>

遊技球の発射を最も多数の遊技球の獲得が見込まれる発射速度及び発射強度により1時間継続して遊技球の発射を行った場合に獲得する遊技球の総数が、発射した遊技球の総数3分の1（約33%）を超え、2.2倍（220%）に満たないように出玉設計がなされている。本例においては、1分間に遊技球を100球発射可能（1時間で6000球の遊技球を発射可能）であるため、設計上、1時間で獲得する遊技球の総数が6000×1／

10

20

30

40

50

3 = 2000球を超え、6000 × 2.2 = 13200球に満たないように出玉設計がなされている。具体的には、時間当たりの主遊技始動口（例えば、第1主遊技始動口A10、第2主遊技始動口B10）への入賞個数、主遊技図柄表示装置（例えば、第1主遊技図柄表示装置A20、第2主遊技図柄表示装置B20）の作動回数（主遊技図柄の変動回数）、主遊技図柄の当り確率（大当り確率）、特別遊技（大当り遊技、大当りとも称することがある）の内容、確率変動遊技状態や電サポ遊技状態（普通電動役物に係る入賞口の開放等の時間、開放等までの時間、開放等の回数及び普通電動役物が作動することとなる図柄の組合せが表示される確率を入賞が容易となるように変動させる状態）への移行確率と終了条件等が設定されている。

【0279】

より詳細には、通常遊技状態（非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態）において、主遊技始動口への入賞率が1分間に5.8個、主遊技図柄の変動回数が1分間に5.7回、大当り確率が1/319、特別遊技（大当り遊技）の平均獲得遊技数が1500個、確率変動割合が60%（例えば、特別遊技の6割で特別遊技の終了後に確率変動遊技に移行する）、電サポ遊技は確率変動遊技状態中と、特別遊技終了後の遊技状態が非確率変動遊技状態の場合であって、100回の主遊技図柄の変動が行われるまでに設定され、確率変動遊技状態（電サポ遊技と同時に実行される）において、主遊技始動口への入賞率が1分間に40個（賞球は1個）、主遊技図柄の変動回数が1分間に40.0回、大当り確率が1/159.8に設定され、電サポ遊技（非確率変動遊技状態の場合）において、主遊技始動口への入賞率が1分間に40個、主遊技図柄の変動回数が1分間に40回に設定されている。なお、本例では、特別遊技（大当り遊技）の平均獲得遊技球数と確率変動割合は遊技状態にかかわらず一定に設定されている。

【0280】

また、本例に係るぱちんこ遊技機においては、1回の大当りにて実行され得る最大のラウンド数は10ラウンドとなっており、このように構成することにより、短時間の出玉性能が高くなりすぎることを抑制することができることとなる。尚、詳細は後述することとなるが、1回の大当りにて11ラウンド以上のラウンドを実行し得るよう構成してもよく、そのように構成する場合には、1回のラウンド又は1回の大当りにて獲得（払出）可能な遊技球数を調整することにより、短時間の出玉性能が高くなりすぎることを抑制することが好適である。また、1時間で獲得する遊技球の総数が6000 × 1/3 = 2000球を超える遊技機の構成の一例としては、一般入賞口に遊技球が1球入球することにより払い出される遊技球数を設計上最大となる15球とし、1時間遊技球を発射し続けても1回も大当り及び小当りに当選しなかった場合においても、1時間で獲得する遊技球の総数が2000球を超えることが望ましく、そのような場合においては、1時間遊技球を発射し続けた場合に、一般入賞口に少なくとも134球以上入球するような遊技盤面の構成とすることが好適である（遊技釘の配置や一般入賞口の設置位置を適宜調整することによって1時間あたりに少なくとも134球以上遊技球が入球するよう構成している）。そのように構成することによって、15球 × 134 = 2010 > 2000となり、1時間で獲得する遊技球の総数が2000球を超える遊技機を設計することができる。

【0281】

<1時間で獲得する遊技球の総数が12000球に満たない遊技機の構成>

遊技球の発射を最も多数の遊技球の獲得が見込まれる発射速度及び発射強度により1時間継続して遊技球の発射を行った場合に、大当りに1回も当選しなくとも、獲得する遊技球の総数が発射する遊技球の総数の3分の1（約33%）を超えるよう設計し、且つ、遊技球の発射を最も多数の遊技球の獲得が見込まれる発射速度及び発射強度により1時間継続して遊技球の発射を行った場合に、獲得する遊技球の総数が発射する遊技球の総数の200%に満たないよう設計する場合の一例を以下に詳述する。

【0282】

（1）まず、1時間の間大当りに1回も当選しなかった場合にも、発射する遊技球の総数の3分の1 = 6000 × (1/3) = 2000球が獲得できるよう設計されている。

(2) また、1時間遊技球を発射し続けて獲得可能な遊技球数は $6000 \times 2 (200\%) = 12000$ 球未満にしなければならない。

(3) 上記(1)及び(2)から、1時間の期間にて、大当りによって獲得可能な最大の遊技球数は $12000 - 2000 = 10000$ 球未満でなければならない。

(4) 1回の大当りで払出可能な最大の遊技球数を1500球とした場合(1500球払出可能な大当りを最大払出大当りと称することがある)、 $10000 \div 1500 = 6$ 余り1000であるので、1時間で最大払出大当りを6回実行できることとなるが、大当りによる払出以外で前記余りである1000球以上の払出が生じることで、1時間遊技球を発射し続けて獲得可能な遊技球数が12000球以上となってしまう。時間短縮遊技状態である場合に第2主遊技始動口電動役物B11dが頻繁に開放することで第2主遊技始動口B10に遊技球が大量に入球すると、1時間遊技球を発射し続けて獲得可能な遊技球数が12000球以上となってしまう恐れがある。

10

(5) 上記(4)の理由から、最大払出大当り1回分の払い出される遊技球数を担保し、1時間で最大払出大当りを $6 - 1 = 5$ 回実行され得よう遊技機を設計することで、1時間遊技球を発射し続けて獲得可能な遊技球数が12000球以上となってしまうことがない遊技機を設計することができる。

(6) 上記(5)のように設計する場合、1時間(60分)で5回の大当りが実行される場合において、ある大当りの実行終了後から次回の大当りの実行終了後までの平均の時間は、 $60 \text{分} \div 5 \text{回} = 12 \text{分}$ となり、大当りの実行時間が3分であった場合、前記ある大当りの実行終了後から次回の大当りの実行開始までの時間は $12 \text{分} - 3 \text{分} = 9 \text{分}$ となる。

20

(7) 確率変動遊技状態における大当り当選確率が $1/40$ である場合において、前記ある大当りの実行終了後から次回の大当りの実行開始までの図柄変動が確率変動遊技状態における図柄変動であった場合の、大当りとなるまでに実行される平均の変動回数は40回であり、40回の図柄変動を実行して大当りとなる場合の図柄変動1回あたりの平均変動時間は、 $540 \text{秒} (9 \text{分}) \div 40 = 12.5 \text{秒}$ となる。

【0283】

上記のように、1時間で獲得する遊技球の総数が12000球に満たないよう設計した遊技機においては、大当り(最大払出大当り)の実行時間が3分であることに対して、大当りに当選するまでの平均時間が9分であり、大当りに当選していない時間が遊技の $3/4$ を占めてしまい、遊技者の遊技意欲が削がれ易くなってしまう。

30

【0284】

<1時間で獲得する遊技球の総数が13200球に満たない遊技機の構成>

遊技球の発射を最も多数の遊技球の獲得が見込まれる発射速度及び発射強度により1時間継続して遊技球の発射を行った場合に、大当りに1回も当選しなくとも、獲得する遊技球の総数が発射する遊技球の総数の $3/10$ (約33%)を超えるよう設計し、且つ、遊技球の発射を最も多数の遊技球の獲得が見込まれる発射速度及び発射強度により1時間継続して遊技球の発射を行った場合に、獲得する遊技球の総数が発射する遊技球の総数の220%に満たないよう設計する場合の一例を以下に詳述する。

【0285】

(1) まず、1時間の間大当りに1回も当選しなかった場合にも、発射する遊技球の総数の $3/10 = 6000 \times (1/3) = 2000$ 球が獲得できるよう設計されている。

40

(2) また、1時間遊技球を発射し続けて獲得可能な遊技球数は $6000 \times 2.2 (220\%) = 13200$ 球未満にしなければならない。

(3) 上記(1)及び(2)から、1時間の期間にて、大当りによって獲得可能な最大の遊技球数は $13200 - 2000 = 11200$ 球未満でなければならない。

(4) 1回の大当りで払出可能な最大の遊技球数を1500球とした場合(1500球払出可能な大当りを最大払出大当りと称することがある)、 $11200 \div 1500 = 7$ 余り700であるので、1時間で最大払出大当りを7回実行できることとなるが、大当りによる払出以外で前記余りである700球以上の払出が生じることで、1時間遊技球を発射し続けて獲得可能な遊技球数が13200球以上となってしまう。時間短縮遊技状態である

50

場合に第2主遊技始動口電動役物B11dが頻繁に開放することで第2主遊技始動口B10に遊技球が大量に入球すると、1時間遊技球を発射し続けて獲得可能な遊技球数が13200球以上になってしまう恐れがある。

(5) 上記(4)の理由から、最大払出大当たり1回分の払い出される遊技球数を担保し、1時間で最大払出大当たりを $7-1=6$ 回実行され得よう遊技機を設計することで、1時間遊技球を発射し続けて獲得可能な遊技球数が13200球以上となってしまうことがない遊技機を設計することができる。

(6) 上記(5)のように設計する場合、1時間(60分)で6回の大当たりが実行される場合において、ある大当たりの実行終了後から次回の大当たりの実行終了後までの平均の時間は、 $60\text{分} \div 6\text{回} = 10\text{分}$ となり、大当たりの実行時間が3分であった場合、前記ある大当たりの実行終了後から次回の大当たりの実行開始までの時間は $10\text{分} - 3\text{分} = 7\text{分}$ となる。

(7) 確率変動遊技状態における大当たり当選確率が $1/40$ である場合において、前記ある大当たりの実行終了後から次回の大当たりの実行開始までの図柄変動が確率変動遊技状態における図柄変動であった場合の、大当たりとなるまでに実行される平均の変動回数は40回であり、40回の図柄変動を実行して大当たりとなる場合の図柄変動1回あたりの平均変動時間は、 $420\text{秒}(7\text{分}) \div 40 = 10.5\text{秒}$ となる。

【0286】

上記のように、1時間で獲得する遊技球の総数が13200球に満たないよう設計した遊技機においては、大当たり(最大払出大当たり)の実行時間が3分であることに対して、大当たり当選するまでの平均時間が7分であり、前述した1時間で獲得する遊技球の総数が12000球に満たない遊技機の構成と比較して、大当たり当選するまでの平均時間と大当たりの実行時間とのバランスを改善することができ、遊技者の遊技意欲を高める興趣性の高い遊技機とすることができる。また、図柄変動1回あたりの平均変動時間についても、前述した1時間で獲得する遊技球の総数が12000球に満たない遊技機の構成と比較して、短時間にすることができ、テンポのよい遊技進行を実現可能な遊技機を創出することができることとなる。

【0287】

<中時間の出玉性能1>

遊技球の発射を4時間継続して、最も多数の遊技球の獲得が見込まれる発射速度及び発射強度により行った場合に獲得する遊技球の総数が発射させた遊技球の総数の5分の2(40%)を超え、かつ、2分の3(150%)に満たないように出玉設計がなされている。本例においては、1分間に遊技球を100球発射可能(4時間で24000球の遊技球を発射可能)であるため、設計上、4時間で獲得する遊技球の総数が $24000 \times 0.4 = 9600$ 球を超え、かつ、 $24000 \times 1.5 = 36000$ 球に満たないように出玉設計がなされている。具体的には、時間当たりの主遊技始動口(第1主遊技始動口A10、第2主遊技始動口B10)への入賞個数、主遊技図柄表示装置(第1主遊技図柄表示装置A20、第2主遊技図柄表示装置B20)の作動回数(主遊技図柄の変動回数)、主遊技図柄の当り確率(大当たり確率)、特別遊技(大当たり遊技)の内容、確率変動遊技状態や電サポ遊技状態(普通電動役物に係る入賞口の開放等の時間、開放等までの時間、開放等の回数及び普通電動役物(例えば、第2主遊技始動口電動役物B11d)が作動することとなる図柄の組合せが表示される確率を入賞が容易となるように変動させる状態)への移行確率と終了条件等が設定されている。

【0288】

<中時間の出玉性能2>

遊技球の発射を10時間継続して、最も多数の遊技球の獲得が見込まれる発射速度及び発射強度により行った場合に獲得する遊技球の総数が発射させた遊技球の総数の2分の1を超え、かつ、3分の4(約133%)に満たないように出玉設計がなされている。本例においては、1分間に遊技球を100球発射可能(10時間で60000球の遊技球を発射可能)であるため、設計上、10時間で獲得する遊技球の総数が $60000 \div 2 = 30000$ 球を超え、かつ、 $60000 \times 1.34 = 80400$ 球に満たないように出玉設計

10

20

30

40

50

がなされている。具体的には、時間当たりの主遊技始動口（第1主遊技始動口A10、第2主遊技始動口B10）への入賞個数、主遊技図柄表示装置（第1主遊技図柄表示装置A20、第2主遊技図柄表示装置B20）の作動回数（主遊技図柄の変動回数）、主遊技図柄の当り確率（大当り確率）、特別遊技（大当り遊技）の内容、確率変動遊技状態や電サポ遊技状態（普通電動役物に係る入賞口の開放等の時間、開放等までの時間、開放等の回数及び普通電動役物（例えば、第2主遊技始動口電動役物B11d）が作動することとなる図柄の組合せが表示される確率を入賞が容易となるように変動させる状態）への移行確率と終了条件等が設定されている。

【0289】

主遊技始動口への入賞率、主遊技図柄の変動回数、大当り確率、特別遊技（大当り遊技）の平均獲得遊技球数、確率変動割合や電サポ遊技の移行・終了割合は前述の通りであり、獲得する遊技球の総数が発射させた遊技球の総数の2分の1以下とならないように、遊技機の主遊技始動口や一般入賞口の賞球数は夫々2個、3個に設定されている。ここで、出玉性能の中核をなす特別遊技への移行可否を決定する際には、電子的な抽選を実行しているため、特定の10時間においては設計値よりも特別遊技に移行する頻度が低い場合も想定される。そこで、このような場合でも一定の賞球数が得られる（例えば、10時間あたり18000個）ように一般入賞口の賞球数や入賞割合が設計されており、一日当りの消費遊技球数を一定の範囲に収めていることが可能となり、ユーザーフレンドリーな遊技機とすることができる。

【0290】

＜役物に係る出玉性能＞

尚、本例においては、特別電動役物として機能する大入賞口（第1大入賞口C10、第2大入賞口C20など）開放時における大入賞口への入賞と、普通電動役物（本例では、第2主遊技始動口電動役物B11d）として機能し、普通電動役物開放時における普通電動役物が取り付けられた入賞口（本例では、第2主遊技始動口B10）への入賞とが、役物の作動によって入賞が容易になった入賞口への入賞に該当する。遊技機の射幸性を一定程度に収めるため、本例では、これらの役物により獲得できる遊技球数が獲得できるすべての遊技球数の7割を超えないように、また、大当りにより獲得できる遊技球数が獲得できるすべての遊技球数の6割を超えないように、出玉設計がなされている。

【0291】

尚、獲得する遊技球の数のうち役物の作動によるものの割合とは、役物比率と称することがあり、役物比率とは、すべての賞球払出数に対する大入賞口による賞球払出数及び普通電動役物が設けられている入賞口（本例では、第2主遊技始動口B10）による賞球払出数が占める割合であり、本例においては、第1主遊技始動口A10と第2主遊技始動口B10と第1大入賞口C10（第2大入賞口C20）と一般入賞口との合計の賞球払出数に対する、第2主遊技始動口B10と第1大入賞口C10（第2大入賞口C20）との合計の賞球払出数が占める割合となっている。

【0292】

また、役物が連続して作動する場合における当該役物の作動によるものの割合とは、連続役物比率と称することがあり、連続役物比率とは、すべての賞球払出数に対する大入賞口による賞球払出数が占める割合であり、本例においては、第1主遊技始動口A10と第2主遊技始動口B10と第1大入賞口C10（第2大入賞口C20）と一般入賞口との合計の賞球払出数に対する、第1大入賞口C10（第2大入賞口C20）の賞球払出数が占める割合となっている。また、より厳密には、連続役物比率とは、すべての賞球払出数に対する、条件装置作動フラグがオンとなっている場合の大入賞口による賞球払出数が占める割合であるため、そのように連続役物比率を算出する場合には、大入賞口の賞球払出数を記憶するためのリングバッファを2つ設けて、一方のリングバッファには、条件装置作動フラグがオンである場合の大入賞口による賞球払出数（大当りによる賞球払出数）を記憶し、他方のリングバッファには、条件装置作動フラグがオフである場合の大入賞口による賞球払出数（小当りによる賞球払出数）を記憶することによって連続役物比率を算出（

記憶) するよう構成してもよい。

【0293】

なお、上述のとおり、獲得する遊技球の数のうち役物の作動によるものの割合を抑止するため、特別電動役物が搭載されている本例においては、普通電動役物は1つのみの搭載に留めている。ちなみに、本例では、普通電動役物（本例では、第2主遊技始動口電動役物B11d）の作動契機をゲートの形状をしている補助遊技始動口H10への入球としているが、メカ式チューリップのような他の役物（大入賞口以外）の入賞により作動するように構成することもできる。なお、いうまでもないが、当該普通電動役物の作動により開放等する入賞口との関係は遊技状態によって変化することなく、一対一となるように設定されている。

10

【0294】

（第2実施形態）

次に、各構成要素について説明する前に、第2実施形態に係るぱちんこ遊技機の特徴（概略）を説明する。以下、図面を参照しながら、各要素について詳述する。

【0295】

尚、以下の実施形態におけるステップ番号、符号、手段名等は、他の実施形態におけるステップ番号、符号、手段名等と同一である場合があるが、これらはそれぞれ単独の実施形態におけるステップ番号、符号、手段名等であることを示している（例えば、本実施形態におけるステップ2102と第2実施形態におけるステップ2102は、別の実施形態におけるステップ2102であるため、それぞれ単独で機能する処理である）。

20

【0296】

尚、限定頻度とは、特定の図柄が停止表示された後の主遊技図柄の変動態様の種類及び／又は選択率が、当該特定の図柄が停止表示される前の主遊技図柄の変動態様の種類及び／又は選択率とは異なる状態（限定頻度状態）のことである。

【0297】

ここで、第2実施形態に係るぱちんこ遊技機は、ゼロクリア可能な第1・第2主遊技図柄変動管理用タイマMP11t-C（デクリメントカウンタ）を有している。更に、第2実施形態に係るぱちんこ遊技機は、時間を計測可能な補助遊技図柄変動管理用タイマMP11t-Hを更に備えている。また、第2実施形態に係るぱちんこ遊技機は、第2主遊技始動口B10の電動役物B11dの駆動（開放）時間を計測する第2主遊技始動口電動役物開放タイマMP22t-Bとを有している。また、第2実施形態に係るぱちんこ遊技機は、第1大入賞口C10と第2大入賞口C20への入賞球を計測する入賞球カウンタMP33cを有している。特別遊技時間管理手段MP34は、ラウンド時間を管理する特別遊技用タイマMP34tを更に有している。

30

【0298】

ここで、第2実施形態に係るぱちんこ遊技機は、確変回数をカウント可能な確変回数カウンタMP51c、時短回数をカウント可能な時短回数カウンタMP52c、を有している。ここで、「特定遊技」とは、例えば、特別遊技への抽選確率が通常遊技時よりも高い確率変動遊技や、主遊技図柄の変動時間が通常遊技時よりも相対的に短い時間短縮遊技を指す。

40

【0299】

ここで、第2実施形態においては、時間短縮遊技中には、非時間短縮遊技中と比較して、第1主遊技図柄及び第2主遊技図柄の変動時間が相対的に短縮される（時間短縮機能）。更に、補助遊技図柄の変動時間も相対的に短縮されると共に、第2主遊技始動口B10の電動役物B11dの開放延長時間が相対的に延長される（開放時間延長機能）。また、第2実施形態における時間短縮遊技は、第1主遊技図柄の変動回数と第2主遊技図柄の変動回数の合計値が所定回数を超えた場合に終了する。即ち、時短回数は、第1主遊技図柄及び第2主遊技図柄の変動（停止）毎に減算されるよう構成されている。

【0300】

次に、遊技周辺機器について説明する。尚、一部の周辺機器については既に詳細構成を

50

述べたので、残る構成について簡潔に説明する。まず、遊技周辺機器は、第1主遊技側の周辺機器である第1主遊技周辺機器Aと、第2主遊技側の周辺機器である第2主遊技周辺機器Bと、第1主遊技側と第2主遊技側の共用周辺機器である第1・第2主遊技共用周辺機器Cと、補助遊技に関する補助遊技周辺機器Hと、副遊技制御手段（サブメイン制御部）SM、サブサブ制御部SS（及び演出表示装置SG）等、を有している。ここで、サブメイン制御部SMにより制御される演出は、第1主遊技図柄及び第2主遊技図柄の変動と時間的に同期の取れた形での装飾図柄の変動を含め、遊技の結果に影響を与えない情報のみの表示に係るものである。以下、これらの周辺機器を順番に説明する。

【0301】

まず、第1主遊技周辺機器Aは、特別遊技移行の契機となる第1主遊技始動口A10と、第1主遊技図柄の停止表示及び変動表示が可能な第1主遊技図柄表示装置A20と、を有している。

【0302】

次に、第2主遊技周辺機器Bは、特別遊技移行の契機となる第2主遊技始動口B10と、第2主遊技図柄の停止表示及び変動表示が可能な第2主遊技図柄表示装置B20と、を有している。

【0303】

次に、第1・第2主遊技共用周辺機器Cは、通常遊技の際には閉状態にあり、特別遊技（大当り）の際には所定条件下で開状態となる第1大入賞口C10及び第2大入賞口C20を有している。

【0304】

次に、補助遊技周辺機器Hは、第2主遊技始動口B10の第2主遊技始動口電動役物B11dの開放の契機となる補助遊技始動口H10と、補助遊技図柄の停止表示及び変動表示が可能な補助遊技図柄表示装置H20とを有している。

【0305】

ここで、装図変動時間管理タイマSM21tは、装飾図柄の変動時間を計時するよう構成されている。

【0306】

次に、滞在ステージ管理カウンタSM23cは、演出ステージを切り替えるために特別遊技の終了から特定遊技状態において主遊技図柄が何回変動したかをカウントするよう構成されている。また、連荘回数カウンタSM23c2は、継続している特定遊技中に連続して大当りに当選した回数をカウントするよう構成されている。

【0307】

次に、先読み演出実行カウンタSM26cは、保留先読み演出を主遊技図柄の複数変動に亘って実行する場合における当該保留先読み演出の進行状況を管理するよう構成されている。

【0308】

また、演出表示手段（サブサブ制御部）SSは、演出表示手段（サブサブ制御部）SSからの情報に基づいて演出に係る画像を表示する演出表示装置SGと電氣的に接続されている。ここで、演出表示装置SGは、画像を表示する表示領域SG10を有している。

【0309】

ここで、表示領域SG10は、装飾図柄を変動表示するための装飾図柄表示領域SG11と、主遊技保留情報を表示する第1保留表示部SG12（及び第2保留表示部SG13）と、を有している。

【0310】

尚、第1主遊技図柄表示装置A20、第2主遊技図柄表示装置B20及び補助遊技図柄表示装置H20が、主制御基板Mと情報伝達可能に接続されており、残る演出表示手段（サブサブ制御部）SSが、副遊技制御手段（サブメイン制御部）SMと情報伝達可能に接続されている。即ち、第1主遊技図柄表示装置A20、第2主遊技図柄表示装置B20及び補助遊技図柄表示装置H20は、主制御基板Mにより制御され、演出表示手段（サブサ

10

20

30

40

50

ブ制御部) S Sは、副遊技制御手段(サブメイン制御部) S Mにより制御されることを意味する。尚、主制御基板Mと片方向通信(一方向通信)により制御される他の周辺機器を介して、別の周辺機器を制御するように構成してもよい。

【0311】

次に、図59は、図7におけるステップ1200のサブルーチンに係る、電動役物駆動判定処理のフローチャートである。まず、ステップ1202で、主制御基板MのCPUMCは、電動役物開放中フラグがオフであるか否かを判定する。ステップ1202でYesの場合、ステップ1204で、主制御基板MのCPUMCは、補助遊技図柄変動中フラグがオフであるか否かを判定する。ステップ1204でYesの場合、ステップ1206で、主制御基板MのCPUMCは、補助遊技図柄に関する保留球があるか否かを判定する。ステップ1206でYesの場合、ステップ1216で、主制御基板MのCPUMCは、補助遊技側の遊技状態(補助遊技時短フラグのフラグ状態)を取得すると共に、当該取得した補助遊技側の遊技状態及び当該保留球に基づく補助遊技図柄乱数に基づき停止図柄を決定(例えば、補助遊技時短フラグがオンである場合には、オフである場合と比して高確率で当該図柄を選択)して主制御基板MのRAM領域に一時記憶する。

10

【0312】

ここで、同図右は、補助遊技停止図柄決定用抽選テーブルの一例である。同テーブルに示されるように、本例においては、停止図柄は「D0、D1、D2」が存在し、当り図柄となる停止図柄は「D1、D2」であり、夫々が停止したことに起因して開放することとなる電動役物の開放態様は、非時間短縮遊技時には、停止した図柄が「D1」である場合、開放態様は(0.2秒間開放→閉鎖)であり、停止した図柄が「D2」である場合、開放態様は(0.2秒間開放→0.8秒間閉鎖→5.0秒間開放、閉鎖)である(最長開放)。また、時間短縮遊技時には、停止した図柄が「D1」である場合、開放態様は(1秒間開放→1秒間閉鎖→1秒間開放→1秒間閉鎖→1秒間開放→閉鎖)であり、停止した図柄が「D2」である場合、開放態様は(0.2秒間開放→0.8秒間閉鎖→4.0秒間開放→閉鎖)であるよう構成されている。尚、非時間短縮遊技時には停止図柄はハズレ図柄「D0」となり易く、時間短縮遊技時には停止図柄は当り図柄「D1」となり易いよう構成されている。

20

【0313】

次に、ステップ1218で、主制御基板MのCPUMCは、補助遊技側の遊技状態(補助遊技時短フラグのフラグ状態)に基づき、補助遊技図柄変動管理用タイマMP11t-Cに補助遊技図柄の変動時間に係る所定時間(例えば、補助遊技時短フラグがオンの場合には1秒、補助遊技時短フラグがオフの場合には10秒)をセットする。そして、ステップ1220で、主制御基板MのCPUMCは、補助遊技状態一時記憶手段MB10-Hのフラグエリア内にある、補助遊技図柄変動中フラグをオンにする。次に、ステップ1222で、主制御基板MのCPUMCは、主制御基板MのRAM領域に一時記憶されている保留情報を更新すると共に、主制御基板MのCPUMCは、補助遊技図柄変動管理用タイマMP11t-Hをスタートした後、補助遊技図柄表示部H21g上で補助遊技図柄の変動表示を開始する。

30

【0314】

次に、ステップ1224で、主制御基板MのCPUMCは、補助遊技図柄の変動時間に係る所定時間に到達したか否かを判定する。ステップ1224でYesの場合、ステップ1226で、主制御基板MのCPUMCは、補助遊技図柄の停止図柄を取得すると共に、当該取得した補助遊技図柄の停止図柄を補助遊技図柄表示部H21g上で確定表示する。そして、ステップ1228で、主制御基板MのCPUMCは、補助遊技状態一時記憶手段MB10-Hのフラグエリア内にある、補助遊技図柄変動中フラグをオフにする。次に、ステップ1230で、主制御基板MのCPUMCは、当該補助遊技図柄の停止図柄が「当り」(本例では、D1・D2)であるか否かを判定する。ステップ1230でYesの場合、ステップ1232で、主制御基板MのCPUMCは、補助遊技側の当り図柄に基づき、開放態様(例えば、当り図柄「D1」の場合には、1秒間開放→1秒間閉鎖→1秒間開

40

50

放→1秒間閉鎖→1秒間開放→閉鎖となる開放態様、当り図柄「D2」の場合には、0.2秒開放、0.8秒閉鎖、5秒開放となる開放態様を決定し、電動役物の開放時間（開閉時間）に係る所定時間をセットする。次に、ステップ1234で、主制御基板MのCPUMCは、電動役物開放中フラグをオンにする。そして、ステップ1236で、主制御基板MのCPUMCは、第2主遊技始動口B10の第2主遊技電動役物B11dを開放する。次に、ステップ1238で、主制御基板MのCPUMCは、主遊技時短フラグがオフであるか否かを判定する。ステップ1238でYesの場合、ステップ1239で、主制御基板MのCPUMCは、当該停止図柄が所定の当り図柄（本例では、D2）であるか否かを判定する。ステップ1239でYesの場合、ステップ1240で、主制御基板MのCPUMCは、第2主遊技始動口電動役物B11dの最長開放が開始される旨の情報である、サブ側への電動役物最長開放開始コマンドをセットし、ステップ1242に移行する。尚、第2実施形態においては、主遊技時短フラグオフ且つ補助遊技停止図柄が所定の当り図柄（D2）である場合に第2主遊技始動口電動役物B11dを開放し続ける時間が最長となるよう構成されている。

【0315】

次に、ステップ1242で、主制御基板MのCPUMCは、電動役物の開放時間に係る所定時間に到達したか否かを判定する。ステップ1242でYesの場合、ステップ1244及びステップ1246で、主制御基板MのCPUMCは、第2主遊技始動口B10の第2主遊技電動役物B11dを閉鎖すると共に、電動役物開放中フラグをオフにする。次に、ステップ1248で、主制御基板MのCPUMCは、第2主遊技始動口電動役物B11dの最長開放が終了した旨の情報である、サブ側への電動役物最長開放終了コマンドをセットし、次の処理（ステップ1300の処理）に移行する。

【0316】

尚、ステップ1202でNoの場合にはステップ1242に移行し、ステップ1204でNoの場合にはステップ1224に移行し、ステップ1206、ステップ1224、ステップ1230、ステップ1238、ステップ1239及びステップ1242でNoの場合には次の処理（ステップ1300の処理）に移行する。

【0317】

また、本フローチャートでは、便宜上、ステップ1226での停止図柄表示後、すぐに次のステップに移行しているが、これには限定されない。その場合には、500ms程度の停止表示固定時間を経てから次の処理に移行するよう構成してもよい（例えば、停止表示固定中フラグ及びタイマを利用して分岐処理を行うことによりこの処理を達成可能である）。

【0318】

次に、図60は、図24におけるステップ1400（1）{ステップ1400（2）}のサブルーチンに係る、第1主遊技図柄表示処理（第2主遊技図柄表示処理）のフローチャートである。尚、本処理は、第1主遊技図柄側と第2主遊技図柄側とで略同一の処理となるため、第1主遊技図柄側について主に説明し、第2主遊技図柄側の処理については括弧書きとする。まず、ステップ1403で、主制御基板MのCPUMCは、変動開始条件が成立しているか否かを判定する。ここで、当該変動開始条件は、特別遊技中（又は条件装置作動中）でない、且つ、主遊技図柄変動中でない、且つ、主遊技図柄の保留が存在することが条件となる。尚、本例では図示していないが、変動固定時間（主遊技図柄の確定表示後、当該確定表示図柄を停止表示する時間）を設ける場合、変動固定時間中には、次変動の変動開始条件を満たさないよう構成してもよい。

【0319】

ステップ1403でYesの場合、ステップ1405及びステップ1406で、主制御基板MのCPUMCは、主制御基板MのRAM領域に一時記憶されている、今回の図柄変動に係る第1主遊技内容決定乱数（第2主遊技内容決定乱数）を読み出すと共に、当該第1主遊技内容決定乱数（第2主遊技内容決定乱数）を削除し、主制御基板MのRAM領域に一時記憶されている残りの情報をシフトする（保留消化処理）。次に、ステップ141

0 - 1で、主制御基板MのCPUMCは、第1主遊技内容決定乱数（第2主遊技内容決定乱数）（特に、当選抽選乱数）に基づき、主遊技図柄当否抽選を実行する。

【0320】

次に、ステップ1410 - 2で、主制御基板MのCPUMCは、主遊技図柄当否抽選結果及び第1主遊技内容決定乱数（第2主遊技内容決定乱数）（特に、図柄抽選乱数）に基づいて主遊技図柄に関する停止図柄を決定し、これらをRAM領域に一時記憶する。

【0321】

次に、ステップ1411で、主制御基板MのCPUMCは、当該カウンタ値が0であるか否かを判定する。ステップ1411でYesの場合、換言すれば、通常遊技状態（非確率変動・非時間短縮遊技状態）である場合、ステップ1412で、主制御基板MのCPUMCは、主遊技図柄当否抽選結果及び第1主遊技内容決定乱数（第2主遊技内容決定乱数）（特に、変動態様抽選乱数）に基づいて主遊技図柄の変動態様を決定し、これらを主制御基板MのRAM領域に一時記憶して、ステップ1414に移行する。

【0322】

他方、ステップ1411でNoの場合、換言すると、確率変動遊技状態である場合、ステップ1450で、主制御基板MのCPUMCは、後述する、限定頻度変動態様決定処理を実行する。次に、ステップ1413で、主制御基板MのCPUMCは、限定頻度カウンタMN52cのカウンタ値を1減算（デクリメント）し、ステップ1414に移行する。また、ステップ1413の処理は、ステップ1420でYesとなった直後（変動時間が終了したタイミング）にて実行するよう構成してもよい。

【0323】

次に、ステップ1414で、主制御基板MのCPUMCは、主制御基板MのRAM領域に一時記憶された主遊技図柄に係るコマンド（停止図柄情報、停止図柄の属性情報、変動態様情報等）及び現在の遊技状態に係るコマンド（図柄変動表示開始指示コマンド）を、サブメイン制御部SM側に送信するためのコマンド送信用バッファMT10にセット（ステップ1999の制御コマンド送信処理によってサブメイン制御部SM側に送信される）する。次に、ステップ1415で、主制御基板MのCPUMCは、主遊技図柄の変動時間に係る所定時間を第1・第2主遊技図柄変動管理用タイマMP11t - Cにセットする。次に、ステップ1416で、主制御基板MのCPUMCは、第1主遊技図柄表示装置A20（第2主遊技図柄表示装置B20）の第1主遊技図柄表示部A21g（第2主遊技図柄表示部B21g）上で、主制御基板MのRAM領域に一時記憶された変動態様に従い、主遊技図柄の変動表示を開始する。次に、ステップ1417で、主制御基板MのCPUMCは、変動中フラグをオンにし、ステップ1420に移行する。

【0324】

他方、ステップ1403でNoの場合、ステップ1419で、主制御基板MのCPUMCは、変動中フラグがオンであるか否かを判定する。ステップ1419でYesの場合にはステップ1420に移行し、ステップ1419でNoの場合には次の処理（ステップ1550の処理）に移行する。

【0325】

次に、ステップ1420で、主制御基板MのCPUMCは、主遊技図柄の変動時間に係る所定時間に到達したか否かを判定する。ステップ1420でYesの場合、ステップ1422で、主制御基板MのCPUMCは、図柄変動が終了する旨の情報（図柄確定表示指示コマンド）を、サブメイン制御部SM側に送信するためのコマンド送信用バッファMT10にセット（ステップ1999の制御コマンド送信処理によってサブメイン制御部SM側に送信される）する。次に、ステップ1423で、主制御基板MのCPUMCは、第1主遊技図柄表示装置A20（第2主遊技図柄表示装置B20）の第1主遊技図柄表示部A21g（第2主遊技図柄表示部B21g）上での主遊技図柄の変動表示を停止し、主制御基板MのRAM領域に一時記憶されている停止図柄を確定停止図柄として表示制御する。次に、ステップ1424で、主制御基板MのCPUMCは、変動中フラグをオフにする。

【0326】

次に、ステップ1430で、主制御基板MのCPUMCは、当該主遊技図柄の停止図柄が大当たり図柄であるか否かを判定する。ステップ1430でYesの場合、ステップ1431で、主制御基板MのCPUMCは、限定頻度カウンタに所定回数（本例では、80回）をセットする。尚、本例においては、全ての大当たり図柄に係る特別遊技終了後に特定遊技状態（回数制限付き確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態の処理）に移行するよう構成されている。次に、ステップ1440で、主制御基板MのCPUMCは、条件装置作動フラグをオンにし、ステップ1500に移行する。他方、ステップ1430でNoの場合には、ステップ1500に移行する。

【0327】

次に、ステップ1500で、主制御基板MのCPUMCは、後述の特定遊技終了判定処理を実行し、次の処理（ステップ1550の処理）に移行する。尚、ステップ1420でNoの場合にも、次の処理（ステップ1550の処理）に移行する。

【0328】

次に、図61は、図60におけるステップ1450のサブルーチンに係る、限定頻度変動態様決定処理のフローチャートである。まず、ステップ1452で、主制御基板MのCPUMCは、限定頻度カウンタMN52cを参照し、当該カウンタ値Gが第1段階範囲内の値（ $80 \geq G > 50$ ）であるか否かを判定する。ステップ1452でYesの場合、ステップ1454で、主制御基板MのCPUMCは、主遊技側乱数、当否抽選結果に基づき、主遊技図柄に係る変動態様（変動時間）を決定し、次の処理（ステップ1413の処理）に移行する。

【0329】

ここで、図62（限定頻度テーブル1）は、限定頻度変動態様決定用抽選テーブルMN52taの一例である。本例に示されるように、第2実施形態においては、限定頻度カウンタ値Gが所定の範囲内の値（ $80 \geq G > 50$ ）である場合に限定頻度テーブル1が参照される。尚、第1主遊技側と第2主遊技側とで参照するテーブルは同一の内容である。また、当り時の変動時間はハズレ時の変動時間と比較して相対的に長くなっている。尚、限定頻度テーブル2及び限定頻度テーブル3と比較すると、限定頻度テーブル1が最も平均の変動時間が短くなるよう構成されている。また、限定頻度テーブル1においては保留球数に拘らず同様のテーブルを参照するよう構成されている。

【0330】

他方、ステップ1452でNoの場合、ステップ1456で、主制御基板MのCPUMCは、限定頻度カウンタMN52cを参照し、当該カウンタ値Gが第2段階範囲内（ $50 \geq G > 10$ ）の値であるか否かを判定する。ステップ1456でYesの場合、ステップ1458で、主制御基板MのCPUMCは、主遊技側乱数、当否抽選結果、第2主遊技側の保留球数に基づき、主遊技図柄に係る変動態様（変動時間）を決定し、次の処理（ステップ1413の処理）に移行する。

【0331】

ここで、図62（限定頻度テーブル2）は、限定頻度変動態様決定用抽選テーブルMN52taの一例である。本例に示されるように、第2実施形態においては、限定頻度カウンタ値Gが所定の範囲内（ $50 \geq G > 10$ ）の値である場合に限定頻度テーブル2が参照される。尚、第1主遊技側と第2主遊技側とで参照するテーブルは同一の内容となっている。また、当り時の変動時間はハズレ時の変動時間と比較して相対的に長くなっている。尚、限定頻度テーブル2及び限定頻度テーブル3と比較すると、限定頻度テーブル2が最も平均の変動時間が長くなるよう構成されている。また、限定頻度テーブル2においては保留球が0個または1個存在する場合に比べて2個又は3個存在する場合の方が平均の変動時間が短くなるよう構成されている。

【0332】

他方、ステップ1456でNoの場合、換言すると、限定頻度カウンタ値Gが第3段階範囲内（ $10 \geq G$ ）の値である場合、ステップ1460で、主制御基板MのCPUMCは、主遊技側乱数、当否抽選結果に基づき、主遊技図柄に係る変動態様（変動時間）を決定

10

20

30

40

50

し、次の処理（ステップ1413の処理）に移行する。

【0333】

ここで、図62（限定頻度テーブル3）は、限定頻度変動態様決定用抽選テーブルMN52taの一例である。本例に示されるように、第2実施形態においては、限定頻度カウンタ値Gが所定の範囲（ $10 \geq G$ ）である場合に限定頻度テーブル3が参照される。尚、第1主遊技側と第2主遊技側とで参照するテーブルは同一の内容となっている。また、限定頻度テーブル3にて選択され得る変動時間は1種類のみとなっており、当否抽選結果、保留球数に拘らず一定となっている。

【0334】

尚、限定頻度テーブルの内容はこれには限定されず、所定の段階（例えば、第1段階）においてのみ、第1主遊技側と第2主遊技側とで、参照する限定頻度テーブルの内容が同一となるよう構成してもよい。また、所定の段階（例えば、第3段階）においては、（第1主遊技側、第2主遊技側の双方において）保留数に拘らず変動態様が決定されるように構成してもよい。そのように構成しない場合には、第1主遊技側では保留数に拘らず同一のテーブルから変動態様を選択し、第2主遊技側では、保留数が所定個数以上の場合には、保留数が所定個数以下の場合より相対的に短い変動時間となるよう構成することが望ましい。

【0335】

尚、第2実施形態においては、限定頻度テーブルは3種類とし、限定頻度テーブル1→限定頻度テーブル2→限定頻度テーブル3の順に3段階に切り替えるよう構成（いわゆる3段階ST）したがこれには限定されず、限定頻度テーブルの種類を何種類としても、参照するテーブルの順序を変更しても何ら問題ない。更には、限定頻度テーブル1と限定頻度テーブル2との2つのテーブルを有し、参照するテーブルを、限定頻度テーブル1→限定頻度テーブル2→限定頻度テーブル1の順に切り替えて3段階STの態様としてもよい。

【0336】

次に、図63は、図60におけるステップ1500のサブルーチンに係る、特定遊技終了判定処理のフローチャートである。まず、ステップ1502で、主制御基板MのCPUMCは、確変回数カウンタMP51cのカウンタ値が0より大きいかな否かを判定する。ステップ1502でYesの場合、ステップ1504で、主制御基板MのCPUMCは、確変回数カウンタMP51cのカウンタ値を1減算（デクリメント）する。ステップ1504でYesの場合、ステップ1506で、主制御基板MのCPUMCは、確変回数カウンタMP51cを参照し、当該カウンタ値が0であるかな否かを判定する。ステップ1506でYesの場合、ステップ1508で、主制御基板MのCPUMCは、主遊技確変フラグをオフにし、ステップ1510に移行する。尚、ステップ1502又はステップ1506でNoの場合にも、ステップ1510に移行する。

【0337】

次に、ステップ1510で、主制御基板MのCPUMCは、時短回数カウンタMP52cのカウンタ値が0より大きいかな否かを判定する。ステップ1510でYesの場合、ステップ1512で、主制御基板MのCPUMCは、時短回数カウンタMP52cのカウンタ値を1減算（デクリメント）する。次に、ステップ1514で、主制御基板MのCPUMCは、時短回数カウンタMP52cを参照し、当該カウンタ値が0であるかな否かを判定する。ステップ1514でYesの場合、ステップ1516で、主制御基板MのCPUMCは、主遊技時短フラグをオフにする。次に、ステップ1518で、主制御基板MのCPUMCは、補助遊技時短フラグをオフにし、次の処理（ステップ1550の処理）に移行する。尚、ステップ1510又はステップ1514でNoの場合にも次の処理（ステップ1550の処理）に移行する。

【0338】

次に、図64は、図7におけるステップ1550のサブルーチンに係る、特別遊技作動条件判定処理のフローチャートである。まず、ステップ1552で、主制御基板MのCPUMCは、条件装置作動フラグがオンであるかな否かを判定する。ステップ1552でYes

10

20

30

40

50

s の場合、ステップ 1554 で、主制御基板 M の CPU MC は、特定遊技フラグ（主遊技確変フラグ・主遊技時短フラグ・補助遊技時短フラグ）をオフにする。次に、ステップ 1556 で、主制御基板 M の CPU MC は、確変回数カウンタ MP51c の値をクリアする。次に、ステップ 1558 で、主制御基板 M の CPU MC は、時短回数カウンタ MP52c の値をクリアする。次に、ステップ 1560 で、主制御基板 M の CPU MC は、特別遊技移行許可フラグをオンにする。次に、ステップ 1562 で、主制御基板 M の CPU MC は、条件装置作動フラグをオフにし、次の処理（ステップ 1600 の処理）に移行する。尚、ステップ 1552 で No の場合も、次の処理（ステップ 1600 の処理）に移行する。

【0339】

このように、役物連続作動装置（特別遊技移行許可フラグ、大当たりフラグとも称することがある）は、1つのみとなるように構成されており、ノイズ等の不測の事態が生じたとしても、特別遊技移行許可フラグが増加して、重複した役物連続作動装置の作動（大当たり）が発生しないように構成されている。また、当該フラグは、大当たり処理（大入賞口の作動条件）の作動条件となっているものの、大入賞口以外の可変入賞装置の作動を容易にする条件としては用いられていない。また、役物連続作動装置の作動契機が発生した場合（例えば、条件装置作動フラグがオンとなった場合）には、当該役物連続作動装置を直ちに作動させる（特別遊技移行許可フラグを直ちにオンにする）ように構成されている。尚、役物連続作動装置の作動とは、役物連続作動装置の作動契機が発生した時から（例えば、大当たりが開始した時から、大当たり図柄が停止した時から）、当該役物連続作動装置に係る特別電動役物に係る大入賞口が連続して開放等をしている状態を経て（例えば、大当たりの実行中を経て）、当該状態が終了する時まで（例えば、大当たりが終了する時まで）をいう。

【0340】

更に、前述したとおり、本例では、条件装置作動フラグがオンとなった場合（例えば、本実施形態における図 30 のステップ 1550 の処理を実行した場合）に限り役物連続作動装置が作動（特別遊技移行許可フラグをオンと）するようになっているが、遊技球が大入賞口以外の特定の入賞口に入賞し、又は特定のゲート（大入賞口内に設けられているゲートを除く。）若しくは大入賞口以外の特定の入賞口内の特定の領域を通過したときにフラグをセット（特別遊技移行許可フラグをオンに）するよう構成することも可能である（例えば、補助遊技始動口 H10 と兼用となる「特定のゲート」（役物連続作動ゲートとも称する）を有しており、大当たり図柄が停止したことにより、役物連続作動ゲートへの遊技球の入球が有効となり、その後役物連続作動ゲートに遊技球を入球させることにより、大当たりが開始する）。ちなみに、上記の条件として記載された「特定」とは、一の遊技機

【0341】

次に、図 65 は、図 7 におけるステップ 1650 のサブルーチンに係る、特別遊技終了後の遊技状態決定処理のフローチャートである。まず、ステップ 1652 で、主制御基板 M の CPU MC は、確変回数カウンタ MP51c に所定回数（本例では、80 回）をセットする。次に、ステップ 1654 で、主制御基板 M の CPU MC は、主遊技確変フラグをオンにする。次に、ステップ 1656 で、主制御基板 M の CPU MC は、時短回数カウンタ MP52c に所定回数（本例では、80 回）をセットする。次に、ステップ 1658 で、主制御基板 M の CPU MC は、主遊技時短フラグをオンにする。次に、ステップ 1658 で、主制御基板 M の CPU MC は、補助遊技時短フラグをオンにし、次の処理（ステップ 1997 の処理）に移行する。

【0342】

次に、図 66 ～図 73 を参照して、サブメイン制御部 SM 側で実行される制御処理を説明する。まず、図 66 は、第 2 実施形態に係るぱちんこ遊技機における、副制御基板 S 側（特に、サブメイン制御部 SM 側）のメインフローチャートである。ここで、同図（d）の処理は、遊技機への電源投入時等のリセット後に実行されるサブメイン制御部 SM 側で

の処理である。即ち、遊技機への電源投入時において、ステップ2002で、サブメイン制御部SMのCPUSCは、メイン側（主制御基板M側）から受信した情報に基づき、初期処理を実行する（例えば、RAMクリア情報を受信した場合→サブ側のRAMを初期化、各種情報コマンドを受信した場合→電断時の演出関連情報をサブ側のRAMに再セット）。その後、サブメイン制御部SMの繰り返し処理ルーチンである（f）を繰り返し実行するループ処理に移行する。ここで、（f）が実行された場合、同図（f）の処理に示されるように、まず、ステップ2050で、副遊技制御手段（サブメイン制御部）SMのCPUSCは、後述する滞在ステージ決定処理を実行する。次に、ステップ2100で、副制御基板SのCPUSCは、後述する保留情報管理処理を実行する。次に、ステップ2200で、副制御基板SのCPUSCは、後述する装飾図柄表示内容決定処理を実行する。次に、ステップ2300で、副制御基板SのCPUSCは、後述する装飾図柄表示制御処理を実行する。次に、ステップ2400で、副制御基板SのCPUSCは、後述する特別遊技関連表示制御処理を実行する。次に、ステップ2900で、副制御基板SのCPUSCは、表示コマンド送信制御処理（これら一連のサブルーチンでセットされたコマンドをサブサブ制御部SS側に送信する）を実行し、本繰り返し処理ルーチンを終了する。

【0343】

以上のように、サブメイン制御部SMは、リセット後、サブメイン側ルーチン（S2050～S2900）をループ処理する形態を採用している。また、同図（e）の処理は、サブメイン制御部SMの割り込み処理であり、前述した主制御基板MにおけるSTB信号線からの信号がサブメイン制御部SMのCPUの一端子（本例では、NMI端子）に接続されていた場合における処理フロー（e）である。即ち、サブメイン制御部SMにおいてNMI割り込みが発生した場合（STB信号線がオンとなった場合）、ステップ2004で、副制御基板SのCPUSCは、主制御基板M側からのコマンド入力ポート（前述したデータ信号線の入力ポート）を確認する。そして、ステップ2006で、副制御基板SのCPUSCは、当該確認結果に基づき、サブメイン制御部SM側のRAM領域に、主制御基板M側から送信されたコマンドを一時記憶し、本割り込み処理直前に実行されていた処理へ復帰する。

【0344】

次に、図67は、図66におけるステップ2050のサブルーチンに係る、滞在ステージ決定処理のフローチャートである。まず、ステップ2052で、副制御基板SのCPUSCは、メイン側で特定遊技が開始（本例では、確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態に移行）したか否かを判定する。ステップ2052でYesの場合、ステップ2054で、副制御基板SのCPUSCは、滞在ステージ管理カウンタSM23cの値に初期値（例えば、1）をセットする。次に、ステップ2056で、副制御基板SのCPUSCは、特定遊技実行中フラグをオンにし、ステップ2066に移行する。

【0345】

ここで、特定遊技実行中フラグとは、特定遊技（例えば、確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態であり、いわゆるST）状態であることを示すフラグであり、特定遊技の開始を契機としてオンとなり、大当たり又は滞在ステージ管理カウンタSM23cの値が上限値（例えば、STの上限回数である80）を超えたことを契機としてオフとなるよう構成されている。

【0346】

他方、ステップ2052でNoの場合、ステップ2058で、副制御基板SのCPUSCは、特定遊技が終了したか否かを判定する（例えば、メイン側情報一時記憶手段SM11bを参照して判定、又は滞在ステージ管理カウンタSM23cの値が上限値（例えば、STの上限回数である80）を超えたかを判定）。ステップ2058でYesの場合、ステップ2060で、副制御基板SのCPUSCは、滞在ステージ管理カウンタSM23cの値をリセット（ゼロクリア）する。次に、ステップ2062で、副制御基板SのCPUSCは、特定遊技実行中フラグをオフにする。次に、ステップ2064で、副制御基板SのCPUSCは、連荘回数カウンタSM23c2（特定遊技中の大当たりが連続した回数を

計数するカウンタであり、後述のステップ2410の処理にて値が加算される)の値をリセット(ゼロクリア)し、ステップ2066に移行する。尚、ステップ2058でNoの場合にも、ステップ2066に移行する。

【0347】

次に、ステップ2066で、副制御基板SのCPUSCは、特定遊技実行中フラグがオンであるか否かを判定する。ステップ2066でYesの場合、ステップ2068で、副制御基板SのCPUSCは、新たに主遊技図柄が停止したか否かを判定する。ステップ2068でYesの場合、ステップ2070で、副制御基板SのCPUSCは、滞在ステージ管理カウンタSM23cの値に1加算(インクリメント)し、ステップ2072に移行する。他方、ステップ2068でNoの場合、ステップ2070の処理を実行せずに、ステップ2072に移行する。

10

【0348】

次に、ステップ2072で、副制御基板SのCPUSCは、当該カウンタ値が第1の範囲内の値(1~30)であるか否かを判定する。ステップ2072でYesの場合、ステップ2074で、副制御基板SのCPUSCは、滞在ステージとして「短演出ステージ」をセット(副制御基板SのRAM領域に一時記憶)し、次の処理(ステップ2100の処理)に移行する。

【0349】

他方、ステップ2072でNoの場合、ステップ2076で、副制御基板SのCPUSCは、滞在ステージ管理カウンタSM23cを参照し、当該カウンタ値が第2の範囲内の値(31~70)であるか否かを判定する。ステップ2076でYesの場合、ステップ2078で、副制御基板SのCPUSCは、滞在ステージとして「長演出ステージ」をセット(RAM領域に一時記憶)し、次の処理(ステップ2100の処理)に移行する。

20

【0350】

他方、ステップ2076でNoの場合、ステップ2080で、副制御基板SのCPUSCは、滞在ステージ管理カウンタSM23cを参照し、当該カウンタ値が第3の範囲内の値(71~80)であるか否かを判定する。ステップ2080でYesの場合、ステップ2082で、副制御基板SのCPUSCは、滞在ステージとして「固定演出ステージ」をセット(RAM領域に一時記憶)し、次の処理(ステップ2100の処理)に移行する。尚、ステップ2066、ステップ2080でNoの場合(例えば、特定遊技中でない場合)にも、次の処理(ステップ2100の処理)に移行する。

30

【0351】

尚、第2実施形態では、3段階目(固定演出ステージ)は当否抽選結果に係わらず、態様が1種類(本例では、5秒)のみ、演出内容も1種類(本例では、先読み時と非先読み時で表示内容が異なるが、系統としては固定時間演出のみ)であるが、複数の変動態様、演出内容を設けてもよい。そのように構成した場合、3段階目の演出内容の種類は2段階目(長演出ステージ)と比べて少ないことが望ましい。傾向としては、変動パターン・演出内容共に、その種類数が「第2段階>第1段階>第3段階」であることが望ましい。

【0352】

このように構成することで、特定遊技中の図柄変動回数を計数する滞在ステージ管理カウンタSM23cの値に基づき、演出内容を決定するための滞在ステージを切り替えることが可能となる。

40

【0353】

次に、図68は、図66におけるステップ2100のサブルーチンに係る、保留情報管理処理のフローチャートである。まず、ステップ2102で、副制御基板SのCPUSCは、主制御基板M側から新たな電動役物最長開放開始コマンドを受信したか否かを判定する。ステップ2102でYesの場合、換言すれば、第2主遊技始動口電動役物B11dの最長開放が開始された場合、ステップ2104で、副制御基板SのCPUSCは、電動役物最長開放中フラグをオンにし、ステップ2110に移行する。他方、ステップ2102でNoの場合、ステップ2106で、副制御基板SのCPUSCは、主制御基板M側か

50

ら新たな電動役物最長開放終了コマンドを受信したか否かを判定する。ステップ2106でYesの場合、換言すれば、第2主遊技始動口電動役物B11dの最長開放が終了した場合、ステップ2108で、副制御基板SのCPUSCは、電動役物最長開放中フラグをオフにし、ステップ2110に移行する。他方、ステップ2106でNoの場合にも、ステップ2110に移行する。

【0354】

ここで、電動役物最長開放中フラグとは、第2主遊技始動口電動役物B11dが、1度に開放し続ける時間が最長となる開放態様にて開放（最長開放）されている期間中にオンとなるフラグであり、当該電動役物最長開放中フラグがオンである際に発生した保留は、当該最長開放中の遊技球の入球に基づく保留であると判断するために使用しているフラグである。尚、第2実施形態においては、当該電動役物最長開放中フラグがオンとなるのは非時間短縮遊技時のみである。

【0355】

次に、ステップ2110で、副制御基板SのCPUSCは、主制御基板M側から新たな保留発生コマンド（第1主遊技図柄又は第2主遊技図柄に係る保留情報）を受信したか否かを判定する。ステップ2110でYesの場合、ステップ2112で、副制御基板SのCPUSCは、装図保留カウンタ（本例では、第1主遊技用が最大4個、第2主遊技用が最大4個）に「1」を加算（インクリメント）する。次に、ステップ2114で、副制御基板SのCPUSCは、主制御基板M側から送信された保留発生コマンドに基づき、保留情報（特に、主遊技図柄抽選に係る乱数値であり、例えば、当否抽選乱数・図柄抽選乱数・変動態様抽選乱数）を、副制御基板SのRAM領域に一時記憶する。

【0356】

次に、ステップ2116で、副制御基板SのCPUSCは、電動役物最長開放中フラグがオンであるか否かを判定する。ステップ2116でYesの場合、ステップ2118で、副制御基板SのCPUSCは、当該新たに副制御基板SのRAM領域に一時記憶した保留が第2主遊技側の保留であるか否かを判定する。ステップ2118でYesの場合、ステップ2120で、副制御基板SのCPUSCは、当該新たに副制御基板SのRAM領域に一時記憶した保留情報に、電動役物最長開放時に発生した保留である旨の情報を付加し、ステップ2122に移行する。他方、ステップ2116又はステップ2118でNoの場合、ステップ2120の処理を実行せずにステップ2122に移行する。

【0357】

次に、ステップ2122で、副制御基板SのCPUSCは、副制御基板SのRAM領域に一時記憶された保留情報（特に、当否抽選乱数）に基づき、各保留の当否結果を事前判定する。次に、ステップ2124で、副制御基板SのCPUSCは、前記事前判定結果に基づき、当該新たな保留以前に消化される保留の内、当選（大当り）となる保留が存在しないか否かを判定する。ステップ2124でYesの場合、ステップ2150で、副制御基板SのCPUSCは、後述する先読み演出実行判定処理を実行し、ステップ2142に移行する。他方、ステップ2124でNoの場合、ステップ2150の処理を実行せずに、ステップ2142に移行する。次に、ステップ2142で、副制御基板SのCPUSCは、演出表示手段SSを駆使して演出表示装置SG上（特に、第1保留表示部SG12、第2保留表示部SG13）に、装図保留カウンタ値と同数の保留表示ランプを点灯表示し、次の処理（ステップ2200の処理）に移行する。

【0358】

他方、ステップ2110でNoの場合、ステップ2130で、副制御基板SのCPUSCは、主制御基板M側から図柄変動表示開始指示コマンドを受信したか否かを判定する。ステップ2130でYesの場合、ステップ2132で、副制御基板SのCPUSCは、装図保留カウンタから「1」を減算（デクリメント）する。次に、ステップ2134で、副制御基板SのCPUSCは、当該図柄変動に係る保留情報を、残りの保留情報をシフトする。

【0359】

10

20

30

40

50

次に、ステップ2136で、副制御基板SのCPUSCは、当該消化した保留が、電動役物最長開放時に発生した保留であるか否かを判定する。ステップ2136でYesの場合、ステップ2138で、副制御基板SのCPUSCは、最長開放時保留用演出許可フラグをオンにし、ステップ2140に移行する。他方、ステップ2136でNoの場合、ステップ2138の処理を実行せずに、ステップ2140に移行する。尚、最長開放時保留用演出とは、電動役物最長開放時において第2主遊技始動口電動役物B11dへ入球した場合の、当該入球に係る図柄変動時においてのみ発生する（又は発生し易い）演出であり、例えば、保留表示態様の変化、選択される演出内容の変化（背景や予告内容の変化）が挙げられる。

【0360】

次に、ステップ2140で、副制御基板SのCPUSCは、図柄内容決定許可フラグをオンにし、ステップ2142に移行する。尚、ステップ2130でNoの場合には、ステップ2132～ステップ2140の処理を実行せずに、ステップ2142に移行し、保留表示処理を実行してから、次の処理（ステップ2200の処理）に移行する。

【0361】

次に、図69は、図68におけるステップ2150のサブルーチンに係る、先読み演出実行判定処理のフローチャートである。まず、ステップ2152で、副制御基板SのCPUSCは、当該カウンタ値が0であるか否かを判定する。ステップ2152でYesの場合、ステップ2154で、副制御基板SのCPUSCは、当該新たに発生した保留が第2主遊技側の保留であるか否かを判定する。ステップ2154でYesの場合、ステップ2156で、副制御基板SのCPUSCは、現在セット（一時記憶）されている滞在ステージが「長演出ステージ」であるか否かを判定する。

【0362】

ステップ2156でYesの場合、ステップ2158で、副制御基板SのCPUSCは、副制御基板SのRAM領域に一時記憶されている保留情報（特に、変動態様決定乱数等）に基づき、当該新たな保留の変動時間を事前判定する。次に、ステップ2160で、副制御基板SのCPUSCは、当該新たな保留の変動時間が所定時間（例えば、10秒）以上となることが確定しているか否かを判定する。ここで、変動時間を事前判定するに際して、例えば、当該新たな保留の変動態様乱数値が900～1023である場合、当該新たな保留消化時の保留数に関係なく、変動時間は10秒以上となることが判定できる（図26参照）。

【0363】

ステップ2160でYesの場合、ステップ2162で、副制御基板SのCPUSCは、当該新たな保留が大当たりとなる保留であるか否かを判定する（例えば、当否抽選乱数に基づいて判定する）。ステップ2162でYesの場合、ステップ2164で、副制御基板SのCPUSCは、所定確率（例えば、 $1/3$ ）で当選となる先読み演出抽選を実行し、ステップ2176に移行する。他方、ステップ2162でNoの場合、ステップ2166で、副制御基板SのCPUSCは、所定確率（例えば、 $1/5$ であるが、ステップ2164での当選確率より低確率であればよい）で当選となる先読み演出抽選を実行し、ステップ2176に移行する。

【0364】

他方、ステップ2156でNoの場合、ステップ2168で、副制御基板SのCPUSCは、現在セット（RAM領域に一時記憶）されている滞在ステージが「固定演出ステージ」であるか否かを判定する。ステップ2168でYesの場合、ステップ2170で、副制御基板SのCPUSCは、当該新たな保留が大当たりとなる保留であるか否かを判定する（例えば、当否抽選乱数に基づいて判定する）。ステップ2170でYesの場合、ステップ2172で、副制御基板SのCPUSCは、所定確率（例えば、 $1/4$ ）で当選となる先読み演出抽選を実行し、ステップ2176に移行する。他方、ステップ2170でNoの場合、ステップ2174で、副制御基板SのCPUSCは、所定確率（例えば、 $1/6$ であるが、ステップ2172での当選確率より低確率であればよい）で当選となる先

10

20

30

40

50

読み演出抽選を実行し、ステップ2176に移行する。

【0365】

次に、ステップ2176で、副制御基板SのCPUSCは、先読み演出抽選（ステップ2164、ステップ2166、ステップ2172、ステップ2174いずれかの抽選）に当選したか否かを判定する。ステップ2176でYesの場合、ステップ2178で、副制御基板SのCPUSCは、副制御基板SのRAM領域に一時記憶された保留数を参照し、前記抽選に当選した保留（トリガ保留）が消化されるまでの主遊技図柄の変動停止回数Ha（0～4回）を導出する。次に、ステップ2180で、副制御基板SのCPUSCは、滞在ステージ管理カウンタSM23cを参照し、当該カウンタ値に基づき、現在の滞在ステージが終了するまでの主遊技図柄の変動停止回数Hbを導出する。

10

【0366】

ここで、変動停止回数Hbは、現時点で変動表示中の図柄の変動停止回数をも含む。また、先読み演出の実行可否は、後述するように、変動開始時に決定するため、図柄変動中である場合には、当該変動中の図柄が停止した次の変動から、先読み演出が実行され得るのである。

【0367】

次に、ステップ2182で、副制御基板SのCPUSCは、先読み演出を実行する回数（本例では、Ha）が、最低先読み演出回数（有効な先読み演出を実行するための最低回数であり、例えば、2回）以上であるか否かを判定する。ステップ2182でYesの場合、ステップ2184で、副制御基板SのCPUSCは、当該導出したHa及びHbが、 $Ha \leq Hb$ の関係を充足している（先読み演出が現在の滞在ステージ中に終了する）か否かを判定する。ステップ2184でYesの場合、ステップ2186で、副制御基板SのCPUSCは、先読み演出実行カウンタSM26cにHaをセットし、次の処理（ステップ2142の処理）に移行する。尚、ステップ2152、ステップ2154、ステップ2160、ステップ2168、ステップ2176、ステップ2182、ステップ2184のいずれかでNoの場合にも、次の処理（ステップ2142の処理）に移行する。

20

【0368】

このように、複数変動に亘る先読み演出が、現在の滞在ステージ中に終了しない場合には先読み演出を実行しないよう構成することで（特に、ステップ2184）、テーブルの切り替わりと先読み演出とが同時に実行されないこととなり、遊技者を混乱させてしまう事態を回避することが可能となるのである。尚、第2実施形態においては、先読み演出抽選を実行した後、滞在ステージを跨ぐかの判断に応じて先読み演出の実行可否判断を行っているが、これには限定されず、先読み演出に係る処理の順序は適宜変更してもよく、例えば滞在ステージを跨ぐことが判定された後に先読み演出抽選を実行するよう構成してもよい（即ち、滞在ステージを跨ぐことが予定されている場合には、そもそも先読み演出抽選自体を実行しない構成をも含むとの意）。

30

【0369】

尚、本例における先読み演出はトリガ保留に係る変動でも発生する演出、つまり、複数変動に亘る先読み演出における当該複数変動には当該トリガ保留に係る変動を含んでもよい。例えば、同一の態様の演出もしくは同系統の演出が、トリガ保留に係る変動より以前の変動から当該トリガ保留に係る変動まで発生する演出でもよい。

40

【0370】

尚、本例はあくまで一例であり、これには限定されず、例えば、複数変動に亘る先読み演出の終了が現在の滞在ステージ終了（又は切り替わり）後となる場合にも先読み演出を実行可能とし、複数変動に亘る先読み演出が滞在ステージ終了（又は切り替わり）を跨いだ場合には、当該先読み演出に係るいずれかの変動において大当たりとなる期待度が、滞在ステージ終了（又は切り替わり）を跨がない先読み演出を実行している場合よりも相対的に高いよう構成してもよい。そのように構成した場合には、滞在ステージ（及び演出）の終了（又は切り替わり）を跨いで先読み演出が発生するか否か、という点に遊技者の注目を集めることが可能となり、遊技の興趣性を高めることができることとなる。

50

【0371】

また、複数変動に亘る先読み演出が、現在の滞在ステージの終了（又は切り替わり）後となる場合にも先読み演出を実行可能とした場合、当該先読み演出は、現在の滞在ステージが終了する最終変動までで終了（中断）するよう構成してもよい。また、先読み演出を中断した場合、当該中断した先読み演出とは異なる先読み演出（例えば、切り替わった後の滞在ステージでの演出に即した先読み演出又はその他の演出）を代わりに実行し得るよう構成してもよい。更には、複数変動に亘る先読み演出が終了するまで、現在の滞在ステージを少なくとも見た目上、終了（又は切り替わり）させないように構成することも可能である。

【0372】

また、或る滞在ステージにおいて、以後の変動において高期待度演出もしくは変動時間が長い変動態様が選択される旨を報知する先読み演出が発生し、且つ当該或る滞在ステージで当該高期待度演出もしくは変動時間が長い変動態様が選択されなかった場合には、次の滞在ステージにて当該高期待度演出もしくは変動時間が長い変動態様が選択されるよう構成してもよい。また、そのように構成した場合には、次の滞在ステージにおける先読み演出は当該次の滞在ステージに即した演出にすることが望ましい。

【0373】

次に、図70は、図66におけるステップ2200のサブルーチンに係る、装飾図柄表示内容決定処理のフローチャートである。まず、ステップ2202で、副制御基板SのCPUSCは、図柄内容決定許可フラグがオンであるか否かを判定する。ステップ2202でYesの場合、ステップ2204で、副制御基板SのCPUSCは、図柄内容決定許可フラグをオフにする。次に、ステップ2206で、副制御基板SのCPUSCは、装飾図柄の停止図柄 {例えば、主遊技図柄に係る停止図柄が大当り図柄である場合には、「7・7・7」等のゾロ目、ハズレ図柄である場合には、「1・3・5」等のバラケ目} 及び変動態様を決定し副制御基板SのRAM領域に一時記憶する。

【0374】

次に、ステップ2250で、副制御基板SのCPUSCは、後述する演出内容決定処理を実行する。次に、ステップ2208で、副制御基板SのCPUSCは、図柄内容決定フラグをオンにし、次の処理（ステップ2300の処理）に移行する。尚、ステップ2202でNoの場合にも、次の処理（ステップ2300の処理）に移行する。

【0375】

次に、図71は、図70におけるステップ2250のサブルーチンに係る、演出内容決定処理のフローチャートである。まず、ステップ2252で、副制御基板SのCPUSCは、特定遊技実行中フラグがオフであるか否かを判定する。ステップ2252でYesの場合、ステップ2254で、副制御基板SのCPUSCは、最長開放時保留用演出許可フラグがオフであるか否かを判定する。ステップ2254でYesの場合、ステップ2256で、副制御基板SのCPUSCは、主遊技図柄の変動態様に基づき、演出内容決定テーブルSM25ta {特に、通常時用テーブル（最長開放時保留用演出許可フラグオフ} } を参照して演出内容を決定し、次の処理（ステップ2208の処理）に移行する。

【0376】

他方、ステップ2254でNoの場合、ステップ2258で、副制御基板SのCPUSCは、最長開放時保留用演出許可フラグをオフにする。次に、ステップ2260で、副制御基板SのCPUSCは、最長開放時保留用演出実行フラグをオンにする。次に、ステップ2262で、副制御基板SのCPUSCは、主遊技図柄の変動態様に基づき、演出内容決定テーブルSM25ta {特に、通常時用テーブル（最長開放時保留用演出許可フラグオン} } を参照して演出内容を決定し、次の処理（ステップ2208の処理）に移行する。

【0377】

ここで、図72は、演出内容決定テーブルSM25taの一例である。特に、通常時演出内容決定テーブルは、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態時において演出を決定する際に参照されるテーブルであり、図示されるように、主遊技図柄の変動態様に基づ

10

20

30

40

50

き、複数の演出内容候補の中から一の演出内容が決定されるよう構成されている。また、最長開放時保留用演出許可フラグがオンである場合には、「長演出ステージ」滞在中における演出と同様の演出が決定されるよう構成されている（最長開放時保留用演出許可フラグが「オフ」である場合は、「長演出ステージ」滞在中における演出が非時間短縮遊技中に発生することはないため、最長開放時に発生した保留に係る変動である旨を遊技者が容易に認識できる）。尚、本例はあくまで一例であり、演出内容、変動態様、テーブルの構成等、これには限定されず、例えば、主遊技図柄の変動態様（及び当否抽選結果）と乱数とを参照して演出内容を決定するよう構成してもよい（主遊技側の変動態様が同一である場合に、異なる演出を実行し得るよう構成してもよい）。

【0378】

フローチャートの説明に戻ると、他方、ステップ2252でNoの場合、即ち、現在の遊技状態が確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態である場合、ステップ2264で、副制御基板SのCPUSCは、当該カウンタ値が0より大きい（先読み演出を実行する状況）か否かを判定する。ステップ2264でYesの場合、ステップ2266で、副制御基板SのCPUSCは、先読み演出実行カウンタSM26cの値を1減算（デクリメント）する。次に、ステップ2268で、副制御基板SのCPUSCは、現在セットされている滞在ステージが「長演出ステージ」であるか否かを判定する。ステップ2268でYesの場合、ステップ2270で、副制御基板SのCPUSCは、「長演出ステージ」専用の先読み演出（例えば、変動開始時に「あと〇〇回で…！」と先読み演出実行カウンタSM26cの値をカウントダウンする演出）を表示するコマンドをセットし、ステップ2274に移行する。

【0379】

他方、ステップ2268でNoの場合、換言すれば、「固定演出ステージ」で先読み演出を実行する場合、ステップ2272で、副制御基板SのCPUSCは、「固定演出ステージ」の変動時における当否煽り段階での演出内容を、当該ステージ専用の先読み演出（例えば、大当り期待度に基づき、背景表示色が変化する演出、等）に決定し、ステップ2274に移行する。尚、ステップ2264でNoの場合にも、ステップ2274に移行する。

【0380】

次に、ステップ2274で、副制御基板SのCPUSCは、主遊技図柄の変動態様及び現在セットされている滞在ステージに基づき、演出内容決定テーブルSM25ta（特に、特定遊技時用のテーブル）を参照して演出内容を決定し、次の処理（ステップ2208の処理）に移行する。

【0381】

ここで、図72の特定遊技時演出内容決定テーブルは、確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態（本例では、80回のST）時において演出を決定する際に参照されるテーブルであり、図示されるように、セットされている滞在ステージ（ST中の変動回数）によって演出内容が切り替わるよう構成されている（主遊技図柄の変動態様・変動時間が切り替わることに対応して、演出内容も切り替わるよう構成されている）。演出内容の一例を挙げて説明すると、「固定演出ステージ」に選択される演出である固定時間演出は、同図下段のイメージ図に図示されるように、まず、装飾図柄の変動が開始し、図柄変動に係る画像が1秒間表示された時点で、当否煽り段階における演出を1秒間表示する。ここで、当否煽り段階における演出は、先読み演出非実行時であれば、サブ入力ボタンSBの操作を促す画像であり、当該演出表示後、サブ入力ボタンSBの操作があるか、又は更に1秒が経過することによって、当否報知段階の演出表示に移行する。他方、先読み演出実行時であれば、当否煽り段階における演出は、ステップ2268の処理にて決定した、背景画像の表示色に変化する演出（即ち、サブ入力ボタンSBの操作を促す演出は発生しない）であり、当該演出表示後、更に1秒が経過することによって、当否報知段階の演出表示に移行する。次に、当否報知段階では、遊技者に対して、当該変動が当りであるか、ハズレであるかを報知する演出を実行する。尚、先読み演出が継続する場合には、先読み演出の実

10

20

30

40

50

行状態（本例では、背景画像の表示色）を先読み演出の終了まで引き継ぐよう構成してもよい。例えば、所定時間が経過したことを契機として、当該変動の当否結果を報知する画像を表示する。尚、本例はあくまで一例であり、演出内容、変動態様、テーブルの構成等、これには限定されず、例えば、主遊技図柄の変動態様（及び当否抽選結果）と乱数とを参照して演出内容を決定するよう構成してもよい（主遊技側の変動態様が同一である場合に、異なる演出を実行し得るよう構成してもよい）。また、本例では特に図示していないが、第1主遊技側の保留消化時にも、特定遊技中のいずれかの滞在ステージにおける専用演出（例えば、スーパーバトルリーチ・スペシャルバトルリーチ等）が実行され得るよう構成してもよい。また、サブ入力ボタンSBの操作を促す演出は、その演出実行尺が担保困難となる状況下（例えば、本例における「短演出ステージ」滞在時）においては、実行しないよう構成しておくことが好適である。

10

【0382】

次に、図73は、図66におけるステップ2400のサブルーチンに係る、特別遊技関連表示制御処理のフローチャートである。まず、ステップ2402で、副制御基板SのCPUSCは、特別遊技中フラグがオフであるか否かを判定する。ステップ2402でYesの場合、ステップ2404で、副制御基板SのCPUSCは、メイン側から特別遊技開始表示指示コマンドを受信したか否かを判定する。ステップ2404でYesの場合、ステップ2406で、副制御基板SのCPUSCは、当該大当たりが初当たり（非確率変動・非時間短縮遊技状態中における大当たり）でないか否かを判定する。ステップ2406でYesの場合、ステップ2410に移行する。他方、ステップ2406でNoの場合（初当たりである場合）、ステップ2408で、副制御基板SのCPUSCは、最長開放時保留用演出実行フラグがオンであるか否かを判定する。ステップ2408でYesの場合、換言すれば、N＝初当たりとした場合、ステップ2409で、副制御基板SのCPUSCは、最長開放時保留用演出実行フラグをオフにし、ステップ2410に移行する。

20

【0383】

次に、ステップ2410で、副制御基板SのCPUSCは、連荘回数カウンタSM23c2の値に1加算（インクリメント）し、ステップ2412に移行する。尚、ステップ2408でNoの場合にも、ステップ2412に移行する。

【0384】

次に、ステップ2412及びステップ2414で、副制御基板SのCPUSCは、特別遊技中フラグをオンにすると共に、演出表示装置SG上で大当たり開始表示を行い（大当たりの種類に基づき適宜表示を行う）、ステップ2416に移行する。尚、ステップ2402でNoの場合にも、ステップ2416に移行する。

30

【0385】

次に、ステップ2416で、副制御基板SのCPUSCは、メイン側から逐次送信されている遊技情報に基づき、演出表示装置SG上にラウンド数と入賞個数を逐次表示する（遊技性や大当たりの種類等に基づき、必要に応じて適宜実行すればよい）。次に、ステップ2418で、副制御基板SのCPUSCは、当該カウンタ値が所定値（例えば、10）以上であるか否かを判定する。ステップ2418でYesの場合、ステップ2420で、副制御基板SのCPUSCは、当該実行中の大当たりが最大ラウンド大当たり（例えば、10R大当たりであり、7A・7B図柄に係る大当たり）であるか否かを判定する。ステップ2420でYesの場合、ステップ2422で、副制御基板SのCPUSCは、エンディング演出〔所定条件（例えば、特定遊技中における、連荘回数、連荘時における総獲得出玉数、複数種類の特定演出がすべて発生、等の一又は複数の組み合わせとなる条件）を満たした場合にのみ表示される特別遊技中又は特定遊技中の演出〕の表示に係るコマンドをセットし、ステップ2426に移行する。他方、ステップ2418、ステップ2420のいずれかでNoの場合、ステップ2424で、副制御基板SのCPUSCは、大当たり進行中表示に係るコマンドをセットし、ステップ2426に移行する。

40

【0386】

このように構成することで、大当たりの連荘回数（初当たりはカウントしない）に基づいて

50

、大当たり実行中に表示する演出を特殊な演出にすることが可能であると共に、第2主遊技始動口電動役物B11dの最長開放中における入球によって発生した保留で大当たりとなった場合には、当該大当たりが初当たりであっても、連荘回数としてカウントするため、第2主遊技始動口電動役物B11dの最長開放中に発生した保留に係る変動時に、遊技者の興味を惹きつけることができるのである。尚、本例はあくまで一例であり、これには限定されず、例えば、エンディング演出の発生条件として複数の条件が存在する場合、当該複数の条件の内少なくとも一の条件（例えば、特定演出で大当たり、等）を満たしたものとみなすよう構成してもよい。

【0387】

次に、ステップ2426で、副制御基板SのCPUSCは、メイン側から特別遊技終了表示指示コマンドを受信したか否かを判定する。ステップ2426でYesの場合、ステップ2428で、副制御基板SのCPUSCは、演出表示装置SG上で、大当たり終了表示を行う（大当たりの種類に基づき適宜表示を行う）。次に、ステップ2430で、副制御基板SのCPUSCは、特別遊技中フラグをオフにし、次の処理（ステップ2900の処理）に移行する。尚、ステップ2404又はステップ2426でNoの場合にも、次の処理（ステップ2900の処理）に移行する。

【0388】

（作用）

次に、図74を参照しながら、第2実施形態における作用について説明する。はじめに、同図は、特別遊技の終了後から、特定遊技中の先読み演出について示した作用図である。尚、本例においては大きりに当選せずに特定遊技が終了した場合を例示している。

【0389】

まず、確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態である状況下、第1主遊技側の保留球が消化され、第2主遊技側の保留球が4個になった後、図中1のタイミングにおいて、第2主遊技図柄の変動が開始することとなる。次に、図中2のタイミングにおいて、特別遊技後に主遊技図柄が30回変動したことを契機として、短演出ステージが終了し、長演出ステージに移行することとなる。

【0390】

次に、図中3のタイミングにおいて、先読み演出の実行契機となり得るトリガ保留が発生したことにより先読み演出実行可否の判断が行われる。本タイミングにおいては、トリガ保留消化までの変動停止回数Haが3回であり、長演出ステージが終了するまでの変動停止回数Hbが40回であり（ $H_a \leq H_b$ ）であるため、先読み演出が実行されることとなる。次に、図中4のタイミングにおいて、先読み演出の実行が決定してから最初の第2主遊技図柄の変動が開始したため、当該変動から先読み演出が実行される。

【0391】

次に、図中5のタイミングにおいて、トリガ保留の消化に係る第2主遊技図柄の変動が開始される。当該トリガ保留に係る変動はハズレであり、また、長演出ステージにおけるトリガ保留に係る変動は10秒以上の変動時間であるため、60秒の変動時間となっている。次に、図中6のタイミングにおいて、トリガ保留に係る主遊技図柄の変動が終了したことを契機として、先読み演出が終了することとなる。

【0392】

次に、図中7のタイミングにおいて、先読み演出の実行契機となり得るトリガ保留が発生したことにより先読み演出実行可否の判断が行われる。本タイミングにおいては、トリガ保留消化までの変動停止回数Haが3回であり、長演出ステージが終了するまでの変動停止回数Hbが1回であり（ $H_a > H_b$ ）であるため、先読み演出が実行されないこととなる。次に、図中8のタイミングにおいて、特別遊技後に主遊技図柄が70回変動したことを契機として、長演出ステージが終了し、固定演出ステージに移行することとなる。

【0393】

次に、図中9のタイミングにおいて、先読み演出の実行契機となり得るトリガ保留が発生したことにより先読み演出実行可否の判断が行われる。本タイミングにおいては、トリ

10

20

30

40

50

が保留消化までの変動停止回数 H_a が 2 回であり、固定演出ステージが終了するまでの変動停止回数 H_b が 10 回であり ($H_a \leq H_b$) であるため、先読み演出が実行されることとなる。次に、図中 10 のタイミングにおいて、先読み演出の実行が決定してから最初の第 2 主遊技図柄の変動が開始したため、当該変動から先読み演出が実行される。次に、図中 11 のタイミングにおいて、トリガ保留に係る主遊技図柄の変動が終了したことに契機として、先読み演出が終了することとなる。尚、当該先読み演出は固定演出ステージにおける先読み演出であるため、トリガ保留に係る変動時間も 5 秒となっている。次に、図中 12 のタイミングにおいて、特別遊技後に主遊技図柄が 80 回変動したことを契機として、固定演出ステージが終了し、特定遊技も終了することとなる。

【0394】

次に、図 75 を参照しながら、第 2 実施形態における作用について説明する。はじめに、同図は、特別遊技の終了後から、特定遊技中の主遊技図柄の変動態様について示した作用図である。尚、本例においては、大当りに当選せずに長演出ステージが終了した場合を例示している。

【0395】

まず、確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態である状況下、図中 1 のタイミングにおいて、特定遊技における 1 変動目となる第 1 主遊技図柄の変動が開始される。同図下段に示されるようにハズレ時においては第 1 主遊技側の限定頻度テーブル 1 と第 2 主遊技側の限定頻度テーブル 1 とは同一のテーブル内容となっており、保留数にも依存しない。この場合（限定頻度テーブル 1 において点線で囲まれたテーブル内容）を X とする。本タイミングの変動の際参照するテーブル内容は X である。また、当該変動によって第 1 主遊技側の保留球は 2 個から 1 個になる。

【0396】

次に、図中 2 のタイミングにおいて、特定遊技における 2 変動目となる第 1 主遊技図柄の変動が開始される。本タイミングの変動の際参照するテーブル内容は X である。また、当該変動によって第 1 主遊技側の保留球は 1 個から 0 個になる。本タイミングに係る第 1 主遊技図柄の変動開始時には第 1 主遊技側の保留は 1 個であり、図中 1 のタイミングに係る第 1 主遊技図柄の変動開始時には第 1 主遊技側の保留は 1 個であるが、保留数に拘らず参照するテーブル内容は X となっている。

【0397】

次に、図中 3 のタイミングにおいて、特定遊技における 3 変動目となる第 2 主遊技図柄の変動が開始される。本タイミングの変動の際参照するテーブル内容は X である。また、当該変動によって第 2 主遊技側の保留球は 1 個から 0 個になる。次に、図中 4 のタイミングにおいて、特定遊技における 5 変動目となる第 2 主遊技図柄の変動が開始される。本タイミングの変動の際参照するテーブル内容は X である。また、当該変動によって第 2 主遊技側の保留球は 3 個から 2 個になる。本タイミングに係る第 2 主遊技図柄の変動開始時には第 2 主遊技側の保留は 3 個であり、図中 3 のタイミングに係る第 2 主遊技図柄の変動開始時には第 2 主遊技側の保留は 1 個であるが、保留数に拘らず参照するテーブル内容は X となっている。

【0398】

このように、本例においては、短演出ステージ時には第 1 主遊技側の変動であるか第 2 主遊技側の変動であるかに拘らず、また、保留数にも拘らず、変動態様決定時に参照するテーブルの内容は同一となっている。

【0399】

次に、図中 5 のタイミングにおいて、特定遊技における 30 変動目となる主遊技図柄の変動が終了したため短演出ステージが終了し、長演出ステージに切り替わることとなる。次に、図中 6 のタイミングにおいて、特定遊技における 31 変動目となる第 2 主遊技図柄の変動が開始される。本タイミングの変動の際参照するテーブル内容は Z である。また、当該変動によって第 2 主遊技側の保留球は 2 個から 1 個になる。次に、図中 7 のタイミングにおいて、特定遊技における 32 変動目となる第 2 主遊技図柄の変動が開始される。本

タイミングの変動の際参照するテーブル内容はYである。また、当該変動によって第2主遊技側の保留球は1個から0個になる。本タイミングに係る第2主遊技図柄の変動開始時には第2主遊技側の保留は1個であり、図中6のタイミングに係る第2主遊技図柄の変動開始時には第2主遊技側の保留は2個であるため、保留数の相違によって参照するテーブル内容が異なっている（YとZ）。

【0400】

次に、図中8のタイミングにおいて、特定遊技における33変動目となる第1主遊技図柄の変動が開始される。本タイミングの変動の際参照するテーブル内容はZである。また、当該変動によって第2主遊技側の保留球は2個から1個になる。次に、図中9のタイミングにおいて、特定遊技における34変動目となる第1主遊技図柄の変動が開始される。本タイミングの変動の際参照するテーブル内容はYである。また、当該変動によって第1主遊技側の保留球は1個から0個になる。本タイミングに係る第1主遊技図柄の変動開始時には第1主遊技側の保留は1個であり、図中8のタイミングに係る第1主遊技図柄の変動開始時には第1主遊技側の保留は2個であるため、保留数の相違によって参照するテーブル内容が異なっている（YとZ）。

【0401】

このように、本例においては、長演出ステージ時には第1主遊技側の変動であるか第2主遊技側の変動であるかに拘らず、変動態様決定時に参照するテーブルの内容は同一となっているが、保留数が相違する場合には変動態様決定時に参照するテーブルの内容が異なり得るよう構成されている。

【0402】

尚、特定遊技中の主遊技図柄の変動態様決定の際のテーブル内容はこれには限定されない、図76を参照しながらその一例の作用を示す。はじめに、同図は、特別遊技の終了後から、特定遊技中の主遊技図柄の変動態様について示した作用図である。尚、本例においては、大当りに当選せずに長演出ステージが終了した場合を例示している。

【0403】

はじめに、図中1のタイミングにおいて、特定遊技における2変動目となる第2主遊技図柄の変動が開始される。また、同図下段に示されるように、第2主遊技図柄の変動態様はハズレ時においては第1主遊技側の保留の有無によって異なるテーブル内容となっている。第1主遊技側の保留が存在する場合をX'とする。第1主遊技側の保留が存在しない場合をY'とする。本タイミングの変動の際参照するテーブル内容は第1主遊技側の保留が存在するためX'である。また、当該変動によって第2主遊技側の保留球は2個から1個になる。次に、図中2のタイミングにおいて、特定遊技における4変動目となる第1主遊技図柄の変動が開始される。当該変動によって第1主遊技側の保留球は1個から0個になる。次に、図中3のタイミングにおいて、特定遊技における5変動目となる第2主遊技図柄の変動が開始される。本タイミングの変動の際参照するテーブル内容は第1主遊技側の保留が存在しないためY'である。また、当該変動によって第2主遊技側の保留球は2個から1個になる。

【0404】

このように、本例においては、短演出ステージ時には第2主遊技側の変動態様決定時に参照するテーブルの内容は第1主遊技側の保留の有無によって異なるよう構成されている。

【0405】

次に、図中4のタイミングにおいて、特定遊技における30変動目となる主遊技図柄の変動が終了したため短演出ステージが終了し、長演出ステージに切り替わることとなる。次に、図中5のタイミングにおいて、特定遊技における32変動目となる第2主遊技図柄の変動が開始され、また、図中6のタイミングにおいて、特定遊技における35変動目となる第2主遊技図柄の変動が開始される。図中5のタイミングでの第2主遊技図柄の変動開始時には、第1主遊技側の保留が1個であるのに対し、図中6のタイミングでの第2主遊技図柄の変動開始時には、第1主遊技側の保留が0個であるが、第2主遊技図柄の変動態様の決定の際に参照するテーブル内容は同一となっており、変動時間は共

に10秒となっている。

【0406】

以上のように構成することで、第2実施形態に係るぱちんこ遊技機によれば、回数制限付きの確率変動遊技状態（且つ、時間短縮遊技状態）中の遊技において、主遊技図柄の変動回数が所定回数となったことを契機として、選択される変動態様（変動時間）の候補が相違することとなる（切り替わる）よう構成されている。また、変動態様の切り替わりに応じて、演出内容も切り替えることにより、特定遊技 {回数制限付きの確率変動遊技状態（且つ、時間短縮遊技状態）} 中の遊技の進行に合わせて演出の態様を異ならせることができ、遊技の興趣性を向上させることが可能となるのである。

【0407】

（第2実施形態からの変更例1）

また、本例では特に図示していないが、特別遊技の終了時に、大当たりとなる保留（特に、第2主遊技側の保留）が存在する場合、特殊な演出を実行することによって、当該大当たりを、斬新な方法で演出することが可能である。そこで、そのような構成を第2実施形態からの変更例1とし、以下、第2実施形態からの変更点についてのみ詳述する。

【0408】

尚、以下の実施形態におけるステップ番号、符号、手段名等は、他の実施形態におけるステップ番号、符号、手段名等と同一である場合があるが、これらはそれぞれ単独の実施形態におけるステップ番号、符号、手段名等であることを示している（例えば、本実施形態におけるステップ2102と第2実施形態におけるステップ2102は、別の実施形態におけるステップ2102であるため、それぞれ単独で機能する処理である）。

【0409】

はじめに、図77は、第2実施形態からの変更例1における、図7のステップ1600のサブルーチンに係る、特別遊技制御処理のフローチャートである。第2実施形態からの変更点は、ステップ1636（変1）～ステップ1800（変1）であり、その目的は、終了デモを実行することである。即ち、特別遊技の最終ラウンドが終了した場合、ステップ1636（変1）で、主制御基板MのCPUMCは、終了デモ実行許可フラグをオンにし、ステップ1638（変1）に移行する。次に、ステップ1638（変1）で、主制御基板MのCPUMCは、終了デモ実行許可フラグがオンであるか否かを判定する。ステップ1638（変1）でYesの場合、ステップ1800（変1）で、主制御基板MのCPUMCは、後述する終了デモ時間制御処理を実行し、次の処理（ステップ1997の処理）に移行する。尚、ステップ1638（変1）でNoの場合にも次の処理（ステップ1997の処理）に移行する。

【0410】

次に、図78は、第2実施形態からの変更例1における、図77のステップ1800（変1）のサブルーチンに係る、終了デモ時間制御処理のフローチャートである。まず、ステップ1802で、主制御基板MのCPUMCは、終了デモ実行中フラグがオフであるか否かを判定する。ステップ1802でYesの場合、ステップ1804で、主制御基板MのCPUMCは、停止図柄は長デモ時間大当たり図柄（本例では、7A・7B）であるか否かを判定する。ステップ1804でYesの場合、ステップ1806で、主制御基板MのCPUMCは、終了デモ時間タイマ（特別遊技の終了デモ時間を計測するためのメイン側のタイマ）に長時間（例えば、10秒）をセットしてスタートし、ステップ1810に移行する。他方、ステップ1804でNoの場合、換言すると、停止図柄が短デモ時間大当たり図柄（3A・3B・5A・5B）である場合、ステップ1808で、主制御基板MのCPUMCは、終了デモ時間タイマに短時間（例えば、3秒）をセットしてスタートし、ステップ1810に移行する。次に、ステップ1810で、主制御基板MのCPUMCは、サブ側への特別遊技終了表示指示コマンド及び決定した終了デモ時間情報に係るコマンドをセット（ステップ1999制御コマンド送信処理によってサブメイン制御部SM側に送信される）する。次に、ステップ1812で、主制御基板MのCPUMCは、終了デモ実行中フラグをオンにし、ステップ1814に移行する。尚、ステップ1802でNoの場

10

20

30

40

50

合にも、ステップ1814に移行する。

【0411】

次に、ステップ1814で、主制御基板MのCPUMCは、当該タイマ値が0であるか否かを判定する。ステップ1814でYesの場合、ステップ1816で、主制御基板MのCPUMCは、終了デモ実行中フラグをオフにする。次に、ステップ1818で、主制御基板MのCPUMCは、終了デモ実行許可フラグをオフにする。次に、ステップ1820で、主制御基板MのCPUMCは、特別遊技実行フラグをオフにする。次に、ステップ1650で、主制御基板MのCPUMCは、前述した特別遊技終了後の遊技状態決定処理を実行し、次の処理（ステップ1997の処理）に移行する。尚、ステップ1814でNoの場合にも、次の処理（ステップ1997の処理）に移行する。

10

【0412】

次に、図79は、第2実施形態からの変更例1における、図66のステップ2400のサブルーチンに係る、特別遊技関連表示制御処理のフローチャートである。第2実施形態からの変更点は、ステップ2480（変1）～ステップ2600（変1）であり、その目的は、終了デモ演出及び終了デモ延長演出を実行することである。即ち、特別遊技中をオフにした後、ステップ2480（変1）で、副制御基板SのCPUSCは、終了デモ時間が長時間（10秒）であるか否かを判定する。ステップ2480（変1）でYesの場合、ステップ2482（変1）で、副制御基板SのCPUSCは、デモ時間表示タイマに長時間（例えば、10秒）をセットしてスタートし、ステップ2486（変1）に移行する。他方、ステップ2480（変1）でNoの場合、ステップ2484（変1）で、副制御基板SのCPUSCは、デモ時間表示タイマに短時間（例えば、3秒）をセットしてスタートし、ステップ2486（変1）に移行する。

20

【0413】

次に、ステップ2486（変1）で、副制御基板SのCPUSCは、終了デモ画像（例えば、遊技球の獲得数、連荘回数等を報知する画像）を表示するコマンドをセット（ステップ2900の表示コマンド送信制御処理にて、サブサブ制御部SS側に送信される）する。次に、ステップ2488（変1）で、副制御基板SのCPUSCは、終了デモ表示中フラグをオンにし、ステップ2490（変1）に移行する。尚、ステップ2404又はステップ2426でNoの場合にも、ステップ2490（変1）に移行する。

【0414】

次に、ステップ2490（変1）で、副制御基板SのCPUSCは、終了デモ表示中フラグがオンであるか否かを判定する。ステップ2490（変1）でYesの場合、ステップ2492（変1）で、副制御基板SのCPUSCは、デモ時間表示タイマ（特別遊技の終了デモ時間を計測するためのサブ側のタイマ）値が0であるか否かを判定する。ステップ2492（変1）でYesの場合、ステップ2600（変1）で、副制御基板SのCPUSCは、後述する終了デモ延長演出実行処理を実行し、次の処理（ステップ2900の処理）に移行する。尚、ステップ2490（変1）又はステップ2492（変1）でNoの場合にも次の処理（ステップ2900の処理）に移行する。

30

【0415】

以上のように変更することにより、第2実施形態からの変更例1においては、特別遊技終了時に、特別遊技の結果等を報知する終了デモ演出を実行可能に構成すると共に、当該デモ演出の終了後（特別遊技終了後）、主遊技図柄の変動（特定遊技）開始後の所定期間（大当たり保留が存在する場合、当該大当たり変動終了直前まで、大当たり保留が存在しない場合、現時点で存在する保留に係る変動終了まで）、当該デモ演出と略同一の演出を表示（例えば、主遊技図柄変動中にも、特別遊技の結果などを報知する画像を継続して表示）することで、特別遊技終了時の保留内に大当たりとなる保留が存在する場合には、当該大当たり保留に係る図柄停止（＝大当たり）直前まで当該デモ演出と略同一の画像が表示されるよう構成されているため、遊技者にとっては、特別遊技の終了後、特定遊技中の変動を経ずに突然、次の大当たりとなり、特別遊技が再度開始されたように認識するといった、斬新な演出となり、遊技の興趣性を向上させることが可能となる。また、大当たりに当選した主遊技

40

50

図柄によって終了デモ演出の実行時間を相違させることにより、遊技者には終了デモ演出と当該終了デモ演出と同様の演出を実行する主遊技図柄の変動中の演出とで区別がつかず、遊技の興趣性が高まることとなる。

【0416】

＜のめり込み＞

尚、本例に係る遊技機においては、終了デモ演出として、遊技に対するのめり込みの防止を促すための注意喚起画像（例えば、演出表示装置に「ぱちんこは適度に楽しむ遊びです」と表示）を表示し得るよう構成してもよい。尚、注意喚起画像の表示タイミング（表示する期間）としては、特別遊技終了デモ時間中には限定されず、遊技に対するのめり込みの防止を促すための注意喚起画像を表示可能なタイミングとして、大当たりが終了した後や、大当たり終了デモだけでなく、遊技時間が所定の時間経過する毎や、払い出した遊技球数（付与した遊技価値）が所定球数（所定の遊技価値付与数）を超える毎、発射した遊技球数が所定球数（所定の賭け遊技価値数）を超える毎などに、注意喚起画像を表示することができる。遊技者にメッセージを頻繁に視認させることで、のめり込みを的確に防止することができる。

【0417】

注意喚起画像は、所定時間経過したことを契機に消去するようにしても、遊技者が注意喚起画像を消去するための操作をすることで消去するようにしてもよい。遊技者に操作させることによって、のめり込みを認識させることができる。

【0418】

（第3実施形態）

尚、第2実施形態においては、特別遊技終了後には必ず回数制限付きの確率変動遊技状態に移行すると共に、当該確率変動遊技状態である期間の演出を段階的に切り替えることによって、遊技の興趣性を向上するよう構成した。しかし、第2実施形態の構成では、大当たり図柄によって確率変動遊技状態に移行するか否か、という点では遊技者の期待感を煽ることができない。そこで、そのような課題を解決するための構成を、第3実施形態とし、以下、第2実施形態との相違点についてのみ詳述する。

【0419】

尚、以下の実施形態におけるステップ番号、符号、手段名等は、他の実施形態におけるステップ番号、符号、手段名等と同一である場合があるが、これらはそれぞれ単独の実施形態におけるステップ番号、符号、手段名等であることを示している（例えば、本実施形態におけるステップ2102と第2実施形態におけるステップ2102は、別の実施形態におけるステップ2102であるため、それぞれ単独で機能する処理である）。

【0420】

はじめに、第3実施形態に係る遊技機は、第2大入賞口C20の内部に、遊技球が入球可能な特定領域C22を有している。また、第3実施形態に係る遊技機は特別遊技実行中に特定領域C22に遊技球が入球することにより、当該特別遊技終了後に確率変動遊技状態に移行するような構成（いわゆる、V確タイプ）となっている。

【0421】

まず、図80は、第3実施形態における、図7のステップ1400（1）{ステップ1400（2）}のサブルーチンに係る、第1（第2）主遊技図柄表示処理のフローチャートである。はじめに、第2実施形態との相違点は、ステップ1408（第2）、ステップ1412-1（第2）及びステップ1412-2（第2）であり、その目的は、非確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態である場合の変動態様を第2実施形態にて示したものと異ならせることである。即ち、ステップ1410-2で主遊技図柄の停止図柄を決定した後、ステップ1408（第2）で、主制御基板MのCPUMCは、主遊技時短フラグがオフであるか否かを判定する。ステップ1408（第2）でYesの場合、ステップ1412-1（第2）で、主制御基板MのCPUMCは、主遊技側乱数・当否抽選結果に基づき、主遊技図柄の変動態様を決定する。他方、ステップ1408（第2）でNoの場合、ステップ1411に移行し、主制御基板MのCPUMCは、限定頻度カウンタ値が0である

か否かを判定する。ステップ1411でYesの場合、即ち、限定頻度カウンタ値が0である場合、ステップ1412-2（第2）で、主制御基板MのCPUMCは、主遊技側乱数・当否抽選結果に基づき、主遊技図柄の変動態様を決定する。他方、ステップ1411でNoの場合、ステップ1450及び1413の処理にて、第2実施形態と同様の処理を実行する。

【0422】

ここで、図81は、第3実施形態における、主制御基板側での第1（第2）主遊技図柄表示処理にて用いられる主遊技テーブル構成図である。第2実施形態との相違点は、大当たりとなる主遊技図柄の組み合わせが異なる点と、非確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態時に参照するテーブルを設けた点である。尚、大当たりとなる主遊技図柄のうち、特定領域に遊技球が入球容易となる特別遊技が実行されることとなる主遊技図柄は「5A・7A・3B・5B・7B」であり、特定領域に遊技球が入球困難となる特別遊技が実行されることとなる主遊技図柄は「2A」となっている。

【0423】

次に、図82は、第3実施形態における、図77のステップ1600のサブルーチンに係る、特別遊技制御処理のフローチャートである。はじめに、第2実施形態との相違点は、ステップ1611（第2）及びステップ1850（第2）であり、その目的は、振分遊技（特定領域を有する第2大入賞口C20を開放する単位遊技）を実行し得るよう構成することである。即ち、ステップ1608でサブ側への特別遊技開始表示指示コマンドをセットした後、又は、特別遊技実行フラグがオンであった場合、ステップ1611（第2）で、主制御基板MのCPUMCは、現在実行するラウンドが振分遊技実行ラウンド（本例では第2R、4R）であるか否かを判定する。ステップ1611（第2）でYesの場合、ステップ1850（第2）で、主制御基板MのCPUMCは、後述する振分遊技実行処理を実行し、ステップ1634に移行する。他方、ステップ1611（第2）でNoの場合には、ステップ1612に移行し、第2実施形態と同様の処理を実行する。

【0424】

次に、図83は、第3実施形態における、図82のステップ1850（第2）のサブルーチンに係る、振分遊技実行処理のフローチャートである。まず、ステップ1852で、主制御基板MのCPUMCは、振分遊技実行中フラグがオンであるか否かを判定する。ステップ1852でYesの場合、ステップ1866に移行する。他方、ステップ1852でNoの場合、ステップ1854で、主制御基板MのCPUMCは、停止している主遊技図柄は長開放図柄（振分遊技実行ラウンドにおいて第2大入賞口C20が相対的に長時間開放する大当たり図柄であり、本例では、3B・5A・5B・7A・7B）であるか否かを判定する。ステップ1854でYesの場合、ステップ1856で、主制御基板MのCPUMCは、特定領域C22を有する第2大入賞口C20の開放パターンとして、長開放パターン（例えば、15秒間の開放であって、特定領域C22への入球が確定的となるよう設計された開放パターン）をセットし、ステップ1860に移行する。ステップ1854でNoの場合、換言すると、停止図柄が2Aの場合、ステップ1858で、主制御基板MのCPUMCは、特定領域C22を有する第2大入賞口C20の開放パターンとして、短開放パターン（例えば、0.1秒間の開放であって、特定領域C22への非入球が確定的となるよう設計された開放パターン）をセットし、ステップ1860に移行する。尚、第3実施形態においては、第1主遊技側の長開放図柄は「5A・7A」となっており、大当たり時に選択される割合は「524／1024」となっており、第2主遊技側の長開放図柄は「3B・5B・7B」となっており、大当たり時に選択される割合は「1024／1024」となっているため、第1主遊技側の大当たりよりも第2主遊技側の大当たりの方が振分遊技実行ラウンドにおいて第2大入賞口C20が長開放となる割合が高い、即ち、大当たり時に特定領域C22に遊技球が入球し易いよう構成されている。

【0425】

次に、ステップ1860で、主制御基板MのCPUMCは、入賞球カウンタMP33cのカウンタ値をクリアする。次に、ステップ1862で、主制御基板MのCPUMCは、

振分遊技継続フラグをオンにする。次に、ステップ1864で、主制御基板MのCPUMCは、セットされた開放パターンにて第2大入賞口C20を開放し、ステップ1866に移行する。

【0426】

次に、ステップ1866で、主制御基板MのCPUMCは、入賞球カウンタMP33cのカウント値を確認し、第2大入賞口C20に遊技球が所定個数（10個）入賞したか否かを判定する。ステップ1866でYesの場合、ステップ1870に移行する。他方、ステップ1866でNoの場合には、ステップ1868で、主制御基板MのCPUMCは、第2大入賞口C20の開放期間（セットされた開放パターン）が終了したか否かを判定する。ステップ1868でYesの場合、ステップ1870に移行する。次に、ステップ1870で、主制御基板MのCPUMCは、第2大入賞口C20を閉鎖する。次に、ステップ1872で、主制御基板MのCPUMCは、振分遊技実行中フラグをオフにする。次に、ステップ1874で、主制御基板MのCPUMCは、当該振分遊技の実行ラウンドにおいて特定領域C22への遊技球の入球があったか否かを判定する。ステップ1874でYesの場合、ステップ1876で、主制御基板MのCPUMCは、主遊技確変移行予約フラグをオンにし、ステップ1878に移行する。尚、ステップ1874でNoの場合も、ステップ1878に移行する。次に、ステップ1878で、主制御基板MのCPUMCは、ラウンド数カウンタに1を加算し（振分遊技の実行ラウンドを終了し）、次の処理（ステップ1634の処理）に移行する。尚、ステップ1868でNoの場合にも、次の処理（ステップ1634の処理）に移行する。

【0427】

次に、図84は、第3実施形態における、図82のステップ1650のサブルーチンに係る特別遊技終了後の遊技状態決定処理のフローチャートである。はじめに、第2実施形態との相違点は、ステップ1680（第2）、ステップ1682（第2）、ステップ1684（第2）及びステップ1686（第2）についてであり、その目的は、第3実施形態にて実行する振分遊技において、特定領域C22への入球があったか否かによって、確率変動遊技状態への移行可否及び時間短縮遊技状態における変動回数の上限值を異ならせることである。即ち、本サブルーチンの実行時、ステップ1680（第2）で、主制御基板MのCPUMCは、主遊技確変移行予約フラグがオンであるか否かを判定する。ステップ1680（第2）でYesの場合、ステップ1682（第2）で、主制御基板MのCPUMCは、主遊技確変移行予約フラグをオフにする。次に、ステップ1652及びステップ1654で、主制御基板MのCPUMCは、確変回数カウンタMP51cに所定回数（本例では、80回）をセットすると共に、主遊技確変フラグをオンにする。次に、ステップ1684（第2）で、主制御基板MのCPUMCは、限定頻度カウンタMN52cに所定回数（本例では、80回）をセットする。次に、ステップ1656で、主制御基板MのCPUMCは、時短回数カウンタMP52cに所定回数A（本例では、80回）をセットしてステップ1658に移行し、以降、ステップ1658及びステップ1660にて、第2実施形態と同様の処理を実行する。

【0428】

他方、ステップ1680（第2）でNoの場合、ステップ1686（第2）で、主制御基板MのCPUMCは、時短回数カウンタMP52cに所定回数B（本例では、50回であるが、これには限定されない。尚、所定回数A以下の値が好適である。）をセットし、ステップ1658に移行する。

【0429】

ここで、第3実施形態においては、特別遊技中における特定領域C22への入球有無に拘らず、特別遊技終了後には時間短縮遊技状態に移行するよう構成されている。また、特別遊技中に特定領域C22への遊技球の入球があった場合には当該特別遊技後にて時間短縮遊技状態となる変動回数が、確率変動遊技状態となる変動回数と同じ所定回数A（本例では80回）となり、特別遊技中に特定領域への遊技球の入球がなかった場合には当該特別遊技後にて時間短縮遊技状態となる変動回数が所定回数Aとは異なる（少ない）回数で

ある所定回数 B（本例では 50 回）となるように構成されている。これにより、万一、特定領域 C 2 2 への入球が容易となる特別遊技中に特定領域 C 2 2 を通過しなかった場合でも、一定程度の有利期間を提供でき、特定領域 C 2 2 を通過しなかった場合の興趣低下の抑止が期待できる。また、時間短縮遊技状態時の主遊技図柄の変動態様は、所定回数 A の時間短縮遊技状態時においては 3 段階の限定頻度テーブル（限定頻度テーブル 1、限定頻度テーブル 2 及び限定頻度テーブル 3）が参照され、所定回数 B の時間短縮遊技状態時においては主遊技テーブル 3 - 2 が参照され、また、演出内容も異なるテーブルを参照するよう構成されている。尚、当該構成は特別遊技の実行契機となった大当たり図柄が同一の場合にも相違する場合にも適用される（例えば、同一の大当たり図柄を契機とした特別遊技であっても、特別遊技実行中に特定領域 C 2 2 に入球するか否かによって時短回数が相違する、等）。尚、本例はあくまで一例であり、これには限定されず、例えば、時間短縮遊技の変動上限回数が、大当たり時の図柄に基づいて決定されるよう構成してもよい（例えば、特別遊技中に特定領域 C 2 2 への入球がなされなかった場合、大当たり図柄によって時間短縮遊技の変動上限回数が決定される、等）。

【0430】

次に、図 8 5 は、第 3 実施形態における、演出内容決定テーブルの一例である。第 2 実施形態との相違点は、同図右側下段に図示する、非確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態時に参照される演出内容決定テーブルを有している点である。第 3 実施形態では、特別遊技中に特定領域 C 2 2 に遊技球が入球しなかった場合、特別遊技後の遊技状態は確率変動遊技状態とならず、非確率変動・時間短縮遊技状態（50 変動）となる。そうなった場合、当該テーブルを参照し、演出内容を決定することとなる。尚、本例はあくまで一例であり、変動回数、演出内容、変動態様、テーブルの構成等、これには限定されない。

【0431】

以上のように、第 3 実施形態に係る、特別遊技中の特定領域への遊技球の入球有無によって、当該特別遊技実行後に確率変動遊技状態へと移行するか否かを決定する（特定領域に入球ありで確率変動遊技状態に移行し、入球なしで確率変動遊技状態に移行しない）遊技機（いわゆる、V 確タイプの遊技機）において、確率変動遊技状態とならなかった場合の非確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態中の変動態様（及び演出）を確率変動遊技状態中の変動態様（及び演出）と異ならせることで、遊技者の利益態様に応じた、適切な演出を実行することができるのである。尚、本例では特に図示していないが、振分遊技を実行する際には、専用の演出（第 2 大入賞口 C 2 0 が長開放となるか否かを煽る演出、特定領域 C 2 2 への入球がなされるか否かを煽る演出、特定領域 C 2 2 への入球がなされた旨を報知する演出、等）が実行されるよう構成してもよい（実行態様には特に限定されないが、例えば、特定領域 C 2 2 への入球がなされた旨を報知する演出である場合には、当該入球がなされたタイミング（直後であることが望ましい）にて、演出表示装置 S G や演出表示装置 S G の前面に設けられた演出装置（例えば、いわゆる演出用の可動体役物や導光板等）にて、当該報知を実行するよう構成することを例示することができる（例えば、演出表示装置 S G 上に「V」と描かれた画像を表示する、或いは、演出用の可動体役物を初期位置から演出可能な位置へ変位させる、或いは、導光板に光を照射することで導光板上に像を浮かび上がらせる、等））。尚、特定領域 C 2 2 への入球がなされた旨を報知する演出を実行するに際しては、特定の遊技状態（例えば、確率変動遊技状態）で特別遊技に当選したときや特定の特別図柄（大当たり図柄）が当選したとき等の、特定領域 C 2 2 への入球が略確定的となるよう設計された開放パターンが実行される特別遊技においては、「V」と描かれた画像を控えめに表示（例えば、小さく表示）するなど、特定領域 C 2 2 への入球が略確定的となるよう設計された開放パターンが実行されない特別遊技が行われる可能性がある状況において（特別遊技における特定領域 C 2 2 への入球容易性が不明である状況において）、その後、特定領域 C 2 2 への入球が略確定的となるよう設計された開放パターンが実行された場合には、特定領域 C 2 2 への入球がなされた旨を報知する演出と異なる演出を実行することも好適であり、これにより、必要に応じた優先度で演出を実行することができる。

【0432】

また、第3実施形態においては、第2大入賞口C20が開状態となる単位遊技（ラウンド）における開放態様が、複数存在する（例えば、2種類）。具体的には、特に図示していないが、第一の時間（好適には、遊技球の1発射間隔未満又は以下）開放し得る第一単位遊技と、前記第一の時間開放した後、所定時間の閉鎖を経て、前記第一の時間よりも長い第二の時間再び開放（又は開閉）し得る第二単位遊技と、を有する。このように、第一の単位遊技及び第二の単位遊技を実行可能と構成することにより、確率変動移行への期待度が低い第一の時間の開放動作が終了した後であっても、確率変動移行への期待度が高い第二の時間の開放動作が実行される可能性を持たせることができる。その結果、特別遊技中における遊技の興趣性を高めることが可能となる。尚、前記第二の時間は、特定領域への入球を担保すべく、遊技球の1発射間隔以上又は超であることが好適であり、（当該ラウンドの上限入賞個数の半分）×（遊技球の1発射間隔）以上又は超であることがより好適であり、（当該ラウンドの上限入賞個数）×（遊技球の1発射間隔）以上又は超であることが特に好適である。

10

【0433】

以上のように、第3実施形態に係る、特別遊技中の特定領域への遊技球の入球有無によって、当該特別遊技実行後に確率変動遊技状態へと移行するか否かを決定する（特定領域に入球ありで確率変動遊技状態に移行し、入球なしで確率変動遊技状態に移行しない）遊技機（いわゆる、V確タイプの遊技機）において、確率変動遊技状態とならなかった場合の非確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態中の変動態様（及び演出）を確率変動遊技状態中の変動態様（及び演出）と異ならせることで、遊技者の利益態様に応じた、適切な演出を実行することができるのである。尚、本例では特に図示していないが、振分遊技を実行する際には、専用の演出（第2大入賞口C20が長開放となるか否かを煽る演出、特定領域C22への入球がなされるか否かを煽る演出、特定領域C22への入球がなされた旨を報知する演出、等）が実行されるよう構成してもよい（実行態様には特に限定されないが、例えば、特定領域C22への入球がなされた旨を報知する演出である場合には、当該入球がなされたタイミング（直後であることが望ましい）にて、演出表示装置SGや演出表示装置SGの前面に設けられた演出装置（例えば、いわゆる演出用の可動体役物や導光板等）にて、当該報知を実行するよう構成することを例示することができる（例えば、演出表示装置SG上に「V」と描かれた画像を表示する、或いは、演出用の可動体役物を初期位置から演出可能な位置へ変位させる、或いは、導光板に光を照射することで導光板上に像を浮かび上がらせる、等）}。

20

30

【0434】

また、第3実施形態においては、第2大入賞口C20が開状態となる単位遊技（ラウンド）における開放態様が、複数存在する（例えば、2種類）。具体的には、特に図示していないが、第一の時間（好適には、遊技球が1球以上は入球可能であるが相対的に短時間となる開放時間）開放し得る第一単位遊技と、前記第一の時間開放した後、所定時間の閉鎖を経て、前記第一の時間よりも長い第二の時間再び開放（又は開閉）し得る第二単位遊技と、を有する。このように、第一の単位遊技及び第二の単位遊技を実行可能と構成することにより、確率変動遊技状態への移行期待度が低い第一の時間の開放動作が終了した後であっても、確率変動遊技状態への移行期待度が高い第二の時間の開放動作が実行される可能性を持たせることができる。その結果、特別遊技中における遊技の興趣性を高めることが可能となる。尚、前記第二の時間は、特定領域C22への入球を担保すべく、複数球の遊技球が第2大入賞口C20に入球容易となるよう構成することが好適であり、（当該ラウンドの上限入賞個数の半分）×（遊技球の1発射間隔）以上又は超であることがより好適であり、（当該ラウンドの上限入賞個数）×（遊技球の1発射間隔）以上又は超であることが特に好適である。

40

【0435】

尚、第3実施形態のような特別遊技の実行中に特定領域C22に入球することにより、特別遊技終了後に確率変動遊技状態に移行し得る遊技機（いわゆる、V確タイプの遊技機

50

）においては、（１）大入賞口を１つのみ設けて、当該１つの大入賞口にて通常ラウンド（特定領域Ｃ２２への入球が無効となるラウンド）と振分遊技実行ラウンド（特定領域Ｃ２２への入球が有効となるラウンド）とを実行する、（２）大入賞口Ａと、特定領域Ｃ２２を有する大入賞口Ｂとを設けて、大入賞口Ａにて通常ラウンドを実行し、大入賞口Ｂにて振分遊技実行ラウンドを実行する、（３）大入賞口Ａと、特定領域Ｃ２２を有する大入賞口Ｂと上下に重なるような配置（大入賞口Ｂが上となっている）にて設け、大入賞口Ａにて通常ラウンドを実行し、大入賞口Ｂにて振分遊技実行ラウンドを実行し、振分遊技実行ラウンドの実行中のみ特定領域Ｃ２２がへの入球が有効となり得る、（４）大入賞口Ａと、特定領域Ｃ２２を有する大入賞口Ｂと上下に重なるような配置（大入賞口Ｂが上となっている）にて設け、大入賞口Ａにて通常ラウンドを実行し、大入賞口Ｂにて振分遊技実行ラウンドを実行し、振分遊技実行ラウンドの実行中のみ特定領域Ｃ２２に遊技球が入球し得る（遮蔽部材が設けられており、当該遮蔽部材が開放状態であると特定領域Ｃ２２への入球が容易となり、当該遮蔽部材が閉鎖状態であると特定領域Ｃ２２への入球が困難となる）、のように構成してもよい。

10

【０４３６】

（第３実施形態からの変更例１）

尚、第３実施形態においては、特別遊技実行中に特定領域Ｃ２２に入球することによって当該特別遊技終了後に確率変動遊技状態に移行する遊技機の構成を例示したが、このような構成は第３実施形態に構成には限定されない。そこで、第３実施形態とは異なる特定領域Ｃ２２を有する構成を第３実施形態からの変更例１とし、以下、第３実施形態からの変更点についてのみ詳述する。

20

【０４３７】

尚、以下の実施形態におけるステップ番号、符号、手段名等は、他の実施形態におけるステップ番号、符号、手段名等と同一である場合があるが、これらはそれぞれ単独の実施形態におけるステップ番号、符号、手段名等であることを示している（例えば、本実施形態におけるステップ２１０２と第２実施形態におけるステップ２１０２は、別の実施形態におけるステップ２１０２であるため、それぞれ単独で機能する処理である）。

【０４３８】

はじめに、図８６は、第３実施形態からの変更例１における、主制御基板ＭのＣＰＵＭＣが行う一般的な処理の流れを示したメインフローチャートである。第２実施形態との相違点は、入賞口に対応する賞球数を図示したことであり、即ち、第１主遊技始動口Ａ１０の賞球数は３球であり、第２主遊技始動口Ｂ１０の賞球数は１球であり、第１大入賞口Ｃ１０の賞球数は１５球であり、第２大入賞口Ｃ２０の賞球数は１３球であり、一般入賞口の賞球数は１０球である。このように、第３実施形態からの変更例１においては、第１大入賞口Ｃ１０の賞球数よりも、第２大入賞口Ｃ２０の賞球数の方が少なくなっている。

30

【０４３９】

次に、図８７は、第３実施形態からの変更例１における、図２４のステップ１４００（１）{ステップ１４００（２）}のサブルーチンに係る、第１（第２）主遊技図柄表示処理のフローチャートである。はじめに、第３実施形態からの変更点は、ステップ１４５０（第２変１）、ステップ１４３１－１（第２変１）及びステップ１４３１－２（第２変１）であり、即ち、ステップ１４１１で限定頻度カウンタ値が０ではない場合、ステップ１４５０（第２変１）で、主制御基板ＭのＣＰＵＭＣは、後述する限定頻度変動態様決定処理を実行し、ステップ１４１３に移行する。

40

【０４４０】

また、ステップ１４４０で、条件装置作動フラグをオンにした後、ステップ１４３１－１（第２変１）で、主制御基板ＭのＣＰＵＭＣは、停止図柄が限度頻度大当り図柄（大当り終了後の時間短縮遊技状態が終了した後に限定頻度状態となる大当り図柄であり、本例では、７Ｂ）であるか否かを判定する。ステップ１４３１－１（第２変１）でＹｅｓの場合、ステップ１４３１－２（第２変１）で、主制御基板ＭのＣＰＵＭＣは、限度頻度カウンタに所定回数（本例では、１００回）をセットし、ステップ１５００に移行する。

50

【0441】

次に、図88は、第3実施形態からの変更例1における、図87のステップ1450（第2変1）のサブルーチンに係る、限定頻度変動態様決定処理のフローチャートである。まず、ステップ1451-1で、主制御基板MのCPUMCは、限定頻度カウンタ値Gが第1段階範囲内の値（ $100 \geq G > 21$ ）であるか否かを判定する。ステップ1451-1でYesの場合、ステップ1451-2で、主制御基板MのCPUMCは、主遊技テーブル3を参照して主遊技側乱数、当否抽選結果に基づき、主遊技図柄に係る変動態様（変動時間）を決定し、次の処理（ステップ1413の処理）に移行する。他方、ステップ1451-1でNoの場合、ステップ1451-3で、主制御基板MのCPUMCは、限定頻度カウンタ値Gが第2段階範囲内の値（ $G = 21$ ）であるか否かを判定する。尚、限定頻度カウンタ値が21の場合には、時間短縮遊技状態における最終変動となっている。ステップ1451-3でYesの場合、ステップ1451-4で、主制御基板MのCPUMCは、現在の遊技状態が確率変動遊技状態であるか否かを判定する。ステップ1451-4でYesの場合、ステップ1451-5で、主制御基板MのCPUMCは、限定頻度テーブル1を参照して、主遊技側乱数、当否抽選結果に基づき、主遊技図柄に係る変動態様（変動時間）を決定し、次の処理（ステップ1413の処理）に移行する。尚、ステップ1451-4でNoの場合にはステップ1451-2に移行し、主遊技テーブル3を参照して主遊技図柄に係る変動態様（変動時間）を決定する。このように、第3実施形態からの変更例1においては、時間短縮遊技状態の最終変動において、確率変動遊技状態である場合と非確率変動遊技状態である場合とで、変動態様を決定する際に参照するテーブルが相違する。換言すると、限度頻度大当り図柄である「7B」に係る大当りの実行中に特定領域C22に遊技球した場合と入球しなかった場合とで、当該大当り終了後の時間短縮遊技状態の最終図柄変動にて変動態様を決定する際に参照するテーブルが相違するよう構成されている。尚、ステップ1451-3でNoの場合、ステップ1451-6で、主制御基板MのCPUMCは、限定頻度テーブル2を参照して、主遊技側乱数、当否抽選結果に基づき、主遊技図柄に係る変動態様（変動時間）を決定し、次の処理（ステップ1413の処理）に移行する。また、第3実施形態からの変更例1においては、前述した、限度頻度大当り図柄である「7B」に係る大当りが終了した場合には、限定頻度カウンタに100回がセットされ、時短回数カウンタMP52cに80回がセットされる。このように構成しているため、限定頻度カウンタ値が第1段階範囲内でない、即ち、限定頻度カウンタ値が20以下の値である場合には、非時間短縮遊技状態且つ限定頻度カウンタ値が0より大きい状況となる。このような状態の場合に限定頻度テーブルを参照して主遊技図柄の変動態様を決定するよう構成することにより、限度頻度大当り図柄である「7B」に係る大当りが終了した場合には、「図柄変動80回分の時間短縮遊技状態→図柄変動20回分の限定頻度状態（非時間短縮遊技状態）」のように遷移していくこととなる。尚、このような構成には限定されず、時間短縮遊技状態においては80回の図柄変動の期間にて限定頻度状態A（参照する限定頻度テーブルが「限定頻度テーブルA1→限定頻度テーブルA2→限定頻度テーブルA3」と遷移する）となり、時間短縮遊技状態が終了し非時間短縮遊技状態に移行してから20回の図柄変動の期間にて限定頻度状態B（参照する限定頻度テーブルは「限定頻度テーブルB1」のみとなる）となる、即ち、限定頻度状態は、異なる遊技状態を跨がないよう構成してもよい。尚、限度頻度大当り図柄である「7B」が当選した場合には当該「7B」に係る特別遊技実行中に特定領域C22に入球するか否かに拘らず時短回数カウンタMP52cに80回がセットされ、限定頻度カウンタに100回がセットされる、即ち、時間短縮遊技状態の終了後にも限定頻度状態に滞在するよう構成されている。尚、限定頻度カウンタ値が0ではない状態にて大当りした場合には連荘中の大当りと見做し、前述した連荘回数カウンタ値を加算するよう構成してもよい（時間短縮遊技状態が終了していても、限定頻度状態にて大当りに当選したならば連荘の大当りと見做してよい）。尚、これには限定されず、限度頻度大当り図柄である「7B」が当選した場合において、当該「7B」に係る特別遊技実行中に特定領域C22に入球した場合には時短回数カウンタMP52cに80回がセットされ、限定頻度カウンタに100回がセット

10

20

30

40

50

される一方、特定領域 C 2 2 に入球しなかった場合には時短回数カウンタ M P 5 2 c に 5 0 回がセットされ、限定頻度カウンタに 7 0 回がセットされるように構成してもよい。また、限度頻度大当り図柄である「7 B」が当選した場合において、当該「7 B」に係る特別遊技実行中に特定領域 C 2 2 に入球しなかった場合の、特別遊技終了後の時間短縮遊技状態における最終変動においては、当該最終変動のみにて参照される限定頻度テーブル（例えば、限定頻度テーブル 3）を参照して主遊技図柄の変動態様を決定するよう構成してもよい。尚、限定頻度テーブル 3 の内容は、保留数に依存せず、当りの場合もハズレの場合も 7 秒の均一の変動時間が決定されるよう構成してもよい。また、限度頻度大当り図柄である「7 B」が当選した場合において、当該「7 B」に係る特別遊技実行中に特定領域 C 2 2 に入球しなかった場合の、特別遊技終了後の時間短縮遊技状態における最終変動にて参照する限定頻度テーブルを、当該「7 B」に係る特別遊技実行中に特定領域 C 2 2 に入球した場合の、特別遊技終了後の時間短縮遊技状態における最終変動にて参照する限定頻度テーブルを同一とするよう構成してもよく、そのように構成した場合には、時間短縮遊技状態における最終変動における演出内容及び演出傾向を同一としてもよい。

【0442】

ここで、図 8 9 は、第 3 実施形態からの変更例 1 における、主制御基板側での第 1（第 2）主遊技図柄表示処理にて用いられる主遊技テーブル構成図である。第 3 実施形態からの変更点は、大当りとなる主遊技図柄の組み合わせが異なる点と、限定頻度テーブルを設けた点である。尚、大当りとなる主遊技図柄のうち、特定領域に遊技球が入球容易となる特別遊技が実行されることとなる主遊技図柄は「5 A・7 A・3 B・5 B・7 B」であり、特定領域に遊技球が入球困難となる特別遊技が実行されることとなる主遊技図柄は「4 A」となっている。また、前述した、限度頻度大当り図柄である「7 B」に係る大当りが終了した場合には、8 0 回の図柄変動の時間短縮遊技状態に移行し（主遊技テーブル 3 を参照して変動時間が決定される）、当該 8 0 回の図柄変動が終了すると、その後 2 0 回の図柄変動の限定頻度状態に移行する（限定頻度テーブル 2 を参照して変動時間が決定される）よう構成されている。尚、限定頻度テーブル 2 を参照する限定頻度状態の場合には、主遊技図柄の変動時間は、当否抽選結果に拘らず 1 0 秒を超過するような長時間が選択されないよう構成されている。また、限度頻度大当り図柄である「7 B」に係る大当りが終了した場合に移行する時間短縮遊技状態の最終変動（大当り終了後から 8 0 変動目）においては、当該「7 B」の実行中にて特定領域 C 2 2 への入球があった場合には限定頻度テーブル 1 を参照して変動態様を決定する一方、当該「7 B」の実行中にて特定領域 C 2 2 への入球がなかった場合には主遊技テーブル 3 を参照して変動態様を決定するよう構成されている（主遊技テーブル 3 のハズレにおける最短変動時間よりも限定頻度テーブル 1 のハズレにおける最短変動時間の方が長時間となっている）。尚、時間短縮遊技状態における最終変動では限定頻度テーブル 1 又は主遊技テーブル 3 が参照され得るよう構成されているが、時間短縮遊技状態における最終変動が確率変動遊技状態である場合と非確率変動遊技状態である場合とで当該最終変動における演出内容を相違させる、即ち、特別遊技中に特定領域 C 2 2 に遊技球が入球するか否かで当該最終変動における演出内容を相違させるよう構成してもよい。例えば、相対的に長時間の図柄変動となる限定頻度テーブル 1 を参照した場合には、当該図柄変動にて確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態が終了する

【0443】

次に、図 9 0 は、第 3 実施形態からの変更例 1 における、図 7 のステップ 1 6 0 0 のサブルーチンに係る、特別遊技制御処理のフローチャートである。はじめに、第 3 実施形態からの変更点は、ステップ 1 6 1 1（第 2 変 1）、ステップ 1 6 3 5 - 1（第 2 変 1）及び 1 6 3 5 - 2（第 2 変 1）であり、即ち、ステップ 1 6 0 8 でサブ側への特別遊技開始表示指示コマンドをセットした後、又は、ステップ 1 6 1 0 で特別遊技実行フラグがオンであった場合、ステップ 1 6 1 1（第 2 変 1）で、主制御基板 M の C P U M C は、現在実行するラウンドが振分遊技実行ラウンド（特定領域 C 2 2 を有する第 2 大入賞口 C 2 0 が開放することとなるラウンドであり、本例では、第 2 R 及び第 4 R）であるか否かを判定

する。ステップ1611（第2変1）でYesの場合、ステップ1850（第2）に移行し、Noの場合にはステップ1612に移行する。

【0444】

また、ステップ1634で特別遊技における最終ラウンドであった場合、ステップ1635-1（第2変1）で、主制御基板MのCPUMCは、終了デモ実行許可フラグ（オンとなることにより特別遊技終了デモ時間が開始されることとなるフラグ）をオンにし、ステップ1635-2（第2変1）に移行する。尚、ステップ1634でNoの場合にもステップ1635-2（第2変1）に移行する。次に、ステップ1635-2（第2変1）で、主制御基板MのCPUMCは、終了デモ実行許可フラグがオンであるか否かを判定する。ステップ1635-2（第2変1）でYesの場合、ステップ1800（変1）に移行し、Noの場合には次の処理（ステップ1997の処理）に移行する。

10

【0445】

次に、図91は、第3実施形態からの変更例1における、図90のステップ1800（変1）のサブルーチンに係る、終了デモ時間制御処理のフローチャートである。はじめに、第3実施形態からの変更点は、ステップ1803（第2変1）であり、即ち、ステップ1802で終了デモ実行中フラグがオフであった場合、ステップ1803（第2変1）で、主制御基板MのCPUMCは、当該特別遊技にて特定領域C22への入球があったか否かを判定する。ステップ1803（第2変1）でYesの場合にはステップ1806に移行し、Noの場合にはステップ1808に移行する。このように、第3実施形態からの変更例1においては、特別遊技の最終ラウンド終了後の期間である特別遊技終了デモ時間は、当該特別遊技の実行中に特定領域C22への遊技球の入球があったか否かによって時間が相違するよう構成されている。尚、特別遊技終了デモ時間が相違する条件はこれには限定されず、例えば、大当たりとなった時点での遊技状態によって相違させてもよい。具体的には、（1）確率変動遊技状態であるか非確率変動遊技状態であるかによって相違する、（2）時間短縮遊技状態であるか非時間短縮遊技状態であるかによって相違する、（3）確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態と、確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態と、非確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態と、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態と、の夫々が相違する、（4）確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態と、確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態と、非確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態と、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態と、の一部の組み合わせで相違する、よう構成してもよい。

20

30

【0446】

また、本例においては、或る大当たり図柄に係る特別遊技について、（1）非時間短縮遊技状態にて特別遊技に当選し、特別遊技中に特定領域C22への入球があった場合の特別遊技終了デモ時間は第一期間（10秒）、（2）非時間短縮遊技状態にて特別遊技に当選し、特別遊技中に特定領域C22への入球がなかった場合の特別遊技終了デモ時間は第二期間（3秒）、（3）時間短縮遊技状態にて特別遊技に当選し、特別遊技中に特定領域C22への入球があった場合の特別遊技終了デモ時間は第二期間（1秒）、（4）時間短縮遊技状態にて特別遊技に当選し、特別遊技中に特定領域C22への入球がなかった場合の特別遊技終了デモ時間は第三期間（3秒）、のように、「第二期間<第三期間<第一期間」となるよう構成してもよい。尚、このような構成は、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態又は確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態にて当選した特別遊技に適用することが好適である。尚、特別遊技終了デモ時間にて実行される演出の具体例としては、第一期間においては、確率変動遊技状態に移行する旨を報知する演出、遊技球の貸出に使用するICカードの取り忘れの注意喚起に関する演出、のめりこみ防止を図る標語の表示演出、遊技機メーカーのロゴを表示する演出を実行し、第三期間においては、非確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態に移行する旨を報知する演出、ICカードの取り忘れの注意喚起に関する演出を実行し、第二期間においては、確率変動遊技状態（連荘状態）が継続する旨を報知する演出を実行する。このように、特別遊技終了デモ時間の長さによって実行される演出が相違するよう構成してもよい。また、状況別の特別遊技終了デモ時間の長

40

50

短を比較すると、特別遊技開始前が非確率変動遊技状態であり特別遊技終了後が確率変動遊技状態となる場合（初当り）の特別遊技終了デモ時間が10秒、特別遊技終了後が非確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態となる場合の特別遊技終了デモ時間が3秒、特別遊技開始前が確率変動遊技状態であり特別遊技終了後が確率変動遊技状態となる場合（連荘継続）の特別遊技終了デモ時間が1秒、といった時間値の関係となるよう構成してもよい。
【0447】

次に、図92は、第3実施形態からの変更例1における、図66のステップ2400のサブルーチンに係る、特別遊技関連表示制御処理のフローチャートである。第2実施形態との相違点は、ステップ2480（第2変1）～ステップ2484（第2変1）である。即ち、ステップ2430で特別遊技中をオフにした後、ステップ2480（第2変1）で、副制御基板SのCPUSCは、特別遊技終了コマンドは長開放コマンド（ステップ1810にてセットされる終了デモ時間情報に係るコマンドであり、終了デモ時間が長時間である10秒である旨に係るコマンド）であるか否かを判定する。ステップ2480（第2変1）でYesの場合、ステップ2482（第2変1）で、副制御基板SのCPUSCは、連荘継続画像（特別遊技終了後に確率変動遊技状態に移行する旨を報知する演出であり、例えば、「おめでとう！まだまだ継続！」と表示する）を長時間（本例では、10秒）表示するコマンドをセットし、次の処理（ステップ2900の処理）に移行する。他方、ステップ2480（第2変1）でNoの場合、即ち、特別遊技終了コマンドが短開放コマンドであった場合、ステップ2484（第2変1）で、連荘終了画像（特別遊技終了後に確率変動遊技状態に移行しない旨を報知する演出であり、例えば、「またね！」と表示する）を短時間（本例では、3秒）表示するコマンドをセットし、次の処理（ステップ2900の処理）に移行する。尚、特別遊技終了デモ時間が長時間（10秒）である場合と短時間（3秒）である場合とで、特別遊技終了デモ時間にて実行する演出態様が相違するよう構成したが、特別遊技終了デモ時間が長時間（10秒）である場合の特別遊技終了後の時間短縮遊技状態における演出態様（演出傾向）と、特別遊技終了デモ時間が短時間（3秒）である場合の特別遊技終了後の時間短縮遊技状態における演出態様（演出傾向）とは同一となるよう構成されている。

【0448】

以上のように構成することにより、第3実施形態からの変更例1に係る遊技機においては、特別遊技における最終ラウンドが終了した後に特別遊技終了デモ時間を設け、実行中の特別遊技にて特定領域C22へ遊技球が入球したか否かによって、特別遊技終了デモ時間の期間が相違するよう構成することにより、特定領域C22に入球した場合には遊技者にとって高利益であることから長時間の遊技者を祝福するような演出を実行する一方、特定領域C22に入球しなかった場合には遊技者にとって高利益でないことから短時間の演出を実行した後通常遊技に戻るような、より抑揚のある遊技機とすることができる。

【0449】

尚、第3実施形態からの変更例1においては、特別遊技開始デモ時間を設けてもよい。尚、特別遊技開始デモ時間においては、当該特別遊技にて特定領域C22に遊技球が入球するか否かが決定していないため、特定領域C22への入球有無によっては特別遊技開始デモ時間の期間は相違しないこととなる。但し、特別遊技に当選した際の遊技状態に応じて特別遊技開始デモ時間を相違させてもよく、例えば、非時間短縮遊技状態にて特別遊技に当選した場合には10秒（遊技者に右打ちの実行を促す演出を実行するため相対的に長時間）、非時間短縮遊技状態にて特別遊技に当選した場合には3秒（遊技者に右打ちの実行を促す演出を実行しないため相対的に短時間）となるよう構成してもよい。また、特定領域C22への入球が略確定的となるよう設計された開放パターンが実行される特別遊技が行われる際には、特別遊技開始デモ時間において「SUPERラッキー！」のように、実質的に特別遊技終了後に確率変動遊技状態となることを示唆するような演出を実行して抑揚を高めてもよい。

【0450】

（第3実施形態からの変更例2）

尚、第3実施形態及び第3実施形態からの変更例1においては、特別遊技実行中に特定領域C22に入球することによって当該特別遊技終了後に確率変動遊技状態に移行する遊技機の構成を例示したが、このような構成としては第3実施形態及び第3実施形態からの変更例1の構成のみには限定されない。そこで、第3実施形態及び第3実施形態からの変更例1とは異なる特定領域C22を有する構成を第3実施形態からの変更例2とし、以下、第3実施形態からの変更点についてのみ詳述する。

【0451】

尚、以下の実施形態におけるステップ番号、符号、手段名等は、他の実施形態におけるステップ番号、符号、手段名等と同一である場合があるが、これらはそれぞれ単独の実施形態におけるステップ番号、符号、手段名等であることを示している（例えば、本実施形態におけるステップ2102と第2実施形態におけるステップ2102は、別の実施形態におけるステップ2102であるため、それぞれ単独で機能する処理である）。

【0452】

はじめに、図93は、第3実施形態からの変更例2における、図7のステップ1600のサブルーチンに係る、特別遊技制御処理のフローチャートである。まず、第3実施形態との相違点は、ステップ1609-1（第2変2）及びステップ3100（第2変2）であり、即ち、ステップ1608でサブ側への特別遊技開始表示指示コマンドをセットした後、ステップ1609-1（第2変2）で、主制御基板MのCPUMCは、開始デモ実行許可フラグをオンにし、ステップ3100（第2変2）に移行する。他方、ステップ1610でYesの場合にも、ステップ3100（第2変2）に移行する。次に、ステップ3100（第2変2）で、主制御基板MのCPUMCは、後述する開始デモ時間制御処理を実行し、ステップ1610に移行する。

【0453】

次に、図94は、第3実施形態からの変更例2における、図93のステップ1850（第2）のサブルーチンに係る、振分遊技実行処理のフローチャートである。はじめに、第3実施形態との相違点は、ステップ1851-1（第2変2）、ステップ1899-1（第2変2）～ステップ1899-7（第2変2）であり、即ち、ステップ1851-1（第2変2）で、主制御基板MのCPUMCは、振分デモ時間中フラグがオフであるか否かを判定する。ステップ1851-1（第2変2）でYesの場合、ステップ1852に移行し、Noの場合にはステップ1854に移行する。また、ステップ1856で長開放パターンをセットした後、又は、ステップ1858で、短開放パターンをセットした後、ステップ1899-1（第2変2）で、主制御基板MのCPUMCは、停止図柄は第1主遊技図柄（第1主遊技大当り図柄）であるか否かを判定する。ステップ1899-1（第2変2）でYesの場合、ステップ1899-2（第2変2）で、主制御基板MのCPUMCは、振分開始デモタイマに長時間 {ステップ1899-3（第2変2）でセットする時間値よりも長時間となる時間値であり、本例では、10秒} をセットしてスタートし、ステップ1899-4（第2変2）に移行する。他方、ステップ1899-1（第2変2）でNoの場合、換言すると、停止図柄が第2主遊技図柄（第2主遊技大当り図柄）であった場合、ステップ1899-3（第2変2）で、主制御基板MのCPUMCは、振分開始デモタイマに短時間 {ステップ1899-2（第2変2）でセットする時間値よりも短時間となる時間値であり、本例では、3秒} をセットしてスタートし、ステップ1899-4（第2変2）に移行する。次に、ステップ1899-4（第2変2）で、主制御基板MのCPUMCは、決定した振分開始デモ時間情報に係るコマンド（サブ側へのコマンドであり、実行中の特別遊技の振分デモ時間の時間値に係るコマンド）をセットする。次に、ステップ1899-5（第2変2）で、主制御基板MのCPUMCは、振分デモ時間中フラグ（オンとなることにより振分デモ時間が開始されるフラグ）をオンにし、ステップ1899-6（第2変2）に移行する。尚、ステップ1851-1（第2変2）でNoの場合にも、ステップ1899-6（第2変2）に移行する。次に、ステップ1899-6（第2変2）で、主制御基板MのCPUMCは、振分開始デモタイマの値が0であるか否かを判定する。ステップ1899-6（第2変2）でYesの場合、ステップ1899-7

(第2変2)で、主制御基板MのCPUMCは、振分デモ時間中フラグをオフにし、ステップ1860に移行する。尚、ステップ1899-6(第2変2)でNoの場合には、次の処理(ステップ1634の処理)に移行する。このように、第3実施形態からの変更例2においては、振分遊技実行ラウンドの開始デモ時間である、振分開始デモ時間は、第1主遊技側の大当たりである場合の方が第2主遊技側の大当たりである場合よりも長時間となっている。

【0454】

次に、図95は、大入賞口の開放パターンの一例の構成図である。第3実施形態における大当たり図柄は、第1主遊技大当たり図柄が「4A・5A・7A」の3種類、第2主遊技大当たり図柄が「4B・5B・7B」の3種類の合計6種類の大当たり図柄を有しており、1回のラウンドにおける開放パターンは、「短開放=500ms開放→閉鎖」、「長開放=3000ms開放→閉鎖」の2種類のみとなっている。尚、大入賞口(第1大入賞口C10又は第2大入賞口C20)の開放パターンはこれには限定されず、種類を増やしてもよいし、1回のラウンドにおいて複数回開放するような開放パターン(例えば、「1000ms開放→1000ms閉鎖→1000ms開放→閉鎖」としてもよい。ここで、第3実施形態からの変更例2においては、第2主遊技長開放大当たりである「5B・7B」のみすべてのラウンド(10R)において大入賞口の開放パターンが長開放となっている。また、第2大入賞口C20が開放することとなる振分遊技実行ラウンドは第4ラウンドとなっており、その他のラウンドは第1大入賞口が開放することとなる。また、すべての大当たりにおいて、実行されるラウンド数は4ラウンド以上となっており、振分遊技実行ラウンドが必ず実行されるよう構成されている。このように、第1主遊技長開放大当たりである「5A・7A」には短開放となるラウンドが存在する(第2R)一方、第2主遊技長開放大当たりである「5B・7B」には短開放となるラウンドが存在しない、即ち、短開放となるラウンド数は、第2主遊技長開放大当たりよりも第1主遊技長開放大当たりの方が多いよう構成されている。

【0455】

次に、図96は、第3実施形態からの変更例2における、図93のステップ3100(第2変2)のサブルーチンに係る開始デモ時間制御処理のフローチャートである。まず、ステップ3102で、主制御基板MのCPUMCは、開始デモ実行中フラグがオフであるか否かを判定する。ステップ3102でYesの場合、ステップ3104で、主制御基板MのCPUMCは、開始デモ時間タイマに開始デモ時間(本例では、3秒)をセットしてスタートする。次に、ステップ3016で、主制御基板MのCPUMCは、停止中の大当たり図柄が第2主遊技大当たり図柄(本例では、3B、5B及び7B)か否かを判定する。ステップ3106でYesの場合、ステップ3108で、主制御基板MのCPUMCは、サブ側への特別遊技開始表示指示コマンドとして、第2長開放コマンド(第2主遊技大当たり図柄に係る特別遊技が開始された旨に係るコマンド)をセットし、ステップ3116に移行する。他方、ステップ3106でNoの場合、ステップ3110で、主制御基板MのCPUMCは、停止中の大当たり図柄が第1主遊技長開放大当たり図柄(本例では、5A及び7A)である否かを判定する。ステップ3110でYesの場合、ステップ3112で、主制御基板MのCPUMCは、サブ側への特別遊技開始表示指示コマンドとして、第1長開放コマンド(第1主遊技大当たり図柄のうち第2大入賞口C20が長開放となる特別遊技が開始された旨に係るコマンド)をセットし、ステップ3116に移行する。他方、ステップ3110でNoの場合、換言すると、停止中の大当たり図柄が第1主遊技長開放大当たり図柄ではない場合、即ち、第1主遊技短開放図柄(本例では、2A)である場合、ステップ3114で、主制御基板MのCPUMCは、サブ側への特別遊技開始表示指示コマンドとして、第1短開放コマンド(第1主遊技大当たり図柄のうち第2大入賞口C20が短開放となる特別遊技が開始された旨に係るコマンド)をセットし、ステップ3116に移行する。

【0456】

次に、ステップ3116で、主制御基板MのCPUMCは、サブ側への決定した開始デモ時間情報に係るコマンドをセットする。次に、ステップ3118で、主制御基板MのC

10

20

30

40

50

PUMCは、開始デモ実行中フラグをオンにし、ステップ3120に移行する。尚、ステップ3102でNoの場合にも、ステップ3120に移行する。次に、ステップ3120で、主制御基板MのCPUMCは、開始デモ時間タイマのタイマ値が0であるか否かを判定する。ステップ3120でYesの場合、ステップ3122で、主制御基板MのCPUMCは、開始デモ実行中フラグをオフにする。次に、ステップ3124で、主制御基板MのCPUMCは、開始デモ実行許可フラグをオフにする。次に、ステップ3124で、主制御基板MのCPUMCは、特別遊技実行フラグをオンにし、次の処理（ステップ1610の処理）に移行する。他方、ステップ3120でNoの場合にも、次の処理（ステップ1610の処理）に移行する。

【0457】

次に、図97は、第3実施形態からの変更例2における、図66のステップ2400のサブルーチンに係る、特別遊技関連表示制御処理のフローチャートである。第3実施形態からの変更点は、ステップ2403-1（第2変2）～ステップ2403-11（第2変2）及びステップ2350（第2変2）であり、即ち、ステップ2402で特別遊技中フラグをオフにした後、ステップ2403-1（第2変2）で、副制御基板SのCPUSCは、開始デモ中フラグ（オンとなることにより特別遊技開始デモ時間が開始されることとなるフラグ）がオフである否かを判定する。ステップ2403-1（第2変2）でYesの場合、ステップ2404に移行する。次に、ステップ2404でYesの場合、ステップ2403-2（第2変2）で、副制御基板SのCPUSCは、開始デモ表示タイマに所定時間（例えば、3秒）をセットして当該タイマをスタートする。次に、ステップ2403-3（第2変2）で、副制御基板SのCPUSCは、開始デモ中フラグをオンにする。次に、ステップ2350（第2変2）で、副制御基板SのCPUSCは、後述する開始デモ演出実行処理を実行し、ステップ2403-4（第2変2）に移行する。尚、ステップ2403-1（第2変2）でNoの場合にもステップ2403-4（第2変2）に移行する。

【0458】

次に、ステップ2403-4（第2変2）で、副制御基板SのCPUSCは、開始デモ時間タイマのタイマ値が0であるか否かを判定する。ステップ2403-4（第2変2）でYesの場合、ステップ2403-5（第2変2）で、副制御基板SのCPUSCは、開始デモ中フラグをオフにし、ステップ2412に移行する。他方、ステップ2403-4（第2変2）でNoの場合、次の処理（ステップ2900の処理）に移行する。

【0459】

また、ステップ2414で大当り開始表示に係るコマンドをセットした後、ステップ2403-6（第2変2）で、副制御基板SのCPUSCは、メイン側から振分開始デモ時間情報に係るコマンドを受信したか否かを判定する。ステップ2403-6（第2変2）でYesの場合、ステップ2403-7（第2変2）で、副制御基板SのCPUSCは、振分開始デモ時間は長時間（本例では、10秒）であるかを判定する。尚、第3実施形態からの変更例2においては、振分開始デモ時間、即ち、振分遊技実行ラウンドの開始デモ時間の時間値は、長時間と短時間の2種類存在している。ステップ2403-7（第2変2）でYesの場合、ステップ2403-8（第2変2）で、副制御基板SのCPUSCは、長時間となる振分開始デモ時間にて入球容易未報知演出（振分遊技実行ラウンドにて第2大入賞口C20が長開放となるか否かを遊技者に確定的に報知しない演出）を実行し、ステップ2403-10（第2変2）に移行する。他方、ステップ2403-7（第2変2）でNoの場合、ステップ2403-9（第2変2）で、副制御基板SのCPUSCは、短時間となる振分開始デモ時間にて入球容易報知演出（振分遊技実行ラウンドにて第2大入賞口C20が長開放となることを遊技者に確定的に報知する演出）を実行し、ステップ2403-10（第2変2）に移行する。尚、ステップ2403-6（第2変2）でNoの場合にも、ステップ2403-10（第2変2）に移行する。このように、第3実施形態からの変更例2においては、第1主遊技図柄に係る振分遊技実行ラウンドにおいては入球容易未報知演出を実行し、第2主遊技図柄に係る振分遊技実行ラウンドにおいては

10

20

30

40

50

入球容易報知演出を実行するよう構成されている。尚、これには限定されず、遊技状態によっても入球容易未報知演出と入球容易報知演出とのいずれの演出を実行するかを相違させてもよい。例えば、非時間短縮遊技状態且つ非確率変動遊技状態にて当選した第1主遊技側の長開放大当り（5A・7A）に係る振分遊技実行ラウンドにおいては入球容易未報知演出を実行し、時間短縮遊技状態且つ確率変動遊技状態にて当選した第2主遊技側の長開放大当り（3B・5B・7B）に係る振分遊技実行ラウンドにおいては入球容易報知演出を実行するよう構成してもよい。また、第2実施形態にて前述したようなエンディング演出を実行し得るよう構成してもよく、そのように構成した場合には、エンディング演出を実行する特別遊技実行中においては、入球容易未報知演出及び入球容易報知演出は遊技者にとって目立たないよう表示するよう構成することが好適である。そのように構成することによって、達成難易度が高いエンディング演出に対してより注目させることができることとなる。同様に、特別遊技に実行中において存在する保留の中に大当たりとなる保留が存在している旨を遊技者に報知する保留内連荘演出を実行可能に構成し、当該保留内連荘演出が実行された場合においても入球容易未報知演出及び入球容易報知演出を遊技者にとって目立たないよう表示するよう構成してもよい。

【0460】

次に、ステップ2403-10（第2変2）で、副制御基板SのCPUSCは、実行中の特別遊技は第2主遊技長開放大当り図柄に係る特別遊技であるか否かを判定する（第2主遊技長開放大当り図柄は、3B、5B及び7Bとなっている）。ステップ2403-10（第2変2）でYesの場合にはステップ2416に移行する。他方、ステップ2403-10（第2変2）でNoの場合、ステップ2403-11（第2変2）で、副制御基板SのCPUSCは、入賞個数を逐次表示するコマンドをセット（短開放となるラウンドが存在する大当りでは、ラウンド数を報知しない）し、ステップ2426に移行する。このように、第3実施形態からの変更例2においては、すべてのラウンドにおいて第1大入賞口C10又は第2大入賞口C20が長開放となる大当り図柄である第2主遊技長開放大当り図柄に係る大当りにおいては、各ラウンドの実行時に実行中のラウンドを報知する（現在第何ラウンドを実行しているかを報知する）一方、いずれかのラウンドにおいて第1大入賞口C10又は第2大入賞口C20が短開放となる大当りにおいては（もしくは、第1大入賞口C10が短開放となるラウンドを有する大当りにおいては）、各ラウンドの実行時に実行中のラウンドを報知しないよう構成されている。また、実行中のラウンドを報知しない場合には、ラウンドを報知する表示の代わりにラウンド数（実質ラウンド数）に対応するオブジェクト画像（例えば、宝箱、等）を第1大入賞口C10又は第2大入賞口C20が長開放となるラウンドが実行される毎に追加して表示していくよう構成してもよい。また、特別遊技開始時（又は、特別遊技開始直後）にてオブジェクト画像を複数個表示しておき、当該オブジェクト画像の個数分のラウンド数が長開放となることを保障する演出を実行するよう構成してもよい。尚、すべてのラウンドが長開放となる特別遊技実行時には当該演出を実行しなくてもよいし、実行してもよいが、実行しない場合には現在実行しているラウンド数を表示するよう構成することが望ましい。尚、いずれかのラウンドにおいて第1大入賞口C10又は第2大入賞口C20が短開放となる大当りにおいては（もしくは、第1大入賞口C10が短開放となるラウンドを有する大当りにおいては）、第1大入賞口C10又は第2大入賞口C20が長開放となるラウンド数のみを報知するよう構成してもよい（例えば、「第1R＝長開放、第2R＝短開放、第3R＝長開放」となる場合には、第3Rにて2ラウンド目であることを報知する、等）。尚、特別遊技の実行中に実行する演出はこれには限定されず、例えば、特別遊技実行中の振分遊技実行ラウンド以降の所定のラウンド（もしくは振分遊技実行ラウンド）にて保留内に大当たりとなる保留が存在する場合には、大当たりとなることが確定的である旨を報知する保留内連荘演出を実行し得るよう構成してもよい。尚、このように構成した場合には、振分遊技実行ラウンド以前のラウンドにて保留内連荘演出を実行した場合には、特別遊技終了後の遊技状態が決定していない（特定領域C22への入球有無が決定していない）ため、大当たりとなることを報知したにも拘らず、当該報知対象となった保留に係る図柄変動がハズレとなってしまう

10

20

30

40

50

う可能性が生じるため、保留内連荘演出の実行タイミングは、振分遊技実行ラウンドにて特定領域C22に入球した後、もしくは、振分遊技実行ラウンドが終了した後とすることが好適である。また、振分遊技実行ラウンドはどのラウンドとしてもよく、例えば、第1ラウンドを振分遊技実行ラウンドとするよう構成してもよい（大入賞口が1つである場合にも適用可能である）が、打球すべき遊技球が存在しない場合（例えば、当りとなる図柄変動中に全ての遊技球を打ち切ってしまった場合）でも追加の遊技球の貸出が行える時間を十分とれるように第2ラウンド以降とすることが望ましい。

【0461】

次に、図98は、第3実施形態からの変更例2における、図97のステップ2350（第2変2）のサブルーチンに係る、開始デモ演出実行処理のフローチャートである。まず、ステップ2352で、副制御基板SのCPUSCは、メイン側から第2長開放コマンドを受信するか否かを判定する。ステップ2352でYesの場合、ステップ2360に移行する。他方、ステップ2352でNoの場合、ステップ2354で、副制御基板SのCPUSCは、メイン側から第1長開放コマンドを受信するか否かを判定する。ステップ2354でYesの場合、ステップ2356で、副制御基板SのCPUSCは、1/5で当選する確定演出実行抽選（実行中の特別遊技において第2大入賞口C20が長開放する旨を報知するか否かの抽選）を実行する。次に、ステップ2358で、副制御基板SのCPUSCは、当該確定演出実行抽選に当選したか否かを判定する。ステップ2358でYesの場合、ステップ2360に移行する。次に、ステップ2360で、副制御基板SのCPUSCは、開始デモ演出として、長開放確定報知演出（実行中の特別遊技において第2大入賞口C20が長開放する旨を報知する演出）を実行し、次の処理{ステップ2403-4（第2変2）の処理}に移行する。尚、ステップ2354でNoの場合（メイン側から第1短開放コマンドを受信した場合）又はステップ2358でNoの場合、ステップ2362で、副制御基板SのCPUSCは、開始デモ演出として長開放有無非報知演出（実行中の特別遊技において第2大入賞口C20が長開放するの短開放するのを報知しない演出）を実行し、次の処理{ステップ2403-4（第2変2）の処理}に移行する。尚、開始デモ演出が実行されることとなる特別遊技開始デモ時間においても、振分開始デモ時間と同様に、第1主遊技側の大当り（のうち高い割合）では10秒、第2主遊技側の大当り（のうち高い割合）では3秒となるように構成してもよい。

【0462】

以上のように構成することにより、第3実施形態からの変更例2においては、第2主遊技側に係る特別遊技においては、すべての特別遊技で振分遊技実行ラウンドにて第2大入賞口C20が長開放し、第1主遊技側に係る特別遊技においては、振分遊技実行ラウンドにて第2大入賞口C20が長開放する特別遊技と短開放する特別遊技とを設けるよう構成し、第2主遊技側の特別遊技においては、特別遊技の開始デモ時間に第2大入賞口C20が長開放する旨を報知する一方、第1主遊技側の特別遊技においては、第2大入賞口C20が長開放する特別遊技であっても特別遊技の開始デモ時間に第2大入賞口C20が長開放する旨を報知する場合と報知しない場合とを有するよう構成し、特別遊技中に特定領域C22に入球することが確定的な第2主遊技側の特別遊技では遊技者に第2大入賞口C20が長開放する旨を報知する一方、特別遊技中に特定領域C22に入球することが確定的ではない第1主遊技側の特別遊技では遊技者に第2大入賞口C20が長開放するか否かを煽る演出を基本的には実行するが確定的に報知する場合もあるよう構成することにより、特定領域C22への入球容易性に対応した演出を実行可能な興趣性の高い遊技機とすることができる。

【0463】

尚、第3実施形態からの変更例2においては、入球容易報知演出及び入球容易未報知演出を振分開始デモ時間に実行するよう構成したが、振分遊技実行ラウンドよりも前に実行されるラウンドの実行中（複数ラウンドに亘って実行してもよい）にて実行してもよいし、振分遊技実行ラウンドの実行中にて実行してもよい。

【0464】

(第4実施形態)

尚、第3実施形態においては、特別遊技中に特定領域C22に遊技球が入球することによって、当該特別遊技の終了後に確率変動遊技状態に移行するよう構成したが、大入賞口内部の領域に入球することによって遊技者にとって高利益となる遊技性はこれには限定されない。そこでそのような遊技性となる構成を第4実施形態とし、以下、第3実施形態との相違点についてのみ詳述する。

【0465】

尚、以下の実施形態におけるステップ番号、符号、手段名等は、他の実施形態におけるステップ番号、符号、手段名等と同一である場合があるが、これらはそれぞれ単独の実施形態におけるステップ番号、符号、手段名等であることを示している（例えば、本実施形態におけるステップ2102と第2実施形態におけるステップ2102は、別の実施形態におけるステップ2102であるため、それぞれ単独で機能する処理である）。

【0466】

はじめに、図99は、第4実施形態における、遊技機の前面側の基本構造を示す図面である。以下、第3実施形態からの相違点についてのみ詳述する。

【0467】

まず、第4実施形態においては、第1主遊技始動口A10と第2主遊技始動口B10とが重なるように配置されており、且つ、第1主遊技始動口A10の存在により、第2主遊技始動口B10の上部が塞がれている。また、遊技領域D30の左側（遊技領域中央を基準）を流下する遊技球と、遊技領域D30の右側（遊技領域中央を基準）を流下する遊技球のどちらもが、第2主遊技始動口B10に誘導され、遊技領域D30の左側（遊技領域中央を基準）を流下する遊技球が第1主遊技始動口A10に誘導され易く、遊技領域D30の右側（遊技領域中央を基準）を流下する遊技球が第1主遊技始動口A10に誘導され難いよう構成されている。尚、遊技領域D30の左側（遊技領域中央を基準）を流下する遊技球と、遊技領域D30の右側（遊技領域中央を基準）を流下する遊技球のどちらもが、第1主遊技始動口A10に誘導されるよう構成してもよい。

【0468】

また、遊技領域D30の左側（遊技領域中央を基準）を流下する遊技球が、第1主遊技始動口A10に誘導され易い一方、第2主遊技始動口B10に誘導され難く、遊技領域D30の右側（遊技領域中央を基準）を流下する遊技球が、第1主遊技始動口A10に誘導され難い一方、第2主遊技始動口B10に誘導され易いように夫々の始動口を配置してもよい。尚、「誘導され易い」及び「誘導され難い」は、例えば、遊技球を右側及び左側にそれぞれ10000球発射した際の、入球数の大小で決定するものとする。

【0469】

ここで、第4実施形態においては、補助遊技始動口H10は、遊技領域D30の右側（遊技領域中央を基準）を流下する遊技球が、誘導され易く、遊技領域D30の左側を流下する遊技球が誘導され難いよう構成されている（但し、これには限定されず、遊技領域D30の左側（遊技領域中央を基準）を流下する遊技球が、補助遊技始動口H10に誘導され易いよう構成してもよい（例えば、遊技領域D30左側と右側に夫々、補助遊技始動口H10を設けてもよい））。

【0470】

次に、アウト口D36の右上方には、第1大入賞口C10と第2大入賞口C20とが配置されており、遊技領域D30の右側（遊技領域中央を基準）を流下する遊技球は、アウト口D36に到達する前に、第1大入賞口C10及び第2大入賞口C20が配置されている領域を通過し易いよう構成されている。

【0471】

次に、第2大入賞口C20は、第1主遊技図柄（特別図柄）又は第2主遊技図柄（特別図柄）が大当たり図柄で停止した場合に開状態となる、横長形状を成しアウト口D36の右上方、且つ、第1大入賞口C10の右上方に位置した、主遊技に対応した入賞口である。具体的構成としては、第2大入賞口C20は、遊技球の入球を検出するための第2大入

10

20

30

40

50

賞口入賞検出装置 C 2 1 s と、第 2 大入賞口電動役物 C 2 1 d（及び第 2 大入賞口ソレノイド C 2 6）と、小当り遊技開始時に駆動を開始し、遊技球の下遮蔽部材 C 2 5 への流下を阻害し得る上遮蔽部材 C 2 4 と、遊技機の電源投入時に駆動を開始し、遊技球の V 入賞口 C 2 2 への流下を阻害し得る下遮蔽部材 C 2 5 と、小当り遊技時に入球することにより特別遊技に移行する契機となる入賞口である V 入賞口 C 2 2 と、V 入賞口 C 2 2 への遊技球の入球を検出するための V 入賞口入球検出装置 C 2 7 s と、第 2 大入賞口 C 2 0 に入球した遊技球を排出するための第 2 大入賞口排出口 C 2 3 と、第 2 大入賞口排出口 C 2 3 への遊技球の入球を検出するための第 2 大入賞口排出検出装置 C 2 3 s と、を備える。ここで、第 2 大入賞口入賞検出装置 C 2 1 s は、第 2 大入賞口 C 2 0 への遊技球の入球を検出するセンサであり、入球時にその入球を示す第 2 大入賞口入球情報を生成する。そして、第 2 大入賞口 C 2 0 内に入球した遊技球は、第 2 大入賞口入賞検出装置 C 2 1 s よって検出されるよう構成されている。次に、第 2 大入賞口電動役物 C 2 1 d は、第 2 大入賞口 C 2 0 に遊技球が入賞不能又は入賞困難な通常状態と遊技球が入賞し易い開放状態とに第 2 大入賞口 C 2 0 を可変させる。尚、第 2 実施形態では、大入賞口の態様を、横長形状を成し遊技球が入賞不能又は入賞困難な通常状態と遊技球が入賞し易い開放状態とに可変させる態様としているが、これには限定されない。その場合には、例えば、大入賞口内に設けられた棒状部材が遊技者側に突き出した状態である進出状態と遊技者側に対して引っ込んだ状態である退避状態とを採り得る態様（いわゆる、ベロ型アタッカー）としてもよく、大入賞口への入球数を所定数（例えば、10 個）とすることを担保したい場合において好適である。尚、第 2 大入賞口 C 2 0 の内部の構造については、後述することとする。

10

20

【0472】

次に、図 100 は、第 4 実施形態における、第 2 大入賞口 C 2 0 に係る作用図であり、より具体的には、第 2 大入賞口内 C 2 0 内に設けられた上遮蔽部材 C 2 4 及び下遮蔽部材 C 2 5 の開放態様及び閉鎖態様に基づく V 入賞口 C 2 2 への遊技球の入球可否に係る作用図である。尚、第 4 実施形態においては、小当り遊技実行中に遊技球を第 2 大入賞口 C 2 0 に向けて発射し続けていれば（右打ちし続けていれば）、第 2 大入賞口 C 2 0 に遊技球が複数球入球するよう構成されている（例えば、第 2 大入賞口 C 2 0（第 2 大入賞口電動役物 C 2 1 d）の開放態様は「0.2 秒開放→0.8 秒閉鎖→1 秒開放→1 秒閉鎖→1 秒開放→閉鎖」である）ため、V 入賞口 C 2 2 への遊技球の入球可否は、第 2 大入賞口 C 2 0 内の遊技球が、上遮蔽部材 C 2 4 と下遮蔽部材 C 2 5 との開放タイミングとうまく合致するか否かによって決定される。以下、小当り遊技中にて、第 2 大入賞口 C 2 0 に入球した遊技球の作用について詳述する。

30

【0473】

まず、図 100（a）に示されるように、第 2 大入賞口 C 2 0 は、その内部に（第 2 大入賞口 C 2 0 内部における遊技球の流路として）、第 2 大入賞口 C 2 0 への入球を検出する第 2 大入賞口入賞検出装置 C 2 1 s と、V 入賞口 C 2 2 と、V 入賞口 C 2 2 への入球を検出する V 入賞口入賞検出装置 C 2 2 s と、V 入賞口 C 2 2 へ入球されなかった遊技球の排出流路である第 2 大入賞口排出口 C 2 3 と、第 2 大入賞口排出口 C 2 3 への入球を検出する第 2 大入賞口排出検出装置 C 2 3 s と、を備え、更に、V 入賞口 C 2 2 の上方に設けられた下遮蔽部材 C 2 5 と、下遮蔽部材 C 2 5 の上方に設けられた上遮蔽部材 C 2 4 と、を備え、上遮蔽部材 C 2 4 及び下遮蔽部材 C 2 5 は、遊技盤から（遊技者から見て手前側に）突き出した状態（進出状態）となることで遊技球の落下を阻害可能又は阻害容易となる閉鎖状態と、遊技盤内（遊技者から見て奥側に）引っ込んだ状態（退避状態）となることで遊技球の落下を阻害不可能又は阻害困難（遊技球が落下可能）となる開放状態と、を採り得るよう構成されている（いわゆる、ベロ型アタッカーのような構成である）。より詳細には、第 2 実施形態においては、上遮蔽部材 C 2 4 が閉鎖状態の場合には、遊技球は下遮蔽部材 C 2 5 まで到達不可能又は到達困難であり、上遮蔽部材 C 2 4 が開放状態の場合には、遊技球は下遮蔽部材 C 2 5 まで到達可能又は到達容易であり、下遮蔽部材 C 2 5 が閉鎖状態の場合には、遊技球は V 入賞口 C 2 2 まで到達不可能又は到達困難であり、下遮蔽部材 C 2 5 が開放状態の場合には、遊技球は V 入賞口 C 2 2 まで到達可能又は到達容

40

50

易となるように構成されている。次に、小当り遊技実行中に第2大入賞口C20に入球した遊技球の具体的な流路に関して説明する。

【0474】

図100(a)に示すように、小当り遊技実行中に第2大入賞口C20に入球した遊技球は、第2大入賞口入賞検出装置C21sを通過した後、閉鎖状態である上遮蔽部材C24まで誘導され、上遮蔽部材C24及び第2大入賞口C20の内壁面等で形成される領域（停留領域とする。）にて停留する（上遮蔽部材C24上に載置される）。第2実施形態では、当該停留領域は遊技球が一つのみ載置可能なように構成されているため、図100(a)に示されるように、或る遊技球が当該停留領域に載置されている場合には、当該或る遊技球の載置タイミング以降に第2大入賞口C20内部に誘導された遊技球は、上遮蔽部材C24上に載置された当該或る遊技球と衝突して、上遮蔽部材C24を通過せずに第2大入賞口排出検出装置C23s及び第2大入賞口排出口C23へ到達する流路（V入賞口C22への入球が不可能又は困難となる流路）へと誘導されるよう構成されている（尚、当該停留領域は、当該別の遊技球が衝突した際の衝撃によっては、当該或る遊技球が当該停留領域から拔出されないよう構成されている）。ここで、図100(a)右部は、図100(a)におけるX-X断面を模式的に示した断面図である。当該断面図に示されるように、図100(a)では、上遮蔽部材C24及び下遮蔽部材C25が共に閉鎖状態（遊技盤から（遊技者から見て手前側に）突き出した状態（当該断面図において左側に突出している状態））となっており、この場合、上遮蔽部材C24上に遊技球が載置可能となっていることが理解される。

【0475】

尚、第4実施形態においては、上遮蔽部材C24は小当り遊技開始から一定時間後（本例では、小当り遊技開始から5秒後）に開放されるように設定されており、下遮蔽部材C25は電源投入時から一定周期（本例では、4秒周期）で閉鎖状態と開放状態との遷移を繰り返すよう構成されている（下遮蔽部材C25の開放タイミングは周期的なものとなる）状況下、V入賞口C22への入球の可否は、上遮蔽部材C24が開放状態となるタイミング（換言すれば、小当り遊技開始のタイミング）によって主に決定されるのである（下遮蔽部材C25が開放状態となるタイミングと上遮蔽部材C24が開放状態となるタイミングとが略一致する予定である小当り遊技が開始される場合に、V入賞口C22へ遊技球が入球し得る）。

【0476】

尚、第4実施形態はあくまで一例であり、上遮蔽部材C24及び下遮蔽部材C25は、遊技球の落下を阻害不能又は阻害困難な状態と、遊技球の落下を阻害可能又は阻害容易な状態と、を遷移可能であればどのような構造であってもよいし、その他の構成に関しても何ら限定されるものではない。

【0477】

また、第4実施形態においては、V入賞口C22への遊技球の入球を阻害する遮蔽部材を上遮蔽部材C24と下遮蔽部材C25の2つ設けたがこれには限定されず、1つの遮蔽部材にてV入賞口C22への遊技球の入球を阻害するよう構成してもよい。更に、第3実施形態に示した、特別遊技中にて特定領域C22に遊技球が入球することにより、当該特別遊技終了後に確率変動遊技状態に移行することとなる遊技機においても、特定領域C22への遊技球の入球を阻害する遮蔽部材を設けるよう構成してもよい。そのように構成した場合には、遮蔽部材の開放態様は大当りの契機となった大当り図柄によって相違するよう構成してもよく、そのように構成した場合、（1）振分遊技実行ラウンドにおける遮蔽部材の開放態様として、大当り図柄に拘らず振分遊技実行ラウンド開始タイミングから50ms後又は振分遊技実行ラウンド開始タイミングにて遮蔽部材が閉状態から開状態となる、（2）振分遊技実行ラウンドの終了タイミングから200ms後のタイミングで遮蔽部材が開状態から閉状態となる（大当り図柄によって、200ms後の場合や300ms後の場合がある）、よう構成してもよく、そのように構成することにより、大当り図柄に拘らず遮蔽部材が開放するタイミングが存在する、振分遊技実行ラウンドが開始されて

から遮蔽部材が最初に開放を開始するまでの期間よりも、振分遊技実行ラウンドが終了してから遮蔽部材が最後に閉鎖するまでの期間の方が長時間となるよう構成することができる。

【0478】

次に、図101は、第4実施形態における、主制御基板MのCPUMCが行うタイマ割り込み時処理である。第2実施形態との相違点は、ステップ1700（第3）、ステップ1750（第3）、ステップ3450（第3）及びステップ1950（第3）である。即ち、ステップ1600で、特別遊技制御処理を実行した後ステップ1700（第3）で、主制御基板MのCPUMCは、後述の小当り遊技制御処理を実行する。次に、ステップ1750（第3）で、主制御基板MのCPUMCは、後述の上遮蔽部材駆動制御処理を実行する。次に、ステップ3450（第3）で、主制御基板MのCPUMCは、後述の下遮蔽部材駆動制御処理を実行する。次に、ステップ1950（第3）で、主制御基板MのCPUMCは、後述のV入賞口入球判定処理を実行し、ステップ1601に移行する。

10

【0479】

次に、図102は、第4実施形態における、図101におけるステップ1400（1）{ステップ1400（2）}のサブルーチンに係る、第1主遊技図柄表示処理（第2主遊技図柄表示処理）のフローチャートである。第2実施形態との相違点は、ステップ1403（第3）、1410-3（第3）、ステップ1434（第3）及びステップ1436（第3）であり、即ち、ステップ1403（第3）で、主制御基板MのCPUMCは、変動開始条件が充足したか否かを判定する（第4実施形態においては、小当り遊技実行中でないことが変動開始条件として追加されている）。ステップ1403（第3）でYesの場合にはステップ1405に移行し、Noの場合にはステップ1419に移行する。また、ステップ1410-2で主遊技図柄に関する停止図柄を決定した後、ステップ1410-3（第3）で、主制御基板MのCPUMCは、主遊技側乱数、当否抽選結果、遊技状態に基づき、主遊技図柄に関する変動態様（又は変動時間）を決定し、ステップ1414に移行する。

20

【0480】

また、ステップ1430で停止図柄が大当り図柄でなかった場合、ステップ1434（第3）で、主制御基板MのCPUMCは、停止図柄が小当り図柄であるか否かを判定する。ステップ1434（第3）でYesの場合、ステップ1436（第3）で、主制御基板MのCPUMCは、小当りフラグをオンにし、ステップ1500に移行する。他方、ステップ1434（第3）でNoの場合にも、ステップ1500に移行する。

30

【0481】

次に、図103（主遊技テーブル1及び主遊技テーブル2）は、第4実施形態における、第1主遊技用当否抽選テーブルMN11ta-A（第2主遊技用当否抽選テーブルMN11ta-B）の一例である。第4実施形態においては、遊技状態に拘らず、第1主遊技側に係る図柄変動であるか第2主遊技側に係る図柄変動であるかによってのみ参照するテーブル内容が相違するよう構成されている。また、第1主遊技側と第2主遊技側と共に小当りに当選し得るよう構成されており、第2主遊技側における当否抽選結果はほぼ（1020／1024の確率で）小当りとなる。尚、当選確率はあくまでも一例であり、これには何ら限定されない。また、小当りに当選した場合、第1主遊技側は1種類、第2主遊技側は2種類の主遊技図柄候補のうちから一つの主遊技図柄が小当り図柄として決定されるよう構成されている。尚、乱数値や停止図柄の種類についても、あくまでも一例であり、これには限定されない{例えば、ハズレ図柄は1種類の図柄であることには限定されず、複数種類の図柄を設けるよう構成してもよく、特定の図柄が停止表示された場合には当該特定の図柄が停止表示される前とは、主遊技図柄の変動態様の種類及び／又は選択率が異なる状態（限定頻度状態）へ移行するよう構成してもよい}。

40

【0482】

次に、図104は、第4実施形態における、図28におけるステップ1650のサブルーチンに係る、特別遊技終了後の遊技状態決定処理のフローチャートである。まず、ステ

50

ップ1681-1で、主制御基板MのCPUMCは、V入賞口C22への入球を契機とした特別遊技終了後ではないか否かを判定する（第4実施形態においては、小当り遊技中にV入賞口C22へ遊技球が入球することを契機として、特別遊技が実行されるよう構成されている）。ステップ1681-1でYesの場合、ステップ1681-2で、主制御基板MのCPUMCは、停止図柄が時短大当り図柄（特別遊技の実行終了後に時間短縮遊技状態に移行する大当り図柄であり、本例では、4B・5A・5B・7A・7B）であるか否かを判定する。ステップ1681-2でYesの場合、ステップ1681-5に移行する。他方、ステップ1681-1でNoの場合、ステップ1681-4で、主制御基板MのCPUMCは、時短小当り図柄（特別遊技の実行終了後に時間短縮遊技状態に移行することとなる、当該特別遊技への移行契機となる小当り図柄であり、本例では、7AK・7BK）を契機とした特別遊技終了後であるか否かを判定する。ステップ1681-4でYesの場合にはステップ1681-5に移行する。

【0483】

次に、ステップ1681-5で、主制御基板MのCPUMCは、時短回数カウンタMP52cのカウント値に所定回数（本例では、100回）をセットする。次に、ステップ1681-6及びステップ1681-7で、主制御基板MのCPUMCは、主遊技時短フラグ及び補助遊技時短フラグをオンにし、次の処理{ステップ1700（第3）の処理}に移行する。尚、ステップ1681-2でNoの場合、換言すると、停止図柄が時短大当り図柄である4Aの場合、又は、ステップ1681-4でNoの場合、換言すると、時短小当り図柄である2BKを契機とした特別遊技終了後である場合にも、にも次の処理{ステップ1700（第3）の処理}に移行する。尚、限定頻度に係る処理（ステップ1411、ステップ1450のサブルーチン、ステップ1413、ステップ1431）は削除されている。

【0484】

次に、図105は、第4実施形態における、図101におけるステップ1700（第3）のサブルーチンに係る、小当り遊技制御処理のフローチャートである。まず、ステップ1701で、主制御基板MのCPUMCは、排出待機中フラグ{後述するステップ1722でオンとなるフラグであり、即ち、予定されていた小当り遊技（特に、予定されていた第2大入賞口C20の開放パターン）の実行終了後において、第2大入賞口C20内に残存している遊技球の排出待ち期間（排出待機時間）中においてオンとなるフラグ}がオフであるか否かを判定する。ステップ1701でYesの場合、ステップ1702で、主制御基板MのCPUMCは、小当りフラグがオンであるか否かを判定する。ステップ1702でYesの場合、ステップ1704で、主制御基板MのCPUMCは、小当りフラグをオフにする。次に、ステップ1705で、主制御基板MのCPUMCは、当該ラウンドの第2大入賞口C20の開放パターン（本例では、例えば、すべての小当り図柄において、「0.2秒開放→0.8秒閉鎖→1秒開放→1秒閉鎖→1秒開放→閉鎖」であり、遊技球を第2大入賞口C20に向けて発射し続けていれば、第2大入賞口C20に遊技球が複数球入球するよう構成されている）をセットする。尚、小当り実行時における大入賞口（第2大入賞口C20）の開放態様は任意に設定可能であり、例えば、小当り1回の実行時における第2大入賞口C20の合計の開放時間を所定時間以下（例えば、1.8秒以下）となるよう構成してもよい（例えば、「0.2秒開放→0.8秒閉鎖→1秒開放→閉鎖」（合計の開放時間=1.2秒））。次に、ステップ1706で、主制御基板MのCPUMCは、小当り実行フラグをオンにする。次に、ステップ1707で、主制御基板MのCPUMCは、小当り実行開始コマンド（小当り遊技が開始された旨のコマンドであり、遊技者に第2大入賞口C20へ向けた遊技球の発射を促すためのコマンドである）を、サブメイン制御部SMへ送信するためのコマンド送信用バッファMT10にセット（ステップ1999の制御コマンド送信処理によってサブメイン制御部SM側に送信される）する。次に、ステップ1708で、主制御基板MのCPUMCは、第2大入賞口C20を開放すると共に、小当り遊技用タイマMP41tをスタートする（タイマ値がカウントダウンされる）。次に、ステップ1709で、主制御基板MのCPUMCは、排出待機タイマMP41

10

20

30

40

50

t - 2 (インクリメントタイマ) をスタートし、ステップ 1712 に移行する。尚、第 4 実施形態においては、当該排出待機タイマ MP 41 t - 2 が小当り遊技開始時からの経過時間を計測することにより、当該小当り開始から所定時間 (本例では、10 秒) 経過後に排出待機時間が終了するよう構成されている {勿論、排出待機時間の計測方法はこれには限定されず、例えば、予定されていた小当り遊技 (特に、予定されていた第 2 大入賞口 C 20 の開放パターン) の実行終了後から計測開始してもよい}。

【0485】

他方、ステップ 1702 で No の場合、ステップ 1710 で、主制御基板 M の CPU MC は、小当り実行フラグがオンであるか否かを判定する。ステップ 1710 で Yes の場合、ステップ 1712 に移行する。

【0486】

次に、ステップ 1712 で、主制御基板 M の CPU MC は、第 2 大入賞口 C 20 に遊技球の入賞 (入球) があったか否かを判定する。ステップ 1712 で Yes の場合、ステップ 1714 で、主制御基板 M の CPU MC は、第 2 大入賞口 C 20 に所定個数 (例えば、10 個) の入賞球があったか否かを判定する。ステップ 1714 で Yes の場合には、ステップ 1718 に移行する。他方、ステップ 1712 又はステップ 1714 で No の場合、ステップ 1716 で、主制御基板 M の CPU MC は、小当り遊技用タイマ MP 41 t を参照して大入賞口開放に係る所定時間 (例えば、4 秒) が経過したか否かを判定する。ステップ 1716 で Yes の場合、ステップ 1718 に移行する。

【0487】

次に、ステップ 1718 で、主制御基板 M の CPU MC は、第 2 大入賞口電動役物 C 21 d の駆動を停止して第 2 大入賞口 C 20 を閉鎖する。次に、ステップ 1722 で、主制御基板 M の CPU MC は、排出待機中フラグをオンにし (本処理実行タイミングから排出待機時間が開始されることとなる)、ステップ 1724 に移行する。尚、ステップ 1701 で No の場合にも、ステップ 1724 に移行する。

【0488】

次に、ステップ 1724 で、主制御基板 M の CPU MC は、当該タイマ値が排出待機時間終了値 (本例では、10 秒) となったか否かを判定する。ステップ 1724 で Yes の場合、ステップ 1725 で、主制御基板 M の CPU MC は、排出待機タイマ MP 41 t - 2 をゼロクリアする。次に、ステップ 1726 で、主制御基板 M の CPU MC は、排出待機中フラグをオフにする。次に、ステップ 1728 で、主制御基板 M の CPU MC は、小当り遊技用タイマ MP 41 t を停止してリセットする。次に、ステップ 1730 で、主制御基板 M の CPU MC は、小当り実行フラグをオフにし、次の処理 {ステップ 1750 (第 3) の処理} に移行する。尚、ステップ 1710、ステップ 1716 又はステップ 1724 で No の場合にも次の処理 {ステップ 1750 (第 3) の処理} に移行する。

【0489】

ここで、本例においては、1 の小当りにおいてプログラム上として設定された最大入賞数は 10 個、1 回の小当りにおける大入賞口の最大開放時間は通じて 1.8 秒以下である 1.2 秒 (より具体的には、小当りを 1 回実行する際の大入賞口の開放態様として、「0.2 秒開放→0.8 秒閉鎖→1 秒開放→閉鎖」する一連の開閉動作) に設定されており、いずれかの閉鎖条件が達成した場合に大入賞口を閉鎖するように制御される。ここで、過剰入賞を抑止して出玉設計値との乖離を最小化するために、閉鎖条件の達成後は直ちに閉鎖するように制御することが望ましい。一方、そのように処理した場合でも閉鎖条件達成直後に大入賞口に入球したり、カウントセンサの手前に入賞済み球が滞留している (閉鎖条件の達成後に入賞済み球をカウントセンサが検出する) ことも考えられる。そこで、最大開放時間の経過後、最大入賞数を超えた後のいずれの場合であっても、所定条件下 (閉鎖後の所定期間内) に限り、当該入賞を有効な入賞として処理するよう構成することが望ましい。

【0490】

次に、図 106 は、第 4 実施形態における、図 101 におけるステップ 1750 (第 3

10

20

30

40

50

）のサブルーチンに係る、上遮蔽部材駆動制御処理のフローチャートである。まず、ステップ1752で、主制御基板MのCPUMCは、小当り実行フラグがオンであるか否かを判定する。ステップ1752でYesの場合、ステップ1754で、主制御基板MのCPUMCは、所定の駆動パターン（本例では、「5秒閉鎖→1秒開放→24秒閉鎖」を繰り返すパターン）にて上遮蔽部材C24の駆動を開始し、次の処理（ステップの1800の処理）に移行する。尚、上遮蔽部材C24の駆動パターンは変更しても問題ないが、本例では、上遮蔽部材C24の開放タイミングと下遮蔽部材C25の開放タイミングとが一致した場合にのみ、遊技球がV入賞口C22に入球可能となるよう構成されているため、開放時間を3秒等の長時間としたり、駆動開始から10秒以上開放しなかったりとして、V入賞口C22に入球不可能には構成しないことが望ましい。他方、ステップ1752でNoの場合、ステップ1756で、主制御基板MのCPUMCは、上遮蔽部材C24を閉鎖状態（初期位置）にして駆動を終了し、次の処理（ステップの3450（第3）の処理）に移行する。このように、第2実施形態においては、上遮蔽部材C24は小当り遊技の開始（小当りに係る第2大入賞口C20の開放開始）を契機として駆動を開始し、小当り遊技の終了を契機として駆動を終了するよう構成されており、前記上遮蔽部材C24の開放パターンにて1回駆動するよりも前に小当り遊技が終了し、上遮蔽部材C24の駆動は終了するよう構成されている。尚、小当り遊技には排出待機時間が設けられているため、小当り遊技に係る第2大入賞口C20の開放が終了した以降も、当該排出待機時間が終了するまで小当り遊技は終了しないこととなる。

【0491】

次に、図107は、第4実施形態における、図101におけるステップ3450（第3）のサブルーチンに係る、下遮蔽部材駆動制御処理のフローチャートである。まず、ステップ3452で、主制御基板MのCPUMCは、電源投入後から常時一定の駆動パターン（本例では、「3秒閉鎖→1秒開放」を繰り返すパターン）にて下遮蔽部材C25を駆動し、次の処理（ステップ1950（第3）の処理）に移行する。このように、上遮蔽部材C24が小当り遊技の開始を契機として駆動を開始することに対して、下遮蔽部材C25は遊技機の電源投入を契機として駆動を開始するよう構成されている。

【0492】

次に、図108は、第4実施形態における、図101におけるステップ1950（第3）のサブルーチンに係る、V入賞口入球判定処理のフローチャートである。まず、ステップ1952で、主制御基板MのCPUMCは、条件装置作動予約フラグ（後述するステップ1960でオンとなるフラグであり、即ち、排出待機時間中においてV入賞口C22に遊技球が入球した場合にオンとなるフラグ）がオフであるか否かを判定する。ステップ1952でYesの場合、ステップ1954で、主制御基板MのCPUMCは、V入賞口C22への遊技球の入球があったか否かを判定する。ステップ1954でYesの場合、ステップ1956で、主制御基板MのCPUMCは、V入賞口有効期間（小当り遊技の開始タイミングから、当該小当り遊技に係る排出待機時間終了タイミングまでの期間）内であるか否かを判定する。ステップ1956でYesの場合、ステップ1958で、主制御基板MのCPUMCは、V入賞検出コマンド（後述する、V入賞検出演出を実行するためのコマンド）を、サブメイン制御部SM側に送信するためのコマンド送信用バッファMT10にセット（ステップ1999の制御コマンド送信処理によってサブメイン制御部SM側に送信される）する。次に、ステップ1960で、主制御基板MのCPUMCは、条件装置作動予約フラグをオンにし、次の処理（ステップ1997の処理）に移行する。

【0493】

他方、ステップ1952でNoの場合、ステップ1962で、主制御基板MのCPUMCは、V入賞口有効期間（小当り遊技の開始タイミングから、当該小当り遊技に係る排出待機時間終了タイミングまでの期間）が終了したか否かを判定する。ステップ1962でYesの場合、ステップ1963で、主制御基板MのCPUMCは、条件装置作動予約フラグをオフにする。次に、ステップ1964で、主制御基板MのCPUMCは、条件装置作動フラグをオンにし、次の処理（ステップ1997の処理）に移行する。尚、ステップ

1954、ステップ1956又はステップ1962でN oの場合にも、次の処理（ステップ1997の処理）に移行する。また、ステップ1956でN oの場合、換言すれば、小当り遊技が実行されていないにも拘わらずV入賞口C22に遊技球が入球する等の不正入球の危険性が高まる場合においては、適宜エラー処理を実行するよう構成しておくことが好適である。尚、V入賞口C22への入球に係る特別遊技のラウンド数は「9R」となっており、「小当り遊技→V入賞口C22への入球に係る特別遊技」の一連の流れを合計すると、小当り遊技に係るラウンド数の「1R」と特別遊技に係るラウンド数の「9R」とで、「10R」となっている。なお、本例では、V入賞口C22（特定領域）へ入球させるラウンドを1Rとして設定していた（つまり、出玉が獲得できるラウンドは、2～10ラウンドの9ラウンド分である）が、V入賞口C22へ入球した後から1Rとして設計してもよい（つまり、1～10ラウンドの10ラウンド分の出玉が獲得できる）。

10

【0494】

次に、図109～図111を参照して、第4実施形態に係るサブメイン制御部SM側で実行される制御処理を説明する。まず、図109は、第4実施形態に係るぱちんこ遊技機における、副制御基板S側（特に、サブメイン制御部SM側）のメインフローチャートである。ここで、同図（a）の処理は、遊技機への電源投入時等のリセット後に実行されるサブメイン制御部SM側での処理である。第2実施形態からの変更点は、ステップ2001（第3）及びステップ2003（第3）である。即ち、遊技機への電源投入時において、ステップ2001（第3）で、副制御基板SのCPUSCは、電源投入タイマSM24tをリセットしてスタートする。尚、電源投入タイマSM24tは、下遮蔽部材C25の開放タイミングを把握するために設けられている。次に、ステップ2002で、副制御基板SのCPUSCは、メイン側（主制御基板M側）から受信した情報に基づき、初期処理を実行する（例えば、RAMクリア情報を受信した場合→サブ側のRAMを初期化、各種情報コマンドを受信した場合→電断時の演出関連情報をサブ側のRAMに再セット）。次に、ステップ2003（第3）で、副制御基板SのCPUSCは、メイン側（主制御基板M側）から受信した情報に基づき、保留数（例えば、装図保留カウンタ値）を復元する。尚、実行中の演出、特殊図柄に係る情報等は復元されず、次変動の開始時までは「準備中」画面を表示する。その後、副制御基板SのCPUSCの繰り返し処理ルーチンである（b）を繰り返し実行するループ処理に移行する。第2実施形態からの変更点は、ステップ2500（第3）及びステップ2550（第3）である。即ち、ステップ2300で、副制御基板SのCPUSCは、前述した装飾図柄表示制御処理を実行する。次に、ステップ2500（第3）で、副制御基板SのCPUSCは、後述するV入賞検出演出表示制御処理を実行し、ステップ2400に移行する。また、ステップ2400で特別遊技関連表示制御処理を実行した後、ステップ2550（第3）で、副制御基板SのCPUSCは、後述する小当り遊技関連表示制御処理を実行し、ステップ2900に移行する。尚、ステップ2050の滞在ステージ決定処理は削除されている。

20

30

【0495】

次に、図110は、第4実施形態における、図109におけるステップ2500（第3）のサブルーチンに係る、V入賞検出演出表示制御処理のフローチャートである。まず、ステップ2502で、副制御基板SのCPUSCは、メイン側から小当り実行開始コマンド（小当り遊技が開始された旨に係るコマンド）を受信したか否かを判定する。ステップ2502でY e sの場合、ステップ2504で、副制御基板SのCPUSCは、右打ち指示演出 {小当り遊技中に第2大入賞口C20に向けた遊技球の発射（右打ちの実行）を促す演出} に係るコマンドをセット（ステップ2900の表示コマンド送信制御処理にてサブサブ制御部SS側に送信される）し、ステップ2506に移行する。他方、ステップ2502でN oの場合にも、ステップ2506に移行する。次に、ステップ2506で、副制御基板SのCPUSCは、副制御基板SのCPUSCは、メイン側からV入賞検出コマンド（V入賞口C22に遊技球が入球した旨を遊技者に報知するための演出である、V入賞検出演出を実行するためのコマンド）を受信したか否かを判定する。ステップ2506でY e sの場合、ステップ2508で、副制御基板SのCPUSCは、V入賞検出演出に

40

50

係るコマンドをセット（ステップ2900の表示コマンド送信制御処理にてサブサブ制御部SS側に送信される）し、次の処理（ステップ2400の処理）に移行する。他方、ステップ2506でNoの場合にも、次の処理（ステップ2400の処理）に移行する。尚、V入賞検出演出は、V入賞口C22に遊技球が入球し、その後特別遊技が実行されることを遊技者に報知する演出であるため、演出内容としては、遊技者を祝福する演出内容や遊技者にとって高利益である旨を報知する演出内容等が望ましく、例えば、演出表示装置SG上に「V」を表示領域SG10一杯に表示する演出となる。

【0496】

次に、図111は、第4実施形態における、図109におけるステップ2550（第3）のサブルーチンに係る、小当り遊技関連表示制御処理のフローチャートである。まず、ステップ2552で、副制御基板SのCPUSCは、小当り中フラグがオフであるか否かを判定する。ステップ2552でYesの場合、ステップ2554で、副制御基板SのCPUSCは、メイン側から小当り開始コマンドを受信したか否かを判定する。ステップ2554でYesの場合、ステップ2558で、副制御基板SのCPUSCは、小当り開始表示に係るコマンドをセット（ステップ2900の表示コマンド送信制御処理にてサブサブ制御部SS側に送信される）する。

【0497】

次に、ステップ2562で、副制御基板SのCPUSCは、小当り中フラグをオンにし、ステップ2564に移行する。尚、ステップ2552でNoの場合にも、ステップ2564に移行する。次に、ステップ2564で、副制御基板SのCPUSCは、メイン側から小当り終了コマンドを受信したか否かを判定する。ステップ2564でYesの場合、ステップ2566で、副制御基板SのCPUSCは、小当り終了表示に係るコマンドをセット（ステップ2900の表示コマンド送信制御処理にてサブサブ制御部SS側に送信される）する。次に、ステップ2568で、副制御基板SのCPUSCは、小当り中フラグをオフにし、次の処理（ステップ2900の処理）に移行する。尚、ステップ2554又はステップ2564でNoの場合にも、次の処理（ステップ2900の処理）に移行する。

【0498】

（作用）

次に、図112を参照しながら、第4実施形態における、V入賞口C22への入賞に係る作用について説明する。はじめに、同図は、小当りに係る保留が生起した場合に、変動時間決定時の保留数に基づき算出されることとなる、小当りに係る保留が生起してから上遮蔽部材C24の開放が開始されるまでの時間（以降、単に「上遮蔽部材開放到達時間」と表記する場合がある。）と、V入賞口C22への入球容易性と、の関係性を例示した作用図である。尚、本例においては、ハズレに係る保留が2個存在している或る図柄変動中に小当りに係る保留が生起した場合を例示している。尚、本例においては、保留の消化順は、「第1保留→第2保留→第3保留」の順とする（第3保留が小当りに係る保留である）。尚、以下においては、第3保留（＝小当りに係る保留）が生起してから変動中の図柄変動が終了するまでの時間は同一（2秒）であり、第1保留の図柄変動開始のタイミング及び第1保留～第3保留の変動態様決定乱数の乱数値が同一（例えば、第1保留及び第2保留の変動態様決定乱数の乱数値が799であり、第3保留の変動態様決定乱数の乱数値が1023）であるとする。

【0499】

まず、ハズレに係る保留が2個存在している図柄変動中に小当りに係る保留が生起した場合、上遮蔽部材開放到達時間は、第3保留（＝小当りに係る保留）が生起してから変動中の図柄変動が終了するまでの時間と；第1保留の変動時間と；第2保留の変動時間と；第3保留（＝小当りに係る保留）の変動時間と；小当り遊技開始から上遮蔽部材C24の開放が開始されるまでの時間と；の合計の時間として算出される。

【0500】

次に、同図上部の表を参照しながら、ハズレに係る保留が2個存在（第1保留及び第2保留）している図柄変動中に、第3保留（＝小当りに係る保留）が生起した状況下、パタ

10

20

30

40

50

ーンAとして、第3保留(＝小当りに係る保留)生起以降に遊技球の発射を停止した場合{特には、第3保留(＝小当りに係る保留)が生起した以降は新たな保留が生起しない場合}の上遮蔽部材開放到達時間と、パターンBとして、第3保留(＝小当りに係る保留)生起以降に遊技球の発射を継続した場合{特には、第3保留(＝小当りに係る保留)が生起した以降に新たな保留が生起する場合}の上遮蔽部材開放到達時間と、を例示する。

【0501】

パターンAにおいては、第3保留(＝小当りに係る保留)が生起した以降は新たな保留が生起せず、第1保留に係る変動時間決定時には、保留数が2個{第2保留及び第3保留(＝小当りに係る保留)}であり、第2保留に係る変動時間決定時には、保留数が1個{第3保留(＝小当りに係る保留)}であり、第3保留(＝小当りに係る保留)に係る変動時間決定時には、保留数が0個となる。この場合、図26の第1主遊技変動態様決定用抽選テーブルを参照し、第3保留(＝小当りに係る保留)が生起してから変動中の図柄変動が終了するまでの時間が2秒であり；第1保留の変動時間が5秒であり；第2保留の変動時間が10秒であり；第3保留(＝小当りに係る保留)の変動時間が60秒であり；小当り遊技開始から上遮蔽部材C24の開放が開始されるまでの時間が5秒である；ことから、上遮蔽部材開放到達時間は82秒となる。

【0502】

次に、パターンBは、第3保留(＝小当りに係る保留)が生起した以降、第1保留の図柄変動開始後から第2保留の図柄変動開始前に新たに2個の保留が生起する場合であり、第1保留に係る変動時間決定時には、保留数が2個{第2保留及び第3保留(＝小当りに係る保留)}であり、第2保留に係る変動時間決定時には保留数が3個{第3保留(＝小当りに係る保留)及び新たに生起した2個の保留}であり、第3保留(＝小当りに係る保留)に係る変動時間決定時には、保留数が2個(前記新たに生起した保留2個)となる。この場合、図26の第1主遊技変動態様決定用抽選テーブルを参照し、パターンBにおいては、第3保留(＝小当りに係る保留)が生起してから変動中の図柄変動が終了するまでの時間が2秒であり；第1保留の変動時間が5秒であり；第2保留の変動時間が5秒であり；第3保留(＝小当りに係る保留)の変動時間が60秒であり；小当り遊技開始から上遮蔽部材C24の開放が開始されるまでの時間が5秒である；ことから、上遮蔽部材開放到達時間は77秒となる。

【0503】

ここで、前述のように、V入賞口C22への入球容易性(V入賞口C22への遊技球の入球可否)は、上遮蔽部材C24の開放タイミングと下遮蔽部材C25の開放タイミングとがうまく合致するか否かによって決定される。即ち、上遮蔽部材開放到達時間と下遮蔽部材C25の開放タイミングを参照することにより、上記パターンA及びパターンBに係る小当り遊技時において、V入賞口C22への入球が容易であるか否かを事前に判定することが可能となる。

【0504】

次に、同図下部は、上記パターンA及び上記パターンBの各々における上遮蔽部材C24の開放態様(閉鎖態様)と、下遮蔽部材C25の開放態様(閉鎖態様)(下遮蔽部材C25は、電源投入時から周期的に開放と閉鎖とを繰り返している。)と、を示すタイミングチャートである。本タイミングチャートにおいては、第3保留(＝小当りに係る保留)生起タイミングを基準として、第3保留(＝小当りに係る保留)生起タイミングからの経過時間を図示している。また、下遮蔽部材C25の開放態様(閉鎖態様)としては、第3保留(＝小当りに係る保留)生起タイミングからの経過時間が、「 $4n+1$ (秒)」～「 $4n+2$ (秒)」(n は整数)となる期間において開放状態となるものとしている。

【0505】

本タイミングチャートに示されるように、パターンAにおいては、上遮蔽部材C24の開放が開始されるタイミングが、第3保留(＝小当りに係る保留)生起タイミングから82秒が経過したタイミングであり、遊技球が上遮蔽部材C24の位置から下遮蔽部材C25に到達するまでの時間(本例では0.2秒)を加味すると82.2秒となり、当該82

10

20

30

40

50

・2秒は、「 $4n+1$ (秒)」～「 $4n+2$ (秒)」 (n は整数)の範囲外である。従って、上遮蔽部材C24の開放タイミングと、下遮蔽部材C25の開放タイミングとが合致せず、上遮蔽部材C24が開放されることで上遮蔽部材C24上に載置されていた遊技球が落下し、下遮蔽部材C25まで到達した時点において、下遮蔽部材C25が開放されていないため、下遮蔽部材C25の下流に位置するV入賞口C22への入球が困難となる(下遮蔽部材C25によってV入賞口C22への入球が阻害され易い)。他方、パターンBにおいては、上遮蔽部材C24の開放が開始されるタイミングが、第3保留(=小当りに係る保留)生起タイミングから77秒が経過したタイミングであり、遊技球が上遮蔽部材C24の位置から下遮蔽部材C25に到達するまでの時間(本例では0.2秒)を加味すると77.2秒となり、当該77.2秒は、「 $4n+1$ (秒)」～「 $4n+2$ (秒)」 (n は整数)の範囲内である($n=19$)。従って、上遮蔽部材C24の開放タイミングと、下遮蔽部材C25の開放タイミングとが合致し、上遮蔽部材C24が開放されることで上遮蔽部材C24上に載置されていた遊技球が落下し下遮蔽部材C25まで到達した時点で、下遮蔽部材C25が開放されているため、下遮蔽部材C25の下流に位置するV入賞口C22への入球が容易となる(下遮蔽部材C25によっては遊技球のV入賞口C22への入球が阻害され難い)。尚、当該パターンA及び当該パターンBの場合には、前述した、発射継続指示演出が実行されることとなる。

【0506】

以上のように、第4実施形態においては、パターンAとして、小当りに係る保留が生起してから小当りに係る図柄変動が開始されるまでに新たな保留が生起しない(保留数が2個以上である状態にて図柄変動が開始され難い=小当りに係る保留が生起してから上遮蔽部材C24の開放が開始されるまでの時間が長くなり易い)場合と、パターンBとして、小当りに係る保留が生起してから小当りに係る図柄変動が開始されるまでに新たな保留が生起する(保留数が2個以上である状態が常に維持されたまま図柄変動が開始され易い=小当りに係る保留が生起してから上遮蔽部材C24の開放が開始されるまでの時間が短くなり易い)場合と、において、上遮蔽部材C24の開放タイミングが変化し得る。更には、このような上遮蔽部材C24の開放タイミングの変化により、上遮蔽部材C24の開放タイミングと下遮蔽部材C25の開放タイミングとがうまく合致するか否かが変化し得る構成となっているため、小当りに当選した場合に、V入賞口C22に入球するか否かに注目するような興趣性の高い遊技機とすることができる。

【0507】

尚、第4実施形態においては、小当りに係る保留が生起した時点で存在している保留の変動態様決定乱数に基づいて、保留消化時の保留数に対応した実行され得る変動時間をすべて確認し、その結果に基づいて予め小当りに係る保留が生起してから上遮蔽部材C24の開放が開始されるまでの時間を算出し、当該算出された結果と、下遮蔽部材C25の開放タイミングと、を参照する(更には、遊技球が上遮蔽部材C24の位置から下遮蔽部材C25に到達するまでの時間を加味することにより、小当り遊技において、V入賞口C22への入球を容易とする(上遮蔽部材C24の開放タイミングと下遮蔽部材C25の開放タイミングとを合致させる)ための望ましい保留数の変化(どのタイミングでどの程度の保留が存在することが望ましいか)を予想することが可能となる。このように構成し、且つ、小当りとなる保留の生起時に当該保留に係る小当り遊技実行中におけるV入賞口C22への入球が可能である場合、当該入球可能となる変動時間の組み合わせとなり易い遊技球の発射態様(又は、望ましい保留数の変化)を演出として遊技者に報知し得よう構成してもよく、そのように構成することにより、小当り遊技においてV入賞口C22へ遊技球が入球するか否かが遊技者の技術介入により決定し得るという斬新な遊技性を創出することができることとなる。

【0508】

尚、第4実施形態においては、主遊技図柄の変動時間を決定する際の保留数によって、当該決定される変動時間が相違し得よう構成することによって、小当りとなる保留が生起してから下遮蔽部材C25が開放するまでの時間を変化し得よう構成し、遊技者の技

10

20

30

40

50

術介入を可能としたが、小当たりとなる保留が生起してから下遮蔽部材C 2 5が開放するまでの時間を、遊技者の技術介入によって相違し得るようにする構成はこれには限定されず、例えば、(1) 遊技者が押下することにより主遊技図柄の変動が強制停止して、停止図柄が表示されることとなる変動短縮ボタンを設けて、当該ボタンを押下するタイミングにより、前記時間を相違させる、(2) 第1主遊技図柄と第2主遊技図柄との双方の主遊技図柄を同時並行的に抽選可能(及び変動可能)である並列抽選を実行し得るよう構成し、且つ、第2主遊技図柄に係る停止図柄が小当たり図柄となった場合には、当該小当たり図柄に係る小当たり遊技実行中の期間は第1主遊技図柄の変動時間(変動時間の経過)を一時停止するよう構成して、前記時間を相違させる、よう構成してもよい。

【0509】

尚、第4実施形態においては、所定の条件(例えば、特定の小当たり図柄が停止中、等)を充足した場合に、当該小当たり遊技実行中にV入賞口C 2 2に遊技球が入球し得るような遊技球の発射タイミングを遊技者に報知する演出(例えば、演出表示装置SG上にて、「今特定入球口に入球すればV入賞口に入球する大チャンス!!」等と表示する)を実行し得るよう構成してもよい。

【0510】

また、第4実施形態において、特定遊技状態として、非確率変動遊技状態と比較して当否抽選結果が遊技者にとって有利となる確率変動遊技状態を有し、且つ、特別遊技中における第2大入賞口C 2 0が開放するラウンドである振分遊技実行ラウンドを有するよう構成し、当該振分遊技実行ラウンド中にV入賞口C 2 2に入球することによって、当該特別遊技終了後に確率変動遊技状態に移行するよう構成してもよい(第3実施形態にて例示したような、いわゆるV確タイプの遊技)。また、そのように構成した場合には、振分遊技実行ラウンド以前のラウンドにて、振分遊技実行ラウンドにてV入賞口C 2 2に遊技球が入球し得るような遊技球の発射タイミングを遊技者に報知する演出(例えば、演出表示装置SG上にて、「今第2大入賞口に入球すれば確変の大チャンス!!」等と表示する)を実行し得るよう構成することが望ましい。

【0511】

<大入賞口の構造>

尚、第4実施形態では、条件装置の作動に係る大入賞口内の特定の領域(例えば、第2大入賞口C 2 0内に設けられたV入賞口C 2 2)を通過する遊技球の数が、当該大入賞口に入賞する遊技球の数のおおむね10分の1を超えないように構成されている。なお、第4実施形態では、1の特定の領域(例えば、V入賞口C 2 2)を設け、この上方に特定の領域を通過する容易度を変化させる可動物(例えば、下遮蔽部材C 2 5)を搭載しているものの、特定の領域自体は、遊技の都度により変動させることなく、事前に定められているが、特定の領域を複数設けてもよい。また、可動物は、役物連続作動装置の未作動時における特別電動役物が作動を開始した時から、大入賞口に入賞した遊技球が遊技の結果に影響を及ぼすか否かが確定するときまでの間、常時一定の動作を継続(一連の動作を繰り返す)ように構成されており、特定の領域を通過する遊技球の数の割合が設計値に合致するように構成されている。

【0512】

より具体的には、第4実施形態の構成として、第2大入賞口C 2 0内に可動物として、上遮蔽部材C 2 4と下遮蔽部材C 2 5との2つの可動物が設けられており、上遮蔽部材C 2 4は小当たり遊技の開始を契機として駆動を開始し、小当たり遊技の終了を契機として駆動を終了するよう構成されており、下遮蔽部材C 2 5は電源投入後から常時一定の駆動パターンにて駆動するよう構成されている。また、不図示であるが、小当たりの実行中に第2大入賞口C 2 0に向けて遊技球を発射し続けた場合において、第2大入賞口C 2 0に入球した遊技球は上遮蔽部材C 2 4と下遮蔽部材C 2 5との2つの可動物によってV入賞口C 2 2に入球し難く第2大入賞口排出口C 2 3に入球し易くなっており、第2大入賞口C 2 0に入球した遊技球の10分の1以下の遊技球がV入賞口C 2 2に入球し、その他の第2大入賞口C 2 0に入球した遊技球は第2大入賞口排出口C 2 3に入球するよう構成されてい

10

20

30

40

50

る。

【0513】

ここで、常時一定の動作とは、可動物が電源投入後に動作し続ける場合を含み、可動物を一定の周期で停止させたり、役物連続作動装置の作動中（特別電動役物の作動中）に入賞した遊技球の数のうち、一の数を契機として、可動物が一定の動作を行うように構成する場合も含む。なお、常時一定の動作とは、特別電動役物が作動を開始した時から、可動物が一定の動作を行うように構成する場合も含む。

【0514】

更に、第4実施形態では、特定の領域を持つ大入賞口が、役物連続作動装置未作動時における一の契機で入賞した遊技球が他の契機で入賞した遊技球の落下の方向に何らかの変化を与えることがないように大入賞口内における遊技球の滞留時間を短くすべく、遊技球の転動面が形成されている（センター飾りのステージにおける前後方向の傾斜より急傾斜となるように排出口に向けて傾いている）。また、役物連続作動装置未作動時における一の契機で大入賞口に入賞した遊技球が特定の領域を通過するか否かが決定される前に、別の遊技球の始動口への入賞により再び開放等しないように、排出球検出センサを設け、この排出球検出センサの検出又は、閉鎖後の所定時間の経過を契機に図柄の変動開始条件を満足するように構成されている。

【0515】

<<普通電動役物の性能>>

以下、本例における普通電動役物（本例では、第2主遊技始動口電動役物B11d）の性能について詳述する。

【0516】

<基本性能>

本例では、補助遊技始動口H10の通過を契機として普通図柄（補助遊技図柄）を変動させ、普通図柄（補助遊技図柄）の停止態様により、可変部材（例えば、第2主遊技始動口電動役物B11d）を開放させる普通電動役物を1のみ備えている。このように、本例においては、普通図柄表示装置（例えば、補助遊技図柄表示装置H20）と当該普通図柄表示装置の作動により作動する普通電動役物との関係が予め定められ、遊技状態等（確率変動遊技状態であるか否か、時間短縮遊技状態であるか否か、特別遊技の実行中であるか否か、等）で変化しないように構成されており、遊技状態により普通電動役物の作動割合等を変化させつつ、遊技の複雑化を一定の範囲内に収まるようになっている。なお、いうまでもないが、普通図柄表示装置（補助遊技図柄表示装置H20）は、特定のゲート（例えば、補助遊技始動口H10）を通過した場合にのみ作動するよう構成されており、他の条件により普通図柄表示装置が作動することはない。

【0517】

また、本例では、普通図柄表示装置（例えば、補助遊技図柄表示装置H20）は、普通電動役物（例えば、第2主遊技始動口電動役物B11d）が作動している間に作動しないように構成されている。ここで、「普通電動役物が作動している間」とは、遊技球が、補助遊技始動口H10を通過して、普通図柄（補助遊技図柄）が変動表示され、その後、普通図柄表示装置上に当該普通電動役物が作動することとなる図柄の組合せが表示された後（表示された時は含まない）、当該普通電動役物に係る入賞口が開放を開始した時から、途中で一旦閉鎖するような場合は、一旦閉鎖してから再度開放する状態を経て、その後、当該普通電動役物に係る入賞口が開放を継続している状態を経て、当該状態が終了する時までをいう。また、普通電動役物の1の作動を明瞭に把握できるように、普通電動役物が作動している間の後に当該作動が終了したことを確認できるように、当該作動の終了後、次の普通図柄の変動開始までに所定のブランクタイムを設けたり、電飾装置（例えば、遊技効果ランプD26）やスピーカ（例えば、スピーカD24）等の出力により、当該作動が終了したことを報知することが望ましい。

【0518】

具体的には、本例においては、図7のステップ1110にて例示されるように、すべて

10

20

30

40

50

の実施形態において補助遊技保留上限数は4個となっており、補助遊技保留球が上限数である状況にて補助遊技始動口H10を遊技球が通過しても、当該通過に基づく新たな補助遊技保留球は生じしないよう構成されている。尚、補助遊技保留上限数は4個のみには限定されず、変更しても問題ない。

【0519】

<<普通図柄の性能>>

本例では、遊技球がゲート（例えば、補助遊技始動口H10であり、入賞口であってもよい）を通過した時（普通図柄表示装置が作動することとなる場合に限る）から当該普通図柄表示装置（例えば、補助遊技図柄表示装置H20）に図柄の組合せが表示される時までの時間は、あらかじめ定められている。ここで、「普通図柄表示装置に図柄の組合せが表示される時」は、「普通図柄表示装置の作動が終了する時」であり、「あらかじめ定められ」とは、一の遊技機の特性として決定されていることを意味する。具体的には、当該遊技球によって普通図柄表示装置が作動を開始した時から作動を終了する時までの時間が予め定められるように構成されている。

【0520】

詳述すると、遊技球が補助遊技に対応する入賞口（例えば、右一般入賞口P20）に入賞し、又はゲート（例えば、補助遊技始動口H10）を通過した時から当該普通図柄表示装置（例えば、補助遊技図柄表示装置H20）に図柄の組合せが表示される時までの時間（補助遊技図柄の変動時間）は、本実施形態の場合を例示すると、時間短縮遊技状態（補助遊技時短フラグオン）の場合には1秒、非時間短縮遊技状態（補助遊技時短フラグオフ）の場合には10秒となっており、あらかじめ定められた時間値となっている。なお、短縮ボタン（不図示であるが、操作することにより、主遊技図柄の変動時間を短縮する、又は補助遊技図柄の変動時間を短縮することが可能となる主制御基板M側に接続されるボタン）の操作に基づく変動短縮機能等、普通図柄表示装置が作動した後に当該作動における図柄の組合せが表示されるまでの時間を変動させる機能は搭載しないことが望ましく、これにより出玉性能の設計が容易になることが期待できる。

【0521】

<保留記憶性能>

本例では、遊技球が補助遊技始動口H10を通過した時（普通図柄表示装置が作動することとなる場合）から当該普通図柄表示装置（例えば、補助遊技図柄表示装置H20）の作動が終了する時までの間又は普通図柄表示装置において普通電動役物（例えば、第2主遊技始動口電動役物B11d）が作動することとなる図柄の組合せが表示された時から当該普通電動役物の作動が終了するまでの間に、4個を超える数の遊技球が補助遊技始動口H10を通過した場合、当該普通図柄表示装置又は普通電動役物の作動が終了した後、最初の4個の遊技球以外のゲートの通過により引き続き当該普通図柄表示装置を作動させることができないように、当該4個を超える分の通過情報を記憶しないように構成されている（補助遊技保留球の上限数が4個に構成されている）。ここで、「普通図柄表示装置の作動が終了する時」とは、普通図柄表示装置上の図柄の組合せの変動が継続している状態を経て、当該変動が終了する時のことをいい、「普通電動役物の作動が終了した後」とは、普通電動役物に係る入賞口が開放等している状態を経て、当該状態が終了する時の後のことをいう。また、「普通図柄表示装置の作動」とは、遊技球が、普通図柄表示装置が作動することとなるゲートを通過し、最初の四個の遊技球の効果による当該普通図柄表示装置への作用の後、当該普通図柄表示装置上の図柄の組合せが変動を開始した時から、当該変動が継続している状態を経て、当該変動が終了する時までをいう。

【0522】

<普通図柄の抽選の確率変動機能>

本例では、普通電動役物（例えば、第2主遊技始動口電動役物B11d）が作動することとなる図柄の組合せが表示される確率の値として、通常遊技状態（非時間短縮遊技状態、補助遊技時短フラグオフの状態等と称することがある）の確率と、電サポ遊技状態（時間短縮遊技状態、補助遊技時短フラグオンの状態等と称することがある）の確率の2つが

定められており、電サポ遊技状態への移行は、役物連続作動装置の作動が終了したとき（大当が終了したとき）、後述する時短図柄が停止表示されたとき、後述する作動回数 n が規定回数に到達したときになされるように設定されている。具体的には、非時間短縮遊技状態（補助遊技時短フラグオフ）における、普通電動役物（第2主遊技始動口電動役物 B 1 1 d）が作動することとなる図柄の組み合わせが表示される確率である「1 4 / 1 0 2 4」と、時間短縮遊技状態（補助遊技時短フラグオン）における、普通電動役物（第2主遊技始動口電動役物 B 1 1 d）が作動することとなる図柄の組み合わせが表示される確率である「1 0 2 3 / 1 0 2 4」との2種類を有している。なお、一方の確率を「0 / n 」、または「1 / 1」となるよう（必ずはずれとなる／必ず当たりとなるよう）に構成してもよい。

10

【0 5 2 3】

<普通電動役物を複数設けた変更例>

本例では、特別電動役物を搭載している関係から、普通電動役物を1のみ搭載した（第2主遊技始動口電動役物 B 1 1 dの1つのみ搭載した）ものを例示したが、特別電動役物を搭載する代わりに、複数の普通電動役物を搭載することも可能である。この場合には、複数の普通電動役物の作動により同時に可変入賞装置が開放することがないように構成することが望ましい。具体的には、一の普通図柄表示装置に一の普通電動役物を作動させることとなる図柄の組合せが表示された時から当該普通電動役物の作動が終了するまでの間、別の普通図柄表示装置に対して、普通電動役物を作動させることとならない図柄で停止し、かつ、そのままの状態を表示を継続するような制御処理を行ったり、あらかじめ定められた変動時間（補助遊技図柄に係る変動時間）の計測を中断した上で、図柄を停止させないような制御処理を行うことで、同時に可変入賞装置が開放することがないように制御することが可能となる。なお、設定値を設けた場合には、普通電動役物の作動確率（普通図柄の当たり確率）を設定値毎に設けることも可能である。また、複数の普通電動役物を設けた場合においては、全ての作動確率について設定値毎に変化させてもよいし、一部のみの作動確率（例えば、複数の普通電動役物が連続的に作動するように形成された所謂一般電役機（必要があれば、特許第5 2 1 3 2 1 9号を参照）の場合には、起点となる普通電動役物の作動確率）を変化させてもよい。

20

【0 5 2 4】

<<特別電動役物の性能>>

以下、本例における特別電動役物（例えば、第1大入賞口 C 1 0、第2大入賞口 C 2 0）の性能について詳述する。

30

【0 5 2 5】

<特別電動役物・条件装置の数>

本例における特別電動役物（大入賞口）の数の一例として、本実施形態では、特別電動役物（大入賞口）の数は、第1大入賞口 C 1 0と第2大入賞口 C 2 0との2つであり、特別図柄表示装置（主遊技図柄表示装置）の数は、第1主遊技図柄表示装置 A 2 0と第2主遊技図柄表示装置 B 2 0との2つであり、条件装置の数は、条件装置フラグが1つのみ設けられており、大当りは条件装置フラグがオンとなった場合にのみ開始するよう構成されている。

40

【0 5 2 6】

<特別電動役物の作動性能>

本例（例えば、第4実施形態）では、2の特別電動役物が搭載されている（大入賞口が2つ設けられている）。いずれか一の特別電動役物が、役物連続作動装置が作動していない場合に、あらかじめ定められた小当り図柄の組合せ（条件装置の作動に係るものを除く）が表示された場合に作動するように構成されている。ここで、役物連続作動装置が作動している場合とは、作動契機が発生した後（発生した時は含まない）、当該役物連続作動装置に係る特別電動役物に係る大入賞口が開放等を開始した時から（大当りが開始した時から）、当該役物連続作動装置に係る特別電動役物に係る大入賞口が連続して開放等している状態（大当りの実行中）を経て、当該状態が終了する（大当りが終了する）時までを

50

いう。また、「条件装置の作動」とは、特別図柄表示装置上に当該条件装置が作動することとなる図柄の組合せが表示され（例えば、図 25 のステップ 1423 の処理の実行時に大当り図柄が停止表示され）、又は遊技球が、役物連続作動装置が作動していないときに開放等する大入賞口内の特定の領域を通過した時（例えば、図 108 のステップ 1956 で Yes と判定されたとき）から、当該役物連続作動装置に係る特別電動役物に係る大入賞口が連続して開放等している状態（例えば、大当りの実行中）を経て、当該状態が終了する（例えば、大当りが終了する）時までをいう。

【0527】

また、特別電動役物の作動とは、役物連続作動装置が作動している場合にあっては、役物連続作動装置による作動契機が発生した後、当該特別電動役物に係る大入賞口が開放等を開始した（例えば、大当りが開始した）時から、当該特別電動役物に係る大入賞口が開放等している状態（例えば、大当りの実行中）を経て、当該状態が終了する（例えば、大当りが終了する）時までをいい、役物連続作動装置が作動している場合以外にあっては、特別電動役物の作動契機が発生した後、当該特別電動役物に係る大入賞口が開放等を開始した（例えば、小当りが開始した）時から、当該特別電動役物に係る大入賞口が開放等している状態（例えば、小当りの実行中）を経て、当該状態が終了する（例えば、小当りが終了する）時までをいう。尚、本実施例のうち第 4 実施形態では、小当り図柄の停止表示を契機として、小当りが開始し、当該小当りに基づいて第 2 大入賞口 C20（特別電動役物）が開放するように構成されている。

【0528】

また、本例では、特別電動役物が、その作動契機が発生した時にその作動と作動契機との関係が把握できるように作動させており、また、役物連続作動装置による作動契機が発生した時に当該契機による特別電動役物の 2 回目以降の作動について連続しているものと認識できる程度に間断なく作動するようにラウンド間のブランク時間（ラウンド間時間とも称することがある）が設定されている。具体的には、大当りの実行中においては、ラウンド間時間（あるラウンドの終了からあるラウンドの次のラウンドの開始までの時間）の時間値を大当りにおける複数のラウンドが連続していることを認識できる程度の時間値に設計することが好適であり（ラウンド間時間を長時間としすぎると、複数のラウンドが連続していることを認識し難くなる）、本例では、出玉性能（役物比率等）を考慮しつつラウンド間時間を 60ms～3000ms 程度の間で適宜設定されている。

【0529】

更に、本例では、特別電動役物を 1 回のみ作動させる図柄（例えば、小当り図柄）と条件装置を作動させる図柄（例えば、大当り図柄）とを明確に区別し、これらを同時に作動させる（図柄が表示されたときに小当りと大当りとが同時に発生するような）特定の図柄の組合せを設けていない。一方、役物連続作動装置がその作動時に 2 個の特別電動役物を合計 10 回を超えない範囲で任意に作動させている。具体的には、大入賞口として第 1 大入賞口 C10 と第 2 大入賞口 C20 との 2 つを有するよう構成した場合において、10 ラウンドの大当りを実行する場合、「1 ラウンド～5 ラウンド：第 1 大入賞口 C10 が開放、6 ラウンド～10 ラウンド：第 2 大入賞口 C10 が開放」のように、第 1 大入賞口 C10 と第 2 大入賞口 C20 とが同時に作動しないよう構成し、且つ、2 個の特別電動役物の作動回数を合計 10 回を超えない範囲で設定している。また、役物連続作動装置（大当り）の 1 回の作動に対しては必ず 2 回以上の特別電動役物の作動が伴うように設定されており、小当り遊技と大当り遊技とを明確に差別化している（小当り遊技においては、特別電動役物が 1 回のみ作動する）。

【0530】

尚、本例においては、大入賞口への入球を契機として主遊技図柄が変動しないよう構成し、また、1 の特別電動役物の作動により、あらかじめ定められた 1 の大入賞口以外の入賞口について開放等が生じないように構成されている。これにより、特別遊技がループ的に発生すること及び、1 の特別遊技の遊技形態の複雑化を抑止することができる。

また、特別電動役物の作動により開放する大入賞口は、遊技の都度により変動すること

10

20

30

40

50

がないようにあらかじめ定められており、また、特別電動役物と当該特別電動役物の作動により開放等する大入賞口との関係が一對一となるように設定されている。

【0531】

＜特別電動役物（大当り）の出玉性能／作動確率等＞

本例では、射幸性を一定範囲内で収めるため、大当りの出玉性能及び、作動確率（大当り確率）について、物連続作動装置（大当り）の1回の作動により特別電動役物が連続して作動する回数の合計（例えば、大当りにおける実行ラウンド数の期待値）をN回、特別電動役物に係る最大入賞数の最大値（例えば、大当りにおける1回のラウンドが終了することとなる大入賞口への入球数）がR、1個の遊技球が大入賞口に入賞した場合に獲得する遊技球の数の最大値（例えば、大入賞口に1球入球した際の賞球払出数）がSとしたときに、作動確率M（例えば、大当り当選確率の期待値）が「 $M \times N \times R \times S \leq 7.5$ 」を超えないように設定されている。なお、遊技球が始動口（例えば、第1主遊技始動口A10）へ入賞するまでの過程に遊技性を持たせる場合等においては、作動確率Mを高く設定することも好適となるため、「 $M \times N \times R \times S \leq 12$ 」程度を超えないように構成してもよい。

10

【0532】

また、遊技機を設計する際に「 $M \times N \times R \times S \leq 7.5$ 」とは異なる条件を充足するよう設計してもよく、以下のように構成してもよい。

「 $N \times R \times S \leq 1500$ 」を充足する、換言すると、Mを考慮せずに設計する。尚、「 $N \times R \times S$ 」は適宜定めた所定数以下となるよう構成することが好適であり、所定数は1500には限定されない。また、1回の大当りにて払い出す遊技球数が1500球以下となるよう設計していれば、大当りにて実行され得る最大のラウンド数が10回を超過する回数（例えば、16回）となるよう構成してもよい。

20

【0533】

本実施形態を用いてより具体的に例示すると、高い方の大当り確率（確率変動遊技状態における大当り確率）をMH、低い方の大当り確率（非確率変動遊技状態における大当り確率）をML、大当り確率が高い方（確率変動遊技状態）である場合における大当りの開始が連続して生じる回数の期待値をPとした場合、

$MH = 410 / 65536 = 0.0063$ 、 $ML = 205 / 65536 = 0.003$ 、 $P = 1.357$ 、

30

$S = 15$ 、 $R = 10$ 、 $N = 10$

$M = (P + 1) \div \{ (P \div MH) + (1 \div ML) \} = 0.0044$ （ $1 / 227.663$ ）
よって、

$M \times N \times R \times S = 0.0044 \times 10 \times 10 \times 15 = 6.5886 \leq 7.5$

となっており、「 $M \times N \times R \times S \leq 7.5$ 」を充足している。

なお、詳細の計算は省略するが、他の実施形態においても「 $M \times N \times R \times S \leq 7.5$ 」を充足するように各値が設定されている。

【0534】

本例では、本実施形態にて例示されるように役物連続作動装置の作動の終了時（大当りの終了時）ごとに作動確率Mの値を低い値から高い値へ変動させたり（非確率変動遊技状態にて大当りに当選し、当該大当り終了後に確率変動遊技状態に移行する場合当該抽選に当選したこととする）、或いは高い値のまま変動させない抽選（高確率変動抽選と称することがある）を行っている（確率変動遊技状態にて大当りに当選し、当該大当り終了後に再度確率変動遊技状態に移行する場合当該抽選に当選したこととする）が、いずれの場合も、その当選確率は、あらかじめ定められた一の値（以下この項で α （ $0 < \alpha \leq 1$ ）とする。）となっている。

40

また、本実施形態では採用していないが、図柄変動の度に所定確率で特定遊技（例えば確率変動遊技や時間短縮遊技）から通常遊技への移行抽選を行う機能（いわゆる、転落抽選の機能）を有するぱちんこ遊技機において、作動確率Mの値が高い値のとき、1回の条件装置の作動に係る抽選ごとに作動確率Mの値を高い値から低い値へ変動させる抽選（転

50

落抽選と称することがある)を行う場合は、その当選確率は、あらかじめ定められた一の値（以下この項で β ($0 \leq \beta < 1$)とする。)とすることが望ましい。

なお、確率を変動させる場合の $P \cdot \alpha \cdot \beta$ の値の関係は、

【数 1】

$$(\alpha \times (1 - (1 - MH)^{-\log_{(1-\beta)} 2}))^P = \frac{1}{2} \quad (0 < \alpha \leq 1, 0 < \beta < 1)$$

$$\alpha^P = \frac{1}{2} \quad (0 < \alpha < 1, \beta = 0)$$

$$P = \infty \quad (\alpha = 1, \beta = 0)$$

10

となることが望ましい。また、本実施形態のように、高い値のまま一定回数抽せんを行う場合は、その一定回数は、あらかじめ定められた一の値（以下この項で γ とする。）とすることが望ましい。なお、このときの $P \cdot \alpha \cdot \gamma$ の関係は、

【数 2】

$$(\alpha \times (1 - (1 - MH)^{\gamma}))^P = \frac{1}{2} \quad (0 < \alpha \leq 1)$$

20

となることが望ましい。

【0535】

尚、上記の α 、 β 及び γ を2以上持つことも可能ではあるが、遊技機の確率設定を考慮し、本例では、 α 、 β 及び γ は夫々1種類以下となるように構成されている。また、本実施形態のように高確率変動抽選を構造物により行う場合の α は、物理的に可能である最大値「1」として上記の関係を満足することが望ましい。更に、転落抽選を構造物により行う場合の β は、物理的に可能である最小値である「0」として上記の関係を満足することが望ましい。なお、高確率時の条件装置の作動回数に制限を設けている場合の P は、当該制限値と上記の計算値の小さい方として上記の関係を満足させることが望ましい。

30

【0536】

より具体的には、本例においては、大当たり確率を2種類有しており、一例として、本実施形態においては、作動確率の値のうち低いものに該当する非確率変動遊技状態における大当たり確率は「205/65536」であり、作動確率の値のうち高いものに該当する確率変動遊技状態における大当たり確率は「410/65536」となっている。このように、作動確率の高いものが低いものの10倍を超えない（例えば、2倍）ように設定することが望ましく、これにより、短時間の出玉率が著しく高くなることを抑止している。

【0537】

ここで、例えば、単位遊技中（大当たりにおけるラウンド実行中）において大入賞口内の継続領域を遊技球が通過したことを条件とするなど、プログラム上の数値等が存在しない場合、上述した N は、継続する可能性のある最大値（例えば、最大ラウンド数である16）として設定することが望ましい。

40

【0538】

また、役物連続作動装置が作動している場合（大当たり中である場合）において、大入賞口の1回の開放等の時間が1.8秒未満となる単位遊技を設けることは、「大当たり」としての機能上の観点から望ましくはないが、遊技興趣を高めるために採用する場合には、当該大当たりに関するパラメータ（大当たり確率、ラウンド数等）を含まずに作動確率を設定することが望ましい。尚、複数の特別図柄表示装置（例えば、第1主遊技図柄表示装置A20、第2主遊技図柄表示装置B20）を有する遊技機における N は、最大値となる方の

50

特別図柄表示装置の値とすることが望ましく、値が複数存在する場合のN、R、Sは、それぞれの最大値を設定することが望ましい。

【0539】

更に、本例では、役物連続作動装置の1回の作動により特別電動役物が連続して作動する回数の合計（大当りの実行ラウンド数）は、すべての大当り（役物連続作動装置の作動）で10回を超えないように設定され、1回の大当り（役物連続作動装置の作動）において、単位遊技毎に2つの大入賞口の一方のみが開放するように構成されている（各単位遊技でいずれの大入賞口が開放するかは大当り毎に予め定められている）。ここで、「作動する回数の合計」とは、各々の特別電動役物が作動する回数の合計をいい、役物連続作動装置が作動していないとき（例えば、小当りの実行中）、特定の領域（例えば、V入賞口C22）を大入賞口内に持つ大入賞口に係る特別電動役物が作動し、大入賞口内の特定の領域を通過することで条件装置が作動し、当該装置に係る役物連続作動装置が作動する場合（例えば、第4実施形態の構成が該当しており、このような構成を小当りVと称することがある）には、当該特別電動役物の作動も作動回数に含めて設定されている。

10

【0540】

尚、役物連続作動装置に係る一の特別電動役物が作動している状況にて、所定の始動口への入賞等により別の特別電動役物が作動したり当該別の特別電動役物に係る大入賞口が開放等する時に作動したりすることがないように、役物連続作動装置が作動した場合には、他の特別電動役物に係る機能が作動しないように、作動条件が定められている。

【0541】

20

また、本例では、大当りの発生契機となった図柄（大当り図柄）の種類により特別電動役物の連続作動回数（実行ラウンド数）を決定しているが、他の抽選装置を設けることもできる。その際は、抽選確率として、あらかじめ定められた一の確率を設け、遊技の都度に確率が変動しないように構成することが望ましい。なお、特別電動役物の連続作動回数を決定する場合には、役物連続作動装置の作動時に直ちに行われ、当該決定の結果を明示し、結果を明示した後は、明示された回数を表す情報を変動させないようにすることが望ましい。

【0542】

更に、本例とは異なり、例えば大入賞口内の特定の領域への通過を継続条件（大当りの継続条件、次のラウンドの実行条件）としている場合等、単位遊技の継続条件を設定している場合には、特別電動役物が継続して作動することが物理的に可能である最大の回数を表示する（例えば、最大の回数のラウンドを実行する前に継続条件を充足せずに4回の単位遊技の実行にて大当りが終了する場合にも、当該大当りの開始時には最大の単位遊技の回数である10回に係る表示を表示する）ことが望ましい。

30

【0543】

尚、当該通過領域は、遊技の状態によって変動したり、無効又は有効（大入賞口内への入賞自体が有効な期間に限る）とならないように設定されることが望ましく、通過領域への通過率を可変させるために構造物を設ける場合には、役物連続作動装置の作動中において、常時一定の動作を継続させ、外部から調整できないように構成することが望ましい。ちなみに、上述した「 $M \times N \times R \times S \leq 7.5$ 」のNは、特別電動役物が継続して作動することが物理的に可能である最大の回数として算出すればよい。ここで、常時一定の動作とは、可動物が電源投入後に動作し続ける場合や、可動物が一定の周期で停まること、役物連続作動装置の作動中（特別電動役物の作動中）に入賞した遊技球の数のうち、一の数を契機として、可動物が一定の動作を行うことを含む。

40

【0544】

遊技機が、特定の領域を複数設け、当該領域ごとの特別電動役物の連続作動回数を決定する構造を持つことは、差し支えない。また、この場合のNは、特別電動役物が継続して作動することが物理的に可能である最大の回数である。

【0545】

<特別電動役物（大当り）の終了処理等>

50

本例においては、役物連続作動装置（大当り）の作動終了処理として、役物連続作動装置（大当り）の作動が終了したときに、特別電動役物及び条件装置の作動を終了させるようになっており、特別電動役物及び条件装置が、役物連続作動装置の作動終了後に当該役物連続作動装置の作動によって生じたあらゆる動作を原因として、再び作動しないような処理が設けられている。一例としては、役物連続作動装置の作動（大当り開始時、大当り実行中等）によってオンとなったすべてのフラグのクリア処理（すべてのフラグをオフにする）を実行する、役物連続作動装置の作動（大当り開始時、大当り実行中等）にて使用したRAM領域のクリア処理を実行することが好適である。

【0546】

<特別図柄表示装置の作動処理等>

本例では、遊技球が始動口（例えば、第1主遊技始動口A10、第2主遊技始動口B10）に入賞した場合にのみ特別図柄表示装置（例えば、第1主遊技図柄表示装置A20、第2主遊技図柄表示装置B20）の図柄が変動するように構成されており、他の条件を契機に図柄の変動が行われないように構成されている。また、特別図柄表示装置は、特別電動役物が作動している間に作動しないよう、図柄の変動を禁止（特別電動役物の非作動を変動開始条件として設定）している。ここで、「特別電動役物が作動している間」とは、役物連続作動装置の作動時及び未作動時における作動契機が発生した後、当該特別電動役物に係る大入賞口が開放等を開始した時から（開放等した時は含まない。）、当該特別電動役物に係る大入賞口が開放等している状態を経て、当該状態が終了する時までをいい、本例における大当りに当選し、大当りに係る大入賞口の開放が開始してから大当りが終了するまで、又は、小当りに当選し、小当りに係る大入賞口の開放が開始してから小当りが終了するまで、となっている。

【0547】

また、本例においては、「特別電動役物の作動が終了したこと」が明確になるように、その作動の終了を示唆する演出表示を実行するようになっている。具体的には、特別電動役物が作動終了したことを示すコマンドを副制御基板S側へ送信し、当該コマンドに基づいて終了演出（例えば、特別遊技終了デモ時間演出）を所定時間（例えば、1s～10s程度）実行するように構成されている。

【0548】

本例では、特別図柄表示装置を2個設け（第1主遊技図柄表示装置A20と第2主遊技図柄表示装置B20との2個）、かつ、一の特別図柄表示装置に一の条件装置又は特別電動役物を作動させることとなる図柄の組合せが表示された時から当該条件装置又は特別電動役物の作動が終了する時までの間、別の特別図柄表示装置に対しては、その変動を実行しないように構成されているが、一の特別図柄表示装置と別の特別図柄表示装置とを並行して表示（例えば、第1主遊技図柄と第2主遊技図柄とが同時に変動表示可能な構成であり、1種+1種並列タイプと称することがある）を採用した場合には、重複した際に複雑化する大当り等の処理を行わないようにするため、或いは、必要以上に大当りの性能を高めることがないように、一の図柄が条件装置及び特別電動役物を作動させることとなる図柄で停止した場合には、別の図柄を条件装置及び特別電動役物を作動させることとならない図柄で強制停止させ、そのままの状態を表示を継続するように構成したり、あらかじめ定められた変動時間の計測を中断した上で、図柄を停止させないような制御を行う。即ち、第1主遊技図柄と第2主遊技図柄とが同時に変動表示可能となる並列抽選を実行可能に構成した場合において、一方の図柄が変動表示中に他方の図柄（別の図柄）が大当り図柄又は小当り図柄にて停止表示した場合には、一方の図柄をハズレ図柄にて強制停止させる制御や、一方の図柄の変動を一時停止させる制御を行うこと、が好適である。

【0549】

<特別図柄表示装置の保留数>

本例では、遊技球が始動口に入賞した時から当該特別図柄表示装置の作動が終了する時までの間、特別図柄表示装置において特別電動役物が作動することとなる図柄の組合せが表示された時から当該特別電動役物の作動が終了する時までの間又は条件装置が作動する

10

20

30

40

50

こととなる図柄の組合せが表示された時から当該条件装置の作動により作動した役物連続作動装置の作動が終了する時までの間に、4個を超える数の遊技球が始動口に入賞した場合において、当該特別図柄表示装置、特別電動役物又は役物連続作動装置の作動が終了した後、当該4個を超える数の遊技球のうち最初の4個の遊技球以外の遊技球の入賞により引き続き当該特別図柄表示装置を作動させることができないようになっている。

【0550】

具体的には、第1主遊技側の保留上限数が4個、第2主遊技側の保留上限数が4個となっており、第1主遊技側の保留数が上限数である4個である状況にて第1主遊技始動口A10に遊技球が入球した場合には、第1主遊技側の保留球は新たに生起しないよう構成（例えば、図23のステップ1304の処理でNと判定する場合）されており、第2主遊技側の保留数が上限数である4個である状況にて第2主遊技始動口B10に遊技球が入球した場合には、第2主遊技側の保留球は新たに生起しないよう構成（例えば、図23のステップ1314の処理でNと判定する場合）されている。

【0551】

<特別図柄の変動時間設定処理等>

本例では、遊技球が始動口に入賞した時から特別図柄表示装置に図柄の組合せが表示される時までの時間をあらかじめ定められたものにするため、遊技球の始動口への入球によって特別図柄表示装置が作動を開始した時から終了する時までの時間を設定している。ここで、特別図柄表示装置に図柄の組合せが表示される時とは特別図柄表示装置の作動が終了する時をいい、あらかじめ定められとは、一の遊技機の特性として決定されているものをいう。具体的には、第1主遊技図柄と第2主遊技図柄の変動開始前に、遊技状態・保留個数に応じて予め定められた変動時間決定テーブルを用いて変動時間を決定し、変動時間を決定した後は、当該決定した変動時間を変化させないように構成されている。尚、本例では、遊技者が、図柄の組合せが表示されていることを明確に確認できるように、図柄停止時において、可動役物や他の表示画像（例えば、演出表示装置SGに表示された画像）により図柄の視認を妨げないように制御される。また、出玉設計上の観点から、変動時間短縮ボタンの操作等により、特別図柄表示装置が作動した後に当該作動における図柄の組合せが表示されるまでの時間を変動させる機能は搭載していないが、変動時間を変化させる機能を搭載してもよく、その場合には、出玉設計上の影響が少なくなるよう、一定の範囲で短縮機能を制限する（時間の範囲を定める、操作可能な遊技状態を定める（例えば電サポ中等、元々の変動時間が短く設定された遊技期間に限って有効とする）ことが望ましい。

【0552】

<遊技機の材質>

以下、本例の遊技機に適用可能な、遊技機の構成に係る材質を例示することとする。

【0553】

本例における遊技機に使用可能な遊技球の材質は、鋼製であり、且つ均一の材質となっている。

【0554】

また、本例においては、入賞口の材質は、硬質プラスチックその他の材料となっており、遊技球の落下その他の衝撃により破損し、又はその形状が変形し難いように構成されている。

【0555】

また、本例においては、遊技くぎ及び風車の軸の材質は、ビッカース硬度が150HV以上230HV以下である硬度を有する真ちゅう又はこれと同等の硬度を有する金属で容易にさびず、かつ、折れない性質となっている。また、遊技釘等（遊技くぎ及び風車の軸を除く）の材質は、硬質プラスチックその他の材料で遊技球の落下その他の衝撃により破損し、又はその形状が変形し難いように構成されている。

【0556】

また、本例においては、遊技盤の材質は、合板材その他の材料で入賞口及び遊技釘等を

10

20

30

40

50

固定することができ、かつ、容易に曲がらない程度の硬度と強度を有するものであり、遊技盤の表面は、滑らかで、均一の材質のものとなっている。尚、遊技盤の枠の材質は、遊技盤と同等以上の硬度と強度を有するよう構成されている。

【0557】

また、本例においては、ガラス板等（例えば、透明板D16）の材質は、ガラスその他の材料で透明（無色透明であることを透明と称している）であり、かつ、遊技球の落下その他の衝撃により破損し、又はその形状が変形するものでないよう構成されている。

【0558】

また、遊技機のすべての部品の材質は、温度又は湿度の通常の変化により変質しない、又はその形状が変形しないよう構成することが好適である。

【0559】

<その他の補足事項>

本例に係る遊技機では、既説した遊技機の機能の変化条件以外で遊技機の性能を変動させることがないように設計されている。具体的には、時刻若しくは電源投入又は特別図柄表示装置（例えば、主遊技図柄表示装置）上の図柄の表示回数（例えば、主遊技図柄の変動回数）等の遊技の結果を契機として普通電動役物（例えば、第2主遊技始動口電動役物B11d）の作動確率又は大入賞口内の内部構造等、遊技の状態を変動させる機能や、遊技の結果に影響を与えることとなる遊技機の性能を調整又は変動することを可能とする機能等は搭載していない。無論、これらを搭載することも可能ではあるが、出玉設計が複雑となり、必要以上に射幸性を高める可能性も考慮して搭載することが望ましい。

【0560】

また、普通電動役物（例えば、第2主遊技始動口電動役物B11d）は、開放等が生じた場合でも、発射した遊技球のうち、一定程度は当該入賞口（例えば、第2主遊技始動口B10）に入賞しないように構成されていることが望ましく、任意の発射速度及び発射強度で発射された遊技球が遊技釘等に触れることなく、開放等している入賞口に入賞することができないように、遊技部品が配置されていることが望ましい。

【0561】

更にまた、役物（特別電動役物、普通電動役物、等）が作動した場合に当該役物の作動により開放等が生じた入賞口以外の入賞口への遊技球の入賞が容易にならないように構成されることが望ましく、開放等が生じた入賞口が開放等が生じていない場合と異なった遊技球の落下の流れを形成し、この結果、任意の入賞口への入賞が容易にならないように、他の入賞口や電チュー（例えば、第2主遊技始動口電動役物B11d）の開閉装置の構造が設計されていることが望ましい。更に、本例のように、特別電動役物の作動によらずに大入賞口の入口の開放等が行われる機能や、役物の作動を容易にするための特別の装置（役物又は役物連続作動装置であるものを除く）を搭載しないことが望ましい。

【0562】

その他、入賞口及びゲートが、遊技の状態によって無効又は有効となったり、調整することを可能となるような性能、役物に係る入賞口の動作が遊技の状態によって変動したり調整することを可能となるような性能等は搭載しないことが望ましい。

【0563】

また、本例においては、始動口への遊技球の入賞が特別電動役物以外の役物の作動契機となり得るよう構成されていない（例えば、第1主遊技始動口A10への入賞によって大当たりや小当たりが実行され得るが、第2主遊技始動口電動役物B11dが開放されることはない）が、他の役物の作動契機とすることも可能である。この場合には、射幸性や役物に係る出玉率の割合等を十分考慮した設計を要する。

【0564】

本例では、1回の主遊技側の当否抽選によって大当たり複数回当選することがないように構成されており、公平な抽選が提供されるようになっている。また、作動確率及び普通電動役物が作動することとなる図柄の組合せが表示される確率を変動させるための装置を除き、役物の作動に係る図柄の組合せを表示する確率（例えば、大当たり確率、小当たり確率

10

20

30

40

50

、補助遊技当選確率（第2主遊技始動口電動役物B11dが開放することとなる補助遊技図柄が停止表示される確率）等}を変動させることがないように構成されている。

【0565】

《その他の構成》

本例に係る遊技機には以下の構成を適用しても問題ない。なお、以下の構成は上述したすべての実施形態に適用可能である。また、以下の構成を1つのみ適用してもよいし、複数の構成を組み合わせて適用してもよい。

【0566】

＜メカ式チューリップの搭載＞

本例においては、所定の入賞口に入賞した場合に、自身の入賞口の入口を拡大させるメカ式チューリップ（非電動役物ともいう）を設けていなかったが、遊技領域の適宜位置にメカ式チューリップを1又は2個程度搭載してもよい。この場合、メカ式チューリップは、入賞口の入口を拡大させた後、当該入賞口へのあらかじめ定めた1又は2個の入賞により閉鎖するように構成することが望ましい。また、当該メカ式チューリップの閉鎖時（閉鎖直前）に遊技球が入賞して拡大させる条件を達成した際には直ちに入口が拡大し、あらかじめ定めた数の遊技球が入賞して閉鎖させる条件を達成した際には直ちに閉鎖するように、開閉機構がメカ式チューリップと一体に設けられていることが望ましい。

【0567】

なお、重複入賞したときの処理等の負担が大きくなることから、開閉機構の一部にソレノイド等の電氣的動力を使用せず、機械的な開閉機構のみで構成されることが望ましい。また、最大入賞数目の遊技球と当該遊技球とは別の遊技球が略同時に入賞した時に、当該役物が1回作動を終了し、再び作動するように構成されていてもよく、このように構成すれば、稀なケースではあるが、連続して入賞させたことによる遊技者の利益を確保することができる。ちなみに、本例においては、電動役物として主遊技始動口電動役物（第2主遊技始動口電動役物B11d）が設けられているため、役物全体の出玉量を抑止する観点から、遊技盤D35に設けられたメカ（第1種非電動役物）に係る最大入賞数の合計を4個以下（1回開きのメカ式チューリップであれば4個、2回開きのメカ式チューリップであれば2個）とすることが望ましい。また、所定の入賞口に入賞した場合に、当該所定の入賞口とは異なる入賞口の入口を拡大させるメカ式チューリップ（非電動役物ともいう）を設けてもよい。また、そのような場合にも、上述したような、所定の入賞口に入賞した場合に、自身の入賞口の入口を拡大させるメカ式チューリップと同様に構成してもよい。

【0568】

本例では、搭載していないが、遊技領域D30に遊技球を停留する（遊技球を停止させた後、遊技球を入賞口に向けて落下させる）保留装置を2個程度設けてもよい。ここで、「入賞口に向けて落下させる」とは、当該装置が遊技球を入賞口に入賞する可能性があるように落下させることをいう。また、保留装置を設ける際には、当該装置から落下した遊技球が大入賞口に入賞する可能性がない位置に配置することが望ましい。なお、磁石等で遊技球を吸着し、遊技球を入賞口に向けて落下させるような構造の保留装置を採用することもできる。この場合、磁石等の数を2個程度にすることが望ましい。

【0569】

尚、保留装置から遊技球が落下する契機の調整を遊技者が行うようにすることが可能であり、例えば保留解除操作部を設けることも可能である。また、保留記憶装置の数との関係から、保留装置には、5個を超える遊技球を保留することができないようにすることが望ましい。なお、遊技の公平性等の観点から、保留装置の保留を容易にする装置は搭載しないことが望ましい。

【0570】

尚、遊技球が入賞口に入賞し、若しくはゲートを通過し、又は図柄の組合せが表示された時（役物が作動することとなる場合に限る）から当該役物の作動が終了する時までの間に遊技球が入賞口に入賞し、若しくはゲートを通過し、又は図柄の組合せが表示されたこと（当該役物が作動することとなる場合に限る）を記憶する装置を設けることも可能であ

10

20

30

40

50

るが、保留装置、保留記憶装置との関係から、複雑化を抑止するためにこれらは搭載しないよう構成してもよい。

【0571】

ここで、役物の作動が終了するときとは、役物に係る入賞口が開放等している状態を経て、当該状態が終了するときをいう。尚、本例では、役物の作動契機が発生した時には直ちに作動するように構成されている。また、役物あるいは役物連続作動装置の作動契機を電磁的記録等により貯留し、任意の契機で当該貯留情報等により役物あるいは役物連続作動装置を連続して作動させることを可能とする構造の搭載も可能ではあるが、遊技の公正の担保の観点から望ましくない。具体的には、大当たり図柄が停止表示した（大当たりで当選した）にも拘わらず大当たりを実行せずに、その後、主遊技図柄の変動が所定回数実行された場合などの所定の条件を充足した場合に、当該大当たり図柄に係る大当たりを実行するように構成しないことが好適である。

10

【0572】

（第5実施形態）

まず、図113を参照しながら、第5実施形態に係るぱちんこ遊技機の前面側の基本構造を説明する。第5実施形態においては、ECOぱちんこ遊技機の実現に際し、ぱちんこ遊技機とぱちんこ遊技機の外部に設置されたECOユニットEUとに大別され（遊技場設備に対して、夫々を別体として着脱可能に構成され）、ぱちんこ遊技機においては遊技盤側と遊技枠側とに大別される（遊技枠側は遊技場設備に対して着脱可能に構成され、遊技盤側は遊技枠側に対して着脱可能に構成されている）。以下、まず主にぱちんこ遊技機に係る構成について順に説明する。

20

【0573】

はじめに、ぱちんこ遊技機の遊技枠は、外枠12、前枠14、透明板16、扉18、操作部装置50、入賞情報表示装置60及び発射ハンドル44を含む。まず、外枠12は、ぱちんこ遊技機を設置すべき位置に固定するための枠体である。前枠14は、外枠12の開口部分に整合する枠体であり、図示しないヒンジ機構を介して外枠12に開閉可能に取り付けられる。前枠14は、遊技球を発射する機構、遊技盤を着脱可能に収容させるための機構、遊技球を誘導又は回収するための機構等を含む。透明板16は、ガラス等により形成され、扉18により支持される。扉18は、図示しないヒンジ機構を介して前枠14に開閉可能に取り付けられる。また、遊技枠の前面にはスピーカ24が設けられており、遊技状態等に応じた効果音が出力される。

30

【0574】

ここで、操作部装置50は、タッチパネル式インターフェース52、持ち球数表示部54、サブ入力ボタンSB、等から構成されており、タッチパネル式インターフェース52は、遊技者のタッチ操作（接触型・非接触型のいずれかのタッチ操作）によって、遊技機の遊技状態情報や後述するECOユニットEUに挿入されたICカード（遊技媒体記録メディア）に記録された遊技媒体情報を表示及び利用することができるよう構成されている。また、タッチパネル式インターフェース52は、演出表示機能も備えており、サブメイン制御部2000からのコマンドによって、遊技に係る演出を実行し得るよう構成されている。また、持ち球数表示部54は、持ち球数{遊技に使用（遊技領域30内に発射）することのできる遊技球数}を表示する。また、サブ入力ボタンSBは、遊技者の操作によってサブメイン制御基板2000側による演出を操作するための装置である。

40

【0575】

次に、入賞情報表示装置60（賞球数表示部60a及び入賞口種別ランプ60b）は、遊技盤面上に設けられた入賞口（又は始動口等）に遊技球が入球した際に、当該遊技球が入球した入賞口（又は始動口）の位置や、遊技者に付与される賞球数を表示するための装置である。また、遊技盤前面には、遊技者に付与された賞球数を表示するための賞球数表示部28が設けられている。尚、入賞情報表示装置60や賞球数表示部28への情報出力を行う制御態様の詳細については後述する。

【0576】

50

次に、遊技盤は、外レール 3 2 と内レール 3 4 とにより区画された遊技領域 3 0 が形成されている。そして、当該遊技領域 3 0 には、図示しない複数の遊技釘及び風車等の機構や各種一般入賞口の他、第 1 主遊技始動口 1 1 0、第 2 主遊技始動口 2 1 0、補助遊技始動口 4 1 0、第 1 大入賞口 3 1 0、第 2 大入賞口 3 2 0、第 1 主遊技図柄表示装置 1 2 0、第 2 主遊技図柄表示装置 2 2 0、演出表示装置 2 5 5 0、補助遊技図柄表示装置 4 2 0、センター飾り 3 8 及びアウト口 3 6 が設置されている。以下、各要素を順番に詳述する。
【0 5 7 7】

次に、第 1 主遊技始動口 1 1 0 は、第 1 主遊技に対応する始動入賞口として設置されている。具体的構成としては、第 1 主遊技始動口 1 1 0 は、第 1 主遊技始動口入球検出装置 1 1 1 を備える。ここで、第 1 主遊技始動口入球検出装置 1 1 1 は、第 1 主遊技始動口 1 1 0 への遊技球の入球を検出するセンサであり、入球時にその入球を示す第 1 主遊技始動口入球情報を生成する。

10

【0 5 7 8】

次に、第 2 主遊技始動口 2 1 0 は、第 2 主遊技に対応する始動入賞口として設置されている。具体的構成としては、第 2 主遊技始動口 2 1 0 は、第 2 主遊技始動口入球検出装置 2 1 1 と、第 2 主遊技始動口電動役物 2 1 2 と、を備える。ここで、第 2 主遊技始動口入球検出装置 2 1 1 は、第 2 主遊技始動口 2 1 0 への遊技球の入球を検出するセンサであり、入球時にその入球を示す第 2 主遊技始動口入球情報を生成する。次に、第 2 主遊技始動口電動役物 2 1 2 は、第 2 主遊技始動口 2 1 0 に遊技球が入賞し難い閉鎖状態と当該通常状態よりも遊技球が入賞し易い開放状態に可変する。尚、第 5 実施形態では、第 2 主遊技始動口 2 1 0 側に電動役物を設けるよう構成したが、これには限定されず、第 1 主遊技始動口 1 1 0 側に電動役物を設けるよう構成してもよい。更には、第 5 実施形態では、第 1 主遊技始動口 1 1 0 と第 2 主遊技始動口 2 1 0 とが上下に隣接して配置されているが、これにも限定されず、第 1 主遊技始動口 1 1 0 と第 2 主遊技始動口 2 1 0 とを離隔して設けても良い。

20

【0 5 7 9】

次に、補助遊技始動口 4 1 0 は、補助遊技始動口入球検出装置 4 1 1 を備える。ここで、補助遊技始動口入球検出装置 4 1 1 は、補助遊技始動口 4 1 0 への遊技球の入球を検出するセンサであり、入球時にその入球を示す補助遊技始動口入球情報を生成する。尚、補助遊技始動口 4 1 0 への遊技球の入球は、第 2 主遊技始動口 2 1 0 の第 2 主遊技始動口電動役物 2 1 2 を拡開させるための抽選の契機となる。尚、補助遊技始動口 4 1 0 の位置はあくまで一例である。

30

【0 5 8 0】

次に、アウト口 3 6 の上方には、第 1 大入賞口 3 1 0 と第 2 大入賞口 3 2 0 とが設けられており、遊技領域 3 0 の右側又は左側（遊技領域中央を基準）を流下する遊技球は、アウト口 3 6 に到達する前に、第 1 大入賞口 3 1 0 及び第 2 大入賞口 3 2 0 が配置されている領域を通過し易いよう構成されている。

【0 5 8 1】

次に、第 1 大入賞口 3 1 0 は、第 1 主遊技図柄（特別図柄）又は第 2 主遊技図柄（特別図柄）が大当たり図柄停止した場合に開状態となる、横長形状を成しアウト口 3 6 の上方に位置した、主遊技に対応した入賞口である。具体的構成としては、第 1 大入賞口 3 1 0 は、遊技球の入球を検出するための第 1 大入賞口入賞検出装置 3 1 1 と、第 1 大入賞口電動役物 3 1 2（及び第 1 大入賞口ソレノイド 3 1 2 a）と、を備える。ここで、第 1 大入賞口入賞検出装置 3 1 1 は、第 1 大入賞口 3 1 0 への遊技球の入球を検出するセンサであり、入球時にその入球を示す第 1 大入賞口入球情報を生成する。第 1 大入賞口電動役物 3 1 2 は、第 1 大入賞口 3 1 0 に遊技球が入賞不能又は入賞困難な通常状態と遊技球が入賞し易い開放状態に第 1 大入賞口 3 1 0 を可変させる（第 1 大入賞口ソレノイド 3 1 2 a を励磁して可変させる）。尚、第 5 実施形態では、大入賞口の態様を、横長形状を成し遊技球が入賞不能又は入賞困難な通常状態と遊技球が入賞し易い開放状態とに可変させる態様としているが、これには限定されない。その場合には、例えば、大入賞口内に設けられ

40

50

た棒状部材が遊技者側に突き出した状態である進出状態と遊技者側に対して引っ込んだ状態である退避状態とを採り得る態様（所謂、ベロ型アタッカー）としてもよく、大入賞口への入球数を所定数（例えば、１０個）とすることを担保したい場合において好適である。
【０５８２】

次に、第２大入賞口３２０は、第１主遊技図柄（特別図柄）又は第２主遊技図柄（特別図柄）が大当り図柄で停止した場合に開状態となる、横長形状を成しアウト口３６の上方に位置した、主遊技に対応した入賞口である。具体的構成としては、第２大入賞口３２０は、遊技球の入球を検出するための第２大入賞口入賞検出装置３２１と、第２大入賞口電動役物３２２（及び第２大入賞口ソレノイド３２２ａ）と、を備える。ここで、第２大入賞口入賞検出装置３２２は、第２大入賞口３２０への遊技球の入球を検出するセンサであり、入球時にその入球を示す第２大入賞口入球情報を生成する。そして、第２大入賞口３２０内に入球した遊技球は、第２大入賞口入賞検出装置３２１によって検出されるよう構成されている。次に、第２大入賞口電動役物３２２は、第２大入賞口３２０に遊技球が入賞不能又は入賞困難な通常状態と遊技球が入賞し易い開放状態とに第２大入賞口３２０を可変させる（振分入賞口ソレノイド３２２ａを励磁して可変させる）。尚、第５実施形態では、大入賞口の態様を、横長形状を成し遊技球が入賞不能又は入賞困難な通常状態と遊技球が入賞し易い開放状態とに可変させる態様としているが、これには限定されない。その場合には、例えば、大入賞口内に設けられた棒状部材が遊技者側に突き出した状態である進出状態と遊技者側に対して引っ込んだ状態である退避状態とを採り得る態様（所謂、ベロ型アタッカー）としてもよく、大入賞口への入球数を所定数（例えば、１０個）とすることを担保したい場合において好適である。

【０５８３】

次に、第１主遊技図柄表示装置１２０（第２主遊技図柄表示装置２２０）は、第１主遊技（第２主遊技）に対応する第１主遊技図柄（第２主遊技図柄）に関連した表示等を実行する装置である。具体的構成としては、第１主遊技図柄表示装置１２０（第２主遊技図柄表示装置２２０）は、第１主遊技図柄表示部１２１（第２主遊技図柄表示部２２１）と、第１主遊技図柄保留表示部１２２（第２主遊技図柄保留表示部２２２）とを備える。ここで、第１主遊技図柄保留表示部１２２（第２主遊技図柄保留表示部２２２）は、４個のランプから構成され、当該ランプの点灯個数が、第１主遊技（第２主遊技）に係る乱数の保留数（実行されていない主遊技図柄の変動数）に相当する。尚、第１主遊技図柄表示部１２１（第２主遊技図柄表示部２２１）は、例えば７セグメントＬＥＤで構成され、第１主遊技図柄（第２主遊技図柄）は、「０」～「９」の１０種類の数字及びハズレの「－」で表示される（但し、これには限定されず、いずれの主遊技図柄が表示されたのかを遊技者が認識困難となるよう、７セグメントＬＥＤを用いて記号等によって表示することが好適である。また、保留数表示においても、４個のランプから構成されていることには限定されず、最大４個分の保留数を表示可能に構成（例えば、１個のランプから構成されており、保留数１：点灯、保留数２：低速点滅、保留数３：中速点滅、保留数４：高速点滅、すよう構成）されていればよい）。

【０５８４】

尚、第１主遊技図柄（第２主遊技図柄）は必ずしも演出的な役割を持つ必要が無いため、第５実施形態では、第１主遊技図柄表示装置１２０（第２主遊技図柄表示装置２２０）の大きさは、目立たない程度に設定されている。しかしながら、第１主遊技図柄（第２主遊技図柄）自体に演出的な役割を持たせて第１主遊技側の装飾図柄及び／又は第２主遊技側の装飾図柄を表示させないような手法を採用する場合には、演出表示装置２５５０のような液晶ディスプレイに、第１主遊技図柄（第２主遊技図柄）を表示させるように構成してもよい。

【０５８５】

次に、演出表示装置２５５０は、第１主遊技図柄・第２主遊技図柄と連動して変動・停止する装飾図柄を含む演出画像の表示等を実行する装置である。尚、演出表示装置２５５０は、第５実施形態では液晶ディスプレイで構成されているが、機械式のドラムやＬＥＤ

等の他の表示手段で構成されていてもよい。

【0586】

次に、補助遊技図柄表示装置420は、補助遊技図柄に関する表示等を実行する装置である。具体的構成としては、補助遊技図柄表示装置420は、補助遊技図柄表示部421と、補助遊技図柄保留表示部422とを備える。ここで、補助遊技図柄保留表示部422は、4個のランプから構成され、当該ランプの点灯個数が、補助遊技図柄変動の保留数（実行されていない補助遊技図柄変動の数）に相当する。

【0587】

次に、センター飾り38は、演出表示装置2550の周囲に設置され、遊技球の流路、演出表示装置2550の保護、装飾等の機能を有する。また、遊技効果ランプ26は、遊技領域30又は遊技領域30以外の領域に設けられ、点滅等することで演出の役割を果たす。

【0588】

次に、図114のブロック図を参照しながら、第5実施形態に係るぱちんこ遊技機の電氣的な概略構成を説明する。はじめに、第5実施形態は、前述したように、ぱちんこ遊技機とぱちんこ遊技機の外部に設置されたECOユニットEUとに大別され（遊技場設備に対して、夫々を別体として着脱可能に構成され）、ぱちんこ遊技機においては遊技盤側と遊技枠側とに大別される（遊技枠側は遊技場設備に対して着脱可能に構成され、遊技盤側は遊技枠側に対して着脱可能に構成されている）。以下、大別された夫々の概略構成及び各基板・装置間の電氣的な接続態様について概説する。

【0589】

<ぱちんこ遊技機／遊技盤側>

第5実施形態に係るぱちんこ遊技機（遊技盤側）は、遊技の進行を制御する主制御基板Aと、主制御基板Aからの情報（信号、コマンド等）に基づいて装飾図柄の変動・停止等の演出表示装置2550上での各種演出、スピーカ24からの音響、遊技効果ランプ26の点灯、エラー報知等の実行を制御する副制御基板B（本例では、サブメイン制御部2000とサブサブ制御部2500とが一つの基板上に配置されている）と、遊技周辺機器（第1主遊技周辺機器100、第2主遊技周辺機器200、第1・第2主遊技共用周辺機器300、補助遊技周辺機器400）と、賞球数表示装置28、等を主体として構成されている。尚、スピーカ24や遊技効果ランプ26については、ぱちんこ遊技機（遊技機枠側）にて設けるよう構成してもよい。ここで、副制御基板Bは、装飾図柄の変動・停止等の演出表示装置2550上での各種演出、スピーカ24からの音響、遊技効果ランプ26の点灯、エラー報知を制御するサブメイン制御部2000と、演出表示装置2550上での装飾図柄の変動表示・停止表示及び保留表示や予告表示等の表示処理を実行するサブサブ制御部2500の2つの制御部とを備えている。尚、主制御基板A、サブメイン制御部2000及びサブサブ制御部2500には、様々な演算処理を行うCPU、CPUの演算処理を規定したプログラムを予め記憶するROM、CPUが取り扱うデータ（遊技中に発生する各種データやROMから読み出されたコンピュータプログラム等）を一時的に記憶するRAMが搭載されている。

【0590】

まず、主制御基板Aは、遊技周辺機器（第1主遊技周辺機器100、第2主遊技周辺機器200、第1・第2主遊技共用周辺機器300、補助遊技周辺機器400）、賞球数表示装置28、情報表示LED（不図示）等、遊技の進行に必須となる入出力装置と電氣的に接続され、各入出力装置からの入力信号に基づいて遊技の進行を制御すると共に、当該遊技の進行に係る情報を必要に応じて各入出力装置へ出力するよう構成されている。更に、主制御基板Aは、賞球払出制御基板3000と、副制御基板B（サブメイン制御部2000・サブサブ制御部2500）とも電氣的に接続されており、遊技進行に基づいて、賞球払出等に関する情報（コマンド）を賞球払出制御基板3000に、演出・遊技の進行状態等に関する情報（コマンド）を副制御基板Bにそれぞれ送信可能に構成されている。

【0591】

次に、副制御基板 B は、前述したように装飾図柄等を表示する演出表示装置 2550 と、スピーカ 24 と、遊技効果ランプ 26 と、その他演出用の駆動装置（不図示）と接続されている。第 5 実施形態では、副制御基板 B 内にサブメイン制御部 2000 とサブサブ制御部 2500 とを有しており、サブメイン制御部 2000 によりスピーカ 24 から出力させる音声の制御、遊技効果（電飾）ランプ 26 の点灯制御並びに、演出表示装置 2550 上で表示する表示内容の決定制御が行われ、サブサブ制御部 2500 により、演出表示装置上の表示制御（実体的な表示制御）が行われるように構成されている。また、タッチパネル式インターフェース 52 ととも接続した場合には、当該タッチパネル式インターフェース 52 上にて、副制御基板 B によって制御される各種演出の表示が可能となる。尚、第 5 実施形態では、サブメイン制御部 2000 とサブサブ制御部 2500 とを、副制御基板 B にて一体化されるよう構成されているが、これに限定されるわけではない（別基板として構成してもよいが、一体化するよう構成することでスペースメリットや配線等にノイズが混入してしまう事態を低減できるといったメリットが生ずる）。また、両制御部での作業分担についても、例えばサブサブ制御部 2500 により音声制御を実行させる（VDP に音声制御回路が一体化されたものを採用する場合に好適）等、適宜変更できる。

【0592】

<ぱちんこ遊技機／遊技枠側>

第 5 実施形態に係るぱちんこ遊技機（遊技枠側）は、遊技球の発射制御や遊技者に対する賞球付与（第 5 実施形態においては、持ち球データの加減算）制御を司る払出制御基板 3000 と、遊技機全体に電源を供給することとなる電源供給ユニット E と、前述した操作部装置 50 と、遊技球の発射機構である発射制御基板 40（及び発射装置 42 や発射検出センサ 43）と、賞球許可センサ類 KS（詳細については後述するが、賞球払出しの対象となる入球口への入球を検出可能となるセンサ）と、前述した入賞情報表示装置 60、等を主体として構成されている。尚、払出制御基板 3000 や操作部装置 50 には、様々な演算処理を行う CPU、CPU の演算処理を規定したプログラムを予め記憶する ROM、CPU が取り扱うデータ（遊技中に発生する各種データや ROM から読み出されたコンピュータプログラム等）を一時的に記憶する RAM が搭載されている。尚、本例では、電源供給ユニット E から払出制御基板 3000 及び副制御基板 B に対して電力供給がなされると共に、払出制御基板 3000 を介して主制御基板 A にも電力供給がなされるよう構成されている。

【0593】

ここで、賞球払出制御基板 3000 は、発射装置 42 の制御回路である発射制御基板 40 と、賞球許可センサ類 KS（詳細については後述するが、賞球払出しの対象となる入球口への入球を検出可能となるセンサ）と、入賞情報表示装置 60 と、操作部装置 50 とに接続されており、加えて、第 5 実施形態に係るぱちんこ遊技機（遊技盤側）における主制御基板 A 及び後述する ECO ユニット EU ととも接続されている。そして、後述するように、主制御基板 A 及び ECO ユニット EU からの情報（主に遊技者の持ち球の加算対象となる情報）、発射検出センサ 43（主に遊技者の持ち球の減算対象となる情報）等に基づいて遊技に係る持ち球の操作（加算・減算等）を制御すると共に、当該持ち球情報の表示や、発射制御基板 40 を介して発射装置 42（発射ハンドル・発射モータ・球送り装置等）の動作を制御し得るよう構成されている。

【0594】

ここで、本例においては、サブメイン制御部 2000（副遊技制御手段 2000）は、画像演出を実行するサブサブ制御部 2500（演出表示手段 2500）、操作部装置 50、各種遊技効果ランプ 26（例えばサイドランプ）やスピーカ 24 等とも電氣的に接続されている。更に、賞球払出制御基板 3000 は、遊技球の発射を司る発射制御基板 40（及び遊技球を発射する発射装置 42）、賞球を許可する賞球許可センサ類 KS、遊技球の貸出要求等を受付けて賞球払出制御基板 3000 に伝達する ECO ユニット EU、持ち球数の表示や IC カード情報の操作等を実行する操作部装置 50 と電氣的に接続されている。

【0595】

また、賞球払出制御基板 3000 は、賞球に係る情報を送受信するための送受信制御手段 3100 と、賞球払出しに係る処理を司る払出制御手段 3300 と、遊技球の発射に係る処理を司る発射制御手段 3400 と、賞球払出制御基板 3000 側での電断時の処理を司る電断時・電断復帰時初期処理制御手段 3500 と、を有している。

【0596】

ここで、送受信制御手段 3100 は、情報の受信を制御する受信制御手段 3110 と、情報の送信を制御する送信制御手段 3120 と、を有している。また、受信制御手段 3110 は、主制御基板 A から受信した情報を一時記憶するためのメイン側受信情報一時記憶手段 3111 と、E C O ユニット E U から受信した情報を一時記憶するための E C O ユニット側受信情報一時記憶手段 3112 と、を更に有している。

10

【0597】

次に、払出制御手段 3300 は、賞球に係る情報を一時記憶するための払出処理関連情報一時記憶手段 3310 を有しており、当該払出処理関連情報一時記憶手段 3310 は、主制御基板 A から受信した各入賞口への入賞数を計数するための各入賞カウンタ（第 1 主遊技始動口入賞カウンタ 3311 a、第 2 主遊技始動口入賞カウンタ 3311 b、第 1 大入賞口入賞カウンタ 3311 c、第 2 大入賞口入賞カウンタ 3311 d、一般入賞口入賞カウンタ 3311 e）と、遊技者の現在の持ち球数（遊技に供することのできる遊技媒体数）を計数するための持ち球数カウンタ 3312 と、現時点で遊技枠内に存在している遊技球（封入遊技球）数を計数するための封入遊技球数カウンタ 3313 と、を更に有している。

20

【0598】

次に、発射制御手段 3400 は、遊技球の発射制御に係る情報を一時記憶するための発射制御関連情報一時記憶手段 3410 を有している。

【0599】

次に、電断時・電断復帰時初期処理制御手段 3500 は、電断時の情報を一時記憶（バックアップ）するための電断時情報一時記憶手段 3510 を有している。

【0600】

< E C O ユニット >

次に、E C O ユニット E U は、賞球払出制御基板 3000 や操作部装置 50 と接続され、遊技者の個人遊技状態情報（特に、所持している遊技媒体数情報）が記録された I C カード（会員カード、一般カード）を挿入することで、当該 I C カードに記録された遊技状態情報を操作部装置 50 上にて表示可能であると共に、操作部装置 50 上での操作によって当該遊技状態情報を利用したり、貸出制御及び電子マネー等貸出用の管理制御等を行うことができるよう構成されている。また、E C O ユニット E U は、ネットワークを介してホールコンピュータ H と接続されており、遊技関連情報を出力できるよう構成され、遊技枠及び遊技盤の認証処理も、当該 E C O ユニット E U を介して行われる。尚、E C O ユニット E U は、遊技機とは異なる電源（電源装置 E 2）から電力を供給されていると共に、操作部装置 50 とも接続されており、操作部装置 50 に対しては、E C O ユニット E U から電力が供給されるよう構成されている。

30

【0601】

尚、第 5 実施形態では、図 115 の矢印表記の通り、主制御基板 A と賞球払出制御基板 3000 とは、双方向通信が可能となるよう構成されている一方、主制御基板 A とサブメイン制御部 2000 とは、主制御基板 A からサブメイン制御部 2000 への一方向通信が可能となるよう構成されている（通信方法は、シリアル通信、パラレル通信のいずれを用いてもよい）。また、賞球払出制御基板 3000 及び操作部装置 50 と E C O ユニット E U とは、双方向通信が可能となるよう構成されている一方、賞球払出制御基板 3000 から操作部装置 50 への一方向通信が可能となるよう構成されている {あくまでも、制御基板間（制御装置間）の通信方法については一例である}。

40

【0602】

次に、図 115 を参照しながら、第 5 実施形態に係る遊技機における、E C O ユニット

50

一賞球払出制御基板間の処理イメージ（特に、持ち球数の加算・減算・移送処理について）を説明する。尚、同図においては常に、賞球払出制御基板3000は、持ち球数情報〔遊技に使用（遊技領域30内に発射）することのできる遊技球数に係る情報〕を持ち球数表示部54に対して送信し、持ち球数表示部54は、持ち球数表示の更新を繰り返しているものとする。また、各処理において、エラー等は発生しない場合について例示している。

【0603】

<持ち球数加算処理>

はじめに、持ち球数加算処理の一例として、同図上段の、球貸処理について説明する。まず、（1）で、タッチパネル式インターフェース52上での球貸操作が行われた場合、タッチパネル式インターフェース52から、（2）の「球貸操作情報」が、ECOユニットEUに対して送信される。次に、当該「球貸操作情報」を受信したECOユニットEUは、（3）の球貸制御処理にて、ICカードの残高消費を実行し、（4）の「持ち球数加算要求」を賞球払出制御基板3000に送信する。次に、当該「持ち球数加算要求」を受信した賞球払出制御基板3000は、（5）の持ち球数加算処理にて、現在の持ち球数に、消費した残高分の遊技媒体数を加算する。（5）の処理が終了すると、賞球払出制御基板3000は、（6）の「加算完了情報」を、ECOユニットEUに対して送信する。次に、当該「加算完了情報」を受信したECOユニットEUは、（7）の「球貸完了表示指示」をタッチパネル式インターフェース52に対して送信する。次に、当該「球貸完了表示指示」を受信したタッチパネル式インターフェース52は、（8）の球貸完了表示を実行し、球貸処理が終了する。

【0604】

<持ち球数減算処理>

次に、持ち球数減算処理の一例として、同図中段の、球消費処理（特に、ワゴンサービスに係る処理）について説明する。まず、（1）で、タッチパネル式インターフェース52上でのワゴンサービス利用操作が行われた場合、タッチパネル式インターフェース52から、（2）の「球消費操作情報」が、ECOユニットEUに対して送信される。次に、当該「球消費操作情報」を受信したECOユニットEUは、（3）の「持ち球数減算要求」を賞球払出制御基板3000に送信する。次に、当該「持ち球数減算要求」を受信した賞球払出制御基板3000は、（4）の持ち球数減算処理にて、現在の持ち球数から、ワゴンサービスにて消費する分の遊技媒体数を減算する。（4）の処理が終了すると、賞球払出制御基板3000は、（5）の「減算完了情報」を、ECOユニットEUに対して送信する。次に、当該「減算完了情報」を受信したECOユニットEUは、（6）の「球消費完了表示指示」をタッチパネル式インターフェース52に対して送信する。次に、当該「球消費完了表示指示」を受信したタッチパネル式インターフェース52は、（7）のワゴンサービス利用完了表示を実行し、球消費処理が終了する。

【0605】

<持ち球数移送処理>

次に、持ち球数移送処理の一例として、同図下段の、ICカード返却処理について説明する。まず、（1）で、タッチパネル式インターフェース52上での返却操作（ICカード返却操作）が行われた場合、タッチパネル式インターフェース52から、（2）の「返却操作情報」が、ECOユニットEUに対して送信される。次に、当該「返却操作情報」を受信したECOユニットEUは、（3）の「持ち球数返却要求」を賞球払出制御基板3000に送信する。次に、当該「持ち球数返却要求」を受信した賞球払出制御基板3000は、（4）の持ち球移送処理にて、遊技を停止（例えば、遊技球の発射を停止）すると共に、（5）の持ち球数移送処理にて、遊技盤面上を流下している遊技球（浮遊球）が存在しないことを確認し（例えば、封入遊技球数カウンタ3313のカウンタ値が初期値となるまで待機する）、（6）の「持ち球数情報」を、ECOユニットEUに対して送信する。次に、当該「持ち球数情報」を受信したECOユニットEUは、（7）の返却制御処理にて、当該受信した情報に基づき、持ち球数を一時記憶し、（8）の「持ち球数クリア要求」を賞球払出制御基板3000に送信する。次に、当該「持ち球数クリア要求」を受

信した賞球払出制御基板3000は、(9)の持ち球数移送処理にて、現在の持ち球数をクリア(ゼロクリア)し、(10)の「持ち球数クリア完了情報」をECOユニットEUに対して送信する。次に、当該「持ち球数クリア完了情報」を受信したECOユニットEUは、(11)の返却制御処理にて、前述の(7)の処理にて一時記憶した持ち球数を、当該ECOユニットに挿入されているICカードに記憶されている貯玉数に加算する。次に、(12)の返却制御処理にて、ECOユニットEUは、当該ICカードをICカード返却口より排出(返却)し、(13)の「返却完了表示指示」をタッチパネル式インターフェース52に対して送信する。次に、次に、当該「返却完了表示指示」を受信したタッチパネル式インターフェース52は、(14)の返却完了表示を実行し、タッチパネル式インターフェース52-ECOユニットEU間のICカード返却処理が終了する。また、(12)の処理の完了時、ECOユニットEUは、(15)の「返却完了情報」を、賞球払出制御基板3000に対して送信する。次に、当該「返却完了情報」を受信した賞球払出制御基板3000は、(4)の処理にて実行した遊技停止を解除して(16)の遊技可能な状態へと復帰し、ECOユニットEU-賞球払出制御基板3000間のICカード返却処理が終了する。

10

【0606】

<認証処理>

次に、図116を参照しながら、第5実施形態に係る遊技機における、遊技機の認証処理について説明する。ここで、遊技機の認証処理とは、遊技機の電源投入時に、当該遊技機が正規な遊技機であるか否かを判定する処理である。尚、同図では、正規な遊技機であると認証された場合について例示している。

20

【0607】

まず、遊技機の電源投入時、主制御基板Aは、(1)の認証制御処理にて、主制御基板AのCPUに記憶された固有の主制御基板IDを暗号化し、(2)の「主制御基板ID」として、賞球払出制御基板3000に対して送信する。また、電源投入時、賞球払出制御基板3000は、(3)の認証制御処理にて、賞球払出制御基板3000のCPUに記憶された固有の払出制御基板IDを暗号化し、受信した(2)の「主制御基板ID」と共に(4)の「主制御基板ID・払出制御基板ID」としてECOユニットEUに対して送信する。次に、当該「主制御基板ID・払出制御基板ID」を受信したECOユニットEUは、当該受信した情報に基づき、(5)の「主制御基板ID・払出制御基板ID」を、下記管理センターに対して送信する。次に、鍵管理センターは、(6)の処理にて、当該受信した、暗号化されたID(主制御基板ID・払出制御基板ID)を復号化すると共に、(7)の「納品情報要求」を、遊技機管理センターに対して送信する。次に、当該「納品情報要求」を受信した遊技機管理センターは、(8)の処理にて、当該遊技機管理センターに登録されている、正規な主制御基板及び払出制御基板の納品情報を確認し、暗号化して(9)の「納品情報」として、鍵管理センターに対して送信する。次に、当該「納品情報」を受信した鍵管理センターは、(10)の処理にて、当該受信した納品情報を復号化する。次に、鍵管理センターは、(11)の処理にて、遊技機から受信した主制御基板ID及び払出制御基板IDと、遊技機管理センターから受信した納品情報と、を照合(認証)する。次に、鍵管理センターは、(12)の処理にて、当該認証結果を暗号化し、(13)の「認証結果」としてECOユニットEUに対して送信する。次に、当該「認証結果」を受信したECOユニットEUは、(14)の処理にて、当該受信した、暗号化された認証結果を復号化する。次に、当該復号化した認証結果が認証成功である場合、ECOユニットEUは、(15)の「遊技開始許可」を、賞球払出制御基板3000に対して送信する。次に、当該「遊技開始許可」を受信した賞球払出制御基板3000は、(16)の「遊技開始許可」を、主制御基板Aに対して送信する。ここで、「遊技開始許可」を受信した主制御基板A及び賞球払出制御基板3000は、正規な遊技機であると認証され、遊技開始可能となる。また、認証結果が認証失敗である場合には、ECOユニットEUから「遊技開始許可」が送信されず、主制御基板A及び賞球払出制御基板3000は、遊技開始可能とならないこととなる。尚、本例あくまで一例であり、これには限定されず、例え

30

40

50

ば、(4)や(5)の主制御基板ID・払出制御基板IDは、別々に送信してもよいし、鍵管理センターと遊技機管理センターとは、常に納品情報の送受信を行っていてもよい。また、遊技機に設定値を設ける場合(詳細は第6実施形態を参照)には、(4)の「主制御基板ID・払出制御基板ID」の送信に合わせて当該設定値情報を送信するようにしてもよい。なお、設定値は、主制御基板からの情報に基づいて認識してもよいし、設定値を設定する機能を有する装置の情報に基づいて賞球払出制御基板3000が認識して送信してもよい。

【0608】

＜遊技球の循環機構について＞

次に、図117を参照しながら、遊技球の循環について説明する。第5実施形態に係るぱちんこ遊技機においては、ぱちんこ遊技機内で一定数(例えば、100球)の遊技球を循環させることで遊技が可能となっており(以下、循環させる遊技球を封入遊技球と呼ぶことがある)、遊技機外からの遊技球の供給及び遊技機外への遊技球の排出(払出し)を行うことなく遊技進行が可能に構成されている。

【0609】

まず、封入遊技球数管理手段内の、封入遊技球タンクには、封入遊技球が貯留されており、封入遊技球タンク内の封入遊技球は、球送りソレノイド機構によって発射装置42へと送り出され、発射制御装置42によって、遊技球が遊技盤側の遊技領域30に向けて発射される。次に、遊技領域30に発射された遊技球は、遊技周辺機器であるいずれかの入球口(例えば、第1主遊技始動口110、第2主遊技始動口210、第1大入賞口310、第2大入賞口320、一般入賞口、アウト口36、等)に入球し(第1主遊技始動口入球検出装置111、第2主遊技始動口入球検出装置211、第1大入賞口入賞検出装置311、第2大入賞口入賞検出装置321、一般入賞口検出装置にて入球検出され)、遊技盤側から遊技枠側に流入する。当該流入した封入遊技球は、遊技領域30に設けられた入球口に対応した賞球許可センサ類KS(例えば、第1主遊技始動口賞球許可センサ110KS、第2主遊技始動口賞球許可センサ210KS、第1大入賞口賞球許可センサ310KS、第2大入賞口賞球許可センサ320KS、一般入賞口賞球許可センサ、等)及びアウト球検出センサによって検出され、封入遊技球タンクに再び貯留される。そして、このように封入遊技球がぱちんこ遊技機内を循環している状況下、遊技球が遊技盤側の遊技領域30に向けて発射される、或いは、賞球払出しの対象となる入球口(例えば、第1主遊技始動口110、第2主遊技始動口210、第1大入賞口310、第2大入賞口320、一般入賞口、等)に入球した場合には、賞球払出制御基板3000によって、遊技者に対しての賞球付与(第5実施形態においては、持ち球データの加減算)が行われることとなる。

【0610】

次に、図118～図123を参照して、賞球払出制御基板3000側で実行される制御処理を説明する。まず、図118は、第5実施形態に係るぱちんこ遊技機における、賞球払出制御基板3000のメインフローチャートである。ここで、同図(g)の賞球払出制御基板側メイン処理は、遊技機への電源投入時等のリセット後に実行される賞球払出制御基板3000での処理である。即ち、遊技機への電源投入時において、ステップ3100で、賞球払出制御基板3000は、後述する電断復帰時初期処理を実行する。その後、賞球払出制御基板3000の繰り返し処理ルーチンである(h)を繰り返し実行するループ処理に移行する。ここで、(h)が実行された場合、同図(h)の処理に示されるように、まず、ステップ3200で、賞球払出制御基板3000は、後述する封入遊技球数管理処理を実行する。次に、ステップ3300で、賞球払出制御基板3000は、後述する持ち球数管理処理を実行する。次に、ステップ3400で、賞球払出制御基板3000は、後述する遊技球発射制御処理を実行する。次に、ステップ3500で、賞球払出制御基板3000は、賞球関連情報送受信制御処理(主制御基板A、発射制御基板40、ECUユニットEU、等との間で、賞球に係る情報を送受信する)を実行し、本繰り返し処理ルーチンを終了する。

【0611】

以上のように、賞球払出制御基板3000は、リセット後、賞球払出制御基板側ルーチン(S3200～S3500)をループ処理する形態を採用している。また、同図(i)の処理は、賞球払出制御基板3000のNMI割り込み処理であり、電源供給ユニットEからの電力が所定レベルまで低下した際に強制的に実行される処理フローである。即ち、賞球払出制御基板3000のCPUにおいてNMI割り込みが発生した場合、ステップ3600で、賞球払出制御基板3000は、後述する電断時処理を実行し、電断待ちループに移行する。

【0612】

次に、図119は、図118におけるステップ3100のサブルーチンに係る、電断復帰時初期処理のフローチャートである。まず、ステップ3102で、電断時・電断復帰時初期処理制御手段3500は、電断時情報一時記憶手段3510のフラグエリアを参照し、払出制御側電断フラグがオンであるか否かを判定する。ステップ3102でYesの場合、ステップ3104で、電断時・電断復帰時初期処理制御手段3500は、電断時情報一時記憶手段3510のフラグエリア内にある、払出制御側電断フラグをオフにする。次に、ステップ3106で、電断時・電断復帰時初期処理制御手段3500は、電断時にバックアップした情報に基づき、各入賞カウンタ(例えば、第1主遊技始動口入賞カウンタ3311a、第2主遊技始動口入賞カウンタ3311b、第1大入賞口入賞カウンタ3311c、第2大入賞口入賞カウンタ3311d、一般入賞口入賞カウンタ3311e)のカウンタ値を復元する。次に、ステップ3108で、電断時・電断復帰時初期処理制御手段3500は、電断時にバックアップした情報に基づき、持ち球数カウンタ3312のカウンタ値を復元する。次に、ステップ3110で、電断時・電断復帰時初期処理制御手段3500は、封入遊技球数カウンタ3313に初期値(例えば、100であるが、封入遊技球タンク内の遊技球数を計数可能に構成されている場合には、当該計数結果を初期値としてもよい)を再セットする。次に、ステップ3112で、電断時・電断復帰時初期処理制御手段3500は、電断時にバックアップした情報に基づき、その他の遊技に必要な情報(例えば、各種フラグ情報、受信コマンド、未送信コマンド、等)を復元する。次に、ステップ3114で、電断時・電断復帰時初期処理制御手段3500は、発射制御関連情報一時記憶手段3410のフラグエリア内にある、遊技停止フラグ(封入遊技球数異常フラグ・不正賞球情報フラグ)をオフにし、ステップ3116に移行する。他方、ステップ3102でNoの場合、ステップ3104～ステップ3114の処理を実行せずに、ステップ3116に移行する。尚、本例では図示していないが、封入遊技球数カウンタ3313に初期値を再セットする際に、浮遊球(遊技領域30に存在する遊技球)が遊技枠側に戻るまでの待機時間を設けてもよい。

【0613】

次に、ステップ3116で、電断時・電断復帰時初期処理制御手段3500は、メイン側受信情報一時記憶手段3111を参照し、主制御基板A側から基本賞球数情報コマンドを受信したか否かを判定する。ステップ3116でYesの場合、ステップ3118で、電断時・電断復帰時初期処理制御手段3500は、当該受信した基本賞球数情報コマンドに基づき、各入賞口の基本賞球数情報を払出処理関連情報一時記憶手段3310に一時記憶し、本サブルーチンの呼び出し元に復帰する。他方、ステップ3116でNoの場合、換言すれば、基本賞球数情報コマンドの受信に失敗した場合、ステップ3120で、電断時・電断復帰時初期処理制御手段3500は、主制御基板Aに対して、設定コマンドの送信を要求(当該設定コマンド送信要求によって、主制御基板Aから基本賞球数情報コマンドの送信があった場合は、ステップ3500の賞球関連情報送受信制御処理によって受信及び記憶を行う)し、本サブルーチンの呼び出し元に復帰すると共に、(h)の賞球払出制御基板側ルーチンに移行する。

【0614】

次に、図120は、図118におけるステップ3200のサブルーチンに係る、封入遊技球数管理処理のフローチャートである。まず、ステップ3202で、払出制御手段33

10

20

30

40

50

00は、発射制御関連情報一時記憶手段3400を参照し（或いは、発射検出センサ43からの発射信号に基づき）、遊技球の発射が行われたか否かを判定する。ステップ3202でYesの場合、ステップ3204で、払出制御手段3300は、封入遊技球数カウンタ3313のカウンタ値から1減算（デクリメント）し、ステップ3206に移行する。他方、ステップ3202でNoの場合、ステップ3204の処理を実行せずに、ステップ3206に移行する。

【0615】

次に、ステップ3206で、払出制御手段3300は、賞球許可センサ類KS及びアウト球検出センサからの情報を参照し、排出球が検出されたか否かを判定する。ステップ3206でYesの場合、ステップ3208で、払出制御手段3300は、封入遊技球数カウンタ3313のカウンタ値に1加算（インクリメント）し、ステップ3210に移行する。他方、ステップ3206でNoの場合、ステップ3208の処理を実行せずに、ステップ3210に移行する。

【0616】

次に、ステップ3210で、払出制御手段3300は、封入遊技球数カウンタ3313のカウンタ値が適正範囲内の値（例えば、51～100）であるか否かを判定する。ここで、封入遊技球数カウンタ3313とは、遊技機枠側に存在している封入遊技球数を計数するカウンタであり、初期値として100（本遊技機に封入されている遊技球数）がセットされている。本遊技機においては、遊技機外からの遊技球の供給、遊技機外への遊技球の排出がなされないため、遊技機内に存在する遊技球数を計数することで、不正や球詰まり等のエラーを検出することができるのである。

【0617】

フローチャートの説明に戻ると、ステップ3210でYesの場合、本サブルーチンの呼び出し元に復帰する。他方、ステップ3210でNoの場合、ステップ3212及びステップ3214で、払出制御手段3300は、遊技機内の遊技球数が異常であると判断し、発射制御関連情報一時記憶手段3410のフラグエリア内にある、封入遊技球数異常フラグをオンにする（遊技が停止することとなる）と共に、エラー報知を実行し、本サブルーチンの呼び出し元に復帰する。

【0618】

次に、図121は、図118におけるステップ3300のサブルーチンに係る、持ち球数管理処理のフローチャートである。まず、ステップ3302で、払出制御手段3300は、ECOユニット側受信情報一時記憶手段3112を参照し、ECOユニットEUからの持ち球操作情報（タッチパネル式インターフェース52上での球貸操作、貯玉再プレイ操作、球共有操作、ワゴンサービス利用操作、ICカード返却操作、等によって送信される持ち球加算・減算・クリア等の要求情報）を受信したか否かを判定する。ステップ3302でYesの場合、ステップ3304で、払出制御手段3300は、当該受信した持ち球操作情報に基づき、持ち球数カウンタ3312のカウンタ値を加算（又は減算、クリア）し、ステップ3306に移行する。他方、ステップ3302でNoの場合、ステップ3304の処理を実行せずに、ステップ3306に移行する。

【0619】

次に、ステップ3306で、払出制御手段3300は、発射制御関連情報一時記憶手段3400を参照し（或いは、発射検出センサ43からの発射信号に基づき）、遊技球の発射が行われたか否かを判定する。ステップ3306でYesの場合、ステップ3308で、払出制御手段3300は、持ち球数カウンタ3312のカウンタ値から1減算（デクリメント）し、ステップ3310に移行する。他方、ステップ3306でNoの場合、ステップ3308の処理を実行せずに、ステップ3310に移行する。

【0620】

次に、ステップ3310で、払出制御手段3300は、メイン側受信情報一時記憶手段3111を参照し、主制御基板A側から入賞情報コマンドを受信したか否かを判定する。ステップ3310でYesの場合、ステップ3312で、払出制御手段3300は、当該

受信した入賞情報コマンドに基づき、入賞口種別及び賞球数に係る情報を取得する。次に、ステップ3314で、払出制御手段3300は、当該取得した入賞口種別及び賞球数が、払出処理関連情報一時記憶手段3310に一時記憶された基本賞球数情報と一致するかどうかを判定する。ステップ3314でYesの場合、ステップ3316で、払出制御手段3300は、当該判定結果が一致した入賞口の入賞カウンタのカウンタ値に1加算（インクリメント）し、ステップ3330に移行する。他方、ステップ3314でNoの場合、ステップ3318及びステップ3320で、払出制御手段3300は、当該入賞情報コマンドが不正なものであると判断し、発射制御関連情報一時記憶手段3410のフラグエリア内にある、不正入賞情報フラグをオンにする（遊技が停止することとなる）と共に、エラー報知を実行し、ステップ3330に移行する。尚、ステップ3310でNoの場合、ステップ3312～3320の処理を実行せずに、ステップ3330に移行する。

10

【0621】

次に、ステップ3330で、払出制御手段3300は、賞球許可センサ類KSからの情報を確認し、いずれかの賞球許可センサにて入球を検出したかどうかを判定する。ステップ3330でYesの場合、ステップ3332で、払出制御手段3300は、払出処理関連情報一時記憶手段3310を参照し、当該入球を検出した賞球許可センサに対応した入賞カウンタ値が1以上であるかどうかを判定する。ステップ3332でYesの場合、ステップ3334で、払出制御手段3300は、当該対応する入賞カウンタのカウンタ値から1減算（デクリメント）する。次に、ステップ3336で、払出制御手段3300は、払出処理関連情報一時記憶手段3310に一時記憶された基本賞球数情報に基づき、当該入球を検出したセンサに対応する賞球数を、持ち球数カウンタ3312のカウンタ値に加算する。次に、ステップ3338で、払出制御手段3300は、主制御基板A側への賞球払出完了コマンドをセット（ステップ3500の賞球関連情報送受信制御処理によって、主制御基板A側に送信される）する。次に、ステップ3340で、払出制御手段3300は、入賞情報表示装置60上にて、当該賞球に係る入賞口種別及び賞球数を表示し、ステップ3342に移行する。尚、ステップ3330又はステップ3332でNoの場合にも、ステップ3342に移行する。

20

【0622】

次に、ステップ3342で、払出制御手段3300は、持ち球数カウンタ3312のカウンタ値を参照し、持ち球数表示部54上にて、現在の持ち球数を表示し、本サブルーチンの呼び出し元に復帰する。

30

【0623】

ここで、同図（入賞カウンタのイメージ図）は、主制御基板A側から入賞情報コマンドを受信してから賞球が付与されるまでの処理イメージを示した図である（特に、第1主遊技始動口110への入球があった場合について例示している）。まず、主制御基板A側から、第1主遊技始動口110への入球に係る入賞情報コマンドを受信すると、第1主遊技始動口入賞カウンタ3311aのカウンタ値に1が加算されるが、この段階では、賞球払出し（加算処理）は発生しない。次に、賞球払出制御基板3000側の第1主遊技始動口賞球許可センサ110KSにて入球を検出することで、第1主遊技始動口入賞カウンタ3311aのカウンタ値から1減算し、第1主遊技始動口110の賞球数である「3」が、賞球として持ち球数カウンタ3312のカウンタ値に加算されることとなる。

40

【0624】

また、同図（入賞情報表示例）は、第5実施形態に係る遊技機における、入賞情報表示装置60での表示態様の一例を示した図である。初期状態（入賞が検出されていない状態）においては、賞球数表示部60a及び入賞口種別ランプ60bでの表示は行われず、賞球の付与が完了すると、入賞情報に応じて、賞球数及び入賞口種別が表示されることとなる。例えば、第1主遊技始動口110への入球に係る賞球が付与されると、第1主遊技始動口110への入賞に対応した入賞口種別ランプ60b（本例では、一番左に位置するランプ）が点灯し、賞球数表示部60aでは、賞球数表示として「+3」との表示がなされることとなる。尚、短い時間内に複数の入賞が検出された場合には、入賞を検出した順に

50

、入賞口種別及び賞球数を、遊技者が表示内容を確認可能な時間（例えば、0.5秒間）表示し続けることが望ましい。また、本例はあくまで一例であり、表示手段・表示方法や賞球数など、これには限定されず、例えば、ランプの点灯態様の組合せや、サウンドによって入賞口種別や賞球数を遊技者に対して報知し得るよう構成してもよい。また、同時に複数の入賞情報を表示可能に構成することで、短い時間内に複数の入賞があった場合にも、より正確な表示をすることが可能となる。

【0625】

次に、図122は、図118におけるステップ3500のサブルーチンに係る、遊技球発射制御処理のフローチャートである。まず、ステップ3502で、発射制御手段3400は、発射制御関連情報一時記憶手段3410のフラグエリアを参照し、遊技停止フラグ {封入遊技球数異常フラグ（遊技機内の遊技球数が多い又は少ないと判定した場合にオンとなるフラグ）・不正賞球情報フラグ（異常な賞球が発生したと判定した場合にオンとなるフラグ）} がオフであるか否かを判定する。ステップ3502でYesの場合、ステップ3504で、発射制御手段3400は、持ち球数カウンタ3312を参照し、当該カウンタ値が0より大きいと否かを判定する。ステップ3504でYesの場合、ステップ3506で、発射制御手段3400は、発射制御基板40からの情報を参照し、ハンドル44の入力（遊技者による回転操作）があるか否かを判定する。ステップ3506でYesの場合、ステップ3508で、発射制御手段3400は、当該ハンドル入力に基づき、遊技球の発射強度を決定する（例えば、遊技者の操作によるハンドル44の変位が大きいほど、強い発射強度とする）。次に、ステップ3510で、発射制御手段3400は、遊技球発射ソレノイドを駆動し、遊技球を遊技領域30に発射し、本サブルーチンの呼び出し元に復帰する。尚、ステップ3502～ステップ3506でNoの場合にも、本サブルーチンの呼び出し元に復帰する。

【0626】

次に、図123は、図118におけるステップ3600のサブルーチンに係る、電断時処理のフローチャートである。まず、ステップ3602で、電断時・電断復帰時初期処理制御手段3500は、各入賞カウンタ（例えば、第1主遊技始動口入賞カウンタ3311a、第2主遊技始動口入賞カウンタ3311b、第1大入賞口入賞カウンタ3311c、第2大入賞口入賞カウンタ3311d、一般入賞口入賞カウンタ3311e）のカウンタ値を、電断時情報一時記憶手段3510に一時記憶（バックアップ）する。次に、ステップ3604で、電断時・電断復帰時初期処理制御手段3500は、持ち球数カウンタ3312のカウンタ値を、電断時情報一時記憶手段3510に一時記憶（バックアップ）する。次に、ステップ3606で、電断時・電断復帰時初期処理制御手段3500は、電断時情報一時記憶手段3510のフラグエリア内にある、払出制御側電断フラグをオンにする。次に、ステップ3608で、電断時・電断復帰時初期処理制御手段3500は、その他の遊技に必要な情報（例えば、各種フラグ情報、受信コマンド、未送信コマンド、等）を電断時情報一時記憶手段3510に一時記憶（バックアップ）する。次に、ステップ3610で、電断時・電断復帰時初期処理制御手段3500は、バックアップ領域に電源を供給し、本サブルーチンの呼び出し元に復帰して電断待ちループに移行する。

【0627】

以上のように構成することで、第5実施形態に係る遊技機によれば、遊技盤側に設けられた入球検出装置（例えば、第1入球検出装置111、第2入球検出装置211、第1入賞検出装置311、第2入賞検出装置321、等）と、遊技枠側に設けられた賞球許可センサ類KS（例えば、第1主遊技始動口賞球許可センサ110KS、第2主遊技始動口賞球許可センサ210KS、第1大入賞口賞球許可センサ310KS、第2大入賞口賞球許可センサ320KS、一般入賞口賞球許可センサ、等）と、の双方で入球が検出され、且つ、主制御基板A側から送信された入賞情報（例えば、入賞口種別・賞球数に係る情報）が、賞球払出制御基板3000側に記憶された基本賞球数情報と一致した場合にのみ、遊技者に対して賞球が付与されるよう構成されているため、不正行為による賞球の獲得を防止することができる。また、遊技枠側に賞球許可センサ類KSを設けることで、遊技盤の

10

20

30

40

50

コストを削減できることとなる（ぱちんこ遊技機の機種入れ換えは、主に遊技盤のみの入れ替えにて行われ、遊技枠は繰り返し使用されることが多いため）。また、遊技者に対して賞球を付与した入賞については、所定の表示部（例えば、入賞情報表示装置60）にて、入賞口種別及び賞球数を表示し得るよう構成されているため、遊技者にとって、いずれの入賞口に入賞し、何球の賞球が得られたか、という情報が分かり易い、ユーザーフレンドリーな遊技機を提供することができることとなる。

【0628】

尚、本例はあくまで一例であり、これには限定されない。例えば、第5実施形態における入賞情報表示装置60は、遊技枠に設けたが、これには限定されず、第1主遊技図柄表示装置120（又は第2主遊技図柄表示装置）等の他の表示装置と同一基板上に設けてもよい（そのように構成した場合、コスト削減・視認性向上等の効果がある）。また、第5実施形態においては、主制御装置Aから賞球払出制御基板3000に対して入賞情報（及び基本賞球数情報）を送信し、入賞情報が正常であるか否かを、賞球払出制御基板3000側で判定するよう構成したが、これには限定されず、例えば、第5実施形態とは逆の構成にて入賞情報の異常を判定するよう構成してもよい（賞球払出制御基板3000から主制御装置Aに対して入賞情報（及び基本賞球数情報）を送信し、入賞情報が正常であるか否かを、主制御基板A側で判定するよう構成してもよい）。また、例えば、賞球数の表示をフルカラー7セグで行い、賞球数を表示した色によって、入賞口種別や入賞口の位置を報知し得るよう構成してもよい。また、入賞口の入球容易性に応じて、入賞情報の表示を異ならせる（例えば、入球が容易な入賞口への入賞の場合には白色での表示、入球が困難な一般入賞口への入賞の場合には、効果音と共に赤色での表示を行う）よう構成してもよい。そのように構成した場合、通常とは異なる表示の頻度によって、遊技機の、遊技者に対する利益の期待度を推測することが可能となる。

【0629】

<<第5実施形態に適用可能なその他の構成>>

ここで、第5実施形態に係るぱちんこ遊技機に適用可能なその他の構成を以下に詳述する。尚、以下の構成は第5実施形態のみには限定されず、本例に係るすべての実施形態の構成にて適用可能となっている。

【0630】

<総得点表示装置D190>

本例に係る遊技機では、貸出された遊技球や、所定の入賞口への入球によって得られた遊技球を、演算処理可能な擬似的な遊技媒体とし、発射する遊技球は、実体的な遊技球としてもよい。そのように構成した場合、発射可能な遊技球の総数等を表示可能な総得点表示装置D190を設けてもよい。総得点表示装置D190は、7セグメントLEDで形成された9個の表示部を有しており、遊技者から視認容易な位置（例えば、図1におけるサブ入力ボタンSBの近傍）に設けられている。また、9個（9桁）の表示部は、総得点情報を表示するための5個（5桁）の表示部と、獲得得点情報を表示するための2個（2桁）の表示部と、エラー情報を表示するための2個（2桁）の表示部と、から構成されている。尚、総得点表示装置D190に表示される発射可能な遊技球の総数は、遊技球が貸出された場合や、所定の入賞口への入球によって賞球が得られた場合に増加し得るよう構成されている。また、総得点表示装置D190に表示される発射可能な遊技球の総数は、RAMなどの記憶装置に記憶されている。記憶装置は、例えば、主制御基板MのCPUに内蔵されているRAMなどにすることができる。なお、これに加え、総得点表示装置D190にも、別途RAMなどの記憶装置を有するよう構成し、主制御基板Mと総得点表示装置D190との双方で発射可能な遊技球の総数に係る情報を記憶できるよう構成してもよい。また、このようにすることで、本例に係る遊技機の総得点表示装置D190は、遊技球の総数を表示するだけでなく記憶することもできる。

【0631】

また、総得点表示装置D190には、以下の情報を表示可能とすることができる。

（1）総得点情報

総得点情報とは、発射することが可能な得点の総数を示す情報である。尚、発射可能な遊技球を得点と称することがあり（1球＝1点）、発射可能な遊技球数の合計を総得点と称することがある。

（２）獲得得点情報

獲得得点情報とは、所定の入賞口への1回の遊技球の入球によって得られた得点（他の実施形態では賞球と称することがある）を示す情報である。

（３）エラー情報

主制御基板及び／又は払出制御基板に異常が発生したことを示す情報である。ここで、前述したように、総得点表示装置D190には、総得点情報を表示するために5つ（5桁）の表示部を有し、獲得得点情報を表示するために2つ（2桁）の表示部を有し、エラー情報を表示するために2つ（2桁）の表示部を有し、合計で9個の表示部を有している。尚、獲得得点情報を表示するための表示部とエラー情報を表示するための表示部は兼用しても良い。このとき、獲得得点情報を表示している場合にエラーが発生した場合には、表示している獲得得点情報からエラー情報に切り替える。一例として、エラー発生時にはエラーの種別毎に「E1」、「E2」、「E3」・・・のようにエラーの種別によって異なる表示態様にて表示し、電源断復帰が正常に実行できない場合のエラーとして「E1」を表示するよう構成した場合において、例えば、8球の払い出しが行われる際に「*8」を表示（「*」は消灯を示す）しているときに電源断が起こり、電源断復帰が正常に実行できない場合のエラーは、「E1」表示、電源断復帰が正常に実行できた場合には、「*8」表示のよう構成してもよい。尚、表示部の数は適宜変更可能であり、例えば、総得点情報
10
20
を表示するための表示部を4つにし、4桁までの情報を表示可能としたり、総得点情報を表示するための表示部を6つにし、6桁までの情報を表示可能としても良い。

【0632】

尚、1分間に100球の遊技球を発射可能な遊技機において、1時間遊技球を発射し続けたときに出玉率が2であった場合には、「イン：100×60＝6000、アウト：12000」となる。遊技場の営業時間が14時間だった場合には、「イン：84000、アウト：168000」となり、このような場合において、遊技場の営業終了時の総得点表示装置D190に表示される総得点は、おおよそ「168000－84000＝84000」となるため、このように構成した場合には、総得点表示装置D190における総得点情報
30
を表示するための表示部は5つとし、5桁までの情報を表示可能とすることが好適である。

【0633】

複数種類存在するエラーのうち、設定変更時のRAMクリア処理を実行しないと復帰できない復帰不可能エラー（当該エラーが発生する直前の状況には復帰不可能なエラー）が発生した場合、復帰する際には、主制御基板及び／又は払出制御基板のRAMをクリアするが、上述したように総得点に関する情報はクリアしないようにすることによって、遊技者に不利益を与えないようにすることができる（例えば、総得点として「2000」得点有しているときに復帰不可能エラーが発生し、復帰不可能エラーから復帰した際に「0」となることを防止することができる）。また、総得点に関する情報を含むRAMの領域（アドレス）もクリア対象とした場合であっても、総得点に関する情報をCRユニットにも記憶しておき、復帰不可能エラーから復帰した場合には、接続端子板から総得点に関する情報を主制御基板及び／又は払出制御基板に送信するように構成することによって、遊技者に不利益を与えないようにすることが可能である。また、総得点表示装置D190にRAMを備えている場合には、当該RAMに総得点に関する情報を記憶することによって復帰不可能エラーが発生し、復帰不可能エラーから復帰した場合であっても、遊技者に不利益を与えないようにすることが可能である。換言すると、電源断が発生した場合や主制御基板及び／又は払出制御基板のRAMをクリアした場合にも総得点情報をバックアップするための手段（総得点情報をバックアップするための記憶領域）を有していれば、復帰不可能エラーが発生した場合であっても、遊技者に不利益を与えないようにすることが可能である（総得点情報を主制御基板及び／又は払出制御基板のRAM内の記憶領域とバック
40
50

アップするための記憶領域とに記憶するよう構成してもよいし、主制御基板及び／又は払出制御基板のRAMをクリアしても消去されない記憶領域（バックアップするための記憶領域）のみに記憶するよう構成してもよい。

【0634】

＜差玉数に関する情報＞

本例に係る遊技機においては、所定の期間（例えば、遊技者が遊技を開始してからの所定の期間）における遊技球数（得点）の差玉数（払い出されたすべての遊技球数から発射したすべての遊技球数を減算した球数）を確認可能に構成してもよい。例えば、遊技者から常時確認（視認）可能な位置に差玉数を表示する表示部を設けてもよいし、演出表示装置に表示し得るよう構成してもよい。尚、演出表示装置に差玉数に関する表示を表示し得るよう構成した場合には、演出表示装置の一部の表示領域に差玉数に関する表示を常時表示するよう構成してもよいし、ボタン有効期間にてサブ入力ボタンSBを操作することにより表示されるメニュー画面にて（又は、メニュー画面にて再度サブ入力ボタンSBを操作することによって）、演出表示装置に差玉数に関する表示を表示するよう構成してもよい（遊技者が差玉数の確認を所望した場合にはサブ入力ボタンSBを操作することによっていつでも差玉数を確認可能に構成してもよい）。尚、遊技を開始した時点等の所定のタイミングからの総得点の増減値を差玉数としてもよく、例えば、遊技開始時の総得点が2000点（球）であり、現在の総得点が2500点（球）である場合には、差玉数は+500点（球）となり、遊技開始時の総得点が2000点（球）であり、現在の総得点が1500点（球）である場合には、差玉数は-500点（球）となるよう構成してもよい。また、差玉数を所定の表示部（例えば、演出表示装置）に表示する場合、差玉数が正の値及び0の場合には黒色にて表示し、差玉数が負の値である場合には赤色にて表示する等、差玉数の値によって表示色（表示態様）を異ならせてもよい。

【0635】

尚、前記差玉数に関する情報として、現在の差玉数の情報や、所定数から現在の差玉数を減算した遊技球数に関する情報を、主制御基板Mが計測及び演算し、主制御基板M側にて記憶し得るよう構成してもよい。また、前記差玉数に関する情報として、現在の差玉数の情報や、所定数から現在の差玉数を減算した遊技球数に関する情報を、主制御基板M以外の基板（例えば、賞球払出制御基板KH）が計測及び演算し、主制御基板M側にて記憶し得るよう構成してもよい。また、当該主制御基板Mが記憶した情報を副制御基板S側に送信し得るよう構成してもよい。また、他の装置から差玉数に関する情報を受信し、主制御基板M側が把握できるようにしても良い。

【0636】

また、差玉数に関する構成として、以下のように構成してもよい。

（１）差玉数が所定数に到達した場合に、遊技の進行を停止する。一例としては、遊技者が発射ハンドルD44を操作しても遊技球が発射されない（発射装置D42の制御が実行されない）、入賞口への入球が無効になる（例えば、第1主遊技始動口入球検出装置A11s等の入賞口への遊技球を検出するためのセンサが遊技球を検出しない、図14にて例示した入球検出処理を実行しない）、主制御基板M側の各種抽選を実行しない（例えば、図25で詳述した当否抽選、図柄決定抽選、変動態様決定抽選、等を実行しない）、ように構成してもよい。

（２）差玉数に関する情報を所定の記録媒体に電磁的に記録可能に構成してもよく、さらに、遊技者が遊技を開始する際に当該記録媒体に記憶している情報を読み込んで、差玉数に関する情報を引き継いで遊技を進行可能に構成してもよい。そのように構成した場合には、遊技者が1日に複数台の遊技機にて遊技を実行した場合にも、差玉数を引き継いで計測することができ、当該遊技者の1日における差玉数を把握することができる。また、遊技者の1日における差玉数が所定数に到達した際には、前述したように遊技を停止すると共に、前記記録媒体に遊技を停止する所定数に差玉数が到達した旨の情報を記録し、所定期間（例えば、次の営業日になるまで）遊技ができない（遊技球の貸し出しができない）よう構成してもよい。尚、遊技者が1日に複数台の遊技機にて遊技を実行した場合におい

ては、いずれの遊技者が遊技を実行したのかを把握可能に構成することが好適であり、例えば、前記記録媒体にどの遊技者が遊技を実行しているか識別可能な識別情報を記録しておき、遊技を開始する際に当該識別情報を参照して、前記1日における差玉数の情報を読み出し可能に構成することが好適である。

【0637】

また、遊技の進行を停止した際には、遊技の進行を停止した旨の情報を副制御基板S等、他の制御基板に送信し得るよう構成してもよく、例えば副制御基板Sに情報を送信する場合には、送信された情報に基づいて、以下のように、所定の表示を行う制御や、実行中の演出等の表示の表示態様を変化させる制御を行うことが可能となる。

(1) 遊技の進行を停止した際には、演出表示装置にて、遊技の進行を停止した旨の表示として、(1-1) 現在表示中の演出よりも前面のレイヤーに遊技を停止した旨の表示を演出表示装置の表示領域の半分以上の面積を要して表示する、(1-2) 現在表示中の演出よりも前面のレイヤーに前述した注意喚起画像(例えば、「ばちんこは適度に楽しむ遊びです」との表示)を表示する、(1-3) 現在表示中の演出の表示を消去して演出表示装置の表示領域全体に遊技の進行を停止した旨の表示を表示する、よう構成してもよい。また、遊技の進行を停止した旨の表示を表示する際には、当該表示専用の音声を出力(例えば、「遊技を終了します。のめりこみに注意してください」)してもよいし、当該表示専用の点灯態様にて遊技効果ランプを点灯させてもよい。

(2) 差玉数が前記所定数に到達した際に大当たり中、特別遊技開始デモ時間、又は大当たり図柄に係る図柄変動中であつた場合には、(2-1) 遊技の進行を停止する処理を実行せず、その後大当たりにて増加した遊技球数以上差玉数が減少した際に遊技の進行を停止する、(2-2) 遊技の進行を停止し、且つ、その後遊技者では不可能な操作(例えば、遊技場管理者のみが実行可能な操作)によってのみ遊技の進行を再開可能、又は、設定変更時のRAMクリアを実行しない限り遊技を再開不可能(後述する第6実施形態の構成に適用した場合)、のように構成してもよい。

【0638】

また、遊技の進行が停止することとなる所定数に到達していない場合に、主制御基板M側から副制御基板S側に差玉数に関する情報を送信し得るよう構成してもよく、そのように構成した場合には、副制御基板S側にて実行する表示として、遊技の進行が停止することとなる差玉数である所定数まで、あと一定数差玉数が減少すると到達する状況となった場合(例えば、あと100球の発射によって所定数に到達する場合)には、遊技の進行の停止が迫っている旨を演出表示装置にて表示または音声にて出力するよう構成してもよい。また、例えば、前記所定数が-2500点(球)である場合において、差玉数が前記所定数に対して相対的に近い値である場合(例えば、-2000球)よりも、差玉数が前記所定数に対して相対的に遠い値である場合(例えば、+1000球)の方が、副制御基板S側にて実行する演出として、図柄変動中に予告演出(例えば、会話演出等)を実行する頻度が高くなるよう構成してもよい。

【0639】

<総得点が上限値となった場合の作用>

また、遊技球の払出が発生した場合に総得点が増加し得ることとなるが、総得点に上限値を設けて、総得点が当該所定値に到達した場合には、総得点が増加しないよう構成してもよい。一例としては、総得点に関する記憶領域の大きさを2バイトとした場合、記憶可能な総得点は0~65535までとなり、総得点の上限値は65535となる。そのように構成した場合、総得点が65510である状況下、大入賞口(例えば、第1大入賞口C10)に遊技球が入球し、15球の払出が発生した場合には、15点(球)の得点が総得点に加算され、総得点は65525となる。一方、総得点が65530である状況下、大入賞口(例えば、第1大入賞口C10)に遊技球が入球し、15球の払出が発生した場合には、15点(球)の得点が総得点に加算されると総得点の上限値である65535を超過してしまうため、5点(球)の得点が総得点に加算され、総得点は上限値である65535となる。尚、総得点が上限値である場合に、CRユニットCRU(ECOユニットと

称することがある）から総得点を増加する旨の情報を受信した場合にも、総得点が増加しないよう構成してもよい（例えば、C RユニットC R Uへの紙幣の投入が無効になる、C RユニットC R Uに設けられた得点を貸し出すためのボタンの操作が無効になる）。尚、入賞により総得点が上限値に到達する（超過する）状況となった場合には、エラーが発生して遊技の進行が停止するよう構成してもよい。また、入賞により総得点が上限値に到達する（超過する）状況となった場合に、上位桁を16進表示にする、スクロール表示・切替表示させる等、表示形態を変えることにより全体の得点を表示してもよい。

【0640】

＜遊技価値情報に関する構成＞

1球の遊技球又は1点の得点の価値が第1の価値（例えば、4円）である旨の情報と、1球の遊技球又は1点の得点の価値が前記第1の価値よりも低い第2の価値（例えば、1円）である旨の情報とを、遊技機内に設けられた端子板である接続端子板から主制御基板M（以降の主制御基板Mを払出制御基板Hとしてもよい）に送信可能に構成してもよい。尚、第1の価値である情報と第2の価値である情報とを遊技価値情報と称することがある。また、そのように構成した場合に、第1の価値である情報と第2の価値である情報とのいずれの情報を受信したのかを主制御基板Mが記憶可能に構成してもよい。また、主制御基板Mが記憶している遊技価値情報と、接続端子板から受信した遊技価値情報とが一致しているかを確認可能に構成してもよく、当該確認の実行タイミングとしては、（1）常時一致しているかを確認する、（2）所定の遊技球数を発射する毎（例えば、排出球を計測することによって発射球数を計測する）、（3）所定の期間毎（例えば、1時間）、（4）電源断が発生した後の電源復帰後、（5）設定変更に関するRAMクリア処理の実行後、のようにしてもよい。また、主制御基板Mが記憶している遊技価値情報と、接続端子板から受信した遊技価値情報とが一致しているかを確認した結果、一致していないと判定した場合、例えば、主制御基板Mにて記憶している遊技価値情報が第1の価値であり、接続端子板から受信した遊技価値情報が第2の価値である場合には、遊技価値情報が一致するまで遊技の進行を停止し、遊技球の発射を不可能にしたり、入賞口への入球を無効にしたり、得点（総得点）の精算処理を実行不可能とするよう構成してもよい。

【0641】

また、前述したように、遊技の進行を停止した際に、主制御基板M側から副制御基板S側に遊技の進行を停止した旨の情報を送信し得るよう構成した場合において、（1）主制御基板Mが第1の価値である遊技価値情報を記憶している状況下、差玉数が所定値に到達した場合には遊技の進行を停止且つ遊技の進行を停止した旨の演出を実行する一方、主制御基板Mが第2の価値である遊技価値情報を記憶している状況下、差玉数が所定値に到達した場合には遊技の進行を停止しない且つ遊技の進行を停止した旨の演出を実行しない（2）主制御基板Mが第1の価値である遊技価値情報を記憶している状況下、差玉数が所定値に到達した場合には遊技の進行を停止且つ遊技の進行を停止した旨の演出を実行する一方、主制御基板Mが第2の価値である遊技価値情報を記憶している場合には差玉数に拘わらず遊技の進行を停止しない且つ遊技の進行を停止した旨の演出を実行しない、（3）主制御基板Mが第1の価値である遊技価値情報を記憶している状況下、差玉数が所定値（例えば、-2500球）に到達した場合には遊技の進行を停止且つ遊技の進行を停止した旨の演出を実行し、主制御基板Mが第2の価値である遊技価値情報を記憶している状況下、差玉数が前記所定値よりも少ない値である特定値（例えば、-10000球）に到達した場合には遊技の進行を停止且つ遊技の進行を停止した旨の演出を実行する、よう構成してもよい。尚、差玉数に基づいて遊技の進行を停止する旨の演出を実行し得るよう構成したが、これには限定されず、差玉数と遊技価値情報とに基づいて算出可能である得点（遊技価値、遊技球、持ち点）の貸出金額に関する情報に基づいて、遊技の進行の停止に関する演出を実行するよう構成してもよい。また、主制御基板Mが第1の価値である遊技価値情報を記憶している状況にて差玉数に関する演出を実行する場合の演出態様と、主制御基板Mが第2の価値である遊技価値情報を記憶している状況にて差玉数に関する演出を実行する場合の演出態様とを相違させてもよい。このように構成することによって、遊技者の使

10

20

30

40

50

用している金額に基づいた演出の実行態様とすることができ、適切に遊技に対するのめりこみを防止することができる。

【0642】

＜遊技の終了操作の構成＞

また、第5実施形態に関する遊技機においては、精算ボタンD60を有するよう構成し、遊技者が精算ボタンD60を操作することによって、主制御基板Mから接続端子板に得点に関する情報を送信し得るよう構成してもよい（当該操作によって遊技を終了することができる）。尚、当該得点に関する情報を送信している途中にて電源断が発生した場合においては、電源断復帰後に、（1）主制御基板Mから接続端子板へ再度得点に関する情報を送信する（2）接続端子板から主制御基板Mへ再度超過した分の得点に関する情報を送信することを要求する要求信号を送信し、その後、主制御基板Mから接続端子板に再度得点に関する情報を送信する、よう構成してもよい。

10

【0643】

また、扉ユニット開放中に精算ボタンD60を操作した場合には、（1）得点の精算に関する処理を実行する、（2）得点の精算に関する処理を実行しないよう構成してもよい。また、精算ボタンD60を操作した直後に扉ユニットが開放した場合には、得点の精算に関する処理を中断せずに継続して実行可能に構成してもよい。

【0644】

設定確認状態にて精算ボタンD60を操作した場合において、（1）設定値が確認可能な状況にて得点の精算に関する処理を実行する、（2）設定値が確認できなくなり、得点の精算に関する処理を実行する、（3）設定値が確認可能な状況にて得点の精算に関する処理を実行しない、（4）設定値が確認できなくなり、得点の精算に関する処理を実行しないよう構成してもよい。

20

【0645】

設定変更モードにて精算ボタンD60を操作した場合において、（1）設定変更モードのまま得点の精算に関する処理を実行する、（2）設定変更モードが終了し、得点の精算に関する処理を実行する、（3）設定変更モードのまま得点の精算に関する処理を実行しない、（4）設定変更モードが終了し、得点の精算に関する処理を実行しないよう構成してもよい。

【0646】

主遊技図柄の変動中に精算ボタンD60を操作した場合において、（1）主遊技図柄が変動したまま得点の精算に関する処理を実行する、（2）主遊技図柄が変動したまま得点の精算に関する処理を実行しないように構成してもよい。

30

【0647】

大当りの実行中（又は小当りの実行中）にて精算ボタンD60を操作した場合において、（1）大当り（又は小当り）が実行されたまま得点の精算に関する処理を実行する、（2）大当り（又は小当り）が実行されたまま得点の精算に関する処理を実行しないよう構成してもよい。

【0648】

以上の通り、主制御基板Mと接続端子板との間で得点に関する情報を送信又は受信している最中に、意図していない事象（電源断、エラー）が発生した場合であっても、正確に得点に関する情報を送信又は受信が可能となる。なお、上述の構成に際し、又は上述の構成に加え、送信側は、（1）得点に関する情報の中に、送信が終了したことを示すデータを含める（例えば、シリアル通信の場合に終了ビット情報を有する）、（2）得点に関する情報を送信した後に、終了を示す情報を送信する、ように構成されていても良い。また、受信側は、送信された得点に関する情報を受信した後に、送信側に対して情報を受信したことを示す受信完了情報を送信するように構成されていても良い。

40

【0649】

（第6実施形態）

尚、本実施形態においては、遊技機の主遊技図柄の当否当選確率等に対応する設定値を

50

1種類のみ設ける構成としているが、このような設定値を複数設ける構成としてもよい。そこでこのような設定を複数設ける構成を第6実施形態とし、以下、本実施形態との相違点について詳述する。

【0650】

尚、以下の実施形態におけるステップ番号、符号、手段名等は、他の実施形態におけるステップ番号、符号、手段名等と同一である場合があるが、これらはそれぞれ単独の実施形態におけるステップ番号、符号、手段名等であることを示している（例えば、本実施形態におけるステップ2102と第2実施形態におけるステップ2102は、別の実施形態におけるステップ2102であるため、それぞれ単独で機能する処理である）。

【0651】

はじめに、第6実施形態に係るぱちんこ遊技機は、主遊技図柄の当否当選確率等を異ならせるための設定値を複数備えるために、設定変更手段として、設定変更用のキースイッチ及び設定変更ボタンを設けている。以下、本例における設定変更用の装置として、設定変更用のキースイッチと設定変更ボタンを用いて説明するが、これに限らず、ディップスイッチ等の一般的な入力装置を採用してもよい。また、特定の管理者のみが設定変更を行うことを可能にする観点より、設定変更用のキーを用いるのが好適だが、その他にも、パスワードの入力、生体認証、等のセキュリティ性能の高い認証システムを利用して設定変更を可能とするように構成してもよい。

【0652】

ここで、本例においては、設定変更用のキースイッチは、設定キー差込口に設定キーを挿入し、所定の方向に回転させることにより、ON状態と、OFF状態とに変移可能となっている。尚、本例においては、電源投入時に（所定条件のもと）、設定変更用のキースイッチがON状態である場合には、設定変更モードとなり、設定変更ボタンによる操作（例えば、押下）が有効となり得る一方、設定変更用のキースイッチがOFF状態である場合には、設定変更ボタンによる操作（例えば、押下）がなされても、設定変更モードにはならないように構成されている。また、設定変更ボタンを有効とするための所定条件として、主制御基板Mに入力される扉D18の開放信号を挙げることができる。このように構成することで、設定変更が実行可能な状況として、「設定変更用のキースイッチがON状態であること」に加え、「扉D18が開放状態になっていること」の2つが必要条件になるため、扉D18が閉塞された状態で設定変更用のキースイッチがONになるという通常では考えられない状態（すなわち、不正な設定変更）を抑制することができる。

【0653】

以下では、電源投入時における、設定変更に係る処理について、図124aを用いて説明する。

【0654】

まず、図124aは、第6実施形態に係る、主制御基板Mが行う一般的な処理の流れを示したメインフローチャートである。遊技機の電源投入後、ステップ1001（第6）で、主制御基板Mは、設定キースイッチがオフであるか否かを判定する。ステップ1001（第6）でYESの場合、ステップ1002の処理に移行する。ステップ1001（第6）でNOの場合（設定キースイッチの操作があった場合）、主制御基板Mは、ステップ1003（第6）の処理（後述する、設定変更処理）を実行し、ステップ1004の処理に移行する。

【0655】

尚、本例においては、遊技機は複数の設定値を備えるが、設定変更ボタンの操作態様と、遊技機の設定値の変移との対応は、適宜自由に設計可能である。例えば、本例における設定値の数が6（設定値が「1」～「6」のいずれかとなる）であり、且つ、電源投入時の設定値が「6」の場合、設定変更ボタンを1回操作すると、設定値が「5」となり、設定変更ボタンを3回操作すると、設定値が「3」となる、といったように、設定変更ボタンの操作回数に応じて、設定値を「6」→「1」に繰り下げていく構成であってもよい（同様に、設定変更ボタンの操作回数に応じて、設定値を「1」→「6」に順次繰り上げて

10

20

30

40

50

いく構成であってもよい)。また、この場合、設定値が「1」の状態、設定変更ボタンを1回操作すると、設定値が「6」となる、といったように、設定値が下限値である状態にて、設定変更ボタンが操作された場合には、設定値が上限値に移移するように構成してもよい。同様に、設定変更ボタンの操作回数に応じて、設定値を繰り上げていく構成とし、設定値が上限値(本例では、「6」)の状態にて設定変更ボタンが操作された場合には、設定値が下限値(本例では、「1」)に移移するように構成してもよい。また、操作ボタンを長押しすることで、設定値が順次変更されるように構成してもよい。

【0656】

なお、設定値の数は、例えば、2、3、4、5、6等、適宜自由に設計可能である。設定値の数が少ないほど(例えば、設定値の数が2や3の場合)、複数の設定値を有することに基づく遊技の興趣性を向上させつつも遊技機の構成を簡易なものとするのが可能となり、設定値の数が多きほど(例えば、設定値の数が5や6の場合)、より遊技の興趣性を高めることが可能となる。

【0657】

ここで、図124bは主制御基板Mがケースに収容された状態及び、設定操作部周辺の断面を示したものである。図124bに示すように主制御基板Mには、CPUが主制御基板Mの右上に設けられ、中央上部には出玉試験等を実施する際にのみ取り付けられる試験端子TSの搭載領域が形成され、主制御基板Mの右下部には既述した入球状態表示装置J10が設けられている。また、主制御基板Mの左上部には設定変更用の操作部並びに設定値表示装置が設けられている。本実施例においては上述のようにCPU、試験端子、入球状態表示装置J10、設定変更用の操作部並びに設定値表示装置が平面視(遊技機の背面視)においてラップしないよう(重ならないよう)に配置され、また、入球状態表示装置J10と設定値表示装置との誤認を抑止できるように所定以上(例えば30mm以上)の間隔が設けられている。なお、本実施例においては図124bにおける左側が遊技機枠を開放する際の自由端となっており、設定変更用の操作部並びに設定値表示装置を自由端側近傍に配置することにより、設定値の変更作業等を容易にできるように配慮する一方で、入球状態表示装置J10については遊技機枠を開放する際の回転軸側に配置することで遊技機枠を開放した際に、表示情報を意図せず遊技者に視認されることを抑止するように配慮している。尚、設定値の変更等に際して不正防止を優先する場合には、設定変更用の操作部並びに設定値表示装置を主制御基板の正面視右側(遊技機枠の回転軸側)に形成してもよい。ここで、本実施例においては、上述した点を考慮し、安易に設定変更用の操作部にアクセスできないように設定変更用の操作部に対応する部分に開閉蓋SKCを設け、設定値の変更作業や設定情報の確認作業等の場合を除き、設定変更用の操作部が露出しないように構成されている。以下では、設定変更用の操作部並びに設定値表示装置に関して図124bの下図(関連部分の部分断面図)も参照しつつ説明する。

【0658】

まず、設定変更用の操作部に対応する基板ケースの上面は設定キースイッチSK1の設定キー差込口に設定キー(鍵)が挿入可能となるように、また、設定変更ボタンSK2の操作が可能となるように所定の大きさの開口が形成されている。但し、当該開口から基板の上面に向かって側壁等の区画壁が形成されることにより、開口を介して主制御基板Mの他の電子部品(例えばCPU)にアクセスできないようになっている。また、この開口に対応して設定キー差込口が形成された設定キーSK1と、プッシュ式の設定変更ボタンSK2とが上下に配設され、更に、開口部の大きさに対応した開閉蓋SKCが開口を常に閉鎖する方向に付勢された状態で開閉可能に基板ケースに取り付けられている。

【0659】

次に、設定変更等の操作方法と設定変更・設定表示の作用の概要について簡単に説明する。設定値の確認を行う際には、まず、開閉蓋SKCを付勢力に抗して所定角度開放し、設定キースイッチSK1の設定キー差込口に設定キー(鍵)を挿入してキーを右方向に回転させる。この操作により、7セグメントLEDで形成された設定値表示装置に、現在の設定値(例えば設定値の範囲が1~6であれば該当する数値)が表示され、設定表示モー

10

20

30

40

50

ドであることを示すためにセグメントDP（ドット）が表示される。なお、本実施例においては、遊技機が起動している（電源がオンになっている）状況では、設定値の表示（設定確認状態への移行）は可能であるものの、設定値の変更処理はできない（新たに設定変更モードには移行できない）ように構成されている。なお設定表示モードを設定確認モードと称することがある。

【0660】

一方、設定値の変更を行う際には、まず、電源スイッチEa（図2参照）を操作して電源をオフにし、その後、開閉蓋SKCを付勢力に抗して所定角度開放し、設定キースイッチSK1の設定キー差込口に設定キー（鍵）を挿入してキーを右方向に回転させる。そして、再度電源スイッチEa（図2参照）を操作して電源をオンにする。この操作により、7セグメントLEDで形成された設定値表示装置に、現在の設定値（例えば設定値の範囲が1～6であれば該当する数値）が点滅表示され、設定変更モードであることを示すためにセグメントDP（ドット）が消灯する。この状態で、設定変更ボタンSK2を押圧操作すると、現在の設定値に+1ずつされた新たな設定値が一時記憶され、記憶された設定値が設定値表示装置に表示される。管理者は、任意の設定値となるように設定変更ボタンSK2を操作する。なお、本実施例では、電源投入時の設定値が「1」であれば、設定変更ボタンSK2を1回押圧操作する毎に「1」「2」・・・「5」「6」「1」のように設定変更後の設定値の候補が変更される。そして、設定変更ボタンの操作により、任意の設定値に変更（設定値表示装置に任意の設定値を表示）した状態で設定キースイッチSK1に挿入されているキーを左方向に回転させると、設定変更処理が完了し、所定時間（例えば1000ms）設定値表示装置に、現在の設定値が点灯表示されるとともにセグメントDP（ドット）が点灯表示された後、双方の表示が消灯する。尚、本例においては、設定変更後の設定値の候補を選択した後、設定キースイッチSK1に挿入されているキーを左方向に回転させることで設定変更処理が完了（設定値が確定）するよう構成したが、これには限定されず、（1）所定の入球口に遊技球が入球したことを検出、（2）設定確定用のスイッチを新たに設け、当該スイッチを操作する、（3）設定変更ボタンを長押し（1秒以上オンを維持）する、等で設定変更処理が完了（設定値が確定）するよう構成してもよい。

【0661】

また、設定値を変更する際に、遊技機前面側に設定値を表示させるよう構成すると設定変更（設定値の変更）をスムーズに行うことができるが、遊技場の営業時間中（遊技者の遊技中）に設定変更を行った場合には、設定値が確認できてしまい、遊技の公平性が阻害されてしまう。しかしながら、本例の遊技機においては、設定値を変更する際に設定キーを利用するため、設定値を変更できるのは設定キーを保持する特定の管理者のみとなっており、遊技場の営業時間中（遊技者の遊技中）に設定変更が行われることがないよう構成されている。この場合、遊技機に設けられている既存の発光手段（例えば、図1の特別図柄表示装置（第1主遊技図柄表示装置A20や第2主遊技図柄表示装置B20））を兼用し、設定変更中、または、設定確認中のみ設定値を表示させるようにすることで、設定値の確認を容易にすることができる。

【0662】

図125は、第6実施形態に係る、設定変更処理の流れを示したフローチャートである。設定変更処理が開始されると、ステップ1003-1で、設定変更処理が開始したことを示すコマンドをセットし、副制御基板Sに対して送信する。これにより、副制御基板Sは、演出表示装置において「設定変更モード中」等の表示を行うことができる（図140）。また、同時に、外端信号（セキュリティ信号）として外部端子板への出力を行う。ステップ1003-2で、設定値（設定値データ）が正常な範囲（「1」～「6」）にあるか否かを確認し、YESの場合、ステップ1003-4の処理に移行する。ステップ1003-2でNOの場合、すなわち、設定値（設定値データ）が「1」～「6」以外の異常な値と判断された場合には、ステップ1003-3で最低出玉率の設定値（設定値データ）である「1」をセットし、ステップ1003-4の処理に移行する。ステップ1003

ー 4 では、設定変更中であることを示す表示態様（例えば、全点灯）で特別図柄表示装置（第 1 主遊技図柄表示装置 A 2 0 又は第 2 主遊技図柄表示装置 B 2 0 と称することがある）の LED を点灯させ、同時に、設定表示装置に現在の設定値を表示する。次に、ステップ 1 0 0 3 - 5 で、設定変更ボタンの入力があるか否かを確認し、N O の場合、ステップ 1 0 0 3 - 1 1 の処理に移行する。ステップ 1 0 0 3 - 5 で Y E S の場合、ステップ 1 0 0 3 - 6 で設定変更ボタンによって切り替えられた設定値データを取得し、ステップ 1 0 0 3 - 7 の処理に移行する。ステップ 1 0 0 3 - 7 では、現在の設定値（設定値データ）が最大値でないか否かを確認し、Y E S の場合、ステップ 1 0 0 3 - 9 の処理に移行し、設定値（設定値データ）に 1 を加算する。ステップ 1 0 0 3 - 7 で N O の場合、すなわち、設定値（設定値データ）が最大の「6」であると判断された場合には、ステップ 1 0 0 3 - 8 で最低出玉率である「1」をセットするとともに、ステップ 1 0 0 3 - 9 の処理に移行し、設定値（設定値データ）に 1 を加算する。続いて、ステップ 1 0 0 3 - 1 0 で設定値データの更新を行い、ステップ 1 0 0 3 - 1 1 で設定キー信号の立下りがあるかどうかを確認する。ステップ 1 0 0 3 - 1 1 では、設定キー信号の立下りがない場合、ステップ 1 0 0 3 - 5 の処理に移行し、設定キー信号の立下りが確認されるまでステップ 1 0 0 3 - 5 の処理からステップ 1 0 0 3 - 1 1 の処理を繰り返す。ステップ 1 0 0 3 - 1 1 で Y E S の場合、すなわち設定キースイッチが設定変更を行う前の状態に戻ったと判断された場合、ステップ 1 0 0 3 - 1 2 で特別図柄表示装置の LED を全消灯することで、設定変更中であることを示す表示態様をクリアした後、ステップ 1 0 0 3 - 1 3 で、設定変更処理が終了したことを示すコマンドをセットし、副制御基板 S に対して送信する。これにより、副制御基板 S は、演出表示装置において表示中の「設定変更モード中」を非表示にするとともに、外部端子板への出力を停止する。ステップ 1 0 0 3 - 1 3 の処理が終了した後は、本処理のステップ 1 0 0 4 の処理に移行し、RAM クリアを実行する。また、第 6 実施形態の処理フローにおいては、設定変更ボタンによって切り替えられた設定値が設定キー信号の立下りによって確定される処理となっているが（ステップ 1 0 0 3 - 1 1）、これに限らず、いずれかのメイン操作（図示しない、玉貸しボタンや、ハンドルのセンサ、等）を行うことで設定値を確定させるようにしてもよい。さらにいうと、遊技盤面に設けられた各種スイッチの入力情報（各種ゲート、始動口、アタッカー、等）によって設定値を確定させるようにしてもよく、この場合には、遊技者が各種スイッチに触れることができないことにより、不正な設定変更を防止することができるとともに、このように設定変更において複雑な手順を採用することで、不正な設定変更を予防する役目もある。また、全体の処理を通して、RAM で管理する設定値データとして「1」～「6」を用いて説明したが、それぞれ、設定値データ「0」～「5」に置き換えて処理を行ってもよい。このようにすることで、RAM 異常により RAM クリアが発生した際、設定値データを管理する RAM の値に「0」がセットされることによる異常判定（ステップ 1 0 0 3 - 2 で N O）を回避することができる。設定値データを「0」～「5」で管理すると、「0」は設定値データとして扱われているため、異常と判断されることがない。さらに、設定値データを利用して何らかの抽選を行う場合（例えば、先読みテーブル等において設定値毎に異なるデータを選択する場合）、テーブル選択におけるオフセット処理が行いやすい利点もある。具体的に、設定値データを「1」～「6」で管理する場合、テーブル選択のオフセットデータとしてそのまま使用する際には、開始アドレスを - 1 する等の処理を行う必要があるが、設定値データを「0」～「5」で管理する場合、そのままの値をオフセットデータとして使用することができる。実際に、設定値データを設定表示装置に表示する際には、設定値データに 1 加算することで「1」～「6」として表示する。

【0 6 6 3】

本例においては、ステップ 1 0 0 3 - 2 にて設定値（設定値データ）が正常な範囲にあるか否かを判定する、換言すると、設定値（設定値データ）の確認処理を実行するよう構成したが、当該確認処理の実行タイミングとしては、

- (1) 電源投入直後のタイミング
- (2) 所定の入球口への入球タイミング

10

20

30

40

50

- (3) 主遊技始動口への入球タイミング
- (4) 補助遊技始動口への入球タイミング
- (5) 大入賞口への入球タイミング
- (6) 主遊技図柄変動開始タイミング
- (7) 遊技状態が切り替わった直後のタイミング
- (8) 大当たり開始直後のタイミング
- (9) 大当たり終了直後のタイミング

上記のタイミングにて実行してもよい。尚、上記9つのタイミングのいずれか1つのタイミングのみで設定値（設定値データ）の確認処理を実行してもよいし、上記9つのタイミングの複数のタイミングにて設定値（設定値データ）の確認処理を実行してもよい。例えば、電源投入時にはチェックサム処理を実行するよう構成されているため、わざわざ設定値（設定値データ）のみを確認する処理を設ける必要がないという観点から、電源投入直後のタイミングにて設定値（設定値データ）の確認処理を実行しないよう構成してもよい。

【0664】

次に、電源投入時（所定条件）以外の状況で設定変更用のキースイッチ（設定キースイッチと称することがある）がON状態になった場合における処理について説明する。

【0665】

図126は、第6実施形態に係る、主制御基板Mが行うタイマ割り込み時処理の流れを示したフローチャートである。主制御基板MのCPUMCは、定時割り込みタイミングに到達した場合に発生する割り込み要求に基づいて、同図（b）の処理を実行する。即ち、定時割り込み周期Tの到達時（例えば、約1.5ms毎のハードウェア割り込み）を契機として、ステップ1000-S（第6）で、主制御基板MのCPUMCは、後述の設定キー操作判定処理を実行し、ステップ1000-1の処理に移行する。

【0666】

尚、設定キー操作判定処理とは、設定キースイッチの操作の有無を判定する（設定キーが設定キー差込口に入力されているか否か、及び、設定変更用のキースイッチがON状態となっているか否か、等を判定する）処理である。タイマ割り込み時処理における設定キー操作判定処理において、設定キースイッチの操作が有り判定された場合（即ち、設定キー差込口に設定キーが挿入され、設定キーが所定の方向に回動されることで設定変更用のキースイッチがON状態となっている場合）、所定の表示装置（本例では、設定値表示装置）に、現在の遊技機の設定値を表示する。

【0667】

ここで、前述のように、電源投入時に（所定条件のもとで）行われる設定変更処理においては、設定キースイッチの操作が有った場合、設定キースイッチの操作が終了するまでは次の処理に移行しない一方、設定キー操作判定処理においては、設定キースイッチの操作が有った場合でも、設定キースイッチの操作の終了を待たずに次の処理に移行可能なように構成されている。従って、設定変更処理が実行されている状況（具体的には、設定変更中）と、設定キー操作判定処理において設定キースイッチの操作が有り判定されている状況（具体的には、設定値表示中）とで実行可能な処理が相違する構成を採り得る。ここで、設定変更中の場合と、設定値表示中の場合とにおいて、各々実行可能な処理の一例を以下の表に示す。尚、表中において、「○」は該当する処理を実行可能であることを示し、「×」は該当する処理を実行不可能であることを示し、「△」は該当する処理が一時停止されることを示す。尚、表中において、「遊技関連入力」とは、例えば、入賞口からのセンサ入力である。また、「異常報知A」とは、例えば、ガラス枠セット・遊技盤D35の枠の開放エラー、衝撃によるエラー等の異常報知である。また、「異常報知B」とは、例えば、磁気、断線・短絡・電源、電波に係る異常報知である。また、「演出制御コマンド」とは、例えば、副制御基板S側へのコマンド送信である。また、「払出制御コマンド」とは、例えば、賞球払出制御基板KHへのコマンド送信である。また、「乱数更新」とは、例えば、普通図柄当たり乱数（例えば、補助遊技図柄当選乱数）、普通図柄図柄乱数（例えば、補助遊技図柄停止図柄乱数）、特別図柄図柄乱数（例えば、図柄抽選乱数）、

10

20

30

40

50

及び特別図柄当りソフト乱数等を更新する処理である。また、「外部出力」とは、例えば、外部端子板へ出力するセキュリティ信号（設定変更中又は設定値表示中である旨の信号）の出力である。また、「メンテナンスモード」とは、副制御基板S側での情報出力に関する各種設定モードである。また、「報知」とは、副制御基板S側での設定変更中又は設定値表示中である旨の報知である。また、「払出」とは、賞球払出制御基板KH側での遊技機の払出し処理である。また、「発射」とは、発射制御基板D40側での遊技球の発射可能又は不可能を意味する。

【表1】

処理概要	主制御							サブ制御		払出制御	
	遊技関連入力	異常報知A	異常報知B	演出制御コマンド	払出制御コマンド	乱数更新	外部出力	メンテナンスモード	報知	払出	発射
設定変更中	×	×	○	○	○	×	○	○	○	×	×
設定値表示中	○	○	○	○	○	○	○	×	○	△	○

【0668】

次に、各装置の配置について説明する。

【0669】

＜設定変更手段の配置＞

まず、設定キー差込口の配置について説明する。設定キー差込口は、主制御基板Mに搭載されており、入球状態表示装置J10、RAMクリアボタン等とは別個に備えられている。

【0670】

＜設定値表示装置＞

次に、設定値表示装置について説明する。本例に係る遊技機は設定変更する際に、設定しようとする設定値を表示するための設定値表示装置を主制御基板Mに備えている。設定値表示装置は、7セグメント表示器であり、「1」～「6」の表示により、設定1～6の6段階を判別可能となっている。尚、第6実施形態では、設定値表示装置を、入球状態表示装置J10、RAMクリアボタン等とは別個に備える例を説明したが、これに限らず、入球状態表示装置J10を利用して設定値の表示を行うようにしてもよい。この場合、入球状態表示装置J10には、設定値とベース値との両方が表示されることになるが、設定変更モードや設定確認状態では設定値を表示するようにし、それ以外の場合には、ベース値を表示するよう構成してもよい。また、設定変更モードの間もベース値を表示し続けるようにすることも可能であり、その際は、設定値とベース値の表示を、時間、または、いずれかの入力装置の操作によって切り替えることが考えられる。さらに、入球状態表示装置J10の表示態様を変更することで、4桁の7セグにて、設定値とベース値の両方を同時に表示してもよい。例えば、4桁の7セグのうち、最上位桁に現在の設定値を表示し、残りの3桁にベース値を表示するよう構成してもよい。

【0671】

＜変更対象＞

第6実施形態においては、1の遊技状態における主遊技図柄の当否抽選の当選確率を変更可能に構成されている。例えば、設定1～6の6段階が設けられており、設定1から設定6の順で確率変動遊技状態及び非確率変動遊技状態夫々の大当りの当選確率が徐々に高くなるように（遊技者に有利となるように）構成されており、また、設定毎の確率変動遊技状態の当選確率は非確率変動遊技状態の当選確率の2倍となっている。具体的には、非確率変動遊技状態の当選確率は、設定1：1/320（205/65536）、設定2：1/318（206/65536）、設定3：1/317（207/65536）、設定4：1/315（208/65536）、設定5：1/314（209/65536）、設定6：1/312（210/65536）のように設けられ、確率変動遊技状態の当選確率は、設定1：1/160（410/65536）、設定2：1/159（412/65536）、設定3：1/158（414/65536）、設定4：1/58（416/65536）、設定5：1/157（418/65536）、設定6：1/156（420/

6 5 5 3 6) となるように設けられている。尚、主遊技図柄の当否抽選の当選確率には、小当りの当選確率も含まれ、小当りの当選確率は、設定値及び遊技状態（確率変動遊技状態、非確率変動遊技状態）に関わらず一定（例えば、 $1/99$ ）に設定されている。なお、確率変動遊技状態の当選確率は、非確率変動遊技状態の10倍以内になるように、即ち、設定1： $1/30.7$ 、設定2： $1/30.3$ 、設定3： $1/29.9$ 、設定4： $1/29.5$ 、設定5： $1/28.0$ 、設定6： $1/27.0$ となるように設けていてもよい。

【0672】

次に、設定値の記憶領域について説明する。

＜設定値の記憶領域＞

第6実施形態におけるRAM領域は、設定値の記憶領域（特定の領域）とその他の遊技データ記憶領域（例えば、主遊技側乱数、ラウンド数等）とを有しており、設定値の記憶領域は、RAM領域の上位アドレスに記憶するよう構成されている。尚、設定キースイッチによる設定変更を実行し、且つRAM領域に異常があった場合には、設定値の記憶領域を含め、全てのRAM領域がクリア（初期化）されるが、RAMクリアボタンの操作によるRAMクリアでは、設定値の記憶領域はクリアされず、その他の遊技データ記憶領域のデータのみがクリア（初期化）される。また、RAMクリア時のクリア範囲を指定し易くすることを目的として設定値をRAM領域の先頭アドレスに記憶する例を説明したが、RAM領域のいずれのアドレスに記憶しても問題ない。また、設定変更を実行し、且つRAM領域に異常があった場合にも、クリアされない記憶領域を設けてもよく、例えば、設定変更を実行し、且つRAM領域に異常があった場合にも、入球状態表示装置J10への表示に関する情報はクリアしないよう構成してもよい。

【0673】

＜設定値データの確認タイミング＞

次に、当否抽選時における設定値の確認処理について説明する。当否抽選時における設定値の確認処理は、タイマ割り込み時処理におけるステップ1400の主遊技図柄表示処理中のステップ1410-1の前に行われ、現在設定されている設定値を確認し、設定されている設定値に対応する主遊技テーブル1（つまり、上述した設定に対応する大当りの当選確率）を設定する処理である。当否抽選時において設定値の確認処理を行った後、ステップ1410-1で、主制御基板MのCPUMCは、各遊技状態に対応する主遊技テーブル1を参照し、第1主遊技内容決定乱数（第2主遊技内容決定乱数）（特に、当選抽選乱数）に基づき、主遊技図柄当否抽選を実行する。尚、現在設定されている設定値を確認したときに、設定値が範囲外（例えば、設定1～設定6の6段階設定を使用する場合には、設定値が0以下の場合と7以上の場合に範囲外となる）であると判定した場合には、（1）設定変更時のRAMクリア処理を実行しないと復帰できない復帰不可能エラー（当該エラーが発生する直前の状況には復帰不可能なエラー）として遊技の進行を停止する、（2）設定値を最も遊技者にとって不利な設定1として判定する、のように構成してもよい。

【0674】

＜設定変更中の処理＞

次に、設定変更中の処理について説明する。

【0675】

＜主制御側の処理＞

まず、主制御基板MのCPUMCは、設定変更中であることを特別図柄表示装置（第1主遊技図柄表示装置A20、第2主遊技図柄表示装置B20）にて表示可能に構成されている。具体的には、設定変更中は、特別図柄表示装置のLEDが全点灯するよう構成されている。なお、特別図柄表示装置のLEDの全点灯は、遊技者の遊技中に当否を示す態様として表示されることがない態様であることが望ましい。また、設定変更中であることを示すことが可能であれば、必ずしも、特別図柄表示装置を使用する必要はなく、例えば、遊技盤面に設けられた各種LEDを利用してよい。ただし、この際、通常のエンドリターン時に行われる各種機能に関する報知（エンドリターン報知やRAMクリア報知、等）と同一の点灯パターンで報知を行ってしまうと、報知態様が混同して設定変更中であることを明確に判

断できない懸念が生じるため、設定変更中でのみ実行される点灯パターンにて報知を行うのが望ましい。この場合、設定変更が終了した後に各種機能に関する報知に切り替えて報知することで、設定変更中から通常の電断復帰状態に移行したことを視覚的に分かりやすくすることができる。また、専用のLEDを設け、設定変更中にのみ表示するように処理することで、その他の遊技情報を表示する各種LED {特別図柄表示装置や普通図柄表示装置(補助遊技図柄表示装置H20)}を兼用するよりも、処理負担を軽くすることができる。

【0676】

<副制御側の処理>

次に、副制御基板SのCPUSCは、設定変更中であることを演出表示装置SG、スピーカD24等にて示唆可能に構成されている。具体的には、演出表示装置SGにて、「設定変更中」の画像を表示するよう構成され、スピーカD24にて「設定変更中です」の音声を出力するよう構成されている。また、設定変更中には、主遊技に関係しない(主制御基板MのCPUMCにて制御されない)遊技データを変更可能に構成されている。例えば、音量変更の設定(可能又は不可能)、RTC(リアルタイムクロック)の設定、省エネモードの設定{遊技待機中(所定期間遊技が実行されていないと判定した場合に遊技待機中となり、例えば、発射ハンドルが5分間操作されていない場合に遊技待機中になるよう構成されており、遊技待機中においては、演出表示装置にて待機デモ画面が表示される)には通常遊技中と比べて光量が低くなる}等の変更が可能となっており、サブ入力ボタンSBや十字キーを操作することでこれらの変更が可能に構成されている。また、これに限らず、タッチパネル等の入力装置を代用してもよい。この場合、演出表示装置としてメインの遊技に使用する液晶ディスプレイの他に、サブ入力のみを行う別の液晶ディスプレイを設け、タッチパネルとして利用するのが望ましい。尚、RTC(リアルタイムクロック)とは、サブメイン制御部の基板上に設けられた、計時を行う機構である。RTC(リアルタイムクロック)は、基板から独立した内蔵電源(バッテリー)を有しており、遊技機に対する電力の供給が行われていない間も計時を継続するため、工場出荷時等に設定された日付・時刻に基づき、現在の日付・時刻を供給することが可能である。

【0677】

<入力制限>

次に、設定変更中の入力制限について説明する。具体的には、ステップ1003(第6)の処理(後述する、設定変更処理)では、始動口(第1主遊技始動口A10、第2主遊技始動口B10)への入球を検出しないよう構成されている。例えば、第1主遊技始動口入球検出装置(A11s)又は第2主遊技始動口入球検出装置(B11s)が入力を検出したことにより、入力信号が入力ポートに入力されていたとしても、主制御基板MのCPUMCは、タイマ割り込み時処理を許可していないため、入力ポートを確認することがない。しかし、扉開放検出や磁石検出等のエラー検出を可能に構成されている。本実施形態では、これらの異常検出をタイマ割り込み時処理においてのみ検出する構成としたが、第6実施形態においては、主制御基板側メイン処理(設定変更処理)にて扉開放検出や磁石検出等のエラー検出を可能とすることで、設定変更中状態にてゴト行為が行われることを防止することが可能である。

【0678】

<外部出力>

次に、主制御基板MのCPUMCが外部へ出力する情報について説明する。主制御基板MのCPUMCが外部へ出力する情報として、1.設定値、2.設定変更中を示す信号、を出力することが可能である。本実施例においては、1.設定値の外部出力、2.設定変更中を示す情報、の双方とも主制御基板Mからホールコンピュータに出力するよう構成している。なお、設定変更中を示す信号は、設定変更中は継続して出力されており、設定変更終了時から所定時間(例えば、1000ms)が経過するまで継続して出力されるよう構成されている。さらに、主制御基板MのCPUMCは、副制御基板SのCPUSC及び賞球払出制御基板のCPUに、設定値コマンド、設定変更開始コマンド、設定変更終了コ

10

20

30

40

50

マンドを送信するよう構成されている。

【0679】

<払出処理>

次に、払出処理中に電源断が発生し、その後、設定変更となった際の処理について説明する。具体的には、賞球払出ユニットKE10にて賞球の払い出しが行われている状況において電源断が発生した場合には、残賞球数がRAM領域にバックアップされた状態で電源がオフになる。そして、電源復帰時に、通常の電源復帰（つまり、RAMクリアではない）では、残賞球数が記憶されたままであるため、電源復帰後に残賞球数が払い出されるが、設定キースイッチが操作されている（オンとなっている）状況にて電源復帰した場合には、設定値の記憶領域を含む全てのRAM領域がクリアされるため、バックアップされていた残賞球数もクリアされ、賞球払い出し中に電源断となったとしても電源復帰時に残賞球数が払い出されることがないように構成されている。なお、不図示であるが、設定変更モードに移行した際には、主遊技基板MのCPUMCは、賞球払出制御基板KH（賞球払出制御基板のCPU）に設定変更モードに移行した旨のコマンド（設定変更開始コマンドと称することがある）を送信し、設定変更モード終了時には、設定変更モードが終了した旨のコマンド（設定変更終了コマンドと称することがある）を送信するよう構成されている。なお、設定変更が有効に行われた後に、残賞球数をクリアするように構成してもよい。

10

【0680】

<乱数更新処理>

第6実施形態において、設定変更中に乱数更新処理が行われないよう構成されている。つまり、乱数の更新は、主制御基板側メイン処理のステップ1018の乱数更新又はタイマ割り込み時処理のステップ1000-2（各種乱数更新処理）、ステップ1000-3（初期値更新型乱数更新処理）、ステップ1000-4（初期値乱数更新処理）において行われるのみであり、設定変更処理内では、乱数の更新を行う処理が設けられていない。

20

【0681】

<<設定確認中の表示>>

次に、設定確認中（設定確認状態、設定表示中と称することがある）の表示について説明する。

【0682】

<主制御側の表示>

まず、主制御側では、上述した通り、特別図柄表示装置（第1主遊技図柄表示装置A20、第2主遊技図柄表示装置B20）のLEDにて設定変更中であることを表示可能に構成されているが、設定確認中においても特別図柄表示装置（第1主遊技図柄表示装置A20、第2主遊技図柄表示装置B20）のLEDにて設定確認中であることを表示可能に構成されており、設定確認中には特別図柄表示装置の全てのLEDが点滅表示するよう構成されている。尚、特別図柄表示装置の全てのLEDが点滅表示する態様は、遊技者の遊技中に表示されることがない態様であることが望ましい（遊技者の遊技中に表示される態様は、例えば、あるLEDと別のLEDとが交互に点滅表示される態様である）。また、特別図柄の変動中に設定確認中となった際には、特別図柄表示装置（第1主遊技図柄表示装置A20、第2主遊技図柄表示装置B20）における主遊技図柄の変動表示は、設定値の表示より優先して表示されるよう構成されている。

30

40

【0683】

<副制御側の表示>

次に、設定確認中において、副制御基板S側では、演出表示装置SGにて「設定確認中」の画像表示、スピーカD24にて「設定確認中です」の音声出力が行われる。なお、設定変更中（設定変更モード、設定変更モード中と称することがある）には、主遊技に関係しない（主制御基板MのCPUMCにて制御されない、遊技の結果に影響しない）遊技データを変更可能に構成されている（メンテナンスモード）が、設定確認中には、主遊技に関係しない（主制御基板MのCPUMCにて制御されない、遊技の結果に影響しない）遊技データであっても変更不可能なように構成されており、設定可能な状態とならないよう

50

構成されている。なお、出力時間を延長する他のエラーとの重要度に合わせて出力時間を設定することが望ましい（例えば、設定変更の報知の重要度が初期化時の報知より重要度が高く、初期化時の出力延長時間が5000msであれば、設定変更時にはそれより長い6000msにする等が挙げられる）。

【0684】

<入力情報の制限>

次に、入力情報の制限について説明する。設定変更中には、上述のように、入力情報の制限が設けられていたが、設定確認中には、入力情報の制限が設けられていないよう構成されている。具体的には、設定変更中には入力が制限されていた始動口（第1主遊技始動口A10、第2主遊技始動口B10）への入球検出が行われる等、主制御側（主制御基板MのCPUMCによる制御）、副制御側（副制御基板SのCPUSCによる制御）に関わらず、遊技に関する全ての情報を検出し、処理するように構成されている。

10

【0685】

<外部出力>

次に、設定確認中の外部出力について説明する。まず、設定変更中に外部出力を行う設定値について、設定確認中では、外部出力を行わないよう構成されている。次に、設定確認中は、設定確認中であることを示す信号を継続して出力するよう構成されている。また、設定確認終了後、特定時間（例えば、500ms）まで継続して出力するよう構成されており、設定変更中の所定時間（例えば、1000ms）よりも短い時間出力されるよう構成されている。

20

【0686】

<払出処理>

次に、設定確認中の賞球払出制御について説明する。まず、賞球払出装置KEにて賞球の払い出しが行われている際に、設定確認中となった場合には、賞球の払い出し制御を一旦中断するよう構成されている。設定の確認は、遊技店員等が遊技機枠を開放し、遊技機背面側から設定キースイッチにより確認可能となる。つまり、遊技機枠を開放することにより、店側の球供給装置から遊技機への球供給が正常に行われなくなる可能性がある。したがって、賞球の払い出しを一旦中断する構成が好ましい。なお、不図示であるが、賞球の払い出しを一旦中断する際には、主遊技基板MのCPUMCは、賞球払出制御基板KH（賞球払出制御基板のCPU）に設定確認状態に移行した旨のコマンド（設定確認開始コマンドと称することがある）を送信し、設定確認状態の終了時には、設定確認状態が終了した旨のコマンド（設定確認終了コマンドと称することがある）を送信するよう構成されている。

30

【0687】

<乱数更新処理等の内部処理>

次に、設定確認中の乱数更新処理等の内部処理について説明する。設定変更中には、乱数の更新処理が行われよう構成されているが、設定確認中では、遊技中と同様に乱数更新処理等が行われるよう構成されている。

【0688】

<<電源復帰時における処理>>

次に、電源断復帰時の処理について説明する。

【0689】

<通常電源断復帰>

まず、電源復帰時に設定変更及びRAMクリアが行われなかった場合には、設定値を含め、電源断前の遊技状態に復帰させ、遊技が開始されるよう構成されている。

【0690】

<設定変更時の処理>

次に、設定変更時の処理について説明する。設定変更時は、設定値を含め全てのRAM領域のデータがクリアされ、その後、設定された設定値が記憶される。なお、設定値以外のRAM領域のデータのクリアを行う際に、例えば主遊技図柄又は補助遊技図柄の状態等

50

、電断時の遊技状態に応じてRAMクリアを行う範囲を異ならせるように構成することも可能である。具体的には、主遊技図柄が確率変動状態でRAMクリアを行う場合、設定値データと主遊技図柄の状態データ（確率変動、非確率変動等）の双方がクリアされ、主遊技図柄が非確率変動状態でRAMクリアを行う場合、設定値データがクリアされ、主遊技図柄の状態データはクリアされないようにすることが挙げられる。また、補助遊技図柄についても主遊技図柄と同様に構成してもよく、さらに、主遊技図柄の状態と補助遊技図柄の状態との組み合わせにより、RAMクリアを行う範囲を異ならせるよう構成してもよい。このように構成することにより、RAMクリア時の処理負担を軽減させることが可能である。

【0691】

＜RAMクリア時の処理＞

次に、RAMクリア時の処理について説明する。RAMクリアボタン操作時のRAMクリアでは、設定値を除き、その他の遊技データがクリアされる。また、RAM領域内に異常があった場合のRAMクリアでは、設定値を含め、全てのRAM領域のデータがクリアされるよう構成されている。

【0692】

＜＜コマンド送信タイミング＞＞

次に、本実施形態では、タイマ割り込み時処理におけるステップ1999における制御コマンド送信処理においてコマンドが送信されるよう構成されているが、第6実施形態における設定変更モードが開始された際又は設定変更モードが終了した際には、主遊技基板MのCPUMCは、賞球払出制御基板KH（賞球払出制御基板のCPU）に、設定変更モードの開始後、即座に、設定変更モード開始に係るコマンド（設定変更開始コマンド）を送信し、設定変更の終了後、即座に、設定変更終了に係るコマンド（設定変更終了コマンド）を送信するよう構成するのが好適である。また、遊技の開始時（例えば、変動開始コマンドの送信タイミング）、遊技の終了時（例えば、変動停止コマンドの停止タイミング）、保留生起時（例えば、後述する、先読み用当否コマンドや先読み用変動態様コマンドの停止タイミング）等のタイミングにて、主制御基板Mから副制御基板Sに対して設定値に関するコマンドを送信するようにしてもよい。このとき、副制御基板Sは、受信した設定値を記憶するとともに、次遊技で受信した設定値との比較を行い、相違する場合には報知を行うようにすることで、遊技途中における不正な設定変更の発見を助長することもできる。

【0693】

＜＜第6実施形態のまとめ＞＞

以上のように、設定変更に係る処理を説明したが、概要をまとめると以下の通りとなる。まず、設定変更中の状況にあっては、主制御手段（例えば、主制御基板MのCPUMC）は、演出制御手段（例えば、副制御基板SのCPUSC）と払出制御手段（例えば、賞球払出制御基板KHのCPU）に対して主制御手段において設定変更中の処理が実行される旨を示すコマンド（設定変更開始コマンド）を送信するとともに、当否に関連する乱数の更新処理、始動口センサ等の遊技関連入力、例えば球皿満タン（上球皿D20に過剰に遊技球が貯留されることにより、満タンを検知するセンサが遊技球を検知するエラー）等の優先度の低い異常報知が行われないようにする。また、主制御手段は、外部端子から設定変更中である旨の信号を出力する。なお、優先度の高い異常報知（例えば、不正に直結する異常（磁気検知、電波検知等））については設定変更中においても報知が行われる。一方、演出制御手段においては、設定変更中である旨の報知を行うとともに、メンテナンスモードに移行し、演出制御手段におけるテスト出力や、各種の演出設定、遊技者操作の有効範囲の設定等が実行できるように構成される。また、払出制御手段にあっては、払出処理及び発射処理のいずれも禁止されるように構成される。

【0694】

尚、上記優先度の低いエラーまたは優先度の高いエラーの発生中（検出中）に電源をオフにし、電源がオフの状況にて設定キースイッチをオンにして電源を投入した場合には、

10

20

30

40

50

設定変更モードになり、当該設定変更モードにて設定値を変更した場合（設定値を確定した場合）、発生していた優先度の低いエラーまたは優先度の高いエラーの検出及びエラー報知を終了するよう構成してもよい。また、そのように構成した場合にも、設定値の変更後に再度異常を検出した場合には、エラーの検出及びエラー報知を実行するよう構成してもよい。また、設定変更モード中に優先度の低い異常を検出した場合には、エラーであると判定せずにエラー報知を実行しないよう構成してもよいし、設定確認状態中に優先度の低い異常を検出した場合には、エラーであると判定せずにエラー報知を実行しないよう構成してもよい。

【0695】

設定値表示装置にて設定値を表示中の状況にあつては、主制御手段は、演出制御手段と払出制御手段に対して主制御手段において設定値表示中の処理が実行される旨を示すコマンド（設定表示中コマンド）を送信する一方で、当否に関連する乱数の更新処理、始動口センサ等の遊技関連入力、異常報知等、通常と同様の処理が行われるようになっている。但し、外部端子からは設定値表示中である旨の信号を出力する。同様に、演出制御手段においても、設定値を表示中である旨の報知を行うものの、メンテナンスモードに移行することはない。そして、払出制御手段にあつては、払出処理を一旦中断するものの、発射処理の動作は禁止しないように構成される。

【0696】

以上の通り構成されているため、第6実施形態においては、設定変更という管理者のみが行う操作に基づく点を考慮して、演出制御手段（例えば、副制御基板SのCPUSC）においても管理者が行う操作モードに移行させ、また、主制御手段（例えば、主制御基板MのCPUMC）や払出制御手段（例えば、賞球払出制御基板KHのCPU）においては、遊技機能を停止する。すなわち、他の制御手段においても設定変更の処理に合わせて管理者のみが実行可能な操作が実行された場合専用の処理が実行され、通常の遊技進行にて実行する処理が実行されない。このため、設定変更という1の操作を起点として、複数の制御手段が夫々に対応した管理処理を実行することができる。一方、設定表示という確認作業の際（設定確認状態）においては、通常の遊技処理を極力維持するように構成することで、必要以上に制御の制約を与えることがなく、適正な処理を実現することができる。

【0697】

<<第6実施形態の変形例>>

なお、第6実施形態（設定変更）に関する変形例について以下に列挙する。

<<変更対象>>

第6実施形態においては、主遊技図柄の当否確率について設定値毎に異ならせるようになっているが、出玉率に影響を与える他のパラメータについても変更することが可能である。具体的には、出玉率に影響がある、大当たり終了後の確率変動遊技状態への移行割合や大当たり種別の選択割合（当り時の図柄選択割合）、補助遊技図柄の当否確率や電サポ移行割合、特別図柄、補助遊技図柄の変動時間（時間当たりの相対的な変動回数の差異）、入賞率に影響がある可動物の動作速度等のパラメータの1又は複数を複合させることが可能である。また、設定値毎の部分的なパラメータが相違するものの、同一の出玉率となるように構成することも可能である。無論、出玉率の向上に応じて各パラメータを向上させるようにすることも可能である。また、例えば特別図柄の当否確率と補助遊技図柄の当否確率等、複数のパラメータを個別に設定できるようにしてもよく、この場合には2段階以上に可変できるような設定キースイッチを用い、設定キースイッチの位置に対応したパラメータの変更モードに移行させるように構成すればよい。なお、出玉率に影響を与えるパラメータに加え、影響を与えない演出頻度等も変更できるように構成してもよい。

<<設定値データの確認タイミング>>

第6実施形態においては、特別図柄の抽選処理毎で設定値を確認する処理を行っていたが、所定のタイミングでのみ実行することも可能である。具体的には、設定変更時及び電源投入時に情報を一度だけ確認してもよいし、大当たり等の遊技状態の変更タイミング毎に確認してもよい。また、入球状態表示装置J10を搭載した遊技機の場合には、その表示

10

20

30

40

50

タイミングや演算タイミングに合わせて確認してもよい。これにより、設定値を確認するタイミングを少なくでき、他の処理への負担を低減することができる。

＜設定キースイッチ等の配置＞

第6実施形態においては、主制御基板に設定キースイッチ及び設定変更ボタン、設定値表示装置を搭載したが、払出制御装置（例えば、賞球払出制御基板KH等）や電源ユニット（例えば、電源供給ユニットE）に設けたり、独立した1の装置として構成することもできる。また、例えば設定キースイッチを主制御基板に設け、設定変更ボタンを払出制御基板に設けるなど、各種ボタンや表示器を複数の装置に分散して設けることも可能である。なお、設定値の変更は、不正操作の対象となる恐れがあるため、入力機能（設定キースイッチ及び設定変更ボタン）は、主制御基板や払出制御基板等、封止構造を有する制御装置内に設けることが望ましい。また、第6実施形態では、設定キースイッチと設定変更ボタンを使用して設定変更を行う例を説明したが、ディップスイッチ等の一般的な入力装置を利用することで、適宜、設計変更することができる。

【0698】

次に、図140は、設定変更中、及び設定確認中における、演出表示装置SGでの表示態様の例を示した図である。

【0699】

次に、同図上段は、図124aの設定変更処理において、副制御基板Sで実行されるメンテナンスモード中に設定可能な項目の一覧を示すイメージ図である。本例においては、主制御基板M側から設定変更モードに移行したことを示すコマンドを送信することにより、主制御基板M側で設定変更中において、その旨を示すとともに、副制御基板S側でメンテナンスモード（店舗での設定や製造確認用のモード）を実行可能なように構成されている。また、本例においては、メンテナンスモード中、演出表示装置SGに、現在の設定値を案内する設定表示画像SGSHG（本例においては、現在の設定値である「4」を示す画像）の表示を行うよう構成されている。また、同図に示されるように、設定変更モードである場合には、演出表示装置SGにて、設定変更モード情報表示画像SGHMH（現在設定変更中である旨の報知を行う画像であり、本例においては、「設定変更モード中」との表示を行う画像）を表示可能なように構成されている。

【0700】

尚、同図に示されるように、本例においては、メンテナンスモード中、情報出力に関する各種設定として、複数の項目を選択可能に構成されている。より具体的には、本例においては、メンテナンスモード中、出荷時テストモード（例えば、ランプ・音声・液晶表示装置・入力確認等のテストを実行するモード）の実行（尚、出荷時テストモードは、一連の動作が終了する、又は、例えばサブ入力ボタンを長押しすることにより本画面に戻る、等としてもよい）、広告内容の設定（即ち、デモ画面を始めとした特定のタイミングにて広告を表示するか否かの設定であり、また広告を表示する場合の具体的な広告内容（例えば、店名等）の設定である）、節電モードの有効又は無効（即ち、遊技待機中等に、省エネモードに自動で移行するか否かの設定である）、RTC演出（所定の時刻に到達すると実行される演出）の有効又は無効の選択（RTC演出を行うか否かの設定であり、全てのRTC演出を一律に設定可能としてもよいし、複数のRTC演出を個別に設定可能としてもよい）、設定確認状態において設定値表示を行うか否かの選択（即ち、遊技機の現在の設定値を演出表示装置SGに表示可能とするモードである設定表示モード（表示設定）と、遊技機の現在の設定値を演出表示装置SGには表示しないモードである設定表示モード（非表示設定）とのいずれを選択するかの設定である）、遊技者音量設定の有効又は無効の選択及び遊技者光量設定の有効又は無効の選択（メンテナンスモード以外での通常状態において、遊技者がサブ入力ボタンや十字キー等を用いて音量設定や光量設定を行うことを可能とするか否かの設定である）、を行うことが可能な構成としている。また、メンテナンスモードの終了が選択された場合、または、設定変更終了時に（例えば、主制御基板M側から設定変更モードからの復帰（設定変更モードの終了）を示すコマンドを受信したことに基づいて）メンテナンスモードを終了し、デモ画面、通常画面、専用画面等の所定

10

20

30

40

50

の画面が表示される。

【0701】

本例においては、十字キーの操作によって項目を選択し、サブ入力ボタンを押下することで変更内容を決定するよう構成されている。また、演出表示装置SGにて、ボタン操作情報画像SGHMB（メンテナンスモードにおけるボタン操作の説明を行う画像）を表示可能なように構成されている。また、設定変更表示領域（例えば、演出表示装置SG）の下部には、メンテナンスモードの終了条件を示唆・案内する字幕SGHMJ（本例では、「メンテナンスモードは設定変更終了時に強制終了します。…」という字幕）がスクロール表示される。尚、字幕SGHMJは、十字キーで「メンテナンスモードの終了」を選択した場合に表示されてもよいし、メンテナンスモード中において常に表示されてもよい。また、このような字幕SGHMJに限らず、所定の文字情報や音声情報等によりメンテナンスモードの終了条件等を示唆・案内してもよいし、このような案内・示唆を行わなくともよい。また、サブ入力ボタン又は十字キーが所定時間操作されていないことに基づいて自動でメンテナンスモードを終了するよう構成してもよく、この場合、字幕SGHMJとして、サブ入力ボタン又は十字キーの操作が特定時間（所定時間未満の時間）されていない旨と共に、自動でメンテナンスモードを終了するまでの残り時間等を告知するよう構成してもよい。

【0702】

次に、設定確認中の表示画面例について説明する。同図中段は、副制御基板S側が遊技待機状態（図柄変動が実行されておらず、また、保留も存在しない状態）であり、前述したメンテナンスモードにおいて設定表示モードが、設定表示モード（表示設定）となっており、且つ、主制御基板M側が設定確認中において表示されるイメージ図である。本例においては、主制御基板M側から設定確認中モード（設定確認モードと称することがあり、副制御基板S側と主制御基板M側とを総称して設定表示モードと称することがある）に移行したことを示すコマンドを送信することにより、主制御基板M側が設定確認中の状態において、副制御基板S側でその旨を示す表示を実行可能なように構成されている。

【0703】

また、本例では、設定表示画像SGSHGは、遊技待機状態に表示されるデモ画面に係る画像の手前に存在する（即ち、設定表示画像SGSHGの方が、デモ画面に係る画像よりも表示の優先度が高く、デモ画面の画像によっては、設定表示画像SGSHGの表示の視認性が妨げられない）よう構成されている。また、本例においては、デモ画面表示領域（例えば、演出表示装置SG）の下部には、設定表示モード（表示設定）の終了条件を示唆・案内する字幕SGSMJ（本例では、「設定表示モード（表示設定）中です。設定キーを抜くと通常モードに戻ります」という字幕）がスクロール表示される。

【0704】

次に、同図下段は、副制御基板S側が図柄変動状態（図柄変動が実行されている状態）であり、且つ、主制御基板M側が設定確認中において表示されるイメージ図である。尚、同図においては、装飾図柄として第1装飾図柄（演出表示装置SGの中央部に主に表示される装飾図柄であり、第2装飾図柄よりも表示領域が相対的に大きい）と第2装飾図柄（演出表示装置SGの右下部に主に表示される装飾図柄であり、第1装飾図柄よりも表示領域が相対的に小さい）との2つの装飾図柄が演出表示装置SGに表示されているが、第1装飾図柄と第2装飾図柄とのいずれも同一の主遊技図柄の図柄変動に対応した装飾図柄（例えば、第1主遊技図柄の変動中であれば、第1装飾図柄と第2装飾図柄とのいずれもが当該第1主遊技図柄に対応している）となっており、スーパーリーチ演出等の実行中に第1装飾図柄が非表示となった場合等にも、遊技者が第2装飾図柄を視認することで装飾図柄を確認できるように構成されている。また、本例では、前述したメンテナンスモードにおいて設定表示モードが非表示設定となっている。より具体的には、左右図柄に「7」が仮停止してリーチ状態を構成し、第1保留表示部SG12において2つの保留が表示され且つ、2つ目の保留について先読み演出として「赤色」が表示され、第2保留表示部SG13においては保留が表示されておらず、当該変動に対応する信頼度示唆予告として擬似

10

20

30

40

50

的な保留表示の表示態様が「緑色」となっている状況で主制御基板M側が設定確認中に移行した場合の表示例である。

【0705】

本例では、前述したとおり、設定表示モードが非表示設定となっているため、設定表示画像にて「☆」が示されており、設定表示画像SGSHGからは具体的な設定値が判別不可能又は困難となっている。なお、設定表示モードが非表示設定となっている場合には、設定表示に関する画像（例えば、設定表示画像SGSHG）を表示させなくてもよい。また、本例においては、第1装飾図柄よりも手前に設定表示画像SGSHGが表示されている（設定表示画像SGSHGにより、画面中央に存在する第1装飾図柄が隠れている）一方で、第2装飾図柄（画面右下に配された、装飾図柄）により、装飾図柄の視認性が担保されている。また、本例においては、演出表示装置SGの上部には、設定表示モード（非表示設定）の終了条件を示唆・案内する字幕SGSMJ（本例では、「設定表示モード（非表示設定）中です。設定キーを抜くと通常モードに戻ります」という字幕）が表示される。尚、主遊技図柄変動中においては、字幕SGSMJが、主遊技図柄や保留表示等と重複しないよう構成され、保留先読み演出や、当該図柄変動に係る保留情報の視認性を妨げないようにしている）。

【0706】

なお、第6実施形態（設定変更）に関する第2変形例について以下に列挙する。

＜設定変更を必要としない遊技機＞

第6実施形態では、特別図柄の当否確率について設定値毎に異ならせる例を説明したが、普通機など、電気的に出玉率の設定を行にくい遊技機においては、実質的に設定変更を行う機能（設定変更手段）を設けることにあまり意味をなさない場合がある。しかし、遊技機開発を行ううえで、設定変更手段を設けた遊技機と設定変更手段を設けない遊技機とを別々に設計するのは、ハード的・ソフト的な観点からも好ましいものではなく、可能な限り、同じソフト構成・ハード構成を利用して多種多様なスペックの遊技機を開発することが、開発コストを抑制するためにも必要である。そこで、以下は、設定変更を必要としない遊技機における、設定変更手段の取り扱いについての一例を列挙する。このように構成することで、設定変更手段を必要としない遊技機においても、設定変更手段を行う遊技機と同様のソフト構成・ハード構成で遊技機開発を行うことが可能となる。また、設定変更手段を必要としない遊技機と、設定変更手段を行う遊技機とで、必ずしもハード構成・ソフト構成が同一である必要はなく、同様の効果を発揮するものであれば、多少の設計変更があっても問題ない。

＜1段階設定＞

設定変更手段によって変更し得る設定値を1種類に設定する。これにより、設定値を切り替える処理は同じまま（例えば、設定変更モードには移行するが、設定変更スイッチを操作しても設定値は「1」から変更されないように処理を行うことで）、従来と同様に、設定変更を必要としない遊技機と同様の仕様を実現することができる。この場合、設定値として採り得る数値は1種類のため、設定値データとしての「1」を設定値表示装置に表示することで、設定を表示する処理が行われていることを認識させるようにしてもよいし、表示しなくても、どちらでもよい。また、副制御基板に設定値に関する情報を表示する処理が搭載されている場合には、デフォルトの値（例えば「設定1」）を送信するようにしてもよいし、事実上の設定値が存在しない旨のコマンドを送信してもよい。なお、設定値が存在しない旨のコマンドを送信する場合、副制御基板には、当該コマンドの受信により設定値が存在しないことを表示する処理が行われるようにしておくことが望ましい。

＜共通設定値＞

設定変更手段によって変更し得る設定値を全て同一の設定値として設定する。具体的に、6段階設定（設定1～設定6）を使用する場合、例えば、全ての設定値を「1」として取り扱うことで、いずれの設定値を選択した場合でも同じ設定値として機能させることができる。これにより、設定値を切り替える処理は変更することなく、1段階設定と同様の仕様を実現可能にする。また、設定値データの読み出しに際しては、設定1～設定6のそ

10

20

30

40

50

れそれぞれに対応するROMのアドレスに設定値「1」のデータを記憶し、選択された設定値に応じたアドレスから設定値「1」のデータを読み出してもよいし、設定1～設定6に共通するアドレスに設定値「1」のデータを記憶するようにしてもよい。このとき、設定値表示装置には、設定変更ボタンを操作に応じて、設定値「1」～「6」を表示することも考えられるが、いずれの操作が行われた場合でも設定値「1」を表示するのが設定変更を必要としない機械においては好適であり、これにより、設定値を確認する際の誤認を避けることができる。

<設定値を参照しないソフト処理>

RAMに保存した設定値（設定変更手段によって選択された設定値）を処理的に参照しないようにする。具体的には、設定値を採用する遊技機の場合、特別図柄の当否を抽選する際、当否確率テーブルを参照するにあたっては、選択された設定値としてRAMに保存された設定値を参照して設定値に対応する当否確率テーブルを選択する（後述の第8実施形態に記載）。このとき、設定値をRAMから参照する処理を省略し、予め定めた1つの当否確率テーブルを決定することで、設定変更を必要としない遊技機と同様の仕様を実現することができる。

10

<設定値を参照するソフト処理>

設定変更を必要としない遊技機として、上記にて設定値を参照しないソフト処理について説明したが、選択可能な設定値の数に係わらず遊技状態に応じて1つの当否確率テーブルのみを備える場合、この限りでない。選択された設定値がいずれの設定値データであったとしても、同一の当否確率テーブルを決定することになるため、結果として、設定値による設定差が生じることがなくなる。

20

<識別フラグ>

設定変更を行う遊技機と、設定変更を必要としない遊技機とを識別するフラグを設け、遊技開始タイミング等の所定契機にてフラグを判断することで、設定変更を行う遊技機における処理と、設定変更を必要としない遊技機における処理とを変更する。具体的には、図124aの電源投入時の処理において、S1001の処理を行う前に主制御基板MのROMに格納されたフラグ参照し、設定変更を必要としない遊技機であることを示す値のときは、S1001の処理を行わずにS1002の処理に移行することが考えられる。この場合、ソフト的な変更は生じ得るが、少なくとも、ハード的な変更は生じ得ない。

<設定数の設定>

30

設定変更に使用する設定数を選択する。例えば、1段階設定、3段階設定、6段階設定の3種類を、遊技スペックに応じて適宜選択可能に設計する。具体的には、設定変更を行う際に使用する設定キースwitchの回動位置に応じて設定する方法や、ディップスイッチ等の入力スイッチを使用して選択する方法が考えられる。また、別の手段として、上記の識別フラグを利用した例と同様に、主制御基板MのROMに格納された選択可能な設定数（1段階設定、3段階設定、6段階設定）を示すフラグを、図124aのステップ1001（第6）の処理の前や、図125のステップ1003-1の処理の前に参照することで設定数を選択可能にしてもよい。このような方法を用いることにより、現在の遊技機の仕様として、1段階設定に対応する遊技機、3段階設定に対応する遊技機、6段階設定に対応する遊技機、の3種類に区分けすることが可能となるため、設定数に応じた処理を容易に選択することができる。また、これにより、1段階設定を選択使用する場合には設定変更を必要としない遊技機として機能させることができるとともに、3段階設定、6段階設定を選択使用する場合には選択した設定段階による設定変更が可能な遊技機として機能させることができる。また、上記の1段階設定を利用した例と同様に、副制御基板に設定情報を表示する処理が搭載されている場合には、選択された設定数を示す値（例えば「3段階設定」）を送信するようにしてもよい。これにより、副制御基板Sは、主制御基板Mから受信した値に応じて、「現在、選択されている設定は、3段階設定です」等の報知を、演出表示装置SGやスピーカD24にて行うことができる。

40

<その他>

設定変更に関する機能（設定変更ボタン、等）を、主制御基板ではなく、副基板（電源

50

基板、等）に設け、設定変更を必要としない遊技機の場合には、主制御基板への信号入力を行わないようにしてもよい。具体的には、設定変更に関する機能を設けた副基板と、主制御基板との間のハーネス接続を行わない方法や、副基板から主制御基板に対して設定変更に係るコマンドを送信しないようにする方法、等が考えられる。

【0707】

<<設定確認中の構成>>

本例に係る遊技機に適用可能な設定確認中の構成について以下に列挙する。尚、以下に列挙する構成については、上述したすべての実施形態に適用可能であり、1又は複数に適宜組み合わせることで問題ないことを補足しておく（設定値を複数設けた場合に限る）。

【0708】

<設定確認中の作用>

設定確認中（設定確認状態）においては、以下のように構成してもよい。

（1）第1主遊技始動口A10、第2主遊技始動口B10、補助遊技始動口H10、一般入賞口P10、第1大入賞口C10、第2大入賞口C20、への入球が無効となる（一部の入球口のみ入球が無効となり、その他の入球口への入球は有効としてもよい）

（2）第1主遊技始動口A10、第2主遊技始動口B10、補助遊技始動口H10、一般入賞口P10、第1大入賞口C10、第2大入賞口C20、への入球が有効のままとなる

（3）発射ハンドルD44の操作が無効となる（遊技球が発射不能となる）

（4）発射ハンドルD44の操作が有効のままとなる（遊技球が発射不能とならない）

（5）エラーの検出は実行可能であるがエラー報知を演出表示装置SGにて表示しない

（6）エラーの検出は実行可能であり、演出表示装置SGにおける設定確認中に係る表示よりも前面レイヤーにてエラー報知を表示する

（7）デモ画面を表示しない（遊技待機状態に移行しない）

（8）主遊技図柄（第1主遊技図柄、第2主遊技図柄）が変動開始しない

（9）補助遊技図柄が変動開始しない

【0709】

<設定確認不可能な期間>

本例においては、遊技機の起動中に設定キースイッチをオンにすることで設定確認状態に移行し得るよう構成したが、以下の期間においては設定キースイッチをオンにしても設定確認できない（設定確認状態に移行しない）よう構成してもよい。

（1）特別遊技開始デモ時間

（2）特別遊技終了デモ時間

（3）特別遊技実行中

（4）主遊技図柄（第1主遊技図柄、第2主遊技図柄）の変動中

（5）補助遊技図柄の変動中

（6）普通電動役物（例えば、第2主遊技始動口電動役物）の作動中

（7）特定演出中（RTCに係る演出の実行中等）

（8）時間短縮遊技状態中

（9）確率変動遊技状態中

（10）特定のエラー（扉開放検出や磁石検出等）発生中

【0710】

<設定確認中から復帰した場合>

本例においては、設定確認状態にて設定キースイッチをオンからオフにすることで設定確認状態から復帰し得るよう構成したが、設定確認中（設定確認状態）から復帰した場合（設定キーをオフにした場合）の作用について以下のように構成してもよい。

（1）音量設定が初期設定に設定される

（2）光量設定が初期設定に設定される

（3）デモ画面が表示される（遊技待機状態に移行する）

【0711】

<<設定変更モードの構成>>

10

20

30

40

50

本例に係る遊技機に適用可能な設定変更モードの構成について以下に列挙する。尚、以下に列挙する構成については、上述したすべての実施形態に適用可能であり、1又は複数を適宜組み合わせることで問題ないことを補足しておく（設定値を複数設けた場合に限る）。

【0712】

＜設定変更モード中に電源断が発生した場合＞

設定変更モード中に電源断が発生し、その後電源断から復帰した場合（設定キースwitchはオンのままである場合）、

（1）設定変更モードが再開される

（2）設定変更モードが終了する（その後設定キースwitchをオフ→オンとした場合には設定確認中となる）

（3）設定確認中に移行する

尚、上記（1）のように構成することにより、電源復帰時に設定キースwitchのオン・オフ状況を確認することで、設定変更モードに移行するか否かを判断することができ、簡便な処理にて設定変更モードへの移行有無を判定することができる。

【0713】

＜設定変更モード中の作用＞

（1）第1主遊技始動口A10、第2主遊技始動口B10、補助遊技始動口H10、一般入賞口P10、第1大入賞口C10、第2大入賞口C20、への入球が無効となる（一部の入球口のみ入球が無効となり、その他の入球口への入球は有効としてもよい）

（2）第1主遊技始動口A10、第2主遊技始動口B10、補助遊技始動口H10、一般入賞口P10、第1大入賞口C10、第2大入賞口C20、への入球が有効のままとなる

（3）発射ハンドルD44の操作が無効となる（遊技球が発射不能となる）

（4）発射ハンドルD44の操作が有効のままとなる（遊技球が発射不能とならない）

（5）エラーの検出は実行可能であるがエラー報知を演出表示装置SGにて表示しない

（6）エラーの検出は実行可能であり、演出表示装置SGにおける設定確認中に係る表示よりも前面レイヤーにてエラー報知を表示する

（7）デモ画面を表示しない（遊技待機状態に移行しない）

（8）主遊技図柄（第1主遊技図柄、第2主遊技図柄）が変動開始しない

（9）補助遊技図柄が変動開始しない

【0714】

＜設定変更モード中から復帰した場合＞

設定変更モード中から復帰した場合の作用について以下のように構成してもよい。

（1）音量設定が初期設定に設定される

（2）光量設定が初期設定に設定される

（3）デモ画面が表示される（遊技待機状態に移行する）

【0715】

＜設定確認状態に関する作用1＞

「保留が0個の状況にて遊技球を発射した→遊技領域を遊技球が流下している状況にて扉ユニットD18を開放→設定キースwitchを操作して設定確認状態にする→遊技球が第1主遊技始動口A10に入球→第1主遊技図柄が変動開始→第1主遊技図柄が大当たり図柄にて停止表示」となった場合において、

（1）設定値が表示されたまま大当たりが開始される

（2）設定値が表示されたままであり、大当たりが開始しない。その後、設定キースwitchを操作して設定確認状態が終了すると、設定値の表示が非表示になると共に大当たりが開始される

（3）エラーとなり遊技の進行が停止される

のように構成してもよいし、設定確認状態にて遊技球が第1主遊技始動口A10（または、第2主遊技始動口B10）に入球しても、当該入球は無効となるよう構成してもよいし、当該入球に基づく保留が生起するが、設定確認状態が終了するまで保留が消化されず、図柄変動が開始されないように構成してもよい。尚、設定確認状態に移行しても、遊技の

10

20

30

40

50

結果には影響がないため、上記（１）のように構成することにより、スムーズに遊技進行が行えることとなる。

【０７１６】

＜設定確認状態に関する作用２＞

「保留が０個の状況にて遊技球を発射した→遊技領域を遊技球が流下している状況にて扉ユニットＤ１８を開放→設定キースイッチを操作して設定確認状態にする→遊技球が第１主遊技始動口Ａ１０に入球→第１主遊技図柄が変動開始→第１主遊技図柄が小当り図柄にて停止表示」となった場合において、

（１）設定値が表示されたまま小当りが開始される

（２）設定値が表示されたままであり、小当りが開始しない。その後、設定キースイッチを操作して設定確認状態が終了すると、設定値の表示が非表示になると共に小当りが開始される

（３）エラーとなり遊技の進行が停止される

のように構成してもよい。尚、設定確認状態に移行しても、遊技の結果には影響がないため、上記（１）のように構成することにより、スムーズに遊技進行が行えることとなる。

【０７１７】

＜設定確認状態に関する作用３＞

「遊技球を発射した→遊技領域を遊技球が流下している状況にて扉ユニットＤ１８を開放→設定キースイッチを操作して設定確認状態にする→遊技球が補助遊技始動口Ｈ１０に入球→補助遊技図柄が変動開始→補助遊技図柄が当り図柄にて停止表示」となった場合において、

（１）設定値が表示されたまま第２主遊技始動口電動役物Ｂ１１ｄ（普通電動役物）が開放開始する

（２）設定値が表示されたままであり、第２主遊技始動口電動役物Ｂ１１ｄ（普通電動役物）が開放開始しない。その後、設定キースイッチを操作して設定確認状態が終了すると、設定値の表示が非表示になると共に第２主遊技始動口電動役物Ｂ１１ｄ（普通電動役物）の開放が開始される

尚、設定確認状態に移行しても、遊技の結果には影響がないため、上記（１）のように構成することにより、スムーズに遊技進行が行えることとなる。

【０７１８】

＜設定確認状態に関する作用４＞

「設定キースイッチを操作して設定確認状態にする→電源断が発生する→設定キースイッチがオンである状況を維持したまま電源復帰する」となった場合において、

（１）電源断時のバックアップ情報に基づき設定確認状態に復帰する

（２）設定変更モードに移行する

（３）設定確認状態にも設定変更モードにも移行しない（その後設定キースイッチをオフ→オンとした場合には設定確認中となる）

尚、電源復帰時に設定値キースイッチがオンであるかを判定し、オンであった場合には設定変更モードに移行するよう構成することで、簡便な処理にて設定変更モードへの移行有無を判定することができるため、上記（２）の構成が最も好適である。

【０７１９】

＜設定確認状態に関する作用５＞

「設定キースイッチを操作して設定確認状態にする→電源断が発生する→設定キースイッチをオフにする→設定キースイッチを再度オンにした状況にて電源復帰する」となった場合において、

（１）電源断時のバックアップ情報に基づき設定確認状態に復帰する

（２）設定変更モードに移行する

（３）設定確認状態にも設定変更モードにも移行しない（その後設定キースイッチをオフ→オンとした場合には設定確認中となる）

尚、電源復帰時に設定値キースイッチがオンであるかを判定し、オンであった場合には設

10

20

30

40

50

定変更モードに移行するよう構成することで、簡便な処理にて設定変更モードへの移行有無を判定することができるため、上記（２）の構成が最も好適である。

【０７２０】

＜設定確認状態に関する作用６＞

「設定キースイッチを操作して設定確認状態にする→電源断が発生する→設定キースイッチをオフにする→設定キースイッチがオフである状況を維持したまま電源復帰する」となった場合において、

（１）設定確認状態にも設定変更モードにも移行しない

【０７２１】

（第７実施形態）

本実施形態において、入球に係る情報を入球状態表示装置に表示し得るよう構成されている。入球に係る情報の生成・表示等の処理を主制御基板（主制御基板ＭのＣＰＵＭＣ）にて実行するよう構成した実施形態を第７実施形態として詳述する。

【０７２２】

＜第１ＲＯＭ・ＲＡＭ領域における処理＞

まず、図１２７は、第７実施形態における、主制御基板Ｍ側のメインフローチャートである。図１２７における特徴的な処理は、ステップ１００１（第７）、ステップ１００３（第７）、ステップ１０００（第７）、ステップ１００５（第７）、ステップ１００１－１（第７）、ステップ１００１－２（第７）、ステップ１０１８－１（第７）、ステップ１０１８－２（第７）、ステップ１０１９（第７）、ステップ１９９２（第７）、ステップ７０００（第７）である。はじめに、電源が投入された後、ステップ１００１（第７）で、主制御基板ＭのＣＰＵＭＣは、設定キースイッチがオフであるか否かを判定する。ステップ１００１（第７）でＹｅｓの場合、ステップ１０００（第７）の処理に移行する。なお、ステップ１００１（第７）でＹｅｓの場合には、電断時に第１ＲＡＭ領域にバックアップされている設定値が復元される。他方、ステップ１００１（第７）でＮｏの場合、ステップ１００３（第７）で、主制御基板ＭのＣＰＵＭＣは、設定変更処理を実行し、ステップ１００４の処理に移行する。次に、ステップ１０００（第７）で、主制御基板ＭのＣＰＵＭＣは、第１ＲＯＭ・ＲＡＭ領域における処理として、第２ＲＯＭ・ＲＡＭ領域の電源投入時の第２ＲＡＭ領域確認処理を呼び出す。次に、ステップ１００５（第７）で、主制御基板ＭのＣＰＵＭＣは、第２ＲＯＭのプログラムにより、第１ＲＡＭ領域に記憶されている設定値を参照し、設定値に対応する第２ＲＡＭ領域をセットする。したがって、以降の処理は、設定値に対応する第２ＲＡＭ領域を用いて行われることとなる（例えば、設定値として「１」が設定されている場合、第２ＲＡＭ領域の設定「１」に対応する記憶領域を用いる）。次に、ステップ１００１－１（第７）で、主制御基板ＭのＣＰＵＭＣは、第２ＲＯＭ・ＲＡＭ領域における処理として、第２ＲＡＭ領域に異常があるか否かを判定する（例えば、設定値として「１」が設定されている場合、第２ＲＡＭ領域の設定「１」に対応する記憶領域に異常があるか否かを判定する）。ステップ１００１－１（第７）でＹｅｓの場合、ステップ１００１－２（第７）で、主制御基板ＭのＣＰＵＭＣは、第１ＲＡＭ領域及び第２ＲＡＭ領域のデータを全てクリアする（例えば、第１ＲＡＭ領域のデータと、設定値として「１」が設定されている場合、第２ＲＡＭ領域の設定「１」に対応する記憶領域のデータをクリアする）。尚、第１ＲＡＭ領域の更新は第１ＲＯＭ・ＲＡＭ制御によってのみに行われ、第２ＲＡＭ領域の更新は第２ＲＯＭ・ＲＡＭ制御によってのみに行われるよう構成されているため、第１ＲＡＭ領域のクリアは、第１ＲＯＭ・ＲＡＭ制御における処理で行われ、第２ＲＡＭ領域のクリアは、第２ＲＯＭ・ＲＡＭ制御における処理で行われる。ここで、第２ＲＡＭ領域についてイメージ図を用いて説明する。第２ＲＡＭ領域は、設定値に対応するように設けられており、設定１に対応する第２ＲＡＭ領域、設定２に対応する第２ＲＡＭ領域、設定３に対応する第２ＲＡＭ領域、等が設けられている。つまり、設定１に対応する第２ＲＡＭ領域には、初期フラグ、表示データ切替フラグ１、表示データ切替フラグ２、通常時賞球数カウンタ値、通常時アウト個数カウンタ値、総アウト個数カウンタ値等が記憶され、設定２、設定３に対応する第２領域にも同様

10

20

30

40

50

に、初期フラグ、表示データ切替フラグ1、表示データ切替フラグ2、通常時賞球数カウンタ値、通常時アウト個数カウンタ値、総アウト個数カウンタ値等が記憶されるよう構成されている。第1ROM・RAM領域における処理として、ステップ1018の処理を実行した後、ステップ1018-1（第7）で、主制御基板MのCPUMCは、電源断信号の入力ポートの値をロードする。次に、ステップ1018-2（第7）で、主制御基板MのCPUMCは、入力ポートの値が電源断の発生を示す値ではないか否かを判定する。例えば、入力ポートの値が0であれば、電源断が発生していないことを示し、入力ポートの値が1であれば、電源断が発生していることを示すよう構成されている。ステップ1018-2（第7）でYesの場合、ステップ1019（第7）で、主制御基板MのCPUMCは、第2ROM・RAM領域の入球状態表示装置演算処理を呼び出す（つまり、第1ROM・RAM領域におけるメインループ処理（ステップ1018～ステップ1019の処理を繰り返し行う）で入球状態表示装置演算処理を呼び出して（例えば、call命令）、第2ROM・RAM領域で入球状態表示装置演算処理を実行する）。他方、ステップ1018-2（第7）でNoの場合、主制御基板MのCPUMCは、ステップ1020、ステップ1022の処理を行い、電源が落ちるまで待機する。タイマ割り込み時処理では、ステップ2000～ステップ1990の処理を実行した後、ステップ1992（第7）で、主制御基板MのCPUMCは、第2ROM・RAM領域の入球状態表示装置表示制御処理を呼び出す。尚、ステップ1008のRAMチェック（例えば、電断時に記録されたチェックサムとRAM領域に保存されている情報量との比較を行う）は、第1RAM領域のチェックを行う処理であり、第2RAM領域のチェックを行う処理（詳細は後述するが、第2RAM領域内の特定のデータに異常があるか否かを判定する処理（即ち、ステップ1008における第1RAM領域のチェックとはチェック処理が異なる））ではない。また、第1ROM・RAM制御における処理である主制御基板側メイン処理及びタイマ割り込み処理において第2ROM・RAM制御における処理が呼び出された後は、第1ROM・RAM領域ではなく、第2ROM・RAM領域を使用して処理が実行される。尚、主制御基板M側の処理に使用するカウンタ類や制御用データ（レジスタの値等）はバックアップされる構成のため、第1RAM領域に記憶されているデータと同様に、当該実施形態における第2RAM領域に記憶されている全データもバックアップされるように構成されている。また、当該第7実施形態において「クリア」との用語は、ゼロクリアするだけに限られず、初期化することを含む（つまり、遊技開始状態である初期状態に戻すことについて「クリア」の用語を使用する）。

【0723】

＜第2ROM・RAM領域における処理＞

次に、図128は、第7実施形態における、図127のステップ1019において呼び出される第2ROM・RAM領域による制御である入球状態表示装置演算処理に係るフローチャートである。まず、ステップ8100で、主制御基板MのCPUMCは、スタックポインタ（アドレスをAとする）を第2RAM領域に退避する。次に、ステップ8200で、主制御基板MのCPUMCは、第2スタックエリアにスタックポインタ（アドレスをBとする）を設定する。尚、スタックエリアの切り替えについては、図138（第7）にて詳述するが、これらの処理により、入球状態表示装置演算処理で使用するスタックエリアが第1スタックエリアから第2スタックエリアに変更されることとなる。次に、ステップ8300で、主制御基板MのCPUMCは、全レジスタのデータを第2スタックエリアに退避させる。次に、ステップ8400で、主制御基板MのCPUMCは、後述する第2RAM領域クリアチェック処理を実行する。次に、ステップ8500で、主制御基板MのCPUMCは、後述する区間判定を実行する。次に、ステップ8800で、主制御基板MのCPUMCは、後述する演算処理を実行する。次に、ステップ8900で、主制御基板MのCPUMCは、第2スタックエリアに退避した全レジスタのデータを復帰させる。次に、ステップ8950で、主制御基板MのCPUMCは、スタックポインタ（A）を第2RAM領域から復帰させる。

【0724】

次に、図129は、第7実施形態における、図128のステップ8400のサブルーチンに係る、第2ROM・RAM領域による制御である第2RAM領域クリアチェック処理のフローチャートである。例えば、設定値として「1」が設定されている場合、第2RAM領域の設定「1」に対応する記憶領域のクリアチェック処理を行うよう構成されている。まず、ステップ8401で、主制御基板MのCPUMCは、第2RAM領域に記憶されている初期フラグがAA55Hではないか否かを判定する。初期フラグとは、第2RAM領域をクリアするか否かを示すデータであり、0000Hであれば第2RAM領域をクリアすることを示し、AA55Hであれば第2RAM領域をクリアしないことを示す。尚、第2RAM領域をクリアすることを示す0000Hは、別の処理で記憶されるよう構成されており、例えば、通常時アウト個数カウンタ値と総アウト個数カウンタ値とを比較して、通常時アウト個数カウンタ値の方が大きい場合に記憶されるよう構成されている。また、当該判定（ステップ8401の処理）では、AA55Hではないか否かを判定しているため、0000H以外であってもAA55Hでなければ「AA55Hではない」との判定条件に該当する。ステップ8401でYesの場合、ステップ8404で、主制御基板MのCPUMCは、第2RAM領域をクリアし、ステップ8402に移行する。尚、ステップ8404でクリアするデータは、スタックエリア以外の第2RAM領域のデータであり、当該処理により、1. 後述する区間は、現在区間B以降に滞在中でも区間Aに戻る、2. カウンタ類がすべて初期化される、3. ステップ8402以降の処理が続行される、よう構成されている。他方、ステップ8401でNoの場合、ステップ8404をスキップし、ステップ8402の処理に移行する。次に、ステップ8402で、主制御基板MのCPUMCは、第2RAM領域に異常があるか否かを判定する。例えば、後述する表示データ切替フラグ1、表示データ切替フラグ2の値が範囲外（0、1、2以外）の場合には異常ありと判定することが挙げられる。ステップ8402でYesの場合、ステップ8405で、主制御基板MのCPUMCは、第2RAM領域をクリアし、次の処理（ステップ8500の処理）に移行する。他方、ステップ8402でNoの場合、ステップ8405をスキップし、次の処理（ステップ8500の処理）に移行する。尚、ステップ8405でクリアするデータは、スタックエリア以外の第2RAM領域のデータであり、当該処理により、1. 後述する区間は、現在区間B以降に滞在中でも区間Aに戻る、2. カウンタ類がすべて初期化される、3. ステップ8500以降の処理が続行される、よう構成されている。

【0725】

次に、図130は、第7実施形態における、図128のステップ8500のサブルーチンに係る、第2ROM・RAM領域による制御である区間判定のフローチャートである。まず、ステップ8502で、主制御基板MのCPUMCは、表示データ切替フラグ1が0であるか否かを判定する。尚、表示データ切替フラグ1とは、入球状態表示装置演算処理における区間を示すフラグであり、表示データ切替フラグ1が0であれば区間A {例えば、初回の電源投入から総アウト個数が所定個数（例えば、300個）未満} であり、表示データ切替フラグ1が1であれば区間B {例えば、初回の電源投入からの総アウト個数が所定個数（例えば、300個）以上かつ特定個数（例えば、60000個）未満} であり、表示データ切替フラグ1が2であれば区間N {例えば、区間B以降に総アウト個数カウンタの値が特定個数（例えば、60000個）に達する毎に切り替えられる区間} であることを示すフラグである。また、表示データ切替フラグ1は、電源断が発生してもクリアされないようにバックアップされる構成となっている。次に、ステップ8502でYesの場合、ステップ8600で、主制御基板MのCPUMCは、後述する区間A時判定を実行し、次の処理（ステップ8800の処理）に移行する。他方、ステップ8502でNoの場合、ステップ8700で、主制御基板MのCPUMCは、後述する区間B以降時判定を実行し、次の処理（ステップ8800の処理）に移行する。

【0726】

次に、図131は、第7実施形態における、図130のステップ8600のサブルーチンに係る、第2ROM・RAM領域による制御である区間A時判定のフローチャートであ

る。まず、ステップ8602で、主制御基板MのCPUMCは、総アウト個数カウンタ値が300以上であるか否かを判定する（ここで使用した「300」の数値は例示であり、遊技機の製造時における検査工程にてカウントされる想定値よりも大きな値であればよい）。次に、ステップ8602でYesの場合、ステップ8608で、主制御基板MのCPUMCは、表示データ切替フラグ1に1を設定する（0から1に変更する）。次に、ステップ8610で、主制御基板MのCPUMCは、カウンタクリアを実行し、次の処理（ステップ8800の処理）に移行する。ここでクリアされるカウンタは、通常時賞球数カウンタ、通常時アウト個数カウンタ、総アウト個数カウンタである。他方、ステップ8602でNoの場合、ステップ8650（第7）で、主制御基板MのCPUMCは、後述するSW集計処理（スイッチ集計処理）を実行し、次の処理（ステップ8800の処理）に移行する。補足としてSW集計処理について簡易的に説明すると、後述するステップ7500の処理にて読み出した各入賞口の検出情報に基づき、通常時賞球数カウンタ、通常時アウト個数カウンタ、総アウト個数カウンタの更新を行う処理である。

【0727】

次に、図132は、第7実施形態における、図130のステップ8700のサブルーチンに係る、第2ROM・RAM領域による制御である区間B以降時判定のフローチャートである。まず、ステップ8702で、主制御基板MのCPUMCは、総アウト個数カウンタ値が60000以上であるか否かを判定する（ここで使用した60000の数値は例示であり、遊技球の発射間隔を100個／分とした場合において、遊技球の発射時間が10時間に到達したことの想定値である）。次に、ステップ8702でYesの場合、ステップ8706で、主制御基板MのCPUMCは、表示データ切替フラグ1に2を設定する（表示データ切替フラグ1に2を再設定することを含む）。次に、ステップ8707で、主制御基板MのCPUMCは、当該区間の最終ベース値を記憶する。次に、ステップ8708で、主制御基板MのCPUMCは、カウンタクリアを実行し、次の処理（ステップ8800の処理）に移行する。ここでクリアされるカウンタは、通常時賞球数カウンタ、通常時アウト個数カウンタ、総アウト個数カウンタである。他方、ステップ8702でNoの場合、ステップ8650（第7）で、主制御基板MのCPUMCは、後述するSW集計処理を実行し、次の処理（ステップ8800の処理）に移行する。

【0728】

次に、図133は、第7実施形態における、図131及び図132のステップ8650のサブルーチンに係る、第2ROM・RAM領域による制御であるSW集計処理のフローチャートである。まず、ステップ8651で、主制御基板MのCPUMCは、いずれかの入球センサの入球フラグがオンであるか否かを判定する。ステップ8651でYesの場合、ステップ8651-1で、主制御基板MのCPUMCは、いずれの入球センサの入球フラグを確認するかを判定する（いずれの入球センサの入球フラグを確認するかを α の値に基づいて決定する）。他方、ステップ8651でNoの場合、次の処理（ステップ8800の処理）に移行する。まず、 $\alpha=0$ のとき、ステップ8652で、主制御基板MのCPUMCは、第2大入賞口入球フラグがオンであるか否かを判定する。ステップ8652でYesの場合、ステップ8653で、主制御基板MのCPUMCは、第2大入賞口入球フラグをオフにし、ステップ8654で、主制御基板MのCPUMCは、第2大入賞口賞球フラグをオンにし、ステップ8679で α に1を加算し、次の処理（ステップ8680の処理）に移行する。他方、ステップ8652でNoの場合、ステップ8679で α に1を加算し、次の処理（ステップ8680の処理）に移行する。次に、 $\alpha=1$ のとき、ステップ8655で、主制御基板MのCPUMCは、第1大入賞口入球フラグがオンであるか否かを判定する。ステップ8655でYesの場合、ステップ8656で、主制御基板MのCPUMCは、第1大入賞口入球フラグをオフにし、ステップ8657で、主制御基板MのCPUMCは、第1大入賞口賞球フラグをオンにし、ステップ8679で α に1を加算し、次の処理（ステップ8680の処理）に移行する。他方、ステップ8655でNoの場合、ステップ8679で α に1を加算し、次の処理（ステップ8680の処理）に移行する。次に、 $\alpha=2$ のとき、ステップ8658で、主制御基板MのCPUMCは、第2

主遊技始動口入球フラグがオンであるか否かを判定する。ステップ8658でYesの場合、ステップ8659で、主制御基板MのCPUMCは、第2主遊技始動口入球フラグをオフにし、ステップ8660で、主制御基板MのCPUMCは、第2主遊技始動口賞球フラグをオンにし、ステップ8679で α に1を加算し、次の処理（ステップ8680の処理）に移行する。他方、ステップ8658でNoの場合、ステップ8679で α に1を加算し、次の処理（ステップ8680の処理）に移行する。次に、 $\alpha = 3$ のとき、ステップ8661で、主制御基板MのCPUMCは、第1主遊技始動口入球フラグがオンであるか否かを判定する。ステップ8661でYesの場合、ステップ8662で、主制御基板MのCPUMCは、第1主遊技始動口入球フラグをオフにし、ステップ8663で、主制御基板MのCPUMCは、第1主遊技始動口賞球フラグをオンにし、ステップ8679で α に1を加算し、次の処理（ステップ8680の処理）に移行する。他方、ステップ8661でNoの場合、ステップ8679で α に1を加算し、次の処理（ステップ8680の処理）に移行する。次に、 $\alpha = 4$ のとき、ステップ8664で、主制御基板MのCPUMCは、一般入賞口1入球フラグがオンであるか否かを判定する。ステップ8664でYesの場合、ステップ8665で、主制御基板MのCPUMCは、一般入賞口1入球フラグをオフにし、ステップ8666で、主制御基板MのCPUMCは、一般入賞口1賞球フラグをオンにし、ステップ8679で α に1を加算し、次の処理（ステップ8680の処理）に移行する。他方、ステップ8664でNoの場合、ステップ8679で α に1を加算し、次の処理（ステップ8680の処理）に移行する。次に、 $\alpha = 5$ のとき、ステップ8667で、主制御基板MのCPUMCは、一般入賞口2入球フラグがオンであるか否かを判定する。ステップ8667でYesの場合、ステップ8668で、主制御基板MのCPUMCは、一般入賞口2入球フラグをオフにし、ステップ8669で、主制御基板MのCPUMCは、一般入賞口2賞球フラグをオンにし、ステップ8679で α に1を加算し、次の処理（ステップ8680の処理）に移行する。他方、ステップ8667でNoの場合、ステップ8679で α に1を加算し、次の処理（ステップ8680の処理）に移行する。次に、 $\alpha = 6$ のとき、ステップ8670で、主制御基板MのCPUMCは、一般入賞口3入球フラグがオンであるか否かを判定する。ステップ8670でYesの場合、ステップ8671で、主制御基板MのCPUMCは、一般入賞口3入球フラグをオフにし、ステップ8672で、主制御基板MのCPUMCは、一般入賞口3賞球フラグをオンにし、ステップ8679で α に1を加算し、次の処理（ステップ8680の処理）に移行する。他方、ステップ8670でNoの場合、ステップ8679で α に1を加算し、次の処理（ステップ8680の処理）に移行する。次に、 $\alpha = 7$ のとき、ステップ8673で、主制御基板MのCPUMCは、一般入賞口4入球フラグがオンであるか否かを判定する。ステップ8673でYesの場合、ステップ8674で、主制御基板MのCPUMCは、一般入賞口4入球フラグをオフにし、ステップ8675で、主制御基板MのCPUMCは、一般入賞口4賞球フラグをオンにし、ステップ8679で α に1を加算し、次の処理（ステップ8680の処理）に移行する。他方、ステップ8673でNoの場合、ステップ8679で α に1を加算し、次の処理（ステップ8680の処理）に移行する。次に、 $\alpha = 8$ のとき、ステップ8676で、主制御基板MのCPUMCは、総排出確認センサフラグがオンであるか否かを判定する。ステップ8676でYesの場合、ステップ8677で、主制御基板MのCPUMCは、総排出確認センサフラグをオフにし、ステップ8678で、主制御基板MのCPUMCは、アウト個数カウンタ加算フラグをオンにし、ステップ8679-1で α をクリアし、次の処理（ステップ8680の処理）に移行する。他方、ステップ8676でNoの場合、ステップ8679-1で α をクリアし、次の処理（ステップ8680の処理）に移行する。次に、ステップ8680（第7）で、主制御基板MのCPUMCは、カウンタ加算処理を実行し、次の処理（ステップ8800の処理）に移行する。尚、複数の一般入賞口の入球センサを1つにまとめてもよく、例えば、補助遊技状態（高ベース状態）中に右打ちを行う構成の場合、左打ちの際に入球可能な一般入賞口1～3への入球を検出する第1一般入賞口入球センサを備え、右打ちの際に入球可能な一般入賞口4への入球を検出する第2一般入賞口入球センサを備える構成としてもよい。

10

20

30

40

50

【0729】

次に、図134は、第7実施形態における、図133のステップ8680のサブルーチンに係る、第2ROM・RAM領域による制御であるカウンタ加算処理のフローチャートである。まず、ステップ8682で、主制御基板MのCPUMCは、通常時賞球数カウンタの加算を実行する。尚、通常時賞球数カウンタの加算を実行する条件が設けられており、遊技状態が非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態、且つ、大当たりではないときに、賞球フラグ（第2大入賞口賞球フラグ、第1大入賞口賞球フラグ、第2主遊技始動口賞球フラグ、第1主遊技始動口賞球フラグ、一般入賞口1賞球フラグ、一般入賞口2賞球フラグ、一般入賞口3賞球フラグ、一般入賞口4賞球フラグ）がオンである場合に通常時賞球数カウンタの加算が実行されるように構成されている。また、確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態において通常時賞球数カウンタの加算を実行するように構成しても良いが、1. 非確率変動状態且つ非時間短縮遊技状態のときと発射すべき位置が変化しない（例えば、左打ちのまま）場合は、確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態において通常時賞球数カウンタの加算を実行するように構成しても良い、2. 非確率変動状態且つ非時間短縮遊技状態のときと発射すべき位置が変化する（例えば、左打ちから右打ちに変わる）場合は、確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態において通常時賞球数カウンタの加算を実行しない、ように構成するのが好ましい。「1. 非確率変動状態且つ非時間短縮遊技状態のときと発射すべき位置が変化しない」ように構成した場合には、大当たり中以外の非補助遊技状態（低ベース状態）における賞球数をカウントすることになる。尚、通常時賞球数カウンタの加算が終了すると、賞球フラグをオフにする。補足であるが、通常時賞球数カウンタは2バイトで構成されており、賞球数を加算した値が上限値を超えているか否か（キャリーフラグが発生しているか否か）を確認し、超えている場合には加算しない（2バイトの上限値で維持する）よう構成されている。次に、ステップ8684で、主制御基板MのCPUMCは、通常時アウト個数カウンタの加算を実行する。尚、通常時アウト個数カウンタの加算にも実行する条件が設けられており、遊技状態が非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態、且つ、大当たり中ではないときに、アウト個数カウンタ加算フラグがオンである場合に通常時アウト個数カウンタの加算が実行されるように構成されている。また、通常時アウト個数カウンタも通常時賞球数カウンタと同様に、確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態において加算を実行するように構成してもよく、1. 非確率変動状態且つ非時間短縮遊技状態のときと発射すべき位置が変化しない（例えば、左打ちのまま）場合は、確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態において通常時アウト個数カウンタの加算を実行するように構成しても良い、2. 非確率変動状態且つ非時間短縮遊技状態のときと発射すべき位置が変化する（例えば、左打ちから右打ちに変わる）場合は、確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態において通常時アウト個数カウンタの加算を実行しない、ように構成するのが好ましい。「1. 非確率変動状態且つ非時間短縮遊技状態のときと発射すべき位置が変化しない」ように構成した場合には、大当たり中以外の非補助遊技状態（低ベース状態）におけるアウト個数をカウントすることになる。補足であるが、通常時アウト個数カウンタは2バイトで構成されており、加算した値が上限値を超えているか否か（キャリーフラグが発生しているか否か）を確認し、超えている場合には加算しない（2バイトの上限値で維持する）よう構成されている。尚、アウト個数カウンタ加算フラグは次のステップ8686の総アウト個数カウンタの加算でも使用するため、通常時アウト個数カウンタの加算が終了してもオフにせず、オンのまま維持する。次に、ステップ8686で、主制御基板MのCPUMCは、総アウト個数カウンタの加算を実行する。アウト個数カウンタ加算フラグがオンであれば通常時賞球数カウンタを加算するよう構成されており、加算が終了すると、アウト個数カウンタ加算フラグをオフにし、次の処理（ステップ8800の処理）に移行する。補足であるが、総アウト個数カウンタは2バイトで構成されており、加算した値が上限値を超えているか否か（キャリーフラグが発生しているか否か）を確認し、超えている場合には加算しない（2バイトの上限値で維持する）よう構成されている。

【0730】

次に、図135は、第7実施形態における、図128のステップ8800のサブルーチンに係る、第2ROM・RAM領域による制御である演算処理のフローチャートである。まず、ステップ8802で、主制御基板MのCPUMCは、区間変更がないか否かを判定する。ステップ8802でYesの場合、ステップ8804で、主制御基板MのCPUMCは、ベース計算を実行する。ここで、ベース値は、 $\{(\text{通常時賞球数カウンタ値} \div \text{通常時アウト個数カウンタ値}) \times 100\}$ の式で算出される。次に、ステップ8806で、主制御基板MのCPUMCは、ステップ8804で算出したベース値（入球状態情報）を、現在のベース値（入球状態情報）として入球状態表示装置J10に表示するための表示用に記憶し、次の処理（ステップ8900の処理）に移行する。ここで記憶するベース値（入球状態情報）は、小数点第一位を四捨五入された値を記憶する。他方、ステップ8802でNoの場合も次の処理（ステップ8900の処理）に移行する。

10

【0731】

<第2ROM・RAM領域における処理>

次に、図136は、第7実施形態における、図127のステップ1992において呼び出される第2ROM・RAM領域による制御である入球状態表示装置表示制御処理に係るフローチャートである。まず、ステップ7100で、主制御基板MのCPUMCは、スタックポインタ（アドレスをAとする）を第2RAM領域に退避する。次に、ステップ7200で、主制御基板MのCPUMCは、第2スタックエリアにスタックポインタ（アドレスをBとする）を設定する。尚、スタックエリアの切り替えについては、図138（第7）にて詳述するが、これらの処理により、入球状態表示装置表示制御処理で使用するスタックエリアが第1スタックエリアから第2スタックエリアに変更されることとなる。次に、ステップ7300で、主制御基板MのCPUMCは、全レジスタのデータを第2スタックエリアに退避させる。次に、ステップ8400で、主制御基板MのCPUMCは、第2RAM領域クリアチェック処理を実行する。尚、入球状態表示装置制御で実行する第2RAM領域クリアチェック処理と入球状態表示装置演算処理で実行する第2RAM領域クリアチェック処理とは同一の処理である。次に、ステップ7500で、主制御基板MのCPUMCは、第1RAMの各入賞口の検出情報を読み出す。具体的には、第2ROMのプログラムでは、第1RAMの検出情報がオンであることを、1回のエッジ検出（オフ→オン）で入球ありと判定し、入球ありと判定した場合、第2RAM領域内の入球情報の記憶領域（2バイト）のうち、対応する入賞口の記憶領域のフラグをオン（1を設定する）にする。例えば、第1RAM領域の第2主遊技始動口の検出情報がオンであった場合、第2ROMのプログラムで第1RAM領域の第2主遊技始動口の検出情報がオンであることを判定した際に、オンであることを1回判定すると、第2RAM領域内の入球情報の記憶領域であるD1に1を設定する。そして、ここで設定した入球情報に基づいてステップ8650のSW集計処理が実行される。なお、第2RAM領域内の入球情報の記憶領域は2バイトに限定されず、入球センサの数に応じて1バイト等に変更され得る。次に、ステップ7600（第7）で、主制御基板MのCPUMCは、表示内容更新処理を実行する。次に、ステップ7700で、主制御基板MのCPUMCは、第2スタックエリアに退避した全レジスタのデータを復帰させる。次に、ステップ7800で、主制御基板MのCPUMCは、スタックポインタ（A）を第2RAM領域から復帰させる。

20

30

40

【0732】

次に、図137は、第7実施形態における、図136のステップ7600のサブルーチンに係る、第2ROM・RAM領域による制御である表示内容更新処理のフローチャートである。はじめに、第1セグ情報及び第2セグ情報の機能について説明する。まず、第1セグ情報とは、現在の区間においてリアルタイムに更新されるベース値に関する情報であり、第2セグ情報とは、現在の区間の直前の区間における最終値（最終ベース値）に関する情報である。

【0733】

次に、表示内容更新処理のフローチャートについて説明する。まず、ステップ7610で、主制御基板MのCPUMCは、点滅状態の更新を実行する。ここでは、後述するステ

50

ップ7630にて、第1セグ情報が「点滅」に設定されている場合、第1セグ情報にかかる表示中に点灯と消灯を0.3秒毎に切り替える点滅表示の制御を実行し、後述するステップ7640にて、第2セグ情報が「点滅」に設定されている場合、第2セグ情報にかかる表示中に点灯と消灯を0.3秒毎に切り替える点滅表示の制御を実行する。次に、ステップ7620で、主制御基板MのCPUMCは、第1セグ情報と第2セグ情報の表示切替処理を実行する。例えば、第1セグ情報と第2セグ情報とを5秒毎に切り替える。尚、第1セグ情報及び第2セグ情報は、識別セグと比率セグで構成されており、入球状態表示装置J10の左2つの8セグメント表示器が識別セグ（現在の区間のベース値を表示していることを示す「bL.」又は直前の区間の最終ベース値を表示していることを示す「b6.」が表示される）であり、右2つの8セグメント表示器が比率セグ（「ー」又はベース値が表示される）である。

10

【0734】

次に、ステップ7630で、主制御基板MのCPUMCは、第1セグ情報の設定（更新）を実行する。第1セグ情報の表示内容は、区間A（後述する表示データ切替フラグ2が0の場合）では、識別セグに「bL.」を点滅表示、比率セグに「ー」を表示するよう設定される。区間B（表示データ切替フラグ2が1の場合）では、識別セグに、通常時アウト個数カウンタ値が0～5999のときには「bL.」を点滅表示、通常時アウト個数カウンタ値が6000以上のときには「bL.」を点灯表示、比率セグにステップ8806で記憶したベース値を表示するよう設定される。区間C（表示データ切替フラグ2が2の場合）では、識別セグに、通常時アウト個数カウンタ値が0～5999のときには「bL.」を点滅表示、通常時アウト個数カウンタ値が6000以上のときには「bL.」を点灯表示、比率セグにステップ8806で記憶したベース値を表示するよう設定される。区間N（表示データ切替フラグ2が2の場合）では、識別セグに、通常時アウト個数カウンタ値が0～5999のときには「bL.」を点滅表示、通常時アウト個数カウンタ値が6000以上のときには「bL.」を点灯表示、比率セグにステップ8806で記憶したベース値を表示するよう設定される。尚、すでに前述した通り、区間C及び区間Nは、区間B以降に総アウト個数カウンタの値が60000個に達する毎に切り替えられる区間である。

20

【0735】

次に、ステップ7640で、主制御基板MのCPUMCは、第2セグ情報の設定（更新）を実行する。第2セグ情報の表示内容は、区間A（表示データ切替フラグ2が0の場合）では、識別セグに「b6.」を点滅表示、比率セグに「ー」を表示するよう設定される。区間B（表示データ切替フラグ2が1の場合）では、識別セグに「b6.」を点滅表示、比率セグに「ー」を表示するよう設定される。区間C（表示データ切替フラグ2が2の場合）では、識別セグに「b6.」を点灯表示、比率セグにステップ8707で記憶した区間Bの最終値（最終ベース値）を表示するよう設定される。区間N（表示データ切替フラグ2が1の場合）では、識別セグに「b6.」を点灯表示、比率セグに区間N-1における最終値（最終ベース値）を表示するよう設定される。

30

【0736】

次に、ステップ7650で、主制御基板MのCPUMCは、表示データ切替フラグ2の更新を実行する。表示データ切替フラグ2は、表示データ切替フラグ1に合わせて更新されるフラグであり、入球状態表示装置J10にベース値を表示するための表示用のフラグである。

40

【0737】

次に、図138は、第7実施形態における、スタックエリア切り替えのイメージ図である。本図では、スタックエリアにデータが積まれる様子、及び、第1スタックエリアと第2スタックエリアが切り替えられる様子を示しており、丸で囲まれたアドレスはセットされているスタックポインタを示している。まず、第1ROM・RAM領域にて処理を実行しており、第1スタックエリアを使用するためのスタックポインタA（アドレスはA）がセットされている。次に、第1ROM・RAM領域にて処理を実行し、その後第2ROM

50

領域の処理を呼び出す。次に、第2ROM領域の処理において、スタックポインタAを第2RAM領域に退避させ、第2スタックエリアを使用するためのスタックポインタB（アドレスはB）を設定する。次に、全レジスタを第2スタックエリアに退避した後、スタックポインタBのアドレスを変更する。次に、第2ROM・RAM領域による処理を実行し、全レジスタを復帰させる。次に、第1スタックエリアのスタックポインタAを復帰させ、第1ROM領域の呼び出し元に復帰し、その後は第1ROM・RAM領域の処理を実行する。

【0738】

次に、図139は、第7実施形態の変形例1における、電氣的全体構成図である。第7実施形態の変形例1における特徴は、遊技球の流路イメージ図である。第7実施形態の変形例1では、遊技球のアウト個数を検出するためのセンサが、総排出確認センサC90sの1つだけではなく、第1排出確認センサと第2排出確認センサの2つとなっている。第1排出確認センサは主に、左打ち時に入球する入賞口（第1主遊技始動口A10、一般入賞口）及びアウト口に入球した遊技球を検出するように構成されており、第2排出確認センサは主に、右打ち時に入球する入賞口（第2主遊技始動口B10、第1大入賞口C10、第2大入賞口C20）に入球した遊技球を検出するように構成されている。このように構成された上で、さらに、ステップ8650のSW集計処理において各入賞口を直列で検出するよう構成した場合（つまり、第2大入賞口→第1大入賞口→第2主遊技始動口→第1主遊技始動口→一般入賞口1～4→排出確認センサの順に毎回確認する）、1回のカウンタ加算処理により2球分の加算を行うケースが発生し得る。このときに、区間が変更されることとなる総アウト個数カウンタの値が60000個を超えることがあり得る。この場合、2球分の加算を行った結果を当該区間の最終ベース値として記憶するように構成してもよい。このように、同時に発生した入球及び賞球を同じ区間内のベース値として算出するために、通常時賞球数カウンタ、通常アウト個数カウンタの値を2球分加算することで、当該区間における正確なベース値を算出することが可能となる。

【0739】

第7実施形態及び第7実施形態の変形例1では、メインループ処理内で入球状態表示装置演算処理を呼び出して実行し、タイマ割り込み処理内で入球状態表示装置表示制御処理を呼び出して実行するよう構成することにより、処理を分散させることで効率良く処理できるようにしたが、この構成に限られず、例えば、タイマ割り込み処理内で、入球状態表示装置演算処理と入球状態表示装置表示制御処理を呼び出して実行するよう構成することも可能である。このように構成することで、処理の簡素化及び容量削減を図ることが可能である。例えば、表示データ切替フラグを1つのみ備える構成とすることができ、入球状態表示装置演算処理で更新された表示データ切替フラグ入球状態表示装置表示制御処理において参照するよう構成することが挙げられる。

【0740】

また、第7実施形態において、入球状態表示装置演算処理及び入球状態表示装置表示制御処理が実行される度に、第2RAM領域クリアチェック処理を実行することで、ノイズ等による突発的な異常が発生した場合に早急に対応可能なよう構成した実施形態を説明したが、これに限られず、第2RAM領域のチェックを、所定条件を充足した場合（例えば、カウンタ加算処理において通常時賞球数カウンタ値、通常時アウト個数カウンタ値、総アウト個数カウンタ値が所定個数に到達したことなど）を契機として実行するよう構成することも可能である。このように構成することによっても、第2RAM領域のチェックを過度に実行することなく、処理の効率化を図ることが可能である。

【0741】

また、上記の遊技機において、賞球払出動作中にRAMクリア処理（第1RAM領域のクリア処理）が発生する場合（例えば、電源断時にRAMクリアボタンが操作される、ノイズや瞬電による異常な電源断の発生後に電断復帰する）が想定される。例えば、特定数（例えば10個）の賞球払出動作中に、所定数（例えば6個）の払出完了時にRAMクリア処理が発生した場合、残りの賞球数（例えば4個）の記憶情報はクリアされ、残りの賞

球数に対する払出が実行されず払出動作が終了することとなるが、入球状態表示装置 J 10 では、特定数分の賞球が加算された値で算出されたベース値が表示される。このように構成することで、ベース値等の入球情報を意図的に調整できないよう構成することができ、入賞口への入球数に基づいて構成な入球情報を生成可能である。

【0742】

なお、設定値毎の入球状態情報を入球状態表示装置 J 10 にて表示するよう構成してもよく、例えば、第 7 実施形態において入球状態表示装置 J 10 にて「b L.」「b 6.」と表示するよう構成したが、「b」の表示を「設定値」に変更することで、設定毎の入球状態情報（ベース値）を確認できるよう構成してもよい。具体的には、設定 1 であれば、入球状態表示装置 J 10 の左 2 つの 7 セグメント表示器に「1 L.」「1 6.」と表示され、設定 2 であれば、入球状態表示装置 J 10 の左 2 つの 7 セグメント表示器に「2 L.」「2 6.」と表示される。また、設定変更ボタンを操作すると、設定値における入球状態情報が切り替えられることで設定毎の入球状態情報を確認できるよう構成することも可能であり、さらに、所定時間毎（例えば、2 秒毎）に設定毎の入球状態情報を確認できるよう構成することも可能である。特に、設定値を変更することで相違し得る対象が主遊技図柄に係る当否抽選の当選確率のみである場合、設定値毎のベース値に差が生じないため、いずれの設定値においても常に同一のベース値になるが、設定変更の対象が、補助遊技図柄の当否確率や小当りの当選確率、等に及ぶ場合（一例を後述する）、設定値毎のベース値に差が生じるため、設定値毎の入球状態情報を個別に管理・表示することで、設定値に応じたベース値を確認することが可能となる。

【0743】

＜入球状態表示装置に関する変更例＞

次に、本例に係る遊技機に適用可能な入球状態表示装置 J 10 の構成の変更例を例示する。

【0744】

ここで、設定毎にベース値を算出する場合には、設定毎の遊技球の総発射球数＝総排出球数を計測する必要があり、当該総排出球数の計測結果を記憶する RAM 領域を 3 バイトとした場合、3 バイトの記憶領域にて記憶可能な最大の総排出球数は、「 $256^3 - 1 = 16777215$ 球」となっており、設定毎の総排出球数が 16777215 球となり、当該設定毎の総排出球数が RAM 領域に記憶された場合（3 バイトにて記憶可能な上限に達した場合）には、設定毎の総排出球数が上限に達した旨の情報を RAM 内の所定の領域に記憶し、当該所定の領域に設定毎の総排出球数が上限に達した旨の情報が記憶されている場合には、入球状態表示装置 J 10 に表示するための計測（ベース値を算出するために必要な計測）を実行しないように構成してもよい。

【0745】

また、RAM 内の或る 1 バイトに前記総排出球数が上限に達した旨の情報を記憶し得るよう構成し、そのような 1 バイトの記憶領域を設定毎に有するよう構成してもよい。即ち、設定値として設定 1～設定 6 までの 6 種類の設定値を有する場合には、前記設定毎の総排出球数が上限に達した旨の情報が記憶されている記憶領域（1 バイトの記憶領域）を 6 種類有するよう構成してもよい。

【0746】

尚、入球状態表示装置 J 10 における表示態様として、設定 1～設定 6 におけるベース値を 5 秒毎に切り替えて繰り返し表示するよう構成してもよく（設定 6 におけるベース値を 5 秒表示した後は再度設定 1 におけるベース値を表示する）、そのように構成した場合に、設定変更ボタンを操作すると、設定値の識別表示を所定時間（例えば、2 秒）表示した後、当該設定値におけるベース値を表示するよう構成してもよい。そのように構成した場合、前記所定時間の経過前に再度設定変更ボタンを操作することにより、次の設定値の識別表示が表示されるよう構成してもよい。具体的には、

（1）設定変更ボタンを操作→設定 1 の識別表示が 2 秒間表示される→設定 1 におけるベース値が 5 秒間表示される→設定 2 におけるベース値が 5 秒間表示される

(2) 設定変更ボタンを操作→設定1の識別表示が表示される→1秒後に設定変更ボタンを再度操作→設定2の識別表示が2秒間表示される→設定2におけるベース値が5秒間表示される→設定3におけるベース値が5秒間表示されるように構成してもよい。

【0747】

尚、入球状態表示装置J10の表示態様(表示を切り替える時間値や表示する項目の順序等)は適宜変更しても問題ないが、所定のエラー発生時等、エラー解除のために扉ユニットを開放する必要がある場合には、扉ユニットを開放していても遊技者からは設定値が確認できないよう構成することが好適である。即ち、設定値に係る識別表示(例えば、設定1に係る識別表示)を入球状態表示装置J10に表示する際には、扉ユニットを開放していても視認し難い位置に入球状態表示装置J10を設置したり、管理者による所定の操作(所定の操作は遊技者には実行不可能)を実行しない限り設定値に係る識別表示が入球状態表示装置J10に表示されないよう構成することが好適である。

【0748】

(第8実施形態)

次に、図141は、第8実施形態における、設定値に応じて主遊技図柄の当選確率を変更する場合の第1主遊技用当否抽選テーブル(第2主遊技用当否抽選テーブル)の一例である。本例では、設定1、設定2、設定3の順に遊技者に付与される利益率が高くなるよう構成されている。より具体的には、非確率変動遊技時の設定1の当り(大当り)当選確率が、約 $1/320$ に設定されており、非確率変動遊技時の設定2の当り(大当り)当選確率が、約 $1/318$ に設定されており、非確率変動遊技時の設定3の当り(大当り)当選確率が、約 $1/317$ に設定されている。また、確率変動遊技時の設定1の当り(大当り)当選確率が、約 $1/160$ に設定されており、確率変動遊技時の設定2の当り(大当り)当選確率が、約 $1/159$ に設定されており、確率変動遊技時の設定3の当り(大当り)当選確率が、約 $1/158$ に設定されている。よって、確率変動遊技時の当り(大当り)当選確率が、非確率変動遊技時の当り(大当り)当選確率の約2倍になっており、その比率が全設定で共通になるよう構成されている。この点は、第1主遊技側、第2主遊技側も同様となっている。

【0749】

また、同図に示されるように、非確率変動遊技時の設定1において当り(大当り)と判定される乱数値範囲にも、非確率変動遊技時の設定2において当り(大当り)と判定される乱数値範囲にも、非確率変動遊技時の設定3において当り(大当り)と判定される乱数値範囲にも、「0~204」が共通の範囲として含まれている。よって、例えば、「0~204」のいずれかを乱数値とする保留が非確率変動遊技時において生じた場合において、当該保留が消化され当否抽選が行われるよりも前に、当該保留が当り(大当り)となる予定である旨を事前報知した場合(且つ、「0~204」の範囲外となる当り(大当り)と判定される乱数値の場合には、事前報知しないこととすると)、その事前報知(先読み演出)が実行されることなく当該保留が消化され当否抽選が行われる(結果、大当りが発生する)ことの頻度が高まるほど、設定3である可能性が高くなる(設定値の示唆が可能となる)よう構成することもできる(設定1、設定2、設定3の順で、「0~204」の範囲外となる当り(大当り)と判定される乱数値が多くなるためである)。尚、この点については、確率変動遊技時にも同様に適用可能であり、第1主遊技側でも第2主遊技側でも同様に適用可能である。また、ある設定値において当り(小当り)と判定される乱数値範囲は、他の設定値において当り(大当り)と判定される乱数値範囲と重複していないため、設定値がいずれであるかに拘わらず、当り(小当り)と判定される乱数値範囲に属する乱数値とする保留が生じた場合において、当該保留が消化され当否抽選が行われるよりも前に、当該保留が当り(小当り)となる予定である旨を事前報知すると、設定値がいずれであっても当り(小当り)の事前報知とできる(先読み演出に係る事前判定処理を共通化できる)。

【0750】

他方、先読み演出によって設定値の示唆が行われないよう構成することも可能であり、以下、その一例を示す。下表の先読み判定テーブルは、主制御基板Mが有している事前判定用のテーブルである。主制御基板Mは、保留が生起すると当該保留に係る乱数値に基づき先読み判定テーブルを参照して先読みコードを導出し、副制御基板Sへ送信する。副制御基板Sは、予め主制御基板Mから送信された設定値に係る情報に基づき、例えば、主制御基板M側が設定3であれば、先読みコードA、B、Cのいずれかの場合に当り（大当り）である旨の事前報知を行い、主制御基板M側が設定2であれば、先読みコードA、Bのいずれかの場合にのみ当り（大当り）である旨の事前報知を行い、主制御基板M側が設定1であれば、先読みコードAの場合のみに当り（大当り）である旨の事前報知を行う。このように構成することで、先読み演出の実行傾向からは主制御基板M側の設定を推測することが困難となるのである。

10

【表2】

■先読み判定テーブル

先読みコード	A	B	C	D	E
乱数範囲	0～204	205	206	64874～65534	207～64873・65535

■コード対応表

A	通常時当り
B	設定2以上当り
C	設定3当り
D	小当り
E	はずれ

20

【0751】

（第9実施形態）

上述したように、先読み演出を行うためには、遊技状態（例えば、非確率変動遊技時）と設定値（例えば、設定1）とを踏まえて、保留として保持されている乱数値が、当り（大当り）と判定される乱数値範囲（例えば、「0～204」）に属するか否かを事前判定しなければ不正確なものとなり得る。その際、第2実施形態において例示したように、先読み演出の実行可否を副制御基板S側で決定するよう構成する場合、例えば、図69のステップ2162で示されるように、保留として保持されている乱数値が、当り（大当り）と判定される乱数値範囲に属するか否かを副制御基板S側で事前判定する必要性があり、その際には副制御基板S側にて設定値に関する情報が必要となる。ところが、主制御基板Mが保持している設定値に関する情報を副制御基板Sへ送信してしまうことはセキュリティ上或いは遊技の公正性を担保する上では好ましくない（副制御基板S側へ送信する際に設定値に関する情報が傍受され悪用される恐れもあるし、副制御基板S側にて設定値に関する情報を外部へ明確に報知した（例えば、遊技場運営者がメンテナンスの用途で表示した）ものが遊技行為者に盗み見られる恐れもある）。そこで、主制御基板Mが保持している設定値に関する情報を副制御基板Sへ送信せずとも先読み演出を正確に行うための手法を、以下、第9実施形態として詳述する。

30

40

【0752】

まず、第9実施形態においては、新たな保留が生起した際に、当該新たな保留が大当りとなる保留であるか否かによって、先読み演出抽選の実行又は非実行となる確率が相違するように（即ち、先読み演出抽選の際には、当該新たな保留に係る「当否抽選乱数」に関する情報を参照するように）構成されている。

【0753】

この場合、新たな保留に係る当否抽選乱数が同じであっても、設定毎にその当否抽選結果（大当りであるか否か）が異なり得る、という状況が生じ、更には、当否抽選結果が相違する結果、同じ変動態様抽選乱数が取得されたとしても、選択される変動態様（例えば、変動時間）が異なる、という状況が生じ得る。一例として、『「当否抽選乱数」が「2

50

06」であり、変動態様抽選乱数が「900」』という保留が生起した場合に、設定値3においては「大当たり」となり且つ「変動時間が60秒」であることが決定され、設定値1においては「ハズレ」となり且つ「変動時間が30秒」であることが決定される、といった状況が生じ得る。この場合、設定3においては、(当該新たな保留に係る大当たり期待度が高いことを報知するために)先読み演出抽選が実行され易いように(先読み演出抽選確率が高くなるように)構成することが望ましい一方で、設定1においては、先読み演出抽選が実行され難いように(先読み演出抽選確率が低くなるように)構成することが望ましい、といった場合がある。しかしながら、副制御基板S側が現在の設定値に係る情報を有していない(副制御基板S側が現在の設定値を保持していない)場合、副制御基板Sは、当否抽選乱数「206」が、「大当たり」と判定されるのか「ハズレ」と判定されるのかが判断できない結果、正確な先読み演出が実行困難となる事態が想定される。

10

【0754】

そこで、設定値を有する第6実施形態のような遊技機においては、先読み演出抽選の実行又は非実行を決定する(抽選する)際に、「当否抽選乱数」に関する情報を参照することなく、「変動態様抽選乱数」及び/又は「図柄抽選乱数」に関する情報のみを参照する構成としてもよい。一例として、新たに生起した保留に係る変動時間が長時間(例えば、60秒)であることが確定している{そのような乱数値範囲に属する「変動態様抽選乱数」であった場合であり、例えば、図26の主遊技テーブル3においては、「1000~1023」の何れかであった場合には、大当たりであるか否かに拘わらず長時間(例えば、60秒)の変動態様が選択される}場合には、特定確率(例えば、1/3)で当選となる先読み演出抽選を実行する一方で、変動時間が短時間(例えば、10秒)であることが確定している{そのような乱数値範囲に属する「変動態様抽選乱数」であった場合であり、例えば、図26の主遊技テーブル3においては、「0~2」の何れかであった場合には、大当たりであるか否かに拘わらず短時間(例えば、10秒)の変動態様が選択される}場合には、上記特定確率よりも低い確率である所定確率(例えば、1/50)で当選となる先読み演出抽選を実行する、等である。このように構成することで、先読み演出として「新たに生起した保留に係る変動時間が長時間となる予定であることを示唆する」ことに関して、先読み演出を正確に行うことは可能となる。

20

【0755】

同様に、「図柄抽選乱数」のみを参照して先読み演出抽選を実行する場合、「新たな保留が生起した際に、図柄抽選乱数のみに基づき先読み演出抽選を行い、当該新たに生起した保留に係る停止図柄がいずれであることを示唆する演出」(当該新たな保留が仮に大当たりであった場合の図柄種別(確率変動大当たり図柄であるか否か)を示唆する演出)、と読み替えることもできる。

30

【0756】

次に、主制御基板Mが保持している設定値に関する情報を副制御基板Sへ送信せずとも先読み演出を正確に行うための別の手法(主制御側で設定値に応じて当否判定を行う手法)について詳述する。

【0757】

次に、図142は、第9実施形態における、主遊技内容決定乱数取得処理のフローチャートである。本実施形態である図23との相違点は、ステップ1316-1(第9)にて、主制御基板MのCPUMCは、先読み用判定処理を行うことである。

40

【0758】

次に、図143は、第9実施形態における、先読み用判定処理のサブルーチンに係るフローチャートである。まず、ステップ1316-1-2で、主制御基板MのCPUMCは、現在の設定値が3(=設定3)であるか否かを判定する。ステップ1316-1-2でYesの場合、ステップ1316-1-3で、主制御基板MのCPUMCは、設定3における当否判定テーブル(当該当否判定テーブルは、当否抽選テーブルと同様の内容であるが、参照タイミングが異なるため、別のテーブルとして備えられている)を参照し、取得した第2主遊技内容決定乱数が当り(大当たり)であるか否かを判定する。ステップ131

50

6-1-3でYesの場合、ステップ1316-1-4で、主制御基板MのCPUMCは、限定頻度カウンタ値、保留情報（当該取得した乱数値を含める保留数、変動態様乱数）に基づき、対応する当り時の判定用限定頻度テーブル（当該判定用限定テーブルは、限定頻度テーブルと同様の内容であるが、参照タイミングが異なるため、別のテーブルとして備えられている）を参照して、変動態様を判定する。他方、ステップ1316-1-3でNoの場合、主制御基板MのCPUMCは、限定頻度カウンタ値、保留情報（当該取得した乱数値を含める保留数、変動態様乱数）に基づき、対応するはずれ時の限定頻度テーブルを参照して、変動態様を判定する。次に、ステップ1316-1-2でNoの場合、ステップ1316-1-6で、主制御基板MのCPUMCは、現在の設定値が2（＝設定2）であるか否かを判定する。ステップ1316-1-6でYesの場合、ステップ1316-1-7で、主制御基板MのCPUMCは、設定2における当否判定テーブル（当該判定テーブルは、当否抽選テーブルと同様の内容であるが、参照タイミングが異なるため、別のテーブルとして備えられている）を参照し、取得した第2主遊技内容決定乱数が当り（大当り）であるか否かを判定する。ステップ1316-1-7でYesの場合、ステップ1316-1-8で、主制御基板MのCPUMCは、限定頻度カウンタ値、保留情報（当該取得した乱数値を含める保留数、変動態様乱数）に基づき、対応する当り時の判定用限定頻度テーブル（当該判定用限定テーブルは、限定頻度テーブルと同様の内容であるが、参照タイミングが異なるため、別のテーブルとして備えられている）を参照して、変動態様を判定する。他方、ステップ1316-1-7でNoの場合、主制御基板MのCPUMCは、限定頻度カウンタ値、保留情報（当該取得した乱数値を含める保留数、変動態様乱数）に基づき、対応するはずれ時の限定頻度テーブルを参照して、変動態様を判定する。次に、ステップ1316-1-6でNoの場合、ステップ1316-1-10で、主制御基板MのCPUMCは、現在の設定値が1（＝設定1）であるか否かを判定する。ステップ1316-1-10でYesの場合、ステップ1316-1-11で、主制御基板MのCPUMCは、設定1における当否判定テーブル（当該判定テーブルは、当否抽選テーブルと同様の内容であるが、参照タイミングが異なるため、別のテーブルとして備えられている）を参照し、取得した第2主遊技内容決定乱数が当り（大当り）であるか否かを判定する。ステップ1316-1-11でYesの場合、ステップ1316-1-12で、主制御基板MのCPUMCは、限定頻度カウンタ値、保留情報（当該取得した乱数値を含める保留数、変動態様乱数）に基づき、対応する当り時の判定用限定頻度テーブル（当該判定用限定テーブルは、限定頻度テーブルと同様の内容であるが、参照タイミングが異なるため、別のテーブルとして備えられている）を参照して、変動態様を判定する。他方、ステップ1316-1-11でNoの場合、主制御基板MのCPUMCは、限定頻度カウンタ値、保留情報（当該取得した乱数値を含める保留数、変動態様乱数）に基づき、対応するはずれ時の限定頻度テーブルを参照して、変動態様を判定する。ステップ1316-1-4、ステップ1316-1-5、ステップ1316-1-8、ステップ1316-1-9、ステップ1316-1-12、ステップ1316-1-13の処理が終了すると、ステップ1316-1-14で、主制御基板MのCPUMCは、当否判定結果及び変動態様の判定結果に基づいて、先読み用当否コマンド及び先読み用変動態様コマンドをセットし、次の処理（ステップ1318）の処理に移行する。なお、ステップ1316-1-10でNoの場合も次の処理（ステップ1318）の処理に移行する。

【0759】

このように、主制御基板MのCPUMCは、乱数値（例えば、主遊技用乱数値、変動態様乱数値）を取得した際に、設定値に応じた当否判定を行ったうえで、変動態様判定を行い、当否判定結果（先読み用当否コマンド）及び変動態様結果（先読み用変動態様コマンド）を副制御基板SのCPUSCに送信することで、副制御基板SのCPUSCは、主制御側の設定値による影響を受けることなく、当否結果と変動態様に応じた先読み演出の実行判定を行うことが可能となる。

【0760】

なお、本例では、取得した乱数値を保留する前に先読み用判定処理を行う（つまり、取

10

20

30

40

50

得したレジスタにおいて取得している乱数値を直接判定する)よう構成したが、これに限られず、取得した乱数値をRAMに一度記憶した後、記憶した乱数値を読み出して先読み判定処理を行うよう構成することも可能である。

【0761】

次に、図144は、第9実施形態における、先読み演出実行判定処理のフローチャートである。図69(第2)との相違点は、ステップ2155(第9)、ステップ2158(第9)である。ステップ2154でYesの場合、ステップ2155で、副制御基板SのCPUSCが、保留内に当り保留がないか否か判定しYesの場合、ステップ2156の処理に移行する。他方、ステップ2155でNoの場合、次の処理(ステップ2142の処理)に移行する。ステップ2158(第9)では、副制御基板SのCPUSCは、主制御基板MのCPUMCから送信された先読み用変動態様コマンドに基づいて、変動時間を事前判定する。なお、ステップ2162では、副制御基板SのCPUSCは、主制御基板MのCPUMCから送信された先読み用当否コマンドに基づいて、当該新たな保留は大当りとなる保留であるか否かを判定する。

【0762】

また、主制御基板Mにて保留として保持されている乱数値に関する情報は、副制御基板Sへ送信可能であり{例えば、図23のステップ1310のタイミングで、前述した第1主遊技内容決定乱数(当否を決定するための当否抽選乱数、当り時の図柄を決定するための図柄抽選乱数、特別図柄の変動パターンを決定するための変動態様抽選乱数の3つの乱数)を送信可能であり}、当該保留の消化時において当り(大当り)と判定されたか否かは、主制御基板Mから特別遊技の発生有無に関する情報を副制御基板Sへ送信する(例えば、図25のステップ1414にて、主遊技図柄に関する当否抽選結果を送信する、或いは、大当りであった場合には図28のステップ1608で特別遊技開始表示指示コマンドが送信される)ことで副制御基板S側にて把握可能である。このような前提構成に着目すると、副制御基板S側にて設定値に関する情報を保持せずとも先読み演出を正確に行うための別の手法を挙げることができる。

【0763】

より具体的には、非確率変動遊技状態である状況下、主制御基板Mにて或る保留として保持されている乱数値に関する情報が「204」として副制御基板Sへ送信され、当該或る保留の消化時において主制御基板Mから特別遊技発生有りの旨の情報が副制御基板Sへ送信された場合、その特別遊技の実行後であって非確率変動遊技状態である状況下、主制御基板Mにて別の保留として保持されている乱数値に関する情報が「204」として副制御基板Sへ送信された際には、副制御基板S側は、当該別の保留が消化されるよりも前に、特別遊技が発生予定であることを推測できるため、この推測に基づき副制御基板Sは、当該別の保留が消化されるよりも前に当り(大当り)に関する先読み演出(事前報知)が実行可能となる。

【0764】

即ち、副制御基板S側において、保留として保持されている乱数値に関する情報と、その保留が消化された際に発生した事象とを遊技履歴として蓄積していく(副制御基板S側が学習していく)ことで、当該遊技履歴に基づく先読み演出は、当り(大当り)に関する事前報知として正確なものとなり得る。

【0765】

但し、このように、保留として保持されている乱数値に関する情報と、その保留が消化された際に発生した事象とを遊技履歴として蓄積していく(副制御基板S側が学習していく)ことで、当該遊技履歴に基づく先読み演出の精度を向上させる手法は、主制御基板M側の設定が或る設定値にて維持(固定)されていることが前提条件として必要であるため、主制御基板M側の設定値が変更されたことが副制御基板S側で推測・把握された場合(例えば、電源断があった場合、主制御基板M側から設定値が変更された旨のコマンドが送信された場合)には、それまでに蓄積された情報はクリアして再蓄積していくことが望ましい。

10

20

30

40

50

【0766】

加えて、主制御基板Mが有する第1主遊技用当否抽選テーブル（第2主遊技用当否抽選テーブル）が図141に示されるような乱数値範囲で設定されていた場合、非確率変動遊技状態である状況下、主制御基板Mにて或る保留として保持されている乱数値に関する情報が「206」として副制御基板Sへ送信され、当該或る保留の消化時において主制御基板Mから特別遊技発生有りの旨の情報が副制御基板Sへ送信された場合、{乱数値「206」が当り（大当り）と判定されるのは設定3のみであるが故}、主制御基板Mが保持している設定値に関する情報を副制御基板Sへ送信せずとも（換言すれば、副制御基板S側にて設定値に関する情報を保持せずとも）、副制御基板S側は主制御基板M側が設定3であることを把握可能となる（その場合、副制御基板S側は、乱数値「206」が当り（大当り）と判定されること＝設定3であることの対応関係は予め保持しておく必要がある）。

10

【0767】

更には、主制御基板Mが有する第1主遊技用当否抽選テーブル（第2主遊技用当否抽選テーブル）が図145に示されるような乱数値範囲で設定されており、副制御基板S側でも同様のテーブルを有していた場合、即ち、ある設定値において当り（大当り）と判定される乱数値範囲が、他の設定値において当り（大当り）と判定される乱数値範囲と重複しない場合（本例では、非確率変動遊技状態且つ設定1：0～204、非確率変動遊技状態且つ設定2：205～410、非確率変動遊技状態且つ設定3：411～617）、非確率変動遊技状態である状況下、主制御基板Mにて或る保留として保持されている乱数値に関する情報が「411～617」の何れかとして副制御基板Sへ送信され、当該或る保留の消化時において主制御基板Mから特別遊技発生有りの旨の情報が副制御基板Sへ送信された場合、主制御基板Mが保持している設定値に関する情報を副制御基板Sへ送信せずとも（換言すれば、副制御基板S側にて設定値に関する情報を保持せずとも）、副制御基板S側は主制御基板M側が設定3であることを把握可能となる。よって、このように構成した場合には、副制御基板S側は主制御基板M側の設定値が何れであることを迅速に把握可能となる。

20

【0768】

尚、同様に、非確率変動遊技状態である状況下、主制御基板Mにて或る保留として保持されている乱数値に関する情報が「0～204」の何れかとして副制御基板Sへ送信され、当該或る保留の消化時において主制御基板Mから特別遊技発生有りの旨の情報が副制御基板Sへ送信されなかった場合（「ハズレ」であった場合）、副制御基板S側は主制御基板M側が設定2又は3であることを把握可能となるので、このような観点からも副制御基板S側は主制御基板M側の設定値が何れであるか（何れである可能性があるか）を迅速に把握可能となるといえる。

30

【0769】

以上、説明した各実施例（特に、設定値を複数有する実施形態）においては、主制御基板Mが設定値情報を把握し、把握された設定値情報に基づいて主遊技図柄の当否抽選テーブルを選択する等の処理をおこなっていたが、副制御基板Sのみならず、主制御基板Mの制御プログラムにおいても設定情報を把握できないように構成することで、不正等に対する強化を図ることが期待できる。そこで、変更例として、主制御基板M（CPU）の制御プログラムと独立して設定に応じた当選値等のパラメータを設定可能な形態を例示する。

40

【0770】

具体的には、本変更例においては、設定値（本変更例においては設定1～3の3段階）に応じた当選確率テーブルを通常の記憶領域と別の領域である当選値データ記憶装置Q20に設け、当選値データ記憶装置Q20に記憶された当選値等のデータのうち、設定変更手段Q10により設定された設定値に応じた当選値等のデータを主制御基板MのCPUMCが読み出すことができるように構成されている。図146の本変更例におけるハードウェアの概略ブロック図を用いて詳述すると、主制御基板MのCPUMCと当選値データ記憶装置Q20との間が8ビットのデータバスで接続されるとともに、当選値データ記憶装

50

置（ROM）Q20の下位アドレス（例えば、下位2ビットである「A0・A1」アドレス信号線）及び読取要求信号（例えばリード信号）を送信可能に電氣的に接続されている。また、当選値データ記憶装置（ROM）Q20の上位アドレス（例えば「A14・A15」のアドレス）に対応した端子が設定変更手段Q10と接続されており、設定変更手段Q10から出力される設定値に対応した信号が当選値データ記憶装置Q20の上位アドレス（例えば「A14・A15」のアドレス）の指定データとなるようになっている。

【0771】

次に、当該概略ブロック図における設定変更手段Q10の構成について詳述する。本変更例における設定変更手段Q10は、ロータリースイッチに近似した設定キースイッチと、設定キースイッチにより操作した1～3の設定値を報知する3つの設定値表示LEDとを備えている。本変更例における設定キースイッチは、設定キーを挿入してから右方向に2段階回転するように構成され、且つ、1段階目～2段階目の間は1段階目の位置に付勢されている。このような設定キースイッチに、設定キーを挿入し、右方向に1段階回転させると現在選択されている設定値に対応した設定値表示LEDが点灯するように構成され、この状態から2段階目の回転可能な位置まで右方向に回転させると1回毎に設定値が1ずつインクリメントするように構成されている。なお、設定値の最大値である3が設定されている状態で更に1回、回転させると設定値が最小値である1に戻るようになっている。そして、設定キースイッチにより設定された設定値は設定変更手段Q10により保持され、2ビットの信号（設定1であれば「01」、設定2であれば「10」、設定3であれば「11」）として出力され、出力されたデータは、前述の通り当選値データ記憶装置（ROM）Q20の上位ビット端子に入力されるように電氣的に接続されている。

【0772】

次に、当該概略ブロック図における当選値データ記憶装置（ROM）Q20の構成について詳述する。本変更例における当選値データ記憶装置（ROM）Q20は、0000h～FFFFhまでの16ビットのアドレスに対応した8ビットのデータ格納領域を備えた記憶装置を例示しており、図146のテーブルに示すように上位アドレス「01」「10」「11」（即ち、「40h」「80h」「C0h」）に対応させて設定値毎の当り値が非確率変動遊技状態（低確率）・確率変動遊技状態（高確率）毎に記憶されている。また、当選値データ記憶装置（ROM）Q20のリード端子（読出を要求する端子）及び、下位2ビットのアドレス並びに、データバスは主制御基板MのCPUMCと接続されている。なお、概要ブロック図では図示を省略しているが、「A3」～「A13」までのアドレスバスについてはGNDと接続されており、図146のテーブルに示すアドレスに対応した記憶領域以外へのアクセスが不可能となっている。

【0773】

（作用）

次に、本変更例においての各設定値に対応する当選値の読み込みの流れについて、設定変更手段Q10により設定値「1」が設定され、遊技状態が通常遊技状態（非確率変動遊技状態）である場合を例示して説明する。主制御基板MのCPUMCは、当選値を参照すべき所定の処理を実行する際（例えば、当否抽選を行う際）に、通常遊技状態（非確率変動遊技状態）に対応したアドレスのうち、当選値の下位の値に該当するデータアドレス（00h）を指定して当該指定アドレスのデータをリードする。すると、当選値データ記憶装置（ROM）Q20の上位アドレスは、設定変更手段Q10からの出力データにより設定値「1」に対応した「4000h」に固定されているため、「4000h」のデータである「11001100」がデータバスから出力される。そして、主制御基板MのCPUMCは、データバスに出力された「11001100」の値を一旦レジスタ等に取り込み、続けて、通常遊技状態（非確率変動遊技状態）に対応したアドレスのうち、当選値の上位の値に該当するデータ（01h）を指定して当該指定アドレスのデータをリードする。すると、当選値データ記憶装置（ROM）Q20の上位アドレスは設定変更手段Q10からの出力データにより設定値「1」に対応した「4000h」に固定されているため、「4001h」のデータである「00000000」がデータバスから出力される。そして

、主制御基板MのCPUMCは、データバスに出力された「00000000」の値を一旦レジスタ等に取り込み、先に取り込んだ下位アドレスのデータ「11001100」と合わせて16ビットの値である「0000000011001100（10進数で205）」を得る。そして、主制御基板MのCPUMCは、当否判定用の乱数値「N」と、前述のように取得した当選値とを比較し、乱数値が「N」が当選値以下（ $N \leq \text{当選値}$ ）かを判定し、当選値以下であれば当りと判定する。

【0774】

以上のように構成することにより、主制御基板MのCPUMCは、そもそも設定値が何れであるかを把握していないものの、設定値に応じた抽選を実現することができ、不正対策に適した遊技機を提供することができる。

【0775】

なお、本変更例においては、通常のプログラムを記憶した記憶装置（ROM）と別の記憶装置（ROM）を用いたが、共通の記憶装置（ROM）を用いて一部のエリアを当選値データ記憶領域に割当て、該当する領域について、上述のように読み込み対象のアドレスを外部から操作するように構成することも可能である。また、本変更例ではハードウェアにより設定値に対応した記憶領域をリードするように構成したが、ソフトウェアにより一定の制限を行って不正防止を担保することも可能である。

【0776】

具体的には、各実施例における主制御基板Mにおけるメインルーチンに移行する前の処理（電源投入後の初期化处理）において、設定変更手段Q10からの出力情報（設定値）を読み取り、読み取った出力情報に応じた当選値の格納領域を特定させる（当否抽選時にリードすべき記憶領域を特定させる）。そして、初期化处理以外、即ち、初期化处理完了後に移行するメインルーチン処理や割り込み処理においては、設定変更手段Q10からの出力情報（設定値）を読み込む処理を設けることなく、特定された格納領域の当選値を使用するように構成する。このように構成することにより、電源投入後等の特定の時期以外（初期化处理以外）においては設定値情報を読み取ることができないプログラムを構成することができ、不正防止に寄与することが期待できる。

【0777】

以上のように、各実施形態においては、ハードウェア及びソフトウェアにより所定条件下（所定の制限のもと）で設定値に応じた当選値テーブルの格納エリアを指定することにより、設定値に応じた確率で抽選等を行いつつ、主制御基板Mでの通常の処理ルーチンにおいて設定値情報を確認できないように構成されているため、主制御基板Mのみならず副制御基板Sにおいても設定値情報を認識することができず、設定値情報を盗み取るような不正を効果的に抑止することが期待できる。

【0778】

前述した先読み用判定処理において、設定されている設定値を参照して先読み演出の実行有無を判定し得るよう構成したが、これには限定されず、設定値を参照せずに先読み演出を実行するよう構成してもよい。具体的には、前述した先読み判定テーブルにおける先読みコードA（設定値に関わらず大当たりとなる乱数範囲）と先読みコードD（設定値に関わらず小当たりとなる乱数範囲）、先読みコードE（設定値に関わらずはずれとなる乱数範囲）に決定された場合には、先読み抽選を実行し得る一方、先読みコードB及びC（設定値によって大当たりとなる場合とははずれとなる場合がある乱数）に決定された場合には、先読み抽選を実行しないよう構成してもよい。

【0779】

以上のように構成することで、設定値に関わらず共通の処理を用いて副制御基板が先読み演出を実行可能に構成することができる。

【0780】

尚、主制御基板M側から副制御基板S側に設定値に関する情報を送信し得るよう構成することによって、副制御基板S側が現在設定されている設定値を把握可能に構成してもよく、そのように構成した場合には、特定の予告演出を実行可能に構成し、設定値によって

10

20

30

40

50

当該特定の予告演出の発生確率が相違するよう構成してもよいし、特定の設定値（例えば、設定6）の場合にのみ特定の予告演出が実行され得るよう構成してもよい。また、設定値毎に所定の演出に対する選択上限回数（例えば、RAMクリアによって選択上限回数はリセットされる）を設けて、設定1～設定5では選択上限回数が特定回数未満となっており、設定6では選択上限回数が特定回数以上となるよう構成することで、所定の演出が特定回数以上実行された場合に設定値が設定6であることを遊技者が認識できるよう構成してもよい。そのように構成することによって、遊技者は前記特定の演出の実行有無又は実行頻度に注目することによって、現在設定されている設定値を推測しながら遊技を実行していくことができ、興趣性の高い遊技機を提供することができる。

【0781】

（第10実施形態）

はじめに、図147は、第10実施形態における、主制御基板側でのメイン処理のフローチャートである。本実施形態である図6との相違点は、図147では、遊技機の電源投入後に行われるステップ999（第10）の初期設定処理を図示した点である。尚、第10実施形態においては、設定値を複数有しており、設定値が相違することにより、当否抽選に用いる乱数値の分母が相違し得るよう構成している（詳細は後述する）。

【0782】

次に、図148は、第10実施形態における、主制御基板側での初期設定処理のフローチャートである。まず、ステップ999-1で、主制御基板Mは、各ポート・レジスタ設定処理を実行する。次に、ステップ999-2で、主制御基板Mは、設定キー（設定キースイッチ）の操作がなかったか否かを判定する。ステップ999-2でYesの場合、ステップ999-4の処理に移行する。他方、ステップ999-2でNoの場合、ステップ999-3で主制御基板Mは、設定変更処理（設定変更処理は、図125の通りである）を実行し、ステップ999-3-1で、主制御基板Mは、RAMクリアを実行した後、ステップ999-4の処理に移行する。次に、ステップ999-4で、主制御基板Mは、設定値情報をリードする。次に、ステップ999-5で、主制御基板Mは、設定値が1であるか否かを判定する。ステップ999-5でYesの場合、ステップ999-6で、主制御基板Mは、設定1に対応したデータアドレスをリードし、ステップ999-7で、主制御基板Mは、リードしたデータ値（65535）を乱数上限値（当選抽選乱数の上限値）にセットし、次の処理（ステップ1002の処理）に移行する。他方、ステップ999-5でNoの場合、ステップ999-8で、主制御基板Mは、設定値が2であるか否かを判定する。ステップ999-8でYesの場合、ステップ999-9で、主制御基板Mは、設定2に対応したデータアドレスをリードし、ステップ999-10で、主制御基板Mは、リードしたデータ値（65501）を乱数上限値（当選抽選乱数の上限値）にセットし、次の処理（ステップ1002の処理）に移行する。ステップ999-8でNoの場合、ステップ999-11で、主制御基板Mは、設定3に対応したデータアドレスをリードし、ステップ999-12で、主制御基板Mは、リードしたデータ値（65301）を乱数上限値（当選抽選乱数の上限値）にセットし、次の処理（ステップ1002の処理）に移行する。

【0783】

次に、図149は、初期設定処理で設定される当選抽選乱数の乱数上限値を示すテーブルである。まず、非確率変動遊技時について説明する。設定1では、非確率変動遊技時において、当選抽選乱数の乱数上限値が65535となっている。乱数値は、乱数値0～204（置数205）が大当たり、乱数値205～65535がハズレに設定されている。次に、設定2では、非確率変動遊技時において、当選抽選乱数の乱数上限値が65501となっている。乱数値は、乱数値0～204（置数205）が大当たり、乱数値205～65501がハズレに設定されている。次に、設定3では、非確率変動遊技時において、当選抽選乱数の乱数上限値が65301となっている。乱数値は、乱数値0～204（置数205）が大当たり、乱数値205～65301がハズレに設定されている。

【0784】

10

20

30

40

50

次に、確率変動遊技状態時について説明する。設定1では、確率変動遊技時において、当選抽選乱数の乱数上限値は、非確率変動遊技時の設定1と同様に65535となっている。乱数値は、乱数値0～409（置数410）が大当たり、乱数値410～65535がハズレに設定されている。次に、設定2では、確率変動遊技時において、当選抽選乱数の乱数上限値は、非確率変動遊技時の設定2と同様に65501となっている。乱数値は、乱数値0～409（置数410）が大当たり、乱数値410～65501がハズレに設定されている。次に設定3では、確率変動遊技時において、当選抽選乱数の乱数上限値は、非確率変動遊技状態時の設定3と同様に65301となっている。乱数値は、乱数値0～409（置数410）が大当たり、乱数値410～65301がハズレに設定されている。

【0785】

このように構成することにより、設定値を変更することによる当選確率の違いは、同一遊技状態下（例えば、非確率変動遊技時、確率変動時）においては、乱数上限値の違いにより生じることとなる。このため、当選確率を設定毎に変更しつつ、当否抽選用の判定テーブルを共通にすることができ、先読み処理や当否抽選において設定値毎に個別の処理を実行する必要を低減することができる。

【0786】

なお、本実施例においては、初期設定処理（ステップ999）において、設定スイッチの操作状況を判断した後にRAMの情報を確認する処理（ステップ1007）、必要に応じてRAMクリア（初期化）する処理（ステップ1004）を行っているが、各ポート・レジスタ設定処理（ステップ999-1）において、RAMチェック処理（ステップ1008）を行ってもよい。この場合、例えばRAMチェック処理（ステップ1008）において、RAMのチェックサムデータを用いてRAMに電断時のデータが正常に記憶されていないと判断された場合には、設定値の記憶情報が正常か否か（6段階設定であれば、1～6であるか否か）に関わらず（判断することなく）、必要な記憶領域をクリアした後に、デフォルトの設定値（例えば設定1）を設定し、その後に、各ポートの設定処理等を行うこととなる。なお、プログラム処理の開始に先立って実行すべきCPUの内蔵レジスタの設定処理については、RAMチェック処理の前に行われる。また、その後のRAMクリアボタンの操作状況判定（ステップ1002）において、未操作と判断された後のRAMの情報を確認処理（ステップ1007）、並びに、必要に応じたRAMクリア（初期化）処理（ステップ1004）については重複した処理になるため、省略される。

【0787】

以上のように、設定値の変更前にRAMチェックを行うことにより、RAMのデータが異常であるにもかかわらず、設定値データ自体が正常であった場合であっても、異常であると判断してデフォルトの設定値をセットすることができ、想定外の設定に基づく遊技機の動作を制限することができる。なお、デフォルトの設定値が設定されたことを示唆できるように、電源立ち上げ時に、通常と異なる電源立ち上げの報知（例えば、枠ランプの点灯パターンを変化させたり、報知時間を異ならせる等）を実行することも好適である。

【0788】

また、上記設定値の記憶情報が正常か否かの判定は、以下のタイミングで実行してもよい。また、以下の複数のタイミングで実行してもよいし、1つのタイミングのみで実行してもよく、即ち、設定値の記憶情報が正常か否かの判定の実行タイミングをどのように組み合わせてもよい。

- (1) 電源投入直後
- (2) 主遊技図柄の変動開始前
- (3) 主遊技図柄の変動終了後
- (4) 大当たり図柄の停止時から大当たりが開始するまでの期間
- (5) 大当たりの終了後
- (6) 当否抽選の実行直前
- (7) 小当たり図柄の停止時から小当たりが開始するまでの期間
- (8) 小当たりの終了後

(9) 遊技状態が移行した直後

(10) 保留が生じた直後

尚、上記(1)のタイミングで設定値の記憶情報が正常か否かの判定を実行しないように構成した場合にも、前述したRAMチェック処理を実行しているため設定値の記憶情報のみを確認しなくともよく、使用する容量を削減できることとなる。

【0789】

(第11実施形態)

次に、第8実施形態における、設定値に応じて主遊技図柄の当選確率を変更する場合の変更例を説明する。本変更例においては、高確率状態(確率変動遊技状態)における当選確率をベースとして2段階抽選を実施する点で第8実施形態と大きく異なる。以下では、図面を参照しつつ、本変更例について説明する。

【0790】

図150は、本変更例に係る乱数取得処理のフローチャート、図150(a)は、本抽選処理における第1抽選処理用に設けられた判定テーブル、図150(b)は、本抽選処理における第2抽選処理用に設けられた判定テーブルである。なお、図150(a)においては設定値毎に抽選用の判定値が設定されているが、図150(b)においては全設定値共通の抽選用の判定値を設けている点に特徴がある。

【0791】

まず、図150を用いて、本変更例に係る乱数取得処理のフローチャートを説明する。本変形例においても本実施形態の図7におけるフローチャートと同様の流れで処理が進むため、主要な相違点である、本実施形態の図7におけるステップ1300のサブルーチンに係る、主遊技内容決定乱数取得処理のうち、第1主遊技始動口に関するフローチャート部分を説明する。

【0792】

本変形例においては、ステップ1302で、主制御基板MのCPUMCは、第1主遊技始動口A10の第1主遊技始動口入球検出装置A11sから第1主遊技始動口入球情報を受信したか否かを判定する。ステップ1302でYesの場合、ステップ1303で、主制御基板MのCPUMCは、第1主遊技始動口A10に入球した旨に関するコマンドである第1主遊技始動口入球コマンドをサブメイン制御部SMへ送信するためのコマンド送信用バッファMT10にセット(ステップ1999の制御コマンド送信処理によってサブメイン制御部SM側に送信される)し、ステップ1304の処理に移行する。次に、ステップ1304で、主制御基板MのCPUMCは、主遊技(特に第1主遊技側)に関する保留球が上限(例えば4個)内であるか否かを判定する。ステップ1304でYesの場合、ステップ1306で、主制御基板MのCPUMCは、第1主遊技内容決定乱数として、第1当否抽選乱数、第2当否抽選乱数、図柄抽選乱数、及び変動態様抽選を取得する。すなわち、本変形例においては、第1主遊技内容決定乱数として、当否を決定するための当否抽選乱数は、第1当否抽選乱数及び第2当否抽選乱数の2つの乱数を取得する。なお、本実施形態と同様にこれら4つの乱数(特に第1当否決定乱数及び第2当否決定乱数)は夫々更新周期・乱数範囲の異なる乱数生成手段から生成され、本タイミングで一連的に順次取得するようになっている。

【0793】

次に、ステップ1307で、主制御基板MのCPUMCは、当該取得した乱数に基づいて先読み演出を実行するために取得した各乱数に応じた先読み処理を行う。具体的には、取得した第1当否抽選乱数、第2当否抽選乱数の夫々を別個の比較手段により比較することで、夫々の当否抽選乱数が当たりとなり得る値であるかを判定し、その結果に基づく情報を後述するステップ1310でコマンドとしてセット可能なように、また、図柄抽選乱数、及び変動態様抽選について、どのような図柄が選択されるか、或いはどのような変動態様が選択されるかを判定し、予測できる情報をステップ1310でコマンドとしてセット可能なように夫々処理している。

【0794】

次に、ステップ1308で、主制御基板MのCPUMCは、当該取得した乱数を主制御基板MのRAM領域に一時記憶（保留）する。次に、ステップ1310で、主制御基板MのCPUMCは、第1主遊技乱数が取得された旨の情報（保留発生コマンド）を、サブメイン制御部SMへ送信するためのコマンド送信用バッファMT10にセット（ステップ1999の制御コマンド送信処理によってサブメイン制御部SM側に送信される）する。なお、図150においては、第1主遊技始動口に関する処理ルーチンと同様であるため、第2主遊技始動口に関する処理ルーチンの説明を省略している点を付言しておく。

【0795】

次に、変動開始条件が成立した際の処理について、図150のテーブルを参照しつつ説明する。ここで、全体の処理の流れについてはステップ1410-1に関する点を除き、本実施形態（図25参照）におけるステップ1403～ステップ1500と同様であるため説明を省略する。

【0796】

本変更例においても、本実施形態と同様にステップ1403で、変動開始条件が充足すると、ステップ1405及びステップ1406で、主制御基板MのRAM領域に一時記憶されている、今回の図柄変動に係る第1主遊技内容決定乱数を読み出すと共に、当該RAM領域から削除し、当該一時記憶されている残りの保留情報をシフトする（保留消化処理）。

【0797】

その後、ステップ1410-1で、主制御基板MのCPUMCは、まず、図150に示す第1当否抽選乱数判定テーブルを参照して、第1当否抽選乱数が当たりとなるか否かを判定する。次に、現在の遊技状態が通常遊技状態（低確率状態）か、高確率遊技状態かを確認し、高確率状態である場合には、第2当否抽選乱数を判定することなく当たりであると判定する。一方、現在の遊技状態が手通常遊技状態（低確率状態）である場合で、且つ、第1当否抽選乱数が当たりとなっている場合には、更に、図150に示す第2当否抽選乱数判定テーブルを参照して、第2当否抽選乱数が当たりとなっているか否かを判定する。

【0798】

ここで、本変更例においては、第1当否抽選乱数のテーブルは、設定1では2050／65536（1／31.969）、設定2では2100／65536（1／31.208）、設定3では2150／65536（1／30.482）となっており、第1当否抽選乱数のテーブルは、全設定共通で1／2.5となっている。つまり、本変形例において、通常遊技状態（非確率変動遊技状態）における当たり（大当たり）確率は、設定1で1／79.92、設定2で1／78.02、設定3で1／76.20となり、高確率遊技状態（確率変動遊技状態）における当たり（大当たり）確率は、設定1で1／31.969、設定2で1／31.208、設定3で1／30.482となる。したがって、本変形例においては、通常遊技状態と高確率遊技状態との確率変更比率は、全設定値において、共通の2.5倍となる。尚、同一の設定値における、非確率変動遊技状態における大当たり確率と確率変動遊技状態における大当たり確率との大当たり確率の倍率を設定変更比率と称している。

【0799】

以上のように、本変更例のように2つの当否抽選乱数を採用することにより、所定範囲の乱数値を用いて当否の決定を行う前提で通常時（非確率変動遊技状態時）の当たり確率を細かく設定した場合であっても、高確率時（確率変動遊技状態時）との当選比率を各設定で完全に同一とすることができるという効果を得ることができる。

【0800】

なお、本変更例においては、現在の遊技状態が高確率遊技状態である場合には、第2当否抽選乱数を判定することなく第1主遊技で「当たり」となる旨の決定を行っているが、高確率遊技状態であっても第2当否抽選乱数を1／1とし、第2当否抽選が必ず「当たり」となるように設定した上で、第2当否抽選を実行することも可能である。このように構成することで、遊技状態によって置数が異なる条件のもとで双方の抽選処理を共通して実行することになるため、遊技状態に関わらず、処理速度の均一化を図ることができる。

10

20

30

40

50

【0801】

(第11実施形態からの変形例)

また、第11実施形態においては、高確率状態（確率変動遊技状態）における当選確率をベースとして2段階抽選を実施していたが、2段階目の抽選（第2当否抽選乱数の判定処理）については、本実施形態のように遊技状態毎に1つずつの判定テーブル（1の低確率用の当否抽選テーブルと1の高確率用の当否抽選テーブル）を備えておき、1段階目の抽選（第1当否抽選乱数の判定処理）について、設定値毎に異なる判定テーブルを用いて抽選を行うことも可能である。

【0802】

具体的には、第11実施形態における、主遊技内容決定乱数の取得処理にて、当否を決定するための当否抽選乱数のうち第1当否抽選乱数を図151のように設定値毎に異なる抽選確率テーブルとの比較用の乱数とし、第2当否抽選乱数は図151のように遊技状態別に設けられ、各設定値共通の抽選確率テーブル（非確率変動遊技状態用と確率変動遊技状態用の1つずつ）との比較用の乱数としてそれぞれ取得する。なお、取得した乱数に関する先読み判定等については、第11実施形態と同様である。

10

【0803】

次に、変動開始条件が成立した際の処理〔第11実施形態（必要であれば本実施形態も参照）におけるステップ1403で、変動開始条件が充足した後の処理〕について説明する。ステップ1405及びステップ1406で、主制御基板MのRAM領域に一時記憶されている、今回の図柄変動に係る第1主遊技内容決定乱数を読み出すと共に、当該RAM領域から削除し、当該一時記憶されている残りの保留情報をシフトする（保留消化処理）。

20

【0804】

その後、ステップ1410-1で、主制御基板MのCPUMCは、まず、図151に示す設定値に応じた第1当否抽選乱数判定テーブルを参照して、第1当否抽選乱数が当りであるか否かを判定する。次に、現在の遊技状態が通常遊技状態（非確率変動遊技状態）か、高確率遊技状態かを確認し、高確率状態である場合には、高確率状態用の第2当否抽選乱数判定テーブルを用いて第2当否抽選乱数を判定し、通常遊技状態（低確率状態）である場合には低確率状態用の第2当否抽選乱数判定テーブルを参照して、第2当否抽選乱数が当りとなっているか否かを判定する。そしていずれの乱数も当りである場合に、今回の図柄変動で大当たりが発生するようにフラグ等の設定を行う。なお、一方の当否抽選で外れとなった場合には第11実施例と同様に、他方の処理を省略することも可能である。

30

【0805】

ここで、本変更例においては、第1当否抽選乱数のテーブルは、設定1では98/100、設定2では99/100、設定3では100/100となっており、第2当否抽選乱数の当否抽選乱数判定テーブルのうち、低確率状態用のテーブルは全設定共通で210/65536（1/318.4）、高確率状態用のテーブルは全設定共通で1001/65536（1/65.5）、となっている。つまり、本変更例において、通常遊技状態（非確率変動遊技状態）における当り（大当り）確率は、設定1では1/318.4、設定2で1/315.2、設定3で1/312.0となり、高確率遊技状態における当り（大当り）確率は、設定1で1/66.8、設定2で1/66.1、設定3で1/65.5となる。したがって、本変更例においては、通常遊技状態（低確率状態）と高確率遊技状態との確率変更比率は、全設定値において、共通の1001/210倍（4.766・・・倍）となる。すなわち、本実施例においては、通常遊技状態（低確率状態）と高確率状態との当選確率の比率は低確率用の第2当否抽選乱数判定テーブルと高確率用の第2当否抽選乱数判定テーブルの比となる。このため、その比率を一樣に設定することが極めて容易であり、特に本実施例のように、高確率時の当否抽選テーブルの当り乱数の個数を素（本実施例においては、1001個）とした場合でも、設定毎の確率比率を同一とすることができる。（この点は、第11実施形態と同様である）。

40

【0806】

なお、本変更例においては、最終的に大当たりとなるか否かは第2当否抽選乱数のパラメ

50

一々に大きく依存するため、本パラメータに関する情報のみに基づいて先読み演出の実行を判定することも好適である。詳述すると、本実施例における実当選確率（最終的に大当たりとなる確率）は、第1当否抽選乱数の当選確率と、第2当否抽選乱数の当選確率との合算により算出されるものの、第1当否抽選乱数の当選確率が非常に高く（設定1でも98/100）設定されているため、第2当否抽選乱数の当否結果に大きく依存することになる。したがって、大当たりの期待度を示すための情報を生成する先読み判定処理においては、第2当否抽選乱数のパラメータが重要となる。

【0807】

このようなことから、実際の先読み演出の実行判定（例えば本実施形態における副制御基板の先読み処理等）では、その演出の実行可否や内容決定のプロセスにおいて、第2当否抽選乱数の当否結果に基づいて生成される情報の依存度を高く設定することが好ましい。（無論、本変更例のように第1当否抽選乱数の当選確率が極めて高い場合には、第2当否抽選乱数の当否結果に基づく情報のみに基づいて先読み判定時の当否予測を行ってもよい。）

【0808】

具体的には、本変更例並びに第11実施形態のように複数の乱数を用いて段階的に当否判定を行う場合には、先読み演出の決定（先読み演出の実行可否や先読み判定処理等を含む）に際して当選確率の低い方（第11実施形態であれば第1当否抽選乱数の判定結果、本変更例であれば第2当否抽選乱数の判定結果）の情報の依存度を高くすることが好ましく、これにより適切に先読演出による当り示唆の機能を果たせることとなる。

【0809】

<第12実施形態>

前述した第2実施形態においては、特別遊技の終了後に確率変動遊技状態に移行した場合に主遊技図柄の変動回数によって確率変動遊技状態が終了する（ST機とも称することがある）よう構成した。ここで、第2実施形態のように確率変動遊技状態が主遊技図柄の変動回数によって終了し得る構成に、第8実施形態にて詳述したような設定値を複数有する構成を適用した場合、確率変動遊技状態が終了するまでに大当たりに当選する確率（連荘する確率とも称することがある）が設定値によって相違してしまい、遊技者にとって有利な状態が遊技機毎に平等ではなくなってしまうおそれが生じる。ここで、そのような問題を解決可能な構成を第12実施形態として、以下第2実施形態との相違点についてのみ詳述する。

【0810】

はじめに、図152は、第12実施形態における、第1主遊技用当否抽選テーブル（第2主遊技用当否抽選テーブル）の一例である。尚、第1主遊技用図柄決定用抽選テーブル（第2主遊技用図柄決定用抽選テーブル）、第1主遊技変動態様決定用抽選テーブル（第2主遊技変動態様決定用抽選テーブル）については、図141と同様となっているため説明は割愛する。

【0811】

第1主遊技用当否抽選テーブル（第2主遊技用当否抽選テーブル）における非確率変動遊技状態にて参照するテーブルでは、遊技者に付与される利益率が低いものから順に、設定1、設定2、設定3の順番となっている。より具体的には、非確率変動遊技状態での設定1の当り（大当たり）当選確率が、約1/320に設定されており、非確率変動遊技状態での設定2の当り（大当たり）当選確率が、約1/318に設定されており、非確率変動遊技状態での設定3の当り（大当たり）当選確率が、約1/317に設定されている。一方、第1主遊技用当否抽選テーブル（第2主遊技用当否抽選テーブル）における非確率変動遊技状態にて参照するテーブルでは、いずれの設定値においても当り（大当たり）当選確率が同一となるよう構成されている。より具体的には、設定1、設定2及び設定3のすべての設定値において、当り（大当たり）当選確率が、約1/159に設定されている。

【0812】

尚、図65にて示すように、第12実施形態形態においては、大当たり終了後には、当該

大当りに係る大当り図柄に拘わらず確率変動遊技状態に移行するよう構成されており、確変回数カウンタMP51cに80回がセットされる、換言すると、確変回数は80回となっている。また、確率変動遊技状態における大当り確率は $412/65536$ であるため、確変回数である80回の主遊技図柄の変動のいずれかで大当りに当選できる確率（連荘確率とも称することがある）は、

$$\{1 - (1 - 412/65536)^{80}\} \times 100 \quad 39.62 (\%)$$

であり、設定値が相違しても同一の連荘確率となっている。

【0813】

また、非確率変動遊技状態における大当り確率と確率変動遊技状態における大当り確率との大当り確率の倍率は、

<設定1>

$$(412/65536) \div (205/65536) \quad 2.01$$

<設定2>

$$(412/65536) \div (206/65536) \quad 2.00$$

<設定3>

$$(412/65536) \div (2077/65536) \quad 1.99$$

となっており、

倍率が最も大きい設定値である設定1と倍率が最も小さい設定値である設定3とを比較した場合、

$2.01 \div 1.99 \times 100 \quad 101 (\%)$ となっている（当該101%の値を大当り比率の設定差と称することがある）。

尚、大当り比率の設定差を変更してもよく、還元すると、非確率変動遊技状態における大当り確率を設定値毎に変更してもよく、そのような場合には、著しい射幸性を有する遊技機としないために前記大当り比率の設定差が110（%）以内となるよう構成することが好適である。

【0814】

以上のように構成することにより、第12実施形態形態のばちんこ遊技機においては、設定値として設定1、設定2、設定3の3つの設定値を有しており、非確率変動遊技状態においては、設定値が相違することにより大当り確率が相違し得るよう構成することにより、遊技者に現在の設定値はどの程度有利な設定値であるかを推測しながら遊技を進行するという斬新な興趣性を教授できると共に、確率変動遊技状態における大当り確率を設定値が相違しても同一の大当り確率となるよう設定することにより、特別遊技の終了後に確率変動遊技状態に移行した場合に主遊技図柄の変動回数によって確率変動遊技状態が終了する（ST機とも称することがある）よう構成された遊技機において、確率変動遊技状態における連荘確率が設定値によって相違してしまう事態を防止することができ、遊技者にとって有利な状態である確率変動遊技状態にて提供する利益率が遊技する遊技機によって相違することがない、ユーザーフレンドリーな遊技機を創出することができる。

【0815】

尚、第12実施形態形態においては、確率変動遊技状態における大当り確率が設定値によって相違しないよう構成したが、これには限定されず、確率変動遊技状態における大当り確率が設定値によって相違し得るよう構成してもよい。そのように構成する場合には、遊技者にとって有利な確率変動遊技状態の利益率を設定値によって乖離させすぎないように（確率変動遊技状態＝有利な状態であると遊技者が認識できるように）、確率変動遊技状態の大当り確率が最も高くなる設定値における大当り確率（例えば、設定3） $\div$ 確率変動遊技状態の大当り確率が最も低くなる設定値における大当り確率（例えば、設定1） $\times 100 \leq 105 (\%)$ となるよう構成することが好適である。

【0816】

（第12実施形態の変更例）

尚、第12実施形態と同様に、確率変動遊技状態における大当り当選確率が設定値毎に相違しないような構成を、以下の構成に適用してもよい。

(1) 第2主遊技側に小当りを有している

(2) 第2主遊技側の変動時間の平均値は、確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態である場合には相対的に短時間（例えば、1秒）となり、確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態以外である場合には相対的に長時間（例えば、300秒）となる

(3) 第2主遊技側の小当たり当選確率はほぼ1/1

(4) 確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態にて大当りに当選すると、大当たり終了後に確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態以外の遊技状態に移行し得る

(5) 確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態が遊技者にとって最も有利な遊技状態である

上記のように構成した場合に、設定値が高い程（例えば、設定1よりも設定3の方が）確率変動遊技状態における大当たり確率が高くなるよう構成した場合には、確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態が終了するのが早い（終了するまでに実行できる図柄変動回数の平均値が少ない）ようになってしまう。このような理由から、上記のような構成とした場合に、確率変動遊技状態における大当たり当選確率が設定値毎に相違しないよう構成することで、遊技者にとって有利な確率変動遊技状態の期待値が設定毎に相違し難い公正な遊技機を構成することができる。

【0817】

（第13実施形態）

＜試験端子の概要＞

ここで、本実施例に係る試験端子および、試験端子から出力する情報について、補足的に説明する。本実施例においては、市場（遊技店）に供給する遊技機には搭載しないものの、様々な出玉試験等を容易に行うために、試験時に限り、コネクタ及び、試験端子の出力専用のバッファICやラッチIC等を搭載する（専用ICがない場合には、コネクタのみを搭載する）ことで、遊技機の各種情報を出力可能に構成されている。具体的には、図124（b）に示したように主制御基板の中央上部に試験端子TSの搭載領域が形成され、試験時に、当該領域の対応したランド（制御回路と電氣的に接続されている回路パターン）に対応するように、1又は複数のバッファICやラッチIC（例えば74HC244や74HC541）及び接続コネクタを搭載（半田付）することにより、試験端子TSから所定の遊技情報が出力可能となる。

【0818】

＜試験端子出力情報＞

次に、上述した試験端子から出力される情報について簡単に説明する。前述したとおり試験端子は出玉試験等を容易に行うことを目的としているため、出玉の獲得状況や遊技の進行状況を把握するための情報をなるべくリアルタイムに出力できるように構成されている。本実施例においては、遊技に関して主制御基板Mに入力される信号である「アウト球カウント」「タッチ状態」「普通図柄作動ゲート」「第1主遊技始動口」「第2主遊技始動口」「普通入賞口」「第1大入賞口入賞」「第2大入賞口入賞」が出力され、異常に関する信号として「断線短絡電源異常検知信号」「扉開放信号」「磁気検知信号」「電波検知信号」「衝撃検知信号」が出力され、また、遊技機の状態に関する信号として「条件装置作動中」「役物連続作動装置作動中」「第1主遊技図柄当り」「第1主遊技図柄変動中」「第2主遊技図柄当り」「第2主遊技図柄変動中」「第1主遊技高確率状態」「第1主遊技変動時間短縮状態」「第2主遊技高確率状態」「第2主遊技変動時間短縮状態」「補助遊技図柄高確率状態」「補助遊技図柄変動時間短縮状態」「補助遊技開放延長状態」「特別電動役物作動中」「第1大入賞口ソレノイド駆動中」「第2大入賞口ソレノイド駆動中」「補助遊技図柄当り」「補助遊技図柄変動中」「普通電動役物作動中」「遊技機エラー状態」が出力され、その他図柄に関する情報として「主遊技図柄の図柄データ」「補助遊技図柄の図柄データ」が出力される。また、設定装置（設定変更ボタン、設定キースイッチ等が設けられた設定値の表示及び設定変更に関する装置）を搭載している場合には、設定装置の作動状態（例えば、設定変更モード中であるか、設定表示モード中であるか）及び、設定値の情報も出力され、入球状態表示装置J10を搭載している場合には、当該表

10

20

30

40

50

示装置に表示される情報についても出力されている。

【0819】

＜試験端子出力情報の出力処理＞

本実施例においては、試験用の情報という観点から、多岐に亘る情報を出力しているのであるが、以下ではこれらの情報の出力タイミングについて、図153を用いて簡単に説明する。なお、図153は説明を簡素化するために部分的な入出力についてのみ記載している。

【0820】

＜遊技に関して主制御基板Mに入力される信号及び異常に関する信号＞

これらの入力信号については、CPUMCの処理と別に主制御基板Mに入力される信号を直接分配して試験端子用のバッファICを介して出力している。第1主遊技始動口のセンサ入力を例示すると、図153に示すように、主制御基板Mに入力された始動口センサの信号は、入力回路によりロジック回路のレベルの信号に変換され、入力バッファに入力される。CPUMCにおける入力のタイミング（割り込み処理における入賞判定処理）となるとCPUMCは、該当する入力ポートを指定することにより入力バッファを開放して、入力回路とデータバスとが接続されることで信号レベルを所定の記憶領域に記憶する。ここで、入力回路と入力バッファとを接続する信号線は、試験端子用バッファを介して試験端子TSにも接続されている。これにより、遊技に関して主制御基板Mに入力される信号は、CPUMCの処理状況に関わらず、リアルタイムに試験端子TSから出力されることになる。換言すると、例えば、主制御基板MのCPUMCが設定変更処理や入球状態表示装置に係る処理を行っているか否かに関わらず、遊技に関して主制御基板Mに入力される信号は試験端子TSから出力されるようになっている。

【0821】

＜遊技機の状態に関する信号1＞

CPUMCの処理により、遊技機の各種出力装置に対して出力する信号として出力IC（一般的にはラッチIC）を介して出力ドライバに出力している遊技機の状態に関する信号（便宜上遊技機の状態に関する信号1と称する。）に対応する試験端子用の信号は、出力ICと出力ドライバとを接続する信号線から分配して試験端子用のバッファICを介して出力するようになっている。第1大入賞口ソレノイドを例示すると、図153に示すように、主制御基板Mから出力される第1大入賞口ソレノイドの駆動信号は、CPUMCにおける出力のタイミング（割り込み処理におけるソレノイド出力処理）となるとCPUMCは、該当する出力ポート（図153では第1出力IC）に対応するアドレスを指定することにより駆動用のデータとして出力されているデータバス信号を出力ICにラッチさせ、出力ICから信号を出力ドライバに向けて出力させることにより、第1大入賞口ソレノイドに駆動信号を供給する。ここで、出力ICと出力ドライバとを接続する信号線は、試験端子用バッファを介して試験端子TSにも接続されている。これにより、遊技に関して主制御基板Mから出力される信号は、CPUMCの出力処理に応じて、リアルタイムに試験端子TSから出力されることになる。換言すると、例えば、主制御基板MのCPUMCが設定変更処理を行っている場合には、大当り等の処理が実行されることがないため、遊技関連の出力（第1大入賞口ソレノイド）は駆動を示す信号が出力されることがない。一方、入球状態表示装置に係る処理を行っている場合であっても、遊技機の作動は継続しているため、遊技機の状態に応じてこれらの信号が出力されることになる。

【0822】

＜遊技機の状態に関する信号2及びその他図柄に関する情報＞

また、遊技機の状態に関する信号のうち、「第1主遊技図柄当り」「第1主遊技図柄変動中」等、出力装置を直接作動させるものと異なる信号（便宜上、遊技機の状態に関する信号2と称する。）及び、その他図柄に関する情報については、CPUMCが試験端子に出力するための専用プログラムを用い、専用の出力IC及び試験端子用バッファを介して試験端子に出力するように構成されている。第1主遊技図柄変動中の信号を例示すると、第1主遊技図柄の変動中である場合には、CPUMCは、所定の試験信号出力処理におい

て、図153に示す第2出力ICに対応するアドレスを指定することにより試験信号用のデータとして出力されているデータバス信号を第2出力ICにラッチさせ、第2出力ICから信号を試験端子用バッファに向けて出力させることにより、試験端子TSから第1主遊技図柄変動中を示す信号が出力されることになる。換言すると、例えば、主制御基板MのCPUMCが設定変更処理を行っている場合に、所定の試験信号出力処理が行われない仕様であれば、第1主遊技図柄変動中を示す信号が出力されることがない。（そもそも、本実施例においては設定変更中に第1主遊技図柄変動中となることがないため、当該処理を実行するか否かで影響はない）、一方、入球状態表示装置に係る処理を行っている場合であっても、遊技機の作動は継続しているため、遊技機の状態に応じてこれらの信号が出力されることになる。

10

【0823】

<設定装置の作動状態を示す情報>

設定装置の作動状態のうち、設定変更モード中であるか、設定表示モード中であるかについては、CPUMCが試験端子に出力するための専用プログラムを用い、専用の出力IC及び試験端子用バッファを介して試験端子に出力するように構成されている。設定変更モード中の信号を例示すると、設定変更モード中である場合には、CPUMCは、設定変更モード中の出力処理又は、所定の試験信号出力処理において、図153に示す第2出力ICに対応するアドレスを指定することにより試験信号用のデータとして出力されているデータバス信号を第2出力ICにラッチさせ、第2出力ICから信号を試験端子用バッファに向けて出力させることにより、試験端子TSから設定変更モード中を示す信号が出力されることになる。なお、本実施例のうち、LEDで設定値情報表示装置を構成している場合には、定値がどの値かを明示するために端子数を増加させる等の処理を試験端子の入力先で行うことで「遊技機の状態に関する信号1」と同様に、当該情報を出力している信号をそのまま試験端子TSに分割供給することも可能である。

20

【0824】

<入球状態表示装置の表示内容を示す情報>

入球状態表示装置の表示内容を示す情報については、設定装置の作動状態を示す情報と同様にCPUMCが試験端子に出力するための専用プログラムを用い、専用の出力IC及び試験端子用バッファを介して試験端子に出力するように構成されている。CPUMCは、所定の試験信号出力処理において、図153に示す第2出力ICに対応するアドレスを指定することにより試験信号用のデータとして出力されているデータバス信号を第2出力ICにラッチさせ、第2出力ICから信号を試験端子用バッファに向けて出力させることにより、試験端子TSから入球状態表示装置の表示内容を示す信号が出力されることになる。したがって、例えば、主制御基板MのCPUMCが設定変更処理を行っている場合に、所定の試験信号出力処理が行われない仕様であれば入球状態表示装置の表示内容を示す信号が出力されることがない。（そもそも、本実施例においては設定変更中に入球状態表示装置の表示を行うことがないため、当該処理を実行するか否かで影響はない）。

30

【0825】

（第14実施形態）

<<メモリマップの構成>>

次に、図154を参照して、本例に係るぱちんこ遊技機（特に第5実施形態）に適用可能な主制御基板MのRAMにおけるメモリマップの一部の構成について、第14実施形態として詳述する。同図に示す領域には、上位アドレスから、（1）「設定値データ」：設定値に関する情報（設定値を管理するための番号のデータ等）を格納するための領域、（2）「外部信号系データ」：外部信号出力に係る情報を格納するための領域、（3）「RAMチェックサムデータ」：電源投入時に実行するチェックサム算出処理にて使用するデータであって、電源断時にRAMに記憶されているデータから算出されたデータを記憶し、電源投入時に実行するチェックサム算出処理にて特定の値（例えば「0」）を算出させる為の情報を格納するための領域、（4）「制御コマンドバッファ」：副制御基板側に送信するためのコマンド情報を格納するための領域、（5）「スタックポインター時保

40

50

存バッファ」：電源断復帰時に使用する情報であって、電源断時に現在のスタックポインタに記憶されているデータを記憶し、電源断復帰時にスタックポインタに記憶する情報を格納するための領域、(6)「未使用領域」：遊技に使用されない領域を格納するための領域、(7)「退避データ1～退避データ8」：CALL命令、PUSH命令などにより、退避されるデータが設計上最大に書き込まれる可能性があるRAM、の順に領域が使用されている。このように構成した場合において、設計上スタックポインタが示す最上位アドレスは「7FF8H」となっているが、想定しない不具合（予期しない電断など）が発生した場合には、「7FF8H」よりも上位のアドレスをスタックポインタが示してしまう事態が生じる可能性がある。その場合、予め退避されるデータの領域として確保していた「退避データ1～退避データ8」の領域を超えて、退避データが記憶されてしまう可能性がある。そのような事態を考慮して、前記想定しない不具合が発生した場合にスタックポインタが示してしまう恐れのあるアドレス（「7FF8H」に近いアドレス）には遊技の進行に影響がないデータ（影響が少ないデータ）を格納するよう構成することが好適である。具体的には、予め退避されるデータの領域として確保していた「退避データ1～退避データ8」から少なくとも1アドレス空けたアドレスに、「設定値データ」を記憶するアドレスを設けることにより、遊技者だけでなく遊技場に対しても不利益を与えない遊技機を提供することができる。尚、同図においては、(5)「スタックポインター時保存バッファ」は、電源断復帰後に遊技が進行している状況においては使用することのないデータであり、(4)「制御コマンドバッファ」においては、副制御基板S側にコマンドを送信できなくなっても遊技の進行には影響が生じにくく、(3)「RAMチェックサムデータ」は、電源断復帰後に遊技が進行している状況においては使用することのないデータであり、(2)「外部信号系データ」は、ホールコンピュータに送信するためのデータであるため、遊技の進行には影響の少ないデータである。一方、(1)「設定値データ」は遊技の結果に影響のある設定値に関する情報であり、例えば、ゼロクリアされてしまった場合には当否抽選が正常に実行されない等の遊技者に著しい不利益が生じてしまう。以上の通り、(1)「設定値データ」は、遊技の正常な進行にとって重要なデータとなっている。このような理由から、同図における(1)～(7)では、(1)「設定値データ」が最も上位のデータ（上位アドレスに記憶されるデータ）となっている。換言すると、(1)「設定値データ」と(7)「退避データ1～退避データ8」との間のアドレスには、(2)「外部信号系データ」、(3)「RAMチェックサムデータ」、(4)「制御コマンドバッファ」、(5)「スタックポインター時保存バッファ」、(6)「未使用領域」、が格納されている。尚、(2)「外部信号系データ」、(3)「RAMチェックサムデータ」、(4)「制御コマンドバッファ」、(5)「スタックポインター時保存バッファ」、(6)「未使用領域」の5つのデータを格納するアドレスの順序は変更しても問題なく、例えば、上位アドレスから「(3)→(2)→(4)→(5)→(6)」の順に格納してもよいし、上位アドレスから「(6)→(5)→(3)→(2)→(4)」の順に格納してもよい。また、(6)「未使用領域」を設けないよう構成してもよい。

【0826】

尚、図154に示す「設定値データ」を格納するための領域、換言すると、図154における(1)の領域には、以下のデータを格納し得るよう構成してもよい。

(A) 総得点データ：総得点を示すデータ

(B) ラウンド実行中における大入賞口への入球数カウンタ：ラウンドが終了することとなる条件（入球数）を充足したか否かを判定するためのカウンタ

(C) 遊技状態に関するデータ：現在の遊技状態を示すデータ

尚、上記(A)～(C)と「設定値データ」とを複数格納し得る（異なるアドレスに格納する）よう構成してもよいし、いずれか1つのみ格納し得るよう構成してもよい。また、複数格納し得るよう構成する場合には、当該複数のデータのいずれもが、図154における(2)～(7)の領域よりも上位のアドレスに格納（格納するための領域を設ける）するよう構成することが好適である。そのように構成することにより、遊技者や遊技場に対して不利益を与えない遊技機を提供することができる。さらにまた、少なくとも(6)の

領域よりも上位のアドレスであれば、設計上スタックポインタが示す最上位アドレスは「7 F F 8 H」となっているが、想定しない不具合（予期しない電断など）が発生した場合に「7 F F 8 H」よりも上位のアドレスをスタックポインタが示してしまう事態が生じる可能性があるが、遊技者や遊技場に対して不利益を与えない遊技機を提供することができる。

【0827】

（第15実施形態）

尚、上述した実施形態においては、確率変動遊技状態の終了条件として、大当りの当選によって終了する場合と、大当り終了後の主遊技図柄の変動回数によって終了する場合とを例示したが、本例に係る遊技機に適用可能な確率変動遊技状態の終了条件は、上述した構成には限定されない。そこで、上述した構成とは異なる確率変動遊技状態の終了条件を有する構成を、第15実施形態として、以下、本実施形態との相違点についてのみ詳述する。

【0828】

はじめに、図155は、第15実施形態における、図24のステップ1400（1）、（2）のサブルーチンに係る、第1（第2）主遊技図柄表示処理のフローチャートである。本実施形態との相違点は、ステップ1448-1（第15）～ステップ1448-4（第15）であり、即ち、ステップ1406で保留消化を実行した後、ステップ1448-1（第15）で、主制御基板MのCPUMCは、主遊技確変フラグがオンであるか否かを判定する。ステップ1448-1（第15）でYesの場合、ステップ1448-2（第15）で、主制御基板MのCPUMCは、所定確率（例えば、1／50）で当選する確変転落抽選（確率変動遊技状態が終了するか否かの抽選）を実行する。次に、ステップ1448-3（第15）で、主制御基板MのCPUMCは、確変転落抽選に当選したか否かを判定する。ステップ1448-3（第15）でYesの場合、ステップ1448-4（第15）で、主制御基板MのCPUMCは、主遊技確変フラグをオフにし、ステップ1410-1に移行する。尚、ステップ1448-1（第15）又はステップ1448-3（第15）でNoの場合にも、ステップ1410-1に移行する。

【0829】

以上のように構成することにより、第15実施形態に係る遊技機においては、本実施形態と同様に大当り終了後に確率変動遊技状態に移行した場合には、主遊技図柄の変動回数によって当該確率変動遊技状態が終了しないよう構成されている状況下、確率変動遊技状態にて実行される主遊技図柄の変動毎（当否抽選実行直前のタイミング）に確変転落抽選を実行し、当該確変転落抽選に当選した場合には、確率変動遊技状態が終了する（確率変動遊技状態から非確率変動遊技状態に移行する）よう構成することによって、遊技者はいつ確率変動遊技状態が終了するのかに注目し、確率変動遊技状態における主遊技図柄の図柄変動の興趣性を向上させることができる。

【0830】

（第15実施形態からの変更例1）

尚、第15実施形態においては、確率変動遊技状態の終了条件として、確変転落抽選を実行可能に構成した遊技機を例示したが、確変転落抽選の態様は第15実施形態のものには限定されない。そこで、第15実施形態とは異なる確変転落抽選を実行可能な遊技機の構成を、第15実施形態からの変更例1として、以下、第15実施形態との変更点についてのみ詳述する。

【0831】

はじめに、図156は、第15実施形態からの変更例1における、図24のステップ1400（1）、（2）のサブルーチンに係る、第1（第2）主遊技図柄表示処理のフローチャートである。第15実施形態との変更点は、ステップ1448-5（第15変1）及びステップ1448-6（第15変1）であり、即ち、ステップ1448-1（第15）で主遊技確変フラグがオンであると判定した場合、ステップ1448-5（第15変1）で、主制御基板MのCPUMCは、現在の設定値を確認する（第15実施形態においては

10

20

30

40

50

、第 6 実施形態等で前述した設定値を有しており、設定 1～設定 3 の 3 種類の設定値のいずれかが設定されている）。次に、ステップ 1 4 4 8 - 6（第 1 5 変 1）で、主制御基板 M の CPU MC は、設定値に基づいた確率にて確変転落抽選を実行し、ステップ 1 4 4 8 - 3（第 1 5）に移行する。尚、第 1 5 実施形態からの変更例 1 においては、確変転落抽選の当選確率が設定値によって相違するよう構成されており、確変転落抽選の当選確率は、設定 1：1／109、設定 2：1／104、設定 3：1／99となっている。

【0832】

次に、図 1 5 7 は、主遊技側のテーブル構成図（主遊技テーブル 1～主遊技テーブル 3）である。第 1 5 実施形態からの変更点は、主遊技テーブル 1 である当否抽選用テーブルであり、第 1 主遊技側と第 2 主遊技側とのいずれにおいても、設定されている設定値によって大当たり当選確率が相違し得るよう構成されている。具体的には、非確率変動遊技状態の当選確率は、設定 1：200／65536、設定 2：210／65536、設定 3：220／65536 のように設けられ、確率変動遊技状態の当選確率は、設定 1：600／65536、設定 2：630／65536、設定 3：660／65536 となるように設けられている。

【0833】

以上のように構成することにより、第 1 5 実施形態からの変更例 1 に係るぱちんこ遊技機においては、確率変動遊技状態における大当たり確率が設定値毎に相違し得るよう構成され、設定値が高い程（例えば、設定 1 よりも設定 3 の方が）確率変動遊技状態における大当たり確率が高くなるよう構成されている。一方、確変転落抽選の当選率は設定値が高い程（例えば、設定 1 よりも設定 3 の方が）高くなっており、確変転落抽選の当選率が高い方が確率変動遊技状態が早く終了し易いため、設定値が高い程、確率変動遊技状態が早く終了し易く構成されている。このように構成することにより、設定 3 等の相対的に高い設定値に設定された遊技機において、確率変動遊技状態にて大当たりで当選し易い分、確率変動遊技状態が早く終了し易くなり、遊技者にとって有利な確率変動遊技状態の期待値が設定毎に相違し難い公正な遊技機を構成することができる。

【0834】

尚、確率変動遊技状態において大当たりで当選できる期待値、換言すると、確率変動遊技状態が終了するまでに大当たりで当選できる確率をすべての設定値で同一に構成してもよく、そのように構成する場合には、

設定 1 の確率変動遊技状態における大当たり確率：1／A

設定 2 の確率変動遊技状態における大当たり確率：1／B

設定 3 の確率変動遊技状態における大当たり確率：1／C

設定 1 の確変転落抽選の当選確率：1／X

設定 2 の確変転落抽選の当選確率：1／Y

設定 3 の確変転落抽選の当選確率：1／Z

とした場合、

$$1 - \{1 - (1/X - 1)\}^A = 1 - \{1 - (1/Y - 1)\}^B = 1 - \{1 - (1/Z - 1)\}^C$$

上記のように構成することにより、確率変動遊技状態が終了するまでに大当たりで当選できる確率がすべての設定値で同一となる。

【0835】

（第 1 5 実施形態からの変更例 2）

尚、第 1 5 実施形態からの変更例 1 においては、確変転落抽選の当選確率を設定値毎に相違し得るよう構成することにより、遊技者にとって有利な確率変動遊技状態の期待値が設定毎に相違し難い遊技機を構成したが、確変転落抽選を有していない遊技機においてもこのような構成を適用可能である。そこで、そのような構成を、第 1 5 実施形態からの変更例 2 として、以下、第 1 5 実施形態からの変更例 1 との変更点についてのみ詳述する。

【0836】

はじめに、図 1 5 8 は、第 1 5 実施形態からの変更例 2 における、図 2 8 のステップ 1

650のサブルーチンに係る特別遊技終了後の遊技状態決定処理のフローチャートである。まず、ステップ1698-1(第15変2)で、主制御基板MのCPUMCは、現在の設定値を確認する。次に、ステップ1698-2(第15変2)で、主制御基板MのCPUMCは、現在の設定値が設定1であるか否かを判定する。ステップ1698-2(第15変2)でYesの場合、ステップ1698-3(第15変2)で、主制御基板MのCPUMCは、確変回数カウンタMP51cに所定回数として109回をセットする。次に、ステップ1698-4(第15変2)で、主制御基板MのCPUMCは、主遊技確変フラグをオンにする。次に、ステップ1698-5(第15変2)で、主制御基板MのCPUMCは、時短回数カウンタMP52cに所定回数として確変回数カウンタMP51cにセットした回数と同一の109回をセットし、ステップ1698-13(第15変2)に移行する。

10

【0837】

また、ステップ1698-2(第15変2)でNoの場合、ステップ1698-6(第15変2)で、主制御基板MのCPUMCは、現在の設定値が設定2であるか否かを判定する。ステップ1698-6(第15変2)でYesの場合、ステップ1698-7(第15変2)で、主制御基板MのCPUMCは、確変回数カウンタMP51cに所定回数として104回をセットする。次に、ステップ1698-8(第15変2)で、主制御基板MのCPUMCは、主遊技確変フラグをオンにする。次に、ステップ1698-9(第15変2)で、主制御基板MのCPUMCは、時短回数カウンタMP52cに所定回数として確変回数カウンタMP51cにセットした回数と同一の104回をセットし、ステップ1698-13(第15変2)に移行する。

20

【0838】

また、ステップ1698-6(第15変2)でNoの場合、換言すると、現在の設定値が設定3である場合、ステップ1698-10(第15変2)で、主制御基板MのCPUMCは、確変回数カウンタMP51cに所定回数として99回をセットする。次に、ステップ1698-11(第15変2)で、主制御基板MのCPUMCは、主遊技確変フラグをオンにする。次に、ステップ1698-12(第15変2)で、主制御基板MのCPUMCは、時短回数カウンタMP52cに所定回数として確変回数カウンタMP51cにセットした回数と同一の99回をセットし、ステップ1698-13(第15変2)に移行する。

30

【0839】

次に、ステップ1698-13(第15変2)で、主制御基板MのCPUMCは、主遊技時短フラグをオンにする。次に、ステップ1698-14(第15変2)で、主制御基板MのCPUMCは、補助遊技時短フラグをオンにして次の処理(ステップ1601の処理)に移行する。このように、第15実施形態からの変更例2においては、確変回数及び時短回数が設定値毎に相違するよう構成されており、設定3が最も少ない回数であり設定1が最も多い回数となっている。即ち、設定値が高くなる程確変回数及び時短回数が少なくなるよう構成されている。

【0840】

以上のように構成することにより、第15実施形態からの変更例2に係るぱちんこ遊技機においては、確率変動遊技状態における大当たり確率が設定値毎に相違し得るよう構成され、設定値が高い程(例えば、設定1よりも設定3の方が)確率変動遊技状態における大当たり確率が高くなるよう構成されている。一方、大当たり終了後に付与される確変回数は設定値が高い程(例えば、設定1よりも設定3の方が)少なくなっており、設定値が高い程、確率変動遊技状態が早く終了し易く構成されている。このように構成することにより、設定3等の相対的に高い設定値に設定された場合には、確率変動遊技状態にて大当たりに当選し易く確変回数が少なくなる一方、設定1等の相対的に低い設定値に設定された場合には、確率変動遊技状態にて大当たりに当選し難く確変回数が多くなり、遊技者にとって有利な確率変動遊技状態の期待値が設定毎に相違し難い公正な遊技機を構成することができる。

40

【0841】

50

尚、確率変動遊技状態において大当りに当選できる期待値、換言すると、確率変動遊技状態が終了するまでに大当りに当選できる確率をすべての設定値で同一に構成してもよく、そのように構成する場合には、

設定1の確率変動遊技状態における大当り確率： $1/A$

設定2の確率変動遊技状態における大当り確率： $1/B$

設定3の確率変動遊技状態における大当り確率： $1/C$

設定1の確変回数： X

設定2の確変回数： Y

設定3の確変回数： Z

とした場合、

$1 - \{1 - (1/X)\}^A = 1 - \{1 - (1/Y)\}^B = 1 - \{1 - (1/Z)\}^C$

上記のように構成することにより、確率変動遊技状態が終了するまでに大当りに当選できる確率がすべての設定値で同一となる。

【0842】

(第15実施形態からの変更例3)

尚、第15実施形態からの変更例2においては、大当り終了後に付与される確変回数が設定値毎に相違し得るよう構成することにより、遊技者にとって有利な確率変動遊技状態の期待値が設定毎に相違し難い遊技機を構成したが、このような構成は第15実施形態からの変更例2の構成のみには限定されない。そこで、そのような構成を、第15実施形態からの変更例3として、以下、第15実施形態からの変更例2との変更点についてのみ詳述する。

【0843】

はじめに、図159は、第15実施形態からの変更例3における、図28のステップ1650のサブルーチンに係る特別遊技終了後の遊技状態決定処理のフローチャートである。第15実施形態からの変更例2からの変更点は、ステップ1699-1(第15変3)、ステップ1699-2(第15変3)及びステップ1699-3(第15)であり、即ち、ステップ1698-1(第15変2)で現在の設定値を確認した後、ステップ1699-1(第15変3)で、主制御基板MのCPUMCは、確変時短回数決定テーブル(設定値に基づいて大当り終了後に付与する確変回数及び時短回数を決定するためのテーブル)を参照し、現在の設定値に基づいて確変回数及び時短回数を決定する。次に、ステップ1699-2(第15変3)で、主制御基板MのCPUMCは、確変回数カウンタMP51cに決定した確変回数をセットして、ステップ1698-4(第15変2)に移行する。次に、ステップ1698-4(第15変2)で主遊技確変フラグをオンにした後、ステップ1699-3(第15変3)で、主制御基板MのCPUMCは、時短回数カウンタMP52cに決定した時短回数をセットして、ステップ1698-13(第15変2)に移行する。

【0844】

ここで、同図右上段は確変時短回数決定テーブルである。本テーブルに示すように、第15実施形態からの変更例3においては、大当り終了後に付与される確変回数及び時短回数を設定値に基づいて決定するよう構成されており、確変回数及び時短回数は、100回、80回、60回の3種類の回数から抽選によって決定されるよう構成されている。また、設定値が高い程(例えば、設定1よりも設定3の方が設定値が高い)確変回数及び時短回数として少ない回数が決定され易いよう構成されている(例えば、設定1は確変回数及び時短回数として100回が400/1000で決定されることに対して、設定3は確変回数及び時短回数として100回が300/1000で決定される)。即ち、設定値が高い程、平均の確変回数及び平均の時短回数が少なくなるよう構成されている。尚、確変回数及び時短回数の選択候補の数や回数は変更しても問題ない。

【0845】

以上のように構成することにより、第15実施形態からの変更例3に係るぱちんこ遊技機においては、確率変動遊技状態における大当り確率が設定値毎に相違し得るよう構成さ

10

20

30

40

50

れ、大当たり終了後に付与される確変回数及び時短回数を複数種類の選択候補から決定するよう構成した。更に、設定値が高い程、大当たり終了後に付与される確変回数及び時短回数として相対的に少ない回数となる選択候補が選択（決定）され易いよう構成することにより、設定3等の相対的に高い設定値に設定された場合には、確率変動遊技状態にて大当たりに当選し易く確変回数が少なくなる一方、設定1等の相対的に低い設定値に設定された場合には、確率変動遊技状態にて大当たりで当選し難く確変回数が多くなり、遊技者にとって有利な確率変動遊技状態の期待値が設定毎に相違し難い公正な遊技機を構成することができる。

【0846】

（第15実施形態からの変更例4）

尚、第15実施形態からの変更例2及び第15実施形態からの変更例3においては、大当たり終了後に付与される確変回数が設定値毎に相違し得るよう構成することにより、遊技者にとって有利な確率変動遊技状態の期待値が設定毎に相違し難い遊技機を構成したが、このような構成は第15実施形態からの変更例2及び第15実施形態からの変更例3の構成のみには限定されない。そこで、そのような構成を、第15実施形態からの変更例4として、以下、第15実施形態からの変更例3との変更点についてのみ詳述する。

【0847】

はじめに、図160は、第15実施形態からの変更例4における、図28のステップ1650のサブルーチンに係る特別遊技終了後の遊技状態決定処理のフローチャートである。第15実施形態からの変更例3からの変更点は、ステップ1699-4（第15変4）であり、即ち、ステップ1698-4（第15変2）で主遊技確変フラグをオンにした後、ステップ1699-4（第15変4）で、主制御基板MのCPUMCは、時短回数カウンタMP52cに所定回数（本例では、100回）をセットし、ステップ1698-13（第15変2）に移行する。また、第15実施形態では、確変時短回数決定テーブルを参照して、大当たり終了後に付与される確変回数と時短回数とを決定するよう構成していたが、第15実施形態からの変更例4においては、確変回数決定テーブルを参照して、大当たり終了後に付与される確変回数のみを決定するよう構成している。尚、確変回数決定テーブルの内容は、前述した確変時短回数決定テーブルにおける確変回数に対応した内容と同一であるため説明は割愛する。

【0848】

以上のように構成することにより、第15実施形態からの変更例4に係るぱちんこ遊技機においては、確率変動遊技状態における大当たり確率が設定値毎に相違し得るよう構成され、大当たり終了後に付与される時短回数を所定回数（100回）に固定し、大当たり終了後に付与される確変回数を複数種類の選択候補から決定するよう構成した。また、大当たり終了後に付与される時短回数である所定回数（100回）は決定され得る確変回数の最大値以上となる、換言すると、確率変動遊技状態の終了後においても時間短縮遊技状態が継続し得るよう構成した。このように構成することにより、設定3等の相対的に高い設定値に設定された場合には、確率変動遊技状態にて大当たりで当選し易く確変回数が少なくなる一方、設定1等の相対的に低い設定値に設定された場合には、確率変動遊技状態にて大当たりで当選し難く確変回数が多くなり、遊技者にとって有利な確率変動遊技状態の期待値が設定毎に相違し難い公正な遊技機を構成することができる。

【0849】

尚、第15実施形態からの変更例4においては、大当たり終了後に移行することとなる確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態と、確変回数分の図柄変動が終了した後に移行し得る非確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態とで、背景演出等の演出態様が同様となるよう構成し、遊技者から見て、現在の遊技状態が確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態であるか非確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態であるかが判別し難くなるよう構成してもよい。そのように構成することにより、大当たり終了後に付与された確変回数が遊技者には認識し難いため、現在の設定値がいずれであるかが判別困難となり、遊技者にとって低利益な設定値に設定されていることを認識されて遊技を終了してしまう事態を防止するこ

10

20

30

40

50

とができる。また、時間短縮遊技状態が終了するまで（本例においては大当り終了後100回の図柄変動終了まで）、確率変動遊技状態がいつまで継続しているかに期待感を抱きながら遊技を進行することができ、より興趣性の高い遊技機を提供することができる。

【0850】

尚、第15実施形態からの変更例4においては、非確率変動遊技状態での大当り確率と確率変動遊技状態での大当り確率とを設定値が相違した場合にも同一となるよう構成してもよく、そのように構成した場合に、設定値が高い程、確変回数が相対的に多い選択候補が決定され易い、換言すると、設定値が高い程、大当り終了後に付与される確変回数の平均値が多くなるよう構成することによって、高い設定値程遊技者にとって有利な遊技機を設計してもよい。

10

【0851】

また、第15実施形態からの変更例3や第15実施形態からの変更例4にて詳述した、確変回数や時短回数を複数の選択候補から設定値に基づいて決定するよう構成された遊技機において、特定の設定値（例えば、設定3）に設定されている場合にのみ選択され得る確変回数又は時短回数を設けてもよい。一例としては、第15実施形態からの変更例4において、設定1及び設定2である場合には、大当り終了後に付与される時短回数は100回のみとなる一方、設定3である場合には、大当り終了後に付与される時短回数として、100回と99回の2種類から選択される（例えば、「100回：99回＝99：1」で選択される）よう構成してもよい。このように構成することで、大当り終了後99回の図柄変動実行後に時間短縮遊技状態が終了した場合に、遊技者は現在の設定値が相対的に高い設定値である設定3であることを認識することができ、遊技意欲を向上させることができる。

20

【0852】

また、確変転落抽選の当選確率、確変回数、等を設定値毎に調整することによって、遊技者にとって有利な確率変動遊技状態の期待値が設定毎に相違し難い遊技機の構成を例示したが、上述した要素を組み合わせる調整することによって、遊技者にとって有利な確率変動遊技状態の期待値が設定毎に相違し難い遊技機を構成してもよい。具体的には、確率変動遊技状態における大当り当選確率と確変転落抽選の当選確率と大当り終了後に付与される確変回数とを適宜調整することによって、遊技者にとって有利な確率変動遊技状態の期待値が設定毎に相違し難い遊技機を構成してもよい。

30

【0853】

（第16実施形態）

尚、第4実施形態においては、小当り実行中に大入賞口内の特定の領域（V入賞口）に遊技球が入球することによって、小当り終了後に大当りが実行される構成を例示したが、このような構成は第4実施形態のみには限定されない。そこで、第4実施形態とは異なる小当り実行中に大入賞口内の特定の領域（V入賞口）に遊技球が入球することによって、小当り終了後に大当りが実行される構成を、第16実施形態として、以下、第4実施形態から相違点についてのみ詳述する。

【0854】

はじめに、図161は、第16実施形態における当否抽選用決定テーブル（主遊技テーブル1）及び図柄抽選用決定テーブル（主遊技テーブル2）である。第4実施形態との相違点は、主遊技テーブル1においては、第1主遊技側に小当りを設けていない点と、第2主遊技側の当否抽選を実行する際に設定値を参照することである。また、主遊技テーブル2における相違点は、第2主遊技側の小当り図柄が「7BK」のみとなった点である。同図に示すように、小当り当選確率は、設定1が「8200／65536」で最も低くなっており、設定3が「9200／65536」で最も高くなっている。

40

【0855】

次に、図162は、第16実施形態における、図28におけるステップ1650（第16）のサブルーチンに係る、特別遊技終了後の遊技状態決定処理のフローチャートである。まず、ステップ1682-1で、主制御基板MのCPUMCは、V入賞口C22への入

50

球を契機とした特別遊技終了後ではないか否かを判定する（第16実施形態においては、小当り遊技中にV入賞口C22へ遊技球が入球することを契機として、特別遊技が実行されるよう構成されている）。ステップ1682-1でYesの場合、ステップ1682-2で、主制御基板MのCPUMCは、停止図柄が時短大当り図柄（特別遊技の実行終了後に時間短縮遊技状態に移行する大当り図柄であり、本例では、4B・5A・5B・7A・7B）であるか否かを判定する。ステップ1682-2でYesの場合、ステップ1682-5に移行する。尚、ステップ1682-1でNoの場合にも、ステップ1682-5に移行する。

【0856】

次に、ステップ1682-5で、主制御基板MのCPUMCは、時短回数カウンタMP52cのカウンタ値に所定回数（本例では、2回）をセットする。次に、ステップ1682-6及びステップ1682-7で、主制御基板MのCPUMCは、主遊技時短フラグ及び補助遊技時短フラグをオンにし、次の処理{ステップ1700（第3）の処理}に移行する。尚、ステップ1682-2でNoの場合、換言すると、停止図柄が時短大当り図柄である4Aの場合にも、次の処理{ステップ1700（第3）の処理}に移行する。尚、第16実施形態においては、第2主遊技側の保留上限数は4個となっており、大当り終了後に時間短縮遊技状態にて第2主遊技図柄の変動を実行できる回数は、時短回数である2回+第2主遊技側の保留上限数である4回=6回となっている。また、第2主遊技側の小当り当選確率は、 $8200/65536$ （設定1）～ $9200/65536$ （設定3）となっており、6回の図柄変動にて小当りに当選できるか否かという遊技性となっている。尚、第2主遊技側の小当り図柄は「7BK」のみとなっており、「7BK」に係る小当りは小当り実行中に第2大入賞口C20に遊技球を発射し続けることにより、V入賞口C22への入球が略確定的となり、且つ、「7BK」を契機とした大当り終了後には時間短縮遊技状態に移行するため、「大当り終了後の時間短縮遊技状態にて第2主遊技側の小当りに当選 連荘」となるよう構成されている。

【0857】

以上のように構成することにより、第16実施形態に係る遊技機においては、大当り終了後の時間短縮遊技状態にて第2主遊技側の小当りに当選することで連荘が継続する遊技機に構成し、設定値が高い程、第2主遊技側の小当りの当選率が高くなるよう構成することにより、設定値が高い程、遊技者に有利となる遊技機を設計することができる。

【0858】

<<設定値によって相違させることができる要素>>

第16実施形態においては、設定値によって小当り当選確率が相違し得るよう構成したが、本例に係る遊技機は、以下の要素が設定値によって相違し得るよう構成してもよい。尚、以下に挙げる要素を1つのみ適用してもよいし、複数の要素を組み合わせ適用してもよい。

- (1) 大当り確率（大当り当選確率）
- (2) 小当り確率（小当り当選確率）
- (3) 補助遊技図柄の当選確率（普通電動役物が作動することとなる補助遊技停止図柄の選択確率）
- (4) 普通電動役物（例えば、第2主遊技始動口電動役物B11d）の開放時間（1回の開放→閉鎖までの時間でもよいし、普通電動役物が作動することとなる補助遊技図柄が1回した場合の普通電動役物の開放時間の合計でもよい）
- (5) 大当り図柄の選択態様（大当り図柄を決定するテーブルの内容、乱数振分）
- (6) 小当り図柄の選択態様（小当り図柄を決定するテーブルの内容、乱数振分）
- (7) 大当り実行時のラウンド数（1の大当りにおけるラウンド数でもよいし、すべての大当りに対するラウンド数の平均値でもよい）
- (8) 所定の入賞口の賞球数
- (9) 確変回数
- (10) 時短回数

(11) 確変転落抽選の当選確率

【0859】

また、前述したように、設定値を複数有する遊技機として構成した場合においては、遊技機前面に設定値表示装置を設ける、主制御基板Mにて制御する表示装置に設定値を表示可能に構成する等として、現在の設定値を遊技者が確認できるよう構成してもよい。そのように構成し、遊技場の管理者が設定値を告知することにより、遊技場毎に異なるスペックを遊技者が選択して遊技することができると共に、遊技場の運営に幅を持たせることができる。尚、遊技者が設定値を確認できる構成として、副制御基板Sにて制御する表示装置（例えば、演出表示装置SG）にて設定値を表示可能に構成してもよい。

【0860】

尚、本例に係る遊技機に設定値によって相違し得る要素を設けた場合において、例えば、設定値として設定1、設定2、設定3の3つの設定値を有しており、設定値によって大当たり確率が相違し得るよう構成した場合において、設定値によって相違しない要素においても、設定値毎に夫々同一の内容となるテーブルを有するよう構成してもよい。具体例としては、

(1) 大当たり図柄の抽選テーブル（例えば、主遊技テーブル2における大当たり時に参照するテーブル）として同一の内容の設定1用のテーブルと設定2用のテーブルと設定3用のテーブルとの3つを有するよう構成する。

(2) 小当たり図柄の抽選テーブル（例えば、主遊技テーブル2における小当たり時に参照するテーブル）として同一の内容の設定1用のテーブルと設定2用のテーブルと設定3用のテーブルとの3つを有するよう構成する。

(3) 同一の遊技状態且つ同一の当否抽選結果である変動時間決定用の抽選テーブル（例えば、時間短縮遊技状態且つ大当たり時に参照する変動態様決定用抽選テーブル）として同一の内容の設定1用のテーブルと設定2用のテーブルと設定3用のテーブルとの3つを有するよう構成する。

上記のように構成してもよい。また、遊技機におけるいずれかの要素が設定値によって相違し得る構成として、一部の設定値同士では同一であり他の一部の設定値同士では相違するように構成した場合にも、すべての設定値にて夫々テーブルを有するよう構成してもよい。一例としては、非確率変動遊技状態における大当たり確率が、「設定1：1／300、設定2：1／300、設定3：1／290」であるよう設計した遊技機においても、設定1用の非確率変動遊技状態における当否抽選テーブルと、設定2用の非確率変動遊技状態における当否抽選テーブルと、設定3用の非確率変動遊技状態における当否抽選テーブルと、の3つのテーブルを有するよう構成してもよい。そのように構成することにより、遊技機の設計値を調整する際等において、設定値が相違してもテーブルの内容が同一である設計から、設定値が相違するとテーブルの内容が相違し得る設計に変更する際にも、複雑な処理を構成し直す必要がなく簡便に設計することができることとなる。

【0861】

(第17実施形態)

第8実施形態に記載した設定を備える構成を変更して、以下の遊技性を有する遊技機を提供することができる。

【0862】

はじめに、図163は、第17実施形態に係るぱちんこ遊技機の正面図である。本図では、第1主遊技始動口A10と第2主遊技始動口B30とを備えた振分始動口ユニットC50が設けられている。振分始動口ユニットC50の詳細については後述するが、図示するように、振分始動口ユニットC50には、第1主遊技始動口A10と第2主遊技始動口B30とが配設されており、流下する遊技球が、第1主遊技始動口A10及び第2主遊技始動口B30のいずれか一方に誘導され易いよう構成されている（詳細については図164にて後述する）。また、遊技領域の右側を流下する遊技球は、右第2主遊技始動口B10、大入賞口C10に入球し易いよう構成されている。具体的な構成としては、右第2主遊技始動口B10は、右第2主遊技始動口入球検出装置B11sと、右第2主遊技始動

10

20

30

40

50

口電動役物 B 1 1 d と、を備える。右第 2 主遊技始動口入球検出装置 B 1 1 s は、右第 2 主遊技始動口 B 1 0 への遊技球の入球を検出するセンサであり、入球時にその入球を示す第 2 主遊技始動口入球情報を生成する。尚、右第 2 主遊技始動口 B 1 0 が、左右に羽根を備える電動式チューリップ（所謂電チュー）と称する入球装置となっている構成を例示したが、これに限られず、ペロ型電チュー（所謂ペロ電）と称する遊技球を入球させるための板が前後に可変するタイプ、片羽根のみが備えられているタイプ、などの電チューを採用しても良い。

【0863】

次に、図 1 6 4 は、第 1 7 実施形態に係る振分始動口ユニット C 5 0 の全体図及び作用図である。まず、振分始動口ユニット C 5 0 は、遊技領域 D 3 0 を流下する遊技球が入球可能な共通入球口 C 5 1 と、共通入球口 C 5 1 よりも下方に設けられ共通入球口 C 5 1 から流下した遊技球を左右方向へ規則的に振り分ける始動口振分部材 C 5 0 y（本例では、支軸を中心に左右方向へ傾倒する三本足の部材）と、始動口振分部材 C 5 0 y よりも下方に設けられた第 1 主遊技始動口 A 1 0 と、始動口振分部材 C 5 0 y よりも下方に設けられた第 2 主遊技始動口 B 3 0 と、を備える。このように構成された振分始動口ユニット C 5 0 は、同図点線囲みにて示されるように、共通入球口 C 5 1 へ流入した遊技球を、始動口振分部材 C 5 0 y の左右方向への傾倒動作によって、第 1 主遊技始動口 A 1 0 及び第 2 主遊技始動口 B 3 0 のいずれか一方に誘導するよう構成されている。例えば、始動口振分部材 C 5 0 y が左方向への傾倒動作を行っている場合を「第 1 位置」とし、始動口振分部材 C 5 0 y が右方向への傾倒動作を行っている場合を「第 2 位置」とした場合、始動口振分部材 C 5 0 y が「第 2 位置」である状況下、共通入球口 C 5 1 へ流入した遊技球は、第 1 主遊技始動口 A 1 0 側へと誘導されると共に、始動口振分部材 C 5 0 y が「第 1 位置」へと変位する一方、始動口振分部材 C 5 0 y が「第 1 位置」である状況下、共通入球口 C 5 1 へ流入した遊技球は、第 2 主遊技始動口 B 3 0 側へと誘導されると共に、始動口振分部材 C 5 0 y が「第 2 位置」へと変位することとなる。そして、本例では、始動口振分部材 C 5 0 y の左右方向への傾倒動作は、遊技球の自重によって行われるよう構成されている結果、機構上は、共通入球口 C 5 1 へ流入した遊技球が、第 1 主遊技始動口 A 1 0 及び第 2 主遊技始動口 B 3 0 のいずれか一方に遊技球が交互に振り分けられる（いずれか一方へ向けて 1 個の遊技球を振り分けた後に、他方へ向けて 1 個の遊技球を振り分ける動作を繰り返す）ことを意図して設計されているのである。

【0864】

次に、図 1 6 5 は、第 1 7 実施形態における、図 7 のステップ 1 4 0 0 のサブルーチンに係る主遊技図柄表示処理のフローチャートである。まず、ステップ 1 4 0 0（1）（第 1 7）で、主制御基板 M の C P U M C は、後述する、第 1 主遊技図柄表示処理を実行する。次に、ステップ 1 4 0 0（2）（第 1 7）で、主制御基板 M の C P U M C は、後述する、第 2 主遊技図柄表示処理を実行し、次の処理（ステップ 1 5 0 0 の処理）に移行する。このように構成することによって、第 1 主遊技側の変動時にも第 2 主遊技側の変動が開始し得ることになり、また、第 2 主遊技側の変動時にも第 1 主遊技側の変動が開始し得ることとなる（いわゆる、並列抽選）。

【0865】

次に、図 1 6 6 は、第 1 7 実施形態における、図 1 6 5 のステップ 1 4 0 0（1）{ステップ 1 4 0 0（2）} のサブルーチンに係る、第 1（第 2）主遊技図柄表示処理のフローチャートである。尚、本処理は、第 1 主遊技図柄側と第 2 主遊技図柄側とで略同一の処理となるため、第 1 主遊技図柄側について主に説明し、第 2 主遊技図柄側の処理については括弧書きとする。まず、ステップ 1 4 0 7 - 1 で、主制御基板 M の C P U M C は、第 1（第 2）変動開始条件が充足したか否かを判定する。当該変動開始条件は、特別遊技中（又は条件装置作動中）でない、且つ、第 1 主遊技図柄変動中でない（第 2 主遊技図柄側の処理の場合には、第 2 主遊技図柄変動中でない）、且つ、主遊技図柄の保留が存在する、且つ、小当り遊技中でないことが条件となる。即ち、並列抽選を実行可能であるため、第 1 主遊技図柄に係る処理を実行する場合には、第 2 主遊技図柄は変動していても問題ない

が、第1主遊技図柄が変動中であった場合には、第1主遊技側に係る変動開始条件は充足しない。

【0866】

次に、ステップ1407-2で、主制御基板MのCPUMCは、主遊技側乱数を読出する。次に、ステップ1407-3で、主制御基板MのCPUMCは、当該読出した主遊技側乱数を保留情報から削除して残りの保留情報をシフト（保留消化）する。次に、ステップ1407-4で、主制御基板MのCPUMCは、主遊技側乱数及び遊技状態に基づき、主遊技図柄当否抽選を実行する。次に、ステップ1407-5で、主制御基板MのCPUMCは、主遊技側乱数、当否抽選結果に基づき、主遊技図柄に関する停止図柄を決定し、これらをRAM領域に一時記憶する。次に、ステップ1407-6で、主制御基板MのCPUMCは、主遊技図柄当否抽選結果及び第1主遊技内容決定乱数（第2主遊技内容決定乱数）（特に、変動態様抽選乱数）に基づいて主遊技図柄の変動態様を決定し、これらRAM領域に一時記憶する。次に、ステップ1407-7で、主制御基板MのCPUMCは、決定した主遊技図柄に関する情報及び遊技状態情報に係るコマンド（副制御基板S側へのコマンドであり、図柄変動表示開始指示コマンド等）をセットする。次に、ステップ1407-8で、主制御基板MのCPUMCは、当該変動態様に基づき、主遊技図柄の変動時間に係る所定時間を第1主遊技図柄変動管理用タイマ（第2主遊技図柄変動管理用タイマ）にセットし、当該タイマをスタートさせる。次に、ステップ1407-9で、主制御基板MのCPUMCは、第1主遊技図柄表示装置A20（第2主遊技図柄表示装置B20）の第1主遊技図柄表示部A21g（第2主遊技図柄表示部B21g）上で、第1主遊技図柄（第2主遊技図柄）の変動表示を開始する。次に、ステップ1407-10で、主制御基板MのCPUMCは、第1（第2）変動中フラグをオンにし、ステップ1407-12に移行する。他方、ステップ1407-1でNoの場合、ステップ1407-11で、主制御基板MのCPUMCは、第1（第2）変動中フラグがオンになっているか否かを判定する。ステップ1407-11でYesの場合には、ステップ1407-12に移行する。

【0867】

次に、ステップ1407-12で、主制御基板MのCPUMCは、第1主遊技図柄（第2主遊技図柄）の変動時間に係る所定時間に到達したか否かを判定する。ステップ1407-12でYesの場合、ステップ1407-13で、主制御基板MのCPUMCは、第1主遊技図柄表示装置A20（第2主遊技図柄表示装置B20）の第1主遊技図柄表示部A21g（第2主遊技図柄表示部B21g）上での主遊技図柄の変動表示を停止し、確定停止図柄として表示制御し、ステップ1407-17に移行する。他方、ステップ1407-12でNoの場合、ステップ1407-14で、主制御基板MのCPUMCは、特別遊技実行フラグがオンであるか否か又は小当り実行フラグがオンであるか否かを判定する。ステップ1407-14でYesの場合、ステップ1407-15で、主制御基板MのCPUMCは、第1（第2）強制停止実行コマンド（サブ側へのコマンドであり、第1主遊技側が大当り又は小当りとなった場合には第2主遊技図柄がハズレで強制停止する情報を送信し、第2主遊技側が大当り又は小当りとなった場合には第1主遊技図柄がハズレで強制停止する情報を送信するコマンド）をセット（ステップ1999の制御コマンド送信処理によってサブメイン制御部SM側に送信される）する。次に、ステップ1407-16で、主制御基板MのCPUMCは、第1主遊技図柄表示装置A20（第2主遊技図柄表示装置B20）の第1主遊技図柄表示部A21g（第2主遊技図柄表示部B21g）上での主遊技図柄の変動表示を、停止図柄をハズレ図柄にして停止し、当該ハズレ図柄を確定停止図柄として表示制御し、ステップ1407-17に移行する。このように、第17実施形態においては、第1主遊技図柄が大当り図柄又は小当りにて停止した場合には、変動中の第2主遊技図柄はハズレにて強制停止し、第2主遊技図柄が大当り図柄又は小当りにて停止した場合には、変動中の第1主遊技図柄はハズレにて強制停止するよう構成されている。また、第1主遊技図柄又は第2主遊技図柄がハズレにて強制停止する際には、強制停止する直前に、副制御基板S側への強制停止する旨のコマンドがセットされるよう構成

10

20

30

40

50

されている。尚、第1主遊技図柄が大当り図柄又は小当りにて停止した場合には、変動中の第2主遊技図柄を一時停止させ、特別遊技又は小当り遊技の終了後に第2主遊技図柄の変動を再開させ、第2主遊技図柄が大当り図柄又は小当りにて停止した場合には、変動中の第1主遊技図柄を一時停止させ、特別遊技又は小当り遊技の終了後に第1主遊技図柄の変動を再開させるよう構成することも可能である。

【0868】

次に、ステップ1407-17で、主制御基板MのCPUMCは、図柄変動が終了する旨の情報（図柄確定表示指示コマンド）を、サブメイン制御部SM側に送信するためのコマンド送信用バッファMT10にセット（ステップ1999の制御コマンド送信処理によってサブメイン制御部SM側に送信される）する。次に、ステップ1407-18で、主制御基板MのCPUMCは、第1（第2）変動中フラグをオフし、ステップ1407-19に移行する。次に、ステップ1407-19で、主制御基板MのCPUMCは、当該主遊技図柄の停止図柄が大当り図柄であるか否かを判定する。ステップ1407-19でYesの場合、ステップ1407-20で、主制御基板MのCPUMCは、条件装置作動フラグをオンにし、ステップ1450に移行する。他方、ステップ1407-19でNoの場合には、ステップ1407-21で、主制御基板MのCPUMCは、停止図柄が小当り図柄であるか否かを判定する。次に、ステップ1407-21でYesの場合、ステップ1407-22で、主制御基板MのCPUMCは、小当りフラグをオンにする。

【0869】

次に、ステップ1450で、主制御基板MのCPUMCは、前述した特定遊技終了判定処理を実行し、次の処理（ステップ1500の処理）に移行する。尚、ステップ1407-22の処理の終了後、ステップ1407-11、ステップ1407-14、ステップ1407-21でNoの場合にも、次の処理（ステップ1500の処理）に移行する。

【0870】

次に、図167は、第17実施形態における第1主遊技用当否抽選テーブル（第2主遊技用当否抽選テーブル）、第1主遊技停止図柄決定用抽選テーブル（第2主遊技停止図柄決定用抽選テーブル）、第1主遊技変動態様決定用抽選テーブル（第2主遊技変動態様決定用抽選テーブル）の一例である。本例では、第1主遊技用当否抽選テーブル（第2主遊技用当否抽選テーブル）は、設定1、設定2、設定3の順に遊技者に付与される利益率（大当り当選確率）が高くなるよう構成されている。より具体的には、非確率変動遊技時（非確率変動遊技状態とも称する）の設定1の当り（大当り）当選確率が、約 $1/319$ に設定されており、非確率変動遊技時の設定2の当り（大当り）当選確率が、約 $1/303$ に設定されており、非確率変動遊技時の設定3の当り（大当り）当選確率が、約 $1/285$ に設定されている。また、確率変動遊技時（確率変動遊技状態とも称する）の設定1の当り（大当り）当選確率が、約 $1/31.9$ に設定されており、確率変動遊技時の設定2の当り（大当り）当選確率が、約 $1/30.3$ に設定されており、確率変動遊技時の設定3の当り（大当り）当選確率が、約 $1/28.5$ に設定されている。このように、確率変動遊技時の当り（大当り）当選確率が、非確率変動遊技時の当り（大当り）当選確率の約10倍（10倍以下）になっており、その比率が全設定で共通となるよう構成されている。この点は、第1主遊技側及び第2主遊技側とのいずれにおいても同様となっている。小当りの当選確率は、第1主遊技側の方が第2主遊技側より当選し易くなっており、第1主遊技側では約 $1/99$ に設定されており、第2主遊技側では約 $1/65536$ に設定されているが、第2主遊技側で小当りに当選しないよう設定してもよい。尚、小当りの当選確率は、確率変動の有無（確率変動遊技状態であるか非確率変動遊技状態であるか）によって変化しない。

【0871】

次に、第1主遊技停止図柄決定用抽選テーブル（第2主遊技停止図柄決定用抽選テーブル）について説明する。ハズレ時については、本実施形態と同様であるため、説明を省略する。本実施形態との相違点は、大当り時の停止図柄及び乱数範囲が異なる点、大当りラウンド数（1回の大当りにおいて実行されるラウンド数）が異なる点、小当り図柄を備え

10

20

30

40

50

ている点である。第17実施形態では、第1主遊技停止図柄決定用抽選テーブルにおいて大当たり時の図柄抽選乱数が、「0～349」の場合には停止図柄として「4A」が選択され、「350～949」の場合には停止図柄として「5A」が選択され、「950～1023」の場合には停止図柄として「7A」が選択される。第2主遊技停止図柄決定用抽選テーブルにおいて大当たり時の図柄抽選乱数が、「0～349」の場合には停止図柄として「4B」が選択され、「350～1023」の場合には停止図柄として「7B」が選択される。尚、「4A」に係る大当りは4R非確変大当り（大当たりラウンド数が4Rであり、大当たり終了後に非確率変動遊技状態に移行する大当り）、「5A」に係る大当りは4R確変大当り（大当たりラウンド数が4Rであり、大当たり終了後に確率変動遊技状態に移行する大当り）、「7A」に係る大当りは10R確変大当り（大当たりラウンド数が10Rであり、大当たり終了後に確率変動遊技状態に移行する大当り）、「4B」に係る大当りは4R非確変大当り（大当たりラウンド数が4Rであり、大当たり終了後に非確率変動遊技状態に移行する大当り）、「7B」に係る大当りは10R確変大当り（大当たりラウンド数が10Rであり、大当たり終了後に確率変動遊技状態に移行する大当り）となっている。小当たり時の第1主遊技停止図柄決定用抽選テーブルでは、図柄抽選乱数が「0～599」であった場合には停止図柄として「1AK」が選択され、図柄抽選乱数が「600～899」であった場合には停止図柄として「2AK」が選択され、図柄抽選乱数が「900～1023」であった場合には停止図柄として「3AK」が選択される。小当たり時の第2主遊技停止図柄決定用抽選テーブルでは、「0～1023」であった場合には停止図柄として「BK」が選択される。

【0872】

次に、図168を用いて、第1主遊技変動態様決定用抽選テーブル（第2主遊技変動態様決定用抽選テーブル）について説明する。尚、図165の当り時（且つ、非時間短縮遊技時／時間短縮遊技時）については、本実施形態と同様であるため、説明を省略する。まず、第1主遊技変動態様決定用抽選テーブルA（第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルA）について説明する。第1主遊技変動態様決定用抽選テーブルAと第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルAの特徴として、非時間短縮遊技時且つハズレ時において、第1主遊技変動態様決定用抽選テーブルAは、相対的に変動時間が短い変動態様（第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルAよりも変動時間が短い変動態様）が選択されるよう構成されており、第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルAは、相対的に変動時間が長い変動態様（第1主遊技変動態様決定用抽選テーブルAよりも変動時間が長い変動態様）が選択されるよう構成されている。つまり、第1主遊技変動態様決定用抽選テーブルA（第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルA）が選択されている場合は、第1主遊技側のハズレ変動の変動時間が短く、第2主遊技側のハズレ変動の変動時間が長くなっている。第1主遊技変動態様決定用抽選テーブルA（ハズレ時、非時間短縮遊技時）では、変動態様抽選乱数が「0～1023」であった場合には、変動時間が14秒の変動態様a1が選択される。第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルA（ハズレ時、非時間短縮遊技時）では、変動態様抽選乱数が「0～1023」であった場合には、変動時間が60秒の変動態様b1が選択される。第1主遊技変動態様決定用抽選テーブルA（ハズレ時、時間短縮遊技時）では、変動態様抽選乱数が「0～1023」であった場合には、変動時間が3秒の変動態様a0が選択される。第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルA（ハズレ時、時間短縮遊技時）では、変動態様抽選乱数が「0～1023」であった場合には、変動時間が3秒の変動態様b0が選択される。

【0873】

次に、第1主遊技変動態様決定用抽選テーブルB（第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルB）について説明する。第1主遊技変動態様決定用抽選テーブルBと第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルBの特徴として、非時間短縮遊技時且つハズレ時において、第1主遊技変動態様決定用抽選テーブルBは、相対的に変動時間が長い変動態様（第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルBよりも変動時間が長い変動態様）が選択されるよう構成されており、第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルBは、相対的に変動時間が短い変動態

様（第1主遊技変動態様決定用抽選テーブルBよりも変動時間が長い変動態様）が選択されるよう構成されている。つまり、第1主遊技変動態様決定用抽選テーブルB（第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルB）が選択されている場合は、第1主遊技側のハズレ変動の変動時間が長く、第2主遊技側のハズレ変動の変動時間が短くなっており、第1主遊技変動態様決定用抽選テーブルA（第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルA）が選択されている場合と第1主遊技変動態様決定用抽選テーブルB（第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルB）が選択されている場合とでは、第1主遊技側と第2主遊技側のハズレ変動の変動時間の長短が逆転している。第1主遊技変動態様決定用抽選テーブルB（ハズレ時、非時間短縮遊技時）では、変動態様抽選乱数が「0～1023」であった場合には、変動時間が60秒の変動態様a2が選択される。第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルB（ハズレ時、非時間短縮遊技時）では、変動態様抽選乱数が「0～1023」であった場合には、変動時間が14秒の変動態様b2が選択される。第1主遊技変動態様決定用抽選テーブルB（ハズレ時、時間短縮遊技時）では、変動態様抽選乱数が「0～1023」であった場合には、変動時間が3秒の変動態様a0が選択される。第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルB（ハズレ時、時間短縮遊技時）では、変動態様抽選乱数が「0～1023」であった場合には、変動時間が3秒の変動態様b0が選択される。

【0874】

次に、第1主遊技変動態様決定用抽選テーブルC（第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルC）について説明する。第1主遊技変動態様決定用抽選テーブルCと第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルCの特徴として、非時間短縮遊技時且つハズレ時において、第1主遊技変動態様決定用抽選テーブルCと第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルCとで、同一の変動時間の変動態様が選択されるよう構成されており、相対的に短い変動時間の変動態様が選択されるよう構成されている。つまり、第1主遊技変動態様決定用抽選テーブルC（第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルC）が選択されている場合は、第1主遊技側と第2主遊技側のいずれの変動においても、ハズレ変動の変動時間が短くなっている。第1主遊技変動態様決定用抽選テーブルC（ハズレ時、非時間短縮遊技時）では、変動態様抽選乱数が「0～1023」であった場合には、変動時間が14秒の変動態様a1が選択される。第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルC（ハズレ時、非時間短縮遊技時）では、変動態様抽選乱数が「0～1023」であった場合には、変動時間が14秒の変動態様b2が選択される。第1主遊技変動態様決定用抽選テーブルC（ハズレ時、時間短縮遊技時）では、変動態様抽選乱数が「0～1023」であった場合には、変動時間が3秒の変動態様a0が選択される。第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルC（ハズレ時、時間短縮遊技時）では、変動態様抽選乱数が「0～1023」であった場合には、変動時間が3秒の変動態様b0が選択される。

【0875】

次に、図169を用いて、小当りによる変動態様決定用抽選テーブルの遷移について説明する。尚、ここでは、ハズレ時且つ非時間短縮遊技時に参照する第1主遊技変動態様決定用抽選テーブルA（第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルA）、第1主遊技変動態様決定用抽選テーブルB（第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルB）、第1主遊技変動態様決定用抽選テーブルC（第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルC）の遷移を説明するが、当り時には当り時用の第1主遊技変動態様決定用抽選テーブル（当り時用の第2主遊技変動態様決定用抽選テーブル）を参照することを補足しておく。図169が示す通り、第1主遊技側において小当りに当選した場合、停止した小当り図柄に応じて変動態様決定用抽選テーブルが選択されるよう構成されている。具体的には、小当り図柄が1AKであった場合、第1主遊技変動態様決定用抽選テーブルA（第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルA）が選択され、小当り図柄が2AKであった場合、第1主遊技変動態様決定用抽選テーブルB（第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルB）が選択され、小当り図柄が3AKであった場合、第1主遊技変動態様決定用抽選テーブルC（第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルC）が選択されるよう構成されている。

【0876】

このように、第17実施形態では、小当り図柄に応じて第1主遊技変動態様決定用抽選テーブル（第2主遊技変動態様決定用抽選テーブル）が移行するよう構成されている。この構成を用いることで、次のゲーム性を実現することが可能となる。

【0877】

まず、第17実施形態における前提の構成を説明する。

（1）並列抽せん（第1主遊技図柄と第2主遊技図柄が同時に変動可能）である

（2）第1主遊技側に小当りを備える

（3）小当りによって第1主遊技変動態様決定用抽選テーブル及び第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルが変更され得る

【0878】

次に、具体的な遊技の流れを、第17実施形態の特徴点を含め説明する。まず、電源投入後（RAMクリア後）には、非時間短縮遊技状態であり、且つ、第1主遊技変動態様決定用抽選テーブルA（第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルA）が選択される状態となっている。電源投入後（RAMクリア後）は、非時間短縮遊技状態であるため、左打ちを行い、振分始動口ユニットC50へ遊技球が入球し、第1主遊技始動口A10と第2主遊技始動口B30とへ遊技球が交互に入球する。また、第17実施形態では、第1主遊技図柄と第2主遊技図柄とが並列して変動可能であり、第1主遊技変動態様決定用抽選テーブルAにおいては、ハズレ時の変動時間が14秒であり、第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルAにおいては、ハズレ時の変動時間が60秒であるため（第1主遊技図柄の変動時間の方が第2主遊技図柄の変動時間よりも相対的に短時間であるため）、第1主遊技側の図柄変動の方が比較的多く行われる。第1主遊技始動口A10に入球し、小当りに当選すると、小当り図柄の種類に応じて次の遊技以降の変動態様決定用抽選テーブルが選択される。例えば、第1主遊技側にて小当り図柄2AKが停止したとすると、2AKに係る小当りが実行され、次の遊技以降は、第1主遊技変動態様決定用抽選テーブルB（第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルB）が選択される。

【0879】

第1主遊技変動態様決定用抽選テーブルBでは、ハズレ時の変動時間が60秒であり、第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルBでは、ハズレ時の変動時間が14秒であり、第1主遊技変動態様決定用抽選テーブルA及び第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルAとはハズレ時の変動時間の長さが逆転しているため、第2主遊技側の図柄変動の方が比較的多く行われるようになる。第1主遊技側では、10R確変大当りが約5%で選択され、第2主遊技側では、10R確変大当りが約65%で選択されるため、第1主遊技側よりも第2主遊技側の図柄変動の方が遊技者にとって有利になっており、前述したように第1主遊技変動態様決定用抽選テーブルB（第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルB）が選択されている場合には第2主遊技側の抽選回数（変動回数）が多くなるため、第1主遊技側で抽選（及び変動）を行う回数が多い第1主遊技変動態様決定用抽選テーブルA（第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルA）が選択されている場合よりも第1主遊技変動態様決定用抽選テーブルB（第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルB）が選択されている場合の方が有利な状態であると言える。また、第1主遊技変動態様決定用抽選テーブルB（第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルB）が選択されている場合には、演出表示装置SGでは、特殊モード（例えば、夜背景画面）に突入させ、10R確変大当り{約1500発（賞球15個×10カウント×10ラウンド）}を獲得し易いモードであることを示唆し、第1主遊技変動態様決定用抽選テーブルA（第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルA）が選択されている場合には、演出表示装置SGでは、通常モード（例えば、昼背景画面）に突入させることで、遊技者に有利な状態であることを視覚的に認識させることができるよう構成されている。

【0880】

さらに第1主遊技側で小当りに当選し、小当り図柄3AKが停止したとすると、次の遊技以降は、第1主遊技変動態様決定用抽選テーブルC（第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルC）が選択される。第1主遊技変動態様決定用抽選テーブルC（第2主遊技変動

10

20

30

40

50

動態様決定用抽選テーブルB)や設定3且つ第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルC(第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルC)では、特殊モードになり易く、通常背景になり難いよう構成しても良い。さらに、設定3且つ第1主遊技変動態様決定用抽選テーブルB(第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルB)の場合は、極稀に他の状態(設定3且つ第1主遊技(第2主遊技)変動態様決定用抽選テーブルB以外)では出現しない宇宙背景画面になり、設定3(高設定)であることを示唆するよう構成してもよい。そのように構成することにより、遊技者は設定を推測しながら遊技を進行することができる。

【0884】

第17実施形態では、小当り図柄によって第1主遊技変動態様決定用抽選テーブル(第2主遊技変動態様決定用抽選テーブル)を変更するよう構成したが、小当り図柄によって第1主遊技変動態様決定用抽選テーブル(第2主遊技変動態様決定用抽選テーブル)の遷移パターンを予め定めることも可能である。具体的には、小当り図柄1AKの場合、第1主遊技変動態様決定用抽選テーブルB(第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルB)を10回→第1主遊技変動態様決定用抽選テーブルC(第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルC)を10回、小当り図柄2AKの場合、第1主遊技変動態様決定用抽選テーブルB(第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルB)を20回→第1主遊技変動態様決定用抽選テーブルC(第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルC)を10回、小当り図柄3AKの場合、第1主遊技変動態様決定用抽選テーブルB(第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルB)を30回→第1主遊技変動態様決定用抽選テーブルC(第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルC)を20回、のように、選択された第1主遊技変動態様決定用抽選テーブル(第2主遊技変動態様決定用抽選テーブル)が予め定められた変動回数分だけ選択されるように構成することができる。また、第1主遊技変動態様決定用抽選テーブルA(第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルA)を経由せずに第1主遊技変動態様決定用抽選テーブルB(第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルB)の選択が開始されるよう構成したり、第1主遊技変動態様決定用抽選テーブルA(第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルA)→第1主遊技変動態様決定用抽選テーブルC(第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルC)→第1主遊技変動態様決定用抽選テーブルB(第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルB)、等のように、第1主遊技変動態様決定用抽選テーブル(第2主遊技変動態様決定用抽選テーブル)が2回以上変更される構成としたり、第1主遊技変動態様決定用抽選テーブルB(第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルB)→第1主遊技変動態様決定用抽選テーブルA(第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルA)→第1主遊技変動態様決定用抽選テーブルB(第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルB)、のように、一度有利な状態が終了したとみせかけて、再度有利な状態とするように変更すること等も可能である。

【0885】

上述した通り、一方の主遊技側で小当り図柄が停止した場合、他方の主遊技側の変動を強制的にハズレで終了させるよう構成することができ(大当り図柄が停止した場合も同様に構成してもよい)、このように構成することで、変動時間が長い変動態様決定用抽選テーブルから変動時間が短い変動態様決定用抽選テーブルに変更された場合でも、即座に変動時間が短い変動態様決定用抽選テーブルによる変動を開始することが可能となる。

【0886】

尚、第17実施形態の遊技機において、時間短縮遊技状態の終了条件、確率変動遊技状態(STの場合)の終了条件、第1主遊技変動態様決定用抽選テーブルA(第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルA)の終了条件、第1主遊技変動態様決定用抽選テーブルB(第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルB)の終了条件、第1主遊技変動態様決定用抽選テーブルC(第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルC)の終了条件は、第1主遊技図柄の変動が所定回数に達した場合、第2主遊技図柄の変動が所定回数に達した場合、第1主遊技図柄の変動及び第2主遊技図柄の変動の合計変動回数が所定回数に達した場合、であってよい。また、時間短縮遊技状態の終了条件、第1主遊技変動態様決定用抽選テーブルA(第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルA)の終了条件、第1主遊技変動態様決定用抽選テーブルB(第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルB)の終了条件、第1主遊技変

動態様決定用抽選テーブルC（第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルC）の終了条件は、第1主遊技図柄の変動が規定回数に達した場合、第2主遊技図柄の変動回数が特定の回数に達した場合、第1主遊技図柄の変動及び第2主遊技図柄の変動の合計変動回数が所定回数に達した場合、のうち一又は複数の条件を備えていてもよい。

【0887】

（第17実施形態の変更例）

図170は、第17実施形態の変更例におけるぱちんこ遊技機の正面図である。本図では、左打ち時には、第1主遊技始動口A10に入球し易いように構成されており、右打ち時には、第2主遊技始動口B10、上第2主遊技始動口B30、大入賞口C10、に入球し易いように構成されている。上第2主遊技始動口B30は、第2主遊技に対応する始動入賞口として設置されている。具体的な構成としては、上第2主遊技始動口B30は、上第2主遊技始動口入球検出装置B31sと、上第2主遊技始動口電動役物B31dと、を備える。上第2主遊技始動口入球検出装置B31sは、上第2主遊技始動口B30への遊技球の入球を検出するセンサであり、入球時にその入球を示す第2主遊技始動口入球情報を生成する。次に、上第2主遊技始動口電動役物B31dは、上第2主遊技始動口B30に遊技球が入賞し難い閉鎖状態と当該通常状態よりも遊技球が入賞し易い開放状態に変化する。このように、第17実施形態の変更例においては、第2主遊技側に対応する始動口として、第2主遊技始動口B10と上第2主遊技始動口B30との2つの始動口を有している。尚、上第2主遊技始動口B30が、左右に羽根を備える電動式チューリップ（所謂電チュー）と称する入球装置となっている構成を例示したが、これに限られず、ベロ型電チュー（所謂ベロ電）と称する遊技球を入球させるための板が前後に可変するタイプ、片羽根のみが備えられているタイプ、などの電チューを採用しても良い。

【0888】

この構成では、主に第1主遊技側（第1主遊技始動口A10）で遊技を行い、第1主遊技側で小当りに当選すると、第2主遊技側の変動時間が短くなるため、右打ちして、第2主遊技側（第2主遊技始動口B10）で遊技を行うことが可能となる。第17実施形態で説明したように、このときには、特殊モード（例えば、夕方背景画面、夜背景画面）へ移行させて10R確変大当たり（約1500発）を獲得し易いモードであることを示唆する。さらにこのときは、遊技者が発射すべき位置を認識し易くするために、演出表示装置SGにて「→→右打ち→→」の文字等を表示したり、「右打ちして下さい」等の音声による報知をするのが好ましい。

【0889】

第17実施形態の変更例においても、第17実施形態に記載した一部の構成を適用可能であることは言うまでもなく、例えば、小当り図柄によって第1主遊技変動態様決定用抽選テーブル（第2主遊技変動態様決定用抽選テーブル）の遷移パターンを予め定める構成等を適用可能である。

【0890】

また、別の変更例として、確率変動遊技状態への突入率及び確率変動遊技状態の継続率を、第1主遊技側と第2主遊技側とで異ならせる構成（所謂VST機）としてもよい。この構成（VST機）について補足すると、大入賞口内に設けられた特定領域（V領域）を遊技球が通過することで大当たり終了後に確率変動遊技状態を付与する構成であり、大当たりとなった停止図柄によって、遊技球が特定領域を通過可能となるか否かが予め定められている。具体的には、例えば、第1主遊技側では50%で特定領域を通過可能（確率変動遊技状態が付与される）とし（第1主遊技側の大当たりの50%で、特定領域に入球容易となる大当たり図柄が決定されるようにする）、第2主遊技側では約100%で特定領域を通過可能（確率変動遊技状態が付与される）とする（第2主遊技側の大当たりの100%で、特定領域に入球容易となる大当たり図柄が決定されるようにする）よう構成される。尚、確率変動遊技状態はSTと呼ばれる、確率変動機能が所定の変動回数に到達すると終了する構成となっている。

【0891】

(第18実施形態)

第12実施形態の変更例をさらに変更して、以下の遊技性を有する遊技機を提供することができる。

【0892】

はじめに、図171は、第18実施形態に係るぱちんこ遊技機の正面図である。本図では、遊技領域の左側を流下する遊技球は、第1主遊技始動口A10に入球可能に構成されており、遊技領域の右側を流下する遊技球は、右第1主遊技始動口A30、第2主遊技始動口B10、大入賞口C10に入球可能に構成されている。具体的な構成としては、右第1主遊技始動口A30は、右第1主遊技始動口入球検出装置A31sと、右第1主遊技始動口電動役物A31dと、を備える。右第1主遊技始動口入球検出装置A31sは、右第1主遊技始動口A30への遊技球の入球を検出するセンサであり、入球時にその入球を示す第1主遊技始動口入球情報を生成する。次に、右第1主遊技始動口電動役物A31dは、右第1主遊技始動口A30に遊技球が入賞し難い閉鎖状態と当該通常状態よりも遊技球が入賞し易い開放状態に変化する。尚、右第1主遊技始動口A30が、左右に羽根を備える電動式チューリップ（所謂電チュー）と称する入球装置となっている構成を例示したが、これに限られず、ペロ型電チュー（所謂ペロ電）と称する遊技球を入球させるための板が前後に変化するタイプ、片羽根のみが備えられているタイプ、などの電チューを採用しても良い。

10

【0893】

次に、図172は、第18実施形態における第1主遊技用当否抽選テーブル（第2主遊技用当否抽選テーブル）、第1主遊技停止図柄決定用抽選テーブル（第2主遊技停止図柄決定用抽選テーブル）、第1主遊技変動態様決定用抽選テーブル（第2主遊技変動態様決定用抽選テーブル）の一例である。本例では、第1主遊技用当否抽選テーブル（第2主遊技用当否抽選テーブル）は、設定1、設定2、設定3の順に遊技者に付与される利益率（大当たり当選確率）が高くなるよう構成されている。より具体的には、非確率変動遊技時の設定1の当り（大当たり）当選確率が、約 $1/319$ に設定されており、非確率変動遊技時の設定2の当り（大当たり）当選確率が、約 $1/303$ に設定されており、非確率変動遊技時の設定3の当り（大当たり）当選確率が、約 $1/285$ に設定されている。また、確率変動遊技時の設定1の当り（大当たり）当選確率が、約 $1/31.9$ に設定されており、確率変動遊技時の設定2の当り（大当たり）当選確率が、約 $1/30.3$ に設定されており、確率変動遊技時の設定3の当り（大当たり）当選確率が、約 $1/28.5$ に設定されている。このように、確率変動遊技時の当り（大当たり）当選確率が、非確率変動遊技時の当り（大当たり）当選確率の約10倍（10倍以下）になっており、その比率が全設定で共通になるよう構成されている。この点は、第1主遊技側、第2主遊技側も同様となっている。第2主遊技側では、小当たりの当選確率が当否抽選の約99%（約 $1/1.03$ ）に設定されている。

20

30

【0894】

次に、第1主遊技停止図柄決定用抽選テーブル（第2主遊技停止図柄決定用抽選テーブル）について説明する。第18実施形態では、第1主遊技停止図柄決定用抽選テーブルにおいて大当たり時の図柄抽選乱数が、「0～349」の場合には停止図柄として「4A」が選択され、「350～949」の場合には停止図柄として「5A」が選択され、「950～1023」の場合には停止図柄として「7A」が選択される。第2主遊技停止図柄決定用抽選テーブルにおいて大当たり時の図柄抽選乱数が、「0～349」の場合には停止図柄として「4B」が選択され、「350～1023」の場合には停止図柄として「7B」が選択される。尚、「4A」に係る大当たりは4R非確変大当たり（大当たりラウンド数が4Rであり、大当たり終了後に非確率変動遊技状態に移行する大当たり）、「5A」に係る大当たりは4R確変大当たり（大当たりラウンド数が4Rであり、大当たり終了後に確率変動遊技状態に移行する大当たり）、「7A」に係る大当たりは10R確変大当たり（大当たりラウンド数が10Rであり、大当たり終了後に確率変動遊技状態に移行する大当たり）、「4B」に係る大当たりは4R非確変大当たり（大当たりラウンド数が4Rであり、大当たり終了後に非確率変動遊技状態

40

50

に移行する大当り)、「7B」に係る大当りは10R確変大当り(大当りラウンド数が10Rであり、大当り終了後に確率変動遊技状態に移行する大当り)となっており、「4A」、「4B」は大当り終了後に時間短縮遊技状態が30回(主遊技図柄が30回変動するまで)、「5A」は大当り終了後に時間短縮遊技状態が100回(主遊技図柄が100回変動するまで)、「7A」、「7B」は大当り終了後に時間短縮遊技状態が0回付与される(言い換えると、時間短縮遊技状態が付与されず非時間短縮遊技状態となる)大当り図柄である。小当り時の第2主遊技停止図柄決定用抽選テーブルでは、図柄抽選乱数が「0～1023」であった場合には停止図柄として「BK」が選択される。

【0895】

次に、第1主遊技変動態様決定用抽選テーブル(第2主遊技変動態様決定用抽選テーブル)について、第12実施形態からの変更点を説明する。当り時(且つ、非時間短縮遊技時/時間短縮遊技時)については、本実施形態及び第12実施形態と同様であるため、説明を省略し、ハズレ時の第1主遊技変動態様決定用抽選テーブル(第2主遊技変動態様決定用抽選テーブル)、小当り時の第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルについて説明する。まず、ハズレ時且つ時間短縮遊技時における第1主遊技変動態様決定用抽選テーブルでは、変動態様抽選乱数が「0～899」であった場合には、変動時間が3秒の変動態様a0が選択され、変動態様抽選乱数が「900～999」であった場合には、変動時間が10秒の変動態様a1が選択され、変動態様抽選乱数が「1000～1023」であった場合には、変動時間が60秒の変動態様a3が選択される。次に、ハズレ時且つ非確率変動遊技時且つ非時間短縮遊技時における第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルでは、変動態様抽選乱数が「0～1023」であった場合には、変動時間が300秒の変動態様b10が選択される。次に、ハズレ時且つ確率変動遊技時且つ非時間短縮遊技時における第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルでは、変動態様抽選乱数が「0～1023」であった場合には、変動時間が10秒の変動態様b11が選択される。次に、小当り時且つ非確率変動遊技時且つ非時間短縮遊技時における第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルでは、変動態様抽選乱数が「0～1023」であった場合には、変動時間が300秒の変動態様BK0が選択される。次に、小当り時且つ確率変動遊技時且つ非時間短縮遊技時における第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルでは、変動態様抽選乱数が「0～1023」であった場合には、変動時間が2秒の変動態様BK1が選択される。このように、非確率変動遊技時且つ非時間短縮遊技時には、第2主遊技始動口B10に入球させても変動時間が長いために、効率良く遊技することができないように構成されている(遊技者は非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態では第2主遊技始動口B10に向けて遊技球を発射しない遊技性となっている)。

【0896】

このように、第18実施形態では、第2主遊技側では高確率で小当りに当選するよう構成されている。この構成を用いることで、次のゲーム性を実現することが可能となる。

【0897】

まず、第18実施形態における前提の構成を説明する。

(1) 並列抽せん

(2) 確率変動遊技状態は、次回大当りまで継続する

(3) 大当り図柄に応じて時間短縮遊技状態(時短)回数が異なる

(4) 第2主遊技側では、高確率で小当りに当選する

(5) 非確率変動遊技状態で第2主遊技始動口に入球した場合の変動時間は相対的に長く(例えば、ハズレや小当りで300秒、350秒等)、確率変動遊技状態で第2主遊技始動口に入球した場合の変動時間は相対的に短い(例えば、2秒、3秒が選択され易い等)

(6) 第1主遊技始動口(後述する右第1主遊技始動口A30)に電チューが備えられている

【0898】

次に、図173を用いて、具体的な遊技の流れを、第18実施形態の特徴点を含め説明する。まず、電源投入後(RAMクリア後)には、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊

技状態となっており、前述した通り、第2主遊技側のハズレ時や小当たり時の変動時間は常に長くなる（例えば、300秒）よう構成されているため、主に第1主遊技始動口A10に遊技球を入球させて遊技を行う。次に、第1主遊技側にて大当りに当選した場合、大当り遊技を行う。次に、第1主遊技側にて大当りとなった停止図柄が、大当り終了後に非確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態となる図柄であった場合には、大当り遊技終了後に非確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態へ移行し、主に右第1主遊技始動口A30に遊技球を入球させて遊技を行う。非確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態にて、主遊技図柄の変動回数が、大当りとなった停止図柄に応じて付与された時間短縮遊技状態の回数（例えば、30回、100回等）に達すると、時間短縮遊技状態が終了し、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態へと移行する。

10

【0899】

他方、第1主遊技側にて大当りとなった停止図柄が、大当り終了後に確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態となる図柄であった場合には、大当り遊技終了後に確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態へ移行し、主に右第1主遊技始動口A30に遊技球を入球させて遊技を行う。確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態にて、主遊技図柄の変動回数が、大当りとなった停止図柄に応じて付与された時間短縮遊技状態の回数（例えば、30回、100回等）に達すると、時間短縮遊技状態が終了し、確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態へと移行する。確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態では、主に第2主遊技始動口B10に遊技球を入球させて遊技を行う。第2主遊技始動口への入球によって高確率で小当りに当選するため、小当りによって大入賞口が開放し、大入賞口に遊技球が入球することで、出玉を獲得可能である。確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態にて第2主遊技側で大当りに当選した場合、第1主遊技側にて大当りに当選した場合と同様に、第2主遊技側にて大当りとなった停止図柄に応じて移行する遊技状態が定められている。尚、第2主遊技側の大当りでは、第1主遊技側の大当りとは異なる割合で遊技状態が移行する、第1主遊技側の大当りとは時間短縮遊技状態の回数が異なる、等のように構成しても良く、本例では、第2主遊技側の大当りでは、大当り終了後に確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態へ移行しないよう構成されている。

20

【0900】

他方、第1主遊技側にて大当りとなった停止図柄が、確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態となる図柄であった場合には、大当り遊技終了後に（確率変動遊技状態且つ）時間短縮遊技状態を経由せず、直接、確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態へ移行し、主に第2主遊技始動口B10に遊技球を入球させて遊技を行う。

30

【0901】

ここで、設定を備えることによる各遊技状態の特徴を説明する。

（1）非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態

非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態では、第1主遊技始動口A10へ遊技球を入球させて大当りを目指す遊技性であり、設定による大当り確率（本例では、設定1：約 $1/319$ 、設定2：約 $1/303$ 、設定3：約 $1/285$ ）の差が当該遊技状態における設定を備えることによる特徴である。

（2）非確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態

40

非確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態では、右第1主遊技始動口A30へ遊技球を入球させて大当りを目指す遊技性であり、設定による大当り確率の差により、当該遊技状態を抜ける（時間短縮遊技状態が終了する）割合が異なることが特徴である。高設定（本例では、設定3：約 $1/285$ ）の方が低設定（本例では、設定1：約 $1/319$ ）である場合よりも、当該遊技状態を抜ける割合が低く、持ち球を減らすことなく連荘させることが可能である。

（3）確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態

確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態では、非確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態と同様に、右第1主遊技始動口A30へ遊技球を入球させて大当りを目指す遊技性であり、設定による大当り確率の差により、当該遊技状態を抜ける（時間短縮遊技状態が終了

50

する)割合が異なることが特徴である(時間短縮遊技状態が終了するまでに大当りに当選できる確率が設定によって異なるため)。高設定(本例では、設定3:約1/28.5)である場合の方が低設定(本例では、設定1:約1/31.9)である場合よりも、当該遊技状態を抜ける割合が低く、持ち球を減らすことなく連荘させることが可能である。一方、当該遊技状態を抜ける(時間短縮遊技状態が終了する)と、確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態となり、第2主遊技始動口B10へ遊技球を入球させて大当りを目指す遊技性となる。第2主遊技始動口B10では、小当りが高確率で発生するため、出玉を増やしながら遊技することができ、さらに、停止し得る大当りの停止図柄が高ラウンド大当り(実行されるラウンド数が相対的に多い大当り)等である場合が多く、本例では、10R大当りが発生し易くなっている。従って、確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態では、低設定である場合の方が高設定である場合よりも、確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態を抜けて確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態へ移行する可能性が高いため、有利であるとも言える。

10

(4) 確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態

確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態では、第2主遊技始動口B10で大当りを目指す遊技であり、設定による大当り確率の差により、当該遊技状態を抜ける(確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態が終了する)割合が異なること、小当りにより出玉を獲得可能であること、が特徴である。高設定(本例では、設定3:約1/28.5)である場合の方が低設定(本例では、設定1:約1/31.9)である場合よりも、大当りによる出玉を獲得し易いが、大当りにより、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態へ移行する可能性が高くなってしまう。反対に、低設定である場合の方が高設定である場合よりも、大当りに当選して非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態へ移行する可能性が低く、小当りによって出玉を増加させやすいが、大当りに当選し難いため短時間で出玉を増加させ難くなっている。

20

【0902】

尚、電チューが備えられた右第1主遊技始動口A30に入球し易いよう、右第1主遊技始動口A30の直上において、遊技球の落下速度が低速になるよう構成しても良く、例えば、釘等により遊技球が左右に移動するように落下させることで落下速度を低速にすることができる。

【0903】

30

次に、演出表示装置SGにおける演出について説明する。(非確率変動遊技状態/確率変動遊技状態且つ)時間短縮遊技状態では、時間短縮遊技状態が終了することにより、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態に移行して連荘状態(遊技者にとって有利な遊技状態)が終了する又は確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態に移行して連荘状態が継続するため、どちらに移行する可能性が高いのかを煽る演出を行う。例えば、味方キャラが敵キャラを攻撃して倒すと確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態に移行することを報知し、倒せなければ非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態に移行することを報知する。このとき、時間短縮遊技状態中は、敵キャラへ与えたダメージを累積してインジケータで表示し、インジケータが増加してMAXになると敵キャラを倒す、反対に、インジケータが減少して残りゲージがなしになると敵キャラを倒す、という構成としても良い。尚、敵キャラへ与えるダメージを副制御基板Sでの抽選により決定するが、現在の遊技状態が確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態であれば大ダメージが選択され易く、現在の遊技状態が非確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態であれば小ダメージが選択され易く構成するのが好適である。また、演出方法は、これに限定されず、例えば、味方キャラが、敵が制圧している拠点や関門を突破し、突破した段階により移行する遊技状態を示唆又は報知するよう構成しても良い。また、時間短縮遊技状態を抜ける可能性を示唆する(言い換えると、設定を示唆する又は設定による大当り確率を示唆する)ように、時間短縮遊技状態を抜ける可能性が低いことを示すインジケータ又は時間短縮遊技状態を抜ける可能性が高いことを示すインジケータを増加させる、増減させる、等の構成としても良い。なお、当該演出の実行期間としては、時間短縮遊技状態における最終変動にて実行するよ

40

50

う構成してもよいし、時間短縮遊技状態が終了直前の5回の図柄変動に亘って実行するよう構成してもよい。

【0904】

次に、変更例として、第1主遊技側と第2主遊技側が備える大当たり時に付与する時間短縮遊技状態の回数の一例を説明する。第1主遊技側では、時間短縮遊技状態を50回又は100回のうちいずれかを付与可能であり、第2主遊技側では、時間短縮遊技状態が付与されないように構成することにより、確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態に移行しづらいが、一度移行すると抜けづらく、小当たりと大当たりにより短時間で多くの出玉を獲得させることが可能な遊技性を提供することができる。

【0905】

また、別の変更例として、確率変動遊技状態への突入率及び継続率を第1主遊技側と第2主遊技側とで異ならせる構成（所謂VST機）としてもよい。具体的には、第1主遊技側では50%で特定領域を通過可能（確率変動遊技状態が付与される）とし、第2主遊技側では100%で特定領域を通過可能（確率変動遊技状態が付与される）とするよう構成される。尚、確率変動遊技状態はSTと呼ばれる、確率変動機能が所定の変動回数に到達すると終了する構成となっている。この構成とした場合には、確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態となった場合であっても、確率変動機能が所定の変動回数に到達すると終了する可能性がある遊技性となる。

【0906】

（第19実施形態）

次に、図174は、第19実施形態に係るぱちんこ遊技機における、第1主遊技用当否抽選テーブル（第2主遊技用当否抽選テーブル）、第1主遊技停止図柄決定用抽選テーブル（第2主遊技停止図柄決定用抽選テーブル）、第1主遊技変動態様決定用抽選テーブル（第2主遊技変動態様決定用抽選テーブル）の一例である。主に確率変動遊技状態において設定を推測可能な第2主遊技用当否抽選テーブルとなっている。第2主遊技用当否抽選テーブルでは、非確率変動遊技時において、設定1は、第2当否抽選乱数が「0～204」の場合に当たり（大当たり）となり、第2当否抽選乱数が「205～2299」の場合にハズレとなり、第2当否抽選乱数が「2300～65535」の場合に当たり（小当たり）となる。設定2は、第2当否抽選乱数が「0～215」の場合に当たり（大当たり）となり、第2当否抽選乱数が「216～2299」の場合にハズレとなり、第2当否抽選乱数が「2300～65535」の場合に当たり（小当たり）となる。設定3は、第2当否抽選乱数が「0～229」の場合に当たり（大当たり）となり、第2当否抽選乱数が「230～2299」の場合にハズレとなり、第2当否抽選乱数が「2300～65535」の場合に当たり（小当たり）となる。次に、第2主遊技用当否抽選テーブルでは、確率変動遊技時において、設定1は、第2当否抽選乱数が「0～2049」の場合に当たり（大当たり）となり、第2当否抽選乱数が「2050～2299」の場合にハズレとなり、第2当否抽選乱数が「2300～65535」の場合に当たり（小当たり）となる。設定2は、第2当否抽選乱数が「0～2159」の場合に当たり（大当たり）となり、第2当否抽選乱数が「2160～2299」の場合にハズレとなり、第2当否抽選乱数が「2300～65535」の場合に当たり（小当たり）となる。設定3は、第2当否抽選乱数が「0～2299」の場合に当たり（大当たり）となり、第2当否抽選乱数が「2300～65535」の場合に当たり（小当たり）となる。

【0907】

このように、確率変動遊技時に第2主遊技側でハズレが発生しなければ設定3であることが確定し、設定1と設定2は、ハズレの発生頻度からどちらの設定であるかを推測することが可能となっており、遊技者に確率変動遊技時に移行させて設定を推測したいと思わせることができ、非確率変動遊技時における稼働を促進させることができる。

【0908】

次に、変更例として、図175を用いて、第2主遊技側にハズレ時の停止図柄を複数備え、設定によりハズレ時の停止図柄の選択割合が異なるよう構成した一例を説明する。ハズレ時の第2主遊技停止図柄決定用抽選テーブルでは、設定1は、図柄抽選乱数が「0～

10

20

30

40

50

「799」の場合に停止図柄として「1F」が選択され、図柄抽選乱数が「800～1023」の場合に停止図柄として「2F」が選択される。設定2は、図柄抽選乱数が「0～699」の場合に停止図柄として「1F」が選択され、図柄抽選乱数が「700～1023」の場合に停止図柄として「2F」が選択される。設定3は、図柄抽選乱数が「0～599」の場合に停止図柄として「1F」が選択され、図柄抽選乱数が「600～1023」の場合に停止図柄として「2F」が選択される。

【0909】

非確率変動遊技時且つ非時間短縮遊技時におけるハズレ時には、停止図柄が「1F」と「2F」のいずれであっても、第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルにおいて、変動態様抽選乱数が「0～1023」であった場合に、変動時間が300秒の変動態様b10が選択されるよう構成されており、また、（非確率変動遊技時／確率変動遊技時且つ）時間短縮遊技時におけるハズレ時には、停止図柄が「1F」と「2F」のいずれであっても、第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルにおいて、変動態様抽選乱数が「0～899」であった場合に、変動時間が3秒の変動態様b0が選択され、変動態様抽選乱数が「900～923」であった場合に、変動時間が10秒の変動態様b1が選択され、変動態様抽選乱数が「924～1023」であった場合に、変動時間が60秒の変動態様b3が選択されるよう構成されている。

【0910】

確率変動遊技時且つ非時間短縮遊技時におけるハズレ時には、停止図柄が「1F」であるか「2F」であるかに応じて、第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルが異なっており、停止図柄が「1F」の場合には非リーチとなる変動態様b20、b21、b22のいずれかが選択され、停止図柄が「2F」の場合には、リーチとなる変動態様b30、b31のいずれかが選択されるよう構成されている。

【0911】

このように、非確率変動遊技時且つ非時間短縮遊技時、又は、（非確率変動遊技時／確率変動遊技時且つ）時間短縮遊技時には、ハズレ時の第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルが、選択された停止図柄によって異なることなく同一であるため、遊技者は変動態様から設定を推測することができず、停止図柄が表示された際に停止図柄を確認し、自らカウントすることで設定を推測することができる。尚、非確率変動遊技時且つ非時間短縮遊技時は第2主遊技側の変動時間として、ハズレ時又は小当り時は、300秒の長変動が選択されるよう構成されており、さらに、ほぼ小当りとなるため、設定を推測することは極めて困難であり、（非確率変動遊技時／確率変動遊技時且つ）時間短縮遊技時は、右第1主遊技始動口A30に遊技球が入球する頻度が高いため、第2主遊技始動口B10に遊技球が入球する頻度が低くなっているため、設定を推測することが困難である。

【0912】

このように構成することにより、確率変動遊技時且つ非時間短縮遊技時におけるハズレ時に、リーチとなった変動態様の発生回数をカウントすること（＝リーチの発生頻度）により、設定を推測することが可能な遊技機となっており、遊技状態が確率変動遊技時且つ非時間短縮遊技時のときにのみリーチの発生回数をカウントして設定を推測することが可能な構成とすることで、遊技者に確率変動遊技時且つ非時間短縮遊技時に移行させて設定を推測したいと思わせることができ、非確率変動遊技時且つ非時間短縮遊技時における稼働を促進させることができる。尚、リーチとなった変動態様の発生回数をカウント可能な構成でなくともよく、例えば、特定の予告や演出が発生する変動態様であったり、特定の変動時間の変動態様であってもよく、また、確率変動遊技時且つ非時間短縮遊技時で設定を推測することが可能な構成としたが、他の遊技状態において設定を推測することが可能な構成としてもよい。

【0913】

尚、第1主遊技用当否テーブル及び第2主遊技用当否テーブルに当り（大当り）がなく、ほぼ当り（小当り）となる遊技性の場合には、設定により小当り確率が異なることはなく、小当り遊技中に特定領域（V領域）を通過することで大当りとなり、小当り図柄に基

10

20

30

40

50

づいて付与される時間短縮遊技状態の回数が決定される。設定により小当り図柄の選択割合が異なるよう構成することで、設定により連荘し易さが異なる遊技性を提供することができる。さらに、上述した、ハズレ図柄を複数備え、設定によりハズレ図柄の選択割合が異なる構成を採用することで、設定を推測可能とすることもできる。尚、設定により小当り確率が異なる構成としても良い。

【0914】

(第20実施形態)

第20実施形態では、設定を備えた遊技機における副制御基板Sにより設定を示唆するタイミング(条件)及び演出の一例を示す。

【0915】

(1) 設定を示唆するタイミング

設定を示唆するタイミングの一例として、保留数が所定数となった場合が挙げられる。例えば、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態において主に第1主遊技始動口のみで遊技が行われる機種である場合には、保留数が最大数である4個になった場合、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態において第1主遊技始動口と第2主遊技始動口とで交互に遊技が行われる機種である場合(例えば、第17実施形態)には、保留数が最大数である8個になった場合である。尚、保留数が所定数となった場合に必ず設定を示唆する演出(設定示唆演出)を実行する構成でなくとも良く、保留数が所定数となった場合に設定示唆演出を実行するか否かを抽選(実行可否抽選)により決定する構成、第1主遊技始動口への入球数により設定示唆演出を実行可能(設定示唆演出を実行する又実行可否抽選を実行する)とする構成、第2主遊技始動口への入球数により設定示唆演出を実行可能とする構成、第1主遊技始動口と第2主遊技始動口への合計入球数により設定示唆演出を実行可能とする構成、保留ありの状態(=保留が途切れない状態)で始動口へ入球した場合にカウントアップするカウンタのカウンタ値が一定値(例えば、10)になると設定示唆演出を実行可能(一定値に達すると設定示唆演出を実行する又実行可否抽選を実行する)とする構成、保留数が最大数の状態でさらに所定数(例えば、2個)の入球があった場合に設定示唆演出を実行可能とする構成、等であっても良い。入球数によって設定示唆演出を実行可能とする構成又は保留数が最大数の状態でさらに所定数(例えば、2個)の入球があった場合に設定示唆演出を実行可能とする構成の場合には、保留数が最大数になった場合に発射を停止させる、所謂止め打ちを防止することができる。具体的には、遊技者にとっては、保留数が最大数になったとしてもさらに入球させることで設定示唆の恩恵を得ることができ、遊技場の営業者(管理者)にとっては、遊技者が、保留数が最大数の状態でさらに遊技球を発射すると、遊技球が始動口へ入球したとしても当否抽選の対象とならないため、全ての入球が当否抽選の対象となる場合よりも大当たりとなる可能性を下げることができ、また、発射した遊技球の全てが始動口等の入賞口へ入球することはなく、賞球を伴わない無駄玉が増えるため、売り上げを増加させることができる。つまり、遊技者と遊技場の営業者(管理者)の双方にメリットをもたらすことができる。また、設定を示唆するタイミングは、保留数が所定数になった場合に限られず、所定の予告(例えば、会話予告)時、装飾図柄が複数回変動しているように見せる擬似連時、先読み演出時、大当たり時、大当たり開始デモ時、大当たり終了デモ時、小当たり時、小当たり開始デモ時、小当たり終了デモ時、所定のモード時、確率変動遊技状態時、確率変動遊技状態(ST)の最終変動、時間短縮遊技状態時、時間短縮遊技状態(時短)の最終変動、後述する特殊図柄が停止した際、のように様々なタイミングであっても良い。

【0916】

(2) 設定を示唆する演出(設定示唆演出)

(2-1) 演出による示唆

設定を示唆する演出(設定示唆演出)の一例として、ルーレット演出が挙げられる。具体的には、設定を示唆するタイミング(例えば、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態において主に第1主遊技始動口のみで遊技が行われる機種である場合には、保留数が最大数である4個になった場合)になると、変動中の演出とは異なる演出であるルーレツ

10

20

30

40

50

ト演出を表示させる。ルーレット演出は、設定に基づいてルーレットに、「設定 1：0 %」、「設定 1：10 %」、「設定 1：20 %」、「設定 1：30 %」、「設定 1：40 %」、「設定 1：50 %」、「設定 1：60 %」、「設定 1：70 %」、「設定 1：80 %」、「設定 1：90 %」、「設定 1：100 %」、「設定 2：0 %」、「設定 2：10 %」、「設定 2：20 %」、「設定 2：30 %」、「設定 2：40 %」、「設定 2：50 %」、「設定 2：60 %」、「設定 2：70 %」、「設定 2：80 %」、「設定 2：90 %」、「設定 2：100 %」、「設定 3：0 %」、「設定 3：10 %」、「設定 3：20 %」、「設定 3：30 %」、「設定 3：40 %」、「設定 3：50 %」、「設定 3：60 %」、「設定 3：70 %」、「設定 3：80 %」、「設定 3：90 %」、「設定 3：100 %」の中から決定された所定数（例えば、1～6 個）分が表示され、いずれかの表示内容にて停止するよう構成されており、設定 3 である場合には、設定 3 である可能性を示す表示内容にて停止し易く、設定 1 である場合には、設定 1 である可能性を示唆する表示内容にて停止し易く構成されている。尚、ルーレットの回転が開始され、所定時間（例えば、5 秒）以内にサブ入力ボタン S B が操作された場合にルーレットを停止表示する（サブ入力ボタン S B が操作されなかった場合にはルーレットが停止表示されない）構成としても良く、このように構成することにより、サブ入力ボタン S B の操作を積極的に促すことが可能となる。また、設定示唆演出はルーレット演出に限られず、例えば、3 枚のカードが裏返し（設定示唆内容が見えない状態）で表示され、いずれかのカードを遊技者が選択するなどの構成としても良いし、サブ入力ボタン S B の操作回数により、設定を示唆する表示内容が変更されるよう構成してもよい。また、設定 2 又は設定 3 が確定する高設定確定表示等を備える構成としてもよい。また、設定示唆演出は、予告時の表示態様等であってもよく、例えば、サブ入力ボタン S B が押下されるとキャラクタのセリフが表示される会話予告において、金色文字や金色枠が表示されると高設定であることを示唆するよう構成しても良い（金色文字や金色枠は、大当たり期待度を示唆する表示態様として表示され得る表示態様であっても、大当たり期待度を示唆する表示態様としては表示され得ない表示態様であってもよい）。

【0917】

このように、設定示唆演出を変動中に実行可能とすることで、設定又は設定示唆演出を備えていない場合よりも、設定示唆演出の時間を確保するために、遊技時間を長くすることができる。つまり、規定の時間内で出玉が多くなり過ぎる（出率が高すぎる）ことは適正な遊技機ではないとする遊技機試験がある中、1 変動の変動時間を長くすることで規定の時間内における出率を下げることは、開発者が適正な出玉を設計する際に極めて効果的な手法である。また、1 変動の変動時間が長くなることは、遊技者からすると煩わしいことであるが、設定示唆という付加価値を設けることで遊技者にとってのデメリットを軽減することが可能となっている。

【0918】

（2 - 2）装飾図柄による示唆

設定を示唆する一例として、装飾図柄による示唆が挙げられる。具体的には、ハズレ（例えば、リーチなしハズレ）のときに設定を示唆するための特殊図柄（例えば、通常の装飾図柄列にはない図柄、7 図柄等）を停止可能に構成し、例えば、ハズレのときに、設定 1 では 1 / 200、設定 2 では 1 / 150、設定 3 では 1 / 100、で抽選を行い、当選した場合には特殊図柄が停止するよう構成する。このように構成することで、特殊図柄が停止した回数を遊技者自らカウントすることや特殊図柄の停止位置（特殊図柄の停止位置も抽選する場合）により、設定を推測することが可能である。尚、特殊図柄が停止した回数を副制御基板 S 側でカウントしておき、携帯端末等によって特殊図柄が停止した回数を確認可能としても良い。具体的には、変動が停止しているときにサブ入力ボタン S B が押下されると、副制御基板 S は、カウントしていた特殊図柄の停止回数等の情報を含む二次元コードを生成して演出表示装置 S G に表示する。遊技者は二次元コードを携帯端末等で読み取ることにより、遊技機側でカウントされた特殊図柄の停止回数等の情報を得ることができる。また、特殊図柄が停止可能な構成ではなく、装飾図柄の停止形状（例えば、通

10

20

30

40

50

常は、横一直線上に装飾図柄が停止するが、ハズレのときに、設定1では1/200、設定2では1/150、設定3では1/100、で抽選を行い、当選した場合には山型、逆山型等の通常とは異なる停止形状となる）、装飾図柄の変動開始順序（例えば、通常は、左中右の順に変動が開始するが、ハズレのときに、設定1では1/200、設定2では1/150、設定3では1/100、で抽選を行い、当選した場合には、左右中や中右左等の順に変動を開始させる）、装飾図柄の停止順序又は仮停止順序（通常は、左右中の順に変動が停止又は仮停止するが、ハズレのときに、設定1では1/200、設定2では1/150、設定3では1/100、で抽選を行い、当選した場合には、左中右や中右左の順に停止又は仮停止させる）、奇数図柄揃い（ハズレのときに、設定1では1/200、設定2では1/150、設定3では1/100、で抽選を行い、当選した場合には奇数図柄揃いで停止する）の回数、偶数図柄揃い（ハズレのときに、設定1では1/200、設定2では1/150、設定3では1/100、で抽選を行い、当選した場合には偶数図柄揃いで停止する）の回数、ハズレ停止時に表示される色（例えば、赤色の発生回数が多いほど高設定の可能性が高く、青色の発生回数が多い又は色が表示されないほど低設定である可能性が高い等）、リーチ図柄（例えば、高設定ほど7リーチになり易い等）、一部又は全ての装飾図柄が遅れて変動開始する（例えば、通常は、主遊技図柄の変動が開始すると略同時に装飾図柄の変動も開始するが、高設定ほど、主遊技図柄の変動が開始してから所定時間（例えば、3秒）経過後に装飾図柄の変動を開始する割合が高くなり易い）、等によって設定を示唆する構成とすることも可能である。

【0919】

（第21実施形態）

第15実施形態などで前述したような、複数の設定値を有している遊技機に適応可能な構成を第21実施形態として以下に詳述する。

【0920】

（設定変更方法）

次に、図176及び図177は、設定キースイッチ及びRAMクリアボタンを用いた設定変更方法を示す遷移図である。当該設定変更方法は以下の手順により行われる。

（1）遊技店員等が前枠D14を外枠D12から開放する。

（2）遊技店員等が前枠D14を開放した際、遊技機の電源スイッチEaがオフ且つ設定キースイッチがオフ且つRAMクリアボタンがオフであれば、次の手順に進む。尚、遊技機の電源スイッチEaがオン又は設定キースイッチがオンであれば、オフにして次の手順に進む。

（3）遊技店員等が設定キースイッチを右方向に回転させてオンにする、RAMクリアボタンをオンにする。

（4）遊技店員等が電源スイッチEaをオンにすると、遊技機は設定変更モードに移行し、設定値表示装置に設定値が表示される。このとき、設定値表示装置にはデフォルト設定値（例えば、大当たり確率が最も低い設定1）が表示されるよう構成してもよいし、現在設定されている設定値が表示されるよう構成してもよい。また、設定変更モードであることを把握可能にするため、「設定変更中です」の音声が出力されるよう構成してもよい。なお、設定値表示装置は主制御基板Mにて制御される。

（5）RAMクリアボタンを一旦オフにする

（6）遊技店員等がRAMクリアボタンを押下する毎（オフからオンになる毎）に、設定値（設定値データ、設定値候補と称することがある）が次の設定値（設定値データ）に変更されると共に、設定値表示装置に設定値（設定値データ）が表示される。同図においては、設定値1に+1され、設定値2に変更されているが、設定が飛び番（例えば、設定1→設定3→設定5、設定2→設定4→設定6、等）で構成されている場合であっても、次の設定値（例えば、設定値1から設定値3に変更される）となるよう構成することが好適である。また、遊技店員等が設定変更ボタンを1回押下すると、設定が-1される構成であってもよい。この場合、設定6は大当たり確率が最も低い設定であることが望ましく、デフォルト設定値を6としておくことが望ましい。さらに、設定として、7セグメント表示

10

20

30

40

50

機の設定値表示装置で表示可能である文字や記号が用いられてもよく、例えば、L（LOW）やH（HIGH）とすることも可能である。尚、ここでは設定値の表示や設定値の選択候補が変更可能であって、設定が確定するのは確定条件を満たした際となるよう構成されている。即ち、設定値表示装置の表示は、設定変更モードに移行した時点で「1」が表示され、設定変更ボタンを操作する毎に、「1→2→3→1→2」と表示が切り替わっていき、設定値表示装置の表示が「2」であるときに確定条件を満たすと、設定値が2に設定（確定）されるよう構成されている。

（7）遊技店員等が設定キースイッチを左方向に回転させてオフにすることで設定が確定され（確定条件を満たして設定変更モード終了）、遊技機の設定値表示装置に表示されていた設定値の表示が消去される。尚、設定確定後、所定時間（例えば、5秒）が経過するまでは設定値が表示されるよう構成してもよい。

10

（8）前枠D14を閉鎖する。尚、設定が確定されたことにより、遊技が実行可能となるよう構成してもよいし、前枠D14が閉鎖されたことにより、遊技が実行可能となるよう構成してもよい。なお、本例に係る遊技機は、前枠D14が閉鎖しているか開放しているかを検出可能なセンサを有している。

【0921】

（設定確認方法）

次に、図178は、設定キースイッチ及びRAMクリアボタンを用いた設定確認方法を示す遷移図である。当該設定確認方法は以下の手順により行われる。

（1）遊技店員等が前枠D14を外枠D12から開放する。

20

（2）遊技機の電源スイッチEaがオフ且つ設定キースイッチがオフ且つRAMクリアボタンがオフとなっている。

（3）（4）遊技店員等が設定キースイッチを右方向に回転させてオンにし、電源スイッチEaをオンにすると、遊技機は設定確認モード（設定表示モードと称することもある）へ移行し、設定値表示装置に現在の設定値が表示される。このとき、設定確認モードであることを把握可能にするため、「設定確認中です」の音声出力されるよう構成してもよく、遊技進行中であるが、遊技音（BGM、SE等）は出力されず（遊技音の出力が停止して）、「設定確認中です」の音声のみが出力されるよう構成してもよく、また、遊技音と「設定確認中です」が同時に出力される構成としてもよい。

（5）遊技店員等が設定キースイッチをオフにすると、遊技機は設定確認モードを終了し、設定値表示装置に表示されていた設定値の表示が消去される。この際、「設定確認を終了します」の音声出力されるよう構成してもよい。

30

（6）遊技店員等が前枠D14を閉鎖する。設定確認モードでは、遊技の進行（特別図柄の変動等）が一時停止することなく継続されているため、特別図柄の変動中に前枠が閉鎖された場合であっても、演出表示装置SGでは装飾図柄の変動や演出表示が継続されたままである。尚、設定確認モードにおいて、遊技の進行を一時停止する構成としてもよく、この場合には、設定キースイッチがオンになると設定確認モードに移行して遊技の進行が一時停止され、設定キースイッチがオフになると設定確認モードが終了して一時停止が解除され、引き続き遊技が進行することとなる。ここで、設定確認モードに移行した場合には、設定変更モードに移行した場合とは異なり、確率状態は設定確認モードに移行する直前の状態に維持されている。

40

【0922】

次に、図179は、第21実施形態における、主制御基板Mが行う一般的な処理の流れを示したメインフローチャートである。遊技機の電源投入後、同図（a）の処理が実行される。即ち、遊技機の電源投入後、初期設定を行った後（不図示）、ステップ1010-1で、主制御基板MのCPUMCは、設定キースイッチがオンであるか否かを判定する。ステップ1010-1でYesの場合、ステップ1010-2で、主制御基板MのCPUMCは、前枠D14が開放しているか否かを判定する（前述したように、前枠D14が閉鎖しているか開放しているかはセンサのオン・オフで判定している）。

【0923】

50

ステップ1010-2でYesの場合、ステップ1010-3で、主制御基板MのCPUMCは、RAMクリアボタンがオンであるか否かを判定する。ステップ1010-3でYesの場合、ステップ1010-4で、主制御基板MのCPUMCは、RAMクリアを実行する。次に、ステップ1010-5で、主制御基板MのCPUMCは、設定変更処理の実行に係る情報をサブメイン制御部SMへ送信するためのコマンド送信用バッファMT10にセット（ステップ1999の制御コマンド送信処理によってサブメイン制御部SM側に送信される）する。次に、ステップ1010-6で、主制御基板MのCPUMCは、遊技の進行を停止する。次に、ステップ1003（第21）で、主制御基板MのCPUMCは、設定変更処理を実行し、ステップ1010-23に移行する。なお、遊技の進行が停止すると、各種入賞口へ遊技球が入球しても賞球が払い出されない、各種入球口（始動口）へ遊技球が入球しても乱数を取得しない、主遊技図柄が新たに変動表示を開始しない、大当たり及び小当たりが新たに開始しない、などのように作用することとなる。

【0924】

他方、ステップ1010-1でNoの場合、又は、ステップ1010-3でNoの場合には、ステップ1010-8に移行する。また、ステップ1010-2でNoの場合には、ステップ1010-7で、主制御基板MのCPUMCは、設定キースwitchのオン情報をクリアし、ステップ1010-8に移行する。なお、ステップ1010-7の処理を実行して設定キースwitchのオン情報がクリアされた場合に、その後再度設定キースwitchがオンであると判定する構成として、（1）設定キースwitchのオフ→オン（立ち上がり）を検出した場合にオンであると判定する、（2）電源をオフにし、その後電源を再投入した場合に設定キースwitchがオンであった場合に判定する、のように構成してもよい。

【0925】

このように、本例においては、電源を投入した際に、設定キースwitchがオン、且つ、前枠D14が開放、且つ、RAMクリアボタンがオンであった場合に、設定変更処理を実行（設定変更モードに移行）するよう構成されている。また、前枠D14の開放を検出していない（前枠D14の閉鎖を検出している）場合には、設定キースwitchがオン、且つ、RAMクリアボタンがオンであっても、設定キースwitchのオン情報がクリアされ、設定変更モードには移行しないよう構成されている。なお、これには限定されず、前枠D14の開放を検出していない（前枠D14の閉鎖を検出している）場合においても、設定キースwitchのオン情報をクリアしない、即ち、前枠D14の開放を検出している場合と同様の処理を実行するよう構成してもよい。そのように構成した場合には、以下のように作用することとなる。

<作用1>

前枠D14が開放している状態にて、設定キースwitchがオン、且つ、RAMクリアボタンがオンで電源を投入→設定変更モードに移行する

前枠D14が閉鎖している状態にて、設定キースwitchがオン、且つ、RAMクリアボタンがオンで電源を投入→設定変更モードに移行する

<作用2>

前枠D14が開放している状態にて、設定キースwitchがオン、且つ、RAMクリアボタンがオフで電源を投入→設定確認モードに移行する

前枠D14が閉鎖している状態にて、設定キースwitchがオン、且つ、RAMクリアボタンがオフで電源を投入→設定確認モードに移行する

【0926】

次に、ステップ1010-8で、主制御基板MのCPUMCは、正常に電源断が行われたことを示す情報がRAMに保存されているか否かを判定する。ステップ1010-8でYesの場合、ステップ1010-9で、主制御基板MのCPUMCは、主制御基板MにおけるRAM領域の内容をチェックする（例えば、電断時に記録されたチェックサムとRAM領域に保存されている情報量との比較を行う）。次に、ステップ1010-10で、主制御基板MのCPUMCは、当該チェック結果に基づきRAMの内容が正常であるか否か（正確に電断時の情報がRAMにバックアップされているか否か）を判定する。ステッ

ブ１０１０－１０でＹｅｓの場合、即ちＲＡＭにバックアップされていたデータが正常な場合には、ステップ１０１０－１０－１で、主制御基板ＭのＣＰＵＭＣは、電源断前の異常が継続している状況ではないか否か（遊技を停止する異常が発生している状況で電源断となった後電源復帰していないか否か）を判定する。ステップ１０１０－１０－１でＹｅｓの場合、ステップ１０１０－１１で、主制御基板ＭのＣＰＵＭＣは、当該電源投入の前においては設定変更処理中（設定変更モード中）に電源断しているか否かを判定する。ステップ１０１０－１１でＹｅｓの場合には、ステップ１０１０－１２で、主制御基板ＭのＣＰＵＭＣは、設定変更異常に係る情報をサブメイン制御部ＳＭへ送信するためのコマンド送信用バッファＭＴ１０にセット（ステップ１９９９の制御コマンド送信処理によってサブメイン制御部ＳＭ側に送信される）する。次に、ステップ１０１０－１２で、主制御基板ＭのＣＰＵＭＣは、設定変更異常を報知（例えば、主制御基板Ｍにて制御される所定の表示装置にて報知）して遊技の進行を停止する。このように、第２１実施形態においては、設定変更モード中に電源断となった場合には、その後の電源投入後に設定変更異常となる場合があるよう構成されている。また、ステップ１０１０－１１でＮｏの場合、ステップ１０１０－１１－１で、主制御基板ＭのＣＰＵＭＣは、ＲＡＭクリアボタンがオフであるか否かを判定する。ステップ１０１０－１１－１でＹｅｓの場合、ステップ１０１０－１９に移行し、ステップ１０１０－１１－１でＮｏの場合、換言すると、ＲＡＭクリアボタンオン且つ設定キースイッチオフで電源投入した場合、ステップ１０１０－１６に移行し、ＲＡＭクリアを実行する。

【０９２７】

また、ステップ１０１０－１０－１でＮｏの場合、ステップ１０１０－１０－２で、主制御基板ＭのＣＰＵＭＣは、継続している異常（電源断前に検出していた異常）に係る情報をサブメイン制御部ＳＭへ送信するためのコマンド送信用バッファＭＴ１０にセット（ステップ１９９９の制御コマンド送信処理によってサブメイン制御部ＳＭ側に送信される）する。次に、ステップ１０１０－１０－３で、主制御基板ＭのＣＰＵＭＣは、継続している異常を報知（例えば、主制御基板Ｍにて制御される所定の表示装置にて報知）して遊技の進行を停止する。

【０９２８】

ステップ１０１０－８又はステップ１０１０－１０でＮｏの場合、ステップ１０１０－１４で、主制御基板ＭのＣＰＵＭＣは、設定値データが正常な範囲内（本例では、「１」～「３」）であるか否かを判定する。ステップ１０１０－１４でＹｅｓの場合、ステップ１０１０－１５で、主制御基板ＭのＣＰＵＭＣは、ＲＡＭ検査フラグの内容が正常であるか否かを判定する。なお、本例では、所定のＲＡＭ領域に記憶されるＲＡＭ検査フラグの内容が「ＡＡ５５Ｈ」である場合に正常であると判定する。なお、ステップ１０１０－１５で正常であると判定するＲＡＭ検査フラグの内容は、「ＡＡ５５Ｈ」には限定されず、任意の内容を設定してもよく、通常遊技で使用される値でもよいし、０でもよい。また、ＲＡＭ検査フラグの内容を通常遊技で使用されない値とする場合には、どのような値を用いてもよい（すべての値を使用可能である）。ステップ１０１０－１５でＹｅｓの場合、ステップ１０１０－１６で、主制御基板ＭのＣＰＵＭＣは、ＲＡＭクリアを実行し、ステップ１０１０－２３に移行する。他方、ステップ１０１０－１４又はステップ１０１０－１５でＮｏの場合、ステップ１０１０－１７で、主制御基板ＭのＣＰＵＭＣは、ＲＡＭ異常に係る情報をサブメイン制御部ＳＭへ送信するためのコマンド送信用バッファＭＴ１０にセット（ステップ１９９９の制御コマンド送信処理によってサブメイン制御部ＳＭ側に送信される）する。次に、ステップ１０１０－１８で、主制御基板ＭのＣＰＵＭＣは、ＲＡＭ異常を報知（例えば、主制御基板Ｍにて制御される所定の表示装置にて報知）して遊技の進行を停止する。なお、前述した所定のＲＡＭ領域は、ＲＡＭ検査フラグが記憶されているＲＡＭ領域のみとしてもよいし、ＲＡＭ検査フラグが記憶されているＲＡＭ領域と設定値データが記憶されているＲＡＭ領域とを合わせて所定のＲＡＭ領域としてもよく、そのように構成した場合には、設定値データが正常であり且つＲＡＭ検査フラグの内容が正常であることを「所定のＲＡＭ領域の値が特定条件を満たしている」と称することがあ

る。

【0929】

このように、第21実施形態においては、RAM内の電源断復帰データが正常ではないと判定された場合にも、直ちにRAM異常であると判定しないよう構成されている。より具体的には、RAM内の電源断復帰データが正常ではないと判定された場合、(1)設定値データが正常な範囲内であり、且つ、RAM検査フラグの内容が正常であると判定した場合にはRAM異常ではないと判定し、(2)設定値データが正常な範囲内でない、又は、RAM検査フラグの内容が正常でない、のいずれかであると判定した場合にはRAM異常であると判定して遊技を停止するよう構成されている。

【0930】

このように構成することにより、コネクタの接触不良などのハードに関する要因によって瞬断(ごく短い時間で「電源オン→電源オフ→電源オン」を検出する)が発生した場合においても、バックアップがとれないことによるRAM異常が発生し難くすることができ、遊技機を適切に稼働させることができる。

【0931】

なお、RAM検査フラグが記憶される前記所定のRAM領域の容量は、ステップ1010-9に係る前記チェックサムの値を記憶するRAM領域の容量よりも小さくなっている。

【0932】

また、RAM検査フラグが記憶される前記所定のRAM領域の容量を1バイトで構成した場合には、使用できる情報の種類が256種類(0~255のいずれか)となってしまう、RAM異常が発生した際には、現実的に起こり得る確率(例えば、256種類の値からランダムに決定される場合には、 $1/256$)でRAM検査フラグと同等の値が入ってしまうため、そのような場合には、RAM異常が発生しているにも拘わらず、RAM検査フラグが正常と判断され、且つ、設定値データも正常の範囲であると判断された結果、RAM異常ではないと判断されてしまう可能性がある。そこで、RAM検査フラグが記憶される前記所定のRAM領域の容量を2バイト以上にすることによって、使用できる情報の種類が65536種類以上とすることができ、RAM異常が発生したと誤って判断してしまう事態が生じ難くすることができるため、RAM検査フラグが記憶される前記所定のRAM領域の容量は2バイト以上とすることが好適である。

【0933】

フローチャートの説明に戻ると、ステップ1010-19で、主制御基板MのCPUMCは、設定値データは正常な範囲内であるか否かを判定する。ステップ1010-19でYesの場合、ステップ1010-20で、主制御基板MのCPUMCは、設定キースwitchのオン情報があるか否かを判定する。なお、ステップ1010-7の処理で設定キースwitchのオン情報がクリアされていた場合には、ステップ1010-20ではNoと判定される。例えば、前枠D14が閉鎖している状況にて設定キースwitchをオンにする操作を実行し、電源投入した場合において、設定キースwitchをオンにする操作を実行したまま新たに操作しなかった場合にも(見た目上設定キースwitchがオンになっていても)、設定キースwitchのオン情報がクリアされていることとなる。ステップ1010-19でNoの場合、ステップ1010-24で、主制御基板MのCPUMCは、設定値異常に係る情報をサブメイン制御部SMへ送信するためのコマンド送信用バッファMT10にセット(ステップ1999の制御コマンド送信処理によってサブメイン制御部SM側に送信される)する。次に、ステップ1010-25で、主制御基板MのCPUMCは、設定値異常を報知(例えば、主制御基板Mにて制御される所定の表示装置にて報知)して遊技の進行を停止する。

【0934】

また、ステップ1010-20でYesの場合、ステップ1010-21で、主制御基板MのCPUMCは、設定確認処理の実行に係る情報をサブメイン制御部SMへ送信するためのコマンド送信用バッファMT10にセット(ステップ1999の制御コマンド送信処理によってサブメイン制御部SM側に送信される)する。次に、ステップ1010-2

10

20

30

40

50

2で、主制御基板MのCPUMCは、遊技の進行を停止する。次に、ステップ3850で、主制御基板MのCPUMCは、設定確認処理を実行し、ステップ1012に移行する。なお、ステップ1010-20でNoの場合にも、ステップ1012に移行する。

【0935】

次に、ステップ1012で、主制御基板MのCPUMCは、主制御基板MにおけるRAM内に記憶（バックアップ）されている電断時の各種情報コマンドを取得し、ステップ1014で、取得した各種情報コマンドをサブメイン制御部SM側に送信し（当該タイミングにて送信してもよいし、当該タイミングではコマンドをセットしておき制御コマンド送信処理にて送信するよう構成してもよい）、ステップ1014-1で、主制御基板MのCPUMCは、ソレノイドの復帰設定{第2主遊技始動口B10の第2主遊技始動口電動役物B11d、大入賞口（例えば、第1大入賞口C10、第2大入賞口C20）及び可動片（例えば、図100の上遮蔽部材C24、下遮蔽部材C25等）の開放又は閉鎖状態を電源断前の状態に復帰させるため、第2主遊技始動口電動役物B11d、大入賞口、可動片の順に、ソレノイド作動ビットがオンか否かを判断し、オンの場合には、（電源断前に第2主遊技始動口／大入賞口／可動片が開放中と判断して、改めて開放させるために）ソレノイド作動フラグを対応するアドレスに格納する}を行い、ステップ1010-23の処理に移行する。

10

【0936】

次に、ステップ1010-23で、主制御基板MのCPUMCは、電源復帰に係る情報をサブメイン制御部SMへ送信するためのコマンド送信用バッファMT10にセット（ステップ1999の制御コマンド送信処理によってサブメイン制御部SM側に送信される）する。次に、ステップ1016で、主制御基板MのCPUMCは、主制御基板M側のメイン処理に係る実行定時割り込み（例えば、約1.5ms毎のハードウェア割り込みを契機とするが、本例では、当該割り込み周期をTとする）を許可し、ステップ1018の処理に移行する。尚、ステップ1018後は、次の定時割り込みタイミングに到達するまで、主制御基板MのCPUMCは、各種乱数更新処理（例えば、乱数カウンタのインクリメント処理）を繰り返し実行することとなる。

20

【0937】

ここで、図179にて遊技機の電源投入時に副制御基板S側に送信する遊技停止に関するコマンドについて詳述したが、第21実施形態においては、これら電源投入時の遊技停止に関するコマンドは、電源を投入した際にいずれか1つを副制御基板S側に（必ず）送信するよう構成されている。また、これら遊技停止に関するコマンドには優先度が設定されており、複数のコマンドが出力条件を満たしている場合には、そのうちの最も優先度が高いコマンドのみを副制御基板S側に送信するよう構成されている。

30

【0938】

具体的には、図180に示すように、電源投入時に主制御基板M側から副制御基板S側に送信することとなる遊技停止に係るコマンド（遊技状態に関するコマンド、状態情報などと称することがある）として、（1）設定変更処理の実行に係る情報、（2）RAM異常に係る情報、（3）継続している異常に係る情報、（4）設定変更異常に係る情報、（5）設定値異常に係る情報、（6）設定確認処理の実行に係る情報、（7）電源復帰に係る情報の7つを有している。なお、「（7）電源復帰に係る情報」については、遊技停止とならず電源復帰して遊技可能な状態となる旨のコマンドとなっている（他のコマンドは遊技停止となる場合に出力条件を満たすため、当該コマンドと同時に出力条件を満たすことがない）。

40

【0939】

また、電源投入時に副制御基板S側に送信される遊技停止に関するコマンドの送信タイミング（出力条件）としては、

（1）設定変更処理の実行に係る情報：設定変更操作（前枠D14開放、且つ、設定キースイッチオン、且つ、RAMクリアボタンオン）での電源投入時

（2）RAM異常に係る情報：RAMのバックアップが正常でない状態での電源投入時

50

(3) 継続している異常に係る情報：電源断前に検出したエラーが電源復帰後にも継続している

(4) 設定変更異常に係る情報：設定変更処理中に電源オフ→設定変更操作以外での電源投入時

(5) 設定値異常に係る情報：設定値が範囲外での電源投入時、又は設定値が範囲外での主遊技図柄変動開始時

(6) 設定確認処理の実行に係る情報：設定確認操作（前枠D14開放、且つ、設定キースイッチオン、且つ、RAMクリアボタンオフ）での電源投入時

(7) 電源復帰に係る情報：電源断復帰での（通常の）電源投入時、RAMクリア操作での電源投入時、設定変更処理または設定確認処理が終了したとき

となっており、上記(1)～(6)の優先度は、高いものから「(1)→(2)→(3)→(4)→(5)→(6)」となっている。

【0940】

また、前述したように、上記(1)～(6)の複数のコマンドの出力条件を満たした場合には、優先度が最も高い1つのコマンドのみが電源投入時に副制御基板S側に送信されるよう構成されている。また、そのような場合には、副制御基板S側で受信する遊技停止に関するコマンドは1種類のみであるため、当該受信した最も優先度の高いコマンドに関する報知を副制御基板S側（例えば、演出表示装置SG）で行うこととなるが、主制御基板M側における異常の報知（エラー報知）については、最も優先度の高い異常のみを所定の表示装置にて報知してもよいし、所定の表示装置にて所定時間毎（例えば、2秒毎）に切り替えて複数の異常を報知するよう構成してもよい。

【0941】

また、第21実施形態においては、設定変更モードへの移行条件と設定確認モードへの移行条件とに、前枠D14の開放が含まれているが、扉D18の開放を条件に変更してもよい。

【0942】

図179及び図180にて詳述した電源投入時のコマンドの構成を有しているため、第21実施形態に係る遊技機は以下のような作用を有することとなる。

【0943】

<作用1-1>

遊技を停止することとなる所定のエラーを検出している状況にて電源断が発生し、その後、設定変更モードに移行させるための操作（設定キースイッチオン、且つ前枠D14開放、且つRAMクリアボタンオン）を行い電源投入した場合には、設定変更モードに移行し、電源投入時に副制御基板S側に送信される遊技停止に関するコマンドとして、設定変更処理の実行に係る情報が送信される。

【0944】

<作用1-2>

遊技を停止することとなる所定のエラーを検出している状況にて電源断が発生し、その後、設定確認モードに移行させるための操作（設定キースイッチオン、且つ前枠D14開放、且つRAMクリアボタンオフ）を行い電源投入した場合には、継続している異常を報知して遊技を停止し、電源投入時に副制御基板S側に送信される遊技停止に関するコマンドとして、継続している異常に係る情報が送信される。

【0945】

このように構成することによって、電源投入時において、設定変更モードに移行することにより、電源断前に検出していた異常が解消したにも拘らず、異常が継続していると管理者が認識してしまうことや、電源投入時において、電源断前に検出していた異常が解消していないにも拘らず、設定確認モードであると管理者が認識してしまうことを防止することができる。

【0946】

<作用2-1>

設定変更モード中にて（設定値が確定する前に）電源断が発生し、その後、通常電源復帰した（設定変更モードに移行させるための操作を行わずに電源復帰した）場合、設定変更異常を報知して遊技を停止し、電源投入時に副制御基板 S 側に送信される遊技停止に関するコマンドとして、設定変更異常に係る情報が送信される。

【0947】

<作用 2-2>

設定変更モード中にて（設定値が確定する前に）電源断が発生し、その後、設定変更モードに移行させるための操作（設定キースイッチオン、且つ前枠 D14 開放、且つ RAM クリアボタンオン）を行い電源投入した場合には、設定変更モードに移行し、電源投入時に副制御基板 S 側に送信される遊技停止に関するコマンドとして、設定変更処理の実行に係る情報が送信される。

10

【0948】

<作用 2-3>

設定変更モード中にて（設定値が確定する前に）電源断が発生し、その後、前枠 D14 が閉鎖している状況にて、設定キースイッチオン、且つ RAM クリアボタンオンを行い電源投入した場合には、設定変更異常を報知して遊技を停止し、電源投入時に副制御基板 S 側に送信される遊技停止に関するコマンドとして、設定変更異常に係る情報が送信される。より具体的には、前枠 D14 が閉鎖している状況では、設定キースイッチがオンであっても、図 179 のステップ 1010-7 の処理によって設定キースイッチの入力情報はクリアされる（または、設定キースイッチの入力情報を検出しないよう構成してもよい）ため、設定キースイッチオフ且つ RAM クリアボタンオンで電源投入した、換言すると、通常の RAM クリア操作にて電源投入された場合と同様の作用となるため、上記<作用 2-1>と同様に設定変更異常に係る情報が送信されることとなる。

20

【0949】

このように構成することによって、例えば、遊技場で設定変更を実行する際、管理者が設定変更モード中に設定値を確定しないまま（設定キースイッチをオフにする前に）電源をオフにし、設定変更が終わったと勘違いしたまま再度電源投入した場合においても（設定キースイッチがオンのまま電源投入した場合と、設定キースイッチをオフにした後電源投入した場合とのいずれにおいても）、設定変更異常を報知することによって、設定変更が正常に終了していないことを報知することができる。

30

【0950】

<作用 2-4>

設定変更モード中にて（設定値が確定する前に）電源断が発生し、その後、設定確認モードに移行させるための操作（設定キースイッチオン、且つ前枠 D14 開放、且つ RAM クリアボタンオフ）を行い電源投入した場合には、設定変更異常を報知して遊技を停止し、電源投入時に副制御基板 S 側に送信される遊技停止に関するコマンドとして、設定変更異常に係る情報が送信される。

【0951】

このように構成することによって、例えば、遊技場で設定変更を実行する際、管理者が設定変更モード中に設定値を確定しないまま（設定キースイッチをオフにする前に）電源をオフにし、設定変更モードに移行させようとしたものの、RAM クリアボタンを押し忘れたまま電源投入した場合（前枠 D14 開放、且つ設定キースイッチオン、且つ RAM クリアボタンオフで電源投入した場合）においても、設定変更異常を報知することによって、設定変更が正常に終了していないことを報知することができ、設定確認モードに移行してしまっただけで設定値が確定したと誤認する事態を防止することができる。

40

【0952】

また、第 21 実施形態においては、以下の作用となるよう構成してもよい。

【0953】

<作用 3>

設定変更モード中に電源断が発生し、その後、前枠 D14 が開放しており、且つ所定の

50

状態（例えば、設定キースイッチオン且つRAMクリアボタンオン以外の状態）で電源を投入すると、設定変更異常を検出する（設定変更異常を報知する）

設定変更異常を検出している状況で電源断が発生し、その後、前枠D14が開放しており、且つ設定キースイッチオン且つRAMクリアボタンオンの状態で電源を投入すると、設定変更異常が解消し、設定変更モードに移行する

設定変更異常を検出している状況で電源断が発生し、その後、前枠D14が閉鎖しており、且つ設定キースイッチオン且つRAMクリアボタンオンの状態で電源を投入すると、設定変更異常が解消し、設定変更モードに移行する

【0954】

第21実施形態においても、前述した入球状態表示装置J10を有するよう構成してもよく、そのように構成した場合には以下の作用となるよう構成してもよい。

<作用4-1>

所定の状態にて、設定キースイッチオン且つRAMクリアボタンオンの状態で電源を投入すると、設定変更モードに移行し、入球状態表示装置J10には設定値（設定可能な設定値のいずれかであり、例えば、初期値として1）を表示する

所定の状態にて、設定キースイッチオン且つRAMクリアボタンオフの状態で電源を投入すると、設定確認モードに移行し、入球状態表示装置J10には設定値（現在設定されている設定値であり、例えば、1）+「.」（ドットポイント）を表示する（ドットポイントを特定情報と称することがある）

所定の状態にて、設定キースイッチオフ且つRAMクリアボタンオフの状態で電源を投入すると、入球状態表示装置J10にはベース値を表示する

所定のエラーが発生している（所定のエラーを検出している）状態にて、設定キースイッチオン且つRAMクリアボタンオンの状態で電源を投入すると、入球状態表示装置J10にはエラーコードを表示する

<作用4-2>

所定の状態にて、設定キースイッチオン且つRAMクリアボタンオンの状態で電源を投入すると、設定変更モードに移行し、入球状態表示装置J10には設定値としてあらかじめ定められた所定値（本例では、1）を表示する

所定の状態にて、設定キースイッチオン且つRAMクリアボタンオフの状態で電源を投入すると、設定確認モードに移行し、入球状態表示装置J10には現在設定されている設定値を表示する

設定変更モード中に電源断が発生し、その後、設定キースイッチオン且つRAMクリアボタンオンの状態で電源を投入すると、設定変更モードに移行し、入球状態表示装置J10には設定値としてあらかじめ定められた所定値（本例では、1）を表示する

設定変更モード中に電源断が発生し、その後、設定キースイッチオン且つRAMクリアボタンオフの状態で電源を投入すると、設定変更異常を検出し、入球状態表示装置J10にはエラーコードを表示する

【0955】

<作用5>

前枠D14が開放している状態にて、設定キースイッチがオン、且つ、RAMクリアボタンがオンで電源を投入→設定変更モードに移行する

前枠D14が閉鎖している状態にて、設定キースイッチがオン、且つ、RAMクリアボタンがオンで電源を投入→設定変更モードに移行しない（RAMクリアを実行してもよいし、エラーを検出するよう構成してもよい）

設定変更モード中において、前枠D14が開放している状態にて、設定キースイッチをオンからオフにする→設定値を確定し、設定変更モードを終了する

設定変更モード中において、前枠D14が閉鎖している状態にて、設定キースイッチをオンからオフにする→設定値を確定し、設定変更モードを終了する

【0956】

<作用6>

10

20

30

40

50

前枠D14が開放している状態にて、設定キースイッチがオン、且つ、RAMクリアボタンがオフで電源を投入→設定確認モードに移行する

前枠D14が閉鎖している状態にて、設定キースイッチがオン、且つ、RAMクリアボタンがオフで電源を投入→設定確認モードに移行しない（通常の電源復帰としてもよいし、エラーを検出するよう構成してもよい）

設定確認モード中において、前枠D14が開放している状態にて、設定キースイッチをオンからオフにする→設定確認モードを終了する

設定確認モード中において、前枠D14が閉鎖している状態にて、設定キースイッチをオンからオフにする→設定確認モードを終了する

【0957】

<作用7>

主制御基板Mは、RAMクリアボタンのオンオフ情報（第1入力情報と称することがある）と設定キースイッチのオンオフ情報（第2入力情報と称することがある）とを検出可能

電源投入時に前枠D14の開放を検出した場合（前枠D14が開放している場合）においては、第1入力情報に基づいた処理を実行可能であり、第2入力情報に基づいた処理を実行可能である

電源投入時に前枠D14の閉鎖を検出した場合（前枠D14が閉鎖している場合）においては、第1入力情報に基づいた処理を実行可能である一方、第2入力情報に基づいた処理を実行しない（例えば、図179に図示するように、設定キースイッチのオン情報をクリアする、または、設定キースイッチのオン情報を検出しない）

電源が投入されている状態である所定状態（例えば、設定変更モード、設定確認モード）においては、前枠D14の閉鎖を検出している場合（前枠D14が閉鎖している場合）においても、第2入力情報に基づいた処理を実行可能である（例えば、設定変更モードにて設定キースイッチをオンからオフにすると設定変更モードが終了する、設定確認モードにて設定キースイッチをオンからオフにすると設定確認モードが終了する）

【0958】

<作用8>

設定変更モード中に電源断が発生し、その後、設定キースイッチをオンからオフにした後に、新たに電源が投入されると、設定変更異常エラー（所定のエラーと称することがある）を報知し得る。

設定確認モード中に電源断が発生し、その後、設定キースイッチをオンからオフにした後に、新たに電源が投入されると、設定変更異常エラー（所定のエラーと称することがある）を報知しない。

【0959】

なお、上述した作用の複数を組み合わせてもよいし、上述した作用のうちの一部のみを有するよう構成してもよい。

【0960】

図181は、第21実施形態における、図179のステップ1003（第21）のサブルーチンに係る設定変更処理のフローチャートである。設定変更処理が開始されると、ステップ1003-1で、主制御基板MのCPUMCは、設定変更処理が開始したことを示すコマンドをセットし、副制御基板Sに対して送信する。これにより、副制御基板Sは、演出表示装置SGにおいて「設定変更モード中」等の表示を行うことができる。また、同時に、外端信号（セキュリティ信号）として外部端子板への出力を行う。次に、ステップ1003-2で、主制御基板MのCPUMCは、設定値（設定値データ）が正常な範囲（「1」～「3」）にあるか否かを判定する。ステップ1003-2でYesの場合、ステップ1003-4の処理に移行する。ステップ1003-2でNoの場合、すなわち、設定値（設定値データ）が「1」～「3」以外の異常な値と判断された場合には、ステップ1003-3で、主制御基板MのCPUMCは、最低出玉率の設定値（設定値データ）である「1」をセットし、ステップ1003-4の処理に移行する。

【0961】

10

20

30

40

50

次に、ステップ1003-4で、主制御基板MのCPUMCは、設定変更中であることを示す表示態様（例えば、全点灯）で特別図柄表示装置（第1主遊技図柄表示装置A20又は第2主遊技図柄表示装置B20と称することがある）のLEDを点灯させ、同時に、設定表示装置に現在の設定値を表示する。次に、ステップ1003-5で、主制御基板MのCPUMCは、RAMクリアボタンの入力（オフ→オンとなる立ち上がり）があるか否かを判定し、Noの場合、ステップ1003-11の処理に移行する。ステップ1003-5でYesの場合、主制御基板MのCPUMCは、ステップ1003-6でRAMクリアボタンによって切り替えられた設定値データを取得し、ステップ1003-7の処理に移行する。次に、ステップ1003-7で、主制御基板MのCPUMCは、現在の設定値（設定値データ）が最大値（本例では、「3」）でないか否かを確認し、Yesの場合、ステップ1003-9の処理に移行し、設定値（設定値データ）に1を加算する。ステップ1003-7でNoの場合、すなわち、設定値（設定値データ）が最大の「3」であると判断された場合には、ステップ1003-8で、主制御基板MのCPUMCは、最低出玉率となる設定値である「1」をセットするとともに、ステップ1003-9の処理に移行し、設定値（設定値データ）に1を加算する。次に、ステップ1003-10で、主制御基板MのCPUMCは、設定値データの更新を行う。次に、ステップ1003-11で、主制御基板MのCPUMCは、設定キースイッチ信号の立下りがあるか否かを判定する。なお、本例では、ステップ1003-11で、設定キースイッチ信号の立下りがあるか否かを判定しているが、これには限定されず、設定キースイッチがオフであるか否かを判定する（設定キースイッチのレベルを判定する）よう構成してもよい。ステップ1003-11でNoの場合、ステップ1003-5の処理に移行し、設定キースイッチ信号の立下りが確認されるまでステップ1003-5の処理からステップ1003-11の処理を繰り返す。ステップ1003-11でYesの場合、すなわち設定キースイッチが設定変更を行う前の状態に戻ったと判断された場合、ステップ1003-12で、主制御基板MのCPUMCは、特別図柄表示装置のLEDを全消灯することで、設定変更中であることを示す表示態様をクリアする。次に、ステップ1003-13で、主制御基板MのCPUMCは、設定変更処理が終了したことを示すコマンドをセットし、副制御基板Sに対して送信する。これにより、副制御基板Sは、演出表示装置SGにおいて表示中の「設定変更モード中」を非表示にするとともに、外部端子板への出力を停止することとなる。次に、ステップ1003-14で、主制御基板MのCPUMCは、設定変更モードの移行に伴う遊技停止を解除し、次の処理（ステップ1010-23の処理）に移行する。

【0962】

なお、設定変更処理の実行タイミングとして、ステップ1016の処理以降に実行されるタイマ割り込み処理にて実行するよう構成してもよい。また、全体の処理を通して、RAMで管理する設定値データとして「1」～「3」を用いて説明したが、それぞれ、設定値データ「0」～「2」に置き換えて（1減算した数値を用いて）処理を行ってもよい。このようにすることで、RAM異常によりRAMクリアが発生した際、設定値データを管理するRAMの値に「0」がセットされることによる異常判定（ステップ1003-2でNo）を回避することができる。設定値データを「0」～「2」で管理すると、「0」は設定値データとして扱われているため、異常と判断されることがない。さらに、設定値データを利用して何らかの抽選を行う場合（例えば、先読みテーブル等において設定値毎に異なるデータを選択する場合）、テーブル選択におけるオフセット処理が行いやすい利点もある。具体的に、設定値データを「1」～「3」で管理する場合、テーブル選択のオフセットデータとしてそのまま使用する際には、開始アドレスを-1する等の処理を行う必要があるが、設定値データを「0」～「2」で管理する場合、そのままの値をオフセットデータとして使用することができる。実際に、設定値データを設定表示装置に表示する際には、設定値データに1加算することで「1」～「3」として表示する。

【0963】

次に、図182は、第21実施形態における、図179のステップ3850（第21）のサブルーチンに係る設定確認処理のフローチャートである。まず、ステップ3852で

、主制御基板MのCPUMCは、現在の設定値情報に応じた設定値を設定値表示装置に表示する。次に、ステップ3854で、主制御基板MのCPUMCは、主制御基板MのCPUMCは、設定確認が完了した（設定キースイッチ信号が立下り）か否かを判定する。なお、本例では、ステップ1003-11で、設定キースイッチ信号の立下りがあるか否かを判定しているが、これには限定されず、設定キースイッチがオフであるか否かを判定する（設定キースイッチのレベルを判定する）よう構成してもよい。ステップ3854でNoの場合には、ステップ3852に移行し、ステップ3852及びステップ3854の処理を繰り返し実行することとなる。他方、ステップ3854でYesの場合、ステップ3856で、主制御基板MのCPUMCは、設定値表示装置に表示している設定値の表示を消去する。次に、ステップ3856-1で、主制御基板MのCPUMCは、設定確認モードの移行に伴う遊技停止を解除し、次の処理（ステップ1012の処理）に移行する。

【0964】

次に、図183は、第21実施形態における、タイマ割り込み処理のフローチャートである。本実施形態との相違点は、ステップ1551（第21）であり、即ち、ステップ1550で、主制御基板MのCPUMCは、特別遊技開始時制御処理を実行した後、ステップ1551（第21）で、主制御基板MのCPUMCは、後述する、特別遊技開始時制御処理を実行し、ステップ1550-1に移行する。

【0965】

次に、図184は、第21実施形態における、図24のステップ1400（1）、（2）のサブルーチンに係る第1（第2）主遊技図側表示処理のフローチャートである。本実施形態との相違点は、ステップ1430（第21）であり、即ち、ステップ1424で、主制御基板MのCPUMCは、変動中フラグをオフにした後、ステップ1430（第21）で、主制御基板MのCPUMCは、停止図柄が当たり図柄（大当たり図柄又は小当たり図柄）であるか否かを判定する。ステップ1430（第21）でYesの場合、ステップ1440で、主制御基板MのCPUMCは、条件装置作動フラグをオンにし、ステップ1430（第21）でNoの場合には、ステップ1500に移行する。このように、第21実施形態においては、大当たり図柄が停止した場合（大当たりに当選した場合）と小当たり図柄が停止した場合（小当たりに当選した場合）とで、同一のフラグである条件装置作動フラグをオンにするよう構成されている。なお、ステップ1403の変動開始条件として、小当たり遊技中でないことを追加している。

【0966】

次に、図185は、第21実施形態における、図183のステップ1551（第21）のサブルーチンに係る特別遊技開始時制御処理のフローチャートである。まず、ステップ1551-1で、主制御基板MのCPUMCは、特別遊技移行許可フラグがオンであるか否かを判定する。ステップ1551-1でYesの場合、ステップ1551-2で、主制御基板MのCPUMCは、特別遊技移行許可フラグをオフにする。次に、ステップ1551-3で、主制御基板MのCPUMCは、特別遊技開始フラグをオンにする。次に、ステップ1551-4で、主制御基板MのCPUMCは、基底アドレスとして、開放回数テーブルのアドレスをセットする。

【0967】

ここで、同図右の表は第21実施形態における開放回数テーブルである。開放回数テーブルとは、大当たり実行時又は小当たり実行時における、大入賞口の作動パターンと開放回数データとが記憶されているテーブルである。作動パターンとは、大入賞口の開放態様であり、詳細は後述することとなるが、実際に実行するラウンド数よりも多いラウンド数分の開放態様に対応した作動パターンが決定される場合があるよう構成されている。また、開放回数データとは、実際に実行するラウンド数のデータであり、小当たりの場合には開放回数データは1Rのデータとなる。また、開放回数テーブルには、大当たりに関する情報と小当たりに関する情報とが記憶されており、大当たり図柄又は小当たり図柄の種類によってアドレスが割り当てられている。

【0968】

フローチャートの説明に戻ると、ステップ1551-5で、主制御基板MのCPUMCは、基底アドレスに図柄番号の値を加算する。ここでの図柄番号とは、同図右の開放回数テーブルにて図示している図柄番号であり、大当り図柄又は小当り図柄に対応する番号となっている。次に、ステップ1551-6で、主制御基板MのCPUMCは、開放回数データとして、基底アドレスの内容の下位4ビットを読み出し、作動パターンデータとして、基底アドレスの内容の上位4ビットを読み出す。次に、ステップ1551-8で、主制御基板MのCPUMCは、RAMアドレスとして、大当り用バッファのアドレスをセットする（小当りを実行する場合にも、本処理で大当り用バッファのアドレスを一旦セットすることとなる）。

【0969】

次に、ステップ1551-8で、主制御基板MのCPUMCは、開放回数データが1Rのデータではないか否かを判定する。ステップ1551-8でYesの場合にはステップ1551-10に移行する。他方、ステップ1551-8でNoの場合、換言すると、開放回数データが1Rのデータである場合には、小当りに当選したと判断され、ステップ1551-9で、主制御基板MのCPUMCは、RAMアドレスとして、小当り用バッファのアドレスをセットし、ステップ1551-10に移行する。次に、ステップ1551-10で、主制御基板MのCPUMCは、開放回数データをRAMアドレスに一時記憶し、作動パターンデータをRAMアドレス+1（のアドレス）に一時記憶し、次の処理（ステップ1550-1の処理）に移行する。

【0970】

このように、第21実施形態においては、大当りに当選した場合と小当りに当選した場合とのいずれにおいても、同一の処理として、特別遊技開始時制御処理を実行し、更に、同一のテーブルとして開放回数テーブルを参照して、作動パターンと開放回数データを読み出すよう構成されている。なお、後述することとなるが、大当り実行中及び小当り実行中に実行する処理である特別遊技制御処理についても、大当り実行時と小当り実行時とのいずれにおいても実行する共通の処理となっている。また、大当りに対応する開放回数データは、2Rデータ、4Rデータ、10Rデータの3種類であり、小当りに対応する開放回数データは、1Rデータの1種類のみとなっている。このように構成されていることにより、開放回数データが1Rデータであるか否かを判定することで、大当りに係る処理の実行中であるのか小当りに係る処理の実行中であるのかを判断することができる。

【0971】

なお、第21実施形態においては、大入賞口を1つのみ有する遊技機について詳述したが、これには限定されず、大入賞口を2つ有する遊技機にも上述した構成は適用可能である。より具体的には、大入賞口として第1大入賞口と第2大入賞口との2つを有している場合においては、（1）第1大入賞口用の開放回数テーブル、開放回数データ、作動パターンと、第2大入賞口用の開放回数テーブル、開放回数データ、作動パターンと、を有するよう構成してもよいし、（2）第1大入賞口と第2大入賞口とを合算した1つの開放回数テーブルを有し、図柄番号毎に開放回数データと作動パターンを設定するよう構成してもよい。

【0972】

なお、図185に図示するような、大当りと小当りとで同一の処理を実行する構成は様々な構成の遊技機に適用可能であり、例えば、前述する並列抽選を実行可能な遊技機に適用してもよい。

【0973】

次に、図186は、第21実施形態における、大当りと小当りについて詳述した図である。まず、同図上段は、図柄毎の大入賞口の実際の開放態様などについて図示している。大入賞口の開放態様である作動パターンとして、作動パターン1～作動パターン4の4種類を有している。ここで、同図下段に図示するように、作動パターン2は、「2.8秒開放→閉鎖」で終了するラウンドを10回繰り返す開放態様となっている。なお、同図における大入賞口の開放態様とは、1回のラウンド実行中に所定個数の遊技球が入球することに

10

20

30

40

50

よってラウンドの終了条件を充足せずに、ラウンド実行中に所定時間が経過することによってラウンドの終了条件を充足する場合の開放態様となっている（大入賞口への遊技球の入球状況によっては、図示している開放態様よりも早いタイミングでラウンドが終了し得る）。

【0974】

ここで、作動パターン2がセットされる場合には、10ラウンド分の大入賞口の開放態様がセットされることとなるが、第21実施形態においては、ラウンド実行回数（開放回数データ）が4ラウンドである、図柄番号6番の第2主遊技4R確変有時短有図柄に係る大当りの場合にも、作動パターン2がセットされることとなる。これは、ラウンド実行回数（開放回数データ）が10ラウンドであり、作動パターン2がセットされることとなる、図柄番号3番の第1主遊技10R確変有時短無図柄と図柄番号5番の第2主遊技10R確変有時短無図柄に係る大当り実行時における、第1ラウンド開始から第4ラウンド終了までの大入賞口の開放態様と、図柄番号6番の第2主遊技4R確変有時短有図柄に係る大当り実行時における、第1ラウンド開始から第4ラウンド終了まで（大当りにおけるすべてのラウンド）の大入賞口の開放態様とが同一であるためである。即ち、実際に実行するラウンド実行回数が異なっている場合においても、大当りの途中までの大入賞口の開放態様が同一である場合には、同一の作動パターンをセットするよう構成されている。

10

【0975】

このように構成することによって、第21実施形態においては、大当り図柄又は小当り図柄の種類数の作動パターンを有する必要がなくなり、使用するデータ容量を削減することができる。

20

【0976】

なお、本例においては、「28秒開放→閉鎖」×10Rである作動パターン2を、ラウンド実行回数（開放回数データ）が4ラウンドである、図柄番号6番の第2主遊技4R確変有時短有図柄に係る大当りの場合にセットするよう構成したが、このような場合においては、図柄番号6番に係る大当りでは使用されない5R目以降の開放態様については、4ラウンド目までとは異なる開放態様であっても問題ない。具体的には、1ラウンド目から4ラウンド目までの開放態様が、「28秒開放→閉鎖」であり、5ラウンド目から10ラウンド目までの開放態様が、「10秒開放→2秒閉鎖→16秒開放」などであってもよい。

【0977】

図186のような実際に実行するラウンド実行回数が異なる大当りに対して同一の作動パターンがセットされ得る構成を採用する具体例として、以下のように構成してもよい。

30

（1）第1主遊技側（又は第2主遊技側）の大当りのラウンド実行回数として、2R、4R、6R、8R、10Rを有しており、大当りが終了する可能性のある2R、4R、6R、8Rの実行中には大当りが継続するか否かの継続可否演出を実行可能（例えば、演出表示装置SGにて表示する）に構成する。このように構成した場合には、遊技者は大当りがいつまで継続するかに注目する遊技性となるため、大当り中の大入賞口の開放態様は、ラウンド実行回数が2R、4R、6R、8R、10Rの大当りのすべてにおいて同一であることが好適である（大入賞口の開放態様を視認することでラウンド実行回数を判別されないようにするため）。そこで、ラウンド実行回数が10Rの大当りにてセットされる作動パターンと同一の作動パターンを、ラウンド実行回数が2R、4R、6R、8Rの大当りにおいてもセットするよう構成して、例えば、2Rの大当りの場合には開放回数データが2Rのデータであるため、第2ラウンドが終了することで大当りが終了するよう構成することができる（作動パターンの種類を少なくすることができるため）。また、同様の構成で、10Rの大当りのみ大当り終了後には確率変動遊技状態に移行し、2R、4R、6R、8Rの大当りにおける大当り終了後には非確率変動遊技状態に移行するよう構成してもよい。

40

【0978】

次に、図187は、第21実施形態における、図183のステップ1600のサブルー

50

チンに係る特別遊技制御処理のフローチャートである。なお、前述したように、第21実施形態においては、本サブルーチンの処理は大当たり実行時のみでなく小当たり実行時にも実行するよう構成されている。

【0979】

本実施形態との相違点は、ステップ1602（第21）、ステップ1604（第21）であり、即ち、まずステップ1602（第21）で、主制御基板MのCPUMCは、特別遊技開始フラグ（図185のステップ1551-3でオンとなるフラグ）がオンであるかを判定する。ステップ1602（第21）でYesの場合、ステップ1604（第21）で、主制御基板MのCPUMCは、特別遊技開始フラグをオフにして、ステップ1606に移行する。他方、ステップ1602（第21）でNoの場合には、ステップ1610に移行する。

10

【0980】

また、第21実施形態においては、ステップ1634の処理を実行する場合には、セットされている開放回数データに基づいて最終ラウンドが終了したか否かを判定するよう構成されており、例えば、前述した図柄番号6番の第2主遊技4R確変有時短有図柄に係る大当たりの実行時には、10ラウンドに対応した作動パターン2がセットされ、開放回数データとして4ラウンドのデータがセットされており、ステップ1634の処理にて4ラウンド目が終了したと判定された場合には、セットされた作動パターンに拘らず、大当たりの終了に係る処理を実行するよう構成されている。なお、不図示であるが、最終ラウンドが終了したか否かを判断する構成としては、例えば、ラウンド終了時に1加算されるカウンタを有し、当該カウンタ値が開放回数データの値に到達した場合に最終ラウンドが終了したと判定するよう構成してもよい。

20

【0981】

また、本処理が大当たりの実行中に実行された場合には、ステップ1650の処理は、大当たり図柄が停止した際の遊技状態や大当たり図柄などに基づいて大当たり終了後の遊技状態を決定し、本処理が小当たりの実行中に実行された場合には、ステップ1650の処理を実行しない（もしくは、実行しても小当たり終了時（及び小当たり開始前）と小当たり終了後の遊技状態を変更しない）よう構成してもよい。

【0982】

次に、図188は、第21実施形態などの本例に係る実施形態に適用可能なラウンド表示灯テーブルの一例である。ラウンド表示灯（単位遊技表示灯と称することがある）とは、図183のステップ1550-6のLED出力処理にて制御される（主制御基板M側の処理によって制御される）表示灯（ランプ）であり、大当たり又は小当たりにて実行されるラウンド数（特別電動役物が連続して作動する回数）を報知するランプである。ラウンド表示灯にてラウンド数を報知するタイミングは任意であるが、例えば、大当たり図柄または小当たり図柄が停止した直後や、大当たり開始デモ時間又は小当たり開始デモ時間にて報知するよう構成してもよい。

30

【0983】

同図においては、製番A、製番B、製番Cとの、有している大当たりの種類や小当たりの有無などが異なる製番における、ラウンド表示灯テーブルの一例を図示している。なお、本例における製番とは遊技機の種類を示しており、大当たり確率などのスペックが相違する遊技機や、実行される演出の傾向が異なる遊技機（登場キャラクターが異なる、ストーリーが異なる等）は、異なる製番であることとなる。ラウンド表示テーブルとは、ラウンド表示灯を点灯させる際に参照するテーブルであり、ハズレ、小当たり、大当たりの種類に対応したラウンド表示灯データが記憶されている。なお、ラウンド表示灯テーブル表示灯データテーブルと称することがあり、ラウンド表示灯データを単位遊技表示灯の報知に関する情報と称することがある。

40

【0984】

まず、製番Aに係るラウンド表示灯テーブルについて詳述すると、製番Aは大当たりとして、2R大当たり（ラウンド実行回数が2ラウンドの大当たり）、4R大当たり、10R大当たり

50

の3種類のラウンド実行回数的大当りを有している。また、小当りを有している。ここで、本例に係るぱちんこ遊技機における設計上の最大ラウンド数（ラウンド実行回数）を10ラウンドとしており、2ラウンド～10ラウンドまでのうち、製番Aでは実行されないラウンド実行回数が存在することとなる。そのような、実行されないラウンド実行回数的大当り又は小当りについては、ラウンド表示灯データとして「00H」（0データと称することがある）が規定されるよう構成されている。また、実行され得るラウンド実行回数的大当り又は実行され得る小当りについては、ラウンド実行回数に対応したラウンド表示灯データが記憶され、小当りに対応したラウンド表示灯データが記憶され、ハズレに対応したラウンド表示灯データが記憶されている。

【0985】

より具体的には、

ハズレに対応するラウンド表示灯データ：「00000000B」

小当りに対応するラウンド表示灯データ：「00000000B」

2R大当りに対応するラウンド表示灯データ：「00000110B」

4R大当りに対応するラウンド表示灯データ：「00000111B」

10R大当りに対応するラウンド表示灯データ：「00001111B」

のようにラウンド表示灯データが記憶されている。

【0986】

次に、製番Bにおいては、小当りを有しておらず、大当りとして10R大当りのみを有している。よって、製番Bにおけるラウンド表示灯テーブルでは、小当りと2ラウンド～9ラウンドの大当りに対応するラウンド表示灯データは「00H」が記憶されている。また、具体的なラウンド表示灯データとしては、

ハズレに対応するラウンド表示灯データ：「00000000B」

10R大当りに対応するラウンド表示灯データ：「00001111B」

となっており、製番Aと製番Bとで異なる製番であるが、10R大当りに対応するラウンド表示灯データは「00001111B」といったように、実行され得るラウンド実行回数的大当りに対応するラウンド表示灯データと、小当りに対応するラウンド表示灯データと、ハズレに対応するラウンド表示灯データとは、製番がいずれであるかに拘らず予め定められた所定のデータが記憶されるよう構成されている。

【0987】

なお、製番Cにおいては、小当りを有しており、大当りとして5Rと10Rとの2種類の大当りを有している。よって、2ラウンド～4ラウンドと、6ラウンド～9ラウンドの大当りに対応するラウンド表示灯データは「00H」が記憶されている。また、具体的なラウンド表示灯データとしては、

ハズレに対応するラウンド表示灯データ：「00000000B」

小当りに対応するラウンド表示灯データ：「00000000B」

5R大当りに対応するラウンド表示灯データ：「00001100B」

10R大当りに対応するラウンド表示灯データ：「00001111B」

となっており、ハズレ及び10Rに対応するラウンド表示灯データは製番A及び製番Bと同一であり、小当りに対応するラウンド表示灯データは製番Aと同一となっている。

【0988】

このように構成することにより、様々な製番を製造していく場合にも、製番毎にラウンド表示に対する異なるオフセットを作成する必要がなく、汎用性の高い遊技機とすることができる。また、大当りに対応するラウンド表示灯データと小当りに対応するラウンド表示灯データとを同じラウンド表示灯テーブルに記憶しており、前述した第21実施形態における、特別遊技開始時制御処理と特別遊技制御処理の構成である、大当りと小当りとで同一の制御処理を実行する構成と組み合わせることで、使用データ容量の削減と汎用性の高い処理を実現することができる。

【0989】

なお、本例とは異なり、使用しないラウンド表示灯データとして「00H」を設けない

10

20

30

40

50

、即ち、有していないラウンド数の大当たりや有していない小当たりが存在していた場合には、データを詰めてラウンド表示灯テーブルを作成した場合には、使用するデータ容量が少なくなることがメリットであるが、製番毎にオフセットを作成する必要が生じることがデメリットとなる。例えば、同図における<製番A>の場合、大当たりのラウンド数とテーブルデータとの対応関係がないため、以下のように構成し、オフセット（オフセットテーブル）を利用して変換する必要がある。

<オフセットテーブル>

ハズレ：1、小当たり：2、2R大当たり：3、4R大当たり：4、10R大当たり：5

<ラウンド表示灯テーブル>

- (1) ハズレ：0 0 0 0 0 0 0 0 B
 - (2) 小当たり：0 0 0 0 0 0 0 0 B
 - (3) 2R大当たり：0 0 0 0 0 1 1 0 B
 - (4) 4R大当たり：0 0 0 0 0 1 1 1 B
 - (5) 10R大当たり：0 0 0 0 1 1 1 1 B
- 【0990】

<製番A>にて10R大当たりに当選した場合、オフセットテーブルを参照して10R大当たりに対応した「5」を読み出す。その後、当該「5」に対応したデータである10R大当たり：「0 0 0 0 1 1 1 1 B」がラウンド表示灯テーブルから読みだされる。一方、本例においては、<製番A>にて10R大当たりに当選した場合、ラウンド数の「10」を用いて、「10」に対応したデータである10R大当たり：「0 0 0 0 1 1 1 1 B」がラウンド表示灯テーブルから読み出されることとなる。このように、本例に係るラウンド表示テーブルの構成は、テーブルに使用するデータ容量は従来よりも大きくなるが、製番が異なった場合にも汎用性の高い構成とすることができる。

【0991】

なお、同図におけるラウンド表示灯データ「00H」は、遊技機として使用しないデータを示しており、換言すると、出力されることのないデータとなっている。他方、同図におけるラウンド表示灯データ「0000000000B」は、使用され得るデータを示しており、より具体的には、ハズレに対応するラウンド表示灯データ「0000000000B」は、他の点灯制御の場合と同様に出力ポートに出力される。ただし、0であるクリアデータのため、結果としてラウンド表示灯は点灯しない。なお、ハズレや小当たりの場合にもラウンド表示灯をいずれかの態様で点灯させたい場合には、ハズレに対応するラウンド表示灯データ又は小当たりに対応するラウンド表示灯データに、点灯データを設定することで、ラウンド表示灯データに関するプログラムを変更せずに構成することができる。

【0992】

なお、同図における製番Aと製番Cとにおいては、

ハズレに対応するラウンド表示灯データ：「0000000000B」

小当たりに対応するラウンド表示灯データ：「0000000000B」

のように、ハズレと小当たりとでラウンド表示灯データが同一となっているが、作動パターンや開放回数データを参照することにより、ハズレの場合にはラウンド表示灯を点灯させずに小当たりの場合にはラウンド表示灯を点灯させるよう構成することができる。なお、これには限定されず、ハズレに対応するラウンド表示灯データと小当たりに対応するラウンド表示灯データとを異なるデータ（値）にしてもよいし、ハズレに対応するラウンド表示灯データと小当たりに対応するラウンド表示灯データとをいずれも0以外のデータとしてもよい。

【0993】

（第22実施形態）

第15実施形態などで前述したような、複数の設定値を有している遊技機に適応可能な先読みに関する構成を第22実施形態として、第21実施形態との相違点について以下に詳述する。

【0994】

まず、図189は、第22実施形態における、図183のステップ1300のサブルーチンに係る主遊技内容決定乱数取得処理のフローチャートである。第21実施形態との相違点は、ステップ1309-1（第22）及びステップ1319-1（第22）であり、即ち、ステップ1308で、主制御基板MのCPUMCは、第1主遊技内容決定乱数を記憶（保留）した後、ステップ1309-1（第22）で、主制御基板MのCPUMCは、当否抽選乱数に基づき、先読みコマンド（副制御基板S側へのコマンド）を決定してセットし、ステップ1310に移行する。

【0995】

また、ステップ1318で、主制御基板MのCPUMCは、第2主遊技内容決定乱数を記憶（保留）した後、ステップ1319-1（第22）で、主制御基板MのCPUMCは、当否抽選乱数に基づき、先読みコマンド（副制御基板S側へのコマンド）を決定してセットし、ステップ1320に移行する。

【0996】

なお、第22実施形態は、第9実施形態（特に図145等）にて前述した、主制御基板Mが有する第1主遊技用当否抽選テーブル（第2主遊技用当否抽選テーブル）の乱数値範囲を設定することで、主制御基板Mが保持している設定値に関する情報を副制御基板Sへ送信せずとも、副制御基板S側で定められている設定値を把握することができる構成と同様の趣旨となっており、即ち、第9実施形態の構成や効果は第22実施形態にも適用可能であるし、第9実施形態の構成と第22実施形態の構成とを組み合わせることも可能であることを補足しておく。また、第22実施形態の構成は、第9実施形態のみには限定されず、本例のすべての実施形態に適用可能（組み合わせ可能）である。

【0997】

次に、図190は、第22実施形態に係る先読みコマンド一覧である。第22実施形態においては、設定値は設定1～設定6までの6段階となっており、非確率変動遊技状態においては、大当たり確率が低いものから「設定1→設定2→設定3→設定4→設定5→設定6」となっており、確率変動遊技状態においても、大当たり確率が低いものから「設定1→設定2→設定3→設定4→設定5→設定6」となっている。また、第1主遊技側と第2主遊技側とに小当たりを有しており、第1主遊技側よりも第2主遊技側の方が小当たり当選確率が高くなっている。

【0998】

同図に示すように、当否抽選乱数は、0～65535であり、設定及び遊技状態毎に、ハズレ、大当たり、小当たりとなる乱数範囲が設定されており、乱数範囲の区切り毎に先読みコマンドが設定されている。ここで、先読みコマンド毎に設定された乱数範囲の役割について詳述すると、

先読みコマンド「00H」：ハズレ1

先読みコマンド「01H」：ハズレ2

先読みコマンド「02H」：設定6以上且つ確率変動遊技状態の場合に大当たり

先読みコマンド「03H」：設定5以上且つ確率変動遊技状態の場合に大当たり

先読みコマンド「04H」：設定4以上且つ確率変動遊技状態の場合に大当たり

先読みコマンド「05H」：設定3以上且つ確率変動遊技状態の場合に大当たり

先読みコマンド「06H」：設定2以上且つ確率変動遊技状態の場合に大当たり

先読みコマンド「07H」：確率変動遊技状態の場合（設定値に拘らず）に大当たり

先読みコマンド「08H」：設定6以上の場合に大当たり

先読みコマンド「09H」：設定5以上の場合に大当たり

先読みコマンド「0AH」：設定4以上の場合に大当たり

先読みコマンド「0BH」：設定3以上の場合に大当たり

先読みコマンド「0CH」：設定2以上の場合に大当たり

先読みコマンド「0DH」：設定1以上の場合（設定値及び遊技状態に拘らず）に大当たり

先読みコマンド「0EH」：第1主遊技側であった場合には小当たり、第2主遊技側であった場合にはハズレ

先読みコマンド「0FH」：第1主遊技側であった場合にはハズレ、第2主遊技側であった場合には小当り

先読みコマンド「10H」：第1主遊技側であった場合には小当り、第2主遊技側であった場合には小当り

のように先読みコマンドが設定されている。なお、これらの区切りについては、図188にて前述したラウンド表示灯データのように、予めすべての区切りについて先読みコマンドが設定されており、製番によって存在しない先読みコマンドに関しては、乱数範囲を設定しない（0とする）よう構成されている。第22実施形態においては、第1主遊技側よりも第2主遊技側の方が小当り当選確率が高くなっており、第1主遊技側で小当りとなる乱数であり且つ第2主遊技側では小当りとならない乱数範囲が存在していないため、先読みコマンド「0EH」：第1主遊技側であった場合には小当り、第2主遊技側であった場合にはハズレ、については乱数範囲なしとなっている。

【0999】

また、図示するように、乱数値の小さいものから、「ハズレ→確率変動遊技状態における最も大当り確率の高い設定値のみ大当りとなる乱数範囲→・・・→確率変動遊技状態におけるすべての設定値で大当りとなる乱数範囲→非確率変動遊技状態における最も大当り確率の高い設定値のみ大当りとなる乱数範囲→・・・→非確率変動遊技状態におけるすべての設定値で大当りとなる乱数範囲→小当りに関する乱数範囲」の順に先読みコマンドに関する乱数範囲の区切りを設定することによって、先読みコマンドの種類が増えすぎないようにすることができ、使用するデータ容量を削減することができると共に、主制御基板M側から副制御基板S側に先読みコマンドを送信した際に、副制御基板S側で設定値に関する演出（前述した設定示唆演出など）を実行することができる。

【1000】

また、先読みコマンドは、確率変動遊技状態における複数の設定値毎の大当りとなる乱数範囲の差分毎と、非確率変動遊技状態における複数の設定値毎の大当りとなる乱数範囲の差分毎と、に設定されている（差分が判断できるように先読みコマンドが設定されている）。また、同図における先読みコマンドと設定値に関する情報とを任意のタイミングで主制御基板M側から副制御基板S側に送信することにより、設定1ではハズレであるが、設定6では大当りとなる乱数値である保留に対しても、設定6に定められている場合には、大当りとなる保留として先読み演出を実行することができると共に、ハズレとなる保留に対して誤って大当りとなる保留に対する演出を実行してしまうことがないように構成することができる。

【1001】

ハズレに対応する先読みコマンドとして、「00H：ハズレ1」、「01H：ハズレ2」とを有しており、「00H：ハズレ1」については設定値や遊技状態に拘らず同一の乱数範囲となっており、他方、「01H：ハズレ2」については設定値や遊技状態によって相違し得る乱数範囲となっている。なお、同図の構成には限定されず、ハズレに対応する先読みコマンドを1つのみ有するよう構成してもよい。

【1002】

また、小当りに対応する先読みコマンドとして、
先読みコマンド「0EH」：第1主遊技側であった場合には小当り、第2主遊技側であった場合にはハズレ

先読みコマンド「0FH」：第1主遊技側であった場合にはハズレ、第2主遊技側であった場合には小当り

先読みコマンド「10H」：第1主遊技側であった場合には小当り、第2主遊技側であった場合には小当り

の3種類の先読みコマンドを有しており、前述したように、遊技機のスペックで有していない場合には乱数範囲が設定されないよう構成されている。このように構成することによって、第1主遊技側と第2主遊技側とにおける小当りの有無や小当り当選確率に拘らず、小当りの当選状況に対応した先読みコマンドを主制御基板M側から副制御基板S側に送信

10

20

30

40

50

することができ、汎用性の高い先読みコマンドを構築することができる。また、第1主遊技側の小当りの当否に関する情報と第2主遊技側の小当りの当否に関する情報とを1つの先読みコマンドとして主制御基板M側から副制御基板S側へ送信可能に構成することにより、以下の6つの状況に対応した遊技機を創出することができる。

(1) 第1主遊技側のみ小当りを有する遊技機：「0EH→○」、「0FH→×」、「10H→×」

(2) 第1主遊技側のみ小当りを有する遊技機：「0EH→×」、「0FH→○」、「10H→×」

(3) 第1主遊技側と第2主遊技側とで小当りを有しており、小当り当選となる乱数範囲が重なっていない遊技機：「0EH→○」、「0FH→○」、「10H→×」

(4) 第1主遊技側と第2主遊技側とで小当りを有しており、小当り当選となる乱数範囲が重なっており、第1主遊技側の小当り当選となる乱数範囲の方が第2主遊技側の小当り当選となる乱数範囲よりも大きい遊技機：「0EH→○」、「0FH→×」、「10H→○」

(5) 第1主遊技側と第2主遊技側とで小当りを有しており、小当り当選となる乱数範囲が重なっており、第1主遊技側の小当り当選となる乱数範囲と第2主遊技側の小当り当選となる乱数範囲とが同一である遊技機：「0EH→×」、「0FH→×」、「10H→○」

(6) 第1主遊技側と第2主遊技側とで小当りを有しており、小当り当選となる乱数範囲が重なっており、第2主遊技側の小当り当選となる乱数範囲の方が第1主遊技側の小当り当選となる乱数範囲よりも大きい遊技機：「0EH→×」、「0FH→○」、「10H→○」

上記の6つの状況に対応した遊技機を3つの先読みコマンドで構成（区別）することができる。なお、上記における「○」は乱数範囲を（1以上）有していることを示しており、上記における「×」は乱数範囲を有していない（0である）ことを示している。

【1003】

また、従来の設計では、製番Aにおいては、第1主遊技側のみ小当りとなる先読みコマンドを「0EH」に設定し、製番Bにおいては、第2主遊技側のみ小当りとなる先読みコマンドを「0EH」に設定する等、先読みコマンドとしての「0EH」の役割が製番毎に異なってしまう場合があった。そのため、副制御基板S側の設計として、製番毎に先読みコマンドとしての「0EH」の役割を設定する必要がある、主制御基板M側の構成が決定しないと、先読みコマンドに関する構成を決定することができないという問題点があった。これに対し、第22実施形態における先読みコマンドでは、製番に拘わらず、第1主遊技側のみ小当りとなる先読みコマンドを「0EH」に設定している、即ち、すべての製番で一義的に先読みコマンドの役割がデータ毎に割り当てられているため、副制御基板S側の設計として、製番毎に先読みコマンドとしての「0EH」の役割を設定する必要がなく、主制御基板M側の構成に影響することなく先読みコマンドに関する構成を決定することができる。

【1004】

なお、本例に係る遊技機を、主制御基板MのROM領域及びRAM領域を、通常の遊技に使用する第1ROM領域、第1RAM領域と、通常の遊技には使用せずエラーの検出などに使用する第2ROM領域、第2RAM領域と、に分けるよう構成した場合において、設定変更処理や設定確認処理を第2ROM領域及び第2RAM領域を使用して実行するよう構成してもよい。

【1005】

（第23実施形態）

第21実施形態においては、遊技機の電源投入時に副制御基板S側に送信する遊技停止に関するコマンドについて詳述したが、電源投入時の作用や設定変更モード及び設定確認モードにおける処理は、第21実施形態の構成のみには限定されない。そこで、本例に適用可能な、電源投入時の作用や設定変更モード及び設定確認モードにおける処理の構成を第23実施形態として以下に詳述する。

【1006】

まず、図191は、第23実施形態における、主制御基板Mが行う一般的な処理の流れを示したメインフローチャートである。遊技機の電源投入後、同図(a)の処理が実行される。即ち、遊技機の電源投入後、初期設定を行った後(不図示)、ステップ1010-1で、主制御基板MのCPUMCは、設定キースイッチがオンであるか否かを判定する。ステップ1010-1でYesの場合、ステップ1010-2で、主制御基板MのCPUMCは、前枠D14が開放しているか否かを判定する(前述したように、前枠D14が閉鎖しているか開放しているかはセンサのオン・オフで判定している)。

【1007】

ステップ1010-2でYesの場合、ステップ1010-3で、主制御基板MのCPUMCは、RAMクリアボタンがオンであるか否かを判定する。ステップ1010-3でYesの場合、ステップ1010-4で、主制御基板MのCPUMCは、RAMクリアを実行する。次に、ステップ1010-5で、主制御基板MのCPUMCは、設定変更処理の実行に係る情報をサブメイン制御部SMへ送信するためのコマンド送信用バッファMT10にセット(ステップ1999の制御コマンド送信処理によってサブメイン制御部SM側に送信される)する。次に、ステップ1010-5-1で、主制御基板MのCPUMCは、設定変更フラグ(後述する設定制御処理にて用いるフラグ)をオンにし、ステップ1010-23に移行する。

【1008】

他方、ステップ1010-1でNoの場合、又は、ステップ1010-3でNoの場合には、ステップ1010-8に移行する。また、ステップ1010-2でNoの場合には、ステップ1010-7で、主制御基板MのCPUMCは、設定キースイッチのオン情報をクリアし、ステップ1010-8に移行する。なお、ステップ1010-7の処理を実行して設定キースイッチのオン情報がクリアされた場合に、その後再度設定キースイッチがオンであると判定する構成として、(1)設定キースイッチのオフ→オン(立ち上がり)を検出した場合にオンであると判定する、(2)電源をオフにし、その後電源を再投入した場合に設定キースイッチがオンであった場合に判定する、のように構成してもよい。

【1009】

次に、ステップ1010-8で、主制御基板MのCPUMCは、正常に電源断が行われたことを示す情報がRAMに保存されているか否かを判定する。ステップ1010-8でYesの場合、ステップ1010-9で、主制御基板MのCPUMCは、主制御基板MにおけるRAM領域の内容をチェックする(例えば、電断時に記録されたチェックサムとRAM領域に保存されている情報量との比較を行う)。次に、ステップ1010-10で、主制御基板MのCPUMCは、当該チェック結果に基づきRAMの内容が正常であるか否か(正確に電断時の情報がRAMにバックアップされているか否か)を判定する。ステップ1010-10でYesの場合、即ちRAMにバックアップされていたデータが正常な場合には、ステップ1010-10-1で、主制御基板MのCPUMCは、電源断前の異常が継続している状況ではないか否か(遊技を停止する異常が発生している状況で電源断となった後電源復帰していないか否か)を判定する。ステップ1010-10-1でYesの場合、ステップ1010-11で、主制御基板MのCPUMCは、当該電源投入の前においては設定変更処理中(設定変更モード中)に電源断しているか否かを判定する。ステップ1010-11でYesの場合には、ステップ1010-12で、主制御基板MのCPUMCは、設定変更異常に係る情報をサブメイン制御部SMへ送信するためのコマンド送信用バッファMT10にセット(ステップ1999の制御コマンド送信処理によってサブメイン制御部SM側に送信される)する。次に、ステップ1010-12で、主制御基板MのCPUMCは、設定変更異常を報知(例えば、主制御基板Mにて制御される所定の表示装置にて報知)する。次に、ステップ1010-13で、主制御基板MのCPUMCは、設定変更異常フラグ(後述する、ステップ1000-5-1にて用いるフラグ)をオンにし、ステップ1010-23に移行する。このように、第23実施形態においては、設定変更モード中に電源断となった場合には、その後の電源投入後に設定変更異常とな

10

20

30

40

50

る場合があるよう構成されている。また、ステップ1010-11でNoの場合、ステップ1010-11-1で、主制御基板MのCPUMCは、RAMクリアボタンがオフであるか否かを判定する。ステップ1010-11-1でYesの場合、ステップ1010-19に移行し、ステップ1010-11-1でNoの場合、換言すると、RAMクリアボタンオン且つ設定キースイッチオフで電源投入した場合、ステップ1010-16に移行し、RAMクリアを実行する。

【1010】

また、ステップ1010-10-1でNoの場合、ステップ1010-10-2で、主制御基板MのCPUMCは、継続している異常（電源断前に検出していた異常）に係る情報をサブメイン制御部SMへ送信するためのコマンド送信用バッファMT10にセット（ステップ1999の制御コマンド送信処理によってサブメイン制御部SM側に送信される）し、ステップ1010-23に移行する。

【1011】

ステップ1010-8又はステップ1010-10でNoの場合、ステップ1010-14で、主制御基板MのCPUMCは、設定値データが正常な範囲内（本例では、「1」～「3」）であるか否かを判定する。ステップ1010-14でYesの場合、ステップ1010-15で、主制御基板MのCPUMCは、RAM検査フラグの内容が正常であるか否かを判定する。なお、本例では、所定のRAM領域に記憶されるRAM検査フラグの内容が「AA55H」である場合に正常であると判定する。なお、ステップ1010-15で正常であると判定するRAM検査フラグの内容は、「AA55H」には限定されず、任意の内容を設定してもよく、通常遊技で使用される値でもよいし、0でもよい。ステップ1010-15でYesの場合、ステップ1010-16で、主制御基板MのCPUMCは、RAMクリアを実行し、ステップ1010-23に移行する。他方、ステップ1010-14又はステップ1010-15でNoの場合、ステップ1010-17で、主制御基板MのCPUMCは、RAM異常に係る情報をサブメイン制御部SMへ送信するためのコマンド送信用バッファMT10にセット（ステップ1999の制御コマンド送信処理によってサブメイン制御部SM側に送信される）する。次に、ステップ1010-18で、主制御基板MのCPUMCは、RAM異常フラグ（後述する、ステップ1000-5-1で用いるフラグ）をオンにし、ステップ1010-23に移行する。なお、前述した所定のRAM領域は、RAM検査フラグが記憶されているRAM領域のみとしてもよいし、RAM検査フラグが記憶されているRAM領域と設定値データが記憶されているRAM領域とを合わせて所定のRAM領域としてもよく、そのように構成した場合には、設定値データが正常であり且つRAM検査フラグの内容が正常であることを「所定のRAM領域の値が特定条件を満たしている」と称することがある。

【1012】

フローチャートの説明に戻ると、ステップ1010-19で、主制御基板MのCPUMCは、設定値データは正常な範囲内であるか否かを判定する。ステップ1010-19でYesの場合、ステップ1010-20で、主制御基板MのCPUMCは、設定キースイッチのオン情報があるか否かを判定する。なお、ステップ1010-7の処理で設定キースイッチのオン情報がクリアされていた場合には、ステップ1010-20ではNoと判定される。例えば、前枠D14が閉鎖している状況にて設定キースイッチをオンにする操作を実行し、電源投入した場合において、設定キースイッチをオンにする操作を実行したまま新たに操作しなかった場合にも（見た目上設定キースイッチがオンになっていても）、設定キースイッチのオン情報がクリアされていることとなる。ステップ1010-19でNoの場合、ステップ1010-24で、主制御基板MのCPUMCは、設定値異常に係る情報をサブメイン制御部SMへ送信するためのコマンド送信用バッファMT10にセット（ステップ1999の制御コマンド送信処理によってサブメイン制御部SM側に送信される）する。次に、ステップ1010-25で、主制御基板MのCPUMCは、設定値異常フラグ（後述する、ステップ1000-5-1で用いるフラグ）をオンにし、ステップ1010-23に移行する。

10

20

30

40

50

【1013】

また、ステップ1010-20でYesの場合、ステップ1010-21で、主制御基板MのCPUMCは、設定確認処理の実行に係る情報をサブメイン制御部SMへ送信するためのコマンド送信用バッファMT10にセット（ステップ1999の制御コマンド送信処理によってサブメイン制御部SM側に送信される）する。次に、ステップ1010-22-1で、主制御基板MのCPUMCは、設定確認フラグ（後述する、設定制御処理にて用いるフラグ）をオンにし、ステップ1012に移行する。なお、ステップ1010-20でNoの場合にも、ステップ1012に移行する。

【1014】

次に、ステップ1012で、主制御基板MのCPUMCは、主制御基板MにおけるRAM内に記憶（バックアップ）されている電断時の各種情報コマンドを取得し、ステップ1014で、取得した各種情報コマンドをサブメイン制御部SM側に送信し（当該タイミングにて送信してもよいし、当該タイミングではコマンドをセットしておき制御コマンド送信処理にて送信するよう構成してもよい）、ステップ1014-1で、主制御基板MのCPUMCは、ソレノイドの復帰設定〔第2主遊技始動口B10の第2主遊技始動口電動役物B11d、大入賞口（例えば、第1大入賞口C10、第2大入賞口C20）及び可動片（例えば、図100の上遮蔽部材C24、下遮蔽部材C25等）の開放又は閉鎖状態を電源断前の状態に復帰させるため、第2主遊技始動口電動役物B11d、大入賞口、可動片の順に、ソレノイド作動ビットがオンか否かを判断し、オンの場合には、（電源断前に第2主遊技始動口／大入賞口／可動片が開放中と判断して、改めて開放させるために）ソレノイド作動フラグを対応するアドレスに格納する〕を行い、ステップ1010-23の処理に移行する。

【1015】

次に、ステップ1010-23で、主制御基板MのCPUMCは、電源復帰に係る情報をサブメイン制御部SMへ送信するためのコマンド送信用バッファMT10にセット（ステップ1999の制御コマンド送信処理によってサブメイン制御部SM側に送信される）する。次に、ステップ1016で、主制御基板MのCPUMCは、主制御基板M側のメイン処理に係る実行定時割り込み（例えば、約1.5ms毎のハードウェア割り込みを契機とするが、本例では、当該割り込み周期をTとする）を許可し、ステップ1018の処理に移行する。尚、ステップ1018後は、次の定時割り込みタイミングに到達するまで、主制御基板MのCPUMCは、各種乱数更新処理（例えば、乱数カウンタのインクリメント処理）を繰り返し実行することとなる。

【1016】

次に、図192は、第23実施形態における、主制御基板Mが行うタイマ割り込み処理の流れを示したフローチャートである。第21実施形態との相違点は、ステップ1009、ステップ1000-5-1の処理である。即ち、ステップ1000-5で、主制御基板MのCPUMCは、タイマ減算処理を実行した後、ステップ1009で、主制御基板MのCPUMCは後述する設定制御処理を実行する。次に、ステップ1000-5-1で、主制御基板MのCPUMCは遊技停止となるフラグがオフであるか否かを判定する。ここで、第23実施形態における遊技停止となるフラグとは、RAM異常フラグ、設定値異常フラグ、設定変更異常フラグ、設定変更フラグ、設定確認フラグとなっており、これら遊技停止となるフラグのいずれかがオンとなっている場合には、ステップ1000-5-1でNoと判定されることとなる。ステップ1000-5-1でYesの場合には、ステップ1000-6に移行し、ステップ1000-5-1でNoの場合には、ステップ1000-6～ステップ1551（第21）の処理を実行せずに、ステップ1550-1に移行する。即ち、遊技停止時には、ステップ1000-6～ステップ1551（第21）の処理を実行しないよう構成されている。なお、第23実施形態においては、設定変更モード中と設定確認モード中にはステップ1009の設定制御処理を実行するよう構成されており、換言すると、設定変更モード中と設定確認モード中はタイマ割り込み処理を実行可能に構成されている。また、遊技停止中においてもタイマ割り込み処理を実行可能に構成され

10

20

30

40

50

ている。

【1017】

なお、図191にてセットしたサブ側へのコマンド（ステップ1010-5などでセットしたコマンド）は、ステップ1999の制御コマンド送信処理にて送信するよう構成されている。また、RAM異常、設定値異常、設定変更異常に関する報知や、設定変更モード中、設定確認モード中に関する報知は、ステップ1550-6のLED出力処理にて表示制御を実行するよう構成されている。

【1018】

図193は、第23実施形態における、図192のステップ1009のサブルーチンに係る設定制御処理のフローチャートである。まず、ステップ1009-1で、主制御基板MのCPUMCは、設定変更フラグがオンであるか否かを判定する。ステップ1009-1でYesの場合、ステップ1009-2で、主制御基板MのCPUMCは、RAMクリアスイッチ（RAMクリアボタンと称することがある）の立ち上がりがあるか否かを判定する。ステップ1009-2でYesの場合、1009-3で、主制御基板MのCPUMCは、設定値番号のアドレスをセットする。次に、ステップ1009-4で、主制御基板MのCPUMCは、設定値番号の内容が「最大設定値（本例では、6）-1」未満の場合には設定値番号の内容を+1し、設定値番号の内容が「最大設定値-1」以上の場合には0を設定値番号とする。なお、第23実施形態においては、設定値は1、2、3、4、5、6の6段階であるが、設定値番号は0、1、2、3、4、5の6段階となっている。即ち、設定値から1を減算した値が設定値番号となっている。また、ステップ1550-6のLED出力処理にて、セットされている設定値番号に対応した設定値を設定値表示装置に表示する。次に、ステップ1009-5で、主制御基板MのCPUMCは、設定値検査処理（設定値番号を確認するための処理）を実行する。次に、ステップ1009-6で、主制御基板MのCPUMCは、設定（設定値番号）は設定できる値であるか否かを判定する。ここで、設定できる値とは、第23実施形態においては、設定値が1、2、3、4、5、6の6段階であるので、当該6つの値に対応した設定値番号である0、1、2、3、4、5のいずれかであるか否かを判定することとなる。なお、設定値が、1、2、5、6の4段階であった場合には、当該4つの値に対応した設定値番号である0、1、4、5のいずれかであるか否かを判定することとなり、設定値番号が2や3である場合には設定できない値であるため、ステップ1009-6でNoと判定されることとなる。

【1019】

ここで、ステップ1009-5の設定値検査処理について詳述すると、設定値検査処理では、遊技機に用いられる設定値が適切な設定値（設定可能な設定値）であるか否かを、設定値検査データと整合することで判断するよう構成されている。より具体的には、

（1）設定可能な設定値が1、2、3、4、5、6の6段階であった場合

設定値検査データ：「00111111B」

（2）設定可能な設定値が1、2、3、4、6の5段階であった場合

設定値検査データ：「00101111B」

（3）設定可能な設定値が1のみの1段階であった場合

設定値検査データ：「00000001B」

（4）設定可能な設定値が6のみの1段階であった場合

設定値検査データ：「00100000B」

のように設定値検査データが設定される。即ち、設定値検査データの最下位ビットが設定1に対応したビットであり、最下位ビットから6ビット分がそれぞれ、設定1、2、3、4、5、6に対応しており、設定可能な設定値に対応したビットには「1」が格納され、設定不可能な設定値に対応したビットには「0」が格納される。設定値検査データを用いた設定値検査処理の実行態様としては、設定値データに1加算した回数（設定値の回数）をローテート回数として、設定値検査データを右に1ビットローテートし、キャリーフラグが1である場合には設定可能な設定値であると判定し、キャリーフラグが0である場合には設定不可能な設定値であると判定するよう構成されている。なお、設定値が1～6で

あり設定値データも1～6のように、設定値と設定値データとが同一の値であるよう構成してもよく、そのように構成した場合には、設定値データ（設定値）の回数をローテート回数として設定値検査処理を実行するよう構成してもよい。

【1020】

上記のように設定値検査データを用いることで、設定可能な設定値が1、2、3、4、6の5段階であった場合の設定5などの、間に設定不可能な設定値を有する遊技機においても、設定値（または、設定番号データ）が設定可能な設定値であるか否かを判断することができる。なお、設定可能な設定値が1、2、3、4、6の5段階であった場合、前述したステップ1010-19の処理において、1～6の範囲外である8などが設定値（設定値データが7）であると判断した場合には、設定値異常であると判定され、間に設けられた設定不可能な5が設定値（設定値データが4）であると判断した場合にも、設定値異常であると判定されるよう構成されている。

10

【1021】

フローチャートの説明に戻ると、ステップ1009-6でYesの場合には、ステップ1009-9に移行し、ステップ1009-6でNoの場合には、ステップ1009-6でYesと判定されるまで、ステップ1009-3～ステップ1009-6の処理を繰り返し実行する。なお、ステップ1009-2でNoの場合にも、ステップ1009-9に移行する。

【1022】

このように、第23実施形態においては、RAMクリアスイッチ（RAMクリアボタン）を操作する毎に（オフ→オンとなる毎に）、設定値番号が「0→1→2→3→4→5→0→1→・・・」と遷移するよう構成されている。また、同図のように構成することにより、設定値が、1、2、5、6の4段階などの間に設定できない設定値（3、4）が存在するような遊技機においても、同一の処理にて対応することができ、汎用性の高い設定制御処理とすることができる。なお、設定値番号を遷移させるための操作部材RAMクリアスイッチ（RAMクリアボタン）には限定されず、RAMクリアスイッチ（RAMクリアボタン）とは異なる操作部材である、設定値番号を遷移させるための設定変更ボタンを設けてもよい。

20

【1023】

また、ステップ1009-1でNoの場合、ステップ1009-7で、主制御基板MのCPUMCは、設定確認フラグがオンであるか否かを判定する。ステップ1009-7でYesの場合、ステップ1009-8で、主制御基板MのCPUMCは、設定値番号のアドレスをセットし、ステップ1009-9に移行する。他方、ステップ1009-7でNoの場合には、次の処理（ステップ1000-5-1の処理）に移行する。なお、ステップ1550-6のLED出力処理にて、セットされている設定値番号に対応した設定値を設定値表示装置に表示する。

30

【1024】

次に、ステップ1009-9で、主制御基板MのCPUMCは、設定キースwitchがオフであるか否かを判定する。ステップ1009-9でYesの場合、ステップ1009-10で、主制御基板MのCPUMCは、設定変更フラグ及び設定確認フラグをオフにして、次の処理（ステップ1000-5-1の処理）に移行する。なお、ステップ1009-9でNoの場合にも、次の処理（ステップ1000-5-1の処理）に移行する。

40

【1025】

なお、第23実施形態にて上述した、電源投入時の処理、設定変更モード中の処理、設定確認モード中の処理の1又は複数を、上述したすべての実施形態（特に第21実施形態）に適用してもよいことを補足しておく。具体例としては、第23実施形態の電源投入時の処理、設定変更モード中の処理、設定確認モード中の処理を採用し、且つ、第21実施形態における遊技停止に係るコマンドを送信する構成を採用してもよい。

【1026】

《各実施形態の概要のまとめ》

50

ここで、上述した各実施形態の概要を説明する。

【1027】

<本実施形態>

本実施形態におけるぱちんこ遊技機では、主制御基板の制御として、電源投入時に実行される一般的な処理である主制御基板メイン処理と、主制御基板側メイン処理で電源投入時の処理を実行した後に処理の発生が許可され、遊技中の処理を行うタイマ割り込み処理を備えている。さらに、遊技性に関する構成として、2つの主遊技図柄を備え（第1主遊技図柄、第2主遊技図柄）、第2主遊技図柄の保留消化を優先して実行し、大当りを消化するための大入賞口を2つ備え（第1大入賞口、第2大入賞口、大当り中には遊技球を遊技盤面右側に発射する右打ちにて消化するようになっており、大当り終了後に約70%（主遊技図柄の停止図柄による）で次回の大当りが発生するまで主遊技図柄（特別図柄）の当否抽選における当選確率が高確率となる確率変動遊技状態が付与され、大当り終了後に100%で100回の高ベース状態（補助遊技時短状態、補助遊技時短フラグオン）が付与されるようになっており、大入賞口の近辺に一般入賞口を備えている。また、大当り中や補助遊技中には、副制御基板側で右打ちを示唆する打ち分け指示を行うようになっている。

10

【1028】

<第2実施形態>

第2実施形態におけるぱちんこ遊技機では、遊技性に関する構成として、大当り終了後に確率変動遊技状態が100%付与され、確率変動状態で80回変動すると確率変動遊技状態が終了する（ST）よう変更されている。また、確率変動遊技状態における変動態様決定用抽選テーブルは、3段階に分かれている。また、低ベース状態（非補助遊技時短状態、補助遊技時短フラグオフ）における補助遊技図柄の当否抽選で当たりとなった場合に普通電動役物の開放時間が最長となる開放態様が備えられている。さらに、保留された乱数値（当否抽選乱数、図柄抽選乱数、変動態様抽選乱数）に基づいて先読み演出が実行されるよう構成されており、ST中には変動態様決定用抽選テーブルに対応するよう演出ステージが変更されるようになっており、先読み演出は、演出ステージの変更を跨いで実行されないようになっている。さらに、確率変動遊技状態や補助遊技時短状態により大当りが所定回数連続して発生した場合には特別な演出（エンディング演出）を実行するようになっている。また、変形例にて特別遊技終了デモ時間にて終了デモ画像（遊技球の獲得数等）を表示するよう構成されている。

20

30

【1029】

<第3実施形態>

第3実施形態におけるぱちんこ遊技機では、第2実施形態から確率変動状態の付与条件が変更されており、第2大入賞口の内部に、遊技球が入球可能な特定領域を備え、大当り中に特定領域に遊技球が入球することにより、大当り終了後に確率変動遊技が付与される（V確タイプ）よう構成されている。

<第4実施形態>

第4実施形態におけるぱちんこ遊技機では、主遊技図柄の抽選（当否抽選、図柄抽選）により小当りが発生した場合に、大入賞口内の特定領域を遊技球が通過する（小当りにより大入賞口が1.8秒未満で開放する）と、大当りとなり多くの出玉が獲得できる遊技性となっている。また、主遊技図柄における確率変動を備えておらず、大当り終了後には普通図柄の確率変動による補助遊技状態（時間短縮遊技状態、補助遊技時短フラグオン）となる。なお、普通電動役物（第2主遊技始動口電動役物）が設けられている主遊技始動口（第2主遊技始動口）に対応する第2主遊技図柄における小当り確率（1021/1024）は、第1主遊技図柄における小当り確率（4/1024）よりも高くなっており、第2主遊技図柄では小当りが頻繁に発生するようになっている。また、大入賞口内の特定領域の上部に2つの遮蔽部材が設けられており、遊技球の大入賞口への入球タイミングによって特定領域に入球する場合としない場合とが起り得るよう構成されている。

40

【1030】

50

<第5実施形態>

第5実施形態におけるぱちんこ遊技機では、遊技球が遊技機内で循環するよう構成されている。また、ぱちんこ遊技機とぱちんこ遊技機の外部に設置されたECOユニットとに大別され（遊技場設備に対して、夫々を別体として着脱可能に構成され）ている。ぱちんこ遊技機においては遊技盤側と遊技枠側とに大別され、遊技枠側に備えられる払出制御基板において、遊技球の発射制御や遊技者に対しての賞球付与（第5実施形態においては、持ち球データの加減算）制御を司るよう構成されている。さらに、操作部装置を備え、タッチパネル式インターフェース、持ち球数表示部、サブ入力ボタン等から構成されており、タッチパネル式インターフェースは、遊技者のタッチ操作（接触型・非接触型のいずれかのタッチ操作）によって、遊技機の遊技状態情報やECOユニットに挿入されたICカード（遊技媒体記録メディア）に記録された遊技媒体情報を表示及び利用することができるよう構成されている。賞球払出制御基板は、持ち球数表示部に持ち球数（遊技に使用（遊技領域内に発射）することのできる遊技球数）を表示するよう制御する。さらに、遊技枠と遊技盤の認証処理（遊技機の電源投入時に、当該遊技機が正規な遊技機であるか否かを判定する処理）が、ECOユニットを介して行われるよう構成されている。

【1031】

<第6実施形態>

第6実施形態におけるぱちんこ遊技機では、当否抽選の当選確率等を変更する設定値が設けられている。設定値の変更は、設定キー差込口に設定キーを挿入して操作した後電源を投入することにより可能となる構成となっている。また、電源投入後に設定キー差込口に設定キーを挿入して操作することにより、設定値の確認が可能となっている。なお、設定キー差込口は、主制御基板に設けられている。設定値の変更中（又は確認中）は、設定値が、主制御側では主制御基板に設けられた設定値表示装置にて表示され、副制御側では演出表示装置にて設定変更中（又は確認中）である旨を示す表示がされる。

【1032】

<第7実施形態>

第7実施形態におけるぱちんこ遊技機では、低ベース状態（非補助遊技時短状態、補助遊技時短フラグオフ）における入球状態情報（ベース値）を主制御基板に設けられた入球状態表示装置にて表示するよう構成されている。また、主制御基板の制御である主制御基板メイン処理に入球状態表示装置演算処理（ベース値の算出処理）を設け、タイマ割り込み処理に入球状態表示装置表示制御処理（ベース値の表示処理）を設けている。なお、第1ROM・RAM領域における処理として、主制御基板メイン処理及びタイマ割り込み処理が設けられ、第2ROM・RAM領域における処理として、入球状態表示装置演算処理及び入球状態表示装置表示制御処理が設けられており、主制御基板メイン処理において第2ROM・RAM領域における処理である入球状態表示装置演算処理が呼び出され、タイマ割り込み処理において第2ROM・RAM領域における処理である入球状態表示装置表示制御処理が呼び出されるよう構成されている。入球状態情報は、所定期間（例えば、アウト個数が60000個等）毎に記憶されるよう構成されており、入球状態表示装置には、リアルタイムに更新されるベース情報（「bL.」）と直前区間におけるベース情報（「b6.」）を表示可能となっている。

【1033】

<第8実施形態>

第8実施形態におけるぱちんこ遊技機では、設定値に応じた当否抽選テーブルを備え、先読み演出の実行傾向から設定値を推測することが可能な態様と困難な態様との双方を説明した。当否抽選テーブルは、確率変動遊技時の当り（大当り）当選確率が、非確率変動遊技時の当り（大当り）当選確率の約2倍になっており、その比率が全設定で共通になるよう構成されている。先読み演出の実行傾向から設定値を推測することが可能な態様として、設定値共通の当り乱数範囲（0～204）を設け、高設定ほど共通の乱数範囲外での当り乱数が多く構成され、共通の当り乱数範囲内で当り（大当り）の際に先読み演出を発生可能することで、先読み演出が発生せず当り（大当り）が多くなるほど高設定である

可能性が高いことが予測できる。先読み演出の実行傾向から設定値を推測することが困難な態様として、当たり時には必ず先読み演出が実行されるような構成であるとするならば、設定値の違いによって当たりとなる演出態様が異なることがないため、設定の判別が不可能となるよう構成されている。

【1034】

<第9実施形態>

第9実施形態におけるぱちんこ遊技機は、設定値に関する情報を副制御基板へ送信せずとも先読み演出を正確に行うための手法である。まず、第1の手法では、当否抽選乱数に関する情報を参照することなく、変動態様抽選乱数及び／又は図柄抽選乱数に関する情報のみを参照する構成となっている。第2の手法では、主制御基板で設定値に対応する当否判定を行い、判定結果を副制御基板に送信する構成となっている。第3の手法では、副制御基板側において、保留として保持されている乱数値に関する情報と、その保留が消化された際に発生した事象とを遊技履歴として蓄積していく（副制御基板側が学習していく）構成となっている。第4の手法では、主制御基板の制御プログラムにおいて設定情報を把握できないように構成することにより、主制御基板及び副制御基板の双方において設定値を把握できない構成となっている。

【1035】

<第10実施形態>

第10実施形態におけるぱちんこ遊技機では、設定値に応じて、取得し得る当否抽選乱数の範囲が異なるよう構成されている。なお、当たり（大当たり）となる置数は設定値に関わらず共通であるため、設定値に応じた当否抽選乱数の範囲の違いにより、当否抽選における当選確率が異なる構成となっている。

【1036】

<第11実施形態>

第11実施形態におけるぱちんこ遊技機では、複数の当否抽選判定テーブルを用いて当否抽選を行うよう構成されている。第1当否抽選判定テーブルでは、設定値により当選確率が異なり、第2当否抽選判定テーブルでは、設定値に関わらず当選確率が共通に構成されており、第1当否抽選判定テーブルと第2当否抽選判定テーブルの双方で当選となった場合に、当否抽選に当選することとなる。

【1037】

<第12実施形態>

第12実施形態におけるぱちんこ遊技機では、設定値として設定1、設定2、設定3の3つの設定値を有しており、非確率変動遊技状態においては、設定値が相違することにより大当たり確率が相違し得るよう構成し、確率変動遊技状態における大当たり確率を設定値が相違しても同一の大当たり確率となるよう構成されている。

【1038】

<第13実施形態>

第13実施形態におけるぱちんこ遊技機では、遊技機外に出力する試験端子信号として、設定装置の作動状態（例えば、設定変更モード中であるか、設定表示モード中であるか）及び、設定値の情報が出力されるよう構成されている。

【1039】

<第14実施形態>

第14実施形態におけるぱちんこ遊技機では、主制御基板のRAM領域に格納する情報として、異常が発生したり消去されてしまった場合に遊技の結果に甚大な被害を及ぼす情報（例えば、設定値データ）を、上位アドレスに格納するよう構成されている。

【1040】

<第15実施形態>

第15実施形態におけるぱちんこ遊技機では、確率変動遊技状態において確変転落抽選を実行可能に構成されている。

【1041】

10

20

30

40

50

<第15実施形態からの変更例1>

第15実施形態からの変更例1におけるぱちんこ遊技機では、確率変動遊技状態における大当たり確率が設定値毎に相違し得るよう構成され、設定値が高い程（例えば、設定1よりも設定3の方が）確率変動遊技状態における大当たり確率が高くなるよう構成され、且つ確変転落抽選を実行可能であり、設定値が高い程確変転落抽選の当選確率が高くなるよう構成されている。

【1042】

<第15実施形態からの変更例2>

第15実施形態からの変更例2におけるぱちんこ遊技機では、確率変動遊技状態における大当たり確率が設定値毎に相違し得るよう構成され、設定値が高い程（例えば、設定1よりも設定3の方が）確率変動遊技状態における大当たり確率が高くなるよう構成され、且つ主遊技図柄の変動回数によって確率変動遊技状態が終了し、当該変動回数（確変回数）及び時短回数は設定値が高い程少なくなるよう構成されている。

【1043】

<第15実施形態からの変更例3>

第15実施形態からの変更例3におけるぱちんこ遊技機では、確率変動遊技状態における大当たり確率が設定値毎に相違し得るよう構成され、設定値が高い程（例えば、設定1よりも設定3の方が）確率変動遊技状態における大当たり確率が高くなるよう構成されている。また、主遊技図柄の変動回数によって確率変動遊技状態が終了し、当該変動回数（確変回数）及び時短回数は複数種類の選択候補から決定し、設定値が高い程、大当たり終了後に付与される確変回数及び時短回数として相対的に少ない回数となる選択候補が選択（決定）され易いよう構成されている。

【1044】

<第15実施形態からの変更例4>

第15実施形態からの変更例4におけるぱちんこ遊技機では、第15実施形態からの変更例3におけるぱちんこ遊技機では、確率変動遊技状態における大当たり確率が設定値毎に相違し得るよう構成され、設定値が高い程（例えば、設定1よりも設定3の方が）確率変動遊技状態における大当たり確率が高くなるよう構成されている。また、主遊技図柄の変動回数によって確率変動遊技状態が終了し、当該変動回数（確変回数）は複数種類の選択候補から決定し、設定値が高い程、大当たり終了後に付与される確変回数として相対的に少ない回数となる選択候補が選択（決定）され易いよう構成し、時短回数は設定値に拘らず同一の回数となるよう構成されている。

【1045】

<第16実施形態>

第16実施形態におけるぱちんこ遊技機では、設定値を複数設け、設定値が高い程、第2主遊技側の小当たりの当選率が高くなるよう構成されている。

【1046】

<第17実施形態>

第17実施形態におけるぱちんこ遊技機では、設定を備えており、並列抽せん機であり、小当たり図柄に応じて第1主遊技変動態様決定用抽選テーブル（第2主遊技変動態様決定用抽選テーブル）が変更されるよう構成されている。

【1047】

<第18実施形態>

第18実施形態におけるぱちんこ遊技機では、設定を複数設けており、第1主遊技始動口で遊技を行う時間短縮遊技状態が、低設定であると終了し易く且つ第2主遊技始動口による遊技へ移行し易くなっており、高設定であると時間短縮遊技状態が終了し難く且つ第2主遊技始動口による遊技へ移行し難く構成されている。

【1048】

<第19実施形態>

第19実施形態におけるぱちんこ遊技機では、ハズレの出現回数をカウントすることに

10

20

30

40

50

り設定を推測可能に構成されている。

【1049】

＜第20実施形態＞

第20実施形態におけるぱちんこ遊技機では、所定のタイミングで設定示唆演出が発生する又は装飾図柄により設定を示唆するよう構成されている。

【1050】

＜＜本例における課題・効果のまとめ＞＞

ここで、上述した各実施形態における課題及び効果を以下に詳述する。

【1051】

＜本実施形態における課題＞

興趣性の高い遊技盤面構成を有する遊技機が求められていた。

【1052】

＜本実施形態の効果＞

特別遊技の実行中に、右打ちにて発射した遊技球が、右打ちルート流出口D50から流出される際、第1大入賞口C10（又は第2大入賞口C20）が開放状態である場合には、遊技球が第1大入賞口C10（又は第2大入賞口C20）に入球し、第1大入賞口C10（又は第2大入賞口C20）が閉鎖状態である場合には、遊技球がそのまま通過して右一般入賞口P20にも入球し得ることとなる。このため、右一般入賞口P20が、第1大入賞口C10（又は第2大入賞口C20）より上流側に設置された場合に比して右一般入賞口P20に入球し難くなる{右一般入賞口P20が第1大入賞口C10（又は第2大入賞口C20）より上流側に設置されていた場合には、右打ちルート流出口D50から流出されたすべての遊技球が右一般入賞口P20の近傍を流下する一方、右一般入賞口P20が第1大入賞口C10（又は第2大入賞口C20）より下流側に設置されていた場合には、右打ちルート流出口D50から流出された遊技球のうち第1大入賞口C10（又は第2大入賞口C20）に入球しなかった遊技球のみが右一般入賞口P20の近傍を流下するため}。よって、遊技者にとっては、右一般入賞口P20への入球への関心を増しつつ（不利益を与えることなく）も、遊技としては第1大入賞口C10（又は第2大入賞口C20）が開放状態であり、右一般入賞口P20が第1大入賞口C10（又は第2大入賞口C20）より上流側に設置されている場合よりも特別遊技実行中において右一般入賞口P20に入球し難くなるため、特別遊技が実行された場合に獲得可能な賞球数に影響を与えることを抑えることができる。

【1053】

＜第2実施形態における課題＞

回数制限付きの確率変動遊技状態（且つ、時間短縮遊技状態）中の遊技において、主遊技図柄の変動回数が所定回数となったことを契機として、選択される変動態様（変動時間）の候補が相違することとなる（切り替わる）遊技機において、興趣性の向上が求められていた。

【1054】

＜第2実施形態の効果＞

回数制限付きの確率変動遊技状態（且つ、時間短縮遊技状態）中の遊技において、主遊技図柄の変動回数が所定回数となったことを契機として、選択される変動態様（変動時間）の候補が相違することとなる（切り替わる）よう構成されている。また、変動態様の切り替わりに応じて、演出内容も切り替えることにより、特定遊技{回数制限付きの確率変動遊技状態（且つ、時間短縮遊技状態）}中の遊技の進行に合わせて演出の態様を異ならせることができ、遊技の興趣性を向上させることが可能となる。

【1055】

＜第3実施形態における課題＞

大当たり図柄によって確率変動遊技状態に移行するか否か、という点で遊技者の期待感を煽ることができる遊技機が求められていた。

【1056】

10

20

30

40

50

＜第3実施形態の効果＞

特別遊技中の特定領域への遊技球の入球有無によって、当該特別遊技実行後に確率変動遊技状態へと移行するか否かを決定する（特定領域に入球ありで確率変動遊技状態に移行し、入球なしで確率変動遊技状態に移行しない）遊技機（いわゆる、V確タイプの遊技機）において、確率変動遊技状態とならなかった場合の非確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態中の変動態様（及び演出）を確率変動遊技状態中の変動態様（及び演出）と異ならせることで、遊技者の利益態様に応じた、適切な演出を実行することができるのである。尚、本例では特に図示していないが、振分遊技を実行する際には、専用の演出（第2大入賞口C20が長開放となるか否かを煽る演出、特定領域C22への入球がなされるか否かを煽る演出、特定領域C22への入球がなされた旨を報知する演出、等）が実行されるよう構成してもよい（実行態様には特に限定されないが、例えば、特定領域C22への入球がなされた旨を報知する演出である場合には、当該入球がなされたタイミング（直後であることが望ましい）にて、演出表示装置SGや演出表示装置SGの前面に設けられた演出装置（例えば、いわゆる演出用の可動体役物や導光板等）にて、当該報知を実行するよう構成することを例示することができる（例えば、演出表示装置SG上に「V」と描かれた画像を表示する、或いは、演出用の可動体役物を初期位置から演出可能な位置へ変位させる、或いは、導光板に光を照射することで導光板上に像を浮かび上がらせる、等））。尚、特定領域C22への入球がなされた旨を報知する演出を実行するに際しては、特定の遊技状態（例えば、確率変動遊技状態）で特別遊技に当選したときや特定の特別図柄（大当たり図柄）が当選したとき等の、特定領域C22への入球が略確定的となるよう設計された開放パターンが実行される特別遊技においては、「V」と描かれた画像を控えめに表示（例えば、小さく表示）するなど、特定領域C22への入球が略確定的となるよう設計された開放パターンが実行されない特別遊技が行われる可能性がある状況において（特別遊技における特定領域C22への入球容易性が不明である状況において）、その後、特定領域C22への入球が略確定的となるよう設計された開放パターンが実行された場合には、特定領域C22への入球がなされた旨を報知する演出と異なる演出を実行することも好適であり、これにより、必要に応じた優先度で演出を実行することができる。

【1057】

＜第4実施形態における課題＞

小当りを有する遊技機において、より興趣性の高い遊技性の創出が求められていた。

【1058】

＜第4実施形態の効果＞

パターンAとして、小当りに係る保留が生起してから小当りに係る図柄変動が開始されるまでに新たな保留が生起しない（保留数が2個以上である状態にて図柄変動が開始され難い＝小当りに係る保留が生起してから上遮蔽部材C24の開放が開始されるまでの時間が長くなり易い）場合と、パターンBとして、小当りに係る保留が生起してから小当りに係る図柄変動が開始されるまでに新たな保留が生起する（保留数が2個以上である状態が常に維持されたまま図柄変動が開始され易い＝小当りに係る保留が生起してから上遮蔽部材C24の開放が開始されるまでの時間が短くなり易い）場合と、において、上遮蔽部材C24の開放タイミングが変化し得る。更には、このような上遮蔽部材C24の開放タイミングの変化により、上遮蔽部材C24の開放タイミングと下遮蔽部材C25の開放タイミングとがうまく合致するか否かが変化し得る構成となっているため、小当りに当選した場合に、V入賞口C22に入球するか否かに注目するような興趣性の高い遊技機とすることができる。

【1059】

＜第5実施形態における課題＞

遊技者が遊技球に触れることができるため、遊技球に対する様々な不正が行われてしまう恐れが生じてしまうという懸念があった。

【1060】

＜第5実施形態の効果＞

遊技盤側に設けられた入球検出装置（例えば、第1入球検出装置111、第2入球検出装置211、第1入賞検出装置311、第2入賞検出装置321、等）と、遊技枠側に設けられた賞球許可センサ類KS（例えば、第1主遊技始動口賞球許可センサ110KS、第2主遊技始動口賞球許可センサ210KS、第1大入賞口賞球許可センサ310KS、第2大入賞口賞球許可センサ320KS、一般入賞口賞球許可センサ、等）と、の双方で入球が検出され、且つ、主制御基板A側から送信された入賞情報（例えば、入賞口種別・賞球数に係る情報）が、賞球払出制御基板3000側に記憶された基本賞球数情報と一致した場合にのみ、遊技者に対して賞球が付与されるよう構成されているため、不正行為による賞球の獲得を防止することができる。また、遊技枠側に賞球許可センサ類KSを設けることで、遊技盤のコストを削減できることとなる（ぱちんこ遊技機の機種入れ換えは、主に遊技盤のみの入れ替えにて行われ、遊技枠は繰り返し使用されることが多いため）。また、遊技者に対して賞球を付与した入賞については、所定の表示部（例えば、入賞情報表示装置60）にて、入賞口種別及び賞球数を表示し得るよう構成されているため、遊技者にとって、いずれの入賞口に入賞し、何球の賞球が得られたか、という情報が分かり易い、ユーザーフレンドリーな遊技機を提供することができることとなる。

10

【1061】

<第6実施形態における課題>

1つの遊技状態（例えば、非確率変動遊技状態、確率変動遊技状態）に対する大当たり確率が1種類のみとなるよう構成したぱちんこ遊技機がありふれているため、稼働率が向上するような、従来よりも興趣性の高いぱちんこ遊技機が求められていた。また、遊技場の

20

【1062】

<第6実施形態の効果>

設定変更という管理者のみが行う操作に基づく点を考慮して、演出制御手段（例えば、副制御基板SのCPUSC）においても管理者が行う操作モードに移行させ、また、主制御手段（例えば、主制御基板MのCPUMC）や払出制御手段（例えば、賞球払出制御基板KHのCPU）においては、遊技機能を停止する。すなわち、他の制御手段においても設定変更の処理に合わせて管理者用の処理が実行され、遊技機能に関する処理が実行されない。このため、設定変更という1の操作を起点として、複数の制御手段が夫々に対応した管理処理を実行することができる。一方、設定表示という確認作業の際においては、通常の遊技処理を極力維持するように構成することで、必要以上に制御の制約を与えることがなく、適正な処理を実現することができる。

30

【1063】

<第7実施形態及び第7実施形態からの変更例1における課題>

入球状態表示装置J10に表示する入球に係る情報の生成・表示等の処理を主制御基板Mにて実行する場合、当該生成・表示等の処理を実行するための容量が膨大になってしまう。

【1064】

<第7実施形態及び第7実施形態からの変更例1の効果>

40

第7実施形態及び第7実施形態の変形例1では、メインループ処理内で入球状態表示装置演算処理を呼び出して実行し、タイマ割り込み処理内で入球状態表示装置表示制御処理を呼び出して実行するよう構成することにより、処理を分散させることで効率良く処理できるようにしたが、この構成に限られず、例えば、タイマ割り込み処理内で、入球状態表示装置演算処理と入球状態表示装置表示制御処理を呼び出して実行するよう構成することも可能である。このように構成することで、処理の簡素化及び容量削減を図ることが可能である。例えば、表示データ切替フラグを1つのみ備える構成とすることができ、入球状態表示装置演算処理で更新された表示データ切替フラグ入球状態表示装置表示制御処理において参照するよう構成することが挙げられる。

【1065】

50

また、第7実施形態において、入球状態表示装置演算処理及び入球状態表示装置表示制御処理が実行される度に、第2RAM領域クリアチェック処理を実行することで、ノイズ等による突発的な異常が発生した場合に早急に対応可能なよう構成した実施形態を説明したが、これに限られず、第2RAM領域のチェックを、所定条件を充足した場合（例えば、カウンタ加算処理において通常時賞球数カウンタ値、通常時アウト個数カウンタ値、総アウト個数カウンタ値が所定個数に到達したことなど）を契機として実行するよう構成することも可能である。このように構成することによっても、第2RAM領域のチェックを過度に実行することなく、処理の効率化を図ることが可能である。

【1066】

また、上記の遊技機において、賞球払出動作中にRAMクリア処理（第1RAM領域のクリア処理）が発生する場合（例えば、電源断時にRAMクリアボタンが操作される、ノイズや瞬電による異常な電源断の発生後に電断復帰する）が想定される。例えば、特定数（例えば10個）の賞球払出動作中に、所定数（例えば6個）の払出完了時にRAMクリア処理が発生した場合、残りの賞球数（例えば4個）の記憶情報はクリアされ、残りの賞球数に対する払出が実行されず払出動作が終了することとなるが、入球状態表示装置J10では、特定数分の賞球が加算された値で算出されたベース値が表示される。このように構成することで、ベース値等の入球情報を意図的に調整できないよう構成することができ、入賞口への入球数に基づいて構成可能な入球情報を生成可能である。

【1067】

<第8実施形態における課題>

1つの遊技状態（例えば、非確率変動遊技状態、確率変動遊技状態）に対する大当たり確率が1種類のみとなるよう構成したぱちんこ遊技機がありふれているため、稼働率が向上するような、従来よりも興趣性の高いぱちんこ遊技機が求められていた。また、遊技場の営業者（管理者）の営業自由度を高められるような遊技機を創出することが求められていた。

【1068】

<第8実施形態の効果>

設定値を複数設け、非確率変動遊技状態及び確率変動遊技状態の大当たり確率が設定値によって相違し得るよう構成することにより、遊技者は、遊技している遊技機の設定値が遊技者にとって高利益となる設定値であることに期待感を抱きながら遊技を進行することができるため、大当たりに当選することにより、遊技球を獲得できる喜びと遊技者に有利な設定値に設定されている期待感とを得ることができる。

【1069】

<第9実施形態における課題>

先読み演出を行うためには、遊技状態（例えば、非確率変動遊技時）と設定値（例えば、設定1）とを踏まえて、保留として保持されている乱数値が、当り（大当り）と判定される乱数値範囲（例えば、「0～204」）に属するか否かを事前判定しなければ不正確なものとなり得る。その際、第2実施形態において例示したように、先読み演出の実行可否を副制御基板S側で決定するよう構成する場合、例えば、図69のステップ2162で示されるように、保留として保持されている乱数値が、当り（大当り）と判定される乱数値範囲に属するか否かを副制御基板S側で事前判定する必要性があり、その際には副制御基板S側にて設定値に関する情報が必要となる。ところが、主制御基板Mが保持している設定値に関する情報を副制御基板Sへ送信してしまうことはセキュリティ上或いは遊技の公正性を担保する上では好ましくない〔副制御基板S側へ送信する際に設定値に関する情報が傍受され悪用される恐れもあるし、副制御基板S側にて設定値に関する情報を外部へ明確に報知した（例えば、遊技場運営者がメンテナンスの用途で表示した）ものが遊技行為者に盗み見られる恐れもある〕。

【1070】

<第9実施形態の効果>

第9実施形態に係る遊技機においては、設定値を変更可能であり、設定値に関する情報

10

20

30

40

50

を主制御基板M側から副制御基板S側には送信しないよう構成されており、そのように構成した場合においても、齟齬が生じない適切な先読み演出を実行することができる。

【1071】

<第10実施形態における課題>

設定値を複数有する遊技機において、設定した設定値によって大当たりとなる当否抽選の乱数範囲が相違してしまう。

【1072】

<第10実施形態の効果>

当否抽選乱数の合計（大当たりとなる乱数、ハズレとなる乱数、小当たりとなる乱数）を設定値毎に相違させるよう構成することで、設定値によって大当たり確率が相違し得る遊技機においても大当たりとなる乱数範囲をすべての設定値にて同一とすることができる。

【1073】

<第11実施形態における課題>

設定値を複数有する遊技機においては、設定した設定値や遊技状態によって当否抽選テーブルの内容が複雑になってしまい、非確率変動遊技状態における大当たり確率と確率変動遊技状態における大当たり確率との比率をすべての設定値で同一となる遊技機を設計することが困難である。

【1074】

<第11実施形態の効果>

当否抽選用テーブルとして第1当否抽選乱数判定テーブルと第2当否抽選乱数判定テーブルとを有し、第1当否抽選乱数判定テーブルでは、設定している設定値によってテーブルの内容（当たりとなる乱数範囲）が相違するが、遊技状態によってはテーブルの内容（当たりとなる乱数範囲）が相違しないよう構成し、第1当否抽選乱数判定テーブルを参照した当否抽選の結果が当たりとなった場合において、確率変動遊技状態である場合には第2当否抽選乱数判定テーブルを参照せずに大当たりと判定し、非確率変動遊技状態である場合には第2当否抽選乱数判定テーブルを参照して抽選を実行することにより、非確率変動遊技状態における大当たり確率と確率変動遊技状態における大当たり確率との比率をすべての設定値で同一となる遊技機を容易に創出できることとなる。

【1075】

<第12実施形態における課題>

特別遊技の終了後に確率変動遊技状態に移行した場合に主遊技図柄の変動回数によって確率変動遊技状態が終了する（ST機とも称することがある）よう構成した。ここで、第2実施形態のように確率変動遊技状態が主遊技図柄の変動回数によって終了し得る構成に、第8実施形態にて詳述したような設定値を複数有する構成を適用した場合、確率変動遊技状態が終了するまでに大当たりに当選する確率（連荘する確率とも称することがある）が設定値によって相違してしまい、遊技者にとって有利な状態が遊技機毎に平等ではなくなってしまうおそれが生じる。

【1076】

<第12実施形態の効果>

設定値として設定1、設定2、設定3の3つの設定値を有しており、非確率変動遊技状態においては、設定値が相違することにより大当たり確率が相違し得るよう構成することにより、遊技者に現在の設定値はどの程度有利な設定値であるかを推測しながら遊技を進行するという斬新な興趣性を教授できると共に、確率変動遊技状態における大当たり確率を設定値が相違しても同一の大当たり確率となるよう設定することにより、特別遊技の終了後に確率変動遊技状態に移行した場合に主遊技図柄の変動回数によって確率変動遊技状態が終了する（ST機とも称することがある）よう構成された遊技機において、確率変動遊技状態における連荘確率が設定値によって相違してしまう事態を防止することができ、遊技者にとって有利な状態である確率変動遊技状態にて提供する利益率が遊技する遊技機によって相違することがない、ユーザーフレンドリーな遊技機を創出することができる。

【1077】

<第13実施形態における課題>

設定値を複数有する遊技機において、試験信号を適切に出力する必要があった。

【1078】

<第13実施形態の効果>

試験端子から試験信号として、設定装置の作動状態（例えば、設定変更モード中であるか、設定表示モード中であるか）及び、設定値の情報が出力されるよう構成することにより、設定値に基づいた適切な情報を遊技機外に出力することができる。

【1079】

<第14実施形態における課題>

設計上スタックポインタが示す最上位アドレスは「7FF8H」となっているが、想定しない不具合（予期しない電断など）が発生した場合に「7FF8H」よりも上位のアドレスをスタックポインタが示してしまう事態が生じる可能性がある。

【1080】

<第14実施形態の効果>

設計上スタックポインタが示す最上位アドレスは「7FF8H」となっており、想定しない不具合（予期しない電断など）が発生し、「7FF8H」よりも上位のアドレスをスタックポインタが示してしまう事態が生じた場合においても、異常が発生したり消去されてしまった場合に遊技の結果に甚大な被害を及ぼす情報（例えば、設定値データ）を、上位アドレスに格納するよう構成することで構成な遊技機を創出することができる。

【1081】

<第15実施形態における課題>

より斬新な確率変動遊技状態の終了条件を有する遊技機が求められていた。

【1082】

<第15実施形態の効果>

確率変動遊技状態において確変転落抽選を実行可能に構成することにより、斬新な遊技性を創出することができる。

【1083】

<第15実施形態からの変更例1における課題>

確変転落抽選を有する遊技機において、より斬新な遊技性が求められていた。

【1084】

<第15実施形態からの変更例1の効果>

確率変動遊技状態における大当たり確率が設定値毎に相違し得るよう構成され、設定値が高い程（例えば、設定1よりも設定3の方が）確率変動遊技状態における大当たり確率が高くなるよう構成されている。一方、確変転落抽選の当選率は設定値が高い程（例えば、設定1よりも設定3の方が）高くなっており、確変転落抽選の当選率が高い方が確率変動遊技状態が早く終了し易いため、設定値が高い程、確率変動遊技状態が早く終了し易く構成されている。このように構成することにより、設定3等の相対的に高い設定値に設定された遊技機において、確率変動遊技状態にて大当たりに当選し易い分、確率変動遊技状態が早く終了し易くなり、遊技者にとって有利な確率変動遊技状態の期待値が設定毎に相違し難い公正な遊技機を構成することができる。

【1085】

<第15実施形態からの変更例2における課題>

遊技者にとって有利な確率変動遊技状態の期待値が設定毎に相違し難く、且つ確変転落抽選を有していない遊技機が求められていた。

【1086】

<第15実施形態からの変更例2の効果>

確率変動遊技状態における大当たり確率が設定値毎に相違し得るよう構成され、設定値が高い程（例えば、設定1よりも設定3の方が）確率変動遊技状態における大当たり確率が高くなるよう構成されている。一方、大当たり終了後に付与される確変回数は設定値が高い程（例えば、設定1よりも設定3の方が）少なくなっており、設定値が高い程、確率変動遊

10

20

30

40

50

技状態が早く終了し易く構成されている。このように構成することにより、設定3等の相対的に高い設定値に設定された場合には、確率変動遊技状態にて大当りに当選し易く確変回数が少なくなる一方、設定1等の相対的に低い設定値に設定された場合には、確率変動遊技状態にて大当りに当選し難く確変回数が多くなり、遊技者にとって有利な確率変動遊技状態の期待値が設定毎に相違し難い公正な遊技機を構成することができる。

【1087】

＜第15実施形態からの変更例3における課題＞

遊技者にとって有利な確率変動遊技状態の期待値が設定毎に相違し難い遊技機の構成として新たな構成を有する遊技機が求められていた。

【1088】

＜第15実施形態からの変更例3の効果＞

確率変動遊技状態における大当り確率が設定値毎に相違し得るよう構成され、大当り終了後に付与される確変回数及び時短回数を複数種類の選択候補から決定するよう構成した。更に、設定値が高い程、大当り終了後に付与される確変回数及び時短回数として相対的に少ない回数となる選択候補が選択（決定）され易いよう構成することにより、設定3等の相対的に高い設定値に設定された場合には、確率変動遊技状態にて大当りに当選し易く確変回数が少なくなる一方、設定1等の相対的に低い設定値に設定された場合には、確率変動遊技状態にて大当りに当選し難く確変回数が多くなり、遊技者にとって有利な確率変動遊技状態の期待値が設定毎に相違し難い公正な遊技機を構成することができる。

【1089】

＜第15実施形態からの変更例4における課題＞

遊技者にとって有利な確率変動遊技状態の期待値が設定毎に相違し難い遊技機の構成として新たな構成を有する遊技機が求められていた。

【1090】

＜第15実施形態からの変更例4の効果＞

確率変動遊技状態における大当り確率が設定値毎に相違し得るよう構成され、大当り終了後に付与される時短回数を所定回数（100回）に固定し、大当り終了後に付与される確変回数を複数種類の選択候補から決定するよう構成した。また、大当り終了後に付与される時短回数である所定回数（100回）は決定され得る確変回数の最大値以上となる、換言すると、確率変動遊技状態の終了後においても時間短縮遊技状態が継続し得るよう構成した。このように構成することにより、設定3等の相対的に高い設定値に設定された場合には、確率変動遊技状態にて大当りに当選し易く確変回数が少なくなる一方、設定1等の相対的に低い設定値に設定された場合には、確率変動遊技状態にて大当りに当選し難く確変回数が多くなり、遊技者にとって有利な確率変動遊技状態の期待値が設定毎に相違し難い公正な遊技機を構成することができる。

【1091】

＜第16実施形態における課題＞

小当り実行中に大入賞口内の特定の領域（V入賞口）に遊技球が入球することによって、小当り終了後に大当りが実行される構成として新たな構成を有する遊技機が求められていた。

【1092】

＜第16実施形態の効果＞

大当り終了後の時間短縮遊技状態にて第2主遊技側の小当りに当選することで連荘が継続する遊技機に構成し、設定値が高い程、第2主遊技側の小当りの当選率が高くなるよう構成することにより、設定値が高い程、遊技者に有利となる遊技機を設計することができる。

【1093】

＜第17実施形態における課題＞

設定を用いた遊技機の新たなゲーム性が求められていた。

【1094】

<第17実施形態における効果>

並列抽せん機であり、小当り図柄に応じて有利な第2主遊技側の変動態様決定用抽選テーブルに変更することで、変動時間が相対的に短くなり、複数の要素（高設定且つ変動時間が相対的に短い変動態様決定用抽選テーブルが選択された状態）により大当りになり易い状態を備えた遊技機を提供することができる。

<第18実施形態における課題>

設定を用いた遊技機の新たなゲーム性が求められていた。

<第18実施形態における効果>

第1主遊技始動口で遊技を行う時間短縮遊技状態が、低設定であると終了し易く且つ第2主遊技始動口による遊技へ移行し易くなっており、高設定であると時間短縮遊技状態が終了し難く且つ第2主遊技始動口による遊技へ移行し難い遊技機を提供することができる。

【1095】

<第19実施形態における課題>

設定を示唆可能な遊技機が求められていた。

【1096】

<第19実施形態における効果>

ハズレの出現回数をカウントすることにより設定を推測可能な遊技機を提供することができる。

【1097】

<第20実施形態における課題>

設定を示唆可能な遊技機が求められていた。

【1098】

<第20実施形態における効果>

所定のタイミングで設定示唆演出が発生する又は装飾図柄により設定を示唆することにより設定を推測可能な遊技機を提供することができる。

【1099】

<第21実施形態における課題>

複数の設定値を有しており大当り又は小当りに関する処理において汎用性の高い遊技機が求められていた。

【1100】

<第21実施形態における効果>

開放回数データが1Rデータであるか否かを判定することにより、大当りに係る処理の実行中であるのか小当りに係る処理の実行中であるのかを判断することができる。

大当り図柄又は小当り図柄の種類数の作動パターンを有する必要がなくなり、使用するデータ容量を削減することができる。

様々な製番を製造していく場合にも、製番毎にラウンド表示に対する異なるオフセットを作成する必要がなく、汎用性の高い遊技機とすることができる。また、大当りに対応するラウンド表示灯データと小当りに対応するラウンド表示灯データとを同じラウンド表示灯テーブルに記憶しており、前述した第21実施形態における、特別遊技開始時制御処理と特別遊技制御処理の構成である、大当りと小当りとで同一の制御処理を実行する構成と組み合わせることで、使用データ容量の削減と汎用性の高い処理を実現することができる。

【1101】

<第22実施形態における課題>

複数の設定値を有しており汎用性の高い先読みコマンドを有する遊技機が求められていた。

【1102】

<第22実施形態における効果>

先読みコマンドの種類が増えすぎないようにすることができ、使用するデータ容量を削減できると共に、主制御基板M側から副制御基板S側に先読みコマンドを送信した際に、副制御基板S側で設定値に関する演出（前述した設定示唆演出など）を実行す

10

20

30

40

50

ることができる。

設定1ではハズレであるが、設定6では大当たりとなる乱数値である保留に対しても、設定6に定められている場合には、大当たりとなる保留として先読み演出を実行することができると共に、ハズレとなる保留に対して誤って大当たりとなる保留に対する演出を実行してしまうことがないように構成することができる。

6つの状況に対応した遊技機を3つの先読みコマンドで構成（区別）することができる。

【1103】

＜第23実施形態における課題＞

電源投入時に適切なコマンドをメイン側からサブ側に送信可能な遊技機が求められていた。

【1104】

＜第23実施形態における効果＞

電源投入時にメイン側からサブ側に送信するコマンドに優先度を設けることにより、適切なコマンド送信態様とすることができる。

【1105】

＜実施形態の組み合わせ＞

本明細書において、各実施形態や変形例を適宜組み合わせることが可能であるが、特に優位となる実施形態の組み合わせについて、以下に列挙する。

＜本実施形態＋第6実施形態＞

本実施形態と第6実施形態とを組み合わせることで、主制御基板側の設定値を副制御基板側において示唆可能に構成することができ、例えば、大当たり中に、第1実施形態において設けられた大入賞口の近辺の一般入賞口に遊技機球が入球することで、設定値の示唆演出を行うよう構成することが可能となる。

＜第2実施形態＋第6実施形態＞

第2実施形態と第6実施形態とを組み合わせることで、第2実施形態における副制御基板側の演出内容決定処理においても設定値に応じた演出抽選を行うよう構成することが可能となる。例えば、低確率状態且つ低ベースである通常時において設定値に応じて異なる演出抽選を行ってもよく（先読み演出の当選割合や先読み演出の演出内容を異ならせる等）、また、高確率状態かつ高ベースであるST時において設定値に応じて異なる演出抽選を行ってもよい。ここで、大当たり変動において予告等により大当たりの示唆だけでなく、設定値の示唆も実行するよう構成した場合、低確率状態よりも高確率状態の方が大当たりになり易いため、連荘するほど設定値の示唆演出が多く発生し、設定の把握が容易になる。例えば、先読み演出（画像）に設定を示唆する内容を含めるように構成する、又は、先読み演出の発生頻度により、設定把握が可能に構成してもよい。また、大当たり終了後の限定頻度テーブルにおける変動態様を設定に応じて異ならせるよう構成することも可能であり、あわせて、演出ステージ等を異ならせることも可能となる。

＜第3実施形態（第4実施形態）＋第5実施形態＞

第3実施形態（又は第4実施形態）と第5実施決定とを組み合わせることで、始動口等の入賞口や大入賞口の内部に特定領域（V入賞口）を備えるばちんこ機において、球皿内部の遊技球に触れることができない構成となり、この構成であれば、元々遊技機が保持している遊技球以外のモノ（糸付き球等）を球皿から遊技領域内に発射することが不可能又は困難になるため、入賞口や特定領域に不正に遊技球等を通させるゴト行為の防止となる。

＜第4実施形態＋第6実施形態＞

第4実施形態と第6実施形態とを組み合わせることで、設定値に応じてV入賞口の遮蔽部材の開放態様を異ならせることや、設定値に応じて当否抽選における当り（大当り）の当選確率のみ変更して当り（小当り）の当選確率は変更しない（設定値に関わらず共通）構成や、設定値に応じて当否抽選における当り（小当り）の当選確率のみ変更して当り（大当り）の当選確率は変更しない（設定値に関わらず共通）構成、設定値に応じて当り（大当り）と当り（小当り）の双方の当選確率を変更する構成とすることも可能である。

10

20

30

40

50

＜第4実施形態＋第11実施形態＞

第4実施形態と第11実施形態とを組み合わせることで、大当りについては複数の抽選確率テーブル（第11実施形態では2つ）により当否抽選を実行し、小当りについては小当り用の1つの抽選確率テーブルにより当否抽選を行う構成となる。つまり、大当りについては、2段階抽選にて当否を決定し、小当りについては、1段階抽選にて当否を決定する抽選方法となり、合計3回の抽選を行うことで1回の当否抽選に関する処理が完了する。

＜第5実施形態＋第6実施形態＞

第5実施形態と第6実施形態とを組み合わせることで、設定値を操作部装置にて確認できるよう構成することが可能である。具体的には、主制御基板から賞球払出制御基板に設定値情報が送信され、賞球払出制御基板は操作部装置のタッチパネル式インターフェースに設定値を表示する制御を行うよう構成することができる。

【1106】

＜＜＜回胴式遊技機に関する実施形態＞＞＞

本例に係る構成は、回胴式遊技機にも適用可能である。そこで、本例に適用可能な回胴式遊技機に関する構成を以下に詳述することとする。なお、ぱちんこ遊技機における実施形態と回胴式遊技機における実施形態とは異なる実施形態であり、例えば、ぱちんこ遊技機における本実施形態と回胴式遊技機における本実施形態とは、異なる実施形態となっていることを補足しておく。また、本例に係るぱちんこ遊技機に適用可能な構成は、いずれも回胴式遊技機に適用しても問題ないことを補足しておく。

【1107】

まず、本明細書に記載された各用語の意義について説明する。「乱数」とは、回胴式遊技機において何らかの遊技内容を決定するための抽選（電子計算機によるくじであり、抽せんとも称することがある）に使用される乱数であり、狭義の乱数の他に擬似乱数も含む（例えば、乱数としてはハード乱数、CPUを含む主制御チップによって生成された内蔵乱数、擬似乱数としてはソフト乱数）。例えば、遊技の結果に影響を与えるいわゆる「基本乱数」、具体的には、特別遊技に移行するための特別役や入賞役（小役、再遊技役）と関連した「当選乱数」、等を挙げることができる。「CPU」とは、当業界において周知であるものと同義であり、使用されているアーキテクチャ（CISC、RISC、ビット数等）や処理性能等には何ら限定されない。「電断（電源断）」とは、遊技機に設けられた電源スイッチの操作実行有無に係らず、遊技機に供給される電源電圧が一定レベル以下となったことを指し、例えば、電源供給ユニットの破損や停電等による不測の事態による電源供給の遮断をも包含する。「ROM」とは、当業界において周知であるものと同義であり、情報を物理的に保持する（例えば、データ読み出し用の電流を与えた場合、導通する素子構成であれば「1」、導通しない素子構成であれば「0」となる）。RAMとは、当業界において周知であるものと同義であり、情報を電氣的に保持する（例えば、データ読み出し用の電流を与えた場合、蓄電されていれば「1」、蓄電されていなければ「0」となる。尚、RAM内で保持されているデータの一部又はすべてに対して、電断時にはバックアップ電源が供給されるよう構成されていることが一般的である）。「遊技状態」とは、例えば、遊技メダルが獲得容易であり遊技者にとって有利な特別遊技状態（いわゆる大当り遊技であり、ボーナス遊技や第1種BB・第2種BB等と呼ばれるものが該当する）、再遊技役の当選率があらかじめ定められた値である通常遊技状態よりも再遊技役の当選率が高い（又は低い）状態である再遊技確率変動遊技状態（RT状態）、当選した役を入賞させるためのリールの停止順、停止位置を報知し得るAT（アシストタイム）中状態、前記RT状態とAT中状態とが複合したART（アシストリプレイタイム）状態、等が挙げられる。また、通常遊技状態においても、RT状態、AT中状態、ART中状態への移行抽選確率が異なる、高確率通常遊技状態、低確率通常遊技状態、等（本例では、抽選状態と称している）が挙げられる。また、遊技状態は複合しても問題ない{更に、これらの遊技状態や機能（例えば、AT中状態への移行抽選や、リールの停止順に係る報知指示の出力等）は、遊技進行を制御する主制御基板側ですべて実装してしまっても問題ない}。また、本例においては、ATに関する状態とRT状態とを個別に記載し、RT状態が「

10

20

30

40

50

R T 1」且つ A T に関する状態が「通常遊技状態」等と称しているが、R T 状態と A T に関する状態とを纏めて A R T に関する状態として A R T に関する状態が「通常遊技状態」等と称してもよい。「当選役」とは、内部抽選（内部注抽せんと称することがある）により当選した条件装置の種類（又は、条件装置番号）である。「報知状態」とは、後述する押し順ナビを実行可能な A T に関する状態であり、リール停止順によって入賞する役が相違しないために押し順ナビが実行されない条件装置が当選したゲームであっても、A T に関する状態が押し順ナビを実行可能な状態であれば「報知状態」とするよう構成している。「カウンタ値」とは「報知遊技実行可能数」とも称し、後述する、A T 残りゲーム数もしくは A T カウンタ M 6 0 のカウンタ値である。例えば、「報知遊技実行可能数」が 1 以上（「0」となった当該遊技も含めても良い）である場合には後述する押し順ナビが実行され得る。また、「報知遊技実行可能数」として、小役（主に、押し順ベル役）が当選したに基づいて得られる遊技媒体の差枚数（払出し枚数から投入枚数を引いた枚数）や、押し順ベル役の当選回数、を採用しても良い。また、「特殊報知状態」とは、A T に関する状態のうち遊技者に最も有利となる状態であり、本例では、「上乘せ特化状態」と称している。また、「特定条件」とは、A T カウンタ値を減算し得る条件であり、例えば、1 ゲームが終了した、所定役（例えば、押し順ベル役）が当選した、等が特定条件となる。「第 1 種特別役物」とは、規定数ごとの入賞に係る図柄の組合せの数を増加させ、又は規定数ごとの入賞に係る条件装置が作動する確率を上昇させる役物で、あらかじめ定められた場合に作動し 1 2 回を超えない回数の遊技の結果が得られるまで作動を継続することができるものであり、R B（レギュラーボーナス）と称することがある。「第 1 種特別役物連続作動装置」とは、第 1 種特別役物を連続して作動させることができる装置で、特定の図柄の組合せが表示された場合に作動しあらかじめ定められた場合に作動を終了するものであり、B B（ビッグボーナス）や第 1 種 B B と称することがある。「第 2 種特別役物」とは、役抽選の結果に拘らず入賞に係る条件装置を作動させることとなる役物で、あらかじめ定められた場合に作動し 1 回の遊技の結果が得られた場合に作動を終了するものであり、C B（チャレンジボーナス）と称することがある。「第 2 種特別役物連続作動装置」とは、第 2 種特別役物を連続して作動させることができる装置で、特定の図柄の組合せが表示された場合に作動しあらかじめ定められた場合に作動を終了するものであり、M B（ミドルボーナス）や第 2 種 B B と称することがある。「普通役物」とは、規定数毎の入賞に係る図柄の組合せの数を増加させ、又は、規定数毎の入賞に係る条件装置が作動する確率を上昇させる役物で、特定の図柄の組合せが表示された場合に作動し 1 回の遊技の結果が得られた場合に作動を終了することとされているものであり、S B（シングルボーナス）と称することがある。「オール J A C I N タイプ」とは、第 1 種 B B 役が入賞した場合に J A C I N したものとみなし、第 1 種 B B の実行中においては常に R B 中とする構成である。また、「J A C I N 抽選タイプ」とは、第 1 種 B B の実行時に非 R B 中と R B 中とを繰り返し実行する構成である。また、「無制御リール」とは、停止操作を行った後に実行され得る引込み制御が実行されない状態のリールであり、停止操作を受け付けたリール位置から停止し得る最も近いリール位置にて停止する状態のリールである。「オール C B タイプ」とは、第 2 種 B B の実行時に常に C B 中となる構成である。「C B 移行抽選タイプ」とは、第 2 種 B B の実行時に非 C B 中と C B 中とを繰り返し実行する構成である。

【1108】

尚、本実施形態は、あくまで一例であり、各手段が存在する場所や機能等、各種処理に関しての各ステップの順序、フラグのオン・オフのタイミング、各ステップの処理を担う手段名等に関し、以下の態様に限定されるものではない。また、上記した実施形態や変更例は、特定のものに対して適用されると限定的に解すべきでなく、どのような組み合わせであってもよい。例えば、ある実施形態についての変更例は、別の実施形態の変更例であると理解すべきであり、また、ある変更例と別の変更例が独立して記載されていたとしても、当該ある変更例と当該別の変更例を組み合わせたものも記載されていると理解すべきである。

10

20

30

40

50

【1109】

(本実施形態)

ここで、各構成要素について説明する前に、本実施形態に係る回胴式遊技機Pの特徴（概略）を説明する。以下、図面を参照しながら、各要素について詳述する。

【1110】

まず、図194（一部の構成については図195）を参照しながら、本実施形態に係る回胴式遊技機Pの前面側の基本構造を説明する。回胴式遊技機Pは、主に前扉（フロントドアとも称す）と、裏箱（キャビネット、基体とも称す）と裏箱内に設置されたリールユニット、ホッパ装置、電源供給ユニットE、主制御基板M（CPUMCを含む主制御チップCが搭載されている基板）、副制御基板S（CPUSCを含む副制御チップSCが搭載されている基板）で構成される。以下、これらを順に説明する。

【1111】

<前扉DU>

前扉DUは、遊技状態を視認可能にするための機構、遊技媒体の入力を可能にするための機構、リールユニットを操作するための機構、その他の機構等を含む。具体的には、遊技状態を視認可能にするための機構として、リール窓D160、投入数表示灯D210、スタートランプD180、再遊技ランプD290、投入可能ランプD300、特別遊技状態表示装置D250、クレジット数表示装置D200、払出数表示装置（押し順表示装置）D270（押し順表示装置D270と称することもある）、ATカウンタ値表示装置D280、有利区間表示器YH等が取り付けられている。また、遊技媒体の投入や賭け数（ベット数）の入力を可能にするための機構として、メダル投入口D170、ベットボタンD220、投入された遊技媒体の払い出しを可能にするための機構として、精算ボタンD60が取り付けられている。そして、リールを操作するための機構として、スタートレバーD50、停止ボタンD40が取り付けられている。なお、本実施形態における回胴式遊技機は、スタートレバーD50、停止ボタンD40、メダル投入口D170、ベットボタンD220、精算ボタンD60、サブ入力ボタンSB、十字キーSB2等が取り付けられている遊技者側にせり出した形状の操作卓を備えている。以下、各要素について詳述する。

【1112】

<遊技状態を視認可能にするための機構>

次に、遊技状態を視認可能にするための機構の要部について説明する。リール窓D160は、前扉DUの一部を構成する合成樹脂等によって形成された透明な部材であり、リール窓D160を通して遊技機枠内に設置されたリールユニットを視認可能に構成されている。また、投入数表示灯D210は、3つのLEDによって構成されており、現在ベット（一の遊技を開始するために必要な遊技メダルを投入すること）されているメダル数と同数のLEDが点灯するよう構成されている。具体的には、投入数表示灯D210は、1ベットランプD211、2ベットランプD212、3ベットランプD213の3つのLED（ランプ）によって構成されており、ベットされている遊技メダルが1枚である場合には1ベットランプD211：点灯、2ベットランプD212：消灯、3ベットランプD213：消灯となり、ベットされている遊技メダルが2枚である場合には1ベットランプD211：点灯、2ベットランプD212：点灯、3ベットランプD213：消灯となり、ベットされている遊技メダルが3枚である場合には1ベットランプD211：点灯、2ベットランプD212：点灯、3ベットランプD213：点灯となる（再遊技が停止表示した次ゲームにおいてはその限りではなく、詳細は後述する）。また、スタートランプD180は、LEDによって構成されており、スタートレバーD50の操作が有効（操作を受け付けている）である場合に点灯し、スタートレバーD50の操作が無効（操作を受け付けていない）である場合に消灯するよう構成されている。また、再遊技ランプD290は、LEDによって構成されており、再遊技が停止表示したことを契機として点灯し、再遊技が停止表示した次の遊技が終了したことによって消灯するよう構成されている。また、投入可能ランプD300は、メダル投入口D170への遊技メダルの投入が有効である、又は、ベットボタンD220の操作が有効である場合に点灯（点滅としてもよい）し、遊

10

20

30

40

50

技メダルの投入が無効である、又は、ベットボタンD 2 2 0の操作が無効である場合に消灯するよう構成されている。また、特別遊技状態表示装置D 2 5 0は、7セグメントディスプレイによって構成されており、特別遊技中に払い出された払出数の総数が表示されるよう構成されている。尚、特別遊技状態表示装置D 2 5 0を設けない構成としてもよく、そのように構成した場合には、後述する演出表示装置S 4 0（第二情報表示部とも称することがある）にて当該払出数の総数を表示するよう構成することで遊技者は特別遊技中に払い出された払出数の総数を認識することができユーザーフレンドリーな遊技機とすることができる。また、クレジット数表示装置D 2 0 0は、7セグメントディスプレイによって構成されており、遊技者の持ちメダルとして遊技機内に貯留されているメダル数の総数（クレジット数）が表示されるよう構成されている。また、払出数表示装置（押し順表示装置）D 2 7 0は、7セグメントディスプレイによって構成されており、現在払出されている遊技メダル数及びリール停止順（左停止ボタンD 4 1、中停止ボタンD 4 2、右停止ボタンD 4 3の停止順）によって入賞する役が相違し得る条件装置（いわゆる押し順役（押し順あり役とも称することがある）であるが、入賞する役や停止表示される図柄組合せが相違した場合には、遊技者に付される利益率（払出枚数、その後のRT状態等）が異なり得るよう構成されているものが一般的である）が成立したゲームにて、遊技者に最も有利となるリール停止順を報知し得るよう構成されている（当該報知を押し順ナビと称することがある）。このように、払出数表示装置（押し順表示装置）D 2 7 0は、現在払出されている遊技メダル数と遊技者に最も高利益となるリール停止順との2つの表示を実行し得るよう構成されており、実行されている表示が2つの表示のうちいずれであるかを遊技者が誤認しないような表示態様となっており、当該表示態様の詳細は後述することとする。また、ATカウンタ値表示装置D 2 8 0は、ATに関する状態（詳細は後述する）のうち、押し順表示装置D 2 7 0（第一情報表示部とも称することがある）に表示された押し順ナビ表示に従って遊技を進行した場合に保障されることとなる遊技者にとって有利なATに関する状態（本例では、押し順ナビ状態、報知遊技とも称することがあり詳細は後述する）に滞在し得るゲーム数を表示し得るよう構成されている。尚、ATカウンタ値表示装置D 2 8 0を設けない構成としてもよく、そのように構成した場合には、AT中状態に滞在し得るゲーム数を演出表示装置S 4 0にて表示するよう構成することで遊技者は当該有利なATに関する状態が保障されているゲーム数を認識することができユーザーフレンドリーな遊技機とすることができる。尚、払出数表示装置（押し順表示装置）D 2 7 0は、払出数表示装置と押し順表示装置との2つの装置に分けるよう構成してもよい。

【1 1 1 3】

また、有利区間表示器Y Hは、LEDによって構成されており、「有利区間」である場合には点灯し、「有利区間」でない場合には消灯するよう構成されている（点灯及び消灯タイミングについては後述する）。ここで、本例に係る回胴式遊技機においては、従来の回胴式遊技機と同様に、遊技メダルが獲得容易であり遊技者にとって有利な特別遊技状態（いわゆる大当たり遊技であり、ボーナス遊技や第1種BB・第2種BB等と呼ばれるものが該当する）、再遊技役の当選率があらかじめ定められた値である通常遊技状態よりも再遊技役の当選率が高い（又は低い）状態である再遊技確率変動遊技状態（RT状態）、当選した役を入賞させるためのリールの停止順、停止位置を報知し得るAT（アシストタイム）中状態、前記RT状態とAT中状態とが複合したART（アシストリプレイタイム）状態、等を探り得るが、これらの「遊技状態」とは別に、「通常区間」、「待機区間」及び「有利区間」という3つの「遊技区間」のいずれかを設定可能となっている。尚、本例においては「待機区間」は設定しておらず、「通常区間」と「有利区間」とのいずれかの遊技区間を設定している。このうち、「有利区間」が他の「遊技区間」よりも、遊技者にとって相対的に有利となるものとして位置付けられており、例えば、「遊技状態」がAT中状態やART状態であることと「有利区間」とが対応付けされている。即ち、「遊技状態」がAT中状態やART状態であると、有利区間表示器Y Hが点灯するのであるが、後述するように、「遊技区間」の設定制御も「遊技状態」の設定制御と同様に、遊技進行を制御する主制御基板側で行われるため、有利区間表示器Y Hの点灯／消灯状況によって、

10

20

30

40

50

遊技進行状況が遊技者にとって相対的に有利なものとなっているか否かが、嘘偽りなく遊技者に対して伝達可能となっている。尚、後述するように、「有利区間」が所定の上限ゲーム数（例えば、1500ゲーム）に達するまで継続すると「通常区間」が強制的に設定されるのであるが、その際には、残存するATに関する状態も強制的に終了させられる（AT中状態を維持するための情報がクリア・初期化される）ため、設定される「遊技区間」の変更が「遊技状態」の移行にも影響を与え得るものとなっており、それにより比較的設計自由度の高いAT中状態やART状態等の「遊技状態」によって、著しく射幸性が高まってしまうことを自動的に抑制できるものとなっているのである。尚、上述したように、「有利区間」が所定の上限ゲーム数（例えば、1500ゲーム）に達するまで継続すると「通常区間」が強制的に設定される、即ち、「有利区間」が終了することとなるが、「有利区間」の終了条件はこれには限定されない。本例に係る回胴式遊技機における「有利区間」の終了条件は、「押し順役（押し順あり役）を構成する小役の中で、払出し枚数が最も多い小役を獲得可能な押し順ナビ1回の実行（例えば、押し順役を構成する小役として、7枚、3枚、1枚の小役がある場合、払出し枚数が最も多い7枚が獲得可能な押し順ナビであって、押し順により7枚、又は1枚が獲得可能な押し順役と、押し順により3枚が獲得可能な押し順役があれば、3枚が獲得可能な押し順ナビは、ここでいう押し順ナビには該当しない）」、又は、「BB、RB、MB、のいずれかに当選」を満たし、且つ、「任意の終了条件（40G1セットのループ抽選に非当選（AT）、固定32G経過（ガセ前兆）等）」、又は、「有利区間1500G」を満たすことが終了条件となっている。尚、押し順ベル役が存在しないような仕様（例：RT状態を移行するためのリプレイの押し順は存在するが、押し順によって払出し枚数が異なる小役が存在しない仕様）の場合には、「払出し枚数が最も多い小役を獲得可能な押し順ナビ1回」という有利区間を終了するための条件は除外される。また、本実施形態では、押し順役を構成する小役として11枚役に対応する小役と1枚役に対応する小役を含む小役により構成されているため、「払出し枚数が最も多い小役を獲得可能な押し順ナビ1回の実行」とは、11枚のメダルが獲得可能（11枚役が入賞可能）な押し順を報知することを指す。

【1114】

<遊技媒体の入力を可能にするための機構>

次に、遊技媒体の入力を可能にするための機構の要部について説明する。メダル投入口D170は、遊技メダルの投入口であり、メダル受付可能状態である状況下において当該投入口に投入された遊技メダルは遊技機内部へと誘導される。また、遊技機内部にはメダルの投入を検出するセンサとして、投入受付センサD10sと、第1投入センサD20sと、第2投入センサD30sと、が設けられており、遊技機内部へと誘導された遊技メダルが正常に投入されたと判断した場合に、投入されたメダルをベットされたメダルとして検出し得るよう構成されている。また、ベットボタンD220は、遊技者によって操作可能に構成されており、操作によって、貯留されているメダル（クレジットのメダル）をベットすることができるよう構成されている。また、精算ボタンD60は、遊技者によって操作可能に構成されており、操作によって、貯留されているメダル（クレジットのメダル）及び／又はベットされているメダルを遊技者に払い戻すことが可能となっている。尚、精算ボタンD60の操作によって払い戻された遊技メダルは、放出口D240に払い出されるよう構成されている。

【1115】

<リールユニットを操作するための機構>

次に、スタートレバーD50は、遊技者によって操作可能に構成されており、操作によってリールの動作を開始可能に構成されている。また、停止ボタンD40は、遊技者によって操作可能な左停止ボタンD41、中停止ボタンD42、右停止ボタンD43を備えており、夫々の停止ボタンを操作することによってリールの動作を順次停止可能に構成されている。

【1116】

<前扉DUに設けられたその他の機構>

次に前扉D Uに設けられたその他の機構の要部について図195の前扉D Uを開いて回胴式遊技機Pの内部の構成を示した斜視図も参照しつつ説明する。前扉D Uには、遊技の興趣性を高めるための機構として、予告演出や背景演出等の演出を表示するための演出表示装置S 40、様々な点灯態様にて点灯し得る遊技効果ランプD 26（不図示）、信号中継用の扉基板D、投入されたメダルの検出等を行なうメダルセレクタD S、サウンドを出力し得るスピーカS 20、合成樹脂等によって形成された部材である、中パネル（中裝飾パネル）、上パネルD 130及び下パネルD 140、等が設けられている。演出表示装置S 40は、上パネルに形成された透視領域を介して演出等を表示する表示部が視認可能となるように前扉D Uの裏面側上部に取り付けられている。また、裝飾ランプユニットD 150及びLEDランプユニットS 10は、回胴式遊技機Pの遊技の進行に応じて発光する発光源を有しており、下パネルD 140を挟んで右側及び左側の各々に裝飾ランプユニットD 150が設けられ、上パネルD 130を挟んで右側及び左側の各々にLEDランプユニットS 10が設けられている（裝飾ランプユニットD 150とLEDランプユニットS 10とを総称して、ランプユニットと称することがある）。また、前扉D Uの背面におけるリール窓D 160の下方には、扉基板Dが取り付けられており、この扉基板Dには、前述した停止ボタンD 40や、スタートレバーD 50、精算ボタンD 60等の入力信号が入力され、入力された信号を直接或いは加工して後述する主制御基板Mに出力する中継基板の機能を有している。また、メダル投入口D 170に対応し、前扉D Uの背面における扉基板Dの付近には、詳細後述するメダルセレクタD Sが設けられており、メダル投入口D 170から投入されたメダルの検出並びに簡易的な真贋を行ない、適正なメダルを後述するホッパH 40に案内し、不適正なメダルを後述するメダル受け皿D 230に返却する機能を有している。更に、扉基板Dの下方の左右にスピーカS 20が夫々1つずつ設けられている。中パネルは、操作卓の上側、上パネルD 130の下側の部分であり、前述したリール窓を含むパネル部分である。また、前述した操作卓D 190に取り付けられているサブ入力ボタンS B及び十字キーS B 2とは、後述するメニュー画面における操作や副制御基板S側でのボタン連打演出（サブ入力ボタンS Bを連打操作することによって、ボーナスに当選しているか否かに関する演出を実行する）やミニゲーム（例えば、「AT中状態」への突入の成否の演出）等の進行等に用いる部材である。なお、回胴式遊技機Pの前扉D Uには、放出口D 240から放出された遊技メダル（或いは単にメダルと呼ぶことがある）を受けるメダル受け皿D 230、前扉D Uの開閉状態を検出可能な扉スイッチD 80が設けられている。また、前扉D Uには鍵穴D 260が設けられており、鍵穴D 260の形状と整合するキー（ドアキー）を鍵穴D 260に差し込む{加えて、所定の方向（例えば、時計回り）に捻る}ことで、前扉D Uを開放し得るよう構成されている。更に、本実施形態においては、ドアキーを鍵穴D 260に差し込む{加えて、所定の方向（例えば、反時計回り）に捻る}ことで、エラー状態（ドア開放エラー等）を解除し得るよう構成されている。また、ベットボタンD 220の内部にはベットボタンランプS 50が設けられており、ベットボタンランプS 50は、副制御基板Sにて制御されるLEDで構成されており、ベットボタンランプS 50が点灯（又は点滅）することにより、ベットボタンD 220の操作が有効であることを遊技者に知覚させることができる。また、停止ボタンD 40の内部には停止ボタンランプS 60が設けられており（左停止ボタンD 41、中停止ボタンD 42、右停止ボタンD 43の3つの停止ボタンに夫々設けられている）、停止ボタンランプS 60は、副制御基板Sにて制御されるLEDで構成されており、停止ボタンランプS 60の点灯（又は点滅）の有無及び／又は点灯色により、停止ボタンD 40の操作が有効であることを遊技者に知覚させることができる。尚、有効である停止ボタンD 40に対応した点灯色にて点灯するのは有効である停止ボタンD 40に対応した停止ボタンランプS 60のみとなるよう構成されているため、例えば、左停止ボタンD 41が無効、中停止ボタンD 42が有効、右停止ボタンD 43が有効である場合には、左停止ボタンD 41に対応した停止ボタンランプS 60が消灯、中停止ボタンD 42に対応した停止ボタンランプS 60が点灯、右停止ボタンD 43に対応した停止ボタンランプS 60が点灯のように、3つの停止ボタンランプS 60の点灯態様が夫々相違し得るよう構成されている。

10

20

30

40

50

また、停止ボタンランプ S 6 0 の点灯色や点灯態様を相違させることにより（点灯・点滅のように相違させたり、低速点滅・高速点滅のように相違させてもよい）、押し順ナビが実行されるゲームにて、現在停止操作すべき停止ボタンを遊技者が判別し易くなるよう構成してもよく、例えば、すべてのリールが回転中であり、「左→中→右」の押し順が正解（最大の払出枚数）となる押し順ベルに当選している場合に、左停止ボタンに対応する停止ボタンランプを白色で点滅させ、中停止ボタンに対応する停止ボタンランプと右停止ボタンに対応する停止ボタンランプとを青色に点灯させ、その後、遊技者が左停止ボタンを操作して左リールを停止させた場合には、左停止ボタンに対応する停止ボタンランプを消灯させ、中停止ボタンに対応する停止ボタンランプを白色で点滅させ、右停止ボタンに対応する停止ボタンランプとを青色に点灯させるよう構成してもよい。

10

【1117】

次に裏箱（キャビネット、基体とも称す）並びに、裏箱内に設置される各装置について説明する。裏箱の略中央には、リール窓 D 1 6 0 を介してその一部が視認可能となるようにリールユニットが取付られている。リールユニットは、リール M 5 0 とリール M 5 0 の駆動源（ステッピングモータ等）とを備えている。また、リール M 5 0 は、左リール M 5 1、中リール M 5 2、右リール M 5 3 を備えている。ここで、夫々のリール部は合成樹脂等により形成され、リール部の外周上（リール帯 M O 上）には複数の図柄が描かれている。そして、スタートレバー D 5 0 及び停止ボタン D 4 0 における各停止ボタンの操作に基づき、夫々のリール部の回転動作及び停止動作を可能とするよう構成されている。また、図示しないが、左リール M 5 1、中リール M 5 2 及び右リール M 5 3 の内部には L E D （以下、リールバックライトと呼ぶことがある）が設けられており、L E D が点灯した際にはリール部外周を透過した光によって、リール部外周が点灯したように視認できるよう構成されている。また、リール M 5 0 の上方には、各リール（左リール M 5 1、中リール M 5 2、右リール M 5 3）を駆動するための後述する回胴基板 K が格納されている。

20

【1118】

また、リール M 5 0 の上方には、遊技全体の制御を司る後述する主制御基板 M が格納され、リール M 5 0 の左方には、図 1 9 4 に示した演出表示装置 S 4 0、L E D ランプユニット S 1 0、スピーカ S 2 0 等を用いて行われる各種演出の制御を司る後述する副制御基板 S が格納されている。なお、主制御基板 M には、後述する設定変更装置制御処理を実行するため（設定変更を行うため）に使用する設定キースイッチ M 2 0、設定値の変更やエラー解除等を実行し得る設定／リセットボタン M 3 0 が接続されている。図 1 9 5 において、設定キースイッチ M 2 0、設定／リセットボタン M 3 0 については何れも不図示としているが、主制御基板 M の基板上等の適宜位置に設けられていればよい（即ち、前扉 D U を開かなければ人為的なアクセスが困難な位置に設けられていればよい）。

30

【1119】

リール M 5 0 の下方には、投入された遊技メダルが集められるホッパ H 4 0 や、遊技メダルを払い出すメダル払出装置 H が設けられており、回胴式遊技機 P 全体に電源を供給するための電源基板 E が格納されている。メダル払出装置 H から払い出された遊技メダルは、コインシュータ D 9 0 を通って、放出口 D 2 4 0 から払い出されるようになっている。また、電源基板 E（電源供給ユニット E とも称することがある）の前面には、回胴式遊技機 P の電源を投入するための電源スイッチ E 1 0 も設けられている。なお、メダル払出装置 H の詳細については後述する。

40

【1120】

<メダルセレクト D S>

次に、メダルセレクト D S について、図 1 9 6 を交えつつ詳細に説明する。図 1 9 6 は、回胴式遊技機 P 内部における、メダル投入口 D 1 7 0 に投入された遊技メダルの経路（セレクト）を示した斜視図である。メダルセレクト D S は、扉基板 D の付近にメダル投入口 D 1 7 0 から投入された遊技メダルの通路となる投入受付センサ D 1 0 s が設けられており、投入受付センサ D 1 0 s の下方には、遊技メダルを放出口 D 2 4 0 に導くためのコインシュータ D 9 0 などが設けられている。投入受付センサ D 1 0 s は、メダル投入口 D

50

170から投入された遊技メダルを主に寸法に基づいて選別し、規格寸法に適合した遊技メダルだけを受け入れる機能を有しており、この機能により適合しないと判断されたメダル（又は、その他の異物）は、ブロックD100により放出口D240に払い戻されるよう構成されている。遊技者がスタートレバーD50を操作する前に（遊技メダルの投入が有効である状態にて）遊技メダルを投入すると、遊技メダルは投入受付センサD10sによって選別され、規格を満足しているものだけがホッパH40内に投入され、規格を満たしていないメダルは、コインシュータD90を通して、放出口D240に返却されるようになっている。これに対して、スタートレバーD50が操作された後に（遊技メダルの投入が有効でない状態にて）遊技メダルが投入された場合は、規格を満たしているか否かに拘らず、投入された遊技メダルはコインシュータD90を通して、放出口D240に返却される。また、投入受付センサD10sの内部（流路の奥）には、詳細後述するメダル投入に係るセンサが設けられており、寸法規格を満たして受け入れられた遊技メダルが通過すると、第1投入センサD20s及び第2投入センサD30sによって検出されて、その信号が後述する主制御基板Mに供給されるようになっている。

10

【1121】

次に、メダル投入に係るセンサについて詳述する。メダル投入口D170に投入された遊技メダルは、まず投入受付センサD10sを通過する。投入受付センサD10sは機械式のダブルセンサになっており、遊技メダルが通過することによって、2つの突起した機構が押下されることによりオンとなり遊技メダルが正常に通路を通過することができることとなる。また、このような構成により、遊技メダルではない異物（規格を満足していない異物であり、例えば、遊技メダルよりも径が小さいもの）が投入された場合には、2つの突起した機構が押下されない。このようなメダルは、起立した状態をメダルが維持できないため、通路を通過できず（メダルが倒れこむ）、前述したようにコインシュータD90を通して放出口D240に払い戻されることとなる。そのほかにも、投入受付センサD10sは、オンとなっている時間が所定時間以上連続した場合等にも、エラーであると判定し得る（その結果、ブロックD100がオフとなり得る）よう構成されている。

20

【1122】

遊技メダルがブロックD100を正常に通過した場合に、通過直後に第1投入センサD20s及び第2投入センサD30sを通過することとなる。この投入センサ（第1投入センサD20s及び第2投入センサD30s）は2つのセンサで構成されており（遊技メダルの規格上の直径よりも小さい間隔で隣接配置されており）、夫々のセンサのオン・オフ状況（第1投入センサD20s及び第2投入センサD30sのオン・オフの組み合わせの遷移していく順序、等）及びオン・オフとなっている時間を監視することにより様々なエラーを検出可能に構成されている。

30

【1123】

<メダル払出装置H>

次に、図197のメダル払出装置Hの正面図及び上面図を用いてメダル払出装置Hを詳細に説明する。メダル払出装置Hは、クレジット（遊技機内部に電子的に貯留されている遊技メダル）又はベットされているメダル（遊技を開始するために投入されたメダル）が存在する状態で、精算ボタンが操作された、又は、入賞により遊技メダルが払い出される場合に作動することとなる。作動する場合には、まず、ホッパモータH80が駆動することにより、ディスク回転軸H50aを中心にディスクH50が回転する。回転によりメダル払出装置H内の遊技メダルは放出付勢手段H70を変位させて遊技メダル出口H60から放出口D240に向かって流下していくこととなる。尚、払出センサ（第1払出センサH10s及び第2払出センサH20s）は2つのセンサで構成されており、夫々のセンサのオン・オフ状況（第1払出センサH10s及び第2払出センサH20sのオン・オフの組み合わせの遷移していく順序、等）及びオン・オフとなっている時間を監視することにより様々なエラーを検出可能に構成されている。より具体的には、例えば、遊技メダル出口H60を正常に通過する際には、放出付勢手段H70の変位により、第1払出センサH10s＝オフ・第2払出センサH20s＝オフの状態から、第1払出センサH10s＝オ

40

50

フ・第2払出センサH20s=オフ→第1払出センサH10s=オン・第2払出センサH20s=オフ→第1払出センサH10s=オン・第2払出センサH20s=オン→第1払出センサH10s=オフ・第2払出センサH20s=オン→第1払出センサH10s=オフ・第2払出センサH20s=オフ、というセンサ状態遷移となるため、このセンサ状態遷移と反する動きを検出した場合には、エラーとするよう構成することを例示することができる。

【1124】

次に、図198は、本実施形態における、回胴式遊技機の基本仕様一覧である。本実施形態に係る回胴式遊技機は、規定数（1ゲームにてベットできる遊技メダルの最大枚数）が3枚、左リールM51、中リールM52及び右リールM53のコマ数はいずれも20コマ、入賞判定される有効ラインは「左リールM51上段、中リールM52中段、右リールM53下段」の1ラインとなっている。尚、最大払出枚数は11枚、最小払出枚数は1枚（入賞役と払出枚数との対応付けは後述）である。また、優先入賞順（引き込み優先順）は、「再遊技役→小役（ベル、スイカ、等）→ボーナス」となっており、例えば、再遊技役とボーナスが同時に成立している場合には、再遊技役となる図柄組み合わせが停止表示し且つボーナスは入賞不能である。また、ベルとスイカが成立している場合には、どちらも引き込める位置（入賞する停止位置まで4コマ以内の位置）で停止ボタンを押した場合には払出枚数が多い小役を優先して引きこむよう構成されている。尚、同図に示した構成はあくまで一例であり、各リールのコマ数を変更（例えば、21コマに変更）したり、有効ラインの構成を変更（例えば、横3ライン、斜め2ラインの5ラインに変更、左リールM51下段、中リールM52中段、右リールM53上段の1ラインに変更）しても何ら問題ない。また、特に押し順によって遊技者にとって異なる利益が付与される押し順小役が当選したときの引き込み制御としては、予め定められた正解の押し順で操作された場合には払出し枚数の多い小役を優先して引き込むように制御（枚数優先制御）しており、正解の押し順とは異なる不正解の押し順で操作された場合には停止表示可能な（停止操作から4コマ以内の位置に配置されている）図柄のうち入賞可能性を高める（入賞可能な複数図柄組合せのうち入賞する可能性が最も多くなる）図柄を引き込む制御（個数優先制御）を行っている。

【1125】

次に、図199は、本実施形態における、回胴式遊技機のリール配列一覧である。同図に示されるように、左リールM51、中リールM52及び右リールM53のコマ数はいずれも20コマ（0番～19番）であり、図柄は「黒セブン」、「白セブン」、「羊」、「ブランク」、「ベル」、「リプレイA」、「リプレイB」、「スイカA」、「スイカB」、「チェリー」の10種類となっている。ここで、「ブランク」は、その他の図柄と同様に当選役を構成する図柄組み合わせに含まれる図柄であり、当選役を構成しない図柄という意味ではなく、「ブランク」を含む当選役を構成する図柄組み合わせとしては、例えば、「スイカB・リプレイA・ブランク」で再遊技02となっている。尚、同図に示した構成はあくまで一例であり、図柄の種類を増減・変更しても何ら問題ない。

【1126】

次に、図200～図202は、本実施形態における図柄組み合わせ一覧1～3である。本実施形態においては、夫々の条件装置に対して複数の図柄組み合わせが存在しており、後述するように、左リールM51、中リールM52及び右リールM53の停止順番や停止位置に応じて、いずれか一の図柄組み合わせが有効ライン（前述した1ライン）上に停止表示されるよう構成されている。尚、有効ライン上に同一種類の図柄が揃っていない場合にも遊技者から見ると有効ライン以外のライン上にて一列に同一の図柄が揃いやすく構成されている（スイカの場合には中段に横一直線に揃う等、リール上のいずれかに一直線にスイカ図柄が3つ揃うよう構成されている）。また、本実施形態においては、第1種BB役（いわゆる第1種特別役物に係る役物連続作動装置であるが、以下、単にBB役と呼ぶことがある）となる図柄組み合わせして、1種BB-A（RB-Aを連続作動させ、264枚を超える払出で終了）となる「羊・羊・羊」と、1種BB-B（RB-Bを連続作動

10

20

30

40

50

させ、132枚を超える払出で終了)となる「黒セブン・黒セブン・黒セブン」と、1種BB-C(RB-Bを連続作動させ、132枚を超える払出で終了)となる「白セブン・白セブン・白セブン」との3つの図柄組み合わせを有している。尚、本実施形態においては、第1種BB役が入賞し、BBが実行された(役物が作動した)場合には、当該BB実行中においては、BB中のすべてのゲームにおいて、1つの抽選テーブルを参照して、役物以外の当選役(小役、再遊技役)を抽選するよう構成されている(1回のBBの実行中において役抽選の際に参照するテーブルを切り替えない方式であり、以下、オールJACINタイプと呼ぶことがある)。尚、第1種BB役の形式に関しては、これには限定されず、1回のBBの実行中において役抽選の際に参照するテーブルを切り替え得るよう構成してもよい。また、RT状態が「RT1」である場合に14番~16番に対応する再遊技04となる図柄組み合わせが停止表示されると、RT0に移行するよう構成されている(RT状態の詳細については後述する)。尚、「RT1」よりも「RT0」の方が遊技者に不利なRT状態であるため、「RT1」から「RT0」に移行することを転落すると称することがある。また、17番に対応する再遊技05となる図柄組み合わせが停止表示されると、左リールM51、中リールM52及び右リールM53の下段に「黒セブン」が停止表示され得ることとなり、18番に対応する再遊技05となる図柄組み合わせが停止表示されると、左リールM51、中リールM52及び右リールM53の下段に「白セブン」が停止表示され得ることとなる(詳細は後述することとする)。また、後述する「入賞-A1」~「入賞-A6」の条件装置である押し順ベルが当選した場合には、遊技者にとって最も有利な押し順にてリールを停止させると、21番~27番に対応する「入賞01」~「入賞03」となる図柄組み合わせが停止表示され、11枚の遊技メダルが払い出される一方、遊技者にとって最も有利な押し順とは異なる押し順にてリールを停止させると、39番~56番に対応する「入賞08」~「入賞11」となる図柄組み合わせが停止表示され、1枚の遊技メダルが払い出されることとなる。尚、同図における「-」はいずれの図柄が停止表示されてもよい旨を示しており、例えば、23番に対応する「ベル・-・ベル」は左リールM51及び右リールM53の有効ライン上にベルが停止表示されれば中リールM52の有効ライン上にはどの図柄が停止表示されても11枚の遊技メダルが獲得できる。

【1127】

次に、図203は、本実施形態における条件装置一覧である。尚、同図においては、条件装置番号を当選番号と称しており、以降においても条件装置番号を当選番号と称することがある。本実施形態においては、再遊技役は再遊技-A~再遊技-D3(当選番号1~6)まで設けられており、左リールM51、中リールM52及び右リールM53の停止順番や停止位置に応じて、停止表示する再遊技役が相違し得るよう構成されている。ここで、本実施形態においては、最も右の列である「条件装置」の項目に図示されているように、左リールM51、中リールM52及び右リールM53の停止順番や停止位置に応じて複数種類の条件装置が停止表示され得るよう構成されており、当該複数種類の条件装置のうち同一の当選番号となる条件装置を纏めて、右から3番目の列である「条件装置(名称)」の項目にて図示している。具体的には、例えば、当選番号1に対応する条件装置である「再遊技-A」においては、左リールM51、中リールM52及び右リールM53の停止順番や停止位置に応じて、「再遊技01」、「再遊技02」、「再遊技03」の3種類の条件装置が停止表示され得るよう構成されている。尚、「条件装置(名称)」を単に条件装置と称することがある。また、「再遊技01」等の再遊技に関する条件装置を再遊技役と称することがあり、「入賞01」等の入賞することで遊技メダルが払い出される条件装置を小役と称することがあり、「1種BB-A」等の停止表示されることによりBBが開始することとなる条件装置をBB役と称することがある。また、当選番号21~23及び25~27に当選した場合には、BB役と小役とが重複して当選することとなり、そのような場合には、当選した小役に対応する図柄が停止表示し得る位置にて左停止ボタンD41、中停止ボタンD42及び右停止ボタンD43を操作するとBB役に対応する図柄が停止表示せず小役に対応する図柄が停止表示する一方、小役に対応する図柄が停止表示し

10

20

30

40

50

ない（引き込めない）位置にて左停止ボタンD 4 1、中停止ボタンD 4 2及び右停止ボタンD 4 3を操作すると小役に対応する図柄が停止表示せずにB B役に対応する図柄が停止表示するよう構成されている。具体的には、例えば、当選番号2 1の条件装置である「1種B B - B + 入賞 - C」に当選した場合には、「入賞1 2」又は「入賞1 3」であるチェリーと、「1種B B - B」である黒セブンとのいずれかが停止表示し得ることとなる。より具体的には、左リールM 5 1→中リールM 5 2→右リールM 5 3の順番にリールを停止させる場合において、（1）第1停止にて左リールM 5 1の上段に図柄番号0～4番（図199のリール配列を参照）が位置している操作タイミングにて左停止ボタンD 4 1を操作した場合には、左リールM 5 1の上段に「入賞1 2」に対応する図柄番号4番が停止し、中リールM 5 2及び右リールM 5 3の停止位置に拘らず、「入賞1 2」が停止表示される。（2）第1停止にて左リールM 5 1の上段に図柄番号5～12番が位置している操作タイミングにて左停止ボタンD 4 1を操作した場合には、左リールM 5 1の上段に「入賞1 3」に対応する図柄番号6番、11番、又は16番が停止し、中リールM 5 2及び右リールM 5 3の停止位置に拘らず、「入賞1 3」が停止表示される。（3 - 1）第1停止にて左リールM 5 1の上段に図柄番号13～19番が位置している操作タイミングにて左停止ボタンD 4 1を操作した場合には、左リールM 5 1の上段に「1種B B - B」に対応する図柄番号17番又は19番が停止する。（3 - 2）第2停止にて中リールM 5 2の中段に図柄番号14～18番が位置している操作タイミングにて中停止ボタンD 4 2を操作した場合には、中リールM 5 2の中段に「1種B B - B」に対応する図柄番号18番が停止し、その後、第3停止にて右リールM 5 3の下段に図柄番号13～17番が位置している操作タイミングにて右停止ボタンD 4 3を操作した場合には、右リールM 5 3の下段に「1種B B - B」に対応する図柄番号17番が停止し、B B役が停止表示されることとなる。（3 - 3）第2停止にて中リールM 5 2の中段に図柄番号19～13番が位置している操作タイミングにて中停止ボタンD 4 2を操作した場合には、中リールM 5 2の中段に「1種B B - B」に対応する図柄番号18番が停止できず、いずれの条件装置も停止表示されないこととなる。

【1128】

次に、「役割」の項目には、「条件装置（名称）」がどのような役割となっているかを図示しており、当選番号1に対応する「通常リプレイ」は、停止ボタンの押し順に拘らず、R T状態が移行しない再遊技役が停止表示される再遊技に係る条件装置であり、当選番号2に対応する「逆押し白7揃いリプレイ」は、停止ボタンの押し順に拘らず、R T状態が移行しない再遊技役が停止表示される再遊技に係る条件装置であるが、逆押し（右リールM 5 3→中リールM 5 2→左リールM 5 1の順にリールを停止させること）にて、右リールM 5 3の図柄番号18～2番の範囲、中リールM 5 2の図柄番号9～13番の範囲、左リールM 5 1の図柄番号5～10番の範囲が各リールの下段に位置している操作タイミングにて停止ボタンを操作することにより、右リールM 5 3、中リールM 5 2及び左リールM 5 1の下段に「白セブン」が停止表示され、遊技者から見ると白セブンが下段に揃っているように見えるよう構成されている。尚、再遊技 - Bに当選し、A T上乗せ抽選に当選したゲームにおいて、逆押しで「白セブン」を狙うよう指示する演出（詳細は後述する）を実行することにより、A T上乗せ抽選に当選した旨を遊技者に報知し得るよう構成されている。当選番号3に対応する「順押し黒7揃いリプレイ」は、停止ボタンの押し順に拘らず、R T状態が移行しない再遊技役が停止表示される再遊技に係る条件装置であるが、順押し（左リールM 5 1→中リールM 5 2→右リールM 5 3の順にリールを停止させること）にて、左リールM 5 1の図柄番号13～19番の範囲、中リールM 5 2の図柄番号14～18番の範囲、右リールM 5 3の図柄番号13～17番の範囲が各リールの下段に位置している操作タイミングにて停止ボタンを操作することにより、左リールM 5 1、中リールM 5 2及び右リールM 5 3の下段に「黒セブン」が停止表示され、遊技者から見ると黒セブンが下段に揃っているように見えるよう構成されている。尚、再遊技 - Cに当選し、A T上乗せ抽選に当選したゲームにおいて、順押しで「黒セブン」を狙うよう指示する演出（詳細は後述する）を実行することにより、A T上乗せ抽選に当選した旨を遊技者

に報知し得るよう構成されている。

【1129】

また、当選番号4に対応する「RT維持RP1** (3択)」は第1停止リールを左リールM51と中リールM52と右リールM53とのいずれにするか(いずれの停止ボタンを操作するか)によって、停止表示される再遊技役が相違し得る条件装置であり、第1停止リールを左リールM51とした場合には、RT状態が移行しない再遊技01、再遊技02又は再遊技03が停止表示され、第1停止リールを中リールM52又は右リールM53とした場合には、RT状態が「RT1」から「RT0」に移行し得る再遊技04が停止表示される。また、当選番号5に対応する「RT維持RP*1* (3択)」は第1停止リールを左リールM51と中リールM52と右リールM53とのいずれにするか(いずれの停止ボタンを操作するか)によって、停止表示される再遊技役が相違し得る条件装置であり、第1停止リールを中リールM52とした場合には、RT状態が移行しない再遊技03が停止表示され、第1停止リールを左リールM51又は右リールM53とした場合には、RT状態が「RT1」から「RT0」に移行し得る再遊技04が停止表示される。また、当選番号6に対応する「RT維持RP**1 (3択)」は第1停止リールを左リールM51と中リールM52と右リールM53とのいずれにするか(いずれの停止ボタンを操作するか)によって、停止表示される再遊技役が相違し得る条件装置であり、第1停止リールを右リールM53とした場合には、RT状態が移行しない再遊技01又は再遊技03が停止表示され、第1停止リールを左リールM51又は中リールM52とした場合には、RT状態が「RT1」から「RT0」に移行し得る再遊技04が停止表示される。

【1130】

また、当選番号7~12に対応する、「押し順ベル123」~「押し順ベル321」は、リール停止順を6択のいずれとするかによって入賞する小役が相違し得る条件装置であり、例えば、「左リールM51:1、中リールM52:2、右リールM53:3」となっており「123」の場合「左リールM51→中リールM52→右リールM53」の押し順で停止させるという意味であり、例えば、「入賞A-1」(当選番号7)の場合には、「123」=「左→中→右」の順に停止させる(押し順に正解する)と最大獲得枚数である11枚の遊技メダルが獲得できる「入賞01」となる図柄組み合わせが停止表示することとなる。尚、「押し順ベル123」の「123」等はその当選番号における最大獲得枚数を獲得可能な押し順(リール停止順)を示している。尚、最大獲得枚数を獲得可能な押し順以外の押し順にてリールを停止させた場合には、即ち、押し順に正解できないと1枚の払出となるよう構成されており、このように構成することで、「AT中状態」等のATに関する状態にて再遊技役の押し順やベルの押し順をナビ(押し順表示装置D270にて最高利益となる押し順を表示)し、「通常遊技状態」等のATに関する状態には押し順をナビしないという遊技者の利益率が異なる複数の遊技状態を創出することができる。尚、ATに関する状態については後述する。

【1131】

また、当選番号13に対応する、「共通ベル」は、入賞04~入賞07のいずれが停止しても最大獲得枚数である11枚の遊技メダルが獲得できる、即ち、押し順に拘らず最大利益が獲得できる条件装置であり、押し順不問ベルと称することがある。また、当選番号15に対応する、「スイカA」は、平行ラインにスイカ(スイカAとスイカBのいずれか)が3つ揃いし易いよう構成されており、例えば、図202における60番の入賞14は各リール中段にスイカAが3つ揃いすることとなる。また、当選番号16に対応する、「スイカB」は、斜めラインにスイカ(スイカAとスイカBのいずれか)が3つ揃いし易いよう構成されており、例えば、図202における66番の入賞16は左リールM51上段にスイカB、中リールM52中段にスイカB、右リールM53下段にスイカAのように、斜め右下がりにはスイカが3つ揃いすることとなる。また、当選番号17に対応する、「BB中弱レア小役(斜めベル揃い)」は、有効ライン上にベルが3つ揃いし得る条件装置であり、詳細は後述するが、BB中に当選することによってAT上乘せ抽選が実行される条件装置である。また、当選番号18に対応する、「BB中強レア小役(V字ベル揃い)」

は、左リールM5 1上段、中リールM5 2中段、右リールM5 3上段にベルが停止表示され得る条件装置であり、詳細は後述するが、BB中に当選することによってAT上乘せ抽選が実行される条件装置である。

【1132】

次に、「ボーナス当選情報」の項目には、0～3までの数値が当選番号毎に振り分けられている。本実施形態においては、ボーナス（BB役）が含まれない当選番号はボーナス当選情報を0とし、ボーナス（BB役）が含まれる当選番号として、1種BB-Aが含まれる当選番号（19）のボーナス当選情報を1、1種BB-Bが含まれる当選番号（20～23）のボーナス当選情報を2、1種BB-Cが含まれる当選番号（24～27）のボーナス当選情報を3としている。ボーナス当選情報を主制御基板Mが記憶することによっていずれのBB成立の有無やいずれのBB役に当選したかに係る情報を記憶することができる。尚、ボーナス当選情報の詳細については後述する。

10

【1133】

次に、「入賞・再遊技当選情報」の項目には、0～18までの数値が当選番号毎に振り分けられている。本実施形態においては、再遊技役と小役とが含まれない当選番号（ハズレに対応する当選番号0とボーナスに対応する当選番号19・20・24）は入賞・再遊技当選情報を0とし、再遊技役又は小役が含まれる当選番号に対して1～18入賞・再遊技当選情報を条件装置毎に振り分けている。入賞・再遊技当選情報を主制御基板Mが記憶することによっていずれの再遊技役又は小役に当選したかに係る情報を記憶することができる。尚、入賞・再遊技当選情報の詳細については後述する。

20

【1134】

次に、「演出グループ番号」の項目には、0～11までの数値が当選番号毎に振り分けられている。演出グループ番号を主制御基板M側から副制御基板S側に送信することによって、副制御基板S側が実行する演出を決定することができるよう構成されている。尚、演出グループ番号の詳細については後述する。

【1135】

次に、「出玉グループ番号」の項目には、0～13までの数値が当選番号毎に振り分けられている。出玉グループ番号を主制御基板Mが記憶し、当該記憶した出玉グループ番号をATに関する抽選（例えば、AT抽選、AT上乘せ抽選）を実行する際に使用することにより、ATに関する抽選処理を実行するためのプログラム、データ容量を削減することができる。尚、出玉グループ番号が0となる条件装置が当選してもAT抽選及びAT上乘せ抽選は実行されない。一方、出玉グループ番号が0でない条件装置が当選した場合には、AT抽選又はAT上乘せ抽選が実行され得ることとなる。尚、出玉グループ番号の詳細については後述する。また、出玉グループ番号が0となる条件装置が当選した場合にも、AT抽選又はAT上乘せ抽選が実行され得よう構成してもよく、そのように構成した場合には、出玉グループ番号が0となる条件装置が当選してAT抽選又はAT上乘せ抽選が実行された場合には、当該抽選結果がかならずハズレ（非当選）となるよう構成することが好適である。

30

【1136】

次に、図204は、本実施形態における小役、再遊技役に関する当選番号（条件装置番号、当選役とも称す）及びボーナス（BB、BB役とも称す）が役抽選手段により決定される抽選確率（当選率とも称する）を示す一覧である。同図においては、当選番号の当選率を図示している。

40

【1137】

まず、BB未作動時である「RT0」、「RT1」及び「RT2」における抽選確率について詳述する。本実施形態においては、RT状態によって当選役（特に、再遊技役）の出現率（抽選確率）が相違し得よう構成されており、「再遊技役」（すべての再遊技役を合計した出現率）は「RT1」の場合においてその他のRT状態よりも出現率が高くなっている。また、当選番号4～6にて停止表示し得る「再遊技04」（いわゆる転落再遊技役であり、「RT1」であり且つボーナスが当選していない状況下において当該再遊技

50

役に対応する図柄組合せが停止表示されると、以降「R T 0」に移行することとなる）は「R T 1」にて主に当選し、「R T 0」においてはほぼ出現しないようになっている。尚、「R T 2」においては、当選番号4～6にて停止表示し得る「再遊技04」が出現し得ることとなるが、「再遊技04」が停止表示されてもR T状態は移行しない。尚、「R T 1」において「再遊技04」が停止表示された場合には、「R T 0」に移行した、即ち、R T状態が転落した旨を報知する演出である転落演出（例えば、演出表示装置S 4 0に「残念」と表示）を実行し、「R T 0」において「再遊技04」が停止表示された場合には、転落演出を実行しないよう構成してもよい。そのように構成することにより、「再遊技04」が停止表示されたにも拘らず、転落演出が実行されなかったことにより、B Bに当選していることを認識することができ、遊技の興趣性を高めることができる。尚、そのように構成した場合には、「再遊技04」が停止表示されたことにより出力される効果音と「再遊技04」以外の再遊技役（例えば、R T状態が移行しない「再遊技01」）が停止表示されたことにより出力される効果音とが相違するよう構成してもよく、そのように構成することにより、「再遊技04」が停止表示されたことを遊技者が認識し易く構成することができる。また、押し順ナビが発生しないA Tに関する状態（例えば、「通常遊技状態」であり、非A T遊技状態と称することがある）である場合と押し順ナビが発生し得るA Tに関する状態（例えば、「A T中状態」であり、A T遊技状態と称することがある）である場合との両方の場合において「R T 1」に滞在することがある。このとき、「R T 1」から「R T 0」へ移行（転落）する可能性がある当選番号が当選したとき、非A T遊技状態のときにはR T状態が転落する可能性があることを示す特殊な効果音をスタートレバーD 5 0の操作に基づいて出力しないように構成されていても良い。これにより、非A T遊技状態においては「R T 0」に転落する可能性があることを遊技者に悟らせることなく、遊技状態を移行させることが可能となる。一方、A T遊技状態のときにはR T状態が転落する可能性があることを示す特殊な効果音をスタートレバーの操作に基づいて出力する（且つ、R T状態が転落しない再遊技役が停止表示される押し順ナビを報知する）ように構成されていても良い。これにより、R T状態が転落しないよう遊技者は気を付けて、特殊な効果音が報知された以降の停止ボタンD 4 0の操作を行なうことが可能となる。また、当選番号2又は3にて停止表示し得る「再遊技05」（A T状態にて停止表示された場合にA T上乘せ抽選に当選した旨を報知し得る再遊技役）は主に「R T 1」で出現し、その他のR T状態ではほぼ出現しないようになっている。尚、これら再遊技役となる図柄組み合わせの停止表示に伴うR T状態に関する状態の遷移については後述する。また、後述するように、本実施形態においては、遊技者に最も有利となるリール停止順を報知する押し順ナビを押し順表示装置D 2 7 0及び演出表示装置S 4 0にて実行し得るよう構成されている。尚、当該抽選確率を適宜変更しても何ら問題ない。また、本実施形態においては、ボーナスは小役と重複し得るよう構成されており、スイカA、スイカB、チェリーの一部と重複している。具体的には、当選番号21～23及び当選番号25～27がボーナスと小役とが重複している条件装置となっている。

【1138】

また、「R T 2」である状況においては、B Bに当選しており、且つ、B Bが未作動である状況であるため、当選番号20及び24のB B役（小役とは重複していない単独のB B役であり、単独B B役、単独B Bと称することがある）に当選した場合には、B B役の新たな当選は無効となり、小役の当選のみが有効となる。具体的には、例えば、「R T 2」であり、且つ、1種B B - Aに当選している（持ち越している）状況下、当選番号24の「1種B B - C」に当選した場合には、当該当選番号24に係る1種B B - Cは無効となる。即ち、当選番号0の「ハズレ」に当選した場合と同様の状況となる。尚、持ち越している1種B B - Aは当選している状態が継続される。また、「R T 2」である状況においては、B Bに当選しており、且つ、B Bが未作動である状況であるため、当選番号21～23及び当選番号25～27の小役とB B役とが重複している条件装置に当選した場合には、B B役の新たな当選は無効となり、小役の当選のみが有効となる。具体的には、例えば、「R T 2」であり、且つ、1種B B - Aに当選している（持ち越している）状況下

、当選番号21の「1種BB-B+入賞-C」に当選した場合には、当該当選番号21に係る1種BB-Bは無効となり、入賞-Cのみが有効となる。即ち、当選番号14の「入賞-C」に当選した場合と同様の状況となる。尚、持ち越している1種BB-Aは当選している状態が継続される。尚、ボーナスとの重複は小役に限られるものでなく、再遊技役の一部とで重複していても良い。例えば、当選番号4～6の再遊技役の一部でボーナス役と重複しても良い。このように、ボーナスがRT移行リプレイ(RT状態が移行し得る再遊技役)を含む条件装置とも重複するようにすることで、RT移行リプレイを含む条件装置が当選したときにもボーナスが当選する可能性があり、RT移行リプレイが停止表示されても、ボーナスの否定をしないこととなるため、遊技者に期待を持たせることが可能となる。なお、このように構成した場合には、RT移行リプレイが停止表示されてもRT状態は移行しないように制御する。これにより、遊技者はRT状態が移行(リプレイ確率が相対的に低いRT状態に移行)しているはずであるのにリプレイ確率が低確率になっていない(頻繁にリプレイに当選する)こと等から、ボーナスに当選している可能性が高いかもしれないといった遊技に関する興味を高めることが可能となる。

【1139】

次に、BB作動時である「1種BB-A, B, C」における抽選確率について詳述する。本実施形態においては、BB作動中においては、当選番号13の「共通ベル」と当選番号17の「BB中弱レア小役(斜めベル揃い)」と当選番号18の「BB中強レア小役(V字ベル揃い)」との3つの小役が当選し得るよう構成されており、「AT中状態」にて当選したBBの作動中において「BB中弱レア小役(斜めベル揃い)」又は「BB中強レア小役(V字ベル揃い)」に当選した場合にはAT上乘せ抽選が実行されるよう構成されている(詳細は後述することとする)。

【1140】

また、同図上段においては、設定値が1である場合の小役出現率を例示しており、共通ベル(当選番号13)においては、RT状態に拘らず出現率が一律となっているが、同図下段に示すように、共通ベルの出現率は設定値(本例では、6段階)によって相違するよう構成されている。具体的には、設定1における置数が3204、設定2における置数が3404、設定3における置数が3604、設定4における置数が3904、設定5における置数が4204、設定6における置数が4504、となっており、設定値が高くなる程出現率が高くなるよう構成されている。このように構成することにより、例えば、遊技者が共通ベルの出現回数(当選回数)を計測しながら遊技を進行した場合、共通ベルに頻繁に当選することにより、遊技している遊技機に係る設定値が相対的に高い設定値であることに期待を抱きながら遊技を進行することができる。また、設定値が高くなるほど1遊技当たりにおける期待値が高くなり、設定値が高くなるほど出玉率が高くなるように構成されている。なお、共通ベルの出現率は設定値によって相違するよう構成されているが、当該共通ベルの当選によっては、後述するAT抽選、AT上乘せ抽選、及び、高確率状態移行抽選は実行されないため、ATに関する状態の移行抽選(ATに関する抽選とも称する。)には影響を及ぼさないよう構成されている。

【1141】

また、同図中段は、押し順ナビあり時における期待値一覧である。同図においては、「AT中状態」等の押し順表示装置D270及び演出表示装置S40にて押し順ナビが実行され得る状態において押し順ナビが実行された場合に、当該ナビに従ってリールを停止させた場合の1遊技あたりの平均払出数(入賞した小役によって払い出される平均のメダルの枚数であり、1ゲームで得られる遊技媒体の期待数とも称する)と、1遊技あたりのメダル増減期待値(3枚ベットにて遊技した場合のメダル投入枚数に対するメダル払出枚数の比率であり、1より大きい場合には期待値がプラスとなりメダルが増加していくこととなる一方、1より小さい場合には期待値がマイナスとなりメダルが減少していくこととなる)とを図示している。尚、1遊技あたりの平均払出数は、「再遊技役の置数の総和(当選番号1～6についての置数の総和)×再遊技役における払出枚数(3枚)+小役(11枚役)の置数(小役出現率)の総和(当選番号7～16についての置数の総和)×小役(

1 1 枚役)における払出枚数(1 1 枚)／すべての置数の総和(6 5 5 3 6)」のようにして算出することができる。また、1 遊技あたりのメダル増減期待値は、「1 遊技あたりの平均払出数／1 遊技あたりのメダル投入枚数(3 枚)」のようにして算出することができる。尚、1 ゲームあたりのメダル投入数(1 ゲームを行う際の遊技媒体の投入数)は3 枚となっており、1 遊技あたりの平均払出数が3 より大きい場合に1 遊技あたりのメダル増減期待値が1 より大きくなるよう構成されている。同図に示されるように、本実施形態においては、「R T 1」が1 遊技あたりのメダル増減期待値が相対的に最も大きくなっている。尚、同図における数値はボーナスによるメダルの増減は考慮していない。即ち、押し順ナビが発生する状況において遊技を進行した場合(最適操作態様で操作された場合、有利操作態様で操作された場合とも称す)、「R T 1」ではメダルが増えていくこととなる。尚、「R T 0」及び「R T 2」においては、不図示であるが、押し順ナビが発生していない状況下においては、1 遊技あたりのメダル増減期待値は1 より小さい値となっており、メダルが減少していくこととなる。尚、本実施形態においては、「R T 0」又は「R T 2」においても押し順ナビあり時においては1 遊技あたりのメダル増減期待値が1 より大きくなっているが、これには限定されず、「R T 0」又は「R T 2」における押し順ナビあり時の1 遊技あたりのメダル増減期待値が1 より小さくなるよう構成してもよい。尚、再遊技役となる図柄組み合わせが停止表示した場合には実際には前回遊技における賭け枚数(3 枚)が自動ベットされるが、本実施形態におけるメダル増減期待値を算出するにあたっては、メダル3 枚の払出しと仮定して算出している。尚、1 遊技を1 ゲームと称することがある。

【1 1 4 2】

また、各 R T 状態における、1 遊技あたりの平均払出数は、R T 状態が「R T 0」の場合には3 . 5 1 1 2 9 1 5 0 4 であり、R T 状態が「R T 1」の場合には4 . 7 3 7 9 1 5 0 3 9 であり、R T 状態が「R T 2」の場合には3 . 6 7 1 3 7 1 4 6 となっている。また、各 R T 状態における、1 遊技あたりのメダル増減期待値は、R T 状態が「R T 0」の場合には1 . 1 7 0 4 3 0 5 0 1 であり、R T 状態が「R T 1」の場合には1 . 5 7 9 3 0 5 0 1 3 であり R T 状態が「R T 2」の場合には1 . 2 2 3 7 9 0 4 8 7 となっており、押し順ナビあり時においては、R T 状態が「R T 1」の場合が遊技者にとって最も有利な R T 状態となっている。尚、当該数値は設定 1 である場合の値となっている。尚、上記小役、再遊技役に関する当選番号及びボーナスの抽選確率はあくまで一例であり、例えば、B B が内部成立中となる「R T 2」における1 遊技あたりのメダル増減期待値(押し順ナビあり時のメダル増減期待値)が1 未満となるよう構成してもよい。そのように構成することにより、押し順ナビが発生する状況且つ「R T 2」である場合(B B が内部成立中である場合)に、ボーナスを揃えることができるゲームにてボーナスを揃えなかった場合にも、徐々に持ちメダルが減少していくこととなり、押し順ナビが発生する状況且つ「R T 2」である場合(B B が内部成立中である場合)に、ボーナスを揃えることができるゲームにて故意にボーナスを揃えないことにより持ちメダルを増加させていくような攻略を防止することができる。具体的には、「R T 2」においてハズレとなる確率を、「R T 2」において当選する全ての小役(入賞-A 1 ~ 入賞-I)の当選確率よりも高くなるように設計することが好ましく、そのように設計されるように再遊技役の当選確率を定めることが好ましい(再遊技役の当選確率を高く設計するとその分ハズレとなる確率が低くなってしまいうため、再遊技役の当選確率が高くなり過ぎないように設計することが好ましい)。尚、本例の「R T 2」においては、すべての小役を合算した当選確率は1 8 7 8 4 / 6 5 5 3 6 であり、すべての再遊技の合算した当選確率は、1 2 5 0 1 / 6 5 5 3 6 であり、ハズレとなる確率は、3 4 2 5 1 / 6 5 5 3 6 となっており(図 2 0 4 参照)、ハズレとなる確率の方がすべての小役を合算した当選確率よりも高くなるように設計されている。

【1 1 4 3】

また、図 2 0 4 に示すように、本実施形態においては、1 種 B B - A の出現率は、設定 1 ~ 設定 6 の全てについて同一の置数である 4 0 が割り当てられている。また、1 種 B B

- C の出現率は、設定 1 ～ 設定 6 の全てについて同一の置数である 1 6 0 が割り当てられている。これに対して、1 種 B B - B の出現率は、設定 1 に対して 1 6 0 が割り当てられ、設定 2 に対して 1 8 0 が割り当てられ、設定 3 に対して 2 0 0 が割り当てられ、設定 4 に対して 2 2 0 が割り当てられ、設定 5 に対して 2 4 0 が割り当てられ、設定 6 に対して 2 7 0 が割り当てられている。即ち、1 種 B B - B の出現率は、設定値によって割り当てられている置数が異なっている。このように、1 種 B B - A 及び 1 種 B B - C は、設定差のない B B (1 種 B B - A、1 種 B B - C を設定差なし B B、設定差なしボーナスと称することがある) として機能し、1 種 B B - B は、設定差のある B B (1 種 B B - B を設定差あり B B、設定差ありボーナスと称することがある) として機能する。また、1 種 B B - A、1 種 B B - B と 1 種 B B - C のいずれも R T 状態に拘らず (「R T 0」と「R T 1」とで) 出現率は一律である。尚、1 種 B B - A 及び 1 種 B B - C (合算) の出現率は設定値に拘らず同一であるが、1 種 B B - B (合算) の出現率は設定値によって相違する。尚、1 種 B B - B の出現率として合算した出現率は設定値が相違しても同一であるが、当選番号毎の出現率が設定値によって相違するよう構成してもよく、そのように構成した場合にも 1 種 B B - B を設定差あり B B と称してもよい。

【1144】

次に、図 205 のブロック図を参照しながら、本実施形態に係る回胴式遊技機 P の電氣的な概略構成を説明する。はじめに、本実施形態に係る回胴式遊技機は、遊技の進行を制御する主制御基板 M を中心として、副制御基板 S、扉基板 D、回胴基板 K、電源基板 E、中継基板 I N、設定キースイッチ M 2 0、設定／リセットボタン M 3 0 等がデータをやり取り可能に接続されて構成されている。尚、図中の実線部がデータのやり取りに関する動きを示したものであり、図中の破線部が電源供給ルートを示したものである。尚、電源供給ルートはこれに限られたものではなく、例えば電源基板 E から主制御基板を介さずに中継基板 I N や扉基板 D に電源を供給しても良い。

【1145】

主制御基板 (主制御手段、主基板、メイン制御手段、メイン基板、主遊技部と称することがある) M は、回胴式遊技機 P で行われる遊技全体の進行を司る基板である。主制御基板 M には、主制御チップ C が搭載されており、主制御チップ C には、C P U C 1 0 0 (C P U M C と称することがある)、内蔵 R O M C 1 1 0、内蔵 R A M C 1 2 0 等がバスによって互いにデータをやり取り可能に接続されて搭載されている。そして、主制御基板 M は、前扉 D U に搭載された扉基板 D から、スタートレバー D 5 0 等が操作されたことを示す信号等を受け取って、副制御基板 S や、扉基板 D、回胴基板 K 等に向かって制御コマンド (あるいは制御信号) を出力することにより、これら各種基板の動作を制御している {例えば、副制御基板 S に向かって指示番号 (押し順番号、指示情報、操作情報とも称する) を出力することにより、副制御基板 S は演出表示装置 S 4 0 上で押し順ナビを実行することが可能となっている}。

【1146】

また、副制御基板 (副制御手段、副基板、サブ制御手段、サブ基板、副遊技部と称することがある) S にも、前述した主制御基板 M と同様に、副制御チップ S C が搭載されており、副制御チップ S C には、C P U S C 1 0 0 や、R O M、R A M 等が設けられていて、バスによって互いにデータをやり取り可能に接続されて構成されている。また、副制御基板 S には、各種 L E D ランプ S 1 0 (ベットボタンランプ S 5 0 や停止ボタンランプ S 6 0 が含まれている)、スピーカ S 2 0、演出表示装置 S 4 0、回胴バックライト (バックランプとも称する) S 3 0 等が接続されている。ここで回胴バックライト S 3 0 とは、左リール M 5 1、中リール M 5 2、右リール M 5 3 夫々の内部に設けられ、リールの表面に描かれた図柄を裏側から照らすライトである。副制御基板 S は、主制御基板 M から受け取った制御コマンドを解析して、各種 L E D ランプ S 1 0、スピーカ S 2 0、演出表示装置 S 4 0、回胴バックライト S 3 0 等にそれぞれ駆動信号を出力することにより、各種の演出を行っている。尚、本例に係る回胴式遊技機においては、左リールの上段、中段、下段、中リールの上段、中段、下段、右リールの上段、中段、下段、の 9 個の範囲を遊技者が

個別に識別できるよう、回胴バックライト S 3 0 として複数の L E D が設けられている。一例としては、左リールの上段に対応する L E D が点灯し、その他の L E D がすべて消灯することによって、遊技者は左リール上段が点灯していると識別することができる。また、本例に係る回胴式遊技機は、所定の図柄組み合わせが停止表示した際に、回胴バックライト S 3 0 の点灯態様を変化させることによって当該所定の図柄組み合わせが停止表示した旨を遊技者に示唆するバックランプ演出（バックライト演出と称することがある）を実行可能に構成されている。

【1147】

扉基板 D には、前述した投入受付センサ D 1 0 s、第 1 投入センサ D 2 0 s、第 2 投入センサ D 3 0 s、回転しているリール M 5 0 を停止するための停止ボタン D 4 0、リール M 5 0 の回転を開始するためのスタートレバー D 5 0、貯留されている遊技メダル（クレジット）や投入された遊技メダルを払い出して遊技を終了するための精算ボタン D 6 0、遊技の状態を表示する各種の表示パネル D 7 0 {不図示であるが、前述した、投入数表示灯 D 2 1 0、スタートランプ D 1 8 0、再遊技ランプ D 2 9 0、投入可能ランプ D 3 0 0、特別遊技状態表示装置 D 2 5 0、払出数表示装置（押し順表示装置） D 2 7 0 は、クレジット数表示装置 D 2 0 0、有利区間表示器 Y H、等の表示装置の集合体}、前扉の開閉判定やエラーの解除や設定値の変更を実行するための扉スイッチ D 8 0、投入された後に適合しないと判断された遊技メダル（又は、その他の異物）を放出口 D 2 4 0 に払い戻すためのブロック D 1 0 0 等が接続されている。また、この扉基板 D は、前述した主制御基板 M とデータをやり取り可能に接続されている。このため、前扉 D U に設けられたスタートレバー D 5 0 や、停止ボタン D 4 0、精算ボタン D 6 0 等を操作すると、扉基板 D を介して、操作に係る信号が主制御基板 M に供給されるようになっている。また、投入受付センサ D 1 0 s が遊技メダルの通過を検出した信号も、扉基板 D を介して主制御基板 M に供給される。

【1148】

また、回胴基板 K には、リール M 5 0 を回転させるための回胴モータ K 1 0 と、リール M 5 0 の回転位置を検出するための回胴センサ K 2 0 等が接続されている。回胴基板 K は、当該回胴センサ K 2 0 によって、リール M 5 0 の回転位置を検出しながら回胴モータ K 1 0 を駆動することにより、リール M 5 0 を、決定された停止位置で停止させることが可能となっている。また、本実施形態の回胴式遊技機においては、回胴モータ K 1 0 には、所謂ステップモータ（ステッピングモータと称することがある）が使用されている。尚、ステップモータは、リール M 5 0 が 1 回転するステップ数として、480 ステップが設定されている。また、各リール（左リール M 5 1、中リール M 5 2、右リール M 5 3）には略均一の大きさで所定数（例えば、20 個）の図柄が設定されており、1 図柄分に相当するステップ数としては、24 ステップ（ $= 480 / 20$ ）が設定されている。尚、ステップ数、リール 1 周あたりの図柄の数は変更しても何ら問題ない。

【1149】

また、メダル払出装置 H は、中継基板 I N を介して、主制御基板 M に接続されており、主制御基板 M からの制御信号に基づいて、所定枚数（例えば、10 枚）の遊技メダルを払い出す動作を行う。尚、メダル払出装置 H にはメダルが正常に払い出されたか否かの判定や払い出された遊技メダルの数の計測を実行する第 1 払出センサ H 1 0 s 及び第 2 払出センサ H 2 0 s と、ディスク H 5 0 を回転させるためのホッパモータ H 8 0 と、が接続されている。

【1150】

これら各種制御基板、及び基板で消費される電力は、電源基板 E（電源スイッチ E 1 0 により電源供給の有無を制御する基板）から供給されている。図 2 0 5 では、電源基板 E から電力が供給される様子を破線の矢印で表している。図示されているように、主制御基板 M および副制御基板 S には、電源基板 E から電力が直接供給されており、各種基板（扉基板 D、回胴基板 K、中継基板 I N）には、主制御基板 M を介して電力が供給されている。電源基板 E には所定量（例えば、100 V）の交流電圧が供給されており、この電力を

10

20

30

40

50

規定電圧の直流電圧に変換した後、夫々の制御基板及び基板に供給している。

【1151】

また、主制御基板Mには、後述する設定変更装置制御処理を実行するため（設定変更を行うため）に使用する設定キースイッチM20、設定値の変更やエラー解除等を実行し得る設定／リセットボタンM30、が接続されている。また、主制御基板Mは、リールM50（左リールM51、中リールM52、右リールM53）の回転や停止を制御するリール制御手段と、遊技者にとって有利なATに関する状態である「AT中状態」に移行するためのAT移行抽選を実行するAT抽選手段と、「AT中状態」に滞在可能なゲーム数であるAT残りゲーム数（又は、ATカウンタM60のカウンタ値）を増加させるAT上乗せ抽選を実行するAT上乗せ抽選手段と、を有している。

10

【1152】

次に、図206～229は、本実施形態における、主制御基板Mが行う一般的な処理の流れを示したフローチャートである。

【1153】

尚、フローチャートは主に、処理ステップ（長方形にて図示）、判断（ひし形にて図示）、流れ線（矢印）、開始・終了・復帰等を示す端子（角丸長方形にて図示）によって構成されている。また、処理ステップの内、別のフローチャートにて詳細を図示している場合、当該別のフローチャートを参照するものをサブルーチン（左右の線が二重線である長方形にて図示）として図示している。ここで、遊技機の開発段階においては、スペック違いの遊技機を同時に開発することも行われているが、本例においては、メイン側の処理内に、スペック違いの遊技機で実行するサブルーチン（通常は使用しないサブルーチン）を残さないよう構成しており、ノイズや不正行為によって、通常時には実行されない未使用サブルーチンに係る処理が実行されることを防止している。

20

【1154】

まず、図206は、回胴式遊技機Pの電源を投入した後（或いはシステムリセットやユーザリセット時において）、主制御基板MのCPUC100にて初めて実行される処理の流れを示したフローチャートである。まず、ステップ1000で、回胴式遊技機Pの電源を投入した後、ステップ1002で、主制御基板MのCPUC100は、タイマ割り込みの初期設定を実行する（ここでは、タイマ割り込みが開始されるのではなくタイマ割り込みの種類をセットするのみであり、以降の処理において、タイマ割り込みが開始されると定期的に後述するタイマ割り込み時処理に係るフローチャートが実行される）。次に、ステップ1004で、主制御基板MのCPUC100は、主制御チップCの機能設定としてシリアル通信の設定（速度、データの長さ、データ送信方法の設定）等を実行する。次に、ステップ1006で、主制御基板MのCPUC100は、RAM領域の先頭アドレスからチェックサム領域直前のアドレスまでのチェックサムを算出する。次に、ステップ1008で、主制御基板MのCPUC100は、RAM領域をチェックし（例えば、当該算出したチェックサムとチェックサム領域に保持されているチェックサムデータとに基づき、電源断・電源断復帰により内蔵RAMC120に格納されているデータが正しく保持されているか否かをチェックし）、電源断復帰データを生成する。次に、ステップ1010で、主制御基板MのCPUC100は、設定キースイッチM20のスイッチ状態を確認する。次に、ステップ1014で、主制御基板MのCPUC100は、設定キースイッチM20がオフであるか否かを判定する。

30

40

【1155】

ステップ1014でYesの場合、ステップ1016で、主制御基板MのCPUC100は、RAM内の電源断処理済みフラグのオン・オフ（ステップ1904でオンとなる）及び全RAMのチェックサム状態（ステップ1006でのチェック結果）を参照し、RAM内の電源断復帰データは正常であるか否かを判定する。ステップ1016でYesの場合、ステップ1020で、主制御基板MのCPUC100は、決定された初期化範囲で、RAM領域の初期化を実行する。次に、ステップ1022で、主制御基板MのCPUC100は、電源断時の処理（ステップ1902）にて保存したスタックポインタに係るデー

50

タに基づき、スタックポインタを復帰する。次に、ステップ1036で、主制御基板MのCPUC100は、RAM領域内を参照し、RAM領域内の設定値に係るデータは正常範囲内（本例では、0～5）であるか否かを判定する。ステップ1036でYesの場合、ステップ1038で、主制御基板MのCPUC100は、入力ポートの読み込みを実行する。次に、ステップ1040で、主制御基板MのCPUC100は、ステップ1002にてセットしたタイマ割り込みを開始する。次に、ステップ1042で、主制御基板MのCPUC100は、電源断処理済みフラグをオフにし、復帰したスタックポインタに従い電源断時の処理に復帰する。

【1156】

また、ステップ1016でNoの場合、ステップ1024で、主制御基板MのCPUC100は、バックアップエラー表示をセットする（例えば、レジスタ領域内にエラー番号をセットする）。次に、ステップ1300で、主制御基板MのCPUC100は、後述する、復帰不可能エラー処理を実行する。

【1157】

また、ステップ1036でNoの場合、ステップ1046で、主制御基板MのCPUC100は、設定値エラー表示（例えば、払出数表示装置D270に表示されることとなる）をセットする（例えば、レジスタ領域内にセットする）。次に、ステップ1300で、主制御基板MのCPUC100は、後述する復帰不可能エラー処理を実行する。

【1158】

また、ステップ1014でNoの場合、ステップ1028で、主制御基板MのCPUC100は、RAM内の電源断処理済みフラグのオン・オフ（ステップ1904でオンとなる）及び全RAMのチェックサム状態（ステップ1006でのチェック結果）を参照し、RAM内の電源断復帰データは正常であるか否かを判定する。ステップ1028でYesの場合、ステップ1030で、主制御基板MのCPUC100は、RAMの初期化範囲をRAM内の設定値（設定値データ）を記憶する記憶領域を除く所定範囲に決定してセット（例えば、レジスタ領域内にセット）し、ステップ1034に移行する。RAMの初期化範囲に含まれない範囲は、設定値（設定値データ）を記憶する記憶領域のみには限定されず、「有利区間」の総累計ゲーム数、遊技区間の総累計（有利区間＋通常区間）ゲーム数、「有利区間」の滞在割合を算出した結果、等もRAMの初期化範囲に含まれない範囲となっている。このように構成することにより、遊技における「有利区間」に滞在している比率（有利区間比率）を算出及び表示することができることとなる。また、有利区間比率の算出処理は、単位遊技が終了するタイミングで算出するよう構成されている。また、有利区間比率は、遊技機の電源が投入されると表示される（例えば、4桁の7セグメントディスプレイに表示される）。具体的な表示態様としては、「有利区間比率→6000ゲームあたりの連続役物比率→6000ゲームあたりの役物比率→累積の連続役物比率→累積の役物比率」の順に5秒間隔で繰り返し表示される。尚、連続役物比率とは「RBが作動している状態での払出し数／総払出し数」であり、役物比率とは「RB、CB、又はSBが作動している状態での払出し数／総払出し数」である。他方、ステップ1028でNoの場合、ステップ1032で、主制御基板MのCPUC100は、RAMの初期化範囲をRAM内の設定値（設定値データ）を記憶する記憶領域を含む特定範囲に決定してセット（例えば、レジスタ領域内にセット）し、ステップ1034に移行する。次に、ステップ1034で、主制御基板MのCPUC100は、ステップ1030又はステップ1032にて決定された初期化範囲で、RAM領域の初期化を実行する。次に、ステップ1100で、主制御基板MのCPUC100は、後述する、設定変更装置制御処理を実行する。

【1159】

尚、不図示ではあるが、主制御基板Mが搭載する一時記憶領域（RAM領域等）の初期値（処理開始時の値）は、特別遊技が実行される値とならないよう構成することが好適である（プログラムの処理開始直後に、ノイズや不正行為により、特別遊技の実行判定を行う処理を実行してしまった場合に特別遊技が誤って実行されることを防止するため）。また、不図示ではあるが、主制御基板MのRAM領域内に当選乱数等の乱数を記憶する場合

10

20

30

40

50

には、専用の記憶領域を確保し、乱数に係る情報を記憶しているバイト内には当該乱数に係る情報のみを記憶する（各種タイマ値等、その他の情報を記憶しない）よう構成することが好適である（同じ1バイト内に記憶した別のデータを操作する際に、ノイズ等によって乱数に係る情報が書き換わってしまうことを防止するため）。

【1160】

次に、図207は、図206におけるステップ1100のサブルーチンに係る、設定変更装置制御処理のフローチャートであり、設定変更モードとも称する。まず、ステップ1102で、主制御基板MのCPU100は、スタックポインタをセットする（当該処理の先頭アドレスで初期化する）。次に、ステップ1104で、主制御基板MのCPU100は、タイマ割り込みを起動する。次に、ステップ1106で、主制御基板MのCPU100は、RAM領域内の設定値（設定値データ）は正常範囲内（本例では、0～5）ではないか否かを判定する。尚、設定値（設定値データ）を1～6で管理していた場合、RAMの初期化を実行し設定値が「0」となったときに「1」に戻す処理が必要となる。そこで、本例においては、設定値（設定値データ）の正常範囲を0～5として管理することにより、RAMの初期化を実行した後の設定値（設定値データ）の補正処理（ステップ1106及びステップ1108の処理）を不要とすることができ、処理時間を短縮することや処理の容量を削減することが可能となる。ステップ1106でYesの場合、ステップ1108で、主制御基板MのCPU100は、設定値（設定値データ）に所定値（例えば、0＝遊技者にとって最も不利となる値）をセットし、ステップ1110に移行する。他方、ステップ1106でNoの場合にもステップ1110に移行する。次に、ステップ1110で、主制御基板MのCPU100は、エラー表示LED（例えば、払出数表示装置D270）に設定変更装置作動中である旨（例えば、全セグメントを点灯させる「88」）を表示し、設定表示LED（不図示）に設定値を表示（設定値に係る表示はRAM内で保持している設定値（設定値データ）に1を加算した数値となっている）し、ステップ1112に移行する。尚、前述したように、払出数表示装置D270は押し順を報知する際にも使用される。そのように構成されているため、例えば、7セグLEDの一部に故障が発生している（点灯できないセグがある）ような場合において押し順を報知する際、誤った情報を報知することがあり得る。このような事態を防止するため、設定変更装置作動中において払出数表示装置D270に7セグメントを全点灯「88」させることにより、7セグメントが故障しているか否かが確認でき、遊技者に不利益等を与えることを防止できる。また、設定値（設定値データ）の表示に係る構成として、設定値を記憶する記憶領域における設定値（設定値データ）に1を加算したデータを記憶しておく設定値表示用のRAMの記憶領域を有し、当該記憶領域を参照して設定値を表示するよう構成しても良い。尚、不図示であるが、ステップ1110の処理を実行した後、副制御基板S側に設定変更モードに移行していることを示すコマンドを送信するための処理を実行している。

【1161】

次に、ステップ1112で、主制御基板MのCPU100は、設定／リセットボタンM30がオフからオンに切り替わったか否かを判定する。ステップ1112でYesの場合、ステップ1114で、主制御基板MのCPU100は、現在の設定値（設定値データ）に1を加算し（加算した結果設定値（設定値データ）が5を超過した場合には、設定値（設定値データ）は0となる）、ステップ1116に移行する。尚、ステップ1112でNoの場合にも、ステップ1116に移行する。次に、ステップ1116で、主制御基板MのCPU100は、スタートレバーD50がオフからオンに切り替わったか否かを判定する。ステップ1116でNoの場合には、ステップ1112に移行し、ステップ1112～ステップ1116の処理をループする。ステップ1116でYesの場合、ステップ1118で、主制御基板MのCPU100は、設定キースイッチM20がオンからオフに切り替わったか否かを判定する。ステップ1118でNoの場合には、ステップ1118の処理をループする。他方、ステップ1118でYesの場合、ステップ1120で、主制御基板MのCPU100は、エラー表示LED（不図示）に設定変更装置の作動が終了した旨を表示し、設定表示LED（不図示）の設定値（設定値データ）の表示を

10

20

30

40

50

消去し、ステップ1200の遊技進行制御処理に移行する。尚、不図示であるが、ステップ1120の処理を実行した後、副制御基板S側に設定変更モードを終了することを示すコマンドを送信するための処理を実行している。

【1162】

次に、図208は、図206におけるステップ1300の（及び他のフローチャートにおいて呼び出された）サブルーチンに係る、復帰不可能エラー処理のフローチャートである。まず、ステップ1302で、主制御基板MのCPU100は、割り込みを禁止する（以降は、後述するタイマ割り込み時処理に係るフローチャートが実行されない）。次に、ステップ1304で、主制御基板MのCPU100は、出力ポートアドレス及び出力ポート数をセットする。次に、ステップ1306で、主制御基板MのCPU100は、出力ポート（本例では、0～6であり、各種LEDへの表示出力や各種モータへの駆動出力）をオフにする。次に、ステップ1308で、主制御基板MのCPU100は、次のポート出力アドレスをセットする（この繰り返しにより、各種LEDへの表示出力や各種モータへの駆動出力が順次停止される）。次に、ステップ1310で、主制御基板MのCPU100は、各出力ポートへの出力が終了したか否かを判定する。ステップ1310でYesの場合には、ステップ1312で、主制御基板MのCPU100は、セットされているエラー表示を実行し（本処理を実行する際には何らかのエラーが発生している）、当該処理の実行を繰り返し、電源電圧が低下することでリセット信号が入力されて終了する。（即ち、無限ループに突入するので、復帰を促す一切の操作を受け付けない）。尚、ステップ1310でNoの場合には、ステップ1306に移行する。尚、ステップ1306～ステップ1310の処理は、LED・モータへの出力をクリアする処理である（但し、外部出力信号はクリアしないので、エラーに関する情報やエラー発生時における遊技進行状況等をホールコンピュータ側へ出力することは可能である）。

【1163】

次に、図209は、図207におけるステップ1200のサブルーチンに係る、遊技進行制御処理（1枚目）のフローチャートである。まず、ステップ1202で、主制御基板MのCPU100は、スタックポインタをセットする（当該処理の先頭アドレスで初期化する）。次に、ステップ1203で、主制御基板MのCPU100は、当該ゲームに必要なRAM領域内のデータ（例えば、ベット上限数、入賞の有効ライン、等）をセットする。尚、ステップ1203は、前回の遊技で使用したデータ（例えば、条件装置番号（当選番号）、演出グループ番号、指示情報）をクリアするためのデータ（RAMのアドレスをクリアするための「0」のデータ）をRAMにセットする処理も含まれる。尚、条件装置番号、演出グループ番号、指示情報等はクリアせずに、次遊技が実行された際に選択された番号を上書きするように構成するようにしても良い。次に、ステップ1204で、主制御基板MのCPU100は、当該ゲームにおけるRT状態（例えば、「RT0」等）をセットする（図220のステップ1704で決定したRT状態をセットする）。次に、ステップ1205で、主制御基板MのCPU100は、ステップ1204でセットしたRT状態に関するコマンド（サブ側へのコマンド）をセットする。尚、RT状態をセットする処理は、図220のステップ1704にて実行してもよい。また、ステップ1704にてRT状態に関するコマンド（サブ側へのコマンド）をセットしても良い。また、RT状態をサブ側に送信する場合には常時送信する必要はなく、遊技区間が「有利区間」である場合にのみRT状態をサブ側に送信するよう構成してもよい。次に、ステップ1206で、主制御基板MのCPU100は、当該ゲームにおけるATに関する状態（例えば、「AT中状態」等）をセットする（図214のステップ1420、ステップ1429、図215のステップ1435、ステップ1439、ステップ1443、図216のステップ1444-3、ステップ1444-4で決定したATに関する状態をセットする）。次に、ステップ1207で、主制御基板MのCPU100は、ステップ1206でセットしたATに関する状態に関するコマンド（サブ側へのコマンド）をセットする。また、ATに関する状態をセットする処理は、図214のステップ1416、ステップ1428、図215のステップ1438、図216のステップ1444-1にて実行してもよい。ま

10

20

30

40

50

た、A Tに関する状態をサブ側に送信する場合には常時送信する必要はなく、遊技区間が「有利区間」である場合にのみA Tに関する状態をサブ側に送信するよう構成してもよい。次に、ステップ1208で、主制御基板MのC P U C 1 0 0は、当該ゲームにおける遊技区間（例えば、「有利区間」等）をセットする（図224のステップ3510、ステップ3516、ステップ3520で決定した遊技区間をセットする）。次に、ステップ1208-1で、主制御基板MのC P U C 1 0 0は、ステップ1208でセットした遊技区間に関するコマンド（サブ側へのコマンド）をセットする。次に、ステップ1209で、主制御基板MのC P U C 1 0 0は、メダル払出装置Hが遊技メダルで満杯ではないか否かを判定する。具体的には、メダル払出装置Hから溢れ出たメダルを格納するメダル補助タンクH S（詳細は後述する）を備え、メダル補助タンクH Sの内部に侵入可能な2つの満杯検知電極D E（詳細は後述する）による電流の導通／非導通にて判定する（メダルを介して電流が導通した場合には、満杯と判定する）。ステップ1209でY e sの場合、ステップ1218に移行する。

【1164】

他方、ステップ1209でN oの場合、ステップ1210で、主制御基板MのC P U C 1 0 0は、メダル満杯エラーフラグをオンにする（例えば、R A M領域のメダル満杯エラーフラグ領域内をオンに相当する値で更新する）。次に、ステップ1212で、主制御基板MのC P U C 1 0 0は、メダル満杯エラーに対応したエラー番号の表示を7セグL E D（例えば、貯留表示L E D又は獲得枚数L E D）で実行する。次に、ステップ1214で、主制御基板MのC P U C 1 0 0は、メダル満杯エラーが解除されたか否か（例えば、メダル補助タンクH Sに設けられた2つの満杯検知電極による電流が非導通、且つ、設定／リセットボタンM30が押下されたか否か）を判定する。ステップ1214でY e sの場合、ステップ1216で、主制御基板MのC P U C 1 0 0は、メダル満杯エラーフラグをオフにし（例えば、R A M領域のメダル満杯エラーフラグ領域内をオフに相当する値で更新し）、ステップ1218に移行する。他方、ステップ1214でN oの場合には、ステップ1212に移行する。次に、ステップ1218で、主制御基板MのC P U C 1 0 0は、メダル投入受付を許可し（再遊技役の次ゲームにおいては自動にて投入動作が実行されることとなる）、次の処理（ステップ1220の処理）に移行する。ここで、ステップ1218では、ブロックD100のオン処理（メダル流路が形成する処理）を行う。具体的には、前回遊技で再遊技役が成立した場合には、現在の貯留数（クレジット）が所定値（本例では、50枚）未満であることを条件として、ブロックD100のオン処理を実行する。換言すると、現在の貯留数（クレジット）が所定値である場合には、ブロックD100のオン処理を実行しない。一方、前回遊技で再遊技役が成立しなかった場合には、一律にブロックD100のオン処理を実行するようにしている。このように構成することにより、再遊技役が成立した場合であっても貯留数（クレジット）が所定値に達していない場合には、遊技メダルが投入できるように構成され、「R T 1」等のR T状態よりも再遊技役の当選確率の高いR T状態（例えば、「R T 1」）に滞在しているときや、見た目では再遊技役とは分かり辛い再遊技役（小役に見せかけた再遊技：無効ライン上にペルーペルーや、左リールにチェリーが停止した図柄組合せ）が停止した場合であっても、遊技者はリズム良く（違和感なく）遊技を行うことができる。

【1165】

次に、図210は、図209におけるステップ1200のサブルーチンに係る、遊技進行制御処理（2枚目）のフローチャートである。まず、ステップ1220で、主制御基板MのC P U C 1 0 0は、遊技メダルがベットされていない、又は貯蓄されていない（クレジットが存在していない）か否かを判定する。ステップ1220でY e sの場合、ステップ1221で、主制御基板MのC P U C 1 0 0は、設定値表示条件を充足している（例えば、扉スイッチD80、設定キースイッチM20がすべてオンとなると当該条件を充足する）か否かを判定する。ステップ1221でY e sの場合、ステップ1222で、主制御基板MのC P U C 1 0 0は、設定表示L E D（不図示だが、払出数表示装置D270、クレジット数表示装置D200、投入数表示灯D210としてもよい）に設定値を表示し（

10

20

30

40

50

設定確認モードに移行し)、設定キースイッチM20がオフとなったことを条件にステップ1221に移行する。尚、設定変更モードの移行条件を満たしたときには、副制御基板S側に設定変更モードを開始することを示すコマンドを送信するための処理、設定変更モードの終了条件を満たしたときに設定変更モードを終了することを示すコマンドを送信するための処理を実行している。ステップ1220又はステップ1221でNoの場合、ステップ1224で、主制御基板MのCPU100は、遊技メダルの投入及び精算に係る管理を実行する。次に、ステップ1225で、主制御基板MのCPU100は、遊技メダルの受付可能枚数を確認する。次に、ステップ1226で、主制御基板MのCPU100は、ブロックD100がオンか否かを判定する。ステップ1226でYesの場合、ステップ1227で、主制御基板MのCPU100は、第1投入センサD20s又は第2投入センサD30sがオンであるか否かを判定する(本実施形態においてはメダルの投入を検出するための投入センサを2つ有しており、第1投入センサD20s又は第2投入センサD30sがオンとなると、遊技メダルを1枚受け付けたと判定する)。ステップ1227でYesの場合、ステップ1230で、主制御基板MのCPU100は、第1投入センサD20s及び第2投入センサD30sがオフであるか否かを判定する(第1投入センサD20s又は第2投入センサD30sがオンとなった後、第1投入センサD20s及び第2投入センサD30sがオフとなると、受け付けた1枚の遊技メダルが第1投入センサD20s及び第2投入センサD30sを通過したと判定する)。ステップ1230でYesの場合、ステップ1231で、主制御基板MのCPU100は、1枚の正常な遊技メダルの投入を受け付けたと判定する。不図示であるが、ステップ1231の後、主制御基板MのCPU100は、クレジットが上限数(本例では、50)、且つ、ベット数が最大数(本例では、3)であるか否かを判定し、Yesと判定した場合にはブロックD100をオフ(メダル流路を形成しない状態)に制御する。尚、ステップ1230でNoの場合には、ステップ1230の処理を繰り返し、ステップ1226またはステップ1227でNoの場合には、ステップ1232に移行する。

【1166】

次に、ステップ1232で、主制御基板MのCPU100は、精算ボタンD60の操作があったか否かを判定する。ステップ1232でYesの場合、ステップ1233で、主制御基板MのCPU100は、クレジットの残り枚数又はベットされている遊技メダルが存在するか否かを判定する。ステップ1233でYesの場合、ステップ1234で、主制御基板MのCPU100は、ホッパ駆動フラグ(RAM領域内のフラグであり、ホッパモータH80を駆動している際にオンとするフラグ)をオンにし、遊技メダル1枚の払出を実行する。次に、ステップ1236で、主制御基板MのCPU100は、第1払出センサH10s又は第2払出センサH20sがオンであるか否かを判定する(本実施形態においてはメダルの払出を検出するための払出センサを2つ有しており、第1払出センサH10s又は第2払出センサH20sがオンとなると、遊技メダル1枚の払出動作が行われていると判定する)。ステップ1236でYesの場合、ステップ1247に移行する。ここで、フローチャート上には明記してはいないが、前回遊技が再遊技役であった場合にはクレジットの残り枚数のみが精算の対象となる。

【1167】

他方、ステップ1236でNoの場合、ステップ1241で、主制御基板MのCPU100は、ホッパ駆動後(ステップ1234の処理のタイミング後)から所定時間(例えば、5秒)経過したか否かを判定する。具体的には、ホッパ駆動信号をホッパモータH80に送信している(ホッパモータH80が回転している)のにもかかわらず、メダルが払い出されていないと判定している状況が所定時間継続したか否かを判定する。ステップ1241でYesの場合、ステップ1242で、主制御基板MのCPU100は、メダル空エラーフラグをオンにする(例えば、メダル空エラーフラグ領域内をオンに相当する値で更新する)。次に、ステップ1244で、主制御基板MのCPU100は、メダル空エラー表示を実行する。次に、ステップ1245で、主制御基板MのCPU100は、メダル空エラーが解除されたか否か(例えば、設定/リセットボタンM30が押下された

か否か)を判定する。ステップ1245でYesの場合、ステップ1246で、主制御基板MのCPUC100は、メダル空エラーフラグをオフにし(例えば、RAM領域のメダル空エラーフラグ領域内をオフに相当する値で更新し)、ステップ1247に移行する。他方、ステップ1245でNoの場合、ステップ1244に移行する。

【1168】

次に、ステップ1247で、主制御基板MのCPUC100は、第1払出センサH10s及び第2払出センサH20sがオフであるか否かを判定する(第1払出センサH10s又は第2払出センサH20sがオンとなった後、第1払出センサH10s及び第2払出センサH20sがオフとなると、払出動作が行われていた1枚の遊技メダルの払出動作が完了したと判定する)。ステップ1247でYesの場合、ステップ1248で、主制御基板MのCPUC100は、ホッパ駆動フラグをオフにし、ステップ1233に移行する。尚、ステップ1241又はステップ1247でNoの場合には、ステップ1236に移行する。

【1169】

他方、ステップ1232又はステップ1233でNoの場合、ステップ1251で、主制御基板MのCPUC100は、スタートレバーD50が有効であり(例えば、ゲームを開始するための規定枚数の遊技メダルが投入された等)、且つ、当該スタートレバーD50の操作があったか否かを判定する。ステップ1251でYesの場合、ステップ1253で、主制御基板MのCPUC100は、RAM領域内の設定値は正常範囲内(本例では、0~5)であるか否かを判定する。ステップ1253でYesの場合、ステップ1254で、主制御基板MのCPUC100は、乱数の取得、ブロックD100をオフにする処理を実行した後に、次の処理(ステップ3600の処理)に移行する。他方、ステップ1253でNoの場合、ステップ1256で、主制御基板MのCPUC100は、設定値エラー表示をセットする(例えば、レジスタ領域内にエラー番号をセットする)。次に、ステップ1300で、主制御基板MのCPUC100は、復帰不可能エラー処理を実行する。尚、ステップ1251でNoの場合には、ステップ1220に移行する。

【1170】

次に、図211は、図209におけるステップ1200のサブルーチンに係る、遊技進行制御処理(3枚目)のフローチャートである。まず、ステップ3600で、主制御基板MのCPUC100は、後述する、内部抽選実行処理を実行する。次に、ステップ1259で、主制御基板MのCPUC100は、現在のATに関する状態はAT上乘せ抽選可能な状態であるか否かを判定する。ここで、本例においては、AT上乘せ抽選を実行可能なATに関する状態は、「AT中状態」、「上乘せ特化状態」、「特化前兆状態」、「有利BB状態」となっており、「有利BB内部中遊技」においては、ATカウンタ値が0より大きい状態となり得るがAT上乘せ抽選は実行しないよう構成されている。これは、「有利BB内部中遊技」において、遊技者が敢えてBBの図柄組合せを揃えさせないことの方が、遊技者にとって有利となってしまうことを防止するためである。尚、「有利BB内部中遊技」にてAT上乘せ抽選を実行し得るよう構成してもよく、そのように構成した場合には、「有利BB内部中遊技」にてAT上乘せ抽選に当選してもすぐには報知せずに、その後BBが終了したタイミングでAT上乘せ抽選に当選した旨、又は、ATゲーム数が上乘せされた後のAT残りゲーム数を報知するよう構成してもよい。

【1171】

ステップ1259でYesの場合、ステップ1500で、主制御基板MのCPUC100は、後述する、ゲーム数上乘せ実行処理を実行し、ステップ1400に移行する。他方、ステップ1259でNoの場合にもステップ1400に移行する。このゲーム数上乘せ実行処理は、ATに関する状態に応じて異なる抽選テーブルを用いて抽選を実行することも可能であるが、設定値に応じては抽選確率が異ならない(同一の抽選テーブルを用いて抽選を実行する)ことが好適である。次に、ステップ1400で、主制御基板MのCPUC100は、後述する、AT状態移行制御処理を実行する。次に、ステップ1450で、主制御基板MのCPUC100は、後述する、条件装置番号管理処理を実行する。

【1172】

ここで、本例におけるATに関する状態を列挙し詳述する（図223のAT状態遷移図でも示されている）。（1）「低確率状態」とは、ATに当選していない（「AT中状態」に移行する権利を獲得していない）状態であり、且つ、ボーナス役に当選していない状態である。尚、「低確率状態」とは、所謂「通常状態」であるため、「通常状態」と称することもある。（2）「通常BB内部中遊技」とは、「低確率状態」においてBB役に当選した、且つ、BB役が入賞していない、且つ、AT抽選に当選していない状態である。（3）「通常BB状態」とは、「低確率状態」においてBB役に当選し、且つ、AT抽選に当選していない状況にて、BB役に対応する図柄組合せが停止表示されたとき、又は、「通常BB内部中遊技」においてBB役に対応する図柄組合せが停止表示されたときに実行される状態である。（4）「高確率状態」とは、AT抽選に当選していない（「AT中状態」に移行する権利を獲得していない）状態であり、且つ、ボーナス役に当選していない状態であり、前述した「低確率状態」よりもATに当選し易い状態である。尚、後述するように、新たに「高確率状態」に移行した場合には高確保障ゲーム数が経過するまでは「低確率状態」に移行しないよう構成されている（5）「AT中状態」とは、AT（押し順ナビ）を行い、且つ、AT残りゲーム数（ATカウンタ値）の減算を行う状態である。尚、ATカウンタ値が0となっても、後述する継続抽選に当選した場合には、ATカウンタに所定値がセットされ、「AT中状態」が継続する（6）「特化前兆状態」とは、「AT中状態」よりもATゲーム数が相対的に上乗せされ易い状態である「上乗せ特化状態」に移行する権利を獲得している状態である。（7）「上乗せ特化状態」とは、「AT中状態」よりもATゲーム数が相対的に上乗せされ易い状態である。（8）「有利BB内部中遊技」とは、「高確率状態」、「AT中状態」、「特化前兆状態」又は「上乗せ特化状態」においてBB役に当選し、且つ、BB役が入賞していない状態である。（9）「待機BB内部中遊技」とは、「低確率状態」においてBB役に当選し、且つ、BB役によってAT抽選に当選しており、且つ、BB役が入賞していない状態である。（10）「有利BB状態」とは、「高確率状態」、「AT中状態」、「特化前兆状態」又は「上乗せ特化状態」においてBB役に当選しBB役に対応する図柄組合せが停止表示されたとき、又は、「有利BB内部中遊技」においてBB役に対応する図柄組合せが停止表示されたときに実行される状態、又は、「低確率状態」においてBB役に当選し、且つ、BB役によってAT抽選に当選しており、且つ、BB役に対応する図柄組合せが停止表示されたとき、又は、「待機BB内部中遊技」においてBB役に対応する図柄組み合わせが停止表示された時に実行される状態である。（12）「復活可否演出用状態」とは、ATカウンタ値が0となり、かつ、後述する継続抽選に非当選となった場合に移行するATに関する状態であり。「復活可否演出用状態」においては、後述する復活抽選が実行され、復活抽選に当選した場合には「AT中状態」に移行（ATカウンタに所定値がセットされる）し、復活抽選に非当選となった場合には「低確率状態」に移行することとなる。

【1173】

次に、ステップ1550で、主制御基板MのCPUC100は、後述する、全リールの回転を開始し、ステップ1261-1に移行する。次に、ステップ1261-1で、主制御基板MのCPUC100は、引き込みポイント作成要求（回転している左リールM51、中リールM52、右リールM53の停止位置を決定するために要求され、停止順番や他のリールの停止位置に応じて適宜要求される）があったか否かを判定する。ステップ1261-1でYesの場合、ステップ1262で、主制御基板MのCPUC100は、引き込みポイントを作成し、ステップ1263に移行する。他方、ステップ1261-1でNoの場合にも、ステップ1263に移行する。このように、「BB内部中遊技」においては、押し順ベルに当選したゲームにおいて、停止ボタンを11枚の払出となる正解の押し順にて停止させなかった（例えば、入賞-A1の場合には停止ボタンを「左→中→右」の順で停止させなかった）場合（不正解の押し順にてリールを停止させた場合）にも、リールの停止制御によって11枚の払出となる図柄組み合わせが入賞するよう構成されている。次に、ステップ1263で、主制御基板MのCPUC100は、リール停止受付可否チ

エックを実行する。次に、ステップ1264で、主制御基板MのCPUC100は、いずれかの停止ボタン（左停止ボタンD41、中停止ボタンD42、右停止ボタンD43）の操作があったか否かを判定する。ステップ1264でYesの場合、ステップ1265で、主制御基板MのCPUC100は、操作があった停止ボタンに対応したリール（例えば、左停止ボタンD41には左リールM51が対応）の停止位置を決定する。他方、ステップ1264でNoの場合にも、ステップ1266に移行する。次に、ステップ1266で、主制御基板MのCPUC100は、全リール停止チェック処理を実行する。次に、ステップ1267で、主制御基板MのCPUC100は、すべてのリール（左リールM51、中リールM52、右リールM53）が停止したか否かを判定する。ステップ1267でYesの場合、ステップ1268で、主制御基板MのCPUC100は、RAM内の図柄停止位置データと、内部当選役停止可能位置データとを比較する。次に、ステップ1269で、主制御基板MのCPUC100は、表示された図柄の組み合わせが正常であるか否かを判定する（内部抽選によって決定された入賞可能となる役と一致していなければ異常であると判定される）。尚、ステップ1269における表示された図柄の組み合わせが正常であるか否かの判定は、停止ボタンの操作に基づくリールの停止制御が正常に完了したか否かを判定しており、入賞役に当選しているゲームにて、当該入賞役が入賞可能な操作状態で停止ボタンの操作が実行された場合において、実際に停止したリール位置が正常でなかった（内部抽選によって決定された入賞可能となる役が遊技者からの見た目上では停止表示なかった）場合であっても、遊技機内部の処理によってリールの停止制御が正常に実行完了した場合には、当該入賞役の入賞に基づく遊技メダルの払い出しが実行されるよう構成されている。ステップ1269でYesの場合にはステップ1274に移行する。他方、ステップ1269でNoの場合、ステップ1270で、主制御基板MのCPUC100は、表示判定エラー表示をセットする（例えば、レジスタ領域内にセットする）。次に、ステップ1300で、主制御基板MのCPUC100は、復帰不可能エラー処理を実行する。他方、ステップ1267でNoの場合、ステップ1261-1に移行する。

【1174】

次に、ステップ1274で、主制御基板MのCPUC100は、入賞による遊技メダルの払出処理を実行する。次に、ステップ1275で、主制御基板MのCPUC100は、遊技メダルを払い出す入賞があったか否かを判定する（入賞によって獲得した遊技メダルが、クレジットの最大数（本例では、50）を超過した場合に、遊技メダルの払出が実行される）。ステップ1275でYesの場合、ステップ1276で、主制御基板MのCPUC100は、ホッパ駆動フラグ（ホッパモータH80を駆動している際にオンとするフラグ）をオンにし、遊技メダル1枚の払出を実行する。次に、ステップ1277で、主制御基板MのCPUC100は、第1払出センサH10s又は第2払出センサH20sがオンであるか否かを判定する（第1払出センサH10s又は第2払出センサH20sがオンとなると、遊技メダル1枚の払出動作が行われていると判定する）。ステップ1277でYesの場合にはステップ1286に移行する。

【1175】

他方、ステップ1277でNoの場合、ステップ1279で、主制御基板MのCPUC100は、ホッパ駆動後（ステップ1276の処理のタイミング後）から所定時間（例えば、5秒）経過したか否かを判定する。ステップ1279でYesの場合、ステップ1280で、主制御基板MのCPUC100は、メダル空エラーフラグをオンにする（例えば、RAM領域のメダル空エラーフラグ領域内をオンに相当する値で更新する）。次に、ステップ1281で、主制御基板MのCPUC100は、メダル空エラー表示を7セグLEDで実行する。次に、ステップ1282で、主制御基板MのCPUC100は、メダル空エラーが解除されたか否か（例えば、設定／リセットボタンM30が押下されたか否か）を判定する。ステップ1282でYesの場合、ステップ1283で、主制御基板MのCPUC100は、メダル空エラーフラグをオフにし（例えば、RAM領域のメダル空エラーフラグ領域内をオフに相当する値で更新し）、ステップ1286に移行する。他方、ステップ1282でNoの場合、ステップ1281に移行する。

【1176】

次に、ステップ1286で、主制御基板MのCPUC100は、第1払出センサH10s及び第2払出センサH20sがオフであるか否かを判定する（第1払出センサH10s又は第2払出センサH20sがオンとなった後、第1払出センサH10s及び第2払出センサH20sがオフとなると、払出動作が行われていた1枚の遊技メダルの払出動作が完了したと判定する）。ステップ1286でYesの場合、ステップ1288で、主制御基板MのCPUC100は、ホッパ駆動フラグをオフにし、ステップ1290に移行する。尚、ステップ1279又はステップ1286でNoの場合には、ステップ1277に移行する。次に、ステップ1290で、主制御基板MのCPUC100は、当該入賞（ステップ1275でYesとなった入賞）に対応した払出が完了したか否かを判定する。ステップ1290でYesの場合にはステップ3400に移行する。尚、ステップ1286でNoの場合には、ステップ1277に移行し、ステップ1275でNoの場合には、ステップ3400に移行し、ステップ1290でNoの場合には、ステップ1276に移行する。

10

【1177】

次に、ステップ3400で、主制御基板MのCPUC100は、後述する、残りゲーム数管理処理を実行する。次に、ステップ1700で、主制御基板MのCPUC100は、後述する、RT状態移行制御処理を実行する。次に、ステップ1750で、主制御基板MのCPUC100は、後述する、AT状態開始制御処理を実行する。次に、ステップ3500で、主制御基板MのCPUC100は、後述する、遊技区間移行制御処理を実行する。次に、ステップ1293で、主制御基板MのCPUC100は、遊技終了処理（例えば、ベット数のクリア、遊技状態の移行処理等）を実行し、次の処理（ステップ1202の処理）に移行する。

20

【1178】

次に、図212は、本実施形態における、図211のステップ3600のサブルーチンに係る、内部抽選実行処理のフローチャートである。まず、ステップ3602で、主制御基板MのCPUC100は、内部抽選テーブル（当選番号や取得した乱数と比較するための置数等が記憶されている、内部抽選を実行する際に用いるテーブル）をセットし、ステップ3604に移行する。次に、ステップ3604で、主制御基板MのCPUC100は、セットされている内部抽選テーブルアドレスに係る当選番号を取得する。尚、当選番号から入賞・再遊技当選情報を生成することができる。また、ボーナスと小役とが重複して当選したり、ボーナスと再遊技役とが重複して当選したりした場合には、当選番号から入賞・再遊技当選情報とボーナス当選情報との双方の当選情報を生成することができる。具体的な生成の処理については、後述する。次に、ステップ3606で、主制御基板MのCPUC100は、セットされている内部抽選テーブルアドレスに係る繰り返し回数を取得する。ここで、繰り返し回数とは、出玉グループ番号が同一であり、且つ、取得した乱数と比較するための置数が同一である連続した当選番号の数であり、主制御基板MのROMに予め記憶されている。例えば、出玉グループ番号2は、当選番号4～12の9個の当選番号が含まれており、押し順再遊技役である当選番号4～6の連続する3個については前記置数が同一となっており、押し順ベル役である当選番号7～12の連続する6個については前記置数が同一となっているため、押し順再遊技役に係る繰り返し回数は3となり、押し順ベル役に係る繰り返し回数は6となる。尚、押し順再遊技役である当選番号4～6を取得した際に用いる抽選テーブルと押し順ベル役である当選番号7～12を取得した際に用いる抽選テーブルとは単一の抽選テーブルとして構成されている。次に、ステップ3608で、主制御基板MのCPUC100は、セットされている内部抽選テーブルアドレスに係る出玉グループ番号を取得し、ステップ3610に移行する。

30

40

【1179】

次に、ステップ3610で、主制御基板MのCPUC100は、設定値データを取得する。次に、ステップ3612で、主制御基板MのCPUC100は、指定アドレスデータを取得する。次に、ステップ3614で、主制御基板MのCPUC100は、内部抽選に当選したか否か（取得した乱数が今回検索した内部抽選テーブル内に存在したか否か）を

50

判定する。ステップ3614でYesの場合には、内部抽選に当選したと判定したため、その後の内部抽選テーブルアドレスに関しては判定（抽選）を実行せずに、次の処理（ステップ1259の処理）に移行する。他方、ステップ3614でNoの場合、ステップ3616で、主制御基板MのCPUC100は、繰り返し回数を更新する。次に、ステップ3618で、主制御基板MのCPUC100は、残っている繰り返し回数があるか否かを判定する。ステップ3618でYesの場合、ステップ3610に移行し、残っている繰り返し回数がなくなる又は内部抽選に当選するまで、ステップ3610～ステップ3618の処理を繰り返し実行する。尚、ステップ3618でNoの場合、ステップ3620で、主制御基板MのCPUC100は、内部抽選テーブルアドレスを更新（次の出玉グループ番号に係るアドレスに更新）し、ステップ3604に移行してステップ3604以降の処理を実行する。尚、内部抽選の具体的な処理については後述することとなる。

【1180】

次に、図213は、本実施形態における、図211のステップ1500のサブルーチンに係る、ゲーム数上乘せ実行処理のフローチャートである。まず、ステップ1502で、主制御基板MのCPUC100は、ATに関する状態は「AT中状態」、「特化前兆状態」又は「上乘せ特化状態」であるか否かを判定する。ステップ1502でYesの場合、ステップ1504で、主制御基板MのCPUC100は、当該ゲームに係る出玉グループ番号はAT中上乘せ役（「AT中状態」において、残りATゲーム数を上乘せし得る当選番号であり、本例では、再遊技-B、再遊技-C、入賞-Dとなっている）に関する出玉グループ番号（本例では、1、3）であるか否かを判定する。ステップ1504でYesの場合にはステップ1514に移行する。また、ステップ1502でNoの場合、換言すると、ATに関する状態が有利BB状態であった場合、ステップ1512で、主制御基板MのCPUC100は、当該ゲームに関する出玉グループ番号はBB中上乘せ役（「有利BB状態」において、残りATゲーム数を上乘せし得る当選番号であり、本例では、入賞-H、入賞-I）に関する出玉グループ番号（本例では、5、6）であるか否かを判定する。ステップ1512でYesの場合には、ステップ1514に移行し、ステップ1512でNoの場合には、ステップ1518に移行する。また、ステップ1504でNoの場合、ステップ1506で、主制御基板MのCPUC100は、ATに関する状態は「上乘せ特化状態」であるか否かを判定する。ステップ1506でYesの場合、ステップ1508で、主制御基板MのCPUC100は、当該ゲームに関する出玉グループ番号は特化中上乘せ役（「上乘せ特化状態」において、残りATゲーム数を上乘せし得る且つ「AT中状態」においては残りATゲーム数を上乘せしない当選番号であり、本例では、再遊技-A、再遊技-D1～D3、入賞-A1～A6となっている）に関する出玉グループ番号（本例では、2、13）であるか否かを判定する。ステップ1508でYesの場合、ステップ1514に移行する。尚、ステップ1506又はステップ1508でNoの場合にはステップ1518に移行する。

【1181】

次に、ステップ1514で、主制御基板MのCPUC100は、当選時上乘せゲーム数抽選テーブルを参照し、当該ゲームに係る出玉グループ番号に基づいてAT上乘せゲーム数を決定する（例えば、欄外にて示す抽選テーブルにおいて、ラッチした乱数値がいずれの範囲内に収まっているか否かで判定する）。尚、AT上乘せゲーム数を決定することを、AT上乘せ抽選を実行するとも称する。次に、ステップ1516で、主制御基板MのCPUC100は、当該決定したAT上乘せゲーム数をATカウンタM60のカウンタ値に加算し、当該加算後のATカウンタ値をATカウンタM60にセットする。次に、ステップ1517で、主制御基板MのCPUC100は、当該決定したAT上乘せゲーム数に係るコマンド（副制御基板S側へのコマンドであり、副制御基板Sは当該コマンドを受信することにより、ATゲーム数上乘せが実行されたか否かと上乘せゲーム数が何ゲームであるかを認識することができる）をセットし、ステップ1518に移行する。尚、ボーナスが含まれる当選番号（当選番号19～27）に係る出玉グループ番号である、出玉グループ番号7～11の場合にもATに関する抽選（AT抽選、AT上乘せ抽選）が実行され得

る。

【1182】

ここで、同図欄外にて示す抽選テーブルは、当選時上乗せゲーム数抽選テーブルの一例であり、本実施形態においては、押し順ナビが実行されるATに関する状態の一部（本例では、「AT中状態」、「特化前兆状態」、「上乗せ特化状態」、「有利BB状態」）にて当選時上乗せ役が当選した場合には、当該ゲームに係る出玉グループ番号に基づいて、AT上乗せゲーム数は「0」～「300」が抽選によって決定され、当該決定された値がATカウンタM60のカウンタ値に加算されることとなる。尚、「0」が決定された場合にはAT残りゲーム数は増加しないこととなる（「0」が決定された場合には、AT上乗せ抽選に非当選と称することがある）。

10

【1183】

また、当選時上乗せ役に当選した場合のAT上乗せゲーム数の平均値（期待値）は、図示されるような値となっており、具体的な算出方法としては、当選役がスイカAである場合には、 $\{置数(600) \times AT上乗せゲーム数(0) + 置数(100) \times AT上乗せゲーム数(10) + 置数(300) \times AT上乗せゲーム数(30) + 置数(24) \times AT上乗せゲーム数(100)\} / 置数の総数(1024) = 12.1$ （ゲーム）、のようにして算出することができる。

【1184】

次に、当選役が再遊技 - B又は再遊技 - Cである場合には、 $\{置数(500) \times AT上乗せゲーム数(0) + 置数(200) \times AT上乗せゲーム数(50) + 置数(300) \times AT上乗せゲーム数(100) + 置数(24) \times AT上乗せゲーム数(300)\} / 置数の総数(1024) = 46.1$ （ゲーム）、のようにして算出することができる。

20

【1185】

次に、当選役が再遊技 - A又は再遊技 - D1～D3、入賞 - A1～A6である場合には、 $\{置数(300) \times AT上乗せゲーム数(10) + 置数(600) \times AT上乗せゲーム数(30) + 置数(124) \times AT上乗せゲーム数(50)\} / 置数の総数(1024) = 26.61$ （ゲーム）、のようにして算出することができる。尚、当選役が再遊技 - A又は再遊技 - D1～D3、入賞 - A1～A6である場合にATゲーム数が上乗せされるのはATに関する状態が「上乗せ特化状態」である場合のみとなっている。

【1186】

次に、当選役がBB中弱レア役である場合には、 $\{置数(800) \times AT上乗せゲーム数(0) + 置数(100) \times AT上乗せゲーム数(10) + 置数(100) \times AT上乗せゲーム数(30) + 置数(24) \times AT上乗せゲーム数(100)\} / 置数の総数(1024) = 6.3$ （ゲーム）、のようにして算出することができる。

30

【1187】

次に、当選役がBB中強レア役である場合には、 $\{置数(300) \times AT上乗せゲーム数(0) + 置数(300) \times AT上乗せゲーム数(30) + 置数(400) \times AT上乗せゲーム数(50) + 置数(24) \times AT上乗せゲーム数(300)\} / 置数の総数(1024) = 35.4$ （ゲーム）、のようにして算出することができる。

【1188】

尚、本実施形態においては、AT上乗せ抽選を実行した場合には、当選役の種類によってAT上乗せゲーム数の平均値が相違し得るよう構成されているが、設定値によってはAT上乗せゲーム数の平均値は相違しないよう構成されている。ここで、当選番号に基づいてAT上乗せ抽選を実行するよう構成する場合には、例えば、当選番号7と当選番号8とでAT上乗せ抽選として同一の処理を実行する場合、当選番号が7であるか8であるかを判断する処理を実行しなければならないが、本実施形態のように、出玉グループ番号に基づいてAT上乗せ抽選を実行するよう構成することにより、当選番号7と当選番号8とでAT上乗せ抽選として同一の処理を実行する場合には、出玉グループ番号が2であるかを判断するのみで当選番号7と当選番号8とのいずれのAT上乗せ抽選に関する処理も実行することができることとなる。

40

50

【1189】

フローチャートの説明に戻ると、次に、ステップ1518で、主制御基板MのCPUC100は、当該ゲームに係る当選番号（又は入賞・再遊技当選情報、又は出玉グループ番号、等で判断してもよい）は再遊技-B（逆押しで停止させることによって無効ラインに白セブンが一直線になり得る再遊技である逆押し白7リプレイ）に関する当選番号であるか否かを判定する。ステップ1518でYesの場合、ステップ1520で、主制御基板MのCPUC100は、再遊技-BによるATゲーム数上乘せがあったか否か、換言すると、再遊技-Bに当選したことによるAT上乘せゲーム数は0ではなかったか否かを判定する。ステップ1520でYesの場合、ステップ1522で、主制御基板MのCPUC100は、逆押し指示コマンド（副制御基板S側へのコマンドであり、逆押し（「右→中→左」）にて無効ラインに白セブンを揃えるよう指示する演出を実行することとなる）をセットし、ステップ1526に移行する。他方、ステップ1520でNoの場合、ステップ1524で、主制御基板MのCPUC100は、逆押し回避コマンド（副制御基板S側へのコマンドであり、逆押し（「右→中→左」）以外の押し順を指示し、無効ラインに白セブンを揃えないようにする演出を実行することとなる）をセットし、ステップ1526に移行する。尚、ステップ1518でNoの場合にも、ステップ1526に移行する。次に、ステップ1526で、主制御基板MのCPUC100は、当該ゲームに係る当選番号（又は入賞・再遊技当選情報、又は出玉グループ番号、等で判断してもよい）は再遊技-C（順押しで停止させることによって無効ラインに黒セブンが一直線になり得る再遊技である順押し黒7リプレイ）であるか否かを判定する。ステップ1526でYesの場合、ステップ1528で、主制御基板MのCPUC100は、再遊技-CによるATゲーム数上乘せがあったか否か、換言すると、再遊技-Cに当選したことによるAT上乘せゲーム数は0ではなかったか否かを判定する。ステップ1528でYesの場合、ステップ1530で、主制御基板MのCPUC100は、順押し指示コマンド（副制御基板S側へのコマンドであり、順押し（「左→中→右」）にて無効ラインに黒セブンを揃えるよう指示する演出を実行することとなる）をセットし、次の処理（ステップ1400の処理）に移行する。他方、ステップ1528でNoの場合、ステップ1532で、主制御基板MのCPUC100は、順押し回避コマンド（副制御基板S側へのコマンドであり、順押し（「左→中→右」）以外の押し順を指示し、無効ラインに黒セブンを揃えないようにする演出を実行することとなる）をセットし、次の処理（ステップ1400の処理）に移行する。尚、ステップ1526でNoの場合にも、次の処理（ステップ1400の処理）に移行する。尚、本実施形態においては、逆押し指示コマンド、逆押し回避コマンド、順押し指示コマンド、順押し回避コマンドを副制御基板Sに送信し、副制御基板Sがこれらコマンドを受信することによって、副制御基板S側にて押し順ナビに関する演出を実行し得るよう構成したが、これには限定されず、AT上乘せ抽選に当選した場合に、AT上乘せ抽選に当選した旨及びAT上乘せゲーム数に係るコマンド（例えば、ステップ1517の処理に係るAT上乘せゲーム数に係るコマンド）を副制御基板S側に送信し、副制御基板S側が当該コマンドを受信した場合に、副制御基板S側で押し順ナビに関する演出の実行タイミングや演出態様を決定するよう構成してもよい。一例としては、再遊技-Bが当選した遊技であって、副制御基板S側で前記コマンドを受信したゲーム（ATゲーム数上乘せがあるゲーム）にて逆押しを指示する演出態様を選択して実行するよう構成してもよいし、副制御基板S側で前記コマンドを受信したゲームでは逆押しを指示する演出を実行せず、その後の所定条件（例えば、特定の再遊技役（例えば、再遊技-B又はC）に当選した）を充足したゲームにて無効ラインにて7揃いが可能な押し順を指示する演出を実行するよう構成してもよい。又は、再遊技-Bが当選した遊技であって、副制御基板S側で前記コマンドを受信したゲーム（ATゲーム数の上乘せがあるゲーム）では、逆押しを指示する演出を実行せず、その後の所定条件（例えば、所定ゲーム数後（同時に連続演出を実行しても良く、その場合には連続演出の最終ゲーム）を充足したゲームにてATゲーム数上乘せ演出（演出表示装置S40にて表示されるAT残りゲーム数に係る表示が増加する演出であり、例えば、「+30G」と表示）を実行しても良い。尚、本例においては、演出表示装

10

20

30

40

50

置 S 4 0 においても、A T 残りゲーム数に係る表示を表示し得るよう構成されており、当該表示と主制御基板側で記憶している A T 残りゲーム数とは同一であってもよいし、相違していてもよい。尚、再遊技 - B が当選した遊技であって、副制御基板 S 側で前記コマンドを受信したゲーム（A T ゲーム数の上乘せがあるゲーム）で、逆押しを指示する演出を実行せず、その後の所定条件を充足したゲームにて A T ゲーム数上乘せ演出を実行する場合の例としては、副制御基板 S 側でボーナスの当選を煽る特別な演出（例えば、所定の連続演出）を実行しているとき（ボーナス内部中では再遊技 - B の当選確率が低い（0 % も含む）ため、7 揃いが可能な押し順を報知してしまうとボーナス当選していないことが遊技者に認識されてしまう）等、副制御基板 S 側が特別な演出を実行しているときが挙げられる。尚、主制御基板 M 側にて A T 上乘せ抽選に当選し、A T 残りゲーム数の上乘せがあったことを副制御基板 S 側が判断する情報としては、（1）A T 残りゲーム数に関する情報を A T 上乘せ抽選後に主制御基板 M 側から副制御基板 S 側に送信する。その後、副制御基板 S 側で、前回送信された A T 残りゲーム数に関する情報と今回送信された A T 残りゲーム数に関する情報との差分を算出し、A T 上乘せ抽選で当選した A T 上乘せゲーム数を把握する、（2）主制御基板 M 側の A T 上乘せ抽選の結果として得られた A T 上乘せゲーム数に関するコマンドを副制御基板 S 側に送信する。また、A T 上乘せ抽選に当選しなかった場合には、A T 上乘せ抽選に当選しなかった旨に係るコマンドを副制御基板 S 側に送信し、副制御基板 S 側が当該コマンドを受信した場合に、副制御基板 S 側で押し順ナビに関する演出の演出態様を決定するよう構成してもよい。一例としては、再遊技 - B が当選した遊技であって、副制御基板 S 側で前記コマンドを受信したゲーム（A T ゲーム数上乘せがなかったゲーム）にて中押し（第 1 停止として中停止ボタンを操作することであり、7 揃いを回避する押し順）を指示する演出態様を選択して実行するよう構成してもよい。尚、主制御基板 M 側にて A T 上乘せ抽選が実行されたが、A T 残りゲーム数の上乘せがなかったことを副制御基板 S 側が判断する情報としては、（1）A T 残りゲーム数に関する情報を A T 上乘せ抽選後に主制御基板 M 側から副制御基板 S 側に送信する。その後、副制御基板 S 側で、前回送信された A T 残りゲーム数に関する情報と今回送信された A T 残りゲーム数に関する情報との差分を算出し、A T 上乘せ抽選で当選した A T 上乘せゲーム数を把握する（前回送信された A T 残りゲーム数に関する情報から今回送信された A T 残りゲーム数に関する情報を減算した値が 1 である場合に A T 上乘せ抽選に当選しなかったと判断する）、（2）主制御基板 M 側の A T 上乘せ抽選の結果として A T 上乘せゲーム数が 0 ゲームである旨に関するコマンドを副制御基板 S 側に送信する。

【1190】

次に、図 2 1 4 は、本実施形態における、図 2 1 1 のステップ 1 4 0 0 のサブルーチンに係る、A T 状態移行制御処理のフローチャート（1 枚目）である。まず、ステップ 1 4 0 2 で、主制御基板 M の C P U C 1 0 0 は、現在の A T に関する状態は、A T 抽選を実行可能な A T に関する状態であるか否かを判定する。尚、本実施形態においては、A T 抽選を実行可能な A T に関する状態は、「高確率状態」のみとなっており、「高確率状態」にて B B に当選することにより「有利 B B 内部中遊技」に移行し、その後 B B 役が入賞することにより、「有利 B B 状態」に移行し、実行された B B が終了することにより、「A T 中状態」に移行すると共に、A T カウンタに A T ゲーム数の初期値である 5 0 回がセットされることとなる。尚、「低確率状態」にて B B に当選しても、「通常 B B 内部中遊技」に移行して、その後「A T 中状態」には移行しない。尚、これには限定されず、「通常遊技状態」にて B B に当選した場合に B B 役を契機として A T 抽選に当選し得るよう構成してもよい。そのように構成した場合には、「通常遊技状態」にて B B に当選した場合に B B 役を契機として A T 抽選に当選した場合には、「有利 B B 内部中遊技」に移行し、その後 B B を揃えることで「有利 B B 状態」に移行することとなる。尚、「通常遊技状態」にて B B に当選し、且つ、B B を揃えていない内部中の状態においては、遊技区間を「有利区間」としてもよいし、「待機区間」としてもよい。ステップ 1 4 0 2 で Y e s の場合、ステップ 1 4 0 4 で、主制御基板 M の C P U C 1 0 0 は、当該ゲームに係る条件装置は A T 抽選役（本例では、設定差なし B B 役である第 1 種 B B - A 又は第 1 種 B B - C）であ

るか否かを判定する。尚、本実施形態においては、設定差なしBB単独の当選番号（当選番号19、24）と設定差なしBBと小役が重複している当選番号（当選番号、25、26、27）とのいずれもがAT抽選役となっている。ステップ1404でYesの場合、ステップ1406で、主制御基板MのCPUC100は、次ゲーム以降のATに関する状態を「有利BB内部中遊技」に決定し、ステップ1410に移行する。また、ステップ1402又はステップ1404でNoの場合にも、ステップ1410に移行する。尚、本実施形態においてはATに関する状態が相違した場合にAT抽選に係るAT当選率（当選し得るか当選しないか）が相違するよう構成されているが、ATに関する状態が同一である場合には、設定値が相違してもAT抽選に係るAT当選率は同一となっている（「高確率状態」にてBBに当選した場合には設定値に拘らず必ずATに当選する＝その後「AT中状態」に移行する）。

10

【1191】

次に、ステップ1410で、主制御基板MのCPUC100は、次ゲーム以降のATに関する状態が決定されていないか否かを判定する。ステップ1410でYesの場合、ステップ1412で、主制御基板MのCPUC100は、現在のATに関する状態は「低確率状態」であるか否かを判定する。ステップ1412でYesの場合、ステップ1414で、主制御基板MのCPUC100は、当該ゲームに係る条件装置は状態昇格役（当選することによって「低確率状態」から「高確率状態」に移行し得る小役であり、本例では、チェリー）であるか否かを判定する。ステップ1414でYesの場合、ステップ1416で、主制御基板MのCPUC100は、所定確率（本例では、1／2であり、設定値によって相違していなければ変更しても問題ない）にて当選する高確率状態移行抽選を実行する。次に、ステップ1418で、主制御基板MのCPUC100は、当該実行した高確率状態移行抽選に当選したか否かを判定する。ステップ1418でYesの場合、ステップ1420で、主制御基板MのCPUC100は、次ゲーム以降のATに関する状態を「高確率状態」に決定し、ステップ1430に移行する。

20

【1192】

また、ステップ1412でNoの場合、ステップ1424で、主制御基板MのCPUC100は、現在のATに関する状態は「高確率状態」であるか否かを判定する。ステップ1424でYesの場合、ステップ1426で、主制御基板MのCPUC100は、高確保障カウンタKHcのカウンタ値が1（高確保障最終ゲームであり、「高確率状態」となってから10ゲーム目）であるか否かを判定する。ステップ1426でYesの場合、ステップ1428で、主制御基板MのCPUC100は、低確率移行条件を充足しているか否かを判定する。ここで、本実施形態においては、ATに関する状態が「高確率状態」である場合には遊技区間が「有利区間」となっており、遊技区間が「有利区間」である場合には、押し順ナビが1回以上実行される、又は、所定ゲーム数（本例では、1500ゲーム）「有利区間」が継続することを充足しなければ「有利区間」が終了しないよう構成されている（即ち、低確率状態移行抽選に当選したとしても、押し順ナビが1回以上実行されていない等により低確率移行条件を充足していない場合には、「高確率状態」が終了しないよう構成されている）。尚、「有利区間」中にBB役が当選し、BBを実行した場合には、「有利区間」にて押し順ナビを1回も実行していなくても「有利区間」を任意のタイミングで終了し得るように構成されていてもよい。ステップ1428でYesの場合、ステップ1429で、主制御基板MのCPUC100は、次ゲーム以降のATに関する状態を「低確率状態」に決定し、ステップ1430に移行する。ここで、低確率移行条件は、押し順ナビが1回実行されたことで充足する。尚、押し順役（リール停止順によって入賞する役が相違し、遊技者の利益率が相違する当選番号）として、最大払出枚数が8枚の役と最大払出枚数が11枚の役とを設けた場合には、最大払出枚数が多い最大払出枚数が11枚の役の押し順ナビが1回実行されたことを低確率移行条件としてもよい。尚、ステップ1410、ステップ1414、ステップ1418、ステップ1424、ステップ1426又はステップ1428でNoの場合にもステップ1430に移行する。このように、本実施形態においては、新たに「高確率状態」に移行した場合には、高確保障カウンタK

30

40

50

Hcに高確保障ゲームである10ゲームをセットし、当該カウンタ値が0となるまでは「低確率状態」に移行しないよう構成されている。尚、このような抽選方式はあくまで一例であり、例えば、「高確率状態」に移行してから10ゲーム間は低確率状態移行抽選を実行せず（「高確率状態」の滞在が保障される）、当該10ゲーム経過後から毎ゲームで所定の確率（例えば、 $1/20$ ）で「高確率状態」から「低確率状態」に移行する抽選を実行するよう構成してもよい。尚、AT抽選役（低確AT抽選役、高確AT抽選役）、状態昇格役は、全設定値において同一の当選確率となっている。

【1193】

次に、図215は、本実施形態における、図211のステップ1400のサブルーチンに係る、AT状態移行制御処理のフローチャート（2枚目）である。まず、ステップ1430で、主制御基板MのCPU100は、現在のATに関する状態は「AT中状態」であるか否かを判定する。ステップ1430でYesの場合、ステップ1431で、主制御基板MのCPU100は、ATカウンタM60のカウンタ値は所定値（本例では、4）以上であるか否かを判定する。ここで、本実施形態においては、ATに関する状態が「AT中状態」である場合において、ATカウンタ値が4以上である、換言するとAT残りゲーム数が4ゲーム以上である場合においては、スイカBに当選した際の $1/2$ の確率で「上乗せ特化状態」への移行権利を獲得し、「特化前兆状態」に移行し得る一方、ATに関する状態が「AT中状態」である場合において、ATカウンタ値が3以下である、換言するとAT残りゲーム数が3ゲーム以下である場合においては、スイカBに当選しても「上乗せ特化状態」への移行権利を獲得する抽選（特化状態移行抽選とも称することがある）を実行せず、「特化前兆状態」及び「上乗せ特化状態」に移行しないよう構成されている。尚、これには限定されず、ATカウンタ値が3以下である場合であっても、スイカBに当選して「上乗せ特化状態」への移行権利を獲得する抽選（特化状態移行抽選とも称することがある）を実行し得るよう構成してもよく、そのように構成し、ATカウンタ値が3以下である状況にてスイカBに当選して「上乗せ特化状態」への移行権利を獲得する抽選に当選した場合には、当該抽選に当選した次ゲームから「特化前兆状態」又は「上乗せ特化状態」となり得る（に移行し得る）よう構成してもよいし、ATカウンタ値が所定値（例えば、1又は0）となったときに「特化前兆状態」又は「上乗せ特化状態」となり得る（に移行し得る）よう構成してもよいし、当該抽選に当選した遊技から所定数の遊技の実行後に「特化前兆状態」又は「上乗せ特化状態」となり得る（に移行し得る）よう構成してもよい。また、「上乗せ特化状態」に移行する場合には、必ずしも「特化前兆状態」を経由する必要はなく、例えば、「AT中状態」から「上乗せ特化状態」に直接移行し得るよう構成してもよい。ステップ1431でYesの場合、ステップ1432で、主制御基板MのCPU100は、当該ゲームに係る条件装置は特化移行役（「上乗せ特化状態」への移行権利を獲得する抽選を実行し得る小役であり、本例では、スイカB）であるか否かを判定する。ステップ1432でYesの場合、ステップ1433で、主制御基板MのCPU100は、所定確率（本例では、 $1/2$ ）で当選する特化状態移行抽選を実行する。次に、ステップ1434で、主制御基板MのCPU100は、当該実行した特化状態移行抽選に当選したか否かを判定する。ステップ1434でYesの場合、ステップ1435で、主制御基板MのCPU100は、次ゲーム以降のATに関する状態を「特化前兆状態」に決定し、ステップ1444-1に移行する。他方、ステップ1431でNoの場合、ステップ1436で、主制御基板MのCPU100は、ATカウンタM60のカウンタ値が1（ATカウンタ値が1の場合はAT最終ゲームとなる）であるか否かを判定する。ステップ1436でYesの場合、ステップ1437で、主制御基板MのCPU100は、所定確率（本例では、 $2/3$ ）で当選する継続抽選を実行する。次に、ステップ1438で、主制御基板MのCPU100は、当該実行した継続抽選に当選したか否かを判定する。ステップ1438でYesの場合、ステップ1439で、主制御基板MのCPU100は、次ゲーム以降のATに関する状態を「AT中状態」に決定し、ステップ1444-1に移行する（AT状態移行可能条件を充足するためATカウンタにAT初期ゲーム数（本例では、50）がセットされることになる）。他方、ステップ1438で

10

20

30

40

50

N o の場合、ステップ 1 4 4 3 で、主制御基板 M の C P U C 1 0 0 は、次ゲーム以降の A T に関する状態を「復活可否演出用状態」に決定し、ステップ 1 4 4 4 - 1 に移行する。尚、ステップ 1 4 3 0、ステップ 1 4 3 2、ステップ 1 4 3 4 又はステップ 1 4 3 6 で N o の場合にも、ステップ 1 4 4 4 - 1 に移行する。このように、本実施形態においては、A T 最終ゲームにて継続抽選を実行し、継続抽選に当選した場合には、再度 A T カウンタ M 6 0 に初期値である 5 0 ゲームがセットされる。即ち、A T ゲーム数上乗せを考慮しない場合、1 セットあたり 5 0 ゲームの A T が 2 / 3 でループし続ける遊技性となっている。尚、継続抽選の実行タイミングは A T 最終ゲームには限定されず、例えば、A T の最初のゲーム（新たに「A T 中状態」となった最初のゲームや A T カウンタ M 6 0 に初期値がセットされてから最初のゲーム）に継続抽選を実行するよう構成してもよい。そのように構成することにより、「A T 中状態」にてすでに次のセット（継続抽選の当選に係る A T）が実行されるか否か（A T が継続するか否か）が決定されているため、継続抽選に当選している場合と継続抽選に当選しなかった場合とで A T 中の演出を相違させることができ、例えば、継続抽選に当選している場合には、A T カウンタ M 6 0 のカウンタ値が 1 以上の状況（A T の実行途中）にて B G M を変更（歌が流れる、等）したり、継続抽選に当選していることが確定的となる演出を実行することができる。

【1 1 9 4】

次に、図 2 1 6 は、本実施形態における、図 2 1 1 のステップ 1 4 0 0 のサブルーチンに係る、A T 状態移行制御処理のフローチャート（3 枚目）である。まず、ステップ 1 4 4 4 - 1 で、主制御基板 M の C P U C 1 0 0 は、現在の A T に関する状態は復活可否演出用状態であるか否かを判定する。ステップ 1 4 4 4 - 1 で Y e s の場合、ステップ 1 4 4 4 - 2 で、主制御基板 M の C P U C 1 0 0 は、当該ゲームに関する条件装置は復活役（「復活可否演出用状態」にて当選することにより次のゲームにて「A T 中状態」に移行可能となる役、換言すると、A T を引き戻せる役）であるか否かを判定する。ここで、本実施形態においては復活役は、スイカ A、スイカ B、チェリー、ボーナス役（設定差なし B B 役のみであり、設定差あり B B 役は含まない）のいずれかが含まれている役となっており、当該ゲームに関する条件装置が復活役となった場合を、復活抽選に当選すると称している。ステップ 1 4 4 4 - 2 で Y e s の場合、ステップ 1 4 4 4 - 3 で、主制御基板 M の C P U C 1 0 0 は、次ゲーム以降の A T に関する状態を「A T 中状態」に決定し、ステップ 1 4 4 5 に移行する。ここで、A T 状態移行可能条件を充足するため A T カウンタに A T 初期ゲーム数（本例では、5 0）がセットされることとなる。他方、ステップ 1 4 4 4 - 2 で N o の場合、ステップ 1 4 4 4 - 4 で、主制御基板 M の C P U C 1 0 0 は、次ゲーム以降の A T に関する状態を「低確率状態」に決定し、ステップ 1 4 4 5 に移行する。尚、ステップ 1 4 4 1 - 1 で N o の場合にも、ステップ 1 4 4 5 に移行する。このように、本実施形態においては、A T 最終ゲームとなり、かつ、継続抽選に非当選となった場合においても「復活可否演出用状態」に移行し、当該「復活可否演出用状態」にて復活抽選に当選することができれば、次のゲームから「A T 中状態」に移行するよう構成されている。尚、「復活可否演出用状態」は「有利区間」となっているが、「A T 中状態」における A T に関する抽選（A T 上乗せ抽選、継続抽選、等）は実行されず、復活抽選を実行可能に構成されており、「A T 中状態」と「復活可否演出用状態」とでは A T に関する抽選の実行態様が相違している。

【1 1 9 5】

次に、ステップ 1 4 4 5 で、主制御基板 M の C P U C 1 0 0 は、次ゲーム以降の A T に関する状態が決定されていないか否かを判定する。ステップ 1 4 4 5 で Y e s の場合、ステップ 1 4 4 6 で、主制御基板 M の C P U C 1 0 0 は、A T に関する状態の移行条件を充足したか否かを判定する（例えば、図 2 2 3 にて示されるように、「特化前兆状態」にて前兆ゲーム数である 1 0 ゲームを消化した場合に充足する）。ステップ 1 4 4 6 で Y e s の場合、ステップ 1 4 4 7 で、主制御基板 M の C P U C 1 0 0 は、次ゲーム以降の A T に関する状態を決定し、ステップ 1 4 4 8 に移行する（例えば、図 2 2 3 にて示されるように、「特化前兆状態」にて前兆ゲーム数を消化した場合には「上乗せ特化状態」に決定）

。尚、ステップ1445又はステップ1446でN oの場合にも、ステップ1448に移行する。次に、ステップ1448で、主制御基板MのCPU C100は、高確保障カウンタ値コマンド（本例では、サブ側へのコマンドであり、現在の高確保障カウンタ値、換言すると、高確率状態が保障されている残りのゲーム数に係るコマンド）をセットし、ステップ1449-1に移行する。次に、ステップ1449-1で、主制御基板MのCPU C100は、次ゲーム以降のATに関する状態は「有利BB内部中遊技」に決定するか否かを判定する。ステップ1449-1でY e sの場合、ステップ1449-2で、主制御基板MのCPU C100は、高確保障カウンタKH cのカウンタ値をゼロクリアし、次の処理（ステップ1450の処理）に移行する。尚、ステップ1499-1でN oの場合にも、次の処理（ステップ1450の処理）に移行する。

【1196】

尚、本実施形態においては、抽選状態によってAT当選率が相違するよう構成されており、「低確率状態」にてBB役（設定差なしBB役）に当選した場合にはAT移行抽選に当選しない（その後「AT中状態」に移行しない）一方、「高確率状態」にてBB役（設定差なしBB役）に当選した場合にはAT移行抽選に当選する（その後「AT中状態」に移行する）よう構成したが、これには限定されず、所定の条件装置である条件装置AをAT抽選役とし、「有利区間」であるATに関する状態として「高確率状態A」と「高確率状態B」とを有するよう構成した場合に、「高確率状態A」にて条件装置Aに当選した場合には1/10でAT移行抽選に当選し、「高確率状態B」にて条件装置Aに当選した場合には1/2でAT移行抽選に当選するよう構成してもよい。尚、AT移行抽選に当選した場合には、ATに関する状態として「AT中状態」へ移行するまでの準備状態である「AT準備状態」に移行し、その後所定の終了条件（例えば、「AT準備状態」に移行してから10ゲーム経過）を充足した場合に「AT中状態」に移行するよう構成してもよい。

【1197】

次に、図217は、本実施形態における、図211のステップ1450のサブルーチンに係る、条件装置番号管理処理のフローチャートである。まず、ステップ1451で、主制御基板MのCPU C100は、現在の遊技区間は「有利区間」であるか否かを判定する。ステップ1451でY e sの場合、ステップ1452で、主制御基板MのCPU C100は、入賞・再遊技当選情報に係るコマンド（副制御基板S側のコマンドであり、例えば、当該ゲームに係る入賞・再遊技当選情報に係るコマンド）をセットする。次に、ステップ1454で、主制御基板MのCPU C100は、当該ゲームに係る条件装置は押し順あり役（押し順によって入賞する役が相違する条件装置であり、例えば、入賞-A1等）であるか否かを判定する。ステップ1454でY e sの場合、ステップ1458で、主制御基板MのCPU C100は、当該ゲームに係る入賞・再遊技当選情報に基づき、当該ゲーム中における指示番号（押し順番号とも称す）を決定し、指示番号を記憶するためのRAMアドレス（押し順ナビを表示するためRAMアドレスとは異なるアドレス）に記憶する。尚、指示番号とは押し順に係る情報であり、本例においては、主制御基板Mが決定し、副制御基板Sに送信されることとなる（詳細は後述する）。また、副制御基板Sは当該指示番号を受信することにより演出表示装置S40上で押し順ナビを表示することができることとなる。尚、押し順ナビを実行しない場合にも指示番号が決定（不図示であるが指示番号をクリアすることに基づいて指示番号が初期値となる）されるよう構成されている。尚、押し順当てゲームを実行する場合には、押し順当てゲーム専用の所定の指示番号（例えば、AX）を決定するよう構成してもよい。次に、ステップ1460で、主制御基板MのCPU C100は、当該ゲームに係る指示番号に基づいて押し順表示装置D270にて押し順ナビ表示を実行する（主制御基板側の押し順ナビ表示の表示イメージは図227を参照）。次に、ステップ1466で、主制御基板MのCPU C100は、ステップ1458で決定した指示番号に係るコマンド（サブ側へのコマンド）をセット（例えば、レジスタ領域内にセット）し、ステップ1472に移行する（副制御基板側の押し順ナビ表示の表示イメージは図227を参照）。尚、本例では、押し順表示装置D270及び演出表示装置S40にて遊技者に最も高利益となるリールの停止順を表示することを押し順ナビ、

10

20

30

40

50

押し順ナビ表示を表示する、等と称している。尚、本実施形態においては指示番号に基づいて押し順ナビを表示しており、例えば、「左→中→右」の押し順は押し順表示装置D270にて「=1」で表示するよう構成されており、押し順ベルの場合も押し順再遊技の場合もいずれも「=1」で表示するよう構成している。尚、これには限定されず、押し順ベルに係るゲームにて「左→中→右」の押し順ナビを押し順表示装置D270に表示する場合と、押し順再遊技に係るゲームにて「左→中→右」の押し順ナビを押し順表示装置D270に表示する場合とで異なる表示態様となるよう構成してもよい。即ち、押し順表示装置D270に表示される押し順ナビの表示態様の種類数は入賞・再遊技当選情報の種類数と同数となるよう構成してもよい。

【1198】

また、ステップ1451又はステップ1454でN0の場合、ステップ1468で、主制御基板MのCPU100は、当該ゲームの入賞・再遊技当選情報にマスク処理を実行し、マスク処理をした情報をRAMの所定アドレスに記憶する。ここで、当該ゲームに係る入賞・再遊技当選情報を副制御基板S側に送信した場合に、不正な行為により当該入賞・再遊技当選情報が認識されてしまうと、当該ゲームに係る高利益となる押し順（リール停止順）が認識されてしまうこととなる。そこで、本例においては、当該ゲームに係る入賞・再遊技当選情報にマスク処理（入賞・再遊技当選情報（特に押し順に係る情報）を秘匿的にする処理）を実行してから副制御基板Sに送信するよう構成することにより、高利益な押し順が認識できないよう構成している。尚、本実施形態における、マスク処理の方法としては、複数の入賞・再遊技当選情報（同様の役割を持った入賞・再遊技当選情報が好適であり、例えば、押し順によってRT状態が移行する再遊技役となる図柄組み合わせが停止表示し得る複数の入賞・再遊技当選情報）を1つの演出グループ番号（例えば、入賞・再遊技当選情報4～6を演出グループ4とする等）として、演出グループ番号を副制御基板S側に送信するよう構成している。尚、マスク処理の方法としては、これには限定されず、例えば、設けられている入賞・再遊技当選情報（本例では、0～18）の後に、新たにマスク処理後の入賞・再遊技当選情報を設けるよう構成してもよい。また、そのような場合にも、演出グループ番号のように既存の入賞・再遊技当選情報のうち複数の入賞・再遊技当選情報を1つの入賞・再遊技当選情報としてマスク処理後の入賞・再遊技当選情報を設けるよう構成することが望ましい（例えば、入賞・再遊技当選情報4～6を、マスク処理後の入賞・再遊技当選情報である入賞・再遊技当選情報19（新たに設けた入賞・再遊技当選情報）とする等）。尚、主制御基板MにおけるATに関する状態等に基づき、操作情報（押し順ナビ）を報知する遊技であると判断した場合には、副制御基板S側に入賞・再遊技当選情報を送信し、操作情報を報知しない遊技では副制御基板S側に演出グループ番号を送信するようにしても良い。このように構成した場合、指示番号に係るコマンドを副制御基板S側に送信しても良いし、送信しないように構成しても良い。

【1199】

次に、ステップ1470で、主制御基板MのCPU100は、当該マスク処理を実行した後の演出グループ番号に係るコマンド（サブ側へのコマンド）をセット（例えば、レジスタ領域内にセット）し、ステップ1472に移行する。次に、ステップ1472で、主制御基板MのCPU100は、ボーナス当選情報（ボーナスに当選したか否かがサブ側で認識できることとなる）に係るコマンド（サブ側へのコマンド）をセット（例えば、レジスタ領域内にセット）し、次の処理（ステップ1550の処理）に移行する。尚、本実施形態においては、当選番号から入賞・再遊技当選情報とボーナス当選情報とを導出するよう構成されているが、当該導出方法については後述することとする。また、同図下段に示すように、押し順ナビの表示例としては、「AT中状態」の場合には、（1）転落再遊技役が含まれる場合→転落再遊技役が停止表示されない押し順をナビ、（2）ベル（1枚役・11枚役）の場合→最も払出枚数が多くなる押し順をナビ、等のように構成されている。このように、本実施形態においては、遊技区間が「有利区間」である場合には、副制御基板S側に入賞・再遊技当選情報（当選役の種類と遊技者にとって最も有利な押し順とを特定できる番号）や指示番号（遊技者にとって最も有利な押し順を特定できる番号）

10

20

30

40

50

を送信し得るよう構成されている一方、遊技区間が「通常区間」である場合には、副制御基板S側に演出グループ番号（当選役の概要のみ特定できる番号）を送信し得るよう構成されている。即ち、「有利区間」においては、押し順によって遊技の結果及び遊技者の利益が相違する入賞・再遊技当選情報を含めた、当該ゲームに係る入賞・再遊技当選情報をそのまま副制御基板S側に送信し得る一方、「有利区間」でない遊技区間においては、当該ゲームに係る入賞・再遊技当選情報は送信せずに、押し順によって遊技の結果及び遊技者の利益が相違する入賞・再遊技当選情報の場合には押し順に係る情報を秘匿した演出グループ番号を副制御基板S側に送信するよう構成されている。

【1200】

尚、遊技区間が「有利区間」でない場合等においては、主制御基板Mで決定された入賞・再遊技当選情報を副制御基板Sに送信する際にマスク処理を実行して演出グループ番号を決定し、当該演出グループ番号を副制御基板Sに送信するよう構成している。尚、演出グループ番号とは入賞・再遊技当選情報を、同様の役割となる当選役（例えば、転落再遊技役が含まれる再遊技役、押し順ベル、等）に係る入賞・再遊技当選情報をグループ化して、番号を振り分けたものである。当該ゲームに係る入賞・再遊技当選情報にマスク処理{入賞・再遊技当選情報（特に押し順に係る情報）を秘匿的にする処理}を実行してから副制御基板Sに送信するよう構成することにより、不正な行為により当該入賞・再遊技当選情報に係る情報が認識され、当該ゲームに係る高利益となる押し順（リール停止順）が認識されてしまう事態を防止している。

【1201】

次に、図218は、本実施形態における、図211のステップ1550のサブルーチンに係る、リール回転開始準備処理のフローチャートである。まず、ステップ1552で、主制御基板MのCPU100は、遊技間隔最小時間タイマM70（減算タイマ）のタイマ値が0であるか否かを判定する。ここで、遊技間隔最小時間タイマM70は、あるゲーム開始タイミング（リール回転開始タイミング）から次のゲーム開始タイミング（リール回転開始タイミング）までに担保されるべき時間（本例では、4.1秒）を計測するタイマである。ステップ1552でYesの場合、ステップ1554で、主制御基板MのCPU100は、遊技間隔最小時間タイマM70のタイマ値に新たに最小時間（本例では、4.1秒）をセットしてスタートする。他方、ステップ1552でNoの場合、主制御基板MのCPU100は、無限ループ処理を実行する。次に、ステップ1556で、主制御基板MのCPU100は、終了したゲームに係るリール停止順に係る情報及び押し順に係る情報をクリアする。次に、ステップ1558で、主制御基板MのCPU100は、終了したゲームに係るリール停止中に係る情報及び引き込みポイント作成要求をクリアする。次に、ステップ1560で、主制御基板MのCPU100は、終了したゲームに係る図柄停止位置データを初期化する。次に、ステップ1562で、主制御基板MのCPU100は、当該ゲームに係るリール回転開始待機時の出力要求をセットする。次に、ステップ1564で、主制御基板MのCPU100は、当該ゲームに係るリール制御コマンドをセットし、次の処理（ステップ1260の処理）に移行する。換言すると、ステップ1562及びステップ1564の処理によって、副制御基板Sにリールが回転開始することを示すためのコマンドが送信可能となる。

【1202】

次に、図219は、本実施形態における、図211のステップ3400のサブルーチンに係る、残りゲーム数管理処理のフローチャートである。まず、ステップ3402で、主制御基板MのCPU100は、現在の遊技区間は「有利区間」であるか否かを判定する。尚、詳細は後述することとなるが、「有利区間」とは遊技区間のうちの1つであり、ATに関する状態が「AT中状態」である場合などの遊技者にとって有利である遊技の状況にてセットされ易い遊技区間となっている。ステップ3402でYesの場合、ステップ3404で、主制御基板MのCPU100は、有利区間残りゲーム数カウンタYKc-1（デクリメントカウンタであり、「有利区間」に滞在し得る最大ゲーム数である1500が初期値としてセットされ、「有利区間」である期間にて毎ゲーム減算され得るカウン

10

20

30

40

50

タ)のカウンタ値を1減算する。

【1203】

次に、ステップ3408で、主制御基板MのCPU100は、現在のATに関する状態は「AT中状態」であるか否かを判定する。ステップ3408でYesの場合、ステップ3410で、主制御基板MのCPU100は、ATカウンタ値を1減算する。次に、ステップ3412で、主制御基板MのCPU100は、ATに関する状態が高確率状態であるか否かを判定する。ステップ3412でYesの場合、ステップ3414で、主制御基板MのCPU100は、高確保障カウンタKHcのカウンタ値を1減算し、次の処理(ステップ1700の処理)に移行する。尚、ステップ3402、ステップ3408又はステップ3412でNoの場合にも、次の処理(ステップ1700の処理)に移行する。このように、本実施形態においては、押し順ナビが表示し得るATに関する状態として「AT中状態」である場合には、毎ゲームATカウンタ値が減算されるが、「有利BB状態」、「有利BB内部中遊技」、「特化前兆状態」又は「上乘せ特化状態」である場合には、ゲームが実行されてもATカウンタ値は減算されないよう構成されている。即ち、ATカウンタ値が残存している(1以上残っている)状況にて「AT中状態」から「特化前兆状態」に移行した場合には、ATカウンタ値を維持したまま、「AT中状態」→「特化前兆状態」→「上乘せ特化状態」と遷移(移行)することができるよう構成されている。尚、ATに関する状態が「AT中状態」であっても、その遊技でボーナス役を含む当選番号が決定された場合に、ATカウンタ値を1減算しないようにすることができる。このとき、例えば、主制御基板MのRAMに記憶されるATカウンタ値は減算しないが、副制御基板Sによって制御される演出表示装置S40に表示される残りATゲーム数は減算するように表示を制御しても良い。例えば、ATカウンタ値が「30」で、演出表示装置S40に表示されている残りAT残りゲーム数が「30」のときに遊技が実行され且つボーナスが当選した場合、ATカウンタ値は「30」を維持、又は当該遊技に係るAT上乘せ抽選により得られた値「α」を加算した値である「30+α」を記憶するが、スタートレバーD50の操作を契機に、演出表示装置S40に表示されているAT残りゲーム数として「29」、又はAT上乘せ抽選により得られた値「α」を加算した値である「29+α」を表示しても良い(尚、上乘せ抽選により得られた「α」は、当該遊技で報知せずに、当該遊技以降の特定の遊技(ボーナス遊技開始時、ボーナス遊技中、ボーナス遊技終了時、又はボーナス遊技終了後から所定の条件を満たした遊技)において「α」を報知しても良い)。そして、演出表示装置S40に表示されているAT残りゲーム数は、「有利BB内部中遊技」においても遊技毎に1ずつ減算し、ボーナス確定を示唆する演出(例えば、ボーナス確定画面)を出力するまでAT残りゲーム数が遊技毎に減算されるように構成することができる。このように構成することによって、「AT中状態」等の押し順ナビが実行され得る状態にてボーナスに当選した場合において、ボーナス当選を遊技者に直ぐに把握されないようにすることができる。つまり、ボーナス役を含む当選番号が決定された後に、ボーナスに当選したか否かを煽る複数遊技に亘る連続演出を演出表示装置S40等を用いて実行し、遊技の興趣を高めることができる。尚、ボーナス遊技が終了した後に演出表示装置S40に表示されるATの残りゲーム数は「30」又はAT上乘せ抽選の結果上乘せに当選し上乘せした結果を報知する場合は、「30」以上の値を表示するように制御することができる。尚、ATカウンタ値が「1」で、且つ演出表示装置S40に表示されている残りATゲーム数が「1」のときに遊技が実行されボーナスが当選した場合、演出表示装置S40に表示されているAT残りゲーム数に係る表示は「0」となるが、この状態を維持したまま、ボーナスに当選したか否かを煽る複数遊技に亘る連続演出を実行し、ATカウンタ値が「1」で、演出表示装置S40に表示されているAT残りゲーム数が「1」のときに遊技が実行され且つAT上乘せ抽選が実行され得る当選番号(又は入賞・再遊技当選情報、又は出玉グループ番号)が当選し、且つ、AT上乘せ抽選に当選しなかった場合には、ATゲーム数が「0」となるとともに演出表示装置S40に表示されているATゲーム数は「0」となる。また、AT残りゲーム数が少ない場合には、AT残りゲーム数が多い場合よりも連続演出を実行する確率を低く(0%も含む)設定するよ

10

20

30

40

50

うに構成しても良い。

【1204】

次に、図220は、本実施形態における、図211のステップ1700のサブルーチンに係る、RT状態移行制御処理のフローチャートである。まず、ステップ1702で、主制御基板MのCPUC100は、当該ゲームにてRT状態移行可能条件が充足したか否かを判定する。ここで、本実施形態においては、RT状態移行可能条件は、RAMクリアの実行（RAMの初期化）、再遊技の停止表示（本例では、再遊技04の停止表示）、BBの当選・開始・終了にて充足し得るよう構成されている。ステップ1702でYesの場合、ステップ1704で、主制御基板MのCPUC100は、当該充足したRT状態移行可能条件に基づきRT状態移行可否及び次ゲーム以降のRT状態を決定し（図221のRT状態遷移図を参照）、次の処理（ステップ1750の処理）に移行する。尚、ステップ1702でNoの場合にも次の処理（ステップ1750の処理）に移行する。尚、本実施形態においては、全リールの停止後にRT状態移行制御処理を実行しているが、「RT1」に移行する場合には当該移行タイミングはレバーオン時に移行しても良い。RT状態を移行する（RT番号をRAMに記憶する）タイミングは、適宜定めることができる。

10

【1205】

次に、図221は、本実施形態における、RT状態遷移図である。本実施形態においては、「RT0」～「RT2」及び「1種BB-A, B, C」の4つのRT状態が存在しており、図中の矢印に示される条件を満たすことによってRT状態が移行することとなる。RT状態の具体的な移行例としては、RT状態が「RT1」である場合に、RAM初期化が実行される、又は、再遊技04が停止表示された場合に「RT0」に移行する。再遊技04が停止表示とは、具体的には、RT状態が「RT1」である状況にて「再遊技-D1」に当選した場合に、第一停止として左停止ボタンを操作した場合には、再遊技01～03が停止表示し、RT状態として「RT1」が維持される。一方、RT状態が「RT1」である状況にて「再遊技-D1」に当選した場合に、第一停止として中停止ボタン又は右停止ボタンを操作した場合には、再遊技04が停止表示し、RT状態は「RT1」から「RT0」に移行する。

20

【1206】

また、RT状態が「RT0」又は「RT1」の場合に、BB役に当選し、当該当選したゲームにてBB役を入賞させない（1種BB-A, B, Cに係る条件装置が作動する）とRT状態が「RT2」に移行する。また、「RT2」にてBB役を入賞させる（1種BB-A, B, Cが作動する）と「1種BB-A, B, C」に移行する。また、「1種BB-A, B, C」にてBBが終了（1種BB-A, B, Cの作動が終了）すると「RT1」に移行する。尚、ATに関する状態が「低確率状態」である場合にBBに当選し、BBが終了した場合には、RT状態は遊技者にとって高利益な「RT1」に移行することとなるが、ATに関する状態は押し順ナビが発生しない状態であるため、「再遊技-D1～D3」に当選した際に不正解の押し順（第1停止が左ボタン、中ボタン、右ボタンの3択であり、3択のうち1つが正解の押し順であり再遊技04以外の再遊技が停止表示され、3択のうち2つが不正解の押し順であり再遊技04が停止表示される）にてリールを停止させることにより再遊技04が停止表示してしまい、「RT1」から「RT0」に移行することとなる。また、ATに関する状態が「高確率状態」、「AT中状態」、「特化前兆状態」又は「上乗せ特化状態」である場合にBBに当選し、BBが終了した場合には、RT状態は遊技者にとって高利益な「RT1」に移行することとなると共に、ATに関する状態は押し順ナビが発生する状態であり、「再遊技-D1～D3」に当選した際にも、再遊技04が停止表示しない正解の押し順をナビしてくれるため、「RT1」を維持することができることとなる。

30

40

【1207】

次に、図222は、本実施形態における、図211のステップ1750のサブルーチンに係る、AT状態開始制御処理のフローチャートである。まず、ステップ1752で、主制御基板MのCPUC100は、当該ゲームにてAT状態移行可能条件が充足したか否か

50

を判定する。尚、A T 状態移行可能条件とは、例えば、(1)「高確率状態」にて当選した設定差なし B B が終了した場合、(2)継続抽選に当選した場合、(3)復活抽選に当選した場合に充足する。ステップ 1752 で Y e s の場合、ステップ 1754 で、主制御基板 M の C P U C 100 は、新たに「A T 前兆状態」に移行したことを契機として、A T 初期ゲーム数（本例では、50 であり、「A T 中状態」に移行した後から減算が開始されるゲーム数）を A T カウンタ M 60 にセットし、ステップ 1756 に移行する。尚、ステップ 1752 で N o の場合にも、ステップ 1756 に移行する。次にステップ 1756 で、主制御基板 M の C P U C 100 は、現在の A T に関する状態は高確率状態ではないか否かを判定する。ステップ 1756 で Y e s の場合、ステップ 1758 で、主制御基板 M の C P U C 100 は、次のゲームの A T に関する状態は高確率状態であるか否かを判定する。ステップ 1758 で Y e s の場合、ステップ 1760 で、主制御基板 M の C P U C 100 は、高確保障ゲーム数（本例では、10）を高確保障カウンタにセットし、次の処理（ステップ 3500 の処理）に移行する。尚、ステップ 1756 又はステップ 1758 で N o の場合にも、次の処理（ステップ 3500 の処理）に移行する。尚、「高確率状態」にて B B に当選し「有利 B B 内部中遊技」に移行した後、B B を入賞させることにより「有利 B B 状態」に移行し、当該「有利 B B 状態」にて A T ゲーム数が上乘せされた場合には、B B が終了し「有利 B B 状態」から「A T 中状態」に移行した時点で、A T カウンタにセットされる初期値は 50 を超過していることとなる。具体的には、「有利 B B 状態」で A T ゲーム数が 30 ゲーム上乘せされた後、「A T 中状態」に移行した場合には、A T カウンタに 80（初期値 50 + 上乘せ 30）がセットされることになる。このとき、「有利 B B 状態」において 30 ゲーム上乘せされたことを遊技者に報知する演出を行った場合、「A T 中状態」の開始時に、A T 初期ゲーム数として 80 ゲームである旨を遊技者に報知するのが望ましいが、別の報知方法として、あえて、「有利 B B 状態」において 30 ゲーム上乘せされたことを遊技者に報知する演出を行わずに、「A T 中状態」の開始時に初期値である 50 ゲームを遊技者に提示した後、A T 中（例えば、「A T 中状態」の開始直後や、演出表示装置 S 40 における A T 残りゲーム数が少ない状態）に 30 ゲーム上乘せされたことを遊技者に報知する演出を行う報知方法も考えられる。このようにすることで、遊技者は「有利 B B 状態」で A T ゲーム数上乘せが行われたのか、または、何ゲームのゲーム数上乘せが行われたのか、を明確に把握することができないため、A T 中（押し順ナビが発生し得る状態）にて原因不明で突如発生する上乘せ演出に対する興味を高めることができる。尚、本例においては、ステップ 1754 にて A T 初期ゲーム数を A T カウンタ M 60 にセットするよう構成しているが、A T 初期ゲーム数をセットする処理の実行タイミングは本例のものには限定されず、前述したステップ 1400 の A T 状態移行制御処理を実行するタイミングに A T 初期ゲーム数を A T カウンタ M 60 にセットするよう構成してもよい。また、A T カウンタ M 60 にセットされたゲーム数（A T 初期ゲーム数）は、B B が終了した後の遊技（A T に関する状態が「A T 中状態」）になったときから減算されるよう構成されている（B B 中には減算開始しない）。また、A T カウンタ M 60 のカウンタ値は主制御基板 M の R A M の記憶領域に記憶されるよう構成されている。

【1208】

次に、図 223 は、本実施形態における、A T 状態遷移図である。本実施形態においては、「低確率状態」、「通常 B B 内部中遊技」、「通常 B B 状態」、「高確率状態」、「A T 中状態」、「特化前兆状態」、「上乘せ特化状態」、「有利 B B 内部中遊技」、「有利 B B 状態」、「復活可否演出用状態」の 10 個の A T に関する状態が存在しており、図中の矢印に示される条件を満たすことによって A T に関する状態が移行することとなる。例えば、「A T 中状態」にてスイカ B に当選し、1 / 2 で当選する特化状態移行抽選に当選した場合には「特化前兆状態」に移行する。また、「特化前兆状態」に移行してから 10 ゲームが経過（消化）した場合には「上乘せ特化状態」に移行するよう構成されている。尚、遊技区間としては、「低確率状態」、「通常 B B 内部中遊技」、「通常 B B 状態」の 3 つの A T に関する状態が「通常区間」に設定され、「高確率状態」、「A T 中状態」、「特化前兆状態」、「上乘せ特化状態」、「有利 B B 内部中遊技」、「有利 B B 状態」

10

20

30

40

50

、「復活可否演出用状態」の7つのATに関する状態が「有利区間」に設定される。即ち、「有利区間」となる7つのATに関する状態を遷移（移行）していても、「通常区間」に設定せずに1500ゲーム経過した場合には「有利区間」は強制的に終了して「通常区間」に設定される。また、押し順ナビが表示される報知遊技状態である「AT中状態」、「特化前兆状態」又は「上乗せ特化状態」である場合に、再遊技04が停止表示された場合であっても、遊技状態は維持される。

【1209】

尚、前述したように、「AT中状態」である場合に、ATカウンタM60のカウンタ値が0であり且つ継続抽選非当選の場合には、「復活可否演出用状態」となる。「復活可否演出用状態」で復活抽選に当選した場合には、再び「AT中状態」に戻ることができる。一方、「復活可否演出用状態」で復活抽選に当選しなかった場合には、「低確率状態」に移行し、「有利区間」から「通常区間」になる。

【1210】

「高確率状態」にて設定差なしBB（1種BB-A又は1種BB-C）に当選し、設定差なしBBが作動し、「有利BB状態」が終了したときには、「AT中状態」に移行する。また、「AT中状態」に設定差なしBB（1種BB-A又は1種BB-C）に当選し、設定差なしBBが作動し、「有利BB状態」が終了したときにも、「AT中状態」に移行する。尚、「復活可否演出用状態」にて設定差なしBB（1種BB-A又は1種BB-C）に当選し、設定差なしBBが作動し、「有利BB状態」が終了したときにも「AT中状態」に移行する（復活抽選に当選するため）。尚、「復活可否演出用状態」にて設定差ありBB（1種BB-B）に当選し、設定差ありBBが作動し、「有利BB状態」が終了したときには、設定差ありBBが単独のBB役に係る当選番号（当選番号20）であった場合にはBB終了後に「低確率状態」となり（設定差ありBB役を契機として復活抽選に当選しないため）、設定差ありBBがレア役と重複している当選番号（当選番号21～23）であった場合にはBB終了後に「AT中状態」となる（レア役を契機として復活抽選に当選するため）。

【1211】

また、「有利区間」で且つ「高確率状態」である場合に設定差ありBB（1種BB-B）に当選し、設定差ありBBが作動し、「有利BB状態」が終了したときには、「高確率状態」に移行する。

【1212】

また、「有利BB状態」の終了後に移行するATに関する状態は、AT中（「AT中状態」、「特化前兆状態」、「上乗せ特化状態」）にて当選したBB終了後（設定差ありBBと設定差なしBBとのいずれも）には「AT中状態」、「特化前兆状態」又は「上乗せ特化状態」のうちBB当選時のATに関する状態に移行し、非AT中（「高確率状態」）にて当選した設定差なしBB終了後には、「AT中状態」に移行する。また、非AT中（「高確率状態」）にて当選した設定差ありBB終了後には、「高確率状態」に移行する。

【1213】

尚、ATに関する状態は本実施形態のものには限定されず、例えば、「低確率状態」又は「高確率状態」にて所定の当選番号に当選することによってAT抽選が実行され、当該AT抽選に当選することにより「前兆状態」に移行し、16～32ゲーム経過後に「AT中状態」に移行するよう構成してもよいし、そのように構成した場合には、前記所定の条件装置に当選することによってAT抽選が実行され、当該AT抽選に当選しなかった場合には、「ガセ前兆状態」に移行し、16～32ゲーム経過後に「低確率状態」又は「高確率状態」に移行するよう構成してもよい。また、遊技区間として「有利区間」とも「通常区間」とも異なる「待機区間」を設けてもよく、例えば、「チェリー」に当選することによってAT抽選が実行される遊技性とした場合に、BBとチェリーが重複した「BB+チェリー」に当選し、AT抽選に当選した場合には、「BB+チェリー」の「BB」が入賞するまでのBB内部中の状態を「待機区間」とするよう構成してもよい。このように、「待機区間」を設けることにより、「低確率状態」にてBBに当選、且つ、AT抽選に非当

10

20

30

40

50

選である場合と、「低確率状態」にてBBに当選、且つ、AT抽選に当選している場合とで、BBの図柄組合せが揃うまで（有利区間表示器が点灯するまで）の期間においては、有利区間表示器YHが消灯しているため、AT抽選に当選しているか否かを遊技者に対して煽ることができる。また、「上乘せ特化状態」においてBBが当選した場合には、当該BB終了後に「上乘せ特化状態」が再開するよう構成してもよく、そのように構成した場合には、当該BB中は「上乘せ特化状態」において当選したBBとして「AT中状態」にて当選したBBとは異なるAT上乘せ抽選を実行する（例えば、「AT中状態」にて当選したBBよりもAT上乘せ抽選に当選し易い、ATゲーム数上乘せ1回あたりのゲーム数が相対的に多い）よう構成してもよい。また、「特化前兆状態」においてBBが当選した場合には、当該BB終了後に「上乘せ特化状態」に移行するよう構成してもよく、そのように構成した場合には、当該BB中は「上乘せ特化状態」において当選したBBと同様にAT上乘せ抽選が実行されるよう構成してもよい。

10

【1214】

次に、図224は、本実施形態における、図211のステップ3500のサブルーチンに係る、遊技区間移行制御処理のフローチャートである。はじめに、本実施形態においては、遊技の状態に係る区間として遊技区間を有しており、遊技区間としては、相対的に遊技者にとって低利益な「通常区間」と、相対的に遊技者にとって高利益な区間である「有利区間」と、の2つの遊技区間を有している。フローチャートの説明としては、まず、ステップ3508で、主制御基板MのCPUC100は、当該ゲームに係る遊技区間は「通常区間」であるか否かを判定する。ステップ3508でYesの場合、ステップ3510で、主制御基板MのCPUC100は、次ゲーム以降の遊技区間を現在のATに関する状態及び現在の遊技の状況に対応する遊技区間に決定し、ステップ3528に移行する。他方、ステップ3508でNoの場合、換言すると遊技区間が「有利区間」である場合、ステップ3514で、主制御基板MのCPUC100は、有利区間残りゲーム数カウンタYKc-1のカウント値が0であるか否か、換言すると、「有利区間」が継続可能な最大ゲーム数に到達したか否かを判定する。ステップ3514でYesの場合、ステップ3515で、主制御基板MのCPUC100は、ATに関連する情報をすべてクリアする（それにより、ATカウンタ値が0となり、「特化前兆状態」の滞在ゲーム数といったものも0となる）。他方、ステップ3514でNoの場合、ステップ3518で、主制御基板MのCPUC100は、任意の有利区間終了条件を充足していないか否かを判定する。ここで、任意の有利区間終了条件とは、有利区間残りゲーム数カウンタYKc-1のカウント値が0となった場合以外の「有利区間」の終了条件であり、例えば、ATカウンタ値が0となった場合や、押し順ナビが所定回数実行された場合等となっている。ステップ3518でNoの場合、即ち、任意の有利区間終了条件を充足した場合にはステップ3515に移行する。このように、本実施形態においては、「有利区間」が終了して次ゲーム以降に「通常区間」に設定する場合には、ATに関連する情報（AT継続ゲーム数、AT残りゲーム数、等に係る情報）をすべてクリアするので、以降の「通常区間」において再度「有利区間」となる際の条件が緩和されることがなくなる。尚、ステップ3515の処理（有利区間終了時の処理）によりクリアするATに関連する情報としては、有利区間残りゲーム数カウンタYKc-1のカウント値、遊技状態を示すフラグ等がある。また、これらの情報は設定変更時のRAMクリアによってもクリアされることとなるが、設定変更時のRAMクリアによつては、「役物連続作動装置（BB）に係る条件装置」や「RT状態」、「貯留枚数」等に係る情報もクリアするのに対し、ステップ3515の処理（有利区間終了時の処理）によつては、「役物連続作動装置（BB）に係る条件装置」や「RT状態」、「貯留枚数」等に係る情報はクリアされない。このように、設定変更時のRAMクリア範囲と「有利区間」終了時（例えば、ステップ3515の処理実行時）のクリア範囲は相違している。尚、設定変更時のRAMクリアによつて、「役物連続作動装置（BB）に係る条件装置」や「RT状態」を保持するように構成していても良い。また、「有利区間」終了時にクリアする範囲のアドレスは連続している。このように「有利区間」終了時にクリアする範囲のアドレスを連続させることにより、クリア処理時にクリアする先頭アドレス

20

30

40

50

と、クリアするアドレスの範囲を指定するという簡易的な処理でクリアすることができる。また、「有利区間」が終了した場合には、「有利区間」が終了した旨に係るコマンドを主制御基板Mから副制御基板Sに送信する。但し、副制御基板S側は当該コマンドを受信しても、「有利区間」であった旨や、「AT中状態」を何ゲーム実行したかに係る情報等の遊技履歴は消去しないよう構成されている。但し、設定変更時のRAMクリアを実行した場合には、副制御基板S側における、「有利区間」であった旨や、「AT中状態」を何ゲーム実行したかに係る情報等の遊技履歴も消去されることとなる。

【1215】

尚、有利区間残りゲーム数カウンタYKc-1のカウンタ値が0となったために「有利区間」が終了した場合には、(1)現在のATに関する状態が「高確率状態」であった場合には、次ゲームにてATに関する状態が「低確率状態」となる、(2)現在のATに関する状態が「有利BB内部中遊技」であった場合には、次ゲームにてATに関する状態が「通常BB内部中遊技」となる、(3)現在のATに関する状態が「有利BB状態」であった場合には、次ゲームにてATに関する状態が「通常BB状態」となる、(4)現在のATに関する状態が「AT中状態」、「特化前兆状態」、「上乘せ特化状態」又は「復活可否演出用状態」であった場合には、次ゲームにてATに関する状態が「低確率状態」となるよう構成されている(ATに関連する情報がクリアされるため)。

【1216】

次に、ステップ3516で、主制御基板MのCPUC100は、次ゲーム以降の遊技区間を「通常区間」に設定する。次に、ステップ3517で、主制御基板MのCPUC100は、「有利区間」が終了したため有利区間表示器YHを消灯し、ステップ3528に移行する。尚、「有利区間」が終了して「通常区間」に設定する際に有利区間表示器YHを消灯するよう構成されているが、詳細な消灯のタイミングは本実施形態のタイミングには限定されず、例えば、「有利区間」が終了して「通常区間」となるゲームに係る遊技メダル投入時に有利区間表示器YHを消灯するよう構成してもよい。換言すると、次遊技が開始可能となるスタートレバーD50が操作される前に有利区間表示器YHを消灯するよう構成していれば良い。他方、ステップ3518でYesの場合、ステップ3520で、主制御基板MのCPUC100は、次ゲーム以降の遊技区間を「有利区間」に決定し、ステップ3528に移行する。

【1217】

次に、ステップ3528で、主制御基板MのCPUC100は、次ゲームにて新たに「有利区間」に設定することが決定した(「通常区間」から「有利区間」に設定することが決定した)か否かを判定する。ステップ3528でYesの場合、ステップ3530で、主制御基板MのCPUC100は、有利区間残りゲーム数カウンタYKc-1に所定値をセットする。尚、当該有利区間残りゲーム数カウンタYKc-1にセットする所定値は、すべての設定値において共通する固定の数値(本例では、1500)となっている。次に、ステップ3534で、主制御基板MのCPUC100は、有利区間表示器YHを点灯し、次の処理(ステップ1293の処理)に移行する。尚、ステップ3528でNoの場合にも、次の処理(ステップ1293の処理)に移行する。尚、本実施形態においては、ステップ3534のタイミングにて有利区間表示器YHの点灯処理を実行したが、有利区間表示器YHの点灯タイミングはこれには限定されず、有利区間表示器YHの点灯タイミングは新たに「有利区間」となる前のゲーム(「通常区間」のゲーム)におけるスタートレバーの操作タイミングから新たに「有利区間」となるゲームにおける遊技メダル投入可能となるタイミングまで(新たに「有利区間」となる前のゲームが再遊技に係るゲームであった場合には、新たに「有利区間」となるゲームにおけるスタートレバーの操作が有効となるタイミングまで)の期間にて適宜設定してもよい。

【1218】

次に、図225は、本実施形態におけるステップ1600のサブルーチンに係る、タイマ割り込み時処理のフローチャートである。当該サブルーチンの処理は、ステップ1040又はステップ1104の処理にて、タイマ割り込みが開始された場合に実行開始され、

以降、所定時間（本例では、Tとしているが、例えば、2ms程度の時間が設定される）を周期として定期的に実行されるよう構成されている。

【1219】

まず、ステップ1602で、主制御基板MのCPUC100は、割り込み開始時の処理（例えば、CPUC100内のレジスタで保持されているデータの退避、電源断検知信号の入力ポートチェック等）を実行する。次に、ステップ1604で、主制御基板MのCPUC100は、現在（今回の割り込み処理にて）電源断を検知していないか否かを判定する。ステップ1604でNoの場合、ステップ1900で、主制御基板MのCPUC100は、後述する、電源断時処理を実行する。他方、ステップ1604でYesの場合、ステップ1606で、主制御基板MのCPUC100は、タイマ計測（ソフトウェアで管理する各種タイマの更新処理）を開始する。次に、ステップ1608で、主制御基板MのCPUC100は、入力ポートデータを生成して、当該データを記憶する（RAM領域内の各入力ポートデータの格納領域を更新する）。ここで、入力ポートデータとは、精算ボタンD60、スタートレバーD50、停止ボタンD40、扉スイッチD80、設定キースイッチM20、設定／リセットボタンM30、電源断検知信号、投入受付センサD10s、第1投入センサD20s、第2投入センサD30s、第1払出センサH10s、第2払出センサH20s、等の検出に係る情報である（即ち、これらの操作部材での操作有無やセンサ検知状態が、割り込み間隔Tでサンプリングされる）。

【1220】

次に、ステップ1610で、主制御基板MのCPUC100は、RAM領域内の入力ポートデータを参照し、各入力ポートデータのサンプリング結果に応じて、扉スイッチフラグ、設定キースイッチフラグのオン・オフを切り替える（例えば、扉スイッチD80のスイッチ状態が複数回のサンプリングに亘って連続してオンである場合に、扉スイッチフラグをオンとすることで、ノイズの影響を受けることなく前扉DUが開状態であることを検出することもできる）。次に、ステップ6100で、主制御基板MのCPUC100は、全リール（左リールM51、中リールM52、右リールM53）の回胴駆動制御処理（リールM50の駆動の制御に係る処理であり、詳細は後述する）を実行する。次に、ステップ1612で、主制御基板MのCPUC100は、ATカウンタM60を参照し、当該カウンタ値が0より大きいかなんかを判定する。ステップ1612でYesの場合、ステップ1613で、主制御基板MのCPUC100は、ATカウンタ値表示装置D280にてAT残りゲーム数（ATゲーム数）を表示し、ステップ1614に移行する。尚、ステップ1612でNoの場合にもステップ1614に移行する。尚、主制御基板Mで制御されるATカウンタ値表示装置D280を備えていない場合には、ステップ1612及びステップ1613の処理は不要である。次に、ステップ1614で、主制御基板MのCPUC100は、出力データを出力ポートに出力する。ここで、出力データとは、リールM50、ブロックD100、等を駆動するためのデータである。次に、ステップ1616で、主制御基板MのCPUC100は、すべてのエラーフラグがオフ（不図示であるが、投入メダル逆流エラーフラグ、投入枚数エラーフラグ、投入メダル滞留エラーフラグ、投入異常エラーフラグ、払出異常エラーフラグ、払出メダル滞留エラーフラグ、扉スイッチフラグ、等のエラーに係るフラグが全てオフ）であるか否かを判定する。ステップ1616でYesの場合、ステップ1618で、主制御基板MのCPUC100は、エラー未検出コマンド（サブ側へのコマンドであり、エラーが検出されていない旨に係るコマンド）をセットし（例えば、レジスタ領域内にセットし）、ステップ1622に移行する。他方、ステップ1616でNoの場合、ステップ1620で、主制御基板MのCPUC100は、エラー検出コマンド（サブ側へのコマンドであり、エラーが検出されている旨に係るコマンド）をセットし（例えば、レジスタ領域内にセットし）、ステップ1622に移行する。尚、ステップ1620においては、オンとなっているエラーフラグに対応したエラー（現在発生しているエラー）に係る情報がサブ側に送信されるよう構成されている。また、エラー未検出コマンドはエラーが発生していた状態からエラーが解除された場合にのみ（フラグがオフになったと判定された場合にのみ）セットしても良いし、エラー未検出のときに

10

20

30

40

50

は当該情報のセット処理を実行しなくても良い（ステップ1618が無くて良い）。更に、エラー検出コマンドはエラーが発生していない状態からエラーが発生した場合にのみセット処理を実行しても良いし、第1のエラー（例えば、投入メダル滞留エラー）が発生している状態から第2のエラー（例えば、払出メダル滞留エラー）のようにエラーの種類が変わった場合にセット処理を実行してもよい。

【1221】

次に、ステップ1622で、主制御基板MのCPU100は、制御コマンド（サブ側のコマンド）を送信する（例えば、ステップ1618やステップ1620でレジスタ領域内にセットされている場合には、そのセットされた制御コマンドを送信することとなる）。ここで、副制御基板Sに送信するコマンドとして、スタートレバー操作タイミングに係るコマンド（スタートレバー操作直後に送信される）、第1リール停止受付タイミングに係るコマンド（第1停止として停止ボタンを操作した直後に送信される）、第2リール停止受付タイミングに係るコマンド（第2停止として停止ボタンを操作した直後に送信される）、第3リール停止受付タイミングに係るコマンド（第3停止として停止ボタンを操作した直後に送信される）、全リールが停止した直後に送信される）、停止表示図柄の停止タイミングに係るコマンド（表示図柄停止として停止ボタンを操作した直後に送信される）、入賞・再遊技当選情報に係るコマンド（スタートレバー操作直後に送信される（有利区間中に限る））、ボーナス当選情報に係るコマンド（スタートレバー操作直後に送信される）、RT状態に係るコマンド（全リールが停止してから次のゲームが開始されるまでの間に送信される）、ATに関する状態に係るコマンド（全リールが停止してから次のゲームが開始されるまでの間に送信される）、高確保障カウンタ値コマンド（スタートレバー操作直後に送信される）、AT残りゲーム数に係るコマンド（全リールが停止してから次のゲームが開始されるまでの間、又は、スタートレバー操作直後に送信される）、遊技区間に関するコマンド（全リールが停止してから次のゲームが開始されるまでの間に送信される）、等がある。次に、ステップ1624で、主制御基板MのCPU100は、外部端子信号（胴式遊技機Pから外部のホールコンピュータ等へ情報伝達するための信号）を出力する。尚、当該外部信号にて出力されるエラーに係る情報としては、不図示であるが、ドア開放エラー、投入異常エラー、払出異常エラー、投入受付センサ滞留エラー、等が出力される。尚、ドア開放エラーは、前扉DUが開放されドアスイッチフラグがオンとなった場合にエラーとなるよう構成されており、投入受付センサ滞留エラーは投入受付センサが遊技メダルの滞留を検出した場合にエラーとなるよう構成されている。次に、ステップ1626で、主制御基板MのCPU100は、LED（7セグLEDランプ、等）の出力データ（例えば、複数の7セグLEDユニットのうち、所定の7セグLEDユニットを点灯させ、7セグの所定のセグメントを点灯させる）を出力する（所謂、ダイナミック点灯）。次に、ステップ1628で、主制御基板MのCPU100は、LEDの点灯態様（例えば、LEDの点灯色を変更）を実行する。尚、ステップ1628は実行されなくてもよい。次に、ステップ1630で、主制御基板MのCPU100は、ソフト乱数管理処理（ソフトウエアで管理する乱数値の更新処理等）を実行する。次に、ステップ1632で、主制御基板MのCPU100は、内部情報レジスタデータを取得する（内部情報レジスタには、乱数発生回路に異常が出ると異常フラグ用ビットが立つ領域が存在している）。次に、ステップ1634で、主制御基板MのCPU100は、乱数更新用クロックの周波数は正常であるか否か（当該周波数異常を示す異常フラグ用ビットが立っていないか否か）を判定する。具体的には、乱数更新用クロックの周波数が所定値を下回った場合に異常フラグビットが立つ。ステップ1634でYesの場合、ステップ1636で、主制御基板MのCPU100は、内蔵乱数の更新状態は正常であるか否か（当該更新状態異常を示す異常フラグ用ビットが立っていないか否か）を判定する。ステップ1636でYesの場合、ステップ1638で、主制御基板MのCPU100は、割り込み終了処理を実行し、次の処理（ステップ1602の処理）に移行する。他方、ステップ1634又はステップ1636でNoの場合には、ステップ1640で、主制御基板MのCPU100は、内蔵乱数エラー表示をセットする（例えば、レジスタ領域内にエラ

10

20

30

40

50

一番号をセットする)。次に、ステップ1300で、主制御基板MのCPU100は、前述した、復帰不可能エラー処理を実行する。

【1222】

次に、図226は、本実施形態における、図225のステップ6100のサブルーチンに係る、回胴駆動制御処理のフローチャートである。尚、本処理においては、1つのリールについての処理を例示しているが、左リールM51、中リールM52、右リールM53のそれぞれに対応する処理を実行することを補足しておく。まず、ステップ6102で、主制御基板MのCPUMCは、リール回転開始待機状態開始タイミング（例えば、図218のステップ1564の処理の実行後のタイミング）に到達したか否かを判定する。ステップ6102でYesの場合、ステップ6104で、主制御基板MのCPUMCは、リール駆動状態を、リール回転開始待機状態に更新し、ステップ6106に移行する。他方、ステップ6102でNoの場合にもステップ6106に移行する。

10

【1223】

次に、ステップ6106で、主制御基板MのCPUMCは、リール加速状態開始タイミング（リール回転開始待機状態が終了し、リールの加速処理を実行開始するタイミングであり、例えば、図211のステップ1260の処理の実行タイミング）に到達したか否かを判定する。ステップ6106でYesの場合、ステップ6108で、主制御基板MのCPUMCは、リール駆動状態を、リール加速状態に更新する。次に、ステップ6110で、主制御基板MのCPUMCは、リール加速処理を実行し、ステップ6112に移行する。尚、リールが停止している場合には、本処理によってリールの回転が開始することとなる。他方、ステップ6106でNoの場合にも、ステップ6112に移行する。

20

【1224】

次に、ステップ6112で、主制御基板MのCPUMCは、現在のリール駆動状態はリール加速状態であるか否かを判定する。ステップ6112でYesの場合、ステップ6114で、主制御基板MのCPUMCは、リール加速状態の終了タイミング（例えば、後述する図228におけるリール加速状態における「割り込み実行回数」分の割り込み処理をすべて実行したタイミング）に到達したか否かを判定する。ステップ6114でYesの場合、ステップ6116で、主制御基板MのCPUMCは、リール駆動状態を、リール定速状態に更新する。次に、ステップ6118で、主制御基板MのCPUMCは、リール定速維持処理を実行し、ステップ6120に移行する。尚、ステップ6112又はステップ6114でNoの場合にも、ステップ6120に移行する。

30

【1225】

次に、ステップ6120で、主制御基板MのCPUMCは、現在のリール駆動状態はリール定速状態であるか否かを判定する。ステップ6120でYesの場合、ステップ6122で、主制御基板MのCPUMCは、リール定速状態となってから（ステップ6116の処理を実行してから）、リールセンサがリール（本サブルーチンの処理に対応するリール）に設けられたインデックスを検出したか否かを判定する。ここで、不図示であるが、各リールには、1個（2個以上であってもよい）のインデックスが設けられている。インデックスは、リールの例えば周側面に凸状に設けられており、リールが所定位置を通過したか否かや、1回転したか否か等を検出するときに用いられる。そして、各インデックスは、リールセンサにより検知される。リールセンサの信号は、主制御基板Mに電氣的に接続されている。そして、リールセンサがインデックスを検出する（切る）と、その入力信号が主制御基板Mに入力され、そのリールが所定位置を通過したことが検知されるよう構成されている。ステップ6122でYesの場合、リールの回転速度が定速になったと判定し、ステップ6130の処理に移行する。他方、ステップ6122でNoの場合、ステップ6124で、主制御基板MのCPUMCは、リール駆動状態がリール定速状態となってから所定時間（例えば、割り込み処理を400回実行する時間値）が経過したか否かを判定する。ステップ6124でNoの場合には、リールの回転速度が定速になったと判定し、ステップ6130の処理に移行する。このように、本例においては、リール駆動状態がリール定速状態になってから所定時間以内にリールセンサがインデックスを検出するこ

40

50

とでリール回転速度が正常に定速になっているかを判定可能に構成されている。尚、前記所定時間は、本例では割り込み処理 400 回を実行する時間値となっており（割り込み処理 400 回で 400 ステップ回転できるよう構成されている）、リール回転速度が定速である場合にリールが 1 回転（1 周）する時間（例えば、リール 1 回転分は 336 ステップであり、割り込み処理を 336 回実行する時間値）よりも長時間となっている。このように構成することにより、リール駆動状態が定速状態となったタイミングにおけるインデックスとリールセンサとの距離（リールが回転してインデックスがリールセンサに検出されるまでの距離）がどれだけ離れていても、リール回転速度が定速であった場合には、リール駆動状態がリール定速状態となってから前記所定時間以内（割り込み処理を 400 回実行する時間値）にインデックスをリールセンサが検出することができるよう構成されている。

10

【1226】

フローチャートの説明に戻ると、ステップ 6124 で Yes の場合、ステップ 6126 で、主制御基板 M の CPU MC は、リール駆動状態を、リール加速状態に更新する。次に、ステップ 6128 で、主制御基板 M の CPU MC は、リール再加速処理を実行し、ステップ 6130 の処理に移行する。このように、本例においては、リール駆動状態がリール定速状態になってから所定時間（例えば、割り込み処理を 400 回実行する時間値）以内にリールセンサがインデックスを検出しなかった場合には、リール駆動状態をリール加速状態に再度更新し、リール再加速処理（ステップモータの励磁状態はリール加速処理と同様となっている）を実行するよう構成されている。尚、ステップ 6120 で No の場合にも、ステップ 6130 の処理に移行することとなる。尚、リール再加速処理は前述したリール加速処理と同一の処理としなくともよく、リール再加速処理とリール加速処理とで、ステップモータの励磁する相の組み合わせや励磁する相の組み合わせ毎の割り込み処理の実行回数を相違させてもよい。

20

【1227】

次に、図 227 は、本実施形態における、図 225 のステップ 6200 のサブルーチンに係る、リール回転停止処理のフローチャートである。まず、ステップ 6106 で、主制御基板 M の CPU MC は、リール減速待機状態開始タイミング（リール定速状態が終了するタイミングであり、例えば、停止ボタンが操作されることによってリール減速待機状態開始タイミングとなったと判定する）に到達したか否かを判定する。ステップ 6130 で Yes の場合、ステップ 6132 で、主制御基板 M の CPU MC は、リール駆動状態を、リール減速待機状態に更新し、ステップ 6134 に移行する。他方、ステップ 6130 で No の場合にも、ステップ 6134 に移行する。

30

【1228】

次に、ステップ 6134 で、主制御基板 M の CPU MC は、現在のリール駆動状態は、リール減速待機状態であるか否かを判定する。ステップ 6136 で Yes の場合、主制御基板 M の CPU MC は、リール減速待機状態終了タイミング（リール減速処理を実行開始するタイミング）に到達したか否かを判定する。ステップ 6136 で Yes の場合、ステップ 6138 で、主制御基板 M の CPU MC は、リールの減速（リール減速処理）を開始する。次に、ステップ 6140 で、主制御基板 M の CPU MC は、リール駆動状態を、リール減速状態に更新し、ステップ 6142 の処理に移行する。尚、ステップ 6134 又はステップ 6136 で No の場合にも、ステップ 6142 の処理に移行する。

40

【1229】

次に、ステップ 6142 で、主制御基板 M の CPU MC は、現在のリール駆動状態はリール減速状態であるか否かを判定する。ステップ 6142 で Yes の場合、ステップ 6144 で、主制御基板 M の CPU MC は、リール減速状態終了タイミング（リール減速処理を実行終了するタイミング）に到達したか否かを判定する。ステップ 6144 で Yes の場合、ステップ 6146 で、主制御基板 M の CPU MC は、リール駆動状態を、リール停止状態に更新し、次の処理（ステップ 1612 の処理）に移行する。尚、ステップ 6142 又はステップ 6144 で No の場合にも、次の処理（ステップ 1612 の処理）に移行

50

する。

【1230】

次に、図228を用いて、本例に係る回胴式遊技機のリールM50の回転動作について詳述する。本例に係る回胴式遊技機は、スタートレバーD50が操作されたことに基づいてステッピングモータの回転を開始し、リールの回転速度が定速に達すると、以下、定速を維持する（リール駆動状態がリール定速状態となるとリール定速維持処理を実行するが、実際に回転速度が定速に達していない場合もある）。そして、いずれかの停止ボタンが操作されると、操作された停止ボタンに対応するリール（ステッピングモータ）について停止制御を行う。ここで、ステッピングモータは、 $\phi 0$ 、 $\phi 1$ 、 $\phi 2$ 、 $\phi 3$ という4つの相を有する4相ステッピングモータ（4相ステッピングモータでなくとも問題ない）であり、励磁する相を切り替え、ステッピングモータを1-2相励磁することで回転制御を行う。すなわち、駆動パルスデータ（励磁する相の組み合わせ）を循環的に変化させていくことで、ステッピングモータを正方向に回転させることができる。同図においては、 $\phi 0 \sim \phi 3$ のうち、どの相を励磁するのかを指定している様を表すものを「励磁する相」の列に示している（詳細は後述する）。

10

【1231】

また、同図上段の「リール回転速度イメージ」に示すように、ステッピングモータが回転開始してから停止するまでの駆動状態を6つに分け、各駆動状態に応じた駆動パターンに従って、ステッピングモータを駆動制御している。ここで駆動状態には、「リール停止状態」、「リール回転開始待機状態」、「リール加速状態」、「リール定速状態」、「リール減速待機状態」、「リール減速状態」がある。尚、「リール回転速度イメージ」においては、縦軸はリール回転速度であり上方向に速度が速くなってゆき、横軸は時間であり時間が右方向に時間が経過してゆくよう図示している。また、同図に示す一例は、リールの回転不良が発生しなかった場合を例示しており、リールを手で押さえる、脱調が発生する等の要因でリール回転不良が発生した場合はこの限りではない（リール回転不良が発生した場合については後述することとする）。

20

【1232】

「リール停止状態」は、リールが停止している状態を示すものであり、「リール停止状態」になっているときは、リールは静止した状態になっており、ステッピングモータの4相すべての相が励磁されていない状態になっている。

30

【1233】

次に、「リール停止状態」である状況にて、図中（1）のタイミングで、スタートレバーD50が操作されたことに基づいて、リール駆動状態が「リール回転開始待機状態」に更新される。ここで、「リール回転開始待機状態」は、スタートレバーD50が操作されたからステッピングモータの加速処理（リール加速処理）を開始するまで待機している状態を示すものである。この待機期間は、リール駆動状態が「リール停止状態」から「リール加速状態」へ移行するまでの期間になっている。例えば、前回の遊技でリールの駆動状態が「リール加速状態」になった時点からの時間を計時し、最小遊技時間（約4.1秒）経過前に今回の遊技に係るスタートレバーD50が操作された場合は、「リール回転開始待機状態」となる。

40

【1234】

次に、図中（2）のタイミングで、リール駆動状態が「リール回転開始待機状態」から「リール加速状態」に更新される。ここで、「リール加速状態」は、リールが静止している状態から定速に到達するためにリールを加速している状態である。本例では、タイマ割り込み処理を220回（ $100 + 60 + 30 + 15 + 8 + 4 + 2 + 1 = 220$ ）であり、同図左下段のリール加速状態における割り込み実行回数を参照）実行すると加速状態が終了する（リール駆動状態を「リール定速状態」に更新する）よう構成されている。次に、図中（3）のタイミング、換言すると、「リール加速状態」があと1回のタイマ割り込み処理の実行により終了するタイミングで、リール回転速度が定速に到達する。尚、本タイミングでは、リール駆動状態は「リール加速状態」のままとなっている。次に、図中（

50

4) のタイミングにて、リール駆動状態が「リール回転開始待機状態」から「リール加速状態」に更新されてから、タイマ割り込み処理が220回実行されたことにより、リール駆動状態が「リール定速状態」に更新される。このように、本例においては、リール回転速度が定速に到達した後に、タイマ割り込み処理1回分はリール駆動状態が「リール加速状態」のままになる、換言すると、「リール加速状態」における最終の励磁する相の組み合わせである「 $\phi 3$ 、 $\phi 0$ 」では割り込み処理を1回のみ実行するよう構成されており、励磁する相の組み合わせ毎に割り込み処理を1回実行する「リール定速状態」と同様の励磁態様となっている（リールの回転異常が発生しなかった場合）。このように構成することによって、リール回転速度が定速に到達するまでの加速処理を安定して実行することができる。

10

【1235】

ここで、同図下段は「ステップモータ励磁イメージ」である。同図においては、リール駆動状態が「リール加速状態」である場合におけるステップモータ励磁イメージと、リール駆動状態が「リール定速状態」である場合におけるステップモータ励磁イメージとを例示する。まず、リール駆動状態が「リール加速状態」である場合におけるステップモータ励磁イメージを、同図左下段を参照して詳述する。尚、「励磁する相」は励磁する相の組み合わせであり、「割り込み実行回数」は、その励磁する相の組み合わせで励磁することとなる割り込み処理を実行する回数を示している。本例においては、リール加速処理を実行する際には、ステップモータ（ステッピングモータ）をタイマ割り込み処理220回分励磁するよう構成されており、（KA）「 $\phi 0$ 」にて割り込み処理を100回→（KB）「 $\phi 0$ 、 $\phi 1$ 」にて割り込み処理を60回→（KC）「 $\phi 1$ 」にて割り込み処理を30回→（KD）「 $\phi 1$ 、 $\phi 2$ 」にて割り込み処理を15回→（KE）「 $\phi 2$ 」にて割り込み処理を8回→（KF）「 $\phi 2$ 、 $\phi 3$ 」にて割り込み処理を4回→（KG）「 $\phi 3$ 」にて割り込み処理を2回→（KH）「 $\phi 3$ 、 $\phi 0$ 」にて割り込み処理を1回、のように割り込み処理を実行してステップモータ（ステッピングモータ）を励磁するよう構成されている（割り込み処理の実行回数はあくまで一例であり変更しても問題ない）。このように、本例においては、リール加速処理の実行時においては、1の励磁する相の組み合わせにて割り込み処理を実行する回数を徐々に減少させていくよう構成されている。

20

【1236】

次に、リール駆動状態が「リール定速状態」である場合におけるステップモータ励磁イメージを、同図右下段を参照して詳述する。本例においては、リール定速状態である場合（リール定速維持処理を実行する際）には、（TA）「 $\phi 0$ 」にて割り込み処理を1回→（TB）「 $\phi 0$ 、 $\phi 1$ 」にて割り込み処理を1回→（TC）「 $\phi 1$ 」にて割り込み処理を1回→（TD）「 $\phi 1$ 、 $\phi 2$ 」にて割り込み処理を1回→（TE）「 $\phi 2$ 」にて割り込み処理を1回→（TF）「 $\phi 2$ 、 $\phi 3$ 」にて割り込み処理を1回→（TG）「 $\phi 3$ 」にて割り込み処理を1回→（TH）「 $\phi 3$ 、 $\phi 0$ 」にて割り込み処理を1回→（TA）「 $\phi 0$ 」にて割り込み処理を1回→（TB）「 $\phi 0$ 、 $\phi 1$ 」にて割り込み処理を1回→・・・、のように（TA）～（TG）を割り込み処理1回ずつ繰り返して実行してステップモータ（ステッピングモータ）を励磁するよう構成されている。このように、本例においては、リール定速維持処理の実行時においては、1の励磁する相の組み合わせにて割り込み処理を実行する回数がすべて1回となるよう構成されている。

30

40

【1237】

次に、リール駆動状態が「リール定速状態」である状況にて、図中（5）のタイミングで、いずれかのリールに対応した停止ボタンが操作され、リール駆動状態が「リール減速待機状態」に更新される。ここで、「リール定速状態」は、リールの回転速度が定速になっている状態（励磁する相の組み合わせを1回の割り込み処理毎に切り替えている状態）であり、「リール減速待機状態」は、遊技者によって停止ボタンが操作されてから、停止制御を開始するまでの状態（リール減速待機状態においては、すべりコマ数に対応したリールのすべりが発生している）を示すものである。この駆動状態の期間は、停止ボタンの操作タイミングに基づいて定まる。

50

【1238】

次に、図中（６）のタイミングで、リール駆動状態が「リール減速待機状態」から「リール減速状態」に更新され、リールの減速が開始される。リール駆動状態が「リール減速待機状態」から「リール減速状態」に更新されると、リールの回転を停止すべくステッピングモータの特定の相を所定時間励磁し続けることとなり、一例としては、４相全てを励磁する４相励磁を行う。そして、所定時間励磁を行うと、図中（７）のタイミングにて、リール駆動状態が「リール減速状態」から「リール停止状態」に更新され、リールが停止することとなる。

【1239】

上述したように、本例に係る回胴遊技機は、リール駆動状態がリール定速状態になってから所定時間（例えば、割り込み処理を４００回実行する時間値）以内にリールセンサがインデックスを検出しなかった場合には、リール駆動状態をリール加速状態に再度更新し、リール再加速処理（ステッピングモータの励磁態様はリール加速処理と同様となっている）を実行するよう構成されているため、リール駆動状態がリール加速状態である場合、換言すると、リール加速処理の実行中にはリールの加速が正常に実行されたか否かを判定していない。また、リールの加速が正常に行われたか、換言すると、リールが定速になっているか（リール回転不良が発生していないか）は、ステップ６１２４の処理（リール駆動状態がリール定速状態に更新されてから所定時間経過後に判定される）で判定することとなるが、ステップ６１２４の処理で、リールセンサがインデックスを検出しなかったことからリールが定速になっていない（リール回転不良が発生している）と判定した場合には、リール再加速処理を実行する、即ち、再度リール加速処理を初めから実行するよう構成されている。このように、リール加速処理の実行中にはリールの加速が正常に実行されたか否かを判定しないよう構成することにより、リール加速処理の実行中にリール回転不良が発生した場合においても、その後、リール回転不良が解消し、リール加速処理を実行終了するまでの残りのリール加速処理によって、リールの回転速度を定速に到達させることができた場合には、リール駆動状態がリール定速状態に更新されてから所定時間経過するまでにリールセンサがインデックスを検出することにより、再加速処理を実行せずにリール定速維持処理を実行することとなり、リール再加速処理の実行によって、遊技者が遊技を進行できない（停止ボタンを操作できない）事態を発生し難くすることができる。また、リール加速処理の実行中において、リールの加速が正常に実行されたか否かを判定する処理を実行しないよう構成することにより、リールの回転に関する処理に要するデータ量を少なくすることができる。尚、このように構成されていることから、本例に係る回胴式遊技機がリール加速処理を実行している途中にてリール回転不良が発生した場合には、以下のように作用することとなる。

【1240】

<作用１>

リールの回転が開始→リール駆動状態をリール加速状態に更新→リール加速処理を実行→リール加速処理の実行終了→リール駆動状態をリール定速状態に更新→リール定速維持処理を実行→リール定速維持処理の実行中にリール回転不良が発生→リール回転不良を検知→リール再加速処理を実行

上記のように作用し得るよう構成されている。

尚、リール回転不良とは、リール窓Ｄ１６０等のリール近傍に設けられた部材によってリールの回転が阻害される（リール窓Ｄ１６０にリールが擦れる等）、脱調が発生する等によって、リールの加速が正常に実行されなかった場合を称している。このように、リール定速維持処理の実行中にリール回転不良が発生した場合にもリール再加速処理を実行するよう構成することにより、円滑に遊技を進行することができることとなる。

【1241】

<作用２>

リールの回転が開始→リール駆動状態をリール加速状態に更新→リール加速処理を実行→リール加速処理の実行途中にリール回転不良が発生→リール加速処理を継続して実行→

リール加速処理の実行終了→リール駆動状態をリール定速状態に更新→リール定速維持処理を実行→リール回転不良を検知→リール再加速処理を実行

上記のように作用し得るよう構成されている。このように、リール加速処理の実行中にリール回転不良が発生した場合にも、その後リール回転不良を検知した場合にリール再加速処理を実行するよう構成することにより、円滑に遊技を進行することができることとなる。また、上記のように、リール加速処理の実行途中にて回胴回転不良が発生した場合にも、リール加速処理を継続して実行し、回胴回転不良が発生していない場合と同様の割り込み回数分リール加速処理を実行した場合にリール加速処理の実行を終了することとなる。このように構成することにより、リール加速処理の実行開始直後にリール回転不良が発生した場合等にリール再加速処理を実行せずにリールの回転速度が定速に到達し易いよう構成することができる。

10

【1 2 4 2】

<作用3>

リールの回転が開始→リール駆動状態をリール加速状態に更新→リール加速処理を実行→リール加速処理の実行途中で電源断が発生→電源断から復帰→リール加速処理を継続して実行（未処理のリール加速処理を実行）→リール加速処理の実行途中でリール回転不良が発生→リール加速処理を継続して実行（未処理のリール加速処理を実行）→リール加速処理の実行終了→リール駆動状態をリール定速状態に更新→リール定速維持処理を実行→リール回転不良を検知→リール再加速処理を実行

上記のように作用し得るよう構成されている。このように、リール加速処理の実行中に電源断が発生した場合にも、電源復帰後に継続してリール加速処理を実行し、その後リール駆動状態をリール定速状態に更新した後から所定時間以内にリールセンサがインデックスを検出できなかった場合にリール再加速処理を実行することにより、円滑に遊技を進行することができることとなる。また、リール加速処理の実行中に電源断が発生した場合に、電源復帰後に継続してリール加速処理を実行し、その後リール駆動状態をリール定速状態に更新した後から所定時間以内にリールセンサがインデックスを検出した場合にはリール再加速処理を実行しないよう構成されており、そのように構成することにより、リール再加速処理によって遊技者が遊技を進行できない（停止ボタンを操作できない）事態を発生し難くすることができる。

20

【1 2 4 3】

<<最終停止ボタン操作後の作用>>

本例に係る回胴式遊技機は、最終停止ボタン（第3停止ボタン）の操作後に最終のリール（最後まで回転しているリールであり、第3リールとも称する）が停止し、入賞役となる図柄組み合わせが停止表示した場合には遊技メダルの払出が実行され得るよう構成されているが、遊技メダルの払出に関する作用として、以下のように構成してもよい。

【1 2 4 4】

<作用1>

入賞役に当選したゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが停止表示→第3リールの停止操作として第3停止ボタンを操作（第3停止ボタンの操作を受け付ける）→リール駆動状態をリール減速状態に更新→電源断が発生→第3リールが停止表示位置まで移動（回転）→電源断を検出→電源断時処理を実行→電源復帰→リールに入賞役に対応する図柄組み合わせが停止表示→遊技メダルの払出に関する処理を実行

上記のように作用するよう構成してもよい。このように構成することで、前述した共通ベル等の、当選した場合には停止ボタンの操作タイミングに拘わらず入賞させることができる小役に当選したゲームにおいて、第3停止ボタンの停止操作を受け付けた直後に遊技場の停電などにより電源断が発生した場合にも、第3リールの停止予定位置に拘らず（すべりコマ数が最大であった場合にも）、電源断を検出する前に当該停止予定位置までの移動

40

50

（回転）が完了するよう構成することができる。また、電源復帰後に入賞役を構成する図柄組み合わせ（例えば、共通ベル）が停止表示されている場合には、正常に遊技メダルの払出を実行することができ、遊技者に不利益が生じ難いよう構成することができる。

【 1 2 4 5 】

＜作用 2＞

入賞役に当選したゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第 1 リールの停止操作として第 1 停止ボタンを操作→第 1 リールが停止表示→第 2 リールの停止操作として第 2 停止ボタンを操作→第 2 リールが停止表示→第 3 リールの停止操作として第 3 停止ボタンを操作（第 3 停止ボタンの操作を受け付ける）→リール駆動状態をリール減速状態に更新→リール回転不良が発生→第 3 リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）できない→遊技者から見てリールに入賞役に対応する図柄組み合わせが停止表示していないが、ステップ 1 2 6 9 の判定処理では図柄組み合わせは正常であると判定（停止ボタンの操作に基づくリールの停止制御が正常に完了したと判定した場合であり、例えば、ベル役が当選しているゲームにおいて、遊技者から見てリールに入賞役であるベル役に対応する図柄組み合わせが停止表示しなかったが、遊技者の停止ボタンの操作に対応した遊技機内部の処理によってベル役に対応する図柄組み合わせを停止表示させるための停止制御を正常に実行した場合）→遊技メダルの払出に関する処理を実行

上記のように作用するよう構成してもよい。このように構成することで、第 3 停止ボタンの停止操作を受け付けた直後にリール回転不良が発生し、遊技者から見てリールに入賞役に対応する図柄組み合わせが停止表示していない場合にも、遊技機の内部処理にて入賞役に当選し、且つ当該入賞役に対応する図柄組み合わせを停止表示できるタイミングで各リール（左リール、中リール、右リール）に対応する停止ボタンの操作を受け付けており、当該入賞役に対応する図柄組み合わせを停止表示させるための停止制御が正常に実行された場合には、遊技メダルの払出を実行することができ、遊技者に不利益が生じ難いよう構成することができる。尚、リール回転不良が発生するタイミングは上記の例には限定されず、第 2 リールが停止表示してから遊技メダルの払出に関する処理を実行までの期間にリール回転不良が発生し、結果として第 3 停止に対応するリールが停止予定位置に停止できなかった場合にはすべて適用可能である（以下に例示するリール回転不良に関する作用にも適用可能である）。尚、上記作用 2 においては、入賞役に当選したゲームにおける作用を例示している。即ち、リール回転不良が発生しなかった場合には、以下のような作用となる（他の作用においても回転不良及び電源断が発生しなかった場合には、同様の作用となるよう構成してもよい）。

入賞役に当選したゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第 1 リールの停止操作として第 1 停止ボタンを操作→第 1 リールが停止表示→第 2 リールの停止操作として第 2 停止ボタンを操作→第 2 リールが停止表示→第 3 リールの停止操作として第 3 停止ボタンを操作（第 3 停止ボタンの操作を受け付ける）→リール駆動状態をリール減速状態に更新→第 3 リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動する→遊技者から見てリールに入賞役に対応する図柄組み合わせが停止表示しており、ステップ 1 2 6 9 の判定処理で図柄組み合わせは正常であると判定→遊技メダルの払出に関する処理を実行

尚、前述又は後述する作用における入賞役としては、当選したゲームにて停止ボタンの操作タイミングに拘わらず入賞可能な入賞役（例えば、共通ベル）としてもよいし、当選したゲームにて停止ボタンの操作タイミングによって入賞する場合と入賞しない場合とがある入賞役（例えば、スイカ A、スイカ B、チェリー）としてもよい。また、所定の遊技状態にて所定の入賞役に当選したゲームにおいて、リール回転不良や電源断が発生せず、当該所定の入賞役に対応する図柄組み合わせが停止表示した場合に、リールバックライト（バックランプと称することがある）が点滅する演出（バックランプ演出と称することがある）として当該所定の入賞役に対応するバックランプ演出を実行するよう構成した場合には、前記所定の遊技状態にて前記所定の入賞役に当選したゲームにて、リール回転不良が

10

20

30

40

50

発生して、前記所定の入賞役に対応する図柄組み合わせが停止表示しなかった場合にも、前記所定の入賞役に対応するバックランプ演出を実行するよう構成してもよい。また、本作用においては、第3停止に対応するリールが停止予定位置に停止できなかった場合について例示したが、これには限定されず、第1停止に対応するリールがリール回転不良によって停止予定位置に停止できなかった場合に適用してもよいし、第2停止に対応するリールがリール回転不良によって停止予定位置に停止できなかった場合に適用してもよい（他の作用についても同様に適用可能である）。

【1246】

<作用3>

入賞役に当選したゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが停止表示→電源断が発生して遊技機への電力の供給が停止→第3リールの停止操作として第3停止ボタンを操作（第3停止ボタンの操作を受け付ける）→リール駆動状態をリール減速状態に更新→電源断を検出→電源断時処理を実行→第3リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）できない→遊技者から見てリールに入賞役に対応する図柄組み合わせが停止表示していないが、ステップ1269の判定処理では図柄組み合わせは正常であると判定（停止ボタンの操作に基づくリールの停止制御が正常に完了したと判定した場合であり、例えば、ベル役が当選しているゲームにおいて、遊技者から見てリールに入賞役であるベル役に対応する図柄組み合わせが停止表示しなかったが、遊技者の停止ボタンの操作に対応した遊技機内部の処理によってベル役に対応する図柄組み合わせを停止表示させるための停止制御を正常に実行した場合）→遊技メダルの払出に関する処理を実行

上記のように作用するよう構成してもよい。尚、電源断を検出するタイミング、電源断が発生して遊技機への電力の供給が停止するタイミング、ステップ1269の判定処理で図柄組み合わせは正常であると判定するタイミング、及び電源復帰するタイミングは、上記のタイミングには限定されず、第2リールが停止表示してから遊技メダルの払出に関する処理を実行までの期間に、電源断を検出するタイミング、電源断が発生して遊技機への電力の供給が停止するタイミング、ステップ1269の判定処理で図柄組み合わせは正常であると判定するタイミング、及び電源復帰するタイミングが存在していればよく、電源断の発生によって第3停止ボタンに対応するリールが停止予定位置に停止できなかった場合にはすべて適用可能である（以下に例示する電源断を含む作用についても同様である）。このように構成することで、第3停止ボタンの停止操作を受け付けた直前（又は直後）に電源断が発生し、遊技者から見てリールに入賞役に対応する図柄組み合わせが停止表示できなかった場合にも、遊技機の内部処理にて入賞役に当選し、且つ当該入賞役に対応する図柄組み合わせを停止表示できるタイミングで各リール（左リール、中リール、右リール）に対応する停止ボタンの操作を受け付けており、当該入賞役に対応する図柄組み合わせを停止表示させるための停止制御が正常に実行された場合には、電源復帰後に遊技メダルの払出（遊技メダルの払出には、ホッパの駆動による放出口からの払出のみではなく、クレジット数表示装置の表示（クレジット数）が増加することも含まれることとする）を実行することができ、遊技者に不利益が生じ難いよう構成することができる。尚、電源断が発生して遊技機への電力の供給が停止するタイミングを電源断が発生するタイミングと称することがある。また、所定の遊技状態にて所定の入賞役に当選したゲームにおいて、リール回転不良や電源断が発生せず、当該所定の入賞役に対応する図柄組み合わせが停止表示した場合に、リールバックライト（バックランプと称することがある）が点滅する演出（バックランプ演出と称することがある）として当該所定の入賞役に対応するバックランプ演出を実行するよう構成した場合には、前記所定の遊技状態にて前記所定の入賞役に当選したゲームにて、電源断が発生して、前記所定の入賞役に対応する図柄組み合わせが停止表示しなかった場合にも、前記所定の入賞役に対応するバックランプ演出を実行するよう構成してもよい。また、本作用においては、第3停止に対応するリールが停止予定位置

10

20

30

40

50

に停止できなかった場合について例示したが、これには限定されず、第1停止に対応するリールが電源断によって停止予定位置に停止できなかった場合に適用してもよいし、第2停止に対応するリールが電源断によって停止予定位置に停止できなかった場合に適用してもよい（他の作用についても同様に適用可能である）。

【1247】

<作用4>

ハズレとなったゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが停止表示→第3リールの停止操作として第3停止ボタンを操作（第3停止ボタンの操作を受け付ける）→リール駆動状態をリール減速状態に更新→リール回転不良が発生→第3リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）できない→遊技者から見てリールに入賞役に対応する図柄組み合わせが停止表示しているが、ステップ1269の判定処理では図柄組み合わせは正常であると判定（停止ボタンの操作に基づくリールの停止制御が正常に完了したと判定した場合であり、例えば、ハズレとなったゲームにおいて、遊技者から見てリールにハズレに対応する図柄組み合わせが停止表示しなかったが、遊技者の停止ボタンの操作に対応した遊技機内部の処理によってハズレに対応する図柄組み合わせを停止表示させるための停止制御を正常に実行した場合）→遊技メダルの払出が実行されない

上記のように作用するよう構成してもよい。このように構成することで、役抽選の結果がハズレとなったゲームにおいて、第3停止ボタンの停止操作を受け付けた直後にリール回転不良が発生し、遊技者から見てリールに入賞役に対応する図柄組み合わせが停止表示している場合にも、遊技機の内部処理にてハズレとなり、且つハズレに対応する図柄組み合わせを停止表示できるタイミングで各リール（左リール、中リール、右リール）に対応する停止ボタンの操作を受け付けており、ハズレに対応する図柄組み合わせを停止表示させるための停止制御が正常に実行された場合には、入賞役に対応する図柄組み合わせが停止表示されていても遊技メダルの払出を実行しないよう構成することができ、公正な遊技機とすることができると共に、遊技場に意図しない不利益を生じさせない遊技機とすることができる。尚、上記作用4はハズレのみには限定されず、例えば、ベルに当選していないゲーム（再遊技役に当選しているゲーム、スイカに当選しているゲーム、等）において、リール回転不良が発生してベルに対応する図柄組み合わせが停止表示した場合にも適用することができることを補足しておく。また、このような場合においては、遊技者から見た停止表示されている図柄組み合わせは、回転不良により内部抽選結果と整合性のとれていない図柄組み合わせとなっているが、ステップ1269の判定処理では図柄組み合わせは正常であると判定しているため、表示判定エラー（復帰不可能エラー）は発生しない（表示判定エラーが発生したと判定しない）よう構成されている。

【1248】

<作用5>

ハズレとなったゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが停止表示→電源断が発生して遊技機への電力の供給が停止→第3リールの停止操作として第3停止ボタンを操作（第3停止ボタンの操作を受け付ける）→リール駆動状態をリール減速状態に更新→電源断を検出→電源断時処理を実行→第3リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）できない→遊技者から見てリールに入賞役に対応する図柄組み合わせが停止表示しているが、ステップ1269の判定処理では図柄組み合わせは正常であると判定（停止ボタンの操作に基づくリールの停止制御が正常に完了したと判定した場合であり、例えば、ハズレとなったゲームにおいて、遊技者から見てリールにハズレに対応する図柄組み合わせが停止表示しなかったが、遊技者の停止ボタンの操作に対応した遊技機内部の処理によってハズレに対応する図柄組み合わせを停

止表示させるための停止制御を正常に実行した場合)→電源復帰→遊技メダルの払出が実行されない

上記のように作用するよう構成してもよい。このように構成することで、役抽選の結果ハズレとなったゲームにおいて、第3停止ボタンの停止操作を受け付けた直後に電源断時処理を実行し、遊技者から見てリールに入賞役に対応する図柄組み合わせが停止表示している場合にも、遊技機の内部処理にてハズレとなり、且つハズレに対応する図柄組み合わせを停止表示できるタイミングで各リール(左リール、中リール、右リール)に対応する停止ボタンの操作を受け付けており、ハズレに対応する図柄組み合わせを停止表示させるための停止制御が正常に実行された場合には、入賞役に対応する図柄組み合わせが停止表示されていても遊技メダルの払出を実行しないよう構成することができ、公正な遊技機とすることができると共に、遊技場に意図しない不利益を生じさせない遊技機とすることができる。尚、上記作用5はハズレのみには限定されず、例えば、ベルに当選していないゲーム(再遊技役に当選しているゲーム、スイカに当選しているゲーム、等)において、リール回転不良が発生してベルに対応する図柄組み合わせが停止表示した場合にも適用することができることを補足しておく。また、このような場合においては、遊技者から見た停止表示されている図柄組み合わせは、回転不良により内部抽選結果と整合性のとれていない図柄組み合わせとなっているが、ステップ1269の判定処理では図柄組み合わせは正常であると判定しているため、表示判定エラー(復帰不可能エラー)は発生しない(表示判定エラーが発生したと判定しない)よう構成されている。

【1249】

＜作用6＞

ハズレとなったゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが停止表示→第3リールの停止操作として第3停止ボタンを操作(第3停止ボタンの操作を受け付ける)→リール駆動状態をリール減速状態に更新→リール回転不良が発生→第3リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動(回転)できない→遊技者から見てリールにボーナス役(例えば、BB役)に対応する図柄組み合わせが停止表示しているが、ステップ1269の判定処理では図柄組み合わせは正常であると判定(停止ボタンの操作に基づくリールの停止制御が正常に完了したと判定した場合であり、例えば、ボーナス役に当選しておらず、且つ、ハズレとなったゲームにおいて、遊技者から見てリールにボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示したが、遊技者の停止ボタンの操作に対応した遊技機内部の処理によってハズレに対応する図柄組み合わせを停止表示させるための停止制御を正常に実行した場合)→ボーナスが開始せず、且つ、ボーナス開始時のフリーズが実行されない

上記のように作用するよう構成してもよい。このように構成することで、役抽選の結果がハズレとなったゲームにおいて、第3停止ボタンの停止操作を受け付けた直後にリール回転不良が発生し、遊技者から見てリールにボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示している場合にも、遊技機の内部処理にてハズレとなり、且つハズレに対応する図柄組み合わせを停止表示できるタイミングで各リール(左リール、中リール、右リール)に対応する停止ボタンの操作を受け付けており、ハズレに対応する図柄組み合わせを停止表示させるための停止制御が正常に実行された場合には、ボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示されていてもボーナスが開始しないよう構成することができ、公正な遊技機とすることができると共に、遊技場に意図しない不利益を生じさせない遊技機とすることができる。尚、上記作用6はハズレのみには限定されず、例えば、ボーナス役に当選しておらず(ボーナス内部中でなく)、且つボーナス役に当選しなかったゲーム(再遊技役に当選しているゲーム、スイカに当選しているゲーム、等)において、リール回転不良が発生してボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示した場合にも適用することができることを補足しておく。尚、上記作用6においては、ボーナス役に当選しなかったゲームにおける作用を例示している。即ち、リール回転不良が発生しなかった場合には、以下の

ような作用となる（他の作用においても回転不良及び電源断が発生しなかった場合には、適用可能である）。

リールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが停止表示→第3リールの停止操作として第3停止ボタンを操作（第3停止ボタンの操作を受け付ける）→リール駆動状態をリール減速状態に更新→第3リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動する→遊技者から見てリールにボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示しておらず、ステップ1269の判定処理で図柄組み合わせは正常であると判定→ボーナスが実行開始されない、且つボーナス開始時のフリーズが実行されない

10

のような作用となる。一方、ボーナス役に当選したゲーム又はボーナス内部中にて、リール回転不良が発生していなかった場合としては以下の作用となる。

リールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが停止表示→第3リールの停止操作として第3停止ボタンを操作（第3停止ボタンの操作を受け付ける）→リール駆動状態をリール減速状態に更新→第3リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動する→遊技者から見てリールにボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示し、ステップ1269の判定処理で図柄組み合わせは正常であると判定→ボーナスが実行開始される、且つボーナス開始時のフリーズが実行される

20

のような作用を例示することができる。尚、上記では、ボーナスの開始時にフリーズを実行する場合を例示したが、ボーナスの種類（ボーナス役の種類）によって、フリーズが実行されるボーナスとフリーズが実行されないボーナスを有していてもよいし、ボーナス役に当選する遊技状態によってもフリーズの実行有無を相違させてもよい。

【1250】

<作用7>

ハズレとなったゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが停止表示→電源断が発生して遊技機への電力の供給が停止→第3リールの停止操作として第3停止ボタンを操作（第3停止ボタンの操作を受け付ける）→リール駆動状態をリール減速状態に更新→電源断を検出→電源断時処理を実行→第3リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）できない→遊技者から見てリールにボーナス役（例えば、BB役）に対応する図柄組み合わせが停止表示しているが、ステップ1269の判定処理では図柄組み合わせは正常であると判定（停止ボタンの操作に基づくリールの停止制御が正常に完了したと判定した場合であり、例えば、ボーナス役に当選しておらず、且つ、ハズレとなったゲームにおいて、遊技者から見てリールにボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示したが、遊技者の停止ボタンの操作に対応した遊技機内部の処理によってハズレに対応する図柄組み合わせを停止表示させるための停止制御を正常に実行した場合）→電源復帰→ボーナスが開始せず、且つ、ボーナス開始時のフリーズが実行されない

30

40

上記のように作用するよう構成してもよい。このように構成することで、役抽選の結果がハズレとなったゲームにおいて、第3停止ボタンの停止操作を受け付けた直後に電源断時処理を実行し、遊技者から見てリールにボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示している場合にも、遊技機の内部処理にてハズレとなり、且つハズレに対応する図柄組み合わせを停止表示できるタイミングで各リール（左リール、中リール、右リール）に対応する停止ボタンの操作を受け付けており、ハズレに対応する図柄組み合わせを停止表示させるための停止制御が正常に実行された場合には、ボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示されていても遊技メダルのボーナスを開始しないよう構成することができ、公正な遊技機とすることができると共に、遊技場に意図しない不利益を生じさせない遊技機

50

とすることができる。尚、上記作用6はハズレのみには限定されず、例えば、ボーナス役に当選しておらず（ボーナス内部中でなく）、且つボーナス役に当選しなかったゲーム（再遊技役に当選しているゲーム、スイカに当選しているゲーム、等）において、リール回転不良が発生してボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示した場合にも適用することができることを補足しておく。尚、上記作用6においては、ボーナス役に当選しなかったゲームにおける作用を例示している。即ち、電源断が発生しなかった場合には、以下のような作用となる（他の作用においても回転不良及び電源断が発生しなかった場合には、適用可能である）。

リールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが停止表示→第3リールの停止操作として第3停止ボタンを操作（第3停止ボタンの操作を受け付ける）→リール駆動状態をリール減速状態に更新→第3リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動する→遊技者から見てリールにボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示しておらず、ステップ1269の判定処理で図柄組み合わせは正常であると判定→ボーナスが実行開始されない、且つボーナス開始時のフリーズが実行されない

10

のような作用となる。一方、ボーナス役に当選したゲーム又はボーナス内部中にて、リール電源断が発生していなかった場合としては以下の作用となる。

リールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが停止表示→第3リールの停止操作として第3停止ボタンを操作（第3停止ボタンの操作を受け付ける）→リール駆動状態をリール減速状態に更新→第3リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動する→遊技者から見てリールにボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示し、ステップ1269の判定処理で図柄組み合わせは正常であると判定→ボーナスが実行開始される、且つボーナス開始時のフリーズが実行される

20

のような作用を例示することができる。尚、上記では、ボーナスの開始時にフリーズを実行する場合を例示したが、ボーナスの種類（ボーナス役の種類）によって、フリーズが実行されるボーナスとフリーズが実行されないボーナスを有していてもよいし、ボーナス役に当選する遊技状態によってもフリーズの実行有無を相違させてもよい。

30

【1251】

<作用8>

ボーナス内部中に実行されたゲームとして、又はボーナス役に当選したゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが停止表示→第3リールの停止操作として第3停止ボタンを操作（第3停止ボタンの操作を受け付ける）→リール駆動状態をリール減速状態に更新→リール回転不良が発生→第3リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）できない→遊技者から見てリールにボーナス役（例えば、BB役）に対応する図柄組み合わせが停止表示していないが、ステップ1269の判定処理では図柄組み合わせは正常であると判定→ボーナスが開始し、且つ、ボーナス開始時のフリーズが実行される

40

上記のように作用するよう構成してもよい。このように構成することで、ボーナスに当選している状況にて実行されたゲーム、又はボーナス役に当選したゲームにおいて、第3停止ボタンの停止操作を受け付けた直後にリール回転不良が発生し、遊技者から見てリールにボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示していない場合にも、ボーナス役に対応する図柄組み合わせを停止表示できるタイミングで各リール（左リール、中リール、右リール）に対応する停止ボタンの操作を受け付けており、ボーナス役に対応する図柄組み合わせを停止表示させるための停止制御が正常に実行された場合には、ボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示されていなくても、ボーナスを開始し且つボーナス開始時

50

に実行されるフリーズを実行するよう構成することができ、ボーナスが開始されるべき状況でリール回転不良によってボーナスが開始されなくなってしまうような遊技者にとっての著しい不利益を生じさせないよう構成することができると共に、リール回転不良が発生しなかった場合と同様に、ボーナス開始時のフリーズを実行することによって、遊技者は違和感なく遊技を進行することができることとなる。

【1252】

<作用9>

ボーナス内部中に実行されたゲームとして、又はボーナス役に当選したゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが停止表示→電源断が発生して遊技機への電力の供給が停止→第3リールの停止操作として第3停止ボタンを操作（第3停止ボタンの操作を受け付ける）→リール駆動状態をリール減速状態に更新→電源断を検出→電源断時処理を実行→第3リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）できない→遊技者から見てリールにボーナス役（例えば、BB役）に対応する図柄組み合わせが停止表示していないが、ステップ1269の判定処理では図柄組み合わせは正常であると判定→電源復帰→ボーナスが開始し、且つ、ボーナス開始時のフリーズが実行される

上記のように作用するよう構成してもよい。このように構成することで、ボーナスに当選している状況にて実行されたゲーム、又はボーナス役に当選したゲームにおいて、第3停止ボタンの停止操作を受け付けた直後に電源断時処理を実行し、遊技者から見てリールにボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示していない場合にも、ボーナス役に対応する図柄組み合わせを停止表示できるタイミングで各リール（左リール、中リール、右リール）に対応する停止ボタンの操作を受け付けており、ボーナス役に対応する図柄組み合わせを停止表示させるための停止制御が正常に実行された場合には、ボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示されていなくても、ボーナスを開始し且つボーナス開始時に実行されるフリーズを実行するよう構成することができ、ボーナスが開始されるべき状況で電源断によってボーナスが開始されなくなってしまうような遊技者にとっての著しい不利益を生じさせないよう構成することができると共に、リール回転不良が発生しなかった場合と同様に、ボーナス開始時のフリーズを実行することによって、遊技者は違和感なく遊技を進行することができることとなる。

【1253】

<作用10>

ハズレとなったゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが停止表示→第3リールの停止操作として第3停止ボタンを操作（第3停止ボタンの操作を受け付ける）→リール駆動状態をリール減速状態に更新→リール回転不良が発生→第3リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）できない→遊技者から見てリールに再遊技役に対応する図柄組み合わせが停止表示しているが、ステップ1269の判定処理では図柄組み合わせは正常であると判定（停止ボタンの操作に基づくリールの停止制御が正常に完了したと判定した場合であり、例えば、ハズレとなったゲームにおいて、遊技者から見てリールに再遊技役に対応する図柄組み合わせが停止表示したが、遊技者の停止ボタンの操作に対応した遊技機内部の処理によってハズレに対応する図柄組み合わせを停止表示させるための停止制御を正常に実行した場合）→再遊技役の停止表示に対応する自動ベットが行われず、且つ再遊技ランプD290が新たに点灯しない

上記のように作用するよう構成してもよい。このように構成することで、役抽選の結果がハズレとなったゲームにおいて、第3停止ボタンの停止操作を受け付けた直後にリール回転不良が発生し、遊技者から見てリールに再遊技役に対応する図柄組み合わせが停止表示

10

20

30

40

50

している場合にも、遊技機の内部処理にてハズレとなり、且つハズレに対応する図柄組み合わせを停止表示できるタイミングで各リール（左リール、中リール、右リール）に対応する停止ボタンの操作を受け付けており、ハズレに対応する図柄組み合わせを停止表示させるための停止制御が正常に実行された場合には、再遊技役に対応する図柄組み合わせが停止表示されていても自動ベットが行われず、且つ再遊技ランプD290が新たに点灯しないこととなる。また、作用10において、現在のRT状態にて停止表示した場合にRT状態が移行することとなる再遊技役に対応する図柄組み合わせが遊技者から見て停止表示していたとしても、遊技機の内部処理にてハズレとなり、且つハズレに対応する図柄組み合わせを停止表示できるタイミングで各リール（左リール、中リール、右リール）に対応する停止ボタンの操作を受け付けており、ハズレに対応する図柄組み合わせを停止表示させるための停止制御が正常に実行された場合には、RT状態は移行しないこととなる（再遊技役以外のRT状態が移行することとなる役に対応する図柄組み合わせが停止表示した場合にも同様に適用可能である）。このように構成することにより、遊技場に意図しない不利益を生じさせない遊技機とすることができる。尚、上記作用10はハズレのみには限定されず、例えば、再遊技役に当選していないゲームにおいて、リール回転不良が発生して再遊技役に対応する図柄組み合わせが停止表示した場合に適用することができることを補足しておく。即ち、リール回転不良が発生しなかった場合には、以下のような作用となる（他の作用においても回転不良及び電源断が発生しなかった場合には、適用可能である）。

10

リールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが停止表示→第3リールの停止操作として第3停止ボタンを操作（第3停止ボタンの操作を受け付ける）→リール駆動状態をリール減速状態に更新→第3リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動する→遊技者から見てリールにハズレに対応する図柄組み合わせが停止表示し、ステップ1269の判定処理で図柄組み合わせは正常であると判定→自動ベットが行われず、且つ再遊技ランプD290が新たに点灯しないような作用となる。

20

尚、自動ベットとは、再遊技役に当選したゲームにてベットしていた規定数（例えば、3枚）の遊技メダルが、再遊技役が停止表示したことにより、ベットボタン（マックスベットボタン）の操作やメダル投入口からの遊技メダルの投入がなくとも自動でベットされることとなっている。

30

一方、再遊技役に当選したゲームにてリール回転不良が発生しなかった場合としては以下の作用となる。

リールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが停止表示→第3リールの停止操作として第3停止ボタンを操作（第3停止ボタンの操作を受け付ける）→リール駆動状態をリール減速状態に更新→第3リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動する→遊技者から見てリールに再遊技役に対応する図柄組み合わせが停止表示し、ステップ1269の判定処理で図柄組み合わせは正常であると判定→自動ベットが実行される、且つ再遊技ランプD290が新たに点灯する（前回のゲームにて再遊技役に当選していた場合には再遊技ランプD290は点灯を継続する）

40

のような作用を例示することができる。

【1254】

<作用11>

ハズレとなったゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが停止表示→電源断が発生して遊技機への電力の供給が停止→第

50

3 リールの停止操作として第3停止ボタンを操作（第3停止ボタンの操作を受け付ける）→リール駆動状態をリール減速状態に更新→電源断を検出→電源断時処理を実行→第3リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）できない→遊技者から見てリールに再遊技役に対応する図柄組み合わせが停止表示しているが、ステップ1269の判定処理では図柄組み合わせは正常であると判定（停止ボタンの操作に基づくリールの停止制御が正常に完了したと判定した場合であり、例えば、ハズレとなったゲームにおいて、遊技者から見てリールに再遊技役に対応する図柄組み合わせが停止表示したが、遊技者の停止ボタンの操作に対応した遊技機内部の処理によってハズレに対応する図柄組み合わせを停止表示させるための停止制御を正常に実行した場合）→電源復帰→再遊技役の停止表示に対応する自動ベットが行われず、且つ再遊技ランプD290が新たに点灯しない

10

上記のように作用するよう構成してもよい。このように構成することで、役抽選の結果がハズレとなったゲームにおいて、第3停止ボタンの停止操作を受け付けた直後に電源断時処理を実行し、遊技者から見てリールに再遊技役に対応する図柄組み合わせが停止表示している場合にも、遊技機の内部処理にてハズレとなり、且つハズレに対応する図柄組み合わせを停止表示できるタイミングで各リール（左リール、中リール、右リール）に対応する停止ボタンの操作を受け付けており、ハズレに対応する図柄組み合わせを停止表示させるための停止制御が正常に実行された場合には、再遊技役に対応する図柄組み合わせが停止表示されていても自動ベットが行われず、且つ再遊技ランプD290が新たに点灯しないこととなる。また、作用10において、現在のRT状態にて停止表示した場合にRT状態が移行することとなる再遊技役に対応する図柄組み合わせが遊技者から見て停止表示していたとしても、遊技機の内部処理にてハズレとなり、且つハズレに対応する図柄組み合わせを停止表示できるタイミングで各リール（左リール、中リール、右リール）に対応する停止ボタンの操作を受け付けており、ハズレに対応する図柄組み合わせを停止表示させるための停止制御が正常に実行された場合には、RT状態は移行しないこととなる（再遊技役以外のRT状態が移行することとなる役に対応する図柄組み合わせが停止表示した場合にも同様に適用可能である）。このように構成することにより、遊技場に意図しない不利益を生じさせない遊技機とすることができる。尚、上記作用11はハズレのみには限定されず、例えば、再遊技役に当選していないゲームにおいて、電源断が発生して再遊技役に対応する図柄組み合わせが停止表示した場合に適用することができることを補足しておく。即ち、電源断が発生しなかった場合には、以下のような作用となる（他の作用においても回転不良及び電源断が発生しなかった場合には、適用可能である）。

20

30

リールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが停止表示→第3リールの停止操作として第3停止ボタンを操作（第3停止ボタンの操作を受け付ける）→リール駆動状態をリール減速状態に更新→第3リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動する→遊技者から見てリールにハズレに対応する図柄組み合わせが停止表示し、ステップ1269の判定処理で図柄組み合わせは正常であると判定→自動ベットが行われず、且つ再遊技ランプD290が新たに点灯しない

のような作用となる。一方、再遊技役に当選したゲームにて電源断が発生しなかった場合としては以下の作用となる。

40

リールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが停止表示→第3リールの停止操作として第3停止ボタンを操作（第3停止ボタンの操作を受け付ける）→リール駆動状態をリール減速状態に更新→第3リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動する→遊技者から見てリールに再遊技役に対応する図柄組み合わせが停止表示し、ステップ1269の判定処理で図柄組み合わせは正常であると判定→自動ベットが実行される、且つ再遊技ランプD290が新たに点灯する（前回のゲームにて再遊技役に当選していた場合には再遊技ランプD290は点灯を継続する）

50

のような作用を例示することができる。

【1255】

<作用12>

再遊技に当選したゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが停止表示→第3リールの停止操作として第3停止ボタンを操作（第3停止ボタンの操作を受け付ける）→リール駆動状態をリール減速状態に更新→リール回転不良が発生→第3リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）できない→遊技者から見てリールに再遊技役に対応する図柄組み合わせが停止表示していないが、ステップ1269の判定処理では図柄組み合わせは正常であると判定→再遊技役の停止表示に対応する自動ベットが行われ、且つ再遊技ランプD290が新たに点灯する

上記のように作用するよう構成してもよい。このように構成することで、役抽選の結果が再遊技となったゲームにおいて、第3停止ボタンの停止操作を受け付けた直後にリール回転不良が発生し、遊技者から見てリールに再遊技役に対応する図柄組み合わせが停止表示していない場合にも、遊技機の内部処理にて再遊技に当選しており、且つ再遊技役に対応する図柄組み合わせを停止表示できるタイミングで各リール（左リール、中リール、右リール）に対応する停止ボタンの操作を受け付けており、再遊技役に対応する図柄組み合わせを停止表示させるための停止制御が正常に実行された場合には、再遊技役に対応する図柄組み合わせが停止表示されていなくても自動ベットが行われ、且つ再遊技ランプD290が新たに点灯することとなる。このように構成することにより、遊技者に意図しない不利益を生じさせない遊技機とすることができると共に、再遊技役に対応する図柄組み合わせが停止表示しないことにより、リールを視認しても再遊技役に当選したのか否かが判断できなくても、自動ベットの実行有無や再遊技ランプD290の点灯を視認することにより、遊技の状況を誤認し難くすることができる。また、作用12において、現在のRT状態にて停止表示した場合にRT状態が移行することとなる再遊技役に当選していた場合には、当該再遊技役に対応する図柄組み合わせが停止表示していなくとも、RT状態は移行することとなる。このように構成することにより、遊技の進行に不具合が生じ難い遊技機とすることができ、ユーザーフレンドリーな遊技機を構成することができる。

【1256】

<作用13>

再遊技に当選したゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが停止表示→電源断が発生して遊技機への電力の供給が停止→第3リールの停止操作として第3停止ボタンを操作（第3停止ボタンの操作を受け付ける）→リール駆動状態をリール減速状態に更新→電源断を検出→電源断時処理を実行→第3リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）できない→遊技者から見てリールに再遊技役に対応する図柄組み合わせが停止表示していないが、ステップ1269の判定処理では図柄組み合わせは正常であると判定→電源復帰→再遊技役の停止表示に対応する自動ベットが行われ、且つ再遊技ランプD290が新たに点灯する

上記のように作用するよう構成してもよい。このように構成することで、役抽選の結果が再遊技となったゲームにおいて、第3停止ボタンの停止操作を受け付けた直後に電源断時処理を実行し、遊技者から見てリールに再遊技役に対応する図柄組み合わせが停止表示していない場合にも、遊技機の内部処理にて再遊技に当選しており、且つ再遊技役に対応する図柄組み合わせを停止表示できるタイミングで各リール（左リール、中リール、右リール）に対応する停止ボタンの操作を受け付けており、再遊技役に対応する図柄組み合わせを停止表示させるための停止制御が正常に実行された場合には、再遊技役に対応する図柄組み合わせが停止表示されていなくても自動ベットが行われ、且つ再遊技ランプD290が新たに点灯することとなる。このように構成することにより、遊技者に意図しない不利

10

20

30

40

50

益を生じさせない遊技機とすることができると共に、再遊技役に対応する図柄組み合わせが停止表示しないことにより、リールを視認しても再遊技役に当選したのか否かが判断できなくても、自動ベットの実行有無や再遊技ランプ D 2 9 0 の点灯を視認することにより、遊技の状況を誤認し難くすることができる。また、作用 1 3 において、現在の R T 状態にて停止表示した場合に R T 状態が移行することとなる再遊技役に当選していた場合には、当該再遊技役に対応する図柄組み合わせが停止表示していなくとも、R T 状態は移行することとなる。このように構成することにより、遊技の進行に不具合が生じ難い遊技機とすることができ、ユーザーフレンドリーな遊技機を構成することができる。

【1 2 5 7】

<作用 1 4>

R T 状態が移行する役（R T 移行役と称することがある）に当選したゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第 1 リールの停止操作として第 1 停止ボタンを操作→第 1 リールが停止表示→第 2 リールの停止操作として第 2 停止ボタンを操作→第 2 リールが停止表示→第 3 リールの停止操作として第 3 停止ボタンを操作（第 3 停止ボタンの操作を受け付ける）→リール駆動状態をリール減速状態に更新→リール回転不良が発生→第 3 リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）できない→遊技者から見て R T 移行役に対応する図柄組み合わせが停止表示していないが、ステップ 1 2 6 9 の判定処理では図柄組み合わせは正常であると判定→R T 状態が移行する

上記のように作用するよう構成してもよい。このように構成することで、R T 移行役に当選したゲームにおいて、第 3 停止ボタンの停止操作を受け付けた直後にリール回転不良が発生し、遊技者から見てリールに R T 移行役に対応する図柄組み合わせが停止表示していない場合にも、遊技機の内部処理にて R T 移行役に当選しており、且つ R T 移行役に対応する図柄組み合わせを停止表示できるタイミングで各リール（左リール、中リール、右リール）に対応する停止ボタンの操作を受け付けており、R T 移行役に対応する図柄組み合わせを停止表示させるための停止制御が正常に実行された場合には、R T 移行役に対応する図柄組み合わせが停止表示されていなくとも R T 状態が移行することとなる。このように構成することにより、遊技者に意図しない不利益を生じさせない遊技機とすることができると共に、遊技機が本来有する遊技状態の遷移に沿って遊技を進行させることができ、遊技場の管理者も安心して遊技機を稼働させることができる。尚、R T 移行役とは、所定の R T 状態にて図柄組み合わせが停止表示することにより、当該所定の R T 状態とは異なる R T 状態に移行する役であり、滞在している R T 状態によって R T 移行役となるか否かが相違し得ることとなる。即ち、R T 状態 A では所定役 A は R T 移行役であるが、R T 状態 B では所定役 A は R T 移行役とならない場合があってもよいし、R T 状態 A では所定役 A は R T 移行役であるが、R T 状態 B では所定役 A に当選しない場合があってもよい。

【1 2 5 8】

<作用 1 5>

R T 状態が移行する役（R T 移行役と称することがある）に当選したゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第 1 リールの停止操作として第 1 停止ボタンを操作→第 1 リールが停止表示→第 2 リールの停止操作として第 2 停止ボタンを操作→第 2 リールが停止表示→電源断が発生して遊技機への電力の供給が停止→第 3 リールの停止操作として第 3 停止ボタンを操作（第 3 停止ボタンの操作を受け付ける）→リール駆動状態をリール減速状態に更新→電源断を検出→電源断時処理を実行→第 3 リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）できない→遊技者から見て R T 移行役に対応する図柄組み合わせが停止表示していないが、ステップ 1 2 6 9 の判定処理では図柄組み合わせは正常であると判定→R T 状態が移行する（電源復帰後に R T 状態が移行してもよいし、電源復帰前に R T 状態が移行してもよい）

上記のように作用するよう構成してもよい。このように構成することで、R T 移行役に当選したゲームにおいて、第 3 停止ボタンの停止操作を受け付けた直後に電源断時処理を実

10

20

30

40

50

行し、遊技者から見てリールに R T 移行役に対応する図柄組み合わせが停止表示していない場合にも、遊技機の内部処理にて R T 移行役に応選しており、且つ R T 移行役に対応する図柄組み合わせを停止表示できるタイミングで各リール（左リール、中リール、右リール）に対応する停止ボタンの操作を受け付けており、R T 移行役に対応する図柄組み合わせを停止表示させるための停止制御が正常に実行された場合には、R T 移行役に対応する図柄組み合わせが停止表示されていなくても R T 状態が移行することとなる。このように構成することにより、遊技者に意図しない不利益を生じさせない遊技機とすることができると共に、遊技機が本来有する遊技状態の遷移に沿って遊技を進行させることができ、遊技場の管理者も安心して遊技機を稼働させることができる。

【1259】

<作用16>

R T 状態が移行する役（R T 移行役と称することがある）に応選していないゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが停止表示→第3リールの停止操作として第3停止ボタンを操作（第3停止ボタンの操作を受け付ける）→リール駆動状態をリール減速状態に更新→リール回転不良が発生→第3リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）できない→遊技者から見て R T 移行役に対応する図柄組み合わせが停止表示しているが、ステップ1269の判定処理では図柄組み合わせは正常であると判定→R T 状態が移行しない

上記のように作用するよう構成してもよい。このように構成することで、R T 移行役に応選していないゲームにおいて、第3停止ボタンの停止操作を受け付けた直後にリール回転不良が発生し、遊技者から見てリールに R T 移行役に対応する図柄組み合わせが停止表示してしまった場合にも、R T 状態が移行しないこととなる。このように構成することにより、例えば、A T 中状態にて遊技者にとって不利な R T 状態に移行させないための押し順ナビが実行された場合に、遊技者が押し順ナビに従って停止ボタンを操作下にも拘わらず、リール回転不良により R T 状態が移行してしまう（転落してしまう）図柄組み合わせが見た目上停止表示してしまった場合にも、R T 状態が移行しないこととなり、遊技者に意図しない不利益を生じさせない遊技機とすることができると共に、遊技機が本来有する遊技状態の遷移に沿って遊技を進行させることができ、遊技場の管理者も安心して遊技機を稼働させることができる。

【1260】

<作用17>

R T 状態が移行する役（R T 移行役と称することがある）に応選していないゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが停止表示→電源断が発生して遊技機への電力の供給が停止→第3リールの停止操作として第3停止ボタンを操作（第3停止ボタンの操作を受け付ける）→リール駆動状態をリール減速状態に更新→電源断を検出→電源断時処理を実行→第3リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）できない→遊技者から見て R T 移行役に対応する図柄組み合わせが停止表示しているが、ステップ1269の判定処理では図柄組み合わせは正常であると判定→R T 状態が移行しない

上記のように作用するよう構成してもよい。このように構成することで、R T 移行役に応選していないゲームにおいて、第3停止ボタンの停止操作を受け付けた直後に電源断時処理を実行し、遊技者から見てリールに R T 移行役に対応する図柄組み合わせが停止表示してしまった場合にも、R T 状態が移行しないこととなる。このように構成することにより、例えば、A T 中状態にて遊技者にとって不利な R T 状態に移行させないための押し順ナビが実行された場合に、遊技者が押し順ナビに従って停止ボタンを操作下にも拘わらず、リール回転不良により R T 状態が移行してしまう（転落してしまう）図柄組み合わせが見

10

20

30

40

50

た目上停止表示してしまった場合にも、RT状態が移行しないこととなり、遊技者に意図しない不利益を生じさせない遊技機とすることができると共に、遊技機が本来有する遊技状態の遷移に沿って遊技を進行させることができ、遊技場の管理者も安心して遊技機を稼働させることができる。

【1261】

<作用18>

ハズレとなったゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→リール回転不良が発生→第2リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）できない→遊技者から見て第1リール及び第2リールにおける有効ライン上にボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示→スピーカからテンパイ音出力されない
また、

10

ハズレとなったゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→リール回転不良が発生→第2リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）できない→遊技者から見て第1リール及び第2リールにおける有効ライン上にボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示しない（第2リールが停止予定位置まで移動した場合には、第1リール及び第2リールにおける有効ライン上にボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示する）→スピーカからテンパイ音出力される
上記のように作用するよう構成してもよい。また、リール回転不良が発生しなかった場合の作用としては、

20

ハズレとなったゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）→遊技者から見て第1リール及び第2リールにおける有効ライン上にボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示→スピーカからテンパイ音出力される
また、

30

ハズレとなったゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）→遊技者から見て第1リール及び第2リールにおける有効ライン上にボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示しない→スピーカからテンパイ音出力されない
上記のように作用するよう構成してもよい。

このように構成することで、役抽選の結果がハズレとなったゲームにおいて、第2停止ボタンの停止操作を受け付けた直後にリール回転不良が発生し、ボーナス図柄を構成する図柄組み合わせが第1停止及び第2停止に停止した、換言すると、ボーナス図柄がテンパイした場合にも、本例の停止予定位置にて停止した場合にはボーナス図柄がテンパイしない予定であった場合にはテンパイ音出力しないこととなり、リール回転不良の発生によりリールにおける見た目上の停止位置が正常でない場合にも、スピーカからの出力によって遊技者はリール回転不良が発生していることをいち早く察知することができる。また、同様に、役抽選の結果がハズレとなったゲームにおいて、第2停止ボタンの停止操作を受け付けた直後にリール回転不良が発生し、ボーナス図柄を構成する図柄組み合わせが第1停止及び第2停止に停止しなかった、換言すると、ボーナス図柄がテンパイしなかった場合にも、本例の停止予定位置にて停止した場合にはボーナス図柄がテンパイする予定であった場合にはテンパイ音出力することとなり、リール回転不良の発生によりリールにおける見た目上の停止位置が正常でない場合にも、スピーカからの出力によって遊技者はリー

40

50

ル回転不良が発生していることをいち早く察知することができる。

【1262】

<作用19>

ハズレとなったゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→電源断が発生して遊技機への電力の供給が停止→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→電源断を検出→電源断時処理を実行→第2リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）できない→遊技者から見て第1リール及び第2リールにおける有効ライン上にボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示→電源復帰→スピーカからテンパイ音出力されない

10

また、

ハズレとなったゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→電源断が発生して遊技機への電力の供給が停止→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→電源断を検出→電源断時処理を実行→第2リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）できない→遊技者から見て第1リール及び第2リールにおける有効ライン上にボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示しない（第2リールが停止予定位置まで移動した場合には、第1リール及び第2リールにおける有効ライン上にボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示する）→電源復帰→スピーカからテンパイ音出力される

20

上記のように作用するよう構成してもよい。また、電源断が発生しなかった場合の作用としては、

ハズレとなったゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）→遊技者から見て第1リール及び第2リールにおける有効ライン上にボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示→スピーカからテンパイ音出力される

また、

ハズレとなったゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）→遊技者から見て第1リール及び第2リールにおける有効ライン上にボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示しない→スピーカからテンパイ音出力されない

30

上記のように作用するよう構成してもよい。尚、スピーカからテンパイ音を出力するタイミングは、電源断時処理の実行終了前であってもよいし、電源断発生後の電源復帰後としてもよい。

このように構成することで、役抽選の結果がハズレとなったゲームにおいて、第2停止ボタンの停止操作を受け付けた直後に電源断時処理を実行し、ボーナス図柄を構成する図柄組み合わせが第1停止及び第2停止として停止した、換言すると、ボーナス図柄がテンパイした場合にも、本例の停止予定位置にて停止した場合にはボーナス図柄がテンパイしない予定であった場合にはテンパイ音を出力しないこととなり、リール回転不良の発生によりリールにおける見た目上の停止位置が正常でない場合にも、スピーカからの出力によって遊技者はリール回転不良が発生していることをいち早く察知することができる。また、同様に、役抽選の結果がハズレとなったゲームにおいて、第2停止ボタンの停止操作を受け付けた直後にリール回転不良が発生し、ボーナス図柄を構成する図柄組み合わせが第1停止及び第2停止として停止しなかった、換言すると、ボーナス図柄がテンパイしなかった場合にも、本例の停止予定位置にて停止した場合にはボーナス図柄がテンパイする予定であった場合にはテンパイ音を出力することとなり、リール回転不良の発生によりリール

40

50

における見た目上の停止位置が正常でない場合にも、スピーカからの出力によって遊技者はリール回転不良が発生していることをいち早く察知することができる。尚、本作用では第2停止に対応するリールが停止予定位置に停止しなかった場合を例示したが、第1停止に対応するリールが停止予定位置に停止しなかった（第1停止操作を実行した直後にリール回転不良が発生した）場合としてもよい。

【1263】

<作用20>

ボーナス内部中でなく、且つハズレとなったゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→リール回転不良が発生→第2リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）できない→遊技者から見て第1リール及び第2リールにおける有効ライン上にボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示→スピーカからボーナス確定テンパイ音出力されない

10

また、

ボーナス内部中である、又はボーナスに当選したゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→リール回転不良が発生→第2リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）できない→遊技者から見て第1リール及び第2リールにおける有効ライン上にボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示しない（第2リールが停止予定位置まで移動した場合には、第1リール及び第2リールにおける有効ライン上にボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示する）→スピーカからボーナス確定テンパイ音出力される

20

上記のように作用するよう構成してもよい。また、リール回転不良が発生しなかった場合の作用としては、

ボーナス内部中である、又はボーナスに当選したゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）→遊技者から見て第1リール及び第2リールにおける有効ライン上にボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示→スピーカからボーナス確定テンパイ音出力される

30

また、

ボーナス内部中でなく、且つハズレとなったゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）→遊技者から見て第1リール及び第2リールにおける有効ライン上にボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示しない→スピーカからボーナス確定テンパイ音出力されない

40

上記のように作用するよう構成してもよい。尚、ボーナス確定テンパイ音とは、所定のボーナス図柄を構成する図柄が有効ラインに停止表示（テンパイ）し、且つ当該所定のボーナス図柄が停止表示可能な状況である場合にスピーカから出力され得るテンパイ音である。このように構成することで、役抽選の結果がハズレであり、且つボーナス内部中でないゲームにおいて、第2停止ボタンの停止操作を受け付けた直後にリール回転不良が発生し、ボーナス図柄を構成する図柄組み合わせが第1停止及び第2停止として停止した、換言すると、ボーナス図柄がテンパイした場合にも、本例の停止予定位置にて停止した場合にはボーナス図柄がテンパイしない予定であった場合にはボーナス確定テンパイ音を出力しないこととなり、リール回転不良の発生によりリールにおける見た目上の停止位置が正常で

50

ない場合にも、スピーカからの出力によって遊技者はリール回転不良が発生していることをいち早く察知することができる。

また、同様に、役抽選の結果がボーナス役となったゲーム又はボーナス内部中に実行されたゲームにおいて、第2停止ボタンの停止操作を受け付けた直後にリール回転不良が発生し、ボーナス図柄を構成する図柄組み合わせが第1停止及び第2停止として停止しなかった、換言すると、ボーナス図柄がテンパイしなかった場合にも、本例の停止予定位置にて停止した場合にはボーナス図柄がテンパイする予定であった場合にはボーナス確定テンパイ音を出力することとなり、リール回転不良の発生によりリールにおける見た目上の停止位置が正常でない場合にも、スピーカからの出力によって遊技者はリール回転不良が発生していることをいち早く察知することができる。尚、本作用では第2停止に対応するリールが停止予定位置に停止しなかった場合を例示したが、第1停止に対応するリールが停止予定位置に停止しなかった（第1停止操作を実行した直後にリール回転不良が発生した）場合としてもよい。

【1264】

＜作用21＞

ハズレとなったゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→電源断が発生して遊技機への電力の供給が停止→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→電源断を検出→電源断時処理を実行→第2リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）できない→遊技者から見て第1リール及び第2リールにおける有効ライン上にボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示→電源復帰→スピーカからテンパイ音が出力されない

また、

ハズレとなったゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→電源断が発生して遊技機への電力の供給が停止→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→電源断を検出→電源断時処理を実行→第2リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）できない→遊技者から見て第1リール及び第2リールにおける有効ライン上にボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示しない（第2リールが停止予定位置まで移動した場合には、第1リール及び第2リールにおける有効ライン上にボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示する）→電源復帰→スピーカからテンパイ音が出力される

上記のように作用するよう構成してもよい。また、電源断が発生しなかった場合の作用としては、

ハズレとなったゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）→遊技者から見て第1リール及び第2リールにおける有効ライン上にボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示→スピーカからテンパイ音が出力される

また、

ハズレとなったゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）→遊技者から見て第1リール及び第2リールにおける有効ライン上にボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示しない→スピーカからテンパイ音が出力されない

上記のように作用するよう構成してもよい。尚、スピーカからテンパイ音を出力するタイミングは、電源断時処理の実行終了前であってもよいし、電源断発生後の電源復帰後としてもよい。

このように構成することで、役抽選の結果がハズレとなったゲームにおいて、第2停止ボタンの停止操作を受け付けた直後に電源断時処理を実行し、ボーナス図柄を構成する図柄組み合わせが第1停止及び第2停止として停止した、換言すると、ボーナス図柄がテンパイした場合にも、本例の停止予定位置にて停止した場合にはボーナス図柄がテンパイしない予定であった場合にはテンパイ音を出力しないこととなり、電源断の発生によりリールにおける見た目上の停止位置が正常でない場合にも、スピーカからの出力によって遊技者は電源断の発生によってリールに異常が発生していることをいち早く察知することができる。また、同様に、役抽選の結果がハズレとなったゲームにおいて、第2停止ボタンの停止操作を受け付けた直後に電源断が発生し、ボーナス図柄を構成する図柄組み合わせが第1停止及び第2停止として停止しなかった、換言すると、ボーナス図柄がテンパイしなかった場合にも、本例の停止予定位置にて停止した場合にはボーナス図柄がテンパイする予定であった場合にはテンパイ音を出力することとなり、電源断の発生によりリールにおける見た目上の停止位置が正常でない場合にも、スピーカからの出力によって遊技者は電源断の発生によってリールに異常が発生していることをいち早く察知することができる。尚、本作用では第2停止に対応するリールが停止予定位置に停止しなかった場合を例示したが、第1停止に対応するリールが停止予定位置に停止しなかった（第1停止操作を実行した直後に電源断時処理を実行した）場合としてもよい。

【1265】

<作用22>

ボーナス内部中でなく、且つハズレとなったゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→電源断が発生して遊技機への電力の供給が停止→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→電源断を検出→電源断時処理を実行→第2リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）できない→遊技者から見て第1リール及び第2リールにおける有効ライン上にボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示→スピーカからボーナス確定テンパイ音が出力されない

また、

ボーナス内部中である、又はボーナスに当選したゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→電源断が発生して遊技機への電力の供給が停止→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→電源断を検出→電源断時処理を実行→第2リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）できない→遊技者から見て第1リール及び第2リールにおける有効ライン上にボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示しない（第2リールが停止予定位置まで移動した場合には、第1リール及び第2リールにおける有効ライン上にボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示する）→スピーカからボーナス確定テンパイ音が出力される

上記のように作用するよう構成してもよい。また、電源断が発生しなかった場合の作用としては、

ボーナス内部中である、又はボーナスに当選したゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）→遊技者から見て第1リール及び第2リールにおける有効ライン上にボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示→スピーカからボーナス確定テンパイ音が出力される

また、

ボーナス内部中でなく、且つハズレとなったゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→

第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）→遊技者から見て第1リール及び第2リールにおける有効ライン上にボーナス役に対応する図柄組み合わせが停止表示しない→スピーカからボーナス確定テンパイ音が出力されない

上記のように作用するよう構成してもよい。尚、ボーナス確定テンパイ音とは、所定のボーナス図柄を構成する図柄が有効ラインに停止表示（テンパイ）し、且つ当該所定のボーナス図柄が停止表示可能な状況である場合にスピーカから出力され得るテンパイ音である。このように構成することで、役抽選の結果がハズレであり、且つボーナス内部中でないゲームにおいて、第2停止ボタンの停止操作を受け付けた直後に電源断時処理を実行し、ボーナス図柄を構成する図柄組み合わせが第1停止及び第2停止として停止した、換言すると、ボーナス図柄がテンパイした場合にも、本例の停止予定位置にて停止した場合にはボーナス図柄がテンパイしない予定であった場合にはボーナス確定テンパイ音を出力しないこととなり、電源断の発生によりリールにおける見た目上の停止位置が正常でない場合にも、スピーカからの出力によって遊技者は電源断によってリールに異常が発生していることをいち早く察知することができる。

10

また、同様に、役抽選の結果がボーナス役となったゲーム又はボーナス内部中に実行されたゲームにおいて、第2停止ボタンの停止操作を受け付けた直後に電源断時処理が発生し、ボーナス図柄を構成する図柄組み合わせが第1停止及び第2停止として停止しなかった、換言すると、ボーナス図柄がテンパイしなかった場合にも、本例の停止予定位置にて停止した場合にはボーナス図柄がテンパイする予定であった場合にはボーナス確定テンパイ音を出力することとなり、電源断の発生によりリールにおける見た目上の停止位置が正常でない場合にも、スピーカからの出力によって遊技者は電源断によってリールに異常が発生していることをいち早く察知することができる。尚、本作用では第2停止に対応するリールが停止予定位置に停止しなかった場合を例示したが、第1停止に対応するリールが停止予定位置に停止しなかった（第1停止操作を実行した直後に電源断時処理を実行した）場合としてもよい。

20

【1266】

<作用23>

クレジット数が1以上であり、所定の再遊技役に当選したゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが停止表示→第3リールの停止操作として第3停止ボタンを操作（第3停止ボタンの操作を受け付ける）→リール駆動状態をリール減速状態に更新→リール回転不良が発生→第3リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）できない→前記所定の再遊技役に対応する図柄組み合わせが停止表示しない→マックスベットランプが点灯しない

30

また、

クレジット数が1以上であり、再遊技役に当選していないゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが停止表示→第3リールの停止操作として第3停止ボタンを操作（第3停止ボタンの操作を受け付ける）→リール駆動状態をリール減速状態に更新→リール回転不良が発生→第3リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）できない→前記所定の再遊技役に対応する図柄組み合わせが停止表示→マックスベットランプが点灯する

40

上記のように作用するよう構成してもよい。また、リール回転不良が発生しなかった場合の作用としては、

クレジット数が1以上であり、所定の再遊技役に当選したゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が

50

有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが停止表示→第3リールの停止操作として第3停止ボタンを操作（第3停止ボタンの操作を受け付ける）→リール駆動状態をリール減速状態に更新→第3リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）→前記所定の再遊技役に対応する図柄組み合わせが停止表示→マックスベットランプが点灯しない

また、

クレジット数が1以上であり、再遊技役に当選していないゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが停止表示→第3リールの停止操作として第3停止ボタンを操作（第3停止ボタンの操作を受け付ける）→リール駆動状態をリール減速状態に更新→第3リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）→前記所定の再遊技役に対応する図柄組み合わせが停止表示しない→マックスベットランプが点灯する

上記のように作用するよう構成してもよい。

このように構成することで、再遊技に当選したゲームにおいて、第3停止ボタンの停止操作を受け付けた直後にリール回転不良が発生し、再遊技に対応する図柄組み合わせが停止表示しなかった場合にも、再遊技に対応する図柄組み合わせが停止表示した場合と同様に、マックスベットランプが点灯しないことにより、遊技者はマックスベットボタンの操作が有効でないことをいち早く察知することができる。また、再遊技に当選していないゲームにおいて、第3停止ボタンの停止操作を受け付けた直後にリール回転不良が発生し、再遊技に対応する図柄組み合わせが停止表示してしまった場合にも、再遊技に対応する図柄組み合わせが停止表示していない場合と同様に、マックスベットランプが点灯することにより、遊技者はマックスベットボタンの操作が有効であることをいち早く察知することができる。

【1267】

<作用24>

クレジット数が1以上であり、所定の再遊技役に当選したゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが停止表示→電源断が発生して遊技機への電力の供給が停止→第3リールの停止操作として第3停止ボタンを操作（第3停止ボタンの操作を受け付ける）→リール駆動状態をリール減速状態に更新→電源断を検出→電源断時処理を実行→第3リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）できない→前記所定の再遊技役に対応する図柄組み合わせが停止表示しない→マックスベットランプが点灯しない

また、

クレジット数が1以上であり、再遊技役に当選していないゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが停止表示→電源断が発生して遊技機への電力の供給が停止→第3リールの停止操作として第3停止ボタンを操作（第3停止ボタンの操作を受け付ける）→リール駆動状態をリール減速状態に更新→電源断を検出→電源断時処理を実行→第3リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）できない→前記所定の再遊技役に対応する図柄組み合わせが停止表示→マックスベットランプが点灯する

上記のように作用するよう構成してもよい。また、電源断が発生しなかった場合の作用としては、

クレジット数が1以上であり、所定の再遊技役に当選したゲームとしてリールの回転が

開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが停止表示→第3リールの停止操作として第3停止ボタンを操作（第3停止ボタンの操作を受け付ける）→リール駆動状態をリール減速状態に更新→第3リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）→前記所定の再遊技役に対応する図柄組み合わせが停止表示→マックスベットランプが点灯しない

また、

クレジット数が1以上であり、再遊技役に当選していないゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが停止表示→第3リールの停止操作として第3停止ボタンを操作（第3停止ボタンの操作を受け付ける）→リール駆動状態をリール減速状態に更新→第3リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）→前記所定の再遊技役に対応する図柄組み合わせが停止表示しない→マックスベットランプが点灯する

上記のように作用するよう構成してもよい。

このように構成することで、再遊技に当選したゲームにおいて、第3停止ボタンの停止操作を受け付けた直後に電源断時処理を実行し、再遊技に対応する図柄組み合わせが停止表示しなかった場合にも、再遊技に対応する図柄組み合わせが停止表示した場合と同様に、マックスベットランプが点灯しないことにより、遊技者はマックスベットボタンの操作が有効でないことをいち早く察知することができる。また、再遊技に当選していないゲームにおいて、第3停止ボタンの停止操作を受け付けた直後に電源断時処理を実行し、再遊技に対応する図柄組み合わせが停止表示してしまった場合にも、再遊技に対応する図柄組み合わせが停止表示していない場合と同様に、マックスベットランプが点灯することにより、遊技者はマックスベットボタンの操作が有効であることをいち早く察知することができる。

【1268】

<作用25>

ボーナス実行中におけるゲームであり、且つ入賞役に当選しており、当該入賞役の入賞に対応する遊技メダルが遊技者に付与されることでボーナスの終了条件を充足することとなるゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが停止表示→第3リールの停止操作として第3停止ボタンを操作（第3停止ボタンの操作を受け付ける）→リール駆動状態をリール減速状態に更新→リール回転不良が発生→第3リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）できない→前記入賞役に対応する図柄組み合わせが停止表示しない→ボーナスが終了し、ボーナス終了時フリーズが実行される

上記のように作用するよう構成してもよい。また、リール回転不良が発生しなかった場合の作用としては、

ボーナス実行中におけるゲームであり、且つ入賞役に当選しており、当該入賞役の入賞に対応する遊技メダルが遊技者に付与されることでボーナスの終了条件を充足することとなるゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが停止表示→第3リールの停止操作として第3停止ボタンを操作（第3停止ボタンの操作を受け付ける）→リール駆動状態をリール減速状態に更新→第3リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）→前記入賞役に対応する図柄組み合わせが停止表示→ボーナスが終了し、ボーナス終了時フリーズが実行される

上記のように作用するよう構成してもよい。

このように構成することで、ボーナス最終ゲームにて入賞役に当選し、第3停止ボタンの停止操作を受け付けた直後にリール回転不良が発生し、入賞役に対応する図柄組み合わせが停止表示しなかった場合にも、入賞役に対応する図柄組み合わせが停止表示した場合と同様に、ボーナスが終了すると共に、ボーナス終了時フリーズが実行されることにより、遊技者はボーナスが正常に終了したことをいち早く察知することができ、遊技の進行に対する違和感を抱かせることのない遊技機を提供することができる。

【1269】

<作用26>

ボーナス実行中におけるゲームであり、且つ入賞役に当選しており、当該入賞役の入賞に対応する遊技メダルが遊技者に付与されることでボーナスの終了条件を充足することとなるゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが停止表示→電源断が発生して遊技機への電力の供給が停止→第3リールの停止操作として第3停止ボタンを操作（第3停止ボタンの操作を受け付ける）→リール駆動状態をリール減速状態に更新→電源断を検出→電源断時処理を実行→第3リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）できない→前記入賞役に対応する図柄組み合わせが停止表示しない→ボーナスが終了し、ボーナス終了時フリーズが実行される

上記のように作用するよう構成してもよい。また、電源断が発生しなかった場合の作用としては、

ボーナス実行中におけるゲームであり、且つ入賞役に当選しており、当該入賞役の入賞に対応する遊技メダルが遊技者に付与されることでボーナスの終了条件を充足することとなるゲームとしてリールの回転が開始→リール駆動状態を定速状態に更新→定速状態維持処理を実行→停止ボタンの受付が有効になる→第1リールの停止操作として第1停止ボタンを操作→第1リールが停止表示→第2リールの停止操作として第2停止ボタンを操作→第2リールが停止表示→第3リールの停止操作として第3停止ボタンを操作（第3停止ボタンの操作を受け付ける）→リール駆動状態をリール減速状態に更新→第3リールが遊技者から見て停止予定位置まで移動（回転）→前記入賞役に対応する図柄組み合わせが停止表示→ボーナスが終了し、ボーナス終了時フリーズが実行される

上記のように作用するよう構成してもよい。

このように構成することで、ボーナス最終ゲームにて入賞役に当選し、第3停止ボタンの停止操作を受け付けた直後に電源断時処理を実行し、入賞役に対応する図柄組み合わせが停止表示しなかった場合にも、入賞役に対応する図柄組み合わせが停止表示した場合と同様に、ボーナスが終了すると共に、ボーナス終了時フリーズが実行されることにより、遊技者はボーナスが正常に終了したことをいち早く察知することができ、遊技の進行に対する違和感を抱かせることのない遊技機を提供することができる。

【1270】

尚、上述した本例に係る回胴式遊技機におけるリール加速処理に関する構成から、リール加速処理の実行中に回胴回転不良が発生しなかった場合のリール加速処理の実行期間 = A

リール加速処理の実行中に回胴回転不良が発生した場合の、回胴回転不良が発生するまでのリール加速処理の実行期間 = B

リール加速処理の実行中に回胴回転不良が発生した場合の、回胴回転不良が発生した後のリール加速処理の実行期間 = C

とした場合、

$A = B + C$

となるよう構成されている。

また、

リール加速処理の実行中に回胴回転不良が発生しなかった場合のリール加速処理の割り込

み処理実行回数＝D

リール加速処理の実行中に回胴回転不良が発生した場合の、回胴回転不良が発生するまでのリール加速処理の割り込み処理実行回数＝E

リール加速処理の実行中に回胴回転不良が発生した場合の、回胴回転不良が発生した後のリール加速処理の割り込み処理実行回数＝F

とした場合、

$D = E + F$

となるよう構成されている。

【1271】

次に、図229は、図228におけるステップ1900のサブルーチンに係る、電源断時処理のフローチャートである。まず、ステップ1902で、主制御基板MのCPU C100は、スタックポインタを保存する。次に、ステップ1904で、主制御基板MのCPU C100は、電源断処理済みフラグをオンにする（例えば、RAM領域の電源断処理済みフラグ領域内をオンに相当する値で更新する）。次に、ステップ1906で、主制御基板MのCPU C100は、RAM領域の先頭アドレスからチェックサム領域直前アドレスまでのチェックサムを算出し、当該算出したチェックサムに基づく誤り検出用情報（例えば、当該算出したチェックサムにおける下位1バイト、或いは、その補数となるもの）をチェックサム領域にてセットする。次に、ステップ1912で、主制御基板MのCPU C100は、RAMの書き込みを禁止し、ステップ1914に移行する。次に、ステップ1914で、主制御基板MのCPU C100は、リセットを待機するための無限ループ処理

【1272】

次に、図230は、本例に係る回胴式遊技機の押し順表示のイメージ図の一例を示したものである。図上の表は、実行される押し順ナビが示すリール停止順と指示番号（押し順に係る情報であり、本例においては、主制御基板Mが決定し、副制御基板Sに送信される）との対応を示す表である。例えば、押し順として、「中→右→左」を報知する場合の指示番号は、「A5」であることを示している。次に、図中左側は、押し順が「左→中→右」である場合（対応する指示番号は、「A1」）の押し順表示装置D270、有利区間表示器YH、及び演出表示装置S40に表示されるイメージを図示している。ここで、本例の押し順表示装置D270は、7セグメントの表示方式であり、払出数表示装置を兼ねている。また、メダルの払出が実行された場合に、当該払い出されたメダルの枚数は押し順表示装置D270にて2桁の数字で表示される。ここで、押し順ナビを実行する際にも、押し順表示装置D270の表示を2桁の数値で表示してしまうと、押し順表示装置D270における表示が、メダルの払出枚数であるか押し順ナビ表示であるかが判別困難になってしまう。そのため、メダルの払出枚数であるか押し順ナビ表示であるかの区別がつくように、押し順表示装置D270には、「＝1」のように左側の桁には「＝」を表示するよう構成することにより、押し順表示装置D270の表示が2桁の数値であった場合にはメダルの払出枚数の表示であり、押し順表示装置D270の表示として左側が「＝」、右側が数字であった場合には押し順ナビの表示であると判別可能に構成し、遊技者の誤認を防ぐことができるように構成している。更に、押し順表示装置D270の右下部に備えられた、有利区間表示器YHにおいて、現在の遊技区間が、「有利区間」であることを示すランプが点灯している。同時に当該「有利区間」（又は、「AT中状態」）の残りゲーム数を示す「残り40ゲーム」の表示が演出表示装置S40上にて表示されている。また、図中右側が、押し順が「中→左→右」である場合（対応する指示番号は「A3」）の押し順表示装置D270及び演出表示装置S40に表示されるイメージを図示している。加えて、現在の遊技区間が「有利区間」であるため、有利区間表示器YHが点灯し、当該「有利区間」の残りゲーム数を示す「残り25ゲーム」の表示が演出表示装置S40上にて表示されている。尚、押し順あり役（リール停止順によって停止表示される役が相違する条件装置のうち、メダルの払出を伴う条件装置であり、例えば、ベル）と押し順あり再遊技役（リール停止順によって停止表示される役が相違する条件装置のうち、再遊技役に係る条

10

20

30

40

50

件装置)の指示番号のセグメント表示を異なるものとしてもよいし、押し順表示装置D270の表示方式は7セグメントに限定されるものではなく、例えば、LED表示器を用いて、指示番号に対応する点灯パターンに従い、複数のLEDを点灯させることで、指示を行うように構成してもよい。尚、クレジット数表示装置D200の右下部に、有利区間表示器YHを備える構成としてもよい。この場合の有利区間表示器YHを点灯させるタイミングは、精算ボタンD60の操作が有効となるまで、であることが好ましい。遊技者が遊技をやめる際は、クレジット数表示装置D200を視認してメダルが残っていないかを確認することになる。そして、メダルが残っていれば、精算ボタンD60が操作される。即ち、精算ボタンD60が有効となるまでに点灯させることで、次遊技から「有利区間」であるのに、誤って遊技をやめてしまうことを防止することができる、というユーザフレンドリーな遊技機とすることができる。

10

【1273】

また、有利区間表示器YHにおける遊技区間の報知態様は、本例には限定されず、2つの7セグメント両方の右下に有利区間表示器YHと同様の区間表示器を備える(区間表示器を2つ備える)構成としてもよく、そのように構成した場合には、左側の区間表示器が点灯した場合には、現在の遊技区間が「通常区間」である旨を報知し、他方、右側の区間表示器が点灯した場合には、現在の遊技区間が「有利区間」である旨を報知するよう構成してもよい。更に、区間表示器の点灯時における色彩や点灯態様によって、「通常区間」と「有利区間」を区別する(例えば、「通常区間」においては「緑」、「有利区間」においては「赤」としたり、「通常区間」においては点灯、「有利区間」においては「点滅」とする)よう構成してもよい。更には、「有利区間」における「AT中BB内部中遊技」、「AT中BB状態」、「AT前兆状態」、「AT中状態」等によって、区間表示器の表示態様を変更するよう構成してもよい。更に、現在の遊技区間が「待機区間」であることを、「通常区間」及び、「有利区間」と区別して認識できるよう構成してもよい。但し、「通常区間」と「有利区間」の区別については使用する区間表示器を異ならせる等、区別し易い態様とし、遊技者が現在の遊技区間が「有利区間」であるか否かを認識し易くすることが好ましい。

20

【1274】

また、「有利区間」の残りゲーム数を示す演出表示装置S40上の表示については、例えば、「AT前兆状態」や「AT準備中」においては、当該「有利区間」の残りゲーム数を表示しない構成(遊技者にとって相対的に低利益な状態において、「有利区間」の残りゲーム数が減算されていくという、遊技者にとっての不利益を報知しない)としてもよい。但し、このように構成した場合であっても、区間表示器は点灯させ、遊技者に「有利区間」中である旨を報知することが好適である。同時に、区間表示器は、主制御基板M側が制御するよう構成すると共に、当該表示が、遊技者にとって視認容易な位置に区間表示器を設置するよう構成することが好ましい。

30

【1275】

次に、図231～図250を参照して、副制御基板S側で実行される制御処理を説明する。

【1276】

<サブ側プログラム開始処理>

はじめに、図231は、サブ側プログラム開始処理を示すサブルーチンである。このサブ側プログラム開始処理は、電源が投入されたことにより呼び出されて実行される。

40

【1277】

まず、ステップ2002で、副制御基板SのCPUSCは、割り込みを禁止する。次に、ステップ2004で、副制御基板SのCPUSCは、CPUやRAMの初期化、チェックサムの算出等の各種の初期化処理を実行する。

【1278】

次に、ステップ2008で、副制御基板SのCPUSCは、電源投入時に算出したチェックサム値と、電源断時に算出して記憶しているチェックサム値とが一致するか否かを判

50

断する。ステップ2008でYesの場合、換言すると、ステップ2008の判断処理で、双方のチェックサム値が一致すると判別した場合には、ステップ2010で、副制御基板SのCPUSCは、後述する1コマンド処理の実行中に電源断が発生した状態から復帰した状態であるか否か、すなわち、完全復帰した状態であるか否かを判断する。

【1279】

ステップ2010でYesの場合、換言すると、完全復帰であると判別した場合には、ステップ2012で、副制御基板SのCPUSCは、割り込みを許可し、電源断が発生したときに実行をしていた1コマンド処理に処理を戻す。

【1280】

一方、ステップ2008でNoの場合、換言すると、前述したステップ2008の判断処理で、双方のチェックサム値が一致しないと判別した場合には、ステップ2014で、副制御基板SのCPUSCは、RAMクリアを実行する。尚、ステップ2014の処理を実行した後、又は、ステップ2010でNoの場合には、処理をサブメインループ処理に移行させる。

【1281】

＜サブメインループ処理＞

次に、図232は、サブメインループ処理を示すサブルーチンである。サブメインループ処理は、図231に示すサブ側プログラム開始処理が実行された後に、呼び出されて実行される。

【1282】

まず、ステップ2102で、副制御基板SのCPUSCは、ウォッチドッグタイマをクリアする。次に、ステップ2104で、副制御基板SのCPUSCは、ウォッチドッグタイマの作動を開始する。次に、ステップ2106で、副制御基板SのCPUSCは、割り込みを許可する。次に、ステップ2108で、副制御基板SのCPUSCは、コマンド受信処理を実行する。このコマンド受信処理は、主制御基板Mから送信された各種のコマンドを受信する処理である。

【1283】

次に、ステップ2250で、副制御基板SのCPUSCは、後述する、1コマンド処理を実行する。この1コマンド処理は、主制御手段100からの制御コマンドに基づいて実行される処理である。具体的な処理は後述する。ステップ2110で、副制御基板SのCPUSCは、所定時間、例えば16msが経過したか否かを判断し、経過していないと判別したときには、ステップ2108に処理を戻す。一方、所定時間が経過していると判別したときには、ステップ2102に処理を戻す。なお、所定時間は、16msに限られず、処理に応じて適宜に変更することができる。

【1284】

＜サブ側電源断処理＞

次に、図233は、副制御基板S側で実行されるサブ側電源断処理を示すサブルーチンである。サブ側電源断処理は、副制御基板Sが電源断を検知したことにより開始される処理である。

【1285】

まず、ステップ2202で、副制御基板SのCPUSCは、ウォッチドッグタイマを停止する。ステップ2204で、副制御基板SのCPUSCは、サブ側プログラム開始処理の実行中であるか否かを判定する。ステップ2204でYesの場合にはステップ2210に移行する。他方、ステップ2204でNoの場合、ステップ2206で、副制御基板SのCPUSCは、チェックサムを算出する。次に、ステップ2208で、副制御基板SのCPUSCは、各種データ（チェックサムの算出結果や、実行していたプログラムの番地等）を退避させ、ステップ2210に移行する。

【1286】

次に、ステップ2210で、副制御基板SのCPUSCは、500msが経過したか否かを判定する。ここで、500msが経過していると判別したときには、電源断処理を終

10

20

30

40

50

了する。他方、ステップ2210でNoの場合、ステップ2212で、副制御基板SのCPUSCは、電源が復帰したか否かを判定する。ステップ2212でYesの場合、ステップ2214で、副制御基板SのCPUSCは、瞬断発生回数を更新する。次に、ステップ2216で、副制御基板SのCPUSCは、ウォッチドッグタイマの作動を開始し、電源断時に実行していた処理に戻す。尚、ステップ2212の判断処理で、電源が復帰していないと判別した場合には、前述したステップ2210に処理を戻す。

【1287】

<1コマンド処理>

次に、図234は、図232のステップ2250の処理で呼び出されて実行される1コマンド処理を示すサブルーチンである。

【1288】

次に、ステップ2252で、副制御基板SのCPUSCは、スタートレバーの操作タイミングではないか否かを判定する。ステップ2252でNoの場合、換言すると、スタートレバーの操作タイミングであると判別したときには、ステップ3000で、副制御基板SのCPUSCは、後述するスタートレバー操作時演出関連決定処理のサブルーチンを読み出して実行する。次に、ステップ2300で、副制御基板SのCPUSCは、後述するスタートレバー操作時処理を実行し、ステップ7100に移行する。

【1289】

次に、ステップ2252でYesの場合、換言すると、スタートレバーの操作タイミングでない場合には、副制御基板SのCPUSCは、ステップ2254で、第1リール停止受付タイミングではないか否かを判定する。ステップ2254でNoの場合、換言すると、第1リール停止受付タイミングである場合には、ステップ2500で、副制御基板SのCPUSCは、後述する第1回胴停止受付時処理のサブルーチンを読み出して実行し、ステップ7100に移行する。

【1290】

次に、ステップ2254でYesの場合、換言すると、第1リール停止受付タイミングでない場合には、ステップ2258で、副制御基板SのCPUSCは、第2リール停止受付タイミングではないか否かを判定する。ステップ2258でNoの場合、換言すると、第2リール停止受付タイミングである場合には、ステップ2550で、副制御基板SのCPUSCは、後述する第2回胴停止受付時処理のサブルーチンを読み出して実行し、ステップ7100に移行する。

【1291】

次に、ステップ2258でYesの場合、換言すると、第2リール停止受付タイミングでない場合には、ステップ2262で、副制御基板SのCPUSCは、第3リール停止受付タイミングではないか否かを判定する。ステップ2262でNoの場合、換言すると、第3リール停止受付タイミングである場合には、ステップ3200で、副制御基板SのCPUSCは、後述する第3回胴停止時演出関連決定処理のサブルーチンを読み出して実行する。次に、ステップ2600で、副制御基板SのCPUSCは、後述する第3回胴停止受付時処理を実行し、ステップ7100に移行する。

【1292】

次に、ステップ2262でYesの場合、換言すると、第3リール停止受付タイミングでない場合には、ステップ2266で、副制御基板SのCPUSCは、停止表示図柄の停止タイミングであるか否かを判定する。ステップ2266でYesの場合、換言すると、停止表示図柄の停止タイミングである場合には、ステップ2268で、副制御基板SのCPUSCは、停止表示図柄時処理（図示せず）を実行し、ステップ7100に移行する。他方、ステップ2266でNoの場合、換言すると、停止表示図柄の停止タイミングでない場合には、副制御基板SのCPUSCは、直ちに、ステップ7100に移行する。

【1293】

次に、ステップ7100で、副制御基板SのCPUSCは、後述するメニュー画面表示制御処理を実行する。次にステップ7200で、副制御基板SのCPUSCは、後述する

10

20

30

40

50

待機画面表示制御処理を実行し、次の処理（ステップ2110の処理）に移行する。

【1294】

次に、図235は、図234のステップ3000の処理で呼び出されて実行されるスタートレバー操作時演出関連決定処理を示すサブルーチンである。まず、ステップ3002で、副制御基板SのCPUSCは、当該ゲームのATに関する状態は「高確率状態」であるか否かを判定する。ステップ3002でYesの場合、ステップ3004で、副制御基板SのCPUSCは、主制御基板M側から受信した高確保障カウンタ値コマンドに基づき、現時点で残っている高確保障ゲーム数（高確率状態があと何ゲーム保障されているか）を確認する。次に、ステップ3050で、副制御基板SのCPUSCは、後述するバトル演出実行可否決定処理のサブルーチンを呼び出して実行し、ステップ3006に移行する。次に、ステップ3006で、副制御基板SのCPUSCは、当該ゲームにおいてはバトル演出が実行されることが決定されているか否かを判定する。ステップ3006でYesの場合、ステップ3008で、副制御基板SのCPUSCは、現在の滞在ステージと、当該ゲームのATに関する状態と、次ゲームのATに関する状態と、現在の高確保障ゲーム数とに基づき、滞在ステージ決定テーブル（図237参照）を参照して、滞在ステージ移行抽選（滞在ステージを変更するか否かの抽選）を実行し、次の処理（ステップ2300の処理）に移行する。尚、ステップ3006でNoの場合にも、次の処理（ステップ2300の処理）に移行する。他方、ステップ3002でNoの場合、ステップ3010で、副制御基板SのCPUSCは、当該ゲームのATに関する状態は「低確率状態」であるか否かを判定する。ステップ3010でYesの場合、ステップ3012で、副制御基板SのCPUSCは、現在の滞在ステージと、当該ゲームのATに関する状態と、次ゲームのATに関する状態とに基づき、滞在ステージ決定テーブル（図237参照）を参照して、滞在ステージ移行抽選を実行し、次の処理（ステップ2300の処理）に移行する。他方、ステップ3010でNoの場合、ステップ3014で、副制御基板SのCPUSCは、当該ゲームのATに関する状態は「AT中状態」であるか否かを判定する。ステップ3014でYesの場合、ステップ3100で、副制御基板SのCPUSCは、後述するAT中演出決定処理のサブルーチンを呼び出して実行し、次の処理（ステップ2300の処理）に移行する。他方、ステップ3014でNoの場合、ステップ3016で、副制御基板SのCPUSCは、当該ゲームのATに関する状態は「復活可否演出用状態」であるか否かを判定する。ステップ3016でYesの場合、ステップ3150で、副制御基板SのCPUSCは、後述する復活可否演出決定処理のサブルーチンを呼び出して実行し、次の処理（ステップ2300の処理）に移行する。他方、ステップ3016でNoの場合、ステップ3018で、副制御基板SのCPUSCは、現在の滞在ステージと当該ゲームのATに関する状態と、次ゲームのATに関する状態とに基づき、予告演出及び滞在ステージを決定し、次の処理（ステップ2300の処理）に移行する。尚、滞在ステージとは演出表示装置S40にて表示される背景演出を主とした演出のことであり、常にいずれかの滞在ステージが設定されるよう構成されている。尚、滞在ステージが異なると、背景演出、予告演出、等の各種演出の傾向が相違することとなる。

【1295】

次に、図236は、図235のステップ3050の処理で呼び出されて実行されるバトル演出実行可否決定処理を示すサブルーチンである。まず、ステップ3052で、副制御基板SのCPUSCは、高確保障ゲーム数は4以上であるか否かを判定する。ステップ3052でYesの場合、ステップ3054で、副制御基板SのCPUSCは、当該ゲームに係る条件装置はBB役であるか否かを判定する。ステップ3054でYesの場合、ステップ3056で、副制御基板SのCPUSCは、所定確率（本例では、1/2）で当選するバトル演出実行可否抽選（バトル演出（勝利）を実行するか否かの抽選）を実行する。次に、ステップ3058で、副制御基板SのCPUSCは、ステップ3056で実行したバトル演出実行可否抽選に当選したか否かを判定する。ステップ3058でYesの場合、ステップ3060で、副制御基板SのCPUSCは、当該ゲームに係る演出をバトル演出（勝利）に決定し、次の処理（ステップ3006の処理）に移行する。他方、ステッ

10

20

30

40

50

プ3058でN oの場合、ステップ3062で、副制御基板SのCPUSCは、当該ゲームに係る演出をバトル演出以外の演出に決定し、次の処理（ステップ3006の処理）に移行する。ここで、バトル演出とは、複数ゲームに亘って実行される連続演出であり、バトル演出に勝利する、即ち、バトル演出（勝利）が実行されることにより、BB役に当選した且つAT抽選に当選したことが確定的となるよう構成されている。尚、バトル演出に関する構成はこれには限定されず、AT抽選には当選していなくともBB役に当選している場合（BB終了後には「低確率状態」又は「高確率状態」に移行する）にバトル演出（勝利）を実行し得るよう構成してもよい。

【1296】

また、ステップ3054でN oの場合、副制御基板SのCPUSCは、当該ゲームに係る条件装置はレア役であるか否かを判定する。ここで、本例においては、レア役は、入賞-C（チェリー）、入賞-D（スイカA）及び入賞-E（スイカB）となっており、BB役と重複して当選し得る役となっている。即ち、遊技者はレア役が停止表示されることにより、BB役と同時当選していることに期待感を抱くこととなるステップ3064でYesの場合、ステップ3066で、副制御基板SのCPUSCは、所定確率（本例では、 $1/3$ であり、ステップ3056における所定確率よりも低い確率となっている）で当選するガセバトル演出実行可否抽選（バトル演出（敗北）を実行するか否かの抽選）を実行する。次に、ステップ3068で、副制御基板SのCPUSCは、ステップ3066で実行したガセバトル演出実行可否抽選に当選したか否かを判定する。ステップ3068でYesの場合、ステップ3070で、副制御基板SのCPUSCは、当該ゲームに係る演出をバトル演出（敗北）に決定し、次の処理（ステップ3006の処理）に移行する。また、ステップ3052、ステップ3064又はステップ3068でN oの場合、ステップ3072で、副制御基板SのCPUSCは、当該ゲームに係る演出をバトル演出以外の演出に決定し、次の処理（ステップ3006の処理）に移行する。ここで、バトル演出（敗北）は「通常区間」であっても実行し得るよう構成してもよい。

【1297】

このように、高確保障ゲーム数が所定数以上である場合、例えば4以上である場合に、複数ゲームに亘ってバトル演出のような連続演出を実行し得る一方、高確保障ゲーム数が所定数未満である場合、例えば、4未満である場合に、バトル演出のような連続演出を実行しないよう構成されているため、連続演出の実行途中であるにもかかわらず、「低確率状態」への移行（「通常区間」が設定されること）によって有利区間表示器YHが消灯することを防止でき、バトル演出が終了するまでの有利区間表示器YHの点灯を確保できる場合にのみバトル演出を実行することにより、遊技者のBB当選への期待感を損なうことがなく、ユーザーフレンドリーな遊技機とすることができる。

【1298】

また、レア役に当選しているときには、バトル演出（敗北）などの連続演出を実行し得るよう構成されているので、バトル演出の実行頻度を担保でき常に期待感を持って遊技を進行することができる。

【1299】

次に、図237は、滞在ステージ決定テーブルの一例である。尚、図237に示す滞在ステージ決定テーブルは、一部のみを抜粋したものである。図237に示す滞在ステージ決定テーブルは、当該ゲームが「低確率状態」であるときに使用するテーブルと、当該ゲームが「高確率状態」且つ高確保障ゲーム数が4以上であるときに使用するテーブルと、当該ゲームが「高確率状態」且つ高確保障ゲーム数が3以下であるときに使用するテーブルとの3種類からなる。

【1300】

当該ゲームが「低確率状態」であるときに使用する滞在ステージ決定テーブルでは、現在の滞在ステージと、次ゲームのATに関する状態と、当該ゲームの滞在ステージと、対応する置数との関係が規定されている。「低確率状態」である場合には、現在の滞在ステージとして、砂漠ステージと街ステージとの2種類の演出ステージからなり、移行するス

10

20

30

40

50

テージとしては、砂漠ステージと街ステージと会議室ステージと洞窟ステージとの4種類の演出ステージからなる。次ゲームのATに関する状態として、「低確率状態」、「通常BB内部中遊技」と、「高確率状態」との3つの状態がある。

【1301】

現在の滞在ステージが砂漠ステージであり次ゲームで「低確率状態」又は「通常BB内部中遊技」に移行する場合に当該ゲームで砂漠ステージが維持される場合の置数として0～979が割り当てられている。また、現在の滞在ステージが砂漠ステージであり次ゲームで「低確率状態」又は「通常BB内部中遊技」に移行する場合に当該ゲームで砂漠ステージから街ステージに移行する場合の置数として980～999が割り当てられている。

【1302】

さらに、現在の滞在ステージが街ステージであり次ゲームで「低確率状態」又は「通常BB内部中遊技」に移行する場合に当該ゲームで街ステージから砂漠ステージに移行する場合の置数として0～19が割り当てられている。現在の滞在ステージが街ステージであり次ゲームで「低確率状態」又は「通常BB内部中遊技」に移行する場合に当該ゲームで街ステージが維持される場合の置数として20～999が割り当てられている。

【1303】

また、現在の滞在ステージが砂漠ステージであり次ゲームで「高確率状態」に移行する場合に当該ゲームで砂漠ステージが維持される場合の置数として0～249が割り当てられている。現在の滞在ステージが砂漠ステージであり次ゲームで「高確率状態」に移行する場合に当該ゲームで砂漠ステージから街ステージに移行する場合の置数として250～499が割り当てられている。現在の滞在ステージが砂漠ステージであり次ゲームで「高確率状態」に移行する場合に当該ゲームで砂漠ステージから会議室ステージに移行する場合の置数として500～749が割り当てられている。現在の滞在ステージが砂漠ステージであり次ゲームで「高確率状態」に移行する場合に当該ゲームで砂漠ステージから洞窟ステージに移行する場合の置数として750～999が割り当てられている。

【1304】

現在の滞在ステージが街ステージであり次ゲームで「高確率状態」に移行する場合に当該ゲームで街ステージから砂漠ステージに移行する場合の置数として0～249が割り当てられている。現在の滞在ステージが街ステージであり次ゲームで「高確率状態」に移行する場合に当該ゲームで街ステージが維持される場合の置数として250～499が割り当てられている。現在の滞在ステージが街ステージであり次ゲームで「高確率状態」に移行する場合に当該ゲームで街ステージから会議室ステージに移行する場合の置数として500～749が割り当てられている。現在の滞在ステージが街ステージであり次ゲームで「高確率状態」に移行する場合に当該ゲームで街ステージから洞窟ステージに移行する場合の置数として750～999が割り当てられている。

【1305】

当該ゲームが「高確率状態」且つ高確保障ゲーム数が4以上であるときに使用する滞在ステージ決定テーブルでは、現在の滞在ステージと、当該ゲームの滞在ステージと、置数との関係が規定されている。現在の滞在ステージ及び移行するステージとして、砂漠ステージと街ステージと会議室ステージと洞窟ステージとの4種類の演出ステージからなる。

【1306】

現在の滞在ステージが砂漠ステージであり当該ゲームで砂漠ステージが維持される場合の置数として0～879が割り当てられている。現在の滞在ステージが砂漠ステージであり当該ゲームで砂漠ステージから街ステージに移行する場合の置数として880～929が割り当てられている。現在の滞在ステージが砂漠ステージであり当該ゲームで砂漠ステージから会議室ステージに移行する場合の置数として930～959が割り当てられている。現在の滞在ステージが砂漠ステージであり当該ゲームで砂漠ステージから洞窟ステージに移行する場合の置数として960～999が割り当てられている。

【1307】

現在の滞在ステージが街ステージであり当該ゲームで街ステージから砂漠ステージに移

10

20

30

40

50

行する場合の置数として0～879が割り当てられている。現在の滞在ステージが街ステージであり当該ゲームで街ステージが維持される場合の置数として880～929が割り当てられている。現在の滞在ステージが街ステージであり当該ゲームで街ステージから会議室ステージに移行する場合の置数として930～959が割り当てられている。現在の滞在ステージが街ステージであり当該ゲームで街ステージから洞窟ステージに移行する場合の置数として960～999が割り当てられている。

【1308】

現在の滞在ステージが会議室ステージであり当該ゲームで会議室ステージから砂漠ステージに移行する場合の置数として0～49が割り当てられている。現在の滞在ステージが会議室ステージであり当該ゲームで会議室ステージから街ステージに移行する場合の置数として50～99が割り当てられている。現在の滞在ステージが会議室ステージであり当該ゲームで会議室ステージが維持される場合の置数として100～949が割り当てられている。現在の滞在ステージが会議室ステージであり当該ゲームで会議室ステージから洞窟ステージに移行する場合の置数として950～999が割り当てられている。

10

【1309】

現在の滞在ステージが洞窟ステージであり当該ゲームで洞窟ステージから砂漠ステージに移行する場合の置数として0～49が割り当てられている。現在の滞在ステージが洞窟ステージであり当該ゲームで洞窟ステージから街ステージに移行する場合の置数として50～99が割り当てられている。現在の滞在ステージが洞窟ステージであり当該ゲームで洞窟ステージから会議室ステージに移行する場合の置数として100～199が割り当てられている。現在の滞在ステージが洞窟ステージであり当該ゲームで洞窟ステージが維持される場合の置数として200～999が割り当てられている。

20

【1310】

当該ゲームが「高確率状態」且つ高確保障ゲーム数が3以下であるときに使用する滞在ステージ決定テーブルでは、現在の滞在ステージと、次ゲームのATに関する状態と、当該ゲームの滞在ステージと、置数との関係が規定されている。現在の滞在ステージ及び移行するステージとして、砂漠ステージと街ステージと会議室ステージと洞窟ステージとの4種類の演出ステージからなる。次ゲームのATに関する状態として、「高確率状態」、「有利BB内部中遊技」と、「低確率状態」との3つの状態がある。

【1311】

現在の滞在ステージが砂漠ステージであり次ゲームで「高確率状態」又は「有利BB内部中遊技」に移行する場合に当該ゲームで砂漠ステージが維持される場合の置数として0～979が割り当てられている。現在の滞在ステージが砂漠ステージであり次ゲームで「高確率状態」又は「有利BB内部中遊技」に移行する場合に当該ゲームで砂漠ステージから街ステージに移行する場合の置数として980～999が割り当てられている。

30

【1312】

現在の滞在ステージが街ステージであり次ゲームで「高確率状態」又は「有利BB内部中遊技」に移行する場合に当該ゲームで街ステージから砂漠ステージに移行する場合の置数として0～19が割り当てられている。現在の滞在ステージが街ステージであり次ゲームで「高確率状態」又は「有利BB内部中遊技」に移行する場合に当該ゲームで街ステージが維持される場合の置数として20～999が割り当てられている。

40

【1313】

現在の滞在ステージが会議室ステージであり次ゲームで「高確率状態」又は「有利BB内部中遊技」に移行する場合に当該ゲームで会議室ステージから砂漠ステージに移行する場合の置数として0～29が割り当てられている。現在の滞在ステージが会議室ステージであり次ゲームで「高確率状態」又は「有利BB内部中遊技」に移行する場合に当該ゲームで会議室ステージから街ステージに移行する場合の置数として30～59が割り当てられている。現在の滞在ステージが会議室ステージであり次ゲームで「高確率状態」又は「有利BB内部中遊技」に移行する場合に当該ゲームで会議室ステージが維持される場合の置数として60～999が割り当てられている。

50

【1314】

現在の滞在ステージが洞窟ステージであり次ゲームで「高確率状態」又は「有利BB内部中遊技」に移行する場合に当該ゲームで洞窟ステージから砂漠ステージに移行する場合の置数として0～29が割り当てられている。現在の滞在ステージが洞窟ステージであり次ゲームで「高確率状態」又は「有利BB内部中遊技」に移行する場合に当該ゲームで洞窟ステージから街ステージに移行する場合の置数として30～59が割り当てられている。現在の滞在ステージが洞窟ステージであり次ゲームで「高確率状態」又は「有利BB内部中遊技」に移行する場合に当該ゲームで洞窟ステージから会議室ステージに移行する場合の置数として60～99が割り当てられている。現在の滞在ステージが洞窟ステージであり次ゲームで「高確率状態」又は「有利BB内部中遊技」に移行する場合に当該ゲームで洞窟ステージが維持される場合の置数として100～999が割り当てられている。

10

【1315】

現在の滞在ステージが砂漠ステージであり次ゲームで「低確率状態」に移行する場合に当該ゲームで砂漠ステージが維持される場合の置数として0～499が割り当てられている。現在の滞在ステージが砂漠ステージであり次ゲームで「低確率状態」に移行する場合に当該ゲームで砂漠ステージから街ステージに移行する場合の置数として500～999が割り当てられている。

【1316】

現在の滞在ステージが街ステージであり次ゲームで「低確率状態」に移行する場合に当該ゲームで街ステージから砂漠ステージに移行する場合の置数として0～499が割り当てられている。現在の滞在ステージが街ステージであり次ゲームで「低確率状態」に移行する場合に当該ゲームで街ステージが維持される場合の置数として500～999が割り当てられている。

20

【1317】

現在の滞在ステージが会議室ステージであり次ゲームで「低確率状態」に移行する場合に当該ゲームで会議室ステージから砂漠ステージに移行する場合の置数として0～499が割り当てられている。現在の滞在ステージが会議室ステージであり次ゲームで「低確率状態」に移行する場合に当該ゲームで会議室ステージから街ステージに移行する場合の置数として500～999が割り当てられている。

【1318】

現在の滞在ステージが洞窟ステージであり次ゲームで「低確率状態」に移行する場合に当該ゲームで洞窟ステージから砂漠ステージに移行する場合の置数として0～499が割り当てられている。現在の滞在ステージが洞窟ステージであり次ゲームで低確率状態に移行する場合に当該ゲームで洞窟ステージから街ステージに移行する場合の置数として500～999が割り当てられている。

30

【1319】

このように、「低確率状態」であるときには、砂漠ステージ又は街ステージの2つのステージが選択され得る（図235のステップ3012）。一方、「高確率状態」であるときには、砂漠ステージ、街ステージ、会議室ステージ、洞窟ステージの4つのステージが選択され得る（図235のステップ3008）。換言すると、「有利区間」である場合には4つの滞在ステージが選択され得る一方、「通常区間」においては2つの滞在ステージが選択され得るよう構成されており、「通常区間」において選択され得る2の滞在ステージは、「有利区間」においても選択され得る。このように構成することで、AT抽選の当選に期待が持てない「通常区間」においても、「有利区間」における滞在ステージとなり得る滞在ステージを選択することにより、「通常区間」においても飽きることなく遊技機を進行することができる。また、「高確率状態」から「低確率状態」に移行する場合、即ち、「有利区間」から「通常区間」となる場合に、「有利区間」の段階で、「通常区間」で選択される演出ステージを選択しておくことで、「有利区間」から「通常区間」に移行することを遊技者に判別しにくくし、期待感を保って遊技を継続させることができる。

40

【1320】

50

尚、「通常区間」で選択される演出ステージの一部が、「有利区間」で選択される演出ステージと重複する（「通常区間」において選択され得るが「有利区間」では選択されない演出ステージを有する）ようにしてもよい。

【1321】

また、高確保障ゲーム数が4以上であるときに使用する滞在ステージ決定テーブルと、高確保障ゲーム数が3以下であるときに使用する滞在ステージ決定テーブルとを相違させ、高確保障ゲーム数が少なくなった（3ゲーム以下になった）場合には、現在の滞在ステージよりも「有利区間」である期待度の高い滞在ステージへの移行（例えば、砂漠ステージ→会議室ステージ）をしないよう構成することにより、より期待度の高い滞在ステージに移行したにもかかわらず、少ないゲーム数にて「通常区間」になってしまい遊技者を落胆させることを防止することができる。尚、滞在ステージは「有利区間」である期待度が低い（「有利区間」にて選択され難い）ものから「砂漠ステージ、街ステージ、洞窟ステージ、会議室ステージ」の順になっている。

【1322】

尚、滞在ステージの構成は本例のものには限定されず、滞在ステージによって示唆されるものを、「有利区間」である期待度とAT抽選に当選している期待度とBBに当選している期待度を示唆し得るよう構成してもよい。一例としては、BB役やレア役に当選したゲームにて滞在ステージが移行し得るよう構成し（BB役によってAT抽選に当選した場合と単独レア役に当選してAT抽選が実行されていない場合とを含む）、移行した滞在ステージによってAT抽選に当選している期待度が相違するよう構成し、期待度が低い順に「砂漠ステージ、街ステージ、洞窟ステージ、会議室ステージ」の順に構成してもよいし、移行した滞在ステージによってBB役に当選している期待度が相違するよう構成し、期待度が低い順に「砂漠ステージ、街ステージ、洞窟ステージ、会議室ステージ」の順に構成してもよい（例えば、会議室ステージに移行した場合には、BB内部当選中又はAT抽選に当選していることが確定的となる、等）。

【1323】

次に、図238は、図235のステップ3100の処理で呼び出されて実行されるAT中演出決定処理を示すサブルーチンである。まず、ステップ3102で、副制御基板SのCPUSCは、AT残りゲーム数は3ゲーム以下であるか否かを判定する。ステップ3102でYesの場合、ステップ3104で、副制御基板SのCPUSCは、AT最終ゲームであるか否かを判定する。ステップ3104でYesの場合、ステップ3106で、副制御基板SのCPUSCは、継続抽選に当選しているか否かを判定する。ステップ3106でYesの場合、ステップ3108で、副制御基板SのCPUSCは、当該ゲームに係る演出をAT継続煽り演出（成功）（ATが継続してATカウンタM60に初期値がセットされる、換言すると、次ゲームのATに関する状態が「AT中状態」となることを報知する演出）又はAT継続煽り演出（失敗）（ATが継続してATカウンタM60に初期値がセットされることが確定的とならず、次ゲームのATに関する状態が「AT中状態」又は「復活可否演出用状態」となることを報知する演出）に決定し、ステップ3126に移行する。ここで、継続抽選に当選している場合には、AT継続煽り演出（成功）対AT継続煽り演出（失敗）は、4対1の割合で決定する。即ち、本実施形態においては、継続抽選に当選している場合においても、AT継続煽り演出（失敗）が実行される場合があり、そのような場合には、次のセットの最初のゲームに該当する次ゲームにおいて、復活演出（成功）が実行されることとなり、遊技者は恰も復活抽選に当選したかのように感じるよう構成されている（実際は継続抽選に当選しており、主制御基板M側の制御としてはAT継続煽り演出（成功）が実行された場合と同様）。このように構成することにより、「復活可否演出用状態」において復活抽選に当選することは稀であるが{1ゲームで2320/65536（設定1の場合）の抽選に当選}、継続演出に当選した場合にも復活演出（成功）を実行し得るよう構成することにより、復活演出が実行された場合に復活演出（成功）が実行される割合を高めることができ、遊技者は復活演出に期待感を高めることができる。

10

20

30

40

50

【1324】

また、ステップ3106でNoの場合、ステップ3110で、副制御基板SのCPUSCは、当該ゲームに係る演出をAT継続煽り演出（失敗）に決定し、ステップ3126に移行する。また、ステップ3104でNoの場合、ステップ3112で、副制御基板SのCPUSCは、当該ゲームに係る演出をAT終盤演出に決定し、ステップ3126に移行する。また、ステップ3102でNoの場合、ステップ3114で、副制御基板SのCPUSCは、AT継続煽り演出（失敗）が実行された次ゲームであるか否かを判定する。ステップ3114でYesの場合、ステップ3116で、副制御基板SのCPUSCは、当該ゲームに係る演出を復活演出（成功）（「復活可否演出用状態」にて実行される復活演出（成功）と同様の演出態様であり、本処理では「AT中状態」が継続していた旨に係る演出）に決定し、ステップ3126に移行する。他方、ステップ3114でNoの場合にも、ステップ3126に移行する。

10

【1325】

次に、ステップ3126で、副制御基板SのCPUSCは、当該ゲームにてATゲーム数上乘せがあったか否かを判定する。ステップ3126でYesの場合、ステップ3028で、副制御基板SのCPUSCは、当該ゲームに係る演出を上乗せ演出（AT残りゲーム数が上乗せされた旨を報知する演出であり、例えば、「+50GET」等）に決定し、次の処理（ステップ2300の処理）に移行する。他方、ステップ3126でNoの場合、副制御基板SのCPUSCは、当該ゲームに係る演出をAT中演出（「AT中状態」等のAT中に実行される演出）に決定し、次の処理（ステップ2300の処理）に移行する。

20

【1326】

次に、図239は、図235のステップ3150の処理で呼び出されて実行される復活可否演出決定処理を示すサブルーチンである。まず、ステップ3152で、副制御基板SのCPUSCは、復活抽選に当選したか否かを判定する。ステップ3152でYesの場合、ステップ3154で、副制御基板SのCPUSCは、当該ゲームに係る演出を復活演出（成功）（前述した、ステップ3116にて実行される演出と同様の演出態様であり、「復活可否演出用状態」にて復活抽選に当選した旨を報知する演出であり、次ゲームにて「AT中状態」に移行し、ATカウンタM60に初期値がセットされることとなる）に決定し、次の処理（ステップ2300の処理）に移行する。他方、ステップ3152でNoの場合、ステップ3156で、副制御基板SのCPUSCは、当該ゲームに係る演出を復活演出（失敗）（「復活可否演出用状態」にて復活抽選に非当選であった旨を報知する演出であり、次ゲームにて「低確率状態」に移行することとなる）に決定し、次の処理（ステップ2300の処理）に移行する。

30

【1327】

尚、前述したように、「復活可否演出用状態」も有利区間となっている、即ち、「有利区間」であるAT最終ゲーム（「AT中状態」の最終ゲーム）にて継続抽選に当選しなかった場合にも、次ゲームである「復活可否演出用状態」においても「有利区間」を延長するよう構成されているため、遊技者は有利区間表示器YHが点灯しているか否かを確認しただけでは、復活演出が成功するか否かを判別することが困難となり、復活演出の結果に注目することとなる。また、前述したように「AT中状態」と「復活可否演出用状態」とではATに関する抽選の実行態様が相違している。即ち、復活演出（成功）が実行される継続抽選に当選した次ゲームと、復活演出（成功）が実行される復活抽選に当選したゲームと、ではATに関する抽選の実行態様が相違することとなる。

40

【1328】

尚、本実施形態においては、AT中状態が終了した次のゲームにて1ゲームの「復活可否演出用状態」に移行し、当該「復活可否演出用状態」にて復活抽選を実行するよう構成することで、復活演出（成功）の実行ゲームと復活演出（失敗）の実行ゲームとのいずれも「有利区間」とする、即ち、有利区間表示器YHを点灯するよう構成することで、演出の結果を確認せずともATが終了するか否かを判別できてしまうことを防止したが、このような構成としては、以下のように構成してもよい。

50

(1) 復活抽選を実行する1ゲームにおいてもATに関する状態を「AT中状態」とし、復活抽選を実行する1ゲームにおいては復活フラグをオンにし、復活抽選を実行するゲーム以前のゲームにおいては復活フラグをオフにすることにより、ATに関する異なる抽選態様とする。

(2) 復活抽選を実行しないよう構成し、主制御基板M側の制御ではあくまで継続抽選に当選するか否かで「AT中状態」が終了するか否かが決定するよう構成し、かつ、継続抽選の実行タイミングをAT最終ゲームよりも前のゲーム(AT最終ゲームの1ゲーム前、実行中のセットの最初のゲーム、等)とする。そのように構成し、AT最終ゲームにて副制御基板S側の演出として復活演出(成功)と復活演出(失敗)とが実行され得る。演出の一例としては、「AT最終ゲームの前ゲーム: AT継続煽り演出(成功)→AT最終ゲーム: 次セットのATが開始される旨の演出」、「AT最終ゲームの前ゲーム: AT継続煽り演出(次ゲームに継続)→AT最終ゲーム: AT継続煽り演出(成功)」、「AT最終ゲームの前ゲーム: AT継続煽り演出(失敗)→AT最終ゲーム: 復活演出(成功)」、「AT最終ゲームの前ゲーム: AT継続煽り演出(失敗)→AT最終ゲーム: 復活演出(失敗)」等が実行するよう構成してもよい。即ち、主制御基板M側では継続抽選に当選するか否かによって「AT中状態」が継続する(次セットが実行される)か否かを決定しており、副制御基板S側の演出にてAT継続煽り演出や復活演出を実行するよう構成してもよい。

(3) 復活演出(成功)が実行されるゲームにて、所定のタイミングまで復活演出(失敗)と同様の演出態様にて演出を実行し、当該所定のタイミングから復活演出(成功)である旨を報知する、即ち、当該所定のタイミングにて遊技者にATが継続する旨を報知するよう構成してもよい。そのように構成した場合における、前記所定のタイミングとしては、

(1) 復活演出(成功)が実行されるゲームに係るベットボタン操作タイミング(遊技メダル投入タイミング)であり、継続抽選に当選している場合に実行可能となる、

(2) 復活演出(成功)が実行されるゲームに係るスタートレバー操作タイミングであり、スタートレバー操作タイミングとなった場合には復活演出(敗北)と同様の演出態様となる演出は実行されない、

(3) 復活演出(成功)が実行されるゲームに係る第1停止となる停止ボタンを押下したタイミング(第1停止オンとなったタイミング)、

(4) 復活演出(成功)が実行されるゲームに係る第1停止となる停止ボタンを押下した後停止ボタンを離したタイミング(第1停止オン→オフとなったタイミング)、

(5) 復活演出(成功)が実行されるゲームに係る第2停止となる停止ボタンを押下したタイミング(第2停止オンとなったタイミング)、

(6) 復活演出(成功)が実行されるゲームに係る第2停止となる停止ボタンを押下した後停止ボタンを離したタイミング(第2停止オン→オフとなったタイミング)、

(7) 復活演出(成功)が実行されるゲームに係る第3停止となる停止ボタンを押下したタイミング(第3停止オンとなったタイミング)、

(8) 復活演出(成功)が実行されるゲームに係る第3停止となる停止ボタンを押下した後停止ボタンを離したタイミング(第3停止オン→オフとなったタイミング)、等としてもよい、

(9) 復活演出(成功)が実行されるゲームの次ゲームに係るベットボタン操作タイミング(遊技メダル投入タイミング)、

(10) 復活演出(成功)が実行されるゲームの次ゲームに係るスタートレバー操作タイミング、

等としてもよい。また、上記の(1)～(10)のような様々なタイミングのうちいずれのタイミングとするかを抽選によって決定するよう構成した場合には、第1停止となる停止ボタンを押下したタイミング以降において、継続抽選と復活抽選とのいずれにも当選していない場合にも有利区間表示器YHが継続して点灯しているため、遊技者は、第3停止となる停止ボタンを押下した後停止ボタンを離したタイミング、又は、復活演出が実行されるゲームの次ゲームに係るスタートレバー操作タイミングまで、ATが継続することに

10

20

30

40

50

期待感を抱きながら遊技をすることができる。

【1329】

＜スタートレバー操作時処理＞

次に、図240は、図234のステップ2300の処理で呼び出されて実行されるスタートレバー操作時処理を示すサブルーチンである。

【1330】

次に、ステップ2302で、副制御基板SのCPUSCは、ATに関する状態がAT中状態であるか否かを判定する。ステップ2302でYesの場合、換言すれば、ATに関する状態がAT中状態である場合には、ステップ2350で、副制御基板SのCPUSCは、後述するスタートレバー操作時AT中処理を読み出して実行し、次の処理（ステップ2110の処理）に移行させる。

10

【1331】

次に、ステップ2302でNoの場合、換言すれば、ATに関する状態がAT中状態でない場合には、ステップ2304で、副制御基板SのCPUSCは、ATに関する状態が特化前兆状態であるか否かを判定する。ステップ2304でYesの場合、換言すれば、ATに関する状態が特化前兆状態である場合には、ステップ2400で、副制御基板SのCPUSCは、後述するスタートレバー操作時特化前兆処理を読み出して実行し、次の処理（ステップ2110の処理）に移行させる。

【1332】

次に、ステップ2304でNoの場合、換言すれば、ATに関する状態が「特化前兆状態」でない場合には、ステップ2306で、副制御基板SのCPUSCは、ATに関する状態が「上乗せ特化状態」であるか否かを判定する。ステップ2306でYesの場合、換言すれば、ATに関する状態が「上乗せ特化状態」である場合には、ステップ2450で、副制御基板SのCPUSCは、後述するスタートレバー操作時上乗せ特化処理を読み出して実行し、次の処理（ステップ2110の処理）に移行させる。

20

【1333】

次に、ステップ2306でNoの場合、換言すれば、ATに関する状態が「上乗せ特化状態」でない場合には、ステップ2307で、副制御基板SのCPUSCは、ATに関する状態は「有利BB内部中遊技」であるか否かを判定する。ステップ2307でYesの場合、換言すると、ATに関する状態は「有利BB内部中遊技」である場合には、ステップ2700で、副制御基板SのCPUSCは、スタートレバー操作時有利BB内部中処理のサブルーチンを呼び出して実行し、次の処理（ステップ2110の処理）に移行させる。

30

【1334】

ステップ2307でNoの場合、換言すると、ATに関する状態は「有利BB内部中遊技」でない場合には、ステップ2308で、副制御基板SのCPUSCは、RT状態は、「RT1」であるか否かを判定する。ステップ2308でYesの場合、換言すれば、RT状態は、「RT1」である場合には、ステップ2310で、副制御基板SのCPUSCは、ATに関する状態は、押し順ナビなし（押し順ナビが発生しないATに関する状態であり、「低確率状態」、「通常BB内部中遊技」、「通常BB状態」等となっている）であるか否かを判定する。ステップ2310でYesの場合、換言すれば、ATに関する状態が押し順ナビなしである場合には、ステップ2312で、副制御基板SのCPUSCは、回避コマンドを受信したか否かを判定する。尚、前述したように、逆押し指示コマンド、逆押し回避コマンド、順押し指示コマンド、順押し回避コマンドを副制御基板S側が受信したことにより、押し順ナビに関する演出を実行し得る構成ではなく、AT上乗せ抽選に当選した場合に、主制御基板M側がAT上乗せ抽選に当選した旨及びAT上乗せゲーム数に係るコマンドを副制御基板S側に送信し、副制御基板S側が当該コマンドを受信した場合に、副制御基板S側で押し順ナビに関する演出の実行タイミングや演出態様を決定するよう構成してもよい。

40

【1335】

ステップ2312でYesの場合、換言すれば、回避コマンドを受信した場合には、ス

50

テップ 2 3 1 4 で、副制御基板 S の C P U S C は、押し順ナビ表示として成立を回避する画像を第 1 の数字表示態様グループで演出表示装置 S 4 0 に表示し、次の処理（ステップ 2 1 1 0 の処理）に移行させる。このように、本実施形態においては、「R T 1」且つ「A T 中状態」である状況からゲーム数が経過して A T カウンタ値が 0 となることにより「R T 1」且つ「低確率状態」に移行した場合に（再遊技 0 4 が停止表示される前に）、逆押し白 7 揃いリプレイ又は順押し黒 7 揃いリプレイに当選した場合には、A T ゲーム数上乘せが発生しないため、白セブン又は黒セブンが一直線とならない押し順がナビされるよう構成されている。また、「R T 1」且つ「A T 中状態」である状況からゲーム数が経過して A T カウンタ値が 0 となることにより「R T 1」且つ「低確率状態」に移行した場合には、まだ「有利区間」とし、押し順ベルに当選したゲームにおいては押し順ナビが発生可能であるが、押し順再遊技に当選したゲームにおいては押し順ナビが発生しないよう構成してもよい。

10

【1 3 3 6】

副制御基板 S の C P U S C は、ステップ 2 3 0 8 で N o の場合、ステップ 2 3 1 0 で N o の場合、ステップ 2 3 1 2 で N o の場合には、ステップ 2 3 1 6 で、A T に関する状態に基づき演出画像及び背景画像を表示し、次の処理（ステップ 2 1 1 0 の処理）に移行させる。

【1 3 3 7】

<スタートレバー操作時 A T 中処理>

次に、図 2 4 1 は、図 2 4 0 のステップ 2 3 5 0 の処理で呼び出されて実行されるスタートレバー操作時 A T 中処理を示すサブルーチンである。

20

【1 3 3 8】

次に、副制御基板 S の C P U S C は、ステップ 2 3 5 2 で、当該ゲームに係る条件装置に関する情報を読み出し、ステップ 2 3 5 4 で、当該ゲームに係る入賞・再遊技当選情報を確認し、ステップ 2 3 5 6 で、指示番号に係るコマンドを確認する。このように、「A T 中状態」等の押し順ナビが実行され得る A T に関する状態においては、主制御基板 M が入賞・再遊技当選情報に係るコマンドを副制御基板 S 側に送信し、「低確率状態」等の押し順ナビが実行されない A T に関する状態（遊技区間が「通常区間」の場合も該当する）において演出グループ番号を送信する場合には、指示番号に係るコマンドを送信しなくても良い。さらにまた、主制御基板 M は、押し順ナビが実行され得る A T に関する状態であっても押し順ナビが実行されない A T に関する状態と同様に演出グループ番号を送信し、演出グループ番号と、指示番号に係るコマンドとに基づいて、押し順ベル（又は、押し順再遊技）が当選したこと、及び正解の押し順が把握できるように構成されていても良い。例えば、押し順ベル実行時の押し順ナビ表示と押し順再遊技の押し順ナビ表示とを同一の表示態様グループ（例えば、数字にて押し順を報知し、且つ、数字に係る表示色が同一）にて表示するように構成した場合に適用することができる。また、そのように構成した場合には、演出表示装置 S 4 0 にて押し順ナビ実行時に、押し順ナビ表示とは異なる演出用画像（例えば、キャラクタ画像）を表示するよう構成し、押し順ベルに係る押し順ナビ実行時と押し順再遊技に係る押し順ナビ実行時とで異なる演出用画像を表示するよう構成してもよい。

30

40

【1 3 3 9】

次に、ステップ 2 3 5 8 で、副制御基板 S の C P U S C は、当該ゲームの条件装置は押し順ベルであるか否かを判定する。ここで、押し順ベルは、前述した入賞 - A 1 ~ 入賞 - A 6 のいずれかとなっている。

【1 3 4 0】

ステップ 2 3 5 8 で Y e s の場合、換言すれば、当該ゲームの条件装置は押し順ベルである場合には、ステップ 2 3 6 0 で、副制御基板 S の C P U S C は、押し順ナビ表示として、押し順ベルの 6 択の押し順のうちの正解の押し順を示唆する画像を第 1 の数字表示態様グループで演出表示装置 S 4 0 に表示する。押し順は、第一停止ボタン、第二停止ボタン及び第三停止ボタンの各々を、左停止ボタン D 4 1、中停止ボタン D 4 2 及び右停止ボ

50

タンD 4 3に対応させた情報である。例えば、押し順ベルである入賞 - A 1に当選した場合には、最大払出枚数を獲得可能な押し順である「左→中→右」に対応する押し順を示唆する数字を、円で囲った表示態様で表示する。

【1 3 4 1】

次に、ステップ2 3 5 8でN oの場合、換言すれば、当該ゲームの条件装置は押し順ベルでない場合には、ステップ2 3 6 2で、副制御基板SのC P U S Cは、当該ゲームの条件装置は押し順再遊技であるか否かを判定する。ここで、押し順再遊技は、再遊技 - D 1～D 3のいずれかとなっている。

【1 3 4 2】

ステップ2 3 6 2でY e sの場合、換言すれば、当該ゲームの条件装置は押し順再遊技である場合には、ステップ2 3 6 4で、副制御基板SのC P U S Cは、押し順ナビ表示として、押し順再遊技の3 択の押し順のうちの正解の押し順を示唆する画像を演出表示装置S 4 0に表示する。ここで、押し順は、3 択であるので、第一停止ボタンを、左停止ボタンD 4 1、中停止ボタンD 4 2又は右停止ボタンD 4 3のいずれかに対応させる情報である。例えば、第一停止ボタンが左停止ボタンD 4 1である場合には、数字の1のみが、押し順ナビ表示として表示される。

【1 3 4 3】

ステップ2 3 6 2でN oの場合、換言すれば、当該ゲームの条件装置は押し順再遊技である場合には、ステップ2 3 6 6で、副制御基板SのC P U S Cは、回避コマンドを受信したか否かを判定する。ここで、順押し回避コマンドと逆押し回避コマンドとを総称して回避コマンドと称している。ステップ2 3 6 6でY e sの場合、換言すれば、回避コマンドを受信した場合には、ステップ2 3 6 8で、副制御基板SのC P U S Cは、押し順ナビ表示として、成立を回避する画像を第1の数字表示態様グループで演出表示装置S 4 0に表示する。

【1 3 4 4】

次に、副制御基板SのC P U S Cは、ステップ2 3 6 6でN oの場合、前述したステップ2 3 6 0、2 3 6 4又は2 3 6 8の処理を実行した後、ステップ2 3 7 0で、A T中背景画像を演出表示装置S 4 0に表示する。

【1 3 4 5】

次に、ステップ2 3 7 2で、副制御基板SのC P U S Cは、A T残りゲーム数が3 ゲーム以下であるか否かを判定する。ステップ2 3 7 2でY e sの場合、換言すれば、A T残りゲーム数が3 ゲーム以下である場合には、ステップS 2 3 7 4で、副制御基板SのC P U S Cは、A T残りゲーム数を表示態様B（後述する表示態様Aよりも目立たない表示態様）で演出表示装置S 4 0に表示する。

【1 3 4 6】

次に、ステップ2 3 7 6で、副制御基板SのC P U S Cは、順押し指示コマンドを受信したか否かを判定する。ステップ2 3 7 6で、Y e sの場合、換言すれば、順押し指示コマンドを受信した場合には、ステップ2 3 7 8で、副制御基板SのC P U S Cは、押し順ナビ表示として、成立を回避する画像を第1の数字表示態様グループで演出表示装置S 4 0に表示する。

【1 3 4 7】

ステップ2 3 7 6で、N oの場合、又はステップ2 3 7 8の処理を実行した場合には、ステップ2 3 8 0で、副制御基板SのC P U S Cは、逆押し指示コマンドを受信したか否かを判定する。ステップ2 3 8 0で、Y e sの場合、換言すれば、逆押し指示コマンドを受信した場合には、ステップ2 3 8 2で、副制御基板SのC P U S Cは、押し順ナビ表示として、成立を回避する画像を第1の数字表示態様グループで演出表示装置S 4 0に表示する。

【1 3 4 8】

副制御基板SのC P U S Cは、ステップ2 3 8 0で、N oの場合、又はステップ2 3 8 2の処理実行した場合には、次の処理（ステップ2 1 1 0の処理）に移行させる。

【1349】

ステップ2372でNoの場合、換言すれば、AT残りゲーム数が4ゲーム以上である場合には、ステップ2384で、副制御基板SのCPUSCは、AT残りゲーム数を表示態様A（前述した表示態様Bよりも目立つ表示態様）で演出表示装置S40に表示する。ここで、4ゲーム以上である場合には、表示態様Aで表示し、3ゲーム以下である場合には、表示態様Bで表示する。

【1350】

次に、ステップ2386で、副制御基板SのCPUSCは、順押し指示コマンドを受信したか否かを判定する。ステップ2386で、Yesの場合、換言すれば、順押し指示コマンドを受信した場合には、ステップ2388で、副制御基板SのCPUSCは、押し順ナビ表示として、「左→中→右」に対応する押し順を示唆する画像を矢印の画像で演出表示装置S40に表示する。

10

【1351】

ステップ2386で、Noの場合、又はステップ2388の処理実行した場合には、ステップ2390で、副制御基板SのCPUSCは、逆押し指示コマンドを受信したか否かを判定する。ステップ2390で、Yesの場合、換言すれば、逆押し指示コマンドを受信した場合には、ステップ2392で、副制御基板SのCPUSCは、押し順ナビ表示として、「右→中→左」に対応する押し順を示唆する画像を矢印の画像で演出表示装置S40に表示する。

【1352】

20

副制御基板SのCPUSCは、ステップ2390で、Noの場合、又はステップ2392の処理実行した場合には、次の処理（ステップ2110の処理）に移行させる。このように、AT残りゲーム数が少ない場合、換言するとAT残りゲーム数の表示を表示態様Aよりも目立つ表示態様である表示態様Bにて表示している場合には、順押し指示コマンド又は逆押し指示コマンドを受信しても矢印の画像と共に「7を狙え！」と表示する演出を実行せず、白セブン及び黒セブンが無効ラインに停止表示しない押し順である中リールを第1停止リールとする押し順ナビを実行するよう構成した。このように構成することにより、AT残りゲーム数が少ない状況において、AT残りゲーム数が少ないことを遊技者に対して煽る表示態様である表示態様BにてAT残りゲーム数を表示している場合には、矢印の画像や「7を狙え！」の表示によって当該表示態様BのAT残りゲーム数の表示の視認性を妨げないよう構成することができる。同様に、演出表示装置S40に表示されているAT残りゲーム数が少ない状況にて「AT中状態」（押し順ナビが実行され得るATに関する状態）が継続するか否かを煽る連続演出（例えば、バトル演出）を実行するよう構成した場合にも、バトル演出の実行中は矢印の画像や「7を狙え！」が表示されないよう構成することで、バトル演出の視認性を妨げないよう構成することができる。また、このように構成することにより、演出表示装置S40におけるAT残りゲーム数が0となり且つバトル演出に敗北して「AT中状態」が終了する旨が表示された場合にも、当該バトル演出中に順押し指示コマンド又は逆押し指示コマンドを受信していた場合には、「AT中状態」が終了する旨が表示された以降のベットボタンD220の操作タイミング等にて順押し指示コマンド又は逆押し指示コマンドに基づく（順押し黒7リプレイ又は逆押し白7リプレイの当選に基づく）AT上乗せゲーム数を報知する、即ち、AT上乗せ抽選に当選したゲームではATゲーム数が上乗せされたことを報知せず、以降のタイミングにて当該ATゲーム数が上乗せされたことを報知するよう構成することができ、遊技の興趣性が高まることとなる。

30

40

【1353】

<スタートレバー操作時特化前兆処理>

次に、図242は、図240のステップ2400の処理で呼び出されて実行されるスタートレバー操作時特化前兆処理を示すサブルーチンである。

【1354】

次に、副制御基板SのCPUSCは、ステップ2402で、当該ゲームに係る条件装置

50

に関する情報を読み出し、ステップ2404で、当該ゲームに係る入賞・再遊技当選情報を確認し、ステップ2406で、指示番号に係るコマンドを確認する。このように、「AT中状態」等の押し順ナビが実行され得るATに関する状態においては、主制御基板Mが入賞・再遊技当選情報に係るコマンドを副制御基板S側に送信し、「低確率状態」等の押し順ナビが実行されないATに関する状態（遊技区間が「通常区間」の場合も該当する）において演出グループ番号を送信する場合には、指示番号に係るコマンドを送信しなくても良い。さらにまた、主制御基板Mは、押し順ナビが実行され得るATに関する状態であっても押し順ナビが実行されないATに関する状態と同様に演出グループ番号を送信し、演出グループ番号と、指示番号に係るコマンドとに基づいて、押し順ベル（又は、押し順再遊技）が当選したこと、及び正解の押し順が把握できるように構成されていても良い。

10

【1355】

次に、ステップ2408で、副制御基板SのCPUSCは、当該ゲームの条件装置は押し順ベルであるか否かを判定する。ここで、押し順ベルは、前述した入賞-A1～入賞-A6のいずれかとなっている。

【1356】

ステップ2408でYesの場合、換言すれば、当該ゲームの条件装置は押し順ベルである場合には、ステップ2410で、副制御基板SのCPUSCは、押し順ナビ表示として、押し順ベルの6択の押し順のうちの正解の押し順を示唆する画像を第2の数字表示態様グループで演出表示装置S40に表示する。押し順は、第一停止ボタン、第二停止ボタン及び第三停止ボタンの各々を、左停止ボタンD41、中停止ボタンD42及び右停止ボタンD43に対応させた情報である。例えば、押し順ベルである入賞-A2に当選した場合には、最大払出枚数を獲得可能な押し順である「左→右→中」に対応する押し順を示唆する数字を星印で囲った表示態様で表示する。前述した第1の数字表示態様グループ及び第2の数字表示態様グループは、押し順を示唆する数値を、互いに異なる表示態様グループで表示すればよく、例えば、第1の数字表示態様グループは、数字を青色で表示し、第2の数字表示態様グループは、数字を赤色で表示するなどにすることができる。

20

【1357】

次に、ステップ2408でNoの場合、換言すれば、当該ゲームの条件装置は押し順ベルでない場合には、副制御基板SのCPUSCは、ステップ2412で、当該ゲームの条件装置は押し順再遊技であるか否かを判定する。ここで、押し順再遊技は、再遊技-D1～D3のいずれかとなっている。

30

【1358】

ステップ2412でYesの場合、換言すれば、当該ゲームの条件装置は押し順再遊技である場合には、ステップ2414で、副制御基板SのCPUSCは、押し順ナビ表示として、押し順再遊技の3択の押し順のうちの正解の押し順を示唆する画像を第2の数字表示態様グループで演出表示装置S40に表示する。ここで、押し順は、3択であるので、第一停止ボタンを、左停止ボタンD41、中停止ボタンD42又は右停止ボタンD43のいずれかに対応させる情報である。例えば、正解の押し順として第一停止ボタンが左停止ボタンD41である場合には、演出表示装置S40の中央より左下側に数字の「1」が表示され、第一停止ボタンが中停止ボタンD42である場合には、演出表示装置S40の中央下側に数字の「1」が表示され、第一停止ボタンが右停止ボタンD43である場合には、演出表示装置S40の中央より右下側に数字の「1」が、押し順ナビ表示として表示される。換言すると、演出表示装置S40における停止すべきリールに対応する停止ボタンD40に近い位置に押し順の情報が表示される。

40

【1359】

次に、ステップ2412でNoの場合、換言すれば、当該ゲームの条件装置は押し順再遊技でない場合には、ステップ2416で、副制御基板SのCPUSCは、順押し指示コマンドを受信したか否かを判断する。ステップ2416でYesの場合、換言すれば、順押し指示コマンドを受信した場合には、ステップ2418で、副制御基板SのCPUSCは、押し順ナビ表示として、「左→中→右」に対応する押し順を示唆する画像を矢印の画

50

像で演出表示装置 S 4 0 に表示する。

【1360】

次に、ステップ 2 4 1 6 で N o の場合、換言すれば、順押し指示コマンドを受信していない場合には、ステップ 2 4 2 0 で、副制御基板 S の C P U S C は、逆押し指示コマンドを受信したか否かを判断する。ステップ 2 4 2 0 で Y e s の場合、換言すれば、逆押し指示コマンドを受信した場合には、ステップ 2 4 2 2 で、副制御基板 S の C P U S C は、押し順ナビ表示として、「右→中→左」に対応する押し順を示唆する画像を矢印の画像で演出表示装置 S 4 0 に表示する。

【1361】

次に、ステップ 2 4 2 0 で N o の場合、換言すれば、逆押し指示コマンドを受信していない場合には、ステップ 2 4 2 4 で、副制御基板 S の C P U S C は、回避コマンドを受信したか否かを判断する。ここで、順押し回避コマンドと、逆押し回避コマンドとを総称して回避コマンドを称している。ステップ 2 4 2 4 で Y e s の場合、換言すれば、回避コマンドを受信した場合には、ステップ 2 4 2 6 で、副制御基板 S の C P U S C は、押し順ナビ表示として、成立を回避する画像を第 2 の数字表示態様グループで演出表示装置 S 4 0 に表示する。

【1362】

次に、副制御基板 S の C P U S C は、ステップ 2 4 1 0、2 4 1 4、2 4 1 8、2 4 2 2、2 4 2 6 の処理を実行した場合、又は、ステップ 2 4 2 4 で N o の場合には、ステップ 2 4 2 8 で、A T 中背景画像を演出表示装置 S 4 0 に表示し、ステップ S 2 4 3 0 で、A T 残りゲーム数を表示態様 A で演出表示装置 S 4 0 に表示し、次の処理（ステップ 2 1 1 0 の処理）に移行させる。

【1363】

＜スタートレバー操作時上乗せ特化処理＞

次に、図 2 4 3 は、図 2 4 0 のステップ 2 4 5 0 の処理で呼び出されて実行されるスタートレバー操作時上乗せ特化処理を示すサブルーチンである。

【1364】

次に、副制御基板 S の C P U S C は、ステップ 2 4 5 2 で、当該ゲームに係る条件装置に関する情報を読み出し、ステップ 2 4 5 4 で、当該ゲームに係る入賞・再遊技当選情報を確認し、ステップ 2 4 5 6 で、指示番号に係るコマンドを確認する。このように、「A T 中状態」等の押し順ナビが実行され得る A T に関する状態においては、主制御基板 M が入賞・再遊技当選情報に係るコマンドを副制御基板 S 側に送信し、「低確率状態」等の押し順ナビが実行されない A T に関する状態（遊技区間が「通常区間」の場合も該当する）において演出グループ番号を送信する場合には、指示番号に係るコマンドを送信しなくても良い。さらにまた、主制御基板 M は、押し順ナビが実行され得る A T に関する状態であっても押し順ナビが実行されない A T に関する状態と同様に演出グループ番号を送信し、演出グループ番号と、指示番号に係るコマンドとに基づいて、押し順ベル（又は、押し順再遊技）が当選したこと、及び正解の押し順が把握できるように構成されていても良い。

【1365】

次に、ステップ 2 4 5 8 で、副制御基板 S の C P U S C は、当該ゲームの条件装置は押し順ベル又は共通ベルであるか否かを判定する。ここで、押し順ベルは、前述した入賞 - A 1 ~ 入賞 - A 6、入賞 - B のいずれかとなっている。

【1366】

ステップ 2 4 5 8 で Y e s の場合、換言すれば、当該ゲームの条件装置は押し順ベル又は共通ベルである場合には、ステップ 2 4 6 0 で、副制御基板 S の C P U S C は、押し順ナビ表示として、押し順ベルの 6 択の押し順のうちの正解の押し順を示唆する画像を第 1 の数字表示態様グループで演出表示装置 S 4 0 に表示する。押し順は、第一停止ボタン、第二停止ボタン及び第三停止ボタンの各々を、左停止ボタン D 4 1、中停止ボタン D 4 2 及び右停止ボタン D 4 3 に対応させた情報である。例えば、押し順ベルである入賞 - A 4 に当選した場合には、最大払出枚数を獲得可能な押し順である「右→左→中」に対応する

10

20

30

40

50

押し順を示唆する数字を、星印で囲った表示態様で表示する。前述した第1の数字表示態様グループ及び第2の数字表示態様グループは、押し順を示唆する数値を、互いに異なる表示態様グループで表示すればよく、例えば、第1の数字表示態様グループは、数字を青色で表示し、第2の数字表示態様グループは、数字を赤色で表示するなどにすることができる。

【1367】

次に、前述したステップ2458でNoの場合、換言すれば、当該ゲームの条件装置は押し順ベルでも共通ベルでもない場合には、ステップ2462で、副制御基板SのCPUSCは、当該ゲームの条件装置は押し順再遊技であるか否かを判定する。ここで、押し順再遊技は、再遊技-D1～D3のいずれかとなっている。

10

【1368】

ステップ2462でYesの場合、換言すれば、当該ゲームの条件装置は押し順再遊技である場合には、ステップ2464で、副制御基板SのCPUSCは、押し順ナビ表示として、押し順再遊技の3択の押し順のうちの正解の押し順を示唆する画像を第1の数字表示態様グループで演出表示装置S40に表示する。ここで、押し順は、3択であるので、第一停止ボタンを、左停止ボタンD41、中停止ボタンD42又は右停止ボタンD43のいずれかに対応させた情報である。例えば、正解の押し順として第一停止ボタンが左停止ボタンD41である場合には、演出表示装置S40の中央より左下側に数字の「1」が表示され、第一停止ボタンが中停止ボタンD42である場合には、演出表示装置S40の中央下側に数字の「1」が表示され、第一停止ボタンが右停止ボタンD43である場合には、演出表示装置S40の中央より右下側に数字の「1」が、押し順ナビ表示として表示される。換言すると、停止すべきリールに対応するストップスイッチに近い位置に押し順の情報が表示される。

20

【1369】

次に、前述したステップ2462でNoの場合、換言すれば、当該ゲームの条件装置は押し順再遊技でない場合には、ステップ2466で、副制御基板SのCPUSCは、順押し指示コマンドを受信したか否かを判定する。ステップ2466でYesの場合、換言すれば、順押し指示コマンドを受信した場合には、ステップ2468で、副制御基板SのCPUSCは、押し順ナビ表示として、「左→中→右」に対応する押し順を示唆する画像を矢印の画像で演出表示装置S40に表示する。すなわち、押し順は、順押しであるので、第一停止ボタン、第二停止ボタン及び第三停止ボタンは、順に、左停止ボタンD41、中停止ボタンD42及び右停止ボタンD43であり、左から右に向く矢印の画像によって押し順を示唆することができる。

30

【1370】

次に、前述したステップ2466でNoの場合、換言すれば、順押し指示コマンドを受信していない場合には、ステップ2470で、副制御基板SのCPUSCは、逆押し指示コマンドを受信したか否かを判定する。ステップ2470でYesの場合、換言すれば、逆押し指示コマンドを受信した場合には、ステップ2472で、副制御基板SのCPUSCは、押し順ナビ表示として、「右→中→左」に対応する押し順を示唆する画像を矢印の画像で演出表示装置S40に表示する。すなわち、押し順は、逆押しであるので、第一停止ボタン、第二停止ボタン及び第三停止ボタンは、順に、右停止ボタンD43、中停止ボタンD42及び左停止ボタンD41であり、右から左に向く矢印の画像によって押し順を示唆することができる。

40

【1371】

次に、前述したステップ2470でNoの場合、換言すれば、逆押し指示コマンドを受信していない場合には、ステップ2474で、副制御基板SのCPUSCは、回避コマンドを受信したか否かを判定する。ステップ2474でYesの場合、換言すれば、回避コマンドを受信した場合には、ステップ2476で、副制御基板SのCPUSCは、押し順ナビ表示として、成立を回避する画像を第1の数字表示態様グループで演出表示装置S40に表示する。ここで、回避コマンドは、順押し回避コマンドと逆押し回避コマンドとの

50

双方のコマンドを総称する。したがって、順押し回避コマンドを受信した場合でも、逆押し回避コマンドを受信した場合でも、ステップ2476の処理が実行される。例えば、順押し回避コマンドを受信した場合には、順押し「左→中→右」を回避するために、演出表示装置S40の中央より右下側に数字の「1」を表示して、第一停止ボタンが右停止ボタンD43であるかのような情報を、押し順ナビ表示として表示する。

【1372】

次に、副制御基板SのCPUSCは、前述したステップ2460、2464、2468、2472、2476の処理を実行した場合、又は2474でNoの場合には、ステップ2480で、AT中背景画像を演出表示装置S40に表示し、ステップ2482で、AT残りゲーム数を表示態様Aで演出表示装置S40に表示し、次の処理（ステップ2110の処理）に移行させる。

10

【1373】

＜スタートレバー操作時有利BB内部中処理＞

次に、図244は、図240のステップ2700の処理で呼び出されて実行されるスタートレバー操作時有利BB内部中処理を示すサブルーチンである。

【1374】

次に、副制御基板SのCPUSCは、ステップ2702で、当該ゲームに係る条件装置に関する情報を読み出し、ステップ2704で、当該ゲームに係る入賞・再遊技当選情報を確認し、ステップ2706で、指示番号に係るコマンドを確認する。このように、「AT中状態」等の押し順ナビが実行され得るATに関する状態においては、主制御基板Mが入賞・再遊技当選情報に係るコマンドを副制御基板S側に送信し、「低確率状態」等の押し順ナビが実行されないATに関する状態（遊技区間が「通常区間」の場合も該当する）において演出グループ番号を送信する場合には、指示番号に係るコマンドを送信しなくても良い。さらにまた、主制御基板Mは、押し順ナビが実行され得るATに関する状態であっても押し順ナビが実行されないATに関する状態と同様に演出グループ番号を送信し、演出グループ番号と、指示番号に係るコマンドとに基づいて、押し順ベル（又は、押し順再遊技）が当選したこと、及び正解の押し順が把握できるように構成されていても良い。

20

【1375】

次に、ステップ2708で、副制御基板SのCPUSCは、有利BB内部中遊技に移行してから所定ゲーム（5ゲーム）が経過していないか否かを判定する。ステップ2708でYesの場合、換言すれば、有利BB内部中遊技に移行してから所定ゲーム（5ゲーム）が経過していない場合には、ステップ2710で、副制御基板SのCPUSCは、当該ゲームの条件装置は押し順ベル又は共通ベルであるか否かを判定する。ここで、押し順ベルは、前述した入賞-A1～入賞-A6、入賞-Bのいずれかとなっている。

30

【1376】

ステップ2710でYesの場合、換言すれば、当該ゲームの条件装置は押し順ベル又は共通ベルである場合には、ステップ2712で、副制御基板SのCPUSCは、押し順ナビ表示として、押し順ベルの6択の押し順のうちの正解の押し順を示唆する画像を第1の数字表示態様グループで演出表示装置S40に表示する。押し順は、第一停止ボタン、第二停止ボタン及び第三停止ボタンの各々を、左停止ボタンD41、中停止ボタンD42及び右停止ボタンD43に対応させた情報である。例えば、押し順ベルである入賞-A4に当選した場合には、最大払出枚数を獲得可能な押し順である「右→左→中」に対応する押し順を示唆する数字を、星印で囲った表示態様で表示する。前述した第1の数字表示態様グループ及び第2の数字表示態様グループは、押し順を示唆する数値を、互いに異なる表示態様グループで表示すればよく、例えば、第1の数字表示態様グループは、数字を青色で表示し、第2の数字表示態様グループは、数字を赤色で表示するなどにすることができる。

40

【1377】

次に、前述したステップ2710でNoの場合、換言すれば、当該ゲームの条件装置は押し順ベルでも共通ベルでもない場合には、ステップ2714で、副制御基板SのCPU

50

S C は、当該ゲームの条件装置は押し順再遊技であるか否かを判定する。ここで、押し順再遊技は、再遊技 - D 1 ~ D 3 のいずれかとなっている。

【1378】

ステップ2714でYesの場合、換言すれば、当該ゲームの条件装置は押し順再遊技である場合には、ステップ2716で、副制御基板SのCPUSCは、押し順ナビ表示として、押し順再遊技の3択の押し順のうちの正解の押し順を示唆する画像を第1の数字表示態様グループで演出表示装置S40に表示する。ここで、押し順は、3択であるので、第一停止ボタンを、左停止ボタンD41、中停止ボタンD42又は右停止ボタンD43のいずれかに対応させた情報である。例えば、正解の押し順として第一停止ボタンが左停止ボタンD41である場合には、演出表示装置S40の中央より左下側に数字の「1」が表示され、第一停止ボタンが中停止ボタンD42である場合には、演出表示装置S40の中央下側に数字の「1」が表示され、第一停止ボタンが右停止ボタンD43である場合には、演出表示装置S40の中央より右下側に数字の「1」が、押し順ナビ表示として表示される。換言すると、停止すべきリールに対応するストップスイッチに近い位置に押し順の情報が表示される。

10

【1379】

次に、前述したステップ2714でNoの場合、換言すれば、当該ゲームの条件装置は押し順再遊技でない場合には、ステップ2718で、副制御基板SのCPUSCは、7リプレイに関するコマンドを受信したか否かを判定する。ここで、順押し指示コマンドと逆押し指示コマンドと順押し回避コマンドと逆押し回避コマンドとを総称して7リプレイコマンドと称する。ステップ2718でYesの場合、換言すれば、7リプレイに関するコマンドを受信した場合には、ステップ2720で、副制御基板SのCPUSCは、押し順ナビ表示として、成立を回避する画像を第1の数字表示態様グループで演出表示装置S40に表示する。

20

【1380】

次に、副制御基板SのCPUSCは、前述したステップ2712、2716、2720の処理を実行した場合、又はステップ2718でNoの場合には、ステップ2722で、AT中背景画像を演出表示装置S40に表示し、ステップS2724で、AT残りゲーム数を表示態様Aで演出表示装置S40に表示し、次の処理（ステップ2110の処理）に移行させる。

30

【1381】

ステップ2708でNoの場合、換言すれば、有利BB内部中遊技に移行してから所定ゲーム（5ゲーム）が経過した場合には、ステップ2726で、副制御基板SのCPUSCは、演出表示装置S40にて、BBに当選していることを報知し（この処理では、押し順ナビは表示しない）、次の処理（ステップ2110の処理）に移行させる。

【1382】

<第1回胴停止受付時処理>

次に、図245は、図234のステップ2500の処理で呼び出されて実行される第1回胴停止受付時処理を示すサブルーチンである。

【1383】

40

次に、ステップ2502で、副制御基板SのCPUSCは、当該ゲームにおいて押し順ナビが表示中であるか否かを判定する。ステップ2502でYesの場合、換言すれば、押し順ナビが表示中である場合には、ステップ2504で、副制御基板SのCPUSCは、第1停止として正解の押し順に基づく停止ボタンの操作があるか否かを判定する。

【1384】

次に、ステップ2504でYesの場合、換言すれば、第1停止として正解の押し順に基づく停止ボタンの操作がある場合には、ステップ2506で、副制御基板SのCPUSCは、押し順ナビ表示における第1停止に係る表示を消去し、次の処理（ステップ2110の処理）に移行させる。

【1385】

50

次に、ステップ2504でNoの場合、換言すれば、第1停止として正解の押し順に基づく停止ボタンの操作がない場合には、ステップ2508で、副制御基板SのCPUSCは、順押しナビ又は逆押しナビに係る押し順ナビの表示中であるか否かを判定する。ここで、7リプレイとは、順押し黒7揃いリプレイと逆押し白7揃いリプレイとの総称である。ステップ2508で、Yesの場合には、ステップ2510で、副制御基板SのCPUSCは、押し順ナビを暗転表示し（当該ゲーム中では暗転表示され続ける）、次の処理（ステップ2110の処理）に移行させる。

【1386】

ステップ2508でNoの場合、換言すれば、7リプレイに係る押し順ナビの表示中ではない場合には、ステップ2512で、副制御基板SのCPUSCは、押し順ナビ表示を全

10

【1387】

＜第2回胴停止受付時処理＞

次に、図246は、図234のステップ2550の処理で呼び出されて実行される第2回胴停止受付時処理を示すサブルーチンである。

【1388】

次に、ステップ2552で、副制御基板SのCPUSCは、当該ゲームにおいて押し順ナビが表示中であるか否かを判定する。ステップ2552でYesの場合、換言すると、押し順ナビが表示中である場合には、ステップ2554で、副制御基板SのCPUSCは、当該ゲームに係る条件装置は押し順ベルであるか否かを判定する。ステップ2554でYesの場合、換言すると、当該ゲームに係る条件装置は押し順ベルである場合には、ステップ2556で、副制御基板SのCPUSCは、第2停止として正解の押し順に基づく停止ボタンの操作があるか否かを判定する。

20

【1389】

次に、ステップ2556でYesの場合、換言すると、第2停止として正解の押し順に基づく停止ボタンの操作がある場合には、ステップ2558で、副制御基板SのCPUSCは、押し順ナビ表示における第2停止に係る表示を消去し、次の処理（ステップ2110の処理）に移行させる。

【1390】

次に、ステップ2556でNoの場合、換言すると、第2停止として正解の押し順に基づく停止ボタンの操作がない場合には、ステップ2560で、副制御基板SのCPUSCは、押し順ナビ表示をすべて消去し、押し順失敗演出を実行し、次の処理（ステップ2110の処理）に移行させる。

30

【1391】

次に、ステップ2552でNoの場合、換言すると、押し順ナビが表示中でない場合、又は、ステップ2554でNoの場合、換言すると、当該ゲームに係る条件装置は押し順ベルでない場合には、直ちに、次の処理（ステップ2110の処理）に移行させる。

【1392】

＜第3回胴停止時演出関連決定処理＞

次に、図247は、図234のステップ3200の処理で呼び出されて実行される第3回胴停止時演出関連決定処理を示すサブルーチンである。

40

【1393】

次に、ステップ3202で、副制御基板SのCPUSCは、BB役が入賞したか否かを判定する。ステップ3202でYesの場合、換言すると、BB役が入賞した場合には、ステップ3204で、副制御基板SのCPUSCは、非AT中（「低確率状態」又は「高確率状態」）に当選したBB役であるか否かを判定する。ステップ3204でYesの場合、換言すると、非AT中に当選したBB役である場合、ステップ3206で、副制御基板SのCPUSCは、非AT中BB開始演出決定テーブルを参照し、当該ゲームのATに関する状態及びBB役に基づき、BB開始演出（BB役を入賞させると実行される演出）を決定して実行し、次の処理（ステップ2600の処理）に移行する。

50

【1394】

次に、ステップ3204でN oの場合、換言すると、AT中（「AT中状態」、「上乗せ特化状態」、「特化準備状態」又は「復活可否演出用状態」）に当選したBB役である場合、ステップ3208で、副制御基板SのCPUSCは、AT中BB開始演出決定テーブルを参照し、当該ゲームのATに関する状態及びBB役に基づき、BB開始演出を決定して実行し、次の処理（ステップ2600の処理）に移行させる。

【1395】

次に、ステップ3202でN oの場合、換言すると、BB役が入賞しない場合、ステップ3210で、副制御基板SのCPUSCは、当該ゲームにて実行された演出に基づき演出を決定して実行し、次の処理（ステップ2600の処理）に移行させる。

【1396】

図247の下左に示す非AT中BB開始演出決定テーブルは、非AT状態におけるBBの開始時点の演出を決定するためのテーブルである。非AT中BB開始演出決定テーブルは、BB役の種類とATに関する状態とBB開始演出の種類と確率（振分）との関係を規定するためのテーブルである。BB役の種類は、設定差ありBB（1種BB-B）と、設定差なしBB（1種BB-A及び1種BB-C）との2種類である。ATに関する状態は、「通常BB内部中遊技」と、「有利BB内部中遊技」との2種類である。BB開始演出は、通常演出と高期待度演出とプレミアム演出との3種類である。尚、非AT中にて当選したBBにおける、BB開始演出の種類によって、BB終了後に「AT中状態」に移行する期待度が相違するよう構成されており、期待度の低いものから「通常演出→高期待度演出→プレミアム演出」の順になっている。

【1397】

BB役が設定差ありBB（1種BB-B）であり、当該ゲームのATに関する状態が通常BB内部中遊技である場合に、BB開始演出が通常演出となる確率は、 $179/256$ である。BB役が設定差ありBB（1種BB-B）であり、当該ゲームのATに関する状態が「通常BB内部中遊技」である場合に、BB開始演出が高期待度演出となる確率は、 $77/256$ である。BB役が設定差ありBB（1種BB-B）であり、当該ゲームのATに関する状態が「通常BB内部中遊技」である場合に、BB開始演出がプレミアム演出となる確率は、 $0/256$ である。

【1398】

BB役が設定差ありBB（1種BB-B）であり、当該ゲームのATに関する状態が「有利BB内部中遊技」である場合に、BB開始演出が通常演出となる確率は、 $179/256$ である。BB役が設定差ありBB（1種BB-B）であり、当該ゲームのATに関する状態が「有利BB内部中遊技」である場合に、BB開始演出が高期待度演出となる確率は、 $77/256$ である。BB役が設定差ありBB（1種BB-B）であり、当該ゲームのATに関する状態が「有利BB内部中遊技」である場合に、BB開始演出がプレミアム演出となる確率は、 $0/256$ である。

【1399】

BB役が設定差なしBB（1種BB-A及び1種BB-C）であり、当該ゲームのATに関する状態が「通常BB内部中遊技」である場合に、BB開始演出が通常演出となる確率は、 $179/256$ である。BB役が設定差なしBB（1種BB-A及び1種BB-C）であり、当該ゲームのATに関する状態が「通常BB内部中遊技」である場合に、BB開始演出が高期待度演出となる確率は、 $77/256$ である。BB役が設定差なしBB（1種BB-A及び1種BB-C）であり、当該ゲームのATに関する状態が「通常BB内部中遊技」である場合に、BB開始演出がプレミアム演出となる確率は、 $0/256$ である。

【1400】

BB役が設定差なしBB（1種BB-A及び1種BB-C）であり、当該ゲームのATに関する状態が「有利BB内部中遊技」である場合に、BB開始演出が通常演出となる確率は、 $67/256$ である。BB役が設定差なしBB（1種BB-A及び1種BB-C）であり、当該ゲームのATに関する状態が「有利BB内部中遊技」である場合に、BB開

10

20

30

40

50

始演出が高期待度演出となる確率は、 $157/256$ である。BB役が設定差なしBB（1種BB-A及び1種BB-C）であり、当該ゲームのATに関する状態が「有利BB内部中遊技」である場合に、BB開始演出がプレミア演出となる確率は、 $32/256$ である。

【1401】

「通常区間」であるときには、設定差なしBB（1種BB-A及び1種BB-C）に当選した場合でも、設定差ありBB（1種BB-B）に当選した場合でも、プレミア演出が選択されることはなく、高期待度演出よりも通常演出が選択される可能性が高くなるように定められている。

【1402】

有利区間であっても、設定差ありBB（1種BB-B）に当選した場合には、プレミア演出が選択されることはなく、高期待度演出よりも通常演出が選択される可能性が高くなるように定められている。

【1403】

「有利区間」であり、設定差なしBB（1種BB-A及び1種BB-C）に当選した場合には、プレミア演出が選択される可能性がある。このように構成したことにより、プレミア演出が選択されることで、設定差なしBBに当選したことで、設定差なしBBが終了した後に「AT中状態」に移行することが確定していることを遊技者に示すことができる。また、「有利区間」であり、設定差なしBB（1種BB-A及び1種BB-C）に当選した場合には、通常演出よりも高期待度演出が選択される可能性が高くなる（通常演出が選択される可能性が低くなる）ように定められている。このようにすることで、遊技者は、BB開始演出を確認することによって、BB終了後にATが開始されるのか否かを推測することができ、ATの当選に期待感を抱くことができる。尚、「通常BB内部中遊技」にて入賞した設定差ありBB（1種BB-B）に係るBB開始演出の振分と、「通常BB内部中遊技」にて入賞した設定差なしBB（1種BB-A及び1種BB-C）に係るBB開始演出の振分とは同一の振分となっている。尚、これには限定されず、「通常BB内部中遊技」にて入賞した設定差ありBB（1種BB-B）に係るBB開始演出の振分と、「通常BB内部中遊技」にて入賞した設定差なしBB（1種BB-A及び1種BB-C）に係るBB開始演出の振分とを相違させてもよく、そのように構成することにより、設定差ありBBに関するBB開始演出であるか設定差なしBBに関するBB開始演出であるかによって振分が相違するよう構成することができる。

【1404】

図247の下右に示すAT中BB開始演出決定テーブルは、AT中におけるBBの開始時点の演出を決定するためのテーブルである。AT中BB開始演出決定テーブルも、BB役の種類とATに関する状態とBB開始演出の種類と確率（振分）との関係を規定するためのテーブルである。BB役の種類は、設定差ありBB（1種BB-B）と、設定差なしBB（1種BB-A及び1種BB-C）との2種類である。ATに関する状態は、「有利BB内部中遊技」との1種類である。BB開始演出は、上乗せ可能演出と上乗せ不可演出との2種類である。上乗せ可能演出はBBの実行中にAT上乗せ抽選が実行され得ることを示唆する演出であり、上乗せ不可演出はBBの実行中にAT上乗せ抽選が実行されないことを示唆する演出である。AT中に当選したBBについては、AT抽選に当選するか否かという要素がなく、BBの種類によってはAT上乗せ抽選が実行されるか否かが相違し得ることとなる。また、AT中においては、AT上乗せ抽選が実行されない設定差ありBBにおいても、遊技メダルが獲得できることとBB終了後には遊技者に有利なAT中となることにより、実行されるBBがAT上乗せ抽選が実行されるか否かを明確に報知するよう構成されている。以下、具体例を詳述する。

【1405】

BB役が設定差ありBB（1種BB-B）であり、当該ゲームのATに関する状態が「有利BB内部中遊技」である場合に、BB開始演出が上乗せ可能演出となる確率は、 $0/256$ であり、上乗せ可能演出が実行されることはない。BB役が設定差ありBB（1種

10

20

30

40

50

BB - B) であり、当該ゲームのATに関する状態が「有利BB内部中遊技」である場合に、BB開始演出が上乗せ不可演出となる確率は、 $256/256$ であり、必ず上乗せ不可演出が実行される。BB役が設定差なしBB(1種BB - A及び1種BB - C)であり、当該ゲームのATに関する状態が「有利BB内部中遊技」である場合に、BB開始演出が上乗せ可能演出となる確率は、 $256/256$ であり、必ず上乗せ可能演出が実行される。BB役が設定差なしBB(1種BB - A及び1種BB - C)であり、当該ゲームのATに関する状態が「有利BB内部中遊技」である場合に、BB開始演出が上乗せ不可演出となる確率は、 $0/256$ であり、上乗せ不可演出が実行されることはない。

【1406】

＜第3回胴停止受付時処理＞

次に、図248は、図234のステップ2600の処理で呼び出されて実行される第3回胴停止受付時処理を示すサブルーチンである。

【1407】

次に、ステップ2602で、副制御基板SのCPUSCは、当該ゲームにおいて押し順ナビが表示中であるか否かを判定する。ステップ2602でYesの場合、換言すると、押し順ナビが表示中である場合には、ステップ2604で、副制御基板SのCPUSCは、当該ゲームに係る条件装置は押し順ベルであるか否かを判定する。ステップ2604でYesの場合、換言すると、当該ゲームに係る条件装置は押し順ベルである場合には、ステップ2606で、副制御基板SのCPUSCは、第3停止として正解の押し順に基づく停止ボタンの操作があるか否かを判定する。

【1408】

次に、ステップ2606でYesの場合、換言すると、第3停止として正解の押し順に基づく停止ボタンの操作がある場合には、ステップ2608で、副制御基板SのCPUSCは、押し順成功演出として演出表示装置S40にて「GET!」を表示する。他方、ステップ2606でNoの場合、換言すると、第3停止として正解の押し順に基づく停止ボタンの操作がない場合には、ステップ2610で、副制御基板SのCPUSCは、押し順成功演出の「GET!」を表示しない。

【1409】

前述したステップ2602でNoの場合、換言すると、押し順ナビが表示中でない場合、ステップ2604でNoの場合、換言すると、当該ゲームに係る条件装置は押し順ベルでない場合、又は、ステップ2608若しくは2610の処理を実行した場合には、ステップ2612で、副制御基板SのCPUSCは、メイン側からAT上乗せゲーム数に係るコマンド(ステップ1517にてセットしたコマンド)を受信したか否かを判定する。尚、前述したように、主制御基板MがAT残りゲーム数を示すコマンドを副制御基板Sに送信し、副制御基板Sは前回受信したAT残りゲーム数を示すコマンドとの差分を算出することによりATゲーム数の上乗せが実行されたか否か及びAT上乗せゲーム数を判断し、AT上乗せゲーム数を表示可能に構成してもよい。

【1410】

次に、ステップ2612でYesの場合、換言すると、メイン側からATゲーム数に係るコマンドを受信した場合には、ステップ2614で、副制御基板SのCPUSCは、演出表示装置S40にてAT上乗せゲーム数を表示し、次の処理(ステップ2110の処理)に移行させる。他方、ステップ2612でNoの場合、換言すると、メイン側からATゲーム数に係るコマンドを受信していない場合には、ステップ2616で、副制御基板SのCPUSCは、演出表示装置S40にてAT上乗せゲーム数を表示せずに、次の処理(ステップ2110の処理)に移行させる。また、AT上乗せゲーム数の報知方法として、(1)上乗せゲーム数の全てを当該遊技で報知する、(2)上乗せゲーム数の一部を当該遊技で報知し、残りの遊技数を当該遊技以降の遊技で報知する、(3)当該遊技では上乗せゲーム数を報知せず、当該遊技以降の遊技(例えば、7リプレイ当選時や、共通ベル当選時(本来上乗せされない役の当選時)や、複数遊技(連続演出)を実行した後や、演出表示装置S40の残り遊技数が「0」となった遊技、又は「0」となった遊技の次遊技の

10

20

30

40

50

ベットボタンD220操作、スタートレバーD50の操作)で報知したりすることができる。

【1411】

なお、「上乗せ特化状態」にて共通ベルに当選した場合には、押し順ナビに従って停止させた場合であっても、AT上乗せゲーム数に関する表示をしない(共通ベルではAT上乗せ抽選をしていない)。

【1412】

以上のように構成することにより、本実施形態に係る回胴式遊技機によれば、「有利区間」において有利区間表示器YHが点灯するよう構成した遊技機において、遊技者にとって有利である期間を適切に報知可能に構成することができる。また、「復活可否演出用状態」を設けることにより、継続演出に当選し、その後復活演出(成功)が実行される場合においては、当該復活演出(成功)が実行されるゲームのATに関する状態は「AT中状態」であるため有利区間表示器YHが点灯しており、一方、継続演出に非当選となり、その後復活演出(失敗)が実行される場合においても、当該復活演出(失敗)が実行されるゲームのATに関する状態を「復活可否演出用状態」とし、当該ATに関する状態を「有利区間」とすることにより、有利区間表示器YHは点灯することとなる。このように構成することにより、復活演出を実行するゲームにて有利区間表示器YHを視認することにより、復活演出が成功するのか失敗するのかを認識し難いよう構成することができることとなり、遊技者にとって有利である期間を適切に報知可能に構成された遊技機において、興趣性の高い遊技機を担保することができる。

【1413】

尚、本例においては「高確率状態」にてBB役に当選した場合にAT抽選に当選し得るよう構成し、当該BB終了後には「AT中状態」に移行し得るよう構成したが、ATに関する構成は本例のものには限定されず、例えば、チェリー等のレア役にAT抽選に当選し得る(BB役でなくとも当選し得る)よう構成し、AT抽選に当選した場合にはATに関する状態として「AT前兆状態」に移行し、「AT前兆状態」にて所定ゲーム数(例えば、10ゲーム)遊技をすることで「AT中状態」に移行するよう構成してもよい。

【1414】

次に、図249は、本実施形態における、図234のステップ7100のサブルーチンに係る、メニュー画面表示制御処理のフローチャートである。まず、ステップ7102で、副制御基板SのCPUSCは、演出表示装置S40上にてメニュー画面が非表示であるか否かを判定する。ここで、メニュー画面とは、サブ入力ボタンSBを押下する等して演出表示装置SGに表示され得る画面であり、複数の項目から遊技者が選択して各種設定や遊技機に関する情報を確認することができる画面となっている。尚、項目の選択及び決定方法の一例としては、十字キーSB2(上ボタン、下ボタン、左ボタン、右ボタンの4つのボタンを有している)を操作して所望する項目にカーソルを合わせ、サブ入力ボタンSBを操作することにより、現在選択されている(カーソルがあっている)項目を決定し、当該項目に対応した画面が表示されることとなる。尚、本例では、項目を選択する画面と選択した項目を決定して表示される項目に対応する画面とのいずれもメニュー画面であるとしている。また、メニュー画面の表示態様は複数有していてもよく、例えば、遊技状態によってメニュー画面にて選択できる項目を相違させたり、背景画像のデザインを相違させたりしてもよく、換言すると、それらの相違点があったとしてもすべてメニュー画面と称することとしている。

【1415】

<メニュー画面で選択できる項目>

メニュー画面にて選択可能な項目の一例を以下に列挙する。

(1) 音量調整: 遊技機から出力する音量を遊技者が調整できるように構成してもよく、例えば、音量調整に対応する画面を表示させてから、十字キーSB2の右ボタンを操作すると出力音量が大きくなり、十字キーSB2の左ボタンを操作すると出力音量が小さくなるよう構成してもよい。

(2) 光量調整：LEDランプS10（停止ボタンランプS60、ベットボタンランプS50）等の副制御基板Sにて制御する各種ランプの光量（輝度）を遊技者が調整できるように構成してもよく、例えば、光量調整に対応する画面を表示させてから、十字キーSB2の上ボタンを操作すると光量（輝度）が強く（明るく）なり、十字キーSB2の下ボタンを操作すると光量（輝度）が弱く（暗く）なるよう構成してもよい。

(3) キャラクタカスタマイズ：遊技中に登場するキャラクタ（主人公キャラ、押し順ナビの声、対戦キャラ、演出表示装置S40に常時表示される遊技進行をサポートするキャラ、等）を選択・変更できるように構成してもよく、キャラクタカスタマイズに対応する画面を表示させた後、十字キーSB2で選択したいキャラクタにカーソルを合わせ、サブ入力ボタンSBを操作することで決定する。

(4) リール配列表：リール配列表に対応する画面にリール配列を表示可能に構成してもよい。

(5) 配当表：配当表に対応する画面に配当表（停止表示することで再遊技や入賞役を構成する図柄組み合わせの一覧表）を表示可能に構成してもよい。尚、配当表を複数画面に分割して表示する場合には、例えば、十字キーSB2の左ボタンと右ボタンとで配当表の画面を切り替えられるよう構成してもよい。

【1416】

フローチャートの説明に戻ると、ステップ7102でYesの場合、ステップ7104で、副制御基板SのCPUSCは、メニュー画面表示可能状態であるか否かを判定する。ここで、メニュー画面表示可能状態とは、サブ入力ボタンSBの操作等、メニュー画面を表示し得る操作（時間経過で表示し得るよう構成してもよい）を実行した場合にメニュー画面が表示される状態であり、具体例としては、以下のように構成してもよい。

(1) 遊技終了タイミング（第3停止ボタンをオン→オフとしたタイミング、表示判定タイミング、入賞に基づく払出完了タイミング、遊技終了処理として副制御基板S側に遊技終了に係るコマンドをセット又は送信したタイミング、遊技終了に係るコマンドを副制御基板S側が受信したタイミング等）から、遊技を進行しない（新たにベット操作がない、新たに再遊技の停止表示に基づく自動ベット動作がない、新たにスタートレバーの操作がない、新たにリールの回転開始がない、等）まま、所定時間（例えば、5秒）が経過した場合にメニュー画面表示可能状態としてもよい（それまではサブ入力ボタンSBを操作してもメニュー画面が表示されない）。尚、ベット操作とは、ベットボタンD220を操作してベットした場合と、メダル投入口D170に遊技メダルを投入してベットした場合のいずれをも含んでいる（再遊技の停止表示に基づく自動ベットもベット操作に含めてもよい）。

(2-1) 遊技の実行中（遊技メダルがベットされている、リール回転開始までのウエイト期間中、リール回転中）にメニュー画面表示可能状態としないよう構成してもよい。

(2-2) 遊技の実行中（遊技メダルがベットされている等）にメニュー画面表示可能状態とするよう構成してもよい。

(3) 所定の演出実行中（ボーナスに当選しているか否かを報知する演出実行中、複数ゲームに亘って実行する連続演出実行中、ATゲーム数上乘せ抽選に当選しているかを報知する演出、等）は、メニュー画面表示可能状態としないよう構成してもよい。

(4) 再遊技役の停止表示中にてメニュー画面表示可能状態としないよう構成してもよい。尚、メニュー画面表示可能状態であることを遊技者に認識し易くするために、メニュー画面表示可能状態である場合には、サブ入力ボタンSB（サブ入力ボタンSBの内部に設けられたLED）を点滅表示するよう構成してもよい。

【1417】

フローチャートの説明に戻ると、ステップ7104でYesの場合、ステップ7106で、副制御基板SのCPUSCは、サブ入力ボタンSBの操作があったか否かを判定する。尚、本例においてはメニュー画面を表示する操作をサブ入力ボタンSBの操作としているが、メニュー画面を表示する操作を変更しても、メニュー画面を表示する操作を複数有するよう構成してもよい。ステップ7106でYesの場合、ステップ7108で、副制

10

20

30

40

50

御基板 S の C P U S C は、演出表示装置 S 4 0 にメニュー画面を表示する。次に、ステップ 7 1 0 9 で、副制御基板 S の C P U S C は、待機タイマ（遊技終了タイミングから後述する待機画面に移行する時間を計測するためのタイマ）を停止して当該タイマ値をゼロクリアする。次に、ステップ 7 1 1 0 で、副制御基板 S の C P U S C は、待機タイマ計時中フラグ（待機タイマが計時しているときにオンとなるフラグ）をオフにする。次に、ステップ 7 1 1 1 で、副制御基板 S の C P U S C は、メニュー待機タイマ（メニュー画面から後述する待機画面に移行する時間を計測するためのタイマであり、メニュー画面が表示開始されたタイミングで初期値がセットされる）に所定時間 B（本例では、3 0 0 秒であり、後述する所定時間 A よりも長時間となっている）をセットして、当該タイマをスタートする。次に、ステップ 7 1 1 2 で、副制御基板 S の C P U S C は、メニュー待機タイマ計時中フラグ（メニュー待機タイマが計時しているときにオンとなるフラグ）をオンにし、次の処理（ステップ 7 2 0 0 の処理）に移行する。

【1 4 1 8】

また、ステップ 7 1 1 4 で、副制御基板 S の C P U S C は、メニュー画面終了条件を充足した否かを判定する。メニュー画面終了条件とは、メニュー画面の表示を終了する、換言すると、演出表示装置 S 4 0 にて表示する画面（画像）をメニュー画面から他の画面（画像）に切り替える条件であり、充足する具体例としては、以下のように構成してもよい。

（１）新たにベット操作があった、新たにスタートレバーの操作があった、新たにリールの回転開始した場合に充足するよう構成してもよい。

（２）メニュー画面が表示され続けている状況下、メニュー画面の表示開始から所定時間（本例では、所定時間 B である 3 0 0 秒）が経過した場合に充足するよう構成してもよい。

（３）メニュー画面の所定の項目を選択及び決定し、当該所定の項目に対応する画面にて所定の操作を実行することで充足するよう構成してもよく、例えば、音量調整の項目にカーソルを合わせ、サブ入力ボタン S B を操作することによって、音量調整に対応した画面が表示され、十字キー S B 2 を操作して所望の音量に調整した後に、再度サブ入力ボタン S B を操作することで、選択中の大きさに音量が設定されると共に、メニュー画面の表示が終了し、メニュー画面が表示される前の画面（通常画面と称することがある）が表示される。

【1 4 1 9】

フローチャートの説明に戻ると、ステップ 7 1 1 4 で Y e s の場合、ステップ 7 1 1 6 で、副制御基板 S の C P U S C は、演出表示装置 S 4 0 にメニュー画面表示前に表示されていた画像を表示する。一例としては、主人公が森を歩いている画面が表示されている状況にて、サブ入力ボタン S B が操作されたことによりメニュー画面が表示された場合には、メニュー画面の表示が終了すると、再度主人公が森を歩いている画面が表示されることとなる。次に、ステップ 7 1 1 8 で、副制御基板 S の C P U S C は、メニュー待機タイマを停止してゼロクリアする。次に、ステップ 7 1 2 0 で、副制御基板 S の C P U S C は、メニュー待機タイマ計時中フラグをオフにし、次の処理（ステップ 7 2 0 0 の処理）に移行する。

【1 4 2 0】

また、ステップ 7 1 1 4 で N o の場合、ステップ 7 1 2 2 で、副制御基板 S の C P U S C は、サブ入力ボタン S B 又は十字キー S B 2 の操作があったか否かを判定する。ステップ 7 1 2 2 で Y e s の場合、ステップ 7 1 2 4 で、副制御基板 S の C P U S C は、メニュー待機タイマに所定時間 B（本例では、3 0 0 秒）を再セットし、次の処理（ステップ 7 2 0 0 の処理）に移行する。尚、ステップ 7 1 0 4、ステップ 7 1 0 6 又はステップ 7 1 2 2 で N o の場合にも、次の処理（ステップ 7 2 0 0 の処理）に移行する。このように、本実施形態においては、メニュー画面が表示されている状況にてサブ入力ボタン S B 又は十字キー S B 2 の操作があった場合には、メニュー待機タイマに所定時間 B（本例では、3 0 0 秒）を再セットする、換言すると、待機画面が表示されるまでの時間の計測を初めからやり直すよう構成されている。尚、本例では、待機画面の表示に関するタイマとして、待機タイマとメニュー待機タイマとの 2 つのタイマを使用するよう構成したが、これに

は限定されず、待機画面の表示に関するタイマを1つのみ使用するよう構成してもよい。具体的には、待機画面の表示に関するタイマとして待機タイマのみを使用し、上述した待機タイマにセットする所定時間A（180秒）とメニュー待機タイマにセットする所定時間B（300秒）とを待機タイマにセットするよう構成してもよい。具体例としては、第3停止ボタンがオン→オフとなって待機タイマに所定時間A（180秒）がセットされ、その後、待機タイマのタイマ値が100秒の状況下、サブ入力ボタンSBが操作されてメニュー画面が表示開始されると、待機タイマに所定時間B（300秒が）セットされるよう構成してもよい。

【1421】

次に、図250は、本実施形態における、図234のステップ7200のサブルーチンに係る、待機画面表示制御処理のフローチャートである。まず、ステップ7202で、副制御基板SのCPUSCは、待機画面は非表示であるか否かを判定する。ここで、待機画面とは、所定時間遊技が実行されていない（遊技が進行していない）と判定した場合に演出表示装置SGに表示され得る画面であり、遊技機にて実行される演出のストーリーに関する動画像が繰り返し再生されたり、「節電中」との表示が表示されたり、遊技機製造メーカーに関するロゴマークが表示されたりする。尚、本例においては、前述したメニュー画面を表示させる条件として遊技者による操作を必要としている一方、待機画面を表示させる条件としては遊技者による操作を必要としないよう構成されている。

【1422】

ステップ7202でYesの場合、ステップ7204で、副制御基板SのCPUSCは、待機タイマ計時中フラグ（後述する待機タイマが計時しているときにオンとなるフラグ）がオフであるか否かを判定する。ステップ7204でYesの場合、ステップ7206で、副制御基板SのCPUSCは、遊技終了タイミングに到達したか否かを判定する。尚、本処理においては、第3停止ボタンがオン→オフとなったタイミングを遊技終了タイミングとしている。ステップ7206でYesの場合、ステップ7208で、副制御基板SのCPUSCは、待機タイマ（遊技終了時から待機画面に移行する時間を計測するためのタイマであり、遊技終了したタイミングで初期値がセットされる）に所定時間A（本例では、180秒であり、前述した所定時間Bよりも短時間となっている）をセットして、当該タイマをスタートする。次に、ステップ7210で、副制御基板SのCPUSCは、待機タイマ計時中フラグをオンにし、ステップ7212に移行する。尚、本実施形態においては、ステップ7208及びステップ7210の処理を実行する条件として、遊技終了タイミングに到達したことを条件としたが、これに加え、メニュー画面にてサブ入力ボタンSBを操作することにより、メニュー画面の表示前に表示されていた画像を表示した（メニュー画面の表示が終了した）ことを条件としてもよい。

【1423】

次に、ステップ7212で、副制御基板SのCPUSCは、待機タイマのタイマ値が0となったか否かを判定する。ステップ7212でYesの場合、ステップ7214で、副制御基板SのCPUSCは、演出表示装置S40に待機画面を表示し、ステップ7216に移行する。次に、ステップ7216で、副制御基板SのCPUSCは、メニュー待機タイマを停止してゼロクリアする。次に、ステップ7218で、副制御基板SのCPUSCは、メニュー待機タイマ計時中フラグをオフにする。次に、ステップ7220で、副制御基板SのCPUSCは、待機タイマを停止してゼロクリアする。次に、ステップ7222で、副制御基板SのCPUSCは、待機タイマ計時中フラグをオフにし、ステップ7224に移行する。尚、ステップ7206でNoの場合にもステップ7224に移行する。

【1424】

次に、ステップ7224で、副制御基板SのCPUSCは、メニュー待機タイマ計時中フラグがオンであるか否かを判定する。ステップ7224でYesの場合、ステップ7226で、副制御基板SのCPUSCは、メニュー待機タイマのタイマ値が0となったか否かを判定する。ステップ7226でYesの場合、ステップ7228で、副制御基板SのCPUSCは、演出表示装置S40に待機画面を表示する。次に、ステップ7230で、

副制御基板 S の C P U S C は、メニュー待機タイマを停止してゼロクリアする。次に、ステップ 7 2 3 2 で、副制御基板 S の C P U S C は、メニュー待機タイマ計時中フラグをオフにする。次に、ステップ 7 2 3 4 で、副制御基板 S の C P U S C は、待機タイマを停止してゼロクリアする。次に、ステップ 7 2 3 6 で、副制御基板 S の C P U S C は、待機タイマ計時中フラグをオフにし、次の処理（ステップ 2 1 1 0 の処理）に移行する。尚、ステップ 7 2 2 4 又はステップ 7 2 2 6 で N o の場合にも、次の処理（ステップ 2 1 1 0 の処理）に移行する。

【 1 4 2 5 】

また、ステップ 7 2 0 4 で N o の場合、換言すると、待機タイマ計時中フラグがオンである場合、ステップ 7 2 3 8 で、副制御基板 S の C P U S C は、待機タイマ計時終了条件を充足していないか否かを判定する。ここで、待機タイマ計時終了条件とは、待機タイマの計時を終了し、待機タイマのタイマ値をゼロクリアすることとなる条件であり、新たにベット操作があった、新たにスタートレバーの操作があった、新たにリールの回転が開始した、等が待機タイマ計時終了条件となっている。ステップ 7 2 3 8 で Y e s の場合には、ステップ 7 2 1 2 に移行し、他方、ステップ 7 2 3 8 で N o の場合には、ステップ 7 2 1 6 に移行する。

【 1 4 2 6 】

また、ステップ 7 2 0 2 で N o の場合、ステップ 7 2 4 0 で、副制御基板 S の C P U S C は、待機画面終了条件を充足したか否かを判定する。ここで、待機画面終了条件とは、待機画面の表示を終了する条件であり、本例においては、新たにベット操作があった、新たにスタートレバーの操作があった、新たにリールの回転が開始した、等が待機画面終了条件となっている。尚、待機画面からメニュー画面に移行（メニュー画面を表示）可能に構成してもよく、例えば、待機画面が表示されている状況にてサブ入力ボタン S B を操作することによってメニュー画面が表示され得るよう構成してもよい。次に、ステップ 7 2 4 2 で、副制御基板 S の C P U S C は、演出表示装置 S 4 0 に待機画面の表示前に表示されていた画像を表示し、次の処理（ステップ 2 1 1 0 の処理）に移行する。一例としては、主人公が森を歩いている画面が表示されている状況にて、所定時間 A 遊技を進行しなかったことにより待機画面が表示された場合に、ベット操作を実行することによって再度主人公が森を歩いている画面が表示されることとなる。

【 1 4 2 7 】

次に、図 2 5 1 は、本実施形態に係る待機画面移行イメージ図である。まず（a）の場合、メニュー画面表示可能状態にてサブ入力ボタン S B の操作があったことによりメニュー画面が表示される。その後、メニュー画面が表示されている状況下、サブ入力ボタン S B やベットボタン D 2 2 0 の操作がないまま 5 分（所定時間 B であり 3 0 0 秒）経過し、待機画面が表示される。次に、（b）の場合、ゲームが実行され、遊技者がリールを停止させてゆき、第 3 停止ボタンの停止操作をすることですべてのリールが停止し、遊技者が第 3 停止ボタンを離れたタイミングから 3 分（所定時間 A であり 1 8 0 秒）経過し、その間サブ入力ボタン S B やベットボタン D 2 2 0 の操作がなかったため、待機画面が表示される。このように、本例では、メニュー画面が表示されてから所定時間 B 経過した場合と、遊技を終了してから（第 3 停止ボタンがオン→オフとなってから）所定時間 A 経過した場合とで待機画面を表示し得るよう構成されており、所定時間 A よりも所定時間 B の方が長時間となっている。

【 1 4 2 8 】

<< 本例に適用可能なメニュー画面と待機画面の構成 >>

ここで、本例に係る回胴式遊技機に適用可能なメニュー画面と待機画面に関する構成を、本実施形態の構成も含めて以下に詳述する。尚、以下に列挙する構成については、上述したすべての実施形態に適用可能であり、1 又は複数に適宜組み合わせ問題ないことを補足しておく。

【 1 4 2 9 】

< 待機タイマの計時開始タイミング >

待機画面を表示するまでの時間を計測する待機タイマに初期値をセットして計時を開始するタイミングとして、（１）最終停止操作として第３停止ボタン（最後まで回転しているリールに対応した停止ボタン）をオンにした後オフにしたタイミングから計時を開始する、（２）表示判定の実行タイミングから計時を開始する、（３）入賞に基づく払出完了タイミングから計時を開始する、（４）遊技終了処理として副制御基板Ｓ側に遊技終了に係るコマンドをセット又は送信したタイミングから計時を開始する、（５）遊技終了に係るコマンドを副制御基板Ｓ側が受信したタイミングから計時を開始するよう構成してもよい。また、初期値として所定時間Ａ（待機タイマにセットするタイマ値であり、例えば、１８０秒）をセットしてもよい。

【１４３０】

<メニュー待機タイマの計時開始タイミング>

メニュー画面を表示するまでの時間を計測するメニュー待機タイマに初期値をセットして計時を開始するタイミングとして、サブ入力ボタンＳＢを操作してメニュー画面を表示させたタイミングから計時を開始するよう構成してもよい。また、初期値として所定時間Ｂ（メニュー待機タイマにセットするタイマ値であり、例えば、３００秒）をセットしてもよい。尚、メニュー待機タイマにセットする所定時間Ｂは、前述した待機タイマにセットする所定時間Ａ（待機タイマにセットするタイマ値であり、例えば、１８０秒）よりも長時間となっている。

【１４３１】

<サブ入力ボタンに関する構成>

メニュー待機タイマが計時している状況にて、メニュー待機タイマに初期値を再セットし得るよう構成してもよく、例えば、メニュー画面の表示中にサブ入力ボタンＳＢ又は十字キーＳＢ２を操作することによりメニュー待機タイマに初期値である所定時間Ｂ（メニュー待機タイマにセットするタイマ値であり、例えば、３００秒）をセットするよう構成してもよい。一例としては、メニュー画面が表示開始されたことにより、メニュー待機タイマに３００秒をセットして計時を開始し、１００秒後にメニュー待機タイマのタイマ値が２００秒である状況下、十字キーＳＢ２を操作したことにより、メニュー待機タイマに３００秒が再セットされるよう構成してもよい。また、サブ入力ボタンＳＢを操作することによりメニュー画面を表示開始し得るよう構成し、メニュー画面の表示中（メニュー画面を表示開始してからサブ入力ボタンＳＢや十字キーＳＢ２を操作することにより画面が

【１４３２】

<停止ボタンに関する構成>

待機タイマが計時している状況にて、最終停止操作として第３停止ボタン（最後まで回転しているリールに対応した停止ボタン）をオンにした後オフにし、その後、ベット操作を実行していない状況にて停止ボタン（左停止ボタン、中停止ボタン及び右停止ボタン）を操作しても、待機タイマに初期値を再セットしないよう構成してもよい。一例としては、最終停止操作として第３停止ボタン（最後まで回転しているリールに対応した停止ボタン）をオンにした後オフにし、待機タイマに１８０秒がセットされてタイマの計時を開始し、その後、ベット操作を実行していない、且つ待機タイマのタイマ値が１００秒である状況にて、停止ボタンを操作しても待機タイマのタイマ値を新たに再セットせず、タイマ値は１００秒のままとなっているよう構成してもよい。

【１４３３】

<ベット操作に関する構成>

待機タイマが計時している状況にて、最終停止操作として第３停止ボタン（最後まで回

10

20

30

40

50

転しているリールに対応した停止ボタン)をオンにした後オフにし、その後、ベット操作を実行した場合(ベットボタンD220を操作してベットした場合、又はメダル投入口D170に遊技メダルを投入してベットした場合)には、待機タイマの計時を停止し、タイマ値をゼロクリアする。即ち、待機タイマが計時している状況にて、最終停止操作として第3停止ボタン(最後まで回転しているリールに対応した停止ボタン)をオンにした後オフにし、その後、ベット操作を実行し、その他の操作を実行しないままであった場合には、時間経過によって待機画面が表示されることがないように構成してもよい。尚、そのように構成した場合に、ベット操作からの時間経過によって待機画面が表示されることはないが、当該ベット操作から特定時間(例えば、100秒)経過した場合に出力中のサウンドの音量を0にする又は小さくするよう構成してもよい。このように構成することにより、残りの遊技メダルが規定数(例えば、3枚)未満となり(例えば、1枚)、残りの1枚の遊技メダルをベット(例えば、ベットボタンを操作)した状態で遊技を終了した場合や、遊技者がクレジットに規定数未満の遊技メダルを残存させて遊技を終了した(ベットはされていない)状態で、遊技場の店員が遊技機を清掃する際にベットボタンを操作してしまいベットされた場合等においても、意図しない音量でサウンドが出力されなくなる。

10

【1434】

<待機画面の表示条件>

待機画面の表示に関するデクリメントタイマ(本例では、待機タイマ、メニュー待機タイマ)のタイマ値が「1→0」になったことを条件にして待機画面を表示するよう構成してもよい。このように構成することにより、ベット操作が実行された場合やタイマ計測になんらかの異常が発生した場合に、タイマ値が「20→0」のように「1」を経由しないで「0」に到達した場合(ゼロクリアされた場合)にも、待機画面が表示されることはなく、意図しない待機画面の表示を防止することができる(その後、タイマ値が再セットされ、「1→0」になった場合に待機画面を表示するよう構成してもよい)。待機画面を表示するためのフラグを設けて、当該フラグがオンになった場合に待機画面を表示するよう構成してもよい。

20

【1435】

<精算ボタンに関する構成>

待機タイマが計時している状況にて、最終停止操作として第3停止ボタン(最後まで回転しているリールに対応した停止ボタン)をオンにした後オフにし、その後クレジットが1以上存在している状況にて、精算ボタンを操作してクレジットの精算を実行した場合、当該精算ボタンの操作タイミングから所定時間A(例えば、180秒)経過後又はクレジットの精算が終了したタイミング(最後の遊技メダルが放出口D240に返却されるタイミング)にて待機画面を表示するよう構成してもよい。

30

【1436】

<設定キースイッチに関する構成>

最終停止操作として第3停止ボタン(最後まで回転しているリールに対応した停止ボタン)をオンにした後オフにし、その後、電源が投入されている状況にて設定キースイッチをオフ→オンとしたタイミングから所定時間A(例えば、180秒)経過した場合に待機画面を表示するよう構成してもよい。また、最終停止操作として第3停止ボタン(最後まで回転しているリールに対応した停止ボタン)をオンにした後オフにし、その後、電源が投入されている状況にて、前扉を開放して設定キースイッチをオフ→オンとし、その後前扉を閉鎖したタイミングから所定時間A(例えば、180秒)経過した場合に待機画面を表示するよう構成してもよい。

40

【1437】

<所定のエラー発生時に関する構成>

最終停止操作として第3停止ボタン(最後まで回転しているリールに対応した停止ボタン)をオンにした後オフにし、その後、主制御基板M側に関する所定のエラー(例えば、遊技メダルがメダルセレクトDS内に滞留した場合に発生するエラー)が発生し、当該所定のエラーを解除したタイミングから所定時間A(例えば、180秒)経過した場合に待

50

機画面を表示するよう構成してもよい。

【1438】

＜前扉に関する構成＞

最終停止操作として第3停止ボタン（最後まで回転しているリールに対応した停止ボタン）をオンにした後オフにすることで待機タイマが計時を開始し、その後、前扉を開放し、開放状態を維持している場合にも待機タイマの計時を継続するよう構成してもよい。また、最終停止操作として第3停止ボタン（最後まで回転しているリールに対応した停止ボタン）をオンにした後オフにすることで待機タイマが計時を開始し、その後、前扉を開放し、その後、前扉を閉鎖した場合にも待機タイマの計時を継続するよう構成してもよい。

【1439】

＜AT中に関する構成1＞

非AT中（例えば、ATに関する状態が「通常遊技状態」）である状況にて、最終停止操作として第3停止ボタン（最後まで回転しているリールに対応した停止ボタン）をオンにした後オフにしたタイミングから所定時間A（例えば、180秒）経過した場合には待機画面を表示し得る一方、AT中（例えば、ATに関する状態が「AT中状態」）である状況にて、最終停止操作として第3停止ボタン（最後まで回転しているリールに対応した停止ボタン）をオンにした後オフにしたタイミングから所定時間A（例えば、180秒）経過した場合には待機画面を表示しないよう構成してもよい。また、同様に、連続演出の実行中、ボーナスの実行中、ART中においても、最終停止操作の終了後から所定時間A経過しても待機画面を表示しないよう構成してもよい。また、AT中（例えば、ATに関する状態が「AT中状態」）である状況にて、押し順ナビが実行されたゲームにおける最終停止操作として第3停止ボタン（最後まで回転しているリールに対応した停止ボタン）をオンにした後オフにしたタイミングから所定時間A（例えば、180秒）経過した場合には待機画面を表示しない一方、AT中（例えば、ATに関する状態が「AT中状態」）である状況にて、押し順ナビが実行されなかったゲームにおける最終停止操作として第3停止ボタン（最後まで回転しているリールに対応した停止ボタン）をオンにした後オフにしたタイミングから所定時間A（例えば、180秒）経過した場合には待機画面を表示し得るよう構成してもよい。

【1440】

＜AT中に関する構成2＞

AT中（例えば、ATに関する状態が「AT中状態」）である状況にて、サブ入力ボタン操作等によりメニュー画面を表示させた場合、（1）所定時間B（例えば、300秒）経過することにより待機画面を表示可能、（2）所定時間B（例えば、300秒）経過することによりAT中の通常画面（メニュー画面の表示前に表示されていた画面）に復帰する、となるよう構成してもよい。

【1441】

＜AT中に関する構成3＞

非AT中（例えば、ATに関する状態が「通常遊技状態」）である状況にて、最終停止操作として第3停止ボタン（最後まで回転しているリールに対応した停止ボタン）をオンにした後オフにしたタイミングから所定時間A（例えば、60秒）経過した場合には待機画面を表示し得るよう構成し、非AT中（例えば、ATに関する状態が「通常遊技状態」）である状況にて、メニュー画面が表示され、メニュー画面の表示開始から所定時間B（例えば、60秒）経過した場合には待機画面を表示し得るよう構成し、AT中（例えば、ATに関する状態が「AT中状態」）である状況にて、メニュー画面が表示され、メニュー画面の表示開始から所定時間C（例えば、180秒）経過した場合にはAT中の通常画面（メニュー画面の表示前に表示されていた画面）に復帰するよう構成してもよい。即ち、時間値を比較した場合、「所定時間A＝所定時間B＜所定時間C」となるように構成してもよい。尚、所定時間Aと所定時間Bとの時間値を同一としなくてもよく、所定時間Cが最も長時間となっていればよい。

【1442】

10

20

30

40

50

<その他の構成 1>

待機画面の表示中にメダル投入口D170から遊技メダルを投入することによってメニュー画面を表示し得るよう構成してもよい。尚、待機画面の表示中にメダル投入口D170から遊技メダルを投入することによって表示されるメニュー画面は、(1)サブ入力ボタンを操作することによって表示されるメニュー画面と同一の画面、(2)サブ入力ボタンを操作することによって表示されるメニュー画面から所定の操作を実行する(所定の項目を選択して決定する)ことで表示される画面、(3)サブ入力ボタンを操作することによって表示されるメニュー画面と異なる画面、のように構成してもよい。また、待機画面の表示中にメダル投入口D170から遊技メダルを投入することによって表示されるメニュー画面の表示中にメダル投入口D170から遊技メダルを投入してもメニュー画面が表示され続ける一方、サブ入力ボタンを操作することによって表示されるメニュー画面の表示中にメダル投入口D170から遊技メダルを投入すると、メニュー画面の表示前に表示されていた画面に復帰するよう構成してもよい。また、待機画面の表示中にメダル投入口D170から遊技メダルを投入してベットするとメニュー画面が表示され、待機画面の表示中にベットボタンを操作してベットするとメニュー画面の表示前に表示されていた画面(電源投入直後に待機画面が表示された場合には、遊技中に表示される通常画面)が表示されるよう構成してもよい。また、待機画面の表示中にメダル投入口D170から遊技メダルを投入してベットするとメニュー画面が表示され、待機画面の表示中であり、クレジットに貯留されている遊技メダルが規定数である3枚以上の状況にてベットボタン(例えば、1回の操作によって3枚ベット可能なマックスベットボタン)を操作してベットするとメニュー画面の表示前に表示されていた画面(電源投入直後に待機画面が表示された場合には、遊技中に表示される通常画面)が表示され、待機画面の表示中であり、クレジットに貯留されている遊技メダルが規定数である3枚未満である状況にてベットボタン(例えば、1回の操作によって3枚ベット可能なマックスベットボタン)を操作してベットするとメニュー画面が表示されるよう構成してもよい。

【1443】

<その他の構成 2>

待機画面の表示態様を複数有しており、所定条件(例えば、メニュー画面にてパスワードを入力することにより、前回までの遊技履歴を引き継いで遊技していることを所定条件としてもよい)を充足していない場合にはストーリー紹介を行う動画像が待機画面として表示されるが、所定条件を充足している場合にはキャラクタ紹介を行う動画像が待機画面として表示されるよう構成してもよい。また、前記所定条件を充足していない場合と前記所定条件を充足している場合とのいずれにおいても、ストーリー紹介とキャラクタ紹介とが待機画面として表示され得るが、前記所定条件を充足しているか否かによって、ストーリー紹介とキャラクタ紹介とのいずれを表示するかの頻度が相違するよう構成してもよい。

【1444】

<その他の変更例>

尚、本例においては、入賞することによって第1BBが実行される第1BB役と、入賞することによって遊技者にとって第1BBよりも低利益な第2BBが実行される第2BB役と、を有するよう構成してもよく、さらに、第1BB役と第2BB役とが重複当選し得るよう構成してもよい(「第1BB+第2BB」の役を設ける)。そのように構成し、「第1BB+第2BB」に当選した場合、高利益な第1BBの実行に対応する図柄組合せ(第1BB役)を停止表示可能とし、第1BBの実行が終了した後に、第2BBに対応する図柄組合せ(第2BB役)を停止表示可能としてもよい(第1BBの実行中においても第2BBに当選していることを持ち越す)。尚、「第1BB+第2BB」に当選した場合に、高利益な第1BBを先に実行することによって、例えば、遊技場の閉店時間が迫っている状況にて、「第1BB+第2BB」に当選した場合に、低利益な第2BBが先に実行され、当該第2BBの実行中に遊技場の閉店時間となってしまう、高利益な第1BBを実行できずに遊技を終了しなければならない事態を防止することができる。

【1445】

第1BBの作動が終了した後は、即時、第2BBの当選を報知してもよいし、潜伏させてから（報知しないまま所定ゲーム経過した後に）報知してもよい、当該潜伏させる構成を採用した場合には、第1BBの作動が終了した後の潜伏期間においては、再遊技の当選確率を高くするよう構成してもよい。また、潜伏させている時は、第2BBの当選可能性を示唆する演出を実行するよう構成してもよい（例えば、演出表示装置S40にて「BB連荘チャンスタイム！！」と表示する）。そのように構成した場合には、第1BBの終了後に第2BBが当選しない場合も設けなければ、演出発生＝第2BBが当選していることが確定的となってしまいうため、第1BBのみに当選し、その第1BBの作動が終了した後も、第2BBの当選可能性を示唆する演出を実行するよう構成することが好適である（第1BB終了後の演出態様は、上述したものと同様に、例えば、演出表示装置S40にて「BB連荘チャンスタイム！！」と表示する）。また、第1BBのみに当選し、その第1BBの作動が終了した後に、再度第1BBに当選した時であっても、第2BBの当選可能性を示唆する演出の実行を中止しないように構成してもよい。また、一旦、第2BBの当選をガセ報知した後、第1BBの当選を報知するよう構成してもよい（例えば、「BB連荘チャンスタイム！！」の表示→「残念」の表示→「第1BB当選中！！」等のように表示）。更に、AT中に重複当選し、第1BBの作動が終了した後に、第2BBを潜伏させている時は、演出表示装置S40では、AT準備中等を経てATに復帰させる（復帰後は演出上の残り遊技数の減少等を行う）が、内部的な残り遊技数の減少等は引き続き、中断しておくよう構成してもよい。尚、第1BBと第2BBとが重複当選した場合、第1BBの作動開始から第2BBの作動終了するまでの払出枚数を累計して演出表示装置S40等にて表示するよう構成してもよい。

10

20

【1446】

尚、本例においては、

（1）第1BBと小役Aが重複当選した場合には、第1BBを優先して停止制御する。

（2）第1BBと小役Bが重複当選した場合には、小役Bを優先して停止制御する。

即ち、BB役よりも優先して停止制御する小役と、BB役の方が優先して停止制御する小役とを設けてもよい。

（3）第1BBと小役Aが重複当選した場合には、小役Aが入賞したとき、又は、小役Aに対応する図柄組合せのうち一部の図柄（例えば、第1停止時、第2停止時）が停止した場合には小役Aに対応する報知（小役Aが入賞できるような報知）を行う。

30

即ち、本来であれば小役Aよりも優先して停止制御する第1BB役を報知するものを、第1停止や第2停止の結果（第1停止や第2停止の実行後の停止態様）によって、第3停止をどの位置で停止させるかに拘らず第1BB役が入賞不可能である場合（小役Aは入賞可能である）には、小役Aに対応する報知を行う。また、遊技の結果として小役Aが入賞した場合には小役Aに対応する報知を行う。このように構成することによって、ゲームの途中で変化する様々な遊技の状況に応じて遊技者に最も有利な報知を実行することができると共に、演出表示装置S40等によって報知された内容と実際に入賞する役が矛盾してしまうことを防止することができる。

（4）第1BBと小役Bが重複当選した場合には、全リール回転中に小役Bに対応する報知を行う。

40

【1447】

また、主制御基板Mにて制御する、停止表示された図柄（又は図柄組合せ）の番号を表示する表示器（7セグ等）を有するよう構成してもよい。そのように構成した場合に、演出表示装置S40では、停止表示された図柄（又は図柄組合せ）とは対応していない矛盾演出を行う。例えば、有効ライン上にリプレーリプレーリプレーの図柄組合せが停止しているときに、スイカが当選したときに出力される可能性が高い演出（例えば、ランプを緑色に光らせる）を実行する。

【1448】

尚、本例においては、副制御基板S側から出力が可能な（入力できない）イヤホンジャックを設け、以下のような特徴を有する構成としてもよい。

50

(1) 遊技機のサブ入力ボタンによって、イヤホンジャックから出力される音量を複数段階から選択できる。

(2) イヤホンジャックを使用して遊技をしている場合においても、エラー発生時には、遊技機から予め定めた音量でエラー報知音が出力される（例えば、遊技機に設けたスピーカから出力される）。

(3) イヤホンジャックを使用して遊技をしている場合において、最大音量を選択しているときにおいても、イヤホンジャックから最大音量ではない所定の音量でエラー報知音が出力される。

【1449】

また、AT中状態やBB実行中は、イヤホンジャックを使用して遊技をしている場合においても、遊技機から演出音が出力されるよう構成してもよい。また、イヤホンジャックを使用していない時用の音量と、イヤホンジャックを使用していない時用の音量を個別に記憶しておくよう構成してもよい。イヤホンが抜かれた場合であっても、すぐにはイヤホンジャックを使用している時用の音量はクリア（初期値に）しない構成としてもよい。例えば、10分間無操作であった時は、いずれの音量もクリア（初期値に）することとしてもよい。但し、イヤホンが挿されたままである時は、イヤホンジャックを使用している時用の音量はクリア（初期値に）しなくても良い。イヤホンジャックは、遊技の邪魔にならない箇所に設けられることが好ましい（例えば、イヤホンジャックにイヤホンを挿入している場合に、スタートレバーを操作しようとしてイヤホンコードが遊技者の腕に絡まないような箇所）。

【1450】

尚、本例においては、

(1) BB実行時において特定の枚数以上の獲得であった場合のBB終了後と、特定の枚数以下の獲得であった場合のBB終了後とで、再遊技役の当選確率の変動できるよう構成してもよい。

(2) 再遊技役の当選確率が相対的に高いRT状態（例えば、RT1）が終了した場合に移行するRT状態を複数有していてもよい。例えば、「RT1」終了後に「RT0」に移行するよう構成してもよいし「RT3」（新たに設けたRT状態）に移行するよう構成してもよい。

(3) 所定の役が入賞した場合にRT状態に移行する。即ちRT状態の移行を入賞との1対1対応とせず、条件装置や入賞に拘らず一定確率で移行する（例えば、毎ゲーム一定確率でRT移行抽選を実行する）。

(4) 0枚のRT移行目の搭載、0枚役の重複当選、0枚役の重複入賞を可能にする。即ち、どの押し順にて停止したとしても、どの位置で停止操作をおこなったとしても1枚以上の役が入賞しない役である0枚役を設け、当該0枚役の入賞によりRT状態が移行し得る、0枚役と7枚役との重複当選や0枚役Aと0枚役Bとの重複当選を可能に構成してもよい。尚、0枚役の重複当選時は、押し順により、RT移行する0枚役とRT移行しない0枚役のいずれかを入賞させるように構成してもよい。0枚役とBB役とを重複当選させ、0枚役を優先させて入賞させることも可能である。

【1451】

尚、本例のように、押し順ベルの押し順が6択（「左→中→右」、「左→右→中」、「中→左→右」、「中→右→左」、「右→左→中」、「右→中→左」の6択）であり、押し順再遊技の押し順が3択（第1停止が左、中、右の3択）であるよう構成した場合には、押し順表示装置D270における押し順表示として、押し順ベルに係る押し順ナビ表示と押し順再遊技に係る押し順ナビ表示とが相違する、換言すると、6択の押し順ナビ表示と3択の押し順ナビ表示とが相違するよう構成してもよい。一例としては、6択に係る押し順表示として、「左→中→右」の場合には「＝1」、「左→右→中」の場合には「＝2」、「中→左→右」の場合には「＝3」、「中→右→左」の場合には「＝4」、「右→左→中」の場合には「＝5」、「右→中→左」の場合には「＝6」のように表示し、3択に係る押し順表示として、第1停止が左の場合には「＝7」、第1停止が中の場合には「＝8

」、第1停止が右の場合には「= 9」、のように表示するよう構成してもよい。

【1452】

尚、本例においては以下のように構成してもよい。

(1) 「AT中状態」、「特化前兆状態」又は「上乘せ特化状態」にて連続して消化したゲーム数であるAT消化ゲーム数を演出表示装置にて表示可能に構成し、AT残りゲーム数が0となったことにより「AT中状態」から「通常遊技状態」に移行した後特定ゲーム以内に再度AT抽選に当選し「AT中状態」に移行した場合には、前回のAT消化ゲーム数を引き継いで加算していく一方、「有利区間」が所定ゲーム数（例えば、1500ゲーム）連続したことにより「AT中状態」から「通常遊技状態」に移行した後特定ゲーム以内に再度AT抽選に当選し「AT中状態」に移行した場合には、前回のAT消化ゲーム数を引き継がず、あらたに0ゲームからAT消化ゲーム数をカウントする。

10

(2) リールが回転を開始してから所定時間（例えば、30秒）停止ボタンを操作しなかった場合には、演出表示装置S40にてリールを停止することを促す表示（例えば、「リールを止めてください」と表示）するよう構成し、押し順ナビが発生しているゲームにてリールが回転を開始してから所定時間停止ボタンを操作しなかった場合には、(2-1) 演出表示装置S40における押し順ナビ表示とリールを停止することを促す表示との表示領域が重ならない、(2-2) リールを停止することを促す表示が表示されない。

(3) 押し順ナビが発生しているゲームにて電源を「オン→オフ→オン」とした場合には、リールの回転速度が定速となって停止ボタンの操作が有効となるよりも前のタイミングにて押し順ナビ（押し順表示装置D270における表示及び／又は演出表示装置S40における表示）が再表示される。

20

(4) 或るATに関する状態と別のATに関する状態とでは、共通ベルが当選したゲームにて押し順ナビが発生する頻度が相違する、又は、押し順ナビが発生し得るATに関する状態である或るATに関する状態と、押し順ナビが発生し得るATに関する状態である別のATに関する状態とでは、共通ベルが当選したゲームにて押し順ナビが発生する頻度が相違する。

(5) 最も再遊技の当選確率が高いRT状態（本例では「RT1」）である場合には、押し順ナビが発生するゲームの割合の方が押し順ナビが発生しないゲームの割合よりも高い。例えば、ベル役と再遊技役との合算当選率が1/2以上となっている。このように構成することにより、AT中に遊技者が飽きることなく遊技を進行することができる。

30

以上のように構成してもよい。

【1453】

ここで、上述した遊技区間についての特徴点を以下に詳述することとする。

【1454】

《通常区間》

(1) 押し順ナビが押し順表示装置D270にて表示されない。

(2) 押し順ナビが演出表示装置S40にて表示されない。

(3) 押し順によって遊技者の利益率に差異が生じる条件装置に係るコマンド（信号）を主制御基板M側から副制御基板S側に送信しない。

(4) BBの内部当選中とBBの実行中を除いて「有利区間」への移行抽選を実行可能である。

40

【1455】

《待機区間》

(1) 押し順ナビが押し順表示装置D270にて表示されない。

(2) 押し順ナビが演出表示装置S40にて表示されない。

(3) 押し順によって遊技者の利益率に差異が生じる条件装置に係るコマンド（信号）を主制御基板M側から副制御基板S側に送信しない。

(4) 「有利区間」への移行抽選が実行されない。

(5) 「待機状態」にてBBが入賞した後は、次ゲームから「有利区間」となる。

【1456】

50

《有利区間》

- (1) 押し順ナビが押し順表示装置 D 2 7 0 にて表示され得る。
- (2) 押し順ナビが演出表示装置 S 4 0 にて表示され得る。
- (3) 押し順によって遊技者の利益率に差異が生じる条件装置に係るコマンド（信号）を主制御基板 M 側から副制御基板 S 側に送信され得る。
- (4) 「有利区間」の性能を変更する（例えば、A T に関する状態として「高確率状態」から「A T 中状態」に移行する）抽選や、A T ゲーム数上乘せ抽選等が実行され得る。
- (5) 「有利区間」中においては、有利区間表示器 Y H が常時点灯している。
- (6) 有利区間残りゲーム数カウンタ Y K c - 1 のカウンタ値が 0 となった場合には、「有利区間」にて B B 又は押し順ナビが 1 回以上実行されないと当該「有利区間」が基本的に終了しないよう構成されているが、例外として、「有利区間」が連続して所定ゲーム数（本例では、1 5 0 0）継続した場合には「有利区間」にて B B 及び押し順ナビが 1 回も実行されていなくとも当該「有利区間」が終了し得るよう構成されている。
- (7) 有利区間残りゲーム数カウンタ Y K c - 1 の計測は「有利区間」におけるすべてのゲームにて実行される（例えば、B B 実行中においても毎ゲームカウンタ値が加算されてゆく）。

【1 4 5 7】

ここで、「有利区間」への設定抽選に係る特徴点を以下に詳述する。

- (1) 役抽選の結果に基づいて「有利区間」への設定の有無が決定され、ゲーム数の経過等では「有利区間」への設定の有無は決定されない。
- (2) 設定値によって抽選確率の異なる条件装置が成立した場合には、当該条件装置の成立では「有利区間」への設定抽選が実行されない。
- (3) ある条件装置が成立して「有利区間」への設定抽選が実行される場合においては、設定値が相違しても当該抽選確率は同一となっている。
- (4) 設定値によって「有利区間」の性能が相違しない（例えば、強チェリーが成立した場合において、設定 1 では「高確率状態」に移行し、設定 6 では「A T 中状態」に移行する、等、設定値によって相違することはない）。
- (5) 「有利区間」への設定抽選に当選した場合には、基本的に次ゲームから「有利区間」となる（「通常区間」にて成立した B B 役にて「有利区間」への設定抽選に当選した場合には、次ゲームでは「待機区間」とすることができる）。

【1 4 5 8】

ここで、「有利区間」の性能の変更に係る特徴点を以下に詳述する。

- (1) 設定値を参照して「有利区間」の性能を変更する抽選が実行されない（全設定値共通の条件として、所定ゲーム数が経過、所定の条件装置が成立、を条件としてもよい）。
- (2) 設定値によって抽選確率の異なる条件装置が成立した場合には、当該条件装置の成立では「有利区間」の性能を変更する抽選が実行されない。A T ゲーム数上乘せ抽選等も実行されない。
- (3) B B が内部当選している場合には「有利区間」の性能を変更する抽選が実行されない。A T ゲーム数上乘せ抽選等も実行されない。
- (4) B B 実行中において、当該実行されている B B の契機となった B B 役の抽選確率が設定値によって相違する場合には、当該 B B 実行中においては「有利区間」の性能を変更する抽選が実行されない。A T ゲーム数上乘せ抽選等も実行されない。
- (5) B B 実行中において、当該実行されている B B の契機となった B B 役の抽選確率が設定値によって相違しない場合には、当該 B B 実行中においては「有利区間」の性能を変更する抽選が実行され得る。A T ゲーム数上乘せ抽選等も実行され得る。

【1 4 5 9】

また、本例に係る回胴式遊技機は以下の構成を適用してもよい。また、以下の構成を単独で適用してもよいし、複数の構成を組み合わせてもよい。

【1 4 6 0】

<<ポイント 1>>

10

20

30

40

50

(1) 「有利区間」であるが「高確率状態」よりもA T抽選に当選し難いA Tに関する状態として「ガセ高確率状態」を有するよう構成する。

(2) 連続演出は、少なくとも、所定G数以上の連続した遊技回数で構成する。

(3) A T抽選に100%で当選しない通常役とA T抽選に100%で当選する特殊役とを有しており、通常役を契機に連続演出を実行した場合且つA T抽選に当選していない場合に、当該連続演出中に特殊役に当選すると、連続演出途中であってもA T抽選に当選している旨を報知する演出を実行する（連続演出を差し替える）。

(4) 高確保障ゲーム数の残りゲームが多い程、期待度（ボーナス当選の期待度、A T抽選当選の期待度）が高い連続演出を選択する確率が高く、高確保障ゲーム数の残りゲームが少ない程、期待度が低い連続演出を選択する確率が高い。

10

(5) 高確保障ゲーム数の残りゲーム数が少ない程期待度（ボーナス当選の期待度、A T抽選当選の期待度）が高い1ゲーム完結の演出を選択する確率が高い。

(6) 高確保障ゲーム数の残りゲーム数が所定値（例えば、4ゲーム）以下である場合、ハズレとなる連続演出は実行されないが、当たりとなる連続演出（ボーナス当選、A T抽選当選）は実行され得る。換言すると、高確保障ゲーム数の残りゲーム数が所定値（例えば、4ゲーム）以下である場合、1ゲーム完結の演出はハズレの場合も当たりの場合も実行され得るが、連続演出は当たりの場合のみ実行され得る。

(7) 有利区間の天井G数（1500ゲーム）まで所定値（4ゲーム）以下である場合、連続演出は実行されない。

(8) 有利区間の天井G数まで所定値以下である場合と所定値より多い場合とで演出の選択傾向が相違する（連続演出の発生頻度、所定の演出の大当たり期待度等）。

20

(9) 「通常区間」におけるハズレの連続演出（例えば、敗北する演出）の途中で「有利区間」に新たに移行した場合、

(9-1) 連続演出を書き換える（「有利区間」移行ゲームにてステージチェンジ演出「振り向くとキャラがいてステチェン示唆セリフ」等）。連続演出（敗北）の途中にて演出が書き換えられる割合は、連続演出（勝利）の途中にて演出が書き換えられる割合よりも高い。

(9-2) 連続演出を最後まで実行した後に滞在ステージを変更する。連続演出の実行中に「有利区間」に移行した場合における、当該ゲームにて副制御基板S側で移行した旨を報知する割合と、連続演出を実行していない場合における、当該ゲームにて副制御基板S側で移行した旨を報知する割合とが相違する。

30

【1461】

<<ポイント2>>

(1) 「通常区間」にて設定され得る滞在ステージ（ステージA群とする）を遊技者が選択可能に構成する。例えば、サブ入力ボタンの操作によって選択可能とする。

(2) 滞在ステージA群の1：「有利区間」となるか否かの抽選結果を、当該ゲームでのスタートレバーON時に先告知、

滞在ステージA群の2：「有利区間」となるか否かの抽選結果を、当該ゲームの終了時（又は次ゲームベット時（再遊技停止表示時はスタートレバー操作時））に後告知。

(3) 「有利区間」且つ滞在ステージA群以外に滞在ステージである状態から、「通常区間」となった場合には、滞在ステージA群から滞在ステージを選択する。「有利区間」且つ演出A群以外に滞在ステージである状態から、「通常区間」となった場合には、滞在ステージを維持する。

40

(4) 有利区間表示器が消灯且つ滞在ステージA群のときのA T期待度と、有利区間表示器が消灯且つ滞在ステージA群以外のときのA T期待度とが相違する。例えば、A T期待度の低いものから「有利区間表示器が消灯且つ滞在ステージA群→有利区間表示器が点灯且つ滞在ステージA群→有利区間表示器が点灯且つ滞在ステージA群以外」

(5) 「通常区間」から「有利区間」となったゲームでの演出（1G完結の演出と連続演出とを含む）を契機として滞在ステージの移行（滞在ステージA群→滞在ステージB群）が発生する割合と、「有利区間」から「通常区間」となったゲームでの演出を契機として

50

滞在ステージの移行が発生する割合とが相違する。

【1462】

<<ポイント3>>

(1) 「有利区間」の保障ゲーム数（高確保障ゲーム数の残りゲーム数）が多い程、期待度（A T抽選に当選している期待度、ボーナスに当選している期待度）が高い滞在ステージを選択する確率が高く、「有利区間」の保障ゲーム数（高確保障ゲーム数の残りゲーム数）が少ない程、期待度（A T抽選に当選している期待度、ボーナスに当選している期待度）が高い滞在ステージを選択する確率が高い。

(2) 「有利区間」の残り保障ゲームが所定値以下（4ゲーム以下）である場合、残り保障ゲーム数が少ない程、滞在ステージが移行する演出を選択する確率が低い。

10

(3) 期待度（A T抽選に当選している期待度、ボーナスに当選している期待度）の高い滞在ステージに滞在していない状況で期待度の高い演出が選択された場合は、期待度（A T抽選に当選している期待度、ボーナスに当選している期待度）の高い滞在ステージに滞在している状況で期待度の高い演出が選択された場合よりも期待度（A T抽選に当選している期待度、ボーナスに当選している期待度）が高い。

【1463】

<<ポイント4>>

(1) 「復活可否演出用状態」にてB Bに当選した場合には、

(1 - 1) B B中にA T上乗せ抽選を実行してもよいし、実行しないようにしてもよい。

(1 - 2) B B終了後に「A T中状態」に移行してもよいし、移行しないようにしてもよい。

20

(1 - 3) B B中にA T上乗せ抽選を実行してもよいし、実行しないようにしてもよい。

(1 - 4) B B終了後に「A T中状態」に移行した場合には、A T残りゲーム数を「復活可否演出用状態」における1ゲーム分減算してもよいし、減算しなくともよい。

(2) 「復活可否演出用状態」にてA T上乗せ抽選を実行してもよいし、実行しないようにしてもよい。A T上乗せ抽選を実行した場合、

(3) 「復活可否演出用状態」にて逆押し白7揃いリプレイ又は順押し黒7揃いリプレイに当選した場合には回避ナビが発生し、復活演出（成功）を実行した後のタイミングにて上乗せゲーム数を報知する。

(4) 「復活可否演出用状態」にて「有利区間」に移行し得る役に当選した場合には、次ゲームの開始タイミングで有利区間表示器が消灯する一方、「復活可否演出用状態」にて復活抽選に当選しなかった場合の次ゲームで「有利区間」に移行し得る役に当選した場合には、次ゲームの開始タイミングで有利区間表示器が点灯し得る。

30

(5) 「復活可否演出用状態」では有利区間ではあるがA T上乗せ抽選が行われない仕様の場合、

(5 - 1) 「復活可否演出用状態」にてA T上乗せ抽選を実行し得る役（例えば、スイカA）に当選してもA Tゲーム数は上乗せされないが、復活演出（成功）を実行する1 G（「A T中状態」）で上乗せし得る役（例えば、スイカA）に当選した場合A Tゲーム数は上乗せされ得る。

(6) A T終盤の演出として「バトル演出3 G + 復活演出（失敗）1 G」を実行する予定の場合において、復活演出実行ゲームにてボーナスに当選して復活演出（成功）が実行された場合のボーナス中においてはA Tゲーム数上乗せが発生しないが、バトル演出実行ゲーム（3 Gのいずれか）にてボーナスに当選して復活演出（成功）が実行された場合のボーナス中においてはA Tゲーム数上乗せが発生し得る。また、ボーナス中の演出傾向が相違していてもよい。

40

【1464】

<<ポイント5>>

(1) 「有利区間」であるA Tに関する状態として遊技状態Aと遊技状態Bとを有する場合、

(1 - 1) A T上乗せ抽選の当選期待度は「遊技状態A > 有利状態B」となる（遊技状態

50

Aの方が遊技状態Bよりも相対的にATゲーム数が上乗せされ易い又はAT上乗せゲーム数が多い)。

(1-2) 遊技状態Aで役Xに当選したときに上乗せ可能な上乗せ数と、遊技状態Aで役Yに当選したときの上乗せ可能な上乗せ数は異なる。

(1-3) 遊技状態Bで役Xに当選したときに上乗せ可能な上乗せ数と、遊技状態Bで役Yに当選したときに上乗せ可能な上乗せ数は同じ。

【1465】

<<ポイント6>>

(1) 転落回避示唆表示の表示態様を、スタートレバー操作時(A)と、第1停止後～第2停止する前(B)と、第2停止後～第3停止する前(C)とで相違させる。

10

(1-1) 転落回避示唆表示の表示態様は遊技者にとって目立たないものから「A<B<C」の順になっている。

(2) 「AT中状態」且つ「RT1」の状態からATが終了した「低確率状態」且つ「RT1」となった場合において、押し順役に当選した場合に、押し順表示装置にて押し順ナビを表示するが、演出表示装置においては押し順ナビを表示しない(「???」と表示する)。

(3) 転落回避示唆表示が表示されるゲームにて第3停止にて入賞18(転落役)が入賞した場合には、第2停止後の表示態様と同一の表示態様にて表示を維持する。

(4) 電源断から復帰した場合であり演出表示装置の表示に係る初期処理が完了していない状況にてスタートレバーを操作した場合には、演出表示装置の表示に係る初期処理の完了よりも前のタイミングにてスピーカからの音声(例えば、「左だっ!」)にて押し順ナビを実行する。

20

(5) 「上乗せ特化状態」等の遊技者にとって高利益なATに関する状態であっても、転落役に当選した場合には、転落回避示唆演出が優先して表示される。

(6) 「有利区間」にて転落役が入賞しても「有利区間」は維持される。

(7) 転落役が押し順役(押し順によって停止表示するか否かが決定する)であるよう構成した場合において、転落役ではない押し順役(押し順ベル等)に当選し、押し順ナビが実行され、押し順ナビとは異なる押し順にて停止させた場合には、演出表示装置の表示が暗転し得る一方、転落役に当選した場合に押し順ナビとは異なる押し順にて停止させた場合には、演出表示装置の表示は暗転しない(もしくは、転落回避示唆演出の表示には暗転しない)。

30

【1466】

<<ポイント7>>

(1) 設定差ありBBに係るBB終了後に「RT3」且つ「AT準備状態」に移行するよう構成した場合(本実施形態からの変更例1と同様)。

(1-1) 「RT3」にて高確率で当選する役をに当選することによりAT上乗せ抽選に当選する(100%当選してもよいし、所定確率で当選してもよい)。

(1-2) BB役の種類によってBB終了後に移行するRT状態を相違させ、いずれかのRT状態にて出現し易い役に応じてAT上乗せ抽選の実行態様(上乗せ抽選を実行する役、上乗せ抽選当選確率、AT上乗せゲーム数)を相違させる。

40

(1-3) ボーナスA→RT1→昇格リプレイA→RT3(リプレイ確率高)、ボーナスB→RT2→昇格リプレイB→RT3、となるように構成し、昇格リプレイAと昇格リプレイBとで上乗せの当選率もしくは平均上乗せゲーム数が相違する。

(1-4) ボーナスA→RT1、ボーナスB→RT2とし、且つ、昇格リプレイAと昇格リプレイBとを有している場合、RT1とRT2とで昇格リプレイAと昇格リプレイBとの当選確率が相違する。

(1-5) ボーナスA→RT1、ボーナスB→RT2とし、夫々昇格リプレイと転落リプレイが当選し得るよう構成し、RT1とRT2で昇格リプレイと転落リプレイの当選確率が相違する。

(1-6) 設定差ありBB終了後に専用のRT状態に移行し(「RT3」且つ「AT準備

50

状態」)、その後昇格リプレイを契機として「上乗せ特化状態」に移行する。

【1467】

<<ポイント8>>

(1) 1種BB-B1と1種BB-B2とを有しており、1種BB-B1終了後には「RT3」に移行し、1種BB-B2終了後には「RT4」に移行する場合。

(1-1) 「RT3」と「RT4」とではAT上乗せ抽選の実行態様(上乗せ抽選を実行する役、上乗せ抽選当選確率、AT上乗せゲーム数)が相違する。

(1-2) 1種BB-B1に係るBB開始演出と1種BB-B2に係るBB開始演出とでは、演出傾向が異なる(期待度の高いBB開始演出の選択率が異なる)。

(2) 「AT準備状態」且つ「RT3」にて再遊技06よりも先に再遊技04が停止表示した場合に「RT4」に移行し、宝箱紛失演出を実行しない。「RT4」においては「RT3」に昇格する再遊技役が当選する。また、「RT4」から「RT3」となった場合には、その後再遊技-E1~E3に当選しても宝箱開放上乗せ演出を実行しない。

(3) BB役を複数種類有しており、BB役を入賞させても遊技者からはどのBB役が入賞したかを見た目上判別し難いよう構成し、且つ、BBの種類によってBB終了後のRT状態を相違させ、昇格再遊技役に当選した際のAT上乗せ抽選の実行態様がRT状態によって相違する。そのように構成した場合には、BB中に実行される宝箱獲得演出の選択傾向をBBの種類によって相違させる(金の宝箱を獲得、銀の宝箱を獲得、銅の宝箱を獲得、等の置数振分が相違する)。

【1468】

<<ポイント9>>

(1) AT中に当選した設定差ありBBに係るBB開始演出とAT中に当選した設定差なしBBに係る開始演出で同一の演出態様となる割合と、非AT中に当選した設定差ありBBに係るBB開始演出と非AT中に当選した設定差なしBBに係る開始演出で同一の演出態様となる割合とが相違する。

【1469】

<<ポイント10>>

(1) 「有利区間」で設定差ありBBに当選したときに設定値を示唆する演出が選択される確率よりも、「通常区間」で設定差なしBBに当選したときに設定値を示唆する演出が選択される確率の方が高い。

(2) 非AT中に当選したBBでは、設定差に応じて異なるBB開始演出を選択するが、AT中に当選したBBでは、設定差に拘らず同じBB開始演出を選択する。

(3) AT中に当選した設定差ありBBとAT中に当選した設定差なしBBとでBB開始演出が同一の演出態様となる割合と、非AT中に当選した設定差ありBBと非AT中に当選した設定差なしBBとでBB開始演出が同一の演出態様となる割合が相違する。

【1470】

<<ポイント11>>

(1) 「設定差なし役(設定値によって当選率が相違しない役)+BB」当選時は、「設定差なし役」の当選時に実行可能な、「有利区間表示器点灯+演出B」を選択する確率よりも、「設定差あり役(設定値によって当選率が相違する役)」の当選時に実行可能な、「有利区間表示器消灯+演出A」を選択する確率の方が高い{「レア役+BB時」は、高確率状態への移行を煽る演出(例えば、高確率状態にて滞在し得る滞在ステージに移行する演出)よりも、BBの当選を煽る演出(例えば、バトル演出)の方が実行されやすい}。

(2) 所定役(例えば、チェリー)に当選した場合に100%で高確率状態に移行する場合、高確保障ゲーム数の振分を「50%→3G、40%→20G、10%→50G」のように振り分けて、3Gが選択された場合にはバトル敗北、その他の場合にはバトル勝利とする。また、バトル勝利した相手によって高確ゲーム数の長さ(20ゲームであるか50ゲームであるか)の期待度が異なる。また、上記の例の場合、高確20G目で継続可否を煽る演出(20ゲームであるか50ゲームであるかを煽る演出であり成功すると50ゲームであることが確定的となる)を実行する。

10

20

30

40

50

【1471】

<<ポイント12>>

(1) 「通常区間」において実行され得る所定のフリーズ演出を有しており、当該フリーズ演出は設定値によって発生確率が相違する。

(1 - 1) 「有利区間」においては、所定のフリーズ演出が実行されない。

(1 - 2) 「有利区間」よりも「通常区間」の方が所定のフリーズ演出が実行され易い。

(1 - 3) 所定のフリーズ演出は設定差ありBB当選ゲームにて実行され得る。

(1 - 4) 所定のフリーズ演出は設定差ありBB入賞ゲームにて実行され得る。

(1 - 5) 所定のフリーズ演出はハズレ時に実行され得る。

【1472】

<<<本例に適用可能な構成>>>

本例に係る回胴式遊技機に適用可能な構成を以下に詳述する。尚、以下に詳述するいずれの構成も、前述したすべての実施形態に適用可能であり、以下に詳述する1の構成を適用してもよいし、以下に詳述する複数の構成を適用してもよいことを補足しておく。

【1473】

<<メモリマップの構成>>

まず、図252を参照して、本例に係る回胴式遊技機に適用可能な主制御基板MのRAM(第1RAMと称することがある)におけるメモリマップの一部の構成について詳述する。同図に示す領域には、上位アドレスから、(1)「設定値データ」：設定の段階を管理する番号に係るデータのための領域、(2)「外部信号系データ」：外部信号出力に関係する情報を格納するための領域、(3)「RAMチェックサムデータ」：電源投入時に実行するチェックサム算出処理にて使用するデータであって、電源断時にRAMに記憶されているデータから算出されたデータを記憶し、電源投入時に実行するチェックサム算出処理にて特定の値(例えば「0」)を算出させる為の情報を格納するための領域、(4)「制御コマンドバッファ」：副制御基板側に送信するためのコマンド情報を格納するための領域、(5)「スタックポインター時保存バッファ」：電源断復帰時に使用する情報であって、電源断時に現在のスタックポインタに記憶されているデータを記憶し、電源断復帰時にスタックポインタに記憶する情報を格納するための領域、(6)「未使用領域」：遊技に使用されない領域を格納するための領域、(7)「退避データ1～退避データ8」：CALL命令、PUSH命令などにより、退避されるデータが設計上最大に書き込まれる可能性があるRAM、の順に領域が使用されている。このように構成した場合において、設計上スタックポインタが示す最上位アドレスは「7FF8H」となっているが、想定しない不具合(予期しない電断など)が発生した場合には、「7FF8H」よりも上位のアドレスをスタックポインタが示してしまう事態が生じる可能性がある。その場合、予め退避されるデータの領域として確保していた「退避データ1～退避データ8」の領域を超えて、退避データが記憶されてしまう可能性がある。そのような事態を考慮して、前記想定しない不具合が発生した場合にスタックポインタが示してしまう恐れのあるアドレス(「7FF8H」に近いアドレス)には遊技の進行に影響がないデータ(影響が少ないデータ)を格納するよう構成することが好適である。具体的には、予め退避されるデータの領域として確保していた「退避データ1～退避データ8」から少なくとも1アドレス空けたアドレスに、「設定値データ」を記憶するアドレスを設けることにより、遊技者だけでなく遊技場に対しても不利益を与えない遊技機を提供することができる。尚、同図においては、(5)「スタックポインター時保存バッファ」は、電源断復帰後に遊技が進行している状況においては使用することのないデータであり、(4)「制御コマンドバッファ」においては、副制御基板S側にコマンドを送信できなくなっても遊技の進行には影響が生じにくく、(3)「RAMチェックサムデータ」は、電源断復帰後に遊技が進行している状況においては使用することのないデータであり、(2)「外部信号系データ」は、ホールコンピュータに送信するためのデータであるため、遊技の進行には影響の少ないデータである。一方、(1)「設定値データ」は遊技の結果に影響を及ぼす設定値に関するデータであるため、例えば、低い設定値に変更されてしまった場合には遊技者に著しい不利益が

10

20

30

40

50

生じてしまう可能性がある。さらにまた、例えば、高い設定値に変更されてしまった場合には遊技場に著しい不利益が生じてしまう可能性がある。以上の通り、(1)「設定値データ」は、遊技の正常な進行にとって重要なデータとなっている。このような理由から、同図における(1)～(7)では、(1)「設定値データ」が最も上位のデータ(上位アドレスに記憶されるデータ)となっている。換言すると、(1)「設定値データ」と(7)「退避データ1～退避データ8」との間のアドレスには、(2)「外部信号系データ」、(3)「RAMチェックサムデータ」、(4)「制御コマンドバッファ」、(5)「スタックポインター時保存バッファ」、(6)「未使用領域」、が格納されている。このように構成することにより、遊技機に不具合が発生して、スタックポインタからRAMに退避されるデータ数が設計を超えてしまった場合においても、遊技に使用していないRAMを備えていることにより遊技機に異常状態が発生し難いよう構成することができる。尚、(2)「外部信号系データ」、(3)「RAMチェックサムデータ」、(4)「制御コマンドバッファ」、(5)「スタックポインター時保存バッファ」、(6)「未使用領域」の5つのデータを格納するアドレスの順序は変更しても問題なく、例えば、上位アドレスから「(3)→(2)→(4)→(5)→(6)」の順に格納してもよいし、上位アドレスから「(6)→(5)→(3)→(2)→(4)」の順に格納してもよい。また、(6)「未使用領域」を設けないよう構成してもよい。尚、上記(2)～(5)のRAM領域に格納されているデータは、RAM領域に格納されているデータが変更されてしまった場合においても、遊技メダルを投入不可能とならない(遊技メダルを投入不可能となるエラーが発生しない)データとなっている。

【1474】

尚、図252に示す「設定値データ」を格納するための領域、換言すると、図252における(1)の領域には、以下のデータを格納し得るよう構成してもよい。

(A) 総得点データ：実態的な遊技メダルを使用しない封入式の回胴式遊技機において投入可能な遊技メダルの総数と同様の役割を担う遊技価値数に関するデータを格納するための領域(総得点データを図252における(1)の領域に記憶する場合には、図252における(1)の領域として2バイトを有するよう構成してもよい)

(B) 最小遊技時間：1回の最小遊技時間をカウントする(割り込み処理ごとにカウンタ値を減算していく)ためのデータ(1回の最小遊技時間は4.1秒)

(C) BB作動時の獲得枚数カウンタ：BBが終了することとなる条件(払出枚数)を充足したか否かを判定するためのカウンタ(遊技者に遊技価値を付与した値に対応してカウンタ値を減算していく)

(D) MB作動時の獲得枚数カウンタ：MBが終了することとなる条件(払出枚数)を充足したか否かを判定するためのカウンタ(遊技者に遊技価値を付与した値に対応してカウンタ値を減算していく)

尚、上記(A)～(D)と「設定値データ」とを複数格納し得る(異なるアドレスに格納する)よう構成してもよいし、いずれか1つのみ格納し得るよう構成してもよい。また、複数格納し得るよう構成する場合には、当該複数のデータのいずれもが、図252における(2)～(7)の領域よりも上位のアドレスに格納(格納するための領域を設ける)するよう構成することが好適である。そのように構成することにより、遊技者や遊技場に対して不利益を与えない遊技機を提供することができる。さらにまた、少なくとも(6)の領域よりも上位のアドレスであれば、設計上スタックポインタが示す最上位アドレスは「7FF8H」となっているが、想定しない不具合(予期しない電断など)が発生した場合に「7FF8H」よりも上位のアドレスをスタックポインタが示してしまう事態が生じる可能性があるが、遊技者や遊技場に対して不利益を与えない遊技機を提供することができる。

【1475】

<<再遊技停止表示時に関する作用>>

次に、図253を参照して、本例に係る回胴式遊技機に適用可能な再遊技の当選したゲームにおける作用を詳述する。尚、以下に例示する構成は、再遊技の停止表示中において

も遊技メダルを投入可能である構成を例示している。

【1476】

まず、再遊技に当選したゲームにおいて（前回のゲームはハズレとする）、2つのリールが停止、1つのリール（最終リールとも称する）が回転しており、1ベットランプD211、2ベットランプD212、3ベットランプD213が点灯している状況下、最終リールに対応する停止ボタンが操作され（停止ボタンはオンのままとなる）、図中（1）のタイミングにて、再遊技図柄が停止表示する。その後、図中（2）のタイミングにて、停止ボタンを離し（オン→オフ）、その後、図中（3）のタイミングにて、再遊技ランプD290が点灯する。その後、図中（4）のタイミングにて、2ベットランプD212と3ベットランプD213とが略同時に消灯する。その後、図中（5）のタイミングにて、停止表示した再遊技に係る自動ベット動作（再遊技が停止表示すると遊技メダルの投入やベットボタンの操作がなくともベットされる）として、2ベットランプD212が点灯する。その後、図中（6）のタイミングにて、スタートレバーD50の操作が有効になり、停止表示した再遊技に係る自動ベット動作として、3ベットランプD213が点灯すると共に、3ベットランプD213の点灯タイミングと略同時に、スタートランプD180及び投入可能ランプD300が点灯する（投入可能ランプD300は点滅するよう構成してもよい）。

10

【1477】

ここで、同図における作用の特徴点について、以下に詳述する。

【1478】

20

<構成1>

再遊技が停止表示した次ゲームに係るスタートランプD180と3ベットランプD213とは略同時タイミングで点灯するよう構成されている。投入可能ランプD300をスタートランプD180よりも後に点灯させると、遊技者が遊技メダルを投入したい場合において、スタートランプD180が先に点灯したことを視認することで遊技メダルの投入ができないと認識してしまう場合があり、他方、スタートランプD180を投入可能ランプD300よりも後に点灯させると、遊技をスタートできないと認識してしまう場合がある。そこで、上記のように投入可能ランプD300とスタートランプD180とを略同時に点灯させることにより、遊技者の遊技メダル投入やスタートレバーD50の操作に関する判断を円滑にすることができ、誤った遊技メダルの投入やスタートレバーD50の操作を防ぐことができる。

30

【1479】

<構成2>

再遊技が停止表示するゲームに係るベット操作タイミングから、再遊技が停止表示した次ゲームの遊技終了まで、1ベットランプD211は常に点灯している。このように構成することにより、遊技者にとって再遊技当選による自動ベット動作が行われたということが認識し易くなると共に、いち早く再遊技が当選したことを告知することができるため、遊技の進行を円滑にすることができる。

【1480】

<構成3>

40

再遊技が停止表示したことに基づく再遊技ランプD290の点灯は、スタートランプD180の点灯よりも前のタイミングとなっている。このように、再遊技ランプD290を先に点灯することで、再遊技が当選したことを先に告知し、その後、スタートランプD180を点灯させて再遊技当選によるスタートレバーD50の操作が可能になったことを遊技者に告知することで、遊技者は遊技状況の把握を円滑にすることができる。

【1481】

<構成4>

再遊技が停止表示したことに基づく再遊技ランプD290の点灯は、投入可能ランプD300の点灯よりも前のタイミングとなっている。このように、再遊技ランプD290を先に点灯することで、再遊技が当選したことを先に告知し、その後、投入可能ランプD3

50

00を点灯させて遊技メダルの投入が可能であることを告知することで遊技状況の把握を円滑にすることができる。

【1482】

<構成5>

再遊技が停止表示したことに基づく再遊技ランプD290の点灯は、3ベットランプD213の点灯よりも前のタイミングとなっている。このように、再遊技ランプD290を先に点灯することで、再遊技が当選したことを先に告知し、遊技者にとって再遊技当選による自動ベット動作が行われたということが認識し易くなると共に、いち早く再遊技が当選したことを告知することができるため、遊技の進行を円滑にすることができる。

【1483】

<構成6>

再遊技が停止表示したことに基づく再遊技ランプD290の点灯は、2ベットランプD212の点灯よりも前のタイミングとなっている。このように、再遊技ランプD290を先に点灯することで、再遊技が当選したことを先に告知し、遊技者にとって再遊技当選による自動ベット動作が行われたということが認識し易くなると共に、いち早く再遊技が当選したことを告知することができるため、遊技の進行を円滑にすることができる。

【1484】

<構成7>

再遊技が停止表示した次ゲームに係る2ベットランプD212と3ベットランプD213の点灯は、2ベットランプD212が点灯した後に3ベットランプD213が点灯する（2ベットランプD212と3ベットランプD213とは略同時に点灯しない）。このように構成することにより、遊技者にとって再遊技当選による自動ベット動作が行われたということが認識し易くなり、遊技の進行を円滑にすることができる。

【1485】

<構成8>

再遊技が停止表示した後の2ベットランプD212と3ベットランプD213の消灯タイミングは略同時となっている。複数のランプ（2ベットランプD212と3ベットランプD213）が点灯していると遊技状態の把握が困難になるため、2ベットランプD212と3ベットランプD213を略同時に消灯させることで、遊技者が遊技状態を素早く把握できるようになる。

【1486】

<構成9>

再遊技が停止表示したことに基づく再遊技ランプD290の点灯タイミングは、再遊技が停止表示した後の2ベットランプD212の消灯タイミングよりも前になっている。このように、再遊技ランプD290を先に点灯することで、再遊技が当選したことを先に告知し、遊技者にとって再遊技当選による自動ベット動作が行われたということが認識し易くなると共に、いち早く再遊技が当選したことを告知することができるため、遊技の進行を円滑にすることができる。

【1487】

<構成10>

再遊技が停止表示したことに基づく再遊技ランプD290の点灯タイミングは、再遊技が停止表示した後の3ベットランプD213の消灯タイミングよりも前になっている。このように、再遊技ランプD290を先に点灯することで、再遊技が当選したことを先に告知し、遊技者にとって再遊技当選による自動ベット動作が行われたということが認識し易くなると共に、いち早く再遊技が当選したことを告知することができるため、遊技の進行を円滑にすることができる。

【1488】

<構成11>

再遊技が停止表示した次ゲームに係るスタートランプD180と3ベットランプD213との点灯タイミングは略同時となっている。このように構成することにより、遊技者に

10

20

30

40

50

スタートレバーD50の操作が有効であることをいち早く告知することができるため、遊技の進行を円滑にすることができる。

【1489】

<<その他の作用1>>

ここで、本例に係る回胴式遊技機に適用可能な再遊技の当選したゲームにおける図253の構成とは異なる作用を、その他の作用1として以下に詳述する。

【1490】

<構成12>

再遊技が停止表示するゲームに係るベット操作タイミングから、再遊技が停止表示した次ゲームの遊技終了まで、2ベットランプD212及び3ベットランプD213は常に点灯しているよう構成してもよい。このように構成することにより、遊技者にとって、再遊技当選による自動ベット動作が行われたということが認識し易くなると共に、いち早く再遊技が当選したことを告知することができるため、遊技の進行を円滑にすることができる。

【1491】

<構成13>

再遊技が停止表示したことに基づく再遊技ランプD290の点灯タイミングと、再遊技が停止表示した後の2ベットランプD212の消灯タイミングとを略同時に構成してもよい。遊技者に自動ベット動作が行われていることを報知したいが、ベットランプ(2ベットランプD212)を点灯し続けていると遊技状態の把握が困難になることから、一旦2ベットランプD212を消灯することで遊技状態の把握を円滑にすることができ、さらに再遊技ランプD290を再遊技が停止表示した次ゲームに係る2ベットランプD212の点灯タイミング(投入可能ランプD300の点灯タイミングとしてもよい)よりも先に点灯することで遊技メダルを投入しなくてもよいことを予め告知しておくことができる。

【1492】

<構成14>

再遊技が停止表示したことに基づく再遊技ランプD290の点灯タイミングと、再遊技が停止表示した後の3ベットランプD213の消灯タイミングとを略同時に構成してもよい。遊技者に自動ベット動作が行われていることを報知したいが、ベットランプ(3ベットランプD213)を点灯し続けていると遊技状態の把握が困難になることから、一旦2ベットランプD212を消灯することで遊技状態の把握を円滑にすることができ、さらに再遊技ランプD290を再遊技が停止表示した次ゲームに係る3ベットランプD213の点灯タイミング(投入可能ランプD300の点灯タイミングとしてもよい)よりも先に点灯することで遊技メダルを投入しなくてもよいことを予め告知しておくことができる。

【1493】

<構成15>

あるゲームにて再遊技に当選し、当該あるゲームの次ゲームにおいても再遊技に当選した場合には、当該あるゲームに係る再遊技が停止表示したことに基づいて再遊技ランプD290が点灯してから、当該あるゲームの次々ゲームの遊技終了まで再遊技ランプD290が点灯し続けるよう構成してもよい。このように、再遊技ランプD290を継続して点灯させることで、遊技者にいち早く再遊技の当選を告知でき、遊技の進行を円滑にすることができる。

【1494】

<構成16>

第3停止操作(又は、再遊技図柄停止表示)を契機として、再遊技ランプD290、3ベットランプD213、2ベットランプD212、1ベットランプD211、スタートランプD180、投入可能ランプD300、等の各種ランプの制御を実行してもよい。このように構成することで、遊技の進行タイミングに応じたランプによる告知を実行することができ、遊技者が遊技の進行状況を把握することが容易となる。

【1495】

<構成17>

10

20

30

40

50

再遊技ランプD 2 9 0とスタートランプD 1 8 0と投入可能ランプD 3 0 0との点灯タイミングが略同時となるよう構成してもよい。このように構成することで、再遊技の停止表示に基づくランプの点灯であることを明確に報知することができる。

【1 4 9 6】

<構成1 8>

再遊技が停止表示したことに基づいて、3ベットランプD 2 1 3と2ベットランプD 2 1 2と1ベットランプD 2 1 1とが略同時に消灯し、その後、3ベットランプD 2 1 3と2ベットランプD 2 1 2と1ベットランプD 2 1 1とが略同時に点灯するよう構成してもよい。このように構成することで、再遊技に当選した場合の自動ベットされる遊技メダル数が3枚であることを明確に報知できる。

【1 4 9 7】

<構成1 9>

再遊技が停止表示したことに基づいて、3ベットランプD 2 1 3と2ベットランプD 2 1 2と1ベットランプD 2 1 1とが略同時に消灯し、その後、3ベットランプD 2 1 3と2ベットランプD 2 1 2と1ベットランプD 2 1 1と再遊技ランプD 2 9 0とスタートランプD 1 8 0と投入可能ランプD 3 0 0とが略同時に点灯するよう構成してもよい。このように構成することで、再遊技に当選した場合の自動ベットされる遊技メダル数が3枚であることを明確に報知できると共に、再遊技の停止表示に基づくランプの点灯であることを明確に報知することができる。

【1 4 9 8】

<<その他の作用2>>

ここで更に、本例に係る回胴式遊技機に適用可能な再遊技の当選したゲームにおける図2 5 3の構成とは異なる作用を、図2 5 4～図2 5 6を用いてその他の作用2として以下に詳述する。

【1 4 9 9】

<再遊技停止表示時に関する作用図2>

次に、図2 5 4を参照して、本例の回胴式遊技機に適用可能な作用を詳述する。

【1 5 0 0】

まず、再遊技に当選したゲームにおいて（前回のゲームはハズレとする）、2つのリールが停止、1つのリール（最終リールとも称する）が回転しており、1ベットランプD 2 1 1、2ベットランプD 2 1 2、3ベットランプD 2 1 3が点灯している状況下、最終リールに対応する停止ボタンが操作され（停止ボタンはオンのままとなる）、図中（1）のタイミングにて、再遊技図柄が停止表示すると略同時に、再遊技ランプD 2 9 0が点灯し、略同時のタイミングにて2ベットランプD 2 1 2と3ベットランプD 2 1 3とが消灯する。その後、図中（2）のタイミングにて、2ベットランプD 2 1 2が点灯する。その後、図中（3）のタイミングにて、3ベットランプD 2 1 3が点灯する。その後、図中（4）のタイミングにて、停止ボタンが離され（オン→オフ）、その後、図中（5）のタイミングにて、スタートレバーD 5 0の操作が有効になり、スタートランプD 1 8 0及び投入可能ランプD 3 0 0が略同時に点灯する。尚、1ベットランプD 2 1 1は点灯したままとなっている。

【1 5 0 1】

<再遊技停止表示時に関する作用図3>

まず、再遊技に当選したゲームにおいて（前回のゲームはハズレとする）、2つのリールが停止、1つのリール（最終リールとも称する）が回転しており、1ベットランプD 2 1 1、2ベットランプD 2 1 2、3ベットランプD 2 1 3が点灯している状況下、最終リールに対応する停止ボタンが操作され（停止ボタンはオンのままとなる）、図中（1）のタイミングにて、再遊技図柄が停止表示する。その後、図中（2）のタイミングにて、停止ボタンが離され（オン→オフ）、その後、図中（3）のタイミングにて、再遊技ランプD 2 9 0が点灯する。その後、図中（4）のタイミングにて、スタートレバーD 5 0の操作が有効になり、スタートランプD 1 8 0及び投入可能ランプD 3 0 0が略同時に点灯す

10

20

30

40

50

る。尚、1ベットランプD 2 1 1と2ベットランプD 2 1 2と3ベットランプD 2 1 3とは点灯したままとなっている。

【1502】

＜再遊技停止表示時に関する作用図4＞

まず、再遊技に当選したゲームにおいて（前回のゲームはハズレとする）、2つのリールが停止、1つのリール（最終リールとも称する）が回転しており、1ベットランプD 2 1 1、2ベットランプD 2 1 2、3ベットランプD 2 1 3が点灯している状況下、最終リールに対応する停止ボタンが操作され（停止ボタンはオンのままとなる）、図中（1）のタイミングにて、再遊技図柄が停止表示する。その後、図中（2）のタイミングにて、停止ボタンが離され（オン→オフ）、その後、図中（3）のタイミングにて、再遊技ランプD 2 9 0が点灯するのと略同時にスタートランプD 1 8 0及び投入可能ランプD 3 0 0が点灯する。その後、図中（4）のタイミングにて、スタートレバーD 5 0の操作が有効になる。尚、1ベットランプD 2 1 1と2ベットランプD 2 1 2と3ベットランプD 2 1 3とは点灯したままとなっている。

【1503】

＜再遊技停止表示時に関する作用図5＞

まず、再遊技に当選したゲームにおいて（前回のゲームはハズレとする）、2つのリールが停止、1つのリール（最終リールとも称する）が回転しており、1ベットランプD 2 1 1、2ベットランプD 2 1 2、3ベットランプD 2 1 3が点灯している状況下、最終リールに対応する停止ボタンが操作され（停止ボタンはオンのままとなる）、図中（1）のタイミングにて、再遊技図柄が停止表示する。その後、図中（2）のタイミングにて、停止ボタンが離され（オン→オフ）、その後、図中（3）のタイミングにて、1ベットランプD 2 1 1と2ベットランプD 2 1 2と3ベットランプD 2 1 3とが略同時に消灯する。その後、図中（4）のタイミングにて、1ベットランプD 2 1 1と2ベットランプD 2 1 2と再遊技ランプD 2 9 0とが略同時に点灯する。その後、図中（5）のタイミングにて、スタートレバーD 5 0の操作が有効になり、3ベットランプD 2 1 3とスタートランプD 1 8 0と投入可能ランプD 3 0 0とが略同時に点灯する。

【1504】

＜再遊技停止表示時に関する作用図6＞

まず、再遊技に当選したゲームにおいて（前回のゲームはハズレとする）、2つのリールが停止、1つのリール（最終リールとも称する）が回転しており、1ベットランプD 2 1 1、2ベットランプD 2 1 2、3ベットランプD 2 1 3が点灯している状況下、最終リールに対応する停止ボタンが操作され（停止ボタンはオンのままとなる）、図中（1）のタイミングにて、再遊技図柄が停止表示する。その後、図中（2）のタイミングにて、停止ボタンが離され（オン→オフ）、その後、図中（3）のタイミングにて、再遊技ランプD 2 9 0が点灯するのと略同時に、2ベットランプD 2 1 2と3ベットランプD 2 1 3とが消灯する。その後、図中（4）のタイミングにて、2ベットランプD 2 1 2が点灯する。その後、図中（5）のタイミングにて、3ベットランプD 2 1 3が点灯する。その後、図中（6）のタイミングにて、スタートレバーD 5 0の操作が有効になり、スタートランプD 1 8 0と投入可能ランプD 3 0 0とが略同時に点灯する。尚、1ベットランプD 2 1 1は点灯したままとなっている。

【1505】

＜再遊技停止表示時に関する作用図7＞

まず、再遊技に当選したゲームにおいて（前回のゲームはハズレとする）、2つのリールが停止、1つのリール（最終リールとも称する）が回転しており、1ベットランプD 2 1 1、2ベットランプD 2 1 2、3ベットランプD 2 1 3が点灯している状況下、最終リールに対応する停止ボタンが操作され（停止ボタンはオンのままとなる）、図中（1）のタイミングにて、再遊技図柄が停止表示する。その後、図中（2）のタイミングにて、停止ボタンが離され（オン→オフ）、その後、図中（3）のタイミングにて、スタートレバーD 5 0の操作が有効になり、再遊技ランプD 2 9 0とスタートランプD 1 8 0と投入可

能ランプD300とが略同時に点灯する。尚、1ベットランプD211と2ベットランプD212と3ベットランプD213とは点灯したままとなっている。

【1506】

＜再遊技停止表示時に関する作用図8＞

まず、再遊技に当選したゲームにおいて（前回のゲームはハズレとする）、2つのリールが停止、1つのリール（最終リールとも称する）が回転しており、1ベットランプD211、2ベットランプD212、3ベットランプD213が点灯している状況下、最終リールに対応する停止ボタンが操作され（停止ボタンはオンのままとなる）、図中（1）のタイミングにて、再遊技図柄が停止表示する。その後、図中（2）のタイミングにて、停止ボタンが離され（オン→オフ）、その後、図中（3）のタイミングにて、1ベットランプD211と2ベットランプD212と3ベットランプD213とが略同時に消灯する。その後、図中（4）のタイミングにて、スタートレバーD50の操作が有効になり、再遊技ランプD290と1ベットランプD211と2ベットランプD212と3ベットランプD213とスタートランプD180と投入可能ランプD300とが略同時に点灯する。

【1507】

＜再遊技停止表示時に関する作用図9＞

まず、再遊技に当選したゲームにおいて（前回のゲームはハズレとする）、2つのリールが停止、1つのリール（最終リールとも称する）が回転しており、1ベットランプD211、2ベットランプD212、3ベットランプD213が点灯している状況下、最終リールに対応する停止ボタンが操作され（停止ボタンはオンのままとなる）、図中（1）のタイミングにて、再遊技図柄が停止表示する。その後、図中（2）のタイミングにて、停止ボタンが離され（オン→オフ）、その後、図中（3）のタイミングにて、再遊技ランプD290が点灯する。その後、図中（4）のタイミングにて、2ベットランプD212と3ベットランプD213とが略同時に消灯する。その後、図中（5）のタイミングにて、2ベットランプD212が点灯する。その後、図中（6）のタイミングにて、3ベットランプD213が点灯する。その後、図中（7）のタイミングにて、スタートレバーD50の操作が有効になり、スタートランプD180と投入可能ランプD300とが略同時に点灯する。尚、1ベットランプD211は点灯したままとなっている。

【1508】

＜再遊技停止表示時に関する作用図10＞

まず、再遊技に当選したゲームにおいて（前回のゲームはハズレとする）、2つのリールが停止、1つのリール（最終リールとも称する）が回転しており、1ベットランプD211、2ベットランプD212、3ベットランプD213が点灯している状況下、最終リールに対応する停止ボタンが操作され（停止ボタンはオンのままとなる）、図中（1）のタイミングにて、再遊技図柄が停止表示する。その後、図中（2）のタイミングにて、停止ボタンが離され（オン→オフ）、その後、図中（3）のタイミングにて、再遊技ランプD290が点灯する。その後、図中（4）のタイミングにて、スタートレバーD50の操作が有効になり、スタートランプD180と投入可能ランプD300とが略同時に点灯する。尚、1ベットランプD211と2ベットランプD212と3ベットランプD213とは点灯したままとなっている。

【1509】

尚、図254～図256に例示した構成のうち、上述した構成1～構成19と同様の構成となっているものに関しては、上述した構成1～構成19同様の効果を創出することができる。

【1510】

尚、上述した、再遊技図柄の停止表示タイミング、停止ボタンの操作タイミング、再遊技ランプD290の点灯・消灯タイミング、3ベットランプD213の点灯・消灯タイミング、2ベットランプD212の点灯・消灯タイミング、1ベットランプD211の点灯・消灯タイミング、スタートランプD180の点灯タイミング、投入可能ランプD300の点灯タイミングに関する構成は、いずれの構成（タイミング）を組み合わせても問題な

10

20

30

40

50

いことを補足しておく。

【1511】

尚、上記においては、再遊技の停止表示中においても遊技メダルを投入可能である構成を例示したが、これには限定されず、再遊技の停止表示中においては、遊技メダルを投入不可能に構成してもよい（上述したすべての構成に適用可能である）。そのように構成した場合には、再遊技が停止表示している期間は投入可能ランプD300が消灯したままとなる。

【1512】

また、上述した略同時とは、遊技者が視認した際に見た目上同時であると認識できればよく、例えば、割り込み処理を10回実行する期間以内に実行される処理（点灯・消灯タイミング）であれば、略同時であるとしても問題ない。

【1513】

<<ベットボタンランプに関する構成>>

本例に係る回胴式遊技機におけるベットボタンランプS50に関する構成として、以下のように構成してもよい。

【1514】

主制御基板Mの処理によってベットボタンD220を無効から有効にする処理が実行され、その後、主制御基板Mは副制御基板S側にベットボタンランプS50を点灯させるためのコマンドを送信し（主制御基板Mは副制御基板S側にベットボタンD220が有効になった旨のコマンドを送信するよう構成してもよい）、その後、副制御基板Sは、主制御基板Mから送信したベットボタンランプS50を点灯させるためのコマンドを受信したことにより、ベットボタンランプS50を点灯させるための処理を実行するよう構成してもよい。このように構成することにより、ベットボタンランプS50は副制御基板S側で点灯・消灯を管理しているが、主制御基板M側の遊技の状況に応じてベットボタンD220が有効である状況にて確実にベットボタンランプS50を点灯させることができ、遊技者がベットボタンランプS50の点灯を視認してベット（ベットボタンD220）が有効であるかを判断しても、主制御基板M側の遊技の状況との齟齬が生じないよう構成することができる。

【1515】

<<停止ボタンランプに関する構成>>

本例に係る回胴式遊技機における停止ボタンランプS60に関する構成として、以下のように構成してもよい。

【1516】

主制御基板Mの処理によって停止ボタンD40（左停止ボタンD41、中停止ボタンD42、右停止ボタンD43のいずれか）を無効から有効にする処理が実行され、その後、主制御基板Mは副制御基板S側に停止ボタンランプS60（前記有効にする処理が実行された停止ボタンに対応する停止ボタンランプS60）を点灯させるためのコマンドを送信し（主制御基板Mは副制御基板S側に停止ボタンD40（左停止ボタンD41、中停止ボタンD42、右停止ボタンD43のいずれか）が有効になった旨のコマンドを送信するよう構成してもよい）、その後、副制御基板Sは、主制御基板Mから送信した停止ボタンランプS60を点灯させるためのコマンドを受信したことにより、停止ボタンランプS60を点灯させるための処理を実行するよう構成してもよい。このように構成することにより、停止ボタンランプS60は副制御基板S側で点灯・消灯を管理しているが、主制御基板M側の遊技の状況に応じて停止ボタンランプS60が有効である状況にて確実に停止ボタンランプS60を点灯させることができ、遊技者が停止ボタンランプS60の点灯を視認して停止ボタンD40（左停止ボタンD41、中停止ボタンD42、右停止ボタンD43のいずれか）が有効であるかを判断しても、主制御基板M側の遊技の状況との齟齬が生じないよう構成することができる。

【1517】

<<本例に適用可能なリールユニットRUに関する構成>>

図257及び図258に示すように、本例に係る回胴式遊技機は、リールM50（M51、M52及びM53）の各々を、リールユニットRUを介して回転可能に備える。尚、図257は、リールユニットRU及びホッパH40の配置を示す正面図である。図258は、リールユニットRU及びホッパH40の配置を示す断面図である。本例に係る回胴式遊技機のリールユニットRUは、3つのリールM51、M52及びM53の全てを回転可能に収納する一体型ユニットとなっている。リールユニットRUは、略半円筒状の形状を有し、開口部RU10が形成されている。3つのリールM51、M52及びM53の図柄が開口部RU10を介して視認できるように、3つのリールM51、M52及びM53は、リールユニットRUに設けられている。尚、詳細は後述することとなるが、3つのリールは夫々、リール枠MWにリール帯MOが取り付けられることにより形成されている。

10

【1518】

図258に示すように、リールユニットRUは、開口部RU10を挟んで天部RU20及び底部RU30を有する。リールユニットRUの底部RU30を、後述する台座部BUの上面に載せることで、リールユニットRUを台座部BUに設けることができる。

【1519】

<貫通孔RU40>

図257及び図258に示すように、リールユニットRUの底部RU30の前側端部には、複数の、例えば、3つの貫通孔RU40が前側端部の長手方向（水平方向）に沿って形成されている。3つの貫通孔RU40は、例えば、左リールM51、中リールM52、右リールM53に対応するように形成されている。

20

【1520】

<<台座部BU>>

台座部BUは、金属板などで構成され、略板状の形状を有する。台座部BUの端部は、裏箱の左側側面、右側側面、背面などにビスなど（図示せず）で取り付けられ、台座部BUは、裏箱に固定されている。台座部BUは、水平方向に延在するように裏箱に取り付けられる。前述したように、台座部BUには、リールユニットRUが載置される。

【1521】

<ネジ穴BU10>

台座部BUの前面端部には、複数の、例えば、3つのネジ穴BU10が前面端部の長手方向（水平方向）に沿って形成されている。前述したリールユニットRUの底部RU30に形成されている複数の貫通孔RU40は、台座部BUの複数のネジ穴BU10の各々に対応するように形成されている。3つのネジ穴BU10は、例えば、左リールM51、中リールM52、右リールM53に対応するように形成されている。

30

【1522】

なお、貫通孔RU40及びネジ穴BU10の数や位置は、互いに対応し水平方向に沿って配置されていればよく、安定してリールユニットRUを台座部BUに載置できればよい。また、台座部BUのネジ穴BU10（及びビスBS）によって、リールユニットRUのみを台座部BUに取り付けるよう構成してもよいし、台座部BUのネジ穴BU10（及びビスBS）によって、リールユニットRUと1つのリール（左リールM51、中リールM52、又は右リールM53）との双方を台座部BUに取り付けるよう構成してもよい。

40

【1523】

<<リールユニットRUの固定方法>>

図257及び図258に示すように、リールユニットRUを台座部BUに載置するとともに、リールユニットRUの貫通孔RU40の各々が、対応する台座部BUのネジ穴BU10と連通するように、リールユニットRUを位置づけ、リールユニットRUの貫通孔RU40を介して、ビスBSをネジ穴BU10に螺合することで、リールユニットRUを台座部BUの一定の位置に取り付けて保持することができる。このようにすることで、リールユニットRUを、台座部BUに着脱可能に取り付けることができる。

【1524】

ビスBSの他にネジやボルトなどの螺合部材によって取り付けの場合のほか、着脱可能

50

なりベット、例えば、プッシュリベットなどの部材を用いてリールユニット R U を着脱可能に取り付けてもよい。係合部材や係止部材などによってリールユニット R U を着脱可能に台座部 B U に取り付けることができればよい。

【1525】

なお、本例においては、リールユニット R U を台座部 B U に載置する構成を例示したが、これには限定されず、リールユニット R U の上部に貫通孔 R U 4 0 を設けてビス B S によって筐体内部に固定する（ぶらさげるように固定する）よう構成してもよいし、リールユニット R U の両側側面部に貫通孔 R U 4 0 を設けてビス B S によって筐体内部に固定するよう構成してもよい。また、そのように構成した場合にも、以下に詳述するビス B S の位置やビス B S の落下位置に関する構成（例えば、前扉 D U が開閉する箇所に最も近い位置に配置されたビス B S に関する構成）を適用可能であることを補足しておく。

【1526】

<<ホッパ H 4 0 及びメダル補助タンク H S >>

図 259 (a) は、ホッパ H 4 0 の背面右側からの斜視図であり、図 259 (b) は、ホッパ H 4 0 の背面左側からの斜視図である。尚、図 259 (a) 及び (b) には、後述するビス B S の移動を示す矢印も記載している。このビス B S の移動を示す矢印は、ビス B S とホッパ H 4 0 の位置 (1) 及び (2) の双方について、図 259 (a) 及び (b) に記載している。

【1527】

ホッパ H 4 0（主タンク部材と称することがある）は、ABS（アクリロニトリルブタジエンスチレン）樹脂などにより成型された漏斗型のタンクである。図 259 に示すように、ホッパ H 4 0 は、前側側壁 H 4 2 と、左側側壁 H 4 4 と、後側側壁 H 4 6 と、右側側壁 H 4 8 とを有する。前側側壁 H 4 2 と左側側壁 H 4 4 と後側側壁 H 4 6 と右側側壁 H 4 8 とは、周回するように配置され、前側側壁 H 4 2 と左側側壁 H 4 4 と後側側壁 H 4 6 と右側側壁 H 4 8 とによって開口部 H 3 0 が形成される。開口部 H 3 0 は、上方に向かって開口するように形成されている。前述したメダル投入口 D 1 7 0 から投入されたメダルは、開口部 H 3 0 を介してホッパ H 4 0 の内部に導入される。なお、ホッパ H 4 0 は、複数の部材から構成されていてもよく、当該複数の部材を総称して、ホッパ H 4 0、主タンク部材、主タンクユニット、等と称してもよい。

【1528】

さらに、ホッパ H 4 0 は、ホッパ底部 H 5 2 と右側傾斜部 H 5 4 及び左側傾斜部 H 5 6 とを有する。右側傾斜部 H 5 4 は、ホッパ H 4 0 の右側に配置され、ホッパ H 4 0 の右側に導入された遊技メダルは、自重で、後述するホッパ底部 H 5 2 に向かって案内される。左側傾斜部 H 5 6 は、ホッパ H 4 0 の左側に配置され、ホッパ H 4 0 の左側に導入されたメダルを自重でホッパ底部 H 5 2 に向かって案内する。さらに、左側傾斜部 H 5 6 は、被覆部 H 5 7 を有する。被覆部 H 5 7 は、左側傾斜部 H 5 6 から延出し、後述するディスク H 5 0 の略左半分の上方を覆うように配置される。被覆部 H 5 7 を設けたことにより、ホッパ底部 H 5 2 で複数の遊技メダルが連架して落下できない状態となることを防止し、遊技メダルを円滑にホッパ底部 H 5 2 に向かって案内することができる。

【1529】

右側傾斜部 H 5 4、左側傾斜部 H 5 6 及び被覆部 H 5 7 を設けたことにより、開口部 H 3 0 を介してホッパ H 4 0 の内部に導入された遊技メダルはいずれもホッパ底部 H 5 2 に案内することができる。右側傾斜部 H 5 4、左側傾斜部 H 5 6 及び被覆部 H 5 7 によって案内されたメダルは、ホッパ底部 H 5 2 に貯留されていく。このように、右側傾斜部 H 5 4、左側傾斜部 H 5 6 及び被覆部 H 5 7 は、遊技メダルをホッパ H 4 0 の内部に収納する収納用傾斜部として機能する。

【1530】

ホッパ底部 H 5 2 には、回転体としてのディスク H 5 0 が配置されている。ディスク H 5 0 は、前述したホッパモータ H 8 0 によって回転駆動され、ディスク H 5 0 の回転動作により、遊技メダルは、遊技メダル出口 H 6 0 から排出される。このようにして、ホッパ

10

20

30

40

50

H 4 0 に貯留されているメダルを、1 枚ずつ遊技メダル出口 H 6 0 から排出することができる。

【1 5 3 1】

< 排出案内内部 H 6 2 >

前側側壁 H 4 2 の内側には、前側側壁 H 4 2 に沿って排出案内内部 H 6 2 が形成されている。排出案内内部 H 6 2 は、長尺な形状を有し、かつ、傾斜して形成された傾斜面 H 6 4 を有する。ホッパ H 4 0 が裏箱に配置されたときには、傾斜面 H 6 4 の左側よりも傾斜面 H 6 4 の右側が下方に位置する。傾斜面 H 6 4 の幅は、略一定に形成されているが、下方に向かうに（左側から右側に向かう）従って若干広がるように形成されている。

【1 5 3 2】

排出案内内部 H 6 2 は、遊技メダルがホッパ H 4 0 に貯留されていき、遊技メダルがホッパ H 4 0 から溢れるよりも前に、ホッパ H 4 0 の上部にある遊技メダルをメダル補助タンク H 5 に案内し、ホッパ H 4 0 に貯留されているメダルを減らすための部材である。傾斜面 H 6 4 の右側には、排出口 H 6 6 が形成されており、傾斜面 H 6 4 によって案内された遊技メダルは、排出口 H 6 6 を介して、メダル補助タンク H 5 に排出される。このように、排出案内内部 H 6 2 は、遊技メダルをホッパ H 4 0 の外部に排出する排出用傾斜部として機能する。前述したように、右側傾斜部 H 5 4、左側傾斜部 H 5 6 及び被覆部 H 5 7 は、遊技メダルをホッパ H 4 0 の内部に収納する収納用傾斜部として機能するのに対し、排出案内内部 H 6 2 は、遊技メダルをホッパ H 4 0 の外部に排出する排出用傾斜部として機能し、右側傾斜部 H 5 4 及び左側傾斜部 H 5 6 とは逆の機能を有する。

【1 5 3 3】

また、左側傾斜部 H 5 6 及び被覆部 H 5 7 並びに排出案内内部 H 6 2 は、いずれも左側から右側に向かって遊技メダルを移動させる。すなわち、左側傾斜部 H 5 6 及び被覆部 H 5 7 並びに排出案内内部 H 6 2 は、いずれも右下がりの傾斜を有している。左側傾斜部 H 5 6 及び被覆部 H 5 7 の最終目標は、ホッパ底部 H 5 2 であり、排出案内内部 H 6 2 の最終目標は、メダル補助タンク H 5 であるが、傾きを同じにすることで、ホッパ H 4 0 の全体的な遊技メダルの移動を左側から右側に揃えることができる。

【1 5 3 4】

排出案内内部 H 6 2 の傾斜面 H 6 4 の奥行き側の排出口 H 6 6 の近傍には、傾斜面 H 6 4 の長手方向に沿って、上方向に向かって突出する突出壁 H 5 8 が立設されている。突出壁 H 5 8 によって傾斜面 H 6 4 に載ったメダルがホッパ底部 H 5 2 に落下することを防止することができる。

【1 5 3 5】

< メダル補助タンク H 5 >

メダル補助タンク H 5 は、略四角柱状の形状を有し、底面と4つの側面とを有する。メダル補助タンク H 5 は、上部に開口部 H 5 1 0 を有し、ホッパ H 4 0 から排出されたメダルは、開口部 H 5 1 0 を介して導入されメダル補助タンク H 5 の内部に貯留される。なお、メダル補助タンク H 5 の詳細な構造及び機能については、後述する。

【1 5 3 6】

<< リールユニット R U のビス B S の脱落 >>

回胴式遊技機には、前扉 D U が、裏箱に対して開閉可能に取り付けられている（前扉 D U と裏箱とを合わせて筐体と称することがある）。前扉 D U は、前扉 D U の左側（遊技者から見て左側）を回転中心にして裏箱に回転可能に取り付けられている。このため、前扉 D U の右側（遊技者から見て右側）が最も移動距離が大きく、前扉 D U が閉じられるときには、裏箱との接触や衝突による衝撃が発生し裏箱に伝播する。回胴式遊技機の右側で衝撃は発生するために、回胴式遊技機の右側の衝撃が最も大きく、回胴式遊技機の左側では、徐々に衝撃が弱くなりやすい。

【1 5 3 7】

前述したように、リールユニット R U は、ビス B S によって台座部 B U に着脱可能に取り付けられている。ビス B S は、左側、中央、右側の3箇所で台座部 B U のネジ穴 B U 1

10

20

30

40

50

0に螺合されており、右側のネジ穴BU10に螺合されている右側ビスBSは、最も大きい衝撃が加えられる。このため、右側のネジ穴BU10に螺合されている右側ビスBSは衝撃によって最も緩み易く、螺合が解除されたときには、右側ビスBSは脱落して落下することになる。また、中央のネジ穴BU10に螺合されている中央ビスBSも、衝撃が加えられ、衝撃によって緩んで脱落する可能性がある。なお、左側のネジ穴BU10に螺合されている左ビスBSは、ある程度、衝撃が小さくなると想定されるが、衝撃の伝播の程度や使用時間などによって緩んで脱落する可能性は当然にある。

【1538】

<<ビスBSとホッパH40の位置(1)>>

図257及び図258に示すように、ホッパH40(メダル払出装置H)及びメダル補助タンクHSは、リールユニットRUの下部に配置されている。図257に示す例では、前述した3つのビスBSのうち、少なくとも右側ビスBSの下方に、ホッパH40の傾斜面H64が位置する。

【1539】

右側ビスBSが衝撃によって脱落した場合には、まず、下方に向かって自由落下する(矢印1A)。落下した右側ビスBSは、傾斜面H64に達し、右側ビスBSの自重によって、傾斜面H64に案内されながら傾斜面H64を転動し傾斜面H64に沿って移動する(矢印1B)。右側ビスBSが、排出口H66に達すると、メダル補助タンクHSに向かって自由落下し(矢印1C)、メダル補助タンクHSに収納される。

【1540】

このように、右側ビスBSが衝撃によって脱落した場合であっても、ホッパH40から排出することができ、脱落したビスBSが、ホッパH40に進入することを未然に防止し、脱落したビスBSによってディスクH50の回転動作を妨げたりディスクH50を破損させたりすることを防ぎ、ホッパH40を安定的に動作させることができる。

【1541】

なお、前述した例では、右側ビスBSのみを対象にしたが、3つの左側ビスBS、中央ビスBS、右側ビスBSの全てが、ホッパH40の傾斜面H64の上方に位置するように、ホッパH40及びリールユニットRUを位置づけるようにしてもよい。いずれのビスBSが脱落した場合でも、脱落したビスBSをメダル補助タンクHSに案内することができる。また、本例においては、リールユニットRUを台座部BUに載置するためのビスBSを例示したが、これには限定されず、裏箱との接触や衝突による衝撃が発生し易い前扉DUの右側(遊技者から見て右側)に取り付けられたビスなどの部材に関しても、脱落した際にメダル補助タンクHSに収納されるよう構成してもよい。

【1542】

<<ビスBSとホッパH40の位置(2)>>

図260は、リールユニットRU及びホッパH40の配置を示す正面図である。図260に示す例では、前述した3つのビスBSのうち、中央ビスBSの下方に、ホッパH40の傾斜面H64が位置し、右側ビスBSの下方には、メダル補助タンクHSが位置する。なお、図260において、図257と同様の構成については、同一の符号を付して示した。

【1543】

右側ビスBSが衝撃によって脱落した場合には、そのまま下方に向かって自由落下し(矢印2A)、そのまま(傾斜面H64に接触せずに)、メダル補助タンクHSに収納される。

【1544】

中央ビスBSが衝撃によって脱落した場合には、まず、下方に向かって自由落下する(矢印3A)。落下した中央ビスBSは、傾斜面H64に達し、中央ビスBSの自重によって、傾斜面H64に案内されながら傾斜面H64を転動し傾斜面H64に沿って移動する(矢印3B)。中央ビスBSが、排出口H66に達すると、メダル補助タンクHSに向かって自由落下し(矢印3C)、メダル補助タンクHSに収納される。

【1545】

10

20

30

40

50

脱落した右側ビスBSや中央ビスBSが、ホッパH40に進入することを未然に防止し、脱落したビスBSによってディスクH50の回転動作を妨げたりディスクH50を破損させたりすることを防ぎ、ホッパH40を安定的に動作させることができる。

【1546】

なお、前述した例では、右側ビスBS及び中央ビスBSを対象にしたが、左側ビスBSも、ホッパH40の傾斜面H64の上方に位置するように、ホッパH40及びリールユニットRUを位置づけるようにしてもよい。いずれのビスBSが脱落した場合でも、脱落したビスBSをメダル補助タンクHSに案内することができる。

【1547】

前述したように、排出案内部H62の傾斜面H64の奥行き側に、傾斜面H64の長手方向に沿って、上方向に向かって突出する突出壁H58を形成するのが好ましい。突出壁H58を設けたことにより、脱落して傾斜面H64に載ったビスBSもホッパ底部H52に落下することを防止することができる。突出壁H58の高さは、ビスBSが傾斜面H64に落下したときに跳ね返る高さ以上である。ビスBSが、ホッパ底部H52に落下しないようにし、ビスBSがディスクH50の動作を妨げたり故障させたりすることを防止することができる。

【1548】

このように、前扉DUの開閉による振動等により、リールユニットRUを取り付けるためのビスBSが脱着してしまった場合にも、当該脱着したビスBSがホッパH40内に侵入せずに、メダル補助タンクHSに落下するよう構成することによって、遊技場の管理者は脱着したビスBSを容易に回収することができる。

【1549】

<<ホッパH400>>

図260に示す例では、右側ビスBSが落下したときには、ホッパH40の外側（遊技者から見て右側側壁H48の右側）を通過して（矢印2A）メダル補助タンクHSに収納される。落下した右側ビスBSを、ホッパH40の内側を通過させずに、メダル補助タンクHSに収納させる構成とすることで、図257に示したホッパH40と共用することができる。

【1550】

一方、図260の破線で示すように、右側側壁H48を右側に延伸させた構造（右側側壁H480）のホッパH400を用いてもよい。ホッパH400には、右側側壁H480の近くの底部に、底部開口H410が形成されており、右側ビスBSが落下したときには、ホッパH400の内部を通過し、さらに底部開口H410を介して、メダル補助タンクHSに収納される。このように、底部開口H410を介することで、落下した右側ビスBSをホッパH40内に侵入させずに、的確にメダル補助タンクHSに案内することができる。

【1551】

<<延出部RU50>>

前述した例では、ビスBSが、脱落した場合には、そのまま下方のメダル補助タンクHSに向かって自由落下するものであった。これに対して、図258の破線で示すように、リールユニットRUや台座部BUの下部に延出部ENを設けてもよい。延出部ENを設けることで、ビスBSが、脱落した場合でも、直ちに落下せず、一旦、延出部ENによって案内した後に、メダル補助タンクHSに落下させることができる。このように、延出部ENによって、ビスBSが取り付けられる位置と、メダル補助タンクHSの位置との整合を図ることができ、メダル補助タンクHSを配置する位置の自由度を高めることができる。

【1552】

<<メダル補助タンクHSの構成>>

<満杯検知電極用貫通孔HS20>

図261に示すように、メダル補助タンクHSには、奥側の面に少なくとも2つの満杯検知電極用貫通孔HS20が形成されている。また、裏箱の背面の下部には、2本の満杯

10

20

30

40

50

検知電極 D E と、導通検出基板 C C (図 2 5 8 参照) とが設けられている。2 本の満杯検知電極 D E は、長尺な形状を有し、互いに平行にかつ水平に延在し、前方に向かって突出するように配置されている。メダル補助タンク H S の 2 つの満杯検知電極用貫通孔 H S 2 0 は、2 本の満杯検知電極 D E に対応して形成されている。メダル補助タンク H S を裏箱の底部に配置すると、2 本の満杯検知電極 D E は、対応する満杯検知電極用貫通孔 H S 2 0 を通過して、メダル補助タンク H S の内側に向かって突出する。

【1 5 5 3】

メダル補助タンク H S にメダルが貯留されていくに従って、貯留されている遊技メダルの最上部分 U L (図 2 6 2 (c) 参照) は、徐々に上昇して 2 本の満杯検知電極 D E に近づいていく。なお、図 2 6 2 (c) は、メダル補助タンク H S に遊技メダルが貯留されている状態を示す断面図である。図 2 6 2 (c) に示した最上部分 U L の線は、メダル補助タンク H S に貯留された遊技メダルのうち最上部分 U L に位置する遊技メダルの輪郭を結んだ線 (例えば、包絡線など) である (簡便のため、最上部分 U L を滑らかな曲線にて図示している)。メダル補助タンク H S に貯留されている遊技メダルが 2 本の満杯検知電極 D E に接触し、複数のメダルを介して 2 本の満杯検知電極 D E が導通すると、2 本の満杯検知電極 D E の間に電気回路が形成される。電気回路の形成により、導通検出基板 C C は、2 本の満杯検知電極 D E の間で導通したことを示す信号を出力する。このようにすることで、2 本の満杯検知電極 D E の位置まで遊技メダルが貯留された場合に、メダル満杯エラーを検出することができるよう構成されている。

【1 5 5 4】

なお、満杯検知電極 D E の数は、2 本だけでなく、3 本以上設けてもよい。例えば、3 本設ける場合には、前述した 2 本の満杯検知電極に加えて、当該 2 本の満杯検知電極の下方に 1 本の満杯検知電極を新たに設け、当該新たに設けた 1 本の満杯検知電極と、前述した 2 本の満杯検知電極のいずれか 1 本とが導通することによりメダル満杯エラーを検出することができるよう構成することができ、そのように構成することにより、メダル補助タンク H S に遊技メダルが均等に貯留されていない場合 (例えば、メダル補助タンク H S の右側に偏って遊技メダルが貯留されている場合) においても、メダル満杯エラーを検出することができることとなる。

【1 5 5 5】

<<ビス B S の素材及びメダルの素材>>

ビス B S の素材は、磁着可能で、かつ、導通可能なものである。例えば、鉄鋼材によって形成されている。また、メダルの素材は、磁着不可で、かつ、導通可能なものである。例えば、真鍮にメッキをしたものや、ステンレスによって形成されている。このように構成することにより、メダル補助タンク H S にビス B S が落下した場合においても、磁石等を用いることにより、簡便にメダル補助タンク H S からビス B S を取り出せることとなる。

【1 5 5 6】

<<ビス B S の全長 B L と 2 本の満杯検知電極 D E の間の距離 E L との関係>>

前述した左側ビス B S、中央ビス B S 及び右側ビス B S は、リールユニット R U を台座部 B U に取り付けるために用いられる。図 2 6 2 (b) は、ビス B S の全体を示す正面図である。このビス B S は、長手方向の全長 B L (図 2 6 2 (b) 参照) が、2 本の満杯検知電極 D E の間の距離 E L (図 2 6 2 (a) 参照) よりも短いものを用いる (ビス B S の全長 $B L < 2$ 本の満杯検知電極 D E の間の距離 $E L$)。このようにすることで、ビス B S (例えば、右側ビス B S) が脱落して、メダル補助タンク H S に入り込んだ場合であっても満杯検知電極 D E の間よりも短いため、ビス B S 単独で 2 本の満杯検知電極 D E と導通することはない (ビス B S が 2 本の満杯検知電極 D E に引っかかることがない)。なお、ビス B S の全長 B L は、頭部の厚み (長さ) と呼び長さとの和である。また、図 2 6 2 (a) は、メダル補助タンク H S の内部に満杯検知電極 D E が突出した状態を示すメダル補助タンク H S の奥側部分の平面図である。

【1 5 5 7】

<<ビス B S の座面の長さ H R と満杯検知電極 D E の直径 E D との関係>>

ビスBSの座面の径方向の長さHR（図262（b）参照）は、満杯検知電極DEの直径ED（図262（a）参照）よりも短い（ビスBSの座面の径方向の長さ $HR < \text{満杯検知電極DEの直径ED}$ ）。このようにすることで、ビスBSが脱落して、メダル補助タンクHSに入り込んだ場合であっても、ビスBSの頭部が、一方の満杯検知電極DEに掛止されることがなく、ビスBSが満杯検知電極DEと接触した場合であっても直ちに離脱することができ、ビスBS単独で偶然に導通することはない。

【1558】

特に、図262（c）に示すように、2本の満杯検知電極DEのうちの一方の満杯検知電極DE（例えば、図262（c）の右側の満杯検知電極DE）が既に貯留されているメダルと接触している状態（最上部分UL）となっており、他方の満杯検知電極DE（例えば、図262（c）の左側の満杯検知電極DE）とビスBSが一時的に接触するような場合が生じたとしても、ビスBSが満杯検知電極DEに掛止されることはなく、直ちにビスBSは満杯検知電極DEから離脱することができ（図262（c）の矢印F参照）、ビスBSを介して導通回路が形成されることはなく、メダル補助タンクHSの満杯状態を誤判断されることはない。

【1559】

なお、本例として、リールユニットRUとして、3つのリールの全てを収納する一体型ユニットである場合について説明したが、3つのリールの各々を別個に収納する別体型ユニットである場合でも、ビスBSによって台座部BUに着脱可能に取り付けられ、ビスBSが外れる可能性は同様に生ずる。このため、メダル補助タンクHSやビスBSなどの構成を同様に採用することができる。

【1560】

<<リール帯の構成>>

図263（a）は、リール帯MOの全体を示す正面図である。図263（b）は、リール帯MOを湾曲させた状態を示す斜視図である。図263（c）は、リール帯MOの切れ目M59の近くを拡大して示した拡大正面図である。図263（d）は、「白セブン」図柄の近くを拡大して示した拡大正面図である。なお、「白セブン」図柄はボーナス図柄であり、有効ライン上に「白セブン・白セブン・白セブン」が停止表示することによりBBが開始されることとなる。リール帯MOは、薄い板状の長尺な形状（帯状）を有する。前述したように、リール帯MOには、長手方向に沿って、複数の図柄が描かれている。リール帯MOは、可撓性を有し、湾曲させることができる。また、透光性を有し、回胴バックライトから発せられた光によって背面から図柄を照明することができる。

【1561】

リール帯MOの長手方向において第1の端部M55と第2の端部M57とを有する。第1の端部M55と第2の端部M57とが互いに向かい合うように湾曲させて、リール枠MWに取り付けることで環状（円筒状）のリールM50を形成する。リール枠MWは、主に、2本の同じ大きさの環状のフレームからなり、2本のフレームは、プラスチックなどの樹脂によって形成されて軽量化が図られている。2本のフレームは、互いに平行に、かつ双方の中心が同一の回転軸に位置するように配置されている。また、2本のフレームの間隔は、リール帯MOの幅と略同じになるように配置されている。2本のフレームの外周に沿って、2本のフレームの間にリール帯MOを貼付することで、リールM50を形成することができる。

【1562】

<重畳部分M58及び切れ目M59>

リール帯MOは、リール帯MOの長手方向の長さがリール枠MWの全周の長さよりも若干長く形成されている。このため、リール帯MOをリール枠MWに取り付けたときには、第1の端部M55及び第2の端部M57の近くでリール帯MOの一部が重なる部分（重畳部分M58）が生ずる。このようにすることで、周方向（リール帯MOの長手方向）に沿って間隙が生ずることなく、リール枠MWの全周に亘ってリール帯MOを取り付けることができる。また、リール帯MOをリール枠MWに取り付けたときには、リール帯MOの一

部が重なり、第1の端部M55によって切れ目M59が形成される。

【1563】

図263(c)に示すように、第2の端部M57の上側にリール帯MOが貼り付けられて、第1の端部M55によって切れ目M59が形成される。尚、このようにリール帯MOをリール枠MWに取り付ける場合には、まず、リール帯MOを貼り始める際に、第2の端部M57からリール枠MWに貼り始め、その後、リール枠MWをリールM50の回転方向と同じ向きに徐々に回転させながら、リール帯MOを第2の端部M57から第1の端部M55に向かってリール枠MWの一周に沿って貼っていき、最後に、第2の端部M57の上側にリール帯MOを貼って、第1の端部M55まで貼り終わる。このような順序でリール帯MOを貼った場合には、第1の端部M55は、リールM50の回転方向とは逆向きに向かって貼り終わることとなり、リール帯MOの上に第1の端部M55が重なった状態となる。

10

【1564】

一方、リール帯MOを第1の端部M55からリール枠MWに貼り始め、その後、リール枠MWをリールM50の回転方向と逆向きに徐々に回転させながら、リール帯MOを第1の端部M55から第2の端部M57に向かってリール枠MWの一周に沿って貼っていき、最後に、第1の端部M55の上側にリール帯MOを貼って、第2の端部M57まで貼り終わる。このような順序でリール帯MOを貼った場合には、第2の端部M57は、リールM50の回転方向と同じ向きに向かって貼り終わることとなり、リール帯MOの上に第2の端部M57が重なった状態となる。

20

【1565】

ここで、リール帯MOを第1の端部M55からリール枠MWに貼り始め、その後第2の端部M57をリールM50の回転方向と同じ向きに向かって貼り終わり、リール帯MOの上に第2の端部M57が重なった状態となった場合においては、遊技を実行してリールM50が回転したときに、第2の端部M57の断面に空気が接触することで（空気抵抗が大きく）、第2の端部M57とその下側のリール帯MOとの間に空気が入り込みやすくなり、第2の端部M57近傍のリール帯MOが徐々に剥がれやすい状態となる。

【1566】

これに対して、リール帯MOを第2の端部M57からリール枠MWに貼り始め、その後第1の端部M55をリールM50の回転方向とは逆向きに向かって貼り終わり、リール帯MOの上に第1の端部M55が重なった状態となった場合においては、遊技を実行してリールM50が回転したときに、前述したリール帯MOの上に第2の端部M57が重なった状態と比較して、第1の端部M55の断面に空気が接触しにくく（空気抵抗が小さく）、第1の端部M55とその下側のリール帯MOとの間には空気が入り込みにくく、第1の端部M55近傍のリール帯MOが剥がれにくい状態となる。

30

【1567】

以上から、リール帯MOをリール枠MWに貼る際には、リール帯MOを第2の端部M57からリール枠MWに貼り始め、その後第1の端部M55をリールM50の回転方向とは逆向きに向かって貼り終わり、リール帯MOの上に第1の端部M55が重なった状態とすることが好適である。

40

【1568】

<各種の誤差>

このように、リール帯MOをリール枠MWに取り付けたときには、第1の端部M55と第2の端部M57との間に重畳部分M58が形成され、第1の端部M55又は第2の端部M57のいずれかの端部によって切れ目M59が形成される。前述したリール枠MWは、プラスチックなどの樹脂で形成されているため、成形の際に誤差が生ずる場合がある。また、リール枠MWを組み立てる際に変形して誤差が生ずる場合もある。さらに、リール帯MOは、可撓性を有するため、リール帯MOをリール枠MWに取り付ける際に、リール帯MOに歪みなどが生じたままの状態に取り付けられたり、リール枠MWの大きさ（外周）が設計値とは若干異なる状態に取り付けられる場合もある。重畳部分M58の下側のリー

50

ル帯MOに大きい図柄（例えば、「白セブン」）が位置するよう構成した場合には、これらの各種の誤差のために、リール帯MOの取り付け位置が、所望している位置からずれた場合に、当該大きい図柄に、重畳部分M58の上側のリール帯MOが重なることで、上側のリール帯MOによって、当該大きい図柄が覆われてしまうことも想定される。

【1569】

また、遊技者は、遊技状態に応じて、ボーナス図柄を狙って目押しをすることがあり、ボーナス図柄を切れ目M59の近くに配置した場合には、ボーナス図柄を狙って目押しをするときや、ボーナス図柄を停止させたときなどには、ボーナス図柄を視認する際に切れ目M59も視認させてしまう可能性がある。前述したような各種の誤差が生じていた場合には、図柄だけでなく、切れ目M59のずれや図柄の位置のずれなども遊技者に視認させてしまうことも想定される。ボーナス図柄が図柄組み合わせとして停止表示した場合には、遊技者にとって高利益となる図柄組み合わせであるため、遊技者は喜びと共にボーナス図柄に注目することとなるが、その場合に切れ目M59のずれや図柄の位置のずれなどを視認してしまうと、ボーナス図柄となる図柄組み合わせが停止表示された喜びが減少してしまう可能性がある。

【1570】

<ボーナス図柄の場合>

このようなことを防止するために、切れ目M59に最も近い位置には、ボーナス図柄などの最も大きい図柄よりも小さい図柄が配置される。具体的には、図柄の長手方向（リール帯MOの長手方向）の長さが最も長い図柄（ボーナス図柄など）の長手方向の長さをLLとした場合に、長手方向の長さがLLよりも短い図柄（長手方向の長さSL）を、第1の端部M55と第2の端部M57との双方に最も近い位置に配置する。

【1571】

このように、長手方向の長さが短い図柄を第1の端部M55及び第2の端部M57に最も近い位置に配置することで、各種の誤差が生じた場合であっても、これらの図柄は、重畳部分M58（切れ目M59）から離隔した位置に配置することができ、リール帯MOによって図柄が覆われることを防止することができる。さらに、前述した各種の誤差が生じていた場合であっても、切れ目M59のずれや図柄の位置のずれなどを遊技者に視認させることも防止することができる。尚、同図においては、ベル図柄（ベルに対応する図柄組み合わせを構成し得る図柄）の長手方向の長さとチェリー図柄（チェリーに対応する図柄組み合わせを構成し得る図柄）の長手方向の長さとを同一のSLとして図示しているが、ボーナス図柄（白セブン）の長手方向の長さであるLLよりも短ければ、ベル図柄の長手方向の長さとチェリー図柄の長手方向の長さとを相違させても問題ない。また、切れ目M59の近傍に配置する図柄は、ベル図柄とチェリー図柄のみには限定されず、ボーナス図柄でなければよく、例えば、再遊技図柄（再遊技に対応する図柄組み合わせを構成し得る図柄）やスイカ図柄（スイカに対応する図柄組み合わせを構成し得る図柄）を切れ目M59の近傍に配置するよう構成してもよい。また、本例においては、ボーナス図柄（白セブン）の長手方向の長さと、切れ目M59近傍に位置する図柄（例えば、ベル図柄）の長手方向の長さとを比較したが、これには限定されず、ボーナス図柄（白セブン）の短手方向の長さが、切れ目M59近傍に位置する図柄（例えば、ベル図柄）の短手方向の長さよりも長くなるよう構成してもよい。

【1572】

前述した例では、図柄の長手方向の長さが最も長い図柄（ボーナス図柄など）の長手方向の長さをLLと、長手方向の長さがLLよりも短い図柄の長手方向の長さSLとの比較で図柄の配置を決定したが、短手方向（リール帯MOの長手方向に対して垂直な方向）の長さをLTと、短手方向の長さがLTよりも短い図柄の短手方向の長さSTとの比較で図柄の配置を決定してもよい。

【1573】

前述した長手方向の長さLL及びSLは、長手方向に沿って上側に最も突出した図柄の部分と下側に最も突出した図柄の部分との差の長さである。同様に、短手方向の長さLT

及びSTは、短手方向に沿って上側に最も突出した図柄の部分と下側に最も突出した図柄の部分との差の長さである。

【1574】

＜小役図柄の場合＞

さらに、ボーナス図柄のほかに、スイカ図柄やチェリー図柄等、当選していても停止ボタンの操作タイミングによっては有効ラインに停止表示しない図柄、換言すると、最大すべりコマ数以上に離れて配置されている箇所が少なくとも1か所以上存在する図柄（レア役に対応する図柄、取りこぼしが発生し得る図柄、等と称することがある）も目押しの対象になる図柄となり、遊技者が視認しようとする図柄である。また、レア役に当選したゲームにて、停止ボタンを操作する前に当該レア役への当選を報知しない場合があり、そのような場合においても遊技者はレア役を入賞させたいため、最もレア役を取得しやすい（最も遊技者にとって高利益となる）停止ボタンの操作タイミング（操作態様）にて停止ボタンを操作することが多い。尚、入賞した場合に1枚等少ない払出枚数となる入賞役を多数有している遊技機も存在し、そのような場合には、最も遊技者にとって高利益となる停止ボタンの操作タイミング（操作態様）にて停止ボタンを操作することが多い。尚、最も遊技者にとって高利益となる停止ボタンの操作タイミング（操作態様）にて停止ボタンを操作することを、最適遊技方法と称することがある。

【1575】

ここで、図264を参照して、最適遊技方法にて遊技を実行する際の切れ目M59との関係の一例を以下に詳述する。尚、図264に例示する遊技機においては、有効ラインは、左リール上段・中リール上段・右リール上段（上段一直線）と、左リール中段・中リール中段・右リール中段（中段一直線）と、左リール下段・中リール下段・右リール下段（下段一直線）と、左リール上段・中リール中段・右リール下段（右下がり一直線）と、左リール下段・中リール中段・右リール上段（右上がり一直線）と、の5ラインであり、規定数を3枚として構成している。また、レア役として、スイカ役とチェリー役とを有しており、スイカ役が入賞する場合には有効ライン上に「スイカ・スイカ・スイカ」が一直線に停止表示し、チェリー役が入賞する場合には有効ライン上に「チェリー・any・any」（anyはいずれの図柄でもよい旨を示している）が一直線に停止表示するよう構成されている。また、スイカ図柄とチェリー図柄とはいずれもレア役であるので、最大すべりコマ数以上に離れて配置されている箇所が少なくとも1か所以上存在する図柄となっている。

【1576】

図264は、リール帯MOの一部を拡大して示した拡大正面図である。尚、同図においては、左リールについてのみ例示している。図264に示す例では、リール帯MOに、スイカ、ベル、リプレイ、BAR、チェリーの順に配置され、かつ、これらの図柄は、第1の端部M55や第2の端部M57から離れた位置に配置されている。遊技者は、レア役が当選した場合に、当該レア役の当選を察知し易く、且つ、当該レア役を入賞させ易いリール上の位置を狙って停止ボタンを操作する場合が多く、レア役であるスイカ役又はチェリー役に当選した場合に、前述した最適遊技方法にて遊技することで当該レア役を入賞させることができることとなる。具体的には、当該レア役を入賞させることができる停止ボタンの操作タイミングとして、チェリー図柄が上段に位置しているタイミングからチェリー図柄が下段に位置しているタイミングまでの3コマの間に停止ボタンを操作することによって、スイカ役とチェリー役のいずれに当選した場合も入賞させることができる。このような操作タイミング（最適遊技方法）で停止ボタンを操作した場合には、チェリー図柄が上段～スイカ図柄が下段までの9コマの範囲が停止表示され得る範囲となっており、同図に示すように、当該9コマのいずれの範囲が停止表示された場合においても（9通りの停止表示態様のいずれとなっても）、第1の端部M55や第2の端部M57から離れた位置に配置されており（スイカの2コマ上に配置されている図柄の近傍に切れ目M59はなく、チェリーの2コマ下に配置されている図柄の近傍にも切れ目M59はない）、切れ目M59のずれや図柄の位置のずれなどを遊技者に視認させることを防止することができる。

【1577】

同図に示すように、前記レア役を入賞させ易いリール上の位置を狙って停止ボタンを操作した場合に停止表示し得る図柄を、第1の端部M55や第2の端部M57の近傍に設けないよう構成することにより、リールにおける頻繁に停止表示される位置に第1の端部M55や第2の端部M57が位置しないよう構成することができ、切れ目M59のずれや図柄の位置のずれなどが生じている場合にも、切れ目M59のずれや図柄の位置のずれが遊技者に視認され難くなるよう構成することができる。

【1578】

尚、本例におけるリールの1周分のステップ数は336ステップとなっており、1つのリールに配置されている図柄数は20図柄（20コマ）となっている。ここで、 $336 \div 20 = 16$ 余り16となっているため、20コマ（図柄）の振り分けとして、17ステップのコマ（図柄）が16個と16ステップのコマ（図柄）が4個とで1つのリールは構成されている。また、切れ目M59はできるだけ遊技者に視認されないよう構成した方が、見栄えが良く好適であるため、切れ目M59と隣接しているコマ（図柄）は、相対的にステップ数の少ない16ステップとすることが好適である。

【1579】

尚、本例における回胴式遊技機の構成として、一般的な回胴式遊技機で用いられる実体的な遊技メダルを投入・払出する必要がなく、データ化された擬似的な遊技媒体を用いて遊技進行が可能とするよう構成してもよい。また、そのように構成した場合、実体的な遊技メダルを投入・払出する必要がない分だけ、回胴式遊技機内部への不正アクセスの防止効果を上げたり（例えば、遊技メダルの投入開口部や払出開口部を有さない、前面扉と裏箱とが一体化されている等により、異物が挿入される間隙を封鎖する）、不正な遊技メダルが使用される危険性を低下させたり、といった不正行為（いわゆるゴト行為）に対するセキュリティ性も向上させるよう構成することができる（封入式の回胴式遊技機と称することがある）。尚、封入式の回胴式遊技機の構成は、前述したいずれの実施形態（又は構成）にも適用可能であることを補足しておく。尚、前記クレジット及びクレジット数表示装置D200を有していないよう構成してもよく、例えば、前記クレジット及び総得点（合計の得点）を1つの総得点として纏めて、主制御基板M、払出制御基板H（遊技価値制御基板、遊技価値制御手段とも称することがある）、又はその他の基板にて、当該総得点の増減処理や表示処理を実行してもよい。

【1580】

また、一般的な回胴式遊技機で用いられる実体的な遊技メダルに相当し、封入式の回胴式遊技機で遊技を行うために用いられる擬似的な遊技媒体として「得点」を有するよう構成してもよい。なお、「得点」を「得点情報」、「持ち点」、「持ち点情報」、「遊技価値」、「遊技価値情報」と称することもある。物理的に実在する実体的な遊技メダルは、遊技者が直接に手にして取り扱うことができる。これに対して、封入式の回胴式遊技機では、遊技者が実体的な遊技メダルを直接に扱うことなく遊技を進めることができる。得点は、実体的な遊技メダルではなく、主制御基板等のCPUが演算処理できるようにデータ化された擬似的な遊技媒体である。また、「クレジット」とは、得点のうち、ベット可能な状態又は精算可能な状態に一時的に貯留するための得点であり、主に主制御基板Mで管理されるデータである。また、「総得点」とは、封入式の回胴式遊技機に投入し得るすべての得点であり、主制御基板や払出制御基板にて管理されるデータとしてもよい。「総得点」は、実体的な遊技メダルを用いる一般的な回胴式遊技機のメダル受け皿に載せられている遊技メダルの数に相当する。尚、封入式の回胴式遊技機の構成を前述した実施形態に適用する場合には、本明細書内において「遊技メダル」と称しているものを、「得点」、「得点情報」、「持ち点」、「持ち点情報」、「遊技価値」、「遊技価値情報」等として扱うことは何等問題なく、適宜、「得点」、「得点情報」、「持ち点」、「持ち点情報」、「遊技価値」、「遊技価値情報」として称することに何ら問題無い。尚、「クレジット」を有していなくてもよい。また、クレジット数表示装置を、総得点表示装置として置き換えることも問題ない。

【1581】

(第2実施形態)

尚、本実施形態においては、遊技者に有利なATに関する状態としてAT中状態等を有するよう構成し、AT中状態（いわゆるAT）では押し順ナビを実行することにより、遊技者に有利な状態を設けると共に、遊技の興趣性を向上したが、ATを実行可能な遊技機の構成としては、本実施形態の構成には限定されない。そこで、本実施形態の構成とは異なるATを実行可能な回胴式遊技機の構成を第2実施形態として、以下、本実施形態との相違点についてのみ詳述する。

【1582】

はじめに、図265は、第2実施形態における、図209のステップ1200のサブルーチンに係る、遊技進行制御処理（3枚目）のフローチャートである。同図における本実施形態との相違点は、ステップ4100（第2）及びステップ4200（第2）であり、即ち、ステップ1450で、前述した条件装置番号管理処理を実行した後、ステップ4100（第2）で、主制御基板MのCPUMCは、後述する、回転開始時フリーズ実行判定処理を実行し、ステップ1550に移行する。

【1583】

また、ステップ1750で、前述したAT中状態開始制御処理を実行した後、ステップ4200（第2）で、主制御基板MのCPUMCは、後述する停止時フリーズ実行判定処理を実行し、ステップ3500に移行する。詳細は後述することとなるが、第2実施形態においては、リールの回転開始時（スタートレバーD50操作時）と、リールの停止時（最終リールの停止時、第3リールの停止時）にフリーズ（所定時間リールが回転開始しない、所定時間次の遊技に係るベット操作が実行できない）が発生し得るよう構成されている。

【1584】

次に、図266は、第2実施形態における、図265のステップ4100（第2）のサブルーチンに係る、回転開始時フリーズ実行判定処理のフローチャートである。まず、ステップ4102で、主制御基板MのCPUMCは、当該ゲームからATに関する状態が新たに「AT中状態」となったか否かを判定する。ここで、「新たにAT中状態となった」とは、AT抽選に当選した後、初めてATに関する状態が「AT中状態」となった場合（AT初当たりとも称することがある）であり、一例としては、（1）「高確率状態」にてBBに当選する→「有利BB内部中状態」に移行→BB図柄（ボーナス図柄）が停止表示し、「有利BB状態」に移行→BBが終了し、新たに「AT中状態」に移行、（2）「高確率状態」にてチェリーに当選した場合に1/2でAT抽選に当選する、且つAT抽選に当選した後は前兆状態（AT抽選に当選しているか否かに係る期待感を遊技者に抱かせるためのATに関する状態であり、チェリーの当選に係るAT抽選に当選しなかった場合においても、「前兆状態」と同様の演出態様（背景演出等）である「ガセ前兆状態」を有するよう構成してもよい）に移行するよう構成した場合においては、「高確率状態」にてチェリーに当選し、チェリーの当選に基づくAT抽選に当選したため、「前兆状態」に移行する→「前兆状態」の終了条件となる所定ゲーム数が実行されたため、新たに「AT中状態」に移行する、等の遊技状態遷移が「新たにAT中状態となった」に該当することとなる。一方、「新たにAT中状態となった」に該当しない場合の一例としては、（1）「AT中状態」に滞在している→ATカウンタ値が0となったため「AT継続バトル状態」（「AT中状態」に再度移行する（連荘する）可能性がある状態）に移行する→再度「AT中状態」に移行する、（2）「AT中状態」にてBBに当選する→「有利BB内部中状態」に移行→BB図柄（ボーナス図柄）が停止表示し、「有利BB状態」に移行→BBが終了し、再度「AT中状態」に移行、等の遊技状態遷移は「新たにAT中状態となった」に該当しないこととなる。

【1585】

フローチャートの説明に戻ると、ステップ4102でYesの場合、ステップ4104で、主制御基板MのCPUMCは、AT開始フリーズ実行フラグ（オンとなることでリー

10

20

30

40

50

ル回転開始時にフリーズが実行されることとなるフラグ)をオンにする。次に、ステップ4106で、主制御基板MのCPUMCは、AT開始フリーズ実行コマンド(副制御基板S側へのコマンドであり、当該コマンドを副制御基板S側が受信することにより、副制御基板S側にて、AT開始演出が実行されることとなる)をセットし、次の処理(ステップ1550の処理)に移行する。尚、ステップ4102でNoの場合にも、次の処理(ステップ1550の処理)に移行する。尚、同図にて例示しているフリーズはあくまで一例であり、様々な種類(実行条件や実行時間)のフリーズを有するよう構成しても問題ない。

【1586】

次に、図267は、第2実施形態における、図265のステップ1550のサブルーチンに係る、リール回転開始準備処理のフローチャートである。本実施形態との相違点は、ステップ1568(第2)～ステップ1574(第2)であり、即ち、ステップ1568(第2)で、主制御基板MのCPUMCは、AT開始フリーズ実行フラグがオンであるか否かを判定する。ステップ1568(第2)でYesの場合、ステップ1570(第2)で、主制御基板MのCPUMCは、AT開始フリーズ実行フラグをオフにする。次に、ステップ1572(第2)で、主制御基板MのCPUMCは、フリーズ実行タイマ(デクリメントタイマであり、新たに「AT中状態」となった場合に実行されるフリーズの実行時間と「AT中状態」が終了する際に実行されるフリーズの実行時間とを計測するためのタイマ)に、開始時フリーズ実行時間(本例では、5秒であり、新たに「AT中状態」となった場合に実行されるフリーズの実行時間)をセットして当該タイマをスタートし、ステップ1574(第2)に移行する。次に、ステップ1574(第2)で、主制御基板MのCPUMCは、フリーズ実行タイマのタイマ値が0となったか否かを判定する。ステップ1574(第2)でYesの場合には、ステップ1552に移行する。他方、ステップ1574(第2)でNoの場合、「AT中状態」開始時のフリーズの実行時間が経過するまで、ステップ1574(第2)の処理を繰り返し実行する。尚、ステップ1568(第2)でNoの場合にも、ステップ1552に移行する。

【1587】

このように、第2実施形態においては、新たに「AT中状態」が開始された場合にフリーズ(AT開始時のフリーズと称することがある)が実行されるよう構成されており、詳細は後述することとなるが、フリーズ実行中においては、副制御基板S側にてAT開始演出が実行されることとなる。本例においては、AT開始時のフリーズの実行時間を5秒としたが、当該実行時間は変更しても問題なく、AT開始演出の実行時間に合わせて設定することが好適である。尚、本例においては、後述するAT終了時のフリーズ実行時間は3秒となっており、AT終了時のフリーズ実行時間よりもAT開始時のフリーズ実行時間の方が長時間となるよう構成されている。このように、今後遊技者に有利な状況となるAT開始時のフリーズ実行時間をAT終了時のフリーズ実行時間よりも相対的に長時間とすることにより、遊技者の遊技意欲を高める興趣性の高い遊技機とすることができる。

【1588】

次に、図268は、第2実施形態における、図268のステップ4200(第2)のサブルーチンに係る、停止時フリーズ実行判定処理のフローチャートである。まず、ステップ4202で、主制御基板MのCPUMCは、当該ゲームにてATカウンタ値が新たに0となったか否かを判定する。「ATカウンタ値が新たに0となった」とは、「AT中状態」などのATカウンタ値が減算していく状況にて、ATカウンタ値が「1→0」となった場合であり、ATに関する状態が「通常遊技状態」である状況等の、ATカウンタ値が常に0である場合は含んでいない。

【1589】

フローチャートの説明に戻ると、ステップ4202でYesの場合、ステップ4206に移行する。他方、ステップ4202でNoの場合、ステップ4204で、主制御基板MのCPUMCは、当該ゲームにて、有利区間残りゲーム数カウンタ値が新たに0となったか否かを判定する。「有利区間残りゲーム数カウンタ値が新たに0となった」とは、「AT中状態」などの有利区間残りゲーム数カウンタ値が減算していく状況にて、有利区間残

10

20

30

40

50

りゲーム数カウンタ値が「1→0」となった場合であり、ATに関する状態が「通常遊技状態」である状況等の、有利区間残りゲーム数カウンタ値が常に0である場合は含んでいない。ステップ4204でYesの場合、ステップ4206に移行することとなる。次に、ステップ4206で、主制御基板MのCPUMCは、フリーズ実行タイマ（デクリメントタイマであり、新たに「AT中状態」となった場合に実行されるフリーズの実行時間と「AT中状態」が終了する際に実行されるフリーズの実行時間とを計測するためのタイマ）に、終了時フリーズ実行時間（本例では、3秒であり、「AT中状態」が終了する場合に実行されるフリーズの実行時間）をセットして当該タイマをスタートする。次に、ステップ4208で、主制御基板MのCPUMCは、AT終了フリーズ実行コマンド（副制御基板S側へのコマンドであり、当該コマンドを副制御基板S側が受信することにより、副制御基板S側にて、AT終了演出が実行されることとなる）をセットし、ステップ4210に移行する。次に、ステップ4210で、主制御基板MのCPUMCは、フリーズ実行タイマのタイマ値が0であるか否かを判定する。ステップ4210でYesの場合には、次の処理（ステップ3500の処理）に移行する。他方、ステップ4210でNoの場合、「AT中状態」終了時のフリーズの実行時間が経過するまで、ステップ4210の処理を繰り返し実行する。尚、ステップ4204でNoの場合には、次の処理（ステップ3500の処理）に移行する。

【1590】

次に、図269は、第2実施形態における、AT開始演出実行イメージ図である。同図においては、AT開始演出を実行途中で電源断が発生しなかった場合と電源断が発生した場合との一例を詳述することとする。

【1591】

まず、同図における（a）にて、AT開始演出の実行途中で電源断が発生しなかった場合について詳述する。まず、ATに関する状態が新たに「AT中状態」となるゲームに係るスタートレバーD50が操作された（ゲームの開始条件を充足した）ことにより、AT開始演出が実行開始されると共に、フリーズが実行される。また、AT開始演出の演出態様として、演出表示装置S40に「ワープ実行！」と1秒間表示される（AT開始演出の実行中は、常時AT開始演出実行時専用の背景演出が実行される）。尚、本例においては、AT開始演出及びフリーズの実行時間は5秒となっている。その後、フリーズ開始から1秒が経過し、演出表示装置S40にて「ワープ実行！」との表示が消去される。尚、AT開始演出実行時専用の背景演出のみが演出表示装置S40に表示されている状態は3秒間維持することとなる。その後、フリーズの実行開始から4秒経過すると、AT開始演出の演出態様として、演出表示装置S40に「AT50G START!!」と1秒間表示される。その後、フリーズの実行開始から5秒が経過すると、フリーズの実行が終了すると共に、AT開始演出の実行が終了し、リールの回転が開始されることとなる。尚、AT開始演出の実行が終了した場合には、演出表示装置S40の「AT50G START!!」の表示が消去されると共に、AT開始演出実行時専用の背景演出から、AT中状態にて表示可能な背景演出に切り替わることとなる。また、AT中状態の1ゲーム目にて、前述した押し順ナビが実行される場合には、（1）フリーズが実行開始→5秒経過したことによりフリーズが終了→リールが回転開始すると共に演出表示装置S40にて押し順ナビを表示、（2）フリーズが実行開始→5秒経過したことによりフリーズが終了→リールが回転開始→リール駆動状態がリール定速状態になると共に演出表示装置S40にて押し順ナビを表示、のように構成してもよい。このように構成することにより、フリーズの実行によってリールの回転開始タイミングが従来よりも遅いタイミングとなった場合においても、遊技者が誤って正解の押し順と異なる押し順に対応した停止ボタンを操作してしまう事態を防止することができる。

【1592】

次に、同図における（b）にて、AT開始演出の実行途中で電源断が発生した場合について詳述する。まず、ATに関する状態が新たに「AT中状態」となるゲームに係るスタートレバーD50が操作された（ゲームの開始条件を充足した）ことにより、AT開始演出

出が実行開始されると共に、フリーズが実行される。また、A T開始演出の演出態様として、演出表示装置 S 4 0 に「ワープ実行！」と 1 秒間表示される（A T開始演出の実行中は、常時 A T開始演出実行時専用の背景演出が実行される）。尚、本例においては、A T開始演出及びフリーズの実行時間は 5 秒となっている（電源断中の時間は除く）。その後、フリーズ開始から 1 秒が経過し、演出表示装置 S 4 0 にて「ワープ実行！」との表示が消去される。尚、A T開始演出実行時専用の背景演出のみが演出表示装置 S 4 0 に表示されている状態は 3 秒間維持することとなる。その後、フリーズの実行開始から 2 秒経過した時点で、電源断が発生する（例えば、遊技場が停電する）。その後、電源が復帰すると、演出表示装置 S 4 0 に「A T 5 0 G S T A R T !!」と 3 秒間表示されると共に、フリーズが実行されたままとなる。その後、電源断中をのぞいたフリーズの実行開始からの合計の時間が 5 秒となった場合に、フリーズの実行が終了すると共に、A T開始演出の実行が終了し、リールの回転が開始されることとなる。このように、本例においては、フリーズの実行中（A T開始演出の実行中）に電源断が発生し、その後電源断から復帰した場合においては、フリーズの実行時間は電源断発生前の状態から継続して実行することとなる。一例としては、フリーズの実行時間が 5 秒である場合において、フリーズの実行開始から 1 秒後に電源断が発生した場合には、電源復帰後から 4 秒間フリーズが実行されることとなり、フリーズの実行開始から 3 秒後に電源断が発生した場合には、電源復帰後から 2 秒間フリーズが実行されることとなる。

【1593】

また、A T開始演出の実行時間もフリーズの実行時間と同様に、A T開始演出の実行中に電源断が発生し、その後、電源断から復帰した場合においては、A T開始演出の実行時間は電源断発生前の状態から継続して実行することとなる。一方、A T開始演出の演出態様は A T開始演出の実行中に電源断が発生した場合と電源断が発生しなかった場合とで相違することとなり、具体的には、A T開始演出の実行中に電源断が発生しなかった場合においては、A T開始演出の実行開始から 4 秒が経過したタイミングにて、「A T 5 0 G S T A R T !!」と演出表示装置 S 4 0 に表示される一方、A T開始演出の実行中に電源断が発生した場合においては、電源断の発生タイミングに拘わらず、電源断からの復帰後に、「A T 5 0 G S T A R T !!」と演出表示装置 S 4 0 に表示されることとなる。尚、「A T 5 0 G S T A R T !!」との表示を、A T開始時ゲーム数表示と称することがある。また、同図においては、A T開始時ゲーム数表示として、A T開始時の（A T中状態開始時の）A T残りゲーム数が 5 0 ゲームである旨を報知するよう図示しているが、表示態様はこれには限定されず、例えば、A T中状態に移行する直前に実行された「有利 B B 状態」にて A Tゲーム数上乘せ抽選を実行可能に構成した場合においては、当該「有利 B B 状態」における A Tゲーム数上乘せ抽選の当選にて獲得した A T残りゲーム数を A T初期ゲーム数である 5 0 ゲームに上乘せした A T残りゲーム数を、A T開始時ゲーム数表示として演出表示装置 S 4 0 に表示するよう構成してもよい。一例としては、「有利 B B 状態」における A Tゲーム数上乘せ抽選によって 3 0 ゲームの A T残りゲーム数を獲得した場合には、A T開始時ゲーム数表示として、「A T 8 0 G S T A R T !!」と表示するよう構成してもよい。尚、同図においては、A T開始演出についてのみ例示したが、A T終了演出についても同様に、A T終了演出の演出態様は A T終了演出の実行中に電源断が発生した場合と電源断が発生しなかった場合とで相違するよう構成されている（例えば、A T終了演出の実行中に電源断が発生しなかった場合においては、A T終了演出の開始から 2 秒後に「A T終了 G E T O O」と表示される一方、A T終了演出の実行中に電源断が発生した場合においては、電源断の発生タイミングに拘わらず、電源断からの復帰後に「A T終了 G E T O O」と表示される）。また、A T開始演出又は A T終了演出の実行中に表示される演出であり、且つ A T開始演出又は A T終了演出の実行中に電源断が発生した場合に、電源断復帰後には即時表示される演出であれば、A T開始時ゲーム数表示には限定されず、遊技者が視認できることで遊技をスムーズに進行できる表示であれば問題ない。

【1594】

以上のように構成することにより、第2実施形態に係る遊技機によれば、新たにA T中状態に移行した場合と、A T中状態が終了する場合とで、フリーズを実行可能に構成すると共に、新たにA T中状態に移行した場合におけるフリーズ実行中にはA T開始演出を実行し、A T中状態が終了する場合におけるフリーズ実行中にはA T終了演出を実行するよう構成した。このように構成した場合において、A T開始演出又はA T終了演出の実行中に電源断が発生した場合、電源断の復帰後には、A T開始演出又はA T終了演出における所定のタイミングから表示される予定の表示を、電源断復帰後に即時に表示するよう構成することによって、フリーズの実行中に意図しない電源断（例えば、遊技場の停電等）が発生した場合においても、A T残りゲーム数等の、遊技者が遊技の状況を把握するために必要な情報を即座に表示するよう構成することにより、遊技者が遊技の状況を把握できなくなる事態を防止することができる。

10

【1595】

尚、第2実施形態においては、新たにA T中状態に移行した場合と、A T中状態が終了する場合とで、フリーズを実行可能に構成したが、フリーズの実行態様はこれには限定されず、B B開始時やB B終了時等に実行し得るよう構成してもよいし、当選した条件装置や滞在している遊技状態に基づいて実行し得るよう構成してもよい。

【1596】

尚、上述した本例に係る回胴式遊技機におけるフリーズに関する構成から、フリーズの実行中に電源断が発生しなかった場合のフリーズの実行期間＝A
フリーズの実行中に電源断が発生した場合の、電源断が発生するまでのフリーズの実行期間＝B
フリーズの実行中に電源断が発生した場合の、電源断が発生した後のフリーズの実行期間＝C

20

とした場合、

$$A = B + C$$

となるよう構成されている。

【1597】

尚、A T開始演出に係るフリーズが実行終了すると、前述したリール加速処理が実行されることとなる。

【1598】

<<<<本例に適用可能な構成2>>>>

30

本例に係る回胴式遊技機に適用可能な構成を以下に詳述する。尚、以下に詳述するいずれの構成も、前述したすべての実施形態に適用可能であり、以下に詳述する1の構成を適用してもよいし、以下に詳述する複数の構成を適用してもよいことを補足しておく。

【1599】

<<<ランプユニットの構成>>>

まず、図270及び図271を用いて、本例に係る遊技機に適用可能なランプユニット（装飾ランプユニットD150とLEDランプユニットS10との総称）の点灯に関する構成を詳述する。

【1600】

40

図270は、ランプユニット点灯構成イメージである。同図においては、本例に係る遊技機に適用可能なランプユニットの点灯に関する構成を詳述する。尚、同図に図示する各項目はあくまで一部の抜粋であり、例えば、要素1の欄に図示されている項目は、「赤色」～「色なし」の8個のみには限定されない。まず、図270に示すように、ランプユニットの点灯に関する要素として、要素1～要素6の6種類の要素を有している。

【1601】

<要素1>

要素1は点灯色となっており、「赤色」、「青色」、「緑色」、「白色」、「赤色＋緑色」、「青色＋緑色」、「青色＋白色」、「色なし」の8種類の点灯色を要素1として有している。尚、本例に係るランプユニットは複数のLEDから構成されており、点灯色が

50

「赤色」の場合は、すべてのＬＥＤが赤色にて点灯することを示しており、点灯色が「赤色＋青色」の場合は、合計のＬＥＤの個数であるＮ個のＬＥＤのうち、Ｍ個のＬＥＤが赤色にて点灯し、Ｌ個のＬＥＤが青色にて点灯することを示している（ $N = M + L$ ）。尚、赤色にて点灯するＬＥＤと青色にて点灯するＬＥＤの順序の組み合わせは１通りのみであってもよいし、複数通りであってもよい（複数通り設ける場合には、点灯色として、「赤色＋青色１」、「赤色＋青色２」のように点灯色を複数設けてもよい）。また、「色なし」は消灯（非点灯）を示しており、常時消灯となる場合に選択される点灯色となっている。尚、前述したように、同図における要素１～要素６を構成する項目の数はあくまで一部の抜粋であり、要素１においては、「赤色＋青色＋緑色」等、３つ以上の色を組み合わせた点灯色を有するよう構成しても問題ない。

10

【１６０２】

<要素２>

要素２は点灯時間となっており、「０．１秒」、「０．２秒」、「０．３秒」、「１秒」、「３秒」、「常時」、「点灯なし」の７種類の点灯時間を要素２として有している。尚、「常時」は、常時点灯となる場合に選択される点灯時間となっており、「点灯なし」は、常時消灯となる場合に選択される点灯時間となっている。

【１６０３】

<要素３>

要素３は消灯時間となっており、「０．１秒」、「０．２秒」、「０．３秒」、「１秒」、「３秒」、「常時」、「消灯なし」の７種類の消灯時間を要素３として有している。尚、「常時」は、常時消灯となる場合に選択される点灯時間となっており、「消灯なし」は、常時点灯となる場合に選択される消灯時間となっている。

20

【１６０４】

<要素４>

要素４は、点灯時間パターンとなっており、点灯時間パターンは、要素２である点灯時間と要素３である消灯時間とを組み合わせ構成されており、「０．１秒点灯→０．１秒消灯」、「０．１秒点灯→０．３秒消灯」、「０．２秒点灯→０．３秒消灯」、「１秒点灯→０．１秒消灯」、「３秒点灯→０．３秒消灯」、「常時点灯」、「常時消灯」の７種類の点灯時間パターンを要素４として有している。点灯時間パターンの一例としては、「０．１秒点灯→０．１秒消灯」の場合、要素２である「０．１秒」の点灯時間と要素３である「０．１秒」の消灯時間とを組み合わせ構成されている。尚、「常時点灯」は、常時点灯となる場合に選択される点灯時間パターンであり、要素２である「常時」の点灯時間と要素３である「消灯なし」の消灯時間とを組み合わせ構成されている。また、「常時消灯」は、常時消灯となる場合に選択される点灯時間パターンであり、要素２である「点灯なし」の点灯時間と要素３である「常時」の消灯時間とを組み合わせ構成されている。

30

【１６０５】

<要素５>

要素５は、点灯要素となっており、点灯要素は、要素１である点灯色と要素４である点灯時間パターンとを組み合わせ構成されている。換言すると、点灯要素は、要素１である点灯色と要素２である点灯時間と要素３である消灯時間とを組み合わせ構成されている。尚、同図においては、説明の都合上、点灯要素の具体的な内容を点灯要素内容とし、点灯要素内容毎に振り分けた識別要素を点灯要素種別として図示している。点灯要素としては、

40

点灯要素種別 a : 「０．１秒赤色点灯→０．１秒消灯」

点灯要素種別 b : 「０．１秒青色点灯→０．１秒消灯」

点灯要素種別 c : 「０．１秒赤色点灯→０．３秒消灯」

点灯要素種別 d : 「０．１秒赤色＋青色点灯→０．３秒消灯」

点灯要素種別 e : 「０．２秒赤色＋青色点灯→０．３秒消灯」

点灯要素種別 f : 「０．２秒青色＋緑色点灯→０．３秒消灯」

50

点灯要素種別 g : 「1 秒白色点灯→0 . 1 秒消灯」
 点灯要素種別 h : 「1 秒青色+白色点灯→0 . 1 秒消灯」
 点灯要素種別 i : 「3 秒緑色点灯→0 . 3 秒消灯」
 点灯要素種別 j : 「3 秒青色+緑色点灯→0 . 3 秒消灯」
 点灯要素種別 k : 「常時赤色点灯」
 点灯要素種別 l : 「常時青色点灯」
 点灯要素種別 m : 「常時緑色点灯」
 点灯要素種別 n : 「常時白色点灯」
 点灯要素種別 o : 「常時赤色+緑色点灯」
 点灯要素種別 p : 「常時青色+緑色点灯」
 点灯要素種別 q : 「常時青色+白色点灯」
 点灯要素種別 r : 「常時消灯(色なし)」

の18種類の点灯要素を要素5として有している。点灯要素の一例としては、「0 . 1 秒赤色点灯→0 . 1 秒消灯」の場合、要素1である「赤色」と要素4である「0 . 1 秒点灯→0 . 1 秒消灯」の点灯時間パターン(上述したように点灯時間パターンは点灯時間と消灯時間との組み合わせである)とを組み合わせ構成されている。また、「常時赤色+緑色点灯」は、要素1である「赤色+緑色」と要素4である「常時点灯」とを組み合わせ構成されている。また、「常時消灯(色なし)」は、要素1である「色なし」と要素4である「常時消灯」とを組み合わせ構成されている。

【1606】

<要素6>

要素6は、点灯パターンとなっており、要素5である点灯要素を1又は複数組み合わせ構成されている。尚、同図においては、説明の都合上、点灯パターンの具体的な内容を点灯パターン内容とし、点灯パターン内容毎に振り分けた識別要素を点灯パターン種別として図示している。点灯パターンとしては、

パターン1 : 「a→a→a→a」
 パターン2 : 「b→b→b→b」
 パターン3 : 「a→b→a→b」
 パターン4 : 「a→a→g→g」
 パターン5 : 「g→f→j」
 パターン6 : 「i→h→b」
 パターン7 : 「g→f→b」
 パターン8 : 「i→j→g」
 パターン9 : 「g→g→g」
 パターン10 : 「k」
 パターン11 : 「l」
 パターン12 : 「m」
 パターン13 : 「n」
 パターン14 : 「o」
 パターン15 : 「p」
 パターン16 : 「q」
 パターン17 : 「r」

の17種類の点灯パターンを要素6として有している。点灯パターンの一例としては、パターン1 : 「a→a→a→a」の場合、要素5である「0 . 1 秒赤色点灯→0 . 1 秒消灯」を4回繰り返すよう構成されている。また、パターン8「i→j→g」の場合、点灯要素種別 i : 「3 秒緑色点灯→0 . 3 秒消灯」と実行した後、点灯要素種別 j : 「3 秒青色+緑色点灯→0 . 3 秒消灯」を実行し、点灯要素種別 g : 「1 秒白色点灯→0 . 1 秒消灯」を実行するよう構成されている。尚、点灯パターンをさらに組み合わせ、パターン1→パターン4のようにランプユニットを点灯させてもよいし、パターン1→パターン4→パターン1→・・・のように、「パターン1→パターン4」を

、点灯終了条件を充足するまで繰り返し点灯させてもよい。尚、点灯終了条件は、所定のエラー解除等の遊技の状況が変化した場合に充足するよう構成してもよいし、所定時間が経過した場合に充足するよう構成してもよい。

【1607】

上記のように、本例に係る遊技機におけるランプユニットは点灯パターンの組み合わせによって点灯するよう構成されており、要素6の点灯パターンは、要素5の点灯要素の組み合わせによって構成されており、要素5の点灯要素は、要素1の点灯色と要素4の点灯時間パターンとの組み合わせによって構成されており、要素4の点灯時間パターンは、要素2の点灯時間と要素3の消灯時間との組み合わせによって構成されている。

【1608】

尚、ランプユニットの点灯に係る構成として、要素1～要素6から構成されているよう詳述したが、これには限定されず、要素の数を増減してもよいし、要素1～要素6の内容を変更してもよい（例えば、要素1を点灯輝度にする等）。

【1609】

次に、図271は、状況別報知態様の一例である。同図においては、本例に係る遊技機に適用可能な、ランプユニットの点灯パターン（ランプユニット点灯パターンとも称することがある）、回胴バックランプS30の点灯態様（バックランプ点灯態様とも称することがある）、及びスピーカS20から出力されるサウンド（スピーカのサウンドとも称することがある）に関する遊技の状況毎の構成の一例を詳述する。尚、同図に図示する各項目はあくまで一部の抜粋であり、例えば、BB実行中に実行される点灯パターンはパターン7の1種類のみには限定されず、BBの種類（BBに係る条件装置の種類）やBBに当選した遊技状態によって点灯パターンを相違させてもよいし、1回のBBにおいて、複数の点灯パターンを組み合わせた点灯態様（点灯の周期）をBBが終了するまで繰り返し実行するよう構成してもよいことを補足しておく。また、エラーについても、一例として、メダル空エラーを例示しているが、エラーの種類によってランプユニットの点灯パターンを相違させてもよい。尚、構成1～構成6のすべてにおいて、通常遊技中（エラー発生中でない、且つ、電源投入直後でない、且つ、待機画面の表示中でない、且つ、設定確認モードでない、且つ、設定変更モードでない、且つボーナス実行中でない状況）において選択させ得るランプユニットの点灯パターンは、パターン2、パターン5、パターン6、パターン7、パターン8、パターン9、パターン11、パターン15、パターン16、パターン17、のいずれか1つ又は複数の組み合わせとなるよう構成されている。尚、通常遊技中として、低確率状態やAT中状態などさまざまな遊技状態を有するよう構成しているため、遊技状態によって選択され得るランプユニットの点灯パターンを相違させてもよい。換言すると、特定の遊技状態では選択されない点灯パターンや特定の遊技状態でのみ選択され得る点灯パターンを有するよう構成してもよい。尚、電源投入時とは、電源投入から所定時間（例えば、1秒）経過まで（電源投入直後）の状況となっている。

【1610】

<<構成1>>

<メダル空エラー発生中>

ランプユニット点灯パターン：パターン10（常時赤色点灯）

バックランプ点灯態様：相対的に小さい光量（通常の光量よりも小さい光量）で点灯

スピーカのサウンド：エラー解除までメダル空エラー発生中専用のサウンドをループ（繰り返し再生）

<電源投入時>

ランプユニット点灯パターン：パターン13（常時白色点灯）

バックランプ点灯態様：消灯

スピーカのサウンド：電源投入時専用のサウンドを所定時間出力

<待機画面表示中>

ランプユニット点灯パターン：パターン11（常時青色点灯）

バックランプ点灯態様：通常の光量で点灯

スピーカのサウンド：出力なし

＜設定確認モード中＞

ランプユニット点灯パターン：パターン１２（常時緑色点灯）

バックランプ点灯態様：消灯

スピーカのサウンド：設定確認モード中専用のサウンド

＜設定変更モード中＞

ランプユニット点灯パターン：パターン９（「１秒白色点灯→０．１秒消灯」を３回繰り返す）

バックランプ点灯態様：消灯

スピーカのサウンド：設定変更モード中専用のサウンド

＜ＢＢ実行中＞

ランプユニット点灯パターン：パターン７（「１秒白色点灯→０．１秒消灯」→「０．２秒青色＋緑色点灯→０．３秒消灯」→「０．１秒青色点灯→０．１秒消灯」）

バックランプ点灯態様：通常の光量で点灯

スピーカのサウンド：ＢＢ実行中専用のサウンドをループ（繰り返し再生）

上記のように構成されている。尚、電源投入時に実行される演出は、電源断が発生する前に実行されていた演出や電源断発生前の遊技状態によって相違し得るよう構成してもよい。

【１６１１】

構成１のように、メダル空エラー発生時等のエラー発生中と通常遊技中とで、ランプユニットの点灯パターンとして異なる点灯パターンのみを選択するよう構成し、且つ、点灯パターンを構成する点灯色として、メダル空エラー発生時には赤色が使用される一方、通常遊技中には赤色が使用されないよう構成する（所定の点灯色がエラー発生時にしか選択されないよう構成する）ことにより、遊技者や管理者が、エラーが発生している場合とエラーが発生していない場合とを容易に判別することができ、遊技場の営業や遊技の進行をスムーズにすることができる。また、電源投入直後と通常遊技中とで、ランプユニットの点灯パターンとして異なる点灯パターンを選択するよう構成することにより、遊技者や管理者が、電源投入直後と通常遊技中とを容易に判別することができ、遊技場の営業や遊技の進行をスムーズにすることができる。また、通常遊技中にも拘わらずエラーが発生したと誤認することがなく、遊技者はストレスなく遊技を進行できると共に、管理者はエラーが発生している遊技機を明確に判別することができることとなる。また、待機画面表示中と通常遊技中とで、ランプユニットの点灯パターンとして異なる点灯パターンを選択するよう構成することにより、遊技者や管理者が、待機画面表示中と通常遊技中とを容易に判別することができ、遊技場の営業や遊技の進行をスムーズにすることができる。また、待機画面の表示中において、遊技者が遊技を進行していないにも拘わらず、派手な点灯パターンを使用することによる消費電力を抑制することができる。また、設定確認モード中と通常遊技中とで、ランプユニットの点灯パターンとして異なる点灯パターンを選択するよう構成することにより、遊技者や管理者が、設定確認モード中と通常遊技中とを容易に判別することができ、遊技場の営業や遊技の進行をスムーズにすることができる。また、管理者が意図しない設定確認モードを即座に判別することができ、意図しない設定確認モードを迅速に判別することができると共に、設定キースイッチをオフにすることを失念してしまっても察知することができる。また、設定変更モード中と通常遊技中とで、ランプユニットの点灯パターンとして異なる点灯パターンを選択するよう構成することにより、遊技者や管理者が、設定変更モード中と通常遊技中とを容易に判別することができ、遊技場の営業や遊技の進行をスムーズにすることができる。また、管理者が意図しない設定変更モードを即座に判別することができ、意図しない設定変更モードを迅速に判別することができる。また、ＢＢ実行中と通常遊技中（ＢＢ実行中でない状態）とで、ランプユニットの点灯パターンとして異なる点灯パターンを選択するよう構成することにより、遊技者や管理者が、ＢＢ実行中と通常遊技中（ＢＢ実行中でない状態）とを容易に判別することができ、遊技者や管理者が遊技の状況を明確に判別することができる。

【１６１２】

10

20

30

40

50

尚、上述したような、ランプユニットに係るエラー発生時と通常遊技中との相違点、電源投入直後と通常遊技中との相違点、待機画面の表示中と通常遊技中との相違点、設定確認モード中と通常遊技中との相違点、設定変更モード中と通常遊技中との相違点、BB実行中と通常遊技中との相違点、としては、通常遊技中において使用されない点灯色（要素1）を有するよう構成してもよいし、通常遊技中において使用されない点灯時間（要素2）を有するよう構成してもよいし、通常遊技中において使用されない消灯時間（要素3）を有するよう構成してもよいし、通常遊技中において使用されない点灯時間パターン（要素4）を有するよう構成してもよいし、通常遊技中において使用されない点灯要素（要素5）を有するよう構成してもよいし、通常遊技中において使用されない点灯パターン（要素6）を有するよう構成してもよい。

10

【1613】

<<構成2>>

<メダル空エラー発生中>

ランプユニット点灯パターン：パターン10（常時赤色点灯）

バックランプ点灯態様：通常の光量で点灯

スピーカのサウンド：エラー解除までメダル空エラー発生中専用のサウンドをループ（繰り返し再生）

<電源投入時>

ランプユニット点灯パターン：パターン17（常時消灯（色なし））

バックランプ点灯態様：消灯

スピーカのサウンド：出力なし

<待機画面表示中>

ランプユニット点灯パターン：パターン11（常時青色点灯）

バックランプ点灯態様：待機画面表示中専用のパターンで点灯（点滅）

スピーカのサウンド：出力なし

<設定確認モード中>

ランプユニット点灯パターン：パターン10（常時赤色点灯）

バックランプ点灯態様：通常の光量で点灯

スピーカのサウンド：出力なし

<設定変更モード中>

ランプユニット点灯パターン：パターン10（常時赤色点灯）

バックランプ点灯態様：通常の光量で点灯

スピーカのサウンド：出力なし

<BB実行中>

ランプユニット点灯パターン：パターン7（「1秒白色点灯→0.1秒消灯」→「0.2秒青色+緑色点灯→0.3秒消灯」→「0.1秒青色点灯→0.1秒消灯」）

バックランプ点灯態様：通常の光量で点灯

スピーカのサウンド：BB実行中専用のサウンドをループ（繰り返し再生）

上記のように構成されている。

20

30

【1614】

<<構成3>>

<メダル空エラー発生中>

ランプユニット点灯パターン：パターン1（「0.1秒赤色点灯→0.1秒消灯」を4回繰り返す）

バックランプ点灯態様：通常の光量で点灯

スピーカのサウンド：エラー解除までメダル空エラー発生中専用のサウンドをループ（繰り返し再生）

<電源投入時>

ランプユニット点灯パターン：パターン13（常時白色点灯）

バックランプ点灯態様：通常の光量で点灯

40

50

スピーカのサウンド：出力なし

<待機画面表示中>

ランプユニット点灯パターン：パターン5（「1秒白色点灯→0.1秒消灯」→「0.2秒青色+緑色点灯→0.3秒消灯」→「3秒緑色点灯→0.3秒消灯」）

バックランプ点灯態様：通常の光量で点灯

スピーカのサウンド：出力なし

<設定確認モード中>

ランプユニット点灯パターン：パターン10（常時赤色点灯）

バックランプ点灯態様：通常の光量で点灯

スピーカのサウンド：出力なし

<設定変更モード中>

ランプユニット点灯パターン：パターン10（常時赤色点灯）

バックランプ点灯態様：通常の光量で点灯

スピーカのサウンド：出力なし

<BB実行中>

ランプユニット点灯パターン：パターン6（「3秒緑色点灯→0.3秒消灯」→「1秒青色+白色点灯→0.1秒消灯」→「0.1秒青色点灯→0.1秒消灯」）

バックランプ点灯態様：通常の光量で点灯

スピーカのサウンド：BB実行中専用のサウンドをループ（繰り返し再生）

上記のように構成されている。

【1615】

<<構成4>>

<メダル空エラー発生中>

ランプユニット点灯パターン：パターン14（常時赤色+緑色点灯）

バックランプ点灯態様：通常の光量で点灯

スピーカのサウンド：エラー解除までメダル空エラー発生中専用のサウンドをループ（繰り返し再生）

<電源投入時>

ランプユニット点灯パターン：パターン13（常時白色点灯）

バックランプ点灯態様：消灯

スピーカのサウンド：出力なし

<待機画面表示中>

ランプユニット点灯パターン：パターン11（常時青色点灯）

バックランプ点灯態様：消灯

スピーカのサウンド：出力なし

<設定確認モード中>

ランプユニット点灯パターン：パターン3（「0.1秒赤色点灯→0.1秒消灯」→「0.1秒青色点灯→0.1秒消灯」→「0.1秒赤色点灯→0.1秒消灯」→「0.1秒青色点灯→0.1秒消灯」）

バックランプ点灯態様：消灯

スピーカのサウンド：出力なし

<設定変更モード中>

ランプユニット点灯パターン：パターン3（「0.1秒赤色点灯→0.1秒消灯」→「0.1秒青色点灯→0.1秒消灯」→「0.1秒赤色点灯→0.1秒消灯」→「0.1秒青色点灯→0.1秒消灯」）

バックランプ点灯態様：消灯

スピーカのサウンド：出力なし

<BB実行中>

ランプユニット点灯パターン：パターン6（「3秒緑色点灯→0.3秒消灯」→「1秒青色+白色点灯→0.1秒消灯」→「0.1秒青色点灯→0.1秒消灯」）

10

20

30

40

50

バックランプ点灯態様：通常の光量で点灯

スピーカのサウンド：B B 実行中専用のサウンドをループ（繰り返し再生）

上記のように構成されている。尚、メダル空エラー発生中にスピーカから出力する警告音と、設定確認モード中及び設定変更モード中にスピーカから出力する警告音とを同一の警告音とし、警告音とは別に、メダル空エラー発生中には「メダル空エラー発生中です」との音声をスピーカから出力し、設定確認モード中には「設定確認モード中です」とスピーカから出力し、設定変更モード中には「設定変更モード中です」とスピーカから出力するよう構成してもよい。尚、メダル空エラーとは異なるエラーに関しても同様に、警告音と「〇〇エラー中です」の音声とをスピーカから出力するよう構成してもよい。

【1 6 1 6】

10

<<構成5>>

<メダル空エラー発生中>

ランプユニット点灯パターン：パターン1 3（常時白色点灯）

バックランプ点灯態様：通常の光量で点灯

スピーカのサウンド：エラー解除までメダル空エラー発生中専用のサウンドをループ（繰り返し再生）

<電源投入時>

ランプユニット点灯パターン：パターン1 7（常時消灯（点灯なし））

バックランプ点灯態様：点灯→消灯（通常遊技中となった場合に点灯）

スピーカのサウンド：出力なし

20

<待機画面表示中>

ランプユニット点灯パターン：パターン1 7（常時消灯（点灯なし））

バックランプ点灯態様：消灯

スピーカのサウンド：出力なし

<設定確認モード中>

ランプユニット点灯パターン：パターン1 3（常時白色点灯）

バックランプ点灯態様：通常の光量で点灯

スピーカのサウンド：設定確認モード中専用のサウンド

<設定変更モード中>

ランプユニット点灯パターン：パターン1 3（常時白色点灯）

30

バックランプ点灯態様：通常の光量で点灯

スピーカのサウンド：設定変更モード中専用のサウンド

<B B 実行中>

ランプユニット点灯パターン：パターン5（「1 秒白色点灯→0. 1 秒消灯」→「0. 2 秒青色+緑色点灯→0. 3 秒消灯」→「3 秒青色+緑色点灯→0. 3 秒消灯」）

バックランプ点灯態様：通常の光量で点灯

スピーカのサウンド：B B 実行中専用のサウンドをループ（繰り返し再生）

上記のように構成されている。

【1 6 1 7】

<<構成6>>

40

<メダル空エラー発生中>

ランプユニット点灯パターン：パターン1（「0. 1 秒赤色点灯→0. 1 秒消灯」を4回繰り返す）

バックランプ点灯態様：通常の光量で点灯

スピーカのサウンド：エラー解除までメダル空エラー発生中専用のサウンドをループ（繰り返し再生）

<電源投入時>

ランプユニット点灯パターン：パターン1 7（常時消灯（点灯なし））

バックランプ点灯態様：消灯

スピーカのサウンド：出力なし

50

<待機画面表示中>

ランプユニット点灯パターン：パターン11（常時青色点灯）

バックランプ点灯態様：消灯

スピーカのサウンド：出力なし

<設定確認モード中>

ランプユニット点灯パターン：パターン4（「0.1秒赤色点灯→0.1秒消灯」→「0.1秒赤色点灯→0.1秒消灯」→「1秒白色点灯→0.1秒消灯」→「1秒白色点灯→0.1秒消灯」）

バックランプ点灯態様：通常の光量で点灯

スピーカのサウンド：設定確認モード中専用のサウンド

10

<設定変更モード中>

ランプユニット点灯パターン：パターン4（「0.1秒赤色点灯→0.1秒消灯」→「0.1秒赤色点灯→0.1秒消灯」→「1秒白色点灯→0.1秒消灯」→「1秒白色点灯→0.1秒消灯」）

バックランプ点灯態様：通常の光量で点灯

スピーカのサウンド：設定変更モード中専用のサウンド

<BB実行中>

ランプユニット点灯パターン：パターン5（「1秒白色点灯→0.1秒消灯」→「0.2秒青色+緑色点灯→0.3秒消灯」→「3秒青色+緑色点灯→0.3秒消灯」）

バックランプ点灯態様：通常の光量で点灯

20

スピーカのサウンド：BB実行中専用のサウンドをループ（繰り返し再生）

上記のように構成されている。

【1618】

尚、同図においては、構成1～構成6の6種類の構成を例示したが、当該構成はあくまで一例であり、遊技の状況毎のランプユニット点灯パターンやバックランプ点灯態様やスピーカから出力するサウンドを各構成から組み合わせてもよいし、どのように変更してもよい。また、ランプユニットの点灯パターンについては、ランプユニットに係る、エラー発生時と通常遊技中との相違点、電源投入直後と通常遊技中との相違点、待機画面の表示中と通常遊技中との相違点、設定確認モード中と通常遊技中との相違点、設定変更モード中と通常遊技中との相違点、BB実行中と通常遊技中との相違点、として、前述した要素1～要素6（図270参照）のいずれかを、通常遊技中には選択されないものが選択されるよう構成することが好適である。

30

【1619】

また、同図においては、エラーとしてメダル空エラーのみを例示しているが、これには限定されず、表示判定エラーやドア開放エラーについても、ランプユニットに係る、エラー発生時と通常遊技中との相違点、電源投入直後と通常遊技中との相違点、待機画面の表示中と通常遊技中との相違点、設定確認モード中と通常遊技中との相違点、設定変更モード中と通常遊技中との相違点、BB実行中と通常遊技中との相違点、として、前述した要素1～要素6（図270参照）のいずれかを、通常遊技中には選択されないものが選択されるよう構成してもよいし、メダル空エラーと表示判定エラーとで、ランプユニットに係る前述した要素1～要素6（図270参照）のいずれかを相違させる等、発生しているエラーの種類によって、ランプユニットに係る前述した要素1～要素6（図270参照）のいずれかを相違させてもよい。

40

【1620】

また、再遊技役が停止表示した際には、ランプユニットの点灯態様によって遊技者に再遊技役に係る図柄組み合わせが停止表示したことを報知するよう構成してもよく、具体的には、所定の遊技状態にて実行されたゲームにおいて、再遊技役に当選して再遊技役に係る図柄組み合わせが停止表示した場合にランプユニットが点灯するよう構成し、且つ、要素1～要素6のいずれかを当該ランプユニットの点灯態様には含まれており、再遊技役に当選せずに再遊技役に係る図柄組み合わせとは異なる図柄組み合わせが停止表示した場合

50

におけるランプユニットの点灯態様には含まれないよう構成してもよい。このように構成することにより、遊技者は再遊技役に当選したことを明確に認識することができる。

【1621】

<<<前扉開放と払出に関する構成>>>

次に、図272を用いて、本例に係る遊技機に適用可能な遊技メダルの払出に関する構成を詳述する。尚、同図に示す、「通常」とは、例えば、「低確率状態」にて入賞 - B（共通ベル）に当選し、共通ベルに対応する図柄組み合わせ（例えば、入賞04）が停止表示して11枚の遊技メダルを払い出すような場合を示している。また、「扉開放前に払出発生」や「扉開放後に払出発生」についても、入賞 - B（共通ベル）に当選し、共通ベルに対応する図柄組み合わせ（例えば、入賞04）が停止表示する場合を例示している。尚、同図においては、クレジット（クレジット数表示装置D200に表示されているクレジット数）が上限値（本例では、50）である場合について詳述している。

【1622】

<<構成1>>

<通常の払出の場合>

構成1における通常の払出が実行される場合について詳述する。まず、3つのリールのうち2つのリールが停止し、他の1つのリールが回転している状況下、第3停止ボタンが押下され（第3停止ボタンが押下されることを第3停止ボタンがオンになると称することがある）、入賞04が停止表示する。その後、第3停止ボタンが非押下中となり（遊技者が第3停止ボタンから指を離すこと等によって第3停止ボタンが押下中から非押下中となる。尚、第3停止ボタンが押下中から非押下中となることを、第3停止ボタンがオンからオフとなると称することがある）、入賞04に対応する遊技メダルが払い出されると共に、スピーカS20から遊技メダルの払出に対応した払出音（同図における音B）が所定時間出力される。

【1623】

<扉開放前に払出が実行される場合>

次に、構成1における扉開放前に払出が実行される場合について詳述する。まず、3つのリールのうち2つのリールが停止し、他の1つのリールが回転している状況下、第3停止ボタンがオンとなり、入賞04が停止表示する。その後、第3停止ボタンがオンからオフとなり、入賞04に対応する遊技メダルが払い出されると共に、スピーカS20から遊技メダルの払出に対応した払出音出力開始される。その後、遊技メダルの払出に対応した払出音出力されている状況下、前扉DUが開放され、スピーカS20から前扉DUが開放していることを報知する前扉開放報知音（同図における音A）が出力される。即ち、払出音と前扉開放報知音とが同時に出力される。その後、払出音の出力開始から所定時間が経過して払出音の出力が終了すると共に、前扉開放報知音の出力が終了する。尚、前扉DUは開放されたままとなっており、即ち、前扉開放報知音は、前扉DUが開放された場合に出力開始され、その後前扉DUが開放されたままであっても出力開放から特定時間経過することによって出力が終了するよう構成されている。このように構成することによって、管理者が設定確認や設定変更を行うために前扉DUを開放した場合等において、設定確認又は設定変更が終了するまで前扉開放報知音が出力され続けることを防止することがなく、ストレスなく設定確認及び設定変更を行うことができることとなる。尚、同図においては、払出音の出力終了と同時に前扉開放音の出力が終了するよう図示しているが、これには限定されず、払出音の出力終了タイミングと前扉開放音の出力終了タイミングとが異なるタイミングとなっても何ら問題ない。

【1624】

<扉開放後に払出が実行される場合>

次に、構成1における扉開放後に払出が実行される場合について詳述する。まず、3つのリールのうち2つのリールが停止し、他の1つのリールが回転している状況下、第3停止ボタンがオンとなり、入賞04が停止表示する。その後、第3停止ボタンがオンである状況下、前扉DUが開放され、スピーカS20から前扉DUが開放していることを報知す

10

20

30

40

50

る前扉開放報知音（同図における音A）が出力される。即ち、第3停止ボタンのオン・オフに拘らず、前扉DUが開放されることによって前扉開放報知音が出力されるよう構成されている。その後、前扉DUが開放されており、且つ前扉開放報知音が出力されている状況下、第3停止ボタンがオンからオフとなり、入賞04に対応する遊技メダルが払い出されると共に、スピーカS20から遊技メダルの払出に対応した払出音が出力開始される。即ち、払出音と前扉開放報知音とが同時に出力される。その後、前扉DUの開放から特定時間が経過し、前扉開放報知音の出力が終了する。その後、払出音の出力開始から所定時間が経過して払出音の出力が終了する。

【1625】

構成1のように、前扉DUの開放に拘らず遊技メダルの払出を実行可能に構成することにより、遊技場の管理者が遊技機に遊技メダルを補給する場合などに前扉DUを閉め忘れてしまった（しっかりと閉まってしない）場合等においても、遊技メダルを正常に払い出すことができ、遊技者に不利益が生じないよう構成することができる。また、前扉開放報知音と払出音とを同時に出力可能に構成することにより、遊技機の状況がリアルタイムで把握できることとなる。尚、上記構成1のように構成する場合には、前扉開放報知音と払出音とを区別し易いような出力態様（音色、音程、テンポ、等）にすることが好適である。

【1626】

<<構成2>>

<通常の払出の場合>

構成2における通常の払出が実行される場合について詳述する。まず、3つのリールのうち2つのリールが停止し、他の1つのリールが回転している状況下、第3停止ボタンが押下され（第3停止ボタンが押下されることを第3停止ボタンがオンになると称することがある）、入賞04が停止表示する。その後、第3停止ボタンが非押下中となり（遊技者が第3停止ボタンから指を離すこと等によって第3停止ボタンが押下中から非押下中となる。尚、第3停止ボタンが押下中から非押下中となることを、第3停止ボタンがオンからオフとなると称することがある）、入賞04に対応する遊技メダルが払い出されると共に、スピーカS20から遊技メダルの払出に対応した払出音（同図における音B）が所定時間出力される。

【1627】

<扉開放前に払出が実行される場合>

次に、構成2における扉開放前に払出が実行される場合について詳述する。まず、3つのリールのうち2つのリールが停止し、他の1つのリールが回転している状況下、第3停止ボタンがオンとなり、入賞04が停止表示する。その後、第3停止ボタンがオンからオフとなり、入賞04に対応する遊技メダルが払い出されると共に、スピーカS20から遊技メダルの払出に対応した払出音が出力開始される。その後、遊技メダルの払出に対応した払出音が出力されている状況下、前扉DUが開放され、スピーカS20から前扉DUが開放していることを報知する前扉開放報知音（同図における音A）が出力されると共に、払出音の出力が終了する。その後、前扉DUの開放から特定時間経過し、前扉開放報知音の出力が終了する。尚、払出音の出力期間である所定時間は、前扉開放報知音の出力中に終了することとなる。

【1628】

<扉開放後に払出が実行される場合>

次に、構成2における扉開放後に払出が実行される場合について詳述する。まず、3つのリールのうち2つのリールが停止し、他の1つのリールが回転している状況下、第3停止ボタンがオンとなり、入賞04が停止表示する。その後、第3停止ボタンがオンである状況下、前扉DUが開放され、スピーカS20から前扉DUが開放していることを報知する前扉開放報知音（同図における音A）が出力される。即ち、第3停止ボタンのオン・オフに拘らず、前扉DUが開放されることによって前扉開放報知音が出力されるよう構成されている。その後、前扉DUが開放されており、且つ前扉開放報知音が出力されている状況下、第3停止ボタンがオンからオフとなり、入賞04に対応する遊技メダルが払い出さ

10

20

30

40

50

れるが、当該払出に対応した払出音は出力されない。その後、遊技メダルの払出が実行されている状況下、前扉ＤＵの開放から特定時間経過し、前扉開放報知音の出力が終了すると共に、入賞０４に対応する払出音出力される。その後、入賞０４に対応する遊技メダルの払出開始から所定時間経過し、払出音の出力が終了する。

【１６２９】

構成２のように、前扉ＤＵの開放に拘らず遊技メダルの払出を実行可能に構成することにより、遊技場の管理者が遊技機に遊技メダルを補給する場合などに前扉ＤＵを閉め忘れてしまった（しっかりと閉まってしない）場合等においても、遊技メダルを正常に払い出すことができ、遊技者に不利益が生じないよう構成することができる。また、前扉開放報知音と払出音とを同時に出力しないよう構成することにより、前扉開放報知音と払出音との音色が混在することにより、遊技機の状況が判断し難くなる事態を防止することができる。尚、構成２において、前扉開放報知音の出力中においても、払出音を出力するよう構成し、払出音の音量を前扉開放報知音の音量と比較して相対的に小さく（音量０も含む）するよう構成してもよい。

【１６３０】

<<その他の構成>>

図２７２に例示した構成を適用した場合、前扉ＤＵの開放中においても、遊技メダルの投入、マックスベットボタン（本例では、ベットボタンＤ２２０）の操作、及びベットボタンランプＳ５０（マックスベットランプとも称することがある）や投入可能ランプやベットランプ（１ベットランプ、２ベットランプ、３ベットランプ）の点灯が有効となるよう構成してもよい。即ち、前扉ＤＵの開放中に遊技メダルを投入した場合には、遊技メダルの投入を検出可能であり（ブロッカがオンであり）、且つ当該投入が有効（クレジットが増加する、又は遊技メダルがベットされる）となるよう構成してもよい。そのように構成した場合には、遊技メダルの投入又はベットボタン（マックスベットボタン）の操作に対応したベット音（又はメダル投入音）をスピーカＳ２０から出力するよう構成してもよい（前扉ＤＵが開放していない場合においても、遊技メダルの投入又はベットボタン（マックスベットボタン）の操作に対応したベット音は出力可能）し、遊技メダルの投入又はベットボタン（マックスベットボタン）の操作に対応したベット音を出力しないよう構成してもよい。

【１６３１】

<<<電源断と払出に関する構成>>>

本例に係る遊技機に適用可能な、小役入賞時に第３停止を押下したまま電源断した場合の作用を以下に例示する。尚、以下に例示するいずれの構成も、本例に係るすべての実施形態に適用可能であることを補足しておく。尚、以下に詳述する構成は、クレジットが上限値（例えば、５０）である場合、換言すると、小役の入賞により遊技メダルがメダル受け皿Ｄ２３０に払い出される場合を例示している。また、回胴バックライトＳ３０の点滅による演出をバックランプ演出と称することがある。

【１６３２】

<構成１>

小役（例えば、入賞０４の共通ベル）に当選したゲームにて、第３停止ボタンを押下して（オンにして）小役を入賞させる→第３停止ボタンを押下したまま電源断が発生する（遊技場に停電が発生する等）→第３停止ボタンを押下したまま電源復帰する→電源復帰すると共に前記小役に対応する遊技メダルの払出が実行される
上記の作用となるように構成してもよい。

【１６３３】

また、電源断が発生していない状況にて遊技が進行し、小役の入賞に基づく遊技メダルの払出が実行された場合には、小役の入賞に基づくバックランプ演出が実行可能であり、且つ小役の入賞に基づく払出音出力可能となる一方、上述した構成１のように、第３停止ボタンを押下したまま電源復帰して、小役の入賞に基づく遊技メダルの払出が実行された場合には、小役の入賞に基づくバックランプ演出が実行されない、且つ小役の入賞に基

づく払出音が出力されないよう構成してもよい。このように構成することにより、電源断復帰後にバックランプ演出と払出音の出力とが突然実行されることにより、遊技者を驚かすことがないよう構成することができる。

【1634】

このように構成することにより、遊技者が第3停止を押下している場合に電源断が発生し、即座に電源復帰した場合等においても、小役の入賞に基づく遊技メダルの払出を実行することができ、遊技者に不利益を生じないようにすることができる。尚、主制御基板M側が制御する所定の操作部材（例えば、スタートレバー、すべての停止ボタン、ベットボタン（マックスベットボタン）、精算ボタン、等）のいずれかが操作されていても、他の所定の操作部材が操作されていなければ、入賞に基づく遊技メダルの払出を実行可能に構成してもよい。例えば、電源断から復帰する場合に、第3停止ボタンとスタートレバーとの双方が操作されている（オンとなっている）場合には、入賞に基づく遊技メダルの払出を実行しないよう構成してもよい。また、そのように構成した場合には、（1）その後、第3停止ボタンを離すかスタートレバーを離すことによって（主制御基板M側が制御する操作部材のうちオンとなっている操作部材が1つのみとなることによって）、入賞に基づく遊技メダルの払出が実行されるよう構成してもよいし、（2）その後、第3停止ボタンとスタートレバーとを離すことによって（主制御基板M側が制御する操作部材がすべてオフとなることによって）、入賞に基づく遊技メダルの払出が実行されるよう構成してもよい。

10

【1635】

尚、上記電源断が発生する状況を例示すると、電源スイッチがオンからオフになる、電源を供給するケーブルが断線する、遊技場に停電が発生する、電源を供給するケーブルが差し込み口から抜ける、等が考えられ、いずれの場合にも、上述した構成に適用可能である。

20

【1636】

<構成2>

小役（例えば、入賞04の共通ベル）に当選したゲームにて、第3停止ボタンを押下して（オンにして）小役を入賞させる→第3停止ボタンを押下したまま前扉DUを開放（前扉DUを開放することでドア開放エラーが発生する）し、電源断が発生する（電源スイッチをオフにする等）→第3停止ボタンを押下したまま電源復帰する（電源スイッチをオンにする等）→第3停止ボタンを押下したまま前扉DUを閉鎖してドア開放エラーを解除する（例えば、ドアキーを鍵穴D260に差し込んで所定の方向に捻る）→ドア開放エラーが解除されると共に、前記小役に対応する遊技メダルの払出が実行される
上記の作用となるように構成してもよい。

30

【1637】

また、電源断が発生していない状況にて遊技が進行し、小役の入賞に基づく遊技メダルの払出が実行された場合には、小役の入賞に基づくバックランプ演出が実行可能であり、且つ小役の入賞に基づく払出音出力が可能となる一方、上述した構成2のように、第3停止ボタンを押下したままドア開放エラーが解除されて、小役の入賞に基づく遊技メダルの払出が実行された場合には、小役の入賞に基づくバックランプ演出が実行されない、且つ小役の入賞に基づく払出音出力されないよう構成してもよい。このように構成することにより、ドア開放エラー解除後にバックランプ演出と払出音の出力とが突然実行されることにより、遊技者を驚かすことがないよう構成することができる。

40

【1638】

<構成3>

小役（例えば、入賞04の共通ベル）に当選したゲームにて、第3停止ボタンを押下して（オンにして）小役を入賞させる→第3停止ボタンを押下したまま電源断が発生する（遊技場に停電が発生する等）→第3停止ボタンから指を離す（第3停止ボタンをオンからオフにする）→電源復帰する→電源復帰すると共に前記小役に対応する遊技メダルの払出が実行される

50

上記のように構成してもよい。

【1639】

また、電源断が発生していない状況にて遊技が進行し、小役の入賞に基づく遊技メダルの払出が実行された場合には、小役の入賞に基づくバックランプ演出が実行可能であり、且つ小役の入賞に基づく払出音出力が可能となる一方、上述した構成3のように、第3停止ボタンを押下したまま電源断が発生して、第3停止ボタンを離した後に電源復帰して、小役の入賞に基づく遊技メダルの払出が実行された場合には、小役の入賞に基づくバックランプ演出が実行されない、且つ小役の入賞に基づく払出音出力されないよう構成してもよい。このように構成することにより、電源断復帰後にバックランプ演出と払出音の出力とが突然実行されることにより、遊技者を驚かせてしまうことがないよう構成することができる。

10

【1640】

尚、上記構成1、構成2又は構成3のように構成した場合には、電源断復帰後の処理として、第3停止ボタンを押下されているか否か（オンであるか否か）を判定する処理（遊技進行制御処理にて実行される処理）を実行する前に、入賞に基づく遊技メダルの払出処理（遊技進行制御処理にて実行される処理）を実行するよう構成してもよい。また、前述したように、小役が入賞となる図柄組み合わせが停止表示した状況にて第3停止ボタンを押したまま電源断が発生し、その後第3停止ボタンを押下したまま電源断から復帰し、その後第3停止ボタンを離すことにより入賞に基づく遊技メダルの払出が実行されるよう構成してもよく、そのように構成した場合においては、当該払出に対応する払出音の出力とバックランプ演出は実行されないよう構成してもよい（電源断を介せずに入賞に基づく遊技メダルの払出が実行された場合には、払出音の出力とバックランプ演出とを実行する）。

20

【1641】

<<<設定確認モードと払出に関する構成>>>

本例に係る遊技機に適用可能な、小役入賞時に第3停止を押下したまま設定キースイッチをオンにした場合の作用を以下に例示する。尚、以下に例示するいずれの構成も、本例に係るすべての実施形態に適用可能であることを補足しておく。尚、以下に詳述する構成は、クレジットが上限値（例えば、50）である場合、換言すると、小役の入賞により遊技メダルがメダル受け皿D230に払い出される場合を例示している。また、以下に詳述する構成は、リール停止中であり、且つ電源投入されており、且つ、スタートレバー、すべての停止ボタン、ベットボタン（マックスベットボタン）、精算ボタン、等の主制御基板側にて制御される各種操作部材が操作されていない（オンではない）状況にて、前扉DUを開放して設定キースイッチをオフからオンにした場合には、設定確認モードに移行可能に構成されている場合を例示している。尚、設定確認モード中においては、演出表示装置S40にて設定確認モード中である旨を報知するよう構成してもよいし、報知しないよう構成してもよい。

30

【1642】

<構成1>

小役（例えば、入賞04の共通ベル）に当選したゲームにて、第3停止ボタンを押下して（オンにして）小役を入賞させる→第3停止ボタンを押下したまま前扉DUを開放（前扉DUを開放することでドア開放エラーが発生する）して設定キースイッチをオンにする（設定確認モードには移行しない）→第3停止ボタンを押下したまま前扉DUを閉鎖してドア開放エラーを解除する（例えば、ドアキーを鍵穴D260に差し込んで所定方向に捻る）→第3停止ボタンを離しても設定確認モードに移行しない

40

上記のように構成してもよい。

【1643】

また、そのように構成した場合には、その後設定キースイッチがオンのまま、ベットが可能であり、ベットされている状況にてスタートレバーを操作することでリールが回転開始可能であり、停止ボタンを操作することによりリールを停止することが可能であるよう（遊技を進行可能に）構成してもよい。また、その後設定キースイッチがオンのままでは

50

、ベットが不可能（遊技メダルの投入も不可能）としてもよいし、ベットは可能であるがスタートレバーを操作してもリールが回転開始しないよう構成してもよい。換言すると、設定キースイッチがオンのままでは、遊技の実行ができないよう構成してもよい。そのように構成した場合には、演出表示装置 S 4 0 には設定確認モード中である旨の表示は表示されないことを補足しておく。また、設定キースイッチがオンのまま（上記構成 1 のような作用となった後）、再遊技図柄が停止表示していない状況にて前扉 D U を開放した場合に、設定確認モードに移行し得るよう構成してもよいし、再遊技図柄が停止表示している状況にて前扉 D U を開放した場合に、設定確認モードに移行しないよう構成してもよい。また、前記前扉 D U を開放して設定確認モードに移行した場合においては、設定確認モードである旨を演出表示装置 S 4 0 にて表示するよう構成してもよい。

10

【1 6 4 4】

＜＜マックスベットランプの点灯に関する構成＞＞＞

次に、図 2 7 3 ～図 2 7 6 を参照して、本例に係る回胴式遊技機に適用可能なマックスベットランプ（ベットボタンランプ S 5 0 とも称することがある）の点灯に関する作用を詳述する。尚、以下に例示する構成は、再遊技の停止表示中においても遊技メダルを投入可能である構成を例示している。尚、マックスベットランプとは、マックスベットボタン内部又は近傍に設けられている、マックスベットボタンの操作が有効である旨を報知する、副制御基板 S 側又は主制御基板 M 側にて制御されるランプである。尚、同図においては、マックスベットランプが点灯（又は点滅）していることを ON、マックスベットランプが消灯していることを OFF、1 ベットランプ D 2 1 1 が点灯していることを ON、1 ベットランプ D 2 1 1 が消灯していることを OFF、2 ベットランプ D 2 1 2 が点灯していることを ON、2 ベットランプ D 2 1 2 が消灯していることを OFF、3 ベットランプ D 2 1 3 が点灯していることを ON、3 ベットランプ D 2 1 3 が消灯していることを OFF、スタートランプ D 1 8 0 が点灯（又は点滅）していることを ON、スタートランプ D 1 8 0 が消灯していることを OFF、と図示している。また、図中では遊技メダルを 1 枚ずつメダル投入口 D 1 7 0 から投入する場合（投入受付センサ D 1 0 s、第 1 投入センサ D 2 0 s、第 2 投入センサ D 3 0 s 等のメダル投入口 D 1 7 0 に投入された遊技メダルを検出するセンサが遊技メダルを 1 枚ずつ検出する場合）を例示しているが、ベットボタンとして、マックスベットボタンとは異なる、1 回の操作（オフ→オン）によって 1 枚の遊技メダルをベット可能な 1 ベットボタンや、1 回の操作（オフ→オン）によって 2 枚の遊技メダルをベット可能な 2 ベットボタンを設けてもよく、そのように構成した場合に、メダル投入口 D 1 7 0 への 1 枚の遊技メダル投入（投入受付センサ D 1 0 s、第 1 投入センサ D 2 0 s、又は第 2 投入センサ D 3 0 s による 1 枚の遊技メダルの検出）と同様の作用を、1 ベットボタンの 1 回の押下に適用しても問題ない。

20

30

【1 6 4 5】

＜＜構成 1＞＞

まず、図 2 7 3 における構成 1 について詳述する。回胴式遊技機に遊技メダルがベットされておらず、且つベットが有効である状況下において、マックスベットランプが点灯しており、1 ベットランプ D 2 1 1 が消灯しており、2 ベットランプ D 2 1 2 が消灯しており、3 ベットランプ D 2 1 3 が消灯しており、スタートランプ D 1 8 0 が消灯している。その後、1 枚目の遊技メダルが投入され、マックスベットランプが消灯する。その後、マックスベットランプが点灯すると共に、1 ベットランプ D 2 1 1 が点灯する。その後、2 枚目の遊技メダルが投入され、マックスベットランプが消灯する。その後、マックスベットランプが点灯すると共に、2 ベットランプ D 2 1 2 が点灯する。その後、3 枚目の遊技メダルが投入され、マックスベットランプが消灯、3 ベットランプ D 2 1 3 が点灯すると共に、スタートランプ D 1 8 0 が点灯する。

40

【1 6 4 6】

構成 1 のように、マックスベットランプが遊技メダル 1 枚投入する毎に「消灯→点灯」するよう構成することにより、遊技メダルがメダル投入口 D 1 7 0 から遊技機内部に誘導されている期間は、マックスベットボタンの操作が無効となっているため、当該誘導され

50

ている期間にてマックスベットランプを消灯させることにより、マックスベットボタンが有効となっている期間を正確に報知することができる。また、マックスベットボタンが有効となっている期間を正確に報知することにより、遊技者は、マックスベットボタンが無効、換言すると、遊技メダルの投入が無効である期間を把握することができるため、当該無効の期間にて遊技メダルを投入してしまい、遊技メダルが正常に投入されない事態を防止することができ、テンポのよい遊技進行が実現可能となる。

【1647】

また、構成1のように、3枚目の遊技メダルが投入されて、マックスベットランプが消灯した後に、3ベットランプD213が点灯するよう構成することにより、3ベットランプD213が点灯しているときにはマックスベットランプが消灯しているため、遊技者は規定数である3枚の遊技メダルがベットされたことを明確に認識することができる。

10

【1648】

<<構成2>>

次に、図273における構成2について詳述する。回胴式遊技機に遊技メダルがベットされておらず、且つベットが有効である状況下において、マックスベットランプが点灯しており、1ベットランプD211が消灯しており、2ベットランプD212が消灯しており、3ベットランプD213が消灯しており、スタートランプD180が消灯している。その後、1枚目の遊技メダルが投入され、マックスベットランプが点灯したままであると共に、1ベットランプD211が点灯する。その後、2枚目の遊技メダルが投入され、マックスベットランプが点灯したままであると共に、2ベットランプD212が点灯する。その後、3枚目の遊技メダルが投入され、3ベットランプD213が点灯すると共に、スタートランプD180が点灯する。その後、マックスベットランプが消灯する。

20

【1649】

構成2のように、3枚目の遊技メダルが投入されて、3ベットランプD213が点灯した後にマックスベットランプが消灯するよう構成する、換言すると、3ベットランプD213を遊技者がマックスベットボタンを操作してからできるだけ早く点灯するよう構成することにより、遊技者の操作に合わせてシームレスに3ベットランプD213を点灯させることができ、遊技の進行をスムーズにすることができると共に、遊技者が余分に遊技メダルを投入したり、動作の遅さによる遊技機の性能や挙動に不信感を抱く事態を防止することができる。

30

【1650】

<<構成3>>

次に、図274における構成3について詳述する。回胴式遊技機に遊技メダルがベットされておらず、且つベットが有効である状況下において、マックスベットランプが点灯しており、1ベットランプD211が消灯しており、2ベットランプD212が消灯しており、3ベットランプD213が消灯しており、スタートランプD180が消灯している。その後、1枚目の遊技メダルが投入され、マックスベットランプが点灯したままであると共に、1ベットランプD211が点灯する。その後、2枚目の遊技メダルが投入され、マックスベットランプが点灯したままであると共に、2ベットランプD212が点灯する。その後、3枚目の遊技メダルが投入され、マックスベットランプが消灯すると共に、スタートランプD180が点灯する。その後、3ベットランプD213が点灯する。

40

【1651】

構成3のように、3枚目の遊技メダルが投入されて、3ベットランプD213が点灯する前のマックスベットランプが消灯すると略同時にスタートランプD180が点灯するよう構成することにより、次の遊技が開始可能である旨を遊技者にいち早く報知することができ、遊技の進行をスムーズにすることができると共に、遊技者が余分に遊技メダルを投入したり、動作の遅さによる遊技機の性能や挙動に不信感を抱く事態を防止することができる。

【1652】

<<構成4>>

50

次に、図 2 7 4 における構成 4 について詳述する。回胴式遊技機に遊技メダルがベットされておらず、且つベットが有効である状況下において、マックスベットランプが点灯しており、1ベットランプ D 2 1 1 が消灯しており、2ベットランプ D 2 1 2 が消灯しており、3ベットランプ D 2 1 3 が消灯しており、スタートランプ D 1 8 0 が消灯している。その後、1枚目の遊技メダルが投入され、マックスベットランプが消灯する。その後、マックスベットランプが点灯すると共に、1ベットランプ D 2 1 1 が点灯する。その後、2枚目の遊技メダルが投入され、マックスベットランプが消灯する。その後、マックスベットランプが点灯すると共に、2ベットランプ D 2 1 2 が点灯する。その後、3枚目の遊技メダルが投入され、マックスベットランプが消灯する。その後、3ベットランプ D 2 1 3 が点灯すると共に、スタートランプ D 1 8 0 が点灯する。

10

【1 6 5 3】

<<構成 5>>

次に、図 2 7 5 における構成 5 について詳述する。回胴式遊技機に遊技メダルがベットされておらず、且つベットが有効である状況下において、マックスベットランプが点滅しており、1ベットランプ D 2 1 1 が点灯しており、2ベットランプ D 2 1 2 が点灯しており、3ベットランプ D 2 1 3 が点灯しており、スタートランプ D 1 8 0 が消灯している。その後、1枚目の遊技メダルが投入され、2ベットランプ D 2 1 2 及び3ベットランプ D 2 1 3 が消灯する。その後、2枚目の遊技メダルが投入され、2ベットランプ D 2 1 2 が点灯する。その後、3枚目の遊技メダルが投入され、3ベットランプ D 2 1 3 が点灯すると共に、スタートランプ D 1 8 0 が点灯する。その後、マックスベットランプが点滅する際の、点灯→消灯となるタイミングよりも前に（点灯の途中で）、マックスベットランプが消灯する。尚、同図においては、マックスベットランプが点灯→消灯を繰り返すこととなる点滅における、点灯している状況にて、3枚目の遊技メダルが投入された場合を例示しているため、3枚目の遊技メダルが投入されたタイミングにてマックスベットランプが点灯→消灯となっているが、マックスベットランプの点滅における、消灯している状況にて、3枚目の遊技メダルが投入された場合には、3枚目の遊技メダルが投入されたタイミング以降はマックスベットランプが消灯したままとなる。

20

【1 6 5 4】

構成 5 のように、ベットしていない状況にて、1ベットランプ D 2 1 1、2ベットランプ D 2 1 2、及び3ベットランプ D 2 1 3 をすべて点灯させるよう構成した場合においても、遊技メダルの投入枚数（1枚目、2枚目、3枚目）によって、スタートランプ D 1 8 0、2ベットランプ D 2 1 2、及び3ベットランプ D 2 1 3 の点灯・消灯の組み合わせを相違させることによって、遊技者は現在の遊技の状況（何枚の遊技メダルがベットされているか）を把握できることとなる。

30

【1 6 5 5】

<<構成 6>>

次に、図 2 7 5 における構成 6 について詳述する。回胴式遊技機に遊技メダルがベットされておらず、且つベットが有効である状況下において、マックスベットランプが点灯しており、1ベットランプ D 2 1 1 が消灯しており、2ベットランプ D 2 1 2 が消灯しており、3ベットランプ D 2 1 3 が消灯しており、スタートランプ D 1 8 0 が消灯している。その後、1枚目の遊技メダルが投入され、マックスベットランプが点灯したままであると共に、1ベットランプ D 2 1 1 が点灯する。その後、2枚目の遊技メダルが投入され、マックスベットランプが点灯したままであると共に、2ベットランプ D 2 1 2 が点灯する。その後、3枚目の遊技メダルが投入され、当該遊技メダルの投入を検知したタイミング（構成 2 におけるスタートランプ D 1 8 0 及び3ベットランプ D 2 1 3 の点灯タイミングよりも早いタイミング）でスタートランプ D 1 8 0 が点灯すると共に、3ベットランプ D 2 1 3 が点灯する。その後、マックスベットランプが消灯する。

40

【1 6 5 6】

構成 6 のように、3枚目の遊技メダルが投入されて、3ベットランプ D 2 1 3 が点灯した後にマックスベットランプが消灯するよう構成する、換言すると、3ベットランプ D 2

50

1 3を遊技者がマックスベットボタンを操作してからできるだけ早く点灯するよう構成することにより、遊技者の操作に合わせてシームレスに3ベットランプD 2 1 3を点灯させることができ、遊技の進行をスムーズにすることができると共に、遊技者が余分に遊技メダルを投入したり、動作の遅さによる遊技機の性能や挙動に不信感を抱く事態を防止することができる。

【1 6 5 7】

<<構成7>>

次に、図2 7 6における構成7について詳述する。回胴式遊技機に遊技メダルがベットされておらず、且つベットが有効である状況下において、マックスベットランプが点灯しており、1ベットランプD 2 1 1が消灯しており、2ベットランプD 2 1 2が消灯しており、3ベットランプD 2 1 3が消灯しており、スタートランプD 1 8 0が消灯している。その後、1枚目の遊技メダルが投入され、マックスベットランプが点灯したままであると共に、1ベットランプD 2 1 1が点灯する。その後、スタートランプD 1 8 0が点灯する（点滅を開始する）。その後、2枚目の遊技メダルが投入され、マックスベットランプが点灯したままであると共に、2ベットランプD 2 1 2が点灯する。その後、3枚目の遊技メダルが投入され、マックスベットランプが消灯すると共に、3ベットランプD 2 1 3が点灯する。

【1 6 5 8】

構成6のように、3枚目の遊技メダルを投入した後に、マックスベットランプの消灯と3ベットランプD 2 1 3の点灯が略同時となるよう構成する、換言すると、3ベットランプD 2 1 3を遊技者がマックスベットボタンを操作してからできるだけ早く点灯するよう構成することにより、遊技者の操作に合わせてシームレスに3ベットランプD 2 1 3を点灯させることができ、遊技の進行をスムーズにすることができると共に、遊技者が余分に遊技メダルを投入したり、動作の遅さによる遊技機の性能や挙動に不信感を抱く事態を防止することができる。

【1 6 5 9】

尚、上述した構成1～構成4、構成6及び構成7において、マックスベットランプがオン＝マックスベットランプが点灯としたが、マックスベットボタンが有効であることを遊技者が認識できる点灯態様であればよく、構成5と同様に、マックスベットランプがオン＝マックスベットランプが点滅となるよう構成してもよい。また、構成5においても、マックスベットランプがオン＝マックスベットランプが点灯となるように構成してもよい。また、同様に、構成1～構成6については、スタートランプD 1 8 0がオン＝スタートランプD 1 8 0が点灯としたが、スタートレバーD 5 0の操作が有効であることを遊技者が認識できる点灯態様であればよく、構成7と同様に、スタートランプD 1 8 0がオン＝スタートランプD 1 8 0が点滅となるよう構成してもよい。また、構成7においても、スタートランプD 1 8 0がオン＝スタートランプD 1 8 0が点灯となるように構成してもよい。また、マックスベットランプは、副制御基板S側で制御するよう構成してもよいし、主制御基板M側で制御するよう構成してもよい。

【1 6 6 0】

<<<精算ボタン操作時に関する構成>>>

次に、図2 7 7～図2 8 0を参照して、本例に係る回胴式遊技機に適用可能な精算ボタンD 6 0操作時の作用を詳述する。尚、以下の構成は、遊技機に3枚の遊技メダルがベットされており、クレジット数表示装置D 2 0 0に表示されているクレジット数が4である場合を例示している。尚、同図においては、マックスベットランプが点灯（又は点滅）していることをON、マックスベットランプが消灯していることをOFF、精算ボタンの操作を新たに検出したことをON、精算ボタンの操作を検出していない、又は精算ボタンの操作を新たに検出していないことをOFF、1ベットランプD 2 1 1が点灯していることをON、1ベットランプD 2 1 1が消灯していることをOFF、2ベットランプD 2 1 2が点灯していることをON、2ベットランプD 2 1 2が消灯していることをOFF、3ベットランプD 2 1 3が点灯していることをON、3ベットランプD 2 1 3が消灯している

ことをOFF、スタートランプD180が点灯（又は点滅）していることをON、スタートランプD180が消灯していることをOFF、投入可能ランプD300が点灯（又は点滅）していることをON、投入可能ランプD300が消灯していることをOFF、クレジット数表示装置D200が1減算されることを、OFF→ON→OFFで1減算、と図示している。また、図中では遊技メダルを1枚ずつメダル投入口D170から投入する場合を例示しているが、ベットボタンとして、マックスベットボタンとは異なる、1回の操作（オフ→オン）によって1枚の遊技メダルをベット可能な1ベットボタンや、1回の操作（オフ→オン）によって2枚の遊技メダルをベット可能な2ベットボタンを設けてもよく、そのように構成した場合に、メダル投入口D170への1枚の遊技メダル投入と同様の作用を、1ベットボタンの1回の押下に適用しても問題ない。尚、以下に例示する構成は、再遊技の停止表示中においても遊技機に貯留されている遊技メダルを精算可能に構成してもよいし、再遊技の停止表示中においては遊技機に貯留されている遊技メダルを精算できないように構成してもよい。また、精算ボタンD60を操作して、ベットされている遊技メダルが放出口D40から払い出される条件として（精算ボタンが操作されたと判定する条件として）、精算ボタンが「オン→オフ」となったこととしてもよいし、「オン」となったこととしてもよいし、「0・5秒以上オン」となったこととしてもよい。

【1661】

<<構成1>>

まず、図277における構成1について詳述する。回胴式遊技機に遊技メダルが3枚ベットされており、且つベットが有効でない状況下において、マックスベットランプが消灯しており、1ベットランプD211が点灯しており、2ベットランプD212が点灯しており、3ベットランプD213が点灯しており、スタートランプD180が点灯しており、投入可能ランプD300が点灯している。その後、精算ボタンD60が1回操作され（オフ→オンとなり）、1ベットランプD211、2ベットランプD212、3ベットランプD213、スタートランプD180、及び投入可能ランプD300が消灯すると共に、ベットされている3枚の遊技メダルが放出口D40から払い出され（払出が開始される）、その後、クレジット数表示装置D200に表示されている遊技機に貯留されているクレジットである4枚の遊技メダルが放出口D40から払い出される。また、最後に払い出される遊技メダル（クレジット数表示装置D200の表示が1→0となる遊技メダル）が払い出されたタイミングで、投入可能ランプD300が点灯する。

【1662】

構成1のように、ベットされている遊技メダルをクレジットよりも先に精算する（払い出す）よう構成することによって、遊技者が遊技を終了する際に、クレジットが0になったことを確認してすぐに離席したとしても、ベットされている遊技メダルの精算を忘れてしまうことが起こらないようにすることができる。特に、クレジット数が1～2枚等の少量である状況にて遊技を終了する場合は、遊技者が十分な遊技メダルを獲得できずに遊技を終了する可能性が相対的に高いため、遊技者の注意力も散漫になっている可能性がある。そのような場合にも、遊技者に意図しない不利益を生じないようにするために、ベットされている遊技メダルをクレジットよりも先に精算する（払い出す）よう構成しており、そのように構成されていることから、構成1においては、クレジット数表示装置D200に表示されているクレジット数が減算するよりも前に、1ベットランプD211、2ベットランプD212、3ベットランプD213、スタートランプD180、及び投入可能ランプD300が消灯するよう構成されている。

【1663】

<<構成2>>

次に、図277における構成2について詳述する。回胴式遊技機に遊技メダルが3枚ベットされており、且つベットが有効でない状況下において、マックスベットランプが消灯しており、1ベットランプD211が点灯しており、2ベットランプD212が点灯しており、3ベットランプD213が点灯しており、スタートランプD180が点灯しており、投入可能ランプD300が点灯している。その後、精算ボタンD60が1回操作され（

オフ→オンとなり）、マックスベットランプが点灯すると共に、ベットされている3枚の遊技メダルが放出口D40から払い出される（払出が開始される）。その後、スタートランプD180が消灯すると共に、投入可能ランプD300が消灯する。その後、3ベットランプD213が消灯する。その後、2ベットランプD212が消灯する。その後、1ベットランプD211が消灯すると共に投入可能ランプD300が点灯する。尚、構成2においては、精算ボタンD60が1回操作されたと判定した場合、ベットされている遊技メダルを払い出すが、クレジットは払い出さないよう構成されており、ベットされている遊技メダルが0である状況にて精算ボタンD60が1回操作されたと判定した場合にクレジットを払い出すよう構成されている。

【1664】

構成2のように、精算ボタンD60が1回操作されたと判定した場合、ベットされている遊技メダルを払い出すが、クレジットは払い出さないよう構成し、且つ、精算ボタンD60が操作された場合において、1ベットランプD211、2ベットランプD212、3ベットランプD213、スタートランプD180及び投入可能ランプD300の消灯よりも前のタイミングでマックスベットランプを点灯するよう構成することにより、遊技者が誤って精算ボタンを操作してしまった場合に、ベットされている遊技メダルのみが払い出されることとなり、遊技者はマックスベットボタンを再度操作してクレジットをベットしたいため、マックスベットボタンが操作可能である旨をいち早く報知するよう構成することにより、遊技の進行をスムーズにすることができる。

【1665】

<<構成3>>

次に、図278における構成3について詳述する。回胴式遊技機に遊技メダルが3枚ベットされており、且つベットが有効でない状況下において、マックスベットランプが消灯しており、1ベットランプD211が点灯しており、2ベットランプD212が点灯しており、3ベットランプD213が点灯しており、スタートランプD180が点灯しており、投入可能ランプD300が点灯している。その後、精算ボタンD60が1回操作され（オフ→オンとなり）、スタートランプD180及び投入可能ランプD300が消灯する。ベットされている3枚の遊技メダルが放出口D40から払い出され（払出が開始される）、その後、クレジット数表示装置D200に表示されている遊技機に貯留されているクレジットである4枚の遊技メダルが放出口D40から払い出されることとなる。また、精算ボタンD60から指を離れたタイミングの後、3ベットランプD213→2ベットランプD212→1ベットランプD211の順に消灯していく。また、最後に払い出される遊技メダル（クレジット数表示装置D200の表示が1→0となる遊技メダル）が払い出されたタイミングで、投入可能ランプD300が点灯する。

【1666】

<<構成4>>

次に、図278における構成4について詳述する。回胴式遊技機に遊技メダルが3枚ベットされており、且つベットが有効でない状況下において、マックスベットランプが消灯しており、1ベットランプD211が点灯しており、2ベットランプD212が点灯しており、3ベットランプD213が点灯しており、スタートランプD180が点灯しており、投入可能ランプD300が点灯している。その後、精算ボタンD60が1回操作され（オフ→オンとなり）、スタートランプD180及び投入可能ランプD300が消灯すると共に、ベットされている3枚の遊技メダルが放出口D40から払い出される（払出が開始される）。その後、3ベットランプD213が消灯する。その後、2ベットランプD212が消灯する。その後、1ベットランプD211が消灯すると共に投入可能ランプD300が点灯する。その後、マックスベットランプが点灯する。尚、構成4においては、精算ボタンD60が1回操作されたと判定した場合、ベットされている遊技メダルを払い出すが、クレジットは払い出さないよう構成されており、ベットされている遊技メダルが0である状況にて精算ボタンD60が1回操作されたと判定した場合にクレジットを払い出すよう構成されている。

10

20

30

40

50

【1667】

構成4のように、ベットされている遊技メダルを払い出すが、クレジットは払い出さないよう構成し、且つ、投入可能ランプD300の点灯よりも後のタイミングでマックスベットランプを点灯するよう構成することにより、遊技者が3枚ベットした後に1枚ベットへの変更を所望した場合においては、精算ボタンD60を1回操作してベットされている3枚の遊技メダルを精算した後に、遊技メダルを1枚投入する又は1ベットボタンを操作することとなるため、そのような場合において、マックスベットランプよりも投入可能ランプD300を先に点灯させることで、遊技の進行をスムーズにすることができる。

【1668】

<<構成5>>

次に、図279における構成5について詳述する。回胴式遊技機に遊技メダルが3枚ベットされており、且つベットが有効でない状況下において、マックスベットランプが消灯しており、1ベットランプD211が点灯しており、2ベットランプD212が点灯しており、3ベットランプD213が点灯しており、スタートランプD180が点灯しており、投入可能ランプD300が点灯している。その後、精算ボタンD60が1回操作され（オフ→オンとなり）、1ベットランプD211、2ベットランプD212、3ベットランプD213、スタートランプD180、及び投入可能ランプD300が消灯すると共に、ベットされている3枚の遊技メダルが放出口D40から払い出される（払出が開始される）。その後、投入可能ランプD300が点灯する。その後、マックスベットランプが点灯する。尚、構成5においては、精算ボタンD60が1回操作されたと判定した場合、ベットされている遊技メダルを払い出すが、クレジットは払い出さないよう構成されており、ベットされている遊技メダルが0である状況にて精算ボタンD60が1回操作されたと判定した場合にクレジットを払い出すよう構成されている。

【1669】

<<構成6>>

次に、図279における構成6について詳述する。回胴式遊技機に遊技メダルが3枚ベットされており、且つベットが有効でない状況下において、マックスベットランプが消灯しており、1ベットランプD211が点灯しており、2ベットランプD212が点灯しており、3ベットランプD213が点灯しており、スタートランプD180が点灯しており、投入可能ランプD300が点灯している。その後、精算ボタンD60が押下されたタイミング（オフ→オンとなったタイミング）で、投入可能ランプD300が消灯する。その後、スタートランプD180が消灯する。ベットされている3枚の遊技メダルが放出口D40から払い出され（払出が開始される）、その後、クレジット数表示装置D200に表示されている遊技機に貯留されているクレジットである4枚の遊技メダルが放出口D40から払い出されることとなる。また、精算ボタンD60が操作されたタイミングの後、3ベットランプD213→2ベットランプD212→1ベットランプD211の順に消灯していく。また、最後に払い出される遊技メダル（クレジット数表示装置D200の表示が1→0となる遊技メダル）が払い出された後、投入可能ランプD300が点灯する。尚、マックスベットランプは消灯したままとなっている。

【1670】

<<構成7>>

次に、図280における構成7について詳述する。回胴式遊技機に遊技メダルが3枚ベットされており、且つベットが有効でない状況下において、マックスベットランプが消灯しており、1ベットランプD211が点灯しており、2ベットランプD212が点灯しており、3ベットランプD213が点灯しており、スタートランプD180が点灯しており、投入可能ランプD300が点灯している。その後、精算ボタンD60が押下されたタイミング（オフ→オンとなったタイミング）で、マックスベットランプの点滅が開始し、スタートランプD180が消灯する。その後、投入可能ランプD180が消灯すると共に、ベットされている3枚の遊技メダルが放出口D40から払い出される（払出が開始される）。その後、3ベットランプD213が消灯する。その後、2ベットランプD212が消

10

20

30

40

50

灯する。その後、1ベットランプD 2 1 1が消灯する。その後、投入可能ランプD 3 0 0が点灯する。尚、マックスベットランプは消灯したままとなっている。尚、構成7においては、精算ボタンD 6 0が1回操作されたと判定した場合、ベットされている遊技メダルを払い出すが、クレジットは払い出さないよう構成されており、ベットされている遊技メダルが0である状況にて精算ボタンD 6 0が1回操作されたと判定した場合にクレジットを払い出すよう構成されている。

【1 6 7 1】

<<<<電源断のタイミングによる動作の相違>>>>

図2 8 1は、遊技機への給電と電源断とのタイミングによる主制御基板M及び副制御基板Sの動作を説明するタイミングチャートである。図2 8 1 (a)は、遊技機への給電と電源断とのタイミングの第1の態様を示すタイミングチャートであり、図2 8 1 (b)は、遊技機への給電と電源断とのタイミングの第2の態様を示すタイミングチャートである。

【1 6 7 2】

第1の態様は、主制御基板Mのメインプログラムや、副制御基板Sのサブプログラムの実行が開始された後に、電源断が発生する態様である。一方、第2の態様は、主制御基板のメインプログラムや、副制御基板のサブプログラムの実行が開始されるよりも前に、電源断が発生する態様である。

【1 6 7 3】

本例では、電源断は、遊技機への給電が停止した状態であり、遊技機の電源スイッチがオフになった状態や、電源ケーブルが抜けた状態や、電源ケーブルが断線した状態や、停電でもよい。遊技場において意図せずに給電が停止した場合なども含む。尚、電源断が発生したタイミングとは、遊技機への給電が停止したタイミングであり、遊技機の電源スイッチがオフになったタイミングであり、電源ケーブルが抜けたタイミングであり、電源ケーブルが断線したタイミングであり、停電が発生したタイミングである。

【1 6 7 4】

図2 8 1 (a)及び図2 8 1 (b)において、 $\Delta T 1$ は、給電の開始から電源断が発生した後に主制御基板Mへの供給電圧がローレベル（オフレベルと称することがある）に到達するまでの時間であり、 $\Delta T 2$ は、給電の開始から主制御基板Mへの供給電圧が供給レベルに達するまでの時間であり、 $\Delta T 3$ は、電源断が発生したタイミングから主制御基板Mへの供給電圧がローレベルになるまでの時間であり、 $\Delta T 4$ は、主制御基板Mへの供給電圧が供給レベルに達してから副制御基板Sのサブプログラムが起動するまでの時間であり、 $\Delta T 5$ は、主制御基板Mへの供給電圧が供給レベルに達してから主制御基板Mのメインプログラムが起動するまでの時間である。ここで、 $\Delta T 5 < \Delta T 1$ 、 $\Delta T 2 < \Delta T 3$ 、 $\Delta T 5 > \Delta T 3$ 、 $\Delta T 4 < \Delta T 5$ という関係が成立する。

【1 6 7 5】

<<<第1の態様>>>

<<電源の状態の変化>>

時刻 $t 1$ で遊技機の給電が開始され、時刻 $t 3$ で電源断が発生し遊技機への給電が停止する。

【1 6 7 6】

<<主制御基板の動作>>

<電源供給ユニットEから主制御基板に供給される電源電圧>

前述したように、時刻 $t 1$ から遊技機への給電が開始される。遊技機への給電により、電源供給ユニットEは、時刻 $t 1$ から主制御基板に給電を開始する。電源供給ユニットEから主制御基板Mに供給される電源電圧は、オフレベル（時刻 $t 1$ ）から供給レベル（時刻 $t 2$ ）まで増加し、時刻 $t 2$ から供給レベルで一定となる。尚、同図においては、主制御基板に給電を開始してから電源電圧が供給レベルに到達するまでの時間が一定である場合を例示しているが、これには限定されず、主制御基板に給電を開始してから電源電圧が供給レベルに到達するまでの時間にばらつきが生じ得よう（ランダムとなるよう）構成してもよい。また、副制御基板に給電を開始してから電源電圧が供給レベルに到達するま

での時間が一定である場合を例示しているが、これには限定されず、副制御基板に給電を開始してから電源電圧が供給レベルに到達するまでの時間にはばらつきが生じるよう（ランダムとなるよう）構成してもよい。尚、そのように構成した場合においても、主制御基板に給電を開始してから電源電圧が供給レベルに到達するまでの時間の最小値（最小時間）は、副制御基板に給電を開始してから電源電圧が供給レベルに到達するまでの時間の最大値（最大時間）よりも長時間となるよう構成することが好適である。

【1677】

その後、時刻 t_3 で電源断が発生する。この電源断の発生により、電源供給ユニットEから主制御基板Mに供給される電源電圧は、供給レベル（時刻 t_3 ）から維持レベル（時刻 t_4 ）まで徐々に低下し、時刻 t_4 から維持レベルで略一定となる。電源供給ユニットEには、コンデンサから構成されるバックアップ電源を有し、電源断が生じた場合でも、電源供給ユニットEは、一定の時間（時刻 t_4 ～時刻 t_5 ）に亘って略一定の電源電圧（維持レベル）を出力することができる（維持レベルの電圧が供給されている状況にて電源断時処理が実行されることとなる）。本例では、電源断時処理の実行開始（電源断を検出して）から維持レベルを保つ時間（時刻 t_3 から時刻 t_5 までの時間）は、最低でもタイマ割り込み処理を20回実行できる分の時間（タイマ割り込み時処理（図225）を20回呼び出して実行できる時間）担保できるよう構成されている。

【1678】

その後、電源供給ユニットEから主制御基板Mに供給される電源電圧は、時刻 t_5 から徐々に低下し、時刻 t_6 でオフレベルとなる。

【1679】

<メインプログラムの起動>

主制御基板で実行されるメインプログラムは、電源電圧が一定になった時刻 t_2 から ΔT_5 まで経過した時刻 t_a から起動する。このメインプログラムの実行により、前述した図206に示した主制御基板START（電源投入）の処理が実行される。

【1680】

前述したように、図206のステップ1014の判断処理で、設定キースイッチがオフである場合には、ステップ1016～1022、1036～1046及び1300の処理が実行され、ステップ1040の処理によって、タイマ割り込みが起動される。

【1681】

また、図206のステップ1014の判断処理で、設定キースイッチがオンである場合には、ステップ1028～1034及び1100の処理が実行される。

【1682】

<タイマ割り込みの起動>

設定キースイッチがオフである場合には、図206のステップ1040の処理によってタイマ割り込みが起動され、設定キースイッチがオンである場合には、図207のステップ1104の処理によってタイマ割り込みが起動される。タイマ割り込みが起動された後には、所定の周期T毎に、図225に示すタイマ割り込み処理が呼び出されて実行される。タイマ割り込みが実行される周期Tは、1.8msecである。

【1683】

<電源断の発生の検知>

電源断の発生が発生した場合には、電源供給ユニットEから電源断検知信号が出力される。主制御基板Mは、電源断検知信号が入力される入力ポートを有する。電源断検知信号は、電源断が発生していない場合には、ハイレベルの信号であり、電源断が発生している場合には、ローレベルの信号である。主制御基板Mは、入力ポートから読み出したデータが、ハイレベルの信号であるか又はローレベルの信号であるかによって、電源断の発生の有無を判断することができる。

【1684】

本例では、主制御基板Mは、図225のステップ1604の判断処理で電源断を検知する。具体的には、主制御基板Mは、連続する2回のタイマ割り込み処理において、2回と

10

20

30

40

50

も入力ポートから読み出したデータがローレベルの信号である場合に電源断が発生したと判断する。

【1685】

このように、本例では、連続する2回のタイマ割り込み処理によって電源断の発生を検知する。したがって、図206のステップ1040の処理や、図207のステップ1104の処理によってタイマ割り込みが起動された後に電源断の発生が発生した場合には、電源断の発生を検知することができる。一方、タイマ割り込みが起動されるよりも前に電源断が発生した場合には、電源断の発生を検知することはできない。

【1686】

このように、メインプログラムの実行が開始された後に電源断が発生し、図206のステップ1040の処理や図207のステップ1104の処理によってタイマ割り込みが起動された後に電源断が発生した場合には、割り込み処理によって電源断が発生したことを検出することができる。電源断が発生したことを検出したときには、図229に示す電源断時処理を実行することができる。

【1687】

<<副制御基板の動作>>

<サブプログラムの起動>

副制御基板Sで実行されるサブプログラムは、電源電圧が一定になった時刻 t_2 から ΔT_4 が経過した時刻 t_b から起動する。このサブプログラムの実行により、前述した図231に示したサブ側プログラム開始処理が実行される。なお、 ΔT_4 は、前述した ΔT_5 よりも短く、副制御基板Sを主制御基板Mよりも先に起動させることで、副制御基板Sは、主制御基板Mから送信されるコマンドを取りこぼすことなく受信することができる。尚、同図においては、主制御基板Mに給電を開始してから電源電圧が供給レベルに到達するタイミングと、副制御基板Sに給電を開始してから電源電圧が供給レベルに到達するタイミングとを、同一の時刻 t_b として図示しているが、主制御基板Mに給電を開始してから電源電圧が供給レベルに到達するまでの時間と副制御基板Sに給電を開始してから電源電圧が供給レベルに到達するまでの時間が相違するよう構成してもよく、そのように構成した場合にも、主制御基板Mに給電を開始してから主制御基板Mのメインプログラムが起動するまでの時間を、副制御基板Sに給電を開始してから副制御基板Sのサブプログラムが起動するまでの時間よりも長時間に構成することが好適であり、主制御基板M側の電源電圧が供給レベルに到達してから主制御基板Mのメインプログラムが起動するまでの時間を、副制御基板S側の電源電圧が供給レベルに到達してから副制御基板Sのサブプログラムが起動するまでの時間よりも長時間に構成することが好適である。

【1688】

<<<第2の態様>>>

図281(b)は、遊技機への給電と電源断とのタイミングの第2の態様を示すタイミングチャートである。第2の態様は、主制御基板Mで実行されるメインプログラムの実行が開始される前に電源断が発生する態様である。すなわち、電源供給ユニットEから副制御基板Sに供給される電源電圧が供給レベルになった時刻 t_2 から ΔT_5 まで経過するよりも前の時点で電源断が発生する態様である。

【1689】

このように、第2の態様では、メインプログラムの実行が開始されるよりも前の時点で（タイマ割り込みが起動する前の時点で）電源断が発生するため、メインプログラムによって電源断が発生したことを検出することができず、図229に示す電源断時処理が実行されることなく、電源断により遊技機は停止する（供給電圧がローレベルに到達する）。

【1690】

<<主制御基板の動作>>

<電源供給ユニットEから主制御基板に供給される電源電圧>

時刻 t_1 から遊技機への給電が開始される。遊技機への給電により、電源供給ユニットEは、時刻 t_1 から主制御基板Mに給電を開始する。電源供給ユニットEから主制御基板

10

20

30

40

50

Mに供給される電源電圧は、オフレベル（時刻 t_1 ）から供給レベル（時刻 t_2 ）まで増加し、時刻 t_2 から供給レベルで一定となる。

【1691】

その後、時刻 t_3 で電源断が発生する。この電源断の発生により、電源供給ユニットEから主制御基板Mに供給される電源電圧は、供給レベル（時刻 t_3 ）から維持レベル（時刻 t_4 ）まで徐々に低下し、時刻 t_4 から維持レベルで略一定となる。その後、電源供給ユニットEから主制御基板Mに供給される電源電圧は、時刻 t_5 から徐々に低下し時刻 t_6 でオフレベルとなる。

【1692】

このように、第2の態様では、電源断が発生した後にメインプログラムの実行が開始されることとなるが、図206のステップ1040の処理や図207のステップ1104の処理によってタイマ割り込みが起動されるよりも前に、電源供給ユニットEから主制御基板Mに供給される電源電圧がオフレベルとなるよう構成されている。

10

【1693】

尚、同図においては、第1の態様と第2の態様とを例示したが、本例に係る遊技機に適用可能な構成としては、

（1）主制御基板Mに給電を開始した直後（例えば、主制御基板Mに給電を開始してからタイマ割り込み処理を1回実行する時間経過後）に電源断が発生

→メインプログラムの実行が開始される前に電源供給ユニットEから主制御基板Mに供給される電源電圧がオフレベルとなる（メインプログラムの実行が開始されないこととなる）

20

（2）主制御基板Mに給電を開始

→電源供給ユニットEから主制御基板Mに供給される電源電圧が供給レベルに到達した直後（例えば、主制御基板Mに供給される電源電圧が供給レベルに到達してからタイマ割り込み処理を1回実行する時間経過後）に電源断が発生

→メインプログラムの実行が開始される前に電源供給ユニットEから主制御基板Mに供給される電源電圧がオフレベルとなる（メインプログラムの実行が開始されないこととなる）
上記のように構成してもよい。

【1694】

<<<設定キースwitchの状態と給電状態との関係>>>

図282（a）は、第1の態様での設定キースwitchの状態と給電状態と状況との関係を示す表であり、図282（b）は、第2の態様での設定キースwitchの状態と給電状態と状況との関係を示す表である。

30

【1695】

<<第1の態様での設定キースwitchの状態と給電状態との関係>>

<状態1>

まず、図282（a）の状態1では、遊技機は、通常状態、すなわち、遊技が実行されている状態、又は遊技が実行可能な状態になっており、設定キースwitchは「オフ」となっており、「給電状態」は「オン」になっている。

【1696】

<状態2>

40

状態2では、設定キースwitchが「オフ」となったままで電源断が生じ、「給電状態」は「オフ」となる。このとき、図229の電源断時処理が実行されて、通常状態で次に実行すべき処理の番地が、戻り番地として記憶領域に保存される。

【1697】

<状態3>

状態3では、「給電状態」が「オフ」のままの状態、設定キースwitchが操作されて「オン」に切り替えられる。

【1698】

<状態4>

次に、状態4では、設定キースwitchが「オン」となった状態で、電源が供給されるこ

50

とで、「給電状態」は「オン」に切り替わる。「給電状態」が「オン」となることで、図206の主制御基板START（電源投入）処理が実行される。前述したように、第1の態様では、メインプログラムの実行が開始された後に、電源断が発生する態様であり、電源断が発生する（次の状態5）よりも前に、図206の主制御基板START（電源投入）処理を実行することができる。

【1699】

前述した図206のステップ1014の判断処理では、設定キースイッチは、オンであると判断されて、ステップ1028～1034の処理が実行されて、ステップ1100で設定変更装置制御処理が呼び出されて実行され、通常状態から設定変更モードに移行する。なお、この設定変更装置制御処理で、図207に示すステップ1102の処理によって、記憶領域が初期化される。このように、設定キースイッチが「オン」である状態で、「給電状態」が「オン」となった場合には、設定変更モードに移行することとなり、その後設定変更スイッチやスタートレバーを操作することにより設定値の変更が可能となっている。また、図225のステップ1622の処理によって、設定変更開始コマンドが副制御基板Sに送信されることにより、副制御基板S側にて設定変更モード中である旨の報知が可能となっている。

【1700】

<状態5>

次に、設定変更モードであるときであり、設定変更装置制御処理が実行されている状態で、電源断が生じると、「給電状態」は「オフ」に変化する。電源断が生じたことで、図229の電源断時処理が呼び出され実行され、ステップ1902の処理によって、設定変更装置制御処理（設定変更モード）で次に実行すべき処理の番地が、戻り番地として記憶領域に保存される。

【1701】

<状態6>

状態6では、「給電状態」が「オフ」のままの状態で、設定キースイッチが操作されて、設定キースイッチが「オフ」に切り替えられる。

【1702】

<状態7>

状態7では、設定キースイッチが「オフ」となった状態で、電源が供給されて、「給電状態」は「オン」に切り替わる。「給電状態」が「オン」となることで、図206の主制御基板START（電源投入）処理が実行される。図206のステップ1014の判断処理では、設定キースイッチは、「オフ」であると判断されて、ステップ1022の処理が実行される。このステップ1022の処理によって、状態5で記憶領域に保存された戻り番地に復帰し、戻り番地の処理から実行が開始される。前述したように、状態5で記憶領域に保存された戻り番地は、設定変更装置制御処理における次に実行すべき処理の番地であり、復帰することによって、設定変更装置制御処理の処理が直ちに実行される。このように、第1の態様では、通常状態にて電源供給がオフとなり、電源供給がオフである状況にて設定キースイッチをオンにして電源供給をオンにすることで設定変更モードに移行することが設定変更モードに移行する場合の基本的な作用となっているが、設定変更モード中にて電源供給をオフにし、設定キースイッチをオフにしてから電源供給をオンにした場合にも、戻り番地として設定変更モードが記憶されているため設定変更モード中となるよう構成されている。このように構成することにより、設定変更モード中に電源断が発生した（例えば、遊技場が停電になった等）場合にも、電源断発生前の状態に戻ることができる、遊技機の異常な動作を発生し難くすることができる。

【1703】

<<第2の態様での設定キースイッチの状態と給電状態との関係>>

<状態1>

図282（b）の状態1は、第1の態様と同様に、遊技機は、通常状態、すなわち、遊技が実行されている状態や、遊技が実行可能な状態であり、設定キースイッチは「オフ」

10

20

30

40

50

となっており、「給電状態」は「オン」になっている。

【1704】

<状態2>

状態2も、第1の態様と同様に、設定キースイッチが「オフ」となったままで電源断が生じ、「給電状態」は「オフ」となる。このとき、図229の電源断時処理が実行されて、通常状態で次に実行すべき処理の番地が、戻り番地として記憶領域に保存される。

【1705】

<状態3>

状態3では、「給電状態」が「オフ」のままの状態、設定キースイッチが操作されて「オン」に切り替えられる。

【1706】

<状態4>

状態4では、設定キースイッチが「オン」となった状態で、電源が供給されて、「給電状態」は「オン」に切り替わる。

【1707】

<状態5>

状態5では、設定キースイッチが「オン」となった状態で、電源断が発生して、「給電状態」は「オフ」に切り替わる。前述したように、第2の態様では、主制御基板Mで実行されるメインプログラムの実行が開始される前に電源断が発生する。したがって、第2の態様では、「給電状態」は、一旦、「オン」になるが(状態4)、状態4に係る「給電状態」が「オン」となった直後(例えば、タイマ割り込み処理を1回実行する時間の経過後)に「給電状態」は「オフ」に切り替わる。換言すると、図206の主制御基板START(電源投入)処理が実行される前(又は、タイマ割り込みを起動する前)に、電源供給ユニットEから主制御基板Mに供給される電源電圧がオフレベルとなる(状態5)。このため、設定変更装置制御処理が実行されることはなく、記憶領域に記憶されている戻り番地は変更されず、状態2で保存された戻り番地がそのまま記憶領域に保存されている。

【1708】

<状態6>

次に、状態6では、「給電状態」が「オフ」のままの状態、設定キースイッチが操作されて、設定キースイッチが「オフ」に切り替えられる。

【1709】

<状態7>

状態7では、設定キースイッチが「オフ」となった状態で、電源が供給されて、「給電状態」は「オン」に切り替わる。「給電状態」が「オン」となることで、図206の主制御基板START(電源投入)処理が実行される。図206のステップ1014の判断処理では、設定キースイッチは、オフであると判断されて、ステップ1022の処理が実行される。このステップ1022の処理によって、状態2で記憶領域に保存された戻り番地に復帰し、戻り番地から実行が開始される。前述したように、状態2で記憶領域に保存された戻り番地は、通常状態で次に実行すべき処理の番地であり、通常状態で次に実行すべき処理が実行される。このように、第2の態様では、設定キースイッチが「オン」となった状態で、「給電状態」が「オン」となった場合においても、主制御基板Mのメインプログラムが実行される前に電源供給が「オフ」となった場合には、その後、設定キースイッチが「オフ」となってから電源供給が「オン」となっても、設定変更モードには移行しないよう構成されている。第2の態様のよう構成することにより、遊技機の電源投入直後に電源断が発生した場合に、設定変更モードに移行させてしまうと遊技機に意図しない不具合が発生しまう可能性があるため、設定キースイッチがオンであっても設定変更モードに移行しないよう構成することができ、より不具合が生じ難い遊技機を構成することができる。

【1710】

<<<メダルの付与の制御及び払出音の出力制御>>>

10

20

30

40

50

前述したように、小役に入賞した場合（小役に対応する図柄組み合わせが停止表示した場合）には、入賞した小役に対応する払出し枚数のメダルが遊技者に付与される。

【1711】

＜＜メダル付与の処理＞＞

メダルを付与する処理には、クレジット数として加算して付与する処理と、実際に遊技メダルを遊技機外に払い出して付与する処理とがある。

【1712】

＜クレジット数の加算処理＞

主制御基板MのCPUC100は、現在のクレジット数が最大貯留数未満（例えば、50未満）であるときには、クレジット数が最大貯留数に達するまで払出し枚数に応じてクレジット数を加算する。このクレジット数の加算処理は、主制御基板MのCPUC100の演算処理により実行される。

【1713】

＜遊技メダルの払い出し処理＞

主制御基板MのCPUC100は、現在のクレジット数が最大貯留数を超えたときには、ホッパH40を駆動してメダル払出装置Hからメダルを払い出すことでメダルを付与する。メダル払出装置Hからの払い出し処理は、主制御基板MからホッパH40に駆動信号を出力することで実行される。

【1714】

＜＜メダル付与の態様＞＞

現在のクレジット数と付与するメダルの数とに応じて、クレジット数の加算処理のみの態様と、遊技メダルの払い出し処理のみの態様と、クレジット数の加算処理から遊技メダルの払い出し処理に移行する（クレジット数の加算処理とメダルの払い出し処理とのいずれも実行する）態様との3種類の態様がある。

【1715】

＜クレジット数の加算処理のみの態様＞

現在のクレジット数が最大貯留数以下である場合には、主制御基板MのCPUC100は、クレジット数が最大貯留数に達するまで払出し枚数に応じてクレジット数を加算する。払出し枚数を加算しても最大貯留数に達しない場合には、クレジット数の加算処理のみで、メダル付与の処理は終了する。

【1716】

＜クレジット数の加算処理から遊技メダルの払い出し処理に移行する態様＞

現在のクレジット数が最大貯留数以下である場合に、主制御基板MのCPUC100は、クレジット数が最大貯留数に達するまで払い出し枚数に応じてクレジット数を加算する。主制御基板MのCPUC100は、クレジット数が最大貯留数に達した場合には、クレジット数の加算処理から遊技メダルの払い出し処理に切り替える。主制御基板MのCPUC100は、払い出し枚数からクレジットの加算分を減じた残りの枚数の遊技メダルを、ホッパH40を駆動してメダル払出装置Hから払い出す。クレジットの加算分と、メダル払出装置Hから払い出した遊技メダルの数との総和が、入賞した小役に対応する払出枚数である。

【1717】

このように、クレジット数の加算処理から遊技メダルの払い出し処理に移行する場合には、主制御基板MのCPUC100は、クレジットの加算処理から遊技メダルの払い出し処理に切り替える。

【1718】

＜遊技メダルの払い出し処理のみの態様＞

現在のクレジット数が既に最大貯留数となっている場合には、主制御基板MのCPUC100は、ホッパH40に駆動信号を出力してメダル払出装置Hから払出枚数分の遊技メダルを払い出す。

【1719】

10

20

30

40

50

<<具体例>>

例えば、図283に示すように、現在のクレジット数が47であるときに、払出枚数5枚のメダルを遊技者に付与する場合には、まず、主制御基板MのCPU100は、クレジット数を1つつず加算する。具体的には、主制御基板MのCPU100は、クレジット数を48、49、50と増やす。図283に示す例では、クレジット表示装置に表示されているクレジット数が、47→48（1枚目（時刻t1））→49（2枚目（時刻t2））→50（3枚目（時刻t3））と変化する。クレジット数が50となることで、最大貯留数（50枚）に達し、これ以上は、クレジットを増やすことができない。

【1720】

次に、主制御基板MのCPU100は、クレジットの加算処理から遊技メダルの払い出し処理に切り替え、ホッパH40に駆動信号を出力し、払出し枚数5枚から、クレジットの加算分の3枚を減じた残りの2枚をメダル払出装置Hから払い出す。

【1721】

図283に示す例では、主制御基板MのCPU100は、時刻t4でホッパH40に駆動信号を出力して払出処理を開始する。時刻t4～時刻t5で4枚目の遊技メダルが払い出され、時刻t6～時刻t7で5枚目の遊技メダルが払い出される。主制御基板MのCPU100は、メダル払出装置Hから払い出されたメダルの数を計数しており、時刻t7で5枚目の遊技メダルが払い出されたことを検出して払い出し処理を終了する。

【1722】

<<各種時間>>

<クレジット数の加算処理の単位処理時間及び遊技メダルの払い出し処理の単位処理時間>

主制御基板MのCPU100によるクレジットの加算処理では、クレジット数mからクレジット数m+1に増やすのに単位処理時間aを要する。例えば、図283に示すように、クレジット数48（1枚目）からクレジット数49（2枚目）に増やすのに、時刻t2－時刻t1=aを要し、クレジット数49（2枚目）からクレジット数50（3枚目）に増やすのに、時刻t3－時刻t2=aを要する。クレジットの加算処理において、単位処理時間aは略一定である。

【1723】

また、メダル払出装置Hから遊技メダルを払い出す処理では、n枚目の遊技メダルの払い出しからn+1枚目の遊技メダルの払い出しまでに単位処理時間cを要する。例えば、図283に示すように、4枚目の遊技メダルの払い出しから5枚目の遊技メダルの払い出しまでに、時刻t6－時刻t4=cを要する。遊技メダルの払い出し処理において、単位処理時間cは略一定である。

【1724】

1つの単位処理時間aは、連続する2つの加算処理のタイミングの差で規定できる。例えば、単位処理時間aは、47から48への（1枚目の）加算処理のタイミング（時刻t1）と48から49への（2枚目の）加算処理のタイミング（時刻t2）との差や、48から49への（2枚目の）加算処理のタイミング（時刻t2）と49から50への（3枚目の）加算処理のタイミング（時刻t3）との差である。

【1725】

また、1つの単位処理時間cは、連続する2つの払出処理の開始のタイミングの差で規定できる。例えば、単位処理時間cは、5枚目の処理の開始のタイミング（時刻t6）と4枚目の加算処理の開始のタイミング（時刻t4）との差である。このように、単位処理時間a及びcは一定の周期となるように規定すればよい。

【1726】

<クレジット数の加算処理から遊技メダルの払い出し処理への切り替え時間e>

前述したように、クレジット数が最大貯留数に達するまでクレジット数を加算し、払出枚数の全てを付与していない場合には、遊技メダルの払い出し処理に切り替える。主制御基板MのCPU100が、クレジット数の加算処理から遊技メダルの払い出し処理に切り替えるのに切り替え時間eを要する。

【1727】

<<時間の比較>>

【1728】

<単位処理時間 a と単位処理時間 c >

前述した単位処理時間 a は、単位処理時間 c と相違する。単位処理時間 a は、主制御基板 M の CPU C 1 0 0 の演算処理によって定まる時間であり、単位処理時間 c は、主制御基板 M の CPU C 1 0 0 の演算処理に要する時間と、メダル払出装置 H の駆動に要する時間との双方からなる。単位処理時間 c を単位処理時間 a よりも長くすることができる。このようにすることで、メダル払出装置 H の駆動時間も含めて的確に払出の制御をすることができる。

10

【1729】

尚、前述したように、メダル払出装置 H の駆動に要する時間を調整することで、単位処理時間 c を単位処理時間 a と等しくすることもできる。このようにすることで、払出処理を迅速にすることができる。

【1730】

<切り替え時間 e >

切り替え時間 e は、単位処理時間 a と相違する。切り替え時間 e を単位処理時間 a よりも長くすることができる。切り替え時間 e を長くすることで、クレジット数の加算処理から遊技メダルの払い出し処理に安定して切り替えることができ、主制御基板 M の CPU C 1 0 0 の演算処理からホッパ H 4 0 の駆動に円滑に切り替えることができる。

20

【1731】

また、切り替え時間 e を単位処理時間 a よりも短くすることもできる。切り替え時間 e を短くすることで、クレジット数の加算処理から遊技メダルの払い出し処理に迅速に切り替えることができ、遊技メダルの払い出し処理を早めに終了することで、次の遊技を直ちに開始することで、遊技メダルの消費を増し、遊技場の利益を高めることができると共に、遊技機の稼働効率を高めることができる。

【1732】

このように、切り替え時間 e を単位処理時間 a と相違させることで、遊技メダルの払い出し処理に切り替えるときに、払出しが一定の周期とは異なり、遊技メダルのメダル受け皿への払い出しが始まる高揚感や期待感を遊技に与えることができる。

30

【1733】

切り替え時間 e を単位処理時間 a と一致させることもできる。切り替え時間 e を単位処理時間 a と一致させた場合には、一定の周期でメダルを遊技者に付与することができ、クレジット数の加算処理も遊技メダルの払い出し処理も同等のメダルの付与であることを遊技者に示すことで安心感を与えることができる。

【1734】

<<遊技媒体付与音の出力>>

主制御基板 M の CPU C 1 0 0 は、クレジットの加算処理を開始するときに（時刻 t 1）、払い出し開始コマンドを副制御基板 S に出力する。副制御基板 S は、この払い出し開始コマンドを受信したことを契機にして、スピーカ S 2 0 からの遊技媒体付与音の出力を開始する。

40

【1735】

また、主制御基板 M の CPU C 1 0 0 は、遊技メダルの払い出しが終了するときに（時刻 t 7）、払い出し終了コマンドを副制御基板 S に出力する。副制御基板 S は、この払い出し終了コマンドを受信したことを契機にして、スピーカ S 2 0 からの遊技媒体付与音の出力を終了する。前述したように、主制御基板 M の CPU C 1 0 0 は、メダル払出装置 H から払い出された遊技メダルの数を計数しており、入賞した小役に対応する払い出し枚数の遊技メダルの全てを遊技者に付与したか否かを判断する。主制御基板 M の CPU C 1 0 0 は、入賞した小役に対応する払い出し枚数の遊技メダルの全てを付与したと判断したときには、払い出し終了コマンドの副制御基板 S への出力を終了して、スピーカ S 2 0 から

50

の遊技媒体付与音の出力を終了する。尚、遊技媒体付与音を一定の周期のサウンドを繰り返し再生する（出力する）ような態様とした場合には、払い出し終了コマンドを副制御基板S側が受信したタイミングにて即座に遊技媒体付与音の出力を終了するよう構成してもよいし、払い出し終了コマンドを副制御基板S側が受信したタイミングにて出力している遊技媒体付与音の周期が終了したタイミングにて遊技媒体付与音の出力を終了するよう構成してもよい。

【1736】

遊技媒体付与音は、単位付与音データを少なくとも1回再生することでスピーカS20から出力される音である。単位付与音データは、副制御基板SのRAMに予め記憶されている。図283に示すように、単位付与音データの1回分の再生時間はdであり、副制御基板SのCPUCは、単位付与音データをRAMから読み出し、払い出し開始コマンドを受信したときから払い出し終了コマンドを受信するまでの間に亘って、単位付与音データを複数回繰り返し再生することで、遊技媒体付与音をスピーカS20から出力する。

【1737】

<第1の態様>

図283に示す遊技媒体付与音の第1の態様は、払い出し開始コマンドを受信したときから単位付与音データを再生時間d毎に繰り返し再生する態様である。このように再生することで、一定の周期で遊技媒体付与音が出力される。前述したように、クレジット数の加算処理から遊技メダルの払い出し処理に切り替える場合であっても、遊技媒体付与音が一定の周期で出力されるため、払出について遊技者に違和感を感じさせず、クレジット数の加算処理も遊技メダルの払い出し処理も同等の価値を付与していることを遊技者に示すことで安心感を与えることができる。

【1738】

<第2の態様>

また、図283に示す遊技媒体付与音の第2の態様は、払い出し開始コマンドを受信したときから単位付与音データを再生時間d毎に再生し、クレジット数の加算処理が終了した後に時間fだけ単位付与音データを再生し、その後、時刻t4で遊技メダルの払い出し処理の開始とともに、改めて単位付与音データの再生を開始する態様である。遊技メダルの払い出し処理に切り替えるときに、遊技媒体付与音が一定の周期とは異なるタイミングで出力されるため、遊技メダルのメダル受け皿への払出しが始まる高揚感や期待感を遊技に与えることができる。

【1739】

なお、メダル払出装置Hから遊技メダルを払い出している最中に、ホッパH40の遊技メダルがなくなり、ホッパエラーが発生した場合（例えば、ステップ1279の処理にてYesと判定した場合）には、副制御基板Sは、遊技媒体付与音の出力を停止し、ホッパエラーが発生したことを示す音声出力する。ホッパH40に遊技メダルが供給され、払出可能な状態になると、主制御基板Mは、改めて払い出し開始コマンドを副制御基板Sに送信し、副制御基板Sは、遊技媒体付与音の出力を開始する。尚、これには限定されず、ホッパエラーが発生した場合にも遊技媒体付与音は継続して出力されることとなるが、遊技媒体付与音の音量をホッパエラーが発生したことを示す音声の音量と比較して小さい音量にて出力（音量＝0としてもよい）し、ホッパエラーが解除されることにより、ホッパエラーが発生したことを示す音声の出力を終了すると共に、遊技媒体付与音の音量を元に戻すよう構成してもよい。

【1740】

<<<基板における集積回路の配置>>>

図284は、主制御基板Mに実装されている各種の電子部品の配置を示す正面図である。図285は、主制御基板Mに実装されている電子部品の配置を示す側面図である。

【1741】

主制御基板Mは、略板状で長方形のプリント基板MPを有する。プリント基板MPの表側には、主に、CPUC100、IC、抵抗、コネクタなどが実装され、プリント基板

10

20

30

40

50

MPの裏側には、主に、導体による回路パターンが形成されている。主制御基板M（プリント基板MP）は、互いに平行で長手方向に沿った2つの長手端部ML1及びML2と、互いに平行で短手方向に沿った2つの短手端部MS1及びMS2とからなる長方形状を有する。

【1742】

本例では、主制御基板Mは、遊技機の筐体内で立設するように取り付けられる。主制御基板Mが、立設して取り付けられたときには、長手端部ML1及びML2が水平方向に沿って配置され、短手端部MS1及びMS2が鉛直方向に沿って配置される。長手端部ML1は上側に位置し、長手端部ML2は下側に位置する。また、プリント基板MPの表側から見て、短手端部MS1は、短手端部MS2よりも左側に位置し、短手端部MS2は、短手端部MS1よりも右側に位置する。

10

【1743】

以下では、長手端部ML1側を上側と称し、長手端部ML2側を下側と称し、短手端部MS1側を左側と称し、短手端部MS2側を右側と称する。

【1744】

<CPUC100>

CPUC100は、長尺な形状を有し、長手方向の長さはCLLであり、短手方向の長さはCSLである。CPUC100は複数のピンを有し（図示せず）、複数のピンは、本体部から突出して形成されている。CPUC100がプリント基板MPに取り付けられたときには、複数のピンによって電氣的接続が形成され、複数のピンには互いに異なる電気信号が流れる。このため、CPUC100をプリント基板MPに取り付ける作業では、CPUC100に所望の動作をさせるべく、CPUC100を適正な向きに取り付ける必要がある。CPUC100の第1番目のピン（図284に示す1P）をCPUC100を配置するための基準ピンとしている。CPUC100の本体部には、第1番目のピン（1P）を視認するためのマークが形成されたり、CPUC100の向きを視認するための切り欠き（図示せず）が形成されたりしている。

20

【1745】

本例では、CPUC100の長手方向が、主制御基板Mの長手方向と一致するように（平行となるように）、CPUC100はプリント基板MPに取り付けられる。本例では、図284に示すように、CPUC100の第1番目のピンが左下側に位置するようにCPUC100を配置することで、CPUC100を、後述するICの向きと揃えて配置することになり、CPUC100をプリント基板MPに取り付ける作業の際に、CPUC100の向きを間違えて取り付けのミスを低減することができる。

30

【1746】

さらに、一般的に、CPUC100の本体部には、型番やメーカー名などの各種の文字情報（図示せず）が、印字されている。文字情報は、CPUC100の長手方向に沿って第1番目のピン側から離隔するように印字されている。CPUC100がプリント基板MPに取り付けられた状態で、型番やメーカー名などの文字情報を容易に視認できるようにするのが好ましい。上述したように、CPUC100の第1番目のピンが左下側に位置するようにCPUC100を配置することで、印字されている型番やメーカー名などを視認しやすい向きでCPUC100を配置することができる。

40

【1747】

なお、CPUC100がプリント基板MPに取り付けられたときには、CPUC100のピンの番号は、プリント基板MPの表側から見て、第1番目のピン（1P）を始点にして反時計回りに沿って順に大きくなる。

【1748】

<IC>

プリント基板MPの表側には、各種のIC（集積回路）も取り付けられている。ICは、長尺な形状を有し、長手方向の長さはILLであり、短手方向の長さはISLである。CPUC100と同様に、ICも複数のピンを有し（図示せず）、複数のピンは、本体部

50

から突出して形成されている。ICがプリント基板MPに取り付けられたときには、複数のピンによって電氣的接続が形成され、複数のピンには互いに異なる電気信号が流れる。このため、ICをプリント基板MPに取り付ける作業においても、ICに所望する動作をさせるべく、ICを適正な向きに取り付ける必要がある。このため、ICの第1番目のピン（図284に示す1P）もICを配置するための基準ピンとしている。ICの本体部には、第1番目のピン（1P）を視認するためのマークが形成されたり、ICの向きを視認するための切り欠き（図示せず）が形成されたりしている。

【1749】

本例では、ICの長手方向が、CPUC100の長手方向や主制御基板Mの長手方向と一致するように（平行となるように）、ICはプリント基板MPに取り付けられる。さらに、ICの第1番目のピンが左下側に位置するようにICをプリント基板MPに配置している。このように、ICの第1番目のピンが、常に左下側に位置するようにICを配置することで、全てのICの向きを揃えて配置することになり、ICをプリント基板MPに取り付ける作業の際に、ICの向きを間違えて取り付けるようなミスを低減することができる。

10

【1750】

さらに、一般的に、ICの本体部には、型番やメーカー名などの各種の文字情報（図示せず）が、印字されている。文字情報は、第1番目のピン側からICの長手方向に沿って離隔するように印字されている。ICがプリント基板MPに取り付けられている状態で、ICの型番やメーカー名などの文字情報を容易に視認できるようにするのが好ましい。上述したように、ICの第1番目のピンが左下側に位置するようにICを配置することで、印字されている型番やメーカー名などを視認しやすい向きになるようにICを配置することもできる。

20

【1751】

なお、ICがプリント基板MPに取り付けられたときには、ICのピンの番号は、プリント基板MPの表側から見て、第1番目のピン（1P）を始点にして反時計回りに沿って順に大きくなる。

【1752】

<抵抗>

プリント基板MPの表側には、各種の抵抗も取り付けられており、他の電子部品と電氣的接続が形成されている。ICは、長尺な形状を有し、長手方向の長さはRLであり、短手方向の長さはRSである。

30

【1753】

<コネクタ>

プリント基板MPの表側には、コネクタも取り付けられており、他の電子部品と電氣的接続が形成されている。主制御基板Mは、コネクタを介して副制御基板Sなどに接続され、各種の信号を送受信することができる。

【1754】

<CPUC100とICとの間隔>

図284の破線で示すように、CPUC100の周囲の所定の範囲CSR1の内側には、抵抗のみが配置され、ICは配置されていない。所定の範囲CSR1は、CPUC100の外周CORからの長さが所定の長さ以下となる範囲である。ここで、所定の長さは、例えば、少なくともCPUC100の短手方向の長さCSLにすることができる。ICには、各種の電流（時間的に変化する電流などであり、例えば、高周波信号）が流れ、ICがノイズの発生源となり得るため、CPUC100の動作に影響を与える可能性がある。このように、CPUC100の周囲の所定の範囲CSR1の内側にICを配置しないことで、ICをCPUC100からある程度の距離（例えば、長さCSL）だけ離隔した位置に配置し、ICから発せられるノイズを、CPUC100の動作に影響させないようにできる。

40

【1755】

50

また、CPUC100の外周CORからの所定の長さを、少なくとも抵抗の長手方向の長さRLにしてもよい。抵抗には電流が流れるため、抵抗が熱源となり得るため、CPUC100の動作に影響を与える可能性がある。このため、CPUC100の周囲の所定の範囲CSR1の内側に、抵抗を配置しないようにすることで、抵抗をCPUC100からある程度の距離（例えば、長さRL）だけ離隔した位置に配置し、抵抗から発せられる熱を、CPUC100の動作に影響させないようにできる。

【1756】

<CPUC100の高さとICの高さと他の部品の高さとの関係>

図285は、図284に示した各種の電子部品の高さを示す側面図である。この図285に示すように、CPUC100の高さCHTが最も高く、次に、ICの高さIHTが高く、抵抗の高さRHTが最も低い。図284に示すように、CPUC100の周囲の所定の範囲CSR2の内側には、CPUC100の高さCHT未満の部品のみが配置される。所定の範囲CSR2は、CPUC100の外周CORからの長さが所定の長さ以下となる範囲である。ここで、所定の長さは、例えば、抵抗の長手方向の長さRLにすることができる。

【1757】

CPUC100をプリント基板MPに取り付ける作業では、取り付け用具（図示せず）が用いられる。取り付け用具は、取り付け用具の先端部でCPUC100を挟持してプリント基板MPに近づけて取り付けられる用具である。取り付け用具の先端部でCPUC100を挟持する構造であるため、CPUC100が挟持されているときには、CPUC100の周囲に取り付け用具の先端部が配置される。このため、CPUC100を取り付けるときには、取り付け用具の先端部もプリント基板MPに近づけざるを得ず、取り付け用具の先端部が他の電子部品と干渉しないように、取り付け用具の先端部のための空間を確保する必要がある。

【1758】

このため、CPUC100がプリント基板MPに取り付けられる位置の周辺の領域CSR2には、CPUC100の高さCHT未満の部品のみを配置する。このようにすることで、取り付け用具の先端部がプリント基板MPに最も近づいた状態であっても、取り付け用具の先端部が他の部品と干渉することはない。領域CSR2は、CPUC100の外周CORからの長さが所定の長さ以下となる範囲である。ここで、所定の長さは、例えば、少なくとも抵抗の長手方向の長さRLにすることができる。

【1759】

尚、CPUC100の高さCHT未満の部品のみを配置するのは、CPUC100がプリント基板MPに取り付けられる位置の周辺の領域のみとし、プリント基板MPにおけるCPUC100がプリント基板MPに取り付けられる位置の周辺の領域外には、CPUC100の高さCHT以上の部品が取り付けられるよう構成してもよいし、プリント基板MPに取り付けられるすべての部品がCPUC100の高さCHT未満の部品となるよう構成してもよい。

【1760】

このように、CPUC100の周囲の所定の範囲CSR2の内側には、CPUC100の高さCHTよりも低い電子部品のみを配置することで、取り付け用具の先端部を近づけられる空間を確保することができ、取り付け用具を用いても、他の電子部品に損傷を与えることなく、CPUC100をプリント基板MPに取り付けることができる。

【1761】

なお、前述した例では主制御基板Mを一例として説明したが、副制御基板Sや扉基板Dや回胴基板Kや電源基板Eなど、CPUやICなどの電子部品が搭載される基板の全てに適用することができる。

【1762】

<<<AT抽選に関する構成>>>

次に、図286を参照して、本例に係る回胴式遊技機に適用可能なAT状態移行制御処

10

20

30

40

50

理の構成について詳述する。尚、同図に例示する構成は、A Tを有するよう構成した場合においては、上述したすべての構成に適用可能であることを補足しておく。

【1763】

はじめに、図286は、本実施形態における、図211のステップ1400のサブルーチンに係る、A T状態移行制御処理のフローチャートである。まず、ステップ1401-1で、主制御基板MのC P U M Cは、現在のA Tに関する状態はA T抽選可能な状態であるか否かを判定する。尚、同図においては、低確率状態や高確率状態等のA T抽選に当選する確率の異なる複数の遊技状態は有しておらず、例えば、本実施形態における高確率状態等の1の遊技状態においてのみA T抽選を実行し得るよう構成されている。また、本実施形態との相違点として、B Bの当選に基づいてA T抽選は実行しないよう構成されている。

10

【1764】

ステップ1401-1でY e sの場合、ステップ1401-2で、主制御基板MのC P U M Cは、A T抽選種別として「2」をセットし、所定のR A M領域に一時記憶する。ここで、A T抽選種別とは、A T抽選を実行するために要するデータ容量を削減するために設けている、A T抽選を実行する際に当選確率を識別するための種別である。次に、ステップ1401-3で、主制御基板MのC P U M Cは、当該ゲームに係る条件装置は設定差なし（抽選確率に設定差がない条件装置）であるか否かを判定する。同図に示す変更例においては、設定差なしとなる条件装置は、スイカB、チェリー、スイカA、再遊技（すべての再遊技役としてもよいし、一部の再遊技役としてもよい）、押し順ベルとなっており、本処理においては、設定差なしとなる条件装置に当選しているかどうかを判定している。尚、ハズレと共通ベルの抽選確率には設定差が設けられている（設定差ありとなっている）が、本処理においては、ハズレ又は共通ベルに当選したか否かを判定しないよう構成されている。尚、A T抽選種別を記憶する前記所定のR A M領域と、前述した当選番号や演出グループ番号を記憶するR A M領域とは異なる領域とすることが好適である。そのように構成することにより、当選確率に設定差のある条件装置に関する情報と当選確率に設定差のない条件装置に関する情報とが区別して記憶される領域である当選番号を記憶する領域と演出グループ番号を記憶する領域と、当選確率に設定差のある条件装置に関する情報と当選確率に設定差のない条件装置に関する情報とが区別せずに記憶される領域であるA T抽選種別を記憶する領域とを、混同しないよう構成することができる。

20

30

【1765】

ステップ1401-3でY e sの場合、ステップ1401-4で、主制御基板MのC P U M Cは、A T抽選種別テーブルを参照して、A T抽選種別をセットして前記所定のR A M領域（ステップ1401-2に係る所定のR A M領域と同一のR A M領域）に一時記憶し（上書きされることとなる）、ステップ1401-5に移行する。尚、ステップ1401-3でN oの場合にも、ステップ1401-5に移行する。ここで、同図右中段のA T抽選テーブルについて詳述する。本変更例においては、A T抽選を実行可能な状況にて設定差なしとなる条件装置に当選した場合には、スイカBに当選した場合はA T抽選種別として「0」を、チェリーに当選した場合はA T抽選種別として「0」を、スイカAに当選した場合はA T抽選種別として「1」を、再遊技に当選した場合はA T抽選種別として「2」を、押し順ベルに当選した場合はA T抽選種別として「2」を、セットするよう構成されている。

40

【1766】

次に、ステップ1401-5で、主制御基板MのC P U M Cは、セットされているA T抽選種別に基づき、A T抽選を実行する。ここで、同図右下段に示すように、A T抽選に当選する確率は、A T抽選種別が「0」の場合には $56/256$ であり、A T抽選種別が「1」の場合には $18/256$ であり、A T抽選種別が「2」の場合には $1/256$ であり、A T抽選に当選し易いものから順に、「0→1→2」となっている。次に、ステップ1401-6で、主制御基板MのC P U M Cは、ステップ1401-5で実行したA T抽選に当選したか否かを判定する。ステップ1401-6でY e sの場合、ステップ140

50

1 - 7で、主制御基板MのCPUMCは、ATカウンタにAT初期ゲーム数として所定値（例えば、50）をセットする。尚、本変更例においては、本実施形態とは異なり、AT状態移行制御処理にてATカウンタにAT初期ゲーム数をセットするよう構成しており、AT状態開始制御処理ではAT初期ゲーム数はセットしないよう構成されている（ATゲーム数上乘せに当選した場合には、ATゲーム数が加算される場合がある）。次に、ステップ1401 - 8で、主制御基板MのCPUMCは、次ゲーム以降のATに関する状態を「AT中状態」に決定し、次の処理（ステップ1430の処理）に移行する。尚、ステップ1401 - 1又はステップ1401 - 6でNoの場合にも、次の処理（ステップ1430の処理）に移行する。

【1767】

従来の遊技機においては、AT抽選として、当選役を参照しない共通の抽選処理と、設定差なしとなる条件装置に当選した場合に実行される抽選処理（当選役を参照する抽選処理）とを有するよう構成した場合には、AT抽選を少なくとも2回実行する必要があったが、同図のようにAT抽選種別を設けることにより、当選役を参照しない共通の抽選処理（同図においては、ステップ1401 - 2の処理が対応している）と、設定差なしとなる条件装置に当選した場合に実行される抽選処理（同図においては、ステップ1401 - 4の処理が対応している）とを1回の抽選処理（同図においては、ステップ1401 - 6の処理が対応している）にて実行することができることとなる。

【1768】

以上、遊技機として、回胴式遊技機の構成を例示したが、上述した構成は、ぱちんこ遊技機やじゃん球遊技機やアレンジボールやゲーム機やカジノマシン等の様々な遊技用の機種に適用できる。

【1769】

尚、上述した構成のうち、設定変更モード、設定確認モード、設定キースイッチ、設定／リセットボタン等の設定に関する構成（例えば、図252に例示した構成）は、設定値を有するぱちんこ遊技機にも適用可能である。

【1770】

<<<本例に係る遊技機に適用可能な押し順ナビに係る構成>>>

本例に係る遊技機においては、押し順ナビを実行可能に構成されている。ここで、本例に適用可能な押し順ナビの実行態様を以下に詳述する。なお、以下に詳述する構成は、すべての実施形態に適用可能であることを補足しておく。

【1771】

また、本例における押し順ナビに関しては、以下の構成を押し順ナビと称している。

（1）主制御基板Mにて制御される押し順表示装置D270に遊技者に有利な停止ボタンの操作態様が表示されることを押し順ナビと称する。具体例としては、「=3」と表示することで、「中→左→右」の押し順を指示可能である。また、押し順表示装置D270に表示される押し順ナビを指示、指示表示と称することがあり、押し順表示装置D270にて押し順ナビを実行する遊技を指示遊技と称することがある。

（2）副制御基板Sにて制御される演出表示装置S40に遊技者に有利な停止ボタンの操作態様（を示唆する画像）が表示されることを押し順ナビと称する。具体例としては、「123」と表示することで、「左→中→右」の押し順を指示（示唆）可能である。

（3）副制御基板Sにて制御されるスピーカS20から遊技者に有利な停止ボタンの操作態様を示唆する音声出力することを押し順ナビと称する。具体例としては、スタートレバーを操作した際に「左です」と出力することで、第1停止ボタンとして左停止ボタンを操作すべき旨を指示（示唆）可能である。

（4）副制御基板Sにて制御されるリール窓枠ランプD310が遊技者に有利な停止ボタンの操作態様を示唆するよう点灯（点滅）することを押し順ナビと称する。具体例としては、スタートレバーを操作した際に左リール及び左停止ボタンに対応したリール窓枠ランプD310が点灯することで、第1停止ボタンとして左停止ボタンを操作すべき旨を指示（示唆）可能である。

10

20

30

40

50

(5) 主制御基板M、又は副制御基板Sにて制御される停止ボタンD40（左停止ボタンD41、中停止ボタンD42、右停止ボタンD43）の内部に設けられた停止ボタンランプS60が遊技者に有利な停止ボタンの操作態様を示唆するよう点灯（点滅）することを押し順ナビと称する。具体例としては、スタートレバーを操作した際に左リールに対応した左停止ボタンD41が点灯することで、第1停止ボタンとして左停止ボタンを操作すべき旨を指示（示唆）可能である。

【1772】

以下では、押し順役（押し順ベル、押し順再遊技役などの押し順によって払出枚数やRT状態の移行態様が相違し得る役）が当選役として決定された遊技に、押し順ナビの表示が開始されるタイミング、及び押し順ナビが終了するタイミングについて説明する。AT中状態において押し順役が当選役として決定されることで、遊技者に最も有利となる停止ボタンの操作態様（リール停止順や停止ボタンの操作タイミング）を報知する押し順ナビを実行し得るよう構成されている。

【1773】

<<押し順ナビの表示開始に係る構成>>

<ウエイトがない場合における押し順ナビの実行態様>

はじめに、ウエイトがない場合、換言すると、最小遊技時間が経過している（遊技間隔最小時間タイマM70のタイマ値が0である）場合にスタートレバーを操作して遊技が行われる場合の押し順ナビの実行態様について以下に説明する。

【1774】

<構成1>

まず、図287の構成について説明する。ATに関する状態がAT中状態（押し順役に当選した場合に押し順ナビを実行する遊技状態）であり、最小遊技時間が経過している状況にて、スタートレバーが操作され、回胴回転開始処理を実行してリールが回転開始する（図211のステップ1260にて実行する）。なお、当該遊技においては、所定の押し順ベルに当選しており、「中→左→右」の順で停止操作することで遊技者に最も有利となる（払出枚数が多い）場合（例えば、「入賞-A3」に当選した場合）について例示している。

【1775】

その後、回胴回転処理を実行した直後に、押し順表示装置D270にて押し順ナビとして「=3」が表示される。ここで、押し順表示装置D270における押し順ナビの一例として、

「=1」：「左→中→右」の押し順を指示

「=2」：「左→右→中」の押し順を指示

「=3」：「中→左→右」の押し順を指示

「=4」：「中→右→左」の押し順を指示

「=5」：「右→左→中」の押し順を指示

「=6」：「右→中→左」の押し順を指示

のように構成されている。

【1776】

なお、押し順表示装置D270にて押し順ナビを実行する場合の表示態様としては、上述した表示態様には限定されず、例えば、「=」を表示せずに、右側の桁（下位桁）のみに数字を表示してもよいし、右側の桁（下位桁）のみに停止ボタン（又はリール）に対応した数字ではない表示態様を表示するよう構成してもよい。また、右側の桁（下位桁）は次回停止操作すべき停止ボタン（又はリール）に対応した表示とし、左側の桁（上位桁）は当該遊技全体の押し順を示す表示とするよう構成してもよい。そのように構成した場合には、右側の桁（下位桁）は停止ボタンの停止操作毎に表示態様が変化し得る一方、左側の桁（上位桁）は停止ボタンの停止操作に拘らず同一の表示態様となる。

【1777】

押し順表示装置D270にて押し順ナビとして「=3」が表示された後、演出表示装置

10

20

30

40

50

S 4 0にて押し順ナビとして「1 2 3」が表示されることとなる。ここで、演出表示装置 S 4 0における押し順ナビの一例として、

「1 2 3」：「左→中→右」の押し順を指示

「1 3 2」：「左→右→中」の押し順を指示

「2 1 3」：「中→左→右」の押し順を指示

「3 1 2」：「中→右→左」の押し順を指示

「2 3 1」：「右→左→中」の押し順を指示

「3 2 1」：「右→中→左」の押し順を指示

のように構成されている。

【1 7 7 8】

なお、演出表示装置 S 4 0にて押し順ナビを実行する場合の表示態様としては、上述した表示態様には限定されず、算用数字以外の表示態様としてもよく、例えば、漢数字としてもよいし、数字ではないキャラクタの画像やシンボルの画像等としてもよい。また、すべての停止ボタンに対応した表示態様以外にも、例えば、第1停止のみを指示する「1ー」（第1停止として左停止ボタンを操作すべき旨を報知する押し順ナビ）のような押し順ナビを実行してもよい。

【1 7 7 9】

なお、「表示」とは、表示すべき要素がすべて表示完了することとしてもよいし、表示すべき要素が表示を開始したこととしてもよい。例えば、演出表示装置 S 4 0に「1 2 3」を表示するとは、演出表示装置 S 4 0に「1 2 3」がすべて表示完了することとしてもよいし、演出表示装置 S 4 0にて「1 2 3」の表示が開始された（表示開始時のエフェクトが発生したなど）こととしてもよい。同様に、「表示終了」とは、表示を終了すべき要素がすべて表示されなくなることとしてもよいし、表示を終了すべき要素を表示されなくするための表示遷移を開始したこととしてもよい。例えば、演出表示装置 S 4 0にて「1 2 3」の表示を終了するとは、演出表示装置 S 4 0に「1 2 3」がすべて表示されなくなることとしてもよいし、演出表示装置 S 4 0にて「1 2 3」の表示の一部が消去され始めた（表示終了時のエフェクトが発生したなど）こととしてもよい。同様に、「表示を消去」とは、表示を消去すべき要素がすべて表示されなくなることとしてもよいし、表示を消去すべき要素を表示されなくするための表示遷移を開始したこととしてもよい。例えば、演出表示装置 S 4 0にて「1 2 3」の表示を消去するとは、演出表示装置 S 4 0に「1 2 3」がすべて表示されなくなることとしてもよいし、演出表示装置 S 4 0にて「1 2 3」の表示の一部が消去され始めた（表示消去時のエフェクトが発生したなど）こととしてもよい。また、同様に、演出表示装置 S 4 0にて「1」の表示を消去するとは、演出表示装置 S 4 0に「1 2 3」がすべて表示されている状況にて左停止ボタンが操作された後、演出表示装置 S 4 0に「1」が表示されなくなることとしてもよいし、演出表示装置 S 4 0にて「1」の表示の一部が消去され始めた（表示消去時のエフェクトが発生したなど）こととしてもよい。

【1 7 8 0】

演出表示装置 S 4 0にて押し順ナビが表示された後、停止ボタンの操作が有効になる。なお、リールの回転が開始した後、リール駆動状態がリール加速状態からリール定速状態となることで、停止ボタンの操作が有効となる。指示遊技においては、遊技者は押し順表示装置 D 2 7 0又は演出表示装置 S 4 0に表示される押し順ナビを確認して停止ボタンを操作するため、同図のように、停止ボタンが有効になるよりも前に押し順ナビを表示可能とすることで、遊技者が押し順を確認する前に停止ボタンを操作してしまう事態（押し順を間違えてしまう事態）を防止することができる。

【1 7 8 1】

また、図 2 8 7においては、押し順表示装置 D 2 7 0における押し順ナビの方が、演出表示装置 S 4 0における押し順ナビよりも先に表示される（表示開始される）こととなる。ここで、押し順表示装置 D 2 7 0の押し順ナビの表示について説明する。「入賞 - A 3」が当選役として決定された場合に、主制御基板 M の C P U C 1 0 0は、タイマ割り込み

10

20

30

40

50

時処理として、ステップ1622にて、制御コマンドとして入賞・再遊技当選情報に係るコマンドを副制御基板S側へ送信する。副制御基板SのCPUSCは、主制御基板MのCPUC100より受信した入賞・再遊技当選情報に係るコマンドに基づいて、ステップ2250のコマンド処理を実行する（コマンド処理としてステップ2360等の押し順ナビを表示するための押し順ナビ表示処理を実行する）。

【1782】

ここで、副制御基板S側で制御する演出表示装置S40にて押し順ナビを表示する場合の処理について詳述する。まず、副制御基板SのCPUSCが主制御基板MのCPUC100からの入賞・再遊技当選情報に係るコマンドを受信した後、コマンドデータの保存、コマンド解析処理、サブメイン基板（副制御基板S内の基板）から演出制御基板（副制御基板S内の基板）に押し順ナビの表示態様に係るコマンドを送信する処理を順次行い、入賞・再遊技当選情報に係るコマンドの受信から押し順ナビの表示態様に係るコマンドの送信までは約16msを要する。また、演出制御基板は押し順ナビの表示態様に係るコマンドを受信し、コマンドの内容に問題がない場合には描画処理を実行し、当該描画処理には約32msを要する。なお、一例として、主制御基板Mが副制御基板S側に送信するコマンドを入賞・再遊技当選情報に係るコマンドとしたが、あくまで一例であり、演出グループ番号に係るコマンドなど他のコマンドとしてもよく、所望する演出の実行タイミングによって適宜設計すればよい。

【1783】

また、主制御基板M側で制御する押し順表示装置D270にて押し順ナビを表示する場合については、押し順表示装置D270はダイナミック点灯にて点灯するよう構成されているため、タイマ割り込み処理の周期を2msとすると、5つの7セグLEDユニットをタイマ割り込み処理毎に順次点灯させるため、点灯が完了するまでは最大で10ms程度の時間を要する。このように構成されているため、主制御基板M側で制御する押し順表示装置D270にて押し順ナビを表示する契機（例えば、スタートレバーの操作）が発生してから押し順ナビの表示が完了するまでの時間よりも、副制御基板S側で制御する演出表示装置S40にて押し順ナビを表示する契機（例えば、主制御基板M側からの入賞・再遊技当選情報に係るコマンドの受信）が発生してから押し順ナビの表示が完了するまでの時間の方が長時間となるよう構成されている。

【1784】

ここで、本例における押し順ナビの表示を開始可能な期間として、主制御基板MのCPUC100が実行する処理を用いて詳しく説明することにする。遊技機は、主制御基板MのCPUC100が周辺機器等の制御を行うことで遊技を進行させていくよう設計されている。尚、本例における主制御基板MのCPUC100が実行する処理については、説明を簡素化するために特定のステップに限って説明するが、この限りではないことを補足しておく。例えば、ステップ1251の判断処理で主制御基板MのCPUC100が、スタートレバーD50の操作が行われたと判定すると、ステップ1550でリール回転開始準備処理を実行する。そして、ステップ6102のリール回転開始待機状態開始タイミングに到達したと判定することで、ステップ6106のリール加速状態開始タイミングに到達しているかを判定する。そして、ステップ6108、およびステップ6110によりリール駆動状態をリール加速状態に更新し、リールの回転が開始する。ここで、ステップ6102からステップ6108までの期間は、リール回転開始までのウェイト期間に相当する期間であり、例えば所定の条件としての遊技間隔最小時間タイマM70によるゲーム開始タイミング（リール回転開始タイミング）から次のゲーム開始タイミング（リール回転開始タイミング）までに担保されるべき時間（本例では、4.1秒）を満たしていないために発生する期間であり、最小遊技時間とも称することがある。次にステップ6114で主制御基板MのCPUC100は、ステップ6114のリール加速状態終了タイミングに到達したかを判定する。そして、主制御基板MのCPUC100は、ステップ6116、およびステップ6118でリール駆動状態をリール定速状態に更新し、リールの定速状態を維持するよう処理を行った後、停止ボタンの操作を有効にする処理が実行される。本例で

10

20

30

40

50

は、主制御基板MのCPUC100が上記の処理を実行する期間内のいずれかのタイミング、換言すると、スタートレバーの操作が実行されたときから停止ボタンの操作が有効になるまでのいずれかのタイミングにて、押し順ナビが表示（表示開始）されるよう構成されていればよい。

【1785】

このように、スタートレバーD50の操作を行ったタイミングから停止ボタンの操作が有効になるまでの期間を、主制御基板MのCPUC100が実行する処理に従って説明したが、本例では、主制御基板MのCPUC100が実行する処理に従って、スタートレバー操作→最小遊技時間が経過→リール回転開始→リール加速状態→リール定速状態→停止ボタンの操作が有効（リール停止ボタンの操作が有効とも称する）、と期間を分けて規定

10

【1786】

なお、図287においては、演出表示装置S40による押し順ナビがリール加速状態にて実行される場合を例示したが、主制御基板Mが副制御基板S側にコマンドを送信し、その後副制御基板Sが描画処理を実行して押し順ナビがリール加速状態の期間中に表示されるということであり、副制御基板S側の押し順ナビの表示に関する構成としては、以下のよう

（1）スタートレバー操作→最小遊技時間が経過→主制御基板Mが回胴回転開始処理を実行してリール回転開始→リール駆動状態を加速状態に更新→主制御基板Mが押し順表示装置D270にて押し順ナビをダイナミック点灯で表示→主制御基板Mが副制御基板S側に入賞・再遊技当選情報に係るコマンドを送信→副制御基板S側が入賞・再遊技当選情報に係るコマンドを受信→当該コマンドを契機として副制御基板S側が描画処理を実行し演出表示装置S40にて押し順ナビを表示→リール駆動状態を定速状態に更新

20

（2）スタートレバー操作→最小遊技時間が経過→主制御基板Mが回胴回転開始処理を実行してリール回転開始→リール駆動状態を加速状態に更新→主制御基板Mが押し順表示装置D270にて押し順ナビをダイナミック点灯で表示→主制御基板Mが副制御基板S側に入賞・再遊技当選情報に係るコマンドを送信→副制御基板S側が入賞・再遊技当選情報に係るコマンドを受信→主制御基板Mが副制御基板S側に所定のコマンドを送信→副制御基板S側が当該所定のコマンドを受信→当該所定のコマンドを契機として副制御基板S側が描画処理を実行し演出表示装置S40にて押し順ナビを表示→リール駆動状態を定速状態に更新

30

（3）スタートレバー操作→最小遊技時間が経過→主制御基板Mが回胴回転開始処理を実行してリール回転開始→リール駆動状態を加速状態に更新→主制御基板Mが押し順表示装置D270にて押し順ナビをダイナミック点灯で表示→主制御基板Mが副制御基板S側に入賞・再遊技当選情報に係るコマンドを送信→副制御基板S側が入賞・再遊技当選情報に係るコマンドを受信→リール駆動状態を定速状態に更新→当該コマンドを契機として副制御基板S側が描画処理を実行し演出表示装置S40にて押し順ナビを表示

（4）スタートレバー操作→最小遊技時間が経過→主制御基板Mが回胴回転開始処理を実行してリール回転開始→リール駆動状態を加速状態に更新→主制御基板Mが押し順表示装置D270にて押し順ナビをダイナミック点灯で表示→主制御基板Mが副制御基板S側に入賞・再遊技当選情報に係るコマンドを送信→副制御基板S側が入賞・再遊技当選情報に係るコマンドを受信→主制御基板Mが副制御基板S側に所定のコマンドを送信→副制御基板S側が当該所定のコマンドを受信→リール駆動状態を定速状態に更新→当該所定のコマンドを契機として副制御基板S側が描画処理を実行し演出表示装置S40にて押し順ナビを表示

40

上記のように構成してもよい。即ち、副制御基板S側が主制御基板M側から所定のコマンドを受信してから描画処理を実行するまでの時間値を設計して副制御基板S側の押し順ナビの表示タイミングを決定してもよいし、主制御基板M側が副制御基板S側に所定のコマ

50

ンドを送信するタイミングを設計して副制御基板 S 側の押し順ナビの表示タイミングを決定してもよい。

【1787】

<構成2>

次に、図288の構成について説明する。ATに関する状態がAT中状態（押し順役に当選した場合に押し順ナビを実行する遊技状態）であり、最小遊技時間が経過している状況にて、スタートレバーが操作され、回胴回転開始処理を実行してリールが回転開始する。なお、当該遊技においては、所定の押し順ベルに当選しており、「中→左→右」の順で停止操作することで遊技者に最も有利となる（払出枚数が多い）場合（例えば、「入賞 - A3」に当選した場合）について例示している。

【1788】

その後、停止ボタンの操作が有効になり、主制御基板Mから副制御基板S側にコマンドが送信されて、演出表示装置S40にて押し順ナビとして「213」が表示される。演出表示装置S40にて押し順ナビとして「213」が表示された後、押し順表示装置D270にて押し順ナビとして「=3」がダイナミック点灯にて表示される。図288では、演出表示装置S40の押し順ナビの方が、押し順表示装置D270の押し順ナビよりも先に表示される。例えば、図288では、演出表示装置S40による押し順ナビは回胴回転開始処理を実行した後のタイミング、押し順表示装置D270による押し順ナビはリール停止ボタンの操作が有効になる直前のタイミングで実行される。

【1789】

<効果1>

図287又は図288のように構成することにより、押し順表示装置D270、及び演出表示装置S40に表示される押し順ナビの開始タイミングを所定の期間（スタートレバー操作→最小遊技時間が経過→リール回転開始→リール加速状態→リール定速状態→停止ボタンの操作が有効、となるまでの期間）で定めることにより、例えば押し順表示装置D270、及び演出表示装置S40の双方で押し順ナビを開始するタイミングが遅れて遊技者がどちらの表示装置を見ても押し順ナビが認識できないという事態を確実に防止でき、遊技者に不利益等を与えることのないユーザーフレンドリーな遊技機を提供することができる。

【1790】

<効果2>

また、図287又は図288のように構成することにより、押し順表示装置D270に表示される押し順ナビの開始タイミングと、演出表示装置S40上に表示される押し順ナビの開始タイミングを異ならせることで、2つの表示装置を同時に視認しなければならないという状態を回避でき、遊技者は押し順ナビが発生したタイミングで個々の表示装置にて押し順ナビを視認できるという遊技者の遊技負担を軽減できるユーザーフレンドリーな遊技機を提供することができる。

【1791】

<構成3>

AT中状態において、押し順役（押し順ベル、押し順再遊技役など）が当選役として決定された場合に、押し順を報知する演出手段として、演出表示装置S40だけでなく、例えば図290、図291に記載されているように中パネル（中装飾パネル）に備えられたランプ（以下、リール窓枠ランプD310と称する）、もしくはスピーカS20から出力される音声などによって押し順を報知するような構成も可能である。構成3においては、指示遊技が実行された場合、リール窓枠ランプD310にて押し順ナビを実行可能に構成されている。リール窓枠ランプD310は、左リールM51、中リールM52、右リールM53のそれぞれに対応する位置（リール近傍）に備えられており、例えば、スタートランプD180と同様にLEDなどによって構成されている。リール窓枠ランプD310の点灯、及びスピーカS20から出力される音声などは、演出表示装置S40と同様に副制御基板Sにて制御管理されているものである。つまり、これらの演出手段によって押し順

10

20

30

40

50

ナビを実行する場合には、演出表示装置 S 4 0 の時と同様に、副制御基板 S の C P U S C が、主制御基板 M の C P U C 1 0 0 より受信したコマンドに基づいて、ステップ 2 1 0 8、ステップ 2 2 5 0 によりコマンド処理（ここではリール窓枠ランプ点灯処理、音声出力処理と称する）を実行することで押し順ナビを実行することが可能となる。尚、リール窓枠ランプ D 3 1 0 は、遊技者ができるだけ視認しやすい位置に備えられていることが好ましいため、例えばリール窓 D 1 6 0 の上側、もしくは下側など（遊技者から見ると、リールが視認できるリール窓 D 1 6 0 の上側、もしくは下側のスペース）に各リールに対応させるよう備えておくことが好ましい。

【1792】

図 2 9 0 を用いて構成 3 について説明する。A T に関する状態が A T 中状態（押し順役に当選した場合に押し順ナビを実行する遊技状態）であり、最小遊技時間が経過している状況にて、スタートレバーが操作され、回胴回転開始処理を実行してリールが回転開始する。なお、当該遊技においては、所定の押し順ベルに当選しており、「中→左→右」の順で停止操作することで遊技者に最も有利となる（払出枚数が多い）場合（例えば、「入賞 - A 3」に当選した場合）について例示している。

【1793】

その後、回胴回転開始処理を実行した直後に、押し順表示装置 D 2 7 0 にて押し順ナビとして「= 3」がダイナミック点灯にて表示（表示開始）される。押し順表示装置 D 2 7 0 にて押し順ナビとして「= 3」が表示された後、リール窓枠ランプ D 3 1 0 による押し順ナビとして、中リール（中停止ボタン）に対応するランプが点灯（点灯開始）する。その後、演出表示装置 S 4 0 にて押し順ナビとして「2 1 3」が表示（表示開始）される。図 2 9 0 では、押し順ナビが表示される順番としては、「押し順表示装置→リール窓枠ランプ→演出表示装置」となっており、リール窓枠ランプ D 3 1 0 の点灯による押し順ナビの表示が開始されるタイミングは、押し順表示装置 D 2 7 0 よりも遅く、演出表示装置 S 4 0 よりも早いタイミングとなっている。

【1794】

ここで、副制御基板 S 側で制御する演出表示装置 S 4 0 にて押し順ナビを表示する場合には、副制御基板 S の C P U S C が主制御基板 M の C P U C 1 0 0 からの入賞・再遊技当選情報に係るコマンドを受信した後、コマンドデータの保存、コマンド解析処理を順次行った後、サブメイン基板（副制御基板 S 内の基板）から演出制御基板（副制御基板 S 内の基板）に押し順ナビの表示態様に係るコマンドを送信する処理及びサブメイン基板（副制御基板 S 内の基板）からランプ制御基板（副制御基板 S 内の基板）に押し順ナビの点灯態様に係るコマンドを送信する処理を行い、入賞・再遊技当選情報に係るコマンドの受信から押し順ナビの表示態様に係るコマンドの送信及び押し順ナビの点灯態様に係るコマンドの送信までは約 1 6 m s を要する。また、演出制御基板は押し順ナビの表示態様に係るコマンドを受信し、コマンドの内容に問題がない場合には描画処理を実行し、当該描画処理には約 3 2 m s を要する。一方、ランプ制御基板は押し順ナビの点灯態様に係るコマンドを受信し、コマンドの内容に問題がない場合にはすぐに点灯処理を実行する（点灯処理は描画処理よりも短時間で実行可能）ため、主制御基板 M から副制御基板 S 側に入賞・再遊技当選情報に係るコマンドを送信し、副制御基板 S 側が当該コマンドの受信を契機として、演出表示装置 S 4 0 とリール窓枠ランプ D 3 1 0 とによる押し順ナビを実行する場合には、演出表示装置 S 4 0 による押し順ナビの表示よりも前にリール窓枠ランプ D 3 1 0 による押し順ナビの表示（点灯表示）が実行されるよう構成されている。なお、主制御基板 M から送信されるコマンドは入賞・再遊技当選情報に係るコマンドには限定されず、演出グループ番号に係るコマンドなどとしてもよい。

【1795】

このように、演出表示装置 S 4 0 による押し順ナビの表示よりも前にリール窓枠ランプ D 3 1 0 による押し順ナビの表示（点灯表示）が実行されるよう構成することにより、遊技者に簡素な報知をより早く実行することができ、遊技者が押し順を確認する前に停止ボタンを操作してしまう事態（押し順を間違えてしまう事態）を防止することができる。

【1796】

なお、押し順ナビが表示される順番としては、「押し順表示装置→演出表示装置→リール窓枠ランプ」とするよう構成してもよい。そのように構成する場合には、サブメイン基板が演出制御基板に押し順ナビに係るコマンドを送信した後に、サブメイン基板がランプ基板に押し順ナビに係るコマンドを送信するよう構成してもよいし、演出表示装置S40における押し順ナビが表示される契機となる主制御基板M側からのコマンドとリール窓枠ランプD310における押し順ナビが表示される契機となる主制御基板M側からのコマンドとを異なるコマンドとしてもよい。

【1797】

上記のように、押し順ナビが表示（表示開始）される順番として、「押し順表示装置→リール窓枠ランプ→演出表示装置」である場合の説明を行ったが、押し順ナビが表示（表示開始）される順番はこの限りではない。例えば押し順ナビが表示（表示開始）される順番の変形例として、「リール窓枠ランプ→押し順表示装置→演出表示装置」、「演出表示装置→押し順表示装置→リール窓枠ランプ」、「リール窓枠ランプ→演出表示装置→押し順表示装置」、「演出表示装置→リール窓枠ランプ→押し順表示装置」とするよう構成してもよい。そのように構成する場合には、サブメイン基板がランプ基板、及び演出制御基板に押し順ナビに係るコマンドを送信した後、主制御基板Mが、押し順表示装置D270にて押し順ナビをダイナミック点灯にて表示（表示開始）するよう構成してもよいし、演出表示装置S40における押し順ナビが表示される契機となる主制御基板M側からのコマンドとリール窓枠ランプD310における押し順ナビが表示される契機となる主制御基板M側からのコマンドとを異なるコマンドとしてもよい。このようにしてサブメイン基板からコマンドを送るタイミング、主制御基板Mが押し順ナビをダイナミック点灯にて表示（表示開始）するタイミングに応じて、

（1）押し順表示装置D270でのダイナミック点灯による押し順ナビを最先で実行する

（2）リール窓枠ランプD310による押し順ナビを最先で実行する

（3）演出表示装置S40による押し順ナビを最先で実行する

など、押し順ナビが表示（表示開始）される順番を変更可能となる。

【1798】

<効果>

このように、最小遊技時間が経過している状況にて、リール窓枠ランプD310での押し順ナビの開始タイミングを所定の期間（スタートレバー操作→リール回転開始→リール加速状態→リール定速状態→停止ボタンの操作が有効、となるまでの期間）で定めることにより、例えば、演出表示装置S40のような液晶ユニットを搭載していない遊技機であっても、押し順ナビをランプの点灯（本例ではリール窓枠ランプD310の点灯）などを用いて実行することができ、遊技者が押し順ナビ（停止ボタンの有利な操作態様）を認識できないといったことが起こり難いユーザーフレンドリーな遊技機を提供することができる。

【1799】

<構成4>

次に、構成4として、スピーカS20から出力される音声による押し順ナビの報知を実行する構成について説明する。構成4は、指示遊技において、音声によって押し順を報知するよう構成されており、例えば、「左です」、「中です」、「右です」などの台詞をスピーカから音声として出力し、当該停止操作を行うべきリール（操作すべき停止ボタン）に対応した押し順ナビを実行する。

【1800】

図291を用いて構成4について説明する。ATに関する状態がAT中状態（押し順役に当選した場合に押し順ナビを実行する遊技状態）であり、最小遊技時間が経過している状況にて、スタートレバーが操作され、回胴回転開始処理を実行してリールが回転開始する。なお、当該遊技においては、所定の押し順ベルに当選しており、「中→左→右」の順で停止操作することで遊技者に最も有利となる（払出枚数が多い）場合（例えば、「入賞

- A 3」に当選した場合)について例示している。

【1801】

その後、回胴回転開始処理を実行した直後に、押し順表示装置D 2 7 0にて押し順ナビとして「= 3」がダイナミック点灯にて表示(表示開始)される。押し順表示装置D 2 7 0にて押し順ナビとして「= 3」が表示された後、スピーカS 2 0による音声を出力する押し順ナビとして、「中です」(第1停止操作としては中停止ボタンを操作することを示唆する音声)との音声が出力される。その後、演出表示装置S 4 0にて押し順ナビとして「2 1 3」が表示(表示開始)される。図291では、押し順ナビが表示される順番としては、「押し順表示装置→音声→演出表示装置」となっており、音声出力による押し順ナビの報知が開始されるタイミングは、リール窓枠ランプD 3 1 0と同様に、押し順表示装置D 2 7 0よりも遅く、演出表示装置S 4 0よりも早いタイミングとなっている。

10

【1802】

ここで、副制御基板S側で制御する演出表示装置S 4 0にて押し順ナビを表示する場合には、副制御基板SのCPUSCが主制御基板MのCPUC100からの入賞・再遊技当選情報に係るコマンドを受信した後、コマンドデータの保存、コマンド解析処理を順次行った後、サブメイン基板(副制御基板S内の基板)から演出制御基板(副制御基板S内の基板)に押し順ナビの表示態様に係るコマンドを送信する処理及びサブメイン基板(副制御基板S内の基板)から音声制御基板(副制御基板S内の基板)に押し順ナビの出力態様に係るコマンドを送信する処理を行い、入賞・再遊技当選情報に係るコマンドの受信から押し順ナビの表示態様に係るコマンドの送信及び押し順ナビの出力態様に係るコマンドの送信までは約16msを要する。また、演出制御基板は押し順ナビの表示態様に係るコマンドを受信し、コマンドの内容に問題がない場合には描画処理を実行し、当該描画処理には約32msを要する。一方、音声制御基板は押し順ナビの出力態様に係るコマンドを受信し、コマンドの内容に問題がない場合にはすぐに音声出力処理を実行する(音声出力処理は描画処理よりも短時間で実行可能)ため、主制御基板Mから副制御基板S側に入賞・再遊技当選情報に係るコマンドを送信し、副制御基板S側が当該コマンドの受信を契機として、演出表示装置S 4 0とスピーカS 2 0とによる押し順ナビを実行する場合には、演出表示装置S 4 0による押し順ナビの表示よりも前にスピーカS 2 0による押し順ナビの出力(音声出力)が実行されるよう構成されている。なお、主制御基板Mから送信されるコマンドは入賞・再遊技当選情報に係るコマンドには限定されず、演出グループ番号に係るコマンドなどとしてもよい。

20

30

【1803】

このように、演出表示装置S 4 0による押し順ナビの表示よりも前にスピーカS 2 0による押し順ナビの出力(音声出力)が実行されるよう構成することにより、遊技者に簡素な報知をより早く実行することができると共に、遊技者は演出表示装置S 4 0を見ていなくても音声によって押し順を認識することができ、押し順を確認する前に停止ボタンを操作してしまう事態(押し順を間違えてしまう事態)を防止することができる。

【1804】

上記のように、押し順ナビが表示(表示開始)される順番として、「押し順表示装置→音声→演出表示装置」である場合の説明を行ったが、押し順ナビが表示(表示開始)される順番はこの限りではない。例えば押し順ナビが表示(表示開始)される順番の変形例として、「押し順表示装置→演出表示装置→音声」とするよう構成してもよい。のように構成する場合には、サブメイン基板が演出制御基板に押し順ナビに係るコマンドを送信した後に、サブメイン基板が音声制御基板に押し順ナビに係るコマンドを送信するよう構成してもよいし、演出表示装置S 4 0における押し順ナビが表示される契機となる主制御基板M側からのコマンドとスピーカS 2 0からの音声における押し順ナビが表示される契機となる主制御基板M側からのコマンドとを異なるコマンドとしてもよい。

40

【1805】

更に、押し順ナビが表示(表示開始)される順番として、「音声→押し順表示装置→演出表示装置」、「音声→演出表示装置→押し順表示装置」、「演出表示装置→音声→押し

50

順表示装置」、「演出表示装置→押し順表示装置→音声」などと構成することも可能である。そのように構成する場合には、サブメイン基板が音声制御基板、及び演出制御基板に押し順ナビに係るコマンドを送信した後、主制御基板Mが、押し順表示装置D270にて押し順ナビをダイナミック点灯にて表示（表示開始）するよう構成してもよいし、演出表示装置S40における押し順ナビが表示される契機となる主制御基板M側からのコマンドとスピーカS20からの音声における押し順ナビが表示される契機となる主制御基板M側からのコマンドとを異なるコマンドとしてもよい。このようにしてサブメイン基板からコマンドを送るタイミング、主制御基板Mが押し順ナビをダイナミック点灯にて表示（表示開始）するタイミングに応じて、

- (1) 押し順表示装置D270でのダイナミック点灯による押し順ナビを最先で実行する
- (2) スピーカS20からの音声による押し順ナビを最先で実行する
- (3) 演出表示装置S40による押し順ナビを最先で実行する

など、押し順ナビが表示（表示開始）される順番を変更可能となる。

【1806】

<効果>

このように、最小遊技時間が経過している状況にて、音声での押し順ナビの開始タイミングを所定の期間（スタートレバー操作→リール回転開始→リール加速状態→リール定速状態→停止ボタンの操作が有効、となるまでの期間）で定めることにより、例えば、演出表示装置S40のような液晶ユニットを搭載していない遊技機であっても、押し順ナビを音声（本例ではスピーカS20から出力される音声）などを用いて実行することができ、遊技者が押し順ナビを認識できないといったことが起こり難いユーザーフレンドリーな遊技機を提供することができる。

【1807】

<<ウエイトがある場合における押し順ナビの実行態様>>

はじめに、ウエイトがある場合、換言すると、最小遊技時間が経過していない（遊技間隔最小時間タイマM70のタイマ値が0より大きい値である）状況にてスタートレバーを操作し、その後、遊技が実行される場合の押し順ナビの実行態様について以下に説明する。

【1808】

<構成1>

まず、図292の構成1について説明する。ATに関する状態がAT中状態（押し順役に当選した場合に押し順ナビを実行する遊技状態）であり、最小遊技時間が経過していない状況にて、スタートレバーが操作される。なお、当該遊技においては、所定の押し順ベルに当選しており、「中→左→右」の順で停止操作することで遊技者に最も有利となる（払出枚数が多い）場合（例えば、「入賞-A3」に当選した場合）について例示している。

【1809】

まず、最小遊技時間が経過していない状況にて、スタートレバーD50が操作され、主制御基板Mがタイマ割り込み処理にてスタートレバーD50の操作を検知することで、押し順表示装置D270に「=3」の押し順ナビをダイナミック点灯で表示（表示開始）する処理を実行する。その後、最小遊技時間が経過する前の期間中にて、演出表示装置S40にて押し順ナビとして「213」が表示（表示開始）される。図292では、押し順表示装置D270の押し順ナビの方が、演出表示装置S40の押し順ナビよりも先に表示される。

【1810】

<構成2>

次に、図293の構成2について説明する。ATに関する状態がAT中状態（押し順役に当選した場合に押し順ナビを実行する遊技状態）であり、最小遊技時間が経過していない状況にて、スタートレバーが操作される。なお、当該遊技においては、所定の押し順ベルに当選しており、「中→左→右」の順で停止操作することで遊技者に最も有利となる（払出枚数が多い）場合（例えば、「入賞-A3」に当選した場合）について例示している。

【1811】

10

20

30

40

50

スタートレバー D 5 0 が操作されることで、主制御基板 M は、タイマ割り込み処理にて副制御基板 S 側に演出グループ番号に係るコマンドを送信する。副制御基板 S は、主制御基板 M から演出グループ番号に係るコマンドを受信した後に、演出表示装置 S 4 0 にて押し順ナビとして「2 1 3」を表示（表示開始）する処理を実行する（前述した描画処理を実行する）。その後、最小遊技時間が経過し、回胴回転開始処理を実行してリールが回転開始し、主制御基板 M は、リール駆動状態が定速状態となって停止ボタンの操作が有効となるよりも前に（停止ボタンの操作が有効となる直前に）押し順表示装置 D 2 7 0 にて押し順ナビとして「= 3」をダイナミック点灯で表示（表示開始）する処理を実行する。図 2 9 3 では、演出表示装置 S 4 0 の押し順ナビの方が、押し順表示装置 D 2 7 0 の押し順ナビよりも先に表示される。尚、ここでは、副制御基板 S は演出グループ番号に係るコマンドを受信したことに基づいて演出表示装置 S 4 0 にて押し順ナビとして「2 1 3」を表示（表示開始）する処理を実行しているが、演出表示装置 S 4 0 にて押し順ナビを表示（表示開始）する処理を実行する契機となるコマンドはこれに限定されず、演出表示装置 S 4 0 にて押し順ナビを表示（表示開始）するタイミングに応じて契機となる主制御基板 M から送信されるコマンドを決定すればよい。

【1 8 1 2】

＜構成 3＞

次に、図 2 9 4 の構成 2 について説明する。A T に関する状態が A T 中状態（押し順役に当選した場合に押し順ナビを実行する遊技状態）であり、最小遊技時間が経過していない状況にて、スタートレバーが操作される。なお、当該遊技においては、所定の押し順ベルに当選しており、「中→左→右」の順で停止操作することで遊技者に最も有利となる（払出枚数が多い）場合（例えば、「入賞 - A 3」に当選した場合）について例示している。

【1 8 1 3】

最小遊技時間が経過していない状況にて、スタートレバー D 5 0 が操作され、主制御基板 M は、タイマ割り込み処理にて副制御基板 S 側に演出グループ番号に係るコマンドを送信する。副制御基板 S は、主制御基板 M から演出グループ番号に係るコマンドを受信した後に、演出表示装置 S 4 0 にて押し順ナビとして「2 1 3」を表示（表示開始）する処理を実行する（前述した描画処理を実行する）。その後、主制御基板 M は、最小遊技時間が経過して、回胴回転開始処理を実行してリールが回転開始するタイミングで、押し順表示装置 D 2 7 0 にて押し順ナビとして「= 3」をダイナミック点灯で表示（表示開始）する処理を実行する。図 2 9 4 では、最小遊技時間が経過するまでに所定時間（例えば、タイマ割り込み処理 5 回分の時間値である 1 0 m s）以上の時間を要する状況にてスタートレバーが操作された場合には、演出表示装置 S 4 0 の押し順ナビの方が、押し順表示装置 D 2 7 0 の押し順ナビよりも先に表示される。また、最小遊技時間が経過するまでに所定時間（例えば、タイマ割り込み処理 5 回分の時間値である 1 0 m s）未満の時間しか残っていない状況にてスタートレバーが操作された場合、又は、最小遊技時間が経過している状況にてスタートレバーが操作された場合には、前述したように、主制御基板 M 側で制御する押し順表示装置 D 2 7 0 にて押し順ナビを表示する契機（例えば、スタートレバーの操作）が発生してから押し順ナビの表示が完了するまでの時間よりも、副制御基板 S 側で制御する演出表示装置 S 4 0 にて押し順ナビを表示する契機（例えば、主制御基板 M 側からの入賞・再遊技当選情報に係るコマンドの受信）が発生してから押し順ナビの表示が完了するまでの時間の方が長時間となるよう構成されているため、押し順表示装置 D 2 7 0 の押し順ナビの方が、演出表示装置 S 4 0 の押し順ナビよりも先に表示される。

【1 8 1 4】

上記のように、押し順表示装置 D 2 7 0、及び演出表示装置 S 4 0 での押し順ナビが表示（表示開始）されるタイミングについての一例の説明を行ったが、押し順ナビが表示（表示開始）されるタイミングはこの限りではない。例えば、図 2 9 2 における押し順ナビが表示（表示開始）されるタイミングの変形例として、最小遊技時間が経過する前の期間中にて、押し順表示装置 D 2 7 0 よりも先に演出表示装置 S 4 0 にて押し順ナビが表示（表示開始）される、最小遊技時間が経過する前の期間中にて、押し順表示装置 D 2 7 0 と

演出表示装置 S 4 0 とで同時に押し順ナビが表示（表示開始）される、もしくは最小遊技時間が経過する前の期間中に押し順表示装置 D 2 7 0 にて押し順ナビが表示（表示開始）され、最小遊技時間が経過した後に演出表示装置 S 4 0 にて押し順ナビが表示（表示開始）する、更に最小遊技時間が経過する前の期間中に演出表示装置 S 4 0 にて押し順ナビが表示（表示開始）され、最小遊技時間が経過した後に押し順表示装置 D 2 7 0 にて押し順ナビが表示（表示開始）するなど、最小遊技時間の経過前後に跨って押し順ナビの表示（表示開始）タイミングを分けるよう構成してもよい。

【1815】

<効果>

このように、押し順表示装置 D 2 7 0、及び演出表示装置 S 4 0 に表示される押し順ナビの開始タイミングを所定の期間（スタートレバー操作→最小遊技時間が経過していない期間→リール回転開始→リール加速状態→リール定速状態→停止ボタンの操作が有効、となるまでの期間）で定めている。このように構成することで、押し順ナビを表示（表示開始）するタイミングを、押し順表示装置 D 2 7 0 と演出表示装置 S 4 0 とで異ならせることが可能となる。押し順表示装置 D 2 7 0 と演出表示装置 S 4 0 とで、押し順ナビを表示（表示開始）するタイミングを異ならせる効果として、

（１）押し順表示装置 D 2 7 0 における押し順ナビの方が演出表示装置 S 4 0 における押し順ナビよりも先に表示される場合

スタートレバーが操作され、主制御基板 M が、当選役（ここでは押し順ベル役とする）の決定に基づいて演出グループ番号を決定した直後のタイマ割り込み処理（例えば、2 m s 程度）により、押し順表示装置 D 2 7 0 にて押し順ナビを表示（表示開始）可能に構成できるため、押し順ナビに係る情報を早急に遊技者に報知するユーザーフレンドリーな遊技機を提供することができる。

（２）演出表示装置 S 4 0 における押し順ナビの方が押し順表示装置 D 2 7 0 における押し順ナビよりも先に表示される場合

演出表示装置 S 4 0 のような液晶ユニットを搭載している遊技機の場合、現在の遊技状態、もしくは当選役などに係る情報は、演出表示装置 S 4 0 上にて示唆されるよう構成されていることが多いため、遊技者は演出表示装置 S 4 0 を視認しながら遊技を進行させていくことになる。押し順表示装置 D 2 7 0 に比べてサイズ（表示領域）が大きく、遊技者が視認しやすい演出表示装置 S 4 0 にて早急に押し順ナビに係る情報を遊技者に報知できるよう構成することで、演出表示装置 S 4 0 を視認した状態で押し順ナビが新たに実行された場合にも、演出表示装置 S 4 0 を視認したまま押し順ナビを確認することができるため、押し順ナビが表示される度に他の表示装置に目を向けさせることのない、遊技者の遊技負担を軽減できるユーザーフレンドリーな遊技機を提供することができる。

また、押し順表示装置 D 2 7 0、及び演出表示装置 S 4 0 の双方で押し順ナビを開始するタイミングが遅れて遊技者がどちらの表示装置を見ても押し順ナビが認識できないという事態を確実に防止でき、遊技者に不利益等を与えることのないユーザーフレンドリーな遊技機を提供することができる。

【1816】

更に、押し順表示装置 D 2 7 0 に表示される押し順ナビの開始タイミングと、演出表示装置 S 4 0 上に表示される押し順ナビの開始タイミングを異ならせることで、2つの表示装置を同時に視認しなければならないという状態を回避でき、遊技者は押し順ナビが発生したタイミングで個々の表示装置にて押し順ナビを視認できるという遊技者の遊技負担を軽減できるユーザーフレンドリーな遊技機を提供することができる。

【1817】

<構成4>

次に、図 2 9 5 の構成 4 について説明する。なお、構成 4 においては、リール窓枠ランプ D 3 1 0 を有している。A T に関する状態が A T 中状態（押し順役に当選した場合に押し順ナビを実行する遊技状態）であり、最小遊技時間が経過していない状況にて、スタートレバーが操作される。なお、当該遊技においては、所定の押し順ベルに当選しており、

10

20

30

40

50

「中→左→右」の順で停止操作することで遊技者に最も有利となる（払出枚数が多い）場合（例えば、「入賞 - A 3」に当選した場合）について例示している。

【1818】

最小遊技時間が経過していない状況にてスタートレバーD50が操作され、主制御基板Mは、タイマ割り込み処理にて副制御基板S側に演出グループ番号に係るコマンドを送信する。副制御基板Sは、主制御基板Mから演出グループ番号に係るコマンドを受信した後、リール窓枠ランプD310による押し順ナビとして、中リール（中停止ボタン）に対応するランプを点灯（点灯開始）する処理を実行する。その後、演出表示装置S40にて押し順ナビとして「213」を表示（表示開始）する処理を実行する。リール窓枠ランプD310の点灯による押し順ナビの表示が開始されるタイミングは、演出表示装置S40よりも先のタイミングとなっている。これは、前述したように、副制御基板Sが、主制御基板Mから演出グループ番号に係るコマンドを受信した際に、リール窓枠ランプD310におけるリール窓枠ランプ点灯処理の方が、押し順ナビを演出表示装置S40上に描画する処理よりも早く実行することができるからである。その後、最小遊技時間が経過し、胴回転開始処理を実行してリールが回転開始し、その後、停止ボタンの操作が有効となるよりも前に押し順表示装置D270にて押し順ナビとして「=3」をダイナミック点灯で表示（表示開始）する処理を実行する。図295では、押し順ナビが表示される順番としては、「リール窓枠ランプ→演出表示装置→押し順表示装置」となっており、リール窓枠ランプD310の点灯による押し順ナビの表示が開始されるタイミングは、押し順表示装置D270よりも先であり、演出表示装置S40よりも先のタイミングとなっている。

【1819】

なお、図295に例示するように構成した場合においても、最小遊技時間が経過する前の期間が終了する直前（例えば、最小遊技時間が経過するまで残り10ms程度）にスタートレバーが操作された（主制御基板Mが副制御基板S側に演出グループ番号に係るコマンドを送信した）場合には、押し順ナビが表示される順番が「押し順表示装置→リール窓枠ランプ→演出表示装置」又は「リール窓枠ランプ→押し順表示装置→演出表示装置」となる場合を有する。ここで、演出表示装置S40に押し順ナビを表示する場合においては、前述したように、副制御基板Sが主制御基板Mから演出グループ番号に係るコマンドを受信してから、演出表示装置S40にて押し順ナビとして「213」を表示（表示開始）するまで（描画処理を実行するまで）の時間として概ね32ms程度の時間を要するため、最小遊技時間が経過する前の期間が終了する直前（例えば、最小遊技時間が経過するまで残り10ms程度）にスタートレバーが操作された（主制御基板Mが副制御基板S側に演出グループ番号に係るコマンドを送信した）場合には、押し順表示装置D270やリール窓枠ランプD310による押し順ナビの表示よりも後に演出表示装置S40による押し順ナビが表示（表示開始）される場合がある。

【1820】

また、リール窓枠ランプD310においても、最小遊技時間が経過する前の期間が終了する直前（例えば、最小遊技時間が経過するまで残り10ms程度）にスタートレバーが操作された（主制御基板Mが副制御基板S側に演出グループ番号に係るコマンドを送信した）場合には、主制御基板M側からの演出グループ番号に係るコマンドを副制御基板S側が受信するまでに時間を要することから、押し順表示装置D270による押し順ナビの表示よりも後にリール窓枠ランプによる押し順ナビが表示（表示開始）される場合がある。

押し順表示装置D270、及びリール窓枠ランプD310による押し順ナビが開始されるタイミングとしては、前述したとおり、スタートレバー操作→最小遊技時間が経過→リール回転開始→リール加速状態→リール定速状態→停止ボタンの操作が有効までの期間であれば、適宜、押し順ナビを表示させるタイミングを定めることができる。

【1821】

<効果>

このように、演出表示装置S40による押し順ナビの表示よりも前にリール窓枠ランプD310による押し順ナビの表示（点灯表示）が実行されるよう構成することにより、遊

技者に簡素な報知をより早く実行することができ、遊技者が押し順を確認する前に停止ボタンを操作してしまう事態（押し順を間違えてしまう事態）を防止することができる。

【1822】

また、演出表示装置S40のような液晶ユニットを搭載していない遊技機であっても、押し順ナビをランプの点灯（本例ではリール窓枠ランプD310の点灯）などを用いて実行することができ、遊技者が押し順ナビを認識できないといったことが起こり難いユーザーフレンドリーな遊技機を提供することができる。

【1823】

<構成5>

次に、図296の構成5について説明する。なお、構成5においては、指示遊技にてスピーカS20から出力される音声で押し順ナビを実行するよう構成されている。ATに関する状態がAT中状態（押し順役に当選した場合に押し順ナビを実行する遊技状態）であり、最小遊技時間が経過していない状況にて、スタートレバーが操作される。なお、当該遊技においては、所定の押し順ベルに当選しており、「中→左→右」の順で停止操作することで遊技者に最も有利となる（払出枚数が多い）場合（例えば、「入賞-A3」に当選した場合）について例示している。

【1824】

スタートレバーD50が操作されることで、主制御基板Mは、最小遊技時間が経過していない期間中に、タイマ割り込み処理にて副制御基板S側に演出グループ番号に係るコマンドを送信する。副制御基板Sは、主制御基板Mから演出グループ番号に係るコマンドを受信した後に、スピーカS20による音声出力する押し順ナビとして、「中です！」（第1停止操作としては中停止ボタンを操作することを示唆する音声）との音声出力する処理を実行する。その後、演出表示装置S40にて押し順ナビとして「213」を表示（表示開始）する処理を実行する。スピーカS20からの音声による押し順ナビの表示が開始されるタイミングは、演出表示装置S40よりも先のタイミングとなっている。これは、副制御基板Sが、主制御基板Mから演出グループ番号に係るコマンドを受信した際に、スピーカS20からの音声出力処理の方が、押し順ナビを演出表示装置S40上に描画する処理よりも早く実行されるためである。その後、最小遊技時間が経過してリールが回転開始し、停止ボタンの操作が有効になり、主制御基板Mは、リールの回転速度が定速となって停止ボタンの操作が有効となるよりも前に押し順表示装置D270にて押し順ナビとして「=3」をダイナミック点灯で表示（表示開始）する処理を実行する。図296では、押し順ナビが表示される順番としては、「音声→演出表示装置→押し順表示装置」となっており、音声出力による押し順ナビの報知が開始されるタイミングは、押し順表示装置D270よりも先であり、演出表示装置S40よりも先のタイミングとなっている。

【1825】

なお、図296に例示するように構成した場合においても、最小遊技時間が経過する前の期間が終了する直前（例えば、最小遊技時間が経過するまで残り10ms程度）にスタートレバーが操作された（主制御基板Mが副制御基板S側に演出グループ番号に係るコマンドを送信した）場合には、押し順ナビが表示される順番が「押し順表示装置→音声→演出表示装置」又は「音声→押し順表示装置→演出表示装置」となる場合を有する。ここで、演出表示装置S40に押し順ナビを表示する場合においては、前述したように、副制御基板Sが主制御基板Mから演出グループ番号に係るコマンドを受信してから、演出表示装置S40にて押し順ナビとして「213」を表示（表示開始）するまで（描画処理を実行するまで）の時間として概ね32ms程度の時間を要するため、最小遊技時間が経過する前の期間が終了する直前（例えば、最小遊技時間が経過するまで残り10ms程度）にスタートレバーが操作された（主制御基板Mが副制御基板S側に演出グループ番号に係るコマンドを送信した）場合には、押し順表示装置D270による押し順ナビの表示や音声による押し順ナビの報知よりも後に演出表示装置S40による押し順ナビが表示（表示開始）される場合がある。

【1826】

10

20

30

40

50

また、スピーカ S 2 0 においても、最小遊技時間が経過する前の期間が終了する直前（例えば、最小遊技時間が経過するまで残り 1 0 m s 程度）にスタートレバーが操作された（主制御基板 M が副制御基板 S 側に演出グループ番号に係るコマンドを送信した）場合には、主制御基板 M 側からの演出グループ番号に係るコマンドを副制御基板 S 側が受信するまでに時間を要することから、押し順表示装置 D 2 7 0 による押し順ナビの表示よりも後にスピーカ S 2 0 からの音声による押し順ナビが報知される場合がある。

【1 8 2 7】

押し順表示装置 D 2 7 0 に押し順ナビの表示が開始されるタイミングとしては、前述したとおり、スタートレバー操作→最小遊技時間が経過していない期間→リール回転開始→リール加速状態→リール定速状態→停止ボタンの操作が有効、までの期間であれば、適宜、押し順ナビを表示させるタイミングを定めることができる。

【1 8 2 8】

<効果>

このように、最小遊技時間が経過していない状況にてスタートレバーを操作した場合における音声での押し順ナビの開始タイミングを所定の期間（スタートレバー操作→最小遊技時間が経過→リール回転開始→リール加速状態→リール定速状態→停止ボタンの操作が有効、となるまでの期間）で定めることにより、例えば、演出表示装置 S 4 0 のような液晶ユニットを搭載していない遊技機であっても、押し順ナビを音声（本例ではスピーカ S 2 0 から出力される音声）という簡素な報知態様にて実行することができ、リール、もしくは停止ボタンに注目して演出表示装置 S 4 0 を見ていない状況にて押し順ナビが実行された場合であっても、リール、もしくは停止ボタンに注目したままで、遊技者は音声によって押し順ナビを認識することができるため、遊技者が押し順ナビを認識できないといったことが起こり難いユーザーフレンドリーな遊技機を提供することができる。

【1 8 2 9】

押し順表示装置 D 2 7 0 に押し順ナビを表示するタイミングと、演出表示装置 S 4 0 上に押し順ナビを表示するタイミングの一例をウエイトがある場合と、ウエイトが無い場合とでそれぞれ説明を行ったが、各々の表示装置に押し順ナビを表示させるタイミングはこれらに限定されない。前述したスタートレバー D 5 0 の操作開始から、スタートレバー操作→最小遊技時間が経過→リール回転開始→リール加速状態→リール定速状態→停止ボタンの操作が有効までの期間であれば、適宜、押し順ナビを表示させるタイミングを定めることができる。また、演出表示装置 S 4 0 上への押し順ナビの表示タイミングに関しては、上述した期間よりも狭くするよう設定することが好ましい。これは、副制御基板 S の C P U S C が主制御基板 M の C P U C 1 0 0 より所定のコマンドを受信してから押し順ナビを演出表示装置 S 4 0 上に表示するまでに所定の時間（例えば 3 2 m s 以上）を要するからである。更に演出表示装置 S 4 0 上に表示される描画のコマ数が多ければそれだけ追加の時間を要することになる。スタートレバー D 5 0 の操作が行われた後に当選役が決定されるが、上記のように当選役が決定されてから演出表示装置 S 4 0 上へ押し順ナビが表示されるまでに要する時間を考慮すると、演出表示装置 S 4 0 上に押し順ナビの表示が開始されるタイミングとしては、一例として、最小遊技時間が経過していない期間（ウエイト有りの場合）→リール回転開始（ウエイト無しの場合）→リール加速状態→リール定速状態→停止ボタンの操作が有効までの期間と定めることが好ましい。このように定めることで、押し順表示装置 D 2 7 0 に押し順ナビの表示が開始されるまでの期間と、演出表示装置 S 4 0 上に押し順ナビの表示が開始されるまでの期間とを異ならせることができる。これらの期間の中で適宜、各々の表示装置に押し順ナビの表示を開始するタイミングを定めることが可能となる。

【1 8 3 0】

例えば、スタートレバー操作→最小遊技時間が経過→リール回転開始→リール加速状態→リール定速状態→停止ボタンの操作が有効までの期間において、押し順表示装置 D 2 7 0 と演出表示装置 S 4 0、音声、リール窓枠ランプ D 3 1 0 での押し順ナビの報知される順番の一例を記載すると、

- (1) 押し順表示装置→演出表示装置→音声→リール窓枠ランプ
- (2) 押し順表示装置→演出表示装置→リール窓枠ランプ→音声
- (3) 押し順表示装置→音声→演出表示装置→リール窓枠ランプ
- (4) 押し順表示装置→音声→リール窓枠ランプ→演出表示装置
- (5) 押し順表示装置→リール窓枠ランプ→演出表示装置→音声
- (6) 押し順表示装置→リール窓枠ランプ→音声→演出表示装置
- (7) 演出表示装置→押し順表示装置→音声→リール窓枠ランプ
- (8) 演出表示装置→押し順表示装置→リール窓枠ランプ→音声
- (9) 演出表示装置→音声→押し順表示装置→リール窓枠ランプ
- (10) 演出表示装置→音声→リール窓枠ランプ→押し順表示装置
- (11) 演出表示装置→リール窓枠ランプ→押し順表示装置→音声
- (12) 演出表示装置→リール窓枠ランプ→音声→押し順表示装置
- (13) 音声→押し順表示装置→演出表示装置→リール窓枠ランプ
- (14) 音声→押し順表示装置→リール窓枠ランプ→演出表示装置
- (15) 音声→演出表示装置→押し順表示装置→リール窓枠ランプ
- (16) 音声→演出表示装置→リール窓枠ランプ→押し順表示装置
- (17) 音声→リール窓枠ランプ→押し順表示装置→演出表示装置
- (18) 音声→リール窓枠ランプ→演出表示装置→押し順表示装置
- (19) リール窓枠ランプ→押し順表示装置→演出表示装置→音声
- (20) リール窓枠ランプ→押し順表示装置→音声→演出表示装置
- (21) リール窓枠ランプ→演出表示装置→押し順表示装置→音声
- (22) リール窓枠ランプ→演出表示装置→音声→押し順表示装置
- (23) リール窓枠ランプ→音声→押し順表示装置→演出表示装置
- (24) リール窓枠ランプ→音声→演出表示装置→押し順表示装置

10

20

のように、スタートレバー操作→最小遊技時間が経過→リール回転開始→リール加速状態→リール定速状態→停止ボタンの操作が有効までの期間において、適宜、押し順ナビが表示（表示開始）されるタイミングを定めるよう構成することが可能となる。

【1831】

また、副制御基板Sにて制御される演出手段の1つとして、停止ボタンD40（左停止ボタンD41、中停止ボタンD42、右停止ボタンD43）の内部に設けられた副制御基板Sにて制御される停止ボタンランプS60により、遊技者に有利な停止ボタンの操作態様を示唆するよう点灯（点滅）するような押し順ナビを加えて構成することも可能である。スタートレバーD50が操作されることで、主制御基板Mは、タイマ割り込み処理にて副制御基板S側に演出グループ番号に係るコマンドを送信する。副制御基板Sは、主制御基板Mから演出グループ番号に係るコマンドを受信した後に、第1停止操作を行うべき第1停止ボタンの内部に設けられた停止ボタンランプS60を点灯（又は、点滅）させる処理を実行する。停止ボタンD40による押し順ナビを加えた構成の押し順ナビの表示（表示開始）される順番の一例を記載すると、

30

(25) 押し順表示装置→音声→リール窓枠ランプ→停止ボタンランプ（第1停止ボタンのみ点灯（点滅））→演出表示装置

40

(26) 押し順表示装置→音声→停止ボタンランプ（第1停止ボタンのみ点灯（点滅））→リール窓枠ランプ→演出表示装置

(27) 押し順表示装置→音声→停止ボタンランプ（第1停止ボタンのみ点灯（点滅））及びリール窓枠ランプが略同時→演出表示装置

などのように構成することが可能であるが、ここでの順番は一例であり、この限りではない。例えば、上記(27)では、リール窓枠ランプD310と停止ボタンランプS60の点灯（点滅）のタイミングを同時としているが、更にスピーカS20からの音声を同時に出力させるよう構成することも可能である。主制御基板M側（押し順表示装置D270）の押し順ナビの表示（表示開始）に係るタイマ割り込み処理の実行タイミング（押し順表示装置D270）、もしくは副制御基板S（演出表示装置S40、リール窓枠ランプD3

50

10、スピーカS20からの音声、停止ボタンD40)の押し順ナビの報知に係るコマンドの送信タイミングによって、押し順ナビを表示(表示開始)する順番はどのように定めてもよい。尚、停止ボタンランプS60による押し順ナビを実行する場合は、全てのリールに対応する停止ボタンランプを点灯(点滅)させるのではなく、当該停止操作を行うべきリールに対応する停止ボタンランプのみを点灯(点滅)させるよう制御することが好ましい。停止ボタンランプS60により、例えば「213」:「中→左→右」の押し順ナビを実行する場合、中停止ボタンD42に対応した停止ボタンランプ(点灯)→中停止ボタンD42を操作→中停止ボタンD42に対応した停止ボタンランプ(消灯)→左停止ボタンD41に対応した停止ボタンランプ(点灯)→左停止ボタンD41を操作→左停止ボタンD41に対応した停止ボタンランプ(消灯)→右停止ボタンD43に対応した停止ボタンランプ(点灯)→右停止ボタンD43を操作→右停止ボタンD43に対応した停止ボタンランプ(消灯)のように遊技の進行に基づいて、リールに対応する停止ボタンランプが点灯(点滅)、消灯するよう構成される。

【1832】

また、停止ボタンD40(左停止ボタンD41、中停止ボタンD42、右停止ボタンD43)の内部に設けられた停止ボタンランプS60の制御を、副制御基板Sにて実行する場合を上述したが、停止ボタンD40(左停止ボタンD41、中停止ボタンD42、右停止ボタンD43)の内部に設けられた停止ボタンランプS60の制御は、主制御基板Mにて実行するよう構成してもよい。以下、主制御基板Mでの停止ボタンD40(左停止ボタンD41、中停止ボタンD42、右停止ボタンD43)の内部に設けられた停止ボタンランプS60の制御による押し順ナビの開始タイミングについて説明する。

【1833】

主制御基板Mにて、停止ボタンランプS60の制御を行う場合、スタートレバーが操作され、当選役(ここでは押し順ベル役とする)の決定に基づいて演出グループ番号を決定した後のタイマ割り込み処理(例えば、演出グループ番号の決定からの最初の周期であれば、停止ボタンランプS60の点灯処理までにかかる時間は2ms程度)により、停止ボタンランプS60を点灯(又は、点滅)させる処理を実行することが可能となる。このように構成することで、停止ボタンランプS60による押し順ナビを加えた構成の押し順ナビの表示(表示開始)される順番の一例を記載すると、

(28) 押し順表示装置→停止ボタンランプ(第1停止ボタンのみ点灯(点滅))→音声→リール窓枠ランプ→演出表示装置

(29) 停止ボタンランプ(第1停止ボタンのみ点灯(点滅))→押し順表示装置→音声→リール窓枠ランプ→演出表示装置

(30) 停止ボタンランプ(第1停止ボタンのみ点灯(点滅))及び押し順表示装置が略同時→音声→リール窓枠ランプ→演出表示装置

などのように構成することが可能であるが、ここでの順番は一例であり、この限りではない。例えば、上記(28)～(30)では、主制御基板M側で制御を行う停止ボタンランプS60による押し順ナビは、副制御基板S側で制御を行う演出表示装置S40、スピーカS20からの音声、リール窓枠ランプD310による押し順ナビよりも先に開始されるが、主制御基板M側で、停止ボタンランプS60を点灯(点滅)させるためのタイマ割り込み処理を実行するタイミングを変更して、副制御基板S側(例えば、演出表示装置S40、スピーカからの音声、リール窓枠ランプD310)での押し順ナビを開始した後に停止ボタンランプS60による押し順ナビを開始してもよい。主制御基板M側(押し順表示装置D270、停止ボタンランプS60)の押し順ナビの表示(表示開始)に係るタイマ割り込み処理の実行タイミング、もしくは副制御基板S(演出表示装置S40、リール窓枠ランプD310、スピーカS20からの音声)の押し順ナビの報知に係るコマンドの送信タイミングによって、押し順ナビを表示(表示開始)する順番はどのように定めてもよい。

【1834】

<<押し順ナビの表示終了に係る構成>>

次に、押し順表示装置 D 2 7 0 と演出表示装置 S 4 0 の押し順ナビの終了タイミングについて説明する。押し順ナビが終了するタイミングなどは、押し順ナビが開始するタイミングと同様、遊技者が当該遊技を終了する期間に応じてある程度自由に設計することができる。遊技者が当該遊技を終了する期間の一例としては、遊技者が第 3 停止ボタンの操作を行ったタイミングである。第 3 停止ボタンの操作を行い、全てのリールが完全に停止し、入賞となった場合には入賞に基づく遊技メダルの払出が完了することで当該遊技が終了となる。

【1835】

押し順ナビの表示を終了する期間としては、第 3 停止ボタンの操作タイミングを起点として「第 3 停止ボタン操作（押下）→第 3 停止ボタン非押下→入賞判定→入賞に基づく払出完了」期間のいずれかのタイミングと規定することが可能となる。尚、本例では、押し順ナビが終了するタイミングとして、押し順役ごと（押し順ベル、押し順再遊技役）に押し順ナビの終了タイミングが異なるよう構成されている。例えば、押し順表示装置 D 2 7 0 による押し順ナビの表示を終了するタイミングが、決定された当選役が押し順ベルであるか、もしくは押し順再遊技役であるかによって異なっているということである。

【1836】

なお、以下に説明する構成 1 ～構成 5 においては、押し順ナビの終了タイミングについて説明するため、第 1 停止ボタン、および第 2 停止ボタンが既に押下されている状態であって、且つ演出表示装置 S 4 0 の第 1 停止ボタン、および第 2 停止ボタンに対応する押し順ナビも終了した状態であることを補足しておく。

【1837】

<構成 1>

まず、図 2 9 7 の構成 1 について説明する。A T に関する状態が A T 中状態（押し順役に当選した場合に押し順ナビを実行する遊技状態）にて指示遊技が実行され、第 1 停止ボタン、および第 2 停止ボタンが操作されており、第 3 停止に係る押し順ナビが演出表示装置 S 4 0 に表示されており、当該遊技に係る押し順ナビが押し順表示装置 D 2 7 0 に表示されている状況にて、第 3 停止として右停止ボタンが操作される（押下される）。当該停止ボタンを押下したことで、押し順表示装置 D 2 7 0 における押し順ナビの表示が終了すると共に、演出表示装置 S 4 0 に右リール（右停止ボタン）に係る押し順ナビ消滅エフェクトが表示（表示開始）される。なお、当該遊技においては、所定の押し順ベルに当選しており、「中→左→右」の順で停止操作することで遊技者に最も有利となる（払出枚数が多い）場合（例えば、「入賞 - A 3」に当選した場合）について例示している。

【1838】

ここで、押し順ナビ消滅エフェクトは、演出表示装置に表示されている押し順ナビの表示が終了する場合に、終了に係るエフェクト表示として所定時間表示される。同図においては、演出表示装置 S 4 0 に押し順ナビとして「3」が表示されている状況にて、右停止ボタンが操作され、右停止ボタンの操作を検出するセンサがオフからオンとなったことを主制御基板 M 側の割り込み処理によって検知したことにより、主制御基板 M 側から副制御基板 S 側に当該検知に係るコマンドが送信され、副制御基板 S 側は当該検知に係るコマンドを受信して、「3」の表示を消去する処理を実行することにより、「3」の表示が透過していった後に消去される押し順ナビ消滅エフェクトが表示されることとなる。

【1839】

その後、押し順表示装置 D 2 7 0 における押し順ナビが終了している状況にて、押し順ナビ消滅エフェクトの表示が終了（演出表示装置 S 4 0 における押し順ナビが終了）する。ここで、押し順表示装置 D 2 7 0 の押し順ナビと演出表示装置 S 4 0 の押し順ナビの終了契機としては、共に「第 3 停止ボタン押下」（第 3 停止ボタンの操作を検出するためのセンサがオフからオンとなったことを主制御基板 M 側の割り込み処理によって検知）であるが、図 2 9 7 では、押し順表示装置 D 2 7 0 の押し順ナビの方が、演出表示装置 S 4 0 の押し順ナビよりも先に表示の消去が完了する。これは、押し順ナビの開始時と同じであって、押し順ナビの終了タイミングを「第 3 停止ボタン押下時」としていた場合であって

10

20

30

40

50

も、副制御基板 S の CPU S C が、複数コマの描画を表示させる処理を行う分、演出表示装置 S 4 0 の押し順ナビの終了が遅いためであるといえる。

【1840】

押し順ナビの終了について詳述すると、押し順表示装置 D 2 7 0 においては、押し順表示装置 D 2 7 0 が点灯→消灯開始→消灯完了となることで押し順ナビが終了し、演出表示装置 S 4 0 においては、押し順ナビの表示→押し順ナビ消滅エフェクトの表示開始→押し順ナビ消滅エフェクトの表示終了（消去完了）となることで押し順ナビが終了する。本例では、押し順表示装置 D 2 7 0 が消灯開始するタイミングを押し順表示装置消灯、押し順ナビ消滅エフェクトの表示開始を押し順ナビ消滅エフェクトの表示（表示開始）と称している。なお、押し順表示装置消灯を押し順表示装置 D 2 7 0 が消灯完了するタイミングに置き換えてもよいし、押し順ナビ消滅エフェクトの表示を押し順ナビ消滅エフェクトの表示終了するタイミングに置き換えてもよい。押し順表示装置消灯と押し順ナビ消滅エフェクトの表示（表示開始）とのタイミングは、押し順表示装置消灯→押し順ナビ消滅エフェクトの表示（表示開始）としてもよいし、押し順消滅エフェクトの表示（表示開始）→押し順表示装置消灯としてもよく、また、押し順表示装置消灯と押し順ナビ消滅エフェクトの表示（表示開始）とが同時であってもよい。

10

【1841】

また、第3停止ボタン操作時に、押し順ナビの表示が終了する構成について上述したが、第3停止ボタン操作時とは、第3停止ボタンが押下されたタイミング（第3停止ボタンの操作を検出するためのセンサがオフからオンになったことを主制御基板 M 側の割り込み処理により検出したタイミングであり、以下では、「第3停止ボタン押下時」とも称することがある）と、第3停止ボタンが押下された後、第3停止ボタンを離れた状態（主制御基板 M 側の割り込み処理によって、第3停止ボタンの操作を検出するためのセンサがオフからオンになったことを検出した後に、オンからオフになったことを検出したタイミングであり、以下では、「第3停止ボタン非押下時」とも称することがある）とを含んでおり、これらの状態ごとに押し順ナビが終了するタイミングを規定するよう構成することも可能である。例えば、押し順表示装置 D 2 7 0、演出表示装置 S 4 0 において押し順ナビが終了するタイミングの順番においては更に詳細に、

20

（押し順ナビの終了が同時ではない場合）

（1）主制御基板 M 側の割り込み処理によって、第3停止ボタンの操作を検出するためのセンサがオフからオンになったことを検出→押し順表示装置消灯→主制御基板 M 側から副制御基板 S 側に第3停止ボタンの検知に係るコマンドを送信→副制御基板 S 側が当該コマンドを受信→押し順ナビ消滅エフェクトの表示（表示開始）

30

（2）主制御基板 M 側の割り込み処理によって、第3停止ボタンの操作を検出するためのセンサがオフからオンになったことを検出→押し順表示装置消灯→主制御基板 M 側の割り込み処理によって、第3停止ボタンの操作を検出するためのセンサがオフからオンになったことを検出→主制御基板 M 側から副制御基板 S 側に第3停止ボタンの検知に係るコマンドを送信→副制御基板 S 側が当該コマンドを受信→押し順ナビ消滅エフェクトの表示（表示開始）

（3）主制御基板 M 側の割り込み処理によって、第3停止ボタンの操作を検出するためのセンサがオンからオフになったことを検出→押し順表示装置消灯→主制御基板 M 側から副制御基板 S 側に第3停止ボタンの検知に係るコマンドを送信→副制御基板 S 側が当該コマンドを受信→押し順ナビ消滅エフェクトの表示（表示開始）

40

（4）主制御基板 M 側の割り込み処理によって、第3停止ボタンの操作を検出するためのセンサがオフからオンになったことを検出→主制御基板 M 側から副制御基板 S 側に第3停止ボタンの検知に係るコマンドを送信→副制御基板 S 側が当該コマンドを受信→押し順消滅エフェクトの表示（表示開始）→押し順表示装置消灯

（5）主制御基板 M 側の割り込み処理によって、第3停止ボタンの操作を検出するためのセンサがオフからオンになったことを検出→主制御基板 M 側から副制御基板 S 側に第3停止ボタンの検知に係るコマンドを送信→副制御基板 S 側が当該コマンドを受信→押し順消

50

減エフェクトの表示（表示開始）→主制御基板M側の割り込み処理によって、第3停止ボタンの操作を検出するためのセンサがオンからオフになったことを検出→押し順表示装置消灯

（6）主制御基板M側の割り込み処理によって、第3停止ボタンの操作を検出するためのセンサがオンからオフになったことを検出→主制御基板M側から副制御基板S側に第3停止ボタンの検知に係るコマンドを送信→副制御基板S側が当該コマンドを受信→押し順消滅エフェクトの表示（表示開始）→押し順表示装置消灯

（押し順ナビの終了が同時の場合）

（7）主制御基板M側の割り込み処理によって、第3停止ボタンの操作を検出するためのセンサがオフからオンになったことを検出→主制御基板M側から副制御基板S側に第3停止ボタンの検知に係るコマンドを送信→副制御基板S側が当該コマンドを受信→押し順消滅エフェクトの表示（表示開始）と同時に押し順表示装置消灯

（8）主制御基板M側の割り込み処理によって、第3停止ボタンの操作を検出するためのセンサがオンからオフになったことを検出→主制御基板M側から副制御基板S側に第3停止ボタンの検知に係るコマンドを送信→副制御基板S側が当該コマンドを受信→押し順消滅エフェクトの表示（表示開始）と同時に押し順表示装置消灯

と規定することが可能である。

【1842】

また、第3停止ボタン押下時ではなく、例えば、第1停止ボタン押下時、第2停止ボタン押下時における押し順ナビの表示態様についても補足として説明する。まず、押し順表示装置D270においては、点灯が開始されてから主制御基板M側の割り込み処理によって、第3停止ボタンの操作を検出するためのセンサがオフからオン（又はオンからオフ）になったことを検出して消灯するまでは、点灯している状態が継続する。一方、演出表示装置S40においては、例えば、第1停止ボタン押下（主制御基板M側の割り込み処理によって、第3停止ボタンの操作を検出するためのセンサがオフからオン（又はオンからオフ）になったことを検出）主制御基板M側から副制御基板S側に第1停止ボタンの検知に係るコマンドを送信→副制御基板S側が当該コマンドを受信→第1停止ボタンに対応する押し順消滅エフェクトの表示（表示開始）及び次に停止操作を行うべきリールに対応する押し順ナビ（例えば「2」の表示）の表示態様を変更開始（以下、「第2リール押し順ナビの表示態様の変更開始」とも称する）するよう構成されている。これらが実行される順番としては、

（9）第1停止ボタンに対応する押し順消滅エフェクトの表示（表示開始）→第2リール押し順ナビの表示態様の変更開始

（10）第2リール押し順ナビの表示態様の変更開始→第1停止ボタンに対応する押し順消滅エフェクトの表示（表示開始）

のどちらのように構成されていてもよい。また、第2停止ボタン操作時においても同様に、

（11）第2停止ボタンに対応する押し順消滅エフェクト（表示態様は変更されている）の表示（表示開始）→第3リール押し順ナビの表示態様の変更開始

（12）第3リール押し順ナビの表示態様の変更開始→第2停止ボタンに対応する押し順消滅エフェクト（表示態様は変更されている）の表示（表示開始）

のように構成することができる。

【1843】

<構成2>

次に、図298の構成2について説明する。ATに関する状態がAT中状態（押し順役に当選した場合に押し順ナビを実行する遊技状態）にて指示遊技が実行され、第1停止ボタン、および第2停止ボタンが操作されており、第3停止に係る押し順ナビが演出表示装置S40に表示されており、当該遊技に係る押し順ナビが押し順表示装置D270に表示されている状況にて、第3停止として右停止ボタンが操作される（押下される）。当該停止ボタンを押下したことで、演出表示装置S40に右リール（右停止ボタン）に係る押し順ナビ消滅エフェクトが表示（表示開始）される。なお、当該遊技においては、所定の押

10

20

30

40

50

し順ベルに当選しており、「中→左→右」の順で停止操作することで遊技者に最も有利となる（払出枚数が多い）場合（例えば、「入賞 - A 3」に当選した場合）について例示している。

【1844】

その後、右停止ボタンを押下したまま、押し順ナビ消滅エフェクトの表示が終了（演出表示装置S40における押し順ナビが終了）する。その後、右停止ボタンを離反すると押し順表示装置D270における押し順ナビの表示が終了する。

【1845】

＜構成3＞

次に、図299の構成3について説明する。図299においては、押し順表示装置D270に表示される押し順ナビを「=3」ではなく「3」としている。即ち、押し順表示装置D270における右側の桁に押し順ナビとして数値を表示し、左側の桁は非表示としている。また、押し順表示装置D270にて、押し順ナビの表示と獲得枚数の表示とを表示可能に構成されている。

【1846】

ATに関する状態がAT中状態（押し順役に当選した場合に押し順ナビを実行する遊技状態）にて指示遊技が実行され、第1停止ボタン、および第2停止ボタンが操作されており、第3停止に係る押し順ナビが演出表示装置S40に表示されており、当該遊技に係る押し順ナビが押し順表示装置D270に表示されている状況にて、第3停止として右停止ボタンが操作される（押下される）。当該停止ボタンを押下したことで、主制御基板M側の割り込み処理によって、第3停止ボタンの操作を検出するためのセンサがオフからオンになったことを検出→主制御基板M側から副制御基板S側に第3停止ボタンの検知に係るコマンドを送信→副制御基板S側が当該コマンドを受信→演出表示装置S40に右リール（右停止ボタン）に係る押し順消滅エフェクトが表示（表示開始）される。なお、当該遊技においては、所定の押し順ベルに当選しており、「中→左→右」の順で停止操作することで遊技者に最も有利となる（払出枚数が多い）場合（例えば、「入賞 - A 3」に当選した場合）について例示している。

【1847】

その後、右停止ボタンを押下したまま、押し順ベルに係る図柄組み合わせ（11枚の払出となる図柄組み合わせ）が停止表示され、押し順表示装置D270に「0」が表示される。その後、右停止ボタンを離反すると、停止表示している図柄組み合わせに係る払出が開始され、押し順表示装置D270に「1」→「2」→「3」→・・・「10」→「11」のように獲得枚数が表示される。押し順表示装置D270に「11」が表示された後（獲得枚数を表示した後）、押し順表示装置D270の表示を終了する（非表示とする）。このように、押し順表示装置D270にて、押し順ナビと獲得枚数表示との双方を表示可能に構成し、且つ、押し順ナビ表示の表示態様を押し順表示装置D270の下位桁のみに数値を表示する態様とした場合、指示遊技にて遊技メダルが払い出される図柄組み合わせが停止表示した場合に、押し順表示装置D270にて、押し順ナビと獲得枚数表示との双方を表示するため、遊技者が押し順ナビ又は獲得枚数を誤認してしまう恐れがある。そこで、押し順ナビの表示を終了し、獲得枚数の表示を開始する間に「0」を表示するよう構成することによって、停止表示している図柄組み合わせに係る払出枚数に拘らず（例えば、1枚である場合にも11枚である場合にも）、遊技者は獲得枚数の表示が開始されることを認識することができる。なお、上記「0」は数値を変更してもよいし、押し順ナビとして表示され得る表示態様とは異なる表示態様とすることが好適である。

【1848】

なお、押し順表示装置D270の押し順ナビの表示の終了タイミングを「第3停止ボタン非押下（離反後）」、つまり「3」の表示（押し順表示装置の機能）から「0」の表示（払出数表示装置の機能）に切り替わったときとしているが、例えば押し順表示装置D270の表示が完全に消える「入賞に基づく払出完了」のタイミングとしてもよい。演出表示装置S40の押し順ナビの終了タイミングを「第3停止ボタン押下時」とすることで

10

20

30

40

50

、演出表示装置 S 4 0 の押し順ナビの方が、押し順表示装置 D 2 7 0 の押し順ナビよりも先に終了することがわかる。

【1849】

その他の例として、押し順表示装置 D 2 7 0 に表示される押し順ナビを「= 3」ではなく「13」、「23」、「33」のように構成する。表示された押し順ナビについて詳細に説明する。左側の桁である「1」、「2」、「3」は、それぞれ左リール M 5 1、中リール M 5 2、右リール M 5 3 に対応付けられており、当該停止操作を行うべきリールの位置を示すものである（例えば「1」であれば、停止操作を行うべきリールは左リール M 5 1 であり、「2」であれば停止操作を行うべきリールは中リール M 5 2 であることを示す）。右側の桁である「3」は、これまでの構成と同様に、演出表示装置 S 4 0 上にて表示される押し順「中→左→右」（対応する指示番号は「A 3」）に対応するものである。このように構成することで、押し順ナビが表示される順番としては、「23」→「13」→「33」のように表示されることになり、押し順に従って停止ボタンの操作を行ったタイミングで、当該停止操作を行ったリールに対応する押し順ナビが消え、次リールの停止操作を行うべきリールに対応する押し順ナビが表示される。そして、最終停止操作が行われた際に、最終停止操作に対応する押し順ナビ（本例では「33」）の表示が消えることで押し順表示装置 D 2 7 0 による押し順ナビが終了する。

10

【1850】

<効果>

このように、押し順表示装置 D 2 7 0、及び演出表示装置 S 4 0 に表示される押し順ナビの終了タイミングを所定の期間（第3停止ボタン操作（押下）→第3停止ボタン非押下→入賞判定→入賞に基づく払出完了までの期間）で定めることにより、例えば押し順表示装置 D 2 7 0 に表示される押し順ナビの終了タイミングと、演出表示装置 S 4 0 上に表示される押し順ナビの終了タイミングを異ならせることで、2つの表示装置を同時に視認しなければならないという状態を回避でき、遊技者は押し順ナビが発生したタイミングで個々の表示装置にて押し順ナビの終了を視認できるという遊技者の遊技負担を軽減できるユーザーフレンドリーな遊技機を提供することができる。

20

【1851】

また、押し順表示装置 D 2 7 0 における押し順ナビ表示（演出表示装置 S 4 0 における押し順ナビ表示）の終了契機を、主制御基板 M 側の割り込み処理によって停止ボタンの操作を検出するためのセンサがオンからオフとなること（停止ボタンを離すこと）と規定した場合には、遊技者が遊技の結果に期待感を抱いて最終停止ボタン（第3停止ボタン）を押したままにした場合にも、停止ボタンがオンからオフとなるまで押し順ナビが終了しないよう構成することができる。ここで、停止ボタンがオフからオンとなった直後に押し順ナビが消去されてしまうよう構成した場合には、遊技の結果が遊技者にとって有利な結果とならないのではないかと期待感が削がれてしまう事象が発生する可能性があるため、停止ボタンがオンからオフとなるまで押し順ナビが終了しないよう構成することで、遊技の結果が遊技者にとって有利な結果とならないのではないかと期待感を削がれる事象の発生を減少させることができる。

30

【1852】

<構成4>

次に、図 3 0 0 の構成 4 について説明する。A T に関する状態が A T 中状態（押し順役に当選した場合に押し順ナビを実行する遊技状態）にて指示遊技が実行され、第1停止ボタン、および第2停止ボタンが操作されており、第3停止に係る押し順ナビが演出表示装置 S 4 0 に表示されており、当該遊技に係る押し順ナビが押し順表示装置 D 2 7 0 に表示されている状況にて、第3停止として右停止ボタンが操作される（押下される）。当該停止ボタンを押下したことで、主制御基板 M 側の割り込み処理によって、第3停止ボタンの操作を検出するためのセンサがオフからオンになったことを検出→主制御基板 M 側から副制御基板 S 側に第3停止ボタンの検知に係るコマンドを送信→副制御基板 S 側が当該コマンドを受信→演出表示装置 S 4 0 に右リール（右停止ボタン）に係る押し順消滅エフェク

40

50

トの表示（表示開始）と共に押し順表示装置 D 2 7 0 における押し順ナビが終了する。なお、当該遊技においては、所定の押し順再遊技に当選しており、「中→左→右」の順で停止操作することで遊技者に最も有利となる（再遊技当選確率が高い R T 状態を維持可能）場合（例えば、中第 1 停止が最も高利益となる 3 択の押し順再遊技である「再遊技 - D 2」に当選した場合）について例示している。

【1853】

その後、右停止ボタンを押下したまま、押し順ナビ消滅エフェクトの表示が終了（演出表示装置 S 4 0 における押し順ナビが終了）する。その後、右停止ボタンを離反する（主制御基板 M 側の割り込み処理によって、第 3 停止ボタンの操作を検出するためのセンサがオンからオフになったことを検出する）と再遊技に係る図柄組み合わせが停止表示しているため、自動ベットが実行され、1 ベットランプ D 2 1 1 が点灯する（自動ベットが実行される場合には、例えば、1 ベットランプ D 2 1 1 → 2 ベットランプ D 2 1 2 → 3 ベットランプ D 2 1 3 の順に点灯することとなる）。

【1854】

<構成 5>

次に、図 3 0 1 の構成 5 について説明する。A T に関する状態が A T 中状態（押し順役に当選した場合に押し順ナビを実行する遊技状態）にて指示遊技が実行され、第 1 停止ボタン、および第 2 停止ボタンが操作されており、第 3 停止に係る押し順ナビが演出表示装置 S 4 0 に表示されており、当該遊技に係る押し順ナビが押し順表示装置 D 2 7 0 に表示されている状況にて、第 3 停止として右停止ボタンが操作される（押下される）。当該停止ボタンを押下したことで、主制御基板 M 側の割り込み処理によって、第 3 停止ボタンの操作を検出するためのセンサがオフからオンになったことを検出→主制御基板 M 側から副制御基板 S 側に第 3 停止ボタンの検知に係るコマンドを送信→副制御基板 S 側が当該コマンドを受信→演出表示装置 S 4 0 に右リール（右停止ボタン）に係る押し順ナビ消滅エフェクトが表示（表示開始）される。なお、当該遊技においては、所定の押し順再遊技に当選しており、「中→左→右」の順で停止操作することで遊技者に最も有利となる（再遊技当選確率が高い R T 状態を維持可能）場合（例えば、中第 1 停止が最も高利益となる 3 択の押し順再遊技である「再遊技 - D 2」に当選した場合）について例示している。

【1855】

その後、右停止ボタンを押下したまま、押し順ナビ消滅エフェクトの表示が終了（演出表示装置 S 4 0 における押し順ナビが終了）する。その後、右停止ボタンを離反する（主制御基板 M 側の割り込み処理によって、第 3 停止ボタンの操作を検出するためのセンサがオンからオフになったことを検出する）と再遊技に係る図柄組み合わせが停止表示しているため、自動ベットが実行され、1 ベットランプ D 2 1 1 が点灯し、1 ベットランプ D 2 1 1 が点灯した後に、押し順表示装置 D 2 7 0 における押し順ナビが終了する。

【1856】

このように、例えば、図 2 9 7 の構成 1 と、図 3 0 1 の構成 5 とを有している場合などで、停止表示された図柄の組み合わせにおいて、押し順ベル役、もしくは押し順再遊技役か区別が付かない遊技者であっても、押し順ナビの終了タイミングの違いにより、どちらの小役が入賞したかを判別することが可能となる遊技機を提供することができる。

【1857】

以上のように、押し順役として押し順ベル、もしくは押し順再遊技役の場合による押し順ナビの終了タイミングについて説明した。演出表示装置 S 4 0 においては、押し順ナビが終了するタイミングとしては、「第 3 停止ボタン押下時」の場合のみを一例として説明したが、この限りではない。当該遊技が終了する期間として、第 3 停止ボタン操作（押下）→第 3 停止ボタン非押下→入賞判定→入賞に基づく払出完了のいずれかであれば押し順ナビを終了するタイミングを任意で定めることが可能である。また、押し順表示装置 D 2 7 0 においては、押し順ナビが終了するタイミングとして、当選役が押し順ベルである場合と、押し順再遊技役である場合とで押し順ナビが終了する期間を異ならせている。当選役が押し順再遊技役である場合の一例として、押し順ナビが終了するタイミングを「1 ベ

10

20

30

40

50

ットランプ点灯時」としており、1ベットランプD211の点灯タイミングを任意で設定することにより押し順表示装置D270の押し順ナビの終了タイミングが大きく変化する。一例として、1ベットランプD211の点灯タイミングが次遊技の開始時であれば、当選役が押し順ベルである場合の押し順ナビの終了期間である「第3停止ボタン操作（押下）→第3停止ボタン非押下→入賞判定→入賞に基づく払出完了」よりも後のタイミングとなり、「第3停止ボタン操作（押下）→第3停止ボタン非押下→入賞判定→入賞に基づく払出完了→1ベットランプ点灯時」となり、また、1ベットランプD211の点灯タイミングが、第3停止ボタン非押下であれば、「第3停止ボタン操作（押下）→第3停止ボタン非押下→1ベットランプ点灯時→入賞判定→入賞に基づく払出完了」となり、当選役が押し順ベルの際の押し順ナビの終了期間内に含まれることになる。

10

【1858】

押し順ナビが表示（表示開始）されるタイミングと同様に、押し順ナビが終了するタイミングの順番についても、第3停止ボタン操作（押下）→第3停止ボタン非押下→入賞判定→入賞に基づく払出完了の期間において、押し順表示装置D270と演出表示装置S40、音声、リール窓枠ランプD310での押し順ナビが終了する順番の一例を記載すると、

- (1) 押し順表示装置→演出表示装置→音声→リール窓枠ランプ
- (2) 押し順表示装置→演出表示装置→リール窓枠ランプ→音声
- (3) 押し順表示装置→音声→演出表示装置→リール窓枠ランプ
- (4) 押し順表示装置→音声→リール窓枠ランプ→演出表示装置
- (5) 押し順表示装置→リール窓枠ランプ→演出表示装置→音声
- (6) 押し順表示装置→リール窓枠ランプ→音声→演出表示装置
- (7) 演出表示装置→押し順表示装置→音声→リール窓枠ランプ
- (8) 演出表示装置→押し順表示装置→リール窓枠ランプ→音声
- (9) 演出表示装置→音声→押し順表示装置→リール窓枠ランプ
- (10) 演出表示装置→音声→リール窓枠ランプ→押し順表示装置
- (11) 演出表示装置→リール窓枠ランプ→押し順表示装置→音声
- (12) 演出表示装置→リール窓枠ランプ→音声→押し順表示装置
- (13) 音声→押し順表示装置→演出表示装置→リール窓枠ランプ
- (14) 音声→押し順表示装置→リール窓枠ランプ→演出表示装置
- (15) 音声→演出表示装置→押し順表示装置→リール窓枠ランプ
- (16) 音声→演出表示装置→リール窓枠ランプ→押し順表示装置
- (17) 音声→リール窓枠ランプ→押し順表示装置→演出表示装置
- (18) 音声→リール窓枠ランプ→演出表示装置→押し順表示装置
- (19) リール窓枠ランプ→押し順表示装置→演出表示装置→音声
- (20) リール窓枠ランプ→押し順表示装置→音声→演出表示装置
- (21) リール窓枠ランプ→演出表示装置→押し順表示装置→音声
- (22) リール窓枠ランプ→演出表示装置→音声→押し順表示装置
- (23) リール窓枠ランプ→音声→押し順表示装置→演出表示装置
- (24) リール窓枠ランプ→音声→演出表示装置→押し順表示装置

20

30

このように、第3停止ボタン操作（押下）→第3停止ボタン非押下→入賞判定→入賞に基づく払出完了の期間において、適宜、押し順ナビが終了するタイミングを定めるよう構成することが可能となる。

40

【1859】

また、副制御基板Sにて制御される演出手段の1つとして、停止ボタンD40（左停止ボタンD41、中停止ボタンD42、右停止ボタンD43）の内部に設けられた副制御基板Sにて制御される停止ボタンランプS60による押し順ナビを加えた構成の押し順ナビが終了する順番の一例を記載する。なお、停止ボタンランプS60による押し順ナビの終了までの処理としては、主制御基板Mが第3停止ボタンの操作を検出するためのセンサがオンからオフになったことを検出→主制御基板Mがタイマ割り込み処理にて副制御基板S側に当該第3停止ボタンの操作に係るコマンドを送信→副制御基板Sが当該コマンドを受

50

信→第3停止ボタンの内部に設けられた停止ボタンランプS60を消灯（消灯開始）する。また、主制御基板Mが第1停止ボタンの操作を検出するためのセンサがオンからオフになったことを検出→主制御基板Mがタイマ割り込み処理にて副制御基板S側に当該第1停止ボタンの操作に係るコマンドを送信→副制御基板Sが当該コマンドを受信→第1停止ボタンの内部に設けられた停止ボタンランプS60を消灯（消灯開始）すると共に第2停止ボタンの内部に設けられた停止ボタンランプS60を点灯（点灯開始）する。

（25）押し順表示装置→演出表示装置→音声→リール窓枠ランプ→停止ボタン（第3停止ボタンランプが消灯）

（26）押し順表示装置→演出表示装置→リール窓枠ランプ→音声→停止ボタン（第3停止ボタンランプが消灯）

などのように構成することが可能となる。停止ボタンD40による押し順ナビの終了のタイミングとしては、ランプの点灯、消灯などで押し順ナビを実行するリール窓枠ランプD310のように、押し順表示装置D270と演出表示装置S40、音声、リール窓枠ランプD310より先でもよいし、後でもよい。また、第3停止ボタン操作時において、第3停止ボタン押下で消灯させてもよいし、第3停止ボタン非押下で消灯させてもよい。

【1860】

以上のように本例では、＜＜押し順ナビの表示開始に係る構成＞＞、及び＜＜押し順ナビの表示終了に係る構成＞＞に基づいて、1回の遊技が進行することになる。押し順ナビが表示（表示開始）されてから、押し順ナビが終了するまでの1遊技の流れの一例を具体的に記載すると、

1. 押し順ナビの表示（表示開始）

スタートレバー操作→押し順ナビの表示（表示開始）（押し順表示装置D270）→押し順ナビの表示（表示開始）（演出表示装置S40）

2. 第1停止ボタン操作～第2停止ボタン操作まで

2-1. 演出表示装置S40

第1停止ボタンの操作に対応する押し順消滅エフェクトの表示（表示開始）→第1停止ボタンの操作に対応する押し順消滅エフェクトの表示の終了→第2リール押し順ナビの表示態様の変更

→第2停止ボタンの操作に対応する押し順消滅エフェクト（表示態様は変更されている）の表示（表示開始）→第2停止ボタンの操作に対応する押し順消滅エフェクトの表示の終了→第3リール押し順ナビの表示態様の変更

2-2. 押し順表示装置D270

押し順表示装置D270は点灯した状態である。

3. 第3停止ボタン操作～押し順ナビの表示終了

第3停止ボタン操作→押し順表示装置消灯→第3停止ボタンの操作に対応する押し順ナビ消滅エフェクトの表示（表示開始）→第3停止ボタンの操作に対応する押し順消滅エフェクトの表示の終了

このようにして、1遊技の流れが進行する。尚、上記に記載した例はほんの一例であり、例えば、1. 押し順ナビの表示（表示開始）においては、リール窓枠ランプD310、及びスピーカS20から出力される音声などを含めた構成としてもよく、押し順ナビの表示（表示開始）のタイミング、及び押し順ナビを表示（表示開始）する順番などもこの限りではない。また、2. 第1停止ボタン操作～第2停止ボタン操作においては、演出表示装置S40において、各停止ボタンに対応する押し順消滅エフェクトの表示（表示開始）、次リールに対応する押し順ナビの表示態様の変更する順番などもこの限りではない。また、3. 第3停止ボタン操作～押し順ナビの表示終了においては、押し順表示装置D270と演出表示装置S40の押し順ナビの表示終了の順番はこの限りではなく、押し順ナビが終了するタイミングについて更に細かく規定（第3停止ボタン押下、第3停止ボタン非押下などで更に区分けできる）してもよい。

【1861】

本例のように構成することで、押し順表示装置D270に表示される押し順ナビの開始

10

20

30

40

50

タイミングと、演出表示装置 S 4 0 上に表示される押し順ナビの開始タイミングを異ならせることで、2つの表示装置を同時に視認しなければならないという状態を回避でき、遊技者は押し順ナビが発生したタイミングで個々の表示装置にて押し順ナビを視認できるという遊技者の遊技負担を軽減でき、押し順表示装置 D 2 7 0、及び演出表示装置 S 4 0 に表示される押し順ナビの終了タイミングを所定の期間（第3停止ボタン操作（押下）→第3停止ボタン非押下→入賞判定→入賞に基づく払出完了までの期間）で定めることにより、例えば押し順表示装置 D 2 7 0 に表示される押し順ナビの終了タイミングと、演出表示装置 S 4 0 上に表示される押し順ナビの終了タイミングを異ならせることで、2つの表示装置を同時に視認しなければならないという状態を回避でき、遊技者は押し順ナビが発生したタイミングで個々の表示装置にて押し順ナビの終了を視認できるという遊技者の遊技負担を軽減できるユーザーフレンドリーな遊技機を提供することができる。

10

【1862】

<押し順不正解時の表示態様>

ここで、押し順ナビが実行されたゲームにおいて、押し順ナビとは異なる押し順（又は、異なる操作タイミング）にて遊技を実行した場合の、押し順ナビの表示態様の構成についての一例を詳述する。ここでは、押し順ベルに当選しており、正解の押し順が「左→中→右」であるゲームが実行される場合を例示する。

【1863】

演出表示装置 S 4 0 にて押し順ナビとして「123」が表示されており、押し順表示装置 D 2 7 0 にて押し順ナビとして「=1」が表示されている状況下、第1停止操作として中停止ボタン（正解の押し順は左停止ボタンに対応）が操作され、主制御基板 M 側の割り込み処理として第1停止ボタンの操作を検出するためのセンサがオフからオンになったことを検出→主制御基板 M 側から副制御基板 S 側に第1停止ボタンの検知に係るコマンドを送信→副制御基板 S 側が当該コマンドを受信→副制御基板 S 側は演出表示装置 S 4 0 における「123」の表示をすべて消去する処理を実行する。

20

以上のように構成してもよい。なお、上述したように、押し順ナビが実行されたゲームにて、正解の押し順ではない停止ボタンが操作された場合には、副制御基板 S 側では、すべてのリール（又は、停止ボタン）に対応した押し順ナビを消去する一方、主制御基板 M 側では押し順ナビの表示を維持するよう構成されている。なお、主制御基板 M 側における押し順ナビ（押し順表示装置 D 2 7 0 による押し順ナビ）は、第3停止操作時（主制御基板 M 側の割り込み処理として第3停止ボタンの操作を検出するためのセンサがオンからオフになったことを検出した時）に消去するよう構成されている。

30

【1864】

<<リール制御と押し順ナビに係る構成>>

次に、リール停止制御と押し順ナビの表示制御（演出表示装置 S 4 0）に係る構成について説明する。なお、当該遊技においては、所定の押し順ベルに当選しており、「中→左→右」の順で停止操作することで遊技者に最も有利となる（払出枚数が多い）場合（例えば、「入賞 - A 3」に当選した場合）について例示している。

【1865】

<構成1>

40

まず、図302の左上段図において、A T 中状態にて押し順ベルに係る指示遊技が実行され、演出表示装置 S 4 0 上に押し順ナビとして「213」が表示されている。中停止ボタンを中リールの中段が11番のリプレイ図柄が位置するタイミングにて押下し、中リールの押し順ナビ「1」に対応する表示が押し順ナビ消滅エフェクトに変化する。尚、中リール停止ボタンは押下中のままである。また、中リールは、正解の押し順である中リールの停止操作が行われたことで、最大獲得枚数である11枚の払出となる図柄組み合わせを構成する図柄を停止させるよう制御を行う。尚、本例では、中リールの中段（有効ライン）に15番のベルが停止するよう構成されている。即ち、このタイミングで中停止ボタンの操作が行われた際には、11番のリプレイ A から最大コマ数（本例では4コマ）のスベリを発生させて15番のベルを入賞ラインに停止表示させるよう制御が行われる。

50

【1866】

ここで、停止操作が行われた後にリールが停止するまでのステッピングモータの動作制御を図228に基づいて説明する。例えばリールの停止操作が行われたタイミングで、図228<リール回転速度イメージ>の(4)のリール定速状態から(5)のリール減速待機状態へと遷移する。このリール減速待機状態において、停止操作が行われた位置と、当該遊技にて当選した条件装置に係る図柄組み合わせを構成する図柄との位置との距離を算出し、所定の期間(例えば190ms以内)で当該遊技にて当選した条件装置に係る図柄組み合わせを構成する図柄を入賞ラインに停止表示することが可能であると判断することで、当該遊技にて当選した条件装置に係る図柄組み合わせを構成する図柄を停止表示させるよう回転を継続させる。そして当該遊技にて当選した条件装置に係る図柄組み合わせを構成する図柄が入賞ラインまで差し掛かったタイミングで(6)のリール減速状態へと遷移し、(7)のリール停止状態へと遷移するよう制御する。

10

【1867】

その後、図302の右上段に記載されているように演出表示装置S40では、中リールの押し順ナビ消滅エフェクトが消去され(表示終了)、中リールは15番のベルを入賞ラインに停止表示させるためスベリ制御を継続させる。尚、中停止ボタンは押下中である。次に、図302の左下段のように、演出表示装置S40は次に停止操作が行われるべきリールに対応する押し順ナビを強調表示する表示態様に変化させる。このとき変化する表示態様としては、停止操作すべき停止ボタンを遊技者が認識できるようになっていればどのような態様でもよい(数字を大きく変化させる、数字に動きを付ける、数字を光らせるなど)。一方、中リールは15番のベルを入賞ラインに停止表示させるためスベリ制御を継続する。尚、中リール停止ボタンは押下中である。尚、次に停止操作が行われるべきリールに対応する押し順ナビを強調表示する表示態様に変化させるタイミングとしては、押し順ナビ消滅エフェクトが消去(表示終了)される前でもよいし、押し順ナビ消滅エフェクトが消去(表示終了)された後でもよいし、押し順ナビ消滅エフェクトが消去(表示終了)されるタイミングと同時でもよい。

20

【1868】

その後、中停止ボタンの押下状態が所定時間継続した後、中リールの15番のベルが入賞ラインに停止表示される。ここでの所定時間とは、中リールの最大スベリ制御が行われる時間(例えば190msの間)である。このように本例では、押し順ナビに従って停止操作を行った場合に、当該停止操作を行ったリールが停止表示される前(次の停止ボタンの操作が有効になる前)に、当該停止操作を行ったリールに対応する押し順ナビを消去し、次に停止すべきリールに対応する押し順ナビの表示態様を変化させることが可能なよう構成されている。

30

【1869】

ここで、本例で実施可能な一例として最大コマ数のスベリが発生する位置で停止操作を行った場合について説明を行ったが、例えば0コマスベリにて押し順役を構成する図柄を停止可能な位置で停止操作を行った場合については、次に停止操作が行われるべきリールに対応する押し順ナビを強調表示する表示態様に変化させるタイミングは、リールが停止表示された後となる。なお、0コマスベリであった場合においても、次の停止ボタンの操作が有効になるタイミングよりも前に、前記次に停止操作が行われるべきリールに対応する押し順ナビを強調表示する表示態様に変化させるよう構成されている。このように構成することによって、0コマスベリであった場合においても、次に停止操作すべきリールを認識した後に停止ボタンを操作することとなり、遊技者が押し順を誤って停止操作してしまう事態を防止することができる。また、次に停止操作が行われるべきリールに対応する押し順ナビを強調表示する表示態様に変化させるタイミングは早い方がより好適であり、0コマスベリとなる場合においてもできる限り早いタイミングとすることが好適である。

40

【1870】

また本例では、押し順ベルを一例として説明したが、押し順ベルだけでなく、押し順ナビが発生させる全ての条件装置にて適用可能である。また、押し順を報知する演出手段と

50

して、リール窓枠ランプD 3 1 0による点灯、もしくはスピーカS 2 0から出力される音声を用いてもよい。例えば、リール窓枠ランプD 3 1 0、もしくはスピーカS 2 0から出力される音声を用いた押し順ナビを含めた場合、演出表示装置S 4 0にて次リールに対応する押し順ナビの表示態様を変化させるよりも先に次リールに対応する押し順ナビを実行する（リール窓枠ランプD 3 1 0であれば、次リールに対応するランプを点灯させ、音声であれば、次リールに対応する台詞を音声として出力する）よう構成することが可能である。

【1 8 7 1】

また、本例における、＜＜リール制御と押し順ナビに係る構成＞＞に係る構成として、押し順ナビを実行する演出手段として演出表示装置S 4 0による押し順ナビを一例として説明を行ったが、例えば、リール窓枠ランプD 3 1 0、音声、停止ボタンD 4 0（左停止ボタンD 4 1、中停止ボタンD 4 2、右停止ボタンD 4 3）の内部に設けられた停止ボタンランプS 6 0による押し順ナビを含めて構成してもよい。リール窓枠ランプD 3 1 0による押し順ナビは、リール窓枠ランプの点灯（点滅）、消灯により実行され、音声による押し順ナビは、スピーカS 2 0から「左です」、「右です」、「中です」と出力することにより実行され、停止ボタンD 4 0（左停止ボタンD 4 1、中停止ボタンD 4 2、右停止ボタンD 4 3）の内部に設けられた停止ボタンランプS 6 0による押し順ナビは、リールに対応した左停止ボタンD 4 1の点灯（点滅）、消灯により実行される。

【1 8 7 2】

例えば、本例における、＜＜リール制御と押し順ナビに係る構成＞＞に係る構成に、リール窓枠ランプD 3 1 0、音声、停止ボタンD 4 0（左停止ボタンD 4 1、中停止ボタンD 4 2、右停止ボタンD 4 3）を含めて構成される場合、

（1）リール窓枠ランプD 3 1 0

（1－1）当該停止操作が行われたリールに対応するランプの消灯

（1－2）次に停止操作が行われるべきリールに対応するランプの点灯

（2）音声

（2－1）次に停止操作が行われるべきリールに対応する音声の出力

（3）停止ボタンD 4 0

（3－1）当該停止操作が行われたリールに対応するランプの消灯

（3－2）次に停止操作が行われるべきリールに対応するランプの点灯

（4）演出表示装置S 4 0

（4－1）当該停止操作が行われたリールに対応する押し順消滅エフェクトを表示（表示終了）

（4－2）次に停止操作が行われるべきリールに対応する押し順ナビを強調表示する表示態様に変化

以上のような、演出手段ごとの押し順ナビに係る構成を規定することができる。これらの構成（1－1）～（4－2）を実行する順番として、どのように定めてもよい。例えば、演出手段ごとに実行する順番を定めてもよいし（一例として、リール窓枠ランプ→音声→停止ボタン→演出表示装置の順番で処理を行う）、リールごとに実行する順番を定めてもよいし（一例として、当該停止操作が行われたリールに係る処理→次に停止操作が行われるべきリールに係る処理の順番で処理を行う）、これらを組み合わせて構成してもよい。

【1 8 7 3】

また、本例における、＜＜リール制御と押し順ナビに係る構成＞＞として、図3 0 2を用いて説明を行い、図3 0 2では、第1停止操作を行った場合を一例として説明を行ったが、本例を適用可能な構成としては、第1停止操作時だけに限定されない。例えば、第2停止操作が行われた場合、第3停止操作が行われた場合であっても適用可能である。尚、第3停止操作時においては、次に停止操作が行われるべきリールに対応する処理（例えば、演出表示装置S 4 0における「押し順ナビを強調表示する表示態様」への変化、リール窓枠ランプD 3 1 0における「次に停止操作が行われるべきリールに対応するランプの点灯」）の処理は実行されない。

【1874】

<効果>

このように構成することで、押し順ナビに従って停止ボタンの操作を行い、当該停止ボタンに対応したリールが最大コマ数のすべりを伴う停止制御を実行する場合であっても、演出表示装置S40における当該停止ボタンに対応した押し順ナビ表示の終了（消滅エフェクトの表示開始から終了まで）、及び次に停止操作すべき停止ボタンに対応した押し順ナビ表示の表示態様の変化（強調表示の開始）を、次の停止ボタンの操作が有効になる前に実行することができるので、遊技者が次に停止操作すべき停止ボタンを認識する前に誤って停止ボタンを操作してしまうことを防止できる。

【1875】

<<<<第3実施形態 投入センサによるメダル加算処理>>>>

次に、第3実施形態として、メダル投入口D170に投入された遊技メダルをクレジットとして加算する処理のタイミングについて説明する（図306を参照）。メダル投入口D170から投入された遊技メダルは、遊技メダルの経路であるメダルセレクトDS内の投入受付センサD10sを通過し、所定の通過条件（通過している遊技メダルが規格を満足している、エラーであると判定されていないなど）を満たしている場合にエラーが発生することなく遊技メダルがメダルセレクトDS内のメダル流路DRを通過して下方に流下する。そして、投入受付センサD10sの更に奥に第1投入センサD20s及び第2投入センサD30sが備えられており、寸法規格を満たして受け入れられた遊技メダルが第1投入センサD20s及び第2投入センサD30sを通過する際、正常に投入されたと判断した場合に、投入された遊技メダルをベットされたメダルとして検出し、クレジット加算が行われ得るよう構成されている。遊技メダルが通過すると、第1投入センサD20s及び第2投入センサD30sによって遊技メダルの投入が検出されて、その信号（第1投入センサD20sがオンになったタイミングの情報、第1投入センサD20sがオンになってからオフになるまでの時間の情報、第2投入センサD20sがオンになったタイミングの情報、第2投入センサD20sがオンになってからオフになるまでの時間の情報など）が主制御基板Mに供給されるようになっている。ここで、クレジット加算が行われ得るタイミングとしては、第1投入センサD20s及び第2投入センサD30sの夫々のセンサのオン・オフの状況によって定めることができる。

【1876】

<<<第3実施形態 投入センサによる遊技メダル検知のタイミングチャート>>>

図303は、遊技メダルが第1投入センサD20s及び第2投入センサD30sを通過する際にタイミングチャートである。例えば、図中1のタイミングで第1投入センサD20sが遊技メダルの通過（オフ→オン）を検知したとする。続いて、図中2のタイミングで第2投入センサD30sが遊技メダルの通過（オフ→オン）を検知したとする。これらのタイミングに係る時間の情報等は前述した信号として主制御基板Mに供給されることになる。続いて図中3のタイミングで第1投入センサD20sが遊技メダルの検知を終了（オン→オフ）したとする。ここで、第1投入センサD20sが遊技メダルを検知してから遊技メダルの検知を終了するまでの時間Aが、主制御基板Mによって算出され、Aが所定の範囲内（第3実施形態では、 $4\text{ms} \leq A < 183\text{ms}$ ）であれば正常に遊技メダルの通過を検知していると判断する。また、第2投入センサD30sが遊技メダルを検知してから第1投入センサD20sが検知を終了するまでの時間Bが、主制御基板Mによって算出され、Bが所定の範囲内（ $2\text{ms} \leq B < 115\text{ms}$ ）であれば、正常に遊技メダルの通過を検知していると判断する。その後、図中4のタイミングで第2投入センサD30sが遊技メダルの検知を終了（オン→オフ）したとする。第2投入センサD30sが遊技メダルを検知してから第2投入センサD20sが検知を終了するまでの時間Cが、主制御基板Mによって算出され、Cが所定の範囲内（ $4\text{ms} \leq C < 183\text{ms}$ ）であれば、正常に遊技メダルの通過を検知していると判断する。このようにして、第1投入センサD20s及び第2投入センサD30sのオンもしくはオフとなるタイミングで、正常に遊技メダルがメダルセレクトDS内を通過しているかを判定しており、更に第1投入センサD20s及び

10

20

30

40

50

第2投入センサD30sのオンもしくはオフとなるいずれかのタイミングで投入された遊技メダルをベットされたメダルとして検出し、クレジット加算が行われることになる。

【1877】

<<<第3実施形態 投入センサによるメダル加算処理の一例>>>

<<構成1>>

次に、第3実施形態において、投入された遊技メダルをベットされたメダルとして検出し、クレジット加算が行われるタイミングの一例を詳細に説明する。図304～図305は、ステップ1200のサブルーチンに係る遊技進行制御処理において、第3実施形態におけるクレジット加算タイミングにおける処理を反映したフローチャートである。図306は、投入された遊技メダルに対して正常に投入処理を実行した場合における、クレジット加算が行われるタイミングのイメージ図である。尚、図304のフローチャートにおいて、図210と同内容においては説明を省略する（ステップ1220～ステップ1225まで、及びステップ1232以降）。まず、図304において、ステップ1226-1（第4）で、主制御基板MのCPU100は、ブロックD100がオンか否かを判定する。ステップ1226-1（第4）でYesの場合、ステップ1226-2（第4）で、主制御基板MのCPU100は、第1投入センサD20sオン、且つ第2投入センサD30sがオフであるか否かを判定する（図306の中上段によるイメージ図 遊技メダルが第1投入センサD20sに差し掛かったタイミングで第1投入センサD20sがオフ→オンとなる）。ステップ1226-2（第4）でYesの場合、ステップ1226-3（第4）で、主制御基板MのCPU100は、第1投入センサD20sオン且つ第2投入センサD30sオンであるか否かを判定する（図306の右上段によるイメージ図 遊技メダルが第2投入センサD30sに差し掛かったタイミングで第2投入センサD30sがオフ→オンとなる）。ステップ1226-3（第4）でYesの場合、ステップ1226-6（第4）で、主制御基板MのCPU100は、第1投入センサD20sオフ且つ第2投入センサD30sオンであるか否かを判定する（図306の左下段によるイメージ図 遊技メダルが第1投入センサD20sの検知範囲を超えたタイミングで第1投入センサD20sがオン→オフとなる）。ステップ1226-6（第4）でYesの場合、ステップ1226-8（第4）で、主制御基板MのCPU100は、1枚の正常な遊技メダルの投入を受け付けたと判定し、クレジット加算処理が行われる。また、ステップ1226-9（第4）で、主制御基板MのCPU100は、第1投入センサD20sオフ且つ第2投入センサD30sオフであるか否かを判定する（図306の中下段によるイメージ図 遊技メダルが第2投入センサD30sの検知範囲を超えたタイミングで第2投入センサD30sがオン→オフとなる）。ステップ1226-9（第4）でYesの場合、1枚の正常な遊技メダルの投入が完了したと判定し、例えば、ベット数が規定数を満たしている場合に、スタートレバーD50の操作を有効にする等の処理が実行され、ステップ1232に移行する。

【1878】

<効果1>

第3実施形態では、第1投入センサD20sがオフ、且つ第2投入センサD30sがオンのタイミングでクレジットの加算処理を実行する一例について説明した。従来では、「第1投入センサD20sがオフ且つ第2投入センサD30sがオン→第1投入センサD20sがオフ且つ第2投入センサD30sがオフ」となったタイミングでクレジット加算の処理を実行していたが、第3実施形態のように構成することで、例えば、第1投入センサD20sオフ、且つ第2投入センサD30sオンの状態では、まだクレジット加算処理を行っていないが、このタイミングでエラーが発生してしまった場合に、主制御基板MのCPU100がエラーと判定し、所定のメダル投入エラー処理（例えばブロックD100をオフにしてブロックD100により放出口D240に遊技メダルを払い戻すなど）の実行処理が間に合わず、クレジット加算処理を実行していないにも拘わらず、遊技メダルが遊技機内に入り込んでしまうこと（飲み込み）を防止することが可能となる。

【1879】

<効果 2>

また、第2投入センサD30sがオフのままであり第1投入センサD20sのみがオンになったタイミングではクレジット加算処理を実行しないので、第2投入センサD30sと比較してメダル投入口170から近い位置に備えられている第1投入センサD20sによるゴト行為（例えば、クレマンゴト）などが行われることも防止でき、不正に強い遊技機を提供でき、ひいてはユーザーフレンドリーな遊技機を提供することができる。

【1880】

<<<第3実施形態 投入センサエラーによるサブルーチン>>>

また、ステップ1226-3（第4）、ステップ1226-6（第4）、ステップ1226-9（第4）でNoの場合、ステップ1226-4（第4）、ステップ1226-7（第4）、ステップ1226-10（第4）により、主制御基板MのCPU100は、所定のメダル投入エラーの発生条件を充足しているか否かを判定する。尚、ここでのメダル投入エラーとしては、例えば、投入メダル逆流エラー、投入枚数エラー、投入メダル滞留エラー等があり、第1投入センサ及び第2投入センサなどのセンサのオンオフ状況（時間も含む）に基づき、いずれかのエラーが発生しているか否かを判定する（エラーの種類によって発生条件は異なる）。これらのエラーは、例えば、図303の第1投入センサD20s、及び第2投入センサD30sのオンオフの検知に基づいて検出される。ステップ1226-4（第4）、ステップ1226-7（第4）、ステップ1226-10（第4）のいずれかでYesの場合、ステップ1226-5（第4）で、メダル投入エラー処理が実行される。図305は、メダル投入エラーが発生した際のサブルーチンに係るフローチャートである。まず、ステップ1226-12（第4）で、主制御基板MのCPU100は、いずれのエラーフラグがオンであるかが検出し、ステップ1226-13（第4）で、エラー検出コマンド（サブ側へのコマンドであり、エラーが検出されている旨に係るコマンド）をセットし（例えば、レジスタ領域内にセットし）、ステップ1226-14（第4）に移行する。尚、1226-13（第4）においては、オンとなっているエラーフラグに対応したエラー（現在発生しているエラー）に係る情報が副制御基板側に送信されるよう構成されている。また、エラー未検出コマンドはエラーが発生していた状態からエラーが解除された場合にのみ（フラグがオフになったと判定された場合にのみ）セットしても良いし、エラー未検出のときには当該情報のセット処理を実行しなくても良い。発生したエラーの種類に応じてエラー処理が実行されることになるが、エラー検出コマンドはエラーが発生していない状態からいずれかのエラーが発生した場合にのみセット処理を実行しても良いし、第1のエラー（例えば、投入メダル滞留エラー）が発生している状態から第2のエラー（例えば、払出メダル滞留エラー）のようにエラーの種類が変わった場合にセット処理を実行してもよい。ステップ1226-14（第4）で、主制御基板MのCPU100は、現在発生しているエラーが解除されたか否かを判定する。エラーが解除されたと判定されたらステップ1226-15で現在発生しているエラーフラグをオフにし、サブルーチンは終了となる。以上のように、第1投入センサD20s及び第2投入センサD30sによる遊技メダルの検知に基づいたエラーの検出についての一例を説明したが、エラーの検出において、例えばメダルセクタDS内のメダル投入口D170付近に備えられた投入受付センサD10sの遊技メダルの検知に基づいてエラーの検出を行うことも可能であり、以下、投入受付センサD10sの遊技メダルの検知に基づいたエラー検出の一例の説明を行う。

【1881】

<<<第3実施形態 投入監視カウンタに基づいたエラーの検出>>>

<<構成 2>>

メダル投入口D170から投入された遊技メダルが通過する第1のセンサとして、投入受付センサD10sが備えられている。投入受付センサD10sは、メダル投入口D170から投入された遊技メダルを主に寸法に基づいて選別し、規格寸法に適合した遊技メダルだけを受け入れる機能を有しており、この機能により適合しないと判断されたメダル（又は、その他の異物）は、ブロックD100により放出口D240に払い戻されるよう構

成されている。このとき、適合した遊技メダルが通過したと判断した際に、投入受付センサD10sがオフからオンの状態となり、その信号が主制御基板Mに供給されるようになっている。主制御基板Mは、投入受付センサD10sがオンとなった信号を受信した際に、遊技メダルの通過をカウントするカウンタ（以下、投入監視カウンタと称する）にて0→1と加算処理を行う。そして、主制御基板Mは、遊技メダルがメダルセレクトダS内の経路を流下し、例えば、第2投入センサD30sがオンからオフになったタイミング（図303では、4のタイミングに相当）で投入監視カウンタにて1→0と減算処理を行う。このとき、例えば、図303のタイミングチャートで1～4までの期間で、遊技メダルの投入に関して何かしらの問題が生じた場合、投入監視カウンタの遊技メダルのカウント処理が正常に行われないうこととなる。例えば、第2投入センサD30sがオンからオフにならず、投入監視カウンタの減算処理が行われず、投入監視カウンタが加算され続けた場合に、投入メダル滞留エラーを検出できる。また、第2投入センサD30sが、投入受付センサD10sよりも先にオンからオフになり、投入監視カウンタの減算処理が先に行われることで投入監視カウンタがマイナスになる状況が発生した場合に、投入メダル逆流エラーを検出できる。

【1882】

<効果>

このように、第1投入センサD20s及び第2投入センサD30s、更に投入受付センサD10sの3つのセンサにおける遊技メダルの検知に基づいてエラー判定が行えるようよう構成することで、遊技メダルの投入に係る種々のエラーを確実に検出することが可能となり、不正に強い遊技機を提供でき、ひいてはユーザーフレンドリーな遊技機を提供することができる。

【1883】

<<<第3実施形態 メダル投入音の出力>>>

第3実施形態において、投入された遊技メダルをベットされたメダルとして検出した後に出力されるメダル投入音の出力タイミングについて詳細に説明する。第3実施形態において、第1投入センサD20sがオフ、且つ第2投入センサD30sがオンのタイミングでクレジットの加算処理を実行する一例について説明したが、第1投入センサD20sがオフ、且つ第2投入センサD30sがオンとなった状態にて、エラーが発生する場合がある（例えば、第2投入センサD30sがオンの時間が異常に長いことによる投入メダル滞留エラーなど）。第3実施形態では、第1投入センサD20sがオフ、且つ第2投入センサD30sがオンのタイミングでクレジットの加算処理を実行するため、例えば、クレジット加算処理を実行した後にエラーが生じることも想定される。第3実施形態では、特にクレジット加算処理後に出力されるメダル投入音、及び第2投入センサD30sでのエラー検知によりスピーカS20から出力されるエラー音の出力タイミングについて説明する。

【1884】

<<構成3>>

まず、タイミングAとして、メダル投入音を、第2投入センサD30sでのエラー検知によりスピーカS20から出力されるエラー音よりも先に出力するよう構成する。詳細に説明すると、図303のタイミングチャートにより、Cの期間の上限値である183msよりBの上限値である115msを差し引くと68msとなる。つまり、この期間で、主制御基板MのCPUC100が、「メダル投入受付→メダル投入受付に係るコマンドをセット→副制御基板側へコマンドを送信する→エラー検出コマンドをセット（エラーがある場合）」のように処理を実行することでメダル投入音を第2投入センサD30sでのエラー検知によりスピーカS20から出力されるエラー音よりも先に出力することが可能となる。

【1885】

<<構成4>>

タイミングAの変形例として、クレジット加算処理のタイミングを異ならせてもよい。つまり、主制御基板MのCPUC100が、「メダル投入受付に係るコマンドをセット→

10

20

30

40

50

クレジット加算処理を実行→副制御基板側へコマンドを送信する→エラー検出コマンドをセット（エラーがある場合）」と処理を行ってもよい。

【1886】

<効果>

このように構成することで、「第1投入センサD20sがオン且つ第2投入センサD30sがオン→第1投入センサD20sがオフ且つ第2投入センサD30sがオン」となったタイミングでメダル投入受付に係る処理が実行され、その後のタイマ割り込み処理によって主制御基板M側から副制御基板S側にメダル投入受付に係るコマンドが送信され、副制御基板S側でメダル投入音が出力されることとなる。一方、上記「第1投入センサD20sがオフ且つ第2投入センサD30sがオン」の状況が継続して投入メダル滞留エラーが発生した場合には、すでにメダル投入音が出力された後で、投入メダル滞留エラーが発生したと判断するため（第1投入センサD20sがオフ且つ第2投入センサD30sがオンの状況が所定時間以上継続するため）、遊技者は、投入メダル滞留エラーに係るエラー音の出力前にメダル投入音を確認することができ、投入メダル滞留エラーによって正常に遊技メダルが投入されずに損をしてしまったのではないかと不安になる事態を防止することができる。

【1887】

<<構成5>>

次に、タイミングBとして、メダル投入音を、第2投入センサD30sでのエラー検知によりスピーカS20から出力されるエラー音よりも後に出力するよう構成する。クレジット加算処理を行ってから、第2投入センサD30sでのエラーが検知されるまでに少なくとも67ms以上の時間があると判断するわけであるが、この期間では意図的に主制御基板MのCPU100が、メダル投入受付に係るコマンドを副制御基板側へ送信しないよう構成する。その後、第2投入センサD30sでのエラー検知によるエラー検出コマンドをセットした後、メダル投入受付に係るコマンドを副制御基板側へ送信するように構成する。つまり、主制御基板MのCPU100が、「クレジット加算処理を実行→エラーフラグを検出→エラー検出コマンドをセット→副制御基板側へエラー検出コマンドを送信→メダル投入受付に係るコマンドをセット→副制御基板側へメダル投入受付に係るコマンドを送信」のように処理を実行するよう構成することでメダル投入音を、第2投入センサD30sでのエラー検知によりスピーカS20から出力されるエラー音よりも後に出力することが可能となる。このとき、メダル投入受付に係るコマンドをサブ側へ送信するタイミングとして、エラー検出コマンドを送信する際とは異なるタイマ割り込み時処理にて送信するよう構成することが好ましい。

【1888】

<<構成6>>

タイミングBの変形例として、クレジット加算処理のタイミングを異ならせてもよい。つまり、主制御基板MのCPU100が、「エラーフラグを検出→エラー検出コマンドをセット→副制御基板側へエラー検出コマンドを送信→メダル投入受付に係るコマンドをセット→クレジット加算処理を実行→副制御基板側へメダル投入受付に係るコマンドを送信」と処理を行ってもよい。

【1889】

<効果>

このように構成することで、「第1投入センサD20sがオン且つ第2投入センサD30sがオン→第1投入センサD20sがオフ且つ第2投入センサD30sがオン」となったタイミングで、まず投入メダル滞留エラーが発生したと判断（第1投入センサD20sがオフ且つ第2投入センサD30sがオンの状況が所定時間以上継続するため）し、主制御基板M側から副制御基板S側にエラー検出コマンドが送信され、投入メダル滞留エラーに係るエラー音を出力する。その後、メダル投入受付に係る処理が実行された後に、主制御基板M側から副制御基板S側にメダル投入受付に係るコマンドが送信され、副制御基板S側でメダル投入音出力されることとなる。「第1投入センサD20sがオフ且つ第2

投入センサD30sがオン」の状況が継続して投入メダル滞留エラーが発生した場合には、メダル投入音出力される前に、投入メダル滞留エラーが発生したと判断するため（第1投入センサD20sがオフ且つ第2投入センサD30sがオンの状況が所定時間以上継続するため）、遊技者は、メダル投入音出力前に投入メダル滞留エラーに係るエラー音を確認することができ、遊技者は、正常に遊技メダルが投入されていないことを早急に察知することができる。

【1890】

<<構成7>>

次に、タイミングCとして、メダル投入音を、第2投入センサD30sでのエラー検知によりスピーカS20から出力されるエラー音よりも後に出力し、且つ当該エラーが解除された後に出力するよう構成する。クレジット加算処理を行ってから、第2投入センサD30sでのエラーが検知されるまでに少なくとも67ms以上の時間があると判断するわけであるが、この期間では意図的に主制御基板MのCPUC100が、メダル投入受付に係るコマンドを副制御基板側へ送信しないというのは第2のタイミングと同様であるが、更にステップ1226-15にて主制御基板MのCPUC100が投入エラーフラグをオフにしたのちに、メダル投入受付に係るコマンドを副制御基板側へ送信するよう構成する。つまり、主制御基板MのCPU100が、「クレジット加算処理を実行→エラーフラグを検出→エラー検出コマンドをセット→副制御基板側へエラー検出コマンドを送信→・・・（この間でエラー解除処理）・・・→エラー未検出コマンドをセット→副制御基板側へエラー未検出コマンドを送信→メダル投入受付に係るコマンドをセット→副制御基板側へメダル投入受付に係るコマンドを送信」のように処理を実行するよう構成することでエラーを解除した後に、メダル投入音出力することが可能となる。

【1891】

<<構成8>>

タイミングCの変形例として、クレジット加算処理のタイミングを異ならせてもよい。つまり、主制御基板MのCPUC100が、「エラーフラグを検出→エラー検出コマンドをセット→副制御基板側へエラー検出コマンドを送信→・・・（この間でエラー解除処理）・・・→エラー未検出コマンドをセット→副制御基板側へエラー未検出コマンドを送信→メダル投入受付に係るコマンドをセット→クレジット加算処理を実行→副制御基板側へメダル投入受付に係るコマンドを送信」と処理を行ってもよい。

【1892】

<効果>

このように構成することで、「第1投入センサD20sがオン且つ第2投入センサD30sがオン→第1投入センサD20sがオフ且つ第2投入センサD30sがオン」となったタイミングで、まず投入メダル滞留エラーが発生したと判断（第1投入センサD20sがオフ且つ第2投入センサD30sがオンの状況が所定時間以上継続するため）し、主制御基板M側から副制御基板S側にエラー検出コマンドが送信され、投入メダル滞留エラーに係るエラー音出力する。エラーが解消された後に、エラー未検出コマンドをサブ側へ送信し、投入メダル滞留エラーに係るエラー音を終了する。そして、メダル投入受付に係る処理が実行された後に、主制御基板M側から副制御基板S側にメダル投入受付に係るコマンドが送信され、副制御基板S側でメダル投入音出力されることとなる。「第1投入センサD20sがオフ且つ第2投入センサD30sがオン」の状況が継続して投入メダル滞留エラーが発生した場合には、メダル投入音出力される前に、投入メダル滞留エラーが発生したと判断し（第1投入センサD20sがオフ且つ第2投入センサD30sがオンの状況が所定時間以上継続するため）、更にエラーが解消されてエラー音出力を終了させるため、遊技者は、メダル投入音出力前に投入メダル滞留エラーに係るエラー音を確認し、尚且つエラーが解消された後にメダル投入音を確認することができるので、遊技者は、エラーが解消された後に正常に遊技メダルが投入されていることを認識することができる。

【1893】

<<<第3実施形態 シュートセンサによるメダルエラー検出>>>

次に、第3実施形態として、シュートセンサD40sを用いたエラーの検知について詳細に説明する。図307は、メダルセクタDS内の遊技メダルの経路において、第1投入センサD20s及び第2投入センサD30sを通過した後のメダルの流路部材（第3実施形態ではシュート本体と称する）を示した図である。図307において、第1投入センサD20s及び第2投入センサD30sの下方にシュートセンサD40sが備えられており、シュートセンサD40sは、第1投入センサD20s及び第2投入センサD30sと同様に正常なメダル投入が行われているかを検知するものであるが、特に、第3実施形態では既にクレジット加算処理が実行された後によるエラー（例えば投入メダル滞留エラー、投入メダル逆流エラーなど）を検知できるよう構成されている。

10

【1894】

シュートセンサD40sによるエラー検知について詳細に説明する。例えば、ホッパH40と連通するシュート本体において、シュートセンサD40sの更に下流にて遊技メダルの滞留が発生した場合を考えてみる。シュート本体内の遊技メダルの経路の幅は概ね遊技メダル1枚分の幅であり、1枚の遊技メダルがシュート本体内の遊技メダルの経路で滞留すると、その後に経路を通過する遊技メダルが次々と滞留し、投入メダル滞留エラーの状態となるわけである。第3実施形態では、遊技メダルの滞留が起こった位置から遊技メダル3枚分の位置がシュートセンサD40sにより検知される位置とするが、シュートセンサD40sが備えられる位置としてはこれに限定されない。

【1895】

シュートセンサD40sの遊技メダルの検知は、第1投入センサD20s及び第2投入センサD30sによる遊技メダルの検知と同様に、遊技メダルが通過すると、シュートセンサD40sによって検知されて、その信号（シュートセンサD40sがオンになったタイミングの情報、シュートセンサD40sがオンになってからオフになるまでの時間の情報など）が主制御基板Mに供給されるようになっている。主制御基板Mは、シュートセンサD40sによって検知された信号に係る情報、更に第1投入センサD20s及び第2投入センサD30sによって検知された信号に係る情報に基づいて遊技メダルが正常に投入されていると判定する。具体的には、主制御基板Mが、第1投入センサD20sもしくは第2投入センサD30sが遊技メダルの検知を開始したタイミングからシュートセンサD40sが遊技メダルの検知を開始したタイミングまでの期間と、予め定められている期間（シュートセンサD40sが検知するべき時間 以下、理論的な期間とも称する）とを比較する。例えば、図307における4枚目の遊技メダルを検知する場合であれば、4枚目の遊技メダルが第1投入センサD20s、もしくは第2投入センサD30sにより検知されたタイミングから4枚目の遊技メダルがシュートセンサD40sにより検知されるまでの期間と、理論的な期間とを比較し、その期間の差がエラーとして検知されない範囲を超えてしまった場合に、エラー（第3実施形態ではシュートセンサメダル滞留エラー）が検知されることになる。尚、第1投入センサD20sが遊技メダルを検知したタイミング、第2投入センサD30sが遊技メダルの検知を開始したタイミング、もしくは第1投入センサD20sが遊技メダルの検知を終了したタイミング、第2投入センサD30sが遊技メダルの検知を終了したタイミングのいずれかを理論的な期間の開始タイミングとしてもよい。

20

30

40

【1896】

<<第3実施形態 シュートセンサによる遊技メダル検知のタイミングチャート>>

図308は、遊技メダルが第1投入センサD20s及び第2投入センサD30s、シュートセンサD40sを通過する際のタイミングチャートである。例えば、図中1のタイミングで第1投入センサD20sが遊技メダルの通過（オフ→オン）を検知したとする。続いて、図中2のタイミングで第2投入センサD30sが遊技メダルの通過（オフ→オン）を検知したとする。これらのタイミングに係る時間の情報等は前述した信号として主制御基板Mに供給されることになる。その後、図中3のタイミングでシュートセンサD40sが遊技メダルの通過（オフ→オン）を検知したとする。第1投入センサD20sが遊技メ

50

ダルを検知してからシュートセンサD40sが検知を開始するまでの期間D、第2投入センサD30sが遊技メダルを検知してからシュートセンサD40sが検知を開始するまでの期間Eが主制御基板Mによって算出され、これらの期間を理論的な期間として、シュートセンサD40sの検知に基づいた遊技メダルが正常にシュート本体を通過しているか否かを判断するわけである。また、遊技メダルが第1投入センサD20s、及び第2投入センサD30sを正常に通過したと判断された後に発生し得るエラーも、シュートセンサD40sを備えることで検出することが可能となる。

【1897】

<効果>

このように構成することで、例えばシュートセンサD40s付近での遊技メダルの通過に拘わる何かしらのエラー（シュートセンサメダル滞留エラー）を検知し、更にエラーが発生している旨を遊技者に報知することが可能となる。また、シュートセンサD40sによる遊技メダルの正常な通過は、第1投入センサD20s及び第2投入センサD30sの遊技メダルの検知が開始されるタイミングに係る情報に基づいて判断が行われるため、第1投入センサD20s及び第2投入センサD30sによって遊技メダルの通過は検知されていないが、シュートセンサD40sによって遊技メダルの通過が検知された場合、つまり、投入メダル逆流に係るエラーなども確実に検出することが可能となり、不正に強い遊技機を提供でき、ひいてはユーザーフレンドリーな遊技機を提供することができる。

【1898】

<<<<第4実施形態 メダル返却部材>>>>

次に、第4実施形態として、遊技メダルのメダル受け皿D230への払い出し、もしくはメダル受け皿D230への返却が行われる際に遊技メダルが通過するメダル返却部材D340の機構の一例について説明することにする。

【1899】

まず、第4実施形態に係るメダル返却部材D340について詳細に説明するための図309～図312について説明する。図309はメダル返却部材D340の正面図である。図310は、メダル返却部材D340を、メダル受入口D341（後ほど説明）が備えられている方向から見た側面図である。図311は、ホッパH40のメダル払出装置Hから払い出され、メダル受入口D341（後ほど説明）を通過し、メダル受け皿D230に向かって流下する遊技メダルの軌跡図である。図312は、図310の側面図の内部においての遊技メダルの軌跡を描いたものである。

【1900】

<<<第4実施形態 メダル返却部材の正面図>>>

図309は、第4実施形態におけるメダル返却部材D340の正面図である。メダル返却部材D340の一例として、メダル投入口D170から投入されたメダルの検出並びに簡易的な真贋を行なうメダルセレクトDSによりベット又はクレジットへの加算処理が実行されなかった遊技メダル（ブロックがオフの状態ブロックに到達した遊技メダル）をメダル受け皿D230に返却する際に遊技メダルが所定の流路（以下、第一流路と称する）を通過し、また、ホッパH40のメダル払出装置Hから払い出された遊技メダルが所定の流路（以下、第二流路と称する）を通過し、最終的に遊技メダルをメダル受け皿D230に払い出すよう構成されている。

【1901】

メダル返却部材D340は、メダルセレクトDSにより検出された不適正な遊技メダルをメダル受け皿D230に返却する際に通過する第一流路と、ホッパH40のメダル払出装置Hから払い出された遊技メダルが通過する第二流路とを少なくとも有して構成されており、2つの流路を通過する遊技メダルは、メダル返却部材D340を通過し、メダル受け皿D230に向かって流下していく際に合流するよう構成されている。

【1902】

メダル返却部材D340における第二流路は少なくとも、ホッパH40から払い出された遊技メダルを受け入れるメダル受入口D341と、ホッパH40のメダル払出装置Hか

10

20

30

40

50

ら払い出された遊技メダルが落下するメダル落下面D342を有するよう構成されている。更に、メダル落下面D342と対向して位置するメダル非落下面D343と、メダル受入口が設けられた壁面と、ホッパH40のメダル払出装置Hから払い出された遊技メダルが落下するメダル落下面D342とで囲まれた空間を有するよう構成されており、この空間内を、ホッパH40のメダル払出装置Hから払い出された遊技メダルが通過するよう構成されている。

【1903】

メダル受入口D341は、ホッパH40のメダル払出装置Hと連通するよう構成されている。また、メダル受入口D341は開口しているため、ホッパH40のメダル払出装置Hから払い出された遊技メダルが確実にメダル受入口D341を通過することが可能となっている。また、特に、第4実施形態では、メダル受入口D341の開口部の周囲を縁部と称する（例えば、第4実施形態において、メダル受入口D341の開口部の形状における外周部を縁部と称する）。メダル受入口D341に係る長さ、距離の規定においては、メダル受入口D341の縁部にあたるいずれかの位置を起点とする。

【1904】

また、第4実施形態において、メダル落下面D342の形状は、略四角形状に形成されており、メダル落下面D342と対向して位置するメダル非落下面D343も同様に略四角形状に形成されているが、メダル落下面D342、及びメダル非落下面D343の形状はこれに限定されない。

【1905】

第4実施形態においてメダル受入口D341は右下がり方向の傾斜状に設けられており、図309の正面視方向に備えられている衝突部（図示しておらず）に衝突した遊技メダルが落下するメダル落下面D342と略平行に傾斜するよう構成されている。このように構成することで、ホッパH40のメダル払出装置Hから払い出されてメダル落下面D342に落下した遊技メダルが重力によりメダル落下面D342から滑り落ち、確実にメダル受け皿D230へ遊技メダルを誘導することが可能となる。尚、メダル受入口D341、およびメダル落下面D342が傾斜する方向に関しては、この方向に限定されず、また、メダル受入口D341、およびメダル落下面D342が共に傾斜しないよう構成してもよい。尚、メダルセレクトラDSにより検出された不適正なメダルは、メダル受入口D341の上記傾斜方向に対して直行する方向の遊技者から見て上方よりメダル受け皿D230の方向に落下するよう構成されている。

【1906】

<<<第4実施形態 メダル返却部材の側面図 遊技メダル流下の軌跡図（斜視図）>>>

次に、図310、および図311を用いて、第4実施形態のメダル受入部材の構成についての寸法規定について説明する。図310は、メダル返却部材D340を、メダル受入口D341が備えられている方向から見た側面図である。まず、遊技メダルにおいて、厚み、及び直径をそれぞれa、bと規定する（図309参照）。なお、遊技メダルの厚みであるaは、1.5mm～2.0mm程度とすることが好適であり、遊技メダルの直径であるbは、24.5mm～25.5mm程度とすることが好適である。

【1907】

次に、ホッパH40のメダル払出装置Hから払い出された後に、遊技メダルが落下するメダル落下面D342から、メダル受入口D341の縁部までの距離をc、メダル非落下面D343に対して垂直方向におけるメダル非落下面D342からメダル受入口の縁部までの最長の距離をd、メダル受入口D341の開口部の縁部において、底辺、もしくは高さ方向の内、少なくとも一方向（例えば、第4実施形態では略長方形の形状であるメダル受入口D341の開口部の高さ方向とする）の長さをe、メダル受入口D341の開口面に対して垂直方向におけるメダル落下面D342の最大の長さをfとしてそれぞれ規定する。第4実施形態では、このように規定した寸法において、所定の条件が設けられている。例えば、以下のような条件に基づいてメダル返却部材D340は構成されている、

$$c \geq a \cdots \text{式(1)}$$

$b > d \cdots$ 式 (2)

$f \geq 2b \cdots$ 式 (3)

$b > e \cdots$ 式 (4)

尚、第4実施形態において、遊技メダルは25φサイズ、30φサイズのどちらでも適用が可能である。

【1908】

まず、式(1)及び(3)を満たしていることで、1枚目の遊技メダルと2枚目の遊技メダルが衝突することを防ぐよう構成することが可能である。メダル落下面D342からメダル受入口341の底辺までの距離が遊技メダルの厚みaよりも大きく構成されており、且つ、メダル払出装置Hから払い出された遊技メダルがメダル受入口D341から衝突部に衝突するまでに十分な距離を有していることから、遊技メダルの重さで自由落下していき、衝突部に衝突した遊技メダルがメダル落下面D342に落下した場合(遊技メダルが寝ている状態)に、次にホッパH40のメダル払出装置Hから払い出される遊技メダルが通過する領域内から外れているため衝突を防ぐことができることとなる。

【1909】

次に、式(4)を満たしていることで、ホッパH40のメダル払出装置Hから払い出された1枚目の遊技メダル(遊技メダルは寝ている、立っているに拘わらず)と、その後に払い出される2枚目の遊技メダルとが衝突することがなく、また、ホッパH40のメダル払出装置Hから払い出された遊技メダルが、メダル受入口D341を塞ぐことがないよう構成することが可能である。

【1910】

次に、式(3)を満たしていることで、メダル落下面D342の遊技機内部方向への奥行きが遊技メダルの直径に対して十分な距離を有しており、衝突部に衝突した1枚目の遊技メダルが、メダル受入口D341まで跳ね返ってしまうという事態を防ぐよう構成することが可能となる。

【1911】

式(1)～式(4)のように、メダル返却部材D340の構成において寸法規定を行うことで、スムーズなホッパH40のメダル払出装置Hからの遊技メダルの払い出し、及びスムーズな遊技メダルのメダル受け皿D230への誘導を行うことが可能となる。図311は、ホッパH40のメダル払出装置Hから払い出され、メダル受入口D341を通過し、メダル受け皿D230に向かって流下する遊技メダルの軌跡図である。例えば、式(1)～式(4)の寸法規定を行うことによる効果として、ホッパH40のメダル払出装置Hから払い出された1枚目の遊技メダルと、その後に払い出される2枚目の遊技メダルとが衝突することがなく、また、ホッパH40のメダル払出装置Hから払い出された遊技メダルが、メダル受入口D341を塞ぐことがないよう構成することが可能となる。

【1912】

なお、図310に示すように、本例では、メダル返却部材D340の外部側のメダル受入口D341の外周全体に、突起した縁部を設けるよう構成しているが、メダル返却部材D340の内部側のメダル受入口D341の外周全体に突起した縁部を設けるよう構成してもよい。そのように構成することにより、メダル払出装置Hから払い出された遊技メダルが衝突部に衝突した後、メダル受入口D341に逆流してしまう事態がより発生し難いよう構成することができる。

【1913】

<<<第4実施形態 遊技メダル流下の軌跡図(側面図)>>>

図311において、ホッパH40のメダル払出装置Hから払い出され、メダル受入口D341を通過し、メダル受け皿D230に向かって流下する遊技メダルの軌跡について、更に詳細に図312を用いて説明を行う。図312は、図310の側面図の内部においての遊技メダルの軌跡を描いたものである。まず、左上段図のように、1枚目の遊技メダルがメダル受入口D341から放出される。次に、右上段図のように、2枚目の遊技メダルが1枚目の遊技メダルと同様にメダル受入口D341から放出され、1枚目の遊技メダル

は、図309の正面視方向に備えられている衝突部（図示しておらず）に衝突する。尚、1枚目の遊技メダルがメダル受入口D341から放出されてから2枚目の遊技メダルが放出されるまでの間隔は、メダル払出装置HのディスクH50の回転速度により定めることができ、その回転速度は任意で定めることが可能であるが、第4実施形態の右上段図のように、1枚目の遊技メダルがメダル払出装置Hから払い出された後に2枚目の遊技メダルがメダル払出装置Hから払い出されることとなるが、2枚目の遊技メダルがメダル払出装置Hから払い出されるタイミングとしては、（1）1枚目の遊技メダルが衝突部に衝突したタイミングと略同時、（2）1枚目の遊技メダルが衝突部に衝突するよりも前（直前）のタイミング、（3）1枚目の遊技メダルが衝突部に衝突するよりも後のタイミング、としてもよく、2枚目の遊技メダルがメダル払出装置Hから払い出されるタイミングに合わせて前記f（図310参照）の距離を調整してもよい。なお、上記（2）については、1枚目の遊技メダルがメダル払出装置Hから払い出されてメダル受入口D341を通過してから、遊技メダルの直径（前記b）以上水平方向に進んだ（発射された）後のタイミングとすることが好適である。また、2枚目の遊技メダルがメダル払出装置Hから払い出されるタイミングが、1枚目の遊技メダルがメダル払出装置Hから払い出されてからの時間が経過しているタイミングである程、1枚目の遊技メダルと2枚目の遊技メダルとが衝突する可能性を低くすることができる。一方、1枚目の遊技メダルがメダル払出装置Hから払い出されてからの時間を長時間としすぎると、遊技メダルの払出時間の間隔が長時間になりすぎて、遊技メダルを払い出すテンポが悪くなってしまう。また、遊技機の筐体の内部の大きさ（奥行き）は限られているため、前記f（メダル受入口D341の開口面に対して垂直方向におけるメダル落下面D342の最大の長さ）も所定距離以上は担保することが困難である。以上の理由から、2枚目の遊技メダルがメダル払出装置Hから払い出されるタイミングを1枚目の遊技メダルが衝突部に衝突した直後のタイミングとすることが最も好適となっている。このように構成することで、1枚目の遊技メダルが衝突部に衝突した後に、2枚目の遊技メダルと衝突してしまうことを防ぐことができる。なお、3枚目以降に払い出される遊技メダルにおいても遊技メダル同士が衝突しないよう構成することが望ましく、少なくとも、遊技機における設計上最大の払出枚数（例えば、15枚）目までの払い出された遊技メダル同士が衝突しないよう構成することが好適である。また、衝突部においては、メダル返却部材D340の遊技メダルの衝突による耐久性を高めるために、例えば金属などで保護するよう構成してもよい。

【1914】

次に、左下段のように、1枚目の遊技メダルが衝突部に衝突した後、メダル落下面D342に落下する。2枚目の遊技メダルは、1枚目の遊技メダルの上方を通過し、1枚目の遊技メダルと同様に衝突部に向かう。このとき、式（1）のように構成されていることで、1枚目の遊技メダルと2枚目の遊技メダルとが衝突してしまうことを防ぐことができる。次に、右下段のように、メダル落下面D342に落下した1枚目の遊技メダルは、重力によりメダル落下面D342の傾斜方向に傾斜し、メダル落下面D342から落下することでメダル受け皿D230へと誘導される。2枚目の遊技メダルは、衝突部に衝突した後に1枚目の遊技メダルと同様にメダル落下面D342に落下する。このとき、1枚目の遊技メダルが、メダル落下面D342の傾斜方向に重力により傾斜するよう構成されているため、1枚目の遊技メダルと2枚目の遊技メダルとが衝突する、更には衝突部に衝突して跳ね返ったメダルが、メダル受入口D341の開口部に入り込んでしまう逆流を防ぐことができる。

【1915】

<<効果1>>

メダル受入口D341から2枚目の遊技メダルが衝突部に向かって放出され、1枚目の遊技メダルは衝突部に衝突した後にメダル落下面D342に落下する。このとき、式（1）及び（3）を充足するように構成されている、換言すると、メダル落下面D342からメダル受入口D341の底辺までの距離が遊技メダルの厚みaよりも大きく構成されており、且つ、メダル払出装置Hから払い出された遊技メダルがメダル受入口D341から衝突

部に衝突するまでに十分な距離を有していることから、遊技メダルの重さで自由落下していき、衝突部に衝突した遊技メダルがメダル落下面 D 3 4 2 に落下した場合（遊技メダルが寝ている状態）に、次にホッパ H 4 0 のメダル払出装置 H から払い出される遊技メダルが通過する領域内から外れているため衝突を防ぐことができることとなる。

【1916】

<<効果2>>

例えば式（2）、式（4）のように構成されていることで、衝突部に衝突して跳ね返ったメダルが、メダル受入口 D 3 4 1 の開口部に入り込んでしまう逆流を防ぐことができる遊技機を提供することができる。

【1917】

<<効果3>>

例えば式（3）のように構成されていることで、メダル落下面 D 3 4 2 の遊技機内部方向への奥行きが遊技メダルの直径に対して十分な距離を有しており、衝突部に衝突した1枚目の遊技メダルが、メダル受入口 D 3 4 1 まで跳ね返ってしまうという事態を防ぐことが可能となる遊技機を提供することができる。

【1918】

<<効果4>>

メダル落下面 D 3 4 2 に落下した1枚目の遊技メダルがメダル落下面 D 3 4 2 から落下し、メダル受け皿 D 2 3 0 の方向に向かって流下することになり、2枚目の遊技メダルは、図312の左下段図のように、1枚目の遊技メダルが落下した位置と略同位置のメダル落下面 D 3 4 2 に落下することになる。このように構成することで、ホッパ H 4 0 のメダル払出装置 H から払い出された遊技メダルが、メダル受入口 D 3 4 1 付近での滞留によるメダル受け皿 D 2 3 0 へ遊技メダルが払い出されないという事態を防ぐことができる遊技機を提供することができる。

【1919】

<<効果5>>

メダル払出装置 H から速度を伴って払い出される遊技メダルが衝突する衝突部に衝撃を和らげる緩衝材を有しているため、メダル返却部材 D 3 4 0 の破損や劣化を防ぐことが可能となる遊技機を提供することができる。

【1920】

<<効果6>>

ホッパ H 4 0 のメダル払出装置 H から払い出された遊技メダルが一度衝突部に衝突して払い出し当初の運動量を失うことで、遊技メダル同士の衝突（メダルセレクト D S から返却される遊技メダルとホッパ H 4 0 のメダル払出装置 H から払い出された遊技メダルとの衝突、もしくはホッパ H 4 0 のメダル払出装置 H から払い出された遊技メダル同士の衝突など）が起これ、リズムカルではないメダル受け皿 D 2 3 0 への遊技メダルの流下となってしまうことを防ぐことができ、ユーザーフレンドリーな遊技機を提供することができる。

【1921】

<<<第5実施形態 メダル払出装置の駆動制御>>>

<<<第5実施形態 メダル払出装置の駆動制御のタイミングチャート>>>

次に、第5実施形態として、メダル払出装置 H の駆動制御について説明する。まず、メダル払出装置 H の動作制御について、図313を用いて説明する。図313は、遊技メダルがメダル払出装置 H から払い出される際に駆動するホッパモータ H 8 0 と、第1払出センサ H 1 0 s 及び第2払出センサ H 2 0 s の検知に係るタイミングチャートである。まず、ホッパモータ H 8 0 において、ホッパモータ H 8 0 が駆動している際のホッパ駆動フラグはオンの状態であるとする。メダル払出装置 H により、遊技メダルが払い出される際には、ホッパモータ H 8 0 が駆動することにより、ディスク回転軸 H 5 0 a を中心にディスク H 5 0 が回転し、メダル払出装置 H 内の遊技メダルは放出付勢手段 H 7 0 を変位させて遊技メダル出口 H 6 0 から放出口 D 2 4 0 に向かって流下していくことで遊技メダルが払い出される。第5実施形態において、第1払出センサ H 1 0 s 及び第2払出センサ H 2 0

10

20

30

40

50

sは、例えば放出付勢手段H70の変位に基づいてオン、もしくはオフが検知される。具体的に言えば、図中1のタイミングで、放出付勢手段H70が遊技メダルを払い出す位置まで変位していない状態（第5実施形態では初期位置と称する）において第1払出センサH10sがオンの状態であることを示す信号を主制御基板Mに送信する。そして、放出付勢手段H70が遊技メダルを払い出す位置まで変位が開始し、放出付勢手段H70が初期位置から動き出すことで第1払出センサH10sがオフの状態であることを示す信号を主制御基板Mに送信する。図中2のタイミングで、放出付勢手段H70が遊技メダルを払い出す位置（第5実施形態では払出位置と称する）まで変位することで第2払出センサH10sがオンの状態であることを示す信号を主制御基板Mに送信する。そして図中3のタイミングで、遊技メダルの払い出しが完了し、放出付勢手段H70が再び初期位置へ変位を開始することで第2払出センサH10sがオフの状態であることを示す信号を主制御基板Mに送信する。そして図中4のタイミングで、放出付勢手段H70が再び初期位置へ変位することで第1払出センサH10sがオンの状態であることを示す信号を主制御基板Mに送信する。尚、第5実施形態では、例えば1のタイミングから2のタイミングまでの期間が所定の範囲A（ $A < 26 \text{ ms}$ ）であり、2のタイミングから3のタイミングまでの期間が所定の範囲B（ $9 \text{ ms} \leq B < 60 \text{ ms}$ ）であり、3のタイミングから4のタイミングまでの期間が所定の範囲C（ $9 \text{ ms} \leq C < 60$ ）であることを検知することでメダル払出装

10

【1922】

<<<第5実施形態 メダル払出装装置のメダル払出～メダル払出装装置の停止>>>

20

<<構成>>

次に、図314を用いて、第5実施形態のメダル払出装装置Hによるメダル払出開始～メダル払出装装置Hの停止までの一連の流れについて説明する。まず、図314であるが、第5実施形態においては、遊技メダルの払出からメダル払出装装置Hの停止までの一連の流れについての説明を簡潔に行うため、第5実施形態の構成に不要なメダル払出装装置Hに係る構成はできるだけ排除したものとなっている。図314は、遊技メダルを払い出す際に回転駆動するディスクH50の正面図である。

【1923】

尚、第5実施形態において、メダル払出装装置Hから遊技メダルを払い出す枚数を5枚としている。ディスクH50には、遊技メダルよりもサイズが大きい円形型の空洞を複数有し、ディスクH50は遊技メダルに対して覆い重なるよう構成されており、遊技メダルはディスクH50の下をディスクH50の回転によって移動することで、放出口D240から遊技メダルが払い出されるよう構成されている。まず、左上段図においては、ホッパモータH80が駆動前であり、第1払出センサH10sがオンの状態である。この状態を、第5実施形態では放出付勢手段H70における初期位置としており、説明の明確化のため、ディスクH50の外周上に、ディスクH50の回転前の初期位置（ディスクH50）を設けることにする。この初期位置（ディスクH50）は、遊技メダルが払い出される度に、ディスクH50の回転方向に変位する。また、第5実施形態においては、ホッパモータH80の駆動状態は定速状態であり、更に4枚目の遊技メダルを払い出すタイミングから説明を行うこととする。

30

40

【1924】

図314の上段図において、ホッパモータH80の駆動が定速回転であり、放出付勢手段H70が初期位置から払出位置まで変位して4枚目の遊技メダルを払い出す。このとき、初期位置（ディスクH50）においては、3枚目の遊技メダルが払い出された位置から角度Aだけ回転していることがわかる。つまり、ホッパモータH80の駆動状態が定速状態である場合、放出付勢手段H70が初期位置から払出位置まで変位するまでにディスクH50は角度Aだけ回転する。また、放出付勢手段H70が払出位置から初期位置に変位するまでに、ディスクH50は回転しない。

【1925】

次に、図314の左下段において、ホッパモータH80の駆動が定速回転であり、放出

50

付勢手段H70が初期位置から払出位置まで変位して5枚目の遊技メダルを払い出す。このとき、4枚目の遊技メダルを払い出した後に放出付勢手段H70は、払出位置から初期位置に変位しているが、この間に、ディスクH50は回転していないため、4枚目の遊技メダルを払い出したときと同様に、4枚目の遊技メダルを払い出した位置から角度Aだけ回転していることがわかる。

【1926】

そして、右下段のように、5枚目の遊技メダルの払い出しが行われた後に、ホップモータH80の駆動をオフとして、遊技メダルの払い出しが完了する。ホップモータH80の駆動をオフにした後、ディスクH50の回転が停止するわけであるが、初期位置（ディスクH50）は5枚目の遊技メダルを払い出した位置から角度Bだけ回転方向にズレた位置で停止する。このように構成する理由として、特に、1枚目の遊技メダルを払い出す際に、ホップモータH80は駆動開始からすぐに定速状態になるわけではなく、定速状態になるまでに所定の時間を要する。つまり、1枚目（ホップモータH80は加速状態～定速状態）の遊技メダルを払い出す場合において放出付勢手段H70が初期位置であった場合は、2枚目以降（ホップモータH80は定速状態）の遊技メダルを払い出す場合に比べて、ホップモータH80が加速状態を有している分遅れることになる。

【1927】

ここで、ホップモータH80が停止している状態から1枚目の遊技メダルが払い出されるまでについて詳細に説明する。ホップモータH80を駆動すると、ホップモータH80が停止している状態から加速状態を経由して定速状態となる。ここで、定速状態の回転速度をA (m/t) とする。加速状態は、速度0から定速の速度Aまで加速処理を行う状態であり、速度0から定速状態となるまでの期間（加速状態である期間）における平均の回転速度をB (m/t) とすると、 $B < A$ となる。よって、ホップモータH80が停止している状態から1枚目の遊技メダルが払い出されるまでの平均の回転速度C (m/t) は、 $B < C < A$ となる。

【1928】

次に、1枚目の遊技メダルが払い出されてから2枚目の遊技メダルが払い出されるまでについて詳細に説明する。1枚目の遊技メダルが払い出された時点でホップモータH80は定速状態となっているため、1枚目の遊技メダルが払い出されてから2枚目の遊技メダルが払い出されるまで定速状態のままとなる。よって、1枚目の遊技メダルが払い出されてから2枚目の遊技メダルが払い出されるまでの平均の回転速度はAとなる。

【1929】

上記のように、ホップモータH80が停止している状態から1枚目の遊技メダルが払い出されるまでの平均の回転速度Cよりも、1枚目の遊技メダルが払い出されてから2枚目の遊技メダルが払い出されるまでの平均の回転速度Aの方が速いため、ホップモータH80が停止している状態から1枚目の遊技メダルが払い出されるまでにディスクH50が回転する距離と、1枚目の遊技メダルが払い出されてから2枚目の遊技メダルが払い出されるまでにディスクH50が回転する距離とを、同一の距離とした場合には、ホップモータH80が停止している状態から1枚目の遊技メダルが払い出されるまでに要する時間は、1枚目の遊技メダルが払い出されてから2枚目の遊技メダルが払い出されるまでに要する時間よりも長時間となってしまう。

【1930】

図314に図示するように、本例においては、遊技メダルの払出処理として最後の遊技メダル（同図においては5枚目の遊技メダル）が払い出された後は、ディスクH50を所定の角度（第5実施形態では角度B）だけ回転方向にずれて停止する（回転する距離が長くなる）ようになっている。このように構成することで、ホップモータH80が停止している状態から1枚目の遊技メダルが払い出されるまでにディスクH50が回転する距離を、1枚目の遊技メダルが払い出されてから2枚目の遊技メダルが払い出されるまでにディスクH50が回転する距離（2枚目の遊技メダルが払い出されてから3枚目の遊技メダルが払い出されるまでにディスクH50が回転する距離等も同一の距離）よりも短くするこ

10

20

30

40

50

とができ、ホッパモータH80が停止している状態から1枚目の遊技メダルが払い出されるまでに要する時間を、1枚目の遊技メダルが払い出されてから2枚目の遊技メダルが払い出されるまでに要する時間に近づける（近似させる）ことができることとなり、テンポよく遊技メダルを払い出すことで遊技者は違和感なく遊技を進行することができる。

【1931】

尚、ホッパモータH80の駆動後にディスクH50が停止する場合の回転方向へのズレの幅（角度B）であるが、これは、ホッパモータH80の駆動により加速状態から定速状態になるまでの期間に依存しており、この期間において、ホッパモータH80の加速状態で回転する幅とホッパモータH80の定速状態で回転する幅の差分を考慮することで、ホッパモータH80の駆動後にディスクH50を放出付勢手段H70が初期位置からどの程度回転方向にズラして停止させるかが定められることになる。ホッパモータH80の加速状態で回転する幅とホッパモータH80の定速状態で回転する幅の差分は、ホッパモータH80の放出付勢手段H70の初期位置に対応する位置から放出付勢手段H70の払出位置に対応する位置までの幅よりも十分に小さいため、角度Bは角度Aよりも十分に小さいことが好ましい。尚、角度Bだけ回転方向にずれた場合であっても、第1払出センサH10s及び第2払出センサH20sによる遊技メダルの検知には影響が出ないよう構成されており、図313のタイミングチャートに基づいて、遊技メダルの検知が行われる。

【1932】

<<効果>>

このように構成することで、遊技メダルの払い出しを受ける遊技者が所定の枚数の遊技メダルが払い出される際に、1枚目から所定の枚数まで略一定の間隔で遊技メダルの払い出しを受けることができ、例えば、第5実施形態に係る構成と第4実施形態に係る構成とを組み合わせることで、（1）遊技メダル同士が衝突しない、（2）遊技メダル同士の衝突によるメダル詰まりが発生しないよう構成することができ、円滑に遊技を進行することができる。

【1933】

また、最後の遊技メダルが払い出された後は、ディスクH50を所定の角度（第5実施形態では角度B）だけ回転方向にずれて停止するよう構成することにより、放出口D240から不正器具を侵入させて遊技メダルを不正に獲得されてしまう事態を防ぐことができる。

【1934】

<<<第6実施形態 主制御基板と副制御基板の通信不可時の制御>>>

次に、第6実施形態として、主制御基板Mと副制御基板Sとの通信が不可となった際の処理について説明する。ここでの主制御基板Mと副制御基板Sとの通信が不可になるケースとしては、特に、主制御基板M側から副制御基板S側へセットされる各種コマンドが送信できないことを想定している。主制御基板Mは、例えば、図209の遊技進行制御処理などにおいて、遊技の進行状況などに基づいて、遊技に係る各種コマンドが副制御基板側へ送信し、また、図225のステップ1622のように、サブルーチンに係る処理として、所定の時間（本例では、Tとしているが、例えば、2ms程度の時間が設定される）を周期として定期的に主制御基板側から副制御基板側へ各種コマンドを送信するよう構成されている。副制御基板Sは、主制御基板Mから送信される各種コマンドを受信し、コマンドに基づいた演出を実行するよう構成されている。尚、主制御基板Mと副制御基板Sの通信は主制御基板側からの一方通行であり、副制御基板Sは主制御基板Mからコマンドを受信することは可能であるが、主制御基板側へコマンドを送信することは不可となるよう構成されている。遊技機は、主制御基板Mと副制御基板Sでそれぞれ実行処理に係るプログラム（主制御基板Mが有するプログラムはメイン側プログラム、副制御基板Sが有するプログラムはサブ側プログラムと称する）を有しており、例えば、副制御基板Sは、主制御基板Mから所定のコマンドを受信することをトリガーとして演出を実行するようサブ側プログラムが構成されている。つまり、主制御基板Mからコマンドが受信できない状況下、副制御基板Sはサブ側プログラムに構成されている処理を実行することが不可能となる。

副制御基板 S が主制御基板 M からコマンドが受信できないという状況が発生し得る場合としては、例えば、主制御基板 M と副制御基板 S とを電氣的に接続するハーネスの接触不良などによる部材の不具合等が考えられる。しかし、主制御基板 M と副制御基板 S との通信が不可になる場合であったとしても、遊技の進行を司る主制御基板 M のメイン側プログラムを実行することは可能なよう構成されており、メイン側プログラムに係る遊技自体は副制御基板 S との通信が不可になった場合であっても実行可能とするよう構成されている。また、主制御基板 M と副制御基板 S とで通信が不可となっている状況から、主制御基板 M と副制御基板 S とで通信が復旧した場合には、メイン側のプログラムの進行状況に基づいて、主制御基板側から副制御基板側へ、通信が復旧した後の処理に係るコマンドが送信され、副制御基板 S は主制御基板 M から受信した通信が復旧した後の処理に係るコマンドに基づいて処理を実行する。以下では、図 3 1 5 ～図 3 1 9 を用いて主制御基板 M にて種々のコマンドを実行している最中、副制御基板 S との通信が不可になった場合において、主制御基板 M、及び副制御基板 S にて行われる処理についての実施例を第 6 実施形態として説明することにする。

10

【1935】

<<<第 6 実施形態 精算に係る処理の実行中における主制御基板と副制御基板との通信切断時における処理 コマンドとチャンネルが 1 対 1 の場合>>>

図 3 1 5 は、精算に係る処理の実行中に主制御基板 M と副制御基板 S との通信が不可となった場合における処理の一例として、時系列的に処理の流れを示したものである。まず、遊技回数は、所定の遊技回数として N 遊技目を起点とし、N + 1 遊技目に跨って処理が行われるものとする。そして、第 6 実施形態では、主制御基板 M が行う処理として、特に、副制御基板 S に、遊技の進行に基づくコマンドを送信し、副制御基板 S が行う処理として、主制御基板 M から受信したコマンドに基づいた演出を実行することを 1 セット（第 6 実施形態では 1 つの順序としている）の処理とする。尚、副制御基板 S は、主制御基板 M から受信した全てのコマンドに基づいて演出を実行することではなく、受信したコマンドに基づいて演出を実行する場合もあれば、演出を実行しないこともある。例えば図 3 1 5 ～図 3 1 9 では、副制御基板 S は、主制御基板 M が送信する各コマンドに対して演出を実行することを一例としているが、各コマンドの受信に基づいて、演出を実行する場合もあれば、演出を実行しない場合もあることを補足する。クレジットが 1 以上存在している状況にて、精算ボタンを操作してクレジットの精算を実行した場合、スピーカ S 2 0 から遊技メダルの精算に対応した精算中の音がスピーカ S 2 0 から出力されるわけであるが、精算中の音を出力する音声チャンネルは精算中の音のみに対応するチャンネルであるものとする。例えば、副制御基板 S は、主制御基板 M から受信したコマンドに基づいて、演出を実行するわけであるが、特に、スピーカ S 2 0 から音声出力する処理を実行する場合、主制御基板 M から受信したコマンドと、スピーカ S 2 0 の音声チャンネルとの対応付けが行われている。つまり、受信したコマンドに対応する音声チャンネルから音声出力がスピーカ S 2 0 から出力されるわけである。尚、コマンドと音声チャンネルとは 1 対 1 の関係でなくてもよい。具体的に言えば、1 つの音声チャンネルに対して複数のコマンド（例えば、精算に開始に係るコマンドや所定のエラー検出に係る複数のコマンドなど）を対応付けてもよい。このように構成することで、音声出力に係るコマンドが増えた場合であっても、チャンネル数を増やすことなく音声出力するよう構成することが可能となる。

20

30

40

【1936】

<<構成 1>>

図 3 1 5 について詳細に説明する。まず、処理の順序 1 として、主制御基板 M が精算の開始に基づくコマンドを副制御基板 S へ送信する。副制御基板 S は受信したコマンドに基づき、スピーカ S 2 0 から精算中の音を出力する。<<第 6 実施形態 精算に係る処理の実行中における主制御基板と副制御基板との通信切断時における処理 コマンドとチャンネルが 1 対 1 の場合>>においては、精算中の音を出力する音声チャンネルは、精算の開始に係るコマンドのみが対応しており、その他のコマンドは対応していないものとしている。そして、副制御基板 S が精算中の音を出力している最中、主制御基板 M と副制御基板

50

Sとの通信が切断状態になる。このとき、例えば、通信が切断状態になるケースとして、主制御基板Mと副制御基板Sとを電氣的に接続するハーネス等の接続不良等など、主制御基板Mと副制御基板Sとの電氣的な通信が切断されるケースはこれに限定されない。主制御基板Mと副制御基板Sとの電氣的な通信が切断されればどのような場合であってもよい。副制御基板Sが精算中の音の出力を終了する場合、主制御基板Mが、精算ボタンの操作の検出に基づいて精算の処理を実行し、クレジット数分の遊技メダルの払出が完了したと判断することで、精算の終了に係るコマンドを副制御基板側に送信し、副制御基板Sが、主制御基板Mから精算の終了に係るコマンドを受信することで、精算中の音の出力を終了する処理を実行する。

【1937】

順序2として、主制御基板Mは精算の終了に係るコマンドを副制御基板Sに送信するが、主制御基板Mと副制御基板Sとの通信が切断状態であるため、主制御基板Mは精算の終了に係るコマンドを副制御基板Sに送信することができない。このとき、副制御基板Sは主制御基板Mから精算の終了に係るコマンドを受信できないため、精算中の音の出力を終了せずに精算中の音の出力を続ける。尚、主制御基板Mが、精算ボタンの操作の検出に基づいて精算の処理を実行し、クレジット数分の遊技メダルの払出が完了したと判断している最中、主制御基板Mと副制御基板Sとの通信は切断状態であるが、遊技の進行を司る主制御基板Mが行う処理については進行している。

【1938】

主制御基板Mが、精算ボタンの操作の検出に基づいて精算の処理を実行し、クレジット数分の遊技メダルの払出が完了した後、主制御基板Mと副制御基板Sとの通信を復帰させる。このとき、副制御基板Sは、主制御基板Mから精算の終了に係るコマンドを受信できていないが、主制御基板Mは、精算に係る処理が終了していると判断し、N遊技目の次処理に係るコマンドをセットする。

【1939】

順序3として、N遊技目の遊技が開始され、遊技メダルがメダル投入口D170から投入されたと判断することで、主制御基板Mは、メダル投入受付に係るコマンドを副制御基板Sに送信する。副制御基板Sは主制御基板Mからのメダル投入受付に係るコマンドを受信したことに基づいて、メダル投入に対応するメダル投入音を出力する一方、主制御基板Mから精算の終了に係るコマンドを受信できないため、精算中の音の出力を終了せずに精算中の音の出力を続ける。主制御基板Mは、メダル投入受付に係る処理が終了していると判断し、N遊技目の次処理に係るコマンドをセットする。

【1940】

順序4として、スタートレバーD50が操作されたと判断することで、主制御基板Mは、スタートレバー操作に係るコマンドを副制御基板Sに送信する。副制御基板Sは主制御基板Mからのスタートレバー操作に係るコマンドを受信したことに基づいて、スタートレバー操作に係る効果音を出力する一方、主制御基板Mから精算の終了に係るコマンドを受信できないため、精算中の音の出力を終了せずに精算中の音の出力を続ける。主制御基板Mは、スタートレバー操作に係る処理が終了していると判断し、N遊技目の次処理に係るコマンドをセットする。

【1941】

順序5として、スタートレバー操作によりリールの回転が開始したと判断することで、主制御基板Mは、リール回転開始に係るコマンドを副制御基板Sに送信する。副制御基板Sは主制御基板Mからのリール回転開始に係るコマンドを受信したことに基づいて、リール回転開始に係る効果音を出力する一方、主制御基板Mから精算の終了に係るコマンドを受信できないため、精算中の音の出力を終了せずに精算中の音の出力を続ける。主制御基板Mは、リール回転開始に係る処理が終了していると判断し、N遊技目の次処理に係るコマンドをセットする。

【1942】

順序6として、リールの回転開始に係る処理が終了し、遊技者がリールの停止操作を行

10

20

30

40

50

うことが可能な状態となったとする。第1リールの停止操作（第1リールとは、複数のリールのうち、遊技者が最初に停止操作を行うリールである）が受け付けられたと判断することで、主制御基板Mは、第1リール停止操作受付に係るコマンドを副制御基板Sに送信する。副制御基板Sは主制御基板Mからの第1リール停止操作受付に係るコマンドを受信したことに基づいて、第1リール停止操作受付に係る効果音を出力する一方、主制御基板Mから精算の終了に係るコマンドを受信できないため、精算中の音の出力を終了せずに精算中の音の出力を続ける。主制御基板Mは、第1リール停止操作受付に係る処理が終了していると判断し、N遊技目の次処理に係るコマンドをセットする。

【1943】

順序7として、第2リールの停止操作（第2リールとは、複数のリールのうち、遊技者が2番目に停止操作を行うリールである）が受け付けられたと判断することで、主制御基板Mは、第2リール停止操作受付に係るコマンドを副制御基板Sに送信する。副制御基板Sは主制御基板Mからの第2リール停止操作受付に係るコマンドを受信したことに基づいて、第2リール停止操作受付に係る効果音を出力する一方、主制御基板Mから精算の終了に係るコマンドを受信できないため、精算中の音の出力を終了せずに精算中の音の出力を続ける。主制御基板Mは、第2リール停止操作受付に係る処理が終了していると判断し、N遊技目の次処理に係るコマンドをセットする。

【1944】

順序8として、第3リールの停止操作（第3リールとは、複数のリールのうち、遊技者が3番目に停止操作を行うリールである）が受け付けられたと判断することで、主制御基板Mは、第3リール停止操作受付に係るコマンドを副制御基板Sに送信する。副制御基板Sは主制御基板Mからの第3リール停止操作受付に係るコマンドを受信したことに基づいて、第3リール停止操作受付に係る効果音を出力する一方、主制御基板Mから精算の終了に係るコマンドを受信できないため、精算中の音の出力を終了せずに精算中の音の出力を続ける。主制御基板Mは、第3リール停止操作受付に係る処理が終了していると判断し、N遊技目の次処理に係るコマンドをセットする。このときセットされるコマンドとして、全てのリールの停止操作が行われ、表示図柄停止として停止ボタンを操作した直後に送信される停止表示図柄の停止に係るコマンドを一例にしているが、例えば、主制御基板Mからのコマンドに基づいて副制御基板Sが音声を出力するコマンドとして、N遊技目に遊技メダルが払い出される当選役（例えば押し順ベル役など）の当選が決定され、リールの停止操作に基づいて当選した条件装置に係る図柄組合せが停止表示した場合に係るコマンド（第6実施形態では「入賞に係るコマンド」とする）などを送信する（N遊技目の次処理のコマンドとして）ように構成することも可能である。

【1945】

順序9として、全てのリールの停止操作が行われたと判断することで、主制御基板Mは、停止表示図柄の停止に係るコマンドを副制御基板Sに送信する。副制御基板Sは停止表示図柄の停止に係るコマンドを受信したことに基づいて、停止表示図柄の停止に係るコマンドに係る効果音を出力する一方、主制御基板Mから精算の終了に係るコマンドを受信できないため、精算中の音の出力を終了せずに精算中の音の出力を続ける。主制御基板Mは、停止表示図柄の停止に係る処理が終了していると判断し、N遊技目に係る処理を終了する。N遊技目において、一時的に双方の通信が切断状態となったことで、副制御基板Sが主制御基板Mから受信できない状況が発生している。このとき副制御基板Sから主制御基板Mから受信できていないコマンドは、精算の終了に係るコマンドであり、N遊技目の遊技メダル投入から全てのリールの停止操作が行われるまでの期間において、精算中の音の出力を終了せずに精算中の音の出力を続けるよう構成されている。

【1946】

次に、N+1遊技目として、順序10、順序11に処理が進んでいく。順序10として、N遊技目における順序1と同様に、主制御基板Mが精算の開始に係るコマンドを副制御基板Sへ送信する。副制御基板Sは受信したコマンドに基づき、スピーカS20から精算中の音を出力する。このときスピーカS20から出力される精算中の音は、前述したよう

10

20

30

40

50

に、N遊技目において出力した精算中の音と同じチャンネルでスピーカS20から出力されることになる。つまり、主制御基板MからN+1遊技目における精算ボタンの操作の検出に基づくコマンドを副制御基板Sに送信することで、副制御基板Sは、主制御基板Mから受信したN+1遊技目の精算の開始に係るコマンドに基づいて、精算中の音の出力を開始する一方、N遊技目に係る精算中に音の出力は終了する（副制御基板Sの処理として、N遊技目に係る精算中の音の出力→N+1遊技目に係る精算の開始に係るコマンドを受信→N遊技目に係る精算中の音の出力を終了→N+1遊技目に係る精算中の音の出力を開始となる）。

【1947】

順序11として、主制御基板Mが、精算ボタンの操作の検出に基づいて精算の処理を実行し、クレジット数分の遊技メダルの払出が完了したと判断することで、精算の終了に係るコマンドを副制御基板側に送信する。副制御基板Sは、受信したコマンドに基づき、N+1遊技目に係る精算中の音の出力を終了する処理を実行する。

【1948】

<効果1>

このように構成することで、例えば音声の出力を伴った処理を実行している最中、主制御基板Mと副制御基板Sとの通信が切断状態となった場合において、遊技者は音声の出力が終了しないため、遊技機において何かしらの問題が生じていることを認識することが可能なユーザーフレンドリーな遊技機を提供することができる。

【1949】

<効果2>

また、エラーとして遊技を停止させるのではなく、主制御基板Mにおける遊技の進行は可能なよう構成しているため、エラー対応などにより遊技機を一時的に電断させたりすることなく、双方の通信が復帰することで、遊技を進めていく中で音声の出力を終了させることが可能なユーザーフレンドリーな遊技機を提供することができる。

【1950】

<<<第6実施形態 精算に係る処理の実行中における主制御基板と副制御基板との通信切断時における処理 コマンドとチャンネルが1対1でない場合>>>

<<構成2>>

次に、図316について詳細に説明する。まず、処理の順序1として、主制御基板Mが精算の開始に基づくコマンドを副制御基板Sへ送信する。副制御基板Sは受信したコマンドに基づき、スピーカS20から精算中の音を出力する。<<第6実施形態 精算に係る処理の実行中における主制御基板と副制御基板との通信切断時における処理 コマンドとチャンネルが1対1でない場合>>においては、精算中の音を出力する音声チャンネルは、精算ボタンの操作の検出に基づくコマンドだけでなく、その他のコマンドも対応しているものとしている（ここでは、「ドア開放エラーフラグの検知によるエラー検出コマンド」としている）。そして、副制御基板Sが精算中の音を出力している最中、主制御基板Mと副制御基板Sとの通信が切断状態になる。副制御基板Sが精算中の音の出力を終了する場合、主制御基板Mが、精算ボタンの操作の検出に基づいて精算の処理を実行し、クレジット数分の遊技メダルの払出が完了したと判断することで、精算の終了に係るコマンドを副制御基板側に送信し、副制御基板Sが、主制御基板Mから精算の終了に係るコマンドを受信することで、精算中の音の出力を終了する処理を実行する。

【1951】

順序2として、主制御基板Mは精算の終了に係るコマンドを副制御基板Sに送信するが、主制御基板Mと副制御基板Sとの通信が切断状態であるため、主制御基板Mは精算の終了に係るコマンドを副制御基板Sに送信することができない。このとき、副制御基板Sは主制御基板Mから精算の終了に係るコマンドを受信できないため、精算中の音の出力を終了せずに精算中の音の出力を続ける。尚、主制御基板Mが、精算ボタンの操作の検出に基づいて精算の処理を実行し、クレジット数分の遊技メダルの払出が完了したと判断している最中、主制御基板Mと副制御基板Sとの通信は切断状態であるが、遊技の進行を司る主

10

20

30

40

50

制御基板Mが行う処理については進行している。

【1952】

主制御基板Mが、精算ボタンの操作の検出に基づいて精算の処理を実行し、クレジット数分の遊技メダルの払出が完了した後、主制御基板Mと副制御基板Sとの通信を復帰させる。このとき、副制御基板Sは、主制御基板Mから精算の終了に係るコマンドを受信できていないが、主制御基板Mは、精算に係る処理が終了していると判断し、N遊技目の次処理に係るコマンドをセットする。

【1953】

順序3として、N遊技目の遊技が開始され、遊技メダルがメダル投入口D170から投入されたと判断することで、主制御基板Mは、メダル投入受付に係るコマンドを副制御基板Sに送信する。副制御基板Sは主制御基板Mからのメダル投入受付に係るコマンドを受信したことに基づいて、メダル投入に対応するメダル投入音を出力する一方、主制御基板Mから精算の終了に係るコマンドを受信できないため、精算中の音の出力を終了せずに精算中の音の出力を続ける。主制御基板Mは、メダル投入受付に係る処理が終了していると判断し、N遊技目の次処理に係るコマンドをセットする。

10

【1954】

順序4として、スタートレバーD50が操作されたと判断することで、主制御基板Mは、スタートレバー操作に係るコマンドを副制御基板Sに送信する。副制御基板Sは主制御基板Mからのスタートレバー操作に係るコマンドを受信したことに基づいて、スタートレバー操作に係る効果音を出力する一方、主制御基板Mから精算の終了に係るコマンドを受信できないため、精算中の音の出力を終了せずに精算中の音の出力を続ける。主制御基板Mは、スタートレバー操作に係る処理が終了していると判断し、N遊技目の次処理に係るコマンドをセットする。

20

【1955】

順序5として、スタートレバー操作によりリールの回転が開始したと判断することで、主制御基板Mは、リール回転開始に係るコマンドを副制御基板Sに送信する。副制御基板Sは主制御基板Mからのリール回転開始に係るコマンドを受信したことに基づいて、リール回転開始に係る効果音を出力する一方、主制御基板Mから精算の終了に係るコマンドを受信できないため、精算中の音の出力を終了せずに精算中の音の出力を続ける。主制御基板Mは、リール回転開始に係る処理が終了していると判断し、N遊技目の次処理に係るコマンドをセットする。

30

【1956】

順序6として、リールの回転開始に係る処理が終了し、遊技者がリールの停止操作を行うことが可能な状態となったとする。第1リールの停止操作が受け付けられたと判断することで、主制御基板Mは、第1リール停止操作受付に係るコマンドを副制御基板Sに送信する。副制御基板Sは主制御基板Mからの第1リール停止操作受付に係るコマンドを受信したことに基づいて、第1リール停止操作受付に係る効果音を出力する一方、主制御基板Mから精算の終了に係るコマンドを受信できないため、精算中の音の出力を終了せずに精算中の音の出力を続ける。主制御基板Mは、第1リール停止操作受付に係る処理が終了していると判断し、N遊技目の次処理に係るコマンドをセットする。

40

【1957】

順序7として、第2リールの停止操作が受け付けられたと判断することで、主制御基板Mは、第2リール停止操作受付に係るコマンドを副制御基板Sに送信する。副制御基板Sは主制御基板Mからの第2リール停止操作受付に係るコマンドを受信したことに基づいて、第2リール停止操作受付に係る効果音を出力する一方、主制御基板Mから精算の終了に係るコマンドを受信できないため、精算中の音の出力を終了せずに精算中の音の出力を続ける。主制御基板Mは、第2リール停止操作受付に係る処理が終了していると判断し、N遊技目の次処理に係るコマンドをセットする。

【1958】

順序8として、第3リールの停止操作が受け付けられたと判断することで、主制御基板

50

Mは、第3リール停止操作受付に係るコマンドを副制御基板Sに送信する。副制御基板Sは主制御基板Mからの第3リール停止操作受付に係るコマンドを受信したことに基づいて、第3リール停止操作受付に係る効果音を出力する一方、主制御基板Mから精算の終了に係るコマンドを受信できないため、精算中の音の出力を終了せずに精算中の音の出力を続ける。主制御基板Mは、第3リール停止操作受付に係る処理が終了していると判断し、N遊技目の次処理に係るコマンドをセットする。このときセットされるコマンドとして、全てのリールの停止操作が行われ、表示図柄停止として停止ボタンを操作した直後に送信される停止表示図柄の停止に係るコマンドを一例にしているが、例えば、主制御基板Mからのコマンドに基づいて副制御基板Sが音声を出力するコマンドとして、入賞に係るコマンドなどを送信する（N遊技目の次処理のコマンドとして）ように構成することも可能である。

10

【1959】

順序9として、全てのリールの停止操作が行われたと判断することで、主制御基板Mは、停止表示図柄の停止に係るコマンドを副制御基板Sに送信する。副制御基板Sは停止表示図柄の停止に係るコマンドを受信したことに基づいて、停止表示図柄の停止に係るコマンドに係る効果音を出力する一方、主制御基板Mから精算の終了に係るコマンドを受信できないため、精算中の音の出力を終了せずに精算中の音の出力を続ける。主制御基板Mは、停止表示図柄の停止に係る処理が終了していると判断し、N遊技目に係る処理を終了する。N遊技目において、一時的に双方の通信が切断状態となったことで、副制御基板Sが主制御基板Mから受信できない状況が発生している。このとき副制御基板Sから主制御基板Mから受信できていないコマンドは、精算の終了に係るコマンドであり、N遊技目の遊技メダル投入から全てのリールの停止操作が行われるまでの期間において、精算中の音の出力を終了せずに精算中の音の出力を続けるよう構成されている。

20

【1960】

次に、N+1遊技目として、順序10に処理が進んでいく。順序10として、所定のエラーが発生したとする。このときのエラーとしては、ドア開放エラーを一例に説明するが、エラーの内容はこれに限定されず、投入異常エラー、払出異常エラー、投入受付センサ滞留エラー、等どのようなエラーであってもよい。主制御基板Mは、特に前扉DUが開放されていることにより、ドア開放エラーが発生していると判断すると、ドア開放エラーフラグの検知によるエラー検出コマンドを副制御基板Sに送信する。副制御基板Sはドア開放エラーフラグの検知によるエラー検出コマンドを受信したことに基づいて、ドア開放エラー報知音をスピーカS20より出力するよう処理を行う。尚、ここでは、精算ボタンの検出に基づくコマンドと、ドア開放エラーフラグの検知によるエラー検出コマンドがスピーカS20の同チャンネルに対応付けられていることは前述の通りである。つまり、副制御基板Sは、N遊技目より精算中の音の出力が継続されている最中、N+1遊技目においてドア開放エラーフラグの検知によるエラー検出コマンドを受信することで、N遊技目における精算中に音の出力を終了し、N+1遊技目におけるドア開放エラー報知音の出力を開始するよう構成されている。

30

【1961】

<効果1>

このように構成することで、例えば音声の出力を伴った処理を実行している最中、主制御基板Mと副制御基板Sとの通信が切断状態となった場合において、遊技者は音声の出力が終了しないため、遊技機において何かしらの問題が生じていないことを認識することが可能なユーザーフレンドリーな遊技機を提供することができる。

40

【1962】

<効果2>

また、エラーが発生した場合などにおいて、スピーカS20から出力する音声チャンネルを、エラー検出に係るコマンド等複数のコマンドと対応付けておくことで、エラー報知音は確実に出力し、遊技者にエラーが発生していることを確実に報知することができ、且つ双方の通信が復帰することで、遊技を進めていく中で音声の出力を終了させることが可

50

能なユーザーフレンドリーな遊技機を提供することができる。

【1963】

<<<第6実施形態 最小遊技時間が経過していない期間中における主制御基板と副制御基板との通信切断時における処理 コマンドとチャンネルが1対1の場合>>>

<<構成3>>

次に図317について詳細に説明する。ここでは特に、スタートレバーD50の操作が行われてからリールの回転が開始するまでの最小遊技時間が経過していない期間中において、主制御基板Mと副制御基板Sとの通信が不可となった場合の処理の流れについて説明する。まず、処理の順序1として、スタートレバーD50が操作されたと判断することで、主制御基板Mは、スタートレバー操作に係るコマンドを副制御基板Sに送信する。副制御基板Sは主制御基板Mからのスタートレバー操作に係るコマンドを受信したことに基づいて、スタートレバー操作に係る効果音（ここではウエイト音と称する）をスピーカS20から出力する。<<第6実施形態 最小遊技時間が経過していない期間中における主制御基板と副制御基板との通信切断時における処理 コマンドとチャンネルが1対1の場合>>においては、ウエイト音を出力する音声チャンネルは、スタートレバー操作に係るコマンドのみが対応しており、その他のコマンドは対応していないものとしている。そして、副制御基板Sがウエイト音を出力している最中、主制御基板Mと副制御基板Sとの通信が切断状態になる。このとき、例えば、通信が切断状態になるケースとして、主制御基板Mと副制御基板Sとを電氣的に接続するハーネス等の接続不良等など、主制御基板Mと副制御基板Sとの電氣的な通信が切断されるケースはこれに限定されない。主制御基板Mと副制御基板Sとの電氣的な通信が切断されればどのような場合であってもよい。副制御基板Sがウエイト音の出力を終了する場合、主制御基板Mが、スタートレバー操作に基づいてリールの回転を開始する準備が整った状態が開始されている（ここではリール回転開始待機状態開始と称する）と判断することで、リール回転開始待機状態開始に係るコマンドを副制御基板Sに送信し、副制御基板Sが、リール回転開始待機状態開始に係るコマンドを受信することで、ウエイト音の出力を終了する処理を実行するよう構成されている。

【1964】

順序2として、主制御基板Mはリール回転開始待機状態開始に係るコマンドを副制御基板Sに送信するが、主制御基板Mと副制御基板Sとの通信が切断状態であるため、主制御基板Mはリール回転開始待機状態開始に係るコマンドを副制御基板Sに送信することができない。このとき、副制御基板Sは主制御基板Mからリール回転開始待機状態開始に係るコマンドを受信できないため、ウエイト音の出力を終了せずにウエイト音の出力を続ける。尚、主制御基板Mが、スタートレバー操作の検出に基づいてリール回転開始待機状態開始に係る処理を実行している最中、主制御基板Mと副制御基板Sとの通信は切断状態であるが、遊技の進行を司る主制御基板Mが行う処理については進行している。

【1965】

主制御基板Mが、スタートレバー操作の検出に基づいてリール回転開始待機状態開始に係る処理を完了した後、主制御基板Mと副制御基板Sとの通信を復帰させる。このとき、副制御基板Sは、主制御基板Mからリール回転開始待機状態開始に係るコマンドを受信できていないが、主制御基板Mは、リール回転開始待機状態開始に係る処理が終了していると判断し、N遊技目の次処理に係るコマンドをセットする。

【1966】

順序3として、スタートレバー操作によりリールの回転が開始したと判断することで、主制御基板Mは、リール回転開始に係るコマンドを副制御基板Sに送信する。副制御基板Sは主制御基板Mからのリール回転開始に係るコマンドを受信したことに基づいて、リール回転開始に係る効果音を出力する一方、主制御基板Mからリール回転開始待機状態開始に係るコマンドを受信できないため、ウエイト音の出力を終了せずにウエイト音の出力を続ける。主制御基板Mは、リール回転開始に係る処理が終了していると判断し、N遊技目の次処理に係るコマンドをセットする。

【1967】

順序4として、リールの回転開始に係る処理が終了し、遊技者がリールの停止操作を行うことが可能な状態となったとする。第1リールの停止操作が受け付けられたと判断することで、主制御基板Mは、第1リール停止操作受付に係るコマンドを副制御基板Sに送信する。副制御基板Sは主制御基板Mからの第1リール停止操作受付に係るコマンドを受信したことに基づいて、第1リール停止操作受付に係る効果音を出力する一方、主制御基板Mからリール回転開始待機状態開始に係るコマンドを受信できないため、ウエイト音の出力を終了せずにウエイト音の出力を続ける。主制御基板Mは、第1リール停止操作受付に係る処理が終了していると判断し、N遊技目の次処理に係るコマンドをセットする。

【1968】

順序5として、第2リールの停止操作が受け付けられたと判断することで、主制御基板Mは、第2リール停止操作受付に係るコマンドを副制御基板Sに送信する。副制御基板Sは主制御基板Mからの第2リール停止操作受付に係るコマンドを受信したことに基づいて、第2リール停止操作受付に係る効果音を出力する一方、主制御基板Mからリール回転開始待機状態開始に係るコマンドを受信できないため、ウエイト音の出力を終了せずにウエイト音の出力を続ける。主制御基板Mは、第2リール停止操作受付に係る処理が終了していると判断し、N遊技目の次処理に係るコマンドをセットする。

【1969】

順序6として、第3リールの停止操作が受け付けられたと判断することで、主制御基板Mは、第3リール停止操作受付に係るコマンドを副制御基板Sに送信する。副制御基板Sは主制御基板Mからの第3リール停止操作受付に係るコマンドを受信したことに基づいて、第3リール停止操作受付に係る効果音を出力する一方、主制御基板Mからリール回転開始待機状態開始に係るコマンドを受信できないため、ウエイト音の出力を終了せずにウエイト音の出力を続ける。主制御基板Mは、第3リール停止操作受付に係る処理が終了していると判断し、N遊技目の次処理に係るコマンドをセットする。このときセットされるコマンドとして、全てのリールの停止操作が行われ、表示図柄停止として停止ボタンを操作した直後に送信される停止表示図柄の停止に係るコマンドを一例にしているが、例えば、主制御基板Mからのコマンドに基づいて副制御基板Sが音声出力するコマンドとして、入賞に係るコマンドなどを送信する（N遊技目の次処理のコマンドとして）ように構成することも可能である。

【1970】

順序7として、全てのリールの停止操作が行われたと判断することで、主制御基板Mは、停止表示図柄の停止に係るコマンドを副制御基板Sに送信する。副制御基板Sは停止表示図柄の停止に係るコマンドを受信したことに基づいて、停止表示図柄の停止に係る効果音を出力する一方、主制御基板Mからリール回転開始待機状態開始に係るコマンドを受信できないため、ウエイト音の出力を終了せずにウエイト音の出力を続ける。主制御基板Mは、停止表示図柄の停止に係る処理が終了していると判断し、N遊技目に係る処理を終了する。N遊技目において、一時的に双方の通信が切断状態となったことで、副制御基板Sが主制御基板Mから受信できない状況が発生している。このとき副制御基板Sから主制御基板Mから受信できていないコマンドは、リール回転開始待機状態開始に係るコマンドであり、N遊技目の遊技メダル投入から全てのリールの停止操作が行われるまでの期間において、ウエイト音の出力を終了せずにウエイト音の出力を続けるよう構成されている。

【1971】

次に、N+1遊技目として、順序8、順序9に処理が進んでいく。順序8として、遊技メダルがメダル投入口D170から投入されたと判断することで、主制御基板Mは、メダル投入受付に係るコマンドを副制御基板Sに送信する。副制御基板Sは主制御基板Mからのメダル投入受付に係るコマンドを受信したことに基づいて、メダル投入に対応するメダル投入音を出力する一方、主制御基板MからN遊技目のリール回転開始待機状態開始に係るコマンドを受信できないため、ウエイト音の出力を終了せずにウエイト音の出力を続ける。主制御基板Mは、メダル投入受付に係る処理が終了していると判断し、N+1遊技目の次処理に係るコマンドをセットする。

【1972】

順序9として、主制御基板Mはリール回転開始待機状態開始に係るコマンドを副制御基板Sに送信する。副制御基板Sはリール回転開始待機状態開始に係るコマンドを受信したことに基づいて、ウエイト音を出力する。このときスピーカS20から出力されるウエイト音は、前述したように、N遊技目において出力したウエイト音と同じチャンネルでスピーカS20から出力されることになる。つまり、主制御基板MからN+1遊技目におけるリール回転開始待機状態開始に係るコマンドを副制御基板Sに送信することで、副制御基板Sは、主制御基板Mから受信したN+1遊技目のリール回転開始待機状態開始に係るコマンドに基づいて、ウエイト音の出力を開始する一方、N遊技目に係るウエイト音の出力は終了する（副制御基板Sの処理として、N遊技目に係るウエイト音の出力→N+1遊技目に係るリール回転開始待機状態開始に係るコマンドを受信→N遊技目に係るウエイト音の出力を終了→N+1遊技目に係るウエイト音の出力を開始となる）。

10

【1973】

<効果1>

このように構成することで、例えば音声の出力を伴った処理を実行している最中、主制御基板Mと副制御基板Sとの通信が切断状態となった場合において、遊技者は音声の出力が終了しないため、遊技機において何かしらの問題が生じていることを認識することが可能なユーザーフレンドリーな遊技機を提供することができる。

【1974】

<効果2>

また、エラーとして遊技を停止させるのではなく、主制御基板Mにおける遊技の進行は可能なよう構成しているため、エラー対応などにより遊技機を一時的に電断させたりすることなく、双方の通信が復帰することで、遊技を進めていく中で音声の出力を終了させることが可能なユーザーフレンドリーな遊技機を提供することができる。

20

【1975】

<<<第6実施形態 払出処理の実行中における主制御基板と副制御基板との通信切断時における処理 コマンドとチャンネルが1対1でない場合>>>

<<構成4>>

次に図318について詳細に説明する。ここでは特に、ホッパH40から遊技メダルの払出が行われている状態において、主制御基板Mと副制御基板Sとの通信が不可となった場合の処理の流れについて説明する。まず、処理の順序1として、N遊技目で遊技メダルが払い出される当選役（例えば押し順ベル役など）が入賞し、遊技メダルがホッパH40から払い出される場合において、主制御基板Mは、ホッパH40からのメダル払出開始に係るコマンドを副制御基板Sに送信する。副制御基板SはホッパH40からのメダル払出開始に係るコマンドを受信したことに基づいて、遊技メダルの払出に係る効果音（ここではメダル払出音と称する）をスピーカS20から出力する。<<第6実施形態 払出処理の実行中における主制御基板と副制御基板との通信切断時における処理 コマンドとチャンネルが1対1でない場合>>においては、メダル払出音を出力する音声チャンネルは、ホッパH40からのメダル払出開始に係るコマンドだけでなく、その他のコマンドも対応しているものとしている（ここでは、「スタートレバー操作に係るコマンド」としている）。そして、副制御基板Sがメダル払出音を出力している最中、主制御基板Mと副制御基板Sとの通信が切断状態になる。副制御基板Sがメダル払出音の出力を終了する場合、主制御基板Mが、当該入賞に係る遊技メダルの払出枚数をカウントし、当該入賞により払い出されるべく遊技メダルの枚数がホッパH40から払い出されたと判断することで、ホッパH40からの遊技メダルの払出終了に係るコマンドを副制御基板Sに送信し、副制御基板Sが、ホッパH40からのメダル払出終了に係るコマンドを受信することで、メダル払出音の出力を終了する処理を実行するよう構成されている。

30

40

【1976】

順序2として、ホッパH40からのメダル払出終了に係るコマンドを副制御基板Sに送信するが、主制御基板Mと副制御基板Sとの通信が切断状態であるため、主制御基板Mは

50

ホッパH40からのメダル払出終了に係るコマンドを副制御基板Sに送信することができない。このとき、副制御基板Sは主制御基板MからホッパH40からのメダル払出終了に係るコマンドを受信できないため、メダル払出音の出力を終了せずにメダル払出音の出力を続ける。尚、主制御基板Mが、当該入賞に係る遊技メダルの払出枚数をカウントし、当該入賞により払い出されるべく遊技メダルがホッパH40から払い出される判断が終了している最中、遊技の進行を司る主制御基板Mが行う処理については進行している。

【1977】

主制御基板Mが、当該入賞に係る遊技メダルの払出枚数をカウントし、当該入賞により払い出されるべく遊技メダルの枚数のホッパH40から払い出されたと判断が終了した後、主制御基板Mと副制御基板Sとの通信を復帰させる。このとき、副制御基板Sは、主制御基板Mからメダル払出終了に係るコマンドを受信できていないが、主制御基板Mは、当該入賞により払い出されるべく遊技メダルの枚数のホッパH40から払い出されたと判断しているため、N遊技目の処理が完了し、N+1遊技目に係るコマンドをセットする。

10

【1978】

次に、N+1遊技目として、順序3、順序4に処理が進んでいく。順序3として、遊技メダルがメダル投入口D170から投入されたと判断することで、主制御基板Mは、メダル投入受付に係るコマンドを副制御基板Sに送信する。副制御基板Sは主制御基板Mからのメダル投入受付に係るコマンドを受信したことに基づいて、メダル投入に対応するメダル投入音を出力する一方、主制御基板MからN遊技目のメダル払出終了に係るコマンドを受信できないため、メダル払出音の出力を終了せずにメダル払出音の出力を続ける。主制御基板Mは、メダル投入受付に係る処理が終了していると判断し、N+1遊技目の次処理に係るコマンドをセットする。

20

【1979】

順序4として、主制御基板Mはリール回転開始待機状態開始に係るコマンドを副制御基板Sに送信する。副制御基板Sはリール回転開始待機状態開始に係るコマンドを受信したことに基づいて、ウエイト音を出力する。尚、ここでは、ホッパH40からのメダル払出開始に係るコマンドと、リール回転開始待機状態開始に係るコマンドがスピーカS20の同チャンネルに対応付けられていることは前述の通りである。つまり、副制御基板Sは、N遊技目よりメダル払出音の出力が継続されている最中、N+1遊技目においてリール回転開始待機状態開始に係るコマンドを受信することで、N遊技目におけるメダル払出音の出力を終了し、N+1遊技目におけるウエイト音の出力を開始するよう構成されている。

30

【1980】

<効果1>

このように構成することで、例えば音声の出力を伴った処理を実行している最中、主制御基板Mと副制御基板Sとの通信が切断状態となった場合において、遊技者は音声の出力が終了しないため、遊技機において何かしらの問題が生じていることを認識することが可能なユーザーフレンドリーな遊技機を提供することができる。

【1981】

<効果2>

また、遊技の進行に係るコマンド等複数のコマンドと対応付けておくことで、双方の通信が復帰することで、遊技を進めていく中で音声の出力を終了させることが可能なユーザーフレンドリーな遊技機を提供することができる。

40

【1982】

<<<第6実施形態 払出処理の実行中における主制御基板と副制御基板との通信切断時における処理 コマンドとチャンネルが1対1の場合>>>

<<構成5>>

次に図319について詳細に説明する。ここでは特に、ホッパH40から遊技メダルの払出が行われている状態から所定の期間（ここではリールの回転が開始（加速処理が行われる）まで）、主制御基板Mと副制御基板Sとの通信が不可となった場合の処理の流れについて説明する。まず、処理の順序1として、N遊技目で遊技メダルが払い出される当選

50

役（例えば押し順ベル役など）が入賞し、遊技メダルがホッパH40から払い出される場合において、主制御基板Mは、ホッパH40からのメダル払出開始に係るコマンドを副制御基板Sに送信する。副制御基板SはホッパH40からのメダル払出開始に係るコマンドを受信したことに基づいて、メダル払出音をスピーカS20から出力する。＜＜第6実施形態 払出処理の実行中における主制御基板と副制御基板との通信切断時における処理 コマンドとチャンネルが1対1の場合＞＞においては、メダル払出音を出力する音声チャンネルは、メダル払出開始に係るコマンドのみが対応しており、その他のコマンドは対応していないものとしている。そして、副制御基板Sがメダル払出音を出力している最中、主制御基板Mと副制御基板Sとの通信が切断状態になる。副制御基板Sがメダル払出音の出力を終了する場合、主制御基板Mが、当該入賞に係る遊技メダルの払出枚数をカウントし、当該入賞により払い出されるべく遊技メダルの枚数がホッパH40から払い出されたと判断することで、ホッパH40からの遊技メダルの払出終了に係るコマンドを副制御基板Sに送信し、副制御基板Sが、ホッパH40からの遊技メダルの払出終了に係るコマンドを受信することで、メダル払出音の出力を終了する処理を実行するよう構成されている。

【1983】

順序2として、ホッパH40からの遊技メダルの払出終了に係るコマンドを副制御基板Sに送信するが、主制御基板Mと副制御基板Sとの通信が切断状態であるため、主制御基板MはホッパH40からのメダル払出終了に係るコマンドを副制御基板Sに送信することができない。このとき、副制御基板Sは主制御基板MからホッパH40からのメダル払出終了に係るコマンドを受信できないため、メダル払出音の出力を終了せずにメダル払出音の出力を続ける。尚、主制御基板Mが、当該入賞に係る遊技メダルの払出枚数をカウントし、当該入賞により払い出されるべく遊技メダルがホッパH40から払い出される判断が終了している最中、遊技の進行を司る主制御基板Mが行う処理については進行している。

【1984】

次に、N+1遊技目として、順序3～順序10に処理が進んでいく。順序3として、遊技メダルがメダル投入口D170から投入されたと判断することで、主制御基板Mは、メダル投入受付に係るコマンドを副制御基板Sに送信するが、主制御基板Mと副制御基板Sとの通信が切断状態であるため、主制御基板Mはメダル投入受付に係るコマンドを副制御基板Sに送信することができない。このとき、副制御基板Sは主制御基板Mからメダル投入受付に係るコマンドを受信できないため、メダル投入に対応するメダル投入音を出力することができない一方、メダル払出音の出力を終了せずにメダル払出音の出力を続ける。つまり、主制御基板Mと副制御基板Sとの通信が切断状態であるため、副制御基板Sは、ホッパH40からのメダル払出終了に係るコマンドとメダル投入受付に係るコマンドが受信できない状態であるため、メダル払出音のみを出力する状態が継続する。

【1985】

順序4として、スタートレバーD50が操作されたと判断することで、主制御基板Mは、スタートレバー操作に係るコマンドを副制御基板Sに送信するが、主制御基板Mと副制御基板Sとの通信が切断状態であるため、主制御基板Mはスタートレバー操作に係るコマンドを副制御基板Sに送信することができない。このとき、副制御基板Sは主制御基板Mからスタートレバー操作に係るコマンドを受信できないため、スタートレバー操作に係る効果音を出力することができない一方、メダル払出音の出力を終了せずにメダル払出音の出力を続ける。つまり、主制御基板Mと副制御基板Sとの通信が切断状態であるため、副制御基板Sは、ホッパH40からのメダル払出終了に係るコマンドとメダル投入受付に係るコマンド、そしてスタートレバー操作に係るコマンドが受信できない状態であるため、メダル払出音のみを出力する状態が継続する。

【1986】

順序5として、主制御基板Mはリール回転開始待機状態開始に係るコマンドを副制御基板Sに送信するが、主制御基板Mと副制御基板Sとの通信が切断状態であるため、主制御基板Mはリール回転開始待機状態開始に係るコマンドを副制御基板Sに送信することができない。このとき、副制御基板Sは主制御基板Mからリール回転開始待機状態開始に係る

コマンドを受信できないため、ウエイト音を出力することができない一方、メダル払出音の出力を終了せずにメダル払出音の出力を続ける。つまり、主制御基板Mと副制御基板Sとの通信が切断状態であるため、副制御基板Sは、ホッパH40からのメダル払出終了に係るコマンドとメダル投入受付に係るコマンド、スタートレバー操作に係るコマンド、リール回転開始待機状態開始に係るコマンドが受信できない状態であるため、メダル払出音のみを出力する状態が継続する。

【1987】

主制御基板Mが、リール回転開始待機状態開始であると判断した後、主制御基板Mと副制御基板Sとの通信を復帰させる。このとき、副制御基板Sは、主制御基板MからホッパH40からのメダル払出終了に係るコマンドとメダル投入受付に係るコマンド、スタートレバー操作に係るコマンド、リール回転開始待機状態開始に係るコマンドを受信できていないが、主制御基板Mは、スタートレバー操作に基づいてリールの回転を開始する準備が整った状態であると判断し、N+1遊技目の次処理に係るコマンドをセットする。

10

【1988】

順序6として、スタートレバー操作によりリールの回転が開始したと判断することで、主制御基板Mは、リール回転開始に係るコマンドを副制御基板Sに送信する。副制御基板Sは主制御基板Mからのリール回転開始に係るコマンドを受信したことに基づいて、リール回転開始に係る効果音を出力する一方、主制御基板MからホッパH40からのメダル払出終了に係るコマンドを受信できないため、メダル払出音の出力を終了せずにメダル払出音の出力を続ける。主制御基板Mは、リール回転開始に係る処理が終了していると判断し、N+1遊技目の次処理に係るコマンドをセットする。

20

【1989】

順序7として、リールの回転開始に係る処理が終了し、遊技者がリールの停止操作を行うことが可能な状態となったとする。第1リールの停止操作が受け付けられたと判断することで、主制御基板Mは、第1リール停止操作受付に係るコマンドを副制御基板Sに送信する。副制御基板Sは主制御基板Mからの第1リール停止操作受付に係るコマンドを受信したことに基づいて、第1リール停止操作受付に係る効果音を出力する一方、主制御基板MからホッパH40からのメダル払出終了に係るコマンドを受信できないため、メダル払出音の出力を終了せずにメダル払出音の出力を続ける。主制御基板Mは、第1リール停止操作受付に係る処理が終了していると判断し、N+1遊技目の次処理に係るコマンドをセットする。

30

【1990】

順序8として、第2リールの停止操作が受け付けられたと判断することで、主制御基板Mは、第2リール停止操作受付に係るコマンドを副制御基板Sに送信する。副制御基板Sは主制御基板Mからの第2リール停止操作受付に係るコマンドを受信したことに基づいて、第2リール停止操作受付に係る効果音を出力する一方、主制御基板MからホッパH40からのメダル払出終了に係るコマンドを受信できないため、メダル払出音の出力を終了せずにメダル払出音の出力を続ける。主制御基板Mは、第2リール停止操作受付に係る処理が終了していると判断し、N+1遊技目の次処理に係るコマンドをセットする。

【1991】

40

順序9として、第3リールの停止操作が受け付けられたと判断することで、主制御基板Mは、第3リール停止操作受付に係るコマンドを副制御基板Sに送信する。副制御基板Sは主制御基板Mからの第3リール停止操作受付に係るコマンドを受信したことに基づいて、第3リール停止操作受付に係る効果音を出力する一方、主制御基板MからホッパH40からのメダル払出終了に係るコマンドを受信できないため、メダル払出音の出力を終了せずにメダル払出音の出力を続ける。主制御基板Mは、第3リール停止操作受付に係る処理が終了していると判断し、N遊技目の次処理に係るコマンドをセットする。尚、N+1遊技目の次処理としては、簡潔に説明を行うため、ホッパH40からのメダル払出開始に係るコマンドにしているが、この間に主制御基板Mが副制御基板Sへ送信するコマンドとして、例えば停止表示図柄の停止に係るコマンド、もしくは入賞に係るコマンドなどを送信

50

するように構成することも可能である。

【1992】

順序10として、N+1遊技目で遊技メダルが払い出される当選役（例えば押し順ベル役など）による入賞が判定され、遊技メダルがホッパH40から払い出される場合において、主制御基板Mは、ホッパH40からの遊技メダルの払出開始に係るコマンドを副制御基板Sに送信する。副制御基板SはホッパH40からのメダル払出開始に係るコマンドを受信したに基づいて、メダル払出音をスピーカS20から出力する。このときスピーカS20から出力されるメダル払出音は、前述したように、N遊技目において出力したメダル払出音と同じチャンネルでスピーカS20から出力されることになる。つまり、主制御基板MからN+1遊技目におけるホッパH40からのメダル払出開始に係るコマンドを副制御基板Sに送信することで、副制御基板Sは、主制御基板Mから受信したN+1遊技目のホッパH40からのメダル払出開始に係るコマンドに基づいて、メダル払出音の出力を開始する一方、N遊技目に係るメダル払出音の出力は終了する（副制御基板Sの処理として、N遊技目に係るメダル払出音の出力→N+1遊技目に係るホッパH40からのメダル払出開始に係るコマンドを受信→N遊技目に係るメダル払出音の出力を終了→N+1遊技目に係るメダル払出音の出力を開始となる）。

10

【1993】

<効果1>

このように構成することで、例えば音声の出力を伴った処理を実行している最中、主制御基板Mと副制御基板Sとの通信が切断状態となった場合において、遊技者は音声の出力が終了しないため、遊技機において何かしらの問題が生じていることを認識することが可能なユーザーフレンドリーな遊技機を提供することができる。

20

【1994】

<効果2>

また、エラーとして遊技を停止させるのではなく、主制御基板Mにおける遊技の進行は可能なよう構成しているため、エラー対応などにより遊技機を一時的に電断させたりすることなく、双方の通信が復帰することで、遊技を進めていく中で音声の出力を終了させることが可能なユーザーフレンドリーな遊技機を提供することができる。

【1995】

<<本例に適用可能な置数に係る構成>>

ここで、本例に適用可能な内部抽選の置数に関する構成を以下に詳述する。なお、以下の構成は、本例におけるすべての実施形態に適用可能であることを補足しておく。

30

【1996】

まず、図320を用いて、本例に適用可能な置数に関する構成を詳述する。

【1997】

<BB非作動時>

図320に例示する遊技機は、1種BB（BBと称することがある）と2種BB（MBと称することがある）とを有しており、1種BBに関する役（当選した後に1種BBが作動する図柄組み合わせが停止表示可能となる役であり、1種BB役と称することがある）として、「1種BB単独」（1種BB役が単独で当選する条件装置）と「1種BB+チェリー」（1種BB役とチェリーが重複当選することとなる条件装置）とを有している。また、2種BBに関する役（当選した後に2種BBが作動する図柄組み合わせが停止表示可能となる役であり、2種BB役と称することがある）として、「2種BB単独」（2種BB役が単独で当選する条件装置）と「2種BB+チェリー」（2種BB役とチェリーが重複当選することとなる条件装置）とを有している。

40

【1998】

また、入賞役（停止表示することで遊技メダルが払い出される図柄組み合わせを有する役）として、ベルとスイカとシンボルとチェリーとの4種類の役を有しており、最も当選する置数が多いベル（10400／65536で当選）をメイン小役と称することがある。

50

【1999】

同図最上段に示す「BB非作動時」は、1種BB及び2種BBが作動していない状態（通常遊技状態等と称することがある）における置数に関する表である。「投入数」は、後述する各種期待値を算出するために3枚賭けにてゲームを実行したと仮定した場合の投入枚数となっており、1種BB作動中及び2種BB作動中における規定数は2枚であるが、「投入数」を3としている。また、「払出数」は、「投入数」を3とした場合に払い出される遊技メダル数となっており、例えば、1種BB作動時の遊技においては2枚賭けで15枚の払出となる役のみに当選することとなるが、「投入数」を3と仮定しているため、「払出数」も「 $15 \times 3 \div 2 = 22.5$ 」となっている。

【2000】

「置数」は、条件装置毎の内部抽選によって決定される置数であり、分母は65536となっている。また、「確率」は、条件装置が内部抽選によって決定される確率である。

【2001】

「ゲーム数」は、後述する各種期待値を算出する場合に要するゲーム数である。「1種BB単独」、「1種BB+チェリー」、「2種BB単独」、「2種BB+チェリー」については、1種BB又は2種BBに当選したゲームにて1種BB又は2種BBに係る図柄組み合わせを停止表示させた場合を例示しているため、「ゲーム数」は1となっている。また、「1種合算」は、「1種BB単独」又は「1種BB+チェリー」に当選した後、1種BBが作動することとなる図柄組み合わせが停止表示した後に1種BBを実行する（消化する）場合を例示しているため、「ゲーム数」は24となっている。また、「2種合算」は、「2種BB単独」又は「2種BB+チェリー」に当選した後、2種BBが作動することとなる図柄組み合わせが停止表示した後に2種BBを実行する（消化する）場合を例示しているため、「ゲーム数」は8となっている。

【2002】

「投入数期待値」は、条件装置毎の内部抽選によって決定される確率を考慮した1ゲームあたりの投入枚数の期待値であり、「投入数×確率×ゲーム数」にて算出している。また、「払出数期待値」は、条件装置毎の内部抽選によって決定される確率を考慮した1ゲームあたりの払出枚数の期待値であり、「払出数×確率×ゲーム数」にて算出している。

【2003】

なお、同図における構成は、以下のように遊技した場合に適用してもよい。

【2004】

<遊技方法1>

遊技者にとって最も高利益となる遊技方法にてゲームを実行する遊技方法であり、押し順ベルなどの押し順役ではない、ベル、スイカ、シンボル又はチェリーに当選したゲームにおいては、遊技メダルの払出がある図柄組み合わせを停止表示させる（入賞させる）停止操作態様（停止ボタンの操作態様であり、停止ボタンの押し順、停止ボタン操作タイミングなど）にてゲームを実行する。また、押し順ベルなどの押し順役（同図には図示していないが、押し順役を有するよう構成してもよい）に当選したゲームにおいては、最も多い払出枚数となる停止操作態様にてゲームを実行する。

【2005】

<遊技方法2>

押し順ベルなどの押し順役ではない、ベル、スイカ、シンボル又はチェリーに当選したゲームにおいては、遊技メダルの払出がある図柄組み合わせを停止表示させる（入賞させる）停止操作態様（停止ボタンの操作態様であり、停止ボタンの押し順、停止ボタン操作タイミングなど）にてゲームを実行する。また、押し順ベルなどの押し順役（同図には図示していないが、押し順役を有するよう構成してもよい）に当選したゲームにおいては、押し順ナビの実行有無に拘らずランダムな停止操作態様（停止ボタンの押し順、停止ボタン操作タイミングをランダム）にてゲームを実行する。なお、ランダムとは、例えば、停止ボタンの押し順に関しては、6種類の押し順をすべて均等な割合で選択することであり、停止タイミングに関しては20コマの停止操作タイミングをすべて均等な割合で選択す

10

20

30

40

50

ることである。

【2006】

「内部中」は、「1種BB単独」、「1種BB+チェリー」、「2種BB単独」、「2種BB+チェリー」のいずれかに当選した後のゲームであり、且つ、1種BB又は2種BBが作動することとなる図柄組み合わせ及びベル、スイカ、シンボル、チェリー、再遊技、に係る図柄組み合わせが停止表示しないゲーム（1種BB又は2種BBの当選を持ち越している状況にて小役又は再遊技に当選しなかったゲーム）となっている。同図においては、290/65536で、1種BB又は2種BBの当選を持ち越している状況にて小役又は再遊技に当選しなかったゲームが実行され、「投入数期待値」は約0.013275146であり、「払出数期待値」は0となっている。

10

【2007】

<1種BB作動中>

同図上段から2段目に示す「1種BB作動中」は、1種BBが作動している状態における置数に関する表である。1種BB作動中においては、規定数は2枚であり、ハズレには当選せずに、ベル、スイカ、シンボル、チェリーのいずれかに当選するように構成されている。また、ベル、スイカ、シンボル、チェリーのすべてで「払出数」が15となり、ベルに最も当選し易く（決定され易く）になっている。また、スイカ、シンボル及びチェリーに当選することとなる「置数」の1又は複数（すべてでもよい）を、「BB非作動時」と同一となるように構成してもよい。なお、上述したように、1種BB作動中におけるゲームにおいては、すべてのゲームにて2枚賭けで15枚の払出となるため、規定数3枚時の払出数期待値（「BB非作動時」における「1種合算」の「払出数」）は22.5となっている。

20

【2008】

<2種BB作動中>

同図最下段に示す「2種BB作動中」は、2種BBが作動している状態における置数に関する表である。2種BB作動中においては、規定数は2枚であり、所定の停止操作態様にてゲームを実行した場合（例えば、「左→中→右」の押し順でゲームを実行した場合）には、ベルに係る図柄組み合わせのみが停止表示するように構成されている。また、ベルに係る図柄組み合わせが停止表示した場合の「払出数」は15となっている。なお、上述したように、2種BB作動中におけるゲームにおいては、すべてのゲームにて2枚賭けで15枚の払出となるため、規定数3枚時の払出数期待値（「BB非作動時」における「2種合算」の「払出数」）は22.5となっている。

30

【2009】

<BB非作動中>

再度、「BB非作動時」について詳述する。「再遊技なし」とは、ベル、スイカ、シンボル、チェリーの4種類の入賞役を示しており、「再遊技込み」とは、ベル、スイカ、シンボル、チェリー、再遊技の5種類の役を示している。「再遊技なし」における「入賞OUT」は、ベル、スイカ、シンボル、チェリーの払出数期待値を合算した値であり、約1.237258911となっている。また、「再遊技なし」における「入賞出玉率」は、「払出数期待値を合算した値（入賞OUT）」を「ベル、スイカ、シンボル、チェリーの投入数期待値を合算した値」で除算した値を100で乗算した値であり、即ち、入賞役を合算した出玉率であり、約222.8%となっている。

40

【2010】

「再遊技込み」における「入賞OUT」は、ベル、スイカ、シンボル、チェリー、再遊技の払出数期待値を合算した値であり、約1.649246216となっている。なお、再遊技に係る図柄組み合わせが停止表示しても遊技メダルが実際に払い出されはしないが、3枚賭けにてゲームを実行し、再遊技に係る図柄組み合わせが停止表示した場合には、3枚分の自動ベットが実行されるため、再遊技に係る「払出数」は3となっている。また、「再遊技込み」における「入賞出玉率」は、「払出数期待値を合算した値（入賞OUT）」を「ベル、スイカ、シンボル、チェリー、再遊技の投入数期待値を合算した値」で除

50

算した値を100で乗算した値であり、即ち、入賞役と再遊技を合算した出玉率であり、約170.5%となっている。

【2011】

「1種合算出玉率」は、「1種合算」の払出数期待値を投入数期待値で除算した値を100で乗算した値であり、750.0%となっている。また、「2種合算出玉率」は、「2種合算」の払出数期待値を投入数期待値で除算した値を100で乗算した値であり、750.0%となっている。

【2012】

＜各種値の比較＞

ここで、上述した値を比較した場合、以下のような関係性となっている。

(1) 「2種合算」の「払出数期待値」＜「再遊技なし」の合算の「払出数期待値」(入賞OUT)

(2) 「2種合算」の「払出数期待値」＜「再遊技込み」の合算の「払出数期待値」(入賞OUT)

(3) 「2種合算」の払出数期待値＜メイン小役の「払出数期待値」

(4) 「内部中」の「投入数期待値」＜メイン小役の「投入数期待値」

(5) 「内部中」の「投入数期待値」＜「再遊技」の「投入数期待値」

【2013】

また、2種BBが作動した場合は、1種BBが作動した場合よりも遊技者が獲得できる遊技メダル数が少なくなっており、当該2種BB作動中には1種BBは当選しないよう構成されているため、遊技者の遊技に対する期待感が薄れてしまうという懸念が生じる。そこで、上記(1)のように、「2種合算」の「払出数期待値」＜「再遊技なし」の合算の「払出数期待値」となるよう設計することにより、2種BB作動中よりも小役の「払出数期待値」を高くすることができ、2種BB作動中においても、BBの作動中(ボーナスの作動中)ではなくBBの非作動中(ボーナスの非作動中)であると遊技者が感じやすくなり、遊技者に特別な状態であることを意識させずに遊技を行わせることができる。

【2014】

また、2種BBが作動した場合は、1種BBが作動した場合よりも遊技者が獲得できる遊技メダル数が少なくなっており、当該2種BB作動中には1種BBは当選しないよう構成されているため、遊技者の遊技に対する期待感が薄れてしまうという懸念が生じる。そこで、上記(2)のように、「2種合算」の「払出数期待値」＜「再遊技込み」の合算の「払出数期待値」となるよう設計することにより、2種BB作動中よりも小役の「払出数期待値」を高くすることができ、2種BB作動中においても、BBの作動中(ボーナスの作動中)ではなくBBの非作動中(ボーナスの非作動中)であると遊技者が感じやすくなり、遊技者に特別な状態であることを意識させずに遊技を行わせることができる。

【2015】

また、2種BBが作動した場合は、1種BBが作動した場合よりも遊技者が獲得できる遊技メダル数が少なくなっており、当該2種BB作動中には1種BBは当選しないよう構成されているため、遊技者の遊技に対する期待感が薄れてしまうという懸念が生じる。そこで、上記(3)のように、「2種合算」の「払出数期待値」＜メイン小役の「払出数期待値」となるよう設計することにより、2種BB作動中よりもメイン小役の「払出数期待値」を高くすることができ、2種BB作動中においても、BBの作動中(ボーナスの作動中)ではなくBBの非作動中(ボーナスの非作動中)であると遊技者が感じやすくなり、遊技者に特別な状態であることを意識させずに遊技を行わせることができる。

【2016】

なお、上記(1)～(3)の1又は複数の構成を有する遊技機として、2種BB作動中において、規定数を2枚、1ゲームあたりの平均の払出枚数を2枚とする等、2種BB作動中における出玉率(2種合算出玉率)を低くするよう構成してもよい。そのように構成することにより、上述した(1)～(3)の構成を有する場合の効果がより高まることとなる。

10

20

30

40

50

【2017】

また、「内部中」において、目押しのできない遊技者など技量の低い遊技者が遊技した場合には、当選している1種BB又は2種BBに係る図柄組み合わせを停止表示できず、技量の低い遊技者に著しい不利益が生じてしまうという懸念が生じる。そこで、上記(4)のように、「内部中」の「投入数期待値」＜メイン小役の「投入数期待値」となるよう設計することにより、「内部中」においても、メイン小役であるベルが当選するゲームの比率を高めることができ、技量の低い遊技者が遊技した場合にも、不利益が生じ難い遊技機とすることができる。

【2018】

また、「内部中」において、目押しのできない遊技者など技量の低い遊技者が遊技した場合には、当選している1種BB又は2種BBに係る図柄組み合わせを停止表示できず、技量の低い遊技者に著しい不利益が生じてしまうという懸念が生じる。そこで、上記(5)のように、「内部中」の「投入数期待値」＜「再遊技」の「投入数期待値」となるよう設計することにより、「内部中」においても、再遊技が当選するゲームの比率を高めることができ、技量の低い遊技者が遊技した場合にも、不利益が生じ難い遊技機とすることができる。

【2019】

＜本例に係る構成の組み合わせ＞

以上のように、本実施形態に係る構成から第6実施形態に係る構成を有する遊技機について説明した。これら本例から第6実施形態までの構成においては、適宜、組み合わせて構成することが可能であり、以下、本例に係る構成から第6実施形態に係る構成に跨って組み合わせた遊技機の一例を列記する。

【2020】

＜組み合わせ構成1＞

例えば、本例における、＜＜押し順ナビの表示開始に係る構成＞＞＜ウエイトがない場合における押し順ナビの実行態様＞の＜構成1＞に係る構成と、第3実施形態における、＜＜第3実施形態 投入センサによるメダル加算処理の一例＞＞の＜＜構成1＞＞に係る構成とを組み合わせて構成された遊技機とする。

【2021】

＜効果＞

このように構成することで、例えば、押し順表示装置D270、及び演出表示装置S40の双方で押し順ナビを開始するタイミングが遅れて遊技者がどちらの表示装置を見ても押し順ナビが認識できないという事態を確実に防止でき、第1投入センサD20sオフ、且つ第2投入センサD30sオンの状態では、まだクレジット加算処理を行っていないが、このタイミングでエラーが発生してしまった場合に、主制御基板MのCPU100がエラーと判定し、所定のメダル投入エラー処理（例えばブロックD100をオフにしてブロックD100により放出口D240に遊技メダルを払い戻すなど）の実行処理が間に合わず、クレジット加算処理を実行していないにも拘わらず、遊技メダルが遊技機内に入り込んでしまう（飲み込み）を防止することが可能とするユーザーフレンドリーな遊技機を提供することができる。

【2022】

＜組み合わせ構成2＞

例えば、本例における＜＜押し順ナビの表示開始に係る構成＞＞＜ウエイトがない場合における押し順ナビの実行態様＞の＜構成1＞に係る構成と、第4実施形態における、＜＜第4実施形態 メダル返却部材＞＞の＜＜構成1＞＞に係る構成とを組み合わせて構成された遊技機とする。

【2023】

＜効果＞

このように構成することで、例えば、押し順表示装置D270、及び演出表示装置S40の双方で押し順ナビを開始するタイミングが遅れて遊技者がどちらの表示装置を見ても

10

20

30

40

50

押し順ナビが認識できないという事態を確実に防止でき、メダル落下面D 3 4 2の遊技機内部方向への奥行きが遊技メダルの直径に対して十分な距離を有しており、衝突部に衝突した1枚目の遊技メダルが、メダル受入口D 3 4 1まで跳ね返ってしまうという事態を防ぐことが可能となる遊技機を提供することができる。

【2024】

＜組み合わせ構成3＞

例えば、本例における、＜＜押し順ナビの表示開始に係る構成＞＞＜ウエイトがない場合における押し順ナビの実行態様＞の＜構成1＞に係る構成と、第5実施形態における、＜＜＜第5実施形態 メダル払出装の駆動制御＞＞＞に係る構成とを組み合わせ構成された遊技機とする。

10

【2025】

＜効果＞

このように構成することで、例えば、押し順表示装置D 2 7 0、及び演出表示装置S 4 0の双方で押し順ナビを開始するタイミングが遅れて遊技者がどちらの表示装置を見ても押し順ナビが認識できないという事態を確実に防止でき、遊技メダルの払い出しを受ける遊技者が所定の枚数の遊技メダルが払い出される際に、1枚目から所定の枚数まで同間隔で遊技メダルの払い出しを受けることができ、遊技者に違和感を与えないユーザーフレンドリーな遊技機を提供することができる。

【2026】

＜組み合わせ構成4＞

例えば、本例における、＜＜押し順ナビの表示開始に係る構成＞＞＜ウエイトがない場合における押し順ナビの実行態様＞の＜構成1＞に係る構成と、第6実施形態における、＜＜＜第6実施形態 精算に係る処理の実行中における主制御基板と副制御基板との通信切断時における処理 コマンドとチャンネルが1対1の場合＞＞＞の＜＜構成1＞＞に係る構成とを組み合わせ構成された遊技機とする。

20

【2027】

＜効果＞

このように構成することで、例えば、押し順表示装置D 2 7 0、及び演出表示装置S 4 0の双方で押し順ナビを開始するタイミングが遅れて遊技者がどちらの表示装置を見ても押し順ナビが認識できないという事態を確実に防止でき、音声の出力を伴った処理を実行している最中、主制御基板Mと副制御基板Sとの通信が切断状態となった場合において、遊技者は音声の出力が終了しないため、遊技機において何かしらの問題が生じていないことを認識することが可能なユーザーフレンドリーな遊技機を提供することができる。

30

【2028】

＜組み合わせ構成5＞

例えば、第3実施形態における、＜＜＜第3実施形態 投入センサによるメダル加算処理の一例＞＞＞の＜＜構成1＞＞に係る構成と、第4実施形態における、＜＜＜第4実施形態 メダル返却部材＞＞＞に係る構成とを組み合わせ構成された遊技機とする。

【2029】

＜効果＞

このように構成することで、例えば、第1投入センサD 2 0 s オフ、且つ第2投入センサD 3 0 s オンの状態では、まだクレジット加算処理を行っていないが、このタイミングでエラーが発生してしまった場合に、主制御基板MのC P U C 1 0 0がエラーと判定し、所定のメダル投入エラー処理（例えばブロックD 1 0 0をオフにしてブロックD 1 0 0により放出口D 2 4 0に遊技メダルを払い戻すなど）の実行処理が間に合わず、クレジット加算処理を実行していないにも拘わらず、遊技メダルが遊技機内に入り込んでしまう（飲み込み）を防止することを可能とし、メダル落下面D 3 4 2の遊技機内部方向への奥行きが遊技メダルの直径に対して十分な距離を有しており、衝突部に衝突した1枚目の遊技メダルが、メダル受入口D 3 4 1まで跳ね返ってしまうという事態を防ぐことが可能となる遊技機を提供することができる。

40

50

【2030】

＜組み合わせ構成6＞

例えば、第3実施形態における、＜＜＜第3実施形態 投入センサによるメダル加算処理の一例＞＞＞の＜＜構成1＞＞に係る構成と、第5実施形態における、＜＜＜第5実施形態 メダル払出装置の駆動制御＞＞＞に係る構成とを組み合わせ構成された遊技機とする。

【2031】

＜効果＞

このように構成することで、例えば、第1投入センサD20sオフ、且つ第2投入センサD30sオンの状態では、まだクレジット加算処理を行っていないが、このタイミングでエラーが発生してしまった場合に、主制御基板MのCPUC100がエラーと判定し、所定のメダル投入エラー処理（例えばブロックD100をオフにしてブロックD100により放出口D240に遊技メダルを払い戻すなど）の実行処理が間に合わず、クレジット加算処理を実行していないにも拘わらず、遊技メダルが遊技機内に入り込んでしまう（飲み込み）を防止することを可能とし、遊技メダルの払い出しを受ける遊技者が所定の枚数の遊技メダルが払い出される際に、1枚目から所定の枚数まで同間隔で遊技メダルの払い出しを受けることができ、遊技者に違和感を与えないユーザーフレンドリーな遊技機を提供することができる。

【2032】

＜組み合わせ構成7＞

例えば、第3実施形態における、＜＜＜第3実施形態 投入センサによるメダル加算処理の一例＞＞＞の＜＜構成1＞＞に係る構成と、第6実施形態における、＜＜＜第6実施形態 精算に係る処理の実行中における主制御基板と副制御基板との通信切断時における処理 コマンドとチャンネルが1対1の場合＞＞＞の＜＜構成1＞＞に係る構成とを組み合わせ構成された遊技機とする。

【2033】

＜効果＞

このように構成することで、例えば、第1投入センサD20sオフ、且つ第2投入センサD30sオンの状態では、まだクレジット加算処理を行っていないが、このタイミングでエラーが発生してしまった場合に、主制御基板MのCPUC100がエラーと判定し、所定のメダル投入エラー処理（例えばブロックD100をオフにしてブロックD100により放出口D240に遊技メダルを払い戻すなど）の実行処理が間に合わず、クレジット加算処理を実行していないにも拘わらず、遊技メダルが遊技機内に入り込んでしまう（飲み込み）を防止することを可能とし、音声の出力を伴った処理を実行している最中、主制御基板Mと副制御基板Sとの通信が切断状態となった場合において、遊技者は音声の出力が終了しないため、遊技機において何かしらの問題が生じていないことを認識することが可能なユーザーフレンドリーな遊技機を提供することができる。

【2034】

＜組み合わせ構成8＞

例えば、第4実施形態における、＜＜＜第4実施形態 メダル返却部材＞＞＞に係る構成と、第5実施形態における、＜＜＜第5実施形態 メダル払出装置の駆動制御＞＞＞に係る構成とを組み合わせ構成された遊技機とする。

【2035】

＜効果＞

このように構成することで、例えば、メダル落下面D342の遊技機内部方向への奥行きが遊技メダルの直径に対して十分な距離を有しており、衝突部に衝突した1枚目の遊技メダルが、メダル受入口D341まで跳ね返ってしまうという事態を防ぐことが可能とし、遊技メダルの払い出しを受ける遊技者が所定の枚数の遊技メダルが払い出される際に、1枚目から所定の枚数まで同間隔で遊技メダルの払い出しを受けることができ、遊技者に違和感を与えないユーザーフレンドリーな遊技機を提供することができる。

【2036】

＜組み合わせ構成9＞

例えば、第4実施形態における、＜＜＜第4実施形態 メダル返却部材＞＞＞に係る構成と、第6実施形態における、＜＜＜第6実施形態 精算に係る処理の実行中における主制御基板と副制御基板との通信切断時における処理 コマンドとチャンネルが1対1の場合＞＞＞の＜＜構成1＞＞に係る構成とを組み合わせ構成された遊技機とする。

【2037】

＜効果＞

このように構成することで、例えば、メダル落下面D342の遊技機内部方向への奥行きが遊技メダルの直径に対して十分な距離を有しており、衝突部に衝突した1枚目の遊技メダルが、メダル受入口D341まで跳ね返ってしまうという事態を防ぐことが可能とし、音声の出力を伴った処理を実行している最中、主制御基板Mと副制御基板Sとの通信が切断状態となった場合において、遊技者は音声の出力が終了しないため、遊技機において何かしらの問題が生じていないことを認識することが可能なユーザーフレンドリーな遊技機を提供することができる。

10

【2038】

＜組み合わせ構成10＞

例えば、第5実施形態における、＜＜＜第5実施形態 メダル払出装置の駆動制御＞＞＞に係る構成と、第6実施形態における、＜＜＜第6実施形態 精算に係る処理の実行中における主制御基板と副制御基板との通信切断時における処理 コマンドとチャンネルが1対1の場合＞＞＞の＜＜構成1＞＞に係る構成とを組み合わせ構成された遊技機とする。

20

【2039】

＜効果＞

このように構成することで、例えば、遊技メダルの払い出しを受ける遊技者が所定の枚数の遊技メダルが払い出される際に、1枚目から所定の枚数まで同間隔で遊技メダルの払い出しを受けることができるため遊技者に違和感を与えず、音声の出力を伴った処理を実行している最中、主制御基板Mと副制御基板Sとの通信が切断状態となった場合において、遊技者は音声の出力が終了しないため、遊技機において何かしらの問題が生じていないことを認識することが可能なユーザーフレンドリーな遊技機を提供することができる。

30

【2040】

＜組み合わせ構成11＞

例えば、本例における、＜＜押し順ナビの表示開始に係る構成＞＞＜ウエイトがない場合における押し順ナビの実行態様＞の＜構成1＞に係る構成と、第3実施形態における、＜＜＜第3実施形態 投入センサによるメダル加算処理の一例＞＞＞の＜＜構成1＞＞に係る構成と、第4実施形態における、＜＜＜第4実施形態 メダル返却部材＞＞＞に係る構成とを組み合わせ構成された遊技機とする。

【2041】

＜効果＞

このように構成することで、例えば、押し順表示装置D270、及び演出表示装置S40の双方で押し順ナビを開始するタイミングが遅れて遊技者がどちらの表示装置を見ても押し順ナビが認識できないという事態を確実に防止でき、第1投入センサD20sオフ、且つ第2投入センサD30sオンの状態では、まだクレジット加算処理を行っていないが、このタイミングでエラーが発生してしまった場合に、主制御基板MのCPU100がエラーと判定し、所定のメダル投入エラー処理（例えばブロックD100をオフにしてブロックD100により放出口D240に遊技メダルを払い戻すなど）の実行処理が間に合わず、クレジット加算処理を実行していないにも拘わらず、遊技メダルが遊技機内に入り込んでしまう（飲み込み）を防止し、メダル落下面D342の遊技機内部方向への奥行きが遊技メダルの直径に対して十分な距離を有しており、衝突部に衝突した1枚目の遊技メダルが、メダル受入口D341まで跳ね返ってしまうという事態を防ぐことが可能とする

40

50

枚目から所定の枚数まで同間隔で遊技メダルの払い出しを受けることができるため遊技者に違和感を与えず、音声の出力を伴った処理を実行している最中、主制御基板Mと副制御基板Sとの通信が切断状態となった場合において、遊技者は音声の出力が終了しないため、遊技機において何かしらの問題が生じていないことを認識することが可能なユーザーフレンドリーな遊技機を提供することができる。

【2046】

＜組み合わせ構成14＞

例えば、本例における、＜＜押し順ナビの表示開始に係る構成＞＞＜ウエイトがない場合における押し順ナビの実行態様＞の＜構成3＞に係る構成と、第3実施形態における、＜＜＜第3実施形態 投入センサによるメダル加算処理の一例＞＞＞の＜＜構成1＞＞に係る構成とを組み合わせ構成された遊技機とする。

10

【2047】

＜効果＞

このように構成することで、リール窓枠ランプD310での押し順ナビの開始タイミングを所定の期間（スタートレバー操作→最小遊技時間が経過していない期間→リール回転開始→リール加速状態→リール定速状態→ストップスイッチの操作が有効までの期間）で定めることにより、例えば、演出表示装置S40のような液晶ユニットを搭載していない遊技機であっても、押し順ナビをランプの点灯（本例ではリール窓枠ランプD310の点灯）などを用いて実行することができ、遊技者が押し順ナビを認識できないといったことが起こり難く、第1投入センサD20sオフ、且つ第2投入センサD30sオンの状態では、まだクレジット加算処理を行っていないが、このタイミングでエラーが発生してしまった場合に、主制御基板MのCPUC100がエラーと判定し、所定のメダル投入エラー処理（例えばブロックD100をオフにしてブロックD100により放出口D240に遊技メダルを払い戻すなど）の実行処理が間に合わず、クレジット加算処理を実行していないにも拘わらず、遊技メダルが遊技機内に入り込んでしまう（飲み込み）を防止することが可能とするユーザーフレンドリーな遊技機を提供することができる。

20

【2048】

＜組み合わせ構成15＞

例えば、本例における、＜＜押し順ナビの表示開始に係る構成＞＞＜ウエイトがない場合における押し順ナビの実行態様＞の＜構成3＞に係る構成と、第4実施形態における、＜＜＜＜第4実施形態 メダル返却部材＞＞＞＞に係る構成とを組み合わせ構成された遊技機とする。

30

【2049】

＜効果＞

このように構成することで、リール窓枠ランプD310での押し順ナビの開始タイミングを所定の期間（スタートレバー操作→最小遊技時間が経過していない期間→リール回転開始→リール加速状態→リール定速状態→ストップスイッチの操作が有効までの期間）で定めることにより、例えば、演出表示装置S40のような液晶ユニットを搭載していない遊技機であっても、押し順ナビをランプの点灯（本例ではリール窓枠ランプD310の点灯）などを用いて実行することができ、遊技者が押し順ナビを認識できないといったことが起こり難く、メダル落下面D342の遊技機内部方向への奥行きが遊技メダルの直径に対して十分な距離を有しており、衝突部に衝突した1枚目の遊技メダルが、メダル受入口D341まで跳ね返ってしまうという事態を防ぐことを可能とするユーザーフレンドリーな遊技機を提供することができる。

40

【2050】

＜組み合わせ構成16＞

例えば、本例における、＜＜押し順ナビの表示開始に係る構成＞＞＜ウエイトがない場合における押し順ナビの実行態様＞の＜構成3＞に係る構成と、第5実施形態における、＜＜＜＜第5実施形態 メダル払出装置の駆動制御＞＞＞＞に係る構成とを組み合わせ構成された遊技機とする。

50

【2051】

＜効果＞

このように構成することで、リール窓枠ランプD310での押し順ナビの開始タイミングを所定の期間（スタートレバー操作→最小遊技時間が経過していない期間→リール回転開始→リール加速状態→リール定速状態→ストップスイッチの操作が有効までの期間）で定めることにより、例えば、演出表示装置S40のような液晶ユニットを搭載していない遊技機であっても、押し順ナビをランプの点灯（本例ではリール窓枠ランプD310の点灯）などを用いて実行することができ、遊技者が押し順ナビを認識できないといったことが起こり難く、遊技メダルの払い出しを受ける遊技者が所定の枚数の遊技メダルが払い出される際に、1枚目から所定の枚数まで同間隔で遊技メダルの払い出しを受けることができるため遊技者に違和感を与えないユーザーフレンドリーな遊技機を提供することができる。

10

【2052】

＜組み合わせ構成17＞

例えば、本例における、＜＜押し順ナビの表示開始に係る構成＞＞＜ウエイトがない場合における押し順ナビの実行態様＞の＜構成3＞に係る構成と、第6実施形態における、＜＜第6実施形態 精算に係る処理の実行中における主制御基板と副制御基板との通信切断時における処理 コマンドとチャンネルが1対1の場合＞＞の＜＜構成1＞＞に係る構成とを組み合わせ構成された遊技機とする。

20

【2053】

＜効果＞

このように構成することで、リール窓枠ランプD310での押し順ナビの開始タイミングを所定の期間（スタートレバー操作→最小遊技時間が経過していない期間→リール回転開始→リール加速状態→リール定速状態→ストップスイッチの操作が有効までの期間）で定めることにより、例えば、演出表示装置S40のような液晶ユニットを搭載していない遊技機であっても、押し順ナビをランプの点灯（本例ではリール窓枠ランプD310の点灯）などを用いて実行することができ、遊技者が押し順ナビを認識できないといったことが起こり難く、音声の出力を伴った処理を実行している最中、主制御基板Mと副制御基板Sとの通信が切断状態となった場合において、遊技者は音声の出力が終了しないため、遊技機において何かしらの問題が生じていないことを認識することを可能とするユーザーフレンドリーな遊技機を提供することができる。

30

【2054】

＜組み合わせ構成18＞

例えば、本例における、＜＜押し順ナビの表示終了に係る構成＞＞に係る構成と、第3実施形態における、＜＜第3実施形態 投入センサによるメダル加算処理の一例＞＞の＜＜構成1＞＞に係る構成とを組み合わせ構成された遊技機とする。

【2055】

＜効果＞

このように構成することで、押し順表示装置D270に表示される押し順ナビの終了タイミングと、演出表示装置S40上に表示される押し順ナビの終了タイミングを異ならせることで、2つの表示装置を同時に視認しなければならないという状態を回避でき、遊技者は押し順ナビが発生したタイミングで個々の表示装置にて押し順ナビの終了を視認できるという遊技者の遊技負担を軽減でき、第1投入センサD20sオフ、且つ第2投入センサD30sオンの状態では、まだクレジット加算処理を行っていないが、このタイミングでエラーが発生してしまった場合に、主制御基板MのCPUC100がエラーと判定し、所定のメダル投入エラー処理（例えばブロックD100をオフにしてブロックD100により放出口D240に遊技メダルを払い戻すなど）の実行処理が間に合わず、クレジット加算処理を実行していないにも拘わらず、遊技メダルが遊技機内に入り込んでしまう（飲み込み）を防止することが可能とするユーザーフレンドリーな遊技機を提供することができる。

40

50

【2056】

＜組み合わせ構成19＞

例えば、本例における、＜＜押し順ナビの表示終了に係る構成＞＞に係る構成と、第4実施形態における、＜＜＜第4実施形態 メダル返却部材＞＞＞に係る構成とを組み合わせ構成された遊技機とする。

【2057】

＜効果＞

このように構成することで、押し順表示装置D270に表示される押し順ナビの終了タイミングと、演出表示装置S40上に表示される押し順ナビの終了タイミングを異ならせることで、2つの表示装置を同時に視認しなければならないという状態を回避でき、遊技者は押し順ナビが発生したタイミングで個々の表示装置にて押し順ナビの終了を視認できるという遊技者の遊技負担を軽減でき、メダル落下面D342の遊技機内部方向への奥行きが遊技メダルの直径に対して十分な距離を有しており、衝突部に衝突した1枚目の遊技メダルが、メダル受入口D341まで跳ね返ってしまうという事態を防ぐことを可能とするユーザーフレンドリーな遊技機を提供することができる。

10

【2058】

＜組み合わせ構成20＞

例えば、本例における、＜＜押し順ナビの表示終了に係る構成＞＞に係る構成と、第5実施形態における、＜＜＜第5実施形態 メダル払出装置の駆動制御＞＞＞に係る構成とを組み合わせ構成された遊技機とする。

20

【2059】

＜効果＞

このように構成することで、押し順表示装置D270に表示される押し順ナビの終了タイミングと、演出表示装置S40上に表示される押し順ナビの終了タイミングを異ならせることで、2つの表示装置を同時に視認しなければならないという状態を回避でき、遊技者は押し順ナビが発生したタイミングで個々の表示装置にて押し順ナビの終了を視認できるという遊技者の遊技負担を軽減でき、遊技メダルの払い出しを受ける遊技者が所定の枚数の遊技メダルが払い出される際に、1枚目から所定の枚数まで同間隔で遊技メダルの払い出しを受けることができるため遊技者に違和感を与えないユーザーフレンドリーな遊技機を提供することができる。

30

【2060】

＜組み合わせ構成21＞

例えば、本例における、＜＜押し順ナビの表示終了に係る構成＞＞に係る構成と、第6実施形態における、＜＜＜第6実施形態 精算に係る処理の実行中における主制御基板と副制御基板との通信切断時における処理 コマンドとチャンネルが1対1の場合＞＞＞の＜＜構成1＞＞に係る構成とを組み合わせ構成された遊技機とする。

【2061】

＜効果＞

このように構成することで、押し順表示装置D270に表示される押し順ナビの終了タイミングと、演出表示装置S40上に表示される押し順ナビの終了タイミングを異ならせることで、2つの表示装置を同時に視認しなければならないという状態を回避でき、遊技者は押し順ナビが発生したタイミングで個々の表示装置にて押し順ナビの終了を視認できるという遊技者の遊技負担を軽減でき、音声の出力を伴った処理を実行している最中、主制御基板Mと副制御基板Sとの通信が切断状態となった場合において、遊技者は音声の出力が終了しないため、遊技機において何かしらの問題が生じていないことを認識することを可能とするユーザーフレンドリーな遊技機を提供することができる。

40

【2062】

＜組み合わせ構成22＞

例えば、本例における、＜＜リール制御と押し順ナビに係る構成＞＞に係る構成と、第3実施形態における、＜＜＜第3実施形態 投入センサによるメダル加算処理の一例＞＞

50

>の<<構成1>>に係る構成とを組み合わせ構成された遊技機とする。

【2063】

<効果>

このように構成することで、押し順ナビに従って停止ボタンの操作を行い、停止ボタンを押下中であっても、次に停止操作を行うべきリールが当該リールの停止操作による押下中であっても明確になるため、押し順ミスなどにより最大獲得枚数を得られないなどの遊技者の意図しない不利益が生じ難く、第1投入センサD20sオフ、且つ第2投入センサD30sオンの状態では、まだクレジット加算処理を行っていないが、このタイミングでエラーが発生してしまった場合に、主制御基板MのCPUC100がエラーと判定し、所定のメダル投入エラー処理（例えばブロックD100をオフにしてブロックD100により放出口D240に遊技メダルを払い戻すなど）の実行処理が間に合わず、クレジット加算処理を実行していないにも拘わらず、遊技メダルが遊技機内に入り込んでしまう（飲み込み）を防止することが可能とするユーザーフレンドリーな遊技機を提供することができる。

10

【2064】

<組み合わせ構成23>

例えば、本例における、<<リール制御と押し順ナビに係る構成>>に係る構成と、第4実施形態における、<<<第4実施形態 メダル返却部材>>>に係る構成とを組み合わせ構成された遊技機とする。

【2065】

<効果>

このように構成することで、押し順ナビに従って停止ボタンの操作を行い、停止ボタンを押下中であっても、次に停止操作を行うべきリールが当該リールの停止操作による押下中であっても明確になるため、押し順ミスなどにより最大獲得枚数を得られないなどの遊技者の意図しない不利益が生じ難く、メダル落下面D342の遊技機内部方向への奥行きが遊技メダルの直径に対して十分な距離を有しており、衝突部に衝突した1枚目の遊技メダルが、メダル受入口D341まで跳ね返ってしまうという事態を防ぐことを可能とするユーザーフレンドリーな遊技機を提供することができる。

20

【2066】

<組み合わせ構成24>

例えば、本例における、<<リール制御と押し順ナビに係る構成>>に係る構成と、第5実施形態における、<<<第5実施形態 メダル払出装置の駆動制御>>>に係る構成とを組み合わせ構成された遊技機とする。

30

【2067】

<効果>

このように構成することで、押し順ナビに従って停止ボタンの操作を行い、停止ボタンを押下中であっても、次に停止操作を行うべきリールが当該リールの停止操作による押下中であっても明確になるため、押し順ミスなどにより最大獲得枚数を得られないなどの遊技者の意図しない不利益が生じ難く、遊技メダルの払い出しを受ける遊技者が所定の枚数の遊技メダルが払い出される際に、1枚目から所定の枚数まで同間隔で遊技メダルの払い出しを受けることができるため遊技者に違和感を与えないユーザーフレンドリーな遊技機を提供することができる。

40

【2068】

<組み合わせ構成25>

例えば、本例における、<<リール制御と押し順ナビに係る構成>>に係る構成と、第6実施形態における、<<<第6実施形態 精算に係る処理の実行中における主制御基板と副制御基板との通信切断時における処理 コマンドとチャンネルが1対1の場合>>>の<<構成1>>に係る構成とを組み合わせ構成された遊技機とする。

【2069】

<効果>

50

このように構成することで、押し順ナビに従って停止ボタンの操作を行い、停止ボタンを押下中であっても、次に停止操作を行うべきリールが当該リールの停止操作による押下中であっても明確になるため、押し順ミスなどにより最大獲得枚数を得られないなどの遊技者の意図しない不利益が生じ難く、音声の出力を伴った処理を実行している最中、主制御基板Mと副制御基板Sとの通信が切断状態となった場合において、遊技者は音声の出力が終了しないため、遊技機において何かしらの問題が生じていないことを認識することを可能とするユーザーフレンドリーな遊技機を提供することができる。

【2070】

以上、本例に係る構成から第6実施形態に係る構成に跨って組み合わせた遊技機の一例について説明したが、これらは一例であり、本例に係る構成から第6実施形態に係る構成は適宜、組み合わせて構成することが可能である。

【2071】

(まとめ)

尚、以上の実施例において示した構成に基づき、以下のような概念を抽出(列記)することができる。但し、以下に列記する概念はあくまで一例であり、これら列記した概念の結合や分離(上位概念化)は勿論のこと、以上の実施例において示した更なる構成に基づく概念を、これら概念に付加してもよい。

【2072】

本態様(1)に係る遊技機は、

リール基部(例えば、リール枠MW)の外周に巻き付けられた帯状のリールテープ(例えば、リール帯MO)を有し、

前記リールテープには、前記リールテープの長手方向に沿って複数種類の図柄が配置されており、

前記図柄の種類として、第1図柄(例えば、白セブン図柄)と、第2図柄(例えば、ベル図柄)と、を少なくとも有し、

前記第1図柄の最大横幅値は前記第2図柄の最大横幅値よりも大きく構成されており、

前記リールテープの長手方向における両端部の少なくとも何れか一方には前記第2図柄が配置されており、且つ前記リールテープの長手方向における両端部の各々には前記第1図柄が配置されておらず、

前記リールテープの長手方向における長さは、前記リール基部における前記リールテープが巻きつけられる面の外周よりも長いことを特徴とする遊技機である。

【2073】

本態様(2)に係る遊技機は、

遊技機本体と、

前記遊技機本体に開閉可能に取り付けられた前扉(例えば、前扉DU)と、

遊技機本体の内部にリールユニット(例えば、リールユニットRU)を備える回胴式遊技機において、

前記遊技機本体の内部には、

前記リールユニットが設置される台座部(例えば、台座部BU)と、

前記台座部の下方に設置され、遊技媒体が貯蔵される主タンク部材(例えば、ホッパH40)と、

前記主タンク部材の近傍に設置され、前記主タンク部材に貯蔵された余剰の遊技媒体を退避するための補助タンク部材(例えば、メダル補助タンクHS)とが設けられ、

前記主タンク部材の一部には、前記主タンク部材から前記補助タンク部材へ向かって下るスロープ部(例えば、傾斜面H64)が設けられており、

前記リールユニットと前記台座部とは係止部品(例えば、ビスBS)によって着脱可能に保持され、

前記前扉が開閉する側に最も近い位置にある前記係止部品の鉛直下方に前記スロープ部

10

20

30

40

50

が位置する

ことを特徴とする遊技機である。

【2074】

本態様(3)に係る遊技機は、

遊技機本体と、

前記遊技機本体に開閉可能に取り付けられた前扉(例えば、前扉DU)と、

遊技機本体の内部にリールユニット(例えば、リールユニットRU)を備える回胴式遊技機において、

前記遊技機本体の内部には、

前記リールユニットが設置される台座部(例えば、台座部BU)と、

前記台座部の下方に設置され、遊技媒体が貯蔵される主タンク部材(例えば、ホッパH40)と、

前記主タンク部材の近傍に設置され、前記主タンク部材に貯蔵された余剰の遊技媒体を退避するための補助タンク部材(例えば、メダル補助タンクHS)と

が設けられ、

前記リールユニットと前記台座部とは係止部品(例えば、ビスBS)によって着脱可能に保持され、

前記前扉が開閉する側に最も近い位置にある前記係止部品の鉛直下方に前記補助タンク部材が位置する

ことを特徴とする遊技機である。

【2075】

本態様(4)に係る遊技機は、

複数のリール(例えば、リールM50)と、

複数のストップスイッチ(例えば、停止ボタンD40)と、

演出を表示可能な演出表示部(例えば、演出表示装置S40)と、

演出の表示内容を変更可能な操作部材(例えば、サブ入力ボタンSB、十字キーSB2)と

を備え、

所定の遊技開始条件を満たすことで前記複数のリールを回転させた後、前記ストップスイッチの操作に応じて前記リールの回転を停止させ、前記複数のリールのうち最後に回転を停止させることとなる前記リールに対応する前記ストップスイッチの操作である最終ストップスイッチ操作が行われて前記複数のリールのすべてが停止されることで1遊技を終了可能であり、

前記最終ストップスイッチ操作が行われた場合、前記最終ストップスイッチ操作が行われた以降の所定のタイミングからベットが行われないまま第1所定時間が経過すると、演出表示部にて特定の画像(例えば、待機画面)を表示可能に構成されており、

1遊技を終了した後で所定の操作部材(例えば、サブ入力ボタンSB)が操作されると、演出表示部にて所定の画像(例えば、メニュー画面)を表示可能であり、

前記所定の操作部材が操作されて前記所定の画像が表示されている場合、前記所定の操作部材が操作された以降の特定のタイミングから前記所定の画像が表示されたまま第2所定時間が経過すると、演出表示部にて前記特定の画像を表示可能に構成されており、

前記第1所定時間よりも前記第2所定時間の方が長くなるよう構成されていることを特徴とする遊技機である。

【2076】

本態様(5)に係る遊技機は、

複数のリール(例えば、リールM50)と、

複数のストップスイッチ(例えば、停止ボタンD40)と、

演出を表示可能な演出表示部(例えば、演出表示装置S40)と、

演出の表示内容を変更可能な操作部材(例えば、サブ入力ボタンSB、十字キーSB2)と

10

20

30

40

50

を備え、

所定の遊技開始条件を満たすことで前記複数のリールを回転させた後、前記ストップスイッチの操作に応じて前記リールの回転を停止させ、前記複数のリールのうち最後に回転を停止させることとなる前記リールに対応する前記ストップスイッチの操作である最終ストップスイッチ操作が行われて前記複数のリールのすべてが停止されることで1遊技を終了可能であり、

前記最終ストップスイッチ操作が行われた場合、前記最終ストップスイッチ操作が行われた以降の所定のタイミングからベットが行われないうまま第1所定時間が経過すると、演出表示部にて特定の画像（例えば、待機画面）を表示可能に構成されており、

1遊技を終了した後で所定の操作部材（例えば、サブ入力ボタンSB）が操作されると、演出表示部にて所定の画像（例えば、メニュー画面）を表示可能であり、

前記所定の操作部材が操作されて前記所定の画像が表示されている場合、前記所定の操作部材が操作された以降の特定のタイミングから前記所定の画像が表示されたまま第2所定時間が経過すると、演出表示部にて前記特定の画像を表示可能に構成されており、

前記第1所定時間よりも前記第2所定時間の方が長くなるよう構成されており、

前記所定の操作部材が操作されて前記所定の画像が表示されている場合、前記所定の操作部材が操作された以降の特定のタイミングから前記所定の画像が表示されたまま前記第2所定時間が経過するよりも前に、特定の操作部材（例えば、十字キーSB2）が操作されると、前記所定の操作部材が操作された以降の特定のタイミングから前記所定の画像が表示されたまま前記第2所定時間が経過しても、演出表示部にて前記特定の画像が表示されない一方で、

前記最終ストップスイッチ操作が行われた場合、前記最終ストップスイッチ操作が行われた以降の所定のタイミングからベットが行われないうまま前記第1所定時間が経過するよりも前に、新たに前記ストップスイッチの操作が行われても、前記最終ストップスイッチ操作が行われた以降の所定のタイミングからベットが行われないうまま前記第1所定時間が経過すると、演出表示部にて前記特定の画像を表示可能に構成されており、

前記最終ストップスイッチ操作が行われた場合、前記最終ストップスイッチ操作が行われた以降の所定のタイミングからベットが行われないうまま前記第1所定時間が経過するよりも前に、ベットが行われると、前記最終ストップスイッチ操作が行われた以降の所定のタイミングから前記第1所定時間が経過しても、演出表示部にて前記特定の画像が表示されないよう構成されている

ことを特徴とする遊技機である。

【2077】

本態様（6）に係る遊技機は、

遊技の進行を制御する主遊技部（例えば、主制御基板M）と、

前記主遊技部と電氣的に接続され、遊技者にとっての有利度に係る設定値の変更が可能な設定変更モード（例えば、設定変更モード）に移行させるために操作される設定スイッチ（例えば、設定キースイッチ）と

を備え、

前記主遊技部は、所定時間ごとに実行する処理である割り込み処理を実行可能に構成されており、

前記設定変更モードでない所定の遊技状態で電源断が発生し、遊技機に電力が供給されていない状況下で前記設定スイッチがオンとなり、遊技機に電力が供給開始され、前記設定変更モードに移行した後に電源断が発生し、前記設定スイッチがオフとなってから遊技機に電力が供給開始された場合には、前記設定変更モードに移行するよう構成されており、

前記設定変更モードでない所定の遊技状態で電源断が発生し、遊技機に電力が供給されていない状況下で前記設定スイッチがオンとなり、遊技機に電力が供給開始され、当該電力の供給開始から前記所定時間が経過する以前に電源断が発生し、前記設定スイッチがオフとなってから遊技機に電力が供給開始された場合には、前記設定変更モードに移行しないよう構成されている

10

20

30

40

50

ことを特徴とする遊技機である。

【2078】

本態様(7)に係る遊技機は、

複数種類の図柄が設けられた複数のリール(例えば、左リールM51、中リールM52、右リールM53)と、

各前記リールに対応して設けられ、前記リールの回転を停止させるときに遊技者が操作するストップスイッチ(例えば、左停止ボタンD41、中停止ボタンD42、右停止ボタンD43)と、

所定数の範囲内において遊技媒体を電氣的に貯留可能な貯留手段(例えば、クレジット数表示装置D200)と、

遊技の進行に関する制御を行う主遊技部(例えば、主制御基板M)と、

演出音を出力するスピーカ(例えば、スピーカS20)と、

演出の出力に関する制御を行う副遊技部(例えば、副制御基板S)とを備え、

主遊技部は、

役の抽選を実行する役抽選手段と、

前記ストップスイッチが操作されたときに、前記役抽選手段による役抽選結果に対応するように前記リールを停止制御するリール制御手段と

を備え、

前記貯留手段に貯留されている遊技媒体数を増加させる貯留数増加処理と、

遊技媒体の払出を実行する払出処理とを実行可能であり、

リール制御手段により所定の図柄組み合わせが停止表示された場合、遊技者に遊技媒体を付与可能に構成されており、

貯留手段に貯留されている遊技媒体数が、前記所定数である状況にて、前記所定の図柄組み合わせが停止表示され、特定数の遊技媒体が付与される場合には、貯留数増加処理を実行せず、払出処理を実行するよう構成されており、

貯留手段に貯留されている遊技媒体数が、前記所定数から前記特定数を減算した値以下である状況にて、前記所定の図柄組み合わせが停止表示され、前記特定数の遊技媒体が付与される場合には、貯留数増加処理を実行し、払出処理を実行しないよう構成されており、

貯留手段に貯留されている遊技媒体数が、前記所定数から前記特定数を減算した値を超過し且つ前記所定数未満である状況にて、前記所定の図柄組み合わせが停止表示され、前記特定数の遊技媒体が付与される場合には、貯留数増加処理を実行した後に払出処理を実行するよう構成されており、

主遊技部は、

前記所定の図柄組み合わせが停止表示した後に、遊技媒体付与情報を副遊技部に送信可能に構成されており、

副遊技部は、

前記遊技媒体付与情報を受信したことに基づいて、遊技媒体の付与に関する演出音である遊技媒体付与音をスピーカから出力可能に構成されており、

貯留手段に貯留されている遊技媒体数が、前記所定数である状況にて、前記所定の図柄組み合わせが停止表示され、前記特定数の遊技媒体が付与される場合には、前記遊技媒体付与情報を受信したことに基づいて、所定の遊技媒体付与音(例えば、クレジットが1増加する際に出力される遊技媒体付与音、遊技メダルを1枚払い出す際に出力される遊技媒体付与音)を出力可能であり、

貯留手段に貯留されている遊技媒体数が、前記所定数から前記特定数を減算した値以下である状況にて、前記所定の図柄組み合わせが停止表示され、前記特定数の遊技媒体が付与される場合には、前記遊技媒体付与情報を受信したことに基づいて、前記所定の遊技媒体付与音を出力可能であり、

貯留手段に貯留されている遊技媒体数が、前記所定数から前記特定数を減算した値を超

10

20

30

40

50

過し且つ前記所定数未満である状況にて、前記所定の図柄組み合わせが停止表示され、前記特定数の遊技媒体が付与される場合には、前記遊技媒体付与情報を受信したことに基づいて、前記所定の遊技媒体付与音を出力可能であり、

貯留数増加処理の実行中における、貯留手段に貯留されている遊技媒体数が A (A は自然数) となつてから $A + 1$ となるまでの時間値と、 N (N は自然数であり、 $2 \leq N$) 個の遊技媒体を払い出すこととなる払出処理の実行中における、 M (M は自然数であり、 $1 \leq M \leq (N - 1)$) 個目の遊技媒体に関する払出処理の実行開始から $M + 1$ 個目の遊技媒体に関する払出処理の実行開始までの時間値とが相違していることを特徴とする遊技機である。

【2079】

本態様(8)に係る遊技機は、
遊技の進行を制御する主遊技部(例えば、主制御基板 M)と、
演出を制御する副遊技部(例えば、副制御基板 S)と、
演出の実行時に点灯可能な遊技ランプ(例えば、ランプユニット)と、
設定値を表示可能な設定値表示部(例えば、設定表示 LED)と
を備え、

遊技ランプは、点灯パターン(例えば、図270における要素6)を複数有しており、
前記点灯パターンは、点灯態様(例えば、図270における要素5)を複数組み合わせ
て構成されており、

前記点灯態様は、点灯色(例えば、図270における要素1)と点灯時間パターン(例
えば、図270における要素4)との組み合わせであり、

前記点灯時間パターンは、点灯時間(例えば、図270における要素2)と消灯時間(例
えば、図270における要素3)との組み合わせであり、

前記点灯色を複数有しており、点灯時間を複数有しており、消灯時間を複数有しており、

前記点灯パターンとして、所定の異常時に実施し得る第1点灯パターンと、設定値表示
部に設定値が表示されている場合に実施し得る第2点灯パターンと、所定の異常時でない
且つ設定値表示部に設定値が表示されていない場合に実施し得る第3点灯パターンと、を
少なくとも有しており、

前記第1点灯パターンには所定の点灯態様が含まれるよう構成されており、

前記第2点灯パターン及び前記第3点灯パターンには前記所定の点灯態様が含まれない
よう構成されており、

前記第2点灯パターンには特定の点灯態様が含まれるよう構成されており、

前記第1点灯パターン及び前記第3点灯パターンには前記特定の点灯態様が含まれない
よう構成されている

ことを特徴とする遊技機である。

【2080】

本態様(9)に係る遊技機は、
所定数の範囲内において遊技媒体を電氣的に貯留可能な貯留手段(例えば、本例におい
ては、遊技メダルを遊技機内にクレジットとして電氣的に貯留可能となっている)と、

貯留手段に貯留された遊技媒体をベットするときに操作されるスイッチであって、複数
の遊技媒体をベット可能なベットスイッチ(例えば、マックスベットボタン)と、

所定の遊技状態における1遊技あたりの最大のベット数である規定数がベットされたこ
とを報知可能な所定のランプ(例えば、3ベットランプ $D213$)と、

ベットスイッチの操作が有効であることを報知可能な特定のランプ(例えば、マックス
ベットランプ)と、

当選役を決定可能な役決定手段と
を備え、

役決定手段が決定する当選役として、再遊技役を決定可能に構成されており、

前記所定の遊技状態であり、且つ直前に実行されたゲームにて再遊技役が当選しておら
ず、且つ貯留手段に貯留された遊技媒体とベット数との和が前記規定数以上であり、且つ

10

20

30

40

50

ベット数が前記規定数未満である状況では、前記特定のランプが点灯するよう構成されており、

前記特定のランプが点灯している状況において、ベット数が前記規定数となった場合には、前記所定のランプが点灯した後に前記特定のランプが消灯することを特徴とする遊技機である。

【2081】

本態様（10）に係る遊技機は、
遊技の進行を制御する主遊技部（例えば、主制御基板M）と、
演出を制御する副遊技部（例えば、副制御基板S）と
を備え、

遊技機に電力が供給開始されてから主遊技部のプログラムが起動するまでの時間は、電源断が発生してから遊技機への電力の供給が終了するまでの時間よりも長時間であるよう構成されており、

遊技機に電力が供給開始されてから主遊技部のプログラムが起動するまでの時間は、遊技機に電力が供給開始されてから副遊技部のプログラムが起動するまでの時間よりも長時間であるよう構成されている
ことを特徴とする遊技機である。

【2082】

本態様（A1）に係る遊技機は、
複数種類の図柄が設けられた複数のリール（例えば、左リールM51、中リールM52、右リールM53）と、
内部抽せん手段と、
前記リールを制御するリール制御手段と
を備え、

前記リール制御手段は、前記内部抽せん手段により所定の結果が決定された遊技では、遊技者の停止操作に基づいて、所定図柄組合せを停止可能となるよう構成され、

所定の遊技状態であり、且つ前記内部抽せん手段により前記所定の結果が決定された遊技において、遊技者の最終停止操作以外の停止操作により停止された各リールには前記所定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として所定のタイミングで停止操作されて前記所定図柄組合せが表示された後は、前記所定図柄組合せに対応する遊技価値を遊技者に付与し、

前記所定の遊技状態であり、且つ前記内部抽せん手段により前記所定の結果が決定された遊技において、前記各リールには前記所定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として前記所定のタイミングで停止操作されたにもかかわらず、当該最終停止操作に対応するリールへの所定の回転不良により前記所定図柄組合せ以外の図柄組合せが表示された後でも、前記所定図柄組合せに対応する遊技価値を遊技者に付与するよう構成されており、

前記所定の遊技状態であり、且つ前記内部抽せん手段により前記所定の結果とは異なる特定の結果が決定された遊技において、前記各リールには前記所定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として特定のタイミングで停止操作され、当該最終停止操作に対応するリールへの所定の回転不良により前記所定図柄組合せが表示されてしまった状況下でも、前記所定図柄組合せに対応する遊技価値を遊技者に付与しないよう構成されている
ことを特徴とする遊技機である。

【2083】

本態様（A2）に係る遊技機は、
複数種類の図柄が設けられた複数のリール（例えば、左リールM51、中リールM52、右リールM53）と、
内部抽せん手段と、
前記リールを制御するリール制御手段と

10

20

30

40

50

を備え、

電源断を検出した場合には、電源断時処理を実行可能に構成されており、

前記リール制御手段は、前記内部抽せん手段により所定の結果が決定された遊技では、遊技者の停止操作に基づいて、所定図柄組合せを停止可能となるよう構成され、

所定の遊技状態であり、且つ前記内部抽せん手段により前記所定の結果が決定された遊技において、遊技者の最終停止操作以外の停止操作により停止された各リールには前記所定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として所定のタイミングで停止操作されて前記所定図柄組合せが表示された後は、前記所定図柄組合せに対応する遊技価値を遊技者に付与し、

前記所定の遊技状態であり、且つ前記内部抽せん手段により前記所定の結果が決定された遊技において、前記各リールには前記所定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として前記所定のタイミングで停止操作されたにもかかわらず、電源断の検出に基づく電源断時処理が実行されたことにより前記所定図柄組合せ以外の図柄組合せが表示された場合でも、電源復帰後に前記所定図柄組合せに対応する遊技価値を遊技者に付与するよう構成されており、

前記所定の遊技状態であり、且つ前記内部抽せん手段により前記所定の結果とは異なる特定の結果が決定された遊技において、前記各リールには前記所定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として特定のタイミングで停止操作され、電源断の検出に基づく電源断時処理が実行されたことにより前記所定図柄組合せが表示されてしまった場合でも、前記所定図柄組合せに対応する遊技価値を遊技者に付与しないよう構成されていることを特徴とする遊技機である。

【2084】

本態様（A3）に係る遊技機は、

複数種類の図柄が設けられた複数のリール（例えば、左リールM51、中リールM52、右リールM53）と、

内部抽せん手段と、

前記リールを制御するリール制御手段と

を備え、

遊技の進行を遅延させるフリーズを実行可能であり、

前記リール制御手段は、前記内部抽せん手段により所定の結果が決定された遊技では、遊技者の停止操作に基づいて、所定図柄組合せを停止可能となるよう構成され、

所定の遊技状態であり、且つ前記内部抽せん手段により前記所定の結果が決定された遊技において、遊技者の最終停止操作以外の停止操作により停止された各リールには前記所定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として所定のタイミングで停止操作されて前記所定図柄組合せが表示された後は、前記所定図柄組合せに対応する遊技価値を遊技者に付与し、

前記所定の遊技状態であり、且つ前記内部抽せん手段により前記所定の結果が決定された遊技において、前記各リールには前記所定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として前記所定のタイミングで停止操作されたにもかかわらず、当該最終停止操作に対応するリールへの所定の回転不良により前記所定図柄組合せ以外の図柄組合せが表示された後でも、前記所定図柄組合せに対応する遊技価値を遊技者に付与するよう構成されており、

前記リール制御手段は、前記内部抽せん手段により特定の結果が決定された以降の所定の遊技においては、遊技者の停止操作に基づいて特定図柄組合せを停止可能となるよう構成され、

前記内部抽せん手段により特定の結果が決定された以降の所定の遊技において、前記各リールには前記特定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として特定のタイミングで停止操作されて前記特定図柄組合せが表示された後は、所定のフリーズ（例えば、ボーナス開始時のフリーズ）を実行可能に構成され

10

20

30

40

50

ており、

前記内部抽せん手段により特定の結果が決定された以降の所定の遊技において、前記各リールには前記特定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として特定のタイミングで停止操作されたのにもかかわらず、当該最終停止操作に対応するリールへの所定の回転不良により前記特定図柄組合せが表示されなかった後でも、前記所定のフリーズを実行可能に構成されている。

【2085】

本態様（A4）に係る遊技機は、

複数種類の図柄が設けられた複数のリール（例えば、左リールM51、中リールM52、右リールM53）と、

内部抽せん手段と、

前記リールを制御するリール制御手段とを備え、

前記リール制御手段は、前記内部抽せん手段により所定の結果が決定された遊技では、遊技者の停止操作に基づいて、所定図柄組合せを停止可能となるよう構成され、

所定の遊技状態であり、且つ前記内部抽せん手段により前記所定の結果が決定された遊技において、遊技者の最終停止操作以外の停止操作により停止された各リールには前記所定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として所定のタイミングで停止操作されて前記所定図柄組合せが表示された後は、前記所定図柄組合せに対応する遊技価値を遊技者に付与し、

前記所定の遊技状態であり、且つ前記内部抽せん手段により前記所定の結果が決定された遊技において、前記各リールには前記所定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として前記所定のタイミングで停止操作されたのにもかかわらず、当該最終停止操作に対応するリールへの所定の回転不良により前記所定図柄組合せ以外の図柄組合せが表示された後でも、前記所定図柄組合せに対応する遊技価値を遊技者に付与するよう構成されており、

前記リール制御手段は、前記内部抽せん手段により特定の結果が決定された遊技では、遊技者の停止操作に基づいて特定図柄組合せを停止可能となるよう構成され、

前記所定の遊技状態であり、且つ前記内部抽せん手段により前記特定の結果が決定された遊技において、前記各リールには前記特定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として特定のタイミングで停止操作されて前記特定図柄組合せが表示された後は、遊技価値が投入されることによらず次の遊技が実行され得るよう構成されており、

前記所定の遊技状態であり、且つ前記内部抽せん手段により前記特定の結果が決定された遊技において、前記各リールには前記特定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として前記特定のタイミングで停止操作されたのにもかかわらず、当該最終停止操作に対応するリールへの所定の回転不良により前記特定図柄組合せ以外の図柄組合せが表示された後でも、遊技価値が投入されることによらず次の遊技が実行され得るよう構成されている。

【2086】

本態様（A5）に係る遊技機は、

複数種類の図柄が設けられた複数のリール（例えば、左リールM51、中リールM52、右リールM53）と、

内部抽せん手段と、

前記リールを制御するリール制御手段とを備え、

抽せん状態として、第1の抽せん状態と、第1の抽せん状態とは少なくとも特定の結果が決定される確率が相違する第2の抽せん状態と、を少なくとも有しており、

前記リール制御手段は、前記内部抽せん手段により所定の結果が決定された遊技では、遊技者の停止操作に基づいて、所定図柄組合せを停止可能となるよう構成され、

10

20

30

40

50

所定の遊技状態であり、且つ前記内部抽せん手段により前記所定の結果が決定された遊技において、遊技者の最終停止操作以外の停止操作により停止された各リールには前記所定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として所定のタイミングで停止操作されて前記所定図柄組合せが表示された後は、前記所定図柄組合せに対応する遊技価値を遊技者に付与し、

前記所定の遊技状態であり、且つ前記内部抽せん手段により前記所定の結果が決定された遊技において、前記各リールには前記所定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として前記所定のタイミングで停止操作されたにもかかわらず、当該最終停止操作に対応するリールへの所定の回転不良により前記所定図柄組合せ以外の図柄組合せが表示された後でも、前記所定図柄組合せに対応する遊技価値を遊技者に付与するよう構成されており、

10

前記リール制御手段は、前記内部抽せん手段により特定の結果が決定された遊技では、遊技者の停止操作に基づいて、特定図柄組合せを停止可能となるよう構成され、

前記第1の抽せん状態である場合に実行される遊技であり、且つ、前記内部抽せん手段により前記特定の結果が決定された遊技において、前記各リールには前記特定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として特定のタイミングで停止操作されて前記特定図柄組合せが表示された後は、前記第2の抽せん状態に移行可能となるよう構成されており、

前記第1の抽せん状態である場合に実行される遊技であり、且つ、前記内部抽せん手段により前記特定の結果が決定された遊技において、前記各リールには前記特定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として特定のタイミングで停止操作されたにもかかわらず、当該最終停止操作に対応するリールへの所定の回転不良により前記特定図柄組合せ以外の図柄組合せが表示された後でも、前記第2の抽せん状態に移行可能となるよう構成されている

20

ことを特徴とする遊技機である。

【2087】

本態様(A6)に係る遊技機は、

複数種類の図柄が設けられた複数のリール(例えば、左リールM51、中リールM52、右リールM53)と、

内部抽せん手段と、

前記リールを制御するリール制御手段と

特定の結果が決定されたことに基づいて点灯可能な所定のランプ(例えば、再遊技ランプD290)とを備え、

30

前記リール制御手段は、前記内部抽せん手段により所定の結果が決定された遊技では、遊技者の停止操作に基づいて、所定図柄組合せを停止可能となるよう構成され、

所定の遊技状態であり、且つ前記内部抽せん手段により前記所定の結果が決定された遊技において、遊技者の最終停止操作以外の停止操作により停止された各リールには前記所定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として所定のタイミングで停止操作されて前記所定図柄組合せが表示された後は、前記所定図柄組合せに対応する遊技価値を遊技者に付与し、

40

前記所定の遊技状態であり、且つ前記内部抽せん手段により前記所定の結果が決定された遊技において、前記各リールには前記所定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として前記所定のタイミングで停止操作されたにもかかわらず、当該最終停止操作に対応するリールへの所定の回転不良により前記所定図柄組合せ以外の図柄組合せが表示された後でも、前記所定図柄組合せに対応する遊技価値を遊技者に付与するよう構成されており、

前記リール制御手段は、前記内部抽せん手段により特定の結果が決定された遊技では、遊技者の停止操作に基づいて特定図柄組合せを停止可能となるよう構成され、

前記所定の遊技状態であり、且つ前記内部抽せん手段により前記特定の結果が決定され

50

た遊技において、前記各リールには前記特定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として特定のタイミングで停止操作されて前記特定図柄組合せが表示された後は、前記所定のランプが点灯するよう構成されており、

前記所定の遊技状態であり、且つ前記内部抽せん手段により前記特定の結果が決定された遊技において、前記各リールには前記特定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として前記特定のタイミングで停止操作されたにもかかわらず、当該最終停止操作に対応するリールへの所定の回転不良により前記特定図柄組合せ以外の図柄組合せが表示された後でも、前記所定のランプが点灯するよう構成されている

ことを特徴とする遊技機である。

10

【2088】

本態様（A7）に係る遊技機は、

複数種類の図柄が設けられた複数のリール（例えば、左リールM51、中リールM52、右リールM53）と、

内部抽せん手段と、

前記リールを制御するリール制御手段と

特定の結果が決定されたことに基づいて点灯可能な所定のランプ（例えば、再遊技ランプD290）と

を備え、

電源断を検出した場合には、電源断時処理を実行可能に構成されており、

20

前記リール制御手段は、前記内部抽せん手段により所定の結果が決定された遊技では、遊技者の停止操作に基づいて、所定図柄組合せを停止可能となるよう構成され、

所定の遊技状態であり、且つ前記内部抽せん手段により前記所定の結果が決定された遊技において、遊技者の最終停止操作以外の停止操作により停止された各リールには前記所定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として所定のタイミングで停止操作されて前記所定図柄組合せが表示された後は、前記所定図柄組合せに対応する遊技価値を遊技者に付与し、

前記所定の遊技状態であり、且つ前記内部抽せん手段により前記所定の結果が決定された遊技において、前記各リールには前記所定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として前記所定のタイミングで停止操作されたにもかかわらず、電源断の検出に基づく電源断時処理が実行されたことにより前記所定図柄組合せ以外の図柄組合せが表示された場合でも、電源復帰後に前記所定図柄組合せに対応する遊技価値を遊技者に付与するよう構成されており、

30

前記リール制御手段は、前記内部抽せん手段により特定の結果が決定された遊技では、遊技者の停止操作に基づいて特定図柄組合せを停止可能となるよう構成され、

前記所定の遊技状態であり、且つ前記内部抽せん手段により前記特定の結果が決定された遊技において、前記各リールには前記特定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として特定のタイミングで停止操作されて前記特定図柄組合せが表示された後は、前記所定のランプが点灯するよう構成されており、

前記所定の遊技状態であり、且つ前記内部抽せん手段により前記特定の結果が決定された遊技において、前記各リールには前記特定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として前記特定のタイミングで停止操作されたにもかかわらず、電源断の検出に基づく電源断時処理が実行されたことにより前記特定図柄組合せ以外の図柄組合せが表示された場合でも、電源復帰後に前記所定のランプが点灯するよう構成されている

40

ことを特徴とする遊技機である。

【2089】

本態様（A8）に係る遊技機は、

複数種類の図柄が設けられたN個（Nは3以上の自然数）のリール（例えば、左リールM51、中リールM52、右リールM53）と、

50

演出音を出力するスピーカ（例えば、スピーカ S 2 0）と、
内部抽せん手段と、
前記リールを制御するリール制御手段と
を備え、

前記リール制御手段は、前記内部抽せん手段により所定の結果が決定された遊技では、
遊技者の停止操作に基づいて、所定図柄組合せを停止可能となるよう構成され、

所定の遊技状態であり、且つ前記内部抽せん手段により前記所定の結果が決定された遊
技において、遊技者の最終停止操作以外の停止操作により停止された各リールには前記所
定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作
として所定のタイミングで停止操作されて前記所定図柄組合せが表示された後は、前記所
定図柄組合せに対応する遊技価値を遊技者に付与し、

10

前記所定の遊技状態であり、且つ前記内部抽せん手段により前記所定の結果が決定され
た遊技において、前記各リールには前記所定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止さ
れており、その後の遊技者の最終停止操作として前記所定のタイミングで停止操作された
にもかかわらず、当該最終停止操作に対応するリールへの所定の回転不良により前記所定
図柄組合せ以外の図柄組合せが表示された後でも、前記所定図柄組合せに対応する遊技価
値を遊技者に付与するよう構成されており、

特定の遊技状態にて実行された遊技において、遊技者の N - 1 番目のリールに対する停
止操作として特定のタイミングで停止操作され、停止された各リールに特定図柄組合せに
対応する図柄がそれぞれ停止された後は、スピーカから所定の演出音（例えば、テンパイ
音）を出力可能に構成されており、

20

前記特定の遊技状態にて実行された遊技において、遊技者の N - 1 番目のリールに対す
る停止操作として前記特定のタイミングで停止操作されたにもかかわらず、N - 1 番目の
リールに対する所定の回転不良により、停止された各リールに前記特定図柄組合せに対応
する図柄以外の図柄が停止された後でも、スピーカから所定の演出音を出力可能に構成さ
れている

ことを特徴とする遊技機である。

【 2 0 9 0 】

本態様（A 9）に係る遊技機は、

複数種類の図柄が設けられた複数のリール（例えば、左リール M 5 1、中リール M 5 2
、右リール M 5 3）と、

30

所定数の範囲内において遊技価値を電氣的に貯留可能な貯留手段（例えば、クレジット
数表示装置 D 2 0 0）と、

貯留手段に貯留された遊技価値をベットするときに操作されるスイッチであって、複数の
遊技価値をベット可能なベットスイッチ（例えば、マックスベットボタン）と、

ベットスイッチの操作が有効であることを報知可能な特定のランプ（例えば、マックス
ベットランプ）と、

内部抽せん手段と、

前記リールを制御するリール制御手段と
を備え、

40

前記リール制御手段は、前記内部抽せん手段により所定の結果が決定された遊技では、
遊技者の停止操作に基づいて、所定図柄組合せを停止可能となるよう構成され、

所定の遊技状態であり、且つ前記内部抽せん手段により前記所定の結果が決定された遊
技において、遊技者の最終停止操作以外の停止操作により停止された各リールには前記所
定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作
として所定のタイミングで停止操作されて前記所定図柄組合せが表示された後は、前記所
定図柄組合せに対応する遊技価値を遊技者に付与し、

前記所定の遊技状態であり、且つ前記内部抽せん手段により前記所定の結果が決定され
た遊技において、前記各リールには前記所定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止さ
れており、その後の遊技者の最終停止操作として前記所定のタイミングで停止操作された

50

にもかかわらず、当該最終停止操作に対応するリールへの所定の回転不良により前記所定図柄組合せ以外の図柄組合せが表示された後でも、前記所定図柄組合せに対応する遊技価値を遊技者に付与するよう構成されており、

前記リール制御手段は、前記内部抽せん手段により特定の結果が決定された遊技では、遊技者の停止操作に基づいて特定図柄組合せを停止可能となるよう構成され、

前記貯留手段に1以上の遊技媒体が貯留されており、前記所定の遊技状態であり、且つ前記内部抽せん手段により前記特定の結果が決定された遊技において、前記各リールには前記特定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として特定のタイミングで停止操作されて前記特定図柄組合せが表示された後は、前記特定のランプが有効である報知がされないよう構成されており、

10

前記貯留手段に1以上の遊技媒体が貯留されており、前記所定の遊技状態であり、且つ前記内部抽せん手段により前記特定の結果が決定された遊技において、前記各リールには前記特定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として前記特定のタイミングで停止操作されたにもかかわらず、当該最終停止操作に対応するリールへの所定の回転不良により前記特定図柄組合せ以外の図柄組合せが表示された後でも、前記特定のランプが有効である報知がされないよう構成されていることを特徴とする遊技機である。

【2091】

本態様(A10)に係る遊技機は、

複数種類の図柄が設けられた複数のリール(例えば、左リールM51、中リールM52、右リールM53)と、

20

所定数の範囲内において遊技価値を電氣的に貯留可能な貯留手段(例えば、クレジット数表示装置D200)と、

貯留手段に貯留された遊技価値をベットするときに操作されるスイッチであって、複数の遊技価値をベット可能なベットスイッチ(例えば、マックスベットボタン)と、

ベットスイッチの操作が有効であることを報知可能な特定のランプ(例えば、マックスベットランプ)と、

内部抽せん手段と、

前記リールを制御するリール制御手段とを備え、

30

電源断を検出した場合には、電源断時処理を実行可能に構成されており、

前記リール制御手段は、前記内部抽せん手段により所定の結果が決定された遊技では、遊技者の停止操作に基づいて、所定図柄組合せを停止可能となるよう構成され、

所定の遊技状態であり、且つ前記内部抽せん手段により前記所定の結果が決定された遊技において、遊技者の最終停止操作以外の停止操作により停止された各リールには前記所定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として所定のタイミングで停止操作されて前記所定図柄組合せが表示された後は、前記所定図柄組合せに対応する遊技価値を遊技者に付与し、

前記所定の遊技状態であり、且つ前記内部抽せん手段により前記所定の結果が決定された遊技において、前記各リールには前記所定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として前記所定のタイミングで停止操作されたにもかかわらず、電源断の検出に基づく電源断時処理が実行されたことにより前記所定図柄組合せ以外の図柄組合せが表示された場合でも、電源復帰後に前記所定図柄組合せに対応する遊技価値を遊技者に付与するよう構成されており、

40

前記リール制御手段は、前記内部抽せん手段により特定の結果が決定された遊技では、遊技者の停止操作に基づいて特定図柄組合せを停止可能となるよう構成され、

前記貯留手段に1以上の遊技媒体が貯留されており、前記所定の遊技状態であり、且つ前記内部抽せん手段により前記特定の結果が決定された遊技において、前記各リールには前記特定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として特定のタイミングで停止操作されて前記特定図柄組合せが表示された後は、

50

前記特定のランプが有効である報知がされないよう構成されており、

前記貯留手段に1以上の遊技媒体が貯留されており、前記所定の遊技状態であり、且つ前記内部抽せん手段により前記特定の結果が決定された遊技において、前記各リールには前記特定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として前記特定のタイミングで停止操作されたにもかかわらず、電源断の検出に基づく電源断時処理が実行されたことにより前記特定図柄組合せ以外の図柄組合せが表示された場合でも、電源復帰後に前記特定のランプが有効である報知がされないよう構成されている

ことを特徴とする遊技機である。

【2092】

本態様(A11)に係る遊技機は、

複数種類の図柄が設けられた複数のリール(例えば、左リールM51、中リールM52、右リールM53)と、

所定数の範囲内において遊技価値を電氣的に貯留可能な貯留手段(例えば、クレジット数表示装置D200)と、

貯留手段に貯留された遊技価値をベットするときに操作されるスイッチであって、複数の遊技価値をベット可能なベットスイッチ(例えば、マックスベットボタン)と、

ベットスイッチの操作が有効であることを報知可能な特定のランプ(例えば、マックスベットランプ)と、

内部抽せん手段と、

前記リールを制御するリール制御手段とを備え、

前記リール制御手段は、前記内部抽せん手段により所定の結果が決定された遊技では、遊技者の停止操作に基づいて、所定図柄組合せを停止可能となるよう構成され、

所定の遊技状態であり、且つ前記内部抽せん手段により前記所定の結果が決定された遊技において、遊技者の最終停止操作以外の停止操作により停止された各リールには前記所定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として所定のタイミングで停止操作されて前記所定図柄組合せが表示された後は、前記所定図柄組合せに対応する遊技価値を遊技者に付与し、

前記所定の遊技状態であり、且つ前記内部抽せん手段により前記所定の結果が決定された遊技において、前記各リールには前記所定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として前記所定のタイミングで停止操作されたにもかかわらず、当該最終停止操作に対応するリールへの所定の回転不良により前記所定図柄組合せ以外の図柄組合せが表示された後でも、前記所定図柄組合せに対応する遊技価値を遊技者に付与するよう構成されており、

前記貯留手段に1以上の遊技媒体が貯留されており、前記所定の遊技状態であり、且つ前記内部抽せん手段により前記所定の結果が決定された遊技において、前記各リールには前記所定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として所定のタイミングで停止操作されて前記所定図柄組合せが表示された後は、前記特定のランプが有効である報知がされるよう構成されており

前記貯留手段に1以上の遊技媒体が貯留されており、前記所定の遊技状態であり、且つ前記内部抽せん手段により前記所定の結果が決定された遊技において、前記各リールには前記所定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として前記所定のタイミングで停止操作されたにもかかわらず、当該最終停止操作に対応するリールへの所定の回転不良により前記所定図柄組合せ以外の図柄組合せが表示された後でも、前記特定のランプが有効である報知がされるよう構成されている

ことを特徴とする遊技機である。

【2093】

本態様(A12)に係る遊技機は、

複数種類の図柄が設けられた複数のリール(例えば、左リールM51、中リールM52

10

20

30

40

50

、右リールM53)と、

所定数の範囲内において遊技価値を電氣的に貯留可能な貯留手段(例えば、クレジット数表示装置D200)と、

貯留手段に貯留された遊技価値をベットするときに操作されるスイッチであって、複数の遊技価値をベット可能なベットスイッチ(例えば、マックスベットボタン)と、

ベットスイッチの操作が有効であることを報知可能な特定のランプ(例えば、マックスベットランプ)と、

内部抽せん手段と、

前記リールを制御するリール制御手段とを備え、

前記リール制御手段は、前記内部抽せん手段により所定の結果が決定された遊技では、遊技者の停止操作に基づいて、所定図柄組合せを停止可能となるよう構成され、

所定の遊技状態であり、且つ前記内部抽せん手段により前記所定の結果が決定された遊技において、遊技者の最終停止操作以外の停止操作により停止された各リールには前記所定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として所定のタイミングで停止操作されて前記所定図柄組合せが表示された後は、前記所定図柄組合せに対応する遊技価値を遊技者に付与し、

前記所定の遊技状態であり、且つ前記内部抽せん手段により前記所定の結果が決定された遊技において、前記各リールには前記所定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として前記所定のタイミングで停止操作されたにもかかわらず、電源断の検出に基づく電源断時処理が実行されたことにより前記所定図柄組合せ以外の図柄組合せが表示された場合でも、電源復帰後に前記所定図柄組合せに対応する遊技価値を遊技者に付与するよう構成されており、

前記貯留手段に1以上の遊技媒体が貯留されており、前記所定の遊技状態であり、且つ前記内部抽せん手段により前記所定の結果が決定された遊技において、前記各リールには前記所定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として所定のタイミングで停止操作されて前記所定図柄組合せが表示された後は、前記特定のランプが有効である報知がされるよう構成されており

前記貯留手段に1以上の遊技媒体が貯留されており、前記所定の遊技状態であり、且つ前記内部抽せん手段により前記所定の結果が決定された遊技において、前記各リールには前記所定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として前記所定のタイミングで停止操作されたにもかかわらず、電源断の検出に基づく電源断時処理が実行されたことにより前記所定図柄組合せ以外の図柄組合せが表示された場合でも、電源復帰後に前記特定のランプが有効である報知がされるよう構成されている

ことを特徴とする遊技機である。

【2094】

本態様(A13)に係る遊技機は、

複数種類の図柄が設けられた複数のリール(例えば、左リールM51、中リールM52、右リールM53)と、

内部抽せん手段と、

前記リールを制御するリール制御手段とを備え、

遊技状態として、遊技者にとって有利な特別遊技状態を少なくとも有しており、

遊技の進行を遅延させるフリーズを実行可能であり、

前記リール制御手段は、前記内部抽せん手段により所定の結果が決定された遊技では、遊技者の停止操作に基づいて、所定図柄組合せを停止可能となるよう構成され、

所定の遊技状態であり、且つ前記内部抽せん手段により前記所定の結果が決定された遊技において、遊技者の最終停止操作以外の停止操作により停止された各リールには前記所定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作

10

20

30

40

50

として所定のタイミングで停止操作されて前記所定図柄組合せが表示された後は、前記所定図柄組合せに対応する遊技価値を遊技者に付与し、

前記所定の遊技状態であり、且つ前記内部抽せん手段により前記所定の結果が決定された遊技において、前記各リールには前記所定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として前記所定のタイミングで停止操作されたにもかかわらず、当該最終停止操作に対応するリールへの所定の回転不良により前記所定図柄組合せ以外の図柄組合せが表示された後でも、前記所定図柄組合せに対応する遊技価値を遊技者に付与するよう構成されており、

特別遊技状態の終了条件を充足した場合には、所定のフリーズ（例えば、ボーナス終了時フリーズ）を実行可能に構成されており、

10

特別遊技状態であり、前記所定図柄組合せに対応する遊技価値を遊技者に付与することで特別遊技状態の終了条件を充足する状況にて新たに実行された遊技であり、且つ、前記内部抽せん手段により前記所定役が決定された遊技において、前記各リールには前記所定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として所定のタイミングで停止操作されて前記所定図柄組合せが表示された後は、前記所定のフリーズを実行可能に構成されており、

特別遊技状態であり、前記所定図柄組合せに対応する遊技価値を遊技者に付与することで特別遊技状態の終了条件を充足する状況にて新たに実行された遊技であり、且つ、前記内部抽せん手段により前記所定役が決定された遊技において、前記各リールには前記所定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として前記所定のタイミングで停止操作されたにもかかわらず、当該最終停止操作に対応するリールへの所定の回転不良により前記所定図柄組合せ以外の図柄組合せが表示された後でも、前記所定のフリーズを実行可能に構成されていることを特徴とする遊技機である。

20

【2095】

本態様（A14）に係る遊技機は、

複数種類の図柄が設けられた複数のリール（例えば、左リールM51、中リールM52、右リールM53）と、

内部抽せん手段と、

前記リールを制御するリール制御手段とを備え、

30

遊技状態として、遊技者にとって有利な特別遊技状態を少なくとも有しており、

遊技の進行を遅延させるフリーズを実行可能であり、

電源断を検出した場合には、電源断時処理を実行可能に構成されており、

前記リール制御手段は、前記内部抽せん手段により所定の結果が決定された遊技では、遊技者の停止操作に基づいて、所定図柄組合せを停止可能となるよう構成され、

所定の遊技状態であり、且つ前記内部抽せん手段により前記所定の結果が決定された遊技において、遊技者の最終停止操作以外の停止操作により停止された各リールには前記所定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として所定のタイミングで停止操作されて前記所定図柄組合せが表示された後は、前記所定図柄組合せに対応する遊技価値を遊技者に付与し、

40

前記所定の遊技状態であり、且つ前記内部抽せん手段により前記所定の結果が決定された遊技において、前記各リールには前記所定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として前記所定のタイミングで停止操作されたにもかかわらず、電源断の検出に基づく電源断時処理が実行されたことにより前記所定図柄組合せ以外の図柄組合せが表示された場合でも、電源復帰後に前記所定図柄組合せに対応する遊技価値を遊技者に付与するよう構成されており、

特別遊技状態の終了条件を充足した場合には、所定のフリーズ（例えば、ボーナス終了時フリーズ）を実行可能に構成されており、

特別遊技状態であり、前記所定図柄組合せに対応する遊技価値を遊技者に付与すること

50

で特別遊技状態の終了条件を充足する状況にて新たに実行された遊技であり、且つ、前記内部抽せん手段により前記所定役が決定された遊技において、前記各リールには前記所定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として所定のタイミングで停止操作されて前記所定図柄組合せが表示された後は、前記所定のフリーズを実行可能に構成されており、

特別遊技状態であり、前記所定図柄組合せに対応する遊技価値を遊技者に付与することで特別遊技状態の終了条件を充足する状況にて新たに実行された遊技であり、且つ、前記内部抽せん手段により前記所定役が決定された遊技において、前記各リールには前記所定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として前記所定のタイミングで停止操作されたにもかかわらず、電源断の検出に基づく電源断時処理が実行されたことにより前記所定図柄組合せ以外の図柄組合せが表示された場合でも、電源復帰後に前記所定のフリーズを実行可能に構成されていることを特徴とする遊技機である。

【2096】

本態様（A15）に係る遊技機は、

複数種類の図柄が設けられた複数のリール（例えば、左リールM51、中リールM52、右リールM53）と、

内部抽せん手段と、

前記リールを制御するリール制御手段とを備え、

前記リール制御手段は、前記内部抽せん手段により所定の結果が決定された遊技では、遊技者の停止操作に基づいて、所定図柄組合せを停止可能となるよう構成され、

所定の遊技状態であり、且つ前記内部抽せん手段により前記所定の結果が決定された遊技において、遊技者の最終停止操作以外の停止操作により停止された各リールには前記所定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として所定のタイミングで停止操作されて前記所定図柄組合せが表示された後は、前記所定図柄組合せに対応する遊技価値を遊技者に付与するよう構成されており、

前記所定の遊技状態であり、且つ前記内部抽せん手段により前記所定の結果とは異なる特定の結果が決定された遊技において、前記各リールには前記所定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として特定のタイミングで停止操作され、当該最終停止操作に対応するリールへの所定の回転不良により前記所定図柄組合せが表示されてしまった後は、前記所定図柄組合せに対応する遊技価値を遊技者に付与しないよう構成されている

ことを特徴とする遊技機である。

【2097】

本態様（A16）に係る遊技機は、

複数種類の図柄が設けられた複数のリール（例えば、左リールM51、中リールM52、右リールM53）と、

内部抽せん手段と、

前記リールを制御するリール制御手段とを備え、

電源断を検出した場合には、電源断時処理を実行可能に構成されており、

前記リール制御手段は、前記内部抽せん手段により所定の結果が決定された遊技では、遊技者の停止操作に基づいて、所定図柄組合せを停止可能となるよう構成され、

所定の遊技状態であり、且つ前記内部抽せん手段により前記所定の結果が決定された遊技において、遊技者の最終停止操作以外の停止操作により停止された各リールには前記所定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として所定のタイミングで停止操作されて前記所定図柄組合せが表示された後は、前記所定図柄組合せに対応する遊技価値を遊技者に付与するよう構成されており、

前記所定の遊技状態であり、且つ前記内部抽せん手段により前記所定の結果とは異なる

10

20

30

40

50

特定の結果が決定された遊技において、前記各リールには前記所定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として特定のタイミングで停止操作され、電源断の検出に基づく電源断時処理が実行されたことにより前記所定図柄組合せが表示されてしまった後は、前記所定図柄組合せに対応する遊技価値を遊技者に付与しないよう構成されている

ことを特徴とする遊技機である。

【2098】

本態様（A17）に係る遊技機は、

複数種類の図柄が設けられた複数のリール（例えば、左リールM51、中リールM52、右リールM53）と、

内部抽せん手段と、

前記リールを制御するリール制御手段と

を備え、

前記リール制御手段は、前記内部抽せん手段により特定の結果が決定された遊技では、遊技者の停止操作に基づいて特定図柄組合せを停止可能となるよう構成され、

前記所定の遊技状態であり、且つ前記内部抽せん手段により前記特定の結果が決定された遊技において、遊技者の最終停止操作以外の停止操作により停止された各リールには前記特定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として特定のタイミングで停止操作されて前記特定図柄組合せが表示された後は、遊技価値が投入されることによらず次の遊技が実行され得るよう構成されており、

前記所定の遊技状態であり、且つ前記内部抽せん手段により前記特定の結果とは異なる所定の結果が決定された遊技において、前記各リールには前記特定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として所定のタイミングで停止操作され、当該最終停止操作に対応するリールへの所定の回転不良により前記所定図柄組合せが表示されてしまった後は、遊技価値が投入されることによらず次の遊技が実行され得ないよう構成されている

ことを特徴とする遊技機である。

【2099】

本態様（A18）に係る遊技機は、

複数種類の図柄が設けられた複数のリール（例えば、左リールM51、中リールM52、右リールM53）と、

内部抽せん手段と、

前記リールを制御するリール制御手段と

を備え、

前記リール制御手段は、前記内部抽せん手段により特定の結果が決定された遊技では、遊技者の停止操作に基づいて特定図柄組合せを停止可能となるよう構成され、

前記所定の遊技状態であり、且つ前記内部抽せん手段により前記特定の結果が決定された遊技において、遊技者の最終停止操作以外の停止操作により停止された各リールには前記特定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として特定のタイミングで停止操作されて前記特定図柄組合せが表示された後は、遊技価値が投入されることによらず次の遊技が実行され得るよう構成されており、

前記所定の遊技状態であり、且つ前記内部抽せん手段により前記特定の結果が決定された遊技において、前記各リールには前記特定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として前記特定のタイミングで停止操作されたにもかかわらず、当該最終停止操作に対応するリールへの所定の回転不良により前記特定図柄組合せ以外の図柄組合せが表示された後でも、遊技価値が投入されることによらず次の遊技が実行され得るよう構成されている

ことを特徴とする遊技機である。

【2100】

本態様（A19）に係る遊技機は、

複数種類の図柄が設けられた複数のリール（例えば、左リールM51、中リールM52、右リールM53）と、

内部抽せん手段と、

前記リールを制御するリール制御手段と

を備え、

遊技状態として、遊技者にとって有利な特別遊技移行可能状態を少なくとも有しており、遊技の進行を遅延させるフリーズを実行可能であり、

前記リール制御手段は、前記内部抽せん手段により特定の結果が決定された以降の遊技においては、遊技者の停止操作に基づいて特定図柄組合せを停止可能となるよう構成され、

前記内部抽せん手段により特定の結果が決定されてから、前記特定図柄組合せが停止するまでは、前記特別遊技移行可能状態となり得るよう構成されており、

前記内部抽せん手段により特定の結果が決定された以降の所定の遊技において、遊技者の最終停止操作以外の停止操作により停止された各リールには前記特定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として特定のタイミングで停止操作されて前記特定図柄組合せが表示された後は、所定のフリーズ（例えば、ボーナス開始時のフリーズ）を実行可能に構成されており、

特別遊技移行可能状態ではなく、且つ、前記役抽選手段による役の抽選結果が前記特定の結果とは異なる所定の結果となった遊技において、前記各リールには前記特定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として所定のタイミングで停止操作され、当該最終停止操作に対応するリールへの所定の回転不良により前記特定図柄組合せが表示されてしまった後は、前記所定のフリーズを実行しないよう構成されている

ことを特徴とする遊技機である。

【2101】

本態様（A20）に係る遊技機は、

複数種類の図柄が設けられた複数のリール（例えば、左リールM51、中リールM52、右リールM53）と、

内部抽せん手段と、

前記リールを制御するリール制御手段と

を備え、

遊技の進行を遅延させるフリーズを実行可能であり、

前記リール制御手段は、前記内部抽せん手段により特定の結果が決定された以降の遊技においては、遊技者の停止操作に基づいて特定図柄組合せを停止可能となるよう構成され、

前記内部抽せん手段により特定の結果が決定された以降の所定の遊技において、遊技者の最終停止操作以外の停止操作により停止された各リールには前記特定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として特定のタイミングで停止操作されて前記特定図柄組合せが表示された後は、所定のフリーズ（例えば、ボーナス開始時のフリーズ）を実行可能に構成されており、

前記内部抽せん手段により特定の結果が決定された以降の所定の遊技において、前記各リールには前記特定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として特定のタイミングで停止操作されたのにもかかわらず、当該最終停止操作に対応するリールへの所定の回転不良により前記特定図柄組合せが表示されなかった後でも、前記所定のフリーズを実行可能に構成されている

ことを特徴とする遊技機である。

【2102】

本態様（A21）に係る遊技機は、

複数種類の図柄が設けられた複数のリール（例えば、左リールM51、中リールM52、右リールM53）と、

内部抽せん手段と、

前記リールを制御するリール制御手段と

を備え、

抽せん状態として、第1の抽せん状態と、第1の抽せん状態とは少なくとも特定の結果が決定される確率が相違する第2の抽せん状態と、を少なくとも有しており、

前記リール制御手段は、前記内部抽せん手段により特定の結果が決定された遊技では、遊技者の停止操作に基づいて、特定図柄組合せを停止可能となるよう構成され、

前記第1の抽せん状態である場合に実行される遊技であり、且つ、前記内部抽せん手段により前記特定の結果が決定された遊技において、遊技者の最終停止操作以外の停止操作により停止された各リールには前記特定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として特定のタイミングで停止操作されて前記特定図柄組合せが表示された後は、前記第2の抽せん状態に移行可能となるよう構成されており、

10

前記第1の抽せん状態である場合に実行される遊技であり、且つ、前記内部抽せん手段により前記特定の結果とは異なる所定の結果が決定された遊技において、前記各リールには前記特定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として所定のタイミングで停止操作され、当該最終停止操作に対応するリールへの所定の回転不良により前記特定図柄組合せ以外の図柄組合せが表示された後は、前記第2の役抽選状態に移行しないよう構成されている

ことを特徴とする遊技機である。

【2103】

本態様（B1）に係る遊技機は、

複数種類の図柄が設けられた複数のリール（例えば、左リールM51、中リールM52、右リールM53）と、

内部抽せん手段と、

前記リールを制御するリール制御手段と

を備え、

遊技の進行を遅延させるフリーズを実行可能であり、

電源断を検出した場合には、電源断時処理を実行可能に構成されており、

前記リール制御手段は、前記内部抽せん手段により所定の結果が決定された遊技では、遊技者の停止操作に基づいて、所定図柄組合せを停止可能となるよう構成され、

所定の遊技状態であり、且つ前記内部抽せん手段により前記所定の結果が決定された遊技において、遊技者の最終停止操作以外の停止操作により停止された各リールには前記所定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として所定のタイミングで停止操作されて前記所定図柄組合せが表示された後は、前記所定図柄組合せに対応する遊技価値を遊技者に付与し、

30

前記所定の遊技状態であり、且つ前記内部抽せん手段により前記所定の結果が決定された遊技において、前記各リールには前記所定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として前記所定のタイミングで停止操作されたにもかかわらず、電源断の検出に基づく電源断時処理が実行されたことにより前記所定図柄組合せ以外の図柄組合せが表示された場合でも、電源復帰後に前記所定図柄組合せに対応する遊技価値を遊技者に付与するよう構成されており、

40

前記リール制御手段は、前記内部抽せん手段により特定の結果が決定された以降の所定の遊技においては、遊技者の停止操作に基づいて特定図柄組合せを停止可能となるよう構成され、

前記内部抽せん手段により特定の結果が決定された以降の所定の遊技において、前記各リールには前記特定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として特定のタイミングで停止操作されて前記特定図柄組合せが表示された後は、所定のフリーズ（例えば、特別遊技開始時のフリーズ）を実行可能に構成されており、

前記内部抽せん手段により特定の結果が決定された以降の所定の遊技において、前記各リールには前記特定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技

50

者の最終停止操作として特定のタイミングで停止操作されたのにもかかわらず、電源断の検出に基づく電源断時処理が実行されたことにより前記特定図柄組合せが表示されなかった場合でも、電源復帰後に前記所定のフリーズを実行可能に構成されていることを特徴とする遊技機である。

【2104】

本態様（B2）に係る遊技機は、
複数種類の図柄が設けられた複数のリール（例えば、左リールM51、中リールM52、右リールM53）と、
内部抽せん手段と、
前記リールを制御するリール制御手段と
を備え、

電源断を検出した場合には、電源断時処理を実行可能に構成されており、
前記リール制御手段は、前記内部抽せん手段により所定の結果が決定された遊技では、遊技者の停止操作に基づいて、所定図柄組合せを停止可能となるよう構成され、
所定の遊技状態であり、且つ前記内部抽せん手段により前記所定の結果が決定された遊技において、遊技者の最終停止操作以外の停止操作により停止された各リールには前記所定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として所定のタイミングで停止操作されて前記所定図柄組合せが表示された後は、前記所定図柄組合せに対応する遊技価値を遊技者に付与し、

前記所定の遊技状態であり、且つ前記内部抽せん手段により前記所定の結果が決定された遊技において、前記各リールには前記所定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として前記所定のタイミングで停止操作されたにもかかわらず、電源断の検出に基づく電源断時処理が実行されたことにより前記所定図柄組合せ以外の図柄組合せが表示された場合でも、電源復帰後に前記所定図柄組合せに対応する遊技価値を遊技者に付与するよう構成されており、

前記リール制御手段は、前記内部抽せん手段により特定の結果が決定された遊技では、遊技者の停止操作に基づいて特定図柄組合せを停止可能となるよう構成され、

前記所定の遊技状態であり、且つ前記内部抽せん手段により前記特定の結果が決定された遊技において、前記各リールには前記特定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として特定のタイミングで停止操作されて前記特定図柄組合せが表示された後は、遊技価値が投入されることによらず次の遊技が実行され得るよう構成されており、

前記所定の遊技状態であり、且つ前記内部抽せん手段により前記特定の結果が決定された遊技において、前記各リールには前記特定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として前記特定のタイミングで停止操作されたにもかかわらず、電源断の検出に基づく電源断時処理が実行されたことにより前記特定図柄組合せ以外の図柄組合せが表示された場合でも、電源復帰後に遊技価値が投入されることによらず次の遊技が実行され得るよう構成されていることを特徴とする遊技機である。

【2105】

本態様（B3）に係る遊技機は、
複数種類の図柄が設けられた複数のリール（例えば、左リールM51、中リールM52、右リールM53）と、
内部抽せん手段と、
前記リールを制御するリール制御手段と
を備え、

抽せん状態として、第1の抽せん状態と、第1の抽せん状態とは少なくとも特定の結果が決定される確率が相違する第2の抽せん状態と、を少なくとも有しており、

電源断を検出した場合には、電源断時処理を実行可能に構成されており、

前記リール制御手段は、前記内部抽せん手段により所定の結果が決定された遊技では、

遊技者の停止操作に基づいて、所定図柄組合せを停止可能となるよう構成され、

所定の遊技状態であり、且つ前記内部抽せん手段により前記所定の結果が決定された遊技において、遊技者の最終停止操作以外の停止操作により停止された各リールには前記所定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として所定のタイミングで停止操作されて前記所定図柄組合せが表示された後は、前記所定図柄組合せに対応する遊技価値を遊技者に付与し、

前記所定の遊技状態であり、且つ前記内部抽せん手段により前記所定の結果が決定された遊技において、前記各リールには前記所定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として前記所定のタイミングで停止操作されたにもかかわらず、電源断の検出に基づく電源断時処理が実行されたことにより前記所定図柄組合せ以外の図柄組合せが表示された場合でも、電源復帰後に前記所定図柄組合せに対応する遊技価値を遊技者に付与するよう構成されており、

10

前記リール制御手段は、前記内部抽せん手段により特定の結果が決定された遊技では、遊技者の停止操作に基づいて、特定図柄組合せを停止可能となるよう構成され、

前記第1の抽せん状態である場合に実行される遊技であり、且つ、前記内部抽せん手段により前記特定の結果が決定された遊技において、前記各リールには前記特定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として特定のタイミングで停止操作されて前記特定図柄組合せが表示された後は、前記第2の抽せん状態に移行可能となるよう構成されており、

前記第1の抽せん状態である場合に実行される遊技であり、且つ、前記内部抽せん手段により前記特定の結果が決定された遊技において、前記各リールには前記特定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として特定のタイミングで停止操作されたにもかかわらず、電源断の検出に基づく電源断時処理が実行されたことにより前記特定図柄組合せ以外の図柄組合せが表示された場合でも、電源復帰後に前記第2の抽せん状態に移行可能となるよう構成されていることを特徴とする遊技機である。

20

【2106】

本態様（B4）に係る遊技機は、

複数種類の図柄が設けられたN個（Nは3以上の自然数）のリール（例えば、左リールM51、中リールM52、右リールM53）と、

30

演出音を出力するスピーカ（例えば、スピーカS20）と、

内部抽せん手段と、

前記リールを制御するリール制御手段とを備え、

電源断を検出した場合には、電源断時処理を実行可能に構成されており、

前記リール制御手段は、前記内部抽せん手段により所定の結果が決定された遊技では、遊技者の停止操作に基づいて、所定図柄組合せを停止可能となるよう構成され、

所定の遊技状態であり、且つ前記内部抽せん手段により前記所定の結果が決定された遊技において、遊技者の最終停止操作以外の停止操作により停止された各リールには前記所定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として所定のタイミングで停止操作されて前記所定図柄組合せが表示された後は、前記所定図柄組合せに対応する遊技価値を遊技者に付与し、

40

前記所定の遊技状態であり、且つ前記内部抽せん手段により前記所定の結果が決定された遊技において、前記各リールには前記所定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として前記所定のタイミングで停止操作されたにもかかわらず、電源断の検出に基づく電源断時処理が実行されたことにより前記所定図柄組合せ以外の図柄組合せが表示された場合でも、電源復帰後に前記所定図柄組合せに対応する遊技価値を遊技者に付与するよう構成されており、

特定の遊技状態にて実行された遊技において、遊技者のN-1番目のリールに対する停止操作として特定のタイミングで停止操作され、停止された各リールに特定図柄組合せに

50

対応する図柄がそれぞれ停止された後は、スピーカから所定の演出音（例えば、テンパイ音）を出力可能に構成されており、

前記特定の遊技状態にて実行された遊技において、遊技者のN-1番目のリールに対する停止操作として前記特定のタイミングで停止操作されたにもかかわらず、電源断の検出に基づく電源断時処理が実行されたことにより、停止された各リールに前記特定図柄組合せに対応する図柄以外の図柄が停止された場合でも、電源復帰後にスピーカから前記所定の演出音を出力可能に構成されている

ことを特徴とする遊技機である。

【2107】

本態様（B5）に係る遊技機は、

複数種類の図柄が設けられた複数のリール（例えば、左リールM51、中リールM52、右リールM53）と、

内部抽せん手段と、

前記リールを制御するリール制御手段とを備え、

抽せん状態として、第1の抽せん状態と、第1の抽せん状態とは少なくとも特定の結果が決定される確率が相違する第2の抽せん状態と、を少なくとも有しており、

前記リール制御手段は、前記内部抽せん手段により特定の結果が決定された遊技では、遊技者の停止操作に基づいて、特定図柄組合せを停止可能となるよう構成され、

前記第1の抽せん状態である場合に実行される遊技であり、且つ、前記内部抽せん手段により前記特定の結果が決定された遊技において、遊技者の最終停止操作以外の停止操作により停止された各リールには前記特定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として特定のタイミングで停止操作されて前記特定図柄組合せが表示された後は、前記第2の抽せん状態に移行可能となるよう構成されており、

前記第1の抽せん状態である場合に実行される遊技であり、且つ、前記内部抽せん手段により前記特定の結果が決定された遊技において、前記各リールには前記特定図柄組合せに対応する図柄がそれぞれ停止されており、その後の遊技者の最終停止操作として特定のタイミングで停止操作されたにもかかわらず、当該最終停止操作に対応するリールへの所定の回転不良により前記特定図柄組合せ以外の図柄組合せが表示された後でも、前記第2の抽せん状態に移行可能となるよう構成されている

ことを特徴とする遊技機である。

【2108】

<<<本例に適用可能なその他の構成>>>

ここで、本例のぱちんこ遊技機や回胴式遊技機に適用可能なその他の構成を以下に詳述することとする。なお、以下に詳述する構成は、本例に係るすべての実施形態に適用可能であるし、ぱちんこ遊技機においても回胴式遊技機においても適用可能であることを補足しておく。

【2109】

<<ぱちんこ遊技機に適用した場合>>

まず、図321は、有利アイコン表示イメージ図1である。同図においては、ぱちんこ遊技機における大当たり中に有利アイコンが表示される一例を記載している。なお、有利アイコンを、履歴画像、有利画像などと称することがある。

【2110】

<パターン1>

まず、同図上段のパターン1について説明する。時間短縮遊技状態であり、演出表示装置には第1装飾図柄と第2装飾図柄の停止図柄として、「444」が停止表示される。「444」は、大当たり図柄に対応する停止表示態様であり、同図においては実行ラウンド数が4Rの大当たりに係る停止表示態様となっている。また、保留数が2つであり、保留表示が2つ、当該変動示唆画像が1つ表示されている。また、「MAX」と表示された有利ア

10

20

30

40

50

アイコンが1つ表示されている。

【2111】

ここで、当該変動示唆画像とは、保留が消化されて実行されている図柄変動に対応した画像であり、保留表示に類似した表示態様となっている。一例としては、消化される直前の保留表示が保留変化を伴っており、青色の表示態様であった場合に、その後、保留が消化されたことにより当該保留表示も消去されることとなるが、当該消化された保留に対応する当該変動示唆画像が青色の表示態様にて表示されることにより、実行される図柄変動が青色の表示態様の保留表示に対応する図柄変動であることを遊技者は認識できることとなる。

【2112】

なお、このような場合において、青色にて表示された当該変動示唆画像に係る図柄変動の実行中において、当該変動示唆画像の表示態様が変化し得る（例えば、青色→赤色）よう構成してもよい。また、保留表示と当該変動示唆画像とを総称して変動権利画像と称することがある。

【2113】

パターン1の説明に戻ると、「444」の装飾図柄に対応した大当り図柄が停止表示することによって、実行ラウンド数が4Rとなる大当りが開始する。当該4Rの大当りに対応する有利アイコンとしてハートの表示態様の有利アイコンが、「MAX」と表示された有利アイコンが表示されていた領域に表示され、以前から表示されていた「MAX」と表示された有利アイコンが左にシフト移動する。なお、以前から表示されていた有利アイコンは、遊技者が認識できるようにシフト移動するよう構成してもよいし、大当りが開始された後の所定のタイミング（例えば、大当り開始デモ時間が終了したタイミング）で移動後の領域に表示されているように構成してもよい。

【2114】

また、大当りの実行中には、第2装飾図柄は非表示となっており、第1装飾図柄の表示は1つの図柄のみ（大当り図柄の停止時に3つ揃いで確定停止表示された第1装飾図柄と同一の図柄）となっている。

【2115】

<パターン2>

次に、同図中段のパターン2について説明する。時間短縮遊技状態であり、演出表示装置には第1装飾図柄と第2装飾図柄の停止図柄として、「777」が停止表示される。「777」は、大当り図柄に対応する停止表示態様であり、同図においては実行ラウンド数が10Rの大当りに係る停止表示態様となっている。また、保留数が2つであり、保留表示が2つ、当該変動示唆画像が1つ表示されている。また、有利アイコンとして「MAX」と表示された有利アイコンが1つ表示されている。

【2116】

その後、「777」の装飾図柄に対応した大当り図柄が停止表示することによって、実行ラウンド数が10Rとなる大当りが開始する。当該10Rの大当りに対応する有利アイコンとして「MAX」と表示された有利アイコンが、「MAX」と表示された有利アイコンが以前から表示されていた領域に表示され、以前から表示されていた「MAX」と表示された有利アイコンが左にシフト移動する。なお、以前から表示されていた有利アイコンは、遊技者が認識できるようにシフト移動する（移動していることが把握できる）よう構成してもよいし、大当りが開始された後の所定のタイミング（例えば、大当り開始デモ時間が終了したタイミング）で移動後の領域に表示されているように構成してもよい。また、同図においては、有利アイコンの表示領域として3つの有利アイコンを表示可能に構成し、1つのみ有利アイコンを表示する場合には最も右の表示領域に有利アイコンを表示するよう構成したが、これには限定されず、1つのみ有利アイコンを表示する場合には最も左の表示領域に有利アイコンを表示するよう構成してもよい。

【2117】

このように、同図の構成においては、最大ラウンド数である10Rに対応した有利アイ

10

20

30

40

50

コンである「MAX」と表示された有利アイコンと、最大ラウンド数である10R以外の
大当りを含む大当りに対応する有利アイコンであるハートの表示態様の有利アイコンとを
少なくとも有している。

【2118】

なお、ハートの表示態様の有利アイコンは、最大ラウンド数となる大当りに対応しては
表示されないよう構成してもよい。そのように構成することで、「MAX」と表示された
有利アイコンが表示されたときの遊技者の満足感を増加させることができる。また、ハ
ートの表示態様の有利アイコンは、最大ラウンド数となる大当りに対応しても表示され得
よう構成してもよい。そのように構成することで、ハートの表示態様の有利アイコンを、
最大ラウンド数となる大当りと最大ラウンド数以外のラウンド数となる大当りとに対応し
て表示され得よう構成することができ、例えば、ランクアップボーナス（実行ラウンド
数が異なる複数の大当りで同様の演出を実行することで、実行中の大当りがいつまで継続
するかを遊技者に煽る演出態様の大当り）の実行中にハートの表示態様の有利アイコンを
表示することで、実行中の大当りのラウンド数を遊技者に認識されずに大当りを実行する
ことができる。

【2119】

また、同図下段の「有利アイコンの表示領域」に示すように、有利アイコンの表示領域
は有利アイコンを3つ表示可能に構成されており、最も右の表示領域が直近の大当りに対
応する表示領域であり、真ん中の表示領域が直近の1回前の大当りに対応する表示領域で
あり、最も左の表示領域が直近の2回前の大当りに対応する表示領域となっている。この
ように、3回分の大当りに関する有利アイコンを表示可能に構成されている。

【2120】

また、同図における有利アイコンは、時間短縮遊技状態から非時間短縮遊技状態に移行
することですべて消去されるよう構成されている。即ち、非時間短縮遊技状態にて大当り
（初当り）に当選し、大当りが開始されると最も右の表示領域に当該大当りに係る有利ア
イコンが表示され、真ん中の表示領域と最も左の表示領域には有利アイコンは表示されて
いない。その後、時間短縮遊技状態にて再度大当りに当選し、大当りが開始されると最も
右の表示領域に当該大当りに係る有利アイコンが表示され、真ん中の表示領域に初当りに
関する有利アイコンが表示され、最も左の表示領域には有利アイコンは表示されていない
こととなる。

【2121】

なお、同図においては、遊技者にとって有利な特定遊技状態として時間短縮遊技状態を
例示したが、これには限定されず、確率変動遊技状態や確率変動遊技状態且つ時間短縮遊
技状態を特定遊技状態として、同図の構成を適用してもよい。

【2122】

また、4つ目の有利アイコンが最も右の表示領域に表示された場合には、最も左の表示
領域に表示されていた有利アイコンは消去されることとなる。即ち、有利アイコンの表示
は最大で3つまでであり、その後は最も古い有利アイコンの表示が消去されていくことと
なる。なお、同図はあくまで一例であり、有利アイコンが4つ以上表示可能に構成しても
よい。有利アイコンを表示可能な上限数については、以下のように構成してもよい。

（1）演出表示装置の幅（横に表示していく場合には横幅、縦に表示していく場合には縦
幅）が一杯になる数（幅に収まる上限の数）を上限数とする（演出表示装置の幅に合わせ
て上限数を設定する）

（2）第2装飾図柄と重複する手前の位置となる数を上限数とする

（3）右打ち指示画像と重複する手前の位置となる数を上限数とする

上記のように構成してもよい。

【2123】

また、有利アイコンが所定の表示物（例えば、実行中のラウンド数の表示、獲得遊技球
数の表示）と重複する条件として、平均連荘数分の有利アイコンの表示では、所定の表示
物と有利アイコンとの表示領域は重複しないが、平均連荘数を超過した場合の所定の表示

物と有利アイコンとの表示領域は重複し得るよう構成してもよい。

【2124】

また、同図においては、有利アイコンが上限数である3つ表示されている状況下、次の有利アイコンの表示条件を充足した場合（大当たりが開始された場合）には、最も古い有利アイコンを消去するよう構成したが、これには限定されず、以下のように構成してもよい。

（1）「×N（Nは自然数であり、例えば10）」と表示された有利アイコンを表示する（10回分の大当たりに対応した1つの有利アイコンを表示する）

（2）すべての有利アイコンの大当たりを小さくする、及び／又はすべての有利アイコンの間隔を小さくする

（3）サブ入力ボタンなどの操作部材の操作で表示領域をスクロール表示可能にする

上記のように構成してもよい。なお、上記（1）のように構成した場合には、大当たり複数回分の有利アイコンの表示態様は、大当たり1回分の所定の有利アイコンに「×N」が表示された表示態様としてもよいし、大当たり1回分の有利アイコンとは異なる表示態様の有利アイコンに「×N」が表示された表示態様としてもよい。

【2125】

また、本例においては、大当たり図柄が停止表示して大当たりが実行される際には、当該実行される大当たりに関する情報を副制御基板の記憶領域に記憶することとなる。当該記憶する情報は、大当たりに関する様々な情報としてよいが、少なくとも大当たりの実行ラウンド数に関する情報を含めるよう構成することが好適である。また、当該記憶領域には、前述した上限数と同一の数の情報を記憶可能に構成されている。また、実行される大当たりに関する情報は、実行された（発生した）大当たりの順番を把握できるように記憶可能に構成されている。記憶領域の具体的な構成については何ら限定されないが、一例としては以下のように構成してもよい。

1回の連荘中の大当たりとして、「10Rの大当たり→4Rの大当たり→8Rの大当たり」の順に当選した場合、

（1）記憶領域A：10Rの大当たりに関する情報、記憶領域B：なし、記憶領域C：なし

（2）記憶領域A：4Rの大当たりに関する情報、記憶領域B：10Rの大当たりに関する情報、記憶領域C：なし

（3）記憶領域A：8Rの大当たりに関する情報、記憶領域B：4Rの大当たりに関する情報、記憶領域C：10Rの大当たりに関する情報

上記の順に各記憶領域に情報が記憶されていくよう構成してもよい。このように構成することで、記憶領域Aには直近の大当たりに関する情報、記憶領域Bには直近の1回前の大当たりに関する情報、記憶領域Cには直近の2回前の大当たりに関する情報を記憶することができる。

また、記憶領域Aの情報を参照して、直近の大当たりに対応する表示領域の有利アイコンを表示し、記憶領域Bの情報を参照して、直近の1回前の大当たりに対応する表示領域の有利アイコンを表示し、記憶領域Cの情報を参照して、直近の2回前の大当たりに対応する表示領域の有利アイコンを表示するよう構成することにより、前記副制御基板の記憶領域に大当たりに関する情報を大当たりの実行順（発生順）に記憶できると共に、有利アイコンの表示についても、大当たりの実行順（発生順）に表示することができることとなる。

【2126】

なお、有利アイコンの表示期間としては、以下のように構成してもよい。

（1）大当たりの開始時に表示開始され、その後特定遊技状態が終了することで表示が消去される

（2）大当たりにおける所定タイミングで表示開始され、その後特定遊技状態が終了することで表示が消去される

（3）大当たりの開始時に表示開始され、大当たりの終了時に表示が消去される

（4）大当たりにおける所定タイミングで表示開始され、大当たりの終了時に表示が消去される
上記のように構成してもよい。

なお、(3)や(4)のように、大当りの終了時に表示が消去されるよう構成した場合においては、次回の大当りが、特定遊技状態が継続している状態で当選した大当り(連荘中の大当り)であった場合には、当該次回の大当りの実行中には、当該次回の大当り以前の大当りに係る有利アイコンを表示可能に構成してもよい。即ち、特定遊技状態(例えば、時間短縮遊技状態)においては、有利アイコンは表示されないが、大当りに関する情報は記憶したままにしておき、次回の大当りにて、当該次回の大当りの実行に基づいて記憶領域を更新して、有利アイコンを表示するよう構成してもよい。

【2127】

このように、図321においては、当選した(実行された)大当りの履歴表示として有利アイコンを表示したが、有利アイコンは遊技者にとって有利な事象が発生した履歴に関する情報であれば、大当りの履歴表示には限定されず、例えば、小当りの履歴表示、特定遊技状態(確率変動遊技状態、時間短縮遊技状態、確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態、非確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態、確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態、所定の限定頻度状態、小当りラッシュ中、など)の履歴表示、所定ラウンド数以上の大当りの履歴表示、などを有利アイコンとして表示するよう構成してもよい。なお、詳細は後述するが、回胴式遊技機にも有利アイコンを表示する構成は適用可能である。

【2128】

ここで、第1装飾図柄と第2装飾図柄との構成としては、以下のように構成してもよい。

(1) 第1装飾図柄は変動中などに表示領域が移動し得る一方、第2装飾図柄は変動中も表示領域が固定されている

(2) 第1装飾図柄は演出モードによって表示態様が相違し得る(例えば、演出モードAでは数字のみ、演出モードBでは数字+キャラクタ)が、第2装飾図柄は演出モードに拘わらず表示態様が同一(例えば、演出モードに拘わらず数字のみ)となっている

(3) 第1装飾図柄は遊技状態によって表示態様が相違し得る(例えば、遊技状態Aでは数字のみ、遊技状態Bでは数字+キャラクタ)が、第2装飾図柄は遊技状態に拘わらず表示態様が同一(例えば、遊技状態に拘わらず数字のみ)となっている

(4) 第1装飾図柄は1回の図柄変動中に再変動(擬似連続変動に伴う仮停止、など)し得る一方、第2装飾図柄は1回の図柄変動中に再変動しない

(5) 第1装飾図柄は仮停止図柄として確定停止では停止しない特殊図柄(擬似変動が実行されることを示唆する擬似連図柄、リーチとなることを示唆する発展図柄など)が仮停止し得る一方、第2装飾図柄は特殊図柄が仮停止しない(仮停止図柄として存在しない)上記のように構成してもよい。

【2129】

次に、図322は、有利アイコン表示イメージ図2である。同図においては、ぱちんこ遊技機における大当り中に有利アイコンが表示される一例を記載している。

【2130】

<パターン1>

まず、同図上段のパターン1について説明する。非時間短縮遊技状態であり、演出表示装置には第1装飾図柄と第2装飾図柄の停止図柄として、「444」が停止表示される。

「444」は、大当り図柄に対応する停止表示態様であり、同図においては実行ラウンド数が4Rの大当りに係る停止表示態様となっている。また、保留数が2つであり、保留表示が2つ、当該変動示唆画像が1つ表示されている。また、有利アイコンは表示されていない。

【2131】

その後、実行ラウンド数が4Rの大当りに係る大当り開始デモ時間が開始し、当該大当りに対応する有利アイコンとしてハートの表示態様の有利アイコンが表示され、第1右打ち指示画像が3秒間表示される。

【2132】

その後、第1右打ち指示画像の表示が終了し、第2右打ち指示画像の表示が開始される。なお、第1右打ち指示画像と第2右打ち指示画像とは同時に表示されるよう構成しても

10

20

30

40

50

よい。

【2133】

ここで、第1右打ち指示画像と第2右打ち指示画像とはいずれも、遊技者に対して右打ちを実行すべき旨を報知する画像であり、第1右打ち指示画像は遊技者に対して右打ちをすべき旨を強く報知する場合に表示される画像であり、例えば、大当たり開始デモ時間の開始時、大当たりにおける1ラウンド目の開始時、大当たり中における所定タイミング（特定領域に遊技球が入球し得るラウンドの開始前など）、小当たり開始デモ時間の開始時（小当たりVの遊技機における小当たり開始デモ時間の開始時など）、小当たりにおけるラウンドの開始時、大当たり図柄停止中であり且つ大当たり開始前（前述した「特定のゲート」に遊技球を入球させるタイミング）、大当たりの終了後の最初の図柄変動開始時、右打ちをすべき遊技状態にて左打ちにて入球し得る入球口に遊技球が入球した場合（所定時間内に所定数の入球があった場合なども含む）、などによって表示され、所定時間経過すると表示が終了する。

10

【2134】

また、第2右打ち指示画像は遊技者に対して右打ちをすべき旨を継続的に報知する場合に表示される画像であり、例えば、大当たりの実行中に常時表示される、大当たりの実行中における第1右打ち指示画像が表示されていない期間にて常時表示される、右打ちをすべき遊技状態にて常時表示される、などとなっている。

【2135】

また、右打ちをすべき遊技状態（大当たり中も含む）から左打ちをすべき遊技状態に移行したときには、左打ち指示画像（例えば、第1右打ち指示画像のように大きく3秒間表示）として「左打ちに戻してください」と表示するよう構成してもよい。また、左打ち指示画像の表示プライオリティは第1右打ち指示画像と同一としてもよい。

20

【2136】

また、同図に示すように、第1右打ち指示画像の表示領域と有利アイコンの表示領域とは重複する場合があるよう構成されており、表示領域が重複した場合には、第1右打ち指示画像の方が有利アイコンよりも前面に表示される（表示プライオリティが高い）よう構成されている。このように構成することにより、有利アイコンと第1右打ち指示画像との表示領域が重複した場合にも、第1右打ち指示画像をはっきりと確認することができ、遊技者が右打ちをすべき旨を視認し易いよう構成することができる。なお、前面に表示されることを、表示優先度が高い、表示プライオリティが高いと称することがあり、後面に表示されることを、表示優先度が低い、表示プライオリティが低いと称することがある。

30

【2137】

また、第2右打ち指示画像の表示領域と有利アイコンの表示領域とは重複しないよう構成されている。このように構成することにより、有利アイコンと第2右打ち指示画像とが同時に表示されている場合にも、有利アイコンの表示が第2右打ち指示画像の視認性を阻害せず、遊技者が右打ちをすべき旨を視認し易いと共に、有利アイコンも視認でき、スムーズな遊技進行と興趣性とを同時に担保することができる。

【2138】

第2右打ち指示画像を、時短中右打ち画像、第2指示画像、第2報知画像などと称することがあり、第1右打ち指示画像を、右打ち指示画像、第1指示画像、第1報知画像などと称することがある。また、第1右打ち指示画像と第2右打ち指示画像とを、単に、指示画像、報知画像などと称することがある。

40

【2139】

イメージ図の説明に戻ると、その後、大当たりの実行中に上皿満タンエラーが発生し、エラー表示として演出表示装置に「球を抜いてください」と表示される。なお、上皿満タンエラーは、上皿に賞球された遊技球が貯留過多となっている場合に発生し得るエラーであり、遊技の進行に影響がない相対的に軽微なエラーとなっている。

【2140】

なお、上皿満タンエラーに関するエラー表示の表示領域と有利アイコンの表示領域とは

50

重複しないよう構成されている。このように構成することにより、有利アイコンと軽微なエラーに関するエラー表示とが同時に表示されている場合にも、有利アイコンの表示がエラー表示の視認性を阻害せず、遊技者はエラーが発生中である旨を視認することでエラーの原因を把握し易いと共に、有利アイコンも視認でき、スムーズな遊技進行と興趣性を同時に担保することができる。

【2141】

その後、大当たりが終了し、時間短縮遊技状態に移行する。大当たり中に表示されていたハートの表示態様の有利アイコンの表示は継続しており、図柄変動が開始される。ここで、同図に示すように、第1装飾図柄の表示領域と有利アイコンの表示領域とは重複する場合があるよう構成されており、表示領域が重複した場合には、第1装飾図柄の方が有利アイコンよりも前面に表示される（表示プライオリティが高い）よう構成されている。このように構成することにより、有利アイコンと第1装飾図柄との表示領域が重複した場合にも、第1装飾図柄をはっきりと確認することができ、遊技者が遊技の結果を把握し易いよう構成することができる。また、同図においては、第1装飾図柄の変動中に第1装飾図柄の表示領域と有利アイコンの表示領域とが重複する場合を例示したが、第1装飾図柄の停止表示時に第1装飾図柄の表示領域と有利アイコンの表示領域とが重複するよう構成してもよい。

10

【2142】

なお、有利アイコンと第1装飾図柄との表示領域が重複した場合に、有利アイコンの方が第1装飾図柄よりも前面に表示されるよう構成してもよい。そのように構成した場合には、第1装飾図柄の停止表示時に第1装飾図柄の表示領域と有利アイコンの表示領域とが重複しないようにしてもよいし、第2装飾図柄の表示領域と有利アイコンの表示領域とが重複しないようにしてもよい。これにより、装飾図柄の停止表示態様が視認できずに遊技者が混乱してしまう事態を防止することができる。

20

【2143】

また、有利アイコンの上限数を30個などに設計した場合において、連荘が継続して有利アイコンの表示が増加していき、演出表示装置に表示されている有利アイコンが30個になった場合には、変動表示中の第1装飾図柄のみでなく、停止表示中の第1装飾図柄の表示領域と重複する場合があるよう構成してもよい。また、そのように構成した場合においても、30個の有利アイコンが表示されている場合においても、有利アイコンと第2装飾図柄とは表示領域が重複しないように構成してもよい。

30

【2144】

また、有利アイコンよりも第1装飾図柄の表示優先度を高くするよう構成した場合において、有利アイコンと変動表示中の第1装飾図柄との表示領域が重複した場合には、当該重複している表示領域において有利アイコンが視認可能（変動表示中の第1装飾図柄が半透明で表示されているため）である一方、有利アイコンと停止表示中の第1装飾図柄との表示領域が重複した場合には、当該重複している表示領域において有利アイコンが視認不可能（または視認困難）となるよう構成してもよい。また、変動表示中の第1装飾図柄よりも有利アイコンの表示優先度が高く、停止表示中の第1装飾図柄は有利アイコンよりも表示優先度が高いよう構成してもよい。

40

【2145】

なお、保留表示の表示領域と有利アイコンの表示領域とは重複しないよう構成されている。また、当該変動示唆画像の表示領域と有利アイコンの表示領域とは重複しないよう構成されている。このように構成することにより、有利アイコンと保留表示（または当該変動示唆画像）とが同時に表示されている場合にも、有利アイコンの表示が保留表示（または当該変動示唆画像）の視認性を阻害しないこととなる。また、有利アイコンが特定遊技状態にて表示されるよう構成した場合には、増減する保留表示の視認性を阻害しないことで、遊技者は遊技球を発射すべきか否かの判断に迷うことがなくなり、発射操作をスムーズにすることができる。

【2146】

50

次に、図 3 2 3 は、有利アイコン表示イメージ図 3 である。同図においては、ぱちんこ遊技機における時間短縮遊技状態にて有利アイコンが表示される一例を記載している。

【 2 1 4 7 】

時間短縮遊技状態であり、演出表示装置には第 1 装飾図柄と第 2 装飾図柄の停止図柄として、「4 3 8」が停止表示されている。「4 3 8」は、ハズレ図柄に対応する停止表示態様である。また、保留数は 0 であり、保留表示も当該変動示唆画像も非表示となっている。また、有利アイコンとして「MAX」と表示された有利アイコンが 1 つ表示されている。

【 2 1 4 8 】

< パターン 1 >

まず、同図上段のパターン 1 について詳述する。パターン 1 は遊技者が副制御基板にて制御される操作部材（サブ入力ボタン、十字キーなど）などの操作部材（総称してサブ側の操作部材と称することがある）を操作することによって音量光量調整画像が表示された状態を図示している。なお、音量光量調整画像については、以下のように構成してもよい。

（１）サブ側の操作部材を操作してメニュー画面を表示させ、メニュー画面が表示されている状況にて再度サブ側の操作部材を操作することで音量光量調整画像が表示される

（２）音量調整画面と光量調整画面とは別の画面となっており、表示される条件が異なる

（３）音量調整画面と光量調整画面とは別の画面となっており、同時に表示されない

（４）音量光量調整画像とは別に、遊技を進行していない状況が所定時間継続すると音量光量調整案内画面が表示される（例えば、「サブ入力ボタンの操作で音量または光量調整ができます」と表示）

（５）図柄停止中のみ音量光量調整画像が表示可能（音量光量調整が可能）に構成する

（６）図柄変動中にも音量光量調整画像が表示可能（音量光量調整が可能）に構成する

（７）音量光量調整画像の表示中に発射ハンドルの操作を検知すると、音量光量調整画像の表示が消去される

（８）音量光量調整画像の表示中に所定の入球口に遊技球が入球すると、音量光量調整画像の表示が消去される

【 2 1 4 9 】

同図のパターン 1 に示すように、音量光量調整画像と有利アイコンとを同時に表示する場合には、音量光量調整画像の表示領域と有利アイコンの表示領域とが重複する場合があるよう構成されており、表示領域が重複した場合には、音量光量調整画像の方が有利アイコンよりも前面に表示される（表示プライオリティが高い）よう構成されている。音量光量調整画像は遊技者の操作によって表示されるため、音量光量調整画像が表示される場合には遊技者が音量又は光量を調整することを所望している可能性が高い。よって、音量光量調整画像を有利アイコンよりも前面に表示することにより、遊技者の目的に合った画像の視認性を実現することができる。

【 2 1 5 0 】

< パターン 2 >

次に、同図下段のパターン 2 について詳述する。パターン 2 は振動エラーが発生し、振動エラーに係るエラー表示として演出表示装置に「振動エラー発生！」と表示された状態を図示している。なお、振動エラーは、遊技機に対して大きな振動が発生した場合に発生し得るエラーであり、遊技の進行に影響し得る相対的に重大なエラーとなっている。前述した上皿満タンエラーのような軽微なエラーとは異なり、振動エラーのような重大なエラーに関するエラー表示と有利アイコンの表示とは重複し得るよう構成されている。具体的には、振動エラーに関するエラー表示と有利アイコンとが同時に表示される場合、振動エラーに関するエラー表示の表示領域と有利アイコンの表示領域とが重複し、振動エラーに関するエラー表示の表示領域が前面に表示される（表示プライオリティが高い）よう構成されている。このように構成することにより、有利アイコンと振動エラーに関するエラー表示との表示領域が重複した場合にも、振動エラーに関するエラー表示をはっきりと確認することができ、重大なエラーが発生していることをいち早く発見することができるよう

10

20

30

40

50

構成することができる。

【2151】

図322及び図323で前述したように、本例においては軽微なエラーに係る所定のエラー表示は有利アイコンと重複しない一方、重大なエラーに係る特定のエラー表示は有利アイコンと重複し得るよう構成されている。また、重大なエラーに係る特定のエラー表示と有利アイコンとが重複した場合には、重大なエラー表示の方が有利アイコンよりも表示優先度が高くなるよう構成されている。

【2152】

エラー表示と有利アイコンとの表示領域が重複した場合において、エラー表示によって有利アイコンの表示が完全に視認不可能になっていてもよいし、有利アイコンの一部が視認不可能となってもよく、即ち、有利アイコンよりもエラー表示の方が、表示優先度が高くなっていれば問題ない。なお、当該構成は、軽微なエラー表示にも重大なエラー表示にも適用可能である。

10

【2153】

なお、本例においては、重大なエラーとして振動エラーを例示し、軽微なエラーとして上皿満タンエラーを例示したが、これらは変更しても問題ない。また、重大なエラーと軽微なエラーとを以下のように定義してもよい。

(1) あらかじめ定められたエラー優先度に基づいて、所定の閾値を超える優先度のエラーを重大なエラーとし、所定の閾値を超えない優先度のエラーを軽微なエラーとする

(2) 遊技の結果に影響がある(遊技者に不利益となる可能性がある)エラーを重大なエラーとし、遊技の結果に影響がない(又は影響が軽微である)エラーを軽微なエラーとする

20

(3) 遊技の進行ができない(又は一部の遊技が進行できない)エラーを重大なエラーとし、遊技の進行に影響がないエラーを軽微なエラーとする

(4) エラーの原因を取り除くのみでは解除されないエラーを重大なエラーとし、エラーの原因を取り除くことで解除可能なエラーを軽微なエラーとする

(5) 電源断の発生なしで解除できないエラーを重大なエラーとし、電源断の発生なしで解除可能なエラーを軽微なエラーとする

上記のように構成してもよい。なお、上記の構成は、ぱちんこ遊技機のみでなく回胴式遊技機にも適用可能である。

また、重大なエラーと軽微なエラーとの表示プライオリティに関する構成は、すべてのエラーに対して適用する必要はなく、所定の重大なエラーと特定の軽微なエラーとに適用するよう構成してもよい。

30

【2154】

次に、図324は、有利アイコン表示イメージ図4である。同図においては、ぱちんこ遊技機における大当たり中に有利アイコンが表示される一例を記載している。

【2155】

まず、非時間短縮遊技状態であり、演出表示装置には第1装飾図柄と第2装飾図柄の停止図柄として、「444」が停止表示される。「444」は、大当たり図柄に対応する停止表示態様であり、同図においては実行ラウンド数が4R以上であるが、実際のラウンド数を事前に報知しない大当たりに係る停止表示態様となっている。また、保留数が2つであり、保留表示が2つ、当該変動示唆画像が1つ表示されている。また、有利アイコンは表示されていない。

40

【2156】

次に、大当たりが開始し、大当たり中の演出としてバトル演出が実行開始され(当該大当たりをバトル大当たりと称することがある)、当該大当たりに対応する有利アイコンとしてハートの表示態様の有利アイコンが表示される。

【2157】

<パターン1>

同図上段のパターン1については、バトル演出の結果として「敗北・・・」が表示され、実行ラウンド数が4Rの大当たりであった旨が報知される。

50

【2158】

<パターン2>

同図中段のパターン2については、バトル演出の結果として勝利である旨の「10RG
ET!」が表示され、実行ラウンド数が10Rの大当たりであった旨が報知される。その後、第5Rが実行されることとなる。

【2159】

このように、同図においては、実行ラウンド数が4Rの大当たりと10Rの大当たりとで、大当たり中の演出として同様のバトル演出を実行し、バトル演出の結果として、実行ラウンド数を報知可能に構成されている。

【2160】

また、同図の構成においては、バトル演出を実行する大当たりに対応する有利アイコンとして、実行ラウンド数が4Rの大当たりである場合にも実行ラウンド数が10Rである大当たりの場合にもハートの表示態様の有利アイコンを表示するよう構成されている。このように構成することにより、有利アイコンの表示態様を視認することでバトル演出の結果がわかってしまい興趣性が低下してしまわないように構成することができると共に、「MAX」と表示された有利アイコンではなく、ハートの表示態様の有利アイコンが表示された場合においても、最大ラウンド数である10Rの大当たりであることに期待感を抱きながら遊技を進行することができる。

【2161】

パターン1とパターン2のように、同一の有利アイコンを表示する場合においても異なる実行ラウンド数の大当たりである場合があるよう構成されている。このような構成は、実行ラウンド数のみには限定されず、様々な異なる状態に対して同一の有利アイコンを表示可能に構成してもよい。異なる状態の一例としては、以下の構成を適用してもよい。

(1) ぱちんこ遊技機における、大当たり終了後の遊技状態が異なる2つの大当たり

(2) ぱちんこ遊技機における、遊技球の平均獲得数が異なる2つの大当たり

(3) 異なる2つの遊技状態

(4) 回胴式遊技機における指示の実行可能回数が異なる状態

(5) 回胴式遊技機におけるATのゲーム数が異なる状態

(6) 回胴式遊技機におけるAT状態と特化状態(有利なAT状態)

(7) 回胴式遊技機における異なるRT状態

(8) 回胴式遊技機における異なる演出モード

【2162】

<パターン3>

同図下段のパターン3については、非時間短縮遊技状態であり、演出表示装置には第1装飾図柄と第2装飾図柄の停止図柄として、「777」が停止表示される。「777」は、大当たり図柄に対応する停止表示態様であり、同図においては実行ラウンド数が10Rである大当たりに係る停止表示態様となっている。また、保留数が2つであり、保留表示が2つ、当該変動し唆画像が1つ表示されている。また、有利アイコンは表示されていない。

【2163】

その後、10Rの大当たりが開始し、「777」に対応する大当たりは実行ラウンド数が10Rの大当たりのみであるため、大当たり中の演出としてバトル演出を実行せず、ライオンが表示されている。また、有利アイコンとして「MAX」と表示された有利アイコンが1つ表示されている。

【2164】

このように、同図においては、実行ラウンド数が10Rの大当たりが実行される場合において、ハートの表示態様の有利アイコンを表示する場合と「MAX」と表示された有利アイコンを表示する場合と有している。このように構成することにより、同一の実行ラウンド数である大当たりにおいても、事前に報知する場合と報知しない場合とを設けることにより、大当たり中においても期待感を持ちながら遊技を実行することができる。

【2165】

パターン２とパターン３のように、同一の実行ラウンド数である大当りにおいても異なる有利アイコンを表示可能に構成されている。このような構成は、実行ラウンド数のみには限定されず、様々な同一の状態に対して異なる有利アイコンを表示可能に構成してもよい。同一の状態の一例としては、以下の構成を適用してもよい。

- (１) ぱちんこ遊技機における、大当り終了後の遊技状態が同一の２つの大当り
 - (２) ぱちんこ遊技機における、遊技球の平均獲得数が同一の２つの大当り
 - (３) 回胴式遊技機における指示の実行可能回数が同一の状態
 - (４) 回胴式遊技機における同一のＡＴに関する状態
 - (５) 回胴式遊技機におけるＡＴゲーム数が同一の状態
 - (６) 回胴式遊技機におけるＡＴ状態と特化状態（有利なＡＴ状態）など、指示が実行可能な状態であり内部抽選の実行態様は同一の状態
 - (７) 回胴式遊技機における同一のＲＴ状態
 - (８) 回胴式遊技機における同一の演出モード
 - (９) 回胴式遊技機におけるＡＴ状態における指示の回数が同一の状態
- 【２１６６】

また、図３２４のパターン２にて図示したバトル演出のように、大当りの実行中に実行ラウンド数が最大ラウンド数の大当りである旨を報知する演出（昇格演出と称することがある）を実行する場合における、有利アイコンに関する構成としては、以下のように構成してもよい。なお、最大ラウンド数に対応する有利アイコンが「MAX」と表示された有利アイコンであり、最大ラウンド以外にも対応する有利アイコンが「ハート」の表示態様の場合を例示している。また、図３２４のパターン２にて例示した「１０ＲＧＥＴ！」と表示され敵キャラに攻撃がヒットしたタイミング、換言すると、遊技者が最大ラウンド数の大当りであることを認識可能なタイミングを昇格タイミングと称することとする。

- (１) 昇格タイミングでは有利アイコンは「ハート」の表示態様のままとなっており、大当り終了後の特定遊技状態では「MAX」と表示された有利アイコンを表示する
- (２) 昇格タイミングにて有利アイコンが「MAX」と表示された有利アイコンとなる（例えば、可動体役物が駆動し、可動体役物が駆動終了すると「MAX」の表示に変化している）
- (３) 昇格タイミングで昇格時専用の有利アイコン（例えば、「昇格！」と表示されたアイコン）に変化する

【２１６７】

また、第１主遊技側の実行ラウンド数が４Ｒの非確変大当り（終了後に非確率変動遊技状態となる大当り）と、第２主遊技側の実行ラウンド数が６Ｒの非確変大当りとは、実行ラウンド数が異なるが、非確変大当りに対応した同一の有利アイコンを表示するよう構成してもよい。

【２１６８】

また、第１主遊技側の実行ラウンド数が３Ｒの確変大当り（終了後に確率変動遊技状態となる大当り）と、第２主遊技側の実行ラウンド数が１０Ｒの確変大当りとは、実行ラウンド数が異なるが、確変大当りに対応した同一の有利アイコンを表示するよう構成してもよい。

【２１６９】

また、ぱちんこ遊技機における有利アイコンの種類として、大当り中に生起している保留の消化に係る大当り（保留内連荘とも称することがある）時専用の表示態様や、非確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態にて当選した（引き戻した）大当り時専用の表示態様や、バトル演出（大当り中に実行される演出であり大当り終了後の遊技状態が確率変動遊技状態であるか否かを煽る演出であってもよいし、大当り図柄に係る変動表示中に実行される演出であり大当り終了後の遊技状態が確率変動遊技状態であるか否かを煽る演出であってもよい）にて勝利したキャラクタに関する表示態様や、ミッション演出（ミッションクリアで大当りとなる変動表示中の演出）で成功したことに係る表示態様や、時間短縮遊技状態の最終変動で大当りとなったことに係る表示態様、ストーリーリーチなどの大

当たりとなったリーチ演出に関する表示態様、などを有するよう構成してもよい。

【2170】

また、回胴式遊技機における有利アイコンの種類として、所定のフリーズ演出で当選したボーナスまたはAT状態に関する表示態様や、バトル演出（ボーナス当選またはAT状態当選を煽る演出）にて勝利したキャラクタに関する表示態様や、ミッション演出（ミッションクリアでボーナスまたはAT状態となる演出）で成功したことに関する表示態様や、AT状態の最終遊技で大当たりとなったことに関する表示態様、などを有するよう構成してもよい。

【2171】

また、有利アイコンが表示されている状況にて遊技機への電源供給が遮断され、その後電源復帰した場合においては、以下のように構成してもよい。

（1）電源断前の有利アイコンを再度表示する

（2）電源断前の有利アイコンは表示しない

（3）大当たり中に電源断した場合には、大当たり終了後までは有利アイコンを非表示とし、大当たり終了後に有利アイコンを表示する

（4）主制御基板側からの所定のコマンドを受信したことに基づいて有利アイコンの表示を再開する

【2172】

また、大当たり開始時には「ハート」の表示態様の有利アイコンが1つのみ表示されており、大当たりの実行途中に昇格演出が実行されて、「MAX」と表示された有利アイコンに変化した場合において、「MAX」と表示された有利アイコンの表示中に遊技機への電源供給が遮断され、その後電源復帰した場合においては、以下のように構成してもよい。

（1）「MAX」と表示された有利アイコンを再度表示する

（2）「ハート」の表示態様の有利アイコンを表示する

（3）有利アイコンを表示しない

（4）大当たり終了後までは有利アイコンを非表示とし、大当たり終了後に「MAX」と表示された有利アイコンを再度表示する

（5）主制御基板側からの所定のコマンドを受信したことに基づいて「MAX」と表示された有利アイコンの表示を再開する

【2173】

<<回胴式遊技機に適用した場合>>

まず、図325は有利アイコン表示イメージ図5である。同図においては、回胴式遊技機における履歴表示の一例を図示している。

【2174】

<履歴表示イメージ1>

まず、同図上段の履歴表示イメージ1について説明する。同図は、遊技の停止中など所定条件を充足している状況にてサブ側の操作部材を操作することによって表示可能なメニュー画面にて、再度サブ側の操作部材で決定操作することで表示される画面である。より具体的には、リールが停止している状況にて、サブ入力ボタンを操作してメニュー画面を表示させ、その後十字キーでカーソルを履歴表示に合わせた状態でサブ入力ボタンの操作で決定することで表示される画面となっている。なお、履歴表示は演出表示装置に表示される画面である。

【2175】

同図においては、「履歴」として、「333」、「777」、「ラッシュA」、「ラッシュB」の4種類の有利アイコンが表示されており、実行された順番に表示されている。なお、同図においては上段が古い履歴であり下段が直近の履歴（新しい履歴）となっている。

【2176】

具体的には、191ゲームで「333」が実行され、その後、35ゲームで「333」が実行され、その後120ゲームで「777」が実行され、その後1ゲームで「ラッシュ

10

20

30

40

50

A」が実行され、その後50ゲームで「ラッシュA」が実行され、その後50ゲームで「ラッシュB」が実行され、その後50ゲームで「ラッシュA」が実行された旨が表示されている。

【2177】

なお、同図における実行されたゲーム数の表示は、有利アイコンに付帯された表示であることから、付帯表示と称することがある。その他の適用可能な付帯表示に関する構成は後述することとする。

【2178】

また、同図においては、「333」と「777」はボーナス（第1種特別役物連続作動装置などであり、「333」よりも「777」の方が、遊技者が獲得可能な遊技メダルの期待値が高い）が実行されたことを示しているが、これには限定されず、所定のAT状態であるが、演出上ボーナスが実行されているように見せる状態を示していてもよい。また、「ラッシュA」と「ラッシュB」とはいずれもAT状態であるが、ATゲーム数の上乘せ抽選の実行態様が異なっている。具体的には、「ラッシュA」よりも「ラッシュB」の方が、1ゲームあたりの上乗せ抽選に当選する確率が高く、上乘せ抽選に1回当選した毎の上乗せゲーム数が多くなっている。また、「ラッシュA」と「ラッシュB」とは同一のRT状態であってもよいし、異なるRT状態であってもよい。

【2179】

また、演出表示装置右部には、「333」、「777」、「ラッシュA」、「ラッシュB」が実行された回数が表示されている。なお、このような、履歴表示を表示するために参照される履歴情報は、電源断が発生することで消去されるよう構成してもよいし、設定変更モードに移行することによって消去されるよう構成してもよい。

【2180】

このように、回胴式遊技機においても、上述したぱちんこ遊技機に関する有利アイコンの構成と同様に、複数種類の有利アイコンを表示することができ、ボーナスやAT状態といった、遊技者にとって有利な状態（または事象）に関する情報を実行された順番で記憶し、当該記憶した情報に対応した有利アイコンを実行された順番に表示することが可能となっている（詳細は上述したぱちんこ遊技機と同様）。

【2181】

なお、「ラッシュA」と「ラッシュB」とが同一の遊技状態であり、AT上乘せに関して相違するよう構成した場合、即ち、「ラッシュA」と「ラッシュB」とで、RT状態が同一であり、内部抽選における当選確率も同一であり、AT上乘せに関して相違するよう構成した場合には、同一の遊技状態（「ラッシュA」と「ラッシュB」）にて複数種類の有利アイコンを表示可能に構成することができる。

【2182】

また、獲得遊技メダル数、継続ゲーム数、指示の実行回数、継続セット数などが異なっている場合においても、同一の有利アイコンとして「ラッシュA」や「ラッシュB」を表示し得るよう構成してもよい。

【2183】

＜履歴表示イメージ2＞

次に、同図下段の履歴表示イメージ2について説明する。同図においては、ATが連荘したセット数を演出表示装置に履歴表示として表示する場合を例示している。同図における履歴表示は、遊技の停止中など所定条件を充足している状況にてサブ側の操作部材を操作することによって表示可能なメニュー画面にて、再度サブ側の操作部材で決定操作することで表示される画面である。より具体的には、リールが停止している状況にて、サブ入力ボタンを操作してメニュー画面を表示させ、その後十字キーでカーソルを履歴表示に合わせた状態でサブ入力ボタンの操作決定することで表示される画面となっている。なお、履歴表示は演出表示装置に表示される画面である。また、表示条件はこれには限定されず、AT状態における遊技中の画面に常時表示されるよう構成したり、AT状態の各セットの継続時に表示されるように構成してもよい。

【2184】

同図左下段に示すように、A T 状態 1 セット分に対応した有利アイコンが 19 つ表示されており、A T 状態が 19 セット継続している旨の表示がされている。なお、当該有利アイコンは A T 状態のセット開始時に表示するよう構成してもよいし、セット終了時に表示するよう構成してもよい。

【2185】

その後、A T 状態が 2 セット実行され、同図右下段に図示するように、A T 状態 20 セット分に対応した有利アイコン 1 つと A T 状態 1 セット分に対応した有利アイコン 1 つが表示されている。このように、同図においては、A T 状態が 20 セット継続すると A T 状態 20 セット分に対応した有利アイコン 1 つを表示するよう構成されている。このように構成することにより、有利アイコンが使用する演出表示装置の表示領域を大きくしすぎないよう構成することができ、他の演出表示（A T 状態における獲得枚数表示など）の視認性を妨げないよう構成することができる。また、A T 状態 20 セット分の有利アイコンなど、所定回数分をまとめた有利アイコンを表示可能に構成することにより、遊技者は当該有利アイコンを視認するために遊技意欲が向上することとなる。

【2186】

なお、同図の履歴表示イメージ 1 及び履歴表示イメージ 2 においては、演出表示装置にて有利アイコンを表示する場合を例示したが、これには限定されず、下パネル D 140 に液晶を設けて、当該下パネル D 140 の液晶にて有利アイコンを表示するよう構成してもよいし、演出表示装置とは別の装置として第 2 演出表示装置（サブ液晶と称することがある）を設けて、当該第 2 演出表示装置にて有利アイコンを表示するよう構成してもよい。

【2187】

また、本例に係る回胴式遊技機においては、A T 残りゲーム数（A T 状態に滞在可能なゲームに係る表示）など、遊技者にとって有利な A T 状態において演出表示装置に表示する表示を、有利アイコンと同時に表示可能に構成してもよく、そのように構成した場合には、（1）A T 残りゲーム数（A T 状態において演出表示装置に表示する表示）の表示領域と有利アイコンの表示領域とが重複しない、（2）A T 残りゲーム数（A T 状態において演出表示装置に表示する表示）の表示領域と有利アイコンの表示領域とは重複する場合があるが、押し順ナビ表示の方が有利アイコンの表示よりも表示優先度が高い、よう構成してもよい。

【2188】

また、本例に係る回胴式遊技機においては、指示が実行される遊技において、演出表示装置にて押し順ナビに関連した表示（押し順ナビ表示、サブ側の押し順ナビなどと称することがある）を表示可能とし、押し順ナビ表示と有利アイコンとを同時に表示可能に構成してもよく、そのように構成した場合には、（1）押し順ナビ表示の表示領域と有利アイコンの表示領域とは重複しない、（2）押し順ナビ表示の表示領域と有利アイコンの表示領域とは重複する場合があるが、押し順ナビ表示の方が有利アイコンの表示よりも表示優先度が高い、よう構成してもよい。

【2189】

なお、押し順ナビ表示を、指示画像、報知画像などと称することがある。

【2190】

なお、上述した、保留表示、第 1 右打ち指示画像、第 2 右打ち指示画像、重大なエラーに関するエラー表示、軽微なエラーに関するエラー表示、第 1 装飾図柄、第 2 装飾図柄、音量光量調整画像、などの表示領域と、有利アイコンの表示領域とが重複しない構成については、前述した古い有利アイコンの表示が消去されることにより有利アイコンの表示領域が所定の領域内に規定されている構成にも適用可能であるし、有利アイコンの数が所定数となった場合に当該所定数分の有利アイコンである特定の有利アイコンを表示することにより有利アイコンの表示領域が所定の領域内に規定されている（特定の有利アイコンを含めた有利アイコンの数が上限数となった場合には古い有利アイコンが消去されるよう構成してもよい）構成にも適用可能である。

【2191】

なお、回胴式遊技機に係る有利アイコンの表示期間としては、以下のように構成してもよい。

(1) ボーナス又はA T状態の開始時に表示開始され、その後ボーナス及びA T状態の終了時に表示が終了する

(2) ボーナス又はA T状態の開始後の所定タイミングで表示開始され、その後ボーナス及びA T状態の終了時に表示が終了する

(3) ボーナス又はA T状態の開始時に表示開始され、当該ボーナス又はA T状態の終了時に表示が終了する

(4) ボーナス又はA T状態における所定タイミングに表示開始され、当該ボーナス又はA T状態の終了時に表示が終了する

10

【2192】

<音量光量調整画像>

また、回胴式遊技機においても、ぱちんこ遊技機と同様に音量光量調整画像を表示可能に構成することができる。また、前述したぱちんこ遊技機と同様に、音量光量調整画像と有利アイコンとを同時に表示する場合には、音量光量調整画像の表示領域と有利アイコンの表示領域とが重複する場合があるよう構成されており、表示領域が重複した場合には、音量光量調整画像の方が有利アイコンよりも前面に表示される（表示プライオリティが高い）よう構成してもよい。

【2193】

20

なお、回胴式遊技機における音量光量調整画像については、以下のように構成してもよい。

(1) サブ側の操作部材を操作してメニュー画面を表示させ、メニュー画面が表示されている状況にて再度サブ側の操作部材を操作することで音量光量調整画像が表示される

(2) 音量調整画面と光量調整画面とは別の画面となっており、表示される条件が異なる

(3) 音量調整画面と光量調整画面とは別の画面となっており、同時に表示されない

(4) 音量光量調整画像とは別に、遊技を進行していない状況が所定時間継続すると音量光量調整案内画面が表示される（例えば、「サブ入力ボタンの操作で音量または光量調整ができます」と表示）

(5) 音量光量調整画像の表示中にスタートレバーの操作を受け付けると音量光量調整画像の表示が消去される

30

(6) 音量光量調整画像の表示中にベットを受け付けると音量光量調整画像の表示が消去される

(7) 音量光量調整画像の表示中に精算ボタンの操作を受け付けると音量光量調整画像の表示が消去される

上記のように構成してもよい。

【2194】

また、回胴式遊技機における音量光量調整画面の表示について以下のように構成してもよい。

(1) 非遊技中（リール停止中且つスタートレバーの操作を受け付けていない）は音量光量調整画面を表示可能

40

(2) 遊技終了後から所定時間経過するまでは音量光量調整画面が表示されない

(3) 遊技中（リール回転中又はスタートレバーの操作を受け付けている）も音量光量調整画面を表示可能

(4) 遊技メダルの払出中は音量光量調整画面が表示されない

上記のように構成してもよい。

【2195】

同図のパターン1に示すように、音量光量調整画像と有利アイコンとを同時に表示する場合には、音量光量調整画像の表示領域と有利アイコンの表示領域とが重複する場合があるよう構成されており、表示領域が重複した場合には、音量光量調整画像の方が有利アイ

50

コンよりも前面に表示される（表示プライオリティが高い）よう構成されている。音量光量調整画像は遊技者の操作によって表示されるため、音量光量調整画像が表示される場合には遊技者が音量又は光量を調整することを所望している可能性が高い。よって、音量光量調整画像を有利アイコンよりも前面に表示することにより、遊技者の目的に合った画像の視認性を実現することができる。

【2196】

なお、回胴式遊技機においても、各リールに対応した装飾図柄を演出表示装置に表示可能に構成してもよい。例えば、（１）リール回転開始時（又はスタートレバーの操作受付時）に各リールに対応した装飾図柄が変動開始し、各リールの停止操作時に各リールに対応した装飾図柄が停止表示される、（２）リール回転開始時（又はスタートレバーの操作受付時）に装飾図柄が変動開始し、各リールの停止操作時においては、いずれのリールを停止操作したかに拘わらず、第１停止、第２停止、第３停止に対応した装飾図柄列の装飾図柄が停止表示される（例えば、左列→中列→右列の順に停止する）、様に構成してもよい。

【2197】

<ぱちんこ遊技機における有利アイコンとして表示可能な要素>

また、本例に係るぱちんこ遊技機に適用可能な有利アイコンが示唆する内容としては以下のように構成してもよい。

- （１）ぱちんこ遊技機における、大当たり終了後の遊技状態
- （２）ぱちんこ遊技機における、大当たりで当選した図柄変動開始時の遊技状態
- （３）ぱちんこ遊技機における、大当たりのラウンド数
- （４）ぱちんこ遊技機における、大当たりの期待出玉数
- （５）ぱちんこ遊技機における、大当たりであるか小当たりであるか
- （６）ぱちんこ遊技機における、大入賞口の開放時間
- （７）ぱちんこ遊技機における、大当たりで当選した図柄変動開始時の演出モード
- （８）ぱちんこ遊技機における、大当たり中の演出

なお、上記大当たりに係る構成は、小当たり中の特定領域への入球に基づいて実行される大当たりにも適用可能である。

【2198】

<回胴式遊技機における有利アイコンとして表示可能な要素>

また、本例に係る回胴式遊技機に適用可能な有利アイコンが示唆する内容としては以下のように構成してもよい。

- （１）回胴式遊技機における、ボーナスの種類（ボーナスの契機となる図柄組合せの種類）
- （２）回胴式遊技機における、ＡＴ状態の種類
- （３）回胴式遊技機における、ＡＴ状態の実行回数
- （４）回胴式遊技機における、ボーナス終了後のＡＴ状態への移行有無
- （５）回胴式遊技機における、ＡＴ状態（有利区間）における獲得枚数
- （６）回胴式遊技機における、ＡＴ状態（有利区間）における指示の実行回数
- （７）回胴式遊技機における、ＡＴ状態（有利区間）のゲーム数
- （８）回胴式遊技機における、ＲＴ状態
- （９）回胴式遊技機における、ボーナスまたはＡＴ状態開始時の演出モード

なお、ボーナスについては、ＢＢ、ＲＢ、ＭＢ、ＣＢ、ＳＢのいずれも適用可能である。

【2199】

また、有利アイコンを表示する期間としては、（１）大当たりの実行中に表示する、（２）小当たりの実行中に表示する、（３）時間短縮遊技状態にて表示する、（４）右打ちを実行すべき遊技状態では継続して表示する、などのように構成してもよい。

【2200】

また、演出表示装置を複数有するよう構成してもよく、例えば、ぱちんこ遊技機の場合には、上述した演出表示装置の遊技者から見て横の位置に第２演出表示装置を設けたり、可動体役物に第２演出表示装置を設けてもよい。また、回胴式遊技機の場合には、下パネ

10

20

30

40

50

ルD140に液晶を設けて第2演出表示装置としてもよいし、リールの遊技者から見て横の位置に第2演出表示装置を設けてもよい。また、有利アイコンは、(1)演出表示装置に表示する、(2)第2演出表示装置に表示する、(3)演出表示装置と第2演出表示装置との両方に表示する、(4)演出表示装置に表示する場合と第2演出表示装置に表示する場合がある、のように構成してもよい。なお、演出表示装置に有利アイコンを表示する場合においては、例えば、保留表示から離れた位置(例えば、対角の位置)に有利アイコンを表示するよう構成してもよく、そのように構成することにより、連荘することによって有利アイコンが多数表示された場合においても、保留表示の表示領域と重複し難いよう構成することができ、遊技の進行を阻害しない遊技機とすることができる。

【2201】

また、図325で前述したゲーム数の表示のように、有利アイコンの表示対応とは別の表示である付帯表示を付加して表示してもよい。付帯表示としては、以下のような構成を採用してもよい。

- (1)「1回目」、「2回目」など順番を示す情報を付帯表示として表示する
- (2)ボーナスやATなどの実行されたゲーム数
- (3)有利アイコンの表示数や表示態様に基づく称号(例えば、「王者の誇り」など)
- (4)ボーナスやATなどの実行された回数

【2202】

また、本例に係るぱちんこ遊技機は、第2保留表示として、演出表示装置に、例えば数字にて第1主遊技側と第2主遊技側との保留数を表示するよう構成してもよい。例えば、「3 4」と表示した場合、第1主遊技側の保留数が3、第2主遊技側の保留数が4であることを示している。このように構成することにより、保留表示の表示態様の自由度を高くして設計することができる。一例としては、確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態においては、第1主遊技側の保留に係る保留表示は非表示とし、第2主遊技側の保留に係る保留表示のみ表示するよう構成してもよい。このように構成することにより、第2主遊技側の保留が第1主遊技側の保留よりも優先して消化されるよう設計された遊技機において、第1主遊技側の保留表示が消化されずに表示されたままの状況にならないよう構成することができ、遊技者の混乱を防止することができる。このような場合においても、第2保留表示においては、第1主遊技側の保留数と第2主遊技側の保留数とを表示することにより、第1主遊技側の保留が存在しているにも拘わらず確認できないという事態を防止することができる。

【2203】

また、第2保留表示を表示可能に構成した場合において、第2保留表示を有利アイコンと同時に表示可能に構成してもよく、そのように構成した場合には、(1)第2保留表示の表示領域と有利アイコンの表示領域とが重複しない、(2)第2保留表示の表示領域と有利アイコンの表示領域とは重複する場合があるが、第2保留表示の方が有利アイコンの表示よりも表示優先度が高い、よう構成してもよい。

【2204】

また、演出表示装置には遊技機のスペックに関する情報を表示可能に構成してもよく、遊技機のスペックに関する情報と有利アイコンとを同時に表示可能に構成してもよい。そのように構成した場合には、(1)遊技機のスペックに関する情報の表示領域と有利アイコンの表示領域とが重複しない、(2)遊技機のスペックに関する情報の表示領域と有利アイコンの表示領域とは重複する場合があるが、遊技機のスペックに関する情報の方が有利アイコンの表示よりも表示優先度が高い、よう構成してもよい。

【2205】

また、有利アイコンの表示として、回胴式遊技機における所定ゲーム数にて停止表示した当選役(または停止表示した図柄組合せ)を表示可能に構成してもよい。具体例としては、直近5ゲーム間の履歴として、再遊技役や払出が発生し得る役に当選したゲームでは有利アイコンを表示して、その他のゲームでは空白(アイコンを非表示)にする構成が考えられる。このように構成した場合には、例えば、レア役(スイカやチェリーなど当選確

10

20

30

40

50

率の相対的に低い役であり、払出の発生し得る役としてもよいし、再遊技役としてもよい）に当選した遊技では緑色の玉を表示し、最大ベット数以上の払出となった遊技では黄色の玉を表示し、再遊技役（レア役を除く）に当選した遊技では青色の玉を表示し、ハズレの場合や最大ベット数未満の払出となった遊技では空白にするよう構成してもよい。なお、最大ベット数が3枚であった場合には、3枚の払出となった遊技でも9枚の払出となった遊技でも同一の黄色の玉を表示するよう構成してもよく、そのように構成することで、遊技者が履歴表示（有利アイコン）を複雑に感じないようにすることができる。また、最大ベット数未満の払出があった遊技では遊技者の持ちメダルは減少しているため、過度に煽らないよう空白にて表示している。なお、このような構成においても、前述したように、履歴に関する情報を順番に記憶可能であり、有利アイコンを順番に表示可能である。

10

【2206】

このように本例に係る遊技機においては、遊技者にとって有利な事象を有利アイコンとして表示し、遊技者が有利な履歴を確認することができるよう構成することにより、過去に発生した有利な事象を振り返ることで遊技意欲を高めることができる。

【2207】

なお、上述した有利アイコンの表示領域と重複しない表示物（第2装飾図柄など）は、有利アイコンを表示可能な上限数を3以外の数に設計した場合において、有利アイコンが上限数表示されている状況においても、当該表示物と有利アイコンとの表示領域は重複しないよう構成してもよい。

【2208】

なお、上述した有利アイコンに関する構成は、上述したぱちんこ遊技機のいずれの構成にも適用可能であるし、上述した回胴式遊技機のいずれの構成にも適用可能である。

20

【2209】

（まとめ2）

尚、以上の実施例において示した構成に基づき、以下のような概念を抽出（列記）することができる。但し、以下に列記する概念はあくまで一例であり、これら列記した概念の結合や分離（上位概念化）は勿論のこと、以上の実施例において示した更なる構成に基づく概念を、これら概念に付加してもよい。

【2210】

有利アイコンを表示する期間として、連荘中は継続して表示するよう構成してもよく、そのような構成の一例として以下のように構成してもよい。

30

【2211】

＜構成1＞

ぱちんこ遊技機において、大当たり中と時間短縮遊技状態においては継続して表示する。大当たり終了後に非時間短縮遊技状態となった場合や時間短縮遊技状態にて所定回数（時短回数）の図柄変動が実行された場合に、有利アイコンの表示が消去される。

【2212】

＜構成2＞

ぱちんこ遊技機において、大当たり中と時間短縮遊技状態においては継続して表示する。大当たり終了後に非時間短縮遊技状態となった場合や時間短縮遊技状態にて所定回数（時短回数）の図柄変動が実行された場合に、有利アイコンの表示が消去される。また、有利アイコンが消去された後においても、所定変動回数以内（50変動以内）に再度大当たり当選した場合には、連荘中の大当たりと見做して当該大当たり中には有利アイコンを再度表示する。なお、連荘と見做す条件としては、有利アイコンが消去されてからの変動回数には限定されず、有利アイコンが最初に表示された大当たり（初当たり）からの差玉（遊技球の増減）がプラスである状況にて大当たりとなったか否かや、有利アイコンが消去されてからの時間によって決定するよう構成してもよい。また、有利アイコンが消去された後においても、所定変動回数以内（50変動以内）に再度大当たり当選した場合には、連荘中の大当たりと見做して当該大当たり中には有利アイコンを再度表示するよう構成した場合における所定変動回数分の期間においては通常の非時間短縮遊技状態と異なる演出モードとすることに

40

50

よって、遊技者に対して連荘が継続する状態であることを明確に示唆するよう構成してもよい。

【2213】

<構成3>

胴式遊技機において、ボーナス中とAT状態（AT準備状態なども含む）においては継続して表示する（AT状態のみとしてもよい）。有利区間の終了条件を満たした場合や、AT状態が終了した場合に有利アイコンの表示が消去される。

【2214】

<構成4>

胴式遊技機において、ボーナス中とAT状態（AT準備状態なども含む）においては継続して表示する（AT状態のみとしてもよい）。有利区間の終了条件を満たした場合や、AT状態が終了した場合に有利アイコンの表示が消去される。また、有利アイコンが消去された後においても、所定遊技回数以内（50ゲーム以内）に再度AT状態となった場合には、連荘中が継続していると見做して当該AT状態においては有利アイコンを再度表示する。なお、連荘と見做す条件としては、有利アイコンが消去されてからの遊技回数には限定されず、有利アイコンが最初に表示されたタイミング（ボーナスやAT状態の初当り）からの差玉（遊技メダルの増減）がプラスである状況にて大当たりとなったか否かや、有利アイコンが消去されてからの時間によって決定するよう構成してもよい。また、有利アイコンが消去された後においても、所定遊技回数以内（50ゲーム以内）に再度AT状態となった場合には、連荘中が継続していると見做して当該AT状態においては有利アイコンを再度表示するよう構成した場合における所定遊技回数分の期間においては通常の非AT状態と異なる演出モードとすることによって、遊技者に対して連荘が継続する状態であることを明確に示唆するよう構成してもよい。

【2215】

また、有利アイコンの表示態様（種類）で設定示唆を実行可能に構成してもよい（ぱちんこ遊技機にも胴式遊技機にも適用可能である）。一例としては、ぱちんこ遊技機においては、10Rの大当りに係る有利アイコンとして、金色の表示態様と銀色の表示態様のいずれかが表示されるよう構成し、設定1においては、金色の表示態様が1/10で選択され、銀色の表示態様が9/10で選択される一方、設定6においては、金色の表示態様が3/10で選択され、銀色の表示態様が7/10で選択されるよう構成してもよい。また、設定6では選択され得るが設定1では選択されない有利アイコンの表示態様（例えば、虹色の表示態様）を有していてもよい。なお、異なる表示態様は、色彩が異なるのみではなく、形状が異なる、デザインが異なるなどとしてもよい。

【2216】

また、胴式遊技機においては、AT状態にて当選したボーナスに係る有利アイコンとして、金色の表示態様と銀色の表示態様のいずれかが表示されるよう構成し、設定1においては、金色の表示態様が1/10で選択され、銀色の表示態様が9/10で選択される一方、設定6においては、金色の表示態様が3/10で選択され、銀色の表示態様が7/10で選択されるよう構成してもよい。また、設定6では選択され得るが設定1では選択されない有利アイコンの表示態様（例えば、虹色の表示態様）を有していてもよい。なお、異なる表示態様は、色彩が異なるのみではなく、形状が異なる、デザインが異なるなどとしてもよい。

【2217】

<<<本例のぱちんこ遊技機に適用可能な出玉率に関する構成>>>

ここで、本例のぱちんこ遊技機に適用可能な出玉率に関する構成を以下に詳述することとする。なお、以下に詳述する構成は、本例に係るすべての実施形態に適用可能であることを補足しておく。

【2218】

<<<出玉率が高くなりすぎないようにする方法>>>

ぱちんこ遊技機においては、偶発的に発生する連荘によって短時間において想定を超過

10

20

30

40

50

する払い出しが発生してしまうことがあり、型式試験においてそのような事態が発生すると不適合となる確率が高くなってしまいます。

そこで、出玉率が高くなりすぎないようにする方法として、以下に挙げる「変化させる対象」と「変化の契機」とを組み合わせる方法が、本例の遊技機に適用可能である。なお、以下に挙げる「変化させる対象」と「変化の契機」とはいずれを組み合わせで適用してもよいことを補足しておく。

【2219】

なお、出玉率とは、遊技球を所定の領域に発射し続けた場合における、「単位時間あたりの払い出し球数÷単位時間あたりの発射球数×100%」となっている。

【2220】

<<変化させる対象>>

変化させる対象としては、以下の要素を適用することが可能である。

【2221】

<A：主遊技図柄の変動傾向>

例えば、所定の遊技状態にて参照される通常の変動パターンテーブルと比較して、（１）変動時間の平均値が長い、（２）長時間の変動時間が選択され易い、（３）通常の変動パターンテーブルからは選択されない変動時間を有する、などの構成を有する変動パターンテーブルに参照するテーブルを変更する。

【2222】

<B：特別遊技中の時間>

例えば、特別遊技開始デモ時間、ラウンド間時間、特別遊技終了デモ時間、大入賞口開放時間、の１又は複数を変更してもよい。なお、大当たり図柄が停止した後は、「特別遊技開始デモ時間→第１ラウンドの大入賞口開放時間→ラウンド間時間→第２ラウンドの大入賞口開放時間→ラウンド間時間→・・・→ラウンド間時間→最終ラウンドの大入賞口開放時間→特別遊技終了デモ時間」のように特別遊技が進行していく。

【2223】

なお、大入賞口開放時間とは、（１）ラウンド中において、ラウンドが終了することとなる所定数の遊技球が大入賞口に入賞することなく、時間経過で当該ラウンドが終了する場合のラウンド中の時間であってもよいし、（２）ラウンド中において、大入賞口に向けて遊技球を発射し続けた場合におけるラウンド中の時間の平均値であってもよい。

【2224】

<C：補助遊技に関する時間>

例えば、所定の遊技状態にて参照される通常の変動時間テーブルと比較して、（１）変動時間の平均値が長い、（２）長時間の変動時間が選択され易い、（３）通常の変動時間テーブルからは選択されない変動時間を有する、などの構成を有する変動時間テーブルに参照するテーブルを変更するよう構成してもよい。

【2225】

また、所定の遊技状態にて電チューが開放する場合と比較して、（１）開放時間の合計が長い（例えば、「０．３秒開放→０．２秒閉鎖→０．５秒開放」の場合には０．８秒（０．３秒＋０．５秒）が開放時間の合計となる）、（２）最長の開放時間が長い（例えば、「０．３秒開放→０．２秒閉鎖→０．５秒開放」の場合には０．５秒が最長の開放時間となる）、開閉時間の合計が長い、などの構成を有するよう変更してもよい。

【2226】

<D：時短回数>

例えば、大当たり終了後に時間短縮遊技状態に移行した場合の時短回数（時間短縮遊技状態が終了することとなる大当たり終了からの図柄変動の実行回数）を、所定の大当たり終了後の時短回数と比較して、（同一の大当たり図柄に関する大当たり終了後であり、遊技状態が同一の場合であっても）少なくなるよう変更してもよい。

【2227】

<E：遮蔽部材の動作態様>

10

20

30

40

50

例えば、大当りの実行中に大入賞口内の特定領域に遊技球が入球することで、当該大当り終了後に確率変動遊技状態に移行する権利を付与可能な遊技機（V確タイプの遊技機）において、特定領域への遊技球の入球容易性に関与する遮蔽部材の動作態様を、所定の大当り中において、遮蔽部材の動作態様が通常よりも特定領域に遊技球が入球困難となるように変更してもよい。

【2228】

<F：2つの大入賞口の開放の組合せ>

例えば、大入賞口Aと大入賞口Bとが開放する4ラウンドの所定の大当りが実行される場合に、通常では「大入賞口A→大入賞口B→大入賞口A→大入賞口B」となるのに対し、「大入賞口A→大入賞口A→大入賞口A→大入賞口B」となるように変更してもよい。

【2229】

<G：賞球数>

例えば、大入賞口、始動口、一般入賞口などの1又は複数の入球口に係る賞球数を、通常の賞球数から減少するよう変更してもよい。

【2230】

<H：カウント数>

例えば、1ラウンドが終了することとなる大入賞口への遊技球の入球数（当該入球数をカウント数と称することがある）を、通常よりも減少させるよう変更してもよい。

【2231】

<I：主遊技図柄の優先変動順位>

例えば、第1主遊技側の保留と第2主遊技側の保留とが存在しているときに、通常では第2主遊技側の保留の方が第1主遊技側の保留よりも優先して消化するよう構成されているものを、第1主遊技側の保留の方が第2主遊技側の保留よりも優先して消化するよう変更してもよい。

【2232】

<J：遊技球の発射スピード>

例えば、遊技領域に遊技球を発射し続けた場合、通常では1分間に最大100球発射されるよう構成されているものを、1分間に最大50球発射されるよう遊技球の発射間隔を変更してもよい。

【2233】

<<変化の契機>>

変化の契機としては、以下の要素を適用することが可能である。

【2234】

<ア：連荘中の大当り回数と大当り図柄との組み合わせ>

例えば、連荘回数が5回未満である状況にて大当り図柄Aが停止した場合には変化しないが、連荘回数が5回以上である状況にて大当り図柄Aが停止した場合には変化する。

【2235】

なお、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態にて大当り（初当りと称することがある）が開始してから、大当り終了後に非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態となる（大当り終了直後に非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態となる、又は、大当り終了後であって次回の大当りに当選する前に非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態となる）までを連荘中としている。具体例としては、大当り終了後に非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態となった時点で連荘終了、大当り終了後に確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態となり、その後100回の図柄変動が実行されて非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態となった時点で連荘終了、大当り終了後に非確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態となり、その後100回の図柄変動が実行されて非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態となった時点で連荘終了、のように作用する。これら連荘終了の条件を相称して所定条件と称することがある。また、連荘中の期間を特定期間と称することがある。また、連荘回数とは、連荘中における大当りの実行回数であり、初当りを1回、次回の大当りを2回、のようにカウントする。

10

20

30

40

50

【2236】

<イ：連荘中のラウンド実行回数の合計と大当り図柄との組み合わせ>

例えば、ラウンド実行回数の合計が50R未満である状況にて大当り図柄Aが停止した場合には変化しないが、ラウンド実行回数の合計が50R以上である状況にて大当り図柄Aが停止した場合には変化する。

【2237】

<ウ：連荘中の大当り終了後からの図柄変動回数と大当り図柄との組み合わせ>

例えば、連荘中における大当り終了後からの図柄変動回数が50回以上の状況で大当り図柄Aが停止した場合には変化しないが、連荘中における大当り終了後からの図柄変動回数が50回未満の状況で大当り図柄Aが停止した場合には変化する。

10

または、連荘中における大当り終了後からの図柄変動回数の合計が500回未満の状況で大当り図柄Aが停止した場合には変化しないが、連荘中における大当り終了後からの図柄変動回数の合計が500回以上の状況で大当り図柄Aが停止した場合には変化する。

【2238】

<エ：連荘中の大当りの実行回数と大当り図柄との組み合わせ>

例えば、連荘中における大当りの実行回数が5回未満の状況で大当り図柄Aが停止した場合には変化しないが、連荘中における大当りの実行回数が5回以上の状況で大当り図柄Aが停止した場合には変化する。

【2239】

<オ：連荘中の総排出球数と大当り図柄との組み合わせ>

20

例えば、連荘中における総排出球数が2000球未満の状況で大当り図柄Aが停止した場合には変化しないが、連荘中における総排出球数が2000球以上の状況で大当り図柄Aが停止した場合には変化する。

【2240】

なお、総排出球数とは、アウト口を含むすべての入球口に入球した遊技球数の合計であり、遊技領域に発射された総発射球数と同一の数値である。

【2241】

<カ：連荘中の総払出球数と大当り図柄との組み合わせ>

例えば、連荘中における総払出球数が15000球未満の状況で大当り図柄Aが停止した場合には変化しないが、連荘中における総払出球数が15000球以上の状況で大当り図柄Aが停止した場合には変化する。

30

【2242】

なお、総払出球数とは、大入賞口や始動口を含むすべての入賞口への遊技球の入球によって払い出された遊技球数の合計である。

【2243】

<キ：連荘中の純増球数と大当り図柄との組み合わせ>

例えば、連荘中における純増球数が10000球未満の状況で大当り図柄Aが停止した場合には変化しないが、連荘中における純増球数が10000球以上の状況で大当り図柄Aが停止した場合には変化する。

【2244】

40

なお、純増球数とは、総払出球数から総排出球数を減算した遊技球数である。

【2245】

<ク：連荘中の大当り変動の変動パターン>

例えば、連荘中における大当り変動（大当りに当選した変動）の変動時間が120秒以上であった場合には変化しないが、連荘中における大当り変動の変動時間が120秒未満であった場合には変化する。

または、連荘中における大当り変動（大当りに当選した変動）の変動時間が100秒であった場合には変化しないが、連荘中における大当り変動の変動時間が100秒以外であった場合には変化する。

または、連荘中における大当り変動の変動パターンを決定する際に参照したテーブルが

50

特定のテーブルでなかった場合には変化しないが、連荘中における大当り変動の変動パターンを決定する際に参照したテーブルが特定のテーブルであった場合には変化する。

【2246】

＜ケ：保留内に大当りとなる保留が存在している場合＞

例えば、保留内に大当り（または、所定の大当り）となる保留が存在していない場合には変化しないが、保留内に大当り（または、所定の大当り）となる保留が存在している場合には変化する。

【2247】

＜コ：連荘中の経過時間＞

例えば、連荘中の経過時間が1時間未満である場合には変化しないが、連荘中の経過時間が1時間以上である場合には変化する。なお、待機デモ画面の表示中は連荘中の経過時間に含めないよう構成してもよい。

【2248】

＜サ：遊技の状態＞

例えば、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態である場合には変化しないが、確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態である場合には変化する。

または、左打ちをすべき遊技の状態（右打ち指示画像が非表示）である場合には変化しないが、右打ちをすべき遊技の状態（右打ち指示画像が表示されている状態であり、大当り中を含めてもよい）である場合には変化する。

【2249】

＜＜その他の方法1＞＞

大当りの実行後から次回の大当りの実行開始までの期間において、小当りによる遊技球の払出の合計（小当り中に大入賞口に入賞したことによる賞球数の合計）が1500球を超過し得るよう設計し、大当り中に大当りに対応した大入賞口に向けて遊技球を発射し続けた場合の遊技球の増加速度よりも、小当りラッシュ中（小当りが高確率で当選することで連続して実行される状態）に小当りに対応した大入賞口に向けて遊技球を発射し続けた場合の遊技球の増加速度の方が遅くなるよう設計することで、短時間で出玉率が高くなりすぎる事態を防止することができる。

【2250】

＜＜その他の方法2＞＞

大当りに当選しても、すぐには当選結果を表示せずに（大当り図柄が停止表示せずに）、その後所定条件を充足した場合に当選結果を表示して大当りを開始することで、短時間で出玉率が高くなりすぎる事態を防止することができる。

【2251】

＜＜＜出玉率が低くなりすぎないようにする方法＞＞＞

ぱちんこ遊技機においては、偶発的に発生するハマリ（理論値以上の回数の当否抽選を実行しても大当りに当選しない事象）などによって短時間において想定未満の払い出ししか発生しないことがあり、型式試験においてそのような事態が発生すると不適合となる確率が高くなってしまう。

そこで、出玉率が低くなりすぎないようにする方法として、以下に挙げる「変化させる対象」と「変化の契機」とを組み合わせる方法が、本例の遊技機に適用可能である。なお、以下に挙げる「変化させる対象」と「変化の契機」とはいずれを組み合わせることで適用してもよいことを補足しておく。

【2252】

＜＜変化させる対象＞＞

変化させる対象としては、以下の要素を適用することが可能である。

【2253】

＜a：時間短縮遊技状態＞

例えば、所定の変化の条件を満たしたことで（所定の変化の契機によって）、非時間短縮遊技状態から時間短縮遊技状態に移行するよう構成してもよい。

【2254】

<b：補助遊技に関する時間>

例えば、所定の遊技状態にて参照される通常の補助遊技変動時間テーブルと比較して、（１）変動時間の平均値が短い、（２）長時間の変動時間が選択され難い、（３）通常の変動時間テーブルからは選択されない変動時間を有する、などの構成を有する変動時間テーブルに参照するテーブルを変更するよう構成してもよい。

【2255】

<c：時短回数>

例えば、大当たり終了後に時間短縮遊技状態に移行した場合の時短回数（時間短縮遊技状態が終了することとなる大当たり終了からの図柄変動の実行回数）を、所定の大当たり終了後の時短回数と比較して、（同一の大当たり図柄に関する大当たり終了後であり、遊技状態が同一の場合であっても）多くなるよう変更してもよい。

【2256】

<d：賞球数>

例えば、大入賞口、始動口、一般入賞口などの１又は複数の賞球数を、通常の賞球数から増加するよう変更してもよい。

【2257】

<e：ベース>

例えば、補助遊技図柄が当選となる確率を高くする、電チュー付きの始動口への入球容易性を高くする、電チューなしの始動口への入球容易性を高くする、一般入賞口への入球容易性を高くする、などによって通常よりもベースが高くなるよう構成してもよい。

【2258】

なお、遊技球を遊技領域の所定の領域に向かって発射し続けた場合において、所定球数発射した場合の主遊技図柄の変動回数の期待値をベースとしている。

【2259】

<<変化の契機>>

変化の契機としては、以下の要素を適用することが可能である。

【2260】

<あ：非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態時の図柄変動回数>

例えば、大当たりが実行されない状況にて非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態における図柄変動回数が５００回に到達した場合に変化するよう構成してもよい。

【2261】

<い：非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態時の総排出球数>

例えば、大当たりが実行されない状況にて非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態における総排出球数が１０００球以上に到達した場合に変化するよう構成してもよい。

【2262】

<う：非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態時の総払出球数>

例えば、大当たりが実行されない状況にて非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態における総払出球数が１０００球以上に到達した場合に変化するよう構成してもよい。

【2263】

<え：非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態時の減少球数>

例えば、大当たりが実行されない状況にて非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態における減少球数が１０００球に到達した場合に変化するよう構成してもよい。

【2264】

なお、減少球数とは、総払出球数から総排出球数を減算した遊技球数であり、当該演算結果が正の値の場合は純増球数と称し、負の値の場合は減少球数と称している。例えば、総払出球数から総排出球数を減算した遊技球数が－３０００の場合は減少球数は３０００球となる。なお、純増球数と減少球数とを総称して差玉と称することがある。

【2265】

<お：大当たり終了後からの経過時間>

10

20

30

40

50

例えば、或る大当たり終了後に非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態となった場合において、或る大当たり終了後から、大当たりが実行されない状況にて非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態における経過時間が2時間以上となった場合には変化するよう構成してもよい。

【2266】

上記のように、「出玉率が高くなりすぎないようにする方法」と「出玉率が低くなりすぎないようにする方法」とについて詳述したが、上述した方法のみには限定されず、例えば、「出玉率が高くなりすぎないようにする方法」にて詳述した内容を逆にして「出玉率が低くなりすぎないようにする方法」として適用してもよい。一例としては、「A：主遊技図柄の変動傾向」に関して、所定の遊技状態にて参照される通常の変動パターンテーブルと比較して、(1)変動時間の平均値が短い、(2)長時間の変動時間が選択され難い、ようにするなど、変化前の状態と比較して変化後の状態の方が出玉率が高くなるよう構成してもよい。

【2267】

同様に、「出玉率が低くなりすぎないようにする方法」にて詳述した内容を逆にして「出玉率が高くなりすぎないようにする方法」として適用してもよい。一例としては、「c：時短回数」に関して、大当たり終了後に時間短縮遊技状態に移行した場合の時短回数(時間短縮遊技状態が終了することとなる大当たり終了からの図柄変動の実行回数)を、所定の大当たり終了後の時短回数と比較して、(同一の大当たり図柄に関する大当たり終了後であり、遊技状態が同一の場合であっても)少なくなるよう変更してもよい。

【2268】

<<<出玉率が高くなりすぎないようにする方法の具体例>>>

次に、出玉率が高くなりすぎない方法として、上述した「変化させる対象」と「変化の契機」を組み合わせる適用した具体例を以下に詳述する。

【2269】

<<A：主遊技図柄の変動傾向、ア：連荘中の大当たり回数と大当たり図柄との組み合わせ>>

「A：主遊技図柄の変動傾向」と、「ア：連荘中の大当たり回数と大当たり図柄との組み合わせ」とを適用する構成を詳述する。連荘中の遊技状態として、大当たり終了後に確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態となり、図326に示す「規制なし時テーブル」を参照して主遊技図柄の変動時間を決定することとなる。その後、連荘中の大当たり回数が所定回数(例えば、5回)目となる大当たりが実行され、大当たり終了後に確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態となると、図326に示す「規制あり時テーブル」を参照して主遊技図柄の変動時間を決定することとなる。このように、連荘中の大当たり回数が所定回数となると、同一の遊技状態であっても主遊技図柄の変動時間を決定する際に参照するテーブル(変動時間決定用テーブルと称することがある)が変更されるように構成されている。

【2270】

ここで、規制なし時テーブルを参照した場合のハズレ時の変動時間の平均値は、 $(500 \times 3 + 200 \times 5 + 150 \times 10 + 50 \times 30 + 80 \times 60 + 20 \times 120) \div 1000 = 12.7$ 秒となっており、規制なし時テーブルを参照した場合の当り時の変動時間の平均値は、 $(100 \times 10 + 100 \times 30 + 300 \times 60 + 500 \times 120) \div 1000 = 82$ 秒となっている。

【2271】

また、規制あり時テーブルを参照した場合のハズレ時の変動時間の平均値は、 $(500 \times 5 + 200 \times 10 + 150 \times 30 + 20 \times 60 + 30 \times 120 + 100 \times 240) \div 1000 = 37.8$ 秒となっており、規制なし時テーブルを参照した場合の当り時の変動時間の平均値は、 $(100 \times 60 + 300 \times 120 + 600 \times 240) \div 1000 = 186$ 秒となっている。

【2272】

このように、ハズレ時においても当り時においても、規制なし時テーブルを参照した場合よりも規制あり時テーブルを参照した場合の方が、変動時間の平均値が長時間となって

いる。

【2273】

また、規制なし時テーブルを参照した場合のハズレ時の最も選択され易い変動時間は「3秒」であり、規制あり時テーブルを参照した場合のハズレ時の最も選択され易い変動時間は「5秒」であり、最も選択され易い変動時間を比較すると、規制なし時テーブルを参照した場合よりも規制あり時テーブルを参照した場合の方が長時間となっている。

【2274】

また、規制なし時テーブルを参照した場合の当り時の最も選択され易い変動時間は「120秒」であり、規制あり時テーブルを参照した場合の当り時の最も選択され易い変動時間は「240秒」であり、最も選択され易い変動時間を比較すると、規制なし時テーブルを参照した場合よりも規制あり時テーブルを参照した場合の方が長時間となっている。

10

【2275】

また、規制なし時テーブルを参照した場合のハズレ時に選択され得る「3秒」は、規制あり時テーブルを参照した場合のハズレ時には選択されない。また、規制あり時テーブルを参照した場合のハズレ時に選択され得る「240秒」は、規制なし時テーブルを参照した場合のハズレ時には選択されない。

【2276】

また、規制なし時テーブルを参照した場合の当り時に選択され得る「10秒」は、規制あり時テーブルを参照した場合の当り時には選択されない。また、規制あり時テーブルを参照した場合の当り時に選択され得る「240秒」は、規制なし時テーブルを参照した場合の当り時には選択されない。

20

【2277】

すなわち、連荘中の主遊技図柄の変動態様を決定する際に参照される規制なし時テーブルから、連荘中の大当たり回数が所定回数に到達した後の主遊技図柄の変動態様を決定する際に参照される規制あり時テーブルに変更された場合には、（１）変動時間の平均値が長時間となる、（２）最も選択され易い変動時間が長時間となる、（３）変更後のテーブルでしか選択されない長時間の変動時間候補が存在する、ように構成することができる。なお、後述する主遊技図柄の変動時間を決定する際に参照するテーブルを変更するその他の構成についても、上記（１）～（３）のいずれの構成を適用してもよい。

【2278】

また、連荘回数が所定回数（例えば、５回）に到達した場合においても、所定条件を満たしている場合には参照するテーブルを変更しない（規制なし時テーブルを参照する）よう構成してもよい。所定条件の一例としては、（１）大当たり終了後から所定回数の図柄変動が実行された場合、（２）前回の大当たりが大当たり終了後から所定回数以上の図柄変動が実行された後に当選した大当たりであった場合、などとしてもよい。上記（１）を適用した場合は、連荘回数が所定回数となる大当たりの終了後に参照するテーブルを変更して規制あり時テーブルを参照することとなるが、その後、５０回の図柄変動が実行された以降は規制なし時テーブルを参照することとなる。また、上記（２）を適用した場合は、連荘回数が所定回数となる大当たりの当選タイミングが、前回の大当たり終了後から５０回の図柄変動が実行される前であった場合には当該連荘回数が所定回数となる大当たりの終了後では規制あり時テーブルを参照し、連荘回数が所定回数となる大当たりの当選タイミングが、前回の

30

40

【2279】

このように構成することにより、連荘回数が所定回数に到達した場合においても、大当たりと大当たりとの実行間隔（変動回数）が十分確保されている場合には、通常通りのテーブルである規制なし時テーブルを参照して主遊技図柄の変動時間が決定されるよう構成することにより、遊技者が快適に遊技を進行することができる。

【2280】

<< A：主遊技図柄の変動傾向、ウ：連荘中の大当たり終了後からの図柄変動回数と大当たり

50

図柄との組み合わせ>>

「A：主遊技図柄の変動傾向」と、「ウ：連荘中の大当たり終了後からの図柄変動回数と大当たり図柄との組み合わせ」とを適用する構成を詳述する。連荘中の遊技状態として、大当たり終了後に確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態となり、図326に示す「規制なし時テーブル」を参照して主遊技図柄の変動時間を決定することとなる。その後、大当たり終了後に実行された図柄変動の回数が所定回数に到達すると、図326に示す「規制あり時テーブル」を参照して主遊技図柄の変動時間を決定することとなる。このように、連荘中において大当たり終了後からの図柄変動の回数が所定回数となると、同一の遊技状態であっても主遊技図柄の変動時間を決定する際に参照するテーブル（変動時間決定用テーブルと称することがある）が変更されるように構成されている。また、変更前に参照するテーブルを規制あり時テーブルとし、変更後に参照するテーブルを規制なし時テーブルとするよう構成してもよい。

10

【2281】

また、連荘中の遊技状態として、大当たり終了後に確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態となり、図326に示す「規制なし時テーブル」を参照して主遊技図柄の変動時間を決定しており、その後、連荘中に実行された図柄変動の回数の合計が所定回数（例えば、500回）に到達すると、図326に示す「規制あり時テーブル」を参照して主遊技図柄の変動時間を決定するよう構成してもよい。

【2282】

また、連荘中の遊技状態として、大当たり終了後に確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態となり、図326に示す「規制なし時テーブル」を参照して主遊技図柄の変動時間を決定しており、その後、連荘中に経過した時間の合計が所定時間（例えば、60分）に到達すると、図326に示す「規制あり時テーブル」を参照して主遊技図柄の変動時間を決定するよう構成してもよい。

20

【2283】

また、連荘中の遊技状態として、大当たり終了後に確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態となり、図326に示す「規制なし時テーブル」を参照して主遊技図柄の変動時間を決定しており、その後、大当たり終了後に実行された図柄変動の回数が所定回数（例えば、50回）に到達していない状態で大当たり当選（例えば、35回目の図柄変動で大当たり当選）すると、当該大当たり終了後には図326に示す「規制あり時テーブル」を参照して主遊技図柄の変動時間を決定することとなり、大当たり終了後に実行された図柄変動の回数が所定回数（例えば、50回）に到達している状態で大当たり当選（例えば、85回目の図柄変動で大当たり当選）すると、当該大当たり終了後には図326に示す「規制なし時テーブル」を参照して主遊技図柄の変動時間を決定するよう構成してもよい。

30

【2284】

<<A：主遊技図柄の変動傾向、オ：連荘中の総排出球数と大当たり図柄との組み合わせ>>

「A：主遊技図柄の変動傾向」と、「オ：連荘中の総排出球数と大当たり図柄との組み合わせ」とを適用する構成を詳述する。連荘中の遊技状態として、大当たり終了後に確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態となり、図326に示す「規制なし時テーブル」を参照して主遊技図柄の変動時間を決定することとなる。その後、連荘中の総排出球数（各入球口に入球した遊技球数の合計）が所定数に到達すると、図326に示す「規制あり時テーブル」を参照して主遊技図柄の変動時間を決定することとなる。また、連荘中の総排出球数が所定数に到達すると、次回の大当たり終了後から「規制あり時テーブル」を参照して主遊技図柄の変動時間を決定するよう構成してもよい。

40

【2285】

<<A：主遊技図柄の変動傾向、カ：連荘中の総払出球数と大当たり図柄との組み合わせ>>

「A：主遊技図柄の変動傾向」と、「カ：連荘中の総払出球数と大当たり図柄との組み合わせ」とを適用する構成を詳述する。連荘中の遊技状態として、大当たり終了後に確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態となり、図326に示す「規制なし時テーブル」を参照して主遊技図柄の変動時間を決定することとなる。その後、連荘中の総払出球数（各入賞口

50

への入球に係る賞球数の合計)が所定数に到達すると、図326に示す「規制あり時テーブル」を参照して主遊技図柄の変動時間を決定することとなる。また、連荘中の総払出球数が所定数に到達すると、次回の大当り終了後から「規制あり時テーブル」を参照して主遊技図柄の変動時間を決定するよう構成してもよい。

【2286】

<<A：主遊技図柄の変動傾向、キ：連荘中の純増球数と大当り図柄との組み合わせ>>

「A：主遊技図柄の変動傾向」と、「キ：連荘中の純増球数と大当り図柄との組み合わせ」とを適用する構成を詳述する。連荘中の遊技状態として、大当り終了後に確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態となり、図326に示す「規制なし時テーブル」を参照して主遊技図柄の変動時間を決定することとなる。その後、連荘中の純増球数(総払出球数から総排出球数を減算した数)が所定数に到達すると、図326に示す「規制あり時テーブル」を参照して主遊技図柄の変動時間を決定することとなる。また、連荘中の純増球数が所定数に到達すると、次回の大当り終了後から「規制あり時テーブル」を参照して主遊技図柄の変動時間を決定するよう構成してもよい。

10

【2287】

<<A：主遊技図柄の変動傾向、ク：連荘中の大当り変動の変動パターン>>

「A：主遊技図柄の変動傾向」と、「ク：連荘中の大当り変動の変動パターン」とを適用する構成を詳述する。連荘中の遊技状態として、大当り終了後に確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態となり、図326に示す「規制なし時テーブル」を参照して主遊技図柄の変動時間を決定することとなる。その後、大当りに当選し、当該大当りに当選した図柄変動(大当り変動と称することがある)の変動時間が所定時間(例えば、120秒)以上であった場合には、当該大当り終了後は、「規制なし時テーブル」を参照して主遊技図柄の変動時間を決定することとなる。また、大当りに当選し、当該大当りに当選した図柄変動(大当り変動と称することがある)の変動時間が所定時間(例えば、120秒)未満であった場合には、当該大当り終了後は、「規制あり時テーブル」を参照して主遊技図柄の変動時間を決定するよう構成してもよい。

20

【2288】

また、連荘中の遊技状態として、大当り終了後に確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態となり、図326に示す「規制なし時テーブル」を参照して主遊技図柄の変動時間を決定することとなる。その後、大当りに当選し、当該大当りに当選した図柄変動(大当り変動と称することがある)の変動時間が所定時間(例えば、100秒)以外であった場合には、当該大当り終了後は、「規制なし時テーブル」を参照して主遊技図柄の変動時間を決定することとなる。また、大当りに当選し、当該大当りに当選した図柄変動(大当り変動と称することがある)の変動時間が所定時間(例えば、100秒)であった場合には、当該大当り終了後は、「規制あり時テーブル」を参照して主遊技図柄の変動時間を決定するよう構成してもよい。すなわち、大当り変動の変動時間が所定時間の変動時間であった場合にのみ大当り終了後に規制あり時テーブルを参照することとなり、このように構成することで、特定のテーブルを参照した場合にのみ選択される変動態様が選択されたか否かによって大当り終了後の参照するテーブルを決定することができる。より具体的には、大当り終了直後から参照される変動時間決定用テーブルをテーブルA、大当り終了時から50変動後から参照される変動態様決定用テーブルをテーブルBとした場合において、テーブルA参照時には100秒の変動時間が決定され得る一方、テーブルB参照時には100秒の変動時間が決定されないよう構成することで、大当り終了後すぐに再度大当りに当選した場合にのみ、大当り終了後に参照するテーブルを「規制あり時テーブル」とすることができる。

30

40

【2289】

また、連荘中の遊技状態として、大当り終了後に確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態となり、図326に示す「規制なし時テーブル」を参照して主遊技図柄の変動時間を決定することとなる。その後、大当りに当選した際に生起している主遊技保留内に大当りとなる保留(最大ラウンド数のラウンドが実行される所定の大当りとなる保留としてもよい

50

）が存在している場合には、当該当選した大当りの終了後は、「規制あり時テーブル」を参照して主遊技図柄の変動時間を決定するよう構成してもよい。また、大当りに当選した際に生起している主遊技保留内に大当りとなる保留（最大ラウンド数のラウンドが実行される所定の大当りとなる保留としてもよい）が存在していない場合には、当該当選した大当りの終了後は、「規制なし時テーブル」を参照して主遊技図柄の変動時間を決定するよう構成してもよい。

【2290】

なお、そのように構成した場合において、保留内に存在している大当りとなる保留に係る図柄変動の実行時においては、特定の変動時間が選択され易いまたは必ず選択されるよう構成してもよく、当該大当り変動中には特別な演出（規制なし時テーブルの参照時には選択され難い演出であり、例えば、プレミア演出など）を実行され易いまたは必ず実行されるよう構成してもよい。また、上述した構成など本例に係るすべての構成に特別な演出に係る構成を適用可能であり、規制なし時テーブルを参照している状態よりも規制あり時テーブルを参照している状態の方が、特別な演出が実行され易いよう構成してもよく、そのように構成することによって、規制あり時テーブルを参照して決定される変動時間が相対的に長時間であっても、遊技者は特別な演出を視認することを所望することにより、遊技意欲が高まることとなる。

【2291】

また、図327に示すように、大当り変動にて参照したテーブルによって、当該大当り終了後に参照する変動時間決定用テーブルを相違させてもよい。具体的には、或る大当りの終了後、50回の図柄変動までは限定頻度テーブルを参照して主遊技図柄の変動時間を決定する。その後、50回の図柄変動までは時短中テーブルを参照して主遊技図柄の変動時間を決定する。同図におけるタイミングAで大当りに当選した、換言すると、限定頻度テーブルを参照して大当り変動の変動時間を決定した場合には、大当り終了後には規制あり時テーブルを参照して変動時間を決定する。また、同図におけるタイミングBで大当りに当選した、換言すると、時短中テーブルを参照して大当り変動の変動時間を決定した場合には、大当り終了後には規制なし時テーブルを参照して変動時間を決定する。このように、同図においては、大当り変動の変動時間を決定する際に参照したテーブルによって大当り終了後に参照するテーブルを相違させることによって、限定頻度テーブル参照時、換言すると、大当り終了後から短時間で再度大当りに当選した場合には、変動時間の平均値が長時間である規制あり時テーブルを参照するよう構成することができる。

【2292】

<< B：特別遊技中の時間 >>

「B：特別遊技中の時間」を適用する構成を詳述する。連荘中において所定条件を満たしている状況にて所定の大当り図柄（例えば、7A）が停止した場合には大当りAが実行され、連荘中において所定条件を満たしていない状況にて所定の大当り図柄（例えば、7A）が停止した場合には大当りBが実行される。

【2293】

また、図328に示すように、特別遊技（大当り）の実行時（実行ラウンド数が10ラウンドの特別遊技を例示している）においては、「特別遊技開始デモ時間→第1ラウンド中→ラウンド間時間→第2ラウンド中→ラウンド間時間→・・・→第9ラウンド→ラウンド間時間→第10ラウンド中→特別遊技終了デモ時間」のように遷移していくこととなる。なお、ラウンド中においては、所定数の遊技球の入球と所定時間の経過とのいずれかを満たすことで終了するよう構成されているため、遊技球の入球状況によってラウンド中の時間は変動し得ることとなる。

【2294】

上述した大当りAと大当りBとでは、特別遊技開始デモ時間、特別遊技終了デモ時間、ラウンド間時間の1または複数を相違させてもよい。また、上記所定条件を大当りが5回以上実行されているなど、連荘中に遊技球を大量に獲得したことに関する条件とした場合においては、特別遊技開始デモ時間、特別遊技終了デモ時間、ラウンド間時間の1または

10

20

30

40

50

複数を、大当り B よりも大当り A の方が長時間となるよう構成してもよく、特別遊技開始デモ時間や特別遊技終了デモ時間については、実行する演出を相違させてもよい。例えば、大当り A 中の特別遊技開始デモ時間や特別遊技終了デモ時間においては、遊技者を祝福する演出などを実行することで、相対的に長時間となる特別遊技開始デモ時間や特別遊技終了デモ時間であっても倦怠感を抱くことなく遊技を進行することができる。

【2295】

また、大当り A と大当り B とで、1 または複数のラウンド中の時間（上述した所定時間）を相違させてもよい。そのように構成することで、大入賞口に所定数の遊技球が入球しなかった場合のラウンド中の時間を相違させることができる。

【2296】

<< C：補助遊技に関する時間 >>

「C：補助遊技に関する時間」を適用する構成を詳述する。連荘中において所定条件を満たしている状況にて所定の大当り図柄が停止した場合には、大当り終了後に補助遊技テーブル A を参照して補助遊技図柄の変動時間を決定し、連荘中において所定条件を満たしていない状況にて所定の大当り図柄が停止した場合には、大当り終了後に補助遊技テーブル B を参照して補助遊技図柄の変動時間を決定するよう構成してもよい。補助遊技テーブル A と補助遊技テーブル B とでは、（1）決定される変動時間の平均値が相違する、（2）最も決定され易い変動時間が補助遊技テーブル A の方が長時間である、（3）補助遊技テーブル A では選択され得るが補助遊技テーブル B では選択されない変動時間を有している、のように構成してもよい。

【2297】

また、連荘中に所定条件を満たしているか否かによって、参照する補助遊技図柄の変動時間決定用テーブルが相違する構成を詳述したが、補助遊技図柄が当選となる確率が異なる、電チューの開放時間（または開放態様）が異なるよう構成してもよい。

【2298】

また、連荘中に所定条件を満たしているか否かによって、時短回数（補助遊技側の時間短縮遊技状態となる変動回数）を相違させてもよい。

【2299】

なお、所定条件としては、上述した変化の契機のいずれを適用させてもよい。

【2300】

< F：2つの大入賞口の開放の組合せ >

「F：2つの大入賞口の開放の組合せ」を適用する構成を詳述する。連荘中において所定条件を満たしている状況にて所定の大当り図柄が停止した場合には、大当り A が実行され、連荘中において所定条件を満たしていない状況にて所定の大当り図柄が停止した場合には大当り B が実行される。大当り A においても大当り B においても大入賞口 A と大入賞口 B とが開放することとなるが、図 329 のように、大当り A（規制あり時）においては、第 5 R～第 8 R にて大入賞口 A が開放する一方、大入賞口 B（規制なし時）においては、第 5 R～第 8 R にて大入賞口 B が開放することとなる。このように、大当り図柄が同一であっても、所定条件を充足しているか否かによって大当り中の各ラウンドで開放する大入賞口が相違し得るよう構成されている。なお、大入賞口 A と大入賞口 B とを比較した場合、大入賞口 B の方が大入賞口 A よりも賞球数が多いよう構成されているが、これには限定されず、（1）大入賞口 B の方が大入賞口 A よりも開放している時間が長時間である、（2）大入賞口 B の方が大入賞口 A よりも入球容易性が高い、（3）大入賞口 B の方が大入賞口 A よりもカウント数が多い、のように構成してもよい。なお、大入賞口への遊技球の入球容易性は、大入賞口近傍の遊技くぎの配置などによる遊技球の流路によって相違させることができる。

【2301】

なお、大入賞口 A と大入賞口 B はといずれも右打ち（または左打ち）を実行していれば入球し得るよう構成してもよいし、右打ちを実行している場合には大入賞口 A に入球可能であり、左打ちを実行している場合には大入賞口 B に入球可能であるよう構成してもよい

10

20

30

40

50

し、右打ちを実行している場合には大入賞口Bに入球可能であり、左打ちを実行している場合には大入賞口Aに入球可能であるよう構成してもよい。また、このように構成した場合においては、大入賞口Aと大入賞口Bとの賞球数や開放態様やカウント数は同一にしてもよい。

【2302】

<<本例に適用可能なその他の構成>>

出玉率が高くなりすぎない方法として本例に適用可能な構成を以下に詳述する。

【2303】

図330は、大当たり図柄停止イメージである。

【2304】

<パターンA>

或る大当たりが終了し、確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態に移行する。なお、同図においては、ST機となっており、大当たりから80回の図柄変動が実行されると、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態に移行することとなる。

【2305】

まず、確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態における30変動目にて大当たりに当選することとなるが、当該図柄変動では大当たり図柄が停止せず、ハズレ図柄が停止する。本タイミングから大当たりに当選した旨の情報を所定の記憶領域に記憶するが、大当たりは開始しない期間である大当たり開始保留期間となる。

【2306】

その後、前記或る大当たりの終了から80変動目の図柄変動にて、所定の記憶領域に記憶されている大当たりに係る大当たり図柄が停止し、その後大当たりが実行開始することとなる。

【2307】

<パターンB>

或る大当たりが終了し、確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態に移行する。その後、前記或る大当たりの終了から80変動目の図柄変動が終了し、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態に移行する。その後、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態における30変動目にて大当たりに当選し、当該図柄変動では大当たり図柄が停止して、大当たりが開始されることとなる。

【2308】

このように、同図においては、確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態にて大当たりに当選した場合には、大当たりが開始されずに、大当たり開始保留期間として大当たりに関する情報を所定の記憶領域に記憶し（大当たり情報を持ち越して）、確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態における最終変動にて大当たり図柄を停止させて大当たりを開始するよう構成している。

【2309】

このように、所定の遊技状態においては常に大当たりに当選しても大当たりが開始せずに持ち越すよう構成してもよいし、前述した連荘中の所定の条件（変化の契機）を満たしている所定の遊技状態においては、大当たりに当選しても大当たりが開始しない一方、連荘中の所定の条件を満たしていない所定の遊技状態においては、大当たりに当選すると当該変動終了後に大当たりが開始するよう構成してもよい。なお、大当たり情報を持ち越す条件に関する構成は、以下に詳述するすべての構成に適用可能である。

【2310】

また、同図においては、大当たり情報を持ち越す場合には、大当たりに当選した図柄変動にて大当たり図柄が停止しないよう構成したが、これには限定されず、（1）大当たり図柄は停止するが大当たりが開始しない、（2）大当たり図柄やハズレ図柄としては決定されない特殊図柄が停止する、よう構成してもよい。

【2311】

また、同図のように大当たりの当選を持ち越す（大当たり情報を持ち越す）場合において、遊技状態が移行する直前に大当たりを開始するよう構成したが、これには限定されず、遊技

10

20

30

40

50

状態が移行しなくともあらかじめ定められた所定のタイミング（例えば、大当たり終了後50変動目）で大当たりを開始し得るよう構成してもよい。

【2312】

また、同図においては、大当たり開始保留期間において大当たりが開始しないよう構成したが、大当たり開始保留期間においても、大当たり当選している旨を報知可能に構成してもよい。報知態様としては、以下のように構成してもよい。

（1）大当たり当選し、大当たりの情報を所定の記憶領域に記憶している状況において、所定確率（例えば、変動毎に抽選）で図柄変動中の演出として大当たり報知演出（大当たり当選している旨を報知する演出）を実行し得る。

（2）大当たり当選したタイミングで、大当たり報知演出の実行タイミングを決定する（例えば、20変動後に決定する）。

なお、大当たり当選後から大当たり報知演出の実行タイミングまでの期間で、大当たり当選している旨を示唆する前兆演出を実行するよう構成してもよい。また、そのように構成した場合には、大当たり当選していない場合にも、所定確率で当選するガセ前兆抽選を実行し、ガセ前兆抽選に当選した場合には、前兆演出と同様の演出態様の演出を実行した後、大当たり当選していない旨を報知するよう構成してもよい。

（3）大当たり当選した時点で、大当たり報知演出を実行するよう構成してもよい。

（4）特別遊技開始デモ時間、大当たり中の所定のタイミング、または特別遊技終了デモ時間において、上記（1）～（3）などの大当たり報知演出の実行態様を遊技者がサブ入力ボタンを操作することによって選択可能とし、選択した大当たり報知演出の実行態様（演出モード）にて大当たり終了後の確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態の遊技が進行するよう構成してもよい。

（5）大当たり当選した時点で大当たり開始保留期間の残りの変動回数（確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態の残りの変動回数）を確認し、残りの変動回数が所定回数以上であった場合には上記（2）の報知態様となり、残りの変動回数が所定回数未満であった場合には上記（3）の報知態様となる。

【2313】

また、同図においては、大当たり開始保留期間において大当たりが開始しないよう構成したが、大当たり開始保留期間においては、大当たり報知演出も実行しないよう構成してもよい。また、上述した前兆演出や大当たり当選している旨を示唆する演出なども実行しないよう構成してもよい。そのように構成した場合の演出の実行態様としては、以下のように構成してもよい。

（1）大当たり開始保留期間の終了タイミング（確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態の終了タイミング）から所定回数前の図柄変動から大当たり開始保留期間の最終変動までの期間において、大当たり当選しているか否かにかかわらず、大当たり当選しているか否かを煽る演出を実行するよう構成してもよい。一例としては、確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態の終了タイミングより前の10回の図柄変動にてバトル演出を実行し、バトル演出時の敵キャラの種類やバトル演出中の演出態様を、大当たり当選しているか否かに基づいて決定するよう構成してもよい。

（2）大当たり開始保留期間においては、最終変動より前には大当たり報知演出を実行しないが、大当たり開始保留期間において、大当たり当選している場合（大当たりの情報を記憶している場合）と大当たり当選していない場合とで演出の傾向（例えば、大当たり当選している可能性を示唆する演出の実行頻度）が相違するよう構成してもよい。

【2314】

また、大当たり当選した後、大当たりの当選を持ち越している大当たり開始保留期間においては、（1）図柄変動毎の当否抽選を実行しない、（2）当否抽選を実行するが、必ず非当選（ハズレ）となる、（3）当否抽選を実行するが、大当たり当選した場合には抽選結果を無効にする、よう構成してもよい。

【2315】

また、所定の状況にて大当たり当選しても大当たり開始保留期間となり、大当たりが開始し

10

20

30

40

50

ないように構成した場合において、大当たり開始保留期間において大当たり報知演出を実行可能であり、大当たり当選しており、大当たり開始保留期間における最終変動にて大当たり報知演出を実行する場合においては、当該変動開始時に生起している保留に、所定の大当たりとなる予定の保留が存在している場合においては、大当たり報知演出として、2回の大当たりが実行される旨を報知可能（例えば、「限界突破!」、「GET3000!」などと表示）に構成してもよい。

【2316】

また、所定の状況にて大当たり当選しても大当たり開始保留期間となり、大当たりが開始しないように構成した場合において、大当たり開始保留期間において大当たり報知演出を実行可能であり、大当たり当選以降の所定のタイミング（大当たり開始保留期間）にて大当たり報知演出を実行し、その後、確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態の最終変動（大当たり図柄が停止する変動）にて、当該変動開始時に生起している保留に、所定の大当たりとなる予定の保留が存在している場合においては、保留内に大当たりとなる予定の保留が存在している旨を報知する（例えば、「限界突破!」、「GET3000!」などと表示）よう構成してもよい。

10

【2317】

また、所定の状況にて大当たり当選しても大当たり開始保留期間となり、大当たりが開始しないように構成した場合において、大当たり開始保留期間において大当たり報知演出を実行可能であり、確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態の最終変動にて大当たり当選しておらず、当該変動開始時に生起している保留に、所定の大当たりとなる予定の保留が存在している場合においては、確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態の最終変動にて、大当たり報知演出として、大当たりが実行される予定である旨を報知可能（例えば、「復活!」、「逆転!」などと表示）に構成してもよい。

20

【2318】

また、所定の状況にて大当たり当選しても大当たり開始保留期間となり、大当たりが開始しないように構成した場合において、大当たり開始保留期間における最終変動よりも前においては、大当たり報知演出を実行しないよう構成し、大当たり当選しており、大当たり開始保留期間における最終変動にて大当たり報知演出を実行する場合においては、当該変動開始時に生起している保留に、所定の大当たりとなる予定の保留が存在している場合においては、大当たり報知演出として、2回の大当たりが実行される旨を報知可能（例えば、「限界突破!」、「GET3000!」などと表示）に構成してもよい。

30

【2319】

また、所定の状況にて大当たり当選しても大当たり開始保留期間となり、大当たりが開始しないように構成した場合において、大当たり開始保留期間においては、大当たり報知演出も実行しないよう構成されており、確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態の最終変動にて大当たり当選しておらず、当該変動開始時に生起している保留に、所定の大当たりとなる予定の保留が存在している場合においては、確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態の最終変動にて、大当たり報知演出として、大当たりが実行される予定である旨を報知可能（例えば、「復活!」、「逆転!」などと表示）に構成してもよい。

【2320】

40

確率変動遊技状態が次回の大当たり当選まで継続する（図柄変動の回数では終了しない）遊技機において、前回の大当たりから所定回数の図柄変動が実行されるまでは大当たりが開始しないよう構成してもよい。具体例としては、或る大当たりの終了後においては前記所定回数として50回が設定されており、前記或る大当たりの終了後から30回目の図柄変動にて大当たり当選した場合には、大当たりが開始されず大当たり開始保留期間となり、前記或る大当たりの終了後から50回目の図柄変動にて大当たり図柄が停止することとなる。他方、前記或る大当たりの終了後から70回目の図柄変動にて大当たり当選した場合には、当該70回目の図柄変動の停止図柄として大当たり図柄が停止表示することとなる。

【2321】

また、上記所定回数は複数種類の値から選択され得るよう構成してもよく、例えば、前

50

回の大当りの当選タイミングが大当り終了後から10変動目で当選している場合には、所定回数を90回とし、前回の大当りの当選タイミングが大当り終了後から50変動目で当選している場合には、所定回数を50回とするよう構成してもよい。

【2322】

＜＜大当り開始保留期間を有する構成の具体例＞＞

図330にて前述した、所定の状況にて大当りに当選しても大当り開始保留期間となり、大当りが開始しない（大当りの当選を持ち越す場合がある）ように構成した遊技機の具体的な構成の一例を以下に詳述する。なお、以下に詳述するいずれの構成も、前述したすべての構成やスペックに適用可能であることを補足しておく。

【2323】

なお、本例にて前述した構成や後述する構成は、どのように組み合わせても問題ないし、複数の構成を組み合わせ適用することも可能であることを補足しておく。

【2324】

また、以下では、時間短縮遊技状態に関する構成を例示しているが、以下に詳述するすべての構成について、確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態にも適用可能であるし、非確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態にも適用可能であることを補足しておく。

【2325】

＜時間短縮遊技状態での演出イメージ図1＞

図331は、本例の遊技機に適用可能な時間短縮遊技状態での演出イメージ図1である。まず、大当りが終了し、時間短縮遊技状態となり図柄変動が開始される。なお、同図の構成は、すべての時間短縮遊技状態（大当り終了後に時間短縮遊技状態となった場合のすべて）に適用してもよいし、大当りの連荘回数が所定回数に到達しているなどの前述したいずれかの変化の契機を満たしている場合にのみ適用してもよい。また、前述したように時間短縮遊技状態とは、確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態であってもよいし、非確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態であってもよい。

【2326】

その後、大当り終了後10変動目に、ステップ1のステップアップ演出として、主人公キャラが冒険に旅立つ演出が実行される。なお、本タイミングでは大当りに当選していない。

【2327】

なお、ステップアップ演出の実行開始タイミングとしては複数種類のタイミングを有してもよく、例えば、変動開始直後や、疑似連続変動に係る装飾図柄の仮停止後に実行するよう構成してもよい。

【2328】

ここで、ステップアップ演出とは、「ステップ1→ステップ2→ステップ3・・・」のように、実行される毎に段階が進行していく演出であり、ステップ（段階）毎にストーリーが進行していく等、関連性を持った一連の演出を実行してもよいし、ステップ単位で完結する演出を実行するよう構成してもよい。また、所定のタイミング（同図においては、時間短縮遊技状態の最終変動となる大当り終了後50変動目）までは大当りに当選していても、大当りが開始されずに、大当り開始保留期間として大当りに関する情報を所定の記憶領域に記憶する（大当り情報を持ち越す）よう構成されており、前記所定のタイミングまでにステップが進行するほど、所定のタイミングで大当りとなる（大当り図柄が停止する）期待度が高くなるよう構成されている。即ち、ステップ2まで進行した状態で前記所定のタイミングとなった場合よりも、ステップ5まで進行した状態で前記所定のタイミングとなった場合の方が、前記所定のタイミングとなる図柄変動で大当りとなる可能性が高くなるよう構成されており、遊技者はステップが進行するほど、大当りに当選していることに期待感を抱きながら遊技を進行することができる。なお、このような構成は、例えば、大当りに当選している（大当りの当選を持ち越している）場合の方が、大当りに当選していない場合よりもステップが進行し易いよう構成することにより実現することが可能である。

10

20

30

40

50

【2329】

図331の説明に戻ると、その後、大当たり終了後25変動目に係る当否抽選にて大当りに当選し、当該当選した大当たりを持ち越すこととなる。また、ステップアップ演出は実行されず、大当りに当選していない状況で実行された図柄変動と同様の演出を実行することで、遊技者に大当りに当選した図柄変動をすぐに察知されないよう構成している。このように構成することで、遊技者はいつ大当りに当選したのかを、時間短縮遊技状態における全体の演出傾向に基づいて想像しながら遊技を進行することができる。なお、これには限定されず、大当りに当選した図柄変動でステップアップ演出が実行され得るよう構成してもよい。その後、大当たり終了後30変動目に、ステップ2のステップアップ演出が実行される。

10

【2330】

なお、ステップ数（段階）の進行度合いとして、同図においては1回のステップアップ演出で1段階ステップアップする、換言すると、1回の図柄変動で1段階ステップアップするよう構成したが、これには限定されず、以下のように構成してもよい。

（1）1回の図柄変動で2段階以上ステップアップ可能であり、1回の図柄変動で2段階ステップアップした場合には、1回の図柄変動で1段階ステップアップした場合よりも大当りに当選している期待度が高い。このような構成は、時間短縮遊技状態の最終変動に近い図柄変動（時短回数50の場合における45変動目など）において大当りに当選した場合にステップアップ演出を実行する際に好適である。

（2）ステップアップ演出が実行された場合に、ステップ数が戻る（減少する）、ステップ数が進行しない（前回と同様のステップアップ演出が実行される）よう構成してもよく、そのような場合には、1回の図柄変動で1段階ステップアップした場合よりも大当りに当選している期待度を高くしたり、大当りに当選していることが確定的となるよう構成してもよい。

20

（3）時間短縮遊技状態における最初のステップアップ演出でステップ3のステップアップ演出などステップ1ではない途中のステップ数のステップアップ演出が実行される場合があるよう構成してもよい。このように構成した場合には、時間短縮遊技状態における最初のステップアップ演出でステップ1のステップアップ演出が実行された場合よりも、大当りに当選している期待度が高くなるよう構成してもよい。

（4）1回のステップアップ演出における途中のシーンからステップアップ演出が実行される場合がある。一例としては、ステップ1のステップアップ演出として「主人公が家を出る→主人公が道を歩く→主人公が山を登る→主人公が山小屋にたどり着く」のように演出が進行する場合において、ステップアップ演出の実行開始時に「主人公が山を登る」が表示される。このように構成した場合には、ステップアップ演出の実行開始時に「主人公が家を出る」が表示された場合よりも、大当りに当選している期待度が高くなるよう構成してもよい。

30

【2331】

その後、大当たり終了後35変動目に、ステップ3のステップアップ演出が実行される。なお、前述したように、大当りには当選した後となっている。その後、大当たり終了後40変動目に、ステップ4のステップアップ演出が実行される。その後、時間短縮遊技状態の最終変動となる大当たり終了後50変動目にて、すでに大当りに当選していたため（大当たり情報が記憶されていたため）、第1装飾図柄と第2装飾図柄とが当選していた大当りに係る大当たり図柄として「777」にて停止する。なお、同図のように構成した場合には、時間短縮遊技状態の最終変動においては、大当りに当選しているか否かにかかわらず、リーチ演出を実行するよう構成してもよく、そのように構成することにより、時間短縮遊技状態が終了するか否かの報知を行う重要な図柄変動に遊技者を注目させることができる。また、時間短縮遊技状態の最終変動の変動時間は1通りの時間（例えば、30秒）のみが決定されるよう構成してもよい。例えば、時間短縮遊技状態の変動時間に関する状態として、前述した限定頻度状態とし、時間短縮遊技状態の最終変動のみ参照する変動態様決定用テーブルを異ならせるよう構成してもよい。また、時間短縮遊技状態にて参照する変動態

40

50

様決定用テーブルは、2種類としても、3種類以上としてもよく、一例としては、「1～49変動目：テーブルAを参照、50変動目：テーブルBを参照」としてもよいし、「1～19変動目：テーブルAを参照、20～49変動目：テーブルBを参照、50変動目：テーブルCを参照」としてもよい。

【2332】

このように、同図においては、大当りに当選していない状況よりも、大当りに当選している状況の方が、ステップアップ演出が実行され易い（ステップが進行し易い）よう構成されている。具体的には、大当りに当選していない状況では、24回の図柄変動でステップアップ演出が1回実行されていることに対して、大当りに当選している状況では、26回の図柄変動でステップアップ演出が3回実行されている。このように構成することで、大当りに当選した変動を遊技者に報知しないよう構成した場合において、ステップアップ演出が実行される度に大当りに当選しているのではないかとの期待感を抱いて遊技を進行することができる。

【2333】

なお、ステップアップ演出の実行態様としては、以下のように構成してもよい。

(1) 大当りに当選しているか否かを参照せず、図柄変動毎にステップアップ演出を実行するか否かの抽選を副制御基板側で実行する。

(2) 大当りに当選している場合と当選していない場合とで異なるテーブルを参照して、図柄変動毎にステップアップ演出を実行するか否かの抽選を副制御基板側で実行する。

(3) 所定の変動時間（変動態様）となる図柄変動の実行時にステップアップ演出を実行する。なお、大当りに当選していない場合と大当りに当選している場合とで異なるテーブルを参照して変動時間を決定するよう構成してもよく、そのように構成した場合には、大当りに当選している場合に参照するテーブルの方が大当りに当選していない場合に参照するテーブルよりも、ステップアップ演出を実行する変動時間が決定され易いよう構成してもよい。

(4) 装飾図柄の停止図柄として特定の停止図柄（停止図柄の組み合わせ）が停止した場合にステップアップ演出を実行するよう構成してもよい。一例としては、「123」や「321」などの規則性を持った特定出目や、非時間短縮遊技状態のハズレ図柄としては停止しない数字とは異なる図柄（「チャンス」、「昇」など）がいずれかの停止図柄として停止するなどを特定の停止図柄が停止した場合としてもよい。なお、特定の停止図柄が停止するか否かの決定態様としては、主遊技図柄として特定の変動時間が決定された場合に停止するよう構成してもよいし、装飾図柄の停止図柄の抽選を実行して特定の停止図柄が決定された場合に停止するよう構成してもよい。

(5) ステップアップ演出の実行タイミングとしては、変動開始時、変動中の所定のタイミング、変動終了時、いずれかの列の装飾図柄停止時など様々なタイミングで実行開始され得るよう構成してもよく、そのように構成することで、時間短縮遊技状態中において常時ステップアップ演出の実行に期待することができる。

(6) 同じ段階であっても演出態様の種類を複数種類有するよう構成し、いずれの演出態様が実行されたかによって、大当りに当選している期待度を相違させてもよい。

(7) 同じ段階であっても演出態様の種類を複数種類有するよう構成し、いずれの演出態様が実行されたかによって、設定値を複数有する遊技機においては、設定値によって演出の選択傾向を相違させてもよい。例えば、設定値として、「1、2、5、6」の4段階の設定値を有しており、出玉率（機械割）が高いものから順に「6、5、2、1」となるよう構成し、ステップ4のステップアップ演出として演出態様Aと演出態様Bが選択され得るよう構成した場合において、設定1では、ステップ4のステップアップ演出が実行された場合に、「演出態様A：演出態様B＝80：20」の割合で選択される一方、設定6では、ステップ4のステップアップ演出が実行された場合に、「演出態様A：演出態様B＝40：60」の割合で選択されるよう構成することで、ステップ4のステップアップ演出として演出態様Bが実行された場合には、高設定（遊技者に有利な設定）である設定6に設定されていることに期待感を抱くことができる。また、設定6では選択され得るが設定

10

20

30

40

50

1では選択されない（または、設定6以外の設定値では選択されない）ステップアップ演出の演出態様を有していてもよく、さらに、ステップ1のステップアップ演出では設定6のみ選択され得る演出態様は設けられていないが、ステップ8のステップアップ演出では設定6のみ選択され得る演出態様は設けられているなど、後半のステップに設定6のみ選択され得る演出態様を設けるよう構成してもよい。

（8）電源断が発生した場合には、電源復帰後においては、ステップアップに関する情報はクリアされ、次のステップアップ演出は最初のステップ（ステップ1またはステップ2）から実行されるよう構成してもよい。

（9）同図においては、ステップアップ演出の実行時に「ステップ1 旅立ち」などの現在のステップ数（段階）を表示するよう構成したが、これには限定されず、演出表示装置にてステップアップ演出がどの段階まで進行したのかに関する画像、換言すると、現在のステップ数に関する画像（ステップ進行画像と称することがある）を表示するよう構成してもよい。例えば、演出表示装置に「ステップ4」と表示してもよく、当該表示は、保留画像（保留表示）、エラー表示、よりも表示優先度が低く（後面レイヤーに表示）なるよう構成してもよい。また、電源断が発生した場合には、電源復帰後においては、ステップ進行画像を「――」のように、電源断復帰時専用の表示態様としてもよいし、ステップ進行画像を「ステップ4」のようにあらかじめ定められた段階とするよう構成してもよい。また、ステップ進行画像は、（9-1）時間短縮遊技状態において演出表示装置の右上に現在のステップ数を常時表示しておくよう構成してもよいし、（9-2）サブ入力ボタンを操作することによって、演出表示装置にて現在のステップ数を確認可能であり、現在のステップ数を確認するためのサブ入力ボタンの操作については、図柄停止中に可能としてもよいし、図柄変動中にも可能としてもよい。

【2334】

<時間短縮遊技状態での演出イメージ図2>

図332は、本例の遊技機に適用可能な時間短縮遊技状態での演出イメージ図2である。大当たりが終了し、時間短縮遊技状態となり図柄変動が開始される。なお、同図の構成は、すべての時間短縮遊技状態に適用してもよいし、大当たりの連荘回数が所定回数に到達しているなどの前述したいずれかの変化の契機を満たしている場合にのみ適用してもよい。また、時間短縮遊技状態とは、確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態であってもよいし、非確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態であってもよい。

【2335】

その後、大当たり終了後10変動目に、青色の箱を入手（ゲット、GETと称することがある）する演出が実行される。なお、本タイミングでは大当たり当選していない。このように、同図の構成においては、時間短縮遊技状態にて箱を入手する演出が実行され得るよう構成されており、入手した箱は演出表示装置の左上方に蓄積して表示され（箱を入手した情報が記憶され）、時間短縮遊技状態における最終変動となる大当たり終了後50変動目にて、大当たり当選していたか否かに関する演出の実行時に使用されることとなる。また、同図に示すように、大当たり当選していない場合にも、大当たり当選している場合にも、箱を入手する演出が実行され得るよう構成されている。

【2336】

図332の説明に戻ると、その後、大当たり終了後30変動目に、大当たり当選し、赤色の箱を入手（ゲット）する演出が実行され、演出表示装置の左上方に箱が2つである旨の画像が表示される（入手した箱の画像が1つから2つに増加する）。なお、同図においては、大当たり当選した図柄変動にて箱を入手する演出が実行されるよう構成したが、大当たり当選した図柄変動では箱を入手する演出が実行されない（または、実行されない場合を有する）よう構成してもよい。

【2337】

その後、大当たり終了後35変動目に、緑色の箱を入手（ゲット）する演出が実行され、演出表示装置の左上方に箱が3つである旨の画像が表示される。なお、大当たりには当選した後となっている。その後、大当たり終了後40変動目に、赤色の箱を入手（ゲット）する

演出が実行され、演出表示装置の左上方に箱が4つである旨の画像が表示される。その後、時間短縮遊技状態の最終変動となる大当たり終了後50変動目にて、入手した箱を開封する演出である「開封の刻」が実行される。

【2338】

なお、同図においては、大当りに当選していない状況よりも、大当りに当選している状況の方が、箱を入手する演出が実行され易いよう構成されている。具体的には、大当りに当選していない状況では、24回の図柄変動で箱を入手する演出が1回実行されていることに対して、大当りに当選している状況では、26回の図柄変動で箱を入手する演出が3回実行されている。このように構成することで、大当りに当選した変動を遊技者に報知しないよう構成した場合において、箱を入手する演出が実行される度に大当りに当選していることへの期待感を増加させて遊技を進行することができる。また、入手する箱は、大当たり期待度（開封の刻にて大当たりが報知される期待度、すでに大当りに当選している期待度）が、高いものから順に、「赤→緑→黄→青」となっており、大当りに当選していない状況にて箱を入手した場合よりも、大当りに当選している状況にて箱を入手した場合の方が、大当たり期待度が高い箱を入手し易いよう構成されている。

【2339】

図332の説明に戻ると、大当たり終了後50変動目の開封の刻の演出として、入手した箱が開封される演出が実行されていき、3個目の箱である緑色の箱を開封する演出が実行され、3個目の箱を開封した結果として「ハズレ」である旨が報知される。その後、4個目の箱である赤色の箱を開封する演出が実行され、4個目の箱を開封した結果として「大当たり」である旨が報知される。その後、大当りに当選していたため（大当たり情報が記憶されていたため）、第1装飾図柄と第2装飾図柄とが当選していた大当りに係る大当たり図柄として「777」にて停止する。なお、リーチ演出を実行した後で「777」が停止するよう構成してもよい。また、演出表示装置の右下方には大当りに当選した変動（大当たり終了後からの変動回数）として、「30変動目で当選！」と表示される。なお、演出表示装置における表示位置はあくまで一例であり、変更しても何ら問題ない。このように構成することで、遊技者は大当りに当選したタイミングを認識することができる。また、いずれの箱を入手した図柄変動にて大当りに当選したかを認識することができる。

【2340】

なお、箱を入手する演出の実行態様としては、以下のように構成してもよい。

（1）大当りに当選しているか否かを参照せず、図柄変動毎に箱を入手する演出を実行するか否かの抽選を副制御基板側で実行する。

（2）大当りに当選している場合と当選していない場合とで異なるテーブルを参照して、図柄変動毎に箱を入手する演出を実行するか否かの抽選を副制御基板側で実行する。

（3）所定の変動時間（変動態様）となる図柄変動の実行時に箱を入手する演出を実行する。なお、大当りに当選していない場合と大当りに当選している場合とで異なるテーブルを参照して変動時間を決定するよう構成してもよく、そのように構成した場合には、大当りに当選している場合に参照するテーブルの方が大当りに当選していない場合に参照するテーブルよりも、箱を入手する演出を実行する変動時間が決定され易いよう構成してもよい。

（4）装飾図柄の停止図柄として特定の停止図柄（停止図柄の組み合わせ）が停止した場合に箱を入手する演出を実行するよう構成してもよい。一例としては、「123」や「321」などの規則性を持った特定出目や、非時間短縮遊技状態のハズレ図柄としては停止しない数字とは異なる図柄（「チャンス」、「昇」など）がいずれかの停止図柄として停止するなどを特定の停止図柄が停止した場合としてもよい。なお、特定の停止図柄が停止するか否かの決定態様としては、主遊技図柄として特定の変動時間が決定された場合に停止するよう構成してもよいし、装飾図柄の停止図柄の抽選を実行して特定の停止図柄が決定された場合に停止するよう構成してもよい。

（5）箱を入手する演出の実行タイミングとしては、変動開始時、変動中の所定のタイミング、変動終了時、いずれかの列の装飾図柄停止時など様々なタイミングで実行開始され

10

20

30

40

50

得るよう構成してもよく、そのように構成することで、時間短縮遊技状態中において常時箱を入手する演出の実行に期待することができる。

(6) 時間短縮遊技状態の最終変動で実行される演出(開封の刻)にて箱を開封する際に、ボタン演出(サブ入力ボタンの操作を遊技者に促す演出)を実行するよう構成してもよく、ボタン演出にて表示されるボタン画像(サブ入力ボタンの画像)の表示態様を複数種類設けてもよい。一例としては、相対的に小さいボタン画像と相対的に大きいボタン画像とを表示し得るよう構成し、相対的に大きいボタン画像の方が相対的に小さいボタン画像よりも大当たり期待度の高い箱を入手し易いよう構成してもよい。

(7) 同じ段階であっても演出態様の種類を複数種類有するよう構成し、いずれの演出態様が実行されたかによって、設定値を複数有する遊技機においては、設定値によって演出の選択傾向を相違させてもよい。例えば、設定値として、「1、2、5、6」の4段階の設定値を有しており、出玉率(機械割)が高いものから順に「6、5、2、1」となるよう構成し、箱を入手する演出として青色の箱と赤色の箱が選択され得るよう構成した場合において、設定1では、箱を入手する演出が実行された場合に、「青色の箱：赤色の箱＝80：20」の割合で選択される一方、設定6では、箱を入手する演出が実行された場合に、「青色の箱：赤色の箱＝40：60」の割合で選択されるよう構成することで、箱を入手する演出として赤色の箱が実行された場合には、高設定(遊技者に有利な設定)である設定6に設定されていることに期待感を抱くことができる。なお、当該構成では青色の箱と赤色の箱とが表示され得る構成を例示したが、これには限定されず、時間短縮遊技状態の最終変動における大当たり期待度を示唆する表示態様(例えば、青色、赤色)とは異なる表示態様として、紫色の箱を入手し得るよう構成し、紫色の箱を入手するほど高設定の可能性が高くなるよう構成してもよい。また、設定6のみ選択され得る(表示され得る)演出態様(例えば、金色の箱)を表示し得るよう構成してもよい。また、上記紫色の箱や金色の箱は大当たりの当選期待度には関連性のない設定値の示唆専用の演出態様としてもよいし、大当たりの当選期待度と設定値の示唆との双方を兼ねるよう構成してもよい。

(8) 当選していない場合よりも大当たりに当選している場合の方が、設定値を示唆する演出態様の箱を入手し易い(箱自体を入手する確率が高い、箱を入手した場合における設定値を示唆する演出態様が選択され易い)よう構成してもよい。

(9) 大当たりに当選していることが確定的となる箱を入手する場合があるよう構成してもよい。

(10) 電源断が発生した場合には、電源復帰後においては、演出表示装置左上の入手した箱の画像を「??」のように、電源断復帰時専用の表示態様としてもよく、次回箱を入手する演出が実行された場合には、当該箱が1つ目の箱として演出表示装置左上の入手した箱の画像を表示するよう構成してもよいし、当該入手した箱と電源断前に入手した箱とを合わせて演出表示装置左上の入手した箱の画像を表示するよう構成してもよい。

【2341】

<時間短縮遊技状態終了時の演出イメージ図>

図333は、本例の遊技機に適用可能な時間短縮遊技状態終了時の演出イメージ図である。大当たりが終了し、時間短縮遊技状態となり図柄変動が開始される。なお、同図の構成は、すべての時間短縮遊技状態に適用してもよいし、大当たりの連荘回数が所定回数に到達しているなどの前述したいずれかの変化の契機を満たしている場合にのみ適用してもよい。また、時間短縮遊技状態とは、確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態であってもよいし、非確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態であってもよい。

【2342】

その後、大当たりには当選せずに大当たり終了後の時間短縮遊技状態における最終変動が実行され、当該変動中に保留が4つ生起し、3番目に消化予定の保留、換言すると、前回の当選終了後53変動目に消化予定の保留が大当たりで当選する予定の保留となっている。なお、同図においては、大当たり終了後50回目の変動にて4つ保留が生起する場合を例示したが、これには限定されず、大当たり終了後50回目の変動が開始する前に、大当たり終了後50回目の変動以降に消化される保留が生起している場合にも適用可能である。また、

大当たり終了後50回目の図柄変動はハズレ変動であるため、当該変動の結果として、ハズレである旨が報知されることとなる。なお、同図においては説明の都合上、大当たりとなる予定の保留を「★」にて表示しているが、実際の演出表示装置における表示としては他の保留表示と同様に保留変化していない通常の表示態様としてもよいし、保留変化している表示態様としてもよい。

【2343】

その後、時間短縮遊技状態が終了し、非時間短縮遊技状態となるが、保留内に大当たりとなる予定の保留が存在していることから、大当たり終了後51回目の変動に関する演出として、復活演出が先読み演出として実行される。当該復活演出は、大当たり終了後50回目の変動中の演出として時間短縮遊技状態にて大当たりに当選したか否かに関する演出が実行され、その結果としてハズレである旨が報知される演出態様と一連の流れとして実行される演出であり、保留内に大当たりとなる予定の保留が存在することにより、先読み演出として実行されている。なお、時間短縮遊技状態の最終変動である大当たり終了後50回目の変動（ハズレ変動）にて大当たりとなる保留が生起していない場合には、復活演出は実行されない。

10

【2344】

その後、大当たり終了後52変動目の演出として、復活演出が継続して実行される。その後、大当たり終了後53変動目の演出として、大当たりに当選する予定の保留に係る変動が実行され、大当たりに当選した旨の演出、換言すると、大当たり図柄が停止して大当たりが開始される旨の演出が実行される。その後、当該変動にて第1装飾図柄と第2装飾図柄とが大当たり図柄として「777」にて停止する。

20

【2345】

このように、同図においては、時間短縮遊技状態にて大当たりに当選した場合に、当該大当たりを持ち越す（大当たりは実行開始されず、所定の記憶領域に記憶する）よう構成されており、時間短縮遊技状態における最終変動（同図においては50変動目）にて、当該時間短縮遊技状態にて大当たりに当選したか否か（大当たりを持ち越しているか否か）に関する演出を実行するよう構成されている遊技機において、時間短縮遊技状態の最終変動にて生起している保留内に大当たりとなる予定の保留が存在している場合には、時間短縮遊技状態終了後の非時間短縮遊技状態にて復活演出を実行することで、時間短縮遊技状態の最終変動から一連の流れとなる演出を実行して大当たりを報知するよう構成されている。

30

【2346】

また、同図のように、時間短縮遊技状態の最終変動にて保留内に大当たりとなる保留が存在しているか否かを事前判定可能に構成した場合においては、以下のように構成してもよい。なお、以下の構成については、時間短縮遊技状態の最終変動にて保留数が4個（上限数）である場合について例示している。

（1）時間短縮遊技状態終了後に消化される4つの保留に係る図柄変動を連荘中の最後の4変動として同系統の演出を実行する。一例としては、時間短縮遊技状態の最終変動の次変動から「ラスト4回」→「ラスト3回」→「ラスト2回」→「ラスト！！」のように変動毎に表示して、毎変動主人公が立ち上がるか否かを煽る演出を実行し、大当たりとなる予定の保留に係る図柄変動では主人公が立ち上がって復活演出が実行される。また、時間短縮遊技状態終了後に消化される4つの保留に係る図柄変動の変動時間は、非時間短縮遊技状態の変動時間に関する状態として、前述した限定頻度状態とし、1通りの時間（例えば、5秒）のみが決定されるよう構成してもよいし、時間短縮遊技状態とは変動時間の選択傾向が異なる変動態様決定用テーブルを参照するよう構成してもよい。

40

（2）時間短縮遊技状態の最終変動においてサブ入力ボタンの操作を促すボタン演出を実行するよう構成してもよい。一例としては、時間短縮遊技状態の最終変動において、リーチ演出が実行され、時間短縮遊技状態にて大当たりに当選していなかったため、ハズレ図柄が停止し、リザルト画面（連荘中に獲得した遊技球、連荘中に払い出した遊技球、連荘回数などが表示される画面であり、終了画面とも称することがある）の表示中にボタン演出が実行され（ボタン画像が表示され）、サブ入力ボタンの有効期間にてサブ入力ボタンが

50

操作されると、保留内に大当たりとなる予定の保留が存在している場合には、可動体役物が駆動する役物演出が実行されて大当たり図柄が停止し、保留内に大当たりとなる予定の保留が存在していない場合には、画面が暗転して時間短縮遊技状態が終了するよう構成してもよい。

(3) 時間短縮遊技状態の最終変動にて生起している保留内に大当たりとなる予定の保留が存在している場合には、時間短縮遊技状態の最終変動にて大当たりとなる予定の保留が存在している旨を報知する(例えば、前述した復活演出を実行する)よう構成してもよい。そのように構成した場合には、時間短縮遊技状態の最終変動から大当たりとなる予定の保留の直前に消化される保留に係る図柄変動までにおいて、第1装飾図柄をハズレ図柄にて停止させ、第2装飾図柄を特殊態様(例えば、「3V3」など)にて毎変動停止させ、大当たりとなる予定の保留に係る図柄変動において、第1装飾図柄及び第2装飾図柄を大当たり図柄にて停止させる(例えば、「333」)よう構成してもよい。このように構成することにより、装飾図柄の停止態様によって大当たりとなる予定の保留が存在していることを遊技者に示唆することができる。

10

(4) 保留内に大当たりとなる保留が存在しているか否かを事前判定するタイミングとしては、保留生起時、最終変動の変動開始前、最終変動の変動開始時、最終変動の変動中における所定のタイミング、最終変動の変動終了時、などとしてもよい。

【2347】

なお、時間短縮遊技状態や大当たりの実行中において、「5連荘中!」などの連荘回数に係る画像を表示するよう構成した場合においては、復活演出が実行された大当たり、換言すると、時間短縮遊技状態の最終変動にて生起していた大当たりに当選する予定の保留に係る大当たりにおいても、連荘中の大当たりとして、上記連荘回数に係る画像を更新(例えば、「5連荘中!」を「6連荘中!」に更新)するよう構成してもよい。

20

【2348】

なお、同図においては、時間短縮遊技状態が50変動で終了し、且つ大当たり終了後53変動目の保留が大当たり当選する予定の保留である場合を例示したが、大当たり終了後51変動目や52変動目や54変動目の保留が大当たり当選する予定の保留である場合にも適用可能であるし、時短回数を変更しても問題ない。

【2349】

また、時間短縮遊技状態の最終変動にて大当たり当選する予定の保留が存在している場合における構成として、以下のように構成してもよい。なお、以下については、同図のように、時間短縮遊技状態が50変動で終了し、且つ大当たり終了後53変動目の保留が大当たり当選する予定の保留である場合について例示している。

30

(1) 時間短縮遊技状態の最終変動の演出にて大当たり当選した旨の演出を実行し、大当たり終了後53変動目の保留に係る変動まで一連の流れとなる演出態様で演出を実行する。

(2) 時間短縮遊技状態の最終変動にて保留内に大当たり当選する予定の保留が存在している場合には、存在している保留のうち最後に消化される保留に係る変動にて大当たり図柄が停止する。

(3) 時間短縮遊技状態の最終変動にて保留内に大当たり当選する予定の保留が存在している場合には、所定の図柄変動(例えば、大当たり終了後52回目の変動)にて大当たり図柄が停止する。

40

(4) 時間短縮遊技状態の最終変動にて保留内に大当たり当選する予定の保留が存在している場合にも、時間短縮遊技状態の最終変動にて大当たり図柄が停止して大当たりが開始する。

(5) 時間短縮遊技状態の最終変動にて保留内に大当たり当選する予定の保留が存在している場合には、時間短縮遊技状態の最終変動の次変動から復活演出を実行可能に構成し、時間短縮遊技状態の最終変動にて大当たりを持ち越している(または最終変動にて大当たり当選した)場合においても、前記復活演出を同様の演出態様を最終変動の変動時間内にて実行可能(「変動開始→リーチ演出→ハズレを示唆する演出→復活演出→大当たり図柄停止」を時間短縮遊技状態の最終変動にて実行する)に構成してもよい。

【2350】

50

このように、大当りに当選している（当選する予定である）旨を報知するタイミングを、時間短縮遊技状態の最終変動とすることで、遊技者は安心して演出の経過に注目することができ、大当りに当選している（当選する予定である）旨を報知するタイミングを、時間短縮遊技状態の終了後とすることで、遊技者は一度落胆した後に歓喜の瞬間を味わうことができる。

【2351】

＜大当りの報知タイミング＞

時間短縮遊技状態において大当りに当選した場合に、大当り当選時には報知せず、所定期間経過後に報知する（大当り図柄が停止する）よう構成してもよく、以下のように構成してもよい。

（１）大当り当選時に抽選を実行し、決定された変動回数経過後に大当りを報知する。

（２）大当り当選時に抽選を実行し、決定された変動回数経過後に大当りを報知し、決定された変動回数経過後が時間短縮遊技状態の終了後である場合には、時間短縮遊技状態の最終変動にて報知する。

（３）大当り当選時から所定の変動回数経過後（例えば、３２変動後）に大当りを報知する。

【2352】

なお、上記のように構成した場合には、大当り当選時に大当りの当選を示唆する演出を実行してもよく、そのように構成した場合には以下のように構成してもよい。

（１）大当りが当選した図柄変動における装飾図柄の停止図柄を特定の組み合わせとする。例えば、「１２３」、「３２１」、などの規則性を持った停止図柄や数字とは異なる図柄（「チャンス」、「昇」など）が特定の組み合わせに該当する。

（２）大当りが当選した図柄変動以降、大当りを報知するまで、特定の演出モードや背景演出を実行する。例えば、３２回の図柄変動に亘る前兆演出を実行する。

（３）上記（１）や（２）を適用した場合において、大当りに当選していない図柄変動においても、特定出目を停止させたり、前兆演出（大当りが報知されないので、ガセ前兆演出やガセ前兆と称してもよい）を実行するよう構成してもよい。そのように構成することで、特定出目や前兆演出が実行された場合にも、大当りとなることが確定的とはならないため、遊技者は大当りに対する適度な期待感を持って遊技を進行することができる。また、高期待度の演出の実行頻度を高めることができる。なお、ガセ前兆は所定の抽選に当選した場合に実行してもよいし、大当りからの変動回数が所定回数となった場合に実行するよう構成してもよい。

（４）上記（３）を適用した場合において、大当りに当選した図柄変動以降の演出の演出傾向（当該演出傾向を前兆煽りと称することがある）と大当りに当選する以前の演出の演出傾向とを相違させてもよい。具体例としては、「大当りに当選→前兆煽り演出を５変動→特定の演出モードを３２変動→３２変動目で大当り図柄が停止」のように演出を実行してもよい。また、そのように構成する場合には、上記（３）のようにガセ前兆を実行してもよく、「ガセ前兆を開始→前兆煽り演出を５変動→特定の演出モードを３０変動→３０変動目でハズレ図柄が停止し、特定の演出モードが終了」のように演出を実行してもよい。また、例示したように、大当り図柄が停止することとなる（大当りを報知することとなる）特定の演出モードと大当り図柄が停止しない特定の演出モードとは、滞在する変動回数を相違させてもよい。

【2353】

＜演出モードを選択する構成＞

時間短縮遊技状態にて大当りに当選した場合に、当該大当りを持ち越す（大当りは実行開始されず、所定の記憶領域に記憶する）よう構成された遊技機において、大当り時（特別遊技開始デモ時間、特別遊技実行中、または特別遊技終了デモ時間）にて、時間短縮遊技状態における演出モード（演出傾向）を遊技者が選択できるよう構成してもよい。一例としては、「ステップアップ演出モード→完全告知モード→後告知モード→ステップアップ演出モード・・・」のように３秒毎に演出表示装置における表示が切り替わって、遊技者

10

20

30

40

50

がサブ入力ボタンを操作することで、表示されている演出モードに決定するよう構成してもよい。また、「ステップアップ演出モード→完全告知モード→後告知モード→ステップアップ演出モード・・・」のように十字キー（副制御基板にて制御される部材）を操作することで表示が切り替わって、遊技者がサブ入力ボタンを操作することで、表示されている演出モードに決定するよう構成してもよい。なお、一例としては、ステップアップ演出モードは、図331にて前述したステップアップ演出が実行される演出モードであり、完全告知モードは、大当りに当選した場合に大当りに当選した情報を持ち越すが、大当りに当選した変動にて大当りに当選した旨を報知する（大当りに当選した旨の報知は持ち越さずに実行する）演出モードであり、後告知モードは、図332にて前述した時間短縮遊技状態の最終変動にて大当りに当選していたのか否かを報知する（入手した箱を開封する演出である「開封の刻」を実行する）演出モードである。なお、完全告知モードの演出態様の具体例としては、演出表示装置に爆弾の画像を常時表示しておき、大当りに当選した図柄変動のいずれかのタイミングで爆弾が必ず爆発する演出態様が例示できる。また、後告知モードにおいては、図332にて前述した箱を入手する演出などの大当りの当選を示唆する演出を実行せずに、時間短縮遊技状態の最終変動にて大当りに当選しているか否かを報知するよう構成してもよい。

10

【2354】

なお、上記構成において、電源断が発生した場合には、電源復帰後には、あらかじめ定められたデフォルトの演出モードが選択されるよう構成してもよい。例えば、電源復帰後は後告知モードに固定することで、電源断が発生した場合にも遊技者が認識していた情報（例えば、前述したステップ進行画像）がクリアされてしまうことがないよう構成することができる。

20

【2355】

<大当りの報知に関する構成>

時間短縮遊技状態にて大当りに当選した場合に、当該大当りを持ち越す（大当りは実行開始されず、所定の記憶領域に記憶する）よう構成された遊技機において、大当りの種類によって異なる作用となるよう構成してもよく、以下のように構成してもよい。

（1）4Rの大当りが実行される大当り図柄Aと10Rの大当りが実行される大当り図柄Bとを有しており、大当り図柄Bの当選時には大当りを持ち越す一方、大当り図柄Aの当選時には大当り図柄Aが停止して大当りが開始されるよう構成してもよい。そのように構成した場合には、大当り図柄Aに当選した図柄変動においては、前述した箱を入手する演出を実行して箱から当りとの表示が出現するなどの演出を実行してもよい。このように、相対的に低利益な大当りを持ち越さないよう構成することにより、大当りを持ち越したにもかかわらず低利益な大当りが実行されて遊技者が落胆することを防止することができ、短時間あたりの出玉率に影響の少ない相対的に低利益な大当りは即実行する一方、短時間あたりの出玉率に影響の多い相対的に高利益な大当りは持ち越すことができる。

30

（2）4Rの大当りが実行される大当り図柄Aと10Rの大当りが実行される大当り図柄Bとを有しており、大当り図柄Bの当選時には大当りを持ち越し、大当りに当選した旨を報知しない一方、大当り図柄Aの当選時には大当りを持ち越し、大当りに当選した旨を報知するよう構成してもよい。このように構成することにより、時間短縮遊技状態の最終変動で大当りに当選している旨が報知された場合には、大当り図柄Bに係る相対的に高利益な大当りが実行されることとなり、遊技者は時間短縮遊技状態の最終変動に期待感を抱きながら遊技を進行することができる。

40

（3）4Rの大当りが実行される大当り図柄Aと10Rの大当りが実行される大当り図柄Bとを有しており、大当り図柄Bの当選時には大当りを持ち越す一方、大当り図柄Bの当選時には大当り図柄Aが停止して大当りが開始されるよう構成し、さらに、大当り図柄Bに関しては、大当り当選時に抽選を実行し、当該抽選に当選した場合は当該変動で大当り図柄Bが停止して大当りが実行される一方、当該抽選に非当選であった場合には大当りの当選を持ち越すよう構成してもよい。また、そのように構成した場合には、連荘回数が多くなった場合に、大当りを持ち越さずに実行する抽選の当選確率を低下させるよう構成し

50

てもよいし、連荘回数が多くなった場合に、大当りを持ち越さずに実行する抽選の当選確率が相対的に高いテーブルを参照するよう構成してもよい。

【2356】

＜大当りの持ち越しに関する構成＞

偶発的に発生する連荘によって短時間において想定を超過する払い出しが発生してしまう事態を抑制するために、時間短縮遊技状態にて大当りの当選を持ち越し可能な遊技機について前述したが、これには限定されず、遊技の興趣性を向上させるために、非時間短縮遊技状態（非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態または確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態）においても、大当りの当選を持ち越し可能に構成してもよい。

【2357】

一例としては、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態（通常遊技状態とも称することがある）において、大当りに当選した場合に、大当りが実行されるまでの変動回数を抽選によって決定するよう構成してもよい。具体的には、「0回：1／5、100回：1／5、200回：1／5、500回：2／5」のようなテーブルを参照して抽選を実行してもよい。このように構成することにより、大当りが実行されるタイミングに関する抑揚を設けることができ、遊技の興趣性を向上させることができる。

【2358】

（まとめ2）

尚、以上の実施例において示した構成に基づき、以下のような概念を抽出（列記）することができる。但し、以下に列記する概念はあくまで一例であり、これら列記した概念の結合や分離（上位概念化）は勿論のこと、以上の実施例において示した更なる構成に基づく概念を、これら概念に付加してもよい。

【2359】

本態様（1）に係る遊技機は、
画像を表示可能な表示手段を備え、
遊技者にとって有利な特別遊技状態を有しており、
特別遊技状態として、第1特別遊技状態と、第1特別遊技状態よりも有利な第2特別遊技状態とを少なくとも有しており、
特別遊技状態が発生したことに係る情報である履歴情報を、特別遊技状態が発生した順に記憶可能であり、
履歴情報は特別遊技状態の種類に関する情報を少なくとも含んでおり、
履歴情報に対応する画像である履歴画像を、表示手段にて特別遊技状態の発生した順に表示可能であり、
履歴画像として、第1特別遊技状態に関する履歴情報に対応する第1履歴画像と、第2特別遊技状態に関する履歴情報に対応する第2履歴画像と、を少なくとも有することを特徴とする遊技機である。

【2360】

本態様（2）に係る遊技機は、
画像を表示可能な表示手段を備え、
遊技者にとって有利な特別遊技状態を有しており、
特別遊技状態として、第1特別遊技状態と、第1特別遊技状態よりも有利な第2特別遊技状態とを少なくとも有しており、
特別遊技状態が発生したことに係る情報である履歴情報を、特別遊技状態が発生した順に記憶可能であり、
履歴情報は特別遊技状態の種類に関する情報を少なくとも含んでおり、
履歴情報に対応する画像である履歴画像を、表示手段にて特別遊技状態の発生した順に表示可能であり、
履歴画像として、第1特別遊技状態に関する履歴情報に対応する第1履歴画像と、第2特別遊技状態に関する履歴情報に対応する第2履歴画像と、を少なくとも有しており、
所定の画像を表示手段にて表示可能であり、

10

20

30

40

50

履歴画像と所定の画像とが同時に表示される場合、履歴画像の表示領域と所定の画像の表示領域とは重複しないよう構成されていることを特徴とする遊技機である。

【2361】

本態様（3）に係る遊技機は、
画像を表示可能な表示手段を備え、
遊技者にとって有利な特別遊技状態を有しており、
特別遊技状態として、第1特別遊技状態と、第1特別遊技状態よりも有利な第2特別遊技状態とを少なくとも有しており、
特別遊技状態が発生したことに係る情報である履歴情報を、特別遊技状態が発生した順に記憶可能であり、

10

履歴情報は特別遊技状態の種類に関する情報を少なくとも含んでおり、
履歴情報に対応する画像である履歴画像を、表示手段にて特別遊技状態の発生した順に表示可能であり、

履歴画像として、第1特別遊技状態に関する履歴情報に対応する第1履歴画像と、第2特別遊技状態に関する履歴情報に対応する第2履歴画像と、を少なくとも有しており、

遊技の進行に関する指示画像を表示手段にて表示可能であり、
履歴画像と指示画像とが同時に表示される場合、表示手段にて履歴画像が最大まで表示された場合でも、履歴画像の表示領域と指示画像の表示領域とは重複しないよう構成されている

20

ことを特徴とする遊技機である。

【2362】

本態様（4）に係る遊技機は、
遊技球が入球可能な始動口と、
識別情報を表示可能な識別情報表示部と、
画像を表示可能な表示手段と
を備え、

始動口への入球に基づき、乱数を取得する乱数取得手段と、
乱数取得手段により乱数が取得された場合、識別情報の変動表示開始条件を充足するまで当該取得された乱数を一時記憶して、保留が生起するよう制御する乱数一時記憶手段と、
或る保留に関する識別情報の変動表示開始条件を充足した場合において、当該或る保留に係る前記乱数に基づき当否判定を実行し、当該当否判定の結果に基づき識別情報表示部にて識別情報を変動表示させた後に識別情報を停止表示させるよう制御する識別情報表示制御手段と

30

を備え、

遊技者にとって有利な特別遊技状態を有しており、
特別遊技状態として、第1特別遊技状態と、第1特別遊技状態よりも有利な第2特別遊技状態とを少なくとも有しており、

特別遊技状態が発生したことに係る情報である履歴情報を、特別遊技状態が発生した順に記憶可能であり、

40

履歴情報は特別遊技状態の種類に関する情報を少なくとも含んでおり、
履歴情報に対応する画像である履歴画像を、表示手段にて特別遊技状態の発生した順に表示可能であり、

履歴画像として、第1特別遊技状態に関する履歴情報に対応する第1履歴画像と、第2特別遊技状態に関する履歴情報に対応する第2履歴画像と、を少なくとも有しており、

装飾図柄の変動表示と簡易図柄の変動表示とを表示手段にて表示可能であり、
履歴画像と簡易図柄の組合せとが同時に表示される場合、表示手段にて履歴画像が最大まで表示された場合でも、履歴画像の表示領域と簡易図柄の表示領域とは重複しないよう構成されている

ことを特徴とする遊技機である。

50

【2363】

本態様（５）に係る遊技機は、
画像を表示可能な表示手段を備え、
遊技者にとって有利な特別遊技状態を有しており、
特別遊技状態として、第１特別遊技状態と、第１特別遊技状態よりも有利な第２特別遊技状態とを少なくとも有しており、
特別遊技状態が発生したことに係る情報である履歴情報を、特別遊技状態が発生した順に記憶可能であり、
履歴情報は特別遊技状態の種類に関する情報を少なくとも含んでおり、
履歴情報に対応する画像である履歴画像を、表示手段にて特別遊技状態の発生した順に表示可能であり、
履歴画像として、第１特別遊技状態に関する履歴情報に対応する第１履歴画像と、第２特別遊技状態に関する履歴情報に対応する第２履歴画像と、を少なくとも有しており、
遊技の進行に関する指示画像を表示手段にて表示可能であり、
指示画像として、第１指示画像と、第１指示画像よりも表示領域が大きい第２指示画像とを有しており、
履歴画像と第１指示画像とが同時に表示される場合、第１指示画像の表示の方が履歴画像の表示よりも表示優先度が高く、
履歴画像と第２指示画像とが同時に表示される場合、表示手段にて履歴画像が最大まで表示された場合でも、履歴画像の表示領域と第２指示画像の表示領域とは重複しないよう構成されている
ことを特徴とする遊技機である。

10

20

【2364】

本態様（６）に係る遊技機は、
遊技球が入球可能な始動口と、
識別情報を表示可能な識別情報表示部と、
画像を表示可能な表示手段と
を備え、
始動口への入球に基づき、乱数を取得する乱数取得手段と、
乱数取得手段により乱数が取得された場合、識別情報の変動表示開始条件を充足するまで当該取得された乱数を一時記憶して、保留が生起するよう制御する乱数一時記憶手段と、
或る保留に関する識別情報の変動表示開始条件を充足した場合において、当該或る保留に係る前記乱数に基づき当否判定を実行し、当該当否判定の結果に基づき識別情報表示部にて識別情報を変動表示させた後に識別情報を停止表示させるよう制御する識別情報表示制御手段と
を備え、
遊技者にとって有利な特別遊技状態を有しており、
特別遊技状態として、第１特別遊技状態と、第１特別遊技状態よりも有利な第２特別遊技状態とを少なくとも有しており、
特別遊技状態が発生したことに係る情報である履歴情報を、特別遊技状態が発生した順に記憶可能であり、
履歴情報は特別遊技状態の種類に関する情報を少なくとも含んでおり、
履歴情報に対応する画像である履歴画像を、表示手段にて特別遊技状態の発生した順に表示可能であり、
履歴画像として、第１特別遊技状態に関する履歴情報に対応する第１履歴画像と、第２特別遊技状態に関する履歴情報に対応する第２履歴画像と、を少なくとも有しており、
装飾図柄の変動表示と簡易図柄の変動表示とを表示手段にて表示可能であり、
履歴画像と装飾図柄の組合せとが同時に表示される場合、装飾図柄の表示の方が履歴画像の表示よりも表示優先度が高く、
履歴画像と簡易図柄の組合せとが同時に表示される場合、表示手段にて履歴画像が最大

30

40

50

まで表示された場合でも、履歴画像の表示領域と簡易図柄の表示領域とは重複しないよう構成されている

ことを特徴とする遊技機である。

【2365】

本態様（7）に係る遊技機は、
遊技球が入球可能な始動口と、
識別情報を表示可能な識別情報表示部と、
画像を表示可能な表示手段と

を備え、

始動口への入球に基づき、乱数を取得する乱数取得手段と、

乱数取得手段により乱数が取得された場合、識別情報の変動表示開始条件を充足するまで当該取得された乱数を一時記憶して、保留が生起するよう制御する乱数一時記憶手段と、

或る保留に関する識別情報の変動表示開始条件を充足した場合において、当該或る保留に係る前記乱数に基づき当否判定を実行し、当該当否判定の結果に基づき識別情報表示部にて識別情報を変動表示させた後に識別情報を停止表示させるよう制御する識別情報表示制御手段と

を備え、

遊技領域として、第一領域と第二領域とを有しており、

遊技者にとって有利な特別遊技状態を有しており、

特別遊技状態として、第1特別遊技状態と、第1特別遊技状態よりも有利な第2特別遊技状態とを少なくとも有しており、

特別遊技状態が発生したことに係る情報である履歴情報を、特別遊技状態が発生した順に記憶可能であり、

履歴情報は特別遊技状態の種類に関する情報を少なくとも含んでおり、

履歴情報に対応する画像である履歴画像を、表示手段にて特別遊技状態の発生した順に表示可能であり、

履歴画像として、第1特別遊技状態に関する履歴情報に対応する第1履歴画像と、第2特別遊技状態に関する履歴情報に対応する第2履歴画像と、を少なくとも有しており、

新たな保留が生起したことを契機として新たに表示され且つ識別情報の変動表示開始条件が充足されたことを契機としてシフト表示される画像オブジェクトである変動権利画像を表示手段にて表示可能であり、

履歴画像と変動権利画像とが同時に表示される場合、履歴画像の表示領域と変動権利画像の表示領域とは重複しないよう構成されており、

遊技球を第二領域側に向けて発射するよう報知可能な遊技情報である報知画像を表示手段にて表示可能であり、

履歴画像と報知画像とが同時に表示される場合、履歴画像の表示領域と報知画像の表示領域とは重複しないよう構成されており、

装飾図柄の変動表示と簡易図柄の変動表示とを表示手段にて表示可能であり、

履歴画像と簡易図柄の組合せとが同時に表示される場合、表示手段にて履歴画像が最大まで表示された場合でも、履歴画像の表示領域と簡易図柄の表示領域とは重複しないよう構成されており、

所定の遊技者操作に基づき遊技に係る出力状態調整画面を表示して出力状態の調整が可能であり、

履歴画像と出力状態調整画面とが同時に表示される場合、出力状態調整画面の表示の方が履歴画像の表示よりも表示優先度が高い

ことを特徴とする遊技機である。

【2366】

本態様（8）に係る遊技機は、

画像を表示可能な表示手段を備え、

遊技者にとって有利な特別遊技状態を有しており、

10

20

30

40

50

特別遊技状態として、第1特別遊技状態と、第1特別遊技状態よりも有利な第2特別遊技状態とを少なくとも有しており、

特別遊技状態が発生したことに係る情報である履歴情報を、特別遊技状態が発生した順に記憶可能であり、

履歴情報は特別遊技状態の種類に関する情報を少なくとも含んでおり、

履歴情報に対応する画像である履歴画像を、表示手段にて特別遊技状態の発生した順に表示可能であり、

履歴画像として、第1特別遊技状態に関する履歴情報に対応する第1履歴画像と、第2特別遊技状態に関する履歴情報に対応する第2履歴画像と、を少なくとも有しており、

所定のエラーが発生したことに係る、表示手段にて所定のエラー画面を表示可能であり、

特定のエラーが発生したことに係る、表示手段にて特定のエラー画面を表示可能であり、

履歴画像と所定のエラー画面とが同時に表示される場合、所定のエラー画面の表示の方が履歴画像の表示よりも表示優先度が高く、

履歴画像と特定のエラー画面とが同時に表示される場合、履歴画像の表示領域と特定のエラー画面の表示領域とは重複しないよう構成されていることを特徴とする遊技機である。

【2367】

本態様(9)に係る遊技機は、

画像を表示可能な表示手段を備え、

遊技者にとって有利な特別遊技状態を有しており、

特別遊技状態として、第1特別遊技状態と、第1特別遊技状態よりも有利な第2特別遊技状態とを少なくとも有しており、

特別遊技状態が発生したことに係る情報である履歴情報を、特別遊技状態が発生した順に記憶可能であり、

履歴情報は特別遊技状態の種類に関する情報を少なくとも含んでおり、

履歴情報に対応する画像である履歴画像を、表示手段にて特別遊技状態の発生した順に表示可能であり、

履歴画像として、

第1特別遊技状態に関する履歴情報に対応する第1履歴画像と、

第2特別遊技状態に関する履歴情報に対応する第2履歴画像と第3履歴画像とを少なくとも有しており、

第1特別遊技状態が発生した場合には、当該第1特別遊技状態の発生に基づいて第1履歴画像を表示する一方、第2特別遊技状態が発生した場合には、当該第2特別遊技状態の発生に基づいて第2履歴画像を表示する場合と、当該第2特別遊技状態の発生に基づいて第3履歴画像を表示する場合とを有している

ことを特徴とする遊技機である。

【2368】

本態様(10)に係る遊技機は、

画像を表示可能な表示手段を備え、

遊技者にとって有利な特別遊技状態を有しており、

特別遊技状態として、第1特別遊技状態と、第2特別遊技状態と、第3特別遊技状態とを少なくとも有しており、

特別遊技状態が発生したことに係る情報である履歴情報を、特別遊技状態が発生した順に記憶可能であり、

履歴情報は特別遊技状態の種類に関する情報を少なくとも含んでおり、

履歴情報に対応する画像である履歴画像を、表示手段にて特別遊技状態の発生した順に表示可能であり、

履歴画像として、第1履歴画像と第2履歴画像とを少なくとも有しており、

第3特別遊技状態が発生した場合には、当該第3特別遊技状態の発生に基づいて第2履歴画像を表示する一方、第1特別遊技状態又は第2特別遊技状態が発生した場合には、当該第1特別遊技状態又は当該第2特別遊技状態の発生に基づいて第1履歴画像を表示する場合がある

ことを特徴とする遊技機である。

【2369】

(まとめ3)

尚、以上の実施例において示した構成に基づき、以下のような概念を抽出(列記)することができる。但し、以下に列記する概念はあくまで一例であり、これら列記した概念の結合や分離(上位概念化)は勿論のこと、以上の実施例において示した更なる構成に基づく概念を、これら概念に付加してもよい。

【2370】

本態様(A1)に係るぱちんこ遊技機は、
遊技球が入球可能な始動口と、
識別情報を表示可能な識別情報表示部と
を備え、

始動口への入球に基づき、乱数を取得する乱数取得手段と、

乱数取得手段により乱数が取得された場合、当否判定許可条件を充足するまで当該取得された乱数を保留として一時記憶する乱数一時記憶手段と、

ある保留に関する当否判定許可条件を充足した場合、当該ある保留に係る乱数に基づき当否判定を実行する当否判定手段と、

当否判定手段による当否判定の結果に基づき、識別情報表示部にて識別情報を変動表示した後、識別情報を停止表示するよう制御する識別情報表示制御手段と、

識別情報が所定グループに属する停止表示態様にて停止表示された後、可変入賞口を遊技者にとって有利な状態とし得る特別遊技を実行可能である特別遊技制御手段と
を有し、

識別情報の変動表示時間を決定する際に参照されるテーブルとして第一変動パターンテーブルと、第一変動パターンテーブルとは識別情報の変動表示時間の選択傾向が異なる第二変動パターンテーブルと、を少なくとも有し、第一変動パターンテーブルを参照する第一変動状態と、第二変動パターンテーブルを参照する第二変動状態と、を少なくとも有しており、

第一変動パターンテーブルを参照して決定された識別情報の変動表示時間の平均値よりも、第二変動パターンテーブルを参照して決定された識別情報の変動表示時間の平均値の方が長時間となるよう構成されており、

或る特別遊技の実行開始から所定条件を満たすまでの特定期間において、

前記特定期間での所定の特別遊技の実行回数がN(但し、Nは1以上の整数)回目となった場合には、当該N回目の特別遊技の終了後には第一変動状態となる一方、前記特定期間での所定の特別遊技の実行回数がM(但し、Mは1以上の整数であり、 $M > N$)回目となった場合には、当該M回目の特別遊技の終了後には第二変動状態となるよう構成されている

ことを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【2371】

本態様(A2)に係るぱちんこ遊技機は、
遊技球が入球可能な始動口と、
識別情報を表示可能な識別情報表示部と
を備え、

始動口への入球に基づき、乱数を取得する乱数取得手段と、

乱数取得手段により乱数が取得された場合、当否判定許可条件を充足するまで当該取得された乱数を保留として一時記憶する乱数一時記憶手段と、

ある保留に関する当否判定許可条件を充足した場合、当該ある保留に係る乱数に基づき

10

20

30

40

50

当否判定を実行する当否判定手段と、

当否判定手段による当否判定の結果に基づき、識別情報表示部にて識別情報を変動表示した後、識別情報を停止表示するよう制御する識別情報表示制御手段と、

識別情報が所定グループに属する停止表示態様にて停止表示された後、可変入賞口を遊技者にとって有利な状態とし得る特別遊技を実行可能である特別遊技制御手段とを有し、

識別情報の変動表示時間を決定する際に参照されるテーブルとして第一変動パターンテーブルと、第一変動パターンテーブルとは識別情報の変動表示時間の選択傾向が異なる第二変動パターンテーブルと、を少なくとも有し、第一変動パターンテーブルを参照する第一変動状態と、第二変動パターンテーブルを参照する第二変動状態と、を少なくとも有しており、

10

第一変動パターンテーブルを参照して決定された識別情報の変動表示時間の平均値よりも、第二変動パターンテーブルを参照して決定された識別情報の変動表示時間の平均値の方が長時間となるよう構成されており、

或る特別遊技の実行開始から所定条件を満たすまでの特定期間において、

前記特定期間での所定の特別遊技の実行回数が N （但し、 N は1以上の整数）回目となった場合には、当該 N 回目の特別遊技の終了後には第一変動状態となり、

前記特定期間での所定の特別遊技の実行回数が M （但し、 M は1以上の整数であり、 $M > N$ ）回目となり、且つ特定条件を満たしている場合には、当該 M 回目の特別遊技の終了後には第一変動状態となるよう構成されており、

20

前記特定期間での所定の特別遊技の実行回数が M 回目となり、且つ前記特定条件を満たしていない場合には、当該 M 回目の特別遊技の終了後には第二変動状態となるよう構成されている

ことを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【2372】

本態様（A3）に係るぱちんこ遊技機は、

遊技球が入球可能な始動口と、

識別情報を表示可能な識別情報表示部と

を備え、

始動口への入球に基づき、乱数を取得する乱数取得手段と、

30

乱数取得手段により乱数が取得された場合、当否判定許可条件を充足するまで当該取得された乱数を保留として一時記憶する乱数一時記憶手段と、

ある保留に関する当否判定許可条件を充足した場合、当該ある保留に係る乱数に基づき当否判定を実行する当否判定手段と、

当否判定手段による当否判定の結果に基づき、識別情報表示部にて識別情報を変動表示した後、識別情報を停止表示するよう制御する識別情報表示制御手段と、

識別情報が所定グループに属する停止表示態様にて停止表示された後、可変入賞口を遊技者にとって有利な状態とし得る特別遊技を実行可能である特別遊技制御手段とを有し、

識別情報の変動表示時間を決定する際に参照されるテーブルとして第一変動パターンテーブルと、第一変動パターンテーブルとは識別情報の変動表示時間の選択傾向が異なる第二変動パターンテーブルと、を少なくとも有し、第一変動パターンテーブルを参照する第一変動状態と、第二変動パターンテーブルを参照する第二変動状態と、を少なくとも有しており、

40

第一変動パターンテーブルを参照して決定された識別情報の変動表示時間の平均値よりも、第二変動パターンテーブルを参照して決定された識別情報の変動表示時間の平均値の方が長時間となるよう構成されており、

或る特別遊技の実行開始から所定条件を満たすまでの特定期間において、

前記特定期間での識別情報の変動表示の実行回数が N （但し、 N は1以上の整数）回目となる識別情報の変動表示時間を決定する際に第一変動パターンテーブルを参照する場合

50

において、前記特定期間での識別情報の変動表示の実行回数が $N + 1$ 回目となる識別情報の変動表示時間を決定する際には第二変動パターンテーブルを参照するよう構成されていることを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【2373】

本態様（A4）に係るぱちんこ遊技機は、
遊技球が入球可能な始動口と、
識別情報を表示可能な識別情報表示部と
を備え、
始動口への入球に基づき、乱数を取得する乱数取得手段と、
乱数取得手段により乱数が取得された場合、当否判定許可条件を充足するまで当該取得された乱数を保留として一時記憶する乱数一時記憶手段と、
ある保留に関する当否判定許可条件を充足した場合、当該ある保留に係る乱数に基づき当否判定を実行する当否判定手段と、
当否判定手段による当否判定の結果に基づき、識別情報表示部にて識別情報を変動表示した後、識別情報を停止表示するよう制御する識別情報表示制御手段と、
識別情報が所定グループに属する停止表示態様にて停止表示された後、可変入賞口を遊技者にとって有利な状態とし得る特別遊技を実行可能である特別遊技制御手段と
を有し、

識別情報の変動表示時間を決定する際に参照されるテーブルとして第一変動パターンテーブルと、第一変動パターンテーブルとは識別情報の変動表示時間の選択傾向が異なる第二変動パターンテーブルと、を少なくとも有し、第一変動パターンテーブルを参照する第一変動状態と、第二変動パターンテーブルを参照する第二変動状態と、を少なくとも有しており、

第一変動パターンテーブルを参照して決定された識別情報の変動表示時間の平均値よりも、第二変動パターンテーブルを参照して決定された識別情報の変動表示時間の平均値の方が長時間となるよう構成されており、

或る特別遊技の実行開始から所定条件を満たすまでの特定期間において、

前記特定期間での出玉に関する情報が特定条件を満たしていない場合には第一変動状態となり得る一方、前記特定期間での出玉に関する情報が前記特定条件を満たしている場合には第二変動状態となり得るよう構成されていることを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【2374】

本態様（A5）に係るぱちんこ遊技機は、
遊技球が入球可能な始動口と、
識別情報を表示可能な識別情報表示部と
を備え、
始動口への入球に基づき、乱数を取得する乱数取得手段と、
乱数取得手段により乱数が取得された場合、当否判定許可条件を充足するまで当該取得された乱数を保留として一時記憶する乱数一時記憶手段と、
ある保留に関する当否判定許可条件を充足した場合、当該ある保留に係る乱数に基づき当否判定を実行する当否判定手段と、
当否判定手段による当否判定の結果に基づき、識別情報表示部にて識別情報を変動表示した後、識別情報を停止表示するよう制御する識別情報表示制御手段と、
識別情報が所定グループに属する停止表示態様にて停止表示された後、可変入賞口を遊技者にとって有利な状態とし得る特別遊技を実行可能である特別遊技制御手段と
を有し、

識別情報の変動表示時間を決定する際に参照されるテーブルとして第一変動パターンテーブルと、第一変動パターンテーブルとは識別情報の変動表示時間の選択傾向が異なる第二変動パターンテーブルと、を少なくとも有し、第一変動パターンテーブルを参照する第一変動状態と、第二変動パターンテーブルを参照する第二変動状態と、を少なくとも有し

ており、

第一変動パターンテーブルを参照して決定された識別情報の変動表示時間の平均値よりも、第二変動パターンテーブルを参照して決定された識別情報の変動表示時間の平均値の方が長時間となるよう構成されており、

或る特別遊技の実行開始から所定条件を満たすまでの特定期間において、

前記所定グループに属する停止表示態様となる識別情報の変動表示開始時に特定条件を満たしていない場合には第一変動状態となり得る一方、前記所定グループに属する停止表示態様となる識別情報の変動表示開始時に前記特定条件を満たしている場合には第二変動状態となり得るよう構成されている

ことを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【2375】

本態様（A6）に係るぱちんこ遊技機は、

遊技球が入球可能な始動口と、

識別情報を表示可能な識別情報表示部と

を備え、

始動口への入球に基づき、乱数を取得する乱数取得手段と、

乱数取得手段により乱数が取得された場合、当否判定許可条件を充足するまで当該取得された乱数を保留として一時記憶する乱数一時記憶手段と、

ある保留に関する当否判定許可条件を充足した場合、当該ある保留に係る乱数に基づき当否判定を実行する当否判定手段と、

当否判定手段による当否判定の結果に基づき、識別情報表示部にて識別情報を変動表示した後、識別情報を停止表示するよう制御する識別情報表示制御手段と、

識別情報が所定グループに属する停止表示態様にて停止表示された後、可変入賞口を遊技者にとって有利な状態とし得る特別遊技を実行可能である特別遊技制御手段とを有し、

或る特別遊技の実行開始から所定条件を満たすまでの特定期間において、

特定条件を満たしていない状況にて前記所定グループに属する停止表示態様として停止表示態様Aが停止表示すると特別遊技Aが実行され、前記特定条件を満たしている状況にて前記所定グループに属する停止表示態様として停止表示態様Aが停止表示すると特別遊技Bが実行されるよう構成されており、

可変入賞口に遊技球が入球していない状況における特別遊技の開始から終了までの時間は、特別遊技Bの方が特別遊技Aよりも長時間となるよう構成されていることを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【2376】

本態様（A7）に係るぱちんこ遊技機は、

遊技球が入球可能な主遊技用始動口と、

遊技球が入球可能な補助遊技用始動口と、

主遊技用識別情報を表示可能な主遊技用識別情報表示部と、

補助遊技用識別情報を表示可能な補助遊技用識別情報表示部と、

変位可能な可変部材と

を備え、

主遊技用始動口への入球に基づき、主遊技用乱数を取得する乱数取得手段と、

乱数取得手段により主遊技用乱数が取得された場合、当否判定許可条件を充足するまで当該取得された主遊技用乱数を保留として一時記憶する乱数一時記憶手段と、

ある保留に関する当否判定許可条件を充足した場合、当該ある保留に係る主遊技用乱数に基づき当否判定を実行する当否判定手段と、

当否判定手段による当否判定の結果に基づき、主遊技用識別情報表示部にて主遊技用識別情報を変動表示した後、主遊技用識別情報を停止表示するよう制御する識別情報表示制御手段と、

主遊技用識別情報が所定グループに属する停止表示態様にて停止表示された後、可変入

10

20

30

40

50

賞口を遊技者にとって有利な状態とし得る特別遊技を実行可能である特別遊技制御手段とを有し、

補助遊技用始動口への遊技球の入球を契機として、補助遊技用乱数を取得する補助遊技用乱数取得手段と、

補助遊技用乱数取得手段が取得した補助遊技用乱数に基づき当否判定を実行し、補助遊技用識別情報の停止表示態様を決定する補助遊技用識別情報表示内容決定手段と、

補助遊技用識別情報表示内容決定手段による決定に基づき、補助遊技用識別情報を補助遊技用識別情報表示部にて変動表示した後、補助遊技用識別情報表示部にて補助遊技用識別情報の停止表示態様を停止表示するよう制御する補助遊技用識別情報表示制御手段と、

補助遊技用乱数に基づく当否判定結果が当選であった場合、補助遊技用識別情報の停止表示態様が停止表示された後において、可変部材が変位し得る期間である変位駆動期間内にて、可変部材を第二位置から第一位置に変位させた後、前記第二位置に変位させる動作を一又は複数回行う易入球遊技を実行する易入球遊技決定実行手段と

を有し、

補助遊技用識別情報の変動表示時間を決定する際に参照されるテーブルとして第一変動パターンテーブルと、第一変動パターンテーブルとは補助遊技用識別情報の変動表示時間の選択傾向が異なる第二変動パターンテーブルと、を少なくとも有しており、

第一変動パターンテーブルを参照して決定された補助遊技用識別情報の変動表示時間の平均値よりも、第二変動パターンテーブルを参照して決定された補助遊技用識別情報の変動表示時間の平均値の方が長時間となるよう構成されており、

或る特別遊技の実行開始から所定条件を満たすまでの特定期間において、

特定条件を満たしていない状況では補助遊技用識別情報の変動表示時間を決定する際に第一変動パターンテーブルを参照する一方、前記特定条件を満たしている状況では補助遊技用識別情報の変動表示時間を決定する際に第二変動パターンテーブルを参照するよう構成されている

ことを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【2377】

本態様（A8）に係るぱちんこ遊技機は、

遊技球が入球可能な始動口と、

識別情報を表示可能な識別情報表示部と

を備え、

始動口への入球に基づき、乱数を取得する乱数取得手段と、

乱数取得手段により乱数が取得された場合、当否判定許可条件を充足するまで当該取得された乱数を保留として一時記憶する乱数一時記憶手段と、

ある保留に関する当否判定許可条件を充足した場合、当該ある保留に係る乱数に基づき当否判定を実行する当否判定手段と、

当否判定手段による当否判定の結果に基づき、識別情報表示部にて識別情報を変動表示した後、識別情報を停止表示するよう制御する識別情報表示制御手段と、

識別情報が所定グループに属する停止表示態様にて停止表示された後、可変入賞口を遊技者にとって有利な状態とし得る特別遊技を実行可能である特別遊技制御手段とを有し、

可変入賞口として、可変入賞口Aと、可変入賞口Aよりも開放中の遊技球の入球容易性が高い又は賞球数が多い可変入賞口Bとを有しており、

或る特別遊技の実行開始から所定条件を満たすまでの特定期間において、

特定条件を満たしていない状況にて前記所定グループに属する停止表示態様として停止表示態様Aが停止表示して実行される特別遊技では、所定のラウンドにて可変入賞口Aが開放するよう構成されており、

特定条件を満たしている状況にて前記所定グループに属する停止表示態様として停止表示態様Aが停止表示して実行される特別遊技では、前記所定のラウンドにて可変入賞口Bが開放するよう構成されている

10

20

30

40

50

ことを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【2378】

本態様（A9）に係るぱちんこ遊技機は、
遊技球が入球可能な始動口と、
識別情報を表示可能な識別情報表示部と

を備え、

始動口への入球に基づき、乱数を取得する乱数取得手段と、

乱数取得手段により乱数が取得された場合、当否判定許可条件を充足するまで当該取得された乱数を保留として一時記憶する乱数一時記憶手段と、

ある保留に関する当否判定許可条件を充足した場合、当該ある保留に係る乱数に基づき当否判定を実行する当否判定手段と、

当否判定手段による当否判定の結果に基づき、識別情報表示部にて識別情報を変動表示した後、識別情報を停止表示するよう制御する識別情報表示制御手段と、

当否判定手段による当否判定の結果が当選となった場合、識別情報が所定グループに属する停止表示態様にて停止表示された後、可変入賞口を遊技者にとって有利な状態とし得る特別遊技を実行可能である特別遊技制御手段と

を有し、

第1の条件を満たしている状況にて当否判定手段による当否判定の結果が当選となった場合には、その後、第2の条件を満たすまで、特別遊技の実行を開始しないよう構成されている

ことを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【2379】

本態様（A10）に係るぱちんこ遊技機は、
遊技球が入球可能な始動口と、
識別情報を表示可能な識別情報表示部と、
演出を報知可能な演出報知部と

を備え、

始動口への入球に基づき、乱数を取得する乱数取得手段と、

乱数取得手段により乱数が取得された場合、当否判定許可条件を充足するまで当該取得された乱数を保留として一時記憶する乱数一時記憶手段と、

ある保留に関する当否判定許可条件を充足した場合、当該ある保留に係る乱数に基づき当否判定を実行する当否判定手段と、

当否判定手段による当否判定の結果に基づき、識別情報表示部にて識別情報を変動表示した後、識別情報を停止表示するよう制御する識別情報表示制御手段と、

当否判定手段による当否判定の結果が当選となった場合、識別情報が所定グループに属する停止表示態様にて停止表示された後、可変入賞口を遊技者にとって有利な状態とし得る特別遊技を実行可能である特別遊技制御手段と

を有し、

第1の条件を満たしている状況にて当否判定手段による当否判定の結果が当選となった場合には、その後、第2の条件を満たすまで、特別遊技の実行を開始しないよう構成されており、

第1の条件を満たしている状況にて当否判定手段による当否判定の結果が当選となった以降においては、第2の条件を満たしていなくても演出報知部にて当否判定の結果が当選となったことを示唆又は報知可能に構成されている

ことを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【2380】

本態様（A11）に係るぱちんこ遊技機は、
遊技球が入球可能な始動口と、
識別情報を表示可能な識別情報表示部と、
演出を報知可能な演出報知部と

10

20

30

40

50

を備え、

始動口への入球に基づき、乱数を取得する乱数取得手段と、

乱数取得手段により乱数が取得された場合、当否判定許可条件を充足するまで当該取得された乱数を保留として一時記憶する乱数一時記憶手段と、

ある保留に関する当否判定許可条件を充足した場合、当該ある保留に係る乱数に基づき当否判定を実行する当否判定手段と、

当否判定手段による当否判定の結果に基づき、識別情報表示部にて識別情報を変動表示した後、識別情報を停止表示するよう制御する識別情報表示制御手段と、

当否判定手段による当否判定の結果が当選となった場合、識別情報が所定グループに属する停止表示態様にて停止表示された後、可変入賞口を遊技者にとって有利な状態とし得る特別遊技を実行可能である特別遊技制御手段と

10

を有し、

第1の条件を満たしている状況にて当否判定手段による当否判定の結果が当選となった場合には、その後、第2の条件を満たすまで、特別遊技の実行を開始しないよう構成されており、

第1の条件を満たしている状況にて当否判定手段による当否判定の結果が当選となった以降においては、第2の条件を満たすまでは演出報知部にて当否判定の結果が当選となったことを報知しないよう構成されていることを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【2381】

20

本態様(A12)に係るぱちんこ遊技機は、

遊技球が入球可能な始動口と、

識別情報を表示可能な識別情報表示部と、

演出を報知可能な演出報知部と

を備え、

始動口への入球に基づき、乱数を取得する乱数取得手段と、

乱数取得手段により乱数が取得された場合、当否判定許可条件を充足するまで当該取得された乱数を保留として一時記憶する乱数一時記憶手段と、

ある保留に関する当否判定許可条件を充足した場合、当該ある保留に係る乱数に基づき当否判定を実行する当否判定手段と、

30

当否判定手段による当否判定の結果に基づき、識別情報表示部にて識別情報を変動表示した後、識別情報を停止表示するよう制御する識別情報表示制御手段と、

当否判定手段による当否判定の結果が当選となった場合、識別情報が所定グループに属する停止表示態様にて停止表示された後、可変入賞口を遊技者にとって有利な状態とし得る特別遊技を実行可能である特別遊技制御手段と

を有し、

第1の条件を満たしている状況にて当否判定手段による当否判定の結果が当選となった場合には、その後、第2の条件を満たすまで、特別遊技の実行を開始しないよう構成されており、

第1の条件を満たしている状況にて当否判定手段による当否判定の結果が当選となった以降においては、第2の条件を満たすまでは演出報知部にて当否判定の結果が当選となったことを報知しないよう構成されており、

40

第1の条件を満たしている状況にて当否判定手段による当否判定の結果が当選となった以降と、第1の条件を満たしている状況にて当否判定手段による当否判定の結果が当選となっていない場合とでは、演出報知部における演出傾向が相違するよう構成されていることを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【2382】

本態様(A13)に係るぱちんこ遊技機は、

遊技球が入球可能な始動口と、

識別情報を表示可能な識別情報表示部と

50

を備え、

始動口への入球に基づき、乱数を取得する乱数取得手段と、

乱数取得手段により乱数が取得された場合、当否判定許可条件を充足するまで当該取得された乱数を保留として一時記憶する乱数一時記憶手段と、

ある保留に関する当否判定許可条件を充足した場合、当該ある保留に係る乱数に基づき当否判定を実行する当否判定手段と、

当否判定手段による当否判定の結果に基づき、識別情報表示部にて識別情報を変動表示した後、識別情報を停止表示するよう制御する識別情報表示制御手段と、

当否判定手段による当否判定の結果が当選となった場合、識別情報が所定グループに属する停止表示態様にて停止表示された後、可変入賞口を遊技者にとって有利な状態とし得る特別遊技を実行可能である特別遊技制御手段と

10

を有し、

第1の条件を満たしている状況にて当否判定手段による当否判定の結果が当選となった場合には、その後、第2の条件を満たすまで、特別遊技の実行を開始しないよう構成されており、

第1の条件を満たしている状況にて当否判定手段による当否判定の結果が当選となった以降においては、第2の条件を満たすまでは当否判定を実行しない又は当否判定手段による当否判定の結果が当選となっても無効とするよう構成されている

ことを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【2383】

20

本態様(A14)に係るぱちんこ遊技機は、

遊技球が入球可能な始動口と、

識別情報を表示可能な識別情報表示部と、

演出を報知可能な演出報知部と

を備え、

始動口への入球に基づき、乱数を取得する乱数取得手段と、

乱数取得手段により乱数が取得された場合、当否判定許可条件を充足するまで当該取得された乱数を保留として一時記憶する乱数一時記憶手段と、

ある保留に関する当否判定許可条件を充足した場合、当該ある保留に係る乱数に基づき当否判定を実行する当否判定手段と、

30

当否判定手段による当否判定の結果に基づき、識別情報表示部にて識別情報を変動表示した後、識別情報を停止表示するよう制御する識別情報表示制御手段と、

当否判定手段による当否判定の結果が当選となった場合、識別情報が所定グループに属する停止表示態様にて停止表示された後、可変入賞口を遊技者にとって有利な状態とし得る特別遊技を実行可能である特別遊技制御手段と

を有し、

第1の条件を満たしている状況にて当否判定手段による当否判定の結果が当選となった場合には、その後、第2の条件を満たすまで、特別遊技の実行を開始しないよう構成されており、

第1の条件を満たしている状況にて当否判定手段による当否判定の結果が当選となった以降においては、第2の条件を満たしていなくても演出報知部にて当否判定の結果が当選となったことを示唆又は報知可能に構成されており、

40

第2の条件を満たした状況において、当否判定の結果が当選となる予定の保留が存在している場合には、その後、当否判定の結果が当選となる予定の保留が存在している旨を報知し得るよう構成されている

ことを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【2384】

本態様(A15)に係るぱちんこ遊技機は、

遊技球が入球可能な始動口と、

識別情報を表示可能な識別情報表示部と、

50

演出を報知可能な演出報知部と
を備え、

始動口への入球に基づき、乱数を取得する乱数取得手段と、

乱数取得手段により乱数が取得された場合、当否判定許可条件を充足するまで当該取得された乱数を保留として一時記憶する乱数一時記憶手段と、

ある保留に関する当否判定許可条件を充足した場合、当該ある保留に係る乱数に基づき当否判定を実行する当否判定手段と、

当否判定手段による当否判定の結果に基づき、識別情報表示部にて識別情報を変動表示した後、識別情報を停止表示するよう制御する識別情報表示制御手段と、

当否判定手段による当否判定の結果が当選となった場合、識別情報が所定グループに属する停止表示態様にて停止表示された後、可変入賞口を遊技者にとって有利な状態とし得る特別遊技を実行可能である特別遊技制御手段と

を有し、

第1の条件を満たしている状況にて当否判定手段による当否判定の結果が当選となった場合には、その後、第2の条件を満たすまで、特別遊技の実行を開始しないよう構成されており、

第1の条件を満たしている状況にて当否判定手段による当否判定の結果が当選となった以降においては、第2の条件を満たすまでは演出報知部にて当否判定の結果が当選となったことを報知しないよう構成されており、

第2の条件を満たした状況において、当否判定の結果が当選となる予定の保留が存在している場合には、その後、当否判定の結果が当選となる予定の保留が存在している旨を報知し得るよう構成されている

ことを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【2385】

本態様(A16)に係るぱちんこ遊技機は、

遊技球が入球可能な始動口と、

識別情報を表示可能な識別情報表示部と

を備え、

始動口への入球に基づき、乱数を取得する乱数取得手段と、

乱数取得手段により乱数が取得された場合、当否判定許可条件を充足するまで当該取得された乱数を保留として一時記憶する乱数一時記憶手段と、

ある保留に関する当否判定許可条件を充足した場合、当該ある保留に係る乱数に基づき当否判定を実行する当否判定手段と、

当否判定手段による当否判定の結果に基づき、識別情報表示部にて識別情報を変動表示した後、識別情報を停止表示するよう制御する識別情報表示制御手段と、

当否判定手段による当否判定の結果が当選となった場合、識別情報が所定グループに属する停止表示態様にて停止表示された後、可変入賞口を遊技者にとって有利な状態とし得る特別遊技を実行可能である特別遊技制御手段と

を有し、

前回実行された特別遊技からの識別情報の変動表示の回数が所定回数未満であり、当否判定手段による当否判定の結果が当選となった場合には、当該当選となった識別情報の停止表示態様として所定グループに属する停止表示態様が停止表示されず、その後、前回実行された特別遊技からの識別情報の変動表示の回数が前記所定回数目の識別情報の停止表示態様として所定グループに属する停止表示態様が停止表示されるよう構成されており、

前回実行された特別遊技からの識別情報の変動表示の回数が前記所定回数以上であり、当否判定手段による当否判定の結果が当選となった場合には、当該当選となった当否判定に係る識別情報の停止表示態様として所定グループに属する停止表示態様が停止表示されるよう構成されている

ことを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【2386】

(第24実施形態)

主遊技図柄が特定の図柄の組合せ（以下、時短図柄ともいう）としての時短専用図柄、ハズレ図柄（ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合）、小当り図柄（小当り図柄を時短図柄として併用する場合）、大当り図柄で停止表示された場合、時短図柄が停止表示されたことに基づいて時間短縮遊技状態を作動させる構成を第24実施形態として以下に詳述する。

【2387】

第24実施形態は、従来の第1種ぱちんこ遊技機を二つ混在させたような機種（第1種第1種複合機）である。但し、これには何ら限定されず、他の遊技機（例えば、従来の第1種、第2種、第3種、一般電役等のぱちんこ遊技機）に応用された場合も範囲内である。尚、本実施形態は、あくまで一例であり、各手段が存在する場所や機能等、各種処理に関しての各ステップの順序、フラグのオン・オフのタイミング、各ステップの処理を担う手段名等に関し、以下の態様に限定されるものではない。また、上記した第1実施形態～第23実施形態やそれらの実施形態の変更例は、特定のものに対して適用されると限定的に解すべきでなく、どのような組み合わせであってもよい。例えば、ある実施形態についての変更例は、別の実施形態の変更例であると理解すべきであり、また、ある変更例と別の変更例が独立して記載されていたとしても、当該ある変更例と当該別の変更例を組み合わせたものも記載されていると理解すべきである。

【2388】

本明細書における各用語の意義について説明する。「入球」とは、賞球が払い出される入賞のみならず、賞球払い出しの無いゲートへの通過も含む。「開状態、開放状態」及び「閉状態、閉鎖状態」とは、例えば、一般的な大入賞口（いわゆる、アタッカー）の構成においては、開状態＝入賞容易状態であり、閉状態＝入賞非容易状態となる。また、例えば、遊技盤（遊技者側）から突き出した状態（以下、進出状態と呼ぶことがある）と遊技盤内（遊技者側と反対側）に引っ込んだ状態（以下、退避状態と呼ぶことがある）とを採り得る構成（いわゆる、ペロ型アタッカー）においては、進出状態＝入賞容易状態であり、退避状態＝入賞非容易状態となる。「乱数」とは、ぱちんこ遊技機において何らかの遊技内容を決定するための抽選（電子計算機によるくじ）に使用される乱数であり、狭義の乱数の他に擬似乱数も含む（例えば、乱数としてはハード乱数、擬似乱数としてはソフト乱数）。例えば、遊技の結果に影響を与えるいわゆる「基本乱数」、具体的には、特別遊技の移行に関連した「当選乱数（当否抽選用乱数）」、識別情報の変動態様（又は変動時間）を決定するための「変動態様決定乱数」、停止図柄を決定する「図柄決定乱数」、特別遊技後に特定遊技（例えば確率変動遊技）に移行するか否かを決定する「当り図柄決定乱数」等を挙げることができる。尚、変動態様の内容や確定識別情報の内容等を決定する際、これらすべての乱数を使用する必要はなく、互いに同一又は相違する、少なくとも一つの乱数を使用すればよい。また、本明細書では、乱数の数とか複数個の乱数、といった形で乱数を個数表示していることがあるが、乱数取得の契機となる入球口（例えば始動口やゲート、一般入賞口）の一回の入球により取得された乱数を一個と称している（即ち、前記の例だと、当選乱数＋変動態様決定乱数＋図柄決定乱数・・・という乱数の束を一個の乱数と称している）。また、例えば、一種の乱数（例えば当選乱数）が、別種の乱数（例えば図柄決定乱数）を兼ねていてもよい。「遊技状態」とは、例えば、大入賞口が開放状態となり得る特別遊技状態、特別遊技状態への移行抽選確率が予め定められた値である非確率変動遊技状態（低確率状態）よりも特別遊技状態への移行抽選確率が高い確率変動遊技状態（高確率状態）、特別遊技への移行抽選契機となる始動口への入賞に対する補助が有る補助遊技状態（いわゆる、高ベース状態、例えば、始動口に可変部材が取り付けられている場合では、可変部材の開放期間を長くする、可変部材の開放当選確率を高くする、可変部材の開放抽選の結果報知の時間を短くすることが可能な状態であり、これらすべてを有効とする状態又は少なくとも1つを有効とする状態）、特別遊技への移行抽選契機となる始動口への入賞に対する補助が無い非補助遊技状態（低ベース状態）等の任意の1又は複数の組合せである。「変動表示停止時間」とは、識別情報の変動表示が停止した際

10

20

30

40

50

に識別情報を停止した状態で保持する時間であり、変動表示の停止後に保留が残っている場合、この変動表示停止時間が経過した後に、残っている保留に係る変動が開始される（変動開始条件、当否判定許可条件が充足される）。また、本明細書においては「識別情報」を、主遊技図柄（特別図柄）や装飾図柄（演出用図柄、装図）と呼ぶことがある。主遊技図柄（特別図柄）は、主制御基板側にて表示制御される識別情報であり、装飾図柄（演出用図柄、装図）は、副制御基板側にて表示される演出としての識別情報である。「識別情報を表示可能」とは、表示方法には何ら限定されず、例えば、発光手段（例えば液晶、LED、7セグ）の発光（発光の有無だけでなく、色の違いも含む）、物理的な表示（例えば、リール帯に描かれた図柄を所定位置に停止表示する）等、を挙げることができる。

「演出」とは、遊技の興趣性を高める表示内容を指し、例えば、識別情報の変動・停止や予告等をはじめ、アニメーションや実写等の動画像や絵、写真、文字等の静止画像又はこれらの組み合わせを挙げることができる。そして、「装飾図柄」は、五感（視覚、聴覚、触覚等）を通じて図柄の種類を識別可能であればどのような形態でもよいが、好適には、カード型やキャラクタ型等の画像オブジェクトに、視覚的なもの、例えば、数字（漢数字含む）、アルファベット、文字、記号、絵柄、図柄等の形状のあるものが記載されているものである。そして、この数字や記号が同一となる組み合わせにて当該画像オブジェクトを有効ライン上にて最終的に停止表示することで当り（大当り、小当り）が発生した旨が報知される。「第1装飾図柄（第一演出用図柄）」及び「第2装飾図柄（第二演出用図柄）」とは、その双方が「装飾図柄（演出用図柄、装図）」となるものであるが、夫々が独立して当り（大当り、小当り）の発生を報知可能に構成されているものが相当する（例えば、「第1装飾図柄（第一演出用図柄）」が「777」となって当り（大当り、小当り）の発生を報知可能でもあるし、「第2装飾図柄（第二演出用図柄）」が「777」となって当り（大当り、小当り）の発生を報知可能でもある）。「変動態様」とは、例えば、変動時間（主遊技図柄（特別図柄）の変動時間、装飾図柄（演出用図柄、装図）の変動時間、普通図柄の変動時間のいずれも含む）、装飾図柄（演出用図柄、装図）が上から下へスクロール表示（その他、下から上へ、左から右へ、右から左へのスクロール表示なども可能である）して遊技者が視認できる装飾図柄（演出用図柄、装図）の種類を切り替えること、装飾図柄（演出用図柄、装図）がその場で回転表示し半回転又は1回転することで遊技者が視認できる装飾図柄（演出用図柄、装図）の種類を切り替えること（このようなスクロール表示や回転表示などは「切替表示態様」と称することもある）等を含む。「装飾図柄（演出用図柄、装図）を暫定的に停止（或いは仮停止）する／しない」とは、「暫定的に停止させる→再変動させる」を1セットとし、この1セットを行う／行わないということと同義である。「再変動」とは、「装飾図柄（演出用図柄、装図）を暫定的に停止させる→再変動させる」といった状況、「変動開始→装飾図柄（演出用図柄、装図）を暫定的に停止させる」といった状況、「再変動開始→装飾図柄（演出用図柄、装図）を暫定的に停止させる（2回目以降の暫定的な停止）」といった状況を含む用語であり、擬似連演出における擬似変動や、復活演出における復活変動（例えば、スーパーリーチ演出中にはハズレを示す装飾図柄（演出用図柄、装図）の組合せを暫定的に停止させて、スーパーリーチ演出終了後に移行する演出ステージにて再変動を行ったうえで当りを示す装飾図柄へと暫定的に停止したうえで確定的に停止する変動）等を示す用語である。また、当り（大当り、小当り）の発生有無を報知する最終的な停止表示タイミング（典型的にはその後に、いわゆる主遊技図柄の停止表示とあわせて確定的に停止表示される）を除くことも同義である。また、「装飾図柄（演出用図柄、装図）」は第2要素（例えば、数字）を基調としており、第1要素（キャラクタや「SUPER」等の付帯情報の有無／内容）や第3要素（例えば、色彩エフェクト）等を付帯して構成されていてもよい。また、「装飾図柄（演出用図柄、装図）」は、演出モードが異なる場合には、第2要素が同一（同じ数字、同じアルファベット、同じ文字、同じ記号など）であっても、第1要素及び／又は第3要素が異なるよう構成されていてもよい。また、第1要素及び／又は第3要素が異なることにより、リーチ変動が当り（大当り、小当り）となる期待度、先読み演出実行時における特定の図柄組み合わせ停止時の当該先読み演出に係る図柄変動にて当り（大当り、小当り

10

20

30

40

50

）となる期待度、特別遊技でのラウンド数や当該特別遊技終了後の遊技状態等の遊技者にとっての利益率が異なるよう構成してもよい。また、そのように構成した場合には、高確率状態かつ高ベース状態（高確高ベース状態）や低確率状態かつ高ベース状態（低確高ベース状態）、高確率状態かつ低ベース状態（高確低ベース状態）には、通常遊技状態である低確率状態かつ低ベース状態（低確低ベース状態）の場合に比べて、第1要素及び／又は第3要素が遊技者にとって有利な要素となるように構成してもよい。また、「情報表示部」とは、予告演出等を含む情報を表示するものであり、例えば、演出表示装置、7セグメントLED、LEDランプ、等であり、これら夫々の単体を示していてもよいし、演出表示装置＋7セグメントLED＋LEDランプといった複数の表示媒体の組み合わせ（ユニット全体）を示していてもよい。また、「演出表示部」とは、予告演出等を含む演出を表示するものであり、例えば、演出表示装置、7セグメントLED、LEDランプ、等であり、これら夫々の単体を示していてもよいし、演出表示装置＋7セグメントLED＋LEDランプといった複数の表示媒体の組み合わせ（ユニット全体）を示していてもよい。

【2389】

本実施形態では、条件装置が作動せずに、主遊技図柄（「主遊技図柄」には、第1主遊技図柄と第2主遊技図柄とがある）が特定の図柄の組合せ（以下、時短図柄ともいう）としての時短専用図柄、ハズレ図柄（ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合）、小当り図柄（小当り図柄を時短図柄として併用する場合）、大当り図柄で停止表示された場合、時短図柄が停止表示されたことに基づいて時間短縮遊技状態（例えば、高ベース状態）を作動させるように構成されている。例えば、主遊技内容決定乱数（例えば、当否を決定するための当否抽選乱数）で主遊技図柄としての時短図柄の抽選（時短抽選）を実行し、時短図柄と遊技状態で時短回数を決定する。また、例えば、非時間短縮遊技状態（例えば、低確低ベース状態）時は、主遊技内容決定乱数（例えば、当否を決定するための当否抽選乱数）で主遊技図柄としての時短図柄の抽選（時短抽選）を実行し、遊技状態と時短図柄毎に時短回数を決定する。なお、第1大入賞口C10の特定領域、第2大入賞口C20の特定領域、第1大入賞口C10の一般領域、第2大入賞口C20の一般領域、第1主遊技始動口A10、第2主遊技始動口B10、補助遊技始動口H10、左一般入賞口P10、右一般入賞口P20、役物連続作動ゲートやその他時間短縮遊技状態を作動させる入球口などの特定の領域を有するぱちんこ遊技機に時短図柄を設けてもよい。また、時短図柄を設ける場合、1種類の時短図柄を備えるように構成してもよいし、複数種類の時短図柄を備えるように構成してもよい。

【2390】

まず、ぱちんこ遊技機のタイプを説明する。1種＋1種タイプは、主遊技図柄を2つ備えるぱちんこ遊技機であって、第1主遊技図柄と第2主遊技図柄のうちいずれか一方が図柄変動可能なぱちんこ遊技機である「1種＋1種直列タイプ」と、第1主遊技図柄と第2主遊技図柄とが同時に図柄変動（同時変動）可能なぱちんこ遊技機である「1種＋1種並列タイプ」とがある。

【2391】

特別遊技の終了後に確率変動遊技状態に移行した場合に次の特別遊技が当選することによって確率変動遊技状態が終了するぱちんこ遊技機を「次回確変タイプ」という。なお、主遊技図柄を1つ備える構成でもよいし、2つ（第1主遊技図柄と第2主遊技図柄）備える構成であってもよい。

【2392】

特別遊技の終了後に確率変動遊技状態に移行した場合に主遊技図柄の予め定められた規定回数の図柄変動が実行されたことによって確率変動遊技状態が終了するぱちんこ遊技機を「STタイプ」という。なお、主遊技図柄を1つ備える構成でもよいし、2つ（第1主遊技図柄と第2主遊技図柄）備える構成であってもよい。

【2393】

特別遊技中に大入賞口内に設けられた特定領域（V領域）を遊技球が通過することで特別遊技終了後に確率変動遊技状態を付与する構成であり、特別遊技となった停止図柄（主

遊技図柄)の種類によって、遊技球が特定領域を通過可能となるか否かが予め定められているぱちんこ遊技機を「V確タイプ」という。なお、主遊技図柄を1つ備える構成でもよいし、2つ(第1主遊技図柄と第2主遊技図柄)備える構成であってもよい。

【2394】

「V確タイプ」と「STタイプ」とを組み合わせたぱちんこ遊技機を「VSTタイプ」という。なお、主遊技図柄を1つ備える構成でもよいし、2つ(第1主遊技図柄と第2主遊技図柄)備える構成であってもよい。

【2395】

主遊技図柄を2つ備えるぱちんこ遊技機であって、主遊技図柄(第1主遊技図柄、第2主遊技図柄)が小当り図柄にて停止表示された後、大入賞口を有利な状態とし得る小当り遊技を実行可能であり、小当り遊技の実行中に特定領域に遊技球が入球した場合には、小当り遊技の終了後に特別遊技を実行可能であるぱちんこ遊技機を「1種+1種小当りVタイプ」という。

【2396】

主遊技図柄を1つ備えるぱちんこ遊技機であって、主遊技図柄(第1主遊技図柄)が小当り図柄にて停止表示された後、大入賞口を有利な状態とし得る小当り遊技を実行可能であり、小当り遊技の実行中に特定領域に遊技球が入球した場合には、小当り遊技の終了後に特別遊技を実行可能であるぱちんこ遊技機を「小当りVタイプ」という。

【2397】

主遊技図柄を2つ備えるぱちんこ遊技機であって、一方の主遊技図柄(例えば、第2主遊技図柄)の小当りの当選確率が他方の主遊技図柄(例えば、第1主遊技図柄)の小当りの当選確率よりも高く設定されるぱちんこ遊技機であって、高確高ベース状態や低確高ベース状態において、一方の主遊技図柄(例えば、第2主遊技図柄)が小当りで頻繁に当選するぱちんこ遊技機を「小当りRUSHタイプ」という。

【2398】

主遊技図柄の図柄変動の度に所定確率で高確率遊技状態(高確高ベース状態、高確低ベース状態)から低確低ベース状態、低確高ベース状態、低確低ベース状態への移行抽選を行う機能を有するぱちんこ遊技機を「転落タイプ」という。また、主遊技図柄の図柄変動の度に所定確率で時間短縮遊技状態(低確高ベース状態)から通常遊技状態(低確低ベース状態)への移行抽選を行う機能を有するぱちんこ遊技機も「転落タイプ」という。なお、主遊技図柄を1つ備える構成でもよいし、2つ(第1主遊技図柄と第2主遊技図柄)備える構成であってもよい。

【2399】

主遊技図柄を2つ備えるぱちんこ遊技機であって、第2主遊技側の保留が存在する場合には、第1主遊技側の保留の存在に関わらず(たとえ入賞順序が第1主遊技側の保留の方が先に入賞していても)、第2主遊技図柄の保留消化を優先して実行する「優先変動」のぱちんこ遊技機を「優先変動タイプ」という。

【2400】

主遊技図柄を2つ備えるぱちんこ遊技機であって、第2主遊技側の保留と、第1主遊技側の保留とが存在する場合に、入賞順序に従って保留消化を実行する「入賞順変動」のぱちんこ遊技機を「入賞順変動タイプ」という。

【2401】

「1種+1種直列タイプ」、「1種+1種並列タイプ」、「次回確変タイプ」、「STタイプ」、「V確タイプ」、「1種+1種小当りVタイプ」、「小当りVタイプ」、「小当りRUSHタイプ」、「転落タイプ」を適宜組み合わせてもよい。その場合、組み合わせたぱちんこ遊技機のタイプを一のタイプの名称(「1種+1種直列タイプ」、「1種+1種並列タイプ」、「次回確変タイプ」、「STタイプ」、「V確タイプ」、「1種+1種小当りVタイプ」、「小当りVタイプ」、「小当りRUSHタイプ」、「転落タイプ」のいずれか一の名称)で呼ぶことがある。

【2402】

10

20

30

40

50

組み合わせの一例として、「1種+1種直列タイプ」+「次回確変タイプ」、「1種+1種直列タイプ」+「次回確変タイプ」+「小当りRUSHタイプ」、「1種+1種直列タイプ」+「次回確変タイプ」+「優先変動タイプ」、「1種+1種直列タイプ」+「次回確変タイプ」+「入賞順変動タイプ」、「1種+1種直列タイプ」+「次回確変タイプ」+「優先変動タイプ」+「小当りRUSHタイプ」、「1種+1種直列タイプ」+「次回確変タイプ」+「入賞順変動タイプ」+「小当りRUSHタイプ」、「1種+1種直列タイプ」+「STタイプ」、「1種+1種直列タイプ」+「STタイプ」+「小当りRUSHタイプ」、「1種+1種直列タイプ」+「STタイプ」+「優先変動タイプ」、「1種+1種直列タイプ」+「STタイプ」+「入賞順変動タイプ」、「1種+1種直列タイプ」+「STタイプ」+「優先変動タイプ」+「小当りRUSHタイプ」、「1種+1種直列タイプ」+「STタイプ」+「入賞順変動タイプ」+「小当りRUSHタイプ」、「1種+1種直列タイプ」+「V確タイプ」、「1種+1種直列タイプ」+「V確タイプ」+「小当りRUSHタイプ」、「1種+1種直列タイプ」+「V確タイプ」+「優先変動タイプ」、「1種+1種直列タイプ」+「V確タイプ」+「入賞順変動タイプ」、「1種+1種直列タイプ」+「V確タイプ」+「優先変動タイプ」+「小当りRUSHタイプ」、「1種+1種直列タイプ」+「V確タイプ」+「入賞順変動タイプ」+「小当りRUSHタイプ」、「1種+1種直列タイプ」+「VSTタイプ」、「1種+1種直列タイプ」+「VSTタイプ」+「小当りRUSHタイプ」、「1種+1種直列タイプ」+「VSTタイプ」+「優先変動タイプ」+「小当りRUSHタイプ」、「1種+1種直列タイプ」+「VSTタイプ」+「入賞順変動タイプ」+「小当りRUSHタイプ」、「1種+1種直列タイプ」+「転落タイプ」、「1種+1種直列タイプ」+「転落タイプ」+「小当りRUSHタイプ」、「1種+1種直列タイプ」+「転落タイプ」+「優先変動タイプ」、「1種+1種直列タイプ」+「転落タイプ」+「入賞順変動タイプ」、「1種+1種直列タイプ」+「転落タイプ」+「優先変動タイプ」+「小当りRUSHタイプ」、「1種+1種直列タイプ」+「転落タイプ」+「入賞順変動タイプ」+「小当りRUSHタイプ」を例示するが、これらに限定されない。

【2403】

本実施形態では、主遊技内容決定乱数（例えば、図柄抽選乱数）を用いて、大当りを示す主遊技図柄の停止図柄、小当りを示す主遊技図柄の停止図柄、ハズレを示す主遊技図柄の停止図柄、時間短縮遊技状態への移行を示す主遊技図柄の停止図柄（時短専用図柄）を決定するように構成されている。なお、1の主遊技内容決定乱数（例えば、図柄抽選乱数）によって、大当りを示す主遊技図柄の停止図柄、小当りを示す主遊技図柄の停止図柄、ハズレを示す主遊技図柄の停止図柄、時間短縮遊技状態への移行を示す主遊技図柄の停止図柄（時短専用図柄）を決定しなくてもよく、例えば、それぞれ異なる専用の主遊技内容決定乱数（例えば、図柄抽選乱数）によって、大当りとなる場合は、大当り図柄抽選乱数を用いて主遊技図柄の停止図柄を決定し、小当りとなる場合は、小当り図柄抽選乱数を用いて主遊技図柄の停止図柄を決定し、ハズレとなる場合は、ハズレ図柄抽選乱数を用いて主遊技図柄の停止図柄を決定し、時間短縮遊技状態に移行する場合は、時短図柄抽選乱数を用いて主遊技図柄の停止図柄を決定するように構成されていてもよい。

【2404】

主遊技図柄を有するぱちんこ遊技機において時間短縮遊技状態（例えば、高ベース状態）を作動させる場合、時短図柄の抽選専用の時短図柄抽選乱数を用いて主遊技図柄の抽選（時短抽選）を実行し、主遊技図柄の図柄変動の停止図柄であって時短図柄としての時短専用図柄を決定するように構成されている。時短図柄抽選乱数を用いて時短専用図柄の抽選処理（時短抽選処理）を行なう場合は、時短図柄抽選乱数による抽選結果を当選値とするように構成されている。なお、時短図柄の抽選確率の上限値、下限値を設けていないが、遊技状態毎に抽選確率が設定されていれば良く、例えば、低確低ベース状態の時短図柄の抽選確率を $1/100$ 、高確低ベース状態の時短図柄の抽選確率を $1/200$ 、低確高ベース状態の時短図柄の抽選確率を $1/300$ 、高確高ベース状態の時短図柄の抽選確率を $1/400$ 等のように遊技状態毎で時短図柄の抽選確率が異なるように構成してもよい。

し、遊技状態毎で時短図柄の抽選確率が $1/100$ 等で同一としても良い。

【2405】

主遊技図柄を有するぱちんこ遊技機において時間短縮遊技状態（例えば、高ベース状態）を作動させる場合、時短図柄の抽選専用の時短図柄抽選乱数を用いて主遊技図柄の抽選（時短抽選）を実行し、主遊技図柄の図柄変動の停止図柄である時短図柄を決定するように構成されているが、時短図柄の抽選（時短抽選）は、ハズレ図柄抽選乱数を用いてもよい。このように構成する場合、主遊技図柄としてハズレ図柄のあらかじめ定められた一部もしくは全てを時短図柄として設定しておくことにより、時短図柄を兼用するハズレ図柄（ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合）が停止表示された場合に時間短縮遊技状態を作動させることが可能となる。

10

【2406】

なお、時短図柄の抽選に時短図柄抽選乱数を用いる設定値を有するぱちんこ遊技機の場合に、設定値によって参照する時短図柄抽選乱数の数に差異がないように構成されている。つまり、遊技を実行する際に設定される設定値（例えば、設定値1～6）によって、時間短縮遊技状態を作動させる時短図柄抽選乱数の数に差異がないようにすることで、時間短縮遊技状態の作動確率が変更しないように一定に構成されている。例えば、時短図柄抽選乱数の数が1000（乱数の範囲が0～999）であり、当選の乱数の数（時間短縮遊技状態を作動させる時短図柄抽選乱数の数）を10と設定し、遊技を実行する際に設定される設定値（例えば、設定値1～6）によって、時短図柄抽選乱数の数の1000と、当選の乱数の数（時間短縮遊技状態を作動させる時短図柄抽選乱数の数）の10が一定に構成されており、時間短縮遊技状態の作動確率が $10/1000$ から変更されないように一定に構成されている。つまり、遊技を実行する際に設定される設定値（例えば、設定値1～6）によって、時間短縮遊技状態の作動確率が一定であればよいので、当選の乱数の数／時短図柄抽選乱数の数が一定であれば良い。なお、当選の乱数の範囲は、連続した乱数であっても、不連続な乱数であってもよい。

20

【2407】

なお、時短図柄の抽選に時短図柄抽選乱数を用いる設定値を有するぱちんこ遊技機の場合に、設定値によって参照する時短図柄抽選乱数の数に差異があるように構成されていてもよい。つまり、遊技を実行する際に設定される設定値（例えば、設定値1～6）によって、時間短縮遊技状態を作動させる時短図柄抽選乱数の数に差異があるようにすることで、時間短縮遊技状態の作動確率が設定値によって変更するように構成されていてもよい。

30

【2408】

このように構成する場合、設定値が大きいほど時間短縮遊技状態が作動しやすいように構成してもよい。例えば、設定値が1の場合、時短図柄抽選乱数の数が1000（乱数の範囲が0～999）であり、当選の乱数の数（時間短縮遊技状態を作動させる時短図柄抽選乱数の数）を10と設定し、時間短縮遊技状態の作動確率が $10/1000$ となっている。設定値が2の場合、時短図柄抽選乱数の数が1000（乱数の範囲が0～999）であり、当選の乱数の数（時間短縮遊技状態を作動させる時短図柄抽選乱数の数）を20と設定し、時間短縮遊技状態の作動確率が $20/1000$ となっている。設定値が3の場合、時短図柄抽選乱数の数が1000（乱数の範囲が0～999）であり、当選の乱数の数（時間短縮遊技状態を作動させる時短図柄抽選乱数の数）を30と設定し、時間短縮遊技状態の作動確率が $30/1000$ となっている。設定値が4の場合、時短図柄抽選乱数の数が1000（乱数の範囲が0～999）であり、当選の乱数の数（時間短縮遊技状態を作動させる時短図柄抽選乱数の数）を40と設定し、時間短縮遊技状態の作動確率が $40/1000$ となっている。設定値が5の場合、時短図柄抽選乱数の数が1000（乱数の範囲が0～999）であり、当選の乱数の数（時間短縮遊技状態を作動させる時短図柄抽選乱数の数）を50と設定し、時間短縮遊技状態の作動確率が $50/1000$ となっている。設定値が6の場合、時短図柄抽選乱数の数が1000（乱数の範囲が0～999）であり、当選の乱数の数（時間短縮遊技状態を作動させる時短図柄抽選乱数の数）を60と設定し、時間短縮遊技状態の作動確率が $60/1000$ となっている。なお、主遊技図柄

40

50

の当選確率を設定値に関わらず一定（例えば、 $1/200$ ）とし、時短図柄の当選確率を設定値に対応した確率に設定してもよい。このように構成する場合、時短図柄の当選確率の相違によって出玉率を変更させることができるだけでなく、時短図柄の当選確率によって、設定の示唆や推測が可能となるため、新たなぱちんこ遊技機の遊技性を創出することができるようになる。

【2409】

また、設定値が小さいほど時間短縮遊技状態が作動しやすいように構成してもよい。例えば、設定値が1の場合、時短図柄抽選乱数の数が1000（乱数の範囲が0～999）であり、当選の乱数の数（時間短縮遊技状態を作動させる時短図柄抽選乱数の数）を60と設定し、時間短縮遊技状態の作動確率が $60/1000$ となっている。設定値が2の場合、時短図柄抽選乱数の数が1000（乱数の範囲が0～999）であり、当選の乱数の数（時間短縮遊技状態を作動させる時短図柄抽選乱数の数）を50と設定し、時間短縮遊技状態の作動確率が $50/1000$ となっている。設定値が3の場合、時短図柄抽選乱数の数が1000（乱数の範囲が0～999）であり、当選の乱数の数（時間短縮遊技状態を作動させる時短図柄抽選乱数の数）を40と設定し、時間短縮遊技状態の作動確率が $40/1000$ となっている。設定値が4の場合、時短図柄抽選乱数の数が1000（乱数の範囲が0～999）であり、当選の乱数の数（時間短縮遊技状態を作動させる時短図柄抽選乱数の数）を30と設定し、時間短縮遊技状態の作動確率が $30/1000$ となっている。設定値が5の場合、時短図柄抽選乱数の数が1000（乱数の範囲が0～999）であり、当選の乱数の数（時間短縮遊技状態を作動させる時短図柄抽選乱数の数）を20と設定し、時間短縮遊技状態の作動確率が $20/1000$ となっている。設定値が6の場合、時短図柄抽選乱数の数が1000（乱数の範囲が0～999）であり、当選の乱数の数（時間短縮遊技状態を作動させる時短図柄抽選乱数の数）を10と設定し、時間短縮遊技状態の作動確率が $10/1000$ となっている。

【2410】

なお、時短図柄抽選乱数の数を一定とし、当選の乱数の数（時間短縮遊技状態を作動させる時短図柄抽選乱数の数）を設定値によって変更するように構成した例を示したが、当選の乱数の数（時間短縮遊技状態を作動させる時短図柄抽選乱数の数）を一定とし、時短図柄抽選乱数の数を変更するように構成してもよい。このように構成する場合、設定値が大きいほど時間短縮遊技状態が作動しやすいように構成してもよい。例えば、当選の乱数の数（時間短縮遊技状態を作動させる時短図柄抽選乱数の数）を10で一定とし、設定1の場合は時短図柄抽選乱数の数が1250、設定2の場合は時短図柄抽選乱数の数が1200、設定3の場合は時短図柄抽選乱数の数が1150、設定4の場合は時短図柄抽選乱数の数が1100、設定5の場合は時短図柄抽選乱数の数が1050、設定6の場合は時短図柄抽選乱数の数が1000となるように構成してもよい。なお、当選の乱数の範囲は、連続した乱数であっても、不連続な乱数であってもよい。

【2411】

また、設定値が小さいほど時間短縮遊技状態が作動しやすいように構成してもよい。例えば、当選の乱数の数（時間短縮遊技状態を作動させる時短図柄抽選乱数の数）を10で一定とし、設定1の場合は時短図柄抽選乱数の数が1000、設定2の場合は時短図柄抽選乱数の数が1050、設定3の場合は時短図柄抽選乱数の数が1100、設定4の場合は時短図柄抽選乱数の数が1150、設定5の場合は時短図柄抽選乱数の数が1200、設定6の場合は時短図柄抽選乱数の数が1250となるように構成してもよい。

【2412】

また、主遊技図柄としてのハズレ図柄のあらかじめ定められた一部を時短図柄として設定する場合、すなわち、時短図柄を兼用する特定のハズレ図柄が停止表示されたことに基づいて時間短縮遊技状態を作動させることが可能である。例えば、ハズレ図柄Aが停止表示された場合は、時間短縮遊技状態を作動させないが、時短図柄を兼用するハズレ図柄B（特定のハズレ図柄）が停止表示された場合は、時間短縮遊技状態を作動させるように構成することができる。なお、時短図柄の抽選にハズレ図柄抽選乱数を用いる場合は、特定

のハズレ図柄抽選乱数値（特定のハズレ図柄）を当選値としてもよい。

【2413】

なお、時短図柄の抽選にハズレ図柄抽選乱数を用いる設定値を有するぱちんこ遊技機の場合に、設定値によって参照するハズレ図柄抽選乱数の数に差異がないように構成されている。つまり、遊技を実行する際に設定される設定値（例えば、設定値1～6）によって、時間短縮遊技状態を作動させるハズレ図柄抽選乱数の数に差異がないようにすることで、時間短縮遊技状態の作動確率が変更しないように一定に構成されている。例えば、ハズレ図柄抽選乱数の数が1000（乱数の範囲が0～999）であり、当選の乱数の数（時間短縮遊技状態を作動させるハズレ図柄抽選乱数の数）を10と設定し、遊技を実行する際に設定される設定値（例えば、設定値1～6）によって、ハズレ図柄抽選乱数の数の1000と、当選の乱数の数（時間短縮遊技状態を作動させるハズレ図柄抽選乱数の数）の10が一定に構成されており、時間短縮遊技状態の作動確率が $10 / 1000$ から変更されないように一定に構成されている。つまり、遊技を実行する際に設定される設定値（例えば、設定値1～6）によって、時間短縮遊技状態の作動確率が一定であればよいので、当選の乱数の数／ハズレ図柄抽選乱数の数が一定であれば良い。なお、当選の乱数の範囲は、連続した乱数であっても、不連続な乱数であってもよい。

10

【2414】

主遊技図柄を有するぱちんこ遊技機において時間短縮遊技状態（例えば、高ベース状態）を作動させる場合、時短図柄の抽選専用の時短図柄抽選乱数を用いて主遊技図柄の抽選（時短抽選）を実行し、主遊技図柄の図柄変動の停止図柄である時短図柄を決定するように構成されているが、時短図柄の抽選（時短抽選）は、大当り図柄抽選乱数を用いてもよい。このように構成する場合、主遊技図柄として大当り図柄のあらかじめ定められた一部もしくは全てを時短図柄として設定しておくことにより、時短図柄を兼用する大当り図柄が停止表示された場合に時間短縮遊技状態を作動させることが可能となる。なお、時短図柄の抽選に大当り図柄抽選乱数を用いる場合は、特定の大当り図柄抽選乱数値（特定の大当り図柄）を当選値としてもよい。

20

【2415】

なお、時短図柄の抽選に大当り図柄抽選乱数を用いる設定値を有するぱちんこ遊技機の場合に、設定値によって参照する大当り図柄抽選乱数の数に差異がないように構成されている。つまり、遊技を実行する際に設定される設定値（例えば、設定値1～6）によって、時間短縮遊技状態を作動させる大当り図柄抽選乱数の数に差異がないようにすることで、時間短縮遊技状態の作動確率が変更しないように一定に構成されている。例えば、大当り図柄抽選乱数の数が1000（乱数の範囲が0～999）であり、当選の乱数の数（時間短縮遊技状態を作動させる大当り図柄抽選乱数の数）を10と設定し、遊技を実行する際に設定される設定値（例えば、設定値1～6）によって、大当り図柄抽選乱数の数の1000と、当選の乱数の数（時間短縮遊技状態を作動させる大当り図柄抽選乱数の数）の10が一定に構成されており、時間短縮遊技状態の作動確率が $10 / 1000$ から変更されないように一定に構成されている。つまり、遊技を実行する際に設定される設定値（例えば、設定値1～6）によって、時間短縮遊技状態の作動確率が一定であればよいので、当選の乱数の数／大当り図柄抽選乱数の数が一定であれば良い。なお、当選の乱数の範囲は、連続した乱数であっても、不連続な乱数であってもよい。

30

40

【2416】

主遊技図柄を有するぱちんこ遊技機において時間短縮遊技状態（例えば、高ベース状態）を作動させる場合、時短図柄の抽選専用の時短図柄抽選乱数を用いて主遊技図柄の抽選（時短抽選）を実行し、主遊技図柄の図柄変動の停止図柄である時短図柄を決定するように構成されているが、時短図柄の抽選（時短抽選）は、小当り図柄抽選乱数を用いてもよい。このように構成する場合、主遊技図柄として小当り図柄のあらかじめ定められた一部もしくは全てを時短図柄として設定しておくことにより、時短図柄を兼用する小当り図柄（小当り図柄を時短図柄として併用する場合）が停止表示された場合に時間短縮遊技状態を作動させることが可能となる。なお、時短図柄の抽選に小当り図柄抽選乱数を用いる場

50

合は、特定の小当り図柄抽選乱数値（特定の小当り図柄）を当選値としてもよい。

【2417】

なお、時短図柄の抽選に小当り図柄抽選乱数を用いる設定値を有するぱちんこ遊技機の場合に、設定値によって参照する小当り図柄抽選乱数の数に差異がないように構成されている。つまり、遊技を実行する際に設定される設定値（例えば、設定値1～6）によって、時間短縮遊技状態を作動させる小当り図柄抽選乱数の数に差異がないようにすることで、時間短縮遊技状態の作動確率を変更しないように一定に構成されている。例えば、小当り図柄抽選乱数の数が1000（乱数の範囲が0～999）であり、当選の乱数の数（時間短縮遊技状態を作動させる小当り図柄抽選乱数の数）を10と設定し、遊技を実行する際に設定される設定値（例えば、設定値1～6）によって、小当り図柄抽選乱数の数の1000と、当選の乱数の数（時間短縮遊技状態を作動させる小当り図柄抽選乱数の数）の10が一定に構成されており、時間短縮遊技状態の作動確率が10／1000から変更されないように一定に構成されている。つまり、遊技を実行する際に設定される設定値（例えば、設定値1～6）によって、時間短縮遊技状態の作動確率が一定であればよいので、当選の乱数の数／小当り図柄抽選乱数の数が一定であれば良い。なお、当選の乱数の範囲は、連続した乱数であっても、不連続な乱数であってもよい。

10

【2418】

時短図柄を兼用する小当り図柄を用いる場合（小当り図柄を時短図柄として併用する場合）、小当り図柄によって時間短縮遊技状態の作動の有無を決定するように構成されている。例えば、小当り図柄Aは時間短縮遊技状態の作動なし図柄（非時短図柄）と予め定められており、小当り図柄Bは時間短縮遊技状態の作動あり図柄（時短図柄と併用）と予め定めておくことが可能である。

20

【2419】

主遊技図柄を有するぱちんこ遊技機において時間短縮遊技状態（例えば、高ベース状態）を作動させる場合、時短図柄の抽選専用の時短図柄抽選乱数を用いて主遊技図柄の抽選（時短抽選）を実行し、主遊技図柄の図柄変動の停止図柄である時短図柄を決定するように構成されているが、時短図柄の抽選（時短抽選）は、当否抽選乱数を用いてもよい。

【2420】

なお、時短図柄の抽選に当否抽選乱数を用いる設定値を有するぱちんこ遊技機の場合に、設定値によって参照する当否抽選乱数の数に差異がないように構成されている。つまり、遊技を実行する際に設定される設定値（例えば、設定値1～6）によって、時間短縮遊技状態を作動させる当否抽選乱数の数に差異がないようにすることで、時間短縮遊技状態の作動確率を変更しないように一定に構成されている。例えば、当否抽選乱数の数が1000（乱数の範囲が0～999）であり、当選の乱数の数（時間短縮遊技状態を作動させる当否抽選乱数の数）を10と設定し、遊技を実行する際に設定される設定値（例えば、設定値1～6）によって、当否抽選乱数の数の1000と、当選の乱数の数（時間短縮遊技状態を作動させる当否抽選乱数の数）の10が一定に構成されており、時間短縮遊技状態の作動確率が10／1000から変更されないように一定に構成されている。つまり、遊技を実行する際に設定される設定値（例えば、設定値1～6）によって、時間短縮遊技状態の作動確率が一定であればよいので、当選の乱数の数／当否抽選乱数の数が一定であれば良い。なお、当選の乱数の範囲は、連続した乱数であっても、不連続な乱数であってもよい。なお、当否抽選乱数として、大当り用の当否抽選乱数、小当り用の当否抽選乱数を別に用いてもよい。

30

40

【2421】

時短抽選（特殊抽選）は、主遊技図柄の停止表示態様の決定で用いられるハズレ図柄抽選乱数、大当り図柄抽選乱数、小当り図柄抽選乱数等（主遊技情報）、または、特別遊技を行うか否かの判定で用いられる当否抽選乱数（主遊技情報）に基づき実行するよう構成されている。

【2422】

このように構成することで、専用の乱数を設けることなく時短抽選を実行することがで

50

きるため、限られたROMの容量内で時短抽選の設計が可能となる。

【2423】

主遊技図柄を有するぱちんこ遊技機において時間短縮遊技状態（例えば、高ベース状態）を作動させる場合、時短図柄の抽選専用の時短図柄抽選乱数を用いて主遊技図柄の抽選（時短抽選）を実行し、主遊技図柄の図柄変動の停止図柄である時短図柄を決定するように構成されているが、図柄変動の度に所定確率で確率変動遊技状態や時間短縮遊技状態から通常遊技状態への移行抽選を行う機能を有しているぱちんこ遊技機の場合（いわゆる、転落抽選機能を有するぱちんこ遊技機の場合）、時短図柄の抽選（時短抽選）は、転落抽選判定用乱数を用いてもよい。

【2424】

なお、時短図柄の抽選に転落抽選判定用乱数を用いる設定値を有するぱちんこ遊技機の場合に、設定値によって参照する転落抽選判定用乱数の数に差異がないように構成されている。つまり、遊技を実行する際に設定される設定値（例えば、設定値1～6）によって、時間短縮遊技状態を作動させる転落抽選判定用乱数の数に差異がないようにすることで、時間短縮遊技状態の作動確率が変更しないように一定に構成されている。例えば、転落抽選判定用乱数の数が1000（乱数の範囲が0～999）であり、当選の乱数の数（時間短縮遊技状態を作動させる転落抽選判定用乱数の数）を10と設定し、遊技を実行する際に設定される設定値（例えば、設定値1～6）によって、転落抽選判定用乱数の数の1000と、当選の乱数の数（時間短縮遊技状態を作動させる転落抽選判定用乱数の数）の10が一定に構成されており、時間短縮遊技状態の作動確率が10／1000から変更されないように一定に構成されている。つまり、遊技を実行する際に設定される設定値（例えば、設定値1～6）によって、時間短縮遊技状態の作動確率が一定であればよいので、当選の乱数の数／転落抽選判定用乱数の数が一定であれば良い。なお、当選の乱数の範囲は、連続した乱数であっても、不連続な乱数であってもよい。

【2425】

なお、時短図柄の抽選に転落抽選判定用乱数を用いる設定値を有するぱちんこ遊技機の場合に、設定値によって参照する転落抽選判定用乱数の数に差異があるように構成されていてもよい。つまり、遊技を実行する際に設定される設定値（例えば、設定値1～6）によって、時間短縮遊技状態を作動させる転落抽選判定用乱数の数に差異があるようにすることで、時間短縮遊技状態の作動確率が設定値によって変更するように構成されていてもよい。

【2426】

このように構成する場合、設定値が大きいほど時間短縮遊技状態が作動しやすいように構成してもよい。例えば、設定値が1の場合、転落抽選判定用乱数の数が1000（乱数の範囲が0～999）であり、当選の乱数の数（時間短縮遊技状態を作動させる転落抽選判定用乱数の数）を10と設定し、時間短縮遊技状態の作動確率が10／1000となっている。設定値が2の場合、転落抽選判定用乱数の数が1000（乱数の範囲が0～999）であり、当選の乱数の数（時間短縮遊技状態を作動させる転落抽選判定用乱数の数）を20と設定し、時間短縮遊技状態の作動確率が20／1000となっている。設定値が3の場合、転落抽選判定用乱数の数が1000（乱数の範囲が0～999）であり、当選の乱数の数（時間短縮遊技状態を作動させる転落抽選判定用乱数の数）を30と設定し、時間短縮遊技状態の作動確率が30／1000となっている。設定値が4の場合、転落抽選判定用乱数の数が1000（乱数の範囲が0～999）であり、当選の乱数の数（時間短縮遊技状態を作動させる転落抽選判定用乱数の数）を40と設定し、時間短縮遊技状態の作動確率が40／1000となっている。設定値が5の場合、転落抽選判定用乱数の数が1000（乱数の範囲が0～999）であり、当選の乱数の数（時間短縮遊技状態を作動させる転落抽選判定用乱数の数）を50と設定し、時間短縮遊技状態の作動確率が50／1000となっている。設定値が6の場合、転落抽選判定用乱数の数が1000（乱数の範囲が0～999）であり、当選の乱数の数（時間短縮遊技状態を作動させる転落抽選判定用乱数の数）を60と設定し、時間短縮遊技状態の作動確率が60／1000となっ

10

20

30

40

50

ている。なお、主遊技図柄の当選確率を設定値に関わらず一定（例えば、 $1/200$ ）とし、時短図柄の当選確率を設定値に対応した確率に設定してもよい。このように構成する場合、時短図柄の当選確率の相違によって出玉率を変更させることができるだけでなく、時短図柄の当選確率によって、設定の示唆や推測が可能となるため、新たなばちんこ遊技機の遊技性を創出することができるようになる。

【2427】

また、設定値が小さいほど時間短縮遊技状態が作動しやすいように構成してもよい。例えば、設定値が1の場合、転落抽選判定用乱数の数が1000（乱数の範囲が0～999）であり、当選の乱数の数（時間短縮遊技状態を作動させる転落抽選判定用乱数の数）を60と設定し、時間短縮遊技状態の作動確率が $60/1000$ となっている。設定値が2の場合、転落抽選判定用乱数の数が1000（乱数の範囲が0～999）であり、当選の乱数の数（時間短縮遊技状態を作動させる転落抽選判定用乱数の数）を50と設定し、時間短縮遊技状態の作動確率が $50/1000$ となっている。設定値が3の場合、転落抽選判定用乱数の数が1000（乱数の範囲が0～999）であり、当選の乱数の数（時間短縮遊技状態を作動させる転落抽選判定用乱数の数）を40と設定し、時間短縮遊技状態の作動確率が $40/1000$ となっている。設定値が4の場合、転落抽選判定用乱数の数が1000（乱数の範囲が0～999）であり、当選の乱数の数（時間短縮遊技状態を作動させる転落抽選判定用乱数の数）を30と設定し、時間短縮遊技状態の作動確率が $30/1000$ となっている。設定値が5の場合、転落抽選判定用乱数の数が1000（乱数の範囲が0～999）であり、当選の乱数の数（時間短縮遊技状態を作動させる転落抽選判定用乱数の数）を20と設定し、時間短縮遊技状態の作動確率が $20/1000$ となっている。設定値が6の場合、転落抽選判定用乱数の数が1000（乱数の範囲が0～999）であり、当選の乱数の数（時間短縮遊技状態を作動させる転落抽選判定用乱数の数）を10と設定し、時間短縮遊技状態の作動確率が $10/1000$ となっている。

【2428】

なお、転落抽選判定用乱数の数を一定とし、当選の乱数の数（時間短縮遊技状態を作動させる転落抽選判定用乱数の数）を設定値によって変更するように構成した例を示したが、当選の乱数の数（時間短縮遊技状態を作動させる転落抽選判定用乱数の数）を一定とし、転落抽選判定用乱数の数を変更するように構成してもよい。このように構成する場合、設定値が大きいほど時間短縮遊技状態が作動しやすいように構成してもよい。例えば、当選の乱数の数（時間短縮遊技状態を作動させる転落抽選判定用乱数の数）を10で一定とし、設定1の場合は転落抽選判定用乱数の数が1250、設定2の場合は転落抽選判定用乱数の数が1200、設定3の場合は転落抽選判定用乱数の数が1150、設定4の場合は転落抽選判定用乱数の数が1100、設定5の場合は転落抽選判定用乱数の数が1050、設定6の場合は転落抽選判定用乱数の数が1000となるように構成してもよい。なお、当選の乱数の範囲は、連続した乱数であっても、不連続な乱数であってもよい。

【2429】

また、設定値が小さいほど時間短縮遊技状態が作動しやすいように構成してもよい。例えば、当選の乱数の数（時間短縮遊技状態を作動させる転落抽選判定用乱数の数）を10で一定とし、設定1の場合は転落抽選判定用乱数の数が1000、設定2の場合は転落抽選判定用乱数の数が1050、設定3の場合は転落抽選判定用乱数の数が1100、設定4の場合は転落抽選判定用乱数の数が1150、設定5の場合は転落抽選判定用乱数の数が1200、設定6の場合は転落抽選判定用乱数の数が1250となるように構成してもよい。

【2430】

時短図柄に当選した場合、時間短縮遊技状態を作動させるように構成されているが、時短図柄に当選した場合であって、その後の時短作動有無抽選によって時間短縮遊技状態の作動の有無を決定してもよい。このように構成する場合は、時短図柄に当選し、かつ時短作動有無抽選の結果が当選を示す結果（時間短縮遊技状態を作動させる結果）の場合に時間短縮遊技状態を作動させ、時短図柄に当選し、かつ時短作動有無抽選の結果が当選を示

10

20

30

40

50

さない結果（時間短縮遊技状態を作動させない結果）の場合に時間短縮遊技状態を作動させないように構成されている。

【2431】

時短図柄に当選した場合、時短回数抽選によって時短回数を決定してもよく、このように構成する場合、例えば、時短回数を「10回」、「20回」、「30回」、「40回」、「50回」、「60回」、「70回」、「80回」、「90回」、「99回」、「100回」、「150回」、「1000回」等の中から時短回数抽選によって時短回数を決定するように構成されている。

【2432】

設定値を有するぱちんこ遊技機の場合、時短図柄の抽選方法は設定値に関わらず同じ抽選方法となるように構成されていることが好ましい。つまり、遊技を実行する際に設定される設定値（例えば、設定値1～6）によって、時間短縮遊技状態を作動させる時短図柄（以下に例示する乱数や判定値）の数に差異がないようにすることで、時間短縮遊技状態の作動確率を変更しないように一定に構成されていることが好ましい。

【2433】

なお、設定値毎に時短図柄の当選確率を変更してよい。例えば、設定値によって参照する時短図柄抽選乱数の数と、当選の乱数の数（時間短縮遊技状態を作動させる時短図柄抽選乱数の数）とのいずれか一方、または両方に差異があるように構成してもよい。例えば、設定値によって参照するハズレ図柄抽選乱数の数と、当選の乱数の数（時間短縮遊技状態を作動させるハズレ図柄抽選乱数の数）とのいずれか一方、または両方に差異があるように構成してもよい。例えば、設定値によって参照する小当り図柄抽選乱数の数と、当選の乱数の数（時間短縮遊技状態を作動させる小当り図柄抽選乱数の数）とのいずれか一方、または両方に差異があるように構成してもよい。例えば、設定値によって参照する大当り図柄抽選乱数の数と、当選の乱数の数（時間短縮遊技状態を作動させる大当り図柄抽選乱数の数）とのいずれか一方、または両方に差異があるように構成してもよい。例えば、設定値によって参照する当否抽選乱数の数と、当選の乱数の数（時間短縮遊技状態を作動させる当否抽選乱数の数）とのいずれか一方、または両方に差異があるように構成してもよい。例えば、設定値によって参照する大当り抽選判定値の数と、当選の乱数の数（時間短縮遊技状態を作動させる大当り抽選判定値の数）とのいずれか一方、または両方に差異があるように構成してもよい。例えば、設定値によって参照する転落抽選判定値の数と、当選の乱数の数（時間短縮遊技状態を作動させる転落抽選判定値の数）とのいずれか一方、または両方に差異があるように構成してもよい。このように構成する場合、設定値が1乃至6まであるぱちんこ遊技機であって、設定値1、2、3、4、5、6の順で出玉率が設定されている場合（設定値 $=1<2<3<4<5<6$ の場合）、時短図柄の当選確率は、設定値 $1<2<3<4<5<6$ となるように構成されている。なお、時短図柄の当選確率は、設定値 $1>2>3>4>5>6$ と構成されていてもよい。

【2434】

主遊技図柄毎に、時短図柄の当選確率が相違するように構成されていてもよい。このように構成する場合、例えば、第1主遊技図柄の時短図柄の当選確率を $1/100$ 、第2主遊技図柄の時短図柄の当選確率を $1/10$ 等に設定する。つまり、第2主遊技図柄の時短図柄の当選確率の方が第1主遊技図柄の時短図柄の当選確率よりも高く設定することで、通常遊技状態（例えば、低確低ベース状態）において第2主遊技図柄の図柄変動が開始された場合は、時間短縮遊技状態に当選することを遊技者が期待するようになり、新たな遊技性を創出することが可能となる。

【2435】

また、通常遊技状態の第1主遊技図柄の図柄変動において時間短縮遊技状態を作動させる機会を多くする場合、第1主遊技図柄の時短図柄の当選確率を $1/10$ 、第2主遊技図柄の時短図柄の当選確率を $1/100$ 等に設定する。つまり、第1主遊技図柄の時短図柄の当選確率の方が第2主遊技図柄の時短図柄の当選確率よりも高く設定することで、新たな遊技性を創出することが可能となるとともに、通常遊技状態（例えば、低確低ベース状

10

20

30

40

50

態)において大当りに当選せずとも時間短縮遊技状態の利益を遊技者に提供することが可能となる。

【2436】

また、第1主遊技図柄の時短図柄の当選確率を0、第2主遊技図柄の時短図柄の当選確率を1/10等に設定してもよい。つまり、低確低ベース状態等の第1主遊技側を主体とする遊技において第1主遊技図柄が時短図柄で停止表示することがなく、第2主遊技図柄の時短図柄の当選確率の方が第1主遊技図柄の時短図柄の当選確率よりも高く設定することで、低確低ベース状態等において第2主遊技図柄の図柄変動が開始された場合は、時間短縮遊技状態に当選することを遊技者が期待するようになり、新たな遊技性を創出することが可能となる。

10

【2437】

また、第2主遊技図柄の時短図柄の当選確率を0、第1主遊技図柄の時短図柄の当選確率を1/10等に設定してもよい。つまり、低確低ベース状態において第2主遊技図柄が時短図柄で停止表示することがないため、非常に発生する頻度が低い第2主遊技図柄の図柄変動の時短図柄が停止表示した際の処理を設定する必要がなくなるため、ROMの容量削減につなげることができる。

【2438】

主遊技図柄毎に、時短図柄の当選確率が相違するように構成する場合、低確低ベース状態のみ時短図柄の抽選(時短抽選)を行い、高確低ベース状態、低確高ベース状態、高確高ベース状態においては時短図柄の抽選(時短抽選)を行わないようにするのが好適であるが、高確低ベース状態、低確高ベース状態、高確高ベース状態においても時短図柄の抽選を行うように構成してもよい。

20

【2439】

第1主遊技図柄の時短抽選(第一特殊抽選)の結果に基づき第1主遊技図柄の停止表示態様とし時短図柄(特殊停止表示態様)が決定される第一確率と、第2主遊技図柄の時短抽選(第二特殊抽選)の結果に基づき第2主遊技図柄の停止表示態様として時短図柄が決定される第二確率とが異なるよう構成されている。低確率状態(低確率抽選状態)においては、第1主遊技図柄の時短抽選及び/又は第2主遊技図柄の時短抽選を実行可能であるように構成されている。高確率抽選状態においては、第1主遊技図柄の時短抽選及び/又は第2主遊技図柄の時短抽選を実行しないよう構成されている。

30

【2440】

このように構成する場合、例えば、第2主遊技図柄の時短図柄の当選確率の方が第1主遊技図柄の時短図柄の当選確率よりも高く設定した場合は、低確低ベース状態において第2主遊技図柄の図柄変動が開始された際に、時間短縮遊技状態に当選することを遊技者が期待するようになり、新たな遊技性を創出することが可能となる。また、第1主遊技図柄の時短図柄の当選確率の方が第2主遊技図柄の時短図柄の当選確率よりも高く設定した場合は、低確低ベース状態において大当りに当選せずとも時間短縮遊技状態の利益を遊技者に提供することが可能となる。

【2441】

内部抽選により、時短図柄抽選乱数を用いて時短図柄の抽選処理を行なう場合の時短図柄抽選乱数の乱数取得のタイミングは始動口(第1主遊技始動口A10、第2主遊技始動口B10)の入賞時となっている。

40

【2442】

主遊技図柄を有するぱちんこ遊技機において図柄抽選乱数(ハズレ図柄抽選乱数、大当り図柄抽選乱数、小当り図柄抽選乱数)を用いて時短図柄の抽選処理を行なう場合の図柄抽選乱数の乱数取得のタイミングは始動口(第1主遊技始動口A10、第2主遊技始動口B10)の入賞時となっている。

【2443】

主遊技図柄を有するぱちんこ遊技機において当否抽選乱数を用いて時短図柄の抽選処理を行なう場合の当否抽選乱数の乱数取得のタイミングは始動口(第1主遊技始動口A10

50

、第2主遊技始動口B10)の入賞時となっている。

【2444】

主遊技図柄を有するぱちんこ遊技機において転落抽選判定用乱数を用いて時短図柄の抽選処理を行なう場合の転落抽選判定用乱数の乱数取得のタイミングは始動口(第1主遊技始動口A10、第2主遊技始動口B10)の入賞時となっている。

【2445】

主遊技図柄を有するぱちんこ遊技機において時短図柄の抽選に当否抽選乱数を用いる場合は、大当り抽選判定値(例えば、当否判定テーブルの大当りの判定値)が当選値となるように構成されている。なお、時短図柄の抽選に当否抽選乱数や大当り抽選判定値を用いる設定値を有するぱちんこ遊技機の場合に、設定値によって参照する当否抽選乱数の数や大当り抽選判定値の数に差異がないように構成されている。つまり、遊技を実行する際に設定される設定値(例えば、設定値1~6)によって、時間短縮遊技状態を作動させる当否抽選乱数の数や大当り抽選判定値の数に差異がないようにすることで、時間短縮遊技状態の作動確率を変更しないように一定に構成されている。例えば、大当り抽選判定値の数が1000(乱数の範囲が0~999)であり、当選の乱数の数(時間短縮遊技状態を作動させる大当り抽選判定値の数)を10と設定し、遊技を実行する際に設定される設定値(例えば、設定値1~6)によって、大当り抽選判定値の数の1000と、当選の乱数の数(時間短縮遊技状態を作動させる大当り抽選判定値の数)の10が一定に構成されており、時間短縮遊技状態の作動確率が $10/1000$ から変更されないように一定に構成されている。つまり、遊技を実行する際に設定される設定値(例えば、設定値1~6)によって、時間短縮遊技状態の作動確率が一定であればよいので、当選の乱数の数/大当り抽選判定値の数が一定であれば良い。なお、当選の乱数の範囲は、連続した乱数であっても、不連続な乱数であってもよい。なお、当否抽選乱数の数も遊技を実行する際に設定される設定値(例えば、設定値1~6)によって、数に差異がないようにすることで、時間短縮遊技状態の作動確率を変更しないように一定に構成されている。

【2446】

転落抽選を有するぱちんこ遊技機の場合、時短図柄の抽選に転落抽選判定値用乱数を用いる場合は、転落抽選判定値(例えば、確変転落抽選の転落となる判定値)が当選値となるように構成されている。なお、時短図柄の抽選に転落抽選判定値を用いる設定値を有するぱちんこ遊技機の場合に、設定値によって参照する転落抽選判定値用乱数の数や転落抽選判定値の数に差異がないように構成されている。つまり、遊技を実行する際に設定される設定値(例えば、設定値1~6)によって、時間短縮遊技状態を作動させる転落抽選判定値用乱数の数や転落抽選判定値の数に差異がないようにすることで、時間短縮遊技状態の作動確率を変更しないように一定に構成されている。例えば、転落抽選判定値の数が1000(乱数の範囲が0~999)であり、当選の乱数の数(時間短縮遊技状態を作動させる転落抽選判定値の数)を10と設定し、遊技を実行する際に設定される設定値(例えば、設定値1~6)によって、転落抽選判定値の数の1000と、当選の乱数の数(時間短縮遊技状態を作動させる転落抽選判定値の数)の10が一定に構成されており、時間短縮遊技状態の作動確率が $10/1000$ から変更されないように一定に構成されている。つまり、遊技を実行する際に設定される設定値(例えば、設定値1~6)によって、時間短縮遊技状態の作動確率が一定であればよいので、当選の乱数の数/転落抽選判定値の数が一定であれば良い。なお、当選の乱数の範囲は、連続した乱数であっても、不連続な乱数であってもよい。なお、転落抽選判定値用乱数の数も遊技を実行する際に設定される設定値(例えば、設定値1~6)によって、数に差異がないようにすることで、時間短縮遊技状態の作動確率を変更しないように一定に構成されている。

【2447】

主遊技図柄の停止表示態様の決定で用いられるハズレ図柄抽選乱数、大当り図柄抽選乱数、小当り図柄抽選乱数(主遊技情報)とは異なる当否抽選乱数、転落抽選判定用乱数(主遊技情報)に基づき時短抽選(特殊抽選)を実行するよう構成されている。時短抽選で用いる当否抽選乱数、転落抽選判定用乱数における時間短縮遊技状態となり得る乱数(情

10

20

30

40

50

報)の数、有利度合いの異なる複数の設定値に関わらず、同じであるよう構成されている。

【2448】

このように構成することで、設定値に応じた乱数を設けることなく時短抽選を実行することができるため、限られたROMの容量内で時短抽選の設計が可能となる。

【2449】

構造物を用いて時間短縮遊技状態を実行するか否かの抽選を行うぱちんこ遊技機の場合は、大入賞口内の時短領域通過に基づき、時短図柄の当選としてもよい。時短領域は、第1大入賞口C10の特定領域や第2大入賞口C20の特定領域でもよいし、専用の時短領域でもよいし、第1大入賞口C10の一般領域や第2大入賞口C20の一般領域でもよい。また、第1大入賞口C10や第2大入賞口C20内に複数の時短領域を設けてもよい。このように構成する場合、以下のように時短回数を設定、抽選してもよい。

(1) いずれの時短領域を遊技球が通過しても付与される時短回数が同じ。

時短領域A=10回、時短領域B=10回、時短領域C=10回、時短領域D=10回

(2) 遊技球が通過する時短領域に基づき付与される時短回数が異なる。

時短領域A=10回、時短領域B=20回、時短領域C=30回、時短領域D=40回

(3) 遊技球が通過する時短領域に基づき抽選される時短回数が異なる。

時短領域A=10回または20回、時短領域B=0回または50回

(3)の場合、時短領域Aに遊技球が入球した場合は、時短回数が10回、20回のいずれか一方を抽選で決定し、時短領域Bに遊技球が入球した場合は、時短回数が0回、50回のいずれか一方を抽選で決定するように構成されている。この例では、2つの時短回数の中から抽選で1の時短回数を決定するように構成しているが、2つ以上の複数の時短回数を設定し、複数の時短回数の中から抽選によって1の時短回数を決定するように構成してもよい。

【2450】

構造物を用いて時間短縮遊技状態を実行するか否かの抽選を行うぱちんこ遊技機の場合であって、小当り図柄が時短図柄を併用する場合、時間短縮遊技状態の時短回数は、小当り図柄によって、予め定められている。また、時間短縮遊技状態の時短回数は、小当り図柄又は特定領域の通過の有無のいずれかで決定するように構成されている。

【2451】

例えば、主遊技図柄が小当り図柄にて停止表示された後、第1大入賞口C10を有利な状態とし得る小当り遊技を実行可能であり、小当り遊技の実行中に特定領域に遊技球が入球した場合には、小当り遊技の終了後に特別遊技を実行可能であるぱちんこ遊技機において、小当り図柄と時短回数が1:1に対応しており、特定領域の遊技球の通過の有無に影響されない場合は、小当り図柄(兼時短図柄)Bが停止表示されて、特定領域を遊技球が通過した場合は、時短回数10回、小当り図柄(兼時短図柄)Cが停止表示されて、特定領域を遊技球が通過した場合は、時短回数1回、小当り図柄(兼時短図柄)Bが停止表示されて、特定領域を遊技球が通過しなかった場合は、時短回数10回、小当り図柄(兼時短図柄)Cが停止表示されて、特定領域を遊技球が通過しなかった場合は、時短回数1回となっている。

【2452】

時短抽選の結果に基づき主遊技図柄の停止表示態様を決定し、該決定した停止表示態様が、小当り図柄兼時短図柄(特殊停止表示態様)である場合に時間短縮遊技状態となり得るように構成されている。時間短縮遊技状態は、主遊技図柄の変動表示の開始から停止表示までを一単位とし、特別遊技の実行終了後から一単位が10回行われるまで維持されるよう構成されている。時間短縮遊技状態において一単位が10回行われた後は、時間短縮遊技状態から通常遊技状態となるよう構成されている。小当り遊技を実行することを示す主遊技図柄の変動表示の停止表示態様が小当り図柄兼時短図柄で決定された場合は、小当り遊技の実行中に特定領域に遊技球が入球したか否かに関わらず時間短縮遊技状態となるよう構成されている。

【2453】

時短図柄として、時短回数が10回の小当り図柄（兼時短図柄）B（第一特殊停止表示態様）と、時短回数が1回の小当り図柄（兼時短図柄）C（第二特殊停止表示態様）とを備えている。小当り図柄（兼時短図柄）Bが決定された場合は、時短回数が10回の時間短縮遊技状態となり、小当り図柄（兼時短図柄）Cが決定された場合は、時短回数が1回の時間短縮遊技状態となるよう構成されている。小当りとなる図柄変動（可変入賞口開放遊技を実行することを示す主遊技識別情報の変動表示）の停止表示態様が小当り図柄（兼時短図柄）Bで決定された場合は、小当り遊技の実行中に特定領域に遊技球が入球したか否かに関わらず時短回数が10回の時間短縮遊技状態となるよう構成されており、小当りとなる図柄変動の停止表示態様が小当り図柄（兼時短図柄）Cで決定された場合は、小当り遊技の実行中に特定領域に遊技球が入球したか否かに関わらず1回の時間短縮遊技状態となるよう構成されている。

10

【2454】

このように構成することで、従来は小当り遊技中に特定領域へ遊技球が入球することに基づき、時間短縮遊技状態を作動させていたが、特定領域に遊技球が入球したか否かに関わらず時間短縮遊技状態を作動させることができるため、新たな遊技性を創出することができる。

【2455】

例えば、主遊技図柄が小当り図柄にて停止表示された後、第1大入賞口C10を有利な状態とし得る小当り遊技を実行可能であり、小当り遊技の実行中に特定領域に遊技球が入球した場合には、小当り遊技の終了後に特別遊技を実行可能であるぱちんこ遊技機において、特定領域の通過の有無と時短回数が1:1に対応しており、小当り図柄に影響されない場合は、小当り図柄（兼時短図柄）Bが停止表示されて、特定領域を遊技球が通過した場合は、時短回数10回、小当り図柄（兼時短図柄）Cが停止表示されて、特定領域を遊技球が通過した場合は、時短回数10回、小当り図柄（兼時短図柄）Bが停止表示されて、特定領域を遊技球が通過しなかった場合は、時短回数1回、小当り図柄（兼時短図柄）Cが停止表示されて、特定領域を遊技球が通過しなかった場合は、時短回数1回となっている。

20

【2456】

時短図柄（特殊停止表示態様）として、小当り図柄（兼時短図柄）B（第一特殊停止表示態様）と、小当り図柄（兼時短図柄）C（第二特殊停止表示態様）とを備えている。小当り遊技の実行中に特定領域に遊技球が入球した場合は、小当りとなる図柄変動（可変入賞口開放遊技を実行することを示す主遊技識別情報の変動表示）の停止表示態様が小当り図柄（兼時短図柄）Bであるか小当り図柄（兼時短図柄）Cであるかに関わらず時短回数が10回（第一回数）の時間短縮遊技状態となるよう構成されており、小当り遊技の実行中に特定領域に遊技球が入球しなかった場合は、小当りとなる図柄変動の停止表示態様が小当り図柄（兼時短図柄）Bであるか小当り図柄（兼時短図柄）Cであるかに関わらず時短回数が1回（第二回数）の時間短縮遊技状態となるよう構成されている。

30

【2457】

なお、小当り図柄（兼時短図柄）Bや小当り図柄（兼時短図柄）Cの小当り図柄（兼時短図柄）について、以降のようにしてもよい。小当り図柄（兼時短図柄）が停止表示されて、特定領域を遊技球が通過した場合は、時短回数0回、小当り図柄（兼時短図柄）が停止表示されて、特定領域を遊技球が通過しなかった場合は、時短回数10回としてもよい。また、小当り図柄（兼時短図柄）が停止表示されて、特定領域を遊技球が通過した場合は、時短回数10回、小当り図柄（兼時短図柄）が停止表示されて、特定領域を遊技球が通過しなかった場合は、時短回数0回としてもよい。

40

【2458】

このように構成することで、従来は小当り遊技中に特定領域へ遊技球が入球することに基づき、時間短縮遊技状態を作動させていたが、特定領域に遊技球が入球しなかった場合でも時間短縮遊技状態を作動させることができるため、新たな遊技性を創出することがで

50

きる。

【2459】

構造物を用いて時間短縮遊技状態を作動させるか否かの抽選を行うぱちんこ遊技機の場合であって、主遊技図柄が小当り図柄にて停止表示された後、第1大入賞口C10を有利な状態とし得る小当り遊技を実行可能であり、小当り遊技の実行中に特定領域に遊技球が入球した場合には、小当り遊技の終了後に特別遊技を実行可能であるぱちんこ遊技機において、小当り図柄が時短図柄を併用する場合に、大入賞口内の特定の領域（第1大入賞口C10の特定領域、第2大入賞口C20の特定領域、第1大入賞口C10の一般領域、第2大入賞口C20の一般領域など）の通過の有無によって時間短縮遊技状態の時短回数を変えてもよい。

10

【2460】

例えば、小当り図柄（兼時短図柄）Bが停止表示されて、特定領域を遊技球が通過した場合は、時短回数10回、小当り図柄（兼時短図柄）Cが停止表示されて、特定領域を遊技球が通過した場合は、時短回数10回、小当り図柄（兼時短図柄）Bが停止表示されて、特定領域を遊技球が通過しなかった場合は、時短回数5回、小当り図柄（兼時短図柄）Cが停止表示されて、特定領域を遊技球が通過しなかった場合は、時短回数1回となっている。

【2461】

内部抽選により、時短図柄抽選乱数を用いて時短図柄の抽選処理を行なう場合は、大当り判定後に時間短縮遊技状態の抽選（時短抽選）の当落判定を行うように構成されている。なお、大当り判定前や主遊技図柄の図柄変動の開始時に時間短縮遊技状態の抽選（時短抽選）の当落判定を行うように構成されていてもよい。

20

【2462】

主遊技図柄を有するぱちんこ遊技機において図柄抽選乱数（ハズレ図柄抽選乱数、大当り図柄抽選乱数、小当り図柄抽選乱数）を用いて時短図柄の抽選処理を行なう場合は、大当り判定後に時短抽選の当落判定を行うように構成されている。なお、大当り判定前や主遊技図柄の図柄変動の開始時に時間短縮遊技状態の抽選（時短抽選）の当落判定を行うように構成されていてもよい。

【2463】

主遊技図柄を有するぱちんこ遊技機において当否抽選乱数を用いて時短図柄の抽選処理を行なう場合は、変動開始時に時短抽選の当落判定を行うように構成されている。また、主遊技図柄を有するぱちんこ遊技機において当否抽選乱数を用いて時短図柄の抽選処理を行なう場合は、変動開始時、かつ、大当り判定前に時短抽選の当落判定を行うように構成されていてもよい。

30

【2464】

主遊技図柄を有するぱちんこ遊技機において転落抽選判定用乱数を用いて時短図柄の抽選処理を行なう場合は、変動開始時に時短抽選の当落判定を行うように構成されている。また、主遊技図柄を有するぱちんこ遊技機において転落抽選判定用乱数を用いて時短図柄の抽選処理を行なう場合は、変動開始時、かつ、大当り判定前に時短抽選の当落判定を行うように構成されていてもよい。

40

【2465】

主遊技図柄を有するぱちんこ遊技機において転落抽選判定用乱数を用いて時短図柄の抽選処理を行なうぱちんこ遊技機において、転落抽選の当選と同時に時短図柄が停止表示されることが決定された場合、確率変動遊技状態や時間短縮遊技状態から通常遊技状態に状態を移行（転落）させてから時短図柄を停止表示させているため、時短図柄の停止表示に基づく時間短縮遊技状態の作動後から時短回数をカウントするように構成されている。

【2466】

構造物を用いて抽選を行うぱちんこ遊技機の場合は、大入賞口内の時短領域を遊技球が通過したタイミングで、時短抽選の当落判定を行うように構成されている。例えば、小当り遊技中に大入賞口内の時短領域に遊技球が通過したタイミングで時短抽選の当落判定を

50

行うのが好ましい。例えば、大当り遊技中に大入賞口内の時短領域に遊技球が通過したタイミングで時短抽選の当落判定を行うのが好ましい。時短領域は、第1大入賞口C10の特定領域や第2大入賞口C20の特定領域でもよいし、専用の時短領域でもよいし、第1大入賞口C10の一般領域や第2大入賞口C20の一般領域でもよい。また、第1大入賞口C10や第2大入賞口C20内に複数の時短領域を設けてもよい。

【2467】

通常遊技状態（低確低ベース状態）においてのみ、内部抽選により、時短図柄抽選乱数を用いて時短図柄の抽選処理を行うように構成されている。高確低ベース状態、高確高ベース状態、低確高ベース状態において、内部抽選により、時短図柄抽選乱数を用いて時短図柄の抽選処理を行わないように構成されているが、高確低ベース状態、高確高ベース状態、低確高ベース状態において、時短図柄抽選乱数を用いて時短図柄の抽選処理を行うように構成してもよい。

10

【2468】

主遊技図柄を有するぱちんこ遊技機において時短図柄の抽選に図柄抽選乱数（ハズレ図柄抽選乱数、大当り図柄抽選乱数、小当り図柄抽選乱数）を用いる場合に、時短抽選の処理を行う遊技状態は通常遊技状態（例えば、低確低ベース状態）のみである。高確低ベース状態、高確高ベース状態、低確高ベース状態において、時短図柄の抽選に図柄抽選乱数（ハズレ図柄抽選乱数、大当り図柄抽選乱数、小当り図柄抽選乱数）を用いて時短図柄の抽選処理を行わないように構成されているが、高確低ベース状態、高確高ベース状態、低確高ベース状態において、時短図柄の抽選処理を行うように構成してもよい。

20

【2469】

主遊技図柄を有するぱちんこ遊技機において時短図柄の抽選に当否抽選乱数を用いる場合に、時短抽選の処理を行う遊技状態は通常遊技状態（例えば、低確低ベース状態）のみである。高確低ベース状態、高確高ベース状態、低確高ベース状態において、時短図柄の抽選に当否抽選乱数を用いて時短図柄の抽選処理を行わないように構成されているが、高確低ベース状態、高確高ベース状態、低確高ベース状態において、時短図柄の抽選処理を行うように構成してもよい。

【2470】

主遊技図柄を有するぱちんこ遊技機において時短図柄の抽選に転落抽選判定用乱数を用いる場合に、時短抽選処理を行う遊技状態は通常遊技状態（例えば、低確低ベース状態）のみである。高確低ベース状態、高確高ベース状態、低確高ベース状態において、時短図柄の抽選に転落抽選判定用乱数を用いて時短図柄の抽選処理を行わないように構成されているが、高確低ベース状態、高確高ベース状態、低確高ベース状態において、時短図柄の抽選処理を行うように構成してもよい。

30

【2471】

低確率状態（低確率抽選状態）においては時短抽選（特殊抽選）を実行可能であるように構成されている。一方、高確率状態（高確率抽選状態）においては特殊抽選を実行しないよう構成されている。そして、低確率状態であっても、高確率状態であっても、高ベース状態においては時短抽選を実行しないよう構成されている。

【2472】

このように構成することで、従来、低確低ベース状態においては大当りを経由してから時間短縮遊技状態に移行させていたが、大当りを経由しなくても時間短縮遊技状態を作動させることができる。また、いきなり時間短縮遊技状態を作動させることが可能となるため、新たな遊技性を創出可能となる。

40

【2473】

構造物を用いて抽選を行うぱちんこ遊技機の場合に、時短抽選処理を行う遊技状態は通常遊技状態（例えば、低確低ベース状態）のみである。高確低ベース状態、高確高ベース状態、低確高ベース状態において、時短抽選処理を行わないように構成されているが、高確低ベース状態、高確高ベース状態、低確高ベース状態において、時短図柄の抽選処理を行うように構成してもよい。

50

【2474】

低確低ベース状態および時間短縮遊技状態（例えば、低確高ベース状態）において同じ時短図柄が当選した後の遊技状態を以降に示す例のように設定することも可能である。例えば、低確低ベース状態において時短図柄Aが当選し、時短図柄Aが停止表示されると時間短縮遊技状態（例えば、低確高ベース状態）が100回付与されるが、時間短縮遊技状態中（例えば、時短回数が残り50回の低確高ベース状態中）において時短図柄Aが当選し、時短図柄Aが停止表示されても、時間短縮遊技状態（例えば、低確高ベース状態）の遊技状態は引き継ぐが、時間短縮遊技状態（例えば、低確高ベース状態）の時短回数として100回が付与（設定）されず、時短図柄Aが当選した時短回数の時間短縮遊技状態（例えば、時短回数が残り50回の低確高ベース状態）から遊技が開始される。

10

【2475】

時間短縮遊技状態における時短回数を加算（上乗せ）するように構成してもよい。このように構成する場合、低確低ベース状態において時短図柄Aが当選した場合、時短回数が30回の時間短縮遊技状態（例えば、低確高ベース状態）が付与される。この時短回数が30回の時間短縮遊技状態において主遊技図柄の図柄変動が20回実行され、時短回数が残り10回となった図柄変動において時短回数が30回付与される時短図柄Aが当選し、時短図柄Aが停止表示されると、30回の時間短縮遊技状態（例えば、低確高ベース状態）が加算され、残りの時間短縮遊技状態（低確高ベース状態）が40回となるように構成されている。

20

【2476】

時間短縮遊技状態における時短回数を加算（上乗せ）するように構成してもよい。このように構成する場合、低確低ベース状態において時短図柄Aが当選した場合、時短回数が30回の時間短縮遊技状態（例えば、低確高ベース状態）が付与される。この時短回数が30回の時間短縮遊技状態において主遊技図柄の図柄変動が20回実行され、時短回数が残り10回となった図柄変動において時短回数が50回付与される時短図柄Bが当選し、時短図柄Bが停止表示されると、50回の時間短縮遊技状態（例えば、低確高ベース状態）が加算され、残りの時間短縮遊技状態（低確高ベース状態）が60回となるように構成されている。

【2477】

既に時間短縮遊技状態が作動している状態で、時短図柄が決定されて停止表示された場合は、時間短縮遊技状態を再設定や上書き、書き換えするように構成してもよいし、設定されている時間短縮遊技状態を継続してもよい。低確高ベース状態や高確高ベース状態の時間短縮遊技状態を再設定、上書き、書き換えする場合を例示する。低確低ベース状態において、時短回数が30回の特定の図柄の組合せ{時短専用図柄、ハズレ図柄（ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合）、小当り図柄（小当り図柄を時短図柄として併用する場合）、大当り図柄}が決定されて停止表示されたことに基づき、時短回数が30回の時間短縮遊技状態（例えば、低確高ベース状態や高確高ベース状態）が付与された後、時短回数の残りが10回の時間短縮遊技状態となった図柄変動において時短回数が30回の特定の図柄の組合せが当選し、特定の図柄の組合せが停止表示されると、時短回数の残りが10回の時間短縮遊技状態から時短回数の残りが30回の時間短縮遊技状態に再設定される（時短回数の残りが10回の時間短縮遊技状態を時短回数の残りが30回の時間短縮遊技状態に上書き、書き換えする）。

30

40

【2478】

ここで、上書き、書き換えとは、時短回数を表すデータを記憶したRAM領域に対して新たに決定された時短回数を表すデータを上書きして記憶することや、時間短縮遊技状態を表すデータを記憶したRAM領域に対して新たに決定された時間短縮遊技状態を表すデータを上書きして記憶することを意味する。また、これに限らず、特定のデータが記憶されたRAM領域をゼロクリアした後に新たなデータを記憶する、等の一般的なプログラム上のデータの取り扱い方法であればその手段を問わずに適用可能である。ただし、時短回数として、後述する「0回」が上書きされる仕様の場合には、時短回数を参照するRAM

50

領域に「0」がセットされたのかゼロクリアが行われたのかプログラムが混同する懸念があるため、直接的にRAM領域を上書きする手法を採用するのが好適である。また、上書き、書き換えといった厳密な意味での言葉的な手段にとらわれず、例えば、時短回数や時間短縮遊技状態を記憶する複数のRAM領域を設け、いずれのRAM領域を優先して参照するかを予め定めておくことや、現在記憶されているRAM領域のデータと新たなデータとを演算することで実行するべき時短回数や時間短縮遊技状態を算出するようにしてもよい。

【2479】

なお、時短回数は30回の一の固定された回数ではなく、特定の図柄の組合せに対応した時短回数、または、特定の図柄の組合せと特定の図柄の組合せが停止表示された際の遊技状態に対応した時短回数であればよい。このように構成する場合、低確低ベース状態において、時短回数が100回の特定の図柄の組合せAが決定されて停止表示されたことに基づき、時短回数が100回の時間短縮遊技状態（例えば、低確高ベース状態や高確高ベース状態）が付与された後、時短回数の残りが70回の時間短縮遊技状態となった図柄変動において、時短回数が50回の特定の図柄の組合せBが当選し、特定の図柄の組合せBが停止表示されると、時短回数の残りが70回の時間短縮遊技状態から時短回数の残りが50回の時間短縮遊技状態に再設定される（時短回数の残りが70回の時間短縮遊技状態を時短回数の残りが50回の時間短縮遊技状態を上書き、書き換えする）。

【2480】

低確高ベース状態や高確高ベース状態の時間短縮遊技状態を継続する場合を例示する。低確低ベース状態において、時短回数が30回の特定の図柄の組合せが決定されて停止表示されたことに基づき、時短回数が30回の時間短縮遊技状態（例えば、低確高ベース状態や高確高ベース状態）が付与された後、時短回数の残りが10回の時間短縮遊技状態となった図柄変動において、時短回数が30回の特定の図柄の組合せが当選し、特定の図柄の組合せが停止表示されると、時短回数の残りが10回の時間短縮遊技状態から時短回数の残りが30回の時間短縮遊技状態に再設定されず（時短回数の残りが10回の時間短縮遊技状態を時短回数の残りが30回の時間短縮遊技状態を上書き、書き換えせず）、時短回数の残りが10回の時間短縮遊技状態から遊技が開始される。なお、時間短縮遊技状態を再設定、上書き、書き換えせずに、時間短縮遊技状態を継続する場合は、時間短縮遊技状態において特定の図柄の組合せが当選しないように、特定の図柄の組合せ{時短図柄、ハズレ図柄（ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合）、小当り図柄（小当り図柄を時短図柄として併用する場合）、大当り図柄}の抽選を実行しないように構成することが好ましい。

【2481】

低ベース状態（通常遊技状態）であっても、高ベース状態（特定遊技状態）であっても、低確率状態（低確率抽選状態）においては時短抽選（特殊抽選）を実行可能に構成されている。一方、低ベース状態であっても、高ベース状態であっても、高確率状態（高確率抽選状態）においては時短抽選を実行しないよう構成されている。そして、時短回数が100回の低確高ベース状態において時短図柄（特殊停止表示態様）が決定された場合、設定されている時短図柄に対応した時短回数が100回の高ベース状態に優先して、決定した時短図柄に対応する時短回数が100回の高ベース状態を設定（例えば、上書き、書き換え、再設定）するよう構成されている。

【2482】

高ベース状態として、時短回数が100回（所定回数が第一回数）の高ベース状態（第一特定遊技状態）と、時短回数が50回（所定回数が第二回数）の高ベース状態（第二特定遊技状態）とを備えている。そして、時短抽選によって、時短図柄（特殊停止表示態様）が決定され、決定された時短図柄が図柄変動の結果として停止表示された場合には、時短回数が50回の高ベース状態を設定するよう構成されている。また、時短回数が100回の高ベース状態において時短図柄が決定され、決定された時短図柄が図柄変動の結果として停止表示された場合、実行中の時短回数が100回の高ベース状態における残りの時

10

20

30

40

50

短回数（一単位が実行可能な回数）が50回よりも多い状況下であっても、時短回数が50回の高ベース状態を設定（例えば、上書き、書き換え、再設定）するように構成されている。

【2483】

このように構成することで、低確高ベース状態においても大当りを經由しなくても時間短縮遊技状態を作動させることが可能となるため、新たな遊技性を創出可能となる。

【2484】

時短図柄A（第二特殊停止表示態様、時短回数が100回の時短図柄）が停止表示されたことに基づく時短回数が100回の高ベース状態において、100回よりも少ない30回の図柄変動が行われ、時短回数の残りが70回の高ベース状態となった状況において、時短図柄B（第一特殊停止表示態様、時短回数が50回の時短図柄）が決定された場合、時短回数の残りが70回の高ベース状態から時短回数が50回の高ベース状態となるよう構成されている。時短回数の残りが70回の高ベース状態において、時短図柄Bが決定された場合、70回が50回よりも多い場合であっても、時短回数の残りが70回の高ベース状態を時短回数の残りが50回の高ベース状態で設定（例えば、上書き、書き換え、再設定）するよう構成されている。

【2485】

低確低ベース状態において時短図柄の抽選を行うように構成され、高確高ベース状態、低確高ベース状態、高確低ベース状態においては、時短図柄の抽選を行わないように構成されているが、高確高ベース状態、低確高ベース状態、高確低ベース状態においても、時短図柄の抽選を行うように構成してもよい。このように構成する場合、高確高ベース状態や低確高ベース状態であれば、時短図柄の抽選の結果、時短図柄が当選しても、時間短縮遊技状態を再設定や上書き、書き換えせずに、設定されている時間短縮遊技状態を継続するように構成すればよい。また、高確低ベース状態であれば、時短図柄の抽選の結果、時短図柄が当選しても、時間短縮遊技状態を作動させないように構成すればよい。

【2486】

なお、高確高ベース状態や低確高ベース状態において、時短図柄の抽選の結果、時短図柄が当選すると、時短回数として0回を付与してもよい。例えば、低確低ベース状態において時短図柄が当選した場合、30回の低確高ベース状態が付与され、時短回数が残り10回の低確高ベース状態となった図柄変動において時短図柄が当選し、時短図柄が停止表示されると、時短回数が0回の低確高ベース状態が加算される。つまり、残りの時短回数が10回の低確高ベース状態が継続する。

【2487】

低確低ベース状態と低確高ベース状態とにおいて、時短図柄を兼用するハズレ図柄（ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合）の選択比率が異なるように構成してもよいし、同じであってもよい。選択比率が異なる場合、低確低ベース状態におけるハズレ図柄の選択比率を $1/100$ とし、低確高ベース状態におけるハズレ図柄の選択比率を $1/50$ とする例を示すことができる。また、選択比率が異なる場合、低確低ベース状態におけるハズレ図柄の選択比率を $1/50$ とし、低確高ベース状態におけるハズレ図柄の選択比率を $1/100$ とする例を示すこともできる。

【2488】

また、第1主遊技図柄と第2主遊技図柄とによって、ハズレ図柄の選択比率を変更してもよい。例えば、低確低ベース状態における第1主遊技図柄のハズレ図柄の選択比率を $1/100$ とし、低確低ベース状態における第2主遊技図柄のハズレ図柄の選択比率を $1/80$ とし、低確高ベース状態におけるハズレ図柄の選択比率を $1/50$ とし、低確高ベース状態におけるハズレ図柄の選択比率を $1/30$ とする例を示すことができる。

【2489】

例えば、低確低ベース状態における第1主遊技図柄のハズレ図柄の選択比率を $1/80$ とし、低確低ベース状態における第2主遊技図柄のハズレ図柄の選択比率を $1/100$ とし、低確高ベース状態におけるハズレ図柄の選択比率を $1/30$ とし、低確高ベース状態

10

20

30

40

50

におけるハズレ図柄の選択比率を $1/50$ とする例を示すことができる。

【2490】

例えば、低確低ベース状態におけるハズレ図柄の選択比率を $1/50$ とし、低確低ベース状態におけるハズレ図柄の選択比率を $1/30$ とし、低確高ベース状態における第1主遊技図柄のハズレ図柄の選択比率を $1/100$ とし、低確高ベース状態における第2主遊技図柄のハズレ図柄の選択比率を $1/80$ とする例を示すことができる。

【2491】

例えば、低確低ベース状態におけるハズレ図柄の選択比率を $1/30$ とし、低確低ベース状態におけるハズレ図柄の選択比率を $1/50$ とし、低確高ベース状態における第1主遊技図柄のハズレ図柄の選択比率を $1/80$ とし、低確高ベース状態における第2主遊技図柄のハズレ図柄の選択比率を $1/100$ とする例を示すことができる。

【2492】

時短抽選の当選によって付与される時短回数について、当選値（図柄等）と遊技状態毎に予め定められた複数の時短回数に対応している。時短図柄抽選乱数による抽選結果を当選値とする場合、以下のような例を示すことができる。

（1）低確低ベース状態で主遊技図柄として時短図柄Bが当選し、時短図柄Bが停止表示された場合は、30回の時短回数を付与する。

（2）低確低ベース状態で主遊技図柄として時短図柄Cが当選し、時短図柄Cが停止表示された場合は、60回の時短回数を付与する。

（3）高確低ベース状態で主遊技図柄として時短図柄Bが当選し、時短図柄Bが停止表示された場合は、50回の時短回数を付与する。

（4）高確低ベース状態で主遊技図柄として時短図柄Cが当選し、時短図柄Cが停止表示された場合は、100回の時短回数を付与する。

なお、低確低ベース状態においてのみ、時短抽選の当選による当選値（図柄等）に予め定められた複数の時短回数に対応するように構成してもよい。

【2493】

特定のハズレ図柄抽選乱数値（特定のハズレ図柄）を当選値とする場合、以下のような例を示すことができる。

（1）低確低ベース状態で主遊技図柄としてハズレ図柄Bが当選し、ハズレ図柄Bが停止表示された場合は、30回の時短回数を付与する。

（2）低確低ベース状態で主遊技図柄としてハズレ図柄Cが当選し、ハズレ図柄Cが停止表示された場合は、60回の時短回数を付与する。

（3）高確低ベース状態で主遊技図柄としてハズレ図柄Bが当選し、ハズレ図柄Bが停止表示された場合は、50回の時短回数を付与する。

（4）高確低ベース状態で主遊技図柄としてハズレ図柄Cが当選し、ハズレ図柄Cが停止表示された場合は、100回の時短回数を付与する。

【2494】

特定の大当たり図柄抽選乱数値（特定の大当たり図柄）を当選値とする場合、以下のような例を示すことができる。

（1）低確低ベース状態で主遊技図柄として大当たり図柄Aが当選し、大当たり図柄Aが停止表示された場合は、30回の時短回数を付与する。

（2）低確低ベース状態で主遊技図柄として大当たり図柄Bが当選し、大当たり図柄Bが停止表示された場合は、60回の時短回数を付与する。

（3）高確低ベース状態で主遊技図柄として大当たり図柄Aが当選し、大当たり図柄Aが停止表示された場合は、50回の時短回数を付与する。

（4）高確低ベース状態で主遊技図柄として大当たり図柄Bが当選し、大当たり図柄Bが停止表示された場合は、100回の時短回数を付与する。

【2495】

特定の小当たり図柄抽選乱数値（特定の小当たり図柄）を当選値とする場合、以下のような例を示すことができる。

(1) 低確低ベース状態で主遊技図柄として小当り図柄 B が当選し、小当り図柄 B が停止表示された場合は、30 回の時短回数を付与する。

(2) 低確低ベース状態で主遊技図柄として小当り図柄 C が当選し、小当り図柄 C が停止表示された場合は、60 回の時短回数を付与する。

(3) 高確低ベース状態で主遊技図柄として小当り図柄 B が当選し、小当り図柄 B が停止表示された場合は、50 回の時短回数を付与する。

(4) 高確低ベース状態で主遊技図柄として小当り図柄 C が当選し、小当り図柄 C が停止表示された場合は、100 回の時短回数を付与する。

【2496】

例えば、大当り抽選判定値を当選値とする場合、以下のような例を示すことができる。

(1) 低確低ベース状態で大当り抽選判定値 A が参照された場合は、30 回の時短回数を付与する。

(2) 低確低ベース状態で大当り抽選判定値 B が参照された場合は、60 回の時短回数を付与する。

(3) 高確低ベース状態で大当り抽選判定値 A が参照された場合は、50 回の時短回数を付与する。

(4) 高確低ベース状態で大当り抽選判定値 B が参照された場合は、100 回の時短回数を付与する。

【2497】

例えば、転落抽選判定値を当選値とする場合、以下のような例を示すことができる。

(1) 低確低ベース状態で転落抽選判定値 A が参照された場合は、30 回の時短回数を付与する。

(2) 低確低ベース状態で転落抽選判定値 B が参照された場合は、60 回の時短回数を付与する。

(3) 高確低ベース状態で転落抽選判定値 A が参照された場合は、50 回の時短回数を付与する。

(4) 高確低ベース状態で転落抽選判定値 B が参照された場合は、100 回の時短回数を付与する。

【2498】

特定の図柄の組合せ {時短専用図柄、ハズレ図柄 (ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合)、小当り図柄 (小当り図柄を時短図柄として併用する場合)、大当り図柄} によって作動した時間短縮遊技状態の終了契機を特定の図柄の組合せ毎に設定するように構成されている。図柄変動の規定回数が設定された確率変動付きぱちんこ遊技機の場合、以下のような例を示すことができる。

(1) 低確低ベース状態で主遊技図柄として大当り図柄 A が当選し、大当り図柄 A が停止表示された場合は、例えば、図柄変動の結果として第 1 装飾図柄が『777』で停止表示され、特別遊技後に規定回数として 100 回の確率変動遊技 (高確高ベース状態の遊技) を付与する。そして、100 回の確率変動遊技 (高確高ベース状態の遊技) を実行した後、1000 回の時短回数を付与する。

(2) 低確低ベース状態で主遊技図柄として大当り図柄 B が当選し、大当り図柄 B が停止表示された場合は、例えば、図柄変動の結果として第 1 装飾図柄が『333』で停止表示され、特別遊技後に規定回数として 100 回の確率変動遊技 (高確高ベース状態の遊技) を付与する。そして、100 回の確率変動遊技 (高確高ベース状態の遊技) を実行した後、200 回の時短回数を付与する。

(3) 低確低ベース状態で主遊技図柄として大当り図柄 C または D が当選し、大当り図柄 C または D が停止表示された場合は、例えば、図柄変動の結果として第 1 装飾図柄が『111』で停止表示され、特別遊技後に規定回数として 100 回の確率変動遊技 (高確高ベース状態の遊技) を付与する。そして、100 回の確率変動遊技 (高確高ベース状態の遊技) を実行した後、100 回の時短回数を付与する。

【2499】

(4) 高確低ベース状態で主遊技図柄として大当り図柄Aが当選し、大当り図柄Aが停止表示された場合は、例えば、図柄変動の結果として第1装飾図柄が『777』で停止表示され、特別遊技後に規定回数として100回の確率変動遊技（高確高ベース状態の遊技）を付与する。そして、100回の確率変動遊技（高確高ベース状態の遊技）を実行した後、2000回の時短回数を付与する。

(5) 高確低ベース状態で主遊技図柄として大当り図柄Bが当選し、大当り図柄Bが停止表示された場合は、例えば、図柄変動の結果として第1装飾図柄が『333』で停止表示され、特別遊技後に規定回数として100回の確率変動遊技（高確高ベース状態の遊技）を付与する。そして、100回の確率変動遊技（高確高ベース状態の遊技）を実行した後、400回の時短回数を付与する。

10

(6) 高確低ベース状態で主遊技図柄として大当り図柄CまたはDが当選し、大当り図柄CまたはDが停止表示された場合は、例えば、図柄変動の結果として第1装飾図柄が『111』で停止表示され、特別遊技後に規定回数として100回の確率変動遊技（高確高ベース状態の遊技）を付与する。そして、100回の確率変動遊技（高確高ベース状態の遊技）を実行した後、200回の時短回数を付与する。

【2500】

特定の図柄の組合せ（時短専用図柄、ハズレ図柄（ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合）、小当り図柄（小当り図柄を時短図柄として併用する場合）、大当り図柄）の主遊技図柄によって時短回数が異なる場合に、時短図柄の図柄振り分け抽選は、特定の図柄の組合せの主遊技図柄によって変更するように構成されている。時短図柄の場合、以下のような例を示すことができる。

20

(1) 第1主遊技図柄の時短図柄Aの抽選の当選確率は、 $100/1000$ 、時短図柄Aが停止表示された場合は、時短回数を10回付与する。

(2) 第1主遊技図柄の時短図柄Bの抽選の当選確率は、 $90/1000$ 、時短図柄Bが停止表示された場合は、時短回数を50回付与する。

(3) 第2主遊技図柄の時短図柄Cの抽選の当選確率は、 $500/1000$ 、時短図柄Cが停止表示された場合は、時短回数を30回付与する。

(4) 第2主遊技図柄の時短図柄Dの抽選の当選確率は、 $500/1000$ 、時短図柄Dが停止表示された場合は、時短回数を100回付与する。

なお、低確低ベース状態においてのみ、このように構成するのが好ましいが、その他の遊技状態（例えば、高確低ベース状態、低確高ベース状態、高確高ベース状態）において適用してもよい。

30

【2501】

ハズレ図柄（ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合）の場合、以下のような例を示すことができる。

(1) 第1主遊技図柄のハズレ図柄Bの抽選の当選確率は、 $100/1000$ 、ハズレ図柄Bが停止表示された場合は、時短回数を10回付与する。

(2) 第1主遊技図柄のハズレ図柄Cの抽選の当選確率は、 $90/1000$ 、ハズレ図柄Cが停止表示された場合は、時短回数を50回付与する。

(3) 第2主遊技図柄のハズレ図柄Dの抽選の当選確率は、 $500/1000$ 、ハズレ図柄Dが停止表示された場合は、時短回数を30回付与する。

40

(4) 第2主遊技図柄のハズレ図柄Eの抽選の当選確率は、 $500/1000$ 、ハズレ図柄Eが停止表示された場合は、時短回数を100回付与する。

なお、低確低ベース状態においてのみ、このように構成するのが好ましいが、その他の遊技状態（例えば、高確低ベース状態、低確高ベース状態、高確高ベース状態）において適用してもよい。

【2502】

小当り図柄（小当り図柄を時短図柄として併用する場合）の場合、以下のような例を示すことができる。

(1) 第1主遊技図柄の小当り図柄Bの抽選の当選確率は、 $100/1000$ 、小当り図

50

柄Bが停止表示された場合は、時短回数を10回付与する。

(2) 第1主遊技図柄の小当り図柄Cの抽選の当選確率は、 $90/1000$ 、小当り図柄Cが停止表示された場合は、時短回数を50回付与する。

(3) 第2主遊技図柄の小当り図柄Dの抽選の当選確率は、 $500/1000$ 、小当り図柄Dが停止表示された場合は、時短回数を30回付与する。

(4) 第2主遊技図柄の小当り図柄Eの抽選の当選確率は、 $500/1000$ 、小当り図柄Eが停止表示された場合は、時短回数を100回付与する。

なお、低確低ベース状態においてのみ、このように構成するのが好ましいが、その他の遊技状態（例えば、高確低ベース状態、低確高ベース状態、高確高ベース状態）において適用してもよい。

【2503】

遊技状態と特定の図柄の組合せ{時短専用図柄、ハズレ図柄（ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合）、小当り図柄（小当り図柄を時短図柄として併用する場合）、大当り図柄}毎に時短回数を設定するように構成されている。ただし、時間短縮遊技状態において時短図柄の抽選を行わないことが好ましい。時短図柄の場合、以下のような例を示すことができる。

(1) 低確低ベース状態で主遊技図柄として時短図柄Aが当選し、時短図柄Aが停止表示された場合は、20回の時短回数を付与する。

(2) 低確低ベース状態で主遊技図柄として時短図柄Bが当選し、時短図柄Bが停止表示された場合は、40回の時短回数を付与する。

(3) 高確低ベース状態で主遊技図柄として時短図柄Aが当選し、時短図柄Aが停止表示された場合は、100回の時短回数を付与する。

(4) 高確低ベース状態で主遊技図柄として時短図柄Bが当選し、時短図柄Bが停止表示された場合は、200回の時短回数を付与する。

【2504】

ハズレ図柄（ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合）の場合、以下のような例を示すことができる。

(1) 低確低ベース状態で主遊技図柄としてハズレ図柄Bが当選し、ハズレ図柄Bが停止表示された場合は、20回の時短回数を付与する。

(2) 低確低ベース状態で主遊技図柄としてハズレ図柄Cが当選し、ハズレ図柄Cが停止表示された場合は、40回の時短回数を付与する。

(3) 高確低ベース状態で主遊技図柄としてハズレ図柄Bが当選し、ハズレ図柄Bが停止表示された場合は、100回の時短回数を付与する。

(4) 高確低ベース状態で主遊技図柄としてハズレ図柄Cが当選し、ハズレ図柄Cが停止表示された場合は、200回の時短回数を付与する。

【2505】

小当り図柄（小当り図柄を時短図柄として併用する場合）の場合、以下のような例を示すことができる。

(1) 低確低ベース状態で主遊技図柄として小当り図柄Bが当選し、小当り図柄Bが停止表示された場合は、20回の時短回数を付与する。

(2) 低確低ベース状態で主遊技図柄として小当り図柄Cが当選し、小当り図柄Cが停止表示された場合は、40回の時短回数を付与する。

(3) 高確低ベース状態で主遊技図柄として小当り図柄Bが当選し、小当り図柄Bが停止表示された場合は、100回の時短回数を付与する。

(4) 高確低ベース状態で主遊技図柄として小当り図柄Cが当選し、小当り図柄Cが停止表示された場合は、200回の時短回数を付与する。

【2506】

特定の大当り図柄の場合、以下のような例を示すことができる。

(1) 低確低ベース状態で主遊技図柄として大当り図柄Aが当選し、大当り図柄Aが停止表示された場合は、20回の時短回数を付与する。

10

20

30

40

50

(2) 低確低ベース状態で主遊技図柄として大当り図柄Bが当選し、大当り図柄Bが停止表示された場合は、40回の時短回数を付与する。

(3) 高確低ベース状態で主遊技図柄として大当り図柄Aが当選し、大当り図柄Aが停止表示された場合は、100回の時短回数を付与する。

(4) 高確低ベース状態で主遊技図柄として大当り図柄Bが当選し、大当り図柄Bが停止表示された場合は、200回の時短回数を付与する。

【2507】

特定の図柄の組合せ{時短専用図柄、ハズレ図柄(ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合)、小当り図柄(小当り図柄を時短図柄として併用する場合)、大当り図柄}と遊技状態で時短回数を決定する場合に、遊技状態により時短回数として0回を含めてもよい。このように構成することで、時短回数として0回の時短図柄を時短終了図柄とすることができる。例えば、時短回数残り50回の時間短縮遊技状態において、時短図柄の抽選を実行し、抽選の結果、時短終了図柄が決定された場合、その図柄変動において停止図柄として時短終了図柄が停止表示されたことに基づいて、遊技状態を時間短縮遊技状態から通常遊技状態に移行させるように構成する。なお、時短終了図柄として時短回数が0回の時短図柄を示したが、時短終了図柄として時短回数が0回のハズレ図柄(ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合)としてもよいし、時短終了図柄として時短回数が0回の小当り図柄(小当り図柄を時短図柄として併用する場合)としてもよいし、時短終了図柄として時短回数が0回の大当り図柄、時短回数の回数に関わらない大当り図柄としてもよい。なお、時間短縮遊技状態において時短図柄の抽選を行わなくてもよい。

【2508】

特定の図柄の組合せ{時短専用図柄、ハズレ図柄(ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合)、小当り図柄(小当り図柄を時短図柄として併用する場合)、大当り図柄}が停止表示された時に時間短縮遊技状態が作動した際、時間短縮遊技状態の継続条件を予め定められた特定の図柄の組合せ(例えば、時短専用図柄、ハズレ図柄(ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合)、小当り図柄(小当り図柄を時短図柄として併用する場合)、大当り図柄を「時短終了図柄」とする)が停止表示するまでに設定している。つまり、予め定められた「時短終了図柄」が停止表示されることを時間短縮遊技状態の終了条件と設定している。このように構成する場合、時間短縮遊技状態の作動の際に時短回数は設定せず(無制限)、時間短縮遊技状態において時短終了図柄が停止表示することに基づいて時間短縮遊技状態を終了させるように構成することが好ましい。時短終了図柄は、時短回数が0回の時短図柄、時短回数が0回のハズレ図柄(ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合)、時短回数が0回の小当り図柄(小当り図柄を時短図柄として併用する場合)、時短回数が0回の大当り図柄、時短回数の回数に関わらない大当り図柄を例示できる。なお、時間短縮遊技状態の作動の際に時短回数は設定しないように構成したが、次の当り(大当り、小当り)が得られる可能性が100%に近い時短回数(例えば、10000回)を設定してもよい。

【2509】

高確高ベース状態において、特定回数(例えば、リミッタとして5回)の特別遊技が当選するまで高確高ベース状態が維持され、特定回数の特別遊技が当選し、特定回数目の特別遊技の終了後に時間短縮遊技状態(例えば、低確高ベース状態)となるぱちんこ遊技機(例えば、リミッタ機)において、特定回数(リミッタ)に到達時に作動した際の時間短縮遊技状態の継続条件を、大当り図柄が停止するまでとしてもよい。つまり、時間短縮遊技状態において、大当り図柄が停止表示することに基づいて、時間短縮遊技状態を終了させるように構成されている。なお、時間短縮遊技状態の継続条件を予め定められた特定の図柄の組合せ(例えば、時短終了図柄)が停止表示するまでに設定してもよい。つまり、予め定められた特定の図柄の組合せ(例えば、時短終了図柄)が停止表示されることを時間短縮遊技状態の終了条件と設定してもよい。なお、時間短縮遊技状態を終了させる大当り図柄が、特別遊技後に高確高ベース状態に移行する大当り図柄かつ時短図柄である場合は、特別遊技の実行後に再度、特定回数(例えば、リミッタとして5回)の特別遊技が当

選するまで高確高ベース状態が維持されるように構成されている。

【2510】

低確低ベース状態において、大当りに当選せずに特定回数（例えば、リミッタとして500回）の図柄変動を実行した際、図柄変動の結果、主遊技図柄が停止表示し、変動固定時間の経過後に時間短縮遊技状態に移行するように構成されている。そして、特定回数の図柄変動の次の回数の図柄変動（例えば、501回目の図柄変動）では、遊技状態が通常遊技状態ではなく時間短縮遊技状態として図柄変動を実行するように構成されている。特定回数（リミッタ）に到達時に作動した際の時間短縮遊技状態の継続条件を、大当り図柄が停止するまでとしてもよい。つまり、時間短縮遊技状態において、大当り図柄が停止表示することに基づいて、時間短縮遊技状態を終了させるように構成されている。なお、時間短縮遊技状態の継続条件を予め定められた特定の図柄の組合せ（例えば、時短終了図柄）が停止表示するまでに設定してもよい。つまり、予め定められた特定の図柄の組合せ（例えば、時短終了図柄）が停止表示されることを時間短縮遊技状態の終了条件と設定してもよい。

10

【2511】

特別遊技（大当り遊技）後に作動する時間短縮遊技状態と、特定の図柄の組合せ〔時短専用図柄、ハズレ図柄（ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合）、小当り図柄（小当り図柄を時短図柄として併用する場合）〕により作動する時間短縮遊技状態とで時短回数に違いを設けてもよい。また、例えば、特定の図柄の組合せの停止表示後に即座に時間短縮遊技状態を作動させず、その後、特定の条件を満たした場合に時間短縮遊技状態を作動するようにしてもよい。この場合、特定の条件としては、主遊技図柄の図柄変動が予め定めた変動回数が実行された場合や、特定の領域を遊技球が通過した場合、等が考えられる。

20

【2512】

特定の領域（第1大入賞口C10の特定領域、第2大入賞口C20の特定領域、第1大入賞口C10の一般領域、第2大入賞口C20の一般領域、第1主遊技始動口A10、第2主遊技始動口B10、補助遊技始動口H10、左一般入賞口P10、右一般入賞口P20、役物連続作動ゲートやその他時間短縮遊技状態を作動させる入球口など）を有するぱちんこ遊技機の場合、複数の時短回数を持ってもよい。また、時短抽選を行なうための特定の領域を複数有していてもよいし、1個でもよい。例えば、第1大入賞口C10の特定領域へ入球した場合は100回の時短回数を付与し、第2大入賞口C20の特定領域へ入球した場合は200回の時短回数を付与し、第1大入賞口C10の一般領域へ入球した場合は30回の時短回数を付与し、第2大入賞口C20の一般領域へ入球した場合は40回の時短回数を付与し、第1主遊技始動口A10へ入球した場合は1回の時短回数を付与し、第2主遊技始動口B10へ入球した場合は1回の時短回数を付与し、補助遊技始動口H10へ入球した場合は1回の時短回数を付与し、左一般入賞口P10へ入球した場合は10回の時短回数を付与し、右一般入賞口P20へ入球した場合は5回の時短回数を付与し、役物連続作動ゲートへ入球した場合は50回の時短回数を付与し、時間短縮遊技状態を作動させる入球口へ入球した場合は100回の時短回数を付与することができる。

30

【2513】

内部抽選により、時短図柄抽選乱数を用いて時短図柄の抽選処理を行い、時短図柄抽選で時短図柄に当選して時間短縮遊技状態に移行する場合、図柄変動の結果、主遊技図柄として時短図柄が停止表示し、変動固定時間（例えば、600ms）の経過後に時間短縮遊技状態に移行するように構成されている。なお、時短図柄が停止表示されたタイミングで時間短縮遊技状態に移行してもよいし、時短図柄抽選で時短図柄が当選したタイミングで時間短縮遊技状態に移行してもよいし、主遊技図柄の図柄変動の開始時に時間短縮遊技状態に移行してもよい。

40

【2514】

主遊技図柄を有するぱちんこ遊技機において時短図柄の抽選にハズレ図柄抽選乱数を用いる場合に、ハズレ図柄抽選でハズレ図柄（ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合）に当選して時間短縮遊技状態に移行する場合、図柄変動の結果、主遊技図柄としてハズレ

50

図柄（ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合）が停止表示し、変動固定時間（例えば、10秒）の経過後に時間短縮遊技状態に移行するように構成されている。なお、ハズレ図柄（ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合）が停止表示されたタイミングで時間短縮遊技状態に移行してもよいし、ハズレ図柄抽選でハズレ図柄（ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合）が当選したタイミングで時間短縮遊技状態に移行してもよいし、主遊技図柄の図柄変動の開始時に時間短縮遊技状態に移行してもよい。

【2515】

主遊技図柄を有するぱちんこ遊技機において時短図柄の抽選に大当り図柄抽選乱数を用いる場合に、大当り図柄抽選で大当り図柄に当選して時間短縮遊技状態に移行する場合、図柄変動の結果、主遊技図柄として大当り図柄が停止表示し、変動固定時間（例えば、800ms）の経過後に時間短縮遊技状態に移行するように構成されている。なお、大当り図柄が停止表示されたタイミングで時間短縮遊技状態に移行してもよいし、大当り図柄抽選で大当り図柄が当選したタイミングで時間短縮遊技状態に移行してもよいし、主遊技図柄の図柄変動の開始時に時間短縮遊技状態に移行してもよいし、特別遊技（大当り遊技）の終了後に移行してもよい。ただし、当該図柄変動で大当りとなる場合は、特別遊技（大当り遊技）中には時間短縮遊技状態の機能は作動不可であり、かつ、特別遊技後には大当り図柄毎に時短回数が設定されるため、時短抽選に当選しても図柄変動が停止表示した際の変動固定時間後に時間短縮遊技状態が作動しないようにしてもよい。なお、時間短縮遊技状態の作動は、特別遊技後に持ち越すように構成しても、持ち越さないように構成してもよい。

【2516】

ハズレとなる図柄変動（特別遊技を実行しないことを示す主遊技識別情報の変動表示）の停止表示態様が時短図柄（特殊停止表示態様）で決定された場合は、ハズレの主遊技図柄が時短図柄の態様で停止表示された後に時間短縮遊技状態（特定遊技状態）となる一方で、大当りとなる図柄変動（特別遊技を実行することを示す主遊技識別情報の変動表示）の停止表示態様が時短図柄で決定された場合は、大当りの主遊技図柄が時短図柄の態様で停止表示された後の大当り遊技の実行後に時間短縮遊技状態となるよう構成されている。

【2517】

このように構成することで、大当りを經由しなくても時間短縮遊技状態を作動させることができる。

【2518】

主遊技図柄を有するぱちんこ遊技機において時短図柄の抽選に小当り図柄抽選乱数を用いる場合に、小当り図柄抽選で小当り図柄（小当り図柄を時短図柄として併用する場合）に当選して時間短縮遊技状態に移行する場合、図柄変動の結果、主遊技図柄として小当り図柄（小当り図柄を時短図柄として併用する場合）が停止表示し、変動固定時間（例えば、700ms）の経過後に小当り遊技（特別電動役物の作動）を実行し、小当り遊技の終了後に時間短縮遊技状態に移行するように構成されている。

【2519】

主遊技図柄を有するぱちんこ遊技機において時短図柄の抽選に小当り図柄抽選乱数を用いる場合に、小当り図柄抽選で小当り図柄（小当り図柄を時短図柄として併用する場合）に当選して時間短縮遊技状態に移行する場合、図柄変動の結果、主遊技図柄として小当り図柄（小当り図柄を時短図柄として併用する場合）が停止表示し、変動固定時間（例えば、700ms）の経過後に時間短縮遊技状態に移行するように構成されている。なお、小当り図柄（小当り図柄を時短図柄として併用する場合）が停止表示されたタイミングで時間短縮遊技状態に移行してもよいし、小当り図柄（小当り図柄を時短図柄として併用する場合）が当選したタイミングで時間短縮遊技状態に移行してもよいし、主遊技図柄の図柄変動の開始時に時間短縮遊技状態に移行してもよい。

【2520】

主遊技図柄を有するぱちんこ遊技機において時短図柄の抽選に当否抽選乱数を用いる場合に、大当り当否抽選で大当りに当選して時間短縮遊技状態に移行する場合、図柄変動の

10

20

30

40

50

結果、主遊技図柄として大当り図柄が停止表示し、変動固定時間（例えば、900ms）の経過後に時間短縮遊技状態に移行するように構成されている。なお、大当り図柄が停止表示されたタイミングで時間短縮遊技状態に移行してもよいし、大当り当否抽選で大当りが当選したタイミングで時間短縮遊技状態に移行してもよいし、主遊技図柄の図柄変動の開始時に時間短縮遊技状態に移行してもよいし、特別遊技（大当り遊技）の終了後に移行してもよい。ただし、当該図柄変動で大当りとなる場合は、特別遊技（大当り遊技）中には時間短縮遊技状態の機能は作動不可であり、かつ、特別遊技後には大当り図柄毎に時短回数が設定されるため、時短抽選に当選しても図柄変動が停止表示した際の変動固定時間後に結果的に時間短縮遊技状態が作動できないようにしてもよい。なお、時間短縮遊技状態の作動は、特別遊技後に持ち越すように構成しても、持ち越さないように構成してもよい。

10

【2521】

主遊技図柄を有するぱちんこ遊技機において時短図柄の抽選に転落抽選判定用乱数を用いる場合に、転落抽選判定値の当選値によって時間短縮遊技状態に移行する場合、図柄変動の結果、主遊技図柄が停止表示し、変動固定時間（例えば、1000ms）の経過後に時間短縮遊技状態に移行するように構成されている。なお、主遊技図柄が停止表示されたタイミングで時間短縮遊技状態に移行してもよいし、主遊技図柄が決定したタイミングで時間短縮遊技状態に移行してもよいし、主遊技図柄の図柄変動の開始時に時間短縮遊技状態に移行してもよい。

【2522】

20

通常の図柄変動の変動固定時間を500ms、時短図柄抽選乱数を用いて時短図柄の抽選処理を行った場合の変動固定時間を600ms、時短図柄の抽選にハズレ図柄抽選乱数を用いる場合の変動固定時間を10秒、時短図柄の抽選に大当り図柄抽選乱数を用いる場合の変動固定時間を800ms、時短図柄の抽選に小当り図柄抽選乱数を用いる場合の変動固定時間を700ms、時短図柄の抽選に当否抽選乱数を用いる場合の変動固定時間を900ms、時短図柄の抽選に転落抽選判定用乱数を用いる場合の変動固定時間を1000msと、それぞれ異なるようにしたが、全ての変動固定時間を同じ時間になるように構成してもよい。

【2523】

構造物を用いて抽選を行うぱちんこ遊技機の場合に、時短抽選に当選して時間短縮遊技状態に移行するタイミングは、小当り遊技の終了後である。なお、特定の領域（第1大入賞口C10の特定領域、第2大入賞口C20の特定領域、第1大入賞口C10の一般領域、第2大入賞口C20の一般領域、第1主遊技始動口A10、第2主遊技始動口B10、補助遊技始動口H10、左一般入賞口P10、右一般入賞口P20、役物連続作動ゲートやその他時間短縮遊技状態を作動させる入球口など）に遊技球が通過したタイミングで時間短縮遊技状態に移行してもよいし、特定の領域に遊技球が通過した後に、特定の領域を有する役物の作動が終了した後に時間短縮遊技状態に移行してもよい。

30

【2524】

また、時短抽選に当選した場合に、時間短縮遊技状態に切替える契機を、所定条件を満たした後の特別遊技後にしてもよい。例えば、特定の領域（第1大入賞口C10の特定領域、第2大入賞口C20の特定領域、第1大入賞口C10の一般領域、第2大入賞口C20の一般領域、第1主遊技始動口A10、第2主遊技始動口B10、補助遊技始動口H10、左一般入賞口P10、右一般入賞口P20、役物連続作動ゲートやその他時間短縮遊技状態を作動させる入球口など）を通過したことを所定条件とすることができる。また、所定回数（例えば、10回）の図柄変動が実行されたことを所定条件とすることができる。

40

【2525】

図柄変動の規定回数が設定された確率変動付きぱちんこ遊技機で時間短縮遊技状態が作動していない場合（例えば、低確低ベース状態、高確低ベース状態）であって、規定回数の図柄変動を実行した後（例えば、低確低ベース状態に移行した後）、時間短縮遊技状態を作動させても良い。以下のような例を示すことができる。

50

(1) 低確低ベース状態で主遊技図柄としてハズレ図柄 A (ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合) が決定され、ハズレ図柄 A (ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合) が停止表示された場合は、0 回の時間短縮遊技状態を付与する。ハズレ図柄 A の当選確率は、 $1/100$ と設定されている。

(2) 低確低ベース状態で主遊技図柄としてハズレ図柄 B (ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合) が決定され、ハズレ図柄 B (ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合) が停止表示された場合は、次の当り (大当り、小当り) まで、もしくは、10000 回の時間短縮遊技状態を付与する。ハズレ図柄 B の当選確率は、 $99/100$ と設定されている。

(3) 高確低ベース状態で主遊技図柄としてハズレ図柄 A (ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合) が決定され、ハズレ図柄 A (ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合) が停止表示された場合は、0 回の時間短縮遊技状態を付与する。ハズレ図柄 A の当選確率は、 $1/100$ と設定されている。

(4) 高確低ベース状態で主遊技図柄としてハズレ図柄 B (ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合) が決定され、ハズレ図柄 B (ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合) が停止表示された場合は、0 回の時間短縮遊技状態を付与する。ハズレ図柄 B の当選確率は、 $99/100$ と設定されている。

特に、(1) (2) を採用する場合、不利な低ベース状態においても規定回数の図柄変動が行われることで有利な時間短縮遊技状態を実行させることができるため、遊技者が長時間に亘って不利な状態を強いられるといった状況を緩和させることに期待できる。なお、高確低ベース状態では、時間短縮遊技状態が作動しないように構成されていてもよい、遊技状態が低確低ベース状態に移行することに基づき、高確率で時間短縮遊技状態を作動させるように構成してもよい。

【2526】

図柄変動の規定回数 (例えば、100 回) が設定された確率変動付きぱちんこ遊技機で時間短縮遊技状態が作動していない場合 (例えば、高確低ベース状態) であって、規定回数の図柄変動に達していない場合であって、特定の図柄の組合せ {時短専用図柄、ハズレ図柄 (ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合)、小当り図柄 (小当り図柄を時短図柄として併用する場合)、大当り図柄} が停止表示された場合に、時間短縮遊技状態を作動させても良い。以下のような例を示すことができる。

(1) 高確低ベース状態で主遊技図柄としてハズレ図柄 B (ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合) が決定され、ハズレ図柄 B (ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合) が停止表示された場合は、5 回の時間短縮遊技状態を付与する。ハズレ図柄 A の当選確率は、 $60/100$ と設定されている。

(2) 高確低ベース状態で主遊技図柄としてハズレ図柄 C (ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合) が決定され、ハズレ図柄 C (ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合) が停止表示された場合は、10 回の時間短縮遊技状態を付与する。ハズレ図柄 A の当選確率は、 $35/100$ と設定されている。

(3) 高確低ベース状態で主遊技図柄としてハズレ図柄 D (ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合) が決定され、ハズレ図柄 D (ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合) が停止表示された場合は、規定回数に到達するまでの時間短縮遊技状態を付与する。ハズレ図柄 D の当選確率は、 $5/100$ と設定されている。

なお、ハズレ図柄 (ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合) を例示したが、時短図柄、小当り図柄 (小当り図柄を時短図柄として併用する場合)、大当り図柄であってもよい。

【2527】

補助遊技図柄 (普通図柄) で時短抽選を行なう場合に、補助遊技図柄として特定の図柄の組合せ {ハズレ図柄、補助遊技図柄が当り図柄 (第 2 主遊技始動口電動役物を作動させる役物作動図柄)} が停止表示されたときに時短抽選を行なってもよい。

【2528】

特定の入賞口 (例えば、第 1 主遊技始動口 A 10、第 2 主遊技始動口 B 10、補助遊技

10

20

30

40

50

始動口H10、左一般入賞口P10、右一般入賞口P20、役物連続作動ゲートやその他時間短縮遊技状態を作動させる入球口)や入賞口内の特定の領域(第1大入賞口C10の特定領域、第2大入賞口C20の特定領域、第1大入賞口C10の一般領域、第2大入賞口C20の一般領域、第1主遊技始動口A10、第2主遊技始動口B10、補助遊技始動口H10、左一般入賞口P10、右一般入賞口P20、役物連続作動ゲートやその他時間短縮遊技状態を作動させる入球口など)に遊技球が入球することに基づき時短抽選を行なってもよい。

【2529】

時短図柄が停止表示したことに基づき、主遊技図柄の変動パターンの選択テーブル(例えば、限定頻度テーブル)を変更するように構成されている。また、ハズレ図柄(ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合)が停止表示したことに基づき、主遊技図柄の変動パターンの選択テーブルを変更するように構成されている。また、小当り図柄(小当り図柄を時短図柄として併用する場合)が停止表示したことに基づき、主遊技図柄の変動パターンの選択テーブルを変更するように構成されている。

10

【2530】

時短抽選の当選によって付与される時短回数について、当選値(図柄等)と遊技状態毎に予め定められた複数の時短回数に対応している場合、以下のように主遊技図柄の変動パターンの選択テーブル(例えば、限定頻度テーブル)を変更するように構成してもよい。

【2531】

時短図柄抽選乱数による抽選結果を当選値とする場合、以下のような例を示すことができる。

20

(1) 低確低ベース状態で主遊技図柄として時短図柄Bが当選し、時短図柄Bが停止表示された場合は、30回の時短回数を付与する。時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が1回~10回までは、変動パターンの選択テーブル1を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態1とし、時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が11回~20回までは、変動パターンの選択テーブル2を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態2とし、時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が21回~30回までは、変動パターンの選択テーブル3を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態3とする。このように、時間短縮遊技状態において主遊技図柄の変動パターンの選択テーブル(例えば、限定頻度テーブル)の選択のシナリオ1として、変動パターンの選択テーブル1(10回使用)→変動パターンの選択テーブル2(10回使用)→変動パターンの選択テーブル3(10回使用)を備えている。なお、主遊技図柄の変動パターンの選択テーブル(例えば、限定頻度テーブル)の選択のシナリオ1の情報は、時短図柄Bの停止表示時に主制御部の記憶領域に記憶されるように構成されている。

30

【2532】

(2) 低確低ベース状態で主遊技図柄として時短図柄Cが当選し、時短図柄Cが停止表示された場合は、60回の時短回数を付与する。時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が1回~20回までは、変動パターンの選択テーブル4を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態4とし、時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が21回~40回までは、変動パターンの選択テーブル5を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態5とし、時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が41回~60回までは、変動パターンの選択テーブル6を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態6とする。このように、時間短縮遊技状態において主遊技図柄の変動パターンの選択テーブル(例えば、限定頻度テーブル)の選択のシナリオ2として、変動パターンの選択テーブル4(20回使用)→変動パターンの選択テーブル5(20回使用)→変動パターンの選択テーブル6(20回使用)を備えている。このように、低確低ベース状態で主遊技図柄として当選するハズレ図柄Bとハズレ図柄Cとでは、時間短縮遊技状態において主遊技図柄の変動パターンの選択テーブル(例えば、限定頻度テーブル)および主遊技図柄の変動パターンの選択テーブル(例

40

50

例えば、限定頻度テーブル)の選択のシナリオが異なるように構成されているが、同じであってもよい。なお、主遊技図柄の変動パターンの選択テーブル(例えば、限定頻度テーブル)の選択のシナリオ2の情報は、時短図柄Cの停止表示時に主制御部の記憶領域に記憶されるように構成されている。

【2533】

(3) 高確低ベース状態で主遊技図柄として時短図柄Bが当選し、時短図柄Bが停止表示された場合は、50回の時短回数を付与する。時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が1回~10回までは、変動パターンの選択テーブル7を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態7とし、時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が11回~30回までは、変動パターンの選択テーブル8を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態8とし、時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が31回~50回までは、変動パターンの選択テーブル9を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態9とする。このように、時間短縮遊技状態において主遊技図柄の変動パターンの選択テーブル(例えば、限定頻度テーブル)の選択のシナリオ3として、変動パターンの選択テーブル7(10回使用)→変動パターンの選択テーブル8(20回使用)→変動パターンの選択テーブル9(20回使用)を備えている。なお、主遊技図柄の変動パターンの選択テーブル(例えば、限定頻度テーブル)の選択のシナリオ3の情報は、時短図柄Bの停止表示時に主制御部の記憶領域に記憶されるように構成されている。

【2534】

(4) 高確低ベース状態で主遊技図柄として時短図柄Cが当選し、時短図柄Cが停止表示された場合は、100回の時短回数を付与する。時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が1回~50回までは、変動パターンの選択テーブル10を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態10とし、時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が51回~96回までは、変動パターンの選択テーブル11を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態11とし、時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が97回~100回までは、変動パターンの選択テーブル12を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態12とする。このように、時間短縮遊技状態において主遊技図柄の変動パターンの選択テーブル(例えば、限定頻度テーブル)の選択のシナリオ4として、変動パターンの選択テーブル10(50回使用)→変動パターンの選択テーブル11(46回使用)→変動パターンの選択テーブル12(4回使用)を備えている。このように、高確低ベース状態で主遊技図柄として当選するハズレ図柄Bとハズレ図柄Cとでは、時間短縮遊技状態において主遊技図柄の変動パターンの選択テーブル(例えば、限定頻度テーブル)および主遊技図柄の変動パターンの選択テーブル(例えば、限定頻度テーブル)の選択のシナリオが異なるように構成されているが、同じであってもよい。なお、主遊技図柄の変動パターンの選択テーブル(例えば、限定頻度テーブル)の選択のシナリオ4の情報は、時短図柄Cの停止表示時に主制御部の記憶領域に記憶されるように構成されている。

【2535】

時短図柄の抽選にハズレ図柄抽選乱数による抽選結果を当選値とする場合、以下のような例を示すことができる。

(1) 低確低ベース状態で主遊技図柄としてハズレ図柄B(ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合)が当選し、ハズレ図柄Bが停止表示された場合は、30回の時短回数を付与する。時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が1回~10回までは、変動パターンの選択テーブル1を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態1とし、時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が11回~20回までは、変動パターンの選択テーブル2を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態2とし、時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が21回~30回までは、変動パターンの選択テーブル3を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態3とする。このように、時間短縮遊技状態において主遊技図柄の変動パ

ターンの選択テーブル（例えば、限定頻度テーブル）の選択のシナリオ1として、変動パターンの選択テーブル1（10回使用）→変動パターンの選択テーブル2（10回使用）→変動パターンの選択テーブル3（10回使用）を備えている。なお、主遊技図柄の変動パターンの選択テーブル（例えば、限定頻度テーブル）の選択のシナリオ1の情報は、ハズレ図柄Bの停止表示時に主制御部の記憶領域に記憶されるように構成されている。

【2536】

（2）低確低ベース状態で主遊技図柄としてハズレ図柄C（ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合）が当選し、ハズレ図柄Cが停止表示された場合は、60回の時短回数を付与する。時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が1回～20回までは、変動パターンの選択テーブル4を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態4とし、時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が21回～40回までは、変動パターンの選択テーブル5を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態5とし、時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が41回～60回までは、変動パターンの選択テーブル6を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態6とする。このように、時間短縮遊技状態において主遊技図柄の変動パターンの選択テーブル（例えば、限定頻度テーブル）の選択のシナリオ2として、変動パターンの選択テーブル4（20回使用）→変動パターンの選択テーブル5（20回使用）→変動パターンの選択テーブル6（20回使用）を備えている。このように、低確低ベース状態で主遊技図柄として当選するハズレ図柄Bとハズレ図柄Cとでは、時間短縮遊技状態において主遊技図柄の変動パターンの選択テーブル（例えば、限定頻度テーブル）および主遊技図柄の変動パターンの選択テーブル（例えば、限定頻度テーブル）の選択のシナリオが異なるように構成されているが、同じであってもよい。なお、主遊技図柄の変動パターンの選択テーブル（例えば、限定頻度テーブル）の選択のシナリオ2の情報は、ハズレ図柄Cの停止表示時に主制御部の記憶領域に記憶されるように構成されている。

【2537】

（3）高確低ベース状態で主遊技図柄としてハズレ図柄B（ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合）が当選し、ハズレ図柄Bが停止表示された場合は、50回の時短回数を付与する。時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が1回～10回までは、変動パターンの選択テーブル7を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態7とし、時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が11回～30回までは、変動パターンの選択テーブル8を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態8とし、時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が31回～50回までは、変動パターンの選択テーブル9を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態9とする。このように、時間短縮遊技状態において主遊技図柄の変動パターンの選択テーブル（例えば、限定頻度テーブル）の選択のシナリオ3として、変動パターンの選択テーブル7（10回使用）→変動パターンの選択テーブル8（20回使用）→変動パターンの選択テーブル9（20回使用）を備えている。なお、主遊技図柄の変動パターンの選択テーブル（例えば、限定頻度テーブル）の選択のシナリオ3の情報は、ハズレ図柄Bの停止表示時に主制御部の記憶領域に記憶されるように構成されている。

【2538】

（4）高確低ベース状態で主遊技図柄としてハズレ図柄C（ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合）が当選し、ハズレ図柄Cが停止表示された場合は、100回の時短回数を付与する。時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が1回～50回までは、変動パターンの選択テーブル10を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態10とし、時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が51回～96回までは、変動パターンの選択テーブル11を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態11とし、時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が97回～100回までは、変動パターンの選択テーブル12を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態12とする。このように、時間短縮遊技状態において主遊技図柄の変動パターンの選択テーブル（例えば、限定頻度テーブル）の選択のシナリ

オ4として、変動パターンを選択テーブル10（50回使用）→変動パターンを選択テーブル11（46回使用）→変動パターンを選択テーブル12（4回使用）を備えている。このように、高確低ベース状態で主遊技図柄として当選するハズレ図柄Bとハズレ図柄Cとでは、時間短縮遊技状態において主遊技図柄の変動パターンを選択テーブル（例えば、限定頻度テーブル）および主遊技図柄の変動パターンを選択テーブル（例えば、限定頻度テーブル）の選択のシナリオが異なるように構成されているが、同じであってもよい。なお、主遊技図柄の変動パターンを選択テーブル（例えば、限定頻度テーブル）の選択のシナリオ4の情報は、ハズレ図柄Cの停止表示時に主制御部の記憶領域に記憶されるように構成されている。

【2539】

時短図柄の抽選に小当り図柄抽選乱数による抽選結果を当選値とする場合、以下のような例を示すことができる。

（1）低確低ベース状態で主遊技図柄として小当り図柄B（小当り図柄を時短図柄として併用する場合）が当選し、小当り図柄Bが停止表示された場合は、30回の時短回数を付与する。時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が1回～10回までは、変動パターンを選択テーブル1を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンを選択状態1とし、時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が11回～20回までは、変動パターンを選択テーブル2を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンを選択状態2とし、時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が21回～30回までは、変動パターンを選択テーブル3を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンを選択状態3とする。このように、時間短縮遊技状態において主遊技図柄の変動パターンを選択テーブル（例えば、限定頻度テーブル）の選択のシナリオ1として、変動パターンを選択テーブル1（10回使用）→変動パターンを選択テーブル2（10回使用）→変動パターンを選択テーブル3（10回使用）を備えている。なお、主遊技図柄の変動パターンを選択テーブル（例えば、限定頻度テーブル）の選択のシナリオ1の情報は、小当り図柄Bの停止表示時に主制御部の記憶領域に記憶されるように構成されている。

【2540】

（2）低確低ベース状態で主遊技図柄として小当り図柄C（小当り図柄を時短図柄として併用する場合）が当選し、小当り図柄Cが停止表示された場合は、60回の時短回数を付与する。時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が1回～20回までは、変動パターンを選択テーブル4を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンを選択状態4とし、時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が21回～40回までは、変動パターンを選択テーブル5を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンを選択状態5とし、時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が41回～60回までは、変動パターンを選択テーブル6を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンを選択状態6とする。このように、時間短縮遊技状態において主遊技図柄の変動パターンを選択テーブル（例えば、限定頻度テーブル）の選択のシナリオ2として、変動パターンを選択テーブル4（20回使用）→変動パターンを選択テーブル5（20回使用）→変動パターンを選択テーブル6（20回使用）を備えている。このように、低確低ベース状態で主遊技図柄として当選する小当り図柄Bと小当り図柄Cとでは、時間短縮遊技状態において主遊技図柄の変動パターンを選択テーブル（例えば、限定頻度テーブル）および主遊技図柄の変動パターンを選択テーブル（例えば、限定頻度テーブル）の選択のシナリオが異なるように構成されているが、同じであってもよい。なお、主遊技図柄の変動パターンを選択テーブル（例えば、限定頻度テーブル）の選択のシナリオ2の情報は、小当り図柄Cの停止表示時に主制御部の記憶領域に記憶されるように構成されている。

【2541】

（3）高確低ベース状態で主遊技図柄として小当り図柄B（小当り図柄を時短図柄として併用する場合）が当選し、小当り図柄Bが停止表示された場合は、50回の時短回数を付与する。時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が1回～10回までは、変動パターンを選択テーブル7を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンを選

10

20

30

40

50

択状態 7 とし、時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が 11 回～30 回までは、変動パターンの選択テーブル 8 を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態 8 とし、時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が 31 回～50 回までは、変動パターンの選択テーブル 9 を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態 9 とする。このように、時間短縮遊技状態において主遊技図柄の変動パターンの選択テーブル（例えば、限定頻度テーブル）の選択のシナリオ 3 として、変動パターンの選択テーブル 7（10 回使用）→変動パターンの選択テーブル 8（20 回使用）→変動パターンの選択テーブル 9（20 回使用）を備えている。なお、主遊技図柄の変動パターンの選択テーブル（例えば、限定頻度テーブル）の選択のシナリオ 3 の情報は、小当り図柄 B の停止表示時に主制御部の記憶領域に記憶されるように構成されている。

10

【2542】

（4）高確低ベース状態で主遊技図柄として小当り図柄 C（小当り図柄を時短図柄として併用する場合）が当選し、小当り図柄 C が停止表示された場合は、100 回の時短回数を付与する。時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が 1 回～50 回までは、変動パターンの選択テーブル 10 を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態 10 とし、時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が 51 回～96 回までは、変動パターンの選択テーブル 11 を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態 11 とし、時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が 97 回～100 回までは、変動パターンの選択テーブル 12 を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態 12 とする。このように、時間短縮遊技状態において主遊技図柄の変動パターンの選択テーブル（例えば、限定頻度テーブル）の選択のシナリオ 4 として、変動パターンの選択テーブル 10（50 回使用）→変動パターンの選択テーブル 11（46 回使用）→変動パターンの選択テーブル 12（4 回使用）を備えている。このように、高確低ベース状態で主遊技図柄として当選する小当り図柄 B と小当り図柄 C とでは、時間短縮遊技状態において主遊技図柄の変動パターンの選択テーブル（例えば、限定頻度テーブル）および主遊技図柄の変動パターンの選択テーブル（例えば、限定頻度テーブル）の選択のシナリオが異なるように構成されているが、同じであってもよい。なお、主遊技図柄の変動パターンの選択テーブル（例えば、限定頻度テーブル）の選択のシナリオ 4 の情報は、小当り図柄 C の停止表示時に主制御部の記憶領域に記憶されるように構成されている。

20

30

【2543】

時短図柄の抽選に大当り図柄抽選乱数による抽選結果を当選値とする場合、以下のような例を示すことができる。

（1）低確低ベース状態で主遊技図柄として大当り図柄 B が当選し、大当り図柄 B が停止表示された場合は、30 回の時短回数を付与する。時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が 1 回～10 回までは、変動パターンの選択テーブル 1 を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態 1 とし、時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が 11 回～20 回までは、変動パターンの選択テーブル 2 を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態 2 とし、時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が 21 回～30 回までは、変動パターンの選択テーブル 3 を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態 3 とする。このように、時間短縮遊技状態において主遊技図柄の変動パターンの選択テーブル（例えば、限定頻度テーブル）の選択のシナリオ 1 として、変動パターンの選択テーブル 1（10 回使用）→変動パターンの選択テーブル 2（10 回使用）→変動パターンの選択テーブル 3（10 回使用）を備えている。なお、主遊技図柄の変動パターンの選択テーブル（例えば、限定頻度テーブル）の選択のシナリオ 1 の情報は、大当り図柄 B の停止表示時に主制御部の記憶領域に記憶されるように構成されている。

40

【2544】

（2）低確低ベース状態で主遊技図柄として大当り図柄 C が当選し、大当り図柄 C が停止表示された場合は、60 回の時短回数を付与する。時間短縮遊技状態における主遊技図

50

柄の図柄変動が1回～20回までは、変動パターンの選択テーブル4を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態4とし、時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が21回～40回までは、変動パターンの選択テーブル5を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態5とし、時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が41回～60回までは、変動パターンの選択テーブル6を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態6とする。このように、時間短縮遊技状態において主遊技図柄の変動パターンの選択テーブル（例えば、限定頻度テーブル）の選択のシナリオ2として、変動パターンの選択テーブル4（20回使用）→変動パターンの選択テーブル5（20回使用）→変動パターンの選択テーブル6（20回使用）を備えている。このように、低確低ベース状態で主遊技図柄として当選するハズレ図柄Bとハズレ図柄Cとでは、時間短縮遊技状態において主遊技図柄の変動パターンの選択テーブル（例えば、限定頻度テーブル）および主遊技図柄の変動パターンの選択テーブル（例えば、限定頻度テーブル）の選択のシナリオが異なるように構成されているが、同じであってもよい。なお、主遊技図柄の変動パターンの選択テーブル（例えば、限定頻度テーブル）の選択のシナリオ2の情報は、大当り図柄Cの停止表示時に主制御部の記憶領域に記憶されるように構成されている。

【2545】

（3）高確低ベース状態で主遊技図柄として大当り図柄Bが当選し、大当り図柄Bが停止表示された場合は、50回の時短回数を付与する。時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が1回～10回までは、変動パターンの選択テーブル7を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態7とし、時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が11回～30回までは、変動パターンの選択テーブル8を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態8とし、時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が31回～50回までは、変動パターンの選択テーブル9を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態9とする。このように、時間短縮遊技状態において主遊技図柄の変動パターンの選択テーブル（例えば、限定頻度テーブル）の選択のシナリオ3として、変動パターンの選択テーブル7（10回使用）→変動パターンの選択テーブル8（20回使用）→変動パターンの選択テーブル9（20回使用）を備えている。なお、主遊技図柄の変動パターンの選択テーブル（例えば、限定頻度テーブル）の選択のシナリオ3の情報は、大当り図柄Bの停止表示時に主制御部の記憶領域に記憶されるように構成されている。

【2546】

（4）高確低ベース状態で主遊技図柄として大当り図柄Cが当選し、大当り図柄Cが停止表示された場合は、100回の時短回数を付与する。時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が1回～50回までは、変動パターンの選択テーブル10を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態10とし、時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が51回～96回までは、変動パターンの選択テーブル11を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態11とし、時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が97回～100回までは、変動パターンの選択テーブル12を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態12とする。このように、時間短縮遊技状態において主遊技図柄の変動パターンの選択テーブル（例えば、限定頻度テーブル）の選択のシナリオ4として、変動パターンの選択テーブル10（50回使用）→変動パターンの選択テーブル11（46回使用）→変動パターンの選択テーブル12（4回使用）を備えている。このように、高確低ベース状態で主遊技図柄として当選するハズレ図柄Bとハズレ図柄Cとでは、時間短縮遊技状態において主遊技図柄の変動パターンの選択テーブル（例えば、限定頻度テーブル）および主遊技図柄の変動パターンの選択テーブル（例えば、限定頻度テーブル）の選択のシナリオが異なるように構成されているが、同じであってもよい。なお、主遊技図柄の変動パターンの選択テーブル（例えば、限定頻度テーブル）の選択のシナリオ4の情報は、大当り図柄Cの停止表示時に主制御部の記憶領域に記憶されるように構成されている。

【2547】

時短図柄の停止表示回数を契機として時間短縮遊技状態を作動させてもよい。例えば、低確低ベース状態や高確低ベース状態において、時短図柄が1～4回停止表示された場合であっても、時間短縮遊技状態を作動させないように構成し、時短図柄が5回停止表示されたことに基づき時間短縮遊技状態を作動させるように構成する。この例では、時短図柄が5回停止表示されるまでに当り（大当り、小当り）に当選した場合は、その後に5回目の時短図柄が停止表示された場合であっても、時間短縮遊技状態を作動させないように構成することが好ましい。つまり、当り（大当り、小当り）に当選していない遊技状態（例えば、低確低ベース状態や高確低ベース状態）が継続した状況で、特定回数（例えば、5回）の時短図柄が停止表示された場合、つまり、特定回数（例えば、5回）の時短図柄が停止表示されたことに基づいて時間短縮遊技状態が作動するように構成することが好ましい。

10

【2548】

ハズレ図柄（ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合）の停止表示回数を契機として時間短縮遊技状態を作動させてもよい。例えば、低確低ベース状態や高確低ベース状態において、ハズレ図柄（ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合）が1～9回停止表示された場合であっても、時間短縮遊技状態を作動させないように構成し、時短図柄が10回停止表示された場合に時間短縮遊技状態を作動させるように構成する。この例では、ハズレ図柄（ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合）が10回停止表示されるまでに当り（大当り、小当り）に当選した場合は、その後に10回目のハズレ図柄（ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合）が停止表示された場合であっても、時間短縮遊技状態を作動させないように構成することが好ましい。つまり、当り（大当り、小当り）に当選していない遊技状態（例えば、低確低ベース状態や高確低ベース状態）が継続した状況で、特定回数（例えば、10回）のハズレ図柄（ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合）が停止表示された場合、つまり、特定回数（例えば、10回）のハズレ図柄が停止表示されたことに基づいて時間短縮遊技状態が作動するように構成することが好ましい。

20

【2549】

小当り図柄（小当り図柄を時短図柄として併用する場合）の停止表示回数を契機として時間短縮遊技状態を作動させてもよい。例えば、低確低ベース状態や高確低ベース状態において、小当り図柄（小当り図柄を時短図柄として併用する場合）が1～2回停止表示された場合であっても、時間短縮遊技状態を作動させないように構成し、小当り図柄（小当り図柄を時短図柄として併用する場合）が3回停止表示された場合に時間短縮遊技状態を作動させるように構成する。この例では、小当り図柄（小当り図柄を時短図柄として併用する場合）が3回停止表示されるまでに大当りに当選した場合は、その後に3回目の小当り図柄（小当り図柄を時短図柄として併用する場合）が停止表示された場合であっても、時間短縮遊技状態を作動させないように構成することが好ましい。つまり、大当りに当選していない遊技状態（例えば、低確低ベース状態や高確低ベース状態）が継続した状況で、特定回数（例えば、3回）の小当り図柄（小当り図柄を時短図柄として併用する場合）が停止表示された場合、つまり、特定回数（例えば、3回）の小当り図柄が停止表示されたことに基づいて時間短縮遊技状態が作動するように構成することが好ましい。

30

40

【2550】

ハズレ図柄（ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合）が停止表示されたことに基づき時間短縮遊技状態が作動する場合、小当り図柄（小当り図柄を時短図柄として併用する場合）が停止表示されたことに基づき時間短縮遊技状態が作動する場合、大当り図柄が停止表示されたことに基づく特別遊技の終了後に時間短縮遊技状態が作動する場合の時短回数は、全て同じでもよいし、それぞれ異なる回数を設定してもよい。

【2551】

特定の図柄の組合せ {時短専用図柄、ハズレ図柄（ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合）、小当り図柄（小当り図柄を時短図柄として併用する場合）、大当り図柄} により作動する時間短縮遊技状態において、通常遊技状態よりも補助遊技図柄の当選確率を変

50

更（例えば、第2主遊技始動口電動役物の開放当選確率を高くする）したり、第2主遊技始動口電動役物の開放態様を変更（例えば、第2主遊技始動口電動役物の開放期間を長くする）したり、補助遊技図柄の変動態様を変更（第2主遊技始動口電動役物の開放抽選の結果報知の時間を短くする）したりすることが可能である。また、特別遊技の終了後において作動する時間短縮遊技状態において、通常遊技状態よりも補助遊技図柄の当選確率を変更（例えば、第2主遊技始動口電動役物の開放当選確率を高くする）したり、第2主遊技始動口電動役物の開放態様を変更（例えば、第2主遊技始動口電動役物の開放期間を長くする）したり、補助遊技図柄の変動態様を変更（第2主遊技始動口電動役物の開放抽選の結果報知の時間を短くする）したりすることが可能である。

【2552】

特定の図柄の組合せ{時短専用図柄、ハズレ図柄（ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合）、小当り図柄（小当り図柄を時短図柄として併用する場合）、大当り図柄}により作動する時間短縮遊技状態と、特別遊技の終了後において作動する時間短縮遊技状態において、補助遊技図柄の当選確率を変更（例えば、第2主遊技始動口電動役物の開放当選確率を高くする）する機能、第2主遊技始動口電動役物の開放態様を変更（例えば、第2主遊技始動口電動役物の開放期間を長くする）する機能、補助遊技図柄の変動態様を変更（第2主遊技始動口電動役物の開放抽選の結果報知の時間を短くする）する機能のうち、全ての機能が異なってもよいし、一部の機能が異なってもよいし、全ての機能が同じであってもよい。

【2553】

特定の図柄の組合せ{時短専用図柄、ハズレ図柄（ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合）、小当り図柄（小当り図柄を時短図柄として併用する場合）、大当り図柄}により作動する時間短縮遊技状態において、補助遊技図柄の当選確率を変更（例えば、第2主遊技始動口電動役物の開放当選確率を高くする）する機能、第2主遊技始動口電動役物の開放態様を変更（例えば、第2主遊技始動口電動役物の開放期間を長くする）する機能、補助遊技図柄の変動態様を変更（第2主遊技始動口電動役物の開放抽選の結果報知の時間を短くする）する機能のうち、全ての機能を作動させてもよいし、一部の機能を作動させてもよい。

【2554】

時間短縮遊技状態となってから特定回数の図柄変動が実行されたことに基づき低確低ベース状態に移行するぱちんこ遊技機において、低確低ベース状態で特定の図柄の組合せ{時短専用図柄、ハズレ図柄（ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合）、小当り図柄（小当り図柄を時短図柄として併用する場合）、大当り図柄}が停止表示し、時間短縮遊技状態が作動した場合、その時点から特定回数の時間短縮遊技状態を設定するように構成されている。詳細には、主遊技図柄として特定の図柄の組合せが停止表示し、変動固定時間の経過後に特定回数の時間短縮遊技状態を作動するように構成されている。なお、特定の図柄の組合せが停止表示されたタイミングで特定回数の時間短縮遊技状態を作動させてもよいし、図柄抽選で特定の図柄の組合せが当選したタイミングで特定回数の時間短縮遊技状態を作動させてもよいし、主遊技図柄の図柄変動の開始時に特定回数の時間短縮遊技状態を作動させてもよい。

【2555】

時間短縮遊技状態となってから特定回数の図柄変動が実行されたことに基づき低確低ベース状態に移行するぱちんこ遊技機において、特定回数よりも少ない時短回数の時間短縮遊技状態で特定の図柄の組合せ{時短専用図柄、ハズレ図柄（ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合）、小当り図柄（小当り図柄を時短図柄として併用する場合）、大当り図柄}が停止表示した場合、時短回数を更新しないように構成されている。例えば、時短回数の残りが50回の時間短縮遊技状態において、主遊技図柄としてハズレの図柄の組合せが停止表示し、変動固定時間が経過すると、時短回数が更新され（時短回数が減算され）、49回となるように構成されているが、主遊技図柄として特定の図柄の組合せが停止表示し、変動固定時間が経過しても、時短回数が50回そのまま（時短回数が更新されない、

10

20

30

40

50

時短回数が減算されない)となるように構成されている。なお、時間短縮遊技状態においては、特定の図柄の組合せの抽選を行わないように構成するのが好ましい。

【2556】

時間短縮遊技状態となってから特定回数の図柄変動が実行されたことに基づき低確低ベース状態に移行するぱちんこ遊技機において、低確低ベース状態で時短回数が特定回数に設定された特定の図柄の組合せA {時短専用図柄、ハズレ図柄 (ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合)、小当り図柄 (小当り図柄を時短図柄として併用する場合)、大当り図柄} が停止表示した場合、特定回数の時間短縮遊技状態を作動するように構成されている。特定回数よりも少ない時短回数の時間短縮遊技状態で特定の図柄の組合せA {時短専用図柄、ハズレ図柄 (ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合)、小当り図柄 (小当り図柄を時短図柄として併用する場合)、大当り図柄} が停止表示した場合、時短回数を更新しないように構成されている。例えば、低確低ベース状態において、主遊技図柄として特定の図柄の組合せAが停止表示し、変動固定時間が経過すると時短回数が100回の時間短縮遊技状態が作動するように構成されている。時短回数の残りが50回の時間短縮遊技状態において、主遊技図柄としてハズレの図柄の組合せが停止表示し、変動固定時間が経過すると、時短回数が更新され (時短回数が減算され)、49回となるように構成されているが、主遊技図柄として特定の図柄の組合せAが停止表示し、変動固定時間が経過しても、時短回数が50回そのまま (時短回数が更新されない、時短回数が減算されない) となるように構成されている。なお、時間短縮遊技状態においては、特定の図柄の組合せの抽選を行わないように構成するのが好ましい。

【2557】

時間短縮遊技状態となってから特定回数の図柄変動が実行されたことに基づき低確低ベース状態に移行するぱちんこ遊技機において、時間短縮遊技状態で特定の図柄の組合せ {時短専用図柄、ハズレ図柄 (ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合)、小当り図柄 (小当り図柄を時短図柄として併用する場合)、大当り図柄} が停止表示し、時間短縮遊技状態が作動した場合、その時点の残りの時短回数に基づき時間短縮遊技状態の時短回数を再設定するように構成されている。

【2558】

例えば、時間短縮遊技状態 (例えば、低確高ベース状態) となってから100回の図柄変動が実行されたことに基づき低確低ベース状態に移行するぱちんこ遊技機において、時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が1回~50回 (残りの時短回数が50回以上の場合) で特定の図柄の組合せ {時短専用図柄、ハズレ図柄 (ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合)、小当り図柄 (小当り図柄を時短図柄として併用する場合)、大当り図柄} が停止表示し、時間短縮遊技状態が作動した場合、時短回数が100回の時間短縮遊技状態を再設定するが、時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が51回~100回 (残りの時短回数が50回未満の場合) で特定の図柄の組合せが停止表示し、時間短縮遊技状態が作動した場合、時短回数が10回の時間短縮遊技状態を再設定するように構成されていてもよい。なお、時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が51回~100回 (残りの時短回数が50回以上の場合) で特定の図柄の組合せが停止表示した場合、時短回数が残りの時短回数が50回未満の場合の10回よりも少ない回数の時間短縮遊技状態に再設定してもよいし、時短回数が0回の時間短縮遊技状態を再設定してもよいし、時間短縮遊技状態を設定しないように構成されていてもよい。時短回数の設定タイミングは、主遊技図柄として特定の図柄の組合せが停止表示し、変動固定時間の経過後に時間短縮遊技状態の時短回数を設定するように構成されているが、特定の図柄の組合せが停止表示されたタイミングで時間短縮遊技状態の時短回数を設定してもよいし、図柄抽選で特定の図柄の組合せが当選したタイミングで時間短縮遊技状態の時短回数を設定してもよいし、主遊技図柄の図柄変動の開始時に時間短縮遊技状態の時短回数を設定してもよい。

【2559】

第2主遊技側の保留が存在する場合には、第1主遊技側の保留の存在に関わらず (たと

え入賞順序が第1主遊技側の保留の方が先に入賞していても）、第2主遊技図柄の保留消化を優先して実行するぱちんこ遊技機において、第2主遊技側の保留が存在せず、第1主遊技図柄の図柄変動に対応した先読み演出を行っている状態で特定の図柄の組合せ{時短専用図柄、ハズレ図柄（ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合）、小当り図柄（小当り図柄を時短図柄として併用する場合）、大当り図柄}が停止表示され時間短縮遊技状態が作動した場合、第1主遊技図柄の図柄変動に対応した先読み演出を、その後の第1主遊技図柄の図柄変動中においても継続して実行するように構成されている。なお、第1主遊技図柄の図柄変動に対応した先読み演出中に時間短縮遊技状態が作動し、第2主遊技始動口に遊技球が入球して第2主遊技図柄の保留球が発生した時点で第1主遊技図柄の図柄変動に対応した先読み演出を終了させるように構成してもよい。

10

【2560】

特定の図柄の組合せ{時短図柄、ハズレ図柄（ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合）、小当り図柄（小当り図柄を時短図柄として併用する場合）、大当り図柄}が停止表示され時間短縮遊技状態が作動するまでに所定時間を設定するように構成されている。例えば、低確低ベース状態で主遊技図柄として特定の図柄の組合せが停止表示し、変動固定時間の経過後に所定時間を設定し、所定時間（例えば、10秒）の経過後に時間短縮遊技状態を作動するように構成する。そして、所定時間において、時間短縮遊技状態が作動開始することを演出するオープニング演出を実行するように構成してもよい。この際、オープニング演出は、大当り終了後に実行される時間短縮遊技状態が作動開始することを演出するオープニング演出と同じ演出を実行するようにしてもよいし、異なる演出（専用のオープニング演出）を実行するようにしてもよい。前者の場合には一の演出データを共通で使用できるため容量圧縮に期待でき、後者の場合には同じ時間短縮遊技状態であっても異なる遊技状態として遊技者に見せることができるため遊技性の向上に期待できる。さらに、大当り終了後に実行される時間短縮遊技状態の作動開始に伴うオープニング演出と、特定の図柄の組合せの停止表示を契機に実行される時間短縮遊技状態の作動開始に伴うオープニング演出とを異ならせるようにした場合、大当り終了後に実行される時間短縮遊技状態の作動開始に伴うオープニング演出の実行時間よりも、特定の図柄の組合せの停止表示を契機に実行される時間短縮遊技状態の作動開始に伴うオープニング演出の実行時間の方が短くなるように構成するのが好適である。特に、特定の図柄の組合せの停止表示を契機に実行される時間短縮遊技状態の作動開始に伴うオープニング演出の時間を短くすればするほど、遊技状態の切り替わりを遊技者に意識させることなくシームレスに時間短縮遊技状態に移行させるような遊技性を創出することができる。また、これらの構成は、オープニング演出に関わらず時間短縮遊技状態中の演出においても適用可能である。

20

30

【2561】

また、低確低ベース状態で主遊技図柄として特定の図柄の組合せが停止表示し、変動固定時間の経過後に時間短縮遊技状態を作動するように構成しているが、変動固定時間を特定の図柄の組合せ毎に設定してもよい。例えば、時短図柄Aは変動固定時間＝10秒、時短図柄Bは変動固定時間＝15秒、ハズレ図柄A（ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合）は変動固定時間＝10秒、ハズレ図柄B（ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合）は変動固定時間＝15秒、小当り図柄A（小当り図柄を時短図柄として併用する場合）は変動固定時間＝10秒、小当り図柄B（小当り図柄を時短図柄として併用する場合）は変動固定時間＝15秒などが例示できる。そして、変動固定時間において、時間短縮遊技状態が作動開始することを演出するオープニング演出を実行するように構成してもよい。

40

【2562】

時間短縮遊技状態を作動させるハズレ図柄と通常のハズレ図柄とで変動固定時間が異なるように構成されていてもよいし、同じであってもよい。例えば、異なるように構成される場合、ハズレ図柄（ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合）の変動固定時間を10秒、通常のハズレ図柄の変動固定時間を500msとすることができる。また、同じ場合、ハズレ図柄（ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合）の変動固定時間と、通常のハズレ図柄の変動固定時間とを、500msとすることができる。

50

【2563】

時間短縮遊技状態を作動させるハズレ図柄と、時間短縮遊技状態を作動させない通常のハズレ図柄とで異なる変動パターンを用いてもよいし、同じ変動パターンを用いてもよい。

【2564】

時間短縮遊技状態を作動させるハズレ図柄（ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合）が停止表示されたことに基づき作動した時間短縮遊技状態において主遊技図柄の変動パターンの選択テーブル（例えば、限定頻度テーブル）の選択のシナリオを備えていてもよい。例えば、低確低ベース状態で主遊技図柄としてハズレ図柄B（ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合）が当選し、ハズレ図柄B（ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合）が停止表示されたことに基づく時間短縮遊技状態は、60回の図柄変動が実行されるまで継続する時間短縮遊技状態となる。時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が1回～10回までは、変動パターンの選択テーブル1を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態1とし、時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が11回～20回までは、変動パターンの選択テーブル2を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態2とし、時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が21回～60回までは、変動パターンの選択テーブル3を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態3とする。このように、時間短縮遊技状態において主遊技図柄の変動パターンの選択テーブル（例えば、限定頻度テーブル）の選択のシナリオ1として、変動パターンの選択テーブル1（10回使用）→変動パターンの選択テーブル2（10回使用）→変動パターンの選択テーブル3（40回使用）を備えている。

【2565】

また、低確低ベース状態で主遊技図柄としてハズレ図柄C（ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合）が当選し、ハズレ図柄C（ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合）が停止表示されたことに基づく時間短縮遊技状態は、60回の図柄変動が実行されるまで継続する時間短縮遊技状態となる。時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が1回～20回までは、変動パターンの選択テーブル1を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態1とし、時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が21回～40回までは、変動パターンの選択テーブル2を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態2とし、時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が41回～60回までは、変動パターンの選択テーブル3を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態3とする。このように、時間短縮遊技状態において主遊技図柄の変動パターンの選択テーブル（例えば、限定頻度テーブル）の選択のシナリオ2として、変動パターンの選択テーブル1（20回使用）→変動パターンの選択テーブル2（20回使用）→変動パターンの選択テーブル3（20回使用）を備えている。このように、低確低ベース状態で主遊技図柄として当選するハズレ図柄Bとハズレ図柄Cとでは、時間短縮遊技状態において主遊技図柄の変動パターンの選択テーブル（例えば、限定頻度テーブル）の選択のシナリオが異なるように構成されているが、同じであってもよい。

【2566】

高確低ベース状態で主遊技図柄としてハズレ図柄B（ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合）が当選し、ハズレ図柄B（ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合）が停止表示されたことに基づく時間短縮遊技状態は、100回の図柄変動が実行されるまで継続する時間短縮遊技状態となる。時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が1回～10回までは、変動パターンの選択テーブル7を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態7とし、時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が11回～30回までは、変動パターンの選択テーブル8を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態8とし、時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が31回～100回までは、変動パターンの選択テーブル9を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態9とする。このように、時間短縮遊技状態にお

いて主遊技図柄の変動パターンの選択テーブル（例えば、限定頻度テーブル）の選択のシナリオ3として、変動パターンの選択テーブル7（10回使用）→変動パターンの選択テーブル8（20回使用）→変動パターンの選択テーブル9（70回使用）を備えている。
【2567】

また、高確低ベース状態で主遊技図柄としてハズレ図柄C（ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合）が当選し、ハズレ図柄C（ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合）が停止表示されたことに基づく時間短縮遊技状態は、100回の図柄変動が実行されるまで継続する時間短縮遊技状態となる。時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が1回～50回までは、変動パターンの選択テーブル7を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態7とし、時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が51回～96回までは、変動パターンの選択テーブル8を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態8とし、時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が97回～100回までは、変動パターンの選択テーブル9を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態9とする。このように、時間短縮遊技状態において主遊技図柄の変動パターンの選択テーブル（例えば、限定頻度テーブル）の選択のシナリオ4として、変動パターンの選択テーブル7（50回使用）→変動パターンの選択テーブル8（46回使用）→変動パターンの選択テーブル9（4回使用）を備えている。このように、高確低ベース状態で主遊技図柄として当選するハズレ図柄Bとハズレ図柄Cとでは、時間短縮遊技状態において主遊技図柄の変動パターンの選択テーブル（例えば、限定頻度テーブル）の選択のシナリオが異なるように構成されているが、同じであってもよい。

【2568】

時間短縮遊技状態を作動させる時短図柄が停止表示されたことに基づき作動した時間短縮遊技状態において主遊技図柄の変動パターンの選択テーブル（例えば、限定頻度テーブル）の選択のシナリオを備えていてもよい。例えば、低確低ベース状態で主遊技図柄として時短図柄Bが当選し、時短図柄Bが停止表示されたことに基づく時間短縮遊技状態は、80回の図柄変動が実行されるまで継続する時間短縮遊技状態となる。時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が1回～10回までは、変動パターンの選択テーブル1を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態1とし、時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が11回～20回までは、変動パターンの選択テーブル2を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態2とし、時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が21回～80回までは、変動パターンの選択テーブル3を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態3とする。このように、時間短縮遊技状態において主遊技図柄の変動パターンの選択テーブル（例えば、限定頻度テーブル）の選択のシナリオ5として、変動パターンの選択テーブル1（10回使用）→変動パターンの選択テーブル2（10回使用）→変動パターンの選択テーブル3（60回使用）を備えている。

【2569】

また、低確低ベース状態で主遊技図柄として時短図柄Cが当選し、時短図柄Cが停止表示されたことに基づく時間短縮遊技状態は、80回の図柄変動が実行されるまで継続する時間短縮遊技状態となる。時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が1回～20回までは、変動パターンの選択テーブル1を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態1とし、時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が21回～40回までは、変動パターンの選択テーブル2を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態2とし、時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が41回～80回までは、変動パターンの選択テーブル3を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態3とする。このように、時間短縮遊技状態において主遊技図柄の変動パターンの選択テーブル（例えば、限定頻度テーブル）の選択のシナリオ6として、変動パターンの選択テーブル1（20回使用）→変動パターンの選択テーブル2（20回使用）→変動パターンの選択テーブル3（40回使用）を備えている。この

ように、低確低ベース状態で主遊技図柄として当選する時短図柄 B と時短図柄 C とでは、時間短縮遊技状態において主遊技図柄の変動パターンの選択テーブル（例えば、限定頻度テーブル）の選択のシナリオが異なるように構成されているが、同じであってもよい。

【2570】

高確低ベース状態で主遊技図柄として時短図柄 B が当選し、時短図柄 B が停止表示されたことに基づく時間短縮遊技状態は、100回の図柄変動が実行されるまで継続する時間短縮遊技状態となる。時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が1回～10回までは、変動パターンの選択テーブル7を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態7とし、時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が11回～30回までは、変動パターンの選択テーブル8を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態8とし、時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が31回～100回までは、変動パターンの選択テーブル9を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態9とする。このように、時間短縮遊技状態において主遊技図柄の変動パターンの選択テーブル（例えば、限定頻度テーブル）の選択のシナリオ7として、変動パターンの選択テーブル7（10回使用）→変動パターンの選択テーブル8（20回使用）→変動パターンの選択テーブル9（70回使用）を備えている。

【2571】

また、高確低ベース状態で主遊技図柄として時短図柄 C が当選し、時短図柄 C が停止表示されたことに基づく時間短縮遊技状態は、100回の図柄変動が実行されるまで継続する時間短縮遊技状態となる。時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が1回～50回までは、変動パターンの選択テーブル7を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態7とし、時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が51回～96回までは、変動パターンの選択テーブル8を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態8とし、時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が97回～100回までは、変動パターンの選択テーブル9を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態9とする。このように、時間短縮遊技状態において主遊技図柄の変動パターンの選択テーブル（例えば、限定頻度テーブル）の選択のシナリオ8として、変動パターンの選択テーブル7（50回使用）→変動パターンの選択テーブル8（46回使用）→変動パターンの選択テーブル9（4回使用）を備えている。このように、高確低ベース状態で主遊技図柄として当選する時短図柄 B と時短図柄 C とでは、時間短縮遊技状態において主遊技図柄の変動パターンの選択テーブル（例えば、限定頻度テーブル）の選択のシナリオが異なるように構成されているが、同じであってもよい。

【2572】

時間短縮遊技状態を作動させる小当り図柄（小当り図柄を時短図柄として併用する場合）が停止表示されたことに基づく作動した時間短縮遊技状態において主遊技図柄の変動パターンの選択テーブル（例えば、限定頻度テーブル）の選択のシナリオを備えていてもよい。例えば、低確低ベース状態で主遊技図柄として小当り図柄 B（小当り図柄を時短図柄として併用する場合）が当選し、小当り図柄 B（小当り図柄を時短図柄として併用する場合）が停止表示されたことに基づく時間短縮遊技状態は、90回の図柄変動が実行されるまで継続する時間短縮遊技状態となる。時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が1回～10回までは、変動パターンの選択テーブル1を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態1とし、時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が11回～20回までは、変動パターンの選択テーブル2を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態2とし、時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が21回～90回までは、変動パターンの選択テーブル3を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態3とする。このように、時間短縮遊技状態において主遊技図柄の変動パターンの選択テーブル（例えば、限定頻度テーブル）の選択のシナリオ9として、変動パターンの選択テーブル1（10回使用）→変動パターンの選択テーブル2（10回使用）→変動パターンの選択テーブル3（70回使用）を備えている。

【2573】

また、低確低ベース状態で主遊技図柄として小当り図柄C（小当り図柄を時短図柄として併用する場合）が当選し、小当り図柄C（小当り図柄を時短図柄として併用する場合）が停止表示されたことに基づく時間短縮遊技状態は、90回の図柄変動が実行されるまで継続する時間短縮遊技状態となる。時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が1回～20回までは、変動パターンの選択テーブル1を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態1とし、時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が21回～40回までは、変動パターンの選択テーブル2を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態2とし、時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が41回～90回までは、変動パターンの選択テーブル3を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態3とする。このように、時間短縮遊技状態において主遊技図柄の変動パターンの選択テーブル（例えば、限定頻度テーブル）の選択のシナリオ10として、変動パターンの選択テーブル1（20回使用）→変動パターンの選択テーブル2（20回使用）→変動パターンの選択テーブル3（50回使用）を備えている。このように、低確低ベース状態で主遊技図柄として当選する小当り図柄Bと小当り図柄Cとでは、時間短縮遊技状態において主遊技図柄の変動パターンの選択テーブル（例えば、限定頻度テーブル）の選択のシナリオが異なるように構成されているが、同じであってもよい。

10

【2574】

高確低ベース状態で主遊技図柄として小当り図柄B（小当り図柄を時短図柄として併用する場合）が当選し、小当り図柄B（小当り図柄を時短図柄として併用する場合）が停止表示されたことに基づく時間短縮遊技状態は、100回の図柄変動が実行されるまで継続する時間短縮遊技状態となる。時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が1回～10回までは、変動パターンの選択テーブル7を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態7とし、時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が11回～30回までは、変動パターンの選択テーブル8を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態8とし、時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が31回～100回までは、変動パターンの選択テーブル9を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態9とする。このように、時間短縮遊技状態において主遊技図柄の変動パターンの選択テーブル（例えば、限定頻度テーブル）の選択のシナリオ11として、変動パターンの選択テーブル7（10回使用）→変動パターンの選択テーブル8（20回使用）→変動パターンの選択テーブル9（70回使用）を備えている。

20

30

【2575】

また、高確低ベース状態で主遊技図柄として小当り図柄C（小当り図柄を時短図柄として併用する場合）が当選し、小当り図柄C（小当り図柄を時短図柄として併用する場合）が停止表示されたことに基づく時間短縮遊技状態は、100回の図柄変動が実行されるまで継続する時間短縮遊技状態となる。時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が1回～50回までは、変動パターンの選択テーブル7を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態7とし、時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が51回～96回までは、変動パターンの選択テーブル8を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態8とし、時間短縮遊技状態における主遊技図柄の図柄変動が97回～100回までは、変動パターンの選択テーブル9を設定して主遊技図柄の変動態様を決定する変動パターンの選択状態9とする。このように、時間短縮遊技状態において主遊技図柄の変動パターンの選択テーブル（例えば、限定頻度テーブル）の選択のシナリオ12として、変動パターンの選択テーブル7（50回使用）→変動パターンの選択テーブル8（46回使用）→変動パターンの選択テーブル9（4回使用）を備えている。このように、高確低ベース状態で主遊技図柄として当選する小当り図柄Bと小当り図柄Cとでは、時間短縮遊技状態において主遊技図柄の変動パターンの選択テーブル（例えば、限定頻度テーブル）の選択のシナリオが異なるように構成されているが、同じであってもよい。

40

50

【2576】

始動口入賞を契機として時短図柄の抽選にかかる乱数値（時短図柄の抽選専用の時短図柄抽選乱数、ハズレ図柄抽選乱数、小当り図柄抽選乱数、大当り図柄抽選乱数、当否抽選乱数、転落抽選判定用乱数）により、時短図柄が当選した場合、図柄変動に係る変動時間を変化させずに図柄変動で実行される演出内容を変更してもよい。なお、演出内容を変更する遊技状態は、低確低ベース状態が好ましいが、高確低ベース状態、高確高ベース状態、低確高ベース状態であってもよい。

【2577】

図334は、時間短縮遊技状態における時短図柄の時短抽選を示す図である。方法1を説明する。低確低ベース状態は、時短図柄を参照して時短抽選が可能な状態となっている。低確高ベース状態は、時短図柄を参照して時短抽選が可能な状態となっている。低確高ベース状態は、既に時間短縮遊技状態が作動している場合であるが、時短抽選で時短図柄に当選した場合は、時短回数を上書き（書き換え、再設定）するように構成されている。高確低ベース状態、高確高ベース状態は、時短図柄を参照すること自体を行わないように構成されている。つまり、高確低ベース状態、高確高ベース状態は、時短図柄の時短抽選を行わないように構成されている。なお、高確低ベース状態、高確高ベース状態は、時短抽選を行うが、時短図柄を参照することを行わないように構成されていてもよい。時間短縮遊技状態（例えば、低確高ベース状態）中に関しては、時間短縮遊技状態中も時短抽選を行う為に、再度時短抽選で当選した場合は、時短回数を上書き（書き換え、再設定）する（方法1）、または、時間短縮遊技状態中に時短抽選を行わない（方法2）のどちらかを用いるように構成されている。

【2578】

方法2を説明する。低確低ベース状態は、時短図柄を参照して時短抽選が可能な状態となっている。低確高ベース状態は、時短図柄を参照すること自体を行わないように構成されている。つまり、低確高ベース状態は、既に時間短縮遊技状態が作動している場合であるため、時短図柄による抽選を行わないように構成されている。高確低ベース状態、高確高ベース状態は、時短図柄を参照すること自体を行わないように構成されている。つまり、高確低ベース状態、高確高ベース状態は、時短図柄の時短抽選を行わないように構成されている。なお、高確低ベース状態、高確高ベース状態は、時短抽選を行うが、時短図柄を参照することを行わないように構成されていてもよい。時間短縮遊技状態（例えば、低確高ベース状態）中に関しては、時間短縮遊技状態中も時短抽選を行う為に、再度時短抽選で当選した場合は、時短回数を上書き（書き換え、再設定）する（方法1）、または、時間短縮遊技状態中に時短抽選を行わない（方法2）のどちらかを用いるように構成されている。

【2579】

図335は、時間短縮遊技状態を作動させる際に参照する乱数毎の処理に関する図である。時間短縮遊技状態を作動させる場合であって、時短図柄の抽選専用の時短図柄抽選乱数、大当り図柄抽選乱数、小当り図柄抽選乱数、ハズレ図柄抽選乱数を用いて時短抽選を実行する場合を説明する。主遊技図柄として、第1主遊技図柄、第2主遊技図柄を備えるぱちんこ遊技機においては、時短図柄の当選確率が、第1主遊技図柄と第2主遊技図柄とで相違するように構成してもよい。時短抽選の可否に関し、設定値を有しないぱちんこ遊技機、設定値を有するぱちんこ遊技機で時短抽選を実行するように構成されている。設定値を有するぱちんこ遊技機において時短図柄抽選乱数、大当り図柄抽選乱数、小当り図柄抽選乱数、ハズレ図柄抽選乱数を用いる場合は、設定によって時間短縮遊技状態の作動確率が変動するように構成されてはいけなくように構成されている。つまり、設定によって時間短縮遊技状態の作動確率が変動しないように構成されている。設定値を有するぱちんこ遊技機において当否抽選乱数を用いる場合は、設定によって時間短縮遊技状態の作動確率が変動しないように構成されている。

【2580】

乱数の取得タイミングは、始動口（第1主遊技始動口A10、第2主遊技始動口B10

）の入賞時となっており、当否判定時や主遊技図柄の図柄変動の開始時に乱数を取得しないように構成されている。

【2581】

時短抽選の当落判定タイミングは、主遊技図柄の図柄変動の開始時となっており、役物連続作動装置の作動中や小当り遊技中は時短抽選の当落判定タイミングとならないように構成されている。なお、転落抽選の処理と同じ処理で時短抽選の当落判定を実行する場合であれば、大当り判定前を時短抽選の当落判定タイミングとしてもよい。

【2582】

時間短縮遊技状態の作動タイミングに関し、主遊技図柄がハズレとなる図柄変動の場合は、主遊技図柄がハズレの停止態様で変動停止した後に時間短縮遊技状態を作動させるように構成されている。時間短縮遊技状態の作動タイミングに関し、主遊技図柄が大当りとなる図柄変動の場合は、主遊技図柄が大当りの停止態様で変動停止した後であって、大当り遊技の実行後に時間短縮遊技状態を作動させるように構成されている。なお、当該図柄変動が大当りとなる図柄変動である場合は、当選した主遊技図柄毎で定められた時短回数を大当り遊技の実行後に付与するように構成されている。時間短縮遊技状態の作動タイミングに関し、主遊技図柄が小当り図柄にて停止表示された後、大入賞口を有利な状態とし得る小当り遊技を実行可能であり、大入賞口に特定領域を備えていないぱちんこ遊技機においては、小当り遊技の実行後に時間短縮遊技状態を作動させるように構成されている。時間短縮遊技状態の作動タイミングに関し、主遊技図柄が小当り図柄にて停止表示された後、大入賞口を有利な状態とし得る小当り遊技を実行可能であり、小当り遊技の実行中に特定領域に遊技球が入球した場合には、小当り遊技の終了後に大当り遊技を実行可能であるぱちんこ遊技機においては、大当り遊技の実行後に時間短縮遊技状態を作動させるように構成されている。なお、当該図柄変動が特定領域（V領域）を有する小当りの図柄の図柄変動である場合は、当選した主遊技図柄毎で定められた時短回数を小当り遊技の実行後に付与するように構成されている。

【2583】

時間短縮遊技状態の終了タイミングに関し、規定回数が定められている時間短縮遊技状態であれば、主遊技図柄の図柄変動が規定回数（例えば、100回）実行された後に、時間短縮遊技状態を終了させるように構成されている。規定回数目の主遊技図柄が停止表示し、変動固定時間（例えば、600ms）の経過後に時間短縮遊技状態を終了させるように構成してもよいし、規定回数目の主遊技図柄が停止表示されたタイミングで時間短縮遊技状態を終了させるように構成してもよいし、規定回数の次の主遊技図柄の図柄変動の開始時に時間短縮遊技状態を終了させるように構成してもよい。

【2584】

時間短縮遊技状態の終了タイミングに関し、時間短縮遊技状態中に大当りが当選した場合、主遊技図柄が大当り図柄の態様で停止表示された後であって、大当り遊技が開始される前に時間短縮遊技状態を終了させるように構成されている。大当り図柄が停止表示し、変動固定時間（例えば、600ms）の経過後に時間短縮遊技状態を終了させるように構成してもよいし、大当り図柄が停止表示されたタイミングで時間短縮遊技状態を終了させるように構成してもよいし、大当り図柄が時短図柄として当選したタイミングで時間短縮遊技状態を終了させるように構成してもよい。

【2585】

時間短縮遊技状態の終了タイミングに関し、主遊技図柄が小当り図柄にて停止表示された後、大入賞口を有利な状態とし得る小当り遊技を実行可能であり、大入賞口に特定領域を備えていないぱちんこ遊技機においては、小当り図柄が停止表示され小当り遊技が実行されても、規定回数目の主遊技図柄の図柄変動が実行されていない場合であれば、時間短縮遊技状態を継続するように構成されている。時間短縮遊技状態の終了タイミングに関し、主遊技図柄が小当り図柄にて停止表示された後、大入賞口を有利な状態とし得る小当り遊技を実行可能であり、小当り遊技の実行中に特定領域に遊技球が入球した場合には、小当り遊技の終了後に大当り遊技を実行可能であるぱちんこ遊技機においては、特定領域に

遊技球が入球したタイミングで時間短縮遊技状態を終了させるように構成されている。なお、特定領域に遊技球が入球した後の大当たり開始デモのタイミングで時間短縮遊技状態を終了させるように構成してもよい。また、特定領域に遊技球が入球しなかった場合は、規定回数の主遊技図柄の図柄変動が実行されていない場合であれば、時間短縮遊技状態を継続するように構成されている。

【2586】

時間短縮遊技状態の終了タイミングに関し、時間短縮遊技状態中に時短図柄が当選した場合、主遊技図柄が時短図柄の態様で停止表示されたタイミングで、時間短縮遊技状態の時短回数を上書き（書き換え、再設定）するように構成されている。なお、時短図柄が停止表示し、変動固定時間の経過後に時間短縮遊技状態の時短回数を上書き（書き換え、再設定）するように構成してもよいし、時短図柄抽選で時短図柄が当選したタイミングで時間短縮遊技状態の時短回数を上書き（書き換え、再設定）するように構成してもよいし、主遊技図柄の図柄変動の開始時に時間短縮遊技状態の時短回数を上書き（書き換え、再設定）するように構成してもよい。なお、時間短縮遊技状態の作動後の時短図柄による時短回数の上書き（書き換え、再設定）の可否は予め定められているように構成されていればよい。

【2587】

次に、時間短縮遊技状態を作動させる場合であって、当否抽選乱数を用いて時短抽選を実行する場合を説明するが、時短図柄抽選乱数、大当たり図柄抽選乱数、小当たり図柄抽選乱数、ハズレ図柄抽選乱数を用いる場合と異なる点のみ説明を行う。時短抽選の可否に関し、設定値を有するぱちんこ遊技機において当否抽選乱数を用いる場合は、設定によって時間短縮遊技状態の作動確率変動しないように構成されていれば、当否抽選乱数を用いて時短抽選を実行可能なように構成されている。

【2588】

次に、時間短縮遊技状態を作動させる場合であって、転落抽選判定用乱数を用いて時短抽選を実行する場合を説明する。時短抽選の可否に関し、設定値を有しないぱちんこ遊技機、設定値を有するぱちんこ遊技機で時短抽選を実行するように構成されている。設定値を有するぱちんこ遊技機において転落抽選判定用乱数を用いる場合は、設定によって時間短縮遊技状態の作動確率変動しないように構成されている。

【2589】

乱数の取得タイミングは、始動口（第1主遊技始動口A10、第2主遊技始動口B10）の入賞時となっており、当否判定時や主遊技図柄の図柄変動の開始時に乱数を取得しないように構成されている。

【2590】

時短抽選の当落判定タイミングは、主遊技図柄の図柄変動の開始時となっており、役物連続作動装置の作動中や小当たり遊技中は時短抽選の当落判定タイミングとならないように構成されている。なお、転落抽選の処理と同じ処理で時短抽選の当落判定を実行する場合であれば、大当たり判定前を時短抽選の当落判定タイミングとしてもよい。

【2591】

時間短縮遊技状態の作動タイミングに関し、主遊技図柄がハズレとなる図柄変動の場合は、主遊技図柄がハズレの停止態様で変動停止した後に時間短縮遊技状態を作動させるように構成されている。時間短縮遊技状態の作動タイミングに関し、主遊技図柄が大当たりとなる図柄変動の場合は、主遊技図柄が大当たりの停止態様で変動停止した後であって、大当たり遊技の実行後に時間短縮遊技状態を作動させるように構成されている。なお、当該図柄変動が大当たりとなる図柄変動である場合は、当選した主遊技図柄毎で定められた時短回数を大当たり遊技の実行後に付与するように構成されている。時間短縮遊技状態の作動タイミングに関し、主遊技図柄が小当たり図柄にて停止表示された後、大入賞口を有利な状態とし得る小当たり遊技を実行可能であり、大入賞口に特定領域を備えていないぱちんこ遊技機においては、小当たり遊技の実行後に時間短縮遊技状態を作動させるように構成されている。

【2592】

時間短縮遊技状態の終了タイミングに関し、規定回数が定められている時間短縮遊技状態であれば、主遊技図柄の図柄変動が規定回数（例えば、100回）実行された後に、時間短縮遊技状態を終了させるように構成されている。規定回数目の主遊技図柄が停止表示し、変動固定時間（例えば、600ms）の経過後に時間短縮遊技状態を終了させるように構成してもよいし、規定回数目の主遊技図柄が停止表示されたタイミングで時間短縮遊技状態を終了させるように構成してもよいし、規定回数の次の主遊技図柄の図柄変動の開始時に時間短縮遊技状態を終了させるように構成してもよい。

【2593】

時間短縮遊技状態の終了タイミングに関し、時間短縮遊技状態中に大当たりが当選した場合、主遊技図柄が大当たり図柄の態様で停止表示された後であって、大当たり遊技が開始される前に時間短縮遊技状態を終了させるように構成されている。大当たり図柄が停止表示し、変動固定時間（例えば、600ms）の経過後に時間短縮遊技状態を終了させるように構成してもよいし、大当たり図柄が停止表示されたタイミングで時間短縮遊技状態を終了させるように構成してもよいし、大当たり図柄が時短図柄として当選したタイミングで時間短縮遊技状態を終了させるように構成してもよい。

10

【2594】

時間短縮遊技状態の終了タイミングに関し、主遊技図柄が小当たり図柄にて停止表示された後、大入賞口を有利な状態とし得る小当たり遊技を実行可能であり、大入賞口に特定領域を備えていないぱちんこ遊技機においては、小当たり図柄が停止表示され小当たり遊技が実行されても、規定回数の主遊技図柄の図柄変動が実行されていない場合であれば、時間短縮遊技状態を継続するように構成されている。

20

【2595】

時間短縮遊技状態の終了タイミングに関し、時間短縮遊技状態中に時短図柄が当選した場合、主遊技図柄が時短図柄の態様で停止表示されたタイミングで、時間短縮遊技状態の時短回数を上書き（書き換え、再設定）するように構成されている。なお、時短図柄が停止表示し、変動固定時間の経過後に時間短縮遊技状態の時短回数を上書き（書き換え、再設定）するように構成してもよいし、時短図柄抽選で時短図柄が当選したタイミングで時間短縮遊技状態の時短回数を上書き（書き換え、再設定）するように構成してもよいし、主遊技図柄の図柄変動の開始時に時間短縮遊技状態の時短回数を上書き（書き換え、再設定）するように構成してもよい。なお、時間短縮遊技状態の作動後の時短図柄による時短回数の上書き（再設定）の可否は予め定められているように構成されていればよい。

30

【2596】

主遊技図柄毎の時短図柄の当選確率に関し、第1主遊技図柄と第2主遊技図柄とで、時短図柄の当選確率が同じとなるように構成してもよいし、時短図柄の当選確率が相違するように構成してもよい。時短図柄の当選確率が相違する場合、例えば、第1主遊技図柄の時短図柄の当選確率を1/100、第2主遊技図柄の時短図柄の当選確率を99/100等に設定する。つまり、第2主遊技図柄の時短図柄の当選確率の方が第1主遊技図柄の時短図柄の当選確率よりも高く設定することで、通常遊技状態（例えば、低確低ベース状態）において第2主遊技図柄の図柄変動が開始された場合は、大当たりか、時間短縮遊技状態に当選することを遊技者が期待するようになり、新たな遊技性を創出することが可能となる。

40

【2597】

時間短縮遊技状態とは、時短図柄が停止表示されたこと又は特定の領域へ遊技球が入球したことによって、以下のいずれか又は全ての性能を第2主遊技始動口電動役物B11dに係る第2主遊技始動口B10への入賞が容易になるように変動させることをいう。

（1）第2主遊技始動口電動役物B11dに係る第2主遊技始動口B10の開放等の時間（例えば、第2主遊技始動口電動役物の開放期間を通常遊技状態よりも長くする）

（2）第2主遊技始動口電動役物B11dに係る第2主遊技始動口B10の開放等までの時間（例えば、補助遊技図柄の図柄変動時間を通常遊技状態よりも短くする）

（3）第2主遊技始動口電動役物B11dに係る第2主遊技始動口B10の開放等の回数

50

(例えば、第2主遊技始動口電動役物の開放回数を通常遊技状態よりも多くする)

(4) 第2主遊技始動口電動役物B11dが作動することとなる図柄の組合せが表示される確率(例えば、補助遊技図柄の当選確率を通常遊技状態よりも高くする)

ただし、これらの性能に関しては、一の遊技機においては一通りまでとすることが好ましい。

【2598】

時間短縮遊技状態の作動条件に関して、以下のように構成されている。

(1) 時間短縮遊技状態の抽選確率は設定(例えば、設定値1~6)によりその確率が変動してはならない。

(2) 主遊技図柄の作動確率が低確率(低確率状態)時の場合は作動可とする。

(3) 主遊技図柄の作動確率が高確率(高確率状態)時の場合は作動不可とする。

(4-1) 時間短縮遊技状態又は大当り図柄が停止表示されたことに基づく大当り終了後に作動する時間短縮遊技状態(従来の時短状態ともいう)の作動時に時短図柄に当選した場合、新たな時間短縮遊技状態は作動しない。

(4-2) 時間短縮遊技状態又は大当り図柄が停止表示されたことに基づく大当り終了後に作動する時間短縮遊技状態(従来の時短状態)の作動時に時短図柄に当せんした場合、新たな時間短縮遊技状態が作動する。

(4-1)、(4-2)に関しては、一の遊技機においてはあらかじめ定められているように構成されている。

【2599】

図336は、時間短縮遊技状態における時短図柄の抽選を示す図である。方法Aを説明する。低確低ベース状態は、時短図柄の抽選が可能な状態となっている。低確高ベース状態、高確低ベース状態、高確高ベース状態は、時短図柄の抽選自体を行わないように構成されている。なお、低確高ベース状態、高確低ベース状態、高確高ベース状態は、時短図柄の抽選自体を実行するようにしてもよいが、このように構成する場合、時間短縮遊技状態が作動しないように構成するのが好ましい。

【2600】

方法Bを説明する。低確低ベース状態は、時短図柄の抽選が可能な状態となっている。低確高ベース状態は、時短図柄の抽選が可能な状態となっている。低確高ベース状態は、既に時間短縮遊技状態が作動している場合であるが、時短図柄に当選した場合は、新たな時間短縮遊技状態が作動し、時短回数を上書き(書き換え、再設定)するように構成されている。高確低ベース状態、高確高ベース状態は、時短図柄の抽選自体を行わないように構成されている。なお、低確高ベース状態、高確低ベース状態、高確高ベース状態は、時短図柄の抽選自体を実行するようにしてもよいが、このように構成する場合、時間短縮遊技状態が作動しないように構成するのが好ましい。方法Bに関して、時間短縮遊技状態(例えば、低確高ベース状態)中に関しては、時間短縮遊技状態中も時短抽選を行う為に、再度時短抽選で当選した場合は、時短回数を上書き(書き換え、再設定)する、または、時間短縮遊技状態中に抽選を行わないように構成されている。

【2601】

時間短縮遊技状態の作動開始契機に関して、当該抽選の結果による、時短図柄の組合せが表示された後に作動するように構成されている。ただし、当該で表示された図柄の組合せが小当り図柄を兼ねる場合は、小当り動作の終了後に作動するように構成されている。

【2602】

時間短縮遊技状態の作動終了契機に関して、以下のように構成されている。

(1) 主遊技図柄があらかじめ定められた回数変動を行なった場合。

(2) 大当りした場合(特定領域の通過による条件装置の作動によって役物連続作動装置が作動した場合又は、主遊技図柄表示装置に条件装置が作動することとなる図柄の組合せが表示された場合)。

(3) 小当り回数があらかじめ定められた回数に到達した場合(役物連続作動装置が作動せず特別電動役物が作動する回数が、あらかじめ定められた回数作動した場合)。

【2603】

図337は、ぱちんこ遊技機のタイプ別の各契機を示す図である。1種+1種タイプについて説明する。まず、1種+1種タイプは、主遊技図柄を2つ備えるぱちんこ遊技機であって、第1主遊技図柄と第2主遊技図柄のうちいずれか一方が図柄変動可能な構成である1種+1種直列タイプと、第1主遊技図柄と第2主遊技図柄とが同時に図柄変動可能な構成である1種+1種並列タイプとがある。

【2604】

時短図柄1（例えば、時短専用図柄）は、時短図柄の抽選専用の時短図柄抽選乱数を用いた主遊技図柄の抽選を実行することによって決定される主遊技図柄である。

【2605】

時短図柄抽選乱数の取得タイミングは、始動口（第1主遊技始動口A10、第2主遊技始動口B10）の入賞時となっている。

【2606】

時短図柄1（例えば、時短専用図柄）の抽選判定契機は、主遊技図柄の図柄変動の開始時となっている。

【2607】

時間短縮遊技状態の作動契機は、主遊技図柄がハズレとなる図柄変動の場合は、ハズレの停止態様での変動停止後が時間短縮遊技状態の作動契機となっている。主遊技図柄が大当たりとなる図柄変動の場合は、大当たりの停止態様での変動停止後が時間短縮遊技状態の作動契機となっている。

【2608】

時間短縮遊技状態の終了契機は、規定回数が定められている時間短縮遊技状態であれば、主遊技図柄の図柄変動の規定回数（例えば、100回）到達が、第1の時間短縮遊技状態の終了契機となっている。時間短縮遊技状態は、規定回数目の主遊技図柄が停止表示し、変動固定時間（例えば、600ms）の経過後に時間短縮遊技状態を終了させるように構成してもよいし、規定回数目の主遊技図柄が停止表示されたタイミングで時間短縮遊技状態を終了させるように構成してもよいし、規定回数の次の主遊技図柄の図柄変動の開始時に時間短縮遊技状態を終了させるように構成してもよい。

【2609】

また、時間短縮遊技状態の終了契機は、時間短縮遊技状態の作動中に大当たりが当選した場合、主遊技図柄が大当たり図柄の態様で停止表示された時が、第2の時間短縮遊技状態の終了契機となっている。そして、大当たり遊技が開始される前に時間短縮遊技状態を終了させるように構成されている。なお、大当たり図柄が停止表示し、変動固定時間（例えば、600ms）の経過後に時間短縮遊技状態を終了させるように構成してもよいし、大当たり図柄が停止表示されたタイミングで時間短縮遊技状態を終了させるように構成してもよいし、大当たり図柄が時短図柄として当選したタイミングで時間短縮遊技状態を終了させるように構成してもよい。

【2610】

時短図柄2（例えば、小当り図柄を時短図柄として併用する図柄）は、小当り図柄抽選乱数を用いた主遊技図柄の抽選を実行することによって決定される主遊技図柄である。

【2611】

小当り図柄抽選乱数の取得タイミングは、始動口（第1主遊技始動口A10、第2主遊技始動口B10）の入賞時となっている。

【2612】

時短図柄2（例えば、小当り図柄を時短図柄として併用する図柄）の抽選判定契機は、主遊技図柄の図柄変動の開始時となっている。

【2613】

時間短縮遊技状態の作動契機は、主遊技図柄が小当りとなる図柄変動の場合は、小当りの停止態様での変動停止後であって小当り遊技の実行後が時間短縮遊技状態の作動契機となっている。例えば、主遊技図柄が小当り図柄にて停止表示された後、大入賞口を有利な

10

20

30

40

50

状態とし得る小当り遊技を実行可能であり、大入賞口に特定領域を備えていないぱちんこ遊技機においては、小当り遊技の実行後に時間短縮遊技状態を作動させるように構成されている。

【2614】

時間短縮遊技状態の終了契機は、規定回数が定められている時間短縮遊技状態であれば、主遊技図柄の図柄変動の規定回数（例えば、100回）到達が、第1の時間短縮遊技状態の終了契機となっている。時間短縮遊技状態は、規定回数目の主遊技図柄が停止表示し、変動固定時間（例えば、600ms）の経過後に時間短縮遊技状態を終了させるように構成してもよいし、規定回数目の主遊技図柄が停止表示されたタイミングで時間短縮遊技状態を終了させるように構成してもよいし、規定回数の次の主遊技図柄の図柄変動の開始時に時間短縮遊技状態を終了させるように構成してもよい。

10

【2615】

また、時間短縮遊技状態の終了契機は、時間短縮遊技状態の作動中に大当りが当選した場合、主遊技図柄が大当り図柄の態様で停止表示された時が、第2の時間短縮遊技状態の終了契機となっている。そして、大当り遊技が開始される前に時間短縮遊技状態を終了させるように構成されている。なお、大当り図柄が停止表示し、変動固定時間（例えば、600ms）の経過後に時間短縮遊技状態を終了させるように構成してもよいし、大当り図柄が停止表示されたタイミングで時間短縮遊技状態を終了させるように構成してもよいし、大当り図柄が時短図柄として当選したタイミングで時間短縮遊技状態を終了させるように構成してもよい。ここまで、1種+1種タイプの各契機を説明したが、主遊技図柄を1つ備える1種のぱちんこ遊技機にも適用可能である。

20

【2616】

次に、1種+小当りVタイプについて説明する。まず、1種+小当りVタイプは、主遊技図柄を2つ備えるぱちんこ遊技機であって、主遊技図柄（第1主遊技図柄、第2主遊技図柄）が小当り図柄にて停止表示された後、大入賞口を有利な状態とし得る小当り遊技を実行可能であり、小当り遊技の実行中に特定領域に遊技球が入球した場合には、小当り遊技の終了後に大当り遊技を実行可能であるぱちんこ遊技機である。

【2617】

時短図柄1（例えば、時短専用図柄）は、時短図柄の抽選専用の時短図柄抽選乱数を用いた主遊技図柄の抽選を実行することによって決定される主遊技図柄である。

30

【2618】

時短図柄抽選乱数の取得タイミングは、始動口（第1主遊技始動口A10、第2主遊技始動口B10）の入賞時となっている。

【2619】

時短図柄1（例えば、時短専用図柄）の抽選判定契機は、主遊技図柄の図柄変動の開始時となっている。

【2620】

時間短縮遊技状態の作動契機は、主遊技図柄がハズレとなる図柄変動の場合は、ハズレの停止態様での変動停止後が時間短縮遊技状態の作動契機となっている。主遊技図柄が大当りとなる図柄変動の場合は、大当りの停止態様での変動停止後が時間短縮遊技状態の作動契機となっている。

40

【2621】

時間短縮遊技状態の終了契機は、規定回数が定められている時間短縮遊技状態であれば、主遊技図柄の図柄変動の規定回数（例えば、100回）到達が、第1の時間短縮遊技状態の終了契機となっている。時間短縮遊技状態は、規定回数目の主遊技図柄が停止表示し、変動固定時間（例えば、600ms）の経過後に時間短縮遊技状態を終了させるように構成してもよいし、規定回数目の主遊技図柄が停止表示されたタイミングで時間短縮遊技状態を終了させるように構成してもよいし、規定回数の次の主遊技図柄の図柄変動の開始時に時間短縮遊技状態を終了させるように構成してもよい。

【2622】

50

時間短縮遊技状態の終了契機は、時間短縮遊技状態の作動中に大当たりが当選した場合、主遊技図柄が大当たり図柄の態様で停止表示された時が、第2の時間短縮遊技状態の終了契機となっている。そして、大当たり遊技が開始される前に時間短縮遊技状態を終了させるように構成されている。なお、大当たり図柄が停止表示し、変動固定時間（例えば、600ms）の経過後に時間短縮遊技状態を終了させるように構成してもよいし、大当たり図柄が停止表示されたタイミングで時間短縮遊技状態を終了させるように構成してもよいし、大当たり図柄が時短図柄として当選したタイミングで時間短縮遊技状態を終了させるように構成してもよい。

【2623】

時間短縮遊技状態の終了契機は、時間短縮遊技状態の作動中に小当たりが当選した場合、主遊技図柄が小当たり図柄の態様で停止表示された時が、第3の時間短縮遊技状態の終了契機となっている。また、時間短縮遊技状態の終了契機は、特定領域に遊技球が入球した時が、第3の時間短縮遊技状態の終了契機となっている。なお、時間短縮遊技状態の終了契機は、主遊技図柄が小当たり図柄の態様で停止表示された場合、且つ、特定領域に遊技球が入球した時を、第3の時間短縮遊技状態の終了契機としてもよい。特定領域に遊技球が入球しなかった場合は、規定回数の主遊技図柄の図柄変動が実行されていない場合であれば、時間短縮遊技状態を継続するように構成されている。

【2624】

時短図柄2（例えば、小当たり図柄を時短図柄として併用する図柄）は、小当たり図柄抽選乱数を用いた主遊技図柄の抽選を実行することによって決定される主遊技図柄である。

【2625】

小当たり図柄抽選乱数の取得タイミングは、始動口（第1主遊技始動口A10、第2主遊技始動口B10）の入賞時となっている。

【2626】

時短図柄2（例えば、小当たり図柄を時短図柄として併用する図柄）の抽選判定契機は、主遊技図柄の図柄変動の開始時となっている。

【2627】

時間短縮遊技状態の作動契機は、主遊技図柄が小当たりとなる図柄変動の場合は、小当たりの停止態様での変動停止後であって小当たり遊技の実行後が時間短縮遊技状態の作動契機となっている。例えば、主遊技図柄が小当たり図柄にて停止表示された後、大入賞口を有利な状態とし得る小当たり遊技を実行可能であり、大入賞口に特定領域を備えていないぱちんこ遊技機においては、小当たり遊技の実行後に時間短縮遊技状態を作動させるように構成されている。なお、大入賞口に特定領域を備えるぱちんこ遊技機においては、特定領域への遊技球の通過に基づき実行される大当たり遊技の終了後に時間短縮遊技状態を作動させるため、特定領域の通過時は時間短縮遊技状態を作動させないように構成されている。

【2628】

時間短縮遊技状態の終了契機は、規定回数が定められている時間短縮遊技状態であれば、主遊技図柄の図柄変動の規定回数（例えば、100回）到達が、第1の時間短縮遊技状態の終了契機となっている。時間短縮遊技状態は、規定回数目の主遊技図柄が停止表示し、変動固定時間（例えば、600ms）の経過後に時間短縮遊技状態を終了させるように構成してもよいし、規定回数目の主遊技図柄が停止表示されたタイミングで時間短縮遊技状態を終了させるように構成してもよいし、規定回数の次の主遊技図柄の図柄変動の開始時に時間短縮遊技状態を終了させるように構成してもよい。

【2629】

また、時間短縮遊技状態の終了契機は、時間短縮遊技状態の作動中に大当たりが当選した場合、主遊技図柄が大当たり図柄の態様で停止表示された時が、第2の時間短縮遊技状態の終了契機となっている。そして、大当たり遊技が開始される前に時間短縮遊技状態を終了させるように構成されている。なお、大当たり図柄が停止表示し、変動固定時間（例えば、600ms）の経過後に時間短縮遊技状態を終了させるように構成してもよいし、大当たり図柄が停止表示されたタイミングで時間短縮遊技状態を終了させるように構成してもよいし

、大当り図柄が時短図柄として当選したタイミングで時間短縮遊技状態を終了させるように構成してもよい。ここまで、1種+1種タイプの各契機を説明したが、主遊技図柄を1つ備える1種のぱちんこ遊技機にも適用可能である。

【2630】

時間短縮遊技状態の終了契機は、時間短縮遊技状態の作動中に小当りが当選した場合、主遊技図柄が小当り図柄の態様で停止表示された時が、第3の時間短縮遊技状態の終了契機となっている。また、時間短縮遊技状態の終了契機は、特定領域に遊技球が入球した時が、第3の時間短縮遊技状態の終了契機となっている。なお、時間短縮遊技状態の終了契機は、主遊技図柄が小当り図柄の態様で停止表示された場合、且つ、特定領域に遊技球が入球した時を、第3の時間短縮遊技状態の終了契機としてもよい。特定領域に遊技球が入球しなかった場合は、規定回数の主遊技図柄の図柄変動が実行されていない場合であれば、時間短縮遊技状態を継続するように構成されている。ここまで、主遊技図柄を2つ備える1種+小当りVタイプの各契機を説明したが、主遊技図柄を1つ備える小当りVタイプのぱちんこ遊技機にも適用可能である。

10

【2631】

転落タイプについて説明する。まず、転落タイプは、主遊技図柄の図柄変動の度に所定確率で高確率遊技状態や時間短縮遊技状態から通常遊技状態への移行抽選を行う機能を有するぱちんこ遊技機である。主遊技図柄を1つ備えている転落タイプでもよいし、主遊技図柄を2つ備える転落タイプでもよい。

20

【2632】

時短図柄1（例えば、時短専用図柄）は、転落抽選判定用乱数を用いた主遊技図柄の抽選を実行することによって決定される主遊技図柄である。

【2633】

転落抽選判定用乱数の取得タイミングは、始動口（第1主遊技始動口A10、第2主遊技始動口B10）の入賞時となっている。

【2634】

時短図柄1（例えば、時短専用図柄）の抽選判定契機は、主遊技図柄の図柄変動の開始時となっている。なお、転落抽選後を時短図柄1（例えば、時短専用図柄）の抽選判定契機としてもよいし、転落抽選後であって、主遊技図柄の図柄変動の開始時を時短図柄1（例えば、時短専用図柄）の抽選判定契機としてもよい。

30

【2635】

時間短縮遊技状態の作動契機は、主遊技図柄がハズレとなる図柄変動の場合は、ハズレの停止態様での変動停止後が時間短縮遊技状態の作動契機となっている。主遊技図柄が大当りとなる図柄変動の場合は、大当りの停止態様での変動停止後が時間短縮遊技状態の作動契機となっている。

【2636】

時間短縮遊技状態の終了契機は、規定回数が定められている時間短縮遊技状態であれば、主遊技図柄の図柄変動の規定回数（例えば、100回）到達が、第1の時間短縮遊技状態の終了契機となっている。時間短縮遊技状態は、規定回数目の主遊技図柄が停止表示し、変動固定時間（例えば、600ms）の経過後に時間短縮遊技状態を終了させるように構成してもよいし、規定回数目の主遊技図柄が停止表示されたタイミングで時間短縮遊技状態を終了させるように構成してもよいし、規定回数の次の主遊技図柄の図柄変動の開始時に時間短縮遊技状態を終了させるように構成してもよい。

40

【2637】

また、時間短縮遊技状態の終了契機は、時間短縮遊技状態の作動中に大当りが当選した場合、主遊技図柄が大当り図柄の態様で停止表示された時が、第2の時間短縮遊技状態の終了契機となっている。そして、大当り遊技が開始される前に時間短縮遊技状態を終了させるように構成されている。なお、大当り図柄が停止表示し、変動固定時間（例えば、600ms）の経過後に時間短縮遊技状態を終了させるように構成してもよいし、大当り図柄が停止表示されたタイミングで時間短縮遊技状態を終了させるように構成してもよいし

50

、大当り図柄が時短図柄として当選したタイミングで時間短縮遊技状態を終了させるように構成してもよい。

【2638】

時短図柄2（例えば、小当り図柄を時短図柄として併用する図柄）は、小当り図柄抽選乱数を用いた主遊技図柄の抽選を実行することによって決定される主遊技図柄である。

【2639】

小当り図柄抽選乱数の取得タイミングは、始動口（第1主遊技始動口A10、第2主遊技始動口B10）の入賞時となっている。

【2640】

時短図柄2（例えば、小当り図柄を時短図柄として併用する図柄）の抽選判定契機は、主遊技図柄の図柄変動の開始時となっている。なお、転落抽選後を時短図柄1（例えば、時短専用図柄）の抽選判定契機としてもよいし、転落抽選後であって、主遊技図柄の図柄変動の開始時を時短図柄1（例えば、時短専用図柄）の抽選判定契機としてもよい。

【2641】

時間短縮遊技状態の作動契機は、主遊技図柄が小当りとなる図柄変動の場合は、小当りの停止態様での変動停止後であって小当り遊技の実行後が時間短縮遊技状態の作動契機となっている。例えば、主遊技図柄が小当り図柄にて停止表示された後、大入賞口を有利な状態とし得る小当り遊技を実行可能であり、大入賞口に特定領域を備えていないぱちんこ遊技機においては、小当り遊技の実行後に時間短縮遊技状態を作動させるように構成されている。

【2642】

時間短縮遊技状態の終了契機は、規定回数が定められている時間短縮遊技状態であれば、主遊技図柄の図柄変動の規定回数（例えば、100回）到達が、第1の時間短縮遊技状態の終了契機となっている。時間短縮遊技状態は、規定回数目の主遊技図柄が停止表示し、変動固定時間（例えば、600ms）の経過後に時間短縮遊技状態を終了させるように構成してもよいし、規定回数目の主遊技図柄が停止表示されたタイミングで時間短縮遊技状態を終了させるように構成してもよいし、規定回数の次の主遊技図柄の図柄変動の開始時に時間短縮遊技状態を終了させるように構成してもよい。

【2643】

また、時間短縮遊技状態の終了契機は、時間短縮遊技状態の作動中に大当りが当選した場合、主遊技図柄が大当り図柄の態様で停止表示された時が、第2の時間短縮遊技状態の終了契機となっている。そして、大当り遊技が開始される前に時間短縮遊技状態を終了させるように構成されている。なお、大当り図柄が停止表示し、変動固定時間（例えば、600ms）の経過後に時間短縮遊技状態を終了させるように構成してもよいし、大当り図柄が停止表示されたタイミングで時間短縮遊技状態を終了させるように構成してもよいし、大当り図柄が時短図柄として当選したタイミングで時間短縮遊技状態を終了させるように構成してもよい。

【2644】

図338は、小当り図柄と時短図柄の関係性を示す図である。主遊技図柄が小当り図柄にて停止表示された後、第1大入賞口C10を有利な状態とし得る小当り遊技を実行可能であり、小当り遊技の実行中に特定領域に遊技球が入球した場合には、小当り遊技の終了後に特別遊技を実行可能であるぱちんこ遊技機において小当り図柄A～Dは、以下のように構成されている。

【2645】

小当り図柄Aは、時短図柄と兼用していない図柄（小当り図柄Aを時短図柄として併用していない図柄）である。主遊技図柄の決定処理で小当り図柄Aが決定され、小当り図柄Aにて停止表示された後、特定領域に遊技球が入球した場合には、特定領域への遊技球の入球に基づき、特定領域への遊技球の入球後に時間短縮遊技状態を作動させるように構成されている。なお、時短回数は、特定領域への遊技球の入球の時に決定されるように構成されている。一方、主遊技図柄の決定処理で小当り図柄Aが決定され、小当り図柄Aにて

10

20

30

40

50

停止表示された後、特定領域に遊技球が入球しなかった場合には、時間短縮遊技状態を作動させないように構成されている。つまり、時短図柄 A は、特定領域への遊技球の入球の有無に応じて、時間短縮遊技状態の作動の有無を決定するように構成されている。

【2646】

小当り図柄 B は、時短図柄と兼用していない図柄（小当り図柄 B を時短図柄として併用していない図柄）である。主遊技図柄の決定処理で小当り図柄 B が決定され、小当り図柄 B にて停止表示された後、特定領域に遊技球が入球した場合には、特定領域への遊技球の入球後に時間短縮遊技状態を作動させないように構成されている。また、主遊技図柄の決定処理で小当り図柄 B が決定され、小当り図柄 B にて停止表示された後、特定領域に遊技球が入球しなかった場合も、時間短縮遊技状態を作動させないように構成されている。つまり、時短図柄 B は、特定領域への遊技球の入球の有無に関わらず、時間短縮遊技状態が作動しないように構成されている。

10

【2647】

小当り図柄 C は、時短図柄と兼用する図柄（小当り図柄 C を時短図柄として併用する図柄）である。主遊技図柄の決定処理で小当り図柄 C が決定され、小当り図柄 C にて停止表示された後の小当り遊技において、特定領域に遊技球が入球した場合には、特定領域への遊技球の入球に基づき、特定領域への遊技球の入球後（例えば、特定領域への入球に基づく大当り遊技終了後）に時間短縮遊技状態を作動させるように構成されている。なお、時短回数は、特定領域への遊技球の入球の時に決定されるように構成されている。一方、主遊技図柄の決定処理で小当り図柄 C が決定され、小当り図柄 C にて停止表示された後、特定領域に遊技球が入球しなかった場合であっても、小当り図柄 C が停止表示された後（例えば、小当り遊技の大入賞口の開放動作の終了後、大入賞口内へ入球した全ての遊技球が特定領域へ通過していないことを判断した後、大入賞口内へ入球した遊技球が全て一般領域の通過を検出した後、小当り遊技の大入賞口が閉鎖したタイミングから所定時間後、小当り遊技の終了デモ時間の経過後、小当り遊技の大入賞口の開放動作の終了後の排出待ち期間（排出待機時間）の経過後）に時間短縮遊技状態を作動させるように構成されている。なお、時短回数は、小当り図柄 C が停止表示された時に決定されるように構成されている。つまり、時短図柄 C は、特定領域への遊技球の入球の有無に応じて、時間短縮遊技状態の作動の有無を決定するように構成されているとともに、時短図柄 C が停止表示されたか否かに応じて、時間短縮遊技状態の作動の有無を決定するように構成されている。

20

30

【2648】

小当り図柄 D は、時短図柄と兼用する図柄（小当り図柄 D を時短図柄として併用する図柄）である。主遊技図柄の決定処理で小当り図柄 D が決定され、小当り図柄 D にて停止表示された後の小当り遊技において、特定領域に遊技球が入球した場合には、特定領域への遊技球の入球後に時間短縮遊技状態を作動させないように構成されている。一方、主遊技図柄の決定処理で小当り図柄 D が決定され、小当り図柄 D にて停止表示された後、特定領域に遊技球が入球しなかった場合は、小当り図柄 D が停止表示された後（例えば、小当り遊技の大入賞口の開放動作の終了後、大入賞口内へ入球した全ての遊技球が特定領域へ通過していないことを判断した後、大入賞口内へ入球した遊技球が全て一般領域の通過を検出した後、小当り遊技の大入賞口が閉鎖したタイミングから所定時間後、小当り遊技の終了デモ時間の経過後、小当り遊技の大入賞口の開放動作の終了後の排出待ち期間（排出待機時間）の経過後）に時間短縮遊技状態を作動させるように構成されている。なお、時短回数は、小当り図柄 D が停止表示された時に決定されるように構成されている。つまり、時短図柄 D は、特定領域への遊技球の入球しなかった場合であり、時短図柄 D が停止表示された場合に応じて、時間短縮遊技状態の作動の有無を決定するように構成されている。

40

【2649】

図339は、時短回数の抽選方式を示す図である。時短図柄の抽選に関して、時短図柄に係る抽選は当否抽選乱数を参照して行なうように構成されている。時短図柄に係る時間短縮遊技状態の作動回数は、以下のいずれかの方法で決定するように構成されている。

（1）当否抽選乱数による抽選時に作動回数別で時短図柄をあらかじめ定めておく方法（

50

図 3 3 9 (a) の方法)。

(2) 時短図柄当選後に別の抽選で作動回数を決定する方法 (図 3 3 9 (b) の方法)。

【2 6 5 0】

図 3 3 9 (a) の方法は、当否抽選乱数による抽選時に作動回数別で時短図柄をあらかじめ定めておく場合の方法である。この方法では、大当り、小当り、時短回数が 1 0 0 回の時短図柄 A、時短回数が 5 0 回の時短図柄 B、ハズレを所定値 (所定の置数) で設定し、当否抽選乱数による抽選時に大当り、小当り、時短回数が 1 0 0 回の時短図柄 A、時短回数が 5 0 回の時短図柄 B、ハズレを決定するように構成されている。この方法では、1 回の抽選によって、時短図柄および時短回数を決定するように構成されている。

【2 6 5 1】

図 3 3 9 (b) の方法は、時短図柄当選後に別の抽選で作動回数を決定する方法である。この方法では、大当り、小当り、時短図柄、ハズレを所定値 (所定の置数) で設定し、当否抽選乱数による抽選時に大当り、小当り、時短図柄、ハズレを決定するように構成されている。そして、この抽選によって、時短図柄が決定された場合において、別の抽選で時短回数を決定するように構成されている。大当り、小当り、ハズレが決定された場合であっても、別の抽選で時短回数を決定するように構成してもよい。別の抽選では、例えば、時短回数が 1 0 0 回と時短回数が 5 0 回を所定値 (所定の置数) で設定し、抽選によって、1 0 0 回、5 0 回のいずれかが決定されるように構成されている。つまり、この方法では、2 回の抽選によって、時短図柄および時短回数を決定するように構成されている。

【2 6 5 2】

設定変更装置を有する遊技機 (設定値を有するぱちんこ遊技機) において、時短図柄 {時短専用図柄、ハズレ図柄 (ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合)、小当り図柄 (小当り図柄を時短図柄として併用する場合)、大当り図柄} を設けた場合に、設定ごとに時短図柄の出現率は異なっていないように構成されている。

【2 6 5 3】

時短図柄の抽選方法は、当否抽選乱数のみで時間短縮遊技状態の作動の当選と時短図柄を決める第 1 の方法、当否抽選乱数と図柄抽選乱数とで時間短縮遊技状態の作動の当選と時短図柄を決める第 2 の方法、の 2 パターンのうちいずれかの方法を用いるのが好ましい。

【2 6 5 4】

第 1 主遊技図柄と第 2 主遊技図柄とで時短図柄の当選確率が異なっても良い。

【2 6 5 5】

時短図柄と遊技状態にて時短回数を決めるように構成されている。

【2 6 5 6】

小当り図柄と時短図柄の関係性は図 3 3 8 の通りに構成されている。

【2 6 5 7】

時間短縮遊技状態の作動中に時短図柄に当選した場合、時短回数を上書きしても良い。

【2 6 5 8】

時間短縮遊技状態の作動中に時短図柄に当選した場合、時短回数を上書きしなくても良い。

【2 6 5 9】

時短図柄の停止時に時間短縮遊技状態の作動を開始するタイミングは図 3 3 7 の通りで良い。

【2 6 6 0】

時短図柄が停止表示することに基づき作動する時間短縮遊技状態において、補助遊技図柄の図柄変動時間は 0 . 5 秒の 1 パターン (例えば、パターン 1 として、0 . 2 秒開放→0 . 2 秒閉鎖→0 . 2 秒開放→3 . 0 秒閉鎖→4 . 0 秒開放→閉鎖) とし、第 2 主遊技始動口電動役物 B 1 1 d に係る第 2 主遊技始動口 B 1 0 の開放パターンも 1 パターンとするのが好適であるが、停止表示する時短図柄によって、補助遊技図柄の図柄変動時間と、第 2 主遊技始動口電動役物 B 1 1 d に係る第 2 主遊技始動口 B 1 0 の開放パターンとを決定するように構成してもよい。例えば、時短図柄 A の場合は、補助遊技図柄の図柄変動時間

10

20

30

40

50

を2パターン、第2主遊技始動口電動役物B11dに係る第2主遊技始動口B10の開放パターンを2パターンとして、抽選によって図柄変動時間と開放パターンを決定するように構成してもよく、時短図柄Bの場合は、補助遊技図柄の図柄変動時間を3パターン、第2主遊技始動口電動役物B11dに係る第2主遊技始動口B10の開放パターンを3パターンとして、抽選によって図柄変動時間と開放パターンを決定するように構成してもよい。
【2661】

また、主遊技図柄の変動パターンの選択テーブルが遊技図柄の変動パターンの選択テーブル（例えば、限定頻度テーブル）の選択のシナリオに基づき他の選択テーブルに変更されることに応じて使用する補助遊技図柄の図柄変動時間と第2主遊技始動口電動役物B11dに係る第2主遊技始動口B10の開放パターンを変更するように構成してもよい。例えば、主遊技図柄の変動パターンの選択テーブル1を使用している状態においては、補助遊技図柄の図柄変動時間は0.5秒、第2主遊技始動口電動役物B11dに係る第2主遊技始動口B10の開放パターンを開放パターン1とし、主遊技図柄の変動パターンの選択テーブル2を使用している状態においては、補助遊技図柄の図柄変動時間は0.51秒、第2主遊技始動口電動役物B11dに係る第2主遊技始動口B10の開放パターンを開放パターン2（例えば、3.0秒開放→0.2秒閉鎖→0.2秒開放→0.2秒閉鎖→0.2秒開放→閉鎖）とする。

【2662】

なお、時短図柄として時短回数が0回以外の回数の時間短縮遊技状態を作動させる時短専用図柄、ハズレ図柄（ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合）、小当り図柄（小当り図柄を時短図柄として併用する場合）、大当り図柄を用いて説明してきたが、時短図柄として時短回数が0回の時短専用図柄として読み替えてもよいし、時短図柄として時短回数が0回のハズレ図柄（ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合）として読み替えてもよいし、時短図柄として時短回数が0回の小当り図柄（小当り図柄を時短図柄として併用する場合）として読み替えてもよいし、時短図柄として時短回数が0回の大当り図柄として読み替えてもよい。

【2663】

<時短の種類>

また、本実施形態では、条件装置が作動せずに、主遊技図柄（「主遊技図柄」には、第1主遊技図柄と第2主遊技図柄とがある）が予め定められた特定の図柄の組合せ（以下、時短図柄ともいう）としての時短専用図柄、ハズレ図柄（ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合）、小当り図柄（小当り図柄を時短図柄として併用する場合）、大当り図柄で停止表示された場合、時短図柄が停止表示されたことに基づいて時間短縮遊技状態（以下、時短C：時短図柄を契機とした時短）を作動させる例を示してきたが、主遊技図柄（第1主遊技図柄、第2主遊技図柄）が大当り図柄で停止表示された場合、その後に実行される特別遊技（大当り遊技）の終了後に、停止表示された大当り図柄に基づいて時間短縮遊技状態（以下、時短A：特別遊技を実行することとなった大当り図柄や小当り図柄の特別図柄を契機とした時短）を作動させても良く、また、条件装置の作動に係る抽選回数（作動回数）が予め定められた回数（以下、作動回数n）となったことに基づいて時間短縮遊技状態（以下、時短B：主遊技図柄の作動回数を契機とした時短）を作動させても良い。

【2664】

時短A、時短B、時短Cは、通常遊技状態（低確低ベース状態）に対して以下のように構成されている。

（1）補助遊技図柄の当選確率を変更（例えば、第2主遊技始動口電動役物の開放当選確率を高くする）する遊技状態である。

（2）第2主遊技始動口電動役物の開放態様を変更（例えば、第2主遊技始動口電動役物の開放期間を長くする）する遊技状態である。

（3）補助遊技図柄の変動態様（変動時間）を変更（第2主遊技始動口電動役物の開放抽選の結果報知の時間を短くする）する遊技状態である。

時短A、時短B、時短Cは、（1）～（3）のすべてを有効とする遊技状態又は少なくとも

10

20

30

40

50

も1つを有効とする遊技状態に構成されている。

【2665】

時短A、時短B、時短Cは、各時短同士が同じ遊技状態であっても良いし、異なる遊技状態であっても良い。例えば、(1)について、時短A、時短B、時短Cで補助遊技図柄の当選確率を同じに構成しても良いし、各々異なるように構成しても良い。また、(2)について、時短A、時短B、時短Cで第2主遊技始動口電動役物の開放態様を同じに構成しても良いし、各々異なるように構成しても良い。また、(3)について、時短A、時短B、時短Cで補助遊技図柄の変動態様(変動時間)を同じに構成しても良いし、各々異なるように構成しても良い。また、時短Aと時短Bが同じ遊技状態で時短Cが異なる遊技状態となっても良いし、時短Aと時短Cが同じ遊技状態で時短Bが異なる遊技状態となっても良いし、時短Bと時短Cが同じ遊技状態で時短Aが異なる遊技状態となっても良い。なお、時短A、時短B、時短Cは、高確率状態かつ時短A、高確率状態かつ時短B、高確率状態かつ時短Cであっても良いし、低確率状態かつ時短A、高確率状態かつ時短B、高確率状態かつ時短Cであっても良い。

10

【2666】

<時短回数N>

時短A、時短B、時短Cは、時間短縮遊技状態が作動してから予め定められた回数(時短回数N)だけ時間短縮遊技状態を作動させるように構成されている。時短Aは、大当たり図柄と遊技状態に基づいて時短回数Nを決定するように構成されている。なお、大当たり確率は、 $1/320$ よりも大きいことが好ましいが、 $1/320$ よりも小さく設定されていても良い。

20

【2667】

時短Bは、低確率状態において、主遊技図柄の作動回数が予め定められた作動回数nとなったことに基づいて、時短回数Nを決定するように構成されている。なお、低確率状態(細分化すると、低確低ベース状態、低確高ベース状態)ではなく、高確率状態(細分化すると、高確低ベース状態、高確高ベース状態)の遊技状態で主遊技図柄の作動回数が予め定められた作動回数nとなったことに基づいて、時短回数Nを決定するように構成しても良い。また、主遊技図柄の作動回数が作動回数nとなった場合に時短Bフラグをオンにするように構成しても良い。また、時短Bが作動するタイミングと時短Cが作動するタイミングとが重複した場合や、時短Bが作動している状態で時短Cが作動した場合や、時短Cが作動している状態で時短Bが作動(作動回数nに到達)した場合は、時短Bフラグを確認して優先度を決定するように構成しても良い。この場合、時短Bを優先させるか時短Cを優先させるかは遊技性に依じて適宜設計することができる。また、時短Bフラグのクリアタイミングは、条件装置の作動または低確低ベース状態に遊技状態が移行したタイミングで時短Bフラグをクリアするように構成されている。

30

【2668】

時短Cは、時短図柄と遊技状態に基づいて時短回数Nを決定するように構成されている。なお、時短図柄に当選した場合、時短回数抽選によって時短回数Nを決定してもよいし、遊技球が通過する時短領域やV領域への遊技球の入球に基づき付与される時短回数Nを決定しても良い。また、時短Aが作動中であることを示す時短Aフラグ、時短Bが作動中であることを示す時短B作動中フラグ、時短Cが作動中であることを示す時短Cフラグを設けても良い。なお、時短B作動中フラグではなく、時短Bフラグによって時短Bが作動中であることを示すように構成しても良い。

40

【2669】

<時短回数Nの最大回数>

大当たり確率が変動するぱちんこ遊技機であって、高い方の大当たり確率(高確率状態における大当たり確率)をMH、低い方の大当たり確率(低確率状態における大当たり確率)をMLとするぱちんこ遊技機において、時短Bの時短回数Nの最大回数は、 $1/(ML)$ の3.8倍以下になるように設定する。例えば、 $ML = 1/100$ であれば、380回以下に設定する。時短Cの時短回数Nの最大回数は、 $1/(ML)$ の3.8倍以下になるように設

50

定する。例えば、 $ML = 1 / 100$ であれば、380回以下に設定する。なお、大当たり確率が存在しないぱちんこ遊技機においては、時短Cの最大回数を100回以下に設定する。時短Aの時短回数Nの最大回数は、時短Bが作動する作動回数n未満に設定する。つまり、 $N < n$ となるように設定するように構成されており、時短Aと時短Bとが重ならないように設定されている。このように設定することによって、大当たり遊技後の時短回数N回（例えば、100回）の時短A中に作動回数n回（例えば、150回）に到達することがないため、時短Aの実行中に時短Bが開始されることがないので、時短が継続することで遊技者に有利になり過ぎてしまう事態を防止することができるとともに、時短Aが終了してから新たな時短である時短Bを実行可能なため、遊技者に対して適度なサポート状態を提供することができる。

10

【2670】

<時短Cの確率>

時短Cの確率（時短図柄の当選確率）は、 ML の $1 / 3$ 以上に設定する。例えば、 $ML = 1 / 100$ であれば、時短Cの確率は、 $1 / 100 \times 1 / 3$ となり、結果 $1 / 300$ 以上となる。

【2671】

<作動回数n>

次に、作動回数nについて説明する。作動回数nは、時短Bの作動契機である主遊技図柄の作動回数（変動回数）である。作動回数nは、主遊技図柄の大当たり確率が低確率状態の大当たり確率 $ML = 1 / P$ に対して、以下のように構成している。

20

$$2.5 \times P \leq n \leq 3.0 \times P$$

なお、設定（例えば、設定1～6）を有する設定付きぱちんこ遊技機においては、設定毎にnを満足するように構成されている。

【2672】

時短Bの作動契機である主遊技図柄の作動回数nは、設定毎（設定1、2、3、4、5、6毎）に予め定められた回数となるように設定されている。なお、予め定められた回数は、設定毎に1種類のみ設定されるように構成されているが、設定毎に複数種類設けるように設定しても良い。例えば、設定毎に1種類のみ設定される場合、以下のように設定されている。

設定1： $ML = 1 / 100$ （ $P = 100$ ）、 $250 \leq n \leq 300$

30

設定2： $ML = 1 / 90$ （ $P = 90$ ）、 $225 \leq n \leq 270$

設定3： $ML = 1 / 80$ （ $P = 80$ ）、 $200 \leq n \leq 240$

設定4： $ML = 1 / 70$ （ $P = 70$ ）、 $175 \leq n \leq 210$

設定5： $ML = 1 / 60$ （ $P = 60$ ）、 $150 \leq n \leq 180$

設定6： $ML = 1 / 50$ （ $P = 50$ ）、 $125 \leq n \leq 150$

このように構成することによって、時短Bが作動する天井回数としての作動回数nが異なるように設定されているので、設定値の示唆を演出によって実行することができる。また、設定が奇数の設定1、3、5で共通の作動回数n（例えば、501）とし、偶数の設定の設定2、4、6でも共通の作動回数n（例えば、500）として、奇数の設定と偶数の設定の作動回数nを異なるように設定して、設定値の示唆の演出を実行するように構成しても良い。また、低い設定1、2、3で共通の作動回数n（例えば、457）とし、高い設定4、5、6でも共通の作動回数n（例えば、456）として、低い設定と高い設定の作動回数nを異なるように設定して、設定値の示唆の演出を実行するように構成しても良い。また、設定1～5で共通の作動回数n（例えば、667）とし、設定6のみ異なる作動回数n（例えば、666）となるように設定して、最高設定の設定6のみが特別の設定値であることを示唆する演出を実行するように構成しても良い。

40

【2673】

一方、時短Bの作動契機である主遊技図柄の作動回数nを設定値（設定1、2、3、4、5、6）に係わらず1種類のみ設定するようにしてもよい。その場合には、最も大当たりの確率が低い設定において「 $2.5 \times P \leq n \leq 3.0 \times P$ 」に収まる値に設定するように

50

してもよいし、全ての設定値において「 $2.5 \times P \leq n \leq 3.0 \times P$ 」に収まる値に設定するようにしてもよい。後者の場合、具体的に、天井回数として作動回数 $n = 750$ を設定した場合、 ML は 300 ($2.5 \times P$ (300) $= 750$) から 250 ($3.0 \times P$ (250) $= 750$) の範囲で設定する。例えば、複数の設定を設ける際には、設定 $1 = 1 / 300$ 、設定 $2 = 1 / 290$ 、設定 $3 = 1 / 280$ 、設定 $4 = 1 / 270$ 、設定 $5 = 1 / 260$ 、設定 $6 = 1 / 250$ のように設定することで、全ての設定値における天井回数としての作動回数 $n = 750$ が「 $2.5 \times P \leq n \leq 3.0 \times P$ 」に収まる値に設定することができる。設定機能は大当り確率以外の性能を変動させることによって、遊技者に不利益を与えてしまう可能性があるため、設定毎に時短回数 n の値を一定に構成している。このように構成することで、天井回数によって設定値が遊技者に発覚されることを防止することができるとともに、設定値に係わらず一定の救済措置を遊技者に提供することができる。

10

【2674】

作動回数 n は、主遊技図柄の大当り確率が低確率状態の際に常に加算（カウントアップ）を行い、主遊技図柄の大当り確率が高確率状態の際には、加算は行わないように構成されている。主遊技図柄の大当り確率が低確率状態であれば、時短 A ～ C の作動の有無に関わらず作動回数 n を加算するように構成されている。なお、高確率状態においても加算を行うように構成しても良い。また、作動回数 n は、遊技状態に関わらず常に加算するように構成しても良い。また、加算する例を示したが、作動回数 n を設定し、 n から減算（カウントダウン）するように構成しても良い。

20

【2675】

作動回数 n の加算または減算の条件を満足するタイミングは、変動開始時、変動終了時、変動停止時 {変動固定時間経過（例えば、 500ms ）時} のいずれかとなっている。なお、変動終了時から変動固定時間経過時までの期間（変動固定時間中）を、作動回数 n の加算または減算の条件を満足するタイミングとしても良い。例えば、第 1 主遊技図柄と第 2 主遊技図柄とが同時に図柄変動（同時変動）可能なちんこ遊技機である 1 種 + 1 種並列タイプで、作動回数 n の加算または減算タイミングを変動開始時とした場合、作動回数 n の到達時は変動開始時から時短 B を作動するように構成されている。

【2676】

作動回数 n は、1 種 + 1 種直列タイプや 1 種 + 1 種並列タイプ等の主遊技図柄が 2 つあるタイプでは、2 つの主遊技図柄の作動回数の合計を加算または減算するように構成されている。なお、作動回数 n は、一方の主遊技図柄（第 1 主遊技図柄、第 2 主遊技図柄）のみを対象として加算または減算するように構成しても良い。また、作動回数 n は、低確低ベース状態において主に図柄変動する第 1 主遊技図柄の作動回数のみを加算または減算するように構成しても良い。

30

【2677】

時短 B の終了条件は、以下の（１）、（２）となっている。

（１）条件装置の作動に係る抽選を規定回数行った場合に時短 B が終了する。

（２）条件装置が作動した場合に時短 B が終了する。

【2678】

作動回数 n の計測（加算または減算）をクリアするタイミングは、以下の 4 通りである。

（１）設定変更時（詳細には、設定変更による RAM クリア時）

（２）RAM クリア時

（３）条件装置の作動時または終了時

（４）主遊技図柄の作動回数を契機とした時短機能の作動時（作動回数 n に到達時）

なお、（４）については、時短 A ～ C が作動している状態において、作動回数 n に到達した場合、時短 A から時短 B、時短 B から再度時短 B、時短 C から時短 B へ時短の状態を切り換え、その際に作動回数 n の計測をクリアするのが好適であるが、クリアせずに計測を継続しても良い。また、この（１）～（４）のタイミングで時短 B フラグ、時短 A ～ C フラグもクリアするように構成されている。

40

50

【2679】

(1)と(2)でクリアした場合、作動回数 n の前後の主遊技図柄の図柄変動の変動時間が特定の変動時間を選択するように構成された初期変動パターンテーブルを用いるように構成されている。また、(4)でクリアした場合においても、初期変動パターンテーブルを用いるように構成されている。変動パターンテーブルの内容は初期変動パターンテーブルと同様であるが、2回目の時短Bを作動させるためのカウントを実行可能な2回目時短B用の変動パターンテーブルや3回目の時短Bを作動させるためのカウントを実行可能な3回目時短B用の変動パターンテーブルを用いるように構成しても良い。

【2680】

(4)の条件がある場合には、作動回数 n の到達に伴って作動回数 n の計測(加算または減算)がクリアされるため、その後に実行される時短Bの作動開始に伴って2回目の作動回数 n の計測(加算または減算)が開始されることになる。つまり、大当りに当選しない状態が継続する限り、時短Bが繰り返し実行される可能性のある遊技性を創出することができる。これを利用して、例えば、作動回数 $n \leq$ 時短回数 N を満たすように設計した場合、換言すると、時短Bの実行回数が天井到達までの回数よりも多いことになるため、仮に、大当りに当選しない遊技が続く状況下においては、作動回数 n に到達して開始された時短Bが終了する前に次の作動回数 n に到達して時短Bが再開されるため、一度作動回数 n に到達すると時短Bが終了せずにループするような遊技性となり、逆に、作動回数 $n >$ 時短回数 N を満たすように設計した場合、換言すると、時短Bの実行回数が天井到達までの回数よりも少ないことになるため、仮に、大当りに当選しない遊技が続く状況下においては、次の作動回数 n に到達する前に必ず時短Bが終了することになるため、一度作動回数 n に到達した場合でも次の時短Bが開始する前には必ず通常遊技状態(低確低ベース状態)を挟むような遊技性となる。

【2681】

また、(4)のクリア条件を設定しないようにすることで、さらに異なる遊技性を創出することができる。この場合、作動回数 n に到達しても作動回数 n の計測(加算または減算)がクリアされないため、一度作動回数 n に到達して時短Bが実行されると再度作動回数 n に到達することがないため、時短Bが繰り返されることがない。換言すると、1回の当り後に実行可能な時短Bは1回の遊技性となる。

【2682】

また、(1)、(2)については、ぱちんこ遊技機として1つに定めていれば、クリアしないように構成してもよい。例えば、設定変更時とRAMクリア時のいずれでも作動回数 n の計測(加算または減算)をクリアするように設計した場合、遊技場における翌日の営業において、全てのぱちんこ遊技機を設定変更またはRAMクリアを行うことで、作動回数 n を一定の状態からスタートさせることができる。一方、設定変更時とRAMクリア時のいずれでも作動回数 n の計測(加算または減算)をクリアしないように設計した場合、遊技場における翌日の営業において、作動回数 n を前日の状態から引き継ぐことができる。ただし、後者の場合、常に前日の作動回数 n が翌日に引き継がれることになるため、遊技場の運営次第では必ずしも望ましいとは言えない。つまり、台によって前日から引き継がれた作動回数 n の残り回数が異なるため、営業開始時点での遊技者に対する平等性が担保されていない懸念が生じる。そこで、このような状況でも作動回数 n をクリアする手段を別途設けるのが好適である。例えば、専用のクリアスイッチを設け、RAMクリア時や通常の電源投入を行う際に専用のクリアスイッチを操作しながら電源投入した場合のみ作動回数 n をクリアするように構成する。これにより、遊技場の管理者は、運営に応じて前日の作動回数 n を翌日に引き継がせる状況と引き継がせない状況とを選択することが可能となる。さらに、意図的に、作動回数 n を引き継がせる台と引き継がせない台を用意することで、特に、複数の設定値を有するぱちんこ遊技機においては、前日の状態を引き継いでいるか引き継いでいないか(つまり、設定変更が行われたか行われていないか)を遊技者に示唆することができる。また、作動回数 n はメイン制御手段にて管理されているため、上記のように専用のクリアスイッチを用いる手段に限らず、メイン制御手段に入力可能な

10

20

30

40

50

既存の入力手段（ハンドルの入力情報、盤面に設けられたスイッチ（始動口、アタッカー、一般入賞口、等）の入力情報、設定キーの入力情報、等）を利用するようにしてもよい。例えば、電源投入後の所定時間の間に、上記のメイン情報の入力があったことを判断した場合に作動回数 n をクリアするような方法や、電源投入時に RAM クリアボタンが所定回操作されたことを判断した場合に作動回数 n をクリアするような方法が考えられる。

【2683】

<時短回数 N >

主遊技図柄の作動回数を契機とした時短 B、時短図柄を契機とした時短 C による時短回数（以下、時短回数 N ）は、設定によりその回数が変動しないように構成されている。つまり、設定機能が搭載されているか否かに関わらず予め定められた一の時短回数に設定される。なお、設定毎（設定 1、2、3、4、5、6 毎）に予め定められた時短回数となるように設定されていても良い。なお、予め定められた回数は、設定毎に 1 種類のみが好適であるが、設定毎に複数種類設けても良い。

【2684】

主遊技図柄の作動回数を契機とした時短 B、時短図柄を契機とした時短 C の終了条件については、以下の通り、大当り遊技終了後の時短 A と同様の終了条件となっている。

（1）条件装置が作動した場合に時短が終了する。

（2）条件装置の作動に係る抽選を規定回数行った場合に時短が終了する。

なお、時短回数 N {現状の時短（時短 A または時短 B または時短 C）における第 1 主遊技図柄と第 2 主遊技図柄の変動回数の合算} は、1 通りであって、時短（時短 A または時短 B または時短 C）の終了条件として、第 1 主遊技図柄の変動回数、第 2 主遊技図柄の変動回数、小当りの回数、これらの併用等としても良い。

【2685】

次に、図 340（a）に示す第 1 主遊技図柄と第 2 主遊技図柄の変動回数と第 2 主遊技図柄の変動回数を併用した場合を説明する。まず、主遊技図柄が大当りを示す A で表示された場合、時短 A となる例を説明する。この時短 A は、第 1 主遊技図柄と第 2 主遊技図柄との変動回数の合算が 50 回となると時短 A が終了するように設定されている。詳細には、50 回目の変動開始時、50 回目の変動終了時または変動停止（変動固定時間経過）時、51 回目の変動開始時の何れかのタイミングで時短 A が終了するように設定されている。また、この時短 A は、第 2 主遊技図柄の変動回数が 5 回となると時短 A が終了するように設定されている。詳細には、第 2 主遊技図柄の 5 回目の変動開始時、第 2 主遊技図柄の 5 回目の変動終了時または変動停止（変動固定時間経過）時、第 2 主遊技図柄の 5 回目の変動停止の次の変動開始時の何れかのタイミングで時短 A が終了するように設定されている。さらに、この時短 A は、小当り当選した回数が 1 回となると時短 A が終了するように設定されている。詳細には、小当り変動の変動開始時、小当り変動の変動終了時または変動停止（変動固定時間経過）時、小当り遊技の開始時、小当り遊技の終了時、小当り遊技終了後の最初の変動開始時の何れかのタイミングで時短 A が終了するように設定されている。

【2686】

次に、例えば、主遊技図柄が大当りを示す B で表示された場合、時短 A となる例を説明する。この時短 A は、第 1 主遊技図柄と第 2 主遊技図柄との変動回数の合算が 70 回となると時短 A が終了するように設定されている。詳細には、70 回目の変動開始時、70 回目の変動終了時または変動停止（変動固定時間経過）時、71 回目の変動開始時の何れかのタイミングで時短 A が終了するように設定されている。また、この時短 A は、第 2 主遊技図柄の変動回数が 8 回となると時短 A が終了するように設定されている。詳細には、第 2 主遊技図柄の 8 回目の変動開始時、第 2 主遊技図柄の 8 回目の変動終了時または変動停止（変動固定時間経過）時、第 2 主遊技図柄の 8 回目の変動停止の次の変動開始時の何れかのタイミングで時短 A が終了するように設定されている。さらに、この時短 A は、小当り当選した回数が 1 回となると時短 A が終了するように設定されている。詳細には、小当り変動の変動開始時、小当り変動の変動終了時または変動停止（変動固定時間経過）時、

小当り遊技の開始時、小当り遊技の終了時、小当り遊技終了後の最初の変動開始時の何れかのタイミングで時短 A が終了するように設定されている。

【2687】

次に、時短 B での例を説明する。この時短 B は、第 1 主遊技図柄と第 2 主遊技図柄との変動回数の合算が 500 回となると時短 B が終了するように設定されている。詳細には、500 回目の変動開始時、500 回目の変動終了時または変動停止（変動固定時間経過）時、501 回目の変動開始時の何れかのタイミングで時短 B が終了するように設定されている。また、この時短 B は、第 2 主遊技図柄の変動回数が 20 回となると時短 B が終了するように設定されている。詳細には、第 2 主遊技図柄の 20 回目の変動開始時、第 2 主遊技図柄の 20 回目の変動終了時または変動停止（変動固定時間経過）時、第 2 主遊技図柄の 20 回目の変動停止の次の変動開始時の何れかのタイミングで時短 B が終了するように設定されている。さらに、この時短 B は、小当り当選した回数が 1 回となると時短 B が終了するように設定されている。詳細には、小当り変動の変動開始時、小当り変動の変動終了時または変動停止（変動固定時間経過）時、小当り遊技の開始時、小当り遊技の終了時、小当り遊技終了後の最初の変動開始時の何れかのタイミングで時短 B が終了するように設定されている。

10

【2688】

また、第 1 主遊技図柄と第 2 主遊技図柄が同時に変動する仕様（1 種 + 1 種並列タイプ）の場合、作動回数 n 回目の変動開始時に時短 B を開始させてもよいし、作動回数 n 回目の変動終了時に時短 B を開始させてもよい。具体的には、作動回数 n が 500 回に設定されているとき、第 1 主遊技図柄の変動が 500 回の変動を開始したタイミングで時短 B を作動させるパターン（作動回数 n = 500 回目の変動開始タイミングで時短 B を作動させるパターン）や、第 1 主遊技図柄の変動が 500 回の変動を行っている最中に第 2 主遊技図柄の変動が 501 回目の変動停止タイミングで時短 B を作動させるパターン（作動回数 n = 500 回目の変動停止タイミングで時短 B を作動させるパターン）等、どちらでも問題ない。前者の場合、作動回数 n 回目の変動開始タイミングで時短 B が開始するため、第 1 主遊技図柄と第 2 主遊技図柄が同時に変動する仕様（1 種 + 1 種並列タイプ）に限らず、いずれの遊技性においても同じタイミングで時短 B を作動させることができるが、後者の場合、作動回数 n 回目の変動が行われた一方の図柄において長い変動時間が選択されていた場合、その変動停止まで時短 B が作動しないことによって遊技者が不利益を被る懸念があるため、同時に変動している他方の図柄の変動停止タイミングで時短 B を作動させるようにするのが望ましい。つまり、後者は、第 1 主遊技図柄と第 2 主遊技図柄が同時に変動する仕様（1 種 + 1 種並列タイプ）に対して特に効果的に作用する。また、これらの技術思想は、時短 B の開始時だけでなく終了時においても適用できる。

20

30

【2689】

次に、例えば、主遊技図柄が時短図柄を示す C で表示された場合、時短 C となる例を説明する。この時短 C は、第 1 主遊技図柄と第 2 主遊技図柄との変動回数の合算が 30 回となると時短 C が終了するように設定されている。詳細には、30 回目の変動開始時、30 回目の変動終了時または変動停止（変動固定時間経過）時、31 回目の変動開始時の何れかのタイミングで時短 C が終了するように設定されている。また、この時短 C は、第 2 主遊技図柄の変動回数が 6 回となると時短 C が終了するように設定されている。詳細には、第 2 主遊技図柄の 6 回目の変動開始時、第 2 主遊技図柄の 6 回目の変動終了時または変動停止（変動固定時間経過）時、第 2 主遊技図柄の 6 回目の変動停止の次の変動開始時の何れかのタイミングで時短 C が終了するように設定されている。さらに、この時短 C は、小当り当選した回数が 1 回となると時短 C が終了するように設定されている。詳細には、小当り変動の変動開始時、小当り変動の変動終了時または変動停止（変動固定時間経過）時、小当り遊技の開始時、小当り遊技の終了時、小当り遊技終了後の最初の変動開始時の何れかのタイミングで時短 C が終了するように設定されている。

40

【2690】

また、設定機能付きぱちんこ遊技機の場合、時短 B、時短 C の時短回数 N は、主遊技図

50

柄の作動確率が低いときの大当たり確率 $ML = 1/P$ に対して、以下のように構成している。
 $0.4 \times P \leq N \leq 3.8 \times P$

なお、最も大当たり確率が低い設定において、この条件を満足するように構成されているが、全ての設定でこの条件を満足するように構成しても良い。

【2691】

次に、この $0.4 \times P \leq N \leq 3.8 \times P$ について説明する。時短におけるベースの最低値は85である。1分間あたりの主遊技図柄の変動回数は平均で15回である。ベース＝85とすると、 $(100 - 85) \times 4 = 60$ 円となり、60円が1分間あたりの消費金額である。時短の使用金額は最低でも500円であるから、500円を使用する時間は、 $500 / 60 = 8.33$ 分となる。よって、 $N = 15 \times 8.33 = 124.95$ 回となる。ここで、 $P = 320$ とすると、 $N = 0.3875 \times P$ が約 $0.4 \times P$ となるので、これを最小回数とする。

【2692】

次に、最大回数は、確率 $P0 (= 1/P)$ として大当たり分布を正規分布として有意水準5%で確認を行う。ここで、 α を $x - n \times P0$ の絶対値とし、 β を $n \times P0 (1 - P0)$ の平方根とする。そして、 $\alpha \geq 1.96 \times \beta$ に、 $n = 910$ 、 $P0 = 1/320$ を代入すると、 $x \leq 6.24$ 、 $x \leq -0.36$ となり、 $1/320$ の大当たり確率の変動を910回行っても、大当たり回数が0回となる可能性がある。

【2693】

ここで、 x の低い値を考察する。 $-x + n \times P0 \geq 1.96 \times \beta$ 、 $x \leq n \times P0 - 1.96 \times \beta$ 、 $0 < x$ となれば、 $x = 0$ のときは、仮説を捨てることができる。 $n \times P0 - 1.96 \times \beta > 0$ より、 $n > 1.96 \times 1.96 \times (P - 1) = 3.8417$ となり、約3.84が最大回数となる。したがって、 $0.4 \times P \leq N \leq 3.8 \times P$ となる。

【2694】

時短B、時短Cの時短回数Nの最小回数は、 $0.4 \times P \leq N$ となるように設定しているが、最小回数はこのように設定しなくてもよく、設定自体がなくても良い（その場合は最大値のみとなり $N \leq 3.8 \times P$ となる）し、 $0.4 \times P$ より小さくても大きくても良い。また、最大回数は、 $N \leq 3.8 \times P$ となるように設定しているが、最大回数はこのように設定しなくてもよく、設定自体がなくても良い（その場合は最小値のみとなり $0.4 \times P \leq N$ となる）し、 $3.8 \times P$ より小さくても大きくても良い。なお、時短Cにおいて、大当たりを搭載していないぱちんこ遊技機、つまり大当たり確率が存在しないぱちんこ遊技機については、時短Cの最大回数を100回以下に設定するように構成されている。

【2695】

設定機能付きぱちんこ遊技機の場合、設定毎に時短回数Nの値が異ならないよう（同じになるよう）に、時短回数Nが一の値に定まるように構成されている。これは、設定機能は大当たり確率以外の性能を変動させることによって、遊技者に不利益を与えてしまう可能性があるため、設定毎に時短回数Nの値を一定に構成している。なお、設定毎に時短回数Nの値が異なるように構成しても良い。

【2696】

<遊技状態別の時短作動パターン>

次に、時短A、時短B、時短Cの遊技状態別の時短の作動（発生）パターンについて、図341を用いて説明する。

「1. 時短A中（低確高ベース状態中）」

時短Aである遊技状態中において、大当たりに当選した場合、大当たり遊技の実行後に時短Aを作動させることが可能である。時短Aである遊技状態中において、時短Bを作動させてもよいし、時短Bを作動させなくても良いが、時短Bを作動させるか否かは、ぱちんこ遊技機のタイプに応じて予め決められていればよい。時短Aである遊技状態中において、時短Cを作動させてもよいし、時短Cを作動させなくても良いが、時短Cを作動させるか否かは、ぱちんこ遊技機のタイプに応じて予め決められていればよい。また、異なる時短が重複して実行条件を満たした場合（つまり、複数の時短が被る状況の場合）、残りの時短

10

20

30

40

50

回数が多い方を優先して採用するようにしてもよい。前者のぱちんこ遊技機のタイプに応じて予め時短の優先を決めている仕様においては、時短回数の有利度を比較する必要がなく、時短の種類そのものを比較するだけで時短の優先を判断することができるため、処理が複雑にならず、かつ、プログラムの容量を削減することができる。一方、後者の残りの時短回数が多い方を優先する仕様においては、新たに実行された時短によって実行中の時短回数が減るといった遊技者に対する不利益をなくすることができる。

【2697】

「2. 時短B中（低確高ベース状態中）」

時短Bである遊技状態中において、大当りに当選した場合、大当り遊技の実行後に時短Aを作動させることが可能である。時短Bである遊技状態中において、時短Bを作動させないように構成している。これは、後述するように作動回数nが設定変更によるRAMクリア時、電源投入時のRAMクリア時、条件装置の作動時（終了時）からカウントを開始し、予め定められた回数でカウントを終了するため、時短Bを一度作動させると、時短Bを作動できないように構成されている。なお、作動回数nが設定変更によるRAMクリア時、電源投入時のRAMクリア時、条件装置の作動時（終了時）からカウントを開始し、予め定められた回数でカウントを終了しないように構成した場合、時短Bを一度作動させた後、カウントを継続することによって、時短B中に時短Bを作動できるように構成しても良い。なお、カウントを継続するが、2回目以降の時短Bを作動させないように構成しても良い。また、低確率状態の時短Bにおいて、作動回数nに到達した場合は、時短回数Nをセットして時短Bが新たに作動するように構成しても良い。時短Bである遊技状態中において、時短図柄を契機とした時短Cを作動させてもよいし、時短Cを作動させなくても良いが、時短Cを作動させるか否かは、ぱちんこ遊技機のタイプに応じて予め決められていればよい。

【2698】

「3. 時短C中（低確高ベース状態中）」

時短Cである遊技状態中において、大当りに当選した場合、大当り遊技の実行後に時短Aを作動させることが可能である。時短Cである遊技状態中において、時短Bを作動させてもよいし、時短Bを作動させなくても良いが、時短Bを作動させるか否かは、ぱちんこ遊技機のタイプに応じて予め決められていればよい。時短Cである遊技状態中において、時短Cを作動させてもよいし、時短Cを作動させなくても良いが、時短Cを作動させるか否かは、ぱちんこ遊技機のタイプに応じて予め決められていればよい。

【2699】

「4. 低確低ベース状態中」

低確低ベース状態である遊技状態中において、大当りに当選した場合、大当り遊技の実行後に時短Aを作動させることが可能である。低確低ベース状態である遊技状態中において、主遊技図柄の作動回数を契機とした時短である時短Bを作動させることが可能となっている。なお、時短Bを作動させなくても良い。低確低ベース状態である遊技状態中において、時短図柄を契機とした時短である時短Cを作動させることが可能となっている。なお、時短Cを作動させなくても良い。

【2700】

「5. 高確高ベース状態中」

高確高ベース状態である遊技状態中において、大当りに当選した場合、大当り遊技の実行後に時短Aを作動させることが可能である。高確高ベース状態である遊技状態中において、時短Bを作動させないように構成している。なお、時短Bを作動させても良い。高確高ベース状態である遊技状態中において、時短Cを作動させないように構成している。なお、時短Cを作動させても良い。

【2701】

「6. 高確低ベース状態中」

高確低ベース状態である遊技状態中において、大当りに当選した場合、大当り遊技の実行後に時短Aを作動させる。高確低ベース状態である遊技状態中において、時短Bを作動

させないように構成している。なお、時短Bを作動させても良い。高確低ベース状態である遊技状態中において、時短Cを作動させないように構成している。なお、時短Cを作動させても良い。

【2702】

＜時短が重複した場合の時短回数の設定方法＞

次に、図342を用いて、時短が重複した場合の時短回数Nの設定方法について説明する。まず、(1)新たな時短は作動しないタイプについて説明する。これは、種類の異なる時短が重複した場合の時短回数の設定方法の重ねないパターン（無視するパターン）である。図に示すように、例えば、大当たり遊技後に時短Aが作動している状態において、T1のタイミングで新たな時短作動の条件である時短図柄が停止表示されても、新たな時短Cは作動しないように構成されている。つまり、時短Aが作動している状態において、時短図柄が停止表示されても、時短Aを維持するように構成されている。なお、T1のタイミングで新たな時短作動の条件である時短図柄が停止表示された場合、新たな時短Cを作動させるように構成してもよく、その場合はT2のタイミングまで時短回数Nが実行されて時短Cが終了するように構成され、その後、時短Aが開始されるように構成される。また、時短A中のT3のタイミングで新たな時短作動の条件である2回目の時短図柄が停止表示されても、新たな時短Cは作動しないように構成されている。つまり、時短Aが作動している状態において、時短図柄が複数回停止表示されても、時短Aを維持するように構成されている。なお、図では2回のタイミングで時短図柄が停止表示する例を示し、そのいずれのタイミングにおいても時短Cは作動せず、時短Aを維持するように構成されているが、2回のタイミングに限定されず、1回であっても、3回以上であっても良い。つまり、時短図柄の停止表示に関わらず、時短Aの状態中は、時短Cを作動させないように構成されていれば良い。なお、時短Aの状態中に時短Cを作動させないような例を示したが、時短Aの状態中に時短Bを作動させないように構成しても良いし、時短Bの状態中に時短Aを作動させないように構成しても良いし、時短Bの状態中に時短Cを作動させないように構成しても良いし、時短Cの状態中に時短Aを作動させないように構成しても良いし、時短Cの状態中に時短Bを作動させないように構成しても良い。

【2703】

次に、(2)新たな時短を作動させるタイプ1について説明する。これは、時短が重複した場合の時短回数の設定方法の重ねるパターン（継続するパターン）である。図に示すように、例えば、大当たり遊技後に時短Aが作動している状態において、T1のタイミングで新たな時短作動の条件である時短図柄が停止表示されても、新たな時短Cは作動しないように構成されている。これは、時短図柄が停止表示した際に時短Aの残りの時短回数と時短Cの時短回数を比較し、多いほうの時短回数の時短を採用するように構成されているため、図の例では、時短Cは作動せず時短Aを維持するように構成されている。なお、T1のタイミングで新たな時短作動の条件である時短図柄が停止表示された場合、新たな時短Cを作動させるように構成してもよく、その場合はT2のタイミングまで時短回数Nが実行されて時短Cが終了するように構成され、その後、時短Aが開始されるように構成される。一方、時短A中のT3のタイミングで時短図柄が停止表示した場合は、時短Cの時短回数の方が時短Aの残りの時短回数よりも多いため、T3のタイミングから時短Cを作動させるように構成されている。そして、時短回数Nの図柄変動が終了するT5のタイミングで時短Cを終了させるように構成されている。つまり、新たな時短の作動条件が成立した場合、残りの時短回数が多い時短を採用するように構成されている。なお、この場合、即時に時短Cを作動させなくてもよく、時短AがT4で終了してから、時短CをT4のタイミング以降に作動させても良い。なお、時短Aと時短Cとの時短回数を比較し、時短回数の多い方を優先して採用する例を示したが、時短Aと時短Bとの時短回数を比較するように構成しても良いし、時短Bと時短Cとの時短回数を比較するように構成しても良い。

【2704】

次に、(3)新たな時短を作動させるタイプ2について説明する。これは、時短が重複した場合の時短回数の設定方法の切り換えるパターン（書き換えするパターン）である。

図に示すように、例えば、大当り遊技後に時短Aが作動している状態において、T1のタイミングで新たな時短作動の条件である時短図柄が停止表示されると、T1のタイミングから新たな時短Cを作動させるように構成されている。そして、時短回数Nの図柄変動が終了するT2のタイミングで時短Cを終了させるように構成されている。つまり、新たな時短の作動条件が成立した場合、作動中の時短に切り換えて新たな時短を作動させるように構成されている。なお、時短Cが終了した後であって、T2のタイミング以降から時短Aを再度実行させ、T4のタイミングまで時短Aを実行させるように構成しても良い。なお、時短Aの状態中に時短Aから新たな時短である時短Cに切り換える例を示したが、時短Aの状態中に新たな時短である時短Bに切り換えるように構成しても良いし、時短Bの状態中に新たな時短である時短Aに切り換えるように構成しても良いし、時短Bの状態中に新たな時短である時短Cに切り換えるように構成しても良いし、時短Cの状態中に新たな時短である時短Aに切り換えるように構成しても良いし、時短Cの状態中に新たな時短である時短Bに切り換えるように構成しても良い。なお、「(1) 新たな時短は作動しないタイプ」、「(2) 新たな時短を作動させるタイプ1」、「(3) 新たな時短を作動させるタイプ2」の個々のタイプを組み合わせることで時短A～Cを作動させるように構成したり、時短A～Cを作動させないように構成したりしても良い。

【2705】

主遊技図柄の大当り確率が低確率状態かつ時短（時短A～C）中に作動回数nに到達した場合は、時短Bが新たに作動するように構成されている。この際、時短回数Nをセットし、時短Bを開始するように構成されている。つまり、(3) 新たな時短を作動させるタイプ2を採用して、新たな時短Bを作動させるように構成されている。

【2706】

時短Cの作動は、主遊技図柄が低確率状態かつ時短（時短A～C）が未作動中であれば有効として時短図柄が停止表示されたことを契機とした時短Cを作動させるが、高確率状態かつ時短（時短A～C）が作動中、高確率状態かつ時短（時短A～C）が未作動中、低確率状態かつ時短（時短A～C）が作動中では無効として時短図柄が停止表示されたことを契機とした時短Cを作動させないように構成されている。つまり、(1) 新たな時短は作動しないタイプを採用するように構成されている。なお、時短Aに関しては、条件装置の作動を伴うため、(3) 新たな時短を作動させるタイプ2を採用するように構成されている。

【2707】

次に、主遊技図柄の作動回数を契機とした時短と他の時短の優先順位について説明する。低確率状態かつ時短（時短A～C）中において、作動回数nに到達した場合は、時短回数Nをセットして時短Bが新たに作動するように構成されている。時短Bである遊技状態中において、時短図柄を契機とした時短Cを作動させないように構成されているが、時短Cを作動させても良い。時短Cを作動させるか否かは、時短Cを作動させるか否かを決定する際の遊技状態やぱちんこ遊技機のタイプに応じて予め決められていれば良い。

【2708】

次に、主遊技図柄の作動回数が作動回数nに到達後、主遊技図柄の作動回数を契機とした時短Bが即作動の場合を説明する。主遊技図柄の大当り確率が高確率状態であって、時短（時短A～C）が未作動中に作動回数nに到達した場合は、即時、時短回数Nをセットして時短Bが新たに作動するように構成されている。なお、時短Bが作動しても、主遊技図柄の大当り確率である高確率状態が継続するように構成されている。

【2709】

主遊技図柄の大当り確率が高確率状態であって、時短（時短A～C）が作動中に作動回数nに到達した場合は、時短回数Nをセットして時短Bが新たに作動するように構成されている。なお、時短Bが作動しても、主遊技図柄の大当り確率である高確率状態が継続するように構成されている。

【2710】

次に、主遊技図柄の作動回数が作動回数nに到達後、通常遊技状態に戻ったときに主遊

技図柄の作動回数を契機とした時短 B が作動する場合を説明する。主遊技図柄の大当り確率が高確率状態であって、時短（時短 A ～ C）が未作動中に作動回数 n に到達した場合は、高確率状態が終了した後に時短回数 N をセットして時短 B が新たに作動するように構成されている。次回確変タイプ（ループタイプともいう）の場合は、条件装置が作動するため、時短回数 N をセットして時短 B を作動させないように構成されているが、転落タイプの場合は、高確率状態から低確率状態への転落後に、時短回数 N をセットして時短 B を作動させるように構成されている。なお、次回確変タイプの場合、条件装置が作動した際に高確率状態から低確率状態に遊技状態が変更されるが、その際は、時短回数 N をセットして時短 B を作動させないように構成している。

【2711】

時短回数 N の終了条件は、第 1 主遊技図柄と第 2 主遊技図柄の図柄変動回数の合算、第 2 主遊技図柄の変動回数、小当りの回数、これらの併用等となっている。また、時短の終了条件が、第 1 主遊技図柄と第 2 主遊技図柄の図柄変動回数の合算と第 2 主遊技図柄の変動回数を併用した場合を、図 340（b）を用いて説明する。

【2712】

まず、主遊技図柄が大当りを示す A で表示された場合、時短 A となる例を説明する。この時短 A は、第 1 主遊技図柄と第 2 主遊技図柄との変動回数の合算が 50 回となると時短 A が終了するように設定されている。詳細には、50 回目の変動開始時、50 回目の変動終了時または変動停止（変動固定時間経過）時、51 回目の変動開始時の何れかのタイミングで時短 A が終了するように設定されている。また、この時短 A は、第 2 主遊技図柄の変動回数が 5 回となると時短 A が終了するように設定されている。詳細には、第 2 主遊技図柄の 5 回目の変動開始時、第 2 主遊技図柄の 5 回目の変動終了時または変動停止（変動固定時間経過）時、第 2 主遊技図柄の 5 回目の変動停止の次の変動開始時の何れかのタイミングで時短 A が終了するように設定されている。

【2713】

次に、例えば、主遊技図柄が大当りを示す B で表示された場合、時短 A となる例を説明する。この時短 A は、第 1 主遊技図柄と第 2 主遊技図柄との変動回数の合算が 70 回となると時短 A が終了するように設定されている。詳細には、70 回目の変動開始時、70 回目の変動終了時または変動停止（変動固定時間経過）時、71 回目の変動開始時の何れかのタイミングで時短 A が終了するように設定されている。また、この時短 A は、第 2 主遊技図柄の変動回数が 8 回となると時短 A が終了するように設定されている。詳細には、第 2 主遊技図柄の 8 回目の変動開始時、第 2 主遊技図柄の 8 回目の変動終了時または変動停止（変動固定時間経過）時、第 2 主遊技図柄の 8 回目の変動停止の次の変動開始時の何れかのタイミングで時短 A が終了するように設定されている。

【2714】

次に、時短 B での例を説明する。この時短 B は、第 1 主遊技図柄と第 2 主遊技図柄との変動回数の合算が 100 回となると時短 B が終了するように設定されている。詳細には、100 回目の変動開始時、100 回目の変動終了時または変動停止（変動固定時間経過）時、101 回目の変動開始時の何れかのタイミングで時短 B が終了するように設定されている。また、この時短 B は、第 2 主遊技図柄の変動回数が 20 回となると時短 B が終了するように設定されている。詳細には、第 2 主遊技図柄の 20 回目の変動開始時、第 2 主遊技図柄の 20 回目の変動終了時または変動停止（変動固定時間経過）時、第 2 主遊技図柄の 20 回目の変動停止の次の変動開始時の何れかのタイミングで時短 B が終了するように設定されている。

【2715】

時短回数 N の時短の終了条件が、「第 1 主遊技図柄と第 2 主遊技図柄の図柄変動回数の合算で N 1 回」、「第 2 主遊技図柄の変動回数で N 2 回」のように複数ある場合、N 1 と N 2 のうち、一番大きい値が $0.4 \times P \leq N \leq 3.8 \times P$ の条件を満足するように構成されている。「第 1 主遊技図柄と第 2 主遊技図柄の図柄変動回数の合算で N 1 回」>「第 2 主遊技図柄の変動回数で N 2 回」とした場合は、「第 1 主遊技図柄と第 2 主遊技図柄の図

柄変動回数の合算である $N1$ 回」が、 $0.4 \times P \leq N \leq 3.8 \times P$ の条件を満足するように構成されていれば良く、「第2主遊技図柄の変動回数である $N2$ 回」がこの条件を満足していなくても良い。一方、「第1主遊技図柄と第2主遊技図柄の図柄変動回数の合算で $N1$ 回」<「第2主遊技図柄の変動回数で $N2$ 回」とした場合は、「第2主遊技図柄の変動回数である $N2$ 回」が、 $0.4 \times P \leq N \leq 3.8 \times P$ の条件を満足するように構成されていれば良く、「第1主遊技図柄と第2主遊技図柄の図柄変動回数の合算である $N1$ 回」が、この条件を満足していなくても良い。なお、時短回数 N を $N1$ 、 $N2$ と複数設けた例を示したが、時短回数 N は複数ではなく1つのみの時短回数 N を備えるように構成しても良い。

【2716】

次に、図340(c)を用いて、 $P=100$ の場合に、 $0.4 \times P \leq N1 \leq 3.8 \times P$ および $N1 > N2$ となる例を説明する。まず、主遊技図柄が大当りを示すAで表示された場合、時短Aとなる例を説明する。この時短Aは、第1主遊技図柄と第2主遊技図柄との変動回数の合算が50回である時短回数 $N1$ が50となると時短Aが終了するように設定されている。詳細には、50回目の変動開始時、50回目の変動終了時または変動停止（変動固定時間経過）時、51回目の変動開始時の何れかのタイミングで時短Aが終了するように設定されている。また、この時短Aは、第2主遊技図柄の変動回数が5回である時短回数 $N2$ が5となると時短Aが終了するように設定されている。詳細には、第2主遊技図柄の5回目の変動開始時、第2主遊技図柄の5回目の変動終了時または変動停止（変動固定時間経過）時、第2主遊技図柄の5回目の変動停止の次の変動開始時の何れかのタイミングで時短Aが終了するように設定されている。ここでは、 $N1 > N2$ となっており、 $40 \leq N1 \leq 380$ となっている。

【2717】

次に、例えば、主遊技図柄が大当りを示すBで表示された場合、時短Aとなる例を説明する。この時短Aは、第1主遊技図柄と第2主遊技図柄との変動回数の合算が60回である時短回数 $N1$ が60となると時短Aが終了するように設定されている。詳細には、60回目の変動開始時、60回目の変動終了時または変動停止（変動固定時間経過）時、61回目の変動開始時の何れかのタイミングで時短Aが終了するように設定されている。また、この時短Aは、第2主遊技図柄の変動回数が5回である時短回数 $N2$ が5となると時短Aが終了するように設定されている。詳細には、第2主遊技図柄の5回目の変動開始時、第2主遊技図柄の5回目の変動終了時または変動停止（変動固定時間経過）時、第2主遊技図柄の5回目の変動停止の次の変動開始時の何れかのタイミングで時短Aが終了するように設定されている。ここでは、 $N1 > N2$ となっており、 $40 \leq N1 \leq 380$ となっている。

【2718】

次に、例えば、主遊技図柄が大当りを示すDで表示された場合、時短Aとなる例を説明する。この時短Aは、第1主遊技図柄と第2主遊技図柄との変動回数の合算が70回である時短回数 $N1$ が70となると時短Aが終了するように設定されている。詳細には、70回目の変動開始時、70回目の変動終了時または変動停止（変動固定時間経過）時、71回目の変動開始時の何れかのタイミングで時短Aが終了するように設定されている。また、この時短Aは、第2主遊技図柄の変動回数が8回である時短回数 $N2$ が8となると時短Aが終了するように設定されている。詳細には、第2主遊技図柄の8回目の変動開始時、第2主遊技図柄の8回目の変動終了時または変動停止（変動固定時間経過）時、第2主遊技図柄の8回目の変動停止の次の変動開始時の何れかのタイミングで時短Aが終了するように設定されている。ここでは、 $N1 > N2$ となっており、 $40 \leq N1 \leq 380$ となっている。

【2719】

次に、時短Bでの例を説明する。この時短Bは、第1主遊技図柄と第2主遊技図柄との変動回数の合算が100回である時短回数 $N1$ が100となると時短Bが終了するように設定されている。詳細には、100回目の変動開始時、100回目の変動終了時または変

10

20

30

40

50

動停止（変動固定時間経過）時、101回目の変動開始時の何れかのタイミングで時短Bが終了するように設定されている。また、この時短Bは、第2主遊技図柄の変動回数が20回である時短回数N2が20となると時短Bが終了するように設定されている。詳細には、第2主遊技図柄の20回目の変動開始時、第2主遊技図柄の20回目の変動終了時または変動停止（変動固定時間経過）時、第2主遊技図柄の20回目の変動停止の次の変動開始時の何れかのタイミングで時短Bが終了するように設定されている。ここでは、 $N1 > N2$ となっており、 $40 \leq N1 \leq 380$ となっている。

【2720】

主遊技図柄の作動回数が作動回数nに到達した時の主遊技図柄は、時短Bを作動させるための専用の主遊技図柄（例えば、天井図柄）を表示しても良いし、表示しなくても良い。専用の主遊技図柄を表示しない場合は、当否判定の結果がハズレであればハズレを示す主遊技図柄を停止表示し、当否判定の結果が小当たり当選であれば小当たりを示す小当たり図柄を停止表示させるように構成してあれば良い。

10

【2721】

時短図柄の当選と作動回数nの到達が同時に成立した場合、作動回数nの到達による時短Bを優先的に作動させるように構成されている。例えば、1種+1種並列タイプで第1主遊技図柄が時短図柄に当選した変動中に、第2主遊技図柄の図柄変動によって、第1主遊技図柄の時短図柄の変動停止時に第2主遊技図柄の作動回数を契機とした時短Bが作動していた場合は、第1主遊技図柄の時短図柄の停止を契機とした時短Cを作動させないように構成されている。なお、第1主遊技図柄は時短図柄を表示するように構成されている。また、この時のプログラムの処理順番は、（1）当否抽選、（2）主遊技図柄抽選、（3）時短図柄の抽選、（4）作動回数のカウント、（5）時短Bの時短回数の設定、（6）時短Bの作動となるように構成されている。なお、時短Cを優先的に作動するように構成しても良い。

20

【2722】

主遊技図柄が低確率状態かつ時短（時短A～C）中に主遊技図柄の作動回数が作動回数nに到達した場合、時短回数Nをセットして新たな時短Bを作動させるように構成されている。ここで、作動回数nに到達する主遊技図柄の変動パターンを専用の変動パターンとしても良い。なお、作動回数nと時短回数Nの関係については、 $n < N$ としてもよいし、 $n > N$ としても良い。

30

【2723】

主遊技図柄の作動回数を契機とした時短B中に、時短図柄の停止表示を契機とした時短Cを作動させないように構成しているが、主遊技図柄の停止表示時には時短図柄を停止表示するように構成している。なお、時短B中に時短Cを作動させてもよく、その場合は、主遊技図柄の停止表示時には時短図柄を停止表示することが好適である。

【2724】

また、1種+1種小当りVタイプにおいても、作動回数nを設けるように構成されている。時短の付与されない小当り図柄を用いてV入賞した場合、特別遊技後に時短が付与されない場合がある1種+1種小当りVタイプにおいては、作動回数nの到達前に小当たり当選した場合、V領域を通過させずパンクさせるように遊技する（つまり、小当り後に遊技球を発射しないようにする、または、意図的にV領域を通過させないように発射する、等）ことで、作動回数nの時短Bを発動させることができるようになる。小当りに当選した場合、作動回数nの計測をクリアしたり、作動回数nを0上書きしたりすることはしないように構成しているが、クリアしたり上書きしたりしても良い。なお、小当り遊技でV領域を遊技球が通過した場合は、特別遊技の開始時（大当り開始デモ中を含む）、特別遊技中、特別遊技の終了後（大当り終了デモ中を含む）に作動回数nの計測をクリアしたり、作動回数nを上書きしたりしても良い。

40

【2725】

1種+1種小当りVタイプにおいて、作動回数nの条件となっている $P \{ P = 1 / (M \cdot L) \}$ は、大当り図柄を表示する確率と、小当り遊技を経由してV領域に遊技球が通過する

50

ことで条件装置が作動する確率の２種類ある場合、予め定められた以下の（１）または（２）の確率を使用するように構成されている。

- （１）大当り図柄を表示する確率
- （２）小当り図柄を表示する確率

（３）小当り遊技を経由してＶ領域に遊技球が通過することで条件装置が作動する確率
なお、小当り確率は、低確低ベース状態に主に作動する主遊技図柄（例えば、第１主遊技図柄）の小当り確率を使用するように構成されている。

【２７２６】

１種＋１種小当りＶタイプにおいて、条件装置が作動することとなる主遊技図柄の組合せを表示する確率が存在せず、小当りを経由してＶ領域に遊技球が通過することで条件装置が作動するぱちんこ遊技機に時短Ｂを搭載するように構成されている。この場合、作動回数ｎの条件となっているＰは、小当り図柄を表示する確率を使用するように構成されているが、小当りを経由してＶ領域に遊技球が通過することで条件装置が作動する確率を使用するように構成しても良い。

【２７２７】

１種＋１種小当りＶタイプにおいて、時短回数Ｎの条件となっているＰは、大当り図柄を表示する確率と、小当りを経由してＶ領域に遊技球が通過することで条件装置が作動する確率の２種類ある場合、予め定められた以下の（１）または（２）の確率を使用するように構成されている。

- （１）大当り図柄を表示する確率
- （２）小当り図柄を表示する確率

（３）小当りを経由してＶ領域に遊技球が通過することで条件装置が作動する確率
なお、小当り確率は、時短中に主に作動する主遊技図柄（例えば、第２主遊技図柄）の小当り確率を使用するように構成されている。

【２７２８】

１種＋１種小当りＶタイプにおいて、作動回数ｎの到達を契機とする時短Ｂと、小当り図柄の当選とが同時に成立した場合、時短Ｂと小当り遊技のどちらも作動させるように構成されている。なお、一方のみを作動させるように構成しても良い。

【２７２９】

作動回数ｎは、遊技状態に関わらず常に加算または減算するように構成されている。作動回数ｎに到達したときの遊技状態が高確率状態時であった場合、主遊技図柄の作動回数を契機とした時短Ｂの発動タイミング（作動タイミング）は、以下のいずれでも良い。

- （１）作動回数ｎに到達したときに高確率状態を終了させ、時短Ｂを作動させる。
- （２）作動回数ｎに到達したときに高確率状態を継続させ、時短Ｂを作動させる。時短回数の上書きを行う。
- （３）作動回数ｎに到達後、高確率状態が終了したタイミングで時短Ｂを作動させる。なお、高確率状態が終了したタイミングで時短中であれば、時短回数の上書きを行う。
- （４）作動回数ｎに到達後、高確率状態と時短の両方が終了したタイミングで時短Ｂを作動させる。

なお、いずれか１つのみ（例えば、３のみ）またはこれらの組合せで時短Ｂを作動させるようにぱちんこ遊技機を構成しても良い。なお、作動回数ｎは、時短機能が作動するまでは計測を開始しないように構成されている。つまり、作動回数ｎに到達した後、高確率状態が終了するまでは計測しないように構成されている。

【２７３０】

作動回数ｎの加算タイミングは、変動開始時、変動終了時、変動固定時間経過時のいずれかとなっている。なお、変動終了時から変動固定時間経過時までの間を作動回数ｎの加算タイミングとしても良い。例えば、第１主遊技図柄と第２主遊技図柄とが同時に図柄変動（同時変動）可能なぱちんこ遊技機である１種＋１種並列タイプで、作動回数ｎの加算または減算タイミングを変動開始時とした場合、作動回数ｎの到達時は変動開始時から作動するように構成されている。なお、作動回数ｎに到達した変動で大当りが発生したとき

10

20

30

40

50

、時短の作動タイミングによっては、大当たりした時の遊技状態（時短ありまたは時短なし）が変化するように構成されている。

【2731】

次に、作動回数 n の加算タイミングを説明する。図343は、優先変動タイプまたは入賞順変動タイプの作動回数 n の加算タイミングを示す図である。優先変動タイプまたは入賞順変動タイプのぱちんこ遊技機において、第1主遊技図柄がハズレ図柄の態様で停止表示する図柄変動であって、作動回数 n である900回目の図柄変動を行う場合を図343の(a)に示す。まず、第1主遊技図柄の変動開始時に、当否抽選、主遊技図柄抽選の順にプログラムの処理を行うように構成されている。そして、第1主遊技図柄の停止表示時（詳細には、変動固定時間経過時）に、作動回数のカウント、時短回数の設定、時短Bの作動の順にプログラムの処理を行うように構成されている。この例では、作動回数 n が900であり、900回目の第1主遊技図柄の図柄変動の停止表示時に作動回数が900となり、そのタイミングで時短Bを作動させるように構成されている。なお、第1主遊技図柄での例を示したが、第2主遊技図柄であっても良い。また、遊技状態は、低確低ベース状態、低確高ベース状態（時短A～C）、高確高ベース状態（時短A～C）、高確低ベース状態のいずれの遊技状態であっても良い。

10

【2732】

次に、優先変動タイプまたは入賞順変動タイプのぱちんこ遊技機において、第1主遊技図柄が大当たり図柄の態様で停止表示する図柄変動であって、作動回数 n である900回目の図柄変動を行う場合を図343の(b)に示す。まず、第1主遊技図柄の変動開始時に、当否抽選、主遊技図柄抽選の順にプログラムの処理を行うように構成されている。そして、第1主遊技図柄の停止表示時（詳細には、変動固定時間経過時）に、条件装置を作動させるプログラムの処理を行うように構成されている。この例では、作動回数 n が900であり、900回目の第1主遊技図柄の図柄変動の停止表示時に作動回数が900となるが、そのタイミングで時短Bを作動させないように構成されている。本例では、900回目の第1主遊技図柄の図柄変動の停止表示時に大当たり図柄の態様で停止表示され、そのタイミングで条件装置が作動するため、時短Bが作動しないように構成されている。なお、第1主遊技図柄の停止表示時（詳細には、変動固定時間経過時）に、作動回数のカウント、時短回数の設定、時短Bの作動、条件装置の作動、時短Bの終了の順にプログラムの処理を行うように構成しても良い。なお、第1主遊技図柄での例を示したが、第2主遊技図柄であっても良い。また、遊技状態は、低確低ベース状態、低確高ベース状態（時短A～C）、高確高ベース状態（時短A～C）、高確低ベース状態のいずれの遊技状態であっても良い。

20

30

【2733】

図344は、1種+1種小当りVタイプの変動終了時に作動回数 n の加算タイミングを示す図である。1種+1種小当りVタイプのぱちんこ遊技機において、第2主遊技図柄が小当り図柄の態様で停止表示する図柄変動であって、作動回数 n である900回目の図柄変動を行う場合を図344の(c)に示す。まず、第2主遊技図柄の変動開始時に、当否抽選、主遊技図柄抽選の順にプログラムの処理を行うように構成されている。そして、第2主遊技図柄の変動終了時に、作動回数のカウント、時短回数の設定、時短Bの作動の順にプログラムの処理を行うように構成されている。この例では、作動回数 n が900であり、900回目の第2主遊技図柄の図柄変動の変動終了時に作動回数が900となり、そのタイミングで時短Bを作動させるように構成されている。また、小当り変動の終了後に小当り遊技を行い、この小当り遊技中にV領域を遊技球が通過することによって、条件装置が作動するように構成されているが、本例では、V領域に遊技球が通過しないため、小当り遊技が終了するように構成されている。この小当り遊技のプログラム処理順は、小当り遊技の作動、小当り遊技の終了（未作動）の処理順となっている。なお、第2主遊技図柄での例を示したが、第1主遊技図柄に小当りを有する場合は、第1主遊技図柄であっても良い。また、遊技状態は、低確低ベース状態、低確高ベース状態（時短A～C）、高確高ベース状態（時短A～C）、高確低ベース状態のいずれの遊技状態であっても良い。

40

50

【2734】

次に、1種+1種小当りVタイプのぱちんこ遊技機において、第2主遊技図柄が小当り図柄の態様で停止表示する図柄変動であって、作動回数nである900回目の図柄変動を行う場合を図344の(d)に示す。まず、第2主遊技図柄の変動開始時に、当否抽選、主遊技図柄抽選の順にプログラムの処理を行うように構成されている。そして、第2主遊技図柄の変動終了時に、作動回数のカウント、時短回数の設定、時短Bの作動の順にプログラムの処理を行うように構成されている。この例では、作動回数nが900であり、900回目の第2主遊技図柄の図柄変動の変動終了時に作動回数が900となり、そのタイミングで時短Bを作動させるように構成されている。また、小当り変動の終了後に小当り遊技を行い、この小当り遊技中にV領域を遊技球が通過することによって、条件装置が作動するように構成されている。本例では、V領域に遊技球が通過するため、小当り遊技の後に条件装置が作動し特別遊技が実行されるように構成されている。そして、条件装置が作動したタイミングでは、時短Bが終了する（未作動となる）ように構成されている。プログラム処理順としては、時短Bを終了させてから、条件装置を作動させる例を示しているが、条件装置を作動させてから、時短Bを終了させるように構成しても良い。なお、V通過のタイミングが小当り遊技の終了（未作動）よりも後の例を示したが、大入賞口への遊技球の入球タイミングによっては小当り遊技中にV通過する場合があるため、そのような場合は、V通過のタイミングを小当り遊技の実行中としても良く、このような場合であっても、条件装置が作動したタイミングでは、時短Bが終了する（未作動となる）ように構成されている。なお、第2主遊技図柄での例を示したが、第1主遊技図柄に小当りを有する場合は、第1主遊技図柄であっても良い。また、遊技状態は、低確低ベース状態、低確高ベース状態（時短A～C）、高確高ベース状態（時短A～C）、高確低ベース状態のいずれの遊技状態であっても良い。なお、ここで作動した時短Bは小当り遊技後に実行される特別遊技の後に実行するように構成しても良いし、実行しないように構成しても良い。

【2735】

図345は、1種+1種小当りVタイプの小当り遊技終了時に作動回数nの加算タイミングを示す図である。1種+1種小当りVタイプのぱちんこ遊技機において、第2主遊技図柄が小当り図柄の態様で停止表示する図柄変動であって、作動回数nである900回目の図柄変動を行う場合を図345の(e)に示す。まず、第2主遊技図柄の変動開始時に、当否抽選、主遊技図柄抽選の順にプログラムの処理を行うように構成されている。そして、第2主遊技図柄の小当り図柄に基づく小当り遊技の終了後に、作動回数のカウント、時短回数の設定、時短Bの作動の順にプログラムの処理を行うように構成されている。この例では、作動回数nが900であり、900回目の第2主遊技図柄の小当り図柄に基づく小当り遊技の終了後に作動回数が900となり、そのタイミングで時短Bを作動させるように構成されている。また、小当り変動の終了後に小当り遊技を行い、この小当り遊技中にV領域を遊技球が通過することによって、条件装置が作動するように構成されているが、本例では、V領域に遊技球が通過しないため、小当り遊技が終了するように構成されている。この小当り遊技のプログラム処理順は、小当り遊技の作動、小当り遊技の終了（未作動）の処理順となっている。なお、小当り遊技の終了後にV領域に遊技球が通過する場合は、条件装置が作動するように構成されている。そして、条件装置が作動したタイミングでは、時短Bが終了する（未作動となる）ように構成されている。プログラム処理順としては、時短Bを終了させてから、条件装置を作動させる例を示しているが、条件装置を作動させてから、時短Bを終了させるように構成しても良い。なお、第2主遊技図柄での例を示したが、第1主遊技図柄に小当りを有する場合は、第1主遊技図柄であっても良い。また、遊技状態は、低確低ベース状態、低確高ベース状態（時短A～C）、高確高ベース状態（時短A～C）、高確低ベース状態のいずれの遊技状態であっても良い。

【2736】

次に、1種+1種小当りVタイプのぱちんこ遊技機において、第2主遊技図柄が小当り図柄の態様で停止表示する図柄変動であって、作動回数nである900回目の図柄変動を行う場合を図345の(f)に示す。まず、第2主遊技図柄の変動開始時に、当否抽選、

主遊技図柄抽選の順にプログラムの処理を行うように構成されている。そして、第2主遊技図柄の小当り図柄に基づく小当り遊技の終了後に、作動回数のカウント、時短回数の設定、時短Bの作動の順にプログラムの処理を行うように構成されるはずであるが、この例では、作動回数nが900であり、900回目の第2主遊技図柄の小当り図柄に基づく小当り遊技の終了後のタイミングよりも前のタイミング（小当り遊技中）で、小当り遊技中にV領域を遊技球が通過し条件装置が作動するため、作動回数のカウントが実行されない。なので、小当り遊技の終了後のタイミングで時短Bが作動しないように構成されている。なお、V通過のタイミングが小当り遊技中のタイミングの例を示したが、大入賞口への遊技球の入球タイミングによっては小当り遊技の終了後にV通過する場合があるため、そのような場合は、V通過のタイミングを小当り遊技の終了後としても良い。このように小当り遊技の終了後のタイミングでV領域を遊技球が通過する場合、小当り遊技の終了後に、作動回数のカウント、時短回数の設定、時短Bの作動、条件装置の作動の順にプログラムの処理を行う。そして、条件装置が作動したタイミングで、時短Bが終了する（未作動となる）ように構成されている。プログラム処理順としては、条件装置を作動させてから、時短Bを終了させる例を示しているが、時短Bを終了させてから、条件装置を作動させるように構成しても良い。なお、第2主遊技図柄での例を示したが、第1主遊技図柄に小当りを有する場合は、第1主遊技図柄であっても良い。また、遊技状態は、低確低ベース状態、低確高ベース状態（時短A～C）、高確高ベース状態（時短A～C）、高確低ベース状態のいずれの遊技状態であっても良い。なお、ここで作動した時短Bは小当り遊技後に実行される特別遊技の後に実行するように構成しても良いし、実行しないように構成しても良い。

10

20

【2737】

設定機能を有するぱちんこ遊技機に時短図柄を設けた場合、設定毎に時短図柄の出現率が異ならないように構成されている。つまり、設定に関わらず一の出現率（確率）で時短図柄が決定されるように構成されている。なお、設定毎に時短図柄の出現率が異なるように構成しても良い。

【2738】

大当り図柄または小当り図柄の一部または全部が、時短図柄として兼用しないように構成されている。なお、大当り図柄または小当り図柄の一部または全部が、時短図柄として兼用するように構成されていても良い。また、遊技の都度、ハズレ図柄が時短図柄に切り換わらないように構成されているが、遊技の都度、ハズレ図柄が時短図柄に切り換わるように構成されていても良い。

30

【2739】

時短図柄の抽選方法は、以下の2パターンのいずれかに構成されている。

- (1) 大当り（小当り）判定用乱数のみで当選と図柄を決める。
- (2) 大当り（小当り）判定用乱数と図柄乱数で当選と図柄を決める。

【2740】

第1主遊技図柄と第2主遊技図柄で時短図柄の当選確率を異なるように構成しているが、同じ当選確率としても良い。

【2741】

時短Cの開始タイミングは、時短図柄の組合せが停止表示された後に設定されている。

40

【2742】

時短図柄の組合せが停止表示されるタイミングの遊技状態が、時短図柄の抽選による時短Cの作動が無効となる遊技状態の場合であっても、時短図柄を停止表示するように構成されている。この場合、時短図柄が停止表示されても、時短Cを作動させないように構成されている。また、時短図柄の組合せが停止表示されるタイミングの遊技状態が、時短図柄の抽選による時短Cの作動が無効となる遊技状態の場合、時短図柄に切り換えてハズレ図柄を停止表示するように構成しても良い。

【2743】

時短図柄による時短Cを作動させるか否かを判断する遊技状態は、時短図柄が停止表示

50

されるタイミングの遊技状態を参照するように構成されている。

【2744】

図346は、1種+1種並列タイプにおける時短Cを作動させるか否かを判断する遊技状態を示す図である。1種+1種並列タイプのぱちんこ遊技機において、第1主遊技図柄が、第2主遊技図柄よりも先に図柄変動を開始するが、第2主遊技図柄よりも後に変動停止する場合を図346の(1)に示す。第1主遊技図柄は、作動回数 $n-1$ 回転目で時短図柄の態様で停止表示する図柄変動である。第2主遊技図柄は、作動回数 n 回転目でハズレ図柄の態様で停止表示する図柄変動である。まず、T1のタイミングで、第1主遊技図柄の図柄変動が開始される。T1よりも後のタイミングのT2のタイミングで、第2主遊技図柄の図柄変動が開始される。また、T2のタイミングでは、変動開始時に作動回数 n の加算または減算の条件を満足するタイミングであるので、第2主遊技図柄が作動回数 n 回転目の図柄変動を開始した際に時短Cを作動させる。T2よりも後のタイミングのT3のタイミングで、第2主遊技図柄がハズレ図柄の態様で停止表示される。T3よりも後のタイミングのT4のタイミングで、第1主遊技図柄が時短図柄の態様で停止表示される。ここで、T4のタイミングでは、時短図柄が停止表示したことを契機に時短Cが作動するはずであるが、第2主遊技図柄による時短Bが既に作動中のため時短Cの作動は無効となるように構成されている。なお、本例の第1主遊技図柄を第2主遊技図柄、第2主遊技図柄を第1主遊技図柄とした場合、T4のタイミングでは、第2主遊技図柄の時短図柄が停止表示したことを契機に時短Cが作動するはずであるが、第1主遊技図柄による時短Bが既に作動中のため時短Cの作動は無効となるように構成される。また、遊技状態は、低確低ベース状態、低確高ベース状態(時短A~C)、高確高ベース状態(時短A~C)、高確低ベース状態のいずれの遊技状態であっても良い。

【2745】

次に、1種+1種並列タイプのぱちんこ遊技機において、第1主遊技図柄が、第2主遊技図柄よりも先に図柄変動を開始するが、第2主遊技図柄よりも後に変動停止する場合を図346の(2)に示す。第1主遊技図柄は、時短図柄の態様で停止表示する図柄変動である。第2主遊技図柄は、大当り図柄の態様で停止表示する図柄変動である。まず、T1のタイミングで、第1主遊技図柄の図柄変動が開始される。T1よりも後のタイミングのT2のタイミングで、第2主遊技図柄の図柄変動が開始される。T2よりも後のタイミングのT3のタイミングで、第2主遊技図柄が大当り図柄の態様で停止表示される。また、T3のタイミングでは、第2主遊技図柄が大当り図柄の態様で停止表示したため、条件装置を作動させる。T3よりも後のタイミングのT4のタイミングで、条件装置を未作動とするとともに時短Aを作動させる。プログラム処理順については、条件装置を未作動としてから時短Aを作動させるように構成するのが好適であるが、時短Aを作動させてから条件装置を未作動にする順番でプログラム処理を実行しても良い。T4よりも後のタイミングのT5のタイミングで、第1主遊技図柄が時短図柄の態様で停止表示される。ここで、T5のタイミングでは、時短図柄が停止表示したことを契機に時短Cが作動するはずであるが、第2主遊技図柄による時短Aが既に作動中のため時短Cの作動は無効となるように構成されている。なお、T3のタイミングで、第2主遊技図柄が大当り図柄の態様で停止表示したタイミングで第1主遊技図柄の変動を一旦停止させるように構成しても良く、第1主遊技図柄の図柄変動では強制的に時短図柄のみしか停止表示できないように構成(ハズレ図柄等)に書き換えてできないように構成)しても良い。なお、本例の第1主遊技図柄を第2主遊技図柄、第2主遊技図柄を第1主遊技図柄とした場合、T5のタイミングでは、第2主遊技図柄の時短図柄が停止表示したことを契機に時短Cが作動するはずであるが、第1主遊技図柄による時短Aが既に作動中のため時短Cの作動は無効となるように構成される。また、遊技状態は、低確低ベース状態、低確高ベース状態(時短A~C)、高確高ベース状態(時短A~C)、高確低ベース状態のいずれの遊技状態であっても良い。

【2746】

図347は、時短Cを作動させるか否かを判断する遊技状態を示す図である。時短図柄の表示前に、時短Bが終了する場合であって、時短Bの時短回数Nの計測及び時短Bの終

了が変動開始時の場合を図347の(3)に示す。第1主遊技図柄は、時短回数N回転目で時短図柄の態様で停止表示する図柄変動である。まず、T1のタイミングで、第1主遊技図柄の図柄変動が開始される。また、T1のタイミングでは、時短Bの時短回数Nの計測及び時短Bの終了が変動開始時に構成されているため、時短Bが終了し未作動となる。T1よりも後のタイミングのT2のタイミングで、第1主遊技図柄が時短図柄の態様で停止表示される。また、T2のタイミングでは、他の時短が作動していない非時短中のため、時短Cを作動させる。なお、第1主遊技図柄での例を示したが、第2主遊技図柄を有するぱちんこ遊技機であれば、第2主遊技図柄であっても良い。また、ぱちんこ遊技機のタイプは記載していないが、如何なるタイプのぱちんこ遊技機に対して適用可能である。また、遊技状態は、低確低ベース状態、低確高ベース状態(時短A~C)、高確高ベース状態(時短A~C)、高確低ベース状態のいずれの遊技状態であっても良い。

10

【2747】

次に、時短図柄の表示時に、時短Bが終了する場合であって、時短Bの時短回数Nの計測及び時短Bの終了が変動終了時の場合のパターン1を図347の(4)に示す。第1主遊技図柄は、時短回数N回転目で時短図柄の態様で停止表示する図柄変動である。まず、T1のタイミングで、第1主遊技図柄の図柄変動が開始される。T1よりも後のタイミングのT2のタイミングで、第1主遊技図柄が時短図柄の態様で停止表示される。また、T2のタイミングでは、時短Bの時短回数Nの計測及び時短Bの終了が変動終了時であるため、時短回数N回到達で時短Bを終了させる。このT2のタイミングでは、プログラム処理順として、時短図柄表示、作動回数の計測で時短回数Nと判断、時短Bの終了の順序でプログラム処理が実行されるように構成されている。ここで、T2のタイミングでは、時短図柄が停止表示したことを契機に時短Cが作動するはずであるが、時短Bがまだ作動中のため時短Cの作動は無効となるように構成されている。なお、第1主遊技図柄での例を示したが、第2主遊技図柄を有するぱちんこ遊技機であれば、第2主遊技図柄であっても良い。また、ぱちんこ遊技機のタイプは記載していないが、如何なるタイプのぱちんこ遊技機に対して適用可能である。また、遊技状態は、低確低ベース状態、低確高ベース状態(時短A~C)、高確高ベース状態(時短A~C)、高確低ベース状態のいずれの遊技状態であっても良い。

20

【2748】

次に、時短図柄の表示時に、時短Bが終了する場合であって、時短Bの時短回数Nの計測及び時短Bの終了が変動終了時の場合のパターン2を図347の(5)に示す。第1主遊技図柄は、時短回数N回転目で時短図柄の態様で停止表示する図柄変動である。まず、T1のタイミングで、第1主遊技図柄の図柄変動が開始される。T1よりも後のタイミングのT2のタイミングで、第1主遊技図柄が時短図柄の態様で停止表示される。また、T2のタイミングでは、時短Bの時短回数Nの計測及び時短Bの終了が変動終了時であるため、時短回数N回到達で時短Bを終了させる。このT2のタイミングでは、プログラム処理順として、作動回数の計測で時短回数Nと判断、時短Bの終了、時短図柄表示の順序でプログラム処理が実行されるように構成されている。また、T2のタイミングでは、時短図柄表示よりも時短Bの終了の方が先にプログラム処理されるため、時短Bが終了し未作動となった後に、時短図柄が停止表示され、この時短図柄の停止表示を契機とした時短Cが作動するように構成されている。なお、第1主遊技図柄での例を示したが、第2主遊技図柄を有するぱちんこ遊技機であれば、第2主遊技図柄であっても良い。また、ぱちんこ遊技機のタイプは記載していないが、如何なるタイプのぱちんこ遊技機に対して適用可能である。また、遊技状態は、低確低ベース状態、低確高ベース状態(時短A~C)、高確高ベース状態(時短A~C)、高確低ベース状態のいずれの遊技状態であっても良い。

30

40

【2749】

時短回数は、時短図柄と遊技状態に基づいて決定されるように構成されている。なお、時短図画の抽選による時短Cの作動は、低確低ベース状態のみで有効となるように構成されているが、他の遊技状態においても有効としても良い。

【2750】

50

時短中に時短図柄に当選した場合、時短回数を上書き（書き換え）しないように構成されている。時短図柄の抽選による時短図柄の作動は、低確低ベース状態のみ有効とするため、時短回数を上書きできないように構成されている。なお、時短中に時短図柄に当選した場合、時短回数を上書きするように構成しても良い。

【2751】

時短回数条件の終了条件は、第1主遊技図柄と第2主遊技図柄の図柄変動回数の合算、第2主遊技図柄の変動回数、小当りの回数、これらの併用等となっている。また、時短の終了条件が、第1主遊技図柄と第2主遊技図柄の図柄変動回数の合算と第2主遊技図柄の変動回数を併用した場合、図348（a）を用いて説明する。

【2752】

まず、主遊技図柄が大当りを示すAで表示された場合、時短Aとなる例を説明する。この時短Aは、第1主遊技図柄と第2主遊技図柄との変動回数の合算が50回となると時短Aが終了するように設定されている。詳細には、50回目の変動開始時、50回目の変動終了時または変動停止（変動固定時間経過）時、51回目の変動開始時の何れかのタイミングで時短Aが終了するように設定されている。また、この時短Aは、第2主遊技図柄の変動回数が5回となると時短Aが終了するように設定されている。詳細には、第2主遊技図柄の5回目の変動開始時、第2主遊技図柄の5回目の変動終了時または変動停止（変動固定時間経過）時、第2主遊技図柄の5回目の変動停止の次の変動開始時の何れかのタイミングで時短Aが終了するように設定されている。

【2753】

次に、例えば、主遊技図柄が大当りを示すBで表示された場合、時短Aとなる例を説明する。この時短Aは、第1主遊技図柄と第2主遊技図柄との変動回数の合算が70回となると時短Aが終了するように設定されている。詳細には、70回目の変動開始時、70回目の変動終了時または変動停止（変動固定時間経過）時、71回目の変動開始時の何れかのタイミングで時短Aが終了するように設定されている。また、この時短Aは、第2主遊技図柄の変動回数が8回となると時短Aが終了するように設定されている。詳細には、第2主遊技図柄の8回目の変動開始時、第2主遊技図柄の8回目の変動終了時または変動停止（変動固定時間経過）時、第2主遊技図柄の8回目の変動停止の次の変動開始時の何れかのタイミングで時短Aが終了するように設定されている。

【2754】

次に、例えば、主遊技図柄が時短図柄を示すCで表示された場合、時短Cとなる例を説明する。この時短Cは、第1主遊技図柄と第2主遊技図柄との変動回数の合算が100回となると時短Cが終了するように設定されている。詳細には、100回目の変動開始時、100回目の変動終了時または変動停止（変動固定時間経過）時、101回目の変動開始時の何れかのタイミングで時短Cが終了するように設定されている。また、この時短Cは、第2主遊技図柄の変動回数が20回となると時短Cが終了するように設定されている。詳細には、第2主遊技図柄の20回目の変動開始時、第2主遊技図柄の20回目の変動終了時または変動停止（変動固定時間経過）時、第2主遊技図柄の20回目の変動停止の次の変動開始時の何れかのタイミングで時短Cが終了するように設定されている。

【2755】

時短図柄にて時短Cが作動した際の補助遊技図柄の確率変動、補助遊技図柄の変動秒数等の時間、第2主遊技始動口電動役物の開放期間は、予め定められている。図348（b）を用いて、時短図柄の種類に対する時短回数と補助遊技図柄の変動秒数（変動時間）を説明する。時短図柄C1が停止表示されたことを契機とする時短Cの場合、時短回数が100回にセットされ、補助遊技図柄の変動秒数が5秒にセットされる。この時短Cの1～100回の主遊技図柄の図柄変動中の補助遊技図柄の変動秒数は、常に5秒となるように構成されている。時短図柄C2が停止表示されたことを契機とする時短Cの場合、時短回数が100回にセットされ、補助遊技図柄の変動秒数が10秒にセットされる。この時短Cの1～100回の主遊技図柄の図柄変動中の補助遊技図柄の変動秒数は、常に10秒となるように構成されている。時短図柄C3が停止表示されたことを契機とする時短Cの

10

20

30

40

50

場合、時短回数が100回にセットされ、補助遊技図柄の変動秒数が15秒にセットされる。この時短Cの1～100回の主遊技図柄の図柄変動中の補助遊技図柄の変動秒数は、常に15秒となるように構成されている。

【2756】

1種+1種小当りVタイプにおいても、時短図柄を設けても良い。

【2757】

複数の時短回数を設定する場合、時短図柄に関しては以下の条件を満足するように設定されている。

(1) 複数の時短図柄を設定する場合、時短回数Nの最大回数は、主遊技図柄の大当り確率が低確率状態のときの大当り確率 $ML = 1/P$ に対して、 $N \leq P$ となるように設定する。なお、設定機能を有するぱちんこ遊技機においてのPは、最も主遊技図柄の大当り確率が低い設定（例えば、設定1）の値が好適であるが、いずれの設定であっても良い。

10

(2) 複数の時短図柄を設定する場合、時短図柄の出現確率Mは、主遊技図柄の大当り確率が低確率状態のときの大当り確率 $ML = 1/P$ に対して、 $1/M \leq P$ となるように設定する。

なお、設定機能を有するぱちんこ遊技機においてのPは、最も主遊技図柄の大当り確率が低い設定（例えば、設定1）の値が好適であるが、いずれの設定であっても良い。

【2758】

複数の時短回数を設定する場合、時短図柄にて時短Cが作動した際の補助遊技図柄の確率変動、補助遊技図柄の変動秒数等の時間、第2主遊技始動口電動役物の開放期間は、予め定められている。図348(c)を用いて、時短図柄の種類に対する時短回数（第1～第3の時短回数）と補助遊技図柄の変動秒数を説明する。時短図柄C1が停止表示されたことを契機とする時短Cの場合、第1の時短回数として時短回数が100回にセットされ、補助遊技図柄の変動秒数が5秒にセットされる。この時短Cの1～100回の主遊技図柄の図柄変動中の補助遊技図柄の変動秒数は、常に5秒となるように構成されている。時短図柄C2が停止表示されたことを契機とする時短Cの場合、第2の時短回数として時短回数が80回にセットされ、補助遊技図柄の変動秒数が10秒にセットされる。この時短Cの1～80回の主遊技図柄の図柄変動中の補助遊技図柄の変動秒数は、常に10秒となるように構成されている。時短図柄C3が停止表示されたことを契機とする時短Cの場合、第3の時短回数として時短回数が50回にセットされ、補助遊技図柄の変動秒数が15秒にセットされる。この時短Cの1～50回の主遊技図柄の図柄変動中の補助遊技図柄の変動秒数は、常に15秒となるように構成されている。

20

30

【2759】

図349は、時短回数を1つ有する設定機能付きぱちんこ遊技機の時短Cの抽選方式を示す図である。時短図柄の抽選による時短Cの抽選に関して、時短図柄に係る抽選は大当り判定用乱数（当否抽選乱数）を参照して行なうように構成されている。なお、大当り判定用乱数が存在しない場合には、小当り判定用乱数を用いるように構成されている。時短図柄の抽選による時短Cの抽選確率は、設定によりその確率が変動しないように構成されている。つまり、設定に関わらず1の確率となるように構成されている。例えば、図349(a)に示すように、時短確率は $1/300$ に固定されている。

40

(設定1) 大当り確率 $= 1/200$ 、時短確率 $1/300$

(設定6) 大当り確率 $= 1/100$ 、時短確率 $1/300$

【2760】

時短図柄の抽選による時短Cの抽選に関して、時短図柄に係る抽選は大当り判定用乱数を参照して行なうように構成されている。なお、大当り判定用乱数が存在しない場合には、小当り判定用乱数を用いる。時短Cの時短回数Nは、以下のいずれかの方法で決定するように構成されている。

(1) 大当り判定用乱数による抽選時に時短回数別で時短図柄をあらかじめ定めておく方法（図349(b)の方法）。

(2) 時短図柄当選後に別の抽選で時短回数Nを決定する方法（図349(c)の方法）。

50

【2761】

図349(b)の方法は、大当たり判定用乱数による抽選時に時短図柄別(乱数範囲別)で時短図柄をあらかじめ定めておく場合の方法である。この方法では、大当たり、小当たり、時短回数が100回の時短図柄C-1、時短回数が100回の時短図柄C-2、ハズレを所定値(所定の置数)で設定し、大当たり判定用乱数による抽選時に大当たり、小当たり、時短回数が100回の時短図柄C-1、時短回数が100回の時短図柄C-2、ハズレを決定するように構成されている。この方法では、1回の抽選によって、時短図柄および時短回数を決定するように構成されている。そして、時短図柄C-1が決定された場合は、時短回数が100回の時短C-1が作動し、時短図柄C-2が決定された場合は、時短回数が100回の時短C-2が作動するように構成されている。

10

【2762】

図349(c)の方法は、時短図柄当選後に別の抽選で時短回数Nを決定する方法である。この方法では、大当たり、小当たり、時短図柄C、ハズレを所定値(所定の置数)で設定し、大当たり判定用乱数による抽選時に大当たり、小当たり、時短図柄、ハズレを決定するように構成されている。そして、この抽選によって、時短図柄Cが決定された場合において、別の抽選で時短回数を決定するように構成されている。大当たり、小当たり、ハズレが決定された場合であっても、別の抽選で時短回数を決定するように構成してもよい。別の抽選では、例えば、時短回数が100回の時短C-1と時短回数が100回の時短C-2を所定値(所定の置数)で設定し、抽選によって、100回の時短C-1、100回の時短C-2のいずれかが決定されるように構成されている。つまり、この方法では、2回の抽選によって、時短図柄および時短回数を決定するように構成されている。時短回数抽選によって、時短C-1が決定された場合は時短回数が100回の時短C-1が作動し、時短C-2が決定された場合は時短回数が100回の時短C-2が作動するように構成されている。なお、時短Cの時短図柄を大当たり図柄または小当たり図柄と兼用しないように構成しているが、兼用しても良い。

20

【2763】

時短Cは、時短図柄の組合せが停止表示された後に作動するように構成されている。時短図柄の抽選によって時短Cが作動する遊技状態は、低確低ベース状態のみとし、高確高ベース状態、高確低ベース状態、低確高ベース状態においては、抽選を行わないもしくは当選しても無効するように構成しているが、全ての遊技状態で時短抽選を実行可能としても良い。

30

【2764】

時短Cの終了条件は、以下の(1)~(3)となっている。

(1) 条件装置が作動した場合に時短Cが終了する。

(2) 条件装置の作動に係る抽選を規定回数行った場合に時短Cが終了する。

(3) 主遊技図柄の作動回数を契機とした時短Bが作動した場合に時短Cが終了する。

【2765】

図350は、時短回数を複数有する設定機能付きぱちんこ遊技機の時短Cの抽選方式を示す図である。時短図柄の抽選による時短Cの抽選に関して、時短図柄に係る抽選は大当たり判定用乱数を参照して行なうように構成されている。なお、大当たり判定用乱数が存在しない場合には、小当たり判定用乱数を用いるように構成されている。時短図柄の抽選による時短Cの抽選確率は、設定によりその確率が変動しないように構成されている。つまり、設定に関わらず1の確率となるように構成されている。例えば、図350(a)に示すように、時短確率は1/300に固定されている。

40

(設定1) 大当たり確率=1/200、時短確率1/300

(設定6) 大当たり確率=1/100、時短確率1/300

【2766】

時短図柄の抽選による時短Cの抽選に関して、時短図柄に係る抽選は大当たり判定用乱数参照して行なうように構成されている。なお、大当たり判定用乱数が存在しない場合には、小当たり判定用乱数を用いる。時短Cの時短回数Nは、以下のいずれかの方法で決定するよ

50

うに構成されている。

(1) 大当たり判定用乱数による抽選時に時短回数別で時短図柄をあらかじめ定めておく方法(図350(b)の方法)。

(2) 時短図柄当選後に別の抽選で時短回数Nを決定する方法(図350(c)の方法)。
【2767】

図350(b)の方法は、大当たり判定用乱数による抽選時に時短回数別で時短図柄をあらかじめ定めておく場合の方法である。この方法では、大当たり、小当たり、時短回数が100回の時短図柄C-1、時短回数が50回の時短図柄C-2、ハズレを所定値(所定の置数)で設定し、大当たり判定用乱数による抽選時に大当たり、小当たり、時短回数が100回の時短図柄C-1、時短回数が50回の時短図柄C-2、ハズレを決定するように構成されている。この方法では、1回の抽選によって、時短図柄および時短回数を決定するように構成されている。そして、時短図柄C-1が決定された場合は、時短回数が100回の時短C-1が作動し、時短図柄C-2が決定された場合は、時短回数が50回の時短C-2が作動するように構成されている。

【2768】

図350(c)の方法は、時短図柄当選後に別の抽選で時短回数Nを決定する方法である。この方法では、大当たり、小当たり、時短図柄C、ハズレを所定値(所定の置数)で設定し、大当たり判定用乱数による抽選時に大当たり、小当たり、時短図柄、ハズレを決定するように構成されている。そして、この抽選によって、時短図柄Cが決定された場合において、別の抽選で時短回数を決定するように構成されている。大当たり、小当たり、ハズレが決定された場合であっても、別の抽選で時短回数を決定するように構成してもよい。別の抽選では、例えば、時短回数が100回の時短C-1と時短回数が50回の時短C-2を所定値(所定の置数)で設定し、抽選によって、100回の時短C-1、50回の時短C-2のいずれかが決定されるように構成されている。つまり、この方法では、2回の抽選によって、時短図柄および時短回数を決定するように構成されている。時短回数抽選によって、時短C-1が決定された場合は時短回数が100回の時短C-1が作動し、時短C-2が決定された場合は時短回数が50回の時短C-2が作動するように構成されている。なお、時短Cの時短図柄を大当たり図柄または小当たり図柄と兼用しないように構成しているが、兼用しても良い。

【2769】

時短Cは、時短図柄の組合せが停止表示された後に作動するように構成されている。時短図柄の抽選によって時短Cが作動する遊技状態は、低確低ベース状態のみとし、高確高ベース状態、高確低ベース状態、低確高ベース状態においては、抽選を行わないもしくは当選しても無効するように構成しているが、全ての遊技状態で時短抽選を可能としても良い。

【2770】

50回と100回のように複数の時短回数を設定する場合、時短図柄に関しては以下の条件を満足するように設定されている。

(1) 複数の時短図柄を設定する場合、時短回数Nの最大回数は、主遊技図柄の作動確率が低いときの大当たり確率 $ML = 1/P$ に対して、 $N \leq P$ となるように設定する。

なお、設定機能を有するぱちんこ遊技機においてのPは、最も主遊技図柄の作動確率が低い設定(例えば、設定1)の値が好適であるが、いずれの設定であっても良い。

(2) 複数の時短図柄を設定する場合、時短図柄の出現確率Mは、主遊技図柄の作動確率が低いときの大当たり確率 $ML = 1/P$ に対して、 $1/M \leq P$ となるように設定する。

なお、設定機能を有するぱちんこ遊技機においてのPは、最も主遊技図柄の作動確率が低い設定(例えば、設定1)の値が好適であるが、いずれの設定であっても良い。

【2771】

上述のとおり、時短Cの終了条件は、以下の(1)～(3)となっている。

(1) 条件装置が作動した場合に時短Cが終了する。

(2) 条件装置の作動に係る抽選を規定回数行った場合に時短Cが終了する。

(3) 主遊技図柄の作動回数を契機とした時短Bが作動した場合に時短Cが終了する。

【2772】

図351は、時短A、時短B、時短Cが重複して実行される例を示す図である。図351の(1)は、低確率状態中でのみ作動回数nを増加または減少させる例を示す。作動回数nを増加または減少させる天井カウンタは、低確率状態中でのみカウントするように構成されており、高確率状態ではカウントしないように構成されている。大当たり図柄の当選を契機に実行される時短Aと、所定の変動回数(主遊技図柄の作動回数n)の経過を契機に実行される時短Bと、大当たり図柄以外の所定図柄の当選を契機に実行される時短Cとを備えている。また、所定の変動回数は、低確率状態かつ非時短中においてカウントを行うように構成されている。所定の変動回数は、時短Cと時短Bの実行期間中でもカウント可能に構成されている。所定の変動回数は、低確率状態中の時短Aの実行期間中ではカウントする一方、高確率状態中の時短Aの実行中はカウントしないように構成されている。このように構成することにより、複数の突入契機を有する複数の時短を備えたばちんこ遊技機において、適切に時短を管理することができる。

10

【2773】

図351の(2)は、時短Aから時短Cへの上書きは可能だが、時短Bから時短Cへの上書きは不可とする例を示す。大当たり図柄の当選を契機に実行される時短Aと、所定の変動回数(主遊技図柄の作動回数n)の経過を契機に実行される時短Bと、大当たり図柄以外の所定図柄の当選を契機に実行される時短Cとを備えている。時短Aの実行中に時短Cの実行契機となる時短図柄に当選した場合には、時短Aを時短Cに上書きしてまたは時短Aから時短Cに切り換えて時短Cを実行可能である一方、時短Bの実行中に時短Cの実行契機となる時短図柄に当選した場合には実行中の時短Bの時短回数の残り回数よりも時短Cの時短回数の方が多い場合であっても時短Cを実行しないように構成されている。このように構成することにより、複数の突入契機を有する複数の時短を備えたばちんこ遊技機において、適切に時短を管理することができる。なお、時短Aの実行中に時短Cの実行契機となる時短図柄に当選した場合には時短Cを実行可能である一方、時短Bの実行中は時短図柄の抽選を実行しないように構成しても良い。

20

【2774】

図351の(3)は、時短Aよりも時短Cの方が優先され、時短Cよりも時短Bの方が優先される例を示す。大当たり図柄の当選を契機に実行される時短Aと、所定の変動回数(主遊技図柄の作動回数n)の経過を契機に実行される時短Bと、大当たり図柄以外の所定図柄の当選を契機に実行される時短Cとを備えている。時短Aの実行中に時短Cの実行契機となる図柄に当選した場合には時短Aに優先して時短Cを実行可能である一方、時短Cの実行中に時短Bの実行契機となる所定の変動回数に到達した場合には時短Cに優先して時短Bを実行するように構成されている。このように構成することにより、複数の突入契機を有する複数の時短を備えたばちんこ遊技機において、適切に時短を管理することができる。なお、時短Aの実行中に時短Cの実行契機となる図柄に当選した場合には時短Aを時短Cに上書きして時短C実行可能である一方、時短Cの実行中に時短Bの実行契機となる所定の変動回数に到達した場合には時短Cを時短Bに上書きして時短Bを実行するように構成しても良い。また、時短Aの実行中に時短Cの実行契機となる図柄に当選した場合には時短Aを時短Cに切り換えて時短Cを実行可能である一方、時短Cの実行中に時短Bの実行契機となる所定の変動回数に到達した場合には時短Cを時短Bに切り換えて時短Bを実行するように構成しても良い。

30

40

【2775】

図351の(4)は、時短A中に時短Cへの上書きが可能であり、その場合、時短C中も補助遊技図柄の高確率状態(普図高)を維持する例を示す。大当たり図柄の当選を契機に実行される時短Aと、大当たり図柄以外の所定図柄の当選を契機に実行される時短Cとを備えている。時短Aの実行中に時短Cの実行契機となる時短図柄に当選した場合には時短Aに優先して時短Cを実行可能であり、かつ、時短Aの性能の補助遊技図柄の高確率状態(普図高)を維持するように構成されている。また、低確低ベース状態中に時短Cの実行契

50

機となる時短図柄に当選した場合には時短Cを実行可能であり、かつ、低確低ベース状態の性能の補助遊技図柄の低確率状態（普図低）を維持するように構成されている。このように構成することにより、複数の突入契機を有する複数の時短を備えたばちんこ遊技機において、適切に時短を管理することができる。

【2776】

図352は、時短Bが連続して実行される例を示す図である。図352の(5)は、作動回数 $n \leq$ 時短回数 N に設計することで、時短Bを途切れないように構成可能な例を示す。所定の変動回数（主遊技図柄の作動回数 n ）の経過を契機に実行される時短Bを備えている。主遊技図柄が、作動回数 n 回の変動回数を実行したことを契機として時短回数 N 回の時短Bを実行可能に構成されている。時短回数 N 回の時短B中も作動回数 n 回のカウン

10

$$2.5 \times P \leq n \leq 3.0 \times P$$

$$0.4 \times P \leq N \leq 3.8 \times P$$

なお、この場合、下限値同士だと該当せず、上限値同士だと該当するように設計されている。

【2777】

図352の(6)は、作動回数 $n >$ 時短回数 N に設計することで、時短Bが連続しないように構成可能な例を示す。所定の変動回数（主遊技図柄の作動回数 n ）の経過を契機に実行される時短Bを備えている。主遊技図柄が、作動回数 n 回の変動回数を実行したことを契機として時短回数 N 回の時短Bを実行可能に構成されている。時短回数 N 回の時短B中も作動回数 n 回のカウン

20

$$2.5 \times P \leq n \leq 3.0 \times P$$

$$0.4 \times P \leq N \leq 3.8 \times P$$

なお、この場合、下限値同士だと該当せず、上限値同士だと該当するように設計されている。

【2778】

<作動回数 n の計測>

作動回数 n の計測は、大当り遊技の終了後（役物連続作動装置の作動終了後）から常時カウントするように構成されている。大当り遊技の終了後の遊技状態は、低確低ベース状態、低確高ベース状態、高確高ベース状態、高確低ベース状態のいずれの遊技状態であってもよい。次回確変タイプ、STタイプ、転落タイプで主遊技図柄の作動回数を契機とした時短Bを採用した場合、次回確変タイプ、STタイプ、転落タイプの高確高ベース状態が維持されている状態において、次回確変タイプ、STタイプ、転落タイプの高ベース状態よりも時短回数の少ない時短Bが作動することによって、時短Bが終了した際に高確低ベース状態となる場合がある。特に、STタイプでは、STの高ベース状態の時短回数の方が時短Bの高ベース状態よりも多い場合で時短Bが作動した場合、時短Bが終了するタイミングで高確低ベース状態となる。また、小当りRUSHタイプの高確低ベース状態であるRUSH状態の時に、主遊技図柄の作動回数が作動回数 n となり時短Bが作動した場合、高確高ベース状態となるため、RUSH状態が終了する。このような状況は、出現可能性は低い

30

40

【2779】

50

高確率状態（高確高ベース状態、高確低ベース状態）又は時短状態（低確高ベース状態）において、主遊技図柄の作動回数が作動回数 n となった場合、時短 B は即発動（直ぐに作動）しても良いし、所定期間（予め定められた変動回数）を経過してから発動（作動）しても良い。

【2780】

主遊技図柄の作動回数を契機とした時短 B 、時短図柄の停止表示を契機とした時短 C において、補助遊技図柄（普通図柄）の確率変動（例えば、第2主遊技始動口電動役物の開放当選確率を高くする）となるように構成されている。

【2781】

主遊技図柄の作動回数を契機とした時短 B の作動前に時短 B が作動することを示唆するカウントダウン演出やカウントアップ演出を実行するように構成しても良い。主遊技図柄の作動回数を契機とした時短 B の作動前の主遊技図柄の変動時間を変更可能に構成している。例えば、時短 B が作動する変動の1変動前から10変動前等の主遊技図柄の変動時間を予め定められた固定の変動時間（例えば、10秒）に変更することによってカウントダウン演出（例えば、 $9 \rightarrow 8 \rightarrow 7 \rightarrow 6 \rightarrow 5 \rightarrow 4 \rightarrow 3 \rightarrow 2 \rightarrow 1$ ）やカウントアップ演出を実行可能なように構成している。なお、1変動前から10変動前等の変動時間を選択する変動パターンテーブルを特殊な変動パターンテーブルへの参照に変更することで、1変動前～10変動前等の変動時間を予め定められた固定の変動時間（例えば、10秒）とすることができる。

【2782】

また、主遊技図柄の作動回数を契機とした時短 B の作動時の主遊技図柄の変動時間を変更可能に構成している。例えば、時短 B の作動時の主遊技図柄の変動時間を予め定められた固定の変動時間（例えば、30秒）に変更することによって時短 B が開始されることを示すオープニング演出を実行可能なように構成している。なお、時短 B の作動時の主遊技図柄の変動時間を選択する変動パターンテーブルを特殊な変動パターンテーブルへの参照に変更することで、時短 B の作動時の主遊技図柄の変動時間を予め定められた固定の変動時間（例えば、30秒）とすることができる。また、主遊技図柄の作動回数が n 回目の変動固定時間を通常よりも長い時間（例えば、30秒）とすることで、時短 B が開始されることを示すオープニング演出を実行可能に構成しても良い。また、主遊技図柄の作動回数が n 回目の変動時間の決定時に変動時間を増加させる処理（追加する処理）を実行することによって、時短 B が開始されることを示すオープニング演出を実行可能に構成しても良い。

【2783】

上述のカウントダウン演出、カウントアップ演出、オープニング演出、等を実行するために特殊な変動パターンテーブルへの参照に変更する技術内容について、RAMクリアを契機とした変動回数（＝作動回数 n ）に応じて通常遊技状態で参照される変動パターンテーブルから特殊な変動パターンテーブルへの参照に変更する場合、遊技場の関係者が朝の点検等の理由により何回かの変動を行った台と行わなかった台とで時短 B が実行されるまでの作動回数（＝ n ）がずれることになる。また、同様に、RAMクリア（または設定変更に伴うRAMクリア）が行われた場合と、行われなかった場合とで時短 B までの作動回数（＝ n ）も異なることになる。このように、朝の台の状況に応じて時短 B までの作動回数（＝ n ）が異なることがないように、RAMクリア（または設定変更に伴うRAMクリア）が行われた後の最初の大当たり又は小当たりが実行されるまでは時短 B までの作動回数（＝ n ）に応じて特殊な変動パターンテーブルへの変更を行わないようにし、最初の大当たり又は小当たりが実行された以降の大当たり又は小当たりを契機とした時短 B までの作動回数（＝ n ）に応じて特殊な変動パターンテーブルへの変更を行うようにするのが好適である。このように構成することで朝の台の状況に関わらず、時短 B の開始に伴うカウントダウン演出、カウントアップ演出、オープニング演出を一律に管理することができる。

【2784】

時短 B を作動させる主遊技図柄の作動回数である作動回数 n を複数有していても良く、

以下に（１）～（４）を例示する。

（１）滞在する遊技状態で作動回数 n が異なるように構成されている。

例えば、低確低ベース状態の滞在中では作動回数 n が 100 回、高確低ベース状態の滞在中では作動回数 n が 150 回等に設定される。

（２）作動回数 n がクリアされていない状態における時短 B の発生回数に応じて作動回数 n が異なるように構成されている。

例えば、時短 B が一度も作動していない場合の作動回数 n は 100 回、既に 1 度時短 B が作動した場合は 120 回、既に 2 度時短 B が作動した場合は作動回数 n が 150 回等に設定される。

（３）作動回数 n がクリアされた図柄変動で停止表示された主遊技図柄の組合せに応じて作動回数 n が異なるように構成されている。

例えば、主遊技図柄の組合せが A の場合は作動回数 n が 100 回、主遊技図柄の組合せが B の場合は作動回数 n が 120 回等に設定される。

（４）時短 B 作動時または時短 B 作動直後（例えば、時短 B の 1 変動目）に停止表示された主遊技図柄の組合せに応じて作動回数 n が異なるように構成されている。

例えば、停止表示された主遊技図柄の組合せが A の場合は作動回数 n が 100 回、主遊技図柄の組合せが B の場合は作動回数 n が 120 回等に設定される。

【2785】

時短 B の時短回数 N を複数有していても良く、以下に（１）～（４）を例示する。

（１）時短 B が作動する際の遊技状態で時短回数 N が異なるように構成されている。

例えば、低確低ベース状態で時短 B が作動する場合は時短回数 N が 100 回、高確低ベース状態では時短回数 N が 150 回等に設定される。

（２）作動回数 n がクリアされていない状態における時短 B の発生回数に応じて時短回数 N が異なるように構成されている。

例えば、1 度目に時短 B が作動する場合は時短回数 N が 100 回、2 度目の時短 B は時短回数 N が 120 回、3 度目の時短 B は時短回数 N が 150 回等に設定される。

（３）作動回数 n がクリアされた図柄変動で停止表示された主遊技図柄の組合せに応じて時短回数 N が異なるように構成されている。

例えば、主遊技図柄の組合せが A の場合は時短回数 N が 100 回、主遊技図柄の組合せが B の場合は時短回数 N が 120 回等に設定される。

（４）時短 B 作動時または時短 B 作動直後（例えば、時短 B の 1 変動目）に停止表示された主遊技図柄の組合せに応じて時短回数 N が異なるように構成されている。

例えば、停止表示された主遊技図柄の組合せが A の場合は 100 回、主遊技図柄の組合せが B の場合は 120 回等に設定する。

【2786】

主制御基板 M の CPU C100 は、時短 B が作動したタイミングで時短 B が作動していることを示す外端信号（時短 B 信号）を外部端子板へ出力するように構成されている。

【2787】

ここで、特別遊技を実行することとなった大当り図柄や小当り図柄の特別図柄を契機とした時短 A は、時短 B の遊技状態でのみ作動可能としても良い。つまり、時短 A を、遊技状態と大当り図柄に基づいて作動するように構成して、時短 B 以外の遊技状態において大当りとなっても時短 A が作動しないように構成する。また、1 回目の時短 B が作動してから時短 B が終了した状態であって 2 回目の時短 B が作動するまでの遊技状態（天井抜け状態）でのみ時短 B を作動可能としても良い。つまり、時短 A を、遊技状態と大当り図柄に基づいて作動するように構成して、天井抜け状態以外の遊技状態において大当りとなっても時短 A が作動しないように構成する。

【2788】

時短 C について、性能の異なる複数の時短 C を設けてもよい。性能とは、時短回数、補助遊技図柄の当選確率、第 2 主遊技始動口電動役物の開放期間、補助遊技図柄の変動時間、の何れか一つまたはこれらの組合せが該当する。複数の時短 C を設ける場合、停止表示

10

20

30

40

50

された時短図柄の種類に応じて性能が異なるように構成されている。

【2789】

時短図柄を契機とした時短Cの作動時の主遊技図柄の変動時間を変更可能に構成している。例えば、時短Cの作動時の主遊技図柄の変動時間を予め定められた固定の変動時間（例えば、30秒）に変更することによって時短Cが開始されることを示すオープニング演出を実行可能なように構成している。なお、時短Cの作動時の主遊技図柄の変動時間を選択する変動パターンテーブルを特殊な変動パターンテーブルを用いることで、時短Cの作動時の主遊技図柄の変動時間を予め定められた固定の変動時間（例えば、30秒）とすることができる。また、時短図柄が停止表示される際の変動固定時間を通常よりも長い時間（例えば、30秒）とすることで、時短Cが開始されることを示すオープニング演出を実行可能に構成しても良い。また、時短図柄が停止表示される図柄変動の変動時間の決定時に変動時間を追加する処理を含めることによって、時短Cが開始されることを示すオープニング演出を実行可能に構成しても良い。

10

【2790】

主制御基板MのCPU100は、時短Cが作動したタイミングで時短Cが作動していることを示す外端信号（時短C信号）を外部端子板へ出力するように構成されている。

【2791】

ここで、特別遊技を実行することとなった大当り図柄や小当り図柄の特別図柄を契機とした時短Aは、時短の遊技状態でのみ作動可能としても良い。つまり、時短Aを、遊技状態と大当り図柄に基づいて作動するように構成して、時短以外の遊技状態において大当りとなっても時短Aが作動しないように構成する。また、1回目の時短Cが作動してから時短Cが終了した状態であって2回目の時短Cが作動するまでの遊技状態（図柄時短抜け状態）でのみ時短Cを作動可能としても良い。つまり、時短Aを、遊技状態と大当り図柄に基づいて作動するように構成して、図柄時短抜け状態以外の遊技状態において大当りとなっても時短Aが作動しないように構成する。

20

【2792】

図353は、時短Bの作動タイミングと時短Cの作動タイミングの処理を示す図である。時短図柄の表示前に、時短Bが作動する場合であって、時短Bの作動タイミング（作動回数nを計測してから時短Bを作動させるタイミング）が変動開始時または図柄変動中の場合を図353（1）に示す。主遊技図柄は、作動回数n回転目で時短図柄の態様で停止表示する図柄変動である。まず、T1のタイミングで、主遊技図柄の図柄変動が開始される。また、時短Bの作動タイミング（作動回数nを計測してから時短Bを作動させるタイミング）が変動開始時に構成されているため、T1のタイミングでは、作動回数nを計測して、作動回数nとなったことを契機として時短Bを作動させる。なお、時短Bの作動タイミング（作動回数nを計測してから時短Bを作動させるタイミング）が図柄変動中の場合、T1よりも後に作動回数nを計測して、作動回数nとなったことを契機として時短Bを作動させるように構成されている。T1よりも後のタイミングのT2のタイミングで、主遊技図柄が時短図柄の態様で停止表示される。ここで、時短図柄の態様で停止表示したタイミングでは、既に時短Bが作動しているため、時短Cの作動は制限され無効になる。なお、主遊技図柄は、第1主遊技図柄であっても、第2主遊技図柄であっても良い。また、ぱちんこ遊技機のタイプは記載していないが、如何なるタイプのぱちんこ遊技機に対して適用可能である。また、遊技状態は、低確低ベース状態、低確高ベース状態（時短A～C）、高確高ベース状態（時短A～C）、高確低ベース状態のいずれの遊技状態であっても良い。

30

40

【2793】

次に、時短Bの作動回数nの計測及び時短Bの作動が変動終了時（主遊技図柄の停止表示時）の場合のパターン1を図353（2）に示す。主遊技図柄は、作動回数n回転目で時短図柄の態様で停止表示する図柄変動である。まず、T1のタイミングで、主遊技図柄の図柄変動が開始される。T1よりも後のタイミングのT2のタイミングで、主遊技図柄が時短図柄の態様で停止表示される。ここで、T2のタイミングでのプログラム処理順1

50

は、作動回数 n の計測、時短 B の作動、時短図柄表示の順番となっているので、作動回数 n を計測して、作動回数 n となったことを契機とした時短 B を作動させる。その後、時短図柄を表示するプログラム処理が実行されるが、このタイミングでは既に時短 B が実行されているため、時短図柄の停止表示を契機とした時短 C の作動は制限され無効となる。なお、主遊技図柄は、第 1 主遊技図柄であっても、第 2 主遊技図柄であっても良い。また、ぱちんこ遊技機のタイプは記載していないが、如何なるタイプのぱちんこ遊技機に対して適用可能である。また、遊技状態は、低確低ベース状態、低確高ベース状態（時短 A ～ C）、高確高ベース状態（時短 A ～ C）、高確低ベース状態のいずれの遊技状態であっても良い。

【2794】

次に、時短 B の作動回数 n の計測及び時短 B の作動が変動終了時（主遊技図柄の停止表示時）の場合のパターン 1 において、一旦時短 C が作動してから時短 B に切り換えるパターンを、図 353（2）を用いて説明する。主遊技図柄は、作動回数 n 回転目で時短図柄の態様で停止表示する図柄変動である。まず、T1 のタイミングで、主遊技図柄の図柄変動が開始される。T1 よりも後のタイミングの T2 のタイミングで、主遊技図柄が時短図柄の態様で停止表示される。ここで、T2 のタイミングでのプログラム処理順 2 は、時短図柄表示、時短 C の作動、作動回数 n の計測、時短 C の終了、時短 B の作動の順番となっているので、時短図柄の停止表示を契機とした時短 C を作動させる。また、T2 のタイミングでは、時短 C を作動させた後に、作動回数 n を計測して、作動回数 n となったことを契機とした時短 B を作動させる。ここで、時短 B を作動させるにあたり、時短 C が既に作動しているため、時短 C を終了させて時短 C を未作動の状態にしてから、時短 B を作動させるようなプログラム処理が実行されるように構成されている。つまり、時短 C から時短 B に切り換える処理（上書きする処理）を実行している。なお、図 353（2）では、時短 C が未作動のままの状態を継続しているタイミングチャートになっているが、このパターンでは、本来、T2 のタイミングで時短 C が一瞬作動してから未作動になるようになっていることを補足しておく。なお、主遊技図柄は、第 1 主遊技図柄であっても、第 2 主遊技図柄であっても良い。また、ぱちんこ遊技機のタイプは記載していないが、如何なるタイプのぱちんこ遊技機に対して適用可能である。また、遊技状態は、低確低ベース状態、低確高ベース状態（時短 A ～ C）、高確高ベース状態（時短 A ～ C）、高確低ベース状態のいずれの遊技状態であっても良い。

【2795】

次に、時短 B の作動回数 n の計測及び時短 B の作動が変動終了時（主遊技図柄の停止表示時）の場合のパターン 2 を図 353（3）に示す。主遊技図柄は、作動回数 n 回転目で時短図柄の態様で停止表示する図柄変動である。まず、T1 のタイミングで、主遊技図柄の図柄変動が開始される。T1 よりも後のタイミングの T2 のタイミングで、主遊技図柄が時短図柄の態様で停止表示される。ここで、T2 のタイミングでのプログラム処理は、時短図柄表示、時短 C の作動、作動回数 n の計測の順番となっているので、時短図柄の停止表示を契機とした時短 C を作動させる。その後、作動回数 n の計測を実行するプログラム処理が実行されるが、このタイミングでは既に時短 C が実行されているため、主遊技図柄の作動回数 n を契機とした時短 B の作動は制限され無効となる。なお、主遊技図柄は、第 1 主遊技図柄であっても、第 2 主遊技図柄であっても良い。また、ぱちんこ遊技機のタイプは記載していないが、如何なるタイプのぱちんこ遊技機に対して適用可能である。また、遊技状態は、低確低ベース状態、低確高ベース状態（時短 A ～ C）、高確高ベース状態（時短 A ～ C）、高確低ベース状態のいずれの遊技状態であっても良い。

【2796】

図 354 は、時短 A または時短 B の終了タイミングと時短 C の作動タイミングの処理を示す図である。時短図柄の表示前に、時短（時短 A、B）が終了した場合であって、時短（時短 A、B）の終了タイミングが変動開始時から変動終了時前（図柄変動中）の場合を図 354（1）に示す。主遊技図柄は、時短回数 N 回転目で時短図柄の態様で停止表示する図柄変動である。まず、T1 のタイミングで、主遊技図柄の図柄変動が開始される。ま

10

20

30

40

50

た、T 1のタイミングでは、時短（時短A、B）の時短回数Nの計測及び時短（時短A、B）の終了が変動開始時から変動停止時前（変動中）に構成されているため、時短（時短A、B）が終了し未作動となる。T 1よりも後のタイミングのT 2のタイミングで、主遊技図柄が時短図柄の態様で停止表示される。また、T 2のタイミングでは、他の時短が作動していない非時短中のため、時短Cを作動させる。なお、主遊技図柄は、第1主遊技図柄であっても、第2主遊技図柄であっても良い。また、ぱちんこ遊技機のタイプは記載していないが、如何なるタイプのぱちんこ遊技機に対して適用可能である。また、遊技状態は、低確低ベース状態、低確高ベース状態（時短A～C）、高確高ベース状態（時短A～C）、高確低ベース状態のいずれの遊技状態であっても良い。

【2797】

次に、時短図柄の表示時に、時短（時短A、B）が終了した場合であって、時短（時短A、B）の終了タイミングが変動終了時の場合のパターン1を図354（2）に示す。主遊技図柄は、時短回数N回転目で時短図柄の態様で停止表示する図柄変動である。まず、T 1のタイミングで、主遊技図柄の図柄変動が開始される。T 1よりも後のタイミングのT 2のタイミングで、主遊技図柄が時短図柄の態様で停止表示される。また、T 2のタイミングでは、時短（時短A、B）の時短回数Nの計測及び時短（時短A、B）の終了が変動終了時であるため、時短回数N回到達で時短（時短A、B）を終了させる。このT 2のタイミングでは、プログラム処理順として、時短図柄表示、作動回数の計測で時短回数Nと判断、時短（時短A、B）の終了の順序でプログラム処理が実行されるように構成されている。ここで、T 2のタイミングでは、時短図柄が停止表示したことを契機に時短Cが作動するはずであるが、時短（時短A、B）がまだ作動中のため時短Cの作動は無効となるように構成されている。なお、主遊技図柄は、第1主遊技図柄であっても、第2主遊技図柄であっても良い。また、ぱちんこ遊技機のタイプは記載していないが、如何なるタイプのぱちんこ遊技機に対して適用可能である。また、遊技状態は、低確低ベース状態、低確高ベース状態（時短A～C）、高確高ベース状態（時短A～C）、高確低ベース状態のいずれの遊技状態であっても良い。

【2798】

次に、時短図柄の表示時に、時短（時短A、B）が終了した場合であって、時短（時短A、B）の終了タイミングが変動終了時の場合のパターン2を図354（3）に示す。主遊技図柄は、時短回数N回転目で時短図柄の態様で停止表示する図柄変動である。まず、T 1のタイミングで、主遊技図柄の図柄変動が開始される。T 1よりも後のタイミングのT 2のタイミングで、主遊技図柄が時短図柄の態様で停止表示される。また、T 2のタイミングでは、時短（時短A、B）の時短回数Nの計測及び時短（時短A、B）の終了が変動終了時であるため、時短回数N回到達で時短（時短A、B）を終了させる。このT 2のタイミングでは、プログラム処理順として、作動回数の計測で時短回数Nと判断、時短（時短A、B）の終了、時短図柄表示の順序でプログラム処理が実行されるように構成されている。また、T 2のタイミングでは、時短図柄表示よりも時短（時短A、B）の終了の方が先にプログラム処理されるため、時短（時短A、B）が終了し未作動となった後に、時短図柄が停止表示され、この時短図柄の停止表示を契機とした時短Cが作動するように構成されている。なお、主遊技図柄は、第1主遊技図柄であっても、第2主遊技図柄であっても良い。また、ぱちんこ遊技機のタイプは記載していないが、如何なるタイプのぱちんこ遊技機に対して適用可能である。また、遊技状態は、低確低ベース状態、低確高ベース状態（時短A～C）、高確高ベース状態（時短A～C）、高確低ベース状態のいずれの遊技状態であっても良い。

【2799】

時短Cの時短図柄の出現率（表示確率）に関しては、如何なる確率でもよく、時短回数に関しても如何なる回数であっても良い。

【2800】

<<用語の意義>>

第24実施形態における各用語の意義について以下に詳述する。なお、以下の用語に係

10

20

30

40

50

る構成や効果は他の実施形態に適用可能であり、他の構成とも組み合わせ可能であることを補足しておく。

【2801】

本実施形態、他の実施形態の大当たりとなる図柄変動、小当たりとなる図柄変動、ハズレとなる図柄変動は、大当たり図柄（大当たり図柄を時短図柄として併用しない場合）、小当たり図柄（小当たり図柄を時短図柄として併用しない場合）、ハズレ図柄（ハズレ図柄を時短図柄として併用しない場合）であることに限られず、大当たり図柄（大当たり図柄を時短図柄として併用する場合）、小当たり図柄（小当たり図柄を時短図柄として併用する場合）、ハズレ図柄（ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合）も含む。

【2802】

また、本実施形態、他の実施形態の大当たり図柄、小当たり図柄、ハズレ図柄を、時短図柄として読み替えることができる。時短図柄が停止表示する図柄変動を先読み演出のトリガ保留とすることが可能であるため、当り（大当たり、小当たり）やハズレとなる図柄変動のトリガ保留を、時短図柄を停止表示する図柄変動のトリガ保留として読み替えることもできる。

【2803】

<非時間短縮遊技状態>

非時間短縮遊技状態は、低確低ベース状態（通常遊技状態）を示す遊技状態である。なお、主遊技図柄の変動時間が通常遊技状態時よりも相対的に短い時間短縮遊技を実行しない高確低ベース状態を非時間短縮遊技状態としてもよい。

<非時間短縮遊技状態の効果>

（1）主に、第1主遊技側での遊技を可能とすることができる。

【2804】

<時間短縮遊技状態>

時間短縮遊技状態は、高確高ベース状態、低確高ベース状態を示す遊技状態である。なお、主遊技図柄の変動時間が通常遊技状態時よりも相対的に短い時間短縮遊技を実行する高確低ベース状態を時間短縮遊技状態としてもよい。

<非時間短縮遊技状態の効果>

（1）主に、第2主遊技側での遊技を可能とすることができる。

【2805】

<装飾図柄（演出用図柄）>

装飾図柄は、副制御基板Sにて制御される、主遊技側における当否抽選の結果を示唆又は報知する画像であって、第1装飾図柄と、第2装飾図柄とを有している。装飾図柄は変動を開始した後、仮停止し、その後、確定停止する。また、確定停止した際の停止表示態様（停止図柄）によって主遊技側における当否抽選の結果を示唆又は報知可能に構成されている。

<装飾図柄の効果>

（1）装飾図柄により、変動中であること、変動待機中であること、当否抽選の結果等を遊技者が認識し易くすることができる。

【2806】

<第1装飾図柄（第一演出用図柄）>

第1装飾図柄は、遊技者が視認し易いよう表示される装飾図柄であり、第1要素としてのカード型やキャラクタ型の画像オブジェクトと、第2要素としての数字（漢数字含む）、アルファベット、文字、記号、絵柄等の画像オブジェクトから構成される装飾図柄である。また、第1装飾図柄に第3要素として、キャラクタ型の画像オブジェクト等（第1要素）のキャラクタ型の画像オブジェクト自体の色彩エフェクトやキャラクタ型の画像オブジェクトの外側に付帯する色彩エフェクト、数字の画像オブジェクト等（第2要素）の数字の画像オブジェクト自体の色彩エフェクトや数字の画像オブジェクトの外側に付帯する色彩エフェクトを設けてもよい。さらに、第1装飾図柄は、遊技状態（低確低ベース状態、高確高ベース状態、高確低ベース状態、低確高ベース状態）に応じて、第1要素または

10

20

30

40

50

第2要素のみを表示する態様であってもよい。また、遊技状態に応じて、各要素の態様が異なるように構成されていてもよく、例えば、「7」の第1装飾図柄において、低確低ベース状態では正面を向いたライオンの画像オブジェクト（第1要素）であるが、他の遊技状態（例えば、高確高ベース状態又は低確高ベース状態）では横を向いたライオンの画像オブジェクト（第1要素）としたり、低確低ベース状態では数字の「7」の画像オブジェクト（第2要素）であるが、他の遊技状態（例えば、高確高ベース状態又は低確高ベース状態）では漢字の「七」の画像オブジェクト（第2要素）としたり、低確低ベース状態では「7」の画像オブジェクト又は「7」の画像オブジェクトの周りのエフェクトが赤色（第3要素）であるが、他の遊技状態（例えば、高確高ベース状態又は低確高ベース状態）では「7」の画像オブジェクト又は「7」の画像オブジェクトの周りのエフェクトが金色（第3要素）としたり、低確低ベース状態ではライオンの画像オブジェクトが黄色（第3要素）であるが、他の遊技状態（例えば、高確高ベース状態又は低確高ベース状態）ではライオンの画像オブジェクトが金色（第3要素）としたりしてもよい。また、遊技状態に応じて、各要素の有無が異なるように構成されていてもよく、例えば、「7」図柄の第1装飾図柄において、低確低ベース状態ではライオンの画像オブジェクト（第1要素）を有するが、他の遊技状態（例えば、高確高ベース状態又は低確高ベース状態）ではライオンの画像オブジェクト（第1要素）を有しない（つまり、第2要素と第3要素のみ、又は、第2要素のみ）よう構成したり、低確低ベース状態では「7」の画像オブジェクト又はキャラクタ型の画像オブジェクトの外側に付帯する色彩エフェクト（第3要素）を有するが、他の遊技状態（例えば、高確高ベース状態又は低確高ベース状態）では「7」の画像オブジェクト又はキャラクタ型の画像オブジェクトの外側に付帯する色彩エフェクト（第3要素）を有しない（つまり、第1要素と第2要素のみ、又は、第2要素のみ）よう構成したりしてもよい。なお、遊技状態と同様、ステージやモードによって各要素の態様や有無が異なるように構成されていてもよい。

<第1装飾図柄の効果>

- (1) 第1装飾図柄は、変動中の演出の興趣性を向上させることができる。
- (2) 第1装飾図柄は、確定的に停止表示することで遊技の結果を報知することができる。

【2807】

<第2装飾図柄（第二演出用図柄）>

第2装飾図柄は、常時若しくは遊技者が第1装飾図柄を視認し難い場合又は遊技者が第1装飾図柄を視認できない場合に、変動中であることを示す装飾図柄であり、第1装飾図柄の第2要素と同じまたは類似する数字（漢数字含む）、アルファベット、文字、記号、絵柄等の画像オブジェクトから構成される装飾図柄であって、第1装飾図柄の第2要素よりも小さく構成されている。なお、第2装飾図柄は、第2要素だけで構成されており、第1要素や第3要素は付帯されていない実施形態を示しているが、第1装飾図柄の第1要素と同じまたは類似し、第1装飾図柄の第1要素よりも小さい第1要素を付帯させてもよい。また、第1装飾図柄の第3要素と同じまたは類似する第3要素を付帯させてもよい。

<第2装飾図柄の効果>

- (1) 常時表示する場合：第2装飾図柄は、確定的に停止表示することで遊技の結果を報知することができる。
- (2) 第1装飾図柄を視認し難い又は視認できない場合1：第1装飾図柄が確定的に停止表示する場合に第2装飾図柄も確定的に停止表示しても良いが、第2装飾図柄は確定的に停止表示せずに第1装飾図柄を視認し難い又は第1装飾図柄を視認できないときにだけ表示する（仮停止）させることが好適であり、この場合はこの仮停止表示で遊技の結果を報知することができる。
- (3) 第1装飾図柄を視認し難い又は視認できない場合2：第2装飾図柄は仮停止表示及び確定的に停止表示を行わずに変動表示のみとし、第1装飾図柄が視認し難い又は視認できない場合であっても変動中であることを明確に報知することができる。

【2808】

<第1装飾図柄の図柄変動>

第1装飾図柄は、主遊技図柄（第1主遊技図柄、第2主遊技図柄）の変動と時間的に同期の取れた形であって、第1主遊技図柄及び第2主遊技図柄よりも視認し易い態様で表示領域SG10にて変動を行う。なお、第1装飾図柄の変動開始や再変動の開始から所定時間が経過するまでの変動を加速変動と呼び、第1装飾図柄の変動開始や再変動の開始から所定時間が経過した後の変動を高速変動と呼び、高速変動から仮停止や確定停止までの変動を減速変動と呼ぶ。高速変動している場合には第1装飾図柄は透過状態（例えば、第1装飾図柄の透明度を0～100のうち半透明とする50に設定する状態であり第1装飾図柄の後面に表示され且つ第1装飾図柄よりも表示優先度が低い演出ステージの背景画像を、第1装飾図柄を通して視認することができる状態）であり、遊技者が視認し難い又は視認できない態様となっており、加速変動および減速変動している場合には第1装飾図柄は非透過状態（例えば、第1装飾図柄の透明度を0～100のうち完全不透明とする0に設定する状態であり、第1装飾図柄の後面に表示され且つ第1装飾図柄よりも表示優先度が低い演出ステージの背景画像を、第1装飾図柄を通して視認することができない状態）であり、遊技者が視認し易い態様となっている。前述した高速変動中である期間において、装飾図柄が非表示となってもよく、この場合は実質的に変動していないため、「非表示状態」と称しても良い。

10

＜第1装飾図柄の図柄変動の効果＞

（1）第1装飾図柄により、変動中であることを遊技者に認識し易くすることができる。

【2809】

＜第2装飾図柄の図柄変動＞

20

第2装飾図柄は、主遊技図柄（第1主遊技図柄、第2主遊技図柄）及び第1装飾図柄の変動と時間的に同期の取れた形で変動を行う。第2装飾図柄は、主遊技図柄及び第1装飾図柄の変動中において常に変動していることが遊技者に確認できるように、加速や減速などを伴わず一定速度で変動表示され、透過状態になることもないよう構成されているが、第1装飾図柄と同様に、加速変動、高速変動、減速変動を行ってもよく、透過状態になることがあってもよい。

＜第2装飾図柄の図柄変動の効果＞

（1）第2装飾図柄は、第1装飾図柄が視認し難い又は視認できない場合であっても変動中であることを明確に報知することができ、変動中であることを遊技者に認識し易くすることができる。

30

【2810】

＜メイン領域＞

メイン領域とは、第1装飾図柄を表示するための表示領域（第1装飾図柄表示領域SG15）である。メイン領域内で第1装飾図柄が変動表示又は停止表示される。

＜メイン領域の効果＞

（1）第1装飾図柄を表示することができる。

（2）演出性に富んだ変動表示をすることができる。

【2811】

＜サブ領域＞

サブ領域とは、第2装飾図柄を表示するための表示領域（第2装飾図柄表示領域SG14）である。サブ領域内で第2装飾図柄が変動表示又は停止表示される。

40

＜サブ領域の効果＞

（1）第2装飾図柄を表示することができる。

【2812】

＜変動待機中＞

変動待機中とは、主遊技図柄や装飾図柄が変動していない状態である。変動停止中、変動停止状態と称することもある。

＜変動待機中の効果＞

（1）変動待機中は、遊技が進行中でないことを報知することができる。

【2813】

50

<待機中ムービー（待機デモ画面）>

待機中ムービーは、遊技者に変動中でないことを示す動画像の表示である。

<待機中ムービーの効果>

（１）待機中ムービーを表示することで、空き台であり、遊技可能であることを示唆することができる。

【２８１４】

<保留表示>

保留表示は、副制御基板Ｓにて制御される、主遊技側において実行されていない変動の数
を示す画像である。

<保留表示の効果>

（１）遊技者が未変動の数を認識し易くすることができる。

【２８１５】

<第１保留表示>

第１保留表示は、遊技者が視認し易いよう表示される保留表示である。

<第１保留表示の効果>

（１）遊技者が未変動の数を認識することができる。

（２）第１保留表示の表示態様を変化させることで、当りである可能性を示唆できる。

【２８１６】

<第２保留表示>

第２保留表示は、常時若しくは遊技者が第１保留表示を視認し難い場合又は遊技者が第
１保留表示を視認できない場合に、遊技者が視認可能に表示される保留表示である。

<第２保留表示の効果>

（１）遊技者が未変動の数を認識することができる。

【２８１７】

<第１保留表示領域>

第１保留表示領域ＳＧ１２は、第１保留表示を表示するための領域である。第１保留表
示の上限数を示す表示を行う場合もある。

<第１保留表示領域の効果>

（１）第１保留表示を表示することができる。

（２）第１保留表示の上限数を示す表示ができる。

【２８１８】

<第２保留表示領域>

第２保留表示領域ＳＧ１３は、第２保留表示を表示するための領域である。

<第２保留表示領域の効果>

（１）第２保留表示を表示することができる。

【２８１９】

<シフト表示（シフトアニメーション）>

シフト表示（シフトアニメーション）とは、保留数が減少した場合に表示されている第
１保留表示を移動させる際の動画像の表示である。

<シフト表示（シフトアニメーション）の効果>

（１）保留数が減少したことを認識し易くすることができる。

【２８２０】

<保留生起表示（保留生起アニメーション）>

保留生起表示（保留生起アニメーション）とは、保留数が増加した場合に新たな第１保
留表示を表示させる際の動画像の表示である。

<生起表示（保留生起アニメーション）の効果>

（１）保留数が増加したことを認識し易くすることができる。

【２８２１】

<当該変動の演出用保留表示（保留消化伝達画像、変動対応画像）>

当該変動の演出用保留表示とは、保留消化伝達画像、変動対応画像とも言い、ある保留

10

20

30

40

50

が消化された場合に表示される画像である。

＜当該変動の演出用保留表示の効果＞

（１）現在変動中の変動に関して、当り期待度を示唆することができる。

【２８２２】

＜当該変動の演出用保留表示領域＞

当該変動の演出用保留表示領域は、ある保留が消化された場合に表示される画像を表示するための領域である。

＜当該変動の演出用保留表示領域の効果＞

（１）当該変動の演出用保留表示を表示することができる。

（２）当該変動の演出用保留表示が表示されることを示唆することができる。

10

【２８２３】

＜表示プライオリティ＞

表示プライオリティとは、演出表示装置に表示する画像及び動画像の優先度（演出表示装置の前面側から表示する順序）を示すものである。

＜表示プライオリティの効果＞

（１）複数の画像又は動画像が重複して表示される場合に、遊技者が画像や動画像を見やすいように構成することができる。

【２８２４】

＜音量調整画面表示＞

音量調整画面表示とは、音量調整が可能であることを示し、現在設定されている音量、音量調整方法等を示す画像が表示される画面表示である。

20

＜音量調整画面表示の効果＞

（１）音量調整が可能であることを報知することができる。

（２）遊技者が容易に音量調整できるようにすることができる。

【２８２５】

＜光量調整画面表示＞

光量調整画面表示とは、光量調整が可能であることを示し、現在設定されている光量、光量調整方法等を示す画像が表示される画面表示である。

＜光量調整画面表示の効果＞

（１）光量調整が可能であることを報知することができる。

（２）遊技者が容易に光量調整できるようにすることができる。

30

【２８２６】

＜ステージ（演出ステージ）＞

ステージ（演出ステージ）とは、モード（演出モード）とも言い、背景画像により示される演出態様である。

＜ステージ（演出ステージ）の効果＞

（１）ステージに対応した表示（第１装飾図柄、予告等）をすることができる。

【２８２７】

＜潜伏モード（潜伏ステージ）＞

潜伏モード（潜伏ステージ）とは、確率変動遊技状態であるか非確率変動遊技状態であるかが不明な演出ステージ（演出モード）のことである。

40

＜潜伏モードの効果＞

（１）確率変動遊技状態であるか否かを煽ることができる。

【２８２８】

＜テンパイ＞

テンパイとは、リーチ、リーチ状態ともいい、複数の図柄列のうち最後に停止（仮停止）予定の図柄列以外の図柄列が同一の装飾図柄となっており、最後に停止（仮停止）予定の図柄列が変動している状態である。

＜テンパイの効果＞

（１）あと１つの図柄列で他の図柄列に停止している装飾図柄と同一の装飾図柄が停止す

50

ると当りであることを示すことができる。

【2829】

＜リーチ演出＞

リーチ演出とは、当該変動の当り期待度を示唆する演出であり、主にテンパイ後に、発生する演出である。リーチ演出には、ノーマルリーチ（ノーマルリーチ演出）、スーパーリーチ（スーパーリーチ演出、SPリーチ、SPリーチ演出、スーパーリーチ前半、スーパーリーチ後半）等がある。主に、リーチ成立後からスーパーリーチに発展する前までを（又は、スーパーリーチにならない場合はリーチ成立後から全図柄列が停止（仮停止）するまでを）ノーマルリーチと言い、リーチ成立後に発展する演出をスーパーリーチ（リーチ後発展演出とも言う）と言う。

10

＜リーチ演出の効果＞

（1）当該変動の当り期待度を示唆することができる。

【2830】

＜予告（予告表示、演出）＞

予告（予告表示、演出）とは、主に当該変動の当り（大当り、小当り）期待度を示唆することであるが、保留内に当り（大当り、小当り）があることを示唆すること（例：先読み予告、先読み演出等）として用いることもある。

＜予告（予告表示、演出）の効果＞

（1）当該変動が当り（大当り、小当り）であるか否かを煽ることができる。

（2）保留内に当り（大当り、小当り）があるか否かを煽ることができる。

20

【2831】

＜仮停止（仮停止表示）＞

仮停止（仮停止表示）とは、装飾図柄の変動が開始し、一旦装飾図柄が確定停止しているように見せるが、実際には、装飾図柄が微動している（揺れ変動と称することもある）状態である。

＜仮停止（仮停止表示）の効果＞

（1）複数回の変動を実行しているようにみせることができる。

（2）確定停止するか否か（換言すると、確定停止せずに再変動するか、確定停止せずに当りとなるか等）を煽ることができる。

【2832】

＜擬似連＞

擬似連とは、広義に再変動と称されることもあり、1回の変動において、装飾図柄が複数回変動しているように見せる演出である。

＜擬似連の効果＞

（1）1変動内で装飾図柄が複数回変動しているように見せることができる。

【2833】

＜擬似連示唆図柄＞

擬似連示唆図柄とは、擬似連が発生するか否かを煽る際に表示される特殊な装飾図柄のうちの1つである。

＜擬似連示唆図柄の効果＞

（1）擬似連が発生するか否かを煽ることができる。

40

【2834】

＜擬似連（再変動）図柄＞

擬似連（再変動）図柄とは、擬似連（再変動）が発生することを示す特殊な装飾図柄のうちの1つである。

＜擬似連（再変動）図柄の効果＞

（1）擬似連（再変動）が発生することを確定的に報知することができる。

【2835】

＜発展図柄＞

発展図柄とは、リーチ演出が発生することを示す特殊な装飾図柄のうちの1つである。

50

<発展図柄の効果>

(1) リーチ演出が発生することを確定的に報知することができる。

【2836】

<先読み演出>

先読み演出とは、保留内に当たり（大当たり、小当たり）があることを示唆する演出である。トリガ保留が生じたことを条件に（生じた保留に対する先読み演出を実行すると決定されたときに）、先読み演出が実行される。

<先読み演出の効果>

(1) 保留内に当たり（大当たり、小当たり）があるか否かを煽ることができる。

【2837】

<トリガ保留>

トリガ保留とは、先読み演出の実行契機となった（生じた保留に対する先読み演出を実行すると決定された）保留である。

<トリガ保留の効果>

(1) 先読み演出を実行することが可能となる。

(2) トリガ保留の変動で当たり（大当たり、小当たり）になる可能性を示唆することができる。

【2838】

<右打ち指示表示>

右打ち指示表示とは、第2主遊技始動口又は大入賞口が盤面右側に備えられていることが前提であるが、主に時間短縮遊技状態において表示される、右打ちを実行すべき旨の表示である。

<右打ち指示表示の効果>

(1) 時間短縮遊技状態において、遊技者に右打ちを実行するよう促すことができる。

【2839】

<打ち方警告表示（左打ち警告表示、右打ち警告表示）>

打ち方警告表示とは、現在の遊技状態において推奨される打ち方とは異なる打ち方であった場合に、推奨される打ち方を示す表示である。

(1) 遊技者に遊技状態に対応した打ち方を実行するよう促すことができる。

【2840】

<デフォルト表示>

デフォルト表示とは、予め初期状態として定められた表示態様である。

<デフォルト表示の効果>

(1) 遊技者に初期状態の表示であることを認識させ易くすることができる。

【2841】

<エフェクト表示>

エフェクト表示とは、画像自体、動画像におけるキャラクタの動作、可動役物の動作等を対象に演出表示装置にて表示される特殊効果である。

<エフェクト表示の効果>

(1) 対象である、画像自体、動画像におけるキャラクタの動作、可動役物の動作等を強調することができる。

【2842】

<全回転演出>

全回転演出とは、第1装飾図柄又は第2装飾図柄が図柄揃いしたまま、低速でスクロールしている状態である。

<全回転演出の効果>

(1) 当該変動が当たりとなることを確定的に報知することができる。

【2843】

<昇格演出>

昇格演出とは、非確変図柄から確変図柄に変更されるか否かを煽る演出又は低ラウンド当たり（例えば、4R当たり）から高ラウンド当たり（例えば、10R当たり）に変更されるか否

10

20

30

40

50

かを煽る演出である。昇格演出は、変動中のみではなく、特別遊技中にも発生し得る。非確変図柄から確変図柄に変更されるか否かを煽る昇格演出を確変昇格演出、低ラウンド当りから高ラウンド当りに変更されるか否かを煽る昇格演出をラウンド昇格演出と言うこともある。

＜昇格演出の効果＞

- (1) 非確変図柄から確変図柄に変更されるか否かを煽ることができる。
- (2) 低ラウンド当りから高ラウンド当りに変更されるか否かを煽ることができる。

【2844】

＜リーチボイス＞

リーチボイスとは、リーチが成立した際又はリーチが成立して所定時間（例えば、1秒）経過後に発生するサウンドによって当り期待度等を示唆する予告である。

＜リーチボイスの効果＞

- (1) リーチとなった際に、画像表示や可動役物の可動等と複合して当り期待度等を示唆することができる。

【2845】

＜変動開始時アクション（開始時動作）＞

第1装飾図柄は、左列、中列、右列のいずれの第1装飾図柄についても、特別な図柄アクション（キャラクタ等の第1要素、数字等の第2要素、色彩エフェクト等の第3要素、これらの組み合わせ又はいずれか1以上の要素が、変動開始直前（変動停止表示時）と比べて、拡大、縮小、回転、発光したり、いずれか1以上の要素に1以上の要素を追加したり、複数の要素の組み合わせから1以上の要素を削除したりする等の動作）を伴ってから図柄変動を開始することができる。そして、変動開始時アクションは、変動開始時アクションA、変動開始時アクションAよりも派手な図柄アクション（アクションの実行時間が長い、アクションにて使用する表示領域が大きい、拡大率が高い、回転が速い、発光が強いなど）である変動開始時アクションBなど複数種類あり、擬似連やリーチ演出などの高期待度の図柄変動になる方が、擬似連やリーチ演出にならない低期待度の通常の図柄変動よりも、変動開始時アクションBが発生しやすいように構成されている。つまり、変動開始時アクションBは変動開始時アクションAよりも、高期待度のアクションとして構成されている。また、時間短縮遊技状態においては、変動開始時アクションを伴わず開始するのが好適であるが、変動開始時アクションを伴ってもよく、そのように構成する場合は、時間短縮遊技状態をスムーズに進行させるべく非時間短縮遊技状態よりも変動開始時アクションを伴う可能性が低くなるよう構成することが好適である。また、擬似連やリーチ演出になる当該図柄変動を開始する際や先読み演出のトリガ保留よりも前のハズレの通常の図柄変動の開始する際に、左列、中列、右列の第1装飾図柄が変動開始時アクションを伴って変動を開始するように構成し、擬似連やリーチ演出とならない擬似連ガセやリーチ演出ガセのハズレの図柄変動や先読み演出を伴わないハズレの通常の図柄変動においては、図柄変動を開始する際に変動開始時アクションを伴わないように構成してもよい。なお、第2装飾図柄については、変動開始時アクションを実行しないことが好適であるが、第1装飾図柄と同様な変動開始時アクションを実行してもよい。

＜変動開始時アクション（開始時動作）の効果＞

- (1) 変動開始時アクションを伴って変動を開始することにより、変動開始タイミングを明確に示すことができる。また、変動開始のタイミングで当り期待度等を示唆することができる。

【2846】

また、変動開始時アクションとして、いずれか1以上の要素に1以上の要素を追加する具体例は以下の通りである。

- (1) 変動開始直前の第1装飾図柄は、第1要素のみで構成されているが、変動開始すると、第2要素が加わり、第1要素と第2要素とで構成される第1装飾図柄で変動開始時アクションを実行する。

- (2) 変動開始直前の第1装飾図柄は、第1要素のみで構成されているが、変動開始する

と、第3要素が加わり、第1要素と第3要素とで構成される第1装飾図柄で変動開始時アクションを実行する。

(3) 変動開始直前の第1装飾図柄は、第2要素のみで構成されているが、変動開始すると、第1要素が加わり、第1要素と第2要素とで構成される第1装飾図柄で変動開始時アクションを実行する。

(4) 変動開始直前の第1装飾図柄は、第2要素のみで構成されているが、変動開始すると、第3要素が加わり、第2要素と第3要素とで構成される第1装飾図柄で変動開始時アクションを実行する。

(5) 変動開始直前の第1装飾図柄は、第1要素と第2要素とで構成されているが、変動開始すると、第3要素が加わり、第1要素、第2要素、第3要素とで構成される第1装飾図柄で変動開始時アクションを実行する。

(6) 変動開始直前の第1装飾図柄は、第1要素と第3要素とで構成されているが、変動開始すると、第2要素が加わり、第1要素、第2要素、第3要素とで構成される第1装飾図柄で変動開始時アクションを実行する。

(7) 変動開始直前の第1装飾図柄は、第2要素と第3要素とで構成されているが、変動開始すると、第1要素が加わり、第1要素、第2要素、第3要素とで構成される第1装飾図柄で変動開始時アクションを実行する。

以上の(1)～(7)は、左列、中列、右列の全ての第1装飾図柄による変動開始時アクションであってもよいし、左列、中列、右列のうちいずれか1つの列による変動開始時アクションであってもよいし、左列、中列、右列のうちいずれか2つの列による変動開始時アクションであってもよい。

【2847】

変動開始時アクションとして、色彩エフェクト等の第3要素を用いてステップアップ演出を実行するように構成してもよい。例えば、青の色彩エフェクトをステップアップ1とし、緑の色彩エフェクトをステップアップ2とし、赤の色彩エフェクトをステップアップ3とし、金の色彩エフェクトをステップアップ4とすることができる。そして、緑の色彩エフェクトであるステップアップ2を、リーチ以上を示唆(報知)する予告演出とし、赤の色彩エフェクトであるステップアップ3を、弱SPリーチ以上を示唆(報知)する予告演出とし、金の色彩エフェクトであるステップアップ4を、SPリーチ以上を示唆(報知)する予告演出とすることも可能である。また、図柄が拡大することで、ロングリーチ以上を示唆(報知)する予告演出とすることも可能である。

【2848】

<定位置アクション(定位置動作)>

第1装飾図柄は、左列、中列、右列のいずれの第1装飾図柄についても、図柄変動を開始した後に仮停止した際に(仮停止直後である仮停止したタイミングに)、特別な図柄アクションを実行することができる。そして、定位置アクションは、定位置アクションA、定位置アクションAよりも派手な図柄アクション(アクションの実行時間が長い、アクションにて使用する表示領域が大きい、拡大率が高い、回転が速い、発光が強いなど)である定位置アクションBなど複数種類あり、擬似連やリーチ演出などの高期待度の図柄変動になる方が、擬似連やリーチ演出にならない低期待度の通常の図柄変動よりも、定位置アクションBが発生しやすいように構成されている。つまり、定位置アクションBは定位置アクションAよりも、高期待度のアクションとして構成されている。定位置アクションは、変動開始時アクションと異なるタイミングで実行されればよく、アクションに関しては、変動開始時アクションと同じアクションでもよいし、類似するアクションでもよいし、異なるアクションでもよい。変動開始時アクションと異なるアクションの場合は、変動開始時アクションの第1装飾図柄よりも下側の位置で第1装飾図柄を拡大してから上側の位置に戻すような定位置アクションとしてもよい。また、定位置アクションについては、第1装飾図柄の図柄列に応じて異なる定位置アクションを実行するようにしてもよいし、第1装飾図柄の種類(例えば、第1要素+第2要素の種類、第1要素の種類、第2要素の種類)に対応する定位置アクションを実行するように構成してもよい。第1装飾図柄の種類(

例えば、第1要素+第2要素の種類、第1要素の種類、第2要素の種類）に対応する定位置アクションを実行する場合、第1要素がライオンであれば、ライオンが襲い掛かるアクションを実行し、第1要素がヒヨコであれば、ヒヨコが両手を振るアクションを実行するような例が挙げられる。また、チャンス目先読み演出でのチャンス目の図柄組み合わせを確定停止させる場合に用いるチャンス目先読み演出専用の定位置アクションを設けてもよい。このチャンス目先読み演出専用の定位置アクションは、第1装飾図柄が跳ねるようなアクションを行った後に拡大するアクションを実行するような例が挙げられる。また、時間短縮遊技状態においては、定位置アクションを伴わず仮停止するのが好適であるが、定位置アクションを伴ってもよく、そのように構成する場合は、時間短縮遊技状態をスムーズに進行させるべく非時間短縮遊技状態よりも定位置アクションを伴う可能性が低くなるよう構成することが好適である。また、擬似連やリーチ演出になる当該図柄変動の第1装飾図柄の仮停止時や先読み演出のトリガ保留よりも前のハズレの図柄変動での第1装飾図柄の仮停止時には、左列、右列の第1装飾図柄が仮停止する表示領域（定位置の表示領域）において、定位置アクションを伴って仮停止するように構成し、擬似連やリーチ演出とならない擬似連ガセやリーチ演出ガセのハズレの図柄変動や先読み演出を伴わないハズレの通常の図柄変動においては、左列、右列の第1装飾図柄は定位置アクションを伴わないように構成してもよい。なお、第2装飾図柄については、定位置アクションを実行しないことが好適であるが、第1装飾図柄と同様な定位置アクションを実行してもよい。擬似連となる図柄変動において、中列の第1装飾図柄が仮停止してから再変動する場合は、中列の第1装飾図柄も定位置の表示領域において定位置アクションを実行してもよい。

10

20

<定位置アクション（定位置動作）の効果>

（1）定位置アクションを伴って第1装飾図柄を仮停止することにより、仮停止タイミングを明確に示すことができる。また、当り期待度等を示唆することができる。

【2849】

<揺れアクション（揺れ動作）>

第1装飾図柄は、図柄変動中または変動待機状態（確定停止状態）中に、特別な図柄アクションである揺れアクションを実行することができる。なお、第1装飾図柄が確定停止し、第1主遊技側の保留も第2主遊技側の保留も存在していない状態を変動待機状態と称する。例えば、図柄変動中であれば、左列、中列、右列の第1装飾図柄が仮停止した後に揺れアクション（揺れ変動ともいう）を実行し、変動待機状態中であれば、左列、中列、右列の第1装飾図柄が確定停止した後の所定時間経過時に揺れアクションを実行する。揺れアクションは、変動開始時アクション、定位置アクションと異なるタイミングで実行されればよく、アクションに関しては、変動開始時アクション、定位置アクションと同じアクションでもよいし、類似するアクションでもよいし、異なるアクションでもよい。また、揺れアクションについては、第1装飾図柄の図柄列に応じて異なるアクションとしてもよいし、第1装飾図柄の種類（例えば、第1要素+第2要素の種類、第1要素の種類、第2要素の種類）に対応するアクションを実行するように構成してもよい。第1装飾図柄の種類（例えば、第1要素+第2要素の種類、第1要素の種類、第2要素の種類）に対応する揺れアクションを実行する場合、第1要素がライオンであれば、ライオンが頭を上下に振るアクションを実行し、第1要素がヒヨコであれば、ヒヨコが頭を左右に振るアクションを実行するような例が挙げられる。また、スーパーリーチ演出中やバトルリーチ演出中の揺れアクションと、ノーマルリーチ演出中の揺れアクションとが異なるように構成されていてもよい。例えば、スーパーリーチ演出中やバトルリーチ演出中の揺れアクションは、ノーマルリーチ演出中の揺れアクションと比較して、第1装飾図柄が小さい、第1要素を消去して第2要素のみで揺れアクションしている、揺れ幅が小さい、揺れ動作がゆっくりである（1回の揺れの周期がノーマルリーチ演出よりも長い）ように構成されている例が挙げられる。なお、第2装飾図柄については、揺れアクションを実行しないことが好適であるが、第1装飾図柄と同様な揺れアクションを実行してもよい。また、仮停止前の状態である加速変動、高速変動、減速変動においては、この揺れアクションを伴わない（図柄アクションを一切行わず変動表示を行う）。また、時間短縮遊技状態においては、図柄変動

30

40

50

中には揺れアクションを実行するが、変動待機状態（確定停止状態）中には揺れアクションを実行しない。また、揺れアクションは、揺れアクションA、揺れアクションAよりも派手な図柄アクション（アクションにて使用する表示領域が大きい、拡大率が高い、回転が速い、発光が強いなど）である揺れアクションBなど複数種類設けてもよい。このように構成する場合、擬似連の回数が多い図柄変動やスーパーリーチ演出などの高期待度の図柄変動になる方が、擬似連の回数が少ない図柄変動やノーマルリーチ演出などの低期待度の図柄変動よりも、揺れアクションBが発生しやすいように構成される。つまり、揺れアクションBは揺れアクションAよりも、高期待度のアクションとして構成されている。

＜揺れアクション（揺れ動作）の効果＞

（１）揺れアクションを実行することにより、仮停止中であること、換言すれば確定停止前の状況（当りかハズレかが演出上未だ確定しない状況）であることを示すことができる。また、変動中のみならず確定停止後も第１装飾図柄に対する演出を実行することができる。

【２８５０】

＜テンパイアクション（特殊動作）＞

第１装飾図柄は、先に仮停止した第１装飾図柄（例えば、左列の第１装飾図柄）と次に仮停止した第１装飾図柄（例えば、右列の第１装飾図柄）、又は、同時に仮停止した第１装飾図柄同士（例えば、左列の第１装飾図柄と右列の第１装飾図柄）が同一の図柄であるテンパイ（リーチ状態を形成した状態）した際、特別な図柄アクションであるテンパイアクションを実行することができる。テンパイアクションは、変動開始時アクション、定位置アクション、揺れアクションと異なるタイミングで実行されればよく、アクションに関しては、変動開始時アクション、定位置アクション、揺れアクションと同じアクションでもよいし、類似するアクションでもよいし、異なるアクションでもよい。また、テンパイアクションについては、第１装飾図柄の図柄列に応じて異なるテンパイアクションを実行するようにしてもよいし、第１装飾図柄の種類（例えば、第１要素+第２要素の種類、第１要素の種類、第２要素の種類）に対応するアクションを実行するように構成してもよい。第１装飾図柄の種類（例えば、第１要素+第２要素の種類、第１要素の種類、第２要素の種類）に対応するテンパイアクションを実行する場合、第１要素がライオンであれば、ライオンが吠えるアクションを実行し、第１要素がヒヨコであれば、ヒヨコが上下の殻を吹き飛ばすアクションを実行するような例が挙げられる。また、時間短縮遊技状態においては、テンパイ（リーチ状態を形成した状態）した際にテンパイアクションを実行するのが好適であるが、テンパイアクションを実行しなくてもよい。ここで、時間短縮遊技状態においてテンパイ（リーチ状態を形成した状態）した際にテンパイアクションを実行する場合、非時間短縮遊技状態においてテンパイ（リーチ状態を形成した状態）した際にテンパイアクションを実行する場合よりも、テンパイ（リーチ状態を形成した状態）した際にテンパイアクションを伴う可能性が低くなるよう構成することが好適である。また、テンパイアクションは、テンパイアクションA、テンパイアクションAよりも派手な図柄アクション（アクションの実行時間が長い、アクションにて使用する表示領域が大きい、拡大率が高い、回転が速い、発光が強いなど）であるテンパイアクションBなど複数種類設けてもよい。このように構成する場合、擬似連の回数が多い図柄変動やスーパーリーチ演出などの高期待度の図柄変動になる方が、擬似連の回数が少ない図柄変動やノーマルリーチ演出などの低期待度の図柄変動よりも、テンパイアクションBが発生しやすいように構成される。つまり、テンパイアクションBはテンパイアクションAよりも、高期待度のアクションとして構成されている。なお、第２装飾図柄については、変動中にテンパイアクションを実行しないことが好適であるが、第１装飾図柄と同様なテンパイアクションを実行してもよい。

＜テンパイアクション（特殊動作）の効果＞

（１）テンパイしている第１装飾図柄の種類を遊技者に強調表示することができる。

【２８５１】

＜決めアクション（決め動作）＞

第1装飾図柄は、リーチ演出（ノーマルリーチ演出、スーパーリーチ演出等）を経由して当り（大当り、小当り）図柄を表示する際、左列、中列、右列の第1装飾図柄による特別な図柄アクションである決めアクションを実行することができる。決めアクションは、変動開始時アクション、定位置アクション、揺れアクション、テンパイアクションと異なるタイミングで実行されればよく、アクションに関しては、変動開始時アクション、定位置アクション、揺れアクション、テンパイアクションと同じアクションでもよいし、類似するアクションでもよいし、異なるアクションでもよい。また、時間短縮遊技状態においては、決めアクションを実行するのが好適であるが、決めアクションを実行しなくてもよい。ここで、時間短縮遊技状態においてリーチ演出（ノーマルリーチ演出、スーパーリーチ演出等）を経由して当り（大当り、小当り）図柄を表示する際に決めアクションを実行するよう構成する場合は、非時間短縮遊技状態においてリーチ演出（ノーマルリーチ演出、スーパーリーチ演出等）を経由して当り（大当り、小当り）図柄を表示する際に決めアクションを実行する場合よりも、リーチ演出（ノーマルリーチ演出、スーパーリーチ演出等）を経由して当り（大当り、小当り）図柄を表示する際に決めアクションを伴う可能性が低くなるよう構成することが好適である。また、決めアクションは、決めアクションA、決めアクションAよりも派手な図柄アクション（アクションの実行時間が長い、アクションにて使用する表示領域が大きい、拡大率が高い、回転が速い、発光が強いなど）である決めアクションBなど複数種類設けてもよい。このように構成する場合、「777」などのような当り（大当り、小当り）後に確率変動遊技状態や時間短縮遊技状態に移行する図柄組み合わせ（又は、ラウンド数が相対的に多い特別遊技に対応する図柄組合せ）で停止表示する場合の方が、「222」などのような当り（大当り、小当り）後に非確率変動遊技状態や非時間短縮遊技状態に移行する図柄組み合わせ（又は、ラウンド数が相対的に少ない特別遊技に対応する図柄組合せ）で停止表示する場合よりも、決めアクションBが発生しやすいように構成される。また、「777」などのような当り（大当り、小当り）後に確率変動遊技状態や時間短縮遊技状態に移行する図柄組み合わせ（又は、ラウンド数が相対的に多い特別遊技に対応する図柄組合せ）で停止表示する場合には決めアクションが発生するが、「222」などのような当り（大当り、小当り）後に非確率変動遊技状態や非時間短縮遊技状態に移行する図柄組み合わせ（又は、ラウンド数が相対的に少ない特別遊技に対応する図柄組合せ）で停止表示する場合には決めアクションが発生しないように構成してもよい。なお、第2装飾図柄については、決めアクションを実行しないことが好適であるが、第1装飾図柄と同様な決めアクションを実行してもよい。

＜決めアクション（決め動作）の効果＞

（1）当り（大当り、小当り）図柄を表示する際、当り（大当り、小当り）となることを遊技者に強調表示することができる。

【2852】

遊技状態を移行させ得ない小当りについては、以下のように構成することができる。

（1）小当りの当選確率は第1主遊技側と第2主遊技側とで異なる、第1主遊技側のほうが第2主遊技側よりも当選し易い（第2主遊技側は小当りを設けなくともよい）。

（2）小当りの当選確率は第1主遊技側と第2主遊技側とで異なる、第2主遊技側のほうが第1主遊技側よりも当選し易い（第1主遊技側は小当りを設けなくともよい）。

（3）小当りに当選した場合、当該小当り終了後の遊技状態は、当該小当り開始前の遊技状態と同一のままである（小当りに当選した場合は、当該小当り終了後の遊技状態は、当該小当り開始前の遊技状態と相違し得る）。

（4）大当りは第1主遊技側と第2主遊技側とで当選確率が同一であり、且つ、確率変動遊技状態となることで当該当選確率が高くなることに對し、小当りは第1主遊技側と第2主遊技側とで当選確率が相違し得る、且つ、確率変動遊技状態となることで当該当選確率は変更されない。

（5）小当りに当選した図柄変動の装飾図柄の停止図柄として、同一図柄の3つ揃いが停止し得る。

（6）小当りに当選した図柄変動の装飾図柄の停止図柄として、小当り当選時専用の「特

10

20

30

40

50

殊図柄」（例えば、「2★2」や「3★9」等の★が「特殊図柄」に該当）が停止し得る。

（7）小当りに当選した図柄変動の装飾図柄の停止図柄として、同一図柄の3つ揃いではなく、且つ、一定の規則性をもった数字の組み合わせである特定出目（例えば、「234」等の順目や、「432」等逆目や、「131」や「537」等の奇数出目や、「246」等の偶数出目等）が停止し得る。

（8）遊技者から見て、小当りと同様の（又は、類似した）大入賞口の開放態様（視認性）となる大当り（2R以上であり、ラウンド数は異なるが遊技者から見た場合に同様の開放態様に見える（小当りは1ラウンドのみであり、当該1ラウンドにて大入賞口が複数回開放し、大当りは当該複数回と同一回数の開放を複数ラウンド内で実行する））を設ける（そのように構成した場合には、小当りであるか大当りであるかを遊技者が見分け難い装飾図柄の組合せを停止表示することが好適である）。

10

（9）第2装飾図柄でも小当り専用の「特殊図柄」が停止し得る。

（10）第2装飾図柄では小当り専用の「特殊図柄」が停止しない（又は、停止しないことがある）。

（11）小当りであるか大当りであるかを遊技者が見分け難い装飾図柄の組合せを停止表示される構成においても、当該遊技者が見分け難い装飾図柄の組合せの種類によって小当りであるか大当りであるかの割合が相違する（例えば、3つ揃いすることによって、特別遊技終了後に確率変動遊技状態に移行することが確定的となる装飾図柄が停止図柄に含まれる場合には、含まれない場合よりも大当りである確率が高い）。

（12）小当りの当選確率（第2主遊技側の小当りの当選確率）は大入賞口の特定領域への遊技球の入球確率よりも高い（例えば、小当りの当選確率＝1023／1024（略1／1）、特定領域への遊技球の入球確率＝1／10）。

20

（13）小当りの当選確率（第2主遊技側の小当りの当選確率）は大入賞口の特定領域への遊技球の入球確率よりも低い（例えば、小当りの当選確率＝1／7、特定領域への遊技球の入球確率＝略100％（大入賞口内へ遊技球が入球すればエラー等の不具合がない限り特定領域に入球する））。

（14）小当りの当選確率（第2主遊技側の小当りの当選確率）＝1023／1024（略1／1）、特定領域への遊技球の入球確率＝略100％（大入賞口内へ遊技球が入球すればエラー等の不具合がない限り特定領域に入球する））。

【2853】

30

図355は、演出表示装置SGに表示される変動待機中の表示画面と表示プライオリティを示したものである。図の破線は、実際には表示されていない状況を示しており、対象物が表示される場合の表示場所を示すものである。まず、非時間短縮遊技状態における変動待機中画面表示1について説明する。現在、変動停止中であり、かつ、変動停止から所定期間（例えば、242秒）経過する前（後述する待機中ムービー移行前）であり、第1装飾図柄として「437」が停止した状態で表示、第2装飾図柄も同様に「437」で停止した状態で表示、第1主遊技側の第2保留表示が「0」で表示、第2主遊技側の第2保留表示が「0」で表示されており、当該変動の演出用保留表示（変動開始となった際に第1保留表示の消去を契機として表示されるものであり、当該変動の終了又は途中まで表示されるものである（表示が終了しても次変動が開始されると、当該次変動に対応した当該変動の演出用保留表示が表示される））、第1主遊技側の第1保留表示、第2主遊技側の第1保留表示は表示されていない。尚、第1主遊技側の第2保留表示の表示態様と第2主遊技側の第2保留表示の表示態様とは異なっており、第1主遊技側の第2保留表示の表示態様は、保留数を示す数字が中抜きとなっており、第2主遊技側の第2保留表示の表示態様は、保留数を示す数字が中抜きとなっていない。表示プライオリティは、第2装飾図柄＞第2保留表示＞第1装飾図柄、となっている。尚、表示プラオリティは、第2保留表示＞第2装飾図柄＞第1装飾図柄、であってもよく、また、第2装飾図柄と第2保留表示とが重畳することはないため、第2装飾図柄＝第2保留表示＞第1装飾図柄、であってもよい。

40

【2854】

50

次に、非時間短縮遊技状態における変動待機中画面表示2について説明する。現在、第1主遊技側の保留及び第2主遊技側の保留がともになく、変動停止中、かつ、変動停止から所定期間（例えば、特定時間として242秒）経過した後であり、非時間短縮遊技状態における変動待機中画面表示1では表示されていた第1装飾図柄、第2装飾図柄、第1主遊技側の第2保留表示、第2主遊技側の第2保留表示が表示されていない。尚、非時間短縮遊技状態における変動待機中画面表示1と同様に、当該変動の演出用保留表示、第1主遊技側の第1保留表示、第2主遊技側の第1保留表示は表示されていない。ここでは、変動停止から所定期間が経過したことを契機として、変動待機（変動停止）中であることを示す待機中ムービーが表示されており、待機中ムービーは、リーチ演出の一部が用いられており、第1装飾図柄で用いられているキャラクタ（第1要素）の権利の情報が表示されている。この待機中ムービー中に表示されるキャラクタは複数種類存在し、各第1装飾図柄で用いられているキャラクタ（第1要素）と同じキャラクタであるが、特定の第1装飾図柄であり第2要素が「7」の第1装飾図柄（この「7」については、例えば、数字ゾロ目となることで高確高ベース状態への移行契機となる特別遊技が実行されることを示す第1装飾図柄、数字ゾロ目となることでラウンド数が最も多い特別遊技が実行されることを示す第1装飾図柄である）に対応するキャラクタ（第2要素）が、それ以外の第1装飾図柄であり第2要素が「6」の第1装飾図柄（この「6」については、例えば、数字ゾロ目となることで低確高ベース状態への移行契機となる特別遊技が実行されることを示す第1装飾図柄、数字ゾロ目となることでラウンド数が最も多い特別遊技以外の特別遊技が実行されることを示す第1装飾図柄である）に対応するキャラクタ（第2要素）よりも、待機中ムービーにて長時間表示される（又は、第2要素が「6」の第1装飾図柄に対応するキャラクタは、待機中ムービーに一切表示されないよう構成しても良い）。

【2855】

尚、非時間短縮遊技状態における変動待機中画面表示1又は非時間短縮遊技状態における変動待機中画面表示2では、当該変動の演出用保留表示領域（当該変動の演出用保留が表示される場所を示すため表示）や第1主遊技側の第1保留表示領域（保留が表示される場所を示すための表示）が非表示である構成を説明したが、これらを表示する構成としてもよい。例えば、当該変動の演出用保留表示領域、第1主遊技側の第1保留表示領域として、各表示領域が区画された表示を行っても良い。これにより、変動待機（変動停止）中であっても、第1保留表示の上限数を示す表示や当該変動の演出用保留表示が表示されることを示唆することができる。また、非時間短縮遊技状態における変動待機中画面表示2において、非時間短縮遊技状態における変動待機中画面表示1と同じように（同じ位置に）、第2装飾図柄、第2保留表示（第1主遊技側、第2主遊技側）、を表示し、第1装飾図柄、第1保留表示を表示しないよう構成してもよい。これにより、第1保留表示では遊技者が未変動の数を認識することができないが、待機中ムービーに加え、第1装飾図柄及び第2装飾図柄で変動中でないことを認識でき、第2保留表示で未変動の数を認識することができる構成とすることができる。

【2856】

次に、時間短縮遊技状態における変動待機中画面表示1について説明する。現在、第1主遊技側の保留及び第2主遊技側の保留がともになく、変動停止中であり、かつ、変動停止から所定期間（例えば、242秒）経過する前（待機中ムービー移行前）であり、第1装飾図柄として「437」で停止した状態を表示、第2装飾図柄も同様に「437」で停止した状態を表示、第1主遊技側の第2保留表示が「0」で表示、第2主遊技側の第2保留表示が「0」で表示、右打ち指示表示として「→→右打ち→→」が表示されており、当該変動の演出用保留表示、第1主遊技側の第1保留表示、第2主遊技側の第1保留表示は表示されていない。尚、非時間短縮遊技状態における変動待機中画面表示1と同様に、第1主遊技側の第2保留表示の表示態様と第2主遊技側の第2保留表示の表示態様とは異なっており、第1主遊技側の第2保留表示の表示態様は、保留数を示す数字が中抜きとなっており、第2主遊技側の第2保留表示の表示態様は、保留数を示す数字が中抜きになっていない。表示プライオリティは、右打ち指示表示＞第2装飾図柄＞第2保留表示＞第1装

飾図柄、となっている。尚、表示優先度は、右打ち指示表示＞第2保留表示＞第2装飾図柄＞第1装飾図柄、であってもよく、また、右打ち指示表示は、第2装飾図柄及び第2保留表示と重畳することはないため、右打ち指示表示＞第2装飾図柄＝第2保留表示＞第1装飾図柄、であってもよい。

【2857】

次に、時間短縮遊技状態における変動待機中画面表示2について説明する。現在、変動停止中、かつ、変動停止から所定期間（例えば、特定時間として242秒）経過した後であり、時間短縮遊技状態における変動待機中画面表示1では表示されていた第1装飾図柄、第2装飾図柄、第1主遊技側の第2保留表示及び第2主遊技側の第2保留表示が表示されていない。尚、非時間短縮遊技状態における変動待機中画面表示1と同様に、当該変動の演出用保留表示、第1主遊技側の第1保留表示、第2主遊技側の第1保留表示は表示されていない。また、非時間短縮遊技状態における変動待機中画面表示2と同様に、変動停止から所定期間が経過したことを契機として、変動待機（変動停止）中であることを示す待機中ムービーが表示されており、待機中ムービーは、非時間短縮遊技状態における変動待機中画面表示2にて表示する待機中ムービーと同様となっている。

【2858】

尚、時間短縮遊技状態における変動待機中画面表示1又は時間短縮遊技状態における変動待機中画面表示2では、当該変動の演出用保留表示領域（当該変動の演出用保留が表示される場所を示すため表示）や第2主遊技側の第1保留表示領域（保留が表示される場所を示すための表示）が非表示である構成を説明したが、これらを表示する構成としてもよい。例えば、当該変動の演出用保留表示領域、第2主遊技側の第1保留表示領域として、各表示領域が区画された表示を行っても良い。これにより、時間短縮遊技中であっても、当該変動の演出用保留表示を表示することを示唆し、第2主遊技側の第1保留表示の個数を認識し易くすることができる。また、時間短縮遊技状態における変動待機中画面表示2において、時間短縮遊技状態における変動待機中画面表示1と同じように（同じ位置に）、第2装飾図柄、第2保留表示（第1主遊技側、第2主遊技側）、を表示し、第1装飾図柄、第1保留表示を表示しないよう構成してもよい。これにより、第1保留表示では遊技者が未変動の数を認識することができないが、待機中ムービーに加え、第2装飾図柄で変動中でないことを認識でき、第2保留表示で未変動の数を認識することができる構成とすることができる。

【2859】

尚、上述した画面表示の構成以外にも様々な画面表示の構成とすることが可能であり、例えば、非時間短縮遊技状態における変動待機中画面表示1及び時間短縮遊技状態における変動待機中画面表示1において、第1主遊技側の第2保留表示及び第2主遊技側の第2保留表示が表示されない構成としたり、非時間短縮遊技状態では、第1主遊技側の保留及び第2主遊技側の保留がともになく、所定期間経過した場合、変動待機中画面表示1から変動待機中画面表示2へ移行し得るが、時間短縮遊技状態においては、変動待機中画面表示1は表示されるが、第1主遊技側の保留及び第2主遊技側の保留がともになく、所定期間経過した場合であっても、変動待機中画面表示1から変動待機中画面表示2へ移行しないよう構成してもよい。

【2860】

次に、図356を用いて、音量調整画面表示及び光量調整画面表示について説明する。図の破線は、実際には表示されていない状況を示しており、対象物が表示される場合の表示場所を示すものである。まず、非時間短縮遊技状態における音量調整について説明する。非時間短縮遊技状態においては、変動待機（変動停止）中又は変動中に音量調整が可能に構成されている。音量調整は、十字ボタンSB-2の上下ボタンの操作により行う。尚、音量調整画面（音量を示す表示、音量調整方法を示す十字ボタンの表示、音量調整画面を終了させることを示すサブ入力ボタンの表示、画面を半透明にする画像の表示）の表示中にサブ入力ボタンSBの操作が行われると、音量調整画面の表示を終了する。非時間短縮遊技状態において変動待機（変動停止）中であれば、第1装飾図柄、第2装飾図柄、第

1 主遊技側の第2保留表示、第2主遊技側の第2保留表示が表示され、これらの全てと重複して音量調整画面が表示されてもよいし、一部の表示とは重複しないように音量調整画面が表示されてもよい。例えば、音量調整画面は第1装飾図柄と重複するが、第2装飾図柄とは重複しないよう構成してもよい。これにより、特に視認性を担保したい表示を除き、音量調整画面を重複させる構成とすることができる。非時間短縮遊技状態において変動中であれば、第1装飾図柄、第2装飾図柄、第1主遊技側の第2保留表示、第2主遊技側の第2保留表示、当該変動の演出用保留表示、保留があれば第1主遊技側の第1保留表示が表示され、図示していないが変動中には音量調整画面を変動待機（変動停止）中よりも小さく表示するのが好適であり、例えば、変動待機（変動停止）中の音量調整画面を単純に縮小したもの（音量を示す表示、音量調整方法を示す十字ボタンSB-2の表示、音量調整画面を終了させることを示すサブ入力ボタンSBの表示、画面を半透明にする画像の表示のそれぞれを縮小したもの）でもよいし、音量を示す表示のみとしたり、音量を示す表示と音量調整方法を示す十字ボタンSB-2の表示の2つの組合せのみとしてもよい。音量を示す表示のみとしたり、音量を示す表示と音量調整方法を示す十字ボタンSB-2の表示の2つの組合せのみとする場合は、変動待機（変動停止）中の表示態様と同一でもよいが、異ならせてもよい（例えば、形状が異なっていたり、形状が同一でも縮小する等）。また、音量調整画面と第2装飾図柄が重複しないよう構成してもよい。さらに、小さく表示した音量調整画面は、変動中の第2装飾図柄とは重複せず、変動中の第1装飾図柄とは重複するよう構成してもよい。これにより、第2装飾図柄の視認性を担保した上で、音量調整画面を表示することができる。尚、変動中には音量調整画面を表示しておらず、十字ボタンSB-2の上下ボタンの操作が行われた場合に、音量調整画面を表示するよう構成してもよい。表示プライオリティは、第2装飾図柄>第2保留表示>音量調整画面>第1装飾図柄>第1保留表示（及び当該変動の演出用保留表示）、となっている。尚、表示プライオリティは、第2装飾図柄=第2保留表示、第2装飾図柄<第2保留表示、第1装飾図柄<第1保留表示（及び当該変動の演出用保留表示）、であってもよい。尚、待機中ムービーの表示中に音量調整に関するボタン操作（十字ボタンSB-2の上下ボタンの操作）が行われた場合には、待機中ムービーの表示を終了し、音量調整画面を表示する。

【2861】

次に、時間短縮遊技状態における音量調整について説明する。時間短縮遊技状態においては、変動待機（変動停止）中又は変動中に音量調整が可能に構成されている。時間短縮遊技状態において変動待機（変動停止）中であれば、第1装飾図柄、第2装飾図柄、第1主遊技側の第2保留表示、第2主遊技側の第2保留表示、右打ち指示表示が表示され、これらの全てと重複して音量調整画面が表示されてもよいし、一部の表示とは重複しないように音量調整画面が表示されてもよい。例えば、音量調整画面は第1装飾図柄と重複するが、第2装飾図柄とは重複しないよう構成してもよい。これにより、特に視認性を担保したい表示を除き、音量調整画面を重複させる構成とすることができる。時間短縮遊技状態において変動中であれば、第1装飾図柄、第2装飾図柄、第1主遊技側の第2保留表示、第2主遊技側の第2保留表示、当該変動の演出用保留表示、保留があれば第2主遊技側の第1保留表示、右打ち指示表示が表示され、図示していないが変動中には音量調整画面を変動待機（変動停止）中よりも小さく表示するのが好適であり、例えば、音量調整画面と第2装飾図柄が重複しないよう構成してもよい。例えば、変動待機（変動停止）中の音量調整画面を単純に縮小したもの（音量を示す表示、音量調整方法を示す十字ボタンSB-2の表示、音量調整画面を終了させることを示すサブ入力ボタンSBの表示、画面を半透明にする画像の表示のそれぞれを縮小したもの）でもよいし、音量を示す表示のみとしたり、音量を示す表示と音量調整方法を示す十字ボタンSB-2の表示の2つの組合せのみとしてもよい。音量を示す表示のみとしたり、音量を示す表示と音量調整方法を示す十字ボタンSB-2の表示の2つの組合せのみとする場合は、変動待機（変動停止）中の表示態様と同一でもよいが、異ならせてもよい（例えば、形状が異なっていたり、形状が同一でも縮小する等）。また、音量調整画面と第2装飾図柄が重複しないよう構成してもよい。さらに、小さく表示した音量調整画面は、変動中の第2装飾図柄とは重複せず、変動中

10

20

30

40

50

の第1装飾図柄とは重複するよう構成してもよい。これにより、第2装飾図柄の視認性を担保した上で、音量調整画面を表示することができる。尚、変動中には音量調整画面を表示しておらず、十字ボタンSB-2の上下ボタンの操作が行われた場合に、音量調整画面を表示するよう構成してもよい。表示プライオリティは、右打ち指示表示>第2装飾図柄>第2保留表示>音量調整画面>第1装飾図柄>第1保留表示（及び当該変動の演出用保留表示）、となっている。尚、表示プライオリティは、右打ち指示表示>第2保留表示>第2装飾図柄、第2装飾図柄>第2保留表示>右打ち指示表示、第2保留表示>第2装飾図柄>右打ち指示表示、であってもよく、さらに、第2装飾図柄=第2保留表示、第1装飾図柄<第1保留表示（及び当該変動の演出用保留表示）であっても良い。

【2862】

次に、非時間短縮遊技状態における光量調整について説明する。非時間短縮遊技状態においては、変動待機（変動停止）中に光量調整が可能に構成されている。光量調整は、十字ボタンSB-2の左右ボタンの操作により行う。尚、光量調整画面（光量を示す表示、光量調整方法を示す十字ボタンの表示、光量調整画面を終了させることを示すサブ入力ボタンの表示、画面を半透明にする画像の表示）の表示中にサブ入力ボタンSBの操作が行われると、光量調整画面の表示を終了する。非時間短縮遊技状態において変動待機（変動停止）中であれば、第1装飾図柄、第2装飾図柄、第1主遊技側の第2保留表示、第2主遊技側の第2保留表示が表示され、これらの全てと重複して光量調整画面が表示されてもよいし、一部の表示とは重複しないように光量調整画面が表示されてもよい。非時間短縮遊技状態において変動中であれば、第1装飾図柄、第2装飾図柄、第1主遊技側の第2保留表示、第2主遊技側の第2保留表示、当該変動の演出用保留表示、保留があれば第1主遊技側の第1保留表示が表示され、図示していないが変動中には光量調整画面を変動待機（変動停止）中よりも小さく表示するのが好適であり、例えば、変動待機（変動停止）中の光量調整画面を単純に縮小したもの（光量を示す表示、光量調整方法を示す十字ボタンSB-2の表示、光量調整画面を終了させることを示すサブ入力ボタンSBの表示、画面を半透明にする画像の表示のそれぞれを縮小したもの）でもよいし、光量を示す表示のみとしたり、光量を示す表示と光量調整方法を示す十字ボタンSB-2の表示の2つの組合せのみとしても良い。光量を示す表示のみとしたり、光量を示す表示と光量調整方法を示す十字ボタンSB-2の表示の2つの組合せのみとする場合は、変動待機（変動停止）中の表示態様と同一でも良いが、異ならせても良い（例えば、形状が異なっていたり、形状が同一でも縮小する等）。また、光量調整画面と第2装飾図柄が重複しないよう構成してもよい。さらに、小さく表示した光量調整画面は、変動中の第2装飾図柄とは重複せず、変動中の第1装飾図柄とは重複するよう構成してもよい。これにより、特に視認性を担保したい表示を除き、光量調整画面を重複させる構成とすることができる。非時間短縮遊技状態において変動中であれば、第1装飾図柄、第2装飾図柄、第1主遊技側の第2保留表示、第2主遊技側の第2保留表示、当該変動の演出用保留表示、保留があれば第1主遊技側の第1保留表示が表示され、光量調整画面は表示されない。尚、変動中にも光量調整が可能となるよう構成してもよく、変動中に光量調整画面を表示しておらず、十字ボタンSB-2の左右ボタンの操作が行われた場合に、光量調整画面を表示するよう構成してもよい。表示プライオリティは、第2装飾図柄>第2保留表示>光量調整画面>第1装飾図柄>第1保留表示（及び当該変動の演出用保留表示）、となっている。尚、表示プライオリティは、第2装飾図柄=第2保留表示、第2装飾図柄<第2保留表示、第1装飾図柄<第1保留表示（及び当該変動の演出用保留表示）、であっても良い。尚、待機中ムービーの表示中に光量調整に関するボタン操作（十字ボタンSB-2の左右ボタンの操作）が行われた場合には、待機中ムービーの表示を終了し、光量調整画面を表示する。

【2863】

次に、時間短縮遊技状態における光量調整について説明する。時間短縮遊技状態においては、変動待機（変動停止）中に光量調整が可能に構成されている。時間短縮遊技状態において変動待機（変動停止）中であれば、第1装飾図柄、第2装飾図柄、第1主遊技側の第2保留表示、第2主遊技側の第2保留表示、右打ち指示表示が表示され、これらの全て

10

20

30

40

50

と重複して光量調整画面が表示されてもよいし、一部の表示とは重複しないように光量調整画面が表示されてもよい。例えば、光量調整画面は第1装飾図柄と重複するが、第2装飾図柄とは重複しないよう構成してもよい。例えば、変動待機（変動停止）中の光量調整画面を単純に縮小したもの（光量を示す表示、光量調整方法を示す十字ボタンSB-2の表示、光量調整画面を終了させることを示すサブ入力ボタンSBの表示、画面を半透明にする画像の表示のそれぞれを縮小したもの）でも良いし、光量を示す表示のみとしたり、光量を示す表示と光量調整方法を示す十字ボタンSB-2の表示の2つの組合せのみとしても良い。光量を示す表示のみとしたり、光量を示す表示と光量調整方法を示す十字ボタンSB-2の表示の2つの組合せのみとする場合は、変動待機（変動停止）中の表示態様と同一でも良いが、異ならせても良い（例えば、形状が異なっていたり、形状が同一でも縮小する等）。また、光量調整画面と第2装飾図柄が重複しないよう構成してもよい。さらに、小さく表示した光量調整画面は、変動中の第2装飾図柄とは重複せず、変動中の第1装飾図柄とは重複するよう構成してもよい。これにより、特に視認性を担保したい表示を除き、光量調整画面を重複させる構成とすることができる。時間短縮遊技状態において変動中であれば、第1装飾図柄、第2装飾図柄、第1主遊技側の第2保留表示、第2主遊技側の第2保留表示、当該変動の演出用保留表示、保留があれば第2主遊技側の第1保留表示、右打ち指示表示が表示され、光量調整画面は表示されない。尚、変動中にも光量調整が可能となるよう構成してもよく、変動中に光量調整画面を表示しておらず、十字ボタンSB-2の左右ボタンの操作が行われた場合に、光量調整画面を表示するよう構成してもよい。表示プライオリティは、右打ち指示表示＞第2装飾図柄＞第2保留表示＞光量調整画面＞第1装飾図柄＞第1保留表示（及び当該変動の演出用保留表示）、となっている。尚、表示プライオリティは、右打ち指示表示＞第2保留表示＞第2装飾図柄、第2装飾図柄＞第2保留表示＞右打ち指示表示、第2保留表示＞第2装飾図柄＞右打ち指示表示、であってもよく、さらに、第2装飾図柄＝第2保留表示、第1装飾図柄＜第1保留表示（及び当該変動の演出用保留表示）であっても良い。

【2864】

次に、図357を用いて、通常変動中における画面表示について説明する。図の破線は、実際には表示されていない状況を示しており、対象物が表示される場合の表示場所を示すものである。まず、非時間短縮遊技状態における通常変動中画面表示について説明する。現在、変動中であり、メイン領域における第1装飾図柄の変動表示、サブ領域における第2装飾図柄の変動表示、第1主遊技側の第2保留表示「2」、第2主遊技側の第2保留表示「0」、当該変動の演出用保留表示、第1主遊技側の第1保留表示（2個）、が表示されており、第2主遊技側の第1保留表示は表示されていない。尚、非時間短縮遊技状態における通常変動中画面表示では、第2主遊技始動口B10へ入球があると第2主遊技側の第1保留表示が表示され、第2主遊技側の第2保留表示がカウントアップ（加算）され、第2主遊技側の保留に係る変動が開始されると第2主遊技側の第1保留表示が1つ減り、第2主遊技側の第2保留表示がカウントダウン（減算）されるよう構成されている。具体的には、現在、第1主遊技側の保留が2つであり、第1主遊技側の第1保留表示が2つ表示、第1主遊技側の第2保留表示が「2」、第2主遊技側の第1保留表示が表示されておらず、第2主遊技側の第2保留表示が「0」で表示されており、新たに第2主遊技始動口B10へ入球があると、第2主遊技側の第1保留表示が1つ表示され、第2主遊技側の第2保留表示が「0」から「1」へと更新表示される。表示プライオリティは、サブ領域（第2装飾図柄の変動表示）＞第2保留表示＞メイン領域（第1装飾図柄の変動表示、第1装飾図柄の仮停止表示）＞当該変動の演出用保留表示＞第1主遊技側の第1保留表示＞第2主遊技側の第1保留表示、となっている。尚、表示プライオリティは、サブ領域（第2装飾図柄の変動表示）＜第2保留表示、サブ領域（第2装飾図柄の変動表示）＝第2保留表示、であっても良く、また、メイン領域（第1装飾図柄の変動表示、第1装飾図柄の仮停止表示）の表示プライオリティをこれらのうち最も低く設定しても良く、また、第1主遊技側の第1保留表示＜第2主遊技側の第1保留表示、第1主遊技側の第1保留表示＝第2主遊技側の第1保留表示、としても良い。

10

20

30

40

50

【2865】

次に、時間短縮遊技状態における通常変動中画面表示について説明する。現在、変動中であり、メイン領域における第1装飾図柄の変動表示、サブ領域における第2装飾図柄の変動表示、第1主遊技側の第2保留表示「0」、第2主遊技側の第2保留表示「2」、当該変動の演出用保留表示、第2主遊技側の第1保留表示（2個）、右打ち指示表示、が表示されており、第1主遊技側の第1保留表示は表示されていない。尚、時間短縮遊技状態における通常変動中画面表示では、第1主遊技始動口A10へ入球があった場合でも第1主遊技側の第1保留表示が表示されないが、第1主遊技側の第2保留表示はカウントアップされるよう構成されている。表示プライオリティは、右打ち指示表示＞サブ領域（第2装飾図柄の変動表示）＞第2保留表示＞メイン領域（第1装飾図柄の変動表示、第1装飾図柄の仮停止表示）＞当該変動の演出用保留表示＞第2主遊技側の第1保留表示、となっている。尚、表示プライオリティは、サブ領域（第2装飾図柄の変動表示）＜第2保留表示、サブ領域（第2装飾図柄の変動表示）＝第2保留表示、であっても良く、また、メイン領域（第1装飾図柄の変動表示、第1装飾図柄の仮停止表示）の表示プライオリティをこれらのうち最も低く設定しても良く、また、第1主遊技側の第1保留表示を表示する構成とし、当該変動の演出用保留表示＞第1主遊技側の第1保留表示＞第2主遊技側の第1保留表示、又は、当該変動の演出用保留表示＞第2主遊技側の第1保留表示＞第1主遊技側の第1保留表示、としてもよい。

10

【2866】

ここで、図357を用いて示される特徴的な構成について補足しておく。

20

【2867】

非時間短縮遊技状態（電サポ状態を伴わない状態）では、第1保留表示として第1主遊技側の保留表示が「●」の表示態様にて表示される。一方、時間短縮遊技状態（電サポ状態を伴う状態）では、第1保留表示として第2主遊技側の保留表示が「ハート（塗りつぶし）」の表示態様にて表示される。また、第2保留表示は、非時間短縮遊技状態であるか時間短縮遊技状態であるかに関わらず同一であるが、第1主遊技側の第2保留表示は、「中抜き数字」の表示態様であり、第2主遊技側の第2保留表示は「塗りつぶし数字」の表示態様となっている。尚、第1主遊技側の第2保留表示の表示態様と第2主遊技側の第2保留表示の表示態様の違いを、中抜きか塗りつぶしかではなく、数字の色が異なる等で示すよう構成してもよい。

30

【2868】

尚、第1主遊技始動口A10と第2主遊技始動口B10に交互に入球する始動口の構成とした場合には、第1主遊技側の第1保留表示の表示態様と第2主遊技側の第1保留表示の表示態様を同一としてもよく、非時間短縮遊技状態、時間短縮遊技状態のいずれであっても第1主遊技側の第1保留及び第2主遊技側の第1保留表示を表示するよう構成してもよい。これにより、第1主遊技始動口A10と第2主遊技始動口B10のいずれに入球したかを認識し難くすることができる。

【2869】

メイン領域では、第1装飾図柄が、左列、中列、右列において、演出表示装置SGの全体を使用し、上から下（又は、下から上、左から右、右から左など）へ移動するスクロール表示（具体的には、1→2→・・・→7→8→・・・1→・・・の順番にスクロールしながらメイン領域にて表示される第1装飾図柄が順次切り替わって表示され、左右中の順で仮停止→確定停止する。）が行われるが、サブ領域では、第2装飾図柄が、左列、中列、右列において、演出表示装置SGの右下でその場で変動しているように表示される（つまり、演出表示装置SGの全体を使用して上から下（又は、下から上、左から右、右から左など）へ移動するスクロール表示するのではなく、一部の表示領域でのみで上から下や下から上、左から右、右から左へ移動しているように見せる変動表示や一部の表示領域でのみ横回転または縦回転して半回転又は一回転することで該一部の表示領域にて遊技者が認識する第2装飾図柄の表示を切り替える切替表示態様の変動表示）。なお、第1装飾図柄については、スクロール表示のみならず、その場で変動しているような横回転または縦

40

50

回転の回転表示でも良い。また、演出を盛り上げる役目を持つ第1装飾図柄については、遊技状態や演出ステージに応じて変動表示の種類が異なるよう構成する（例えば、第1装飾図柄は、低確低ベース状態や演出モードAにおいてはスクロール表示であるが、高確高ベース状態や演出モードBでは回転表示とする）ことで、演出の多様性を実現する一方、変動状況や停止状況の把握の役目を持つ第2装飾図柄については、遊技状態や演出ステージに依らず変動表示の種類が同一である（例えば、第2装飾図柄は、低確低ベース状態や演出モードAにおいても、高確高ベース状態や演出モードBにおいても、スクロール表示のみとする又は回転表示のみとする）ことが好適である。

【2870】

また、図357に示す通り、非時間短縮遊技状態では、演出表示装置SGの左下に当該変動の演出用保留表示及び第1主遊技側の第1保留表示が表示され、時間短縮遊技状態では、演出表示装置SGの左下に当該変動の演出用保留表示及び第2主遊技側の第1保留表示が表示されるよう構成されており、遊技者は現在いずれの始動口による遊技が主となっている（非時間短縮遊技状態では第1主遊技始動口A10が主、時間短縮遊技状態では第2主遊技始動口B10が主）かを左下に表示される第1保留表示の表示態様（「●」又は「ハート（塗りつぶし）」）、又は、第1主遊技側の第1保留表示又は第2主遊技側の第1保留表示の表示位置（非時間短縮遊技状態では第1主遊技側の第1保留表示が演出表示装置SGの左下に表示され、時間短縮遊技状態では第2主遊技側の第1保留表示が演出表示装置SGの左下に表示される）、によって把握することが可能となっている。尚、第1主遊技側の第2保留表示、第2主遊技側の第2保留表示の表示態様及び表示位置は、非時間短縮遊技状態であるか時間短縮遊技状態であるかに関わらず同一である。

【2871】

ここで、非時間短縮遊技状態及び時間短縮遊技状態における変動中に表示され得る第1主遊技側の第1保留表示と第2主遊技側の第1保留表示、第1主遊技側の第2保留表示と第2主遊技側の第2保留表示、の表示パターンについて、変更例を含め、以下に詳述する。

（1）第1保留表示

（1-1）非時間短縮遊技状態では、第1主遊技側の第1保留表示のみ表示され（第2主遊技側の第1保留表示が表示されない）、時間短縮遊技状態では、第2主遊技側の第1保留表示のみが表示される（第1主遊技側の第1保留表示が表示されない）。

（1-2）非時間短縮遊技状態では、第1主遊技側の第1保留表示及び第2主遊技側の第1保留表示が表示され、時間短縮遊技状態では、第2主遊技側の第1保留表示のみが表示される（第1主遊技側の第1保留表示が表示されない）。

（1-3）非時間短縮遊技状態では、第1主遊技側の第1保留表示のみ表示され（第2主遊技側の第1保留表示が表示されない）、時間短縮遊技状態では、第1主遊技側の第1保留表示及び第2主遊技側の第1保留表示が表示される。

（2）第2保留表示

非時間短縮遊技状態と時間短縮遊技状態のいずれの遊技状態においても、第1主遊技側の第2保留表示及び第2主遊技側の第2保留表示が表示される。

【2872】

第1主遊技側の第1保留表示、第2主遊技側の第1保留表示、当該変動の演出用保留表示が表示される領域を併せて第1保留表示領域とし、第1主遊技側の第2保留表示、第2主遊技側の第2保留表示が表示される領域を併せて第2保留表示領域と称することもある。補足しておく、第2保留表示領域では第1保留表示領域とは異なり、当該変動の演出用保留表示のような当該変動の変動表示に対応する表示が行われない。つまり、変動中であることを示すための第2保留表示を追加で表示することはなく、飽くまでも保留の数（未変動の数）を表示しているだけである。

【2873】

当該変動の演出用保留表示は、第1主遊技側の変動であっても、第2主遊技側の変動であっても、同一の表示態様である。具体的には、非時間短縮遊技状態であれば、第1主遊技側の変動であっても、第2主遊技側の変動であっても、第1主遊技側の第1保留表示よ

り大きい「●」で表示され、時間短縮遊技状態であれば、第1主遊技側の変動であっても、第2主遊技側の変動であっても、第2主遊技側の第1保留表示より大きい「ハート（塗りつぶし）」で表示される。尚、当該変動の演出用保留表示は、非時間短縮遊技状態であれば、第1主遊技側の変動（第1主遊技側の変動開始条件を充足した場合）においてのみ表示され得る（つまり、第2主遊技側の変動（第2主遊技側の変動開始条件を充足した場合）においては表示されない）よう構成し、時間短縮遊技状態であれば、第2主遊技側の変動（第2主遊技側の変動開始条件を充足した場合）においてのみ表示され得る（つまり、第1主遊技側の変動（第1主遊技側の変動開始条件を充足した場合）においては表示されない）よう構成してもよい。また、当該変動の期待度に応じた演出として、当該変動の演出用保留表示の表示態様が変更されることがあり、例えば、色が変化（デフォルトの色（ここでは塗りつぶしの黒色）→赤色、等）したり、形状が変化（デフォルトの形状（ここでは、第1主遊技側は「丸」、第2主遊技は「ハート」）→☆、等）することもあり、表示態様のパターン数は、非時間短縮遊技状態では、第1主遊技側の変動におけるパターン数（例えば、デフォルトの色、青色、黄色、緑色、赤色、虹色の計6色のパターンを備える。当り期待度は、デフォルトの色<青色<黄色<緑色<赤色<虹色である。）が第2主遊技側の変動におけるパターン数（例えば、デフォルトの色、赤色、虹色の計3色のパターンを備える。当り期待度は、デフォルトの色<赤色<虹色である。）よりも多くなっており、時間短縮遊技状態では、第2主遊技側の変動におけるパターン数（例えば、デフォルトの色、青色、黄色、緑色、赤色、虹色の計6色のパターンを備える。当り期待度は、デフォルトの色<青色<黄色<緑色<赤色<虹色である。）が第1主遊技側の変動におけるパターン数（例えば、デフォルトの色、赤色、虹色の計3色のパターンを備える。当り期待度は、デフォルトの色<赤色<虹色である。）よりも多くなっている。尚、未消化保留（第1保留表示）についても同様のパターン数の関係を採用しても良い。

【2874】

第1保留表示と第2保留表示との表示プライオリティは、第2保留表示>第1保留表示、となっており、通常変動中以外であっても双方の保留表示が表示される場合には、第2保留表示の表示プライオリティが第1保留表示の表示プライオリティよりも高く設定されている。例えば、予告画像（次回予告など画面全体に表示されるもの）やSPリーチ、第1装飾図柄等が表示される場合に、第2保留表示>予告画像（又はSPリーチ、第1装飾図柄等）>第1保留表示となる。

【2875】

第1装飾図柄と第2装飾図柄との重複可否及び第1保留表示と第2保留表示の重複可否については、変更例を含め、以下の通りである（必要に応じて図355、図357等を参照）。

（1）第1装飾図柄と第2装飾図柄との重複可否

（1-1）変動待機（変動停止）中は第1装飾図柄と第2装飾図柄とが重複する（表示プライオリティにより、重複部分は、第1装飾図柄の手前に第2装飾図柄が表示される）よう、第1装飾図柄と第2装飾図柄との停止表示位置が定められている（図示なし）。

（1-2）変動待機（変動停止）中は第1装飾図柄と第2装飾図柄とが重複せず、変動中は第1装飾図柄と第2装飾図柄とが重複する（表示プライオリティにより、重複部分は、第1装飾図柄の手前に第2装飾図柄が表示される）よう、第1装飾図柄と第2装飾図柄との停止表示位置が定められている。

例えば、非時間短縮遊技状態であれば（1-1）の構成とし、時間短縮遊技状態であれば（1-2）の構成としてもよく、また、非時間短縮遊技状態であれば（1-2）の構成とし、時間短縮遊技状態であれば（1-1）の構成としてもよい。

（2）第1保留表示と第2保留表示の重複可否

変動待機（変動停止）中と変動中のいずれの場合においても、第1保留表示（第1主遊技側の第1保留表示、第2主遊技側の第1保留表示）と第2保留表示（第1主遊技側の第2保留表示、第2主遊技側の第2保留表示）とが重複しないよう、第1保留表示と第2保留表示との表示位置が定められている。尚、確定停止中においても適用可能である。

【2876】

第1装飾図柄と第1保留表示との重複可否、第2装飾図柄と第2保留表示の重複可否、第1装飾図柄と第2保留表示の重複可否、第2装飾図柄と第1保留表示の重複可否については、以下の通りである。

(A) 非時間短縮遊技状態

(1) 第1装飾図柄と第1保留表示との重複可否

変動待機（変動停止）中と変動中のいずれにおいても、第1装飾図柄と第1保留表示とが重複する（表示プライオリティにより、重複部分は、第1保留表示の手前に第1装飾図柄が表示される）よう、第1装飾図柄と第1保留表示の表示位置が定められている。

(2) 第2装飾図柄と第2保留表示の重複可否

変動待機（変動停止）中と変動中のいずれにおいても、第2装飾図柄と第2保留表示とが重複しないよう、第2装飾図柄と第2保留表示の表示位置が定められている。

(3) 第1装飾図柄と第2保留表示の重複可否

変動待機（変動停止）中と変動中のいずれにおいても、第1装飾図柄と第2保留表示とが重複する（表示プライオリティにより、重複部分は、第1装飾図柄の手前に第2保留表示が表示される）よう、第1装飾図柄と第2保留表示の表示位置が定められている。

(4) 第2装飾図柄と第1保留表示の重複可否

変動待機（変動停止）中と変動中のいずれにおいても、第2装飾図柄と第1保留表示とが重複しないよう、第2装飾図柄と第1保留表示の表示位置が定められている。尚、非時間短縮遊技状態において、第1装飾図柄と第1保留表示は少なくとも変動中に重複するように定められており、同じく非時間短縮遊技状態において、第1装飾図柄と第2保留表示は少なくとも変動中に重複するように定められており、変動待機中は、重複するように定められていても、重複しないように定められていてもよい。

(B) 時間短縮遊技状態

(1) 第1装飾図柄と第1保留表示との重複可否

変動待機（変動停止）中と変動中のいずれにおいても、第1装飾図柄と第1保留表示とが重複しないよう、第1装飾図柄と第1保留表示の表示位置が定められている。尚、変動中は稀に（非時間短縮遊技状態よりは低頻度である）重複するよう構成しても良い。

(2) 第2装飾図柄と第2保留表示の重複可否

変動待機（変動停止）中と変動中のいずれにおいても、第2装飾図柄と第2保留表示とが重複しないよう、第2装飾図柄と第2保留表示の表示位置が定められている。

(3) 第1装飾図柄と第2保留表示の重複可否

変動待機（変動停止）中と変動中のいずれにおいても、第1装飾図柄と第2保留表示とが重複しないよう、第1装飾図柄と第2保留表示の表示位置が定められている。尚、変動中は稀に（非時間短縮遊技状態よりは低頻度である）重複するよう構成しても良い。

(4) 第2装飾図柄と第1保留表示の重複可否

変動待機（変動停止）中と変動中のいずれにおいても、第2装飾図柄と第1保留表示とが重複しないよう、第2装飾図柄と第1保留表示の表示位置が定められている。

【2877】

次に、図358を用いて、SPリーチ中における画面表示について説明する。まず、非時間短縮遊技状態におけるSPリーチ中画面表示1について説明する。現在、SPリーチ中であり、サブ領域における第2装飾図柄の変動表示、第1主遊技側の第2保留表示「2」、第2主遊技側の第2保留表示「0」、当該変動の演出用保留表示が表示されており、メイン領域における第1装飾図柄の変動表示、第1主遊技側の第1保留表示は表示されていない。言うまでもないが、第1主遊技始動口A10に遊技球が入球した場合には、第1主遊技側の第2保留表示が更新され（ただし、保留4まで）、第2主遊技始動口B10に遊技球が入球した場合には、第2主遊技側の第2保留表示が更新され（ただし、保留4まで）る。尚、第1保留表示は、SPリーチ終了後に非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態である通常ステージ画面（演出ステージAの画面等）に戻った際等に表示可能となるが、このときにSPリーチ中に入球した分を含めて第1保留表示が表示されることとな

10

20

30

40

50

る。具体的には、S P リーチ中に保留数が2→3に増加した場合、S P リーチ中には第1保留表示が表示されないが、通常ステージ画面に戻ると第1保留表示が3つ表示されるのである。表示プライオリティは、サブ領域（第2装飾図柄の変動表示）>第2保留表示>当該変動の演出用保留表示>S P リーチ演出、となっている。

【2878】

次に、非時間短縮遊技状態におけるS P リーチ中画面表示2について説明する。現在、S P リーチ中であり、可動役物Y Kが演出表示装置S Gの前面に移動した状態であり、サブ領域における第2装飾図柄の変動表示、第1主遊技側の第2保留表示「2」、第2主遊技側の第2保留表示「0」、当該変動の演出用保留表示が表示されており、メイン領域における第1装飾図柄の変動表示、第1主遊技側の第1保留表示は表示されていない。尚、当該変動の演出用保留表示は、表示されないよう構成してもよい。

【2879】

このように、特定の状況下{S P リーチ中、可動役物作動中、昇格演出（非確変図柄である偶数図柄から確変図柄である奇数図柄に昇格するか否かを煽る演出）、エラー画面表示中等}では、メイン領域における第1装飾図柄の変動表示や第1主遊技側の第1保留表示を表示しない構成とすることで、遊技者がS P リーチを視認し易くすることができる。尚、S P リーチ中であっても、メイン領域における第1装飾図柄の変動表示や第1主遊技側の第1保留表示を表示する構成としてもよく、この場合には、メイン領域における第1装飾図柄の変動表示は、演出表示装置S Gの右上等に小さく表示する（第2装飾図柄の変動表示とほぼ同じ大きさ又は第1装飾図柄の変動表示の方が若干大きい）のが好ましく、メイン領域における第1装飾図柄の変動表示を表示することで、リーチ態様（例えば、「4↓4」）やリーチ図柄（例えば、「4」を1つだけ表示する）を遊技者に示すことが可能となる。表示プライオリティは、サブ領域（第2装飾図柄の変動表示）>第2保留表示>当該変動の演出用保留表示>液晶演出{エフェクト表示（図358で言えば、星型の可動役物Y Kが落下したときに、その落下位置を基準として上側にピカピカ光っているように見える演出表示装置S G上での演出である）}、となっている。

【2880】

次に、図359を用いて、第1保留表示及び第2保留表示の更新について説明する。まず、変動が終了し、第1主遊技側の保留が2つある状態で変動停止状態となっている。次に、第1主遊技側の新たな変動が開始したところであり、第1主遊技側の第1保留表示は表示位置をシフトし始め（シフトアニメーションが開始）、第1主遊技側の第2保留表示は変動開始後すぐに「2」から「1」に減算されている。次に、第1主遊技側の第1保留表示のシフトが終了する前に、新たに第1主遊技始動口A10へ遊技球が入球しており、新たな入球に対応して第1主遊技側の第1保留表示が1つ増加する保留生起表示（保留生起アニメーション）が行われており、第1主遊技側の第2保留表示は新たな入球後すぐに「1」から「2」になっている。

【2881】

ここで、図359を用いて示される特徴的な構成について補足しておく。

【2882】

新たに保留が生起した場合（新たに始動口に遊技球が入球した場合）、第1保留表示の保留生起表示（保留生起アニメーション）の実行時間（例えば、1000ms）{演出表示装置S G下部から保留が徐々に出現して定位置（N個目の保留を表示する場所）に収まって表示する演出であり、出現開始から表示完了までの時間が1000ms}は、第2保留表示の更新時間（加算時間、減算時間であり、例えば、100ms）よりも長くなるよう構成されている。また、第1保留表示のシフト表示（シフトアニメーション）の実行時間（例えば、1500ms）{N個目の保留を表示する場所に表示されていた保留が移動する動作を行い、N-1個目の保留を表示する場所へと移動し、その後定位置（N-1個目の保留を表示する場所）に収まって表示する演出であり、移動開始から表示完了（移動完了）までの時間が1500ms}は、第2保留表示の更新時間よりも長くなるよう構成されている。さらに、第2保留表示の更新時間は、変動固定時間（例えば、第1主遊技図

柄の変動固定時間が500ms、第2主遊技図柄の変動固定時間が300ms)よりも短く、さらに、最短の変動時間(本実施形態では3000ms)よりも短くなるよう構成されている。

【2883】

なお、変動固定時間について、第1主遊技図柄の変動固定時間を500ms、第2主遊技図柄の変動固定時間を300msとしたが、これに限定されることはなく、第1主遊技図柄の変動固定時間と第2主遊技図柄の変動固定時間とが同じ時間でもよいし、遊技状態に応じて各変動固定時間(例えば、非時間短縮遊技状態を500ms、時間短縮遊技状態を300ms)が予め定められていてもよい。また、保留数に応じた図柄変動の変動固定時間が異なるように設定してもよく、この場合、保留が2~4個ある状況において図柄変動を開始した場合や確定停止時に第1主遊技側の保留または第2主遊技側の保留が存在する場合における変動固定時間を500ms、保留が1個ある状況において図柄変動を開始した場合や確定停止時に第1主遊技側の保留も第2主遊技側の保留も存在していない場合における変動固定時間を0msに設定することが好適であるが、変動固定時間に関しては、この時間に限定されない。また、第1装飾図柄の変動固定時間、第2装飾図柄の変動固定時間は、第1主遊技図柄の変動固定時間および第2主遊技図柄の変動固定時間に合わせるように設定されるのが好適であるが、第1主遊技図柄の変動固定時間および第2主遊技図柄の変動固定時間と相違する変動固定時間としてもよい。

【2884】

変動開始直後において、第1保留表示は、シフト表示(シフトアニメーション)と保留生起表示(保留生起アニメーション)を同時に(重複して)表示することが可能である(つまり、第1保留表示は、保留生起表示(保留生起アニメーション)の実行中にシフト表示(シフトアニメーション)の実行が開始される場合、実行中の保留生起表示(保留生起アニメーション)を中断せずに保留生起表示(保留生起アニメーション)とシフト表示(シフトアニメーション)とを同時に実行可能であり、且つ、シフト表示(シフトアニメーション)の実行中に保留生起表示(保留生起アニメーション)の実行が開始される場合、実行中のシフト表示(シフトアニメーション)を中断せずにシフト表示(シフトアニメーション)と保留生起表示(保留生起アニメーション)とを同時に実行可能である。)が、第2保留表示は、減算と加算を同時に表示することは不可能であり、(変動開始による)減算した表示を行った後で(始動口への入球による)加算した表示を行うこととなる。変動開始直前に保留数が増加し、変動開始となった場合、第2保留表示は、(変動開始による)加算した表示を行った後で(変動開始による)減算した表示を行うこととなる。尚、減算・加算のいずれも、この更新表示(例としては、「2」から「1」への更新や、「1」から「2」への更新)に要する時間(個数表示が切り替わるために要する時間)は、100msとなっている。

【2885】

次に、図360を用いて、先読み演出(保留変化演出)と第1装飾図柄が所定の表示態様となる確率の関係について説明する。初めに、「(1)青保留変化」の場合を説明する。まず、保留が4つある状態で変動停止状態となっている。次に、変動が開始され、新たな入球により保留が4つになっており、さらに、新たな入球に対応する第1保留表示の表示態様が青保留となっている。次に、青保留の直前の変動まで終了し、直前の変動がハズレ(「861」)で変動停止状態となっている。次に、青保留に対応する変動が開始され、青保留は、当該変動の演出用保留表示(青)として表示されている。尚、青保留で変動開始となる場合は、赤保留で変動開始となる場合よりも短い変動時間が選択され易い(言い換えると、当り期待度の低い変動時間が選択され易い)。次に、第1装飾図柄が特定のリーチ態様(ここでは、7リーチとなっており、7リーチはそれ以外のリーチ(例:2リーチ)よりも当り(大当り、小当り)期待度が高い)となっている(第2装飾図柄は特定のリーチ態様とならず、変動表示を継続している)が、青保留で変動開始となった場合は、後述する赤保留で変動開始となった場合よりも特定のリーチ態様となる確率が低くなっている。次に、第1装飾図柄及び第2装飾図柄が当りである特定の最終表示態様(ここで

10

20

30

40

50

は、7揃い)で表示されているが、青保留で変動開始となった場合は、赤保留で変動開始となった場合よりも特定の最終表示態様となる確率が低くなっている。次に、「(2) 赤保留変化」の場合を説明する。基本的な流れは「(1) 青保留変化」と同様であるが、先読み演出(保留変化演出)の表示態様が異なっている。まず、保留が4つある状態で変動停止状態となっている。次に、変動が開始され、新たな入球により保留が4つになっており、さらに、新たな入球に対応する第1保留表示の表示態様が赤保留となっている。次に、赤保留の直前の変動まで終了し、直前の変動がハズレ(「861」)で変動停止状態となっている。次に、赤保留に対応する変動が開始され、赤保留は、当該変動の演出用保留表示(赤)として表示されている。尚、赤保留で変動開始となる場合は、青保留で変動開始となる場合よりも長い変動時間が選択され易い(言い換えると、当り期待度の高い変動時間が選択され易い)。次に、第1装飾図柄が特定のリーチ態様(ここでは、7リーチ)となっている(第2装飾図柄は特定のリーチ態様とならず、変動表示を継続している)が、赤保留で変動開始となった場合は、青保留で変動開始となった場合よりも特定のリーチ態様となる確率が高くなっている。次に、第1装飾図柄及び第2装飾図柄が当りである特定の最終表示態様(ここでは、7揃い)が表示されているが、赤保留で変動開始となった場合は、青保留で変動開始となった場合よりも特定の最終表示態様となる確率が高くなっている。一例として、青保留でリーチになる確率は、青保留に係る変動のうち90%であり、赤保留でリーチになる確率は、赤保留に係る変動のうち99%であり、その差分は9%である。また、青保留で特定のリーチ態様(例えば、7リーチ)となる確率は、青保留に係る変動でリーチとなった場合の5%であり、赤保留で特定のリーチ態様(例えば、7リーチ)となる確率は、赤保留に係る変動でリーチとなった場合の30%であり。その差分は25%である。このように、青保留でも赤保留でもリーチとなる確率は高く設定し且つその差も大きくならないように設定し、特定のリーチ態様(例えば、7リーチ)になる確率はそこまで高くならないよう設定し且つその差がそれなりに大きくすることが望ましい。これにより、保留が変化することでリーチとなる期待度はある程度担保される一方で、その後の展開(どの数字でリーチになるのか)への期待度に差を設けることで、第1保留表示の表示態様の相違によって示唆される内容を複雑化することができる。尚、これら数値(パーセンテージ)は一例であり、適宜変更可能であるが、このような大小関係であることが望ましい。

【2886】

尚、第1装飾図柄がリーチ態様となる際に、第2装飾図柄もリーチ態様となるよう構成してもよい。

【2887】

次に、図361を用いて、保留数と第1装飾図柄が所定の表示態様となる確率の関係について説明する。初めに、「(1) 保留数1」の場合を説明する。まず、保留が1つある状態で変動停止状態となっている。次に、変動が開始されている。尚、保留数1で変動開始となる場合は、後述する保留数4で変動開始となる場合よりも長い変動時間が選択され易い。次に、第1装飾図柄が特定のリーチ態様(ここでは、7リーチ)となっている(第2装飾図柄は特定のリーチ態様とならず、変動表示を継続している)が、特定のリーチ態様となる確率は、保留数に係わらず同一又は微差である。次に、第1装飾図柄及び第2装飾図柄が当りである特定の最終表示態様(ここでは、7揃い)が表示されているが、特定の最終表示態様となる確率は、保留数に係わらず同一又は微差である。次に、「(2) 保留数4」の場合を説明する。変動時の流れは「(1) 保留数1」と同様であるため省略するが、保留数4で変動開始となる場合は、保留数1で変動開始となる場合よりも、短い変動時間が選択され易い。また、「(1) 保留数1」の説明にて記載した通り、第1装飾図柄が特定のリーチ態様(ここでは、7リーチ)となっている(第2装飾図柄は特定のリーチ態様とならず、変動表示を継続している)が、特定のリーチ態様となる確率は、保留数に係わらず同一又は微差であり、さらに、第1装飾図柄及び第2装飾図柄が当りである特定の最終表示態様(ここでは、7揃い)が表示されているが、特定の最終表示態様となる確率も、保留数に係わらず同一又は微差である。

【2888】

尚、第1装飾図柄がリーチ態様となる際に、第2装飾図柄もリーチ態様となるよう構成してもよい。

【2889】

次に、図362を用いて、遊技状態と最終表示態様との関係について説明する。初めに、非時間短縮遊技状態について説明する。まず、保留が1つある状態で変動停止状態となっている。次に、変動が開始され、第1装飾図柄がリーチ態様（ここでは、7リーチ）となり（第2装飾図柄はリーチ態様とならず、変動表示を継続している）、最後に、第1装飾図柄及び第2装飾図柄が当り態様を示す最終表示態様となっているが、第1装飾図柄及び第2装飾図柄の最終表示態様として、図柄揃い（例えば、「777」）以外にも、潜伏モードへ移行することを示すモード移行図柄（例えば、「潜伏」図柄）が表示され得るよう構成されている。次に、時間短縮遊技状態について説明する。変動の流れの説明については非時間短縮遊技状態と同様であるため省略する。時間短縮遊技状態では、第1装飾図柄及び第2装飾図柄が当り態様を示す最終表示態様が図柄揃い（例えば、「777」）のみとなっており、潜伏モードへ移行することを示すモード移行図柄が表示されないよう構成されている。つまり、最終表示態様の候補数は第1装飾図柄、第2装飾図柄共に時間短縮遊技状態よりも非時間短縮遊技状態の方が多く備えられている。このように構成することで、非時間短縮遊技状態からの当りでは、潜伏モードへの移行を含めることで多様な遊技性とし、時間短縮遊技状態からの当りでは、潜伏モードへの移行を含めず、遊技状態を遊技者が認識できる、つまり、連荘中には単純明快な遊技性とすることができる。さらに、特定のリーチ態様（ここでも高期待度の7リーチが望ましい）後は、非時間短縮遊技状態では「767」と「787」、「777」とがあり、一例としてそれぞれ1/3ずつ出現する一方、時間短縮遊技状態では「787」、「777」とがあり、一例としてそれぞれ1/2ずつ出現する構成とし、時間短縮遊技状態では、外れとなる確率を下げることで、7リーチとなった場合に中図柄が7に到達することなく外れてしまうことを制限し、非時間短縮遊技状態よりも期待度を高めることができる。

【2890】

尚、非時間短縮遊技状態において、当り態様を示す最終表示態様として、第1装飾図柄では、潜伏モードへ移行することを示すモード移行図柄を表示し得るが、第2装飾図柄では、第1装飾図柄に表示されるモード移行図柄を表示し得ず、異なる最終表示態様にて潜伏モードへ移行することを示す構成としてもよく、例えば、第2装飾図柄では、「357」や「246」のように、奇数図柄の組み合わせや偶数図柄の組み合わせを表示する構成としてもよく、さらに、奇数図柄の組み合わせは偶数図柄の組み合わせよりも潜伏モードにおいて確率変動状態である確率が高くなるよう構成してもよい。

【2891】

次に、図363を用いて、遊技状態と打ち方警告表示（左打ち警告表示、右打ち警告表示）の関係について説明する。初めに、非時間短縮遊技状態における打ち方警告表示について説明する。まず、第1主遊技側の保留が1つある状態で変動停止状態となっている。ここでは、遊技者に対して打ち方を示す表示はされていない。次に、第2主遊技始動口B10に遊技球が入球すると、第2主遊技側の第1保留表示、第2主遊技側の第2保留表示の更新が行われ、さらに、左打ち警告表示が終了条件（例えば、10秒、第1主遊技始動口A10に入球する、等）を満たすまで行われ、左打ち警告表示とあわせて音声でも警告が行われる（例えば、「左打ちしてください」×3回）。左打ち警告表示は、遊技者が認識し易い位置に表示するために、第1装飾図柄と重複して表示され得るが、第2装飾図柄、第1保留表示、第2保留表示とは重複して表示されないよう構成されている。尚、非時間短縮遊技状態において第1主遊技始動口A10に入球し、第1主遊技側の第1保留表示、第1主遊技側の第2保留表示の更新が行われても左打ち警告表示は行われない。次に、時間短縮遊技状態における打ち方警告表示について説明する。まず、第2主遊技側の保留が1つある状態で変動停止状態となっている。ここでは、遊技者に対して打ち方を示す表示である右打ち指示表示（「→→右打ち→→」）が表示されている。右打ち指示表示（「

→→右打ち→→」)は、時間短縮遊技状態において表示されるものであり、保留数の更新表示(例えば、第2保留表示の加算)に依存せず、時間短縮遊技状態であれば継続して表示される。次に、第1主遊技始動口A10に遊技球が入球すると、第1主遊技側の第2保留表示の更新が行われ(第1主遊技側の第1保留表示は表示されない)、さらに、右打ち警告表示が終了条件(例えば、第2主遊技始動口B10に入球する、等)を満たすまで行われ、右打ち警告表示とあわせて音声でも警告が行われる(例えば、「右打ちしてください」)。右打ち警告表示は、遊技者が認識し易い位置に表示するために、第1装飾図柄と重複して表示され得るが、第2装飾図柄、第1保留表示、第2保留表示とは重複して表示されないよう構成されている。尚、時間短縮遊技状態において第2主遊技始動口B10に入球し、第2主遊技側の第1保留表示、第2主遊技側の第2保留表示の更新が行われても右打ち警告表示は行われぬ。尚、演出表示装置SGに打ち方警告表示(左打ち警告表示、右打ち警告表示)を表示することなく、音声による警告(「右打ちしてください」、「左打ちしてください」)が出力される構成であってもよい。

【2892】

次に、図364を用いて、先読み演出と擬似連図柄が表示される確率(再変動確率)の関係について説明する。初めに、「青保留変化→再変動(擬似連)」の場合を用いて、演出の流れを説明する。まず、第1主遊技側の保留が3つあり、1つ目の第1保留表示が青保留で表示されている状態で変動停止状態となっている。次に、青保留による変動が開始され(当該変動の演出用保留表示として青色が表示されている)、左列に「6」、右列に「7」が表示された状態で、擬似連示唆予告として、後述する擬似連図柄(ここでは、非透過の「NEXT」)が半透明となっている擬似連示唆図柄(ここでは、半透明の「NEXT」)が演出表示装置SGの上から下へスクロール表示されている。次に、擬似連示唆図柄が演出表示装置SGの略中央までスクロール表示され、擬似連が発生することを示す擬似連図柄が演出表示装置SGの略中央に表示されている。擬似連図柄が停止したため、次に、左列に表示されていた「6」、右列に表示されていた「7」を含め、すべての図柄列で図柄が変動状態となる再変動が行われている。尚、第1装飾図柄としては、擬似連示唆図柄及び擬似連図柄が表示され得るが、第2装飾図柄としては、擬似連示唆図柄及び擬似連図柄が表示されないよう構成されている。次に、先読み演出(保留変化演出)の表示態様(本例では、青保留変化、赤保留変化)と擬似連図柄が表示される確率について説明する。上述した通り、擬似連図柄が表示されると、再変動となる擬似連が発生するが、擬似連図柄が表示される確率は、先読み演出(保留変化演出)の表示態様によって異なるよう構成してもよく、例えば、当り期待度の低い青保留では、再変動となる確率(擬似連が発生する確率)が低く、当り期待度の高い赤保留では、再変動となる確率が高くなる(つまり、再変動となる確率は、赤保留>青保留)、よう構成してもよい。尚、上記では、左図柄と右図柄が同一ではない(リーチではない)表示から擬似連示唆図柄及び擬似連図柄が表示される場合を説明したが、これに限られず、左図柄と右図柄が同一であるリーチ表示から擬似連示唆図柄及び擬似連図柄が表示される構成、第1装飾図柄を再変動(擬似連)可能な構成とするだけでなく、第2装飾図柄も再変動(擬似連)可能な構成、擬似連図柄が特定の図柄(例えば、「7」)である構成としてもよく、また、擬似連示唆図柄及び擬似連図柄が表示される図柄列は、左列や右列であってもよい。さらに、擬似連示唆図柄については、スクロール表示せずに所定位置{例としては、中図柄列の中央部分(演出表示装置SGの略中央)や、保留表示の近傍など}に表示されることで再変動(擬似連)が行われることを示唆しても良く、この場合に、擬似連図柄がスクロール変動して中図柄列の中央部分(演出表示装置SGの略中央)に表示されるよう構成しても良い。

【2893】

次に、図365を用いて、先読み演出表示中に擬似連図柄が表示される確率(再変動確率)とトリガ変動(先読み演出の開始契機となった保留に係る変動)の変動中に擬似連図柄表示される確率(再変動確率)の関係について説明する。まず、保留が2つある状態で変動停止状態となっている。次に、変動が開始され、背景が先読み演出の高期待度の表示態様である半透明の黒色で表示されている。このように、先読み演出の高期待度の表示態

10

20

30

40

50

様が表示されている場合には、擬似連示唆図柄及び擬似連図柄は表示されないよう構成してもよく、また、擬似連示唆図柄及び擬似連図柄が表示され得るが低確率である、よう構成してもよい。次に、引き続き、背景が半透明の黒色で表示されたまま、変動停止状態となっている。次に、トリガ変動が開始され、背景が通常背景（半透明の黒色ではない）となっている。次に、左列に「6」、右列に「7」が表示された状態で、擬似連示唆図柄が演出表示装置SGの上から下へスクロール表示されている。次に、擬似連示唆図柄が演出表示装置SGの略中央までスクロール表示され、擬似連図柄が演出表示装置SGの略中央に表示されている。擬似連図柄が停止したため、次に、左列に表示されていた「6」、右列に表示されていた「7」を含め、すべての図柄列で図柄が変動状態となる再変動が行われている。このように、先読み演出の発生契機となった保留に係る変動（所謂、トリガ変動）より前の保留に係る変動では、先読み演出の表示態様として高期待度の表示態様（ここでは、半透明の黒色の背景）を表示し得るが、擬似連図柄は表示されず、再変動（擬似連）が発生することはない、又は、先読み演出の表示態様が高期待度の表示態様のときは先読み演出の表示態様が低期待度のときよりも擬似連図柄が表示されて再変動（擬似連）が発生する確率が低くなるよう構成されていてもよく、また、トリガ変動では、先読み演出の高期待度の表示態様が表示され得ず、擬似連示唆図柄及び擬似連図柄が表示され得るため、再変動（擬似連）が発生し得る、又は、トリガ変動より前の保留に係る変動よりも擬似連図柄が表示されて再変動（擬似連）が発生する確率が高くなるよう構成されていてもよい。さらに、擬似連示唆図柄については、スクロール表示せずに所定位置（例としては、中図柄列の中央部分（演出表示装置SGの略中央）や、保留表示の近傍など）に表示されることで再変動（擬似連）が行われることを示唆しても良く、この場合に、擬似連図柄がスクロール変動して中図柄列の中央部分（演出表示装置SGの略中央）に表示されるよう構成しても良い。

【2894】

次に、図366を用いて、電源断と電源断復帰後（RAMクリアではない場合。つまり、図6のS1002→S1008→S1010→S1012→S1014→・・・となった場合。）の装飾図柄の関係について説明する。初めに（A）について説明する。まず、ステージAに滞在中（変動停止中）であるため、第1装飾図柄のキャラクタが動物又は人であり、「8（ゾウ）、6（麒麟）、1（ヒヨコ）」と表示されている。第2装飾図柄は数字で「861」と表示されている。次に、電源断が発生し、演出表示装置SGには何も表示されていない。次に、電源断から復帰し、デフォルトのステージとして設定されているステージAが表示され、電源断前と同様に、「8（ゾウ）、6（麒麟）、1（ヒヨコ）」が表示されている。第2装飾図柄の表示態様は、ステージ、電源断の前後、等に関わらず数字による表示のみであり、ここでは、「861」と表示されている。次に、（B）について説明する。まず、ステージBに滞在中（変動停止中）であるため、第1装飾図柄のキャラクタが果物又は人であり、「8（スイカ）、6（リンゴ）、1（ブドウ）」と表示されている。第2装飾図柄は数字で「861」と表示されている。次に、電源断が発生し、演出表示装置SGには何も表示されていない。次に、電源断から復帰し、デフォルトのステージとして設定されているステージAが表示され、電源断前とは異なり、「8（ゾウ）、6（麒麟）、1（ヒヨコ）」が表示されている。第2装飾図柄の表示態様は、数字で「861」と表示されている。次に、（A）の変形例である（C）について説明する。まず、ステージAに滞在中（変動停止中）であり、第1装飾図柄が「8（ゾウ）、6（麒麟）、1（ヒヨコ）」と表示されている。第2装飾図柄は数字で「861」と表示されている。次に、電源断が発生し、演出表示装置SGには何も表示されていない。次に、電源断から復帰し、デフォルトのステージとして設定されているステージAが表示され、第1装飾図柄は、電源断前とは異なり、電源断復帰時のデフォルト表示である「2（味方）、4（敵）、6（麒麟）」が表示されている。第2装飾図柄の表示態様は、数字で「861」と表示されている。尚、ここでは、第1装飾図柄のみが変更されているが、ステージB滞在中に電源断が発生して復帰する場合には、デフォルトのステージであるステージA、電源断復帰時の第1装飾図柄のデフォルト表示である「2（味方）、4（敵）、

10

20

30

40

50

6（麒麟）」で復帰する。

【2895】

次に、図367を用いて、電源断と電源断復帰後（RAMクリアである場合。図6のS1002→S1004→S1006→・・・となった場合。）の装飾図柄の関係について説明する。初めに、（A）について説明する。まず、ステージAに滞在中（変動停止中）であるため、第1装飾図柄のキャラクタが動物又は人であり、「8（ゾウ）、6（麒麟）、1（ヒヨコ）」と表示されている。第2装飾図柄は数字で「861」と表示されている。次に、電源断が発生し、演出表示装置SGには何も表示されていない。次に、RAMクリアで電源断から復帰し、デフォルトのステージとして設定されているステージAが表示され、電源断前と異なり、RAMクリア時の第1装飾図柄のデフォルト表示である「3（ペンギン）、3（ペンギン）、1（ヒヨコ）」で表示されている。第2装飾図柄の表示態様は、ステージ、電源断の前後、等に関わらず数字による表示のみであり、ここでは、「331」と表示されている。次に、（B）について説明する。まず、ステージBに滞在中（変動停止中）であるため、第1装飾図柄のキャラクタが果物又は人であり、「8（スイカ）、6（リンゴ）、1（ブドウ）」と表示されている。第2装飾図柄は数字で「861」と表示されている。次に、電源断が発生し、演出表示装置SGには何も表示されていない。次に、RAMクリアで電源断から復帰し、デフォルトのステージとして設定されているステージAが表示され、電源断前とは異なり、RAMクリア時の第1装飾図柄のデフォルト表示である「3（ペンギン）、3（ペンギン）、1（ヒヨコ）」で表示されている。第2装飾図柄の表示態様は、数字で「331」と表示されている。

【2896】

このように、RAMクリア時（RAMクリア且つ電源断復帰）には、電源断前の演出状態（ステージ等）や装飾図柄の停止図柄に関わらず、予め定められた表示態様（ここでは、ステージA、第1装飾図柄及び第2装飾図柄が共に「331」）となるよう構成されており、RAMクリアが行われたことを遊技者、遊技店員等が把握し易くなっている。

【2897】

尚、RAMクリア時の第1装飾図柄のデフォルト表示である「3（ペンギン）、3（ペンギン）、1（ヒヨコ）」は、RAMクリア時にのみ表示可能な表示態様としてもよいし、通常遊技中にも発生し得るが、例えば、ほぼ当り（大当り、小当り）確定であるプレミア演出として表示するよう構成してもよい。また、RAMクリア時の表示態様を、電源断復帰時のデフォルト表示態様と同様の表示態様（図366の（C）と同様の表示態様）とし、RAMクリア時に、第1装飾図柄が「2（味方）、4（敵）、6（麒麟）」で表示され、第2装飾図柄が、数字で「246」と表示されるようにしても良い。

【2898】

次に、図368を用いて、リーチ時演出であるリーチボイス（リーチが成立した際に発生するサウンドによって当り期待度等を示唆する予告）と擬似連図柄が表示される確率（再変動確率）の関係について説明する。尚、リーチボイスの当り期待度は、リーチ＜チャンス＜発展＜激アツ、となっている。また、本図は、リーチ成立以降に所定のSPリーチに発展する変動において、リーチ成立時のリーチボイスによる再変動となる確率を説明するものであることを予め補足しておく。初めに、（A）について説明する。まず、保留が3つある状態で変動停止状態となっている。次に、変動が開始され、リーチが成立し、リーチボイスとして「リーチ」の音声が発生している。次に、擬似連図柄である「NEXT」が演出表示装置SGの略中央（第1装飾図柄の中列）に表示され、再変動（擬似連）となっている。このように、リーチが成立した際に「リーチ」のリーチボイスが発生した場合には、再変動確率が高に設定されている。次に、（B）について説明する。まず、保留が3つある状態で変動停止状態となっている。次に、変動が開始され、リーチが成立し、リーチボイスとして「チャンス」の音声が発生している。次に、擬似連図柄である「NEXT」が演出表示装置SGの略中央（第1装飾図柄の中列）に表示され、再変動（擬似連）となっている。このように、リーチが成立した際に「チャンス」のリーチボイスが発生した場合には、再変動確率が中に設定されている。次に、（C）について説明する。まず

、保留が3つある状態で変動停止状態となっている。次に、変動が開始され、リーチが成立し、リーチボイスとして「発展」の音声が発生している。次に、擬似連図柄である「NEXT」が演出表示装置SGに表示されることなく、スーパーリーチ演出に発展し、スーパーリーチ演出が表示されている。このように、リーチが成立した際に「発展」のリーチボイスが発生した場合には、再変動確率が0であり、再変動することなく直接スーパーリーチ演出へと発展するよう構成されている。次に、(D)について説明する。まず、保留が3つある状態で変動停止状態となっている。次に、変動が開始され、リーチが成立し、リーチボイスとして「激アツ」の音声が発生している。次に、擬似連図柄である「NEXT」が演出表示装置SGの略中央(第1装飾図柄の中列)に表示され、再変動(擬似連)となっている。このように、リーチが成立した際に「激アツ」のリーチボイスが発生した場合には、再変動確率が低に設定されている。

10

【2899】

このように、当り期待度の高いリーチボイスが発生するほど、再変動(擬似連)確率は低くなるよう構成されているが、当り期待度が高いリーチボイスのうち、一部のリーチボイスが発生した場合(ここでは、「発展」のリーチボイス)には、再変動(擬似連)が発生しないよう構成されている。尚、当り期待度が高いリーチボイスのうち、一部のリーチボイス(例えば、「発展」のリーチボイス)が発生した場合であっても、再変動(擬似連)が発生するよう構成し、当該一部のリーチボイス(例えば、「発展」のリーチボイス)が発生した場合には、再変動確率が高に設定される(例えば、「チャンス」のときよりも再変動確率が高い)よう構成してもよい。

20

【2900】

つまり、リーチボイスによる当り期待度は、リーチ<チャンス<発展<激アツ、であり、リーチボイスによる再変動(擬似連)確率は、

(1) 発展(発生しないことを含む)<激アツ<チャンス<リーチ

(2) 激アツ<チャンス<発展 $\leq$ リーチ

のように、当り期待度とは異なる序列で構成することが可能である。

【2901】

次に、図369を用いて、全回転演出における装飾図柄の表示態様について説明する。まず、保留が3つある状態で変動停止状態となっている。次に、変動が開始され、リーチとなっている。次に、演出表示装置SGの略中央に「全回転」の文字が表示され、第1装飾図柄の左列、中列、右列において、図柄が揃った状態(例えば、「777」や「888」等)で、通常の変動(例えば、2つ目の図の状態)よりも低速でスクロール表示されている。尚、上述した通り、第1装飾図柄は、図柄が揃った状態でスクロール表示され得るが、第1装飾図柄は図柄が揃った状態でスクロール表示されている際であっても、第2装飾図柄は、左列、中列、右列で図柄が揃っていない状態で個別に変動表示されており、低速にもならない(＝一定の速度を保っている)。次に、第1装飾図柄が確定停止すると略同時に、第2装飾図柄は数字のみで図柄が揃った状態で表示されている。尚、第2装飾図柄も第1装飾図柄と同期するように図柄が揃った状態(例えば、「777」や「888」等)で変動表示されるよう構成してもよい。

30

【2902】

次に、図370を用いて、ステージ毎の装飾図柄の変動態様について説明する。初めに、ステージAについて説明する。ステージAでは、変動が開始すると、第1装飾図柄は、演出表示装置SGの表示領域を上から下へ移動するスクロール表示にて変動表示が行われ、第2装飾図柄は、その場(第2装飾図柄の表示領域)で上から下へ移動しているようにみせるスクロール表示にて変動表示が行われる。次に、ステージBについて説明する。ステージBでは、変動が開始すると、第1装飾図柄は、その場で横回転して図柄が変更される変動表示が行われ、第2装飾図柄は、ステージAと同様に、その場(第2装飾図柄の表示領域)で上から下へ移動しているようにみせるスクロール表示にて変動表示が行われる。このように、第1装飾図柄は、遊技者が視認し易い図柄であるため、ステージによって変動態様を変化させることで遊技者が飽きないようにし、第2装飾図柄は、遊技者が視認

40

50

し難い図柄であるため、ステージによって変動態様を変化させることなく、同一の変動態様で表示している。ここで、ステージ A は、非時間短縮遊技状態（又は、非時間短縮遊技状態且つ非確率変動遊技状態）に対応したステージであり、ステージ B は、時間短縮遊技状態（又は、時間短縮遊技状態且つ確率変動遊技状態）に対応したステージであってよいし、もしくは、ステージ A 及びステージ B ともに非時間短縮遊技状態（又は、非時間短縮遊技状態且つ非確率変動遊技状態）に対応したステージであり、ステージ A からステージ B への移行が可能であるよう構成してもよい。また、ステージを演出モードと称することがある。

【2903】

なお、演出表示装置 S G の表示領域を上から下へ移動するスクロール表示、演出表示装置 S G の表示領域を右から左へ移動するスクロール表示、その場で横回転して図柄が変更される変動表示、などを変動表示形式と称することがあり、即ち、演出表示装置 S G の表示領域を上から下へ移動するスクロール表示する変動表示形式と、その場で横回転して図柄が変更される変動表示を実行する変動表示形式とは、変動表示形式が相違することとなる。

【2904】

次に、図 371 を用いて、変動中における装飾図柄の表示内容の詳細を説明する。まず、(A) について説明する。(A) は、リーチとなる変動パターンにおける第 1 装飾図柄と第 2 装飾図柄の表示に関する図である。初めに、ステージ B にて変動停止中である。次に、変動が開始され、第 1 装飾図柄の左列、中列、右列の各図柄列において、横回転して図柄が変更される変動態様にて変動しており、第 2 装飾図柄の左列、中列、右列の各図柄列において、その場で縦スクロールする変動態様にて変動している。第 1 装飾図柄の各図柄列では、「1→2→3→・・・→7→8→1→・・・」と、規則正しく順番に図柄が変更され、第 2 装飾図柄では、第 1 装飾図柄の変動がどのような変動であっても一律に予め定められた図柄変動が行われ、「275」→「864」→「387」→「641」→「728」→「413」→「156」→「532」→「275」→・・・といった順番でスクロール表示されて図柄が切り替えられる。次に、第 1 装飾図柄で「7」でリーチが成立したタイミングであり、且つ、中図柄列の中央部分（演出表示装置 S G の略中央）に変動中の「6」が位置したタイミングにおいては、変動中の第 2 装飾図柄は「275」がサブ領域内で位置しており、このようにリーチ成立時の所定のタイミングにおける第 1 装飾図柄と第 2 装飾図柄の表示態様は異なっている。また、第 2 装飾図柄では、左列と右列の図柄が異なっており、リーチも成立していない。

【2905】

次に、(B) について説明する。(B) は、リーチとならずにハズレとなる変動パターンにおける第 1 装飾図柄と第 2 装飾図柄の表示に関する図である。初めに、ステージ B にて変動停止中である。次に、変動が開始され、第 1 装飾図柄の左列、中列、右列の各図柄列において、横回転して図柄が変更される変動態様にて変動しており（高速変動）、第 2 装飾図柄の左列、中列、右列の各図柄列において、その場で縦スクロールする変動態様にて変動している。次に、左列の停止直前のタイミングであり、第 1 装飾図柄の左列は低速変動中であり、「8」が表示された状態であり、中列、右列は高速変動中であり、このとき（一瞬であるが）、「868」が表示された状態となる（ただし、右図柄は高速変動中であるためリーチではない）。第 2 装飾図柄は、通常速度で変動中であり（第 2 装飾図柄は、ほぼ通常速度でしか変動しない。全回転演出のときには低速で変動させるよう構成してもよい。）、このとき（一瞬であるが）、「864」が表示された状態となる。次に、左列の停止タイミングであり、第 1 装飾図柄の左列は停止（仮停止）されており、第 1 装飾図柄の中列、右列は高速変動中であり、このとき（一瞬であるが）、「168」が表示された状態となる。第 2 装飾図柄は、通常速度で変動中であり、このとき（一瞬であるが）、「387」が表示された状態となる。次に、右列の停止直前のタイミングであり、第 1 装飾図柄の左列は「1」が停止（仮停止）しており、右列は低速変動中で「5」が表示された状態であり、中列は高速変動中であり、このとき（一瞬であるが）、「165」が

10

20

30

40

50

表示された状態となる。第2装飾図柄は、通常速度で変動中であり、このとき（一瞬であるが）、「641」が表示された状態となる。次に、右図柄の停止タイミングであり、第1装飾図柄の左列は「1」が停止（仮停止）、右列は「6」が停止（仮停止）されており、第1装飾図柄の中列は高速変動中であり、このとき（一瞬であるが）、「166」が表示された状態となる。第2装飾図柄は、通常速度で変動中であり、このとき（一瞬であるが）、「728」が表示された状態となる。次に、変動時間の終了直前のタイミングであり、第1装飾図柄の左列は「1」が停止（仮停止）しており、右列は「6」が停止（仮停止）しており、中列は低速変動中であり、「116」が表示された状態である。第2装飾図柄は通常速度で変動中であり、「413」が表示された状態である。次に、変動時間が終了するタイミングであり、主制御基板Mから副制御基板Sへ変動時間の終了を示す（装飾図柄の変動を停止表示させるためでもある）変動停止コマンドが送信されており、第1装飾図柄及び第2装飾図柄がともに「126」で変動停止（確定停止）している。

【2906】

第1装飾図柄では、左列及び右列の停止（仮停止）直前から停止（仮停止）になるまでにおいて、又は、変動停止（確定停止）直前から変動停止（確定停止）になるまでにおいて、予め連続して配列された順序で図柄が変更されて変動停止（確定停止）となるが、第2装飾図柄では、変動停止（確定停止）直前から変動停止（確定停止）になるまでにおいて、変動停止（確定停止）直前に表示されていた図柄から最終停止図柄に一瞬で変更されて変動停止（確定停止）となる。本例では、第1装飾図柄では、左列の停止（仮停止）直前から左列の停止（仮停止）になるまでにおいて、左列が「8→1」に変更され、右列の停止（仮停止）直前から右列の停止（仮停止）になるまでにおいて、右列が「5→6」に変更され、変動停止（確定停止）直前から変動停止（確定停止）になるまでにおいて、中列が「1→2」に変更されている。第2装飾図柄では、変動停止まで継続して通常速度で変動中であるため、変動停止（確定停止）直前に表示されていた図柄から最終停止図柄である「126」に一瞬で変更されており、左列が「3→1」、中列が「6→2」、右列が「2→6」に変更されている。ただし、第2装飾図柄の変動中は、ランダムに図柄が表示されることになるため、変動停止（確定停止）直前に表示された図柄と最終停止図柄とが偶然連続することもあり得る。

【2907】

また、第2装飾図柄の図柄配列パターンは規則正しく連続していてもよく、例えば、第1装飾図柄と同様に「1→2→3→・・・→7→8→1→・・・」と表示されてもよいが、この場合、左列、中列、右列に表示される図柄は異なるよう表示される。具体的には、1つズレで表示する仕様であれば、左列は「1」から始まり「1→2→3→・・・」、中列は「2」から始まり「2→3→4→・・・」、右列は「3」から始まり「3→4→5→・・・」のように変更され、変動停止（確定停止）時に最終停止図柄に変更される。

【2908】

このように、第1装飾図柄では、変動時間の終了直前のタイミングにおいて表示される図柄と変動停止（確定停止）時に表示される図柄（最終停止図柄）とが連続している又は連続していることが多く、第2装飾図柄では、変動時間の終了直前のタイミングにおいて表示される図柄と変動停止（確定停止）時に表示される図柄（最終停止図柄）とが連続していない又は連続していないことが多くなっている。

【2909】

次に、擬似連図柄、発展図柄、擬似連図柄と発展図柄の関係について説明する。尚、以降の説明では、スーパーリーチ中等に第1装飾図柄、第1保留表示等を表示する構成を示すが、上述したように、スーパーリーチ中等には第1装飾図柄や第1保留表示等を表示しない構成を採用してもよい。

【2910】

次に、図372は、再変動が実行される際の第1装飾図柄と第2装飾図柄の表示態様を示すイメージ図である。まず、第1装飾図柄、第2装飾図柄がともに「861」で停止表示している。第1装飾図柄は、キャラクタと数字図柄によって構成されており、第2装飾

10

20

30

40

50

図柄は、数字図柄のみで構成されている。次に、変動開始条件を充足したことに伴い、第1装飾図柄、第2装飾図柄はともに図柄変動を開始する。次に、第1装飾図柄、第2装飾図柄はともに左図柄と右図柄に「6」が表示されてリーチを形成し、さらに、メイン領域では、再変動（例えば、擬似連続変動）が実行されるか否かを示唆する半透明の「NEXT」図柄（「再変動示唆図柄」、「擬似連示唆図柄（擬似連示唆演出）」）が液晶画面上から下へ移動表示されている。次に、再変動が実行される場合には、半透明の「NEXT」図柄ではなく、非透過の「NEXT」図柄（「再変動図柄」「擬似連図柄」ともいう）が液晶画面略中央に表示される。このとき、サブ領域において再変動を示唆する図柄が表示されることはない。メイン領域において、非透過の「NEXT」図柄が表示された後、第1装飾図柄、第2装飾図柄はともに、再度図柄変動を開始する（再度図柄変動が開始される前の第1装飾図柄の停止状況を「仮停止」とも言う）。このとき、保留数は3個のままであることから、1回の図柄変動において、複数回図柄変動しているかのように見せていることがわかる。次に、再度行われた図柄変動において左図柄と右図柄により「7」で再度リーチが形成され、その後、スーパーリーチ演出を実行し、当該変動はハズレであったため、第1装飾図柄、第2装飾図柄がともにゾロ目ではないリーチハズレ図柄（「717」）で確定停止している。なお、スーパーリーチ演出中には、液晶画面中央にて味方キャラクタと敵キャラクタのバトル演出を表示しているため、第1装飾図柄であっても画面右上に数字図柄のみを小さく表示するようにし（「退避時表示態様」ともいう）、遊技者にバトル演出に注目させるようにしており、バトル演出終了後には変動開始時と同様にキャラクタと数字図柄によって構成される装飾図柄にて表示する。尚、擬似連示唆図柄については、スクロール表示せずに所定位置（例としては、中図柄列の中央部分（演出表示装置SGの略中央）や、保留表示の近傍など）に表示されることで再変動（擬似連）が行われることを示唆しても良く、この場合に、擬似連図柄がスクロール変動して中図柄列の中央部分（演出表示装置SGの略中央）に表示されるよう構成しても良い。

【2911】

次に、図373は、特定図柄が表示されてスーパーリーチ演出となる際の表示遷移を示すイメージ図である。初めに、第1装飾図柄、第2装飾図柄がともに「861」で停止表示している。次に、変動開始条件を充足したことに伴い、第1装飾図柄、第2装飾図柄はともに図柄変動を開始する。次に、第1装飾図柄、第2装飾図柄はともに左図柄と右図柄に「6」が表示されてリーチを形成し、さらに、メイン領域では、スーパーリーチ演出に発展することを示す特定図柄（発展図柄ともいう）である「発展」又は「発展!!!」が表示された後、スーパーリーチ演出が実行されている。なお、メイン領域において特定図柄が表示される際に、サブ領域においてスーパーリーチ演出に発展することを示す図柄が表示されることはない。また、「発展」と「発展!!!」は異なる図柄であるが、いずれが表示された場合であっても、同一の発展先であるスーパーリーチ演出が実行され得ようになっている。さらに、「発展」と「発展!!!」では、当りとなる期待度が異なり、「発展!!!」が表示された場合は、「発展」が表示された場合よりも、当り（大当り、小当り）期待度が高くなっている。なお、スーパーリーチ演出が複数種類設けられおり、例えば、キャラクタが異なるスーパーリーチ演出であり当りとなる期待度が異なる構成やスーパーリーチ前半とスーパーリーチ後半のようにスーパーリーチ演出が複数段階で構成されてもよく、スーパーリーチ演出への発展パターンとして、スーパーリーチ前半を経由してスーパーリーチ後半となるパターンだけでなく、スーパーリーチ前半を経由せずにスーパーリーチ後半が表示されるパターンを備えていてもよい。したがって、「発展」や「発展!!!」が表示された場合には、例えば、共にスーパーリーチ演出A（キャラクタA）が表示され得よう構成されていればよく、このとき、スーパーリーチ演出Aにおける当り（大当り、小当り）期待度が異なる（「発展」→スーパーリーチ演出Aと「発展!!!」→スーパーリーチ演出Aとでは、当り（大当り、小当り）期待度が異なる）よう構成することが可能である。また、スーパーリーチ前半とスーパーリーチ後半とで構成される場合では、「発展」が表示された場合と「発展!!!」が表示された場合とでは、同一のスーパーリーチ前半が表示された場合であってもスーパーリーチ後半となる割合が

10

20

30

40

50

異なるよう構成することも可能である。勿論、発展図柄の種類（「発展」「発展！！！」等）に応じて、複数種類のスーパーリーチのうち当り（大当り、小当り）期待度の高いスーパーリーチに発展する可能性が異なるよう構成してもよい。また、当り（大当り、小当り）期待度が相対的に低い低期待度スーパーリーチ（例えば、後述する麒麟によるスーパーリーチ演出）と当り（大当り、小当り）期待度が相対的に高い高期待度スーパーリーチ（例えば、スーパーリーチ演出であるバトル演出）をそれぞれ複数備える構成としてもよい。

【2912】

補足であるが、ここでは、第1装飾図柄が、変動開始時、変動停止時、スーパーリーチ発展前までは第2要素（例えば、数字）と第1要素（例えば、キャラクタ等）によって構成されているが、演出パターンによって発生する特定の状況下（例えば、スーパーリーチ中、可動役物可動中、確変昇格演出中、エラー画面表示中。ここではスーパーリーチ。）では、第2要素（数字）のみで構成されている。

【2913】

次に、図374は、予告種別に対応して発展図柄が表示され、スーパーリーチ演出となる際の表示遷移を示すイメージ図である。まず、装飾図柄（第1装飾図柄、第2装飾図柄）が「861」で停止表示している。次に、変動開始条件を充足したことに伴い、装飾図柄が図柄変動を開始する。ここで、図柄変動中に予告表示（楕円形の枠内に文字で当り（大当り、小当り）期待度が示唆される「コメント予告」、当り（大当り、小当り）期待度を示唆する演出が表示されるまでの時間が表示される「タイマ予告」、当該変動でスーパーリーチとなることを示す「次回予告」）が行われる。まず、「コメント予告」である「チャンス」の表示がされた場合、次にスーパーリーチ演出に発展することを示す特定図柄である「発展」が表示され、スーパーリーチ演出が実行される。他方、「タイマ予告」である「00:10:00」（10秒後に何かしらの演出が発生することを示す表示）の表示がされた場合、スーパーリーチ演出に発展することを示す特定図柄である「発展！！！」が表示された後、スーパーリーチ演出が実行される。他方、「次回予告」である「次回SPリーチ」の表示がされた場合、特定図柄が表示されず、スーパーリーチ演出が実行される。このように、「コメント予告」の後には「発展」が、「タイマ予告」の後には「発展！！！」が表示され、「次回予告」の後には特定図柄が表示されないよう、それぞれ対応付けがされている。なお、ここでは「コメント予告」の後には「発展」が、「タイマ予告」の後には「発展！！！」が表示されるよう、それぞれ対応付けがされているものとしたが、これに限られず、「コメント予告」の後にも「発展！！！」が、「タイマ予告」の後にも「発展」が表示され得るよう構成し、「コメント予告」の後に「発展！！！」が表示される割合よりも「タイマ予告」の後に「発展！！！」が表示される割合が高くなっていてもよく、また、「タイマ予告」の後に「発展」が表示されるよりも「コメント予告」の後に「発展」が表示される割合が高くなっていてもよい。尚、前述した「発展」と「発展！！！」に当り（大当り、小当り）期待度の差があり（当り（大当り、小当り）期待度：発展<発展！！！）、また、「コメント予告」と「タイマ予告」と「次回予告」にも当り（大当り、小当り）期待度の差があり、当り（大当り、小当り）期待度は、コメント予告<タイマ予告<次回予告、となっている。

【2914】

また、第2装飾図柄の停止図柄（図柄組合せ）の候補数よりも第1装飾図柄の停止図柄（図柄組合せ）の候補数の方が多いとの構成を採用した遊技機において、同図の構成を採用してもよい。そのように構成する場合には、すべての遊技状態において（すべての遊技状態を含めて）、第2装飾図柄の停止図柄（図柄組合せ）の候補数よりも第1装飾図柄の停止図柄（図柄組合せ）の候補数の方が多い構成を採用してもよいし、1以上の所定の遊技状態において、第2装飾図柄の停止図柄（図柄組合せ）の候補数よりも第1装飾図柄の停止図柄（図柄組合せ）の候補数の方が多い構成を採用してもよい。

【2915】

次に、図375は、同じ予告種別のうち異なる表示態様がされた場合にスーパーリーチ

演出となる際の表示遷移を示すイメージ図である。まず、装飾図柄（第1装飾図柄、第2装飾図柄）が「861」で停止表示している。次に、変動開始条件を充足したことに伴い、装飾図柄が図柄変動を開始する。ここで、図柄変動中に予告表示〔楕円形の枠内に文字で当り（大当り、小当り）期待度が示唆される「コメント予告」（「チャンス」と「激熱！！」は共にコメント予告である）〕が行われる。まず、「チャンス」の表示がされた場合、次にスーパーリーチ演出に発展することを示す特定図柄である「発展」が表示され、スーパーリーチ演出が実行される。他方、「激熱！！」の表示がされた場合、スーパーリーチ演出に発展することを示す特定図柄である「発展！！！」が表示された後、スーパーリーチ演出が実行される。このように、「チャンス」の後には「発展」が、「激熱！！」の後には「発展！！！」が表示されるよう、それぞれ対応付けがされている。なお、ここでは「チャンス」の後には「発展」が、「激熱！！」の後には「発展！！！」が表示されるよう、それぞれ対応付けがされているものとしたが、これに限られず、「チャンス」の後にも「発展！！！」が、「激熱！！」の後にも「発展」が表示され得るよう構成し、「チャンス」の後に「発展！！！」が表示される割合よりも「激熱！！」の後に「発展！！！」が表示される割合が高くなっていてもよく、また、「激熱！！」の後に「発展」が表示される割合よりも「チャンス」の後に「発展」が表示される割合が高くなっていてもよい。尚、前述した通り「発展」と「発展！！！」に当り（大当り、小当り）期待度の差があるように、「チャンス」と「激熱！！」にも当り（大当り、小当り）期待度の差があり、「激熱！！」は「チャンス」よりも当り（大当り、小当り）期待度が高くなっている。

【2916】

また、第2装飾図柄の停止図柄（図柄組合せ）の候補数よりも第1装飾図柄の停止図柄（図柄組合せ）の候補数の方が多いとの構成を採用した遊技機において、同図の構成を採用してもよい。そのように構成する場合には、すべての遊技状態において（すべての遊技状態を含めて）、第2装飾図柄の停止図柄（図柄組合せ）の候補数よりも第1装飾図柄の停止図柄（図柄組合せ）の候補数の方が多い構成を採用してもよいし、1以上の所定の遊技状態において、第2装飾図柄の停止図柄（図柄組合せ）の候補数よりも第1装飾図柄の停止図柄（図柄組合せ）の候補数の方が多い構成を採用してもよい。

【2917】

次に、図376は、異なる先読み演出が行われてスーパーリーチ演出となる際の表示遷移を示すイメージ図である。まず、装飾図柄（第1装飾図柄、第2装飾図柄）が「861」で停止表示している。次に、変動開始条件を充足したことに伴い、装飾図柄が図柄変動を開始する。次に、第1保留表示が青色に変化して装飾図柄が「861」で停止表示している。次に、トリガ保留（先読み演出の開始契機となった保留。ここでは、青色の保留表示。）に係る図柄変動において、「発展」が表示され、図示していないスーパーリーチ演出が実行される。他方、変動停止時の装飾図柄の図柄組み合わせがチャンス目先読みである連続出目（ここでは、「123」）が発生した場合、トリガ保留に係る図柄変動において、「発展！！！」が表示され、図示していないスーパーリーチ演出が実行される。尚、チャンス目先読み発生時は、確定停止した第1装飾図柄の周りに専用エフェクトが発生し、チャンス目先読みが発生したことを認識しやすくし、第2装飾図柄については、その専用エフェクトが発生することがないよう構成してもよい。このように、先読み演出として保留変化演出が表示された後には「発展」が、先読み演出としてチャンス目が表示された後には「発展！！！」が表示されるよう、それぞれ対応付けがされている。なお、ここでは保留変化演出の後には「発展」が、チャンス目先読みの後には「発展！！！」が表示されるよう、それぞれ対応付けがされているものとしたが、これに限られず、保留変化演出の後にも「発展！！！」が表示され、保留変化演出の後に「発展！！！」が表示される割合より、チャンス目先読みの後に「発展！！！」が表示される割合が高くなっていてもよく、この場合には、チャンス目先読みの後に「発展」が表示されることもあり、チャンス目先読みの後に「発展」が表示される割合より、保留変化演出の後に「発展」が表示される割合が高くなっていてもよい。前述した通り「発展」と「発展！！！」に当り（大当り、小当り）期待度の差があるように、保留変化演出とチャンス目先読みにも当り（大当り

10

20

30

40

50

、小当り）期待度の差があり、チャンス目先読みは保留変化演出よりも当り（大当り、小当り）期待度が高くなっている。なお、本例では、保留変化演出とチャンス目先読みにおける発展図柄（「発展」「発展！！」）との対応関係を用いて説明したが、先読み演出であれば他の演出であってもよく、例えば、背景変化演出である「天使ゾーン」及び「真天使ゾーン」においても適用可能である。また、本例では、一つの先読み演出（保留変化演出又はチャンス目先読み）における当り（大当り、小当り）期待度の差を用いて説明したが、複数種類の先読み演出が同時に実行されていたか否か又は同時に実行されている先読み演出の数（先読み演出の複合数）によって発展図柄（「発展」「発展！！」）との対応関係が異なるよう構成してもよい。例えば、保留変化演出のみ（先読み演出が１種類）が実行されていた場合よりも保留変化演出とチャンス目先読み（先読み演出が２種類）が実行されていた場合の方が、トリガ変動において発展図柄が表示され易い、又は、保留変化演出のみ（先読み演出が１種類）が実行されていた場合に「発展！！」が表示される割合より、保留変化演出とチャンス目先読み（先読み演出が２種類）が実行されていた場合に「発展！！」が表示される割合の方が高くなるよう構成してもよく、この場合には、保留変化演出とチャンス目先読み（先読み演出が２種類）が実行されていた場合に「発展」が表示される割合より、保留変化演出のみ（先読み演出が１種類）が実行されていた場合に「発展」が表示される割合が高くなっていてもよい。また、擬似連図柄も発展図柄と同様に、複数種類の先読み演出が同時に実行されていたか否か又は同時に実行されている先読み演出の数（先読み演出の複合数）によって擬似連図柄（「NEXT」「NEXT！！」）との対応関係が異なるよう構成してもよい。例えば、保留変化演出のみ（先読み演出が１種類）が実行されていた場合よりも保留変化演出とチャンス目先読み（先読み演出が２種類）が実行されていた場合の方が、トリガ変動において擬似連図柄が表示され易い、又は、保留変化演出のみ（先読み演出が１種類）が実行されていた場合に「NEXT！！」が表示される割合より、保留変化演出とチャンス目先読み（先読み演出が２種類）が実行されていた場合に「NEXT！！」が表示される割合の方が高くなるよう構成してもよく、この場合には、保留変化演出とチャンス目先読み（先読み演出が２種類）が実行されていた場合に「NEXT」が表示される割合より、保留変化演出のみ（先読み演出が１種類）が実行されていた場合に「NEXT」が表示される割合が高くなっていてもよい。

【２９１８】

また、第２装飾図柄の停止図柄（図柄組合せ）の候補数よりも第１装飾図柄の停止図柄（図柄組合せ）の候補数の方が多いとの構成を採用した遊技機において、同図の構成を採用してもよい。そのように構成する場合には、すべての遊技状態において（すべての遊技状態を含めて）、第２装飾図柄の停止図柄（図柄組合せ）の候補数よりも第１装飾図柄の停止図柄（図柄組合せ）の候補数の方が多い構成を採用してもよいし、１以上の所定の遊技状態において、第２装飾図柄の停止図柄（図柄組合せ）の候補数よりも第１装飾図柄の停止図柄（図柄組合せ）の候補数の方が多い構成を採用してもよい。

【２９１９】

次に、図３７７は、同じ先読み演出種別のうち異なる表示態様が行われてスーパーリーチ演出となる際の表示遷移を示すイメージ図である。まず、装飾図柄（第１装飾図柄、第２装飾図柄）が「８６１」で停止表示している。次に、変動開始条件を充足したことに伴い、装飾図柄が図柄変動を開始する。ここで、図柄変動中に第１主遊技始動口Ａ１０に新たに入球し、入賞時先読み抽選に当選したこと（当該保留を「トリガ保留」ともいう）により、新たな保留表示（「トリガ保留表示」ともいう）が青色にて表示されている（つまり、先読み演出の１つである保留変化演出において、青色が決定されたことになる）。次に、トリガ保留表示が青色のまま変化しなかった場合、トリガ保留に係る図柄変動において、「発展」が表示され、図示していないスーパーリーチ演出が実行される。他方、トリガ保留表示が青色から赤色に変化した場合、トリガ保留に係る図柄変動において、「発展！！」が表示され、図示していないスーパーリーチ演出が実行される。このように、保留変化演出において青色が表示された後には「発展」が、保留変化演出において赤色が表

10

20

30

40

50

示された後には「発展!!!」が表示されるよう、それぞれ対応付けがされている。なお、ここでは青色の後には「発展」が、赤色の後には「発展!!!」が表示されるよう、それぞれ対応付けがされているものとしたが、これに限られず、青色の後にも「発展!!!」が表示され、青色の後に「発展!!!」が表示される割合よりも赤色の後に「発展!!!」が表示される割合が高くなっていてもよく、この場合には、赤色の後に「発展」が表示されることもあり、赤色の後に「発展」が表示される割合よりも青色の後に「発展」が表示される割合が高くなっていてもよい。尚、保留変化演出の表示態様である青色と赤色にも当り（大当り、小当り）期待度の差があり、赤色は青色よりも当り（大当り、小当り）期待度が高くなっている。なお、本例では、保留変化演出における表示態様と発展図柄（「発展」「発展!!!」）との対応関係を用いて説明したが、先読み演出であれば保留変化演出でなくともよく、例えば、背景変化演出である「天使ゾーン」及び「真天使ゾーン」等においても適用可能である。

【2920】

次に、図378は、異なる表示を経由して同一のスーパーリーチ演出に発展する際の表示遷移を示すイメージ図である。まず、装飾図柄（第1装飾図柄、第2装飾図柄）が「861」で停止表示している。次に、変動開始条件を充足したことに伴い、装飾図柄が図柄変動を開始する。次に、スーパーリーチ演出に発展することを示す特定図柄である「発展」又は「発展!!!」が表示された後、当り（大当り、小当り）期待度が相対的に低い低期待度スーパーリーチ演出（スーパーリーチ前半）として、キリンが中図柄を破壊する演出が実行され、低期待度スーパーリーチ演出でリーチハズレの図柄組み合わせ（「656」）が表示されている。なお、低期待度スーパーリーチ中には、第1装飾図柄が数字図柄のみ表示されているが、数字図柄とキャラクタ図柄で構成される第1装飾図柄であってもよい。次に、当り（大当り、小当り）期待度が相対的に高い高期待度スーパーリーチ演出（スーパーリーチ後半）が実行されている。ここで、「発展」、「発展!!!」のいずれが表示された場合であっても、スーパーリーチ演出へ発展することがあり得ることを示しているが、「発展」と「発展!!!」では当該高期待度スーパーリーチ演出に発展する割合が異なっており、「発展」が表示された場合には10パーセントの割合で当該高期待度スーパーリーチ演出が実行され、「発展!!!」が表示された場合には50パーセントの割合で当該高期待度スーパーリーチ演出が実行されるようになっている。なお、「発展」が表示された場合の90パーセント、「発展!!!」が表示された場合の50パーセントは、図示しない別の高期待度スーパーリーチ演出へ発展する、もしくは、高期待度スーパーリーチ演出に発展することなく通常画面に戻る事となる。

【2921】

次に、図379は、ボタン演出を経由してスーパーリーチ演出に発展する際の表示遷移を示すイメージ図である。まず、装飾図柄（第1装飾図柄、第2装飾図柄）が変動中である。次に、装飾図柄がリーチを形成し、遊技者によるサブ入力ボタンSBの操作を可能とするボタン演出が実行される。当該ボタン演出時には、第1装飾図柄が数字のみとなり、左図柄は液晶画面左端に、右図柄は液晶画面右端に表示され、液晶画面中央に遊技者のサブ入力ボタンSBの操作により選択され得る複数の図柄が円状に表示されている。複数の図柄には、当り図柄である「6」、スーパーリーチ演出となることを示す「発展」及び「発展!!!」、ハズレ図柄である「5」、擬似連図柄である「NEXT」が表示されている。複数の図柄が円状に回転し、サブ入力ボタンSBの操作が可能となると、液晶画面の略中央に「PUSH」と記載されたボタン画像が表示され、サブ入力ボタンSBの操作が行われたことを契機として、1つの図柄が表示される。ここでは、予め決定されている「発展」が表示され、この後、図示していないがスーパーリーチ演出が実行されることになる。なお、サブ入力ボタンSBの操作が行われなかった場合には、サブ入力ボタンSBの有効期間経過後、「発展」を表示し、スーパーリーチ演出が実行される。尚、サブ入力ボタンSBの操作が行われたことを契機として表示される図柄は、変動開始時に行われる副制御基板Sの予告抽選により予め決定されている。

【2922】

なお、本例における演出では以下のように変更してもよい。

(1) スーパーリーチ演出に発展する前まで(=図示した発展図柄が表示される段階まで)は、第1装飾図柄が数字図柄のみで表示されることなく、数字図柄とキャラクタ図柄で構成される第1装飾図柄が表示される構成であってもよい。

(2) ボタン画像の種類(例えば、大きいボタン画像、小さいボタン画像、デフォルト色、赤色、虹色等)に応じて、停止する図柄の割合が異なるよう構成してもよく、例えば、大きいボタン画像が表示された場合には、小さいボタン画像が表示された場合よりも「NEXT」、「発展」、「発展!!!」、当り図柄等のハズレ図柄以外の図柄が表示される割合を高くしてもよい。

(3) ボタン画像の種類(例えば、大きいボタン画像、小さいボタン画像、デフォルト色、赤色、虹色等)に応じて、表示される発展図柄や擬似連図柄の割合が異なるよう構成してもよく、例えば、大きいボタン画像が表示された場合には小さいボタン画像が表示された場合よりも、発展図柄が表示される割合が高い、「発展!!!」が表示される割合が高い、擬似連図柄が表示される割合が高い、「NEXT!!!」が表示される割合が高い等としてもよい。

(4) ボタン画像を表示せず、予め定められたタイミングにていずれかの画像が表示されてもよい。また、ボタン画像が表示されるパターン(遊技者がボタン操作可能であるパターン)と予め定められたタイミングで演出画像が表示されるパターン(遊技者がボタン操作不可能なパターン)を備える構成としてもよく、この場合、ボタン画像が表示されるパターンは予め定められたタイミングで演出画像が表示されるパターンよりも、当り(大当り、小当り)期待度を高くなるよう構成したり、ハズレ図柄以外の図柄(「NEXT」、「発展」、「発展!!!」、当り図柄等)が表示される割合が高くなるよう構成してもよい。さらに、ボタン画像が表示されるパターンと予め定められたタイミングで演出画像が表示されるパターンとで、表示される発展図柄の割合を異ならせても(例えば、ボタン画像が表示されるパターンの方が「発展!!!」が表示される割合を高くしても)よい。

(5) 擬似連図柄は、「NEXT」だけでなく、「NEXT!!!」等のように複数種類備えていてもよく、複数種類備えた場合には、「NEXT」よりも「NEXT!!!」の方が当り(大当り、小当り)期待度が高くなるよう構成してもよく、複数の図柄が円状に表示される配列パターンに「NEXT!!!」が表示されてもよく、さらに、「NEXT」と「NEXT!!!」が同時に表示される配列パターンを備えていてもよい。

(6) 複数の図柄が円状に表示される配列パターンは、複数種類備えていてもよく、複数種類備えた場合には、当り(大当り、小当り)期待度が高い変動(例えば、当り(大当り、小当り)変動、スーパーリーチ演出となる変動等)である場合には、当り(大当り、小当り)期待度が低い変動(例えば、リーチなしハズレ変動等)である場合よりも、当り(大当り、小当り)期待度が高い配列パターンが表示される割合が高くなるよう構成してもよい。例えば、当り(大当り、小当り)期待度が高い配列パターンとしては、ハズレ図柄がない配列パターン(例えば、「6(大当り図柄または小当り図柄)・発展・発展・NEXT・発展!!!」と表示される配列パターン)や、「発展」がなく「発展!!!」が表示される配列パターン(例えば、「6・発展!!!・5・NEXT・発展!!!」、「6・発展!!!・発展!!!・NEXT・発展!!!」が表示される配列パターンなど)等が挙げられる。

【2923】

(3)のように、当該変動の予告(ボタン演出、コメント予告、タイマ予告等)の表示態様に応じて発展図柄が表示される割合が異なるよう構成したり、当該変動の予告の表示態様に応じて擬似連図柄が表示される割合が異なるよう構成することで、当該変動の予告の表示態様が高期待度であれば、発展図柄や擬似連図柄が表示される可能性が高くなり、遊技者が当り(大当り、小当り)期待度を把握し易いよう構成することができる。

【2924】

次に、図380は、異なる演出ステージ(演出モードともいう)においてスーパーリーチ演出となる際の表示遷移を示すイメージ図である。まず、演出ステージAについて詳述

する。演出ステージAでは、動物のキャラクタと数字で構成される第1装飾図柄が表示される。まず、装飾図柄（第1装飾図柄、第2装飾図柄）が「861」で停止表示している。次に、変動開始条件を充足したことに伴い、装飾図柄が図柄変動を開始する。次に、リーチを形成し、スーパーリーチ演出に発展することを示す特定図柄である「発展」が表示された後、スーパーリーチ演出が実行される。次に、演出ステージBについて詳述する。演出ステージBでは、果物と数字で構成される第1装飾図柄が表示される。まず、装飾図柄（第1装飾図柄、第2装飾図柄）が「861」で停止表示している。次に、変動開始条件を充足したことに伴い、装飾図柄が図柄変動を開始する。次に、リーチを形成後、そのままスーパーリーチ演出が実行される（つまり、スーパーリーチ演出に発展することを示す特定図柄である「発展」が表示されない）、又は、リーチを形成した際、演出ステージAとは異なる「発展（図示するような漢字の内側をくり抜いた態様）」を表示した後、スーパーリーチ演出を実行する。つまり、本例では、演出ステージに応じて、第1装飾図柄の表示態様が異なるが、第2装飾図柄の表示態様は異ならず（同様であり）、また、演出ステージに応じて、第1装飾図柄では発展図柄が表示され得るが、第2装飾図柄では発展図柄が表示されることがないよう構成されている。

【2925】

次に、図381は、異なる演出ステージにおいて再変動が実行される際の表示遷移を示すイメージ図である。まず、演出ステージAについて詳述する。演出ステージAでは、動物のキャラクタと数字で構成される第1装飾図柄が表示される。まず、装飾図柄（第1装飾図柄、第2装飾図柄）が「861」で停止表示している。次に、変動開始条件を充足したことに伴い、装飾図柄が図柄変動を開始する。次に、リーチを形成し、再変動が実行されることを示す「NEXT」図柄が表示された後、再度図柄変動が開始される。次に、演出ステージBについて詳述する。演出ステージBでは、果物と数字で構成される第1装飾図柄が表示される。まず、装飾図柄（第1装飾図柄、第2装飾図柄）が「861」で停止表示している。次に、変動開始条件を充足したことに伴い、装飾図柄が図柄変動を開始する。次に、第1装飾図柄にて再変動が実行されることを示す図柄組み合わせである「678」（順目）が表示（仮停止）された後、再度図柄変動が開始される、又は、リーチを形成した際、演出ステージAとは異なる「NEXT（図示するようなアルファベットの内側をくり抜いた態様）」図柄を表示した後、再度図柄変動が開始される。なお、いずれの演出ステージにて再変動が実行されたかに応じて、再変動が2回実行される場合{変動開始→仮停止→再変動→リーチ（リーチハズレで仮停止）→SPリーチ発展（再変動）}の当り（大当り、小当り）期待度と、再変動が3回実行される場合{変動開始→仮停止→再変動→仮停止→再変動→リーチ（リーチハズレで仮停止）→SPリーチ発展（再変動）}の当り（大当り、小当り）期待度との差が異なるようにしてもよい。例えば、演出ステージA（例えば、昼ステージ、又は、天使ゾーン以外の非先読みステージ）では再変動が2回実行される場合の当り（大当り、小当り）期待度は平均で5パーセントであり、再変動が3回実行される場合の当り（大当り、小当り）期待度が平均は25%であり、その差は20パーセント（5倍の差）であるが、演出ステージB（例えば、夜ステージ、又は、天使ゾーンなどの先読みステージ）では再変動が2回実行される場合の当り（大当り、小当り）期待度は平均で40パーセントであり、再変動が3回実行される場合の当り（大当り、小当り）期待度は50%であり、その差は10パーセント（1.25倍の差）であるようにしてもよい。当り（大当り、小当り）期待度（特別遊技の実行期待度）の差とは、パーセント表示で減算したもの、当り（大当り、小当り）期待度（ $1/N$ ）を除算したもの等である。また、演出ステージ（演出ステージA、演出ステージB）に応じて第1装飾図柄の表示態様が異なるが、第2装飾図柄の表示態様は同じであり、第1装飾図柄については「NEXT」図柄が表示され得るが、第2装飾図柄については「NEXT」図柄が表示されないよう構成してもよい。なお、演出ステージA及び演出ステージBを共に非確率変動遊技状態かつ非時間短縮遊技状態における非先読みステージであることを主として説明した（前述の昼ステージと同様の遊技状態）が、これに限られず、演出ステージAを非確率変動遊技状態かつ非時間短縮遊技状態における非先読みステージ（例えば、前述の昼ステ

10

20

30

40

50

ージ)、演出ステージBを非確率変動遊技状態かつ非時間短縮遊技状態における先読みステージ(例えば、前述の夜ステージ)として構成する、演出ステージA及び演出ステージBを共に非確率変動遊技状態かつ非時間短縮遊技状態における先読みステージとして構成する、演出ステージA及び演出ステージBを共に確率変動遊技状態かつ時間短縮遊技状態における非先読みステージとして構成する、こと等も可能であり、複数の演出ステージを備えていれば遊技状態等に関わらず本例に示す演出形態を適用することが可能である。

【2926】

なお、図381においては、擬似連図柄である「NEXT」図柄に関する構成を例示したが、発展図柄に関しても図381と同様に構成してもよい。即ち、(1)演出ステージAにおいては発展図柄が第1装飾図柄として仮停止する一方、演出ステージBにおいては発展図柄が第1装飾図柄として仮停止しない、(2)演出ステージAにおいては発展図柄が第1装飾図柄として表示態様Aにて仮停止する一方、演出ステージBにおいては発展図柄が第1装飾図柄として表示態様Bにて仮停止する(演出ステージAとは表示態様が異なる)、よう構成してもよい。

【2927】

次に、図382は、擬似連図柄と特定図柄が表示されてスーパーリーチ演出が実行される際の表示遷移を示すイメージ図である。まず、装飾図柄(第1装飾図柄、第2装飾図柄)が「861」で停止表示している。次に、変動開始条件を充足したことに伴い、装飾図柄が図柄変動を開始する。次に、リーチを形成し、再変動が実行されること示唆する再変動示唆図柄である半透明の「NEXT」図柄を表示する。半透明の「NEXT」図柄が液晶画面上部から下部へ移動表示し、再変動が実行される場合には、非透過の「NEXT」図柄を表示した後、再度図柄変動が開始される。再度図柄変動が行われ、再度リーチが形成され、今度は擬似連図柄ではなく、スーパーリーチ演出が実行されることを示す「発展」が表示される。その後、スーパーリーチ演出を実行し、当該変動はハズレであったため、リーチハズレ図柄(「717」)で確定停止する。本図にて示すとおり、擬似連図柄(例えば、「NEXT」)を表示した後に特定図柄(例えば、「発展」)を表示することは可能である一方、特定図柄を表示した後に擬似連図柄を表示することは不可能とするよう構成してもよい。また、擬似連図柄が表示されるか否か(=再変動が実行されるか否か)、擬似連図柄の表示回数(=再変動の回数)等に応じて、特定図柄が表示される割合を異ならせてもよい。例えば、再変動回数が多いほど、特定図柄が表示されやすい(=ハズレ図柄が表示されずに特定図柄が表示される割合が高くなる)よう構成してもよく、また、再変動回数が多いほど、特定図柄が表示されるにしても当り(大当り、小当り)期待度が高い「発展!!!」が表示される割合が高くなるよう構成してもよい。

【2928】

尚、図383に示すように、第1装飾図柄の仮停止時(擬似連図柄の表示時、発展図柄の表示時)であっても、第2装飾図柄は左列、中列、右列の全てで変動表示が継続されており、さらに、スーパーリーチ中であっても第2装飾図柄は左列、中列、右列の全てで変動表示が継続されていてもよい。

【2929】

次に、図384は、第1装飾図柄が重なって表示される際の表示遷移を示すイメージ図である。まず、第1装飾図柄が「861」で停止表示しているが、左図柄(ゾウ)と中図柄(麒麟)、中図柄(麒麟)と右図柄(ヒヨコ)が重複して表示されている。このとき、中図柄(麒麟)は、左図柄(ゾウ)と右図柄(ヒヨコ)より液晶画面後方(遊技者側が前方)に配置され、左図柄(ゾウ)と右図柄(ヒヨコ)によって一部が隠蔽されている。次に、変動開始条件を充足したことに伴い、装飾図柄が図柄変動を開始する。次に、リーチを形成し、中図柄は低速の変動表示となる。このとき、中図柄はリーチを形成する左図柄と右図柄よりも液晶画面前方に配置される。本図では、中図柄としてヒヨコ(「1」)が低速で変動表示されて停止せず、次に擬似連図柄(「NEXT」図柄)が低速で変動表示され、液晶画面略中央にて停止している。その後、図示していないが、再変動(擬似連変動)が実行された後、スーパーリーチ演出を実行し、当該変動はハズレであったた

め、リーチハズレ図柄（「717」）で確定停止されている。リーチハズレ図柄を表示する際には、変動開始前と同様に、中図柄（ヒヨコ）は、左図柄（ライオン）と右図柄（ライオン）より液晶画面後方に配置され、中図柄（ヒヨコ）の一部が隠蔽されている。なお、第2装飾図柄は、左図柄、中図柄、右図柄がいずれのタイミングにおいても重複して表示されない。なお、擬似連図柄ではなく、発展図柄（「発展」や「発展!!!」）が表示される場合であっても、左右図柄と中図柄の表示の関係性は、擬似連図柄が表示される場合と同様とすることができる。尚、当該表示態様は、ステージCにおける表示態様であったり、特定の変動（当り期待度が高い変動）において表示され得る表示態様であってもよい。つまり、本図における表示態様は、ステージAやステージBでは表示されない表示態様であるがステージCにおいて表示され得る表示態様であってもよいし、通常変動（リーチが行われずにハズレで停止する比較的短時間の変動）ではなく特定の変動（リーチが行われる当り期待度が高い変動）において表示され得る表示態様であってもよい。

10

【2930】

次に、図385は、第1装飾図柄と第2装飾図柄の変動速度の遷移を示すイメージ図である。まず、第1装飾図柄、第2装飾図柄がともに「861」で停止表示している。次に、変動開始条件を充足したことに伴い、第1装飾図柄、第2装飾図柄はともに図柄変動を開始する。このとき、第1装飾図柄は、低速から徐々に速度を上げて高速の図柄変動となる（低速→中速→高速となる）。他方、第2装飾図柄は、図柄変動の速度は一定であり、常に高速の図柄変動である。次に、第1装飾図柄、第2装飾図柄がともに高速となり、第1装飾図柄、第2装飾図柄でリーチが形成された際、第1装飾図柄では、中図柄が低速の図柄変動となり、第2装飾図柄では、中図柄は高速の図柄変動である。その後、スーパーリーチ演出の実行中には、第1装飾図柄、第2装飾図柄がともにリーチを形成している左図柄と右図柄は停止（又は仮停止）しており、中図柄のみが高速で図柄変動している。スーパーリーチ演出が終了した後、当該変動はハズレであったため、リーチハズレ図柄（「686」）で確定停止されている。なお、本図においてスーパーリーチ演出の実行中には、第1装飾図柄と第2装飾図柄においてリーチを形成したまま中図柄のみを図柄変動させているが、これに限られず、スーパーリーチ演出の実行中又は特定のスーパーリーチ演出の実行中においては、全ての第1装飾図柄、全ての第2装飾図柄を図柄変動させるようにしてもよい。なお、第2装飾図柄においても複数の変動速度を備えるようにしてもよく、この場合、第2装飾図柄は第1装飾図柄よりも変動速度の変化が行われ難くするのが好適である。例えば、第2装飾図柄では低速は用いないが中速は用いる等である（なお、第1装飾図柄は、低速・中速・高速を用いる）。また、第2装飾図柄は途中で仮停止しないよう構成することも可能であり、具体的には、常に高速又は停止（確定停止）とする構成、又は、高速と中速と停止（確定停止）とする構成等である。

20

30

【2931】

ここで、時間短縮遊技状態における擬似連図柄及び発展図柄について補足しておく。時間短縮遊技状態においては、擬似連図柄や発展図柄を表示し得るよう構成してもよいが、擬似連図柄や発展図柄を表示し得ないよう構成する方がより好適である。なぜなら、時間短縮遊技状態では、通常状態（非時間短縮遊技状態）よりも相対的に変動時間が短くなっており、1変動内において当り（大当り、小当り）を示唆する演出が少なくなっている。擬似連図柄や発展図柄を表示する場合には、相対的に変動時間が長いものを選択していることになるため、大当りまたは小当り間（ある大当り遊技または小当り遊技終了後から次の大当り遊技または小当り遊技開始までの期間）が間延びしてしまい、連荘中に出玉が増加する速度が遅くなってしまう。また、このように、時間短縮遊技状態では、短い変動時間が選択され易く、演出量も少なくなっていることから、第1装飾図柄自体や第1装飾図柄の変動態様も簡易でよく、第2要素（数字）のみで構成されているのが好適である。

40

【2932】

次に、図386は、ハズレ変動実行時に電源断が発生した場合に関するイメージ図である。まず、（a）非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態にて、保留数が4であり、演出表示装置SGに第1装飾図柄と第2装飾図柄とが停止表示している。なお、非確率変

50

動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態においては、第1装飾図柄の表示態様は「数字＋キャラクタ」となっており、第2装飾図柄の表示態様は「数字」のみとなっている。(b)その後、保留が消化され、消化された保留に対応する保留消化伝達画像（当該保留画像、当該保留表示、当該保留等と称することがある）が表示され、ハズレとなる図柄変動が開始される。なお、保留表示（保留画像と称することがある）と保留消化伝達画像とを総称して変動権利画像と称することがある。また、第1保留表示と第2保留表示とを総称して、保留表示と称することがあり、第1保留表示と第2保留表示と保留消化伝達画像との複数又は全てを変動権利画像と称することがある。

【2933】

＜電源断が発生しなかった場合＞

その後、(c)第1装飾図柄がハズレ図柄である「数字＋キャラクタ」の「817」にて停止表示し、第2装飾図柄がハズレ図柄である「数字」の「817」で停止表示する。なお、次の変動が開始した場合には、第1装飾図柄は「数字＋キャラクタ」の「817」の装飾図柄、第2装飾図柄は「数字」の「817」の装飾図柄が変動開始する（スクロールを開始する）こととなる。ここで、変形例としては、第1装飾図柄と第2装飾図柄の双方が変動表示するのではなく、第1装飾図柄のみが変動表示し第2装飾図柄は非表示であってもよい。

【2934】

＜電源が発生した場合＞

前述した(b)の後、(d)図柄変動の途中で電源断が発生する。(e)その後、電源復帰し、主遊技図柄の変動が再開するが、当該図柄変動の実行中は第1装飾図柄及び第2装飾図柄は変動表示されない（非表示となる）。なお、当該図柄変動の変動時間が50秒であり、変動開始から10秒後のタイミングで電源断が発生した場合（電源断時処理が実行された場合としてもよい）には、電源復帰後には残りの40秒間の変動を実行するよう構成されている。

【2935】

(f)その後、実行されていたハズレとなる図柄変動が終了し、電源断時専用の停止態様である「711」となる「数字＋キャラクタ」にて第1装飾図柄が停止表示し、「711」となる「数字」にて第2装飾図柄が停止表示する。なお、ここでの停止表示とは、確定表示であってもよいし、仮停止表示であってもよい（他の構成についても同様）が、それは第1装飾図柄のみに適用することが好ましく、第2装飾図柄は確定停止ししない（仮停止しない）ことが望ましい。(g)その後、保留が消化され、次の図柄変動が開始することとなる。ここで、変形例としては、第1装飾図柄と第2装飾図柄の停止表示を介さないよう構成してもよく、即ち、電源復帰後に再開された主遊技図柄の変動表示（変動表示期間）及び当該変動表示後の停止表示（停止表示を維持する期間である変動固定時間）が終了するまでは第1装飾図柄及び第2装飾図柄を非表示とし、次の主遊技図柄の変動表示が開始することを契機に第1装飾図柄及び第2装飾図柄を再表示するよう構成してもよい。

【2936】

このように、同図においては、電源断が発生した場合、電源復帰後には電源復帰時専用の停止図柄として、第1装飾図柄で「数字＋キャラクタ」の「711」が表示され、第2装飾図柄で「数字」の「711」が表示される。即ち、電源復帰後以外においては、第1装飾図柄においても第2装飾図柄においてもハズレ図柄として「711」は停止表示しない（停止図柄として選択されない）よう構成されている。変形例として、このハズレ図柄「711」は電源復帰後以外にも停止表示するよう構成してもよい。但し、いずれにおいても、電源復帰後に表示されるハズレ図柄は、3桁のうち2つまでが同一の数字である又は3桁それぞれの数字が異なる数字であることが望ましく、リーチ態様（例えば、「727」、「232」などの左図柄と右図柄とが同一の数字）や、当り態様（例えば、「777」、「222」など3つの図柄が同一の数字）ではないことが望ましい。

【2937】

また、第1装飾図柄で「数字+キャラクタ」の「7 1 1」が表示されるタイミング及び第2装飾図柄で「数字」の「7 1 1」が表示されるタイミングとしては、主遊技図柄の確定停止タイミング（確定停止が開始したタイミング）とする。この場合、第1装飾図柄及び第2装飾図柄が表示されたタイミングでは、第1装飾図柄及び第2装飾図柄は停止表示していることになる。また、前述したとおり、第1装飾図柄で「数字+キャラクタ」の「7 1 1」が表示されるタイミング及び第2装飾図柄で「数字」の「7 1 1」が表示されるタイミングとして、主遊技図柄が確定停止した後に次の図柄変動が開始するタイミング（第1装飾図柄が変動開始するタイミング）としてもよい。この場合、第1装飾図柄及び第2装飾図柄が表示されたタイミングでは、第1装飾図柄及び第2装飾図柄は（停止表示を介さずに）変動開始していることになる。

10

【2938】

なお、同図にて詳述した電源断が発生しなかった場合と電源断が発生した場合とでは、第1装飾図柄と第2装飾図柄の停止態様は、いずれも「8 1 7」となる予定であったが、電源断が発生した場合には、電源断時専用の「7 1 1」が表示されるよう構成されている。即ち、予定されている第1装飾図柄と第2装飾図柄との停止図柄は、変動中に電源断が発生した場合と電源断が発生しなかった場合とで、異なる停止図柄（主遊技図柄が停止した後の表示態様）が表示され得るよう構成されている。

【2939】

なお、主遊技図柄の停止図柄は電源断の発生有無に拘らず同一の停止図柄となる。このように構成することにより、遊技場の停電等により、図柄変動中に電源断が発生してしまった場合にも、主遊技図柄の停止図柄が変更されないで遊技の結果には影響を及ぼさない一方、第1装飾図柄と第2装飾図柄の停止図柄を電源断時専用の図柄とすることで、電源断が発生したことを遊技者や管理者に適切に報知できる。

20

【2940】

なお、図386の（a）に記載したように、同図においては、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態にて図柄変動が開始した場合を例示しているが、これには限定されず、他の遊技状態においても同図に例示する構成を適用可能である。同様に、図386以外の図において遊技状態を記載している場合においても、あくまで一例であり、他の遊技状態にも適用可能であることを補足しておく。

【2941】

次に、図387は、当り（大当り、小当り）変動の実行中に電源断が発生した場合に関するイメージ図である。まず、（a）非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態にて、保留数が4であり、演出表示装置SGに第1装飾図柄と第2装飾図柄とが停止表示している。なお、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態においては、第1装飾図柄の表示態様（表示形式と称することがある）は「数字+キャラクタ」となっており、第2装飾図柄の表示態様（表示形式と称することがある）は「数字」のみとなっている。（b）その後、保留が消化され、消化された保留に対応する保留消化伝達画像が表示され、当り（大当り、小当り）となる図柄変動が開始される。

30

【2942】

ここで、第1装飾図柄又は第2装飾図柄の表示形式とは、「数字」、「数字+キャラクタ」などであり、「数字」の「7 7 7」と「数字」の「6 6 6」とでは表示形式が同一であり、「数字」の「7 7 7」と「数字+キャラクタ」と「7 7 7」とでは表示形式が異なることとなる。

40

【2943】

<電源断が発生しなかった場合>

（c）その後、第1装飾図柄が当り（大当り、小当り）図柄である「数字+キャラクタ」の「7 7 7」にて停止表示し、第2装飾図柄が当り（大当り、小当り）図柄である「数字」の「7 7 7」にて停止表示する。（d）その後、当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）が開始される。当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）中においては、第1装飾図柄の表示位置は演出表示装置SGの左上方に変更され、表示領域の大きさは小さくなり

50

、「数字＋キャラクタ」から「数字」のみになる。変形例として、3桁の数字ではなく、1桁の数字（例えば、「777」で当り（大当り、小当り）した場合は「7」のみ、「222」で当り（大当り、小当り）した場合は「2」のみ、など）としてもよい。また、第2装飾図柄は非表示となる。（e）その後、当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）が終了すると、第1装飾図柄と第2装飾図柄とが当り（大当り、小当り）図柄である「数字」のみの「777」で表示され、その後保留が消化されて次の図柄変動が開始することとなる。なお、次の変動が開始した場合には、「777」の装飾図柄（第1装飾図柄と第2装飾図柄、第1装飾図柄のみであってもよい）が変動開始することとなる。当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）終了後は、当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）開始前の遊技状態である非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態から確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態へ移行することになり、確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態における第1装飾図柄及び第2装飾図柄は、いずれも「数字」のみで構成される（表示形式は「数字」のみとなっている）。尚、当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）後に移行する遊技状態はあくまで一例であり、当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）開始前の遊技状態と相違していれば、同構成を適用可能である。

10

【2944】

<電源断が発生した場合>

（f）その後、図柄変動の途中で電源断が発生する。（g）その後、電源復帰し、主遊技図柄の変動が再開するが、当該図柄変動の実行中は第1装飾図柄及び第2装飾図柄は変動表示されない（非表示となる）。

20

【2945】

（h）その後、実行されていた当り（大当り、小当り）となる図柄変動が終了し、当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）が実行されることとなる。当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）が開始されると、電源断時専用の停止態様である「711」にて、第1装飾図柄が表示される。当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）中においては、第1装飾図柄の表示位置は演出表示装置SGの左上方に変更され、表示領域の大きさは小さくなり、表示形式が「数字＋キャラクタ」から「数字」のみになる。変形例として、3桁の数字ではなく、代わりに記号（例えば「?」や「???」など）としてもよいし、もしくは、第1装飾図柄や「?」（「???」）などを一切表示しない仕様としてもよい。また、第2装飾図柄は非表示となる。（g）その後、当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）が終了し、保留が消化され、次の図柄変動が開始することとなる。なお、次の変動が開始した場合には、第1装飾図柄と第2装飾図柄とで「数字」のみの「711」の装飾図柄が変動開始することとなる（第1装飾図柄のみであってもよい）。当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）終了後は、当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）開始前の遊技状態である非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態から確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態へ移行することになり、確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態における第1装飾図柄及び第2装飾図柄は、いずれも「数字」のみで構成される。尚、当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）後に移行する遊技状態はあくまで一例であり、当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）開始前の遊技状態と相違していれば、同構成を適用可能である。また、当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）中の演出（大当り演出または小当り演出）については、電源断が発生しなかった場合は、当り（大当り、小当り）種別（10R大当りであるか、4R大当りであるか、または小当りであるか）に応じて演出が相違する（電源断が発生しなかった場合の10R大当りは当り演出Aとなり、電源断が発生しなかった場合の4R大当りは当り演出Bとなり、電源断が発生しなかった場合の小当りは当り演出Cとなる）が、電源断が発生した場合は、当り（大当り、小当り）種別（大当り、小当り図柄としてもよい）に関係なく大当り演出同士が同じとなり、また、大当り演出と小当り演出も同一となる（電源断が発生した場合の10R大当り、電源断が発生した場合の4R大当り、電源断が発生した場合の小当りは当り演出Dとなる）ことが好適である。

30

40

【2946】

このように、同図においては、電源断が発生した場合、電源復帰後の当り遊技（大当り

50

遊技または小当り遊技）中と当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）終了後の装飾図柄とでは、電源復帰時専用の停止図柄として、「7 1 1」が表示される（第1装飾図柄と第2装飾図柄共に表示される構成を例示したが、第1装飾図柄のみであってもよい）よう構成されている。このように、当り（大当り、小当り）となる図柄変動中に電源断が発生した場合においても、ハズレとなる図柄変動中に電源断が発生した場合と同様に、電源復帰後専用の停止図柄である「7 1 1」が表示されるよう構成されている。

【2947】

また、同図においては、当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）中に第1装飾図柄を表示し第2装飾図柄が非表示とするよう構成したが、これには限定されず、当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）中は第1装飾図柄も第2装飾図柄も非表示となるよう構成してもよいし、第1装飾図柄と第2装飾図柄のいずれも表示されるよう構成してもよい。また、当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）中は第1装飾図柄を非表示とし、第2装飾図柄は表示するよう構成してもよい。また、当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）中に第1装飾図柄を表示して第2装飾図柄を非表示とする構成においても、前述したとおり、当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）開始前に3つ揃った「7」図柄を、当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）中に1つのみ表示するよう構成してもよい。なお、当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）中に第1装飾図柄を表示する実施形態においては、変形例として、第1装飾図柄ではなく新たな表示態様（表示形式）の第3装飾図柄（例えば、第1装飾図柄の「数字」はアラビア数字であるのに対して、第3装飾図柄の「数字」はローマ数字である）を表示するよう構成してもよい。

【2948】

また、「7 1 1」が表示されるタイミングとしては、当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）終了タイミング（または、当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）終了デモ終了タイミング、当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）終了直後、時間短縮遊技状態開始直後）としてもよいし、当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）終了後の最初の図柄変動が開始するタイミング（第1装飾図柄及び第2装飾図柄が変動表示を開始するタイミング）としてもよい。

【2949】

なお、同図にて詳述した電源断が発生しなかった場合と電源断が発生した場合とでは、第1装飾図柄と第2装飾図柄の停止態様は、いずれも「7 7 7」となる予定であったが、電源断が発生した場合には、電源断時専用の「7 1 1」が当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）中及び／又は当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）終了後に表示されるよう構成されている。即ち、予定されている第1装飾図柄と第2装飾図柄との停止図柄は、変動中に電源断が発生した場合と電源断が発生しなかった場合とで、異なる停止図柄（主遊技図柄が停止した後の表示態様）が表示されるよう構成されている。

【2950】

図386と図387にて詳述したように、所定の遊技状態（例えば、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態）にて実行された図柄変動の実行中に電源断が発生した場合には、当り（大当り、小当り）となる図柄変動の実行中に電源断が発生した場合と、ハズレとなる図柄変動の実行中に電源断が発生した場合とで、電源復帰後の次回の変動開始時（又は、次回の変動開始直前、保留消化直前）には、第1装飾図柄においても第2装飾図柄においても同一の図柄組合せ（数字の組合せ）が表示される（同図においては「7 1 1」）よう構成されているが、第1装飾図柄の表示態様（表示形式）は相違し得るよう構成されている。より具体的には、ハズレとなる図柄変動の実行中に電源断が発生した場合は、図386の（f）、（g）に図示するように、「数字＋キャラクタ」で構成される表示態様（表示形式）であり、当り（大当り、小当り）となる図柄変動の実行中に電源断が発生した場合は、図387の（j）に図示するように、「数字」のみで構成される表示態様（表示形式）となっている。尚、第2装飾図柄については、ハズレとなる図柄変動の実行中に電源断が発生した場合であっても、当り（大当り、小当り）となる図柄変動の実行中に電源断が発生した場合であっても、電源復帰後（電源復帰後の次回の変動開始時、次回の

変動開始直前、保留消化直前など）における第2装飾図柄の表示態様（表示形式）も図柄組合せ（数字の組合せ）も同一となる。

【2951】

このように、同一の遊技状態にて開始した図柄変動においても、当該図柄変動がハズレ変動であるか当り（大当り、小当り）変動であるかによって、図柄変動中に電源断が発生し、その後電源復帰した際の第1装飾図柄の表示態様（表示形式）が相違し得るよう構成することにより、電源断が発生した後においても遊技者に遊技の状況を適切に報知することができる。ここで、第1装飾図柄及び第2装飾図柄の「数字」の組合せについては、当該図柄変動がハズレ変動であるか当り（大当り、小当り）変動であるかにかかわらず「711」とするよう構成しており、それにより、電源断が発生した図柄変動が当り（大当り、小当り）変動であったのかハズレ変動であったのかや、当り（大当り、小当り）変動であった場合はどの「数字」が揃って当り（大当り、小当り）したのか、などといった遊技者が電源復帰後では知ることができない情報について一律的且つ公平に表示することができる、更にはハズレを示す態様にて表示されるため、第1装飾図柄及び第2装飾図柄を視認した遊技者が損をしたと感じ難いよう構成することができる。

10

【2952】

なお、図386及び図387にて詳述した同一の遊技状態とは、時間短縮遊技状態や確率変動遊技状態や限定頻度状態（変動パターンに関する遊技状態）などの主制御基板Mが制御するいずれの状態に適用してもよいし、演出モードなどの副制御基板Sが制御するいずれの状態に適用してもよい。

20

【2953】

次に、図388は、当り（大当り、小当り）変動実行時に電源断が発生した場合に関するイメージ図である。まず、（a）非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態にて、保留数が3であり、演出表示装置SGに第1装飾図柄と第2装飾図柄とが変動表示している。なお、先読み演出は実行されていない、換言すると、保留内にトリガ保留が存在していない。（b）その後、所定のタイミングにて図柄変動中の予告演出として当り（大当り、小当り）確定演出が実行される。同図における予告演出とは、先読み演出とは異なる演出であり、実行中の図柄変動の結果に対する示唆を行う演出である。また、当り（大当り、小当り）確定演出とは、当り（大当り、小当り）となる予定が確定的である旨を報知する演出であり、同図においては、「虹！」が表示されることとなる。即ち、図柄変動中に予告演出として当り（大当り、小当り）確定演出が実行された場合には、当該図柄変動の結果として当り（大当り、小当り）図柄が停止表示することが確定的となる。なお、当り（大当り、小当り）確定演出が実行された場合に、その後1000/1000で当り（大当り、小当り）となることを確定的としてもよいし、当り（大当り、小当り）確定演出が実行された場合に、その後999/1000（1に限りなく近似した確率）で当り（大当り、小当り）となることを確定的としてもよい。また、同図における予告演出を、当該変動予告演出や非先読み予告演出等と称してもよい。

30

【2954】

（c）その後、図柄変動中の予告演出として当り（大当り、小当り）確定演出が実行された図柄変動中に電源断が発生する。（d）その後、電源復帰し、主遊技図柄の変動が再開するが、当該図柄変動の実行中は第1装飾図柄及び第2装飾図柄は変動表示されない（非表示となり、画面復帰中の文字が表示される）。（e）その後、主遊技図柄が当り（大当り、小当り）図柄（当りに対応した「7A」）にて停止表示して、当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）が実行開始される。当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）が開始する（又は、当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）開始デモ時間が開始する）ときに、演出表示装置SGでは画面復帰中の文字が消去され、当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）中の画面表示に切り替わる。また、当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）中においては、第1装飾図柄として電源復帰時専用の「711」を表示して、第2装飾図柄は表示されない。但し、これには限定されず、当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）中は第1装飾図柄も第2装飾図柄も非表示となるよう構成してもよいし、第1装飾図柄

40

50

と第2装飾図柄のいずれも表示されるよう構成してもよい。また、当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）中は第1装飾図柄を非表示とし、第2装飾図柄は表示するよう構成してもよい。また、当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）中に第1装飾図柄を表示して第2装飾図柄を非表示とする構成においても、前述したとおり、「?」や「???」を、当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）中に表示するよう構成してもよいし、もしくは、第1装飾図柄や「?」（「???」）などを一切表示しない仕様としてもよい。また、当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）中の演出（大当り演出または小当り演出）については、電源断が発生しなかった場合は、当り（大当り、小当り）種別（10R大当りであるか、4R大当りであるか、または小当りであるか）に応じて演出が相違する（電源断が発生しなかった場合の10R大当りは当り演出Aとなり、電源断が発生しなかった場合の4R大当りは当り演出Bとなり、電源断が発生しなかった場合の小当りは当り演出Cとなる）が、電源断が発生した場合は、当り（大当り、小当り）種別（大当り、小当り図柄としてもよい）に関係なく大当り演出同士が同じとなり、また、大当り演出と小当り演出も同一となる（電源断が発生した場合の10R大当り、電源断が発生した場合の4R大当り、電源断が発生した場合の小当りは当り演出Dとなる）ことが好適である。

【2955】

（f）その後、当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）が終了し、新たに保留が消化され、次の図柄変動が開始することとなる。当該次の図柄変動の開始時（又は、当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）終了後且つ図柄変動開始前）においては、第1装飾図柄及び第2装飾図柄について、電源復帰時専用の「711」が「数字」にて表示されることとなる。なお、当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）終了後の遊技状態は確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態に移行する場合を例示している。

【2956】

次に、図389は、先読み演出実行時に電源断が発生した場合に関するイメージ図である。まず、（a）非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態にて、保留数が2であり、演出表示装置SGに第1装飾図柄と第2装飾図柄とが変動表示している状況下、新たに保留が生起し保留数が3となり、当該新たに生起した保留画像に対して、先読み演出として保留変化演出である当り（大当り、小当り）確定演出が実行される（同図における「☆」表示）。（b）その後、同一の図柄変動中に電源断が発生する。なお、先読み演出として当り（大当り、小当り）確定演出が実行された場合は、実行中の図柄変動（又は、実行開始された図柄変動）が当り（大当り、小当り）となることを報知するわけではなく、先読み演出の対象となる図柄変動、換言すると、トリガ保留に係る図柄変動が当り（大当り、小当り）となることが確定的である旨を報知している。

【2957】

（c）その後、電源復帰し、主遊技図柄の変動が再開するが、当該図柄変動の実行中は第1装飾図柄及び第2装飾図柄は変動表示されない（非表示となり、画面復帰中の文字が表示される）。（d）その後、複数回のハズレとなる図柄変動が実行され、先読み演出として実行された当り（大当り、小当り）確定演出の実行契機となる保留に係る図柄変動が開始する。なお、先読み演出として実行された当り（大当り、小当り）確定演出の実行契機となる保留が消化された場合、その後の保留消化伝達画像の表示態様は、先読み演出として実行された当り（大当り、小当り）確定演出である保留画像の表示態様と同様となっている。この場合、複数回のハズレとなる図柄変動中においては、先読み演出として保留変化演出である当り（大当り、小当り）確定演出（同図における「☆」表示）が実行されないよう構成してもよいし、複数回のハズレとなる図柄変動中のいずれかの図柄変動中に再開するよう構成してもよい。また、保留消化伝達画像の表示態様についても、先読み演出として実行された当り（大当り、小当り）確定演出である保留画像の表示態様とは異なる表示態様（例えば、「●」表示）としてもよい。

【2958】

（e）その後、当り（大当り、小当り）確定演出の対象となった図柄変動が終了し、当り（大当り、小当り）図柄（当りに対応した「7A」）が停止表示する。非確率変動遊技

10

20

30

40

50

状態且つ非時間短縮遊技状態における当り（大当り、小当り）図柄の停止表示であるため、第1装飾図柄は「数字＋キャラクタ」の表示態様（表示形式）にて「777」が停止表示し、第2装飾図柄は「数字」の表示態様（表示形式）にて「777」が停止表示している。（f）当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）中においては、第1装飾図柄として「777」を表示して、第2装飾図柄は表示されない。但し、これには限定されず、当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）中は第1装飾図柄も第2装飾図柄も非表示となるよう構成してもよいし、第1装飾図柄と第2装飾図柄のいずれも表示されるよう構成してもよい。また、当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）中は第1装飾図柄を非表示とし、第2装飾図柄は表示するよう構成してもよい。また、当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）中に第1装飾図柄を表示して第2装飾図柄を非表示とする構成においても、前述したとおり、当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）開始前に3つ揃った「7」図柄を、当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）中に1つのみ表示するよう構成してもよい。

【2959】

（g）その後、当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）が終了する。当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）終了後且つ図柄変動開始前においては、第1装飾図柄及び第2装飾図柄について、実行していた当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）に係る当り（大当り、小当り）図柄の「777」が「数字」にて表示されることとなる。当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）終了後に確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態に移行するため、「777」は「数字」にて表示されている。

【2960】

このように、先読み演出として、当り（大当り、小当り）確定演出が実行され、当り（大当り、小当り）確定演出が実行された図柄変動中に電源断が発生した場合には、その後実行される当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）終了後の停止図柄は「777」であり、電源復帰時専用の図柄組合せではないよう構成されている。

【2961】

図388及び図389にて詳述したように、大当り変動または小当り変動にて当り（大当り、小当り）確定演出が実行された後に電源断が発生した場合には、当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）終了直後の第1装飾図柄は電源復帰時専用の数字の組合せにて表示される一方、先読み演出として当り（大当り、小当り）確定演出が実行された後に電源断が発生した場合には、当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）終了直後の第1装飾図柄は電源復帰時専用の表示対応ではなく、当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）開始前に停止表示した当り（大当り、小当り）図柄となり得るよう構成されている。このように構成することにより、当該変動で当り（大当り、小当り）となる場合には、電源断が発生した場合にも、すぐに当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）が開始されるため電源断が発生したことを優先的に報知するために電源断時専用の数字の組合せにて第1装飾図柄を表示し、所定回数の図柄変動を実行した後に当り（大当り、小当り）となる場合には、電源断が発生した場合には、電源復帰後から当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）終了までの期間が長い場合、当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）終了直後に当り（大当り、小当り）図柄にて第1装飾図柄を表示するよう構成することで、遊技の状況に合わせて、電源断が発生したことを優先的に報知する場合と当り（大当り、小当り）が実行されたことを優先的に報知する場合とを使い分けることができる。

【2962】

なお、図389において、先読み演出の一例として、保留変化演出を例示したが、本例に適用可能な先読み演出はこれには限定されず、背景変化を伴う先読みゾーン演出（具体的には、背景演出として通常や「山」背景が表示されるが、先読みゾーン演出の実行契機となる保留が生起することで、「空」背景や「宇宙」背景などに表示が切り替わることがあり、「空」背景は「山」背景よりも当り（大当り、小当り）期待度が高く、「宇宙」背景は「空」背景よりも当り（大当り、小当り）期待度が高く且つ先読みゾーン演出の実行契機となった保留での当り（大当り、小当り）が確定する演出）や、図柄変動開始時に数字が減算表示されていくカウントダウン先読み演出（具体的には、カウントダウン先読み

10

20

30

40

50

演出の実行契機となった保留が消化される際に「0」が表示されるよう、カウントダウン先読み演出の実行契機となった保留よりも先に消化される保留が消化されるたびに数字を減算していく演出であり、その数字の色として「白」、「赤」、「虹」があり、「虹」である場合はカウントダウン先読み演出の実行契機となった保留での当り（大当り、小当り）が確定する演出）など、様々な先読み演出に適用可能である。また、当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）中に第1装飾図柄を表示する実施形態においては、変形例として、第1装飾図柄ではなく新たな表示態様（表示形式）の第3装飾図柄（例えば、第1装飾図柄の「数字」はアラビア数字であるのに対して、第3装飾図柄の「数字」はローマ数字である）を表示するよう構成してもよい。なお、背景演出を演出モードと称することがある。

10

【2963】

次に、図390は、役物演出実行時に関するイメージ図である。まず、（a）非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態にて、保留数が3であり、演出表示装置SGに第1装飾図柄と第2装飾図柄とが変動表示し、スーパーリーチ演出としてバトル演出が実行されている（図柄変動開始時から30秒後に実行開始される）。なお、スーパーリーチ演出が実行されているため、第1装飾図柄は演出表示装置の右上段にて左図柄と右図柄とがテンパイ状態で変動表示している、また、第2装飾図柄は、テンパイせずにすべての図柄が変動表示している。（b）その後、スーパーリーチ演出として、主人公の攻撃が敵キャラにヒットし、役物演出（可動役物の駆動を伴う演出）が実行される（図柄変動開始時から50秒後に実行開始される）。このように、同図における役物演出は、実行中の図柄変動が当り（大当り、小当り）となることを遊技者に確定的に報知する役割を担っている。

20

【2964】

ここで、同図における役物演出実行時の可動役物（可動役物YKと称することがある）は、「初期位置→演出表示装置SGの前方の所定位置にて5秒停止→初期位置」のように駆動することとなり、役物演出の実行中（「初期位置→演出表示装置SGの前方の所定位置にて5秒停止→初期位置」のすべての期間でもよいし、演出表示装置SGの前方の所定位置にて5秒停止している期間でもよい）においては、第1装飾図柄は非表示となり、第2装飾図柄は変動表示を維持している。また、第1保留表示は非表示となり、第2保留表示は表示を継続している。尚、第1保留表示については、スーパーリーチ演出としてバトル演出が実行開始される前は表示されているが、バトル演出実行開始後は非表示とするよう構成してもよい。また、役物演出の実行中は、（b）にて示すとおり、第2装飾図柄の前方に動作後の可動役物が駆動するため、第2装飾図柄を正面視した際に一部の図柄（左列の第2装飾図柄）の視認性が低下するが、それを改善すべく、変形例として、第2装飾図柄の表示位置を、可動役物が駆動前であっても駆動中であっても、可動役物の後方に第2装飾図柄が表示されないよう（可動役物によって第2装飾図柄の視認性が阻害されないよう）構成してもよい。

30

【2965】

ここで、同図においては、第2保留表示として保留数が3である画像を表示している、即ち、第1主遊技側の保留数又は第2主遊技側の保留数（例えば、非時間短縮遊技状態においては第1主遊技側の保留数、時間短縮遊技状態においては第2主遊技側の保留数）の一方のみを表示する構成を例示したが、これには限定されず、第1主遊技側の保留数と第2主遊技側の保留数との双方を表示するよう構成してもよい（例えば、「3」、「0」と2つの数字の画像を表示）。そのように構成した場合には、演出モードがいずれであっても、遊技状態がいずれであっても、第1主遊技側の保留数と第2主遊技側の保留数との双方を表示するよう構成してもよい。また、そのような構成は、同図の構成のみには限定されず、本例に係るすべての実施形態又は構成に適用可能であることを補足しておく。

40

【2966】

（c）その後、敵キャラが倒される演出を実行し、第1装飾図柄、第2装飾図柄共に当り（大当り、小当り）図柄が表示することとなる。図示していないが、この後、第1装飾図柄については、図389の（e）で示したような態様にて（拡大され且つ「数字+キャ

50

ラクタ」の表示形式にて）表示され、第2装飾図柄の表示サイズや表示態様（表示形式）は変わらず、そのうえで第1装飾図柄及び第2装飾図柄が確定停止するよう構成されている。

【2967】

（d）他方、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態にて保留が存在しておらず図柄が停止している状況にて、電源断が発生する。（e）その後、電源復帰し、電源復帰後の初期動作として可動役物の動作チェックが実行される。

【2968】

ここで、同図における動作チェック時の可動役物は、「初期位置→演出表示装置SGの前方の所定位置にて2秒停止→初期位置」のように駆動することとなり、動作チェックの実行中は第1装飾図柄と第2装飾図柄とが非表示となっている（演出表示装置SGに画面復帰中と表示）。また、動作チェックが開始してから終了するまでの時間は10秒となっている。

【2969】

（f）その後、可動役物の動作チェック中（初期位置に戻っている途中）にて保留が生起し、当該保留が消化されて図柄変動が開始され、第1装飾図柄と第2装飾図柄とが変動表示を開始することとなる。なお、電源復帰後の第1装飾図柄及び第2装飾図柄の表示再開タイミングとしては、（1）保留が生起したタイミング、（2）保留が消化されたタイミング、（3）電源復帰時から所定時間経過したタイミング、等としてもよい。

【2970】

このように、役物演出の実行時には、第1装飾図柄は非表示となり、第2装飾図柄は表示される一方、電源復帰後の動作チェックの実行中に図柄変動が開始した場合には、第1装飾図柄と第2装飾図柄との双方が表示されることとなる。

【2971】

なお、同図における（d）～（f）では、図柄停止中に電源断が発生する場合を例示したが、以下のように構成してもよい。

（1）図柄変動中に電源断が発生する

（2）電源復帰する

（3）電源復帰に基づき図柄変動が再開するとともに、可動役物が2秒間演出表示装置の前で停止する動作チェックを実行し、第1装飾図柄、第2装飾図柄、第1保留表示、第2保留表示は非表示となっている（「画面復帰中」の文字が表示された画面となる）

（4）可動役物の動作チェックの実行途中に図柄変動が終了し、保留が生起していたため、新たに図柄変動が開始する。当該新たな図柄変動が開始すると、第1装飾図柄、第2装飾図柄、第1保留表示、第2保留表示が表示される

上記のように構成してもよい。上記のように構成した場合、（4）における新たな図柄変動にて、図390における（a）～（c）のような演出を実行する場合、動作チェックは新たな図柄変動が開始してから10秒以内に完了するため（新たな図柄変動の前の図柄変動中に電源復帰且つ動作チェックを開始するため）、動作チェックはスーパーリーチ演出（バトル演出）と重複して実行されることがなく、更には、動作チェックは役物演出とも重複して実行されることがない。

【2972】

なお、役物演出としては、同図に示したような、実行することで当該図柄変動が当り（大当り、小当り）となることを確定的に報知する場合に実行してもよいし、実行中の図柄変動が当り（大当り、小当り）となる可能性が相対的に高い旨を遊技者に対して報知するために実行するよう構成してもよい。いずれのように構成した場合にも、同図の構成を適用可能である。

【2973】

また、同図のように役物演出として、実行することで当該図柄変動が当り（大当り、小当り）となることを確定的に報知する役物演出を実行する場合において、当り（大当り、小当り）となる図柄変動の開始から役物演出に係る可動役物の駆動開始までの時間（同図

10

20

30

40

50

においては50秒)は、電源復帰後の動作チェックの開始から終了までの時間(同図においては10秒)よりも長時間となっている。なお、同図における演出の流れのように役物演出に係る可動役物の駆動開始までに変動開始から50秒が必要となる演出パターン以外にも、役物演出に係る可動役物の駆動開始までに変動開始から20秒が必要となる演出パターン、役物演出に係る可動役物の駆動開始までに変動開始から30秒が必要となる演出パターン、役物演出に係る可動役物の駆動開始までに変動開始から40秒が必要となる演出パターンなど、複数の可動役物駆動演出パターンを設けてもよいが、そのいずれの演出パターンにおいても、図柄変動の変動開始から役物演出に係る可動役物の駆動開始までに要する時間が、電源復帰後の動作チェックの開始から終了までの時間である10秒を超えるよう構成することが好適である。

10

【2974】

このように構成することによって、例えば、「ハズレとなる図柄変動→当り(大当り、小当り)となる図柄変動」のように図柄変動が実行される場合における、ハズレとなる図柄変動の終了直前(例えば、確定停止の0.1秒前)に電源断が発生し、その後電源復帰した場合においても、電源復帰後の動作チェックが終了した後に、実行中の図柄変動が当り(大当り、小当り)となることを確定的に報知する役物演出を実行することができ、遊技者が遊技の状況を把握できない事態を防止することができる。

【2975】

また、同図のように役物演出として、実行することで当該図柄変動が当り(大当り、小当り)となることを確定的に報知する役物演出を実行する場合において、当り(大当り、小当り)となる図柄変動の開始から役物演出に係る可動役物の駆動が終了して第1装飾図柄が再度表示されるまでの時間は、電源復帰後の動作チェックの開始から終了までの時間(同図においては10秒)よりも長時間となっている。

20

【2976】

また、同図においては、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態である場合を例示したが、いずれの遊技状態においても同図の構成を適用可能である。また、第2装飾図柄の停止図柄(図柄組合せ)の候補数よりも第1装飾図柄の停止図柄(図柄組合せ)の候補数の方が多いとの構成を採用した遊技機において、同図の構成を採用してもよい。そのように構成する場合には、すべての遊技状態において(すべての遊技状態を含めて)、第2装飾図柄の停止図柄(図柄組合せ)の候補数よりも第1装飾図柄の停止図柄(図柄組合せ)の候補数の方が多い構成を採用してもよいし、1以上の所定の遊技状態において、第2装飾図柄の停止図柄(図柄組合せ)の候補数よりも第1装飾図柄の停止図柄(図柄組合せ)の候補数の方が多い構成を採用してもよい。

30

【2977】

また、本例に係る遊技機においては、以下のように構成してもよい。

(1) 第1装飾図柄がリーチ(「7↓7」)となり、その後、リーチハズレにて停止表示する(「787」)。

(2) その後所定時間遊技が実行されていない(例えば、入球口への遊技球の入球がなく、且つ、図柄変動が実行されていない)ことにより、待機状態となり待機中ムービーが表示される。待機中ムービーの表示中は、第1装飾図柄及び第2装飾図柄は非表示となる(第1装飾図柄のみ非表示としてもよい)。

40

(3) 待機中ムービーの表示中に電源断が発生し、その後、電源復帰すると、待機中ムービーは表示されておらず、第1装飾図柄が電源復帰時専用の停止図柄(例えば、「711」)にて表示されている(第2装飾図柄も「711」で表示されている)。

(4) 待機中ムービー表示中の遊技状態が非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態である場合、電源復帰後の第1装飾図柄は「数字+キャラクタ」の「711」が表示され(第2装飾図柄は「数字」のみの「711」が表示され)、待機中ムービー表示中の遊技状態が非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態以外の遊技状態(例えば、確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態)である場合、電源復帰後の第1装飾図柄は「数字」のみの「711」が表示されている(第2装飾図柄は「数字」のみの「711」が表示されている)。

50

）。

上記のように構成してもよい。なお、電源復帰時には前述したように、可動役物の動作チェックを実行するよう構成してもよい。

【2978】

次に、図391は、電源断に関するイメージ図である。

【2979】

＜非時間短縮遊技状態の場合＞

（a）非時間短縮遊技状態であり、装飾図柄が停止表示している。第1装飾図柄は、「数字＋キャラクタ」にて「711」が停止表示しており、第2装飾図柄は「711」（数字のみ）が停止表示している。（b）その後、電源断が発生する。（c）その後、電源復帰し、所定時間経過後に第1装飾図柄及び第2装飾図柄が再度表示されることとなる。第2装飾図柄は電源断前と同一の図柄組合せ（同一の数字の組合せ）及び表示態様（表示形式）となっている。他方、第1装飾図柄は、電源断前と同一の図柄組合せ（同一の数字の組合せ）であるが、表示態様（表示形式）は「数字」のみに変更されている。なお、同図においては、非時間短縮遊技状態にて装飾図柄が停止表示している状況において電源断が発生した場合に、第1装飾図柄の表示態様（表示形式）のみが変更されて図柄組合せ（数字の組合せ）は同一である構成を例示したが、これには限定されず、電源断発生前と電源復帰後とで、第1装飾図柄の表示態様（表示形式）と図柄組合せ（数字の組合せ）の双方が変更され得るよう構成してもよい。一例としては、非時間短縮遊技状態にて第1装飾図柄が「数字＋キャラクタ」にて「283」で停止表示している状況で電源断が発生し、その後電源復帰した場合には、第1装飾図柄は「数字」にて電源復帰時専用の「711」にて表示されるよう構成してもよい。なお、電源断前と電源復帰後で第1装飾図柄が、表示態様（表示形式）のみ変更され得るよう構成した場合にも、表示態様（表示形式）及び図柄組合せ（数字の組合せ）が変更され得るよう構成した場合にも、電源復帰後に「数字」のみで表示され、その後図柄変動が開始するタイミングで「数字＋キャラクタ」にて表示され得るよう構成してもよい。

【2980】

＜時間短縮遊技状態の場合＞

（d）時間短縮遊技状態であり、装飾図柄が停止表示している。第1装飾図柄は、「数字＋キャラクタ」にて「711」が停止表示しており、第2装飾図柄は「711」（数字のみ）が停止表示している。（e）その後、電源断が発生する。（f）その後、電源復帰し、所定時間経過後に第1装飾図柄及び第2装飾図柄が再度表示されることとなる。第2装飾図柄は電源断前と同一の図柄組合せ（同一の数字の組合せ）及び表示態様（表示形式）となっている。また、第1装飾図柄も、電源断前と同一の図柄組合せ（同一の数字の組合せ）であり、表示態様（表示形式）も電源断前と同一の「数字＋キャラクタ」にて表示されている。

【2981】

なお、同図においては、非時間短縮遊技状態にて装飾図柄が停止表示している状況にて電源断が発生した場合と、時間短縮遊技状態にて装飾図柄が停止表示している状況にて電源断が発生した場合とを比較しているが、確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態と確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態とで比較してもよいし、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態と非確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態とで比較してもよい。また、同図のように、保留が生起しておらず装飾図柄が停止表示している状況で電源断後に電源復帰した場合、装飾図柄が変動表示している状況で電源断後に電源復帰した場合と比較して、図386の（e）のような電源復帰画面が表示されないよう構成してもよい。もしくは、同図のように、保留が生起しておらず装飾図柄が停止表示している状況で電源断後に電源復帰した場合、図386の（e）のような電源復帰画面が表示されるが、装飾図柄が変動表示している状況で電源断後に電源復帰した場合と比較して、その表示時間が短くなるよう構成してもよい。

【2982】

また、非時間短縮遊技状態において、電源断前と電源復帰後とで第1装飾図柄の表示態様（表示形式）が異なる構成について例示したが、図柄組合せ（数字の組合せ）のみが異なるよう構成してもよいし、図柄組合せ（数字の組合せ）と表示態様（表示形式）の双方が異なるよう構成してもよい。また、表示態様（表示形式）が異なる構成として、「数字」と「数字＋キャラクタ」とを例示したが、これには限定されず、キャラクタのデザインや、キャラクタの種類、数字の色、算用数字であるか漢数字であるか、大きさ、等の相違を表示態様が異なることとしてもよい（他の構成についても同様に適用可能である）。また、同図における時間短縮遊技状態にて電源断が発生した場合において、電源断発生前と電源復帰後とで、第1装飾図柄の表示態様（表示形式）は同一であるが、図柄組合せ（数字の組合せ）は相違するよう構成してもよい（例えば、電源断前：「283」、電源復帰後：「711」）。

10

【2983】

また、非時間短縮遊技状態（且つ非確率変動遊技状態）では、演出ステージ（演出モードともいう）を複数種類用意し、その演出ステージに応じて第1装飾図柄の表示態様（表示形式）を異ならせるよう構成してもよい。一例としては、図370に示すように少なくとも演出ステージAと演出ステージBを有し、演出ステージAから演出ステージBへと変化可能に（移行可能に）構成してもよく、この場合、演出ステージAでは「数字＋キャラクタA」で、演出ステージBでは「数字＋キャラクタB」のように、「数字」は共通形式であるが、「キャラクタ」の種別（表示内容）が異なるよう構成してもよい（「キャラクタA」はキャラクタ種別Aである動物種別に属する複数種のキャラクタの中で表示すべき「数字」に対応したキャラクタを意味しており、例えば「8」であれば「象」が該当し、「キャラクタB」はキャラクタ種別Bである果物種別に属する複数種のキャラクタの中で表示すべき「数字」に対応したキャラクタを意味しており、例えば「8」であれば「スイカ」が該当する、また、第2装飾図柄の表示態様（表示形式）は、演出ステージAでも演出ステージBでも同じである）。一方、時間短縮遊技状態（且つ確率変動遊技状態）では、演出ステージを演出ステージCの1種類とし、演出ステージCは「数字」のみの表示態様（表示形式）とするよう構成してもよい。ここで、非時間短縮遊技状態（且つ非確率変動遊技状態）において電源断発生後に電源復帰した場合、（画面復帰後の）演出ステージは必ず演出ステージAとなるように構成すると、演出ステージBにて第1装飾図柄が「数字＋キャラクタB」で「711」と停止表示されている状況で電源断及びその後の電源復帰があった場合、演出ステージAとなり且つ第1装飾図柄が「数字＋キャラクタB」で「711」と停止表示されることとなり、時間短縮遊技状態（且つ確率変動遊技状態）の演出ステージCにて第1装飾図柄が「数字」のみで「711」と停止表示されている状況で電源断及びその後の電源復帰があった場合、演出ステージCが維持され且つ第1装飾図柄は「数字」のみで「711」と停止表示されることとなる。同様に、非時間短縮遊技状態（且つ非確率変動遊技状態）において電源断発生後に電源復帰した場合、演出ステージは必ず演出ステージAとなるよう構成すると、演出ステージBにて第1装飾図柄が「数字＋キャラクタB」で「283」と停止表示されている状況で電源断及びその後の電源復帰があった場合、演出ステージAとなり且つ第1装飾図柄が「数字＋キャラクタB」で「711」と停止表示されることとなり、時間短縮遊技状態（且つ確率変動遊技状態）の演出ステージCにて第1装飾図柄が「数字」のみで「283」と停止表示されている状況で電源断及びその後の電源復帰があった場合、演出ステージCが維持され且つ第1装飾図柄は「数字」のみで「711」と停止表示されることとなる。このような遊技状態と演出ステージと第1装飾図柄（及び第2装飾図柄）の関係性は、本例に係るすべての構成に適用可能であることを補足しておく。なお、非時間短縮遊技状態（且つ非確率変動遊技状態）において電源断発生後に電源復帰した場合であって、演出ステージは必ず演出ステージAとなるよう構成した場合、演出ステージBにて第1装飾図柄が「数字＋キャラクタB」で「283」と停止表示されている状況で電源断及びその後の電源復帰があった場合、演出ステージAとなり且つ第1装飾図柄が「数字＋キャラクタA」で「711」と停止表示されてもよい。

20

30

40

50

【2984】

なお、同図においては、非時間短縮遊技状態の場合と時間短縮遊技状態の場合とを比較したが、これには限定されず、非確率変動遊技状態の場合と確率変動遊技状態の場合とを比較する場合に適用してもよいし、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態の場合と確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態の場合とを比較する場合に適用してもよい。なお、当該適用可能な遊技状態の比較は、同図の構成に限定されず、本例にて詳述する遊技状態に関するすべての構成に適用可能である。また、同様に、非確率変動遊技状態の場合と確率変動遊技状態の場合とを比較した構成を、非時間短縮遊技状態の場合と時間短縮遊技状態の場合とを比較する場合に適用してもよいし、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態の場合と確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態の場合とを比較する場合に適用してもよい。また、同様に、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態の場合と確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態の場合とを比較した構成を、非時間短縮遊技状態の場合と時間短縮遊技状態の場合とを比較する場合に適用してもよいし、非確率変動遊技状態の場合と確率変動遊技状態の場合とを比較する場合に適用してもよい。

10

【2985】

次に、図392は、時間短縮遊技状態における最終変動に関するイメージ図である。同図においては、当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）終了後に非確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態に移行し、時短回数が100回付与される場合について例示している。

【2986】

（a）時間短縮遊技状態における99回目の図柄変動が終了し、装飾図柄が停止表示している。第1装飾図柄は、「数字」にて「613」が停止表示しており、第2装飾図柄は「613」（数字のみ）が停止表示している。また、保留は1つであり、時間短縮遊技状態であるために右打ち指示表示（遊技者に右打ちを促す画像）が表示されている。

20

【2987】

（b）その後、時間短縮遊技状態における最終変動として100回目の図柄変動が開始する。（c）その後、当該時間短縮遊技状態における最終変動の途中で電源断が発生する。（d）その後、電源復帰し、電源復帰以降の第1のタイミングで、右打ち指示表示が再度表示され、電源断前と同一の表示態様となっている。また、第2装飾図柄の表示も電源断前と同一の表示態様（表示形式）にて表示される。変形例としては、右打ち指示表示は再度表示されるが、第2装飾図柄は再表示されないよう構成してもよい。（e）その後、電源復帰以降の第2のタイミングで、第1装飾図柄が電源断前と同一の表示態様（表示形式）及び図柄組合せ（数字の組合せ）で再度表示される、つまり、「数字」のみの表示態様（表示形式）且つ「711」の数字の組合せで再度表示される。再度表示された第1装飾図柄は、確定停止しており、この確定停止時における変動固定時間中は、時間短縮遊技状態が維持されているため（変動固定時間が終了すると非時間短縮遊技状態へ移行する）、未だ右打ち指示表示も継続表示されている。（f）その後、電源復帰後の第3のタイミングで変動固定時間が終了し、非時間短縮遊技状態へ移行し、第1装飾図柄が非時間短縮遊技状態に対応した表示態様（表示形式）にて表示される（「数字＋キャラクタ」且つ「711」）。このように、電源復帰以降においては、右打ち指示表示が再度表示された後に第1装飾図柄が再度表示されるよう構成されている。

30

40

【2988】

このように構成することにより、時間短縮遊技状態における最終変動の途中で電源断が発生した場合にも、電源復帰後の第1装飾図柄の停止表示を視認することで、どの遊技状態にて電源断が発生したのかを認識することができ、例えば、時間短縮遊技状態における装飾図柄の変動時間が短時間である遊技機などにおいては、どのタイミングで時間短縮遊技状態が終了するのかが判別し難いため、特に好適である。

【2989】

また、遊技者が右打ちにて遊技球を発射して主遊技図柄が変動を開始するまでには時間を要するため、時間短縮遊技状態にて電源断が発生し、電源復帰した場合には、第1装飾図柄の表示よりも右打ち指示表示を先に表示するよう構成することにより、電源断が発生

50

した場合、装飾図柄を再表示させることよりも適切な発射位置を遊技者に教えることを優先することで、その後の遊技をスムーズに進行させることができる。

【2990】

なお、図392においては、電源復帰後の第2装飾図柄の再表示タイミングは、右打ち指示表示の再表示タイミングよりも前であってもよいし、右打ち指示表示の再表示タイミングと略同一であってもよいし、第1装飾図柄の再表示タイミングと略同一であってもよい。また、前述したとおり、非時間短縮遊技状態における演出モードと時間短縮遊技状態における演出モードとを相違させてもよい。そのように構成すると、電源断が発生しなかった場合、時間短縮遊技状態の最終変動である100回転目の第1装飾図柄が仮停止するまでは、時間短縮遊技状態に対応した第1装飾図柄の表示態様（表示形式）であり、その仮停止中（この仮停止中の遊技状態は未だ時間短縮遊技状態である）に、時間短縮遊技状態ではあるが、非時間短縮遊技状態に対応した第1装飾図柄の表示態様（表示形式）に変更され、その後に第1装飾図柄が確定停止し、それと同時に、第1装飾図柄の仮停止時には変動中であった第2装飾図柄も確定停止し、その後、非時間短縮遊技状態に移行し、第1装飾図柄の表示態様（表示形式）も非時間短縮遊技状態に対応した表示態様（表示形式）を維持するよう構成してもよい（この場合、第2装飾図柄の表示態様（表示形式）は変化しない）。

10

【2991】

また、図392においては、（e）のタイミングで第1装飾図柄が電源断前の表示態様（表示形式）にて表示された後、時間経過では表示態様（表示形式）が変化せず、その後新たに保留が生起して図柄変動が開始するときに、非時間短縮遊技状態に対応した表示態様（表示形式）にて第1装飾図柄が表示されるよう構成してもよい。

20

【2992】

また、図392においては、（c）のタイミングの後に（d）を経由せずに、（e）のタイミングで第1装飾図柄が電源断前の表示態様（表示形式）にて表示されるように構成してもよい。また、（e）の後のタイミング（変動固定時間の経過後のタイミング）で、遊技状態が時間短縮遊技状態から非時間短縮遊技状態に切り替わったことに基づいて、左打ち指示表示がされるように構成し、該左打ち指示表示は（f）のタイミング以降、つまりは非時間短縮遊技状態に移行してから1回目の変動が開始した直後、所定時間継続して表示してから消去してもよい。その際の表示プライオリティは、左打ち指示表示＞第2装飾図柄＞第2保留表示＞第1装飾図柄の順となるよう構成されている。なお、左打ち指示表示は、図363に示した左打ち警告表示と同じまたは類似する画像オブジェクトによって構成されている。なお、上記は電源断が発生し且つ電源復帰した場合における左打ち指示表示について述べたが、図392とは異なり、電源断が行われないうちに時間短縮遊技状態の99回目、100回目、そしてその後の非時間短縮遊技状態へと進行する場合であっても、時間短縮遊技状態の100回目の次変動である非時間短縮遊技状態での変動（非時間短縮遊技状態に移行してから1回目の変動）の開始直後において、左打ち指示表示がされるよう構成してもよく、そのように構成した場合、時間短縮遊技状態の100回転目に電源断が発生し且つ電源復帰した場合は、時間短縮遊技状態の100回目の次変動である非時間短縮遊技状態での変動（非時間短縮遊技状態に移行してから1回目の変動）の開始直後であっても、左打ち指示表示をしないよう構成しても良い。

30

40

【2993】

また、本例に係る遊技機においては、以下のように構成してもよい。

（1）保留が生起しておらず、装飾図柄が停止表示している。

（2）電源断が発生する。

（3）電源復帰し、演出表示装置には画面復帰中と表示され、第1装飾図柄と第2装飾図柄とが非表示となる。

（4）演出表示装置に画面復帰中と表示されている状況にて、新たに保留が生起し、主遊技図柄が変動開始するが、第1装飾図柄と第2装飾図柄とが非表示のままとなる。

（5-1）電源復帰後から所定時間が経過し、演出表示装置における画面復帰中との表示

50

が終了し、第1装飾図柄と第2装飾図柄との変動表示が再開する。

(5-2) または、電源復帰後から、演出表示装置における画面復帰中との表示が終了可能な時間である所定時間が経過したが、主遊技図柄が変動中であるため、画面復帰中との表示が継続し、主遊技図柄の変動が終了すると、演出表示装置における画面復帰中との表示が終了し、第1装飾図柄と第2装飾図柄との変動表示が再開する(保留が更に生起している場合)又は停止表示がなされる(保留が生起していない場合、つまり新たな変動が開始不可能である場合)。

上記のように構成してもよい。

即ち、「(1)→(2)→(3)→(4)→(5-1)」のように作用するよう構成してもよいし、「(1)→(2)→(3)→(4)→(5-2)」のように作用するよう構成してもよい。

10

【2994】

次に、図393は、エラー発生時の演出表示装置SGにおける表示プライオリティ(表示優先度)に関する構成である。なお、表示プライオリティが高いとは、遊技者から見て前面側(前面レイヤー)に表示されていることであり、表示プライオリティが低いとは、遊技者から見て後面側(後面レイヤー)に表示されていることである。

【2995】

まず、(a)受け皿(上皿)満タン異常が検出され、「球を抜いてください」とのエラー表示が演出表示装置SGに表示される。また、当該エラー表示は、第1装飾図柄と表示領域が重複しており、表示プライオリティは、第1装飾図柄よりもエラー表示の方が高くなっている。具体的には、「球を抜いてください」とのエラー表示は、「数字+キャラクタ」にて「711」と表示されている第1装飾図柄の表示よりも前面レイヤーに表示されている。また、エラー表示の表示領域は第2装飾図柄の表示領域と重複しない。具体的には、「球を抜いてください」とのエラー表示は、「711」と表示されている第2装飾図柄の表示と表示領域が重複していない。

20

【2996】

その後、(b)十字ボタンSB-2が操作(右ボタンの操作でも左ボタンの操作でもよい)されたことにより、音量調整画面が表示される。この音量調整画面を表示する十字ボタンSB-2の操作では、右ボタン操作であっても左ボタン操作であっても、音量調整はされない(つまり、音量調整画面を表示するだけである)。変形例としては、右ボタンの操作を行うと、音量調整画面が表示されるとともに音量が1段階大きくなり、左ボタンの操作を行うと、音量調整画面が表示されるとともに音量が1段階小さくなるよう構成してもよい。音量調整画面が表示されている状況にて、音量調整画面の表示中における十字ボタンSB-2の操作に基づいて音量調整が可能となっている(例えば、十字ボタンSB-2の右ボタンの操作で音量が1段階大きくなり、十字ボタンSB-2の左ボタンの操作で音量が1段階小さくなる)。また、音量調整画面は、第1装飾図柄、エラー表示と表示領域が重複し、第2装飾図柄とは表示領域が重複しない。表示プライオリティは、高いものから「エラー表示→音量調整画面→第1装飾図柄」となっている。即ち、音量調整画面が表示されることによって、「数字+キャラクタ」にて「711」と表示されている第1装飾図柄の表示の一部が視認不可能となる一方、「球を抜いてください」とのエラー表示はすべて視認できるように構成されている。また、音量調整画面が表示されている状況にて、十字ボタンSB-2の右ボタンの操作で音量が1段階大きくなったときや、十字ボタンSB-2の左ボタンの操作で音量が1段階小さくなったときには、変化後の音量のレベルが認識できるような音をスピーカから出力するよう構成してもよい(十字ボタンSB-2の右ボタン又は左ボタンを操作する毎に出力され得る)。

30

40

【2997】

このように、同図においては、受け皿(上皿)満タン異常の発生中、換言すると、エラー表示と第1装飾図柄と第2装飾図柄とが表示されている状況にて、十字ボタンSB-2を操作することで音量調整画面が表示される、換言すると、受け皿(上皿)満タン異常の発生中においても、音量調整が可能となっている。なお、同図においては、受け皿(上皿

50

）満タン異常が発生している場合について例示したが、あくまで一例であり、他のエラーが発生している状況に適用してもよい。また、すべてのエラーの発生中に同図のように作用する必要はなく、発生しているエラーの種類によっては、同図とは異なる作用（例えば、エラーの発生中に十字ボタン S B - 2 を操作しても音量調整画面が表示されず音量調整ができない）となるよう構成してもよい。

【2998】

このように構成することにより、エラー表示という遊技者に報知すべき情報を優先して報知できると共に、第1装飾図柄の視認性が低下してしまっても第2装飾図柄を視認することで遊技の状況を遊技者が把握することができる。また、音量調整画面はエラー表示を重複して視認性が低下してしまうが、音量調整画面が表示されていること自体は視認可能であるため、現在音量調整が可能であることを遊技者は認識することができ、十字ボタン S B - 2 を操作することにより、スピーカから出力される音量が変化するため、遊技者は問題なく音量調整を実行することができる。なお、音量調整として十字ボタン S B - 2 を操作する毎に、現在の音量レベルを認識できるよう、確認音をスピーカから出力するよう構成してもよい（確認音の音量が音量レベルに応じて変化する）。

【2999】

なお、同図においては、音量調整画面の表示条件や表示プライオリティ、音量調整の操作について詳述したが、光量調整画面の表示条件や表示プライオリティ、光量調整の操作についても同様に適用可能である。但し、光量調整画面を表示するには、音量調整画面とは異なり、十字ボタン S B - 2 の上ボタン又は下ボタンの操作が必要となり、光量調整を行うには、音量調整とは異なり、十字ボタン S B - 2 の上ボタン又は下ボタンの操作（上ボタンの操作を行うと、光量調整画面が表示されるとともに光量が1段階大きくなり、下ボタンの操作を行うと、光量調整画面が表示されるとともに光量が1段階小さくなる）が必要となる点が相違する。

【3000】

なお、エラー表示と第2装飾図柄との表示領域が重複するよう構成してもよいし、エラー表示の方が第2装飾図柄よりも表示プライオリティが高いよう構成してもよい。

【3001】

また、遊技機が受け皿（上皿）満タン異常を検出（受け皿（上皿）満タン異常が発生）しており、遊技機が受け皿（上皿）満タン異常を検出（受け皿（上皿）満タン異常が発生）してから所定時間（例えば、10秒）が経過する前までをエラー状態A、遊技機が受け皿（上皿）満タン異常を検出（受け皿（上皿）満タン異常が発生）しており、遊技機が受け皿（上皿）満タン異常を検出（受け皿（上皿）満タン異常が発生）してから所定時間（例えば、10秒）が経過している状況をエラー状態Bとした場合においては、以下のよう

【3002】

第1装飾図柄が確定停止（または、仮停止）するときに停止音（停止時のサウンドエフェクトであり、停止 S E ともいう）を出力し得るよう構成した場合において、エラー表示が演出表示装置 S G に表示されておりエラー状態Aである場合において、第1装飾図柄が確定停止（または、仮停止）するときには停止音（停止 S E）を出力する一方、エラー表示が演出表示装置 S G に表示されておりエラー状態Bである場合において、第1装飾図柄が確定停止（または、仮停止）するときには停止音（停止 S E）を出力しないよう構成してもよい。

【3003】

なお、確定停止するときとは、確定停止する直前の仮停止時であってもよく、具体的には、「第1装飾図柄が変動中→第1装飾図柄が仮停止→停止音を出力→揺れ変動が行われる→第1装飾図柄が確定停止」のように作用する。また、仮停止するときとは、擬似連変動に関する特殊図柄の仮停止時などに適用してもよい。

【3004】

なお、所定のエラーの発生中（例えば、受け皿（上皿）満タン異常）をエラー状態Aと

し、特定のエラーの発生中（例えば、始動口入賞異常）をエラー状態Bとして、上記構成に適用してもよい。

【3005】

なお、同図においては、第1装飾図柄及び第2装飾図柄の停止表示中において、エラー表示及び／又は音量調整画面が表示されている場合を例示したが、これには限定されず、第1装飾図柄及び第2装飾図柄が変動表示中（第1装飾図柄は仮停止表示中でもよい）において、エラー表示及び／又は音量調整画面が表示されている場合についても、同図と同様の表示プライオリティに関する構成を適用してもよい。換言すると、第1装飾図柄及び第2装飾図柄が変動表示中のいずれかのタイミングについて同図と同様の表示プライオリティに関する構成を適用してもよい。

10

【3006】

なお、いずれの遊技状態においても同図の構成を適用可能である。また、第2装飾図柄の停止図柄（図柄組合せ）の候補数よりも第1装飾図柄の停止図柄（図柄組合せ）の候補数の方が多いとの構成を採用した遊技機において、同図の構成を採用してもよい。そのように構成する場合には、すべての遊技状態において（すべての遊技状態を含めて）、第2装飾図柄の停止図柄（図柄組合せ）の候補数よりも第1装飾図柄の停止図柄（図柄組合せ）の候補数の方が多い構成を採用してもよいし、1以上の所定の遊技状態において、第2装飾図柄の停止図柄（図柄組合せ）の候補数よりも第1装飾図柄の停止図柄（図柄組合せ）の候補数の方が多い構成を採用してもよい。

【3007】

20

次に、図394は、ボタン演出実行時の演出表示装置SGにおける表示プライオリティ（表示優先度）に関する構成である。まず、（a）保留数が2個であり、第1装飾図柄と第2装飾図柄が変動している。その後、（b）当該変動の所定のタイミングで、ボタン演出が実行され、操作示唆画像（液晶画面の略中央に「PUSH」と記載されたボタン画像）が演出表示装置SGに表示される。操作示唆画像は、第1装飾図柄と表示領域が重複しており、表示プライオリティは、操作指示画像の方が第1装飾図柄よりも高くなっている。また、操作示唆画像と第2装飾図柄とは表示領域が重複しない。

【3008】

<パターン1>

その後、（c）操作示唆画像の表示中（ボタン演出の実行中におけるサブ入力ボタンSBの有効期間）にて、サブ入力ボタンが操作されたため、ボタン演出における操作後画像として、「激熱!!!」が演出表示装置SGに表示される（操作示唆画像は消去される）。操作後画像は第1装飾図柄と第2装飾図柄と第2保留表示（第2保留画像と称することがある）と表示領域が重複しており、表示プライオリティは、高いものから、「第2装飾図柄→第2保留表示→操作後画像→第1装飾図柄」となっている。また、操作後画像は、操作示唆画像よりも表示領域が大きくなっており、このように構成することで、遊技者は、より目立つ操作後画像を見ることを欲してサブ入力ボタンSBを操作する頻度を高くすることができる。なお、第2装飾図柄と第2保留表示とは、重複表示することがないように構成されているため、第2装飾図柄と第2保留表示との表示プライオリティの順序を変更してもよいし、表示プライオリティを同一にしてもよい。また、同図のパターン1においては、操作後画像が第2保留表示と重複するよう構成したが、操作後画像が第2保留表示と重複しないよう構成してもよい。

30

【3009】

<パターン2>

前述した（b）の後、（d）操作示唆画像の表示中（ボタン演出の実行中におけるサブ入力ボタンSBの有効期間）にて、サブ入力ボタンが操作されたため、ボタン演出における操作後画像として、「CHANCE!」が演出表示装置SGに表示される（操作示唆画像は消去される）。操作後画像は第1装飾図柄と第1保留表示（保留消化伝達画像とも重複するよう構成してもよい）と表示領域が重複しており、第2装飾図柄とは表示領域が重複しない。表示プライオリティは、高いものから、「第1保留表示→操作後画像→第1装

40

50

飾図柄」となっている。また、操作後画像は、操作示唆画像よりも表示領域が大きくなっており、このように構成することで、遊技者は、より目立つ操作後画像を見ることを欲してサブ入力ボタンSBを操作する頻度を高くすることができる。なお、(d)のように作用する場合において、第2装飾図柄の表示プライオリティが第1保留表示よりも高くなるよう構成してもよい。なお、同図のパターン2においては、操作後画像が第2保留表示とは重複しないよう構成したが、これには限定されず、操作後画像が、第1保留表示と第2保留表示と重複するよう構成してもよい。また、そのように構成した場合には、操作後画像の表示プライオリティは、第1保留表示と第2保留表示との表示プライオリティよりも低くなるよう構成してもよい。

【3010】

なお、操作示唆画像を複数種類有するよう構成してもよく、例えば、表示される頻度が相対的に高い操作示唆画像Aと表示される頻度が相対的に低い操作示唆画像Bとを有するよう構成した場合、操作示唆画像Aのみが上記パターン1またはパターン2のように作用し、操作示唆画像Bは上記パターン1またはパターン2のように作用しないよう構成してもよい。一例としては、操作示唆画像Aは、操作後画像よりも表示領域が小さいが、操作示唆画像Bは、操作後画像よりも表示領域大きくなるよう構成してもよい。

【3011】

また、同図においては、図柄変動におけるリーチとなっていない状況にて、ボタン演出が開始（操作示唆画像を表示）するよう構成したが、これには限定されず、スーパーリーチ演出の実行中にボタン演出（操作示唆画像）を表示するよう構成してもよい。そのように構成した場合、スーパーリーチ演出中の画像（例えば、主人公キャラの画像と敵キャラの画像）よりも、操作示唆画像や操作後画像の方が表示プライオリティが高くなるよう構成してもよい。その他の要素との表示プライオリティについては同図の構成と同様にしてもよい。

【3012】

次に、図395は、第1装飾図柄の表示態様（表示形式）と変動パターンに関する構成である。同図における構成では、前述した限定頻度状態として、限定頻度状態A（変動パターンテーブルAを参照する状態）と限定頻度状態B（変動パターンテーブルBを参照する状態）とを有しており、限定頻度状態とは異なる変動パターンに関する状態として通常状態（通常変動パターンテーブルを参照する状態）を有している。

【3013】

(a) 時間短縮遊技状態であり、変動パターンに関する状態は限定頻度状態Aとなっており、第1装飾図柄は「数字」にて「617」が表示されている。また、限定頻度状態Aにおいては、変動パターンは以下のように構成されている。時間短縮遊技状態における第2主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の図柄変動においては、第2主遊技側の保留数にかかわらず、該限定頻度状態Aにて（変動パターンテーブルAを用いて）変動パターンを決定するように構成されている。また、非時間短縮遊技状態における第2主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の図柄変動においても、第2主遊技側の保留数にかかわらず、該限定頻度状態A（変動パターンテーブルA）を用いて変動パターンを決定するように構成されている。なお、限定頻度状態A（変動パターンテーブルA）は、第2主遊技側の保留数に応じた限定頻度状態（変動パターンテーブル）を設けてもよく、例えば、保留数が「1」の場合に使用する限定頻度状態A1（変動パターンテーブルA1）、保留数が「2」の場合に使用する限定頻度状態A2（変動パターンテーブルA2）、保留数が「3」の場合に使用する限定頻度状態A3（変動パターンテーブルA3）、保留数が「4」の場合に使用する限定頻度状態A4（変動パターンテーブルA4）等のように個別に限定頻度状態（変動パターンテーブル）を設けてもよいし、保留数が「1」、「2」の場合に使用する限定頻度状態A12（変動パターンテーブルA12）、保留数が「3」、「4」の場合に使用する限定頻度状態A34（変動パターンテーブルA34）等のように一部の保留数で共通する限定頻度状態（変動パターンテーブル）を設けてもよい。

<ハズレ時>

10

20

30

40

50

乱数： 0～499→変動時間：3秒
乱数：500～799→変動時間：5秒
乱数：800～999→変動時間：10秒
＜当り時＞

乱数： 0～299→変動時間：3秒
乱数：300～499→変動時間：5秒
乱数：500～999→変動時間：10秒
【3014】

その後、当り（大当り、小当り）に当選せずに、主遊技図柄の図柄変動が50回実行され、遊技状態は時間短縮遊技状態のままであるが、変動パターンに関する状態が限定頻度状態Aから限定頻度状態Bに切り替わる。第1装飾図柄は「数字」にて「617」が表示されているままである。また、限定頻度状態Bにおいては、変動パターンは以下のように構成されている。時間短縮遊技状態における第2主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の図柄変動においては、第2主遊技側の保留数にかかわらず、該限定頻度状態B（変動パターンテーブルB）を用いて変動パターンを決定するように構成されている。また、非時間短縮遊技状態における第2主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の図柄変動において限定頻度状態A（変動パターンテーブルA）を用いない場合は、第2主遊技側の保留数にかかわらず、限定頻度状態B（変動パターンテーブルB）を用いて、変動パターンを決定するように構成する。なお、限定頻度状態B（変動パターンテーブルB）は、第2主遊技側の保留数に応じた限定頻度状態（変動パターンテーブル）を設けてもよく、例えば、保留数が「1」の場合に使用する限定頻度状態B1（変動パターンテーブルB1）、保留数が「2」の場合に使用する限定頻度状態B2（変動パターンテーブルB2）、保留数が「3」の場合に使用する限定頻度状態B3（変動パターンテーブルB3）、保留数が「4」の場合に使用する限定頻度状態B4（変動パターンテーブルB4）等のように個別に限定頻度状態（変動パターンテーブル）を設けてもよいし、保留数が「1」、「2」の場合に使用する限定頻度状態B12（変動パターンテーブルB12）、保留数が「3」、「4」の場合に使用する限定頻度状態B34（変動パターンテーブルB34）等のように一部の保留数で共通する限定頻度状態（変動パターンテーブル）を設けてもよい。

＜ハズレ時＞

乱数： 0～299→変動時間：3秒
乱数：300～499→変動時間：5秒
乱数：500～849→変動時間：10秒
乱数：850～919→変動時間：30秒
乱数：920～979→変動時間：60秒
乱数：980～999→変動時間：120秒

＜当り時＞

乱数： 0～ 99→変動時間：10秒
乱数：100～199→変動時間：30秒
乱数：200～399→変動時間：60秒
乱数：400～999→変動時間：120秒

【3015】

その後、当り（大当り、小当り）に当選せずに、主遊技図柄の図柄変動が50回実行され、時間短縮遊技状態が終了して、遊技状態が非時間短縮遊技状態となり、変動パターンに関する状態が限定頻度状態Bから通常状態（限定頻度状態とは異なる変動パターンに関する通常状態である通常変動パターンテーブル）に切り替わる。第1装飾図柄は「数字＋キャラクタ」にて「617」が表示されることとなる。また、通常状態においては、変動パターンは以下のように構成されている。なお、通常状態（通常変動パターンテーブル）は、第1主遊技側の保留数に応じた通常状態（通常変動パターンテーブル）を設けるのが好適である。例えば、保留数が「1」の場合に使用する通常状態1（通常変動パターンテーブル1）、保留数が「2」の場合に使用する通常状態2（通常変動パターンテーブル2

）、保留数が「3」の場合に使用する通常状態3（通常変動パターンテーブル3）、保留数が「4」の場合に使用する通常状態4（通常変動パターンテーブル4）等のように個別に通常状態（通常変動パターンテーブル）を設けてもよいし、保留数が「1」、「2」の場合に使用する通常状態12（通常変動パターンテーブル12）、保留数が「3」、「4」の場合に使用する通常状態34（通常変動パターンテーブル34）等のように一部の保留数で共通する通常状態（通常変動パターンテーブル）を設けてもよい。

<ハズレ時>

乱数： 0～199→変動時間：5秒
乱数：200～699→変動時間：10秒
乱数：700～919→変動時間：30秒
乱数：920～979→変動時間：60秒
乱数：980～999→変動時間：120秒

<当り時>

乱数： 0～ 99→変動時間：10秒
乱数：100～199→変動時間：30秒
乱数：200～399→変動時間：60秒
乱数：400～999→変動時間：120秒

【3016】

このように、同図における構成においては、当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）終了後に時間短縮遊技状態に移行し、その後当り（大当り、小当り）に当選しなかった場合においては、「時間短縮遊技状態且つ限定頻度状態Aを50変動→時間短縮遊技状態且つ限定頻度状態Bを50変動→非時間短縮遊技状態且つ通常状態」のように遷移するよう構成されている。

【3017】

また、同図においては、第1装飾図柄の表示態様（表示形式）は、時間短縮遊技状態である場合と非時間短縮遊技状態である場合とで相違することとなるが、いずれも時間短縮遊技状態で同一の遊技状態となっている、限定頻度状態Aと限定頻度状態Bとでは第1装飾図柄の表示態様（表示形式）は同一となっている。このように構成することにより、同一の遊技状態であっても背景演出等が様々な演出態様に切り替わるよう設計した場合においても、第1装飾図柄の表示態様（表示形式）を視認することにより遊技状態を把握することができ、例えば、時間短縮遊技状態の終盤（遊技者は時間短縮遊技状態が終了したか否かを正確に把握できていない状況）にて、当り（大当り、小当り）図柄が停止表示した場合においても、第1装飾図柄の表示態様（表示形式）を視認することで、どの遊技状態において当り（大当り、小当り）となったのかを正確に認識することができる。

【3018】

同図においては、時間短縮遊技状態において、2つの限定頻度状態を遷移するよう構成したが、これには限定されず、3つ以上の限定頻度状態を遷移するよう構成してもよく、そのような場合には、同図の構成と同様に、遊技状態が同一であれば、限定頻度状態が異なっても第1装飾図柄の表示態様（表示形式）が同一となるよう構成してもよい。

【3019】

なお、同図においては、第2装飾図柄の表示態様（表示形式）は、遊技状態（時間短縮遊技状態であるか否か）や変動パターンに関する状態（限定頻度状態であるか否か）などに拘らず、すべて「数字」となっている。また、限定頻度状態A及び限定頻度状態Bにて表示可能な特殊演出である「時短残り回数示唆演出」を有し、限定頻度状態A及び限定頻度状態Bの特定の区切り変動（例えば、時間短縮遊技状態の残り回数が10の倍数となる契機の変動であり、10変動目、20変動目、・・・、80変動目、90変動目）、及び／又は時間短縮遊技状態の残り回数が所定回数（例えば10回）以下になった場合の毎変動にて「時短残り回数〇〇回！」といった表示を行う。この「時短残り回数示唆演出」は、非時間短縮遊技状態では表示されない。また、この「時短残り回数示唆演出」は、第1装飾図柄と重複するが第2装飾図柄とは重複しない程度に大きく表示される。なお、表示

10

20

30

40

50

プライオリティは、時短残り回数示唆演出＞第1装飾図柄であることが好適である。但し、表示プライオリティは、当否判定結果の報知を優先すべく、第1装飾図柄＞時短残り回数示唆演出としてもよい。

【3020】

なお、同図における時間短縮遊技状態とは、主遊技図柄の変動パターンに関する遊技状態であってもよいし、補助遊技図柄（補助遊技図柄が当り図柄で停止する確率、補助遊技図柄の変動時間、第2主遊技始動口電動役物の開放態様等）に関する遊技状態であってもよいし、その両方を兼ねていてもよい。また、この定義は、同図の構成に限定されず、本例に係るすべての構成に適用可能である。

【3021】

なお、同図における、（a）時間短縮遊技状態且つ限定頻度状態Aと、（b）時間短縮遊技状態且つ限定頻度状態Bとは同じ背景演出（または、演出モード）であるが、（c）非時間短縮遊技状態且つ通常状態では異なる背景演出（または、演出モード）となるよう構成している。この場合、限定頻度状態Bにおける最終変動の第1装飾図柄が仮停止するまでは、限定頻度状態B（時間短縮遊技状態）に対応した第1装飾図柄の表示態様（表示形式）であり、その仮停止中（この仮停止中の遊技状態は未だ限定頻度状態Bであり時間短縮遊技状態である）に、限定頻度状態B（時間短縮遊技状態）ではあるが、非時間短縮遊技状態に対応した第1装飾図柄の表示態様（表示形式）に変更され、その後第1装飾図柄が確定停止し、それと同時に、第1装飾図柄の仮停止時には変動中であつた第2装飾図柄も確定停止し、その後、非時間短縮遊技状態に移行し、第1装飾図柄の表示態様（表示形式）も非時間短縮遊技状態に対応した表示態様（表示形式）を維持するよう構成してもよい（この場合、第2装飾図柄の表示態様（表示形式）は変化しない）。また、変形例としては、（a）時間短縮遊技状態且つ限定頻度状態Aと、（b）時間短縮遊技状態且つ限定頻度状態Bと、（c）非時間短縮遊技状態且つ通常状態と、でそれぞれ背景演出（または、演出モード）が異なるよう構成してもよい。なお、演出モードとは、演出ステージとも称することがあり、背景画像により示される演出態様である。一例としては、図355等に図示した昼ステージや夜ステージ、図371等に図示したステージAやステージB、前述した演出ステージA、B、Cなど、各実施形態及び変形例に記載した背景・ステージ・モードが演出モードに相当する。即ち、本構成と図371等に図示した構成との双方を採用して構成してもよい。また、これには限定されず、本例に係る演出モード（演出ステージ、背景演出、背景画像）に関する構成については、複数を組み合わせて採用しても何ら問題ない。

【3022】

また、第2装飾図柄の停止図柄（図柄組合せ）の候補数よりも第1装飾図柄の停止図柄（図柄組合せ）の候補数の方が多いとの構成を採用した遊技機において、同図の構成を採用してもよい。そのように構成する場合には、すべての遊技状態において（すべての遊技状態を含めて）、第2装飾図柄の停止図柄（図柄組合せ）の候補数よりも第1装飾図柄の停止図柄（図柄組合せ）の候補数の方が多い構成を採用してもよいし、1以上の所定の遊技状態において、第2装飾図柄の停止図柄（図柄組合せ）の候補数よりも第1装飾図柄の停止図柄（図柄組合せ）の候補数の方が多い構成を採用してもよい。

【3023】

次に、図396は、遊技状態による第1装飾図柄の特徴に関する構成である。

【3024】

＜a：時間短縮遊技状態＞

時間短縮遊技状態においては、ハズレとなる停止図柄（数字の組み合わせ）として、第1装飾図柄と第2装飾図柄と共に「787」が停止表示されない（「232」であれば停止表示され得る）。なお、第1装飾図柄の表示態様（表示形式）は「数字」となっている。また、保留表示と保留消化伝達画像との表示は、第2主遊技側の保留に対応した表示のみとなっている。即ち、第1主遊技側の保留が生起したとしても、当該第1主遊技側の保留に対応する保留表示及び保留消化伝達画像は表示されないこととなる。また、時間短縮

10

20

30

40

50

遊技状態においては、第1装飾図柄の仮停止図柄として特殊図柄（同図における「続」）が停止表示しないよう構成されている。なお、時間短縮遊技状態においては、7図柄のリーチが発生した場合（「7↓7」）には当り（大当り、小当り）となる（ハズレとならない）、換言すると、第1装飾図柄と第2装飾図柄と共に「777」のみが停止表示されるよう構成してもよい。なお、本構成は時間短縮遊技状態であれば適用可能であるが、確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態に適用することが好適である。

【3025】

<b、c：非時間短縮遊技状態>

（b）非時間短縮遊技状態においては、ハズレとなる停止図柄（数字の組み合わせ）として、第1装飾図柄と第2装飾図柄と共に「787」が停止表示される場合があるよう構成されている（「232」も停止表示され得る）。なお、第1装飾図柄の表示態様（表示形式）は「数字+キャラクタ」となっている。また、保留表示と保留消化伝達画像との表示は、第1主遊技側の保留に対応した表示のみとなっている。即ち、第2主遊技側の保留が生起したとしても、当該第2主遊技側の保留に対応する保留表示及び保留消化伝達画像は表示されないこととなる。なお、非時間短縮遊技状態においては、7図柄のリーチが発生した場合（「7↓7」）にもハズレとなる場合がある、換言すると、第1装飾図柄と第2装飾図柄と共に「787」が停止表示され得るよう構成してもよい。なお、本構成は非時間短縮遊技状態であれば適用可能であるが、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態に適用することが好適である。

【3026】

また、（c）非時間短縮遊技状態においては、第1装飾図柄の仮停止図柄として特殊図柄（同図における「続」）が停止表示し得るよう構成されている。ここで、特殊図柄とは、擬似連続変動の実行時に仮停止する「続」図柄や、スーパーリーチ演出が実行される前に仮停止する「発展」図柄など、確定停止図柄としては停止表示されない図柄となっている。

【3027】

このように構成することによって、時間短縮遊技状態においては、遊技者は当該有利な遊技状態が継続することに注目しているため、第1装飾図柄の停止態様の種類数を少なくしたり、所定の特殊図柄が停止表示しないようにする等、第1装飾図柄の表示態様（表示種類数）をシンプルにする一方、非時間短縮遊技状態においては、当り（大当り、小当り）となるまでの過程を楽しませるために、第1装飾図柄の停止態様の種類数を多くしたり、所定の特殊図柄が停止表示し得るようにするなど、第1装飾図柄の表示態様（表示種類数）を多彩にすることで、遊技状態によって適切な演出環境を構築することができる。

【3028】

また、同図においては、時間短縮遊技状態と非時間短縮遊技状態とを比較しているが、確率変動遊技状態と非確率変動遊技状態とで比較してもよいし、変動パターンに関する遊技状態（限定頻度状態Aと限定頻度状態B）で比較してもよいし、副制御基板Sが制御する演出モード（演出モードAと演出モードB）とで比較してもよい。なお、演出モードで比較する場合などにおいては、図370にて前述した演出モードに関する構成（ステージA、ステージB）と組合せて構成してもよい。より具体的には、同図における非時間短縮遊技状態（非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態としてもよい）における演出モードを図370におけるステージAとし、同図における時間短縮遊技状態（確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態としてもよい）における演出モードを図370におけるステージBとして、同図の構成と図370の構成の双方を採用してもよい。

【3029】

なお、所定の特殊図柄においては、非時間短縮遊技状態の仮停止図柄として停止表示し得る一方、時間短縮遊技状態の仮停止図柄として停止表示しないよう構成し、特定の特殊図柄においては、非時間短縮遊技状態においても時間短縮遊技状態においても仮停止図柄として停止表示し得るよう構成してもよい。

【3030】

また、主遊技図柄の確定停止を契機として、第1装飾図柄のアニメーションが停止する一方、第1保留表示のアニメーションは停止しないよう構成してもよい。アニメーションとは、第1装飾図柄の場合、揺れ変動等の図柄が動いていることや、図柄を構成する数字における模様が動いていたり、図柄を構成するキャラクタが動作したりしていること等であり、第1保留表示の場合、第1保留表示が回転していることや、第1保留表示における模様が動きを伴っていること等である。なお、第1装飾図柄のアニメーションが停止している期間の一例としては、変動固定時間等が例示できる。なお、第2装飾図柄及び第2保留表示については、変動中であっても変動固定中（停止表示中、変動固定時間中）であっても、アニメーション自体が実行されず、第2装飾図柄は変動表示及び変動固定（停止表示）のみであり、第2保留表示は保留数の表示（加算、減算含む）を行うのみである。

10

【3031】

また、第1装飾図柄は、すべての図柄が仮停止表示してから再度変動表示して、仮停止表示時とは異なる図柄組合せで停止表示する場合があるが、第2装飾図柄にはそのような場合がないよう構成してもよい。具体例としては、

（1）第1装飾図柄が変動開始→スーパーリーチ演出に発展→スーパーリーチ演出の結果として、「666」が仮停止表示→すべての図柄が再度変動開始→「777」が仮停止→揺れ変動→確定停止

（2）第1装飾図柄が変動開始→中図柄が特殊図柄の図柄組合せ「6続6」にて仮停止表示→すべての図柄が再度変動開始→スーパーリーチ演出に発展→スーパーリーチ演出の結果として、「666」が仮停止表示→揺れ変動→確定停止

20

上記のように構成してもよい。（1）及び（2）における第2装飾図柄は、第1装飾図柄の揺れ変動中まで（第1装飾図柄の確定停止直前まで）継続して変動表示し、第1装飾図柄の確定停止と同時に確定停止する。

このように構成することにより、第1装飾図柄は多彩な演出を実行して遊技を盛り上げる役割を担う一方、第2装飾図柄は遊技の結果を正確に報知することができる。

【3032】

また、第1装飾図柄は、副制御基板Sが制御する操作部材（例えば、サブ入力ボタン、十字ボタン等）の操作によって、態様変化し得るが、第2装飾図柄は、副制御基板Sが制御する操作部材（例えば、サブ入力ボタン、十字ボタン等）の操作によって、態様変化しない。ここで、態様変化とは、図柄のデザインの一部またはすべてが変更されることや、仮停止している第1装飾図柄が戻って仮停止する場合や、進んで（滑って）仮停止する場合等の変動態様に関する変化、特殊図柄の仮停止表示、第1装飾図柄の変動表示の速度の変化、等となっている。このように構成することにより、第1装飾図柄は多彩な演出を実行して遊技を盛り上げる役割を担う一方、第2装飾図柄は遊技の結果を正確に報知することができる。

30

【3033】

次に、図397は、非時間短縮遊技状態における第1主遊技側の特定の図柄変動（例えば、当りのノーマルリーチ演出を行うリーチ変動や当りのスーパーリーチ演出、バトルリーチ演出の前半・後半を行うリーチ変動）における各アクション等の実行タイミングを示したものである。なお、非時間短縮遊技状態ではなく時間短縮遊技状態の各種変動態様であってもよいし、ハズレのノーマルリーチ演出やスーパーリーチ演出、バトルリーチ演出の前半・後半を行うリーチ変動であってもよいし、第1主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の図柄変動ではなく第2主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の図柄変動であってもよい。なお、ハズレのスーパーリーチ演出、バトルリーチ演出の前半・後半を行うリーチ変動を対象とする場合、先読み演出のトリガ保留となり得ることは明らかである。また、特定の図柄の組合せ（時短図柄）としての時短専用図柄、ハズレ図柄（ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合）、小当り図柄（小当り図柄を時短図柄として併用する場合）、大当り図柄のいずれかが確定停止する図柄変動であってもよく、時短図柄の第1装飾図柄、第2装飾図柄は「777」等のゾロ目の態様で停止表示させてもよいし、リーチ外れの態様で停止表示させてもよいし、バラケ目の態様で停止表示させてもよ

40

50

いし、時短専用図柄として特殊な図柄の態様で停止表示させてもよい。

【3034】

図397では、各アクション等の実行タイミングを時系列に説明し、詳細な説明をここでは省略する。図397で示す各アクション等(a)～(n2)の詳細な態様は、図402～図405の(a)～(n2)に対応しているため、図402～図405で詳細を説明する。まず、(a)は、非時間短縮遊技状態において、第1主遊技側の保留が存在しており、第2主遊技側の保留は存在していない状況における第1主遊技図柄の図柄変動に対応する左列、中列、右列の第1装飾図柄がハズレ図柄で確定停止しているタイミングであり、(b)は、第1主遊技図柄の変動開始条件を充足したことに伴い、保留が消化されて、第1主遊技図柄の図柄変動に対応する左列、中列、右列の第1装飾図柄が変動表示を開始する際の変動開始時アクション1を実行するタイミングであり、(c)は、変動表示を開始した左列、中列、右列の第1装飾図柄が加速変動を実行するタイミングであり、(d)は、加速変動を実行した左列、中列、右列の第1装飾図柄が高速変動を実行するタイミングであり、(e)は、高速変動を実行した左列の第1装飾図柄が減速変動を実行するタイミングであり、(f)は、左列の第1装飾図柄が定位置アクション1を実行するタイミングであり、(g)は、高速変動を実行した右列の第1装飾図柄が減速変動を実行するタイミングであり、(h)は、右列の第1装飾図柄が定位置アクション1を実行するタイミングであり、(i)は、擬似連図柄が減速変動を実行するタイミングであり、(j)は、擬似連図柄が定位置アクション1を実行するタイミングであり、(k)は、中列の第1装飾図柄が定位置アクション1を実行するタイミングであり、(l)は、擬似連図柄が再変動を実行するタイミングであり、(m)は、左列、中列、右列の第1装飾図柄が再変動(擬似連)を開始する際の変動開始時アクション2を実行するタイミングであり、(n)は、再変動を開始した左列、中列、右列の第1装飾図柄が加速変動を実行するタイミングであり、(o)は、加速変動を実行した左列、中列、右列の第1装飾図柄が高速変動を実行するタイミングであり、(p)は、高速変動を実行した左列の第1装飾図柄が減速変動を実行するタイミングであり、(q)は、左列の第1装飾図柄が定位置アクション2を実行するタイミングであり、(r)は、高速変動を実行した右列の第1装飾図柄が減速変動を実行するタイミングであり、(s)は、右列の第1装飾図柄が定位置アクション2を実行するタイミングであり、(t)は、右列の第1装飾図柄が定位置アクション2を実行した後のタイミングであり、(u)は、左列および右列の第1装飾図柄がテンパイアクション1を実行するタイミングであり、(v)は、左列および右列の第1装飾図柄が揺れアクション1を実行するタイミングであり、(w)は、擬似連図柄が減速変動を実行するタイミングであり、(x)は、擬似連図柄が定位置アクション2を実行するタイミングであり、(y)は、中列の第1装飾図柄が定位置アクション2を実行するタイミングであり、(z)は、擬似連図柄が再変動を実行するタイミングであり、(a2)は、左列、中列、右列の再変動(擬似連)を開始する際の変動開始時アクション3を実行するタイミングであり、(b2)は、再変動を開始した左列、中列、右列の第1装飾図柄が加速変動を実行するタイミングであり、(c2)は、加速変動を実行した左列、中列、右列の第1装飾図柄が高速変動を実行するタイミングであり、(d2)は、高速変動を実行した左列の第1装飾図柄が減速変動を実行するタイミングであり、(e2)は、左列の第1装飾図柄が定位置アクション3を実行するタイミングであり、(f2)は、高速変動を実行した右列の第1装飾図柄が減速変動を実行するタイミングであり、(g2)は、右列の第1装飾図柄が定位置アクション3を実行するタイミングであり、(h2)は、右列の第1装飾図柄が定位置アクション3を実行した後のタイミングであり、(i2)は、左列および右列の第1装飾図柄がテンパイアクション2を実行するタイミングであり、(j2)は、左列および右列の第1装飾図柄が揺れアクション2を実行するタイミングであり、(k2)は、中列の第1装飾図柄が定位置アクション3を実行するタイミングであり、(l2)は、左列、中列、右列の第1装飾図柄が決めアクションを実行するタイミングであり、(m2)は、左列、中列、右列の第1装飾図柄が揺れ変動を実行するタイミングであり、(n2)は、左列、中列、右列の第1装飾図柄が確定停止を実行するタイミングである。

10

20

30

40

50

【3035】

図397で示す非時間短縮遊技状態における第1主遊技側の特定の図柄変動は、(b)のタイミングで第1主遊技図柄の図柄変動を開始する。そして、(f)～(k)のタイミングで左列、中列、右列の第1装飾図柄が各々一旦仮停止し、その後の(l)のタイミングで1回目の再変動(擬似連)を開始する。なお、第1装飾図柄に関しては(m)のタイミングで2回目の再変動(擬似連)を開始することになる。この1回目の再変動(擬似連)は非リーチ擬似連(テンパイ状態ではない状況における擬似連)と呼ぶ。そして、1回目の再変動(擬似連)の(u)のテンパイアクション1のタイミングから(y)の定位置アクション2までリーチ演出を実行し、(q)～(y)のタイミングで左列、中列、右列の第1装飾図柄が各々一旦仮停止し、その後の(z)のタイミングで2回目の再変動(擬似連)を開始する。なお、第1装飾図柄に関しては(a2)のタイミングで2回目の再変動(擬似連)を開始することになる。この2回目の再変動(擬似連)はリーチ後擬似連(テンパイ状態となった状況の後の擬似連)と呼ぶ。そして、2回目の再変動(擬似連)の(i2)のテンパイアクション2のタイミングから(k2)の定位置アクション3までリーチ演出を実行するように構成されている。また、演出音(BGM)については、(a)～(u)までステージBGMを出力し、(u)～(y)までリーチBGMを出力し、(z)～(i2)までステージBGMを出力し、(i2)～(k2)までリーチBGMを出力し、(l2)～(n2)まで当り(大当り、小当り)BGM(例えば、決めアクションの演出音)を出力するように構成されている。なお、ステージBGMは再変動(擬似連)を契機としてその内容を切り替えてもよく、例えば、(a)～(k)まではステージBGM1、(l)～(u)まではステージBGM2又は擬似連専用BGM1、(z)～(i2)まではステージBGM3又は擬似連専用BGM2を出力してもよい、もしくは、(a)～(k)まではステージBGM1、(l)～(u)まではステージBGM2又は擬似連専用BGM、(z)～(i2)まではステージBGM2又は擬似連専用BGMを出力してもよい。また、(j)や(x)などの擬似連図柄が定位置アクションを行う際には、擬似連図柄表示専用BGMを出力してもよい。

【3036】

図398は、変動待機状態における各アクション等の実行タイミングを示したものである。図398の(a3)は、図397の(a)～(n2)とは別の状況であって、非時間短縮遊技状態において第1主遊技側の保留も第2主遊技側の保留も存在していない状況における第1主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の変動がハズレ図柄で確定停止したタイミングを示している。そして、(a3)以降の(b3)～(f3)においても、非時間短縮遊技状態において第1主遊技側の保留も第2主遊技側の保留も存在していない状況における第1主遊技図柄の図柄変動に対応して図柄変動した第1装飾図柄がハズレ図柄で確定停止している状態(変動待機状態)が継続している状態を示している。なお、図398の(a3)は、非時間短縮遊技状態において第1主遊技側の保留も第2主遊技側の保留も存在していない状況における第1主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の変動がハズレ図柄で確定停止したタイミングを示したが、図398の(a3)は、非時間短縮遊技状態において第1主遊技側の保留も第2主遊技側の保留も存在していない状況における第2主遊技図柄の図柄変動に対応して図柄変動した第1装飾図柄がハズレ図柄で確定停止したタイミングであってもよいし、時間短縮遊技状態において第1主遊技側の保留も第2主遊技側の保留も存在していない状況における第2主遊技図柄の図柄変動に対応して図柄変動した第1装飾図柄がハズレ図柄で確定停止したタイミングであってもよい。そして、(a3)以降の(b3)～(f3)においても、非時間短縮遊技状態において第1主遊技側の保留も第2主遊技側の保留も存在していない状況における第1主遊技図柄の図柄変動に対応して図柄変動した第1装飾図柄がハズレ図柄で確定停止している状態(変動待機状態)が継続している状態を示したが、(b3)～(f3)は、非時間短縮遊技状態において第1主遊技側の保留も第2主遊技

側の保留も存在していない状況における第2主遊技図柄の図柄変動に対応して図柄変動した第1装飾図柄がハズレ図柄で確定停止している状態（変動待機状態）が継続している状態であってもよいし、時間短縮遊技状態において第1主遊技側の保留も第2主遊技側の保留も存在していない状況における第2主遊技図柄の図柄変動に対応して図柄変動した第1装飾図柄がハズレ図柄で確定停止している状態（変動待機状態）が継続している状態であってもよいし、時間短縮遊技状態において第1主遊技側の保留も第2主遊技側の保留も存在していない状況における第1主遊技図柄の図柄変動に対応して図柄変動した第1装飾図柄がハズレ図柄で確定停止している状態（変動待機状態）が継続している状態であってもよい。さらに、図398の（a3）は、非時間短縮遊技状態において第1主遊技側の保留も第2主遊技側の保留も存在していない状況における第1主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の変動がハズレ図柄で確定停止したタイミングを示したが、図398の（a3）として、当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）終了タイミング（または、当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）終了デモ終了タイミング、当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）終了直後、時間短縮遊技状態開始直後）として、当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）の終了後に第1主遊技側の保留も第2主遊技側の保留も存在していない状況において、当り（大当り、小当り）図柄として「777」等が表示されたタイミングであってもよい。そして、このように構成する場合、（a3）以降の（b3）～（f3）は、当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）の終了後に第1主遊技側の保留も第2主遊技側の保留も存在していない状況において、当り（大当り、小当り）図柄として「777」等が表示された状態（変動待機状態）が継続している状態となる。

【3037】

図398では、各アクション等の実行タイミングを時系列に説明し、詳細な説明をここでは省略する。図398で示す各アクション等（a3）～（f3）の詳細な態様は、図406の（a3）～（f3）に対応しているため、図406で詳細を説明する。まず、（a3）は、非時間短縮遊技状態において第1主遊技側の保留も第2主遊技側の保留も存在していない状況における第1主遊技図柄の図柄変動に対応して図柄変動した第1装飾図柄がハズレ図柄で確定停止しているタイミングであり、（b3）は、変動待機状態において音量調整画面、光量調整画面が表示されるタイミングであり、（c3）は、変動待機状態において表示されている音量調整画面、光量調整画面が消去されるタイミングであり、（d3）は、第1装飾図柄が変動待機状態中の1回目の揺れアクションを実行するタイミングであり、（e3）は、変動待機状態において待機中ムービーを実行するタイミングであり、（f3）は、第1装飾図柄が変動待機状態中の2回目の揺れアクションを実行するタイミングである。なお、変動待機状態において表示されている音量調整画面、光量調整画面が消去されるタイミングを（d3）とし、第1装飾図柄が変動待機状態中の1回目の揺れアクションを実行するタイミングを（c3）としてもよい。

【3038】

BGM（演出音）については、（a3）～（d3）までステージBGMを出力し、（d3）の揺れアクションから所定時間の経過後にステージBGMの出力を停止（出力を0とする）する。そして、ステージBGMの出力が停止された以降の（e3）、（f3）もステージBGMが出力されていない状態となっている。ここで、ステージBGMの出力を停止（出力を0とする）するタイミングは、（d3）よりも後のタイミング且つ（e3）よりも前のタイミングであることが好適であるが、（e3）のタイミングと同じタイミングとしてもよい。

【3039】

次に、図399は、非時間短縮遊技状態における第1主遊技側の特定の図柄変動（例えば、当りのノーマルリーチ演出を行うリーチ変動や当りのスーパーリーチ演出、バトルリーチ演出の前半・後半を行うリーチ変動）における左列、右列、中列の第1装飾図柄の各アクションの実行タイミングおよび実行時間を示す図である。なお、非時間短縮遊技状態ではなく時間短縮遊技状態の各種変動態様であってもよいし、第1主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の図柄変動ではなく第2主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装

飾図柄の図柄変動であってもよい。なお、当りのノーマルリーチ演出を行うリーチ変動や当りのスーパーリーチ演出、バトルリーチ演出の前半・後半を行うリーチ変動を対象とする場合、先読み演出のトリガ保留となり得ることは明らかである。また、特定の図柄の組合せ（時短図柄）としての時短専用図柄、ハズレ図柄（ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合）、小当り図柄（小当り図柄を時短図柄として併用する場合）、大当り図柄のいずれかが確定停止する図柄変動であってもよく、時短図柄の第1装飾図柄、第2装飾図柄は「777」等のゾロ目の態様で停止表示させてもよいし、リーチ外れの態様で停止表示させてもよいし、バラケ目の態様で停止表示させてもよいし、時短専用図柄として特殊な図柄の態様で停止表示させてもよい。

【3040】

まず、非時間短縮遊技状態において第1主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄が特定の図柄変動を開始する際に、左列の第1装飾図柄は、変動開始時アクション1をH1秒実行する。その後、定位置アクション1をT1秒、揺れアクションをY1秒、変動開始時アクション2をH4秒、定位置アクション2をT4秒、揺れアクションをY3秒、テンパイアクション1をTP1秒、揺れアクション1をY4秒、変動開始時アクション3をH7秒、定位置アクション3をT7秒、揺れアクションをY6秒、テンパイアクション2をTP3秒、揺れアクション2をY7秒、決めアクションをK1秒実行する。決めアクションの後には左列の第1装飾図柄を揺れ変動させ、その後、第1装飾図柄の確定停止を変動固定時間に亘って実行する。右列の第1装飾図柄は、変動開始時アクション1をH2秒、定位置アクション1をT2秒、揺れアクションをY2秒、変動開始時アクション2をH5秒、定位置アクション2をT5秒、テンパイアクション1をTP2秒、揺れアクション1をY5秒、変動開始時アクション3をH8秒、定位置アクション3をT8秒、テンパイアクション2をTP4秒、揺れアクション2をY8秒、決めアクションをK2秒実行する。決めアクションの後には右列の第1装飾図柄を揺れ変動させ、その後、第1装飾図柄の確定停止を変動固定時間に亘って実行する。中列の第1装飾図柄は、変動開始時アクション1をH3秒、定位置アクション1をT3秒、変動開始時アクション2をH6秒、定位置アクション2をT6秒、変動開始時アクション3をH9秒、定位置アクション3をT9秒、決めアクションをK3秒実行する。決めアクションの後には中列の第1装飾図柄を揺れ変動させ、その後、第1装飾図柄の確定停止を変動固定時間に亘って実行する。なお、当りのスーパーリーチ演出、当りのバトルリーチ演出の前半・後半を行うリーチ変動を対象とする場合、図399に示す当り場合の中列の定位置アクション3を実行しないように構成している。

【3041】

また、暫定表示態様として1回目の擬似連変動で用いられる特殊図柄（擬似連図柄）は、中列の定位置アクション1のタイミング、その後の2回目の擬似連変動で用いられる特殊図柄（擬似連図柄）は、中列の定位置アクション2のタイミングで表示される。その際、特殊図柄は、定位置アクションを実行して表示してもよい。そして、図361で示す群予告は、左列及び右列のテンパイアクション2の実行後であって揺れアクション2の実行中の所定のタイミング（例えば、Y7秒の中間よりも前半のタイミング）で所定時間実行されるが、左列及び右列のテンパイアクション1の実行後であって揺れアクション1の実行中では実行されないように構成されている。また、図365で示す保留変化演出は、左列、中列、右列の第1装飾図柄の変動開始時アクション1の実行後であって左列の第1装飾図柄の定位置アクション1までの間（変化タイミング1）、左列、中列、右列の第1装飾図柄の変動開始時アクション2の実行後であって左列の第1装飾図柄の定位置アクション2までの間（変化タイミング2）、左列、中列、右列の第1装飾図柄の変動開始時アクション3の実行後であって左列の第1装飾図柄の定位置アクション3までの間（変化タイミング3）に実行可能とされており、変化タイミング1～3の全てのタイミングで保留変化演出を実行してもよいし、いずれか1のタイミングまたはタイミング1～3のうち2のタイミングで保留変化演出を実行してもよい。

【3042】

図 3 9 9 の各アクションの実行時間、変動固定時間は、以下のような関係に構成されている。

- (1) 変動開始時アクション H 秒 (H 1 ~ H 9 秒のいずれか 1 つ) < 揺れアクション Y 秒 (Y 1 ~ Y 8 秒のいずれか 1 つ)
- (1-1) 左列の変動開始時アクション H 秒 (H 1、H 4、H 7 秒のいずれか 1 つ) < 左列の揺れアクション Y 秒 (Y 1、Y 3、Y 4、Y 6、Y 7 秒のいずれか 1 つ)
- (1-2) 右列の変動開始時アクション H 秒 (H 2、H 5、H 8 秒のいずれか 1 つ) < 右列の揺れアクション Y 秒 (Y 2、Y 5、Y 8 秒のいずれか 1 つ)
- (2) 定位置アクション T 秒 (T 1 ~ T 9 秒のいずれか 1 つ) < 揺れアクション Y 秒 (Y 1 ~ Y 8 秒のいずれか 1 つ)
- (2-1) 左列の定位置アクション T 秒 (T 1、T 4、T 7 秒のいずれか 1 つ) < 左列の揺れアクション Y 秒 (Y 1、Y 3、Y 4、Y 6、Y 7 秒のいずれか 1 つ)
- (2-2) 右列の定位置アクション T 秒 (T 2、T 5、T 8 秒のいずれか 1 つ) < 右列の揺れアクション Y 秒 (Y 2、Y 5、Y 8 秒のいずれか 1 つ)
- (3) テンパイアクション TP 秒 (TP 1 ~ TP 4 秒のいずれか 1 つ) < 揺れアクション Y 秒 (Y 1 ~ Y 8 秒のいずれか 1 つ)
- (3-1) 左列のテンパイアクション TP 秒 (TP 1、TP 3 秒のいずれか 1 つ) < 左列の揺れアクション Y 秒 (Y 1、Y 3、Y 4、Y 6、Y 7 秒のいずれか 1 つ)
- (3-2) 右列のテンパイアクション TP 秒 (TP 2、TP 4 秒のいずれか 1 つ) < 右列の揺れアクション Y 秒 (Y 2、Y 5、Y 8 秒のいずれか 1 つ)
- (4) 決めアクション K 秒 (K 1 ~ K 3 秒のいずれか 1 つ) < 揺れアクション Y 秒 (Y 1 ~ Y 8 秒のいずれか 1 つ)
- (4-1) 左列の決めアクション K 1 秒 < 左列の揺れアクション Y 秒 (Y 1、Y 3、Y 4、Y 6、Y 7 秒のいずれか 1 つ)
- (4-2) 右列の決めアクション K 2 秒 < 右列の揺れアクション Y 秒 (Y 2、Y 5、Y 8 秒のいずれか 1 つ)
- (5) 変動開始時アクションの合計時間 (H 1 ~ H 9 秒の合計時間) < 揺れアクションの合計時間 (Y 1 ~ Y 8 秒の合計時間)
- (5-1) 左列の変動開始時アクションの合計時間 (H 1、H 4、H 7 秒の合計時間) < 左列の揺れアクションの合計時間 (Y 1、Y 3、Y 4、Y 6、Y 7 秒の合計時間)
- (5-2) 右列の変動開始時アクションの合計時間 (H 2、H 5、H 8 秒の合計時間) < 右列の揺れアクションの合計時間 (Y 2、Y 5、Y 8 秒の合計時間)
- (6) 定位置アクションの合計時間 (T 1 ~ T 9 秒の合計時間) < 揺れアクションの合計時間 (Y 1 ~ Y 8 秒の合計時間)
- (6-1) 左列の定位置アクションの合計時間 (T 1、T 4、T 7 秒の合計時間) < 左列の揺れアクションの合計時間 (Y 1、Y 3、Y 4、Y 6、Y 7 秒の合計時間)
- (6-2) 右列の定位置アクションの合計時間 (T 2、T 5、T 8 秒の合計時間) < 右列の揺れアクションの合計時間 (Y 2、Y 5、Y 8 秒の合計時間)
- (7) テンパイアクションの合計時間 (TP 1 ~ TP 4 秒の合計時間) < 揺れアクションの合計時間 (Y 1 ~ Y 8 秒の合計時間)
- (7-1) 左列のテンパイアクションの合計時間 (TP 1、TP 3 秒の合計時間) < 左列の揺れアクションの合計時間 (Y 1、Y 3、Y 4、Y 6、Y 7 秒の合計時間)
- (7-2) 右列のテンパイアクションの合計時間 (TP 2、TP 4 秒の合計時間) < 右列の揺れアクションの合計時間 (Y 2、Y 5、Y 8 秒の合計時間)
- (8) 決めアクションの合計時間 (K 1 ~ K 3 秒の合計時間) < 揺れアクションの合計時間 Y 秒 (Y 1 ~ Y 8 秒の合計時間)
- (8-1) 左列の決めアクション K 1 秒 < 左列の揺れアクションの合計時間 (Y 1、Y 3、Y 4、Y 6、Y 7 秒の合計時間)
- (8-2) 右列の決めアクション K 2 秒 < 右列の揺れアクションの合計時間 (Y 2、Y 5、Y 8 秒の合計時間)

10

20

30

40

50

(9) 変動開始時アクションの合計時間 (H 1 ~ H 9 秒の合計時間) < 揺れアクション Y 秒 (Y 1 ~ Y 8 秒のいずれか 1 つ)

(9-1) 左列の変動開始時アクションの合計時間 (H 1、H 4、H 7 秒の合計時間) < 左列の揺れアクション Y 秒 (Y 1、Y 3、Y 4、Y 6、Y 7 秒のいずれか 1 つ)

(9-2) 右列の変動開始時アクションの合計時間 (H 2、H 5、H 8 秒の合計時間) < 右列の揺れアクション Y 秒 (Y 2、Y 5、Y 8 秒のいずれか 1 つ)

(10) 定位置アクションの合計時間 (T 1 ~ T 9 秒の合計時間) < 揺れアクション Y 秒 (Y 1 ~ Y 8 秒のいずれか 1 つ)

(10-1) 左列の定位置アクションの合計時間 (T 1、T 4、T 7 秒の合計時間) < 左列の揺れアクション Y 秒 (Y 1、Y 3、Y 4、Y 6、Y 7 秒のいずれか 1 つ)

(10-2) 右列の定位置アクションの合計時間 (T 2、T 5、T 8 秒の合計時間) < 右列の揺れアクション Y 秒 (Y 2、Y 5、Y 8 秒のいずれか 1 つ)

(11) テンパイアクションの合計時間 (T P 1 ~ T P 4 秒の合計時間) < 揺れアクション Y 秒 (Y 1 ~ Y 8 秒のいずれか 1 つ)

(11-1) 左列のテンパイアクションの合計時間 (T P 1、T P 3 秒の合計時間) < 左列の揺れアクション Y 秒 (Y 1、Y 3、Y 4、Y 6、Y 7 秒のいずれか 1 つ)

(11-2) 右列のテンパイアクションの合計時間 (T P 2、T P 4 秒の合計時間) < 右列の揺れアクション Y 秒 (Y 2、Y 5、Y 8 秒のいずれか 1 つ)

(12) 決めアクションの合計時間 (K 1 ~ K 3 秒の合計時間) < 揺れアクション Y 秒 (Y 1 ~ Y 8 秒のいずれか 1 つ)

(13) 変動開始時アクションの合計時間 (H 1 ~ H 9 秒の合計時間) + 定位置アクションの合計時間 (T 1 ~ T 9 秒の合計時間) + テンパイアクションの合計時間 (T P 1 ~ T P 4 秒の合計時間) + 決めアクションの合計時間 (K 1 ~ K 3 秒の合計時間) < 揺れアクションの合計時間 (Y 1 ~ Y 8 秒の合計時間)

(13-1) 左列の変動開始時アクションの合計時間 (H 1、H 4、H 7 秒の合計時間) + 左列の定位置アクションの合計時間 (T 1、T 4、T 7 秒の合計時間) + 左列のテンパイアクションの合計時間 (T P 1、T P 3 秒の合計時間) + 左列の決めアクション K 1 秒 < 左列の揺れアクションの合計時間 (Y 1、Y 3、Y 4、Y 6、Y 7 秒の合計時間)

(13-2) 右列の変動開始時アクションの合計時間 (H 2、H 5、H 8 秒の合計時間) + 右列の定位置アクションの合計時間 (T 2、T 5、T 8 秒の合計時間) + 右列のテンパイアクションの合計時間 (T P 2、T P 4 秒の合計時間) + 右列の決めアクション K 2 秒 < 右列の揺れアクションの合計時間 (Y 2、Y 5、Y 8 秒の合計時間)

(14) 変動開始時アクションの合計時間 (H 1 ~ H 9 秒の合計時間) + 定位置アクションの合計時間 (T 1 ~ T 9 秒の合計時間) + テンパイアクションの合計時間 (T P 1 ~ T P 4 秒の合計時間) + 決めアクションの合計時間 (K 1 ~ K 3 秒の合計時間) < 揺れアクション Y 秒 (Y 1 ~ Y 8 秒のいずれか 1 つ)

(14-1) 左列の変動開始時アクションの合計時間 (H 1、H 4、H 7 秒の合計時間) + 左列の定位置アクションの合計時間 (T 1、T 4、T 7 秒の合計時間) + 左列のテンパイアクションの合計時間 (T P 1、T P 3 秒の合計時間) + 左列の決めアクション K 1 秒 < 左列の揺れアクション Y 秒 (Y 1、Y 3、Y 4、Y 6、Y 7 秒のいずれか 1 つ)

(14-2) 右列の変動開始時アクションの合計時間 (H 2、H 5、H 8 秒の合計時間) + 右列の定位置アクションの合計時間 (T 2、T 5、T 8 秒の合計時間) + 右列のテンパイアクションの合計時間 (T P 2、T P 4 秒の合計時間) + 右列の決めアクション K 2 秒 < 右列の揺れアクション Y 秒 (Y 2、Y 5、Y 8 秒のいずれか 1 つ)

(15) 変動開始時アクション H 秒 (H 1 ~ H 9 秒のいずれか 1 つ) < 変動固定時間

(16) 定位置アクション T 秒 (T 1 ~ T 9 秒のいずれか 1 つ) < 変動固定時間

(17) テンパイアクション T P 秒 (T P 1 ~ T P 4 秒のいずれか 1 つ) < 変動固定時間

(18) 決めアクション K 秒 (K 1 ~ K 3 秒のいずれか 1 つ) < 変動固定時間

(19) 揺れアクション Y 秒 (Y 1 ~ Y 8 秒のいずれか 1 つ) > 変動固定時間

(20) 変動開始時アクション H 秒 (H 1 ~ H 9 秒のいずれか 1 つ) + 定位置アクション

10

20

30

40

50

T秒（T1～T9秒のいずれか1つ）+テンパイアクションTP秒（TP1～TP4秒のいずれか1つ）+決めアクションK秒（K1～K3秒のいずれか1つ）>変動固定時間

（21）変動開始時アクションの合計時間（H1～H9秒の合計時間）+定位置アクションの合計時間（T1～T9秒の合計時間）+テンパイアクションの合計時間（TP1～TP4秒の合計時間）+決めアクションの合計時間（K1～K3秒の合計時間）>変動固定時間

（22）変動開始時アクションの合計時間（H1～H9秒の合計時間）+定位置アクションの合計時間（T1～T9秒の合計時間）+テンパイアクションの合計時間（TP1～TP4秒の合計時間）+決めアクションの合計時間（K1～K3秒の合計時間）<揺れアクションの合計時間（Y1、Y3、Y4、Y6、Y7秒の合計時間）

（23）変動開始時アクションの合計時間（H1～H9秒の合計時間）+定位置アクションの合計時間（T1～T9秒の合計時間）+テンパイアクションの合計時間（TP1～TP4秒の合計時間）+決めアクションの合計時間（K1～K3秒の合計時間）<揺れアクションY秒（Y1、Y3、Y4、Y6、Y7秒のいずれか1つ）

なお、上記（15）～（18）については、変動固定時間のほうが短くなるよう構成してもよく、つまりは、「変動開始時アクションH秒（H1～H9秒のいずれか1つ）>変動固定時間」、「定位置アクションT秒（T1～T9秒のいずれか1つ）>変動固定時間」、「テンパイアクションTP秒（TP1～TP4秒のいずれか1つ）>変動固定時間」、「決めアクションK秒（K1～K3秒のいずれか1つ）>変動固定時間」としてもよい。

なお、ここでいう「いずれか」は、いずれかが充足すればよく、いずれも充足する必要はない。例えば、（3-2）の場合、TP2<Y2、TP2<Y5、TP2<Y8、TP4<Y2、TP4<Y5、TP4<Y8のうち、少なくとも1つの関係が充足されればよい。なお、変動固定時間は、第1主遊技図柄の変動固定時間、第2主遊技図柄の変動固定時間であり、合計する概念がないため、単独の時間としている。

【3043】

次に、図400は、非時間短縮遊技状態における第1主遊技側の特定の図柄変動（例えば、ハズレのノーマルリーチ演出やスーパーリーチ演出、バトルリーチ演出の前半・後半を行うリーチ変動）における左列、右列、中列の第1装飾図柄の各アクションの実行タイミングおよび実行時間を示す図である。なお、非時間短縮遊技状態ではなく時間短縮遊技状態の各種変動態様であってもよいし、第1主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の図柄変動ではなく第2主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の図柄変動であってもよい。なお、ハズレのスーパーリーチ演出、バトルリーチ演出の前半・後半を行うリーチ変動を対象とする場合、先読み演出のトリガ保留となり得ることは明らかである。また、特定の図柄の組合せ（時短図柄）としての時短専用図柄、ハズレ図柄（ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合）、小当り図柄（小当り図柄を時短図柄として併用する場合）、大当り図柄のいずれかが確定停止する図柄変動であってもよく、時短図柄の第1装飾図柄、第2装飾図柄は「777」等のゾロ目の態様で停止表示させてもよいし、リーチ外れの態様で停止表示させてもよいし、バラケ目の態様で停止表示させてもよいし、時短専用図柄として特殊な図柄の態様で停止表示させてもよい。

【3044】

まず、非時間短縮遊技状態において第1主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄が特定の図柄変動を開始する際に、左列の第1装飾図柄は、変動開始時アクション1をH1秒実行する。その後、定位置アクション1をT1秒、揺れアクションをY1秒、変動開始時アクション2をH4秒、定位置アクション2をT4秒、揺れアクションをY3秒、テンパイアクション1をTP1秒、揺れアクション1をY4秒、変動開始時アクション3をH7秒、定位置アクション3をT7秒、揺れアクションをY6秒、テンパイアクション2をTP3秒、揺れアクション2をY7秒実行する。揺れアクション2の後は左列の第1装飾図柄をハズレ図柄で揺れ変動させ、その後、第1装飾図柄の確定停止を変動固定時間に亘って実行する。右列の第1装飾図柄は、変動開始時アクション1をH2秒、定位置アクション1をT2秒、揺れアクションをY2秒、変動開始時アクション2をH5秒、定位置

10

20

30

40

50

アクション2をT5秒、テンパイアクション1をTP2秒、揺れアクション1をY5秒、変動開始時アクション3をH8秒、定位置アクション3をT8秒、テンパイアクション2をTP4秒、揺れアクション2をY8秒実行する。揺れアクション2の後は右列の第1装飾図柄をハズレ図柄で揺れ変動させ、その後、第1装飾図柄の確定停止を変動固定時間に亘って実行する。中列の第1装飾図柄は、変動開始時アクション1をH3秒、定位置アクション1をT3秒、変動開始時アクション2をH6秒、定位置アクション2をT6秒、変動開始時アクション3をH9秒実行する。そして、左列と右列の揺れ変動に合わせて中列の第1装飾図柄をハズレ図柄で揺れ変動させ、その後、第1装飾図柄の確定停止を変動固定時間に亘って実行する。なお、ハズレのスーパーリーチ演出、ハズレのバトルリーチ演出の前半・後半を行うリーチ変動を対象とする場合、図399に示す当り場合の中列の定位置アクション3、左列、中列、右列の第1装飾図柄の決めアクションを実行しないように構成している。

【3045】

図400の各アクションの実行時間、変動固定時間は、以下のような関係に構成されている。

- (1) 変動開始時アクションH秒 (H1～H9秒のいずれか1つ) < 揺れアクションY秒 (Y1～Y8秒のいずれか1つ)
- (1-1) 左列の変動開始時アクションH秒 (H1、H4、H7秒のいずれか1つ) < 左列の揺れアクションY秒 (Y1、Y3、Y4、Y6、Y7秒のいずれか1つ)
- (1-2) 右列の変動開始時アクションH秒 (H2、H5、H8秒のいずれか1つ) < 右列の揺れアクションY秒 (Y2、Y5、Y8秒のいずれか1つ)
- (2) 定位置アクションT秒 (T1～T8秒のいずれか1つ) < 揺れアクションY秒 (Y1～Y8秒のいずれか1つ)
- (2-1) 左列の定位置アクションT秒 (T1、T4、T7秒のいずれか1つ) < 左列の揺れアクションY秒 (Y1、Y3、Y4、Y6、Y7秒のいずれか1つ)
- (2-2) 右列の定位置アクションT秒 (T2、T5、T8秒のいずれか1つ) < 右列の揺れアクションY秒 (Y2、Y5、Y8秒のいずれか1つ)
- (3) テンパイアクションTP秒 (TP1～TP4秒のいずれか1つ) < 揺れアクションY秒 (Y1～Y8秒のいずれか1つ)
- (3-1) 左列のテンパイアクションTP秒 (TP1、TP3秒のいずれか1つ) < 左列の揺れアクションY秒 (Y1、Y3、Y4、Y6、Y7秒のいずれか1つ)
- (3-2) 右列のテンパイアクションTP秒 (TP2、TP4秒のいずれか1つ) < 右列の揺れアクションY秒 (Y2、Y5、Y8秒のいずれか1つ)
- (4) 変動開始時アクションの合計時間 (H1～H9秒の合計時間) < 揺れアクションの合計時間 (Y1～Y8秒の合計時間)
- (4-1) 左列の変動開始時アクションの合計時間 (H1、H4、H7秒の合計時間) < 左列の揺れアクションの合計時間 (Y1、Y3、Y4、Y6、Y7秒の合計時間)
- (4-2) 右列の変動開始時アクションの合計時間 (H2、H5、H8秒の合計時間) < 右列の揺れアクションの合計時間 (Y2、Y5、Y8秒の合計時間)
- (5) 定位置アクションの合計時間 (T1～T8秒の合計時間) < 揺れアクションの合計時間 (Y1～Y8秒の合計時間)
- (5-1) 左列の定位置アクションの合計時間 (T1、T4、T7秒の合計時間) < 左列の揺れアクションの合計時間 (Y1、Y3、Y4、Y6、Y7秒の合計時間)
- (5-2) 右列の定位置アクションの合計時間 (T2、T5、T8秒の合計時間) < 右列の揺れアクションの合計時間 (Y2、Y5、Y8秒の合計時間)
- (6) テンパイアクションの合計時間 (TP1～TP4秒の合計時間) < 揺れアクションの合計時間 (Y1～Y8秒の合計時間)
- (6-1) 左列のテンパイアクションの合計時間 (TP1、TP3秒の合計時間) < 左列の揺れアクションの合計時間 (Y1、Y3、Y4、Y6、Y7秒の合計時間)
- (6-2) 右列のテンパイアクションの合計時間 (TP2、TP4秒の合計時間) < 右列

10

20

30

40

50

の揺れアクションの合計時間（Y 2、Y 5、Y 8 秒の合計時間）

（7）変動開始時アクションの合計時間（H 1～H 9 秒の合計時間）＜揺れアクション Y 秒（Y 1～Y 8 秒のいずれか 1 つ）

（7-1）左列の変動開始時アクションの合計時間（H 1、H 4、H 7 秒の合計時間）＜左列の揺れアクション Y 秒（Y 1、Y 3、Y 4、Y 6、Y 7 秒のいずれか 1 つ）

（7-2）右列の変動開始時アクションの合計時間（H 2、H 5、H 8 秒の合計時間）＜右列の揺れアクション Y 秒（Y 2、Y 5、Y 8 秒のいずれか 1 つ）

（8）定位置アクションの合計時間（T 1～T 8 秒の合計時間）＜揺れアクション Y 秒（Y 1～Y 8 秒のいずれか 1 つ）

（8-1）左列の定位置アクションの合計時間（T 1、T 4、T 7 秒の合計時間）＜左列の揺れアクション Y 秒（Y 1、Y 3、Y 4、Y 6、Y 7 秒のいずれか 1 つ）

10

（8-2）右列の定位置アクションの合計時間（T 2、T 5、T 8 秒の合計時間）＜右列の揺れアクション Y 秒（Y 2、Y 5、Y 8 秒のいずれか 1 つ）

（9）テンパイアクションの合計時間（TP 1～TP 4 秒の合計時間）＜揺れアクション Y 秒（Y 1～Y 8 秒のいずれか 1 つ）

（9-1）左列のテンパイアクションの合計時間（TP 1、TP 3 秒の合計時間）＜左列の揺れアクション Y 秒（Y 1、Y 3、Y 4、Y 6、Y 7 秒のいずれか 1 つ）

（9-2）右列のテンパイアクションの合計時間（TP 2、TP 4 秒の合計時間）＜右列の揺れアクション Y 秒（Y 2、Y 5、Y 8 秒のいずれか 1 つ）

（10）変動開始時アクションの合計時間（H 1～H 9 秒の合計時間）＋定位置アクションの合計時間（T 1～T 8 秒の合計時間）＋テンパイアクションの合計時間（TP 1～TP 4 秒の合計時間）＜揺れアクションの合計時間（Y 1～Y 8 秒の合計時間）

20

（10-1）左列の変動開始時アクションの合計時間（H 1、H 4、H 7 秒の合計時間）＋左列の定位置アクションの合計時間（T 1、T 4、T 7 秒の合計時間）＋左列のテンパイアクションの合計時間（TP 1、TP 3 秒の合計時間）＜左列の揺れアクションの合計時間（Y 1、Y 3、Y 4、Y 6、Y 7 秒の合計時間）

（10-2）右列の変動開始時アクションの合計時間（H 2、H 5、H 8 秒の合計時間）＋右列の定位置アクションの合計時間（T 2、T 5、T 8 秒の合計時間）＋右列のテンパイアクションの合計時間（TP 2、TP 4 秒の合計時間）＜右列の揺れアクションの合計時間（Y 2、Y 5、Y 8 秒の合計時間）

30

（11）変動開始時アクションの合計時間（H 1～H 9 秒の合計時間）＋定位置アクションの合計時間（T 1～T 8 秒の合計時間）＋テンパイアクションの合計時間（TP 1～TP 4 秒の合計時間）＜揺れアクション Y 秒（Y 1～Y 8 秒のいずれか 1 つ）

（11-1）左列の変動開始時アクションの合計時間（H 1、H 4、H 7 秒の合計時間）＋左列の定位置アクションの合計時間（T 1、T 4、T 7 秒の合計時間）＋左列のテンパイアクションの合計時間（TP 1、TP 3 秒の合計時間）＜左列の揺れアクション Y 秒（Y 1、Y 3、Y 4、Y 6、Y 7 秒のいずれか 1 つ）

（11-2）右列の変動開始時アクションの合計時間（H 2、H 5、H 8 秒の合計時間）＋右列の定位置アクションの合計時間（T 2、T 5、T 8 秒の合計時間）＋右列のテンパイアクションの合計時間（TP 2、TP 4 秒の合計時間）＜右列の揺れアクション Y 秒（Y 2、Y 5、Y 8 秒のいずれか 1 つ）

40

（12）変動開始時アクション H 秒（H 1～H 9 秒のいずれか 1 つ）＜変動固定時間

（13）定位置アクション T 秒（T 1～T 8 秒のいずれか 1 つ）＜変動固定時間

（14）テンパイアクション TP 秒（TP 1～TP 4 秒のいずれか 1 つ）＜変動固定時間

（15）揺れアクション Y 秒（Y 1～Y 8 秒のいずれか 1 つ）＞変動固定時間

（16）変動開始時アクション H 秒（H 1～H 9 秒のいずれか 1 つ）＋定位置アクション T 秒（T 1～T 8 秒のいずれか 1 つ）＋テンパイアクション TP 秒（TP 1～TP 4 秒のいずれか 1 つ）＞変動固定時間

（17）変動開始時アクションの合計時間（H 1～H 9 秒の合計時間）＋定位置アクションの合計時間（T 1～T 8 秒の合計時間）＋テンパイアクションの合計時間（TP 1～T

50

P 4 秒の合計時間) > 変動固定時間

(18) 変動開始時アクションの合計時間 (H 1 ~ H 9 秒の合計時間) + 定位置アクションの合計時間 (T 1 ~ T 8 秒の合計時間) + テンパイアクションの合計時間 (TP 1 ~ TP 4 秒の合計時間) < 揺れアクションの合計時間 (Y 1、Y 3、Y 4、Y 6、Y 7 秒の合計時間)

(19) 変動開始時アクションの合計時間 (H 1 ~ H 9 秒の合計時間) + 定位置アクションの合計時間 (T 1 ~ T 8 秒の合計時間) + テンパイアクションの合計時間 (TP 1 ~ TP 4 秒の合計時間) < 揺れアクション Y 秒 (Y 1、Y 3、Y 4、Y 6、Y 7 秒のいずれか 1 つ)

なお、上記 (12) ~ (14) については、変動固定時間のほうが短くなるよう構成してもよく、つまりは、「変動開始時アクション H 秒 (H 1 ~ H 9 秒のいずれか 1 つ) > 変動固定時間」、「定位置アクション T 秒 (T 1 ~ T 8 秒のいずれか 1 つ) > 変動固定時間」、「テンパイアクション TP 秒 (TP 1 ~ TP 4 秒のいずれか 1 つ) > 変動固定時間」としてもよい。なお、ここでいう「いずれか」は、いずれかが充足すればよく、いずれも充足する必要はない。例えば、(3-2) の場合、TP 2 < Y 2、TP 2 < Y 5、TP 2 < Y 8、TP 4 < Y 2、TP 4 < Y 5、TP 4 < Y 8 のうち、少なくとも 1 つの関係が充足されればよい。

【3046】

次に、図 401 は、非時間短縮遊技状態における第 1 主遊技側の特定の図柄変動 (例えば、チャンス目先読み演出を伴う通常の図柄変動、リーチ変動) における左・右・中列の第 1 装飾図柄の各アクションの実行タイミングおよび実行時間を示す図である。また、図 401 は、チャンス目先読み演出を伴う通常の図柄変動をトリガ前変動として実行し、第 1 装飾図柄がチャンス目を示す図柄組み合わせで確定的に停止表示した後、次の図柄変動で当りのリーチ演出を行うリーチ変動をトリガ変動として実行するように構成されており、これら 2 つの図柄変動は、時系列的に繋がっている前後の図柄変動である。なお、非時間短縮遊技状態ではなく時間短縮遊技状態であってもよいし、第 1 主遊技図柄の図柄変動に対応する第 1 装飾図柄の図柄変動ではなく第 2 主遊技図柄の図柄変動に対応する第 1 装飾図柄の図柄変動であってもよい。また、通常の図柄変動、リーチ変動を対象とする場合、先読み演出のトリガ前変動となり得ることは明らかである。また、特定の図柄の組合せ (時短図柄) としての時短専用図柄、ハズレ図柄 (ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合)、小当り図柄 (小当り図柄を時短図柄として併用する場合)、大当り図柄のいずれかが確定停止する図柄変動であってもよく、時短図柄の第 1 装飾図柄、第 2 装飾図柄は「777」等のゾロ目の態様で停止表示させてもよいし、リーチ外れの態様で停止表示させてもよいし、バラケ目の態様で停止表示させてもよいし、時短専用図柄として特殊な図柄の態様で停止表示させてもよい。

【3047】

まず、通常の図柄変動における左列の第 1 装飾図柄は、変動開始時アクションを H 1 秒、定位置アクションを T 1 秒、揺れアクションを Y 1 秒実行する。その後、左列の第 1 装飾図柄の確定停止を変動固定時間に亘って実行する。右列の第 1 装飾図柄は、変動開始時アクションを H 2 秒、定位置アクションを T 2 秒、揺れアクションを Y 2 秒実行する。その後、右列の第 1 装飾図柄の確定停止を変動固定時間に亘って実行する。中列の第 1 装飾図柄は、変動開始時アクションを H 3 秒、定位置アクションを T 3 秒、揺れアクションを Y 3 秒実行する。その後、中列の第 1 装飾図柄の確定停止を変動固定時間に亘って実行する。なお、チャンス目図柄を確定停止させる場合の定位置アクションは、図 399 及び図 400 における定位置アクションとは異なる態様の定位置アクションを行ってもよい (例えば、図 399 及び図 400 における仮停止時の定位置アクションは第 1 装飾図柄が跳ねるようなアクションであり、チャンス目図柄を確定停止させる場合の定位置アクションは第 1 装飾図柄が跳ねるようなアクションを行った後に拡大するようなアクションまで行うアクションである)。なお、図 401 のチャンス目先読み演出を伴う通常の図柄変動をトリガ前変動として実行し、第 1 装飾図柄がチャンス目を示す図柄組み合わせで確定的に

10

20

30

40

50

停止表示した後、次の図柄変動で図 3 9 9 の当りのノーマルリーチ演出を行うリーチ変動や当りのスーパーリーチ演出を行うリーチ変動、当りのバトルリーチ演出の前半・後半を行うリーチ変動をトリガ変動として実行するように構成してもよい。また、図 4 0 1 のチャンス目先読み演出を伴う通常の図柄変動をトリガ前変動として実行し、第 1 装飾図柄がチャンス目を示す図柄組み合わせで確定的に停止表示した後、次の図柄変動で図 4 0 0 のハズレのノーマルリーチ演出を行うリーチ変動やハズレのスーパーリーチ演出を行うリーチ変動、ハズレのバトルリーチ演出の前半・後半を行うリーチ変動をトリガ変動として実行するように構成してもよい。さらに、図 4 0 1 で示すリーチ変動は、先読み演出のトリガ保留としてもよい。この場合、図 4 0 1 のチャンス目先読み演出を伴う通常の図柄変動をトリガ前変動として実行し、第 1 装飾図柄がチャンス目を示す図柄組み合わせで確定的に停止表示した後、次の図柄変動で図 4 0 1 の当りのリーチ演出を行うリーチ変動をトリガ変動として実行するように構成される。つまり、図 4 0 1 のチャンス目先読み演出を伴う通常の図柄変動から、図 4 0 1 のリーチ変動に繋がることに限らず、図 4 0 1 のチャンス目先読み演出を伴う通常の図柄変動から、図 3 9 9 の当りのリーチ変動や図 4 0 0 のハズレのリーチ変動に繋がるように構成してもよい。

【3 0 4 8】

図 4 0 1 の通常の図柄変動における各アクションの実行時間、変動固定時間は、以下のような関係に構成されている。

- (1) 変動開始時アクション H 秒 (H 1 ~ H 3 秒のいずれか 1 つ) < 揺れアクション Y 秒 (Y 1 ~ Y 3 秒のいずれか 1 つ)
- (1-1) 左列の変動開始時アクション H 1 秒 < 左列の揺れアクション Y 1 秒
- (1-2) 右列の変動開始時アクション H 2 秒 < 右列の揺れアクション Y 2 秒
- (1-3) 中列の変動開始時アクション H 3 秒 < 中列の揺れアクション Y 3 秒
- (2) 定位置アクション T 秒 (T 1 ~ T 3 秒のいずれか 1 つ) < 揺れアクション Y 秒 (Y 1 ~ Y 3 秒のいずれか 1 つ)
- (2-1) 左列の定位置アクション T 1 秒 < 左列の揺れアクション Y 1 秒
- (2-2) 右列の定位置アクション T 2 秒 < 右列の揺れアクション Y 2 秒
- (2-3) 中列の定位置アクション T 3 秒 < 中列の揺れアクション Y 3 秒
- (3) 変動開始時アクションの合計時間 (H 1 ~ H 3 秒の合計時間) < 揺れアクションの合計時間 (Y 1 ~ Y 3 秒の合計時間)
- (4) 定位置アクションの合計時間 (T 1 ~ T 3 秒の合計時間) < 揺れアクションの合計時間 (Y 1 ~ Y 3 秒の合計時間)
- (5) 変動開始時アクションの合計時間 (H 1 ~ H 3 秒の合計時間) < 揺れアクション Y 秒 (Y 1 ~ Y 3 秒のいずれか 1 つ)
- (6) 定位置アクションの合計時間 (T 1 ~ T 3 秒の合計時間) < 揺れアクション Y 秒 (Y 1 ~ Y 3 秒のいずれか 1 つ)
- (7) 変動開始時アクションの合計時間 (H 1 ~ H 3 秒の合計時間) + 定位置アクションの合計時間 (T 1 ~ T 3 秒の合計時間) < 揺れアクションの合計時間 (Y 1 ~ Y 3 秒の合計時間)
- (8) 変動開始時アクションの合計時間 (H 1 ~ H 3 秒の合計時間) + 定位置アクションの合計時間 (T 1 ~ T 3 秒の合計時間) < 揺れアクション Y 秒 (Y 1 ~ Y 3 秒のいずれか 1 つ)
- (8-1) 左列の変動開始時アクション H 1 秒 + 左列の定位置アクション T 1 秒 < 左列の揺れアクション Y 1 秒
- (8-2) 右列の変動開始時アクション H 2 秒 + 右列の定位置アクション T 2 秒 < 右列の揺れアクション Y 2 秒
- (8-3) 中列の変動開始時アクション H 3 秒 + 中列の定位置アクション T 3 秒 < 中列の揺れアクション Y 3 秒
- (9) 変動開始時アクション H 秒 (H 1 ~ H 3 秒のいずれか 1 つ) < 変動固定時間
- (10) 定位置アクション T 秒 (T 1 ~ T 3 秒のいずれか 1 つ) < 変動固定時間
- (11) 揺れアクション Y 秒 (Y 1 ~ Y 3 秒のいずれか 1 つ) > 変動固定時間

10

20

30

40

50

(12) 変動開始時アクションH秒(H1~H3秒のいずれか1つ)+定位置アクションT秒(T1~T3秒のいずれか1つ)>変動固定時間

(13) 変動開始時アクションの合計時間(H1~H3秒の合計時間)+定位置アクションの合計時間(T1~T3秒の合計時間)>変動固定時間

なお、上記(9)、(10)については、変動固定時間のほうが短くなるよう構成してもよく、つまりは、「変動開始時アクションH秒(H1~H3秒のいずれか1つ)>変動固定時間」、「定位置アクションT秒(T1~T3秒のいずれか1つ)>変動固定時間」としてもよい。なお、ここでいう「いずれか」は、いずれかが充足すればよく、いずれも充足する必要はない。例えば、(1)の場合、 $H1 < Y1$ 、 $H1 < Y2$ 、 $H1 < Y3$ 、 $H2 < Y1$ 、 $H2 < Y2$ 、 $H2 < Y3$ 、 $H3 < Y1$ 、 $H3 < Y2$ 、 $H3 < Y3$ のうち、少なくとも1つの関係が充足されればよい。

【3049】

次に、非時間短縮遊技状態における第1主遊技側のリーチ変動における左列の第1装飾図柄は、変動開始時アクションをH4秒、定位置アクションをT4秒、揺れアクションをY4秒、テンパイアクションをTP1秒、揺れアクション1をY5秒、決めアクションをK1秒実行する。決めアクションの後は左列の第1装飾図柄を揺れ変動させ、その後、第1装飾図柄の確定停止を変動固定時間に亘って実行する。右列の第1装飾図柄は、左列の第1装飾図柄が変動開始した後に変動開始時アクションをH5秒、定位置アクションをT5秒、テンパイアクションをTP2秒、揺れアクションをY6秒、決めアクションをK2秒実行する。決めアクションの後は右列の第1装飾図柄を揺れ変動させ、その後、第1装飾図柄の確定停止を変動固定時間に亘って実行する。中列の第1装飾図柄は、左列および右列の第1装飾図柄が変動開始した後に変動開始時アクションをH6秒、決めアクションをK3秒実行する。決めアクションの後は中列の第1装飾図柄を揺れ変動させ、その後、第1装飾図柄の確定停止を変動固定時間に亘って実行する。なお、このリーチ変動は、非時間短縮遊技状態ではなく時間短縮遊技状態であってもよいし、第1主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の図柄変動ではなく第2主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の図柄変動であってもよい。このリーチ変動の場合、左列、中列、右列の第1装飾図柄の変動開始時アクションの実行タイミングが同一ではなく相違(各々の第1装飾図柄の変動開始時アクションが異なるタイミング)している。このように左列、中列、右列の第1装飾図柄の変動開始時アクションの実行タイミングを相違させることにより、変動開始時のタイミングにおいて、遊技者に特定の図柄変動が開始した可能性があることを示唆することができる。ここで、左列、中列、右列の第1装飾図柄の変動開始時アクションの実行タイミングを相違させる場合の変動開始時アクションの態様と、左列、中列、右列の第1装飾図柄の変動開始時アクションの実行タイミングを同一とする場合の変動開始時アクションの態様とを、異なる態様としても良い(例えば、実行タイミングを相違させる場合は第1装飾図柄が縦方向に震えるようなアクションとし、実行タイミングを同一とする場合は第1装飾図柄が横方向に震えるようなアクションとする)。なお、このリーチ変動の場合、左列、中列、右列の変動開始時アクションの実行タイミングが同一ではなく相違(各々の第1装飾図柄の変動開始時アクションが異なるタイミングで実行)している例を示したが、通常の図柄変動で示したように、左列、中列、右列の変動開始時アクションの実行タイミングが同一であってもよい。なお、ここでは、ノーマルリーチ演出を伴って当り(大当り、小当り)図柄を停止表示する場合に、中列の第1装飾図柄が定位置アクションを実行しない例を示したが、ノーマルリーチ演出からスーパーリーチ演出に発展せずノーマルリーチ演出を継続して当り(大当り、小当り)図柄を停止表示する場合は、中列の第1装飾図柄が定位置アクションを実行して中列の第1装飾図柄を停止表示させてもよい。ノーマルリーチ演出からスーパーリーチ演出に発展せずノーマルリーチ演出を継続して当り(大当り、小当り)図柄を停止表示する場合の中列の第1装飾図柄が定位置アクションの態様は、図399で示した定位置アクション3の態様と同じ定位置アクションの態様を実行してもよいし、異なる定位置アクションの態様を実行してもよい。なお、ここでは、ノーマ

10

20

30

40

50

ルリーチ演出を伴って当り（大当り、小当り）図柄を停止表示する場合について例示したが、当りのスーパーリーチ演出、当りのバトルリーチ演出の前半・後半を行うリーチ変動を対象としてもよく、その場合、図399に示す当りのリーチ変動の場合のように中列の定位置アクション3を実行しないように構成するのが好適である。

【3050】

また、図401の特定の図柄変動における各アクションの実行時間、変動固定時間は、以下のような関係に構成されている。

(1) 変動開始時アクションH秒（H4～H6秒のいずれか1つ）＜揺れアクションY秒（Y4～Y6秒のいずれか1つ）

(1-1) 左列の変動開始時アクションH4秒＜左列の揺れアクションY秒（Y4、Y5秒のいずれか1つ）

(1-2) 右列の変動開始時アクションH5秒＜右列の揺れアクションY6秒

(2) 定位置アクションT秒（T4、T5秒のいずれか1つ）＜揺れアクションY秒（Y4～Y6秒のいずれか1つ）

(2-1) 左列の定位置アクションT4秒＜左列の揺れアクションY秒（Y4、Y5秒のいずれか1つ）

(2-2) 右列の定位置アクションT5秒＜右列の揺れアクションY6秒

(3) テンパイアクションTP秒（TP1、TP2秒のいずれか1つ）＜揺れアクションY秒（Y4～Y6秒のいずれか1つ）

(3-1) 左列のテンパイアクションTP1秒＜左列の揺れアクションY秒（Y4、Y5秒のいずれか1つ）

(3-2) 右列のテンパイアクションTP2秒＜右列の揺れアクションY6秒

(4) 決めアクションK秒（K1～K3秒のいずれか1つ）＜揺れアクションY秒（Y4～Y6秒のいずれか1つ）

(4-1) 左列の決めアクションK1秒＜左列の揺れアクションY秒（Y4、Y5秒のいずれか1つ）

(4-2) 右列の決めアクションK2秒＜右列の揺れアクションY6秒

(5) 変動開始時アクションの合計時間（H4～H6秒の合計時間）＜揺れアクションの合計時間（Y4～Y6秒の合計時間）

(5-1) 左列の変動開始時アクションH4秒＜左列の揺れアクションの合計時間（Y4、Y5秒の合計時間）

(6) 定位置アクションの合計時間（T4～T5秒の合計時間）＜揺れアクションの合計時間（Y4～Y6秒の合計時間）

(7) テンパイアクションの合計時間（TP1、TP2秒の合計時間）＜揺れアクションの合計時間（Y4～Y6秒の合計時間）

(8) 決めアクションの合計時間（K1～K3秒の合計時間）＜揺れアクションY秒（Y4～Y6秒の合計時間） (9) 変動開始時アクションの合計時間（H4～H6秒の合計時間）＜揺れアクションY秒（Y4～Y6秒のいずれか1つ）

(10) 定位置アクションの合計時間（T4、T5秒の合計時間）＜揺れアクションY秒（Y4～Y6秒のいずれか1つ）

(11) テンパイアクションの合計時間（TP1、TP2秒の合計時間）＜揺れアクションY秒（Y4～Y6秒のいずれか1つ）

(12) 決めアクションの合計時間（K1～K3秒の合計時間）＜揺れアクションY秒（Y4～Y6秒のいずれか1つ）

(13) 変動開始時アクションの合計時間（H4～H6秒の合計時間）＋定位置アクションの合計時間（T4、T5秒の合計時間）＋テンパイアクションの合計時間（TP1、TP2秒の合計時間）＋決めアクションの合計時間（K1～K3秒の合計時間）＜揺れアクションの合計時間（Y4～Y6秒の合計時間）

(13-1) 左列の変動開始時アクションH4秒＋左列の定位置アクションT4秒＋左列のテンパイアクションTP1秒＋左列の決めアクションK1秒＜左列の揺れアクションの

10

20

30

40

50

合計時間（Y 4、Y 5 秒の合計時間）

（13-2）右列の変動開始時アクションH 5 秒+右列の定位置アクションT 5 秒+右列のテンパイアクションTP 2 秒+左列の決めアクションK 2 秒<右列の揺れアクションY 6 秒

（14）変動開始時アクションの合計時間（H 4～H 6 秒の合計時間）+定位置アクションの合計時間（T 4、T 5 秒の合計時間）+テンパイアクションの合計時間（TP 1、TP 2 秒の合計時間）+決めアクションの合計時間（K 1～K 3 秒の合計時間）<揺れアクションY 秒（Y 4～Y 6 秒のいずれか1つ）

（14-1）左列の変動開始時アクションH 4 秒+左列の定位置アクションT 4 秒+左列のテンパイアクションTP 1 秒+左列の決めアクションK 1 秒<左列の揺れアクションY 秒（Y 4、Y 5 秒のいずれか1つ）

（15）変動開始時アクションH 秒（H 4～H 6 秒のいずれか1つ）<変動固定時間

（16）定位置アクションT 秒（T 4、T 5 秒のいずれか1つ）<変動固定時間

（17）テンパイアクションTP 秒（TP 1、TP 2 秒のいずれか1つ）<変動固定時間

（18）決めアクションK 秒（K 1～K 3 秒のいずれか1つ）<変動固定時間

（19）揺れアクションY 秒（Y 4～Y 6 秒のいずれか1つ）>変動固定時間

（20）変動開始時アクションH 秒（H 4～H 6 秒のいずれか1つ）+定位置アクションT 秒（T 4、T 5 秒のいずれか1つ）+テンパイアクションTP 秒（TP 1、TP 2 秒のいずれか1つ）+決めアクションK 秒（K 1～K 3 秒のいずれか1つ）>変動固定時間

（21）変動開始時アクションの合計時間（H 4～H 6 秒の合計時間）+定位置アクションの合計時間（T 4、T 5 秒の合計時間）+テンパイアクションの合計時間（TP 1、TP 2 秒の合計時間）+決めアクションの合計時間（K 1～K 3 秒の合計時間）>変動固定時間

（22）変動開始時アクションの合計時間（H 4～H 6 秒の合計時間）+定位置アクションの合計時間（T 4、T 5 秒の合計時間）+テンパイアクションの合計時間（TP 1、TP 2 秒の合計時間）+決めアクションの合計時間（K 1～K 3 秒の合計時間）<揺れアクションY 秒（Y 4、Y 5 秒のいずれか1つ）

なお、上記（15）～（18）については、変動固定時間のほうが短くなるよう構成してもよく、つまりは、「変動開始時アクションH 秒（H 4～H 6 秒のいずれか1つ）>変動固定時間」、「定位置アクションT 秒（T 4、T 5 秒のいずれか1つ）>変動固定時間」、「テンパイアクションTP 秒（TP 1、TP 2 秒のいずれか1つ）>変動固定時間」、「決めアクションK 秒（K 1～K 3 秒のいずれか1つ）>変動固定時間」としてもよい。なお、ここでの「いずれか」は、いずれかが充足すればよく、いずれも充足する必要はない。例えば、（1-1）の場合、 $H 4 < Y 4$ 、 $H 4 < Y 5$ のうち、少なくとも1つの関係が充足されればよい。

【3051】

次に、図402は、（a）ハズレ図柄の確定停止から（l）1回目の擬似連図柄の再変動までのイメージ図である。なお、図402は、非時間短縮遊技状態における第1主遊技側の特定の図柄変動（例えば、当りのノーマルリーチ演出を行うリーチ変動や当りのスーパーリーチ演出、バトルリーチ演出の前半・後半を行うリーチ変動）における各アクション（b）～（l）を示したものである。なお、非時間短縮遊技状態ではなく時間短縮遊技状態の各種変動態様であってもよいし、ハズレのノーマルリーチ演出やスーパーリーチ演出、バトルリーチ演出の前半・後半を行うリーチ変動であってもよいし、第1主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の図柄変動ではなく第2主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の図柄変動であってもよい。なお、ハズレのスーパーリーチ演出、バトルリーチ演出の前半・後半を行うリーチ変動を対象とする場合、先読み演出のトリガ保留となり得ることは明らかである。また、特定の図柄の組合せ（時短図柄）としての時短専用図柄、ハズレ図柄（ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合）、小当り図柄（小当り図柄を時短図柄として併用する場合）、大当り図柄のいずれかが確定停止する図柄変動であってもよく、時短図柄の第1装飾図柄、第2装飾図柄は「777」等のゾロ目の態様で

停止表示させてもよいし、リーチ外れの態様で停止表示させてもよいし、バラケ目の態様で停止表示させてもよいし、時短専用図柄として特殊な図柄の態様で停止表示させてもよい。

【3052】

(a) は、非時間短縮遊技状態にて、第1主遊技側の保留が4、第2主遊技側の保留が0であり、演出表示装置SGに第1主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄と第2装飾図柄とがハズレ図柄である「711」で確定停止していることを示している。なお、非時間短縮遊技状態においては、第1主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の表示態様は「数字+キャラクタ」となっており、第2装飾図柄の表示態様は「数字」のみとなっている。そして、第1主遊技側の第1保留表示が4個表示され、第2主遊技側の第1保留表示はされていない。また、第1主遊技側の第2保留表示が「4」で表示、第2主遊技側の第2保留表示が「0」で表示されている。

10

【3053】

(b) は、第1主遊技図柄の変動開始条件を充足したことに伴い、保留が消化され、消化された保留に対応する保留消化伝達画像（例えば、図中の白い丸の画像オブジェクト）が表示され、第1主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄が変動表示を開始する際の変動開始時アクション1を示している。今回の図柄変動の変動態様は、擬似連を2回伴う図柄変動であって、リーチ演出（ノーマルリーチ演出やスーパーリーチ演出、バトルリーチ演出）となってから「777」の当り（大当り、小当り）図柄を表示する変動態様であり、第1主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄が変動表示を開始する際に変動開始時アクション1を実行する。この変動開始時アクション1は、第1主遊技図柄の変動表示が開始された直後（例えば、0.1秒後）のタイミングで、(a)で示したハズレ図柄の確定停止している際の左列、中列、右列の第1装飾図柄を拡大するアクションを例示する。左列、中列、右列の第1装飾図柄が変動開始時アクション1を実行する表示領域（開始時動作の表示領域）は、左列、中列、右列の第1装飾図柄が確定停止している表示領域（確定停止の表示領域）よりも大きい表示領域を例示しているが、第1装飾図柄を縮小させる変動開始時アクション1を実行する場合は、開始時動作の表示領域が確定停止の表示領域よりも小さい表示領域となる。

20

【3054】

(c) は、第1主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄が変動表示を開始した後の左列、中列、右列の第1装飾図柄の加速変動を示している。第1主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄が変動表示を開始する際の変動開始時アクション1を実行した後、拡大された第1装飾図柄は、確定停止していた際の第1装飾図柄の大きさに縮小され、その後、下側にスクロール変動を行う加速変動を実行するように構成されている。なお、第1装飾図柄の変動開始から所定時間（例えば、1秒）が経過するまで加速変動を実行するように構成されている。

30

【3055】

(d) は、第1主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄が加速変動を開始した後の左列、中列、右列の第1装飾図柄の高速変動を示している。第1主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の加速変動を開始した後であって、第1主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の変動開始から所定時間（例えば、1秒）が経過した後に高速変動を実行するように構成されている。

40

【3056】

(e) は、高速変動を実行した後の左列の第1装飾図柄の減速変動を示している。第1主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の高速変動を実行した後に、左列の第1装飾図柄を視認可能な状態で変動表示する減速変動を実行するように構成されている。なお、左列の第1装飾図柄が減速変動を実行している状態において、中列、右列の第1装飾図柄は高速変動を実行している。

【3057】

(f) は、減速変動を実行しながら左列の「1」の数字+ヒヨコのキャラクタの第1装

50

飾図柄が仮停止し、その仮停止のタイミングにおいて、左列の第1装飾図柄が仮停止する表示領域（定位置の表示領域である左列の定位置動作の表示領域）で定位置アクション1を実行することを示している。この定位置アクション1は、（a）で示したハズレ図柄の確定停止している際の第1装飾図柄、（b）で示した変動開始時アクション1の第1装飾図柄よりも第1装飾図柄を拡大するとともに、（b）で示した変動開始時アクション1の第1装飾図柄よりも下側の位置で第1装飾図柄を拡大してから上側の位置に戻すようなアクションを例示する。また、この定位置アクションとは、異なる定位置アクションの態様として、第1装飾図柄の種類（例えば、第1要素+第2要素の種類、第1要素の種類、第2要素の種類）に対応する定位置アクションを実行するように構成してもよい。この場合、左列で示した第1要素がヒヨコであればヒヨコが両手を振る定位置アクションを実行するような例が挙げられる。なお、左列の第1装飾図柄が定位置アクション1を実行している状態において、中列、右列の第1装飾図柄は高速変動を実行している。

10

【3058】

（g）は、左列の第1装飾図柄が定位置アクション1を実行した後の揺れアクションを実行すること、高速変動を実行した後の右列の第1装飾図柄の減速変動を実行することを示している。左列の第1装飾図柄は、定位置アクション1を実行した後に縮小してから揺れアクションを実行するように構成されている。また、右列の第1装飾図柄は、高速変動を実行した後に、視認可能な状態で変動表示する減速変動を実行するように構成されている。なお、左列の第1装飾図柄が揺れアクションを実行し、右列の第1装飾図柄が減速変動を実行している状態において、中列の第1装飾図柄は高速変動を実行している。

20

【3059】

（h）は、左列の第1装飾図柄が揺れアクションを継続して実行していること、右列の「7」の数字+ライオンのキャラクタの第1装飾図柄が、減速変動を実行しながら仮停止し、その仮停止のタイミングにおいて、右列の第1装飾図柄が仮停止する表示領域（定位置の表示領域である右列の定位置動作の表示領域）で定位置アクション1を実行することを示している。この定位置アクション1は、左列の第1装飾図柄が実行した定位置アクション1と同じでもよいし、異なってもよい。なお、左列とは異なる定位置アクションを実行する場合は、第1装飾図柄の図柄列に応じて異なる定位置アクションを実行するようにしてもよいし、第1装飾図柄の種類（例えば、第1要素+第2要素の種類、第1要素の種類、第2要素の種類）に対応するアクションを実行するようにしてもよい。第1装飾図柄の種類（例えば、第1要素+第2要素の種類、第1要素の種類、第2要素の種類）に対応するアクションを実行する場合、左列で示した第1要素のヒヨコが両手を振る定位置アクションとは異なり、第1要素がライオンであるので、ライオンが襲い掛かる定位置アクションを実行するような例が挙げられる。なお、左列の第1装飾図柄が揺れアクションを実行し、右列の第1装飾図柄が定位置アクション1を実行している状態において、中列の第1装飾図柄は高速変動を実行している。

30

【3060】

（i）は、擬似連図柄が減速変動を実行していることを示している。右列の第1装飾図柄は、定位置アクション1を実行した後に縮小してから揺れアクションを実行するように構成されている。そして、左列の第1装飾図柄と右列の第1装飾図柄とが揺れアクションを実行した状態で、擬似連図柄（「NEXT」図柄）が、左列と右列の第1装飾図柄を覆い隠すように減速変動するように構成されている。なお、中列の第1装飾図柄は高速変動を実行している。

40

【3061】

（j）は、擬似連図柄（「NEXT」図柄）が定位置アクション1を実行することを示している。減速変動して低速で変動表示されている擬似連図柄は、液晶画面略中央にて仮停止する。その仮停止のタイミングで、擬似連図柄は、中列の第1装飾図柄が仮停止する表示領域（定位置の表示領域である中列の定位置動作の表示領域）で定位置アクション1を実行する。なお、中列の第1装飾図柄は高速変動を実行しており、中列の第1装飾図柄は、擬似連図柄が定位置アクション1を実行する時に、仮停止および定位置アクションを

50

実行しないように構成されている。

【3062】

(k) は、中列の第1装飾図柄が定位置アクション1を実行することを示している。擬似連図柄が仮停止した状態において、擬似連図柄である「NEXT」の背後の中列に「1」の数字+ヒヨコのキャラクタの第1装飾図柄が仮停止するように構成されている。そして、中列の第1装飾図柄の仮停止のタイミングで、中列の第1装飾図柄は、中列の第1装飾図柄が仮停止する表示領域（定位置の表示領域である中列の定位置動作の表示領域）で定位置アクション1を実行するように構成されている。なお、本実施例では、(j) の擬似連図柄（「NEXT」図柄）が定位置アクション1を実行し、(k) の中列の第1装飾図柄が定位置アクション1を実行した後に、(l) の擬似連図柄の再変動を実行する例を示したが、(j) の擬似連図柄（「NEXT」図柄）が定位置アクション1を実行した後に、(1) (k) の中列の第1装飾図柄が定位置アクション1を実行せずに、中列の第1装飾図柄が変動表示を継続して実行している状態（第1装飾図柄が仮停止していない状態）で (l) の擬似連図柄の再変動を実行してもよいし、或いは、(2) 擬似連図柄を中列の図柄列にてスクロール表示される複数の第1装飾図柄における仮停止候補の1つとして設定し、第1装飾図柄として仮停止及び定位置アクションを行ってもよい（例えば、擬似連図柄が仮停止しない場合であれば、1→2→・・・→7→8→1→・・・の順番にスクロールしながらメイン領域にて表示される第1装飾図柄が順次切り替わって表示され、擬似連図柄が仮停止することがないが、擬似連図柄が仮停止する場合であれば、1→2→・・・→7→8→NEXT→1→・・・の順番にスクロールしながらメイン領域にて表示される第1装飾図柄が順次切り替わって表示され、擬似連図柄が仮停止するよう構成してもよい）。なお、擬似連図柄をこのように構成することは、図402における擬似連図柄に限らず、図404における擬似連図柄や、その他の擬似連図柄に関する記載（「特殊図柄」に関する記載を始めとし、各実施形態における擬似連図柄に適用可能であることは明らかである。なお、定位置動作の表示領域として、開始時動作の表示領域や確定停止の表示領域よりも大きい表示領域を例示しているが、第1装飾図柄を縮小させる定位置アクション1を実行する場合、定位置動作の表示領域は、開始時動作の表示領域や確定停止の表示領域よりも小さい表示領域となる。なお、擬似連図柄は、暫定表示態様として擬似連変動で用いられる「特殊図柄」に該当する。

【3063】

(l) は、擬似連図柄の再変動を示している。仮停止した擬似連図柄は、再変動（擬似連）が実行される際に、下側にスクロール変動を行う加速変動を実行するように構成されている。なお、擬似連図柄は、仮停止した後、変動開始時アクションを伴って再変動（擬似連）を開始したり、専用アクション（擬似連図柄が仮停止した後に実行されることで擬似連図柄がメイン領域上から消えることを示唆するアクションであり、後述する消去アクションなど）が行われることで擬似連図柄が消えてもよく、そのように構成する場合、擬似連図柄の変動開始時アクションは、擬似連図柄が霧と化してあとかたもなく消えるような消去アクションや、他の第1装飾図柄の変動開始時アクションよりも、実行時間を長く構成したり、アクションにて使用する表示領域を大きくしたり、拡大率を高くしたり、擬似連図柄の回転を速くしたり、色彩エフェクト等の発光を強くしたりするアクションを実行する。また、本実施例では、(l) の擬似連図柄の再変動を実行し、(m) の左列、中列、右列の第1装飾図柄の変動開始時アクション2を実行した後に、(n) の左列、中列、右列の第1装飾図柄の加速変動を経由して、(o) の左列、中列、右列の第1装飾図柄の高速変動を実行する例を示したが、(l) の擬似連図柄の再変動を実行し加速変動を実行する際、または、擬似連図柄が変動開始時アクションを実行する場合は変動開始時アクションを実行する際、または、擬似連図柄が専用アクションを実行する際に、(m) の左列、中列、右列の第1装飾図柄の変動開始時アクション2、および、(n) の左列、中列、右列の第1装飾図柄の加速変動を実行せずに、(o) の左列、中列、右列の第1装飾図柄の高速変動を実行するよう構成してもよい（この場合、(n) の左列、中列、右列の第1装飾図柄の加速変動を実行せずに、いきなり高速変動を実行することが好適である）。

【3064】

次に、図403は、図402に続く状態であって、(m)変動開始時アクション2から(x)擬似連図柄の定位置アクション2までのイメージ図である。まず、(m)は、第1装飾図柄の1回目の再変動(擬似連)を開始する際の変動開始時アクション2を示している。第1装飾図柄が再変動を開始する際に変動開始時アクション2を実行する。この変動開始時アクション2は、再変動が開始された直後(例えば、0.1秒後)のタイミングで、(k)で示した左列、中列、右列の第1装飾図柄を拡大するアクションを例示する。左列、中列、右列の第1装飾図柄が変動開始時アクション2を実行する表示領域(開始時動作の表示領域)は、左列、中列、右列の第1装飾図柄が確定停止している表示領域(確定停止の表示領域)よりも大きい表示領域を例示しているが、第1装飾図柄を縮小させる変動開始時アクション2を実行する場合は、開始時動作の表示領域が確定停止の表示領域よりも小さい表示領域となる。なお、第1装飾図柄の1回目の再変動(擬似連)を開始する際に変動開始時アクション2を実行する例を示したが、第1装飾図柄の再変動(擬似連)を開始する際に変動開始時アクション2を実行しなくてもよい。

10

【3065】

(n)は、第1装飾図柄が1回目の再変動(擬似連)を開始した後の左列、中列、右列の第1装飾図柄の加速変動を示している。第1装飾図柄が再変動を開始する際の変動開始時アクション2を実行した後、拡大された第1装飾図柄は、確定停止していた際の第1装飾図柄の大きさに縮小され、その後、下側にスクロール変動を行う加速変動を実行するように構成されている。なお、第1装飾図柄の再変動の開始から所定時間(例えば、1秒)が経過するまで加速変動を実行するように構成されている。

20

【3066】

(o)は、第1装飾図柄が加速変動を開始した後の左列、中列、右列の第1装飾図柄の高速変動を示している。第1主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の加速変動を開始した後であって、第1主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の再変動の開始から所定時間(例えば、1秒)が経過した後に高速変動を実行するように構成されている。

【3067】

(p)は、高速変動を実行した後の左列の第1装飾図柄の減速変動を示している。第1装飾図柄の高速変動を実行した後に、左列の第1装飾図柄を視認可能な状態で変動表示する減速変動を実行するように構成されている。なお、左列の第1装飾図柄が減速変動を実行している状態において、中列、右列の第1装飾図柄は高速変動を実行している。

30

【3068】

(q)は、減速変動を実行しながら左列の「1」の数字+ヒヨコのキャラクタの第1装飾図柄が仮停止し、その仮停止のタイミングにおいて、左列の第1装飾図柄が仮停止する表示領域(定位置の表示領域である左列の定位置動作の表示領域)で定位置アクション2を実行することを示している。この定位置アクション2は、(a)で示したハズレ図柄の確定停止している際の第1装飾図柄、(b)で示した変動開始時アクション1の第1装飾図柄よりも第1装飾図柄を拡大するアクションを例示する。なお、左列の第1装飾図柄が定位置アクション2を実行している状態において、中列、右列の第1装飾図柄は高速変動を実行している。

40

【3069】

(r)は、左列の第1装飾図柄が定位置アクション2を実行した後の揺れアクションを実行すること、高速変動を実行した後の右列の第1装飾図柄の減速変動を実行することを示している。左列の第1装飾図柄は、定位置アクション2を実行した後に縮小してから揺れアクションを実行するように構成されている。また、右列の第1装飾図柄は、高速変動を実行した後に、視認可能な状態で変動表示する減速変動を実行するように構成されている。なお、左列の第1装飾図柄が揺れアクションを実行し、右列の第1装飾図柄が減速変動を実行している状態において、中列の第1装飾図柄は高速変動を実行している。

【3070】

(s)は、左列の第1装飾図柄が揺れアクションを継続して実行していること、右列の

50

「1」の数字+ヒヨコのキャラクタの第1装飾図柄が、減速変動を実行しながら仮停止し、その仮停止のタイミングにおいて、右列の第1装飾図柄が仮停止する表示領域（定位置の表示領域である右列の定位置動作の表示領域）で定位置アクション2を実行することを示している。この定位置アクション2は、左列の第1装飾図柄が実行した定位置アクション2と同じでもよいし、異なってもよい。なお、左列の第1装飾図柄が揺れアクションを実行し、右列の第1装飾図柄が定位置アクション2を実行している状態において、中列の第1装飾図柄は高速変動を実行している。

【3071】

(t)は、右列の第1装飾図柄の定位置アクション2を実行した後の状態を示している。右列の第1装飾図柄の定位置アクション2を実行した後、右列の第1装飾図柄は、縮小表示される。そして、左列と右列の第1装飾図柄は、同じ「1」の数字+ヒヨコのキャラクタの第1装飾図柄が表示されている。この際、右列の第1装飾図柄は、揺れアクションを実行してもよい。なお、中列の第1装飾図柄は高速変動を実行している。

【3072】

(u)は、左列の第1装飾図柄および右列の第1装飾図柄が同じ図柄を表示した状態でのテンパイアクション1を示している。(t)において、左列と右列に、同じ「1」の数字+ヒヨコのキャラクタの第1装飾図柄が表示された後、左列の第1装飾図柄および右列の第1装飾図柄においてテンパイアクション1を実行するように構成されている。このテンパイアクション1は、第1装飾図柄の第1要素としてのヒヨコのキャラクタの画像オブジェクトを変動開始時アクションや定位置アクションよりも拡大するアクションを実行するとともに、図示はしていないが、第1装飾図柄の種類（例えば、第1要素+第2要素の種類、第1要素の種類、第2要素の種類のいずれか）に対応するアクションを実行する定位置アクションを例示する。この例の場合、第1要素がヒヨコであるので、ヒヨコの上下にある殻を吹き飛ばすアクションを実行するようになっているが、第1要素がライオンであれば、ライオンが吠えるアクションを実行するようになっている。なお、左列、右列の第1装飾図柄がテンパイアクション1を実行する表示領域（テンパイアクションの表示領域）として、左列、右列の第1装飾図柄の確定停止の表示領域、開始時動作の表示領域、定位置動作の表示領域よりも大きい表示領域を例示しているが、第1装飾図柄を縮小させるテンパイアクション1を実行する場合は、テンパイアクションの表示領域が、左列、右列の第1装飾図柄の確定停止の表示領域、開始時動作の表示領域、定位置動作の表示領域よりも小さい表示領域となる。なお、中列の第1装飾図柄は高速変動を実行している。

【3073】

(v)は、左列の第1装飾図柄および右列の第1装飾図柄において実行する揺れアクション1を示している。この揺れアクション1は、(u)のテンパイアクション1が実行された後、左列および右列の第1装飾図柄の第1要素としてのヒヨコのキャラクタと第2要素としての「1」の数字とを縮小させ、その後、揺れ動作させた状態とするアクションを例示する。なお、中列の第1装飾図柄は高速変動を実行している。なお、(u)のテンパイアクション1が実行された後、ノーマルリーチ演出の演出態様を実行し、このノーマルリーチ演出中に(v)の揺れアクション1を実行するように構成されているが、スーパーリーチ演出やバトルリーチ演出を実行するように構成してもよい。このように構成する場合、スーパーリーチ演出中やバトルリーチ演出中に擬似連図柄を仮停止させても良く、スーパーリーチ演出中やバトルリーチ演出中においてもノーマルリーチ演出中と同様に揺れアクションを行ってもよい。ここで、このスーパーリーチ演出中やバトルリーチ演出中の揺れアクションは、ノーマルリーチ演出中の揺れアクション1とは異なるように構成されていることが好適である。例えば、スーパーリーチ演出中やバトルリーチ演出中の揺れアクションは、ノーマルリーチ演出中の揺れアクション1と比較して、第1装飾図柄が小さい、第1要素を消去して第2要素のみで揺れアクションしている、揺れ幅が小さい、揺れ動作がゆっくりである（1回の揺れの周期がノーマルリーチ演出よりも長い）ように構成されていることが好適である。

【3074】

(w) は、擬似連図柄が減速変動を実行していることを示している。左列の第1装飾図柄と右列の第1装飾図柄とが揺れアクションを実行した状態で、擬似連図柄(「NEXT」図柄)が、左列と右列の第1装飾図柄を覆い隠すように減速変動するように構成されている。なお、中列の第1装飾図柄は高速変動を実行している。

【3075】

(x) は、擬似連図柄(「NEXT」図柄)が定位置アクション2を実行することを示している。減速変動して低速で変動表示されている擬似連図柄は、液晶画面略中央にて仮停止する。その仮停止のタイミングで、擬似連図柄は、中列の第1装飾図柄が仮停止する表示領域(定位置の表示領域である中列の定位置動作の表示領域)で定位置アクション2を実行する。なお、中列の第1装飾図柄は高速変動を実行しており、中列の第1装飾図柄は、擬似連図柄が定位置アクション2を実行する時に、仮停止および定位置アクションを実行しないように構成されている。

【3076】

次に、図404は、図402、図403に続く状態であって、(y)中列の第1装飾図柄の定位置アクション2から(j2)揺れアクション2までのイメージ図である。まず、

(y) は、中列の第1装飾図柄が定位置アクション2を実行することを示している。擬似連図柄が仮停止した状態において、擬似連図柄である「NEXT」の背後の中列に「7」の数字+ライオンのキャラクタの第1装飾図柄が仮停止するように構成されている。そして、中列の第1装飾図柄の仮停止のタイミングで、中列の第1装飾図柄は、中列の第1装飾図柄が仮停止する表示領域(定位置の表示領域である中列の定位置動作の表示領域)で定位置アクション2を実行するように構成されている。なお、本実施例では、(x)の擬似連図柄(「NEXT」図柄)が定位置アクション2を実行し、(y)の中列の第1装飾図柄が定位置アクション2を実行した後に、(z)の擬似連図柄の再変動を実行する例を示したが、(x)の擬似連図柄(「NEXT」図柄)が定位置アクション2を実行した後に、(1)(y)の中列の第1装飾図柄が定位置アクション2を実行せずに、中列の第1装飾図柄が変動表示を継続して実行している状態(第1装飾図柄が仮停止していない状態)で(z)の擬似連図柄の再変動を実行してもよいし、或いは、(2)擬似連図柄を中列の図柄列にてスクロール表示される複数の第1装飾図柄における仮停止候補の1つとして設定し、第1装飾図柄として仮停止及び定位置アクションを行ってもよい(例えば、擬似連図柄が仮停止しない場合であれば、1→2→・・・→7→8→1→・・・の順番にスクロールしながらメイン領域にて表示される第1装飾図柄が順次切り替わって表示され、擬似連図柄が仮停止することがないが、擬似連図柄が仮停止する場合であれば、1→2→・・・→7→8→NEXT→1→・・・の順番にスクロールしながらメイン領域にて表示される第1装飾図柄が順次切り替わって表示され、擬似連図柄が仮停止するよう構成してもよい)。なお、擬似連図柄をこのように構成することは、図402における擬似連図柄や図404における擬似連図柄に限らず、その他の擬似連図柄に関する記載(「特殊図柄」に関する記載を始めとし、各実施形態における擬似連図柄に適用可能であることは明らかである。なお、定位置動作の表示領域として、開始時動作の表示領域や確定停止の表示領域よりも大きい表示領域を例示しているが、第1装飾図柄を縮小させる定位置アクション2を実行する場合、定位置動作の表示領域は、開始時動作の表示領域や確定停止の表示領域よりも小さい表示領域となる。なお、擬似連図柄は、暫定表示態様として擬似連変動で用いられる「特殊図柄」に該当する。

【3077】

(z) は、擬似連図柄の再変動を示している。仮停止した擬似連図柄は、再変動(擬似連)が実行される際に、下側にスクロール変動を行う加速変動を実行するように構成されている。なお、擬似連図柄は、仮停止した後、変動開始時アクションを伴って再変動(擬似連)を開始したり、専用アクション(擬似連図柄が仮停止した後に実行されることで擬似連図柄がメイン領域上から消えることを示唆するアクションであり、後述する消去アクションなど)が行われることで擬似連図柄が消えてもよく、そのように構成する場合、擬似連図柄の変動開始時アクションは、擬似連図柄が霧と化してあとかたもなく消えるよう

10

20

30

40

50

な消去アクションや、他の第1装飾図柄の変動開始時アクションよりも、実行時間を長く構成したり、アクションにて使用する表示領域を大きくしたり、拡大率を高くしたり、擬似連図柄の回転を速くしたり、色彩エフェクト等の発光を強くしたりするアクションを実行する。また、本実施例では、(z)の擬似連図柄の再変動を実行し、(a2)の左列、中列、右列の第1装飾図柄の変動開始時アクション3を実行した後に、(b2)の左列、中列、右列の第1装飾図柄の加速変動を経由して、(c2)の左列、中列、右列の第1装飾図柄の高速変動を実行する例を示したが、(z)の擬似連図柄の再変動を実行し加速変動を実行する際、または、擬似連図柄が変動開始時アクションを実行する場合は変動開始時アクションを実行する際、または、擬似連図柄が専用アクションを実行する際に、(a2)の左列、中列、右列の第1装飾図柄の変動開始時アクション3、および、(b2)の左列、中列、右列の第1装飾図柄の加速変動を実行せずに、(c2)の左列、中列、右列の第1装飾図柄の高速変動を実行するよう構成してもよい(この場合、(n)の左列、中列、右列の第1装飾図柄の加速変動を実行せずに、いきなり高速変動を実行することが好適である)。

【3078】

(a2)は、第1装飾図柄が2回目の再変動(擬似連)を開始する際の変動開始時アクション3を示している。第1装飾図柄が再変動を開始する際に変動開始時アクション3を実行する。この変動開始時アクション3は、再変動が開始された直後(例えば、0.1秒後)のタイミングで、(y)で示した左列、中列、右列の第1装飾図柄を拡大するアクションを例示する。左列、中列、右列の第1装飾図柄が変動開始時アクション3を実行する表示領域(開始時動作の表示領域)は、左列、中列、右列の第1装飾図柄が確定停止している表示領域(確定停止の表示領域)よりも大きい表示領域を例示しているが、第1装飾図柄を縮小させる変動開始時アクション3を実行する場合は、開始時動作の表示領域が確定停止の表示領域よりも小さい表示領域となる。なお、第1装飾図柄の2回目の再変動(擬似連)を開始する際に変動開始時アクション3を実行する例を示したが、第1装飾図柄の再変動(擬似連)を開始する際に変動開始時アクション3を実行しなくてもよい。

【3079】

(b2)は、第1装飾図柄が1回目の再変動(擬似連)を開始した後の左列、中列、右列の第1装飾図柄の加速変動を示している。第1装飾図柄が再変動を開始する際の変動開始時アクション3を実行した後、拡大された第1装飾図柄は、確定停止していた際の第1装飾図柄の大きさに縮小され、その後、下側にスクロール変動を行う加速変動を実行するよう構成されている。なお、第1装飾図柄の再変動の開始から所定時間(例えば、1秒)が経過するまで加速変動を実行するよう構成されている。

【3080】

(c2)は、第1装飾図柄が加速変動を開始した後の左列、中列、右列の第1装飾図柄の高速変動を示している。第1主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の加速変動を開始した後であって、第1主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の再変動の開始から所定時間(例えば、1秒)が経過した後に高速変動を実行するよう構成されている。

【3081】

(d2)は、高速変動を実行した後の左列の第1装飾図柄の減速変動を示している。第1装飾図柄の高速変動を実行した後に、左列の第1装飾図柄を視認可能な状態で変動表示する減速変動を実行するよう構成されている。なお、左列の第1装飾図柄が減速変動を実行している状態において、中列、右列の第1装飾図柄は高速変動を実行している。

【3082】

(e2)は、減速変動を実行しながら左列の「7」の数字+ライオンのキャラクタの第1装飾図柄が仮停止し、その仮停止のタイミングにおいて、左列の第1装飾図柄が仮停止する表示領域(定位置の表示領域である左列の定位置動作の表示領域)で定位置アクション3を実行することを示している。この定位置アクション3は、(a)で示したハズレ図柄の確定停止している際の第1装飾図柄、(b)で示した変動開始時アクション1の第1

10

20

30

40

50

装飾図柄よりも第1装飾図柄を拡大するアクションを例示する。なお、左列の第1装飾図柄が定位置アクション3を実行している状態において、中列、右列の第1装飾図柄は高速変動を実行している。

【3083】

(f2)は、左列の第1装飾図柄が定位置アクション3を実行した後の揺れアクションを実行すること、高速変動を実行した後の右列の第1装飾図柄の減速変動を実行することを示している。左列の第1装飾図柄は、定位置アクション3を実行した後に縮小してから揺れアクションを実行するように構成されている。また、右列の第1装飾図柄は、高速変動を実行した後に、視認可能な状態で変動表示する減速変動を実行するように構成されている。なお、左列の第1装飾図柄が揺れアクションを実行し、右列の第1装飾図柄が減速変動を実行している状態において、中列の第1装飾図柄は高速変動を実行している。

10

【3084】

(g2)は、左列の第1装飾図柄が揺れアクションを継続して実行していること、右列の「7」の数字+ライオンのキャラクタの第1装飾図柄が、減速変動を実行しながら仮停止し、その仮停止のタイミングにおいて、右列の第1装飾図柄が仮停止する表示領域（定位置の表示領域である右列の定位置動作の表示領域）で定位置アクション3を実行することを示している。この定位置アクション3は、左列の第1装飾図柄が実行した定位置アクション3と同じでもよいし、異なってもよい。なお、左列の第1装飾図柄が揺れアクションを実行し、右列の第1装飾図柄が定位置アクション3を実行している状態において、中列の第1装飾図柄は高速変動を実行している。

20

【3085】

(h2)は、右列の第1装飾図柄の定位置アクション3を実行した後の状態を示している。右列の第1装飾図柄の定位置アクション3を実行した後、右列の第1装飾図柄は、縮小表示される。そして、左列と右列の第1装飾図柄は、同じ「7」の数字+ライオンのキャラクタの第1装飾図柄が表示されている。この際、右列の第1装飾図柄は、揺れアクションを実行してもよい。なお、中列の第1装飾図柄は高速変動を実行している。

【3086】

(i2)は、左列の第1装飾図柄および右列の第1装飾図柄が同じ図柄を表示した状態でのテンパイアクション2を示している。(h2)において、左列と右列に、同じ「7」の数字+ライオンのキャラクタの第1装飾図柄が表示された後、左列の第1装飾図柄および右列の第1装飾図柄においてテンパイアクション2を実行するように構成されている。このテンパイアクション2は、第1装飾図柄の第1要素としてのライオンのキャラクタの画像オブジェクトを変動開始時アクションや定位置アクションよりも拡大するアクションを例示する。なお、左列、右列の第1装飾図柄がテンパイアクション2を実行する表示領域（テンパイアクションの表示領域）として、左列、右列の第1装飾図柄の確定停止の表示領域、開始時動作の表示領域、定位置動作の表示領域よりも大きい表示領域を例示しているが、第1装飾図柄を縮小させるテンパイアクション2を実行する場合は、テンパイアクションの表示領域が、左列、右列の第1装飾図柄の確定停止の表示領域、開始時動作の表示領域、定位置動作の表示領域よりも小さい表示領域となる。なお、中列の第1装飾図柄は高速変動を実行している。

30

40

【3087】

(j2)は、左列の第1装飾図柄および右列の第1装飾図柄において実行する揺れアクション2を示している。この揺れアクション2は、(i2)のテンパイアクション2が実行された後、左列および右列の第1装飾図柄の第1要素としてのライオンのキャラクタと第2要素としての「7」の数字とを縮小させ、その後、揺れ動作させた状態とするアクションを例示する。なお、(i2)のテンパイアクション2が実行された後、ノーマルリーチ演出の演出態様を実行するように構成されており、このノーマルリーチ演出中に(j2)の揺れアクション2を実行し、その後、ノーマルリーチ演出からスーパリーチ演出またはバトルリーチ演出に発展するように構成されている。ここで、(i2)のテンパイアクション2が実行された後、ノーマルリーチ演出の演出態様を実行し、このノーマルリー

50

チ演出中に（j 2）の揺れアクション2を実行するようにしたが、スーパーリーチ演出やバトルリーチ演出を実行するように構成してもよい。また、ノーマルリーチ演出からスーパーリーチ演出またはバトルリーチ演出に発展せずに、ノーマルリーチ演出を継続してもよい。なお、中列の第1装飾図柄は高速変動を実行している。

【3088】

次に、図405は、図402、図403、図404に続く状態であって、（k 2）中列の第1装飾図柄の定位置アクション3から（n 2）確定停止までのイメージ図である。まず、（k 2）は、（j 2）で左列と右列の第1装飾図柄が揺れアクション2を実行している状態において、中列の第1装飾図柄が定位置アクション3を実行することを示している。左列と右列の第1装飾図柄がテンパイした状態であって、揺れアクション2を実行している状態において、中列に「7」の数字+ライオンのキャラクタの第1装飾図柄が減速変動し、その後、仮停止される。この中列の第1装飾図柄の仮停止のタイミングで、中列の第1装飾図柄は、中列の第1装飾図柄が仮停止する表示領域（定位置の表示領域である中列の定位置動作の表示領域）で定位置アクション3を実行するように構成されている。なお、定位置動作の表示領域として、開始時動作の表示領域や確定停止の表示領域よりも大きい表示領域を例示しているが、第1装飾図柄を縮小させる定位置アクション3を実行する場合、定位置動作の表示領域は、開始時動作の表示領域や確定停止の表示領域よりも小さい表示領域となる。なお、ここでは、スーパーリーチ演出（バトルリーチ演出でもよい）を伴って当り（大当り、小当り）図柄を停止表示する場合に、中列の第1装飾図柄が定位置アクション3を実行する例を示したが、ノーマルリーチ演出からスーパーリーチ演出に発展せずノーマルリーチ演出を継続して当り（大当り、小当り）図柄を停止表示する場合は、中列の第1装飾図柄が定位置アクション3を実行せずに中列の第1装飾図柄である「7」を停止表示させてもよい。このように構成することにより、ノーマルリーチ演出で当り（大当り、小当り）になる場合、中列の第1装飾図柄の定位置アクションを実行せず、いきなり当り（大当り、小当り）図柄が停止表示するため、遊技者の意表をつく演出を実行することが可能となる。なお、ここでは、スーパーリーチ演出（バトルリーチ演出でもよい）を伴って当り（大当り、小当り）図柄を停止表示する場合に、中列の第1装飾図柄が定位置アクション3を実行する例を示したが、中列の定位置アクション3を実行しないように構成してもよい。例えば、通常背景であるかりーち背景（スーパーリーチ背景）であるかに応じてアクションを実行するか実行しないかが決定される場合、スーパーリーチ演出（バトルリーチ演出でもよい）の図柄変動では、スーパーリーチ背景のため、定位置アクションを実行しないようになっている。そして、当り（大当り、小当り）図柄が停止表示されるとスーパーリーチ背景から通常背景に背景が変更され、その後、第1装飾図柄は揺れ変動（揺れアクション）を実行するように構成されている。このようにスーパーリーチ演出中に定位置アクションを実行しないように構成することで、定位置アクションで邪魔されることなくスーパーリーチ演出を遊技者に見せることができる。

【3089】

（l 2）は、リーチ演出とともに左列、右列の第1装飾図柄の揺れアクション2の実行中に中列の第1装飾図柄が定位置アクション3を伴って仮停止した後、当り（大当り、小当り）図柄が表示され、左列、中列、右列の第1装飾図柄において決めアクションを実行することを示すものである。この決めアクションは、第1装飾図柄の第1要素としてのカード型の画像オブジェクトを消去し、第1要素としてのライオンのキャラクタを拡大した状態とするアクションを実行するとともに、図示はしていないが、第1装飾図柄が一瞬、発光するように構成されている。なお、決めアクションは、変動開始時アクションや定位置アクション、テンパイアクション、揺れアクションと異なるように構成されている例を示したが、変動開始時アクションや定位置アクション、テンパイアクション、揺れアクションと同じであってもよい。また、左列、中列、右列の各第1装飾図柄が決めアクションを実行する表示領域（決め動作の表示領域）として、確定停止の表示領域、開始時動作の表示領域、定位置動作の表示領域、揺れ動作の表示領域よりも大きい表示領域を例示しているが、第1装飾図柄を縮小させる決めアクションを実行する場合は、決め動作の表示領

域が、確定停止の表示領域、開始時動作の表示領域、定位置動作の表示領域、揺れ動作の表示領域よりも小さい表示領域となる。なお、(k 2) 中列の第 1 装飾図柄の定位置アクション 3 の実行後に、(l 2) の左列、中列、右列の第 1 装飾図柄において決めアクションを実行する例を示したが、スーパーリーチ演出（バトルリーチ演出でもよい）を伴って当り（大当り、小当り）図柄を停止表示する場合、(k 2) の中列の第 1 装飾図柄の定位置アクション 3 を実行した後に、スーパーリーチ演出を終了させ、左列、中列、右列の第 1 装飾図柄の揺れアクションを実行し、その後、(l 2) の左列、中列、右列の第 1 装飾図柄において決めアクションを実行してもよい。それ以外にも、スーパーリーチ演出（バトルリーチ演出でもよい）を伴って当り（大当り、小当り）図柄を停止表示する場合、(k 2) の中列の第 1 装飾図柄の定位置アクション 3 を実行せずにスーパーリーチ演出を終了させ（スーパーリーチ演出の表示画面から通常背景の表示画面へと切り替え）、左列、中列、右列の第 1 装飾図柄の揺れアクションを実行し、その後、(l 2) の左列、中列、右列の第 1 装飾図柄において決めアクションを実行してもよい。

10

【3090】

(m 2) は、決めアクションの後に当り（大当り、小当り）図柄が表示された状態で揺れ変動（揺れアクション）を実行することを示している。揺れ変動（揺れアクション）は、確定停止のタイミングまで所定時間（例えば、1 秒）実行される。そして、(n 2) は、当り（大当り、小当り）図柄が確定停止した状態を示している。確定停止は、変動固定時間が示す時間に亘って第 1 装飾図柄を確定停止させるように構成されている。

【3091】

20

また、図 402 の (i) ～図 403 の (m) で説明したように、左列に「1」の数字＋ヒヨコのキャラクタの第 1 装飾図柄が仮停止し、右列に「7」の数字＋ライオンのキャラクタの第 1 装飾図柄が仮停止した後、擬似連図柄（「NEXT」図柄）が低速で変動表示され、液晶画面略中央にて仮停止し、擬似連図柄が仮停止した状態において、擬似連図柄である「NEXT」の背後の中列に「1」の数字＋ヒヨコのキャラクタの第 1 装飾図柄が仮停止する場合において、擬似連図柄である「NEXT」が再変動する際には、左列、中列、右列の第 1 装飾図柄が変動開始時アクションを実行するように構成されているが、変動開始時アクションを実行しないように構成してもよい。この場合、擬似連図柄である「NEXT」が再変動を開始した際には、既に、左列、中列、右列の第 1 装飾図柄は高速変動を実行するように構成される。このように構成することで、再変動のタイミングが分かりにくい擬似連の図柄変動において、最初の変動開始時アクション（図 402 の変動開始時アクション 1）のみを強調することができるため、遊技者が容易に特定の図柄変動であることを認識することができる。なお、擬似連図柄である「NEXT」の背後の中列に「1」の数字＋ヒヨコのキャラクタの第 1 装飾図柄が仮停止する例を示したが、擬似連図柄である「NEXT」の背後の中列に「1」の数字＋ヒヨコのキャラクタの第 1 装飾図柄が仮停止しない図 364 や図 365 に示す擬似連であってもよい。

30

【3092】

また、図 402 の (i) ～図 403 の (m) で説明したように、左列に「1」の数字＋ヒヨコのキャラクタの第 1 装飾図柄が仮停止し、右列に「7」の数字＋ライオンのキャラクタの第 1 装飾図柄が仮停止した後、擬似連図柄（「NEXT」図柄）が低速で変動表示され、液晶画面略中央にて仮停止し、擬似連図柄が仮停止した状態において、擬似連図柄である「NEXT」の背後の中列に「1」の数字＋ヒヨコのキャラクタの第 1 装飾図柄が仮停止する場合において、擬似連図柄である「NEXT」が再変動した後に、左列、中列、右列の第 1 装飾図柄は変動開始時アクションを実行する。この場合、擬似連図柄である「NEXT」が再変動を開始した後であって、擬似連図柄が高速変動となり非透過状態になった後、左列、中列、右列の第 1 装飾図柄が変動開始時アクション 2 を実行する。このように構成することで、擬似連の図柄変動については、実行された変動開始時アクションの実行回数により、当り期待度を異ならせる（擬似連の実行回数が 2 回よりも 3 回の方が当り期待度が高い）ことができる。なお、擬似連図柄である「NEXT」の背後の中列に「1」の数字＋ヒヨコのキャラクタの第 1 装飾図柄が仮停止する例を示したが、擬似連図

40

50

柄である「NEXT」の背後の中列に「1」の数字+ヒヨコのキャラクタの第1装飾図柄が仮停止しない図364や図365に示す擬似連であってもよい。この場合は、左列および右列の2つの第1装飾図柄で変動開始時アクションを実行してもよいし、左列および右列の第1装飾図柄と擬似連図柄との3つの図柄（2つの第1装飾図柄と1つの特殊図柄）で変動開始時アクションを実行してもよいし、擬似連図柄のみで変動開始時アクションを実行してもよい。

【3093】

なお、擬似連図柄を用いて擬似連する変動の場合において、第1装飾図柄がテンパイの状態であるリーチ状態が形成された後に第1装飾図柄が再変動（リーチ後擬似連）を実行する場合の所定の動作に係る動作パターン{図403の(q)定位置アクション2からの(u)テンパイアクション1を経由して(w)で示す左列と右列の第1装飾図柄の揺れアクション}と、第1装飾図柄が非テンパイの状態である非リーチ状態が形成された後に第1装飾図柄が再変動（非リーチ擬似連）を実行する場合の所定の動作に係る動作パターン{図402(f)定位置アクション1からの(i)で示す左列と右列の第1装飾図柄の揺れアクション}とが異なるよう構成されている。ここで、所定の動作に係る動作パターンとは、所定の動作の種類数及び／又は組み合わせでもよい。所定の動作の種類数としては、リーチ後擬似連を実行する場合は、定位置アクション、テンパイアクション、揺れアクションの3種類であり、非リーチ擬似連を実行する場合は、定位置アクション、図402(i)で示す揺れアクションの2種類であり、第1装飾図柄がテンパイの状態であるリーチ状態が形成された後に第1装飾図柄が再変動（リーチ後擬似連）を実行する場合の所定の動作の種類（3種類）と、第1装飾図柄が非テンパイの状態である非リーチ状態が形成された後に第1装飾図柄が再変動（非リーチ擬似連）を実行する場合の所定の動作の種類（2種類）とが異なるよう構成されている。また、所定の動作の組み合わせとしては、リーチ後擬似連を実行する場合は、定位置アクション、テンパイアクション、揺れアクションの組み合わせであり、非リーチ擬似連を実行する場合は、定位置アクション、図402(i)で示す揺れアクションの組み合わせであり、第1装飾図柄がテンパイの状態であるリーチ状態が形成された後に第1装飾図柄が再変動（リーチ後擬似連）を実行する場合の所定の動作の組み合わせ（定位置アクション、テンパイアクション、揺れアクションの組み合わせ）と、第1装飾図柄が非テンパイの状態である非リーチ状態が形成された後に第1装飾図柄が再変動（非リーチ擬似連）を実行する場合の所定の動作の組み合わせ（定位置アクション、揺れアクションの組み合わせ）とが異なるよう構成されている。このように構成することで、擬似連演出といった近年ではポピュラーな演出が行われる際に、擬似連が行われるまでの演出過程（第1装飾図柄の仮停止の態様）に応じて、第1装飾図柄のアクションの時系列的な内容を異ならせることで、従来の一様な擬似連の演出の流れを、視覚的な第1装飾図柄の態様の相違によって多様化することができる。

【3094】

次に、図406は、(a3)非時間短縮遊技状態において第1主遊技側の保留も第2主遊技側の保留も存在していない状況における第1主遊技図柄の図柄変動に対応して図柄変動した第1装飾図柄がハズレ図柄で確定停止している態様から(f3)2回目の揺れアクションまでの表示と、(a4)当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）終了デモから(f4)2回目の揺れアクションまでの表示とに関するイメージ図である。

【3095】

(a3)は、非時間短縮遊技状態にて、演出表示装置SGに第1装飾図柄と第2装飾図柄とがハズレ図柄である「711」で確定停止している。なお、非時間短縮遊技状態においては、第1装飾図柄の表示態様は「数字+キャラクタ」となっており、第2装飾図柄の表示態様は「数字」のみとなっている。そして、第1主遊技側の第1保留表示も第2主遊技側の第1保留表示もされていない。また、第1主遊技側の第2保留表示が「0」で表示、第2主遊技側の第2保留表示が「0」で表示されており、すなわち(a3)以降、第1装飾図柄が確定停止し、第1主遊技側の保留も第2主遊技側の保留も存在していない状態である変動待機状態となっている。なお、(a3)として、第1装飾図柄がハズレ図柄で

確定停止したタイミング（変動固定時間がある場合は、変動固定時間の経過後のタイミング）を例示したが、当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）終了タイミング（または、当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）終了デモ終了タイミング、当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）終了直後、時間短縮遊技状態開始直後）として、当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）の終了後に第1主遊技側の保留も第2主遊技側の保留も存在していない状況において、当り（大当り、小当り）図柄として「777」等が表示されたタイミングであってもよい。また、非時間短縮遊技状態において第1主遊技側の保留も第2主遊技側の保留も存在していない状況における第2主遊技図柄の図柄変動に対応して図柄変動した第1装飾図柄がハズレ図柄で確定停止したタイミングであってもよいし、時間短縮遊技状態において第1主遊技側の保留も第2主遊技側の保留も存在していない状況における第2主遊技図柄の図柄変動に対応して図柄変動した第1装飾図柄がハズレ図柄で確定停止したタイミングであってもよいし、時間短縮遊技状態において第1主遊技側の保留も第2主遊技側の保留も存在していない状況における第1主遊技図柄の図柄変動に対応して図柄変動した第1装飾図柄がハズレ図柄で確定停止したタイミングであってもよい。

【3096】

（b3）は、変動待機状態であって、第1装飾図柄がハズレ図柄で確定停止（変動固定時間がある場合は、変動固定時間の経過後）してから所定時間（例えば、5秒）が経過すると音量調整画面表示及び光量調整画面表示が実行される。音量調整画面表示及び光量調整画面表示について、図356で説明したとおりであり、図406では、音量調整画面表示及び光量調整画面表示を同時に実行する点および所定時間で音量調整画面表示及び光量調整画面表示が消去される点で相違している。なお、変動待機状態であれば、音量調整、光量調整の設定が終了してから所定時間（例えば、5秒）が経過することを条件に音量調整画面表示及び光量調整画面表示を再度実行するように構成してもよい。また、音量調整画面表示及び光量調整画面表示は、図406の（d3）の変動待機状態中の1回目の揺れアクション、図406の（e3）の待機中ムービーよりも先のタイミングで、遊技者の十字ボタンSB-2の操作を必要とせずに自動的に{変動待機状態であって、第1装飾図柄がハズレ図柄で確定停止（変動固定時間がある場合は、変動固定時間の経過後）してから所定時間（例えば、5秒）が経過することにより}に表示可能となっている。

【3097】

（c3）は、変動待機状態において音量調整画面表示及び光量調整画面表示が実行され、音量調整画面表示及び光量調整画面表示が実行されてから操作がないまま所定時間（例えば、10秒）が経過すると、音量調整画面表示及び光量調整画面表示が消去されるように構成されている。なお、待機中ムービーが表示されるまでは音量調整画面表示及び光量調整画面表示を継続し、待機中ムービーが表示されると音量調整画面表示及び光量調整画面表示が消去されるよう構成しても良い。その他、音量調整画面表示及び光量調整画面表示が実行されてから操作がないまま所定時間（例えば、10秒）が経過した以降の変動待機状態であれば、新たな変動が開始されるまでは音量調整画面表示及び光量調整画面表示を継続し、新たな変動が開始されると音量調整画面表示及び光量調整画面表示が消去されるよう構成しても良い。

【3098】

（d3）は、変動待機状態であって、第1装飾図柄がハズレ図柄で確定停止（変動固定時間がある場合は、変動固定時間の経過後）してから所定時間（例えば、20秒）が経過すると、変動待機状態中の1回目の揺れアクション（第二の揺れ動作）を所定時間（例えば、10秒）実行する。この変動待機状態中の1回目の揺れアクションは、第1装飾図柄は確定停止している状態であって、第1装飾図柄の第1要素としてのキャラクタのみを揺れ動作させるアクションを例示する。なお、変動待機状態中の1回目の揺れアクションは、第1装飾図柄の第1要素のみを揺れ動作させるものを例示したが、揺れアクション1や揺れアクション2と相違するアクションであれば、どのようなアクションでもよい。なお、変動待機状態であって、第1装飾図柄がハズレ図柄で確定停止（変動固定時間がある場合は、変動固定時間の経過後）してから所定時間（例えば、20秒）が経過することを条

10

20

30

40

50

件に変動待機状態中の1回目の揺れアクションを実行していたが、変動待機状態において音量調整又は光量調整の設定が終了してから所定時間（例えば、20秒）が経過することを条件に変動待機状態中の1回目の揺れアクションを実行するように構成してもよい。また、このようにする場合、第1装飾図柄がハズレ図柄で確定停止（変動固定時間がある場合は、変動固定時間の経過後）してから所定時間（例えば、15秒、もしくは、変動待機状態中の1回目の揺れアクションが開始する時間と同じ20秒）が経過した際に、第2要素としての数字が消去され、第1要素としてのキャラクタのみが表示されてもよく、このように構成することで、変動待機状態中の1回目の揺れアクションが、キャラクタのみを表示した状態で揺れ動作を行うようになる。なお、この変動待機状態中の1回目の揺れアクションを（n）の音量調整画面表示及び光量調整画面表示の実行前に行ってもよいが、いずれのタイミングで揺れアクションを開始したとしても、この揺れアクションが実行されている最中にも音量調整及び光量調整の設定が可能であり、且つ、音量調整又は光量調整を設定したとしても、この揺れアクションは終了せず継続する。また、変動待機状態中の1回目の揺れアクションは、図406の（e3）の待機中ムービーよりも先のタイミングで開始可能なアクションである。

【3099】

（e3）は、変動待機状態であって、第1装飾図柄がハズレ図柄で確定停止（変動固定時間がある場合は、変動固定時間の経過後）してから所定期間（例えば、242秒）が経過すると待機中ムービーを実行する。この待機中ムービーは、図406に示す通り、変動待機状態中の1回目の揺れアクションの後に実行され、リーチ演出の一部が含まれており、さらに、待機中ムービーには、第2装飾図柄と、第1主遊技側の第2保留表示および第2主遊技側の第2保留表示と、待機中ムービーに含まれる第1要素としてのキャラクタ及びそのキャラクタに関する情報表示（「1」や「7」の数字や「super」などのアルファベットの情報等）が表示され、所定時間（例えば、20秒）が経過するまで実行される。なお、待機中ムービーの表示中に音量調整や光量調整に関するボタン操作（十字ボタンSB-2の操作）が行われた場合には、待機中ムービーの表示を終了し、音量調整画面または光量調整画面を表示する。また、（e3）の待機中ムービーを実行するタイミングにおいて、節電中表示（節電画面）を表示してもよく、この場合、待機中ムービーよりも表示プライオリティの高い「節電中」の画像オブジェクトを待機中ムービーに重ねて表示することが好適である。この節電中表示の実行中に音量調整や光量調整に関するボタン操作（十字ボタンSB-2の操作）が行われた場合には、節電中表示を終了し、待機中ムービーのみの表示を実行する。そして、再度、音量調整や光量調整に関するボタン操作（十字ボタンSB-2の操作）が行われた場合には、待機中ムービーの表示を終了し、音量調整画面または光量調整画面を表示するように構成されている。つまり、節電中表示の実行中は音量調整や光量調整に関するボタン操作（十字ボタンSB-2の操作）が2回行われないと、音量調整画面または光量調整画面が表示されないように構成されている。なお、第2装飾図柄と、第1主遊技側の第2保留表示および第2主遊技側の第2保留表示と、待機中ムービーに含まれる第1要素としてのキャラクタに関する情報表示との大小関係は、第2装飾図柄＞第1主遊技側の第2保留表示＝第2主遊技側の第2保留表示＞待機中ムービーに含まれる第1要素としてのキャラクタに関する情報表示となっており、ハズレ図柄で第2装飾図柄が停止していること及び保留数が0であることを、第1要素としてのキャラクタに関する情報表示よりも視認し易く構成することで、遊技に関係しない待機中ムービーの情報よりも、遊技に関係する図柄および保留の表示（数字）を、遊技者に対して強調して表示することができる。

【3100】

図406の（e3）の待機中ムービーには、第2装飾図柄と、第1主遊技側の第2保留表示および第2主遊技側の第2保留表示と、待機中ムービーに含まれる第1要素としてのキャラクタ及びそのキャラクタに関する情報表示（「1」や「7」の数字や「super」などのアルファベットの情報等）とを表示する例を挙げたが、以下のように表示してもよい。

(1) 第1装飾図柄がハズレ図柄で確定停止した状態で移行する待機中ムービーでは、第2装飾図柄と、待機中ムービーに含まれる第1要素としてのキャラクタ及びそのキャラクタに関する情報表示(「1」や「7」の数字や「super」などのアルファベットの情報等)が表示され、第1主遊技側の第2保留表示および第2主遊技側の第2保留表示は表示されない。

(2) 第1装飾図柄がハズレ図柄で確定停止した状態で移行する待機中ムービーでは、第1主遊技側の第2保留表示および第2主遊技側の第2保留表示と、待機中ムービーに含まれる第1要素としてのキャラクタ及びそのキャラクタに関する情報表示(「1」や「7」の数字や「super」などのアルファベットの情報等)が表示され、第2装飾図柄は表示されない。

10

(3) 第1装飾図柄がハズレ図柄で確定停止した状態で移行する待機中ムービーでは、待機中ムービーに含まれる第1要素としてのキャラクタ及びそのキャラクタに関する情報表示(「1」や「7」の数字や「super」などのアルファベットの情報等)が表示され、第2装飾図柄と、第1主遊技側の第2保留表示および第2主遊技側の第2保留表示は表示されない。

【3101】

(f3)は、変動待機状態であって、第1装飾図柄がハズレ図柄で確定停止(変動固定時間がある場合は、変動固定時間の経過後)してから所定時間(例えば、300秒)が経過すると、変動待機状態中の2回目の揺れアクション(第二の揺れ動作。なお、この変動待機状態中の2回目の揺れアクションは、待機中ムービーの表示が終了した後に実行される第二の揺れ動作であるが第三の揺れ動作とも呼ぶことがある。)を所定時間(例えば、10秒)実行する。この変動待機状態中の2回目の揺れアクションは、第1装飾図柄は確定停止している状態であって、第1装飾図柄の第1要素としてのキャラクタのみを揺れ動作させるアクションを例示する。なお、変動待機状態中の2回目の揺れアクションは、変動待機状態中の1回目の揺れアクション同様、第1装飾図柄の第1要素のみを揺れ動作させるものを例示したが、揺れアクション1や揺れアクション2と相違するアクションであれば、どのようなアクションでもよい。なお、変動待機状態中の2回目の揺れアクションは、音量調整、光量調整の設定が終了してから所定時間(例えば、242秒)が経過することを条件に実行するように構成してもよい。なお、この変動待機状態中の2回目の揺れアクションは、待機中ムービーの終了直後から揺れアクションを開始してもよい。また、この変動待機状態中の2回目の揺れアクションは、所定時間(例えば、10秒)だけ実行するようにしたが、次回(2回目)の待機中ムービーが表示されるまで揺れアクションを継続してもよい。この場合、(a3)→(b3)→(c3)→(d3)→(e3)の1回目の待機中ムービー→(f3)の2回目の揺れアクション→2回目の待機中ムービー→3回目の揺れアクション・・・となるように、揺れアクション→待機中ムービーがループするように構成してもよい。また、前述したように、第1装飾図柄がハズレ図柄で確定停止(変動固定時間がある場合は、変動固定時間の経過後)してから所定時間(例えば、15秒、もしくは、変動待機状態中の1回目の揺れアクションが開始する時間と同じ20秒)が経過した際に、第2要素としての数字が消去され、第1要素としてのキャラクタのみが表示されるよう構成した場合において、待機中ムービーの終了直後から2回目の揺れアクションを開始する際には、2回目の待機中ムービーの終了直後から第1要素のみの第1装飾図柄の表示態様としてもよいが、2回目の待機中ムービーの終了直後から再度、第1要素と第2要素とからなる第1装飾図柄の表示態様に戻してもよい。また、待機中ムービーと変動待機状態の揺れアクションを同時に実行するように構成してもよい。この場合、待機中ムービーの表示プライオリティを、変動待機状態の揺れアクションよりも高くし、待機中ムービーを透過させるように構成することで、待機中ムービーの裏で変動待機状態の揺れアクションが視認可能となるように構成されている。なお、待機中ムービーが透過しない場合は、待機中ムービーのみしか視認できないが、裏では変動待機状態の揺れアクションを実行するように構成されている。

20

30

40

【3102】

50

(a 4) は、当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）終了タイミング（または、当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）終了デモ終了タイミング、当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）終了直後、時間短縮遊技状態開始直後）として、当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）の終了後に第1主遊技側の保留も第2主遊技側の保留も存在していない状況である時間短縮遊技状態において、当り（大当り、小当り）図柄として「7 7 7」等が表示されたタイミングを示している。なお、時間短縮遊技状態においては、第1装飾図柄の表示態様も第2装飾図柄の表示態様も「数字」のみとなっている。但し、特定種類の第1装飾図柄に関してのみ、「数字+キャラクタ」としてもよい（例えば、7図柄と3図柄についてのみ「数字+キャラクタ」とし、それ以外の第1装飾図柄については「数字」のみとしてもよい）。そして、第1主遊技側の第1保留表示も第2主遊技側の第1保留表示もされていない。また、第1主遊技側の第2保留表示が「0」で表示、第2主遊技側の第2保留表示が「0」で表示されており、すなわち（a 4）以降、第1装飾図柄が確定停止し、第1主遊技側の保留も第2主遊技側の保留も存在していない状態である変動待機状態となっている。なお、（a 4）は、時間短縮遊技状態において、第1装飾図柄の表示態様も第2装飾図柄の表示態様も「数字」のみとなるように構成したが、（a 4）は、特定の演出ステージにおいて、第1装飾図柄の表示態様も第2装飾図柄の表示態様も「数字」のみとなるように構成する場合であっても適用可能である。また、このように、「数字」のみや、「数字+キャラクタ」といった第1装飾図柄の表示態様について、これらに第3要素を加えてもよい。例えば、「数字」のみの場合は、「数字+エフェクト」としてもよく、「数字+キャラクタ」の場合は、「数字+キャラクタ+エフェクト」としてもよい。

10

20

【3 1 0 3】

(b 4) は、図示は省略するが、変動待機状態であって、当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）終了タイミング（または、当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）終了デモ終了タイミング、当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）終了直後、時間短縮遊技状態開始直後）から所定時間（例えば、5秒）が経過すると音量調整画面表示及び光量調整画面表示が実行される。図示はしないが、（b 3）のハズレ図柄の表示の第1装飾図柄および第2装飾図柄の「7 1 1」が、当り（大当り、小当り）図柄の表示の第1装飾図柄および第2装飾図柄の「7 7 7」となることで相違している。

【3 1 0 4】

(c 4) は、図示は省略するが、変動待機状態において音量調整画面表示及び光量調整画面表示が実行され、音量調整画面表示及び光量調整画面表示が実行されてから操作がないまま所定時間（例えば、10秒）が経過すると、音量調整画面表示及び光量調整画面表示が消去されるように構成されている。図示はしないが、（c 3）のハズレ図柄の表示の第1装飾図柄および第2装飾図柄の「7 1 1」が、当り（大当り、小当り）図柄の表示の第1装飾図柄および第2装飾図柄の「7 7 7」となることで相違している。

30

【3 1 0 5】

(d 4) は、図示は省略するが、変動待機状態であって、当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）終了タイミング（または、当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）終了デモ終了タイミング、当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）終了直後、時間短縮遊技状態開始直後）から所定時間（例えば、20秒）が経過すると、変動待機状態中の1回目の揺れアクション（第二の揺れ動作）を所定時間（例えば、10秒）実行する。図示はしないが、（d 3）のハズレ図柄の表示の第1装飾図柄および第2装飾図柄の「7 1 1」が、当り（大当り、小当り）図柄の表示の第1装飾図柄および第2装飾図柄の「7 7 7」となることで相違している。なお、変動待機状態中の1回目の揺れアクションは、非時間短縮遊技状態での変動待機状態では揺れアクションを実行するが、時間短縮遊技状態での変動待機状態では揺れアクションを実行しないように構成してもよい。

40

【3 1 0 6】

(e 4) は、特別遊技（大当り遊技）の終了後であり、変動待機状態であって、当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）終了タイミング（または、当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）終了デモ終了タイミング、当り遊技（大当り遊技または小当り遊技）終了

50

直後、時間短縮遊技状態開始直後）が終了してから所定期間（例えば、242秒）が経過すると待機中ムービーを実行する。待機中ムービーは、リーチ演出の一部が含まれており、さらに、待機中ムービーには、第2装飾図柄と、第1主遊技側の第2保留表示および第2主遊技側の第2保留表示と、待機中ムービーに含まれる第1要素としてのキャラクタ及びそのキャラクタに関する情報表示（「1」や「7」の数字や「super」などのアルファベットの情報等）、特別遊技の実行回数である連荘表示（例えば、「3連荘」）、特別遊技で獲得した利益数表示（例えば、「GET7200」）、時間短縮遊技状態の実行可能回数表示（例えば、「残り100回」）が表示され、所定時間（例えば、20秒）が経過するまで実行される。なお、待機中ムービーの表示中に音量調整や光量調整に関するボタン操作（十字ボタンSB-2の操作）が行われた場合には、待機中ムービーの表示を終了し、音量調整画面または光量調整画面を表示する。また、の待機中ムービーを実行するタイミングにおいて、節電中表示（節電画面）を表示してもよく、この場合、待機中ムービーよりも表示プライオリティの高い「節電中」の画像オブジェクトを待機中ムービーに重ねて表示することが好適である。この節電中表示の実行中に音量調整や光量調整に関するボタン操作（十字ボタンSB-2の操作）が行われた場合には、節電中表示を終了し、待機中ムービーのみの表示を実行する。そして、再度、音量調整や光量調整に関するボタン操作（十字ボタンSB-2の操作）が行われた場合には、待機中ムービーの表示を終了し、音量調整画面または光量調整画面を表示するように構成されている。つまり、節電中表示の実行中は音量調整や光量調整に関するボタン操作（十字ボタンSB-2の操作）が2回行われないと、音量調整画面または光量調整画面が表示されないように構成されている。なお、第2装飾図柄と、第1主遊技側の第2保留表示および第2主遊技側の第2保留表示と、待機中ムービーに含まれる第1要素としてのキャラクタに関する情報表示、連荘表示、利益数表示、実行可能回数表示との大小関係は、実行可能回数表示>連荘表示>利益数表示>第2装飾図柄>第1主遊技側の第2保留表示=第2主遊技側の第2保留表示>待機中ムービーに含まれる第1要素としてのキャラクタに関する情報表示となっており、ハズレ図柄で第2装飾図柄が停止していること及び保留数が0であることを、第1要素としてのキャラクタに関する情報表示よりも視認し易く構成することで、遊技に関係しない待機中ムービーの情報よりも、遊技に関係する図柄および保留の表示（数字）を、遊技者に対して強調して表示することができる。

【3107】

図406の（e4）の待機中ムービーには、第2装飾図柄と、第1主遊技側の第2保留表示および第2主遊技側の第2保留表示と、待機中ムービーに含まれる第1要素としてのキャラクタ及びそのキャラクタに関する情報表示（「1」や「7」の数字や「super」などのアルファベットの情報等）、特別遊技の実行回数である連荘表示（例えば、「3連荘」）、特別遊技で獲得した利益数表示（例えば、「GET7200」）、時間短縮遊技状態の実行可能回数表示（例えば、「残り100回」）とを表示する例を挙げたが、以下のように表示してもよい。

（1）第1装飾図柄がハズレ図柄で確定停止した状態で移行する待機中ムービーでは、第2装飾図柄と、待機中ムービーに含まれる第1要素としてのキャラクタ及びそのキャラクタに関する情報表示（「1」や「7」の数字や「super」などのアルファベットの情報等）、特別遊技の実行回数である連荘表示（例えば、「3連荘」）、特別遊技で獲得した利益数表示（例えば、「GET7200」）、時間短縮遊技状態の実行可能回数表示（例えば、「残り100回」）が表示され、第1主遊技側の第2保留表示および第2主遊技側の第2保留表示は表示されない。

（2）第1装飾図柄がハズレ図柄で確定停止した状態で移行する待機中ムービーでは、第1主遊技側の第2保留表示および第2主遊技側の第2保留表示と、待機中ムービーに含まれる第1要素としてのキャラクタ及びそのキャラクタに関する情報表示（「1」や「7」の数字や「super」などのアルファベットの情報等）、特別遊技の実行回数である連荘表示（例えば、「3連荘」）、特別遊技で獲得した利益数表示（例えば、「GET7200」）、時間短縮遊技状態の実行可能回数表示（例えば、「残り100回」）が表示

され、第2装飾図柄は表示されない。

(3) 第1装飾図柄がハズレ図柄で確定停止した状態で移行する待機中ムービーでは、待機中ムービーに含まれる第1要素としてのキャラクタ及びそのキャラクタに関する情報表示(「1」や「7」の数字や「super」などのアルファベットの情報等)、特別遊技の実行回数である連荘表示(例えば、「3連荘」、特別遊技で獲得した利益数表示(例えば、「GET7200」、時間短縮遊技状態の実行可能回数表示(例えば、「残り100回」)が表示され、第2装飾図柄と、第1主遊技側の第2保留表示および第2主遊技側の第2保留表示は表示されない。

(4) 第1装飾図柄がハズレ図柄で確定停止した状態で移行する待機中ムービーでは、第2装飾図柄と、待機中ムービーに含まれる第1要素としてのキャラクタ及びそのキャラクタに関する情報表示(「1」や「7」の数字や「super」などのアルファベットの情報等)が表示され、第1主遊技側の第2保留表示および第2主遊技側の第2保留表示、特別遊技の実行回数である連荘表示(例えば、「3連荘」、特別遊技で獲得した利益数表示(例えば、「GET7200」、時間短縮遊技状態の実行可能回数表示(例えば、「残り100回」)は表示されない。

(5) 第1装飾図柄がハズレ図柄で確定停止した状態で移行する待機中ムービーでは、第1主遊技側の第2保留表示および第2主遊技側の第2保留表示と、待機中ムービーに含まれる第1要素としてのキャラクタ及びそのキャラクタに関する情報表示(「1」や「7」の数字や「super」などのアルファベットの情報等)が表示され、第2装飾図柄、特別遊技の実行回数である連荘表示(例えば、「3連荘」、特別遊技で獲得した利益数表示(例えば、「GET7200」、時間短縮遊技状態の実行可能回数表示(例えば、「残り100回」)は表示されない。

(6) 第1装飾図柄がハズレ図柄で確定停止した状態で移行する待機中ムービーでは、待機中ムービーに含まれる第1要素としてのキャラクタ及びそのキャラクタに関する情報表示(「1」や「7」の数字や「super」などのアルファベットの情報等)が表示され、第2装飾図柄、第1主遊技側の第2保留表示および第2主遊技側の第2保留表示、特別遊技の実行回数である連荘表示(例えば、「3連荘」、特別遊技で獲得した利益数表示(例えば、「GET7200」、時間短縮遊技状態の実行可能回数表示(例えば、「残り100回」)は表示されない。

なお、図406の(a4)～(d4)及び(f4)の状況(待機中ムービーが表示されていない状況)においては、不図示であるが右打ち指示表示が表示されており、(e4)の状況(待機中ムービーが表示されている状況)においては、右打ち指示表示が表示されない(非表示に切り替える)よう構成してもよい。このように構成した場合、図406の(e4)を上記(1)～(6)のように表示する場合であっても、右打ち指示表示が表示されない(非表示に切り替える)よう構成してもよい。また、図406の(a4)～(d4)及び(f4)の状況(待機中ムービーが表示されていない状況)においては、不図示であるが右打ち指示表示が表示されており、(e4)の状況(待機中ムービーが表示されている状況)においても、右打ち指示表示が表示される(継続表示される)よう構成してもよい。このように構成した場合、図406の(e4)を上記(1)～(6)のように表示する場合であっても、右打ち指示表示が表示される(継続表示される)よう構成してもよい。

【3108】

図406の(f4)は、変動待機状態であって、当り遊技(大当り遊技または小当り遊技)終了タイミング(または、当り遊技(大当り遊技または小当り遊技)終了デモ終了タイミング、当り遊技(大当り遊技または小当り遊技)終了直後、時間短縮遊技状態開始直後)から所定時間(例えば、300秒)が経過すると、変動待機状態中の2回目の揺れアクション(第二の揺れ動作。なお、この変動待機状態中の2回目の揺れアクションは、待機デモ画面の表示が終了した後に実行される第二の揺れ動作であるが第三の揺れ動作とも呼ぶことがある。)を所定時間(例えば、10秒)実行する。この変動待機状態中の2回目の揺れアクションは、第1装飾図柄は確定停止している状態であって、第1装飾図柄の

第1要素としてのキャラクタのみを揺れ動作させるアクションを例示する。なお、変動待機状態中の2回目の揺れアクションは、変動待機状態中の1回目の揺れアクション同様、第1装飾図柄の第1要素のみを揺れ動作させるものを例示したが、揺れアクション1や揺れアクション2と相違するアクションであれば、どのようなアクションでもよい。なお、変動待機状態中の2回目の揺れアクションは、音量調整、光量調整の設定が終了してから所定時間（例えば、242秒）が経過することを条件に実行するように構成してもよい。なお、変動待機状態中の2回目の揺れアクションは、非時間短縮遊技状態での変動待機状態では揺れアクションを実行するが、時間短縮遊技状態での変動待機状態では揺れアクションを実行しないように構成してもよい。

【3109】

図406の(f4)に示す変動待機状態中の2回目の揺れアクションは、待機中ムービーの終了直後から揺れアクションを開始してもよい。また、この変動待機状態中の2回目の揺れアクションは、所定時間（例えば、10秒）だけ実行するようにしたが、次回（2回目）の待機中ムービーが表示されるまで揺れアクションを継続してもよい。この場合、(a4)→(b4)→(c4)→(d4)→(e4)の1回目の待機中ムービー→(f4)の2回目の揺れアクション→2回目の待機中ムービー→3回目の揺れアクション・・・となるように、揺れアクション→待機中ムービーがループするように構成してもよい。また、待機中ムービーの終了直後から2回目の揺れアクションを開始する場合、且つ、揺れアクションを実行する第1装飾図柄の態様が、第2要素としての数字が消去され、第1要素としてのキャラクタのみが表示される場合、2回目の待機中ムービーの終了直後から第1要素のみの表示としても良い。また、待機中ムービーと変動待機状態の揺れアクションを同時に実行するように構成してもよい。この場合、待機中ムービーの表示プライオリティを、変動待機状態の揺れアクションよりも高くし、待機中ムービーを透過させるように構成することで、待機中ムービーの裏で変動待機状態の揺れアクションが視認可能となるように構成されている。また、待機中ムービーが透過しない場合は、待機中ムービーのみしか視認できないが、裏では変動待機状態の揺れアクションを実行するように構成されている。

【3110】

次に、図407は、非時間短縮遊技状態における第1主遊技側の通常の図柄変動とリーチ変動における左列および右列の第1装飾図柄と中列の第1装飾図柄との重複関係を示すイメージ図である。まず、通常の図柄変動において、左列および右列の第1装飾図柄については、所定タイミング（例えば、変動開始時、揺れ変動時）にて中列の第1装飾図柄と、第1の重複領域で重なる（重複する）が、左列と右列の第1装飾図柄同士は重ならないように構成されている。また、特定の図柄変動（例えば、リーチ変動）においては、左列および右列の第1装飾図柄については、所定タイミング（例えば、変動開始時、リーチの中列の図柄送り変動時、決めアクション時、揺れ変動時）にて中列の第1装飾図柄と、第2の重複領域で重なるが、左列と右列の第1装飾図柄同士は重ならないように構成されている。ここで、図示されるとおり、特定の図柄変動（例えば、リーチ変動）は、通常の図柄変動よりも、左列および右列の第1装飾図柄が中列の第1装飾図柄と重複する領域の割合である重複割合（＝左列および右列の第1装飾図柄と中列の第1装飾図柄とが重複している重複領域／左列および右列の第1装飾図柄と中列の第1装飾図柄の表示領域）が大きく構成（第1の重複領域＜第2の重複領域）されている。また、特定の図柄変動（例えば、リーチ変動）は、通常の図柄変動よりも、左列および右列の第1装飾図柄が中列の第1装飾図柄と重複するタイミングが多くなっている。ここで、図示されるとおり、特定の図柄変動（例えば、リーチ変動）における第2の重複領域は、所定タイミングの種類に応じて異なるよう構成されており、変動開始時（変動開始時アクション時）のほうが、リーチの中列の図柄送り変動時よりも重複割合（又は重複領域）が大きく、決めアクション時や揺れ変動時などのほうが、変動開始時（変動開始時アクション時）よりも重複割合（又は重複領域）が大きい。なお、所定タイミングにおいては、アクション（例えば、変動開始時アクション、揺れアクション、テンパイアクション、決めアクション）が発生し、左列

10

20

30

40

50

および右列の第1装飾図柄と中列の第1装飾図柄のカード型の画像オブジェクト（キャラクタ型の画像オブジェクトでもよい）の第1要素同士は重複するが、数字の画像オブジェクトの第2要素同士は重複しないように構成されている。このように第1装飾図柄に動きを付ける際には、第1要素としてのキャラクタについては躍動感を出すため隣り合ったキャラクタは重複を許可する一方で、いずれの数字が停止するのかといった当たり（大当たり、小当たり）態様になるか否かを強調する第2要素としての数字については重複しないように構成することで、第1装飾図柄自体の動きを多様化しつつも、第1装飾図柄の本来の目的である当たり（大当たり、小当たり）かハズレかを報知するという役割を逸脱しないようにすることができる。但し、第1要素と第2要素とで構成される第1装飾図柄が表示されている状況（例えば、変動開始時アクション時、テンパイアクション時、揺れアクション時など）においては、上記のとおり第1要素同士は重複し第2要素同士は重複しないよう構成することが適切であるが、例えば、スーパーリーチ演出やバトルリーチ演出中において第1要素なしの第2要素で構成される第1装飾図柄が表示されている状況においては、第2要素同士が重複するようなタイミングを設けてもよい（例えば、通常背景に戻って決めアクションを行う前のタイミングであり、スーパーリーチ演出中に「777」と表示するタイミングなど）。また、第1要素と第2要素とで構成される第1装飾図柄において、第1要素同士は重複し第2要素同士は重複しないものを例示したが、それに限らず、第1要素同士も重複し第2要素同士も重複するよう構成してもよく、そのような場合は第1要素同士の重複割合（＝左列および右列の第1装飾図柄の第1要素と中列の第1装飾図柄の第1要素とが重複している重複領域／左列および右列の第1装飾図柄の第1要素と中列の第1装飾図柄の第1要素の表示領域）と第2要素同士の重複割合（＝左列および右列の第1装飾図柄の第2要素と中列の第1装飾図柄の第2要素とが重複している重複領域／左列および右列の第1装飾図柄の第2要素と中列の第1装飾図柄の第2要素の表示領域）とを異ならせること、特に、第1要素同士の重複割合のほうが、第2要素同士の重複割合よりも大きくすることが好適である。なお、非時間短縮遊技状態における第1主遊技側の通常の図柄変動とリーチ変動に限定されることはなく、非リーチ演出、ノーマルリーチ演出やスーパーリーチ演出、バトルリーチ演出の前半・後半を行うリーチ変動であってもよい。また、時間短縮遊技状態や特定の演出モードにおいては、非時間短縮遊技状態や特定の演出モード以外の所定の演出モードとは異なり、第1装飾図柄の構成要素をスーパーリーチ演出やバトルリーチ演出中に限らず第1要素なしの第2要素としてもよく、そのように構成した場合、時間短縮遊技状態や特定の演出モードにおいては、所定のタイミング（変動開始時アクション時、揺れアクション時、テンパイアクション時、決めアクション時など）において、第2要素同士が重複してもよい。なお、ハズレのスーパーリーチ演出、バトルリーチ演出の前半・後半を行うリーチ変動を対象とする場合、先読み演出のトリガ保留となり得ることは明らかである。

【3111】

図407では、リーチ変動において中列の図柄送り時に左列および右列の第1装飾図柄がテンパイしている状況において、左列および右列の第1装飾図柄の方が、中列の第1装飾図柄より表示優先度が高いものを例示したが、中列の第1装飾図柄の方が、右列および左列の第1装飾図柄より表示優先度が高くしてもよい。このように構成することで、中列の第1装飾図柄が当たり（大当たり、小当たり）図柄組み合わせになるか（ゾロ目になるか）を遊技者に対して注視させることができる。また、図407は、リーチ変動において左列および右列の第1装飾図柄のテンパイ時に左列および右列の第1装飾図柄が拡大し、その後、中列の第1装飾図柄が左列および右列の第1装飾図柄よりも小さいサイズでスクロール変動している例示であるが、この例示以外にも、テンパイ時に左列および右列の第1装飾図柄は拡大しない又は縮小し、その後、中列の第1装飾図柄が拡大して左列および右列の第1装飾図柄よりも大きなサイズで左列および右列の第1装飾図柄の第1要素と重複しながらスクロール表示してもよい。その場合、中列の第1装飾図柄を左列および右列の第1装飾図柄より表示優先度を高くして中列の第1装飾図柄を注視させることが好適であるが、左列および右列の第1装飾図柄を中列の第1装飾図柄より表示優先度を高くしてもよい

。このように構成する場合、通常の図柄変動（非リーチ変動）においては、リーチ変動に比べて、第1装飾図柄が、拡大縮小しない、拡大縮小し難いことが好適である。また、通常の図柄変動（非リーチ変動）では、左列および右列の第1装飾図柄が、所定タイミング（例えば、変動開始時、揺れ変動時）に中列の第1装飾図柄と、第1の重複領域で重複しないよう構成してもよい。また、特定の図柄の組合せ（時短図柄）としての時短専用図柄、ハズレ図柄（ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合）、小当り図柄（小当り図柄を時短図柄として併用する場合）、大当り図柄のいずれかが確定停止する図柄変動であってもよく、時短図柄の第1装飾図柄、第2装飾図柄は「777」等のゾロ目の態様で停止表示させてもよいし、リーチ外れの態様で停止表示させてもよいし、バラケ目の態様で停止表示させてもよいし、時短専用図柄として特殊な図柄の態様で停止表示させてもよい。

10

【3112】

また、通常の図柄変動において、左列および右列の第1装飾図柄が、所定のアクション（例えば、変動開始時アクション、揺れアクション等）にて中列の第1装飾図柄と、第1の重複領域で重なる第1の時間よりも、特定の図柄変動（例えば、リーチ変動）において、左列および右列の第1装飾図柄が、所定のアクション（例えば、変動開始時アクション、揺れアクション、決めアクション等）にて中列の第1装飾図柄と第2の重複領域で重なる第2の時間の方が長く構成（第1の時間<第2の時間）されている。このように当り（大当り、小当り）の期待度が高いリーチ変動において、左列および右列の第1装飾図柄が中列の第1装飾図柄と重複する時間を通常の図柄変動よりも長くすることによって、第1装飾図柄自体の動きを多様化させつつ遊技者に各アクションを注視させることができる。

20

【3113】

また、特定の図柄変動（例えば、リーチ変動）において、左列の第1装飾図柄については、所定のアクション（例えば、変動開始時アクション、テンパイアクション、揺れアクション、決めアクション等）にて右列の第1装飾図柄と重なる場合もある。この場合、通常の図柄変動において、左列の第1装飾図柄については、所定のアクション（例えば、変動開始時アクション、テンパイアクション、揺れアクション、決めアクション等）にて右列の第1装飾図柄と、第3の重複領域で重なる（重複する）ように構成されており、特定の図柄変動（例えば、リーチ変動）においては、左列の第1装飾図柄については、所定のアクション（例えば、変動開始時アクション、テンパイアクション、揺れアクション、決めアクション等）にて右列の第1装飾図柄と、第4の重複領域で重なるように構成されている。特定の図柄変動（例えば、リーチ変動）は、通常の図柄変動よりも、左列の第1装飾図柄が右列の第1装飾図柄と重複する領域の割合である重複割合（＝左列の第1装飾図柄と右列の第1装飾図柄とが重複している重複領域／左列の第1装飾図柄と右列の第1装飾図柄の表示領域）が大きく構成（第3の重複領域<第4の重複領域）されている。また、特定の図柄変動（例えば、リーチ変動）は、通常の図柄変動よりも、左列の第1装飾図柄が右列の第1装飾図柄と重複するタイミングが多くなっている。ここで、特定の図柄変動（例えば、リーチ変動）における第4の重複領域は、所定のアクションに応じて異なるよう構成されており、変動開始時アクションのほうが、リーチの中列の図柄送り変動時の揺れアクション時よりも重複割合（又は重複領域）が大きく、決めアクションや揺れアクションなどのほうが、変動開始時アクションよりも重複割合（又は重複領域）が大きい。但し、第1要素と第2要素とで構成される第1装飾図柄が表示されている状況（例えば、変動開始時アクション時、テンパイアクション時、揺れアクション時など）においては、左列の第1装飾図柄の第1要素と右列の第1装飾図柄の第1要素とが重複し、左列の第1装飾図柄の第2要素と右列の第1装飾図柄の第2要素とが重複しないよう構成することが適切であるが、例えば、スーパーリーチ演出やバトルリーチ演出中において第1要素なしの第2要素で構成される第1装飾図柄が表示されている状況においては、第2要素同士が重複するようなアクションを設けてもよい（例えば、決めアクションなど）。また、第1要素と第2要素とで構成される第1装飾図柄において、第1要素同士は重複し第2要素同士は重複しないものを例示したが、それに限らず、第1要素同士も重複し第2要素同士も重複するよう構成してもよく、そのような場合は第1要素同士の重複割合（＝左列の第1

30

40

50

装飾図柄の第1要素と右列の第1装飾図柄の第1要素とが重複している重複領域／左列の第1装飾図柄の第1要素と右列の第1装飾図柄の第1要素の表示領域）と第2要素同士の重複割合（＝左列の第1装飾図柄の第2要素と右列の第1装飾図柄の第2要素とが重複している重複領域／左列の第1装飾図柄の第2要素と右列の第1装飾図柄の第2要素の表示領域）とを異ならせること、特に、第1要素同士の重複割合のほうが、第2要素同士の重複割合よりも大きくすることが好適である。なお、非時間短縮遊技状態における第1主遊技側の通常の図柄変動とリーチ変動に限定されることはなく、非リーチ演出、ノーマルリーチ演出やスーパーリーチ演出、バトルリーチ演出の前半・後半を行うリーチ変動であってもよい。また、時間短縮遊技状態や特定の演出モードにおいては、非時間短縮遊技状態や特定の演出モード以外の所定の演出モードとは異なり、第1装飾図柄の構成要素をスーパーリーチ演出やバトルリーチ演出中に限らず第1要素なしの第2要素としてもよく、そのように構成した場合、時間短縮遊技状態や特定の演出モードにおいては、所定のアクション（変動開始時アクション、揺れアクション、テンパイアクション、決めアクションなど）において、第2要素同士が重複してもよい。なお、ハズレのスーパーリーチ演出、バトルリーチ演出の前半・後半を行うリーチ変動を対象とする場合、先読み演出のトリガ保留となり得ることは明らかである。また、特定の図柄変動（例えば、リーチ変動）は、通常の図柄変動よりも、第3の重複領域で左列の第1装飾図柄と右列の第1装飾図柄とが重複する時間よりも、第4の重複領域で左列の第1装飾図柄と右列の第1装飾図柄とが重複する時間の方が長く構成されている。なお、左列の第1装飾図柄と右列の第1装飾図柄のカード型の画像オブジェクト（キャラクタ型の画像オブジェクトでもよい）の第1要素同士は重複するが、数字の画像オブジェクトの第2要素同士は重複しないように構成されていることが好ましい。このように第1装飾図柄に動きを付ける際には、第1要素としてのキャラクタについては躍動感を出すため隣り合ったキャラクタは重複を許可する一方で、いずれの数字が停止するのかといった当たり（大当たり、小当たり）態様になるか否かを強調する第2要素としての数字については重複しないように構成することで、第1装飾図柄自体の動きを多様化しつつも、第1装飾図柄の本来の目的である当たり（大当たり、小当たり）かハズレかを報知するという役割を逸脱しないようにすることができる。また、当たり（大当たり、小当たり）の期待度が高いリーチ変動において、左列の第1装飾図柄が右列の第1装飾図柄と重複する時間を通常の図柄変動よりも長くすることによって、遊技者に各アクションを注視させることができる。なお、図407において、変動開始時、揺れ変動時、リーチの中列の図柄送り変動時、決めアクション時に左列および右列の第1装飾図柄が中列の第1装飾図柄に重複している例を示したが、これらのタイミング以外（確定停止のタイミングを含む）においては、左列および右列の第1装飾図柄が中列の第1装飾図柄に重複していてもよい（例えば、確定停止している状態での重複）し、重複していなくてもよい。

【3114】

また、非時間短縮遊技状態における第1主遊技側の特定の図柄変動（例えば、リーチ変動）において、リーチ状態が形成されている所定のタイミング（例えば、図397、図402～図405、図407に示すに示すような、左列および右列の第1装飾図柄を用いたテンパイアクション2が行われ、その後、左列、右列の第1装飾図柄がテンパイしながら揺れ変動している状態（図407のリーチの中列の図柄送り変動時）で、中列の第1装飾図柄が拡大して下方向に変動表示しているタイミング）においては、変動表示を継続している所定の演出用図柄列（例えば、中列）に対応する第1装飾図柄のカード型の画像オブジェクト（キャラクタ型の画像オブジェクトでもよい）の第1要素と、暫定的に停止表示し且つ揺れアクション2を実行している所定の演出用図柄列以外（例えば、左列、右列）の演出用図柄列に対応する第1装飾図柄のカード型の画像オブジェクト（キャラクタ型の画像オブジェクトでもよい）の第1要素とが第2の重複領域で重なる（重複する）ように構成されている。また、非時間短縮遊技状態における第1主遊技側の非リーチ状態が形成される通常の図柄変動において、非リーチ状態が形成されている所定のタイミング（例えば、図401、図407に示すような、左列、右列の第1装飾図柄が暫定的に停止表示しており且つ揺れアクションを実行している状態において、その後、図408（d）で示す

10

20

30

40

50

ような中列の第1装飾図柄が定位置アクション3の実行を伴って暫定的に停止表示するタイミング)においては、暫定的に停止表示し且つ定位置アクション3を行う所定の演出用図柄列(例えば、中列)に対応する第1装飾図柄のカード型の画像オブジェクト(キャラクタ型の画像オブジェクトでもよい)の第1要素と、暫定的に停止表示し且つ揺れアクションを実行している所定の演出用図柄列以外(例えば、左列、右列)の演出用図柄列に対応する第1装飾図柄のカード型の画像オブジェクト(キャラクタ型の画像オブジェクトでもよい)の第1要素とが第1の重複領域で重なる(重複する)ように構成されている。そして、特定の図柄変動(例えば、リーチ変動)におけるリーチ状態が形成されている所定のタイミングにおける、変動表示を継続している中列に対応する第1装飾図柄の第1要素と、暫定的に停止表示し且つ揺れアクション2を実行している左列および右列に対応する第1装飾図柄の第1要素とが重なる(重複する)第2の重複領域の方が、通常の図柄変動における非リーチ状態が形成されている所定のタイミングにおける、暫定的に停止表示し且つ定位置アクション3を行う中列に対応する第1装飾図柄の第1要素と、暫定的に停止表示し且つ揺れアクションを実行している左列および右列に対応する第1装飾図柄の第1要素とが重なる(重複する)第1の重複領域よりも、大きく構成(第2の重複領域>第1の重複領域)されている。つまり、特定の図柄変動(例えば、リーチ変動)の方が、通常の図柄変動よりも、第1装飾図柄の第1要素同士が重複する領域の割合(重複割合)が大きく構成(第2の重複領域>第1の重複領域)されている。なお、所定タイミングにおいては、左列および右列の第1装飾図柄と中列の第1装飾図柄の第1要素同士は重複するが、第2要素同士は重複しないように構成されている。このように第1装飾図柄に動きを付ける際には、第1要素としてのキャラクタについては躍動感を出すため隣り合ったキャラクタは重複を許可する一方で、いずれの数字が停止するのかといった当たり(大当たり、小当たり)態様になるか否かを強調する第2要素としての数字については重複しないように構成することで、第1装飾図柄自体の動きを多様化しつつも、第1装飾図柄の本来の目的である当たり(大当たり、小当たり)かハズレかを報知するという役割を逸脱しないようにすることができる。なお、非時間短縮遊技状態における第1主遊技側の通常の図柄変動とリーチ変動に限定されることはなく、非リーチ演出、ノーマルリーチ演出やスーパーリーチ演出、バトルリーチ演出の前半・後半を行うリーチ変動であってもよい。なお、ハズレのスーパーリーチ演出、バトルリーチ演出の前半・後半を行うリーチ変動を対象とする場合、先読み演出のトリガ保留となり得ることは明らかである。

【3115】

また、非時間短縮遊技状態における第1主遊技側の特定の図柄変動(例えば、リーチ変動)において、リーチ状態が形成されている所定のタイミング(例えば、図397、図402~図405、図407に示すに示すような、左列および右列の第1装飾図柄を用いたテンパイアクション2が行われ、その後、左列、右列の第1装飾図柄がテンパイしながら揺れ変動している状態で、中列の第1装飾図柄が拡大して下方向に変動表示しているタイミング)においては、変動表示を継続している所定の演出用図柄列(例えば、中列)に対応する第1装飾図柄のカード型の画像オブジェクト(キャラクタ型の画像オブジェクトでもよい)の第1要素と、暫定的に停止表示し且つ揺れアクション2を実行している所定の演出用図柄列以外(例えば、左列、右列)の演出用図柄列に対応する第1装飾図柄のカード型の画像オブジェクト(キャラクタ型の画像オブジェクトでもよい)の第1要素とが第2の重複領域で第5の時間重なる(重複する)ように構成されている。また、非時間短縮遊技状態における第1主遊技側の非リーチ状態が形成される通常の図柄変動において、非リーチ状態が形成されている所定のタイミング(例えば、図401、図407に示すような、左列、右列の第1装飾図柄が暫定的に停止表示しており且つ揺れアクションを実行している状態において、その後、図408(d)で示すような中列の第1装飾図柄が定位置アクション3の実行を伴って暫定的に停止表示するタイミング)においては、暫定的に停止表示し且つ定位置アクション3を行う所定の演出用図柄列(例えば、中列)に対応する第1装飾図柄のカード型の画像オブジェクト(キャラクタ型の画像オブジェクトでもよい)の第1要素と、暫定的に停止表示し且つ揺れアクションを実行している所定の演出用図

柄列以外（例えば、左列、右列）の演出用図柄列に対応する第1装飾図柄のカード型の画像オブジェクト（キャラクタ型の画像オブジェクトでもよい）の第1要素とが第1の重複領域で第6の時間重なる（重複する）ように構成されている。そして、特定の図柄変動（例えば、リーチ変動）におけるリーチ状態が形成されている所定のタイミングにおける、変動表示を継続している中列に対応する第1装飾図柄の第1要素と、暫定的に停止表示し且つ揺れアクション2を実行している左列および右列に対応する第1装飾図柄の第1要素とが重なる（重複する）第5の時間の方が、通常の図柄変動における非リーチ状態が形成されている所定のタイミングにおける、暫定的に停止表示し且つ定位置アクション3を行う中列に対応する第1装飾図柄の第1要素と、暫定的に停止表示し且つ揺れアクションを実行している左列および右列に対応する第1装飾図柄の第1要素とが重なる（重複する）第6の時間よりも、長く構成（第5の時間＞第6の時間）されている。つまり、特定の図柄変動（例えば、リーチ変動）の方が、通常の図柄変動よりも、第1装飾図柄の第1要素同士が重複する時間の割合（重複割合）が大きく（第1要素同士が重複する時間が長く）構成（第5の時間＞第6の時間）されている。なお、所定タイミングにおいては、左列および右列の第1装飾図柄と中列の第1装飾図柄の第1要素同士は重複するが、第2要素同士は重複しないように構成されている。このように当り（大当り、小当り）の期待度が高いリーチ変動において、左列および右列の第1装飾図柄が中列の第1装飾図柄と重複する時間を通常の図柄変動よりも長くすることによって、第1装飾図柄自体の動きを多様化させつつ遊技者に各アクションを注視させることができる。なお、非時間短縮遊技状態における第1主遊技側の通常の図柄変動とリーチ変動に限定されることはなく、非リーチ演出、ノーマルリーチ演出やスーパーリーチ演出、バトルリーチ演出の前半・後半を行うリーチ変動であってもよい。なお、ハズレのスーパーリーチ演出、バトルリーチ演出の前半・後半を行うリーチ変動を対象とする場合、先読み演出のトリガ保留となり得ることは明らかである。

【3116】

次に、図408は、非時間短縮遊技状態において、第1主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄でチャンス目先読み演出を実行する際の定位置アクション（チャンス目先読み演出の演出態様）を示すイメージ図である。チャンス目先読み演出の演出態様としては、定位置アクションの実行時に第1装飾図柄に第3要素としての赤、緑、青等の色彩エフェクトを追加して実行する演出態様である。また、チャンス目先読み演出が実行される際の定位置アクションとして、前述したようなハズレ図柄の確定停止している際の第1装飾図柄よりも第1装飾図柄を拡大するアクションも実行してよく、この場合の拡大アクションは、チャンス目先読み演出を実行しないときの定位置アクションよりもより第1装飾図柄が拡大したり、回転しながら拡大したりするなど、チャンス目先読み演出を実行しないときの定位置アクションの態様と差別化することが望ましい。まず、図408の（a）では、非時間短縮遊技状態にて、第1主遊技側の保留が2、第2主遊技側の保留が0であり、演出表示装置SGに第1装飾図柄と第2装飾図柄とがハズレ図柄である「711」で確定停止している。なお、非時間短縮遊技状態においては、第1装飾図柄の表示態様は「数字+キャラクタ」となっており、第2装飾図柄の表示態様は「数字」のみとなっている。そして、第1主遊技側の第1保留表示が2個表示、第2主遊技側の第1保留表示はされていない。また、第1主遊技側の第2保留表示が「2」で表示、第2主遊技側の第2保留表示が「0」で表示されており、第1主遊技側の第1保留表示の保留2にトリガ保留が表示されている。ここで、図408以降について、トリガ保留であるかどうかを理解しやすいよう、トリガ保留ではない第1保留表示については「●」にて、トリガ保留である第1保留表示については「▲」にて図示しているが、実際の第1保留表示においては、（1）トリガ保留であってもトリガ保留でなくても同じ表示態様の第1保留表示、例えば全て「●」としてもよいし、（2）図示しているように、トリガ保留であることが遊技者に対して明示されるように「●」ではなく「▲」としてもよい（トリガ保留でない場合は「●」とする）。このように構成する場合、トリガ保留が生起したことを契機として、トリガ保留を（1）のように表示するが（2）のように表示するかを抽選により決定してもよい。

10

20

30

40

50

この場合において、(b) 変動時間が10秒のハズレ変動を実行し、左列の「1」の第1装飾図柄の定位置アクション1（例えば、拡大アクションに加えて青の色彩エフェクトを追加するチャンス目先読み演出の演出態様）を実行する。なお、この変動時間が10秒のハズレ変動は、先読み演出のトリガ前変動となり得ることは明らかである。次に、(c) 右列の「7」の第1装飾図柄の定位置アクション2（例えば、拡大アクションに加えて青の色彩エフェクトを追加するチャンス目先読み演出の演出態様）を実行し、その後、(d) 中列の「1」の第1装飾図柄の定位置アクション3（例えば、拡大アクションに加えて青の色彩エフェクトを追加するチャンス目先読み演出の演出態様）を実行する。なお、(d) において、中列の第1装飾図柄のみの定位置アクション3（例えば、拡大アクションに加えて青の色彩エフェクトを追加するチャンス目先読み演出の演出態様）を実行する例を示したが、この(d)のタイミングにおいて左列、中列、右列の第1装飾図柄が同時に青の色彩エフェクトのチャンス目先読み演出を実行してもよく、その場合、青の色彩エフェクトを伴わない通常の定位置アクション（第1装飾図柄が拡大するアクション）については、左列は(b)のタイミングにて実行され、中列は(c)のタイミングにて実行され、左列は(d)のタイミングにて実行され、この(d)のタイミングにて仮停止した左列、中列、右列の第1装飾図柄に対して同時に青の色彩エフェクトを追加するように構成してもよい。また、非時間短縮遊技状態ではなく時間短縮遊技状態であってもよいし、第1主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の図柄変動ではなく第2主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の図柄変動であってもよい。また、特定の図柄の組合せ（時短図柄）としての時短専用図柄、ハズレ図柄（ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合）、小当り図柄（小当り図柄を時短図柄として併用する場合）、大当り図柄のいずれかが確定停止する図柄変動であってもよく、時短図柄の第1装飾図柄、第2装飾図柄は「777」等のゾロ目の態様で停止表示させてもよいし、リーチ外れの態様で停止表示させてもよいし、バラケ目の態様で停止表示させてもよいし、時短専用図柄として特殊な図柄の態様で停止表示させてもよい。

【3117】

次に、図408の(e)は、図408の(a)～(d)とは別の状態であって、非時間短縮遊技状態にて、第1主遊技側の保留が4、第2主遊技側の保留が0であり、演出表示装置SGに第1装飾図柄と第2装飾図柄とがハズレ図柄である「711」で確定停止している。そして、第1主遊技側の第1保留表示が4個表示、第2主遊技側の第1保留表示はされていない。また、第1主遊技側の第2保留表示が「4」で表示、第2主遊技側の第2保留表示が「0」で表示されており、第1主遊技側の第1保留表示の保留4にトリガ保留が表示されている。この場合において、(f) 変動時間が5秒のハズレ変動を実行し、左列、中列、右列の第1装飾図柄が同時に仮停止する定位置アクション4（例えば、左列、中列、右列の第1装飾図柄が同時に仮停止する際に各列の第1装飾図柄が同時に拡大アクションを行い且つ各列の第1装飾図柄に対して同時に青の色彩エフェクトを追加するチャンス目先読み演出の演出態様）を実行する。なお、この変動時間が5秒のハズレ変動は、先読み演出のトリガ前変動となり得ることは明らかである。このように、非時間短縮遊技状態においては、第1主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の変動時間に依じて、定位置アクションの発生タイミングや時系列的な流れなどが異なる（チャンス目先読み演出の演出態様が異なる）ように構成されている。なお、同じ青の色彩エフェクトのチャンス目先読み演出の演出態様が出現するとしても、第1主遊技側にトリガ保留が存在している状況下でトリガ保留よりも先に消化される保留が保留4→3の変動であると変動時間が5秒のハズレの短縮変動のため左列、中列、右列の全ての第1装飾図柄が同時に仮停止して定位置アクション4として左列、中列、右列の第1装飾図柄が同時に拡大アクションを行い且つ青の色彩エフェクトを追加するチャンス目先読み演出の演出態様を実行するが、第1主遊技側にトリガ保留が存在している状況下でトリガ保留よりも先に消化される保留が保留2→1の変動であると変動時間が10秒のハズレの通常変動のため左列、中列、右列の順で、つまり、定位置アクション1、定位置アクション2、定位置アクション3の順で拡大アクションを行い且つその順で青の色彩エフェクトを追加するチャンス目先読み

10

20

30

40

50

演出の演出態様を実行するように構成されている（もしくは、前述したとおり、拡大アクションはその順番で行うが、青の色彩エフェクトは同時に行ってもよい）。また、第1装飾図柄の組み合わせが同じ組み合わせ（例えば、「1 1 7」）のチャンス目先読み演出の演出態様が出現するとしても、第1主遊技側にトリガ保留が存在している状況下でトリガ保留よりも先に消化される保留が保留4→3の変動であると変動時間が5秒のハズレの短縮変動のため左列、中列、右列の全ての第1装飾図柄が同時に仮停止して定位置アクション4として左列、中列、右列の第1装飾図柄が同時に拡大アクションを行い且つ青の色彩エフェクトを追加するチャンス目先読み演出の演出態様を実行するが、第1主遊技側にトリガ保留が存在している状況下でトリガ保留よりも先に消化される保留が保留2→1の変動であると変動時間が10秒のハズレの通常変動のため左列、中列、右列の順で、つまり、定位置アクション1、定位置アクション2、定位置アクション3の順で拡大アクションを行い且つその順で青の色彩エフェクトを追加するチャンス目先読み演出の演出態様を実行するように構成されている（もしくは、前述したとおり、拡大アクションはその順番で行うが、青の色彩エフェクトは同時に行ってもよい）。つまり、同じ種類（同じ色彩エフェクトや同じ第1装飾図柄の組み合わせ）のチャンス目先読み演出だが、定位置アクションの発生タイミングや時系列的な流れなどが異なる（チャンス目先読み演出の演出態様異なる）ように構成されている。ここまで、定位置アクションとして左列、中列、右列の第1装飾図柄が拡大アクションを行い且つ青の色彩エフェクトを追加するチャンス目先読み演出の演出態様を実行する例を示したが、青の色彩エフェクトに代えて緑や赤の色彩エフェクトを追加してもよい。緑の色彩エフェクトは、青の色彩エフェクトよりも当り期待度が高く、赤の色彩エフェクトは、青や緑の色彩エフェクトよりも当り期待度が高くなっている。そして、チャンス目先読み演出を実行する場合、トリガ保留よりも先に消化される保留が保留4→3の変動では、定位置アクションとして左列、中列、右列の第1装飾図柄が同時に拡大アクションを行い且つ青の色彩エフェクトを追加するチャンス目先読み演出の演出態様を実行する。次の保留3→2の変動では、定位置アクションとして左列、中列、右列の第1装飾図柄が同時に拡大アクションを行い且つ緑の色彩エフェクトを追加するチャンス目先読み演出の演出態様を実行する。さらに次の保留2→1の変動では、定位置アクションとして左列、中列、右列の第1装飾図柄が同時に拡大アクションを行い且つ赤の色彩エフェクトを追加するチャンス目先読み演出の演出態様を実行する。さらに次の保留2→1の変動では、定位置アクションとして左列、中列、右列の順で、つまり、定位置アクション1、定位置アクション2、定位置アクション3の順で拡大アクションを行い且つその順で赤の色彩エフェクトを追加するチャンス目先読み演出の演出態様を実行する。このようなチャンス目先読み演出では、保留が消化されるにしたがって、青の色彩エフェクト（当り期待度が小）から緑の色彩エフェクト（当り期待度が中）となり、さらに緑の色彩エフェクト（当り期待度が中）から赤の色彩エフェクト（当り期待度が中）となるように、色彩エフェクトが成り上がるにしたがって、当り期待度が上がるように構成されている。

【3 1 1 8】

次に、図409は、第1主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄でチャンス目先読み演出を実行する際のトリガ保留に応じた定位置アクション（チャンス目先読み演出の演出態様）を示すイメージ図である。チャンス目先読み演出の演出態様としては、定位置アクションの実行時に第1装飾図柄に第3要素としての赤、緑、青等の色彩エフェクトを追加して実行する演出態様である。また、チャンス目先読み演出が実行される際の定位置アクションとして、前述したようなハズレ図柄の確定停止している際の第1装飾図柄よりも第1装飾図柄を拡大するアクションも実行してよく、この場合の拡大アクションは、チャンス目先読み演出を実行しないときの定位置アクションよりもより第1装飾図柄が拡大したり、回転しながら拡大したりするなど、チャンス目先読み演出を実行しないときの定位置アクションの態様と差別化することが望ましい。まず、図409の（a）では、非時間短縮遊技状態にて、第1主遊技側の保留も第2主遊技側の保留も存在していない保留が0であり、演出表示装置SGに第1主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄と第2

10

20

30

40

50

装飾図柄とが図柄変動中を示している。そして、図柄変動中に（b）第1主遊技側の保留が4個生じた場合、（c）当該図柄変動が停止した次の変動において変動時間が5秒のハズレ変動を実行し、左列、中列、右列の第1装飾図柄が同時に仮停止する定位置アクション4（例えば、左列、中列、右列の第1装飾図柄が同時に仮停止する際に同時に実行される拡大アクションに青の色彩エフェクトを追加するチャンス目先読み演出の演出態様）を実行する。なお、この変動時間が5秒のハズレ変動は、先読み演出のトリガ前変動となり得ることは明らかである。この定位置アクション4は、図408の（f）で示したものと同一アクションであってもよいし、異なるアクションであってもよい。また、非時間短縮遊技状態ではなく時間短縮遊技状態であってもよいし、第1主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の図柄変動ではなく第2主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の図柄変動であってもよい。また、特定の図柄の組合せ（時短図柄）としての時短専用図柄、ハズレ図柄（ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合）、小当り図柄（小当り図柄を時短図柄として併用する場合）、大当り図柄のいずれかが確定停止する図柄変動であってもよく、時短図柄の第1装飾図柄、第2装飾図柄は「777」等のゾロ目の態様で停止表示させてもよいし、リーチ外れの態様で停止表示させてもよいし、バラケ目の態様で停止表示させてもよいし、時短専用図柄として特殊な図柄の態様で停止表示させてもよい。

【3119】

また、図柄変動中に（d）第1主遊技側の保留が2個生じた場合、（e）当該図柄変動が停止した次の変動において変動時間が10秒のハズレ変動を実行し、その変動において、左列の第1装飾図柄にて「1」の図柄の定位置アクション1（例えば、拡大アクションに加えて青の色彩エフェクトを追加するチャンス目先読み演出の演出態様）を実行する。なお、この変動時間が10秒のハズレ変動は、先読み演出のトリガ前変動となり得ることは明らかである。次に、（f）右列の第1装飾図柄にて「7」の図柄の定位置アクション2（例えば、拡大アクションに加えて青の色彩エフェクトを追加するチャンス目先読み演出の演出態様）を実行し、さらにその次に、（g）中列の第1装飾図柄にて「1」の図柄の定位置アクション3（例えば、拡大アクションに加えて青の色彩エフェクトを追加するチャンス目先読み演出の演出態様）を実行する。なお、定位置アクション1、2、3は、図408の（b）、（c）、（d）で示したものと同一アクションであってもよいし、異なるアクションであってもよい。また、この（g）のタイミングにおいて左列、中列、右列の第1装飾図柄が同時に青の色彩エフェクトのチャンス目先読み演出を実行してもよく、その場合、青の色彩エフェクトを伴わない通常の定位置アクション（第1装飾図柄が拡大するアクション）については、左列は（e）のタイミングにて実行され、右列は（f）のタイミングにて実行され、中列は（g）のタイミングにて実行され、この（g）のタイミングにて仮停止した左列、中列、右列の第1装飾図柄に対して同時に青の色彩エフェクトを追加するように構成してもよい。

【3120】

このように、第1主遊技側の保留も第2主遊技側の保留も存在していない状況下での図柄変動中における始動口への入球を契機にトリガ保留が生じた場合、この図柄変動中においてトリガ保留よりも先に消化される保留が存在するか否かに応じて、及び／又は、この図柄変動中においてトリガ保留よりも先に消化される保留が幾つ存在するかに応じて、定位置アクション（チャンス目先読み演出の演出態様）が異なるよう構成されている。このように構成することで、第1装飾図柄を用いたチャンス目先読み演出を実行するに際してトリガ保留が生じたと遊技者が認識できた又は推察したタイミングにて保留を貯めるか否かを選択させることで、その後の演出態様に相違を持たせるといった斬新な遊技性を実現できる。なお、同じ青の色彩エフェクトのチャンス目先読み演出の演出態様が出現するとしても、第1主遊技側の保留も第2主遊技側の保留も存在していない状況下での図柄変動中における始動口への入球を契機にトリガ保留が生じ、トリガ保留よりも先に消化される保留が保留4→3の変動であると変動時間が5秒のハズレの短縮変動のため左列、中列、右列の全ての第1装飾図柄が同時に仮停止して定位置アクション4として左列、中列、右列の第1装飾図柄が同時に拡大アクションを行い且つ青の色彩エフェクトを追加す

10

20

30

40

50

るチャンス目先読み演出の演出態様を実行するが、第1主遊技側の保留も第2主遊技側の保留も存在していない状況下での図柄変動中における始動口への入球を契機にトリガ保留が生起し、トリガ保留よりも先に消化される保留が保留2→1の変動であると変動時間が10秒のハズレの通常変動のため左列、中列、右列の順で実行する、つまり、定位置アクション1、定位置アクション2、定位置アクション3の順で拡大アクションを行い且つその順で青の色彩エフェクトを追加するチャンス目先読み演出の演出態様を実行するように構成されている（もしくは、前述したとおり、拡大アクションはその順番で行うが、青の色彩エフェクトは同時に行ってもよい）。また、第1装飾図柄の組み合わせが同じ組み合わせ（例えば、「117」）のチャンス目先読み演出の演出態様が出現するとしても、第1主遊技側の保留も第2主遊技側の保留も存在していない状況下での図柄変動中における始動口への入球を契機にトリガ保留が生起し、トリガ保留よりも先に消化される保留が保留4→3の変動であると変動時間が5秒のハズレの短縮変動のため左列、中列、右列の全ての第1装飾図柄が同時に仮停止して定位置アクション4として左列、中列、右列の第1装飾図柄が同時に拡大アクションを行い且つ青の色彩エフェクトを追加するチャンス目先読み演出の演出態様を実行するが、第1主遊技側の保留も第2主遊技側の保留も存在していない状況下での図柄変動中における始動口への入球を契機にトリガ保留が生起し、トリガ保留よりも先に消化される保留が保留2→1の変動であると変動時間が10秒のハズレの通常変動のため左列、中列、右列の順で、つまり、定位置アクション1、定位置アクション2、定位置アクション3の順で拡大アクションを行い且つその順で青の色彩エフェクトを追加するチャンス目先読み演出の演出態様を実行するように構成されている（もしくは、前述したとおり、拡大アクションはその順番で行うが、青の色彩エフェクトは同時に行ってもよい）つまり、同じ種類（同じ色彩エフェクトや同じ第1装飾図柄の組み合わせ）のチャンス目先読み演出だが、定位置アクションの発生タイミングや時系列的な流れなどが異なる（チャンス目先読み演出の演出態様が異なる）ように構成されている。なお、ある図柄変動中にトリガ保留が生起した場合、当該ある図柄変動からチャンス目先読み演出を実行せずに、次の図柄変動以降からチャンス目先読み演出を実行可能なように構成するのが好適である。例えば、図409の(a)のように第1主遊技側の保留も第2主遊技側の保留も存在していない保留が0の状態第1主遊技図柄の変動時間が10秒のハズレ変動を実行中であって、変動時間の残り時間が3秒以上の状況（チャンス目先読み演出を実行可能な変動時間が残っている状況）においてトリガ保留が生起しても、チャンス目先読み演出の実行する時間を十分に確保している状況ではあるが、当該ある図柄変動でチャンス目先読み演出が実行されず、次の図柄変動以降からチャンス目先読み演出が実行可能なように構成されている。ここまで、定位置アクションとして左列、中列、右列の第1装飾図柄が拡大アクションを行い且つ青の色彩エフェクトを追加するチャンス目先読み演出の演出態様を実行する例を示したが、青の色彩エフェクトに代えて緑や赤の色彩エフェクトを追加してもよい。緑の色彩エフェクトは、青の色彩エフェクトよりも当り期待度が高く、赤の色彩エフェクトは、青や緑の色彩エフェクトよりも当り期待度が高くなっている。そして、チャンス目先読み演出を実行する場合、トリガ保留よりも先に消化される保留が保留4→3の変動では、定位置アクションとして左列、中列、右列の第1装飾図柄が同時に拡大アクションを行い且つ青の色彩エフェクトを追加するチャンス目先読み演出の演出態様を実行する。次の保留3→2の変動では、定位置アクションとして左列、中列、右列の第1装飾図柄が同時に拡大アクションを行い且つ緑の色彩エフェクトを追加するチャンス目先読み演出の演出態様を実行する。さらに次の保留2→1の変動では、定位置アクションとして左列、中列、右列の第1装飾図柄が同時に拡大アクションを行い且つ赤の色彩エフェクトを追加するチャンス目先読み演出の演出態様を実行する。さらに次の保留2→1の変動では、定位置アクションとして左列、中列、右列の順で、つまり、定位置アクション1、定位置アクション2、定位置アクション3の順で拡大アクションを行い且つその順で赤の色彩エフェクトを追加するチャンス目先読み演出の演出態様を実行する。このようなチャンス目先読み演出では、保留が消化されるにしたがって、青の色彩エフェクト（当り期待度が小）から緑の色彩エフェクト（当り期待度が中）となり、さらに緑の色彩

10

20

30

40

50

エフェクト（当り期待度が中）から赤の色彩エフェクト（当り期待度が中）となるように、色彩エフェクトが成り上がるにしたがって、当り期待度が上がるように構成されている。

【3121】

次に、図410は、時間短縮遊技状態において、第2主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄でチャンス目先読み演出を実行する際の定位置アクションを示すイメージ図である。なお、不図示であるが、図410では、右打ち指示表示を表示している。また、特定の図柄の組合せ（時短図柄）としての時短専用図柄、ハズレ図柄（ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合）、小当り図柄（小当り図柄を時短図柄として併用する場合）、大当り図柄のいずれかが確定停止する図柄変動であってもよく、時短図柄の第1装飾図柄、第2装飾図柄は「777」等のゾロ目の態様で停止表示させてもよいし、リーチ外れの態様で停止表示させてもよいし、バラケ目の態様で停止表示させてもよいし、時短専用図柄として特殊な図柄の態様で停止表示させてもよい。まず、図410の（a）では、時間短縮遊技状態にて、第1主遊技側の保留が0、第2主遊技側の保留が2であり、演出表示装置SGに第1装飾図柄と第2装飾図柄とがハズレ図柄である「711」で確定停止している。なお、時間短縮遊技状態においては、第1装飾図柄の表示態様は「数字」のみとなっており、第2装飾図柄の表示態様も「数字」のみとなっている。そして、第2主遊技側の第1保留表示が2個表示、第1主遊技側の第1保留表示はされていない。また、第1主遊技側の第2保留表示が「0」で表示、第2主遊技側の第2保留表示が「2」で表示されており、第2主遊技側の第1保留表示の保留2にトリガ保留が表示されている。この場合において、（b）変動時間が5秒のハズレ変動を実行し、左列、中列、右列の第1装飾図柄が同時に仮停止する定位置アクション5を実行する。この定位置アクションは、非時間短縮遊技状態中と同様に、第1装飾図柄が拡大アクションを行い且つ青の色彩エフェクトを追加するものであるが、非時間短縮遊技状態におけるチャンス目先読み演出における定位置アクションとは異なる態様であってもよく、その場合は、例えば、第1装飾図柄が縮小アクションを行い且つ青の色彩エフェクトを追加するものであってもよい。なお、この変動時間が5秒のハズレ変動は、先読み演出のトリガ前変動となり得ることは明らかである。また、時間短縮遊技状態ではなく非時間短縮遊技状態であってもよいし、第2主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の図柄変動ではなく第1主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の図柄変動であってもよい。ここまで、定位置アクションとして左列、中列、右列の第1装飾図柄が拡大アクションを行い且つ青の色彩エフェクトを追加するチャンス目先読み演出の演出態様を実行する例を示したが、青の色彩エフェクトに代えて緑や赤の色彩エフェクトを追加してもよい。緑の色彩エフェクトは、青の色彩エフェクトよりも当り期待度が高く、赤の色彩エフェクトは、青や緑の色彩エフェクトよりも当り期待度が高くなっている。そして、青、緑、赤の色彩エフェクトを用いたチャンス目先読み演出を実行する場合、トリガ保留よりも先に消化される保留が保留4→3の変動では、定位置アクションとして左列、中列、右列の第1装飾図柄が同時に拡大アクションを行い且つ青の色彩エフェクトを追加するチャンス目先読み演出の演出態様を実行する。次の保留3→2の変動では、定位置アクションとして左列、中列、右列の第1装飾図柄が同時に拡大アクションを行い且つ緑の色彩エフェクトを追加するチャンス目先読み演出の演出態様を実行する。さらに次の保留2→1の変動では、定位置アクションとして左列、中列、右列の第1装飾図柄が同時に拡大アクションを行い且つ赤の色彩エフェクトを追加するチャンス目先読み演出の演出態様を実行する。このようなチャンス目先読み演出では、保留が消化されるにしたがって、青の色彩エフェクト（当り期待度が小）から緑の色彩エフェクト（当り期待度が中）となり、さらに緑の色彩エフェクト（当り期待度が中）から赤の色彩エフェクト（当り期待度が中）となるように、色彩エフェクトが成り上がるにしたがって、当り期待度が上がるように構成されている。

【3122】

次に、図410の（c）では、時間短縮遊技状態にて、第1主遊技側の保留が0、第2主遊技側の保留が4であり、演出表示装置SGに第1装飾図柄と第2装飾図柄とがハズレ図柄である「711」で確定停止している。そして、第2主遊技側の第1保留表示が4個

10

20

30

40

50

表示、第1主遊技側の第1保留表示はされていない。また、第1主遊技側の第2保留表示が「0」で表示、第2主遊技側の第2保留表示が「4」で表示されており、第2主遊技側の第1保留表示の保留4にトリガ保留が表示されている。この場合において、(d)変動時間が3秒のハズレ変動を実行し、左列、中列、右列の第1装飾図柄が同時に仮停止する定位置アクション5を実行する。この定位置アクションは、非時間短縮遊技状態中と同様に、第1装飾図柄が拡大アクションを行い且つ青の色彩エフェクトを追加するものであるが、非時間短縮遊技状態におけるチャンス目先読み演出における定位置アクションとは異なる態様であってもよく、その場合は、例えば、第1装飾図柄が縮小アクションを行い且つ青の色彩エフェクトを追加するものであってよい。なお、この変動時間が3秒のハズレ変動は、先読み演出のトリガ前変動となり得ることは明らかである。このように、時間短縮遊技状態においては、第2主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の変動時間に応じて、定位置アクション（チャンス目先読み演出の演出態様）が同じになるように構成されている。なお、チャンス目先読み演出の演出態様を定位置アクション5としたが、時間短縮遊技状態での先読み専用のエフェクトを表示するよう構成してもよい。その場合、第2主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の変動時間に応じて、先読み専用のエフェクトが異なるように構成されている。

【3123】

また、図408の(a)～(d)と、図408の(e)～(f)とが示すように、非時間短縮遊技状態において、第1主遊技側の保留数に応じて第1主遊技側の変動時間が異なり且つチャンス目先読み演出の左列、中列、右列の第1装飾図柄の仮停止の順番（定位置アクションの順番）が異なるように構成されている。一方、図410の(a)、(b)と、図410の(c)、(d)とが示すように、時間短縮遊技状態において、第2主遊技側の保留数によって第2主遊技側の変動時間が異なるがチャンス目先読み演出の左列、中列、右列の第1装飾図柄の仮停止の順番（定位置アクションの順番）が同じになるように構成されている。このように構成することで、いずれの遊技状態であっても保留数によって変動時間が異なるが、変動効率よりも演出重視の非時間短縮遊技状態と、変動効率重視の時間短縮遊技状態とでは、第1装飾図柄の見せ方を差別化することで、何れの状態で変動しているのかを遊技者が認識することができるとともに、各遊技状態に合った第1装飾図柄の図柄変動の態様とすることができる。また、保留数の相違による定位置アクションの態様変化を楽しむことができる遊技状態と、保留数の相違によって定位置アクションの態様を一律化してシームレスな演出進行を実現する遊技状態とに分けることができ、遊技状態に応じたチャンス目の態様の傾向を楽しむことができる。なお、チャンス目先読み演出時の仮停止の順番に限定されることなく、非時間短縮遊技状態及び時間短縮遊技状態における通常の図柄変動における仮停止の順番であってもよい。非時間短縮遊技状態及び時間短縮遊技状態における通常の図柄変動における仮停止の順番に上記構成を適用する場合、非時間短縮遊技状態及び時間短縮遊技状態における通常の図柄変動における定位置アクションについては、第3要素としての色彩エフェクトや先読み専用のエフェクトを追加する必要はない。

【3124】

また、変動開始の順番について、非時間短縮遊技状態と時間短縮遊技状態との両状態において、左列、中列、右列の第1装飾図柄は同時（略同時）に図柄変動を開始するように構成されている。さらに、変動開始時アクションについて、非時間短縮遊技状態では、保留数にかかわらず第1装飾図柄の変動開始時アクションを行うが、時間短縮遊技状態では第1装飾図柄の変動開始時アクションを行わない又は行う確率が低いように構成されている。詳細には、非時間短縮遊技状態において第1主遊技側の保留が1～4のいずれであっても、第1主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の変動開始時アクションを実行するが、時間短縮遊技状態においては第2主遊技側の保留が1～4のいずれであっても、第2主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の変動開始時アクションを実行しない、もしくは、時間短縮遊技状態においては第2主遊技側の保留が1（保留が2→1となる）の場合のみ、第2主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の変動開始時アクショ

ンを実行するように構成されている。なお、チャンス目先読み演出は、保留が4→3となる図柄変動、保留が3→2となる図柄変動、保留が2→1となる図柄変動において実行可能に構成されている。そして、先読み当選した場合のチャンス目先読み演出は、電源断し復旧すると、トリガ保留に対応したチャンス目先読み演出は実行しなくなるように構成されている。つまり、第1主遊技側（又は第2主遊技側）の保留が1以上の状態での或る変動中にトリガ保留が生起し、当該或る変動の次変動からチャンス目先読み演出を実行する予定であった場合であっても、当該或る変動中に電源断した場合は復旧したとしても当該或る変動の次変動においてチャンス目先読み演出を実行せず、また、第1主遊技側（又は第2主遊技側）の保留が3以上の状態での或る変動中にトリガ保留が生起して当該或る変動の次変動からチャンス目先読み演出を実行し、当該或る変動の次々変動でもチャンス目先読み演出を実行する予定であった場合であっても、当該次々変動中に電源断した場合は復旧したとしても当該次々変動の次変動においてチャンス目先読み演出を実行しない（当該次々変動においては、電源復帰画面が表示されるため、第1装飾図柄が表示されない、つまり、当該次々変動においてもチャンス目先読み演出が実行されない）。

【3125】

また、非時間短縮遊技状態の通常の図柄変動においては、第1主遊技側の保留数に応じて、第1装飾図柄の仮停止の順番の相違が起こり得るが、特定の図柄変動（例えば、リーチ変動）においては、第1主遊技側の保留数に応じて、第1装飾図柄の仮停止の順番の相違が起こらない又は第1装飾図柄の仮停止の順番の相違が起こる確率が低いように構成されている。例えば、第1主遊技側の保留が4→3となる第1主遊技図柄の図柄変動に対応する通常の図柄変動においての第1装飾図柄の仮停止の順番は、左列、中列、右列の第1装飾図柄が同時（略同時）に仮停止するように構成されているが、第1主遊技側の保留が2→1となる第1主遊技図柄の図柄変動に対応する通常の図柄変動においての第1装飾図柄の仮停止の順番は、左列、右列、中列の順番で仮停止するように構成されている。一方、第1主遊技側の保留が4→3となる第1主遊技図柄の図柄変動に対応するリーチ変動においての第1装飾図柄の仮停止の順番は、左列、右列、中列の順番で仮停止するように構成されており、第1主遊技側の保留が2→1となる第1主遊技図柄の図柄変動に対応するリーチ変動においても第1装飾図柄の仮停止の順番は、左列、右列、中列の順番で仮停止するように構成されている。

【3126】

また、第1装飾図柄の仮停止の際に定位置アクション（チャンス目先読み演出の演出態様）を実行するようにしてもよく、そのように構成する場合、非時間短縮遊技状態の通常の図柄変動においては、第1主遊技側の保留数に応じて、第1装飾図柄の定位置アクション（チャンス目先読み演出の演出態様）の順番の相違が起こり得るが、特定の図柄変動（例えば、リーチ変動）においては、第1主遊技側の保留数に応じて、第1装飾図柄の定位置アクション（チャンス目先読み演出の演出態様）の順番の相違が起こらない又は第1装飾図柄の定位置アクション（チャンス目先読み演出の演出態様）の順番の相違が起こる確率が低いように構成されている。例えば、第1主遊技側の保留が4→3となる第1主遊技図柄の図柄変動に対応する通常の図柄変動においての第1装飾図柄の定位置アクション（チャンス目先読み演出の演出態様）の順番は、左列、中列、右列の第1装飾図柄が同時（略同時）に定位置アクション（チャンス目先読み演出の演出態様）するように構成されているが、第1主遊技側の保留が2→1となる第1主遊技図柄の図柄変動に対応する通常の図柄変動においての第1装飾図柄の定位置アクション（チャンス目先読み演出の演出態様）の順番は、左列、右列、中列の順番で定位置アクション（チャンス目先読み演出の演出態様）するように構成されている。一方、第1主遊技側の保留が4→3となる第1主遊技図柄の図柄変動に対応するリーチ変動においての第1装飾図柄の定位置アクション（チャンス目先読み演出の演出態様）の順番は、左列、右列、中列の順番で定位置アクション（チャンス目先読み演出の演出態様）するように構成されており、第1主遊技側の保留が2→1となる第1主遊技図柄の図柄変動に対応するリーチ変動においても第1装飾図柄の定位置アクション（チャンス目先読み演出の演出態様）の順番は、左列、右列、中列の順番

で定位置アクション（チャンス目先読み演出の演出態様）するように構成されている。

【3127】

また、非時間短縮遊技状態において第2主遊技始動口B10に遊技球が入球した場合や時間短縮遊技状態から非時間短縮遊技状態へ遊技状態が切り替わった際に、第1主遊技側の保留の有無にかかわらず第2主遊技側の保留が存在する場合に、非時間短縮遊技状態にて第2主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の図柄変動を行うが、この場合の第1装飾図柄は非時間短縮遊技状態における第1主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄と同一の図柄を用いる（第1主遊技図柄の図柄変動であっても第2主遊技図柄の図柄変動であっても共通の第1装飾図柄を用いるため、例えば、変動の順番が第2主遊技図柄→第1主遊技図柄の順となる場合、まずは第2主遊技図柄の図柄変動に対応した第1装飾図柄の図柄変動を行ったうえで第1装飾図柄が停止表示し、その停止表示の状態から第1主遊技図柄の図柄変動に対応した第1装飾図柄の図柄変動が開始されることになる）。そして、第2主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の図柄変動（ハズレの通常の図柄変動、リーチガセや擬似連ガセ等の非リーチの図柄変動）は、第2主遊技側の保留数にかかわらず、変動時間傾向が同一（略同一）となるように構成されている。また、第2主遊技側の保留数にかかわらず、左列、中列、右列の第1装飾図柄の変動開始の順番及び仮停止の順番が同一（略同一）に構成されている。ここで、変動時間傾向が同一（略同一）とは、非時間短縮遊技状態における第2主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の図柄変動の変動パターンを選択する際の限定頻度状態（変動パターンに関する遊技状態又は変動パターンテーブル）として、一の変動パターンテーブル（例えば、第2主遊技側の保留数に応じて変動パターン選択傾向が異なるのではなく、図395で示した限定頻度状態Aや限定頻度状態Bのような保留数に依存しない変動パターン選択状態を非時間短縮遊技状態に適用したテーブルや、図395で示す限定頻度状態Aまたは限定頻度状態B）を第2主遊技側の保留数にかかわらず用いることを示す。なお、変動開始の順番は、左列、中列、右列の第1装飾図柄が同時（略同時）に図柄変動を開始するように構成されており、仮停止の順番も、左列、中列、右列の第1装飾図柄が同時（略同時）に仮停止するように構成されている。このように構成することで、非時間短縮遊技状態や時間短縮遊技状態の終了後の第2主遊技側の変動に対応した第1装飾図柄については、即座に消化するように構成することで本来の遊技性である非時間短縮遊技状態の主体遊技である第1主遊技側の遊技に復帰できるため、第1装飾図柄の態様はシンプルなものとする一方で、非時間短縮遊技状態に対応した最低限の各アクションを実施することで、第1主遊技にシームレスかつ違和感なく移行することができる。

【3128】

また、非時間短縮遊技状態における第2主遊技側の第1装飾図柄の仮停止の際に定位置アクション（チャンス目先読み演出の演出態様）を実行するようにしてもよく、そのように構成する場合、非時間短縮遊技状態において第2主遊技始動口B10に遊技球が入球した場合や時間短縮遊技状態から非時間短縮遊技状態へ遊技状態が切り替わった際に、第1主遊技側の保留の有無にかかわらず第2主遊技側の保留が存在する場合に、非時間短縮遊技状態にて第2主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の図柄変動を行うが、この場合の第1装飾図柄は非時間短縮遊技状態における第1主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄と同一の図柄を用いる（第1主遊技図柄の図柄変動であっても第2主遊技図柄の図柄変動であっても共通の第1装飾図柄を用いるため、例えば、変動の順番が第2主遊技図柄→第1主遊技図柄の順となる場合、まずは第2主遊技図柄の図柄変動に対応した第1装飾図柄の図柄変動を行ったうえで第1装飾図柄が停止表示し、その停止表示の状態から第1主遊技図柄の図柄変動に対応した第1装飾図柄の図柄変動が開始されることになる）。そして、第2主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の図柄変動（ハズレの通常の図柄変動、リーチガセや擬似連ガセ等の非リーチの図柄変動）は、第2主遊技側の保留数にかかわらず、変動時間傾向が同一（略同一）となるように構成されている。また、第2主遊技側の保留数にかかわらず、左列、中列、右列の第1装飾図柄の変動開始の順番及び定位置アクション（チャンス目先読み演出の演出態様）の順番が同一（略同一）に

構成されている。ここで、変動時間傾向が同一（略同一）とは、非時間短縮遊技状態における第2主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の図柄変動の変動パターンを選択する際の限定頻度状態（変動パターンに関する遊技状態又は変動パターンテーブル）として、一の変動パターンテーブル（例えば、第2主遊技側の保留数に応じて変動パターン選択傾向が異なるのではなく、図395で示した限定頻度状態Aや限定頻度状態Bのような保留数に依存しない変動パターン選択状態を非時間短縮遊技状態に適用したテーブルや、図395で示す限定頻度状態Aまたは限定頻度状態B）を第2主遊技側の保留数にかかわらず用いることを示す。なお、変動開始の順番は、左列、中列、右列の第1装飾図柄が同時（略同時）に図柄変動を開始するように構成されており、定位置アクション（チャンス目先読み演出の演出態様）の順番も、左列、中列、右列の第1装飾図柄が同時（略同時）に実行するように構成されている。このように構成することで、非時間短縮遊技状態や時間短縮遊技状態の終了後の第2主遊技側の変動に対応した第1装飾図柄については、即座に消化するように構成することで本来の遊技性である非時間短縮遊技状態の主体遊技である第1主遊技側の遊技に復帰できるため、第1装飾図柄の態様はシンプルなものとする一方で、非時間短縮遊技状態に対応した最低限の各アクションを実施することで、第1主遊技にシームレスかつ違和感なく移行することができる。

【3129】

また、非時間短縮遊技状態において第1主遊技始動口A10に遊技球が入球した場合に、第1主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の図柄変動に非時間短縮遊技状態における第1装飾図柄を用いる。そして、第1主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の図柄変動（ハズレの通常の図柄変動、リーチガセや擬似連ガセ等の非リーチの図柄変動）は、第1主遊技側の保留数に応じて、変動時間傾向が変更されるように構成されている。なお、第1主遊技側の保留数に応じて、左列、中列、右列の第1装飾図柄の変動開始の順番が同一（略同一）であるが、仮停止の順番は、第1主遊技側の保留数に応じて異なるように構成されている。ここで、変動時間傾向が変更されるとは、非時間短縮遊技状態における第1主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の図柄変動の変動パターンを選択する際の通常状態（通常変動パターンテーブル）として、第1主遊技側の保留数に応じた通常状態1～4（通常変動パターンテーブル1～4）を用いることを示す。なお、変動開始の順番は、左列、中列、右列の第1装飾図柄が同時（略同時）に図柄変動を開始するように構成されており、仮停止の順番は、保留数が多い場合（保留4→3、保留3→2）には、左列、中列、右列の第1装飾図柄が同時（略同時）に仮停止し、少ない場合（保留2→1、保留1→0）には、左列、右列、中列の第1装飾図柄が仮停止する順番となるように構成されている。

【3130】

また、第1装飾図柄の変動開始の際に変動開始時アクション、第1装飾図柄の仮停止の際に定位置アクション（チャンス目先読み演出の演出態様）を実行するようにしてもよく、そのように構成する場合、非時間短縮遊技状態において第1主遊技始動口A10に遊技球が入球した場合に、第1主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の図柄変動に非時間短縮遊技状態における第1装飾図柄を用いる。そして、第1主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の図柄変動（ハズレの通常の図柄変動、リーチガセや擬似連ガセ等の非リーチの図柄変動）は、第1主遊技側の保留数に応じて、変動時間傾向が変更されるように構成されている。なお、第1主遊技側の保留数に応じて、左列、中列、右列の第1装飾図柄の変動開始時アクションの順番が同一（略同一）であるが、定位置アクション（チャンス目先読み演出の演出態様）の順番は、第1主遊技側の保留数に応じて異なるように構成されている。ここで、変動時間傾向が変更されるとは、非時間短縮遊技状態における第1主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の図柄変動の変動パターンを選択する際の通常状態（通常変動パターンテーブル）として、第1主遊技側の保留数に応じた通常状態1～4（通常変動パターンテーブル1～4）を用いることを示す。なお、変動開始時アクションの順番は、左列、中列、右列の第1装飾図柄が同時（略同時）に図柄変動を開始するように構成されており、定位置アクション（チャンス目先読み演出の演出態様）

10

20

30

40

50

の順番は、保留数が多い場合（保留 4 → 3、保留 3 → 2）には、左列、中列、右列の第 1 装飾図柄が同時（略同時）に実行し、少ない場合（保留 2 → 1、保留 1 → 0）には、左列、右列、中列の第 1 装飾図柄が定位置アクション（チャンス目先読み演出の演出態様）する順番となるように構成されている。

【3 1 3 1】

また、非時間短縮遊技状態において、第 1 主遊技側の保留が 1 → 0 となる第 1 主遊技図柄の図柄変動に対応する第 1 装飾図柄の図柄変動（ハズレの通常の図柄変動、リーチガセや擬似連ガセ等の非リーチの図柄変動）中に、第 1 主遊技始動口 A 1 0 に遊技球が入球し、第 1 主遊技側の保留が上限（「4」）まで貯まった場合、当該第 1 主遊技図柄の図柄変動に対応する第 1 装飾図柄の図柄変動における第 1 装飾図柄の変動開始の順番は、左列、中列、右列の第 1 装飾図柄が同時（略同時）である、一方、第 1 装飾図柄の仮停止の順番は、左列、中列、右列の第 1 装飾図柄が異なる順番で仮停止（例えば、左列、右列、中列の順番で仮停止）するように構成されている。そして、次の図柄変動 {第 1 主遊技側の保留が 4 → 3 となる第 1 主遊技図柄の図柄変動に対応する第 1 装飾図柄の図柄変動（ハズレの通常の図柄変動、リーチガセや擬似連ガセ等の非リーチの図柄変動）} における第 1 装飾図柄の変動開始の順番は、左列、中列、右列の第 1 装飾図柄が同時（略同時）であり、且つ、第 1 装飾図柄の仮停止の順番も左列、中列、右列の第 1 装飾図柄が同時（略同時）であるように構成されている。但し、非時間短縮遊技状態において、第 1 主遊技側の保留が 1 → 0 となる第 1 主遊技図柄の図柄変動に対応する第 1 装飾図柄の図柄変動（ハズレの通常の図柄変動、リーチガセや擬似連ガセ等の非リーチの図柄変動）中に、第 1 主遊技始動口 A 1 0 に遊技球が入球し、第 1 主遊技側の保留が「1」のみ貯まった場合、当該第 1 主遊技図柄の図柄変動に対応する第 1 装飾図柄の図柄変動における第 1 装飾図柄の変動開始の順番は、左列、中列、右列の第 1 装飾図柄が同時（略同時）である、一方、第 1 装飾図柄の仮停止の順番は、左列、中列、右列の第 1 装飾図柄が異なる順番で仮停止（例えば、左列、右列、中列の順番で仮停止）するように構成されている。

【3 1 3 2】

また、第 1 装飾図柄の変動開始の際に変動開始時アクション、第 1 装飾図柄の仮停止の際に定位置アクション（チャンス目先読み演出の演出態様）を実行するようにしてもよく、そのように構成する場合、非時間短縮遊技状態において、第 1 主遊技側の保留が 1 → 0 となる第 1 主遊技図柄の図柄変動に対応する第 1 装飾図柄の図柄変動（ハズレの通常の図柄変動、リーチガセや擬似連ガセ等の非リーチの図柄変動）中に、第 1 主遊技始動口 A 1 0 に遊技球が入球し、第 1 主遊技側の保留が上限（「4」）まで貯まった場合、当該第 1 主遊技図柄の図柄変動に対応する第 1 装飾図柄の図柄変動における第 1 装飾図柄の変動開始時アクションの順番は、左列、中列、右列の第 1 装飾図柄が同時（略同時）である、一方、第 1 装飾図柄の定位置アクション（チャンス目先読み演出の演出態様）の順番は、左列、中列、右列の第 1 装飾図柄が異なる順番で定位置アクション（チャンス目先読み演出の演出態様）を実行（例えば、左列、右列、中列の順番で実行）するように構成されている。そして、次の図柄変動 {第 1 主遊技側の保留が 4 → 3 となる第 1 主遊技図柄の図柄変動に対応する第 1 装飾図柄の図柄変動（ハズレの通常の図柄変動、リーチガセや擬似連ガセ等の非リーチの図柄変動）} における第 1 装飾図柄の変動開始時アクションの順番は、左列、中列、右列の第 1 装飾図柄が同時（略同時）であり、且つ、第 1 装飾図柄の定位置アクション（チャンス目先読み演出の演出態様）の順番も左列、中列、右列の第 1 装飾図柄が同時（略同時）であるように構成されている。但し、非時間短縮遊技状態において、第 1 主遊技側の保留が 1 → 0 となる第 1 主遊技図柄の図柄変動に対応する第 1 装飾図柄の

10

20

30

40

50

図柄変動（ハズレの通常の図柄変動、リーチガセや擬似連ガセ等の非リーチの図柄変動）中に、第1主遊技始動口A10に遊技球が入球し、第1主遊技側の保留が「1」のみ貯まった場合、当該第1主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の図柄変動における第1装飾図柄の変動開始時アクションの順番は、左列、中列、右列の第1装飾図柄が同時（略同時）である、一方、第1装飾図柄の定位置アクション（チャンス目先読み演出の演出態様）の順番は、左列、中列、右列の第1装飾図柄が異なる順番で定位置アクション（チャンス目先読み演出の演出態様）を実行（例えば、左列、右列、中列の順番で実行）するように構成されている。そして、次の図柄変動（第1主遊技側の保留が1→0となる第1主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の図柄変動（ハズレの通常の図柄変動、リーチガセや擬似連ガセ等の非リーチの図柄変動））における第1装飾図柄の変動開始時アクションの順番は、左列、中列、右列の第1装飾図柄が同時（略同時）である、一方、第1装飾図柄の定位置アクション（チャンス目先読み演出の演出態様）の順番は、左列、中列、右列の第1装飾図柄が異なる順番で定位置アクション（チャンス目先読み演出の演出態様）を実行（例えば、左列、右列、中列の順番で実行）するように構成されている。

【3133】

また、非時間短縮遊技状態において、第1主遊技側の保留が1→0となる第1主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の図柄変動（ハズレの通常の図柄変動、リーチガセや擬似連ガセ等の非リーチの図柄変動）中に、第2主遊技始動口B10に遊技球が入球し、第2主遊技側の保留が上限（「4」）まで貯まった場合、当該第1主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の図柄変動における第1装飾図柄の変動開始の順番は、左列、中列、右列の第1装飾図柄が同時（略同時）である、一方、第1装飾図柄の仮停止の順番は、左列、中列、右列の第1装飾図柄が異なる順番で仮停止（例えば、左列、右列、中列の順番で仮停止）するように構成されている。そして、次の図柄変動（第2主遊技側の保留が4→3となる第2主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の図柄変動（ハズレの通常の図柄変動、リーチガセや擬似連ガセ等の非リーチの図柄変動））における第1装飾図柄の変動開始の順番は、左列、中列、右列の第1装飾図柄が同時（略同時）であり、且つ、第1装飾図柄の仮停止の順番も左列、中列、右列の第1装飾図柄が同時（略同時）であるように構成されている。また、非時間短縮遊技状態において、第1主遊技側の保留が1→0となる第2主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の図柄変動（ハズレの通常の図柄変動、リーチガセや擬似連ガセ等の非リーチの図柄変動）中に、第2主遊技始動口B10に遊技球が入球し、第2主遊技側の保留が「1」のみ貯まった場合、当該第1主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の図柄変動における第1装飾図柄の変動開始の順番は、左列、中列、右列の第1装飾図柄が同時（略同時）である、一方、第1装飾図柄の仮停止の順番は、左列、中列、右列の第1装飾図柄が異なる順番で仮停止（例えば、左列、右列、中列の順番で仮停止）するように構成されている。そして、次の図柄変動（第2主遊技側の保留が1→0となる第2主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の図柄変動（ハズレの通常の図柄変動、リーチガセや擬似連ガセ等の非リーチの図柄変動））における第1装飾図柄の変動開始の順番は、左列、中列、右列の第1装飾図柄が同時（略同時）であり、且つ、第1装飾図柄の仮停止の順番も左列、中列、右列の第1装飾図柄が同時（略同時）であるように構成されている。

【3134】

また、非時間短縮遊技状態における第2主遊技側の第1装飾図柄の変動開始の際に変動開始時アクション、第2主遊技側の第1装飾図柄の仮停止の際に定位置アクション（チャンス目先読み演出の演出態様）を実行するようにしてもよく、そのように構成する場合、非時間短縮遊技状態において、第1主遊技側の保留が1→0となる第1主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の図柄変動（ハズレの通常の図柄変動、リーチガセや擬似連ガセ等の非リーチの図柄変動）中に、第2主遊技始動口B10に遊技球が入球し、第2主遊技側の保留が上限（「4」）まで貯まった場合、当該第1主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の図柄変動における第1装飾図柄の変動開始時アクションの順番は、左列、中列、右列の第1装飾図柄が同時（略同時）である、一方、第1装飾図柄の定位置ア

クション（チャンス目先読み演出の演出態様）の順番は、左列、中列、右列の第1装飾図柄が異なる順番で定位置アクション（チャンス目先読み演出の演出態様）を実行（例えば、左列、右列、中列の順番で実行）するように構成されている。そして、次の図柄変動（第2主遊技側の保留が4→3となる第2主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の図柄変動（ハズレの通常の図柄変動、リーチガセや擬似連ガセ等の非リーチの図柄変動））における第1装飾図柄の変動開始時アクションの順番は、左列、中列、右列の第1装飾図柄が同時（略同時）であり、且つ、第1装飾図柄の定位置アクション（チャンス目先読み演出の演出態様）の順番も左列、中列、右列の第1装飾図柄が同時（略同時）であるように構成されている。また、非時間短縮遊技状態において、第1主遊技側の保留が1→0となる第2主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の図柄変動（ハズレの通常の図柄変動、リーチガセや擬似連ガセ等の非リーチの図柄変動）中に、第2主遊技始動口B10に遊技球が入球し、第2主遊技側の保留が「1」のみ貯まった場合、当該第1主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の図柄変動における第1装飾図柄の変動開始時アクションの順番は、左列、中列、右列の第1装飾図柄が同時（略同時）である、一方、第1装飾図柄の定位置アクション（チャンス目先読み演出の演出態様）の順番は、左列、中列、右列の第1装飾図柄が異なる順番で定位置アクション（チャンス目先読み演出の演出態様）を実行（例えば、左列、右列、中列の順番で実行）するように構成されている。そして、次の図柄変動（第2主遊技側の保留が1→0となる第2主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の図柄変動（ハズレの通常の図柄変動、リーチガセや擬似連ガセ等の非リーチの図柄変動））における第1装飾図柄の変動開始時アクションの順番は、左列、中列、右列の第1装飾図柄が同時（略同時）であり、且つ、第1装飾図柄の定位置アクション（チャンス目先読み演出の演出態様）の順番も左列、中列、右列の第1装飾図柄が同時（略同時）であるように構成されている。

【3135】

また、時間短縮遊技状態において第1主遊技始動口A10に遊技球が入球した場合や非時間短縮遊技状態から時間短縮遊技状態へ遊技状態が切り替わった際に、第2主遊技側の保留が存在していない状態で第1主遊技側の保留が存在する場合に、第1主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の図柄変動を行うが、第1装飾図柄は時間短縮遊技状態における第2主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄と同一の図柄を用いる。そして、第1主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の図柄変動（ハズレの通常の図柄変動、リーチガセや擬似連ガセ等の非リーチの図柄変動）は、第1主遊技側の保留数にかかわらず、変動時間傾向が同一（略同一）となるように構成されている。また、第1主遊技側の保留数にかかわらず、左列、中列、右列の第1装飾図柄の変動開始の順番及び仮停止の順番が同一（略同一）に構成されている。ここで、変動時間傾向が同一（略同一）とは、時間短縮遊技状態における第1主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の図柄変動の変動パターンを選択する際の通常状態（通常変動パターンテーブル）として、一の変動パターンテーブル（例えば、図395で示す通常状態である通常変動パターンテーブル）を保留数にかかわらず用いることを示す。なお、変動開始の順番は、第1主遊技側の保留数にかかわらず、左列、中列、右列の第1装飾図柄が同時（略同時）に図柄変動を開始するように構成されており、仮停止の順番も、左列、中列、右列の第1装飾図柄が同時（略同時）に仮停止するように構成されている。

【3136】

また、時間短縮遊技状態における第1主遊技側の第1装飾図柄の変動開始の際に変動開始時アクション、第1主遊技側の第1装飾図柄の仮停止の際に定位置アクション（チャンス目先読み演出の演出態様）を実行するようにしてもよく、そのように構成する場合、時間短縮遊技状態において第1主遊技始動口A10に遊技球が入球した場合や非時間短縮遊技状態から時間短縮遊技状態へ遊技状態が切り替わった際に、第2主遊技側の保留が存在していない状態で第1主遊技側の保留が存在する場合に、第1主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の図柄変動を行うが、第1装飾図柄は時間短縮遊技状態における第2主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄と同一の図柄を用いる。そして、第1主遊

10

20

30

40

50

技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の図柄変動（ハズレの通常の図柄変動、リーチガセや擬似連ガセ等の非リーチの図柄変動）は、第1主遊技側の保留数にかかわらず、変動時間傾向が同一（略同一）となるように構成されている。また、第1主遊技側の保留数にかかわらず、左列、中列、右列の第1装飾図柄の変動開始時アクションの順番及び定位置アクション（チャンス目先読み演出の演出態様）の順番が同一（略同一）に構成されている。ここで、変動時間傾向が同一（略同一）とは、時間短縮遊技状態における第1主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の図柄変動の変動パターンを選択する際の通常状態（通常変動パターンテーブル）として、一の変動パターンテーブル（例えば、図395で示す通常状態である通常変動パターンテーブル）を保留数にかかわらず用いることを示す。なお、変動開始時アクションの順番は、第1主遊技側の保留数にかかわらず、左列、中列、右列の第1装飾図柄が同時（略同時）に実行するように構成されており、定位置アクション（チャンス目先読み演出の演出態様）の順番も、左列、中列、右列の第1装飾図柄が同時（略同時）に仮停止するように構成されている。

【3137】

また、時間短縮遊技状態において第2主遊技始動口B10に遊技球が入球した場合の第1装飾図柄の変動態様パターンの1つであるパターン1について説明する。時間短縮遊技状態における第2主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の図柄変動は、時間短縮遊技状態における第1装飾図柄を用いる。そして、第2主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の図柄変動（ハズレの通常の図柄変動、リーチガセや擬似連ガセ等の非リーチの図柄変動）は、第2主遊技側の保留数に応じて、変動時間傾向が変更されるように構成されているが、左列、中列、右列の第1装飾図柄の変動開始の順番及び仮停止の順番は、第2主遊技側の保留数にかかわらず同一（略同一）に構成されている。ここで、変動時間傾向が変更されるとは、時間短縮遊技状態における第2主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の図柄変動の変動パターンを選択する際の限定頻度状態（変動パターンテーブル）として、保留数に応じた限定頻度状態A1～A4（変動パターンテーブルA1～A4）や保留数に応じた限定頻度状態B1～B4（変動パターンテーブルB1～B4）を用いることを示す。なお、変動開始の順番は、第2主遊技側の保留数にかかわらず、左列、中列、右列の第1装飾図柄が同時（略同時）に図柄変動を開始するように構成されており、仮停止の順番も、左列、中列、右列の第1装飾図柄が同時（略同時）に仮停止するように構成されている。

【3138】

また、時間短縮遊技状態における第2主遊技側の第1装飾図柄の変動開始の際に変動開始時アクション、第2主遊技側の第1装飾図柄の仮停止の際に定位置アクション（チャンス目先読み演出の演出態様）を実行するようにしてもよく、そのように構成する場合、時間短縮遊技状態において第2主遊技始動口B10に遊技球が入球した場合の第1装飾図柄の変動態様パターンの1つであるパターン1について説明する。時間短縮遊技状態における第2主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の図柄変動は、時間短縮遊技状態における第1装飾図柄を用いる。そして、第2主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の図柄変動（ハズレの通常の図柄変動、リーチガセや擬似連ガセ等の非リーチの図柄変動）は、第2主遊技側の保留数に応じて、変動時間傾向が変更されるように構成されているが、左列、中列、右列の第1装飾図柄の変動開始時アクションの順番及び定位置アクション（チャンス目先読み演出の演出態様）の順番は、第2主遊技側の保留数にかかわらず同一（略同一）に構成されている。ここで、変動時間傾向が変更されるとは、時間短縮遊技状態における第2主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の図柄変動の変動パターンを選択する際の限定頻度状態（変動パターンテーブル）として、保留数に応じた限定頻度状態A1～A4（変動パターンテーブルA1～A4）や保留数に応じた限定頻度状態B1～B4（変動パターンテーブルB1～B4）を用いることを示す。なお、変動開始時アクションの順番は、第2主遊技側の保留数にかかわらず、左列、中列、右列の第1装飾図柄が同時（略同時）に実行するように構成されており、定位置アクション（チャンス目先読み演出の演出態様）の順番も、左列、中列、右列の第1装飾図柄が同時（略同時）に

実行するように構成されている。

【3139】

また、時間短縮遊技状態において第2主遊技始動口B10に遊技球が入球した場合の第1装飾図柄の変動態様パターンの1つであるパターン2（パターン1とは異なるパターン）について説明する。時間短縮遊技状態における第2主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の図柄変動は、時間短縮遊技状態における第1装飾図柄を用いる。そして、第2主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の図柄変動（ハズレの通常の図柄変動、リーチガセや擬似連ガセ等の非リーチの図柄変動）は、第2主遊技側の保留数に応じて、変動時間傾向が変更されるように構成されているが、左列、中列、右列の第1装飾図柄の変動開始の順番は、第2主遊技側の保留数にかかわらず、同一（略同一）に構成されている。なお、仮停止の順番は、第2主遊技側の保留数に応じて異なるように構成されている。ここで、変動時間傾向が変更されるとは、時間短縮遊技状態における第2主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の図柄変動の変動パターンを選択する際の限定頻度状態（変動パターンテーブル）として、保留数に応じた限定頻度状態A1～A4（変動パターンテーブルA1～A4）や保留数に応じた限定頻度状態B1～B4（変動パターンテーブルB1～B4）を用いることを示す。なお、変動開始の順番は、第2主遊技側の保留数にかかわらず、左列、中列、右列の第1装飾図柄は同時（略同時）に図柄変動を開始するように構成されており、仮停止の順番は、保留数が多い場合（保留4→3、保留3→2）に左列、中列、右列の第1装飾図柄を同時（略同時）に仮停止し、少ない場合（保留2→1、保留1→0）に左列、右列、中列の順番となるように構成されている。

10

20

【3140】

また、時間短縮遊技状態における第2主遊技側の第1装飾図柄の変動開始の際に変動開始時アクション、第2主遊技側の第1装飾図柄の仮停止の際に定位置アクション（チャンス目先読み演出の演出態様）を実行するようにしてもよく、そのように構成する場合、時間短縮遊技状態において第2主遊技始動口B10に遊技球が入球した場合の第1装飾図柄の変動態様パターンの1つであるパターン2（パターン1とは異なるパターン）について説明する。時間短縮遊技状態における第2主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の図柄変動は、時間短縮遊技状態における第1装飾図柄を用いる。そして、第2主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の図柄変動（ハズレの通常の図柄変動、リーチガセや擬似連ガセ等の非リーチの図柄変動）は、第2主遊技側の保留数に応じて、変動時間傾向が変更されるように構成されているが、左列、中列、右列の第1装飾図柄の変動開始時アクションの順番は、第2主遊技側の保留数にかかわらず、同一（略同一）に構成されている。なお、定位置アクション（チャンス目先読み演出の演出態様）の順番は、第2主遊技側の保留数に応じて異なるように構成されている。ここで、変動時間傾向が変更されるとは、時間短縮遊技状態における第2主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の図柄変動の変動パターンを選択する際の限定頻度状態（変動パターンテーブル）として、保留数に応じた限定頻度状態A1～A4（変動パターンテーブルA1～A4）や保留数に応じた限定頻度状態B1～B4（変動パターンテーブルB1～B4）を用いることを示す。なお、変動開始時アクションの順番は、第2主遊技側の保留数にかかわらず、左列、中列、右列の第1装飾図柄は同時（略同時）に実行するように構成されており、定位置アクション（チャンス目先読み演出の演出態様）の順番は、保留数が多い場合（保留4→3、保留3→2）に左列、中列、右列の第1装飾図柄を同時（略同時）に実行し、少ない場合（保留2→1、保留1→0）に左列、右列、中列の順番で実行するように構成されている。

30

40

【3141】

また、時間短縮遊技状態において第2主遊技始動口B10に遊技球が入球した場合の第1装飾図柄の変動態様パターンの1つであるパターン3（パターン1ともパターン2とも異なるパターン）について説明する。時間短縮遊技状態における第2主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の図柄変動は、時間短縮遊技状態における第1装飾図柄を用いる。そして、第2主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の図柄変動（ハズレの通常の図柄変動、リーチガセや擬似連ガセ等の非リーチの図柄変動）は、第2主遊技側の保

50

留数に応じて、変動時間傾向が変更されるように構成されているが、仮停止の順番は、第2主遊技側の保留数にかかわらず同一（略同一）に構成されている。なお、左列、中列、右列の第1装飾図柄の変動開始の順番は、第2主遊技側の保留数に応じて異なるように構成されている。ここで、変動時間傾向が変更されるとは、時間短縮遊技状態における第2主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の図柄変動の変動パターンを選択する際の限定頻度状態（変動パターンテーブル）として、保留数に応じた限定頻度状態A1～A4（変動パターンテーブルA1～A4）や保留数に応じた限定頻度状態B1～B4（変動パターンテーブルB1～B4）を用いることを示す。なお、左列、中列、右列の第1装飾図柄の変動開始の順番は、例えば、保留数が多い場合（保留4→3、保留3→2）に左列、中列、右列の第1装飾図柄が同時（略同時）に変動を開始するよう構成し、少ない場合（保留2→1、保留1→0）に左列、中列、右列の順番となるように構成されているが、この説明は一例であって、第2主遊技側の保留数に応じて変動開始の順番が異なるように構成されていればよい。なお、仮停止の順番は、第2主遊技側の保留数にかかわらず、左列、中列、右列の第1装飾図柄が同時（略同時）に仮停止するよう構成されている。時間短縮遊技状態において第2主遊技始動口B10に遊技球が入球した場合の第1装飾図柄の変動態様パターンについては、これらのパターン（パターン1からパターン3まで）のいずれかを採用する。

【3142】

また、時間短縮遊技状態における第2主遊技側の第1装飾図柄の変動開始の際に変動開始時アクション、第2主遊技側の第1装飾図柄の仮停止の際に定位置アクション（チャンス目先読み演出の演出態様）を実行するようにしてもよく、そのように構成する場合、時間短縮遊技状態において第2主遊技始動口B10に遊技球が入球した場合の第1装飾図柄の変動態様パターンの1つであるパターン3（パターン1ともパターン2とも異なるパターン）について説明する。時間短縮遊技状態における第2主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の図柄変動は、時間短縮遊技状態における第1装飾図柄を用いる。そして、第2主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の図柄変動（ハズレの通常の図柄変動、リーチガセや擬似連ガセ等の非リーチの図柄変動）は、第2主遊技側の保留数に応じて、変動時間傾向が変更されるように構成されているが、定位置アクション（チャンス目先読み演出の演出態様）の順番は、第2主遊技側の保留数にかかわらず同一（略同一）に構成されている。なお、左列、中列、右列の第1装飾図柄の変動開始時アクションの順番は、第2主遊技側の保留数に応じて異なるように構成されている。ここで、変動時間傾向が変更されるとは、時間短縮遊技状態における第2主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の図柄変動の変動パターンを選択する際の限定頻度状態（変動パターンテーブル）として、保留数に応じた限定頻度状態A1～A4（変動パターンテーブルA1～A4）や保留数に応じた限定頻度状態B1～B4（変動パターンテーブルB1～B4）を用いることを示す。なお、左列、中列、右列の第1装飾図柄の変動開始時アクションの順番は、例えば、保留数が多い場合（保留4→3、保留3→2）に左列、中列、右列の第1装飾図柄が同時（略同時）に実行するよう構成し、少ない場合（保留2→1、保留1→1）に左列、中列、右列の順番となるように構成されているが、この説明は一例であって、第2主遊技側の保留数に応じて変動開始時アクションの順番が異なるように構成されていればよい。なお、定位置アクション（チャンス目先読み演出の演出態様）の順番は、第2主遊技側の保留数にかかわらず、左列、中列、右列の第1装飾図柄が同時（略同時）に実行するよう構成されている。時間短縮遊技状態において第2主遊技始動口B10に遊技球が入球した場合の第1装飾図柄の変動態様パターンについては、これらのパターン（パターン1からパターン3まで）のいずれかを採用する。

【3143】

また、第1装飾図柄は、以下のように構成されている。

（1）第1装飾図柄は、変動固定時間中において、非透過状態であって一切のアクションを行わないことが好ましい。変動固定時間中における第1装飾図柄の表示態様は、第1要素と、第2要素とを表示する態様である（但し、時間短縮遊技状態においては、第2要素

10

20

30

40

50

のみでもよい)。また、第1装飾図柄に第3要素を付帯させてもよい。さらに、第1装飾図柄の表示態様は、遊技状態(低確低ベース状態、高確高ベース状態、高確低ベース状態、低確高ベース状態)に応じて、第1要素または第2要素のみを表示する態様であってもよい。また、遊技状態に応じて、各要素の態様が異なるように構成されていてもよく、例えば、「7」の第1装飾図柄において、低確低ベース状態では正面を向いたライオンの画像(第1要素)であるが、他の遊技状態では横を向いたライオンの画像(第1要素)としたり、低確低ベース状態では数字の「7」の画像(第2要素)であるが、他の遊技状態では漢字の「七」の画像(第2要素)としたり、低確低ベース状態では「7」の画像が赤色(第3要素)であるが、他の遊技状態では「7」の画像が金色(第3要素)としたり、低確低ベース状態ではライオンの画像が黄色(第3要素)であるが、他の遊技状態ではライオンの画像が金色(第3要素)としたりしてもよい。なお、遊技状態と同様、ステージやモードによって各要素の態様が異なるように構成されていてもよい。

10

(2) 第1装飾図柄は、減速変動中において、非透過状態であって一切のアクションを行わないことが好ましい。減速変動中におけるにおける第1装飾図柄の表示態様は、変動固定時間中における第1装飾図柄の表示態様と同様であることが好ましい。

【3144】

また、第2装飾図柄は、以下のように構成されている。

(1) 第2装飾図柄については、変動開始時アクションを行わないことが好ましい。

(2) 第2装飾図柄については、主遊技図柄及び第1装飾図柄の変動中にテンパイアクションを行わないことが好ましい。

20

(3) 第2装飾図柄については、常に表示可能であるため、主遊技図柄及び第1装飾図柄の変動中に透過しないことが好ましい。

(4) 第2装飾図柄については、図407に示すように、左列および右列の第2装飾図柄と中列の第2装飾図柄とが重複しないように構成されているとともに、左列の第2装飾図柄と右列の第2装飾図柄とが重複しないように構成されていることが好ましい。

(5) 第2装飾図柄については、第1主遊技側の保留数にかかわらず(または第2主遊技側の保留数にかかわらず)、変動開始の順番及び停止の順番が同一(略同一)に構成されていることが好ましい。

(6) 第2装飾図柄については、遊技状態(非時間短縮遊技状態、時間短縮遊技状態)にかかわらず、変動開始の順番及び停止の順番が同一(略同一)に構成されていることが好ましい。

30

(7) 第2装飾図柄については、第1主遊技側の図柄変動であっても第2主遊技側の図柄変動であっても、保留数に関係なく、時間短縮遊技状態の有無に関係なく、変動開始の順番及び停止の順番が同一(略同一)であることが好ましい。

(8) 第2装飾図柄については、主遊技図柄および第1装飾図柄の変動中に揺れアクションを行わないことが好ましい。

(9) 第2装飾図柄については、変動待機状態中において、揺れアクションを行わないことが好ましい。

(10) 第2装飾図柄については、主遊技図柄及び第1装飾図柄の変動中であっても、変動待機状態中(待機中ムービーの実行中含む)であっても、常に表示されている装飾図柄である。

40

(11) 第2装飾図柄については、その表示態様が遊技状態(低確低ベース状態、高確高ベース状態、高確低ベース状態、低確高ベース状態)にかかわらず、第2要素のみを表示する態様であり、その形状(例えば、各数字の輪郭、色、種類(ローマ数字か漢数字か))も遊技状態にかかわらず同じであることが好ましい。なお、遊技状態と同様、ステージやモードにかかわらず、第2要素のみを表示する態様とし、その形状(例えば、各数字の輪郭、色、種類(ローマ数字か漢数字か))もステージやモードにかかわらず同じとなるように構成されていてもよい。

【3145】

また、揺れアクションは、以下のように構成されている。

50

(1) 図柄変動中(仮停止中も含む)の第1装飾図柄の揺れアクション(第一の揺れ動作)は、第1要素と第2要素との両方が揺れているが、確定停止の状態である変動待機状態の第1装飾図柄の揺れアクション(変動待機状態中の1回目の第二の揺れ動作、変動待機状態中の2回目の第二の揺れ動作。なお、変動待機状態中の2回目の揺れ動作は、待機デモ画面の表示が終了した後に実行される第二の揺れ動作であるが第三の揺れ動作とも呼ぶことがある。)は、第1要素のみが揺れており、第2要素は揺れていないように構成されている。すなわち、図柄変動中における揺れアクションと変動待機状態中における揺れアクションの態様とが相違している。しかしながら、第1要素の揺れアクションについては、図柄変動中(仮停止中も含む)の第1装飾図柄の第1要素の揺れアクションと、変動待機状態中の第1装飾図柄の第1要素の揺れアクションとが、同一であることが好ましい。

図柄変動中(仮停止中も含む)の第1装飾図柄の揺れアクションを、第1装飾図柄が確定停止中である変動待機状態中にも適用することにより、変動待機状態であっても味気ない画面(第1装飾図柄が停止しているだけの画面)とすることを回避でき、液晶画面上に動きを与えることができるとともに、第2要素(数字)だけは揺れアクションを行うことなく固定的な表示としておくことで、図柄変動中であると遊技者に誤認させることがないような演出を提供することができる。

10

(2) 時間短縮遊技状態の第1装飾図柄の画像オブジェクト(第1要素の画像オブジェクトと第2要素の画像オブジェクト)と、非時間短縮遊技状態の第1装飾図柄の画像オブジェクト(第1要素の画像オブジェクトと第2要素の画像オブジェクト)とが異なるため、時間短縮遊技状態の第1装飾図柄の揺れアクションの態様と、非時間短縮遊技状態の第1装飾図柄の揺れアクションの態様とが相違するように構成されている。

20

(3) 図柄変動中の第1装飾図柄の揺れアクションの実行時間については、リーチ演出の実行時間だけではなく、第1列(例えば、左列)および第2列(例えば、右列)の第1装飾図柄がそれぞれ仮停止してから確定停止するまでの揺れアクションの時間も含んでいる。

(4) 揺れアクションは、所定時間で1回のアクションを行う動作(例えば、第1装飾図柄を上方向へ移動させてその後下方へ移動させる0.5秒の動作)を複数回実行して表示(継続表示、ループ表示)するように構成されている。一方、変動開始時アクション、定位置アクション、テンパイアクション、決めアクションに関しては、所定時間で1回のアクション(例えば、第1装飾図柄を徐々に拡大させる1.0秒の動作)を行う動作を1回実行して表示(単発表示、非ループ表示)するだけである。なお、揺れアクションの所定時間、変動開始時アクションの所定時間、定位置アクションの所定時間、テンパイアクションの所定時間、決めアクションの所定時間については、同じ時間であってもよいし、異なる時間であってもよい。

30

(5) 変動待機状態中の揺れアクションについては、第1主遊技図柄または第2主遊技図柄がハズレ図柄で確定停止(変動固定時間がある場合は、変動固定時間の経過後)してから所定時間(例えば、20秒)が経過すると、変動待機状態中の1回目の揺れアクション(第二の揺れ動作)を所定時間(例えば、10秒)実行するように構成されており、さらに、第1主遊技図柄または第2主遊技図柄がハズレ図柄の確定停止(変動固定時間がある場合は、変動固定時間の経過後)から所定時間(例えば、300秒)が経過すると、変動待機状態中の2回目の揺れアクション(第二の揺れ動作。なお、この変動待機状態中の2回目の揺れアクションは、待機デモ画面の表示が終了した後に実行される第二の揺れ動作であるが第三の揺れ動作とも呼ぶことがある。)を所定時間(例えば、10秒)実行するように構成されている。このように、変動待機状態中の揺れアクションについても変動中の揺れアクション同様、複数のタイミングにおいて揺れアクションを実行することができるように構成されている。なお、変動待機状態中の1回目の揺れアクションの開始時においては、ステージBGMが出力(確定停止以降から継続出力)されているが、待機中ムービーを実行した後であって、変動待機状態中における2回目の揺れアクションの開始時および揺れアクション中においては、ステージBGMが出力されないように構成されている。

40

(6) 非時間短縮遊技状態の図柄変動中(仮停止中も含む)の第1装飾図柄の揺れアクションと、時間短縮遊技状態の図柄変動中(仮停止中も含む)の第1装飾図柄の揺れアクシ

50

ョンとの態様が相違している。すなわち、非時間短縮遊技状態の第1装飾図柄の画像オブジェクト（第1要素の画像オブジェクトと第2要素の画像オブジェクト）と、時間短縮遊技状態の第1装飾図柄の画像オブジェクト（第1要素の画像オブジェクトと第2要素の画像オブジェクト）とが異なるため、非時間短縮遊技状態の図柄変動中（仮停止中も含む）の第1装飾図柄の揺れアクションの態様と、時間短縮遊技状態の図柄変動中（仮停止中も含む）の第1装飾図柄の揺れアクションの態様とが相違するように構成されている。

（7）非時間短縮遊技状態の変動待機状態中の第1装飾図柄の揺れアクションと、時間短縮遊技状態の変動待機状態中の第1装飾図柄の揺れアクションとの態様が相違している。すなわち、非時間短縮遊技状態の第1装飾図柄の画像オブジェクト（第1要素の画像オブジェクトと第2要素の画像オブジェクト）と、時間短縮遊技状態の第1装飾図柄の画像オブジェクト（第1要素の画像オブジェクトと第2要素の画像オブジェクト）とが異なるため、非時間短縮遊技状態の変動待機状態中の第1装飾図柄の揺れアクションの態様と、時間短縮遊技状態の変動待機状態中の第1装飾図柄の揺れアクションの態様とが相違するように構成されている。

（8）時間短縮遊技状態における第1装飾図柄を第2要素（数字）のみで構成した場合、時間短縮遊技状態の変動待機状態において揺れアクションを行わないことが好ましい。つまり、時間短縮遊技状態における第1装飾図柄を第2要素（数字）のみで構成した場合、図柄変動中（仮停止中も含む）の第1装飾図柄の揺れアクション（第一の揺れ動作）は実行するが、確定停止の状態である変動待機状態の第1装飾図柄の揺れアクション（変動待機状態中の1回目の第二の揺れ動作、変動待機状態中の2回目の第二の揺れ動作。なお、変動待機状態中の2回目の揺れ動作は、待機デモ画面の表示が終了した後に実行される第二の揺れ動作であるが第三の揺れ動作とも呼ぶことがある。）は行わないことが好ましい。

【3146】

また、定位置アクションは、以下のように構成されている。

（1）ハズレのスーパーリーチ演出において、最終の列としての第3列（例えば、中列）にハズレの第1装飾図柄を仮停止する際は、第3列の第1装飾図柄の定位置アクションは行わないことが好ましい。このように構成することで、ハズレの通常の図柄変動又はハズレのノーマルリーチ変動であれば中列の第1装飾図柄でも定位置アクションを行うことで仮停止したことを示す一方、ハズレのスーパーリーチ演出についてはハズレのスーパーリーチ演出から通常画面に戻って更に定位置アクションを行うことは冗長であるため該アクションを割愛することで、ハズレ時の経由演出に応じてシームレスな第1装飾図柄の動きを実現できる。一方、ノーマルリーチに最終の列としての第3列（例えば、中列）にハズレの第1装飾図柄を仮停止する際は、第3列の第1装飾図柄の定位置アクションは行うことが好ましいが、第3列の定位置アクションを行わなくてもよい。このように構成することで、ハズレのノーマルリーチ演出についてもスーパーリーチ演出同様に、リーチ演出から通常画面に戻って更に定位置アクションを行うことは冗長となるため該アクションを割愛することで、ハズレ時の経由演出に応じてシームレスな第1装飾図柄の動きを実現できる。ここで、リーチが成立しないハズレの場合（例えば、「247」や「183」のようなバラケ目で停止する場合）、第3列の定位置アクションを行うことが好ましい。また、第1装飾図柄が「7」でのテンパイは、その他の数字の第1装飾図柄より当り期待度が高く、ノーマルリーチにおいてハズレがないように構成される、または、ノーマルリーチにはならず必ずスーパーリーチ演出に発展する（もしくは、その他の数字の第1装飾図柄がテンパイするよりもスーパーリーチ演出に発展しやすい）よう構成されているため、第1装飾図柄が「7」でテンパイとなった場合、最終の列としての第3列（例えば、中列）の第1装飾図柄の定位置アクションを行わない、または、その他の数字の第1装飾図柄がテンパイするよりも最終の列としての第3列（例えば、中列）の第1装飾図柄の定位置アクションを行う確率を低くすることが好ましく、その他の数字の第1装飾図柄のテンパイでは、第3列の第1装飾図柄の定位置アクションを行うことが可能である、または、「7」がテンパイするよりも最終の列としての第3列（例えば、中列）の第1装飾図柄の定位置アクションを行う確率を高くすることが好ましい。

【3147】

また、テンパイアクションは、以下のように構成されている。

(1) 第1装飾図柄のテンパイアクションについて、第1列（例えば、左列）および第2列（例えば、右列）の第1装飾図柄では行わぬが、最終の列としての第3列（例えば、中列）の第1装飾図柄では行わぬ。このように構成することにより、最も着目される最終の列以外の第1装飾図柄である左列、右列の第1装飾図柄のみで行われる可能性があるアクションを用意することで、最終の列の第1装飾図柄が停止するまでの過程において注目すべきテンパイを視覚的に報知することができる。一方、第1装飾図柄のテンパイアクション以外のアクションについて、第1列（例えば、左列）および第2列（例えば、右列）の第1装飾図柄で行われ、さらに最終の列としての第3列（例えば、中列）の第1装飾図柄でも実行可能である。

10

(2) 非テンパイから擬似連（非リーチ擬似連）する場合であっても、テンパイから擬似連（リーチ後擬似連）する場合であっても、同じテンパイアクションを行うように構成されている。詳細には、図397において、非リーチ擬似連を行った後にリーチ後擬似連を行わずに、(i2)のテンパイアクション2を行う場合と、非リーチ擬似連を行わずにリーチ後擬似連を行った後に(i2)のテンパイアクション2を行う場合とで、テンパイアクション2が同じ（共通）であるということである。また、図397において、非リーチ擬似連を行った後にリーチ後擬似連を行わずに(i2)のテンパイアクション2を行う場合と、非リーチ擬似連を行わずにリーチ後擬似連を行う場合の(u)のテンパイアクション1を行う場合とで、テンパイアクション2とテンパイアクション1の態様が同一ということでもよい。なお、擬似連の図柄変動における擬似変動において、リーチとなることが確定する特定の予告演出（例えば、台詞予告で赤台詞の予告演出）が発生しても、該特定の予告演出が発生した擬似変動時には非テンパイになる場合もあれば、テンパイになる場合もあり、非テンパイになる場合は、その後の擬似変動においてテンパイになるように構成されている。

20

【3148】

また、決めアクションは、以下のように構成されている。

(1) 1回の図柄変動であり当り（大当り、小当り）となる特定の図柄変動（例えば、スーパーリーチ変動）において、第1列（例えば、左列の「7」）の第1装飾図柄と第2列（例えば、右列の「7」）の第1装飾図柄とが同一の図柄となりテンパイアクションを実行してからリーチ演出を行った後、リーチ後発展演出であるスーパーリーチ演出を実行するように構成されている。そして、スーパーリーチ演出では、第3列（例えば、中列の「7」）の第1装飾図柄が当り（大当り、小当り）の図柄で仮停止し、当り（大当り、小当り）図柄組み合わせである「777」を表示する成功パターンと、第3列（例えば、中列の「8」）の第1装飾図柄がハズレの図柄で仮停止し、ハズレ図柄組み合わせである「787」を表示してから再変動を実行して当り（大当り、小当り）図柄組み合わせである「777」を表示する復活パターンと、を備えており、成功パターンを経由して当り（大当り、小当り）となるか、復活パターンを経由して当り（大当り、小当り）となるかに応じて、決めアクションの実行の有無が決定されるようになっている。また、成功パターンを経由して当り（大当り、小当り）となるか、復活パターンを経由して当り（大当り、小当り）となるかに応じて、決めアクションの態様（例えば、決めアクションA、決めアクションBのうちいずれかを選択して実行する）が異なるように構成されていてもよい。また、復活パターンを経由して当り（大当り、小当り）となる場合は決めアクションを実行しない又は通常の決めアクションとは異なる態様の復活専用決めアクションが実行されるように構成してもよい。

30

40

【3149】

非時間短縮遊技状態における第1主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄のハズレの通常の図柄変動において、変動開始時アクション、定位置アクション、揺れアクションを行うように構成されており、この非時間短縮遊技状態であれば第1主遊技側の保留数に依存する（第1主遊技側の保留数に応じて変動選択傾向が異なる）ハズレの通常の図柄

50

変動にて、変動開始時アクション、定位置アクション、揺れアクションを行うように構成されるのが好適である。また、時間短縮遊技状態における第2主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄のハズレの通常の図柄変動において、第1装飾図柄の変動開始時アクション、定位置アクションの少なくともいずれか一つを行わない一方で、第1装飾図柄の揺れアクションは行うように構成されており、この時間短縮遊技状態であれば第2主遊技側の保留数に依存する（第2主遊技側の保留数に応じて変動選択傾向が異なる）ハズレの通常の図柄変動にて、変動開始時アクション、定位置アクションの少なくともいずれか一つを行わない一方で、揺れアクションは行うように構成されるのが好適である。例えば、非時間短縮遊技状態の第1主遊技図柄がハズレの通常の図柄変動（特に、保留1→0）を実行する場合であれば、変動開始時アクション、定位置アクションを行うが、時間短縮遊技状態の第2主遊技図柄がハズレの通常の図柄変動（特に、保留1→0）であれば、変動開始時アクション、定位置アクションの少なくともいずれかを行わないようにしてもよい。

10

【3150】

非時間短縮遊技状態における第1主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄のハズレの通常の図柄変動において、変動開始時アクション、定位置アクション、揺れアクションを行うように構成されており、この非時間短縮遊技状態であれば第1主遊技側の保留数に依存する（第1主遊技側の保留数に応じて変動選択傾向が異なる）ハズレの通常の図柄変動にて、変動開始時アクション、定位置アクション、揺れアクションを行うように構成されるのが好適である。また、時間短縮遊技状態における第2主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄のハズレの通常の図柄変動と比べて、第1装飾図柄の変動開始時アクション、定位置アクションの少なくともいずれかの実行確率を低く構成する一方で、第1装飾図柄の揺れアクションは行うように構成されており、この時間短縮遊技状態であれば第2主遊技側の保留数に依存する（第2主遊技側の保留数に応じて変動選択傾向が異なる）ハズレの通常の図柄変動にて、変動開始時アクション、定位置アクションの少なくともいずれかの実行確率を低く構成する一方で、揺れアクションは行うように構成されるのが好適である。例えば、非時間短縮遊技状態の第1主遊技図柄がハズレの通常の図柄変動（特に、保留1→0）を実行する場合であれば、変動開始時アクション、定位置アクションを行うが、時間短縮遊技状態の第2主遊技図柄がハズレの通常の図柄変動（特に、保留1→0）であれば、変動開始時アクション、定位置アクションの少なくともいずれかの実行確率を低く構成する（例えば、パターン1：変動開始時アクション＝50%、定位置アクション＝100%、パターン2：変動開始時アクション＝100%、定位置アクション＝80%）ようにしてもよい。

20

30

【3151】

時間短縮遊技状態における第2主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の図柄変動において、第1装飾図柄の変動開始時アクション、定位置アクション、テンパイアクション、決めアクションの少なくともいずれか一つを行わない一方で、第1装飾図柄の揺れアクションは行うように構成されている。また、時間短縮遊技状態における第2主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の図柄変動において、非時間短縮遊技状態における第1主遊技図柄の図柄変動に対応する第1装飾図柄の図柄変動と比べて、第1装飾図柄の変動開始時アクション、定位置アクション、テンパイアクション、決めアクションの少なくともいずれかの実行確率を低く構成する一方で、第1装飾図柄の揺れアクションは行うように構成されている。

40

【3152】

また、変動固定時間と各アクションの実行時間は、以下のように構成されている。

（1）第1装飾図柄の変動固定時間（例えば、500ms）よりも、変動待機状態中の揺れアクションが実行されるまでの所定時間（第1装飾図柄がハズレ図柄で確定停止（変動固定時間がある場合は、変動固定時間の経過後）してからの所定期間（例えば、20秒））の方が長く設定されている。このように設定することにより、第1装飾図柄の確定的な停止表示を示すための時間を変動固定時間として確保するとともに、図柄変動中（仮停止

50

中も含む)の第1装飾図柄の揺れアクションを、第1装飾図柄が確定停止中である変動待機状態中にも適用することにより、変動固定時間経過後の遊技待機状態であっても味気ない画面(第1装飾図柄が停止しているだけの画面)とすることを回避する(液晶画面上に動きを与える)よう構成した場合に、少なくとも変動固定時間以上の時間を空けてから揺れアクションを開始するよう構成することで、次変動が開始したと誤認されることを防止することができる。

(2) 1回の図柄変動である特定の図柄変動(例えば、リーチ変動、保留1→0のハズレの通常図柄変動等)において、実行される揺れアクション以外の1のアクションの実行時間は、揺れアクションの実行時間よりも短く構成されていることが好ましい。

(3) 1回の図柄変動である特定の図柄変動(例えば、リーチ変動、保留1→0のハズレの通常図柄変動等)において、揺れアクション以外の各アクションの実行時間の合計時間は、揺れアクションの実行時間の合計時間よりも短く構成されていることが好ましい。

(4) 1回の図柄変動である特定の図柄変動(例えば、リーチ変動、保留1→0のハズレの通常図柄変動等)において、揺れアクション以外の1のアクションの実行時間は、変動固定時間よりも短く構成されていることが好ましいが、変動固定時間よりも長く構成されていてもよい。

(5) 1回の図柄変動である特定の図柄変動(例えば、リーチ変動、保留1→0のハズレの通常図柄変動等)において、揺れアクション以外の各アクションの実行時間の合計時間は、変動固定時間よりも長く構成されていることが好ましい。

【3153】

また、BGM(演出音)については、図397、図398に示すように、図柄変動中、変動待機状態中にステージBGMを出力するように構成され、図柄変動中であってリーチ演出中は、リーチBGMを出力するように構成されている。そして、変動待機状態中における最初の揺れアクションの開始時においては、ステージBGMが出力(確定停止以降から継続出力)されているが、待機中ムービーを実行した後の変動待機状態中における揺れアクションの開始時および揺れアクション中においては、ステージBGMが出力されないように構成されている。例示すると、図398、図406の(a3)の第1装飾図柄がハズレ図柄で確定停止(変動固定時間がある場合は、変動固定時間の経過後)のタイミングでは、ステージBGMが出力されており、(d3)の第1装飾図柄がハズレ図柄で確定停止(変動固定時間がある場合は、変動固定時間の経過後)してから所定時間(例えば、20秒)が経過して変動待機状態中の1回目の揺れアクションの開始時においてもステージBGMが継続して出力されているが、(d3)の揺れアクションが実行された後のタイミング{第1装飾図柄がハズレ図柄で確定停止(変動固定時間がある場合は、変動固定時間の経過後)してから所定時間(例えば、30秒)が経過時}では、ステージBGMが出力されないように構成されている。そして、ハズレ図柄の確定停止(変動固定時間がある場合は、変動固定時間の経過後)から所定時間(例えば、300秒)が経過すると、変動待機状態中の2回目の(f3)揺れアクションを所定時間(例えば、10秒)実行するが、その際、ステージBGMが出力されていないように構成されている。なお、(d3)の揺れアクションが実行された後のタイミング{第1装飾図柄がハズレ図柄で確定停止(変動固定時間がある場合は、変動固定時間の経過後)してから所定時間(例えば、30秒)が経過時}では、ステージBGMが出力されないように構成されているようにしたが、(e3)の待機中ムービーを実行する際に、ステージBGMを出力しないように構成されていればよい。また、(e3)の待機中ムービーを実行するタイミングにおいて、節電中表示(節電画面)を表示してもよく、この場合、待機中ムービーよりも表示プライオリティの高い「節電中」の画像オブジェクトを待機中ムービーに重ねて表示し、ステージBGMは出力されないように構成される。なお、変動待機状態中にエラーを検出した場合、変動待機状態中の1回目の揺れアクションの開始時であっても、変動待機状態中の2回目の揺れアクションの開始時であっても、エラーの検出に基づくエラー音は出力されるように構成されている。図柄変動中(仮停止中も含む)の第1装飾図柄の揺れアクションを、第1装飾図柄が確定停止中である変動待機状態中にも適用することにより、変動待機状態であつ

10

20

30

40

50

ても味気ない画面（第1装飾図柄が停止しているだけの画面）とすることを回避でき、液晶画面上に動きを与えることができるとともに、変動待機状態にて最初に揺れアクションを開始した場合は、遊技機アピールのためステージBGMの出力を継続する一方で、待機中ムービーの表示を経由した場合は省電力のためステージBGMの出力を停止（消音）とするといった変動待機状態に応じた適切な演出出力態様とすることができる。

【3154】

また、リーチボイスは、以下のように構成されている。

（1）テンパイアクション発生時にリーチボイスが発生する。

（2）リーチ後擬似連する際のテンパイアクションと、その後のテンパイアクションとは同じアクションであっても、リーチボイスが異なる場合がある。例えば、リーチ後擬似連する際のテンパイアクションでは「チャンス」、その後のテンパイアクションでは「ゲキアツ」と出力する。

（3）テンパイアクションを複数種類有し、リーチ後擬似連する際のテンパイアクションと、その後のテンパイアクションとが異なるアクションであっても、リーチボイスが同じとなる場合がある。例えば、テンパイアクションAとテンパイアクションBがあり、テンパイアクションAとテンパイアクションBに対応するリーチボイスは、「チャンス」のみとなっている。

【3155】

また、待機中ムービーについては、図355で説明したとおり、非時間短縮遊技状態であっても、時間短縮遊技状態であっても、待機中ムービーの表示が可能であり、その表示条件（変動待機状態であって、第1装飾図柄がハズレ図柄で確定停止（変動固定時間がある場合は、変動固定時間の経過後）してから所定期間（例えば、242秒）の経過）は同じであるように構成されている。

【3156】

また、音量調整画面は、以下のように構成されている。

（1）第1装飾図柄の変動開始時アクション、定位置アクション、テンパイアクション、揺れアクション（変動中、変動待機状態中）、決めアクションのいずれのアクション中にも、音量調整画面は、遊技者の十字ボタンSB-2の操作を契機に表示可能である。この場合、各アクションと音量調整画面は表示領域SG10に同時表示可能である（換言すれば、各アクションが実行されている状況であっても、音量調整画面を表示可能である）。なお、変動固定時間中においては、十字ボタンSB-2の操作を行っても音量調整画面を表示しないようにしてもよい。

（2）第1装飾図柄の変動開始時アクション、定位置アクション、テンパイアクション、揺れアクション（変動中、変動待機状態中）、決めアクションのいずれかのアクション中に十字ボタンSB-2の操作を行うと、音量調整画面が表示領域SG10に表示されるように構成されている。表示された音量調整画面と第1装飾図柄とは重複して表示され、表示プライオリティは、音量調整画面の方が第1装飾図柄よりも高く設定されている。但し、音量調整画面と第2装飾図柄とは重複して表示されないように構成されている。

（3）第1装飾図柄のアクションが変動中におけるアクションである場合、第2装飾図柄は変動中であるがアクションは行わず、第1装飾図柄のアクションが確定停止状態（変動待機状態）中のアクションの揺れアクションである場合、第2装飾図柄は確定停止状態（変動待機状態）でありアクションは行わないように構成されている。但し、音量調整画面と第1装飾図柄との重複関係は、少なくとも1以上の第1装飾図柄（例えば、左列の第1装飾図柄）とは重複しないよう構成されている。また、変動中において、音量調整画面の表示時間（十字ボタンSB-2の1回の操作分に対応した時間、例えば、5秒）は、揺れアクションの時間（1の揺れアクションの実行時間、揺れアクションの合計時間であり、例えば、左列の第1装飾図柄が仮停止してから確定停止するまでに実行される揺れアクションの実行時間）よりも短い一方で、その他のアクションの時間（1のアクションの実行時間、アクションの合計時間）よりも長く構成されている。但し、音量調整画面の表示時間は、その表示中に十字ボタンSB-2を再度操作することで延長（表示時間のタイマが

10

20

30

40

50

リスタートまたはリセット）可能である。そのため、第1主遊技図柄または第2主遊技図柄の図柄変動中における左列の第1装飾図柄が揺れアクションを行っている最中に十字ボタンSB-2を複数回操作することで、揺れアクション中の全ての時間（期間）に亘って又は揺れアクションからその他アクションやスーパーリーチに移行するまでに亘って音量調整画面が同時表示されるように構成されている。

【3157】

また、音量調整画面は、以下のように構成されている。

（1）第1装飾図柄の変動開始時アクション、定位置アクション、テンパイアクション、揺れアクション（変動中、変動待機状態中）、決めアクションのいずれのアクション中にも、音量調整画面は、遊技者の十字ボタンSB-2の操作を契機に表示可能である。この場合、各アクションと音量調整画面は表示領域SG10に同時表示可能である（換言すれば、各アクションが実行されている状況であっても、音量調整画面を表示可能である）。なお、変動固定時間中においては、十字ボタンSB-2の操作を行っても音量調整画面を表示しないようにしてもよい。

（2）第1装飾図柄の変動開始時アクション、定位置アクション、テンパイアクション、揺れアクション（変動中、変動待機状態中）、決めアクションのいずれかのアクション中に十字ボタンSB-2の操作を行うと、音量調整画面が表示領域SG10に表示されるように構成されている。表示された音量調整画面と第1装飾図柄とは重複して表示され、表示プライオリティは、音量調整画面の方が第1装飾図柄よりも高く設定されている。但し、音量調整画面と第2装飾図柄とは重複して表示されないように構成されている。

（3）第1装飾図柄のアクションが変動中におけるアクションである場合、第2装飾図柄は変動中であるがアクションは行わず、第1装飾図柄のアクションが確定停止状態（変動待機状態）中のアクションの揺れアクションである場合、第2装飾図柄は確定停止状態（変動待機状態）でありアクションは行わないように構成されている。但し、音量調整画面と第1装飾図柄との重複関係は、少なくとも1以上の第1装飾図柄（例えば、左列の第1装飾図柄）とは重複しないよう構成されている。また、変動中において、音量調整画面の表示時間（十字ボタンSB-2の1回の操作分に対応した時間、例えば、5秒）は、揺れアクションの時間（1の揺れアクションの実行時間、揺れアクションの合計時間であり、例えば、左列の第1装飾図柄が仮停止してから確定停止するまでに実行される揺れアクションの実行時間）よりも短い一方で、その他のアクションの時間（1のアクションの実行時間、アクションの合計時間）よりも長く構成されている。但し、音量調整画面の表示時間は、その表示中に十字ボタンSB-2を再度操作することで延長（表示時間のタイマがリスタートまたはリセット）可能である。そのため、第1主遊技図柄または第2主遊技図柄の図柄変動中における左列の第1装飾図柄が揺れアクションを行っている最中に十字ボタンSB-2を複数回操作することで、揺れアクション中の全ての時間（期間）に亘って又は揺れアクションからその他アクションやスーパーリーチに移行するまでに亘って音量調整画面が同時表示されるように構成されている。なお、第1主遊技図柄または第2主遊技図柄の図柄変動中における左列の第1装飾図柄が揺れアクションを行っている最中に、十字ボタンSB-2の1回の操作により音量調整画面を表示し、その音量調整画面の表示中に十字ボタンSB-2の1回の操作により音量調整画面を表示するように、揺れアクションの実行中に音量調整画面の表示操作と音量調整画面の表示操作を交互に繰り返す行うことで、揺れアクション中の全ての時間（期間）に亘って又は揺れアクションからその他アクションやスーパーリーチに移行するまでに亘って音量調整画面及び音量調整画面が同時表示されるように構成されている（音量調整画面と音量調整画面の一方のみを表示するように構成した場合は、揺れアクション中の全ての時間（期間）に亘って又は揺れアクションからその他アクションやスーパーリーチに移行するまでに亘って音量調整画面の表示と音量調整画面の表示とが繰り返し切り替えられる）。

【3158】

また、予告演出は、以下のように構成されている。

(1) 第1装飾図柄の高速変動時において予告演出が発生する割合は、第1装飾図柄の減速変動時又は仮停止直前において予告演出が発生する割合よりも高く構成されている。また、1の図柄変動における第1装飾図柄の高速変動時において実行できる予告演出の数は、第1装飾図柄の減速変動時又は仮停止直前において実行できる予告演出の数よりも多く構成されている。また、1の図柄変動における第1装飾図柄の高速変動時において発生可能な予告演出の候補数は、第1装飾図柄の減速変動時又は仮停止直前において発生可能な予告演出の候補数よりも多く構成されている。第1装飾図柄が高速変動している場合は透過状態であって何もアクションを実行していない状態であるため、高速変動時に予告演出が実行された場合は、遊技者が容易に予告演出を視認できるようになっている一方、第1装飾図柄の減速変動時も何もアクションを実行していないが、第1装飾図柄が非透過状態であるので、この状態で予告演出を実行しても、遊技者が視認し難くなっている。そして、仮停止時直前は、定位置アクションを実行するためこの状態で予告演出を実行しても、遊技者が視認し難くなっている。

【3159】

また、副制御部は、第1装飾図柄の第2要素を表示するときに生成した画像オブジェクトの画像データを、第2装飾図柄の第2要素を表示するときのデータとして使用している。例えば、副制御部（特に、サブサブ制御部SS）は、装飾図柄表示領域SG11に表示させる画像オブジェクトの画像データが格納されるフレームバッファと、フレームバッファに格納された画像データを表示制御する画像制御手段（VDP）と、フレームバッファに格納した画像データを拡大または縮小させる拡縮手段と、を備え、拡縮手段は、第1装飾図柄の第2要素を表示するときに格納した画像オブジェクトの画像データを縮小させる処理を行い、画像制御手段は、拡縮手段で処理された画像データを第2装飾図柄の第2要素として表示するように構成している。このように画像データを使用することで、効率的に画像オブジェクトを生成することができる。

【3160】

補足しておくが、本実施形態では、変動表示中に第2装飾図柄が常に表示され、必ず確定停止する例を示したが、上述した通り、第2装飾図柄は第1装飾図柄が視認不可能又は視認し難い場合に表示するよう構成してもよく、この場合には、第2装飾図柄は必ず確定停止することにはならない。

【3161】

各アクション（変動開始時アクション、定位置アクション、揺れアクション、テンパイアクション、決めアクション）について、時間短縮遊技状態であるか非時間短縮遊技状態であるかに応じてアクション態様が異なってもよい。また、時間短縮遊技状態であるか非時間短縮遊技状態であるかに応じてアクションを実行するか実行しないかが決定されていてもよい。また、各アクション（変動開始時アクション、定位置アクション、揺れアクション、テンパイアクション、決めアクション）について、演出ステージAであるか演出ステージBであるかに応じてアクション態様が異なってもよい。また、演出ステージAであるか演出ステージBであるかに応じてアクションを実行するか実行しないかが決定されていてもよい。また、各アクション（変動開始時アクション、定位置アクション、揺れアクション、テンパイアクション、決めアクション）について、通常背景であるかリーチ背景（スーパーリーチ背景）であるかに応じてアクション態様が異なってもよい。また、通常背景であるかリーチ背景（スーパーリーチ背景）であるかに応じてアクションを実行するか実行しないかが決定されていてもよい。

【3162】

テンパイについて、左列の第1装飾図柄、右列の第1装飾図柄の順で仮停止してテンパイするように説明してきたが、左列の第1装飾図柄と右列の第1装飾図柄とが同時に仮停止してテンパイしてもよい。この場合、最初（例えば、1回目）の擬似変動では、左列の第1装飾図柄、右列の第1装飾図柄の順で仮停止してテンパイしてから中列に擬似連図柄が仮停止し、次（例えば、2回目）の擬似変動が開始される。そして、次の擬似変動では、左列の第1装飾図柄と右列の第1装飾図柄とが同時に仮停止してテンパイして、そのま

まりーチ演出を実行する又は擬似連図柄を仮停止するように構成されている。なお、左列の第1装飾図柄と右列の第1装飾図柄とが同時に仮停止してテンパイする場合、左列の第1装飾図柄の定位置アクションと、右列の第1装飾図柄の定位置アクションは同時に開始される。

【3163】

図柄変動中に特定の予告演出（例えば、次回予告演出）が発生した場合は、定位置アクション及びテンパイアクションを行わないようにしても良い。例えば、図柄変動中に次回予告演出が発生した場合、テンパイになることなく、そしてノーマルリーチ演出になることなくスーパーリーチ演出を実行するように構成されている。このように構成する場合は、スーパーリーチ演出を確実に遊技者に見せたいため、スーパーリーチ演出中は遊技者に分かりにくいように左列の第1装飾図柄と右列の第1装飾図柄とがテンパイするようになっており、定位置アクション及びテンパイアクションを行わないことが好適である。そして、このように構成することによって、遊技者の意表を突くタイミングでテンパイ状態となっていることを遊技者に対して見せることができる。

【3164】

当該変動の演出用保留表示や消化直前の第1保留表示の表示態様に応じて、変動開始時アクションの態様（変動開始時アクションを実行しやすいかどうか、又は、高期待度の変動開始時アクションBを実行しやすいかどうか）の傾向が異なるように構成されていてもよい。例えば、赤色の当該変動の演出用保留表示や消化直前の第1保留表示の場合は変動開始時アクションを必ず実行するが、白色（通常）の当該変動の演出用保留表示や消化直前の第1保留表示の場合は変動開始時アクションを必ず実行するとは限らないように構成したり、赤色の当該変動の演出用保留表示や消化直前の第1保留表示の場合は、白色（通常）の当該変動の演出用保留表示や消化直前の第1保留表示の場合よりも、変動開始時アクションが実行される割合が高くなるように構成したり、赤色の当該変動の演出用保留表示や消化直前の第1保留表示の場合は、白色（通常）の当該変動の演出用保留表示や消化直前の第1保留表示の場合よりも、変動開始時アクションBが実行される割合が高くなるように構成したり、白色（通常）の当該変動の演出用保留表示や消化直前の第1保留表示の場合は、赤色の当該変動の演出用保留表示や消化直前の第1保留表示の場合よりも、変動開始時アクションAが実行される割合が高くなるように構成したりするようになっている。

【3165】

アクション（変動開始時アクション、定位置アクション、テンパイアクション）にて拡大する場合、第1要素と第2要素の拡大率が異なってもよい。例えば、第1要素は拡大率が1.4倍だが第2要素は拡大率が1.1倍としたり、第1要素のみ拡大させ第2要素は拡大させないようにしたりしてもよい。また、揺れアクションについては、揺れ移動量を第1要素と第2要素とで異ならせても良い。例えば、第1要素の移動量は、第1要素の表示領域を1とした場合、左右に0.1ずつ揺動するが、第2要素の移動量は、第2要素の表示領域を1とした場合、左右に0.2（又は、0.05）ずつ揺動する、としてもよい。但し、1回の揺動に要する時間（1回の揺動の周期）は、第1要素も第2要素も同じ時間であることが望ましい。

【3166】

ここまでの説明において、各アクション、遊技状態、ステージにおける第1装飾図柄の表示態様として、「数字」のみや、「数字+キャラクタ」といった表示態様で説明してきたが、「数字」のみや、「数字+キャラクタ」の表示態様に第3要素を加えてもよい。例えば、「数字」のみの場合は、「数字+エフェクト」としてもよく、「数字+キャラクタ」の場合は、「数字+キャラクタ+エフェクト」としてもよい。

【3167】

第1主遊技図柄の変動パターンの決定は、時間短縮遊技状態でも非時間短縮遊技状態であっても第1主遊技側の保留数に依存し（第1主遊技側の保留数に応じて変動選択傾向が異なり）、第2主遊技図柄の変動パターンの決定は、時間短縮遊技状態でも非時間短縮遊

10

20

30

40

50

技状態であっても第2主遊技側の保留数に依存する（第2主遊技側の保留数に応じて変動選択傾向が異なる）ように構成されているが、第1主遊技図柄の変動パターンの決定は、時間短縮遊技状態では第1主遊技側の保留数に依存しない（第1主遊技側の保留数に依らず変動選択傾向が同じである）が、非時間短縮遊技状態では第1主遊技側の保留数に依存し（第1主遊技側の保留数に応じて変動選択傾向が異なり）、第2主遊技図柄の変動パターンの決定は、時間短縮遊技状態では第2主遊技側の保留数に依存する（第2主遊技側の保留数に応じて変動選択傾向が異なる）が、非時間短縮遊技状態では第2主遊技側の保留数に依存しない（第2主遊技側の保留数に依らず変動選択傾向が同じである）ように構成してもよい。

【3168】

保留が4→3、保留が3→2、保留が2→1、保留が1→0、保留4→3、保留3→2、保留2→1、保留1→0との記載における変動態様決定用抽選テーブルでの変動態様の決定および図柄変動は、以下のように対応している。保留が4→3、保留4→3では、変動態様決定用抽選テーブルでの変動態様の決定において保留数=3を参照して変動態様を決定し、この決定された変動態様を用いて図柄変動を実行するようになっている。保留が3→2、保留3→2では、変動態様決定用抽選テーブルでの変動態様の決定において保留数=2を参照して変動態様を決定し、この決定された変動態様を用いて図柄変動を実行するようになっている。保留が2→1、保留2→1では、変動態様決定用抽選テーブルでの変動態様の決定において保留数=1を参照して変動態様を決定し、この決定された変動態様を用いて図柄変動を実行するようになっている。保留が1→0、保留1→0では、変動態様決定用抽選テーブルでの変動態様の決定において保留数=0を参照して変動態様を決定し、この決定された変動態様を用いて図柄変動を実行するようになっている。

【3169】

図356において、音量調整画面、光量調整画面をそれぞれ別に表示する態様を用いて説明したが、図406の(b3)のように音量調整画面と光量調整画面とを表示領域SG10に表示する構成としてもよい。

【3170】

図372から図396において、第1主遊技側の第1保留表示及び第1主遊技側の第2保留表示が表示された例を用いて説明したが、第2主遊技側の第1保留表示及び第2主遊技側の第2保留表示も表示するよう構成してもよい。

【3171】

また、図372から図396において、第2装飾図柄にてリーチ態様となる例を用いて説明したが、第2装飾図柄でリーチ態様にならない（確定停止まで常に変動中である）構成としても良い。

【3172】

時間短縮遊技状態（例えば、低確高ベース状態）の第2主遊技図柄（第1主遊技図柄であってもよい）の最終の図柄変動において、図柄変動がハズレ図柄又は小当り図柄にて確定停止した際の変動固定時間は、10秒となっており、時間短縮遊技状態（例えば、低確高ベース状態）における補助遊技図柄の変動時間や時間短縮遊技状態（例えば、低確高ベース状態）又は非時間短縮遊技状態（例えば、低確低ベース状態）における第2主遊技始動口電動役物B11dの動作時間（開放時間と閉鎖時間を含んだ時間）よりも長くなるように構成されている。この変動固定時間において（厳密には、変動固定時間の開始時において）、主遊技時短フラグをオンからオフに切り替え、補助遊技時短フラグもオンからオフに切り替えるように構成されている。このように、時間短縮遊技状態の最終の図柄変動の変動固定時間を、補助遊技図柄の変動時間よりも長くすることで、時間短縮遊技状態の最終の図柄変動が終了した際に、補助遊技図柄の図柄変動が実行されている状態であっても、変動固定時間の10秒の間に確実に補助遊技図柄の図柄変動（例えば、0.5秒）が終了し、非時間短縮遊技状態の開放態様である0.5秒開放→閉鎖が終了するため、時間短縮遊技状態後の最初の図柄変動時の遊技状態を確実に非時間短縮遊技状態とすることができる。また、時間短縮遊技状態の最終の図柄変動の変動固定時間を、第2主遊技始動口

10

20

30

40

50

電動役物 B 1 1 d の動作時間（開放時間と閉鎖時間を含んだ時間）よりも長く { 1 0 秒 > 7 . 6 秒（ 0 . 2 秒開放 → 0 . 2 秒閉鎖 → 0 . 2 秒開放 → 3 . 0 秒閉鎖 → 4 . 0 秒開放 → 閉鎖）、 1 0 秒 > 3 . 8 秒（ 3 . 0 秒開放 → 0 . 2 秒閉鎖 → 0 . 2 秒開放 → 0 . 2 秒閉鎖 → 0 . 2 秒開放 → 閉鎖） } することで、時間短縮遊技状態の最終の図柄変動が終了した際に、第 2 主遊技始動口電動役物 B 1 1 d が作動している状態であり、変動固定時間の間に第 2 主遊技始動口に入球しても、第 2 主遊技側の保留の数は最大の 4 個の状態を維持するため、時間短縮遊技状態の最終の図柄変動の後の遊技を、第 2 主遊技を主体とした限定した変動の遊技（例えば、4 変動の「まとめ変動」）を確実に実行させることができる。

【 3 1 7 3 】

時間短縮遊技状態（例えば、低確高ベース状態）の第 2 主遊技図柄（第 1 主遊技図柄であってもよい）の最終の図柄変動において、図柄変動がハズレ図柄又は小当り図柄にて確定停止した際の変動固定時間は、1 0 秒となっており、時間短縮遊技状態（例えば、低確高ベース状態）における補助遊技図柄の変動時間や時間短縮遊技状態（例えば、低確高ベース状態）又は非時間短縮遊技状態（例えば、低確低ベース状態）における第 2 主遊技始動口電動役物 B 1 1 d の動作時間（開放時間と閉鎖時間を含んだ時間）よりも長くなるように構成されている。この変動固定時間において、主遊技時短フラグをオンからオフに切り替え、補助遊技時短フラグもオンからオフに切り替えるように構成する例を示したが、変動固定時間において（厳密には、変動固定時間の開始時において）、補助遊技時短フラグのみオンからオフに切り替えるように構成してもよい。主遊技時短フラグは、非時間短縮遊技状態に移行してから所定回数の図柄変動の変動固定時間において、オンからオフに切り替えることが好適である。このように構成することで、時間短縮遊技状態の最終の図柄変動から非時間短縮遊技状態の所定回数目までの複数変動に亘って実行可能な連続演出において、非時間短縮遊技状態においても時間短縮遊技状態と選択傾向が同じ変動態様を選択できるので、各図柄変動で実行される演出のバランスが良い連続演出を実行することができる。

【 3 1 7 4 】

第 2 4 実施形態では、条件装置が作動せずに、主遊技図柄（「主遊技図柄」には、第 1 主遊技図柄と第 2 主遊技図柄とがある）が予め定められた特定の図柄の組合せ（以下、時短図柄ともいう）としての時短専用図柄、ハズレ図柄（ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合）、小当り図柄（小当り図柄を時短図柄として併用する場合）、大当り図柄で停止表示された場合、時短図柄が停止表示されたことに基づいて時間短縮遊技状態（以下、時短 C：時短図柄を契機とした時短）を作動させる例、主遊技図柄（第 1 主遊技図柄、第 2 主遊技図柄）が大当り図柄で停止表示された場合、その後に行われる特別遊技（大当り遊技）の終了後に、停止表示された大当り図柄に基づいて時間短縮遊技状態（以下、時短 A：特別遊技を実行することとなった大当り図柄や小当り図柄の特別図柄を契機とした時短）を作動させる例、条件装置の作動に係る抽選回数（作動回数）が予め定められた回数（以下、作動回数 n）となったことに基づいて時間短縮遊技状態（以下、時短 B：主遊技図柄の作動回数を契機とした時短）を作動させる例を説明した。

【 3 1 7 5 】

<<時短 B が通常遊技状態で作動する場合の第 1 主遊技図柄の先読み演出を禁止する期間>>

次に、時短 B が作動する直前の期間が通常遊技状態である場合において、通常遊技状態時の遊技の主体である第 1 主遊技図柄の先読み用判定処理に対し、先読み用判定処理の禁則を設ける点について説明する。ここでは、1 種 + 1 種直列タイプの第 2 主遊技図柄を第 1 主遊技図柄よりも優先して図柄変動を実行し、主遊技図柄の作動回数 n が 1 0 0 0 回転（第 1 主遊技図柄のみが 1 0 0 0 回転、第 2 主遊技図柄のみが 1 0 0 0 回転、第 1 主遊技図柄と第 2 主遊技図柄との合算が 1 0 0 0 回転でもよい）となったことを契機として、時短回数 N が 1 0 0 回の時短 B が作動するばちんこ遊技機を用いて例示する。なお、作動回数 n として 1 0 0 0 を例示するが、1 0 0 0 に限定されるものではない。作動回数 n は、主遊技図柄の大当り確率が低確率状態の大当り確率 $ML = 1 / P$ に対して、 $2.5 \times P \leq$

$n \leq 3$ 、 $0 \times P$ と設定されていれば良く、設定（例えば、設定1～6）を有する設定付きぱちんこ遊技機においては、設定毎に n を満足するように構成されていれば良い。

【3176】

通常遊技状態（非時間短縮遊技状態）において大当り遊技とならず、999回転目の図柄変動であって、第1主遊技側の保留が4個存在しており、第2主遊技側の保留は存在していない状況における第1主遊技図柄の図柄変動において、第1主遊技側の4個目の保留をトリガ保留とした高期待度の先読み演出（例えば、当り確定を報知する先読み演出として保留の表示態様を虹色とする保留先読み演出）を実行する。先読み演出が開始された次の図柄変動である1000回転目の第1主遊技図柄の図柄変動において、先読み演出の実行中に、主遊技図柄の作動回数 n が1000回転（第1主遊技図柄のみが1000回転、第2主遊技図柄のみが1000回転、第1主遊技図柄と第2主遊技図柄との合算が1000回転でも良い）となったことを契機とした時短回数 N が100回の時短Bが作動する。このように先読み演出中に時短Bが作動した場合、先読み演出は、時短Bが作動したタイミングで演出が強制的に終了するように構成されている。詳細には、先読み演出中に時短Bが作動した場合、時短Bが作動したタイミングで時短Bが作動したことを契機として先読み演出を終了（中断）して、先読み演出として虹色で表示されていたトリガ保留の表示態様（保留アイコンの表示態様）を通常の色を表示態様に戻すように構成されている。

【3177】

ここで、100回の時短B中は、トリガ保留であった第1主遊技図柄の保留を意図的に消化せずに、第2主遊技図柄の図柄変動のみが実行されるように時短Bの遊技を行うことが可能である。例えば、時短B中は第2主遊技図柄の図柄変動のみを実行し、1001回転から1100回転までの100回の時短Bを消化する。1101回転目は時短Bの作動が終了して、遊技状態が時短Bから通常遊技状態に戻るよう構成されており、通常遊技状態に戻った状態において、残存している第2主遊技側の保留、例えば、4個のハズレの保留に対する第2主遊技図柄の図柄変動を1101回転から1104回転まで実行する。1105回転目、1106回転目は、第1主遊技図柄のハズレの図柄変動を実行する。そして、次の1107回転目の第1主遊技図柄の図柄変動において、時短Bが作動する前に第1主遊技側のトリガ保留であった保留に対する第1主遊技図柄の図柄変動を実行する。このトリガ保留であった保留は、大当りとなる保留であるため、第1主遊技図柄の図柄変動において大当り図柄を停止表示するように構成されている。そして、図柄変動終了後に大当り遊技を実行し、大当り遊技の終了後に時短Aが作動するように構成されている。

【3178】

このように時短Bの作動中に時短Aを作動させる契機となるトリガ保留を意図的に消化させずに、時短Bの作動を継続させてから終了させ、その後に時短Aを作動させるような攻略的な遊技が出来てしまうと、時短Bと時短Aの両方の時短の恩恵を得ることができてしまうため、出玉期待値が上がってしまう状況が発生する虞があるので、このような攻略を防止すべく第1主遊技図柄の先読み演出の実行を制限する期間である先読み演出を禁止する期間を設けることが好適である。

【3179】

また、1種+1種直列タイプの第2主遊技図柄を第1主遊技図柄よりも優先して図柄変動を実行するぱちんこ遊技機では、先読み演出中に時短Bが発動し、第1主遊技図柄のトリガ保留の図柄変動の開始前に第2主遊技図柄の保留ができてしまうと、第1主遊技図柄の先読み演出の演出としてのつながりを担保できないため、先読み演出の見栄えが悪くなってしまうため、第1主遊技図柄の先読み演出を禁止する期間を設けることが好適である。

【3180】

ここで、図411を用いて、第1主遊技図柄の先読み演出を禁止する期間として、以下の(1)～(5)を例示することができる。図411は、第1主遊技図柄の先読み演出を禁止する期間を示す図である。

(1) 時短Bの作動開始の N 変動前（例えば、4変動前）から時短Bの作動終了までの期間を、第1主遊技図柄の先読み演出を禁止する期間とする。

(2) 時短Bの作動開始のN変動前(例えば、4変動前)から時短Bの作動終了後であって、時短B中に発生した残存する第2主遊技図柄の保留が全て消化されるまでの期間を、第1主遊技図柄の先読み演出を禁止する期間とする。

(3) 時短Bの作動開始のN変動前(例えば、4変動前)から時短Bの作動終了後であって、時短B中に発生した残存する第2主遊技図柄の保留が全て消化され、第1主遊技図柄の図柄変動が1回実行されるまでの期間を、第1主遊技図柄の先読み演出を禁止する期間とする。

(4) 時短Bが作動する直前に滞在する遊技状態で使用していた限定頻度テーブルを参照する期間を、第1主遊技図柄の先読み演出を禁止する期間とする。

(5) 演出としてカウントダウン演出(後述する時短Bの開始を示唆するカウントダウン演出)を実行する期間を、第1主遊技図柄の先読み演出を禁止する期間とする。

ここでのNは、第1主遊技側の保留が生起可能な最大の数となっている。

【3181】

図411の(1)の先読み演出を禁止する期間(図の『NG』)の場合、第1主遊技図柄又は第2主遊技図柄の変動表示開始から停止表示までを一単位とすると、時短Bとなる前の期間であって大当たりとならずに一単位が1000回(第一特定回数又は特定回数)未満の997回(第二特定回数)行われてから1000回行われるまでの期間において第1主遊技側の保留にトリガ保留となり得る保留(第一保留)が生起した場合、トリガ保留となり得る保留に対応する先読み演出の実行を制限するよう構成されている。また、一単位が1000回実行された後の期間である時短Bの期間中は、第1主遊技側の保留にトリガ保留となり得る保留(第一保留)が生起した場合であっても、トリガ保留となり得る保留に対応する先読み演出の実行を制限するよう構成されている。そして、先読み演出を禁止する期間以外(図の『先読みOK』)の場合であって時短Bの作動が終了した後に入球した第1主遊技側の保留がトリガ保留となり得る保留(第一保留)の場合に、先読み演出を実行可能に構成している。なお、時短Bの作動が終了した際に存在している第1主遊技側のトリガ保留となり得る保留に対しては、先読み演出を実行可能なトリガ保留として処理しても良いし、トリガ保留としないように処理しても良い。

【3182】

図411の(2)の先読み演出を禁止する期間の場合、時短Bとなる前の期間であって大当たりとならずに一単位が1000回(第一特定回数又は特定回数)未満の997回(第二特定回数)行われてから1000回行われるまでの期間において第1主遊技側の保留にトリガ保留となり得る保留(第一保留)が生起した場合、トリガ保留となり得る保留に対応する先読み演出の実行を制限するよう構成されている。また、一単位が1000回実行された後の期間である時短Bの期間中は、第1主遊技側の保留にトリガ保留となり得る保留(第一保留)が生起した場合であっても、トリガ保留となり得る保留に対応する先読み演出の実行を制限するよう構成されている。さらに、時短Bの作動が終了した際に存在している第2主遊技側の保留が全て消化されるまでの期間は、第1主遊技側の保留にトリガ保留となり得る保留(第一保留)が生起した場合であっても、トリガ保留となり得る保留に対応する先読み演出の実行を制限するよう構成されている。そして、先読み演出を禁止する期間以外の場合であって時短Bの作動が終了した後に入球した第1主遊技側の保留がトリガ保留となり得る保留(第一保留)の場合に、先読み演出を実行可能に構成している。なお、時短Bの作動が終了した際に存在している第1主遊技側のトリガ保留となり得る保留に対しては、先読み演出を実行可能なトリガ保留として処理しても良いし、トリガ保留としないように処理しても良い。

【3183】

図411の(3)の先読み演出を禁止する期間の場合、時短Bとなる前の期間であって大当たりとならずに一単位が1000回(第一特定回数又は特定回数)未満の997回(第二特定回数)行われてから1000回行われるまでの期間において第1主遊技側の保留にトリガ保留となり得る保留(第一保留)が生起した場合、トリガ保留となり得る保留に対応する先読み演出の実行を制限するよう構成されている。また、一単位が1000回実行

10

20

30

40

50

された後の期間である時短Bの期間中は、第1主遊技側の保留にトリガ保留となり得る保留（第一保留）が生起した場合であっても、トリガ保留となり得る保留に対応する先読み演出の実行を制限するよう構成されている。さらに、時短Bの作動が終了した際に存在している第2主遊技側の保留が全て消化され、1回の第1主遊技図柄の図柄変動が実行されるまでの期間は、第1主遊技側の保留にトリガ保留となり得る保留（第一保留）が生起した場合であっても、トリガ保留となり得る保留に対応する先読み演出の実行を制限するよう構成されている。そして、先読み演出を禁止する期間以外の場合であって時短Bの作動が終了した後に入球した第1主遊技側の保留がトリガ保留となり得る保留（第一保留）の場合に、先読み演出を実行可能に構成している。なお、時短Bの作動が終了した際に存在している2個目以降の第1主遊技側のトリガ保留となり得る保留に対しては、先読み演出を実行可能なトリガ保留として処理しても良いし、トリガ保留としないように処理しても良い。

10

【3184】

図411の（4）の先読み演出を禁止する期間の場合を例示する。例えば、時短Bとなる前の期間であって大当たりとならずに一単位が1000回（第一特定回数又は特定回数）未満の991回（第二特定回数）行われてから1000回行われるまでの期間において、限定頻度テーブルを参照するよう構成されている。限定頻度テーブルでは、特殊な変動パターンテーブルが使用され、特有の変動パターンが選択され得るようになっており、時短Bの作動に近いことが示唆される演出表示を行うための変動パターンが選択され、時短Bの作動に近いこと、時短Bが作動することを示唆する演出表示がなされるようになってい

20

【3185】

図411の（5）の先読み演出を禁止する期間の場合を例示する。例えば、時短Bとなる前の期間であって大当たりとならずに一単位が1000回（第一特定回数又は特定回数）未満の991回（第二特定回数）行われてから1000回行われるまでの期間において、カウントダウン演出を実行する期間とするよう構成されている。カウントダウン演出が完了して時短Bが作動することとなると、第2主遊技図柄に基づく抽選により第1主遊技図柄よりも有利な結果が得られたり、通常遊技中よりも時短中の大当たりの方がその後の遊技状態が優遇されたりする場合があります。もうすぐ有利となるということを期待している状況で、第1主遊技図柄が当たってしまうことを煽ると期待感よりも喪失感を与えてしまう虞がある。また、このような優遇処理がない場合であっても、特定期間にしか表示されないカウントダウン演出と先読み演出が複合して表示されてしまうと、演出表示の見栄えが悪く先読み演出の見栄えが低下してしまう虞もある。従って、このようなカウントダウン演出を実行する期間において第1主遊技側の保留にトリガ保留となり得る保留（第一保留）が生起した場合、トリガ保留となり得る保留に対応する先読み演出の実行を制限するよう構成されている。なお、時短中、時短の作動終了後は（1）～（3）で説明したように先読み演出の実行を制限するよう構成されている。また、優先変動タイプ以外のタイプ（入賞順変動タイプ、並列変動タイプ）においても、この（5）の先読み演出を禁止する期間を設定することが好適である。

30

40

【3186】

なお、上記に例示した（1）～（5）に関する第1主遊技図柄の先読み演出を禁止する期間に関して、時短Bの作動後も第1主遊技図柄が遊技の主体となる場合（例えば、普通電動役物に係る始動口が第1主遊技図柄に係る始動口である場合や、並列変動タイプにおいて時短中も第1主遊技図柄の変動表示が演出の主対象となる場合など）は、先読み情報

50

を用いた攻略の心配や、演出としてのカウントダウン演出中や特殊な変動パターンに基づく限定頻度期間中の演出に与える影響は少ないと考えられるため、このように禁則期間を設けないようにすることが好適である。

【3187】

次に、図412を用いて、第1主遊技図柄の先読み用判定処理を説明する。図412は、副制御部での保留情報管理処理における第1主遊技図柄の先読み用判定処理のフローチャートである。本処理を先読み抽選の禁則条件に係る処理と先読み抽選に係る処理の二つに分けて説明する。前者の先読み抽選の禁則処理においては、まず、ステップ2530-1で、保留先読み演出実行可否判定手段は、保留内に第2主遊技保留（第1主遊技側よりも優先して消化されてしまう保留）が存在しないか否かを判定する。ステップ2530-1でYesの場合、ステップ2530-2で、保留先読み演出実行可否判定手段は、現在の遊技状態が時間短縮遊技状態ではないか否かを判定する。ステップ2530-2でYesの場合、ステップ2530-3で、保留先読み演出実行可否判定手段は、保留内にトリガ保留である旨の情報を有する保留が存在していないか否かを判定する。ここで、トリガ保留とは、入賞時先読み抽選（第1主遊技入賞時先読み抽選、第2主遊技入賞時先読み抽選）に当選した保留であって、先読み演出を実行する予定の保留である。ステップ2530-3でYesの場合、ステップ2530-4で、保留先読み演出実行可否判定手段は、当該新たな保留以前の保留に当り（大当り、小当り）となる保留が存在しないか否かを判定する。ステップ2530-4でYesの場合、ステップ2530-5に移行する。次に、ステップ2530-5で、保留先読み演出実行可否判定手段は、第1主遊技図柄の先読み演出を禁止する期間であるか否かを判定する。ステップ2530-5でYesの場合、つまり、第1主遊技図柄の先読み演出を禁止する期間でない場合、ステップ2530-6に移行する。なお、先読み抽選の禁則条件に係る処理は、副制御部での保留情報管理処理における処理としているが、主制御部において先読み抽選の禁則条件に係る処理を実行しても良い。例えば、主制御部は、時間短縮遊技中は主制御部での先読み抽選を実行せず、また、先読み演出を禁止する期間であれば主制御部での先読み抽選を実行しないように構成する。

【3188】

次に、後者の先読み抽選に係る処理においては、まず、ステップ2530-6で、保留先読み演出実行可否判定手段は、当該新たな保留は当り（大当り、小当り）となる保留であるか否かを判定する。ステップ2530-6でYesの場合、ステップ2530-7で、保留先読み演出実行可否判定手段は、当該新たな保留に対し、所定確率（本例では、1/3）で当選する第1主遊技入賞時先読み抽選を実行し、ステップ2530-8に移行する。他方、ステップ2530-6でNoの場合、ステップ2530-9で、保留先読み演出実行可否判定手段は、当該新たな保留の変動パターンは先読み演出を実行可能な変動パターンであるか否かを判定する。このように、本実施形態（先読み抽選を実行可能とした実施形態）においては、先読み抽選の実行可否を判定する場合に、変動パターンを考慮して第1主遊技入賞時先読み抽選の実行可否を判定するよう構成している。ステップ2530-9でYesの場合、ステップ2530-10で、保留先読み演出実行可否判定手段は、当該新たな保留に対し、所定確率（本例では、1/10）で当選する入賞時先読み抽選を実行し、ステップ2530-8に移行する。他方、ステップ2530-9でNoの場合もステップ2530-8に移行する。

【3189】

次に、ステップ2530-8で、保留先読み演出実行可否判定手段は、当該入賞時先読み抽選に当選したか否かを判定する。ステップ2530-8でYesの場合、ステップ2530-11で、保留先読み演出実行可否判定手段は、当該入賞時先読み抽選に当選した新たな保留に「トリガ保留」である旨の情報を付加して一時記憶し、次の処理〔ステップ2426の処理〕に移行する。

【3190】

他方、ステップ2530-1でNoの場合（保留内に第2主遊技保留が存在している場

合)、ステップ2530-12で、保留先読み演出実行可否判定手段は、保留に係る情報から「トリガ保留」である旨の情報を削除(トリガ保留である旨の情報を有する保留が保留内に存在しない場合には、本処理は実行せずに次の処理に移行する)する。尚、ステップ2530-12の処理は、第2主遊技側の保留が存在(発生)した場合、本実施形態(先読み抽選を実行可能とした実施形態)のような第2主遊技側優先消化のぱちんこ遊技機においては、当該新たに発生した第2主遊技側の保留を先に消化するため、予定されていた変動順とならなくなり、複数変動に亘る先読み演出が正常に実行されない事態を回避するための構成である。また、先読み抽選の禁則条件として、当該新たな保留以前の保留に、特定の変動パターンの保留が存在しないか否かという条件を禁則条件としてもよい、前述した先読み演出を禁止である(4)、(5)に示すような特定の変動期間に消化される保留でないかという条件を禁則条件としてもよい。

10

【3191】

このように構成することにより、通常遊技状態において、大当りを獲得せずとも時短状態を作動させ得るように構成でき、過度に遊技球(持ち玉)を消費してしまうことを抑制することが可能となる。また、大当り以外の契機で時間短縮遊技状態が作動することとなるため、従来にない遊技フローでの遊技進行がなされ、ゲーム性の幅が広がり、興趣性の高いぱちんこ遊技機を提供することができる。さらに、1種+1種直列タイプの第2主遊技図柄を第1主遊技図柄よりも優先して図柄変動を実行するぱちんこ遊技機では、第1主遊技図柄の先読み演出中に時短Bが発動した後であって第1主遊技図柄のトリガ保留の図柄変動の開始前に第2主遊技図柄の保留ができてしまうと、第1主遊技図柄の先読み演出の連続演出としてのつながりを担保できないため、先読み演出の禁則期間を設けることで、先読み演出の見栄えが悪くなることを防止できる。

20

【3192】

<<時間短縮遊技状態での第2主遊技図柄の先読み演出を禁止する期間>>

次に、時短Aや時短B、時短C等の時間短縮遊技状態において、時間短縮遊技状態時の遊技の主体である第2主遊技図柄の先読み用判定処理に対し、先読み用判定処理の禁則を設ける点について説明する。

【3193】

1種+1種直列タイプや1種+1種並列タイプ等の主遊技図柄が2つ(第1主遊技図柄、第2主遊技図柄)あって時間短縮遊技状態(例えば、時短A、時短B、時短C等)において第2主遊技図柄の図柄変動を主に実行するぱちんこ遊技機では、時間短縮遊技状態の作動が終了するタイミングの前後において、時間短縮遊技状態の作動が終了することをカウントダウン演出などの連続演出によって報知しているが、第2主遊技図柄のトリガ保留に基づく先読み演出を実行してしまうと、カウントダウン演出の見栄えが悪くなってしまうため、第2主遊技図柄の先読み演出を禁止する期間を設けることが好適である。

30

【3194】

ここで、図413を用いて、第2主遊技図柄の先読み演出を禁止する期間として、以下の(1)~(4)を例示することができる。図413は、第2主遊技図柄の先読み演出を禁止する期間を示す図である。なお、以下に示す時間短縮遊技状態は、時短A、時短B、時短Cの何れかの遊技状態を示しており、ここでは、時短回数が100回(時短1回~時短100回の図柄変動で時間短縮遊技状態とする)を例示する。

40

(1) 時間短縮遊技状態(時短A、時短B、時短C)の作動終了のN変動前(例えば、4変動前)から時間短縮遊技状態の作動終了までの期間を、第2主遊技図柄の先読み演出を禁止する期間とする。

(2) 時間短縮遊技状態(時短A、時短B、時短C)の作動終了のN変動前(例えば、4変動前)から時間短縮遊技状態の作動終了後であって、時間短縮遊技状態中に発生した残存する第2主遊技図柄の保留が全て消化されるまでの期間を、第2主遊技図柄の先読み演出を禁止する期間とする。

(3) 時間短縮遊技状態の作動が終了する直前に使用していた限定頻度テーブルを参照する期間を、第2主遊技図柄の先読み演出を禁止する期間とする。

50

（４）演出としてカウントダウン演出（時間短縮遊技状態の終了を示唆するカウントダウン演出）を実行する期間を、第２主遊技図柄の先読み演出を禁止する期間とする。

ここでのNは、第２主遊技側の保留が生起可能な最大の数となっている。また、図４１３中では時短Bが先行する時間短縮遊技状態（時短Aや時短C）に連続して実行される態様を示しているが、時短Bが先行して実行されている時間短縮遊技状態に連続せず、時間短縮遊技状態の直後に通常遊技状態に移行する場合においても（１）～（４）の期間は設定可能である。

【３１９５】

図４１３の（１）の先読み演出を禁止する期間の場合、第１主遊技図柄又は第２主遊技図柄の変動表示開始から停止表示までを一単位とすると、時間短縮遊技状態の作動が終了する前の期間であって大当たりとならずに一単位が時短１００回未満の時短９７回が行われてから時短１００回行われるまでの期間において第２主遊技側の保留にトリガ保留となり得る保留が生起した場合、トリガ保留となり得る保留に対応する先読み演出の実行を制限するよう構成されている。また、時短１００回が実行された後の期間である通常遊技状態の期間中は、第２主遊技側の保留にトリガ保留となり得る保留が生起した場合であっても、トリガ保留となり得る保留に対応する先読み演出の実行を制限するよう構成されている。

【３１９６】

図４１３の（２）の先読み演出を禁止する期間の場合、時間短縮遊技状態（時短A、時短B、時短C）の作動が終了する前の期間であって大当たりとならずに一単位が時短１００回未満の時短９７回が行われてから時短１００回行われるまでの期間において第２主遊技側の保留にトリガ保留となり得る保留が生起した場合、トリガ保留となり得る保留に対応する先読み演出の実行を制限するよう構成されている。また、時短１００回が実行された後の期間である通常遊技状態の期間中は、第２主遊技側の保留にトリガ保留となり得る保留が生起した場合であっても、トリガ保留となり得る保留に対応する先読み演出の実行を制限するよう構成されている。

【３１９７】

図４１３の（３）の先読み演出を禁止する期間の場合を例示する。例えば、時間短縮遊技状態（時短A、時短C）の作動が終了する前の期間であって大当たりとならずに時間短縮遊技状態の開始時点から起算して時短９１回～時短１００回が行われるまでの期間において、限定頻度テーブルを参照するよう構成されている。この限定頻度テーブルを参照する期間において第２主遊技側の保留にトリガ保留となり得る保留が生起した場合、トリガ保留となり得る保留に対応する先読み演出の実行を制限するよう構成されている。

【３１９８】

図４１３の（４）の先読み演出を禁止する期間の場合を例示する。例えば、例えば、時間短縮遊技状態の作動が終了する前の期間であって大当たりとならずに時短９１回～時短１００回が行われるまでの期間において、カウントダウン演出（時間短縮遊技状態が終了することを示唆するカウントダウン演出や、時短Bが作動することを示唆するカウントダウン演出など）を実行する期間とするよう構成されている。このカウントダウン演出を実行する期間において第２主遊技側の保留にトリガ保留となり得る保留が生起した場合、トリガ保留となり得る保留に対応する先読み演出の実行を制限するよう構成されている。

【３１９９】

次に、図４１４を用いて、第２主遊技図柄の先読み用判定処理を説明する。図４１４は、副制御部での保留情報管理処理における第２主遊技図柄の先読み用判定処理のフローチャートである。本処理を先読み抽選の禁則条件に係る処理と先読み抽選に係る処理の二つに分けて説明する。前者の先読み抽選の禁則処理においては、まず、ステップ２５４０－１で、保留先読み演出実行可否判定手段は、現在の遊技状態が時間短縮遊技状態であるかを判定する。ステップ２５４０－１でYesの場合、ステップ２５４０－２で、保留先読み演出実行可否判定手段は、保留内にトリガ保留である旨の情報を有する保留が存在していないかを判定する。ステップ２５４０－２でYesの場合、ステップ２５４０－３で、保留先読み演出実行可否判定手段は、当該新たな保留以前の保留に当たり（大当たり

、小当り)となる保留が存在しないか否かを判定する。ステップ2540-3でYesの場合、ステップ2540-4に移行する。ステップ2540-3でYesの場合、ステップ2540-4で、保留先読み演出実行可否判定手段は、第2主遊技図柄の先読み演出を禁止する期間であるか否かを判定する。ステップ2540-4でYesの場合、つまり、第2主遊技図柄の先読み演出を禁止する期間でない場合、ステップ2540-5に移行する。なお、先読み抽選の禁則条件に係る処理は、副制御部での保留情報管理処理における処理としているが、主制御部において先読み抽選の禁則条件に係る処理を実行しても良い。例えば、主制御部は、時間短縮遊技中でなければ主制御部での先読み抽選を実行せず、また、先読み演出を禁止する期間であれば主制御部での先読み抽選を実行しないように構成する。

10

【3200】

次に、後者の先読み抽選に係る処理においては、まず、ステップ2540-5で、保留先読み演出実行可否判定手段は、当該新たな保留は当り(大当り、小当り)となる保留であるか否かを判定する。ステップ2540-5でYesの場合、ステップ2540-6で、保留先読み演出実行可否判定手段は、当該新たな保留に対し、所定確率(大当り保留または小当り保留に対する第1主遊技入賞時先読み抽選の当選率よりも低い確率であり、本例では、 $1/5$)で当選する第2主遊技入賞時先読み抽選を実行し、ステップ2540-7に移行する。他方、ステップ2540-5でNoの場合、ステップ2540-8で、保留先読み演出実行可否判定手段は、当該新たな保留の変動パターンは先読み演出を実行可能な変動パターンであるか否かを判定する。ステップ2540-8でYesの場合、ステップ2540-9で、保留先読み演出実行可否判定手段は、当該新たな保留に対し、所定確率(ハズレ保留に対する第1主遊技入賞時先読み抽選の当選率よりも低い確率であり、本例では、 $1/15$)で当選する第2主遊技入賞時先読み抽選を実行し、ステップ2540-7に移行する。他方、ステップ2540-8でNoの場合もステップ2540-7に移行する。

20

【3201】

次に、ステップ2540-7で、保留先読み演出実行可否判定手段は、当該入賞時先読み抽選に当選したか否かを判定する。ステップ2540-7でYesの場合、ステップ2540-10で、保留先読み演出実行可否判定手段は、第2主遊技入賞時先読み抽選に当選した新たな保留に「トリガ保留」である旨の情報を付加して一時記憶する。

30

【3202】

このように、本実施形態(先読み抽選を実行可能とした実施形態)においては、新たな保留が当り(大当り、小当り)となる場合及びハズレとなる場合のいずれにおいても、第2主遊技側の保留に対する先読み抽選よりも第1主遊技側の保留に対する先読み抽選の方が当選し易くなっている。例えば、第1主遊技保留が当り(大当り、小当り)となる保留である場合の先読み抽選当選率 $=1/3 >$ 第2主遊技保留が当り(大当り、小当り)となる保留である場合の先読み抽選当選率 $=1/5$ 、第1主遊技保留がハズレとなる保留である場合の先読み抽選当選率 $=1/10 >$ 第2主遊技保留が当り(大当り、小当り)となる保留である場合の先読み抽選当選率 $=1/15$ となっている。

【3203】

40

このように構成することにより、時間短縮遊技状態の作動が終了するタイミングの前後において、時間短縮遊技状態の作動が終了することをカウントダウン演出などの連続演出によって報知しているが、第2主遊技図柄のトリガ保留に基づく先読み演出を実行してしまうと、カウントダウン演出などの連続演出の見栄えが悪くなってしまうため、第2主遊技図柄の先読み演出の禁則期間を設けることで、カウントダウン演出などの連続演出の見栄えが悪くなることを防止できる。

【3204】

<<時間短縮遊技状態の作動中に時短Bが作動する場合、時間短縮遊技状態での先読み演出を禁止する期間>>

次に、時短Bが作動する直前の期間が時間短縮遊技状態である場合において、時間短縮

50

遊技状態時の遊技の主体である第2主遊技図柄の先読み用判定処理に対し、先読み用判定処理の禁則を設ける点について説明する。ここでは、1種+1種直列タイプや1種+1種並列タイプ等の主遊技図柄が2つ（第1主遊技図柄、第2主遊技図柄）あるぱちんこ遊技機であって、主遊技図柄の作動回数 n が1000回転（第1主遊技図柄のみが1000回転、第2主遊技図柄のみが1000回転、第1主遊技図柄と第2主遊技図柄との合算が1000回転でも良い）となったことを契機として、時短回数 N が1100回の時短Bが作動するぱちんこ遊技機を用いて例示する。なお、作動回数 n として1000を例示するが、1000に限定されるものではない。作動回数 n は、主遊技図柄の大当り確率が低確率状態の大当り確率 $ML = 1/P$ に対して、 $2.5 \times P \leq n \leq 3.0 \times P$ と設定されていれば良く、設定（例えば、設定1～6）を有する設定付きぱちんこ遊技機においては、設定毎に n を満足するように構成されていれば良い。

10

【3205】

主遊技図柄の作動回数 n が1000回転となったことを契機として時短回数 N が1100回の時短Bが作動するように構成されている。また、主遊技図柄の作動回数 n が1000回転となったことを契機として作動回数 n の計測（加算または減算）がクリアされるように構成されている。作動回数 n の計測（加算または減算）がクリアされた後、時短Bの作動開始（詳細には、時短B中における主遊技図柄の図柄変動）に伴って再び作動回数 n の計測（加算または減算）が開始されるように構成されている。そして、時短Bの作動が開始してから主遊技図柄の作動回数 n が1000回転に到達した際（1回目の時短Bの開始から主遊技図柄の作動回数が1000回転経過した際であって合計の主遊技図柄の作動回数が2000回転となった際）に2回目の時短Bが作動するように構成されている。つまり、大当りに当選しない状態が継続する限り、時短Bが繰り返し実行される可能性のある遊技性を創出することができるように構成されている。

20

【3206】

ここで、時間短縮遊技状態における時短Bの作動が開始する前後のタイミングにおいて、時短Bの作動が近づいていることを報知する連続演出としての時短B作動開始煽り演出（詳細は後述する）や時短Bが作動する旨を報知する時短B作動開始演出（詳細は後述する）を実行するように構成している。これらの時短B作動開始煽り演出や時短B作動開始演出の実行中に、第2主遊技図柄のトリガ保留に基づく先読み演出を実行してしまうと、時短B作動開始煽り演出や時短B作動開始演出の見栄えが悪くなってしまうため、先読み演出を禁止する期間を設けることが好適である。

30

【3207】

ここで、図415を用いて、第2主遊技図柄の先読み演出を禁止する期間として、以下の（1）～（4）を例示することができる。図415は、第2主遊技図柄の先読み演出を禁止する期間を示す図である。

（1）時短Bの作動開始の N 変動前（例えば、4変動前）から時短Bの作動開始の図柄変動までの期間を、第2主遊技図柄の先読み演出を禁止する期間とする。

（2）時短Bの作動開始の N 変動前（例えば、4変動前）から時短Bの作動開始後であって、時短Bでの図柄変動が1回実行されるまでの期間を、第2主遊技図柄の先読み演出を禁止する期間とする。

40

（3）時短Bの作動が開始する直前に使用していた限定頻度テーブルを参照する期間を、第2主遊技図柄の先読み演出を禁止する期間とする。

（4）演出として時短B作動開始煽り演出や時短B作動開始演出を実行する期間を、第2主遊技図柄の先読み演出を禁止する期間とする。

ここでの N は、第2主遊技側の保留が生起可能な最大の数となっている。

【3208】

図415の（1）の先読み演出を禁止する期間の場合、第1主遊技図柄又は第2主遊技図柄の変動表示開始から停止表示までを一単位とすると、時間短縮遊技状態における時短Bとなる前の期間であって大当たりとならずに一単位が1000回未満の997回行われてから1000回行われるまでの期間において第2主遊技側の保留にトリガ保留となり得る

50

保留が生起した場合、トリガ保留となり得る保留に対応する先読み演出の実行を制限するよう構成されている。そして、先読み演出を禁止する期間以外の場合であって時短Bの作動した後に入球した第2主遊技側の保留がトリガ保留となり得る保留の場合に、先読み演出を実行可能に構成している。なお、時短Bが作動した際に存在している第2主遊技側のトリガ保留となり得る保留に対しては、先読み演出を実行可能なトリガ保留として処理しても良いし、トリガ保留としないように処理しても良い。

【3209】

図415の(2)の先読み演出を禁止する期間の場合、時間短縮遊技状態における時短Bとなる前の期間であって大当たりとならずに一単位が1000回未満の997回行われてから1000回行われるまでの期間において第2主遊技側の保留にトリガ保留となり得る保留が生起した場合、トリガ保留となり得る保留に対応する先読み演出の実行を制限するよう構成されている。また、一単位が1000回実行された後の期間である時短Bの期間中であって第2主遊技図柄の図柄変動が1回実行されるまでの期間は、第2主遊技側の保留にトリガ保留となり得る保留が生起した場合であっても、トリガ保留となり得る保留に対応する先読み演出の実行を制限するよう構成されている。そして、先読み演出を禁止する期間以外の場合であって時短Bの作動した後に入球した第2主遊技側の保留がトリガ保留となり得る保留の場合に、先読み演出を実行可能に構成している。なお、先読み演出を禁止する期間に存在している第2主遊技側のトリガ保留となり得る保留に対しては、先読み演出を実行可能なトリガ保留として処理しても良いし、トリガ保留としないように処理しても良い。

【3210】

図415の(3)の先読み演出を禁止する期間の場合を例示する。例えば、時間短縮遊技状態における時短Bとなる前の期間であって大当たりとならずに一単位が1000回未満の991回行われてから1000回行われるまでの期間において、限定頻度テーブルを参照するよう構成されている。この限定頻度テーブルを参照する期間において第2主遊技側の保留にトリガ保留となり得る保留が生起した場合、トリガ保留となり得る保留に対応する先読み演出の実行を制限するよう構成されている。そして、先読み演出を禁止する期間以外の場合であって時短Bの作動した後に入球した第2主遊技側の保留がトリガ保留となり得る保留の場合に、先読み演出を実行可能に構成している。なお、先読み演出を禁止する期間に存在している第2主遊技側のトリガ保留となり得る保留に対しては、先読み演出を実行可能なトリガ保留として処理しても良いし、トリガ保留としないように処理しても良い。なお、時短Bの期間中であって第2主遊技図柄の図柄変動が1回実行されるまでの期間は、第2主遊技側の保留にトリガ保留となり得る保留が生起した場合であっても、トリガ保留となり得る保留に対応する先読み演出の実行を制限するよう構成してもよい。

【3211】

図415の(4)の先読み演出を禁止する期間の場合を例示する。例えば、時間短縮遊技状態における時短Bとなる前の期間であって大当たりとならずに一単位が1000回未満の991回行われてから1000回行われるまでの期間において、時短B作動開始煽り演出や時短B作動開始演出を実行する期間とするよう構成されている。これらの時短B作動開始煽り演出や時短B作動開始演出を実行する期間において第2主遊技側の保留にトリガ保留となり得る保留が生起した場合、トリガ保留となり得る保留に対応する先読み演出の実行を制限するよう構成されている。そして、先読み演出を禁止する期間以外の場合であって時短Bの作動した後に入球した第2主遊技側の保留がトリガ保留となり得る保留の場合に、先読み演出を実行可能に構成している。なお、先読み演出を禁止する期間に存在している第2主遊技側のトリガ保留となり得る保留に対しては、先読み演出を実行可能なトリガ保留として処理しても良いし、トリガ保留としないように処理しても良い。なお、時短Bの期間中であって第2主遊技図柄の図柄変動が1回実行されるまでの期間は、第2主遊技側の保留にトリガ保留となり得る保留が生起した場合であっても、トリガ保留となり得る保留に対応する先読み演出の実行を制限するよう構成してもよい。

【3212】

このように構成することにより、時短B作動開始煽り演出や時短B作動開始演出の見栄えが悪くなることを防止できる。

【3213】

なお、時間短縮遊技状態（例えば、時短Aや時短C）中に時短Bが作動する場合、時短Bが作動する直前の期間である時間短縮遊技状態においては、第2主遊技図柄の先読み用判定処理を禁止せずに、先読み演出を実行可能なように構成してもよい。つまり、時短Bが作動する直前の期間である時間短縮遊技状態において、先読み用判定処理の禁則を設けないように構成する。このように構成することによって、先読み演出においては、時間短縮遊技状態の繋ぎの期間（時短Aから時短Bへの期間、時短Cから時短Bへの期間）であっても何ら制限をかけることなく先読み演出を実行することができる。

10

【3214】

また、時短Bを繰り返し実行するように構成する場合、時短Bが作動する直前の期間である時短Bの遊技状態においては、第2主遊技図柄の先読み用判定処理を禁止せずに、先読み演出を実行可能なように構成してもよい。つまり、時短Bが作動する直前の期間である時短Bの遊技状態において、時短Bから時短Bへの繋ぎの期間であっても何ら制限をかけることなく先読み演出を実行することができる。また、先読み用判定処理の禁則を設けないように構成することで、シームレスに時短Bの遊技状態を継続させることが可能となる。なお、本例においては、時短Bから時短Bへの繋ぎの期間について例示しているが、時短Aから時短Bへの期間、時短Cから時短Bへの期間の繋ぎの期間でも同様の制御を採用することが可能である。

20

【3215】

<<時短B作動開始演出>>

次に、図416、図417を用いて、時短Bが作動する場合における、時短Bが作動する旨を報知する時短B作動開始演出について説明する。1種+1種直列タイプの第2主遊技図柄を第1主遊技図柄よりも優先して図柄変動を実行するぱちんこ遊技機や1種+1種並列タイプのぱちんこ遊技機において、RAMクリア後または大当り遊技後に、大当り遊技とならずに主遊技図柄の作動回数nが1000回転（第1主遊技図柄のみが1000回転、第2主遊技図柄のみが1000回転、第1主遊技図柄と第2主遊技図柄との合算が1000回転でも良い）となったことを契機とした時短Bが作動する場合、以下（1）～（10）に示すような時短B作動開始演出を例示できる。図416は、（1）～（9）に示す時短B作動開始演出を示す図である。図417は、（10）に示す1種+1種並列タイプの時短B作動開始演出を示す図である。

30

【3216】

（1）1000回転目の主遊技図柄の図柄変動の変動終了時または変動停止時{変動固定時間経過（例えば、500ms）時}に作動回数nをカウントし、1000回転目の図柄変動の変動終了または変動停止{変動固定時間経過（例えば、500ms）}後から時短Bを作動させる場合であって、1000回転目に限定頻度テーブルを参照した特殊な変動パターンが選択される場合、1000回転目の図柄変動では、A秒（例えば、15秒）の図柄変動が行われ、この図柄変動中に時短Bの遊技状態となることを報知（例えば、時短Bモード開始画像の表示と右打ち画像の表示）する。

40

【3217】

（2）1000回転目の主遊技図柄の図柄変動の変動開始時（図柄変動中も含む）に作動回数nをカウントし、1000回転目の変動開始後（図柄変動中）に時短Bを作動させる場合であって、1000回転目に限定頻度テーブルを参照した特殊な変動パターンが選択される場合、1000回転目の図柄変動では、A秒（例えば、15秒）の図柄変動が行われ、この図柄変動中に時短Bの遊技状態となったことを報知（例えば、時短Bモード開始画像の表示と右打ち画像の表示）する。

【3218】

（3）1000回転目の主遊技図柄の図柄変動の変動終了時または変動停止時{変動固定時間経過（例えば、500ms）時}に作動回数nをカウントし、1000回転目の図

50

柄変動の変動終了または変動停止 {変動固定時間経過 (例えば、500ms)} 後から時短Bを作動させる場合であって、1001回転目に限定頻度テーブルを参照した特殊な変動パターンが選択される場合、1001回転目の図柄変動では、A秒 (例えば、15秒) の図柄変動が行われ、この図柄変動中に時短Bの遊技状態となったことを報知 (例えば、時短Bモード開始画像の表示と右打ち画像の表示) する。なお、1001回転目の変動は、通常遊技状態における遊技の主体である第1主遊技図柄でもよいし、時間短縮遊技状態における遊技の主体である普通電動役物にかかる始動口に対応する特別図柄 (例えば第2主遊技図柄) であってもよい。また、1001回転目は、すでに時間短縮遊技状態であることにより、時間短縮遊技状態の遊技の主体が第2主遊技図柄である場合には、第1主遊技図柄は遊技の主体として設計されないため、限定頻度テーブルを設けず、時間短縮遊技状態の第1主遊技図柄用の通常変動パターンテーブルで決定される変動パターンを長時間のものとしておいて、当該時間に時短Bの作動に関する演出を行うようにしてもよい。また、1000回転目の終了時において第1主遊技図柄、第2主遊技図柄のいずれの保留も存在しない場合には、所定期間 (例えば5秒程度で、遊技待機デモ移行期間よりも短い時間が好ましい) の経過後に自動的に時短Bの作動を報知する演出を実行してもよい (なお、自動的に時短Bの発生を報知する場合はこの間に変動を開始してしまう虞があるため、表示の態様を変更してもよい)。

【3219】

(4) 1000回転目の主遊技図柄の図柄変動の変動終了時または変動停止時 {変動固定時間経過 (例えば、500ms) 時} に作動回数nをカウントし、1000回転目の図柄変動の変動終了または変動停止 {変動固定時間経過 (例えば、500ms)} 後から時短Bを作動させる場合、1000回転目の図柄変動の変動停止時の変動固定時間として特定時間 (例えば、15秒) が選択され、この変動固定時間中に時短Bの遊技状態となることを報知 (例えば、時短Bモード開始画像の表示と右打ち画像の表示)、または、時短Bの遊技状態となったことを報知 (例えば、時短Bモード開始画像の表示と右打ち画像の表示) する。

【3220】

(5) 1000回転目の主遊技図柄の図柄変動の変動開始時 (図柄変動中も含む) に作動回数nをカウントし、1000回転目の変動開始後 (図柄変動中) に時短Bを作動させる場合、1000回転目の図柄変動の変動停止時の変動固定時間として特定時間 (例えば、15秒) が選択され、この変動固定時間中に時短Bの遊技状態となったことを報知 (例えば、時短Bモード開始画像の表示と右打ち画像の表示) する。

【3221】

(6) 1000回転目の主遊技図柄の図柄変動の変動開始時 (図柄変動中も含む) に作動回数nをカウントし、1000回転目の変動開始後 (図柄変動中) に時短Bを作動させる場合、1000回転目の図柄変動の演出に対して強制的に副制御部の制御によって時短Bが作動したことを報知する演出 (例えば、ワイプの時短Bモード開始画像の表示と右打ち画像の表示) を上から重ねて表示する。

【3222】

(7) 1000回転目の主遊技図柄の図柄変動の変動終了時または変動停止時 {変動固定時間経過 (例えば、500ms) 時} に作動回数nをカウントし、1000回転目の図柄変動の変動終了または変動停止 {変動固定時間経過 (例えば、500ms)} 後から時短Bを作動させる場合、変動固定時間の経過後から時短Bが作動したことを報知する演出を開始し、その後1001回転目の図柄変動が行われる場合であっても1001回転目の図柄変動の演出に対して強制的に副制御部の制御によって時短Bが作動したことを報知する演出 (例えば、ワイプの時短Bモード開始画像の表示と右打ち画像の表示) を上から重ねて表示する。

【3223】

(8) 1000回転目の主遊技図柄の図柄変動の変動開始時 (図柄変動中も含む) に作動回数nをカウントし、1000回転目の変動開始後 (図柄変動中) に時短Bを作動させ

10

20

30

40

50

る場合であって、1000回転目の図柄変動が停止表示した次の図柄変動が開始していない場合、停止表示中の演出用図柄に対して時短Bが作動したことを報知する演出（例えば、時短Bモード開始画像の表示と右打ち画像の表示）を上から重ねて表示する。

【3224】

（9）1000回転目の主遊技図柄の図柄変動の変動終了時または変動停止時{変動固定時間経過（例えば、500ms）時}に作動回数nをカウントし、1000回転目の図柄変動の変動終了または変動停止{変動固定時間経過（例えば、500ms）}後から時短Bを作動させる場合であって、1000回転目の図柄変動が停止表示した次の図柄変動が開始していない場合、停止表示中の演出用図柄に対して時短Bが作動したことを報知する演出（例えば、時短Bモード開始画像の表示と右打ち画像の表示）を上から重ねて表示する。

10

【3225】

（10）1種+1種並列タイプの場合は、1000回転目の図柄変動が終了した後の最初の第1主遊技図柄の図柄変動において、ステージチェンジ演出を実行するように構成されている。このステージチェンジ演出において、時短Bが作動したことを報知する演出である時短B作動開始演出を実行するように構成されている。1種+1種並列タイプの場合は、1000回転目の主遊技図柄（第1主遊技図柄の図柄変動又は第2主遊技図柄の図柄変動）の変動開始時（図柄変動中も含む）に作動回数nをカウントし、1000回転目の変動開始後（図柄変動中）に時短Bを作動させるように構成されている。1000回転目の図柄変動中に時短Bが作動するが、時短B作動開始演出は実行されないように構成されており、液晶に小さい右打ち画像を表示する（図417の（a）参照）ように構成されている。

20

【3226】

また、通常遊技状態で第1主遊技図柄が遊技の主体であり、時間短縮遊技状態においても第1主遊技図柄が遊技の主体である（演出として大当たり以外の第2主遊技図柄の変動表示に対応した演出の表示を行わない）場合、図417の（10）パターン1に示すように、1000回転目の図柄変動が終了した後の最初の第2主遊技図柄の図柄変動（1001回転目の図柄変動）では、ステージチェンジ演出を実行しないように構成されている。1001回転目の図柄変動が第2主遊技図柄の図柄変動である場合は、ステージチェンジ演出を実行せず、1002回転目の図柄変動が第1主遊技図柄の図柄変動である場合にステージチェンジ演出（図417の（b）参照）を実行し、ステージチェンジ演出で演出ステージが時短B専用の演出ステージの時短Bステージに切り替わった際に大きい右打ち画像が液晶に表示される（図417の（c）参照）ように構成されている。

30

【3227】

一方、図417の（10）パターン2に示すように、1000回転目の図柄変動が終了した後の最初の第1主遊技図柄の図柄変動（1001回転目の図柄変動）では、ステージチェンジ演出（図417の（b）参照）を実行するように構成している。そして、ステージチェンジ演出で演出ステージが時短B専用の演出ステージの時短Bステージに切り替わった際に大きい右打ち画像が液晶に表示されるように構成されている。

【3228】

1000回転目の図柄変動が終了した後の最初の第1主遊技図柄の図柄変動は、時短Bの遊技状態で参照される変動パターンテーブルを使用するため、時短Bの遊技状態で最初の第1主遊技図柄の図柄変動でステージチェンジ演出を実行するように定めておくことで、ステージチェンジ演出を実行しやすくすることができる。ステージチェンジ演出の実行後は、時短B専用の演出ステージの時短Bステージに移行し、この時短Bステージにおいて、時短Bの図柄変動の演出を実行するように構成されている。なお、ステージチェンジ演出を実行する前においては、時短Bが作動している状態であっても、時短Bステージを用いた時短Bの図柄変動を実行しないように構成されている。また、保留がない場合や、第1主遊技図柄の図柄変動が開始されない場合は、待機デモ画面の表示中において強制的に時短B専用の時短Bステージに移行するように構成しても良いし、第2主遊技図柄の図

40

50

柄変動が所定時間（例えば、5秒）以上の図柄変動の場合に、図柄変動中において強制的に時短B専用の時短Bステージに移行するように構成しても良い。

【3229】

上述の（1）～（3）の時短B作動開始演出を実行する場合は、1000回転目や1001回転目に限定頻度テーブルを参照した特殊な変動パターンが選択されるように構成されている。なお、大当たり遊技後だけではなく、RAMクリア後に大当たり遊技とならずに主遊技図柄の作動回数nが1000回転（第1主遊技図柄のみが1000回転、第1主遊技図柄と第2主遊技図柄との合算が1000回転でも良い）となったことを契機として限定頻度テーブルを参照して特殊な変動パターンを選択するように構成されている。この特殊な変動パターンの変動時間はA秒（例えば、15秒）となっており、A秒の図柄変動中に時短B作動開始演出を実行するように構成されている。

10

【3230】

この場合、RAMクリアしたことに基づき、主遊技図柄の変動パターンの選択テーブルを変更するように構成されている。つまり、RAMクリアされた後の最初の図柄変動から1000回転まで限定頻度テーブルを参照（1の限定頻度テーブルを参照または主遊技図柄の作動回数に対応した限定頻度テーブルを参照）して、変動パターンを選択するように構成されており、主遊技図柄の作動回数nが1000回転（第1主遊技図柄のみが1000回転、第2主遊技図柄のみが1000回転、第1主遊技図柄と第2主遊技図柄との合算が1000回転でも良い）となったことを契機として限定頻度テーブルを参照して特殊な変動パターンを選択するように構成されている。なお、主遊技図柄の作動回数に対応した限定頻度テーブルを参照する場合、1000回転目限定の限定頻度テーブルを用いても良いし、1000回転目の所定回前（例えば、10回前の991回転目）から1000回転目まで参照する限定頻度テーブルを用いても良い。

20

【3231】

また、大当たり遊技後に、大当たり遊技とならずに主遊技図柄の作動回数nが1000回転（第1主遊技図柄のみが1000回転、第1主遊技図柄と第2主遊技図柄との合算が1000回転でも良い）となったことを契機として限定頻度テーブルを参照して特殊な変動パターンを選択するように構成されている。

【3232】

この場合、大当たり図柄、が停止表示したことに基づき、主遊技図柄の変動パターンの選択テーブルを変更するように構成されている。つまり、大当たり図柄が停止表示された図柄変動の次の図柄変動から1000回転まで限定頻度テーブルを参照（1の限定頻度テーブルを参照または主遊技図柄の作動回数に対応した限定頻度テーブルを参照）して、変動パターンを選択するように構成されており、主遊技図柄の作動回数nが1000回転（第1主遊技図柄のみが1000回転、第2主遊技図柄のみが1000回転、第1主遊技図柄と第2主遊技図柄との合算が1000回転でも良い）となったことを契機として限定頻度テーブルを参照して特殊な変動パターンを選択するように構成されている。なお、主遊技図柄の作動回数に対応した限定頻度テーブルを参照する場合、1000回転目限定の限定頻度テーブルを用いても良いし、1000回転目の所定回前（例えば、10回前の991回転目）から1000回転目まで参照する限定頻度テーブルを用いても良い。

30

【3233】

通常遊技状態において小当たり図柄や時短図柄（ハズレ図柄と兼用される図柄を含む）が当選したときに小当たり後の特殊演出状態や、時短図柄の停止表示後の時短Cの演出状態において特殊な変動演出を実行するために限定頻度テーブルを設定するように構成した場合、第1限定頻度設定情報（大当たり時に設定）と第2限定頻度設定情報（小当たり時や時短図柄の停止表示時に設定）とを設け、大当たり、小当たり時にこれらの情報を記憶させておく。第1限定頻度設定情報は、大当たり後100回転目、大当たり後300回転目、大当たり後1000回転目（時短Bの作動回数n=1000回の場合の1000回転目）に限定頻度テーブルを参照するような情報となっており、第2限定頻度設定情報は、小当たり後100回転の期間や、時短Cによって時間短縮遊技状態に制御される期間の一部または全部において

40

50

限定頻度テーブルを参照するような情報となっている。そして、大当り後100回転目では第1限定頻度設定情報を参照して限定頻度テーブルを用いた変動パターンを選択するように構成されている。大当り後100回転目以降の200回転目に小当りに当選した場合、小当り後の201回転目から300回転目まで小当り図柄の停止表示にもとづいて設定された第2限定頻度設定情報に基づいて、限定頻度テーブルを参照しえて変動パターンおよび変動中の演出内容を決定し、小当り後の100回転目（大当り後300回転目）に、第1限定頻度設定情報と同時に限定頻度テーブルを使用するタイミングとなった場合には、第1限定頻度設定情報よりも優先して第2限定頻度設定情報を参照して限定頻度テーブルを用いた変動パターンを選択するように構成されている。ここでは、第1限定頻度設定情報よりも第2限定頻度設定情報を優先して参照するような例を示したが、第1限定頻度設定情報を優先するようにしても良い。そして、時短Bが作動する大当り後1000回転目では第1限定頻度設定情報を参照して限定頻度テーブルを用いた変動パターンを選択するように構成されている。

【3234】

また、上述の（４）、（５）の時短B作動開始演出を実行する場合は、1000回転目の変動停止時の変動固定時間を使用して時短B作動開始演出を実行するように構成されている。主制御部は、RAMクリア後や大当り遊技の実行（条件装置の作動）後からの図柄変動の回数をカウントするカウンタを用いて主遊技図柄の図柄変動の実行回数（第1主遊技図柄のみの実行回数または第2主遊技図柄のみの実行回数、第1主遊技図柄と第2主遊技図柄との合算の実行回数でも良い）をカウントするように構成されている。そして、主制御部は、主遊技図柄の図柄変動の実行回数の情報を主遊技図柄の図柄変動毎に副制御部に送信するように構成されている。主制御部は、1000回転目の主遊技図柄の図柄変動の変動停止時の変動固定時間として特定時間（例えば、15秒）を選択するように構成されている。副制御部は、主制御部から送信されてきた主遊技図柄の図柄変動の実行回数の情報に基づいて1000回転目の主遊技図柄の図柄変動であることを把握し、1000回転目の主遊技図柄の図柄変動の変動停止時の変動固定時間中に時短B作動開始演出を実行するように構成されている。

【3235】

なお、主制御部から副制御部に送信される主遊技図柄の図柄変動の実行回数の情報は、図柄変動毎に送信するように構成されているため、途中何らかの影響により、副制御部で記憶していた主遊技図柄の図柄変動の実行回数の情報がクリアされてしまった場合であっても、情報がクリアされてしまった直後の図柄変動において主遊技図柄の図柄変動の実行回数の情報を取りこぼさない限り、確実に時短B作動開始演出を実行することができるようになっている。なお、1000回転目の変動固定時間は、特定時間（例えば、15秒）に限定されず、特定時間（例えば、15秒）とは異なる変動固定時間であっても良いが、予め定められた時間であって、時短B作動開始演出を実行可能な変動固定時間とするのが好適である。

【3236】

なお、主制御部は、主遊技図柄の図柄変動の実行回数の情報を副制御部に送信し、副制御部は、主制御部から送信されてきた主遊技図柄の図柄変動の実行回数の情報に基づいて1000回転目の主遊技図柄の図柄変動であることを把握するような例を示したが、主遊技部は、RAMクリアの情報や図柄情報を副制御部に送信するとともに、変動開始や変動停止の情報を副制御部に送信し、副制御部は、主制御部から送信されてきたRAMクリアの情報や図柄情報（大当り図柄、小当り図柄、時短図柄、ハズレ図柄（ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合））と図柄変動の回数をカウントするカウンタを用いて主遊技図柄の図柄変動の実行回数（第1主遊技図柄のみの実行回数または第2主遊技図柄のみの実行回数、第1主遊技図柄と第2主遊技図柄との合算の実行回数でも良い）をカウントする（例えば、変動開始や変動停止の情報を受信したことに基づいてカウントする）ように構成して、時短Bの作動が開始されるタイミングを独自に判断し、1000回転目の主遊技図柄の図柄変動の変動停止時の変動固定時間中に時短B作動開始演出を実行するように構

10

20

30

40

50

成しても良い。

【3237】

また、上述の（６）、（７）の時短Ｂ作動開始演出を実行する場合は、１０００回転目または１００１回転目の時短Ｂ作動開始演出を、強制的な副制御部の制御による演出として、図柄変動の演出に対して上から重ねて表示するように構成しても良い。主制御部は、ＲＡＭクリア後や大当り遊技の実行（条件装置の作動）後からの図柄変動の回数をカウントするカウンタを用いて主遊技図柄の図柄変動の実行回数（第１主遊技図柄のみの実行回数または第２主遊技図柄のみの実行回数、第１主遊技図柄と第２主遊技図柄との合算の実行回数でも良い）をカウントするように構成されている。そして、主制御部は、主遊技図柄の図柄変動の実行回数の情報を副制御部に送信するように構成されている。副制御部は、主制御部から送信されてきた主遊技図柄の図柄変動の実行回数の情報に基づいて１０００回転目及び１００１回転目の主遊技図柄の図柄変動であることを把握し、１０００回転目または１００１回転目の主遊技図柄の図柄変動の変動時間内で時短Ｂ作動開始演出を実行するように制御している。なお、副制御部は、演出用図柄の図柄変動の演出よりも表示プライオリティが高い時短Ｂ作動開始演出を、図柄変動の演出に対して上から重ねて表示するように制御している。

10

【3238】

なお、主制御部から副制御部に送信される主遊技図柄の図柄変動の実行回数の情報は、図柄変動毎に送信するように構成されているため、途中何らかの影響により、副制御部で記憶していた主遊技図柄の図柄変動の実行回数の情報がクリアされてしまった場合であっても、情報がクリアされてしまった直後の図柄変動において主制御部から送信される主遊技図柄の図柄変動の実行回数の情報を取りこぼさない限り、確実に時短Ｂ作動開始演出を実行することができるようになっている。なお、時短Ｂ作動開始演出の演出時間は、１０００回転目または１００１回転目に選択され得る変動パターンの変動時間よりも短い時間に構成されている。

20

【3239】

なお、主制御部は、主遊技図柄の図柄変動の実行回数の情報を副制御部に送信し、副制御部は、主制御部から送信されてきた主遊技図柄の図柄変動の実行回数の情報に基づいて１０００回転目または１００１回転目の主遊技図柄の図柄変動であることを把握するような例を示したが、主遊技部は、ＲＡＭクリアの情報や図柄情報を副制御部に送信するとともに、変動開始や変動停止の情報を副制御部に送信し、副制御部は、主制御部から送信されてきたＲＡＭクリアの情報や図柄情報（大当り図柄、小当り図柄、時短図柄、ハズレ図柄（ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合））と図柄変動の回数をカウントするカウンタを用いて主遊技図柄の図柄変動の実行回数（第１主遊技図柄のみの実行回数または第２主遊技図柄のみの実行回数、第１主遊技図柄と第２主遊技図柄との合算の実行回数でも良い）をカウントする（例えば、変動開始や変動停止の情報を受信したことに基いてカウントする）ように構成して、１０００回転目または１００１回転目の主遊技図柄の図柄変動の変動時間内で時短Ｂ作動開始演出を実行するように構成しても良い。

30

【3240】

なお、時短Ｂの遊技状態となることを報知（例えば、時短Ｂモード開始画像の表示と右打ち画像の表示）する時短Ｂ作動開始演出については、１０００回目の変動中や変動固定時間中に実行される場合には、時間短縮遊技状態ではない、すなわち、未だ時短Ｂが作動していない状態であるため、『時短Ｂモードまで５、４、３、２、１』等、曖昧な報知するとともに、右打ち画像の表示を行うような積極的に発射位置を示す報知をしなくても良い。このようにすることで、遊技者が既に時間短縮遊技状態が開始したものと誤認して、普通電動役物に向けて遊技球を発射してしまい、無駄な遊技球を消化してしまうような事態を防止することができる。

40

【3241】

また、主遊技図柄の停止表示の際の処理や変動固定時間の経過時の処理によって時短Ｂの遊技状態を設定するように構成されているが、この主遊技図柄の停止表示の際の処理や

50

変動固定時間の経過時の処理が実行されている遊技状態としては左打ちが推奨される遊技状態となっており、主制御部が制御する時短状態や特別遊技状態の際に点灯する右打ち表示LEDも点灯していない遊技状態となっている。したがって、上述の(1)、(4)の時短Bの遊技状態となることを報知する時短B作動開始演出の場合においては、以下に例示するような(a)右打ち画像を表示しない、又は(b)消極的な右打ち画像を表示、又は(c)右打ち画像の代替画像により曖昧に表示することが好適である。

(a)「時短Bモード突入」、「時短Bモードまで5、4、3、2、1」、「右打ちまで5、4、3、2、1」等に表示する。

(b)右打ち画像をグレー表示(通常は白表示)したり、右打ち画像の透明度を例えば、70%で表示したりする。

(c)「時短Bモード突入」の文字に組み合わされる右打ち画像をロゴとして表示し、右打ちとは明示しない表示とする。

なお、右打ち画像の表示は、実際に時短Bの状態に設定された後であって、図柄変動の待機中や次の図柄変動が開始された直後に実行することが好適である。

【3242】

また、時短Bの作動することとなる主遊技図柄の図柄変動において、変動固定時間を長時間(例えば、30秒)に設定し、主遊技図柄の変動終了時または変動停止時に時短Bの状態に設定して、変動固定時間を時短B(右打ちの遊技状態)とする場合、変動固定時間中に右打ち画像を表示するようにしても良い。このように構成する場合、特に「優先変動タイプ」の機種であれば、第1主遊技図柄の変動終了時または変動停止時{変動固定時間30秒のうちの例えば、500ms経過時}に時短Bを作動させ、変動固定時間中に第2主遊技側の保留を生起させることができれば、時短Bにおける最初の図柄変動を第2主遊技図柄の図柄変動とすることができるので、時短Bにおける不利な特別遊技である第1主遊技図柄の特別遊技の当選を避けることができる。

【3243】

なお、上述の(6)、(7)について、図柄変動が当り(大当り、小当りVタイプにおける小当り)となる場合や、高期待度の図柄変動(ハズレ、小当りVタイプ以外の小当り)である場合は、時短B作動開始演出の実行をキャンセルしたり、高期待度の図柄変動が終了するまで遅延させたりするようにしても良く、図柄変動に対応する演出よりも時短B作動開始演出の方をワイプで小さく表示するように構成しても良いし、図柄変動に対応する演出よりも時短B作動開始演出の方をワイプで大きく表示するように構成しても良い。また、図柄変動に対応する演出よりも時短B作動開始演出の方を大きく表示する場合、図柄変動に対応する演出をワイプで表示するように構成しても良い。

【3244】

<<時短終了演出>>

また、時短回数N(例えば、100回)の時短B中に当り(大当り、小当り)に当選しなかった場合において、以下の(1)~(10)に示すような時短Bの終了時の演出である時短終了演出を例示できる。

【3245】

(1)時間短縮遊技状態(時短B)中の主遊技図柄の変動終了時または変動停止時{変動固定時間経過(例えば、500ms)時}に作動回数nをカウントし、100回転目の図柄変動の変動終了または変動停止{変動固定時間経過(例えば、500ms)}後に時短Bを終了させる場合であって、100回転目に限定頻度テーブルを参照した特殊な変動パターンが選択される場合、100回転目の図柄変動では、A秒(例えば、15秒)の図柄変動が行われ、この図柄変動中に時短Bが終了となることを報知(例えば、時短Bモード終了画像の表示)する。なお、このとき時短Bの時短終了演出の実行に係る変動パターンは、RAMクリア時や大当り遊技の実行に際して設定される限定頻度設定情報に基づいて限定頻度テーブルを用いて変動パターンを決定することにより、対応する変動中の演出として実行される。

【3246】

10

20

30

40

50

(2) 時間短縮遊技状態(時短B)中の主遊技図柄の変動開始時(図柄変動中も含む)に作動回数nをカウントし、100回転目の変動開始後(図柄変動中)に時短Bを終了させる場合であって、100回転目に限定頻度テーブルを参照した特殊な変動パターンが選択される場合、100回転目の図柄変動では、A秒(例えば、15秒)の図柄変動が行われ、この図柄変動中に時短Bが終了となったことを報知(例えば、時短Bモード終了画像の表示)する。なお、このとき時短Bの時短終了演出の実行に係る変動パターンは、RAMクリア時や大当り遊技の実行に際して設定される限定頻度設定情報に基づいて限定頻度テーブルを用いて変動パターンを決定することにより、対応する変動中の演出として実行される。

【3247】

(3) 時間短縮遊技状態(時短B)中の主遊技図柄の変動終了時または変動停止時{変動固定時間経過(例えば、500ms)時}に作動回数nをカウントし、100回転目の図柄変動の変動終了または変動停止{変動固定時間経過(例えば、500ms)}後に時短Bを終了させる場合であって、101回転目に限定頻度テーブルを参照した特殊な変動パターンが選択される場合、101回転目の図柄変動では、A秒(例えば、15秒)の図柄変動が行われ、この図柄変動中に時短Bが終了となったことを報知(例えば、時短Bモード終了画像の表示)する。なお、このとき時短Bの時短終了演出の実行に係る変動パターンは、RAMクリア時や大当り遊技の実行に際して設定される限定頻度設定情報に基づいて限定頻度テーブルを用いて変動パターンを決定することにより、対応する変動中の演出として実行される。

【3248】

(4) 時間短縮遊技状態(時短B)中の主遊技図柄の変動終了時または変動停止時{変動固定時間経過(例えば、500ms)時}に作動回数nをカウントし、100回転目の図柄変動の変動終了または変動停止{変動固定時間経過(例えば、500ms)}後に時短Bを終了させる場合、100回転目の図柄変動の変動停止時の変動固定時間として特定時間(例えば、15秒)が選択され、この変動固定時間中に時短Bが終了となることを報知(例えば、時短Bモード終了画像の表示)する。

【3249】

(5) 時間短縮遊技状態(時短B)中の主遊技図柄の変動開始時(図柄変動中も含む)に作動回数nをカウントし、100回転目の変動開始後(図柄変動中)に時短Bを終了させる場合、100回転目の図柄変動の変動停止時の変動固定時間として特定時間(例えば、15秒)が選択され、この変動固定時間中に時短Bが終了となったことを報知(例えば、時短Bモード終了画像の表示)する。

【3250】

(6) 時間短縮遊技状態(時短B)中の主遊技図柄の変動開始時(図柄変動中も含む)に作動回数nをカウントし、100回転目の変動開始後(図柄変動中)に時短Bを終了させる場合、100回転目の図柄変動の演出に対して強制的に副制御部の制御によって時短Bが終了したことを報知する演出(例えば、ワイドの時短Bモード終了画像の表示)を上から重ねて表示する。

【3251】

(7) 時間短縮遊技状態(時短B)中の主遊技図柄の変動終了時または変動停止時{変動固定時間経過(例えば、500ms)時}に作動回数nをカウントし、100回転目の図柄変動の変動終了または変動停止{変動固定時間経過(例えば、500ms)}後に時短Bを終了させる場合、101回転目の図柄変動の演出に対して強制的に副制御部の制御によって時短Bが終了したことを報知する演出(例えば、ワイドの時短Bモード終了画像の表示)を上から重ねて表示する。

【3252】

(8) 時間短縮遊技状態(時短B)中の主遊技図柄の変動開始時(図柄変動中も含む)に作動回数nをカウントし、100回転目の変動開始後(図柄変動中)に時短Bを終了させる場合であって、100回転目の図柄変動が停止表示した次の図柄変動が開始していな

10

20

30

40

50

い場合、停止表示中の演出用図柄に対して時短Bが終了したことを報知する演出（例えば、時短Bモード終了画像の表示）を上から重ねて表示する。

【3253】

（9）時間短縮遊技状態（時短B）中の主遊技図柄の変動終了時または変動停止時{変動固定時間経過（例えば、500ms）時}に作動回数nをカウントし、100回転目の図柄変動の変動終了または変動停止{変動固定時間経過（例えば、500ms）}後に時短Bを終了させる場合であって、100回転目の図柄変動が停止表示した次の図柄変動が開始していない場合、停止表示中の演出用図柄に対して時短Bが終了したことを報知する演出（例えば、時短Bモード終了画像の表示）を上から重ねて表示する。

【3254】

（10）1種+1種並列タイプの場合は、時短Bの作動が終了した後の最初の第1主遊技図柄の図柄変動において、ステージチェンジ演出を実行するように構成されている。このステージチェンジ演出において、時短Bが終了したことを報知する演出である時短終了演出を実行するように構成されている。なお、時短Bの作動が終了した後の最初の第2主遊技図柄の図柄変動では、ステージチェンジ演出を実行しないように構成している。例えば、時短Bの作動が終了した後の1回転目の図柄変動が第2主遊技図柄の図柄変動である場合は、ステージチェンジ演出を実行せず、2回転目の図柄変動が第1主遊技図柄の図柄変動である場合にステージチェンジ演出を実行するように構成されている。時短Bの作動が終了した後の最初の第1主遊技図柄の図柄変動は、通常遊技状態で参照される変動パターンテーブルを使用するため、通常遊技状態で最初の第1主遊技図柄の図柄変動でステージチェンジ演出を実行するように定めておくことで、ステージチェンジ演出を実行しやすく構成されている。なお、ステージチェンジ演出の実行後は、通常遊技状態専用の演出ステージである通常ステージに移行し、この通常ステージにおいて、通常遊技状態の図柄変動の演出を実行するように構成されている。ステージチェンジ演出を実行する前においては、時短Bの作動が終了している状態であっても、通常遊技状態の図柄変動を実行しないように構成されている。また、保留がない場合や、第1主遊技図柄の図柄変動が開始されない場合は、待機デモ画面の表示中において強制的に通常遊技状態専用の通常ステージに移行するように構成しても良いし、第2主遊技図柄の図柄変動が所定時間（例えば、5秒）以上の図柄変動の場合に、図柄変動中において強制的に通常遊技状態専用の通常ステージに移行するように構成しても良い。

【3255】

上述の（1）～（3）の時短終了演出を実行する場合は、時短Bの100回転目や時短B抜け後の通常遊技状態の1回転目に限定頻度テーブルを参照した特殊な変動パターンが選択されるように構成されている。大当たり遊技後だけではなく、RAMクリア後に大当たり遊技とならずに主遊技図柄の作動回数nが1000回転（第1主遊技図柄のみが1000回転、第1主遊技図柄と第2主遊技図柄との合算が1000回転でも良い）となったことを契機として時短Bが作動するが、時短Bの遊技状態では限定頻度テーブルを参照して変動パターンを選択するように構成されている。そして、時短Bの100回転目、時短Bを抜けて通常遊技状態となった1回転目（通常遊技状態となったことに基づく限定頻度テーブルを参照して変動パターンを選択するように構成されている）に限定頻度テーブルを参照して特殊な変動パターンを選択するように構成されている。この特殊な変動パターンの変動時間はA秒（例えば、15秒）となっており、A秒の図柄変動中に時短終了演出を実行するように構成されている。

【3256】

また、上述の（4）、（5）の時短終了演出を実行する場合は、100回転目の変動停止時の変動固定時間を使用して時短終了演出を実行するように構成されている。主制御部は、時短Bの作動中に主遊技図柄の図柄変動の回数をカウントするカウンタを用いて主遊技図柄の図柄変動の実行回数（第1主遊技図柄のみの実行回数または第2主遊技図柄のみの実行回数、第1主遊技図柄と第2主遊技図柄との合算の実行回数でも良い）をカウントするように構成されている。そして、主制御部は、主遊技図柄の図柄変動の実行回数の情

報を副制御部に送信するように構成されている。主制御部は、100回転目の主遊技図柄の図柄変動の変動停止時の変動固定時間として特定時間（例えば、15秒）を選択するように構成されている。副制御部は、主制御部から送信されてきた主遊技図柄の図柄変動の実行回数の情報に基づいて時短B中の100回転目の主遊技図柄の図柄変動であることを把握し、時短B中の100回転目の主遊技図柄の図柄変動の変動停止時の変動固定時間中に時短終了演出を実行するように構成されている。

【3257】

なお、主制御部から副制御部に送信される主遊技図柄の図柄変動の実行回数の情報は、図柄変動毎に送信するように構成されているため、途中何らかの影響により、副制御部で記憶していた主遊技図柄の図柄変動の実行回数の情報がクリアされてしまった場合であっても、情報がクリアされてしまった直後の図柄変動において主遊技図柄の図柄変動の実行回数の情報を取りこぼさない限り、確実に時短終了演出を実行することができるようになっている。なお、100回転目の変動固定時間は、A秒に限定されず、A秒とは異なる変動固定時間であっても良いが、予め定められた時間であって、時短終了演出を実行可能な変動固定時間とするのが好適である。

【3258】

なお、主制御部は、主遊技図柄の図柄変動の実行回数の情報を副制御部に送信し、副制御部は、主制御部から送信されてきた主遊技図柄の図柄変動の実行回数の情報に基づいて100回転目の主遊技図柄の図柄変動であることを把握するような例を示したが、主遊技部は、時短Bの作動開始情報を副制御部に送信するとともに、変動開始や変動停止の情報を副制御部に送信し、副制御部は、主制御部から送信されてきた時短Bの作動開始情報を受信した後の図柄変動の回数をカウントするカウンタを用いて主遊技図柄の図柄変動の実行回数（第1主遊技図柄のみの実行回数または第2主遊技図柄のみの実行回数、第1主遊技図柄と第2主遊技図柄との合算の実行回数でも良い）をカウントする（例えば、変動開始や変動停止の情報を受信したことに基づいてカウントする）ように構成して、時短B中の100回転目の主遊技図柄の図柄変動の変動停止時の変動固定時間中に時短終了演出を実行するように構成しても良い。特に、時間短縮遊技状態（時短A、時短B、時短C）において、時短の終了条件を複数有する場合（例えば、第1主遊技図柄の変動回数A回または第2主遊技図柄の変動回数B回、第1主遊技図柄と第2主遊技図柄の合計変動回数が $A+B-1$ 回のいずれか一つでも充足することにより時短が終了するように定められている場合）、時間短縮遊技状態によって、設計上遊技の主体となる特別図柄に対応する変動表示に対する情報についてのみカウンタ値を更新するようにしてもよい（仮に設計の意図に反する終了を迎えた場合は、主遊技部から送信される通常遊技状態に移行した旨の情報をもとに、時短Bの演出表示を強制終了させるように構成する）。

【3259】

また、上述の（6）、（7）の時短終了演出を実行する場合は、時短Bの100回転目や時短B抜け後の通常遊技状態の1回転目の時短終了演出を、強制的な副制御部の制御による演出として、図柄変動の演出に対して上から重ねて表示するように構成しても良い。主制御部は、時短Bの作動中に主遊技図柄の図柄変動の回数をカウントするカウンタを用いて主遊技図柄の図柄変動の実行回数（第1主遊技図柄のみの実行回数または第2主遊技図柄のみの実行回数、第1主遊技図柄と第2主遊技図柄との合算の実行回数でも良い）をカウントするように構成されている。そして、主制御部は、主遊技図柄の図柄変動の実行回数の情報を副制御部に送信するように構成されている。副制御部は、主制御部から送信されてきた主遊技図柄の図柄変動の実行回数の情報に基づいて時短B中の100回転目の主遊技図柄の図柄変動であることを把握し、時短Bの100回転目や時短B抜け後の通常遊技状態の1回転目の主遊技図柄の図柄変動の変動時間内で時短終了演出を実行するように制御している。なお、副制御部は、演出用図柄の図柄変動の演出よりも表示プライオリティが高い時短終了演出を、図柄変動の演出に対して上から重ねて表示するように制御している。

【3260】

なお、主制御部から副制御部に送信される主遊技図柄の図柄変動の実行回数の情報は、図柄変動毎に送信するように構成されているため、途中何らかの影響により、副制御部で記憶していた主遊技図柄の図柄変動の実行回数の情報がクリアされてしまった場合であっても、情報がクリアされてしまった直後の図柄変動において主遊技図柄の図柄変動の実行回数の情報を取りこぼさない限り、確実に時短終了演出を実行することができるようになっている。なお、時短終了演出の演出時間は、時短Bの100回転目や時短B抜け後の通常遊技状態の1回転目に選択され得る変動パターンの変動時間よりも短い時間に構成されている。

【3261】

なお、主制御部は、主遊技図柄の図柄変動の実行回数の情報を副制御部に送信し、副制御部は、主制御部から送信されてきた主遊技図柄の図柄変動の実行回数の情報に基づいて時短Bの100回転目や時短B抜け後の通常遊技状態の1回転目の主遊技図柄の図柄変動であることを把握するような例を示したが、主遊技部は、時短Bの作動開始情報を副制御部に送信するとともに、変動開始や変動停止の情報を副制御部に送信し、副制御部は、主制御部から送信されてきた時短Bの作動開始情報を受信した後の図柄変動の回数をカウントするカウンタを用いて主遊技図柄の図柄変動の実行回数（第1主遊技図柄のみの実行回数または第2主遊技図柄のみの実行回数、第1主遊技図柄と第2主遊技図柄との合算の実行回数でも良い）をカウントする（例えば、変動開始や変動停止の情報を受信したことに基づいてカウントする）ように構成して、時短Bの100回転目や時短B抜け後の通常遊技状態の1回転目の主遊技図柄の図柄変動の変動時間内で時短終了演出を実行するように構成しても良い。

【3262】

<<時短B作動開始煽り演出>>

次に、図418を用いて、時短Bが作動する直前の期間に実行される、時短Bの作動が近づいていることを報知する時短B作動開始煽り演出について説明する。図418は、時短B作動開始煽り演出としてのカウントダウン演出を示す図である。1種+1種直列タイプや1種+1種並列タイプのぱちんこ遊技機において、RAMクリア後または大当たり遊技後に、主遊技図柄の作動回数nが1000回転（第1主遊技図柄のみが1000回転、第2主遊技図柄のみが1000回転、第1主遊技図柄と第2主遊技図柄との合算が1000回転でも良い）となったことを契機とした時短Bが作動する場合、以下のような時短B作動開始煽り演出を例示できる。

【3263】

図418に示すように、時短Bが作動する10変動前からの時短B作動開始煽り演出としてのカウントダウン演出を実行する例として、991回転目で『時短Bまであと9』を表示、992回転目で『時短Bまであと8』を表示、993回転目で『時短Bまであと7』を表示、994回転目で『時短Bまであと6』を表示、995回転目で『時短Bまであと5』を表示、996回転目で『時短Bまであと4』を表示、997回転目で『時短Bまであと3』を表示、998回転目で『時短Bまであと2』を表示、999回転目で『時短Bまであと1』を表示、1000回転目で『0』を表示する。そして、1001回転目の図柄変動で時短B専用の演出ステージの時短Bステージとなり、画面右上に小さい右打ち画像、画面中央に大きい右打ち画像が液晶に表示される（図418の（k）参照）ように構成されている。

【3264】

このような時短B作動開始煽り演出としてのカウントダウン演出を実行する場合、991回転目から1000回転目までを限定頻度テーブルを参照した特殊な変動パターンが選択されるように構成されている。なお、大当たり遊技後だけではなく、RAMクリア後に大当たり遊技とならずに主遊技図柄の作動回数nが1000回転（第1主遊技図柄のみが1000回転、第2主遊技図柄のみが1000回転、第1主遊技図柄と第2主遊技図柄との合算が1000回転でも良い）となったことを契機として限定頻度テーブルを参照して特殊な変動パターンを選択するように構成されている。この特殊な変動パターンの変動時間は

A秒（例えば、15秒）となっており、A秒の図柄変動中に時短B作動開始煽り演出（例えば、カウントダウン演出）を実行するように構成されている。

【3265】

この場合、RAMクリアしたことに基づき、主遊技図柄の変動パターンの選択テーブルを変更するように構成されている。つまり、RAMクリアされた後の最初の図柄変動から1000回転まで限定頻度テーブルを参照（1の限定頻度テーブルを参照または図柄変動の実行回数に対応した限定頻度テーブルを参照）して、変動パターンを選択するように構成されており、主遊技図柄の作動回数nが1000回転（第1主遊技図柄のみが1000回転、第2主遊技図柄のみが1000回転、第1主遊技図柄と第2主遊技図柄との合算が1000回転でも良い）となったことを契機として限定頻度テーブルを参照して特殊な変動パターンを選択するように構成されている。なお、図柄変動の実行回数に対応した限定頻度テーブルを参照する場合、1000回転目限定の限定頻度テーブルを用いても良いし、1000回転目の所定回前から1000回転目まで参照する限定頻度テーブルを用いても良い。

10

【3266】

また、大当り遊技後に、大当り遊技とならずに主遊技図柄の作動回数nが1000回転（第1主遊技図柄のみが1000回転、第2主遊技図柄のみが1000回転、第1主遊技図柄と第2主遊技図柄との合算が1000回転でも良い）となったことを契機として限定頻度テーブルを参照して特殊な変動パターンを選択するように構成されている。

【3267】

この場合、大当り図柄、小当り図柄、時短図柄、ハズレ図柄（ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合）が停止表示したことに基づき、主遊技図柄の変動パターンの選択テーブルを変更するための情報を設定する（第1限定頻度設定情報、第2限定頻度設定情報を設定する）ように構成されている。つまり、大当り図柄、小当り図柄、時短図柄、ハズレ図柄（ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合）が停止表示された図柄変動の次の図柄変動から1000回転まで設定された限定頻度設定情報を基に限定頻度テーブルを参照（1の限定頻度テーブルを参照または図柄変動の実行回数に対応した限定頻度テーブルを選択的に参照）して、変動パターンを選択するように構成されており、主遊技図柄の作動回数nが1000回転（第1主遊技図柄のみが1000回転、第2主遊技図柄のみが1000回転、第1主遊技図柄と第2主遊技図柄との合算が1000回転でも良い）となったことを契機として限定頻度テーブルを参照して特殊な変動パターンを選択するように構成されている。なお、図柄変動の実行回数に対応した限定頻度テーブルを参照する場合、1000回転目限定の限定頻度テーブルを用いても良いし、1000回転目の所定回前から1000回転目まで参照する限定頻度テーブルを用いても良く、1000回転までの途中の期間に別途設定される限定頻度テーブル（第2限定頻度設定情報に基づいて設定される限定頻度テーブル）を用いるように構成してもよい。

20

30

【3268】

ここで、1000回転目の所定回前から1000回転目まで参照する限定頻度テーブルを使用する例を説明する。第1の例は、991回転目から1000回転目までの間に参照する限定頻度テーブルとして、一の限定頻度テーブル（第1限定頻度設定情報に基づいて設定される限定頻度テーブル）を参照する。例えば、991回転目から1000回転目までは限定頻度テーブル3を参照するように構成されている。第2の例は、複数の限定頻度テーブルを参照する例である。例えば、991回転目から995回転目までは限定頻度テーブル1を参照し、996回転目から999回転目までは限定頻度テーブル2を参照し、1000回転目に限定頻度テーブル3を参照するように構成されている。なお、991回転目から1000回転目までの特殊な変動パターンの変動時間は、A秒に限定されず、A秒とは異なる変動時間であっても良いが、限定頻度テーブルを参照して選択される特殊な変動パターンに対応する予め定められた変動時間であれば良い。

40

【3269】

また、991回転目から1000回転目までの変動停止時の変動固定時間を使用して時

50

短B作動開始煽り演出（例えば、カウントダウン演出）を実行しても良い。主制御部は、RAMクリア後や大当り遊技後からの図柄変動の回数をカウントするカウンタを用いて主遊技図柄の図柄変動の実行回数（第1主遊技図柄のみの実行回数または第2主遊技図柄のみの実行回数、第1主遊技図柄と第2主遊技図柄との合算の実行回数でも良い）をカウントするように構成されている。そして、主制御部は、主遊技図柄の図柄変動の実行回数の情報を副制御部に送信するように構成されている。主制御部は、991回転目から1000回転目までの主遊技図柄の図柄変動の変動停止時の変動固定時間として特定時間（例えば、15秒）を選択するように構成されている。副制御部は、主制御部から送信されてきた主遊技図柄の図柄変動の実行回数の情報に基づいて991回転目から1000回転目の主遊技図柄の図柄変動であることを把握し、991回転目から1000回転目までの主遊技図柄の図柄変動の変動停止時の変動固定時間中に時短B作動開始煽り演出（例えば、カウントダウン演出）を実行するように構成されている。

10

【3270】

なお、主制御部から副制御部に送信される主遊技図柄の図柄変動の実行回数の情報は、図柄変動毎に送信するように構成されているため、途中何らかの影響により、副制御部で記憶していた主遊技図柄の図柄変動の実行回数の情報がクリアされてしまった場合であっても、情報がクリアされてしまった直後の図柄変動において主遊技図柄の図柄変動の実行回数の情報を取りこぼさない限り、確実に時短B作動開始煽り演出（例えば、カウントダウン演出）を実行することができるようになっている。なお、991回転目から1000回転目までの変動固定時間は、A秒に限定されず、A秒とは異なる変動固定時間であっても良いが、予め定められた時間であって、時短B作動開始煽り演出（例えば、カウントダウン演出）を実行可能な変動固定時間とするのが好適である。

20

【3271】

なお、主制御部は、主遊技図柄の図柄変動の実行回数の情報を副制御部に送信し、副制御部は、主制御部から送信されてきた主遊技図柄の図柄変動の実行回数の情報に基づいて991回転目から1000回転目の主遊技図柄の図柄変動であることを把握するような例を示したが、主遊技部は、RAMクリアの情報や図柄情報を副制御部に送信するとともに、変動開始や変動停止の情報を副制御部に送信し、副制御部は、主制御部から送信されてきたRAMクリアの情報や図柄情報 {大当り図柄、小当り図柄、時短図柄、ハズレ図柄（ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合）} と図柄変動の回数をカウントするカウンタを用いて主遊技図柄の図柄変動の実行回数（第1主遊技図柄のみの実行回数または第2主遊技図柄のみの実行回数、第1主遊技図柄と第2主遊技図柄との合算の実行回数でも良い）をカウントするように構成して、991回転目から1000回転目までの主遊技図柄の図柄変動の変動停止時の変動固定時間中に時短B作動開始煽り演出（例えば、カウントダウン演出）を実行するように構成しても良い。

30

【3272】

また、991回転目から1000回転目までの時短B作動開始煽り演出（例えば、カウントダウン演出）を、強制的な副制御部の制御による演出（例えば、ワイプのカウントダウン画像の表示）として、図柄変動の演出に対して上から重ねて表示するように構成しても良い。主制御部は、RAMクリア後や大当り遊技後からの図柄変動の回数をカウントするカウンタを用いて主遊技図柄の図柄変動の実行回数（第1主遊技図柄のみの実行回数または第2主遊技図柄のみの実行回数、第1主遊技図柄と第2主遊技図柄との合算の実行回数でも良い）をカウントするように構成されている。そして、主制御部は、主遊技図柄の図柄変動の実行回数の情報を副制御部に送信するように構成されている。副制御部は、主制御部から送信されてきた主遊技図柄の図柄変動の実行回数の情報に基づいて991回転目から1000回転目の主遊技図柄の図柄変動であることを把握し、991回転目から1000回転目までの主遊技図柄の図柄変動の変動時間内で時短B作動開始煽り演出（例えば、カウントダウン演出）を実行するように制御している。なお、副制御部は、演出用図柄の図柄変動の演出よりも表示プライオリティが高い時短B作動開始煽り演出（例えば、カウントダウン演出のワイプのカウントダウン画像の表示）を、図柄変動の演出に対して

40

50

上から重ねて表示するように制御している。

【3273】

なお、主制御部から副制御部に送信される主遊技図柄の図柄変動の実行回数の情報は、図柄変動毎に送信するように構成されているため、途中何らかの影響により、副制御部で記憶していた主遊技図柄の図柄変動の実行回数の情報がクリアされてしまった場合であっても、情報がクリアされてしまった直後の図柄変動において主遊技図柄の図柄変動の実行回数の情報を取りこぼさない限り、確実に時短B作動開始煽り演出（例えば、カウントダウン演出）を実行することができるようになっている。なお、時短B作動開始煽り演出（例えば、カウントダウン演出）の演出時間は、991回転目から1000回転目までに選択され得る変動パターンの変動時間よりも短い時間に構成されている。

10

【3274】

なお、主制御部は、主遊技図柄の図柄変動の実行回数の情報を副制御部に送信し、副制御部は、主制御部から送信されてきた主遊技図柄の図柄変動の実行回数の情報に基づいて991回転目から1000回転目の主遊技図柄の図柄変動であることを把握するような例を示したが、主遊技部は、RAMクリアの情報や図柄情報を副制御部に送信するとともに、変動開始や変動停止の情報を副制御部に送信し、副制御部は、主制御部から送信されてきたRAMクリアの情報や図柄情報{大当り図柄、小当り図柄、時短図柄、ハズレ図柄（ハズレ図柄を時短図柄として併用する場合）}と図柄変動の回数をカウントするカウンタを用いて主遊技図柄の図柄変動の実行回数（第1主遊技図柄のみの実行回数または第2主遊技図柄のみの実行回数、第1主遊技図柄と第2主遊技図柄との合算の実行回数でも良い）をカウントするように構成して、991回転目から1000回転目までの主遊技図柄の図柄変動の変動時間内で時短B作動開始煽り演出（例えば、カウントダウン演出）を実行するように構成しても良い。

20

【3275】

次に、図419を用いて、時短Bが作動する直前の期間に実行される、時短Bの作動が近づいていることを報知する時短B作動開始煽り演出としての残り数表示演出について説明する。図419は、時短B作動開始煽り演出としての残り数表示演出を示す図である。残り数表示演出は、時短Bまでの残り数（例えば、『残り1000』）を表示したカウンタを演出表示装置SGに表示し、減算演出によって、残り数が1カウント乃至複数カウント減算される演出である。

30

【3276】

例えば、(a)に示すように1回転目では、減算演出で『-1』を表示し、『残り999』を表示する。(b)に示すように2回転目では、減算演出で『-1』を表示し、『残り998』を表示する。(c)に示すように3回転目では、減算演出で『-10』を表示し、『残り988』を表示する。(d)に示すように4回転目では、減算演出で『-5』を表示し、『残り983』を表示する。

【3277】

そして、(e)に示すように995回転目では、減算演出で『-1』を表示し、『残り185』を表示する。(f)に示すように996回転目では、減算演出で『-10』を表示し、『残り175』を表示する。(g)に示すように997回転目では、減算演出で『-5』を表示し、『残り170』を表示する。(h)に示すように998回転目では、減算モードに突入し、減算演出で『-30』を表示し、『残り140』を表示する。(i)に示すように999回転目の減算モード中に減算演出で『-60』を表示し、『残り80』を表示する。(j)に示すように1000回転目の減算モード中に減算演出で『-80』を表示し、『残り0』を表示する。このように、残り数が80である状況に応じて、遊技者は時短Bが作動するまであと80回転の図柄変動が必要であると認識してしまうが、大幅な減算を行うことによって、残り数を減算することになるため、残り数が0になる図柄変動を分かり難くすることができるため、遊技者の遊技の興趣を向上させることができる。

40

【3278】

50

そして、(k)に示すように1001回転目の図柄変動で時短B専用の演出ステージの時短Bステージとなり、画面右上に小さい右打ち画像、画面中央に大きい右打ち画像が液晶に表示されるように構成されている。なお、作動回数nに近づいた期間の998回転目から1000回転目の期間において減算演出によって減算される数が多くなるような減算モードにモードを変化させることによって、残り数を大幅に減算するよう構成したが、途中の期間(例えば、500回転目～550回転目)に減算モードを設けるように構成しても良い。

【3279】

なお、小当たりや特定の変動パターン(リーチハズレ等の変動パターン)の図柄変動が実行された場合、遊技場に設置されているデータカウンタに表示される図柄変動の変動回数情報をクリアする特殊な外部信号を、遊技場のデータカウンタに対して出力しても良い。この特殊な外部信号は、主制御部から出力しても良いし、副制御部から出力しても良い。このように構成することによって、データカウンタを遊技者が確認することによって時短Bが作動することを容易に把握することができなくなるため、ぱちんこ遊技機での遊技により一層集中させることができる。

【3280】

図419に示す、見かけ上の時短Bまでの変動回数の複数減算(または後述する通常遊技状態における変動回数関連情報の加算する仕様)を搭載する場合には、大当たり終了後に、いずれのタイミングから時短Bに関するカウントが行われるかを遊技者に対して不明確にすることが望ましい。そのための遊技性の一例を説明する。

【3281】

大当たり終了後にいずれのタイミングから時短Bに関するカウントが行われるかを遊技者に対して不明確にする一例として、確変大当たり後(時短Bまでのカウンタがリセット)において、例えば300回の時間短縮遊技状態に移行し、300回の確率変動機能の作動期間中に、確率変動機能のみに対して転落抽選を行うようにし、1回から300回目の途中で確率変動機能を終了させ得るように構成することが考えられる。このように構成すると、1回から300回の時間短縮遊技状態において、確率変動機能が作動している期間は、大当たりが狙いやすい一方で、時短Bまでのカウントが進まないように構成(非カウント区間)される一方、転落抽選に当選し、確率変動機能の非作動状態かつ時間短縮遊技状態となった場合には300回までの残り回数の期間において、大当たり確率は低い一方で時短Bまでのカウントを進行するように構成(カウント区間)される。

【3282】

そして、300回の時間短縮遊技状態に復帰して後、通常遊技状態で、時短Bの作動契機となる特別図柄の変動回数N回(例えば1000回)の回数を見かけ上の時短Bまでの残り作動回数として表示し、時間短縮遊技状態中にカウント区間に維持された期間に応じて、時短Bまでのカウントが進行する期間に、1000回の見かけ上のカウント数を複数減算演出として行うように構成する例が挙げられる。(例えば、確変大当たり遊技後の300回の時間短縮遊技状態中に転落抽選に当選し、200回の確率変動機能の非作動状態があれば、時間短縮遊技状態中に200回のカウント期間が存在するため、見かけ上の時短B作動までの残り回数表示を、200回以内で複数減算(または加算)する演出が実行可能となる。)

【3283】

また、時短Bまでの残り数(例えば、『残り1000』)を表示したカウンタを演出表示装置SGに表示し、減算演出によって、残り数が1カウント乃至複数カウント減算される演出を実行する例の場合、残り数の値に応じて残り数を示す数字や数字の背景、演出ステージ背景等の色の変化するように構成されている。例えば、残り数が1000～601回の場合は白、残り数が600～201回の場合はオレンジ、残り数が200～0回の場合は赤等のように変化していく。また、残り数が、900、800、・・・、200、100等のように区切りの良い残り数の場合に『0回に到達すると?』のように残り数が0になると何か良いことがあるような報知を行っても良い。なお、残り数の表示は、時短B

10

20

30

40

50

が作動した後の時短Bの遊技状態においては、時短Bの残り数を表示するように構成しても良い。このように構成することによって、時短Bの作動が近づいていることを遊技者に徐々に報知することとなり、遊技者の時短Bの作動への期待を徐々に高めることができるため、遊技者の遊技の興趣を向上させることができる。

【3284】

ここで、時短Bの作動の終了条件の一例として、第1主遊技図柄の図柄変動と第2主遊技図柄の図柄変動との合算の場合、759回で時短が終了するように構成されている一方で、第1主遊技図柄の図柄変動が300回実行されると、合算が759回に到達していなくても時短Bが終了するように構成できる。このような設定は、第1主遊技図柄が時間短縮遊技状態中に遊技の主体となる遊技性において好ましい設定方法である（例えば、普通電動役物に係る始動口が第1主遊技図柄に対応する始動口である場合）。この場合、時短Bの残り数の表示は最初に300を表示し、第2主遊技図柄の図柄変動ではなく第1主遊技図柄の図柄変動に基づき減算するよう構成されている。

【3285】

次に、図420を用いて、時短Bが作動する直前の期間に実行される、時短Bの作動が近づいていることを報知する時短B作動開始煽り演出としての到達数表示演出について説明する。図420は、時短B作動開始煽り演出としての到達数表示演出を示す図である。到達数表示演出は、時短Bまでの到達数（例えば、『1000』）を表示したカウンタを演出表示装置SGに表示し、増加演出によって、到達数が1カウント乃至複数カウント増加される演出を実行する演出である。

【3286】

例えば、(a)に示すように1回転目では、増加演出で『+1』を表示し、『到達数1』を表示する。(b)に示すように2回転目では、増加演出で『+1』を表示し、『到達数2』を表示する。(c)に示すように3回転目では、増加演出で『+10』を表示し、『到達数12』を表示する。(d)に示すように4回転目では、増加演出で『+5』を表示し、『到達数17』を表示する。

【3287】

そして、(e)に示すように995回転目では、増加演出で『+1』を表示し、『到達数901』を表示する。(f)に示すように996回転目では、増加演出で『+10』を表示し、『到達数911』を表示する。(g)に示すように997回転目では、増加演出で『+5』を表示し、『到達数916』を表示する。(h)に示すように998回転目では、増加モードに突入し、増加演出で『+30』を表示し、『到達数946』を表示する。(i)に示すように999回転目の増加モード中に増加演出で『+20』を表示し、『到達数966』を表示する。(j)に示すように1000回転目の増加モード中に増加演出で『+34』を表示し、『到達数1000』を表示する。このように、到達数が966である状況に応じて、遊技者は時短Bが作動するまであと34回転の図柄変動が必要であると認識してしまうが、大幅な増加を行うことによって、到達数を増加することになるため、到達数が1000になる図柄変動を分かり難くすることができるため、遊技者の遊技の興趣を向上させることができる。

【3288】

そして、(k)に示すように1001回転目の図柄変動で時短B専用の演出ステージの時短Bステージとなり、画面右上に小さい右打ち画像、画面中央に大きい右打ち画像が液晶に表示されるように構成されている。なお、作動回数nに近づいた期間の998回転目から1000回転目の期間において増加演出によって増加される数が多くなるような増加モードにモードを変化させることによって、到達数を大幅に増加するよう構成したが、途中の期間（例えば、500回転目～550回転目）に増加モードを設けるように構成しても良い。

【3289】

また、時短Bまでの到達数（例えば、『1000』）を表示したカウンタを演出表示装置SGに表示し、増加演出によって、増加数が1カウント乃至複数カウント増加される演

10

20

30

40

50

出を実行する例の場合、到達数の値に応じて到達数を示す数字や数字の背景、演出ステージ背景等の色が変化するように構成されている。例えば、到達数が0～400回の場合は白、到達数が401～800回の場合はオレンジ、到達数が801～1000回の場合は赤等のように変化していく。また、到達数が、100、200、・・・、800、900等のように区切りの良い到達数の場合に『1000回に到達すると?』のように到達数が1000になると何か良いことがあるような報知を行っても良い。このように構成することによって、時短Bの作動が近づいていることを遊技者に徐々に報知することとなり、遊技者の時短Bの作動への期待を徐々に高めることができるため、遊技者の遊技の興趣を向上させることができる。

【3290】

また、残り数の表示や到達数の表示について、設定を示唆する設定示唆演出として用いることもできる。例えば、表示される数が、135の場合に特別な色（例えば、金文字や虹色の文字）で表示されれば奇数の設定（設定1、3、5）を示唆し、表示される数が、246の場合に特別な色（例えば、金文字や虹色の文字）で表示されれば偶数の設定（設定2、4、6）を示唆するように構成してもよい。また、数字の色の变化ではなく、数字の背景、演出ステージ背景等の色が変化するように構成してもよい。また、数字が点滅したり揺れたりして表示することにより設定示唆演出を実行しても良い。このように構成することによって、遊技者は常に残り数や到達数の表示を気にしながら遊技を実行し、設定示唆の報知により一喜一憂することとなるため、遊技者の遊技の興趣を向上させることができる。

【3291】

また、残り数や到達数の表示に限らず、先述したように見かけ上の変動回数（見かけ上の残り数や見かけ上の到達数）の情報に対して1変動で複数増加／減算する場合において、設定値によって加算／減算されやすい数値が異なる傾向を有するようにしてもよい。例えば、設定2の場合は+2（-2）が表示されやすく、設定5の場合は+5（-5）が表示されやすいなどの例が挙げられる。また他の例としては、X（Xは偶数）の加算／減算の時は偶数設定の可能性が高まるように（偶数設定の方が「X」が表示されやすい）用に構成し、奇数設定の場合はY（Yは奇数）が表示されやすい、というように構成することも可能である。また、さらに「+2（-2）」よりも「+22（-22）」と桁数が多いぞろ目の数値である場合の方が設定示唆の信頼度が高まるように構成してもよい。

【3292】

設定示唆演出に関して、作動回数nに基づき設定示唆を行うように構成しても良い。例えば、設定1、3、5の奇数の設定の場合に時短Bの作動回数nを1001回に設定し、設定2、4、6の偶数の設定の場合に時短Bの作動回数nを1000回に設定する。この場合は、奇数設定と偶数設定とで作動回数nを分けることによって、奇数設定か偶数設定かを遊技者に報知することができる。また、例えば、設定1、2、3の低設定の場合に時短Bの作動回数nを1000回に設定し、設定4、5、6の高設定の場合に時短Bの作動回数nを800回に設定する。この場合は、低設定と高設定とで作動回数nを分けることによって、低設定か高設定かを遊技者に報知することができる。さらにまた、例えば、設定1～5の設定の場合に時短Bの作動回数nを1000回に設定し、設定6の場合に時短Bの作動回数nを666回に設定する。この場合は、設定6又はそれ以外で作動回数nを分けることによって、設定6であるか否かを遊技者に報知することができる。

【3293】

次に、時短図柄の先読み用判定処理及び先読み演出について説明する。主制御部は、第1主遊技始動口A10又は第2主遊技始動口B20に遊技球が入球し、新たな保留が生じた時であって、主遊技内容決定乱数（第1主遊技内容決定乱数又は第2主遊技内容決定乱数）取得時（又は保留発生時）に、変動態様決定乱数（変動パターン乱数）、当否抽選用乱数、図柄決定乱数を取得し、先読み抽選を実行し、先読み情報を一時保存するよう構成されている。

【3294】

主制御部は、新たな保留が生じた時に、副制御部へ先読み情報を送信する。先読み情報は、保留数情報（第1主遊技側又は第2主遊技側の入賞した側の保留数のみでも、第1主遊技側と第2主遊技側との両方の保留数でもよい）、当否情報（先読み抽選で当否抽選用乱数を判定した情報）、図柄情報（主遊技図柄の停止図柄に係る情報であって、先読み抽選で図柄決定乱数を判定した情報、例えば、時短図柄であることを示す情報）、変動パターンの情報（先読み抽選で変動態様決定乱数を判定した情報）を保留発生コマンドとして送信するよう構成されている。

【3295】

更に、副制御部側に送信する保留発生コマンドに含まれる情報はこれには限定されず、当り（大当り、小当り）となる主遊技図柄の利益態様に係る情報（停止予定の大当り図柄に係る特別遊技のラウンド数、停止予定の小当り図柄に係る小当り遊技後の特別遊技のラウンド数等）、当否乱数区切り情報（第1主遊技側（第2主遊技側）における夫々の遊技状態と、乱数値（又は乱数値範囲）と、当否抽選結果と、を紐づけてグループ分けした乱数区切り情報の一つであり、例えば、高確率状態であっても低確率状態であってもハズレ、高確率状態であっても低確率状態であっても当り、高確率状態であれば当りであるが低確率状態であればハズレ、等のグループ分けの情報）に係る情報等を送信し得るよう構成してもよい。

【3296】

副制御部は、主制御部から新たな保留発生に係る保留発生コマンド（第1主遊技図柄又は第2主遊技図柄に係る先読み情報）を受信したか否かを判定する。副制御部の装図保留情報表示制御手段は、装図保留情報一時記憶手段内の装図保留カウンタ（本例では、第1主遊技用が最大4個、第2主遊技用が最大4個）に「1」を加算する。次に、装図保留情報表示制御手段は、主制御部側から送信された保留発生コマンドに基づき、保留数情報（第1主遊技側又は第2主遊技側の入賞した側の保留数のみでも、第1主遊技側と第2主遊技側との両方の保留数でもよい）、当否情報（先読み抽選で当否抽選用乱数を判定した情報）、図柄情報（主遊技図柄の停止図柄に係る情報であって、先読み抽選で図柄決定乱数を判定した情報）、変動パターンの情報（先読み抽選で変動態様決定乱数を判定した情報）を、装図保留情報一時記憶手段に一時記憶する。なお、主制御部の先読み抽選に基づく変動パターンの情報ではなく、第1主遊技始動口A10または第2主遊技始動口B10に遊技球が入球した際に取得した変動態様決定乱数の範囲（グループ）を示す情報（変動態様乱数区切り情報や変動態様グループともいう）であっても良い。

【3297】

次に、図421は、図50における保留情報管理処理のサブルーチンに係る、先読み保留内容決定処理のフローチャートである。まず、ステップ2651で、装図保留情報表示制御手段は、装図保留情報一時記憶手段を参照し、トリガ保留は当り（小当りを例示するが大当りでも良い）となる保留の情報（先読み情報A）であるか否かを判定する。ステップ2651でYesの場合、ステップ2655で、装図保留情報表示制御手段は、トリガ保留の表示態様（保留アイコンの表示態様）を、保留表示態様決定テーブル1（当り時）を参照して決定する。

【3298】

ここで、ステップ2651でNoの場合、つまり、トリガ保留がハズレ保留の場合、ステップ2653で、図柄情報を参照し、トリガ保留は時短図柄となる保留の情報（先読み情報C）であるか否かを判定する。ステップ2653でYesの場合、ステップ2656で、装図保留情報表示制御手段は、トリガ保留の表示態様を、保留表示態様決定テーブル3（ハズレ時+時短図柄当選）を参照して決定する。他方、ステップ2653でNoの場合、ステップ2657で、装図保留情報表示制御手段は、トリガ保留の表示態様を、保留表示態様決定テーブル2（ハズレ時+時短図柄非当選）を参照して決定する。

【3299】

ここで、同図下段の3つのテーブルは、当り図柄に当選していることを示唆する先読み演出Aを決定するための保留表示態様決定テーブル1（当り時）、ハズレ用の保留表示態

10

20

30

40

50

様決定テーブル2（ハズレ時＋時短図柄非当選）、時短図柄に当選していることを示唆する先読み演出Cを決定するための保留表示態様決定テーブル3（ハズレ時＋時短図柄当選）である。本実施形態（先読み抽選を実行可能とした実施形態）においては、保留先読み演出（保留変化演出）の実行時に変化し得るトリガ保留の表示態様を保留表示態様決定テーブル1（当り時）を参照して決定する場合の選択され得る表示態様の種類は、虹色、赤色、緑色、青色の4つであり、保留表示態様決定テーブル2（ハズレ時＋時短図柄非当選）、保留表示態様決定テーブル3（ハズレ時＋時短図柄当選）を参照して決定する場合の選択され得る表示態様の種類は、赤色、緑色、青色の3つであり、保留表示態様決定時専用の乱数によって抽選される。尚、保留先読み演出が発生した際の保留の表示態様毎の当り（小当り）期待度（保留に係る図柄変動にて当り（小当り）となる期待度）は、虹色が当り（小当り）時のみで選択され、虹色を除く色としては、期待度が高いものから赤色、緑色、青色の順となっている。尚、変化し得る表示態様はあくまで一例であり、種類を増減させても、変化し得る色を変更しても何ら問題ない。

10

【3300】

また、本例では、保留の表示色によって当り（小当り）となる期待度を示唆し得る先読み演出Aとして構成しただけではなく、時短Cが作動することを示唆し得る先読み演出Cとして構成している。そのように構成する場合、特に、保留の表示色によって、時短Cが作動する期待度（時短Cの作動期待度または時短図柄の当選期待度ともいう）を示唆する（例えば、保留表示色が赤色であれば時短Cが作動する期待度大、青色であれば時短Cが作動する期待度小、等）よう構成することで、遊技者にとって有利な時短Cが作動するか否かを煽る、効果的な演出を実行することができる。

20

【3301】

このように、保留先読み演出の実行時には、複数種類の保留の表示態様から選択された表示態様によって当り（小当り）期待度及び時短Cの作動期待度が相違し得るよう構成されている。また、先読み演出の実行中（先読み用判定処理で当選したタイミングからトリガ保留に係る主遊技図柄の変動終了まで）に複数回の保留先読み演出を実行し得るよう構成してもよい。このように構成し、例えば、先読み演出の実行中に保留先読み演出が2回実行される場合において、1回目の保留先読み演出で変化する保留の表示態様が青色であった場合には、2回目の保留先読み演出で変化する保留の表示態様は緑色又は赤色となるようにする、即ち、保留先読み演出が実行されるたびに当り（小当り）期待度の高く、時短Cの作動期待度が高い保留の表示態様へと変化（ランクアップ）していくよう構成することが望ましい（遊技者の期待感を損なわないため）。また、保留表示変化に係る演出はこれには限定されず、結果的に保留表示変化を伴わない演出態様を設けてよく、例えば、変動開始時（又は、保留消化時）に保留が震えるような演出が起こり、そのまま保留表示が変化しない演出態様（所謂、ガセパターン）と、その後保留表示変化が実行される演出態様とを設けてもよい。

30

【3302】

時短Cの作動期待度（時短図柄の当選期待度）を示唆する先読み演出Cとして保留先読み演出を例示したが、その他、以下に示す（1）～（3）の先読み演出Cを実行するように構成しても良い。

40

【3303】

次に、図422を用いて、時短Cの作動期待度（時短図柄の当選期待度）を示唆する先読み演出Cとして、（1）演出用図柄（第一演出用図柄、第二演出用図柄）の図柄配列に、時短Cの際に移行する演出モードに対応する特殊演出用図柄（例えば、『時短Cモード図柄』）を設け、複数回の図柄変動で特殊演出用図柄が停止するか否かを煽る先読み演出Cについて説明する。図422は、時短Cの作動期待度（時短図柄の当選期待度）を示唆する先読み演出Cを示す図である。

【3304】

ここで、図422の（a）～（e）は、複数回の図柄変動で特殊演出用図柄が停止するか否かを煽る先読み演出Cを示す図である。（a）に示すように、非時間短縮遊技状態に

50

において、第1主遊技側の保留が3個存在しており、第2主遊技側の保留は存在していない状況における第1主遊技図柄の図柄変動において、第1主遊技側の3個目の保留をトリガ保留（図の三角の保留を参照）とした先読み演出Cを実行する。なお、トリガ保留の手前の保留が全てハズレである。（b）に示す図柄変動であって、第1主遊技側の保留が2個存在しており、第2主遊技側の保留は存在していない状況における第1主遊技図柄の図柄変動において、第1主遊技側の1個目の保留をトリガ保留とした先読み演出Cを実行する。この図柄変動において、左列、中列、右列の図柄列のうちの一つ又は複数の図柄列で『時短Cモード図柄』が停止するか否かを煽る演出を行い、最終的に左列、中列、右列のうちの一つの図柄列（ここでは右列）の第一演出用図柄が『時短Cモード図柄（図では「時短C」と示す）』で停止表示される。

10

【3305】

そして、（c）に示す図柄変動であって、第1主遊技側の保留が1個存在しており、第2主遊技側の保留は存在していない状況における第1主遊技図柄の図柄変動において、第1主遊技側の1個目の保留をトリガ保留とした先読み演出Cを実行する。この図柄変動において、左列、中列、右列の図柄列のうち複数の図柄列で『時短Cモード図柄』が停止するか否かを煽る演出を行い、最終的に左列、中列、右列のうち二つの図柄列（ここでは中列、右列）の第一演出用図柄が『時短Cモード図柄』で停止表示される。さらに、（d）に示す図柄変動であって、第1主遊技側の保留が存在しておらず、第2主遊技側の保留は存在していない状況における第1主遊技図柄の図柄変動、つまりトリガ保留における図柄変動において、先読み演出Cを実行する。この図柄変動において、左列、中列、右列の図柄列の全ての図柄列で『時短Cモード図柄』が停止するか否かを煽る演出を行い、最終的に左列、中列、右列の全ての図柄列の第一演出用図柄が『時短Cモード図柄』で停止表示される。そして、左列、中列、右列の図柄列の全ての第一演出用図柄が『時短Cモード図柄』で停止表示されたタイミングと略同じタイミングで、第1主遊技図柄の図柄変動は、時短図柄を停止表示して停止するように構成されている。その後、時短Cが作動するように構成されている。時短Cが作動すると（e）に示すように時短C専用の演出ステージの時短Cステージとなり、画面右上に小さい右打ち画像、画面中央に大きい右打ち画像が液晶に表示されるように構成されている。

20

【3306】

次に、図422の（f）～（j）を用いて、時短Cの作動期待度（時短図柄の当選期待度）を示唆する先読み演出Cとして、（2）複数回の図柄変動に亘って一連のムービー演出を実行する先読み演出Cについて説明する。（f）に示すように、非時間短縮遊技状態において、第1主遊技側の保留が1個存在しており、第2主遊技側の保留は存在していない状況における第1主遊技図柄の図柄変動において、この図柄変動中に新たな保留が生起し、この新たな保留が、時短Cが作動する時短図柄に当選したトリガ保留（図の三角の保留を参照）である場合であって、トリガ保留の手前の保留が全てハズレである場合、当該の図柄変動の途中（次の図柄変動でも良い）から画面がブラックアウトして、複数回の図柄変動に亘って一連のムービー演出A～Cを実行するように構成されている。この変動においては、ムービー演出Aが実行される。（g）に示す図柄変動であって、第1主遊技側の保留が1個存在しており、第2主遊技側の保留は存在していない状況における第1主遊技図柄の図柄変動において、第1主遊技側の1個目の保留をトリガ保留とした先読み演出Cを実行する。この図柄変動において、ムービー演出Bが実行される。（h）に示す図柄変動であって、第1主遊技側の保留も第2主遊技側の保留も存在していない状況における第1主遊技図柄の図柄変動において、ムービー演出Cが実行される。ムービー演出Cが終了すると時短Cの実行契機である時短図柄の停止表示まで時短図柄を示す第一演出用図柄（例えば、331）を揺れ変動させる。その後、時短Cが作動するように構成されており、時短Cが作動すると（j）に示すように時短C専用の演出ステージの時短Cステージとなり、画面右上に小さい右打ち画像、画面中央に大きい右打ち画像が液晶に表示されるように構成されている。

30

40

【3307】

50

次に、図４２２の（ｋ）、（ｌ）を用いて、時短Ｃの作動期待度（時短図柄の当選期待度）を示唆する先読み演出Ｃとして、（３）時短Ｃが作動する時短図柄に当選したことを示唆するための専用の保留先読み演出について説明する。時短Ｃの作動期待度（時短図柄の当選期待度）を示唆する先読み演出Ｃは、通常の当り期待度を示唆する保留先読み演出と区別するように、特殊な形状と色で時短Ｃの作動期待度（時短図柄の当選期待度）を示唆する保留先読み演出となっている。例えば、図４２２の（ｋ）の三角の保留アイコンは、通常の当り期待度を示唆する保留先読み演出の保留を示し、図４２２の（ｌ）の星の保留アイコンは、時短Ｃの作動期待度（時短図柄の当選期待度）を示唆する先読み演出Ｃの保留を示している。

【３３０８】

なお、時短Ｃが作動する時短図柄に当選したことを示唆するための先読み演出Ｃよりも、当り（大当り、小当り）に関する先読み演出Ａを優先して実行するように構成しても良い。例えば、当りに関する保留先読み演出Ａが発生しているときには、上述した（１）、（２）のような先読み演出Ｃは発生しないように構成する。

【３３０９】

また、先に実行している先読み演出を優先するように構成しても良い。例えば、時短Ｃが作動する時短図柄に当選したことを示唆するための先読み演出Ｃを実行している場合は、当り（大当り、小当り）に関する先読み演出Ａの実行を制限し、当り（大当り、小当り）に関する先読み演出Ａを実行している場合は、時短Ｃが作動する時短図柄に当選したことを示唆するための先読み演出Ｃの実行を制限するように構成する。

【３３１０】

また、先のトリガ保留に対する当り（大当り、小当り）に関する先読み演出Ａ（例えばチャンス目先読み演出）の実行中に、後のトリガ保留に対して当り（大当り、小当り）に関する保留先読み演出を実行可能に構成しているが、トリガ保留に対する当り（大当り、小当り）に関する先読み演出Ａ（例えばチャンス目先読み演出）の実行中に、後続の保留に対して時短Ｃが作動する時短図柄に当選したことを示唆するための保留先読み演出の実行を制限するように構成してもよい。

【３３１１】

次に、当該変動における時短Ｃの作動期待度（時短図柄の当選期待度）を示唆する予告演出について以下に例示する。ここで例示する時短Ｃの作動期待度を示唆する予告演出は、当り（大当り、小当り）期待度を示唆する予告演出とは異なる予告演出である。時短Ｃの作動期待度を示唆する予告演出は、例えば、スロットマシンで使用されるリールで採用されている図柄（リプレイ図柄、チェリー図柄、スイカ図柄、ベル図柄等）を模した図柄画像を使用したミニリールを３列（左列、中列、右列）用意し、演出表示装置ＳＧ上の表示領域に所定の図柄組み合わせを表示する予告演出である。

【３３１２】

ここで、時短Ｃの作動期待度を示唆する予告演出を表示する演出表示装置ＳＧ上の表示領域は、当り期待度を示唆する予告演出を表示する演出表示装置ＳＧ上の表示領域と異なる表示領域となっているが、当り期待度を表示する演出表示装置ＳＧとは別の演出表示装置を設け、別の演出表示装置に時短Ｃの作動期待度を示唆する予告演出を表示するように構成しても良い。なお、時短Ｃの作動期待度を示唆する予告演出は、当り期待度を示唆する予告演出と重複して表示されなければ良いため、重複して表示されない場合は、当り期待度を示唆する予告演出を表示する演出表示装置ＳＧ上の表示領域を用いて表示しても良い。

【３３１３】

そして、主遊技図柄の図柄変動が実行される毎に３列のミニリールを用いて、時短Ｃの作動期待度を示唆する予告演出を実行する。時短Ｃの作動期待度を示唆する予告演出は、時短図柄が当選していない主遊技図柄の図柄変動においては、『リプレイ図柄ーベル図柄ーリプレイ図柄』等のスロットマシンではハズレを示す図柄組み合わせの予告演出を実行することで、時短図柄が当選していないことを予告する。一方、時短図柄が当選している

10

20

30

40

50

主遊技図柄の図柄変動においては、『リプレイ図柄ーリプレイ図柄ーチェリー図柄』や『リプレイ図柄ーリプレイ図柄ースイカ図柄』等のスロットマシンでは遊技が所定回数継続するリプレイタイムに移行することを示す図柄組み合わせの予告演出を実行することで、時短図柄が当選していることを予告する。

【3314】

なお、時短回数Nが異なる時短Cを有する場合、つまり、時短Cとなる時短図柄を複数有する場合、以下のように構成しても良い。主遊技図柄の時短図柄として時短図柄C1（時短回数Nが50回の時短図柄）を停止表示する図柄変動の時短Cの作動期待度を示唆する予告演出において、『リプレイ図柄ーリプレイ図柄ーチェリー図柄』が表示されることで時短回数Nが50回の時短Cが当選していることを予告し、主遊技図柄の時短図柄として時短図柄C2（時短回数Nが100回の時短図柄）を停止表示する図柄変動の時短Cの作動期待度を示唆する予告演出において、『リプレイ図柄ーリプレイ図柄ースイカ図柄』が表示されることで時短回数Nが100回の時短Cが当選していることを予告する。

【3315】

なお、リーチ等の変動時間が長い図柄変動の場合に、ミニリールが変動してから停止するまでの演出を複数回実行するように構成して、時短Cの作動期待度を示唆する予告演出としても良い。また、時短図柄が当選した場合の図柄変動を必ずリーチとなるように構成しておき、演出用図柄でリーチハズレとなる組み合わせを表示した後に、ミニリールを用いた時短Cの作動期待度を示唆する予告演出を実行するように構成しても良い。なお、時短Cの作動期待度を示唆する予告演出は、この演出に限定されない。

【3316】

次に、図423を用いて、当該変動における時短Cを示唆する変動演出について説明する。図423は、当該変動における時短Cを示唆する変動演出を示す図であり、以下の（1）、（2）で例示する。ここで例示する時短Cを示唆する変動演出は、当り（大当り、小当り）またはハズレを示唆する変動演出に関連した演出である。

【3317】

まず、当該変動における時短Cを示唆する変動演出として、バトルリーチ演出を説明する。図423の（a）～（e）は、（1）時短Cを示唆する変動演出として、先ず、リーチ状態中に味方キャラクタと敵キャラクタとがバトルを行い、バトルの結果、味方キャラクタが勝利すれば当り（大当り、小当り）となり、味方キャラクタが敗北すればハズレとなるバトルリーチ演出を示す図である。（a）に示すように、非時間短縮遊技状態において、第1主遊技側の保留が2個存在しており、第2主遊技側の保留は存在していない状況における第1主遊技図柄の図柄変動において、7図柄でリーチ状態となる。そして、（b）に示すようにリーチ図柄である7図柄を縮小させてバトルリーチ演出に発展する。このバトルリーチ演出は、少なくとも当否判定の結果を示す演出となっており、リーチ状態中のバトルで味方キャラクタが勝利した場合は当り（大当り、小当り）、味方キャラクタが敗北した場合はハズレ、（c）に示す引き分けの場合は時短Cとなることを示すように構成されている。時短Cとなる場合、つまり、時短図柄が当選した図柄変動におけるバトルリーチ演出は、バトルで引き分けとなった後、「まだだ！」と味方キャラクタが叫び、その後、（d）に示すように「追跡モード突入」となって、時短Cが作動するように構成されている。「追跡モード突入」の表示は、当該の図柄変動で表示する例を示したが、次の図柄変動であっても良い。時短Cの作動は、当該の図柄変動の変動終了時または変動停止{変動固定時間経過（例えば、500ms）時}後から作動させても良いし、次の図柄変動から作動させても良い。時短Cが作動すると（e）に示すように時短C専用の演出ステージの時短Cステージとなり、画面右上に小さい右打ち画像、画面中央に大きい右打ち画像が液晶に表示されるように構成されている。

【3318】

次に、当該変動における時短Cを示唆する変動演出として、ルーレットリーチ演出を説明する。図423の（f）～（j）は、（2）リーチ演出中に演出表示装置SG上の表示領域を複数の領域に分割し、分割された領域に当り、ハズレ、時短C等の画像オブジェク

トを表示してルーレットとし、ルーレットの分割された領域を明暗させたり、ルーレット自体を回転させたりする演出を行って、最終的に選択表示された画像オブジェクトによって、主遊技図柄の図柄変動の結果を示唆するルーレットリーチ演出（少なくとも当否判定の結果を示す演出）を示す図である。

（f）に示すように、非時間短縮遊技状態において、第1主遊技側の保留が2個存在しており、第2主遊技側の保留は存在していない状況における第1主遊技図柄の図柄変動において、7図柄でリーチ状態となる。そして、（g）に示すようにリーチ図柄である7図柄を縮小させてルーレットリーチ演出に発展する。このルーレットリーチ演出は、4つの領域を有するルーレットに「当り、ハズレ、時短C、ハズレ」の画像オブジェクトを表示してルーレットの回転を開始する。主遊技図柄の図柄変動の結果が当り（大当り、小当り）の場合は、当りの画像オブジェクトが選択表示される。主遊技図柄の図柄変動の結果がハズレの場合は、ハズレの画像オブジェクトが選択表示される。主遊技図柄の図柄変動の結果が時短図柄を停止表示する場合は、（h）に示すように、時短Cの画像オブジェクトが選択表示される。ルーレットリーチ演出が終了すると時短Cの実行契機である時短図柄の停止表示まで時短図柄を示す第一演出用図柄（例えば、331）を揺れ変動させる。その後、時短Cが作動するように構成されており、時短Cが作動すると（j）に示すように時短C専用の演出ステージの時短Cステージとなり、画面右上に小さい右打ち画像、画面中央に大きい右打ち画像が液晶に表示されるように構成されている。

【3319】

また、主遊技図柄の図柄変動の結果が時短図柄を停止表示する場合は、ルーレットに「当り、ハズレ、時短C、ハズレ」の画像オブジェクトを表示した後、昇格演出を実行して、ルーレットに「当り、時短C、時短C、ハズレ」の画像オブジェクトを表示し、その後、時短Cの画像オブジェクトが選択表示されるように構成しても良い。さらに、主遊技図柄の図柄変動の結果が時短図柄を停止表示する場合は、ルーレットに「当り、ハズレ、時短C、ハズレ」の画像オブジェクトを表示した後、昇格演出を実行して、ルーレットに「当り、時短C、時短C、ハズレ」の画像オブジェクトを表示し、その後、再度、昇格演出を実行して、ルーレットに「当り、時短C、時短C、時短C」の画像オブジェクトを表示し、その後、時短Cの画像オブジェクトが選択表示されるように構成しても良い。

【3320】

なお、バトルリーチ演出、ルーレットリーチ演出に発展するタイミング（例えば、擬似連回数）によって、当り期待度や時短Cの作動期待度が異なるように構成されている。例えば、擬似連1回目でバトルリーチ演出、ルーレットリーチ演出に発展する場合、ハズレ95%、当り3%、時短2%となっており、擬似連2回目でバトルリーチ演出、ルーレットリーチ演出に発展する場合、ハズレ90%、当り5%、時短5%となっており、擬似連3回目でバトルリーチ演出、ルーレットリーチ演出に発展する場合、ハズレ60%、当り38%、時短2%となっている。このように、擬似連3回目でこれらのリーチ演出に発展する場合は、一番当り期待度が高くなるように構成されているが、時短Cの作動期待度は、擬似連3回目でこれらのリーチ演出に発展する場合よりも、擬似連2回目でこれらのリーチ演出に発展する場合の方が、高くなる（擬似連2：5%＞擬似連3：2%）ように構成することによって、擬似連の回数に応じて当りや時短Cを期待できるようになっている。擬似連2回目の方が擬似連3回目よりも時短Cの当選に期待できるように構成する理由として、擬似連3回目は遊技者にとって大当りの期待感が高まるように構成しているため、時短Cの発生のみでは遊技者に対し、期待に見合った恩恵が与えられない可能性が考えられるからである。しかし、このような場合に限らず、時短Cの性能によっては、擬似連3回目の方が擬似連2回目よりも時短Cの当選期待度が高まるように構成してもよい。

【3321】

次に、時短Cが作動する場合における、時短Cが作動する旨を報知する時短C作動開始演出について、以下（1）～（5）に示すような時短C作動開始演出を例示できる。

【3322】

（1）主遊技図柄の図柄変動で時短図柄を停止表示する場合、変動時間がA秒の変動パ

10

20

30

40

50

ターンが選択されてA秒（例えば、15秒）の図柄変動が行われ、時短Cの遊技状態となることを報知（例えば、時短Cモード開始画像の表示と右打ち画像の表示）する。なお、変動時間がA秒の変動パターンは、時短図柄が当選したことに基づいて特殊な変動パターンテーブルが選択され、この特殊な変動パターンテーブルで参照される変動パターンであっても良い。

【3323】

（2）主遊技図柄の図柄変動で時短図柄を停止表示する場合、図柄変動の変動停止時の変動固定時間として特定時間（例えば、15秒）が選択され、この変動固定時間中に時短Cの遊技状態となることを報知（例えば、時短Cモード開始画像の表示と右打ち画像の表示）する。

【3324】

（3）主遊技図柄の図柄変動で時短図柄を停止表示する場合、図柄変動の演出に対して強制的に副制御部の制御によって時短Cが作動することを報知する演出（例えば、ワイプの時短Cモード開始画像の表示と右打ち画像の表示）を上から重ねて表示する。

【3325】

（4）主遊技図柄の図柄変動で時短図柄を停止表示した場合であって、時短図柄を停止表示した次の図柄変動が開始している場合、時短図柄を停止表示した次の図柄変動の演出に対して強制的に副制御部の制御によって時短Cが作動したことを報知する演出（例えば、ワイプの時短Cモード開始画像の表示と右打ち画像の表示）を上から重ねて表示する。

【3326】

（5）主遊技図柄の図柄変動で時短図柄を停止表示した場合であって、時短図柄を停止表示した次の図柄変動が開始していない場合、停止表示中の演出用図柄に対して時短Cが作動したことを報知する演出（例えば、時短Cモード開始画像の表示と右打ち画像の表示）を上から重ねて表示する。

【3327】

なお、上述の（1）、（2）、（3）の時短Cの遊技状態となることを報知（例えば、時短Cモード開始画像の表示と右打ち画像の表示）は、未だ時短Cが作動していない状態であるため、『時短Cモードまで5、4、3、2、1』等、曖昧な報知とするとともに、右打ち画像の表示を行うような積極的に発射位置を示す報知をしなくても良い。

【3328】

また、上述の（1）、（2）、（3）の場合は、主遊技図柄の停止表示の際の処理や変動固定時間の経過時の処理によって時短Cの遊技状態を設定するように構成されており、この主遊技図柄の停止表示の際の処理や変動固定時間の経過時の処理が実行されている遊技状態としては左打ちが推奨される遊技状態となっており、主制御部が制御する時短状態や特別遊技状態の際に点灯する右打ち表示LEDも点灯していない遊技状態となっている。したがって、上述の（1）、（2）、（3）の時短Cの遊技状態となることを報知においては以下に例示するような（a）右打ち画像を表示しない、又は（b）消極的な右打ち画像を表示、又は（c）右打ち画像の代替画像により曖昧に表示することが好適である。

（a）「時短Cモード突入」、「時短Cモードまで5、4、3、2、1」、「右打ちまで5、4、3、2、1」等で表示する。

（b）右打ち画像をグレー表示（通常は白表示）したり、右打ち画像の透明度を例えば、70%で表示したりする。

（c）「時短Cモード突入」の文字に組み合わせられる右打ち画像をロゴとして表示し、右打ちとは明示しない表示とする。

なお、右打ち画像の表示は、実際に時短Cの状態に設定された後であって、図柄変動の待機中や次の図柄変動が開始された直後に実行することが好適である。

【3329】

また、時短Cの作動することとなる主遊技図柄の図柄変動において、変動固定時間を長時間（例えば、30秒）に設定し、主遊技図柄である時短図柄の変動終了時または変動停止時に時短Cの状態に設定して、変動固定時間を時短C（右打ちの遊技状態）とする場合

10

20

30

40

50

、変動固定時間中に右打ち画像を表示するようにしても良い。このように構成する場合、特に「優先変動タイプ」の機種であれば、第1主遊技図柄の変動終了時または変動停止時{変動固定時間30秒のうちの例えば、500ms経過時}に時短Cを作動させ、変動固定時間中に第2主遊技側の保留を生起させることができれば、時短Cにおける最初の図柄変動を第2主遊技図柄の図柄変動とすることができるので、時短Cにおける不利な特別遊技である第1主遊技図柄の特別遊技の当選を避けることができる。

【3330】

なお、上述の(3)、(4)について、図柄変動が当たり(大当たり、小当たり)となる場合や、高期待度の図柄変動である場合は、時短C作動開始演出の実行をキャンセルしたり、遅延させたりするようにしても良く、図柄変動に対応する演出よりも時短C作動開始演出の方をワンプで小さく表示するように構成しても良いし、図柄変動に対応する演出よりも時短C作動開始演出の方をワンプで大きく表示するように構成しても良い。また、図柄変動に対応する演出よりも時短C作動開始演出の方を大きく表示する場合、図柄変動に対応する演出をワンプで表示するように構成しても良い。

【3331】

<<時短終了演出>>

また、時短回数N(例えば、100回)の時短C中に当たり(大当たり、小当たり)に当選しなかった場合において、以下の(1)～(9)に示すような時短Cの終了時の演出である時短終了演出を例示できる。

【3332】

(1) 主遊技図柄の変動終了時または変動停止時{変動固定時間経過(例えば、500ms)時}に作動回数nをカウントし、100回転目の図柄変動の変動終了または変動停止{変動固定時間経過(例えば、500ms)}後に時短Cを終了させる場合であって、100回転目に限定頻度テーブル(時短Cを作動させる契機となった時短図柄の停止表示に基づき選択されるテーブル)を参照した特殊な変動パターンが選択される場合、100回転目の図柄変動では、A秒(例えば、15秒)の図柄変動が行われ、この図柄変動中に時短Cが終了となることを報知(例えば、時短Cモード終了画像の表示)する。

【3333】

(2) 主遊技図柄の変動開始時(図柄変動中も含む)に作動回数nをカウントし、100回転目の変動開始後(図柄変動中)に時短Cを終了させる場合であって、100回転目に限定頻度テーブル(時短Cを作動させる契機となった時短図柄の停止表示に基づき選択されるテーブル)を参照した特殊な変動パターンが選択される場合、100回転目の図柄変動では、A秒(例えば、15秒)の図柄変動が行われ、この図柄変動中に時短Cが終了となったことを報知(例えば、時短Cモード終了画像の表示)する。

【3334】

(3) 主遊技図柄の変動終了時または変動停止時{変動固定時間経過(例えば、500ms)時}に作動回数nをカウントし、100回転目の図柄変動の変動終了または変動停止{変動固定時間経過(例えば、500ms)}後に時短Cを終了させる場合であって、101回転目に限定頻度テーブル(時短Cが終了した後の通常遊技状態で選択されるテーブル)を参照した特殊な変動パターンが選択される場合、101回転目の図柄変動では、A秒(例えば、15秒)の図柄変動が行われ、この図柄変動中に時短Cが終了となったことを報知(例えば、時短Cモード終了画像の表示)する。

【3335】

(4) 主遊技図柄の変動終了時または変動停止時{変動固定時間経過(例えば、500ms)時}に作動回数nをカウントし、100回転目の図柄変動の変動終了または変動停止{変動固定時間経過(例えば、500ms)}後に時短Cを終了させる場合、100回転目の図柄変動の変動停止時の変動固定時間として特定時間(例えば、15秒)が選択され、この変動固定時間中に時短Cが終了となることを報知(例えば、時短Cモード終了画像の表示)する。

【3336】

10

20

30

40

50

(5) 主遊技図柄の変動開始時(図柄変動中も含む)に作動回数 n をカウントし、100 回転目の変動開始後(図柄変動中)に時短 C を終了させる場合、100 回転目の図柄変動の変動停止時の変動固定時間として特定時間(例えば、15 秒)が選択され、この変動固定時間中に時短 C が終了となったことを報知(例えば、時短 C モード終了画像の表示)する。

【3337】

(6) 主遊技図柄の変動開始時(図柄変動中も含む)に作動回数 n をカウントし、100 回転目の変動開始後(図柄変動中)に時短 C を終了させる場合、100 回転目の図柄変動の演出に対して強制的に副制御部の制御によって時短 C が終了したことを報知する演出(例えば、ワイプの時短 C モード終了画像の表示)を上から重ねて表示する。

10

【3338】

(7) 主遊技図柄の変動終了時または変動停止時{変動固定時間経過(例えば、500 ms)時}に作動回数 n をカウントし、100 回転目の図柄変動の変動終了または変動停止{変動固定時間経過(例えば、500 ms)}後に時短 C を終了させる場合、101 回転目の図柄変動の演出に対して強制的に副制御部の制御によって時短 C が終了したことを報知する演出(例えば、ワイプの時短 C モード終了画像の表示)を上から重ねて表示する。

【3339】

(8) 主遊技図柄の変動開始時(図柄変動中も含む)に作動回数 n をカウントし、100 回転目の変動開始後(図柄変動中)に時短 C を終了させる場合であって、100 回転目の図柄変動が停止表示した次の図柄変動が開始していない場合、停止表示中の演出用図柄に対して時短 C が終了したことを報知する演出(例えば、時短 C モード終了画像の表示)を上から重ねて表示する。

20

【3340】

(9) 主遊技図柄の変動終了時または変動停止時{変動固定時間経過(例えば、500 ms)時}に作動回数 n をカウントし、100 回転目の図柄変動の変動終了または変動停止{変動固定時間経過(例えば、500 ms)}後に時短 C を終了させる場合であって、100 回転目の図柄変動が停止表示した次の図柄変動が開始していない場合、停止表示中の演出用図柄に対して時短 C が終了したことを報知する演出(例えば、時短 C モード終了画像の表示)を上から重ねて表示する。

【3341】

30

上述の(1)～(3)の時短終了演出を実行する場合は、時短 C の100 回転目や時短 C 抜け後の通常遊技状態の1 回転目に限定頻度テーブルを参照した特殊な変動パターンが選択されるように構成されている。時短図柄に当選し、時短図柄が主遊技図柄表示装置に停止表示されたことを契機として時短 C が作動するが、時短 C の遊技状態では限定頻度テーブル(時短図柄の停止表示に基づいて設定される第2 限定頻度設定情報に基づいて設定される限定頻度テーブル)を参照して変動パターンを選択するように構成されている。そして、時短 C の100 回転目、または、時短 C を抜けて通常遊技状態となった1 回転目(通常遊技状態となったことに基づく限定頻度テーブルを参照して変動パターンを選択するように構成されている)に限定頻度テーブルを参照して特殊な変動パターンを選択するように構成されている。この特殊な変動パターンの変動時間は A 秒(例えば、15 秒)となっており、 A 秒の図柄変動中に時短終了演出を実行するように構成されている。

40

【3342】

また、上述の(4)、(5)の時短終了演出を実行する場合は、100 回転目の変動停止時の変動固定時間を使用して時短終了演出を実行するように構成されている。主制御部は、時短 C の作動中に主遊技図柄の図柄変動の回数をカウントするカウンタを用いて主遊技図柄の図柄変動の実行回数(第1 主遊技図柄のみの実行回数または第2 主遊技図柄のみの実行回数、第1 主遊技図柄と第2 主遊技図柄との合算の実行回数でも良い)をカウントするように構成されている。そして、主制御部は、主遊技図柄の図柄変動の実行回数の情報を副制御部に送信するように構成されている。主制御部は、100 回転目の主遊技図柄の図柄変動の変動停止時の変動固定時間として特定時間(例えば、15 秒)を選択するよ

50

うに構成されている。副制御部は、主制御部から送信されてきた主遊技図柄の図柄変動の
実行回数の情報に基づいて時短C中の100回転目の主遊技図柄の図柄変動であることを
把握し、時短C中の100回転目の主遊技図柄の図柄変動の変動停止時の変動固定時間中
に時短終了演出を実行するように構成されている。

【3343】

なお、主制御部から副制御部に送信される主遊技図柄の図柄変動の実行回数の情報は、
図柄変動毎に送信するように構成されているため、途中何らかの影響により、副制御部で
記憶していた主遊技図柄の図柄変動の実行回数の情報がクリアされてしまった場合であっ
ても、情報がクリアされてしまった直後の図柄変動において主遊技図柄の図柄変動の実行
回数の情報を取りこぼさない限り、確実に時短終了演出を実行することができるようにな
っている。なお、100回転目の変動固定時間は、A秒に限定されず、A秒とは異なる変
動固定時間であっても良いが、予め定められた時間であって、時短終了演出を実行可能な
変動固定時間とするのが好適である。

【3344】

なお、主制御部は、主遊技図柄の図柄変動の実行回数の情報を副制御部に送信し、副制
御部は、主制御部から送信されてきた主遊技図柄の図柄変動の実行回数の情報に基づいて
100回転目の主遊技図柄の図柄変動であることを把握するような例を示したが、主遊技
部は、時短Cの作動開始情報を副制御部に送信するとともに、変動開始や変動停止の情報
を副制御部に送信し、副制御部は、主制御部から送信されてきた時短Cの作動開始情報を受
信した後の図柄変動の回数をカウントするカウンタを用いて主遊技図柄の図柄変動
の実行回数（第1主遊技図柄のみの実行回数または第2主遊技図柄のみの実行回数、第1
主遊技図柄と第2主遊技図柄との合算の実行回数でも良い）をカウントする（例えば、変
動開始や変動停止の情報を受信したことに基づいてカウントする）ように構成して、時短
C中の100回転目の主遊技図柄の図柄変動の変動停止時の変動固定時間中に時短終了演
出を実行するように構成しても良い。

【3345】

また、上述の（6）、（7）の時短終了演出を実行する場合は、時短Cの100回転目
や時短C抜け後の通常遊技状態の1回転目の時短終了演出を、強制的な副制御部の制御に
よる演出として、図柄変動の演出に対して上から重ねて表示するように構成しても良い。
主制御部は、時短Cの作動中に主遊技図柄の図柄変動の回数をカウントするカウンタを用
いて主遊技図柄の図柄変動の実行回数（第1主遊技図柄のみの実行回数または第2主遊技
図柄のみの実行回数、第1主遊技図柄と第2主遊技図柄との合算の実行回数でも良い）を
カウントするように構成されている。そして、主制御部は、主遊技図柄の図柄変動の実行
回数の情報を副制御部に送信するように構成されている。副制御部は、主制御部から送信
されてきた主遊技図柄の図柄変動の実行回数の情報に基づいて時短C中の100回転目の
主遊技図柄の図柄変動であることを把握し、時短Cの100回転目や時短C抜け後の通常
遊技状態の1回転目の主遊技図柄の図柄変動の変動時間内で時短終了演出を実行するよう
に制御している。なお、副制御部は、演出用図柄の図柄変動の演出よりも表示プライオリ
ティが高い時短終了演出を、図柄変動の演出に対して上から重ねて表示するように制御し
ている。

【3346】

なお、主制御部から副制御部に送信される主遊技図柄の図柄変動の実行回数の情報は、
図柄変動毎に送信するように構成されているため、途中何らかの影響により、副制御部で
記憶していた主遊技図柄の図柄変動の実行回数の情報がクリアされてしまった場合であっ
ても、情報がクリアされてしまった直後の図柄変動において主遊技図柄の図柄変動の実行
回数の情報を取りこぼさない限り、確実に時短終了演出を実行することができるようにな
っている。なお、時短終了演出の演出時間は、時短Cの100回転目や時短C抜け後の通
常遊技状態の1回転目に選択され得る変動パターンの変動時間よりも短い時間に構成され
ている。

【3347】

なお、主制御部は、主遊技図柄の図柄変動の実行回数の情報を副制御部に送信し、副制御部は、主制御部から送信されてきた主遊技図柄の図柄変動の実行回数の情報に基づいて時短Cの100回転目や時短C抜け後の通常遊技状態の1回転目の主遊技図柄の図柄変動であることを把握するような例を示したが、主遊技部は、時短Cの作動開始情報を副制御部に送信するとともに、変動開始や変動停止の情報を副制御部に送信し、副制御部は、主制御部から送信されてきた時短Cの作動開始情報を受信した後の図柄変動の回数をカウントするカウンタを用いて主遊技図柄の図柄変動の実行回数（第1主遊技図柄のみの実行回数または第2主遊技図柄のみの実行回数、第1主遊技図柄と第2主遊技図柄との合算の実行回数でも良い）をカウントする（例えば、変動開始や変動停止の情報を受信したことに基づいてカウントする）ように構成して、時短Cの100回転目や時短C抜け後の通常遊技状態の1回転目の主遊技図柄の図柄変動の変動時間内で時短終了演出を実行するように構成しても良い。

10

【3348】

<<ICカードの取り忘れの注意喚起に関する演出やのめりこみ防止を図る標語の表示演出>>

主遊技図柄の作動回数が予め定められた作動回数n（例えば、1000回）となったことを契機として、作動回数n回転目の主遊技図柄の図柄変動中に時短Bを作動させる場合や作動回数n回転目の主遊技図柄の図柄変動の終了後から時短Bを作動させる場合、作動回数n回転目の主遊技図柄の図柄変動中にICカードの取り忘れの注意喚起に関する演出やのめりこみ防止を図る標語の表示演出を実行するように構成されている。なお、ICカードの取り忘れの注意喚起に関する演出やのめりこみ防止を図る標語の表示演出を変動固定時間中に実行するように構成しても良い。

20

【3349】

また、時短図柄が停止表示されたことを契機として、図柄変動の終了後から時短Cを作動させる場合、時短図柄が停止表示される主遊技図柄の図柄変動中にICカードの取り忘れの注意喚起に関する演出やのめりこみ防止を図る標語の表示演出を実行するように構成されている。なお、ICカードの取り忘れの注意喚起に関する演出やのめりこみ防止を図る標語の表示演出を変動固定時間中に実行するように構成しても良い。

【3350】

ICカードの取り忘れの注意喚起に関する演出やのめりこみ防止を図る標語の表示演出は、時短Bモード開始画像の表示や時短Cモード開始画像の表示、つまり、モード移行の表示に加えて、テロップでICカードの取り忘れの注意喚起の文字やのめりこみ防止を図る標語の文字を表示するようなテロップ演出を実行するように構成されている。なお、テロップ演出は、モード移行の表示とは異なる表示領域に表示されることが好適であるが、モード移行の表示と同じ表示領域に表示されるように構成しても良い。

30

【3351】

なお、テロップ表示は、当該の図柄変動の予告演出の選択方法（ある大当たり図柄が決定された場合に必ず選択される大当たり確定予告演出の選択方法）と同じ方法で選択しても良い。時短Bの場合は、主制御部が、主遊技図柄の図柄変動の実行回数の情報を副制御部に送信し、この情報を受信した副制御部は、主遊技図柄の作動回数が予め定められた作動回数n（例えば、1000回）となったことを契機として、必ずテロップ演出を選択するように制御するように構成されていれば良い。時短Cの場合は、主制御部が、主遊技図柄の図柄情報を副制御部に送信し、この情報を受信した副制御部は、主遊技図柄の図柄情報が時短図柄であることを契機として、必ずテロップ演出を選択するように制御するように構成されていれば良い。このように構成することによって、当該の図柄変動の予告演出の選択方法と同じ選択方法によって、ICカードの取り忘れの注意喚起に関する演出やのめりこみ防止を図る標語の表示演出が実行できるため、ICカードの取り忘れの注意喚起に関する演出やのめりこみ防止を図る標語の表示演出の専用の演出制御を用いることなく従来の制御で実行することができる。

40

【3352】

50

また、確変図柄、非確変図柄を備えたぱちんこ遊技機の或る特別遊技における特別遊技終了デモ時間であって、非時間短縮遊技状態中の特別遊技における特別遊技終了デモ時間に、ＩＣカードの取り忘れの注意喚起に関する演出やのめりこみ防止を図る標語の表示演出を実行するように構成されている。また、時短Ａの作動中の特別遊技における特別遊技終了デモ時間（以下、（１）、（２）参照）に、ＩＣカードの取り忘れの注意喚起に関する演出やのめりこみ防止を図る標語の表示演出を実行しないように構成されているが、時短Ｂや時短Ｃの作動中の特別遊技における特別遊技終了デモ時間（以下、（３）、（４）参照）に、ＩＣカードの取り忘れの注意喚起に関する演出やのめりこみ防止を図る標語の表示演出を実行するように構成されている。

（１）時短Ａ中にて確変図柄で特別遊技に当選した場合の特別遊技終了デモ時間は第二期間（例えば、１秒）

10

（２）時短Ａ中にて非確変図柄で特別遊技に当選した場合の特別遊技終了デモ時間は第三期間（例えば、３秒）

（３）時短Ｂ中又は時短Ｃ中にて確変図柄で特別遊技に当選した場合の特別遊技終了デモ時間は第三期間（例えば、３秒）

（４）時短Ｂ中又は時短Ｃ中にて非確変図柄で特別遊技に当選した場合の特別遊技終了デモ時間は第三期間（例えば、３秒）

【３３５３】

なお、時短Ｂ及び時短Ｃ中に特別遊技が当選したことに基づきＩＣカードの取り忘れの注意喚起に関する演出やのめりこみ防止を図る標語の表示演出が実行可能となるように、時短Ｂや時短Ｃが作動した際にＩＣカードの取り忘れの注意喚起に関する演出やのめりこみ防止を図る標語の表示演出を実行するフラグを立てない（演出実行フラグをオフ）ようにしておくことが好適である。なお、時短Ａが作動した際は、ＩＣカードの取り忘れの注意喚起に関する演出やのめりこみ防止を図る標語の表示演出を実行するフラグを立てる（演出実行フラグをオン）ように構成している。このように構成することによって、時短Ｂ及び時短Ｃ中の特別遊技時においても、非時間短縮遊技状態と同様にＩＣカードの取り忘れを防止することが可能となる。

20

【３３５４】

なお、時短Ｂ中又は時短Ｃ中にて確変図柄又は非確変図柄の特別遊技に当選した場合は、特別遊技における特別遊技終了デモ時間に、ＩＣカードの取り忘れの注意喚起に関する演出やのめりこみ防止を図る標語の表示演出を実行しないように構成しても良い。また、時短Ｂ中又は時短Ｃ中にて確変図柄に当選した場合の特別遊技終了デモ時間（第一期間、例えば１秒）にＩＣカードの取り忘れの注意喚起に関する演出やのめりこみ防止を図る標語の表示演出を実行しないように構成する一方、時短Ｂ中又は時短Ｃ中にて非確変図柄に当選した場合の特別遊技終了デモ時間（第三期間）にＩＣカードの取り忘れの注意喚起に関する演出やのめりこみ防止を図る標語の表示演出を実行するように構成しても良い。

30

【３３５５】

大入賞口（第１大入賞口Ｃ１０または第２大入賞口Ｃ２０）に特定領域Ｃ２２が設けられたぱちんこ遊技機の或る特別遊技における特別遊技終了デモ時間であって、非時間短縮遊技状態中の特別遊技における特別遊技終了デモ時間に、ＩＣカードの取り忘れの注意喚起に関する演出やのめりこみ防止を図る標語の表示演出を実行するように構成されている。また、以下、（１）、（２）の特別遊技終了デモ時間に、ＩＣカードの取り忘れの注意喚起に関する演出やのめりこみ防止を図る標語の表示演出を実行しないように構成されているが、時短Ｂや時短Ｃの作動中の特別遊技における特別遊技終了デモ時間（以下、（３）、（４）参照）にＩＣカードの取り忘れの注意喚起に関する演出やのめりこみ防止を図る標語の表示演出を実行するように構成されている。

40

（１）時短Ａ中にて特別遊技に当選し、特別遊技中に特定領域Ｃ２２への入球があった場合の特別遊技終了デモ時間は第二期間（例えば、１秒）

（２）時短Ａ中にて特別遊技に当選し、特別遊技中に特定領域Ｃ２２への入球がなかった場合の特別遊技終了デモ時間は第三期間（例えば、３秒）

50

(3) 時短B中又は時短C中にて特別遊技に当選し、特別遊技中に特定領域C22への入球があった場合の特別遊技終了デモ時間は第三期間(例えば、3秒)

(4) 時短B中又は時短C中にて特別遊技に当選し、特別遊技中に特定領域C22への入球がなかった場合の特別遊技終了デモ時間は第三期間(例えば、3秒)

【3356】

なお、時短B及び時短C中に特別遊技が当選したことに基づきICカードの取り忘れの注意喚起に関する演出やのめりこみ防止を図る標語の表示演出が実行可能となるように、時短Bや時短Cが作動した際にICカードの取り忘れの注意喚起に関する演出やのめりこみ防止を図る標語の表示演出を実行するフラグを立てない(演出実行フラグをオフ)ようにしておくことが好適である。なお、時短Aが作動した際は、ICカードの取り忘れの注意喚起に関する演出やのめりこみ防止を図る標語の表示演出を実行するフラグを立てる(演出実行フラグをオン)ように構成している。このように構成することによって、時短B及び時短C中の特別遊技時においても、非時間短縮遊技状態と同様にICカードの取り忘れを防止することが可能となる。

【3357】

なお、時短B中又は時短C中に特別遊技に当選した場合は、ICカードの取り忘れの注意喚起に関する演出やのめりこみ防止を図る標語の表示演出を実行しないように構成しても良い。なお、時短B中又は時短C中にて大当り図柄Aで特別遊技に当選し、特別遊技中に特定領域C22への入球があった場合の特別遊技終了デモ時間(第二期間、例えば1秒)において、ICカードの取り忘れの注意喚起に関する演出やのめりこみ防止を図る標語の表示演出を実行しないように構成し、時短B中又は時短C中にて大当り図柄Aで特別遊技に当選し、特別遊技中に特定領域C22への入球がなかった場合の特別遊技終了デモ時間(第三期間)においては、ICカードの取り忘れの注意喚起に関する演出やのめりこみ防止を図る標語の表示演出を実行するように構成しても良い。また、時短A中にて特別遊技に当選し、特別遊技中に特定領域C22への入球がなかった場合の特別遊技終了デモ時間(第三期間)に、ICカードの取り忘れの注意喚起に関する演出やのめりこみ防止を図る標語の表示演出を実行するように構成しても良い。

【3358】

大入賞口(第1大入賞口C10または第2大入賞口C20)に特定領域C22が設けられたぱちんこ遊技機の或る特別遊技における特別遊技終了デモ時間であって、非時間短縮遊技状態中にて小当りに当選し、この小当り遊技中に特定領域C22への入球があった場合の特別遊技における特別遊技終了デモ時間に、ICカードの取り忘れの注意喚起に関する演出やのめりこみ防止を図る標語の表示演出を実行するように構成されている。また、以下、(1)の特別遊技終了デモ時間に、ICカードの取り忘れの注意喚起に関する演出やのめりこみ防止を図る標語の表示演出を実行しないように構成されているが、時短Bや時短Cの作動中の特別遊技における特別遊技終了デモ時間(以下、(2)参照)にICカードの取り忘れの注意喚起に関する演出やのめりこみ防止を図る標語の表示演出を実行するように構成されている。

(1) 時短A中にて小当りに当選し、この小当り遊技中に特定領域C22への入球があった場合の特別遊技終了デモ時間は第二期間(例えば、1秒)

(2) 時短B中又は時短C中にて小当りに当選し、この小当り遊技中に特定領域C22への入球があった場合の特別遊技終了デモ時間は第三期間(例えば、3秒)

【3359】

なお、時短B及び時短C中に特別遊技が当選したことに基づきICカードの取り忘れの注意喚起に関する演出やのめりこみ防止を図る標語の表示演出が実行可能となるように、時短Bや時短Cが作動した際にICカードの取り忘れの注意喚起に関する演出やのめりこみ防止を図る標語の表示演出を実行するフラグを立てない(演出実行フラグをオフ)ようにしておくことが好適である。なお、時短Aが作動した際は、ICカードの取り忘れの注意喚起に関する演出やのめりこみ防止を図る標語の表示演出を実行するフラグを立てる(演出実行フラグをオン)ように構成している。このように構成することによって、時短B

及び時短C中の特別遊技時においても、非時間短縮遊技状態と同様にICカードの取り忘れを防止することが可能となる。なお、時短B中又は時短C中にて小当りに当選し、この小当り遊技中に特定領域C22への入球があり、特別遊技に当選した場合は、ICカードの取り忘れの注意喚起に関する演出やのめりこみ防止を図る標語の表示演出を実行しないように構成しても良い。

【3360】

なお、時短A、時短B、時短Cにおいて特別遊技に当選した際の特別遊技終了デモ時間が、非時間短縮遊技状態において特別遊技に当選した際の特別遊技終了デモ時間よりも短くなる場合は、非時間短縮遊技状態において特別遊技に当選した際の特別遊技終了デモ時間で実行されるテロップ演出とは異なるテロップ演出を実行するように構成しても良い。この場合、時短A、時短B、時短Cにおいて特別遊技に当選した際の特別遊技終了デモ時間で実行されるテロップ演出は、非時間短縮遊技状態において特別遊技に当選した際の特別遊技終了デモ時間で実行されるテロップ演出よりも、簡易表示されるテロップ演出とするのが好適である。また、非時間短縮遊技状態において特別遊技に当選した際の特別遊技終了デモ時間で実行されるテロップ演出を、専用のテロップ演出としても良い。

【3361】

次に、図424を用いて、選択メニュー表示について説明する。図424は、選択メニュー表示を示す図である。時短Bが作動する場合の時短B作動開始演出の実行時間について、1000回転目や1001回転目に限定頻度テーブルを参照した特殊な変動パターンを選択し、この特殊な変動パターンの変動時間をA秒（例えば、15秒）とした例、そして、1000回転目の図柄変動の変動停止時の変動固定時間を特定時間（例えば、15秒）とする例を説明し、また、時短Cが作動する場合の時短C作動開始演出の実行時間について、主遊技図柄の図柄変動で時短図柄を停止表示する場合の変動パターンの変動時間をA秒（例えば、15秒）とした例、主遊技図柄の図柄変動で時短図柄を停止表示する場合の変動停止時の変動固定時間を特定時間（例えば、15秒）とする例を説明してきたが、これらの時間を、通常の変動時間（例えば、10秒）や通常の変動固定時間（例えば、0.5秒）よりも長時間（例えば、120秒）として設定する。このように長時間を設定した場合、この時間中に時短B、時短C中の演出モード（例えば、先読み演出の頻度の高・低モード、予告演出の頻度の高・低モード、モード1・2等）を選択する選択メニュー表示が行われるように構成する。

【3362】

図424の(1)を用いて、変動時間を長時間とした場合の図柄変動中における選択メニュー表示を説明する。(a)に示すように、時短Bの場合は1000回転目の図柄変動（1001回転目の図柄変動であっても良い）中において、操作手段としての演出ボタンの操作を促す画像を表示する。そして、(b)に示すように、演出ボタンや十字ボタン等の操作手段が操作されることにより、選択メニュー画像が表示されるように構成されている。選択メニュー画像が表示されている状態において、遊技者が操作手段を操作して、好みの演出モードを選択することによって、演出モードが変更されるように構成されている。(c)では、モード1を選択したことを示している。操作手段の操作によってモード1の選択を決定する、または、所定時間が経過してモード1の選択が決定されると、(d)に示すようにモード1を設定したことが報知されるように構成されている。そして、次の図柄変動（当該変動であっても良い）から設定されたモード1を用いた図柄変動が実行されるように構成されている。なお、操作手段を用いた予告演出中に操作手段を操作しても選択メニュー表示は実行されないように制限されており、操作手段を操作したに基づく予告演出の結果演出が実行されるように構成されている。

【3363】

一方、時短Cの場合、(a)に示すように、時短図柄が当選した図柄変動（時短図柄が当選した次の図柄変動であっても良い）中において、操作手段としての演出ボタンの操作を促す画像を表示する。そして、(b)に示すように、演出ボタンや十字ボタン等の操作手段が操作されることにより、選択メニュー画像が表示されるように構成されている。

(c) では、モード 1 を選択したことを示している。操作手段の操作によってモード 1 の選択を決定する、または、所定時間が経過してモード 1 の選択が決定されると、(d) に示すようにモード 1 を設定したことが報知されるように構成されている。そして、次の図柄変動（当該変動であっても良い）から設定されたモード 1 を用いた図柄変動が実行されるように構成されている。なお、操作手段を用いた予告演出中に操作手段を操作しても選択メニュー表示は実行されないように制限されており、操作手段を操作したことに基づく予告演出の結果演出が実行されるように構成されている。

【3364】

次に、図 424 の (2) を用いて、変動固定時間を長時間とした場合の変動固定時間中における選択メニュー表示を説明する。(f) に示すように、時短 B の場合は 1000 回転目の図柄変動の変動固定時間中（時短 C の場合は時短図柄が当選した図柄変動の変動固定時間中）において、操作手段としての演出ボタンの操作を促す画像を表示する。そして、(g) に示すように、演出ボタンや十字ボタン等の操作手段が操作されることにより、選択メニュー画像が表示されるように構成されている。選択メニュー画像が表示されている状態において、遊技者が操作手段を操作して、好みの演出モードを選択することによって、演出モードが変更されるように構成されている。選択メニューの画像が表示されている状況において、第 1 演出用図柄が選択メニュー画像によって見えなくなるが、第 2 演出用図柄が遊技者に視認可能に構成されている。(h) では、モード 2 を選択したことを示している。操作手段の操作によってモード 2 の選択を決定する、または、所定時間が経過してモード 2 の選択が決定されると、(i) に示すようにモード 2 を設定したことが報知されるように構成されている。そして、次の図柄変動（当該変動であっても良い）から設定されたモード 2 を用いた図柄変動が実行されるように構成されている。

【3365】

次に、強制的に副制御部の制御によって時短 B が作動したことを報知する演出（例えば、ワイプの時短 B モード開始画像の表示と右打ち画像の表示）を上から重ねて表示する場合や、強制的に副制御部の制御によって時短 C が作動することを報知する演出（例えば、ワイプの時短 C モード開始画像の表示と右打ち画像の表示）を上から重ねて表示する場合の選択メニュー表示について説明する。

【3366】

時短 B が作動する場合の時短 B 作動開始演出の実行時間について、1000 回転目や 1001 回転目に限定頻度テーブルを参照した特殊な変動パターンを選択し、この特殊な変動パターンの変動時間を A 秒（例えば、15 秒）とした例、そして、1000 回転目の図柄変動の変動停止時の変動固定時間を特定時間（例えば、15 秒）とする例を説明し、また、時短 C が作動する場合の時短 C 作動開始演出の実行時間について、主遊技図柄の図柄変動で時短図柄を停止表示する場合や次の図柄変動の変動パターンの変動時間を A 秒（例えば、15 秒）とした例、主遊技図柄の図柄変動で時短図柄を停止表示する場合の変動停止時の変動固定時間を特定時間（例えば、15 秒）とする例を説明してきた。そして、この時間中または時間後に時短 B、時短 C が作動するが、この時短 B、時短 C が作動してから、特定期間（例えば、30 秒）が経過するまでの期間において、時短 B、時短 C 中の演出モード（例えば、先読み演出の頻度の高・低モード、予告演出の頻度の高・低モード、モード 1・2 等）を選択する選択メニュー表示が行われるように構成する。

【3367】

時短 B、時短 C が作動してから、特定期間（例えば、30 秒）が経過するまでの期間において、操作手段としての演出ボタンの操作を促す画像を表示する。なお、この特定期間（例えば、30 秒）は、図柄変動中であっても良いし、図柄変動中でなくても良い。つまり、図柄変動中であるか否かに関わらない期間である。そして、演出ボタンや十字ボタン等の操作手段が操作されることにより、選択メニュー画像が表示されるように構成されている。選択メニュー画像が表示されている状態において、遊技者が操作手段を操作して、好みの演出モードを選択することによって、演出モードが変更されるように構成されている。操作手段の操作によってモード 1（モード 2 であっても良い）の選択を決定する、ま

たは、所定時間が経過してモード1の選択が決定されると、モード1を設定したことが報知されるように構成されている。そして、次の図柄変動（当該変動であっても良い）から設定されたモード1を用いた図柄変動が実行されるように構成されている。なお、図柄変動中の場合、操作手段を用いた予告演出中に操作手段を操作しても選択メニュー表示は実行されないように制限されており、操作手段を操作したことに基づく予告演出の結果演出が実行されるように構成されている。

【3368】

時短Bが作動する場合の時短B作動開始演出の実行時間について、1000回転目や1001回転目に限定頻度テーブルを参照した特殊な変動パターンを選択し、この特殊な変動パターンの変動時間をA秒（例えば、15秒）とした例、そして、1000回転目の図柄変動の変動停止時の変動固定時間を特定時間（例えば、15秒）とする例を説明し、また、時短Cが作動する場合の時短C作動開始演出の実行時間について、主遊技図柄の図柄変動で時短図柄を停止表示する場合の変動パターンの変動時間をA秒（例えば、15秒）とした例、主遊技図柄の図柄変動で時短図柄を停止表示する場合の変動停止時の変動固定時間を特定時間（例えば、15秒）とする例を説明してきたが、これらの時間を、通常の変動時間（例えば、10秒）や通常の変動固定時間（例えば、0.5秒）よりも長時間（例えば、120秒）として設定する場合、この時間を用いて、可動体役物の初期位置を時短B用の初期位置に移動させる演出や時短C用の初期位置に移動させる演出を実行するように構成しても良いし、時短B作動開始演出と共に可動体役物の初期位置を時短B用の初期位置に移動させる演出や時短C作動開始演出と共に時短C用の初期位置に移動させる演出を実行するように構成しても良い。

【3369】

この時短B作動開始演出と共に可動体役物の初期位置を時短B用の初期位置に移動させる演出や時短C作動開始演出と共に時短C用の初期位置に移動させる演出を実行する場合において、同時進行している図柄変動が可動体役物の可動を伴う大当りの図柄変動や可動体役物の可動を伴う高期待度の図柄変動の場合には、図柄変動における可動体役物の制御を優先し、時短B用の初期位置に移動させる演出及び時短C用の初期位置に移動させる演出における制御を制限（中止または遅延）する。なお、大当りの図柄変動の場合には、可動体役物の初期位置を時短B用の初期位置に移動させる演出や可動体役物の初期位置を時短C用の初期位置に移動させる演出の制御を中止し、高期待度の図柄変動の場合には、可動体役物の初期位置を時短B用の初期位置に移動させる演出や可動体役物の初期位置を時短C用の初期位置に移動させる演出の制御を図柄変動の後半の時間や変動固定時間まで遅延させるように構成しても良い。

【3370】

また、可動体役物が動作してから選択メニュー表示や時短Bモード突入の文字、時短Bモード突入の文字が表示されると、可動体役物によって、選択メニュー表示や時短Bモード突入の文字、時短Bモード突入の文字の視認性が阻害されてしまうため、可動体役物の移動を遅延させるように構成してもよい。

【3371】

なお、時短Bや時短Cが作動する図柄変動がハズレの場合、「時短Bモード待機中」や「時短Cモード待機中」等の、時短Bや時短Cが今後実行されることを示唆する画像を画面隅に小さく表示するように構成しても良い。なお、表示される画像は、時短B、時短Cが実行されることを示唆する画像であればどのような画像であっても良い。

【3372】

次に、時短Cの作動中に作動回数nが規定回数として、例えば1000回（第一特定回数又は特定回数）となり、時短Bの作動契機を満たした場合、特定遊技状態Bフラグ（以下、時短Bフラグ）を参照することで、作動中の時短Cに優先して時短Bを作動させることについて説明する。時短Bフラグは、主遊技図柄の作動回数nが規定回数（例えば、第1主遊技図柄のみが1000回、第2主遊技図柄のみが1000回、第1主遊技図柄と第2主遊技図柄との合算が1000回等）となった場合にフラグをオフからオンにするよう

に構成されている。また、時短Bフラグは、時短Bの遊技状態中はオンとなり得る一方、時短Bの遊技状態以外（時短Aや時短B、低ベース状態等）ではオフとなり得るよう構成されている。

【3373】

次に、図425を用いて、変動開始時に時短Bフラグをオンにする処理を説明する。図425は、本実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での第1（第2）主遊技図柄表示処理のフローチャートであって、主遊技図柄の図柄変動の変動開始時（図柄変動中も含む）に作動回数をカウントする図である。尚、本処理は、第1主遊技図柄側と第2主遊技図柄側とで略同一の処理となるため、第1主遊技図柄側について主に説明し、第2主遊技図柄側の処理については括弧書きとする。

10

【3374】

まず、ステップ1403で、保留消化制御手段MJ31は、変動開始条件が成立しているか否かを判定する。ここで、当該変動開始条件は、特別遊技中（又は条件装置作動中）でない、且つ、主遊技図柄変動中でない、且つ、主遊技図柄の保留が存在することが条件となる。

【3375】

ステップ1403でYesの場合、ステップ1405及びステップ1406で、保留消化制御手段MJ31は、第1主遊技図柄保留情報一時記憶手段MJ32b-A（第2主遊技図柄保留情報一時記憶手段MJ32b-B）に一時記憶されている、今回の図柄変動に係る第1主遊技内容決定乱数（第2主遊技内容決定乱数）を読み出すと共に、第1主遊技図柄保留情報一時記憶手段MJ32b-A（第2主遊技図柄保留情報一時記憶手段MJ32b-B）から削除し、当該一時記憶されている残りの情報をシフトする（保留消化処理）。次に、ステップ1410-1で、当否抽選手段MN10は、各遊技状態に対応する第1主遊技用当否抽選テーブルMN11t a-A（第2主遊技用当否抽選テーブルMN11t a-B）を参照し、第1主遊技内容決定乱数（第2主遊技内容決定乱数）（特に、当選抽選乱数）に基づき、主遊技図柄当否抽選を実行する。

20

【3376】

次に、ステップ1410-2で、第1主遊技図柄決定手段MN41-A（第2主遊技図柄決定手段MN41-B）は、第1主遊技図柄決定用抽選テーブルMN41t a-A（第2主遊技図柄決定用抽選テーブルMN41t a-B）を参照し、主遊技図柄当否抽選結果及び第1主遊技内容決定乱数（第2主遊技内容決定乱数）（特に、図柄抽選乱数）に基づいて主遊技図柄に関する停止図柄を決定し、これらを第1・第2主遊技図柄情報一時記憶手段MB11b-Cに一時記憶する。

30

【3377】

次に、ステップ1410-3で、第1主遊技変動態様決定手段MN51-A（第2主遊技変動態様決定手段MN51-B）は、各遊技状態に対応する第1主遊技変動態様決定用抽選テーブルMN51t a-A（第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルMN51t a-B）を参照し、主遊技図柄当否抽選結果及び第1主遊技内容決定乱数（第2主遊技内容決定乱数）（特に、変動態様抽選乱数）に基づいて主遊技図柄の変動態様を決定し、これらを第1・第2主遊技図柄情報一時記憶手段MB11b-Cに一時記憶して、ステップ1414に移行する。

40

【3378】

次に、ステップ1414で、遊技内容決定手段MNは、第1・第2主遊技図柄情報一時記憶手段MB11b-Cに一時記憶された図柄変動表示開始指示コマンド（停止図柄情報、停止図柄の属性情報、変動態様情報等の決定した主遊技図柄に関する情報及び現在の遊技状態に係るコマンド等）を、サブメイン制御部SM側に送信するためのコマンド送信用バッファMT10にセット（ステップ1999の制御コマンド送信処理によってサブメイン制御部SM側に送信される）する。次に、ステップ1416で、第1・第2主遊技図柄制御手段MP11-Cが、主遊技図柄の変動時間に係る所定時間を第1・第2主遊技図柄変動管理用タイマMP11t-Cにセットする。次に、ステップ1417で、第1・第2

50

主遊技図柄制御手段MP11-Cは、第1主遊技図柄表示装置A20（第2主遊技図柄表示装置B20）の第1主遊技図柄表示部A21g（第2主遊技図柄表示部B21g）上で、第1・第2主遊技図柄情報一時記憶手段MB11b-Cに記憶された変動態様に従い、主遊技図柄の変動表示を開始する。

【3379】

次に、ステップ1417-1で、遊技内容決定手段MNは、第1・第2主遊技図柄情報一時記憶手段MB11b-Cを参照し、当該主遊技図柄の停止図柄がハズレ図柄又は時短図柄であるか否かを判定する。ステップ1417-1でYesの場合、ステップ1417-2で、作動回数nが0よりも大きいか否かを判定する。ステップ1417-2でYesの場合、ステップ1417-3で、第1・第2主遊技図柄制御手段MP11-Cは、作動回数nのカウント値から1を減算して、作動回数をカウントする。なお、作動回数nのカウント値から1を減算する手法ではなく、作動回数nのカウント値に1を追加して、作動回数をカウントする増加の手法でも良い。次に、ステップ1417-4で、第1・第2主遊技図柄制御手段MP11-Cは、作動回数nが0であるか否かを判定する。なお、減算する手法ではなく増加の手法の場合は、作動回数nが、例えば1000であるか否かを判定する。ステップ1417-4でYesの場合、ステップ1417-5で、第1・第2主遊技図柄制御手段MP11-Cは、時短Bフラグをオンに設定し、時短Bフラグのオン情報を記憶して、ステップ1400-1の処理に移行する。次に、ステップ1400-1で、第1・第2主遊技図柄制御手段MP11-Cは、時短B設定処理を実行し、ステップ1418の処理に移行する。他方、ステップ1417-1、ステップ1417-2、ステップ1417-4でNoの場合にもステップ1418の処理に移行する。次に、ステップ1418で、第1・第2主遊技図柄制御手段MP11-Cは、第1・第2主遊技状態一時記憶手段MB10-Cのフラグエリア内にある、変動中フラグをオンにし、ステップ1420に移行する。

【3380】

他方、ステップ1403でNoの場合、ステップ1419で、第1・第2主遊技図柄制御手段MP11-Cは、第1・第2主遊技状態一時記憶手段MB10-Cのフラグエリアを参照し、変動中フラグがオンであるか否かを判定する。ステップ1419でYesの場合にはステップ1420に移行し、ステップ1419でNoの場合には次の処理（ステップ1550の処理）に移行する。

【3381】

次に、ステップ1420で、第1・第2主遊技図柄制御手段MP11-Cは、主遊技図柄の変動時間に係る所定時間に到達したか否かを判定する。ステップ1420でYesの場合、ステップ1422で、第1・第2主遊技図柄制御手段MP11-Cは、図柄変動が終了する旨の情報（図柄確定表示指示コマンド）を、サブメイン制御部SM側に送信するためのコマンド送信用バッファMT10にセット（ステップ1999の制御コマンド送信処理によってサブメイン制御部SM側に送信される）する。次に、ステップ1423で、第1・第2主遊技図柄制御手段MP11-Cは、第1主遊技図柄表示装置A20（第2主遊技図柄表示装置B20）の第1主遊技図柄表示部A21g（第2主遊技図柄表示部B21g）上での主遊技図柄の変動表示を停止し、第1・第2主遊技図柄情報一時記憶手段MB11b-Cに記憶されている停止図柄を確定停止図柄として表示制御する。次に、ステップ1428で、第1・第2主遊技図柄制御手段MP11-Cは、第1・第2主遊技状態一時記憶手段MB10-Cのフラグエリア内にある、変動中フラグをオフにする。

【3382】

次に、ステップ1430で、遊技内容決定手段MNは、第1・第2主遊技図柄情報一時記憶手段MB11b-Cを参照し、当該主遊技図柄の停止図柄が大当たり図柄であるか否かを判定する。ステップ1430でYesの場合、ステップ1432で、遊技内容決定手段MNは、特別遊技関連情報一時記憶手段MB20bのフラグエリア内にある、条件装置作動フラグをオンにする。他方、ステップ1430でNoの場合には、ステップ1430-1に移行する。次に、ステップ1430-1で、遊技内容決定手段MNは、第1・第2主

遊技図柄情報一時記憶手段MB11b-Cを参照し、当該主遊技図柄の停止図柄が小当り図柄であるか否かを判定する。ステップ1430-1でYesの場合、ステップ1432-1で、遊技内容決定手段MNは、特別遊技関連情報一時記憶手段MB20bのフラグエリア内にある、小当りフラグをオンにする。他方、ステップ1430-1でNoの場合には、ステップ1430-2に移行する。次に、ステップ1430-2で、遊技内容決定手段MNは、第1・第2主遊技図柄情報一時記憶手段MB11b-Cを参照し、当該主遊技図柄の停止図柄が時短図柄であるか否かを判定する。ステップ1430-2でYesの場合、ステップ1400-2で、第1・第2主遊技図柄制御手段MP11-Cは、時短C設定処理を実行する。なお、時短Cフラグを用いる場合、遊技内容決定手段MNは、特別遊技関連情報一時記憶手段MB20bのフラグエリア内にある、時短Cフラグをオンにする。他方、ステップ1430-2でNoの場合には、ステップ1400-2をスキップして、ステップ1500に移行する。

10

【3383】

次に、ステップ1500で、特定遊技制御手段MP50は、後述の特定遊技終了判定処理を実行し、次の処理（ステップ1550の処理）に移行する。尚、ステップ1420でNoの場合にも、次の処理（ステップ1550の処理）に移行する。

【3384】

次に、図426を用いて、変動停止時に時短Bフラグをオンにする処理を説明する。図426は、本実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での第1（第2）主遊技図柄表示処理のフローチャートであって、主遊技図柄の図柄変動の変動終了時または変動停止時{変動固定時間経過（例えば、500ms）時}に作動回数をカウントする図である。尚、本処理は、第1主遊技図柄側と第2主遊技図柄とで略同一の処理となるため、第1主遊技図柄側について主に説明し、第2主遊技図柄側の処理については括弧書きとする。

20

【3385】

まず、ステップ1403で、保留消化制御手段MJ31は、変動開始条件が成立しているか否かを判定する。ここで、当該変動開始条件は、特別遊技中（又は条件装置作動中）でない、且つ、主遊技図柄変動中でない、且つ、主遊技図柄の保留が存在することが条件となる。

【3386】

ステップ1403でYesの場合、ステップ1405及びステップ1406で、保留消化制御手段MJ31は、第1主遊技図柄保留情報一時記憶手段MJ32b-A（第2主遊技図柄保留情報一時記憶手段MJ32b-B）に一時記憶されている、今回の図柄変動に係る第1主遊技内容決定乱数（第2主遊技内容決定乱数）を読み出すと共に、第1主遊技図柄保留情報一時記憶手段MJ32b-A（第2主遊技図柄保留情報一時記憶手段MJ32b-B）から削除し、当該一時記憶されている残りの情報をシフトする（保留消化処理）。次に、ステップ1410-1で、当否抽選手段MN10は、各遊技状態に対応する第1主遊技用当否抽選テーブルMN11ta-A（第2主遊技用当否抽選テーブルMN11ta-B）を参照し、第1主遊技内容決定乱数（第2主遊技内容決定乱数）（特に、当選抽選乱数）に基づき、主遊技図柄当否抽選を実行する。

30

40

【3387】

次に、ステップ1410-2で、第1主遊技図柄決定手段MN41-A（第2主遊技図柄決定手段MN41-B）は、第1主遊技図柄決定用抽選テーブルMN41ta-A（第2主遊技図柄決定用抽選テーブルMN41ta-B）を参照し、主遊技図柄当否抽選結果及び第1主遊技内容決定乱数（第2主遊技内容決定乱数）（特に、図柄抽選乱数）に基づいて主遊技図柄に関する停止図柄を決定し、これらを第1・第2主遊技図柄情報一時記憶手段MB11b-Cに一時記憶する。

【3388】

次に、ステップ1410-3で、第1主遊技変動態様決定手段MN51-A（第2主遊技変動態様決定手段MN51-B）は、各遊技状態に対応する第1主遊技変動態様決定用

50

抽選テーブルMN51t a - A（第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルMN51t a - B）を参照し、主遊技図柄当否抽選結果及び第1主遊技内容決定乱数（第2主遊技内容決定乱数）（特に、変動態様抽選乱数）に基づいて主遊技図柄の変動態様を決定し、これらを第1・第2主遊技図柄情報一時記憶手段MB11b - Cに一時記憶して、ステップ1414に移行する。

【3389】

次に、ステップ1414で、遊技内容決定手段MNは、第1・第2主遊技図柄情報一時記憶手段MB11b - Cに一時記憶された図柄変動表示開始指示コマンド（停止図柄情報、停止図柄の属性情報、変動態様情報等の決定した主遊技図柄に関する情報及び現在の遊技状態に係るコマンド等）を、サブメイン制御部SM側へ送信するためのコマンド送信用バッファMT10にセット（ステップ1999の制御コマンド送信処理によってサブメイン制御部SM側へ送信される）する。次に、ステップ1416で、第1・第2主遊技図柄制御手段MP11 - Cが、主遊技図柄の変動時間に係る所定時間を第1・第2主遊技図柄変動管理用タイマMP11t - Cにセットする。次に、ステップ1417で、第1・第2主遊技図柄制御手段MP11 - Cは、第1主遊技図柄表示装置A20（第2主遊技図柄表示装置B20）の第1主遊技図柄表示部A21g（第2主遊技図柄表示部B21g）上で、第1・第2主遊技図柄情報一時記憶手段MB11b - Cに記憶された変動態様に従い、主遊技図柄の変動表示を開始する。次に、ステップ1418で、第1・第2主遊技図柄制御手段MP11 - Cは、第1・第2主遊技状態一時記憶手段MB10 - Cのフラグエリア内にある、変動中フラグをオンにし、ステップ1420に移行する。

【3390】

他方、ステップ1403でNoの場合、ステップ1419で、第1・第2主遊技図柄制御手段MP11 - Cは、第1・第2主遊技状態一時記憶手段MB10 - Cのフラグエリアを参照し、変動中フラグがオンであるか否かを判定する。ステップ1419でYesの場合にはステップ1420に移行し、ステップ1419でNoの場合には次の処理（ステップ1550の処理）に移行する。

【3391】

次に、ステップ1420で、第1・第2主遊技図柄制御手段MP11 - Cは、主遊技図柄の変動時間に係る所定時間に到達したか否かを判定する。ステップ1420でYesの場合、ステップ1422で、第1・第2主遊技図柄制御手段MP11 - Cは、図柄変動が終了する旨の情報（図柄確定表示指示コマンド）を、サブメイン制御部SM側へ送信するためのコマンド送信用バッファMT10にセット（ステップ1999の制御コマンド送信処理によってサブメイン制御部SM側へ送信される）する。次に、ステップ1423で、第1・第2主遊技図柄制御手段MP11 - Cは、第1主遊技図柄表示装置A20（第2主遊技図柄表示装置B20）の第1主遊技図柄表示部A21g（第2主遊技図柄表示部B21g）上での主遊技図柄の変動表示を停止し、第1・第2主遊技図柄情報一時記憶手段MB11b - Cに記憶されている停止図柄を確定停止図柄として表示制御する。

【3392】

次に、ステップ1423 - 1で、遊技内容決定手段MNは、第1・第2主遊技図柄情報一時記憶手段MB11b - Cを参照し、当該主遊技図柄の停止図柄がハズレ図柄又は時短図柄であるか否かを判定する。なお、ステップ1423で停止した停止図柄がハズレ図柄又は時短図柄であるか否かを判定するようにしても良い。ステップ1423 - 1でYesの場合、ステップ1423 - 2で、作動回数nが0より大きいのか否かを判定する。ステップ1423 - 2でYesの場合、ステップ1423 - 3で、第1・第2主遊技図柄制御手段MP11 - Cは、作動回数nのカウント値から1を減算して、作動回数をカウントする。なお、作動回数nのカウント値から1を減算する手法ではなく、作動回数nのカウント値に1を追加して、作動回数をカウントする増加の手法でも良い。次に、ステップ1423 - 4で、第1・第2主遊技図柄制御手段MP11 - Cは、作動回数nが0であるか否かを判定する。なお、減算する手法ではなく増加の手法の場合は、作動回数nが、例えば1000であるか否かを判定する。ステップ1423 - 4でYesの場合、ステップ14

23-5で、第1・第2主遊技図柄制御手段MP11-Cは、時短Bフラグをオンに設定し、時短Bフラグのオン情報を記憶して、ステップ1400-1の処理に移行する。次に、ステップ1400-1で、第1・第2主遊技図柄制御手段MP11-Cは、時短B設定処理を実行し、ステップ1428の処理に移行する。他方、ステップ1423-1、ステップ1423-2、ステップ1423-4でNoの場合にもステップ1428の処理に移行する。次に、ステップ1428で、第1・第2主遊技図柄制御手段MP11-Cは、第1・第2主遊技状態一時記憶手段MB10-Cのフラグエリア内にある、変動中フラグをオフにする。

【3393】

次に、ステップ1430で、遊技内容決定手段MNは、第1・第2主遊技図柄情報一時記憶手段MB11b-Cを参照し、当該主遊技図柄の停止図柄が大当り図柄であるか否かを判定する。ステップ1430でYesの場合、ステップ1432で、遊技内容決定手段MNは、特別遊技関連情報一時記憶手段MB20bのフラグエリア内にある、条件装置作動フラグをオンにする。他方、ステップ1430でNoの場合には、ステップ1430-1に移行する。次に、ステップ1430-1で、遊技内容決定手段MNは、第1・第2主遊技図柄情報一時記憶手段MB11b-Cを参照し、当該主遊技図柄の停止図柄が小当り図柄であるか否かを判定する。ステップ1430-1でYesの場合、ステップ1432-1で、遊技内容決定手段MNは、特別遊技関連情報一時記憶手段MB20bのフラグエリア内にある、小当りフラグをオンにする。他方、ステップ1430-1でNoの場合には、ステップ1430-2に移行する。次に、ステップ1430-2で、遊技内容決定手段MNは、第1・第2主遊技図柄情報一時記憶手段MB11b-Cを参照し、当該主遊技図柄の停止図柄が時短図柄であるか否かを判定する。ステップ1430-2でYesの場合、ステップ1400-2で、第1・第2主遊技図柄制御手段MP11-Cは、時短C設定処理を実行する。なお、時短Cフラグを用いる場合、遊技内容決定手段MNは、特別遊技関連情報一時記憶手段MB20bのフラグエリア内にある、時短Cフラグをオンにする。他方、ステップ1430-2でNoの場合には、ステップ1400-2をスキップして、ステップ1500に移行する。

【3394】

次に、ステップ1500で、特定遊技制御手段MP50は、後述の特定遊技終了判定処理を実行し、次の処理（ステップ1550の処理）に移行する。尚、ステップ1420でNoの場合にも、次の処理（ステップ1550の処理）に移行する。

【3395】

次に、図427を用いて、時短B設定処理を説明する。図427は、図425、図426、後述する図431、図432、図433におけるステップ1400-1のサブルーチンに係る、時短B設定処理のフローチャートである。まず、ステップ1400-1-1で、主制御基板MのCPUMCは、時短Bフラグがオンであるか判定する。ステップ1400-1-1でYesの場合、ステップ1400-1-3で、主制御基板MのCPUMCは、時短の作動中ではないか否かを判定する。つまり、時短Aも時短Cも作動していないかを判定する。ステップ1400-1-3でYesの場合、ステップ1400-1-9で、主制御基板MのCPUMCは、時短回数カウンタMP52cのカウント値に時短回数（例えば、100）をセットする。一方、ステップ1400-1-3でNoの場合、ステップ1400-1-5で、主制御基板MのCPUMCは、時短A、時短Cが作動中であるか否かを判定する。ステップ1400-1-5でYesの場合、ステップ1400-1-7で、主制御基板MのCPUMCは、時短A、時短Cの作動を終了させ、ステップ1400-1-9に移行してから、ステップ1400-1-11に移行する。なお、ステップ1400-1-7では、時短Aの作動に基づく補助遊技時短Aフラグ、時短Cの作動に基づく補助遊技時短Cフラグをオンからオフにするように構成されている。次に、ステップ1400-1-11で、主制御基板MのCPUMCは、主遊技時短フラグをオンにする。次に、ステップ1400-1-13で、主制御基板MのCPUMCは、補助遊技時短Bフラグをオンにする。一方、ステップ1400-1-1、ステップ1400-1-5でNoの場合

10

20

30

40

50

、次の処理に移行する。

【3396】

時短Bフラグは、時短B中ではオンとなり得る一方、時短B以外の遊技状態（時短Aや時短C、低ベース状態等）ではオフとなり得るよう構成されており、時短Cが作動している遊技状態において時短Bの実行契機となった場合には、時短Bフラグを参照し、時短Cよりも時短Bを優先して、時短Bを作動させるように構成されている。このように構成することによって、時短Bをその他の時間短縮遊技状態よりも優先的に作動させることができるようになっている。

【3397】

ここで、補助遊技時短Bフラグを説明する。時短Bは、以下の（１）～（３）の機能のすべてを有効とする遊技状態又は少なくとも１つを有効とする遊技状態に構成されていれば良いように構成されている。

（１）補助遊技図柄の当選確率を変更（例えば、第２主遊技始動口電動役物B11dの開放当選確率を高くする）する遊技状態である。

（２）第２主遊技始動口電動役物の開放態様を変更（例えば、第２主遊技始動口電動役物B11dの開放期間を長くする）する遊技状態である。

（３）補助遊技図柄の変動態様（変動時間）を変更（第２主遊技始動口電動役物B11dの開放抽選の結果報知の時間を短くする）する遊技状態である。

【3398】

本例では、補助遊技時短Bフラグがオンとなっている場合、（２）及び（３）とからなる時短Bが作動するように構成されている。本例の時短Bは、（１）の機能は有さないように構成されているが、（１）の機能を有するように構成しても良い。なお、時短Bは、時短Aや時短Cよりも有利な時間短縮遊技状態（例えば、第２主遊技始動口電動役物B11dの開放期間が一番長い時間短縮遊技状態）となっている。

【3399】

次に、図428を用いて、時短Aよりも時短Cを優先する場合の時短C設定処理を説明する。図428は、図425、図426、後述する図432、図433におけるステップ1400-2のサブルーチンに係る、時短C設定処理のフローチャートであり、時短Aよりも時短Cを優先する場合の時短C設定処理となっている。まず、ステップ1400-2-1で、主制御基板MのCPUMCは、時短Bフラグがオフであるか判定する。ステップ1400-2-1でYesの場合、ステップ1400-2-3で、主制御基板MのCPUMCは、時短Aが未作動であるか否かを判定する。つまり、低確低ベース状態または高確低ベース状態であるか否かを判定する。ステップ1400-2-3でYesの場合、つまり、時短Aが作動していない場合、ステップ1400-2-9で、主制御基板MのCPUMCは、時短回数カウンタMP52cのカウント値に時短回数（例えば、100）をセットする。一方、ステップ1400-2-3でNoの場合、ステップ1400-2-5で、主制御基板MのCPUMCは、時短Aの作動を終了させ、ステップ1400-2-9に移行してから、ステップ1400-2-11に移行する。つまり、時短Aが作動している状態で時短Cが作動した場合は、時短Aよりも時短Cを優先させる処理を実行するように構成している。なお、ステップ1400-2-5では、時短Aの作動に基づく補助遊技時短Aフラグをオンからオフにするように構成されている。次に、ステップ1400-2-11で、主制御基板MのCPUMCは、主遊技時短フラグをオンにする。次に、ステップ1400-2-13で、主制御基板MのCPUMCは、補助遊技時短Cフラグをオンにする。一方、ステップ1400-2-1でNoの場合、次の処理（ステップ1500）に移行するが、時短Bフラグがオンになっているため、時短Cよりも時短Bを優先して作動させるようになっている。つまり、時短Bが作動している状態（時短Bフラグがオンである状態）で時短図柄が当選し、時短Cを作動させようとした場合、時短Bフラグを参照し、時短Cよりも時短Bを優先させて、時短Bを継続して作動させるように構成されている。

【3400】

ここで、補助遊技時短Cフラグを説明する。時短Cは、以下の（１）～（３）の機能の

10

20

30

40

50

すべてを有効とする遊技状態又は少なくとも1つを有効とする遊技状態に構成されていれば良いように構成されている。

(1) 補助遊技図柄の当選確率を変更(例えば、第2主遊技始動口電動役物B11dの開放当選確率を高くする)する遊技状態である。

(2) 第2主遊技始動口電動役物の開放態様を変更(例えば、第2主遊技始動口電動役物B11dの開放期間を長くする)する遊技状態である。

(3) 補助遊技図柄の変動態様(変動時間)を変更(第2主遊技始動口電動役物B11dの開放抽選の結果報知の時間を短くする)する遊技状態である。

【3401】

本例では、補助遊技時短Cフラグがオンとなっている場合、(2)及び(3)とからなる時短Cが作動するように構成されている。本例の時短Cは、(1)の機能は有さないように構成されているが、(1)の機能を有するように構成しても良い。また、当選した時短図柄に応じて、時短Cの機能が異なるように構成されていても良い。例えば、時短図柄Aが当選した場合は、(2)、(3)とからなる時短Cとし、時短図柄Bが当選した場合は、(1)、(2)、(3)とからなる時短Cとし、時短図柄Cが当選した場合は、(2)、(3)とからなる時短Cであるが、時短図柄Aよりも第2主遊技始動口電動役物B11dの開放期間を長くする時短Cとし、時短図柄Dが当選した場合は、(2)、(3)とからなる時短Cであるが、時短図柄Aよりも第2主遊技始動口電動役物B11dの開放抽選の結果報知の時間を短くする時短Cとなるよう、第2主遊技始動口電動役物B11dの開放当選確率、第2主遊技始動口電動役物B11dの開放期間、第2主遊技始動口電動役物B11dの開放抽選の結果報知の時間を組み合わせた機能と、時短図柄と、が対応するように構成しておけば良い。

【3402】

次に、図429を用いて、時短Cよりも時短Aを優先する場合の時短C設定処理を説明する。図429は、図425、図426、後述する図432、図433におけるステップ1400-2のサブルーチンに係る、時短C設定処理のフローチャートであり、時短Cよりも時短Aを優先する場合の時短C設定処理となっている。まず、ステップ1400-2-1で、主制御基板MのCPUMCは、時短Bフラグがオフであるか判定する。ステップ1400-2-1でYesの場合、ステップ1400-2-3で、主制御基板MのCPUMCは、時短Aが未作動であるか否かを判定する。つまり、低確低ベース状態または高確低ベース状態であるか否かを判定する。ステップ1400-2-3でYesの場合、つまり、時短Aが作動していない場合、ステップ1400-2-9で、主制御基板MのCPUMCは、時短回数カウンタMP52cのカウンタ値に時短回数(例えば、100)をセットする。次に、ステップ1400-2-11では、主制御基板MのCPUMCは、主遊技時短フラグをオンにする。次に、ステップ1400-2-13では、主制御基板MのCPUMCは、補助遊技時短Cフラグをオンにする。一方、ステップ1400-2-1でNoの場合、次の処理(ステップ1500)に移行するが、時短Bフラグがオンになっているため、時短Cよりも時短Bを優先して作動させるようになっている。つまり、時短Bが作動している状態(時短Bフラグがオンである状態)で時短図柄が当選し、時短Cを作動させようとした場合、時短Bフラグを参照し、時短Cよりも時短Bを優先させて、時短Bを継続して作動させるように構成されている。また、ステップ1400-2-3でNoの場合も、次の処理(ステップ1500)に移行する。つまり、時短Aが作動している状態で時短Cを作動させようとした場合は、時短Cを作動させず時短Aを継続して作動させるように構成して、時短Cよりも時短Aを優先させる処理を実行するように構成されている。

【3403】

次に、外部端子板(外部中継端子板G)への外端信号について説明する。本実施形態のぱちんこ遊技機は、時短Bフラグがオンになったことに基づいて、主制御基板MのCPUMCが、時短Bが作動していることを示す外端信号(時短B信号)を2000msの期間に亘って1回だけ外部中継端子板Gへ出力するように構成されている。なお、時短Bフラグがオンになったことに基づいて、時短B信号を外部中継端子板Gへ出力するのではなく

10

20

30

40

50

、作動回数 n が 0（インクリメントの場合、つまり増加の場合は、作動回数 n が 1 0 0 0 等）となったタイミングで、時短 B 信号を外部中継端子板 G へ出力するように構成しても良い。時短 B 信号を 2 0 0 0 m s の期間に亘って外部中継端子板 G へ出力する構成は、デクリメントタイマに 2 0 0 0 m s を設定し、デクリメントタイマが 0 になるまで時短 B 信号を出力するように構成されている。インクリメントタイマを用いる場合は、0 からインクリメントタイマをスタートさせ 2 0 0 0 m s になるまで時短 B 信号を出力するように構成すれば良い。このように構成することによって、時短 B を適切に管理することができる。また、図 4 2 7 ～ 4 2 9 で、時短 A の作動中に時短 B が発生した場合、時短 C の作動中に時短 B が発生した場合、時短 B の作動中に時短 C が発生した場合、時短 B フラグを参照することによって、時短 B をその他の時短である時短 A や時短 C よりも優先して作動させることを説明してきた。つまり、時短 B フラグは、時短 B とその他の時短（時短 A、時短 C 等）との優先度を確認するためのフラグであるとともに、時短 B 信号を外部中継端子板 G へ出力する契機となるフラグである。また、時短 B 信号を時短 B が作動している期間に亘って外部中継端子板 G へ出力するように構成しても良い。

【3 4 0 4】

また、主制御基板 M の C P U M C は、時短 B 信号とともに連荘信号を外部中継端子板 G へ出力するように構成しても良い。なお、連荘信号は、時短 B の作動中の期間に亘って出力するように構成されることが好適である。今までのぱちんこ遊技機は、時短 A の作動中に連荘信号を出力し、時短 A の作動中に大当たりとなった場合は、連荘となるように構成されている。本実施形態のぱちんこ遊技機においては、大当たりにならなくても時間短縮遊技状態である時短 B が作動する。そして、この時短 B の作動中に大当たりとなった場合は、連荘となるように構成されているので、今までにない斬新な遊技性を実現することができる。

【3 4 0 5】

次に、図 4 3 0 を用いて、特別遊技終了後の遊技状態決定処理を説明する。図 4 3 0 は、第 2 4 実施形態における、図 2 8 におけるステップ 1 6 5 0（第 2 4）のサブルーチンに係る、特別遊技終了後の遊技状態決定処理のフローチャートである。まず、ステップ 1 6 8 2 - 1 で、主制御基板 M の C P U M C は、V 入賞口 C 2 2 への入球を契機とした特別遊技終了後ではないか否かを判定する（第 2 4 実施形態においては、小当たり遊技中に V 入賞口 C 2 2 へ遊技球が入球することを契機として、特別遊技が実行されるよう構成されている）。ステップ 1 6 8 2 - 1 で Y e s の場合、ステップ 1 6 8 2 - 2 で、主制御基板 M の C P U M C は、停止図柄が大当たり図柄（特別遊技の実行終了後に時間短縮遊技状態に移行する大当たり図柄であり、本例では、4 B、5 A、5 B、7 A、7 B）であるか否かを判定する。ステップ 1 6 8 2 - 2 で Y e s の場合、ステップ 1 6 8 2 - 5 に移行する。次に、ステップ 1 6 8 2 - 5 で、主制御基板 M の C P U M C は、時短回数カウンタ M P 5 2 c のカウンタ値に所定回数（本例では、1 0 0 回）をセットし、ステップ 1 6 8 2 - 6 に移行する。

【3 4 0 6】

一方、ステップ 1 6 8 2 - 1 で N o の場合、ステップ 1 6 8 2 - 3 で、主制御基板 M の C P U M C は、停止図柄が小当たり図柄（小当たり遊技から特別遊技に移行し、特別遊技の実行終了後に時間短縮遊技状態に移行する小当たり図柄であり、本例では、7 A K、7 B K）であるか否かを判定する。次に、ステップ 1 6 8 2 - 4 で、主制御基板 M の C P U M C は、時短回数カウンタ M P 5 2 c のカウンタ値に所定回数（本例では、1 0 0 回）をセットし、ステップ 1 6 8 2 - 6 に移行する。なお、ステップ 1 6 8 2 - 4 とステップ 1 6 8 2 - 5 の時短回数カウンタ M P 5 2 c のカウンタ値にセットする回数が同じ回数である場合は、2 つの処理を共通の一の処理としても良い。

【3 4 0 7】

次に、ステップ 1 6 8 2 - 6 で、主制御基板 M の C P U M C は、主遊技時短フラグをオンにする。次に、ステップ 1 6 8 2 - 7 で、主制御基板 M の C P U M C は、補助遊技時短 A フラグをオンにする。次に、ステップ 1 6 8 2 - 9 で、主制御基板 M の C P U M C は、時短 B フラグをリセットして、次の処理に移行する。また、ステップ 1 6 8 2 - 2、ステ

アップ1682-3でNoの場合は、本処理を終了して、次の処理に移行する。

【3408】

ここで、時短Bフラグをリセットするとは、作動回数nを減算する手法の場合、作動回数nをセット（例えば、作動回数nの初期値である1000をセット）することが該当する。また、作動回数nの増加の手法の場合は、作動回数nの記憶領域をクリアして初期値である0とすることが該当する。なお、作動回数nの増加の手法の場合は、作動回数nの初期値として、0をセットすることとしても良い。なお、時短Bフラグをリセットのタイミングとしては、このタイミングに限らず、他の遊技状態から低確低ベース状態となったタイミングや高確高ベース状態から高確低ベース状態になったタイミングなどがあげられる。そして、時短Bフラグをリセットの処理として、時短Bフラグをオンからオフにするように構成しても良い。なお、時短Bフラグのオンからオフへの処理のタイミングは、ステップ1600の特別遊技制御処理で実行しても良いし、小当りの場合であれば、ステップ1950のV入賞口入球判定処理におけるステップ1960の条件装置作動予約フラグをオンにした後に実行しても良い。

10

【3409】

次に、補助遊技時短Aフラグを説明する。時短Aは、以下の（1）～（3）の機能のすべてを有効とする遊技状態又は少なくとも1つを有効とする遊技状態に構成されていれば良いように構成されている。

（1）補助遊技図柄の当選確率を変更（例えば、第2主遊技始動口電動役物B11dの開放当選確率を高くする）する遊技状態である。

20

（2）第2主遊技始動口電動役物の開放態様を変更（例えば、第2主遊技始動口電動役物B11dの開放期間を長くする）する遊技状態である。

（3）補助遊技図柄の変動態様（変動時間）を変更（第2主遊技始動口電動役物B11dの開放抽選の結果報知の時間を短くする）する遊技状態である。

【3410】

本例では、補助遊技時短Aフラグがオンとなっている場合、（1）～（3）とからなる時短Aが作動するように構成されている。また、当選した当り図柄（大当り図柄、小当り図柄）に応じて、時短Aの機能が異なるように構成されていても良い。例えば、当り図柄Aが当選した場合は、（2）、（3）とからなる時短Aとし、当り図柄Bが当選した場合は、（1）、（2）、（3）とからなる時短Aとし、当り図柄Cが当選した場合は、（2）、（3）とからなる時短Aであるが、当り図柄Aよりも第2主遊技始動口電動役物B11dの開放期間を長くする時短Aとし、当り図柄Dが当選した場合は、（2）、（3）とからなる時短Aであるが、当り図柄Aよりも第2主遊技始動口電動役物B11dの開放抽選の結果報知の時間を短くする時短Aとなるよう、第2主遊技始動口電動役物B11dの開放当選確率、第2主遊技始動口電動役物B11dの開放期間、第2主遊技始動口電動役物B11dの開放抽選の結果報知の時間を組み合わせた機能と、当り図柄と、を対応させるように構成しておけば良い。

30

【3411】

本例では、補助遊技時短Aフラグがオンとなっている場合、（1）～（3）とからなる時短Aが作動するように構成されている。そして、本例では、補助遊技時短Cフラグがオンとなっている場合、（2）及び（3）とからなる時短Cが作動するように構成されている。時短Aが作動していない場合において、時短図柄に当選した場合は、（2）及び（3）とからなる時短Cが作動するように構成されている。一方、図428のステップ1400-2-3で時短Aが作動している場合（Noの場合）において、時短図柄に当選した場合は、ステップ1400-2-5の処理を実行して、時短Aの作動を終了するように構成しているが、（1）の機能は終了させないように構成しても良い。つまり、時短Aが作動している状態において、時短Cが時短Aに優先して作動する場合、（1）、（2）、（3）の機能を有する時短Cが作動するように構成されるように構成しても良い。このように時短Aが作動中であるか否かに応じて、時短Cの機能が異なるように構成することによって、時短Cであっても、時短Aと同等の性能を持たせることができる。

40

50

【3412】

次に、小当りVタイプや1種+1種小当りVタイプにおいて、作動回数nが0（減算する手法の場合の1000回転目）の図柄変動の抽選結果が小当りとなる場合、当該図柄変動中のいずれのタイミングであっても時短Bを作動させず、その後の小当り遊技において遊技球がV領域を通過しなかった場合に時短Bを作動させる構成について、図425、図426、図431を用いて説明する。

【3413】

まず、主制御基板側での第1（第2）主遊技図柄表示処理については、図425、図426の通りであり、作動回数nが0（減算する手法の場合の1000回転目）の図柄変動の抽選結果が小当りであっても、第1（第2）主遊技図柄表示処理においては、作動回数nの更新を行わないように構成されている。

10

【3414】

次に、図431を用いて、小当り遊技におけるV入賞口入球判定処理を説明する。図431は、第4実施形態における、図101におけるステップ1950（第3）のサブルーチンに係る、V入賞口入球判定処理のフローチャートである。まず、ステップ1952で、主制御基板MのCPUMCは、条件装置作動予約フラグ（ステップ1960でオンとなるフラグであり、即ち、排出待機時間中においてV領域であるV入賞口C22に遊技球が入球した場合にオンとなるフラグ）がオフであるか否かを判定する。ステップ1952でYesの場合、ステップ1954で、主制御基板MのCPUMCは、V入賞口C22への遊技球の入球があったか否かを判定する。ステップ1954でYesの場合、ステップ1956で、主制御基板MのCPUMCは、V入賞口有効期間（小当り遊技の開始タイミングから、当該小当り遊技に係る排出待機時間終了タイミングまでの期間）内であるか否かを判定する。ステップ1956でYesの場合、ステップ1958で、主制御基板MのCPUMCは、V入賞検出コマンド（後述する、V入賞検出演出を実行するためのコマンド）を、サブメイン制御部SM側に送信するためのコマンド送信用バッファMT10にセット（ステップ1999の制御コマンド送信処理によってサブメイン制御部SM側に送信される）する。次に、ステップ1960で、主制御基板MのCPUMCは、条件装置作動予約フラグをオンにし、次の処理（ステップ1997の処理）に移行する。

20

【3415】

他方、ステップ1952でNoの場合、ステップ1962で、主制御基板MのCPUMCは、V入賞口有効期間（小当り遊技の開始タイミングから、当該小当り遊技に係る排出待機時間終了タイミングまでの期間）が終了したか否かを判定する。ステップ1962でYesの場合、ステップ1963で、主制御基板MのCPUMCは、条件装置作動予約フラグをオフにする。次に、ステップ1964で、主制御基板MのCPUMCは、条件装置作動フラグをオンにし、次の処理（ステップ1997の処理）に移行する。尚、ステップ1962でNoの場合にも、次の処理（ステップ1997の処理）に移行する。

30

【3416】

ステップ1954およびステップ1956でNoの場合、つまり、V入賞口C22への入球がない場合やV入賞口C22への入球があったがV入賞口有効期間内の入球でない場合、ステップ1970で、主制御基板MのCPUMCは、V入賞口有効期間（小当り遊技の開始タイミングから、当該小当り遊技に係る排出待機時間終了タイミングまでの期間）が終了したか否かを判定する。ステップ1970でYesの場合、ステップ1971で、作動回数nが0よりも大きいか否かを判定する。ステップ1971でYesの場合、ステップ1972で、主制御基板MのCPUMCは、作動回数nのカウント値から1を減算して、作動回数をカウントする。なお、作動回数nのカウント値から1を減算する手法ではなく、作動回数nのカウント値に1を追加して、作動回数をカウントする増加の手法でも良い。次に、ステップ1973で、主制御基板MのCPUMCは、作動回数nが0であるか否かを判定する。なお、減算する手法ではなく増加の手法の場合は、作動回数nが、例えば1000であるか否かを判定する。ステップ1973でYesの場合、ステップ1974で、主制御基板MのCPUMCは、時短Bフラグをオンに設定し、時短Bフラグのオ

40

50

ン情報を記憶して、ステップ1400-1の処理に移行する。次に、ステップ1400-1で、主制御基板MのCPUMCは、時短B設定処理を実行し、次の処理（ステップ1997の処理）に移行する。尚、ステップ1970、ステップ1971、ステップ1973でN0の場合にも、次の処理（ステップ1997の処理）に移行する。

【3417】

また、ステップ1956でN0の場合、換言すれば、小当り遊技が実行されていないにも拘わらずV入賞口C22に遊技球が入球する等の不正入球の危険性が高まる場合においては、適宜エラー処理を実行するよう構成しておくことが好適である。尚、V入賞口C22への入球に係る特別遊技のラウンド数は「9R」となっており、「小当り遊技→V入賞口C22への入球に係る特別遊技」の一連の流れを合計すると、小当り遊技に係るラウンド数の「1R」と特別遊技に係るラウンド数の「9R」とで、「10R」となっている。なお、本例では、V入賞口C22（特定領域）へ入球させるラウンドを1Rとして設定していた（つまり、出玉が獲得できるラウンドは、2～10ラウンドの9ラウンド分である）が、V入賞口C22へ入球した後から1Rとして設計してもよい（つまり、1～10ラウンドの10ラウンド分の出玉が獲得できる）。

【3418】

このように作動回数nが0（減算する手法の場合の1000回転目）の図柄変動の抽選結果が小当りとなる場合、V入賞口C22への入球までを含め1の図柄変動の結果として捉えると、V入賞口C22へ入球するか否かに応じて時短Bを作動させるか否かを決定することが最善な時短Bの設定処理となるため、時短Bの作動の処理をシンプルにすることができる。

【3419】

次に、小当りVタイプや1種+1種小当りVタイプにおいて、作動回数nが0（減算する手法の場合の1000回転目）の図柄変動の抽選結果が小当りとなる場合、当該図柄変動中のいずれかのタイミングで時短Bを作動させ、その後の小当り遊技中に遊技球がV領域を通過した場合は時短Bを終了させる構成について図432、図433、図434を用いて説明する。

【3420】

まず、主制御基板側での第1（第2）主遊技図柄表示処理について説明する。図432は、本実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での第1（第2）主遊技図柄表示処理のフローチャートであって、主遊技図柄が小当り図柄（ハズレ図柄、時短図柄の場合も含む）となる図柄変動の変動開始時（図柄変動中も含む）に作動回数をカウントする図である。尚、本処理は、第1主遊技図柄側と第2主遊技図柄とで略同一の処理となるため、第1主遊技図柄側について主に説明し、第2主遊技図柄側の処理については括弧書きとする。

【3421】

まず、ステップ1403で、保留消化制御手段MJ31は、変動開始条件が成立しているか否かを判定する。ここで、当該変動開始条件は、特別遊技中（又は条件装置作動中）でない、且つ、主遊技図柄変動中でない、且つ、主遊技図柄の保留が存在することが条件となる。

【3422】

ステップ1403でYesの場合、ステップ1405及びステップ1406で、保留消化制御手段MJ31は、第1主遊技図柄保留情報一時記憶手段MJ32b-A（第2主遊技図柄保留情報一時記憶手段MJ32b-B）に一時記憶されている、今回の図柄変動に係る第1主遊技内容決定乱数（第2主遊技内容決定乱数）を読み出すと共に、第1主遊技図柄保留情報一時記憶手段MJ32b-A（第2主遊技図柄保留情報一時記憶手段MJ32b-B）から削除し、当該一時記憶されている残りの情報をシフトする（保留消化処理）。次に、ステップ1410-1で、当否抽選手段MN10は、各遊技状態に対応する第1主遊技用当否抽選テーブルMN11t a-A（第2主遊技用当否抽選テーブルMN11t a-B）を参照し、第1主遊技内容決定乱数（第2主遊技内容決定乱数）（特に、当選

10

20

30

40

50

抽選乱数)に基づき、主遊技図柄当否抽選を実行する。

【3423】

次に、ステップ1410-2で、第1主遊技図柄決定手段MN41-A(第2主遊技図柄決定手段MN41-B)は、第1主遊技図柄決定用抽選テーブルMN41ta-A(第2主遊技図柄決定用抽選テーブルMN41ta-B)を参照し、主遊技図柄当否抽選結果及び第1主遊技内容決定乱数(第2主遊技内容決定乱数)(特に、図柄抽選乱数)に基づいて主遊技図柄に関する停止図柄を決定し、これらを第1・第2主遊技図柄情報一時記憶手段MB11b-Cに一時記憶する。

【3424】

次に、ステップ1410-3で、第1主遊技変動態様決定手段MN51-A(第2主遊技変動態様決定手段MN51-B)は、各遊技状態に対応する第1主遊技変動態様決定用抽選テーブルMN51ta-A(第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルMN51ta-B)を参照し、主遊技図柄当否抽選結果及び第1主遊技内容決定乱数(第2主遊技内容決定乱数)(特に、変動態様抽選乱数)に基づいて主遊技図柄の変動態様を決定し、これらを第1・第2主遊技図柄情報一時記憶手段MB11b-Cに一時記憶して、ステップ1414に移行する。

【3425】

次に、ステップ1414で、遊技内容決定手段MNは、第1・第2主遊技図柄情報一時記憶手段MB11b-Cに一時記憶された図柄変動表示開始指示コマンド(停止図柄情報、停止図柄の属性情報、変動態様情報等の決定した主遊技図柄に関する情報及び現在の遊技状態に係るコマンド等)を、サブメイン制御部SM側に送信するためのコマンド送信用バッファMT10にセット(ステップ1999の制御コマンド送信処理によってサブメイン制御部SM側に送信される)する。次に、ステップ1416で、第1・第2主遊技図柄制御手段MP11-Cが、主遊技図柄の変動時間に係る所定時間を第1・第2主遊技図柄変動管理用タイマMP11tc-Cにセットする。次に、ステップ1417で、第1・第2主遊技図柄制御手段MP11-Cは、第1主遊技図柄表示装置A20(第2主遊技図柄表示装置B20)の第1主遊技図柄表示部A21g(第2主遊技図柄表示部B21g)上で、第1・第2主遊技図柄情報一時記憶手段MB11b-Cに記憶された変動態様に従い、主遊技図柄の変動表示を開始する。

【3426】

次に、ステップ1417-1-1で、遊技内容決定手段MNは、第1・第2主遊技図柄情報一時記憶手段MB11b-Cを参照し、当該主遊技図柄の停止図柄が大当り図柄以外であるか否かを判定する。ステップ1417-1-1でYesの場合(例えば、停止図柄が小当り図柄、ハズレ図柄、時短図柄の場合)、ステップ1417-2で、作動回数nが0よりも大きいかなかを判定する。ステップ1417-2でYesの場合、ステップ1417-3で、第1・第2主遊技図柄制御手段MP11-Cは、作動回数nのカウント値から1を減算して、作動回数をカウントする。なお、作動回数nのカウント値から1を減算する手法ではなく、作動回数nのカウント値に1を追加して、作動回数をカウントする増加の手法でも良い。次に、ステップ1417-4で、第1・第2主遊技図柄制御手段MP11-Cは、作動回数nが0であるか否かを判定する。なお、減算する手法ではなく増加の手法の場合は、作動回数nが、例えば1000であるか否かを判定する。ステップ1417-4でYesの場合、ステップ1417-5で、第1・第2主遊技図柄制御手段MP11-Cは、時短Bフラグをオンに設定し、時短Bフラグのオン情報を記憶して、ステップ1400-1の処理に移行する。次に、ステップ1400-1で、第1・第2主遊技図柄制御手段MP11-Cは、時短B設定処理を実行し、ステップ1418の処理に移行する。他方、ステップ1417-1、ステップ1417-2、ステップ1417-4でNoの場合にもステップ1418の処理に移行する。次に、ステップ1418で、第1・第2主遊技図柄制御手段MP11-Cは、第1・第2主遊技状態一時記憶手段MB10-Cのフラグエリア内にある、変動中フラグをオンにし、ステップ1420に移行する。

【3427】

他方、ステップ1403でNoの場合、ステップ1419で、第1・第2主遊技図柄制御手段MP11-Cは、第1・第2主遊技状態一時記憶手段MB10-Cのフラグエリアを参照し、変動中フラグがオンであるか否かを判定する。ステップ1419でYesの場合にはステップ1420に移行し、ステップ1419でNoの場合には次の処理（ステップ1550の処理）に移行する。

【3428】

次に、ステップ1420で、第1・第2主遊技図柄制御手段MP11-Cは、主遊技図柄の変動時間に係る所定時間に到達したか否かを判定する。ステップ1420でYesの場合、ステップ1422で、第1・第2主遊技図柄制御手段MP11-Cは、図柄変動が終了する旨の情報（図柄確定表示指示コマンド）を、サブメイン制御部SM側に送信するためのコマンド送信用バッファMT10にセット（ステップ1999の制御コマンド送信処理によってサブメイン制御部SM側に送信される）する。次に、ステップ1423で、第1・第2主遊技図柄制御手段MP11-Cは、第1主遊技図柄表示装置A20（第2主遊技図柄表示装置B20）の第1主遊技図柄表示部A21g（第2主遊技図柄表示部B21g）上での主遊技図柄の変動表示を停止し、第1・第2主遊技図柄情報一時記憶手段MB11b-Cに記憶されている停止図柄を確定停止図柄として表示制御する。次に、ステップ1428で、第1・第2主遊技図柄制御手段MP11-Cは、第1・第2主遊技状態一時記憶手段MB10-Cのフラグエリア内にある、変動中フラグをオフにする。

【3429】

次に、ステップ1430で、遊技内容決定手段MNは、第1・第2主遊技図柄情報一時記憶手段MB11b-Cを参照し、当該主遊技図柄の停止図柄が大当り図柄であるか否かを判定する。ステップ1430でYesの場合、ステップ1432で、遊技内容決定手段MNは、特別遊技関連情報一時記憶手段MB20bのフラグエリア内にある、条件装置作動フラグをオンにする。他方、ステップ1430でNoの場合には、ステップ1430-1に移行する。次に、ステップ1430-1で、遊技内容決定手段MNは、第1・第2主遊技図柄情報一時記憶手段MB11b-Cを参照し、当該主遊技図柄の停止図柄が小当り図柄であるか否かを判定する。ステップ1430-1でYesの場合、ステップ1432-1で、遊技内容決定手段MNは、特別遊技関連情報一時記憶手段MB20bのフラグエリア内にある、小当りフラグをオンにする。他方、ステップ1430-1でNoの場合には、ステップ1430-2に移行する。次に、ステップ1430-2で、遊技内容決定手段MNは、第1・第2主遊技図柄情報一時記憶手段MB11b-Cを参照し、当該主遊技図柄の停止図柄が時短図柄であるか否かを判定する。ステップ1430-2でYesの場合、ステップ1400-2で、第1・第2主遊技図柄制御手段MP11-Cは、時短C設定処理を実行する。なお、時短Cフラグを用いる場合、遊技内容決定手段MNは、特別遊技関連情報一時記憶手段MB20bのフラグエリア内にある、時短Cフラグをオンにする。他方、ステップ1430-2でNoの場合には、ステップ1400-2をスキップして、ステップ1500に移行する。

【3430】

次に、ステップ1500で、特定遊技制御手段MP50は、後述の特定遊技終了判定処理を実行し、次の処理（ステップ1550の処理）に移行する。尚、ステップ1420でNoの場合にも、次の処理（ステップ1550の処理）に移行する。

【3431】

次に、図433を用いて、変動停止時に時短Bフラグをオンにする処理を説明する。図433は、本実施形態に係るぱちんこ遊技機における、主制御基板側での第1（第2）主遊技図柄表示処理のフローチャートであって、主遊技図柄が小当り図柄（ハズレ図柄、時短図柄の場合も含む）となる図柄変動の変動終了時または変動停止時〔変動固定時間経過（例えば、500ms）時〕に作動回数をカウントする図である。尚、本処理は、第1主遊技図柄側と第2主遊技図柄とで略同一の処理となるため、第1主遊技図柄側について主に説明し、第2主遊技図柄側の処理については括弧書きとする。

【3432】

まず、ステップ1403で、保留消化制御手段MJ31は、変動開始条件が成立しているか否かを判定する。ここで、当該変動開始条件は、特別遊技中（又は条件装置作動中）でない、且つ、主遊技図柄変動中でない、且つ、主遊技図柄の保留が存在することが条件となる。

【3433】

ステップ1403でYesの場合、ステップ1405及びステップ1406で、保留消化制御手段MJ31は、第1主遊技図柄保留情報一時記憶手段MJ32b-A（第2主遊技図柄保留情報一時記憶手段MJ32b-B）に一時記憶されている、今回の図柄変動に係る第1主遊技内容決定乱数（第2主遊技内容決定乱数）を読み出すと共に、第1主遊技図柄保留情報一時記憶手段MJ32b-A（第2主遊技図柄保留情報一時記憶手段MJ32b-B）から削除し、当該一時記憶されている残りの情報をシフトする（保留消化処理）。次に、ステップ1410-1で、当否抽選手段MN10は、各遊技状態に対応する第1主遊技用当否抽選テーブルMN11ta-A（第2主遊技用当否抽選テーブルMN11ta-B）を参照し、第1主遊技内容決定乱数（第2主遊技内容決定乱数）（特に、当選抽選乱数）に基づき、主遊技図柄当否抽選を実行する。

10

【3434】

次に、ステップ1410-2で、第1主遊技図柄決定手段MN41-A（第2主遊技図柄決定手段MN41-B）は、第1主遊技図柄決定用抽選テーブルMN41ta-A（第2主遊技図柄決定用抽選テーブルMN41ta-B）を参照し、主遊技図柄当否抽選結果及び第1主遊技内容決定乱数（第2主遊技内容決定乱数）（特に、図柄抽選乱数）に基づいて主遊技図柄に関する停止図柄を決定し、これらを第1・第2主遊技図柄情報一時記憶手段MB11b-Cに一時記憶する。

20

【3435】

次に、ステップ1410-3で、第1主遊技変動態様決定手段MN51-A（第2主遊技変動態様決定手段MN51-B）は、各遊技状態に対応する第1主遊技変動態様決定用抽選テーブルMN51ta-A（第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルMN51ta-B）を参照し、主遊技図柄当否抽選結果及び第1主遊技内容決定乱数（第2主遊技内容決定乱数）（特に、変動態様抽選乱数）に基づいて主遊技図柄の変動態様を決定し、これらを第1・第2主遊技図柄情報一時記憶手段MB11b-Cに一時記憶して、ステップ1414に移行する。

30

【3436】

次に、ステップ1414で、遊技内容決定手段MNは、第1・第2主遊技図柄情報一時記憶手段MB11b-Cに一時記憶された図柄変動表示開始指示コマンド（停止図柄情報、停止図柄の属性情報、変動態様情報等の決定した主遊技図柄に関する情報及び現在の遊技状態に係るコマンド等）を、サブメイン制御部SM側に送信するためのコマンド送信用バッファMT10にセット（ステップ1999の制御コマンド送信処理によってサブメイン制御部SM側に送信される）する。次に、ステップ1416で、第1・第2主遊技図柄制御手段MP11-Cが、主遊技図柄の変動時間に係る所定時間を第1・第2主遊技図柄変動管理用タイマMP11tc-Cにセットする。次に、ステップ1417で、第1・第2主遊技図柄制御手段MP11-Cは、第1主遊技図柄表示装置A20（第2主遊技図柄表示装置B20）の第1主遊技図柄表示部A21g（第2主遊技図柄表示部B21g）上で、第1・第2主遊技図柄情報一時記憶手段MB11b-Cに記憶された変動態様に従い、主遊技図柄の変動表示を開始する。次に、ステップ1418で、第1・第2主遊技図柄制御手段MP11-Cは、第1・第2主遊技状態一時記憶手段MB10-Cのフラグエリア内にある、変動中フラグをオンにし、ステップ1420に移行する。

40

【3437】

他方、ステップ1403でNoの場合、ステップ1419で、第1・第2主遊技図柄制御手段MP11-Cは、第1・第2主遊技状態一時記憶手段MB10-Cのフラグエリアを参照し、変動中フラグがオンであるか否かを判定する。ステップ1419でYesの場合にはステップ1420に移行し、ステップ1419でNoの場合には次の処理（ステッ

50

プ 1 5 5 0 の処理)に移行する。

【 3 4 3 8 】

次に、ステップ 1 4 2 0 で、第 1・第 2 主遊技図柄制御手段 M P 1 1 - C は、主遊技図柄の変動時間に係る所定時間に到達したか否かを判定する。ステップ 1 4 2 0 で Y e s の場合、ステップ 1 4 2 2 で、第 1・第 2 主遊技図柄制御手段 M P 1 1 - C は、図柄変動が終了する旨の情報（図柄確定表示指示コマンド）を、サブメイン制御部 S M 側に送信するためのコマンド送信用バッファ M T 1 0 にセット（ステップ 1 9 9 9 の制御コマンド送信処理によってサブメイン制御部 S M 側に送信される）する。次に、ステップ 1 4 2 3 で、第 1・第 2 主遊技図柄制御手段 M P 1 1 - C は、第 1 主遊技図柄表示装置 A 2 0（第 2 主遊技図柄表示装置 B 2 0）の第 1 主遊技図柄表示部 A 2 1 g（第 2 主遊技図柄表示部 B 2 1 g）上での主遊技図柄の変動表示を停止し、第 1・第 2 主遊技図柄情報一時記憶手段 M B 1 1 b - C に記憶されている停止図柄を確定停止図柄として表示制御する。

【 3 4 3 9 】

次に、ステップ 1 4 2 3 - 1 - 1 で、遊技内容決定手段 M N は、第 1・第 2 主遊技図柄情報一時記憶手段 M B 1 1 b - C を参照し、当該主遊技図柄の停止図柄が大当り図柄以外であるか否かを判定する。なお、ステップ 1 4 2 3 で停止した停止図柄が、小当り図柄、ハズレ図柄、時短図柄のいずれかであるか否かを判定するようにしても良い。ステップ 1 4 2 3 - 1 - 1 で Y e s の場合（例えば、停止図柄が小当り図柄、ハズレ図柄、時短図柄のいずれかの図柄の場合）、ステップ 1 4 2 3 - 2 で、作動回数 n が 0 よりも大きいかなんかを判定する。ステップ 1 4 2 3 - 2 で Y e s の場合、ステップ 1 4 2 3 - 3 で、第 1・第 2 主遊技図柄制御手段 M P 1 1 - C は、作動回数 n のカウント値から 1 を減算して、作動回数をカウントする。なお、作動回数 n のカウント値から 1 を減算する手法ではなく、作動回数 n のカウント値に 1 を追加して、作動回数をカウントする増加の手法でも良い。次に、ステップ 1 4 2 3 - 4 で、第 1・第 2 主遊技図柄制御手段 M P 1 1 - C は、作動回数 n が 0 であるか否かを判定する。なお、減算する手法ではなく増加の手法の場合は、作動回数 n が、例えば 1 0 0 0 であるか否かを判定する。ステップ 1 4 2 3 - 4 で Y e s の場合、ステップ 1 4 2 3 - 5 で、第 1・第 2 主遊技図柄制御手段 M P 1 1 - C は、時短 B フラグをオンに設定し、時短 B フラグのオン情報を記憶して、ステップ 1 4 0 0 - 1 の処理に移行する。次に、ステップ 1 4 0 0 - 1 で、第 1・第 2 主遊技図柄制御手段 M P 1 1 - C は、時短 B 設定処理を実行し、ステップ 1 4 2 8 の処理に移行する。他方、ステップ 1 4 2 3 - 1、ステップ 1 4 2 3 - 3、ステップ 1 4 2 3 - 4 で N o の場合にもステップ 1 4 2 8 の処理に移行する。次に、ステップ 1 4 2 8 で、第 1・第 2 主遊技図柄制御手段 M P 1 1 - C は、第 1・第 2 主遊技状態一時記憶手段 M B 1 0 - C のフラグエリア内にある、変動中フラグをオフにする。

【 3 4 4 0 】

次に、ステップ 1 4 3 0 で、遊技内容決定手段 M N は、第 1・第 2 主遊技図柄情報一時記憶手段 M B 1 1 b - C を参照し、当該主遊技図柄の停止図柄が大当り図柄であるか否かを判定する。ステップ 1 4 3 0 で Y e s の場合、ステップ 1 4 3 2 で、遊技内容決定手段 M N は、特別遊技関連情報一時記憶手段 M B 2 0 b のフラグエリア内にある、条件装置作動フラグをオンにする。他方、ステップ 1 4 3 0 で N o の場合には、ステップ 1 4 3 0 - 1 に移行する。次に、ステップ 1 4 3 0 - 1 で、遊技内容決定手段 M N は、第 1・第 2 主遊技図柄情報一時記憶手段 M B 1 1 b - C を参照し、当該主遊技図柄の停止図柄が小当り図柄であるか否かを判定する。ステップ 1 4 3 0 - 1 で Y e s の場合、ステップ 1 4 3 2 - 1 で、遊技内容決定手段 M N は、特別遊技関連情報一時記憶手段 M B 2 0 b のフラグエリア内にある、小当りフラグをオンにする。他方、ステップ 1 4 3 0 - 1 で N o の場合には、ステップ 1 4 3 0 - 2 に移行する。次に、ステップ 1 4 3 0 - 2 で、遊技内容決定手段 M N は、第 1・第 2 主遊技図柄情報一時記憶手段 M B 1 1 b - C を参照し、当該主遊技図柄の停止図柄が時短図柄であるか否かを判定する。ステップ 1 4 3 0 - 2 で Y e s の場合、ステップ 1 4 0 0 - 2 で、第 1・第 2 主遊技図柄制御手段 M P 1 1 - C は、時短 C 設定処理を実行する。なお、時短 C フラグを用いる場合、遊技内容決定手段 M N は、特別遊

10

20

30

40

50

技関連情報一時記憶手段MB20bのフラグエリア内にある、時短Cフラグをオンにする。他方、ステップ1430-2でNoの場合には、ステップ1400-2をスキップして、ステップ1500に移行する。

【3441】

次に、ステップ1500で、特定遊技制御手段MP50は、後述の特定遊技終了判定処理を実行し、次の処理（ステップ1550の処理）に移行する。尚、ステップ1420でNoの場合にも、次の処理（ステップ1550の処理）に移行する。

【3442】

次に、図434を用いて、小当り遊技におけるV入賞口入球判定処理を説明する。図434は、第4実施形態における、図101におけるステップ1950（第3）のサブルーチンに係る、V入賞口入球判定処理のフローチャートである。まず、ステップ1952で、主制御基板MのCPUMCは、条件装置作動予約フラグ（ステップ1960でオンとなるフラグであり、即ち、排出待機時間中においてV領域であるV入賞口C22に遊技球が入球した場合にオンとなるフラグ）がオフであるか否かを判定する。ステップ1952でYesの場合、ステップ1954で、主制御基板MのCPUMCは、V入賞口C22への遊技球の入球があったか否かを判定する。ステップ1954でYesの場合、ステップ1956で、主制御基板MのCPUMCは、V入賞口有効期間（小当り遊技の開始タイミングから、当該小当り遊技に係る排出待機時間終了タイミングまでの期間）内であるか否かを判定する。ステップ1956でYesの場合、ステップ1958で、主制御基板MのCPUMCは、V入賞検出コマンド（後述する、V入賞検出演出を実行するためのコマンド）を、サブメイン制御部SM側に送信するためのコマンド送信用バッファMT10にセット（ステップ1999の制御コマンド送信処理によってサブメイン制御部SM側に送信される）する。次に、ステップ1960で、主制御基板MのCPUMCは、条件装置作動予約フラグをオンにする。次に、ステップ1980で、主制御基板MのCPUMCは、主遊技時短フラグをオフにする。次に、ステップ1981で、主制御基板MのCPUMCは、補助遊技時短Bフラグをオフにし、次の処理（ステップ1997の処理）に移行する。

【3443】

他方、ステップ1952でNoの場合、ステップ1962で、主制御基板MのCPUMCは、V入賞口有効期間（小当り遊技の開始タイミングから、当該小当り遊技に係る排出待機時間終了タイミングまでの期間）が終了したか否かを判定する。ステップ1962でYesの場合、ステップ1964で、主制御基板MのCPUMCは、条件装置作動フラグをオンにし、次の処理（ステップ1997の処理）に移行する。尚、ステップ1954、ステップ1956、ステップ1962でNoの場合にも、次の処理（ステップ1997の処理）に移行する。また、ステップ1956でNoの場合、換言すれば、小当り遊技が実行されていないにも拘わらずV入賞口C22に遊技球が入球する等の不正入球の危険性が高まる場合においては、適宜エラー処理を実行するよう構成しておくことが好適である。尚、V入賞口C22への入球に係る特別遊技のラウンド数は「9R」となっており、「小当り遊技→V入賞口C22への入球に係る特別遊技」の一連の流れを合計すると、小当り遊技に係るラウンド数の「1R」と特別遊技に係るラウンド数の「9R」とで、「10R」となっている。なお、本例では、V入賞口C22（特定領域）へ入球させるラウンドを1Rとして設定していた（つまり、出玉が獲得できるラウンドは、2～10ラウンドの9ラウンド分である）が、V入賞口C22へ入球した後から1Rとして設計してもよい（つまり、1～10ラウンドの10ラウンド分の出玉が獲得できる）。

【3444】

このように作動回数nが0（減算する手法の場合の1000回転目）の図柄変動の抽選結果が小当りとなる場合、ハズレ図柄等の場合と同様に図柄変動の実行中に時短Bとなるように構成することで、ハズレ図柄等の場合と共通の処理を用いて時短Bを作動させることができるので、プログラムの容量を削減することができる。また、小当り遊技中にV入賞口C22に入球したことを判定する処理によって、作動している時短Bを終了させることで、時短Bの終了の処理をシンプルにすることができる。

【3445】

次に、図435を用いて、各時短における時短回数、各時短における参照する変動パターンテーブルについて説明する。図435は、各時短における時短回数、各時短における参照する変動パターンテーブルを示す図である。

【3446】

時短Bの時短回数は、時短Aの時短回数よりも大きい値が設定される。時短Cの時短回数は、時短Aの時短回数よりも大きい値が設定される。時短Bの時短回数は、時短Cの時短回数よりも大きい値が設定される。時短Bと時短Cを大当り図柄が停止表示されること以外を契機とする時間短縮遊技状態（特定遊技状態D、時短D）とする場合、時短Dの時短回数は、時短Aの時短回数よりも大きい値が設定されるように構成されている。なお、時短Dは、小当りVタイプのV入賞口C22に遊技球が入球したことを契機として作動する時間短縮遊技状態ではない。なお、時短Bの時短回数は、時短Aの時短回数や時短Cの時短回数よりも小さい値が設定されても良いし、同じ値が設定されても良い。

10

【3447】

次に、各時短における参照する変動パターンテーブルについて説明する。時短Aの作動中は、限定頻度テーブルA1、限定頻度テーブルA2、限定頻度テーブルA3、限定頻度テーブルA4等を参照して変動パターンを選択するように構成されている。限定頻度テーブルA1は、1又は複数の変動パターンから構成される変動パターンテーブルであって、変動パターンの平均の変動時間は、限定頻度テーブルA1～A4のうち一番短いテーブルとなっている。限定頻度テーブルA2～A4は、1又は複数の変動パターンから構成される変動パターンテーブルであって、変動パターンの平均の変動時間は、限定頻度テーブルA1よりも長いテーブルとなっている。なお、限定頻度テーブルA1<限定頻度テーブルA2<限定頻度テーブルA3<限定頻度テーブルA4の順で変動パターンの平均の変動時間が長くなるように構成しても良いし、限定頻度テーブルA1>限定頻度テーブルA2>限定頻度テーブルA3>限定頻度テーブルA4の順で変動パターンの平均の変動時間が短くなるように構成しても良い。なお、各限定頻度テーブルの変動パターンの平均の変動時間が異なるように構成されていれば良い。

20

【3448】

限定頻度とは、特定の図柄（例えば、大当り図柄）が停止表示され、大当り遊技の終了後の主遊技図柄の変動態様の種類及び／又は選択率が、当該特定の図柄が停止表示される前（例えば、通常遊技状態）の主遊技図柄の変動態様の種類及び／又は選択率とは異なる状態（限定頻度状態）のことである。そして、限定頻度テーブルとは、限定頻度状態で使用する変動パターンを選択する際に使用する変動パターンテーブルである。ここでは、大当り遊技の終了を契機とした限られた状態である限定頻度状態においてのみ、通常遊技状態とは異なる変動パターンテーブルである限定頻度テーブルが参照可能な状態となるように構成されている。

30

【3449】

図435の（1）に示すように、時短Aの作動中の期間A1においては、限定頻度テーブルA1を参照して変動パターンを選択するように構成されている。時短Aの作動中の期間A2においては、限定頻度テーブルA2を参照して変動パターンを選択するように構成されている。時短Aの作動中の期間A3においては、限定頻度テーブルA3を参照して変動パターンを選択するように構成されている。時短Aの作動中の期間A4においては、限定頻度テーブルA4を参照して変動パターンを選択するように構成されている。

40

【3450】

次に、時短Dの遊技状態を説明する。時短Dの時短回数（期間）は、時短Aの時短回数（期間）よりも大きく設定（期間が長く設定）されている。そして、時短D中の各期間D1～D4は、時短Aの各期間A1～A4よりも長い期間で構成されていても良い。また、一部の期間が同じ長さの期間に構成されていても良い。例えば、期間A1と期間D1、期間A3と期間D3、期間A4と期間D4とが同じ長さの期間で構成され、期間A2と期間D2とが異なる長さの期間となるように構成する。このように、時短の導入の期間（期間

50

A 1、期間 D 1) や時短の終盤の期間 (期間 A 3、期間 A 4、期間 D 3、期間 D 4) を同じ長さの期間に設定し、それ以外の途中の期間 (期間 A 2、期間 D 2) を異なる長さの期間とすることによって、時短の導入の期間と終盤の期間との演出頻度を、時短 A と時短 D とにおいて共通にすることができるので、遊技者は違和感なく時短の遊技を開始して終了することができる。また、途中の期間 (期間 A 2、期間 D 2) の長さを変えることによって、導入の期間、終盤の期間の演出頻度に影響を与えないようになっている。なお、限定頻度テーブルの参照順番 (例えば、A 1、A 2、A 3、A 4 の順番) が同じであれば、いずれの期間の長さ (遊技の回数) が変わっていても良い。例えば、期間 D 1 を期間 A 1 よりも長く構成することによって、時短 D の導入の期間における遊技者への説明演出 (例えば、上述した時短 B 作動開始演出時短 C 作動開始演出、選択メニュー表示等の演出) にかかる時間を丁寧にすることができる。

10

【3 4 5 1】

参照する限定頻度テーブルについては、図 4 3 5 の (2) に示すように、時短 D の作動中の期間 D 1 においては、限定頻度テーブル A 1 を参照して変動パターンを選択するように構成されている。時短 D の作動中の期間 D 2 においては、限定頻度テーブル A 2 を参照して変動パターンを選択するように構成されている。時短 D の作動中の期間 D 3 においては、限定頻度テーブル A 3 を参照して変動パターンを選択するように構成されている。時短 D の作動中の期間 D 4 においては、限定頻度テーブル A 4 を参照して変動パターンを選択するように構成されている。つまり、図 4 3 5 の (2) においては、時短 D で参照する限定頻度テーブルは、時短 A と同じ限定頻度テーブルを同じ順番で参照するように構成されている。このように構成することによって、時短 A と時短 D とで共通の限定頻度テーブルを使用するので、プログラム容量を削減することができるとともに、プログラムをシンプルにすることができる。

20

【3 4 5 2】

なお、時短 D (例えば、時短 B) において、限定頻度テーブル B 1、限定頻度テーブル B 2、限定頻度テーブル B 3、限定頻度テーブル B 4 等を参照して変動パターンを選択するように構成しても良い。限定頻度テーブル B 1 は、1 又は複数の変動パターンから構成される変動パターンテーブルであって、変動パターンの平均の変動時間は、限定頻度テーブル B 1 ~ B 4 の中で一番短いテーブルとなっている。限定頻度テーブル B 2 ~ B 4 は、1 又は複数の変動パターンから構成される変動パターンテーブルであって、変動パターンの平均の変動時間は、限定頻度テーブル B 1 よりも長いテーブルとなっている。なお、限定頻度テーブル B 1 < 限定頻度テーブル B 2 < 限定頻度テーブル B 3 < 限定頻度テーブル B 4 の順で変動パターンの平均の変動時間が長くなるように構成しても良いし、限定頻度テーブル B 1 > 限定頻度テーブル B 2 > 限定頻度テーブル B 3 > 限定頻度テーブル B 4 の順で変動パターンの平均の変動時間が短くなるように構成しても良い。なお、各限定頻度テーブルの変動パターンの平均の変動時間が異なるように構成されていれば良い。

30

【3 4 5 3】

また、時短 D (例えば、時短 C) において、限定頻度テーブル C 1、限定頻度テーブル C 2、限定頻度テーブル C 3、限定頻度テーブル C 4 等を参照して変動パターンを選択するように構成しても良い。限定頻度テーブル C 1 は、1 又は複数の変動パターンから構成される変動パターンテーブルであって、変動パターンの平均の変動時間は、C 1 ~ C 4 の中で一番短いテーブルとなっている。限定頻度テーブル C 2 ~ C 4 は、1 又は複数の変動パターンから構成される変動パターンテーブルであって、変動パターンの平均の変動時間は、限定頻度テーブル C 1 よりも長いテーブルとなっている。なお、限定頻度テーブル C 1 < 限定頻度テーブル C 2 < 限定頻度テーブル C 3 < 限定頻度テーブル C 4 の順で変動パターンの平均の変動時間が長くなるように構成しても良いし、限定頻度テーブル C 1 > 限定頻度テーブル C 2 > 限定頻度テーブル C 3 > 限定頻度テーブル C 4 の順で変動パターンの平均の変動時間が短くなるように構成しても良いし、各限定頻度テーブルの変動パターンの平均の変動時間が異なるように構成されていれば良い。なお、限定頻度テーブル B 1、限定頻度テーブル B 2、限定頻度テーブル B 3、限定頻度テーブル B 4 を時短 B 専用の

40

50

限定頻度テーブルとし、限定頻度テーブル C 1、限定頻度テーブル C 2、限定頻度テーブル C 3、限定頻度テーブル C 4 を時短 C 専用の限定頻度テーブルとしても良い。

【3454】

また、図 435 の (3) に示すように、時短 D の作動中の期間 D 1 においては、限定頻度テーブル B 1 や C 1 を参照して変動パターンを選択するように構成し、時短 D の作動中の期間 D 2 においては、限定頻度テーブル B 2 や C 2 を参照して変動パターンを選択するように構成し、時短 D の作動中の期間 D 3 においては、限定頻度テーブル B 3 や C 3 を参照して変動パターンを選択するように構成し、時短 D の作動中の期間 D 4 においては、限定頻度テーブル B 4 や C 4 を参照して変動パターンを選択するように構成してもよい。つまり、時短 D で参照する限定頻度テーブルは、時短 A と全て異なる限定頻度テーブルを参照するように構成しても良い。このように構成することによって、時短 A と時短 D とで異なる変動時間を用いて演出を実行することができるので、時短 A、時短 D の役割に応じた演出を各時短中に実行できる。なお、期間 D 1 と期間 A 1、期間 D 3 と期間 A 3、期間 D 4 と期間 A 4 とが同じ長さの期間で構成され、期間 D 2 と期間 A 2 とが異なる長さの期間となるように構成されているが、このように構成しなくても良い。各期間は、予め定められた期間であれば良い。

10

【3455】

また、図 435 の (4) に示すように、時短 D の作動中の期間 D 1 においては、限定頻度テーブル A 1 を参照して変動パターンを選択するように構成し、時短 D の作動中の期間 D 2 においては、限定頻度テーブル B 2 や C 2 を参照して変動パターンを選択するように構成し、時短 D の作動中の期間 D 3 においては、限定頻度テーブル A 3 を参照して変動パターンを選択するように構成し、時短 D の作動中の期間 D 3 においては、限定頻度テーブル A 3 を参照して変動パターンを選択するように構成してもよい。つまり、時短 D で参照する限定頻度テーブルは、時短 A と一部が同じ限定頻度テーブルを参照するように構成しても良い。このように構成することによって、時短 A と時短 D とで一部の限定頻度テーブルを使用するので、プログラム容量を削減することができるとともに、プログラムをシンプルにすることができるとともに、一部の期間（例えば、比較的期間が長い期間 D 2）については、時短 A と時短 D とで異なる変動時間を用いて演出を実行することができるので、時短 A、時短 D の役割に応じた演出を各時短中に実行できる。なお、期間 D 1 と期間 A 1、期間 D 3 と期間 A 3、期間 D 4 と期間 A 4 とが同じ長さの期間で構成され、期間 D 2 と期間 A 2 とが異なる長さの期間となるように構成されているが、このように構成しなくても良い。各期間は、予め定められた期間であれば良い。

20

30

【3456】

また、図 435 の (5) に示すように、時短 D の作動中の期間においては、変動パターンの平均の変動時間が、限定頻度テーブル A 1 ～ A 4 のうち一番短いテーブルである限定頻度テーブル A 1 を参照して変動パターンを選択するように構成されている。このように構成することによって、最も簡単かつ合理的に時短 B の変動時間を短くすることができ、遊技の途中で大当たりとならずに遊技者が遊技に飽きてきた状況であれば、時短 D において短い変動時間を用いて、より多い回数の時短遊技を実行することにより、時期的に早く遊技者に大当たりを提供することが可能となるようにすることができる。なお、限定頻度テーブル A 1 ではなく、変動パターンの平均の変動時間が、限定頻度テーブル A 1 ～ A 4 のうち一番長い限定頻度テーブルを用いても良い。

40

【3457】

また、時短 D で用いる変動パターンの平均の変動時間は、時短 A で用いる変動パターンの平均の変動時間よりも短く設定されていることが好適である。なお、時短 A で選択される変動パターンの平均の変動時間は、通常遊技状態で選択される変動パターンの平均の変動時間よりも短く設定されている。つまり、変動パターンについて、時短 D の作動中は、時短 A の作動中よりも相対的に短い変動時間の変動パターンが選択され易い傾向に構成されている。そして、作動回数 n が 0（減算する手法の場合）となり時短 B の遊技状態になった場合は、短い変動時間の変動パターンを用いることによって、より早い段階で遊技者

50

に大当りを提供することができるようになっている。

【3458】

このように構成することによって、大当り遊技の実行後に設定される時短Aについては大当り遊技の余韻を残しつつ、通常遊技状態よりも比較的短い変動時間を用いて、ある一定回数の時短Aの遊技を実行することにより、大当りの連荘を遊技者に期待させることができるとともに、時短Cや時短Bにおいて遊技の途中で大当りとならずに遊技者が遊技に飽きてきた状況であれば、時短Aよりも短い変動時間を用いて、時短Aよりも多い回数の時短遊技を実行することにより、時期的に早く遊技者に大当りを提供することが可能となるようにすることができる。

【3459】

また、時短Dでの1回の図柄変動における各アクションの合計時間よりも、時短Aでの1回の図柄変動における各アクションの合計時間の方が長く構成されている。このように構成することによって、大当りの連荘を遊技者に期待させることができる期間である時短Aにおいては、遊技者に各アクションを注視させることができる。また、1のアクション（変動開始時アクション、定位置アクション、揺れアクション、テンパイアクション、決めアクション）の実行時間について、時短Dでの1回の図柄変動における1のアクションの実行時間よりも、時短Aでの1回の図柄変動における1のアクションの実行時間の方が長く構成されているので、大当りの連荘を遊技者に期待させることができる期間である時短Aにおいては、遊技者に1つのアクションを注視させることができるという効果を奏する。

【3460】

次に、図436を用いて、各時短における参照する変動パターンテーブルについて説明する。図436は、各時短において参照する変動パターンテーブルを示す図である。

【3461】

図436の(1)は、図435の(1)と(2)とを組み合わせたタイミングチャートである。大当り図柄Aが停止表示された後に実行される大当り遊技Aの実行後に時短Aとなり、この時短A中に限定頻度テーブルとして、限定頻度テーブルA1～A4を用いるように構成されている。時短Aの作動が終了し、通常遊技状態になると通常遊技状態テーブルを参照して変動パターンを決定するように構成されている。また、通常遊技状態の期間B0（例えば、時短Bが作動する10変動前から時短Bが作動するまでの期間）においては、限定頻度テーブルA3（限定頻度テーブルA3に限定されず他の限定頻度テーブルであっても良い）を用いて、図418に示す時短B作動開始煽り演出としてのカウントダウン演出を実行するように構成されている。この限定頻度テーブルA3は、大当り遊技Aを実行する契機となった大当り図柄Aに基づいて、期間B0において参照するように決定されている。そして、時短B中の期間B1では限定頻度テーブルA1、期間B2では限定頻度テーブルA2、期間B3では限定頻度テーブルA3、期間B4では限定頻度テーブルA4を参照するように構成されている。これらの限定頻度テーブルA1～A4は、大当り遊技Aを実行する契機となった大当り図柄Aに基づいて、期間B1～B4において参照するように決定されている。

【3462】

図436の(2)は、図435の(1)と(3)とを組み合わせたタイミングチャートである。大当り図柄Aが停止表示された後に実行される大当り遊技Aの実行後に時短Aとなり、この時短A中に限定頻度テーブルとして、限定頻度テーブルA1～A4を用いるように構成されている。時短Aの作動が終了し、通常遊技状態になると通常遊技状態テーブルを参照して変動パターンを決定するように構成されている。また、通常遊技状態の期間B0（例えば、時短Bが作動する10変動前から時短Bが作動するまでの期間）においては、限定頻度テーブルB3（限定頻度テーブルB3に限定されず他の限定頻度テーブルであっても良い）を用いて、図418に示す時短B作動開始煽り演出としてのカウントダウン演出を実行するように構成されている。この限定頻度テーブルB3は、大当り遊技Aを実行する契機となった大当り図柄Aに基づいて、期間B0において参照するように決定さ

れている。そして、時短B中の期間B1では限定頻度テーブルB1、期間B2では限定頻度テーブルB2、期間B3では限定頻度テーブルB3、期間B4では限定頻度テーブルB4を参照するように構成されている。これらの限定頻度テーブルB1～B4は、大当り遊技Aを実行する契機となった大当り図柄Aに基づいて、期間B1～B4において参照するように決定されている。

【3463】

図436の(3)は、図435の(1)と(4)とを組み合わせたタイミングチャートである。大当り図柄Aが停止表示された後に実行される大当り遊技Aの実行後に時短Aとなり、この時短A中に限定頻度テーブルとして、限定頻度テーブルA1～A4を用いるように構成されている。時短Aの作動が終了し、通常遊技状態になると通常遊技状態テーブルを参照して変動パターンを決定するように構成されている。また、通常遊技状態の期間B0（例えば、時短Bが作動する10変動前から時短Bが作動するまでの期間）においては、限定頻度テーブルA3（限定頻度テーブルA3に限定されず他の限定頻度テーブルであっても良い）を用いて、図418に示す時短B作動開始煽り演出としてのカウントダウン演出を実行するように構成されている。この限定頻度テーブルA3は、大当り遊技Aを実行する契機となった大当り図柄Aに基づいて、期間B0において参照するように決定されている。そして、時短B中の期間B1では限定頻度テーブルA1、期間B2では限定頻度テーブルB2、期間B3では限定頻度テーブルA3、期間B4では限定頻度テーブルA4を参照するように構成されている。これらの限定頻度テーブルA1、B2、A3、A4は、大当り遊技Aを実行する契機となった大当り図柄Aに基づいて、期間B1～B4において参照するように決定されている。

【3464】

図436の(4)は、RAMクリアの実行後を示すタイミングチャートである。RAMクリアの実行後の遊技状態は、通常遊技状態であり、通常遊技状態テーブルを参照して変動パターンを決定するように構成されている。作動回数nが0（減算する手法の場合）となると、時短Bが作動し、この時短B中は、上述の(1)～(3)で説明した限定頻度テーブルを参照するか、予め定められた1の限定頻度テーブル（例えば、限定頻度テーブルA1～A4や限定頻度テーブルB1～B4のうち1の限定頻度テーブル、または、これらとは別の1の限定頻度テーブル）を参照するように構成されている。なお、RAMクリアの実行後から時短Bが作動するまでの期間は、それ以前に限定頻度状態となる条件である特定の図柄（例えば、大当り図柄）が停止表示されておらず、また、RAMクリアの実行時が通常時よりも遊技者にとって有利な状態（変動効率が通常時よりも良くなっている状態）になることで、RAMクリア後に最初に遊技を行う遊技者のみが有利となり公平性を欠く虞があるので、RAMクリアの実行後に特定の変動パターンテーブルである限定頻度テーブルを参照することは望ましくない。よって、図436の(4)に示すように、RAMクリアの実行後から時短Bが作動するまで期間は限定頻度テーブルを参照しないように構成することが、本例のぱちんこ遊技機にとって好適である。なお、このようなぱちんこ遊技機の時短B作動する前の期間である期間B0においては、限定頻度テーブルを用いて時短B作動開始煽り演出としてのカウントダウン演出が実行できないようになっている。しかしながら、RAMクリアの実行後であっても時短B作動開始煽り演出としてのカウントダウン演出を、限定頻度テーブルを用いずに実行することができる。例えば、副制御部で図柄変動の回数をカウントすれば、カウントダウン演出を実行することができるようになっている。

【3465】

次に、図437を用いて、副制御部において図柄変動の回数をカウントするカウンタを用いて主遊技図柄の図柄変動の実行回数をカウントし、カウントダウン演出を実行する例として、転落タイプのぱちんこ遊技機を例示する。図437は、転落タイプのぱちんこ遊技機の転落タイミング、時短Bリセット信号の出力タイミングを示すタイミングチャートである。転落タイプのぱちんこ遊技機は、高確率状態から低確率状態へ遊技状態が転落するタイミングまたは転落したタイミングの図柄変動の次の図柄変動から作動回数nのカウ

10

20

30

40

50

ントを開始するように構成されている。そして、遊技状態が転落するタイミングに応じて、時短Bの作動するタイミングが異なるように構成されている。例えば、大当り遊技の実行後は必ず100回の時短Aが作動する転落タイプのぱちんこ遊技機において、図437の(1)は、100回転よりも前のタイミングで高確率状態から低確率状態へ遊技状態が転落する。この転落のタイミングを起点または転落したタイミングの図柄変動の次の図柄変動を起点として作動回数nが0(減算する手法の場合)となったタイミングで、時短Bが作動するように構成されている。図437の(2)は、100回転よりも後のタイミングで高確率状態から低確率状態へ遊技状態が転落する。そして、この転落のタイミングを起点または転落したタイミングの図柄変動の次の図柄変動を起点として作動回数nが0(減算する手法の場合)となったタイミングで、時短Bが作動するように構成されている。図437の(1)と(2)で示すように、転落のタイミングによって時短Bが作動するタイミングが異なるように構成されている。

10

【3466】

したがって、このような時短Bが作動するタイミングが異なるぱちんこ遊技機において、限定頻度テーブルを用いて、時短B作動開始煽り演出(例えば、カウントダウン演出)を実行しようとしても、時短B作動開始煽り演出(例えば、カウントダウン演出)の開始タイミングが転落のタイミングによってズレが生じてしまうという問題が生じる。この問題を解決するため、以下のように構成する。

【3467】

主制御部は、主遊技図柄の図柄変動の実行回数の情報を副制御部に送信する。副制御部は、主制御部から送信されてきた主遊技図柄の図柄変動の実行回数の情報に基づいて991回転目から1000回転目(増加の手法の場合)の主遊技図柄の図柄変動であることを把握する。副制御部は、991回転目から1000回転目までの主遊技図柄の図柄変動の変動時間内で時短B作動開始煽り演出(例えば、カウントダウン演出)を実行するように制御する。なお、副制御部は、演出用図柄の図柄変動の演出よりも表示プライオリティが高い時短B作動開始煽り演出(例えば、カウントダウン演出のワンプのカウントダウン画像の表示)を、図柄変動の演出に対して上から重ねて表示するように制御する。このように構成することが好適である。そして、このように構成することによって、作動回数nのカウントを開始するタイミングが異なるぱちんこ遊技機であっても、時短Bが作動する前の期間において、時短B作動開始煽り演出(例えば、カウントダウン演出)を実行することができる。

20

30

【3468】

なお、高確率状態から低確率状態へ遊技状態が転落するタイミングまたは高確率状態から低確率状態へ遊技状態が転落した図柄変動の次の図柄変動のタイミングから作動回数nのカウントを開始するような構成を説明したが、図437の(3)に示すように、高ベース状態から低ベース状態へ遊技状態が転落するタイミングまたは高ベース状態から低ベース状態へ遊技状態が転落した図柄変動の次の図柄変動のタイミングから作動回数nのカウントを開始するように構成しても良い。

【3469】

また、時短Bフラグがリセットされたことを示す外端信号(時短Bリセット信号)を、主制御基板MのCPUMCが外部中継端子板Gから出力するように構成しても良い。外部中継端子板Gを介して、ホールコンピュータに時短Bリセット信号を出力するように構成されており、この時短Bリセット信号を受信したホールコンピュータは、ぱちんこ遊技機の変動回数を示すデータ表示器の表示を0にリセットするように構成しても良い。このように構成することによって、作動回数n(図柄変動の回数として1~1000回)を正確にデータ表示器に表示することができ、遊技者はこのデータ表示器の数値を確認することによって時短Bの作動を予知したり、時短Bが作動するまでの回数を確認したりすることができる。

40

【3470】

また、転落タイプのぱちんこ遊技機において、時短Bリセット信号を出力する場合、高

50

確率状態から低確率状態に遊技状態が移行したタイミング（図437の（1）、（2）参照）で、時短Bフラグがリセットされたことを示す外端信号（時短Bリセット信号）を、主制御基板MのCPUMCが外部中継端子板Gから出力するように構成する。このように構成することによって、作動回数n（図柄変動の回数として1～1000回）を正確にデータ表示器に表示することができ、遊技者はこのデータ表示器の数値を確認することによって時短Bの作動を予知したり、時短Bが作動するまでの回数を確認したりすることができる。

【3471】

また、転落タイプのぱちんこ遊技機において、時短Bリセット信号を出力する場合、高ベース状態から低ベース状態に遊技状態が移行したタイミング（図437の（3）参照、（2）も参照）で、時短Bフラグがリセットされたことを示す外端信号（時短Bリセット信号）を、主制御基板MのCPUMCが外部中継端子板Gから出力するように構成する。このように構成することによって、作動回数n（図柄変動の回数として1～1000回）を正確にデータ表示器に表示することができ、遊技者はこのデータ表示器の数値を確認することによって時短Bの作動を予知したり、時短Bが作動するまでの回数を確認したりすることができる。

【3472】

また、転落タイプのぱちんこ遊技機において、時短Bリセット信号を出力する場合、予め定められた所定のタイミング（例えば、100回転目の図柄変動のタイミング）で、時短Bフラグがリセットされたことを示す外端信号（時短Bリセット信号）を、主制御基板MのCPUMCが外部中継端子板Gから出力するように構成しても良い。このように構成することによって、高確率状態から低確率状態に移行してからの作動回数n（図柄変動の回数として1～1000回）が正確にデータ表示器に表示されなくなるため、時短Bが作動するまでの回数を確認することはできず不便である一方、遊技者は作動回数nを推測しながら遊技を継続することになるため、遊技者の遊技の興趣を向上させることができる。

【3473】

次に、図438を用いて、時短Bの作動が近づいていることを報知する先読み演出としての先読み演出Bを説明する。図438は、図50における保留情報管理処理のサブルーチンに係る、先読み保留内容決定処理の変形例のフローチャートである。まず、ステップ2651で、装図保留情報表示制御手段は、装図保留情報一時記憶手段を参照し、トリガ保留は当り（大当り例示するが小当りでも良い）となる保留の情報（先読み情報A）であるか否かを判定する。ステップ2651でYesの場合、ステップ2655で、装図保留情報表示制御手段は、トリガ保留の表示態様（保留アイコンの表示態様）を、保留表示態様決定テーブル1（当り時）を参照して決定する。

【3474】

ここで、ステップ2651でNoの場合、つまり、トリガ保留がハズレ保留の場合、ステップ2653で、図柄情報を参照し、トリガ保留は時短図柄となる保留の情報（先読み情報C）であるか否かを判定する。ステップ2653でYesの場合、ステップ2656で、装図保留情報表示制御手段は、トリガ保留の表示態様を、保留表示態様決定テーブル3（ハズレ時+時短図柄当選）を参照して決定する。他方、ステップ2653でNoの場合、ステップ2658で、装図保留情報表示制御手段は、作動回数nを記憶している記憶手段を参照し、作動回数nが所定値（例えば4、入賞順変動タイプであれば8等）以下であるか否かを判定する。ステップ2658でYesの場合、ステップ2659で、装図保留情報表示制御手段は、トリガ保留の図柄変動を開始するタイミングが、作動回数nが0（減算する手法の場合）となる保留の図柄変動であるか否かを判定する。ステップ2659でYesの場合、ステップ2660で、装図保留情報表示制御手段は、トリガ保留は時短Bとなる保留の情報（先読み情報B）であると判断し、トリガ保留の表示態様（保留アイコンの表示態様）を、保留表示態様決定テーブル4（ハズレ時+時短B煽り）を参照して決定する。他方、ステップ2658、ステップ2659でNoの場合、ステップ2657で、装図保留情報表示制御手段は、トリガ保留の表示態様を、保留表示態様決定テーブル

10

20

30

40

50

ル 2（ハズレ時＋時短図柄非当選）を参照して決定する。

【 3 4 7 5 】

ここで、同図下段の 4 つのテーブルは、当り図柄に当選していることを示唆する先読み演出 A を決定するための保留表示態様決定テーブル 1（当り時）、ハズレ用の保留表示態様決定テーブル 2（ハズレ時＋時短図柄非当選）、時短図柄に当選していることを示唆する先読み演出 C を決定するための保留表示態様決定テーブル 3（ハズレ時＋時短図柄当選）、時短 B の作動が近づいていることを報知する先読み演出 B を決定するための保留表示態様決定テーブル 4（ハズレ時＋時短 B 煽り）である。本実施形態（先読み抽選を実行可能とした実施形態）においては、保留先読み演出（保留変化演出）の実行時に変化し得るトリガ保留の表示態様を保留表示態様決定テーブル 1（当り時）を参照して決定する場合の選択され得る表示態様の種類は、虹色、赤色、緑色、青色の 4 つであり、保留表示態様決定テーブル 2（ハズレ時＋時短図柄非当選）、保留表示態様決定テーブル 3（ハズレ時＋時短図柄当選）を参照して決定する場合の選択され得る表示態様の種類は、赤色、緑色、青色の 3 つであり、保留表示態様決定テーブル 4（ハズレ時＋時短 B 煽り）を参照して決定する場合の選択され得る表示態様の種類は、紫色、赤色、緑色、青色の 4 つであり、保留表示態様決定時専用の乱数によって抽選される。尚、保留先読み演出が発生した際の保留の表示態様毎の当り（大当り）期待度（保留に係る図柄変動にて当り（大当り）となる期待度）は、虹色が当り（大当り）時のみで選択され、虹色を除く色としては、期待度が高いものから赤色、緑色、青色の順となっている。また、時短 B が作動するトリガ保留であることを確定した態様で示す場合、紫色で示すように構成されている。また、時短 C が作動するトリガ保留であることを確定した態様で示す場合、金色で示すように構成されている。尚、変化し得る表示態様はあくまで一例であり、種類を増減させても、変化し得る色を変更しても何ら問題ない。

【 3 4 7 6 】

また、本例では、保留の表示色によって当り（大当り）となる期待度を示唆し得る先読み演出 A として構成しただけではなく、時短 B の作動が近づいていることを示唆し得る先読み演出 B、時短 C が作動することを示唆し得る先読み演出 C として構成している。そのように構成する場合、特に、保留の表示色によって、時短 B であれば、時短 B が作動する期待度（時短 B の作動期待度ともいう）を示唆する（例えば、保留表示色が紫色であれば時短 B が作動することが確定、保留表示色が赤色であれば時短 B が作動する期待度大、青色であれば時短 B が作動する期待度小、等）よう構成することで、遊技者にとって有利な時短 B の作動が近づいていることを煽る演出を効果的に実行することができる。また、時短 C であれば、時短 C が作動する期待度（時短 C の作動期待度または時短図柄の当選期待度ともいう）を示唆する（例えば、保留表示色が金色であれば時短 C が作動することが確定、保留表示色が赤色であれば時短 C が作動する期待度大、青色であれば時短 C が作動する期待度小、等）よう構成することで、遊技者にとって有利な時短 C が作動するか否かを煽る演出を効果的に実行することができる。

【 3 4 7 7 】

このように、保留先読み演出の実行時には、複数種類の保留の表示態様から選択された表示態様によって、時短 B の作動期待度が相違し得るよう構成されている。また、先読み演出の実行中（先読み用判定処理で当選したタイミングからトリガ保留に係る主遊技図柄の変動終了まで）に複数回の保留先読み演出を実行し得るよう構成してもよい。このように構成し、例えば、先読み演出の実行中に保留先読み演出が 2 回実行される場合において、1 回目の保留先読み演出で変化する保留の表示態様が青色であった場合には、2 回目の保留先読み演出で変化する保留の表示態様は緑色又は赤色又は紫色となるようにする、即ち、保留先読み演出が実行されるたびに時短 B の作動期待度の高い保留の表示態様へと変化（ランクアップ）していくよう構成することが望ましい（遊技者の期待感を損なわないため）。また、保留表示変化に係る演出はこれには限定されず、結果的に保留表示変化を伴わない演出態様を設けてよく、例えば、上述したカウントダウン演出としての時短 B 作動開始煽り演出のような演出を設けてもよい。

【3478】

次に、図439を用いて、1種+1種並列タイプの時短Bの作動が近づいていることを報知する先読み演出Bを説明する。図439は、1種+1種並列タイプの先読み演出Bを実行中に先読み演出Bが中断されることを示すタイミングチャートである。

【3479】

1000回転目の図柄変動後に時短Bが作動する1種+1種並列タイプのぱちんこ遊技機において、図439の(1)であるタイミング1で示すように、第1主遊技図柄の1000回転目の図柄変動に対応する保留がハズレのトリガ保留となっており、トリガ保留を対象として時短Bの作動が近づいていることを示唆し得る先読み演出Bを実行している。先読み演出Bは、タイミング1で示す状態のまま遊技が進行する場合、1000回転目の図柄変動(1000回転目より前の図柄変動でも可)まで継続するように構成されている。トリガ保留およびトリガ保留の前の図柄変動である長時間変動の997回転目の図柄変動、998回転目の図柄変動、999回転目の図柄変動は、全てハズレを示す図柄変動となっている。

10

【3480】

そして、図439の(2)であるタイミング2で示すように、長時間変動の997回転目の第1主遊技図柄の図柄変動の実行中に、第2主遊技側の保留が2個入る。1個目の保留はハズレであり、2個目の保留は大当りを示す情報の保留である。この際、先読み演出Bは、第2主遊技側の大当りを示す情報の保留が入ったタイミング(先読み演出B終了タイミング1参照)または大当りを示す情報の保留に対する第2主遊技図柄の図柄変動が開始したタイミング(先読み演出B終了タイミング2参照)で、先読み演出Bを終了(中断)して、紫色で表示されていたトリガ保留の表示態様(保留アイコンの表示態様)を通常の色表示態様に戻すように構成されている。

20

【3481】

このように、先読み演出B中に、第2主遊技図柄の当りの保留が入球したり、第2主遊技図柄の当りの図柄変動が開始され先読み演出Bが終了してしまうと、時短Bが作動する予定であったことを喜んでいた遊技者が落胆してしまうため、遊技の興趣を損なう虞があるので、先読み演出を禁止する期間を設けることが好適である。

【3482】

先読み演出を禁止する期間として、以下の(1)～(3)を例示することができる。

30

(1) 時短Bの作動開始のN変動前(例えば、4変動前)から時短Bの作動開始までの期間を、先読み演出を禁止する期間とする。なお、Nは、予め定められた値であれば良い。

(2) 時短Bが作動する直前に滞在する遊技状態で使用していた限定頻度テーブルを参照する期間を、先読み演出を禁止する期間とする。

(3) 演出としてカウントダウン演出を実行する期間を、先読み演出を禁止する期間とする。

【3483】

次に、図440を用いて、残り回数示唆演出を説明する。図439は、残り回数示唆演出を示す図である。残り回数示唆演出は、主遊技図柄の変動表示開始から停止表示までを一単位とし、一単位が、規定回数である、例えば1000回(第一特定回数又は特定回数)行われることを契機として時短Bとなり得るが、一単位が1000回行われるまでの残り数や現在の図柄変動が何回転目の図柄変動であるかを示す数(残り回数に関する情報)を示唆する演出である。残り回数示唆演出は、1000回行われるまでの残り数や現在の図柄変動が何回転目の図柄変動であるかを示す数をそのままの値で示さないように構成(概ねの値を表示するように構成)しても良い。なお、残り回数示唆演出は、図柄変動の回数がいかなる時であっても表示されるものであっても良いし、1回転から1000回転までの期間の一部の期間内(1の図柄変動の期間内や複数の図柄変動の期間内)で表示されるものであっても良いし、或る回数(第二特定回数として、例えば991回)から1000回までの一部期間内において表示されるものであっても良い。

40

【3484】

50

図440の(1)の(a)～(c)は、図柄変動の回数がいかなる時であっても表示される残り回数示唆演出を示す図である。1回転目から1000回転目までの期間において、常に(a)で示す1/1000や(b)で示す2/1000や(c)で示す999/1000等のような残り回数示唆演出を実行するように構成されている。

【3485】

図440の(2)の(d)～(f)は、1回転から1000回転までの期間の一部の期間内(1の図柄変動の期間内や複数の図柄変動の期間内)で残り回数示唆演出が実行されないことを示す図である。例えば、(d)で示す120回転目の図柄変動中に電源が遮断され、120回転目の図柄変動中に電断復帰した場合、この120回転目の図柄変動中には(e)で示すように残り回数示唆演出を実行せず、(f)で示すように所定回転後(例えば100回転後であるが、1回転後であっても良い)の220回転目の図柄変動中に残り回数示唆演出を実行するように構成されている。このように構成することによって、設定変更によるRAMクリアが行われたか否かの情報を電源投入直後に分からなくすることによって、遊技店の営業を開始した後、遊技者がある一定期間の遊技を行うまで時短Bが作動するまでの回数を知ることができないようになっているため、遊技者は時短Bが作動するまでの回数を推測しながら遊技を実行するので、遊技者の遊技の興趣を向上させることができる。

【3486】

また、図418に示したようなカウントダウン演出のように、例えば991回から1000回までの期間内において、残り回数示唆演出を実行するように構成しても良い。また、残り回数示唆演出の実行タイミングが、不規則なタイミングで開始されるように構成しても良く、このように構成する場合、設定値に基づいて、残り回数示唆演出の実行タイミングを変えるように構成しても良い。例えば、奇数設定は百の位が奇数の時に残り回数示唆演出が実行されやすく、(g)に示すように偶数設定は百の位が偶数である6の時に残り回数示唆演出が実行されやすいように構成したり、残り回数示唆演出が開始された時の回数の一の位によって設定値を示唆したりすることができる。また、残り回数示唆演出の数字の組合せによって設定値を示唆するように構成しても良い。

【3487】

また、(h)に示すように、(遊技開始後最初の)特定予告にて、残り回数示唆演出を実行するように構成しても良い。特定予告で表示される残り回数示唆演出によって、(i)に示すように設定示唆(例えば、設定5を示唆)を行っても良いし、特定予告の出現頻度を遊技店が任意で設定できるように構成しても良いし、特定予告が実行されるまでは、残り回数示唆演出の内容を「???」のように隠した表示とするように構成しても良い。また、特定予告は、先読み演出であっても良い。

【3488】

また、転落タイプの場合、高確率状態から低確率状態へ転落したタイミングによって、時短Bの作動するタイミングが異なるが、例えば、(i)で示すように、小当りに当選した場合に残り回数示唆演出を実行し、残り回数を示唆するように構成しても良い。残り回数示唆演出の実行タイミングはこれに限らず、図437の(1)で示した100回転目のタイミング等であっても良い。なお、ここで示した全ての例において、(c)に示すように、残り回数示唆演出である999/1000を強調表示(図ではアンダーラインで強調)するように構成しても良く、強調表示はどのような態様であっても良い。

【3489】

(第25実施形態)

第24実施形態においては、時間短縮遊技状態として、時短A、時短B、時短Cの複数の時間短縮遊技状態を有する遊技機について詳述したが、このような遊技機は第24実施形態の構成のみには限定されない。そこで、第24実施形態とは異なる時間短縮遊技状態の構成を第25実施形態とし、以下、第24実施形態からの相違点についてのみ詳述する。

【3490】

なお、第24実施形態においては、図425と図426とで時短Bに関する処理の実行

10

20

30

40

50

タイミングが相違しているなど、本明細書に適用可能な複数の構成を例示しているが、第25実施形態においては、第24実施形態のいずれの構成を適用してもよいことを補足しておく。具体例としては、第25実施形態における時短Bに係る作動回数を減算する処理は、図425のステップ1417-3（第24）のタイミングで実行するよう構成してもよいし、図426のステップ1423-3（第24）のタイミングで実行するよう構成してもよい。

【3491】

また、時短A、時短B及び時短Cの重複の有無についても、第24実施形態のいずれの構成も適用可能であり、具体的には以下の1または複数の構成を適用してもよい。

- (1) 時短Aの作動中には、時短Bは新たに作動しない
- (2) 時短Aの作動中には、時短Cは新たに作動しない
- (3) 時短Bの作動中には、時短Aは新たに作動しない
- (4) 時短Bの作動中には、時短Cは新たに作動しない
- (5) 時短Cの作動中には、時短Aは新たに作動しない
- (6) 時短Cの作動中には、時短Bは新たに作動しない
- (7) 時短Aの作動中にも、時短Bは新たに作動可能である
- (8) 時短Aの作動中にも、時短Cは新たに作動可能である
- (9) 時短Bの作動中にも、時短Aは新たに作動可能である
- (10) 時短Bの作動中にも、時短Cは新たに作動可能である
- (11) 時短Cの作動中にも、時短Aは新たに作動可能である
- (12) 時短Cの作動中にも、時短Bは新たに作動可能である

【3492】

なお、ある時短の作動中に他の時短が新たに作動する場合には、当該ある時短の性能を引継ぐよう構成してもよいし、当該ある時短の性能を引継がないよう構成してもよい。ある時短の性能とは、補助遊技図柄の当選確率、補助遊技図柄の変動時間、補助遊技図柄の当選時の電動役物の開放態様などが例示できる。具体例としては、時短回数が100回の時短Aを有し、時短回数が80回の時短Cを有し、時短回数が100回である時短Aが作動し、時短Aにおける80回目の図柄変動が実行され、時短図柄に当選した場合には、時短図柄の停止に基づいて時短Cが作動し、新たに100回の時短回数が付与されるように構成してもよい。当該新たな100回の時短Cにおいては、時短Aの性能を引き継ぐよう構成した場合には、補助遊技図柄の当選確率、補助遊技図柄の変動時間、補助遊技図柄の当選時の電動役物の開放態様が時短Aと同様となる。時短の性能を引き継ぐ場合には、補助遊技図柄の当選確率、補助遊技図柄の変動時間、補助遊技図柄の当選時の電動役物の開放態様の1または複数の性能を引き継ぐように構成してもよい。

【3493】

はじめに、図441は、第25実施形態における、遊技機の前面側の基本構造を示す図面である。以下、第24実施形態からの相違点についてのみ詳述する。

【3494】

まず、第25実施形態においては、遊技領域中央部の第1主遊技始動口A10と遊技領域右側（遊技領域中央を基準）の第1主遊技始動口A12との2つの第1主遊技始動口が設けられている。また、遊技者が左打ちを実行して遊技領域左側（遊技領域中央を基準）を流下する遊技球は、第1主遊技始動口A10に誘導され易く、その他の入球口には誘導され難いよう構成されており、遊技者が右打ちを実行して遊技領域右側（遊技領域中央を基準）を流下する遊技球は、振分入球口C20、第2主遊技始動口B10、第1主遊技始動口A12、補助遊技始動口H10、大入賞口C10に誘導され易く、第1主遊技始動口A10に誘導され難いよう構成されている。更に、遊技者が右打ちを実行して遊技領域右側（遊技領域中央を基準）を流下する遊技球は、振分入球口C20、第2主遊技始動口B10、第1主遊技始動口A12、補助遊技始動口H10、大入賞口C10の順に流下していくよう構成されている。また、第1主遊技始動口A12には第1非電動役物A12hdが設けられており、第1非電動役物A12hdが閉鎖状態である場合には遊技球が第1主

遊技始動口 A 1 2 に入球し難く、第 1 非電動役物 A 1 2 h d が開放状態である場合には遊技球が第 1 主遊技始動口 A 1 2 に入球し易くなるように構成されている。また、第 2 主遊技始動口 B 1 0 には、第 2 非電動役物 B 1 0 h d が設けられており、第 2 非電動役物 B 1 0 h d が閉鎖状態である場合には遊技球が第 2 主遊技始動口 B 1 0 に入球し難く、第 2 非電動役物 B 1 0 h d が開放状態である場合には遊技球が第 2 主遊技始動口 B 1 0 に入球し易くなるように構成されている。尚、「誘導され易い」及び「誘導され難い」は、例えば、遊技球を右側及び左側にそれぞれ 1 0 0 0 0 球発射した際の、入球数の大小で決定するものとする。尚、第 2 5 実施形態においては、大入賞口を 1 つのみ設けたが、これには限定されず、大入賞口を 2 つ設けるよう構成してもよい。

【3 4 9 5】

尚、第 2 5 実施形態の遊技の流れとしては、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態においては、左打ち（遊技盤面左側を遊技球が流下するように遊技球を発射する遊技方法であり、相対的に弱い発射強度で遊技球を発射することとなる）にて遊技を進行し、その他の遊技状態（確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態、非確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態）においては右打ち（遊技盤面右側を遊技球が流下するように遊技球を発射する遊技方法であり、相対的に強い発射強度で遊技球を発射することとなる）にて遊技を進行するよう構成されている。なお、時間短縮遊技状態とは時短 A、時短 B または時短 C が相当する。

【3 4 9 6】

また、第 2 5 実施形態に係る遊技機は、第 3 実施形態と同様に、特別遊技実行中に特定領域に遊技球が入球することにより、当該特別遊技終了後に確率変動遊技状態に移行するような構成（V 確タイプ、玉確タイプ、V S T タイプと称することがある）となっている。なお、第 2 5 実施形態においては、大入賞口として大入賞口 C 1 0 の 1 つのみを有しており、大入賞口 C 1 0 の内部に、遊技球が入球可能な特定領域を有している。また、振分遊技実行ラウンドにおいてもその他のラウンドにおいても大入賞口 C 1 0 が開放し、振分遊技実行ラウンドにて特定領域に遊技球が入球することで、特別遊技終了後に確率変動遊技状態に移行することとなる。なお、前述したように、大入賞口を 2 つ設けるよう構成してもよく、このように構成した場合には、特別遊技に関する構成は、第 3 実施形態と同様の構成となる。

【3 4 9 7】

次に、図 4 4 2 は、第 2 5 実施形態に係る振分入球口 C 2 0 の内部の構造を示した図である。振分入球口 C 2 0 の内部には、遊技球が入球することにより第 1 非電動役物 A 1 2 h d が開放することとなる第 1 開放入球口 C 2 2（第 1 開放入球口入球検出装置 C 2 2 s）と、遊技球が入球することにより第 2 非電動役物 B 1 0 h d が開放することとなる第 2 開放入球口 C 2 3（第 2 開放入球口入球検出装置 C 2 3 s）と、振分入球口 C 2 0 に入球した遊技球を第 1 開放入球口 C 2 2 と第 2 開放入球口 C 2 3 とに振り分ける振分部材 C 2 4 とを有している。

【3 4 9 8】

まず、同図上段の作用について詳述すると、振分部材 C 2 4 が第一態様である場合には、第 2 開放入球口 C 2 3 への流路を塞ぐように右側に振れた状態となっており、振分入球口 C 2 0 に入球した遊技球は第 1 開放入球口 C 2 2 に入球し易く、第 2 開放入球口 C 2 3 に入球し難いよう構成されている。次に、同図下段の作用について詳述すると、振分部材 C 2 4 が第二態様である場合には、第 1 開放入球口 C 2 2 への流路を塞ぐように左側に振れた状態となっており、振分入球口 C 2 0 に入球した遊技球は第 1 開放入球口 C 2 2 に入球し難く、第 2 開放入球口 C 2 3 に入球し易いよう構成されている。また、後述するように、振分部材 C 2 4 は、電動役物 D 1 0 d が開放する場合の最初の開放タイミングから駆動開始し、「第一態様→第二態様→第一態様」のように駆動するよう構成されている。

【3 4 9 9】

次に、図 4 4 3 は、第 2 5 実施形態に係る主遊技基板 M が行うタイマ割り込み時処理に関するフローチャートである。はじめに、第 2 4 実施形態からの変更点は、ステップ 1 8

10

20

30

40

50

00（第25）～ステップ1900（第25）であり、即ち、ステップ1700で、主制御基板MのCPUMCは、特別遊技作動条件判定処理を実行した後、ステップ1800（第25）で、後述する、振分部材駆動制御処理を実行する。次に、ステップ1850（第25）で、主制御基板MのCPUMCは、後述する、第1非電動役物駆動制御処理を実行する。次に、ステップ1900（第25）で、主制御基板MのCPUMCは、後述する、第2非電動役物駆動制御処理を実行し、ステップ1550-1へ移行する。

【3500】

<補助遊技停止図柄決定用抽選テーブル>

次に、図444は、第25実施形態における、補助遊技停止図柄決定用抽選テーブルと、電動役物と振分部材に関する作用図である。まず、図444の左側は、補助遊技停止図柄決定用抽選テーブルである。第25実施形態においては、オンとなっている時短フラグ（時短Aフラグ、時短Bフラグ、時短Cフラグを総称して時短フラグと称することがある）によって、補助遊技図柄の当選確率や補助遊技図柄の当選時における電動役物D10dの開放態様が相違するよう構成されており、このように構成することにより、オンとなっている時短フラグによって振分入球口C20に遊技球が入球するタイミングを相違させることができ、振分部材C24の駆動に合わせて第1開放入球口C22と第2開放入球口C23とに遊技球を振分可能に構成されている（詳細は後述する）。

【3501】

<（1）時短Aフラグオフ、時短Bフラグオフ、且つ時短Cフラグオフ時>

すべての時短フラグがオフである場合（非時間短縮遊技状態である場合）には、補助遊技図柄が当選となったときの電動役物D10dの開放態様は、「0.2秒開放→閉鎖」となっており、図中（A）のタイミングで0.2秒の開放が開始される。

【3502】

<（2）時短Aフラグオン時、時短Bフラグオン時>

時短Aフラグまたは時短Bフラグがオンである場合、補助遊技図柄が当選となったときの電動役物D10dの開放態様は、「0.2秒開放→0.2秒閉鎖→0.2秒開放→3.0秒閉鎖→4.0秒開放→閉鎖」となっており、遊技球が入球容易となる4.0秒の開放（長開放）が開放期間における後半部分になっている。図中（A）のタイミングで0.2秒の開放が開始され、図中（C）のタイミングで遊技球が入球容易となる4.0秒の開放が開始され、図中（D）のタイミングで遊技球が入球容易となる4.0秒の開放が終了する。

【3503】

<（3）時短Cフラグオン時>

時短Cフラグがオンである場合、電動役物D10dの開放態様は、「3.0秒開放→0.2秒閉鎖→0.2秒開放→0.2秒閉鎖→0.2秒開放→閉鎖」となっており、遊技球が入球容易となる3.0秒の開放（長開放）が開放期間における前半部分となっている。図中（A）のタイミングで遊技球が入球容易となる3.0秒の開放が開始され、図中（B）のタイミングで遊技球が入球容易となる3.0秒の開放が終了し、図中（C）のタイミングで0.2秒の開放が開始される。

【3504】

このように、長開放の期間は時短Cフラグがオンである場合よりも時短Aフラグまたは時短Bフラグがオンである場合の方が長時間となっており、開放している合計の時間も時短Cフラグがオンである場合よりも時短Aフラグまたは時短Bフラグがオンである場合の方が長時間となっている。また、振分部材C24の駆動態様は、「3.6秒第一態様（第1開放入球口C22に誘導）→4.0秒第二態様（第2開放入球口C23に誘導）→第一態様」となっている。このように構成することで、時短Cフラグがオンの時には、第1開放入球口C22に入球し、時短Aフラグまたは時短Bフラグがオンの時には、第2開放入球口C23に入球するよう構成されている。

【3505】

また、第25実施形態においては、時短フラグのオン・オフに拘らず補助遊技図柄の当

10

20

30

40

50

選確率は同一（１０２３／１０２４）になっている。これには限定されず、時短フラグのオン・オフによって、補助遊技図柄の当選確率が相違し得る（時短フラグオンの場合の方が、時短フラグがオフの場合よりも補助遊技図柄の当選確率が高くなる）よう構成してもよい。また、第２５実施形態においては、電動役物Ｄ１０ｄの形状をチューリップ型としているが、これには限定されず、電動役物を遊技球が転動可能な板の形状（ベロ電と称することがある）として、進出状態と退避状態とを採り得る（遊技者から見て左右方向に伸び縮みする）よう構成し、電動役物が進出状態にて遊技球が電動役物上を転動した場合には振分入球口Ｃ２０に入球可能であるが、電動役物が退避状態にて遊技球が電動役物上を転動した場合には振分入球口Ｃ２０に到達せずに入球不可能となるよう構成してもよい。第２５実施形態においては、すべての時短フラグがオフである場合（非時間短縮遊技状態である場合）には、電動役物Ｄ１０ｄが０．２秒という極めて短時間しか開放しないため、遊技球は振分入球口Ｃ２０に入球困難となっているのだが、すべての時短フラグがオフである場合（非時間短縮遊技状態である場合）においても、１０２３／１０２４で補助遊技図柄が当選となるため、電動役物Ｄ１０ｄに遊技球が到達するタイミングによっては振分入球口Ｃ２０に入球してしまう可能性が生じてしまう。そのため、電動役物をベロ電とし、非時間短縮遊技状態で補助遊技図柄が当選となった場合には、電動役物が振分入球口Ｃ２０に到達するような進出状態にならないように構成することにより、遊技球が振分入球口Ｃ２０に入球することを防止することができる。他方、いずれかの時短フラグがオンの場合に補助遊技図柄が当選となった場合には、電動役物が振分入球口Ｃ２０に到達可能な進出状態になるようにすることによって、遊技球が振分入球口Ｃ２０に入球し得るよう構成することができる。なお、このような電動役物の構成は、第２５実施形態のみには限定されず、すべての実施形態の電動役物に適用してもよい。

【３５０６】

<電動役物と振分部材に関する作用図>

次に、図４４４の右側は、電動役物と振分部材に関する作用図である。まず、振分部材Ｃ２２は、所定のタイミング（駆動開始から３．６秒）で、第１態様（初期位置）から第２態様に駆動される。

【３５０７】

<（１）時短Ａフラグオフ、時短Ｂフラグオフ、且つ時短Ｃフラグオフ時>

まず、すべての時短フラグがオフである場合（非時間短縮遊技状態である場合）には、電動役物Ｄ１０ｄが０．２秒という極めて短時間しか開放しないため、遊技球は振分入球口Ｃ２０に入球困難となっている。

【３５０８】

<（２）時短Ａフラグオン時、時短Ｂフラグオン時>

次に、時短Ａフラグオンまたは時短Ｂフラグオンである場合には、振分部材Ｃ２４が第２態様である期間にて電動役物Ｄ１０ｄが長開放（前述した電動役物Ｄ１０ｄの開放期間の後半部分となる４．０秒の開放）し、遊技球の入球が容易となるよう構成されているため、振分入球口Ｃ２０に入球した遊技球は、入球タイミングに拘らず第１開放入球口Ｃ２２に入球する（第１主遊技図柄に係る抽選を実行）よう誘導されることとなる。

【３５０９】

<（３）時短Ｃフラグオン時>

次に、時短Ｃフラグオンである場合には、振分部材Ｃ２４が第１態様である期間にて電動役物Ｄ１０ｄが長開放（前述した電動役物Ｄ１０ｄの開放期間の前半部分となる３．０秒の開放）し、遊技球の入球が容易となるよう構成されているため、振分入球口Ｃ２０に入球した遊技球は、入球タイミングに拘らず第２開放入球口Ｃ２３に入球する（第２主遊技図柄に係る抽選を実行）よう誘導されることとなる。このように構成することで、時間短縮遊技状態であっても、いずれの時短フラグがオンであるかによって、遊技性や利益率等の異なる遊技状態を複数有することができることとなる。

【３５１０】

次に、図４４５は、第２５実施形態における、図４４３のステップ１８００（第２５）

のサブルーチンにおける、振分部材駆動制御処理のフローチャートである。まず、ステップ1802で、主制御基板MのCPUMCは、振分部材駆動中フラグ（電動役物D10dの開放に基づき振分部材C24が駆動している期間にオンとなるフラグ）がオフであるか否かを判定する。ステップ1802でYesの場合、ステップ1804で、主制御基板MのCPUMCは、電動役物D10dの最初の開放タイミングに到達した（電動役物D10dが最初の開放をしたタイミングから、振分部材C24の駆動が開始される）か否かを判定する。ステップ1804でYesの場合、ステップ1806で、主制御基板MのCPUMCは、振分部材駆動タイマ（デクリメントタイマ）に初期値（本例では7.6）をセットしてスタートする。次に、ステップ1808で、主制御基板MのCPUMCは、振分部材駆動中フラグをオンにし、ステップ1810に移行する。尚、ステップ1802でNoの場合にも、ステップ1810に移行する。次に、ステップ1810で、主制御基板MのCPUMCは、振分部材駆動タイマ値が、駆動切替のタイミング（タイマ値＝4.0）に達した（振分部材駆動タイマはデクリメントタイマとなっているため、振分部材C24の駆動開始から3.6秒のタイミングにおける振分部材駆動タイマ値は4.0となっている）か否かを判定する。ステップ1810でYesの場合、ステップ1812で、主制御基板MのCPUMCは、振分部材C24を第1態様から第2態様に駆動し（初期位置は第1態様となっている）、次の処理{ステップ1850（第25）の処理}に移行する。また、ステップ1810でNoの場合、ステップ1814で、主制御基板MのCPUMCは、振分部材駆動タイマ値が0であるか否かを判定する。ステップ1814でYesの場合、ステップ1816で、主制御基板MのCPUMCは、振分部材C24を第二態様から第一態様に駆動する。次に、ステップ1818で、主制御基板MのCPUMCは、振分部材駆動中フラグをオフにし、次の処理{ステップ1850（第25）の処理}に移行する。尚、ステップ1804又は1814でNoの場合にも、次の処理{ステップ1850（第25）の処理}に移行する。

【3511】

次に、図446は、第25実施形態における、図443のステップ1850（第25）のサブルーチンに係る、第1非電動役物駆動制御処理のフローチャートである。まず、ステップ1852で、主制御基板MのCPUMCは、第1非電動役物開放中フラグ（第1非電動役物A12hdが開放中にオンとなるフラグ）がオフであるか否かを判定する。ステップ1852でYesの場合、ステップ1854で、主制御基板MのCPUMCは、第1開放入球口C22に遊技球が入球したか否かを判定する。ステップ1854でYesの場合、ステップ1856で、主制御基板MのCPUMCは、第1非電動役物開放中フラグをオンにする。次に、ステップ1858で、主制御基板MのCPUMCは、第1非電動役物A12hdを開放し、次の処理{ステップ1900（第25）の処理}に移行する。また、ステップ1852でNoの場合、ステップ1860で、主制御基板MのCPUMCは、第1主遊技始動口A12に所定個数（第1非電動役物A12hdが閉鎖することとなる入球数であり、本例では2個）が入球したか否かを判定する。ステップ1860でYesの場合、ステップ1862で、主制御基板MのCPUMCは、エラー発生条件を充足していない（本例では、時短Cフラグがオフである状況にて第1非電動役物A12hdが開放し、且つ、ステップ1860でYesとなったタイミングで時短Cフラグがオフである場合にエラーとなる）か否かを判定する。ステップ1862でYesの場合、ステップ1864で、主制御基板MのCPUMCは、第1非電動役物A12hdを閉鎖する。次に、ステップ1866で、主制御基板MのCPUMCは、第1非電動役物開放中フラグをオフにし、次の処理{ステップ1900（第25）の処理}に移行する。尚、ステップ1860又はステップ1854でNoの場合にも、次の処理（ステップ1900（第25）の処理）に移行する。また、ステップ1862でNoの場合、ステップ1868で、エラーである旨を報知し、エラー処理を実行する（エラーの復帰条件としては、例えば、電源をオフ・オンとする、RAMクリアを実行する、等としてよい）。このように、第25実施形態においては、時短Cフラグがオフである状況にて遊技球が第1主遊技始動口A12に入球したとしても即座にエラーであるとは判定せずに、時短Cフラグがオフである状況にて第1

10

20

30

40

50

非電動役物 A 1 2 h d が開放し、且つ、時短 C フラグがオフである状況にて第 1 非電動役物 A 1 2 h d が閉鎖することとなる所定個数（本例では、2 個であるが第 1 非電動役物 A 1 2 h d が開放状態から閉鎖状態となる入球個数以上となっていればよく、3 個等でも問題ない）の遊技球が第 1 主遊技始動口 A 1 2 に入球した場合にエラーと判定するよう構成されている。尚、第 2 5 実施形態においては、時短 C フラグがオンである場合に第 1 非電動役物 A 1 2 h d が開放し、その後、1 変動後に時短 C フラグがオフとなった場合には、時短 C フラグがオフ且つ第 1 非電動役物 A 1 2 h d が開放中となり、そのような場合にはエラーとしないために、第 1 非電動役物 A 1 2 h d の開放時に時短 C フラグがオフ、且つ、第 1 非電動役物 A 1 2 h d の閉鎖時にも時短 C フラグがオフであることをエラーの条件としている。

【3 5 1 2】

次に、図 4 4 7 は、第 2 5 実施形態における、図 4 4 3 のステップ 1 9 0 0（第 2 5）のサブルーチンに係る、第 2 非電動役物駆動制御処理のフローチャートである。まず、ステップ 1 9 0 2 で、主制御基板 M の C P U M C は、第 2 非電動役物開放中フラグ（第 2 非電動役物 B 1 0 h d が開放中にオンとなるフラグ）がオフであるか否かを判定する。ステップ 1 9 0 2 で Y e s の場合、ステップ 1 9 0 4 で、主制御基板 M の C P U M C は、第 2 開放入球口 C 2 3 に入球したか否かを判定する。ステップ 1 9 0 4 で Y e s の場合、ステップ 1 9 0 6 で、主制御基板 M の C P U M C は、第 2 非電動役物開放中フラグをオンにする。次に、ステップ 1 9 0 8 で、主制御基板 M の C P U M C は、第 2 非電動役物 B 1 0 h d を開放し、次の処理（ステップ 1 5 5 0 - 1 の処理）に移行する。また、ステップ 1 9 0 2 で N o の場合、ステップ 1 9 1 0 で、主制御基板 M の C P U M C は、第 2 主遊技始動口 B 1 0 に所定個数（第 2 非電動役物 B 1 0 h d が閉鎖することとなる入球数であり、本例では 2 個）が入球したか否かを判定する。ステップ 1 9 1 0 で Y e s の場合、ステップ 1 9 1 2 で、主制御基板 M の C P U M C は、エラー発生条件を充足していない（時短 A フラグおよび時短 B フラグがオフである状況にて、第 2 非電動役物 B 1 0 が開放し、且つ、ステップ 1 9 1 0 で Y e s となったタイミングで時短 A フラグおよび時短 B フラグがオフである場合にエラーとなる）か否かを判定する。ステップ 1 9 1 2 で Y e s の場合、ステップ 1 9 1 4 で、主制御基板 M の C P U M C は、第 2 非電動役物 B 1 0 h d を閉鎖する。次に、ステップ 1 9 1 6 で、主制御基板 M の C P U M C は、第 2 非電動役物開放中フラグをオフにし、次の処理（ステップ 1 5 5 0 - 1 の処理）に移行する。尚、ステップ 1 9 1 0 又はステップ 1 9 0 4 で N o の場合にも、次の処理（ステップ 1 5 5 0 - 1 の処理）に移行する。また、ステップ 1 9 1 2 で N o の場合、ステップ 1 9 1 8 で、エラーである旨を報知し、エラー処理を実行する（エラーの復帰条件としては、例えば、電源をオフ→オンとする、R A M クリアを実行する、等としてよい）。このように、第 2 5 実施形態においては、時短 A フラグおよび時短 B フラグがオフである状況にて遊技球が第 2 主遊技始動口 B 1 0 に入球したとしても即座にエラーであるとは判定せずに、時短 A フラグおよび時短 B フラグがオフである状況にて第 2 非電動役物 B 1 0 h d が開放し、且つ、時短 A フラグおよび時短 B フラグがオフである状況にて第 2 非電動役物 B 1 0 h d が閉鎖することとなる所定個数（本例では、2 個であるが第 2 非電動役物 B 1 0 h d が開放状態から閉鎖状態となる入球個数以上となっていればよく、3 個等でも問題ない）の遊技球が第 2 主遊技始動口 B 1 0 に入球した場合にエラーと判定するよう構成されている。尚、エラーとなる入球数は第 1 主遊技始動口 A 1 2 のエラーでは第 1 主遊技始動口 A 1 2 への入球数を計測し、第 2 主遊技始動口 B 1 0 のエラーでは第 2 主遊技始動口 B 1 0 のエラーを計測してエラーを判定するよう構成されており、第 1 主遊技始動口 A 1 2 へ 1 球入球し、第 2 主遊技始動口 B 1 0 へ 1 球入球して合計 2 球入球したのでエラーと判定するようには構成されていない。尚、第 2 5 実施形態においては、時短 A フラグまたは時短 B フラグがオンである場合に第 2 非電動役物 B 1 0 h d が開放し、その後、1 変動後に時短 A フラグおよび時短 B フラグがオフとなった場合には、時短 A フラグおよび時短 B フラグがオフ且つ第 2 非電動役物 B 1 0 h d が開放中となり、そのような場合にはエラーとしないために、第 2 非電動役物 B 1 0 h d の開放時に時短 A フラグおよび時短 B フラグがオフ、且つ、第 2 非電動

10

20

30

40

50

役物 B 1 0 h d の閉鎖時にも時短 A フラグおよび時短 B フラグがオフであることをエラーの条件としている。

【 3 5 1 3 】

< 第 2 5 実施形態の大当りの構成 >

第 2 5 実施形態においては、第 1 主遊技側の大当りは 1 種類であり、大当りにおける獲得遊技球数の平均値は 5 0 球であり、大当り終了後においては、確率変動遊技状態（且つ時短 A）への移行確率が 1 %、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態への移行確率が 9 9 % となっている。第 2 主遊技側の大当りは 1 種類であり、大当りにおける獲得遊技球数の平均値は 1 0 0 0 球であり、大当り終了後の確率変動遊技状態（且つ時短 A）への移行確率が 1 0 0 % となっている。なお、前述したように、第 2 5 実施形態は玉確タイプの遊技機となっているため、大当り中（特に振分遊技実行ラウンド中）において大入賞口 C 1 0 に向かって遊技球を発射し続けた場合における、遊技球が特定領域に入球する確率を、大当り終了後の確率変動遊技状態への移行確率と称している。なお、第 1 主遊技側の大当り終了後の確率変動遊技状態への移行確率は変更してもよく、例えば、0 % としてもよい。

10

【 3 5 1 4 】

また、非確率変動遊技状態での大当り確率は $1 / 1 0 0$ 、確率変動遊技状態での大当り確率は $1 / 7 0$ となっており、時短図柄の当選確率が $1 / 1 0 0$ 、時短 C の時短回数が 5 0 回、時短 B に係る作動回数（大当り終了後から時短 B が作動するまでの図柄変動回数）が 2 0 0 回、時短 B の時短回数が 1 0 0 回、時短 A の時短回数が 5 0 回、確変回数（大当り終了後から確率変動遊技状態が終了するまでの図柄変動回数であり、S T 回数と称することがある）が 5 0 回となっている。

20

【 3 5 1 5 】

第 2 5 実施形態は、上記のように構成されていることにより、以下に示すような遊技性となっている。

【 3 5 1 6 】

< 非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態 >

非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態においては、左打ちにて遊技を進行し、第 1 主遊技始動口 A 1 0 に遊技球を入球させ、第 1 主遊技図柄を変動させて遊技を進行する。前述したように、第 1 主遊技側の大当りに当選しても、遊技球が 5 0 球程度しか獲得できず、大当り終了後も 9 9 % が非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態となるため、第 1 主遊技側の大当りの当選は遊技者にとって低利益となっている。このことから、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態においては、時短 B に係る作動回数である 2 0 0 回の図柄変動にて第 1 主遊技側の大当りに当選せずに、時短 B が作動することを目指す遊技性となっている。

30

【 3 5 1 7 】

< 時短 C >

非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態にて時短図柄に当選すると、時短 C が作動し、5 0 回の時間短縮遊技状態となる。時短 C が作動している場合には、右打ちにて振分入球口 C 2 0 に遊技球を入球させ、第 1 開放入球口 C 2 2 に遊技球が入球することにより第 1 非電動役物 A 1 2 h d が開放し、遊技球を第 1 主遊技始動口 A 1 2 に入球させることによって第 1 主遊技図柄を変動させて遊技を進行する。このように構成することによって、時短 C においては、非時間短縮遊技状態と同様に第 1 主遊技図柄を変動させて遊技を進行することとなるが、第 1 主遊技始動口 A 1 2 に（非時間短縮遊技状態よりも）入球容易となっているため、第 1 主遊技始動口 A 1 2 に係る賞球によって持ち球を減らさずに（または、持ち球の減少を抑えつつ）遊技を進行することができ、換言すると、持ち球を減らさずに（または、持ち球の減少を抑えつつ）時短 B に係る残りの作動回数（例えば、残り 1 5 0 回の状態からさらに 1 0 回図柄変動が実行されることで、残りの作動回数が 1 4 0 回となる）を減少させることができる。

40

【 3 5 1 8 】

50

<時短 B>

非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態または時短 C にて大当りに当選せずに、時短 B に係る作動回数である 200 回の図柄変動が実行されると、時短 B が作動し、100 回の時間短縮遊技状態となる。時短 B が作動している場合には、右打ちにて振分入球口 C 20 に遊技球を入球させ、第 2 開放入球口 C 23 に遊技球が入球することにより第 2 非電動役物 B 10 h d が開放し、遊技球を第 2 主遊技始動口 B 10 に入球させることによって第 2 主遊技図柄を変動させて遊技を進行する。時短 B においては、第 2 主遊技図柄を変動させて遊技を進行することとなり、時短 B の作動中に第 2 主遊技側の大当りに当選することによって、約 1000 球の遊技球を獲得できるとともに、大当り終了後には確率変動遊技状態且つ時短 A に移行する。

【3519】

<時短 A>

第 2 主遊技側の大当り終了後に移行することとなる確率変動遊技状態且つ時短 A においては、右打ちにて振分入球口 C 20 に遊技球を入球させ、第 2 開放入球口 C 23 に遊技球が入球することにより第 2 非電動役物 B 10 h d が開放し、遊技球を第 2 主遊技始動口 B 10 に入球させることによって第 2 主遊技図柄を変動させて遊技を進行する。時短 A においては、第 2 主遊技図柄を変動させて遊技を進行することとなり、時短 A の作動中に第 2 主遊技側の大当りに再度当選することによって、約 1000 球の遊技球を獲得できるとともに、大当り終了後には確率変動遊技状態且つ時短 A に移行する。このように、第 2 5 実施形態においては、第 1 主遊技図柄を変動させた場合よりも第 2 主遊技図柄を変動させた場合の方が相対的に有利となるよう構成されている。

【3520】

このように、第 2 5 実施形態においては、非時間短縮遊技状態においては、第 1 主遊技側の大当りに当選せずに、時短 B が作動することを目指し、時短 B が作動することで、約 1000 球の遊技球を獲得することができる大当りが連荘し得る遊技性となっている。このように構成することにより、遊技性にメリハリをつけることができ、遊技者の遊技意欲を向上させることができる。

【3521】

なお、第 2 5 実施形態においては、時短 C の作動中に新たに時短図柄に当選し得るよう構成してもよく、このように構成した場合には、例えば、時短 C に係る時短回数を 50 回とした場合、時短 C が作動してから 40 回の図柄変動が実行されたときに新たに時短図柄に当選すると、次変動から 50 回の図柄変動に亘って時短 C が作動するよう構成してもよい。このように構成することによって、時短 C が作動した場合に、遊技者は時短 C が 50 回以上継続して作動することに期待感を抱きながら遊技を進行することができる。

【3522】

なお、第 2 5 実施形態における大当り確率、時短回数、大当り図柄の種類数、大当りにおける獲得可能な遊技球数、大当り終了後の遊技状態の振り分けなどの設計値はあくまで一例であり、遊技者が時短 B を作動させることを目指す遊技性であれば、どのように変更しても問題ないことを補足しておく。

【3523】

(第 2 5 実施形態からの変更例 1)

第 2 5 実施形態においては、振分入球口 C 20 を有する構成を例示したが、振分入球口 C 20 を有していなくともよい。そこで、第 2 5 実施形態から振分入球口 C 20 を有さないように変更した構成を第 2 5 実施形態からの変更例 1 とし、以下、第 2 5 実施形態との変更点についてのみ詳述する。

【3524】

<盤面構成>

第 2 5 実施形態からの変更例 1 の盤面構成は、大入賞口については、第 2 5 実施形態と同様に第 2 5 実施形態からの変更例 1 においても、大入賞口 C 10 の 1 つのみとなっており、それ以外の構成は本実施形態の図 1 と同様の構成となっている。

【3525】

第25実施形態からの変更例1においては、非時間短縮遊技状態においては左打ちにて第1主遊技図柄を変動させて遊技を進行し、時間短縮遊技状態においては（時短A、時短B、時短Cのいずれにおいても）右打ちにて第2主遊技図柄を変動させて遊技を進行する。

【3526】

また、第25実施形態からの変更例1においても、第25実施形態と同様に、第1主遊技図柄を変動させた場合よりも第2主遊技図柄を変動させた場合の方が相対的に有利となるよう構成されている。

【3527】

<時短図柄>

第25実施形態からの変更例1においては、

(1) 時短図柄を有していない

(2) 時短図柄の当選確率は1/1000となっている（当選確率が低い）

上記のいずれかのように構成してもよい。

【3528】

このように構成することで、第25実施形態からの変更例1においては、非時間短縮遊技状態であれば左打ちにて遊技を進行し、時間短縮遊技状態であれば右打ちにて遊技を進行するという、遊技者が理解し易いシンプルな構成で、第25実施形態と同様の時短Bを目指す遊技性を創出することができる。

【3529】

(第26実施形態)

第25実施形態においては、時間短縮遊技状態として、時短A、時短B、時短Cの複数の時間短縮遊技状態を有する遊技機として、特別遊技実行中に特定領域に遊技球が入球することにより、当該特別遊技終了後に確率変動遊技状態に移行する構成（V確タイプ、玉確タイプ、と称することがある）について詳述したが、このような遊技機は第25実施形態の構成のみには限定されない。そこで、時短A、時短B、時短Cの複数の時間短縮遊技状態を有する遊技機であり、第25実施形態とは異なる構成を第26実施形態とし、以下、第24実施形態からの相違点についてのみ詳述する。

【3530】

また、第26実施形態に係る遊技機は、第24実施形態にて前述した、時短A、時短B、時短Cを有しており、且つ1種+1種小当りVタイプの遊技機である。すなわち、主遊技図柄を2つ備えるぱちんこ遊技機であって、主遊技図柄（第1主遊技図柄、第2主遊技図柄）が小当り図柄にて停止表示された後、大入賞口を有利な状態とし得る小当り遊技を実行可能であり、小当り遊技の実行中に特定領域に遊技球が入球した場合には、小当り遊技の終了後に特別遊技を実行可能である。

【3531】

<盤面構成>

第26実施形態の盤面構成は、第4実施形態の図99と同様となっている。

【3532】

第26実施形態においては、確率変動遊技状態を有しておらず、時間短縮遊技状態として時短Aと時短Bと時短Cとを有している。また、第26実施形態の遊技の流れとしては、非時間短縮遊技状態においては、左打ち（遊技盤面左側を遊技球が流下するように遊技球を発射する遊技方法であり、相対的に弱い発射強度で遊技球を発射することとなる）にて遊技を進行し、その他の遊技状態（時短A、時短B又は時短C）においては右打ち（遊技盤面右側を遊技球が流下するように遊技球を発射する遊技方法であり、相対的に強い発射強度で遊技球を発射することとなる）にて遊技を進行するよう構成されている。

【3533】

<第26実施形態の大当りの構成>

第26実施形態においては、第1主遊技側の大当りは1種類であり、大当りにおける獲得遊技球数の平均値は50球であり、大当り終了後においては、100%非時間短縮遊技

10

20

30

40

50

状態に移行するよう構成されている。第2主遊技側の大当りは1種類であり、大当りにおける獲得遊技球数の平均値は1000球であり、大当り終了後においては100%時短Aに移行するよう構成されている。

【3534】

また、大当り確率は1/100であり、第2主遊技側のみ小当りに当選し得るよう構成されており、第2主遊技側の小当り確率は15/100であり、第2主遊技側は高確率で小当りに当選するよう構成されている。また、第26実施形態においては、1種+1種小当りVタイプの遊技機であるため、第2主遊技側で小当りに当選した場合には、小当りに対応した第2大入賞口C20に向けて遊技球を発射し続けた場合、略100%の確率で第2大入賞口C20内の特定領域に遊技球が入球し、小当りの終了後には大当りが実行されることとなる。当該大当りにおける獲得遊技球数の平均値は1000球であり、大当り終了後においては時短Aに移行するよう構成されている。

10

【3535】

また、第26実施形態においては、時短図柄の当選確率が1/1000、時短Cの時短回数が100回、時短Bに係る作動回数（大当り終了後から時短Bが作動するまでの図柄変動回数）が200回、時短Bの時短回数が100回、時短Aの時短回数が10回となっている。

【3536】

第26実施形態は、上記のように構成されていることにより、以下に示すような遊技性となっている。

20

【3537】

<非時間短縮遊技状態>

非時間短縮遊技状態においては、左打ちにて遊技を進行し、第1主遊技始動口A10に遊技球を入球させ、第1主遊技図柄を変動させて遊技を進行する。前述したように、第1主遊技側の大当りに当選しても、遊技球が50球程度しか獲得できず、大当り終了後も非時間短縮遊技状態となるため、第1主遊技側の大当りの当選は遊技者にとって低利益となっている。このことから、非時間短縮遊技状態においては、時短Bに係る作動回数である200回の図柄変動にて第1主遊技側の大当りに当選せずに、時短Bが作動することを目指す遊技性となっている。

【3538】

<時短C>

非時間短縮遊技状態にて時短図柄に当選すると、時短Cが作動し、100回の時間短縮遊技状態となる。時短Cが作動している場合には、右打ちにて補助遊技始動口H10に遊技球を入球させ、第2主遊技始動口電動役物B11dを開放させて、第2主遊技始動口B10に遊技球を入球させることにより、第2主遊技図柄を変動させて遊技を進行する。時短Cにおいては、第2主遊技図柄を変動させて遊技を進行することとなり、時短Cの時短回数が100回であることに対して小当り確率が15/100であるため、時短Cの作動中にほぼ小当りに当選させることができるよう構成されている。小当りに当選すると小当り遊技中に特定領域に遊技球が入球し、その後大当りが実行されることで約1000球の遊技球を獲得できるとともに、大当り終了後には時短Aに移行することとなる。また、時短Cの作動中に大当りに当選した場合にも、約1000球の遊技球を獲得できるとともに、大当り終了後には時短Aに移行することとなる。なお、第26実施形態においては、時短Bを目指すことを主とした遊技性であるため、時短図柄の当選確率は相対的に低く設計されている。なお、第26実施形態においては、時短図柄を有していないように構成してもよい。

40

【3539】

<時短B>

非時間短縮遊技状態または時短Cにて大当りに当選せずに、時短Bに係る作動回数である200回の図柄変動が実行されると、時短Bが作動し、100回の時間短縮遊技状態となる。時短Bが作動している場合には、右打ちにて補助遊技始動口H10に遊技球を入球

50

させ、第2主遊技始動口電動役物B11dを開放させて、第2主遊技始動口B10に遊技球を入球させることにより、第2主遊技図柄を変動させて遊技を進行する。時短Bにおいては、第2主遊技図柄を変動させて遊技を進行することとなり、時短Bの時短回数が100回であることに対して小当り確率が15/100であるため、時短Bの作動中にほぼ小当りに当選させることができるように構成されている。小当りに当選すると小当り遊技中に特定領域に遊技球が入球し、その後大当りが実行されることで約1000球の遊技球を獲得できるとともに、大当り終了後には時短Aに移行することとなる。また、時短Bの作動中に大当りに当選した場合にも、約1000球の遊技球を獲得できるとともに、大当り終了後には時短Aに移行することとなる。

【3540】

＜時短A＞

第2主遊技側の大当り終了後に移行することとなる時短Aにおいては、右打ちにて補助遊技始動口H10に遊技球を入球させ、第2主遊技始動口電動役物B11dを開放させて、第2主遊技始動口B10に遊技球を入球させることにより、第2主遊技図柄を変動させて遊技を進行する。時短Aにおいては、第2主遊技図柄を変動させて遊技を進行することとなり、時短Aに係る時短回数である10回の図柄変動が終了するまでに15/100の当選確率である小当りに当選すると、小当り遊技中に特定領域に遊技球が入球し、その後大当りが実行されることで約1000球の遊技球を獲得できるとともに、大当り終了後には再度時短Aに移行することとなる。

【3541】

このように、第26実施形態においては、非時間短縮遊技状態においては、第1主遊技側の大当りに当選せずに、時短Bが作動することを目指し、時短B（または時短C）が作動することで、約1000球の遊技球を獲得することができる大当り（小当りを契機とした大当り、または大当り図柄を契機とした大当り）が連荘し得る遊技性となっている。このように構成することにより、遊技性にメリハリをつけることができ、遊技者の遊技意欲を向上させることができる。

【3542】

また、第26実施形態においては、時短図柄は1/1000で当選し、時短Cは作動し得る一方、時短Bに係る作動回数を設けず、時短Bが作動しないように構成してもよい。このように構成することで、時短Bではなく時短Cの作動を目指す遊技性を創出することができる。このように構成した場合には、時短Cが作動した場合の遊技球の獲得期待値を相対的に大きくしてもよい。また、時短図柄の当選確率は、前述した構成よりも低い1/2000などとしてもよい。

【3543】

なお、第26実施形態における大当り確率、時短回数、大当り図柄の種類数、大当りにおける獲得可能な遊技球数、大当り終了後の遊技状態の振り分けなどの設計値はあくまで一例であり、遊技者が時短Bを作動させることを目指す遊技性であれば、どのように変更しても問題ないことを補足しておく。

【3544】

（第27実施形態）

第25実施形態や第26実施形態においては、時間短縮遊技状態として、時短A、時短B、時短Cの複数の時間短縮遊技状態を有する遊技機であり、遊技者が時短Bの作動を目指す遊技性の遊技機について詳述した。時短Bや時短Cを有する遊技機は、遊技性の幅が広がり、且つ遊技者が著しく損をする事態を時短B（または時短C）が作動することによって防止することができるため、時短B（または時短C）の作動は遊技者にとって有利な事象であるべきだが、時短Bが作動しない限り、ほとんど遊技球を獲得することができない遊技性（時短B待ちの遊技性と称することがある）は、遊技者が大当りに当選できないで持ち球を減らし過ぎてしまう事態を救済するという趣旨から逸脱しており、遊技者の遊技意欲を減退させてしまうおそれがある。そこで、時間短縮遊技状態として時短Bを有しており、時短B待ちの遊技性とはならない遊技機の構成を、第27実施形態とし、以下、

10

20

30

40

50

第24実施形態からの相違点についてのみ詳述する。

【3545】

まず、図448は、第27実施形態の遊技の流れに係る遷移図である。同図左上部に図示するように、第27実施形態の遊技の流れとしては、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態においては、左打ち（遊技盤面左側を遊技球が流下するように遊技球を発射する遊技方法であり、相対的に弱い発射強度で遊技球を発射することとなる）にて遊技を進行し、確率変動遊技状態且つ時短Aと、非確率変動遊技状態且つ時短Aと、非確率変動遊技状態且つ時短Bと、においては右打ち（遊技盤面右側を遊技球が流下するように遊技球を発射する遊技方法であり、相対的に強い発射強度で遊技球を発射することとなる）にて遊技を進行するよう構成されている。なお、第27実施形態においては時短Cを有していない。

10

【3546】

また、第27実施形態に係る遊技機は、第3実施形態と同様に、特別遊技実行中に特定領域に遊技球が入球することにより、当該特別遊技終了後に確率変動遊技状態に移行するような構成（V確タイプ、玉確タイプ、VSTタイプと称することがある）となっている。なお、大入賞口の数、第3実施形態と同じ2つとしてもよいし、第25実施形態と同じ1つとしてもよい。

【3547】

<（A）非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態>

まず、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態において、左打ちにて遊技を進行すると（遊技球を発射し続けた場合）、95%の割合で第1主遊技側の大当たり（複数種類の大当たりのうちのいずれかの大当たり）に当選し、5%の割合で大当たりには当選せずに時短Bに係る作動回数分の図柄変動が実行されて（作動回数到達と称することがある）時短Bが作動することとなる。なお、上記95%や5%は、そのような割合になるように大当たり確率や時短Bに係る作動回数などの各種数値を設計しているということであり、本明細書における他の箇所（割合を%で記載している箇所）についても同様である。例えば、非確率変動遊技状態における大当たり確率が1/300であり、時短Bに係る作動回数が900回となっている場合、非確率変動遊技状態における時短Bが作動するまでに大当たりには当選する確率（割合と称することがある）は約95%であり、大当たりには当選せずに時短Bが作動する確率は約5%である。なお、95%などと図示している確率については、約95%という意味であり、94.9%なども約95%に相当することとなり、すべての確率において同様となっていることを補足しておく。また、確率の数値についてはあくまで一例であり、変更しても問題ない。

20

30

【3548】

<（B）第1主遊技大当たり>

第1主遊技側の大当たりとして、確変大当たり（大当たり終了後に確率変動遊技状態に移行する大当たり）のみを有している。確変大当たりには当選した場合においては、確変大当たり中に大入賞口に向かって遊技球を発射し続けることで、特定領域に遊技球が入球し、確変大当たり終了後には確率変動遊技状態且つ時短Aとなる。確率変動遊技状態且つ時短Aにおいては、右打ちにて遊技を進行すると（遊技球を発射し続けた場合）、80%の割合で確率変動遊技状態が終了する前に（ST中に）第2主遊技側の大当たりには当選し、20%の割合で第2主遊技側の大当たりには当選せずに確変回数分の図柄変動が実行されて、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態に移行することとなる（時短回数も確変回数と同一となっている）。具体例としては、確率変動遊技状態における大当たり確率が1/31であり、確変回数（時短回数）が49回である場合に、約80%の割合で確率変動遊技状態が終了する前に（ST中に）第2主遊技側の大当たりには当選することとなる。

40

【3549】

なお、当該確率変動遊技状態は主遊技図柄の変動回数（確変回数分の主遊技図柄の変動）によって確率変動遊技状態が終了する（STタイプやST機と称することがある）よう構成されている。

50

【3550】

＜（C）第2主遊技大当たり＞

第2主遊技側の大当たりとして、確変大当たりのみを有している。確変大当たりに当選した場合においては、確変大当たり中に大入賞口に向かって遊技球を発射し続けることで、特定領域に遊技球が入球し、確変大当たり終了後には確率変動遊技状態且つ時短Aとなる。確率変動遊技状態且つ時短Aにおいては、右打ちにて遊技を進行すると（遊技球を発射し続けた場合）、80%の割合で確率変動遊技状態が終了する前に（ST中に）第2主遊技側の大当たりに当選し、20%の割合で第2主遊技側の大当たりに当選せずに確変回数分の図柄変動が実行されて、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態に移行することとなる（時短回数も確変回数と同一となっている）。

10

【3551】

また、第27実施形態においては、大当たり終了後に移行する遊技状態のうち、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態以外の遊技状態を有利な状態と称している。換言すると、確率変動遊技状態であるおよび／または時間短縮遊技状態（確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態、確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態、非確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態）である場合を有利な状態と称している。なお、時短B作動中は時間短縮遊技状態であるが、大当たり終了後に移行した遊技状態ではないため、有利な状態には含めていない。

【3552】

＜（D）時短B作動＞

非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態において、左打ちにて遊技を進行すると（遊技球を発射し続けた場合）、5%の割合で大当たりに当選せずに時短Bに係る作動回数分の図柄変動が実行されて（作動回数到達と称することがある）時短Bが作動することとなる。すなわち、時短Bが作動した場合には、非確率変動遊技状態且つ時短Bとなり、右打ちにて遊技を進行すると（遊技球を発射し続けた場合）、96%の割合で時短Bが終了する前に第2主遊技側の大当たりに当選し、4%の割合で第2主遊技側の大当たりに当選せずに時短回数分の図柄変動が実行されて、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態に移行することとなる。なお、時短Bが作動し、その後大当たりに当選せずに時短Bに係る時短回数分の図柄変動が実行されて、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態に移行した場合には、その後時短Bに係る作動回数分の図柄変動が実行されたとしても時短Bは再度作動しないように構成されている。換言すると、時短Bは大当たり間で1回のみ作動し得るよう構成されている。

20

30

【3553】

＜（E）第2主遊技大当たり＞

第2主遊技側の大当たりとして、確変大当たりのみを有している。確変大当たりに当選した場合においては、確変大当たり中に大入賞口に向かって遊技球を発射し続けることで、特定領域に遊技球が入球し、確変大当たり終了後には確率変動遊技状態且つ時短Aとなる。確率変動遊技状態且つ時短Aにおいては、右打ちにて遊技を進行すると（遊技球を発射し続けた場合）、80%の割合で確率変動遊技状態が終了する前に（ST中に）第2主遊技側の大当たりに当選し、20%の割合で第2主遊技側の大当たりに当選せずに確変回数分の図柄変動が実行されて、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態に移行することとなる（時短回数も確変回数と同一となっている）。

40

【3554】

＜時短B以外から有利な状態へ移行する割合＞

ここで、第27実施形態における「時短B以外から有利な状態へ移行する割合」について詳述する。「時短B以外から有利な状態へ移行する」とは、時短Bではない状態で当選した大当たり終了後に有利な状態に移行することである。まず、「（A）非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態」にて第1主遊技側の大当たりに当選する割合が95%であり、第1主遊技側の大当たり終了後に有利な状態に移行する割合は100%（確変大当たり終了後には確率変動遊技状態且つ時短Aとなる）である。また、「（A）非確率変動遊技状態且

50

つ非時間短縮遊技状態」にて大当りに当選せずに時短Bに係る作動回数分の図柄変動が実行されて（作動回数到達と称することがある）時短Bが作動する割合が5%であり、その後、第2主遊技側の大当りに当選せずに時短回数分の図柄変動が実行されて、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態に移行する割合が4%であり、その場合には、再度時短Bは作動しないことから、第1主遊技側の大当りに当選する割合は100%である。

【3555】

このことから、「時短B以外から有利な状態へ移行する割合」は、「 $95\% \times 100\% + 5\% \times 4\% \times 100\% = 95.2\%$ 」となる。

【3556】

<時短Bから有利な状態へ移行する割合>

次に、第27実施形態における「時短Bから有利な状態へ移行する割合」について詳述する。「時短Bから有利な状態へ移行する」とは、時短Bである状態で当選した大当り終了後に有利な状態に移行することである。「(A) 非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態」にて大当りに当選せずに時短Bに係る作動回数分の図柄変動が実行されて（作動回数到達と称することがある）時短Bが作動する割合が5%であり、その後、時短Bの作動中に第2主遊技側の大当りに当選する割合が96%であり、第2主遊技側の大当り終了後に有利な状態に移行する割合は100%である。

【3557】

このことから、「時短Bから有利な状態へ移行する割合」は、「 $5\% \times 96\% \times 100\% = 4.8\%$ 」となる。

【3558】

第27実施形態に係る遊技機は、「時短Bから有利な状態へ移行する割合 $\leq$ 時短B以外から有利な状態へ移行する割合」となるよう構成されており、このように、有利な状態への移行割合を考慮して設計することで、時短Bが作動した場合における出玉性能が突出しすぎないこととなり、時短B待ちの遊技性にならないよう構成することができ、出玉バランス（時短Bが作動せずに獲得できる出玉と時短Bが作動した場合の出玉）のよい遊技機を創出することができる。

【3559】

前述した、「時短B以外から有利な状態へ移行する割合」について、時短Bが作動した後、第2主遊技側の大当りに当選せずに時短回数分の図柄変動が実行されて、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態に移行した後に当選した大当り終了後に、有利な状態に移行した場合を含めないように構成してもよい。換言すると、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態以外の遊技状態から非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態に移行した場合には、「時短Bから有利な状態へ移行する割合」にも「時短B以外から有利な状態へ移行する割合」にも含まないように構成してもよい。このようにした場合、第27実施形態では、「時短B以外から有利な状態へ移行する割合」は、「 $95\% \times 100\% = 95\%$ 」となり、「時短Bから有利な状態へ移行する割合」は、「 $5\% \times 96\% \times 100\% = 4.8\%$ 」となり、この場合においても、「時短Bから有利な状態へ移行する割合 $\leq$ 時短B以外から有利な状態へ移行する割合」は担保されている。

【3560】

また、時短Bが作動した状態である非確率変動遊技状態且つ時短Bを有利な状態に含めてもよい、すなわち、大当り終了後に移行した遊技状態であるか否かに拘らず、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態以外の遊技状態を有利な状態としてもよい。このようにした場合、第27実施形態では、「時短B以外から有利な状態へ移行する割合」は、「 $95\% \times 100\% = 95\%$ 」となり、「時短Bから有利な状態へ移行する割合」は、「5%」となり、この場合においても、「時短Bから有利な状態へ移行する割合 $\leq$ 時短B以外から有利な状態へ移行する割合」は担保されている。

【3561】

なお、第27実施形態においては、時短図柄が当選しない、換言すると、時短Cが作動しないよう構成したが、これには限定されず、時短Cが作動し得るよう構成してもよい。

10

20

30

40

50

このように構成した場合においても、上述した「時短Bから有利な状態へ移行する割合 $\leq$ 時短B以外から有利な状態へ移行する割合」が担保されるように構成することが好適である。

【3562】

また、「時短B以外から有利な状態へ移行する割合 $>50\%$ 」を満たすように構成したり、「時短B以外から有利な状態へ移行する割合 $>10\%$ 」を満たすように構成したり、「時短B以外から有利な状態へ移行する割合 $>0\%$ 」を満たすように構成することによって、時短B待ちの遊技性にならないよう構成してもよい。

【3563】

なお、第27実施形態における大当り確率、時短回数、大当り図柄の種類数、大当り終了後の遊技状態の振り分け、時短Bに係る作動回数などの設計値はあくまで一例であり、「時短Bから有利な状態へ移行する割合 $\leq$ 時短B以外から有利な状態へ移行する割合」が担保されるように構成されていれば、どのように変更しても問題ないことを補足しておく。さらに、第27実施形態においては、特別遊技実行中に特定領域に遊技球が入球することにより、当該特別遊技終了後に確率変動遊技状態に移行する玉確タイプの遊技機としたが、これには限定されず、小当り遊技の実行中に特定領域に遊技球が入球した場合には、小当り遊技の終了後に特別遊技を実行可能である1種+1種小当りVタイプの遊技機としてもよいし、1種+1種直列タイプなどすべてのスペック（タイプ）に構成してもよい。

【3564】

（第27実施形態からの変更例1）

第27実施形態においては、時間短縮遊技状態として時短Bを有しており、時短B待ちの遊技性とはならない遊技機の構成を例示したが、このような構成は第27実施形態のみには限定されない。そこで、時間短縮遊技状態として時短Bを有しており、時短B待ちの遊技性とはならない遊技機であり、第27実施形態とは異なる構成を、第27実施形態からの変更例1とし、以下、第27実施形態からの相違点についてのみ詳述する。

【3565】

まず、図449は、第27実施形態からの変更例1の遊技の流れに係る遷移図である。同図左上部に図示するように、第27実施形態からの変更例1の遊技の流れとしては、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態においては、左打ち（遊技盤面左側を遊技球が流下するように遊技球を発射する遊技方法であり、相対的に弱い発射強度で遊技球を発射することとなる）にて遊技を進行し、確率変動遊技状態且つ時短Aと、非確率変動遊技状態且つ時短Aと、非確率変動遊技状態且つ時短Bと、においては右打ち（遊技盤面右側を遊技球が流下するように遊技球を発射する遊技方法であり、相対的に強い発射強度で遊技球を発射することとなる）にて遊技を進行するよう構成されている。なお、第27実施形態からの変更例1においては時短Cを有していない。

【3566】

また、第27実施形態からの変更例1に係る遊技機は、第3実施形態と同様に、特別遊技実行中に特定領域に遊技球が入球することにより、当該特別遊技終了後に確率変動遊技状態に移行するような構成（V確タイプ、玉確タイプ、VSTタイプと称することがある）となっている。なお、大入賞口の数、第3実施形態と同じ2つとしてもよいし、第25実施形態と同じ1つとしてもよい。

【3567】

<（A）非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態>

まず、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態において、左打ちにて遊技を進行すると（遊技球を発射し続けた場合）、95%の割合で第1主遊技側の大当り（複数種類の大当りのうちのいずれかの大当り）に当選し、5%の割合で大当りに当選せずに時短Bに係る作動回数分の図柄変動が実行されて（作動回数到達と称することがある）時短Bが作動することとなる。なお、上記95%や5%は、そのような割合になるように大当り確率や時短Bに係る作動回数などの各種数値を設計しているということであり、本明細書における他の箇所（割合を%で記載している箇所）についても同様である。例えば、非確率変

10

20

30

40

50

動遊技状態における大当たり確率が $1/300$ であり、時短Bに係る作動回数が900回となっている場合、非確率変動遊技状態における時短Bが作動するまでに大当たりに当選する確率は約95%であり、大当たりに当選せずに時短Bが作動する確率は約5%である。

【3568】

＜(B) 第1主遊技大当たり＞

第1主遊技側の大当たりとして、確変大当たり（大当たり終了後に確率変動遊技状態に移行する大当たり）と非確変大当たり（大当たり終了後に非確率変動遊技状態に移行する大当たり）とを有しており、確変大当たりに当選する割合は、第1主遊技大当たり全体における2%であり、非確変大当たりに当選する割合は、第1主遊技大当たり全体における98%となっている。

【3569】

確変大当たりに当選した場合においては、確変大当たり中に大入賞口に向かって遊技球を発射し続けることで、特定領域に遊技球が入球し、確変大当たり終了後には確率変動遊技状態且つ時短Aとなる。また、当該確率変動遊技状態は主遊技図柄の変動回数（確変回数分の主遊技図柄の変動）によって確率変動遊技状態が終了する（STタイプやST機と称することがある）よう構成されており、確率変動遊技状態且つ時短Aにおいては、右打ちにて遊技を進行すると（遊技球を発射し続けた場合）、80%の割合で確率変動遊技状態が終了する前に（ST中に）第2主遊技側の大当たりに当選し、20%の割合で第2主遊技側の大当たりに当選せずに確変回数分の図柄変動が実行されて、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態に移行することとなる（時短回数も確変回数と同一となっている）。具体例としては、確率変動遊技状態における大当たり確率が $1/31$ であり、確変回数（時短回数）が49回である場合に、約80%の割合で確率変動遊技状態が終了する前に（ST中に）第2主遊技側の大当たりに当選することとなる。

【3570】

非確変大当たりに当選した場合においては、非確変大当たり中に大入賞口に向かって遊技球を発射し続けても、特定領域に遊技球が入球せず（入球困難であり）、非確変大当たり終了後には非確率変動遊技状態且つ時短Aとなる。非確率変動遊技状態且つ時短Aにおいては、右打ちにて遊技を進行すると（遊技球を発射し続けた場合）、1%の割合で時間短縮遊技状態が終了する前に第2主遊技側の大当たりに当選し、99%の割合で第2主遊技側の大当たりに当選せずに時短回数分の図柄変動が実行されて（時短Aの作動が終了して）、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態に移行することとなる。具体例としては、非確率変動遊技状態における大当たり確率が $1/300$ であり、時短回数が3回である場合に、約1%の割合で時短Aが終了する前に第2主遊技側の大当たりに当選することとなる。

【3571】

ここで、非確変大当たりの終了後に移行する非確率変動遊技状態且つ時短Aは、時間短縮遊技状態であるため、有利な状態に含んでいるが、時間短縮遊技状態が終了する前に第2主遊技側の大当たりに当選する確率は1%しかなく（例えば、時短回数は3回）、非確率変動遊技状態且つ時短Aに移行しても、99%の割合で第2主遊技側の大当たりに当選できずに非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態に移行してしまう。このことから、遊技者にとっては、非確率変動遊技状態且つ時短Aは、確率変動遊技状態且つ時短Aよりも不利な状態となっており、時短Bを経由しない場合には移行し得るが、時短Bを経由した場合には移行しない遊技状態となっている。このように、第27実施形態からの変更例1においては、遊技者にとっては、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態においては、第1主遊技側の大当たり（少なくとも非確変大当たり）に当選するよりも時短Bが作動した方が有利となるよう構成されている。

【3572】

＜(C) 第2主遊技大当たり＞

第2主遊技側の大当たりとして、確変大当たりのみを有している。確変大当たりに当選した場合においては、確変大当たり中に大入賞口に向かって遊技球を発射し続けることで、特定領域に遊技球が入球し、確変大当たり終了後には確率変動遊技状態且つ時短Aとなる。確率変動遊技状態且つ時短Aにおいては、右打ちにて遊技を進行すると（遊技球を発射し続けた

場合)、80%の割合で確率変動遊技状態が終了する前に(ST中に)第2主遊技側の大当りに当選し、20%の割合で第2主遊技側の大当りに当選せずに確変回数分の図柄変動が実行されて、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態に移行することとなる(時短回数も確変回数と同一となっている)。

【3573】

また、第27実施形態からの変更例1においては、大当り終了後に移行する遊技状態のうち、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態以外の遊技状態を有利な状態と称している。換言すると、確率変動遊技状態であるおよび／または時間短縮遊技状態(確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態、確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態、非確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態)である場合を有利な状態と称している。なお、時短B作

10

【3574】

<(D)時短B作動>

非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態において、左打ちにて遊技を進行すると(遊技球を発射し続けた場合)、5%の割合で大当りに当選せずに時短Bに係る作動回数分の図柄変動が実行されて(作動回数到達と称することがある)時短Bが作動することとなる。すなわち、時短Bが作動した場合には、非確率変動遊技状態且つ時短Bとなり、右打ちにて遊技を進行すると(遊技球を発射し続けた場合)、96%の割合で時短Bが終了する前に第2主遊技側の大当りに当選し、4%の割合で第2主遊技側の大当りに当選せずに時短回数分の図柄変動が実行されて、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態に移行することとなる。なお、時短Bが作動し、その後大当りに当選せずに時短Bに係る時短回数分の図柄変動が実行されて、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態に移行した場合には、その後時短Bに係る作動回数分の図柄変動が実行されたとしても時短Bは再度作動しないように構成されている。換言すると、時短Bは大当り間で1回のみ作動し得るよう構成されている。

20

【3575】

<(E)第2主遊技大当り>

第2主遊技側の大当りとして、確変大当りのみを有している。確変大当りに当選した場合においては、確変大当り中に大入賞口に向かって遊技球を発射し続けることで、特定領域に遊技球が入球し、確変大当り終了後には確率変動遊技状態且つ時短Aとなる。確率変動遊技状態且つ時短Aにおいては、右打ちにて遊技を進行すると(遊技球を発射し続けた場合)、80%の割合で確率変動遊技状態が終了する前に(ST中に)第2主遊技側の大当りに当選し、20%の割合で第2主遊技側の大当りに当選せずに確変回数分の図柄変動が実行されて、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態に移行することとなる(時短回数も確変回数と同一となっている)。

30

【3576】

<時短B以外から有利な状態へ移行する割合>

ここで、第27実施形態からの変更例1における「時短B以外から有利な状態へ移行する割合」について詳述する。「時短B以外から有利な状態へ移行する」とは、時短Bではない状態で当選した大当り終了後に有利な状態に移行することである。まず、「(A)非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態」にて第1主遊技側の大当りに当選する割合が95%であり、第1主遊技側の大当り終了後に有利な状態に移行する割合は100%(2%の確変大当り終了後には確率変動遊技状態且つ時短Aとなり、98%の非確変大当り後には非確率変動遊技状態且つ時短Aとなり、いずれも有利な状態である)である。また、「(A)非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態」にて大当りに当選せずに時短Bに係る作動回数分の図柄変動が実行されて(作動回数到達と称することがある)時短Bが作動する割合が5%であり、その後、第2主遊技側の大当りに当選せずに時短回数分の図柄変動が実行されて、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態に移行する割合が4%であり、その場合には、再度時短Bは作動しないことから、第1主遊技側の大当りに当選す

40

50

る割合は100%である。

【3577】

このことから、「時短B以外から有利な状態へ移行する割合」は、「 $95\% \times 100\% + 5\% \times 4\% \times 100\% = 95.2\%$ 」となる。

【3578】

＜時短Bから有利な状態へ移行する割合＞

次に、第27実施形態からの変更例1における「時短Bから有利な状態へ移行する割合」について詳述する。「時短Bから有利な状態へ移行する」とは、時短Bである状態で当選した大当り終了後に有利な状態に移行することである。「(A)非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態」にて大当りに当選せずに時短Bに係る作動回数分の図柄変動が実行されて（作動回数到達と称することがある）時短Bが作動する割合が5%であり、その後、時短Bの作動中に第2主遊技側の大当りに当選する割合が96%であり、第2主遊技側の大当り終了後に有利な状態に移行する割合は100%である。

【3579】

このことから、「時短Bから有利な状態へ移行する割合」は、「 $5\% \times 96\% \times 100\% = 4.8\%$ 」となる。

【3580】

このように、第27実施形態からの変更例1に係る遊技機は、遊技者にとっては、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態においては、第1主遊技側の大当り（少なくとも非確変大当り）に当選するよりも時短Bが作動した方が有利となるよう構成されているのだが、第27実施形態と同様に、「時短Bから有利な状態へ移行する割合≦時短B以外から有利な状態へ移行する割合」となる。このように構成することで、「時短Bから有利な状態へ移行する割合≦時短B以外から有利な状態へ移行する割合」を担保しながら、換言すると時短B待ちの遊技性とならないことを担保しながらも、時短Bが作動した場合における出玉性能を突出させることができ、時短Bを有する斬新な遊技性を創出することができる。

【3581】

前述した、「時短B以外から有利な状態へ移行する割合」について、時短Bが作動した後、第2主遊技側の大当りに当選せずに時短回数分の図柄変動が実行されて、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態に移行した後に当選した大当り終了後に、有利な状態に移行した場合を含めないように構成してもよい。換言すると、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態以外の遊技状態から非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態に移行した場合には、「時短Bから有利な状態へ移行する割合」にも「時短B以外から有利な状態へ移行する割合」にも含まないように構成してもよい。このようにした場合、第27実施形態からの変更例1では、「時短B以外から有利な状態へ移行する割合」は、「 $95\% \times 100\% = 95\%$ 」となり、「時短Bから有利な状態へ移行する割合」は、「 $5\% \times 96\% \times 100\% = 4.8\%$ 」となり、この場合においても、「時短Bから有利な状態へ移行する割合≦時短B以外から有利な状態へ移行する割合」は担保されている。

【3582】

また、時短Bが作動した状態である非確率変動遊技状態且つ時短Bを有利な状態に含めてもよい、すなわち、大当り終了後に移行した遊技状態であるか否かに拘らず、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態以外の遊技状態を有利な状態としてもよい。このようにした場合、第27実施形態からの変更例1では、「時短B以外から有利な状態へ移行する割合」は、「 $95\% \times 100\% = 95\%$ 」となり、「時短Bから有利な状態へ移行する割合」は、「5%」となり、この場合においても、「時短Bから有利な状態へ移行する割合≦時短B以外から有利な状態へ移行する割合」は担保されている。

【3583】

なお、第27実施形態からの変更例1においては、時短図柄が当選しない、換言すると、時短Cが作動しないよう構成したが、これには限定されず、時短Cが作動し得るよう構成してもよい。このように構成した場合においても、上述した「時短Bから有利な状態へ

10

20

30

40

50

移行する割合 $\leq$ 時短B以外から有利な状態へ移行する割合」が担保されるように構成することが好適である。

【3584】

また、「時短B以外から有利な状態へ移行する割合 $>50\%$ 」を満たすように構成したり、「時短B以外から有利な状態へ移行する割合 $>10\%$ 」を満たすように構成したり、「時短B以外から有利な状態へ移行する割合 $>0\%$ 」を満たすように構成することによって、時短B待ちの遊技性にならないよう構成してもよい。

【3585】

なお、第27実施形態からの変更例1における大当り確率、時短回数、大当り図柄の種類数、大当り終了後の遊技状態の振り分け、時短Bに係る作動回数などの設計値はあくまで一例であり、「時短Bから有利な状態へ移行する割合 $\leq$ 時短B以外から有利な状態へ移行する割合」が担保されるように構成されていれば、どのように変更しても問題ないことを補足しておく。さらに、第27実施形態からの変更例1においては、特別遊技実行中に特定領域に遊技球が入球することにより、当該特別遊技終了後に確率変動遊技状態に移行する玉確タイプの遊技機としたが、これには限定されず、小当り遊技の実行中に特定領域に遊技球が入球した場合には、小当り遊技の終了後に特別遊技を実行可能である1種+1種小当りVタイプの遊技機としてもよいし、1種+1種直列タイプなどすべてのスペック(タイプ)に構成してもよい。

【3586】

(第27実施形態からの変更例2)

第27実施形態においては、時間短縮遊技状態として時短Bを有しており、時短B待ちの遊技性とはならない遊技機の構成を例示したが、このような構成は第27実施形態のみには限定されない。そこで、時間短縮遊技状態として時短Bを有しており、時短B待ちの遊技性とはならない遊技機であり、第27実施形態とは異なる構成を、第27実施形態からの変更例2とし、以下、第27実施形態からの相違点についてのみ詳述する。

【3587】

はじめに、第27実施形態及び第27実施形態からの変更例1においては、「時短Bから有利な状態へ移行する割合 $\leq$ 時短B以外から有利な状態へ移行する割合」となるよう構成することにより、時短B待ちの遊技性にならないよう構成したが、第27実施形態からの変更例2においては、「時短Bから最も有利な状態へ移行する割合 $\leq$ 時短B以外から最も有利な状態へ移行する割合」となるよう構成することにより、時短B待ちの遊技性にならないよう構成している。一例としては、図449における「(B)第1主遊技大当り」の確変大当りに当選する割合を第1主遊技大当り全体における 10% とし、非確変大当りに当選する割合を第1主遊技大当り全体における 90% となるよう構成する。さらに、大当り終了後に移行する遊技状態のうち、確率変動遊技状態(確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態)を最も有利な状態とする。換言すると、大当り確率が高い遊技状態が最も有利な状態となる。その他の構成については、図449と同様のため説明は割愛する。

【3588】

<時短B以外から最も有利な状態へ移行する割合>

ここで、第27実施形態からの変更例2における「時短B以外から最も有利な状態へ移行する割合」について詳述する。「時短B以外から最も有利な状態へ移行する」とは、時短Bではない状態で当選した大当り終了後に最も有利な状態に移行することである。まず、「(A)非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態」にて第1主遊技側の大当りに当選する割合が 95% であり、第1主遊技側の大当り終了後に最も有利な状態に移行する割合は確変大当りに当選する 10% である。また、「(A)非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態」にて大当りに当選せずに時短Bに係る作動回数分の図柄変動が実行されて(作動回数到達と称することがある)時短Bが作動する割合が 5% であり、その後、第2主遊技側の大当りに当選せずに時短回数分の図柄変動が実行されて、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態に移行する割合が 4% であり、その場合には、再度時短Bは作動せず、第1主遊技側の大当りとして確変大当りに当選する割合が 10% である。

【3589】

このことから、「時短B以外から最も有利な状態へ移行する割合」は、「 $95\% \times 10\% + 5\% \times 4\% \times 10\% = 9.52\%$ 」となる。

【3590】

<時短Bから有利な状態へ移行する割合>

次に、第27実施形態からの変更例1における「時短Bから最も有利な状態へ移行する割合」について詳述する。「時短Bから最も有利な状態へ移行する」とは、時短Bである状態で当選した大当り終了後に最も有利な状態に移行することである。「(A)非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態」にて大当りに当選せずに時短Bに係る作動回数分の図柄変動が実行されて(作動回数到達と称することがある)時短Bが作動する割合が5%であり、その後、時短Bの作動中に第1主遊技側の大当りに当選する割合が96%であり、第2主遊技側の大当り終了後に最も有利な状態に移行する割合は100%である。

10

【3591】

このことから、「時短Bから最も有利な状態へ移行する割合」は、「 $5\% \times 96\% \times 100\% = 4.8\%$ 」となる。

【3592】

このように、第27実施形態からの変更例2に係る遊技機は、「時短Bから最も有利な状態へ移行する割合 $\leq$ 時短B以外から最も有利な状態へ移行する割合」となるよう構成されており、このように、最も有利な状態への移行割合を考慮して設計することで、時短Bが作動した場合における出玉性能が突出しすぎないようにすることとなり、時短B待ちの遊技性にならないよう構成することができ、出玉バランス(時短Bが作動せずに獲得できる出玉と時短Bが作動した場合の出玉)のよい遊技機を創出することができる。

20

【3593】

(第27実施形態からの変更例3)

第27実施形態からの変更例2においては、時間短縮遊技状態として時短Bを有しており、時短B待ちの遊技性とはならない遊技機の構成を例示したが、このような構成は第27実施形態からの変更例2のみには限定されない。そこで、時間短縮遊技状態として時短Bを有しており、時短B待ちの遊技性とはならない遊技機であり、第27実施形態からの変更例2とは異なる構成を、第27実施形態からの変更例3とし、以下、第27実施形態からの変更例2からの相違点についてのみ詳述する。

30

【3594】

まず、図450は、第27実施形態からの変更例3の遊技の流れに係る遷移図である。同図左上部に図示するように、第27実施形態からの変更例3の遊技の流れとしては、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態、非確率変動遊技状態且つ時短A、および非確率変動遊技状態且つ時短Bにおいては、左打ち(遊技盤面左側を遊技球が流下するように遊技球を発射する遊技方法であり、相対的に弱い発射強度で遊技球を発射することとなる)にて遊技を進行し、確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態においては右打ち(遊技盤面右側を遊技球が流下するように遊技球を発射する遊技方法であり、相対的に強い発射強度で遊技球を発射することとなる)にて遊技を進行するよう構成されている。なお、第27実施形態からの変更例3においては時短Cを有していない。

40

【3595】

また、第27実施形態からの変更例3に係る遊技機は、第3実施形態と同様に、特別遊技実行中に特定領域に遊技球が入球することにより、当該特別遊技終了後に確率変動遊技状態に移行するような構成(V確タイプ、玉確タイプ、VSTタイプと称することがある)となっている。なお、大入賞口の数、第3実施形態と同じ2つとしてもよいし、第25実施形態と同じ1つとしてもよい。

【3596】

さらに、左打ちにて遊技を進行した場合には、電動役物が設けられていない第1主遊技側の始動口と電動役物が設けられている第1主遊技側の始動口に遊技球が入球し得るよう構成されており、右打ちにて遊技を進行した場合には、電動役物が設けられていない第

50

2主遊技側の始動口に遊技球が入球し得るように構成されている。なお、電動役物が設けられていない第1主遊技側の始動口と電動役物が設けられている第1主遊技側の始動口とを同一の始動口としてもよく、このように構成した場合には、非時間短縮遊技状態よりも時間短縮遊技状態の方が第1主遊技側の始動口に遊技球が入球し易いよう構成することが好適である。

【3597】

また、第27実施形態からの変更例3においては、時短Bに係る作動回数は、第1主遊技図柄の変動で更新され得るが、第2主遊技図柄の変動では更新されないよう構成されている。また、非確率変動遊技状態では更新され得るが、確率変動遊技状態では更新されないよう構成されている。

【3598】

< (A) 非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態 >

まず、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態において、左打ちにて遊技を進行すると（遊技球を発射し続けた場合）、95%の割合で第1主遊技側の大当たり（複数種類の大当たりのうちのいずれかの大当たり）に当選し、5%の割合で大当たりで当選せずに時短Bに係る作動回数分の図柄変動が実行されて（作動回数到達と称することがある）時短Bが作動することとなる。

【3599】

< (B) 第1主遊技大当たり >

第1主遊技側の大当たりとして、4R確変大当たり（大当たり終了後に確率変動遊技状態に移行する大当たり）と10R通常大当たり（大当たり終了後に非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態に移行する大当たり）とを有しており、確変大当たりで当選する割合は、第1主遊技大当たり全体における2%であり、10R通常大当たりで当選する割合は、第1主遊技大当たり全体における98%となっている。

【3600】

4R確変大当たりで当選した場合においては、4R確変大当たり中に大入賞口に向かって遊技球を発射し続けることで、特定領域に遊技球が入球し、4R確変大当たり終了後には確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態となる。また、当該確率変動遊技状態は主遊技図柄の変動回数（確変回数分の主遊技図柄の変動）によって確率変動遊技状態が終了する（STタイプやST機と称することがある）よう構成されており、確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態においては、右打ちにて遊技を進行すると（遊技球を発射し続けた場合）、80%の割合で確率変動遊技状態が終了する前に（ST中に）第2主遊技側の大当たりで当選し、20%の割合で第2主遊技側の大当たりで当選せずに確変回数分の図柄変動が実行されて、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態に移行することとなる。具体例としては、確率変動遊技状態における大当たり確率が1/88であり、確変回数が140回である場合に、約80%の割合で確率変動遊技状態が終了する前に（ST中に）第2主遊技側の大当たりで当選することとなる。

【3601】

なお、第27実施形態からの変更例3においては、大当たり終了後に移行する遊技状態のうち、確率変動遊技状態（確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態）を最も有利な状態と称している。換言すると、大当たり確率が高い遊技状態が最も有利な状態となっている。

【3602】

ここで、4R確変大当たりの終了後に移行する確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態は、確率変動遊技状態であるため、最も有利な状態としているが、時間短縮遊技状態ではなく持ち球を減らしつつ遊技を進行することとなる。このことから、遊技者にとっては、確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態は、後述する非確率変動遊技状態且つ時短Aよりも不利な状態となっている。このように、第27実施形態からの変更例3においては、遊技者にとっては、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態においては、第1主遊技側の大当たりで当選するよりも時短Bが作動した方が有利となるよう構成されている。

【3603】

10

20

30

40

50

10 R通常大当りに当選した場合においては、10 R通常大当り中に大入賞口に向かって遊技球を発射し続けても、特定領域に遊技球が入球せず（入球困難であり）、10 R通常大当り終了後には非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態となる。

【3604】

< (C) 第2主遊技大当り >

第2主遊技側の大当りとして、10 R確変大当りのみを有している。10 R確変大当りに当選した場合においては、10 R確変大当り中に大入賞口に向かって遊技球を発射し続けることで、特定領域に遊技球が入球し、10 R確変大当り終了後には確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態となる。確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態においては、右打ちにて遊技を進行すると（遊技球を発射し続けた場合）、80%の割合で確率変動遊技状態が終了する前に（ST中に）第2主遊技側の大当りに当選し、20%の割合で第2主遊技側の大当りに当選せずに確変回数分の図柄変動が実行されて、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態に移行することとなる。

10

【3605】

< (D) 時短B作動 >

非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態において、左打ちにて遊技を進行すると（遊技球を発射し続けた場合）、5%の割合で大当りに当選せずに時短Bに係る作動回数分の図柄変動（第1主遊技図柄の変動）が実行されて（作動回数到達と称することがある）時短Bが作動することとなる。すなわち、時短Bが作動した場合には、非確率変動遊技状態且つ時短Bとなり、左打ちにて遊技を進行すると（遊技球を発射し続けた場合）、97%の割合で時短Bが終了する前に第1主遊技側の大当りに当選し、3%の割合で第1主遊技側の大当りに当選せずに時短回数分の図柄変動が実行されて、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態に移行することとなる。なお、時短Bが作動し、その後大当りに当選せずに時短Bに係る時短回数分の図柄変動が実行されて、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態に移行した場合には、その後時短Bに係る作動回数分の図柄変動が実行されたとしても時短Bは再度作動しないように構成されている。換言すると、時短Bは大当り間で1回のみ作動し得るよう構成されている。

20

【3606】

< (E) 第1主遊技大当り >

第1主遊技側の大当りとして、4 R確変大当り（大当り終了後に確率変動遊技状態に移行する大当り）と10 R時短大当り（大当り終了後に非確率変動遊技状態且つ時短Aに移行する大当り）とを有している。4 R確変大当りに当選した場合においては、確変大当り中に大入賞口に向かって遊技球を発射し続けることで、特定領域に遊技球が入球し、確変大当り終了後には確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態となる。なお、前述した10 R通常大当りと10 R時短大当りとは、同一の大当り図柄を契機として実行される大当りであるが、大当りに当選する遊技状態が非時間短縮遊技状態である場合には10 R通常大当りとなり、大当りに当選する遊技状態が時間短縮遊技状態である場合には10 R時短大当りとなる（大当りに当選する遊技状態によって、大当り終了後の遊技状態が相違し得る）。4 R確変大当り終了後の確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態においては、右打ちにて遊技を進行すると（遊技球を発射し続けた場合）、80%の割合で確率変動遊技状態が終了する前に（ST中に）第2主遊技側の大当りに当選し、20%の割合で第2主遊技側の大当りに当選せずに確変回数分の図柄変動が実行されて、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態に移行することとなる。また、10 R時短大当り終了後の非確率変動遊技状態且つ時短Aにおいては、左打ちにて遊技を進行すると（遊技球を発射し続けた場合）、80%の割合で時間短縮遊技状態が終了する前に第1主遊技側の大当りに当選し、20%の割合で第1主遊技側の大当りに当選せずに時短回数分の図柄変動が実行されて、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態に移行することとなる。

30

40

【3607】

< (F) 第2主遊技大当り >

第2主遊技側の大当りとして、10 R確変大当りのみを有している。10 R確変大当り

50

に当選した場合においては、10R確変大当たり中に大入賞口に向かって遊技球を発射し続けることで、特定領域に遊技球が入球し、10R確変大当たり終了後には確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態となる。確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態においては、右打ちにて遊技を進行すると（遊技球を発射し続けた場合）、80%の割合で確率変動遊技状態が終了する前に（ST中に）第2主遊技側の大当たり当選し、20%の割合で第2主遊技側の大当たり当選せずに確変回数分の図柄変動が実行されて、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態に移行することとなる。

【3608】

＜（G）第1主遊技大当たり＞

第1主遊技側の大当たりとして、4R確変大当たり（大当たり終了後に確率変動遊技状態に移行する大当たり）と10R時短大当たり（大当たり終了後に非確率変動遊技状態且つ時短Aに移行する大当たり）とを有している。4R確変大当たり当選した場合には、確変大当たり中に大入賞口に向かって遊技球を発射し続けることで、特定領域に遊技球が入球し、確変大当たり終了後には確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態となる。4R確変大当たり終了後の確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態においては、右打ちにて遊技を進行すると（遊技球を発射し続けた場合）、80%の割合で確率変動遊技状態が終了する前に（ST中に）第2主遊技側の大当たり当選し、20%の割合で第2主遊技側の大当たり当選せずに確変回数分の図柄変動が実行されて、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態に移行することとなる。また、10R時短大当たり終了後の非確率変動遊技状態且つ時短Aにおいては、左打ちにて遊技を進行すると（遊技球を発射し続けた場合）、80%の割合で時間短縮遊技状態が終了する前に第1主遊技側の大当たり当選し、20%の割合で第1主遊技側の大当たり当選せずに時短回数分の図柄変動が実行されて、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態に移行することとなる。

【3609】

なお、時短Bが作動した後に遷移し得る遊技状態においても、確率変動遊技状態（確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態）が最も有利な状態となっている。

【3610】

＜時短B以外から最も有利な状態へ移行する割合＞

ここで、第27実施形態からの変更例3における「時短B以外から最も有利な状態へ移行する割合」について詳述する。「時短B以外から最も有利な状態へ移行する」とは、時短Bではない状態で当選した大当たり終了後に最も有利な状態に移行することである。まず、「（A）非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態」にて第1主遊技側の大当たり当選する割合が95%であり、第1主遊技側の大当たり終了後に最も有利な状態に移行する割合は4R確変大当たり当選する2%である。また、「（A）非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態」にて大当たり当選せずに時短Bに係る作動回数分の図柄変動が実行されて（作動回数到達と称することがある）時短Bが作動する割合が5%であり、その後、第2主遊技側の大当たり当選せずに時短回数分の図柄変動が実行されて、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態に移行する割合が4%であり、その場合には、再度時短Bは作動せず、第1主遊技側の大当たりとして4R確変大当たり当選する割合が2%である。

【3611】

このことから、「時短B以外から最も有利な状態へ移行する割合」は、「 $95\% \times 2\% + 5\% \times 3\% \times 2\% = 1.903\%$ 」となる。

【3612】

＜時短Bから有利な状態へ移行する割合＞

次に、第27実施形態からの変更例3における「時短Bから最も有利な状態へ移行する割合」について詳述する。「時短Bから最も有利な状態へ移行する」とは、時短Bである状態で当選した大当たり終了後に最も有利な状態に移行することである。「（A）非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態」にて大当たり当選せずに時短Bに係る作動回数分の図柄変動が実行されて（作動回数到達と称することがある）時短Bが作動する割合が5%であり、その後、時短Bの作動中に第1主遊技側の大当たり当選する割合が97%であり

、第1主遊技側の大当たり終了後に最も有利な状態に移行する割合は2%である。また、「(A)非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態」にて大当たり当選せずに時短Bに係る作動回数分の図柄変動が実行されて(作動回数到達と称することがある)時短Bが作動する割合が5%であり、その後、時短Bの作動中に第1主遊技側の大当たり当選する割合が97%であり、第1主遊技側の大当たり終了後に最も有利な状態に移行しない割合は98%であり、その後、時短A中に第1主遊技側の大当たり当選する割合が80%であり、第1主遊技側の大当たり終了後に最も有利な状態に移行する割合は2%である。

【3613】

このことから、「時短Bから最も有利な状態へ移行する割合」は、「 $5\% \times 97\% \times (2 + 98 \times 80 \times 2 + 98 \times 80 \times 98 \times 80 \times 2 + \dots)$ 0.19%」となる。

10

【3614】

このように、第27実施形態からの変更例3に係る遊技機は、遊技者にとっては、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態においては、第1主遊技側の大当たり当選するよりも時短Bが作動した方が有利となるよう構成されているのだが、第27実施形態からの変更例2と同様に、「時短Bから最も有利な状態へ移行する割合 $\leq$ 時短B以外から最も有利な状態へ移行する割合」となる。このように構成することで、「時短Bから最も有利な状態へ移行する割合 $\leq$ 時短B以外から最も有利な状態へ移行する割合」を担保しながら、換言すると時短B待ちの遊技性とならないことを担保しながらも、時短Bが作動した場合における出玉性能を突出させることができ、時短Bを有する斬新な遊技性を創出することができる。

20

【3615】

なお、第27実施形態からの変更例3における最も有利な状態を、最も大当たり確率の高い状態と称してもよい。また、第27実施形態からの変更例3においては、確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態を最も有利な状態としたが、これには限定されず、確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態を最も有利な状態としてもよいし、確率変動遊技状態且つ時短A、確率変動遊技状態且つ時短B、または確率変動遊技状態且つ時短Cを最も遊技な状態としてもよい。また、発射した遊技球数に対する払い出される遊技球数の割合が最も高い遊技状態を最も有利な状態としてもよいし、ベース値が最も高い遊技状態を最も有利な状態としてもよい。

【3616】

30

前述した、「時短B以外から最も有利な状態へ移行する割合」について、時短Bが作動した後、第2主遊技側の大当たり当選せずに時短回数分の図柄変動が実行されて、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態に移行した後に当選した大当たり終了後に、最も有利な状態に移行した場合を含めないように構成してもよい。換言すると、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態以外の遊技状態から非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態に移行した場合には、「時短Bから最も有利な状態へ移行する割合」にも「時短B以外から最も有利な状態へ移行する割合」にも含まないように構成してもよい。このようにした場合、第27実施形態からの変更例1では、「時短B以外から最も有利な状態へ移行する割合」は、「 $95\% \times 2\% = 1.9\%$ 」となり、「時短Bから最も有利な状態へ移行する割合」は、「 $5\% \times 97\% \times (2 + 98 \times 80 \times 2 + 98 \times 80 \times 98 \times 80 \times 2 + \dots)$ 0.19%」となり、この場合においても、「時短Bから最も有利な状態へ移行する割合 $\leq$ 時短B以外から最も有利な状態へ移行する割合」は担保されている。

40

【3617】

なお、第27実施形態からの変更例3においては、時短図柄が当選しない、換言すると、時短Cが作動しないよう構成したが、これには限定されず、時短Cが作動し得るよう構成してもよい。このように構成した場合においても、上述した「時短Bから最も有利な状態へ移行する割合 $\leq$ 時短B以外から最も有利な状態へ移行する割合」が担保されるように構成することが好適である。

【3618】

また、「時短B以外から最も有利な状態へ移行する割合 $> 50\%$ 」を満たすように構成

50

したり、「時短B以外から最も有利な状態へ移行する割合 $>10\%$ 」を満たすように構成したり、「時短B以外から最も有利な状態へ移行する割合 $>0\%$ 」を満たすように構成することによって、時短B待ちの遊技性にならないよう構成してもよい。

【3619】

また、第27実施形態からの変更例3においては、時短Bに係る作動回数は第1主遊技図柄の変動でのみ更新し得るよう構成したが、これには限定されず、第1主遊技図柄の変動でも第2主遊技図柄の変動でも、時短Bに係る作動回数を更新し得るよう構成してもよい。具体例としては、非確率変動遊技状態では、時短Bに係る作動回数は第1主遊技図柄の変動でも第2主遊技図柄の変動でも更新し得るよう構成し、確率変動遊技状態では、時短Bに係る作動回数は第1主遊技図柄の変動では更新し得るが第2主遊技図柄の変動では更新しないよう構成してもよいし、非確率変動遊技状態では、時短Bに係る作動回数は第1主遊技図柄の変動でも第2主遊技図柄の変動でも更新し得るよう構成し、確率変動遊技状態では、時短Bに係る作動回数は第1主遊技図柄の変動でも第2主遊技図柄の変動でも更新しないよう構成してもよい。また、すべての遊技状態にて時短Bに係る作動回数を更新し得るよう構成してもよい。このように構成した場合には、第1主遊技側の始動口に向かって流下した遊技球の第1主遊技側の始動口に対する入球容易性よりも、第2主遊技側の始動口に向かって流下した遊技球の第2主遊技側の始動口に対する入球容易性の方が低くなるよう構成してもよい。

【3620】

なお、第27実施形態からの変更例3における大当たり確率、時短回数、大当たり図柄の種類数、大当たり終了後の遊技状態の振り分け、時短Bに係る作動回数などの設計値はあくまで一例であり、「時短Bから最も有利な状態へ移行する割合 $\leq$ 時短B以外から最も有利な状態へ移行する割合」が担保されるように構成されていれば、どのように変更しても問題ないことを補足しておく。さらに、第27実施形態からの変更例3においては、特別遊技実行中に特定領域に遊技球が入球することにより、当該特別遊技終了後に確率変動遊技状態に移行する玉確タイプの遊技機としたが、これには限定されず、小当たり遊技の実行中に特定領域に遊技球が入球した場合には、小当たり遊技の終了後に特別遊技を実行可能である1種+1種小当たりVタイプの遊技機としてもよいし、1種+1種直列タイプなどすべてのスペック（タイプ）に構成してもよい。

【3621】

（第28実施形態）

第27実施形態においては、時間短縮遊技状態として時短Bを有している遊技機の構成を例示したが、このような構成は第27実施形態のみには限定されない。そこで、時間短縮遊技状態として時短Bを有している遊技機であり、第27実施形態とは異なる構成を、第28実施形態とし、以下、第27実施形態からの相違点についてのみ詳述する。

【3622】

まず、図451は、第28実施形態の遊技の流れに係る遷移図である。同図左上部に図示するように、第28実施形態の遊技の流れとしては、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態においては、左打ち（遊技盤面左側を遊技球が流下するように遊技球を発射する遊技方法であり、相対的に弱い発射強度で遊技球を発射することとなる）にて遊技を進行し、非確率変動遊技状態且つ時短Aおよび非確率変動遊技状態且つ時短Bにおいては右打ち（遊技盤面右側を遊技球が流下するように遊技球を発射する遊技方法であり、相対的に強い発射強度で遊技球を発射することとなる）にて遊技を進行するよう構成されている。なお、第28実施形態においては時短Cを有していない。

【3623】

また、第28実施形態に係る遊技機は、第24実施形態にて前述した、小当たり遊技の実行中に特定領域に遊技球が入球した場合には、小当たり遊技の終了後に特別遊技を実行可能である1種+1種小当たりVタイプの遊技機となっている。

【3624】

<（A）非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態>

まず、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態において、左打ちにて遊技を進行すると（遊技球を発射し続けた場合）、92%の割合で第1主遊技側の大当たり（複数種類の大当たりのうちのいずれかの大当たり）に当選し、8%の割合で大当たりには当選せずに時短Bに係る作動回数分の図柄変動が実行されて（作動回数到達と称することがある）時短Bが作動することとなる。

【3625】

<（B）第1主遊技大当たり>

第1主遊技側の大当たりとして、2R時短なし大当たり（大当たり終了後に非時間短縮遊技状態に移行する大当たり）のみを有しており、獲得遊技球数は約300球となっている。

【3626】

<（C）時短B作動>

非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態において、左打ちにて遊技を進行すると（遊技球を発射し続けた場合）、8%の割合で大当たりには当選せずに時短Bに係る作動回数分の図柄変動（第1主遊技図柄の変動）が実行されて（作動回数到達と称することがある）時短Bが作動することとなる。すなわち、時短Bが作動した場合には、非確率変動遊技状態且つ時短Bとなり、右打ちにて遊技を進行すると（遊技球を発射し続けた場合）、約100%の割合で時短Bが終了する前に第2主遊技側の小当たりには当選することとなる（例えば、時短Bに係る時短回数が100回であることに對し、第2主遊技側の小当たり当選確率を12/40のように設計することで、時短Bが作動した場合には時短Bの作動が終了するまでにほぼ100%の確率で小当たりには当選するように構成される）。

【3627】

<（D）第2主遊技小当たりV>

第2主遊技側の小当たりの実行中には、大入賞口に向けて遊技球を発射し続けることで、ほぼ100%の確率で特定領域に遊技球が入球し、その後2Rの大当たりが実行される。なお、小当たりを含めて2Rとしてもよいし、小当たりを含めずに2Rとしてもよい。また、小当たりと大当たりとの合計の獲得遊技球数は約300球となっている。

【3628】

第2主遊技の小当たりを契機として実行された大当たりの終了後には、非確率変動遊技状態且つ時短Aとなる。時短Aの時短回数は1回であり、第2主遊技側の保留数の上限は4個であることから、大当たり終了後に時短Aとなると、第2主遊技側の当否抽選が5回まで実行され得ることとなる、いずれかの当否抽選にて第2主遊技側の小当たりまたは大当たりには当選する確率は約9割となっており（約9割で連荘する）、獲得遊技球数の期待値は約3000球（個）となっている。また、図450においては、非確率変動遊技状態且つ時短Aと非確率変動遊技状態且つ時短Bとが有利な状態となっている。なお、（有利な状態における）獲得遊技球数の期待値とは、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態にて初当たりとなる大当たりには当選し、当該大当たり終了後に有利な状態に移行した場合における、有利な状態が終了するまでの合計の獲得遊技球数の期待値である。なお、初当たりとなる大当たりでの獲得遊技球数も含まれている。

【3629】

図451のように、非確率変動遊技状態における大当たり確率が相対的に低い1/40である場合や、有利な状態における獲得遊技球数の期待値が相対的に低い3000個である場合などにおいては、前述した有利な状態への移行割合などに拘らず、時短B待ちの遊技性には該当しないこととしてもよい。すなわち、非確率変動遊技状態における大当たり確率が所定確率（例えば、1/100）よりも低いことおよび/または有利な状態における獲得遊技球数の期待値が所定数（例えば、4000個）よりも低いことを満たしていることで、時短Bが作動した場合における出玉性能が突出しすぎないことを担保することができるため、前述した有利な状態への移行割合などの制約を設けずに遊技機を設計してもよい。

【3630】

<複数種類の時間短縮遊技状態を有する遊技機に適用可能な構成>

第24実施形態にて前述したような、時短A、時短B、時短Cのうち2以上の時間短縮

10

20

30

40

50

遊技状態を有している遊技機に適用可能な構成を以下に詳述する。なお、以下に詳述する構成は、2以上の時間短縮遊技状態を有するすべての構成に適用可能であることを補足しておく。

【3631】

＜出玉期待値に関する構成＞

図452は、出玉期待値に関する構成の一例である。「大当たり確率」は、非確率変動遊技状態における大当たり確率であり、「通常時における大当たり終了後の確変移行割合」は、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態にて大当たり当選した場合の、大当たり終了後に確率変動遊技状態（確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態としてもよい）に移行する割合である。「確変移行時の出玉期待値」は、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態にて大当たり当選し、大当たり終了後に確率変動遊技状態に移行した場合における、大当たり終了後に非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態に移行するまでの獲得遊技球数の期待値（平均値と称することがある）である。なお、同図においては、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態にて当選した大当たり（初当りの大当たりと称することがある）における獲得遊技球数も獲得遊技球数の期待値に含めているが、これには限定されず、初当りの大当たりに係る獲得遊技球数を含めないよう構成してもよい。

【3632】

「通常時における大当たり終了後の通常移行割合」は、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態にて大当たり当選した場合の、大当たり終了後に非確率変動遊技状態（非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態としてもよい）に移行する割合である。「通常移行時の出玉期待値」は、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態にて大当たり当選し、大当たり終了後に非確率変動遊技状態に移行した場合における獲得遊技球数の期待値であり、換言すると、初当りの大当たりにおける獲得遊技球数である。なお、初当りの大当たりに係る獲得遊技球数を含めないよう構成した場合には、「通常移行時の出玉期待値」は0個となる。

【3633】

「通常時における大当たり当選時の出玉期待値」とは、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態にて大当たり当選した場合の、大当たり終了後に非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態に移行するまでの獲得遊技球数の期待値である。換言すると、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態にて大当たり当選した場合における、大当たり終了後に遊技者にとって有利でない状態となるまでの（連荘が終了するまでの）獲得遊技球数の期待値である。「時短B作動時の出玉期待値」とは、時短Bが作動した場合において、その後非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態となるまでの（遊技者にとって有利でない状態となるまでの）獲得遊技球数の期待値である。なお、「時短B作動時の出玉期待値」には、時短Bが作動した後に、大当たり当選せずに時短回数分の主遊技図柄の変動が終了する場合を含めてもよいし、含めなくてもよい。

【3634】

図452においては、構成A～構成Dの4つの構成を例示している。以下、それぞれの構成について詳述する。

【3635】

＜構成A＞

構成Aは、「大当たり確率」が $1/300$ 、「通常時における大当たり終了後の確変移行割合」が60%、「確変移行時の出玉期待値」が6000個、「通常時における大当たり終了後の通常移行割合」が40%、「通常移行時の出玉期待値」が500個、「通常時における大当たり当選時の出玉期待値」が「 $6000 \text{ 個} \times 60\% + 500 \text{ 個} \times 40\% = 3800 \text{ 個}$ 」、「時短B作動時の出玉期待値」が5000個となっている。

【3636】

＜構成B＞

構成Bは、「大当たり確率」が $1/200$ 、「通常時における大当たり終了後の確変移行割合」が40%、「確変移行時の出玉期待値」が6000個、「通常時における大当たり終了

後の通常移行割合」が60%、「通常移行時の出玉期待値」が500個、「通常時における大当たり当選時の出玉期待値」が「6000個×40%+500個×60%=2700個」、「時短B作動時の出玉期待値」が5000個となっている。

【3637】

<構成C>

構成Cは、「大当たり確率」が1/100、「通常時における大当たり終了後の確変移行割合」が20%、「確変移行時の出玉期待値」が6000個、「通常時における大当たり終了後の通常移行割合」が80%、「通常移行時の出玉期待値」が500個、「通常時における大当たり当選時の出玉期待値」が「6000個×20%+500個×80%=1600個」、「時短B作動時の出玉期待値」が5000個となっている。

10

【3638】

<構成D>

構成Dは、「大当たり確率」が1/50、「通常時における大当たり終了後の確変移行割合」が10%、「確変移行時の出玉期待値」が6000個、「通常時における大当たり終了後の通常移行割合」が90%、「通常移行時の出玉期待値」が500個、「通常時における大当たり当選時の出玉期待値」が「6000個×10%+500個×90%=1050個」、「時短B作動時の出玉期待値」が5000個となっている。

【3639】

上記構成A～構成Dの共通点として、以下の特徴点があげられる。

(特徴点1) 通常時における大当たり当選時の出玉期待値≦時短B作動時の出玉期待値

20

(特徴点2) 確変移行時の出玉期待値≧時短B作動時の出玉期待値

(特徴点3) (通常時における大当たり当選時の出玉期待値÷時短B作動時の出玉期待値×100)≧通常時における大当たり終了後の確変移行割合

【3640】

上記特徴点2について換言すると、「大当たり終了後に最も有利な遊技状態に移行した場合の出玉期待値≧時短B作動時の出玉期待値」となっている。また、上記特徴点3について換言すると、「時短B作動時の出玉期待値に対して通常時における大当たり当選時の出玉期待値の占める割合≧通常時における大当たり終了後の確変移行割合」となっている。

【3641】

上記特徴点1を満たすように構成することで、時短Bを有する斬新な遊技性を創出することができる。また、上記特徴点2または上記特徴点3を満たすように構成することで、前述したような時短B待ちの遊技性とならないように構成することができ、遊技者の遊技意欲の減退を防止することができる。

30

【3642】

なお、「通常時における大当たり当選時の出玉期待値≧時短B作動時の出玉期待値」を満たすように構成してもよく、このように構成することで、時短B待ちの遊技性とならないように構成することができ、遊技者の遊技意欲の減退を防止することができる。

【3643】

また、「通常時において大当たり当選し、時短B作動時の出玉期待値以上の獲得遊技球数となる割合>時短B作動時に大当たり当選する割合」を満たすように構成してもよい。

40

「通常時において大当たり当選し、時短B作動時の出玉期待値以上の獲得遊技球数となる割合」とは、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態にて大当たり当選し、大当たり終了後に遊技者にとって有利でない状態となるまでの(連荘が終了するまでの)獲得遊技球数が時短B作動時の出玉期待値以上となる割合である。例えば、図452の構成Aの場合、時短B作動時の出玉期待値は5000個であり、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態にて大当たり当選し、大当たりにて500個の遊技球を獲得し、大当たり終了後に非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態となった場合には、時短B作動時の出玉期待値以上の獲得遊技球数とはならない。また、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態にて大当たり当選し、大当たり終了後に確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態となったが、獲得遊技球数の合計が4000個となった大当たり終了後に非確率変動遊技状態且つ非時間短

50

縮遊技状態となった場合には、時短B作動時の出玉期待値以上の獲得遊技球数とはならない。他方、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態にて大当りに当選し、大当り終了後に確率変動遊技状態且つ時間短縮遊技状態となり、獲得遊技球数の合計が8000個となった大当り終了後に非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態となった場合には、時短B作動時の出玉期待値以上の獲得遊技球数となる。なお、前述したように、獲得遊技球数には初当りとなる大当りでの獲得遊技球数を含めるよう構成してもよいし、含めなくてもよい。

【3644】

「時短B作動時に大当りに当選する割合」とは、時短Bが作動し、時短回数の図柄変動が実行されるまでに大当りに当選する割合である。なお、すべての大当りを対象としてもよいし、獲得遊技球数の期待値が所定数以上である大当りのみを対象としてもよい。

【3645】

このように構成することで、時短B待ちの遊技性とならないように構成することができ、遊技者の遊技意欲の減退を防止することができる。

【3646】

＜ベース値に関する構成＞

また、「時短Bにおけるベース値 $\leq$ 時短B以外における最も高いベース値」を満たすように構成してもよい。なお、ベース値とは、前述したように、特別遊技に当選していない状況において、発射した遊技球100球に対する、払い出される賞球払出数の期待値であるが、「時短Bにおけるベース値 $\leq$ 時短B以外における最も高いベース値」におけるベース値は、前記100球の遊技球を電動役物に向けて継続して発射した場合のベース値となっている。

【3647】

「時短Bにおけるベース値 $\leq$ 時短B以外における最も高いベース値」を満たす具体例としては、時短Bにおける補助遊技図柄の当選確率を20/100、時短Aにおける補助遊技図柄の当選確率を99/100とし、時短Aと時短Bとで、補助遊技図柄の変動時間（の平均値）および補助遊技図柄の当選時の電動役物の開放態様が同一となるよう構成した場合には、「時短Bにおけるベース値 $\leq$ 時短Aにおけるベース値」とすることができる。

【3648】

また、時短Aと時短Bとで、補助遊技図柄の当選確率を同一とし、補助遊技図柄の変動時間（の平均値）および／または補助遊技図柄の当選時の電動役物の開放態様を相違させることにより、「時短Bにおけるベース値 $\leq$ 時短Aにおけるベース値」としてもよい。

【3649】

このように構成することにより、時短Bにおけるベース値が、時短B以外における最も高いベース値よりも高くないように構成され、時短Bが作動した場合における出玉性能が突出しすぎないこととなり、時短B待ちの遊技性にならないよう構成することができる。

【3650】

また、時短Bにおけるベース値に関する構成として、以下を満たすように構成してもよい。

(1) 「時短Bにおけるベース値 $>$ 非時間短縮遊技状態におけるベース値 $\times 2$ 」

(2) 「非時間短縮遊技状態におけるベース値 $\times 2 >$ 時短Bにおけるベース値 $>$ 非時間短縮遊技状態におけるベース値」

(3) 「時短Bにおけるベース値 $>$ （時短B以外における最も高いベース値 $+$ 時短B以外における最も低いベース値） $\div 2$ 」

このように構成することで、時短Bの作動により、遊技者が著しく損をする事態を防止することができる遊技機となる。また、上記(1)または(2)の構成と、「時短Bにおけるベース値 $\leq$ 時短B以外における最も高いベース値」との両方を満たすよう構成してもよい。

【3651】

＜補助遊技側に関する構成＞

また、補助遊技側に関する構成として、以下を満たすように構成してもよい。

(1) 「時短 B における補助遊技図柄の変動時間の平均値 $\geq$ 時短 B 以外における最も長時間となる補助遊技図柄の変動時間の平均値」を満たす。

(2) 「時短 B における電動役物開放時の合計の開放時間 $\leq$ 時短 B 以外における最も長時間となる電動役物開放時の合計の開放時間」を満たす。

なお、合計の開放時間とは、補助遊技図柄が 1 回当選となった場合の開放時間の合計であり、例えば、「0.2 秒開放 $\rightarrow$ 1 秒閉鎖 $\rightarrow$ 2 秒開放 $\rightarrow$ 閉鎖」となる場合の合計の開放時間は 2.2 秒となる。また、上記 (1) と (2) はいずれか一方を満たすように構成してもよいし、両方を満たすように構成してもよい。

【3652】

このように構成することにより、時短 B が作動した場合における出玉性能が突出しすぎないこととなり、時短 B 待ちの遊技性にならないよう構成することができる。

【3653】

また、上記構成とは逆に、補助遊技側に関する構成として、以下を満たすように構成してもよい。

(1) 「時短 B における補助遊技図柄の変動時間の平均値 $\leq$ 時短 B 以外における最も長時間となる補助遊技図柄の変動時間の平均値」を満たす。

(2) 「時短 B における電動役物開放時の合計の開放時間 $\geq$ 時短 B 以外における最も長時間となる電動役物開放時の合計の開放時間」を満たす。

上記 (1) と (2) はいずれか一方を満たすように構成してもよいし、両方を満たすように構成してもよい。このように構成することで、時短 B の作動により、遊技者が著しく損をする事態を防止することができる遊技機となる。

【3654】

＜時短 B の性能＞

時間短縮遊技状態の中で時短 B が最も出玉率（発射した遊技球数に対する払い出される遊技球数の割合）が高くなるよう構成してもよい。換言すると、時短 B の出玉率が時短 A よりも高くなるよう構成してもよいし、時短 B の出玉率が時短 A よりも高くなるよう構成してもよい。このように構成した場合において、時短 A と時短 B との補助遊技図柄の当選確率を同一にしてもよい。このように構成することで、時短 B の作動により、遊技者が著しく損をする事態を防止することができる遊技機となる。

【3655】

＜時短 B の性能＞

非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態であり時短 B に係る作動回数が初期値である状態からの時短 B 作動確率（図 448 などの作動回数到達の確率と同義）：a

時短 B が作動し、時短 B の作動が終了する前に大当りに当選する割合（時短 B 中に大当りに当選する割合とも称することがある）：b

時短 B 中に大当りとなった場合の獲得遊技球数の期待値（時短 B 中に当選した大当り（初当り）の獲得遊技球数も含む）：A

初当りのうち、獲得遊技球数の期待値（初当りの獲得遊技球数も含む）が A 以上となる割合：c

とした場合において、最も低い設定値で以下の式を満たすものとする（すべての設定値で満たすように構成してもよい）。

$$(1 - a)b)c > ab$$

なお、上記 c については、時短 B 中に当選した大当りを含めなくてもよいし、時短 B 中に当選した大当りを含めてもよい。このように構成することにより、時短 B で獲得できる遊技球数とその確率に対し、初当りでも同等以上の確率で同等以上の出玉を獲得できるように構成することができ、時短 B が作動した場合における出玉性能が突出しすぎないこととなり、時短 B 待ちの遊技性にならないよう構成することができる。

【3656】

10

20

30

40

50

なお、小当りVタイプであり時短Cを有している場合においては、上記aを時短Cの当選を除外した到達率とし、上記cを時短B中に当選した大当りを除外した割合としてもよい。

【3657】

また、遊技機のスペック（小当りVタイプ、玉確タイプなど）に拘らず、上記aを時短Cの当選を除外した到達率とし、上記cを時短Cの当選を除外した割合としてもよい。なお、上記cについては、時短B中に当選した大当りを含めなくても（除外しても）よいし、時短B中に当選した大当りを含めてもよい。

【3658】

また、
 $c > a \text{ } b$
 を満たすように構成してもよい。このように構成することにより、時短Bが作動した場合における出玉性能が突出しすぎないこととなり、時短B待ちの遊技性にならないよう構成することができる。

【3659】

また、「時短Bが作動した場合の獲得遊技球数の期待値 $\leq$ 時短Bの非作動中に大当りに当選した場合の獲得遊技球数の期待値」を満たすように構成してもよいし、「時短B中に大当りに当選した場合の獲得遊技球数の期待値 $\leq$ 時短Bの非作動中に大当りに当選した場合の獲得遊技球数の期待値」を満たすように構成してもよい。このように構成することにより、時短Bが作動した場合における出玉性能が突出しすぎないこととなり、時短B待ちの遊技性にならないよう構成することができる。

【3660】

また、以下のような設計値となるように構成してもよい。
 非確率変動遊技状態での大当り確率： $1 / 319$
 確率変動遊技状態での大当り確率： $1 / 104$
 大当り終了後の確率変動遊技状態への移行割合： 100%
 大当り終了後の確変回数（STタイプ）： 100 回
 第1主遊技側の大当り：すべて10Rであり、非時間短縮遊技状態で当選した場合には時短回数0回、時間短縮遊技状態で当選した場合には時短回数170回
 第2主遊技側の大当り：10Rが30%であり2Rが70%であり、非時間短縮遊技状態で当選した場合には時短回数0回、時間短縮遊技状態で当選した場合には時短回数170回
 非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態では左打ちで第1主遊技図柄を変動させて遊技を進行し、確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態では右打ちで第2主遊技図柄を変動させて遊技を進行する。また、電動役物は第1主遊技側の始動口（第1主遊技側の始動口として電動役物が設けられていない始動口と電動役物が設けられている始動口とを有している）に設けられており、時短Bの作動中は左打ちで第1主遊技図柄を変動させて遊技を進行する。このように構成することで、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態で当選した大当りの終了後には、10Rまたは2Rの大当りが高確率で連荘し（約80%でループ）、時短Bが作動すると、10Rの大当りが高確率で連荘する（約80%でループ）遊技性を有する遊技機を創出することができる。

【3661】

<作動回数と時短回数の関係>

前述したように、時短Bに係る作動回数nは、時短Bの作動契機である主遊技図柄の作動回数（変動回数）であり、作動回数nは、主遊技図柄の大当り確率が低確率状態の大当り確率 $ML = 1 / P$ に対して、以下のように構成している。

$$2.5 \times P \leq n \leq 3.0 \times P$$

なお、設定（例えば、設定1～6）を有する設定付きぱちんこ遊技機においては、設定毎にnを満足するように構成されている。

【3662】

ここで、大当りの終了後に非確率変動遊技状態且つ時短Aとなる場合において、時短A

の時短回数と時短Bに係る作動回数とを同一とすることにより、時短Aの単体の性能を超えた長期間の時短を実現することができる。具体例としては、時短Aの時短回数と時短Bに係る作動回数とをいずれも200回とした場合、大当たり終了後から200回目の図柄変動までは時短Aとなり、大当たり終了後から201回目の図柄変動からは時短Bとなり、大当たり終了後から200回を超えて時短が作動することとなる（新たに大当たりに当選しなかった場合）。

【3663】

しかしながら、このように構成した場合、時短Aが終了した次遊技から時短Bが作動するため、特に、時短Aと時短Bとの性能が同一の場合には、遊技状態が切り替わったことが遊技者にとって分かり難くなってしまう。

【3664】

そこで、時間短縮遊技状態において第2主遊技図柄を変動させて遊技を進行する遊技機において、付与され得る時短回数のうち、最長の時短回数をA、第2主遊技側の保留数の上限をHとした場合に、以下の式を満たすように構成してもよい。

$$n - A \leq H$$

上記のように構成した場合の一例として、最長の時短回数が時短Aにて付与され得る時短回数であった場合には、「大当たりが終了→時短Aが作動→時短回数であるA回の第2主遊技図柄の変動が実行され、時短Aの作動が終了して、非時間短縮遊技状態となる→第2主遊技側の残存した保留を消化して、第2主遊技側の変動が実行される→第2主遊技側の保留に係る図柄変動によって時短Bに係る作動回数nに到達→時短Bが作動」のようになり、最長の時短回数となる時短Aが作動した場合には、時短Aの作動が終了した後に、非時間短縮遊技状態を経由して時短Bが作動することとなり、遊技状態が切り替わったことを遊技者が認識することができる。また、最長の時短回数となる時短Aが作動した場合には、当該最長の時短回数分の主遊技図柄の変動が実行された場合においても、第1主遊技図柄の変動が実行されずに、時短Bが作動して、第2主遊技図柄の変動が実行され続けることとなる。このように構成することにより、時短Aから時短Bへ持ち球を減少させることなく移行させることができるとともに、第2主遊技側の大当たりよりも第1主遊技側の大当たりの方が遊技者にとって不利であるよう構成した場合には、時短Bの作動回数が近づいているにも拘らず、第1主遊技側の大当たりに当選してしまい、遊技者の遊技意欲を減退させてしまう事態を防止することができる。

【3665】

なお、上記の式は $n = A$ とした場合も満たしている、換言すると、時短Aに係る時短回数が0回となる時間短縮遊技状態の最終変動が終了し、次変動から時短Bが作動するよう構成してもよい。このように構成した場合、遊技状態の切り替わりが認識し難くなってしまうが、時短Aから時短Bにスムーズに切り替わることにより、遊技者は、時短Aの最長の時短回数を超えた時間短縮遊技状態が継続しているように認識することとなる。

【3666】

また、「 $n - A \leq H$ 」を満たすように構成した場合において、最長となる時短回数分の主遊技図柄の変動が実行される前（時短回数が残っている状態）から、演出表示装置SGにて「第2主遊技側の保留を貯めろ！！」と表示するなど、遊技者に第2主遊技側の保留を貯めるよう、遊技球の発射を促す表示を実行してもよい。なお、当該演出が実行開始されるタイミングは、適宜決定すればよく、最長となる時短回数の時間短縮遊技状態の最終変動で実行開始してもよいし、時短回数残り3回となった図柄変動の開始時から実行開始してもよい。また、最長となる時短回数分の主遊技図柄の変動が実行され、第2主遊技側の残存した保留が消化されている非時間短縮遊技状態には、演出表示装置SGにて「もうすぐ時短B突入！？」と表示するなど、遊技者に時短Bの作動を示唆する表示を実行してもよい。このように構成することで、遊技者が、最長となる時短回数分の主遊技図柄の変動が終了し、時間短縮遊技状態が終了したために離席してしまう事態を防止することができるユーザーフレンドリーな遊技機とすることができる。

【3667】

また、最長となる時短回数分の主遊技図柄の変動が実行される前（時短回数が残っている状態）から、演出表示装置SGにて「第2主遊技側の保留を貯めろ！！」と表示している期間においては、当該演出が実行される前の時間短縮遊技状態よりも、変動時間の平均値が長時間となる（異なる変動時間テーブルを参照する、異なる限定頻度テーブルを参照する）よう構成してもよい。また、演出表示装置SGにて「第2主遊技側の保留を貯めろ！！」と表示している期間の変動時間の平均値は、その後に実行され得る時短Bの作動中における変動時間の平均値よりも長時間となるよう構成してもよい。このように構成することで、演出の実行時間を担保することができる。

【3668】

また、最長となる時短回数分の主遊技図柄の変動が実行される前（時短回数が残っている状態）から、演出表示装置SGにて「第2主遊技側の保留を貯めろ！！」と表示している期間における変動時間の平均値は、最長となる時短回数分の主遊技図柄の変動が実行された後の第2主遊技側の残存した保留が消化されている非時間短縮遊技状態における変動時間の平均値よりも長時間となるよう構成してもよい。このように構成することで、遊技球の発射が必要ない期間の変動時間を長時間とすることができ、遊技者はより演出に注目することができる。

【3669】

また、先読み演出を実行可能に構成した場合においては、以下のように構成してもよい。

（1）最長となる時短回数の時間短縮遊技状態である状況において、最長となる時短回数分の主遊技図柄の変動が実行された後の第2主遊技側の残存した保留が消化されている非時間短縮遊技状態にて消化される予定の保留（はトリガ保留にはならない）に対する先読み演出が実行されない

（2）最長となる時短回数の時間短縮遊技状態である状況において、時短Bの作動中に消化される予定の保留（はトリガ保留にはならない）に対する先読み演出が実行されない

（3）最長となる時短回数分の主遊技図柄の変動が実行された後の第2主遊技側の残存した保留が消化されている非時間短縮遊技状態である状況において、時短Bの作動中に消化される予定の保留（はトリガ保留にはならない）に対する先読み演出が実行されない

上記のように構成してもよい。

【3670】

前述したように、時短B待ちの遊技性は、遊技者が大当りに当選できないで持ち球を減らし過ぎてしまう事態を救済するという趣旨から逸脱しており、遊技者の遊技意欲を減退させてしまうおそれがあるため、時短Bの性能が他の（一または複数の）遊技状態と同等または、時短Bの性能が他の（一または複数の）遊技状態よりも低くなる構成を詳述した。

【3671】

ここで、前述した「時短Bにおける補助遊技図柄の変動時間の平均値>時短B以外における最も長時間となる補助遊技図柄の変動時間の平均値」を満たすように構成する場合など、時短A（他の遊技状態）よりも時短Bの方が遊技者にとって不利に（性能が低く）なるように構成した場合、時短Aと時短Bとのそれぞれの時間短縮遊技状態を管理するためのデータ容量が必要になるが、「時短Bにおける補助遊技図柄の変動時間の平均値=時短B以外における最も長時間となる補助遊技図柄の変動時間の平均値」を満たすように時短Aと時短Bとの性能を同一にした場合には、時短Aと時短Bとで使用するデータ容量を削減することができる。同様に、時短Bと他の遊技状態（例えば、時短A）とで、ベース値を同一にしたり、出玉率を同一にしたりすることで、出玉設計に係る開発時間を短縮することができるため、時短Bと他の遊技状態（例えば、時短A）との性能を同一にすることが最も好適である。なお、このような構成は、前述したすべての実施形態に適用可能である。

【3672】

<<構成の具体例>>

前述した時間短縮遊技状態に関する構成は、どのように組み合わせても問題なく、前述した一の構成または複数の構成を組み合わせた一例とその効果を以下に詳述する。

【3673】

＜構成1＞

小当り遊技の実行中に特定領域に遊技球が入球した場合には、小当り遊技の終了後に特別遊技を実行可能である1種+1種小当りVタイプの遊技機である。

非確率変動遊技状態における大当り確率は1/100である。

第2主遊技側では15/100で小当りに当選する。

大当りに当選せずに主遊技図柄の変動回数が200回に到達すると時短Bが作動する（時短Bを有しており、時短Bに係る作動回数が200回である）。

大当りに当選すると、時短Bに係る作動回数が200回にリセットされる。

非時間短縮遊技状態にて第1主遊技側の大当りに当選した場合、大当り終了後には非時間短縮遊技状態となる。

第1主遊技図柄を変動させた場合よりも第2主遊技図柄を変動させた場合の方が相対的に有利となる。

【3674】

＜効果＞

非時間短縮遊技状態においては、第1主遊技側の大当りに当選せずに、時短Bが作動することを目指し、時短B（または時短C）が作動することで、約1000球の遊技球を獲得することができる大当り（小当りを契機とした大当り、または大当り図柄を契機とした大当り）が連荘し得る遊技性となっている。このように構成することにより、遊技性にメリハリをつけることができ、遊技者の遊技意欲を向上させることができる。

【3675】

＜構成2＞

特別遊技実行中に特定領域に遊技球が入球することにより、当該特別遊技終了後に確率変動遊技状態に移行する玉確タイプの遊技機である。

振分入球口C20を有している。

時短C作動時においては、右打ちにて第1主遊技図柄を変動させて遊技を進行し、時短B作動時においては、右打ちにて第2主遊技図柄を変動させて遊技を進行する。

非確率変動遊技状態における大当り確率は1/100である。

第1主遊技側の大当りに当選しても、遊技球が50球程度しか獲得できず、大当り終了後も99%が非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態となる。

大当りに当選せずに主遊技図柄の変動回数が200回に到達すると時短Bが作動する（時短Bを有しており、時短Bに係る作動回数が200回である）。

大当りに当選すると、時短Bに係る作動回数が200回にリセットされる。

第1主遊技図柄を変動させた場合よりも第2主遊技図柄を変動させた場合の方が相対的に有利となる。

【3676】

＜効果＞

非時間短縮遊技状態においては、第1主遊技側の大当りに当選せずに、時短Bが作動することを目指し、時短Bが作動することで、約1000球の遊技球を獲得することができる大当りが連荘し得る遊技性となっている。このように構成することにより、遊技性にメリハリをつけることができ、遊技者の遊技意欲を向上させることができる。

【3677】

＜構成3＞

第1主遊技側では時短図柄が当選し得るよう構成されており、時短図柄が当選したことを契機として時短Cが作動する。

時短Cの作動中に新たに時短図柄が当選すると、時短Cに係る時短回数（例えば、50回）が再セットされる。

大当りに当選せずに主遊技図柄の変動回数が所定回数に到達すると時短Bが作動する。

大当りに当選すると、時短Bに係る作動回数が200回にリセットされる。

第1主遊技図柄を変動させた場合よりも第2主遊技図柄を変動させた場合の方が相対的に

10

20

30

40

50

に有利となる。

【3678】

<効果>

時短Cが作動した場合に、遊技者は時短Cが50回以上継続して作動することに期待感を抱きながら遊技を進行することができる。

【3679】

<構成4>

特別遊技実行中に特定領域に遊技球が入球することにより、当該特別遊技終了後に確率変動遊技状態に移行する玉確タイプの遊技機である。

非時間短縮遊技状態にて第1主遊技側の大当りに当選した場合、大当り終了後には非時間短縮遊技状態となる。

大当りに当選せずに主遊技図柄の変動回数が所定回数に到達すると時短Bが作動する。

大当りに当選すると、時短Bに係る作動回数が所定回数にリセットされる。

第1主遊技図柄を変動させた場合よりも第2主遊技図柄を変動させた場合の方が相対的に有利となる。

非時間短縮遊技状態であれば左打ちにて遊技を進行し、時間短縮遊技状態であれば右打ちにて遊技を進行する。

【3680】

非時間短縮遊技状態であれば左打ちにて遊技を進行し、時間短縮遊技状態であれば右打ちにて遊技を進行するという、遊技者が理解し易いシンプルな構成で、時短Bを目指す遊技性を創出することができる。

【3681】

<構成5>

大当りに当選せずに主遊技図柄の変動回数が所定回数に到達すると時短Bが作動する。

大当りに当選すると、時短Bに係る作動回数が所定回数にリセットされる。

「時短Bから有利な状態へ移行する割合 $\leq$ 時短B以外から有利な状態へ移行する割合」となるよう構成されている。

大当り終了後に移行する遊技状態のうち、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態以外の遊技状態を有利な状態と称している。

「時短Bから有利な状態へ移行する」とは、時短Bである状態で当選した大当り終了後に有利な状態に移行することである。

「時短B以外から有利な状態へ移行する」とは、時短Bではない状態で当選した大当り終了後に有利な状態に移行することである。

【3682】

<効果>

有利な状態への移行割合を考慮して設計することで、時短Bが作動した場合における出玉性能が突出しすぎないこととなり、時短B待ちの遊技性にならないよう構成することができ、出玉バランス（時短Bが作動せずに獲得できる出玉と時短Bが作動した場合の出玉）のよい遊技機を創出することができる。

【3683】

<構成6>

大当りに当選せずに主遊技図柄の変動回数が所定回数に到達すると時短Bが作動する。

大当りに当選すると、時短Bに係る作動回数が所定回数にリセットされる。

「時短Bから最も有利な状態へ移行する割合 $\leq$ 時短B以外から最も有利な状態へ移行する割合」となるよう構成されている。

大当り終了後に移行する遊技状態のうち、大当り確率が高い遊技状態が最も高い確率変動遊技状態（確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態）を最も有利な状態と称している。

「時短Bから最も有利な状態へ移行する」とは、時短Bである状態で当選した大当り終了後に最も有利な状態に移行することである。

「時短B以外から最も有利な状態へ移行する」とは、時短Bではない状態で当選した大

10

20

30

40

50

当り終了後に最も有利な状態に移行することである。

【3684】

<効果>

「時短Bから最も有利な状態へ移行する割合 $\leq$ 時短B以外から最も有利な状態へ移行する割合」となるよう構成されており、このように、最も有利な状態への移行割合を考慮して設計することで、時短Bが作動した場合における出玉性能が突出しすぎないようにすることとなり、時短B待ちの遊技性にならないよう構成することができ、出玉バランス（時短Bが作動せずに獲得できる出玉と時短Bが作動した場合の出玉）のよい遊技機を創出することができる。

【3685】

<構成7>

大当りに当選せずに主遊技図柄の変動回数が所定回数に到達すると時短Bが作動する。

大当りに当選すると、時短Bに係る作動回数が所定回数にリセットされる。

「通常時における大当り当選時の出玉期待値 $\geq$ 時短B作動時の出玉期待値」を満たす。

「通常時における大当り当選時の出玉期待値」とは、（遊技者にとって有利でない）非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態にて大当りに当選した場合における、大当り終了後に遊技者にとって有利でない状態となるまでの（連荘が終了するまでの）獲得遊技球数の期待値である。

「時短B作動時の出玉期待値」とは、時短Bが作動した場合において、その後非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態となるまでの（遊技者にとって有利でない状態となるまでの）獲得遊技球数の期待値である。

【3686】

<効果>

時短B待ちの遊技性とならないように構成することができ、遊技者の遊技意欲の減退を防止することができる。

【3687】

<構成8>

大当りに当選せずに主遊技図柄の変動回数が所定回数に到達すると時短Bが作動する。

大当りに当選すると、時短Bに係る作動回数が所定回数にリセットされる。

「通常時において大当りに当選し、時短B作動時の出玉期待値以上の獲得遊技球数となる割合 $>$ 時短B作動時に大当りに当選する割合」を満たす。

「通常時において大当りに当選し、時短B作動時の出玉期待値以上の獲得遊技球数となる割合」とは、非確率変動遊技状態且つ非時間短縮遊技状態にて大当りに当選し、大当り終了後に遊技者にとって有利でない状態となるまでの（連荘が終了するまでの）獲得遊技球数が時短B作動時の出玉期待値以上となる割合である。

「時短B作動時に大当りに当選する割合」とは、時短Bが作動し、時短回数の図柄変動が実行されるまでに大当りに当選する割合である。なお、すべての大当りを対象としてもよいし、獲得遊技球数の期待値が所定数以上である大当りのみを対象としてもよい。

【3688】

このように構成することで、時短B待ちの遊技性とならないように構成することができ、遊技者の遊技意欲の減退を防止することができる。

【3689】

<構成9>

「時短Bにおけるベース値 $\leq$ 時短B以外における最も高いベース値」を満たす。

ベース値とは、特別遊技に当選していない状況において、100球の遊技球を電動役物に向けて継続して発射した場合の、当該発射した遊技球100球に対する、払い出される賞球払出数の期待値である。

【3690】

<効果>

このように構成することにより、時短Bにおけるベース値が、時短B以外における最も

10

20

30

40

50

高いベース値よりも高くないように構成され、時短Bが作動した場合における出玉性能が突出しすぎないこととなり、時短B待ちの遊技性にならないよう構成することができる。

【3691】

＜構成10＞

「時短Bにおける補助遊技図柄の変動時間の平均値 $\geq$ 時短B以外における最も長時間となる補助遊技図柄の変動時間の平均値」を満たす。

「時短Bにおける電動役物開放時の合計の開放時間 $\leq$ 時短B以外における最も長時間となる電動役物開放時の合計の開放時間」を満たす。

【3692】

＜効果＞

このように構成することにより、時短Bが作動した場合における出玉性能が突出しすぎないこととなり、時短B待ちの遊技性にならないよう構成することができる。

【3693】

以上の実施形態において示した構成に基づき、以下のような概念を抽出（列記）することができる。但し、以下に列記する概念はあくまで一例であり、これら列記した概念の結合や分離（上位概念化）は勿論のこと、以上の実施形態において示した更なる構成に基づく概念を、これら概念に付加してもよい。

【3694】

現在最も普及しているぱちんこ遊技機は、始動口に遊技球が入球したことを契機として、7セグ等の表示部上で「特別図柄」（或いは主遊技図柄）と称される図柄が変動表示され、当該特別図柄が特定態様（例えば「7」）となった場合、通常遊技状態よりも遊技者にとって利益状態の高い特別遊技状態（通常時は閉状態にある大入賞口（いわゆるアタッカー）が所定条件で開放する内容の遊技）に移行するタイプの機種（いわゆる「第一種ぱちんこ遊技機」）である。ここで、遊技者の利益に直結する特別図柄の表示制御の負担を軽減するために、前記の「特別図柄」とは別に、遊技の興趣性を高めるための演出用の「装飾図柄」と称される演出用図柄が、前記特別図柄の変動とシンクロした形で、前記表示部よりもサイズが大きい液晶等のディスプレイ上で変動表示される。そして、特別図柄の変動が開始されると装飾図柄もこれに合わせて変動を開始し、特別図柄が特定態様（例えば「7」）で停止した場合、装飾図柄もこれに合わせて所定態様（例えば「777」）で停止することとなる。そして、遊技者は、装飾図柄が所定態様で停止したことにより、特別遊技へ移行が確定したことを認識する。

【3695】

ここで、当該仕組みはこの種のぱちんこ遊技機で共通するので、他種との差別化を図るためには、前記図柄の変動態様を含めた演出全般に対し、いかに工夫を凝らし高い興趣性を付与するかということに注力されている。例えば、変動表示している「装飾図柄」を一旦停止した後に再始動させたり、変動表示している「装飾図柄」を非表示にしておき、その代わりに興趣性の高い動画像を表示する、といった演出手法により遊技の興趣性を向上させる手法がその一つである。

【3696】

興趣性向上を目指すべく、その制御方法については更なる改善が必要となっているという課題が存在する。

【3697】

態様（C1）に係るぱちんこ遊技機は、

遊技球が入球可能な始動口（例えば、第1主遊技始動口A10、第2主遊技始動口B10）と、

識別情報を表示可能な識別情報表示部（例えば、第1主遊技図柄表示部A21g、第2主遊技図柄表示部B21g）と、

遊技の進行を制御する主遊技部（例えば、主制御基板M）と、

演出を表示可能な演出表示部（例えば、演出表示装置SG）と、

10

20

30

40

50

演出表示部への演出表示を制御する副遊技部（例えば、副制御基板 S）とを備え、
主遊技部は、
始動口への入球に基づき、乱数を取得する乱数取得手段と、
乱数取得手段により取得された乱数に基づき、識別情報表示部にて識別情報を変動表示させた後に識別情報を停止表示させるよう制御する識別情報表示制御手段と、
識別情報が所定態様にて停止表示された後において、遊技者にとって有利な特別遊技を実行可能な特別遊技制御手段と、
副遊技部側で実行される演出表示に際して必要な遊技情報を副遊技部側へ送信する遊技情報送信手段と
を備え、
副遊技部は、
主遊技部側から送信された遊技情報を受信する遊技情報受信手段と、
遊技情報受信手段により受信された遊技情報に基づき、演出表示部にて表示する演出表示内容を制御する演出表示内容制御手段と
を備え、
識別情報の変動表示開始から停止表示までを一演出期間とし、前記一演出期間内において演出用図柄を演出表示部にて変動表示させた後で、演出用図柄の最終的な組合せを演出表示部にて表示させ得るよう制御し、
少なくとも 1 以上の演出用図柄について、演出用図柄の構成要素として数字を備えており、
識別情報が前記所定態様にて停止表示される予定の識別情報の変動表示中に電源断が発生した場合における当該電源断から復帰した後の新たな識別情報の変動表示開始の際に表示されている演出用図柄の数字組合せと、識別情報が前記所定態様以外にて停止表示される予定の識別情報の変動表示中に電源断が発生した場合における当該電源断から復帰した後の新たな識別情報の変動表示開始の際に表示されている演出用図柄の数字組合せと、が同一となるよう構成されており、
特別遊技の非実行時における演出モードを複数種類有しており、
ある演出モードが設定されている状況下において識別情報が前記所定態様にて停止表示される予定の識別情報の変動表示中に電源断が発生した場合における当該電源断から復帰した後の新たな識別情報の変動表示開始の際に表示されている演出用図柄の数字組合せと、当該ある演出モードが設定されている状況下において識別情報が前記所定態様以外にて停止表示される予定の識別情報の変動表示中に電源断が発生した場合における当該電源断から復帰した後の新たな識別情報の変動表示開始の際に表示されている演出用図柄の数字組合せと、が同一となる場合であっても、当該ある演出モードが設定されている状況下において識別情報が前記所定態様にて停止表示される予定の識別情報の変動表示中に電源断が発生した場合における当該電源断から復帰した後の新たな識別情報の変動表示開始の際に表示されている演出用図柄の表示形式と、当該ある演出モードが設定されている状況下において識別情報が前記所定態様以外にて停止表示される予定の識別情報の変動表示中に電源断が発生した場合における当該電源断から復帰した後の新たな識別情報の変動表示開始の際に表示されている演出用図柄の表示形式と、が異なり得るよう構成されていることを特徴とするぱちんこ遊技機である。
【3698】
態様（C2）に係るぱちんこ遊技機は、
遊技球が入球可能な始動口（例えば、第 1 主遊技始動口 A10、第 2 主遊技始動口 B10）と、
識別情報を表示可能な識別情報表示部（例えば、第 1 主遊技図柄表示部 A21g、第 2 主遊技図柄表示部 B21g）と、
遊技の進行を制御する主遊技部（例えば、主制御基板 M）と、
演出を表示可能な演出表示部（例えば、演出表示装置 SG）と、

10

20

30

40

50

演出表示部への演出表示を制御する副遊技部（例えば、副制御基板 S）とを備え、
主遊技部は、
始動口への入球に基づき、乱数を取得する乱数取得手段と、
乱数取得手段により乱数が取得された場合、識別情報の変動表示開始条件を充足するまで当該取得された乱数を保留として一時記憶する乱数一時記憶手段と、
ある保留に関する識別情報の変動表示開始条件を充足した場合、当該ある保留に係る乱数に基づき、識別情報表示部にて識別情報を変動表示させた後に識別情報を停止表示させるよう制御する識別情報表示制御手段と、
識別情報が所定態様にて停止表示された後において、遊技者にとって有利な特別遊技を実行可能な特別遊技制御手段と、
副遊技部側で実行される演出表示に際して必要な遊技情報を副遊技部側へ送信する遊技情報送信手段とを備え、
副遊技部は、
主遊技部側から送信された遊技情報を受信する遊技情報受信手段と、
遊技情報受信手段により受信された遊技情報に基づき、演出表示部にて表示する演出表示内容を制御する演出表示内容制御手段とを備え、
識別情報の変動表示開始から停止表示までを一演出期間とし、前記一演出期間内において演出用図柄を演出表示部にて変動表示させた後で、演出用図柄の最終的な組合せを演出表示部にて表示させ得るよう制御し、
識別情報の変動表示が前記所定態様にて停止表示されることが確定的である旨を、当該識別情報の変動表示中において予告する確定予告演出を実行可能であり、
残存する保留のうちに特別遊技の実行が確定的である当り保留が存在している旨を、前記当り保留に関する識別情報の変動表示開始条件を充足する前に予告する確定先読み演出を実行可能であり、
確定予告演出が実行された識別情報の変動表示中に電源断が発生し、その後当該電源断から復帰した場合、当該確定予告演出の実行契機となった識別情報の変動表示が前記所定態様にて停止表示されることで実行される特別遊技の実行終了後の識別情報の変動表示開始の際に表示されている演出用図柄の組合せは演出用図柄組合せ A となり、
確定先読み演出が実行された識別情報の変動表示中に電源断が発生し、その後当該電源断から復帰した場合、当該確定先読み演出の実行契機となった前記当り保留に対応する識別情報の変動表示が前記所定態様にて停止表示されることで実行される特別遊技の実行終了後の識別情報の変動表示開始の際に表示されている演出用図柄の組合せは演出用図柄組合せ B となり、
演出用図柄組合せ A と、演出用図柄組合せ B とは、演出用図柄の組合せが異なるよう構成されていることを特徴とするぱちんこ遊技機である。
【 3 6 9 9 】
態様（C 3）に係るぱちんこ遊技機は、
遊技球が入球可能な始動口（例えば、第 1 主遊技始動口 A 1 0、第 2 主遊技始動口 B 1 0）と、
識別情報を表示可能な識別情報表示部（例えば、第 1 主遊技図柄表示部 A 2 1 g、第 2 主遊技図柄表示部 B 2 1 g）と、
遊技の進行を制御する主遊技部（例えば、主制御基板 M）と、
演出を表示可能な演出表示部（例えば、演出表示装置 S G）と、
演出表示部への演出表示を制御する副遊技部（例えば、副制御基板 S）とを備え、
主遊技部は、

10

20

30

40

50

始動口への入球に基づき、乱数を取得する乱数取得手段と、

乱数取得手段により取得された乱数に基づき、識別情報表示部にて識別情報を変動表示させた後に識別情報を停止表示させるよう制御する識別情報表示制御手段と、

識別情報が所定態様にて停止表示された後において、遊技者にとって有利な特別遊技を実行可能な特別遊技制御手段と、

副遊技部側で実行される演出表示に際して必要な遊技情報を副遊技部側へ送信する遊技情報送信手段と

を備え、

副遊技部は、

主遊技部側から送信された遊技情報を受信する遊技情報受信手段と、

遊技情報受信手段により受信された遊技情報に基づき、演出表示部にて表示する演出表示内容を制御する演出表示内容制御手段と

を備え、

識別情報の変動表示開始から停止表示までを一演出期間とし、前記一演出期間内において第一演出用図柄を演出表示部にて変動表示させた後で、第一演出用図柄の最終的な組合せを演出表示部にて表示させ得るよう制御し、前記一演出期間内において第二演出用図柄を演出表示部にて変動表示させた後で、第二演出用図柄の最終的な組合せを演出表示部にて表示させ得るよう制御し、

前記一演出期間内において演出用可動体は所定の演出動作を実行可能であり、演出用可動体が前記所定の演出動作を実行することで演出表示部にて表示される演出表示内容の視認性が低下するよう構成されており、

電源断から復帰した後の所定期間内において演出用可動体は所定の初期化動作を実行可能なよう構成されており、

前記一演出期間内において演出用可動体が前記所定の演出動作を実行する場合には、第一演出用図柄は非表示となる一方で第二演出用図柄は表示可能となるよう構成されており、

前記電源断から復帰した後の所定期間内において演出用可動体が前記所定の初期化動作を実行する場合には、第一演出用図柄及び第二演出用図柄の双方が表示可能となるよう構成されており、

前記一演出期間内において演出用可動体が前記所定の演出動作を実行することが予定されている識別情報の変動表示開始から前記所定の演出動作の実行が開始するまでの期間は、前記電源断から復帰した後の所定期間内において演出用可動体が前記所定の初期化動作を実行する場合における前記所定の初期化動作の実行が開始してから前記所定の初期化動作の実行が終了するまでの期間よりも長くなるよう構成されている

ことを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【3700】

態様（C4）に係るぱちんこ遊技機は、

遊技球が入球可能な始動口（例えば、第1主遊技始動口A10、第2主遊技始動口B10）と、

識別情報を表示可能な識別情報表示部（例えば、第1主遊技図柄表示部A21g、第2主遊技図柄表示部B21g）と、

遊技の進行を制御する主遊技部（例えば、主制御基板M）と、

演出を表示可能な演出表示部（例えば、演出表示装置SG）と、

演出表示部への演出表示を制御する副遊技部（例えば、副制御基板S）とを備え、

主遊技部は、

始動口への入球に基づき、乱数を取得する乱数取得手段と、

乱数取得手段により取得された乱数に基づき、識別情報表示部にて識別情報を変動表示させた後に識別情報を停止表示させるよう制御する識別情報表示制御手段と、

識別情報が所定態様にて停止表示された後において、遊技者にとって有利な特別遊技を実行可能な特別遊技制御手段と、

10

20

30

40

50

特別遊技の非実行中における遊技状態として通常遊技状態と通常遊技状態よりも所定の入賞口へ入球容易となる特定遊技状態とを有し、特別遊技の実行終了後において特定遊技状態とし得るよう制御する遊技状態制御手段と、

副遊技部側で実行される演出表示に際して必要な遊技情報を副遊技部側へ送信する遊技情報送信手段と

を備え、

副遊技部は、

主遊技部側から送信された遊技情報を受信する遊技情報受信手段と、

遊技情報受信手段により受信された遊技情報に基づき、演出表示部にて表示する演出表示内容を制御する演出表示内容制御手段と

を備え、

識別情報の変動表示開始から停止表示までを一演出期間とし、前記一演出期間内において第一演出用図柄を演出表示部にて変動表示させた後で、第一演出用図柄の最終的な組合せを演出表示部にて表示させ得るよう制御し、前記一演出期間内において第二演出用図柄を演出表示部にて変動表示させた後で、第二演出用図柄の最終的な組合せを演出表示部にて表示させ得るよう制御し、

通常遊技状態であり前記一演出期間外にて第一演出用図柄の組合せが表示されている状況下で電源断が発生した場合、当該電源断から復帰した後に表示される第一演出用図柄の組合せは、当該電源断が発生する前の第一演出用図柄の表示形式とは異なる表示形式の第一演出用図柄となり得るよう構成されており、

特定遊技状態であり前記一演出期間外にて第一演出用図柄の組合せが表示されている状況下で電源断が発生した場合、当該電源断から復帰した後に表示される第一演出用図柄の組合せは、当該電源断が発生する前の第一演出用図柄の表示形式と同一の表示形式の第一演出用図柄となるよう構成されている

ことを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【3701】

態様（C5）に係るぱちんこ遊技機は、

遊技球が入球可能な始動口（例えば、第1主遊技始動口A10、第2主遊技始動口B10）と、

識別情報を表示可能な識別情報表示部（例えば、第1主遊技図柄表示部A21g、第2主遊技図柄表示部B21g）と、

遊技の進行を制御する主遊技部（例えば、主制御基板M）と、

演出を表示可能な演出表示部（例えば、演出表示装置SG）と、

演出表示部への演出表示を制御する副遊技部（例えば、副制御基板S）とを備え、

主遊技部は、

始動口への入球に基づき、乱数を取得する乱数取得手段と、

乱数取得手段により乱数が取得された場合、識別情報の変動表示開始条件を充足するまで当該取得された乱数を保留として一時記憶する乱数一時記憶手段と、

ある保留に関する識別情報の変動表示開始条件を充足した場合、当該ある保留に係る乱数に基づき、識別情報表示部にて識別情報を変動表示させた後に識別情報を停止表示させるよう制御する識別情報表示制御手段と、

識別情報が所定態様にて停止表示された後において、遊技者にとって有利な特別遊技を実行可能な特別遊技制御手段と、

特別遊技の非実行中における遊技状態として通常遊技状態と通常遊技状態よりも所定の入賞口へ入球容易となる特定遊技状態とを有し、特別遊技の実行終了後において特定遊技状態とし得るよう制御する遊技状態制御手段と、

副遊技部側で実行される演出表示に際して必要な遊技情報を副遊技部側へ送信する遊技情報送信手段と

を備え、

10

20

30

40

50

副遊技部は、

主遊技部側から送信された遊技情報を受信する遊技情報受信手段と、

遊技情報受信手段により受信された遊技情報に基づき、演出表示部にて表示する演出表示内容を制御する演出表示内容制御手段とを備え、

識別情報の変動表示開始から停止表示までを一演出期間とし、前記一演出期間内において演出用図柄を演出表示部にて変動表示させた後で、演出用図柄の最終的な組合せを演出表示部にて表示させ得るよう制御し、

特定遊技状態から通常遊技状態への移行契機となる識別情報の変動表示中であり且つ保留が残存せず新たに生起もしない状況での識別情報の変動表示中に電源断が発生した場合、当該電源断から復帰した後に演出用図柄の組合せが表示される際には、特定遊技状態に対応した表示形式にて演出用図柄の組合せを一旦表示した後で、通常遊技状態に対応した表示形式にて演出用図柄の組合せを表示するよう構成されていることを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【3702】

態様（C6）に係るぱちんこ遊技機は、

遊技球が入球可能な始動口（例えば、第1主遊技始動口A10、第2主遊技始動口B10）と、

識別情報を表示可能な識別情報表示部（例えば、第1主遊技図柄表示部A21g、第2主遊技図柄表示部B21g）と、

遊技の進行を制御する主遊技部（例えば、主制御基板M）と、

演出を表示可能な演出表示部（例えば、演出表示装置SG）と、

演出表示部への演出表示を制御する副遊技部（例えば、副制御基板S）とを備え、

主遊技部は、

始動口への入球に基づき、乱数を取得する乱数取得手段と、

乱数取得手段により取得された乱数に基づき、識別情報表示部にて識別情報を変動表示させた後に識別情報を停止表示させるよう制御する識別情報表示制御手段と、

識別情報が所定態様にて停止表示された後において、遊技者にとって有利な特別遊技を実行可能な特別遊技制御手段と、

副遊技部側で実行される演出表示に際して必要な遊技情報を副遊技部側へ送信する遊技情報送信手段とを備え、

副遊技部は、

主遊技部側から送信された遊技情報を受信する遊技情報受信手段と、

遊技情報受信手段により受信された遊技情報に基づき、演出表示部にて表示する演出表示内容を制御する演出表示内容制御手段とを備え、

識別情報の変動表示開始から停止表示までを一演出期間とし、前記一演出期間内において第一演出用図柄を演出表示部にて変動表示させた後で、第一演出用図柄の最終的な組合せを演出表示部にて表示させ得るよう制御し、前記一演出期間内において第二演出用図柄を演出表示部にて変動表示させた後で、第二演出用図柄の最終的な組合せを演出表示部にて表示させ得るよう制御し、

所定のエラーが発生したことに対応して、演出表示部にて所定のエラー画面を表示可能であり、

前記所定のエラー画面と第一演出用図柄の組合せとが同時に表示される場合、前記所定のエラー画面の表示の方が第一演出用図柄の表示よりも表示優先度が高く、

前記所定のエラー画面と第一演出用図柄の組合せと第二演出用図柄の組合せとが同時に表示される場合、前記所定のエラー画面の表示領域と第一演出用図柄の表示領域とは重複するが前記所定のエラー画面の表示領域と第二演出用図柄の表示領域とは重複しないよう

10

20

30

40

50

構成されており、

前記所定のエラー画面と第一演出用図柄の組合せと第二演出用図柄の組合せとが同時に表示される場合であっても、所定の遊技者操作に基づき音量調整画面を表示して音量レベルの調整が可能であり、

音量調整画面と第一演出用図柄の組合せと第二演出用図柄の組合せとが同時に表示される場合、音量調整画面の表示の方が第一演出用図柄の表示よりも表示優先度が高く、

音量調整画面と第一演出用図柄の組合せと第二演出用図柄の組合せとが同時に表示される場合、音量調整画面の表示領域と第一演出用図柄の表示領域とは重複するが音量調整画面の表示領域と第二演出用図柄の表示領域とは重複しないよう構成されている

ことを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【3703】

態様（C7）に係るぱちんこ遊技機は、

遊技球が入球可能な始動口（例えば、第1主遊技始動口A10、第2主遊技始動口B10）と、

識別情報を表示可能な識別情報表示部（例えば、第1主遊技図柄表示部A21g、第2主遊技図柄表示部B21g）と、

遊技の進行を制御する主遊技部（例えば、主制御基板M）と、

演出を表示可能な演出表示部（例えば、演出表示装置SG）と、

演出表示部への演出表示を制御する副遊技部（例えば、副制御基板S）とを備え、

主遊技部は、

始動口への入球に基づき、乱数を取得する乱数取得手段と、

乱数取得手段により取得された乱数に基づき、識別情報表示部にて識別情報を変動表示させた後に識別情報を停止表示させるよう制御する識別情報表示制御手段と、

識別情報が所定態様にて停止表示された後において、遊技者にとって有利な特別遊技を実行可能な特別遊技制御手段と、

副遊技部側で実行される演出表示に際して必要な遊技情報を副遊技部側へ送信する遊技情報送信手段と

を備え、

副遊技部は、

主遊技部側から送信された遊技情報を受信する遊技情報受信手段と、

遊技情報受信手段により受信された遊技情報に基づき、演出表示部にて表示する演出表示内容を制御する演出表示内容制御手段と

を備え、

識別情報の変動表示開始から停止表示までを一演出期間とし、前記一演出期間内において第一演出用図柄を演出表示部にて変動表示させた後で、第一演出用図柄の最終的な組合せを演出表示部にて表示させ得るよう制御し、前記一演出期間内において第二演出用図柄を演出表示部にて変動表示させた後で、第二演出用図柄の最終的な組合せを演出表示部にて表示させ得るよう制御し、

前記一演出期間内において所定の操作部材の操作を促す操作指示演出を演出表示部にて表示可能であり、操作指示演出が表示されている状況下で所定の操作部材の操作があったことに対応して所定の演出を演出表示部にて表示可能であり、

操作指示演出と第一演出用図柄とが同時に表示される場合、操作指示演出の表示の方が第一演出用図柄の表示よりも表示優先度が高く、

操作指示演出が表示されている状況下で所定の操作部材の操作があったことに対応して前記所定の演出が表示された状況において、前記所定の演出と第一演出用図柄と第二演出用図柄とが同時に表示される場合、前記所定の演出の表示の方が第一演出用図柄の表示よりも表示優先度が高い一方で、前記所定の演出の表示の方が第二演出用図柄の表示よりも表示優先度が低く、

操作指示演出の表示領域よりも前記所定の演出の表示領域の方が大きく、操作指示演出

10

20

30

40

50

の表示領域と第一演出用図柄の表示領域とは重複し得る一方で、操作指示演出の表示領域と第二演出用図柄の表示領域とは重複せず、

操作指示演出が表示されている状況下で所定の操作部材の操作があったことに対応して前記所定の演出が表示された状況において、前記所定の演出の表示領域は第一演出用図柄の表示領域とも第二演出用図柄の表示領域とも重複するよう構成されていることを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【3704】

態様（C8）に係るぱちんこ遊技機は、

遊技球が入球可能な始動口（例えば、第1主遊技始動口A10、第2主遊技始動口B10）と、

識別情報を表示可能な識別情報表示部（例えば、第1主遊技図柄表示部A21g、第2主遊技図柄表示部B21g）と、

遊技の進行を制御する主遊技部（例えば、主制御基板M）と、

演出を表示可能な演出表示部（例えば、演出表示装置SG）と、

演出表示部への演出表示を制御する副遊技部（例えば、副制御基板S）とを備え、

主遊技部は、

始動口への入球に基づき、乱数を取得する乱数取得手段と、

乱数取得手段により取得された乱数に基づき、識別情報表示部にて識別情報を変動表示させた後に識別情報を停止表示させるよう制御する識別情報表示制御手段と、

識別情報が所定態様にて停止表示された後において、遊技者にとって有利な特別遊技を実行可能な特別遊技制御手段と、

特別遊技の非実行中における遊技状態として通常遊技状態と通常遊技状態よりも所定の入賞口へ入球容易となる特定遊技状態とを有し、特別遊技の実行終了後において特定遊技状態とし得るよう制御する遊技状態制御手段と、

副遊技部側で実行される演出表示に際して必要な遊技情報を副遊技部側へ送信する遊技情報送信手段と

を備え、

特定遊技状態である状況下において第一変動状態と第一変動状態とは識別情報の変動表示時間の選択傾向が異なる第二変動状態とを少なくとも有しており、通常遊技状態である状況下において第一変動状態とも第二変動状態とも識別情報の変動表示時間の選択傾向が異なる通常変動状態を少なくとも有しており、

特定遊技状態且つ第一変動状態から特定遊技状態且つ第二変動状態へ移行可能であり、特定遊技状態且つ第二変動状態から通常遊技状態且つ通常変動状態へ移行可能に構成されており、

副遊技部は、

主遊技部側から送信された遊技情報を受信する遊技情報受信手段と、

遊技情報受信手段により受信された遊技情報に基づき、演出表示部にて表示する演出表示内容を制御する演出表示内容制御手段と

を備え、

識別情報の変動表示開始から停止表示までを一演出期間とし、前記一演出期間内において第一演出用図柄を演出表示部にて変動表示させた後で、第一演出用図柄の最終的な組合せを演出表示部にて表示させ得るよう制御し、前記一演出期間内において第二演出用図柄を演出表示部にて変動表示させた後で、第二演出用図柄の最終的な組合せを演出表示部にて表示させ得るよう制御し、

特定遊技状態且つ第一変動状態にて第一演出用図柄の組合せが表示される際の第一演出用図柄の表示形式と特定遊技状態且つ第二変動状態にて第一演出用図柄の組合せが表示される際の第一演出用図柄の表示形式とは同一の表示形式となるが、特定遊技状態且つ第一変動状態にて第一演出用図柄の組合せが表示される際の第一演出用図柄の表示形式も特定遊技状態且つ第二変動状態にて第一演出用図柄の組合せが表示される際の第一演出用図柄

10

20

30

40

50

の表示形式も、通常遊技状態且つ通常変動状態にて第一演出用図柄の組合せが表示される際の第一演出用図柄の表示形式とは異なるよう構成されていることを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【3705】

態様（C9）に係るぱちんこ遊技機は、

遊技球が入球可能な始動口（例えば、第1主遊技始動口A10、第2主遊技始動口B10）と、

識別情報を表示可能な識別情報表示部（例えば、第1主遊技図柄表示部A21g、第2主遊技図柄表示部B21g）と、

遊技の進行を制御する主遊技部（例えば、主制御基板M）と、

演出を表示可能な演出表示部（例えば、演出表示装置SG）と、

演出表示部への演出表示を制御する副遊技部（例えば、副制御基板S）とを備え、

主遊技部は、

始動口への入球に基づき、乱数を取得する乱数取得手段と、

乱数取得手段により取得された乱数に基づき、識別情報表示部にて識別情報を変動表示させた後に識別情報を停止表示させるよう制御する識別情報表示制御手段と、

識別情報が所定態様にて停止表示された後において、遊技者にとって有利な特別遊技を実行可能な特別遊技制御手段と、

副遊技部側で実行される演出表示に際して必要な遊技情報を副遊技部側へ送信する遊技情報送信手段と

を備え、

副遊技部は、

主遊技部側から送信された遊技情報を受信する遊技情報受信手段と、

遊技情報受信手段により受信された遊技情報に基づき、演出表示部にて表示する演出表示内容を制御する演出表示内容制御手段と

を備え、

識別情報の変動表示開始から停止表示までを一演出期間とし、前記一演出期間内において第一演出用図柄を演出表示部にて変動表示させた後で、第一演出用図柄の最終的な組合せを演出表示部にて表示させ得るよう制御し、前記一演出期間内において第二演出用図柄を演出表示部にて変動表示させた後で、第二演出用図柄の最終的な組合せを演出表示部にて表示させ得るよう制御し、

特別遊技の非実行時における演出モードとして、演出モードAと演出モードBとを少なくとも有しており、

演出モードAが設定されている状況下における前記一演出期間内において変動表示される第一演出用図柄について、第一演出用図柄の最終的な組合せが表示されるよりも前に第一演出用図柄の暫定表示態様が表示され得ると共に、当該第一演出用図柄の暫定表示態様が表示される場合には前記一演出期間内において再び第一演出用図柄が変動表示される再変動を実行可能であり、第一演出用図柄の暫定表示態様が表示される際には、第一演出用図柄の最終的な組合せには含まれない特殊表示態様が表示され得るよう構成されており、

演出モードBが設定されている状況下における前記一演出期間内において変動表示される第一演出用図柄について、前記特殊表示態様が表示されないよう構成されており、

演出モードAが設定されている状況下であって識別情報が前記所定態様以外にて停止表示されることに対応する前記一演出期間内において第一演出用図柄の最終的な組合せが表示される場合には特定の組合せが表示され得るが、演出モードBが設定されている状況下であって識別情報が前記所定態様以外にて停止表示されることに対応する前記一演出期間内において第一演出用図柄の最終的な組合せが表示される場合には前記特定の組合せが表示されないよう構成されている

ことを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【3706】

10

20

30

40

50

態様（C10）に係るぱちんこ遊技機は、
遊技球が入球可能な始動口（例えば、第1主遊技始動口A10、第2主遊技始動口B10）と、

識別情報を表示可能な識別情報表示部（例えば、第1主遊技図柄表示部A21g、第2主遊技図柄表示部B21g）と、

遊技の進行を制御する主遊技部（例えば、主制御基板M）と、

演出を表示可能な演出表示部（例えば、演出表示装置SG）と、

演出表示部への演出表示を制御する副遊技部（例えば、副制御基板S）とを備え、

主遊技部は、

始動口への入球に基づき、乱数を取得する乱数取得手段と、

乱数取得手段により取得された乱数に基づき、識別情報表示部にて識別情報を変動表示させた後に識別情報を停止表示させるよう制御する識別情報表示制御手段と、

識別情報が所定態様にて停止表示された後において、遊技者にとって有利な特別遊技を実行可能な特別遊技制御手段と、

副遊技部側で実行される演出表示に際して必要な遊技情報を副遊技部側へ送信する遊技情報送信手段と

を備え、

副遊技部は、

主遊技部側から送信された遊技情報を受信する遊技情報受信手段と、

遊技情報受信手段により受信された遊技情報に基づき、演出表示部にて表示する演出表示内容を制御する演出表示内容制御手段と

を備え、

識別情報の変動表示開始から停止表示までを一演出期間とし、前記一演出期間内において第一演出用図柄を演出表示部にて変動表示させた後で、第一演出用図柄の最終的な組合せを演出表示部にて表示させ得るよう制御し、前記一演出期間内において第二演出用図柄を演出表示部にて変動表示させた後で、第二演出用図柄の最終的な組合せを演出表示部にて表示させ得るよう制御し、

少なくとも1以上の第一演出用図柄について、第一演出用図柄の構成要素として数字を備えており、

少なくとも1以上の第二演出用図柄について、第二演出用図柄の構成要素として数字を備えており、

識別情報が前記所定態様にて停止表示される予定での識別情報の変動表示中に電源断が発生した場合における当該電源断から復帰した以降での新たな識別情報の変動表示開始の際に表示されている第一演出用図柄の組合せと、識別情報が前記所定態様以外にて停止表示される予定での識別情報の変動表示中に電源断が発生した場合における当該電源断から復帰した以降での新たな識別情報の変動表示開始の際に表示されている第一演出用図柄の組合せと、が同一となるよう構成されており、

識別情報が前記所定態様にて停止表示される予定の識別情報の変動表示中に電源断が発生した場合における当該電源断から復帰した後の新たな識別情報の変動表示開始の際に表示されている第二演出用図柄の数字組合せと、識別情報が前記所定態様以外にて停止表示される予定の識別情報の変動表示中に電源断が発生した場合における当該電源断から復帰した後の新たな識別情報の変動表示開始の際に表示されている第二演出用図柄の数字組合せと、が同一となるよう構成されており、

特別遊技の非実行時における演出モードを複数種類有しており、

ある演出モードが設定されている状況下において識別情報が前記所定態様にて停止表示される予定での識別情報の変動表示中に電源断が発生した場合における当該電源断から復帰した以降での新たな識別情報の変動表示開始の際に表示されている第一演出用図柄の組合せと、当該ある演出モードが設定されている状況下において識別情報が前記所定態様以外にて停止表示される予定での識別情報の変動表示中に電源断が発生した場合における当

10

20

30

40

50

該電源断から復帰した以降での新たな識別情報の変動表示開始の際に表示されている第一演出用図柄の組合せと、が同一となる場合であっても第一演出用図柄の表示形式は異なり得るよう構成されており、

ある演出モードが設定されている状況下において識別情報が前記所定態様にて停止表示される予定の識別情報の変動表示中に電源断が発生した場合における当該電源断から復帰した後の新たな識別情報の変動表示開始の際に表示されている第二演出用図柄の数字組合せと、当該ある演出モードが設定されている状況下において識別情報が前記所定態様以外にて停止表示される予定の識別情報の変動表示中に電源断が発生した場合における当該電源断から復帰した後の新たな識別情報の変動表示開始の際に表示されている第二演出用図柄の数字組合せと、が同一となる場合であっても、当該ある演出モードが設定されている状況下において識別情報が前記所定態様にて停止表示される予定の識別情報の変動表示中に電源断が発生した場合における当該電源断から復帰した後の新たな識別情報の変動表示開始の際に表示されている第二演出用図柄の表示形式と、当該ある演出モードが設定されている状況下において識別情報が前記所定態様以外にて停止表示される予定の識別情報の変動表示中に電源断が発生した場合における当該電源断から復帰した後の新たな識別情報の変動表示開始の際に表示されている第二演出用図柄の表示形式と、が同一となるよう構成されており、

ある一演出期間内において変動表示される第一演出用図柄について、当該ある一演出期間内において最終表示態様が表示されるよりも前にて暫定表示態様が表示され得ると共に、当該暫定表示態様が表示される場合には当該ある一演出期間内において再び変動表示される再変動を実行可能であり、第一演出用図柄の暫定表示態様が表示される際には、第一演出用図柄の最終表示態様としては表示されない特殊表示態様が表示され得るよう構成されており、

ある一演出期間内において変動表示される第二演出用図柄について、当該ある一演出期間内において前記特殊表示態様が表示されないよう構成されていることを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【3707】

態様（C11）に係るぱちんこ遊技機は、

遊技球が入球可能な始動口（例えば、第1主遊技始動口A10、第2主遊技始動口B10）と、

識別情報を表示可能な識別情報表示部（例えば、第1主遊技図柄表示部A21g、第2主遊技図柄表示部B21g）と、

遊技の進行を制御する主遊技部（例えば、主制御基板M）と、

演出を表示可能な演出表示部（例えば、演出表示装置SG）と、

演出表示部への演出表示を制御する副遊技部（例えば、副制御基板S）とを備え、

主遊技部は、

始動口への入球に基づき、乱数を取得する乱数取得手段と、

乱数取得手段により乱数が取得された場合、識別情報の変動表示開始条件を充足するまで当該取得された乱数を保留として一時記憶する乱数一時記憶手段と、

ある保留に関する識別情報の変動表示開始条件を充足した場合、当該ある保留に係る乱数に基づき、識別情報表示部にて識別情報を変動表示させた後に識別情報を停止表示させるよう制御する識別情報表示制御手段と、

識別情報が所定態様にて停止表示された後において、遊技者にとって有利な特別遊技を実行可能な特別遊技制御手段と、

副遊技部側で実行される演出表示に際して必要な遊技情報を副遊技部側へ送信する遊技情報送信手段と

を備え、

副遊技部は、

主遊技部側から送信された遊技情報を受信する遊技情報受信手段と、

遊技情報受信手段により受信された遊技情報に基づき、演出表示部にて表示する演出表示内容を制御する演出表示内容制御手段とを備え、

識別情報の変動表示開始から停止表示までを一演出期間とし、前記一演出期間内において第一演出用図柄を演出表示部にて変動表示させた後で、第一演出用図柄の最終的な組合せを演出表示部にて表示させ得るよう制御し、前記一演出期間内において第二演出用図柄を演出表示部にて変動表示させた後で、第二演出用図柄の最終的な組合せを演出表示部にて表示させ得るよう制御し、

ある一演出期間内において変動表示される第一演出用図柄について、当該ある一演出期間内において最終的な組合せが表示されるよりも前に第一演出用図柄の暫定表示態様が表示される際には、第一演出用図柄の最終的な組合せには含まれない特定表示態様が表示されることを契機として、特定表示態様表示後に、複数種類の発展演出のうちのいずれかが実行される場合を有し、

前記特定表示態様が第一演出用図柄の暫定表示態様として表示される前記複数種類の特定表示態様のうち特定表示態様 A が第一演出用図柄の暫定表示態様として表示されるか前記複数種類の特定表示態様のうち特定表示態様 B が第一演出用図柄の暫定表示態様として表示されるかのいずれとなるかの確率が、前記特定表示態様が表示されるまでに表示される予告演出の内容に応じて異なるよう構成されており、

残存する保留に係る特別遊技の実行期待度を示唆又は報知する先読み演出を演出表示部にて実行可能であり、

先読み演出の種類として、先読み演出 A と先読み演出 B とを少なくとも含む複数種類を備え、

前記特定表示態様が第一演出用図柄の暫定表示態様として表示される場合、前記複数種類の特定表示態様のうち特定表示態様 A が第一演出用図柄の暫定表示態様として表示されるか前記複数種類の特定表示態様のうち特定表示態様 B が第一演出用図柄の暫定表示態様として表示されるかのいずれとなるかの確率が、前記特定表示態様が表示されるまでに表示される先読み演出の種類が先読み演出 A であるか先読み演出 B であるかに応じて異なるよう構成されており、

識別情報の変動表示が前記所定態様にて停止表示されることが確定的である旨を、当該識別情報の変動表示中において予告する確定予告演出を実行可能であり、

残存する保留のうちに特別遊技の実行が確定的である当り保留が存在している旨を、前記当り保留に関する識別情報の変動表示開始条件を充足する前に予告する確定先読み演出を実行可能であり、

確定予告演出が実行された識別情報の変動表示中に電源断が発生し、その後当該電源断から復帰した場合、当該確定予告演出の実行契機となった識別情報の変動表示が前記所定態様にて停止表示されることで実行される特別遊技の実行終了後の識別情報の変動表示開始の際に表示されている演出用図柄の組合せは演出用図柄組合せ A となり、

確定先読み演出が実行された識別情報の変動表示中に電源断が発生し、その後当該電源断から復帰した場合、当該確定先読み演出の実行契機となった前記当り保留に対応する識別情報の変動表示が前記所定態様にて停止表示されることで実行される特別遊技の実行終了後の識別情報の変動表示開始の際に表示されている演出用図柄の組合せは演出用図柄組合せ B となり、

演出用図柄組合せ A と、演出用図柄組合せ B とは、演出用図柄の組合せが異なるよう構成されている

ことを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【 3 7 0 8 】

態様（ C 1 2 ）に係るぱちんこ遊技機は、

遊技球が入球可能な始動口（例えば、第 1 主遊技始動口 A 1 0、第 2 主遊技始動口 B 1 0）と、

識別情報を表示可能な識別情報表示部（例えば、第 1 主遊技図柄表示部 A 2 1 g、第 2

10

20

30

40

50

主遊技図柄表示部 B 2 1 g) と、

遊技の進行を制御する主遊技部（例えば、主制御基板 M）と、

演出を表示可能な演出表示部（例えば、演出表示装置 S G）と、

演出表示部への演出表示を制御する副遊技部（例えば、副制御基板 S）と

を備え、

主遊技部は、

始動口への入球に基づき、乱数を取得する乱数取得手段と、

乱数取得手段により取得された乱数に基づき、識別情報表示部にて識別情報を変動表示させた後に識別情報を停止表示させるよう制御する識別情報表示制御手段と、

識別情報が所定態様にて停止表示された後において、遊技者にとって有利な特別遊技を実行可能な特別遊技制御手段と、

副遊技部側で実行される演出表示に際して必要な遊技情報を副遊技部側へ送信する遊技情報送信手段と

を備え、

副遊技部は、

主遊技部側から送信された遊技情報を受信する遊技情報受信手段と、

遊技情報受信手段により受信された遊技情報に基づき、演出表示部にて表示する演出表示内容を制御する演出表示内容制御手段と

を備え、

識別情報の変動表示開始から停止表示までを一演出期間とし、前記一演出期間内において第一演出用図柄を演出表示部にて変動表示させた後で、第一演出用図柄の最終的な組合せを演出表示部にて表示させ得るよう制御し、前記一演出期間内において第二演出用図柄を演出表示部にて変動表示させた後で、第二演出用図柄の最終的な組合せを演出表示部にて表示させ得るよう制御し、

前記一演出期間内において演出用可動体は所定の演出動作を実行可能であり、演出用可動体が前記所定の演出動作を実行することで演出表示部にて表示される演出表示内容の視認性が低下するよう構成されており、

電源断から復帰した後の所定期間内において演出用可動体は所定の初期化動作を実行可能なよう構成されており、

前記一演出期間内において演出用可動体が前記所定の演出動作を実行する場合には、第一演出用図柄は非表示となる一方で第二演出用図柄は表示可能となるよう構成されており、

前記電源断から復帰した後の所定期間内において演出用可動体が前記所定の初期化動作を実行する場合には、第一演出用図柄及び第二演出用図柄の双方が表示可能となるよう構成されており、

前記一演出期間内において演出用可動体が前記所定の演出動作を実行することが予定されている識別情報の変動表示開始から前記所定の演出動作の実行が開始するまでの期間は、前記電源断から復帰した後の所定期間内において演出用可動体が前記所定の初期化動作を実行する場合における前記所定の初期化動作の実行が開始してから前記所定の初期化動作の実行が終了するまでの期間よりも長くなるよう構成されており、

第一演出用図柄の最終的な組合せのパターン総数は第二演出用図柄の最終的な組合せのパターン総数よりも多くなるよう構成されている

ことを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【3709】

態様（C 1 3）に係るぱちんこ遊技機は、

遊技球が入球可能な始動口（例えば、第 1 主遊技始動口 A 1 0、第 2 主遊技始動口 B 1 0）と、

識別情報を表示可能な識別情報表示部（例えば、第 1 主遊技図柄表示部 A 2 1 g、第 2 主遊技図柄表示部 B 2 1 g）と、

遊技の進行を制御する主遊技部（例えば、主制御基板 M）と、

演出を表示可能な演出表示部（例えば、演出表示装置 S G）と、

10

20

30

40

50

演出表示部への演出表示を制御する副遊技部（例えば、副制御基板 S）とを備え、

主遊技部は、

始動口への入球に基づき、乱数を取得する乱数取得手段と、

乱数取得手段により取得された乱数に基づき、識別情報表示部にて識別情報を変動表示させた後に識別情報を停止表示させるよう制御する識別情報表示制御手段と、

識別情報が所定態様にて停止表示された後において、遊技者にとって有利な特別遊技を実行可能な特別遊技制御手段と、

特別遊技の非実行中における遊技状態として通常遊技状態と通常遊技状態よりも所定の入賞口へ入球容易となる特定遊技状態とを有し、特別遊技の実行終了後において特定遊技状態とし得るよう制御する遊技状態制御手段と、

副遊技部側で実行される演出表示に際して必要な遊技情報を副遊技部側へ送信する遊技情報送信手段と

を備え、

副遊技部は、

主遊技部側から送信された遊技情報を受信する遊技情報受信手段と、

遊技情報受信手段により受信された遊技情報に基づき、演出表示部にて表示する演出表示内容を制御する演出表示内容制御手段と

を備え、

識別情報の変動表示開始から停止表示までを一演出期間とし、前記一演出期間内において第一演出用図柄を演出表示部にて変動表示させた後で、第一演出用図柄の最終的な組合せを演出表示部にて表示させ得るよう制御し、前記一演出期間内において第二演出用図柄を演出表示部にて変動表示させた後で、第二演出用図柄の最終的な組合せを演出表示部にて表示させ得るよう制御し、

通常遊技状態であり前記一演出期間外にて第一演出用図柄の組合せが表示されている状況下で電源断が発生した場合、当該電源断から復帰した以降にて第一演出用図柄の組合せが表示される際には、当該電源断が発生する前の第一演出用図柄の表示形式とは異なる表示形式となり得るよう構成されており、

特定遊技状態であり前記一演出期間外にて第一演出用図柄の組合せが表示されている状況下で電源断が発生した場合、当該電源断から復帰した以降にて第一演出用図柄の組合せが表示される際には、当該電源断が発生する前の第一演出用図柄の表示形式と同一の表示形式となるよう構成されており、

演出表示部にて表示する演出表示内容を決定する際に依存する演出モードとして、第 1 演出モードと第 2 演出モードとを少なくとも有し、

第 1 演出モードに対応した特定第一演出用図柄の表示形式である第 1 表示形式と、第 2 演出モードに対応した特定第一演出用図柄の表示形式である第 2 表示形式と、が異なる表示形式となるよう構成されており、

第 1 演出モードである場合における第一識別情報の変動表示でも、第 1 演出モードである場合における第二識別情報の変動表示でも、第 1 表示形式である特定第一演出用図柄を変動表示可能に構成されており、

第 2 演出モードである場合における第一識別情報の変動表示でも、第 2 演出モードである場合における第二識別情報の変動表示でも、第 2 表示形式である特定第一演出用図柄を変動表示可能に構成されている

ことを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【3 7 1 0】

態様（C 1 4）に係るぱちんこ遊技機は、

第二領域側を流下する遊技球のほうが、第一領域側を流下する遊技球よりも、入球が容易となる位置に配置されている始動口（例えば、第 1 主遊技始動口 A 1 0、第 2 主遊技始動口 B 1 0）と、

識別情報を表示可能な識別情報表示部（例えば、第 1 主遊技図柄表示部 A 2 1 g、第 2

10

20

30

40

50

主遊技図柄表示部 B 2 1 g) と、

遊技の進行を制御する主遊技部（例えば、主制御基板 M）と、

演出を表示可能な演出表示部（例えば、演出表示装置 S G）と、

演出表示部への演出表示を制御する副遊技部（例えば、副制御基板 S）と

を備え、

主遊技部は、

始動口への入球に基づき、乱数を取得する乱数取得手段と、

乱数取得手段により乱数が取得された場合、識別情報の変動表示開始条件を充足するまで当該取得された乱数を保留として一時記憶する乱数一時記憶手段と、

ある保留に関する識別情報の変動表示開始条件を充足した場合、当該ある保留に係る乱数に基づき、識別情報表示部にて識別情報を変動表示させた後に識別情報を停止表示させるよう制御する識別情報表示制御手段と、

識別情報が所定態様にて停止表示された後において、遊技者にとって有利な特別遊技を実行可能な特別遊技制御手段と、

特別遊技の非実行中における遊技状態として通常遊技状態と通常遊技状態よりも始動口へ入球容易となる特定遊技状態とを有し、特別遊技の実行終了後において特定遊技状態とし得るよう制御する遊技状態制御手段と、

副遊技部側で実行される演出表示に際して必要な遊技情報を副遊技部側へ送信する遊技情報送信手段と

を備え、

副遊技部は、

主遊技部側から送信された遊技情報を受信する遊技情報受信手段と、

遊技情報受信手段により受信された遊技情報に基づき、演出表示部にて表示する演出表示内容を制御する演出表示内容制御手段と

を備え、

識別情報の変動表示開始から停止表示までを一演出期間とし、前記一演出期間内において第一演出用図柄を演出表示部にて変動表示させた後で、第一演出用図柄の最終的な組合せを演出表示部にて表示させ得るよう制御し、前記一演出期間内において第二演出用図柄を演出表示部にて変動表示させた後で、第二演出用図柄の最終的な組合せを演出表示部にて表示させ得るよう制御し、

特定遊技状態から通常遊技状態へ移行することが予定されており且つ保留も残存していない識別情報の変動表示中に電源断が発生した場合、当該電源断から復帰した以降にて演出用図柄の組合せが表示される際には、特定遊技状態に対応した表示形式にて演出用図柄の組合せを一旦表示した後で通常遊技状態に対応した表示形式にて演出用図柄の組合せを表示するよう構成されており、

前記第二領域に遊技球を発射することを促すよう報知する発射報知演出を演出表示部にて表示可能であり、発射報知演出は通常遊技状態にある状況下では表示されない一方で、発射報知演出は特定遊技状態にある状況下では表示され得るよう構成されており、

第一演出用図柄と第二演出用図柄と発射報知演出との全てを同時に表示可能であり、

ある一演出期間内において特定の予告演出を演出表示部にて表示可能であり、

演出表示部において、発射報知演出は第一演出用図柄と重複する位置にて表示され、且つ、前記特定の予告演出は第一演出用図柄と重複する位置にて表示され得るよう構成されており、

演出表示部において、発射報知演出は第二演出用図柄と重複しない位置にて表示される一方で、前記特定の予告演出は第二演出用図柄と重複する位置にて表示され得るよう構成されている

ことを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【 3 7 1 1 】

態様（ C 1 5 ）に係るぱちんこ遊技機は、

遊技球が入球可能な始動口（例えば、第 1 主遊技始動口 A 1 0、第 2 主遊技始動口 B 1

10

20

30

40

50

0) と、

識別情報を表示可能な識別情報表示部（例えば、第1主遊技図柄表示部A21g、第2主遊技図柄表示部B21g）と、

遊技の進行を制御する主遊技部（例えば、主制御基板M）と、

演出を表示可能な演出表示部（例えば、演出表示装置SG）と、

演出表示部への演出表示を制御する副遊技部（例えば、副制御基板S）とを備え、

主遊技部は、

始動口への入球に基づき、乱数を取得する乱数取得手段と、

乱数取得手段により取得された乱数に基づき、識別情報表示部にて識別情報を変動表示させた後に識別情報を停止表示させるよう制御する識別情報表示制御手段と、

識別情報が所定態様にて停止表示された後において、遊技者にとって有利な特別遊技を実行可能な特別遊技制御手段と、

副遊技部側で実行される演出表示に際して必要な遊技情報を副遊技部側へ送信する遊技情報送信手段と

を備え、

副遊技部は、

主遊技部側から送信された遊技情報を受信する遊技情報受信手段と、

遊技情報受信手段により受信された遊技情報に基づき、演出表示部にて表示する演出表示内容を制御する演出表示内容制御手段と

を備え、

識別情報の変動表示開始から停止表示までを一演出期間とし、前記一演出期間内において第一演出用図柄を演出表示部にて変動表示させた後で、第一演出用図柄の最終的な組合せを演出表示部にて表示させ得るよう制御し、前記一演出期間内において第二演出用図柄を演出表示部にて変動表示させた後で、第二演出用図柄の最終的な組合せを演出表示部にて表示させ得るよう制御し、

所定のエラーが発生したことに対応して、演出表示部にて所定のエラー画面を表示可能であり、

前記所定のエラー画面と第一演出用図柄の組合せとが同時に表示される場合、前記所定のエラー画面の表示の方が第一演出用図柄の表示よりも表示優先度が高く、

前記所定のエラー画面と第一演出用図柄の組合せと第二演出用図柄の組合せとが同時に表示される場合、前記所定のエラー画面の表示領域と第一演出用図柄の表示領域とは重複するが前記所定のエラー画面の表示領域と第二演出用図柄の表示領域とは重複しないよう構成されており、

前記所定のエラー画面と第一演出用図柄の組合せと第二演出用図柄の組合せとが同時に表示される場合であっても、所定の遊技者操作に基づき音量調整画面を表示して音量レベルの調整が可能であり、

音量調整画面と第一演出用図柄の組合せと第二演出用図柄の組合せとが同時に表示される場合、音量調整画面の表示の方が第一演出用図柄の表示よりも表示優先度が高く、

音量調整画面と第一演出用図柄の組合せと第二演出用図柄の組合せとが同時に表示される場合、音量調整画面の表示領域と第一演出用図柄の表示領域とは重複するが音量調整画面の表示領域と第二演出用図柄の表示領域とは重複しないよう構成されており、

ある一演出期間内において変動表示される第一演出用図柄について、当該ある一演出期間内において最終的な組合せが表示されるよりも前に第一演出用図柄の暫定表示態様が表示される際には、第一演出用図柄の最終的な組合せには含まれない特定表示態様が表示されることを契機として、特定表示態様表示後に、複数種類の発展演出のうちのいずれかが実行される場合を有し、

前記特定表示態様が第一演出用図柄の暫定表示態様として表示される場合、前記複数種類の特定表示態様のうち特定表示態様Aが第一演出用図柄の暫定表示態様として表示されるか前記複数種類の特定表示態様のうち特定表示態様Bが第一演出用図柄の暫定表示態様

10

20

30

40

50

として表示されるかのいずれとなるかの確率が、前記特定表示態様が表示されるまでに表示される予告演出の内容に応じて異なるよう構成されており、

残存する保留に係る特別遊技の実行期待度を示唆又は報知する先読み演出を演出表示部にて実行可能であり、

先読み演出の種類として、先読み演出 A と先読み演出 B とを少なくとも含む複数種類を備え、

前記特定表示態様が第一演出用図柄の暫定表示態様として表示される場合、前記複数種類の特定表示態様のうち特定表示態様 A が第一演出用図柄の暫定表示態様として表示されるか前記複数種類の特定表示態様のうち特定表示態様 B が第一演出用図柄の暫定表示態様として表示されるかのいずれとなるかの確率が、前記特定表示態様が表示されるまでに表示される先読み演出の種類が先読み演出 A であるか先読み演出 B であるかに応じて異なるよう構成されており、

第一演出用図柄の最終的な組合せのパターン総数は第二演出用図柄の最終的な組合せのパターン総数よりも多くなるよう構成されていることを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【3 7 1 2】

態様（C 1 6）に係るぱちんこ遊技機は、

遊技球が入球可能な始動口（例えば、第 1 主遊技始動口 A 1 0、第 2 主遊技始動口 B 1 0）と、

識別情報を表示可能な識別情報表示部（例えば、第 1 主遊技図柄表示部 A 2 1 g、第 2 主遊技図柄表示部 B 2 1 g）と、

遊技の進行を制御する主遊技部（例えば、主制御基板 M）と、

演出を表示可能な演出表示部（例えば、演出表示装置 S G）と、

演出表示部への演出表示を制御する副遊技部（例えば、副制御基板 S）とを備え、

主遊技部は、

始動口への入球に基づき、乱数を取得する乱数取得手段と、

乱数取得手段により取得された乱数に基づき、識別情報表示部にて識別情報を変動表示させた後に識別情報を停止表示させるよう制御する識別情報表示制御手段と、

識別情報が所定態様にて停止表示された後において、遊技者にとって有利な特別遊技を実行可能な特別遊技制御手段と、

副遊技部側で実行される演出表示に際して必要な遊技情報を副遊技部側へ送信する遊技情報送信手段と

を備え、

副遊技部は、

主遊技部側から送信された遊技情報を受信する遊技情報受信手段と、

遊技情報受信手段により受信された遊技情報に基づき、演出表示部にて表示する演出表示内容を制御する演出表示内容制御手段と

を備え、

識別情報の変動表示開始から停止表示までを一演出期間とし、前記一演出期間内において第一演出用図柄を演出表示部にて変動表示させた後で、第一演出用図柄の最終的な組合せを演出表示部にて表示させ得るよう制御し、前記一演出期間内において第二演出用図柄を演出表示部にて変動表示させた後で、第二演出用図柄の最終的な組合せを演出表示部にて表示させ得るよう制御し、

前記一演出期間内において所定の操作部材の操作を促す操作指示演出を演出表示部にて表示可能であり、操作指示演出が表示されている状況下で所定の操作部材の操作があったことに対応して所定の演出を演出表示部にて表示可能であり、

操作指示演出と第一演出用図柄とが同時に表示される場合、操作指示演出の表示の方が第一演出用図柄の表示よりも表示優先度が高く、

操作指示演出が表示されている状況下で所定の操作部材の操作があったことに対応して

10

20

30

40

50

前記所定の演出が表示された状況において、前記所定の演出と第一演出用図柄と第二演出用図柄とが同時に表示される場合、前記所定の演出の表示の方が第一演出用図柄の表示よりも表示優先度が高い一方で、前記所定の演出の表示の方が第二演出用図柄の表示よりも表示優先度が低く、

操作指示演出の表示領域よりも前記所定の演出の表示領域の方が大きく、操作指示演出の表示領域と第一演出用図柄の表示領域とは重複し得る一方で、操作指示演出の表示領域と第二演出用図柄の表示領域とは重複せず、

操作指示演出が表示されている状況下で所定の操作部材の操作があったことに対応して前記所定の演出が表示された状況において、前記所定の演出の表示領域は第一演出用図柄の表示領域とも第二演出用図柄の表示領域とも重複するよう構成されており、

10

ある一演出期間内において変動表示される第一演出用図柄について、当該ある一演出期間内において最終的な組合せが表示されるよりも前にて第一演出用図柄の暫定表示態様が表示される際には、第一演出用図柄の最終的な組合せには含まれない特定表示態様が表示されることを契機として、特定表示態様表示後に、複数種類の発展演出のうちのいずれかが実行される場合を有し、

ある一演出期間内において変動表示される第一演出用図柄について、当該ある一演出期間内において最終表示態様が表示されるよりも前にて暫定表示態様が表示され得ると共に、当該暫定表示態様が表示される場合には当該ある一演出期間内において再び変動表示される再変動を実行可能であり、第一演出用図柄の暫定表示態様が表示される際には、第一演出用図柄の最終表示態様としては表示されない特殊表示態様が表示され得るよう構成されており、

20

前記特定表示態様と前記特殊表示態様とは異なる表示態様となっており、

操作指示演出の種類として、少なくとも第1操作指示演出と第2操作指示演出とを有し、第1操作指示演出が表示された場合において第1操作指示演出が表示されたタイミングよりも後のタイミングにおいて前記特定表示態様が表示される確率と、第2操作指示演出が表示された場合において第2操作指示演出が表示されたタイミングよりも後のタイミングにおいて前記特定表示態様が表示される確率とが異なるよう構成されており、

第1操作指示演出が表示された場合において第1操作指示演出が表示されたタイミングよりも後のタイミングにおいて前記特殊表示態様が表示される確率と、第2操作指示演出が表示された場合において第2操作指示演出が表示されたタイミングよりも後のタイミングにおいて前記特殊表示態様が表示される確率とが異なるよう構成されていることを特徴とするぱちんこ遊技機である。

30

【3713】

態様（C17）に係るぱちんこ遊技機は、

遊技球が入球可能な始動口（例えば、第1主遊技始動口A10、第2主遊技始動口B10）と、

識別情報を表示可能な識別情報表示部（例えば、第1主遊技図柄表示部A21g、第2主遊技図柄表示部B21g）と、

遊技の進行を制御する主遊技部（例えば、主制御基板M）と、

演出を表示可能な演出表示部（例えば、演出表示装置SG）と、

40

演出表示部への演出表示を制御する副遊技部（例えば、副制御基板S）とを備え、

主遊技部は、

始動口への入球に基づき、乱数を取得する乱数取得手段と、

乱数取得手段により取得された乱数に基づき、識別情報表示部にて識別情報を変動表示させた後に識別情報を停止表示させるよう制御する識別情報表示制御手段と、

識別情報が所定態様にて停止表示された後において、遊技者にとって有利な特別遊技を実行可能な特別遊技制御手段と、

特別遊技の非実行中における遊技状態として通常遊技状態と通常遊技状態よりも所定の入賞口へ入球容易となる特定遊技状態とを有し、特別遊技の実行終了後において特定遊技

50

状態とし得るよう制御する遊技状態制御手段と、

副遊技部側で実行される演出表示に際して必要な遊技情報を副遊技部側へ送信する遊技情報送信手段と
を備え、

特定遊技状態である状況下において第一変動状態と第二変動状態とは識別情報の変動表示時間の選択傾向が異なる第二変動状態とを少なくとも有しており、通常遊技状態である状況下において第一変動状態とも第二変動状態とも識別情報の変動表示時間の選択傾向が異なる通常変動状態を少なくとも有しており、

特定遊技状態且つ第一変動状態から特定遊技状態且つ第二変動状態へ移行可能であり、特定遊技状態且つ第二変動状態から通常遊技状態且つ通常変動状態へ移行可能に構成されており、

10

副遊技部は、

主遊技部側から送信された遊技情報を受信する遊技情報受信手段と、

遊技情報受信手段により受信された遊技情報に基づき、演出表示部にて表示する演出表示内容を制御する演出表示内容制御手段と
を備え、

識別情報の変動表示開始から停止表示までを一演出期間とし、前記一演出期間内において第一演出用図柄を演出表示部にて変動表示させた後で、第一演出用図柄の最終的な組合せを演出表示部にて表示させ得るよう制御し、前記一演出期間内において第二演出用図柄を演出表示部にて変動表示させた後で、第二演出用図柄の最終的な組合せを演出表示部にて表示させ得るよう制御し、

20

特定遊技状態且つ第一変動状態にて第一演出用図柄の組合せが表示される際の第一演出用図柄の表示形式と特定遊技状態且つ第二変動状態にて第一演出用図柄の組合せが表示される際の第一演出用図柄の表示形式とは同一の表示形式となるが、特定遊技状態且つ第一変動状態にて第一演出用図柄の組合せが表示される際の第一演出用図柄の表示形式も特定遊技状態且つ第二変動状態にて第一演出用図柄の組合せが表示される際の第一演出用図柄の表示形式も、通常遊技状態且つ通常変動状態にて第一演出用図柄の組合せが表示される際の第一演出用図柄の表示形式とは異なるよう構成されており、

ある一演出期間内において変動表示される第一演出用図柄について、当該ある一演出期間内において最終的な組合せが表示されるよりも前に第一演出用図柄の暫定表示態様が表示される際には、第一演出用図柄の最終的な組合せには含まれない特定表示態様が表示されることを契機として、特定表示態様表示後に、複数種類の発展演出のうちのいずれかが実行される場合を有し、

30

前記特定表示態様が第一演出用図柄の暫定表示態様として表示される場合、前記複数種類の特定表示態様のうち特定表示態様Aが第一演出用図柄の暫定表示態様として表示されるか前記複数種類の特定表示態様のうち特定表示態様Bが第一演出用図柄の暫定表示態様として表示されるかのいずれとなるかの確率が、前記特定表示態様が表示されるまでに表示される予告演出の内容に応じて異なるよう構成されており、

残存する保留に係る特別遊技の実行期待度を示唆又は報知する先読み演出を演出表示部にて実行可能であり、

40

先読み演出の種類として、先読み演出Aと先読み演出Bとを少なくとも含む複数種類を備え、

前記特定表示態様が第一演出用図柄の暫定表示態様として表示される場合、前記複数種類の特定表示態様のうち特定表示態様Aが第一演出用図柄の暫定表示態様として表示されるか前記複数種類の特定表示態様のうち特定表示態様Bが第一演出用図柄の暫定表示態様として表示されるかのいずれとなるかの確率が、前記特定表示態様が表示されるまでに表示される先読み演出の種類が先読み演出Aであるか先読み演出Bであるかに応じて異なるよう構成されており、

第一演出用図柄の最終的な組合せのパターン総数は第二演出用図柄の最終的な組合せのパターン総数よりも多くなるよう構成されている

50

ことを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【3714】

態様（C18）に係るぱちんこ遊技機は、

遊技球が入球可能な始動口（例えば、第1主遊技始動口A10、第2主遊技始動口B10）と、

識別情報を表示可能な識別情報表示部（例えば、第1主遊技図柄表示部A21g、第2主遊技図柄表示部B21g）と、

遊技の進行を制御する主遊技部（例えば、主制御基板M）と、

演出を表示可能な演出表示部（例えば、演出表示装置SG）と、

演出表示部への演出表示を制御する副遊技部（例えば、副制御基板S）とを備え、

主遊技部は、

始動口への入球に基づき、乱数を取得する乱数取得手段と、

乱数取得手段により取得された乱数に基づき、識別情報表示部にて識別情報を変動表示させた後に識別情報を停止表示させるよう制御する識別情報表示制御手段と、

識別情報が所定態様にて停止表示された後において、遊技者にとって有利な特別遊技を実行可能な特別遊技制御手段と、

副遊技部側で実行される演出表示に際して必要な遊技情報を副遊技部側へ送信する遊技情報送信手段と

を備え、

副遊技部は、

主遊技部側から送信された遊技情報を受信する遊技情報受信手段と、

遊技情報受信手段により受信された遊技情報に基づき、演出表示部にて表示する演出表示内容を制御する演出表示内容制御手段と

を備え、

識別情報の変動表示開始から停止表示までを一演出期間とし、前記一演出期間内において第一演出用図柄を演出表示部にて変動表示させた後で、第一演出用図柄の最終的な組合せを演出表示部にて表示させ得るよう制御し、前記一演出期間内において第二演出用図柄を演出表示部にて変動表示させた後で、第二演出用図柄の最終的な組合せを演出表示部にて表示させ得るよう制御し、

特別遊技の非実行時における演出モードとして、演出モードAと演出モードBとを少なくとも有しており、

演出モードAが設定されている状況下における前記一演出期間内において変動表示される第一演出用図柄について、第一演出用図柄の最終的な組合せが表示されるよりも前に第一演出用図柄の暫定表示態様が表示され得ると共に、当該第一演出用図柄の暫定表示態様が表示される場合には前記一演出期間内において再び第一演出用図柄が変動表示される再変動を実行可能であり、第一演出用図柄の暫定表示態様が表示される際には、第一演出用図柄の最終的な組合せには含まれない特殊表示態様が表示され得るよう構成されており、

演出モードBが設定されている状況下における前記一演出期間内において変動表示される第一演出用図柄について、前記特殊表示態様が表示されないよう構成されており、

演出モードAが設定されている状況下であって識別情報が前記所定態様以外にて停止表示されることに対応する前記一演出期間内において第一演出用図柄の最終的な組合せが表示される場合には特定の組合せが表示され得るが、演出モードBが設定されている状況下であって識別情報が前記所定態様以外にて停止表示されることに対応する前記一演出期間内において第一演出用図柄の最終的な組合せが表示される場合には前記特定の組合せが表示されないよう構成されており、

演出モードAにおける第一演出用図柄の変動表示形式と演出モードBにおける第一演出用図柄の変動表示形式とが異なるよう構成されている一方、

演出モードAにおける第二演出用図柄の変動表示形式と演出モードBにおける第二演出用図柄の変動表示形式とが同一となるよう構成されている

10

20

30

40

50

ことを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【3715】

態様（D1）に係るぱちんこ遊技機は、

遊技球が入球可能な始動口（例えば、第1主遊技始動口A10、第2主遊技始動口B10）と、

識別情報を表示可能な識別情報表示部（例えば、第1主遊技図柄表示部A21g、第2主遊技図柄表示部B21g）と、

遊技の進行を制御する主遊技部（例えば、主制御基板M）と、

演出を表示可能な演出表示部（例えば、演出表示装置SG）と、

演出表示部への演出表示を制御する副遊技部（例えば、副制御基板S）とを備え、

主遊技部は、

始動口への入球に基づき、乱数を取得する乱数取得手段と、

乱数取得手段により乱数が取得された場合、識別情報の変動表示開始条件を充足するまで当該取得された乱数を保留として一時記憶する乱数一時記憶手段と、

乱数取得手段により取得された乱数に基づき、識別情報表示部にて識別情報を変動表示させた後に識別情報を停止表示させるよう制御する識別情報表示制御手段と、

識別情報が所定態様にて停止表示された後において、遊技者にとって有利な特別遊技を実行可能な特別遊技制御手段と

を備え、

副遊技部は、

演出表示部にて表示する演出表示内容を制御する演出表示内容制御手段と、

識別情報の変動表示開始から停止表示までを一演出期間とし、当該一演出期間内において演出用図柄（例えば、第一演出用図柄）を演出表示部にて変動表示させた後で、演出用図柄の最終的な組合せを演出表示部にて停止表示させるよう制御する演出用図柄表示制御手段と

を備え、

ある一演出期間内において変動表示された演出用図柄は、当該ある一演出期間内において確定的に停止表示されるよりも前にて暫定的に停止表示され得ると共に、確定的に停止表示となった際には、予め定められた変動固定時間にわたり新たな変動表示が開始されないよう構成されており、

演出用図柄の構成要素として、少なくとも第一要素（例えば、キャラクタ）と第二要素（例えば、数字）とを有し、

演出用図柄による所定の動作を実行可能であり、

所定の動作には、

演出用図柄が暫定的に停止表示されている場合に実行可能な第一の揺れ動作と、

保留が残存していない状況で識別情報が所定態様以外にて停止表示された後から所定時間が経過した場合に実行可能な第二の揺れ動作とが含まれており、

第一の揺れ動作は、第一要素と第二要素とが揺れ動作する態様となっており、第二の揺れ動作は、第一要素が揺れ動作する一方、第二要素が揺れ動作しない態様となるよう構成されている

ことを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【3716】

第一演出用図柄が暫定的に停止表示されている場合（図柄変動中も含む）の第一演出用図柄の揺れ動作を、第一演出用図柄が確定的に停止表示中である変動待機状態中にも適用することにより、変動待機状態であっても味気ない画面（演出用図柄が停止しているだけの画面）とすることを回避でき、液晶画面上に動きを与えることができるとともに、第二要素（数字）だけは揺れ動作を行うことなく固定的な表示としておくことで、図柄変動中であると遊技者に誤認させることがないような演出を提供することができる。

【3717】

態様（D2）に係るぱちんこ遊技機は、
遊技球が入球可能な始動口（例えば、第1主遊技始動口A10、第2主遊技始動口B10）と、
識別情報を表示可能な識別情報表示部（例えば、第1主遊技図柄表示部A21g、第2主遊技図柄表示部B21g）と、
遊技の進行を制御する主遊技部（例えば、主制御基板M）と、
演出を表示可能な演出表示部（例えば、演出表示装置SG）と、
演出表示部への演出表示を制御する副遊技部（例えば、副制御基板S）と
を備え、

10

主遊技部は、
始動口への入球に基づき、乱数を取得する乱数取得手段と、
乱数取得手段により乱数が取得された場合、識別情報の変動表示開始条件を充足するまで当該取得された乱数を保留として一時記憶する乱数一時記憶手段と、
乱数取得手段により取得された乱数に基づき、識別情報表示部にて識別情報を変動表示させた後に識別情報を停止表示させるよう制御する識別情報表示制御手段と、
識別情報が所定態様にて停止表示された後において、遊技者にとって有利な特別遊技を実行可能な特別遊技制御手段と
を備え、

20

副遊技部は、
演出表示部にて表示する演出表示内容を制御する演出表示内容制御手段と、
識別情報の変動表示開始から停止表示までを一演出期間とし、当該一演出期間内において演出用図柄（例えば、第一演出用図柄）を演出表示部にて変動表示させた後で、演出用図柄の最終的な組合せを演出表示部にて停止表示させるよう制御する演出用図柄表示制御手段と
を備え、

ある一演出期間内において変動表示された演出用図柄は、当該ある一演出期間内において確定的に停止表示されるよりも前にて暫定的に停止表示され得ると共に、確定的に停止表示となった際には、予め定められた変動固定時間にわたり新たな変動表示が開始されないよう構成されており、
演出用図柄による所定の動作を実行可能であり、
所定の動作には、
演出用図柄が暫定的に停止表示されている場合に実行可能な第一の揺れ動作と、
保留が残存していない状況で識別情報が所定態様以外にて停止表示された後から所定時間が経過した場合に実行可能な第二の揺れ動作と
が含まれており、

30

変動固定時間よりも所定時間の方が長時間となるよう構成されている
ことを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【3718】

第一演出用図柄の確定的な停止表示を示すための時間を変動固定時間として確保するとともに、第一演出用図柄が暫定的に停止表示されている場合（図柄変動中も含む）の第一演出用図柄の揺れ動作を、第一演出用図柄が確定的な停止表示中である変動待機状態にも適用することにより、変動固定時間経過後の遊技待機状態であっても味気ない画面（演出用図柄が停止しているだけの画面）とすることを回避する（液晶画面上に動きを与える）よう構成した場合に、少なくとも変動固定時間以上の時間を空けてから揺れ動作を開始するよう構成することで、次変動が開始したと誤認されることを防止することができる。

40

【3719】

態様（D3）に係るぱちんこ遊技機は、
遊技球が入球可能な始動口（例えば、第1主遊技始動口A10、第2主遊技始動口B10）と、

50

識別情報を表示可能な識別情報表示部（例えば、第1主遊技図柄表示部A21g、第2主遊技図柄表示部B21g）と、

演出音を出力するスピーカ（例えば、スピーカD24）と、

遊技の進行を制御する主遊技部（例えば、主制御基板M）と、

演出を表示可能な演出表示部（例えば、演出表示装置SG）と、

演出表示部への演出表示を制御する副遊技部（例えば、副制御基板S）とを備え、

主遊技部は、

始動口への入球に基づき、乱数を取得する乱数取得手段と、

乱数取得手段により乱数が取得された場合、識別情報の変動表示開始条件を充足するまで当該取得された乱数を保留として一時記憶する乱数一時記憶手段と、

乱数取得手段により取得された乱数に基づき、識別情報表示部にて識別情報を変動表示させた後に識別情報を停止表示させるよう制御する識別情報表示制御手段と、

識別情報が所定態様にて停止表示された後において、遊技者にとって有利な特別遊技を実行可能な特別遊技制御手段と

を備え、

副遊技部は、

演出表示部にて表示する演出表示内容を制御する演出表示内容制御手段と、

識別情報の変動表示開始から停止表示までを一演出期間とし、当該一演出期間内において演出用図柄（例えば、第一演出用図柄）を演出表示部にて変動表示させた後で、演出用図柄の最終的な組合せを演出表示部にて停止表示させるよう制御する演出用図柄表示制御手段と

を備え、

ある一演出期間内において変動表示された演出用図柄は、当該ある一演出期間内において確定的に停止表示されるよりも前にて暫定的に停止表示され得ると共に、確定的に停止表示となった際には、予め定められた変動固定時間にわたり新たな変動表示が開始されないよう構成されており、

特別遊技の非実行時における所定の演出モードが設定されている状況下であって、少なくとも演出用図柄の変動表示中において演出音が出力可能に構成されており、

保留が残存していない状況で識別情報が所定態様以外にて停止表示された後から特定時間が経過することで待機デモ画面を演出表示部に表示可能に構成されており、

演出用図柄による所定の動作を実行可能であり、

所定の動作には、

演出用図柄が暫定的に停止表示されている場合に実行可能な第一の揺れ動作と、

保留が残存していない状況で識別情報が所定態様以外にて停止表示された後から前記特定時間よりも短時間である所定時間が経過した場合に実行可能な第二の揺れ動作とが含まれており、

第二の揺れ動作は、保留が残存していない状況で待機デモ画面の表示が終了した後であっても実行可能であり、

保留が残存していない状況で識別情報が所定態様以外にて停止表示された後から所定時間が経過して第二の揺れ動作が開始される場合において、第二の揺れ動作の開始タイミングにおいては演出音が出力可能である一方、

保留が残存していない状況で待機デモ画面の表示が終了した後に実行される第二の揺れ動作（例えば、第二の揺れ動作、または、待機デモ画面の表示が終了した後に実行される第二の揺れ動作である第三の揺れ動作）の実行中においては、演出音が出力されないよう構成されている

ことを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【3720】

第一演出用図柄が暫定的に停止表示されている場合（図柄変動中も含む）の第一演出用図柄の揺れ動作を、第一演出用図柄が確定的な停止表示中である変動待機状態中にも適用

10

20

30

40

50

することにより、変動待機状態であっても味気ない画面（演出用図柄が停止しているだけの画面）とすることを回避でき、液晶画面上に動きを与えることができるとともに、変動待機状態にて最初に揺れ動作（第二の揺れ動作）を開始した場合は、遊技機アピールのため演出音（ステージ BGM）の出力を継続する一方で、待機デモ画面（待機中ムービー）の表示を経由した後に揺れ動作（例えば、第二の揺れ動作、または、待機デモ画面の表示が終了した後に実行される第二の揺れ動作である第三の揺れ動作）した場合は、省電力のため演出音の出力を停止（消音）とするといった変動待機状態に応じた適切な演出出力態様とすることができる。

【3721】

態様（D4）に係るぱちんこ遊技機は、

遊技球が入球可能な始動口（例えば、第1主遊技始動口A10、第2主遊技始動口B10）と、

識別情報を表示可能な識別情報表示部（例えば、第1主遊技図柄表示部A21g、第2主遊技図柄表示部B21g）と、

遊技の進行を制御する主遊技部（例えば、主制御基板M）と、

演出を表示可能な演出表示部（例えば、演出表示装置SG）と、

演出表示部への演出表示を制御する副遊技部（例えば、副制御基板S）とを備え、

主遊技部は、

始動口への入球に基づき、乱数を取得する乱数取得手段と、

乱数取得手段により乱数が取得された場合、識別情報の変動表示開始条件を充足するまで当該取得された乱数を保留として一時記憶する乱数一時記憶手段と、

乱数取得手段により取得された乱数に基づき、識別情報表示部にて識別情報を変動表示させた後に識別情報を停止表示させるよう制御する識別情報表示制御手段と、

識別情報が所定態様にて停止表示された後において、遊技者にとって有利な特別遊技を実行可能な特別遊技制御手段と

を備え、

副遊技部は、

演出表示部にて表示する演出表示内容を制御する演出表示内容制御手段と、

識別情報の変動表示開始から停止表示までを一演出期間とし、当該一演出期間内において演出用図柄（例えば、第一演出用図柄）を演出表示部にて変動表示させた後で、演出用図柄の最終的な組合せを演出表示部にて停止表示させるよう制御する演出用図柄表示制御手段と

を備え、

複数の演出用図柄列を有しており、複数の演出用図柄列のそれぞれにて演出用図柄を変動表示可能に構成されており、

複数の演出用図柄列のうち、所定の演出用図柄列以外の演出用図柄列にて同じ種類の演出用図柄が暫定的に停止表示されることでリーチ状態を形成可能に構成されており、

演出用図柄による所定の動作を実行可能であり、

所定の動作には、少なくとも演出用図柄がリーチ状態を形成する場合に実行可能な特殊動作（例えば、テンパイアクション）が含まれており、

前記所定の演出用図柄列以外の演出用図柄列に対応した演出用図柄は、特殊動作を実行可能に構成されている一方、前記所定の演出用図柄列の演出用図柄列に対応した演出用図柄は、特殊動作を実行しないよう構成されている

ことを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【3722】

最も着目される他の表示列（最終の列である中列の第一演出用図柄）以外の第一演出用図柄である一の表示列（左列の第一演出用図柄、右列の第一演出用図柄）の第一演出用図柄のみで行われる可能性がある動作を用意することで、他の表示列（最終の列である中列の第一演出用図柄）の第一演出用図柄が停止するまでの過程において注目すべきテンパイ

10

20

30

40

50

を視覚的に報知することができる。

【3723】

態様（D5）に係るぱちんこ遊技機は、

遊技球が入球可能な始動口（例えば、第1主遊技始動口A10、第2主遊技始動口B10）と、

識別情報を表示可能な識別情報表示部（例えば、第1主遊技図柄表示部A21g、第2主遊技図柄表示部B21g）と、

遊技の進行を制御する主遊技部（例えば、主制御基板M）と、

演出を表示可能な演出表示部（例えば、演出表示装置SG）と、

演出表示部への演出表示を制御する副遊技部（例えば、副制御基板S）とを備え、

主遊技部は、

始動口への入球に基づき、乱数を取得する乱数取得手段と、

乱数取得手段により乱数が取得された場合、識別情報の変動表示開始条件を充足するまで当該取得された乱数を保留として一時記憶する乱数一時記憶手段と、

乱数取得手段により取得された乱数に基づき、識別情報表示部にて識別情報を変動表示させた後に識別情報を停止表示させるよう制御する識別情報表示制御手段と、

識別情報が所定態様にて停止表示された後において、遊技者にとって有利な特別遊技を実行可能な特別遊技制御手段と

を備え、

副遊技部は、

演出表示部にて表示する演出表示内容を制御する演出表示内容制御手段と、

識別情報の変動表示開始から停止表示までを一演出期間とし、当該一演出期間内において演出用図柄（例えば、第一演出用図柄）を演出表示部にて変動表示させた後で、演出用図柄の最終的な組合せを演出表示部にて停止表示させるよう制御する演出用図柄表示制御手段と

を備え、

複数の演出用図柄列を有しており、複数の演出用図柄列のそれぞれにて演出用図柄を変動表示可能に構成されており、

複数の演出用図柄列のうち、所定の演出用図柄列以外の演出用図柄列にて同じ種類の演出用図柄が暫定的に停止表示されることでリーチ状態を形成可能に構成されており、

複数の演出用図柄列のうち、所定の演出用図柄列以外の演出用図柄列にて異なる種類の演出用図柄が暫定的に停止表示されることで非リーチ状態を形成可能に構成されており、

リーチ状態又は非リーチ状態が形成された後に、演出用図柄の再変動を実行可能に構成されており、

演出用図柄による所定の動作を実行可能であり、

所定の動作には、

演出用図柄が演出表示部の所定位置に暫定的に停止表示する場合に実行可能な定位置動作と、

演出用図柄が暫定的に停止表示されている場合に実行可能な揺れ動作と、

演出用図柄がリーチ状態を形成する場合に実行可能な特殊動作（例えば、テンパイアクション）とが含まれており、

リーチ状態が形成された後に演出用図柄の再変動を実行する場合の所定の動作に係る動作パターンと、非リーチ状態が形成された後に演出用図柄の再変動を実行する場合の所定の動作に係る動作パターンとが異なるよう構成されている

ことを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【3724】

また、態様（D5）に係るぱちんこ遊技機は、

所定の動作に係る動作パターンは、所定の動作の種類数及び／又は組合せである

10

20

30

40

50

ことを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【3725】

擬似連演出（再変動を伴う演出）といった近年ではポピュラーな演出が行われる際に、擬似連が行われるまでの演出過程（第一演出用図柄の暫定的に停止表示した態様）に応じて、第一演出用図柄の動作の時系列的な内容を異ならせることで、従来の一様な擬似連の演出の流れを、視覚的な第一演出用図柄の態様の相違によって多様化することができる。

【3726】

態様（D6）に係るぱちんこ遊技機は、
遊技球が入球可能な始動口（例えば、第1主遊技始動口A10、第2主遊技始動口B10）と、

識別情報を表示可能な識別情報表示部（例えば、第1主遊技図柄表示部A21g、第2主遊技図柄表示部B21g）と、

遊技の進行を制御する主遊技部（例えば、主制御基板M）と、

演出を表示可能な演出表示部（例えば、演出表示装置SG）と、

演出表示部への演出表示を制御する副遊技部（例えば、副制御基板S）と
を備え、

主遊技部は、

始動口への入球に基づき、乱数を取得する乱数取得手段と、

乱数取得手段により乱数が取得された場合、識別情報の変動表示開始条件を充足するまで当該取得された乱数を保留として一時記憶する乱数一時記憶手段と、

乱数取得手段により取得された乱数に基づき、識別情報表示部にて識別情報を変動表示させた後に識別情報を停止表示させるよう制御する識別情報表示制御手段と、

識別情報が所定態様にて停止表示された後において、遊技者にとって有利な特別遊技を実行可能な特別遊技制御手段と

を備え、

副遊技部は、

演出表示部にて表示する演出表示内容を制御する演出表示内容制御手段と、

識別情報の変動表示開始から停止表示までを一演出期間とし、当該一演出期間内において演出用図柄（例えば、第一演出用図柄）を演出表示部にて変動表示させた後で、演出用図柄の最終的な組合せを演出表示部にて停止表示させるよう制御する演出用図柄表示制御手段と

を備え、

複数の演出用図柄列を有しており、複数の演出用図柄列のそれぞれにて演出用図柄を変動表示可能に構成されており、

複数の演出用図柄列のうち、所定の演出用図柄列以外の演出用図柄列にて同じ種類の演出用図柄が暫定的に停止表示されることでリーチ状態を形成可能に構成されており、

演出用図柄による所定の動作を実行可能であり、

所定の動作には、少なくとも演出用図柄が演出表示部の所定位置に暫定的に停止表示する場合に実行可能な定位置動作が含まれており、

リーチ状態が形成された後に特別遊技を実行しないことを示す演出用図柄の最終的な組合せが暫定的に停止表示する場合、前記所定の演出用図柄列以外の演出用図柄列に対応した演出用図柄は、定位置動作を実行可能に構成されている一方、前記所定の演出用図柄列に対応した演出用図柄は、定位置動作を実行しないよう構成されている

ことを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【3727】

また、態様（D6）に係るぱちんこ遊技機は、図408に示すように、

リーチ状態が形成されずに特別遊技を実行しないことを示す演出用図柄の最終的な組合せが暫定的に停止表示する場合、前記所定の演出用図柄列（例えば、中列）以外の演出用図柄列（例えば、左列、右列）に対応した演出用図柄も、前記所定の演出用図柄列に対応した演出用図柄も、定位置動作を実行可能に構成されている

ことを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【3728】

このように構成することで、ハズレの通常の図柄変動又はハズレのノーマルリーチ変動であればリーチ状態を形成しない表示列（中列）の第一演出用図柄でも定位置動作を行うことで暫定的に停止表示したことを示す一方、ハズレのスーパーリーチ演出についてはハズレのスーパーリーチ演出から通常画面に戻って更に定位置動作を行うことは冗長であるため該定位置動作を割愛することで、ハズレ時の経由演出に応じてシームレスな第一演出用図柄の動きを実現できる。

【3729】

態様（D7-1）に係るぱちんこ遊技機は、
遊技球が入球可能な始動口（例えば、第1主遊技始動口A10、第2主遊技始動口B10）と、
識別情報を表示可能な識別情報表示部（例えば、第1主遊技図柄表示部A21g、第2主遊技図柄表示部B21g）と、
遊技の進行を制御する主遊技部（例えば、主制御基板M）と、
演出を表示可能な演出表示部（例えば、演出表示装置SG）と、
演出表示部への演出表示を制御する副遊技部（例えば、副制御基板S）とを備え、
主遊技部は、
始動口への入球に基づき、乱数を取得する乱数取得手段と、
乱数取得手段により乱数が取得された場合、識別情報の変動表示開始条件を充足するまで当該取得された乱数を保留として一時記憶する乱数一時記憶手段と、
乱数取得手段により取得された乱数に基づき、識別情報表示部にて識別情報を変動表示させた後に識別情報を停止表示させるよう制御する識別情報表示制御手段と、
識別情報が所定態様にて停止表示された後において、遊技者にとって有利な特別遊技を実行可能な特別遊技制御手段とを備え、
副遊技部は、
演出表示部にて表示する演出表示内容を制御する演出表示内容制御手段と、
識別情報の変動表示開始から停止表示までを一演出期間とし、当該一演出期間内において演出用図柄（例えば、第一演出用図柄）を演出表示部にて変動表示させた後で、演出用図柄の最終的な組合せを演出表示部にて停止表示させるよう制御する演出用図柄表示制御手段とを備え、
複数の演出用図柄列を有しており、複数の演出用図柄列のそれぞれにて演出用図柄を変動表示可能に構成されており、
複数の演出用図柄列のうち、所定の演出用図柄列以外の演出用図柄列にて同じ種類の演出用図柄が暫定的に停止表示されることでリーチ状態を形成可能に構成されており、
複数の演出用図柄列のうち、前記所定の演出用図柄列以外の演出用図柄列にて異なる種類の演出用図柄が暫定的に停止表示されることで非リーチ状態を形成可能に構成されており、
演出用図柄の構成要素として、少なくとも第一要素と第二要素とを有し、
演出用図柄による所定の動作を実行可能であり、
リーチ状態が形成される図柄変動において、変動表示している前記所定の演出用図柄列に対応する演出用図柄と、暫定的に停止表示している前記所定の演出用図柄列以外の演出用図柄列に対応する演出用図柄とが、リーチ状態が形成されている所定のタイミングにて重複可能となるよう構成されていることを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【3730】

また、態様（D7-1）に係るぱちんこ遊技機は、

10

20

30

40

50

リーチ状態が形成される図柄変動の所定の動作における一の演出用図柄列の演出用図柄の第一要素と他の演出用図柄列の演出用図柄の第一要素とが重複する重複割合が、非リーチ状態となる図柄変動の所定の動作における一の演出用図柄列の演出用図柄の第一要素と他の演出用図柄列の演出用図柄の第一要素とが重複する重複割合よりも大きく構成されている

ことを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【3731】

また、態様（D7-2）に係るぱちんこ遊技機は、

遊技球が入球可能な始動口（例えば、第1主遊技始動口A10、第2主遊技始動口B10）と、

識別情報を表示可能な識別情報表示部（例えば、第1主遊技図柄表示部A21g、第2主遊技図柄表示部B21g）と、

遊技の進行を制御する主遊技部（例えば、主制御基板M）と、

演出を表示可能な演出表示部（例えば、演出表示装置SG）と、

演出表示部への演出表示を制御する副遊技部（例えば、副制御基板S）とを備え、

主遊技部は、

始動口への入球に基づき、乱数を取得する乱数取得手段と、

乱数取得手段により乱数が取得された場合、識別情報の変動表示開始条件を充足するまで当該取得された乱数を保留として一時記憶する乱数一時記憶手段と、

乱数取得手段により取得された乱数に基づき、識別情報表示部にて識別情報を変動表示させた後に識別情報を停止表示させるよう制御する識別情報表示制御手段と、

識別情報が所定態様にて停止表示された後において、遊技者にとって有利な特別遊技を実行可能な特別遊技制御手段と

を備え、

副遊技部は、

演出表示部にて表示する演出表示内容を制御する演出表示内容制御手段と、

識別情報の変動表示開始から停止表示までを一演出期間とし、当該一演出期間内において演出用図柄（例えば、第一演出用図柄）を演出表示部にて変動表示させた後で、演出用図柄の最終的な組合せを演出表示部にて停止表示させるよう制御する演出用図柄表示制御手段と

を備え、

複数の演出用図柄列を有しており、複数の演出用図柄列のそれぞれにて演出用図柄を変動表示可能に構成されており、

複数の演出用図柄列のうち、所定の演出用図柄列以外の演出用図柄列にて同じ種類の演出用図柄が暫定的に停止表示されることでリーチ状態を形成可能に構成されており、

複数の演出用図柄列のうち、所定の演出用図柄列以外の演出用図柄列にて異なる種類の演出用図柄が暫定的に停止表示されることで非リーチ状態を形成可能に構成されており、

演出用図柄の構成要素として、少なくとも第一要素と第二要素とを有し、

演出用図柄による所定の動作を実行可能であり、

ある一演出期間内における所定タイミングにおいて、一の演出用図柄列の演出用図柄と他の演出用図柄列の演出用図柄とが重複可能に構成されており、

所定タイミングで実行される所定の動作において、一の演出用図柄列の演出用図柄の第一要素と他の演出用図柄列の演出用図柄の第一要素とが重複するが、一の演出用図柄列の演出用図柄の第二要素と、他の演出用図柄列の演出用図柄の第二要素とが重複しないように構成されている

ことを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【3732】

このように第一演出用図柄に動きを付ける際には、第一要素としてのキャラクタについては躍動感を出すため隣り合ったキャラクタは重複を許可する一方で、いずれの数字が停

10

20

30

40

50

止するのかといった当り（大当り、小当り）態様になるか否かを強調する第二要素としての数字については重複しないように構成することで、第一演出用図柄自体の動きを多様化しつつも、第一演出用図柄の本来の目的である当り（大当り、小当り）かハズレかを報知するという役割を逸脱しないようにすることができる。

【3733】

態様（D8）に係るぱちんこ遊技機は、

遊技球が入球可能な始動口（例えば、第1主遊技始動口A10、第2主遊技始動口B10）と、

識別情報を表示可能な識別情報表示部（例えば、第1主遊技図柄表示部A21g、第2主遊技図柄表示部B21g）と、

遊技の進行を制御する主遊技部（例えば、主制御基板M）と、

演出を表示可能な演出表示部（例えば、演出表示装置SG）と、

演出表示部への演出表示を制御する副遊技部（例えば、副制御基板S）とを備え、

主遊技部は、

始動口への入球に基づき、乱数を取得する乱数取得手段と、

乱数取得手段により乱数が取得された場合、識別情報の変動表示開始条件を充足するまで当該取得された乱数を保留として一時記憶する乱数一時記憶手段と、

乱数取得手段により取得された乱数に基づき、識別情報表示部にて識別情報を変動表示させた後に識別情報を停止表示させるよう制御する識別情報表示制御手段と、

識別情報が所定態様にて停止表示された後において、遊技者にとって有利な特別遊技を実行可能な特別遊技制御手段と

を備え、

副遊技部は、

演出表示部にて表示する演出表示内容を制御する演出表示内容制御手段と、

識別情報の変動表示開始から停止表示までを一演出期間とし、当該一演出期間内において演出用図柄（例えば、第一演出用図柄）を演出表示部にて変動表示させた後で、演出用図柄の最終的な組合せを演出表示部にて停止表示させるよう制御する演出用図柄表示制御手段と

を備え、

所定条件を充足する特定保留が存在している状況下において、特定保留に係る特別遊技の実行期待度を、演出用図柄を用いて示唆又は報知する演出用図柄先読み演出（例えば、チャンス目先読み演出）を演出表示部にて実行可能であり、

保留が残存していない状況下での図柄変動中における始動口への入球を契機に特定保留が生起した場合、該図柄変動中において該特定保留よりも先に消化される保留が存在するか否かに応じて、及び／又は、該図柄変動中において該特定保留よりも先に消化される保留が幾つ存在するかに応じて、演出用図柄先読み演出の演出態様が異なるよう構成されている

ことを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【3734】

このように構成することで、第一演出用図柄を用いて示唆又は報知する先読み演出（チャンス目先読み演出）を実行するに際して特定保留（トリガ保留）が生起したと遊技者が認識できた又は推察したタイミングにて保留を貯めるか否かを選択させることで、その後の演出態様に相違を持たせるといった斬新な遊技性を実現できる。

【3735】

態様（D9）に係るぱちんこ遊技機は、

遊技球が入球可能な始動口（例えば、第1主遊技始動口A10、第2主遊技始動口B10）と、

識別情報を表示可能な識別情報表示部（例えば、第1主遊技図柄表示部A21g、第2主遊技図柄表示部B21g）と、

10

20

30

40

50

遊技の進行を制御する主遊技部（例えば、主制御基板 M）と、
演出を表示可能な演出表示部（例えば、演出表示装置 S G）と、
演出表示部への演出表示を制御する副遊技部（例えば、副制御基板 S）と
を備え、

主遊技部は、

始動口への入球に基づき、乱数を取得する乱数取得手段と、
乱数取得手段により乱数が取得された場合、識別情報の変動表示開始条件を充足するま
で当該取得された乱数を保留として一時記憶する乱数一時記憶手段と、

乱数取得手段により取得された乱数に基づき、識別情報表示部にて識別情報を変動表示
させた後に識別情報を停止表示させるよう制御する識別情報表示制御手段と、

識別情報が所定態様にて停止表示された後において、遊技者にとって有利な特別遊技を
実行可能な特別遊技制御手段と、

特別遊技の非実行中における遊技状態として通常遊技状態と通常遊技状態よりも所定の
入賞口へ入球容易となる特定遊技状態とを有し、特別遊技の実行終了後において特定遊技
状態とし得るよう制御する遊技状態制御手段と

を備え、

副遊技部は、

演出表示部にて表示する演出表示内容を制御する演出表示内容制御手段と、

識別情報の変動表示開始から停止表示までを一演出期間とし、当該一演出期間内におい
て所定数の演出用図柄（例えば、左列、中列、右列の 3 つの第一演出用図柄）を演出表示
部にて変動表示させた後で、演出用図柄の最終的な組合せを演出表示部にて停止表示させ
るよう制御する演出用図柄表示制御手段と

を備え、

演出用図柄による所定の動作を実行可能であり、

通常遊技状態においては、保留の数が第一個数で変動表示開始した場合における前記所
定数の演出用図柄の停止表示の順と、保留の数が前記第一個数よりも多い第二個数で変動
表示開始した場合における前記所定数の演出用図柄の停止表示の順とが異なるよう構成さ
れている一方、特定遊技状態においては、保留の数が前記第一個数で変動表示開始した場
合における前記所定数の演出用図柄の停止表示の順と、保留の数が前記第二個数で変動表
示開始した場合における前記所定数の演出用図柄の停止表示の順とが同じとなるよう構成
されている

ことを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【3736】

このように構成することで、変動効率よりも演出重視の通常遊技状態（非時間短縮遊技
状態）と、変動効率重視の特定遊技状態（時間短縮遊技状態）とでは、第一演出用図柄の
見せ方を差別化することで、何れの状態で変動しているのかを遊技者が認識することがで
きるとともに、各状態に合った第一演出用図柄の図柄変動の態様とすることができる。

【3737】

態様（D10）に係るぱちんこ遊技機は、

遊技球が入球可能な第一始動口（例えば、第 1 主遊技始動口 A10）と、

遊技球が入球可能な第二始動口（例えば、第 2 主遊技始動口 B10）と、

第一識別情報を表示可能な第一識別情報表示部（例えば、第 1 主遊技図柄表示部 A21
g）と、

第二識別情報を表示可能な第二識別情報表示部（例えば、第 2 主遊技図柄表示部 B21
g）と、

遊技の進行を制御する主遊技部（例えば、主制御基板 M）と、

演出を表示可能な演出表示部（例えば、演出表示装置 S G）と、

演出表示部への演出表示を制御する副遊技部（例えば、副制御基板 S）と
を備え、

主遊技部は、

第一始動口への入球に基づき、第一乱数を取得する第一乱数取得手段と、

第一乱数取得手段により第一乱数が取得された場合、第一当否判定許可条件を充足するまで当該取得された第一乱数を第一保留として一時記憶する第一乱数一時記憶手段と、

第一乱数取得手段により取得された第一乱数に基づき、第一識別情報の変動表示時間を選択し、第一識別情報表示部にて第一識別情報を変動表示させた後に第一識別情報を停止表示させるよう制御する第一識別情報表示制御手段と、

第二始動口への入球に基づき、第二乱数を取得する第二乱数取得手段と、

第二乱数取得手段により第二乱数が取得された場合、第二当否判定許可条件を充足するまで当該取得された第二乱数を第二保留として一時記憶する第二乱数一時記憶手段と、

第二乱数取得手段により取得された第二乱数に基づき、第二識別情報の変動表示時間を選択し、第二識別情報表示部にて第二識別情報を変動表示させた後に第二識別情報を停止表示させるよう制御する第二識別情報表示制御手段と、

第一識別情報又は第二識別情報が所定態様にて停止表示された後において、遊技者にとって有利な特別遊技を実行可能な特別遊技制御手段と、

特別遊技の非実行中における遊技状態として通常遊技状態と通常遊技状態よりも第二始動口へ入球容易となる特定遊技状態とを有し、特別遊技の実行終了後において特定遊技状態とし得るよう制御する遊技状態制御手段と

を備え、

副遊技部は、

演出表示部にて表示する演出表示内容を制御する演出表示内容制御手段と、

第一識別情報又は第二識別情報の変動表示開始から停止表示までを一演出期間とし、当該一演出期間内において所定数の演出用図柄（例えば、左列、中列、右列の3つの第一演出用図柄）を演出表示部にて変動表示させた後で、演出用図柄の最終的な組合せを演出表示部にて停止表示させるよう制御する演出用図柄表示制御手段と

を備え、

演出用図柄による所定の動作を実行可能であり、

通常遊技状態において第一識別情報を変動表示する場合、第一保留の数が第一個数で変動表示開始した場合における前記所定数の演出用図柄の停止表示の順と、第一保留の数が前記第一個数よりも多い第二個数で変動表示開始した場合における前記所定数の演出用図柄の停止表示の順とが異なるよう構成されている一方、特定遊技状態において第一識別情報を変動表示する場合、第一保留の数が前記第一個数で変動表示開始した場合における前記所定数の演出用図柄の停止表示の順と、第一保留の数が前記第二個数で変動表示開始した場合における前記所定数の演出用図柄の停止表示の順とが同じとなるよう構成されており、

通常遊技状態において第二識別情報を変動表示する場合、第二保留の数が前記第一個数で変動表示開始した場合における前記所定数の演出用図柄の停止表示の順と、第二保留の数が前記第二個数で変動表示開始した場合における前記所定数の演出用図柄の停止表示の順とが同じとなるよう構成され、且つ、特定遊技状態において第二識別情報を変動表示する場合、第二保留の数が前記第一個数で変動表示開始した場合における前記所定数の演出用図柄の停止表示の順と、第二保留の数が前記第二個数で変動表示開始した場合における前記所定数の演出用図柄の停止表示の順とが同じとなるよう構成されている

ことを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【3738】

このように構成することで、通常遊技状態（非時間短縮遊技状態）や特定遊技状態（時間短縮遊技状態）の終了後の第二識別情報側の変動に対応した第一演出用図柄については、即座に消化するように構成することで本来の遊技性である通常遊技状態（非時間短縮遊技状態）の主体遊技である第一識別情報側の遊技に復帰できるため、第一演出用図柄の態様はシンプルなものとする一方で、通常遊技状態（非時間短縮遊技状態）に対応した最低限の各動作を実施することで、第一識別情報側の遊技にシームレスかつ違和感なく移行することができる。

【3739】

態様（D11）に係るぱちんこ遊技機は、
遊技球が入球可能な始動口（例えば、第1主遊技始動口A10、第2主遊技始動口B10）と、
識別情報を表示可能な識別情報表示部（例えば、第1主遊技図柄表示部A21g、第2主遊技図柄表示部B21g）と、
遊技の進行を制御する主遊技部（例えば、主制御基板M）と、
演出を表示可能な演出表示部（例えば、演出表示装置SG）と、
演出表示部への演出表示を制御する副遊技部（例えば、副制御基板S）と
を備え、
主遊技部は、
始動口への入球に基づき、乱数を取得する乱数取得手段と、
乱数取得手段により乱数が取得された場合、識別情報の変動表示開始条件を充足するまで当該取得された乱数を保留として一時記憶する乱数一時記憶手段と、
乱数取得手段により取得された乱数に基づき、識別情報表示部にて識別情報を変動表示させた後に識別情報を停止表示させるよう制御する識別情報表示制御手段と、
識別情報が所定態様にて停止表示された後において、遊技者にとって有利な特別遊技を実行可能な特別遊技制御手段と
を備え、
副遊技部は、
演出表示部にて表示する演出表示内容を制御する演出表示内容制御手段と、
識別情報の変動表示開始から停止表示までを一演出期間とし、当該一演出期間内において演出用図柄（例えば、第一演出用図柄）を演出表示部にて変動表示させた後で、演出用図柄の最終的な組合せを演出表示部にて停止表示させるよう制御する演出用図柄表示制御手段と
を備え、
ある一演出期間内において変動表示された演出用図柄は、当該ある一演出期間内において確定的に停止表示されるよりも前にて暫定的に停止表示され得ると共に、確定的に停止表示となった際には、予め定められた変動固定時間にわたり新たな変動表示が開始されないよう構成されており、
演出用図柄の構成要素として、少なくとも第一要素（例えば、キャラクタ）と第二要素（例えば、数字）とを有し、
演出用図柄による所定の動作を実行可能であり、
所定の動作には、少なくとも演出用図柄の揺れ動作が含まれており、
揺れ動作として、
演出用図柄が暫定的に停止表示されている場合に実行可能な第一の揺れ動作と、
保留が残存していない状況で識別情報が所定態様以外にて停止表示された後から所定時間が経過した場合に実行可能な第二の揺れ動作と
を備えており、
第一の揺れ動作は、第一要素と第二要素とが揺れ動作する態様となっており、第二の揺れ動作は、第一要素が揺れ動作する一方、第二要素が揺れ動作しない態様となるように構成されており、
ある一演出期間内において、揺れ動作以外の一の所定の動作の実行時間が、揺れ動作の実行時間よりも短時間となるよう構成されている
ことを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【3740】

第一演出用図柄が暫定的に停止表示されている場合（図柄変動中も含む）の第一演出用図柄の揺れ動作を、第一演出用図柄が確定的に停止表示中である変動待機状態中にも適用することにより、変動待機状態であっても味気ない画面（演出用図柄が停止しているだけの画面）とすることを回避でき、液晶画面上に動きを与えることができるとともに、第二

10

20

30

40

50

要素（数字）だけは揺れ動作を行うことなく固定的な表示としておくことで、図柄変動中であると遊技者に誤認させることがないような演出を提供することができる。

【3741】

態様（D12）に係るぱちんこ遊技機は、

遊技球が入球可能な始動口（例えば、第1主遊技始動口A10、第2主遊技始動口B10）と、

識別情報を表示可能な識別情報表示部（例えば、第1主遊技図柄表示部A21g、第2主遊技図柄表示部B21g）と、

遊技の進行を制御する主遊技部（例えば、主制御基板M）と、

演出を表示可能な演出表示部（例えば、演出表示装置SG）と、

演出表示部への演出表示を制御する副遊技部（例えば、副制御基板S）とを備え、

主遊技部は、

始動口への入球に基づき、乱数を取得する乱数取得手段と、

乱数取得手段により乱数が取得された場合、識別情報の変動表示開始条件を充足するまで当該取得された乱数を保留として一時記憶する乱数一時記憶手段と、

乱数取得手段により取得された乱数に基づき、識別情報表示部にて識別情報を変動表示させた後に識別情報を停止表示させるよう制御する識別情報表示制御手段と、

識別情報が所定態様にて停止表示された後において、遊技者にとって有利な特別遊技を実行可能な特別遊技制御手段と

を備え、

副遊技部は、

演出表示部にて表示する演出表示内容を制御する演出表示内容制御手段と、

識別情報の変動表示開始から停止表示までを一演出期間とし、当該一演出期間内において演出用図柄（例えば、第一演出用図柄）を演出表示部にて変動表示させた後で、演出用図柄の最終的な組合せを演出表示部にて停止表示させるよう制御する演出用図柄表示制御手段と

を備え、

ある一演出期間内において変動表示された演出用図柄は、当該ある一演出期間内において確定的に停止表示されるよりも前にて暫定的に停止表示され得ると共に、確定的に停止表示となった際には、予め定められた変動固定時間にわたり新たな変動表示が開始されないよう構成されており、

演出用図柄による所定の動作を実行可能であり、

所定の動作には、少なくとも演出用図柄の揺れ動作が含まれており、

揺れ動作として、

演出用図柄が暫定的に停止表示されている場合に実行可能な第一の揺れ動作と、

保留が残存していない状況で識別情報が所定態様以外にて停止表示された後から所定時間が経過した場合に実行可能な第二の揺れ動作と

を備えており、

変動固定時間よりも所定時間の方が長時間となるよう構成されており、

ある一演出期間内において、変動固定時間よりも揺れ動作以外の所定の動作の実行時間の合計時間が長時間となるよう構成されている

ことを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【3742】

第一演出用図柄の確定的な停止表示を示すための時間を変動固定時間として確保するとともに、第一演出用図柄が暫定的に停止表示されている場合（図柄変動中も含む）の第一演出用図柄の揺れ動作を、第一演出用図柄が確定的な停止表示中である変動待機状態にも適用することにより、変動固定時間経過後の遊技待機状態であっても味気ない画面（演出用図柄が停止しているだけの画面）とすることを回避する（液晶画面上に動きを与える）よう構成した場合に、少なくとも変動固定時間以上の時間を空けてから揺れ動作を開始

10

20

30

40

50

するよう構成することで、次変動が開始したと誤認されることを防止することができる。

【3743】

態様（D13）に係るぱちんこ遊技機は、

遊技球が入球可能な始動口（例えば、第1主遊技始動口A10、第2主遊技始動口B10）と、

識別情報を表示可能な識別情報表示部（例えば、第1主遊技図柄表示部A21g、第2主遊技図柄表示部B21g）と、

演出音を出力するスピーカ（例えば、スピーカD24）と、

遊技の進行を制御する主遊技部（例えば、主制御基板M）と、

演出を表示可能な演出表示部（例えば、演出表示装置SG）と、

演出表示部への演出表示を制御する副遊技部（例えば、副制御基板S）とを備え、

主遊技部は、

始動口への入球に基づき、乱数を取得する乱数取得手段と、

乱数取得手段により乱数が取得された場合、識別情報の変動表示開始条件を充足するまで当該取得された乱数を保留として一時記憶する乱数一時記憶手段と、

乱数取得手段により取得された乱数に基づき、識別情報表示部にて識別情報を変動表示させた後に識別情報を停止表示させるよう制御する識別情報表示制御手段と、

識別情報が所定態様にて停止表示された後において、遊技者にとって有利な特別遊技を実行可能な特別遊技制御手段と

を備え、

副遊技部は、

演出表示部にて表示する演出表示内容を制御する演出表示内容制御手段と、

識別情報の変動表示開始から停止表示までを一演出期間とし、当該一演出期間内において演出用図柄（例えば、第一演出用図柄）を演出表示部にて変動表示させた後で、演出用図柄の最終的な組合せを演出表示部にて停止表示させるよう制御する演出用図柄表示制御手段と

を備え、

ある一演出期間内において変動表示された演出用図柄は、当該ある一演出期間内において確定的に停止表示されるよりも前にて暫定的に停止表示され得ると共に、確定的に停止表示となった際には、予め定められた変動固定時間にわたり新たな変動表示が開始されないよう構成されており、

特別遊技の非実行時における所定の演出モードが設定されている状況下であって、少なくとも演出用図柄の変動表示中において演出音が出力可能に構成されており、

保留が残存していない状況で識別情報が所定態様以外にて停止表示された後から特定時間が経過することで待機デモ画面を演出表示部に表示可能に構成されており、

演出用図柄は、所定の動作を実行可能であり、

所定の動作には、少なくとも演出用図柄の揺れ動作が含まれており、

揺れ動作として、

演出用図柄が暫定的に停止表示されている場合に実行可能な第一の揺れ動作と、

保留が残存していない状況で識別情報が所定態様以外にて停止表示された後から前記特定時間よりも短時間である所定時間が経過した場合に実行可能な第二の揺れ動作とを備えており、

第二の揺れ動作は、保留が残存していない状況で待機デモ画面の表示が終了した後であっても実行可能であり、

保留が残存していない状況で識別情報が所定態様以外にて停止表示された後から所定時間が経過して第二の揺れ動作が開始される場合において、第二の揺れ動作の開始タイミングにおいては演出音が出力可能である一方、

保留が残存していない状況で待機デモ画面の表示が終了した後に実行される第二の揺れ動作（例えば、第二の揺れ動作、または、待機デモ画面の表示が終了した後に実行される

10

20

30

40

50

第二の揺れ動作である第三の揺れ動作)の実行中においては、演出音が出力されないよう構成されており、

ある一演出期間内において、揺れ動作以外の一の所定の動作の実行時間が、揺れ動作の実行時間よりも短時間となるよう構成されており、

ある一演出期間内において、変動固定時間よりも揺れ動作以外の一の所定の動作の実行時間の合計時間が長時間となるよう構成されていることを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【3744】

第一演出用図柄が暫定的に停止表示されている場合(図柄変動中も含む)の第一演出用図柄の揺れ動作を、第一演出用図柄が確定的な停止表示中である変動待機状態中にも適用することにより、変動待機状態であっても味気ない画面(演出用図柄が停止しているだけの画面)とすることを回避でき、液晶画面上に動きを与えることができるとともに、変動待機状態にて最初に揺れ動作(第二の揺れ動作)を開始した場合は、遊技機アピールのため演出音(ステージBGM)の出力を継続する一方で、待機デモ画面(待機中ムービー)の表示を経由した後に揺れ動作(例えば、(例えば、第二の揺れ動作、または、待機デモ画面の表示が終了した後に実行される第二の揺れ動作である第三の揺れ動作))した場合は、省電力のため演出音の出力を停止(消音)とするといった変動待機状態に応じた適切な演出出力態様とすることができる。

【3745】

態様(D14)に係るぱちんこ遊技機は、

遊技球が入球可能な始動口(例えば、第1主遊技始動口A10、第2主遊技始動口B10)と、

識別情報を表示可能な識別情報表示部(例えば、第1主遊技図柄表示部A21g、第2主遊技図柄表示部B21g)と、

遊技の進行を制御する主遊技部(例えば、主制御基板M)と、

演出を表示可能な演出表示部(例えば、演出表示装置SG)と、

演出表示部への演出表示を制御する副遊技部(例えば、副制御基板S)とを備え、

主遊技部は、

始動口への入球に基づき、乱数を取得する乱数取得手段と、

乱数取得手段により乱数が取得された場合、識別情報の変動表示開始条件を充足するまで当該取得された乱数を保留として一時記憶する乱数一時記憶手段と、

乱数取得手段により取得された乱数に基づき、識別情報表示部にて識別情報を変動表示させた後に識別情報を停止表示させるよう制御する識別情報表示制御手段と、

識別情報が所定態様にて停止表示された後において、遊技者にとって有利な特別遊技を実行可能な特別遊技制御手段と

を備え、

副遊技部は、

演出表示部にて表示する演出表示内容を制御する演出表示内容制御手段と、

識別情報の変動表示開始から停止表示までを一演出期間とし、当該一演出期間内において演出用図柄(例えば、第一演出用図柄)を演出表示部にて変動表示させた後で、演出用図柄の最終的な組合せを演出表示部にて停止表示させるよう制御する演出用図柄表示制御手段と

を備え、

複数の演出用図柄列を有しており、複数の演出用図柄列のそれぞれにて演出用図柄を変動表示可能に構成されており、

複数の演出用図柄列のうち、所定の演出用図柄列以外の演出用図柄列にて同じ種類の演出用図柄が暫定的に停止表示されることでリーチ状態を形成可能に構成されており、

演出用図柄の構成要素として、少なくとも第一要素と第二要素とを有し、

演出用図柄による所定の動作を実行可能であり、

10

20

30

40

50

所定の動作には、少なくとも演出用図柄がリーチ状態を形成する場合に実行可能な特殊動作（例えば、テンパイアクション）が含まれており、

前記所定の演出用図柄列以外の演出用図柄列に対応した演出用図柄は、特殊動作を実行可能に構成されている一方、前記所定の演出用図柄列の演出用図柄列に対応した演出用図柄は、特殊動作を実行しないよう構成されており、

リーチ状態が形成される図柄変動において、変動表示している前記所定の演出用図柄列に対応する演出用図柄と、暫定的に停止表示している前記所定の演出用図柄列以外の演出用図柄列に対応する演出用図柄とが、リーチ状態が形成されている所定のタイミングにて重複可能となるよう構成されている

ことを特徴とするぱちんこ遊技機である。

10

【3746】

また、態様（D14）に係るぱちんこ遊技機は、

所定タイミングで実行される所定の動作において、一の表示列の演出用図柄の第一要素と他の表示列の演出用図柄の第一要素とが重複するが、一の表示列の演出用図柄の第二要素と、他の表示列の演出用図柄の第二要素とが重複しないように構成されている

ことを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【3747】

最も着目される他の表示列（最終の列である中列の第一演出用図柄）以外の第一演出用図柄である一の表示列（左列の第一演出用図柄、右列の第一演出用図柄）の第一演出用図柄のみで行われる可能性がある動作を用意することで、他の表示列（最終の列である中列の第一演出用図柄）の第一演出用図柄が停止するまでの過程において注目すべきテンパイを視覚的に報知することができる。

20

【3748】

態様（D15）に係るぱちんこ遊技機は、

遊技球が入球可能な始動口（例えば、第1主遊技始動口A10、第2主遊技始動口B10）と、

識別情報を表示可能な識別情報表示部（例えば、第1主遊技図柄表示部A21g、第2主遊技図柄表示部B21g）と、

遊技の進行を制御する主遊技部（例えば、主制御基板M）と、

演出を表示可能な演出表示部（例えば、演出表示装置SG）と、

演出表示部への演出表示を制御する副遊技部（例えば、副制御基板S）とを備え、

30

主遊技部は、

始動口への入球に基づき、乱数を取得する乱数取得手段と、

乱数取得手段により乱数が取得された場合、識別情報の変動表示開始条件を充足するまで当該取得された乱数を保留として一時記憶する乱数一時記憶手段と、

乱数取得手段により取得された乱数に基づき、識別情報表示部にて識別情報を変動表示させた後に識別情報を停止表示させるよう制御する識別情報表示制御手段と、

識別情報が所定態様にて停止表示された後において、遊技者にとって有利な特別遊技を実行可能な特別遊技制御手段と、

40

特別遊技の非実行中における遊技状態として通常遊技状態と通常遊技状態よりも所定の入賞口へ入球容易となる特定遊技状態とを有し、特別遊技の実行終了後において特定遊技状態とし得るよう制御する遊技状態制御手段と

を備え、

副遊技部は、

演出表示部にて表示する演出表示内容を制御する演出表示内容制御手段と、

識別情報の変動表示開始から停止表示までを一演出期間とし、当該一演出期間内において演出用図柄（例えば、第一演出用図柄）を演出表示部にて変動表示させた後で、演出用図柄の最終的な組合せを演出表示部にて停止表示させるよう制御する演出用図柄表示制御手段と

50

を備え、

複数の演出用図柄列を有しており、複数の演出用図柄列のそれぞれにて演出用図柄を変動表示可能に構成されており、

複数の演出用図柄列のうち、所定の演出用図柄列以外の演出用図柄列にて同じ種類の演出用図柄が暫定的に停止表示されることでリーチ状態を形成可能に構成されており、

複数の演出用図柄列のうち、前記所定の演出用図柄列以外の演出用図柄列にて異なる種類の演出用図柄が暫定的に停止表示されることで非リーチ状態を形成可能に構成されており、

リーチ状態又は非リーチ状態が形成された後に、演出用図柄の再変動を実行可能に構成されており、

演出用図柄の構成要素として、少なくとも第一要素と第二要素とを有し、

演出用図柄による所定の動作を実行可能であり、

所定の動作には、

演出用図柄が変動表示を開始する際の開始時動作と、

演出用図柄が演出表示部の所定位置に暫定的に停止表示する場合に実行可能な定位置動作と、

演出用図柄が暫定的に停止表示されている場合に実行可能な揺れ動作と、

演出用図柄がリーチ状態を形成する場合に実行可能な特殊動作（例えば、テンパイアクション）と

が含まれており、

リーチ状態が形成された後に演出用図柄の再変動を実行する場合の所定の動作に係る動作パターンと、非リーチ状態が形成された後に演出用図柄の再変動を実行する場合の所定の動作に係る動作パターンとが異なるよう構成されており、

リーチ状態が形成される図柄変動において、変動表示している前記所定の演出用図柄列に対応する演出用図柄と、暫定的に停止表示している前記所定の演出用図柄列以外の演出用図柄列に対応する演出用図柄とが、リーチ状態が形成されている所定のタイミングにて重複可能となるよう構成されており、

特定遊技状態のある一演出期間内において、開始時動作、定位置動作、特殊動作のうち少なくともいずれかを実行しないように構成する一方で、揺れ動作については実行するよう構成されている

ことを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【3749】

また、態様（D15）に係るぱちんこ遊技機は、

所定タイミングで実行される所定の動作において、一の表示列の演出用図柄の第一要素と他の表示列の演出用図柄の第一要素とが重複するが、一の表示列の演出用図柄の第二要素と、他の表示列の演出用図柄の第二要素とが重複しないように構成されている

ことを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【3750】

擬似連演出（再変動を伴う演出）といった近年ではポピュラーな演出が行われる際に、擬似連が行われるまでの演出過程（第一演出用図柄の暫定的に停止表示した態様）に応じて、第一演出用図柄の動作の時系列的な内容を異ならせることで、従来の一様な擬似連の演出の流れを、視覚的な第一演出用図柄の態様の相違によって多様化することができる。

【3751】

態様（D16）に係るぱちんこ遊技機は、

遊技球が入球可能な始動口（例えば、第1主遊技始動口A10、第2主遊技始動口B10）と、

識別情報を表示可能な識別情報表示部（例えば、第1主遊技図柄表示部A21g、第2主遊技図柄表示部B21g）と、

遊技の進行を制御する主遊技部（例えば、主制御基板M）と、

演出を表示可能な演出表示部（例えば、演出表示装置SG）と、

10

20

30

40

50

演出表示部への演出表示を制御する副遊技部（例えば、副制御基板 S）とを備え、

主遊技部は、

始動口への入球に基づき、乱数を取得する乱数取得手段と、

乱数取得手段により乱数が取得された場合、識別情報の変動表示開始条件を充足するまで当該取得された乱数を保留として一時記憶する乱数一時記憶手段と、

乱数取得手段により取得された乱数に基づき、識別情報表示部にて識別情報を変動表示させた後に識別情報を停止表示させるよう制御する識別情報表示制御手段と、

識別情報が所定態様にて停止表示された後において、遊技者にとって有利な特別遊技を実行可能な特別遊技制御手段と

特別遊技の非実行中における遊技状態として通常遊技状態と通常遊技状態よりも所定の入賞口へ入球容易となる特定遊技状態とを有し、特別遊技の実行終了後において特定遊技状態とし得るよう制御する遊技状態制御手段と

を備え、

副遊技部は、

演出表示部にて表示する演出表示内容を制御する演出表示内容制御手段と、

識別情報の変動表示開始から停止表示までを一演出期間とし、当該一演出期間内において演出用図柄（例えば、第一演出用図柄）を演出表示部にて変動表示させた後で、演出用図柄の最終的な組合せを演出表示部にて停止表示させるよう制御する演出用図柄表示制御手段と

を備え、

複数の演出用図柄列を有しており、複数の演出用図柄列のそれぞれにて演出用図柄を変動表示可能に構成されており、

複数の演出用図柄列のうち、所定の演出用図柄列以外の演出用図柄列にて同じ種類の演出用図柄が暫定的に停止表示されることでリーチ状態を形成可能に構成されており、

演出用図柄による所定の動作を実行可能であり、

所定の動作には、

演出用図柄が変動表示を開始する際の開始時動作と、

演出用図柄が演出表示部の所定位置に暫定的に停止表示する場合に実行可能な定位置動作と、

演出用図柄が暫定的に停止表示されている場合に実行可能な揺れ動作と、

演出用図柄がリーチ状態を形成する場合に実行可能な特殊動作（例えば、テンパイアクション）と

が含まれており、

リーチ状態が形成された後に特別遊技を実行しないことを示す演出用図柄の最終的な組合せが暫定的に停止表示する場合、前記所定の演出用図柄列以外の演出用図柄列に対応した演出用図柄は、定位置動作を実行可能に構成されている一方、前記所定の演出用図柄列に対応した演出用図柄は、定位置動作を実行しないよう構成されており、

特定遊技状態のある一演出期間内において、開始時動作、定位置動作、特殊動作のうち少なくともいずれかを実行しないように構成する一方で、揺れ動作については実行するよう構成されている

ことを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【3752】

このように構成することで、ハズレの通常の図柄変動又はハズレのノーマルリーチ変動であればリーチ状態を形成しない表示列（中列）の第一演出用図柄でも定位置動作を行うことで暫定的に停止表示したことを示す一方、ハズレのスーパーリーチ演出についてはハズレのスーパーリーチ演出から通常画面に戻って更に定位置動作を行うことは冗長であるため該定位置動作を割愛することで、ハズレ時の経由演出に応じてシームレスな第一演出用図柄の動きを実現できる。

【3753】

10

20

30

40

50

態様（D 1 7 - 1）に係るぱちんこ遊技機は、
遊技球が入球可能な始動口（例えば、第 1 主遊技始動口 A 1 0、第 2 主遊技始動口 B 1 0）と、

識別情報を表示可能な識別情報表示部（例えば、第 1 主遊技図柄表示部 A 2 1 g、第 2 主遊技図柄表示部 B 2 1 g）と、

遊技の進行を制御する主遊技部（例えば、主制御基板 M）と、

演出を表示可能な演出表示部（例えば、演出表示装置 S G）と、

演出表示部への演出表示を制御する副遊技部（例えば、副制御基板 S）と
を備え、

主遊技部は、

始動口への入球に基づき、乱数を取得する乱数取得手段と、

乱数取得手段により乱数が取得された場合、識別情報の変動表示開始条件を充足するまで当該取得された乱数を保留として一時記憶する乱数一時記憶手段と、

乱数取得手段により取得された乱数に基づき、識別情報表示部にて識別情報を変動表示させた後に識別情報を停止表示させるよう制御する識別情報表示制御手段と、

識別情報が所定態様にて停止表示された後において、遊技者にとって有利な特別遊技を実行可能な特別遊技制御手段と

特別遊技の非実行中における遊技状態として通常遊技状態と通常遊技状態よりも所定の入賞口へ入球容易となる特定遊技状態とを有し、特別遊技の実行終了後において特定遊技状態とし得るよう制御する遊技状態制御手段と

を備え、

副遊技部は、

演出表示部にて表示する演出表示内容を制御する演出表示内容制御手段と、

識別情報の変動表示開始から停止表示までを一演出期間とし、当該一演出期間内において演出用図柄（例えば、第一演出用図柄）を演出表示部にて変動表示させた後で、演出用図柄の最終的な組合せを演出表示部にて停止表示させるよう制御する演出用図柄表示制御手段と

を備え、

複数の演出用図柄列を有しており、複数の演出用図柄列のそれぞれにて演出用図柄を変動表示可能に構成されており、

複数の演出用図柄列のうち、所定の演出用図柄列以外の演出用図柄列にて同じ種類の演出用図柄が暫定的に停止表示されることでリーチ状態を形成可能に構成されており、

複数の演出用図柄列のうち、前記所定の演出用図柄列以外の演出用図柄列にて異なる種類の演出用図柄が暫定的に停止表示されることで非リーチ状態を形成可能に構成されており、

演出用図柄の構成要素として、少なくとも第一要素と第二要素とを有し、

演出用図柄による所定の動作を実行可能であり、

所定の動作には、

演出用図柄が変動表示を開始する際の開始時動作と、

演出用図柄が演出表示部の所定位置に暫定的に停止表示する場合に実行可能な定位置動作と、

演出用図柄が暫定的に停止表示されている場合に実行可能な揺れ動作と、

演出用図柄がリーチ状態を形成する場合に実行可能な特殊動作（例えば、テンパイアクション）と

が含まれており、

リーチ状態が形成される図柄変動において、変動表示している前記所定の演出用図柄列に対応する演出用図柄と、暫定的に停止表示している前記所定の演出用図柄列以外の演出用図柄列に対応する演出用図柄とが、リーチ状態が形成されている所定のタイミングにて重複可能となるよう構成されており、

特定遊技状態のある一演出期間内において、開始時動作、定位置動作、特殊動作のうち

10

20

30

40

50

少なくともいずれかを実行しないように構成する一方で、揺れ動作については実行するよう構成されている

ことを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【3754】

また、態様（D17-1）に係るぱちんこ遊技機は、

リーチ状態が形成される図柄変動の所定の動作における一の演出用図柄列の演出用図柄の第一要素と他の演出用図柄列の演出用図柄の第一要素とが重複する重複割合が、非リーチ状態となる図柄変動の所定の動作における一の演出用図柄列の演出用図柄の第一要素と他の演出用図柄列の演出用図柄の第一要素とが重複する重複割合よりも大きく構成されている

ことを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【3755】

態様（D17-2）に係るぱちんこ遊技機は、

遊技球が入球可能な始動口（例えば、第1主遊技始動口A10、第2主遊技始動口B10）と、

識別情報を表示可能な識別情報表示部（例えば、第1主遊技図柄表示部A21g、第2主遊技図柄表示部B21g）と、

遊技の進行を制御する主遊技部（例えば、主制御基板M）と、

演出を表示可能な演出表示部（例えば、演出表示装置SG）と、

演出表示部への演出表示を制御する副遊技部（例えば、副制御基板S）とを備え、

主遊技部は、

始動口への入球に基づき、乱数を取得する乱数取得手段と、

乱数取得手段により乱数が取得された場合、識別情報の変動表示開始条件を充足するまで当該取得された乱数を保留として一時記憶する乱数一時記憶手段と、

乱数取得手段により取得された乱数に基づき、識別情報表示部にて識別情報を変動表示させた後に識別情報を停止表示させるよう制御する識別情報表示制御手段と、

識別情報が所定態様にて停止表示された後において、遊技者にとって有利な特別遊技を実行可能な特別遊技制御手段と

特別遊技の非実行中における遊技状態として通常遊技状態と通常遊技状態よりも所定の入賞口へ入球容易となる特定遊技状態とを有し、特別遊技の実行終了後において特定遊技状態とし得るよう制御する遊技状態制御手段と

を備え、

副遊技部は、

演出表示部にて表示する演出表示内容を制御する演出表示内容制御手段と、

識別情報の変動表示開始から停止表示までを一演出期間とし、当該一演出期間内において演出用図柄（例えば、第一演出用図柄）を演出表示部にて変動表示させた後で、演出用図柄の最終的な組合せを演出表示部にて停止表示させるよう制御する演出用図柄表示制御手段と

を備え、

複数の演出用図柄列を有しており、複数の演出用図柄列のそれぞれにて演出用図柄を変動表示可能に構成されており、

複数の演出用図柄列のうち、所定の演出用図柄列以外の演出用図柄列にて同じ種類の演出用図柄が暫定的に停止表示されることでリーチ状態を形成可能に構成されており、

複数の演出用図柄列のうち、所定の演出用図柄列以外の演出用図柄列にて異なる種類の演出用図柄が暫定的に停止表示されることで非リーチ状態を形成可能に構成されており、

演出用図柄の構成要素として、少なくとも第一要素と第二要素とを有し、

演出用図柄による所定の動作を実行可能であり、

所定の動作には、

演出用図柄が変動表示を開始する際の開始時動作と、

10

20

30

40

50

演出用図柄が演出表示部の所定位置に暫定的に停止表示する場合に実行可能な定位置動作と、

演出用図柄が暫定的に停止表示されている場合に実行可能な揺れ動作と、

演出用図柄がリーチ状態を形成する場合に実行可能な特殊動作（例えば、テンパイアクション）と

が含まれており、

リーチ状態が形成される図柄変動において、リーチ状態が形成されている所定のタイミングにて、変動表示している前記所定の演出用図柄列に対応する演出用図柄と、暫定的に停止表示している前記所定の演出用図柄列以外の演出用図柄列に対応する演出用図柄とが重複可能となるよう構成されており、

ある一演出期間内における所定タイミングにおいて、一の演出用図柄列の演出用図柄と他の演出用図柄列の演出用図柄とが重複可能に構成されており、

所定タイミングで実行される所定の動作において、一の演出用図柄列の演出用図柄の第一要素と他の演出用図柄列の演出用図柄の第一要素とが重複するが、一の演出用図柄列の演出用図柄の第二要素と、他の演出用図柄列の演出用図柄の第二要素とが重複しないように構成されており、

特定遊技状態のある一演出期間内において、開始時動作、定位置動作、特殊動作のうち少なくともいずれかを実行しないように構成する一方で、揺れ動作については実行するよう構成されている

ことを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【3756】

このように第一演出用図柄に動きを付ける際には、第一要素としてのキャラクタについては躍動感を出すため隣り合ったキャラクタは重複を許可する一方で、いずれの数字が停止するのかといった当たり（大当たり、小当たり）態様になるか否かを強調する第二要素としての数字については重複しないように構成することで、第一演出用図柄自体の動きを多様化しつつも、第一演出用図柄の本来の目的である当たり（大当たり、小当たり）かハズレかを報知するという役割を逸脱しないようにすることができる。

【3757】

態様（D18）に係るぱちんこ遊技機は、

遊技球が入球可能な始動口（例えば、第1主遊技始動口A10、第2主遊技始動口B10）と、

識別情報を表示可能な識別情報表示部（例えば、第1主遊技図柄表示部A21g、第2主遊技図柄表示部B21g）と、

遊技の進行を制御する主遊技部（例えば、主制御基板M）と、

演出を表示可能な演出表示部（例えば、演出表示装置SG）と、

演出表示部への演出表示を制御する副遊技部（例えば、副制御基板S）とを備え、

主遊技部は、

始動口への入球に基づき、乱数を取得する乱数取得手段と、

乱数取得手段により乱数が取得された場合、識別情報の変動表示開始条件を充足するまで当該取得された乱数を保留として一時記憶する乱数一時記憶手段と、

乱数取得手段により取得された乱数に基づき、識別情報表示部にて識別情報を変動表示させた後に識別情報を停止表示させるよう制御する識別情報表示制御手段と、

識別情報が所定態様にて停止表示された後において、遊技者にとって有利な特別遊技を実行可能な特別遊技制御手段と

を備え、

副遊技部は、

演出表示部にて表示する演出表示内容を制御する演出表示内容制御手段と、

識別情報の変動表示開始から停止表示までを一演出期間とし、当該一演出期間内において演出用図柄（例えば、第一演出用図柄）を演出表示部にて変動表示させた後で、演出用

10

20

30

40

50

図柄の最終的な組合せを演出表示部にて停止表示させるよう制御する演出用図柄表示制御手段と

を備え、

複数の演出用図柄列を有しており、複数の演出用図柄列のそれぞれにて演出用図柄を変動表示可能に構成されており、

複数の演出用図柄列のうち、所定の演出用図柄列以外の演出用図柄列にて同じ種類の演出用図柄が暫定的に停止表示されることでリーチ状態を形成可能に構成されており、

複数の演出用図柄列のうち、所定の演出用図柄列以外の演出用図柄列にて異なる種類の演出用図柄が暫定的に停止表示されることで非リーチ状態を形成可能に構成されており、

リーチ状態又は非リーチ状態が形成された後に、演出用図柄の再変動を実行可能に構成されており、

演出用図柄による所定の動作を実行可能であり、

リーチ状態が形成された後に演出用図柄の再変動を実行する場合の所定の動作に係る動作パターンと、非リーチ状態が形成された後に演出用図柄の再変動を実行する場合の所定の動作に係る動作パターンとが異なるよう構成されており、

所定条件を充足する特定保留が存在している状況下において、特定保留に係る特別遊技の実行期待度を、演出用図柄を用いて示唆又は報知する演出用図柄先読み演出を演出表示部にて実行可能であり、

保留が残存していない状況下での図柄変動中における始動口への入球を契機に特定保留が生起した場合、該図柄変動中において該特定保留よりも先に消化される保留が存在するか否かに応じて、及び／又は、該図柄変動中において該特定保留よりも先に消化される保留が幾つ存在するかに応じて、演出用図柄先読み演出の演出態様が異なるよう構成されている

ことを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【3758】

このように構成することで、第一演出用図柄を用いて示唆又は報知する先読み演出（チャンス目先読み演出）を実行するに際して特定保留（トリガ保留）が生起したと遊技者が認識できた又は推察したタイミングにて保留を貯めるか否かを選択させることで、その後の演出態様に相違を持たせるといった斬新な遊技性を実現できる。

【3759】

態様（D19）に係るぱちんこ遊技機は、

遊技球が入球可能な始動口（例えば、第1主遊技始動口A10、第2主遊技始動口B10）と、

識別情報を表示可能な識別情報表示部（例えば、第1主遊技図柄表示部A21g、第2主遊技図柄表示部B21g）と、

遊技の進行を制御する主遊技部（例えば、主制御基板M）と、

演出を表示可能な演出表示部（例えば、演出表示装置SG）と、

演出表示部への演出表示を制御する副遊技部（例えば、副制御基板S）とを備え、

主遊技部は、

始動口への入球に基づき、乱数を取得する乱数取得手段と、

乱数取得手段により乱数が取得された場合、識別情報の変動表示開始条件を充足するまで当該取得された乱数を保留として一時記憶する乱数一時記憶手段と、

乱数取得手段により取得された乱数に基づき、識別情報表示部にて識別情報を変動表示させた後に識別情報を停止表示させるよう制御する識別情報表示制御手段と、

識別情報が所定態様にて停止表示された後において、遊技者にとって有利な特別遊技を実行可能な特別遊技制御手段と、

特別遊技の非実行中における遊技状態として通常遊技状態と通常遊技状態よりも所定の入賞口へ入球容易となる特定遊技状態とを有し、特別遊技の実行終了後において特定遊技状態とし得るよう制御する遊技状態制御手段と

10

20

30

40

50

を備え、

副遊技部は、

演出表示部にて表示する演出表示内容を制御する演出表示内容制御手段と、

識別情報の変動表示開始から停止表示までを一演出期間とし、当該一演出期間内において所定数の演出用図柄（例えば、左列、中列、右列の３つの第一演出用図柄）を演出表示部にて変動表示させた後で、演出用図柄の最終的な組合せを演出表示部にて停止表示させるよう制御する演出用図柄表示制御手段と

を備え、

複数の演出用図柄列を有しており、複数の演出用図柄列のそれぞれにて演出用図柄を変動表示可能に構成されており、

複数の演出用図柄列のうち、所定の演出用図柄列以外の演出用図柄列にて同じ種類の演出用図柄が暫定的に停止表示されることでリーチ状態を形成可能に構成されており、

演出用図柄による所定の動作を実行可能であり、

所定の動作には、

演出用図柄が変動表示を開始する際の開始時動作と、

演出用図柄が演出表示部の所定位置に暫定的に停止表示する場合に実行可能な定位置動作と、

演出用図柄が暫定的に停止表示されている場合に実行可能な揺れ動作と、

演出用図柄がリーチ状態を形成する場合に実行可能な特殊動作（例えば、テンパイアクション）と

が含まれており、

通常遊技状態においては、保留の数が第一個数で変動表示開始した場合における前記所定数の演出用図柄の停止表示の順と、保留の数が前記第一個数よりも多い第二個数で変動表示開始した場合における前記所定数の演出用図柄の停止表示の順とが異なるよう構成されている一方、特定遊技状態においては、保留の数が前記第一個数で変動表示開始した場合における前記所定数の演出用図柄の停止表示の順と、保留の数が前記第二個数で変動表示開始した場合における前記所定数の演出用図柄の停止表示の順とが同じとなるよう構成されており、

特定遊技状態のある一演出期間内において、開始時動作、定位置動作、特殊動作のうち少なくともいずれかを実行しないように構成する一方で、揺れ動作については実行するよう構成されている

ことを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【３７６０】

このように構成することで、変動効率よりも演出重視の通常遊技状態（非時間短縮遊技状態）と、変動効率重視の特定遊技状態（時間短縮遊技状態）とでは、第一演出用図柄の見せ方を差別化することで、何れの状態で変動しているのかを遊技者が認識することができる。とともに、各状態に合った第一演出用図柄の図柄変動の態様とすることができる。

【３７６１】

態様（Ｄ２０）に係るぱちんこ遊技機は、

遊技球が入球可能な第一始動口（例えば、第１主遊技始動口Ａ１０）と、

遊技球が入球可能な第二始動口（例えば、第２主遊技始動口Ｂ１０）と、

第一識別情報を表示可能な第一識別情報表示部（例えば、第１主遊技図柄表示部Ａ２１ｇ）と、

第二識別情報を表示可能な第二識別情報表示部（例えば、第２主遊技図柄表示部Ｂ２１ｇ）と、

遊技の進行を制御する主遊技部（例えば、主制御基板Ｍ）と、

演出を表示可能な演出表示部（例えば、演出表示装置ＳＧ）と、

演出表示部への演出表示を制御する副遊技部（例えば、副制御基板Ｓ）とを備え、

主遊技部は、

10

20

30

40

50

第一始動口への入球に基づき、第一乱数を取得する第一乱数取得手段と、

第一乱数取得手段により第一乱数が取得された場合、第一当否判定許可条件を充足するまで当該取得された第一乱数を第一保留として一時記憶する第一乱数一時記憶手段と、

第一乱数取得手段により取得された第一乱数に基づき、第一識別情報の変動表示時間を選択し、第一識別情報表示部にて第一識別情報を変動表示させた後に第一識別情報を停止表示させるよう制御する第一識別情報表示制御手段と、

第二始動口への入球に基づき、第二乱数を取得する第二乱数取得手段と、

第二乱数取得手段により第二乱数が取得された場合、第二当否判定許可条件を充足するまで当該取得された第二乱数を第二保留として一時記憶する第二乱数一時記憶手段と、

第二乱数取得手段により取得された第二乱数に基づき、第二識別情報の変動表示時間を選択し、第二識別情報表示部にて第二識別情報を変動表示させた後に第二識別情報を停止表示させるよう制御する第二識別情報表示制御手段と、

第一識別情報又は第二識別情報が所定態様にて停止表示された後において、遊技者にとって有利な特別遊技を実行可能な特別遊技制御手段と、

特別遊技の非実行中における遊技状態として通常遊技状態と通常遊技状態よりも第二始動口へ入球容易となる特定遊技状態とを有し、特別遊技の実行終了後において特定遊技状態とし得るよう制御する遊技状態制御手段と

を備え、

副遊技部は、

演出表示部にて表示する演出表示内容を制御する演出表示内容制御手段と、

第一識別情報又は第二識別情報の変動表示開始から停止表示までを一演出期間とし、当該一演出期間内において所定数の演出用図柄（例えば、左列、中列、右列の3つの第一演出用図柄）を演出表示部にて変動表示させた後で、演出用図柄の最終的な組合せを演出表示部にて停止表示させるよう制御する演出用図柄表示制御手段と

を備え、

複数の演出用図柄列を有しており、複数の演出用図柄列のそれぞれにて演出用図柄を変動表示可能に構成されており、

複数の演出用図柄列のうち、所定の演出用図柄列以外の演出用図柄列にて同じ種類の演出用図柄が暫定的に停止表示されることでリーチ状態を形成可能に構成されており、

演出用図柄による所定の動作を実行可能であり、

所定の動作には、

演出用図柄が変動表示を開始する際の開始時動作と、

演出用図柄が演出表示部の所定位置に暫定的に停止表示する場合に実行可能な定位置動作と、

演出用図柄が暫定的に停止表示されている場合に実行可能な揺れ動作と、

演出用図柄がリーチ状態を形成する場合に実行可能な特殊動作（例えば、テンパイアクション）と

が含まれており、

通常遊技状態において第一識別情報が変動表示する場合、第一保留の数が第一個数で変動表示開始した場合における前記所定数の演出用図柄の停止表示の順と、第一保留の数が前記第一個数よりも多い第二個数で変動表示開始した場合における前記所定数の演出用図柄の停止表示の順とが異なるよう構成されている一方、特定遊技状態において第一識別情報が変動表示する場合、第一保留の数が前記第一個数で変動表示開始した場合における前記所定数の演出用図柄の停止表示の順と、第一保留の数が前記第二個数で変動表示開始した場合における前記所定数の演出用図柄の停止表示の順とが同じとなるよう構成されており、

通常遊技状態において第二識別情報が変動表示する場合、第二保留の数が前記第一個数で変動表示開始した場合における前記所定数の演出用図柄の停止表示の順と、第二保留の数が前記第二個数で変動表示開始した場合における前記所定数の演出用図柄の停止表示の順とが同じとなるよう構成され、且つ、特定遊技状態において第二識別情報が変動表示す

10

20

30

40

50

る場合、第二保留の数が前記第一個数で変動表示開始した場合における前記所定数の演出用図柄の停止表示の順と、第二保留の数が前記第二個数で変動表示開始した場合における前記所定数の演出用図柄の停止表示の順とが同じとなるよう構成されており、

特定遊技状態のある一演出期間内において、開始時動作、定位置動作、特殊動作のうち少なくともいずれかを実行しないように構成する一方で、揺れ動作については実行するよう構成されている

ことを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【3762】

このように構成することで、通常遊技状態（非時間短縮遊技状態）や特定遊技状態（時間短縮遊技状態）の終了後の第二識別情報側の変動に対応した第一演出用図柄については、即座に消化するように構成することで本来の遊技性である通常遊技状態（非時間短縮遊技状態）の主体遊技である第一識別情報側の遊技に復帰できるため、第一演出用図柄の態様はシンプルなものとする一方で、通常遊技状態（非時間短縮遊技状態）に対応した最低限の各動作を実施することで、第一識別情報側の遊技にシームレスかつ違和感なく移行することができる。

【3763】

態様（E1）に係るぱちんこ遊技機は、

遊技球が入球可能な主遊技始動口（例えば、第1主遊技始動口A10、第2主遊技始動口B10）と、

所定の入球口に取り付けられ、開放状態及び閉鎖状態に変位可能な可変部材（例えば、第2主遊技始動口電動役物B11d）と、

主遊技識別情報（例えば、第1主遊技図柄、第2主遊技図柄）を表示可能な主遊技識別情報表示部と、

主遊技始動口への入球に基づき、主遊技情報を取得する取得手段と、

取得手段が取得した主遊技情報に基づき、特殊抽選（例えば、時短図柄の抽選）を実行する特殊抽選実行手段と、

取得手段が取得した主遊技情報に基づき、主遊技識別情報表示部にて主遊技識別情報を変動表示させた後で停止表示するよう制御する主遊技識別情報表示制御手段とを備え、

主遊技識別情報が所定態様の停止表示態様にて停止表示される確率が所定確率となる低確率抽選状態と、主遊技識別情報が所定態様の停止表示態様にて停止表示される確率が当該所定確率よりも高確率となる高確率抽選状態とを有しており、

可変部材の開放容易性に関する遊技状態として、通常遊技状態と、通常遊技状態よりも可変部材が開放し易い特定遊技状態（例えば、時間短縮遊技状態）とを有しており、

特殊抽選の結果に基づき主遊技識別情報の停止表示態様を決定し、該決定した停止表示態様が特殊停止表示態様（例えば、時短図柄）である場合に特定遊技状態となり得るよう構成されており、

低確率抽選状態においては特殊抽選を実行可能である一方で、高確率抽選状態においては特殊抽選を実行しないよう構成されており、

低確率抽選状態であっても、高確率抽選状態であっても、特定遊技状態においては特殊抽選を実行しないよう構成されている

ことを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【3764】

態様（E2）に係るぱちんこ遊技機は、

遊技球が入球可能な主遊技始動口（例えば、第1主遊技始動口A10、第2主遊技始動口B10）と、

所定の入球口に取り付けられ、開放状態及び閉鎖状態に変位可能な可変部材（例えば、第2主遊技始動口電動役物B11d）と、

主遊技識別情報（例えば、第1主遊技図柄、第2主遊技図柄）を表示可能な主遊技識別情報表示部と、

10

20

30

40

50

主遊技始動口への入球に基づき、主遊技情報を取得する取得手段と、

取得手段が取得した主遊技情報に基づき、特殊抽選（例えば、時短図柄の抽選）を実行する特殊抽選実行手段と、

取得手段が取得した主遊技情報に基づき、主遊技識別情報表示部にて主遊技識別情報を変動表示させた後で停止表示するよう制御する主遊技識別情報表示制御手段とを備え、

主遊技識別情報が所定態様の停止表示態様にて停止表示される確率が所定確率となる低確率抽選状態と、主遊技識別情報が所定態様の停止表示態様にて停止表示される確率が当該所定確率よりも高確率となる高確率抽選状態とを有しており、

可変部材の開放容易性に関する遊技状態として、通常遊技状態と、通常遊技状態よりも可変部材が開放し易い特定遊技状態（例えば、時間短縮遊技状態）とを有しており、

特殊抽選の結果に基づき主遊技識別情報の停止表示態様を決定し、該決定した停止表示態様が特殊停止表示態様（例えば、時短図柄）である場合に特定遊技状態となり得よう構成されており、

低確率抽選状態においては特殊抽選を実行可能である一方で、高確率抽選状態においては特殊抽選を実行しないよう構成されており、

低確率抽選状態且つ特定遊技状態において特殊停止表示態様が決定された場合、設定されている特定遊技状態に優先して、決定した特殊停止表示態様に対応する特定遊技状態を設定するよう構成されている

ことを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【3765】

また、態様（E2）に係るぱちんこ遊技機は、

主遊技識別情報の変動表示開始から停止表示までを一単位とし、特別遊技の実行終了後から一単位が所定回数行われるまで特定遊技状態が維持されるよう構成されており、

特定遊技状態において一単位が所定回数行われた後は、特定遊技状態から通常遊技状態となるよう構成されており、

特定遊技状態として、前記所定回数が第一回数（例えば、100回）に設定された第一特定遊技状態（例えば、時短回数が100回の時間短縮遊技状態）と、前記所定回数が第一回数よりも少ない第二回数（例えば、50回）に設定された第二特定遊技状態（例えば、時短回数が50回の時間短縮遊技状態）とを備え、

特殊停止表示態様が決定された場合には第二特定遊技状態を設定するよう構成されており、

第一特定遊技状態において特殊停止表示態様が決定された場合、実行中の第一特定遊技状態における一単位が実行可能な回数が第二回数よりも多い状況下であっても、第二特定遊技状態を設定する

ことを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【3766】

態様（E3）に係るぱちんこ遊技機は、

遊技球が入球可能な主遊技始動口（例えば、第1主遊技始動口A10、第2主遊技始動口B10）と、

所定の入球口に取り付けられ、開放状態及び閉鎖状態に変位可能な可変部材（例えば、第2主遊技始動口電動役物B11d）と、

主遊技識別情報（例えば、第1主遊技図柄、第2主遊技図柄）を表示可能な主遊技識別情報表示部と、

主遊技始動口への入球に基づき、主遊技情報を取得する取得手段と、

取得手段が取得した主遊技情報に基づいて、特別遊技を行うか否かの判定を行う特別遊技判定手段と、

取得手段が取得した主遊技情報に基づき、特殊抽選（例えば、時短図柄の抽選）を実行する特殊抽選実行手段と、

取得手段が取得した主遊技情報に基づき、主遊技識別情報表示部にて主遊技識別情報を

10

20

30

40

50

変動表示させた後で停止表示するよう制御する主遊技識別情報表示制御手段とを備え、

可変部材の開放容易性に関する遊技状態として、通常遊技状態と、通常遊技状態よりも可変部材が開放し易い特定遊技状態（例えば、時間短縮遊技状態）とを有しており、

特殊抽選の結果に基づき主遊技識別情報の停止表示態様を決定し、該決定した停止表示態様が特殊停止表示態様（例えば、時短図柄）である場合に特定遊技状態となり得よう構成されており、

特殊抽選は、主遊技識別情報の停止表示態様の決定で用いられる主遊技情報（例えば、ハズレ図柄抽選乱数、大当り図柄抽選乱数、小当り図柄抽選乱数）、または特別遊技を行うか否かの判定で用いられる主遊技情報（例えば、当否抽選乱数）に基づき実行するよう構成されている

ことを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【3767】

態様（E4）に係るぱちんこ遊技機は、

遊技球が入球可能な主遊技始動口（例えば、第1主遊技始動口A10、第2主遊技始動口B10）と、

所定の入球口に取り付けられ、開放状態及び閉鎖状態に変位可能な可変部材（例えば、第2主遊技始動口電動役物B11d）と、

主遊技識別情報（例えば、第1主遊技図柄、第2主遊技図柄）を表示可能な主遊技識別情報表示部と、

主遊技始動口への入球に基づき、主遊技情報を取得する取得手段と、

取得手段が取得した主遊技情報に基づいて、特別遊技を行うか否かの判定を行う特別遊技判定手段と、

取得手段が取得した主遊技情報に基づき、特殊抽選（例えば、時短図柄の抽選）を実行する特殊抽選実行手段と、

取得手段が取得した主遊技情報に基づき、主遊技識別情報表示部にて主遊技識別情報を変動表示させた後で停止表示するよう制御する主遊技識別情報表示制御手段と、

主遊技識別情報が所定態様の停止表示態様にて停止表示された後、可変入賞口への所定個数の入球があるか又は所定期間が経過するまで可変入賞口を遊技者にとって有利な状態とし得る単位遊技を複数回実行する特別遊技を実行可能である特別遊技制御手段とを備え、

可変部材の開放容易性に関する遊技状態として、通常遊技状態と、通常遊技状態よりも可変部材が開放し易い特定遊技状態（例えば、時間短縮遊技状態）とを有しており、

特殊抽選の結果に基づき主遊技識別情報の停止表示態様を決定し、該決定した停止表示態様が特殊停止表示態様（例えば、時短図柄）である場合に特定遊技状態となり得よう構成されており、

特別遊技を実行しないことを示す主遊技識別情報の変動表示（例えば、ハズレとなる変動表示）の停止表示態様が特殊停止表示態様で決定された場合は、主遊技識別情報が特殊停止表示態様で停止表示された後に特定遊技状態となる一方で、特別遊技を実行することを示す主遊技識別情報の変動表示（例えば、特別遊技となる変動表示）の停止表示態様が特殊停止表示態様で決定された場合は、主遊技識別情報が特殊停止表示態様で停止表示された後の特別遊技の実行後に特定遊技状態となるよう構成されている

ことを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【3768】

態様（E5）に係るぱちんこ遊技機は、

遊技球が入球可能な主遊技始動口（例えば、第1主遊技始動口A10、第2主遊技始動口B10）と、

所定の入球口に取り付けられ、開放状態及び閉鎖状態に変位可能な可変部材（例えば、第2主遊技始動口電動役物B11d）と、

主遊技識別情報（例えば、第1主遊技図柄、第2主遊技図柄）を表示可能な主遊技識別

10

20

30

40

50

情報表示部と、

主遊技始動口への入球に基づき、主遊技情報を取得する取得手段と、

取得手段が取得した主遊技情報に基づき、特殊抽選（例えば、時短図柄の抽選）を実行する特殊抽選実行手段と、

取得手段が取得した主遊技情報に基づき、主遊技識別情報表示部にて主遊技識別情報を変動表示させた後で停止表示するよう制御する主遊技識別情報表示制御手段と、

有利度合いの異なる複数の設定値を変更可能な設定値変更手段とを備え、

可変部材の開放容易性に関する遊技状態として、通常遊技状態と、通常遊技状態よりも可変部材が開放し易い特定遊技状態（例えば、時間短縮遊技状態）とを有しており、

特殊抽選の結果に基づき主遊技識別情報の停止表示態様を決定し、該決定した停止表示態様が特殊停止表示態様（例えば、時短図柄）である場合に特定遊技状態となり得よう構成されており、

主遊技識別情報の停止表示態様の決定で用いられる主遊技情報（例えば、ハズレ図柄抽選乱数、大当り図柄抽選乱数）とは異なる主遊技情報（例えば、当否抽選乱数）に基づき特殊抽選を実行するよう構成されており、

特殊抽選で用いる主遊技情報（例えば、当否抽選乱数）における特定遊技状態となり得る情報の数は、設定値に関わらず、同じであるよう構成されていることを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【3769】

態様（E6）に係るぱちんこ遊技機は、

本態様に係る遊技機は、

遊技球が入球可能な第一始動口（例えば、第1主遊技始動口A10）と、

遊技球が入球可能な第二始動口（例えば、第2主遊技始動口B10）と、

所定の入球口に取り付けられ、開放状態及び閉鎖状態に変位可能な可変部材（例えば、第2主遊技始動口電動役物B11d）と、

閉状態と開状態とを採り得る可変入賞口（例えば、第1大入賞口C10、第2大入賞口C20）と、

第一主遊技識別情報を表示可能な第一主遊技識別情報表示部（例えば、第1主遊技図柄表示部A21g）と、

第二主遊技識別情報を表示可能な第二主遊技識別情報表示部（例えば、第2主遊技図柄表示部B21g）と、

第一始動口への入球に基づき、主遊技情報を取得する第一取得手段と、

第二始動口への入球に基づき、主遊技情報を取得する第二取得手段と、

第一取得手段が取得した主遊技情報に基づき、第一特殊抽選を実行する第一特殊抽選実行手段と、

第二取得手段が取得した主遊技情報に基づき、第二特殊抽選を実行する第二特殊抽選実行手段と、

第一取得手段が取得した主遊技情報に基づき、第一主遊技識別情報表示部にて第一主遊技識別情報を変動表示させた後で停止表示するよう制御する第一主遊技識別情報表示制御手段と、

第二取得手段が取得した主遊技情報に基づき、第二主遊技識別情報表示部にて第二主遊技識別情報を変動表示させた後で停止表示するよう制御する第二主遊技識別情報表示制御手段と

を備え、

第一主遊技識別情報及び／又は第二主遊技識別情報が所定態様の停止表示態様にて停止表示される確率が所定確率となる低確率抽選状態と、第一主遊技識別情報及び／又は第二主遊技識別情報が所定態様の停止表示態様にて停止表示される確率が当該所定確率よりも高確率となる高確率抽選状態とを有しており、

可変部材の開放容易性に関する遊技状態として、通常遊技状態と、通常遊技状態よりも

10

20

30

40

50

可変部材が開放し易い特定遊技状態（例えば、時間短縮遊技状態）とを有しており、

第一特殊抽選の結果に基づき第一主遊技識別情報の停止表示態様を決定し、該決定した停止表示態様が特殊停止表示態様（例えば、時短図柄）である場合に特定遊技状態となり得るよう構成されており、

第二特殊抽選の結果に基づき第二主遊技識別情報の停止表示態様を決定し、該決定した停止表示態様が特殊停止表示態様である場合に特定遊技状態となり得るよう構成されており、

第一特殊抽選の結果に基づき第一主遊技識別情報の停止表示態様として特殊停止表示態様が決定される第一確率と、第二特殊抽選の結果に基づき第二主遊技識別情報の停止表示態様として特殊停止表示態様が決定される第二確率とが異なるよう構成されており、

低確率抽選状態においては第一特殊抽選及び／又は第二特殊抽選を実行可能である一方で、高確率抽選状態においては第一特殊抽選及び／又は第二特殊抽選を実行しないよう構成されている

ことを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【3770】

態様（E7）に係るぱちんこ遊技機は、

遊技球が入球可能な主遊技始動口（例えば、第1主遊技始動口A10、第2主遊技始動口B10）と、

所定の入球口に取り付けられ、開放状態及び閉鎖状態に変位可能な可変部材（例えば、第2主遊技始動口電動役物B11d）と、

閉状態と開状態とを採り得る可変入賞口（例えば、第1大入賞口C10、第2大入賞口C20）と、

可変入賞口に入球した遊技球が入球し得る特定領域（例えば、特定領域C12-1、C12-2）と、

主遊技識別情報（例えば、第1主遊技図柄、第2主遊技図柄）を表示可能な主遊技識別情報表示部と、

主遊技始動口への入球に基づき、主遊技情報を取得する取得手段と、

変動表示開始条件が充足した場合に、取得手段が取得した主遊技情報に基づいて、可変入賞口開放遊技を行うか否かの判定を行う特別遊技判定手段と、

取得手段が取得した主遊技情報に基づき、特殊抽選を実行する特殊抽選実行手段と、

取得手段が取得した主遊技情報に基づき、主遊技識別情報表示部にて主遊技識別情報を変動表示させた後で停止表示するよう制御する主遊技識別情報表示制御手段と、

主遊技識別情報表示部にて主遊技識別情報を変動表示させた後で停止表示するよう制御し、主遊技識別情報が特定態様の停止表示態様（例えば、小当りの停止表示態様）にて停止表示された後、可変入賞口を有利な状態とし得る可変入賞口開放遊技を実行可能であり、可変入賞口開放遊技の実行中に特定領域に遊技球が入球した場合には、可変入賞口開放遊技の終了後に特別遊技を実行可能である特別遊技制御手段と

を備え、

可変部材の開放容易性に関する遊技状態として、通常遊技状態と、通常遊技状態よりも可変部材が開放し易い特定遊技状態（例えば、時間短縮遊技状態）とを有しており、

特殊抽選の結果に基づき主遊技識別情報の停止表示態様を決定し、該決定した停止表示態様が特殊停止表示態様（例えば、小当り図柄兼時短図柄）である場合に特定遊技状態となり得るよう構成されており、

主遊技識別情報の変動表示開始から停止表示までを一単位とし、特別遊技の実行終了後から一単位が所定回数（例えば、10回）行われるまで特定遊技状態が維持されるよう構成されており、

特定遊技状態において一単位が所定回数（例えば、10回）行われた後は、特定遊技状態から通常遊技状態となるよう構成されており、

可変入賞口開放遊技を実行することを示す主遊技識別情報の変動表示（例えば、小当りとなる変動表示）の停止表示態様が特殊停止表示態様で決定された場合は、可変入賞口開

10

20

30

40

50

放遊技の実行中に特定領域に遊技球が入球したか否かに関わらず特定遊技状態となるよう構成されている

ことを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【3771】

態様（E8）に係るぱちんこ遊技機は、

遊技球が入球可能な主遊技始動口（例えば、第1主遊技始動口A10、第2主遊技始動口B10）と、

所定の入球口に取り付けられ、開放状態及び閉鎖状態に変位可能な可変部材（例えば、第2主遊技始動口電動役物B11d）と、

閉状態と開状態とを採り得る可変入賞口（例えば、第1大入賞口C10、第2大入賞口C20）と、

可変入賞口に入球した遊技球が入球し得る特定領域（例えば、特定領域C12-1、C12-2）と、

主遊技識別情報（例えば、第1主遊技図柄、第2主遊技図柄）を表示可能な主遊技識別情報表示部と、

主遊技始動口への入球に基づき、主遊技情報を取得する取得手段と、

変動表示開始条件が充足した場合に、取得手段が取得した主遊技情報に基づいて、可変入賞口開放遊技を行うか否かの判定を行う特別遊技判定手段と、

取得手段が取得した主遊技情報に基づき、特殊抽選を実行する特殊抽選実行手段と、

取得手段が取得した主遊技情報に基づき、主遊技識別情報表示部にて主遊技識別情報を変動表示させた後で停止表示するよう制御する主遊技識別情報表示制御手段と、

主遊技識別情報表示部にて主遊技識別情報を変動表示させた後で停止表示するよう制御し、主遊技識別情報が特定態様の停止表示態様（例えば、小当りの停止表示態様）にて停止表示された後、可変入賞口を有利な状態とし得る可変入賞口開放遊技を実行可能であり、可変入賞口開放遊技の実行中に特定領域に遊技球が入球した場合には、可変入賞口開放遊技の終了後に特別遊技を実行可能である特別遊技制御手段とを備え、

可変部材の開放容易性に関する遊技状態として、通常遊技状態と、通常遊技状態よりも可変部材が開放し易い特定遊技状態（例えば、時間短縮遊技状態）とを有しており、

特殊抽選の結果に基づき主遊技識別情報の停止表示態様を決定し、該決定した停止表示態様が特殊停止表示態様（例えば、時短図柄）である場合に特定遊技状態となり得るよう構成されており、

主遊技識別情報の変動表示開始から停止表示までを一単位とし、特別遊技の実行終了後から一単位が所定回数（例えば、10回）行われるまで特定遊技状態が維持されるよう構成されており、

特定遊技状態において一単位が所定回数（例えば、10回）行われた後は、特定遊技状態から通常遊技状態となるよう構成されており、

特殊停止表示態様として、第一特殊停止表示態様（例えば、小当り図柄（兼時短図柄）B）と、第二特殊停止表示態様（例えば、小当り図柄（兼時短図柄）C）とを備えており、

可変入賞口開放遊技の実行中に特定領域に遊技球が入球した場合は、可変入賞口開放遊技を実行することを示す主遊技識別情報の変動表示（例えば、小当りとなる変動表示）の停止表示態様が第一特殊停止表示態様であるか第二特殊停止表示態様であるかに関わらず第一回数（例えば、10回）の一単位が実行可能な特定遊技状態となるよう構成されており、

可変入賞口開放遊技の実行中に特定領域に遊技球が入球しなかった場合は、可変入賞口開放遊技を実行することを示す主遊技識別情報の変動表示（例えば、小当りとなる変動表示）の停止表示態様が第一特殊停止表示態様であるか第二特殊停止表示態様であるかに関わらず第二回数（例えば、1回）の一単位が実行可能な特定遊技状態となるよう構成されている

ことを特徴とするぱちんこ遊技機である。

10

20

30

40

50

【3772】

所定の契機によって、主遊技図柄の図柄変動の変動時間、特別遊技の実行時間（特別遊技開始デモ、特別遊技終了デモ含む）、小当り遊技の実行時間（小当り遊技開始デモ、小当り遊技終了デモ含む）を長く（延長）してもよい。例えば、主遊技図柄の図柄変動中に貯留された保留が先読み判定によって、当り（小当り、大当り）と判定された場合、当該図柄変動中の主遊技図柄の図柄変動を延長させることが可能である。このように構成する場合、主制御部は、主遊技図柄の図柄変動を延長する決定に基づいて、主制御部から副制御部へ変動時間の付加を示すコマンドを送信する。変動時間の付加を示すコマンドを受信した副制御部は、受信したコマンドに基づき演出用図柄の図柄変動の変動時間を延長することができる。この際、主遊技図柄の図柄変動の変動時間も延長されるように構成されている。また、主制御部は、主遊技図柄の変動固定時間を延長する決定に基づいて、主制御部から副制御部へ変動固定時間の付加を示すコマンドを送信する。変動固定時間の付加を示すコマンドを受信した副制御部は、受信したコマンドに基づき演出用図柄の図柄変動が停止表示する際の変動固定時間を延長する（例えば、500msから10秒）ことができる。この際、主遊技図柄の変動固定時間も延長されるように構成されている。

10

【3773】

また、特別遊技の実行中に貯留された保留が先読み判定によって、当り（小当り、大当り）と判定された場合、特別遊技の実行時間を延長させることが可能である。このように構成する場合、主制御部は先読み判定の結果に基づき、特別遊技中のラウンド間の大入賞口の閉鎖時間を延長することが可能である。また、主制御部は先読み判定の結果に基づき、特別遊技開始デモの実行時間を延長することが可能である。さらに、主制御部は先読み判定の結果に基づき、特別遊技終了デモの実行時間を延長することが可能である。さらにまた、主制御部は先読み判定の結果に基づき、特別遊技中の大入賞口の開放パターンを変更することが可能である。変更した開放パターンは、大入賞口が閉鎖されている時間が長く設定されているパターンであり、開放されている時間は変更前のパターンと同じ時間である。

20

【3774】

また、小当り遊技の実行中に貯留された保留が先読み判定によって、当り（小当り、大当り）と判定された場合、小当り遊技の実行時間を延長させることが可能である。このように構成する場合、主制御部は先読み判定の結果に基づき、小当り遊技中の大入賞口の開放パターンを変更することが可能である。変更した開放パターンは、大入賞口が閉鎖されている時間が長く設定されているパターンであり、開放されている時間は変更前のパターンと同じ時間である。また、主制御部は先読み判定の結果に基づき、小当り遊技開始デモの実行時間を延長することが可能である。さらに、主制御部は先読み判定の結果に基づき、小当り遊技終了デモの実行時間を延長することが可能である。

30

【3775】

態様（F1）に係るぱちんこ遊技機は、
遊技球が入球可能な第一始動口と、
遊技球が入球可能な第二始動口と、
所定の入球口に取り付けられ、開放状態及び閉鎖状態に変位可能な可変部材と、
閉状態と開状態とを採り得る可変入賞口と、
第一主遊技識別情報を表示可能な第一主遊技識別情報表示部と、
第二主遊技識別情報を表示可能な第二主遊技識別情報表示部と、
演出を表示可能な演出表示部と、
遊技の進行を制御する主遊技部と、
演出の制御を司る副遊技部と
を備え、
主遊技部は、
第一始動口への入球に基づき、主遊技情報を取得する第一取得手段と、
第一取得手段により主遊技情報が取得された場合、第一当否判定許可条件を充足するま

40

50

で当該取得された主遊技情報を第一保留として一時記憶する第一記憶手段と、

第一当否判定許可条件を充足した場合、第一取得手段が取得した主遊技情報に基づき、当否判定を実行する第一当否判定手段と、

第一取得手段が取得した主遊技情報に基づき、第一主遊技識別情報表示部にて第一主遊技識別情報を変動表示させた後で停止表示するよう制御する第一主遊技識別情報表示制御手段と、

第二始動口への入球に基づき、主遊技情報を取得する第二取得手段と、

第二取得手段により主遊技情報が取得された場合、第二当否判定許可条件を充足するまで当該取得された主遊技情報を第二保留として一時記憶する第二記憶手段と、

第二当否判定許可条件を充足した場合、第二取得手段が取得した主遊技情報に基づき、当否判定を実行する第二当否判定手段と、

第二取得手段が取得した主遊技情報に基づき、第二主遊技識別情報表示部にて第二主遊技識別情報を変動表示させた後で停止表示するよう制御する第二主遊技識別情報表示制御手段と、

第一当否判定手段による当否判定の結果が当選であって第一主遊技識別情報表示部にて第一主遊技識別情報が所定態様の停止表示態様にて停止表示された後、又は、第二当否判定手段による当否判定の結果が当選であって第二主遊技識別情報表示部にて第二主遊技識別情報が所定態様の停止表示態様にて停止表示された後、可変入賞口を遊技者にとって有利な状態とし得る特別遊技を実行する特別遊技制御手段と、

副遊技部側で実行される演出に際して必要な遊技情報を副遊技部側へ送信する遊技情報送信手段と
を備え、

副遊技部は、

主遊技部から送信された遊技情報を受信する遊技情報受信手段と、

遊技情報受信手段により或る第一保留に関する情報が受信された場合、当該或る第一保留の存在を示唆又は報知する先読み演出を実行し得るよう制御する先読み演出実行制御手段と

を備え、

可変部材の開放容易性に関する遊技状態として、通常遊技状態と、通常遊技状態よりも可変部材が開放し易い特定遊技状態とを有しており、

第一主遊技識別情報又は第二主遊技識別情報の変動表示開始から停止表示までを一単位とし、一単位が第一特定回数（例えば、1000回）行われることを契機として特定遊技状態（例えば、時短B）となり得るよう構成されており、

特定遊技状態となる前の期間であって一単位が第一特定回数未満の第二特定回数行われてから第一特定回数行われるまでの期間において或る第一保留が生じた場合、当該或る第一保留に対応する先読み演出の実行を制限するよう構成されている
ことを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【3776】

態様（F2）に係るぱちんこ遊技機は、

遊技球が入球可能な主遊技始動口と、

所定の入球口に取り付けられ、開放状態及び閉鎖状態に変位可能な可変部材と、

閉状態と開状態とを採り得る可変入賞口と、

主遊技識別情報を表示可能な主遊技識別情報表示部と、

演出を表示可能な演出表示部と、

主遊技始動口への入球に基づき、主遊技情報を取得する取得手段と、

取得手段が取得した主遊技情報に基づき、特殊抽選を実行する特殊抽選実行手段と、

取得手段が取得した主遊技情報に基づき、主遊技識別情報表示部にて主遊技識別情報を変動表示させた後で停止表示するよう制御する主遊技識別情報表示制御手段と、

取得手段が取得した主遊技情報に基づき当否判定を実行し、当否判定の結果が当選であって主遊技識別情報表示部にて主遊技識別情報が所定態様の停止表示態様にて停止表示さ

10

20

30

40

50

れた後、可変入賞口を遊技者にとって有利な状態とし得る特別遊技を実行する特別遊技制御手段と、

主遊技識別情報の変動表示開始から停止表示までを一演出期間とし、当該一演出期間内において演出用図柄を演出表示部にて変動表示させた後で、演出用図柄の最終的な組合せを演出表示部にて停止表示させるよう制御する演出用図柄表示制御手段とを備え、

可変部材の開放容易性に関する遊技状態として、通常遊技状態と、通常遊技状態よりも可変部材が開放し易い特定遊技状態とを有しており、

特殊抽選の結果に基づき主遊技識別情報の停止表示態様を決定し、該決定した停止表示態様が特殊停止表示態様（例えば、時短図柄）である場合に特定遊技状態（例えば、時短C）となり得るよう構成されており、

10

複数の演出用図柄列を有しており、複数の演出用図柄列のそれぞれにて演出用図柄を変動表示可能に構成されており、

複数の演出用図柄列のうち、所定の演出用図柄列以外の演出用図柄列にて同じ種類の演出用図柄が暫定的に停止表示されることでリーチ状態を形成可能に構成されており、

リーチ状態が形成された後に、少なくとも当否判定の結果を示す所定の演出を実行可能に構成されており、

所定の演出は、特殊抽選の結果を示すことが可能なよう構成されていることを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【3777】

20

態様（F3-1）に係るぱちんこ遊技機は、

遊技球が入球可能な主遊技始動口と、

所定の入球口に取り付けられ、開放状態及び閉鎖状態に変位可能な可変部材と、

主遊技識別情報を表示可能な主遊技識別情報表示部と、

演出を表示可能な演出表示部と、

遊技者によって操作可能な操作部材と、

操作部材の操作により、演出表示部へ表示する演出表示内容を制御する際に依存する演出モードを変更可能な演出モード変更手段と、

主遊技始動口への入球に基づき、主遊技情報を取得する取得手段と、

取得手段が取得した主遊技情報に基づき、主遊技識別情報表示部にて主遊技識別情報を変動表示させた後で停止表示するよう制御する主遊技識別情報表示制御手段とを備え、

30

可変部材の開放容易性に関する遊技状態として、通常遊技状態と、通常遊技状態よりも可変部材が開放し易い特定遊技状態とを有しており、

主遊技識別情報の変動表示開始から停止表示までを一単位とし、一単位が第一特定回数（例えば、1000回）行われることを契機として特定遊技状態（例えば、時短B）となり得るよう構成されており、

主遊技識別情報が停止表示された時点から、所定期間に亘って当該主遊技識別情報が停止表示された状態を維持する表示固定期間が設けられ得るよう構成されており、

第一特定回数目の主遊技識別情報の変動表示における変動表示中又は表示固定期間中に操作部材が操作されると演出モードが変更され得るよう構成されていることを特徴とするぱちんこ遊技機である。

40

【3778】

態様（F3-2）に係るぱちんこ遊技機は、

遊技球が入球可能な主遊技始動口と、

所定の入球口に取り付けられ、開放状態及び閉鎖状態に変位可能な可変部材と、

主遊技識別情報を表示可能な主遊技識別情報表示部と、

演出を表示可能な演出表示部と、

遊技者によって操作可能な操作部材と、

操作部材の操作により、演出表示部へ表示する演出表示内容を制御する際に依存する演

50

出モードを変更可能な演出モード変更手段と、

主遊技始動口への入球に基づき、主遊技情報を取得する取得手段と、

取得手段が取得した主遊技情報に基づき、特殊抽選を実行する特殊抽選実行手段と、

取得手段が取得した主遊技情報に基づき、主遊技識別情報表示部にて主遊技識別情報を
変動表示させた後で停止表示するよう制御する主遊技識別情報表示制御手段と
を備え、

可変部材の開放容易性に関する遊技状態として、通常遊技状態と、通常遊技状態よりも
可変部材が開放し易い特定遊技状態とを有しており、

特殊抽選の結果に基づき主遊技識別情報の停止表示態様を決定し、該決定した停止表示
態様が特殊停止表示態様（例えば、時短図柄）である場合に特定遊技状態（例えば、時短
C）となり得るよう構成されており、

主遊技識別情報が停止表示された時点から、所定期間に亘って当該主遊技識別情報が停
止表示された状態を維持する表示固定期間が設けられ得るよう構成されており、

主遊技識別情報の停止表示態様として特殊停止表示態様が決定された変動表示における
変動表示中又は表示固定期間中に操作部材が操作されると演出モードが変更され得るよう
構成されている

ことを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【3779】

態様（F3-3）に係るぱちんこ遊技機は、

遊技球が入球可能な主遊技始動口と、

所定の入球口に取り付けられ、開放状態及び閉鎖状態に変位可能な可変部材と、

主遊技識別情報を表示可能な主遊技識別情報表示部と、

演出を表示可能な演出表示部と、

遊技者によって操作可能な操作部材と、

操作部材の操作により、演出表示部へ表示する演出表示内容を制御する際に依存する演
出モードを変更可能な演出モード変更手段と、

主遊技始動口への入球に基づき、主遊技情報を取得する取得手段と、

取得手段が取得した主遊技情報に基づき、主遊技識別情報表示部にて主遊技識別情報を
変動表示させた後で停止表示するよう制御する主遊技識別情報表示制御手段と
を備え、

可変部材の開放容易性に関する遊技状態として、通常遊技状態と、通常遊技状態よりも
可変部材が開放し易い特定遊技状態とを有しており、

主遊技識別情報の変動表示開始から停止表示までを一単位とし、一単位が第一特定回数
（例えば、1000回）行われることを契機として特定遊技状態（例えば、時短B）とな
り得るよう構成されており、

主遊技識別情報が停止表示された時点から、所定期間に亘って当該主遊技識別情報が停
止表示された状態を維持する表示固定期間が設けられ得るよう構成されており、

特定遊技状態となってから所定期間（例えば、30秒）が経過するまでに操作部材が操
作されると演出モードが変更され得るよう構成されている

ことを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【3780】

態様（F3-4）に係るぱちんこ遊技機は、

遊技球が入球可能な主遊技始動口と、

所定の入球口に取り付けられ、開放状態及び閉鎖状態に変位可能な可変部材と、

主遊技識別情報を表示可能な主遊技識別情報表示部と、

演出を表示可能な演出表示部と、

遊技者によって操作可能な操作部材と、

操作部材の操作により、演出表示部へ表示する演出表示内容を制御する際に依存する演
出モードを変更可能な演出モード変更手段と、

主遊技始動口への入球に基づき、主遊技情報を取得する取得手段と、

取得手段が取得した主遊技情報に基づき、特殊抽選を実行する特殊抽選実行手段と、
取得手段が取得した主遊技情報に基づき、主遊技識別情報表示部にて主遊技識別情報を変動表示させた後で停止表示するよう制御する主遊技識別情報表示制御手段とを備え、

可変部材の開放容易性に関する遊技状態として、通常遊技状態と、通常遊技状態よりも可変部材が開放し易い特定遊技状態とを有しており、

特殊抽選の結果に基づき主遊技識別情報の停止表示態様を決定し、該決定した停止表示態様が特殊停止表示態様（例えば、時短図柄）である場合に特定遊技状態（例えば、時短C）となり得るよう構成されており、

主遊技識別情報が停止表示された時点から、所定期間に亘って当該主遊技識別情報が停止表示された状態を維持する表示固定期間が設けられ得るよう構成されており、

特定遊技状態となってから特定期間（例えば、30秒）が経過するまでに操作部材が操作されると演出モードが変更され得るよう構成されている

ことを特徴とするぱちんこ遊技機である。

ことを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【3781】

態様（F4）に係るぱちんこ遊技機は、

遊技球が入球可能な主遊技始動口と、

所定の入球口に取り付けられ、開放状態及び閉鎖状態に変位可能な可変部材と、

閉状態と開状態とを採り得る可変入賞口と、

主遊技識別情報を表示可能な主遊技識別情報表示部と、

主遊技始動口への入球に基づき、主遊技情報を取得する取得手段と、

取得手段が取得した主遊技情報に基づき、特殊抽選を実行する特殊抽選実行手段と、

取得手段が取得した主遊技情報に基づき、主遊技識別情報表示部にて主遊技識別情報を変動表示させた後で停止表示するよう制御する主遊技識別情報表示制御手段と、

取得手段が取得した主遊技情報に基づき当否判定を実行し、当否判定の結果が当選であって主遊技識別情報表示部にて主遊技識別情報が所定態様の停止表示態様にて停止表示された後、可変入賞口を遊技者にとって有利な状態とし得る特別遊技を実行する特別遊技制御手段と

を備え、

可変部材の開放容易性に関する遊技状態として、通常遊技状態と、通常遊技状態よりも可変部材が開放し易い特定遊技状態とを有しており、

特定遊技状態として、特定遊技状態Bと特定遊技状態Cとを有し、

主遊技識別情報の変動表示開始から停止表示までを一単位とし、一単位が特定回数（例えば、1000回）行われることを契機として特定遊技状態B（例えば、時短B）となり得るよう構成されており、

特殊抽選の結果に基づき主遊技識別情報の停止表示態様を決定し、該決定した停止表示態様が特殊停止表示態様（例えば、時短図柄）である場合に特定遊技状態C（例えば、時短C）となり得るよう構成されており、

特定遊技状態Bでは特定遊技状態Bフラグ（例えば、時短Bフラグ）がオンとなり得る一方、特定遊技状態B以外では特定遊技状態Bフラグがオフとなり得るよう構成されており、

特定遊技状態Cにおいて特定遊技状態Bの実行契機となった場合には、特定遊技状態Bフラグを参照し、特定遊技状態Cよりも優先して特定遊技状態Bとするよう構成されていることを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【3782】

態様（F5-1）に係るぱちんこ遊技機は、

遊技球が入球可能な主遊技始動口と、

所定の入球口に取り付けられ、開放状態及び閉鎖状態に変位可能な可変部材と、

閉状態と開状態とを採り得る可変入賞口と、

可変入賞口に入球した遊技球が入球し得る特定領域と、
主遊技識別情報を表示可能な主遊技識別情報表示部と、
主遊技始動口への入球に基づき、主遊技情報を取得する取得手段と、
変動表示開始条件が充足した場合に、取得手段が取得した主遊技情報に基づいて、可変入賞口開放遊技を行うか否かの判定を行う特別遊技判定手段と、

取得手段が取得した主遊技情報に基づき、主遊技識別情報表示部にて主遊技識別情報を変動表示させた後で停止表示するよう制御する主遊技識別情報表示制御手段と、

主遊技識別情報表示部にて主遊技識別情報を変動表示させた後で停止表示するよう制御し、主遊技識別情報が特定態様の停止表示態様にて停止表示された後、可変入賞口を有利な状態とし得る可変入賞口開放遊技を実行可能であり、可変入賞口開放遊技の実行中に特定領域に遊技球が入球した場合には、可変入賞口開放遊技の終了後に特別遊技を実行可能である特別遊技制御手段と

を備え、

可変部材の開放容易性に関する遊技状態として、通常遊技状態と、通常遊技状態よりも可変部材が開放し易い特定遊技状態とを有しており、

主遊技識別情報の変動表示開始から停止表示までを一単位とし、一単位が特定回数（例えば、1000回）行われることを契機として特定遊技状態（例えば、時短B）となり得るよう構成されており、

特定回数目の主遊技識別情報の変動表示において可変入賞口開放遊技を実行することを示す主遊技識別情報の変動表示の停止表示態様が特定態様で決定された場合、主遊技識別情報の変動表示の実行中に特定遊技状態となるよう構成されており、

可変入賞口開放遊技の実行中に特定領域に遊技球が入球した場合、特定遊技状態から通常遊技状態となるよう構成されている

ことを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【3783】

態様（F5-2）に係るぱちんこ遊技機は、

遊技球が入球可能な主遊技始動口と、

所定の入球口に取り付けられ、開放状態及び閉鎖状態に変位可能な可変部材と、

閉状態と開状態とを採り得る可変入賞口と、

可変入賞口に入球した遊技球が入球し得る特定領域と、

主遊技識別情報を表示可能な主遊技識別情報表示部と、

主遊技始動口への入球に基づき、主遊技情報を取得する取得手段と、

変動表示開始条件が充足した場合に、取得手段が取得した主遊技情報に基づいて、可変入賞口開放遊技を行うか否かの判定を行う特別遊技判定手段と、

取得手段が取得した主遊技情報に基づき、主遊技識別情報表示部にて主遊技識別情報を変動表示させた後で停止表示するよう制御する主遊技識別情報表示制御手段と、

主遊技識別情報表示部にて主遊技識別情報を変動表示させた後で停止表示するよう制御し、主遊技識別情報が特定態様の停止表示態様にて停止表示された後、可変入賞口を有利な状態とし得る可変入賞口開放遊技を実行可能であり、可変入賞口開放遊技の実行中に特定領域に遊技球が入球した場合には、可変入賞口開放遊技の終了後に特別遊技を実行可能である特別遊技制御手段と

を備え、

可変部材の開放容易性に関する遊技状態として、通常遊技状態と、通常遊技状態よりも可変部材が開放し易い特定遊技状態とを有しており、

主遊技識別情報の変動表示開始から停止表示までを一単位とし、一単位が特定回数（例えば、1000回）行われることを契機として特定遊技状態（例えば、時短B）となり得るよう構成されており、

特定回数目の主遊技識別情報の変動表示において可変入賞口開放遊技を実行することを示す主遊技識別情報の変動表示の停止表示態様が特定態様で決定され、可変入賞口開放遊技の実行中に特定領域に遊技球が入球しないことを条件に、特定遊技状態となるよう構成

10

20

30

40

50

されている

ことを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【3784】

態様（F6）に係るぱちんこ遊技機は、

遊技球が入球可能な主遊技始動口と、

所定の入球口に取り付けられ、開放状態及び閉鎖状態に変位可能な可変部材と、

閉状態と開状態とを採り得る可変入賞口と、

主遊技識別情報を表示可能な主遊技識別情報表示部と、

主遊技始動口への入球に基づき、主遊技情報を取得する取得手段と、

取得手段が取得した主遊技情報に基づき、主遊技識別情報表示部にて主遊技識別情報を
変動表示させた後で停止表示するよう制御する主遊技識別情報表示制御手段と、

取得手段が取得した主遊技情報に基づき当否判定を実行し、当否判定の結果が当選であ
って主遊技識別情報表示部にて主遊技識別情報が所定態様の停止表示態様にて停止表示さ
れた後、可変入賞口を遊技者にとって有利な状態とし得る特別遊技を実行する特別遊技制
御手段と

を備え、

可変部材の開放容易性に関する遊技状態として、通常遊技状態と、通常遊技状態よりも
可変部材が開放し易い特定遊技状態とを有しており、

特定遊技状態として、特定遊技状態A（例えば、時短A）と特定遊技状態D（例えば、
時短B又は時短C）とを有し、

当否判定の結果が当選であって主遊技識別情報が所定態様の停止表示態様にて停止表示
されることを契機として特定遊技状態Aとなり得るよう構成され、当該特定遊技状態Aで
ある場合、主遊技識別情報の変動表示開始から停止表示までを一単位とし、特定遊技状態
Aとなったときから起算して当該一単位が第一所定回数行われるまでは、通常遊技状態と
しないよう制御し得るよう構成されており、

当否判定の結果が当選であって主遊技識別情報が所定態様の停止表示態様にて停止表示
されること以外を契機として特定遊技状態Dとなり得るよう構成され、当該特定遊技状態
Dである場合、主遊技識別情報の変動表示開始から停止表示までを一単位とし、特定遊技
状態Dとなったときから起算して当該一単位が第二所定回数行われるまでは、通常遊技状
態としないよう制御し得るよう構成されており、

第一所定回数よりも第二所定回数の方が多い回数となるよう構成されており、

特定遊技状態Aにおける主遊技識別情報の変動表示時間よりも、特定遊技状態Dにおけ
る主遊技識別情報の変動表示時間の方が、相対的に短いものを採り易くなるよう構成され
ている

ことを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【3785】

態様（F7）に係るぱちんこ遊技機は、

遊技球が入球可能な主遊技始動口と、

所定の入球口に取り付けられ、開放状態及び閉鎖状態に変位可能な可変部材と、

閉状態と開状態とを採り得る可変入賞口と、

主遊技識別情報を表示可能な主遊技識別情報表示部と、

演出を表示可能な演出表示部と、

遊技の進行を制御する主遊技部と、

演出の制御を司る副遊技部と

を備え、

主遊技部は、

主遊技始動口への入球に基づき、主遊技情報を取得する取得手段と、

取得手段により主遊技情報が取得された場合、当該取得された主遊技情報を保留として
一時記憶する記憶手段と、

取得手段が取得した主遊技情報に基づき、特殊抽選を実行する特殊抽選実行手段と

10

20

30

40

50

取得手段が取得した主遊技情報に基づき、主遊技識別情報表示部にて主遊技識別情報を変動表示させた後で停止表示するよう制御する主遊技識別情報表示制御手段と、

取得手段が取得した主遊技情報に基づき当否判定を実行し、当否判定の結果が当選であって主遊技識別情報表示部にて主遊技識別情報が所定態様の停止表示態様にて停止表示された後、可変入賞口を遊技者にとって有利な状態とし得る特別遊技を実行する特別遊技制御手段と、

副遊技部側で実行される演出に際して必要な遊技情報を副遊技部側へ送信する遊技情報送信手段と

を備え、

副遊技部は、

主遊技部から送信された遊技情報を受信する遊技情報受信手段と、

遊技情報受信手段により或る保留に関する情報が受信された場合、当該或る保留の存在を示唆又は報知する先読み演出を実行し得るよう制御する先読み演出実行制御手段とを備え、

可変部材の開放容易性に関する遊技状態として、通常遊技状態と、通常遊技状態よりも可変部材が開放し易い特定遊技状態とを有しており、

特定遊技状態として、特定遊技状態Aと特定遊技状態Cとを有し、

当否判定の結果が当選であって主遊技識別情報が所定態様の停止表示態様にて停止表示されることを契機として特定遊技状態A（例えば、時短A）となり得るよう構成されており、

特殊抽選の結果に基づき主遊技識別情報の停止表示態様を決定し、該決定した停止表示態様が特殊停止表示態様（例えば、時短図柄）である場合に特定遊技状態C（例えば、時短C）となり得るよう構成されており、

或る保留に関する情報として、少なくとも、当否判定の結果が当選であることを示す或る保留に関する情報A（例えば、トリガ保留が当たりとなる保留の情報）と特殊抽選の結果が特殊停止表示態様であることを示す或る保留に関する情報C（例えば、トリガ保留が時短図柄となる保留の情報）とを有し、

先読み演出として、先読み演出Aと先読み演出Cとを有し、

副遊技部は、遊技情報受信手段により或る保留に関する情報Aを受信した場合、先読み演出Aを実行し得るよう制御し、遊技情報受信手段により或る保留に関する情報Cを受信した場合、先読み演出Cを実行し得るよう制御するよう構成されていることを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【3786】

態様（F8）に係るぱちんこ遊技機は、

遊技球が入球可能な主遊技始動口と、

所定の入球口に取り付けられ、開放状態及び閉鎖状態に変位可能な可変部材と、

主遊技識別情報を表示可能な主遊技識別情報表示部と、

演出を表示可能な演出表示部と、

主遊技始動口への入球に基づき、主遊技情報を取得する取得手段と、

取得手段が取得した主遊技情報に基づき、主遊技識別情報表示部にて主遊技識別情報を変動表示させた後で停止表示するよう制御する主遊技識別情報表示制御手段とを備え、

可変部材の開放容易性に関する遊技状態として、通常遊技状態と、通常遊技状態よりも可変部材が開放し易い特定遊技状態とを有しており、

主遊技識別情報の変動表示開始から停止表示までを一単位とし、一単位が特定回数（例えば、1000回）行われることを契機として特定遊技状態（例えば、時短B）となり得るよう構成されており、

一単位が特定回数行われるまでの一単位に係る残り回数に関する情報を示唆する演出である残り回数示唆演出を実行可能であるよう構成されている

ことを特徴とするぱちんこ遊技機である。

10

20

30

40

50

【3787】

態様（F9）に係るぱちんこ遊技機は、
 遊技球が入球可能な主遊技始動口と、
 所定の入球口に取り付けられ、開放状態及び閉鎖状態に変位可能な可変部材と、
 主遊技識別情報を表示可能な主遊技識別情報表示部と、
 演出を表示可能な演出表示部と、
 主遊技始動口への入球に基づき、主遊技情報を取得する取得手段と、
 取得手段が取得した主遊技情報に基づき、主遊技識別情報表示部にて主遊技識別情報を
 変動表示させた後で停止表示するよう制御する主遊技識別情報表示制御手段と
 を備え、

10

可変部材の開放容易性に関する遊技状態として、通常遊技状態と、通常遊技状態よりも
 可変部材が開放し易い特定遊技状態とを有しており、

主遊技識別情報の変動表示開始から停止表示までを一単位とし、一単位が特定回数（例
 えば、1000回）行われることを契機として特定遊技状態（例えば、時短B）となり得
 るよう構成されており、

一単位が特定回数行われるまでの一単位に係る残り回数に関する情報を示唆する演出で
 ある残り回数示唆演出を実行可能であるよう構成されており、

電源投入時に残り回数示唆演出の実行を制限するよう構成されている
 ことを特徴とするぱちんこ遊技機である。

【3788】

20

これまでの「停止表示」について、「暫定的に停止表示」、「確定的に停止表示」との
 表現ではなく、単に「停止表示」と記載している停止表示の態様は、暫定的に停止表示し
 ている態様と確定的に停止表示している態様との両方の態様を含む。

【符号の説明】

【3789】

M 主制御基板

MN11t a-A 第1主遊技用当否抽選テーブル、MN11t a-B 第2主遊技用当否
 抽選テーブル

MN11t a-H 補助遊技用当否抽選テーブル、MN41t a-A 第1主遊技図柄決定
 用抽選テーブル

30

MN41t a-B 第2主遊技図柄決定用抽選テーブル、MN41t a-H 補助遊技図柄
 決定用抽選テーブル

MN51t a-A 第1主遊技変動態様決定用抽選テーブル、MN51t a-B 第2主遊
 技変動態様決定用抽選テーブル

MN51t a-H 補助遊技変動態様決定用抽選テーブル、MP11t-C 第1・第2主
 遊技図柄変動管理用タイマ

MP11t-H 補助遊技図柄変動管理用タイマ、MP22t-B 第2主遊技始動口電動
 役物開放タイマ

MP33c 入賞球カウンタ、MP34t 特別遊技用タイマ

MP52c 時短回数カウンタ、MT10 コマンド送信用バッファ

40

A 第1主遊技周辺機器、A10 第1主遊技始動口

A11s 第1主遊技始動口入球検出装置、A20 第1主遊技図柄表示装置

A21g 第1主遊技図柄表示部、A21h 第1主遊技図柄保留表示部

B 第2主遊技周辺機器、B10 第2主遊技始動口

B11s 第2主遊技始動口入球検出装置、B11d 第2主遊技始動口電動役物

B20 第2主遊技図柄表示装置、B21g 第2主遊技図柄表示部

B21h 第2主遊技図柄保留表示部

C 第1・第2主遊技共用周辺機器、C10 第1大入賞口

C11s 第1大入賞口入賞検出装置、C11d 第1大入賞口電動役物

C20 第2大入賞口、C21s 第2大入賞口入賞検出装置

50

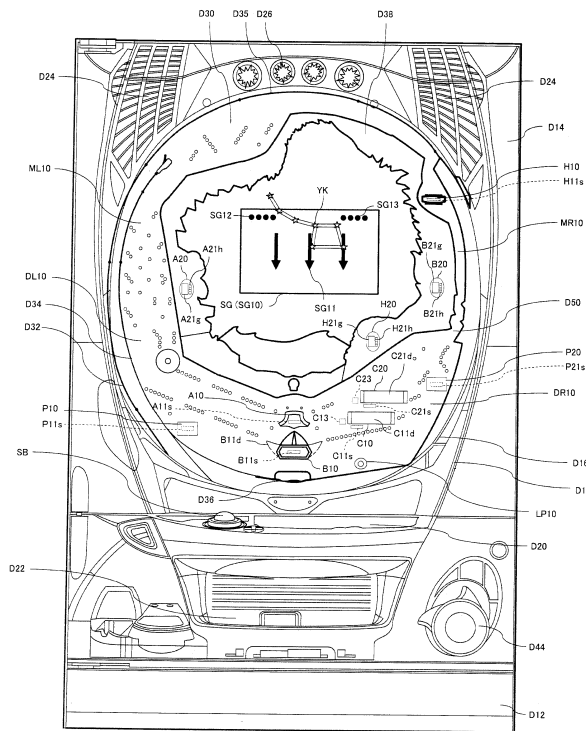
C 2 1 d 第2大入賞口電動役物、D 3 0 遊技領域	
D 4 4 発射ハンドル	
D 3 2 外レール、D 3 4 内レール	
H 補助遊技周辺機器、H 1 0 補助遊技始動口	
H 1 1 s 補助遊技始動口入球検出装置、H 2 0 補助遊技図柄表示装置	
H 2 1 g 補助遊技図柄表示部、H 2 1 h 補助遊技図柄保留表示部	
S 副制御基板、S M 演出表示制御手段（サブメイン制御基板）	
S G 演出表示装置	
S G 1 0 表示領域、S G 1 1 装飾図柄表示領域	
S G 1 2 第1保留表示部、S G 1 3 第2保留表示部	10
K H 賞球払出制御基板	
K E 賞球払出装置、K E 1 0 払出ユニット	
D 1 6 透明板、K R 賞球レール	
K T 賞球タンク、K H 賞球払出制御基板	
E a 電源スイッチ、D 4 2 発射装置	
E 電源供給ユニット、D 4 0 発射制御基板	
D L 1 0 左打ち領域、D R 1 0 右打ち領域	
M L 1 0 左打ちルート（第1流下ルート）、M R 1 0 右打ちルート（第2流下ルート）	
D 5 0 右打ちルート流出口 N K c 入球数カウンタ	
P 1 0 左一般入賞口、P 2 0 右一般入賞口	20
H S c 左打ち指示カウンタ、M S c 右打ち指示カウンタ	
M P 5 1 c 確変回数カウンタ、M N 5 2 c 限定頻度カウンタ	
M P 4 1 t 小当り遊技用タイマ、M P 4 1 t - 2 排出待機タイマ	
C 2 2 特定領域（V入賞口）、C 2 0 - 1 箱状部材	
C 2 3 第2大入賞口排出口、C 2 3 s 第2大入賞口排出検出装置	
C 2 4 上遮蔽部材、C 2 5 下遮蔽部材	
C 2 2 s V入賞口入球検出装置	
S M 2 6 c 先読み演出実行カウンタ S M 2 4 t 電源投入タイマ	
S M 2 3 c 滞在ステージ管理カウンタ、S M 2 3 c 2 連荘回数カウンタ	
S B サブ入力ボタン、S B s サブ入力ボタン入力検出装置	30
K H 賞球払出制御基板、K E 賞球払出装置	
3 1 0 0 送受信制御手段	
3 1 1 0 受信制御手段、3 1 1 1 メイン側受信情報一時記憶手段	
3 1 1 2 E C O ユニット側受信情報一時記憶手段、3 2 1 0 送信制御手段	
3 3 0 0 払出制御手段、3 3 1 0 払出処理関連情報一時記憶手段	
3 3 1 1 a 第1主遊技始動口入賞カウンタ、3 3 1 1 b 第2主遊技始動口入賞カウンタ	
3 3 1 1 c 第1大入賞口入賞カウンタ、3 3 1 1 d 第2大入賞口入賞カウンタ	
3 3 1 1 e 一般入賞口入賞カウンタ、3 3 1 2 持ち球数カウンタ	
3 3 1 3 封入遊技球数カウンタ、3 4 0 0 発射制御手段	
3 4 1 0 発射制御関連情報一時記憶手段、3 5 0 0 電断時・電断復帰時初期処理制御手段	40
3 5 1 0 電断時情報一時記憶手段	
4 0 発射制御装置、4 2 発射装置	
K S 賞球許可センサ類、E U E C O ユニット	
5 0 操作部装置	
P 回胴式遊技機、D U 前扉（ドア）	
D 扉基板、D 1 0 s 投入受付センサ	
D 2 0 s 第1投入センサ、D 3 0 s 第2投入センサ	
D 4 0 停止ボタン、D 4 1 左停止ボタン	
D 4 2 中停止ボタン、D 4 3 右停止ボタン	
D 5 0 スタートレバー、D 6 0 精算ボタン	50

D 7 0	表示パネル、D 8 0	扉スイッチ	
D 9 0	コインシュータ、D 1 0 0	ブロッカ	
D 1 3 0	上パネル、D 1 4 0	下パネル	
D 1 5 0	装飾ランプユニット、D 1 6 0	リール窓	
D 1 7 0	メダル投入口、D 1 8 0	スタートランプ	
D 2 9 0	再遊技ランプ、D 3 0 0	投入可能ランプ	
D 2 0 0	クレジット数表示装置、D 2 1 0	投入数表示灯	
D 2 2 0	ベットボタン、D 2 3 0	メダル受け皿	
D 2 4 0	放出口、D 2 5 0	特別遊技状態表示装置	
D 2 6 0	鍵穴、D 2 7 0	払出数表示装置（押し順表示装置）	10
D 2 8 0	A Tカウンタ値表示装置		
D 3 1 0	リール窓枠ランプ		
D 3 4 0	メダル返却部材		
D 3 4 1	メダル受入口		
D 3 4 2	メダル落下面		
D 3 4 3	メダル非落下面		
M	主制御基板		
M 2 0	設定キースイッチ、M 3 0	設定／リセットボタン	
C	主制御チップ、M 5 0	リール	
M 5 1	左リール、M 5 2	中リール	20
M 5 3	右リール、M 6 0	A Tカウンタ	
M 7 0	遊技間隔最小タイマ		
S	副制御基板、S 1 0	L E Dランプ	
S 2 0	スピーカ、S 3 0	回胴バックライト	
S 4 0	演出表示装置、S C	副制御チップ	
E	電源基板、E 1 0	電源スイッチ	
H	メダル払出装置、H 1 0 s	第1払出センサ	
H 2 0 s	第2払出センサ、H 4 0	ホッパ	
H 5 0	ディスク、H 5 0 a	ディスク回転軸	
H 6 0	遊技メダル出口、H 7 0	放出付勢手段	30
H 8 0	ホッパモータ		
S 5 0	ベットボタンランプ、S 6 0	停止ボタンランプ	
K	回胴基板、K 1 0	回胴モータ	
K 2 0	回胴センサ		
I N	中継基板、S B	サブ入力ボタン	
K H c	高確保障カウンタ、Y K c - 1	有利区間残りゲーム数カウンタ	
F Z t	フリーズ実行タイマ		
R U	リールユニット、B U	台座部、H 6 2	排出案内内部、H 6 4
H S	メダル補助タンク、B S	ビス、D E	満杯検知電極
M 5 5	第1の端部、M 5 7	第2の端部、M 5 8	重畳部分、M 5 9
M W	リール枠、M O	リール帯	40

【図面】

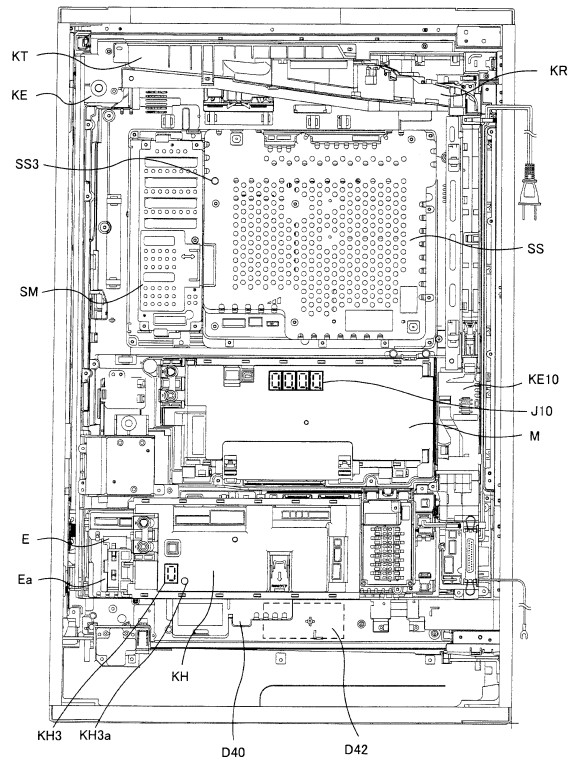
【図 1】

(図 1)



【図 2】

(図 2)

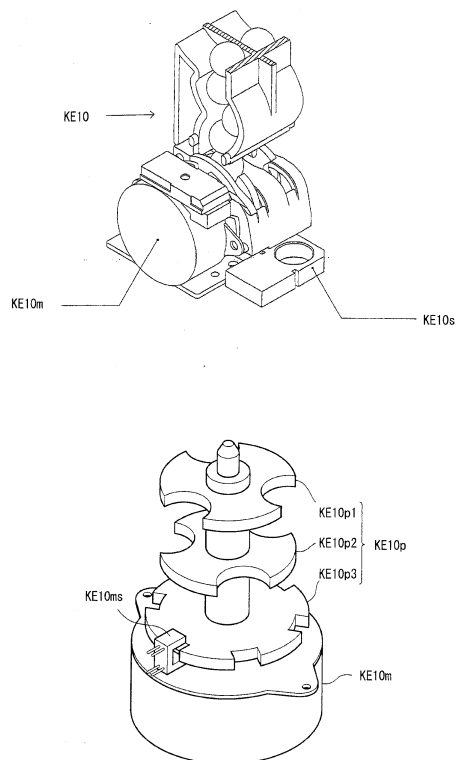


10

20

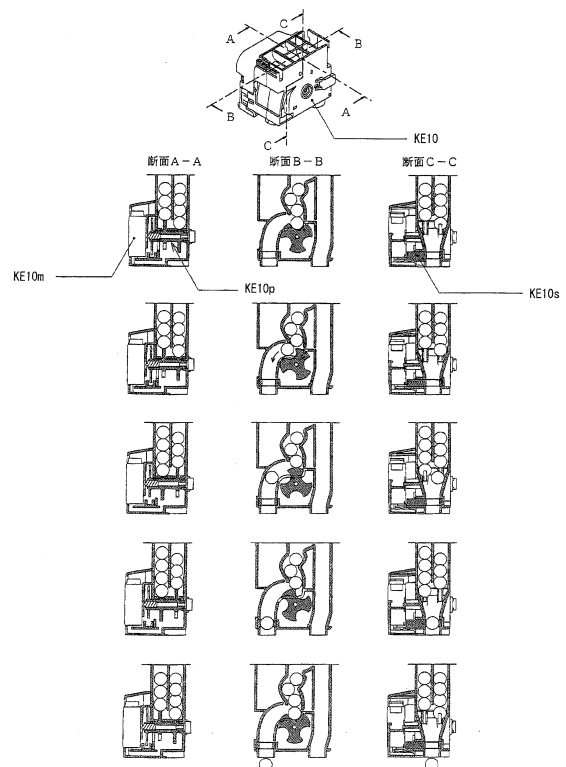
【図 3】

(図 3)



【図 4】

(図 4)

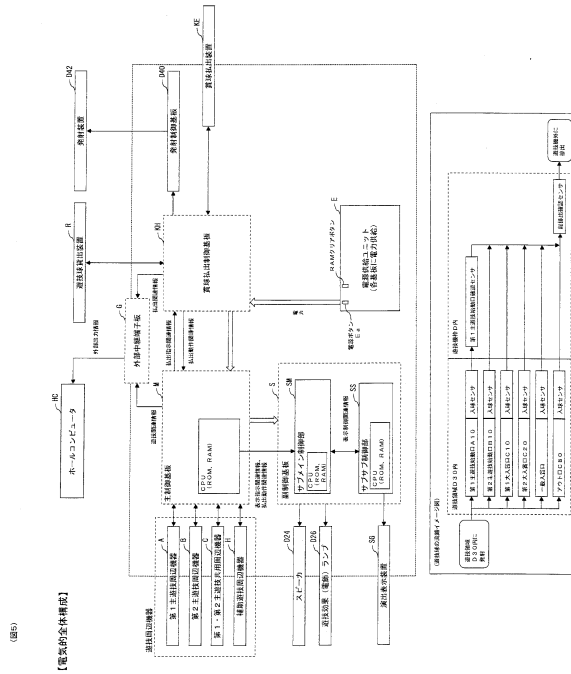


30

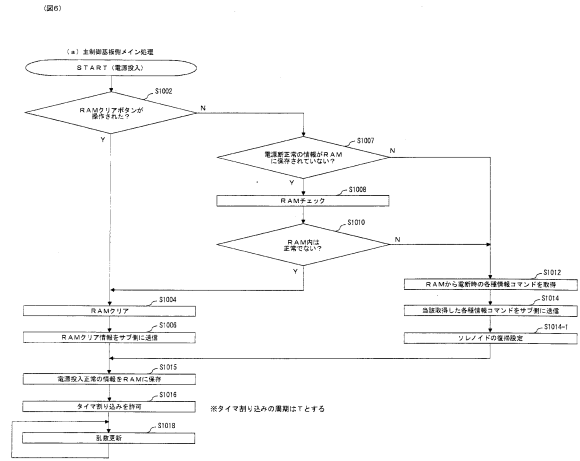
40

50

【図 5】



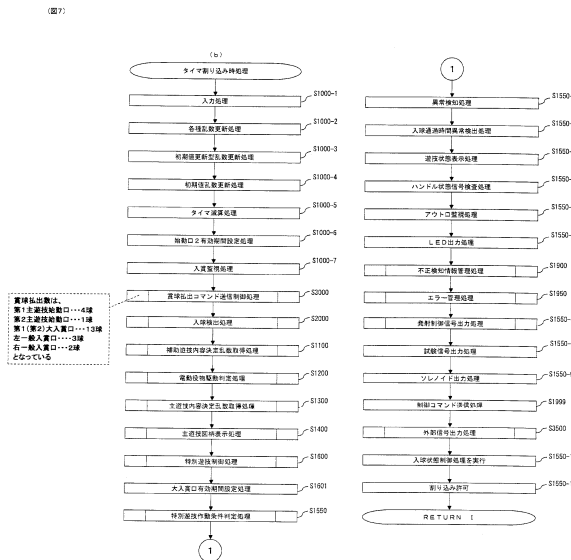
【図 6】



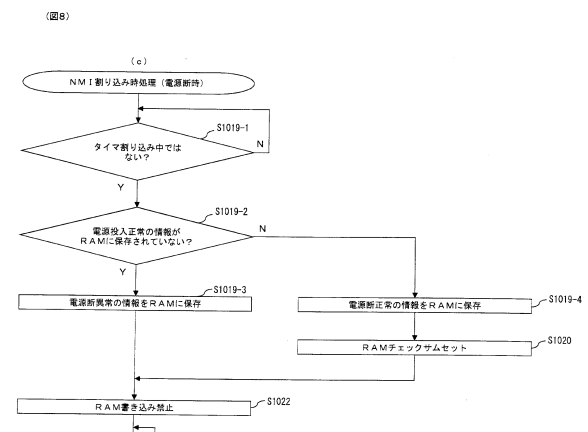
10

20

【図 7】



【圖 8】



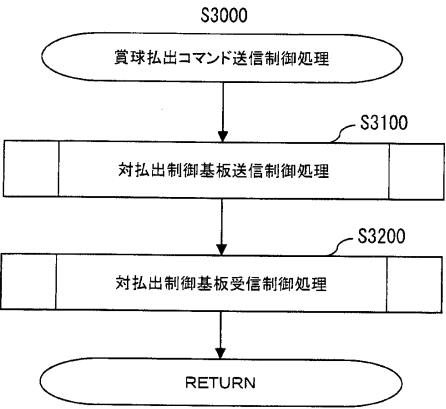
30

40

50

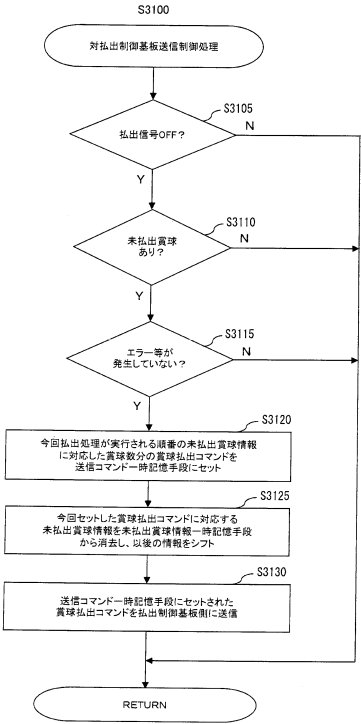
【図 9】

(図9)



【図 10】

(図10)



【図 11】

(図11)

賞球払出コマンド

7	6	5	4	3	2	1	0
1	0	0	1				A

払出関連情報

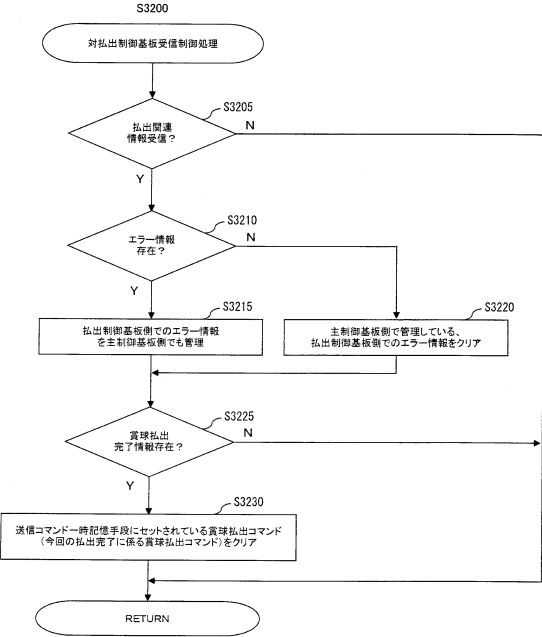
7	6	5	4	3	2	1	0
0	B	C	D	E	F	G	H

A	賞球払出数
0000	0
0001	1
0010	2
0011	3
0100	4
0101	5
0110	6
0111	7
1000	8
1001	9
1010	10
1011	11
1100	12
1101	13
1110	14
1111	15

B	払出モータ動作エラー	F	賞球装置エラー
0	無	0	無
1	有	1	有
C	過剰払出エラー	G	受け皿満タンエラー
0	無	0	無
1	有	1	有
D	球経路エラー	H	払出状態
0	無	0	払出完了
1	有	1	払出未完了
E	払出モータエラー		
0	無		
1	有		

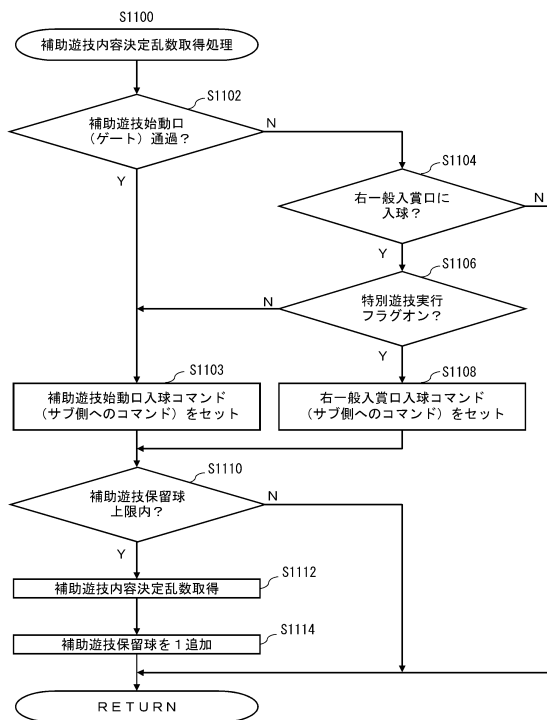
【図 12】

(図12)



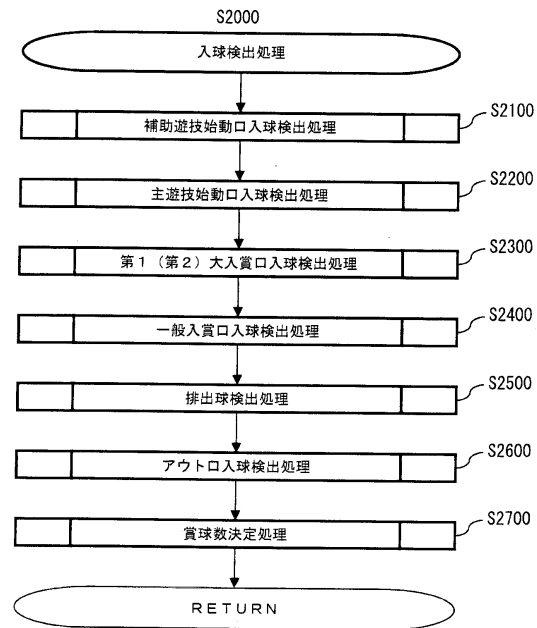
【図 13】

(図 13)



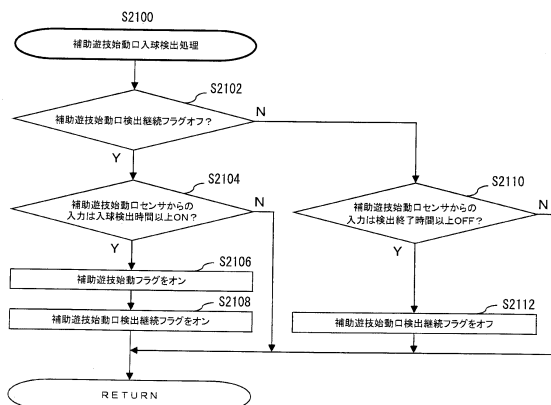
【図 14】

(図 14)



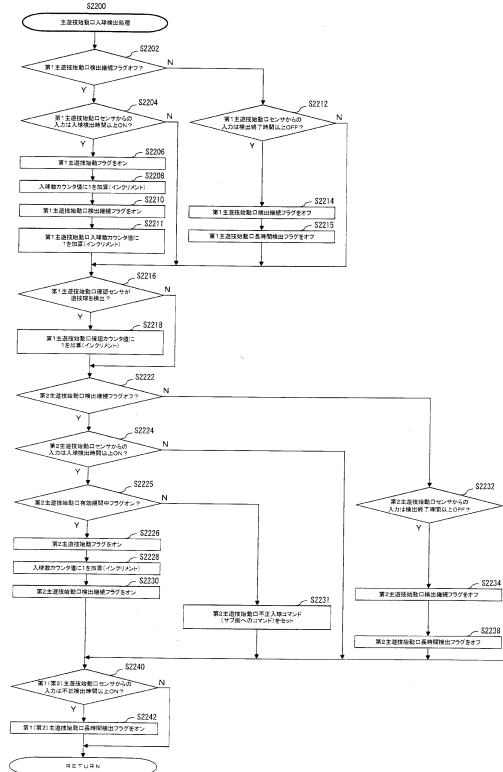
【図 15】

(図 15)



【図 16】

(図 16)



10

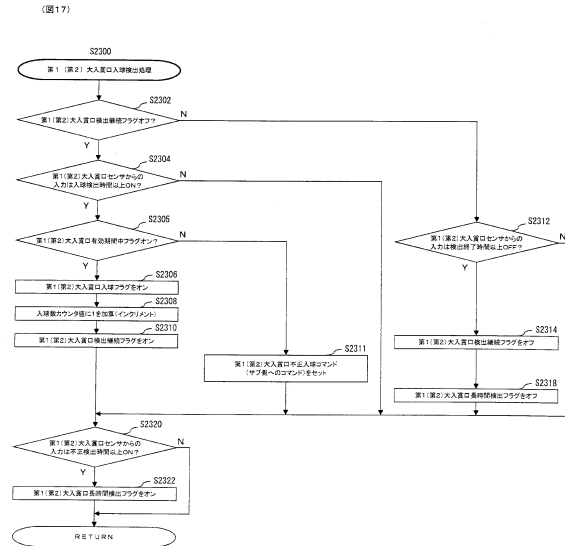
20

30

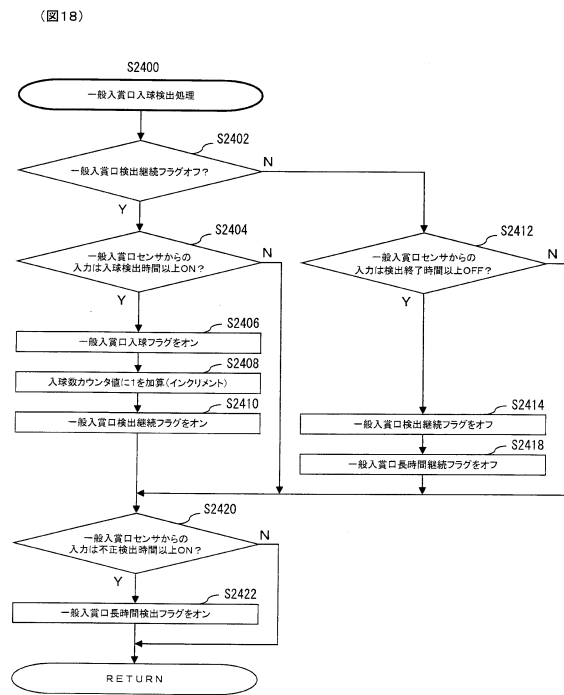
40

50

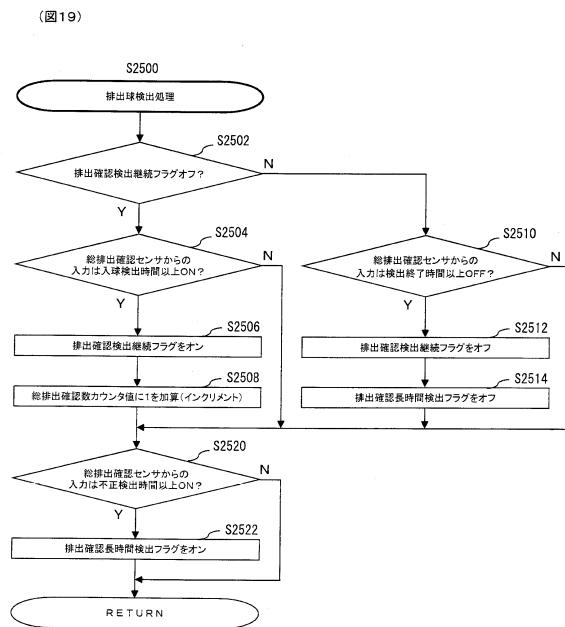
【図 17】



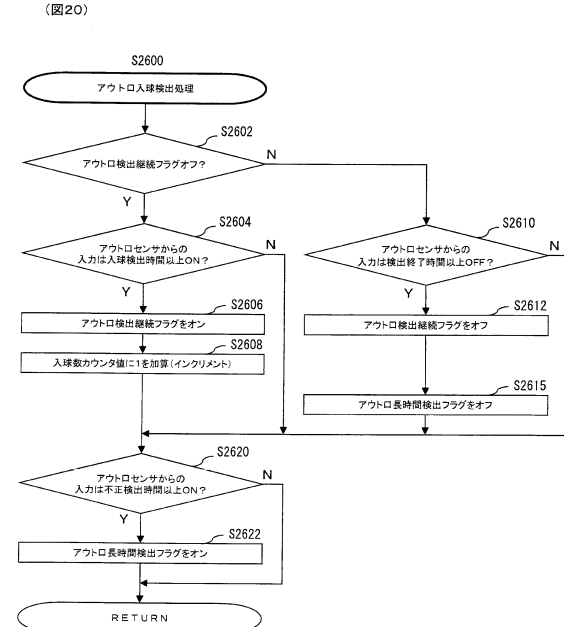
【図 18】



【図 19】



【図 20】



10

20

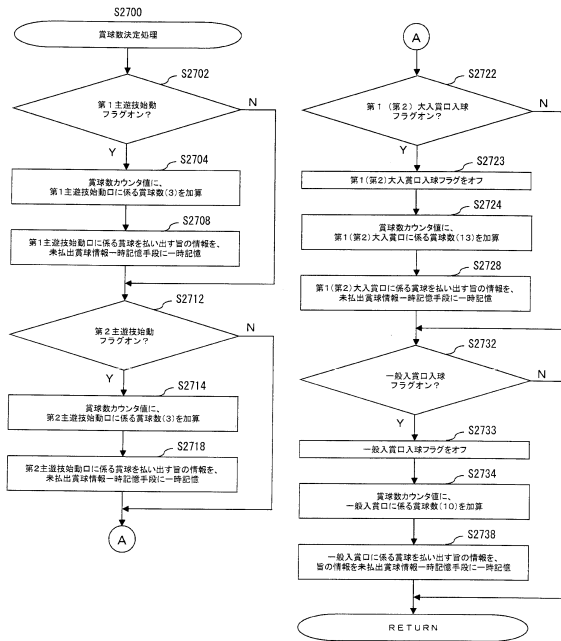
30

40

50

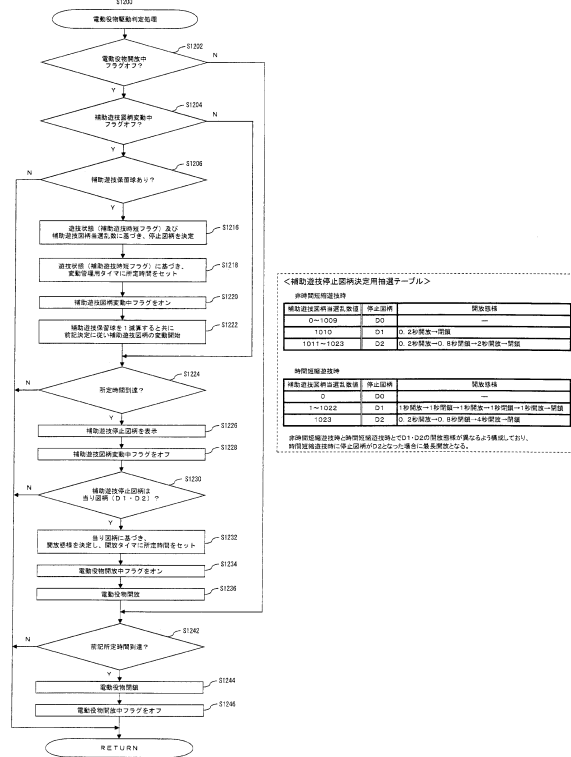
【図 2 1】

(圖21)



【圖 22】

(圖22)

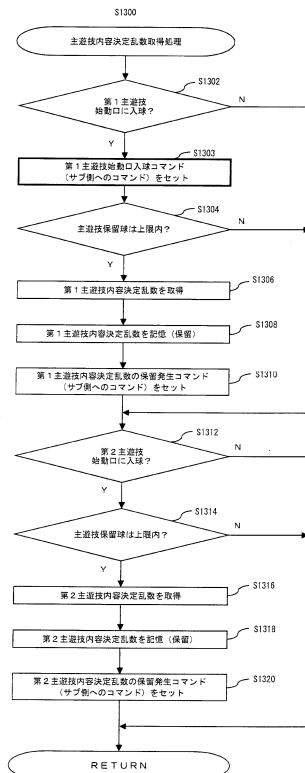


10

20

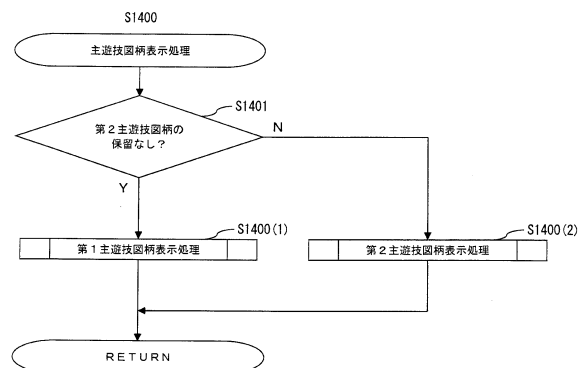
【図 23】

(圖23)



【図 24】

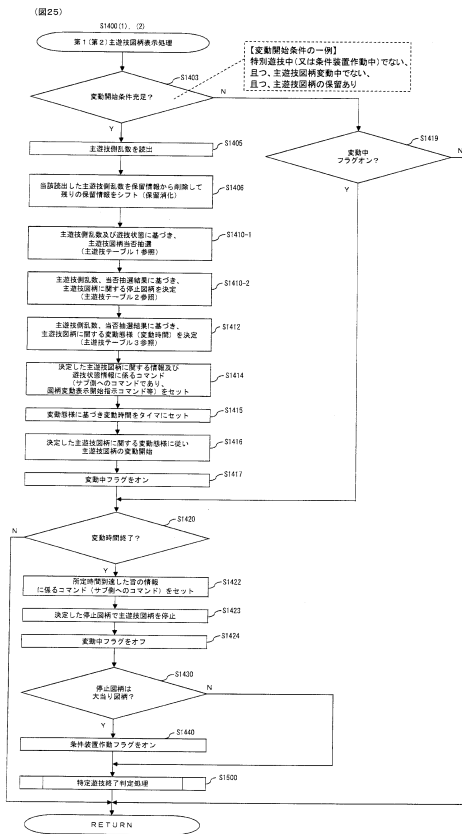
(图24)



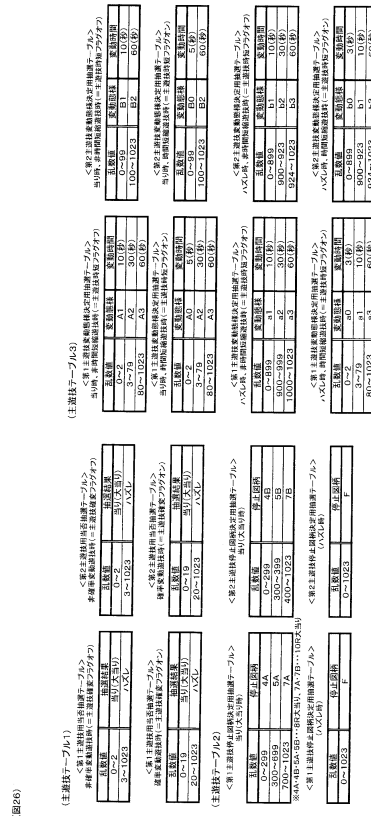
30

40

【図 25】

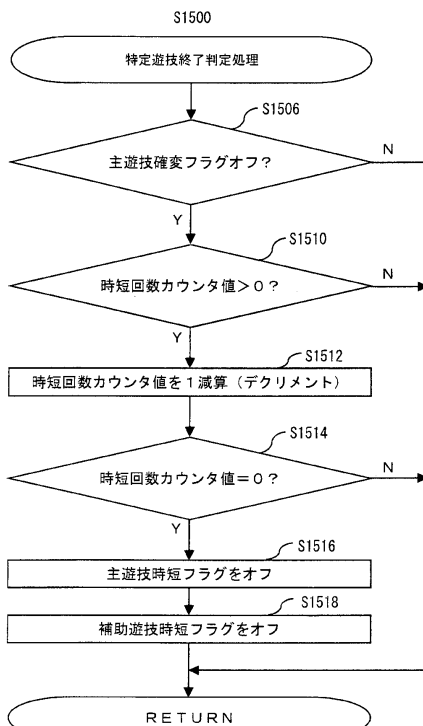


【図 26】



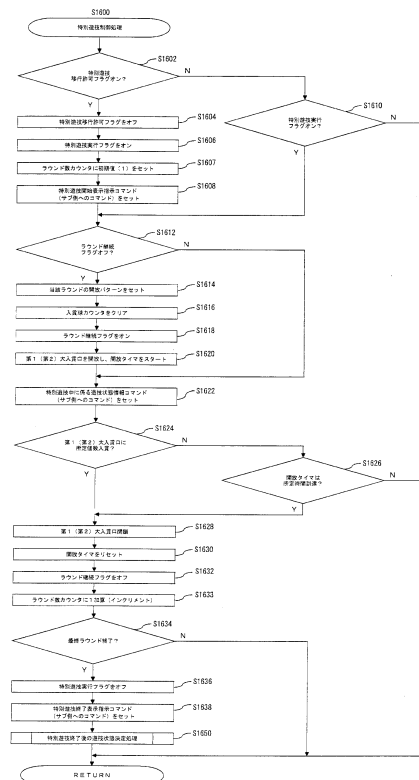
【図 27】

(圖27)



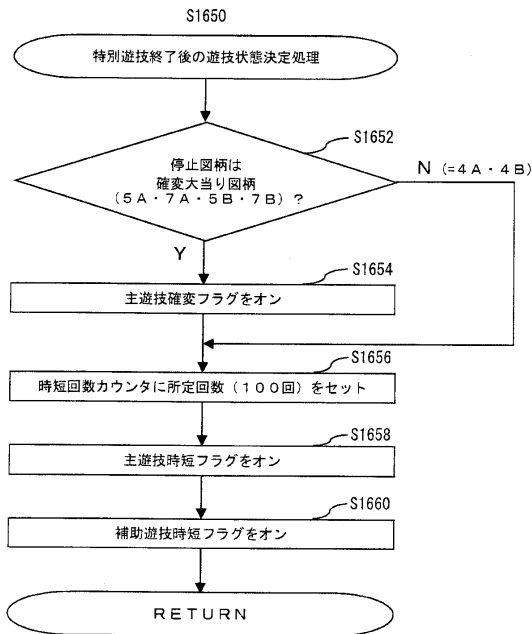
【図 28】

(圖28)



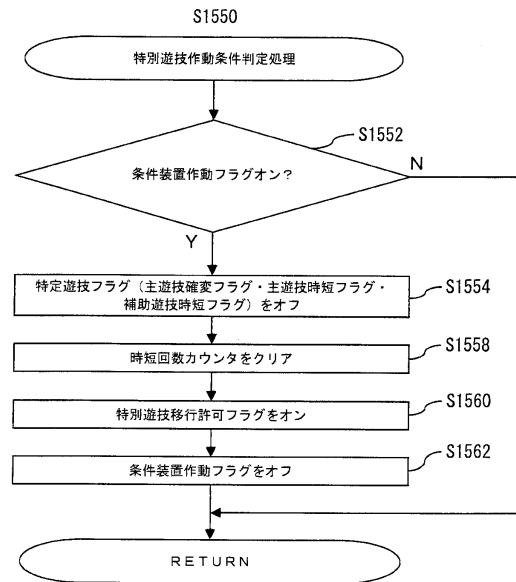
【図 29】

(図29)



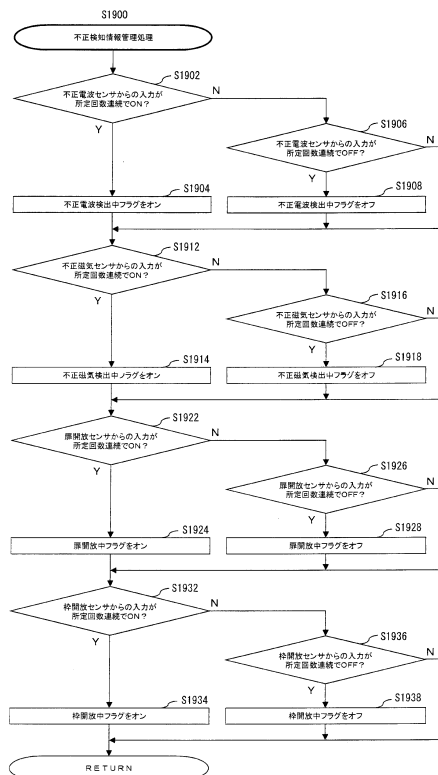
【図 30】

(図30)



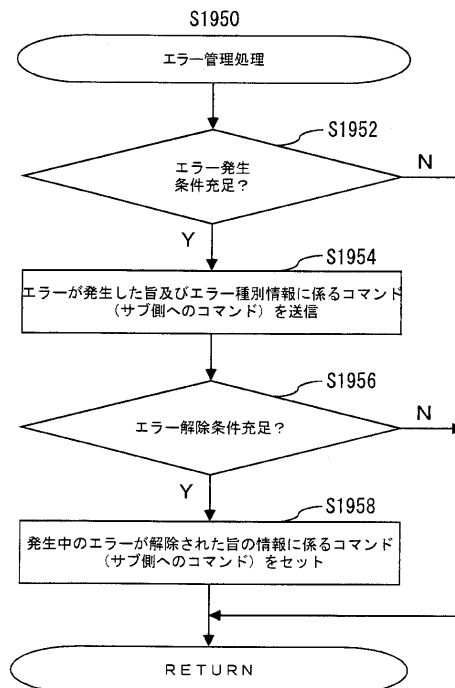
【図 31】

(図31)



【図 32】

(図32)



10

20

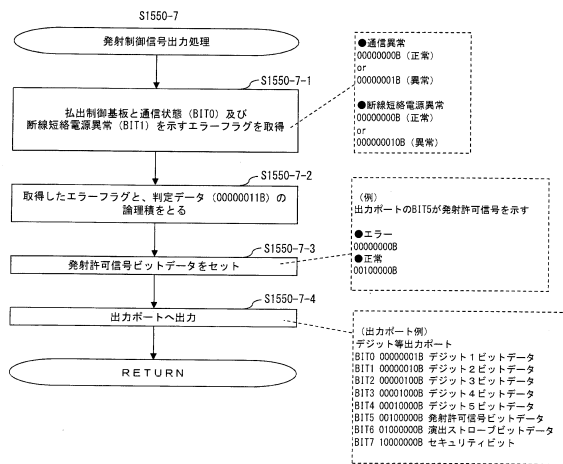
30

40

50

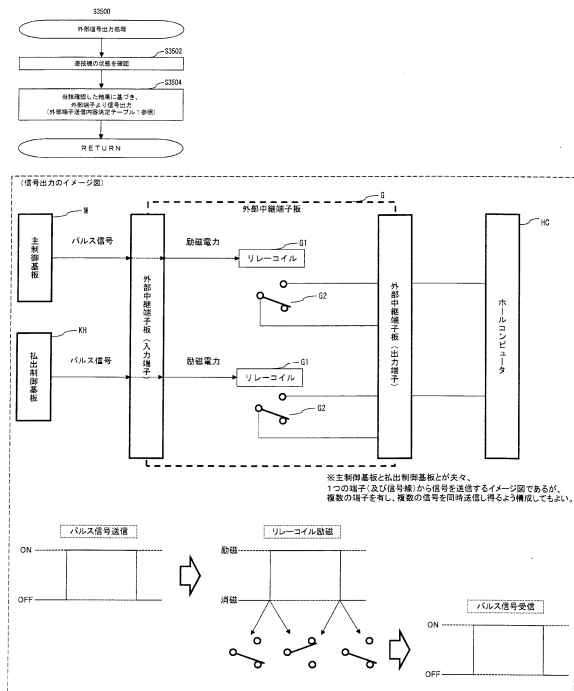
【図 3 3】

(圖33)



【圖 3 4】

(圖34)

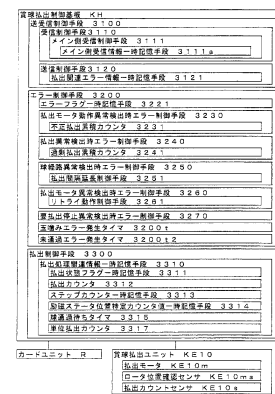
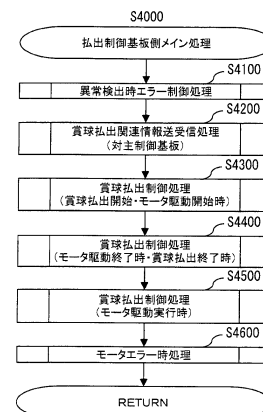


【図 35】

[illegible]

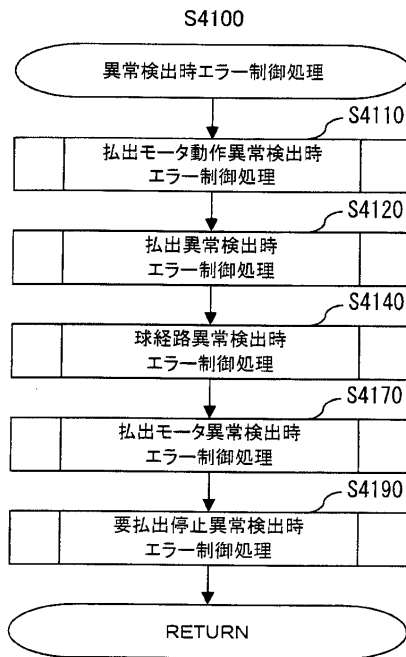
【図 3 6】

(圖36)



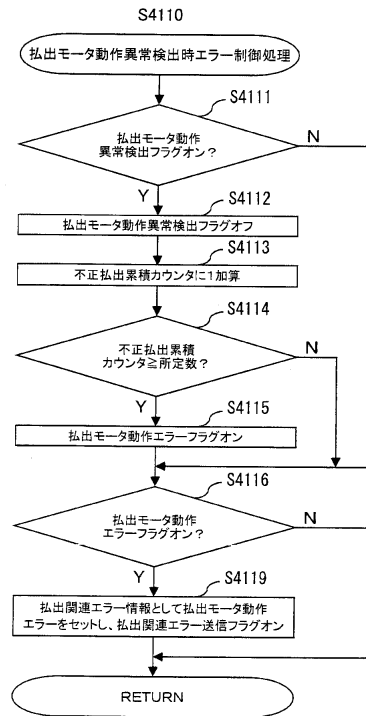
【図 37】

(図37)



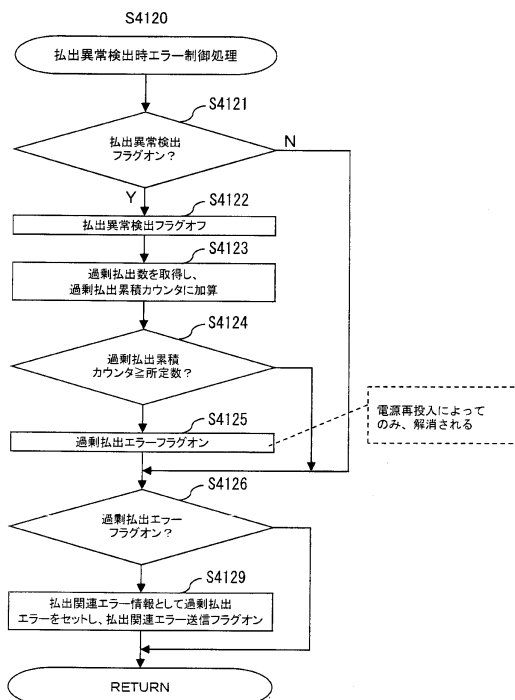
【図 38】

(図38)



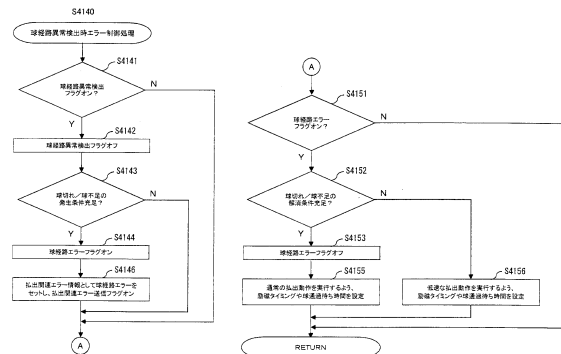
【図 39】

(図39)



【図 40】

(図40)



10

20

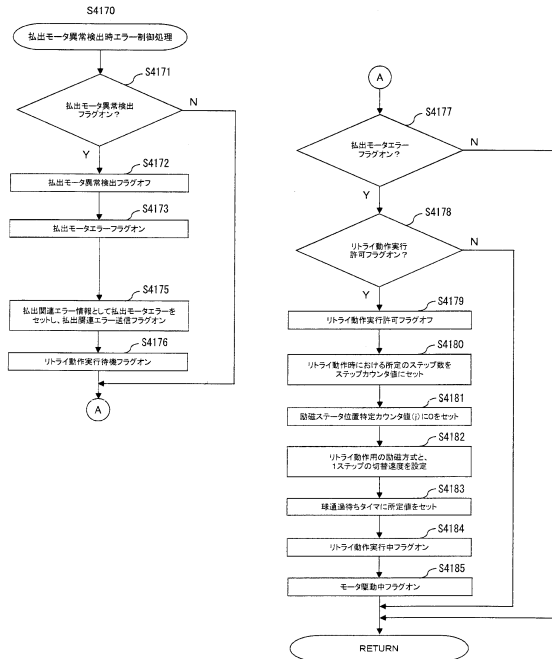
30

40

50

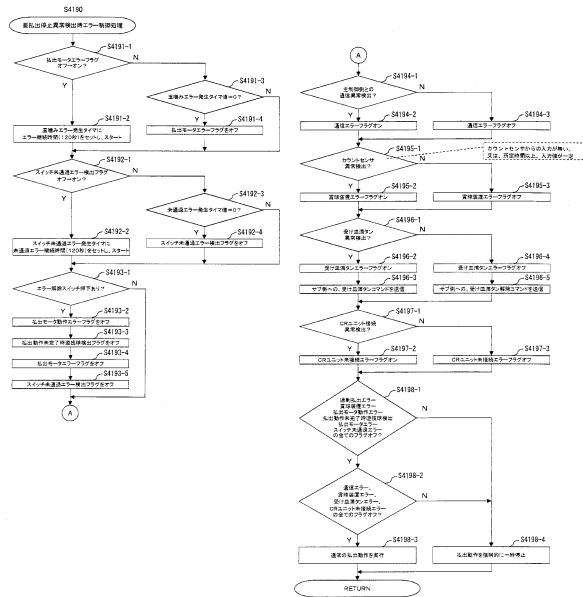
【図 4 1】

(图41)



【図 4 2】

(圖42)

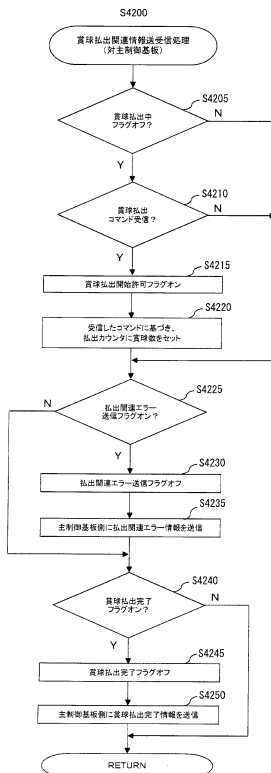


10

20

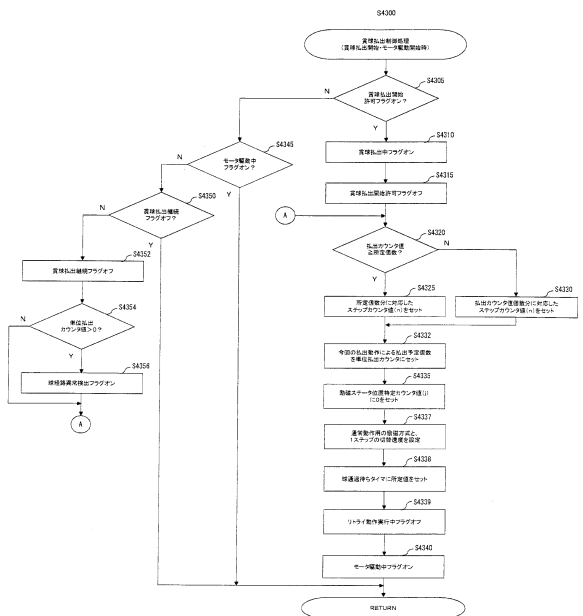
【図 4 3】

(圖43)



【圖 44】

(圖44)

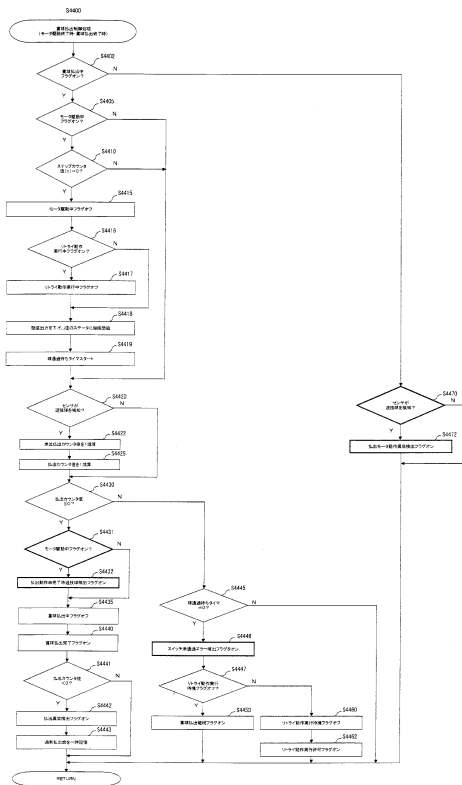


30

40

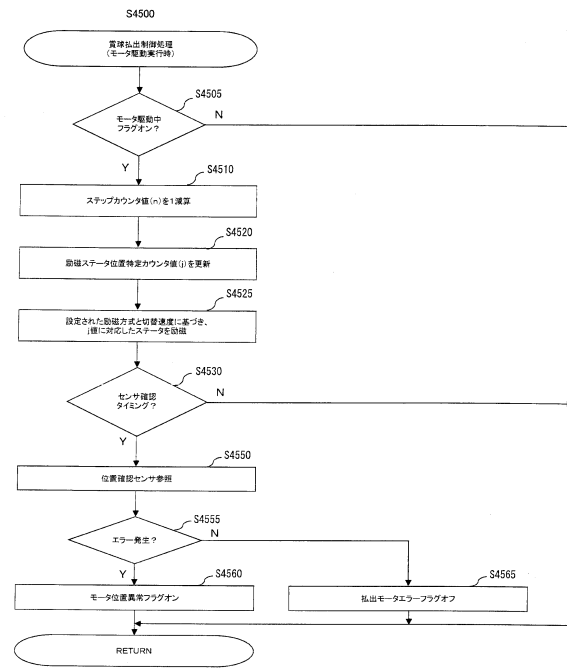
【図 45】

〈圖43〉



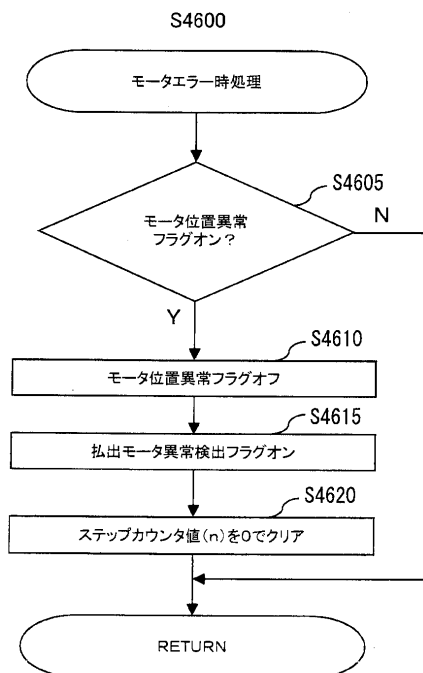
【圖 46】

(图46)



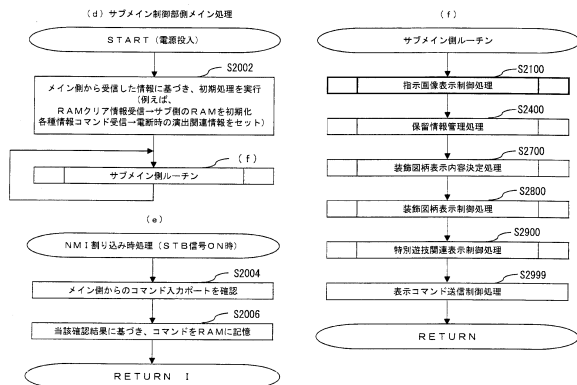
【図 47】

(圖47)



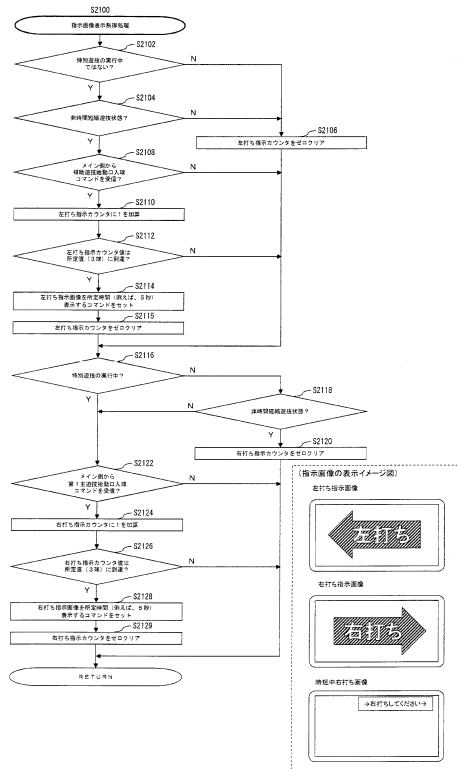
【圖 48】

(图48)



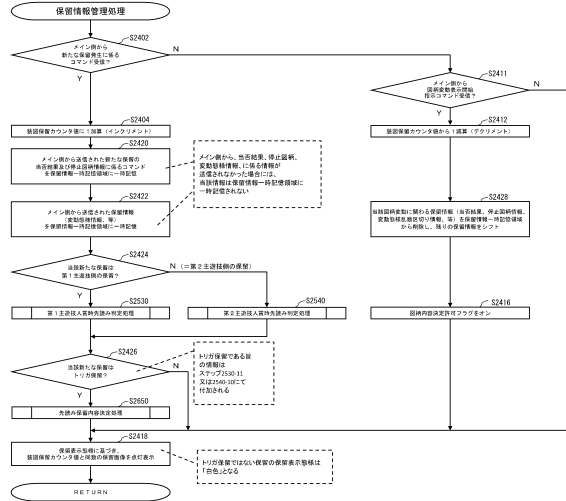
【図 49】

(249)



【図 50】

(圖 50)

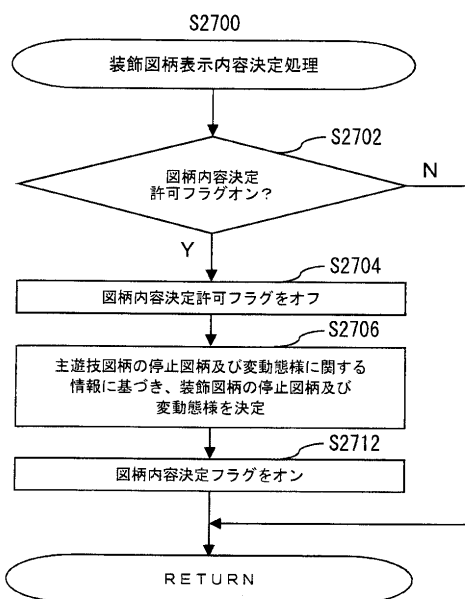


10

20

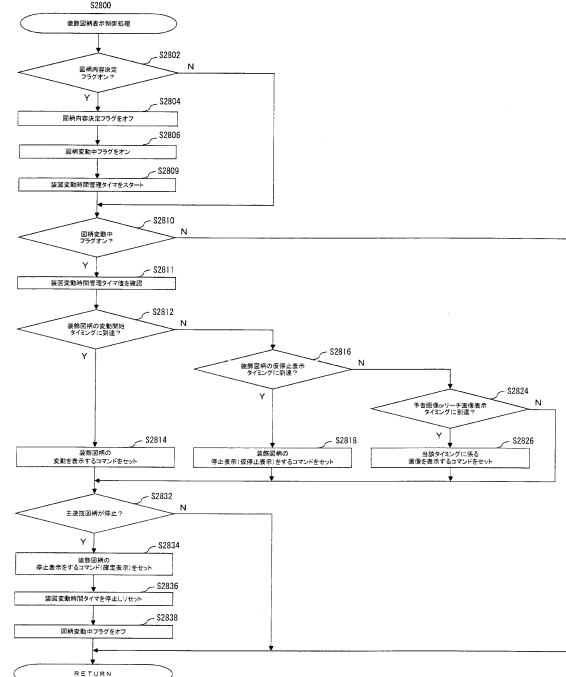
【図 5 1】

(圖51)



【図 5 2】

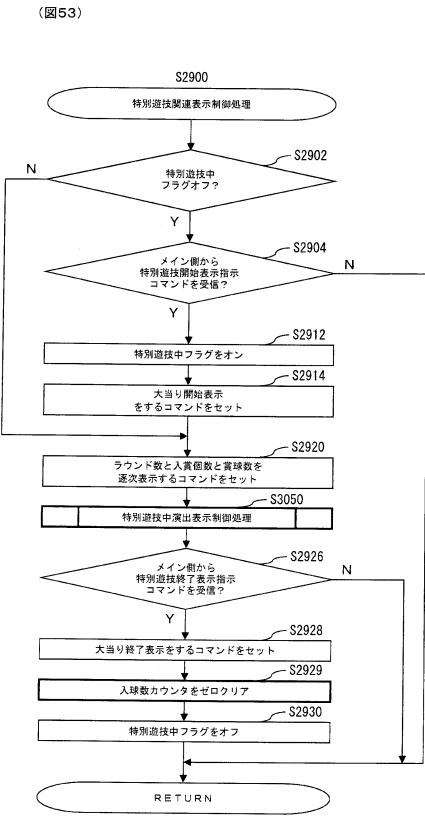
(圖52)



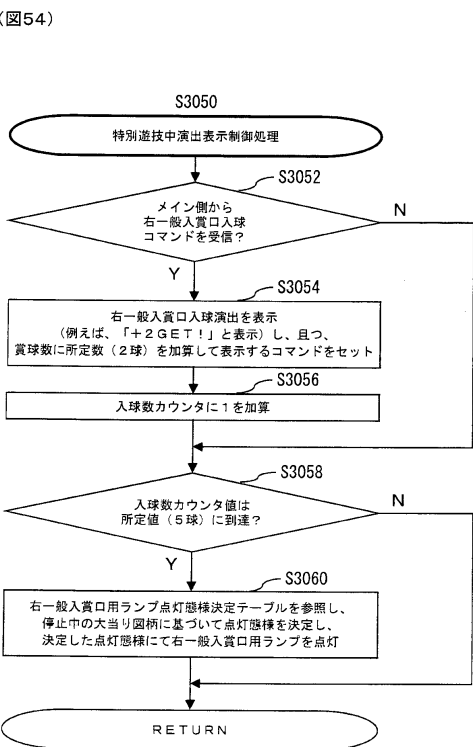
30

40

【図 5 3】



【図 5 4】



【図 5 5】

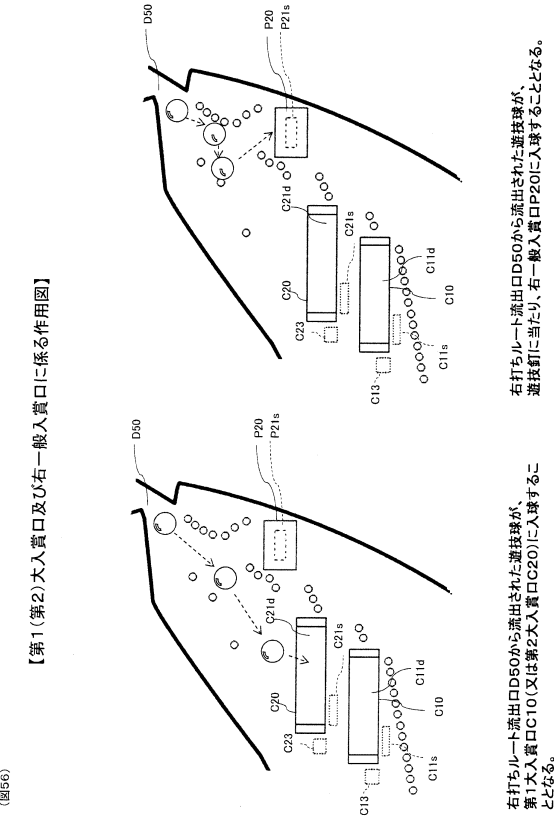
(図55)

【右一般入賞口用ランプ点灯態様決定テーブルの一例】

【確変大当たり図柄停止時(5A、7A、5B、7B)】【非確変大当たり図柄停止時(4A、4B)】

置数	点灯態様	置数	点灯態様
0～29	虹色	—	虹色
30～429	赤色	0～99	赤色
430～749	緑色	100～299	緑色
750～949	青色	300～649	青色
950～999	白色	650～999	白色

【図 5 6】



10

20

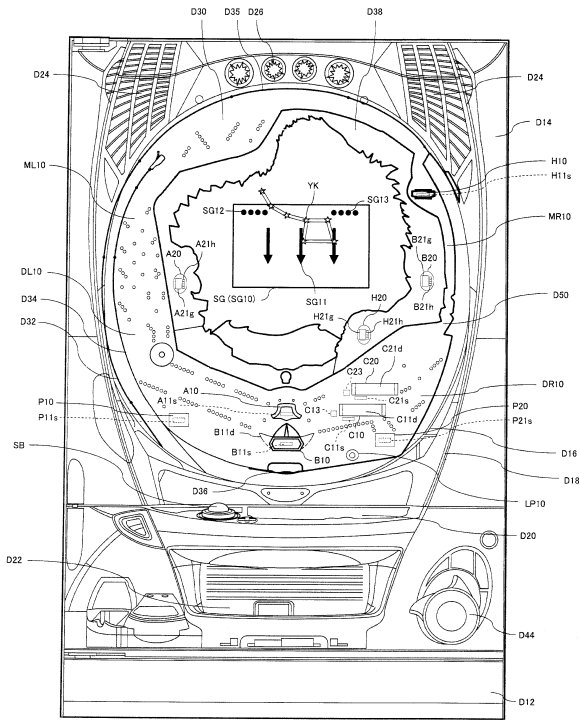
30

40

50

【図 57】

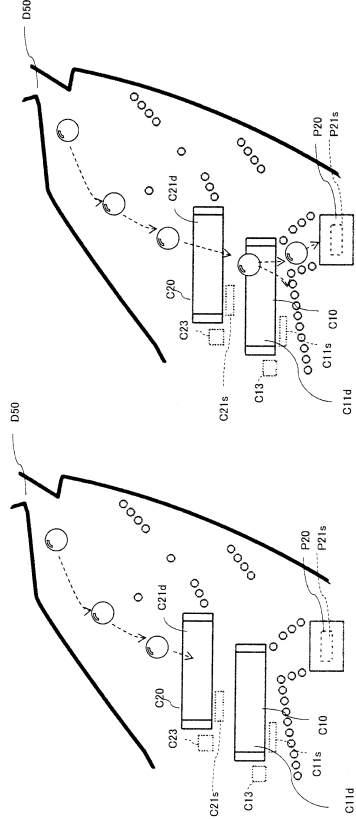
(図 57) (変 1)



【図 58】

【第 1 (第 2) 大入賞口及び右一般入賞口に係る作用図】

(図 58) (変 1)

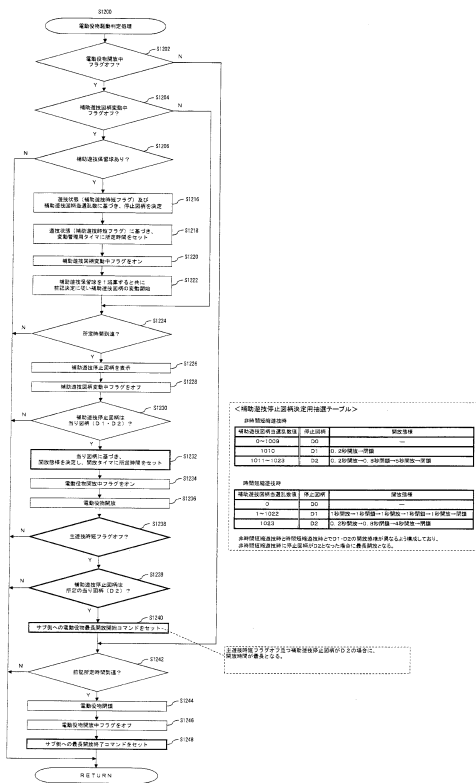


右打ちルート流出口D50から派出された遊技球が、第1大入賞口C10(又は第2大入賞口C20)を通過し、右一般入賞口P20に入球することとなる。

右打ちルート流出口D50から派出された遊技球が、第1大入賞口C10(又は第2大入賞口C20)に入球することとなる。

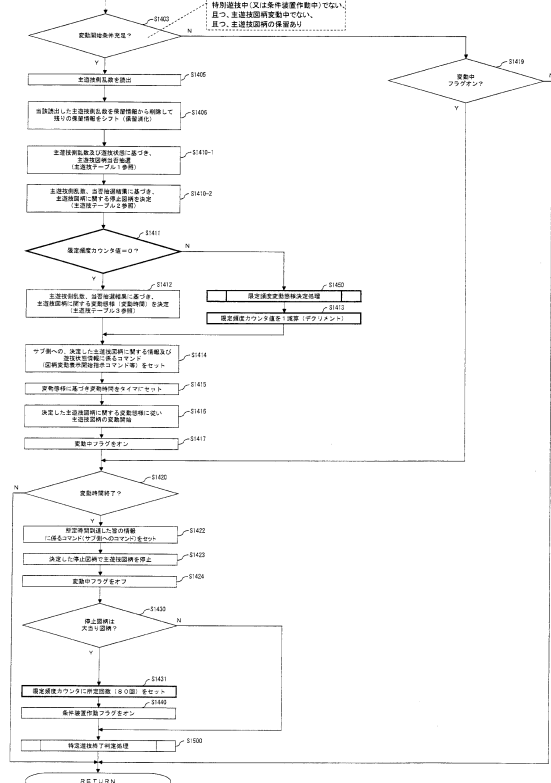
【図 59】

(図 59) (変 1)



【図 60】

(図 60) (変 2)



10

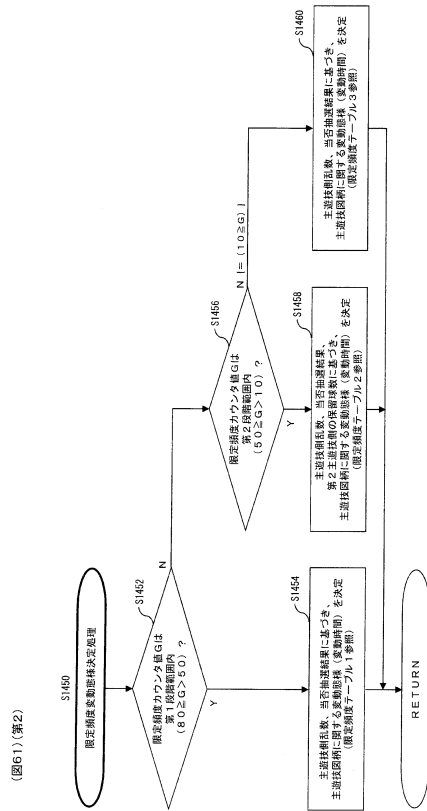
20

30

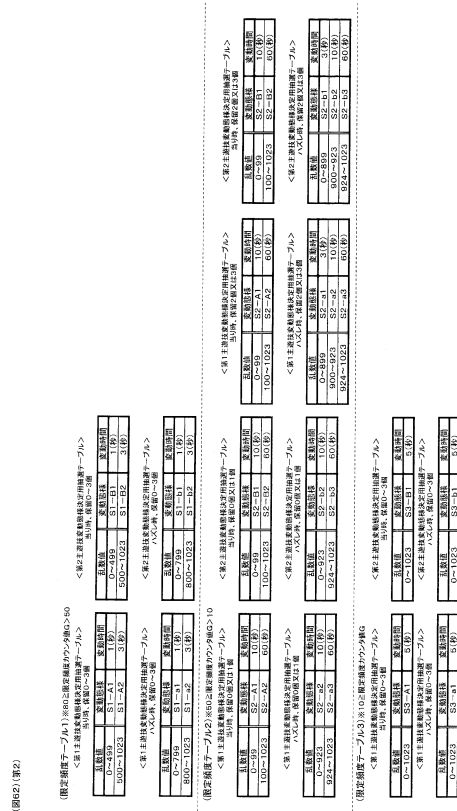
40

50

【図 6 1】

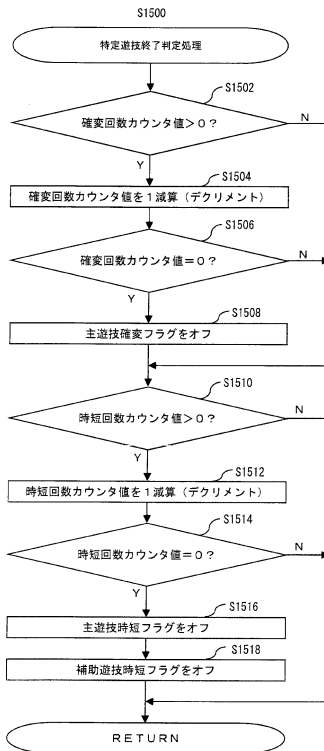


【図 6 2】



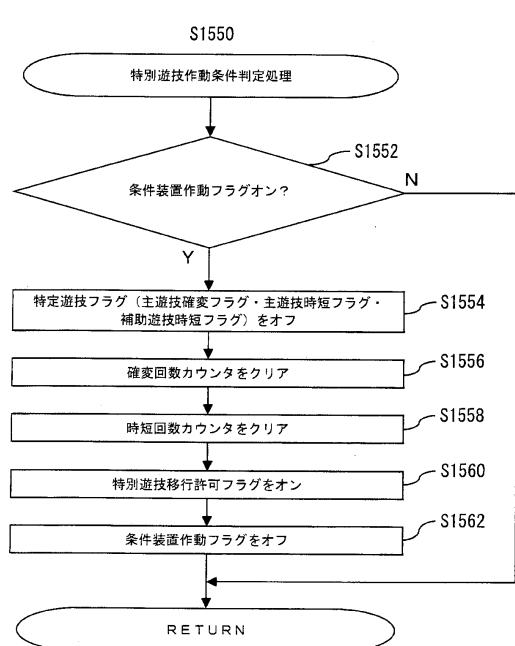
【図 6 3】

(図63)(第2)



【図 6 4】

(図64)(第2)



10

20

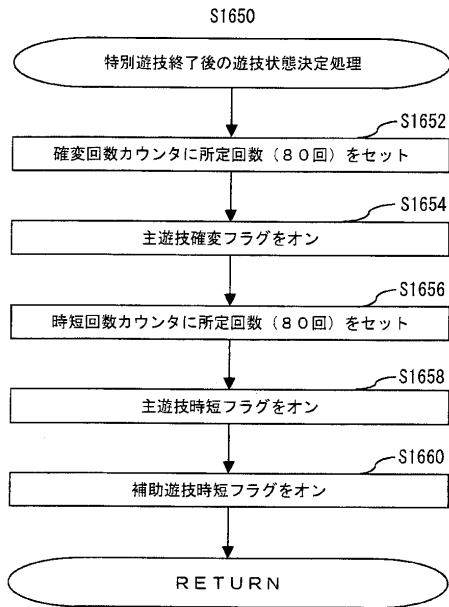
30

40

50

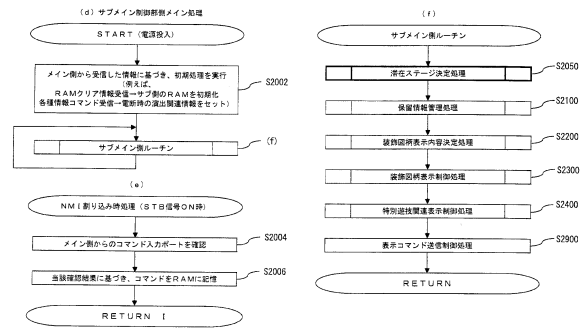
【図 6 5】

(図65)(第2)



【図 6 6】

(圖66)(第2)

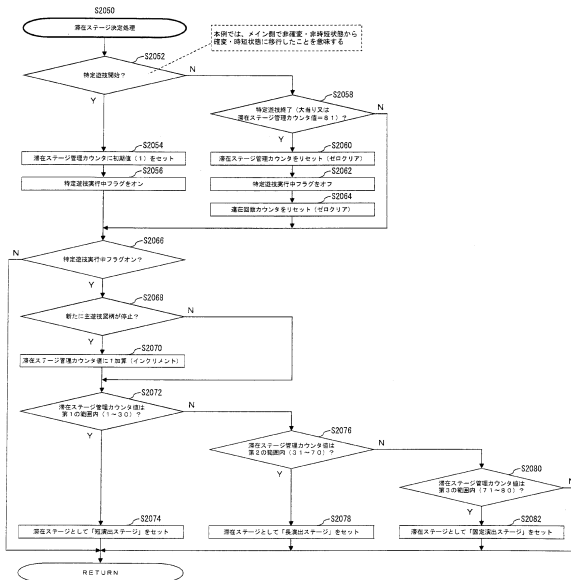


10

20

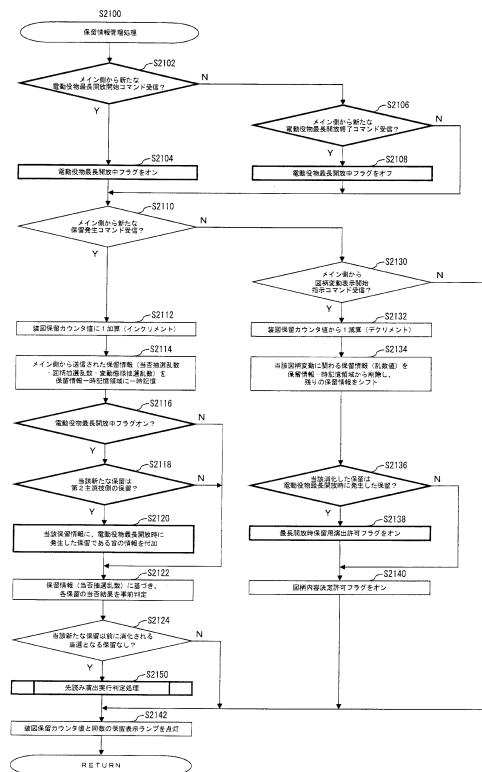
【圖 6 7】

(圖67)(第2)



【圖 68】

(圖68)(第2)

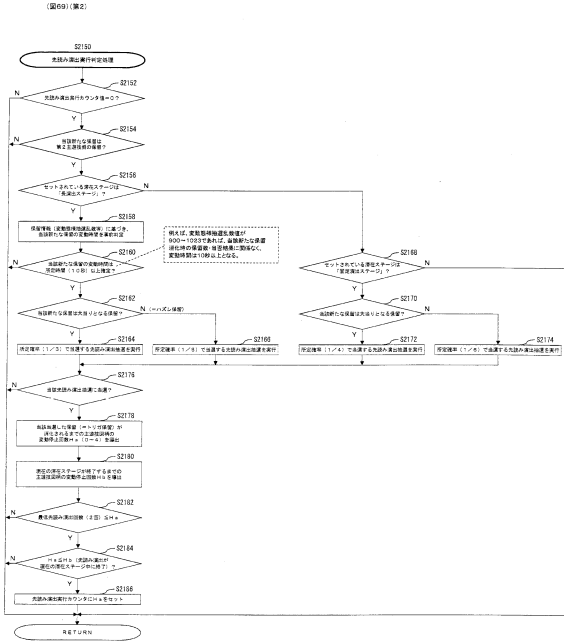


30

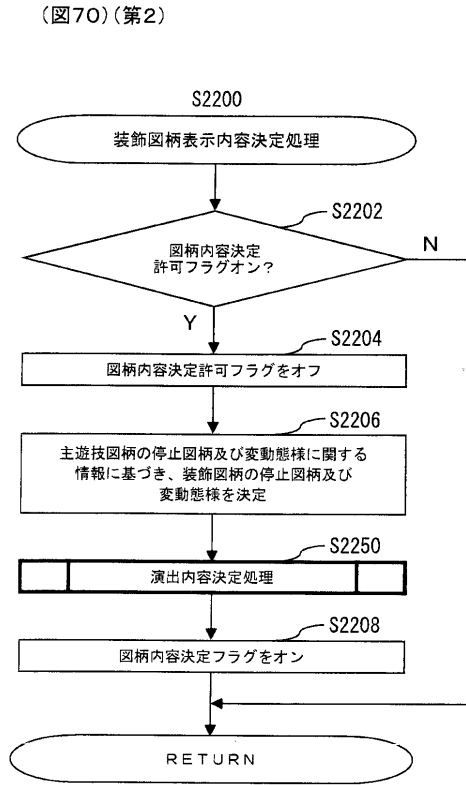
40

50

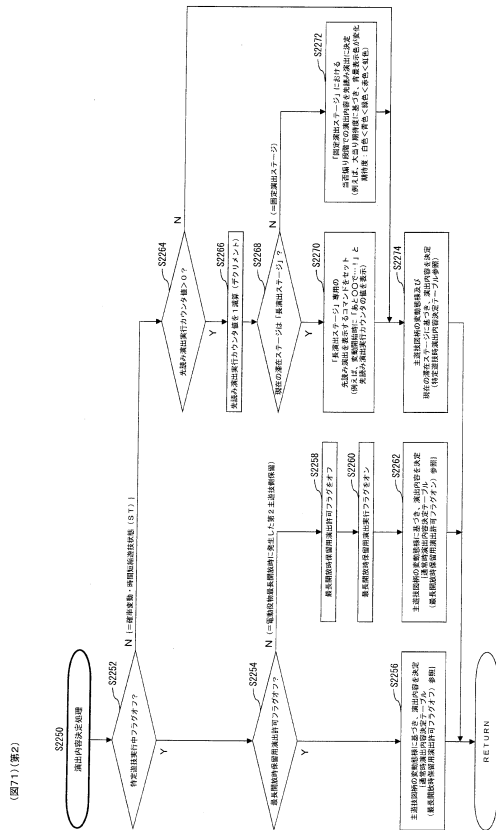
【図 69】



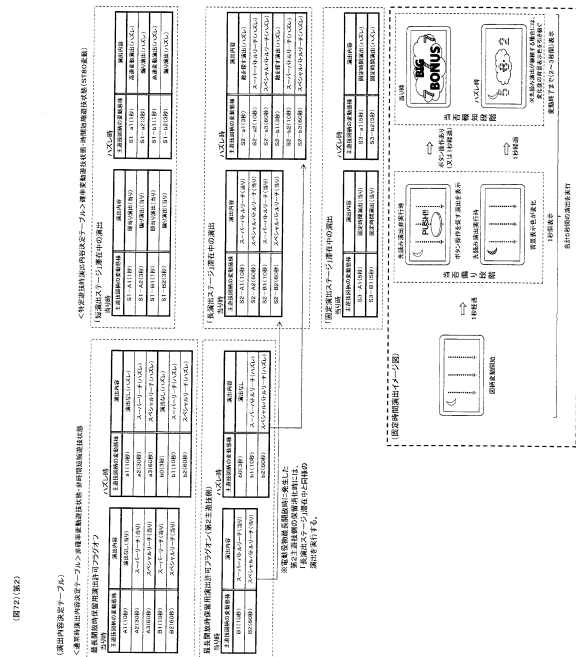
【図 70】



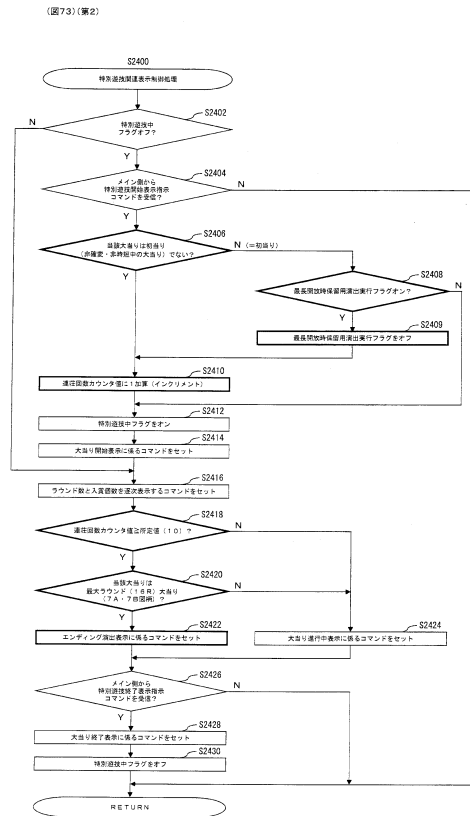
【図 71】



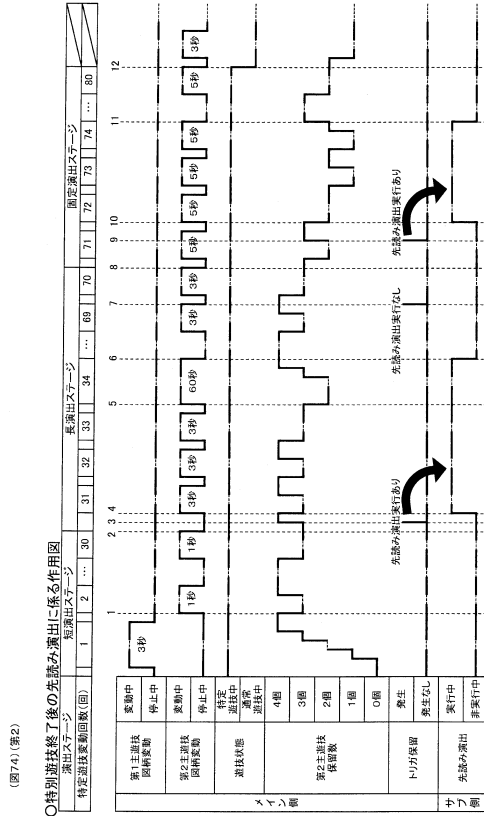
【図 72】



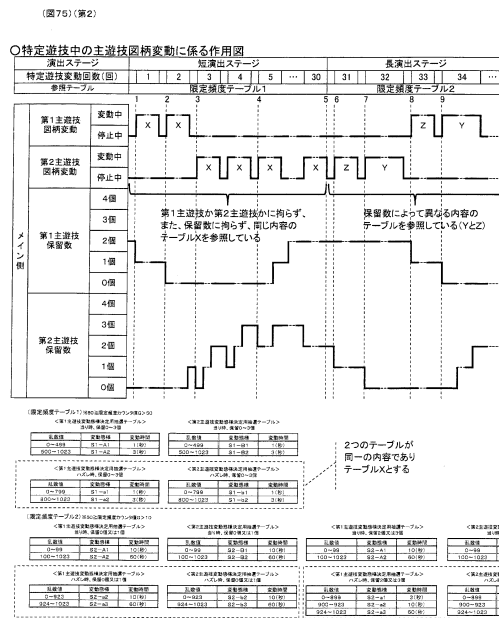
【圖 7 3】



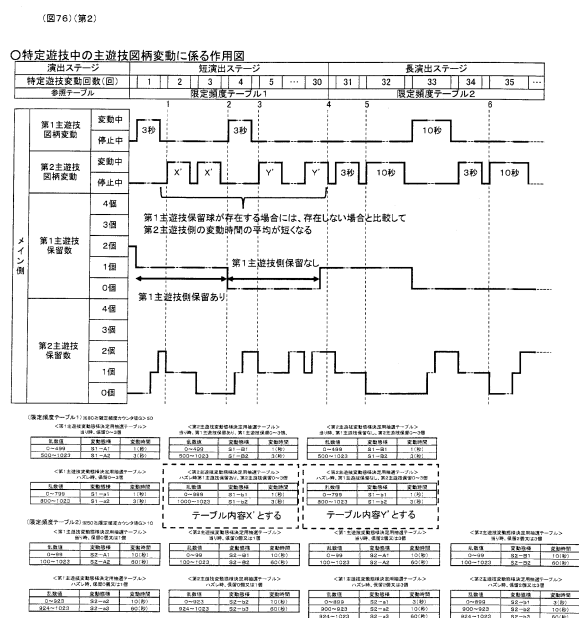
【図 7 4】



【図 7 5】

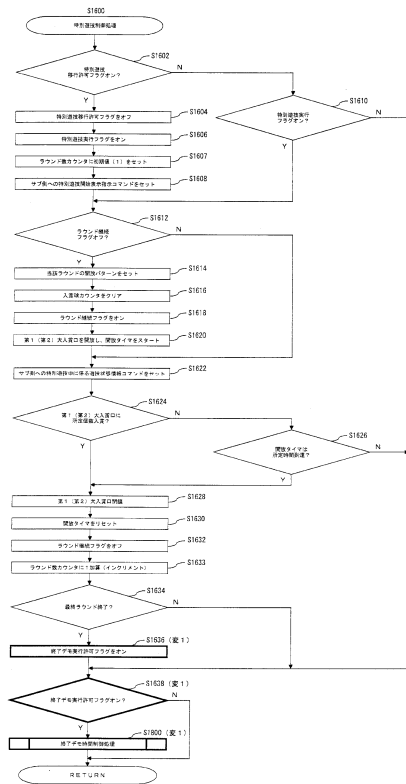


【図 7 6】



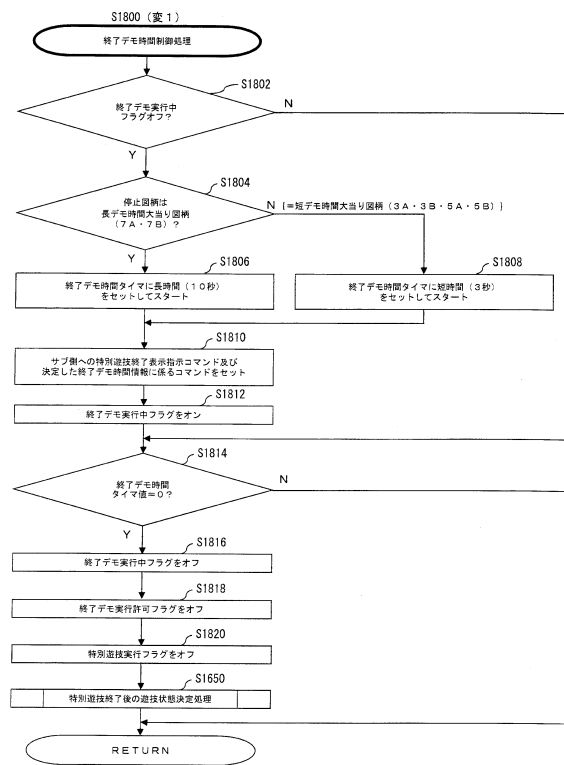
【圖 7 7】

(圖77)(第2次)



【圖 7 8】

(図78)(第2変1)

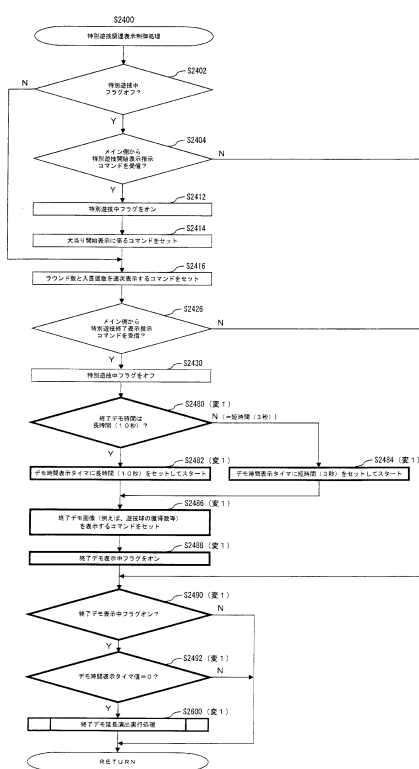


10

20

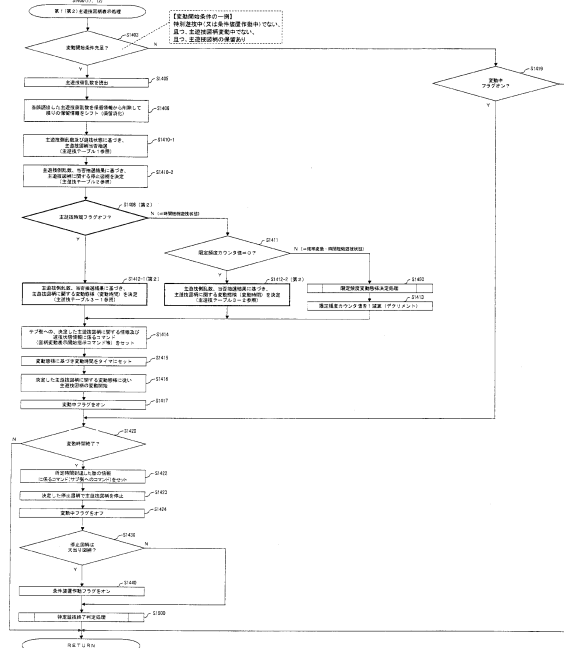
【圖 7 9】

(圖79)(第2変1)



【圖 80】

〔圖50〕〔第3〕



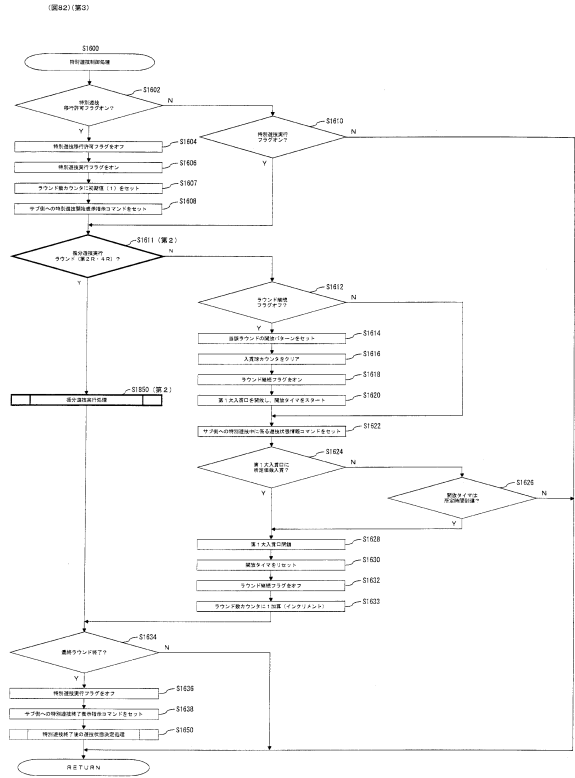
30

40

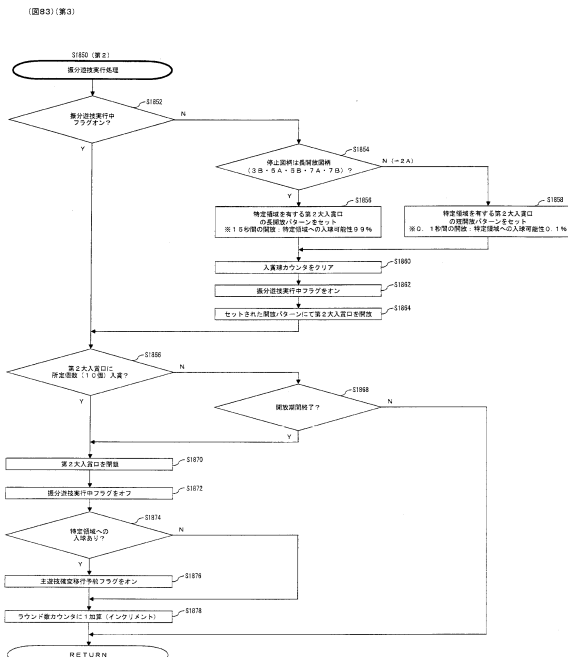
【図 8 1】

[illegible]

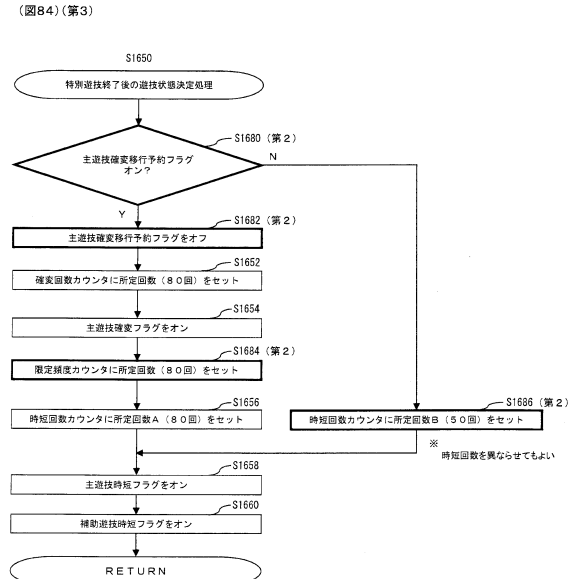
【図 8 2】



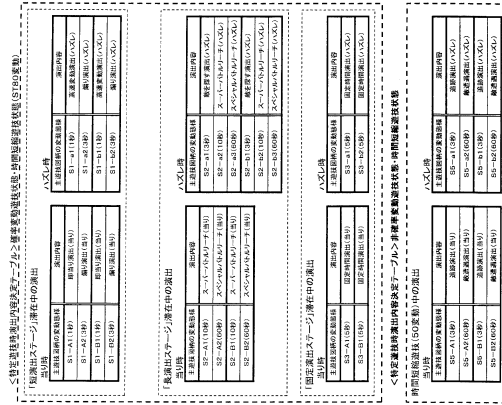
【図 8 3】



【図 8 4】



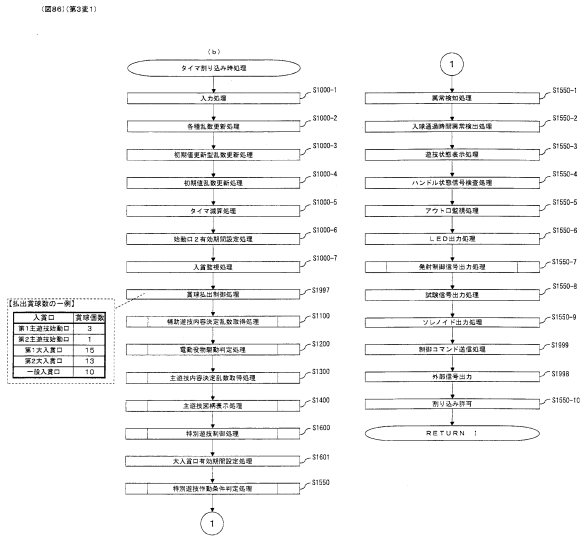
【図 8 5】



(第385号)



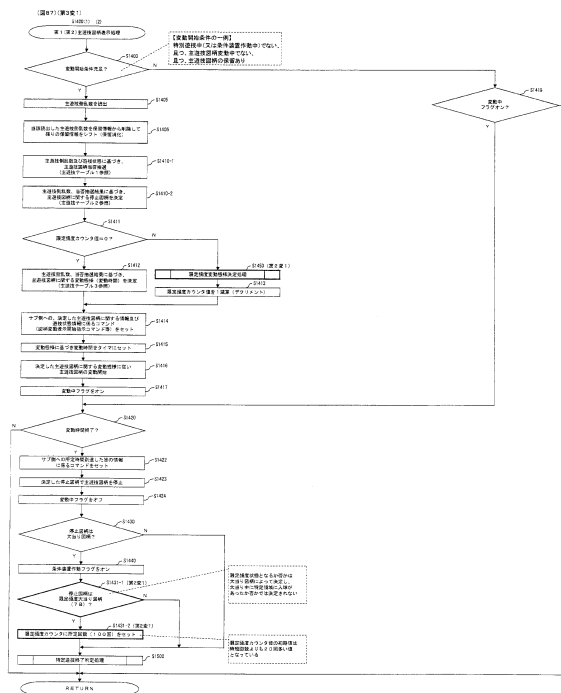
【圖 8 6】



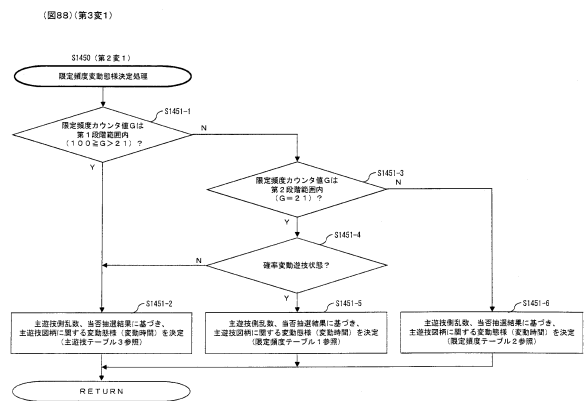
10

20

【図 8 7】



【圖 88】

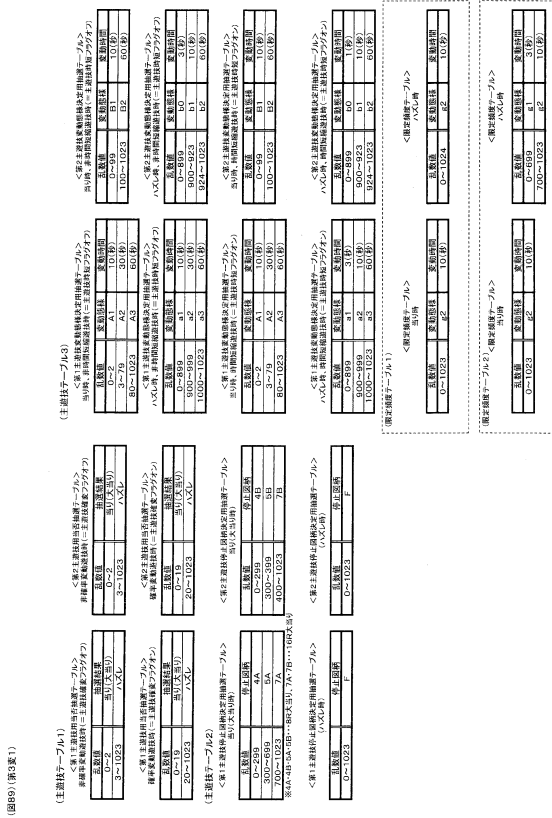


30

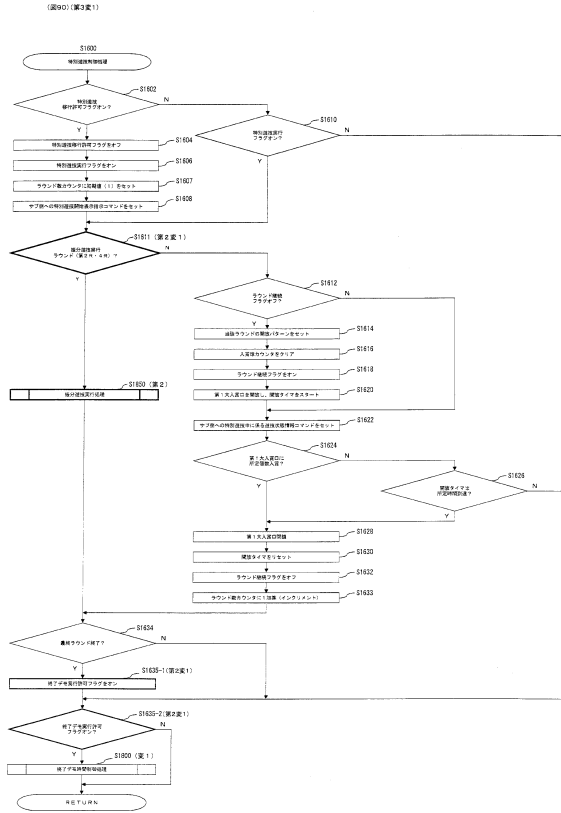
40

50

【図 89】

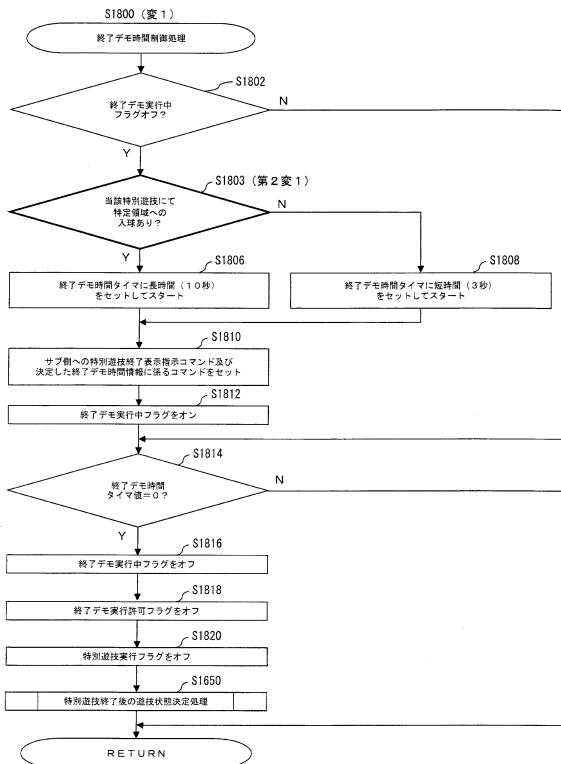


【図 90】



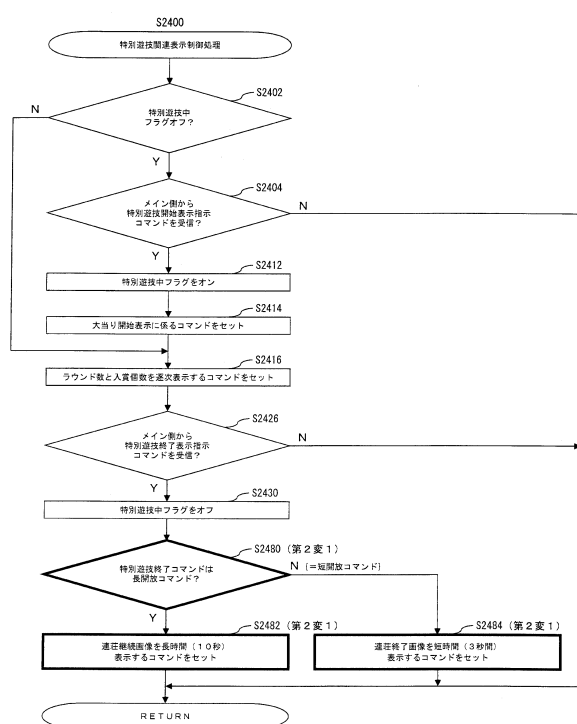
【図 9 1】

(図91)(第3変1)

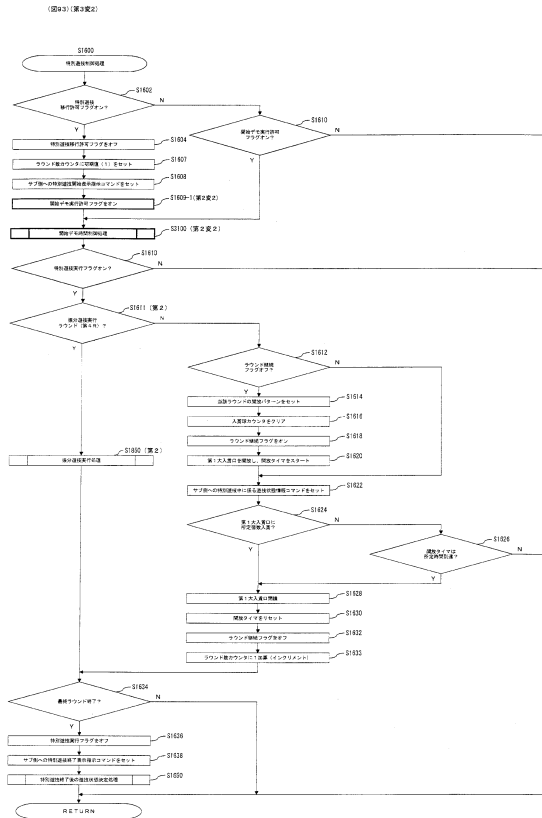


【圖 9 2】

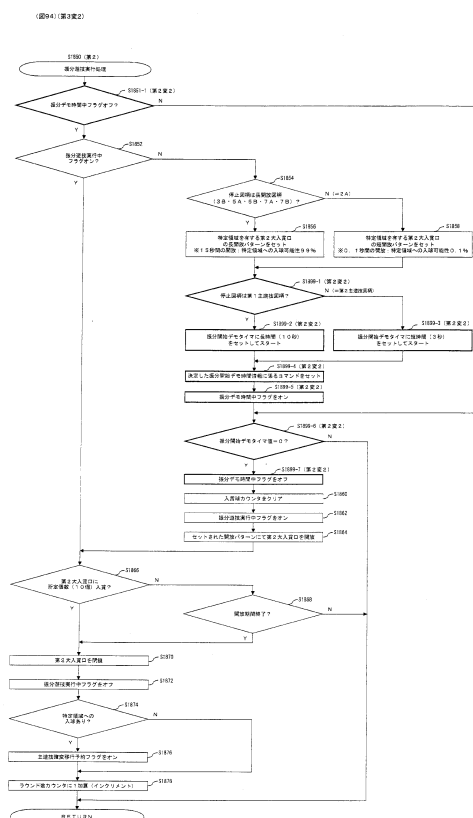
(圖92)(第3變1)



【図 9 3】



【図 9 4】



【図 9 5】

(図9-7) (続き表2)

【大入貴人口頭履歴(アーンの一例)】																	
4A	11月	22日	30日	4日	10日	15日	21日	28日	4日	10日	17日	24日	31日	7日	14日	21日	28日
4A	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放
5A	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放
7A	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放
9A	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放
4B	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放
5B	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放
7B	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放
9B	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放	長閑放

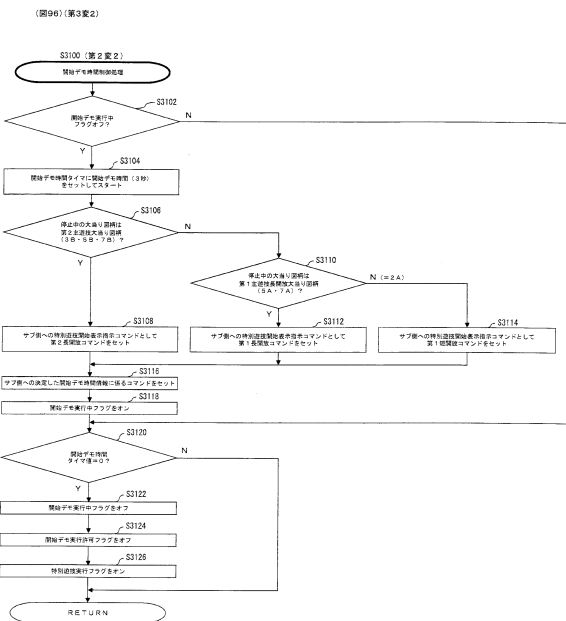
※長閑放は1500mの長閑放、長閑放は3000m

※短開放は500msの開放であり、長開放は30000msの開放となっている。

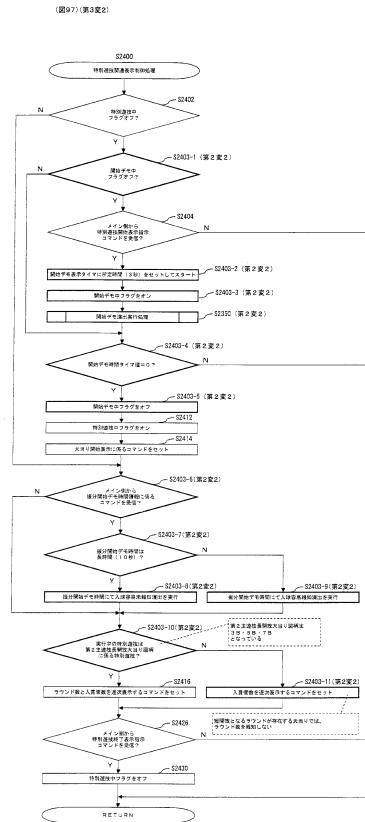
※第2主遊技長開放大当り(5B・7B)のみ、すべてのラウンドが長開放となる

※振分選抜実行ラウンドは4R目となっており、第2次入賞口が開放する。また、その他のラウンドにおいては第1大人賞口が開放する。

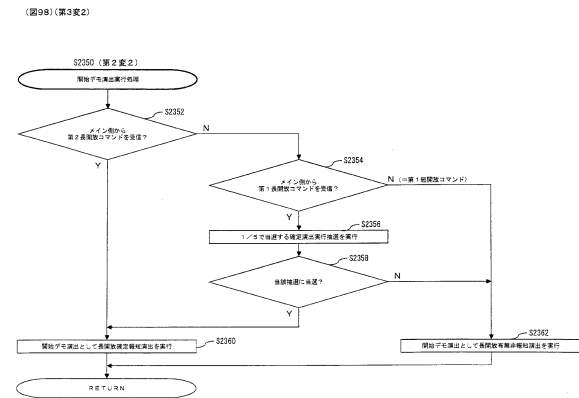
【圖 9 6】



【図 9 7】



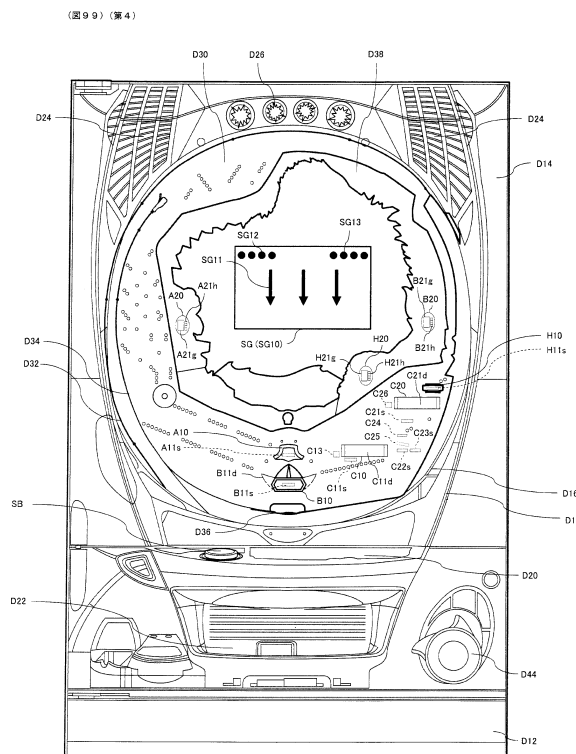
【図 9 8】



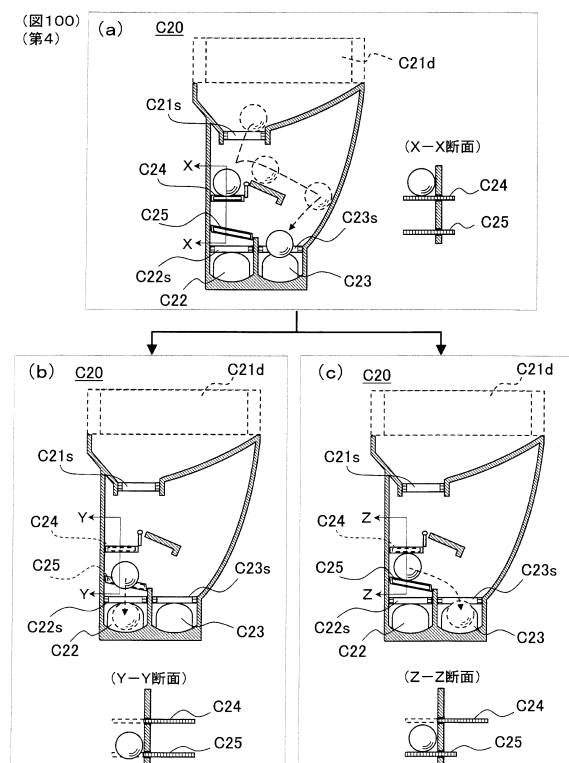
10

20

【図 9 9】



【図 100】

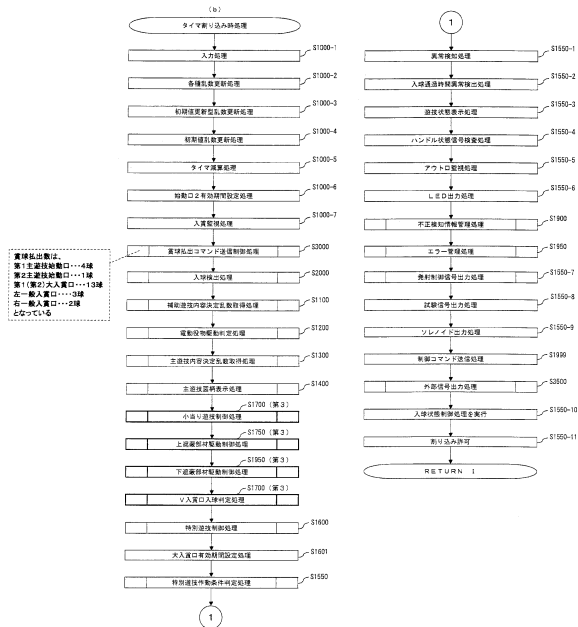


30

40

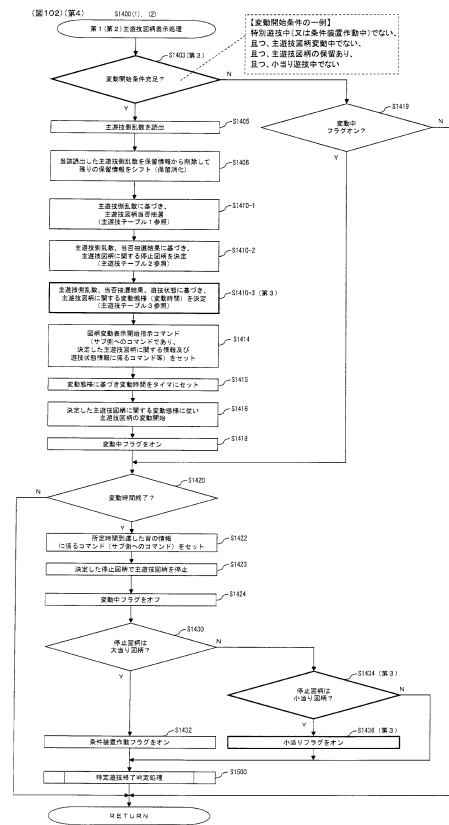
【図 101】

(図101)(第4)



【図 102】

(圖102)(第



10

20

【図 103】

(図103)(第4)

(主遊技テーブル1)

＜第1主遊技用当否抽選テーブル＞

乱数値	抽選結果
0~2	当り(大当り)
3~1019	ハズレ
1020~1023	当り(小当り)

＜第2主遊技用当否抽選テーブル＞

乱数値	抽選結果
0~2	当り(大当り)
3	ハズレ
4~1023	当り(小当り)

(主遊技テーブル2)

＜第1主遊技停止図柄決定用抽選テーブル＞
当り(本当り時)

乱数值	停止図柄
0~299	4A
300~499	5A
500~1023	7A

※4A・5A…4R大当り、4B・5B…8R大当り、7A・7B…16R大当り

＜第2主遊技停止図柄決定用抽選テーブル＞
当り(大当り時)

乱数值	停止図柄
0~299	4B
300~399	5B
400~1023	7B

・16R大当り

＜第1主遊技停止図柄決定用抽選テーブル＞
(ハズレ時)

乱数值	停止図柄
0~1023	F

（第1主遊技停止図柄決定用抽選テーブル）

＜第1主遊技停止図柄決定用抽選テーブル＞
当り(小当り時)

＜第2主遊技停止図柄決定用抽選テーブル＞
(ハズレ時)

乱数值	停止図柄
0~1023	F

（第3次抽籤停止図柄決定用抽籤シール）

＜第2主遊技停止図柄決定用抽選テーブル＞
当り(小当り時)

乱数值	停止図柄

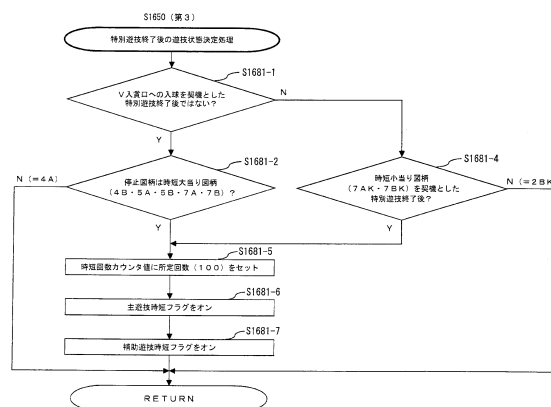
0~1023	7AK

乱数值	停止図柄

0~299	2BK
300~1023	7BK

【図 104】

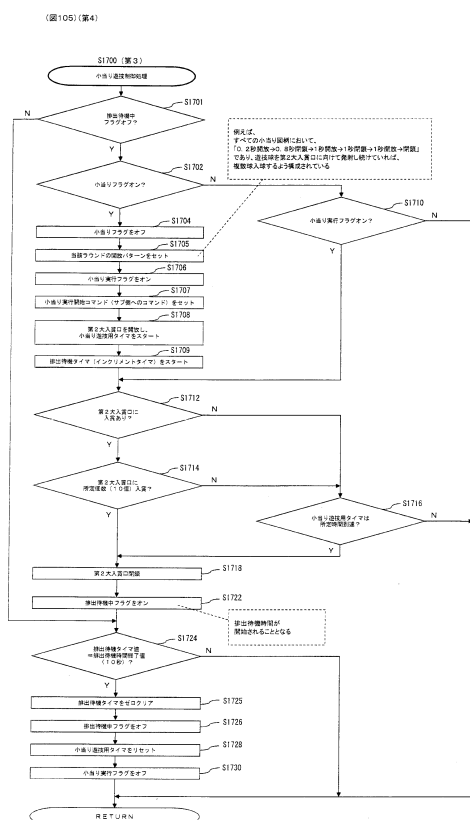
(圖104)(第4)



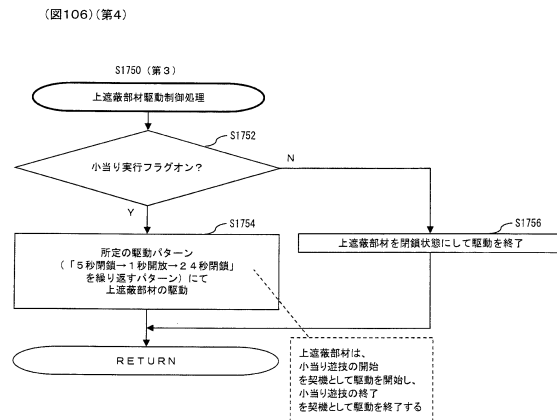
30

40

【図 105】



【図 106】

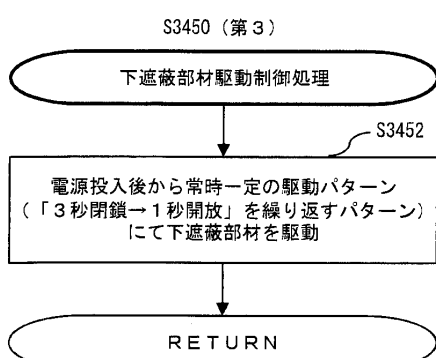


10

20

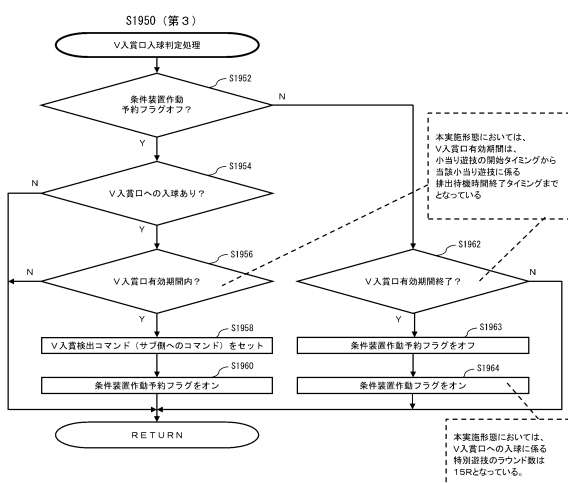
【図 107】

(図107)(第4)



【図 108】

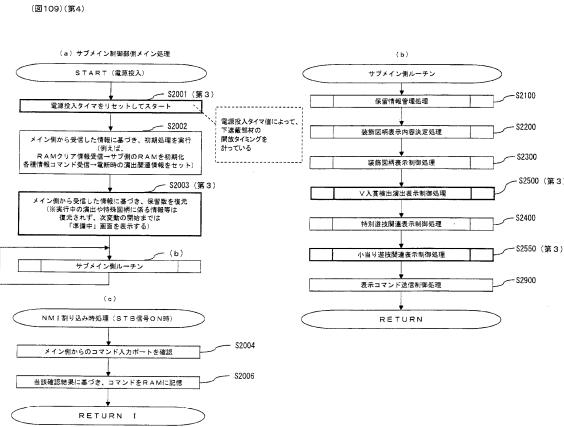
(圖108)(第4)



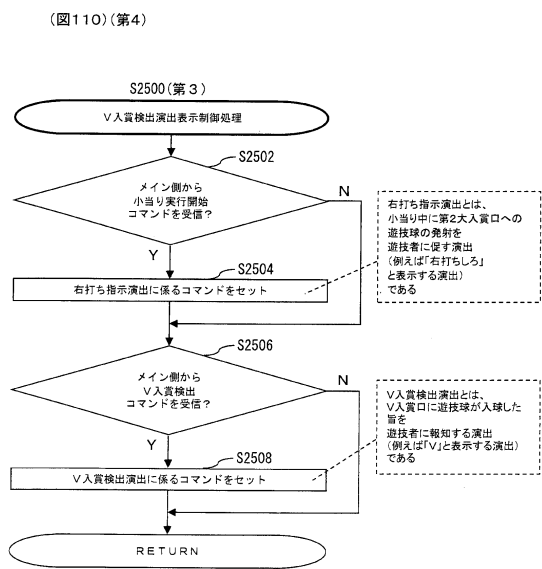
30

40

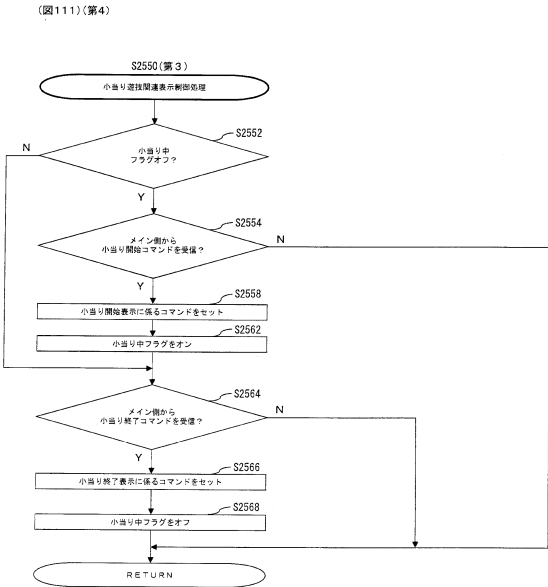
【図109】



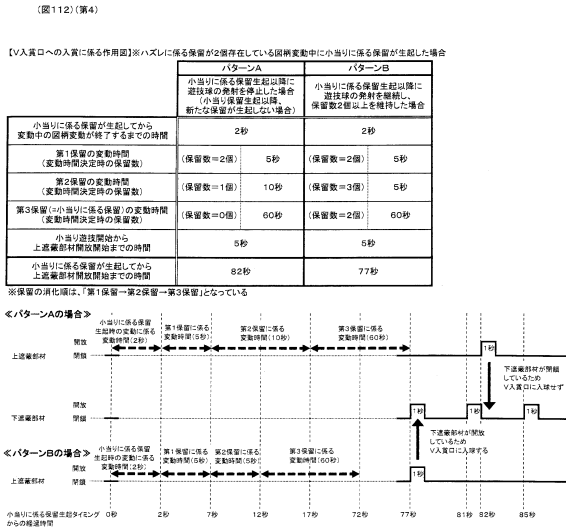
【図110】



【図111】



【図112】



10

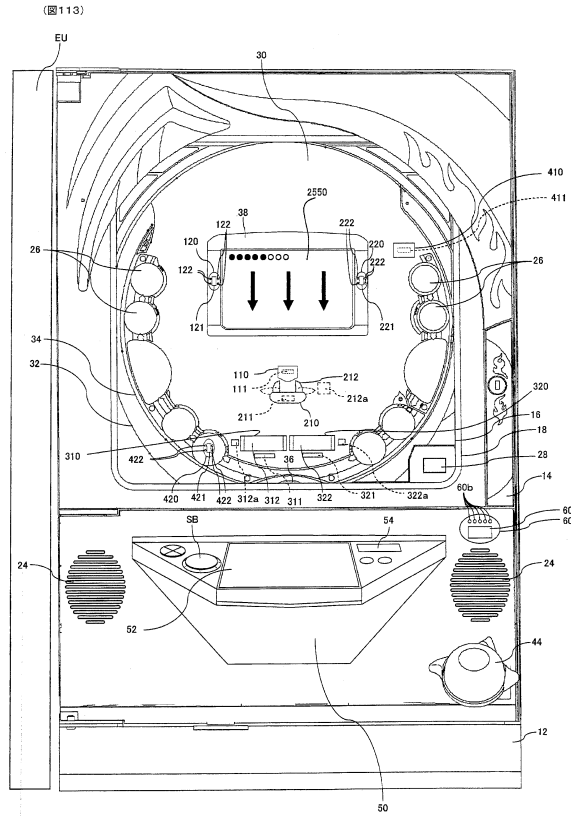
20

30

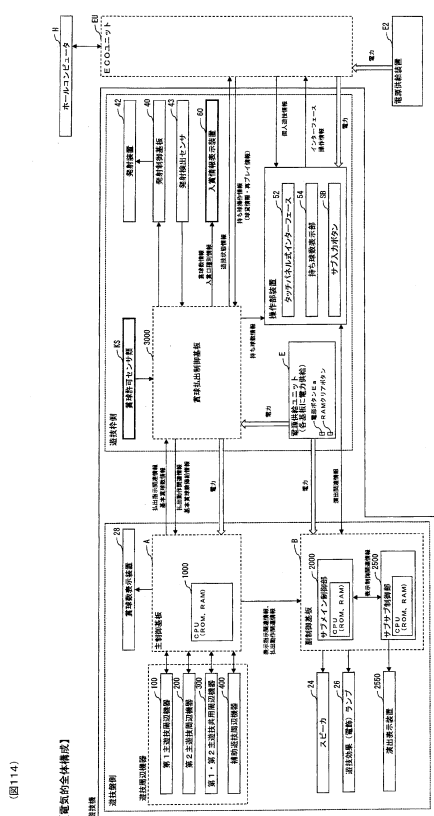
40

50

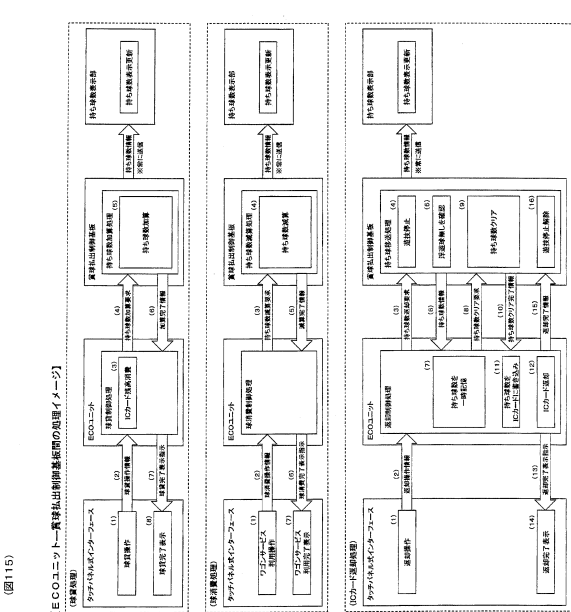
【図 1 1 3】



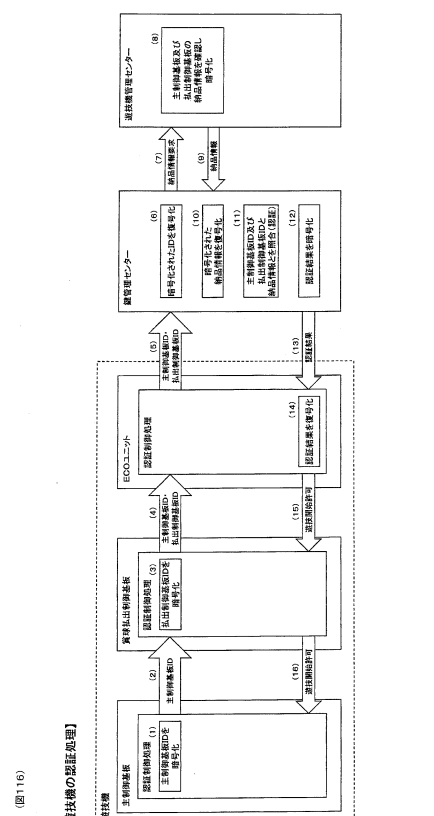
【図 1 1 4】



【図 1 1 5】



【図 1 1 6】



10

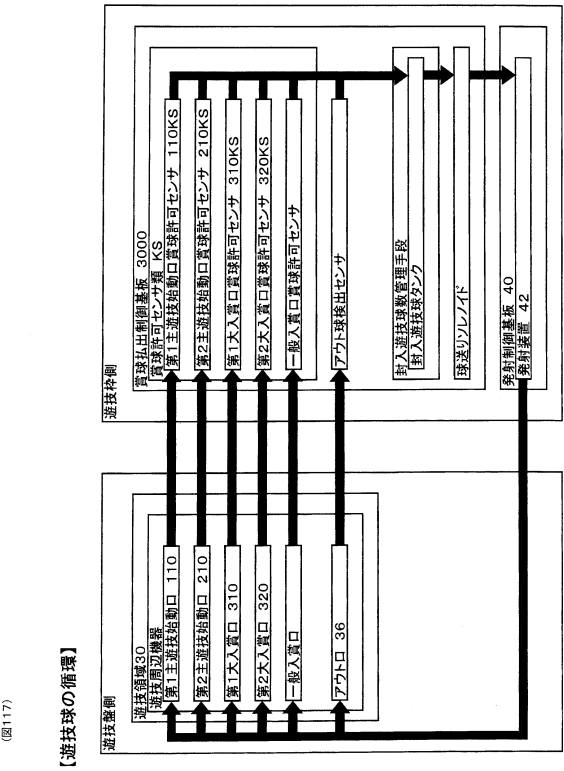
20

30

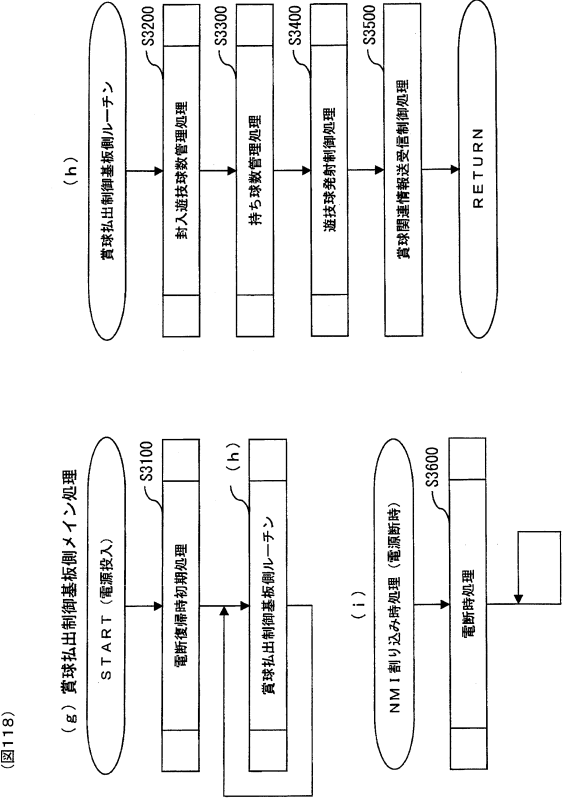
40

50

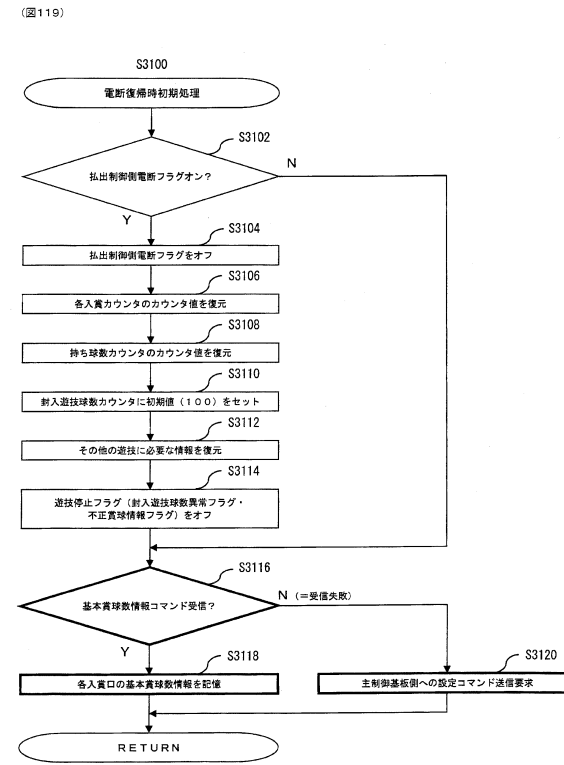
【図 1 1 7】



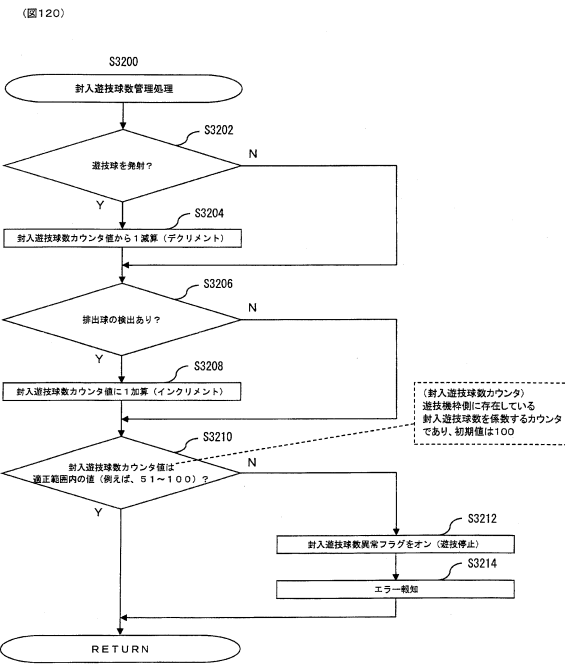
【図 1 1 8】



【図 1 1 9】



【図 1 2 0】



10

20

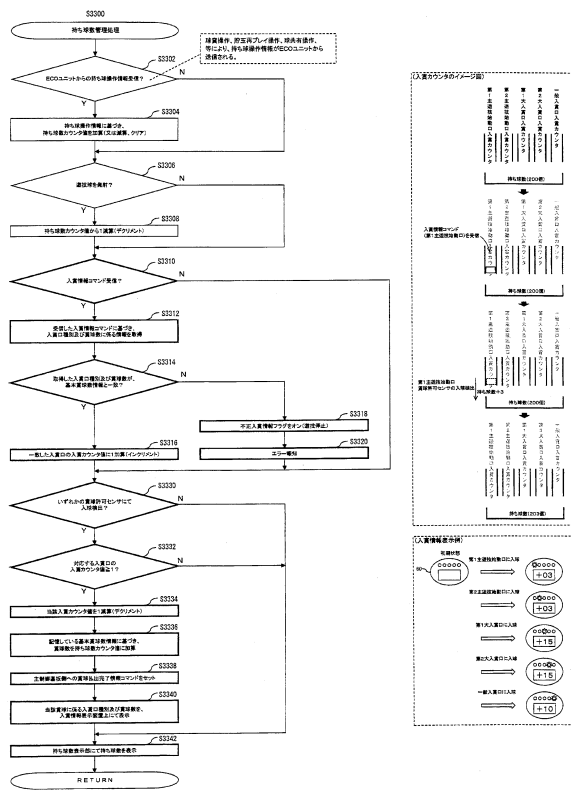
30

40

50

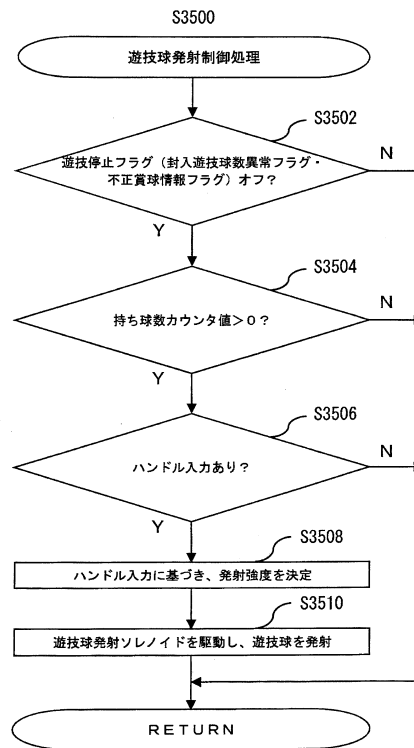
【図 1 2 1】

(圖 121)



【図 1 2 2】

(图122)

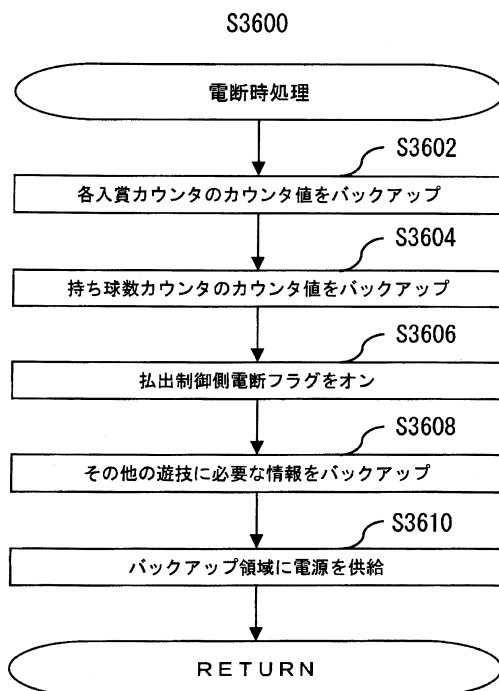


10

20

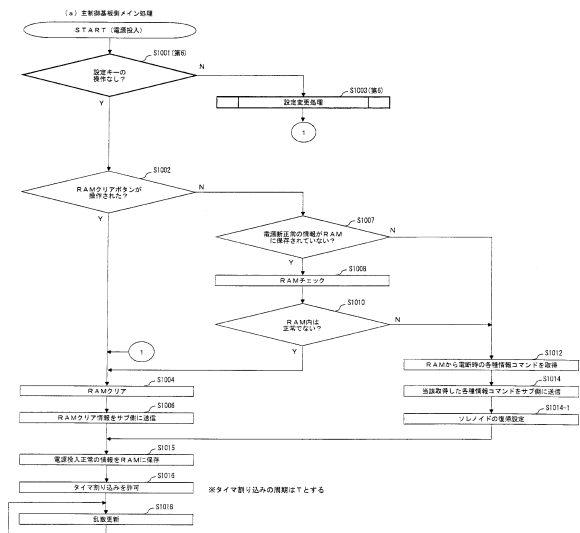
【図 1 2 3】

(图123)



【図 1 2 4 a】

(圖124a)

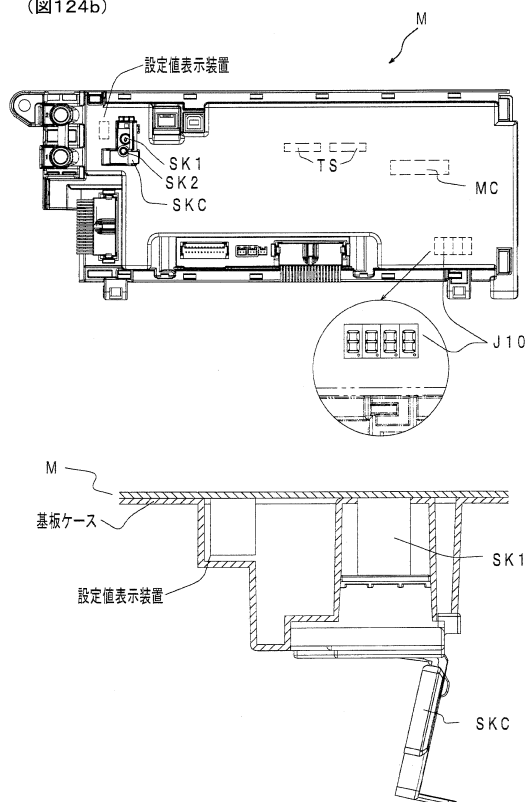


30

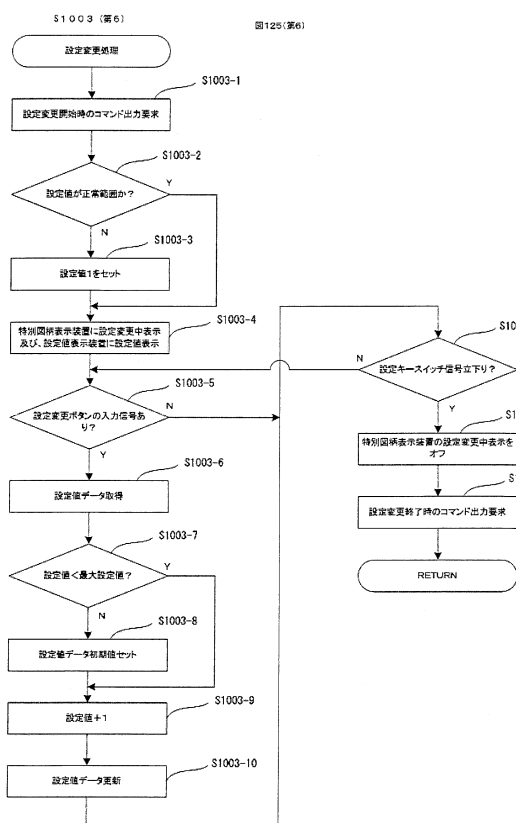
40

【図 1 2 4 b】

(図124b)

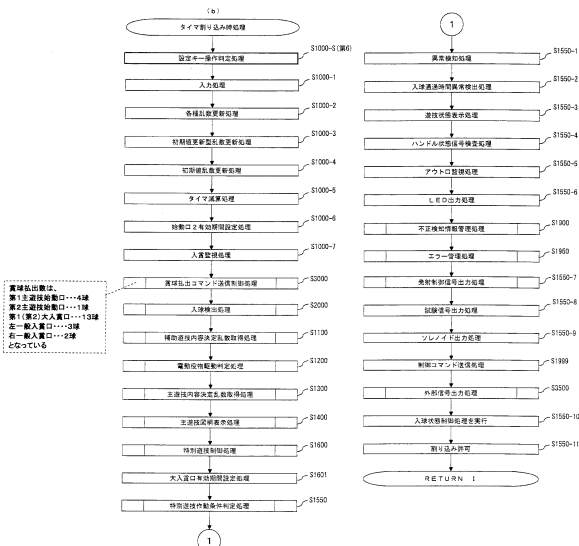


【図 1 2 5】



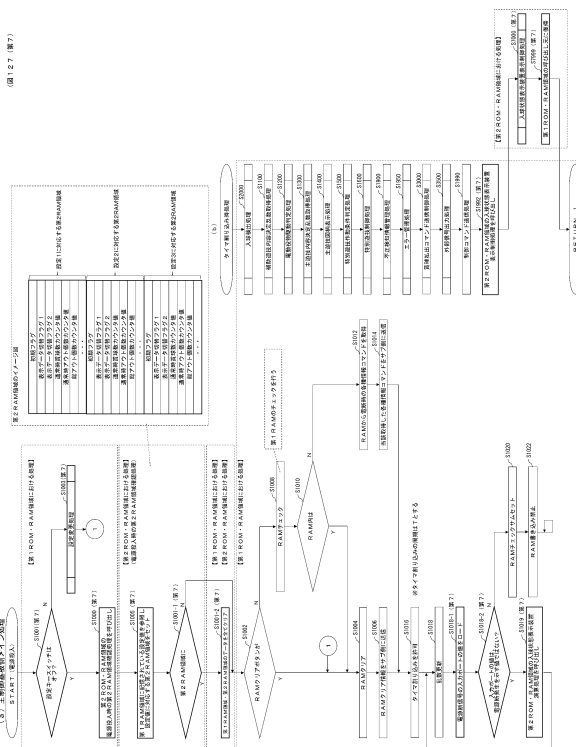
【図 126】

(圖 126)



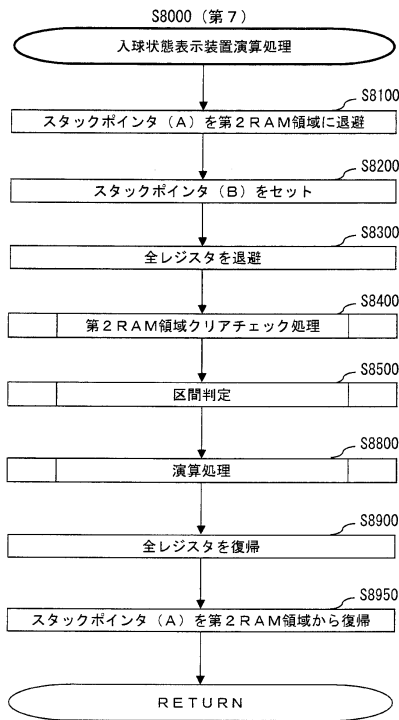
【図 1 2 7】

圖 127 (續7)



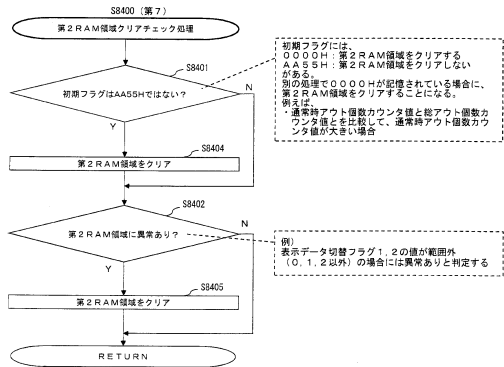
【図 1 2 8】

(図 128)(第7)



【図 1 2 9】

(図 129)(第7)

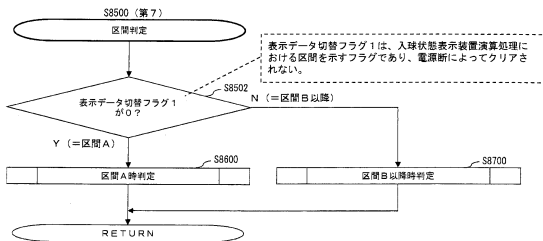


10

20

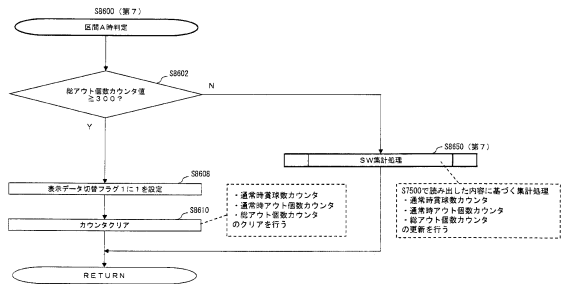
【図 1 3 0】

(図 130)(第7)



【図 1 3 1】

(図 131)(第7)



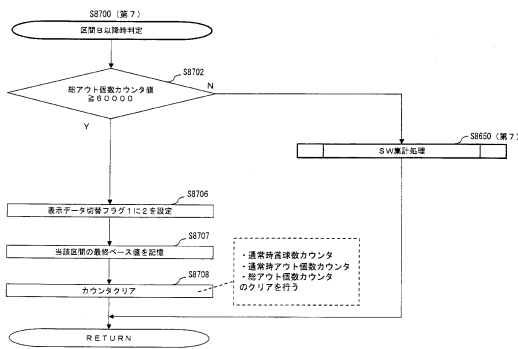
30

40

50

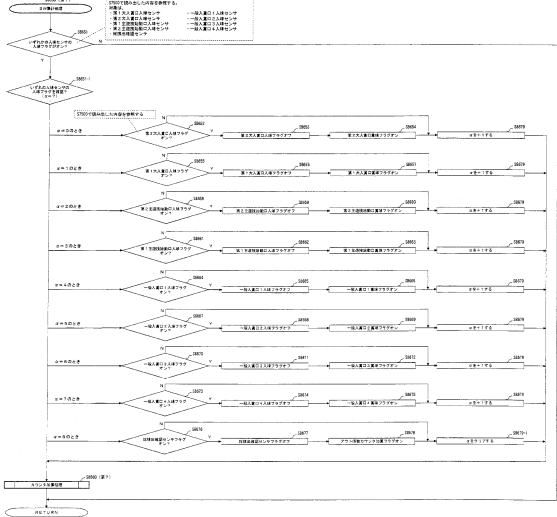
【図 1 3 2】

(図132)(第7)



【図 1 3 3】

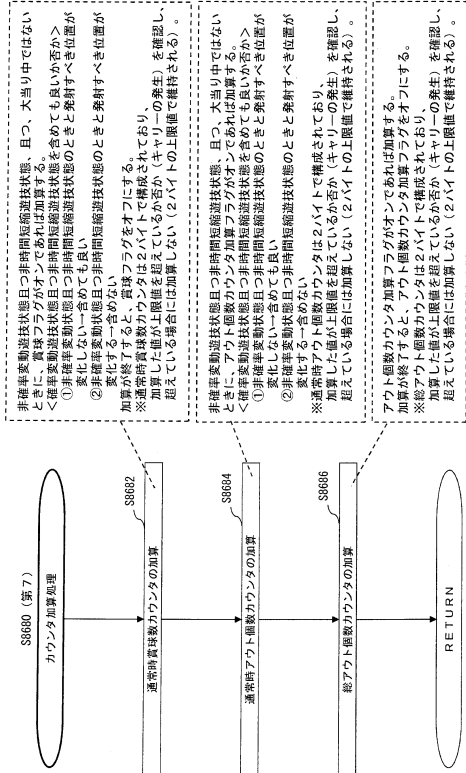
(図133)(第7)



10

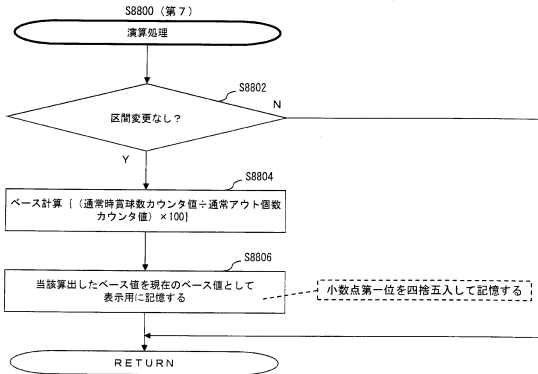
【図 1 3 4】

(図134)(第7)



【図 1 3 5】

(図135)(第7)



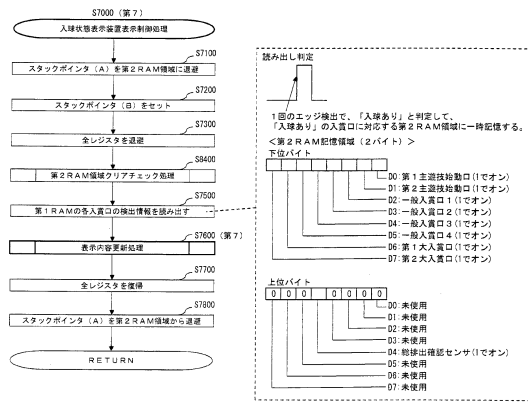
30

40

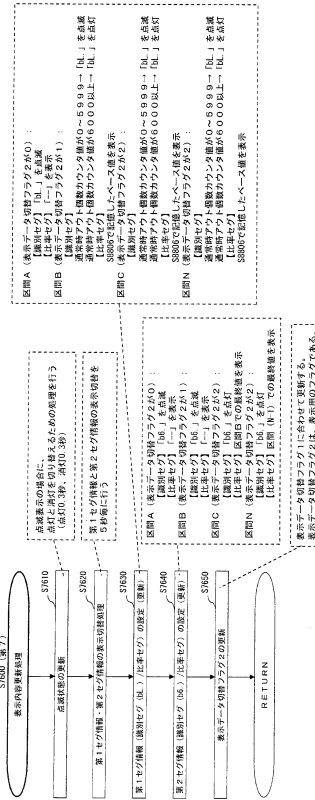
50

【図 136】

(圖136)(第7)



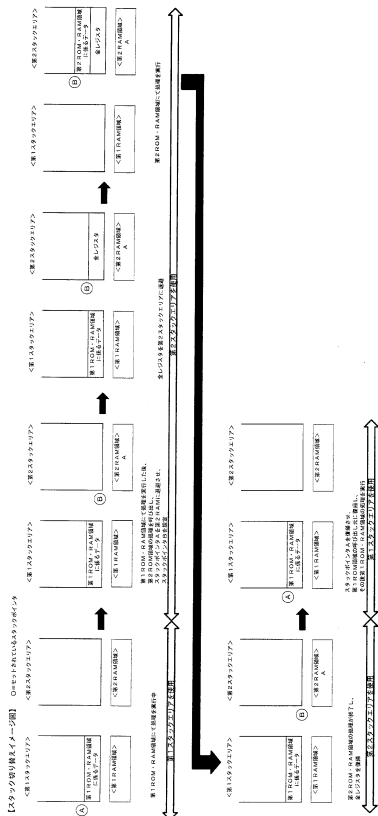
【圖 137】



(圖137)(第7)

【図 138】

(國138)(第7)



【圖 139】

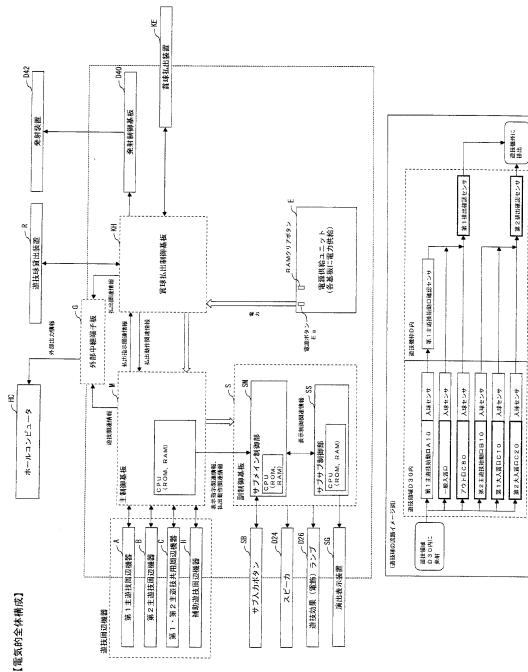
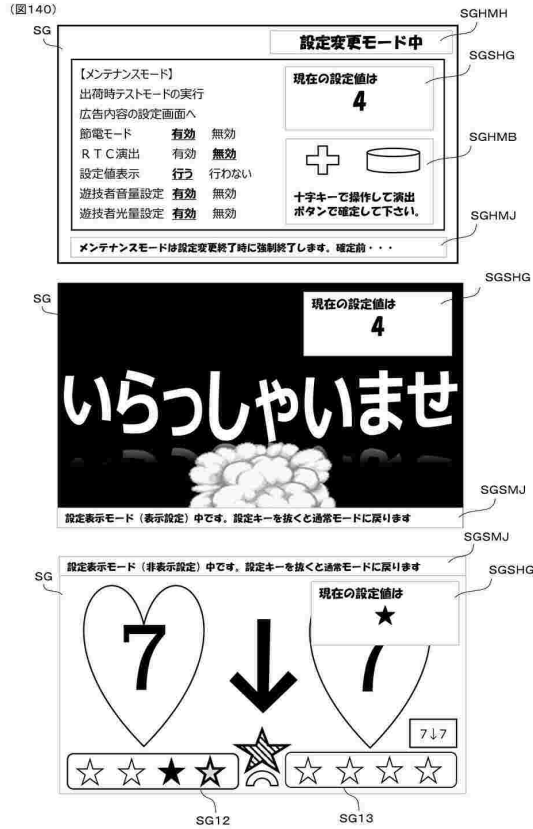


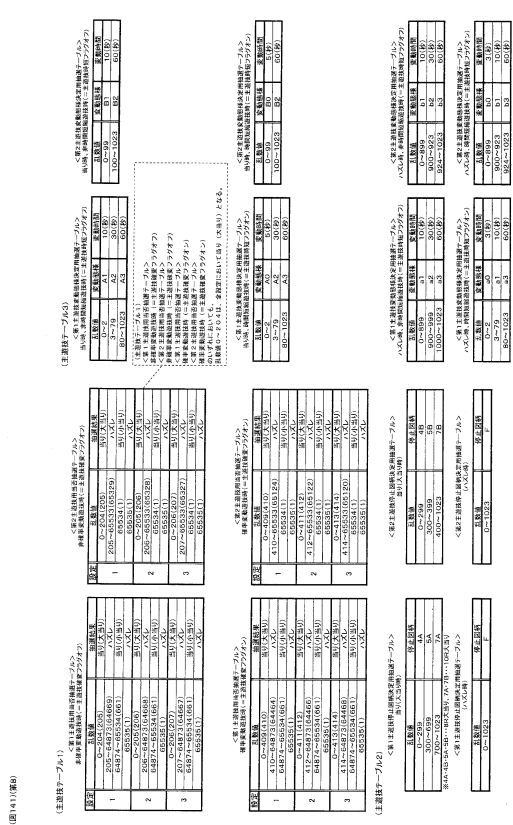
圖139(第7度1)

【電氣の全体構成】

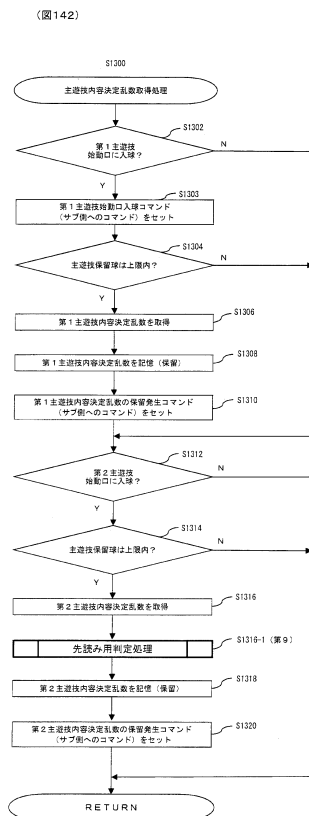
【図 140】



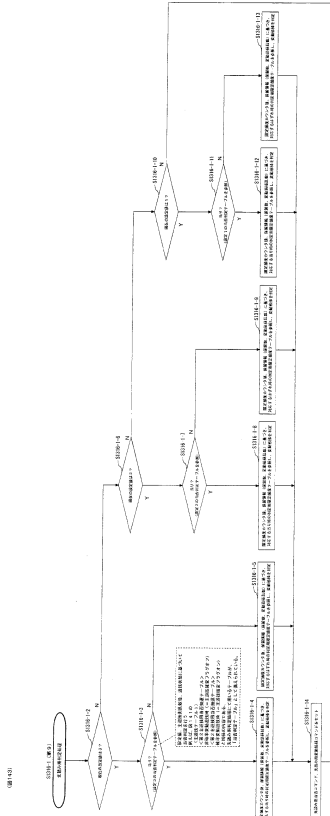
【圖 1 4 1】



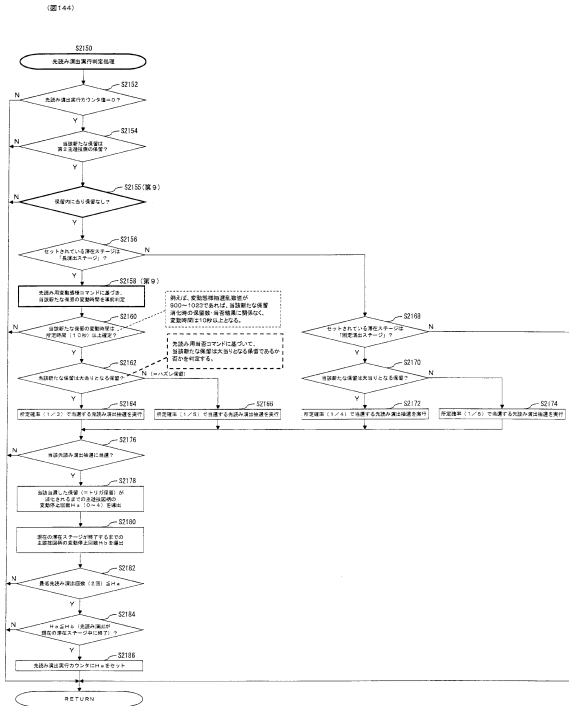
【図 1 4 2】



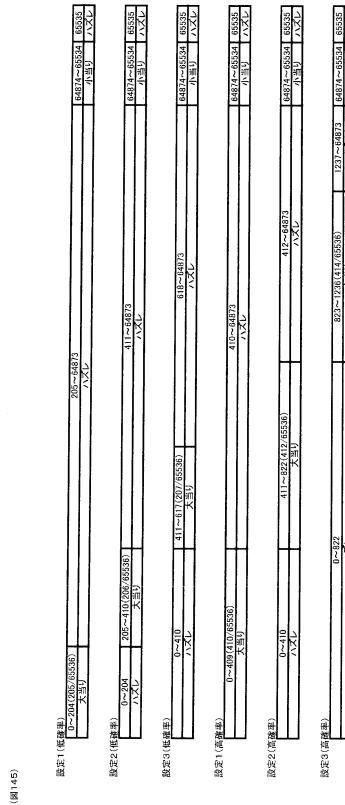
【図 1 4 3】



【図 1 4 4】



【図 145】



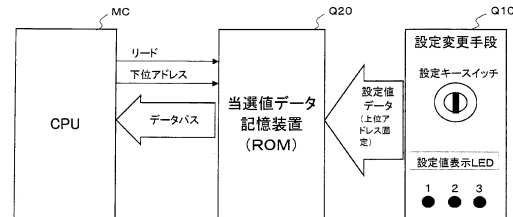
10

20

【図 146】

(图146)

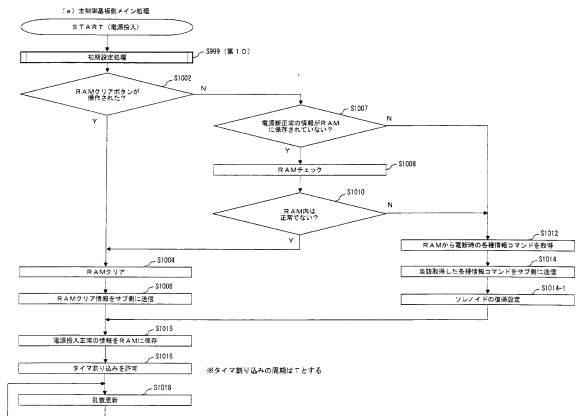
■主制御基板MのCPUが、設定値を把握せずに設定値毎の当否抽選テーブルを得るための構成



アドレス	データの名称	データ例	10進数
4000h	設定値1用高8ビット下位データ	11001100	208
4001h	設定値1用高8ビット上位データ	00000000	
4002h	設定値1用高8ビット下位データ	10011010	410
4003h	設定値1用高8ビット上位データ	00000001	
8000h	設定値2用高8ビット下位データ	11001101	208
8001h	設定値2用高8ビット上位データ	00000000	
8002h	設定値2用高8ビット下位データ	10011100	414
8003h	設定値2用高8ビット上位データ	00000001	
C000h	設定値3用高8ビット下位データ	10001110	207
C001h	設定値3用高8ビット上位データ	00000000	
C002h	設定値3用高8ビット下位データ	10011110	414
C003h	設定値3用高8ビット上位データ	00000001	

【図 147】

(圖147)



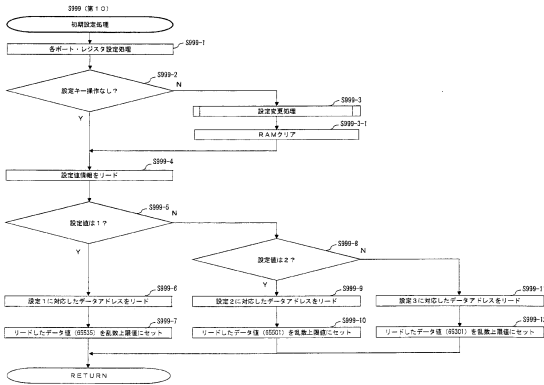
30

40

50

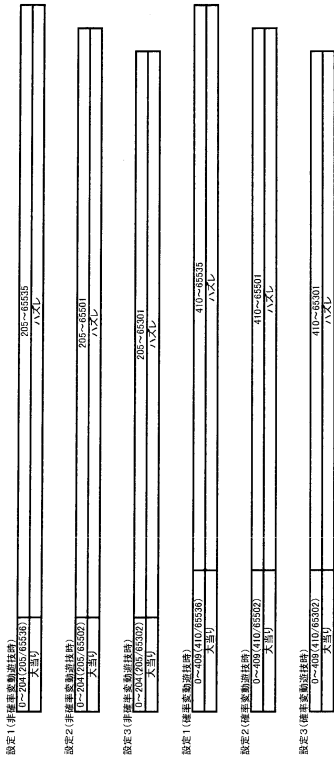
【図 148】

(図 148)



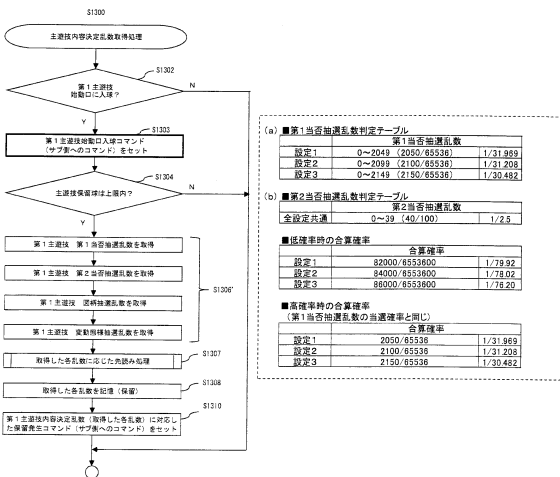
【図 149】

(図 149)



【図 150】

(図 150)



【図 151】

(図 151)

■第1当否抽選乱数判定テーブル

設定	第1当否抽選テーブル当選値
1	0~97 (98/100)
2	0~98 (99/100)
3	0~99 (100/100)

■第2当否抽選乱数判定テーブル

遊技状態	第2当否抽選テーブル当選値
低確率	0~209 (210/65536)
高確率	0~1000 (1001/65536)

■低確率時の合算確率

設定	合算確率 (実当選確率)
1	$98/100 \times 210/65536 = 20580/65536 \approx 1/318.4$
2	$99/100 \times 210/65536 = 20790/65536 \approx 1/315.2$
3	$100/100 \times 210/65536 = 21000/65536 \approx 1/312.0$

■高確率時の合算確率

設定	合算確率 (実当選確率)
1	$98/100 \times 1001/65536 = 98098/6553600 \approx 1/66.8$
2	$99/100 \times 1001/65536 = 99099/6553600 \approx 1/66.1$
3	$100/100 \times 1001/65536 = 10010/6553600 \approx 1/65.5$

10

20

30

40

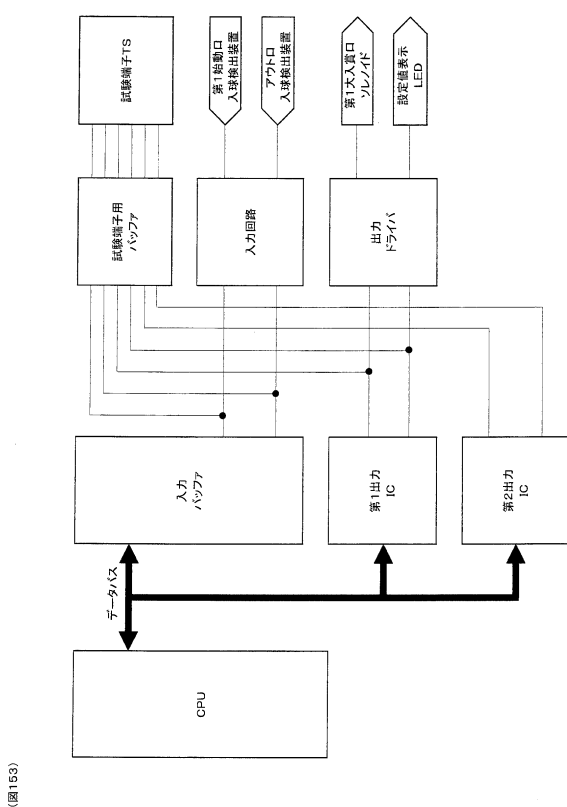
50

【図 1 5 2】

[illegible]

(圖152)(第12)

【図 153】



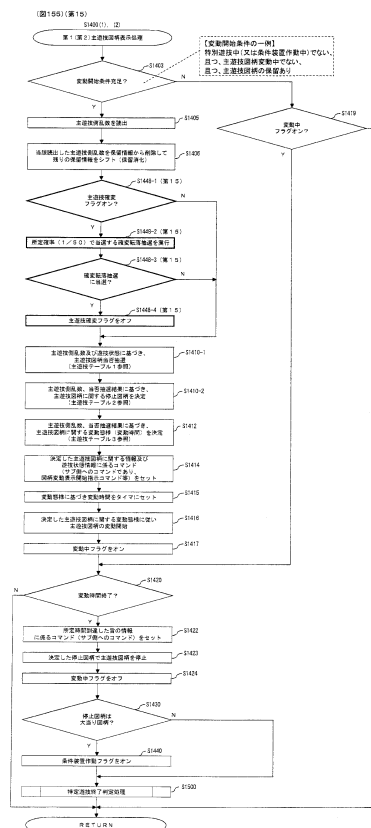
(圖153)

【図 154】

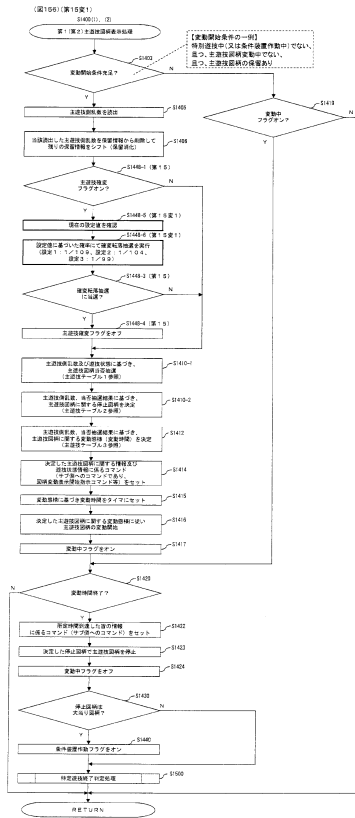
(图154)

アドレス	RAM名称	RAM内容
7F00H 7F01H 7F02H 7F03H . . 7FC0H . .	設定値データ	(1) 設定値に関するデータ
7FCEH . .	外部信号系データ	(2) 外部信号出力に関係するデータ
7FD0H 7FD1H 7FD2H 7FD3H 7FD4H 7FD5H . . 7FE0H . .	RAMチェックサムデータ	(3) 電源投入時に行うチェックサム算出処理にて、特定の値を算出させるためのデータ
7FF0H 7FF1H 7FF2H 7FF3H 7FF4H 7FF5H . . 7FF6H . .	制御コマンドバッファ	(4) 副制御基板側に送信するためのコマンド情報
7FF7H 7FF8H 7FF9H 7FFAH 7FFBH 7FFCH 7FFDH 7FFEH 7FFFH 7FFFH 8000H	スタックポインタ一時保存バッファ	(5) 電源回復時に使用するスタックポインタを保存してあるバッファ
7FF7H 7FF8H 7FF9H 7FFAH 7FFBH 7FFCH 7FFDH 7FFEH 7FFFH 7FFFH 8000H	未使用領域 退避データ8 退避データ7 退避データ6 退避データ5 退避データ4 退避データ3 退避データ2 退避データ1 スタックポインタ	(6) 遊技に使用されない領域 (7) CALL命令、PUSH命令などにより、退避されるデータが設計上最大に書き込まれる可能性があるRAM

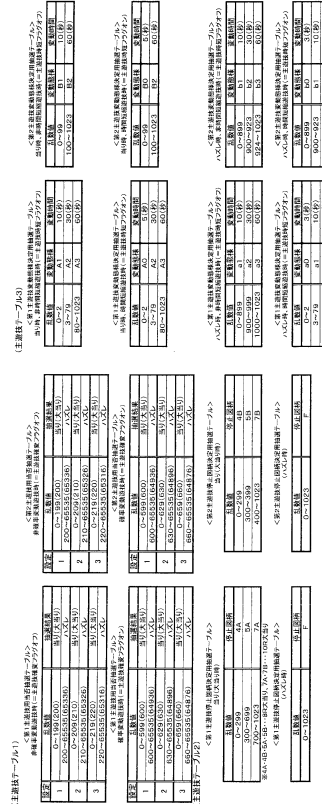
【図 155】



【図 156】



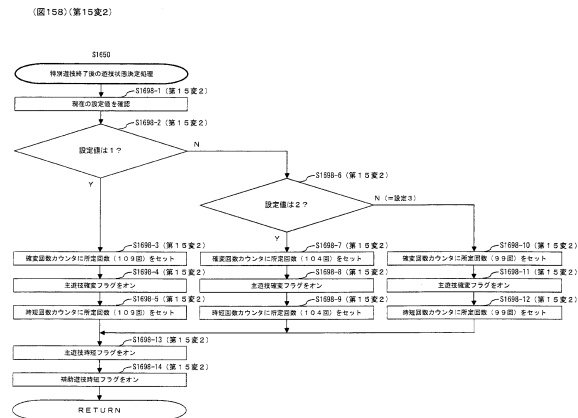
【図 157】



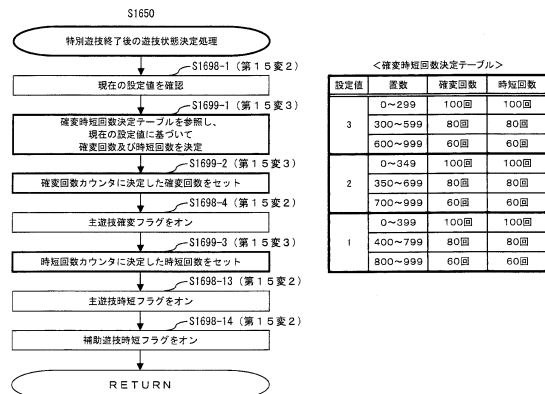
10

20

【図 158】



【図 159】



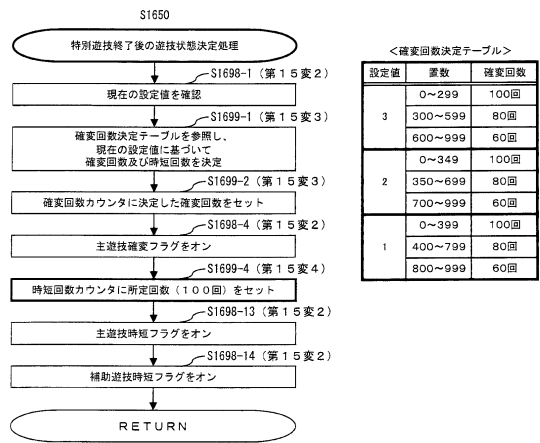
30

40

50

【図 1 6 0】

(図160)(第15変4)



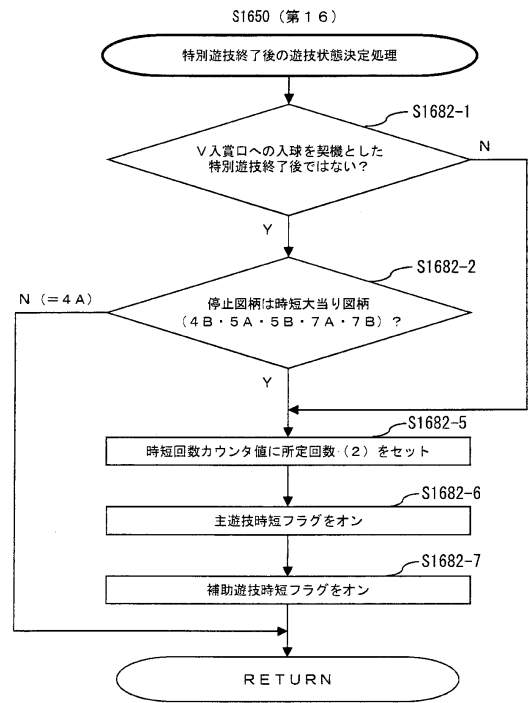
【図 1 6 1】

(図161)(第16)



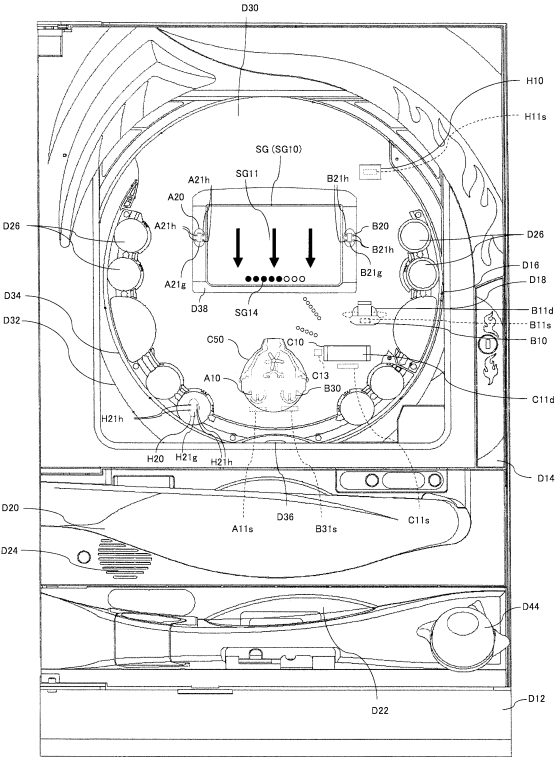
【図 1 6 2】

(図162)(第16)



【図 1 6 3】

(図163)(第17)



10

20

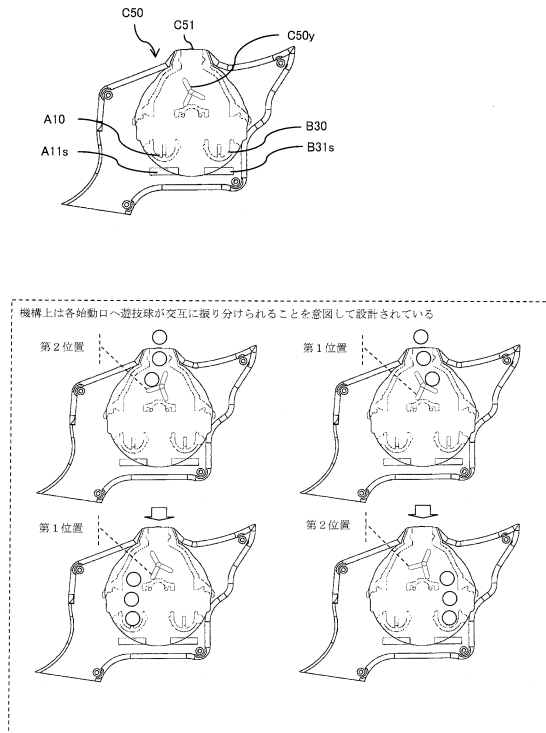
30

40

50

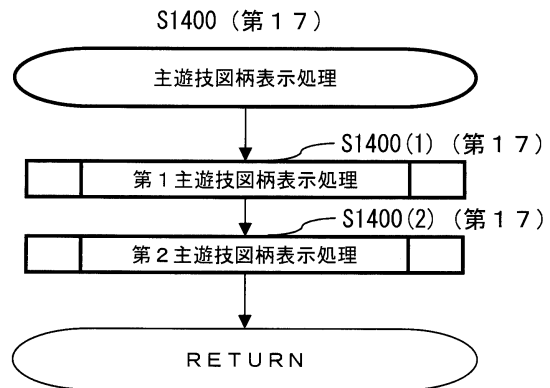
【圖 164】

(图 164) (第 17)



【図 1 6 5】

(図 165) (第 17)

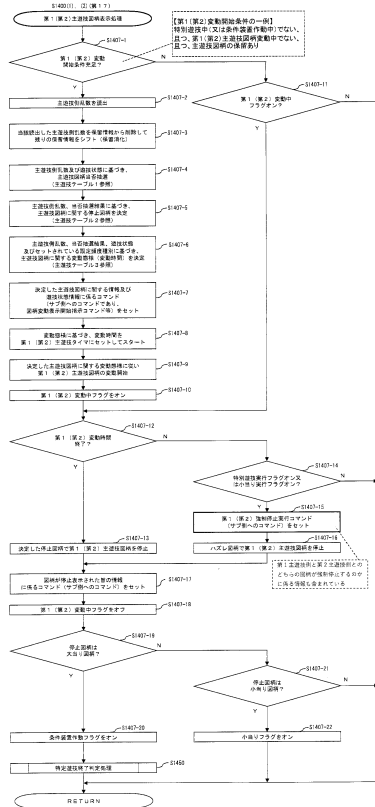


10

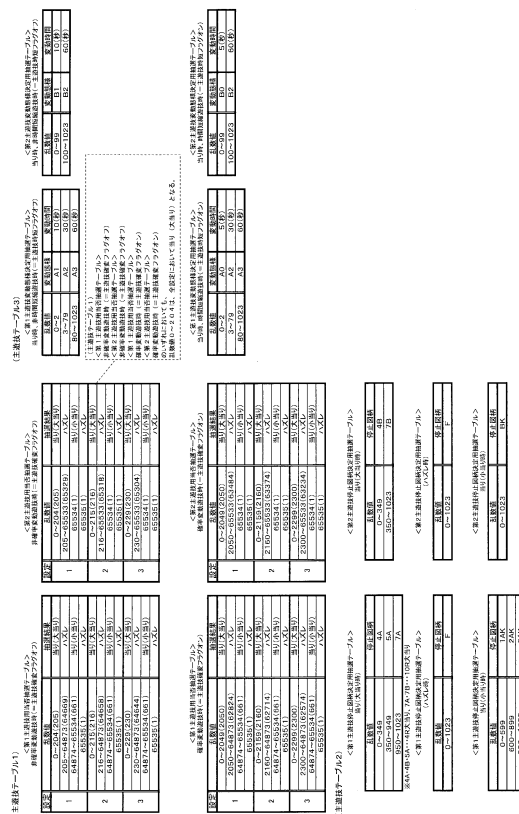
20

【図 166】

(圖 166) (第 17)



【図 1 6 7】



30

40

50

【図 1 6 8】

(図168)(第17)

<第1主遊技変動態様決定用抽選テーブルA> ハズレ時、非時間短縮遊技時(=主遊技時短フラグオフ)			<第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルA> ハズレ時、時間短縮遊技時(=主遊技時短フラグオン)		
乱数値	変動態様	変動時間	乱数値	変動態様	変動時間
0~1023	a1	14(秒)	0~1023	b1	60(秒)

<第1主遊技変動態様決定用抽選テーブルB> ハズレ時、時間短縮遊技時(=主遊技時短フラグオン)			<第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルB> ハズレ時、時間短縮遊技時(=主遊技時短フラグオフ)		
乱数値	変動態様	変動時間	乱数値	変動態様	変動時間
0~1023	a0	3(秒)	0~1023	b0	3(秒)

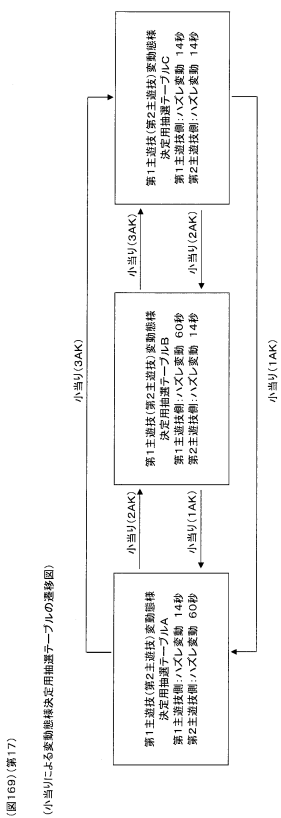
<第1主遊技変動態様決定用抽選テーブルB> ハズレ時、非時間短縮遊技時(=主遊技時短フラグオフ)			<第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルB> ハズレ時、非時間短縮遊技時(=主遊技時短フラグオン)		
乱数値	変動態様	変動時間	乱数値	変動態様	変動時間
0~1023	a2	60(秒)	0~1023	b2	14(秒)

<第1主遊技変動態様決定用抽選テーブルB> ハズレ時、時間短縮遊技時(=主遊技時短フラグオン)			<第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルB> ハズレ時、時間短縮遊技時(=主遊技時短フラグオン)		
乱数値	変動態様	変動時間	乱数値	変動態様	変動時間
0~1023	a0	3(秒)	0~1023	b0	3(秒)

<第1主遊技変動態様決定用抽選テーブルC> ハズレ時、非時間短縮遊技時(=主遊技時短フラグオフ)			<第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルC> ハズレ時、時間短縮遊技時(=主遊技時短フラグオン)		
乱数値	変動態様	変動時間	乱数値	変動態様	変動時間
0~1023	a1	14(秒)	0~1023	b2	14(秒)

<第1主遊技変動態様決定用抽選テーブルC> ハズレ時、時間短縮遊技時(=主遊技時短フラグオン)			<第2主遊技変動態様決定用抽選テーブルC> ハズレ時、時間短縮遊技時(=主遊技時短フラグオフ)		
乱数値	変動態様	変動時間	乱数値	変動態様	変動時間
0~1023	a0	3(秒)	0~1023	b0	3(秒)

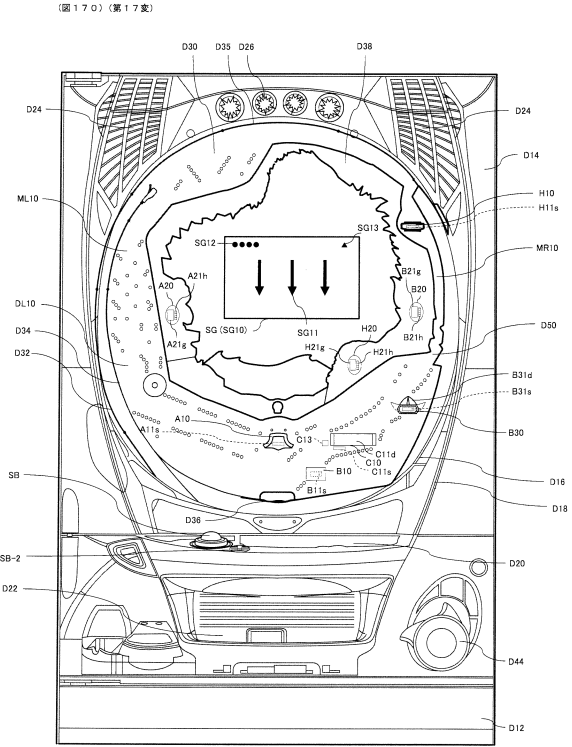
【図 1 6 9】



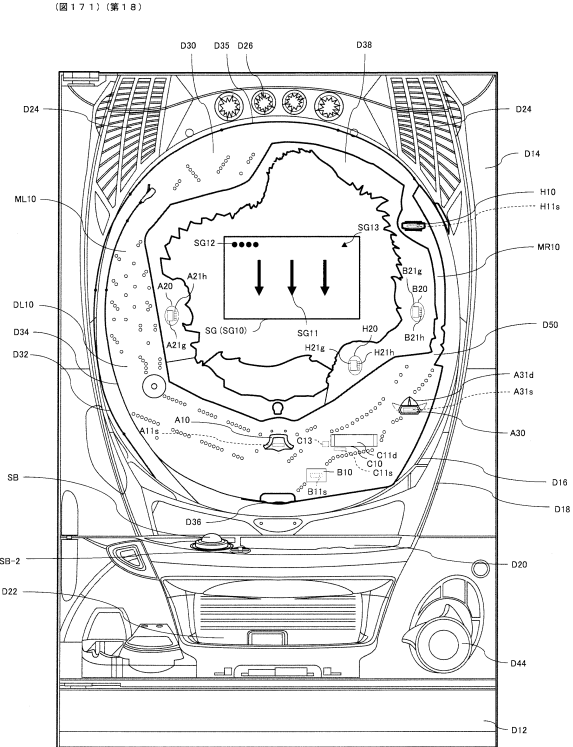
10

20

【図 1 7 0】



【図 1 7 1】



30

40

50

【図 172】

(圖172)(第18)

(主計簿「グループ」)			事業主が所有する有形固定資産(グループ)			事業主が所有する有形固定資産(グループ)			(主計簿「グループ」)		
区分	取得年月	取得価額	区分	取得年月	取得価額	区分	取得年月	取得価額	区分	取得年月	取得価額
1	0-0-004 (002)	800,000,000	1	2000-07-29 (0205)	2,500,000,000	1	2000-07-29 (0205)	2,500,000,000	1	2000-10-23	800,000,000
2	2000-06-05 (00331)	1,000,000,000	2	2000-06-05 (00331)	1,000,000,000	2	2000-06-05 (00331)	1,000,000,000	2	2000-10-23	800,000,000
3	0-0-115 (004)	800,000,000	3	2000-06-05 (00331)	1,000,000,000	3	2000-06-05 (00331)	1,000,000,000	3	2000-10-23	800,000,000
4	0-0-115 (004)	800,000,000	4	2000-06-05 (00331)	1,000,000,000	4	2000-06-05 (00331)	1,000,000,000	4	2000-10-23	800,000,000
5	0-0-115 (004)	800,000,000	5	2000-06-05 (00331)	1,000,000,000	5	2000-06-05 (00331)	1,000,000,000	5	2000-10-23	800,000,000
6	0-0-115 (004)	800,000,000	6	2000-06-05 (00331)	1,000,000,000	6	2000-06-05 (00331)	1,000,000,000	6	2000-10-23	800,000,000
7	0-0-115 (004)	800,000,000	7	2000-06-05 (00331)	1,000,000,000	7	2000-06-05 (00331)	1,000,000,000	7	2000-10-23	800,000,000
8	0-0-115 (004)	800,000,000	8	2000-06-05 (00331)	1,000,000,000	8	2000-06-05 (00331)	1,000,000,000	8	2000-10-23	800,000,000
9	0-0-115 (004)	800,000,000	9	2000-06-05 (00331)	1,000,000,000	9	2000-06-05 (00331)	1,000,000,000	9	2000-10-23	800,000,000
10	0-0-115 (004)	800,000,000	10	2000-06-05 (00331)	1,000,000,000	10	2000-06-05 (00331)	1,000,000,000	10	2000-10-23	800,000,000
11	0-0-115 (004)	800,000,000	11	2000-06-05 (00331)	1,000,000,000	11	2000-06-05 (00331)	1,000,000,000	11	2000-10-23	800,000,000
12	0-0-115 (004)	800,000,000	12	2000-06-05 (00331)	1,000,000,000	12	2000-06-05 (00331)	1,000,000,000	12	2000-10-23	800,000,000
13	0-0-115 (004)	800,000,000	13	2000-06-05 (00331)	1,000,000,000	13	2000-06-05 (00331)	1,000,000,000	13	2000-10-23	800,000,000
14	0-0-115 (004)	800,000,000	14	2000-06-05 (00331)	1,000,000,000	14	2000-06-05 (00331)	1,000,000,000	14	2000-10-23	800,000,000
15	0-0-115 (004)	800,000,000	15	2000-06-05 (00331)	1,000,000,000	15	2000-06-05 (00331)	1,000,000,000	15	2000-10-23	800,000,000
16	0-0-115 (004)	800,000,000	16	2000-06-05 (00331)	1,000,000,000	16	2000-06-05 (00331)	1,000,000,000	16	2000-10-23	800,000,000
17	0-0-115 (004)	800,000,000	17	2000-06-05 (00331)	1,000,000,000	17	2000-06-05 (00331)	1,000,000,000	17	2000-10-23	800,000,000
18	0-0-115 (004)	800,000,000	18	2000-06-05 (00331)	1,000,000,000	18	2000-06-05 (00331)	1,000,000,000	18	2000-10-23	800,000,000
19	0-0-115 (004)	800,000,000	19	2000-06-05 (00331)	1,000,000,000	19	2000-06-05 (00331)	1,000,000,000	19	2000-10-23	800,000,000
20	0-0-115 (004)	800,000,000	20	2000-06-05 (00331)	1,000,000,000	20	2000-06-05 (00331)	1,000,000,000	20	2000-10-23	800,000,000
21	0-0-115 (004)	800,000,000	21	2000-06-05 (00331)	1,000,000,000	21	2000-06-05 (00331)	1,000,000,000	21	2000-10-23	800,000,000
22	0-0-115 (004)	800,000,000	22	2000-06-05 (00331)	1,000,000,000	22	2000-06-05 (00331)	1,000,000,000	22	2000-10-23	800,000,000</

【図 174】

[illegible]

(圖174) (第19)

区別	区別名	種別	種別名
1	0-204 (102)	個人(人)	個人(人)
2	205-655 (653)	バス	バス
3	0-115 (10)	個人(人)	個人(人)
4	216-647 (632)	バス	バス
5	0-230 (23)	個人(人)	個人(人)
6	231-655 (653)	バス	バス

【圖 173】

(圖173)(第18)

[illegible]

【圖 175】

[illegible]

(圖 175) (第 19 段)

【図 180】

(図180)(第21)

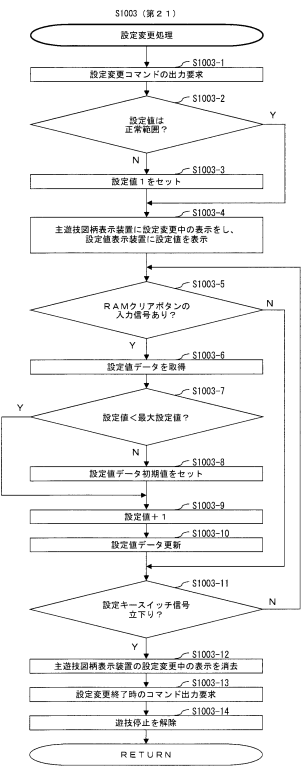
<電源投入時のサブ側へのコマンド>

コマンド	送信タイミング
設定変更処理の実行に係る情報	設定変更操作(前枠開放、且つ、設定キースイッチオン、且つ、RAMクリアボタンオン)での電源投入時
RAM異常に係る情報	RAMのバックアップが正常でない状態で電源投入時
継続している異常に係る情報	電源断前に検出したエラーが電源復帰後にも継続している
設定変更異常に係る情報	設定変更処理中に電源オフ→設定変更操作以外での電源投入時
設定値異常に係る情報	設定値が範囲外での電源投入時
設定確認処理の実行に係る情報	設定確認操作(前枠開放、且つ、設定キースイッチオン、且つ、RAMクリアボタンオフ)での電源投入時
電源復帰に係る情報	電源断復帰での(通常の)電源投入時
	RAMクリア操作での電源投入時
	設定変更処理または設定確認処理が終了したとき

※電源投入時には上記表内のいずれかのコマンドを必ず送信するよう構成されており、出力条件を充足するコマンドが複数あった場合(送信タイミングの項目の複数個を同時に充足した場合)には、優先度の高い上の行のコマンドを優先的に送信するよう構成されている。

【図 181】

(図181)(第21)

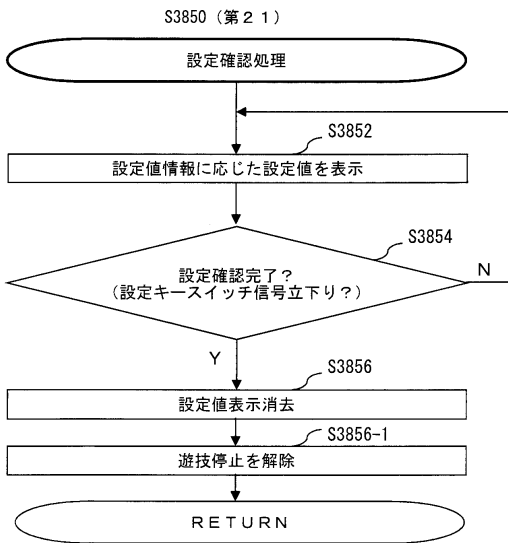


10

20

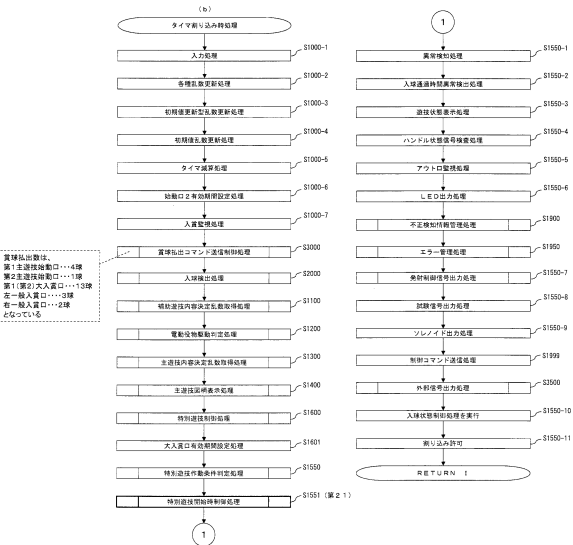
【図 182】

(図182)(第21)



【図 183】

(図183)(第21)



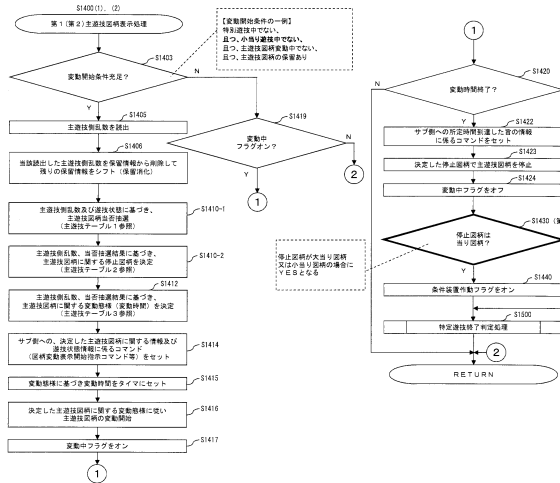
30

40

50

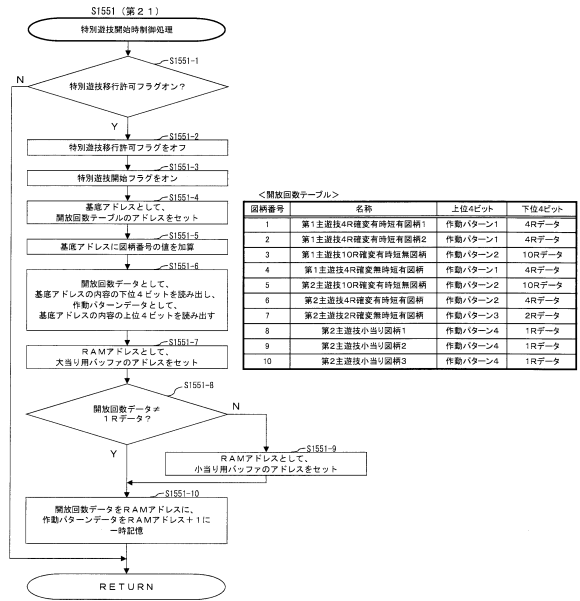
【図184】

(図184)(第21)



【図185】

(図185)(第21)



図柄番号	名称	上位4ビット	下位4ビット
1	第1主遊技4R確実有時短有図柄1	作動パターン1	4Rデータ
2	第1主遊技4R確実有時短有図柄2	作動パターン2	4Rデータ
3	第1主遊技10R確実有時短有図柄	作動パターン2	10Rデータ
4	第1主遊技4R確実有時短有図柄	作動パターン1	4Rデータ
5	第2主遊技10R確実有時短有図柄	作動パターン2	10Rデータ
6	第2主遊技4R確実有時短有図柄	作動パターン2	4Rデータ
7	第2主遊技2R確実有時短有図柄	作動パターン3	2Rデータ
8	第2主遊技小当り図柄1	作動パターン4	1Rデータ
9	第2主遊技小当り図柄2	作動パターン4	1Rデータ
10	第2主遊技小当り図柄3	作動パターン4	1Rデータ

【図186】

(図186)(第21)

<図柄毎の大当り口の実際の開放態様>

図柄番号	名称	作動パターン	ラウンド数	実際の開放態様
1	第1主遊技4R確実有時短有図柄1	作動パターン1	4R	「5秒開放一閉鎖」×4R
2	第1主遊技4R確実有時短有図柄2	作動パターン1	4R	「5秒開放一閉鎖」×4R
3	第1主遊技10R確実有時短有図柄	作動パターン2	10R	「28秒開放一閉鎖」×10R
4	第1主遊技4R確実有時短有図柄	作動パターン1	4R	「5秒開放一閉鎖」×4R
5	第2主遊技10R確実有時短有図柄	作動パターン2	10R	「28秒開放一閉鎖」×10R
6	第2主遊技4R確実有時短有図柄	作動パターン2	4R	「28秒開放一閉鎖」×4R
7	第2主遊技2R確実有時短有図柄	作動パターン3	2R	「3秒開放一閉鎖」×2R
8	第2主遊技小当り図柄1	作動パターン4	1R	「1秒開放一閉鎖」×1R
9	第2主遊技小当り図柄2	作動パターン4	1R	「1秒開放一閉鎖」×1R
10	第2主遊技小当り図柄3	作動パターン4	1R	「1秒開放一閉鎖」×1R

<作動パターン毎のセットされる大当り口の開放態様>

作動パターン	セットされる開放態様
作動パターン1	「5秒開放一閉鎖」×4R
作動パターン2	「28秒開放一閉鎖」×10R
作動パターン3	「3秒開放一閉鎖」×2R
作動パターン4	「1秒開放一閉鎖」×1R

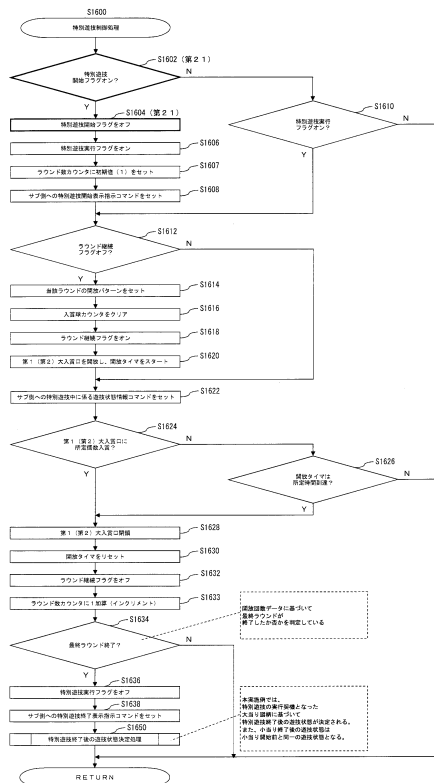
※図柄番号6の第2主遊技4R確実有時短有図柄が停止した場合、10Rまでの開放態様を有する作動パターン2がセットされる。作動パターン2の4R目までが実行されると大当りが終了するため、実際のラウンド数は4Rとなる。

即ち、図柄番号5の第2主遊技10R確実有時短有図柄に係る特別遊技の4R目までで、

図柄番号6の第2主遊技4R確実有時短有図柄に係る特別遊技の大当り口の開放態様は同一となっている。

【図187】

(図187)(第21)



10

20

30

40

50

【圖 188】

(圖188)(第21)

<<ラウンド表示灯テーブル>>

＜製番A＞
小出 昌 95

小当り、2R大当り、4R大当り、
10R大当りを有する

種類	ラウンド表示灯データ
ハズレ	00000000B
小当り	00000000B
2R大当り	0000110B
3R大当り	00H
4R大当り	0000111B
5R大当り	00H
6R大当り	00H
7R大当り	00H
8R大当り	00H
9R大当り	00H
10R大当り	0000111B

＜製番B＞
1.0日土当り

10R大当り

種類	ラウンド表示灯データ
ハズレ	00000000B
小当り	00H
2R大当り	00H
3R大当り	00H
4R大当り	00H
5R大当り	00H
6R大当り	00H
7R大当り	00H
8R大当り	00H
9R大当り	00H
10R大当り	00001111B

＜製番C＞
小出山 5D

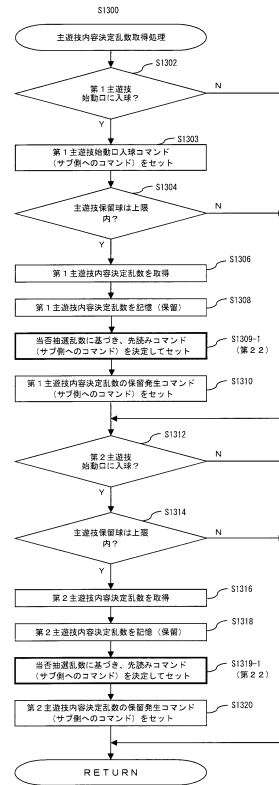
小当り、5R
10R本当り

10R大当りを有する

種類	ラウンド表示灯データ
ハズレ	00000000B
小当り	00000000B
2R大当り	00H
3R大当り	00H
4R大当り	00H
5R大当り	00001100B
6R大当り	00H
7R大当り	00H
8R大当り	00H
9R大当り	00H
10R大当り	00001111B

【圖 189】

(図189)(第22)



10

20

【図 190】

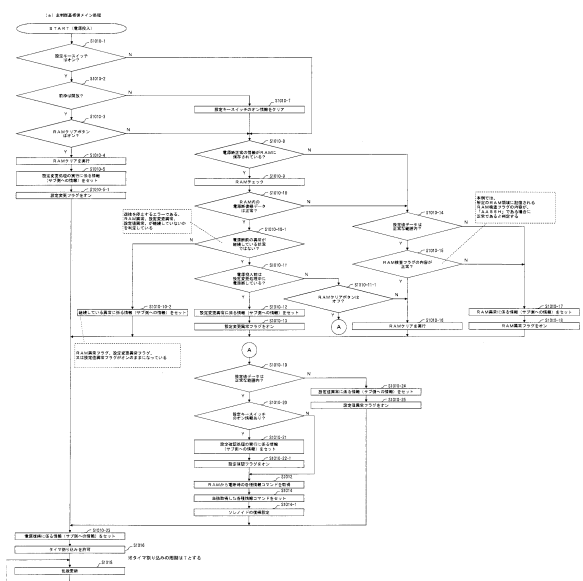
[[图190](第22)

田邊聖哲「戦時下の日本と南洋」

[illegible][illegible]

【圖 191】

1991年第2期

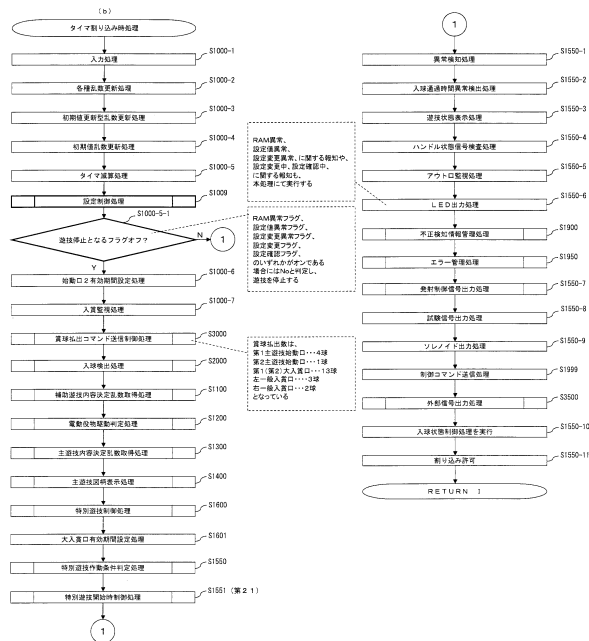


30

40

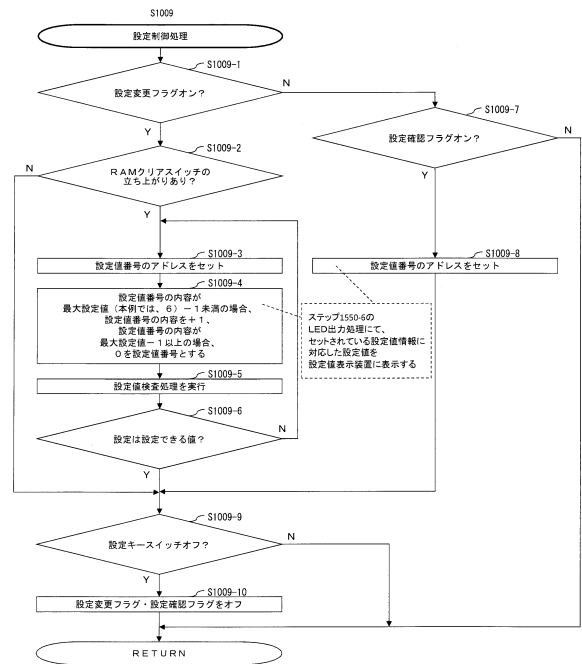
【図 192】

(圖192)(第23)



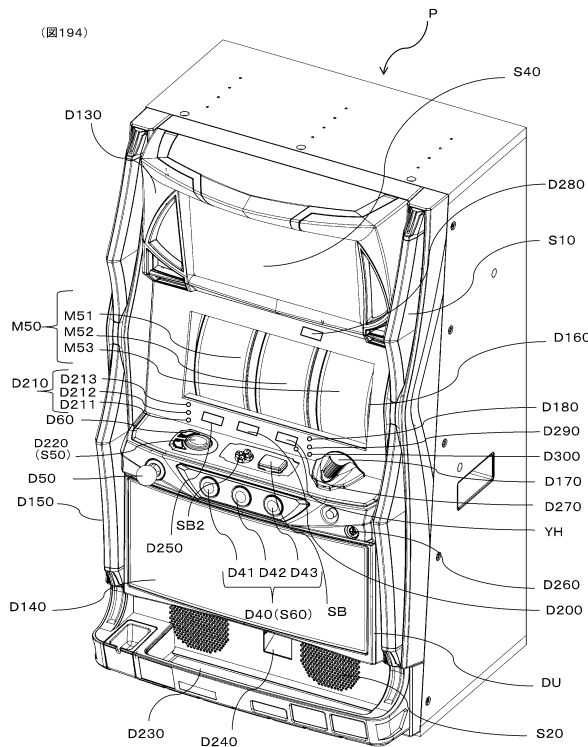
【図 193】

(圖193)(第23)



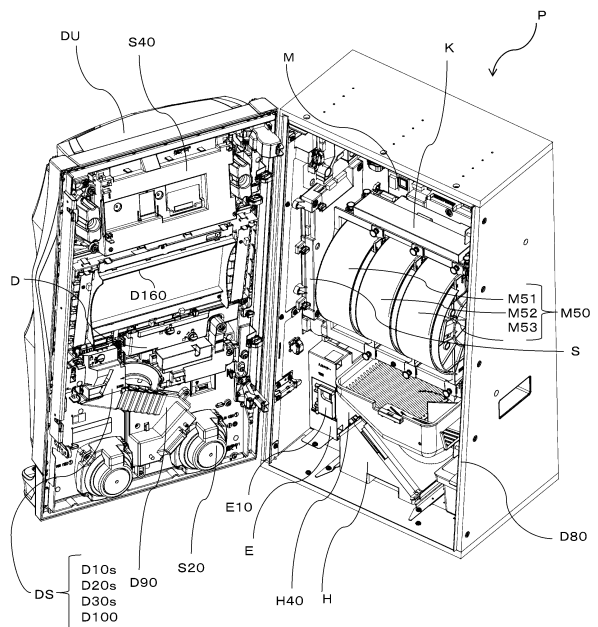
【図 194】

(圖194)



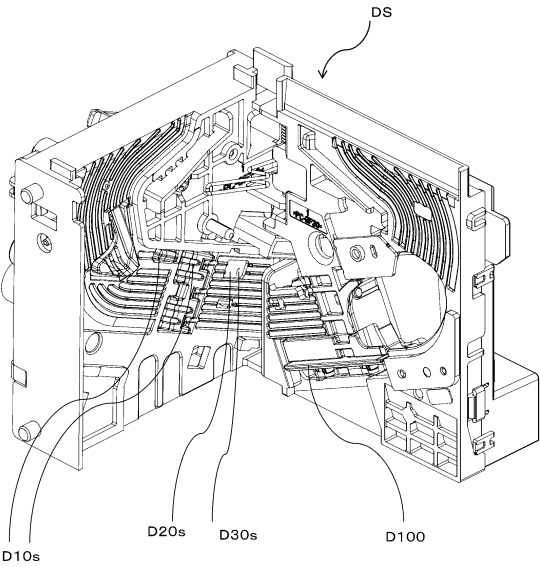
【図 195】

(圖195)

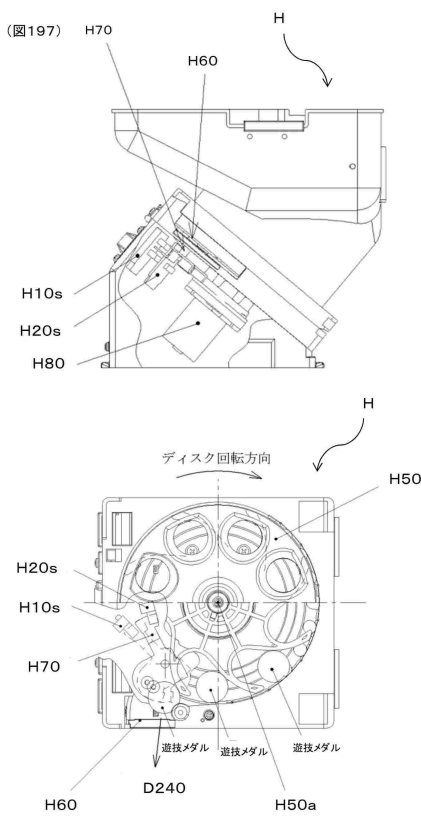


【図 1 9 6】

(図196)



【図 1 9 7】



【図 1 9 8】

(図198)

【基本仕様一覧】

(1) 規定数

遊技状態	規定数
役物未作動時	3枚
1種BーA〜C作動時	3枚

(2) リールの名称及び停止ボタンとの関係

各リール20コマで構成

メソ	メソ	メソ
左リール	中リール	右リール

停止ボタン	停止リール
左ボタン	左リール
中ボタン	中リール
右ボタン	右リール

(3) 有効ライン

規定数3枚
有効ライン1

	左リール	中リール	右リール
上段			
中段			
下段			

【図 1 9 9】

(図199)
【リール配列一覧】

	左リール	中リール	右リール
0	ワレA	ベ	ベ
19	黒ワフ	ワレA	ワレA
18	スハ	黒ワフ	スハ
17	黒ワフ	スハ	黒ワフ
16	ベ	ワレA	ワレA
15	ワレA	ベ	ベ
14	ハ	ワレA	ワレA
13	スハ	ワレA	スハ
12	ワレB	スハ	ハ
11	ベ	ワレA	ワレA
10	白ワフ	ベ	ベ
9	白ワフ	スハ	ワレA
8	スハ	スハ	スハ
7	ワレB	スハ	ハ
6	ベ	ワレA	ワレA
5	ワレA	ベ	ベ
4	ワレA	ワレA	ワレA
3	ハ	ハ	ワレB
2	スハ	スハ	白ワフ
1	ベ	ワレA	ワレA

	図柄名称
1	黒ワフ
2	白ワフ
3	ハ
4	ハ
5	ベ
6	ワレA
7	ワレB
8	スハ
9	スハ
10	ワレA

10

20

30

40

50

【図 2 0 0】

(図200)

【図柄組み合わせ一覧1】

	左 リール	中 リール	右 リール	条件装置	払い出し 枚数等	役割等
1				1種B1-A	1種B1D	R B1-Aを連配作動、264枚の払出し終了
2				1種B1-B	1種B1D	R B1-Bを連配作動、132枚の払出し終了
3				1種B1-C	1種B1D	R B1-Bを連配作動、132枚の払出し終了
4				両遊技01	両遊技	
5				両遊技01	両遊技	
6				両遊技02	両遊技	
7				両遊技02	両遊技	
8				両遊技02	両遊技	
9				両遊技02	両遊技	
10				両遊技03	両遊技	
11				両遊技03	両遊技	
12				両遊技03	両遊技	
13				両遊技03	両遊技	
14				両遊技04	両遊技	R T Oへ移行（転落）する図柄組合せ
15				両遊技04	両遊技	R T Oへ移行（転落）する図柄組合せ
16				両遊技04	両遊技	R T Oへ移行（転落）する図柄組合せ
17				両遊技05	両遊技	旗セブン下突揃い用
18				両遊技05	両遊技	白セブン下突揃い用
19				両遊技05	両遊技	
20				両遊技05	両遊技	

【図 2 0 1】

(図201)

【図柄組み合わせ一覧2】

	左 リール	中 リール	右 リール	条件装置	払い出し 枚数等	役割等
21				入賞01	11	
22				入賞01	11	
23				入賞02	11	
24				入賞03	11	
25				入賞03	11	
26				入賞03	11	
27				入賞03	11	
28				入賞04	11	
29				入賞04	11	
30				入賞04	11	
31				入賞05	11	
32				入賞06	11	
33				入賞06	11	
34				入賞06	11	
35				入賞06	11	
36				入賞07	11	
37				入賞07	11	
38				入賞07	11	
39				入賞08	1	押し順ベル返し日用
40				入賞08	1	押し順ベル返し日用

10

【図 2 0 2】

(図202)

【図柄組み合わせ一覧3】

	左 リール	中 リール	右 リール	条件装置	払い出し 枚数等	役割等
41				入賞08	1	押し順ベル返し日用
42				入賞08	1	押し順ベル返し日用
43				入賞09	1	押し順ベル返し日用
44				入賞09	1	押し順ベル返し日用
45				入賞10	1	押し順ベル返し日用
46				入賞10	1	押し順ベル返し日用
47				入賞10	1	押し順ベル返し日用
48				入賞10	1	押し順ベル返し日用
49				入賞10	1	押し順ベル返し日用
50				入賞10	1	押し順ベル返し日用
51				入賞10	1	押し順ベル返し日用
52				入賞10	1	押し順ベル返し日用
53				入賞11	1	押し順ベル返し日用
54				入賞11	1	押し順ベル返し日用
55				入賞11	1	押し順ベル返し日用
56				入賞11	1	押し順ベル返し日用
57				入賞12	11	
58				入賞12	11	
59				入賞13	11	
60				入賞14	11	
61				入賞14	11	
62				入賞14	11	
63				入賞15	11	
64				入賞15	11	
65				入賞16	11	
66				入賞16	11	
67				入賞17	11	

【図 2 0 3】

(図203)

【条件装置一覧】						役割		条件装置
信濃県民バス	信濃県民バス	信濃県民バス	信濃県民バス	信濃県民バス	信濃県民バス	信濃県民バス	信濃県民バス	信濃県民バス
1	0	0	0	0	0	信濃県民バス	信濃県民バス	信濃県民バス
2	0	0	0	0	0	信濃県民バス	信濃県民バス	信濃県民バス
3	0	0	0	0	0	信濃県民バス	信濃県民バス	信濃県民バス
4	0	0	0	0	0	信濃県民バス	信濃県民バス	信濃県民バス
5	0	0	0	0	0	信濃県民バス	信濃県民バス	信濃県民バス
6	0	0	0	0	0	信濃県民バス	信濃県民バス	信濃県民バス
7	0	0	0	0	0	信濃県民バス	信濃県民バス	信濃県民バス
8	0	0	0	0	0	信濃県民バス	信濃県民バス	信濃県民バス
9	0	0	0	0	0	信濃県民バス	信濃県民バス	信濃県民バス
10	0	0	0	0	0	信濃県民バス	信濃県民バス	信濃県民バス
11	0	0	0	0	0	信濃県民バス	信濃県民バス	信濃県民バス
12	0	0	0	0	0	信濃県民バス	信濃県民バス	信濃県民バス
13	0	0	0	0	0	信濃県民バス	信濃県民バス	信濃県民バス
14	0	0	0	0	0	信濃県民バス	信濃県民バス	信濃県民バス
15	0	0	0	0	0	信濃県民バス	信濃県民バス	信濃県民バス
16	0	0	0	0	0	信濃県民バス	信濃県民バス	信濃県民バス
17	0	0	0	0	0	信濃県民バス	信濃県民バス	信濃県民バス
18	0	0	0	0	0	信濃県民バス	信濃県民バス	信濃県民バス
19	0	0	0	0	0	信濃県民バス	信濃県民バス	信濃県民バス
20	0	0	0	0	0	信濃県民バス	信濃県民バス	信濃県民バス
21	0	0	0	0	0	信濃県民バス	信濃県民バス	信濃県民バス
22	0	0	0	0	0	信濃県民バス	信濃県民バス	信濃県民バス
23	0	0	0	0	0	信濃県民バス	信濃県民バス	信濃県民バス
24	0	0	0	0	0	信濃県民バス	信濃県民バス	信濃県民バス
25	0	0	0	0	0	信濃県民バス	信濃県民バス	信濃県民バス
26	0	0	0	0	0	信濃県民バス	信濃県民バス	信濃県民バス
27	0	0	0	0	0	信濃県民バス	信濃県民バス	信濃県民バス

20

30

40

50

【図 204】

〈圖204〉

会社名、再建債及びボナス出題率一覧(※決定値が1である場合)			RTO			1組目 A、B、C
再建番号	多岐決定値(※)	役割	RTO	RT1	RT2	
5	○なし	○なし	37448	11193	34281	
6	○あり	再建債1組	9000	9000	9000	
7	○あり	再建債1組	400	400	400	
8	○あり	再建債1組	400	400	400	
9	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
10	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
11	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
12	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
13	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
14	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
15	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
16	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
17	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
18	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
19	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
20	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
21	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
22	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
23	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
24	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
25	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
26	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
27	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
28	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
29	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
30	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
31	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
32	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
33	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
34	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
35	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
36	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
37	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
38	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
39	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
40	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
41	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
42	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
43	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
44	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
45	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
46	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
47	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
48	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
49	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
50	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
51	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
52	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
53	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
54	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
55	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
56	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
57	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
58	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
59	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
60	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
61	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
62	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
63	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
64	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
65	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
66	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
67	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
68	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
69	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
70	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
71	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
72	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
73	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
74	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
75	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
76	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
77	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
78	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
79	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
80	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
81	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
82	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
83	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
84	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
85	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
86	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
87	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
88	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
89	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
90	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
91	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
92	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
93	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
94	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
95	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
96	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
97	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
98	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
99	○あり	再建債1組	1	10000	15000	
100	○あり	再建債1組	1	10000	15000	

※RT2(BB内部中)において、当選番号21～23及び当選番号25～27のBB役と小役とが重複している条件装置に当選した場合には、BB役が無効となり小役のみが停止表示し得る。
RT2(BB内部中)において、当選番号19、20又は24のBB役が当選した場合には、BB役は無効となりハズレと同様の停止表示態様となる。

【押し順ナビあり時における期待値一覧】

RT状態	RT0	RT1	RT2
再遊技	9004	35800	1250
11枚役	18464	18464	18464
分母	65536	65536	65536
1遊技あたりの 平均払出数	3.511291504	4.737915039	3.671371461
1遊技あたりの メダル増減期待値	1.170430501	1.579305013	1.223790468

【共通ベル出現率】

共通ベル (RT状態に拘らず出現率は一律)			
設定1	設定2	設定3	
3204	3404	360	
設定4	設定5	設定6	
3904	4204	450	

※共通ベルの出現率(抽選確率)は設定値によって相違する。
また、共通ベルに当選しても、AT抽選、AT上乗せ抽選及び高確率状態移行抽選は実行されない。

【1種BB-A出現率】

1種88-A (RT状態に拘らず出現率は一律)			
設定1	40	設定2	40
設定4	40	設定5	40
		設定6	40

【1種BB-B出現率】

1種BB-Bを含む条件装置の合算 (RT状態に拘らず出現率は一律)			
設定1	160	設定2	180
設定4	220	設定5	240
		設定6	270

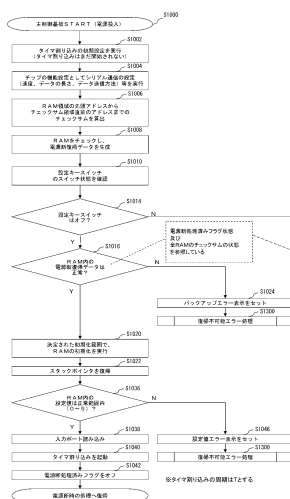
【1種BB-C出現率】

1種BB-Cを含む条件装置の合算 (RT枚数に拠らず出現率は一律)			
設定1	設定2	設定3	
160	160	160	160
設定4	設定5	設定6	
160	160	160	160

※1種BB-A及び1種BB-C(合算)の出現率は
設定値に拘らず同一であるが、
1種BB-B(合算)の出現率は
設定値によって相違する

【図 206】

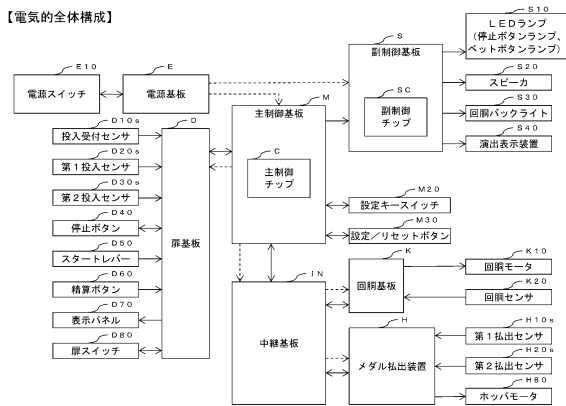
(圖206)



【図 205】

(圖205)

【電気の全体構成】

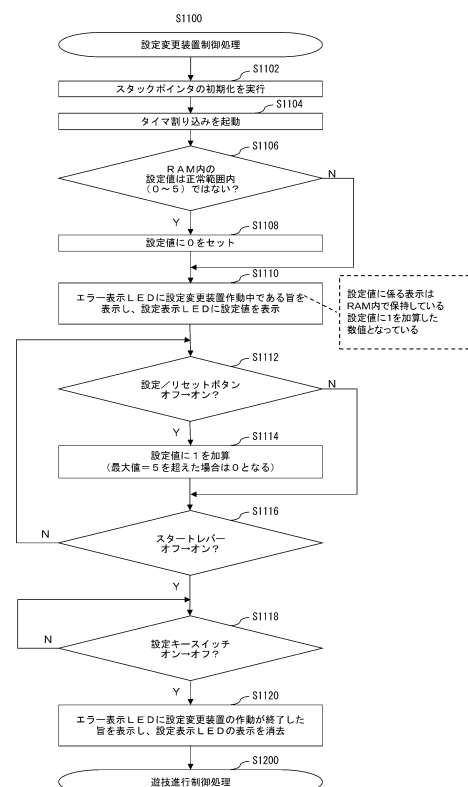


10

20

【図 207】

(圖207)

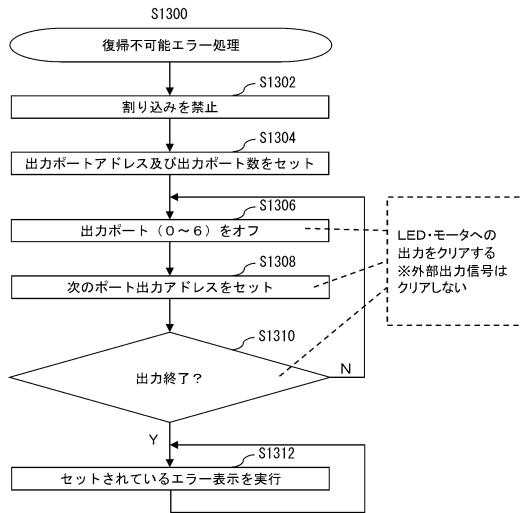


30

40

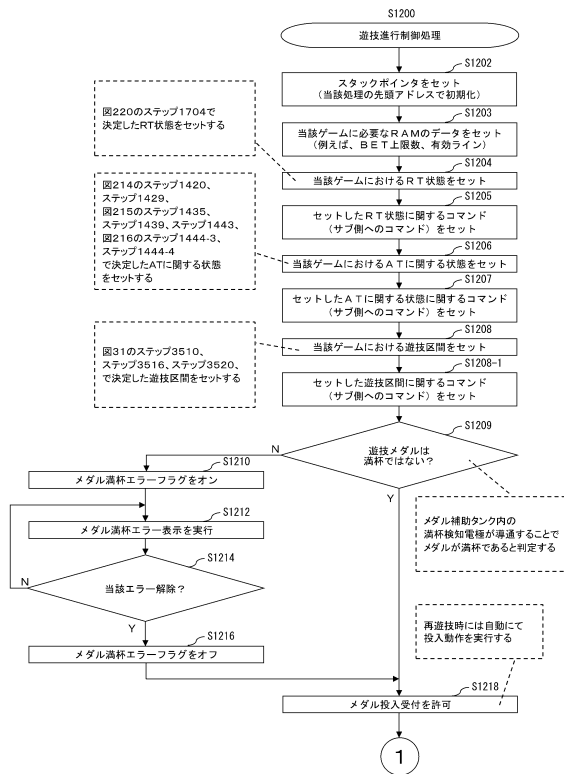
【図 208】

(図208)



【圖 209】

(圖209)

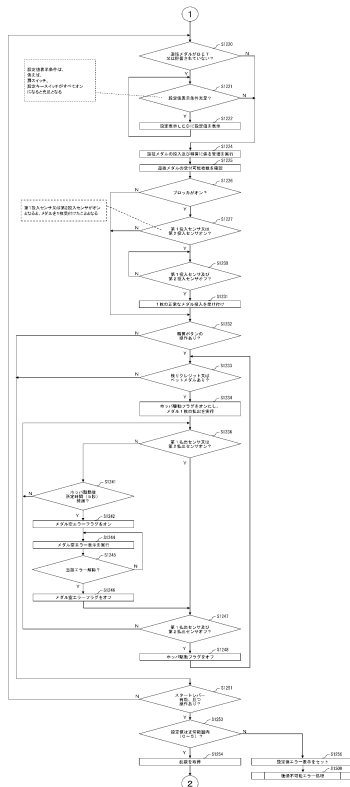


10

20

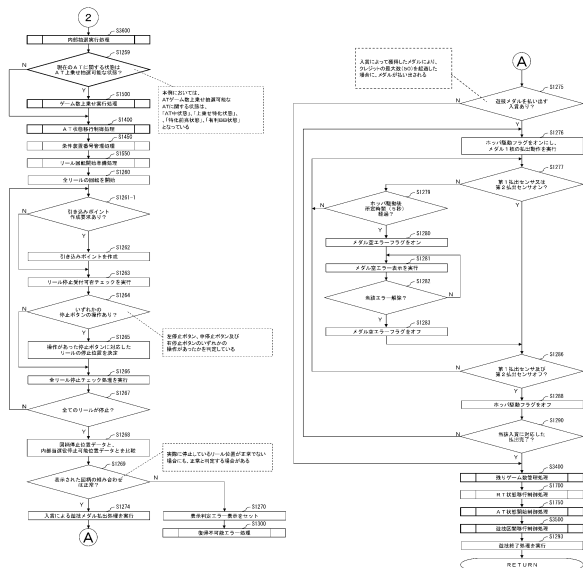
【図 2 1 0】

(圖 276)



【図 2 1 1】

(2021)

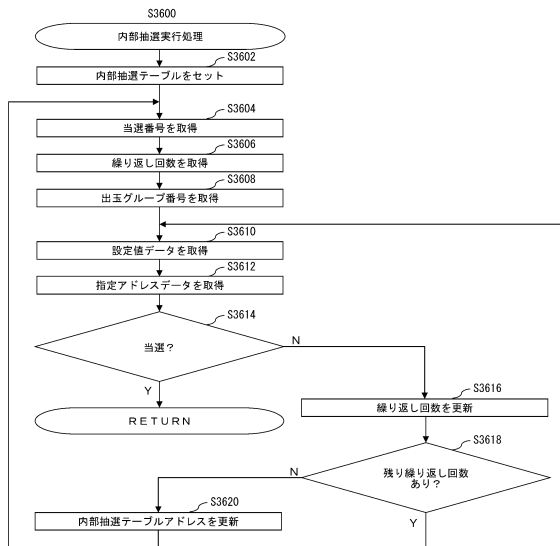


30

40

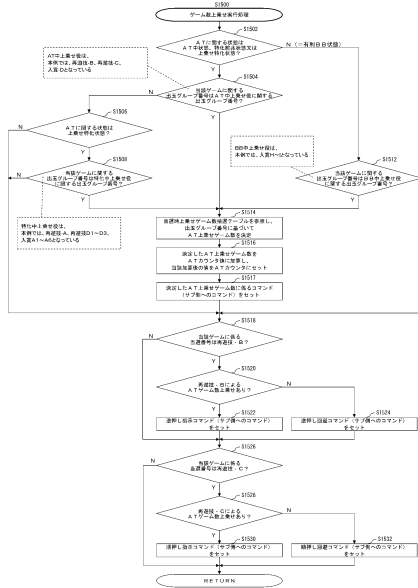
【圖 2 1 2】

(图212)



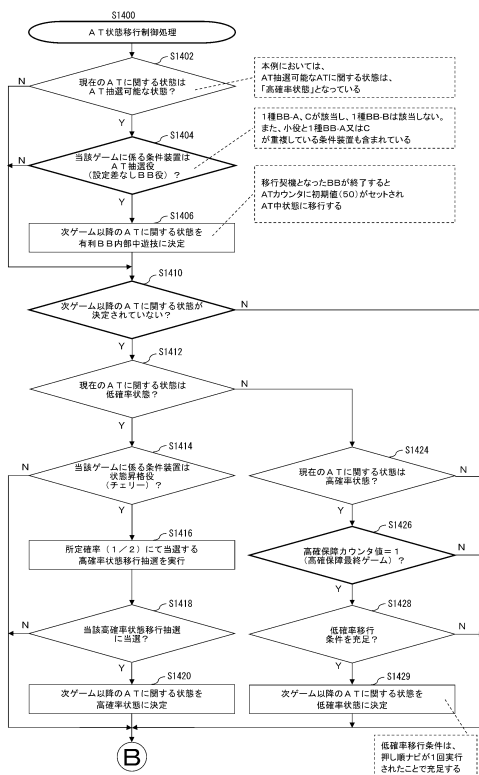
【圖 2 1 3】

(圖213)

[illegible]

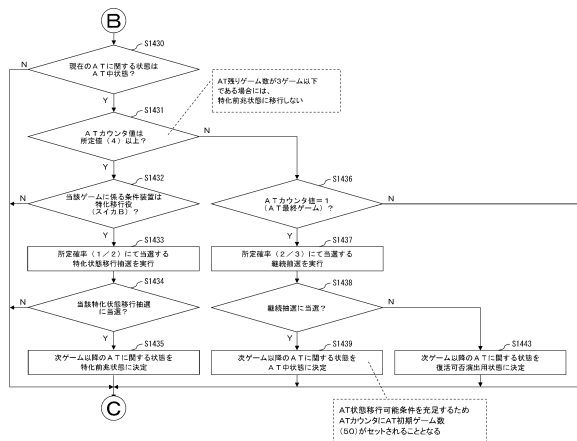
【図 2 1 4】

(圖214)

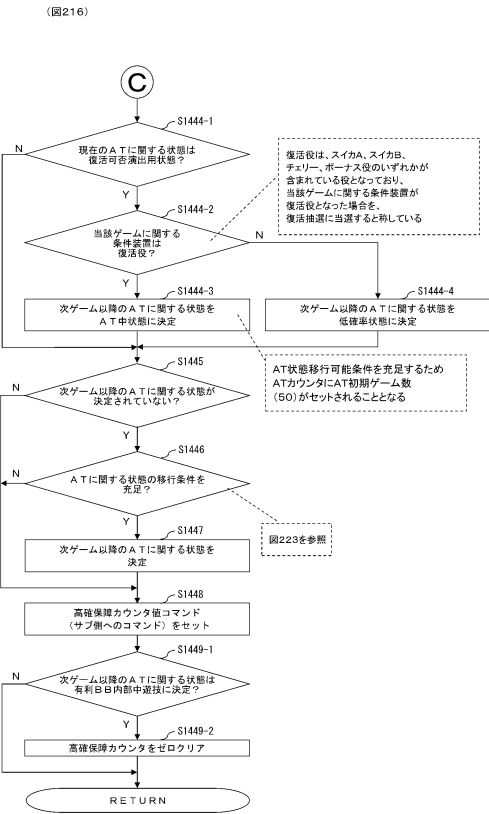


【図 2 1 5】

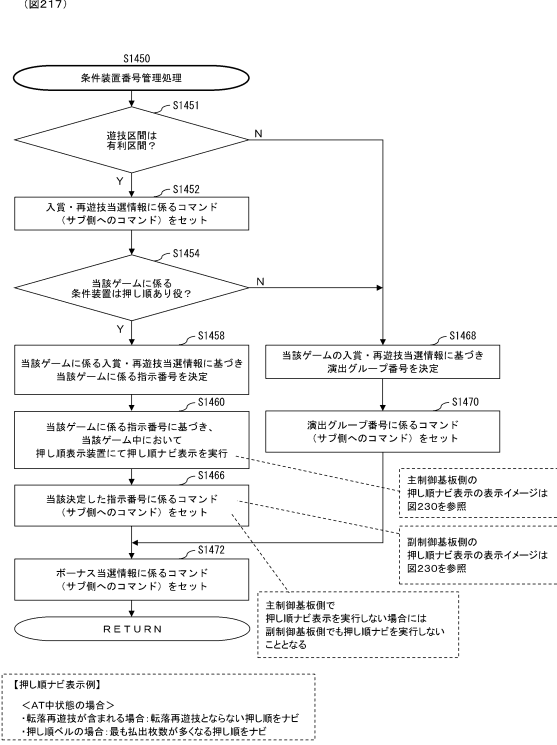
(图215)



【図 2 1 6】



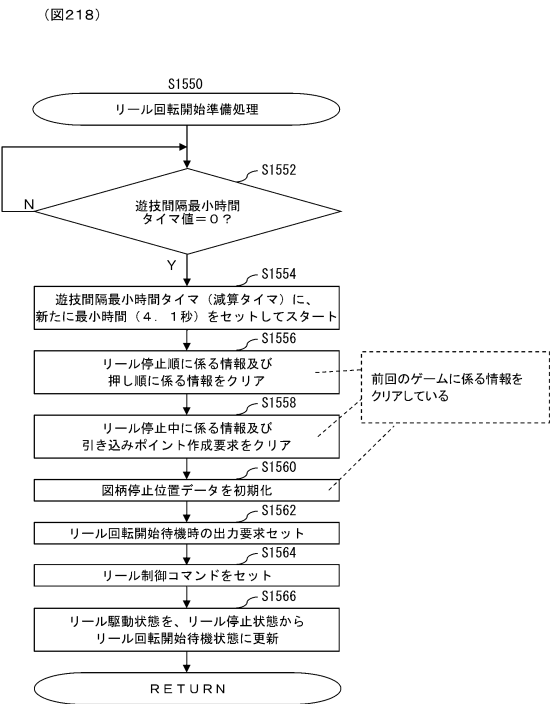
【図 2 1 7】



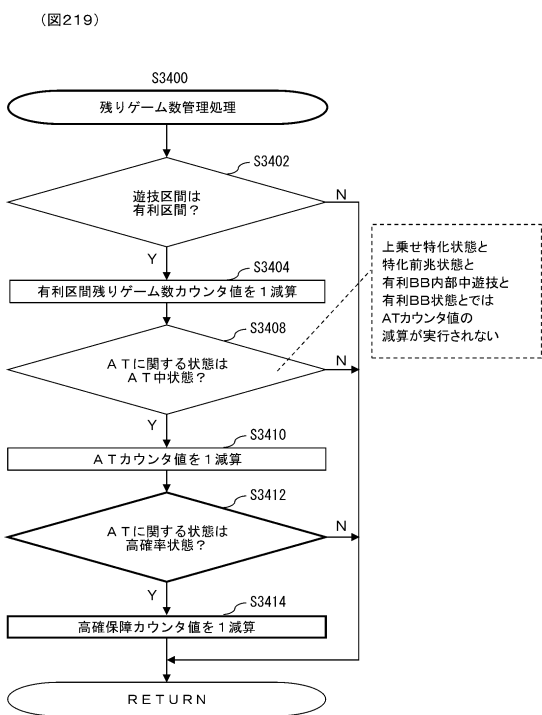
10

20

【図 2 1 8】



【図 2 1 9】



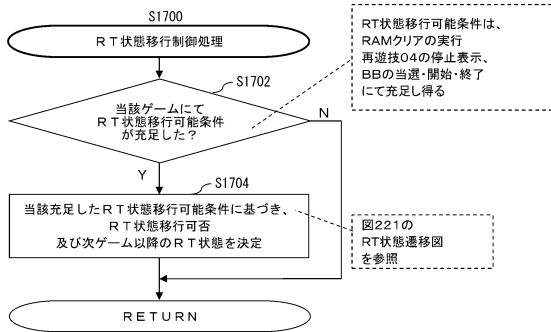
30

40

50

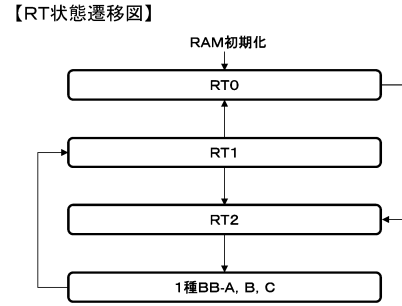
【圖 2 2 0】

(图220)



【圖 2 2 1】

(圖221)

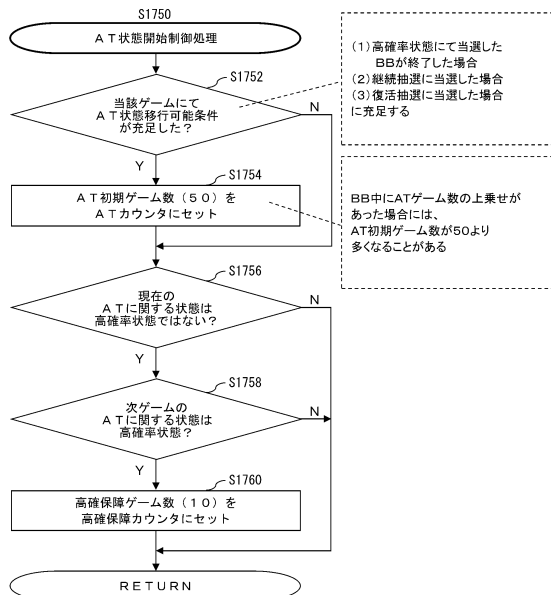


【RT状態の変動条件】

名称	遊技数	開始条件	終了条件	移行先
RT0	∞	RAM初期化 再遊技04図柄表示	1種BB-A、B、C に係る 条件装置作動	RT2
RT1	∞	1種BB-A、B、C 作動終了	1種BB-A、B、C に係る 条件装置作動	RT2
			再遊技04図柄表示	RT0
RT2	∞	1種BB-A、B、C に係る 条件装置作動	1種BB-A、B、C 作動	1種BB-A、 B、C
1種BB-A、B、C	—	1種BB-A、B、C 作動	1種BB-A、B、C 作動終了	RT1

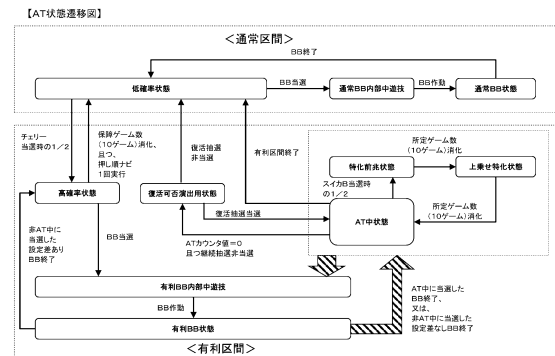
【圖 2 2 2】

(图222)



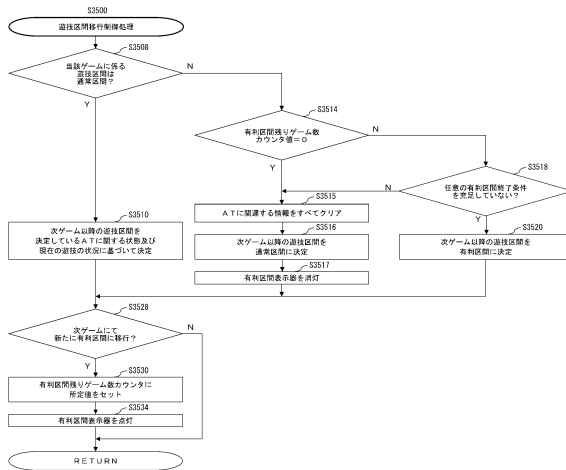
【圖 2 2 3】

(822)



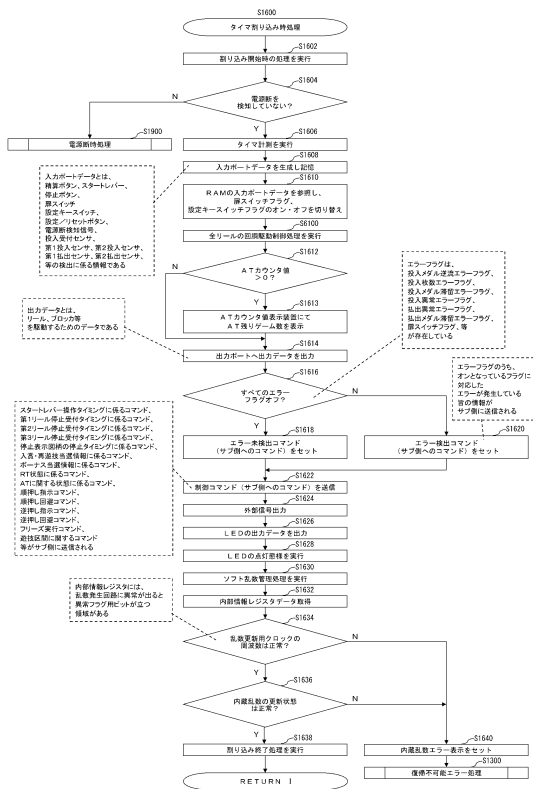
【圖 2 2 4】

(圖224)



【圖 2 2 5】

(圖225)

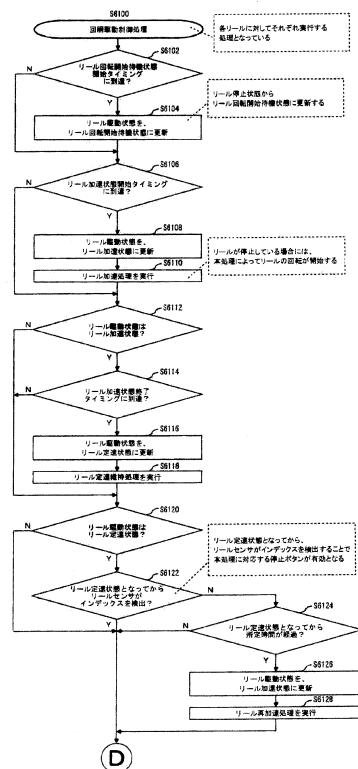


10

20

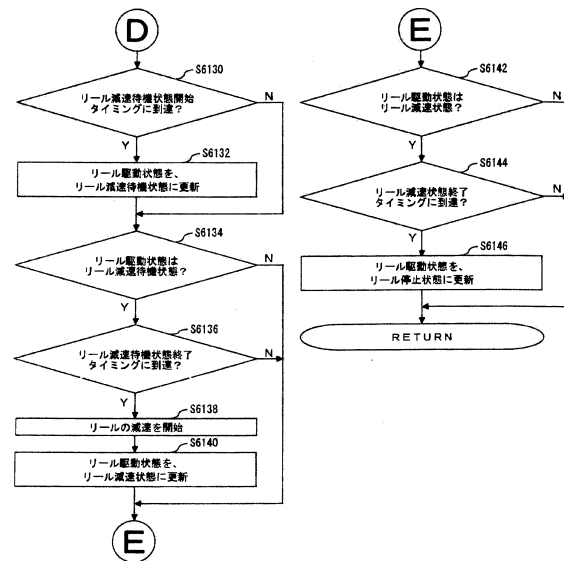
【図 2 2 6】

(圖 2 2 6)



【圖 2 2 7】

(图 2-2-7)

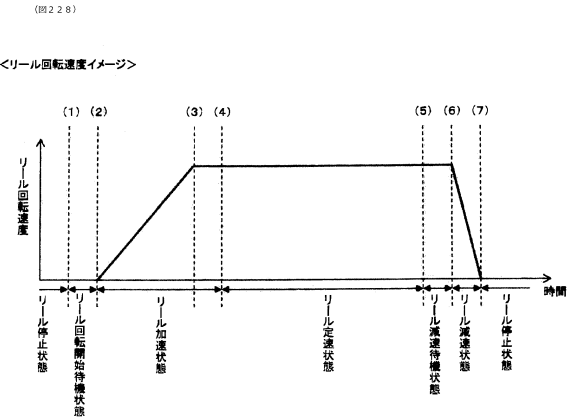


30

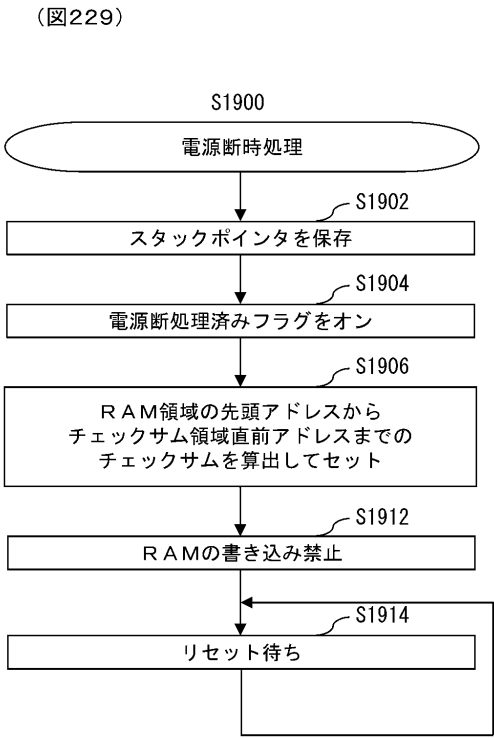
40

50

【図 2 2 8】



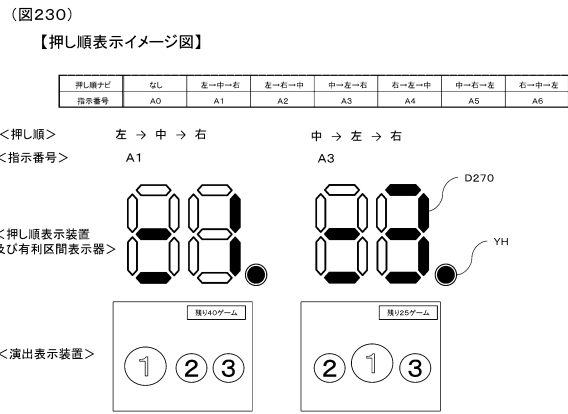
【図 2 2 9】



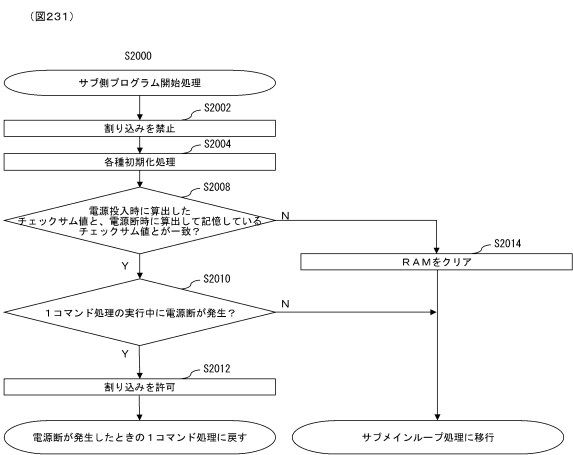
10

20

【図 2 3 0】



【図 2 3 1】



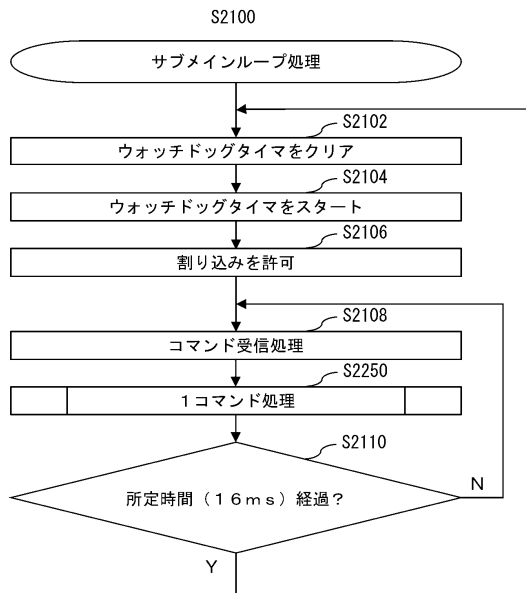
30

40

50

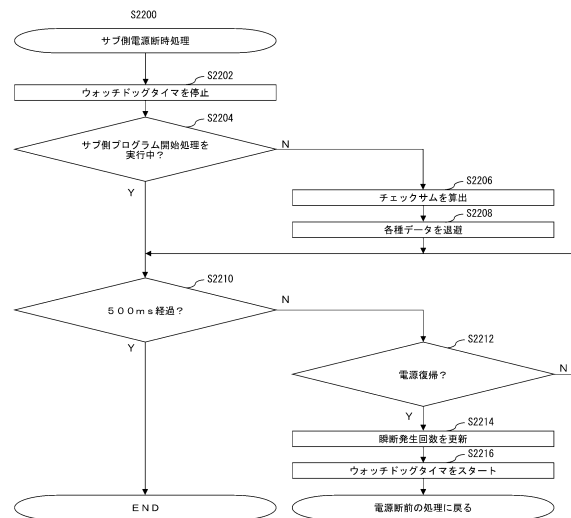
【図 2 3 2】

(図232)



【図 2 3 3】

(圖233)

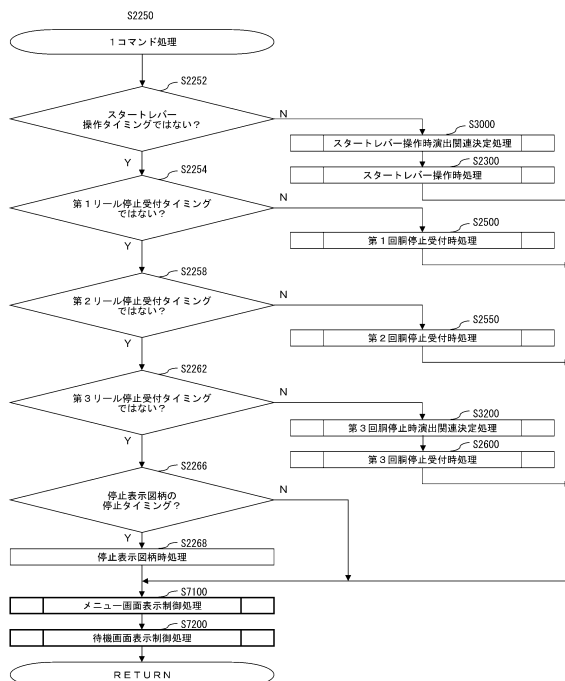


10

20

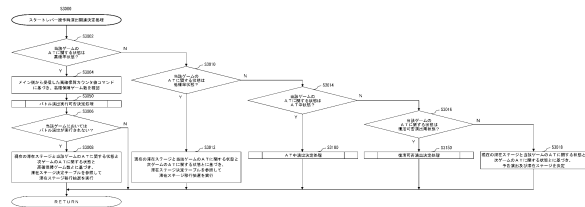
【図 2 3 4】

(圖234)



【図 2 3 5】

◎ 2009 年 10 月

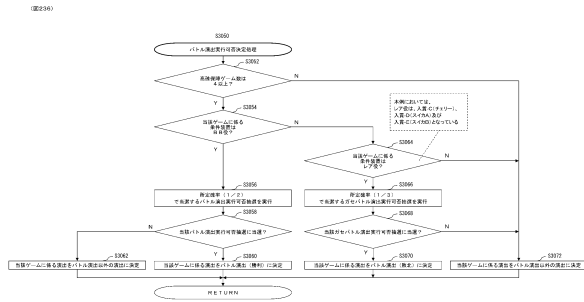


30

40

50

【圖 2 3 6】



【圖 2 3 7】

(圖237)

【潜在ステージ決定テーブルの一例】(一部抜粋)

＜当該ゲームが低確率状態＞

投資の 滞在ステージ	次段階への 出口に関する状況	当該ステージの滞り度ステージ	変動
砂漠ステージ	経理資料見直し 通関手選定 内務手交送付	砂漠ステージの滞り度 砂漠ステージ→砂漠ステージ 砂漠ステージ→砂漠ステージ	0→0/79 980→980 0→18
熱帯ステージ		熱帯ステージの滞り度 熱帯ステージ→熱帯ステージ	20→999 0→249
砂漠ステージ		砂漠ステージ→熱帯ステージ 砂漠ステージ→熱帯ステージ 砂漠ステージ→熱帯ステージ 砂漠ステージ→熱帯ステージ 熱帯ステージ→砂漠ステージ	250→499 500→749 750→999 750→999 0→249
熱帯ステージ		熱帯ステージの滞り度 熱帯ステージ→熱帯ステージ 熱帯ステージ→熱帯ステージ 熱帯ステージ→熱帯ステージ	250→499 500→749 750→999 750→999

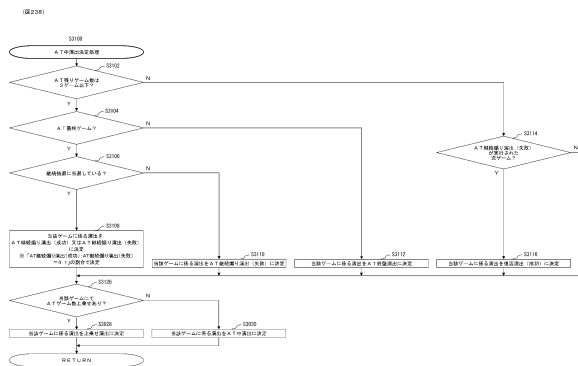
＜当該ゲームが高確率状態且つ高確保障ゲーム数が4以上＞

観覧の 層級区分	施設名と観覧の要素	観覧数
砂漠ステージ	砂漠ステージの要素	0-879
	砂漠ステージ-砂漠ステージ	880-919
	砂漠ステージ-会堂ステージ	920-959
	砂漠ステージ-砂漠ステージ	960-999
会堂ステージ	会堂ステージ-砂漠ステージ	0-879
	観覧ステージ-会堂ステージ	880-919
	観覧ステージ-観覧ステージ	920-959
会堂観覧ステージ	会堂観覧ステージ-砂漠ステージ	0-49
	会堂観覧ステージ-観覧ステージ	50-99
	会堂観覧ステージ-会堂ステージ	100-149
	会堂観覧ステージ-観覧ステージ	150-199
観覧ステージ	観覧ステージ-砂漠ステージ	0-49
	観覧ステージ-観覧ステージ	50-99
	観覧ステージ-会堂ステージ	100-149
	観覧ステージの要素	200-999

＜当該ゲームが高確率状態且つ高確保障ゲーム数が3以下＞

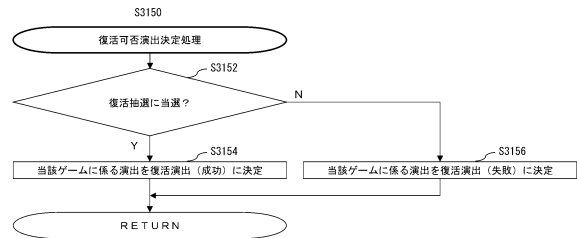
現在の 乗客状況	次の列車 A11に閉る予定	当該列車の乗客状況	差数
砂浜ステージ		砂浜ステージの乗客	0 - 678
		砂浜ステージ→駅入ステージ	880 - 989
田舎ステージ		駅入ステージ→砂浜ステージ	0 - 19
		駅入ステージの乗客	20 - 969
会堂入ステージ	高層有状態 又は 者が出た	会堂入ステージ→砂浜ステージ	0 - 29
		会堂入ステージ→駅入ステージ	30 - 59
		会堂入ステージの乗客	60 - 999
間接ステージ		間接ステージ→会堂入ステージ	30 - 59
		間接ステージの乗客	60 - 99
砂浜ステージ		砂浜ステージ→駅入ステージ	0 - 499
田舎ステージ		駅入ステージ→砂浜ステージ	0 - 499
		駅入ステージの乗客	500 - 999
会堂入ステージ	高層有状態	会堂入ステージ→砂浜ステージ	0 - 499
		会堂入ステージ→駅入ステージ	500 - 999
間接ステージ		間接ステージ→会堂入ステージ	0 - 499
		間接ステージの乗客	500 - 999

【図 238】

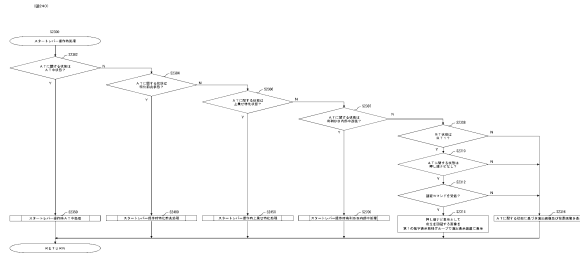


【図 239】

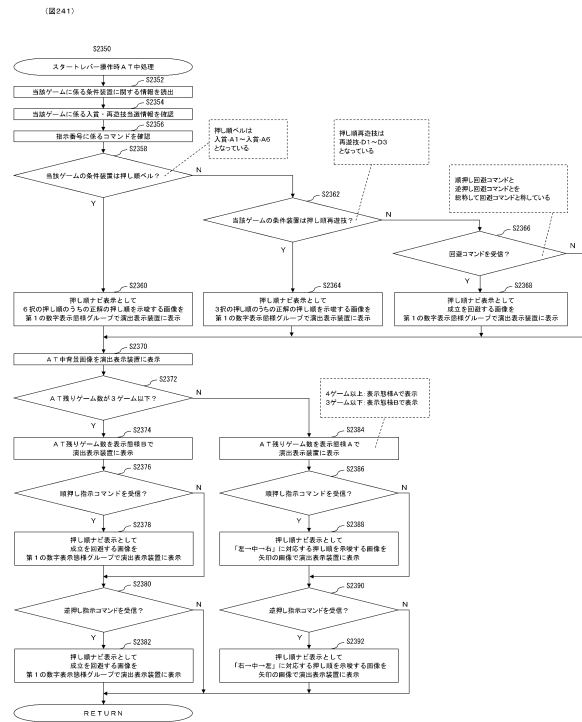
(圖239)



【図 240】



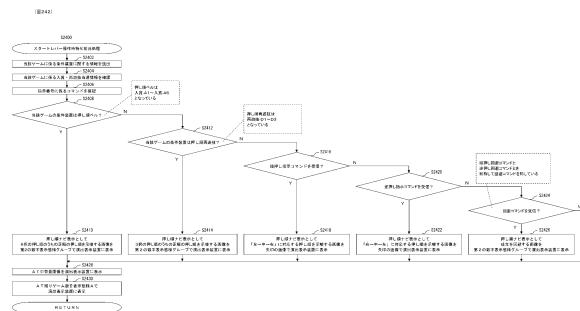
【圖 2 4 1】



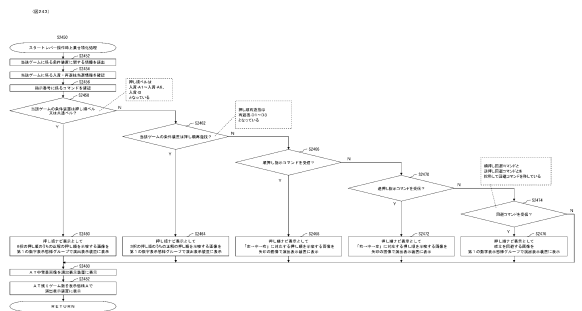
10

20

【図 2 4 2】



【図 2 4 3】

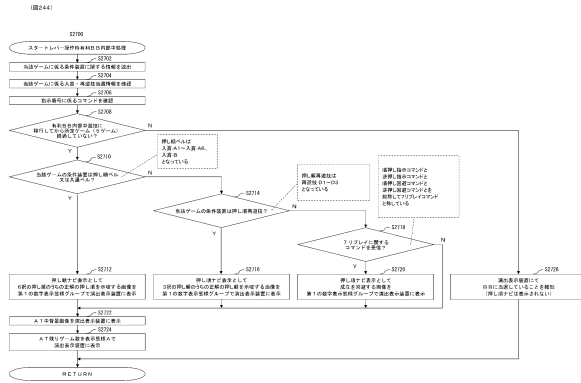


30

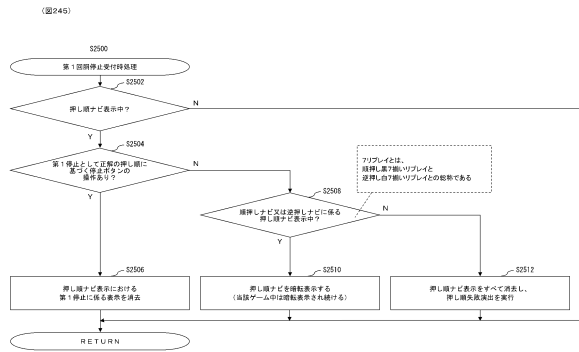
40

50

【図 2 4 4】

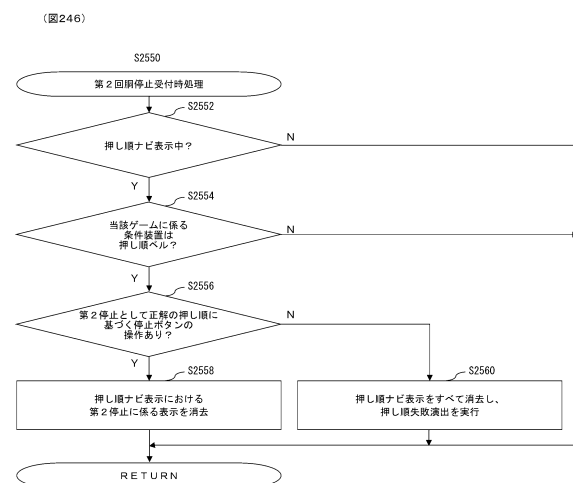


【図 2 4 5】

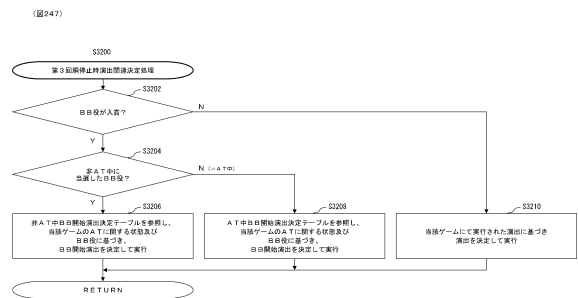


10

【図 246】



【圖 2 4 7】



20

[illegible]

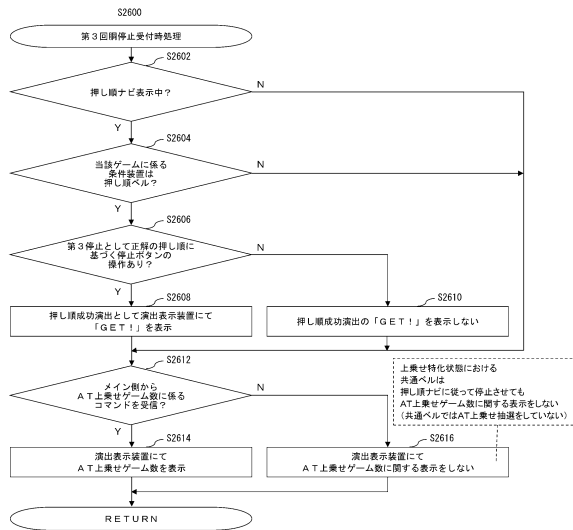
30

40

50

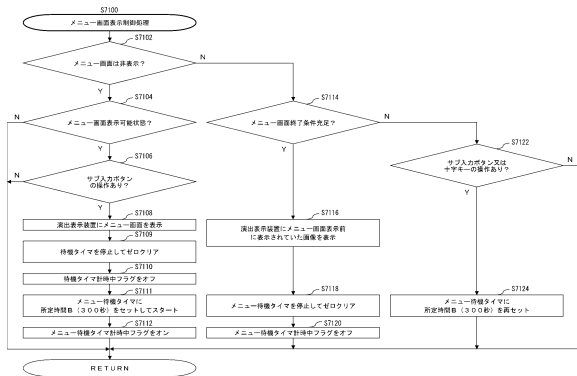
【圖 248】

(圖248)



【圖 2 4 9】

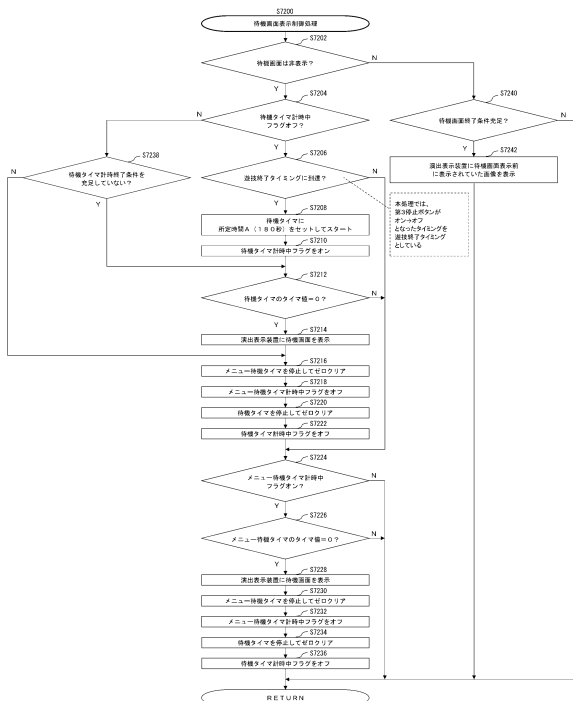
(圖249)



10

【図 250】

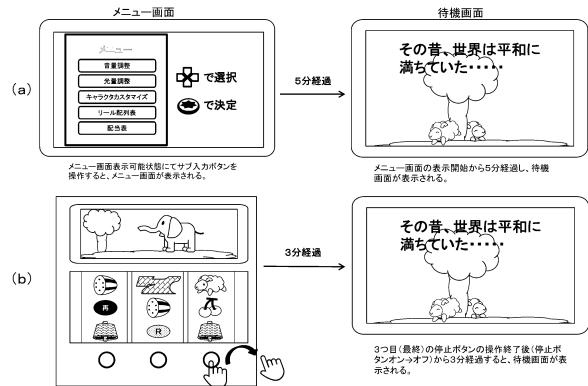
(图250)



【図 2 5 1】

(图251)

【待機画面移行イメージ図】



20

30

40

50

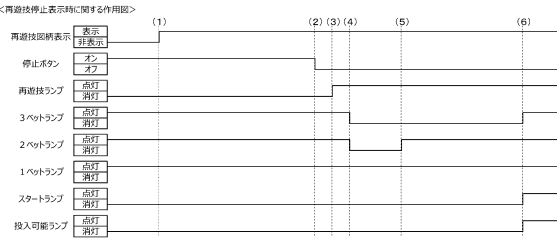
【図 2 5 2】

(図252)

アドレス	RAM名称	RAM内容
7F00H	設定値データ	(1) 設定の段階を管理する番号に係るデータ
7F01H		
7F02H		
7F03H		
7FC0H	外部信号系データ	(2) 外部信号出力に関係するデータ
7FC1H		
7FC2H		
7FC3H		
7FCEH	RAMチェックサムデータ	(3) 電源投入時に実行するチェックサム算出処理にて、特定の値を算出させる為のデータ
7FCEH		
7FCEH		
7FCEH		
7FD0H	制御コマンドバッファ	(4) 副制御基板側に送信するためのコマンド情報
7FD1H		
7FD2H		
7FD3H		
7FD4H		
7FD5H		
7FE0H	スタックポインタ一時保存バッファ	(5) 電源断復帰時に使用するスタックポインタを保存してあるバッファ
7FE1H		
7FE2H		
7FE3H		
7FF7H	未使用領域	(6) 遊技に使用されない領域
7FF8H		
7FF9H		
7FFAH		
7FFBH	退避データ5	(7) CALL命令、PUSH命令などにより、退避されるデータが設計上最大に書き込まれる可能性があるRAM
7FFCH		
7FFDH		
7FFEH		
7FFFH	退避データ1	
8000H		
8000H	スタックポインタ	

【図 2 5 3】

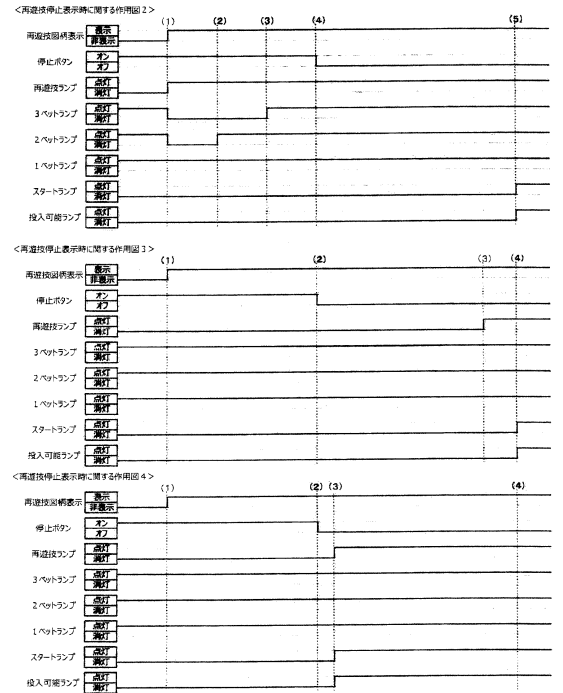
(図253)



10

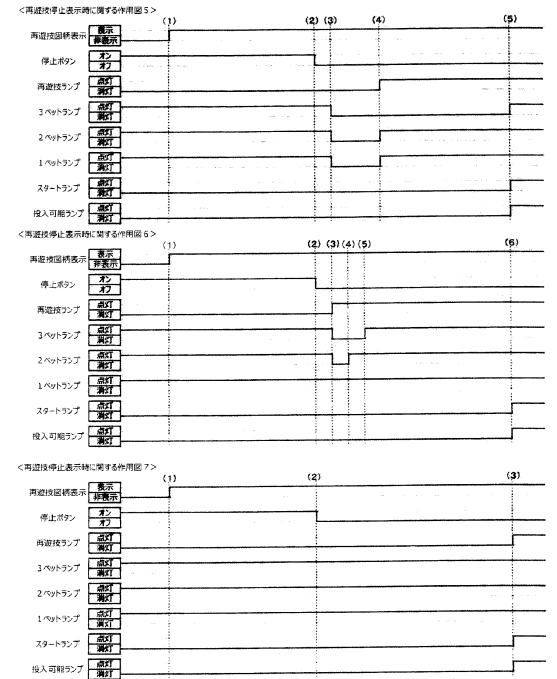
【図 2 5 4】

(図254)



【図 2 5 5】

(図255)



30

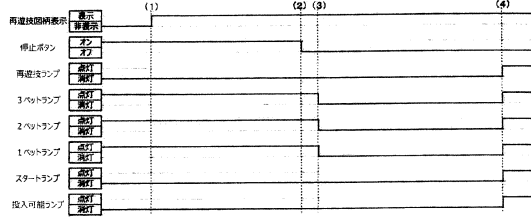
40

50

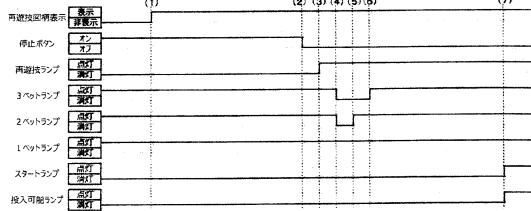
【図 2 5 6】

(図256)

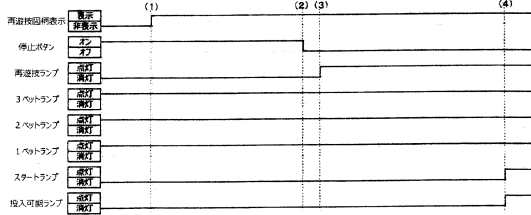
<再遊技停止表示時に発する作用図 8>



<再遊技停止表示時に発する作用図 9>

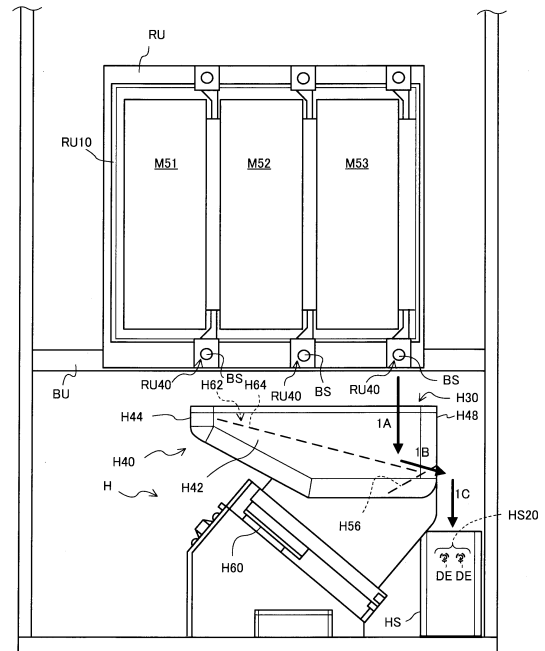


<再遊技停止表示時に発する作用図 10>



【図 2 5 7】

(図257)

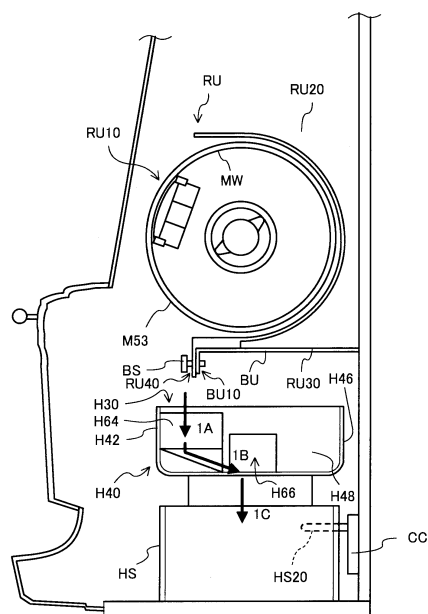


10

20

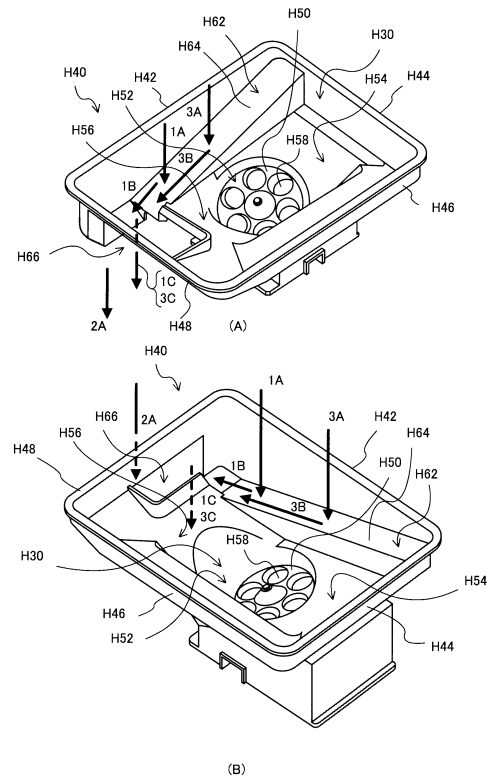
【図 2 5 8】

(図258)



【図 2 5 9】

(図259)



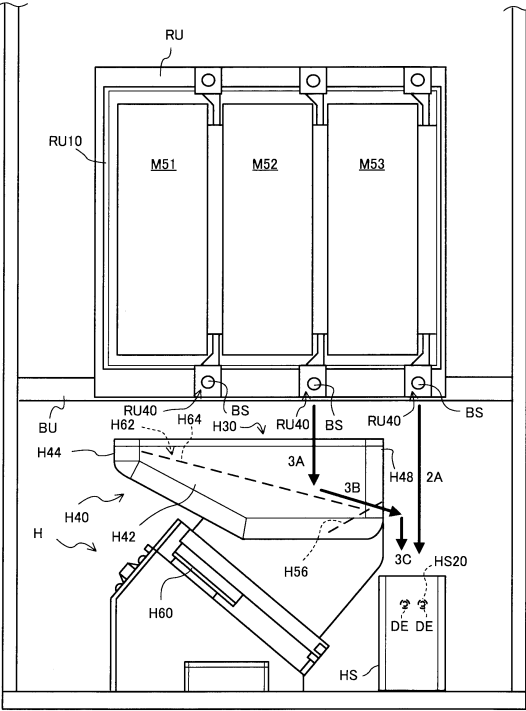
30

40

50

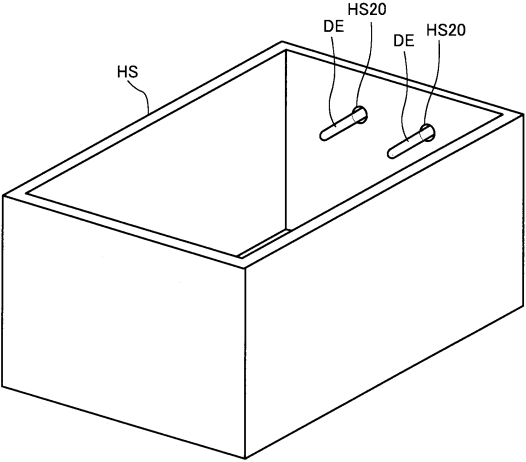
【図 2 6 0】

(図260)



【図 2 6 1】

(図261)

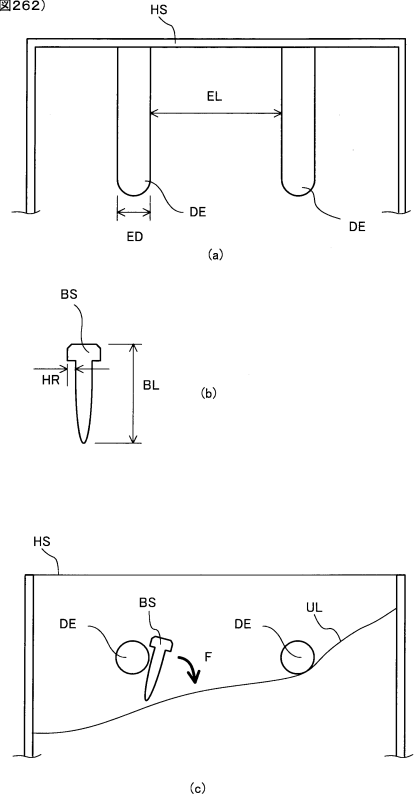


10

20

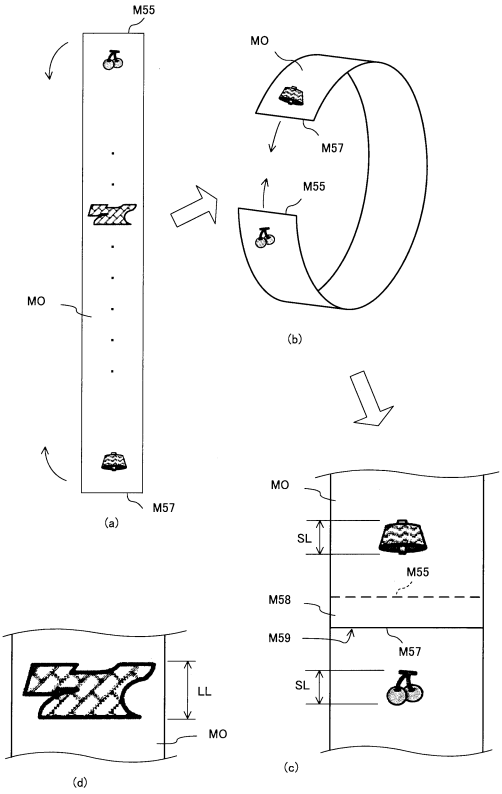
【図 2 6 2】

(図262)



【図 2 6 3】

(図263)



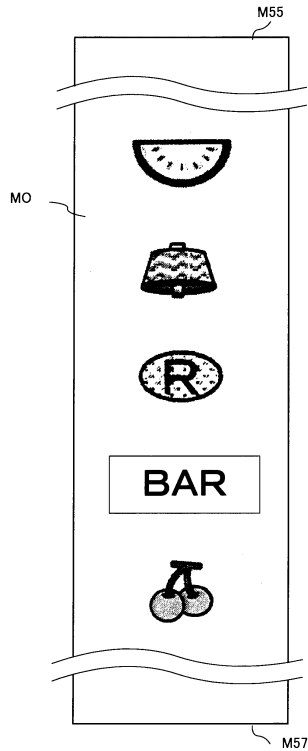
30

40

50

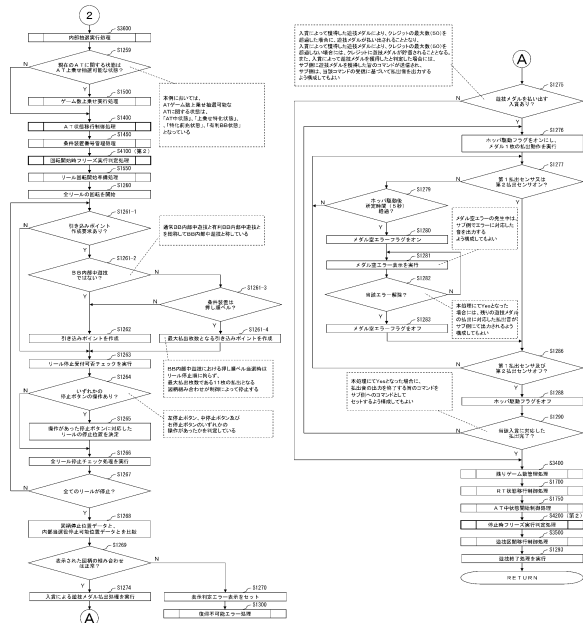
【圖 2 6 4】

(图264)



【圖 2 6 5】

(10265)

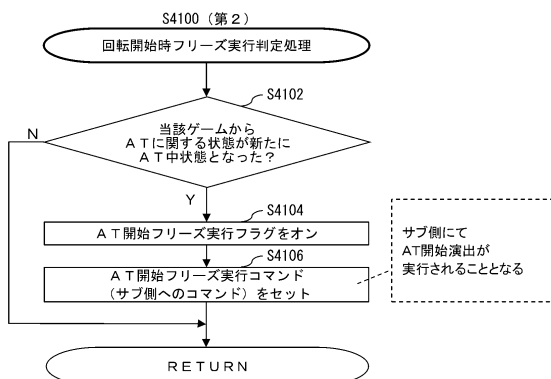


10

20

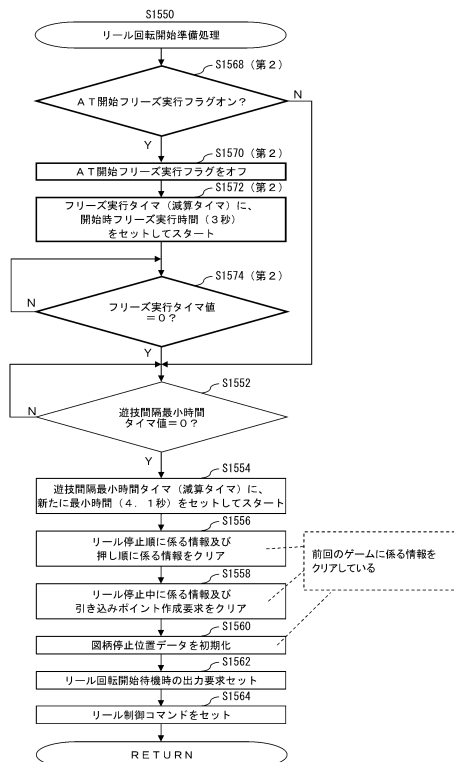
【図 2 6 6】

(图266)



【図 2 6 7】

(图267)



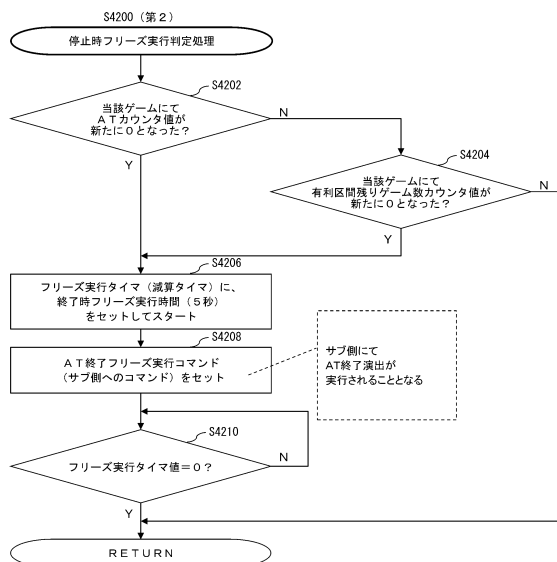
30

40

50

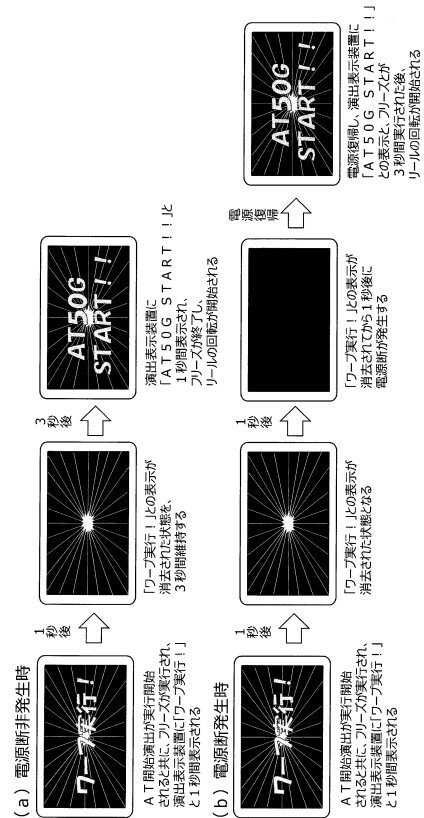
【図 268】

(図268)



【図 2 6 9】

(図269) <A T開始演出実行イメージ図> ※フリーズ及びA T開始演出の実行時間は5秒間



【図 270】

(圖 270)

＜ランプユニット点灯構成イメージ＞※一部抜粋

要素 1 (点灯色)
赤色
青色
緑色
白色
赤色+緑色
青色+緑色
青色+白色
色灯

要素2 (点灯時間)	要素3 (消灯時間)
0.1秒	0.1秒
0.2秒	0.2秒
0.3秒	0.3秒
1秒	1秒
3秒	3秒
常時	常時
点灯なし	消灯なし

要素 4 (点灯時間パターン)
0.1秒点灯→0.1秒消灯
0.1秒点灯→0.3秒消灯
0.2秒点灯→0.3秒消灯
1秒点灯→0.1秒消灯
3秒点灯→0.3秒消灯
常時点灯
常時消灯

要素5（点灯要素）	
点灯要素種別	点灯要素内容
a	0.1秒赤色点灯→0.1秒消灯
b	0.1秒青色点灯→0.1秒消灯
c	0.1秒赤色点灯→0.3秒消灯
d	0.1秒赤色+青色点灯→0.3秒消灯
e	0.2秒赤色+青色点灯→0.3秒消灯
f	0.2秒青色+緑色点灯→0.3秒消灯
g	1秒白色点灯→0.1秒消灯
h	1秒青色+白色点灯→0.1秒消灯
i	3秒緑色点灯→0.3秒消灯
j	3秒青色+緑色点灯→0.3秒消灯
k	常時赤色点灯
l	常時青色点灯
m	常時緑色点灯
n	常時白色点灯
o	常時赤色+緑色点灯
p	常時青色+緑色点灯
q	常時青色+白色点灯
r	常時緑色+白色点灯

要素 6 (点灯パターン)	
点灯パターン 種類	点灯パターン内容
パターン 1	a→a→a→a
パターン 2	b→b→b→b
パターン 3	a→b→a→b
パターン 4	a→a→a→g
パターン 5	g→f→f→f
パターン 6	i→h→h→h
パターン 7	g→f→f→b
パターン 8	i→j→j→j
パターン 9	g→g→g→g
パターン 10	k
パターン 11	l
パターン 12	m
パターン 13	n
パターン 14	o
パターン 15	p
パターン 16	q
パターン 17	r

※アルファベットは点灯要素種別

【図 2 7 1】

(圖 271)

＜＜状況別報知態様の一例＞＞

＜機能1＞				＜機能2＞			
状況	ランプコード 点灯パターン	バックアップ 点灯種類	スピーカの サウンド	状況	ランプコード 点灯パターン	バックアップ 点灯種類	スピーカの サウンド
メダル室エアー発生中	パターン10	点灯なし	エアー音	メダル室エアー発生中	パターン10	点灯なし	エアー音
電源投入時	パターン13	消灯	電源投入音を 所定時間出力	電源投入時	パターン11	非点灯	なし
待機画面表示中	パターン1	消灯	なし	待機画面表示中	パターン17	特選点灯	なし
設定確認モード中	パターン12	消灯	設定確認モード 音	設定確認モード中	パターン10	点灯	なし
設定変更モード中	パターン9	消灯	設定変更モード 音	設定変更モード中	パターン10	点灯	なし
B B実行中	パターン7	点灯	B B中音	B B実行中	パターン7	点灯	B B中音

＜機能3＞				＜機能4＞			
状況	ランプコード 点灯パターン	バックアップ 点灯態様	スピーカの サウンド	状況	ランプコード 点灯パターン	バックアップ 点灯態様	スピーカの サウンド
メダル空エアー発生中	パターン1	点灯	エアー音	メダル空エアー発生中	パターン1 4	消灯	エアー音
電源投入時	パターン1 3	点灯	なし	電源投入時	パターン1 7	消灯	なし
待機画面表示中	パターン5	点灯	なし	待機画面表示中	パターン1 1	消灯	なし
設定確認モード中	パターン1 0	点灯	なし	設定確認モード中	パターン3	消灯	設定確認モード 中音
設定変更モード中	パターン1 0	点灯	なし	設定変更モード中	パターン3	消灯	設定変更モード 中音
B B 実行中	パターン6	点灯	B B 中音	B B 実行中	パターン6	点灯	B B 中音

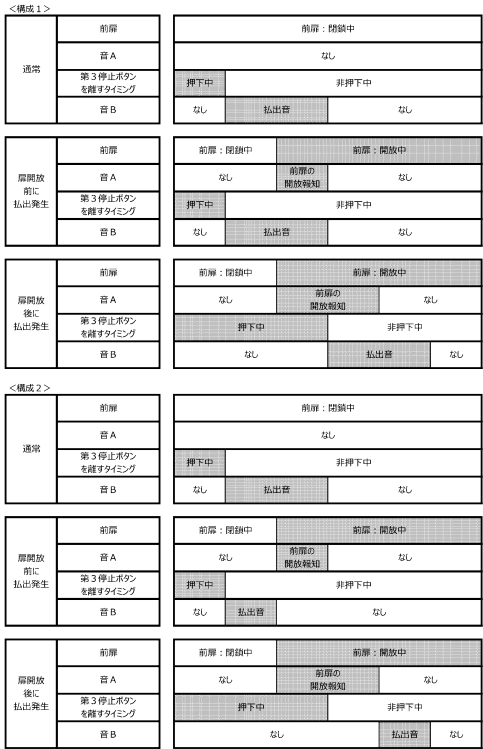
＜機能５＞				＜機能６＞			
状況	ランプエレクトロ 油圧パターン	バックランプ 油圧仕様	スピード サウンド	状況	ランプエレクトロ 油圧パターン	バックランプ 油圧仕様	スピード サウンド
メタスエラ－発生中	パターン１	点灯	エラ－音	メタスエラ－発生中	パターン１	点灯	エラ－音
電源投入時	パターン１	点灯→消灯	なし	電源投入時	パターン１	点灯	なし
待機状態表示中	パターン１	点灯	なし	待機状態表示中	パターン１	点灯	なし
設定確認モード中	パターン１	点灯	設定確認モード 中音	設定確認モード中	パターン４	点灯	設定確認モード 中音
設定変更モード中	パターン１	点灯	設定変更モード 中音	設定変更モード中	パターン４	点灯	設定変更モード 中音
ＢＢＢ実行中	パターン５	点灯	ＢＢＢ中音	ＢＢＢ実行中	パターン５	点灯	ＢＢＢ中音

※通常遊技中における点灯パターンは、パターン2、パターン5、パターン6、パターン7、パターン8、パターン9、パターン11、パターン12、パターン13、パターン15、パターン16、パターン17、のいずれか1つ又は複数の組み合わせとなる

【図 2 7 2】

(図 2 7 2)

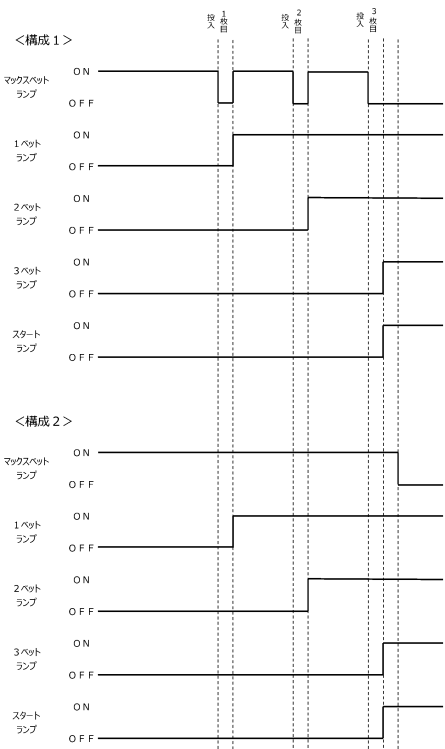
<<払出に関する構成の一例>>



【図 2 7 3】

(図 2 7 3)

<<マックスベットランプの点灯態様の一例 1>>



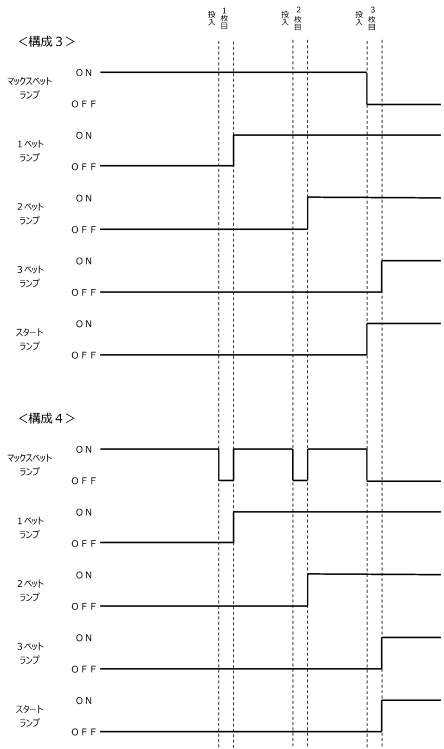
10

20

【図 2 7 4】

(図 2 7 4)

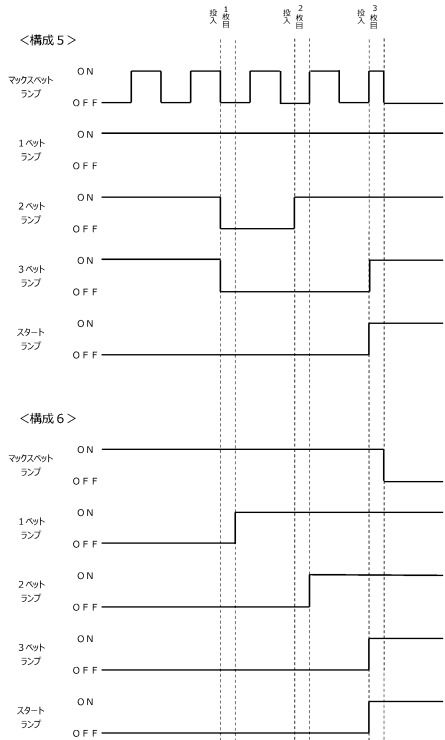
<<マックスベットランプの点灯態様の一例 2>>



【図 2 7 5】

(図 2 7 5)

<<マックスベットランプの点灯態様の一例 3>>



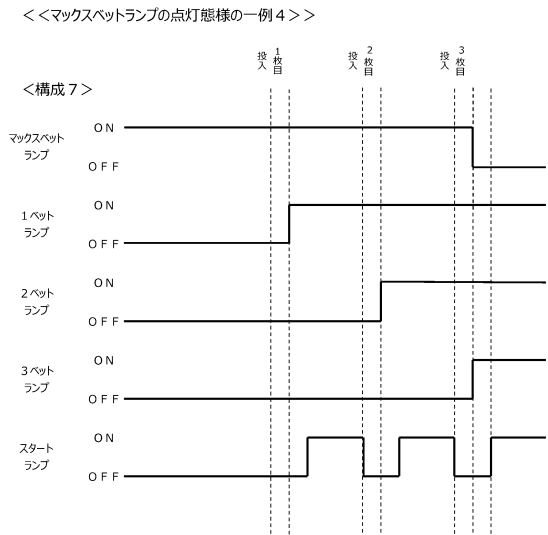
30

40

50

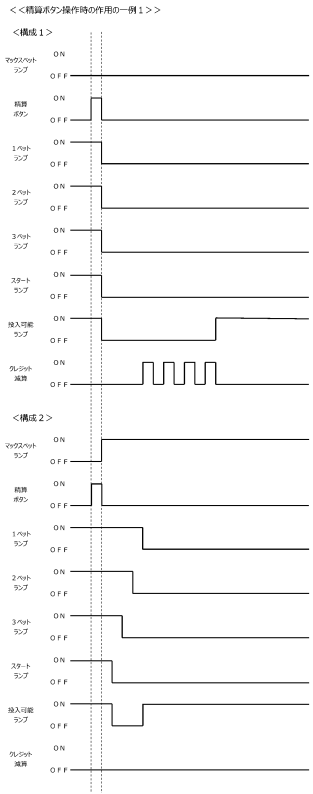
【図 2 7 6】

(図 2 7 6)



【図 2 7 7】

(図 2 7 7)

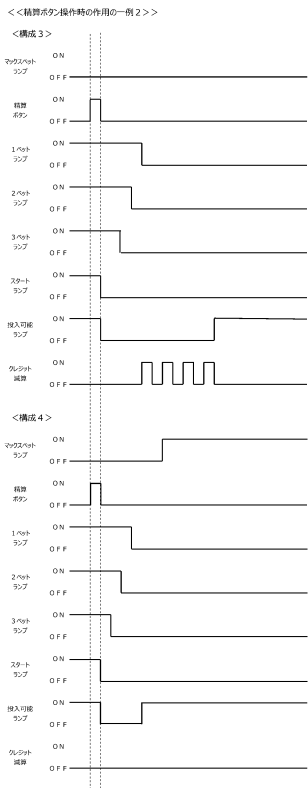


10

20

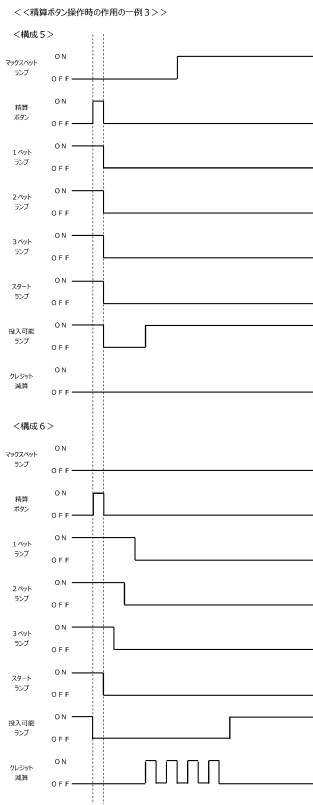
【図 2 7 8】

(図 2 7 8)



【図 2 7 9】

(図 2 7 9)



30

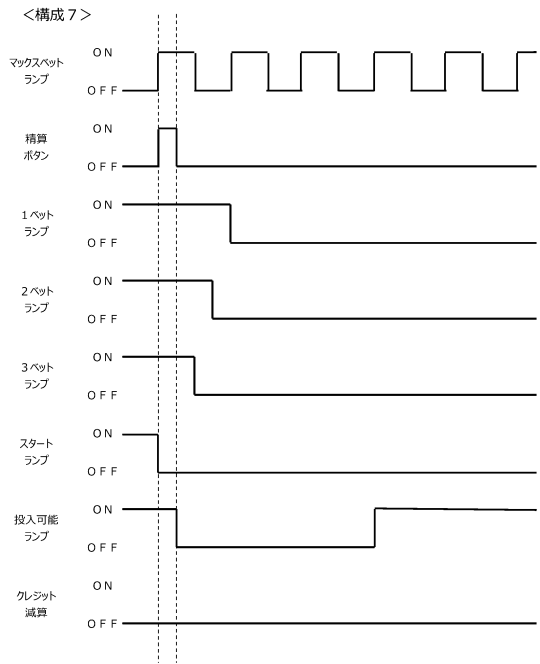
40

50

【図 2 8 0】

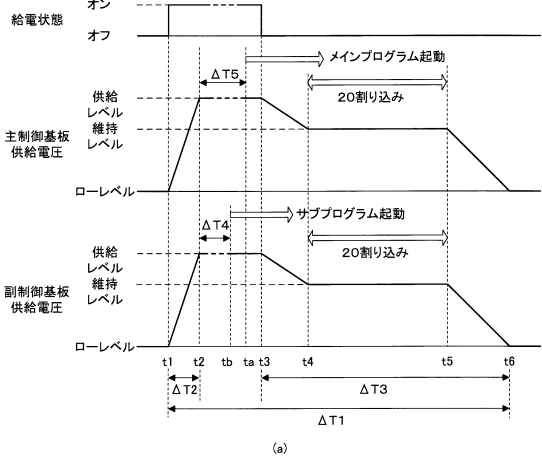
(図 2 8 0)

<< 精算ボタン操作時の作用の一例 4 >>

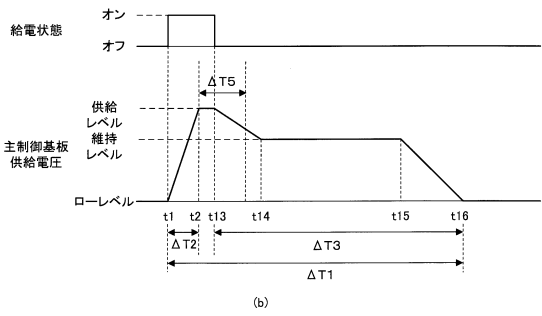


【図 2 8 1】

(図 2 8 1)



10



20

【図 2 8 2】

(図282)

(第1の態様)

状態	設定キースイッチ	給電状態	状況
1	オフ	オン	通常状態
2		オフ	通常状態での戻り番地を記憶領域に保存
3		オフ	
4	オン	オン	記憶領域を初期化
5		オフ	設定変更モードでの戻り番地を記憶領域に保存
6	オフ	オフ	
7		オン	設定変更モードの戻り番地に復帰

(a)

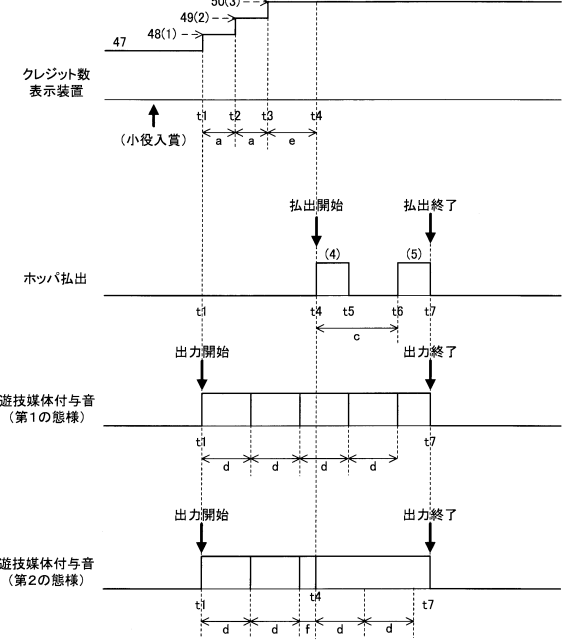
(第2の態様)

状態	設定キースイッチ	給電状態	状況
1	オフ	オン	通常状態
2		オフ	通常状態での戻り番地を記憶領域に保存
3		オフ	
4	オン	オン	
5		オフ	
6	オフ	オフ	
7		オン	通常状態の戻り番地に復帰

(b)

【図 2 8 3】

(図283)

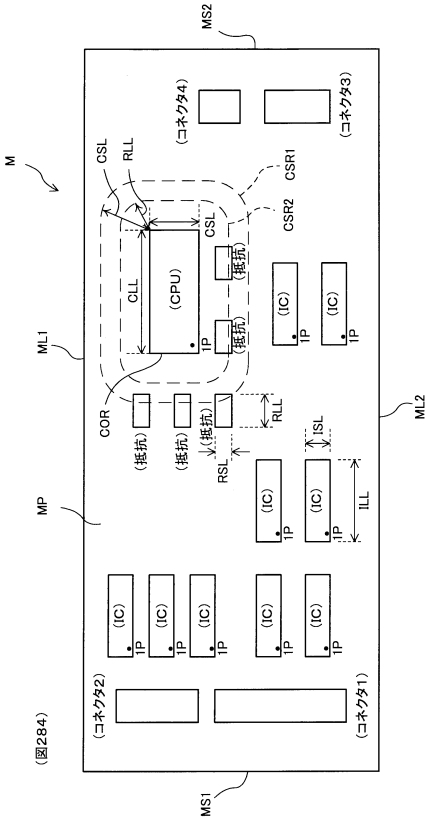


30

40

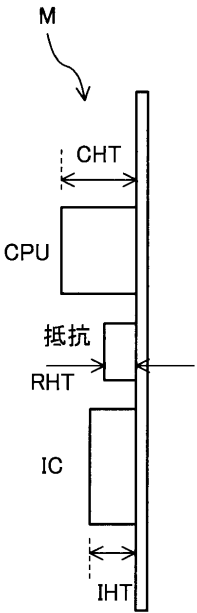
50

【図 2 8 4】



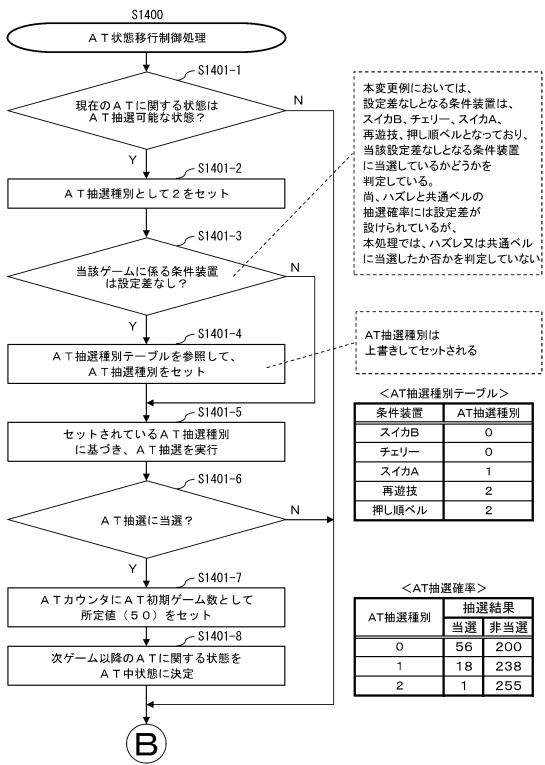
【図 2 8 5】

(図285)



【図 2 8 6】

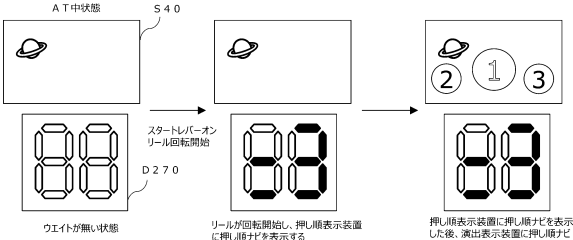
(図286)



【図 2 8 7】

(図 2 8 7) < A T 中状態での押し順ナビの開始タイミング>
(当該遊技はウエイト無し パターン 1)

※ここでの「押し順ナビ」とは、押し順表示装置 D 2 7 0 にて表示される表示態様 (例えば「3」) と
演出表示装置 S 4 0 にて表示される表示態様 (例えば「2 1 3」) のことを意味する



押し順表示装置： リール回転開始時に、押し順「中左右」を示す押し順ナビ「3」が表示される
演出表示装置： リール加速状態に更新後、押し順「2 1 3」を示す押し順ナビが表示される

※押し順表示装置の押し順ナビの方が、演出表示装置の押し順ナビよりも先に表示される

＜AT抽選種別テーブル＞	
条件装置	AT抽選種別
スイカB	0
チェリー	0
スイカA	1
再遊技	2
押し順ベル	2

＜AT抽選確率＞		
AT抽選種別	抽選結果	
	当選	非当選
0	56	200
1	18	238
2	1	255

10

20

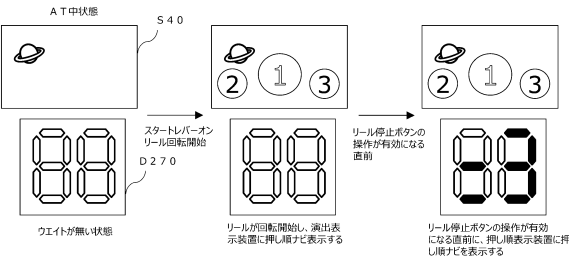
30

40

50

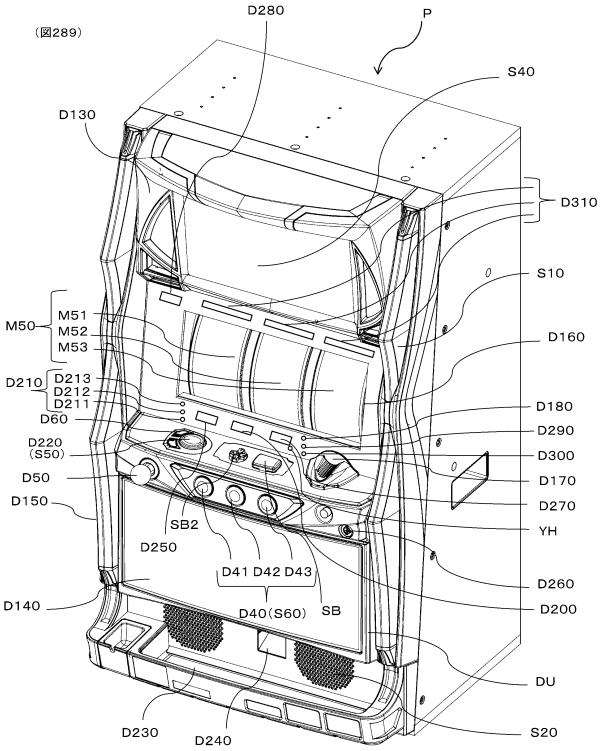
【図 2 8 8】

(図 2 8 8) < A T 中状態での押し順ナビの開始タイミング>
(当該遊技はウエイト無し パターン 2)



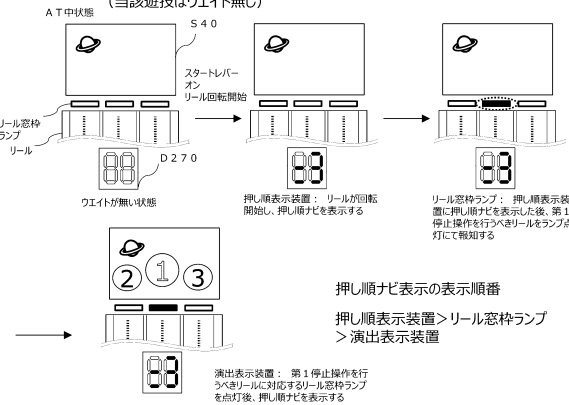
演出表示装置： リール加速状態に更新後、押し順「2 1 3」を示す押し順ナビが表示される
押し順表示装置： リール停止ボタンの操作が有効になる直前に、押し順「中左右」を示す押し順ナビ「=3」が表示される
※演出表示装置の押し順ナビの方が、押し順表示装置の押し順ナビよりも先に表示される

【図 2 8 9】



【図 2 9 0】

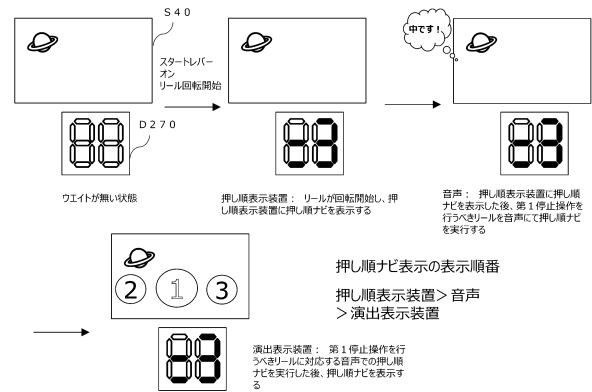
(図 2 9 0) < A T 中状態での押し順ナビの開始タイミング リール窓枠ランプあり>
(当該遊技はウエイト無し)



押し順ナビ表示の表示順番
押し順表示装置>リール窓枠ランプ
>演出表示装置

【図 2 9 1】

(図 2 9 1) < A T 中状態での押し順ナビの開始タイミング 音声あり>
(当該遊技はウエイト無し)



押し順ナビ表示の表示順番
押し順表示装置>音声
>演出表示装置

10

20

30

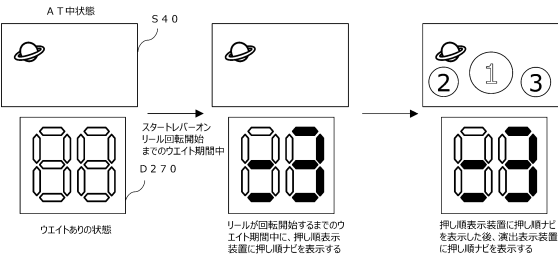
40

50

【図 2 9 2】

(図 2 9 2) < A T 中状態での押し順ナビの開始タイミング>
(当該遊技はウエイトあり パターン 1)

※ここでの「押し順ナビ」とは、押し順表示装置 D 2 7 0 にて表示される表示態様 (例えば「=3」) と
演出表示装置 S 4 0 にて表示される表示態様 (例えば「2 1 3」) のことを意味する

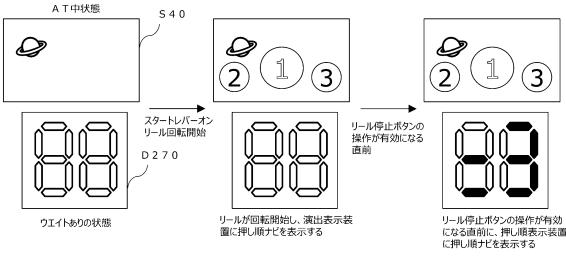


押し順表示装置：スタートレバー目付リール回転開始までのウエイト期間中に、
押し順「2 1 3」を示す押し順ナビが表示される
演出表示装置：押し順表示装置に押し順ナビを表示した後、押し順「2 1 3」を示す押し順ナビが表示される

※押し順表示装置の押し順ナビの方が、演出表示装置の押し順ナビよりも先に表示される

【図 2 9 3】

(図 2 9 3) < A T 中状態での押し順ナビの開始タイミング>
(当該遊技はウエイトあり パターン 2)



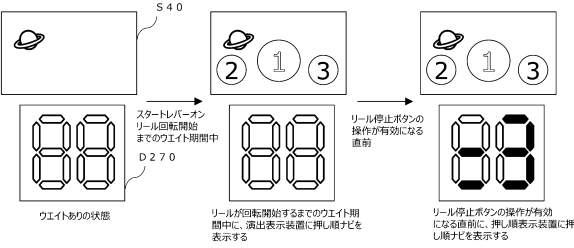
演出表示装置：リール加速状態に更新後、押し順「2 1 3」を示す押し順ナビが表示される
押し順表示装置：リール停止ボタンの操作が有効になる直前に、押し順「中左右」を示す押し順ナビ「=3」が表示される

※演出表示装置の押し順ナビの方が、押し順表示装置の押し順ナビよりも先に表示される

10

【図 2 9 4】

(図 2 9 4) < A T 中状態での押し順ナビの開始タイミング>
(当該遊技はウエイトあり パターン 3)

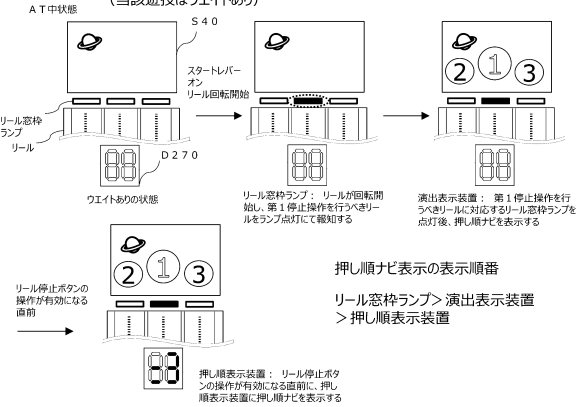


演出表示装置：スタートレバー目付リール回転開始までのウエイト期間中に、
押し順「2 1 3」を示す押し順ナビが表示される
押し順表示装置：リール停止ボタンの操作が有効になる直前に、押し順「中左右」を示す押し順ナビ「=3」が表示される

※演出表示装置の押し順ナビの方が、押し順表示装置の押し順ナビよりも先に表示される

【図 2 9 5】

(図 2 9 5) < A T 中状態での押し順ナビの開始タイミング リール窓枠ランプあり>
(当該遊技はウエイトあり)



20

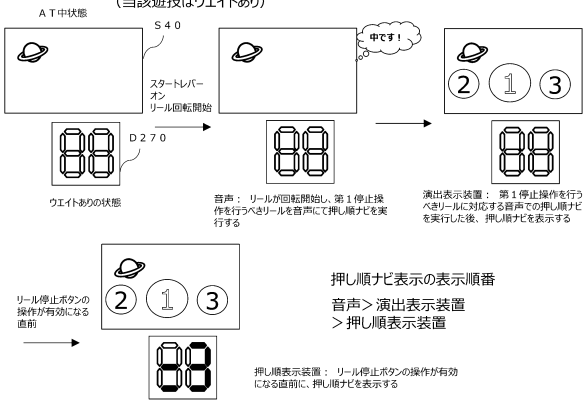
30

40

50

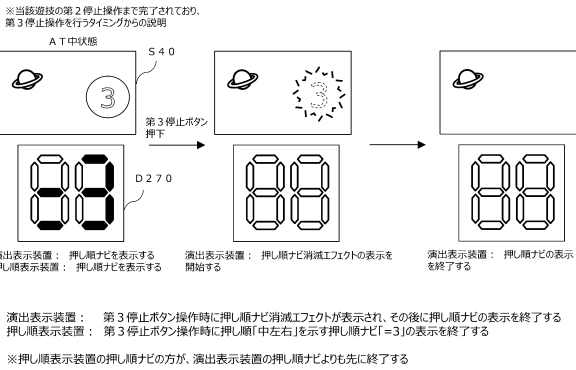
【図 2 9 6】

(図 2 9 6) < A T 中状態での押し順ナビの開始タイミング 音声あり >
(当該遊技はウエイトあり)



【図 2 9 7】

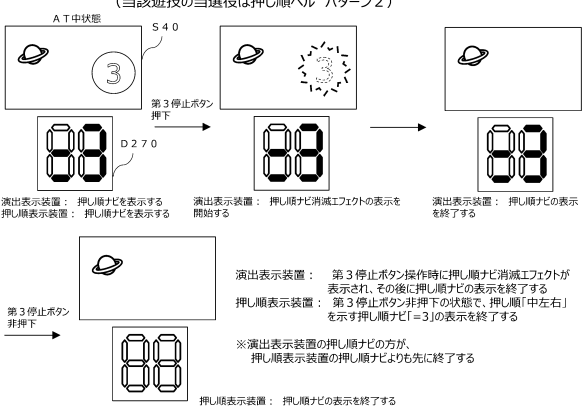
(図 2 9 7) < A T 中状態での押し順ナビの終了タイミング >
(当該遊技の当選役は押し順ベル パターン 1)



10

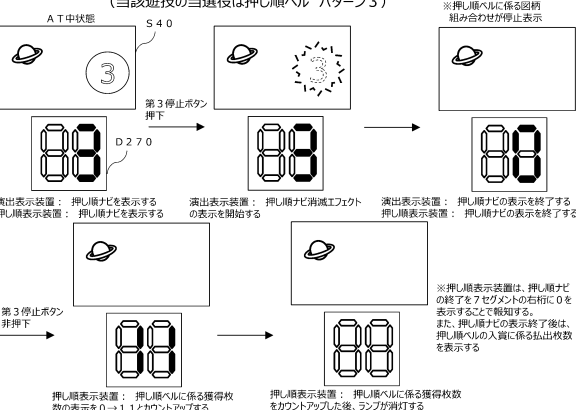
【図 2 9 8】

(図 2 9 8) < A T 中状態での押し順ナビの終了タイミング >
(当該遊技の当選役は押し順ベル パターン 2)



【図 2 9 9】

(図 2 9 9) < A T 中状態での押し順ナビの終了タイミング >
(当該遊技の当選役は押し順ベル パターン 3)



20

30

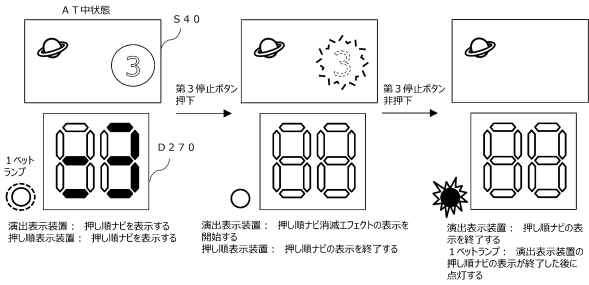
40

50

【図 3 0 0】

(図 3 0 0) < A T 中状態での押し順ナビの終了タイミング>
(当該遊技の当選役は押し順プレイ パターン 1)

※当該遊技の第 2 停止操作まで完了しており、
第 3 停止操作を行うタイミングからの説明

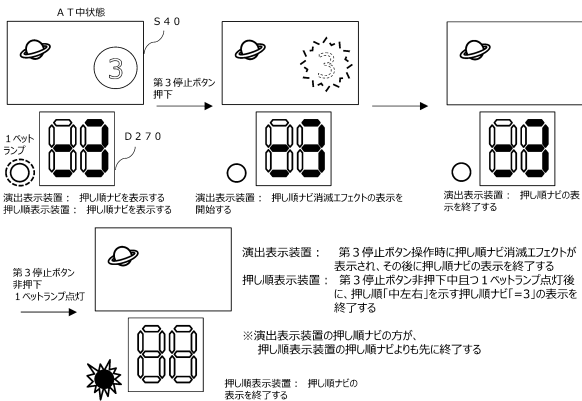


演出表示装置： 第 3 停止ボタン操作時に押し順ナビ消滅エフェクトが表示され、その後押し順ナビの表示を終了する
押し順表示装置： 第 3 停止ボタン操作時に押し順「中左右」を示す押し順ナビ「=3」の表示を終了する

※押し順表示装置の押し順ナビの方が、演出表示装置の押し順ナビよりも先に終了する

【図 3 0 1】

(図 3 0 1) < A T 中状態での押し順ナビの終了タイミング>
(当該遊技の当選役は押し順プレイ パターン 2)



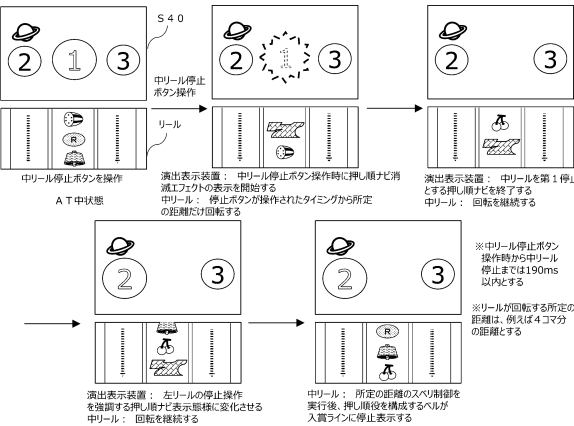
演出表示装置： 第 3 停止ボタン操作時に押し順ナビ消滅エフェクトが表示され、その後押し順ナビの表示を終了する
押し順表示装置： 第 3 停止ボタン非押下中且つ 1 ペットランプ点灯後に、押し順「中左右」を示す押し順ナビ「=3」の表示を終了する

※演出表示装置の押し順ナビの方が、押し順表示装置の押し順ナビよりも先に終了する

押し順表示装置： 押し順ナビの表示を終了する

【図 3 0 2】

(図 3 0 2) < A T 中状態でのリール制御と押し順ナビの表示制御>

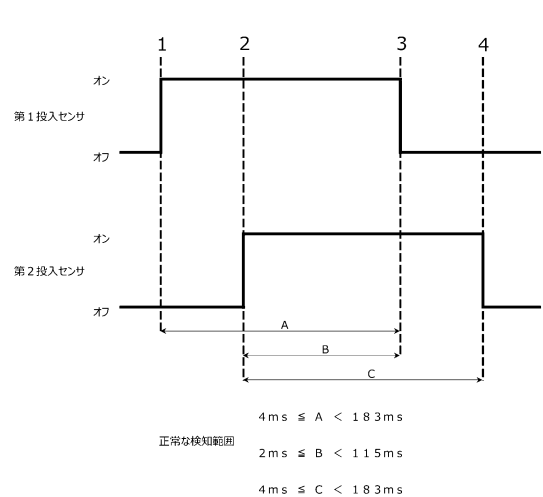


演出表示装置： 左リールの停止操作を強調する押し順ナビ表示態様に変化させる
中リール： 回転を継続する

中リール： 所定の距離の入り制御後、実行後、押し順役を構成するベルが入賞ラインに停止表示する

【図 3 0 3】

(図 3 0 3)



10

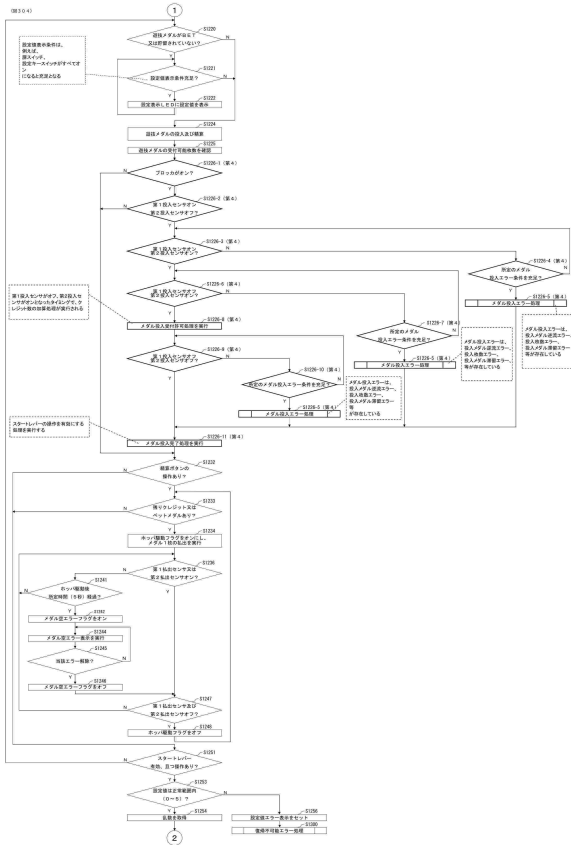
20

30

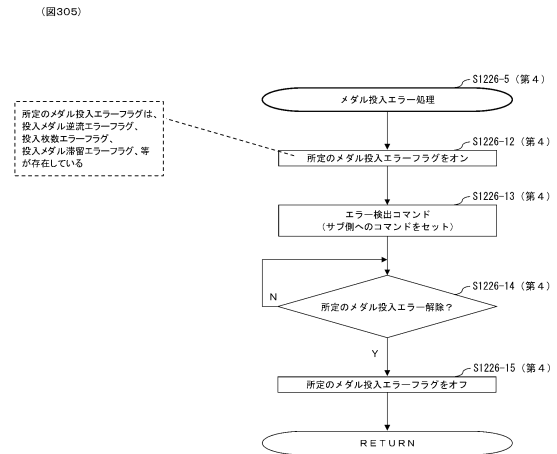
40

50

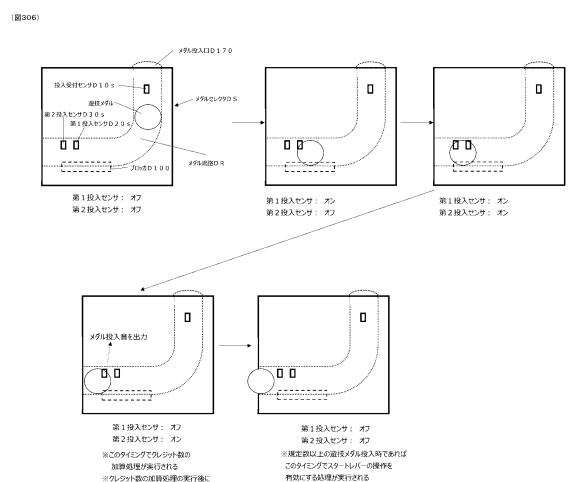
【図 3 0 4】



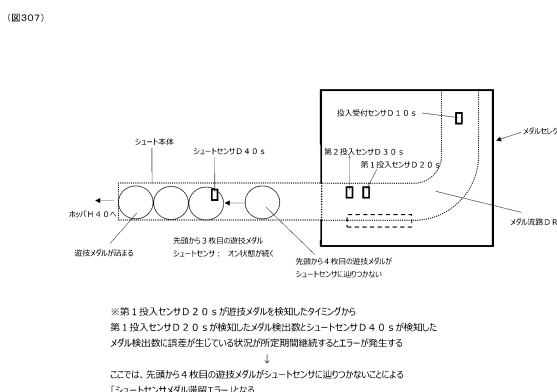
【図 3 0 5】



【図 3 0 6】



【図 3 0 7】



10

20

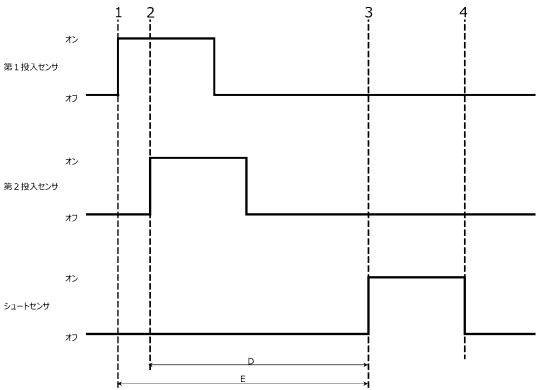
30

40

50

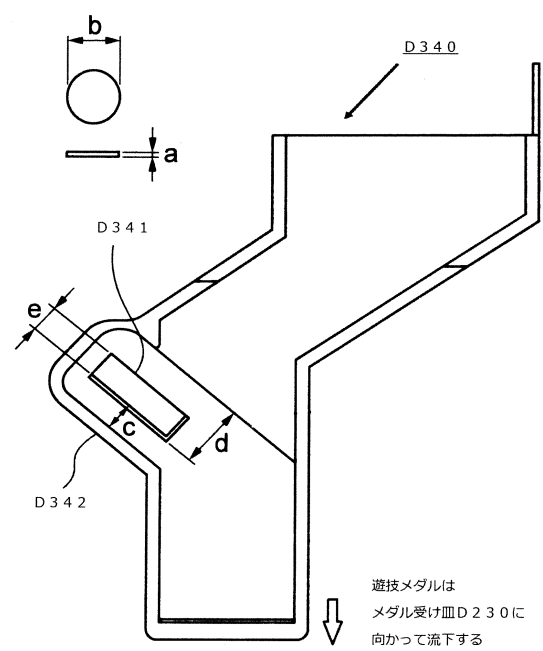
【図 3 0 8】

(図308)



【図 3 0 9】

(図309)

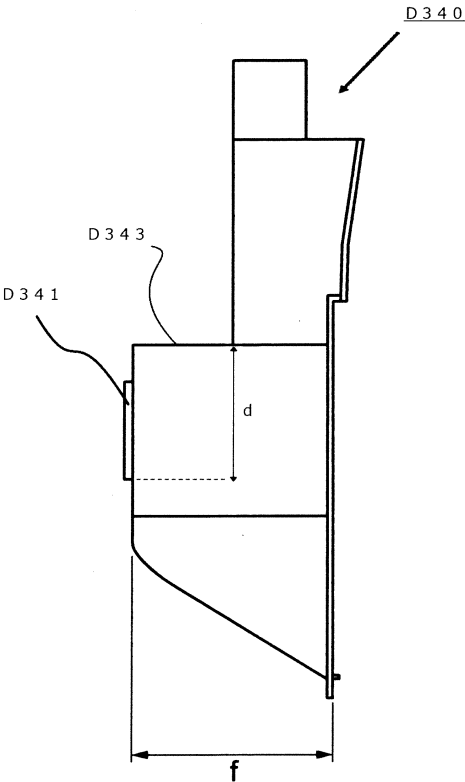


10

20

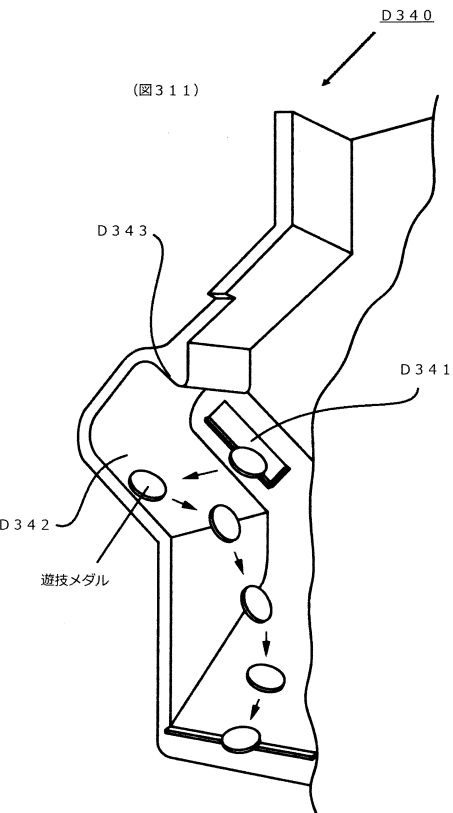
【図 3 1 0】

(図310)



【図 3 1 1】

(図311)

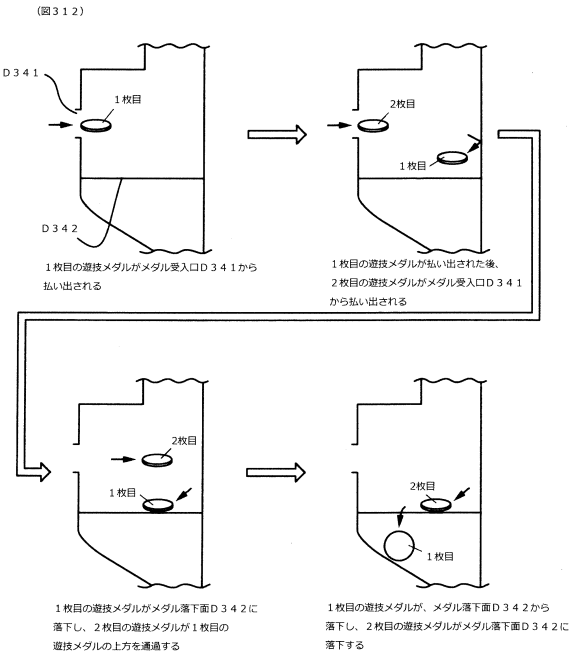


30

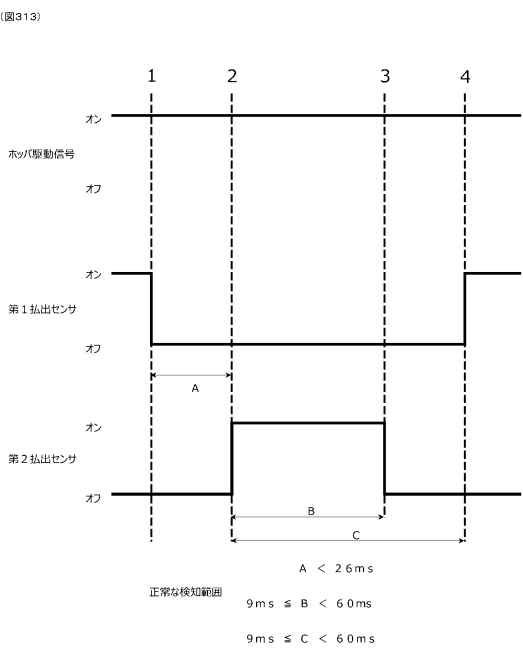
40

50

【図 3 1 2】

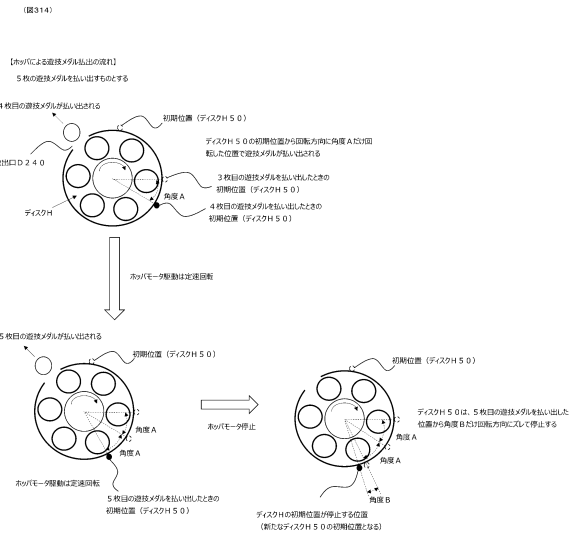


【図 3 1 3】



10

【図 3 1 4】



【図 3 1 5】

(図 3 1 5)

【精算処理中の主制御基板→副制御基板 通信不可時の処理 パターン 1】

N 遊技目と N + 1 遊技目は、同一のチャンネルにて精算に対応する精算中の音の出力する

遊技回数	順序	主制御基板側が送信するコマンド	副制御基板側が行う処理
N 遊技目	1	精算の開始に係るコマンド	精算に対応する精算中の音の出力する
	2	精算の終了に係るコマンド	主制御基板側から精算の終了に係るコマンドを受信できないため、精算に対応する精算中の音の出力を続ける
	3	メダル投入受付に係るコマンド	メダル投入受付に係るメダル投入音の出力する
	4	スタートレバー操作に係るコマンド	スタートレバー操作に係る効果音を出力する
	5	リール回転開始に係るコマンド	リール回転開始に係る効果音を出力する
	6	第 1 リール停止受付に係るコマンド	第 1 リール停止受付に係る演出音を出力する
	7	第 2 リール停止受付に係るコマンド	第 2 リール停止受付に係る演出音を出力する
	8	第 3 リール停止受付に係るコマンド	第 3 リール停止受付に係る演出音を出力する
	9	停止表示図柄の停止に係るコマンド	停止表示図柄の停止に係る演出音を出力する
N + 1 遊技目	10	精算の開始に係るコマンド	N 遊技目と N + 1 遊技目とで、精算に対応する精算中の音の間チャンネルにて出力する
	11	精算の終了に係るコマンド	N + 1 遊技目に係る精算に対応する精算中の音の出力を終了する

処理の流れ

20

30

40

50

【図 3 1 6】

(図316)

【精算処理中の主制御基板⇨副制御基板 通信不可時の処理 パターン2】

精算に対応する払出音を出すチャンネルは、所定のエラー（ドア開放エラー）フラグ検出時に出力されるエラー音と同一チャンネルとしている

遊技回数	順序	主制御基板側が送信するコマンド	副制御基板側が行う処理
N 遊技目	1	精算の開始に係るコマンド	副制御基板側から精算の開始に係るコマンドを受信する
		副制御基板側の精算に係る払出音の出力中に、主制御基板側と副制御基板側の通信が切断状態になる	
	2	精算の終了に係るコマンド	主制御基板側から精算の終了に係るコマンドを受信できないため、精算に対応する精算中の音の出力を続ける
		主制御基板側と副制御基板側との通信が復帰する	
	3	メダル投入受付に係るコマンド	メダル投入に対応するメダル投入音を出す 精算に対応する精算中の音を出す
	4	スタートレバー操作に係るコマンド	スタートレバー操作に係る効果音を出す 精算に対応する精算中の音を出す
	5	リール回転開始に係るコマンド	リール回転開始に係る効果音を出す 精算に対応する精算中の音を出す
	6	第1リール停止受付に係るコマンド	第1リール停止受付に係る演出音を出す 精算に対応する精算中の音を出す
	7	第2リール停止受付に係るコマンド	第2リール停止受付に係る演出音を出す 精算に対応する精算中の音を出す
N+1 遊技目	8	第3リール停止受付に係るコマンド	第3リール停止受付に係る演出音を出す 精算に対応する精算中の音を出す
	9	停止表示図柄の停止に係るコマンド	停止表示図柄の停止に係る演出音を出す 精算に対応する精算中の音を出す
	10	ドア開放エラーフラグの検知によるエラー検出コマンド	ドア開放エラー検知音を、精算に対応する精算中の音と同一チャンネルにて出力する N遊技目に係る精算に代わる精算中の音の出力を終了し、N+1遊技目に係るドア開放エラー検知音の出力を開始する

処理の
流れ

【図 3 1 7】

(図317)

【ウェイト処理中の主制御基板⇨副制御基板 通信不可時の処理】

N遊技目とN+1遊技目は、同一のチャンネルにてスタートレバー操作に係る効果音（ウェイト音）を出力する

遊技回数	順序	主制御基板側が送信するコマンド	副制御基板側が行う処理
N 遊技目	1	スタートレバー操作に係るコマンド	スタートレバー操作に係る効果音（ウェイト音）を出力する
		副制御基板側のスタートレバー操作に係る効果音（ウェイト音）の出力中に、主制御基板側と副制御基板側の通信が切断状態になる	
	2	リール回転開始待機状態開始に係るコマンド	主制御基板側からリール回転開始待機状態開始に係るコマンドを受信できないため、スタートレバー操作に係る効果音（ウェイト音）を出力し続ける
		主制御基板側と副制御基板側との通信が復帰する	
	3	リール回転開始に係るコマンド	リール回転開始に係る効果音を出す スタートレバー操作に係る効果音（ウェイト音）を出力する
	4	第1リール停止受付に係るコマンド	第1リール停止受付に係る演出音を出す スタートレバー操作に係る効果音（ウェイト音）を出力する
	5	第2リール停止受付に係るコマンド	第2リール停止受付に係る演出音を出す スタートレバー操作に係る効果音（ウェイト音）を出力する
N+1 遊技目	6	第3リール停止受付に係るコマンド	第3リール停止受付に係る演出音を出す スタートレバー操作に係る効果音（ウェイト音）を出力する
	7	停止表示図柄の停止に係るコマンド	停止表示図柄の停止に係る演出音を出す スタートレバー操作に係る効果音（ウェイト音）を出力する
	8	メダル投入受付に係るコマンド	メダル投入に対応するメダル投入音を出す スタートレバー操作に係る効果音（ウェイト音）を出力する
	9	リール回転開始待機状態開始に係るコマンド	N遊技目とN+1遊技目とで、スタートレバー操作に係る効果音（ウェイト音）を同一チャンネルにて出力する N遊技目に係るスタートレバー操作に係る効果音（ウェイト音）の出力を終了し、N+1遊技目に係るスタートレバー操作に係る効果音（ウェイト音）の出力を開始する

処理の
流れ

10

20

【図 3 1 8】

(図318)

【払出処理中の主制御基板⇨副制御基板 通信不可時の処理 パターン1】

ホッパからのメダル払出音を出すチャンネルは、スタートレバー操作に係る効果音と同一チャンネルとしている

遊技回数	順序	主制御基板側が送信するコマンド	副制御基板側が行う処理
N 遊技目	1	ホッパからのメダル払出開始に係るコマンド	メダル払出音を出す
		副制御基板側のメダル払出音の出力中に、主制御基板側と副制御基板側の通信が切断状態になる	
	2	ホッパからのメダル払出終了に係るコマンド	主制御基板側からホッパからのメダル払出終了に係るコマンドを受信できないため、メダル払出音を出力し続ける
N+1 遊技目		主制御基板側と副制御基板側との通信が復帰する	
	3	メダル投入受付に係るコマンド	メダル投入に対応するメダル投入音を出す メダル払出音を出す
N+1 遊技目	4	リール回転開始待機状態開始に係るコマンド	スタートレバー操作に係る効果音（ウェイト音）を、メダル払出音と同一チャンネルにて出力する N遊技目に係るメダル払出音の出力を終了し、N+1遊技目に係るスタートレバー操作に係る効果音（ウェイト音）の出力を開始する

処理の
流れ

【図 3 1 9】

(図319)

【払出処理中の主制御基板⇨副制御基板 通信不可時の処理 パターン2】

N遊技目とN+1遊技目は、同一のチャンネルにてメダル払出音を出す

遊技回数	順序	主制御基板側が送信するコマンド	副制御基板側が行う処理
N 遊技目	1	ホッパからのメダル払出開始に係るコマンド	メダル払出音を出す
		副制御基板側のメダル払出音の出力中に、主制御基板側と副制御基板側の通信が切断状態になる	
N+1 遊技目	2	ホッパからのメダル払出終了に係るコマンド	主制御基板側からホッパからのメダル払出終了に係るコマンドを受信できないため、メダル払出音を出力し続ける
	3	メダル投入受付に係るコマンド	メダル払出音を出す
	4	スタートレバー操作に係るコマンド	メダル払出音を出す
	5	リール回転開始待機状態開始に係るコマンド	メダル払出音を出す
		主制御基板側と副制御基板側との通信が復帰する	
	6	リール回転開始に係るコマンド	リール回転開始に係る効果音を出す メダル払出音を出す
	7	第1リール停止受付に係るコマンド	第1リール停止受付に係る演出音を出す メダル払出音を出す
	8	第2リール停止受付に係るコマンド	第2リール停止受付に係る演出音を出す メダル払出音を出す
	9	第3リール停止受付に係るコマンド	第3リール停止受付に係る演出音を出す メダル払出音を出す
	10	ホッパからのメダル払出開始に係るコマンド	N遊技目とN+1遊技目とで、精算に対応する精算中の音を同一チャンネルにて出力する N遊技目に係るメダル払出音の出力を終了し、N+1遊技目に係るメダル払出音の出力を開始する

処理の
流れ

30

40

50

【図 3 2 0】

(図320)

B 3 非作動時									
条件範囲	投入数	払出数	票数 (分母65536)	確率	ゲーム数	投入数期待値	払出数期待値		
1 種 B 非作動	3	0	200	0.003051758	1	0.009155273	0	再遊技後	再遊技後
1 種 B + チェリー	3	0	200	0.003051758	1	0.009155273	0		
2 種 B 非作動	3	0	200	0.003051758	1	0.009155273	0	再遊技後	再遊技後
2 種 B + チェリー	3	0	200	0.003051758	1	0.009155273	0		
再遊技	3	3	9000	0.13729102	1	0.411987305	0.4119873	入賞率	1.2372509
ヘル	3	7	10400	0.158691406	1	0.476074219	1.11083984	入賞率	1.6492462
ズカ	3	15	65	0.000991821	1	0.002975464	0.01487722	入賞率	1.70375
シンボル	3	14	65	0.000991821	1	0.002975464	0.01388353	入賞率	1.70375
チェリー	3	4	1600	0.024414063	1	0.073242188	0.09765625	入賞率	1.70375
ハズレ	3	0	43608	0.665374756	1	1.996124268	0		
1 種非作動	3	22.5	400	0.006103516	24	0.39453125	3.29589844	1 種非作動発生率	750.0%
2 種非作動	3	22.5	400	0.006103516	8	0.346484375	1.09863281	2 種非作動発生率	750.0%
内部中	3	0	200	0.004425649	1	0.013275144	0		
合計						3.599212646	6.04377747		
						合計止玉率	167.9%		

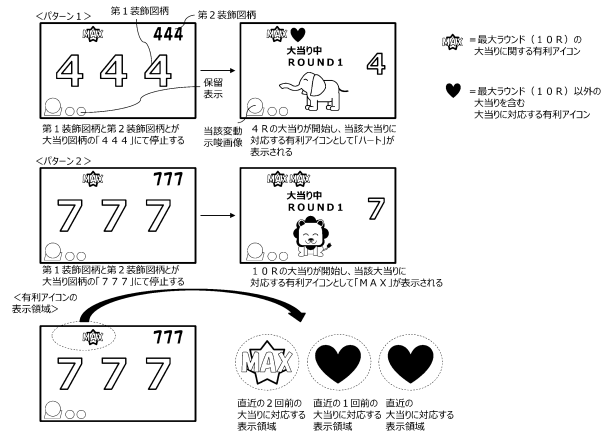
1 種 B 非作動中									
条件範囲	投入数	払出数	票数 (分母65536)	確率	ゲーム数	投入数期待値	払出数期待値		
1 種 B 非作動	2	0	0	0	1	0	0		
1 種 B + チェリー	2	0	0	0	1	0	0		
2 種 B 非作動	2	0	0	0	1	0	0		
2 種 B + チェリー	2	0	0	0	1	0	0		
再遊技	2	0	0	0	1	0	0		
ヘル	2	15	63416	0.967651367	1	1.925302734	14.5147705		
ズカ	2	15	60	0.000915527	1	0.001831055	0.01373291		
シンボル	2	15	60	0.000915527	1	0.001831055	0.01373291		
チェリー	2	15	2000	0.030517538	1	0.061035136	0.43776367		
ハズレ	2	0	0	0	0	0	0		
						2	15	規定数 3 枚時 払出数期待値	
								750%	
								22.5	

2 種 B 非作動中									
条件範囲	投入数	使用払出数	票数 (分母65536)	確率	ゲーム数	投入数期待値	払出数期待値		
ヘル	2	15	65536	1	1	2	15		
								規定数 3 枚時 払出数期待値	
								750%	
								22.5	

【図 3 2 1】

(図321)

【有利アイコン表示イメージ図 1】

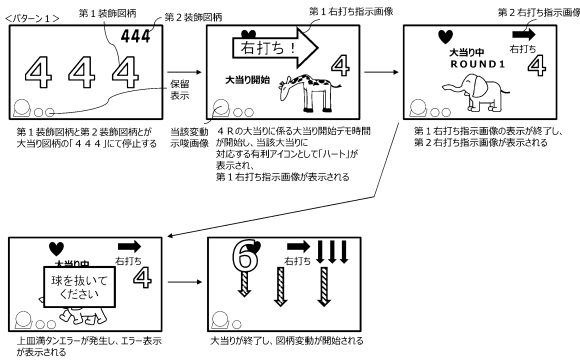


10

【図 3 2 2】

(図322)

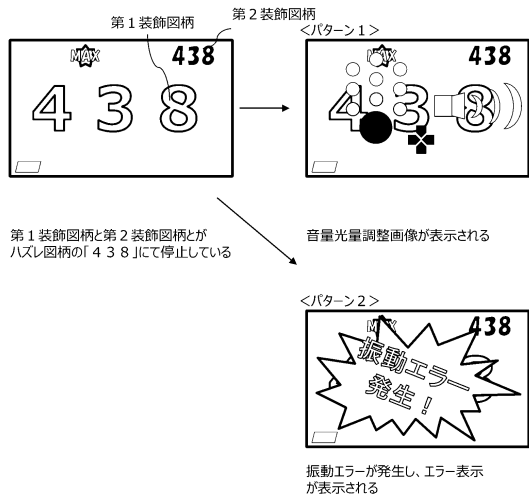
【有利アイコン表示イメージ図 2】



【図 3 2 3】

(図323)

【有利アイコン表示イメージ図 3】



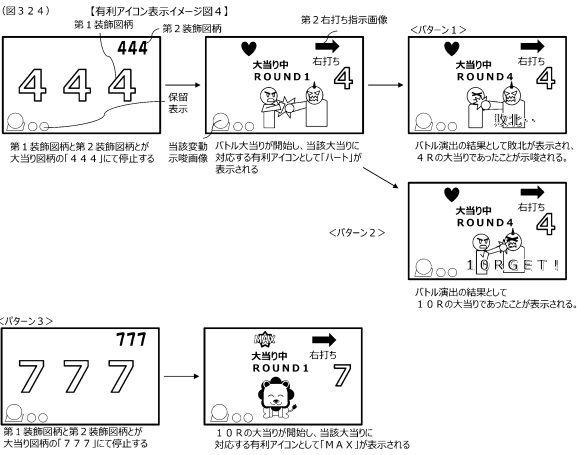
20

30

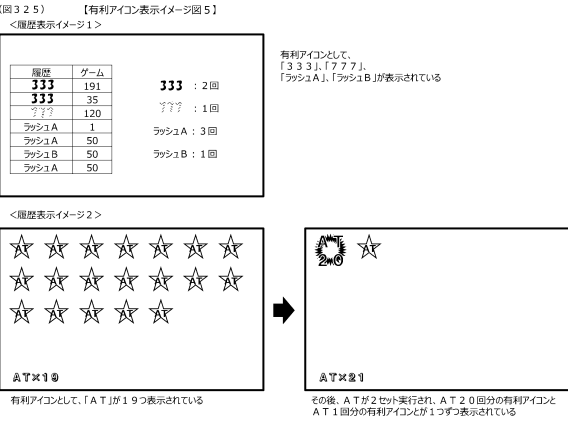
40

50

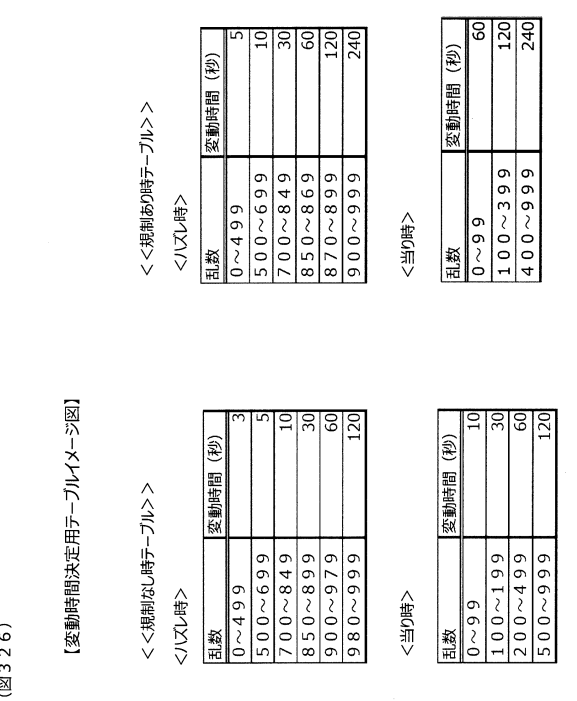
【図 3 2 4】



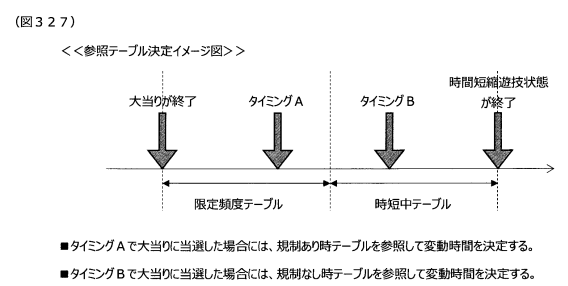
【図 3 2 5】



【図 3 2 6】



【図 3 2 7】



10

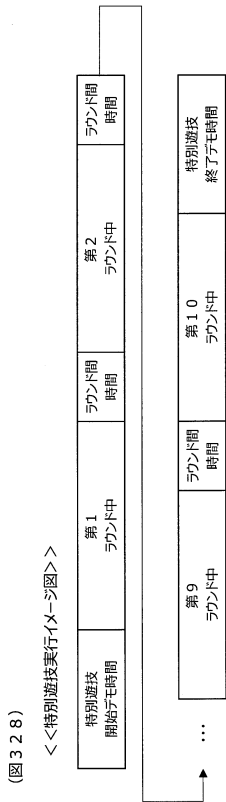
20

30

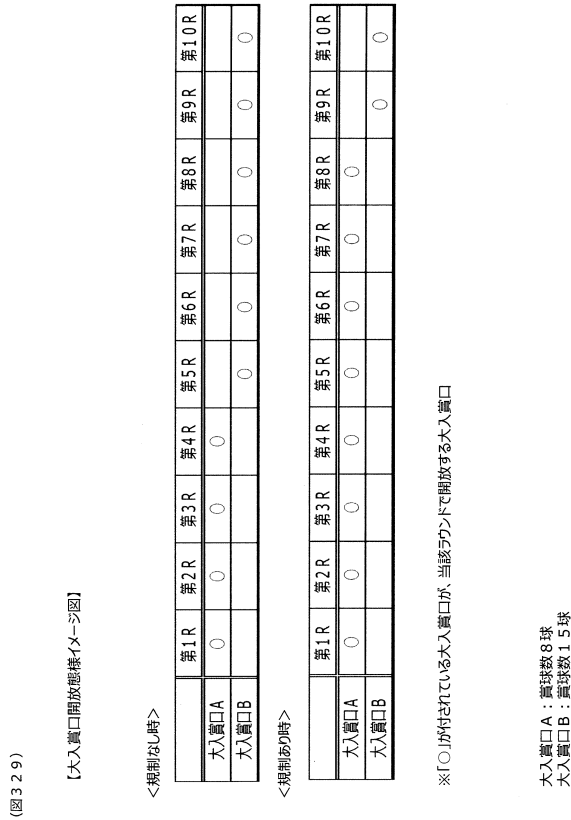
40

50

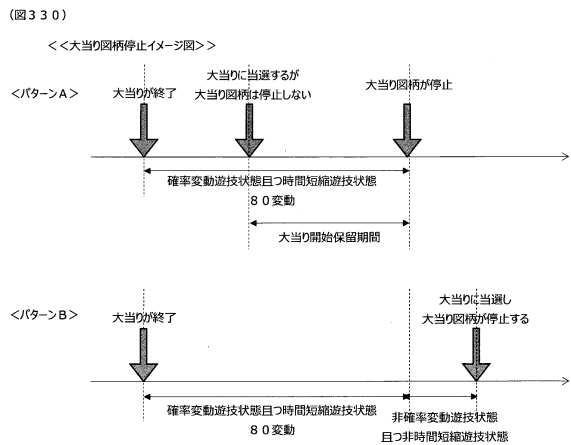
【図 3 2 8】



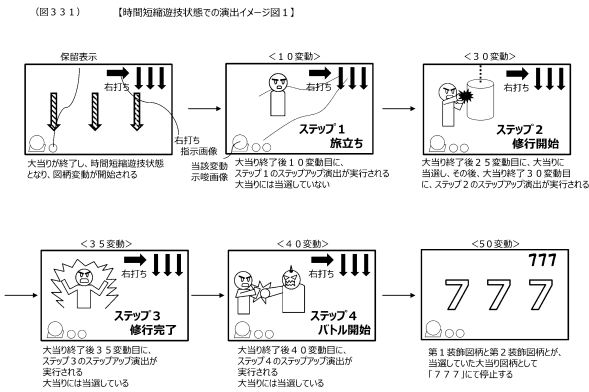
【図 3 2 9】



【図 3 3 0】



【図 3 3 1】



10

20

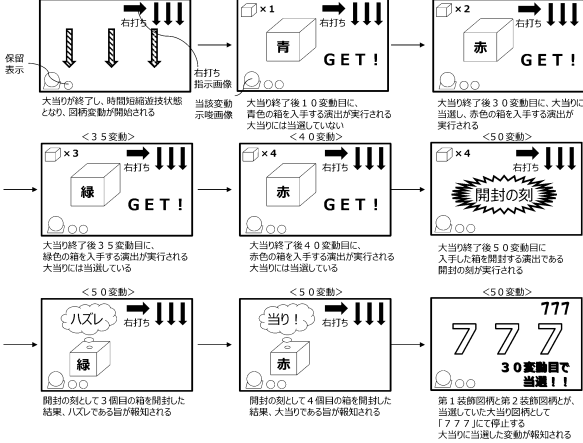
30

40

50

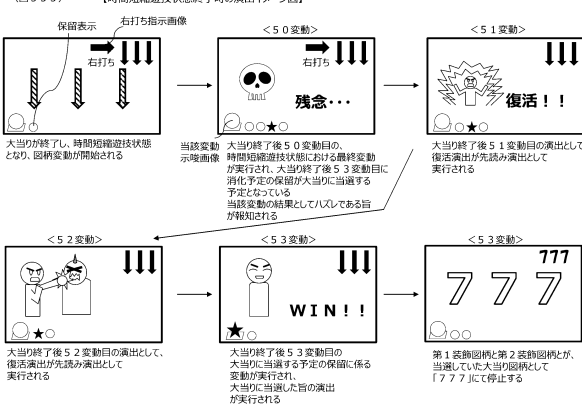
【図 3 3 2】

(図 3 3 2) 【時間短縮遊技態での演出イメージ図 2】



【図 3 3 3】

(図 3 3 3) 【時間短縮遊技状態終了時の演出イメージ図】



【図 3 3 4】

(図 3 3 4)

方法 1				
	低確低ベース状態	低確高ベース状態	高確低ベース状態	高確高ベース状態
時短図柄の参照	○	○	×	×

方法 2				
	低確低ベース状態	低確高ベース状態	高確低ベース状態	高確高ベース状態
時短図柄の参照	○	×	×	×

【図 3 3 5】

図 3 3 5	時短遊技タイミング				当選変動別時短作動タイミング				判定タイミング		乱数取得タイミング		時短抽選の可否		時短抽選不可	
	時短図柄	小当り	小当り	大当り	規定回数	時短終了	時短終了	時短終了	時短終了	時短終了	時短終了	時短終了	時短終了	時短終了	時短終了	時短終了
	時短図柄	時短図柄	時短図柄	時短図柄	時短図柄	時短図柄	時短図柄	時短図柄	時短図柄	時短図柄	時短図柄	時短図柄	時短図柄	時短図柄	時短図柄	時短図柄
時短図柄抽選回数	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
大当り図柄抽選回数	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
小当り図柄抽選回数	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ハズレ図柄抽選回数	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
当選抽選回数	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
時短抽選判定用回数	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
設定値	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

○：時短抽選不可
×：時短抽選不可（時短図柄を参照すること自体を行わないこと）
※：第 1 主遊技図柄、第 2 主遊技図柄で、時短図柄の当選確率が相違するようになり構成してもよいこと

10

20

30

40

50

【図 3 3 6】

(図 3 3 6)

方法 A				
	低確低ベース状態	低確高ベース状態	高確低ベース状態	高確高ベース状態
時短図柄の抽選	○	×	×	×

方法 B				
	低確低ベース状態	低確高ベース状態	高確低ベース状態	高確高ベース状態
時短図柄の抽選	○	○	×	×

【図 3 3 7】

(図 3 3 7)

	時短図柄の種類	時短図柄抽選乱数 取得契機	時短図柄抽選 判定契機	時間短縮遊技状態 作動契機	時間短縮遊技状態 終了契機
1 種 + 1 種 タイ プ	時短図柄 1	始動口入賞時	変動開始時	変動停止後	①規定回数到達 ②大当り時
	時短図柄 2 ※小当り図柄と兼用	始動口入賞時	変動開始時	小当り動作 終了後	①規定回数到達 ②大当り時
1 種 + 小 当 り ▽ タイ プ	時短図柄 1	始動口入賞時	変動開始時	変動停止後	①規定回数到達 ②大当り時 ③小当り時兼 特定領域通過時
	時短図柄 2 ※小当り図柄と兼用	始動口入賞時	変動開始時	小当り動作 終了後	①規定回数到達 ②大当り時 ③小当り時兼 特定領域通過時
転 落 タイ プ	時短図柄 1	始動口入賞時	変動開始時 (転落抽選後)	変動停止後	①規定回数到達 ②大当り時
	時短図柄 2 ※小当り図柄と兼用	始動口入賞時	変動開始時 (転落抽選後)	小当り動作 終了後	①規定回数到達 ②大当り時

10

【図 3 3 8】

(図 3 3 8)

	時短図柄と兼用	時短の有無		時短回数の決定
小当り図柄 A (特定領域入球時に時短有)	×	特定領域入球	○	特定領域入球の時
		特定領域非入球	×	—
小当り図柄 B (特定領域入球時に時短無)	×	特定領域入球	×	—
		特定領域非入球	×	—
小当り図柄 C (特定領域入球時に時短有)	○	特定領域入球	○	特定領域入球の時
		特定領域非入球	○	時短図柄の停止表示の時
小当り図柄 D (特定領域入球時に時短無)	○	特定領域入球	×	—
		特定領域非入球	○	時短図柄の停止表示の時

【図 3 3 9】

(図 3 3 9)

(a) 「当否抽選乱数」による抽選時に作動回数別で時短図柄をあらかじめ定めておく場合

乱数の範囲	0～14	15～24	25～34	35～44	45～99
大当り		小当り	時短 A (100回)	時短 B (50回)	ハズレ

(b) 時短図柄当選後に別の抽選で作動回数を決定する場合

(b-1) 時短図柄抽選 (抽選 1 段階)

乱数の範囲	0～14	15～24	25～44	45～99
大当り		小当り	時短	ハズレ

(b-2) 時短回数抽選 (抽選 2 段階)

乱数の範囲	0～49	50～99
時短回数 = 5 0 回		時短回数 = 1 0 0 回

20

30

40

50

【図 3 4 0】

(図 3 4 0)
第 1 主遊技回柄と第 2 主遊技回柄の変動回数と第 2 主遊技回柄の変動回数を併用した場合の説明図
(a)

時短の種類	主遊技回柄	時短の終了条件 (終了回数)	
		合算	第 2 主遊技回柄
時短 A	A	5 0 回	5 回
時短 A	B	7 0 回	8 回
時短 B	-	5 0 0 回	2 0 回
時短 C	C	3 0 回	6 回
			小当り回数
			1 回
			1 回
			1 回
			1 回

(b)

時短の種類	主遊技回柄	時短の終了条件 (終了回数)	
		合算	第 2 主遊技回柄
時短 A	A	5 0 回	5 回
時短 A	B	7 0 回	8 回
時短 B	-	1 0 0 回	2 0 回

(c) P = 1 0 0

時短の種類	主遊技回柄	時短の終了条件 (終了回数)	
		合算	第 2 主遊技回柄
時短 A	A	5 0 回 (N 1)	5 回 (N 2)
時短 A	B	6 0 回 (N 1)	5 回 (N 2)
時短 A	D	7 0 回 (N 1)	8 回 (N 2)
時短 B	-	1 0 0 回 (N 1)	2 0 回 (N 2)
		0. 4 × P ÷ N 1 ÷ 3. 8 × P	

【図 3 4 1】

(図 3 4 1)

遊技状態別の時短 A、時短 B、時短 C の時短作動について

遊技状態	作動する時短の種類		
	時短 A	時短 B	時短 C
1. 時短 A 中	大当り遊技後に作動可能	△	△
2. 時短 B 中	大当り遊技後に作動可能	×	△
3. 時短 C 中	大当り遊技後に作動可能	△	△
4. 高確低ベース状態中	大当り遊技後に作動可能	○	○
5. 高確高ベース状態中	大当り遊技後に作動可能	×	×
6. 高確低ベース状態中	大当り遊技後に作動可能	×	×

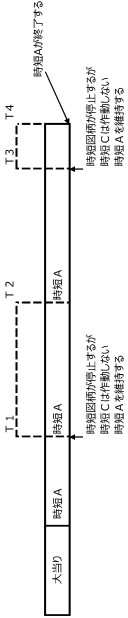
10

20

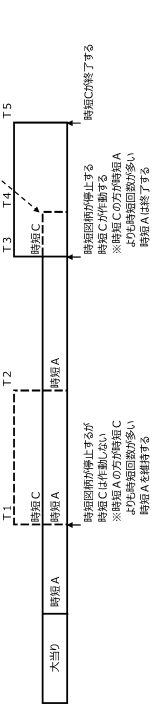
【図 3 4 2】

(図 3 4 2)
時短が重複した場合の時短回数 N の設定方法

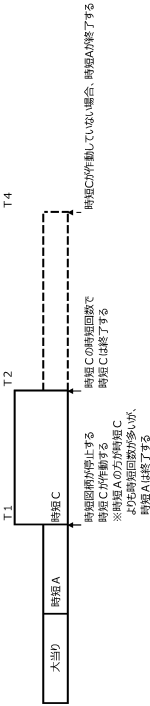
(1) 新たな時短は作動しないタイプ



(2) 新たな時短を作動させるタイプ 1



(3) 新たな時短を作動させるタイプ 2



【図 3 4 3】

(図 3 4 3)

作動回数 n の加算タイミングを示す図 「優先変動タイプ」または「入賞確変動タイプ」

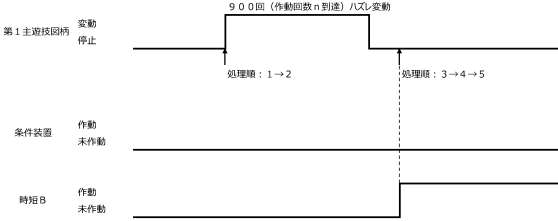
(a) 変動停止時に加算し、時短 B が作動する場合であって、作動回数 n での図柄変動がハズレである場合

【変動開始時のプログラム処理順】

1. 当否抽選 => 2. 主遊技回柄抽選

【変動停止時のプログラム処理順】

3. 作動回数のカウント => 4. 時短回数の設定 => 5. 時短 B の作動



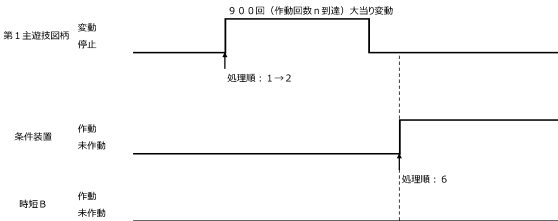
(b) 変動停止時に加算し、時短 B が作動する場合であって、作動回数 n での図柄変動が大当りである場合

【変動開始時のプログラム処理順】

1. 当否抽選 => 2. 主遊技回柄抽選

【変動停止時のプログラム処理順】

6. 条件装置の作動



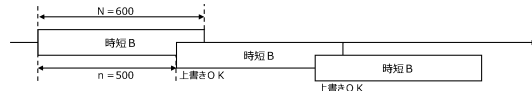
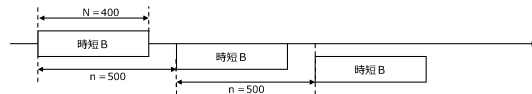
30

40

50

【図 3 5 2】

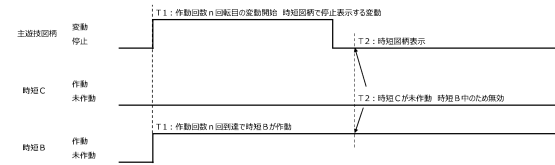
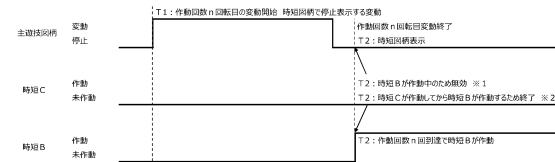
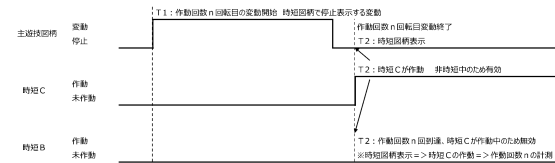
(図 3 5 2)

(5) 作動回数 $n \leq$ 時短回数 N に設計することで、時短 B を途切れないように構成可能な例(6) 作動回数 $n >$ 時短回数 N に設計することで、時短 B が連続しないように構成可能な例

【図 3 5 3】

(図 3 5 3)

時短 B の作動タイミングと時短 C の作動タイミングの処理を示す図

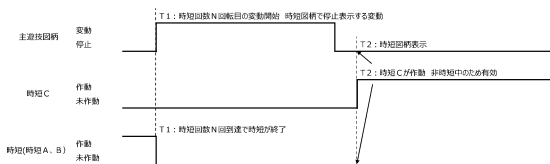
(1) 時短 B の作動回数 n の計測及び時短 B の作動が変動開始時または変動終了時の場合(2) 時短 B の作動回数 n の計測及び時短 B の作動が変動終了時 (主画面図柄の停止表示時) の場合 パターン 1※ 1 : プログラム処理順 1 : 作動回数 n の計測 $\Rightarrow$ 時短 B の作動 $\Rightarrow$ 時短 B 図柄表示
※ 2 : プログラム処理順 2 : 時短 B 図柄表示 $\Rightarrow$ 時短 B の作動 $\Rightarrow$ 時短 B の終了 $\Rightarrow$ 時短 B の作動(3) 時短 B の作動回数 n の計測及び時短 B の作動が変動終了時 (主画面図柄の停止表示時) の場合 パターン 2プログラム処理順 : 時短 B 図柄表示 $\Rightarrow$ 時短 B の作動 $\Rightarrow$ 時短 B の終了 $\Rightarrow$ 時短 B の作動

【図 3 5 4】

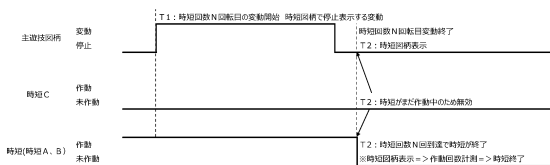
(図 3 5 4)

時短 A または時短 B の終了タイミングと時短 C の作動タイミングの処理を示す図

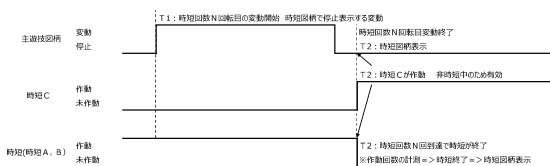
(1) 時短 (時短 A、B) の終了タイミングが変動開始時から変動終了時前 (図柄変動中) の場合



(2) 時短 (時短 A、B) の終了タイミングが変動終了時の場合 パターン 1

プログラム処理順 : 時短 B 図柄表示 $\Rightarrow$ 時短 B の作動 $\Rightarrow$ 時短 B の終了

(3) 時短 (時短 A、B) の終了タイミングが変動終了時の場合 パターン 2

プログラム処理順 : 作動回数 n の計測 $\Rightarrow$ 時短 B の作動 $\Rightarrow$ 時短 B 図柄表示

【図 3 5 5】

(図 3 5 5)

【時短回数経過状況における変動前後中画面表示 1】



【時短回数経過状況における変動前後中画面表示 2】



【時短回数経過状況における変動前後中画面表示 1】



【時短回数経過状況における変動前後中画面表示 2】



【表示優先度の一例】

表示内容	優先度
第 2 装飾図柄	—
第 2 装飾表示	—
第 1 装飾図柄	—

※ 優先度が大きい表示内容が前面レイヤーに表示される

【表示優先度の一例】

表示内容	優先度
右打ち指示表示	第 2 装飾図柄、第 2 装飾表示と重複しない位置に表示
第 2 装飾図柄	—
第 2 装飾表示	—
第 1 装飾図柄	—

10

20

30

40

50

【図 3 5 6】

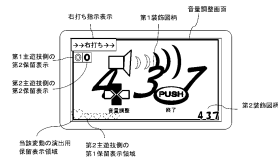
〈圖 356〉

【定時間短絡直接伏型における音量調整画面表示】



※待機中ムービーの表示中に音量調整に関するボタン操作が行われた場合には、待機中ムービーの表示を終了し、音量調整画面を表示する。

【時間短縮選択状態における音量調整画面表示】

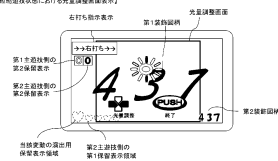


【昇降機短停遊休状態における光量調整画面表示】



※待機中ムービーの表示中に光量調整に関するボタン操作が行われた場合には、待機中ムービーの表示を終了し、音量調整画面を表示する。

【時間短縮選抜状態における光量調整画面表示】



【表示プライオリティの一例】

	表示内容
大！ 優先度！ 小	第2装飾銘柄
	第2保留表示
	音量調整画面
	第1装飾銘柄
	第1保留表示

【表示プライオリティの一例】

大 ↓ 優先度 ↓ 小	表示内容
	右打ち指示表示
	第2装飾図柄
	第2保留表示
	音量調整画面
	第1装飾図柄

【表示プライオリティの一例】

	表示内容
大！優先度！小	第2裝飾図柄
	第2保留表示
	光量調整画面
	第1裝飾図柄
	第1保留表示

【表示プライオリティの一例】

	表示内容
大 ↓ 優先度 ↓ 小	右打ち指示表示
	第2装飾図柄
	第2保留表示
	光量調整画面
	第1装飾図柄

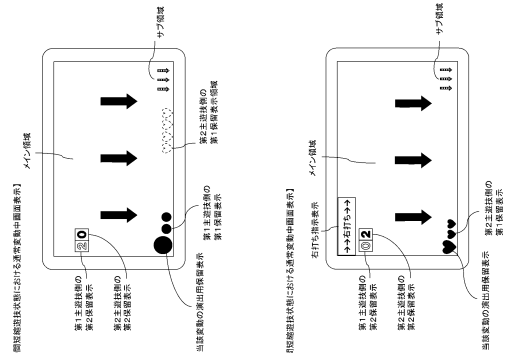
【図 3 5 7】

【表示プライオリティの一例】

氏名	住所
重光 智雄 〒740 松山 市 中島 町 17-10	—
(第2候補関係の登録表示)	
第2候補表示	
マイド 信雄 (第1候補関係の登録表示)	—
通達事務の選出関係表示	—
第1選出候補の第1候補表示	—
第2選出候補の第1候補表示	—

【表紙】三ノ木一樹

表示内容	注
右打ち用表示	第2候補図柄の表示位置に重複しない
サブ領域 (第2候補図柄の候補表示)	—
第2保留表示	—
マイ領域 (第1候補図柄の候補表示)	—
当選動向の表示用候補表示	—
第2次当選動向の表示位置	—



(圖 357)

【譯】問題在於技術條件上不能通過對中國國情考【元】

【図 3 5 8】

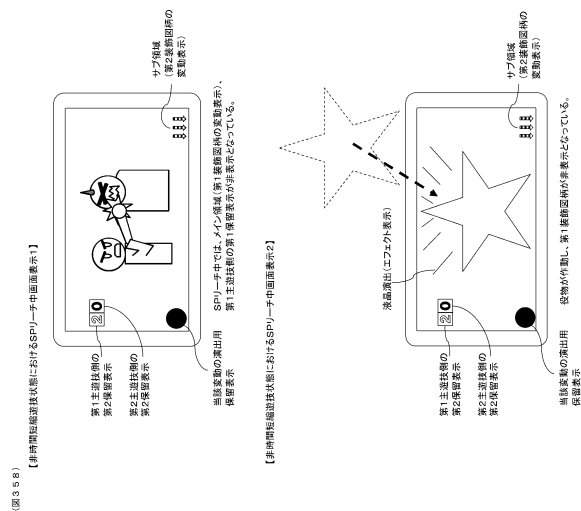
【表示プライオリティの一例】

表示内容	サブ領域 (第2装飾図柄の変動表示)
第2保留表示	
当該変動の演出用保留表示	
SPリーチ演出	

【表示プライオリティの一例】

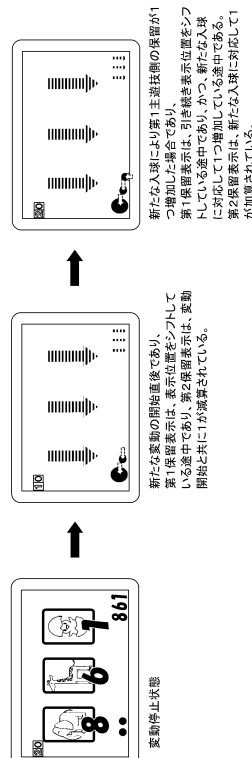
	表示内容
	サブ領域 (第2装飾図柄の変動表示)
	第2保留表示
	当該変動の演出用保留表示
	液晶演出 (エフェクト表示)

大 ↑ 優先度 ↓ 小

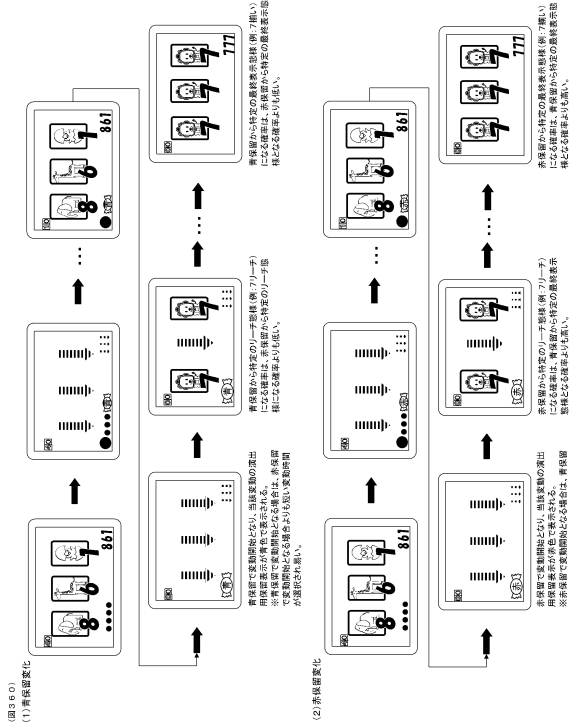


(图 359)

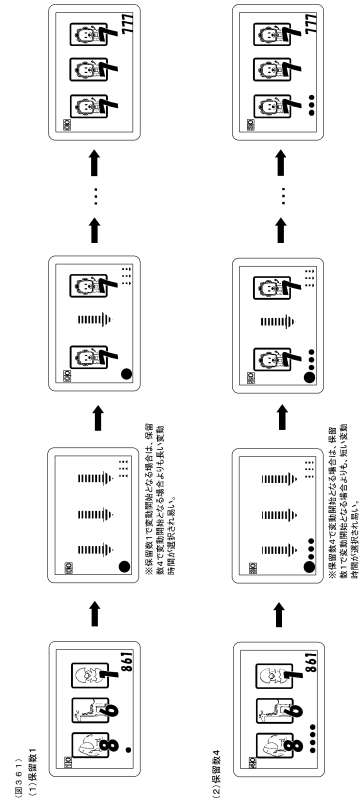
【第1保留表示及び第2保留表示の更新】



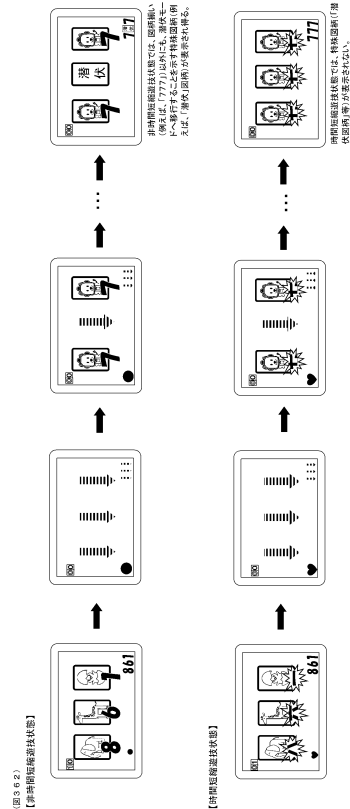
【図 3 6 0】



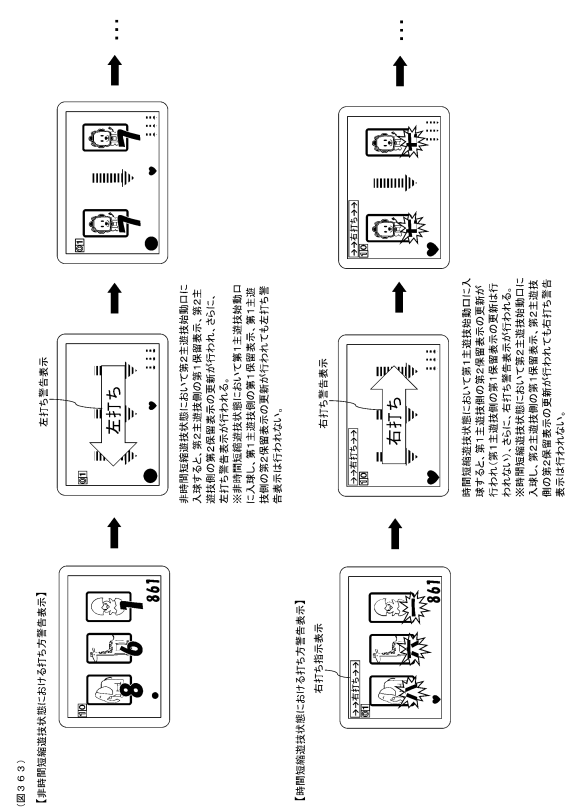
【図 3 6 1】



【図 3 6 2】



【図 3 6 3】



10

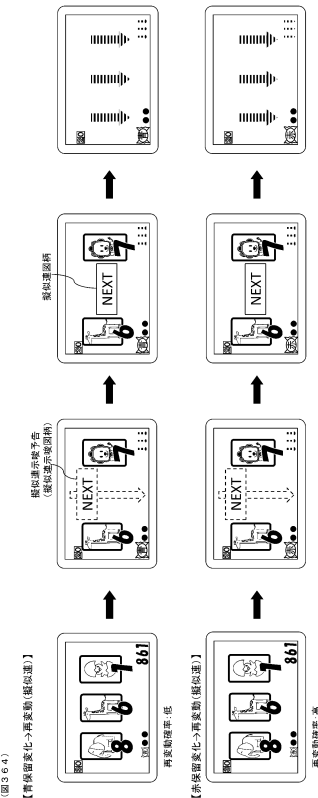
20

30

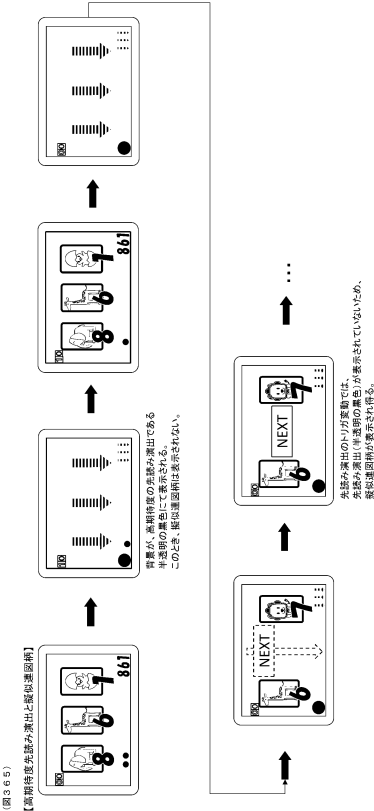
40

50

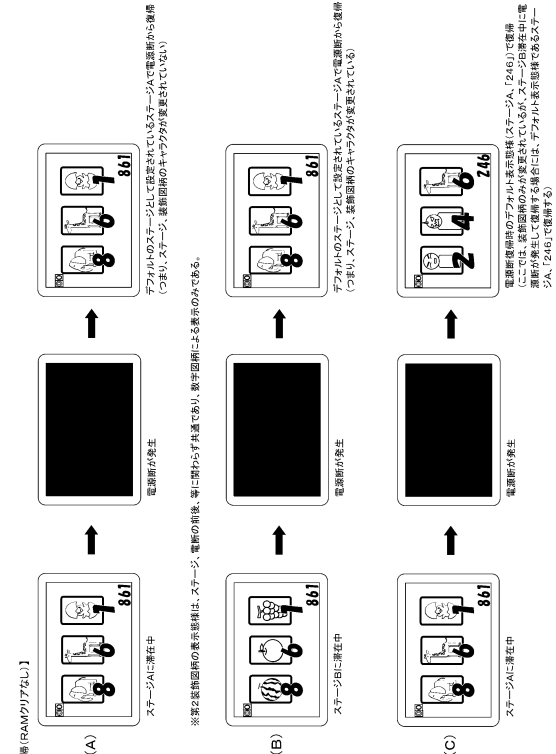
【図 3 6 4】



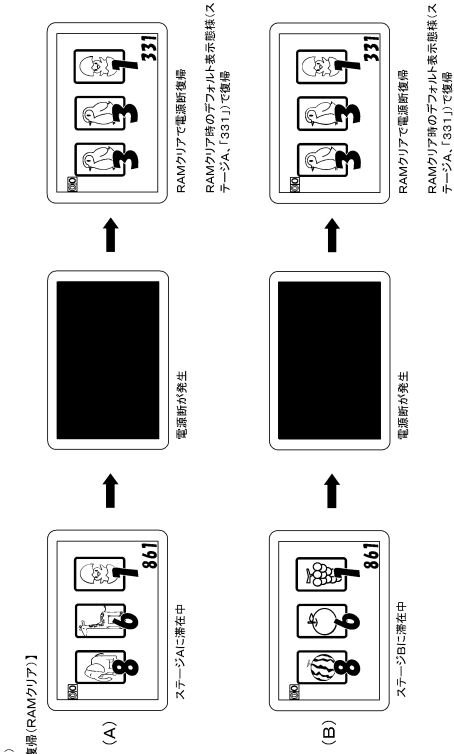
【図 3 6 5】



【図 3 6 6】



【図 3 6 7】



10

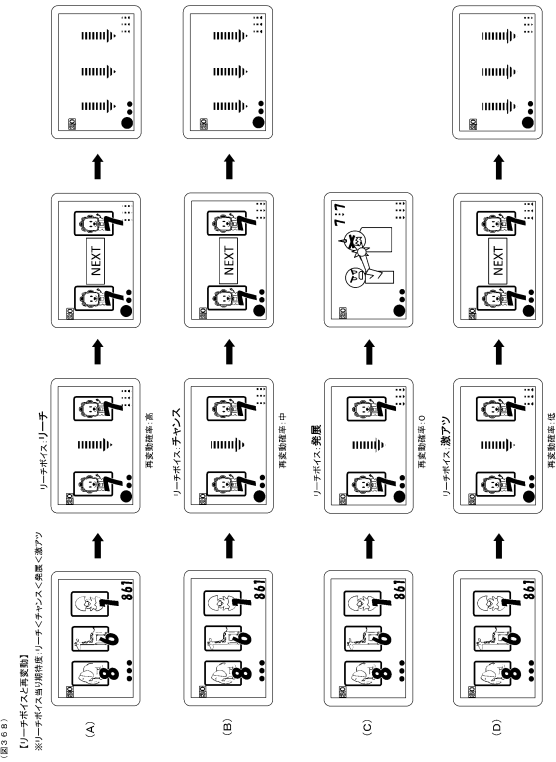
20

30

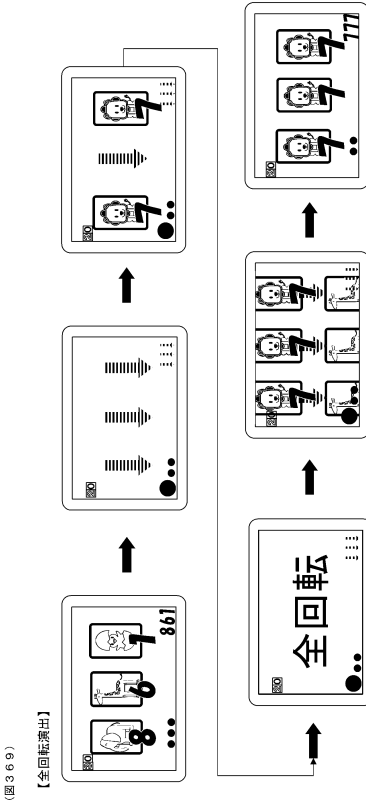
40

50

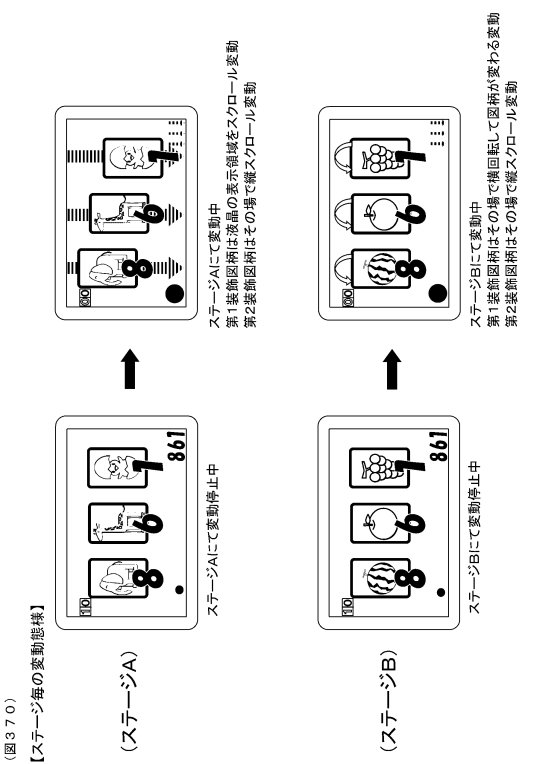
【図 3 6 8】



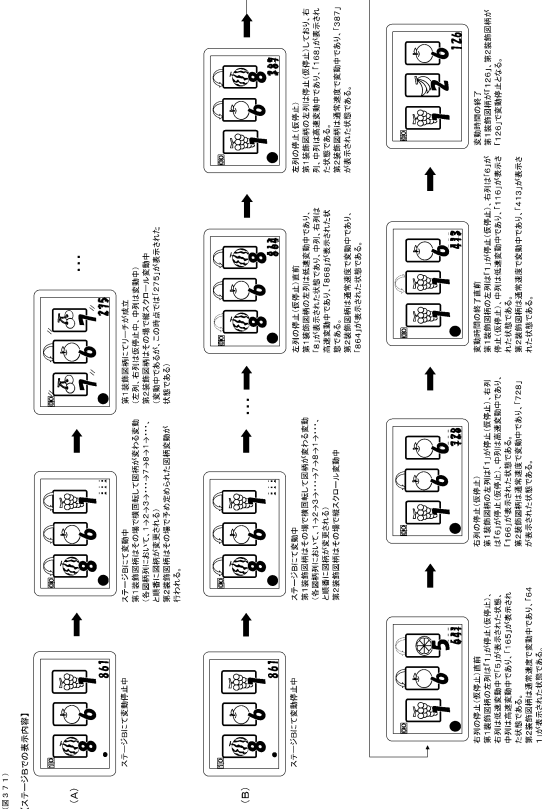
【図 3 6 9】



【図 3 7 0】



【図 3 7 1】



10

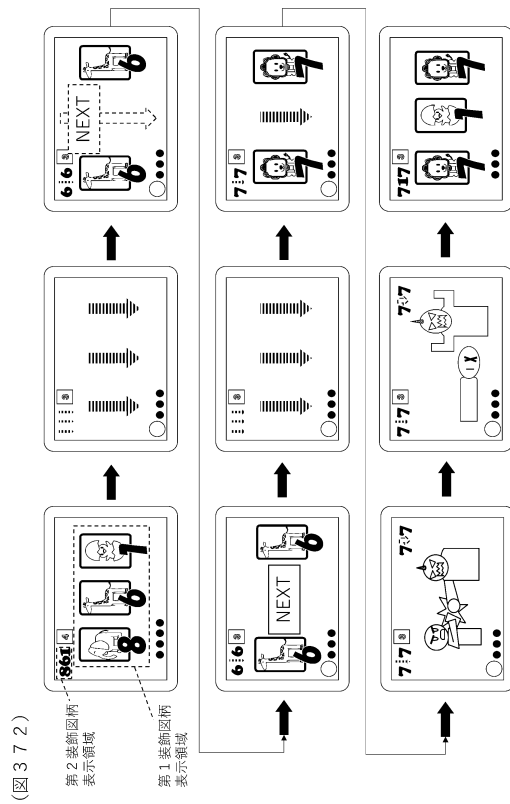
20

30

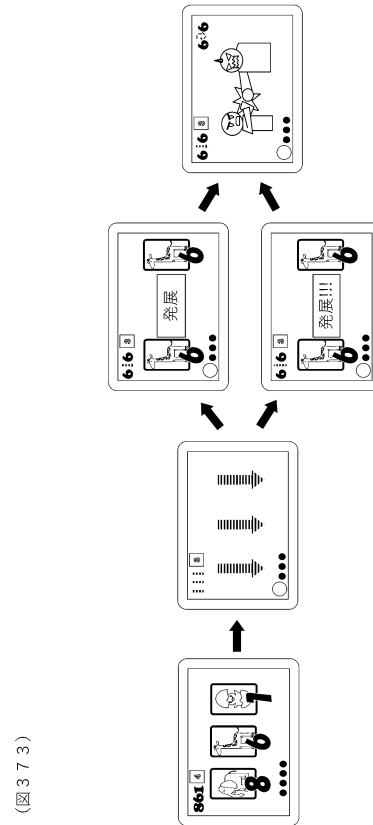
40

50

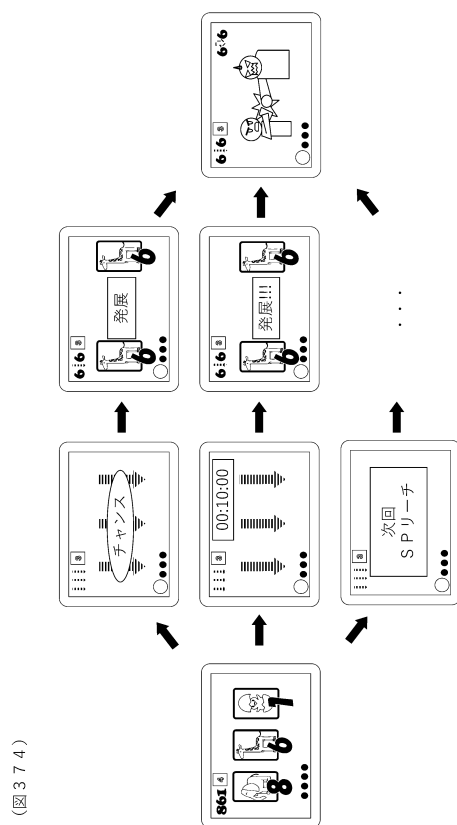
【図 3 7 2】



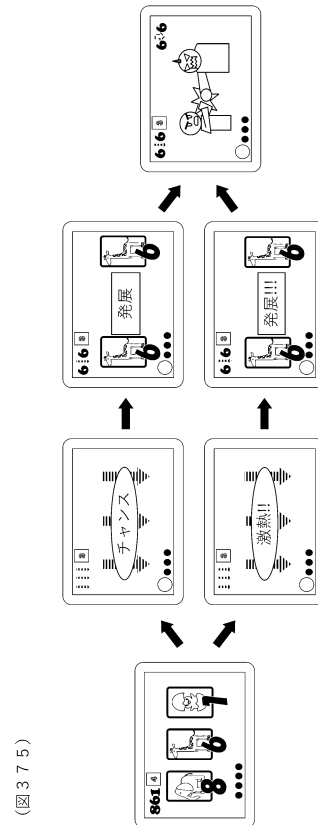
【図 3 7 3】



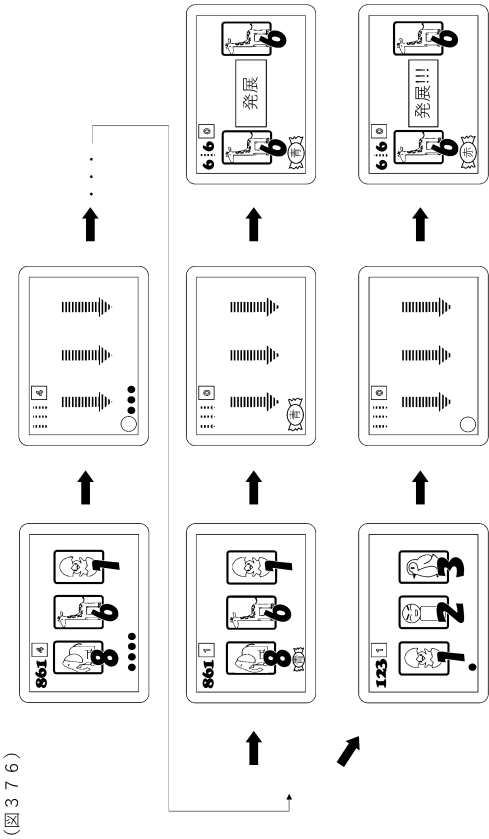
【図 3 7 4】



【図 3 7 5】

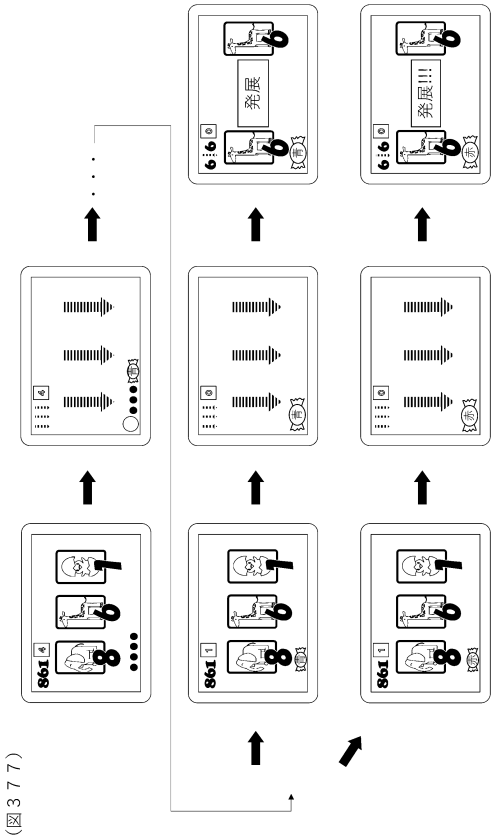


【図 3 7 6】



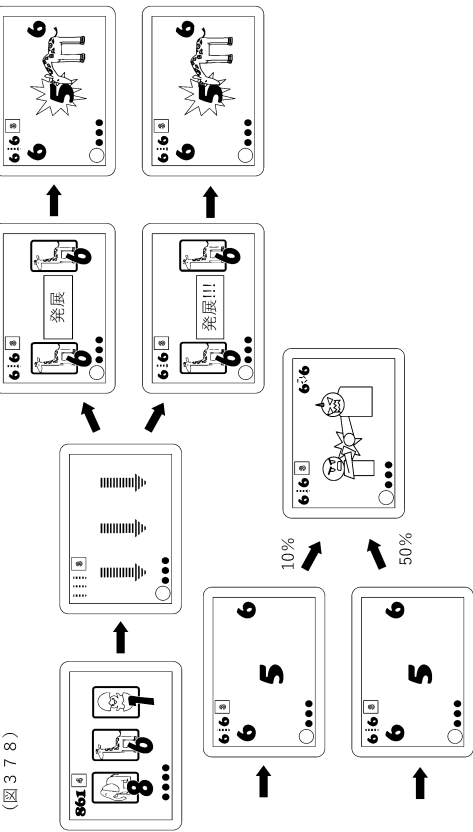
(図 3 7 6)

【図 3 7 7】



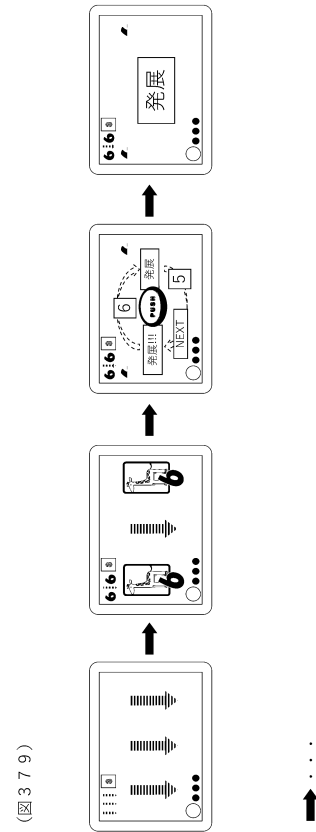
(図 3 7 7)

【図 3 7 8】



(図 3 7 8)

【図 3 7 9】



(図 3 7 9)

10

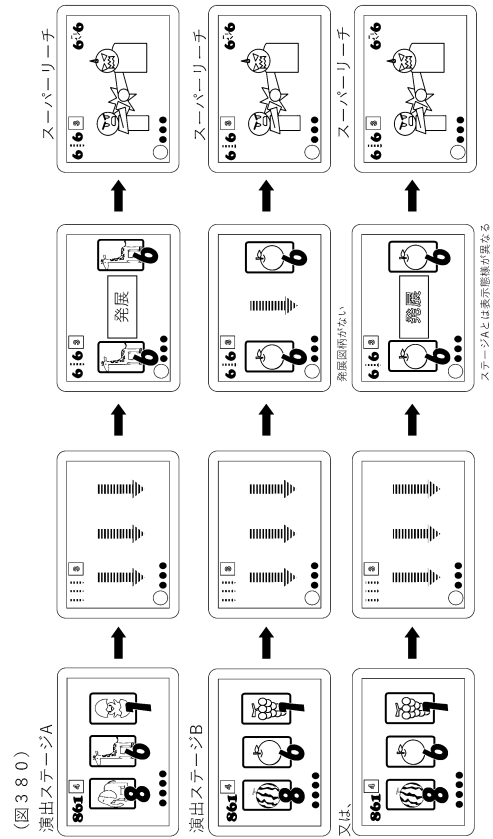
20

30

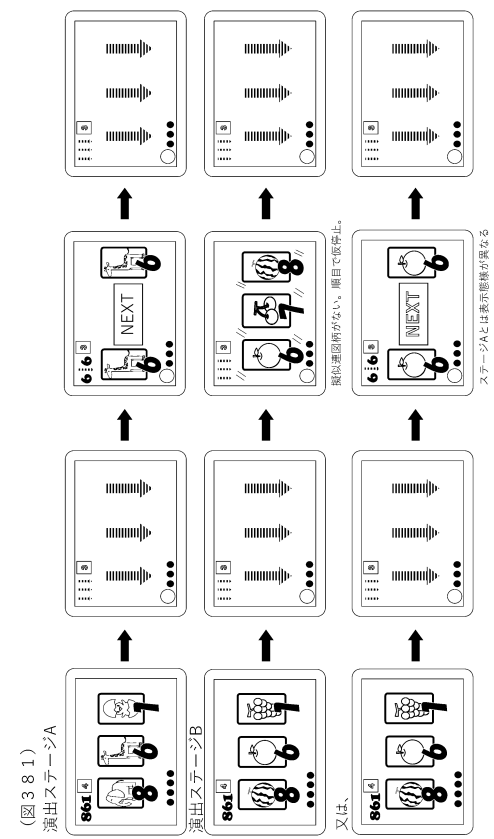
40

50

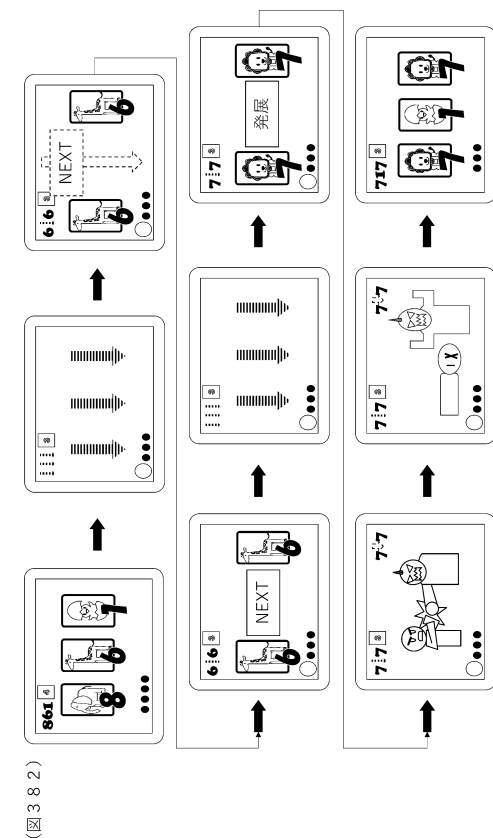
【図 3 8 0】



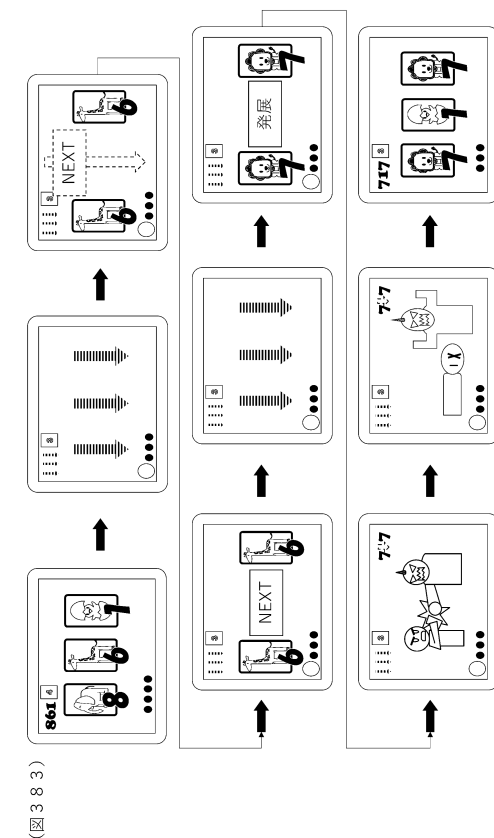
【図 3 8 1】



【図 3 8 2】



【図 3 8 3】



10

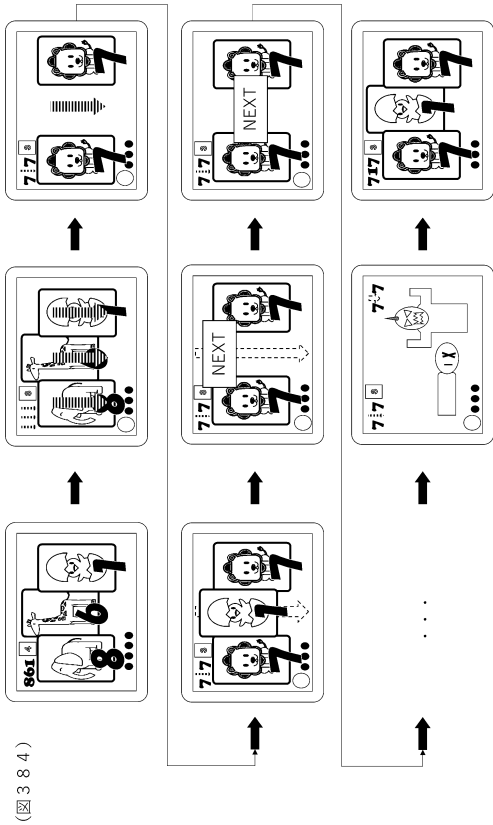
20

30

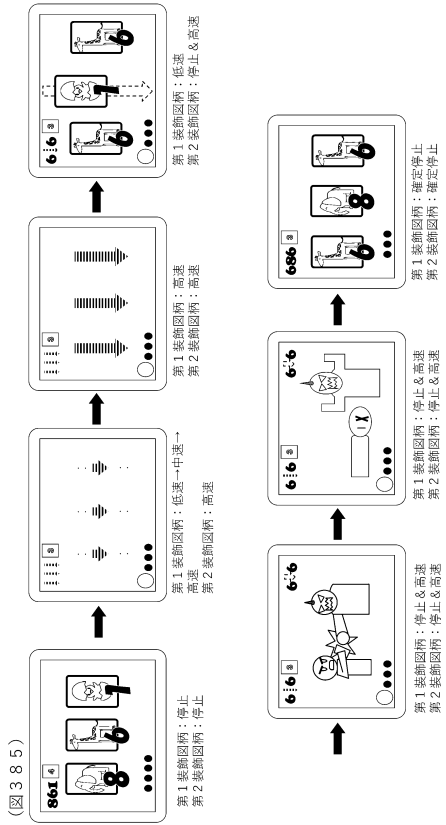
40

50

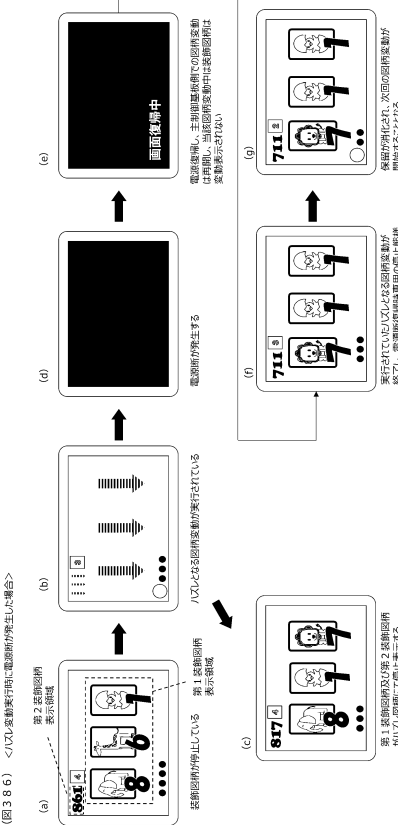
【図 3 8 4】



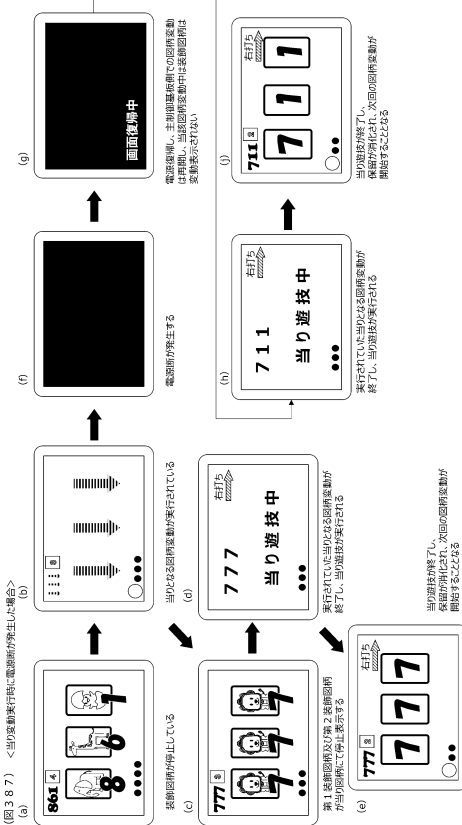
【図 3 8 5】



【図 3 8 6】



【図 3 8 7】



10

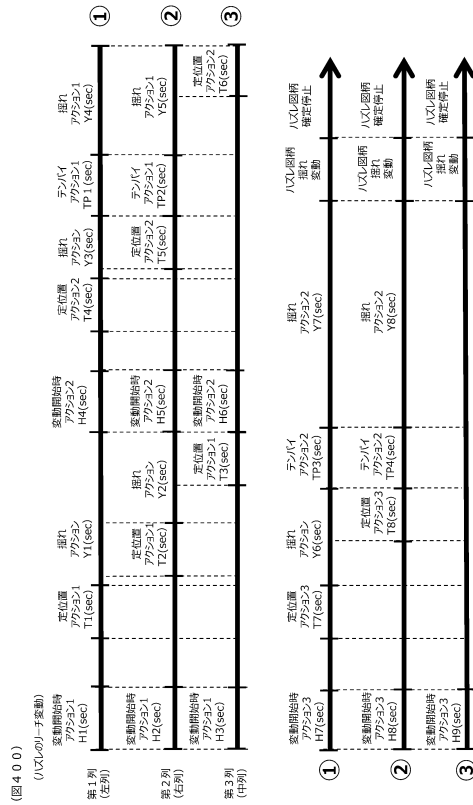
20

30

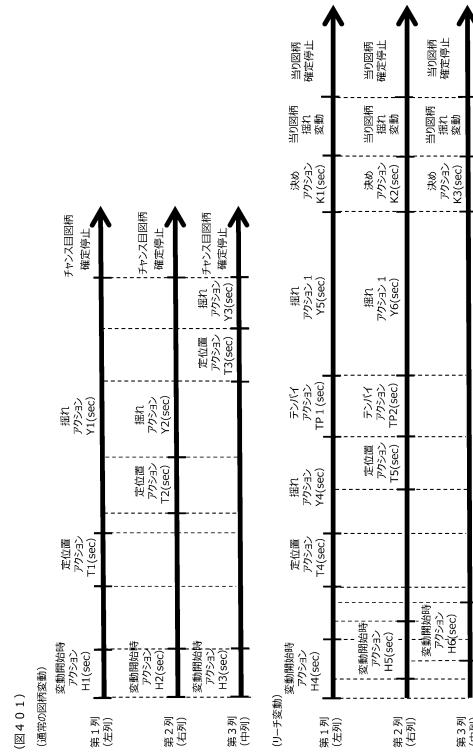
40

50

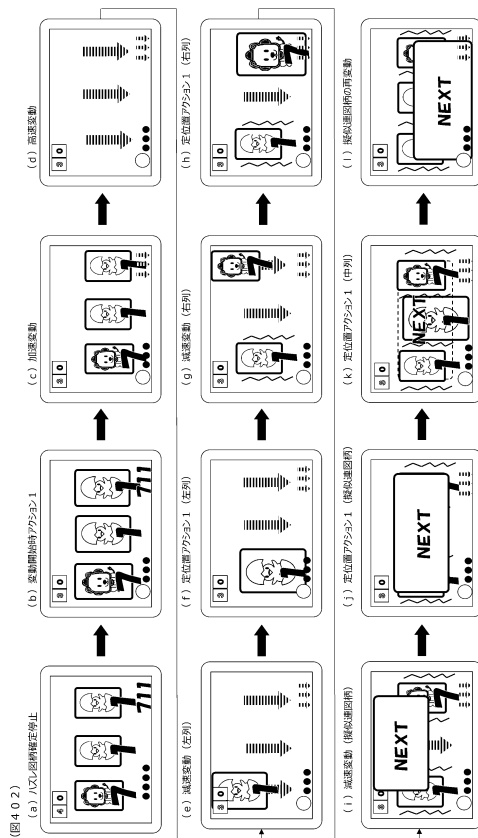
【図 400】



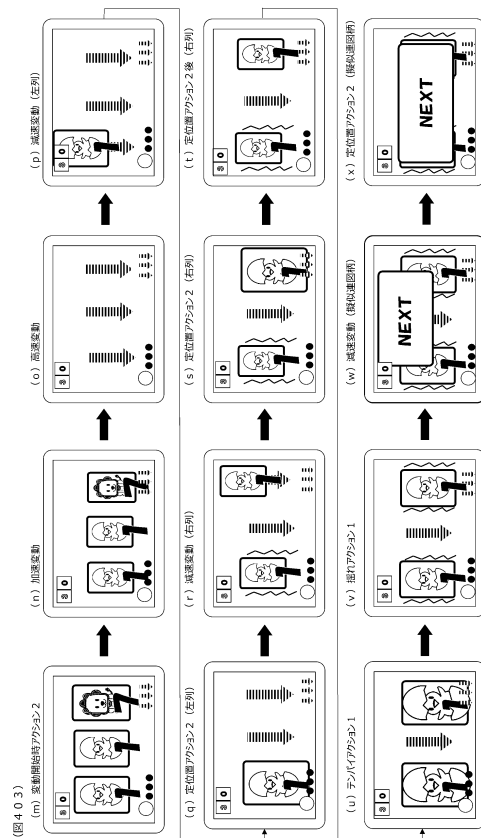
【図 4 0 1】



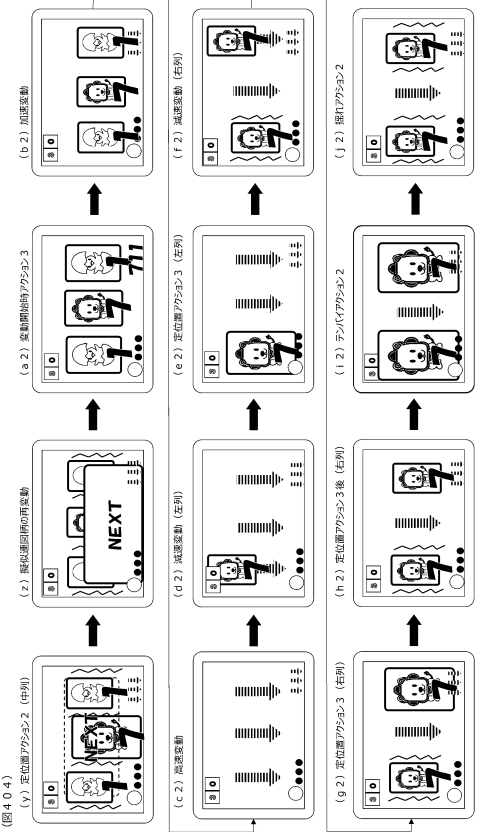
【図 402】



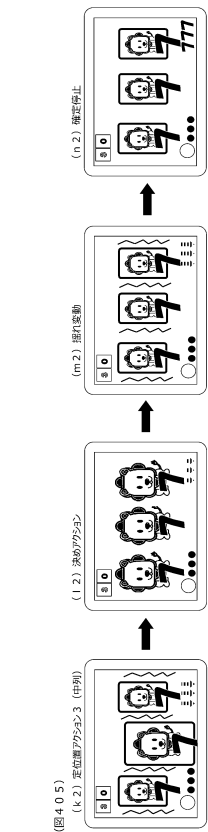
【図 4 0 3】



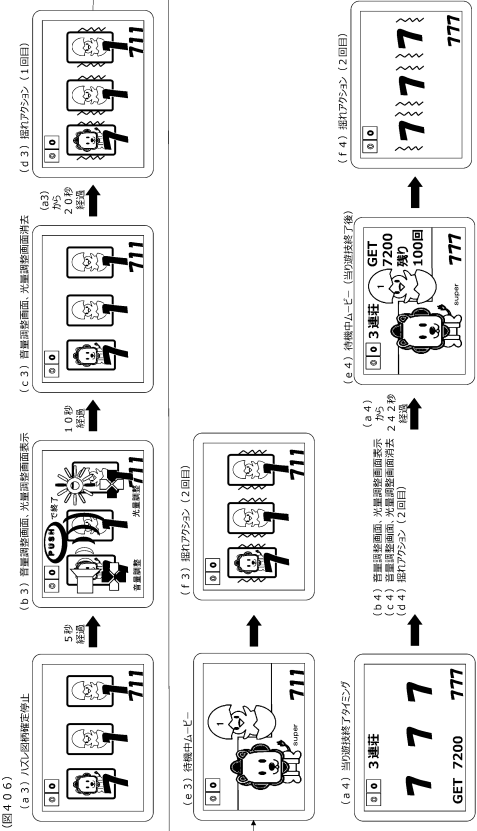
【図 4 0 4】



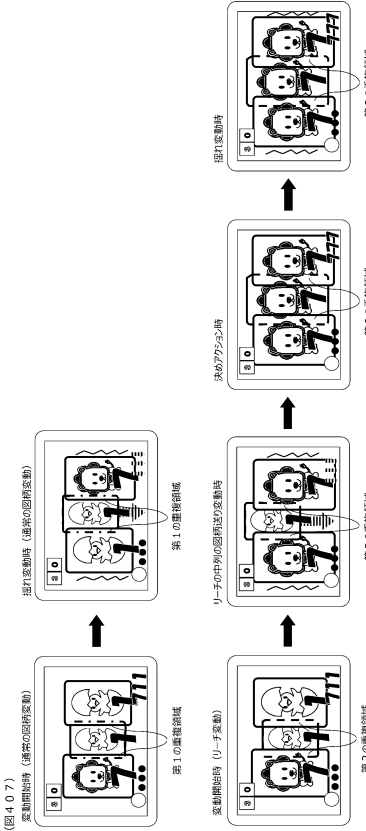
【図 4 0 5】



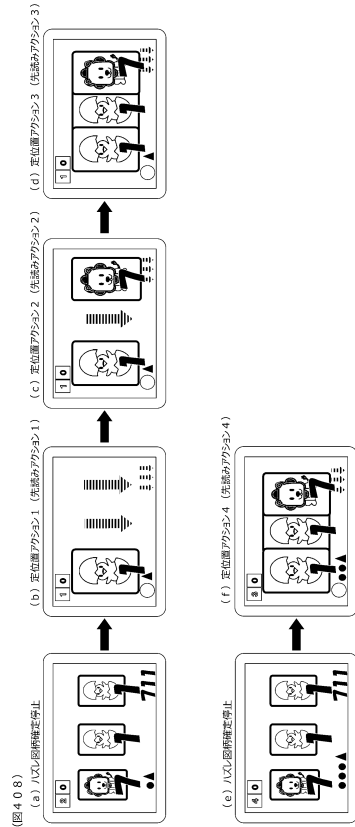
【図 4 0 6】



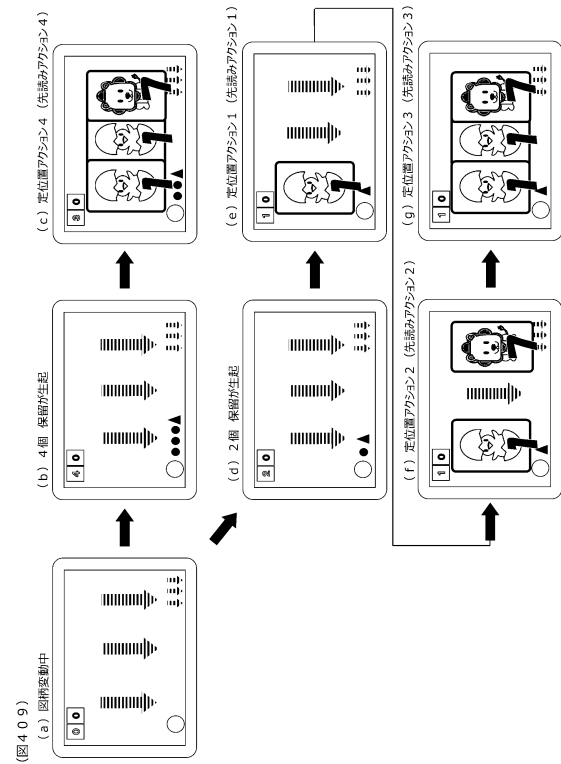
【図 4 0 7】



【図 4 0 8】



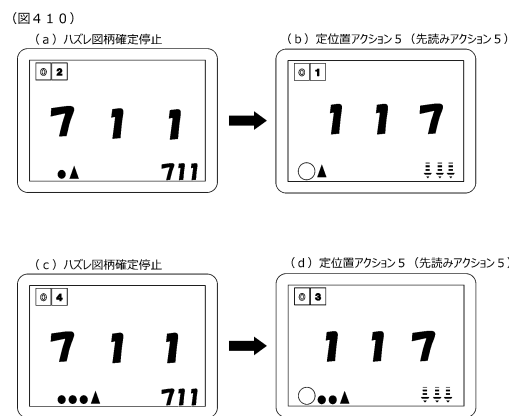
【図 4 0 9】



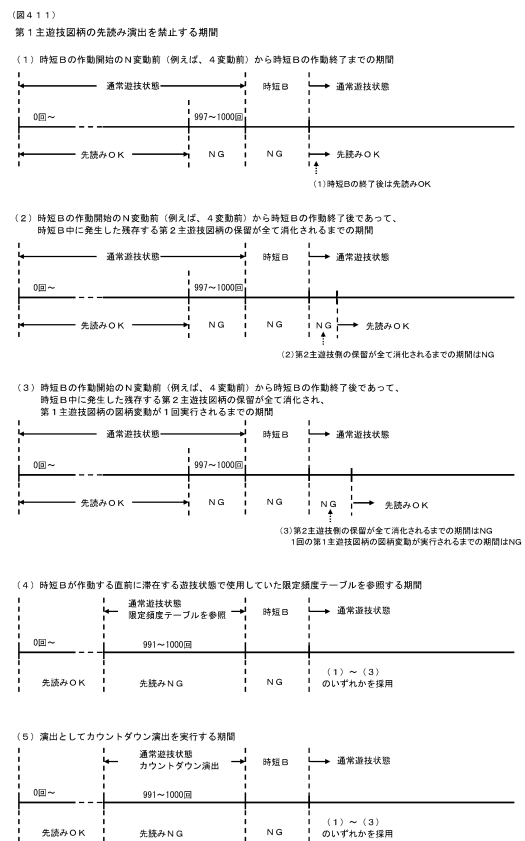
10

20

【図 4 1 0】



【図 4 1 1】

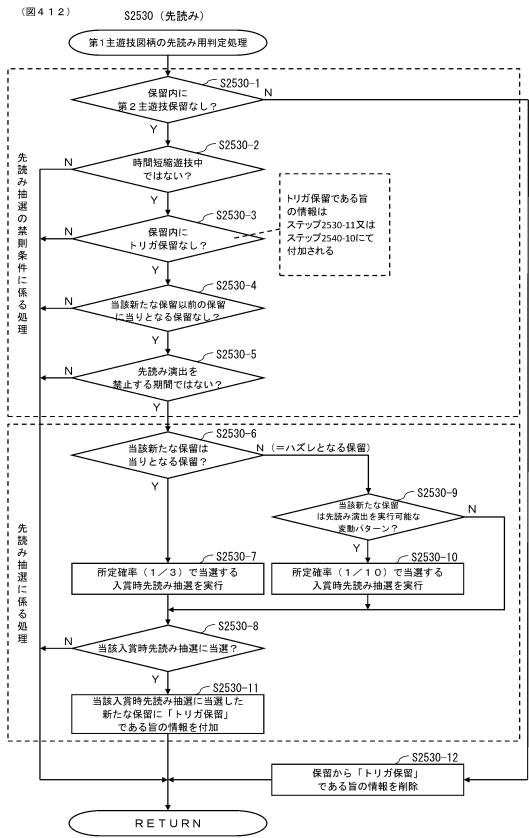


30

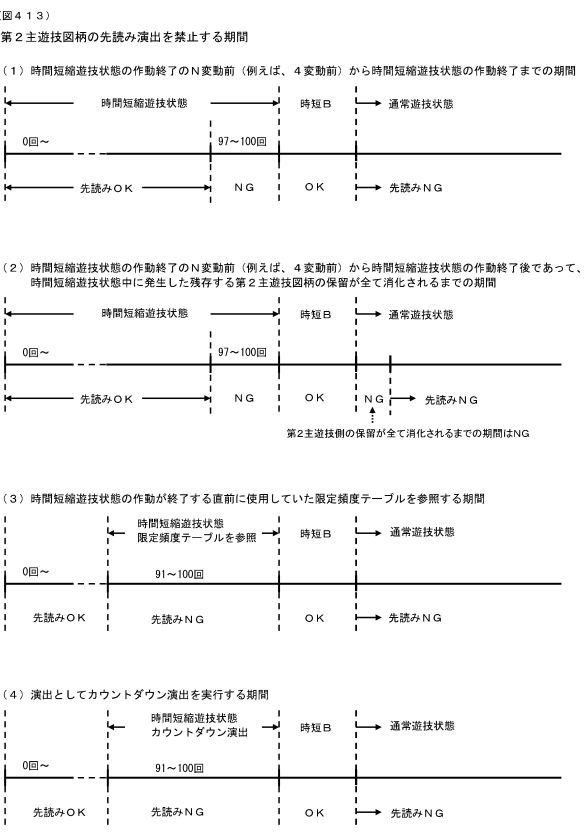
40

50

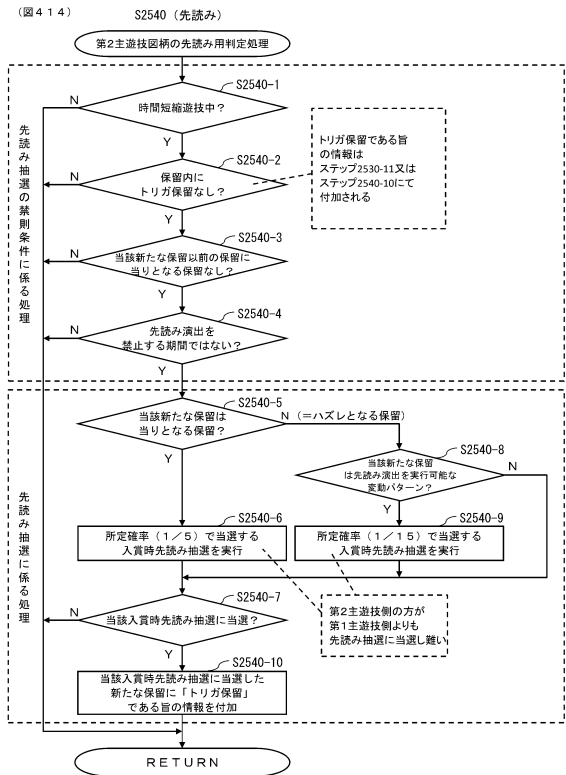
【図 4 1 2】



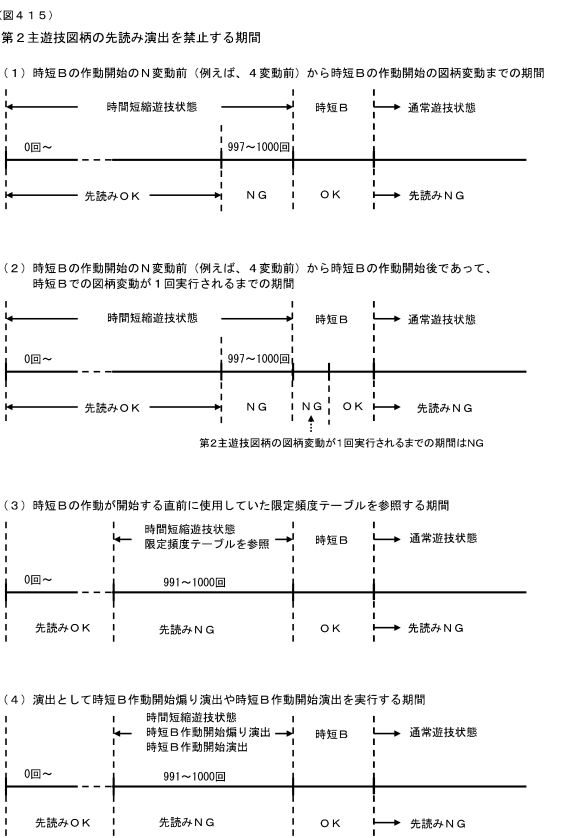
【図 4 1 3】



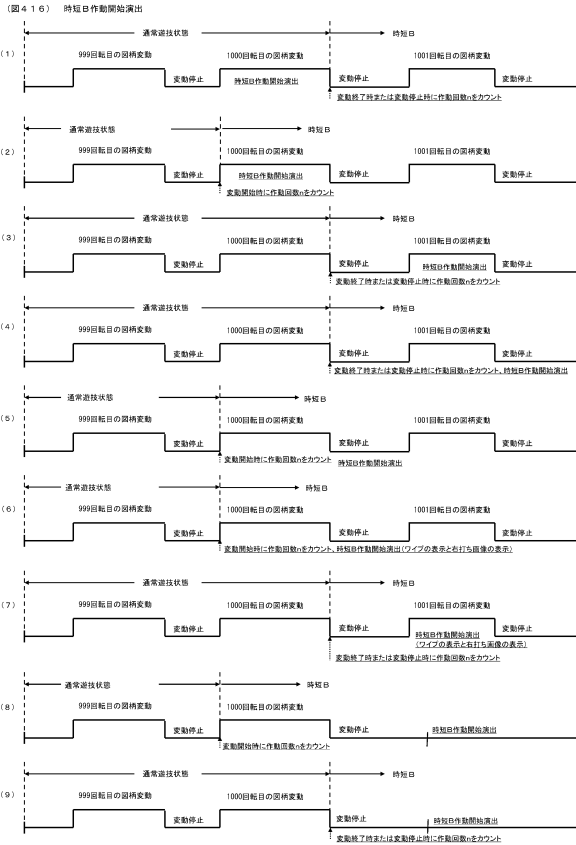
【図 4 1 4】



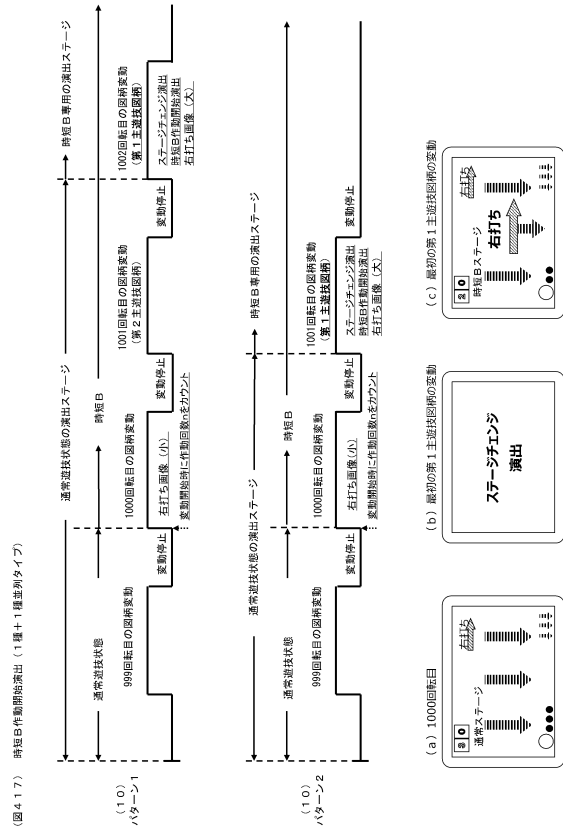
【図 4 1 5】



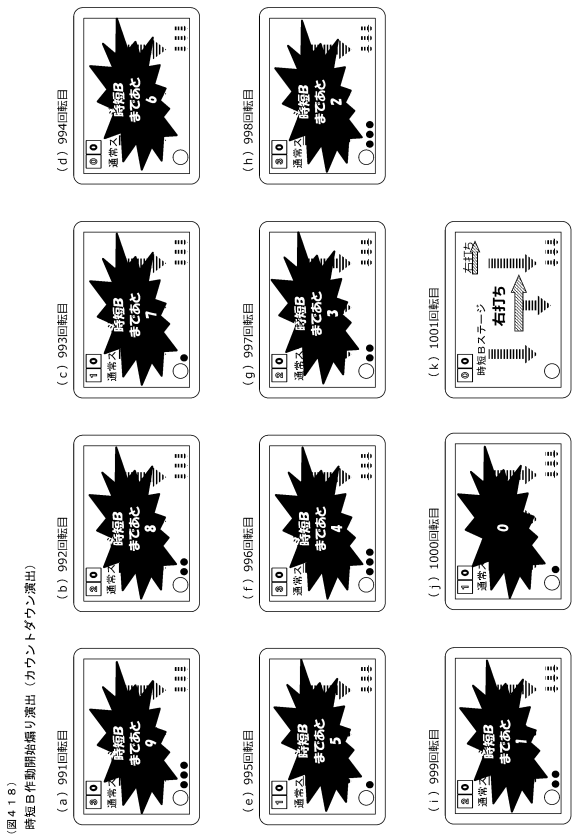
【図 4 1 6】



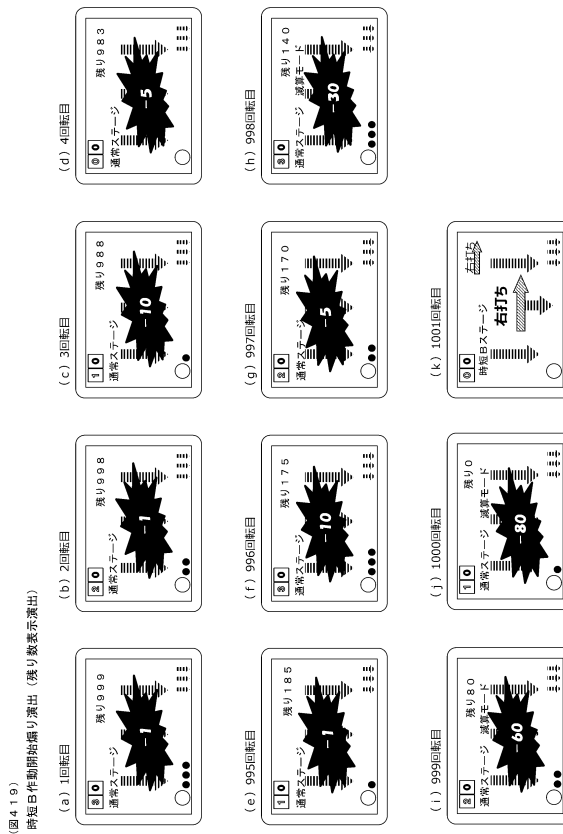
【図 4 1 7】



【図 4 1 8】



【図 4 1 9】



10

20

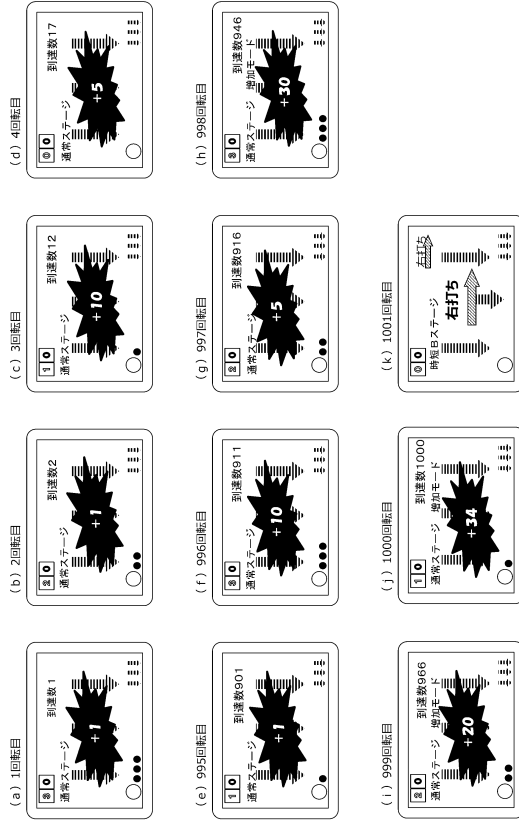
30

40

50

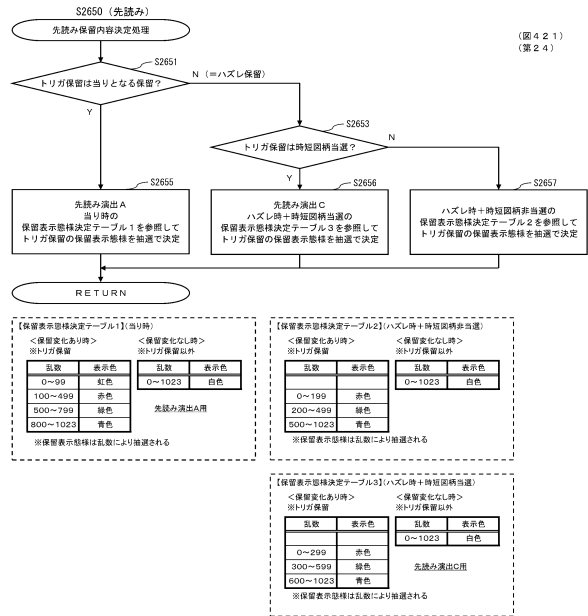
【図 4 2 0】

(図 4 2 0)
時短 B 作動開始繰り返し演出 (到達数表示演出)



【図 4 2 1】

(図 4 2 1)
(第 2 4)

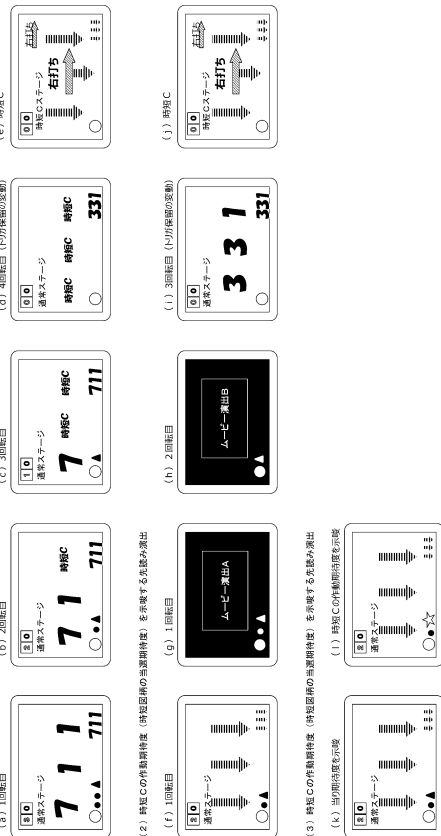


10

20

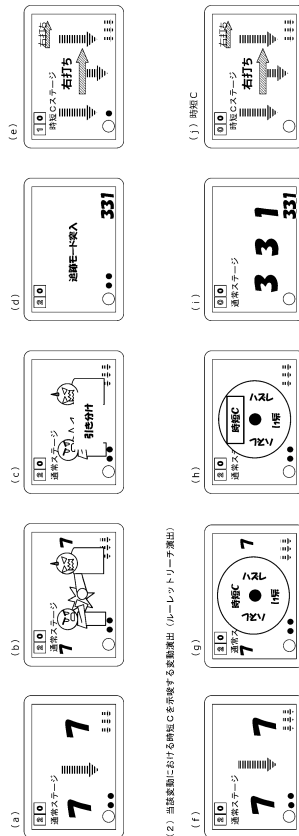
【図 4 2 2】

(図 4 2 2)
(1) 時短 C の作動開始演出 (時短図柄の当選開始演出) を示唆する先読み演出



【図 4 2 3】

(図 4 2 3)
(1) 当選変動における時短 C を示唆する変動演出 (ハズレリリーチ演出)

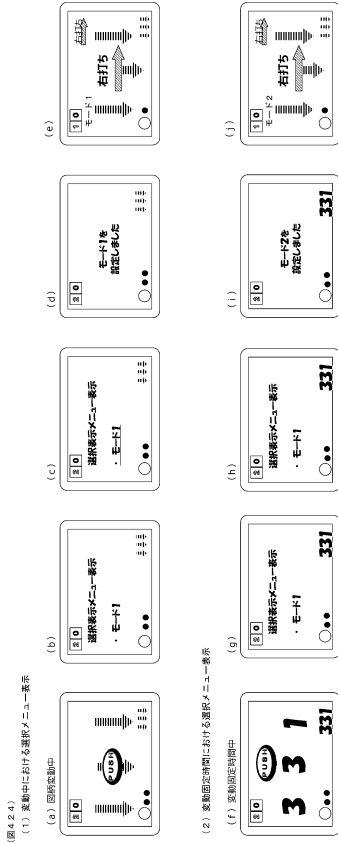


30

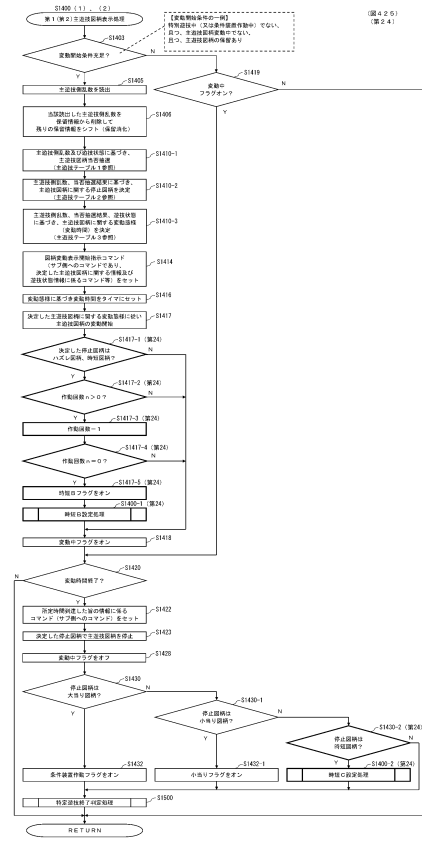
40

50

【圖 4 2 4】



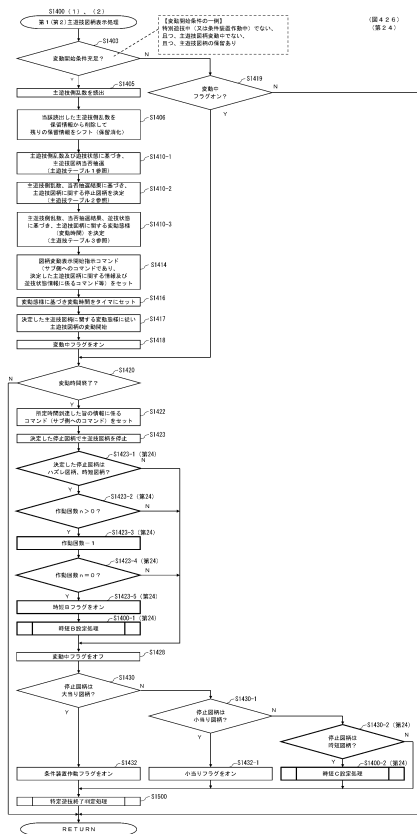
【図 4 2 5】



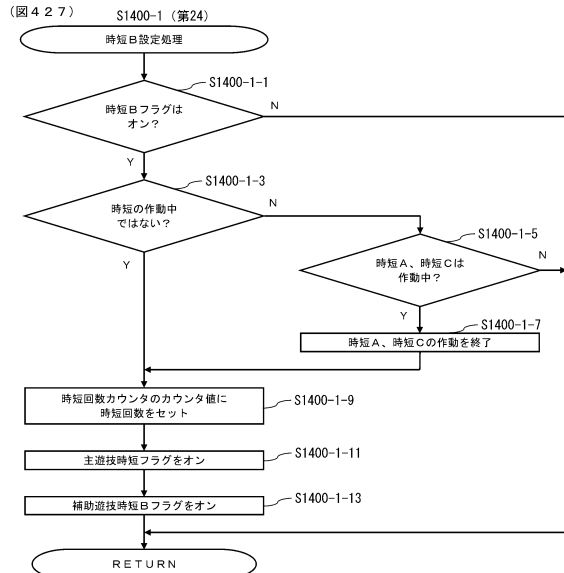
10

20

【図 4 2 6】



【圖 4 2 7】

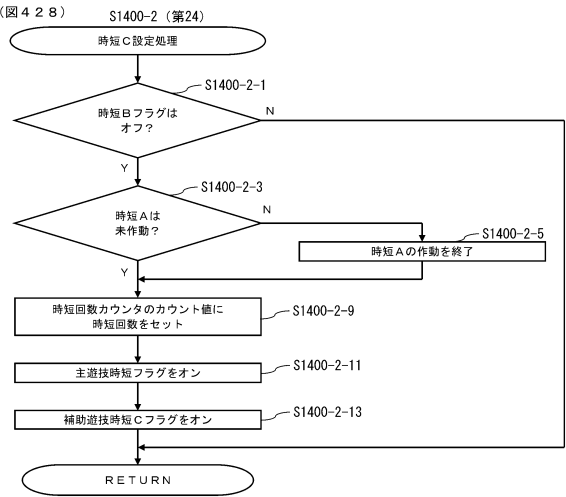


30

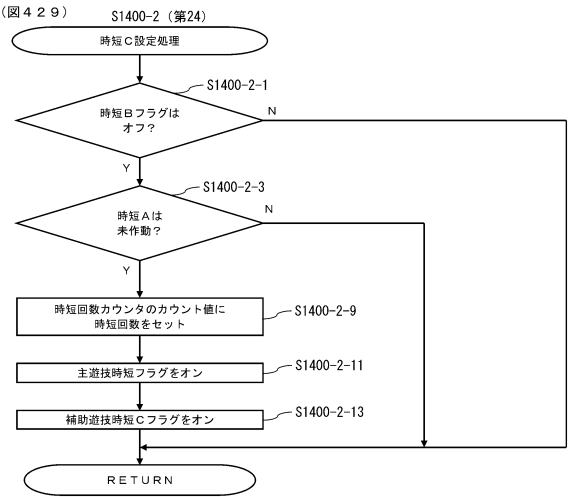
40

50

【図 4 2 8】

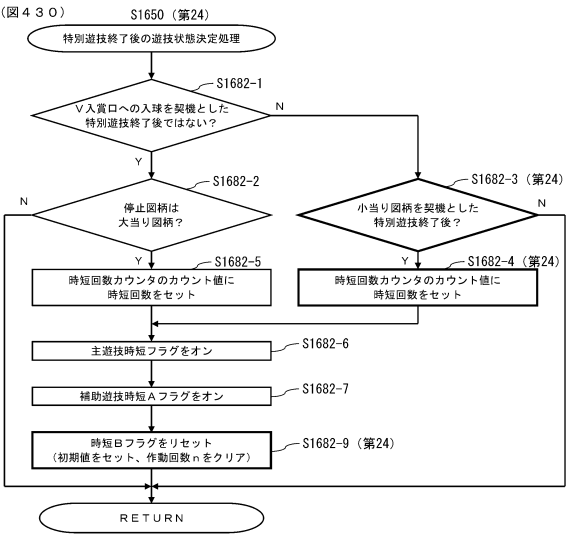


【図 4 2 9】

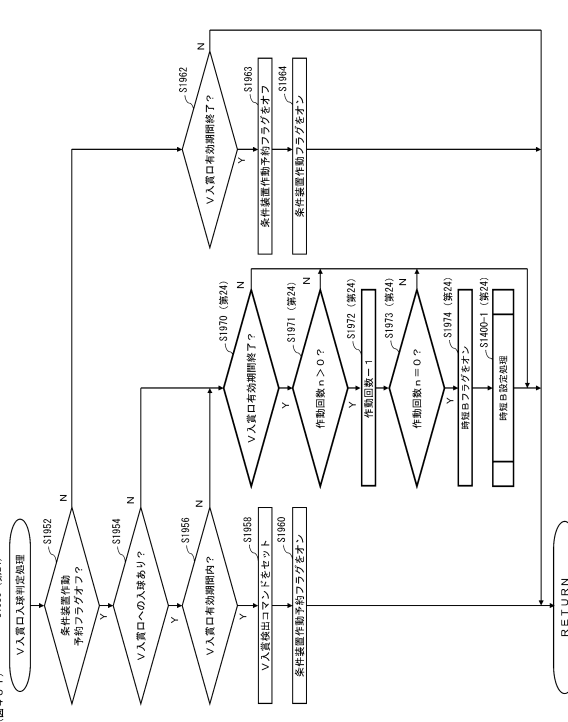


10

【図 4 3 0】



【図 4 3 1】



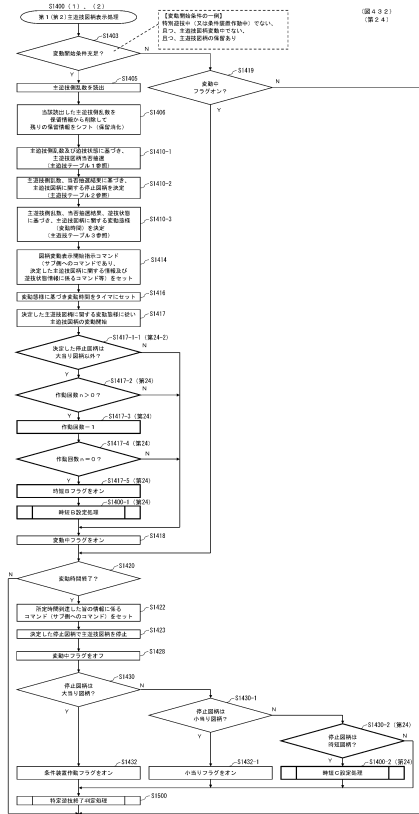
20

30

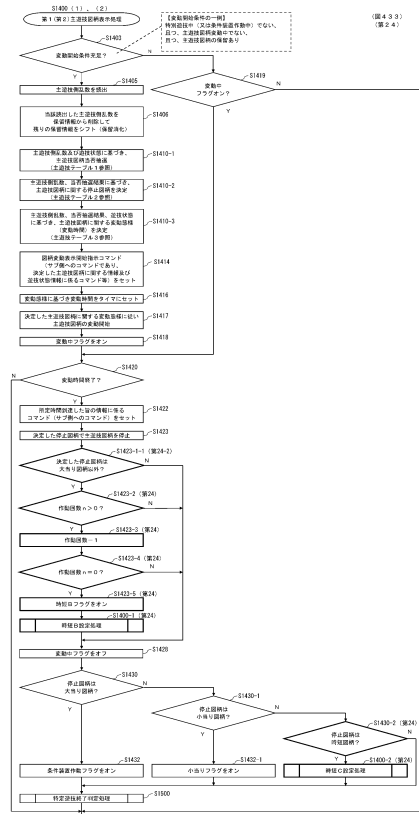
40

50

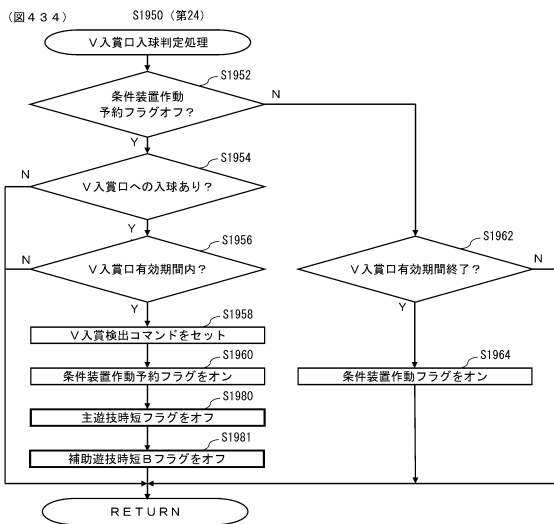
【図 4 3 2】



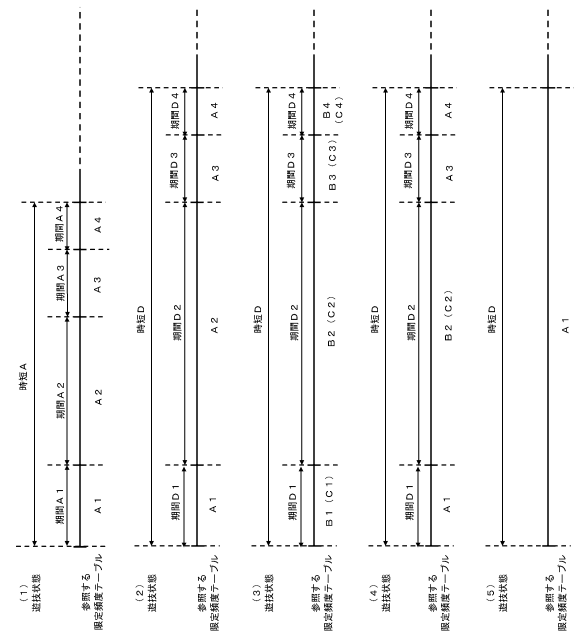
【図 4 3 3】



【図 4 3 4】



【図 4 3 5】



10

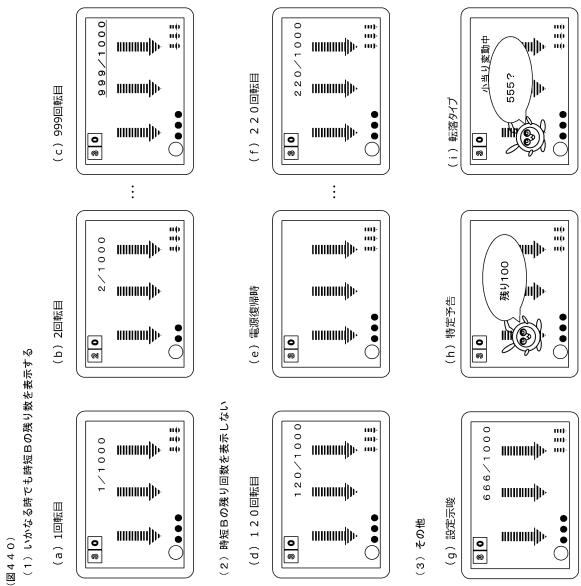
20

30

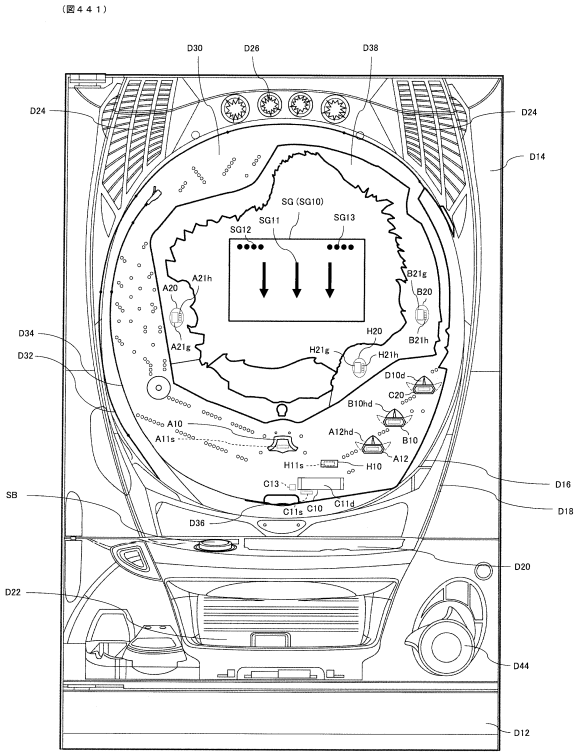
40

50

【図 4 4 0】



【図 4 4 1】

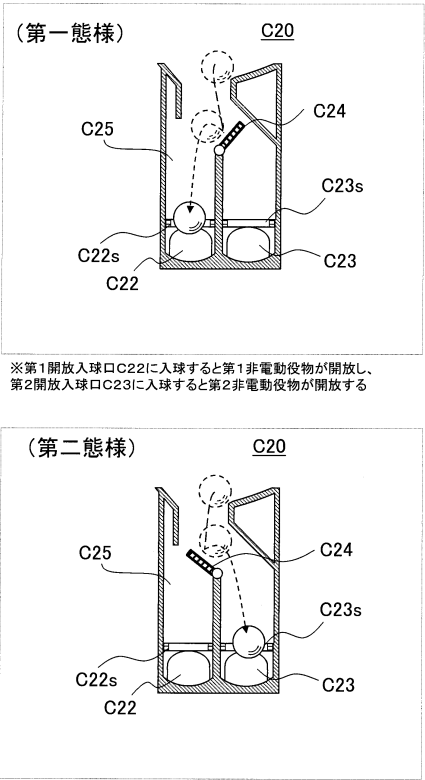


10

20

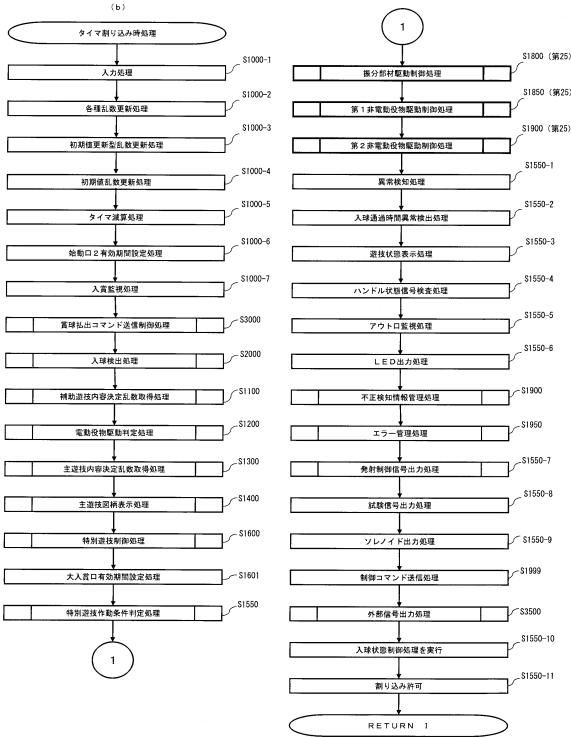
【図 4 4 2】

(図442)



【図 4 4 3】

(図443)

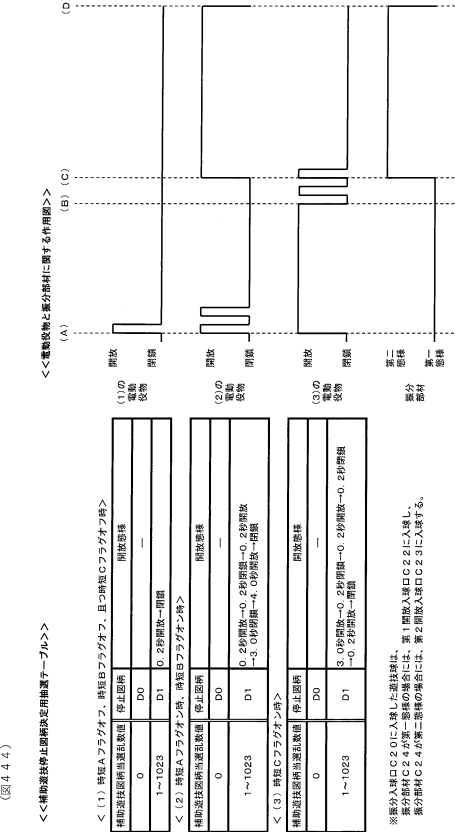


30

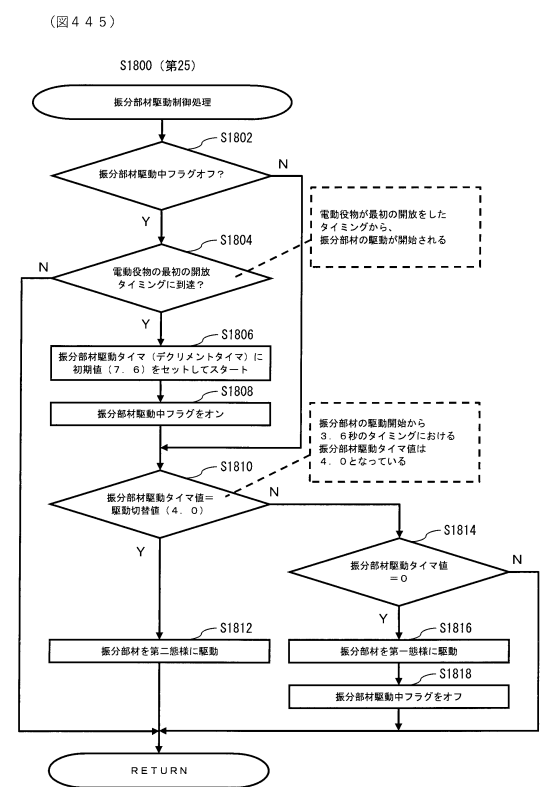
40

50

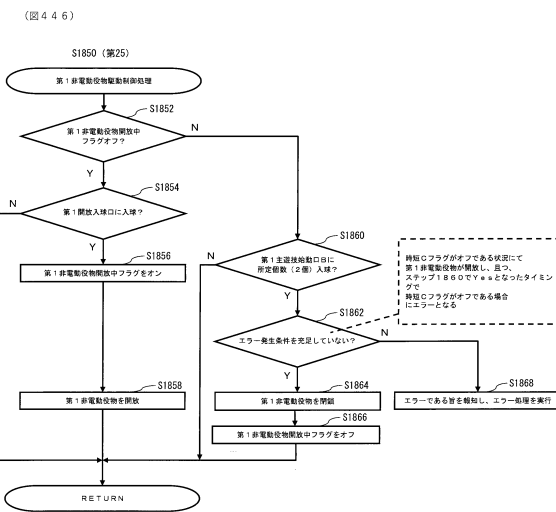
【図 4 4 4】



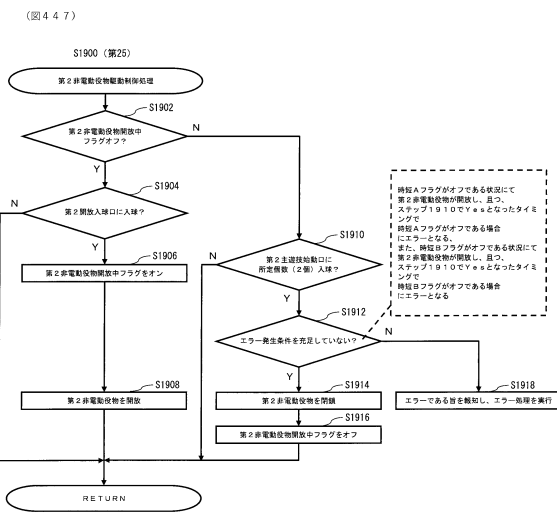
【図 4 4 5】



【図 4 4 6】



【図 4 4 7】



10

20

30

40

50

【図 4 5 2】

(図 4 5 2)

<出玉期待値の一例>

構成	大当り確率	通常時における 大当り終了後の 確変移行割合	確変移行時の 出玉期待値	通常時における 大当り終了後の 通常移行割合	通常移行時の 出玉期待値	通常時における 大当り当選時の 出玉期待値	時短 B 作動時の 出玉期待値
A	1/300	60%	6000個	40%	500個	3800個	5000個
B	1/200	40%	6000個	60%	500個	2700個	5000個
C	1/100	20%	6000個	80%	500個	1600個	5000個
D	1/50	10%	6000個	90%	500個	1050個	5000個

10

20

30

40

50

フロントページの続き

(56)参考文献 特許第 7 2 6 5 1 4 8 (J P , B 2)
 特開 2 0 1 9 - 1 4 1 3 4 7 (J P , A)
 特開 2 0 1 5 - 0 0 0 1 2 3 (J P , A)
 特開 2 0 2 0 - 0 3 9 6 4 4 (J P , A)
 特開 2 0 1 9 - 1 8 8 0 0 8 (J P , A)
(58)調査した分野 (Int.Cl., D B 名)
 A 6 3 F 7 / 0 2